

旧約聖書

Old Testament

Japanese Bible

創世記

Genesis

第1章

- 1 はじめに神が天と地を創造された。
- 2 地は茫漠として何もなく、闇が大水の面の上にあり、神の霊がその水の面を動いていた。
- 3 神は仰せられた。「光、あれ。」すると光があった。
- 4 神は光を良しと見られた。神は光と闇を分けられた。
- 5 神は光を昼と名づけ、闇を夜と名づけられた。夕があり、朝があった。第一日。
- 6 神は仰せられた。「大空よ、水の真ただ中にあれ。水と水の間を分けるものとなれ。」
- 7 神は大空を造り、大空の下にある水と大空の上にある水を分けられた。すると、そのようになった。
- 8 神は大空を天と名づけられた。夕があり、朝があった。第二日。
- 9 神は仰せられた。「天の下の水は一つの所に集まれ。乾いた所が現れよ。」すると、そのようになった。
- 10 神は乾いた所を地と名づけ、水の集まった所を海と名づけられた。神はそれを良しと見られた。
- 11 神は仰せられた。「地は植物を、種のできる草や、種の入った実を結ぶ果樹を、種類ごとに地の上に芽生えさせよ。」すると、そのようになった。
- 12 地は植物を、すなわち、種のできる草を種類ごとに、また種の入った実を結ぶ木を種類ごとに生じさせた。神はそれを良しと見られた。
- 13 夕があり、朝があった。第三日。
- 14 神は仰せられた。「光る物が天の大空にあれ。昼と夜を分けよ。定められた時々のため、日と年のためのしるしとなれ。
- 15 また天の大空で光る物となり、地の上を照らすようになれ。」すると、そのようになった。
- 16 神は二つの大きな光る物を造られた。大きいほうの光る物には昼を治めさせ、小さいほうの光る物には夜を治めさせた。また星も造られた。
- 17 神はそれらを天の大空に置き、地の上を照らさせ、
- 18 また昼と夜を治めさせ、光と闇を分けるようにされた。神はそれを良しと見られた。
- 19 夕があり、朝があった。第四日。
- 20 神は仰せられた。「水には生き物が群がれ。鳥は地の上、天の大空を飛べ。」
- 21 神は、海の巨獣と、水に群がりうごめくすべての生き物を種類ごとに、また翼のあるすべての鳥を種類ごとに創造された。神はそれを良しと見られた。
- 22 神はそれらを祝福して、「生めよ。増えよ。海の水に満ちよ。鳥は地の上に増えよ」と仰せられた。
- 23 夕があり、朝があった。第五日。
- 24 神は仰せられた。「地は生き物を種類ごとに、家畜や、這うもの、地の獣を種類ごとに生じよ。」すると、そのようになった。

- 25 神は、地の獣を種類ごとに、家畜を種類ごとに、地面を這うすべてのものを種類ごとに造られた。神はそれを良しと見られた。
- 26 神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」
- 27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。
- 28 神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地に従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」
- 29 神は仰せられた。「見よ。わたしは、地の全面にある、種のできるすべての草と、種の入った実のあるすべての木を、今あなたがたに与える。あなたがたにとってそれは食物となる。
- 30 また、生きるいのちのある、地のすべての獣、空のすべての鳥、地の上を這うすべてのもののために、すべての緑の草を食物として与える。」すると、そのようになった。
- 31 神はご自分が造ったすべてのものを見られた。見よ、それは非常に良かった。夕があり、朝があった。第六日。

第2章

- 1 こうして天と地とその万象が完成した。
- 2 神は第七日に、なさっていたわざを完成し、第七日に、なさっていたすべてのわざをやめられた。
- 3 神は第七日を祝福し、この日を聖なるものとされた。その日に神が、なさっていたすべての創造のわざをやめられたからである。
- 4 これは、天と地が創造されたときの経緯である。神である主が、地と天を造られたときのこと。
- 5 地にはまだ、野の灌木もなく、野の草も生えていなかった。神である主が、地の上に雨を降らせていなかったからである。また、大地を耕す人もまだいなかった。
- 6 ただ、豊かな水が地から湧き上がり、大地の全面を潤していた。
- 7 神である主は、その大地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった。
- 8 神である主は東の方のエデンに園を設け、そこにご自分が形造った人を置かれた。
- 9 神である主は、その土地に、見るからに好ましく、食べるのに良いすべての木を、そして、園の中央にいのちの木を、また善悪の知識の木を生えさせた。
- 10 一つの川がエデンから湧き出て、園を潤していた。それは園から分かれて、四つの源流となっていた。
- 11 第一のものの名はピション。それはハビラの全土を巡って流れていた。そこには金があった。
- 12 その地の金は良質で、そこにはベドラハとショハム石もあった。
- 13 第二の川の名はギホン。それはクシュの全土を巡って流れていた。
- 14 第三の川の名はティグリス。それはアッシュルの東を流れていた。第四の川、それはユーフラテスである。
- 15 神である主は人を連れて来て、エデンの園に置き、そこを耕させ、また守らせた。
- 16 神である主は人に命じられた。「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。
- 17 しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」
- 18 また、神である主は言われた。「人がひとりであるのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。」
- 19 神である主は、その土地の土で、あらゆる野の獣とあらゆる空の鳥を形造って、人のところに連れて来られた。人がそれを何と呼ぶかをご覧になるためであった。人がそれを呼ぶと、何であれ、それがその生き物の名となった。
- 20 人はすべての家畜、空の鳥、すべての野の獣に名をつけた。しかし、アダムには、ふさわしい助け手が見つからなかった。
- 21 神である主は、深い眠りを人に下された。それで、人は眠った。主は彼のあばら骨の一つを取り、そのところを肉でふさがれた。

- 22** 神である主は、人から取ったあばら骨を一人の女に造り上げ、人のところに連れて来られた。
- 23** 人は言った。「これこそ、ついに私の骨からの骨、私の肉からの肉。これを女と名づけよう。男から取られたのだから。」
- 24** それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。
- 25** そのとき、人とその妻はふたりとも裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった。

第3章

- 1 さて蛇は、神である主が造られた野の生き物のうちで、ほかのどれよりも賢かった。蛇は女に言った。「園の木のどれからも食べてはならないと、神は本当に言われたのですか。」
- 2 女は蛇に言った。「私たちは園の木の実を食べてもよいのです。」
- 3 しかし、園の中央にある木の实については、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と神は仰せられました。」
- 4 すると、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。」
- 5 それを食べるそのとき、目が開かれて、あなたがたが神のようになって善悪を知る者となることを、神は知っているのです。」
- 6 そこで、女が見ると、その木は食べるのに良さそうで、目に慕わしく、またその木は賢くしてくれそうで好ましかった。それで、女はその実を取って食べ、ともにいた夫にも与えたので、夫も食べた。
- 7 こうして、ふたりの目は開かれ、自分たちが裸であることを知った。そこで彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちのために腰の覆いを作った。
- 8 そよ風の吹くころ、彼らは、神である主が園を歩き回られる音を聞いた。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて、園の木の間に身を隠した。
- 9 神である主は、人に呼びかけ、彼に言われた。「あなたはどこにいるのか。」
- 10 彼は言った。「私は、あなたの足音を園の中で聞いたので、自分が裸であることを恐れて、身を隠しています。」
- 11 主は言われた。「あなたが裸であることを、だれがあなたに告げたのか。あなたは、食べてはならない、とわたしが命じた木から食べたのか。」
- 12 人は言った。「私のそばにるようにとあなたが与えてくださったこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。」
- 13 神である主は女に言われた。「あなたは何ということをしたのか。」女は言った。「蛇が私を惑わしたのです。それで私は食べました。」
- 14 神である主は蛇に言われた。「おまえは、このようなことをしたので、どんな家畜よりも、どんな野の生き物よりもろわれる。おまえは腹這いで動き回り、一生、ちりを食べることになる。」
- 15 わたしは敵意を、おまえと女の間、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」
- 16 女にはこう言われた。「わたしは、あなたの苦しみとうめきを大いに増す。あなたは苦しんで子を産む。また、あなたは夫を恋い慕うが、彼はあなたを支配することになる。」
- 17 また、人に言われた。「あなたが妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、大地は、あなたのゆえにのろわれる。あなたは一生の間、苦しんでそこから食を得ることになる。」

- 18** 大地は、あなたに対して茨とあざみを生えさせ、あなたは野の草を食べる。
- 19** あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにはその大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ。」
- 20** 人は妻の名をエバと呼んだ。彼女が、生きるものすべての母だからであった。
- 21** 神である主は、アダムとその妻のために、皮の衣を作って彼らに着せられた。
- 22** 神である主はこう言われた。「見よ。人はわれわれのうちのひとりのようになり、善悪を知るようになった。今、人がその手を伸ばして、いのちの木からも取って食べ、永遠に生きることがないようにしよう。」
- 23** 神である主は、人をエデンの園から追い出し、人が自分を取り出された大地を耕すようにされた。
- 24** こうして神は人を追放し、いのちの木への道を守るために、ケルビムと、輪を描いて回る炎の剣をエデンの園の東に置かれた。

第4章

- 1 人は、その妻エバを知った。彼女は身ごもってカインを産み、「私は、主によって一人の男子を得た」と言った。
- 2 彼女はまた、その弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは大地を耕す者となった。
- 3 しばらく時が過ぎて、カインは大地の実りを主へのささげ物として持って来た。
- 4 アベルもまた、自分の羊の初子の中から、肥えたものを持って来た。主はアベルとそのささげ物に目を留められた。
- 5 しかし、カインとそのささげ物には目を留められなかった。それでカインは激しく怒り、顔を伏せた。
- 6 主はカインに言われた。「なぜ、あなたは怒っているのか。なぜ顔を伏せているのか。
- 7 もしあなたが良いことをしているのなら、受け入れられる。しかし、もし良いことをしていないのであれば、戸口で罪が待ち伏せている。罪はあなたを恋い慕うが、あなたはそれを治めなければならない。」
- 8 カインは弟アベルを誘い出した。二人が野にいたとき、カインは弟アベルに襲いかかって殺した。
- 9 主はカインに言われた。「あなたの弟アベルは、どこにいるのか。」カインは言った。「私は知りません。私は弟の番人なのではないでしょうか。」
- 10 主は言われた。「いったい、あなたは何ということをしたのか。声がする。あなたの弟の血が、その大地からわたしに向かって叫んでいる。
- 11 今や、あなたはのろわれている。そして、口を開けてあなたの手から弟の血を受けた大地から、あなたは追い出される。
- 12 あなたが耕しても、大地はもはや、あなたのために作物を生じさせない。あなたは地上をさまよい歩くさすらい人となる。」
- 13 カインは主に言った。「私の咎は大きすぎて、負いきれません。
- 14 あなたが、今日、私を大地の面から追い出されたので、私はあなたの御顔を避けて隠れ、地上をさまよい歩くさすらい人となります。私を見つけた人は、だれでも私を殺すでしょう。」
- 15 主は彼に言われた。「それゆえ、わたしは言う。だれであれ、カインを殺す者は七倍の復讐を受ける。」主は、彼を見つけた人が、だれも彼を打ち殺すことのないように、カインに一つのしるしをつけられた。
- 16 カインは主の前から出て行って、エデンの東、ノデの地に住んだ。
- 17 カインはその妻を知った。彼女は身ごもってエノクを産んだ。カインは町を建てていたので、息子の名にちなんで、その町をエノクと名づけた。
- 18 エノクにはイラデが生まれた。イラデはメフヤエルを生み、メフヤエルはメトシャエルを生み、メトシャエルはレメクを生んだ。
- 19 レメクは二人の妻を迎えた。一人の名はアダ、もう一人の名はツィラであった。

- 20** アダはヤバルを産んだ。ヤバルは天幕に住む者、家畜を飼う者の先祖となった。
- 21** その弟の名はユバルであった。彼は豎琴と笛を奏でるすべての者の先祖となった。
- 22** 一方、ツィラはトバル・カインを産んだ。彼は青銅と鉄のあらゆる道具を造る者であった。トバル・カインの妹はナアマであった。
- 23** レメクは妻たちに言った。「アダとツィラよ、私の声を聞け。レメクの妻たちよ、私の言うことに耳を傾けよ。私は一人の男を、私が受ける傷のために殺す。一人の子どもを、私が受ける打ち傷のために。
- 24** カインに七倍の復讐があるなら、レメクには七十七倍。」
- 25** アダムは再び妻を知った。彼女は男の子を産み、その子をセツと名づけた。カインがアベルを殺したので、彼女は「神が、アベルの代わりに別の子孫を私に授けてくださいました」と言った。
- 26** セツにもまた、男の子が生まれた。セツは彼の名をエノシュと呼んだ。そのころ、人々は主の名を呼ぶことを始めた。

第5章

- 1 これはアダムの歴史の記録である。神は、人を創造したとき、神の似姿として人を造り、
- 2 男と女に彼らを創造された。彼らが創造された日に、神は彼らを祝福して、彼らの名を「人」と呼ばれた。
- 3 アダムは百三十年生きて、彼の似姿として、彼のかたちに男の子を生んだ。彼はその子をセツと名づけた。
- 4 セツを生んでからのアダムの生涯は八百年で、彼は息子たち、娘たちを生んだ。
- 5 アダムが生きた全生涯は九百三十年であった。こうして彼は死んだ。
- 6 セツは百五年生きて、エノシュを生んだ。
- 7 セツはエノシュを生んでから八百七年生き、息子たち、娘たちを生んだ。
- 8 セツの全生涯は九百十二年であった。こうして彼は死んだ。
- 9 エノシュは九十年生きて、ケナンを生んだ。
- 10 エノシュはケナンを生んでから八百十五年生き、息子たち、娘たちを生んだ。
- 11 エノシュの全生涯は九百五年であった。こうして彼は死んだ。
- 12 ケナンは七十年生きて、マハラルエルを生んだ。
- 13 ケナンはマハラルエルを生んでから八百四十年生き、息子たち、娘たちを生んだ。
- 14 ケナンの全生涯は九百十年であった。こうして彼は死んだ。
- 15 マハラルエルは六十五年生きて、ヤレデを生んだ。
- 16 マハラルエルはヤレデを生んでから八百三十年生き、息子たち、娘たちを生んだ。
- 17 マハラルエルの全生涯は八百九十五年であった。こうして彼は死んだ。
- 18 ヤレデは百六十二年生きて、エノクを生んだ。
- 19 ヤレデはエノクを生んでから八百年生き、息子たち、娘たちを生んだ。
- 20 ヤレデの全生涯は九百六十二年であった。こうして彼は死んだ。
- 21 エノクは六十五年生きて、メトシェラを生んだ。
- 22 エノクはメトシェラを生んでから三百年、神とともに歩み、息子たち、娘たちを生んだ。
- 23 エノクの全生涯は三百六十五年であった。
- 24 エノクは神とともに歩んだ。神が彼を取られたので、彼はいなくなった。
- 25 メトシェラは百八十七年生きて、レメクを生んだ。
- 26 メトシェラはレメクを生んでから七百八十二年生き、息子たち、娘たちを生んだ。
- 27 メトシェラの全生涯は九百六十九年であった。こうして彼は死んだ。
- 28 レメクは百八十二年生きて、一人の男の子を生んだ。
- 29 彼はその子をノアと名づけて言った。「この子は、主がのろわれたこの地での、私たちの働きと手の労苦から、私たちを慰めてくれるだろう。」
- 30 レメクはノアを生んでから五百九十五年生きて、息子たち、娘たちを生んだ。
- 31 レメクの全生涯は七百七十七年であった。こうして彼は死んだ。

32 ノアは五百歳になった。そしてノアはセム、ハム、ヤフェテを生んだ。

第6章

- 1 さて、人が大地の面に増え始め、娘たちが彼らに生まれたとき、
- 2 神の子らは、人の娘たちが美しいのを見て、それぞれ自分が選んだ者を妻とした。
- 3 そこで、主は言われた。「わたしの霊は、人のうちに永久にとどまることはない。人は肉にすぎないからだ。だから、人の齢は百二十年にしよう。」
- 4 神の子らが人の娘たちのところに入り、彼らに子ができたそのころ、またその後も、ネフィリムが地にいた。彼らは昔からの勇士であり、名のある者たちであった。
- 5 主は、地上に人の悪が増大し、その心に凶ることがみな、いつも悪に傾くのをご覧になった。
- 6 それで主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。
- 7 そして主は言われた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜や這うもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これらを造ったことを悔やむ。」
- 8 しかし、ノアは主の心になんていなかった。
- 9 これはノアの歴史である。ノアは正しい人で、彼の世代の中であって全き人であった。ノアは神とともに歩んだ。
- 10 ノアは三人の息子、セム、ハム、ヤフェテを生んだ。
- 11 地は神の前に墮落し、地は暴虐で満ちていた。
- 12 神が地をご覧になると、見よ、それは墮落していた。すべての肉なるものが、地上で自分の道を乱していたからである。
- 13 神はノアに仰せられた。「すべての肉なるものの終わりが、わたしの前に来ようとしている。地は、彼らのゆえに、暴虐で満ちているからだ。見よ、わたしは彼らを地とともに滅ぼし去る。
- 14 あなたは自分のために、ゴフェルの木で箱舟を造りなさい。箱舟に部屋を作り、内と外にタールを塗りなさい。
- 15 それを次のようにして造りなさい。箱舟の長さは三百キュビト。幅は五十キュビト。高さは三十キュビト。
- 16 箱舟に天窓を作り、上部から一キュビト以内に天窓を仕上げなさい。また、箱舟の戸口をその側面に設け、箱舟を一階と二階と三階に分けなさい。
- 17 わたしは、今、いのちの息のあるすべての肉なるものを天の下から滅ぼし去るために、地上に大水を、大洪水をもたらそうとしている。地上のすべてのものは死に絶える。
- 18 しかし、わたしはあなたと契約を結ぶ。あなたは、息子たち、妻、それに息子たちの妻とともに箱舟に入りなさい。
- 19 また、すべての生き物、すべての肉なるものの中から、それぞれ二匹ずつを箱舟に連れて入り、あなたとともに生き残るようにしなさい。それらは雄と雌でなければならない。
- 20 鳥は種類ごとに、動物も種類ごとに、また地面を這うすべてのものも種類ごとに、それぞれ二匹ずつが生き残れるよう、あなたのところに来なければならない。

- 21** あなたは、食べられるあらゆるものから採って、自分のところに集め、あなたとそれらの動物のための食物とみなさい。」
- 22** ノアは、すべて神が命じられたとおりにし、そのように行った。

第7章

- 1 主はノアに言われた。「あなたとあなたの全家は、箱舟に入りなさい。この世代の中であって、あなたがわたしの前に正しいことが分かったからである。
- 2 あなたは、すべてのきよい動物の中から雄と雌を七つがいつ、きよくない動物の中から雄と雌を一つがいつ、
- 3 また空の鳥の中からも雄と雌を七つがいつ取りなさい。それらの種類が全地の面で生き残るためである。
- 4 あと七日たつと、わたしは、地の上に四十日四十夜、雨を降らせ、わたしが造ったすべての生けるものを大地の面から消し去る。」
- 5 ノアは、すべて主が彼に命じられたとおりにした。
- 6 ノアは六百歳であったが、そのときに大洪水が起こり、大水は地の上にあった。
- 7 ノアは息子たちや自分の妻、それに息子たちの妻とともに、大洪水の大水を避けるために箱舟に入った。
- 8 きよい動物、きよくない動物、鳥、地面を這うすべてのもののの中から、
- 9 雄と雌がつがいになって箱舟の中のノアのところにやって来た。神がノアに命じられたとおりであった。
- 10 七日たつと、大洪水の大水が地の上に生じた。
- 11 ノアの生涯の六百年目の第二の月の十七日、その日に、大いなる淵の源がことごとく裂け、天の水門が開かれた。
- 12 大雨は四十日四十夜、地に降り続いた。
- 13 ちょうどその日に、ノアは、息子たちのセム、ハム、ヤフェテ、またノアの妻と、息子たちの三人の妻とともに、箱舟に入った。
- 14 彼らとともに、種類ごとにあらゆる獣、種類ごとにあらゆる家畜、種類ごとにあらゆる地の上を這うものと、種類ごとにあらゆる飛ぶもの、鳥や翼のあるものすべてが箱舟に入った。
- 15 こうして、いのちの息のあるすべての肉なるものが、二匹ずつノアのいる箱舟の中に入った。
- 16 入ったものは、すべての肉なるものの雄と雌であった。それらは、神がノアに命じられたとおりに入った。それから、主は彼のうしろの戸を閉ざされた。
- 17 大洪水は四十日間、地の上にあった。水かさが増して箱舟を押し上げたので、それは地から浮き上がった。
- 18 水がみなぎり、地の上に大いに増し、箱舟は水面を漂った。
- 19 水は地の上ますますみなぎり、天の下にある高い山々もすべておおわれた。
- 20 水は、その上さらに十五キュビト増し加わり、山々はおおわれた。
- 21 こうして、地の上を動き回るすべての肉なるものは、鳥も家畜も獣も地に群がるすべてのものも、またすべての人も死に絶えた。

- 22** いのちの息を吹き込まれたもので、乾いた地の上にいたものは、みな死んだ。
- 23** こうして、主は地の上の生けるものすべてを、人をはじめ、動物、這うもの、空の鳥に至るまで消し去られた。それらは地から消し去られ、ただノアと、彼とともに箱舟にいたものたちだけが残った。
- 24** 水は百五十日間、地の上に増し続けた。

第8章

- 1 神は、ノアと、彼とともに箱舟の中にいた、すべての獣およびすべての家畜を覚えておられた。神は地の上に風を吹き渡らせた。すると水は引き始めた。
- 2 大水の源と天の水門が閉ざされ、天からの大雨がとどめられた。
- 3 水は、しだいに地の上から引いていった。水は百五十日の終わりに減り始めた。
- 4 箱舟は、第七の月の十七日にアララテの山地にとどまった。
- 5 一方、水は第十の月まで減り続け、第十の月の一日に、山々の頂が現れた。
- 6 四十日の終わりに、ノアは自分の造った箱舟の窓を開き、
- 7 鳥を放った。すると鳥は、水が地の上から乾くまで、出たり戻ったりした。
- 8 またノアは、水が地の面から引いたかどうかを見ようと、鳩を彼のもとから放った。
- 9 鳩は、その足を休める場所を見つけられなかったので、箱舟の彼のもとに帰って来た。水が全地の面にあったからである。彼は手を伸ばして鳩を捕らえ、自分がいる箱舟に入れた。
- 10 それからさらに七日待って、再び鳩を箱舟から放った。
- 11 鳩は夕方になって、彼のもとに帰って来た。すると見よ、取ったばかりのオリーブの若葉がそのくちばしにあるではないか。それで、ノアは水が地の上から引いたのを知った。
- 12 さらに、もう七日待って、彼は鳩を放った。鳩はもう彼のところに帰って来なかった。
- 13 六百一年目の第一の月の一日に、水は地の上から干上がった。ノアが箱舟の覆いを取り払って眺めると、見よ、地の面は乾いていた。
- 14 第二の月の二十七日には、地はすっかり乾いた。
- 15 神はノアに告げられた。
- 16 「あなたは、妻と、息子たちと、息子たちの妻たちとともに箱舟から出なさい。
- 17 すべての肉なるもののうち、あなたとともにいる生き物すべて、鳥、家畜、地の上を這うすべてのものが、あなたとともに出るようにしなさい。それらが地に群がり、地の上で生み、そして増えるようにしなさい。」
- 18 そこでノアは、息子たち、彼の妻、息子たちの妻たちとともに外に出た。
- 19 すべての獣、すべての這うもの、すべての鳥、すべて地の上を動くものも、種類ごとに箱舟から出て来た。
- 20 ノアは主のために祭壇を築き、すべてのきよい家畜から、また、すべてのきよい鳥からいくつかを取って、祭壇の上で全焼のささげ物を献げた。
- 21 主は、その芳ばしい香りをかがれた。そして、心の中で主はこう言われた。「わたしは、決して再び人のゆえに、大地にのろいをもたらしはしない。人の心が思い図ることは、幼いときから悪であるからだ。わたしは、再び、わたしがしたように、生き物すべてを打ち滅ぼすことは決してしない。
- 22 この地が続くかぎり、種蒔きと刈り入れ、寒さと暑さ、夏と冬、昼と夜がやむことはない。」

第9章

- 1 神はノアとその息子たちを祝福して、彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。
- 2 あなたがたへの恐れとおののきが、地のすべての獣、空のすべての鳥、地面を動くすべてのもの、海のすべての魚に起こる。あなたがたの手に、これらは委ねられたのだ。
- 3 生きて動いているものはみな、あなたがたの食物となる。緑の草と同じように、そのすべてのものを、今、あなたがたに与える。
- 4 ただし肉は、そのいのちである血のあるままで食べてはならない。
- 5 わたしは、あなたがたのいのちのためには、あなたがたの血の価を要求する。いかなる獣にも、それを要求する。また人にも、兄弟である者にも、人のいのちを要求する。
- 6 人の血を流す者は、人によって血を流される。神は人を神のかたちとして 造ったからである。
- 7 あなたがたは生めよ。増えよ。地に群がり、地に増えよ。」
- 8 神は、ノアと、彼とともにいる息子たちに仰せられた。
- 9 「見よ、わたしは、わたしの契約をあなたがたとの間に立てる。そして、あなたがたの後の子孫との間に。
- 10 また、あなたがたとともにいるすべての生き物との間に。鳥、家畜、それに、あなたがたとともにいるすべての地の獣、箱舟から出て来たすべてのものから、地のすべての生き物に至るまで。
- 11 わたしは、わたしの契約をあなたがたとの間に立てる。すべての肉なるものが、再び、大洪水の大水によって断ち切られることはない。大洪水が再び起こって地を滅ぼすようなことはない。」
- 12 さらに神は仰せられた。「わたしとあなたがたとの間に、また、あなたがたとともにいるすべての生き物との間に、代々にわたり永遠にわたしが与えるその契約のしるしは、これである。
- 13 わたしは雲の中に、わたしの虹を立てる。それが、わたしと地との間の契約のしるしである。
- 14 わたしが地の上に雲を起こすとき、虹が雲の中に現れる。
- 15 そのとき、わたしは、わたしとあなたがたの間、すべての肉なる生き物との間の、わたしの契約を思い起こす。大水は、再び、すべての肉なるものを滅ぼす大洪水となることはない。
- 16 虹が雲の中にあるとき、わたしはそれを見て、神と、すべての生き物、地上のすべての肉なるものとの間の永遠の契約を思い起こそう。」
- 17 神はノアに仰せられた。「これが、わたしと、地上のすべての肉なるものとの間に、わたしが立てた契約のしるしである。」
- 18 箱舟から出て来たノアの息子たちは、セム、ハム、ヤフェテであった。ハムはカナン之父である。

- 19 この三人がノアの息子たちで、彼らから全世界の民が分かれ出た。
- 20 さて、ノアは農夫となり、ぶどう畑を作り始めた。
- 21 彼はぶどう酒を飲んで酔い、自分の天幕の中で裸になった。
- 22 カナンの父ハムは、父の裸を見て、外にいた二人の兄弟に告げた。
- 23 それで、セムとヤフェテは上着を取って、自分たち二人の肩に掛け、うしろ向きに歩いて行って、父の裸をおおった。彼らは顔を背け、父の裸は見なかった。
- 24 ノアは酔いからさめ、末の息子が自分にしたことを知った。
- 25 彼は言った。「カナンはのろわれよ。兄たちの、しもべのしもべとなるように。」
- 26 また言った。「ほむべきかな、セムの神、主。カナンは彼らのしもべとなるように。」
- 27 神がヤフェテを広げ、彼がセムの天幕に住むようになれ。カナンは彼らのしもべとなるように。」
- 28 ノアは大洪水の後、三百五十年生きた。
- 29 ノアの全生涯は九百五十年であった。こうして彼は死んだ。

第10章

- 1 これはノアの息子、セム、ハム、ヤフェテの歴史である。大洪水の後、彼らに息子たちが生まれた。
- 2 ヤフェテの子らはゴメル、マゴグ、マダイ、ヤワン、トバル、メシェク、ティラス。
- 3 ゴメルの子らはアシュケナズ、リファテ、トガルマ。
- 4 ヤワンの子らはエリシャ、タルシシュ、キティム、ドダニム。
- 5 これらから島々の国民が分かれ出た。それぞれの地に、言語ごとに、その氏族にしたがって、国民となった。
- 6 ハムの子らはクシュ、ミツライム、プテ、カナン。
- 7 クシュの子らはセバ、ハビラ、サブタ、ラアマ、サブテカ。ラアマの子らはシェバ、デダン。
- 8 クシュはニムロデを生んだ。ニムロデは地上で最初の勇士となった。
- 9 彼は主の前に力ある狩人であった。それゆえ、「主の前に力ある狩人ニムロデのように」と言われるようになった。
- 10 彼の王国の始まりは、バベル、ウルク、アッカド、カルネで、シンアルの地にあった。
- 11 その地から彼はアッシュルに進出し、ニネベ、レホボテ・イル、カルフ、
- 12 およびニネベとカルフの間のレセンを建てた。それは大きな町であった。
- 13 ミツライムが生んだのは、ルディ人、アナミム人、レハビム人、ナフトヒム人、
- 14 パテロス人、カスルヒム人、カフトル人。このカスルヒム人からペリシテ人が出た。
- 15 カナンが生んだのは、長子シドン、ヒッタイト、
- 16 エブス人、アモリ人、ギルガシ人、
- 17 ヒビ人、アルキ人、シニ人、
- 18 アルワデ人、ツェマリ人、ハマテ人。その後、カナン人の諸氏族が分かれ出た。
- 19 それでカナン人の領土は、シドンからゲラルに向かって、ガザに至り、ソドム、ゴモラ、アデマ、ツェボイムに向かって、ラシャにまで及んだ。
- 20 以上が、その氏族、その言語、その地、国民ごとの、ハムの子孫である。
- 21 セムにも子が生まれた。セムはエベルのすべての子孫の先祖であり、ヤフェテの兄であった。
- 22 セムの子らはエラム、アッシュル、アルパクシャデ、ルデ、アラム。
- 23 アラムの子らはウツ、フル、ゲテル、マシュ。
- 24 アルパクシャデはシェラフを生み、シェラフはエベルを生んだ。
- 25 エベルには二人の息子が生まれ、一人の名はペレグであった。その時代に地が分けられたからである。彼の兄弟の名はヨクタンであった。
- 26 ヨクタンが生んだのは、アルモダデ、シェレフ、ハツアルマベテ、エラフ、
- 27 ハドラム、ウザル、ディクラ、
- 28 オバル、アビマエル、シェバ、

- 29** オフィル、ハビラ、ヨバブ。これらはみな、ヨクタンの子であった。
- 30** 彼らが住んだ地は、メシャからセファルに及ぶ東の高原地帯であった。
- 31** 以上が、その氏族、その言語、その地、国民ごとの、セムの子孫である。
- 32** 以上が、それぞれの家系による、国民ごとの、ノアの子孫の諸氏族である。大洪水の後、彼らからもろもろの国民が地上に分かれ出たのである。

第11章

- 1 さて、全地は一つの話しことば、一つの共通のことばであった。
- 2 人々が東の方へ移動したとき、彼らはシナルの地に平地を見つけて、そこに住んだ。
- 3 彼らは互いに言った。「さあ、れんがを作って、よく焼こう。」彼らは石の代わりにれんがを、漆喰の代わりに瀝青を用いた。
- 4 彼らは言った。「さあ、われわれは自分たちのために、町と、頂が天に届く塔を建てて、名をあげよう。われわれが地の全面に散らされるといけないから。」
- 5 そのとき主は、人間が建てた町と塔を見るために降りて来られた。
- 6 主は言われた。「見よ。彼らは一つの民で、みな同じ話しことばを持っている。このようなことをし始めたのなら、今や、彼らがしようと企てることで、不可能なことは何もない。
- 7 さあ、降りて行って、そこで彼らのことばを混乱させ、互いの話しことばが通じないようにしよう。」
- 8 主が彼らをそこから地の全面に散らされたので、彼らはその町を建てるのをやめた。
- 9 それゆえ、その町の名はバベルと呼ばれた。そこで主が全地の話しことばを混乱させ、そこから主が人々を地の全面に散らされたからである。
- 10 これはセムの歴史である。セムは百歳のとき、アルパクシャデを生んだ。それは大洪水の二年後のことであった。
- 11 セムはアルパクシャデを生んでから五百年生き、息子たち、娘たちを生んだ。
- 12 アルパクシャデは三十五年生きて、シェラフを生んだ。
- 13 アルパクシャデはシェラフを生んでから四百三年生き、息子たち、娘たちを生んだ。
- 14 シェラフは三十年生きて、エベルを生んだ。
- 15 シェラフはエベルを生んでから四百三年生き、息子たち、娘たちを生んだ。
- 16 エベルは三十四年生きて、ペレグを生んだ。
- 17 エベルはペレグを生んでから四百三十年生き、息子たち、娘たちを生んだ。
- 18 ペレグは三十年生きて、レウを生んだ。
- 19 ペレグはレウを生んでから二百九年生き、息子たち、娘たちを生んだ。
- 20 レウは三十二年生きて、セルグを生んだ。
- 21 レウはセルグを生んでから二百七年生き、息子たち、娘たちを生んだ。
- 22 セルグは三十年生きて、ナホルを生んだ。
- 23 セルグはナホルを生んでから二百年生き、息子たち、娘たちを生んだ。
- 24 ナホルは二十九年生きて、テラを生んだ。
- 25 ナホルはテラを生んでから百十九年生き、息子たち、娘たちを生んだ。
- 26 テラは七十年生きて、アブラムとナホルとハランを生んだ。
- 27 これはテラの歴史である。テラはアブラム、ナホル、ハランを生み、ハランはロトを生んだ。

- 28** ハランは父テラに先立って、親族の地であるカルデア人のウルで死んだ。
- 29** アブラムとナホルは妻を迎えた。アブラムの妻の名はサライであった。ナホルの妻の名はミルカといって、ハランの娘であった。ハランはミルカの父、またイスカの父であった。
- 30** サライは不妊の女で、彼女には子がいなかった。
- 31** テラは、その息子アブラムと、ハランの子である孫のロトと、息子アブラムの妻である嫁のサライを伴い、カナンの地に行くために、一緒にカルデア人のウルを出発した。しかし、ハランまで来ると、彼らはそこに住んだ。
- 32** テラの生涯は二百五年であった。テラはハランで死んだ。

第12章

- 1 主はアブラムに言われた。「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。
- 2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。
- 3 わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」
- 4 アブラムは、主が告げられたとおりに出て行った。ロトも彼と一緒にであった。ハランを出たとき、アブラムは七十五歳であった。
- 5 アブラムは、妻のサライと甥のロト、また自分たちが蓄えたすべての財産と、ハランで得た人たちを伴って、カナンの地に向かって出発した。こうして彼らはカナンの地に入った。
- 6 アブラムはその地を通して、シェケムの場所、モレの榿の木のところまで行った。当時、その地にはカナン人がいた。
- 7 主はアブラムに現れて言われた。「わたしは、あなたの子孫にこの地を与える。」アブラムは、自分に現れてくださった主のために、そこに祭壇を築いた。
- 8 彼は、そこからベテルの東にある山の方に移動して、天幕を張った。西にはベテル、東にはアイがあった。彼は、そこに主のための祭壇を築き、主の御名を呼び求めた。
- 9 アブラムはなおも進んで、ネゲブの方へと旅を続けた。
- 10 その地に飢饉が起こったので、アブラムは、エジプトにしばらく滞在するために下って行った。その地の飢饉が激しかったからである。
- 11 彼がエジプトに近づいて、その地に入って行こうとしたとき、妻のサライに言った。「聞いてほしい。私には、あなたが見目麗しい女だということがよく分かっている。
- 12 エジプト人があなたを見るようになると、『この女は彼の妻だ』と言って、私を殺し、あなたを生かしておくだろう。
- 13 私の妹だと言ってほしい。そうすれば、あなたのゆえに事がうまく運び、あなたのおかげで私は生き延びられるだろう。」
- 14 アブラムがエジプトにやって来たとき、エジプト人はサライを見て、非常に美しいと思った。
- 15 ファラオの高官たちが彼女を見て、ファラオに彼女を薦めたので、サライはファラオの宮廷に召し入れられた。
- 16 アブラムにとって、物事は彼女のゆえにうまく運んだ。それで彼は、羊の群れ、牛の群れ、ろば、それに男奴隷と女奴隷、雌ろば、らくだを所有するようになった。
- 17 しかし、主はアブラムの妻サライのことで、ファラオとその宮廷を大きなわざわいで打たれた。
- 18 そこで、ファラオはアブラムを呼び寄せて言った。「あなたは私に何ということをしたのか。彼女があなたの妻であることを、なぜ私に告げなかったのか。

- 19 なぜ、『私の妹です』と言ったのか。だから、私は彼女を自分の妻として召し入れたのだ。さあ今、あなたの妻を連れて、立ち去るがよい。」
- 20 ファラオがアブラムについて家来に命じたので、彼らは彼を、妻と、所有するすべてのものと一緒に送り出した。

第13章

- 1 そこで、アブラムはエジプトを出て、ネゲブに上った。妻と、所有するすべてのものと、ロトも一緒であった。
- 2 アブラムは家畜と銀と金を非常に豊かに持っていた。
- 3 彼はネゲブからベテルまで旅を続けて、ベテルとアイの間にある、最初に天幕を張った場所まで来た。
- 4 そこは、彼が以前に築いた祭壇の場所であった。アブラムはそこで主の御名を呼び求めた。
- 5 アブラムと一緒に来たロトも、羊の群れや牛の群れ、天幕を所有していた。
- 6 その地は、彼らが一緒に住むのに十分ではなかった。所有するものが多すぎて、一緒に住めなかったのである。
- 7 そのため、争いが、アブラムの家畜の牧者たちと、ロトの家畜の牧者たちの間に起こった。そのころ、その地にはカナン人とペリジ人が住んでいた。
- 8 アブラムはロトに言った。「私とあなたの間、また私の牧者たちとあなたの牧者たちの間に、争いがないようにしよう。私たちは親類同士なのだから。
- 9 全地はあなたの前にあるではないか。私から別れて行ってくれないか。あなたが左なら、私は右に行こう。あなたが右なら、私は左に行こう。」
- 10 ロトが目を上げてヨルダンの低地全体を見渡すと、主がソドムとゴモラを滅ぼされる前であったので、その地はツォアルに至るまで、主の園のように、またエジプトの地のように、どこもよく潤っていた。
- 11 ロトは、自分のためにヨルダンの低地全体を選んだ。そしてロトは東へ移動した。こうして彼らは互いに別れた。
- 12 アブラムはカナンの地に住んだ。一方、ロトは低地の町々に住み、ソドムに天幕を移した。
- 13 ところが、ソドムの人々は邪悪で、主に対して甚だしく罪深い者たちであった。
- 14 ロトがアブラムから別れて行った後、主はアブラムに言われた。「さあ、目を上げて、あなたがいるその場所から北、南、東、西を見渡しなさい。
- 15 わたしは、あなたが見渡しているこの地をすべて、あなたに、そしてあなたの子孫に永久に与えるからだ。
- 16 わたしは、あなたの子孫を地のちりのように増やす。もし人が、地のちりを数えることができるなら、あなたの子孫も数えることができる。
- 17 立って、この地を縦と横に歩き回りなさい。わたしがあなたに与えるのだから。」
- 18 そこで、アブラムは天幕を移して、ヘブロンにあるマムレの榿の木のそばに来て住んだ。そして、そこに主のための祭壇を築いた。

第14章

- 1 さて、シンアルの王アムラフェル、エラサル王アルヨク、エラム王ケドルラオメル、ゴイムの王ティデアルの時代のことである。
- 2 これらの王たちは、ソドムの王ベラ、ゴモラの王ビルシャ、アダマの王シンアブ、ツェボイムの王シェムエベル、ベラすなわちツォアルの王と戦った。
- 3 この五人の王たちは、シディムの谷、すなわち塩の海に結集した。
- 4 彼らは十二年間ケドルラオメルに仕えていたが、十三年目に背いたのである。
- 5 そして十四年目に、ケドルラオメルと彼に味方する王たちがやって来て、アシュタロテ・カルナイムでレファイム人を、ハムでズジム人を、シャベ・キルヤタイムでエミム人を、
- 6 セイルの山地でフリ人を打ち破り、荒野の近くのエル・パランまで進んだ。
- 7 それから彼らは引き返して、エン・ミシュパテ、すなわちカデシュに至り、アマレク人の全土と、さらにハツェツォン・タマルに住んでいるアモリ人を打ち破った。
- 8 そこで、ソドムの王、ゴモラの王、アダマの王、ツェボイムの王、ベラすなわちツォアルの王は出て来て、シディムの谷で戦う備えをし、
- 9 エラム王ケドルラオメル、ゴイムの王ティデアル、シンアル王アムラフェル、エラサル王アルヨクと対峙した。この四人の王と、先の五人の王とであった。
- 10 シディムの谷には瀝青の穴が多くあり、ソドムの王とゴモラの王は逃げたとき、その穴に落ちた。そして、残りの王たちは山の方に逃げた。
- 11 四人の王たちは、ソドムとゴモラのすべての財産とすべての食糧を奪って行った。
- 12 また彼らは、アブラムの甥のロトとその財産も奪って行った。ロトはソドムに住んでいた。
- 13 一人の逃亡者が、ヘブル人アブラムのところに来て、そのことを告げた。アブラムは、アモリ人マムレの檜の木のところに住んでいた。マムレはエシュコルとアネルの兄弟で、彼らはアブラムと盟約を結んでいた。
- 14 アブラムは、自分の親類の者が捕虜になったことを聞き、彼の家で生まれて訓練された者三百十八人を引き連れて、ダンまで追跡した。
- 15 夜、アブラムとそのしもべたちは分かれて彼らを攻め、彼らを打ち破り、ダマスコの北にあるホバまで追跡した。
- 16 そして、アブラムはすべての財産を取り戻し、親類のロトとその財産、それに女たちやほかの人々も取り戻した。
- 17 アブラムが、ケドルラオメルと彼に味方する王たちを打ち破って戻って来たとき、ソドムの王は、シャベの谷すなわち王の谷まで、彼を迎えに出て来た。
- 18 また、サレムの王メルキゼデクは、パンとぶどう酒を持って来た。彼はいと高き神の祭司であった。
- 19 彼はアブラムを祝福して言った。「アブラムに祝福あれ。いと高き神、天と地を造られた方より。

- 20** いと高き神に誉れあれ。あなたの敵をあなたの手に渡された方に。」アブラムはすべての物の十分の一を彼に与えた。
- 21** ソドムの王はアブラムに言った。「人々は私に返し、財産はあなたが取ってください。」
- 22** アブラムはソドムの王に言った。「私は、いと高き神、天と地を造られた方、主に誓う。
- 23** 糸一本、履き物のひも一本さえ、私はあなたの所有物から何一つ取らない。それは、『アブラムを富ませたのは、この私だ』とあなたが言わないようにするためだ。
- 24** ただ、若い者たちが食べた物と、私と一緒に行動した人たちの取り分は別だ。アネルとエシュコルとマムレには、彼らの取り分を取らせるように。」

第15章

- 1 これらの出来事の後、主のことばが幻のうちにアブラムに臨んだ。「アブラムよ、恐れるな。わたしはあなたの盾である。あなたへの報いは非常に大きい。」
- 2 アブラムは言った。「神、主よ、あなたは私に何を下さるのですか。私は子がないままで死のうとしています。私の家の相続人は、ダマスコのエリエゼルなのではないでしょうか。」
- 3 さらに、アブラムは言った。「ご覧ください。あなたが子孫を私に下さらなかったので、私の家のしもべが私の跡取りになるでしょう。」
- 4 すると見よ、主のことばが彼に臨んだ。「その者があなたの跡を継いではならない。ただ、あなた自身から生まれ出てくる者が、あなたの跡を継がなければならない。」
- 5 そして主は、彼を外に連れ出して言われた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。」さらに言われた。「あなたの子孫は、このようになる。」
- 6 アブラムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。
- 7 主は彼に言われた。「わたしは、この地をあなたの所有としてあなたに与えるために、カルデア人のウルからあなたを導き出した主である。」
- 8 アブラムは言った。「神、主よ。私がそれを所有することが、何によって分かるでしょうか。」
- 9 すると主は彼に言われた。「わたしのところに、三歳の雌牛と、三歳の雌やぎと、三歳の雄羊と、山鳩と、鳩のひなを持って来なさい。」
- 10 彼はそれらすべてを持って来て、真っ二つに切り裂き、その半分を互いに向かい合わせにした。ただし、鳥は切り裂かなかった。
- 11 猛禽がそれらの死体の上に降りて来た。アブラムはそれらを追い払った。
- 12 日が沈みかけたころ、深い眠りがアブラムを襲った。そして、見よ、大いなる暗闇の恐怖が彼を襲った。
- 13 主はアブラムに言われた。「あなたは、このことをよく知っておきなさい。あなたの子孫は、自分たちのものでない地で寄留者となり、四百年の間、奴隷となって苦しめられる。
- 14 しかし、彼らが奴隷として仕えるその国を、わたしはさばく。その後、彼らは多くの財産とともに、そこから出て来る。
- 15 あなた自身は、平安のうちに先祖のもとに行く。あなたは幸せな晩年を過ごして葬られる。
- 16 そして、四代目の者たちがここに帰って来る。それは、アモリ人の咎が、その時までで満ちることがないからである。」
- 17 日が沈んで暗くなったとき、見よ、煙の立つかまどと、燃えているたいまつが、切り裂かれた物の間を通り過ぎた。
- 18 その日、主はアブラムと契約を結んで言われた。「あなたの子孫に、わたしはこの地を与える。エジプトの川から、あの大河ユーフラテス川まで。
- 19 ケニ人、ケナズ人、カデモニ人、
- 20 ヒッタイト人、ペリジ人、レファイム人、

21 アモリ人、カナン人、ギルガシ人、エブス人の地を。」

第16章

- 1 アブラムの妻サライは、アブラムに子を産んでいなかった。彼女にはエジプト人の女奴隷がいて、その名をハガルといった。
- 2 サライはアブラムに言った。「ご覧ください。主は私が子を産めないようにしておられます。どうぞ、私の女奴隷のところにお入りください。おそらく、彼女によって、私は子を得られるでしょう。」アブラムはサライの言うことを聞き入れた。
- 3 アブラムの妻サライは、アブラムがカナンのに住んでから十年後に、彼女の女奴隷であるエジプト人ハガルを連れて来て、夫アブラムに妻として与えた。
- 4 彼はハガルのところに入り、彼女は身ごもった。彼女は、自分が身ごもったのを知って、自分の女主人を軽く見るようになった。
- 5 サライはアブラムに言った。「私に対するこの横暴なふるまいは、あなたの上に降りかかればよいのです。この私が自分の女奴隷をあなたの懐に与えたのに、彼女は自分が身ごもったのを知って、私を軽く見るようになりました。主が、私とあなたの間をおさばきになりますように。」
- 6 アブラムはサライに言った。「見なさい。あなたの女奴隷は、あなたの手の中にある。あなたの好きなようにしなさい。」それで、サライが彼女を苦しめたので、彼女はサライのもとから逃げ去った。
- 7 主の使いは、荒野にある泉のほとり、シュルへの道にある泉のほとりで、彼女を見つけた。
- 8 そして言った。「サライの女奴隷ハガル。あなたはどこから来て、どこへ行くのか。」すると彼女は言った。「私の女主人サライのもとから逃げているのです。」
- 9 主の使いは彼女に言った。「あなたの女主人のもとに帰りなさい。そして、彼女のもとで身を低くしなさい。」
- 10 また、主の使いは彼女に言った。「わたしはあなたの子孫を増し加える。それは、数えきれないほど多くなる。」
- 11 さらに、主の使いは彼女に言った。「見よ。あなたは身ごもって 男の子を産もうとしている。その子をイシュマエルと名づけなさい。主が、あなたの苦しみを聞き入れられたから。
- 12 彼は、野生のろばのような人となり、その手は、すべての人に逆らい、すべての人の手も、彼に逆らう。彼は、すべての兄弟に敵対して住む。」
- 13 そこで、彼女は自分に語りかけた主の名を「あなたはエル・ロイ」と呼んだ。彼女は、「私を見てくださる方のうしろ姿を見て、なおも私がここにいるとは」と言ったのである。
- 14 それゆえ、その井戸はベエル・ラハイ・ロイと呼ばれた。それは、カデシュとベレデの間にある。
- 15 ハガルはアブラムに男の子を産んだ。アブラムは、ハガルが産んだその男の子をイシュマエルと名づけた。

16 ハガルがアブラムにイシュマエルを産んだとき、アブラムは八十六歳であった。

第17章

- 1 さて、アブラムが九十九歳のとき、主はアブラムに現れ、こう言われた。「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み、全き者であれ。
- 2 わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に立てる。わたしは、あなたを大いに増やす。」
- 3 アブラムはひれ伏した。神は彼にこう告げられた。
- 4 「これが、あなたと結ぶわたしの契約である。あなたは多くの国民の父となる。
- 5 あなたの名は、もはや、アブラムとは呼ばれない。あなたの名はアブラハムとなる。わたしがあなたを多くの国民の父とするからである。
- 6 わたしは、あなたをますます子孫に富ませ、あなたをいくつもの国民とする。王たちが、あなたから出てくるだろう。
- 7 わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、またあなたの後の子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしは、あなたの神、あなたの後の子孫の神となる。
- 8 わたしは、あなたの寄留の地、カナン全土を、あなたとあなたの後の子孫に永遠の所有として与える。わたしは彼らの神となる。」
- 9 また神はアブラハムに仰せられた。「あなたは、わたしの契約を守らなければならない。あなたも、あなたの後の子孫も、代々にわたって。
- 10 次のことが、わたしとあなたがたとの間で、またあなたの後の子孫との間で、あなたがたが守るべきわたしの契約である。あなたがたの中の男子はみな、割礼を受けなさい。
- 11 あなたがたは自分の包皮の肉を切り捨てなさい。それが、わたしとあなたがたとの間の契約のしるしとなる。
- 12 あなたがたの中の男子はみな、代々にわたり、生まれて八日目に割礼を受けなければならない。家で生まれたしもべも、異国人から金で買い取られた、あなたの子孫ではない者もそうである。
- 13 あなたの家で生まれたしもべも、金で買い取った者も、必ず割礼を受けなければならない。わたしの契約は、永遠の契約として、あなたがたの肉に記されなければならない。
- 14 包皮の肉を切り捨てられていない無割礼の男、そのような者は、自分の民から断ち切られなければならない。わたしの契約を破ったからである。」
- 15 また神はアブラハムに仰せられた。「あなたの妻サラは、その名をサラと呼んではならない。その名はサラとなるからだ。
- 16 わたしは彼女を祝福し、彼女によって必ずあなたに男の子を与える。わたしは彼女を祝福する。彼女は国々の母となり、もろもろの民の王たちが彼女から出てくる。」
- 17 アブラハムはひれ伏して、笑った。そして心の中で言った。「百歳の者に子が生まれるだろうか。サラにしても、九十歳の女が子を産めるだろうか。」
- 18 そして、アブラハムは神に言った。「どうか、イシュマエルが御前で生きますように。」

- 19** 神は仰せられた。「いや、あなたの妻サラが、あなたに男の子を産むのだ。あなたはその子をイサクと名づけなさい。わたしは彼と、わたしの契約を立て、それを彼の後の子孫のために永遠の契約とする。
- 20** イシュマエルについては、あなたの言うことを聞き入れた。必ず、わたしは彼を祝福し、子孫に富ませ、大いに増やす。彼は十二人の族長たちを生む。わたしは彼を大いなる国民とする。
- 21** しかし、わたしがわたしの契約を立てるのは、サラが来年の今ごろあなたに産むイサクとの間にである。」
- 22** 神はアブラハムと語り終えると、彼のもとから上って行かれた。
- 23** そこでアブラハムは、その子イシュマエル、彼の家で生まれたすべてのしもべ、また、金で買い取ったすべての者、すなわち、アブラハムの家のすべての男子を集め、神が彼に告げられたとおり、その日のうちに、彼らの包皮の肉を切り捨てた。
- 24** アブラハムが包皮の肉を切り捨てられたときは、九十九歳であった。
- 25** その子イシュマエルは、包皮の肉に割礼を受けたとき、十三歳であった。
- 26** アブラハムとその子イシュマエルは、その日のうちに割礼を受けた。
- 27** 彼の家の男たちはみな、家で生まれた奴隷も、異国人から金で買い取った者も、彼と一緒に割礼を受けた。

第18章

- 1 主は、マムレの櫨の木のところ、アブラハムに現れた。彼は、日の暑いころ、天幕の入り口に座っていた。
- 2 彼が目を上げて見ると、なんと、三人の人が彼に向かって立っていた。アブラハムはそれを見るなり、彼らを迎えようと天幕の入り口から走って行き、地にひれ伏した。
- 3 彼は言った。「主よ。もしもよろしければ、どうか、しもべのところを素通りなさないでください。」
- 4 水を少しばかり持って来させますから、足を洗って、この木の下でお休みください。
- 5 私は食べ物を少し持って参ります。それで元気をつけて、それから旅をお続けください。せっかく、しもべのところをお通りになるのですから。」彼らは答えた。「あなたの言うとおりにしてください。」
- 6 アブラハムは、天幕のサラのところへ急いで行って、「早く、三セアの上等の小麦粉をこねて、パン菓子を作りなさい」と言った。
- 7 そして、アブラハムは牛のところに走って行き、柔らかくて、おいしそうな子牛を取り、若い者に渡した。若い者は手早くそれを料理した。
- 8 それからアブラハムは、凝乳と牛乳と、料理した子牛を持って来て、彼らの前に出したので、彼らは食べた。彼自身は木の下で給仕をしていた。
- 9 彼らはアブラハムに言った。「あなたの妻サラはどこにいますか。」彼は答えた。「天幕の中におります。」
- 10 すると、そのうちの一人が言った。「わたしは来年の今ごろ、必ずあなたのところに帰って来ます。そのとき、あなたの妻サラには男の子が生まれています。」サラは、その人のうしろの、天幕の入り口で聞いていた。
- 11 アブラハムとサラは年を重ねて老人になっていて、サラには女の月のものがもう止まっていた。
- 12 サラは心の中で笑って、こう言った。「年老いてしまったこの私に、何の楽しみがあるでしょう。それに主人も年寄りで。」
- 13 主はアブラハムに言われた。「なぜサラは笑って、『私は本当に子を産めるだろうか。こんなに年をとっているのに』と言うのか。」
- 14 主にとって不可能なことがあるだろうか。わたしは来年の今ごろ、定めた時に、あなたのところに帰って来る。そのとき、サラには男の子が生まれている。」
- 15 サラは打ち消して言った。「私は笑っていません。」恐ろしかったのである。しかし、主は言われた。「いや、確かにあなたは笑った。」
- 16 その人たちは、そこから立ち上がって、ソドムの方を見下ろした。アブラハムは彼らを見送りに、彼らと一緒にいった。
- 17 主はこう考えられた。「わたしは、自分がしようとしていることを、アブラハムに隠しておくべきだろうか。」

- 18 アブラハムは必ず、強く大いなる国民となり、地のすべての国民は彼によって祝福される。
- 19 わたしがアブラハムを選び出したのは、彼がその子どもたちと後の家族に命じて、彼らが主の道を守り、正義と公正を行うようになるためであり、それによって、主がアブラハムについて約束したことを彼の上に成就するためだ。」
- 20 主は言われた。「ソドムとゴモラの叫びは非常に大きく、彼らの罪はきわめて重い。
- 21 わたしは下って行って、わたしに届いた叫びどおり、彼らが滅ぼし尽くされるべきかどうかを、見て確かめたい。」
- 22 その人たちは、そこからソドムの方へ進んで行った。アブラハムは、まだ主の前に立っていた。
- 23 アブラハムは近づいて言った。「あなたは本当に、正しい者を悪い者とともに滅ぼし尽くされるのですか。
- 24 もしかすると、その町の中に正しい者が五十人いるかもしれません。あなたは本当に彼らを滅ぼし尽くされるのですか。その中にいる五十人の正しい者のために、その町をお赦しにならないのですか。
- 25 正しい者を悪い者とともに殺し、そのため正しい者と悪い者が同じようになる、というようなことを、あなたがなさることは絶対にありません。そんなことは絶対にあり得ないことです。全地をさばくお方は、公正を行うべきではありませんか。」
- 26 主は言われた。「もしソドムで、わたしが正しい者を五十人、町の中に見つけたら、その人たちのゆえにその町のすべてを赦そう。」
- 27 アブラハムは答えた。「ご覧ください。私はちりや灰にすぎませんが、あえて、わが主に申し上げます。
- 28 もしかすると、五十人の正しい者に五人不足しているかもしれません。その五人のために、あなたは町のすべてを滅ぼされるのでしょうか。」主は言われた。「いや、滅ぼしはしない。もし、そこに四十五人を見つけたら。」
- 29 彼は再び尋ねて言った。「もしかすると、そこに見つかるのは四十人かもしれません。」すると言われた。「そうはしない。その四十人のゆえに。」
- 30 また彼は言った。「わが主よ。どうかお怒りにならないで、私に言わせてください。もしかすると、そこに見つかるのは三十人かもしれません。」すると言われた。「そうはしない。もし、そこに三十人を見つけたら。」
- 31 彼は言った。「あえて、わが主に申し上げます。もしかすると、そこに見つかるのは二十人かもしれません。」すると言われた。「滅ぼしはしない。その二十人のゆえに。」
- 32 また彼は言った。「わが主よ。どうかお怒りにならないで、もう一度だけ私に言わせてください。もしかすると、そこに見つかるのは十人かもしれません。」すると言われた。「滅ぼしはしない。その十人のゆえに。」
- 33 主は、アブラハムと語り終えると、去って行かれた。アブラハムも自分の家へ帰って行った。

第19章

- 1 その二人の御使いは、夕暮れにソドムに着いた。ロトはソドムの門のところに座っていた。ロトは彼らを見ると、立ち上がって彼らを迎え、顔を地に付けて伏し拝んだ。
- 2 そして言った。「ご主人がた。どうか、このしもべの家に立ち寄り、足を洗って、お泊まりください。そして、朝早く旅を続けてください。」すると彼らは言った。「いや、私たちは広場に泊まろう。」
- 3 しかし、ロトがしきりに勧めたので、彼らは彼のところに立ち寄り、家の中に入った。ロトは種なしパンを焼き、彼らのためにごちそうを作った。こうして彼らは食事をした。
- 4 彼らが床につかないうちに、その町の男たち、ソドムの男たちが若い者から年寄りまで、その家を取り囲んだ。すべての人が町の隅々からやって来た。
- 5 そして、ロトに向かって叫んだ。「今夜おまえのところにやって来た、あの男たちはどこにいるのか。ここに連れ出せ。彼らをよく知りたいのだ。」
- 6 ロトは戸口にいる彼らのところへ出て行き、自分の背後の戸を閉めた。
- 7 そして言った。「兄弟たちよ、どうか悪いことはしないでください。
- 8 お願いですから。私には、まだ男を知らない娘が二人います。娘たちをあなたがたのところに連れて来ますから、好きなようにしてください。けれども、あの人たちには何もしないでください。あの人たちは、私の屋根の下に身を寄せたのですから。」
- 9 しかし、彼らは言った。「引っ込んでいろ。」そして言った。「こいつはよそ者のくせに、さばきをするのか。さあ、おまえを、あいつらよりもひどい目にあわせてやろう。」彼らはロトのからだに激しく迫り、戸を破ろうと近づいた。
- 10 すると、あの人たちが手を伸ばして、ロトを自分たちのいる家の中に引き入れて、戸を閉めた。
- 11 家の戸口にいた者たちは、小さい者から大きい者まで目つぶしをくらったので、彼らは戸口を見つけようとする力も萎えた。
- 12 その人たちはロトに言った。「ほかにだれか、ここに身内の者がいますか。あなたの婿や、あなたの息子、娘、またこの町にいる身内の者をみな、この場所から連れ出しなさい。
- 13 私たちは、この場所を滅ぼそうとしています。彼らの叫びが主の前に大きいので、主はこの町を滅ぼそうと、私たちを遣わされたのです。」
- 14 そこで、ロトは出て行き、娘たちを妻にしていた婿たちに告げた。「立って、この場所から出て行きなさい。主がこの町を滅ぼそうとしておられるから。」しかし、彼の婿たちには、それは悪い冗談のように思われた。
- 15 夜が明けるころ、御使いたちはロトをせき立てて言った。「さあ立って、あなたの妻と、ここにいる二人の娘を連れて行きなさい。そうでないと、あなたはこの町の咎のために滅ぼし尽くされてしまいます。」
- 16 彼はためらっていた。するとその人たちは、彼の手と彼の妻の手と、二人の娘の手をつかんだ。これは、彼に対する主のあわれみによることである。その人たちは彼を連れ出し、

町の外で一息つかせた。

- 17 彼らを外に連れ出したとき、その一人が言った。「いのちがけで逃げなさい。うしろを振り返ってはいけない。この低地のどこにも立ち止まってはならない。山に逃げなさい。そうでないと滅ぼされてしまうから。」
- 18 ロトは彼らに言った。「主よ、どうか、そんなことになりませんように。」
- 19 ご覧ください。このしもべはあなたのご好意を受けました。そしてあなたは私に大きな恵みを施してくださり、私のいのちを生かしてくださいました。しかし、私は山にまで逃げることはできません。おそらく、わざわざが追いついて、私は死ぬでしょう。
- 20 ご覧ください。あそこの町は逃れるのに近く、しかもあんなに小さい町です。どうか、あそこに逃げさせてください。あんなに小さいではありませんか。私のいのちを生かしてください。」
- 21 その人は彼に言った。「よろしい。わたしはこのことでも、あなたの願いを受け入れ、あなたの言うあの町を滅ぼさない。
- 22 急いであそこへ逃れなさい。あなたがあそこに着くまでは、わたしは何もできないから。」それゆえ、その町の名はツォアルと呼ばれた。
- 23 太陽が地の上に昇り、ロトはツォアルに着いた。
- 24 そのとき、主は硫黄と火を、天から、主のもとからソドムとゴモラの上に降らせられた。
- 25 こうして主は、これらの町々と低地全体と、その町々の全住民と、その地の植物を滅ぼされた。
- 26 ロトのうしろにいた彼の妻は、振り返ったので、塩の柱になってしまった。
- 27 翌朝早く、アブラハムは、かつて主の前に立ったあの場所に行った。
- 28 彼は、ソドムとゴモラの方、それに低地の全地方を見下ろした。彼が見ると、なんと、まるでかまどの煙のように、その地から煙が立ち上っていた。
- 29 神が低地の町々を滅ぼしたとき、神はアブラハムを覚えておられた。それで、ロトが住んでいた町々を滅ぼしたとき、神はロトをその滅びの中から逃れるようにされた。
- 30 ロトはツォアルから上って、二人の娘と一緒に、山の上に住んだ。ツォアルに住むのを恐れたからである。彼と二人の娘は洞穴の中に住んだ。
- 31 姉は妹に言った。「父は年をとっています。この地には、私たちのところに、世のしきたりにしたがって来てくれる男の人などいません。
- 32 さあ、父にお酒を飲ませ、一緒に寝て、父によって子孫を残しましょう。」
- 33 その夜、娘たちは父親に酒を飲ませ、姉が入って行き、一緒に寝た。ロトは、彼女が寝たのも起きたのも知らなかった。
- 34 その翌日、姉は妹に言った。「ご覧ください。私は昨夜、父と寝ました。今夜も父にお酒を飲ませましょう。そして、あなたが行って、一緒に寝なさい。そうして、私たちは父によって子孫を残しましょう。」
- 35 その夜も、娘たちは父親に酒を飲ませ、妹が行って、一緒に寝た。ロトは、彼女が寝たのも起きたのも知らなかった。
- 36 こうして、ロトの二人の娘は父親によって身ごもった。

37 姉は男の子を産んで、その子をモアブと名づけた。彼は今日のモアブ人の先祖である。

38 妹もまた、男の子を産んで、その子をベン・アミと名づけた。彼は今日のアンモン人の先祖である。

第20章

- 1 アブラハムは、そこからネゲブの地方へ移り、カデシュとシュルの間に住んだ。ゲラルに寄留していたとき、
- 2 アブラハムは、自分の妻サラのことを「これは私の妹です」と言ったので、ゲラルの王アビメレクは、人を遣わしてサラを召し入れた。
- 3 その夜、神が夢の中でアビメレクのところに来て、こう仰せられた。「見よ。あなたは、自分が召し入れた女のために死ぬことになる。あの女は夫のある身だ。」
- 4 アビメレクは、まだ彼女に近づいていなかった。そこで彼は言った。「主よ、あなたは正しい国民さえも殺されるのですか。」
- 5 彼が私に『これは私の妹です』と言ったのではありませんか。彼女自身も『これは私の兄です』と言いました。私は、全き心と汚れのない手で、このことをしたのです。」
- 6 神は夢の中で彼に仰せられた。「そのとおりだ。あなたが全き心でこのことをしたのを、わたし自身もよく知っている。それでわたしも、あなたがわたしの前に罪ある者とならないようにした。だからわたしは、あなたが彼女に触れることを許さなかったのだ。」
- 7 今、あの人の妻をあの人に返しなさい。あの人は預言者で、あなたのために祈ってくれるだろう。そして、いのちを得なさい。しかし、返さなければ、あなたも、あなたに属するすべての者も、必ず死ぬことを承知していなさい。」
- 8 翌朝早く、アビメレクは彼のしもべをみな呼び寄せ、これらのことをすべて語り聞かせたので、人々は非常に恐れた。
- 9 アビメレクはアブラハムを呼び寄せて言った。「あなたは何ということを私たちにしたのか。私がいったい、罪となるどんなことをあなたにしたというのか。あなたが、私と私の王国に大きな罪をもたらそうとするとは。あなたは、してはならないことを私にしたのだ。」
- 10 また、アビメレクはアブラハムに言った。「あなたはなぜ、こんなことをしたのか。」
- 11 アブラハムは答えた。「この地方には、神を恐れることが全くないので、人々が私の妻のゆえに私を殺すと思ったのです。」
- 12 また、本当に、あれは私の妹、私の父の娘です。でも、私の母の娘ではありません。それが私の妻になったのです。
- 13 神が私を父の家から、さすらいの旅に出されたとき、私は彼女に、『このようにして、あなたの真実の愛を私に尽くしてほしい。私たちが行くどこでも、私のことを、この人は私の兄です、と言ってほしい』と言ったのです。」
- 14 アビメレクは、羊の群れと牛の群れと、男女の奴隷たちを連れて来て、アブラハムに与え、またアブラハムの妻サラを彼に返した。
- 15 アビメレクは言った。「見なさい。私の領地があなたの前に広がっている。あなたの良いと思うところに住みなさい。」
- 16 サラに対しては、こう言った。「ここに、銀千枚をあなたの兄に与える。これはあなたにとって、また一緒にいるすべての人にとって、あなたを守るものとなるだろう。これであ

なたは、すべての人の前で正しいとされるだろう。」

- 17 そこで、アブラハムは神に祈った。神は、アビメレクとその妻、また女奴隷たちを癒やされたので、彼らは再び子を産むようになった。
- 18 主が、アブラハムの妻サラのことで、アビメレクの家すべての胎を堅く閉じておられたのである。

第21章

- 1 主は約束したとおりに、サラを顧みられた。主は告げたとおりに、サラのために行われた。
- 2 サラは身ごもり、神がアブラハムに告げられたその時期に、年老いたアブラハムに男の子を産んだ。
- 3 アブラハムは、自分に生まれた子、サラが自分に産んだ子をイサクと名づけた。
- 4 そしてアブラハムは、神が命じられたとおり、生後八日になった自分の子イサクに割礼を施した。
- 5 アブラハムは、その子イサクが彼に生まれたとき、百歳であった。
- 6 サラは言った。「神は私に笑いを下さいました。これを聞く人もみな、私のことで笑うでしょう。」
- 7 また、彼女は言った。「だれがアブラハムに、『サラが子に乳を飲ませる』と告げたでしょう。ところが私は、主人が年老いてから子を産んだのです。」
- 8 その子は育って乳離れした。アブラハムはイサクの乳離れの日に、盛大な宴会を催した。
- 9 サラは、エジプトの女ハガルがアブラハムに産んだ子が、イサクをからかっているのを見た。
- 10 それで、アブラハムに言った。「この女奴隷とその子を追い出してください。この女奴隷の子は、私の子イサクとともに跡取りになるべきではないのですから。」
- 11 このことで、アブラハムは非常に苦しんだ。それが自分の子に関わることだったからである。
- 12 神はアブラハムに仰せられた。「その少年とあなたの女奴隷のことで苦しんではならない。サラがあなたに言うことはみな、言うとおりに聞き入れなさい。というのは、イサクにあって、あなたの子孫が起こされるからだ。
- 13 しかし、あの女奴隷の子も、わたしは一つの国民とする。彼も、あなたの子孫なのだから。」
- 14 翌朝早く、アブラハムは、パンと、水の皮袋を取ってハガルに与え、彼女の肩に担がせ、その子とともに彼女を送り出した。それで彼女は行って、ベエル・シェバの荒野をさまよった。
- 15 皮袋の水が尽きると、彼女はその子を一本の灌木の下に放り出し、
- 16 自分は、弓で届くぐらい離れた向こうに行って座った。「あの子が死ぬのを見たくない」と思ったからである。彼女は向こうに座り、声をあげて泣いた。
- 17 神は少年の声を聞かれ、神の使いは天からハガルを呼んで言った。「ハガルよ、どうしたのか。恐れてはいけない。神が、あそこにいる少年の声を聞かれたからだ。
- 18 立って、あの少年を起こし、あなたの腕でしっかり抱きなさい。わたしは、あの子を大いなる国民とする。」
- 19 神がハガルの目を開かれたので、彼女は井戸を見つけた。それで、行って皮袋を水で満たし、少年に飲ませた。

- 20 神が少年とともにおられたので、彼は成長し、荒野に住んで、弓を射る者となった。
- 21 彼はパランの荒野に住んだ。彼の母は、エジプトの地から彼のために妻を迎えた。
- 22 そのころ、アビメレクとその軍の長ピコルがアブラハムに言った。「あなたが何をしても、神はあなたとともにおられます。
- 23 それで今、ここで神によって私に誓ってください。私と私の子孫を裏切らないと。そして、私があなたに示した誠意にふさわしく、私にも、またあなたが寄留しているこの土地に対しても、誠意を示してください。」
- 24 アブラハムは「私は誓います」と言った。
- 25 それから、アブラハムは、アビメレクのしもべたちが奪い取った井戸のことで、アビメレクに抗議した。
- 26 アビメレクは答えた。「だれがそのようなことをしたのか知りませんでした。それに、あなたも私に告げなかったし、私も今日まで聞いたことがありませんでした。」
- 27 そこでアブラハムは羊と牛を取って、アビメレクに与えた。こうして二人は契約を結んだ。
- 28 アブラハムは、羊の群れから、七匹の雌の子羊を別にしておいた。
- 29 アビメレクはアブラハムに言った。「今、あなたが別にしたこの七匹の雌の子羊は、何のためのものですか。」
- 30 アブラハムは言った。「私がこの井戸を掘ったという証拠になるように、七匹の雌の子羊を私の手から受け取ってください。」
- 31 それゆえ、その場所はベエル・シェバと呼ばれた。彼ら二人がそこで誓ったからである。
- 32 彼らはベエル・シェバで契約を結んだ。アビメレクと、その軍の長ピコルは立って、ペリシテ人の地に帰って行った。
- 33 アブラハムはベエル・シェバに一本のタマリスクの木を植え、そこで永遠の神、主の御名を呼び求めた。
- 34 アブラハムは長い間、ペリシテ人の地に寄留した。

第22章

- 1 これらの出来事の後、神がアブラハムを試練にあわせられた。神が彼に「アブラハムよ」と呼びかけられると、彼は「はい、ここにあります」と答えた。
- 2 神は仰せられた。「あなたの子、あなたが愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そして、わたしがあなたに告げる一つの山の上で、彼を全焼のささげ物として献げなさい。」
- 3 翌朝早く、アブラハムはろばに鞍をつけ、二人の若い者と一緒に息子イサクを連れて行った。アブラハムは全焼のささげ物のための薪を割った。こうして彼は、神がお告げになった場所へ向かって行った。
- 4 三日目に、アブラハムが目を上げると、遠くの方にその場所が見えた。
- 5 それで、アブラハムは若い者たちに、「おまえたちは、ろばと一緒に、ここに残っていなさい。私と息子はあそこに行き、礼拝をして、おまえたちのところに戻って来る」と言った。
- 6 アブラハムは全焼のささげ物のための薪を取り、それを息子イサクに背負わせ、火と刃物を手に取った。二人は一緒に進んで行った。
- 7 イサクは父アブラハムに話しかけて言った。「お父さん。」彼は「何だ。わが子よ」と答えた。イサクは尋ねた。「火と薪はありますが、全焼のささげ物にする羊は、どこにいるのですか。」
- 8 アブラハムは答えた。「わが子よ、神ご自身が、全焼のささげ物の羊を備えてくださるのだ。」こうして二人は一緒に進んで行った。
- 9 神がアブラハムにお告げになった場所に彼らが着いたとき、アブラハムは、そこに祭壇を築いて薪を並べた。そして息子イサクを縛り、彼を祭壇の上の薪の上に載せた。
- 10 アブラハムは手を伸ばして刃物を取り、息子を屠ろうとした。
- 11 そのとき、主の使いが天から彼に呼びかけられた。「アブラハム、アブラハム。」彼は答えた。「はい、ここにあります。」
- 12 御使いは言われた。「その子に手を下してはならない。その子に何もしてはならない。今わたしは、あなたが神を恐れていることがよく分かった。あなたは、自分の子、自分のひとり子さえ惜しむことがなかった。」
- 13 アブラハムが目を上げて見ると、見よ、一匹の雄羊が角を藪に引っかけていた。アブラハムは行って、その雄羊を取り、それを自分の息子の代わりに、全焼のささげ物として献げた。
- 14 アブラハムは、その場所の名をアドナイ・イルエと呼んだ。今日も、「主の山には備えがある」と言われている。
- 15 主の使いは再び天からアブラハムを呼んで、
- 16 こう言われた。「わたしは自分にかけて誓う―主のことば―。あなたがこれを行い、自分の子、自分のひとり子を惜しまなかったので、

- 17** 確かにわたしは、あなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように大いに増やす。あなたの子孫は敵の門を勝ち取る。
- 18** あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたが、わたしの声に聞き従ったからである。」
- 19** アブラハムは若い者たちのところに戻った。彼らは立って、一緒にベエル・シェバに行った。こうしてアブラハムはベエル・シェバに住んだ。
- 20** これらの出来事の後、アブラハムに次のことが伝えられた。「ミルカもまた、あなたの兄弟ナホルに子を産みました。
- 21** 長男ウツ、その弟ブズ、アラムの父ケムエル、
- 22** ケセデ、ハゾ、ピルダシュ、イデラフ、それにベトエルです。」
- 23** このベトエルはリベカを生んだ。ミルカはこれら八人を、アブラハムの兄弟ナホルに産んだのである。
- 24** レウマというナホルの側女もまた、テバフ、ガハム、タハシュ、マアカを産んだ。

第23章

- 1 サラの生涯、サラが生きた年数は百二十七年であった。
- 2 サラはカナン地のキルヤテ・アルバ、すなわちヘブロンで死んだ。アブラハムは来て、サラのために悼み悲しみ、泣いた。
- 3 アブラハムは、その亡き人のそばから立ち上がり、ヒッタイト人たちに話した。
- 4 「私は、あなたがたのところに在住している寄留者ですが、あなたがたのところで私有の墓地を私に譲っていただきたい。そうすれば、死んだ者を私のところから移して、葬ることができます。」
- 5 ヒッタイト人たちはアブラハムに答えた。
- 6 「ご主人、私たちの言うことをお聞き入れください。あなたは、私たちの間にあって神のつかさです。私たちの最上の墓地に、亡くなった方を葬ってください。私たちの中にはだれ一人、亡くなった方を葬る墓地をあなたに差し出さない者はありません。」
- 7 そこで、アブラハムは立って、その土地の人々、ヒッタイト人に礼をして、
- 8 彼らに告げた。「死んだ者を私のところから移して葬ることが、あなたがたの心にかなうのであれば、私の言うことをお聞き入れくださり、ツォハルの子エフロンに頼んでいただきたいのです。
- 9 彼の畑地の端にある、彼の所有のマクペラの洞穴を譲っていただけるようにです。十分な価の銀と引き換えに、あなたがたの間での私の所有の墓地として、譲っていただけるようにしてください。」
- 10 エフロンはヒッタイト人たちの間に座っていた。ヒッタイト人のエフロンは、その町の門に入るヒッタイト人たち全員が聞いているところで、アブラハムに答えた。
- 11 「いいえ、ご主人。どうか、私の言うことをお聞き入れください。あの畑地をあなたに差し上げます。そこにある洞穴も差し上げます。私の民の者たちの前で、それをあなたに差し上げます。亡くなった方を葬ってください。」
- 12 アブラハムは、その土地の人々に礼をし、
- 13 その土地の人々の聞いているところで、エフロンに告げた。「もしあなたが許してくださるなら、私の言うことをお聞き入れください。畑地の価の銀をお支払いします。どうか私から受け取ってください。そうすれば、死んだ者をそこに葬ることができます。」
- 14 エフロンはアブラハムに答えた。
- 15 「では、ご主人、私の言うことをお聞き入れください。銀四百シェケルの土地、それなら、私とあなたの間では、何ほどのこともないでしょう。どうぞ、亡くなった方を葬ってください。」
- 16 アブラハムはエフロンの申し出を聞き入れた。アブラハムはエフロンに、彼がヒッタイト人たちの聞いているところでつけた価の銀を支払った。それは商人の間で通用する銀四百シェケルであった。
- 17 こうして、マムレに面するマクペラにあるエフロンの畑地、すなわち、その畑と、畑地にある洞穴と、畑地の周りの境界線内にあるすべての木は、

- 18** その町の門に入るすべてのヒッタイト人たちの目の前で、アブラハムの所有となった。
- 19** その後アブラハムは、マムレに面するマクペラの畑地の洞穴に、妻サラを葬った。マムレはヘブロンにあり、カナンの地にある。
- 20** こうして、この畑地とそこにある洞穴は、ヒッタイト人たちの手から離れて、私有の墓地としてアブラハムの所有となった。

第24章

- 1 アブラハムは年を重ねて、老人になっていた。主は、あらゆる面でアブラハムを祝福しておられた。
- 2 アブラハムは、自分の全財産を管理している、家の最年長のしもべに、こう言った。「あなたの手を私のももの下に入れてくれ。」
- 3 私はあなたに、天の神、地の神である主にかけて誓わせる。私はカナン人の間に住んではいるが、あなたは、その娘たちの中から、私の息子の妻を迎えてはならない。
- 4 あなたは、私の国、私の親族のところに行って、私の息子イサクに妻を迎えなさい。」
- 5 しもべは彼に言った。「もしかしたら、その娘さんが、私についてこの地に来ようとしな
いかもしれません。その場合、ご子息をあなたの出身地へ連れて戻らなければなりません
か。」
- 6 アブラハムは彼に言った。「気をつけて、息子をそこへ連れて戻ることのないようにしな
さい。」
- 7 天の神、主は、私の父の家、私の親族の地から私を連れ出し、私に約束して、『あなた
の子孫にこの地を与える』と誓われた。その方が、あなたの前に御使いを遣わされるのだ。
あなたは、そこから私の息子に妻を迎えなさい。
- 8 もし、その娘があなたについて来ようとしなければなら、あなたはこの、私との誓いから解か
れる。ただ、私の息子をそこに連れて戻ることだけはしてはならない。」
- 9 それでもしもべは、主人であるアブラハムのももの下に自分の手を入れ、このことについて
彼に誓った。
- 10 しもべは主人のらくだの中から十頭を連れて出かけた。主人のあらゆる良い品々をその手
に携えていた。彼は立って、アラム・ナハライムのナホルの町へ行った。
- 11 彼は夕暮れ時、水を汲む女たちが出て来るころ、町の外の井戸のそばにらくだを伏させ
た。
- 12 そうして言った。「私の主人アブラハムの神、主よ。どうか今日、私のために取り計ら
い、私の主人アブラハムに恵みを施してください。」
- 13 ご覧ください。私は泉のそばに立っています。この町の人々の娘たちが、水を汲みに出
て来るでしょう。
- 14 私が娘に、『どうか、あなたの水がめを傾けて、私に飲ませてください』と言い、その娘
が、『お飲みください。あなたのらくだにも水を飲ませましょう』と言ったなら、その娘
こそ、あなたが、あなたのしもべイサクのために定めておられた人です。このことで、あ
なたが私の主人に恵みを施されたことを、私が知ることができますように。」
- 15 しもべがまだ言い終わらないうちに、見よ、リベカが水がめを肩に載せて出て来た。リベ
カはミルカの子ベトエルの娘で、ミルカはアブラハムの兄弟ナホルの妻であった。
- 16 この娘は非常に美しく、処女で、男が触れたことがなかった。彼女は泉に下りて行き、水
がめを満たして上がって来た。

- 17 しもべは彼女の方に走って行って、言った。「どうか、あなたの水がめから、水を少し飲ませてください。」
- 18 すると彼女は、「どうぞ、お飲みください。ご主人様」と言って、すばやくその手に水がめを取り降ろし、彼に飲ませた。
- 19 水を飲ませ終わると、彼女は、「あなたのらくだにも、飲み終わるまで、水を汲みましよう」と言った。
- 20 彼女は急いで水がめの水を水ぶねにあけ、水を汲みに、再び井戸まで走って行き、すべてのらくだのために水を汲んだ。
- 21 この人は、主が自分の旅を成功させてくださったかどうかを知ろうと、黙って彼女を見つめていた。
- 22 らくだが水を飲み終わったとき、その人は、重さ一ベカの金の飾り輪と、彼女の腕のために、重さ十シェケルの二つの金の腕輪を取り、
- 23 尋ねた。「あなたは、どなたの娘さんですか。どうか私に言ってください。あなたの父上の家には、私どもが泊めていただける場所があるでしょうか。」
- 24 彼女は答えた。「私は、ミルカがナホルに産んだ子ベトエルの娘です。」
- 25 また言った。「藁も飼料も、私たちのところには、たくさんあります。それに、お泊まりになる場所も。」
- 26 その人は、ひざまずき、主を礼拝して、
- 27 こう言った。「私の主人アブラハムの神、主がほめたたえられますように。主は、私の主人に対する恵みとまことをお捨てになりませんでした。主は道中、この私を導いてくださいました。主人の兄弟の家にまで。」
- 28 その娘は走って行って、母の家の者に、これらのことを告げた。
- 29 リベカには兄がいて、その名をラバンといった。ラバンは外へ出て、泉のそばにいるその人のもとへ走って行った。
- 30 彼は、飾り輪と、妹の腕にある腕輪を見、また、「あの人が私にこう言われました」と言った妹リベカのことばを聞くとすぐに、その人のところに行った。すると見よ、その人は泉のそば、らくだのそばに立っていた。
- 31 そこでラバンは言った。「どうぞ、おいでください。主に祝福された方。なぜ外に立っておられるのですか。私は、お宿と、らくだのための場所を用意しております。」
- 32 それで、その人は家の中に入った。らくだの荷が解かれ、らくだに藁と飼料が与えられ、彼の足と、一緒にいた従者たちの足を洗う水も与えられた。
- 33 それから、彼の前に食事が出されたが、彼は「私の用件を話すまでは、いただきます」と言った。「お話しください」と言われて、
- 34 彼は言った。「私はアブラハムのしもべです。」
- 35 主は私の主人を大いに祝福されましたので、主人は富んでおります。主は主人に、羊や牛、銀や金、男女の奴隷、らくだやろばをお与えになりました。
- 36 私の主人の妻サラは、年をとってから主人に男の子を産み、主人はこの子に自分の全財産を譲っておられます。

- 37 私の主人は、こう言って、私に誓わせました。『私が住んでいるこの地のカナン人の娘たちの中から、私の息子の妻を迎えてはならない。』
- 38 あなたは、私の父の家、私の親族のところへ行って、私の息子に妻を迎えなさい。』
- 39 そこで私は主人に申しました。『もしかしたら、その娘さんは私について来ないかもしれませんが。』
- 40 すると主人は答えました。『私は主の前に歩んできた。その主が御使いをあなたと一緒に遣わし、あなたの旅を成功させてくださる。あなたは、私の親族、私の父の家から、私の息子に妻を迎えなさい。』
- 41 次のようなときは、あなたは私との誓いから解かれる。あなたが私の親族のところに行ったときに、もし彼らがあなたに娘を与えないなら、そのとき、あなたは私との誓いから解かれる。』
- 42 今日、私は泉のそばに来て言いました。『私の主人アブラハムの神、主よ。私がここまで来た旅を、もしあなたが成功させてくださるのなら――。』
- 43 ご覧ください。私は泉のそばに立っています。若い娘が水を汲みに出て来たなら、私は「あなたの水がめから少し水を飲ませてください」と言います。
- 44 その人が私に、「どうぞ、お飲みください。あなたのらくだにも水を汲みましょう」と言ったなら、その娘さんこそ、主が私の主人の息子のために定められた方です。』
- 45 私が心の中で言い終わらないうちに、なんと、リベカさんが水がめを肩に載せて出て来たのです。そして、泉に下りて行き、水を汲みました。それで私が『どうか水を飲ませてください』と言うと、
- 46 急いで水がめを肩から降ろし、『お飲みください。あなたのらくだにも水を飲ませましょう』と言われたので、私は飲みました。らくだにも水を飲ませてくださいました。
- 47 私が尋ねて、『あなたは、どなたの娘さんですか』と言いますと、『ミルカがナホルに産んだ子ベトエルの娘です』と答えました。そこで私は、彼女の鼻に飾り輪をつけ、彼女の腕に腕輪をはめました。
- 48 そして私はひざまずき、主を礼拝し、私の主人アブラハムの神、主をほめたたえました。主は、私の主人の親族の娘さんを主人の息子に迎えるために、私を確かな道に導いてくださったのです。
- 49 それで今、あなたがたが私の主人に恵みとまことを施してくださるのなら、私にそう言ってください。もしそうでなければ、そうでないと私に言ってください。それによって、私は右か左に向かうことになります。」
- 50 ラバンとベトエルは答えた。「主からこのことが出たのですから、私たちはあなたに良し悪しを言うことはできません。
- 51 ご覧ください。リベカはあなたの前におります。どうぞお連れください。主が言われたとおりに、あなたのご主人の息子さんの妻となりますように。」
- 52 アブラハムのしもべは、彼らのことばを聞くやいなや、地にひれ伏して主を礼拝した。
- 53 そして、このしもべは銀や金の品物や衣装を取り出して、リベカに与えた。また、彼女の兄や母にも貴重な品々を贈った。

- 54 このしもべと、ともにいた従者たちは、食べたり飲んだりして、そこに泊まった。朝になって彼らが起きると、そのしもべは「私の主人のところへ帰らせてください」と言った。
- 55 彼女の兄と母は、「娘をしばらく、十日間ほど私たちのもとにとどまらせて、その後で行かせるようにしたいのですが」と言った。
- 56 しもべは彼らに、「私が遅れないようにしてください。主が私の旅を成功させてくださったのですから。主人のところへ行けるように、私を帰らせてください」と言った。
- 57 彼らは答えた。「娘を呼び寄せて、娘の言うことを聞いてみましょう。」
- 58 彼らはリベカを呼び寄せて、「この人と一緒に行くか」と尋ねた。すると彼女は「はい、行きます」と答えた。
- 59 そこで彼らは、妹リベカとその乳母を、アブラハムのしもべとその従者たちと一緒に送り出した。
- 60 彼らはリベカを祝福して言った。「われらの妹よ、あなたは幾千万にも増えるように。あなたの子孫は敵の門を勝ち取るように。」
- 61 リベカとその侍女たちは立ち上がり、らくだに乗って、その人の後について行った。こうして、しもべはリベカを連れ帰った。
- 62 一方イサクは、ベエル・ラハイ・ロイ地方から帰って来ていた。彼はネゲブの地に住んでいたのであった。
- 63 イサクは夕暮れ近く、野に散歩に出かけた。彼が目を上げて見ると、ちょうど、らくだが近づいて来ていた。
- 64 リベカも目を上げ、イサクを見ると、らくだから降り、
- 65 しもべに尋ねた。「野を歩いて私たちを迎えに来る、あの方はどなたですか。」しもべは答えた。「あの方が私の主人です。」そこで、リベカはペールを手にとって、身をおおった。
- 66 しもべは、自分がしてきたことを残らずイサクに話した。
- 67 イサクは、その母サラの天幕にリベカを連れて行き、リベカを迎えて妻とし、彼女を愛した。イサクは、母の亡き後、慰めを得た。

第25章

- 1 アブラハムは、再び妻を迎えた。その名はケトラといった。
- 2 彼女はアブラハムに、ジムラン、ヨクシャン、メダン、ミディアン、イシュバク、シュアハを産んだ。
- 3 ヨクシャンはシェバとデダンを生んだ。デダンの子孫は、アッシェル人とレットシム人とレウミム人であった。
- 4 ミディアンの子は、エファ、エフェル、ハノク、アビダ、エルダアで、これらはみな、ケトラの子であった。
- 5 アブラハムは自分の全財産をイサクに与えた。
- 6 しかし、側女たちの子には贈り物を与え、自分が生きている間に、彼らを東の方、東方の国に行かせて、自分の子イサクから遠ざけた。
- 7 以上がアブラハムの生きた年月で、百七十五年であった。
- 8 アブラハムは幸せな晩年を過ごし、年老いて満ち足り、息絶えて死んだ。そして自分の民に加えられた。
- 9 その息子、イサクとイシュマエルは、アブラハムを、マムレに面するマクペラの洞穴に葬った。これは、ヒッタイト人ツォハルの子エフロンの畑地にある。
- 10 アブラハムがヒッタイト人たちから買ったあの畑地である。アブラハムと彼の妻サラはそこに葬られた。
- 11 アブラハムの死後、神は彼の子イサクを祝福された。イサクはベエル・ラハイ・ロイの近くに住んだ。
- 12 これは、サラの女奴隷、エジプト人 ハガルがアブラハムに産んだ、アブラハムの子イシュマエルの歴史である。
- 13 イシュマエルの子は、生まれた順に名を挙げると、イシュマエルの長子ネバヨテ、それからケダル、アデベエル、ミブサム、
- 14 ミシュマ、ドマ、マサ、
- 15 ハダド、テマ、エトル、ナフィシュ、ケデマである。
- 16 これがイシュマエルの子孫である。これらは、集落と宿営ごとにつけられた彼らの名で、十二人の、それぞれの氏族の長である。
- 17 以上がイシュマエルの生涯で、その年数は百三十七年であった。彼は息絶えて死に、自分の民に加えられた。
- 18 イシュマエルの子孫は、ハビラからシュルまでの地域に住んだ。シュルはエジプトに接し、アッシェルへの道にあった。彼らは、すべての兄弟たちに敵対していた。
- 19 これはアブラハムの子イサクの歴史である。アブラハムはイサクを生んだ。
- 20 イサクが、パダン・アラムのアラム人ベトエルの娘で、アラム人ラバンの妹であるリベカを妻を迎えたときは、四十歳であった。
- 21 イサクは、自分の妻のために主に祈った。彼女が不妊の女だったからである。主は彼の祈りを聞き入れ、妻リベカは身ごもった。

- 22 子どもたちが彼女の腹の中でぶつかり合うようになったので、彼女は「こんなことでは、いったいどうなるのでしょうか、私は」と言った。そして、主のみこころを求めに出て行った。
- 23 すると主は彼女に言われた。「二つの国があなたの胎内にあり、二つの国民があなたから分かれ出る。一つの国民は、もう一つの国民より強く、兄が弟に仕える。」
- 24 月日が満ちて出産の時になった。すると見よ、双子が胎内にいた。
- 25 最初に出て来た子は、赤くて、全身毛衣のようであった。それで、彼らはその子をエサウと名づけた。
- 26 その後で弟が出て来たが、その手はエサウのかかとをつかんでいた。それで、その子はヤコブと名づけられた。イサクは、彼らを生んだとき、六十歳であった。
- 27 この子どもたちは成長した。エサウは巧みな狩人、野の人であったが、ヤコブは穏やかな人で、天幕に住んでいた。
- 28 イサクはエサウを愛していた。猟の獲物を好んでいたからである。しかし、リベカはヤコブを愛していた。
- 29 さて、ヤコブが煮物を煮ていると、エサウが野から帰って来た。彼は疲れきっていた。
- 30 エサウはヤコブに言った。「どうか、その赤いのを、そこの赤い物を食べさせてくれ。疲れきっているのだ。」それで、彼の名はエドムと呼ばれた。
- 31 するとヤコブは、「今すぐ私に、あなたの長子の権利を売ってください」と言った。
- 32 エサウは、「見てくれ。私は死にそうだ。長子の権利など、私にとって何になろう」と言った。
- 33 ヤコブが「今すぐ、私に誓ってください」と言ったので、エサウはヤコブに誓った。こうして彼は、自分の長子の権利をヤコブに売った。
- 34 ヤコブがエサウにパンとレンズ豆の煮物を与えたので、エサウは食べたり飲んだりして、立ち去った。こうしてエサウは長子の権利を侮った。

第26章

- 1 さて、アブラハムの時代にあった先の飢饉とは別に、この国にまた飢饉が起こった。それでイサクは、ゲラルのペリシテ人の王アビメレクのもとへ行った。
- 2 主はイサクに現れて言われた。「エジプトへは下ってはならない。わたしがあなたに告げる地に住みなさい。
- 3 あなたはこの地に寄留しなさい。わたしはあなたとともにいて、あなたを祝福する。あなたとあなたの子孫に、わたしがこれらの国々をすべて与える。こうしてわたしは、あなたの父アブラハムに誓った誓いを果たす。
- 4 そしてわたしは、あなたの子孫を空の星のように増し加え、あなたの子孫に、これらの国々をみな与える。あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。
- 5 これは、アブラハムがわたしの声に聞き従い、わたしの命令と掟とおしえを守って、わたしへの務めを果たしたからである。」
- 6 こうしてイサクはゲラルに住んでいたが、
- 7 その土地の人々が彼の妻のことを尋ねた。すると彼は「あれは私の妹です」と答えた。この土地の人々がリベカのこと自分を殺しはしないかと思って、「私の妻です」と言うのを恐れたのであった。彼女が美しかったからである。
- 8 イサクは長くそこに滞在していた。ある日のこと、ペリシテ人の王アビメレクが窓から見下ろしていると、なんと、イサクがその妻リベカを愛撫しているのが見えた。
- 9 アビメレクは、イサクを呼び寄せて言った。「本当のところ、あの女はあなたの妻ではないか。なぜ、あなたは『あれは私の妹です』と言ったのか。」イサクは「彼女のことで殺されはしないかと思ったからです」と答えた。
- 10 アビメレクは言った。「何ということをしてくれたのか。もう少しで、民の一人があなたの妻と寝て、あなたはわれわれに罪責をもたらすところだった。」
- 11 そこでアビメレクは、すべての民に命じて言った。「この人と、この人の妻に触れる者は、必ず殺される。」
- 12 イサクはその地に種を蒔き、その年に百倍の収穫を見た。主は彼を祝福された。
- 13 こうして、この人は富み、ますます栄えて、非常に裕福になった。
- 14 彼が羊の群れや牛の群れ、それに多くのしもべを持つようになったので、ペリシテ人は彼をねたんだ。
- 15 それでペリシテ人は、イサクの父アブラハムの時代に父のしもべたちが掘った井戸を、すべてふさいで土で満たした。
- 16 アビメレクはイサクに言った。「さあ、われわれのところから出て行ってほしい。われわれより、はるかに強くなったから。」
- 17 イサクはそこを去り、ゲラルの谷間に天幕を張って、そこに住んだ。
- 18 イサクは、彼の父アブラハムの時代に掘られて、アブラハムの死後にペリシテ人がふさいだ井戸を掘り返した。イサクは、それらに父が付けていた名と同じ名をつけた。

- 19 イサクのしもべたちがその谷間を掘っているとき、そこに湧き水の井戸を見つけた。
- 20 ゲラルの羊飼いたちは「この水はわれわれのものだ」と言って、イサクの羊飼いたちと争った。それで、イサクはその井戸の名をエセクと呼んだ。彼らがイサクと争ったからである。
- 21 しもべたちは、もう一つの井戸を掘った。それについても彼らが争ったので、その名をシテナと呼んだ。
- 22 イサクはそこから移って、もう一つの井戸を掘った。その井戸については争いがなかったので、その名をレホボテと呼んだ。そして彼は言った。「今や、主は私たちに広い所を与えて、この地で私たちが増えるようにしてくださった。」
- 23 彼はそこからベエル・シェバに上った。
- 24 主はその夜、彼に現れて言われた。「わたしは、あなたの父アブラハムの神である。恐れてはならない。わたしがあなたとともにいるからだ。わたしはあなたを祝福し、あなたの子孫を増し加える。わたしのしもべアブラハムのゆえに。」
- 25 イサクはそこに祭壇を築き、主の御名を呼び求めた。彼はそこに天幕を張り、イサクのしもべたちは、そこに井戸を掘った。
- 26 さて、アビメレクがゲラルからイサクのところにやって来た。友人のアフザテと、その軍の長ピコルも一緒であった。
- 27 イサクは彼らに言った。「なぜ、あなたがたは私のところに来たのですか。私を憎んで、自分たちのところから私を追い出したのに。」
- 28 彼らは言った。「私たちは、主があなたとともにおられることを確かに見ました。ですから、こう言います。どうか私たちの間で、私たちとあなたとの間で、誓いを立ててください。あなたと盟約を結びたいのです。
- 29 私たちがあなたに手出しをせず、ただ良いことだけをして、平和のうちにあなたを送り出したように、あなたも私たちに害を加えないという盟約です。あなたは今、主に祝福されています。」
- 30 そこでイサクは彼らのために宴会を催し、食べたり飲んだりした。
- 31 翌朝早く、両者は互いに誓いを交わした。イサクは彼らを送り出し、彼らは平和のうちに彼のところから去って行った。
- 32 ちょうどその日、イサクのしもべたちが帰って来て、自分たちが掘り当てた井戸のことにについて告げた。「私どもは水を見つけました。」
- 33 そこでイサクは、その井戸をシブアと呼んだ。それゆえ、その町の名は、今日に至るまで、ベエル・シェバという。
- 34 エサウは四十歳になって、ヒッタイト人ベエリの娘ユディトと、ヒッタイト人エロンの娘バセマテを妻に迎えた。
- 35 彼女たちは、イサクとリベカにとって悩みの種となった。

第27章

- 1 イサクが年をとり、目がかすんでよく見えなくなったときのことである。彼は上の息子エサウを呼び寄せて、「わが子よ」と言った。すると彼は「はい、ここにおります」と答えた。
- 2 イサクは言った。「見なさい。私は年老いて、いつ死ぬか分からない。
- 3 さあ今、おまえの道具の矢筒と弓を取って野に出て行き、私のために獲物をしとめて来てくれないか。
- 4 そして私のために私の好きなおいしい料理を作り、ここに持って来て、私に食べさせてくれ。私が死ぬ前に、私自ら、おまえを祝福できるように。」
- 5 リベカは、イサクがその子エサウに話しているのを聞いていた。それで、エサウが獲物をしとめて父のところに持って来ようと野に出かけたとき、
- 6 リベカは息子のヤコブに言った。「今私は、父上があなたの兄エサウにこう言っておられるのを聞きました。
- 7 『獲物を捕って来て、私においしい料理を作ってくれ。食べて、死ぬ前に、主の前でおまえを祝福しよう。』
- 8 さあ今、子よ、私があなたに命じることを、よく聞きなさい。
- 9 さあ、群れのところに行って、そこから最上の子やぎを二匹取って私のところに来なさい。私はそれで、あなたの父上の好きな、おいしい料理を作しましょう。
- 10 あなたが父上のところに持って行けば、食べて、死ぬ前にあなたを祝福してくださるでしょう。」
- 11 ヤコブは母リベカに言った。「でも、兄さんのエサウは毛深い人なのに、私の肌は滑らかです。
- 12 もしかすると父上は私にさわって、私にからかわれたと思うでしょう。私は祝福どころか、のろいをこの身に招くことになります。」
- 13 母は彼に言った。「子よ、あなたへののろいは私の身にあるように。ただ私の言うことをよく聞いて、行って子やぎを取って来なさい。」
- 14 それでヤコブは行って、取って母のところに持って来た。母は、父の好む、おいしい料理を作った。
- 15 それからリベカは、家の中で自分の手もとにあった、上の息子エサウの衣を取って来て、それを下の息子ヤコブに着せ、
- 16 また、子やぎの毛皮を、彼の両腕と、首の滑らかなところに巻き付けた。
- 17 そうして、自分が作ったおいしい料理とパンを、息子ヤコブの手に渡した。
- 18 ヤコブは父のところに行き、「お父さん」と言った。イサクは「おお。おまえはだれかね、わが子よ」と尋ねた。
- 19 ヤコブは父に、「長男のエサウです。私はお父さんが言われたとおりになりました。どうぞ、起きて座り、私の獲物を召し上がってください。そうして、自ら私を祝福してください」と答えた。

- 20 イサクは、その子に言った。「どうして、こんなに早く見つけることができたのかね、わが子よ。」彼は答えた。「あなたの神、主が私のために、そうしてくださったのです。」
- 21 そこでイサクはヤコブに言った。「近くに寄ってくれ。わが子よ。おまえが本当にわが子エサウなのかどうか、私はおまえにさわってみたい。」
- 22 ヤコブが父イサクに近寄ると、イサクは彼にさわり、そして言った。「声はヤコブの声だが、手はエサウの手だ。」
- 23 ヤコブの手が、兄エサウの手のように毛深かったので、イサクには見分けがつかなかった。それでイサクは彼を祝福しようとして、
- 24 「本当におまえは、わが子エサウだね」と言った。するとヤコブは答えた。「そうです。」
- 25 そこでイサクは言った。「私のところに持って来なさい。わが子の獲物を食べたい。そうして私自ら、おまえを祝福しよう。」そこでヤコブが持って来ると、イサクはそれを食べた。またぶどう酒を持って来ると、それも飲んだ。
- 26 父イサクはヤコブに、「近寄って私に口づけしてくれ、わが子よ」と言ったので、
- 27 ヤコブは近づいて、彼に口づけした。イサクはヤコブの衣の香りを嗅ぎ、彼を祝福して言った。「ああ、わが子の香り。主が祝福された野の香りのようだ。
- 28 神がおまえに 天の露と地の肥沃、豊かな穀物と新しいぶどう酒を 与えてくださるよう
- に。
- 29 諸国の民がおまえに仕え、 もろもろの国民がおまえを伏し拝むように。 おまえは兄弟たちの主となり、 おまえの母の子がおまえを伏し拝むように。 おまえを呪う者がのろわれ、 おまえを祝福する者が祝福されるように。」
- 30 イサクがヤコブを祝福し終わり、ヤコブが父イサクの前から出て行くとすぐに、兄のエサウが獵から戻って来た。
- 31 彼もまた、おいしい料理を作って、父のところに持って来た。そして父に言った。「お父さん。起きて、息子の獲物を召し上がってください。あなた自ら、私を祝福してくださるために。」
- 32 父イサクは彼に言った。「だれだね、おまえは。」彼は言った。「私はあなたの子、長男のエサウです。」
- 33 イサクは激しく身震いして言った。「では、いったい、あれはだれだったのか。獲物をしとめて、私のところに持って来たのは。おまえが来る前に、私はみな食べてしまい、彼を祝福してしまった。彼は必ず祝福されるだろう。」
- 34 エサウは父のことばを聞くと、声の限りに激しく泣き叫び、父に言った。「お父さん、私を祝福してください。私も。」
- 35 父は言った。「おまえの弟が来て、だましたのだ。そしておまえへの祝福を奪い取ってしまった。」
- 36 エサウは言った。「あいつの名がヤコブというのも、このためか。二度までも私を押しつけて。私の長子の権利を奪い取り、今また、私への祝福を奪い取った。」また言った。「私のためには、祝福を取っておかれなかったのですか。」

- 37 イサクは答えてエサウに言った。「ああ、私は彼をおまえの主とし、すべての兄弟を彼にしもべとして与えた。また穀物と新しいぶどう酒で彼を養うようにした。わが子よ、おまえのためには、いったい何ができるだろうか。」
- 38 エサウは父に言った。「お父さん、祝福は一つしかないのですか。お父さん、私を祝福してください。私も。」エサウは声をあげて泣いた。
- 39 父イサクは彼に答えた。「見よ。おまえの住む所には 地の肥沃がなく、 上から天の露もない。
- 40 おまえは自分の剣によって生き、 自分の弟に仕えることになる。 しかし、おまえが奮い立つなら、 おまえは自分の首から 彼のくびきを解き捨てるだろう。」
- 41 エサウは、父がヤコブを祝福した祝福のことで、ヤコブを恨んだ。それでエサウは心の中で言った。「父の喪の日も近づいている。そのとき、弟ヤコブを殺してやろう。」
- 42 上の息子エサウの言ったことがリベカに伝えられると、彼女は人を送り、下の息子ヤコブを呼び寄せて言った。「兄さんのエサウが、あなたを殺して鬱憤を晴らそうとしています。
- 43 さあ今、子よ、私の言うことをよく聞きなさい。すぐに立って、ハランへ、私の兄ラバンのところへ逃げなさい。
- 44 兄さんの憤りが収まるまで、おじラバンのところにしばらくとどまっていなさい。
- 45 兄さんの怒りが収まって、あなたが兄さんにしたことを兄さんが忘れたとき、私は人を送って、あなたをそこから呼び戻しましょう。あなたたち二人を一日のうちに失うことなど、どうして私にできるでしょう。」
- 46 リベカはイサクに言った。「私はヒットライト人の娘たちのことで、生きているのがいやになりました。もしヤコブが、この地の娘たちのうちで、このようなヒットライト人の娘たちのうちから妻を迎えるとしたら、私は何のために生きることになるのでしょうか。」

第28章

- 1 イサクはヤコブを呼び寄せ、彼を祝福し、そして彼に命じた。「カナンの娘たちの中から妻を迎えてはならない。
- 2 さあ立って、パダン・アラムの、おまえの母の父ベトエルの家に行き、そこで母の兄ラバンの娘たちの中から妻を迎えなさい。
- 3 全能の神がおまえを祝福し、多くの子を与え、おまえを増やしてくださるように。そして、おまえが多くの民の群れとなるように。
- 4 神はアブラハムの祝福をおまえに、すなわち、おまえと、おまえとともにいるおまえの子孫に与え、神がアブラハムに下さった地、おまえが今寄留しているこの地を継がせてくださるように。」
- 5 こうしてイサクはヤコブを送り出した。彼はパダン・アラムの、ラバンのところに行った。ヤコブとエサウの母リベカの兄、アラム人ベトエルの子ラバンのところである。
- 6 エサウは、イサクがヤコブを祝福したこと、またパダン・アラムから妻を迎えるために彼を送り出したことを知った。イサクが、ヤコブを祝福して送り出したときに、カナンの娘たちから妻を迎えてはならないと命じ、
- 7 ヤコブが、父と母の言うことに聞き従って、パダン・アラムへ行ったことも。
- 8 さらにエサウは、カナンの娘たちを、父イサクが気に入っていないことを知った。
- 9 それでエサウはイシュマエルのところに行き、今いる妻たちのほかに、アブラハムの子イシュマエルの娘で、ネバヨテの妹マハラテを妻として迎えた。
- 10 ヤコブはベエル・シェバを出て、ハランへと向かった。
- 11 彼はある場所にたどり着き、そこで一夜を明かすことにした。ちょうど日が沈んだからである。彼はその場所で石を取って枕にし、その場所で横になった。
- 12 すると彼は夢を見た。見よ、一つのはしごが地に立てられていた。その上の端は天に届き、見よ、神の使いたちが、そのはしごを上り下りしていた。
- 13 そして、見よ、主がその上に立って、こう言われた。「わたしは、あなたの父アブラハムの神、イサクの神、主である。わたしは、あなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫に与える。
- 14 あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西へ、東へ、北へ、南へと広がり、地のすべての部族はあなたによって、またあなたの子孫によって祝福される。
- 15 見よ。わたしはあなたとともにいて、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」
- 16 ヤコブは眠りから覚めて、言った。「まことに主はこの場所におられる。それなのに、私はそれを知らなかった。」
- 17 彼は恐れて言った。「この場所は、なんと恐れ多いところだろう。ここは神の家にほかならない。ここは天の門だ。」

- 18** 翌朝早く、ヤコブは自分が枕にした石を取り、それを立てて石の柱とし、柱の頭に油を注いだ。
- 19** そしてその場所の名をベテルと呼んだ。その町の名は、もともとはルズであった。
- 20** ヤコブは誓願を立てた。「神が私とともにおられて、私が行くこの旅路を守り、食べるパンと着る衣を下さり、
- 21** 無事に父の家に帰らせてくださるなら、主は私の神となり、
- 22** 石の柱として立てたこの石は神の家となります。私は、すべてあなたが私に下さる物の十分の一を必ずあなたに献げます。」

第29章

- 1 ヤコブは旅を続けて、東の人々の国へ行った。
- 2 ふと彼が見ると、野に井戸があった。ちょうどその傍らに、三つの羊の群れが伏していた。その井戸から群れに水を飲ませることになっていたからである。その井戸の口の上にある石は大きかった。
- 3 群れがみなそこに集められたら、その石を井戸の口から転がして、羊に水を飲ませ、その石を再び井戸の口の元の場所に戻すことになっていた。
- 4 ヤコブがその人たちに「兄弟たちよ、あなたがたはどこの方ですか」と尋ねると、彼らは「私たちはハランの者です」と答えた。
- 5 それでヤコブが「あなたがたはナホルの子ラバンをご存じですか」と尋ねると、彼らは「よく知っています」と答えた。
- 6 ヤコブは彼らに尋ねた。「その人は元気ですか。」すると彼らは、「元気です。ほら、娘のラケルが羊を連れてやって来ます」と言った。
- 7 ヤコブは言った。「ご覧なさい。日はまだ高いし、群れを集める時間でもありません。羊に水を飲ませて、草を食べさせに戻ってはどうか。」
- 8 すると彼らは言った。「そうはできません。群れがみな集められて、井戸の口から石を転がすまでは。それから、羊に水を飲ませるのです。」
- 9 ヤコブがまだ彼らと話しているとき、ラケルが父の羊の群れを連れてやって来た。彼女は羊を飼っていたのである。
- 10 ヤコブは、母の兄ラバンの娘ラケルと、母の兄ラバンの羊の群れを見ると、すぐ近寄って行って、井戸の口の上の石を転がし、母の兄ラバンの羊の群れに水を飲ませた。
- 11 そしてヤコブはラケルに口づけし、声をあげて泣いた。
- 12 ヤコブはラケルに、自分は彼女の父の甥であり、リベカの子であることを告げた。彼女は走って行って、父にそのことを告げた。
- 13 ラバンは妹の子ヤコブのことを聞くとすぐ、彼を迎えに走って行って、彼を抱きしめて口づけした。そして彼を自分の家に連れて帰った。ヤコブはラバンに事の次第をすべて話した。
- 14 ラバンは彼に「あなたは本当に私の骨肉だ」と言った。ヤコブは彼のところに一か月滞在した。
- 15 ラバンはヤコブに言った。「あなたが私の親類だからといって、ただで私に仕えることもないだろう。どういう報酬が欲しいのか、言ってもらいたい。」
- 16 ラバンには二人の娘がいた。姉の名はレア、妹の名はラケルであった。
- 17 レアは目が弱々しかったが、ラケルは姿も美しく、顔だちも美しかった。
- 18 ヤコブはラケルを愛していた。それで、「私はあなたの下に娘ラケルのために、七年間あなたにお仕えします」と言った。
- 19 ラバンは、「娘を他人にやるよりは、あなたにやるほうがよい。私のところにとどまっていなさい」と言った。

- 20 ヤコブはラケルのために七年間仕えた。ヤコブは彼女を愛していたので、それもほんの数日のように思われた。
- 21 ヤコブはラバンに言った。「私の妻を下さい。約束の日々が満ちたのですから。彼女のところに入りたいのです。」
- 22 そこでラバンは、その土地の人たちをみな集めて祝宴を催した。
- 23 夕方になって、ラバンは娘のレアをヤコブのところに連れて行ったので、ヤコブは彼女のところに入った。
- 24 ラバンはまた、娘のレアに、自分の女奴隷ジルパを彼女の女奴隷として与えた。
- 25 朝になって、見ると、それはレアであった。それで彼はラバンに言った。「あなたは私に何ということをしたのですか。私はラケルのために、あなたに仕えたではありませんか。なぜ、私をだましたのですか。」
- 26 ラバンは答えた。「われわれのところでは、上の娘より先に下の娘を嫁がせるようなことはしないのだ。
- 27 この婚礼の一週間を終えなさい。そうすれば、あの娘もあなたにあげよう。その代わり、あなたはもう七年間、私に仕えなければならない。」
- 28 そこで、ヤコブはそのようにした。すなわち、その婚礼の一週間を終えた。それでラバンは、その娘ラケルを彼に妻として与えた。
- 29 ラバンは娘のラケルに、自分の女奴隷ビルハを彼女の女奴隷として与えた。
- 30 ヤコブはこうして、ラケルのところにも入った。ヤコブは、レアよりもラケルを愛していた。それで、もう七年間ラバンに仕えた。
- 31 主はレアが嫌われているのを見て、彼女の胎を開かれたが、ラケルは不妊の女であった。
- 32 レアは身ごもって男の子を産み、その子をルベンと名づけた。彼女が、「主は私の悩みをご覧になった。今こそ夫は私を愛するでしょう」と言ったからである。
- 33 彼女は再び身ごもって男の子を産み、「主は私が嫌われているのを聞いて、この子も私に授けてくださった」と言って、その子をシメオンと名づけた。
- 34 彼女はまた身ごもって男の子を産み、「今度こそ、夫は私に結びつくでしょう。私が彼に三人の子を産んだのだから」と言った。それゆえ、その子の名はレビと呼ばれた。
- 35 彼女はさらに身ごもって男の子を産み、「今度は、私は主をほめたたえます」と言った。それゆえ、彼女はその子をユダと名づけた。その後、彼女は子を産まなくなった。

第30章

- 1 ラケルは自分がヤコブに子を産んでいないのを見た。ラケルは姉に嫉妬し、ヤコブに言った。「私に子どもを下さい。でなければ、私は死にます。」
- 2 ヤコブはラケルに怒りを燃やして言った。「私が神に代われるというのか。胎の実をおまえに宿らせないのは神なのだ。」
- 3 彼女は言った。「ここに、私の女奴隷のビルハがいます。彼女のところに入り、彼女が私の膝に子を産むようにしてください。そうすれば、彼女によって私も子を得られるでしょう。」
- 4 ラケルは彼に女奴隷ビルハを妻として与えたので、ヤコブは彼女のところに入った。
- 5 ビルハは身ごもり、ヤコブに男の子を産んだ。
- 6 そこでラケルは、「神は私をかばってくださり、私の声を聞き入れて、私に男の子を与えてくださった」と言った。それゆえ、彼女はその子をダンと名づけた。
- 7 ラケルの女奴隷ビルハは再び身ごもって、ヤコブに二番目の男の子を産んだ。
- 8 そこでラケルは、「私は姉と死に物狂いの争いをして、ついに勝った」と言って、その子をナフタリと名づけた。
- 9 レアは自分が子を産まなくなったのを見て、彼女の女奴隷ジルバをヤコブに妻として与えた。
- 10 レアの女奴隷ジルバはヤコブに男の子を産んだ。
- 11 レアは「幸運が来た」と言って、その子をガドと名づけた。
- 12 レアの女奴隷ジルバはヤコブに二番目の男の子を産んだ。
- 13 レアは、「なんと幸せなことでしょう。女たちは私を幸せ者と言うでしょう」と言って、その子をアシェルと名づけた。
- 14 さて、麦の刈り入れのころ、ルベンは出て行って、野で恋なすびを見つけた。そして、それを母レアのところを持って来た。すると、ラケルはレアに「どうか、あなたの息子の恋なすびを少し私に下さい」と言った。
- 15 レアはラケルに言った。「あなたは私の夫を取っても、まだ足りないのですか。私の息子の恋なすびまで取り上げようとするのですか。」ラケルは答えた。「では、あなたの息子の恋なすびと引き替えに、今夜、あの人にあなたと一緒に寝てもらいます。」
- 16 夕方になって、ヤコブは野から帰って来た。レアは彼を出迎えて言った。「あなたは私のところに来ることになっています。私は、息子の恋なすびで、あなたをようやく手に入れたのですから。」その夜、ヤコブはレアと寝た。
- 17 神はレアの願いを聞かれたので、彼女は身ごもって、ヤコブに五番目の男の子を産んだ。
- 18 そこでレアは、「私が女奴隷を夫に与えたので、神は私に報酬を下さった」と言って、その子をイッサカルと名づけた。
- 19 レアはまた身ごもって、ヤコブに六番目の男の子を産んだ。
- 20 レアは言った。「神は私に良い賜物を下さった。今度こそ夫は私を尊ぶでしょう。彼に六人の子を産んだのですから。」そしてその子をゼブルンと名づけた。

- 21 その後、レアは女の子を産み、その子をディナと名づけた。
- 22 神はラケルに心を留められた。神は彼女の願いを聞き入れて、その胎を開かれた。
- 23 彼女は身ごもって男の子を産み、「神は私の汚名を取り去ってくださった」と言った。
- 24 彼女は、その子をヨセフと名づけ、「主が男の子をもう一人、私に加えてくださるよう
に」と言った。
- 25 ラケルがヨセフを産んだころ、ヤコブはラバンに言った。「私を去らせて、故郷の地へ帰
らせてください。
- 26 妻たちや子どもたちを私に下さい。彼女たちのために私はあなたに仕えてきました。行か
せてください。あなたに仕えた私の働きは、あなたがよくご存じなのですから。」
- 27 ラバンは彼に言った。「私の願いをあなたがかなえてくれるなら―。あなたのおかげで主
が私を祝福してくださったことを、私は占いで知っている。」
- 28 さらに言った。「あなたの報酬をはっきりと申し出てくれ。私はそれを払おう。」
- 29 ヤコブは彼に言った。「私がどのようにあなたに仕え、また、あなたの家畜が私のもので
どのようなであったかは、あなた自身がよくご存じです。
- 30 私が来る前は、あなたの財産はわずかでしたが、増えて多くなりました。私の行く先々で
主があなたを祝福されたからです。いったい、いつになったら私は自分の家を持てるの
ですか。」
- 31 彼は言った。「あなたに何をあげようか。」ヤコブは言った。「何も下さるには及びませ
ん。もし私に次のことをしてくださるなら、私は再びあなたの群れを飼って守りましょ
う。
- 32 私は今日、あなたの群れをみな見て回りましょう。その中から、ぶち毛と斑毛の羊をすべ
て、子羊の中では黒毛のものをすべて、やぎの中では斑毛とぶち毛のものを取り分けて、
それらを私の報酬にしてください。
- 33 後であなたが私の報酬を見に来られたとき、私の正しさが証明されるでしょう。やぎの中
に、ぶち毛や斑毛でないものや、子羊の中に、黒毛でないものがあれば、それはすべて、
私が盗んだことになります。」
- 34 するとラバンは言った。「よろしい。あなたの言うとおりになればよいが。」
- 35 ラバンはその日、縞毛と斑毛の雄やぎと、ぶち毛と斑毛の雌やぎのすべて、すなわち身に
白いところのあるもののすべて、それに、黒毛の子羊のすべてを取りのけて、息子たちの
手に渡した。
- 36 そして、自分とヤコブの間に三日分の距離をおいた。ヤコブはラバンの残りの群れを飼っ
た。
- 37 ヤコブは、ポプラや、アーモンドや、すずかけの木の若枝を取り、それらの白い筋の皮を
剥いで、若枝の白いところをむき出しにし、
- 38 皮を剥いだ枝を、群れが水を飲みに来る水溜めの水ぶねの中に、群れと差し向かいに置い
た。それで群れのやぎたちは、水を飲みに来たとき、さかりがついた。
- 39 こうして羊ややぎは枝の前で交尾し、縞毛、ぶち毛、斑毛のものを産んだ。

- 40** ヤコブは羊を分けて、その群れが、ラバンの群れの縞毛のものとすべての黒毛のものに、向かい合わせになるようにした。彼は自分の群れを別にまとめておき、ラバンの群れと一緒にしなかった。
- 41** また、強い群れにさかりがついたときに、ヤコブはいつも、あの枝を水ぶねの中に、群れの目の前になるように置き、枝のところで交尾させた。
- 42** しかし、弱い群れのときには、それを置かなかった。こうして、弱いものはラバンのものとなり、強いものはヤコブのものとなった。
- 43** このようにして、この人は大いに富み、多くの群れと、男女の奴隷、それにらくだとろばを持つようになった。

第31章

- 1 ところで、ヤコブはラバンの息子たちが、「ヤコブはわれわれの父の物をみな取った。父の物で、このすべての富をものにしたのだ」と言っているのを聞いた。
- 2 ヤコブがラバンの態度を見ると、はたして、それは彼に対して以前のようなではなかった。
- 3 主はヤコブに言われた。「あなたが生まれた、あなたの父たちの国に帰りなさい。わたしは、あなたとともにいる。」
- 4 ヤコブは人を送って、ラケルとレアを自分の群れのいる野に呼び寄せ、
- 5 彼女たちに言った。「私は、あなたたちの父の態度が以前のようにではないのに気づいている。しかし、私の父の神は私とともにおられる。
- 6 あなたたちがよく知っているように、私はあなたたちの父に、力を尽くして仕えてきた。
- 7 それなのに、あなたたちの父は私を欺き、私の報酬を何度も変えた。しかし神は、彼が私に害を加えることを許されなかった。
- 8 彼が『ぶち毛のものはあなたの報酬になる』と言えば、群れのすべてがぶち毛のものを産んだ。また、『縞毛のものはあなたの報酬になる』と言えば、群れのすべてが縞毛のものを産んだ。
- 9 こうして神は、あなたたちの父の家畜を取り上げて、私に下さったのだ。
- 10 群れのやぎにさかりがついたとき、私が夢の中で目を上げて見ると、見よ、雌やぎと交尾している雄やぎは、縞毛、ぶち毛、斑毛ばかりであった。
- 11 すると、神の使いが夢の中で私に『ヤコブよ』と言われた。私は『はい』と答えた。
- 12 御使いは言われた。『目を上げて見よ。雌やぎと交尾している雄やぎはみな、縞毛、ぶち毛、斑毛である。ラバンがあなたにしてきたことはみな、わたしが見た。
- 13 わたしは、あのベテルの神だ。あなたはそこで、石の柱に油注ぎをし、わたしに誓願を立てた。さあ立って、この土地を出て、あなたの生まれた国に帰りなさい。』
- 14 ラケルとレアは答えた。「私たちの父の家には、相続財産で私たちの取り分がまだあるでしょうか。
- 15 私たちは父に、よそ者と見なされているのではないのでしょうか。あの人は私たちを売り、しかもその代金を食いつぶしたのですから。
- 16 神が私たちの父から取り上げた富は、すべて私たちのもの、また子どもたちのものです。さあ、神があなたにお告げになったことを、すべてなさってください。」
- 17 そこでヤコブは立って、彼の子たち、妻たちをらくだに乗せ、
- 18 また、すべての家畜と、彼が得たすべての財産、彼がパダン・アラムで自分のものとした家畜を連れて、カナンの地にいる父イサクのところへ向かった。
- 19 そのとき、ラバンは自分の羊の毛を刈りに出ている。ラケルは、父が所有しているテラフィムを盗み出した。
- 20 ヤコブはアラム人ラバンを欺いて、自分が逃げるのを彼に知られないようにした。
- 21 彼は自分のものをすべて持って逃げた。彼は立ち去ってあの大河を渡り、ギルアデの山地の方へ向かった。

- 22 三日目に、ヤコブが逃げたことがラバンに知らされた。
- 23 ラバンは身内の者たちを率いて、七日の道のりを追って行き、ギルアデの山地でヤコブに追いついた。
- 24 神は夜、夢でアラム人ラバンに現れて仰せられた。「あなたは気をつけて、ヤコブと事の善悪を論じないようにしなさい。」
- 25 ラバンはヤコブに追いついた。そのとき、ヤコブは山地に天幕を張っていたが、ラバンもギルアデの山地に身内の者たちと天幕を張った。
- 26 ラバンはヤコブに言った。「何ということをしたのか。私を欺いて、娘たちを、剣で捕らえられた者のように引いて行くとは。
- 27 なぜ、あなたは逃げ隠れて私を欺き、私に知らせなかったのか。タンバリンや豎琴で喜び歌って、あなたを送り出しただろうに。
- 28 しかもあなたは、私の孫や娘たちに口づけもさせなかった。あなたは全く愚かなことをしたものだ。
- 29 私には、あなたがたに害を加える力があるが、昨夜、あなたがたの父の神が私に、『あなたは気をつけて、ヤコブと事の善悪を論じないようにせよ』と告げられた。
- 30 それはそうと、あなたは、あなたの父の家がどうしても恋しくなって出て行ったのだろうが、なぜ私の神々を盗んだのか。」
- 31 ヤコブはラバンに答えた。「あなたがご自分の娘たちを私から奪い取りはしないかと思って、恐れたのです。
- 32 あなたがご自分の神々をだれかのところで見つけたら、私はその者を生かしておきません。私のところに何があるか、私たちの一族の前で、ご自分で調べてください。そして持って行ってください。」ヤコブは、ラケルが盗んだことを知らなかったのである。
- 33 そこで、ラバンはヤコブの天幕とレアの天幕、また二人の女奴隷の天幕に入って行ったが、見つからなかった。彼はレアの天幕を出て、ラケルの天幕に入った。
- 34 ところが、ラケルはすでにテラフィムを取って、それらをらくだの鞍の中に入れ、その上に座っていたので、ラバンが天幕を隅々まで調べても見つからなかった。
- 35 ラケルは父に言った。「父上、どうか怒らないでください。私はあなたの前で立ち上がることができません。女の常のことがあるからです。」彼は捜したが、テラフィムは見つからなかった。
- 36 するとヤコブは怒って、ラバンをとがめた。ヤコブはラバンに向かって言った。「私にどんな背きがあり、どんな罪があるというのですか。私をここまで追いつめるとは。
- 37 あなたは私の物を一つ残らず調べて、何か一つでも、あなたの家の物を見つけましたか。もしあったなら、それを私の一族と、あなたの一族の前に置いて、彼らに私たち二人の間をさばかせましょう。
- 38 私があなたと一緒にいた二十年間、あなたの雌羊も雌やぎも流産したことはなく、また私はあなたの群れの雄羊も食べませんでした。
- 39 野獣にかみ裂かれたものは、あなたのもとへ持って行かずに、私が負担しました。それなのに、あなたは昼盗まれたものや夜盗まれたものについてまでも、私に責任を負わせました。

- 40 私は昼は暑さに、夜は寒さに悩まされて、眠ることもできませんでした。
- 41 私はこの二十年間、あなたの家で過ごし、十四年間はあなたの二人の娘たちのために、六年間はあなたの群れのために、あなたに仕えてきました。しかも、あなたは何度も私の報酬を変えました。
- 42 もし、私の父祖の神、アブラハムの神、イサクの恐れる方が私についておられなかったなら、あなたはきっと何も持たせずに私を去らせたことでしょう。神は私の苦しみとこの手の労苦を顧みられ、昨夜さばきをなさったのです。」
- 43 ラバンはヤコブに答えた。「娘たちは私の娘、子どもたちは私の子ども、群れは私の群れ、すべてあなたが見るものは私のもの。この私の娘たちに対して、または、娘たちが産んだ子どもたちに対して、今日、私が何をするというのか。
- 44 さあ今、私とあなたは契約を結び、それを私とあなたとの間の証拠としよう。」
- 45 そこで、ヤコブは石を取り、それを立てて石の柱とした。
- 46 ヤコブは自分の一族に言った。「石を集めなさい。」そこで彼らは石を取り、石塚を作った。彼らは石塚のそばで食事をした。
- 47 ラバンはそれをエガル・サハドタと名づけたが、ヤコブはこれをガルエデと名づけた。
- 48 そしてラバンは言った。「この石塚は、今日、私とあなたとの間の証拠である。」それゆえ、その名はガルエデと呼ばれた。
- 49 また、それはミツパとも呼ばれた。彼がこう言ったからである。「われわれが互いに目の届かないところにいるとき、主が私とあなたの間の見張りをされるように。
- 50 もし、あなたが私の娘たちをひどい目にあわせたり、娘たちのほかに妻をめとったりするなら、たとえ、だれもわれわれとともにいなくても、見よ、神が私とあなたとの証人である。」
- 51 また、ラバンはヤコブに言った。「見なさい、この石塚を。そして見なさい、あなたと私の間に私が立てた、この石の柱を。
- 52 この石塚が証拠であり、この石の柱が証拠である。私は、この石塚を越えてあなたのところに行くことはない。あなたも、敵意をもって、この石塚やこの石の柱を越えて私のところに来てはならない。
- 53 どうか、アブラハムの神、ナホルの神、彼らの父祖の神が、われわれの間をさばかれるように。」ヤコブも、父イサクの恐れる方にかけて誓った。
- 54 ヤコブは山でいけにえを献げ、一族を食事に招いた。彼らは食事をして、山で一夜を明かした。
- 55 翌朝早く、ラバンは孫と娘たちに口づけして、彼らを祝福した。それからラバンは去って、自分の所へ帰った。

第32章

- 1 さて、ヤコブが旅を続けていると、神の使いたちが彼に現れた。
- 2 ヤコブは彼らを見たとき、「ここは神の陣営だ」と言って、その場所の名をマハナイムと呼んだ。
- 3 ヤコブは、セイルの地、エドムの野にいる兄のエサウに、前もって使いを送った。
- 4 ヤコブは彼らに命じた。「私の主人エサウにこう伝えなさい。『あなた様のしもべヤコブがこう申しております。私はラバンのもとに寄留し、今に至るまでとどまっていました。』」
- 5 私には牛、ろば、羊、それに男女の奴隷がおります。それで私の主人であるあなた様にお知らせして、ご好意を得ようと使いをお送りしました。』」
- 6 使者は、ヤコブのもとに帰って来て言った。「兄上エサウ様のもとに行って参りました。あの方も、あなたを迎えにやって来られます。四百人があの方と一緒にいます。」
- 7 ヤコブは非常に恐れ、不安になった。それで彼は、一緒にいる人々や、羊や牛やらくだを二つの宿営に分けた。
- 8 「たとえエサウが一つの宿営にやって来て、それを打っても、もう一つの宿営は逃れられるだろう」と考えたのである。
- 9 ヤコブは言った。「私の父アブラハムの神、私の父イサクの神よ。私に『あなたの地、あなたの生まれた地に帰れ。わたしはあなたを幸せにする』と言われた主よ。
- 10 私は、あなたがこのしもべに与えてくださった、すべての恵みとまことを受けるに値しない者です。私は一本の杖しか持たないで、このヨルダン川を渡りましたが、今は、二つの宿営を持つまでになりました。
- 11 どうか、私の兄エサウの手から私を救い出してください。兄が来て、私を、また子どもたちとともにその母親たちまでも打ちはしないかと、私は恐れています。
- 12 あなたは、かつて言われました。『わたしは必ずあなたを幸せにし、あなたの子孫を、多くて数えきれない海の砂のようにする』と。」
- 13 その夜をそこで過ごしてから、ヤコブは自分が手に入れたものの中から、兄エサウへの贈り物にするものを選び出した。
- 14 雌やぎ二百匹、雄やぎ二十匹、雌羊二百匹、雄羊二十匹、
- 15 乳らくだ三十頭とその子、雌牛四十頭、雄牛十頭、雌ろば二十頭、雄ろば十頭。
- 16 彼は、しもべたちの手にそれぞれ一群れずつを渡し、しもべたちに言った。「私の先を進め。群れと群れの間には距離をおけ。」
- 17 また、先頭の者に命じた。「もし私の兄エサウがあなたに会い、『あなたは、だれに属する者か。どこへ行くのか。あなたの前のこれらのものは、だれのものか』と尋ねたら、
- 18 『これらは、あなた様のしもべヤコブのものでございます。ご主人のエサウ様に差し上げる贈り物でございます。ご覧ください。ヤコブもうしろにおります』と答えよ。」
- 19 彼は第二の者にも、第三の者にも、群れ群れについて行くすべての者に命じた。「あなたがたがエサウに出会ったら、これと同じことを告げよ。

- 20 また、『ご覧ください。あなた様のしもべヤコブは、私どものうしろにあります』と言え。」ヤコブは、「自分の先に行く贈り物で彼をなだめ、その後で彼と顔を合わせよう。もしかすると、私を受け入れてくれるかもしれない」と思ったのである。
- 21 こうして贈り物は彼より先に渡って行ったが、彼自身は、その夜、宿営にとどまっていた。
- 22 その夜、彼は起き上がり、二人の妻と二人の女奴隷、そして十一人の子どもたちを連れ出し、ヤボクの渡し場を渡った。
- 23 彼らを連れ出して川を渡らせ、また自分の所有するものも渡らせた。
- 24 ヤコブが一人だけ後に残ると、ある人が夜明けまで彼と格闘した。
- 25 その人はヤコブに勝てないのを見てとって、彼のももの関節を打った。ヤコブのももの関節は、その人と格闘しているうちに外れた。
- 26 すると、その人は言った。「わたしを去らせよ。夜が明けるから。」ヤコブは言った。「私はあなたを去らせません。私を祝福してくださなければ。」
- 27 その人は言った。「あなたの名は何というのか。」彼は言った。「ヤコブです。」
- 28 その人は言った。「あなたの名は、もうヤコブとは呼ばれない。イスラエルだ。あなたが神と、また人と戦って、勝ったからだ。」
- 29 ヤコブは願って言った。「どうか、あなたの名を教えてください。」すると、その人は「いったい、なぜ、わたしの名を尋ねるのか」と言って、その場で彼を祝福した。
- 30 そこでヤコブは、その場所の名をペヌエルと呼んだ。「私は顔と顔を合わせて神を見たのに、私のいのちは救われた」という意味である。
- 31 彼がペヌエルを通り過ぎたころ、太陽は彼の上に昇ったが、彼はそのもものために足を引かずっていた。
- 32 こういうわけで、イスラエルの人々は今日まで、ももの関節の上の、腰の筋を食べない。ヤコブが、ももの関節、腰の筋を打たれたからである。

第33章

- 1 ヤコブが目を見て見ると、見よ、エサウがやって来た。四百人の者が一緒であった。そこで、ヤコブは子どもたちを、レアとラケルと二人の女奴隷の群れに分け、
- 2 女奴隷たちとその子どもたちを先頭に、レアとその子どもたちをその後に、ラケルとヨセフを最後に置いた。
- 3 ヤコブは自ら彼らの先に立って進んだ。彼は兄に近づくまで、七回地にひれ伏した。
- 4 エサウは迎えに走って来て、彼を抱きしめ、首に抱きついて口づけし、二人は泣いた。
- 5 エサウは目を見て、女たちや子どもたちを見て、「この人たちは、あなたの何なのか」と尋ねた。ヤコブは、「神があなた様のしもべに恵んでくださった子どもたちです」と答えた。
- 6 すると、女奴隷とその子どもたちが進み出て、ひれ伏した。
- 7 次に、レアも、その子どもたちと進み出て、ひれ伏した。最後に、ヨセフとラケルが進み出て、ひれ伏した。
- 8 するとエサウは、「私が出会ったあの一群すべては、いったい何のためのものか」と尋ねた。ヤコブは「あなた様のご好意を得るためのものです」と答えた。
- 9 エサウは、「私には十分ある。弟よ、あなたのものは、あなたのものにしておきなさい」と言った。
- 10 ヤコブは答えた。「いいえ。もしお気に召すなら、どうか私の手から贈り物をお受け取りください。私は兄上のお顔を見て、神の御顔を見ているようです。兄上は私を喜んでくださいましたから。
- 11 どうか、兄上のために持参した、この祝いの品をお受け取りください。神が私を恵んでくださったので、私はすべてのものを持っていますから。」ヤコブがしきりに勧めたので、エサウは受け取った。
- 12 エサウが、「さあ、旅を続けて行こう。私があなたのすぐ前に行くから」と言うと、
- 13 ヤコブは彼に言った。「あなた様もご存じのように、子どもたちは弱く、乳を飲ませている羊や牛は私が世話をしています。一日でも、ひどく追い立てると、この群れはすべて死んでしまいます。
- 14 あなた様は、しもべより先にお進みください。私は、前に行く家畜や子どもたちの歩みに合わせて、ゆっくり旅を続け、あなた様のもと、セイルへ参ります。」
- 15 それで、エサウは言った。「では、私と一緒にいる者の何人かを、あなたのもとに残しておくことにしよう。」ヤコブは言った。「とんでもないことです。私はご主人様のご好意を十分に受けております。」
- 16 エサウは、その日、セイルへ帰って行った。
- 17 一方、ヤコブはスコテへ移動し、そこで自分のために家を建て、家畜のためには小屋を作った。それゆえ、その場所の名はスコテと呼ばれた。
- 18 こうしてヤコブは、パダン・アラムからの帰途、カナンの地にあるシェケムの町に無事に着き、その町の手前で宿営した。

- 19** そして、天幕を張った野の一画を、シェケムの父ハモルの息子たちの手から百ヶシタで買い取った。
- 20** 彼はそこに祭壇を築き、それをエル・エロヘ・イスラエルと呼んだ。

第34章

- 1 レアがヤコブに産んだ娘ディナは、その土地の娘たちを訪ねようと出かけて行った。
- 2 すると、その土地の族長であるヒビ人ハモルの子シェケムが彼女を見て、これを捕らえ、これと寝て辱めた。
- 3 彼はヤコブの娘ディナに心を奪われ、この若い娘を愛し、彼女に優しく語りかけた。
- 4 シェケムは父のハモルに言った。「この娘を私の妻にしてください。」
- 5 ヤコブは、シェケムが自分の娘ディナを汚したことを聞いた。息子たちは、そのとき、家畜を連れて野にいた。それでヤコブは、彼らが帰って来るまで黙っていた。
- 6 シェケムの父ハモルは、ヤコブと話し合うためにやって来た。
- 7 ヤコブの息子たちは野から帰って来て、このことを聞いた。息子たちは心を痛め、激しく怒った。シェケムがヤコブの娘と寝て、イスラエルの中で恥辱となることを行ったからである。このようなことは、してはならないことである。
- 8 ハモルは彼らに語りかけた。「私の息子シェケムは、心からあなたがたの娘さんを恋い慕っています。どうか娘さんを息子の嫁にしてください。
- 9 私たちは互いに姻戚関係を結びましょう。あなたがたの娘さんを私たちに下さし、私たちの娘をあなたがたが迎えてください。
- 10 そうして私たちとともに住んでください。この土地は、あなたがたの前に広がっています。ここに住み、自由に行き来し、ここに土地を得てください。」
- 11 シェケムは彼女の父や兄弟たちに言った。「皆さんのご好意を得られるのなら、おっしゃる物を何でも差し上げます。
- 12 どんなに高い花嫁料や贈り物であっても、私にお求めください。おっしゃるとおりに差し上げます。ですから、どうか、あの人を私の妻に下さい。」
- 13 ヤコブの息子たちは、シェケムが自分たちの妹ディナを汚したので、シェケムとその父ハモルをだまそうとして、
- 14 答えた。「割礼を受けていない者に私たちの妹をやるような、そんなことは、私たちにはできません。それは、私たちにとって恥辱となることですから。
- 15 ただし、次の条件でなら同意しましょう。もし、あなたがたの男たちがみな、割礼を受けて、私たちと同じようになるなら、
- 16 私たちの娘たちをあなたがたに嫁がせ、あなたがたの娘たちを妻に迎えましょう。そうして私たちはともに住み、一つの民となりましょう。
- 17 しかし、もし、あなたがたが私たちの言うことを聞かず、割礼を受けないなら、私たちは娘を連れてここを去ります。」
- 18 彼らの言ったことは、ハモルと、ハモルの子シェケムの心になかった。
- 19 この若者は、ためらわずにそれを実行した。彼はヤコブの娘を愛していたからである。彼は父の家のだれよりも敬われていた。
- 20 ハモルとその子シェケムは自分たちの町の門に行き、町の人々に告げた。

- 21** 「あの人たちは私たちに友好的だ。あの人たちをこの地に住ませ、この地を自由に行き来させよう。この地は、彼らが来ても十分広いのだから。私たちは彼らの娘たちを妻に迎え、私たちの娘たちを彼らに嫁がせよう。
- 22** 次の条件でなら、あの人たちは、私たちとともに住んで一つの民となることに同意すると言うのだ。それは、彼らが割礼を受けているように、私たちのすべての男たちが割礼を受けることだ。
- 23** そうすれば、彼らの群れや財産、それにすべての彼らの家畜も、私たちのものになるではないか。さあ、彼らに同意しよう。そうすれば、彼らは私たちとともに住むことになる。」
- 24** その町の門に出入りする者はみな、ハモルとその子シェケムの言うことを聞き入れ、その町の門に出入りする男たちはみな割礼を受けた。
- 25** 三日目になって、彼らの傷が痛んでいるとき、ヤコブの二人の息子、ディナの兄シメオンとレビが、それぞれ剣を取って難なくその町を襲い、すべての男たちを殺した。
- 26** 彼らはハモルとその子シェケムを剣の刃で殺し、シェケムの家からディナを連れ出した。
- 27** ヤコブの息子たちは、刺し殺された者のところに来て、その町を略奪した。自分たちの妹が汚されたからである。
- 28** 彼らは、その人たちの羊や牛やろば、それに町にあるもの、野にあるものを奪い、
- 29** その人たちの全財産、幼子、妻たち、家にあるすべてのものを捕虜にしたり略奪したりした。
- 30** それで、ヤコブはシメオンとレビに言った。「あなたがたは私に困ったことをして、私をこの地の住民カナン人とペリジ人に憎まれるようにしてしまった。私は数では劣っている。彼らが一緒に集まって私を攻め、私を打つなら、私も家の者も根絶やしにされてしまうだろう。」
- 31** 彼らは言った。「私たちの妹が遊女のように扱われてもよいのですか。」

第35章

- 1 神はヤコブに仰せられた。「立って、ベテルに上り、そこに住みなさい。そしてそこに、あなたが兄エサウから逃れたとき、あなたに現れた神のために祭壇を築きなさい。」
- 2 それで、ヤコブは自分の家族と、自分と一緒にいるすべての者に言った。「あなたがたの中にある異国の神々を取り除き、身をきよめ、衣を着替えなさい。」
- 3 私たちは立って、ベテルに上って行こう。私はそこに、苦難の日に私に答え、私が歩んだ道でともにいてくださった神に、祭壇を築こう。」
- 4 彼らは、手にしていたすべての異国の神々と、耳につけていた耳輪をヤコブに渡した。ヤコブはそれらを、シェケムの近くにある榎の木の下に埋めた。
- 5 彼らが旅立つと、神からの恐怖が周りの町々に下ったので、だれもヤコブの息子たちの後を追わなかった。
- 6 ヤコブは、カナンの地にあるルズ、すなわちベテルに来た。彼とともにいた人たちもみな一緒であった。
- 7 彼はそこに祭壇を築き、その場所をエル・ベテルと呼んだ。それは、彼が兄から逃れたとき、神がそこで彼に現れたからである。
- 8 リベカの乳母デボラが死に、ベテルの下手にある榎の木の下に葬られた。それで、その木の名はアロン・バクテと呼ばれた。
- 9 ヤコブがパダン・アラムから帰って来たとき、神は再び彼に現れ、彼を祝福された。
- 10 神は彼に仰せられた。「あなたの名はヤコブである。しかし、あなたの名は、もうヤコブとは呼ばれない。イスラエルが、あなたの名となるからだ。」こうして神は彼の名をイスラエルと呼ばれた。
- 11 神はまた、彼に仰せられた。「わたしは全能の神である。生めよ。増えよ。一つの国民が、国民の群れが、あなたから出る。王たちがあなたの腰から生まれ出る。
- 12 わたしは、アブラハムとイサクに与えた地を、あなたに与える。あなたの後の子孫にも、その地を与えよう。」
- 13 神は彼に語ったその場所で、彼を離れて上って行かれた。
- 14 ヤコブは、神が自分に語られた場所に、柱を、石の柱を立て、その上に注ぎのぶどう酒を注ぎ、さらにその上に油を注いだ。
- 15 ヤコブは、神が自分と語られたその場所をベテルと名づけた。
- 16 彼らはベテルから旅立った。エフラテに着くまでまだかなりの道のりがあるところで、ラケルは出産したが、難産であった。
- 17 彼女が大変な難産で苦しんでいたとき、助産婦は彼女に、「恐れることはありません。今度も男のお子さんです」と告げた。
- 18 彼女が死に臨み、たましいが離れ去ろうとしたとき、その子の名をベン・オニと呼んだ。しかし、その子の父はベニヤミンと名づけた。
- 19 こうしてラケルは死んだ。彼女はエフラテ、すなわちベツレヘムへの道で葬られた。

- 20** ヤコブは彼女の墓の上に石の柱を立てた。それはラケルの墓の石の柱として今日に至っている。
- 21** イスラエルは旅を続け、ミグダル・エデルを過ぎたところに天幕を張った。
- 22** イスラエルがその地にとどまっていたころ、ルベンが父の側女ビルハのところに行って、彼女と寝た。イスラエルはこのことを聞いた。ヤコブの子は十二人であった。
- 23** レアの子はヤコブの長子ルベン、シメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルン。
- 24** ラケルの子はヨセフとベニヤミン。
- 25** ラケルの女奴隷ビルハの子はダンとナフタリ。
- 26** レアの女奴隷ジルパの子はガドとアシェル。これらはパダン・アラムで生まれたヤコブの子である。
- 27** ヤコブは、キルヤテ・アルバ、すなわちヘブロンのマムレにいる父イサクのところに着いた。そこは、アブラハムとイサクがかつて寄留していたところである。
- 28** イサクの生涯は百八十年であった。
- 29** イサクは年老いて満ち足り、息絶えて死に、自分の民に加えられた。息子のエサウとヤコブが彼を葬った。

第36章

- 1 これはエサウ、すなわち エドムの歴史である。
- 2 エサウはカナンの中から妻を迎えた。すなわち、ヒッタイト人エロンの娘アダと、ヒビ人ツィブオンの娘アナの娘オホリバマ、
- 3 それにイシュマエルの娘でネバヨテの妹バセマテである。
- 4 アダはエサウにエリファズを産み、バセマテはレウエルを産み、
- 5 オホリバマはエウシュ、ヤラム、コラを産んだ。これらはカナンの地で生まれたエサウの子である。
- 6 エサウは、その妻たち、息子と娘たち、その家のすべての者、その群れとすべての家畜、カナンの地で得た全財産を携え、弟ヤコブから離れて別の地へ行った。
- 7 一緒に住むには所有する物が多すぎて、彼らの群れのために寄留していた地は、彼らを支えることができなかったのである。
- 8 それでエサウはセイルの山地に住んだ。エサウとは、エドムのことである。
- 9 これは、セイルの山地にいたエドム 人の先祖エサウの系図である。
- 10 エサウの子の名は次のとおり。エサウの妻アダの子エリファズ、エサウの妻バセマテの子レウエル。
- 11 エリファズの子はテマン、オマル、ツェフォ、ガタム、ケナズである。
- 12 ティムナはエサウの子エリファズの側女で、エリファズにアマレクを産んだ。これらはエサウの妻アダの子である。
- 13 レウエルの子はナハテ、ゼラフ、シャンマ、ミザで、これらはエサウの妻バセマテの子であった。
- 14 ツィブオンの娘アナの娘である、エサウの妻オホリバマの子は次のとおり。オホリバマはエサウに、エウシュとヤラムとコラを産んだ。
- 15 エサウの子で首長は次のとおり。エサウの長子エリファズの子では、首長テマン、首長オマル、首長ツェフォ、首長ケナズ、
- 16 首長コラ、首長ガタム、首長アマレクである。これらはエドムの地にいるエリファズから出た首長で、アダの子である。
- 17 エサウの子レウエルの子では、次のとおり。首長ナハテ、首長ゼラフ、首長シャンマ、首長ミザ。これらはエドムの地にいるレウエルから出た首長で、エサウの妻バセマテの子である。
- 18 エサウの妻オホリバマの子では、次のとおり。首長エウシュ、首長ヤラム、首長コラである。これらは、エサウの妻で、アナの娘であるオホリバマから出た首長である。
- 19 これらはエサウ、すなわちエドムの子で、彼らの首長である。
- 20 この地の住民フリ人セイルの子は次のとおり。ロタン、ショバル、ツィブオン、アナ、
- 21 ディション、エツェル、ディシャンで、これらはエドムの地にいるセイルの子フリ人の首長である。

- 22 ロタンの子はホリ、ヘマム。ロタンの妹はティムナであった。
- 23 ショバルの子は次のとおり。アルワン、マナハテ、エバル、シェフォ、オナム。
- 24 ツィブオンの子は次のとおり。アヤ、アナ。これは、父ツィブオンのろばを飼っていたとき、荒野で温泉を見つけたアナである。
- 25 アナの子は次のとおり。ディションと、アナの娘オホリバマ。
- 26 ディションの子は次のとおり。ヘムダン、エシュバン、イテラン、ケラン。
- 27 エツェルの子は次のとおり。ビルハン、ザアワン、アカン。
- 28 ディシャンの子は次のとおり。ウツ、アラン。
- 29 フリ人の首長は次のとおり。首長ロタン、首長ショバル、首長ツィブオン、首長アナ、
- 30 首長ディション、首長エツェル、首長ディシャン。これらは、セイルの地での首長ごとに挙げた、フリ人の首長である。
- 31 イスラエルの子らを王が治める以前、エドムの地で王として治めた者は次のとおりである。
- 32 ベオルの子ベラはエドムで治めた。彼の町の名はディンハバであった。
- 33 ベラが死ぬと、ボツラ出身のゼラフの子ヨバブが代わりに王となった。
- 34 ヨバブが死ぬと、テマン人の地から出たフシャムが代わりに王となった。
- 35 フシャムが死ぬと、モアブの野でミディアン人を打ち破った、ベダデの子ハダドが代わりに王となった。その町の名はアウィテであった。
- 36 ハダドが死ぬと、マスレカ出身のサムラが代わりに王となった。
- 37 サムラが死ぬと、レホボテ・ハ・ナハル出身のシャウルが代わりに王となった。
- 38 シャウルが死ぬと、アクボルの子バアル・ハナンが代わりに王となった。
- 39 アクボルの子バアル・ハナンが死ぬと、ハダルが代わりに王となった。彼の町の名はパウであった。妻の名はメヘタブエルで、メ・ザハブの娘マテレデの娘であった。
- 40 エサウから出た首長の名は、その氏族とその場所ごとにその名を挙げると次のとおり。首長ティムナ、首長アルワ、首長エテテ、
- 41 首長オホリバマ、首長エラ、首長ピノン、
- 42 首長ケナズ、首長テマン、首長ミブツァル、
- 43 首長マグディエル、首長イラム。これらはエドムの首長であり、所有地で住んでいた場所ごとに挙げたものである。エドム人の先祖はエサウである。

第37章

- 1 さて、ヤコブは父の寄留の地、カナンの地に住んでいた。
- 2 これはヤコブの歴史である。ヨセフは十七歳のとき、兄たちとともに羊の群れを飼っていた。彼はまだ手伝いで、父の妻ビルハの子らやジルパの子らとともにいた。ヨセフは彼らの悪いうわさを彼らの父に告げた。
- 3 イスラエルは、息子たちのだれよりもヨセフを愛していた。ヨセフが年寄り子だったからである。それで彼はヨセフに、あや織りの長服を作ってやっていた。
- 4 ヨセフの兄たちは、父が兄弟たちのだれよりも彼を愛しているのを見て、彼を憎み、穏やかに話すことができなかった。
- 5 さて、ヨセフは夢を見て、それを兄たちに告げた。すると彼らは、ますます彼を憎むようになった。
- 6 ヨセフは彼らに言った。「私が見たこの夢について聞いてください。
- 7 見ると、私たちは畑で束を作っていました。すると突然、私の束が起き上がり、まっすぐに立ちました。そしてなんと、兄さんたちの束が周りに来て、私の束を伏し拝んだのです。」
- 8 兄たちは彼に言った。「おまえが私たちを治める王になるというのか。私たちを支配するというのか。」彼らは、夢や彼のことばのことで、ますます彼を憎むようになった。
- 9 再びヨセフは別の夢を見て、それを兄たちに話した。彼は、「また夢を見ました。見ると、太陽と月と十一の星が私を伏し拝んでいました」と言った。
- 10 ヨセフが父や兄たちに話すと、父は彼を叱って言った。「いったい何なのだ、おまえの見た夢は。私や、おまえの母さん、兄さんたちが、おまえのところに進み出て、地に伏しておまえを拝むというのか。」
- 11 兄たちは彼をねたんだが、父はこのことを心にとどめていた。
- 12 その後、兄たちは、シェケムで父の羊の群れを世話するために出かけて行った。
- 13 イスラエルはヨセフに言った。「おまえの兄さんたちは、シェケムで群れの世話をしている。さあ、兄さんたちのところに使いに行ってもらいたい。」ヨセフは答えた。「はい、参ります。」
- 14 父は言った。「さあ、行って、兄さんたちが無事かどうか、羊の群れが無事かどうかを見て、その様子を私に知らせておくれ。」こうして彼をヘブロン谷から使いに送った。それで彼はシェケムにやって来た。
- 15 彼が野をさまよっていると、一人の人が彼を見かけた。その人は「何を捜しているのですか」と尋ねた。
- 16 ヨセフは言った。「兄たちを捜しています。どこで群れの世話をしているか、どうか教えてください。」
- 17 すると、その人は言った。「ここからは、もう行ってしまいました。私は、あの人たちが『さあ、ドタンの方に行こう』と言っているのを聞きました。」そこでヨセフは兄たちの後を追って行き、ドタンで彼らを見つけた。

- 18 兄たちは遠くにヨセフを見て、彼が近くに来る前に、彼を殺そうと企んだ。
- 19 彼らは互いに話し合った。「見ろ。あの夢見る者がやって来た。
- 20 さあ、今こそあいつを殺し、どこかの穴の一つにでも投げ込んでしまおう。そうして、狂暴な獣が食い殺したと言おう。あいつの夢がどうなるかを見ようではないか。」
- 21 しかし、ルベンはこれを聞き、彼らの手から彼を救い出そうとして、「あの子を打ち殺すのはやめよう」と言った。
- 22 また、ルベンは言った。「弟の血を流してはいけない。弟を荒野の、この穴に投げ込みなさい。手を下してはいけない。」これは、ヨセフを彼らの手から救い出し、父のもとに帰すためであった。
- 23 ヨセフが兄たちのところに来たとき、彼らは、ヨセフの長服、彼が着ていたあや織りの長服をはぎ取り、
- 24 彼を捕らえて、穴の中に投げ込んだ。その穴は空で、中には水がなかった。
- 25 それから、彼らは座って食事をした。彼らが目を上げて見ると、そこに、イシュマエル人の隊商がギルアデからやって来ていた。彼らは、らくだに樹膠と乳香と没薬を背負わせて、エジプトへ下って行くところであった。
- 26 すると、ユダが兄弟たちに言った。「弟を殺し、その血を隠しても、何の得になるだろう。
- 27 さあ、ヨセフをイシュマエル人に売ろう。われわれが手をかけてはいけない。あいつは、われわれの弟、われわれの肉親なのだから。」兄弟たちは彼の言うことを聞き入れた。
- 28 そのとき、ミディアン人の商人たちが通りかかった。それで兄弟たちはヨセフを穴から引き上げ、銀二十枚でヨセフをイシュマエル人に売った。イシュマエル人はヨセフをエジプトへ連れて行った。
- 29 さて、ルベンが穴のところに帰って来ると、なんと、ヨセフは穴の中にいなかった。ルベンは自分の衣を引き裂き、
- 30 兄弟たちのところに戻って来て言った。「あの子がいない。ああ私は、私は、どこへ行けばよいのか。」
- 31 彼らはヨセフの長服を取り、雄やぎを屠って、長服をその血に浸した。
- 32 そして、そのあや織りの長服を父のところに送り届けて、言った。「これを見つけました。あなたの子の長服かどうか、お調べください。」
- 33 父はそれを調べて言った。「わが子の長服だ。悪い獣が食い殺したのだ。ヨセフは確かに、かみ裂かれたのだ。」
- 34 ヤコブは自分の衣を引き裂き、粗布を腰にまとい、何日も、その子のために嘆き悲しんだ。
- 35 彼の息子、娘たちがみな来て父を慰めたが、彼は慰められるのを拒んで言った。「私は嘆き悲しみながら、わが子のところに、よみに下って行きたい。」こうして父はヨセフのために泣いた。
- 36 あのミディアン人たちは、エジプトでファラオの廷臣、侍従長ポティファルにヨセフを売った。

第38章

- 1 そのころのことであつた。ユダは兄弟たちから離れて下って行き、名をヒラというアドラム人の近くで天幕を張った。
- 2 そこでユダは、カナン人で名をシュアという人の娘を見そめて妻にし、彼女のところに入った。
- 3 彼女は身ごもって男の子を産んだ。ユダはその子をエルと名づけた。
- 4 彼女はまた身ごもって男の子を産み、その子をオナンと名づけた。
- 5 彼女はまた男の子を産み、その子をシェラと名づけた。彼女がシェラを産んだとき、ユダはケジブにいた。
- 6 ユダはその長子エルに妻を迎えた。名前はタマルといった。
- 7 しかし、ユダの長子エルは主の目に悪しき者であつたので、主は彼を殺された。
- 8 ユダはオナンに言った。「兄嫁のところに入って、義弟としての務めを果たしなさい。そして、おまえの兄のために子孫を残すようにしなさい。」
- 9 しかしオナンは、生まれる子が自分のものとならないのを知っていたので、兄に子孫を与えないように、兄嫁のところに入ると地に流していた。
- 10 彼のしたことは主の目に悪しきことであつたので、主は彼も殺された。
- 11 ユダは嫁のタマルに、「わが子シェラが成人するまで、あなたの父の家でやもめのまま暮らしなさい」と言った。シェラもまた、兄たちのように死ぬといけなと思ったからである。タマルは父の家に行き、そこで暮らした。
- 12 かなり日がたって、ユダの妻、すなわちシュアの娘が死んだ。その喪が明けたとき、ユダは、羊の群れの毛を刈る者たちのところ、ティムナへ上って行った。友人でアドラム人のヒラも一緒であつた。
- 13 そのときタマルに、「ご覧なさい。あなたのしゅうとが羊の群れの毛を刈るために、ティムナに上って来ます」という知らせがあつた。
- 14 それでタマルは、やもめの服を脱ぎ、ベールをかぶり、着替えをして、ティムナへの道にあるエナイムの入り口に座った。シェラが成人したのに、自分がその妻にされないことが分かつたからである。
- 15 ユダは彼女を見て、彼女が顔をおおっていたので遊女だと思い、
- 16 道端の彼女のところに行き、「さあ、あなたのところに入らせてほしい」と言った。彼は、その女が嫁だとは知らなかったのである。彼女は「私のところにお入りになれば、何を私に下されますか」と言った。
- 17 彼が「群れの中から子やぎを送ろう」と言うと、彼女は「それを送ってくださるまで、何か、おしるしを下されば」と言った。
- 18 彼が「しるしとして何をやろうか」と言うと、「あなたの印章とひもと、あなたが手にしている杖を」と答えた。そこで彼はそれを与えて、彼女のところに入った。こうしてタマルはユダのために子を宿した。
- 19 彼女は立ち去って、そのベールを外し、やもめの服を着た。

- 20 ユダは、その女の手からしるしを取り戻そうと、アドラム人の友人に託して子やぎを送ったが、彼はその女を見つけることができなかった。
- 21 その友人がその土地の人々に「エナイムの道端にいた娼婦はどこにいますか」と尋ねると、彼らは「ここに娼婦がいたことはありません」と答えた。
- 22 彼はユダのところに帰って来て言った。「あの女は見つかりませんでした。あの土地の人たちも、ここに娼婦がいたことはない、と言いました。」
- 23 ユダは言った。「われわれが笑いぐさにならないように、あの女にそのまま取らせておこう。私はこの子やぎを送ったけれども、あなたはあの女を見つけられなかったのだから。」
- 24 三か月ほどして、ユダに、「あなたの嫁のタマルが姦淫をし、そのうえ、なんとその姦淫によって身ごもっています」と告げる者があった。そこでユダは言った。「あの女を引き出して、焼き殺せ。」
- 25 彼女が引き出されたとき、彼女はしゅうとのところに人を送って、「この品々の持ち主によって、私は身ごもったのです」と言った。また彼女は言った。「これらの印章とひとと杖がだれのものか、お調べください。」
- 26 ユダはこれを調べて言った。「あの女は私よりも正しい。私が彼女をわが子シェラに与えなかったせいだ。」彼は二度と彼女を知ろうとはしなかった。
- 27 彼女の出産の時になると、なんと、双子がその胎内にいた。
- 28 出産の時、一人目が手を出したので、助産婦はそれをつかみ、その手に真っ赤な糸を結び付けて言った。「この子が最初に出て来ました。」
- 29 しかし、その子が手を引っ込めたとき、もう一人の兄弟が出て来た。それで彼女は「何という割り込みをするのですか」と言った。それで、その名はベレツと呼ばれた。
- 30 その後で、手に真っ赤な糸を付けた、もう一人の兄弟が出て来た。それで、その名はゼラフと呼ばれた。

第39章

- 1 一方、ヨセフはエジプトへ連れて行かれた。ファラオの廷臣で侍従長のポティファルという一人のエジプト人が、ヨセフを連れ下ったイシュマエル人の手からヨセフを買い取った。
- 2 主がヨセフとともにおられたので、彼は成功する者となり、そのエジプト人の主人の家に住んだ。
- 3 彼の主人は、主が彼とともにおられ、主が彼のすることすべてを彼に成功させてくださるのを見た。
- 4 それでヨセフは主人の好意を得て、彼のそば近くで仕えることになった。主人は彼にその家を管理させ、自分の全財産を彼に委ねた。
- 5 主人が彼にその家と全財産を管理させたときから、主はヨセフのゆえに、このエジプト人の家を祝福された。それで、主の祝福が、家や野にある全財産の上にあった。
- 6 主人はヨセフの手に全財産を任せ、自分が食べる食物のこと以外は、何も気を使わなかった。しかもヨセフは体格も良く、顔だちも美しかった。
- 7 これらのことの後、主人の妻はヨセフに目をつけて、「一緒に寝ましょう」と言った。
- 8 しかし彼は拒んで、主人の妻に言った。「ご覧ください。ご主人は、家の中のことは何でも私に任せ、心配せずに全財産を私に委ねられました。
- 9 ご主人は、この家の中で私より大きな權威をふるおうとはせず、私がするどんなことも妨げておられません。ただし、あなたのことは別です。あなたがご主人の奥様だからです。どうして、そのような大きな悪事をして、神に対して罪を犯すことができるでしょうか。」
- 10 彼女は毎日ヨセフに言い寄ったが、彼は聞き入れず、彼女のそばに寝ることも、一緒にいることもしなかった。
- 11 このようなある日のこと、彼が仕事をしようとして家に入ると、家の中には、家の者が一人もいなかった。
- 12 彼女はヨセフの上着をつかんで、「一緒に寝ましょう」と言った。しかしヨセフはその上着を彼女の手に残し、彼女から逃れて外へ出た。
- 13 彼が上着を彼女の手に残して外へ逃げたのを見ると、
- 14 彼女は家の者たちを呼んで、こう言った。「見なさい。私たちに対していたずらをさせるために、主人はヘブル人を私たちのところに連れ込んだのです。あの男が私と寝ようとして入って来たので、私は大声をあげました。
- 15 私が声をあげて叫んだのを聞いて、あの男は私のそばに上着を残して、外へ逃げて行きました。」
- 16 彼女は、ヨセフの主人が家に帰って来るまで、その上着を自分のそばに置いておいた。
- 17 彼女は主人に、このように告げた。「あなたが私たちのところに連れて来た、あのヘブル人の奴隷は、私にいたずらをしようとして私のところに入って来ました。
- 18 私が声をあげて叫んだので、あの男は私のそばに上着を残して、外へ逃げました。」

- 19** 彼の主人は、「あなたの奴隷がこのようなことを私にしました」と告げた妻のことばを聞いて、怒りに燃えた。
- 20** ヨセフの主人は彼を捕らえ、王の囚人が監禁されている監獄に彼を入れた。こうして彼は監獄に置かれた。
- 21** しかし、主はヨセフとともにおられ、彼に恵みを施し、監獄の長の心にかなうようにされた。
- 22** 監獄の長は、その監獄にいるすべての囚人をヨセフの手に委ねた。ヨセフは、そこで行われるすべてのことを管理するようになった。
- 23** 監獄の長は、ヨセフの手に委ねたことには何も干渉しなかった。それは、主が彼とともにおられ、彼が何をして、主がそれを成功させてくださったからである。

第40章

- 1 これらのことの後、エジプト王の献酌官と料理官が、その主君、エジプト王に対して過ちを犯した。
- 2 ファラオは、この献酌官長と料理官長の二人の廷臣に対して怒り、
- 3 彼らを侍従長の家に拘留した。それは、ヨセフが監禁されているのと同じ監獄であった。
- 4 侍従長がヨセフを彼らの付き人にしたので、ヨセフは彼らの世話をした。彼らは、しばらく拘留されていた。
- 5 さて、監獄に監禁されていた、エジプト王の献酌官と料理官は、二人とも同じ夜にそれぞれ夢を見た。その夢にはそれぞれ意味があった。
- 6 朝、ヨセフが彼らのところに来て、見ると、彼らは顔色がすぐれなかった。
- 7 それで彼は、自分の主人の家に一緒に拘留されている、このファラオの廷臣たちに「なぜ、今日、お二人は顔色がさえないのですか」と尋ねた。
- 8 二人は答えた。「私たちは夢を見たが、それを解き明かす人がいない。」ヨセフは言った。「解き明かしは、神のなさることではありませんか。さあ、私に話してください。」
- 9 献酌官長はヨセフに自分の夢を話した。「夢の中で、私の前に一本のぶどうの木があった。
- 10 そのぶどうの木には三本のつるがあった。それは、芽を出すと、すぐ花が咲き、房が熟してぶどうの実になった。
- 11 私の手にはファラオの杯があったので、私はそのぶどうを摘んで、ファラオの杯の中に搾って入れ、その杯をファラオの手に献げた。」
- 12 ヨセフは彼に言った。「その解き明かしはこうです。三本のつるとは三日のことです。
- 13 三日のうちに、ファラオはあなたを呼び出し、あなたを元の地位に戻すでしょう。あなたは、ファラオの献酌官であったときの、以前の定めにしたがって、ファラオの杯をその手に献げるでしょう。
- 14 あなたが幸せになったときには、どうか私を思い出してください。私のことをファラオに話して、この家から私が出られるように、私に恵みを施してください。
- 15 実は私は、ヘブル人の国から、さらわれて来たのです。ここでも私は、投獄されるようなことは何もしていません。」
- 16 料理官長は、解き明かしが良かったのを見て、ヨセフに言った。「私の夢の中では、頭の上に枝編みのかごが三つあった。
- 17 一番上のかごには、ファラオのために、ある料理官が作ったあらゆる食べ物が入っていたが、鳥が私の頭の上のかごの中から、それを食べてしまった。」
- 18 ヨセフは答えた。「その解き明かしはこうです。三つのかごとは三日のことです。
- 19 三日のうちに、ファラオはあなたを呼び出し、あなたを木につるし、鳥があなたの肉をついばむでしょう。」
- 20 三日目はファラオの誕生日であった。それで彼は、すべての家臣たちのために祝宴を催し、献酌官長と料理官長を家臣たちの中に呼び戻した。

- 21** そうして献酌官長をその献酌の役に戻したので、彼はその杯をファラオの手に献げた。
- 22** しかし、料理官長のほうは木につるした。ヨセフが彼らに解き明かしたとおりであった。
- 23** ところが、献酌官長はヨセフのことを思い出さないで、忘れてしまった。

第41章

- 1 それから二年後、ファラオは夢を見た。見ると、彼はナイル川のほとりに立っていた。
- 2 すると、ナイル川から、つやつやした、肉づきの良い雌牛が七頭、上がって来て、葦の中で草をはんだ。
- 3 するとまた、その後を追って、醜く痩せ細った別の雌牛が七頭、ナイル川から上がって来て、その川岸にいた雌牛のそばに立った。
- 4 そして、醜く痩せ細った雌牛が、つやつやした、よく肥えた七頭の雌牛を食い尽くしてしまった。そのとき、ファラオは目が覚めた。
- 5 彼はまた眠り、再び夢を見た。見ると、一本の茎に、よく実った七つの良い穂が出て来た。
- 6 すると、その後を追って、しなびた、東風に焼けた七つの穂が出て来た。
- 7 そして、しなびた穂が、よく実った七つの穂を呑み込んでしまった。そのとき、ファラオは目が覚めた。それは夢だった。
- 8 朝になって、ファラオは心が騒ぎ、人を遣わして、エジプトのすべての呪法師とすべての知恵のある者たちを呼び寄せた。ファラオは彼らに夢のことを話したが、解き明かすことのできる者はいなかった。
- 9 そのとき、献酌官長がファラオに告げた。「私は今日、私の過ちを申し上げなければなりません。
- 10 かつて、ファラオがしもべらに対して怒って、私と料理官長を侍従長の家に拘留されました。
- 11 私と彼は、同じ夜に夢を見ました。それぞれ意味のある夢でした。
- 12 そこには、私たちと一緒に、侍従長のしもべで、ヘブル人の若者がいました。私たちが彼に話しましたところ、彼は私たちの夢を解き明かしてくれました。それぞれの夢に応じて、解き明かしてくれたのです。
- 13 そして、彼が私たちに解き明かしたとおりになり、ファラオは私を元の地位に戻され、料理官長は木につるされました。」
- 14 ファラオは人を遣わして、ヨセフを呼び寄せた。人々は急いで彼を地下牢から連れ出した。ヨセフはひげを剃り、着替えをして、ファラオの前に出た。
- 15 ファラオはヨセフに言った。「私は夢を見たが、それを解き明かす者がいない。おまえは夢を聞いて、それを解き明かすと聞いたのだが。」
- 16 ヨセフはファラオに答えた。「私ではありません。神がファラオの繁栄を知らせてくださるのです。」
- 17 それで、ファラオはヨセフに話した。「夢の中で、見ると、私はナイル川の岸に立っていた。
- 18 すると、ナイル川から、肉づきの良い、つやつやした雌牛が七頭上がって来て、葦の中で草をはんでいた。

- 19 すると、その後を追って、弱々しい、とても醜く痩せ細った別の雌牛が七頭、上がって来た。私は、このように醜い牛をエジプト全土でまだ見たことがない。
- 20 そして、この痩せた醜い雌牛が、先の肥えた七頭の雌牛を食い尽くしてしまった。
- 21 ところが、彼らを腹に入れても、腹に入ったのが分からないほど、その姿は初めと同じように醜かった。そのとき、私は目が覚めた。
- 22 また、夢の中で私は見た。見ると、一本の茎に、よく実った七つの穂が出て来た。
- 23 すると、その後を追って、貧弱で、しなびた、東風に焼けた七つの穂が出て来た。
- 24 そして、そのしなびた穂が、あの七つの良い穂を呑み込んでしまった。そこで私は呪法師たちに話したが、だれも私に説明できる者はいなかった。」
- 25 ヨセフはファラオに言った。「ファラオの夢は一つです。神が、なさろうとしていることをファラオにお告げになったのです。
- 26 七頭の立派な雌牛は七年のことで、七つの立派な穂も七年のことです。それは一つの夢なのです。
- 27 その後から上がって来た七頭の痩せた醜い雌牛は七年のことで、痩せ細り東風に焼けた七つの穂も同様です。それは飢饉の七年です。
- 28 これは、私がファラオに申し上げたとおり、神が、なさろうとしていることをファラオに示されたのです。
- 29 今すぐ、エジプト全土に七年間の大豊作が訪れようとしています。
- 30 その後、七年間の飢饉が起こり、エジプトの地で豊作のことはすべて忘れられます。飢饉が地を荒れ果てさせ、
- 31 この地の豊作は、後に来る飢饉のため、跡も分からなくなります。その飢饉が非常に激しいからです。
- 32 夢が二度ファラオに繰り返されたのは、このことが神によって定められ、神が速やかにこれをなさるからです。
- 33 ですから、今、ファラオは、さとくて知恵のある人を見つけ、その者をエジプトの地の上に置かれますように。
- 34 ファラオは、国中に監督官を任命するよう、行動を起こされますように。豊作の七年間に、エジプトの地の収穫の五分之一を徴収なさるためです。
- 35 彼らに、これからの豊作の年のあらゆる食糧をすべて集めさせ、ファラオの權威のもとに、町々に穀物を蓄えさせるのです。彼らは保管し、
- 36 その食糧は、エジプトの地に起こる七年の飢饉のために、国の蓄えとなります。そうすれば、この地は飢饉で滅びることがないでしょう。」
- 37 このことは、ファラオとすべての家臣たちの心になった。
- 38 そこで、ファラオは家臣たちに言った。「神の霊が宿っているこのような人が、ほかに見つかるだろうか。」
- 39 ファラオはヨセフに言った。「神がこれらすべてのことをおまえに知らされたからには、おまえのように、さとくて知恵のある者は、ほかにはいない。

- 40 おまえが私の家を治めるがよい。私の民はみな、おまえの命令に従うであろう。私がまさっているのは王位だけだ。」
- 41 ファラオはさらにヨセフに言った。「さあ、私はおまえにエジプト全土を支配させよう。」
- 42 そこで、ファラオは自分の指輪を指から外してヨセフの指にはめ、亜麻布の衣服を着せ、その首に金の首飾りを掛けた。
- 43 そして、自分の第二の車に彼を乗せた。人々は彼の前で「ひざまずけ」と叫んだ。こうしてファラオは彼にエジプト全土を支配させた。
- 44 ファラオはヨセフに言った。「私はファラオだ。しかし、おまえの許しなくしては、エジプトの国中で、だれも何もすることができない。」
- 45 ファラオはヨセフにツァフェナテ・パネアハという名を与え、オンの祭司ポティ・フェラの娘アセナテを彼の妻として与えた。こうしてヨセフはエジプトの地を監督するようになった。
- 46 エジプトの王ファラオに仕えるようになったとき、ヨセフは三十歳であった。ヨセフはファラオのもとから出発して、エジプト全土を巡った。
- 47 さて、豊作の七年間に、地は豊かに実らせた。
- 48 ヨセフはエジプトの地で穫れた七年間の食糧をことごとく集め、その食糧を町々に蓄えた。町の周囲にある畑の食糧を、それぞれの町の中に蓄えたのである。
- 49 ヨセフは穀物を、海の砂のように非常に多く蓄え、量りきれなくなったので、ついに量るのをやめた。
- 50 飢饉の年が来る前に、ヨセフに二人の子が生まれた。オンの祭司ポティ・フェラの娘アセナテが産んだ子である。
- 51 ヨセフは長子をマナセと名づけた。「神が、私のすべての労苦と、私の父の家のすべてのことを忘れさせてくださった」からである。
- 52 また、二番目の子をエフライムと名づけた。「神が、私の苦しみので、私を実り多い者としてくださった」からである。
- 53 エジプトの地での豊作の七年が終わると、
- 54 ヨセフが言ったとおり、七年の飢饉が始まった。その飢饉はすべての国々に臨んだが、エジプト全土には食物があった。
- 55 やがて、エジプト全土が飢えると、その民はファラオに食物を求めて叫んだ。ファラオは全エジプトに言った。「ヨセフのもとに行き、ヨセフの言うとおりにせよ。」
- 56 飢饉は地の全面に及んだ。ヨセフはすべての穀物倉を開けて、エジプト人に売った。その飢饉はエジプトの地でもひどくなった。
- 57 全地は、穀物を買うためにエジプトのヨセフのところに来た。その飢饉が全地で厳しかったからである。

第42章

- 1 ヤコブはエジプトに穀物があることを知って、息子たちに言った。「おまえたちは、なぜ互いに顔を見合わせているのか。」
- 2 さらに言った。「今、私はエジプトに穀物があると聞いた。おまえたちは下って行って、そこから私たちのために穀物を買って来なさい。そうすれば、私たちは生き延び、死なずにすむだろう。」
- 3 そこで、ヨセフの十人の兄弟は、穀物を買うためにエジプトに下って行った。
- 4 しかし、ヤコブはヨセフの弟ベニヤミンを兄弟たちと一緒に送らなかった。わざわざいが彼に降りかかるといけないと思ったからである。
- 5 こうしてイスラエルの息子たちは、人々に混じって、穀物を買いにやって来た。カナンの地に飢饉が起こったからである。
- 6 ときに、ヨセフはこの地の権力者であり、この地のすべての人に穀物売る者であった。ヨセフの兄弟たちはやって来て、顔を地に付けて彼を伏し拝んだ。
- 7 ヨセフは兄弟たちを見て、それと分かったが、彼らに対して見知らぬ者のようにふるまい、荒々しいことばで彼らに言った。「おまえたちはどこから来たのか。」すると彼らは答えた。「カナンの地から食糧を買いに参りました。」
- 8 ヨセフには兄弟たちだと分かったが、彼らにはヨセフだとは分からなかった。
- 9 かつて彼らについて見た夢を思い出して、ヨセフは言った。「おまえたちは回し者だ。この国の隙をうかがいに来たのだろう。」
- 10 彼らは言った。「いいえ、ご主人様。しもべどもは食糧を買いに参りました。
- 11 私たちはみな、一人の人の子です。私たちは正直者です。しもべどもは回し者などではございません。」
- 12 ヨセフは彼らに言った。「いや、おまえたちは、この国の隙をうかがいにやって来たのだ。」
- 13 彼らは言った。「しもべどもは十二人兄弟で、カナンの地にいる一人の人の子でございます。末の弟は今、父と一緒にいますが、もう一人はいなくなりました。」
- 14 ヨセフは彼らに言った。「私が、おまえたちは回し者だと言ったのは、そのことだ。
- 15 次のことで、おまえたちを試そう。ファラオのいのちにかけて言うが、おまえたちの末の弟がここに来ないかぎり、おまえたちは決してここから出ることはできない。
- 16 おまえたちのうちの一人を送って、弟を連れて来い。それまで、おまえたちを監禁する。おまえたちに誠実さがあるかどうか、おまえたちの言ったことを試すためだ。もし誠実でなかったら、ファラオのいのちにかけて言うが、おまえたちは間違いなく回し者だ。」
- 17 こうしてヨセフは三日間、彼らを監獄に入れておいた。
- 18 ヨセフは三日目に彼らに言った。「次のようにして、生き延びよ。私も神を恐れる者だから。
- 19 もし、おまえたちが正直者なら、おまえたちの兄弟の一人を監獄に監禁したままにせよ。自分たちは飢えている家族に穀物を持って行くがよい。

- 20 そして、末の弟を私のところに連れて来るがよい。そうすれば、おまえたちのことばが本当だということが分かり、おまえたちが死ぬことはない。」そこで彼らはそのようにした。
- 21 彼らは互いに言った。「まったく、われわれは弟のことで罰を受けているのだ。あれが、あわれみを求めたとき、その心の苦しみを見ながら、聞き入れなかった。それで、われわれはこんな苦しみにあっているのだ。」
- 22 ルベンが言った。「私はあの子に罪を犯すなど言ったではないか。それなのに、おまえたちは聞き入れなかった。だから今、彼の血の報いを受けているのだ。」
- 23 彼らは、ヨセフが聞いていることを知らなかった。ヨセフと兄弟たちの間には通訳がいたからである。
- 24 ヨセフは彼らから離れて、泣いた。それから彼らのところに戻って来て、彼らに語った。そして彼らの中からシメオンを捕らえて、彼らの目の前で彼を縛った。
- 25 ヨセフは彼らの袋に穀物を満たし、それぞれの袋に彼らの銀を戻し、さらに道中の食糧を与えるように命じた。それで、人々はそのとおりにした。
- 26 彼らは穀物を自分たちのろばに背負わせて、そこを去った。
- 27 さて、彼らの一人が、宿泊所で自分のろばに飼料をやるうとして袋を開けると、自分の銀が、見よ、自分の袋の口にあった。
- 28 彼は兄弟たちに言った。「私の銀が戻されている。しかもこのとおり、私の袋の中に。」彼らは動転し、身を震わせて、互いに言った。「神は私たちにいったい何をなさったのだろう。」
- 29 彼らはカナンの地にいる父ヤコブのもとに帰って、その身に起こったことをすべて彼に告げた。
- 30 「あの国の主君である人が私たちに厳しく語り、私たちを、あの国を探る回し者のように扱いました。
- 31 私たちはその人に、『私たちは正直者で、回し者などではありません。
- 32 私たちは十二人兄弟で、同じ父の子です。一人はいなくなりましたが、末の弟は今、カナンの地に父と一緒にいます』と申しました。
- 33 すると、その国の主君である人が私たちに言いました。『こうすれば、おまえたちが正直者かどうか分かる。おまえたちの兄弟を一人、私のところに残して、飢えているおまえたちの家族に穀物を持って行け。
- 34 そして、末の弟を私のところに連れて来い。そうすれば、おまえたちが敵の回し者ではなく、正直者だということが分かる。そこで私はおまえたちの兄弟を渡そう。そうして、おまえたちはこの地に入りができるようになる』と。」
- 35 それから彼らが自分たちの袋を空けると、見よ、一人ひとりの銀の包みが自分の袋の中にあった。彼らも父も、この銀の包みを見て恐れた。
- 36 父ヤコブは言った。「おまえたちは、すでに私に子を失わせた。ヨセフはいなくなり、シメオンもいなくなった。そして今、ベニヤミンまで取ろうとしている。こんなことがみな、私に降りかかってきたのだ。」

- 37** ルベンは父に言った。「もし私がこの弟をあなたのもとに連れ帰らなかったら、私の二人の子を殺してもかまいません。彼を私に任せてください。この私が彼をあなたのもとに連れ戻します。」
- 38** するとヤコブは言った。「この子は、おまえたちと一緒にには行かせない。この子の兄は死んで、この子だけが残っているのだから。道中で、もし彼にわざわいが降りかかれば、おまえたちは、この白髪頭の私を、悲しみながらよみに下らせることになるのだ。」

第43章

- 1 さて、その地の飢饉は激しかった。
- 2 彼らがエジプトから持って来た穀物を食べ尽くしたとき、父は彼らに言った。「また行って、われわれのために食糧を少し買って来てくれ。」
- 3 すると、ユダが父に言った。「あの方は私たちを厳しく戒めて、『おまえたちの弟と一緒にでなければ、私の顔を見てはならない』と言いました。
- 4 もし弟を私たちと一緒に行かせてくださるなら、私たちは下って行って、お父さんのために食糧を買って来ましょう。
- 5 しかし、もし彼を行かせてくださらないなら、私たちは下って行きません。あの方は私たちに、『おまえたちの弟と一緒にでなければ、私の顔を見てはならない』と言ったのですから。」
- 6 イスラエルは言った。「なぜ、おまえたちは、自分たちにもう一人の弟がいるとその方に言って、私を苦しめるようなことをしたのか。」
- 7 彼らは言った。「あの方が私たちや家族のことについて、『おまえたちの父はまだ生きているのか。おまえたちには弟がいるのか』としきりに尋ねるので、問われるままに言ってしまったのです。『おまえたちの弟を連れて来い』と言われるとは、どうして私たちに分かったでしょうか。」
- 8 ユダは父イスラエルに言った。「あの子を私と一緒に行かせてください。私たちは行きます。そうすれば私たちは、お父さんも私たちの子どもたちも、生き延びて、死なずにすむでしょう。
- 9 私自身があの子の保証人となります。私が責任を負います。もしも、お父さんのもとに連れ帰らず、あなたの前にあの子を立たせなかったら、私は一生あなたの前に罪ある者となります。
- 10 もし私たちがためらっていなかったなら、今までに二度は、行って帰れたはずです。」
- 11 父イスラエルは彼らに言った。「それなら、こうなさい。この地の名産を袋に入れ、それを贈り物として、その方のところへ下って行きなさい。乳香と蜜を少々、樹膠と没薬、ピスタチオとアーモンド、
- 12 また二倍の銀を持って行きなさい。おまえたちの袋の口に返されていた銀も、持って行って返しなさい。おそらく、あれは間違いだったのだろう。
- 13 そして、弟を連れて、さあ、その方のところへ出かけて行きなさい。
- 14 全能の神が、その方の前でおまえたちをあわれんでくださるように。そして、もう一人の兄弟とベニヤミンをおまえたちに渡してくださるように。私も、息子を失うときには失うのだ。」
- 15 そこで、一行は贈り物を携え、二倍の銀を持ち、ベニヤミンを伴って出発した。そして、エジプトへ下り、ヨセフの前に立った。
- 16 ヨセフは、ベニヤミンが彼らと一緒にいるのを見るや、彼の家を管理する者に言った。「この人たちを家に連れて行き、家畜を屠って料理しなさい。この人たちは私と昼食をと

もにするから。」

- 17 その人は、ヨセフが言ったとおりに、一同をヨセフの家に連れて行った。
- 18 一同はヨセフの家に連れて行かれたので、怖くなって言った。「われわれが連れて来られたのは、この前のとき、われわれの袋に戻されていた、あの銀のせいだ。われわれを陥れて襲い、奴隷としてろばとともに捕らえるためだ。」
- 19 彼らはヨセフの家を管理するその人に近づいて、家の入り口のところで話しかけた。
- 20 「ご主人様、最初るとき、私たちは食糧を買いに下って参りました。
- 21 ところが、宿泊所に着いて、袋を開けると、なんと、私たちの一人ひとりの銀がそのまま自分の袋の口にあったのです。それで、私たちはそれを返しに持って参りました。
- 22 また、食糧を買うために、別の銀も持って参りました。だれが私たちの銀を袋の中に入れたのかは、私たちには分かりません。」
- 23 彼は答えた。「安心しなさい。恐れることはありません。あなたがたの神、あなたがたの父の神が、あなたがたのために袋の中に宝を入れてくださったのです。あなたがたの銀は、私が受け取りました。」それから、彼はシメオンを彼らのところに連れて来た。
- 24 その人は一同をヨセフの家に連れて行き、水を与え、彼らは足を洗った。また彼は、彼らのろばに餌を与えた。
- 25 兄弟たちは、ヨセフが昼に帰って来るまでに、贈り物を用意しておいた。自分たちがそこで食事をするようになっていないと聞いたからである。
- 26 ヨセフが家に帰って来たとき、彼らはその家まで携えて来た贈り物を彼に差し出し、地に伏して彼を拝した。
- 27 ヨセフは彼らの安否を尋ねた。「以前に話していた、おまえたちの年老いた父親は元気か。まだ生きているのか。」
- 28 彼らは答えた。「あなた様のしもべ、私たちの父は元気で、まだ生きております。」そして、彼らはひざまずいて彼を拝した。
- 29 ヨセフは目を上げ、同じ母の子である弟のベニヤミンを見て言った。「これが、おまえたちが私に話した末の弟か。」そして言った。「わが子よ、神がおまえを恵まれるように。」
- 30 ヨセフは弟なつかしさに、胸が熱くなって泣きたくなり、急いで奥の部屋に入って、そこで泣いた。
- 31 やがて、彼は顔を洗って出て来た。そして自分を制して、「食事を出せ」と命じた。
- 32 それで、ヨセフにはヨセフ用に、彼らには彼ら用に、ヨセフとともに食事をするエジプト人にはその人たち用に、それぞれ別々に食事が出された。エジプト人は、ヘブル人とはともに食事ができなかったからである。それは、エジプト人が忌み嫌うことであった。
- 33 彼らはヨセフの前で、年長者は年長の席に、年下の者は年下の席に座らされたので、一同は互いに驚き合った。
- 34 また、ヨセフの食卓から彼らの分が与えられたが、ベニヤミンの分は、ほかの者より五倍も多かった。彼らはヨセフとともに酒を飲み、酔い心地になった。

第44章

- 1 ヨセフは家を管理する者に命じた。「あの者たちの袋を、彼らが運べるかぎりの食糧で満たし、一人ひとりの銀を彼らの袋の口に入れておけ。
- 2 それから、私の杯、あの銀の杯は、一番年下の者の袋の口に、穀物の代金と一緒にに入れておけ。」彼はヨセフのことばどおりにした。
- 3 明け方、一行はろばとともに送り出された。
- 4 彼らが町を出て、まだ遠くへ行かないうちに、ヨセフは家を管理する者に言った。「さあ、あの者たちの後を追え。追いついたら、『なぜ、おまえたちは悪をもって善に報いるのか。』
- 5 これは、私の主君が、飲んだり占いをしたりするときに、いつも使っておられるものではないか。おまえたちのしたことは悪辣だ』と彼らに言うのだ。」
- 6 彼は追いついて、このことばを彼らに告げた。
- 7 彼らは言った。「あなた様は、なぜ、そのようなことをおっしゃるのですか。しもべどもがそんなことをするなど、あり得ないことです。
- 8 袋の口で見つけた銀でさえ、カナンの地からあなた様のもとへ返しに来たではありませんか。どうして、あなた様のご主人の家から銀や金を盗んだりするでしょう。
- 9 しもべどものうちで、それが見つかった者は殺してください。そして、私たちもまた、ご主人の奴隷になります。」
- 10 彼は言った。「今度も、おまえたちの言うことはもっともだが、それが見つかった者は私の奴隷とし、ほかの者は無罪としよう。」
- 11 彼らは急いでそれぞれ自分の袋を地面に降ろし、それぞれその袋を開けた。
- 12 彼は年長の者から調べ始めて、年下の者で終えた。すると、その杯はベニヤミンの袋から見つかった。
- 13 彼らは自分の衣を引き裂いた。そして、それぞれろばに荷を負わせ、町に引き返した。
- 14 ユダと兄弟たちがヨセフの家にやって来たとき、ヨセフはまだ、そこにいた。彼らはヨセフの前で顔を地に伏せた。
- 15 ヨセフは彼らに言った。「おまえたちの、このしわざは何だ。私のような者は占いをするということを知らなかったのか。」
- 16 ユダが答えた。「あなた様に何を申し上げられるでしょう。何の申し開きができるでしょう。何と言って弁解することができるでしょう。神がしもべどもの咎を暴かれたのです。今このとおり、私たちも、そして、その手に杯が見つかった者も、あなた様の奴隷となります。」
- 17 ヨセフは言った。「そんなことをするなど、とんでもないことだ。その手に杯が見つかった者、その者が私の奴隷となるのだ。おまえたちは安心して父のもとへ帰るがよい。」
- 18 すると、ユダが彼に近づいて言った。「ご主人様。どうか、しもべが申し上げることに、耳をお貸しください。どうか、しもべを激しくお怒りにならないでください。あなた様はファラオのようなお方です。

- 19 あなた様は、以前しもべどもに、おまえたちに父や弟がいるかとお尋ねになりました。
- 20 それで私たちは、『私たちには、年老いた父と、年寄り子の末の弟がおります。彼の兄は死に、その母の子としては彼だけが残されましたので、父は彼を愛しています』と申し上げました。
- 21 するとあなた様は、『彼を私のところに連れて来い。私はこの目で彼を見たい』とおっしゃいました。
- 22 そのとき私たちは、『その子は父親と離れることはできません。離れたら父親は死ぬでしょう』とあなた様に申し上げました。
- 23 しかし、あなた様が、『末の弟と一緒に下って来なければ、二度と私の顔を見てはならない』とおっしゃったので、
- 24 私たちは、あなた様のしもべである私の父のもとに帰ったとき、父にあなた様のおことばを伝えました。
- 25 そして父が、『また行って、われわれのために少し食糧を買って来てくれ』と言ったので、
- 26 私たちは、『下って行くことはできません。もし末の弟が私たちと一緒に下って行きます。というのは、末の弟と一緒になければ、あの方の顔を見ることはできないからです』と答えました。
- 27 すると、あなた様のしもべ、私の父がこう申しました。『おまえたちもよく知っているように、私の妻は二人の子を産んだ。
- 28 一人は私のところから出て行ったきりで、きっと獣にかみ裂かれてしまったのだ、と私は言った。今に至るまで、私は彼を見ていない。
- 29 おまえたちがこの子まで私から奪って、この子にわざわざ降りかかるなら、おまえたちは白髪頭の私を、苦しみながらよみに下らせることになる。』
- 30 私が今、あなた様のしもべである私の父のもとへ帰ったとき、あの子が私たちと一緒にいなかったら、父のいのちはあの子のいのちに結ばれていますから、
- 31 あの子がいないのを見たら、父は死んでしまうでしょう。しもべどもは、あなた様のしもべである白髪頭の父を、苦しみながらよみに下らせることとなります。
- 32 というのは、このしもべは父に、『もしも、あの子をお父さんのもとに連れ帰らなかったなら、私は一生あなたの前に罪ある者となります』と言って、あの子の保証人となっているからです。
- 33 ですから、どうか今、このしもべを、あの子の代わりに、あなた様の奴隷としてとどめ、あの子を兄弟たちと一緒に帰らせてください。
- 34 あの子と一緒になくて、どうして私は父のところへ帰れるでしょう。父に起こるわざわりを見たくありません。』

第45章

- 1 ヨセフは、そばに立っているすべての人の前で、自分を制することができなくなって、「皆を私のところから出しなさい」と叫んだ。ヨセフが兄弟たちに自分のことを明かしたとき、彼のそばに立っている者はだれもいなかった。
- 2 ヨセフは声をあげて泣いた。エジプト人はその声を聞き、ファラオの家の者もそれを聞いた。
- 3 ヨセフは兄弟たちに言った。「私はヨセフです。父上はお元気ですか。」兄弟たちはヨセフを前にして、驚きのあまり、答えることができなかった。
- 4 ヨセフは兄弟たちに言った。「どうか私に近寄ってください。」彼らが近寄ると、ヨセフは言った。「私は、あなたがたがエジプトに売った弟のヨセフです。
- 5 私をここに売ったことで、今、心を痛めたり自分を責めたりしないでください。神はあなたがたより先に私を遣わし、いのちを救うようにしてくださいました。
- 6 というのは、この二年の間、国中に飢饉が起きていますが、まだあと五年は、耕すことも刈り入れることもないからです。
- 7 神が私をあなたがたより先にお遣わしになったのは、あなたがたのために残りの者をこの地に残し、また、大いなる救いによって、あなたがたを生き延びさせるためだったのです。
- 8 ですから、私をここに遣わしたのは、あなたがたではなく、神なのです。神は私を、ファラオには父とし、その全家には主人とし、またエジプト全土の統治者とされました。
- 9 どうか、急いで父上のところに上って行き、言ってください。『息子のヨセフがこう言いました。「神は私をエジプト全土の主とされました。ためらうことなく私のところに下って来てください。
- 10 ゴシェンの地に住んで、私の近くにいてください。父上も、子と孫、羊と牛、また父上に属するすべてのものも。
- 11 飢饉はあと五年続きますから、父上も家族も、また父上に属するすべてのものも、困ることのないように、私が父上をそこで養いましょう」と。』
- 12 さあ、あなたがたも、弟のベニヤミンも、自分の目でしっかり見てください。あなたがたに話しているのは、この私の口です。
- 13 あなたがたは、エジプトでの私のすべての栄誉と、あなたがたが見た一切のことを父上に告げ、急いで父上をここに連れて来ててください。」
- 14 彼は弟ベニヤミンの首を抱いて泣いた。ベニヤミンも彼の首を抱いて泣いた。
- 15 彼はまた、兄弟みなに口づけし、彼らを抱いて泣いた。それから兄弟たちは彼と語り合った。
- 16 ヨセフの兄弟たちが来たという知らせが、ファラオの家に伝えられると、ファラオもその家臣たちも喜んだ。
- 17 ファラオはヨセフに言った。「おまえの兄弟たちに言うがよい。『こうしなさい。家畜に荷を積んで、すぐカナンの地へ行き、

- 18 あなたがたの父と家族を連れて、私のもとへ来なさい。私はあなたがたに、エジプトの地の最良のものを与えよう。あなたがたは、地の最も良い物を食べるがよい。』
- 19 おまえはこう命じなさい。『子どもたちと妻たちのために、エジプトの地から車を持って行き、あなたがたの父を乗せて来なさい。』
- 20 家財に未練を残してはならない。エジプト全土の最良の物は、あなたがたのものだから』と。』
- 21 そこで、イスラエルの息子たちはそのようにした。ヨセフは、ファラオの命により、彼らに車を与え、また道中のための食糧も与えた。
- 22 彼ら一人ひとりに晴れ着を与えたが、ベニヤミンには銀三百枚と晴れ着五着を与えた。
- 23 父に贈ったものは、エジプトの最良のものを積んだろば十頭と、穀物とパンと父の道中の食糧を積んだ雌ろば十頭であった。
- 24 こうしてヨセフは兄弟たちを送り出し、彼らが出発するとき、彼らに言った。「道中、言い争いをしないでください。」
- 25 彼らはエジプトから上って、カナンの地、彼らの父ヤコブのもとへ戻って来た。
- 26 彼らは父に告げた。「ヨセフはまだ生きています。しかも、エジプト全土を支配しているのは彼です。」父は茫然としていた。彼らのことばが信じられなかったからである。
- 27 彼らは、ヨセフが話したことを残らず彼に話して聞かせた。ヨセフが自分を乗せるために送ってくれた車を見ると、父ヤコブは元気づいた。
- 28 イスラエルは言った。「十分だ。息子のヨセフがまだ生きているとは。私は死ぬ前に彼に会いに行こう。」

第46章

- 1 イスラエルは、彼に属するものすべてと一緒に旅立った。そしてベエル・シェバに来たとき、父イサクの神にいけにえを献げた。
- 2 神は、夜の幻の中でイスラエルに「ヤコブよ、ヤコブよ」と語りかけられた。彼は答えた。「はい、ここにあります。」
- 3 すると神は仰せられた。「わたしは神、あなたの父の神である。エジプトに下ることを恐れるな。わたしはそこで、あなたを大いなる国民とする。
- 4 このわたしが、あなたとともにエジプトに下り、また、このわたしが必ずあなたを再び連れ上る。そしてヨセフが、その手であなたの目を閉じてくれるだろう。」
- 5 ヤコブはベエル・シェバを出発した。イスラエルの息子たちは、ヤコブを乗せるためにファラオが送った車に、父ヤコブと自分の子どもたちや妻たちを乗せた。
- 6 そして、家畜とカナンの地で得た財産を携えて、ヤコブとそのすべての子孫は、一緒にエジプトにやって来た。
- 7 彼は、自分の息子と孫、娘と孫娘、すなわちすべての子孫を、一緒にエジプトに連れて来た。
- 8 エジプトに来たイスラエルの子ら、ヤコブとその子らの名は次のとおりである。ヤコブの長子ルベン。
- 9 ルベンの子はハノク、パル、ヘツロン、カルミ。
- 10 シメオンの子はエムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ツォハル、カナンの女による子シャウル。
- 11 レビの子はゲルション、ケハテ、メラリ。
- 12 ユダの子はエル、オナン、シェラ、ペレツ、ゼラフ。エルとオナンはカナンの地で死んだ。ペレツの子はヘツロンとハムルであった。
- 13 イッサカルの子はトラ、ブワ、ヨブ、シムロン。
- 14 ゼブルンの子はセレデ、エロン、ヤフレエル。
- 15 これらは、レアがパダン・アラムでヤコブに産んだ子で、それに娘ディナがいて、彼の息子や娘たちは全部で三十三人。
- 16 ガドの子はツィフヨン、ハギ、シュニ、エツボン、エリ、アロディ、アルエリ。
- 17 アシェルの子はイムナ、イシュワ、イシュウィ、ベリアと、彼らの妹セラフ。ベリアの子はヘベル、マルキエル。
- 18 これらは、ラバンが娘レアに与えたジルパの子である。彼女はヤコブに、これら十六人を産んだ。
- 19 ヤコブの妻ラケルの子はヨセフとベニヤミン。
- 20 ヨセフにはエジプトの地で子が生まれた。それは、オンの祭司ポティ・フェラの娘アセナテが彼に産んだ、マナセとエフライムである。
- 21 ベニヤミンの子はベラ、ベケル、アシュベル、ゲラ、ナアマン、エヒ、ロシュ、ムピム、フピム、アルデ。

- 22** これらはヤコブに生まれたラケルの子で、全部で十四人。
- 23** ダンの子はフシム。
- 24** ナフタリの子はヤフツェエル、グニ、エツェル、シレム。
- 25** これらは、ラバンが娘ラケルに与えたビルハの子である。彼女がヤコブに産んだのは全部で七人であった。
- 26** ヤコブに属する者、彼の腰から生まれ出た子でエジプトにやって来た者は、ヤコブの息子たちの妻を除いて、全部で六十六人。
- 27** エジプトで生まれたヨセフの子は二人である。エジプトに来たヤコブの家族は、全部で七十人であった。
- 28** さて、ヤコブはユダを先にヨセフのところに遣わして、ゴシェンへの道を教えてもらった。そうして彼らは、ゴシェンの地にやって来た。
- 29** ヨセフは車を整え、父イスラエルを迎えにゴシェンへ上った。そして父に会うなり、父の首に抱きつき、首にすがって泣き続けた。
- 30** イスラエルはヨセフに言った。「もう今、私は死んでもよい。おまえがまだ生きていて、そのおまえの顔を見たのだから。」
- 31** ヨセフは兄弟たちや父の家の者たちに言った。「私はファラオのところに知らせに上って行き、申しましょう。『カナンの地にいた、私の兄弟たちと父の家の者たちが、私のところにやって来ました。』
- 32** この人たちは羊飼いです。家畜を飼っていたのです。この人たちは、自分たちの羊と牛と、所有するものすべてを連れて来ました。』
- 33** もしファラオがあなたがたを呼び寄せて、『おまえたちの職業は何か』と聞いたら、
- 34** こう答えてください。『しもべどもは若いときから今まで、家畜を飼う者でございます。私たちも、また私たちの先祖も』と。そうすれば、あなたがたはゴシェンの地に住めるでしょう。羊を飼う者はみな、エジプト人に忌み嫌われているからです。」

第47章

- 1 ヨセフはファラオのところに来て、報告した。「私の父と兄弟たち、また、その羊の群れ、牛の群れ、そして、彼らの所有するものすべてが、カナンの地から参りました。今、ゴシェンの地にあります。」
- 2 彼は兄弟の中から五人を連れて来て、ファラオに引き合わせた。
- 3 ファラオはヨセフの兄弟たちに尋ねた。「おまえたちの職業は何か。」彼らはファラオに答えた。「しもべどもは羊を飼う者で、私どもも、私どもの先祖もそうでございます。」
- 4 また、彼らはファラオに言った。「私たちはこの地に寄留しようとして参りました。カナンの地は飢饉が激しくて、しもべどもの羊のための牧草がございません。どうか、しもべどもをゴシェンの地に住まわせてください。」
- 5 ファラオはヨセフに言った。「おまえの父と兄弟たちが、おまえのところに来た。
- 6 エジプトの地はおまえの前にある。最も良い地に、おまえの父と兄弟たちを住ませなさい。彼らをゴシェンの地に住ませるがよい。彼らの中に有能な者たちがいるのが分かったなら、その者たちを私の家畜の係長としなさい。」
- 7 それから、ヨセフは父ヤコブを連れて来て、ファラオの前に立たせた。ヤコブはファラオを祝福した。
- 8 ファラオはヤコブに尋ねた。「あなたの生きてきた年月は、どれほどになりますか。」
- 9 ヤコブはファラオに答えた。「私がたどってきた年月は百三十年です。私の生きてきた年月はわずかで、いろいろなわざわいがあり、私の先祖がたどった日々、生きた年月には及びません。」
- 10 ヤコブはファラオを祝福し、ファラオの前から立ち去った。
- 11 ヨセフは、ファラオが命じたとおりに、父と兄弟たちの住まいを定め、彼らにエジプトの地で最も良い地、ラメセスの地に所有地を与えた。
- 12 またヨセフは、父と兄弟たちとその一族全員を、扶養すべき者の数に応じて、食物を与えて養った。
- 13 飢饉が非常に激しかったので、全地で食物がなくなり、エジプトの地もカナンの地も飢饉によって衰え果てた。
- 14 ヨセフは、エジプトの地とカナンの地にあった銀をすべて集めた。それは人々が穀物に対して払ったものである。ヨセフはその銀をファラオの家に納めた。
- 15 エジプトの地とカナンの地に銀が尽きたとき、エジプト人はみなヨセフのところに来て言った。「私たちに食物を下さい。銀が尽きたからといって、どうして私たちがあなた様の前で死んでよいのでしょうか。」
- 16 ヨセフは言った。「おまえたちの家畜を差し出しなさい。銀が尽きたのなら、家畜と引き替えに与えよう。」
- 17 人々がヨセフのところに家畜を引いて来たので、ヨセフは、馬、羊の群れ、牛の群れ、ろばと引き替えに、彼らに食物を与えた。こうして彼はその年、すべての家畜と引き替えに、彼らに食物を分け与えた。

- 18 やがてその年も終わり、次の年にも人々はヨセフのところに来て言った。「私たちはあなた様に何も隠しません。銀も尽き、家畜の群れもあなた様のものになったので、自分のからだと土地のほかには、あなた様の前に何も残っておりません。
- 19 どうして私たちが、土地と一緒にあなた様の前で死んでよいのでしょうか。食物と引き替えに、私たちと私たちの土地を買い取ってください。私たちは土地と一緒にファラオの奴隷となります。どうか種を下さい。そうすれば私たちは生き延び、死なずにすみます。土地も荒れないでしょう。」
- 20 それでヨセフは、エジプトのすべての土地をファラオのために買い取った。エジプト人に飢饉が厳しかったので、人々がみな、自分の畑地を売ったからである。こうしてその土地は、ファラオのものとなった。
- 21 また民については、エジプトの領土の端から端に至るどこでも、彼らを町々に移動させた。
- 22 しかし、祭司たちの土地だけは買い取らなかった。祭司たちにはファラオからの給与があり、ファラオが与える給与によって生活していたからである。そのため、自分たちの土地を売らなかった。
- 23 ヨセフは民に言った。「見よ。私は今、おまえたちとおまえたちの土地を買い取って、ファラオのものとした。さあ、ここに、おまえたちのための種がある。これをその土地に蒔きなさい。
- 24 収穫の時になったら、その五分の一はファラオに納め、五分の四は自分のものとしなさい。畑の種にするため、自分の食糧にするため、家の者のため、また扶養すべき者たちの食糧のために、そうしなさい。」
- 25 すると彼らは言った。「あなた様は私たちを生きしてくださいました。私たちは、あなた様のご好意を受けて、ファラオの奴隷となりましょう。」
- 26 ヨセフは、エジプトの土地について、五分の一はファラオのものとしなければならないという、一つの掟を定めた。それは今日にまで及んでいる。ただし、祭司の土地だけはファラオのものとならなかった。
- 27 さて、イスラエルはエジプトの国でゴシェンの地に住んだ。彼らはそこに所有地を得て、多くの子を生み、大いに数を増やした。
- 28 ヤコブはエジプトの地で十七年生きた。ヤコブが生きた年月は百四十七年であった。
- 29 イスラエルに死ぬ日が近づいたとき、彼はその子ヨセフを呼び寄せて言った。「もしおまえの心になうなら、おまえの手を私のももの下に入れ、私に愛と真実を尽くしてくれ。私をエジプトの地には葬らないでほしい。
- 30 私が先祖とともに眠りについたら、エジプトから運び出して、先祖の墓に葬ってくれ。」ヨセフは言った。「必ずあなたの言われたとおりにいたします。」
- 31 イスラエルは言った。「私に誓ってくれ。」ヨセフは彼に誓った。イスラエルは寝床の枕もとで、ひれ伏した。

第48章

- 1 これらのことの後、ヨセフに「お父上が、御病気です」と告げる者があったので、彼は二人の息子、マナセとエフライムを連れて行った。
- 2 ヤコブに「息子さんのヨセフが、今お見えになりました」との知らせがあった。それで、イスラエルは力を振り絞って床の上に座った。
- 3 ヤコブはヨセフに言った。「全能の神はカナンの地ルズで私に現れ、私を祝福して、
- 4 仰せられた。『見よ、わたしはあなたに多くの子を与える。あなたを増やし、あなたを多くの民の群れとし、この地をあなたの後の子孫に永遠の所有地として与える。』
- 5 私がエジプトのおまえのところにやって来る前に、エジプトの地でおまえに生まれた、おまえの二人の子は、今、私の子とする。エフライムとマナセは、ルベンやシメオンと同じように私の子となる。
- 6 しかし、二人の後でおまえに生まれる子どもたちは、おまえのものになる。しかし、彼らがゆずりとして受け継ぐ地では、彼らは兄たちの名を名乗らなければならない。
- 7 私のことを言えば、パダンから帰って来たとき、その途上のカナンの地で、悲しいことにラケルが死んだ。エフラテに着くにはまだかなりの道のりがあるところであった。私は、エフラテ、すなわちベツレヘムへの道にあるその場所に、彼女を葬った。」
- 8 イスラエルはヨセフの息子たちに気づいて言った。「この者たちはだれか。」
- 9 ヨセフは父に答えた。「神がここで私に授けてくださった息子たちです。」すると、父は「私のところに連れて来なさい。彼らを祝福しよう」と言った。
- 10 イスラエルは老齢のために目がかすんでいて、見るができなかった。それで、ヨセフが彼らを父のところに近寄らせると、父は彼らに口づけして抱き寄せた。
- 11 イスラエルはヨセフに言った。「おまえの顔が見られるとは思わなかったのに、今こうして神は、おまえの子孫も私に見させてくださった。」
- 12 ヨセフはヤコブの膝から彼らを引き寄せて、顔を地に付けて伏し拝んだ。
- 13 それからヨセフは二人を、右手でエフライムをイスラエルの左手側に、左手でマナセをイスラエルの右手側に引き寄せた。そして二人を彼に近寄せた。
- 14 ところがイスラエルは、右手を伸ばして弟であるエフライムの頭に置き、左手をマナセの頭に置いた。マナセが長子なのに、彼は手を交差させたのである。
- 15 彼はヨセフを祝福して言った。「私の先祖アブラハムとイサクが、その御前に歩んだ神よ。今日のこの日まで、ずっと私の羊飼いであられた神よ。
- 16 すべてのわざわいから私を贖われた御使いが、この子どもたちを祝福してくださいますように。私の名が先祖アブラハムとイサクの名とともに、彼らのうちに受け継がれますように。また、彼らが地のただ中で豊かに増えますように。」
- 17 ヨセフは、父が右手をエフライムの頭に置いたのを見て、それは間違っていると思い、父の手を取って、それをエフライムの頭からマナセの頭へ移そうとした。
- 18 ヨセフは父に言った。「父上、そうではありません。こちらが長子なのですから、右の手を、こちらの頭に置いてください。」

- 19 しかし、父は拒んで言った。「分かっている。わが子よ。私には分かっている。彼もまた、一つの民となり、また大いなる者となるであろう。しかし、弟は彼よりも大きくなり、その子孫は国々に満ちるほどになるであろう。」
- 20 彼はその日、彼らを祝福して言った。「おまえたちによって、イスラエルは祝福のことばを述べる。『神がおまえを エフライムやマナセのようになさるように』と。」 こうして彼はエフライムをマナセの先にした。
- 21 イスラエルはヨセフに言った。「私は間もなく死ぬだろう。しかし、神はおまえたちとともにおられ、おまえたちを先祖の地に帰してくださる。
- 22 私は、兄弟たちではなくおまえに、私が剣と弓でアモリ人の手から取った、あのシェケムを与えよう。」

第49章

- 1 ヤコブは息子たちを呼び寄せて言った。「集まりなさい。私は、終わりの日に おまえたちに起こることを告げよう。
- 2 ヤコブの子どもたちよ、集まって聞け。おまえたちの父イスラエルに聞け。
- 3 ルベンよ、おまえはわが長子。わが力、わが活力の初穂。威厳と力強さでまさる者。
- 4 だが、おまえは水のように奔放で、おまえはほかの者にまさることはない。おまえは父の床に上り、そのとき、それを汚した。―彼は私の寝床に上ったのだ。
- 5 シメオンとレビとは兄弟、彼らの剣は暴虐の武器。
- 6 わがたましいよ、彼らの密議に加わるな。わが栄光よ、彼らの集いに連なるな。彼らは怒りに任せて人を殺し、思いのままに牛の足の筋を切った。
- 7 のろわれよ、彼らの激しい怒り、彼らの凄まじい憤りは。私はヤコブの中で彼らを引き裂き、イスラエルの中に散らそう。
- 8 ユダよ、兄弟たちはおまえをたたえる。おまえの手は敵の首の上にあり、おまえの父の子らはおまえを伏し拝む。
- 9 ユダは獅子の子。わが子よ、おまえは獲物によって成長する。雄獅子のように、雌獅子のように、うずくまり、身を伏せる。だれがこれを起こせるだろうか。
- 10 王権はユダを離れず、王笏はその足の間を離れない。ついには彼がシロに来て、諸国の民は彼に従う。
- 11 彼は自分のろばをぶどうの木に、雌ろばの子を良いぶどうの木につなぐ。彼は自分の衣をぶどう酒で、衣服をぶどうの汁で洗う。
- 12 目はぶどう酒よりも色濃く、歯は乳よりも白い。
- 13 ゼブルンは海辺に、船の着く岸辺に住む。その境はシドンにまで至る。
- 14 イッサカルは、たくましいろば、二つの鞍袋の間に身を伏せる。
- 15 彼は、休息の地が快く、その地が麗しいのを見る。しかし、肩は重荷を負ってたわみ、苦役を強いられる奴隷となる。
- 16 ダンは自分の民を、イスラエルの部族の一つとしてさばく。
- 17 ダンは道の傍らの蛇となれ。通りのわきのまむしとなれ。彼が馬のかかとをかむと、乗り手はうしろに落ちる。
- 18 主よ、私はあなたの救いを待ち望む。
- 19 ガドについては、襲う者が襲うが、彼は、その者たちのかかとを襲う。
- 20 アシェルには、その食物が豊かになり、彼は王のごちそうを作り出す。
- 21 ナフタリは放たれた雌鹿。美しい子鹿を産む。
- 22 ヨセフは実を結ぶ若枝、泉のほとりの、実を結ぶ若枝。その枝は垣を越える。
- 23 弓を射る者は激しく彼を攻め、彼を射て苦しめた。
- 24 しかし、彼の弓はいつも固く張られ、彼の腕はすばやい。ヤコブの力強き方の手から、そこから、イスラエルの岩である牧者が出る。

- 25** おまえを助ける、おまえの父の神によって、 おまえを祝福する全能者によって、 上よりの天の祝福、下に横たわる大水の祝福、 乳房と胎の祝福があるように。
- 26** おまえの父の祝福は、 私の親たちの祝福にまさり、 永遠の丘の極みにまで及ぶ。 これらがヨセフの頭の上に、 兄弟たちの中から選り抜かれた者の 頭の頂にあるように。
- 27** ベニヤミンは、かみ裂く狼。 朝には獲物を食らい、 夕には略奪したものを分ける。」
- 28** これらはすべてイスラエルの部族で、十二であった。これは、彼らの父が彼らに語ったことである。彼らを祝福したとき、それぞれにふさわしい祝福を与えたのであった。
- 29** また、ヤコブは彼らに命じた。「私は、私の民に加えられようとしている。私をヒッタイト人エフロンの畑地にある洞穴に、先祖たちとともに葬ってくれ。
- 30** その洞穴は、カナンの地のマムレに面したマクペラの畑地にあり、アブラハムがヒッタイト人エフロンから、私有の墓地とするために、畑地とともに買い取った洞穴だ。
- 31** そこにはアブラハムと妻サラが葬られ、そこにイサクと妻リベカも葬られ、そこに私はレアを葬った。
- 32** その畑地とその中にある洞穴は、ヒッタイト人たちから買ったものだ。」
- 33** ヤコブは息子たちに命じ終えたと、足を床の中に入れ、息絶えて、自分の民に加えられた。

第50章

- 1 ヨセフは父の顔の上に崩れ落ちて、父のそばで泣き、父に別れの口づけをした。
- 2 ヨセフは自分のしもべである医者たちに、父をミイラにするように命じたので、医者たちはイスラエルをミイラにした。
- 3 そのために四十日を要した。ミイラにするのには、これだけの日数が必要であった。エジプトは彼のために七十日間、泣き悲しんだ。
- 4 喪の期間が明けたとき、ヨセフはファラオの家の者たちに告げた。「もし私の願いを聞いてもらえるなら、どうかファラオにこう伝えてください。
- 5 父は私に誓わせて、こう申しました。『私は間もなく死ぬ。私がカナンの地に掘った私の墓の中に、そこに、私を葬らなければならない。』どうか今、父を葬りに上って行かせてください。私はまた帰って参ります、と。」
- 6 ファラオは言った。「おまえの父がおまえに誓わせたとおり、上って行って、おまえの父を葬りなさい。」
- 7 それで、ヨセフは父を葬るために上って行った。彼とともに、ファラオのすべての家臣たち、ファラオの家の長老たち、エジプトの国のすべての長老たち、
- 8 ヨセフの家族全員、彼の兄弟たちとその一族が上って行った。ただし、彼らの子どもたちと羊と牛はゴシェンの地に残した。
- 9 また、戦車と騎兵も彼とともに上って行ったので、その一団は非常に大きなものであった。
- 10 彼らは、ヨルダンの川向こう、ゴレン・ハ・アタデに着いて、そこで、たいへん立派で荘厳な哀悼の式を行った。ヨセフは父のため七日間、葬儀を行った。
- 11 その地の住民のカナン人は、ゴレン・ハ・アタデのこの葬儀を見て、「これはエジプトの荘厳な葬儀だ」と言った。それゆえ、その場所の名はアベル・ミツライムと呼ばれた。それはヨルダンの川向こうにある。
- 12 ヤコブの息子たちは、父が命じたとおりに父に行った。
- 13 息子たちは彼をカナンの地に運び、マクベラの畑地の洞穴に葬った。それはマムレに面していて、アブラハムが私有の墓地にしようと、ヒッタイト人エフロンから畑地とともに買ったものである。
- 14 ヨセフは父を葬った後、兄弟たち、および、父を葬るために一緒に上って来たすべての者たちとともに、エジプトに戻った。
- 15 ヨセフの兄弟たちは、自分たちの父が死んだのを見たとき、「ヨセフはわれわれを恨んで、われわれが彼に犯したすべての悪に対して、仕返しをするかもしれない」と言った。
- 16 そこで、彼らはヨセフに言い送った。「あなたの父は死ぬ前に命じられました。
- 17 『ヨセフにこう言いなさい。おまえの兄弟たちは、実に、おまえに悪いことをしたが、兄弟たちの背きと罪を赦してやりなさい、と。』今、どうか、父の神のしもべたちの背きを赦してください。」ヨセフは彼らのこのことばを聞いて泣いた。

- 18** 彼の兄弟たちも来て、彼の前にひれ伏して言った。「ご覧ください。私たちはあなたの奴隷です。」
- 19** ヨセフは言った。「恐れることはありません。どうして、私が神の代わりになることができるでしょうか。」
- 20** あなたがたは私に悪を謀りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとしてくださいました。それは今日のように、多くの人が生かされるためだったのです。
- 21** ですから、もう恐れることはありません。私は、あなたがたも、あなたがたの子どもたちも養いましょう。」このように、ヨセフは彼らを安心させ、優しく語りかけた。
- 22** ヨセフとその一族はエジプトに住み、ヨセフは百十歳まで生きた。
- 23** ヨセフはエフライムの子孫を三代まで見た。マナセの子マキルの子どもたちも生まれて、ヨセフの膝に抱かれた。
- 24** ヨセフは兄弟たちに言った。「私は間もなく死にます。しかし、神は必ずあなたがたを顧みて、あなたがたをこの地から、アブラハム、イサク、ヤコブに誓われた地へ上らせてくださいます。」
- 25** ヨセフはイスラエルの子らに誓わせて、「神は必ずあなたがたを顧みてくださいます。そのとき、あなたがたは私の遺骸をここから携え上ってください」と言った。
- 26** ヨセフは百十歳で死んだ。彼らはヨセフをエジプトでミイラにし、棺に納めた。

出エジプト記

Exodus

第1章

- 1 さて、ヤコブとともに、それぞれ自分の家族を連れてエジプトに来た、イスラエルの息子たちの名は次のとおりである。
- 2 ルベン、シメオン、レビ、ユダ。
- 3 イッサカル、ゼブルン、ベニヤミン。
- 4 ダンとナフタリ。ガドとアシェル。
- 5 ヤコブの腰から生まれ出た者の総数は七十名であった。ヨセフはすでにエジプトにいた。
- 6 それから、ヨセフもその兄弟たちも、またその時代の人々もみな死んだ。
- 7 イスラエルの子らは多くの子を生んで、群れ広がり、増えて非常に強くなった。こうしてその地は彼らで満ちた。
- 8 やがて、ヨセフのことを知らない新しい王がエジプトに起こった。
- 9 彼は民に言った。「見よ。イスラエルの民はわれわれよりも多く、また強い。
- 10 さあ、彼らを賢く取り扱おう。彼らが多くなり、いざ戦いというときに敵側についてわれわれと戦い、この地から出て行くことがないように。」
- 11 そこで、彼らを重い労役で苦しめようと、彼らの上に役務の監督を任命した。また、ファラオのために倉庫の町ピトムとラメセスを建てた。
- 12 しかし、苦しめれば苦しめるほど、この民はますます増え広がったので、人々はイスラエルの子らに恐怖を抱くようになった。
- 13 それでエジプト人は、イスラエルの子らに過酷な労働を課し、
- 14 漆喰やれんが作りの激しい労働や、畑のあらゆる労働など、彼らに課す過酷なすべての労働で、彼らの生活を苦しいものにした。
- 15 また、エジプトの王は、ヘブル人の助産婦たちに命じた。一人の名はシフラ、もう一人の名はプアであった。
- 16 彼は言った。「ヘブル人の女の出産を助けるとき、産み台の上を見て、もし男の子なら、殺さなければならない。女の子なら、生かしておけ。」
- 17 しかし、助産婦たちは神を恐れ、エジプトの王が命じたとおりにしないで、男の子を生かしておいた。
- 18 そこで、エジプトの王はその助産婦たちを呼んで言った。「なぜこのようなことをして、男の子を生かしておいたのか。」
- 19 助産婦たちはファラオに答えた。「ヘブル人の女はエジプト人の女とは違います。彼女たちは元気で、助産婦が行く前に産んでしまうのです。」
- 20 神はこの助産婦たちに良くしてくださった。そのため、この民は増えて非常に強くなった。
- 21 助産婦たちは神を恐れたので、神は彼女たちの家を栄えさせた。
- 22 ファラオは自分のすべての民に次のように命じた。「生まれた男の子はみな、ナイル川に投げ込まなければならない。女の子はみな、生かしておかななければならない。」

第2章

- 1 さて、レビの家のある人がレビ人の娘を妻に迎えた。
- 2 彼女は身ごもって男の子を産み、その子がかわいいのを見て、三か月間その子を隠しておいた。
- 3 しかし、それ以上隠しきれなくなり、その子のためにパピルスのかごを取り、それに瀝青と樹脂を塗って、その子の中に入れ、ナイル川の岸の葦の茂みの中に置いた。
- 4 その子の姉は、その子がどうなるかと思って、離れたところに立っていた。
- 5 すると、ファラオの娘が水浴びをしようとナイルに下りて来た。侍女たちはナイルの川辺を歩いていた。彼女は葦の茂みの中にそのかごがあるのを見つけ、召使いの女を遣わして取って来させた。
- 6 それを開けて、見ると、子どもがいた。なんと、それは男の子で、泣いていた。彼女はその子をかわいそうに思い、言った。「これはヘブル人の子どもです。」
- 7 その子の姉はファラオの娘に言った。「私が行って、あなた様にヘブル人の中から乳母を一人呼んで参りましょうか。あなた様に代わって、その子に乳を飲ませるために。」
- 8 ファラオの娘が「行って来ておくれ」と言ったので、少女は行き、その子の母を呼んで来た。
- 9 ファラオの娘は母親に言った。「この子を連れて行き、私に代わって乳を飲ませてください。私が賃金を払いましょう。」それで彼女はその子を引き取って、乳を飲ませた。
- 10 その子が大きくなったとき、母はその子をファラオの娘のもとに連れて行き、その子は王女の息子になった。王女はその子をモーセと名づけた。彼女は「水の中から、私がこの子を引き出したから」と言った。
- 11 こうして日がたち、モーセは大人になった。彼は同胞たちのところへ出て行き、その苦役を見た。そして、自分の同胞であるヘブル人の一人を、一人のエジプト人が打っているのを見た。
- 12 彼はあたりを見回し、だれもいないのを確かめると、そのエジプト人を打ち殺し、砂の中に埋めた。
- 13 次の日、また外に出てみると、見よ、二人のヘブル人が争っていた。モーセは、悪いほうに「どうして自分の仲間を打つのか」と言った。
- 14 彼は言った。「だれがおまえを、指導者やさばき人として私たちの上に任命したのか。おまえは、あのエジプト人を殺したように、私も殺そうというのか。」そこでモーセは恐れて、きっとあのことが知られたのだと思った。
- 15 ファラオはこのことを聞いて、モーセを殺そうと捜した。しかし、モーセはファラオのもとから逃れ、ミディアンの地に着き、井戸の傍らに座った。
- 16 さて、ミディアンの祭司に七人の娘がいた。彼女たちは父の羊の群れに水を飲ませに来て、水を汲み、水ぶねに満たしていた。
- 17 そのとき、羊飼いたちが来て、彼女たちを追い払った。するとモーセは立ち上がって、娘たちを助けてやり、羊の群れに水を飲ませた。

- 18** 彼女たちが父レウエルのところに帰ったとき、父は言った。「どうして今日はこんなに早く帰って来たのか。」
- 19** 娘たちは答えた。「一人のエジプト人が、私たちを羊飼いたちの手から助けてくれました。そのうえ、その人は私たちのために水汲みまでして、羊の群れに飲ませてくれました。」
- 20** 父は娘たちに言った。「その人はどこにいるのか。どうして、その人を置いてきてしまったのか。食事を差し上げたいので、その人を呼んで来なさい。」
- 21** モーセは心を決めて、この人のところに住むことにした。そこで、その人は娘のツィポラをモーセに与えた。
- 22** 彼女は男の子を産んだ。モーセはその子をゲルショムと名づけた。「私は異国にいる寄留者だ」と言ったからである。
- 23** それから何年もたって、エジプトの王は死んだ。イスラエルの子らは重い労働にうめき、泣き叫んだ。重い労働による彼らの叫びは神に届いた。
- 24** 神は彼らの嘆きを聞き、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。
- 25** 神はイスラエルの子らをご覧になった。神は彼らをみこころに留められた。

第3章

- 1 モーセは、ミディアンミディアンの祭司、しゅうとイテロの羊を飼っていた。彼はその群れを荒野の奥まで導いて、神の山ホレブにやって来た。
- 2 すると主の使いが、柴の茂みのただ中の、燃える炎の中で彼に現れた。彼が見ると、なんと、燃えているのに柴は燃え尽きていなかった。
- 3 モーセは思った。「近寄って、この大いなる光景を見よう。なぜ柴が燃え尽きないのだろう。」
- 4 主は、彼が横切って見に来るのをご覧になった。神は柴の茂みの中から彼に「モーセ、モーセ」と呼びかけられた。彼は「はい、ここにおります」と答えた。
- 5 神は仰せられた。「ここに近づいてはならない。あなたの履き物を脱げ。あなたの立っている場所は聖なる地である。」
- 6 さらに仰せられた。「わたしはあなたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」モーセは顔を隠した。神を仰ぎ見るのを恐れたからである。
- 7 主は言われた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみを確かに見、追い立てる者たちの前で彼らの叫びを聞いた。わたしは彼らの痛みを確かに知っている。
- 8 わたしが下って来たのは、エジプトの手から彼らを救い出し、その地から、広く良い地、乳と蜜の流れる地に、カナン人、ヒッタイト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人のいる場所に、彼らを導き上げるためである。
- 9 今、見よ、イスラエルの子らの叫びはわたしに届いた。わたしはまた、エジプト人が彼らを虐げている有様を見た。
- 10 今、行け。わたしは、あなたをファラオのもとに遣わす。わたしの民、イスラエルの子らをエジプトから導き出せ。」
- 11 モーセは神に言った。「私は、いったい何者なのでしょう。ファラオのもとに行き、イスラエルの子らをエジプトから導き出さなければならないとは。」
- 12 神は仰せられた。「わたしが、あなたとともにいる。これが、あなたのためのしるしである。このわたしがあなたを遣わすのだ。あなたがこの民をエジプトから導き出すとき、あなたがたは、この山で神に仕えなければならない。」
- 13 モーセは神に言った。「今、私がイスラエルの子らのところに行き、『あなたがたの父祖の神が、あなたがたのもとに私を遣わされた』と言えば、彼らは『その名は何か』と私に聞くでしょう。私は彼らに何と答えればよいのでしょうか。」
- 14 神はモーセに仰せられた。「わたしは『わたしはある』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエルの子らに、こう言わなければならない。『わたしはある』という方が私をあなたがたのところへ遣わされた、と。」
- 15 神はさらにモーセに仰せられた。「イスラエルの子らに、こう言え。『あなたがたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、主が、あなたがたのところへ私を遣わされた』と。これが永遠にわたしの名である。これが代々にわたり、わたしの呼び名である。

- 16** 行って、イスラエルの長老たちを集めて言え。『あなたがたの父祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神、主が私に現れてこう言われた。「わたしは、あなたがたのこと、またエジプトであなたがたに対してなされていることを、必ず顧みる。
- 17** だからわたしは、あなたがたをエジプトでの苦しみから解放して、カナン人、ヒッタイト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の地へ、乳と蜜の流れる地へ導き上ると言ったのである』と。』
- 18** 彼らはあなたの声に聞き従う。あなたはイスラエルの長老たちと一緒にエジプトの王のところに行き、彼にこう言え。『ヘブル人の神、主が私たちにお会いくださいました。今、どうか私たちに荒野へ三日の道のりを行かせ、私たちの神、主にいけにえを献げさせてください。』
- 19** しかし、エジプトの王は強いられなければあなたがたを行かせないことを、わたしはよく知っている。
- 20** わたしはこの手を伸ばし、エジプトのただ中であらゆる不思議を行い、エジプトを打つ。その後で、彼はあなたがたを去らせる。
- 21** わたしは、エジプトがこの民に好意を持つようにする。あなたがたが出て行くとき、何も持たずに出て行くことはない。
- 22** 女はみな、近所の女、および自分の家に身を寄せている女に、銀の飾り、金の飾り、そして衣服を求め、それを、自分の息子や娘の身に着けさせなさい。こうしてあなたがたは、エジプト人からはぎ取りなさい。」

第4章

- 1 モーセは答えた。「ですが、彼らは私の言うことを信じず、私の声に耳を傾けないでしょう。むしろ、『主はあなたに現れなかった』と言うでしょう。」
- 2 主は彼に言われた。「あなたが手に持っているものは何か。」彼は答えた。「杖です。」
- 3 すると言われた。「それを地に投げよ。」彼はそれを地に投げた。すると、それは蛇になった。モーセはそれから身を引いた。
- 4 主はモーセに言われた。「手を伸ばして、その尾をつかめ。」彼が手を伸ばしてそれを握ると、それは手の中で杖になった。
- 5 「これは、彼らの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、主があなたに現れたことを、彼らが信じるためである。」
- 6 主はまた、彼に言われた。「手を懐に入れよ。」彼は手を懐に入れた。そして出した。なんと、彼の手はツアラアトに冒され、雪のようになっていた。
- 7 また主は言われた。「あなたの手をもう一度懐に入れよ。」そこで彼はもう一度、手を懐に入れた。そして懐から出した。なんと、それは再び自分の肉のようになっていた。
- 8 「たとえ彼らがあなたを信じず、また初めのしるしの声に聞き従わなくても、後のしるしの声は信じるであろう。」
- 9 もしも彼らがこの二つのしるしを両方とも信じず、あなたの声に聞き従わないなら、ナイル川の水を汲んで、乾いた地面に注ぎなさい。あなたがナイル川から汲んだその水は、乾いた地面の上で血となる。」
- 10 モーセは主に言った。「ああ、わが主よ、私はことばの人ではありません。以前からそうでしたし、あなたがしもべに語られてからもそうです。私は口が重く、舌が重いのです。」
- 11 主は彼に言われた。「人に口をつけたのはだれか。だれが口をきけなくし、耳をふさぎ、目を開け、また閉ざすのか。それは、わたし、主ではないか。」
- 12 今、行け。わたしがあなたの口とともにあって、あなたが語るべきことを教える。」
- 13 すると彼は言った。「ああ、わが主よ、どうかほかの人を遣わしてください。」
- 14 すると、主の怒りがモーセに向かって燃え上がり、こう言われた。「あなたの兄、レビ人アロンがいるではないか。わたしは彼が雄弁であることをよく知っている。見よ、彼はあなたに会いに出て来ている。あなたに会えば、心から喜ぶだろう。」
- 15 彼に語り、彼の口にことばを置け。わたしはあなたの口とともにあり、また彼の口とともにあって、あなたがたがなすべきことを教える。」
- 16 彼があなたに代わって民に語る。彼があなたにとって口となり、あなたは彼にとって神の代わりとなる。」
- 17 また、あなたはこの杖を手に取り、これでしるしを行わなければならない。」
- 18 そこでモーセは行って、しゅうとイテロのもとに帰り、彼に言った。「どうか私をエジプトにいる同胞のもとに帰らせ、彼らがまだ生きながらえているかどうか、見させてください。」イテロはモーセに言った。「安心して行きなさい。」

- 19 主はミディアンでモーセに言われた。「さあ、エジプトに帰れ。あなたのいのちを取ろうとしていた者は、みな死んだ。」
- 20 そこでモーセは妻や息子たちを連れ、彼らをろばに乗せて、エジプトの地へ帰って行った。モーセは神の杖を手を取った。
- 21 主はモーセに言われた。「あなたがエジプトに帰ったら、わたしがあなたの手に授けたすべての不思議を心に留め、それをファラオの前で行え。しかし、わたしが彼の心を頑なにするので、彼は民を去らせない。
- 22 そのとき、あなたはファラオに言わなければならない。主はこう言われる。『イスラエルはわたしの子、わたしの長子である。
- 23 わたしはあなたに言う。わたしの子を去らせて、彼らがわたしに仕えるようにせよ。もし去らせるのを拒むなら、見よ、わたしはあなたの子、あなたの長子を殺す。』」
- 24 さて、途中、一夜を明かす場所でのことだった。主はモーセに会い、彼を殺そうとされた。
- 25 そのとき、ツィボラは火打石を取って、自分の息子の包皮を切り取り、モーセの両足に付けて言った。「まことに、あなたは私には血の花婿です。」
- 26 すると、主はモーセを放された。彼女はそのとき、割礼のゆえに「血の花婿」と言ったのである。
- 27 さて、主はアロンに言われた。「荒野に行って、モーセに会え。」彼は行って、神の山でモーセに会い、口づけした。
- 28 モーセは、自分を遣わすときに主が語られたことばのすべてと、彼に命じられたしるしのすべてを、アロンに告げた。
- 29 それからモーセとアロンは行って、イスラエルの子らの長老たちをみな集めた。
- 30 アロンは、主がモーセに語られたことばをみな語り、民の目の前でしるしを行った。
- 31 民は信じた。彼らは、主がイスラエルの子らを顧み、その苦しみをご覧になったことを聞き、ひざまずいて礼拝した。

第5章

- 1 その後、モーセとアロンはファラオのところに行き、そして言った。「イスラエルの神、主はこう仰せられます。『わたしの民を去らせ、荒野でわたしのために祭りを行えるようにせよ。』」
- 2 ファラオは答えた。「主とは何者だ。私がその声を聞いて、イスラエルを去らせなければならぬとは。私は主を知らない。イスラエルは去らせない。」
- 3 彼らは言った。「ヘブル人の神が私たちと会ってくださいました。どうか私たちに荒野へ三日の道のりを行かせて、私たちの神、主にいけにえを献げさせてください。そうでないと、主は疫病か剣で私たちを打たれます。」
- 4 エジプトの王は彼らに言った。「モーセとアロンよ、なぜおまえたちは、民を仕事から引き離そうとするのか。おまえたちの労役に戻れ。」
- 5 ファラオはまた言った。「見よ、今やこの地の民は多い。だからおまえたちは、彼らに労役をやめさせようとしているのだ。」
- 6 その日、ファラオはこの民の監督たちとかしらたちに命じた。
- 7 「おまえたちは、れんがを作るために、もはやこれまでのように民に藁を与えてはならない。彼らが行って、自分で藁を集めるようにさせよ。」
- 8 しかも、これまでどおりの量のれんがを作らせるのだ。減らしてはならない。彼らは怠け者だ。だから、『私たちの神に、いけにえを献げに行かせてください』などと言って叫んでいるのだ。
- 9 あの者たちの労役を重くしたうえで、その仕事をやらせよ。偽りのことばに目を向けさせるな。」
- 10 そこで、この民の監督たちとかしらたちは出て行って、民に告げた。「ファラオはこう言われる。『もうおまえたちに藁は与えない。』」
- 11 おまえたちはどこへでも行って、見つけられるところから自分で藁を取って来い。労役は少しも減らすことはしない。』」
- 12 そこで民はエジプト全土に散って、藁の代わりに刈り株を集めた。
- 13 監督たちは彼らをせき立てた。「藁があったときのように、その日その日の仕事を仕上げよ。」
- 14 ファラオの監督たちがこの民の上に立てた、イスラエルの子らのかしらたちは、打ちたたかれてこう言われた。「なぜ、おまえたちは決められた量のれんがを、昨日も今日も、今までどおりに仕上げないのか。」
- 15 そこで、イスラエルの子らのかしらたちは、ファラオのところに行って、叫んだ。「なぜ、あなた様はしもべどもに、このようなことをなさるのですか。」
- 16 しもべどもには藁が与えられていません。それでも、『れんがを作れ』と言われていきます。ご覧ください。しもべどもは打たれています。でも、いけないのはあなた様の民のほうです。」

- 17 ファラオは言った。「おまえたちは怠け者だ。怠け者なのだ。だから『私たちの主にいけにえを献げに行かせてください』などと言っているのだ。」
- 18 今すぐに行って働け。おまえたちに藁は与えない。しかし、おまえたちは決められた分のれんがを納めなければならない。」
- 19 イスラエルの子らのかしらたちは、「おまえたちにその日その日に課せられた、れんがの量を減らしてはならない」と聞かされて、これは悪いことになったと思った。
- 20 彼らは、ファラオのところから出て来たとき、迎えに来ていたモーセとアロンに会った。
- 21 彼らは二人に言った。「主があなたがたを見て、さばかれますように。あなたがたは、ファラオとその家臣たちの目に私たちを嫌わせ、私たちを殺すため、彼らの手に剣を渡してしまったのです。」
- 22 それでモーセは主のもとに戻り、そして言った。「主よ、なぜ、あなたはこの民をひどい目にあわせられるのですか。いったい、なぜあなたは私を遣わされたのですか。」
- 23 私がファラオのところに行って、あなたの御名によって語って以来、彼はこの民を虐げています。それなのに、あなたは、あなたの民を一向に救い出そうとはなさいません。」

第6章

- 1 主はモーセに言われた。「あなたには、わたしがファラオにしようとしていることが今に分かる。彼は強いられてこの民を去らせ、強いられてこの民を自分の国から追い出すからだ。」
- 2 神はモーセに語り、彼に仰せられた。「わたしは主である。
- 3 わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに全能の神として現れたが、主という名では、彼らにわたしを知らせなかった。
- 4 わたしはまた、カナン之地、彼らがとどまった寄留の地を彼らに与えるという契約を彼らと立てた。
- 5 今わたしは、エジプトが奴隷として仕えさせているイスラエルの子らの嘆きを聞き、わたしの契約を思い起こした。
- 6 それゆえ、イスラエルの子らに言え。『わたしは主である。わたしはあなたがたをエジプトの苦役から導き出す。あなたがたを重い労働から救い出し、伸ばされた腕と大いなるさばきによって贖う。
- 7 わたしはあなたがたを取ってわたしの民とし、わたしはあなたがたの神となる。あなたがたは、わたしがあなたがたの神、主であり、あなたがたをエジプトでの苦役から導き出す者であることを知る。
- 8 わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓ったその地にあなたがたを連れて行き、そこをあなたがたの所有地として与える。わたしは主である。』」
- 9 モーセはこのようにイスラエルの子らに語ったが、彼らは失意と激しい労働のために、モーセの言うことを聞くことができなかった。
- 10 主はモーセに告げられた。
- 11 「エジプトの王ファラオのところへ行って、イスラエルの子らをその国から去らせるように告げよ。」
- 12 しかし、モーセは主の前で訴えた。「ご覧ください。イスラエルの子らは私の言うことを聞きませんでした。どうしてファラオが私の言うことを聞くでしょうか。しかも、私は口べたなのです。」
- 13 主はモーセとアロンに語り、イスラエルの子らをエジプトの地から導き出すよう、イスラエルの子らとエジプトの王ファラオについて彼らに命じられた。
- 14 彼らの一族のかしらたちは次のとおりである。イスラエルの長子ルベンの子はハノク、パル、ヘツロン、カルミで、これらがルベン族である。
- 15 シメオンの子はエムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ツォハル、およびカナンの女から生まれたシャウルで、これらがシメオン族である。
- 16 家系にしたがって記すと、レビの子の名は次のとおり。ゲルション、ケハテ、メラリ。レビが生きた年月は百三十七年であった。
- 17 ゲルションの子は、氏族ごとに言うと、リブニとシムイである。

- 18 ケハテの子はアムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエルである。ケハテが生きた年月は百三十三年であった。
- 19 メラリの子はマフリとムシである。これらが、彼らの家系によるレビ人の諸氏族である。
- 20 アムラムは自分の叔母ヨケベデを妻にした。彼女はアロンとモーセを産んだ。アムラムが生きた年月は百三十七年であった。
- 21 イツハルの子はコラ、ネフェグ、ジクリである。
- 22 ウジエルの子はミシャエル、エルツァファン、シテリである。
- 23 アロンは、アミナダブの娘でナフションの妹であるエリシェバを妻にし、彼女はアロンにナダブとアビフ、エルアザルとイタマルを産んだ。
- 24 コラの子はアシル、エルカナ、アビアサフで、これらがコラ人の諸氏族である。
- 25 アロンの子エルアザルは、プティエルの娘の一人を妻とし、彼女はピネハスを産んだ。これらがレビ人の諸氏族の、一族のかしらたちである。
- 26 このアロンとモーセに主は、「イスラエルの子らを軍団ごとにエジプトの地から導き出せ」と言われたのであった。
- 27 エジプトの王ファラオに向かって、イスラエルの子らをエジプトから導き出すようにと言ったのも、このモーセとアロンである。
- 28 主がエジプトの地でモーセに語られたときに、
- 29 主はモーセに告げられた。「わたしは主である。わたしがあなたに語ることをみな、エジプトの王ファラオに告げよ。」
- 30 しかし、モーセは主の前で言った。「ご覧ください。私は口べたです。どうしてファラオが私の言うことを聞くでしょうか。」

第7章

- 1 主はモーセに言われた。「見よ、わたしはあなたをファラオにとって神とする。あなたの兄アロンがあなたの預言者となる。
- 2 あなたはわたしの命じることを、ことごとく告げなければならない。あなたの兄アロンはファラオに、イスラエルの子らをその地から去らせるようにと告げなければならない。
- 3 わたしはファラオの心を頑なにし、わたしのしるしと不思議をエジプトの地で数多く行う。
- 4 しかし、ファラオはあなたがたの言うことを聞き入れない。そこで、わたしはエジプトに手を下し、大いなるさばきによって、わたしの軍団、わたしの民イスラエルの子らをエジプトの地から導き出す。
- 5 わたしが手をエジプトの上に伸ばし、イスラエルの子らを彼らのただ中から導き出すとき、エジプトは、わたしが主であることを知る。」
- 6 そこでモーセとアロンはそのように行った。主が彼らに命じられたとおりに行った。
- 7 彼らがファラオに語ったとき、モーセは八十歳、アロンは八十三歳であった。
- 8 また主はモーセとアロンに言われた。
- 9 「ファラオがあなたがたに『おまえたちの不思議を行え』と言ったら、あなたはアロンに『その杖を取って、ファラオの前に投げよ』と言え。それは蛇になる。」
- 10 モーセとアロンはファラオのところに行き、主が命じられたとおりに行った。アロンは自分の杖をファラオとその家臣たちの前に投げた。すると、それは蛇になった。
- 11 そこで、ファラオも知恵のある者と呪術者を呼び寄せた。これらエジプトの呪法師たちもまた、彼らの秘術を使って同じことをした。
- 12 彼らがそれぞれ自分の杖を投げると、それは蛇になった。しかし、アロンの杖は彼らの杖を呑み込んだ。
- 13 それでもファラオの心は頑なになり、彼らの言うことを聞き入れなかった。主が言われたとおりであった。
- 14 主はモーセに言われた。「ファラオの心は硬く、民を去らせることを拒んでいる。
- 15 あなたは朝、ファラオのところへ行け。見よ、彼は水辺に出て来る。あなたはナイル川の岸に立って、彼を迎えよ。そして、蛇に変わったその杖を手に取り、
- 16 彼に言え。『ヘブル人の神、主が私をあなたに遣わして言われました。わたしの民を去らせ、彼らが荒野でわたしに仕えるようにせよ、と。しかし、ご覧ください。あなたは今までお聞きになりませんでした。
- 17 主はこう言われます。あなたは、次のことによって、わたしが主であることを知る、と。ご覧ください。私は手に持っている杖でナイル川の水を打ちます。すると、水は血に変わり、
- 18 ナイル川の魚は死に、ナイル川は臭くなります。それで、エジプト人はナイル川の水を飲むのに耐えられなくなります。』」

- 19** 主はモーセに言われた。「アロンに言え。『あなたの杖を取り、手をエジプトの水の上、その川、水路、池、すべての貯水池の上に伸ばしなさい。そうすれば、それらは血となり、エジプト全土で木の器や石の器にも血があるようになる。』」
- 20** モーセとアロンは主が命じられたとおりに行った。モーセはファラオとその家臣たちの目の前で杖を上げ、ナイル川の水を打った。すると、ナイル川の水はすべて血に変わった。
- 21** ナイル川の魚は死に、ナイル川は臭くなり、エジプト人はナイル川の水を飲めなくなった。エジプト全土にわたって血があった。
- 22** しかし、エジプトの呪法師たちも彼らの秘術を使って同じことをした。それで、ファラオの心は頑なになり、彼らの言うことを聞き入れなかった。主が言われたとおりであった。
- 23** ファラオは身を翻して自分の家に入り、このことにも心を向けなかった。
- 24** 全エジプトは飲み水を求めて、ナイル川の周辺を掘った。ナイル川の水が飲めなかったからである。
- 25** 主がナイル川を打たれてから七日が満ちた。

第8章

- 1 主はモーセに言われた。「ファラオのもとに行って言え。主はこう言われる。『わたしの民を去らせ、彼らがわたしに仕えるようにせよ。』」
- 2 もしあなたが去らせることを拒むなら、見よ、わたしはあなたの全領土を蛙によって打つ。
- 3 ナイル川には蛙が群がり、這い上がって来て、あなたの家に、寝室に入って、寝台に上り、またあなたの家臣の家に、あなたの民の中に、さらに、あなたのかまど、こね鉢に入り込む。
- 4 こうして蛙が、あなたと、あなたの民とすべての家臣の上に這い上がる。』」
- 5 主はモーセに言われた。「アロンに言え。『杖を持って、あなたの手を川の上、水路の上、池の上に伸ばせ。そして蛙をエジプトの地に這い上がらせよ』と。」
- 6 アロンが手をエジプトの水の上に伸ばすと、蛙が這い上がって、エジプトの地をおおった。
- 7 呪法師たちも彼らの秘術を使って、同じように行った。彼らは蛙をエジプトの地の上に這い上がらせた。
- 8 ファラオはモーセとアロンを呼び寄せて言った。「私と私の民のところから蛙を除くように、主に祈れ。そうすれば、私はこの民を去らせる。主にいけにえを献げるがよい。」
- 9 モーセはファラオに言った。「蛙があなたとあなたの家から断たれ、ナイル川だけに残るようにするため、私が、あなたと、あなたの家臣と民のために祈るので、いつがよいかを指示してください。」
- 10 ファラオが「明日」と言ったので、モーセは言った。「あなたのことばどおりになりますように。それは、あなたが、私たちの神、主のような方はほかにいないことを知るためです。」
- 11 蛙は、あなたと、あなたの家、家臣、民から離れて、ナイル川だけに残るでしょう。」
- 12 こうしてモーセとアロンはファラオのもとから出て行った。モーセは、自分がファラオに約束した蛙のことで主に叫んだ。
- 13 主がモーセのことばどおりにされたので、蛙は家と庭と畑から死に絶えた。
- 14 人々はそれらを山のように積み上げたので、地は悪臭で満ちた。
- 15 ところが、ファラオは一息つけるとすると、心を硬くし、彼らの言うことを聞き入れなかった。主が言われたとおりであった。
- 16 主はモーセに言われた。「アロンに言え。『あなたの杖を伸ばして、地のちりを打て。そうすれば、ちりはエジプトの全土でブヨとなる』と。」
- 17 彼らはそのように行った。アロンは杖を持って手を伸ばし、地のちりを打った。すると、ブヨが人や家畜に付いた。地のちりはみな、エジプト全土でブヨとなった。
- 18 呪法師たちも、ブヨを出そうと彼らの秘術を使って同じようにしたが、できなかった。ブヨは人や家畜に付いた。

- 19 呪法師たちはファラオに「これは神の指です」と言った。しかし、ファラオの心は頑なになり、彼らの言うことを聞き入れなかった。主が言われたとおりであった。
- 20 主はモーセに言われた。「明日の朝早く、ファラオの前に出よ。見よ、彼は水辺に出て来る。彼にこう言え。主はこう言われる。『わたしの民を去らせ、彼らがわたしに仕えるようにせよ。』」
- 21 もしもわたしの民を去らせないなら、わたしは、あなたと、あなたの家臣と民、そしてあなたの家々にアブの群れを送る。エジプトの家々も、彼らのいる地面も、アブの群れで満ちる。
- 22 わたしはその日、わたしの民がとどまっているゴシェンの地を特別に扱い、そこにはアブの群れがいないようにする。こうしてあなたは、わたしがその地のただ中であって主であることを知る。
- 23 わたしは、わたしの民をあなたの民と区別して、贖いをする。明日、このしるしが起こる。』」
- 24 主はそうようにされた。おびただしいアブの群れが、ファラオの家とその家臣の家に入って来た。エジプトの全土にわたり、地はアブの群れによって荒れ果てた。
- 25 ファラオはモーセとアロンを呼び寄せて言った。「さあ、この国の中でおまえたちの神にいけにえを献げよ。」
- 26 モーセは答えた。「それは、ふさわしいことではありません。なぜなら私たちは、私たちの神、主に、エジプト人の忌み嫌うものを、いけにえとして献げるからです。もし私たちがエジプト人の忌み嫌うものを、彼らの目の前でいけにえとして献げるなら、彼らは私たちを石で打ち殺しはしないでしょうか。」
- 27 私たちは、主が私たちに言われたとおり、荒野へ三日の道のりを行って、私たちの神、主にいけにえを献げなければなりません。」
- 28 ファラオは言った。「では、おまえたちを去らせよう。おまえたちは荒野で、おまえたちの神、主にいけにえを献げるがよい。ただ、決して遠くへ行ってはならない。私のために祈ってくれ。」
- 29 モーセは言った。「今、私はあなたのもとから出て行き、主に祈ります。明日、アブが、ファラオとその家臣と民から離れます。ただ、ファラオは、民が主にいけにえを献げるために去ることを阻んで、再び欺くことなどありませんように。」
- 30 モーセはファラオのもとから出て行って、主に祈った。
- 31 主はモーセのことばどおりにされた。アブは一匹残らず、ファラオとその家臣、および民から離れた。
- 32 しかし、ファラオはまたも心を硬くし、民を去らせなかった。

第9章

- 1 主はモーセに言われた。「ファラオのところに行って、彼に言え。ヘブル人の神、主はこう言われる。『わたしの民を去らせ、彼らがわたしに仕えるようにせよ。』」
- 2 もしあなたが去らせることを拒み、なおも彼らをとどめておくなら、
- 3 見よ、主の手が、野にいるあなたの家畜、馬、ろば、らくだ、牛、羊の上に下り、非常に重い疫病が起こる。
- 4 しかし、主はイスラエルの家畜とエジプトの家畜を区別するので、イスラエルの子らの家畜は一頭も死なない。』」
- 5 また、主は時を定めて言われた。「明日、主がこの地でこのことを行う。」
- 6 主は翌日そのようにされた。エジプトの家畜はことごとく死んだが、イスラエルの子らの家畜は一頭も死ななかった。
- 7 ファラオは使いを送った。すると見よ、イスラエルの家畜は一頭も死んでいなかった。それでもファラオの心は硬く、民を去らせなかった。
- 8 主はモーセとアロンに言われた。「あなたがたは、かまどのすすを両手いっぱいに取り。モーセはファラオの前で、それを天に向けてまき散らせ。
- 9 それはエジプト全土にわたって、ほこりとなり、エジプト全土で人と家畜に付き、うみの出る腫れものとなる。」
- 10 それで彼らは、かまどのすすを取ってファラオの前に立ち、モーセはそれを天に向けてまき散らした。すると、それは人と家畜に付き、うみの出る腫れものとなった。
- 11 呪法師たちは、腫れもののためにモーセの前に立てなかった。腫れものが呪法師たちとすべてのエジプト人にできたからである。
- 12 しかし、主はファラオの心を頑なにされたので、ファラオは二人の言うことを聞き入れなかった。主がモーセに言われたとおりであった。
- 13 主はモーセに言われた。「明日の朝早く、ファラオの前に立ち、彼に言え。ヘブル人の神、主はこう言われる。『わたしの民を去らせ、彼らがわたしに仕えるようにせよ。』」
- 14 今度、わたしは、あなた自身とあなたの家臣と民に、わたしのすべての災害を送る。わたしのような者が地のどこにもいないことを、あなたが知るようになるためである。
- 15 実に今でも、わたしが手を伸ばし、あなたとあなたの民を疫病で打つなら、あなたは地から消し去られる。
- 16 しかし、このことのために、わたしはあなたを立てておいた。わたしの力をあなたに示すため、そうして、わたしの名を全地に知らしめるためである。
- 17 あなたはなお、わたしの民に向かっておごり高ぶり、彼らを去らせようとしなさい。
- 18 見よ。明日の今ごろ、わたしは、国が始まってから今に至るまで、エジプトになかったような非常に激しい雹を降らせる。
- 19 さあ今、使いを送って、あなたの家畜と、野にいるあなたのすべてのものを避難させよ。野に残されて家に連れ戻されなかった人や家畜はみな、雹に打たれて死ぬ。』」
- 20 ファラオの家臣のうちで主のことばを恐れた者は、しもべたちと家畜を家に避難させた。

- 21 しかし、主のことばを心に留めなかった者は、しもべたちと家畜をそのまま野に残しておいた。
- 22 そこで主はモーセに言われた。「あなたの手を天に向けて伸ばせ。そうすれば、エジプト全土にわたって、人にも家畜にも、またエジプトの地のすべての野の草の上にも、雹が降る。」
- 23 モーセが杖を天に向けて伸ばすと、主は雷と雹を送ったので、火が地に向かって走った。こうして主はエジプトの地に雹を降らせた。
- 24 雹が降り、火が雹のただ中をひらめき渡った。それは、エジプトの地で国が始まって以来どこにもなかったような、きわめて激しいものであった。
- 25 雹はエジプト全土にわたって、人から家畜に至るまで、野にいるすべてのものを打った。またその雹は、あらゆる野の草も打った。野の木もことごとく打ち碎いた。
- 26 ただ、イスラエルの子らが住むゴシェンの地には、雹は降らなかった。
- 27 ファラオは人を遣わしてモーセとアロンを呼び寄せ、彼らに言った。「今度は私が間違っていた。主が正しく、私と私の民が悪かった。
- 28 主に祈ってくれ。神の雷と雹は、もうたくさんだ。私はおまえたちを去らせよう。おまえたちはもう、とどまってはならない。」
- 29 モーセは彼に言った。「私が町を出たら、すぐに主に向かって手を伸べ広げましょう。雷はやみ、雹はもう降らなくなります。この地が主のものであることをあなたが知るためです。
- 30 しかし、あなたとあなたの家臣はまだ、神である主を恐れていないことを、私はよく知っています。」
- 31 亜麻と大麦は打ち倒されていた。大麦は穂を出し、亜麻はつぼみをつけていたからである。
- 32 しかし、小麦と裸麦は打ち倒されていなかった。これらは実るのが遅いからである。
- 33 モーセはファラオのもとを去り、町を出て、主に向かって両手を伸べ広げた。すると雷と雹はやみ、雨はもう地に降らなくなった。
- 34 ファラオは雨と雹と雷がやんだのを見て、またも罪に身を任せ、彼とその家臣たちはその心を硬くした。
- 35 ファラオは心を頑なにし、イスラエルの子らを去らせなかった。主がモーセを通して言われたとおりであった。

第10章

- 1 主はモーセに言われた。「ファラオのところに行け。わたしは彼とその家臣たちの心を硬くした。それは、わたしが、これらのしるしを彼らの中で行うためである。
- 2 また、わたしがエジプトに対して力を働かせたあのこと、わたしが彼らの中で行ったしるしを、あなたが息子や孫に語って聞かせるためである。こうしてあなたがたは、わたしが主であることを知る。」
- 3 モーセとアロンはファラオのところに行き、彼に向かって言った。「ヘブル人の神、主はこう言われます。『いつまで、わたしの前に身を低くするのを拒むのか。わたしの民を去らせ、彼らがわたしに仕えるようにせよ。』」
- 4 もしあなたが、わたしの民を去らせることを拒むなら、見よ、わたしは明日、いなごをあなたの領土に送る。
- 5 いなごが地の面をおおい、地は見えなくなる。また、雹の害を免れてあなたがたに残されているものを食い尽くし、野に生えているあなたがたの木をみな食い尽くし、
- 6 あなたの家とすべての家臣の家、および全エジプトの家に満ちる。これは、あなたの先祖も、またその先祖も、彼らがこの土地にあった日から今日に至るまで、見たことがないものである。』」 こうして彼は身を翻してファラオのもとから出て行った。
- 7 家臣たちはファラオに言った。「この男は、いつまで私たちを陥れるのでしょうか。この者たちを去らせ、彼らの神、主に仕えさせてください。エジプトが滅びるのが、まだお分かりにならないのですか。」
- 8 モーセとアロンはファラオのところに戻された。ファラオは彼らに言った。「行け。おまえたちの神、主に仕えよ。だが、行くのはだれとだれか。」
- 9 モーセは答えた。「若い者も年寄りも一緒に行きます。息子たちも娘たちも、羊の群れも牛の群れも一緒に行きます。私たちは主の祭りをするのですから。」
- 10 ファラオは彼らに言った。「私がおまえたちとおまえたちの妻子を行かせるようなときには、主がおまえたちとともにあるように、とでも言おう。だが、見ろ。悪意がおまえたちの顔に表れている。
- 11 そうはさせない。さあ、壮年の男子だけが行って、主に仕えよ。それが、おまえたちが求めていることではないか。」 こうして彼らはファラオの前から追い出された。
- 12 主はモーセに言われた。「あなたの手をエジプトの地の上に伸ばし、いなごの大群がエジプトの地を襲い、その国のあらゆる草木、雹の害を免れたすべてのものを食い尽くすようにせよ。」
- 13 モーセはエジプトの地の上に杖を伸ばした。主は終日終夜、その地の上に東風を吹かせた。朝になると東風がいなごの大群を運んで来た。
- 14 いなごの大群はエジプト全土を襲い、エジプト全域にとどまった。これは、かつてなく、この後もないほどおびただしいいなごの大群だった。
- 15 それらが全地の表面をおおったので、地は暗くなり、いなごは地の草と、雹の害を免れた木の実をすべて食い尽くした。エジプト全土で、木や野の草に少しの緑も残らなかった。

- 16 ファラオは急いでモーセとアロンを呼んで言った。「私は、おまえたちの神、主とおまえたちに対して過ちを犯した。
- 17 どうか今、もう一度だけ私の罪を見逃してくれ。おまえたちの神、主に、こんな死だけは取り去ってくれるよう祈ってくれ。」
- 18 モーセはファラオのところから出て、主に祈った。
- 19 すると主は風向きを変え、非常に強い、海からの風とされた。風はいなごを吹き上げ、葦の海に追いやった。エジプト全域に一匹のいなごも残らなかった。
- 20 しかし、主がファラオの心を頑なにされたので、彼はイスラエルの子らを去らせなかった。
- 21 主はモーセに言われた。「あなたの手を天に向けて伸ばし、闇がエジプトの地の上に降りて来て、闇にさわれるほどにせよ。」
- 22 モーセが天に向けて手を伸ばすと、エジプト全土は三日間、真っ暗闇となった。
- 23 人々は三日間、互いに見ることも、自分のいる場所から立つこともできなかった。しかし、イスラエルの子らのすべてには、住んでいる所に光があった。
- 24 ファラオはモーセを呼んで言った。「行け。主に仕えるがよい。ただ、おまえたちの羊と牛は残しておけ。妻子はおまえたちと一緒にいってもよい。」
- 25 モーセは言った。「あなた自身が、いけにえと全焼のささげ物を直接私たちに下さって、私たちが、自分たちの神、主にいけにえを献げられるようにしなければなりません。
- 26 私たちの家畜も私たちと一緒にいきます。ひづめ一つ残すことはできません。私たちの神、主に仕えるために、家畜の中から選ばなければならないからです。しかも、あちらに着くまでは、どれをもって主に仕えるべきか分からないのです。」
- 27 しかし、主がファラオの心を頑なにされたので、ファラオは彼らを去らせようとはしなかった。
- 28 ファラオは彼に言った。「私のところから出て行け。私の顔を二度と見ないように気をつけろ。おまえが私の顔を見たら、その日に、おまえは死ななければならない。」
- 29 モーセは言った。「けっこうです。私はもう二度とあなたのお顔を見ることはありません。」

第11章

- 1 主はモーセに言われた。「わたしはファラオとエジプトの上に、もう一つのわざわいを下す。その後で彼は、あなたがたをここから去らせる。彼があなたがたを去らせるときには、本当に一人残らず、あなたがたをここから追い出す。
- 2 さあ、民に言って聞かせよ。男は隣の男に、女は隣の女に、銀の飾りや金の飾りを求めるように。」
- 3 主は、エジプトがこの民に好意を持つようにされた。モーセその人も、エジプトの地でファラオの家臣と民にたいへん尊敬された。
- 4 モーセは言った。「主はこう言われます。『真夜中ごろ、わたしはエジプトの中に出て行く。』
- 5 エジプトの地の長子は、王座に着いているファラオの長子から、ひき臼のうしろにいる女奴隷の長子、それに家畜の初子に至るまで、みな死ぬ。
- 6 そして、エジプト全土にわたって大きな叫びが起こる。このようなことは、かつてなく、また二度とない。』
- 7 しかし、イスラエルの子らに対しては、犬でさえ、人だけでなく家畜にも、だれに対してもうなりはしません。こうして主がエジプトとイスラエルを区別されることを、あなたがたは知ようになります。
- 8 あなたのこの家臣たちはみな、私のところに下って来て、私にひれ伏し、『あなたもあなたに従う民もみな、出て行ってください』と言うでしょう。その後私は出て行きます。」こうして、モーセは怒りに燃えてファラオのところから出て行った。
- 9 主はモーセに言われた。「ファラオはあなたがたの言うことを聞き入れない。わたしの奇跡がエジプトの地で大いなるものとなるためである。」
- 10 モーセとアロンは、ファラオの前でこれらの奇跡をすべて行った。主はファラオの心を頑なにされ、ファラオはイスラエルの子らを自分の国から去らせなかった。

第12章

- 1 主はエジプトの地でモーセとアロンに言われた。
- 2 「この月をあなたがたの月の始まりとし、これをあなたがたの年の最初の月とせよ。
- 3 イスラエルの全会衆に次のように告げよ。この月の十日に、それぞれが一族ごとに羊を、すなわち家ごとに羊を用意しなさい。
- 4 もしその家族が羊一匹の分より少ないのであれば、その人はすぐ隣の家の人と、人数に応じて取り分けなさい。一人ひとりが食べる分量に応じて、その羊を分けなければならない。
- 5 あなたがたの羊は、傷のない一歳の雄でなければならない。それを子羊かやぎのうちから取らなければならない。
- 6 あなたがたは、この月の十四日まで、それをよく見守る。そしてイスラエルの会衆の集会全体は夕暮れにそれを屠り、
- 7 その血を取り、羊を食べる家々の二本の門柱と鴨居に塗らなければならない。
- 8 そして、その夜、その肉を食べる。それを火で焼いて、種なしパンと苦菜を添えて食べなければならない。
- 9 生のままで、または、水に入れて煮て食べてはならない。その頭も足も内臓も火で焼かななければならない。
- 10 それを朝まで残してはならない。朝まで残ったものは燃やさなければならない。
- 11 あなたがたは、次のようにしてそれを食べなければならない。腰の帯を固く締め、足に履き物をはき、手に杖を持って、急いで食べる。これは主への過越のいけにえである。
- 12 その夜、わたしはエジプトの地を巡り、人から家畜に至るまで、エジプトの地のすべての長子を打ち、また、エジプトのすべての神々にさばきを下す。わたしは主である。
- 13 その血は、あなたがたがいる家の上で、あなたがたのためにしるしとなる。わたしはその血を見て、あなたがたのところを過ぎ越す。わたしがエジプトの地を打つとき、滅ぼす者のわざわざいは、あなたがたには起こらない。
- 14 この日は、あなたがたにとって記念となる。あなたがたはその日を主への祭りとして祝い、代々守るべき永遠の掟として、これを祝わなければならない。
- 15 七日間、種なしパンを食べなければならない。その最初の日、あなたがたの家からパン種を取り除かななければならない。最初の日から七日目までの間に、種入りのパンを食べる者は、みなイスラエルから断ち切られるからである。
- 16 また最初の日、聖なる会合を開き、七日目にも聖なる会合を開く。この期間中は、いかなる仕事もしてはならない。ただし、皆が食べる必要のあるものだけは作ることができる。
- 17 あなたがたは種なしパンの祭りを守りなさい。それは、まさにこの日に、わたしがあなたがたの軍団をエジプトの地から導き出したからである。あなたがたは永遠の掟として代々にわたって、この日を守らなければならない。
- 18 最初の月の十四日の夕方から、その月の二十一日の夕方まで、種なしパンを食べる。

- 19 七日間はあなたがたの家にパン種があってはならない。すべてパン種の入ったものを食べる者は、寄留者でも、この国に生まれた者でも、イスラエルの会衆から断ち切られる。
- 20 あなたがたは、パン種の入ったものは、いっさい食べてはならない。どこでも、あなたがたが住む所では、種なしパンを食べなければならない。」
- 21 それから、モーセはイスラエルの長老たちをみな呼び、彼らに言った。「さあ、羊をあなたがたの家族ごとに用意しなさい。そして過越のいけにえを屠りなさい。
- 22 ヒソブの束を一つ取って、鉢の中の血に浸し、その鉢の中の血を鴨居と二本の門柱に塗り付けなさい。あなたがたは、朝までだれ一人、自分の家の戸口から出てはならない。
- 23 主はエジプトを打つために行き巡られる。しかし、鴨居と二本の門柱にある血を見たら、主はその戸口を過ぎ越して、滅ぼす者があなたがたの家に入って打つことのないようにされる。
- 24 あなたがたはこのことを、あなたとあなたの子孫のための掟として永遠に守りなさい。
- 25 あなたがたは、主が約束どおりに与えてくださる地に入るとき、この儀式を守らなければならない。
- 26 あなたがたの子どもたちが『この儀式には、どういう意味があるのですか』と尋ねるとき、
- 27 あなたがたはこう答えなさい。『それは主の過越のいけにえだ。主がエジプトを打たれたとき、主はエジプトにいたイスラエルの子らの家を過ぎ越して、私たちの家々を救ってくださったのだ。』すると民はひざまずいて礼拝した。
- 28 こうしてイスラエルの子らは行って、それを行った。主がモーセとアロンに命じられたとおりに行った。
- 29 真夜中になったとき、主はエジプトの地のすべての長子を、王座に着いているファラオの長子から、地下牢にいる捕虜の長子に至るまで、また家畜の初子までもみな打たれた。
- 30 その夜、ファラオは彼の全家臣、またエジプト人すべてとともに起き上がった。そして、エジプトには激しく泣き叫ぶ声が起こった。それは死者のいない家がなかったからである。
- 31 彼はその夜、モーセとアロンを呼び寄せて言った。「おまえたちもイスラエル人も立って、私の民の中から出て行け。おまえたちが言うとおりに、行って主に仕えよ。
- 32 おまえたちが言ったとおり、羊の群れも牛の群れも連れて出て行け。そして私のためにも祝福を祈れ。」
- 33 エジプト人は民をせき立てて、その地から出て行くように迫った。人々が「われわれはみな死んでしまう」と言ったからである。
- 34 それで民は、パン種を入れないままの生地を取り、こね鉢を衣服に包んで肩に担いだ。
- 35 イスラエルの子らはモーセのことばどおりに行い、エジプトに銀の飾り、金の飾り、そして衣服を求めた。
- 36 主はエジプトがこの民に好意を持つようにされたので、エジプト人は彼らの求めを聞き入れた。こうして彼らはエジプトからはぎ取った。
- 37 イスラエルの子らはラメセスからスコテに向かって旅立った。女、子どもを除いて、徒歩の壮年男子は約六十万人であった。

- 38 さらに、入り混じって来た多くの異国人と、羊や牛などおびただしい数の家畜も、彼らとともに上った。
- 39 彼らはエジプトから携えて来た生地を焼いて、種なしのパン菓子を作った。それにはパン種が入っていなかった。彼らはエジプトを追い出されてぐずぐずしてはいられず、また自分たちの食糧の準備もできなかったからである。
- 40 イスラエルの子らがエジプトに滞在していた期間は、四百三十年であった。
- 41 四百三十年が終わった、ちょうどその日に、主の全軍団がエジプトの地を出た。
- 42 それは、彼らをエジプトの地から導き出すために、主が寝ずの番をされた夜であった。それでこの夜、イスラエルの子らはみな、代々にわたり、主のために寝ずの番をするのである。
- 43 主はモーセとアロンに言われた。「過越に関する掟は次のとおりである。異国人はだれも、これにあずかってはならない。
- 44 しかし、金で買われた奴隷はだれでも、あなたが割礼を施せば、これにあずかることができる。
- 45 居留者と雇い人は、これにあずかってはならない。
- 46 これは一つの家の中で食べなければならない。あなたは家の外にその肉の一切れでも持ち出してはならない。また、その骨を折ってはならない。
- 47 イスラエルの全会衆はこれを行わなければならない。
- 48 もし、あなたのところに寄留者が滞在していて、主に過越のいけにえを献げようとするなら、その人の家の男子はみな割礼を受けなければならない。そうすれば、その人は近づいてそれを献げることができる。彼はこの国に生まれた者と同じになる。しかし無割礼の者は、だれもそれを食べてはならない。
- 49 このおしえは、この国に生まれた者にも、あなたがたの間に寄留している者にも同じである。」
- 50 イスラエルの子らはみな、そのように行った。主がモーセとアロンに命じられたとおりに行った。
- 51 まさにこの日に、主はイスラエルの子らを、軍団ごとにエジプトの地から導き出された。

第13章

- 1 主はモーセに告げられた。
- 2 「イスラエルの子らの間で最初に胎を開く長子はみな、人であれ家畜であれ、わたしのために聖別せよ。それは、わたしのものである。」
- 3 モーセは民に言った。「奴隷の家、エジプトから出て来た、この日を覚えていなさい。力強い御手で、主があなたがたをそこから導き出されたからである。種入りのパンを食べてはならない。
- 4 アビブの月のこの日、あなたがたは出発する。
- 5 主は、カナン人、ヒッタイト人、アモリ人、ヒビ人、エブス人の地、主があなたに与えたと父祖たちに誓った地、乳と蜜の流れる地にあなたを連れて行かれる。そのときあなたは、この月に、この儀式を執り行いなさい。
- 6 七日間、あなたは種なしパンを食べる。七日は主への祭りである。
- 7 七日間、種なしパンを食べなさい。あなたのところに、種入りのパンがあってはならない。あなたの土地のどこにおいても、あなたのところにパン種があってはならない。
- 8 その日、あなたは自分の息子に告げなさい。『このことは、私がエジプトから出て来たときに、主が私にしてくださったことによるのだ。』
- 9 これをあなたの手の上のしるしとし、あなたの額の上の記念として、主のおしえがあなたの口にあるようにしなさい。力強い御手で、主があなたをエジプトから導き出されたからである。
- 10 あなたは、この掟を毎年その定められた時に守らなければならない。
- 11 主が、あなたとあなたの父祖たちに誓われたとおり、あなたをカナン人の地に導き、そこをあなたに与えられるとき、
- 12 最初に胎を開くものはみな、主のものとして献げなければならない。家畜から生まれ、あなたのものとなるすべての初子のうち、雄は主のものである。
- 13 ただし、ろばの初子はみな、羊で贖わなければならない。もし贖わないなら、首を折らなければならない。また、あなたの子どもたちのうち、男子の初子はみな、贖わなければならない。
- 14 後になって、あなたの息子があなたに『これは、どういうことですか』と尋ねるときは、こう言いなさい。『主が力強い御手によって、私たちを奴隷の家、エジプトから導き出された。』
- 15 ファラオが頑なになって、私たちを解放しなかったとき、主はエジプトの地の長子をみな、人の長子から家畜の初子に至るまで殺された。それゆえ私は、最初に胎を開く雄をみな、いけにえとして主に献げ、私の子どもたちの長子をみな贖うのだ。』
- 16 このことは手の上のしるしとなり、あなたの額の上の記章となる。それは主が力強い御手によって、私たちをエジプトから導き出されたからである。」
- 17 さて、ファラオがこの民を去らせたとき、神は彼らを、近道であっても、ペリシテ人の地への道には導かれなかった。神はこう考えられた。「民が戦いを見て心変わりし、エジプ

トに引き返すといけない。」

- 18** それで神はこの民を、葦の海に向かう荒野の道に回らせた。イスラエルの子らは隊列を組んでエジプトの地から上った。
- 19** モーセはヨセフの遺骸を携えていた。それはヨセフが、「神は必ずあなたがたを顧みてくださる。そのとき、あなたがたは私の遺骸をここから携え上らなければならない」と言って、イスラエルの子らに堅く誓わせていたからである。
- 20** 彼らはスコテを旅立ち、荒野の端にあるエタムで宿営した。
- 21** 主は、昼は、途上の彼らを導くため雲の柱の中に、また夜は、彼らを照らすため火の柱の中にいて、彼らの前を進まれた。彼らが昼も夜も進んで行くためであった。
- 22** 昼はこの雲の柱が、夜はこの火の柱が、民の前から離れることはなかった。

第14章

- 1 主はモーセに告げられた。
- 2 「イスラエルの子らに言え。引き返して、ミグドルと海の間にあるピ・ハヒロテに面したバアル・ツェフォンの手前で宿営せよ。あなたがたは、それに向かって海辺に宿営しなければならない。
- 3 ファラオはイスラエルの子らについて、『彼らはあの地で迷っている。荒野は彼らを閉じ込めてしまった』と言う。
- 4 わたしはファラオの心を頑なにするので、ファラオは彼らの後を追う。しかし、わたしはファラオとその全軍勢によって栄光を現す。こうしてエジプトは、わたしが主であることを知る。」イスラエルの子らはそのとおりにした。
- 5 民が去ったことがエジプトの王に告げられると、ファラオとその家臣たちは民に対する考えを変えて言った。「われわれは、いったい何ということをしたのか。イスラエルをわれわれのための労役から解放してしまったとは。」
- 6 そこでファラオは戦車を整え、自分でその軍勢を率い、
- 7 選り抜きの戦車六百、そしてエジプトの全戦車を、それぞれに補佐官をつけて率いて行った。
- 8 主がエジプトの王ファラオの心を頑なにされたので、ファラオはイスラエルの子らを追跡した。一方、イスラエルの子らは臆することなく出て行った。
- 9 エジプト人は彼らを追った。ファラオの戦車の馬も、騎兵も軍勢もことごとく、バアル・ツェフォンの前にあるピ・ハヒロテで、海辺に宿営している彼らに追いついた。
- 10 ファラオは間近に迫っていた。イスラエルの子らは目を上げた。すると、なんと、エジプト人が彼らのうしろに迫っているではないか。イスラエルの子らは大いに恐れて、主に向かって叫んだ。
- 11 そしてモーセに言った。「エジプトに墓がないからといって、荒野で死なせるために、あなたはわれわれを連れて来たのか。われわれをエジプトから連れ出したりして、いったい何ということをしてくれたのだ。
- 12 エジプトであなたに『われわれのことにはかまわないで、エジプトに仕えさせてくれ』と言ったではないか。実際、この荒野で死ぬよりは、エジプトに仕えるほうがよかったのだ。」
- 13 モーセは民に言った。「恐れてはならない。しっかり立って、今日あなたがたのために行われる主の救いを見なさい。あなたがたは、今日見ているエジプト人をもはや永久に見ることはない。
- 14 主があなたがたのために戦われるのだ。あなたがたは、ただ黙っていなさい。」
- 15 主はモーセに言われた。「なぜ、あなたはわたしに向かって叫ぶのか。イスラエルの子らに、前進するように言え。
- 16 あなたは、あなたの杖を上げ、あなたの手を海の上に伸ばし、海を分けなさい。そうすれば、イスラエルの子らは海の真ん中の乾いた地面を行くことができる。

- 17 見よ、このわたしがエジプト人の心を頑なにする。彼らは後から入って来る。わたしはファラオとその全軍勢、戦車と騎兵によって、わたしの栄光を現す。
- 18 ファラオとその戦車とその騎兵によって、わたしが栄光を現すとき、エジプトは、わたしが主であることを知る。」
- 19 イスラエルの陣営の前を進んでいた神の使いは、移動して彼らのうしろを進んだ。それで、雲の柱は彼らの前から移動して彼らのうしろに立ち、
- 20 エジプトの陣営とイスラエルの陣営の間に入った。それは真っ暗な雲であった。それは夜を迷い込ませ、一晩中、一方の陣営がもう一方に近づくことはなかった。
- 21 モーセが手を海に向けて伸ばすと、主は一晩中、強い東風で海を押し戻し、海を乾いた地とされた。水は分かれた。
- 22 イスラエルの子らは、海の真ん中の乾いた地面を進んで行った。水は彼らのために右も左も壁になった。
- 23 エジプト人は追跡し、ファラオの馬も戦車も騎兵もみな、イスラエルの子らの後を海の中に入って行った。
- 24 朝の見張りのころ、主は火と雲の柱の中からエジプトの陣営を見下ろし、エジプトの陣営を混乱に陥れ、
- 25 戦車の車輪を外してその動きを阻んだ。それでエジプト人は言った。「イスラエルの前から逃げよう。主が彼らのためにエジプトと戦っているのだ。」
- 26 主はモーセに言われた。「あなたの手を海に向けて伸ばし、エジプト人と、その戦車、その騎兵の上に水が戻るようにせよ。」
- 27 モーセが手を海に向けて伸ばすと、夜明けに海が元の状態に戻った。エジプト人は迫り来る水から逃げようとしたが、主はエジプト人を海のただ中に投げ込まれた。
- 28 水は元に戻り、後を追って海に入ったファラオの全軍勢の戦車と騎兵をおおった。残った者は一人もいなかった。
- 29 イスラエルの子らは海の真ん中の乾いた地面を歩いて行った。水は彼らのために右も左も壁になっていた。
- 30 こうして主は、その日、イスラエルをエジプト人の手から救われた。イスラエルは、エジプト人が海辺で死んでいるのを見た。
- 31 イスラエルは、主がエジプトに行われた、この大いなる御力を見た。それで民は主を恐れ、主とそのしもべモーセを信じた。

第15章

- 1 そのとき、モーセとイスラエルの子らは、主に向かってこの歌を歌った。彼らはこう言った。「主に向かって私は歌おう。主はご威光を極みまで現され、馬と乗り手を海の中に投げ込まれた。
- 2 主は私の力、また、ほめ歌。主は私の救いとなられた。この方こそ、私の神。私はこの方をほめたたえる。私の父の神。この方を私はあがめる。
- 3 主はいくさびと。その御名は主。
- 4 主はファラオの戦車とその軍勢を 海の中に投げ込まれた。選り抜きの補佐官たちは葦の海に沈んだ。
- 5 深淵が彼らをおおい、彼らは石のように深みに下った。
- 6 主よ、あなたの右の手は力に輝き、主よ、あなたの右の手は敵を打ち砕く。
- 7 あなたは大いなるご威光によって、向かい立つ者たちを打ち破られる。あなたが燃える怒りを発せられると、それが彼らを刈り株のように焼き尽くす。
- 8 あなたの鼻の息で水は積み上げられ、流れは堰のようにまっすぐに立ち、大水は海の真ん中で固まった。
- 9 敵は言った。『追いかけ、追いつき、略奪したものを分けよう。わが欲望を彼らによって満たそう。剣を抜いて、この手で彼らを滅ぼそう。』
- 10 あなたが風を吹かせられると、海は彼らをおおい、彼らは鉛のように、大いなる水の中に沈んだ。
- 11 主よ、神々のうちに、だれかあなたのような方がいるでしょうか。だれがあなたのように、聖であって輝き、たたえられつつ恐れられ、奇しいわざを行う方がいるでしょうか。
- 12 あなたが右の手を伸ばされると、地は彼らを呑み込んだ。
- 13 あなたが贖われたこの民を、あなたは恵みをもって導き、御力をもって、あなたの聖なる住まいに伴われた。
- 14 もろもろの民は聞いて震え、ペリシテの住民も、もだえ苦しんだ。
- 15 そのとき、エドムの首長らは、おじ惑い、モアブの有力者たちを震えが襲い、カナンの住民の心はみな溶け去った。
- 16 恐怖と戦慄が彼らに臨み、あなたの偉大な御腕により、彼らは石のように黙った。主よ、あなたの民が通り過ぎるまで。あなたが買い取られた民が通り過ぎるまで。
- 17 あなたは彼らを導き、あなたのゆずりの山に植えられる。主よ、御住まいのために、あなたがお造りになった場所に。主よ、あなたの御手が強く建てた聖所に。
- 18 主はとこしえまでも統べ治められる。」
- 19 ファラオの馬が戦車や騎兵とともに海の中に入ったとき、主は海の水を彼らの上に戻された。しかし、イスラエルの子らは海の真ん中で乾いた地面を歩いて行った。
- 20 そのとき、アロンの姉、女預言者ミリアムがタンバリンを手にとると、女たちもみなタンバリンを持ち、踊りながら彼女について出て来た。

- 21** ミリアムは人々に応えて歌った。「主に向かって歌え。主はご威光を極みまで現され、馬と乗り手を海の中に投げ込まれた。」
- 22** モーセはイスラエルを葦の海から旅立たせた。彼らはシュルの荒野へ出て行き、三日間、荒野を歩いた。しかし、彼らには水が見つからなかった。
- 23** 彼らはマラに来たが、マラの水は苦くて飲めなかった。それで、そこはマラという名で呼ばれた。
- 24** 民はモーセに向かって「われわれは何を飲んだらよいのか」と不平を言った。
- 25** モーセが主に叫ぶと、主は彼に一本の木を示された。彼がそれを水の中に投げ込むと、水は甘くなった。主はそこで彼に掟と定めを授け、そこで彼を試み、
- 26** そして言われた。「もし、あなたの神、主の御声にあなたが確かに聞き従い、主の目にかなうことを行い、また、その命令に耳を傾け、その掟をことごとく守るなら、わたしがエジプトで下したような病気は何一つあなたの上に下さない。わたしは主、あなたを癒やす者だからである。」
- 27** こうして彼らはエリムに着いた。そこには、十二の水の泉と七十本のなつめ椰子の木があった。そこで、彼らはその水のほとりで宿営した。

第16章

- 1 イスラエルの全会衆はエリムから旅立ち、エジプトの地を出て、第二の月の十五日に、エリムとシナイとの間にあるシンの荒野に入った。
- 2 そのとき、イスラエルの全会衆は、この荒野でモーセとアロンに向かって不平を言った。
- 3 イスラエルの子らは彼らに言った。「エジプトの地で、肉鍋のそばに座り、パンを満ち足りるまで食べていたときに、われわれは主の手にかかって死んでいたらよかったのだ。事実、あなたがたは、われわれをこの荒野に導き出し、この集団全体を飢え死にさせようとしている。」
- 4 主はモーセに言われた。「見よ、わたしはあなたがたのために天からパンを降らせる。民は外に出て行って、毎日、その日の分を集めなければならない。これは、彼らがわたしのおしえに従って歩むかどうかを試みるためである。
- 5 六日目に彼らが持ち帰って調えるものは、日ごとに集める分の二倍である。」
- 6 それでモーセとアロンは、すべてのイスラエルの子らに言った。「あなたがたは、夕方には、エジプトの地からあなたがたを導き出したのが主であったことを知り、
- 7 朝には主の栄光を見る。主に対するあなたがたの不平を主が聞かれたからだ。私たちが何だというので、私たちに不平を言うのか。」
- 8 モーセはまた言った。「主は夕方にはあなたがたに食べる肉を与え、朝には満ち足りるほどパンを与えてくださる。それはあなたがたが主に対してこぼした不平を、主が聞かれたからだ。いったい私たちが何だというのか。あなたがたの不平は、この私たちに対してではなく、主に対してなのだ。」
- 9 モーセはアロンに言った。「イスラエルの全会衆に言いなさい。『主の前に近づきなさい。主があなたがたの不平を聞かれたから』と。」
- 10 アロンがイスラエルの全会衆に告げたとき、彼らが荒野の方を振り向くと、見よ、主の栄光が雲の中に現れた。
- 11 主はモーセに告げられた。
- 12 「わたしはイスラエルの子らの不平を聞いた。彼らに告げよ。『あなたがたは夕暮れには肉を食べ、朝にはパンで満ち足りる。こうしてあなたがたは、わたしがあなたがたの神、主であることを知る。』」
- 13 すると、その夕方、うずらが飛んで来て宿営をおおった。また、朝になると、宿営の周り一面に露が降りた。
- 14 その一面の露が消えると、見よ、荒野の面には薄く細かいもの、地に降りた霜のような細かいものがあつた。
- 15 イスラエルの子らはこれを見て、「これは何だろう」と言い合った。それが何なのかを知らなかったからであつた。モーセは彼らに言った。「これは主があなたがたに食物として下さったパンだ。
- 16 主が命じられたことはこうだ。『自分の食べる分に応じて、一人当たり一オメルずつ、それを集めよ。自分の天幕にいる人数に応じて、それを取れ。』」

- 17 そこで、イスラエルの子らはそのとおりにした。ある者はたくさん、ある者は少しだけ集めた。
- 18 彼らが、何オメルあるかそれを量ってみると、たくさん集めた人にも余ることはなく、少しだけ集めた人にも足りないことはなかった。自分が食べる分に応じて集めたのである。
- 19 モーセは彼らに言った。「だれも、それを朝まで残しておいてはならない。」
- 20 しかし、彼らはモーセの言うことを聞かず、ある者は朝までその一部を残しておいた。すると、それに虫がわき、臭くなった。モーセは彼らに向かって怒った。
- 21 彼らは朝ごとに、各自が食べる分量を集め、日が高くなると、それは溶けた。
- 22 六日目に、彼らは二倍のパンを、一人当たり二オメルずつを集めた。会衆の上に立つ者たちがみなモーセのところに来て、告げると、
- 23 モーセは彼らに言った。「主の語られたことはこうだ。『明日は全き休みの日、主の聖なる安息である。焼きたいものは焼き、煮たいものは煮よ。残ったものはすべて取っておき、朝まで保存せよ。』」
- 24 モーセの命じたとおりに、彼らはそれを朝まで取っておいた。しかし、それは臭くもならず、そこにうじ虫もわかなかった。
- 25 モーセは言った。「今日は、それを食べなさい。今日は主の安息だから。今日は、それを野で見つけることはできない。
- 26 六日の間、それを集めなさい。しかし七日目の安息には、それはそこにはない。」
- 27 七日目になって、民の中のある者たちが集めに出て行った。しかし、何も見つからなかった。
- 28 主はモーセに言われた。「あなたがたは、いつまでわたしの命令とおしえを拒み、守らないのか。
- 29 心せよ。主があなたがたに安息を与えたのだ。そのため、六日目には二日分のパンをあなたがたに与えている。七日目には、それぞれ自分のところにとどまれ。だれも自分のところから出てはならない。」
- 30 それで民は七日目に休んだ。
- 31 イスラエルの家は、それをマナと名づけた。それはコエンドロの種のように、白く、その味は蜜を入れた薄焼きパンのようであった。
- 32 モーセは言った。「主が命じられたことはこうだ。『それを一オメル分、あなたがたの子孫のために保存しなさい。わたしがあなたがたをエジプトの地から導き出したときに、荒野であなたがたに食べさせたパンを、彼らが見ることができるようにするためである。』」
- 33 モーセはアロンに言った。「壺を一つ持って来て、マナを一オメル分その中に入れ、それを主の前に置いて、あなたがたの子孫のために保存しなさい。」
- 34 主がモーセに命じられたとおりに、アロンはそれを保存するために、さとの板の前に置いた。
- 35 イスラエルの子らは、人が住んでいる土地に来るまで、四十年の間マナを食べた。彼らはカナンの地の境に来るまでマナを食べた。

第17章

- 1 イスラエルの全会衆は、主の命によりシンの荒野を旅立ち、旅を続けてレフィディムに宿営した。しかし、そこには民の飲み水がなかった。
- 2 民はモーセと争い、「われわれに飲む水を与えよ」と言った。モーセは彼らに「あなたがたはなぜ私と争うのか。なぜ主を試みるのか」と言った。
- 3 民はそこで水に渴いた。それで民はモーセに不平を言った。「いったい、なぜ私たちをエジプトから連れ上ったのか。私や子どもたちや家畜を、渇きで死なせるためか。」
- 4 そこで、モーセは主に叫んで言った。「私はこの民をどうすればよいのでしょうか。今にも、彼らは私を石で打ち殺そうとしています。」
- 5 主はモーセに言われた。「民の前を通り、イスラエルの長老たちを何人が連れて、あなたがナイル川を打ったあの杖を手に取り、そして行け。
- 6 さあ、わたしはそこ、ホレブの岩の上で、あなたの前に立つ。あなたはその岩を打て。岩から水が出て、民はそれを飲む。」モーセはイスラエルの長老たちの目の前で、そのとおりに行った。
- 7 それで、彼はその場所をマサ、またメリバと名づけた。それは、イスラエルの子らが争ったからであり、また彼らが「主は私たちの中におられるのか、おられないのか」と言って、主を試みたからである。
- 8 さて、アマレクが来て、レフィディムでイスラエルと戦った。
- 9 モーセはヨシュアに言った。「男たちを選び、出て行ってアマレクと戦いなさい。私は明日、神の杖を手に持って、丘の頂に立ちます。」
- 10 ヨシュアはモーセが言ったとおりにして、アマレクと戦った。モーセとアロンとフルは丘の頂に登った。
- 11 モーセが手を高く上げているときは、イスラエルが優勢になり、手を下ろすとアマレクが優勢になった。
- 12 モーセの手が重くなると、彼らは石を取り、それをモーセの足もとに置いた。モーセはその上に腰掛け、アロンとフルは、一人はこちらから、一人はあちらから、モーセの手を支えた。それで彼の両手は日が沈むまで、しっかり上げられていた。
- 13 ヨシュアは、アマレクとその民を剣の刃で討ち破った。
- 14 主はモーセに言われた。「このことを記録として文書に書き記し、ヨシュアに読んで聞かせよ。わたしはアマレクの記憶を天の下から完全に消し去る。」
- 15 モーセは祭壇を築き、それをアドナイ・ニシと呼び、
- 16 そして言った。「主の御座の上にある手。主は代々にわたりアマレクと戦われる。」

第18章

- 1 さて、モーセのしゅうと、ミディアン祭司イテロは、神がモーセと御民イスラエルのためになされたすべてのこと、どのようにして主がイスラエルをエジプトから導き出されたかを聞いた。
- 2 それでモーセのしゅうとイテロは、先に送り返されていたモーセの妻ツィボラと
- 3 彼女の二人の息子を連れて行った。その一人の名はゲルショムで、「私は異国にいる寄留者だ」という意味である。
- 4 もう一人の名はエリエゼルで、「私の父の神は私の助けであり、ファラオの剣から私を救い出された」という意味である。
- 5 こうしてモーセのしゅうとイテロは、モーセの息子と妻と一緒に、荒野にいるモーセのところにやって来た。彼はそこの神の山に宿営していた。
- 6 イテロはモーセに伝えた。「あなたのしゅうとである私イテロが、あなたの妻とその二人の息子と一緒に、あなたのところに来ています。」
- 7 モーセはしゅうとを迎えに出て行き、身をかがめ、彼に口づけした。彼らは互いに安否を問い、天幕に入った。
- 8 モーセはしゅうとに、主がイスラエルのために、ファラオとエジプトになされたすべてのこと、道中で自分たちに降りかかったすべての困難、そして主が彼らを救い出された次第を語った。
- 9 イテロは、主がイスラエルのためにしてくださったすべての良いこと、とりわけ、エジプト人の手から救い出してくださったことを喜んだ。
- 10 イテロは言った。「主がほめたたえられますように。主はあなたがたをエジプト人の手とファラオの手から救い出し、この民をエジプトの支配から救い出されました。
- 11 今、私は、主があらゆる神々にまさって偉大であることを知りました。彼らがこの民に対して不遜にふるまったことの結末によって。」
- 12 モーセのしゅうとイテロは、神への全焼のささげ物といけにえを携えて来たので、アロンとイスラエルのすべての長老たちは、モーセのしゅうととともに神の前で食事をしようとやって来た。
- 13 翌日、モーセは民をさばくために座に着いた。民は朝から夕方までモーセの周りに立っていた。
- 14 モーセのしゅうとは、モーセが民のためにしているすべてのことを見て、こう言った。「あなたが民にしているこのことは、いったい何ですか。なぜ、あなた一人だけがさばきの座に着き、民はみな朝から夕方まであなたの周りに立っているのですか。」
- 15 モーセはしゅうとに答えた。「民は神のみこころを求めて、私のところに来るのです。
- 16 彼らは、何か事があると、私のところに来ます。私は双方の間をさばいて、神の掟とおしえを知らせるのです。」
- 17 すると、モーセのしゅうとは言った。「あなたがしていることは良くありません。

- 18 あなたも、あなたとともにいるこの民も、きっと疲れ果ててしまいます。このことは、あなたにとって荷が重すぎるからです。あなたはそれを一人ではできません。
- 19 さあ、私の言うことを聞きなさい。あなたに助言しましょう。どうか神があなたとともにいてくださるように。あなたは神の前で民の代わりとなり、様々な事件をあなたが神のところに持って行くようにしなさい。
- 20 あなたは掟とおしえをもって彼らに警告し、彼らの歩むべき道と、なすべきわざを知らせなさい。
- 21 あなたはまた、民全体の中から、神を恐れる、力のある人たち、不正の利を憎む誠実な人たちを見つけ、千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長として民の上に立てなさい。
- 22 いつもは彼らが民をさばくのです。大きな事件のときは、すべてあなたのところに持って来させ、小さな事件はみな、彼らにさばかせて、あなたの重荷を軽くしなさい。こうして彼らはあなたとともに重荷を負うのです。
- 23 もし、あなたがこのことを行い、神があなたにそのように命じるなら、あなたも立ち続けることができ、この民もみな、平安のうちに自分のところに帰ることができるでしょう。」
- 24 モーセはしゅうとの言うことを聞き入れ、すべて彼が言ったとおりにした。
- 25 モーセはイスラエル全体の中から力のある人たちを選び、千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長として、民の上にかしらとして任じた。
- 26 いつもは彼らが民をさばき、難しい事件はモーセのところに持って来たが、小さな事件はみな彼ら自身でさばいた。
- 27 それからモーセはしゅうとを送り出した。しゅうとは自分の国へ帰って行った。

第19章

- 1 エジプトの地を出たイスラエルの子らは、第三の新月の日シナイの荒野に入った。
- 2 彼らはレフィディムを旅立って、シナイの荒野に入り、その荒野で宿営した。イスラエルはそこで、山を前に宿営した。
- 3 モーセが神のみもとに上って行くと、主が山から彼を呼んで言われた。「あなたは、こうヤコブの家に言い、イスラエルの子らに告げよ。
- 4 『あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に乗せて、わたしのもとに連れて来たことを見た。
- 5 今、もしあなたがたが確かにわたしの声に従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはあらゆる民族の中であって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。
- 6 あなたがたは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。』これが、イスラエルの子らにあなたが語るべきことばである。」
- 7 モーセは行って、民の長老たちを呼び寄せ、主が命じられたこれらのことばをすべて、彼らの前に示した。
- 8 民はみな口をそろえて答えた。「私たちは主の言われたことをすべて行います。」それでモーセは民のことばを携えて主のもとに帰った。
- 9 主はモーセに言われた。「見よ。わたしは濃い雲の中であって、あなたに臨む。わたしがあなたに語るとき、民が聞いて、あなたをいつまでも信じるためである。」それからモーセは民のことばを主に告げた。
- 10 主はモーセに言われた。「あなたは民のところに行き、今日と明日、彼らを聖別し、自分たちの衣服を洗わせよ。
- 11 彼らに三日目のために準備させよ。三日目に、主が民全体の目の前でシナイ山に降りて行くからである。
- 12 あなたは民のために周囲に境を設けて言え。『山に登り、その境界に触れないように注意せよ。山に触れる者は、だれでも必ず殺されなければならない。
- 13 その人に手を触れてはならない。その人は必ず石で打ち殺されるか、矢で殺されなければならない。獣でも人でも、生かしておいてはならない。』雄羊の角が長く鳴り響くときは、彼らは山に登ることができる。」
- 14 モーセは山から民のところを下りて行って、民を聖別した。彼らは自分たちの衣服を洗った。
- 15 モーセは民に言った。「三日目のために準備をしなさい。女に近づいてはならない。」
- 16 三日目の朝、雷鳴と稲妻と厚い雲が山の上であって、角笛の音が非常に高く鳴り響いたので、宿営の中の民はみな震え上がった。
- 17 モーセは、神に会わせようと、民を宿営から連れ出した。彼らは山のふもとに立った。
- 18 シナイ山は全山が煙っていた。主が火の中であって、山の上に降りて来られたからである。煙は、かまどの煙のように立ち上り、山全体が激しく震えた。
- 19 角笛の音がいよいよ高くなる中、モーセは語り、神は声を出して彼に答えられた。

- 20** 主はシナイ山の頂に降りて来られた。主がモーセを山の頂に呼ばれたので、モーセは登って行った。
- 21** 主はモーセに言われた。「下って行って、民に警告せよ。彼らが見ようとして主の方に押し破って来て、多くの者が滅びることのないように。」
- 22** 主に近づく祭司たちも自分自身を聖別しなければならない。主が彼らに怒りを発することのないように。」
- 23** モーセは主に言った。「民はシナイ山に登ることができません。あなたご自身が私たちに警告して、『山の周りに境を設け、それを聖なるものとせよ』と言われたからです。」
- 24** 主は彼に言われた。「下りて行け。そして、あなた自身はアロンと一緒に上れ。しかし、祭司たちと民は、主のところに上ろうとして押し破ってはならない。主が彼らに怒りを発することのないように。」
- 25** そこでモーセは民のところに下りて行き、彼らに告げた。

第20章

- 1 それから神は次のすべてのことばを告げられた。
- 2 「わたしは、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出したあなたの神、主である。
- 3 あなたには、わたし以外に、ほかの神があってはならない。
- 4 あなたは自分のために偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、いかなる形をも造ってはならない。
- 5 それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたみの神。わたしを憎む者には父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、
- 6 わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。
- 7 あなたは、あなたの神、主の名をみだりに口にしてはならない。主は、主の名をみだりに口にする者を罰せずにはおかない。
- 8 安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。
- 9 六日間働いて、あなたのすべての仕事をせよ。
- 10 七日目は、あなたの神、主の安息である。あなたはいかなる仕事もしてはならない。あなたも、あなたの息子や娘も、それにあなたの男奴隷や女奴隷、家畜、またあなたの町囲みの中にいる寄留者も。
- 11 それは主が六日間で、天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造り、七日目に休んだからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、これを聖なるものとした。
- 12 あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が与えようとしているその土地で、あなたの日々が長く続くようにするためである。
- 13 殺してはならない。
- 14 姦淫してはならない。
- 15 盗んではならない。
- 16 あなたの隣人について、偽りの証言をしてはならない。
- 17 あなたの隣人の家を欲してはならない。あなたの隣人の妻、男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを欲してはならない。」
- 18 民はみな、雷鳴、稲妻、角笛の音、煙る山を目の前にしていた。民は見て身震いし、遠く離れて立っていた。
- 19 彼らはモーセに言った。「あなたが私たちに語ってください。私たちは聞き従います。しかし、神が私たちにお語りになりませんように。さもないと、私たちは死んでしまいます。」
- 20 それでモーセは民に言った。「恐れることはありません。神が来られたのは、あなたがたを試みるためです。これは、あなたがたが罪に陥らないよう、神への恐れがあなたがたに生じるためです。」
- 21 民は遠く離れて立ち、モーセは神がおられる黒雲に近づいて行った。

- 22** 主はモーセに言われた。「あなたはイスラエルの子らにこう言わなければならない。あなたがた自身、わたしが天からあなたがたに語ったのを見た。
- 23** あなたがたは、わたしと並べて銀の神々を造ってはならない。また自分のために、金の神々も造ってはならない。
- 24** あなたは、わたしのために土の祭壇を造りなさい。その上に、あなたの全焼のささげ物と交わりのいけにえとして、羊と牛を献げなさい。わたしが自分の名を覚えられるようにするすべての場所で、わたしはあなたに臨み、あなたを祝福する。
- 25** もしあなたが、わたしのために石で祭壇を造るなら、切り石で築いてはならない。それに、のみを当てることで、それを冒すことになるからである。
- 26** あなたはわたしの祭壇に階段で上るようにしてはならない。その上で、あなたの裸があらわにならないようにするためである。

第21章

- 1 これらはあなたが彼らの前に置くべき定めである。
- 2 あなたがヘブル人の男奴隷を買う場合、その人は六年間仕えなければならない。しかし七年目には自由の身として無償で去ることができる。
- 3 彼が独身で来たのなら独身で去る。彼に妻があれば、その妻は彼とともに去る。
- 4 彼の主人が彼に妻を与えて、その妻が彼に息子あるいは娘を産んでいたなら、この妻とその子どもたちは主人のものとなり、彼は一人で去らなければならない。
- 5 しかし、もしもその奴隷が『私は、ご主人様と、私の妻と子どもたちとを愛しています。自由の身となって去りたくありません』と明言するようなことがあるなら、
- 6 その主人は彼を神のもとに連れて行く。それから戸または門柱のところに連れて行き、きりで彼の耳を刺し通す。彼はいつまでも主人に仕えることができる。
- 7 人が娘を女奴隷として売るような場合、その女奴隷は、男奴隷が去る場合のように去ってはならない。
- 8 彼女を自分のものと定めた主人が、彼女を気に入らなくなった場合は、その主人は彼女が贖い出されるようにしなければならない。主人が彼女を裏切ったのだから、異国の民に売る権利はない。
- 9 その主人が彼女を自分の息子のものと定めるなら、彼女を自分の娘のように扱わなければならない。
- 10 その主人が別の女を妻とするなら、先の女への食べ物、衣服、夫婦の務めを減らしてはならない。
- 11 もしこれら三つのことを彼女に行わないなら、彼女は金を払わないで無償で出て行くことができる。
- 12 人を打って死なせた者は、必ず殺されなければならない。
- 13 ただし、彼に殺意がなく神が御手によって事を起こされた場合、わたしはあなたに、彼が逃れることができる場所を指定する。
- 14 しかし、人が隣人に対して不遜にふるまい、策略をめぐらして殺した場合には、この者を、わたしの祭壇のところからであっても、連れ出して殺さなければならない。
- 15 自分の父または母を打つ者は、必ず殺されなければならない。
- 16 人を誘拐した者は、その人を売った場合も、自分の手もとに置いている場合も、必ず殺されなければならない。
- 17 自分の父や母をののしる者は、必ず殺されなければならない。
- 18 人が争い、一人が石か拳で相手を打ち、その相手が死なないで床についた場合、
- 19 もし彼が再び起き上がり、杖によって外を歩けるようになれば、打った者は罰を免れる。ただ彼が休んだ分を弁償し、彼が完全に治るようにしてやらなければならない。
- 20 自分の男奴隷あるいは女奴隷を杖で打ち、その場で死なせた場合、その人は必ず復讐されなければならない。

- 21 ただし、もしその奴隷が一日か二日生き延びたなら、その人は復讐されてはならない。奴隷は彼の財産だからである。
- 22 人が人と争っていて、身ごもった女に突き当たり、早産させた場合、重大な傷害がなければ、彼はその女の夫が要求するとおりの罰金を必ず科せられなければならない。彼は法廷が定めるところに基づいて支払う。
- 23 しかし、重大な傷害があれば、いのちにはいのちを、
- 24 目には目を、歯には歯を、手には手を、足には足を、
- 25 火傷には火傷を、傷には傷を、打ち傷には打ち傷をもって償わなければならない。
- 26 人が自分の男奴隷の片目あるいは女奴隷の片目を打ち、目をつぶした場合、その目の償いとして、その奴隷を自由の身にしなければならない。
- 27 また、自分の男奴隷の歯一本あるいは女奴隷の歯一本を打ち、折ったなら、その歯の償いとして、その奴隷を自由の身にしなければならない。
- 28 牛が男または女を突いて死なせた場合、その牛は必ず石で打ち殺さなければならない。その肉を食べてはならない。しかし、その牛の持ち主は罰を免れる。
- 29 しかし、もし牛に以前から突く癖があり、その持ち主が注意されていたのにそれを監視せず、その牛が男または女を殺したのなら、その牛は石で打ち殺され、その持ち主も殺されなければならない。
- 30 もし彼に償い金が科せられたなら、彼は自分に科せられたとおりに、自分のいのちの贖いの代価を支払わなければならない。
- 31 息子を突いても娘を突いても、この規定のとおりには扱われる。
- 32 もしその牛が男奴隷あるいは女奴隷を突いたなら、牛の持ち主はその奴隷の主人に銀貨三十シケルを支払い、その牛は石で打ち殺されなければならない。
- 33 人が水溜めのふたを開けたままにしておくか、あるいは、水溜めを掘って、それにふたをせずにおいて、牛やろばがそこに落ちた場合、
- 34 その水溜めの持ち主は償いをしなければならない。彼は家畜の持ち主に金を支払わなければならない。しかし、その死んだ家畜は彼のものとなる。
- 35 ある人の牛が隣人の牛を突いて、その牛が死んだ場合、両者は生きている牛を売って、その金を分け、また死んだ牛も分けなければならない。
- 36 しかし、もしその牛に以前から突く癖があることが分かっている、その持ち主が監視しなかったのなら、その人は必ず牛を牛で償わなければならない。しかし、その死んだ牛は彼のものとなる。

第22章

- 1 人が牛あるいは羊を盗み、これを屠るか売るかした場合、牛一頭を牛五頭で、羊一匹を羊四匹で償わなければならない。
- 2 もし盗人が抜け穴を掘って押し入るところを見つけられ、打たれて死んだなら、打った者に血の責任はない。
- 3 もし日が昇っていれば、血の責任は打った者にある。盗みをした者は必ず償いをしなければならない。もし盗人が何も持っていなければ、盗みの代償としてその人自身が売られなければならない。
- 4 もしも、牛であれ、ろばであれ、羊であれ、盗んだ物が生きてままで彼の手もとにあるのが確認されたなら、それを二倍にして償わなければならない。
- 5 人が畑あるいはぶどう畑で家畜に牧草を食べさせるとき、放った家畜が他人の畑を食い荒らした場合、その人は自分の畑の最良の物と、ぶどう畑の最良の物をもって償いをしなければならない。
- 6 また、火が出て茨に燃え移り、積み上げた穀物の束、刈られていない麦穂、あるいは畑を焼き尽くした場合、その火を出した者は必ず償いをしなければならない。
- 7 人が金銭あるいは物品を隣人に預けて保管してもらい、それがその人の家から盗まれた場合、もしその盗人が見つかったなら、盗人はそれを二倍にして償わなければならない。
- 8 もし盗人が見つからないなら、その家の主人は神の前に出て、彼が隣人の所有物に決して手を触れなかったと誓わなければならない。
- 9 所有をめぐるすべての違反行為に関しては、それが、牛、ろば、羊、上着、またいかなる紛失物についてであれ、一方が『これは自分のものだ』と言うなら、その双方の言い分を神の前に持ち出さなければならない。そして、神が有罪と宣告した者は、それを二倍にして相手に償わなければならない。
- 10 人が、ろば、牛、羊、またいかなる家畜でも、隣人に預けてその番をしてもらい、それが死ぬか、負傷するか、連れ去られるかしたが、目撃者がいない場合、
- 11 隣人の所有物に決して手を触れなかったという主への誓いが、双方の間になければならない。その持ち主はこれを受け入れなければならない。隣人は償いをする必要はない。
- 12 しかし、もしも、それが確かにその人のところから盗まれたのであれば、その持ち主に償いをしなければならない。
- 13 もしも、それが確かに野獣にかみ裂かれたのであれば、証拠としてそれを差し出さなければならない。かみ裂かれたものの償いをする必要はない。
- 14 人が隣人から家畜を借り、それが負傷するか死ぬかして、その持ち主と一緒にいなかった場合は、必ず償いをしなければならない。
- 15 もし持ち主と一緒にいたなら、償いをする必要はない。しかし、それが賃借りした家畜であれば、その借り賃は払わなければならない。
- 16 人が、まだ婚約していない処女を誘惑し、彼女と寝た場合、その人は必ず、彼女の花嫁料を払って彼女を自分の妻としなければならない。

- 17 もしその父が彼女をその人に与えることを固く拒むなら、その人は処女の花嫁料に相当する銀を支払わなければならない。
- 18 呪術を行う女は生かしておいてはならない。
- 19 動物と寝る者はみな、必ず殺されなければならない。
- 20 ただ主ひとりのほかに、神々にいけにえを献げる者は、聖絶されなければならない。
- 21 寄留者を苦しめてはならない。虐げてはならない。あなたがたもエジプトの地で寄留の民だったからである。
- 22 やもめ、みなしごはみな、苦しめてはならない。
- 23 もしも、あなたがその人たちを苦しめ、彼らがわたしに向かって切に叫ぶことがあれば、わたしは必ず彼らの叫びを聞き入れる。
- 24 そして、わたしの怒りは燃え上がり、わたしは剣によってあなたがたを殺す。あなたがたの妻はやもめとなり、あなたがたの子どもはみなしごとなる。
- 25 もし、あなたとともにいる、わたしの民の貧しい人に金を貸すなら、彼に対して金貸しのようであってはならない。利息を取ってはならない。
- 26 もしも、隣人の上着を質に取ることがあれば、日没までにそれを返さなければならない。
- 27 それは彼のただ一つの覆い、彼の肌をおおう衣だからである。彼はほかに何を着て寝ることができるだろうか。彼がわたしに向かって叫ぶとき、わたしはそれを聞き入れる。わたしは情け深いからである。
- 28 神をののしってはならない。また、あなたの民の族長をのろってはならない。
- 29 あなたの豊かな産物と、あふれる酒とのささげ物を遅らせてはならない。あなたの息子のうち長子は、わたしに献げなければならない。
- 30 あなたの牛と羊についても同様にしなければならない。七日間、その母親のそばに置き、八日目にはわたしに献げなければならない。
- 31 あなたがたは、わたしにとって聖なる者でなければならない。野で獣にかみ裂かれたものの肉を食べてはならない。それは犬に投げ与えなければならない。

第23章

- 1 偽りのうわさを口にしてはならない。悪者と組んで、悪意のある証人となってはならない。
- 2 多数に従って悪の側に立ってはならない。訴訟において、多数に従って道からそれ、ねじ曲げた証言をしてはならない。
- 3 また、訴訟において、弱い者を特に重んじてもいいけない。
- 4 あなたの敵の牛やろばが迷っているのに出会った場合、あなたは必ずそれを彼のところに連れ戻さなければならない。
- 5 あなたを憎んでいる者のろばが、重い荷の下敷きになっているのを見た場合、それを見過ごしにせず、必ず彼と一緒に起こしてやらなければならない。
- 6 訴訟において、あなたの貧しい者たちへのさばきを曲げてはならない。
- 7 偽りの告訴から遠く離れなければならない。咎のない者、正しい者を殺してはならない。わたしが悪者を正しいとすることはない。
- 8 賄賂を受け取ってはならない。賄賂は聡明な人を盲目にし、正しい人の言い分をゆがめる。
- 9 あなたは寄留者を虐げてはならない。あなたがたはエジプトの地で寄留の民であったので、寄留者の心をあなたがた自身がよく知っている。
- 10 六年間は、あなたは地に種を蒔き、収穫をする。
- 11 しかし、七年目には、その土地をそのまま休ませておかなければならない。民の貧しい人々が食べ、その残りを野の生き物が食べるようにしなければならない。ぶどう畑、オリーブ畑も同様にしなければならない。
- 12 六日間は自分の仕事をし、七日目には、それをやめなければならない。あなたの牛やろばが休み、あなたの女奴隷の子や寄留者が息をつくためである。
- 13 わたしがあなたがたに言ったすべてのことを守らなければならない。ほかの神々の名を口にしてはならない。これがあなたの口から聞こえてはならない。
- 14 年に三度、わたしのために祭りを行わなければならない。
- 15 種なしパンの祭りを守らなければならない。わたしが命じたとおり、アビブの月の定められた時に、七日間、種なしパンを食べなければならない。それは、その月にあなたがエジプトを出たからである。何も持たずにわたしの前に出てはならない。
- 16 また、あなたが畑に種を蒔いて得た勤労の初穂を献げる刈り入れの祭りと、年の終わりに、あなたの勤労の実を畑から取り入れるときの収穫祭を行わなければならない。
- 17 年に三度、男子はみな、あなたの主、主の前に出なければならない。
- 18 わたしへのいけにえの血を、種入りのパンと一緒に献げてはならない。また、わたしの祭りのための脂肪を朝まで残しておいてはならない。
- 19 あなたの土地の初穂の最上のものを、あなたの神、主の家に持って来なければならない。あなたは子やぎをその母の乳で煮てはならない。

- 20 見よ。わたしは、使いをあなたの前に遣わし、道中あなたを守り、わたしが備えた場所にあなたを導く。
- 21 あなたは、その者に心を留め、その声に従いなさい。彼に逆らってはならない。わたしの名がその者のうちにあるので、彼はあなたがたの背きを赦さない。
- 22 しかし、もしあなたが確かにその声に従い、わたしが告げることをみな行うなら、わたしはあなたの敵には敵となり、あなたの仇には仇となる。
- 23 わたしの使いがあなたの前を行き、あなたをアモリ人、ヒッタイト人、ペリジ人、カナン人、ヒビ人、エブス人のところに導き、わたしが彼らを消し去るとき、
- 24 あなたは彼らの神々を拜んではならない。それらに仕えてはならない。また、彼らの風習に倣ってはならない。それらの神々を徹底的に破壊し、その石の柱を粉々に打ち砕かなければならない。
- 25 あなたがたの神、主に仕えよ。そうすれば、主はあなたのパンと水を祝福する。わたしはあなたの中から病気を取り除く。
- 26 あなたの国には、流産する女も不妊の女もいなくなる。わたしはあなたの日数を満たす。
- 27 わたしは、わたしへの恐れをあなたの先に送り、あなたが入って行く先のすべての民をかき乱し、あなたのすべての敵があなたに背を向けるようにする。
- 28 わたしはまた、スズメバチをあなたの先に遣わす。これが、ヒビ人、カナン人、ヒッタイト人をあなたの前から追い払う。
- 29 しかし、わたしは彼らを一年のうちに、あなたの前から追い払いはしない。土地が荒れ果て、野の生き物が増え、あなたを害することのないようにするためである。
- 30 あなたが増え広がって、その地を相続するまで、少しずつ、わたしは彼らをあなたの前から追い払う。
- 31 わたしは、あなたの領土を、葦の海からペリシテ人の海に至るまで、また荒野からあの大河に至るまでとする。それは、わたしがその地に住んでいる者たちをあなたがたの手に渡し、あなたが彼らを自分の前から追い払うからである。
- 32 あなたは、彼らや、彼らの神々と契約を結んではならない。
- 33 彼らはあなたの国に住んではならない。彼らがあなたを、わたしの前に罪ある者としないようにするためである。あなたが彼らの神々に仕え、あなたにとって罌となるからである。」

第24章

- 1 主はモーセに言われた。「あなたとアロン、ナダブとアビフ、それにイスラエルの長老七十人は、主のもとへ上って来て、遠く離れて伏し拝め。」
- 2 モーセだけが主のもとに近づけ。ほかの者は近づいてはならない。民はモーセと一緒に上って来てはならない。」
- 3 モーセは来て、主のすべてのことばと、すべての定めをことごとく民に告げた。すると、民はみな声を一つにして答えた。「主の言われたことはすべて行います。」
- 4 モーセは主のすべてのことばを書き記した。モーセは翌朝早く、山のふもとに祭壇を築き、また、イスラエルの十二部族にしたがって十二の石の柱を立てた。
- 5 それから彼はイスラエルの若者たちを遣わしたので、彼らは全焼のささげ物を献げ、また、交わりのいけにえとして雄牛を主に献げた。
- 6 モーセはその血の半分を取って鉢に入れ、残りの半分を祭壇に振りかけた。
- 7 そして契約の書を取り、民に読んで聞かせた。彼らは言った。「主の言われたことはすべて行います。聞き従います。」
- 8 モーセはその血を取って、民に振りかけ、そして言った。「見よ。これは、これらすべてのことばに基づいて、主があなたがたと結ばれる契約の血である。」
- 9 それからモーセとアロン、ナダブとアビフ、それにイスラエルの長老七十人は登って行った。
- 10 彼らはイスラエルの神を見た。御足の下にはサファイアの敷石のようなものがあり、透き通っていて大空そのもののようであった。
- 11 神はイスラエルの子らのおもだった者たちに、手を下されなかった。彼らは神ご自身を見て、食べたり飲んだりした。
- 12 主はモーセに言われた。「山のわたしのところに上り、そこにとどまれ。わたしはあなたに石の板を授ける。それは、彼らを教えるために、わたしが書き記したおしえと命令である。」
- 13 そこで、モーセとその従者ヨシュアは立ち上がり、モーセは神の山に登った。
- 14 彼は長老たちに言った。「私たちがあなたがたのところに戻って来るまで、私たちのために、ここにとどまりなさい。見よ、アロンとフルがあなたがたと一緒にいる。訴え事のある者はだれでも彼らのところに行きなさい。」
- 15 モーセが山に登ると、雲が山をおおった。
- 16 主の栄光はシナイ山の上にとどまり、雲は六日間、山をおおっていた。七日目に主は雲の中からモーセを呼ばれた。
- 17 主の栄光の現れは、イスラエルの子らの目には、山の頂を焼き尽くす火のようであった。
- 18 モーセは雲の中に入って行き、山に登った。そして、モーセは四十日四十夜、山にいた。

第25章

- 1 主はモーセに告げられた。
- 2 「わたしに奉納物を携えて来るように、イスラエルの子らに告げよ。あなたがたは、すべて、進んで献げる心のある人から、わたしへの奉納物を受け取らなければならない。
- 3 彼らから受け取る奉納物は次のものである。金、銀、青銅、
- 4 青、紫、緋色の撚り糸、亜麻布、やぎの毛、
- 5 赤くなめした雄羊の皮、じゅごんの皮、アカシヤ材、
- 6 ともしび用の油、注ぎの油と、香り高い香のための香料、
- 7 エポデや胸当てにはめ込む、縞めのうや宝石である。
- 8 彼らにわたしのための聖所を造らせよ。そうすれば、わたしは彼らのただ中に住む。
- 9 幕屋と幕屋のすべての備品は、わたしがあなたに示す型と全く同じように造らなければならない。
- 10 アカシヤ材の箱を作り、その長さを二キュビト半、幅を一キュビト半、高さを一キュビト半とする。
- 11 それに純金をかぶせる。その内側と外側にかぶせ、その周りに金の飾り縁を作る。
- 12 箱のために金の環を四つ鑄造し、その四隅の基部に取り付ける。一方の側に二つの環を、もう一方の側にもう二つの環を取り付ける。
- 13 また、アカシヤ材で棒を作り、それに金をかぶせる。
- 14 その箱を棒で担ぐために、その棒を箱の両側の環に通す。
- 15 その棒は箱の環に差し込んだままにする。外してはならない。
- 16 その箱に、わたしが与えるさとしの板を納める。
- 17 また、純金で『宥めの蓋』を作り、その長さを二キュビト半、幅を一キュビト半とする。
- 18 二つの金のケルビムを作る。槌で打って、『宥めの蓋』の両端に作る。
- 19 一つを一方の端に、もう一つを他方の端に作る。『宥めの蓋』の一部として、ケルビムをその両端に作る。
- 20 ケルビムは両翼を上の方に広げ、その翼で『宥めの蓋』をおおうようにする。互いに向かい合って、ケルビムの顔が『宥めの蓋』の方を向くようにする。
- 21 その『宥めの蓋』を箱の上に載せる。箱の中には、わたしが与えるさとしの板を納める。
- 22 わたしはそこであなたと会見し、イスラエルの子らに向けてあなたに与える命令を、その『宥めの蓋』の上から、あかしの箱の上の二つのケルビムの間から、ことごとくあなたに語る。
- 23 また、アカシヤ材で机を作り、その長さを二キュビト、幅を一キュビト、高さを一キュビト半とする。
- 24 これに純金をかぶせ、その周りに金の飾り縁を作り、
- 25 その周りに一手幅の枠を作り、その枠の周りに金の飾り縁を作る。
- 26 その机のために金の環を四つ作り、四本の脚のところの四隅にその環を取り付ける。

- 27 環は枠の脇に付け、そこに机を担ぐ棒を入れる。
- 28 アカシヤ材で机を担ぐための棒を作り、これに金をかぶせる。
- 29 また、注ぎのささげ物を注ぐための皿、ひしゃく、瓶、水差しを作る。これらを純金で作る。
- 30 机の上には臨在のパンを置き、絶えずわたしの前にあるようにする。
- 31 また、純金の燭台を作る。その燭台は槌で打って作る。それには、台座と支柱と、がくと節と花卉があるようにする。
- 32 六本の枝がその脇の部分から、すなわち燭台の三本の枝が一方の脇から、燭台のもう三本の枝がもう一方の脇から出る。
- 33 一方の枝に、アーモンドの花の形をした、節と花卉のある三つのがくを、また、もう一方の枝にも、アーモンドの花の形をした、節と花卉のある三つのがくを付ける。燭台から出る六本の枝はみな、そのようにする。
- 34 燭台そのものには、アーモンドの花の形をした、節と花卉のある四つのがくを付ける。
- 35 それから出る一对の枝の下に一つの節、それから出る次の一对の枝の下に一つの節、それから出るその次の一对の枝の下に一つの節。このように六つの枝が燭台から出ていることになる。
- 36 それらの節と枝とは燭台と一体にし、その全体は一つの純金を打って作る。
- 37 また、ともしび皿を七つ作る。ともしび皿は、その前方を照らすように上にあげる。
- 38 その芯切りばさみも芯取り皿も純金である。
- 39 純金一タラントで、燭台とこれらのすべての器具を作る。
- 40 よく注意して、山であなたに示された型どおりに作らなければならない。

第26章

- 1 幕屋を十枚の幕で造らなければならない。幕は、撚り糸で織った亜麻布、青、紫、緋色の撚り糸を用い、意匠を凝らして、それにケルビムを織り出さなければならない。
- 2 幕の長さはそれぞれ二十八キュビト、幕の幅はそれぞれ四キュビトで、幕はみな同じ寸法とする。
- 3 五枚の幕を互いにつなぎ合わせ、もう五枚の幕も互いにつなぎ合わせる。
- 4 そのつなぎ合わせたものの端にある幕の縁に、青いひもの輪を付ける。もう一つのつなぎ合わせたものの端にある幕の縁にも、そのようにする。
- 5 その一枚の幕に五十個の輪を付け、もう一つのつなぎ合わせた幕の端にも五十個の輪を付け、その輪を互いに向かい合わせにする。
- 6 金の留め金を五十個作り、その留め金で幕を互いにつなぎ合わせ、こうして一つの幕屋にする。
- 7 また、あなたは、幕屋の上に掛ける天幕のために、やぎの毛の幕を作らなければならない。その幕を十一枚作る。
- 8 幕の長さはそれぞれ三十キュビト、幕の幅はそれぞれ四キュビト、その十一枚の幕は同じ寸法とする。
- 9 そのうち五枚の幕を一つに、もう六枚の幕も一つにつなぎ合わせ、その六枚目の幕を天幕の前で折り重ねる。
- 10 つなぎ合わせたものの端にある幕の縁には五十個の輪を付け、もう一つのつなぎ合わせた幕の縁にも五十個の輪を付ける。
- 11 青銅の留め金を五十個作って、その留め金を輪にはめ、天幕をつなぎ合わせて一つとする。
- 12 天幕の幕の余って垂れる部分、すなわちその余りの半幕は幕屋のうしろに垂らす。
- 13 そして、このうち一キュビトともう一方の一キュビトの、天幕の幕の長さで余る部分は、幕屋をおおうように、その天幕の両側、手前と奥側に垂らしておく。
- 14 天幕のために、赤くなめした雄羊の皮で覆いを作り、その上に掛ける覆いをじゅごんの皮で作る。
- 15 この幕屋のために、アカシヤ材で、まっすぐに立てる板を作る。
- 16 一枚の板は、長さ十キュビト、板一枚の幅は一キュビト半。
- 17 板一枚ごとに、はめ込みのほぞを二つ作り、幕屋のすべての板にそのようにする。
- 18 幕屋のために板を作る。南側に二十枚。
- 19 その二十枚の板の下に銀の台座を四十個作る。一枚の板の下に、その二つのほぞのために二個の台座があり、ほかの板の下にも、二つのほぞのために二個の台座を作る。
- 20 幕屋のもう一つの側、北側に板二十枚。
- 21 銀の台座四十個。すなわち、一枚の板の下に二個の台座。次の板の下にも二個の台座。
- 22 幕屋のうしろ、西側に板六枚を作る。

- 23 幕屋のうしろの両隅のために板二枚を作る。
- 24 これらは底部では別々であるが、上部では、一つの環のところで一つに合わさるようにする。二枚とも、そのようにする。これらが両隅となる。
- 25 板は八枚、その銀の台座は十六個。すなわち、一枚の板の下に二個の台座、ほかの板の下にも二個ずつの台座となる。
- 26 また、アカシヤ材で横木を作る。すなわち、幕屋の一方の側の板のために五本、
- 27 幕屋のもう一方の側の板のために横木五本、幕屋のうしろ、西側の板のために横木を五本作る。
- 28 板の中間にある中央横木は、端から端まで通るようにする。
- 29 その板に金をかぶせ、横木を通す環を金で作る。横木にも金をかぶせる。
- 30 こうして、あなたは、山で示された定めのとおり幕屋を設営しなければならない。
- 31 また、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用いて、垂れ幕を作る。これに意匠を凝らしてケルビムを織り出す。
- 32 この垂れ幕を、金をかぶせたアカシヤ材の四本の柱に付ける。その鉤は金で、柱は四つの銀の台座の上に据えられる。
- 33 その垂れ幕を留め金の下に掛け、垂れ幕の内側に、あかしの箱を運び入れる。その垂れ幕は、あなたがたのために聖所と至聖所との仕切りとなる。
- 34 至聖所にあるあかしの箱の上には『宥めの蓋』を置く。
- 35 垂れ幕の外側には机を置く。机は幕屋の南側にある燭台と向かい合わせる。その机は北側に置く。
- 36 あなたは天幕の入り口のために、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用い、刺繍を施して垂れ幕を作らなければならない。
- 37 その幕のためにアカシヤ材の柱を五本作り、これに金をかぶせる。その鉤も金である。それらの柱のために青銅の台座を五つ鑄造する。

第27章

- 1 祭壇をアカシヤ材で作る。その祭壇は長さ五キュビト、幅五キュビトの正方形とし、高さは三キュビトとする。
- 2 その四隅の上に角を作る。その角は祭壇から出ているようにし、青銅をその祭壇にかぶせる。
- 3 灰壺、十能、鉢、肉刺し、火皿を作る。祭壇の用具はみな青銅で作る。
- 4 祭壇のために青銅の網細工の格子を作る。その網の上の四隅に青銅の環を四個作る。
- 5 その網を下の方、祭壇の張り出した部分の下に取り付け、これが祭壇の高さの半ばに達するようにする。
- 6 祭壇のために棒を、アカシヤ材の棒を作り、それらに青銅をかぶせる。
- 7 それらの棒は環に通す。祭壇が担がれるとき、棒が祭壇の両側にあるようにする。
- 8 祭壇は、板で、中が空洞になるように作る。山であなたに示されたとおりに作らなければならない。
- 9 次に幕屋の庭を造る。南側は、撚り糸で織った長さ百キュビトの亜麻布の庭の掛け幕を、その側に張る。
- 10 その柱は二十本、その台座は二十個で青銅、その柱の鉤と頭つなぎは銀とする。
- 11 同じように、北側も長さ百キュビトの掛け幕とする。その柱は二十本、その台座は二十個で青銅、その柱の鉤と頭つなぎは銀とする。
- 12 また、庭の西側は幅五十キュビトの掛け幕、その柱は十本、その台座は十個とする。
- 13 正面の、庭の東側の幅も五十キュビト。
- 14 門の片側には十五キュビトの掛け幕、その柱は三本、その台座は三個とする。
- 15 もう片方の側も十五キュビトの掛け幕、その柱は三本、その台座は三個とする。
- 16 庭の門には、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用いた、長さ二十キュビトの、刺繍した垂れ幕を張る。その柱は四本、その台座は四個とする。
- 17 庭の周囲の柱はみな、銀の頭つなぎでつなぎ合わせ、その鉤は銀、台座は青銅とする。
- 18 この庭は長さ百キュビト、幅五十キュビト、そして高さは撚り糸で織った亜麻布の幕の五キュビトとし、その台座は青銅とする。
- 19 幕屋の奉仕に用いるすべての備品、すべての杭、庭のすべての杭は青銅とする。
- 20 あなたはイスラエルの子らに命じて、ともしび用の質の良い純粋なオリーブ油を持って来させなさい。ともしびを絶えずともしておくためである。
- 21 会見の天幕の中で、さとしの板の前にある垂れ幕の外側で、アロンとその子らは、夕方から朝まで主の前にそのともしびを整える。これはイスラエルの子らが代々守るべき永遠の掟である。

第28章

- 1 あなたは、イスラエルの子らの中から、あなたの兄弟アロンと、彼とともにいる彼の息子たちのナダブとアビフ、エルアザルとイタマルをあなたの近くに來させ、祭司としてわたしに仕えさせよ。
- 2 また、あなたの兄弟アロンのために、栄光と美を表す聖なる装束を作れ。
- 3 あなたは、わたしが知恵の霊を満たした、心に知恵ある者たちに告げて、彼らにアロンの装束を作らせなさい。彼を聖別し、祭司としてわたしに仕えさせるためである。
- 4 彼らが作る装束は次のとおりである。胸当て、エポデ、青服、市松模様の長服、かぶり物、飾り帯。彼らは、あなたの兄弟アロンとその子らが、祭司としてわたしに仕えるために、聖なる装束を作る。
- 5 彼らは、金色、青、紫、緋色の撚り糸、それに亜麻布を受け取る。
- 6 彼らに、金色、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用いて、意匠を凝らしてエポデを作らせる。
- 7 二つの肩当てが、それぞれエポデの両端に付けられ、エポデは一つに結ばれる。
- 8 エポデの上に来るあや織りの帯はエポデと同じ作りで、金色、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用い、エポデの一部となるようにする。
- 9 二つの縞めのうを取り、その上にイスラエルの息子たちの名を刻む。
- 10 六つの名を一つの石に、残りの六つの名をもう一つの石に、生まれた順に刻む。
- 11 印章を彫る宝石細工を施して、イスラエルの息子たちの名をその二つの石に彫り、それぞれを金縁の細工の中にはめ込む。
- 12 その二つの石をエポデの肩当てに付け、イスラエルの息子たちが覚えられるための石とする。アロンは主の前で、彼らの名が覚えられるように両肩に載せる。
- 13 あなたは金縁の細工を作り、
- 14 また二本の純金の鎖を作り、これを編んでひもとし、このひもの鎖を先の細工に取り付ける。
- 15 あなたはさばきの胸当てを意匠を凝らして作る。それをエポデの細工と同じように作る。すなわち、金色、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用いて作る。
- 16 それは正方形で二重にする。長さ一ゼレト、幅一ゼレト。
- 17 その中に宝石をはめ込み四列にする。第一列は赤めのう、トパーズ、エメラルド。
- 18 第二列はトルコ石、サファイア、ダイヤモンド。
- 19 第三列はヒヤシンス石、めのう、紫水晶。
- 20 第四列は緑柱石、縞めのう、碧玉。これらが金縁の細工の中にはめ込まれる。
- 21 これらの宝石はイスラエルの息子たちの名にちなむもので、彼らの名にしたがい十二個でなければならない。それらは印章のように、それぞれに名が彫られ、十二部族を表す。
- 22 また、胸当てのために、撚ったひものような鎖を純金で作る。
- 23 胸当てのために金の環を二個作り、その二つの環を胸当ての両端に付ける。

- 24 その胸当ての両端の二個の環に、二本の金のひもを付ける。
- 25 その二本のひものもう一方の端を、先の二つの金縁の細工と結び、エポデの肩当ての前側に付ける。
- 26 さらに二個の金の環を作り、それらを胸当ての両端に、エポデに接する胸当ての内側の縁に付ける。
- 27 また、さらに二個の金の環を作り、これをエポデの二つの肩当ての下端の前に、エポデのあや織りの帯の上部の継ぎ目に、向かい合うように付ける。
- 28 胸当ては、その環からエポデの環に青ひもで結び付け、エポデのあや織りの帯の上にあるようにし、胸当てがエポデから外れないようにしなければならない。
- 29 このようにして、アロンが聖所に入るときには、さばきの胸当てにあるイスラエルの息子たちの名をその胸に担う。それらの名が、絶えず主の前で覚えられるようにするためである。
- 30 さばきの胸当てにはウリムとトンミムを入れ、アロンが主の前に出るときに、それがアロンの胸の上にあるようにする。アロンは絶えず主の前に、イスラエルの息子たちのさばきを胸に担う。
- 31 エポデの下に着る青服を青の撚り糸だけで作る。
- 32 その真ん中に、首を通す口を作る。その口の周りには、ほころびないように織物の技法を凝らして縁を付け、よろいの襟のようにする。
- 33 その裾周りには、青、紫、緋色の撚り糸でざくろを作る。その裾周りのざくろの間には金の鈴を付ける。
- 34 すなわち、青服の裾周りに、金の鈴、ざくろ、金の鈴、ざくろ、となるようにする。
- 35 アロンはこれを、務めを行うために着る。彼が聖所に入って主の前に出るとき、またそこを去るとき、その音が聞こえるようにする。彼が死ぬことのないようにするためである。
- 36 また、純金の札を作り、その上に印章を彫るように『主の聖なるもの』と彫り、
- 37 これを青ひもに付け、それをかぶり物に付ける。それがかぶり物の前面にくるようにする。
- 38 これがアロンの額の上にあって、アロンは、イスラエルの子らが聖別する聖なるもの、彼らのすべての聖なる献上物に関わる咎を負う。これは、彼らが主の前に受け入れられるように、絶えずアロンの額の上になければならない。
- 39 さらに亜麻布で市松模様の長服を作り、亜麻布でかぶり物を作る。飾り帯は刺繍を施して作る。
- 40 あなたはアロンの子らのために長服を作り、また彼らのために飾り帯を作り、彼らのために、栄光と美を表すターバンを作らなければならない。
- 41 これらをあなたの兄弟アロン、および彼とともにいるその子らに着せ、彼らに油注ぎをし、彼らを祭司職に任命し、彼らを聖別し、祭司としてわたしに仕えさせよ。
- 42 彼らのために、裸をおおう亜麻布のももひきを作れ。それは腰からももまで届くようにする。

- 43** アロンとその子らは、会見の天幕に入るとき、あるいは聖所で務めを行うために祭壇に近づくとき、これを着る。彼らが咎を負って死ぬことのないようにするためである。これは彼と彼の後の子孫のための永遠の掟である。

第29章

- 1 彼らを聖別し祭司としてわたしに仕えさせるために、彼らになすべきことは次のことである。若い雄牛一頭、傷のない雄羊二匹を取れ。
- 2 また、種なしパン、油を混ぜた種なしの輪形パン、油を塗った種なしの薄焼きパンを取れ。これらは最良の小麦粉で作る。
- 3 これらを一つのかごに入れ、そのかごと一緒に、先の一頭の雄牛と二匹の雄羊を連れて来る。
- 4 アロンとその子らを会見の天幕の入り口に近づかせ、水で彼らを洗う。
- 5 装束を取り、長服と、エポデの下に着る青服と、エポデと胸当てをアロンに着せ、エポデのあや織りの帯を締める。
- 6 彼の頭にかぶり物をかぶらせ、そのかぶり物の上に聖なる記章を付ける。
- 7 注ぎの油を取って彼の頭に注ぎ、彼に油注ぎをする。
- 8 それから彼の子らを連れて来て、彼らに長服を着せる。
- 9 アロンとその子らに飾り帯を締め、ターバンを巻く。永遠の掟によって、祭司の職は彼らのものとなる。あなたはアロンとその子らを祭司職に任命せよ。
- 10 あなたは雄牛を会見の天幕の前に近づかせ、アロンとその子らはその雄牛の頭に手を置く。
- 11 あなたは会見の天幕の入り口で、主の前で、その雄牛を屠り、
- 12 その雄牛の血を取り、あなたの指でこれを祭壇の四隅の角に塗る。その血はみな祭壇の土台に注ぐ。
- 13 その内臓をおおうすべての脂肪、肝臓の小葉、二つの腎臓とその上の脂肪を取り出し、これらを祭壇の上で焼いて煙にする。
- 14 その雄牛の肉と皮と汚物は宿営の外で火で焼く。これは罪のきよめのささげ物である。
- 15 また、一匹の雄羊を取り、アロンとその子らはその雄羊の頭に手を置く。
- 16 その雄羊を屠り、その血を取り、これを祭壇の側面に振りかける。
- 17 また、その雄羊を各部に切り分け、その内臓とその足を洗い、これらをほかの部位や頭と一緒にし、
- 18 その雄羊を全部、祭壇の上で焼いて煙にする。これは主への全焼のささげ物で、主への芳ばしい香り、食物のささげ物である。
- 19 もう一匹の雄羊を取り、アロンとその子らはその雄羊の頭に手を置く。
- 20 その雄羊を屠り、その血を取って、アロンの右の耳たぶと、その子らの右の耳たぶ、また彼らの右手の親指と右足の親指に塗り、その血を祭壇の側面に振りかける。
- 21 祭壇の上の血と、注ぎの油を取って、それをアロンとその装束、彼とともにいるその子らとその装束にかける。こうして、彼とその装束、彼とともにいるその子らとその装束は聖なるものとなる。

- 22 次に、その雄羊の脂肪、あぶら尾、内臓をおおう脂肪、肝臓の小葉、二つの腎臓とその上の脂肪、また右のももを取る。これは任職の雄羊である。
- 23 また、主の前にある種なしパンのかごから、円形パン一つと、油を混ぜた輪形パン一つと、薄焼きパン一つを取る。
- 24 そして、そのすべてをアロンの手のひらとその子らの手のひらに載せ、奉獻物として主の前で揺り動かす。
- 25 それらを彼らの手から取り、全焼のささげ物とともに、主の前の芳ばしい香りとして祭壇の上で焼いて煙にする。これは主への食物のささげ物である。
- 26 アロンの任職のための雄羊の胸肉を取り、これを奉獻物として主に向かって揺り動かす。これは、あなたの受ける分となる。
- 27 アロンとその子らの任職のための雄羊の、奉獻物として揺り動かされた胸肉と、奉納物として献げられたもも肉とを聖別する。
- 28 それは、アロンとその子らがイスラエルの子らから受け取る永遠の割り当てとなる。それは奉納物である。それはイスラエルの子らからの交わりのいけにえの奉納物、主への奉納物であるから。
- 29 アロンの聖なる装束は彼の跡を継ぐ子らのものとなり、彼らはこれを着けて油注がれ、これを着けて祭司職に任命される。
- 30 彼の子らのうちで、彼に代わって聖所で務めを行うために会見の天幕に入る祭司は、七日間、これを着る。
- 31 あなたは任職のための雄羊を取り、聖なる所でその肉を煮なければならない。
- 32 アロンとその子らは会見の天幕の入り口で、その雄羊の肉と、かごの中のパンを食べる。
- 33 彼らは、自分たちを任職し聖別するため、宿めに用いられたものを食べる。一般の者は食べてはならない。これらは聖なるものである。
- 34 もし任職のための肉またはパンが朝まで残ったなら、その残りは火で燃やす。食べてはならない。これは聖なるものである。
- 35 わたしがあなたに命じたすべてにしたがって、このようにアロンとその子らに行え。七日間、任職式を行わなければならない。
- 36 毎日、宿めのために、罪のきよめのささげ物として雄牛一頭を献げる。あなたはその上で宿めを行い、その祭壇から罪を除く。聖別するためにそれに油注ぎをする。
- 37 七日間、祭壇のために宿めを行い、それを聖別する。祭壇は最も聖なるものとなる。祭壇に触れるものはすべて、聖なるものとなる。
- 38 祭壇の上に献げるべき物は次のとおりである。毎日絶やすことなく、一歳の雄の子羊二匹。
- 39 朝、一匹の雄の子羊を献げ、夕暮れに、もう一匹の雄の子羊を献げる。
- 40 一匹の雄の子羊には、上質のオリーブ油四分の一ヒンを混ぜた最良の小麦粉十分の一エバと、また注ぎのささげ物としてぶどう酒四分の一ヒンが添えられる。
- 41 もう一匹の雄の子羊は夕暮れに献げなければならない。これには、朝の穀物のささげ物や注ぎのささげ物を同じく添えて、献げなければならない。それは芳ばしい香りのためであ

り、主への食物のささげ物である。

- 42** これは、主の前、会見の天幕の入り口での、あなたがたの代々にわたる常供の全焼のささげ物である。その場所でわたしはあなたがたに会い、その場所であなたと語る。
- 43** その場所でわたしはイスラエルの子らと会う。そこは、わたしの栄光によって聖なるものとされる。
- 44** わたしは会見の天幕と祭壇を聖別する。またアロンとその子らを聖別して、彼らを祭司としてわたしに仕えさせる。
- 45** わたしはイスラエルの子らのただ中に住み、彼らの神となる。
- 46** 彼らは、わたしが彼らの神、主であり、彼らのただ中に住むために、彼らをエジプトの地から導き出したことを知るようになる。わたしは彼らの神、主である。

第30章

- 1 また、香をたくための祭壇を作れ。それをアカシヤ材で作る。
- 2 長さ一キュビト、幅一キュビトの正方形で、その高さは二キュビトとする。祭壇から角が出ているようにする。
- 3 祭壇の上面と、側面すべて、および角には純金をかぶせ、その周りには金の飾り縁を作る。
- 4 また、その祭壇のために二つの金の環を作る。その飾り縁の下の両側に、相對するように作る。これは祭壇を担ぐ棒を通すところとする。
- 5 その棒はアカシヤ材で作り、それに金をかぶせる。
- 6 それを、あかしの箱をさえぎる垂れ幕の手前、わたしがあなたと会う、あかしの箱の上の『宥めの蓋』の手前に置く。
- 7 アロンはその上で香りの高い香をたく。朝ごとにともしびを整え、煙を立ち上らせる。
- 8 アロンは夕暮れにともしびをともしるときにも、煙を立ち上らせる。これは、あなたがたの代々にわたる、主の前の常供の香のささげ物である。
- 9 あなたがたはその上で、異なった香や全焼のささげ物や穀物のささげ物を献げてはならない。また、その上に、注ぎのぶどう酒を注いではならない。
- 10 アロンは年に一度、その角の上で宥めを行う。その祭壇のために、罪のきよめのささげ物の、宥めのための血によって、彼は代々にわたり、年に一度、宥めを行う。これは主にとって最も聖なるものである。」
- 11 主はモーセに告げられた。
- 12 「あなたがイスラエルの子らの登録のためにその頭数を調べるとき、各人はその登録にあたり、自分のたましいの償い金を主に納めなければならない。これは、彼らの登録にあたり、彼らにわざわざ起こらないようにするためである。
- 13 登録される者がそれぞれ納めるのは、これである。聖所のシェケルで半シェケル。一シェケルは二十ゲラで、半シェケルが主への奉納物である。
- 14 二十歳またそれ以上の者で、登録される者はみな、主にこの奉納物を納める。
- 15 あなたがたのたましいのために宥めを行おうと、主に奉納物を納めるときには、富む人も半シェケルより多く払ってはならず、貧しい人もそれより少なく払ってはならない。
- 16 イスラエルの子らから償いのための銀を受け取ったなら、それを会見の天幕の用に充てる。こうしてそれは、イスラエルの子らにとって、あなたがたのたましいに宥めがなされたことに対する、主の前での記念となる。」
- 17 主はまた、モーセに告げられた。
- 18 「洗いのために洗盤とその台を青銅で作し、それを会見の天幕と祭壇の間に置き、その中に水を入れよ。
- 19 アロンとその子らは、そこで手と足を洗う。
- 20 彼らが会見の天幕に入るときには水を浴びる。彼らが死ぬことのないようにするためである。また、彼らが、主への食物のささげ物を焼いて煙にする務めのために祭壇に近づくと

きにも、

- 21 その手、その足を洗う。彼らが死ぬことのないようにするためである。これは、彼とその子孫にとって代々にわたる永遠の掟である。」
- 22 主はモーセにこう告げられた。
- 23 「あなたは最上の香料を取れ。液体の没薬を五百シェケル、香りの良いシナモンをその半分の二百五十シェケル、香りの良い菖蒲を二百五十シェケル、
- 24 桂枝を聖所のシェケルで五百シェケル、オリーブ油を一ヒン。
- 25 あなたは調香の技法を凝らしてこれらを調合し、聖なる注ぎの油を作る。これが聖なる注ぎの油となる。
- 26 そして、次のものに油注ぎを行う。会見の天幕、あかしの箱、
- 27 机とそのすべての備品、燭台とそのすべての器具、香の祭壇、
- 28 全焼のささげ物の祭壇とそのすべての用具、洗盤とその台。
- 29 こうして、これらを聖別するなら、それは最も聖なるものとなる。これらに触れるものはすべて、聖なるものとなる。
- 30 あなたはアロンとその子らに油注ぎを行い、彼らを聖別して、祭司としてわたしに仕えさせなければならない。
- 31 あなたはイスラエルの子らに告げよ。これは、あなたがたの代々にわたり、わたしにとって聖なる注ぎの油となる。
- 32 これを人のからだに注いではない。また、この割合で、これと似たものを作ってはならない。これは聖なるものであり、あなたがたにとっても聖なるものでなければならない。
- 33 すべて、これと似たものを調合する者、または、これをほかの人に付ける者は、だれでも自分の民から断ち切られる。」
- 34 主はモーセに言われた。「あなたは香料のナタフ香、シェヘレテ香、ヘルベナ香と純粋な乳香を取れ。これらは、それぞれ同じ量でなければならない。
- 35 これをもって、調香の技法を凝らして調合された、塩気のある、きよい、聖なる香を作れ。
- 36 また、その一部を打ち砕いて粉にし、その一部を、わたしがあなたと会う会見の天幕の中のあかしの箱の前に供える。これは、あなたがたにとって最も聖なるものである。
- 37 その割合で作る香を自分たちのために作ってはならない。それはあなたにとって、主に対して聖なるものである。
- 38 これと似たものを作って、これを嗅ぐ者は、自分の民の間から断ち切られる。」

第31章

- 1 主はモーセに次のように告げられた。
- 2 「見よ。わたしは、ユダ部族に属する、フルの子ウリの子ベツアルエルを名指して召し、
- 3 彼に、知恵と英知と知識とあらゆる務めにおいて、神の霊を満たした。
- 4 それは、彼が金や銀や青銅の細工に意匠を凝らし、
- 5 はめ込みの宝石を彫刻し、木を彫刻し、あらゆる仕事をするためである。
- 6 見よ。わたしは、ダン部族に属する、アヒサマクの子オホリアブを彼とともにいるようにする。わたしは、すべて心に知恵ある者の心に知恵を授ける。彼らは、わたしがあなたに命じたすべてのものを作る。
- 7 すなわち、会見の天幕、あかしの箱、その上の『宥めの蓋』、天幕のすべての備品、
- 8 机とその備品、きよい燭台とそのすべての器具、香の祭壇、
- 9 全焼のささげ物の祭壇とそのすべての用具、洗盤とその台、
- 10 式服、すなわち、祭司アロンの聖なる装束と、その子らが祭司として仕えるための装束、
- 11 注ぎの油、聖所のための香り高い香である。彼らは、すべて、わたしがあなたに命じたとおりに作らなければならない。」
- 12 主はモーセに告げられた。
- 13 「あなたはイスラエルの子らに告げよ。あなたがたは、必ずわたしの安息を守らなければならない。これは、代々にわたり、わたしとあなたがたとの間のしるしである。わたしが主であり、あなたがたを聖別する者であることを、あなたがたが知るためである。
- 14 あなたがたは、この安息を守らなければならない。これは、あなたがたにとって聖なるものだからである。これを汚す者は必ず殺されなければならない。この安息中に仕事をする者はだれでも、自分の民の間から断ち切られる。
- 15 六日間は仕事をする。しかし、七日目は主の聖なる全き安息である。安息日に仕事をする者は、だれでも必ず殺されなければならない。
- 16 イスラエルの子らはこの安息を守り、永遠の契約として、代々にわたり、この安息を守らなければならない。
- 17 これは永遠に、わたしとイスラエルの子らとの間のしるしである。それは主が六日間で天と地を造り、七日目にやめて、休息したからである。」
- 18 こうして主は、シナイ山でモーセと語り終えたとき、さとしの板を二枚、すなわち神の指で書き記された石の板をモーセにお授けになった。

第32章

- 1 民はモーセが山から一向に下りて来ようとしないうちを見て、アロンのもとに集まり、彼に言った。「さあ、われわれに先立って行く神々を、われわれのために造ってほしい。われわれをエジプトの地から導き上った、あのモーセという者がどうなったのか、分からないから。」
- 2 それでアロンは彼らに言った。「あなたがたの妻や、息子、娘たちの耳にある金の耳輪を外して、私のところに持って来なさい。」
- 3 民はみな、その耳にある金の耳輪を外して、アロンのところに持って来た。
- 4 彼はそれを彼らの手から受け取ると、のみで鋳型を造り、それを鋳物の子牛にした。彼らは言った。「イスラエルよ、これがあなたをエジプトの地から導き上った、あなたの神々だ。」
- 5 アロンはこれを見て、その前に祭壇を築いた。そして、アロンは呼びかけて言った。「明日は主への祭りである。」
- 6 彼らは翌朝早く全焼のささげ物を献げ、交わりのいけにえを供えた。そして民は、座っては食べたり飲んだりし、立っては戯れた。
- 7 主はモーセに言われた。「さあ、下りて行け。あなたがエジプトの地から連れ上ったあなたの民は、墮落してしまった。」
- 8 彼らは早くも、わたしが彼らに命じた道から外れてしまった。彼らは自分たちのために鋳物の子牛を造り、それを伏し拝み、それにいけにえを献げ、『イスラエルよ、これがあなたをエジプトの地から導き上った、あなたの神々だ』と言っている。」
- 9 主はまた、モーセに言われた。「わたしはこの民を見た。これは実に、うなじを固くする民だ。」
- 10 今は、わたしに任せよ。わたしの怒りが彼らに向かって燃え上がり、わたしが彼らを絶ち滅ぼすためだ。しかし、わたしはあなたを大いなる国民とする。」
- 11 しかしモーセは、自分の神、主に嘆願して言った。「主よ。あなたが偉大な力と力強い御手をもって、エジプトの地から導き出されたご自分の民に向かって、どうして御怒りを燃やされるのですか。」
- 12 どうしてエジプト人に、『神は、彼らを山地で殺し、地の面から絶ち滅ぼすために、悪意をもって彼らを連れ出したのだ』と言わせてよいのでしょうか。どうか、あなたの燃える怒りを収め、ご自身の民へのわざわいを思い直してください。
- 13 あなたのしもべアブラハム、イサク、イスラエルを思い起こしてください。あなたはご自分にかけて彼らに誓い、そして彼らに、『わたしはあなたがたの子孫を空の星のように増し加え、わたしが約束したこの地すべてをあなたがたの子孫に与え、彼らは永久にこれをゆずりとして受け継ぐ』と言われました。」
- 14 すると主は、その民に下すと言ったわざわいを思い直された。
- 15 モーセは向きを変え、山から下りた。彼の手には二枚のさとしの板があった。板は両面に、すなわち表と裏に書かれていた。

- 16 その板は神の作であった。その筆跡は神の筆跡で、その板に刻まれていた。
- 17 ヨシュアは民の叫ぶ大声を聞いて、モーセに言った。「宿営の中に戦の声があります。」
- 18 モーセは言った。「あれは勝利を叫ぶ声でも 敗北を嘆く声でもない。私が聞くのは歌いさわぐ声である。」
- 19 宿営に近づいて、子牛と踊りを見るなり、モーセの怒りは燃え上がった。そして、手にしていたあの板を投げ捨て、それらを山のふもとで砕いた。
- 20 それから、彼らが造った子牛を取って火で焼き、さらにそれを粉々に砕いて水の上にまき散らし、イスラエルの子らに飲ませた。
- 21 モーセはアロンに言った。「この民はあなたに何をしたのですか。あなたが彼らの上にこのような大きな罪をもたらすとは。」
- 22 アロンは言った。「わが主よ、どうか怒りを燃やさないでください。あなた自身、この民が悪に染まっているのをよくご存じのはずです。」
- 23 彼らは私に言いました。『われわれに先立って行く神々を、われわれのために造ってほしい。われわれをエジプトの地から連れ上った、あのモーセという者がどうなったのか、分からないから。』
- 24 それで私は彼らに『だれでも金を持っている者は、それを取り外せ』と言いました。彼らはそれを私に渡したので、私がこれを火に投げ入れたところ、この子牛が出て来たのです。」
- 25 モーセは、民が乱れていて、アロンが彼らを放っておいたので、敵の笑いものとなっているのを見た。
- 26 そこでモーセは宿営の入り口に立って、「だれでも主につく者は私のところに来なさい」と言った。すると、レビ族がみな彼のところに集まった。
- 27 そこで、モーセは彼らに言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。各自腰に剣を帯びよ。宿営の中を入り口から入り口へ行き巡り、各自、自分の兄弟、自分の友、自分の隣人を殺せ。」
- 28 レビ族はモーセのことばどおりに行った。その日、民のうちの約三千人が倒れた。
- 29 モーセは言った。「あなたがたは各自、その子、その兄弟に逆らっても、今日、主に身を献げた。主があなたがたに、今日、祝福を与えてくださるように。」
- 30 翌日になって、モーセは民に言った。「あなたがたは大きな罪を犯した。だから今、私は主のところに行って行く。もしかすると、あなたがたの罪のために宥めをすることができるかもしれない。」
- 31 そこでモーセは主のところに戻って言った。「ああ、この民は大きな罪を犯しました。自分たちのために金の神を造ったのです。」
- 32 今、もしあなたが彼らの罪を赦してくださるなら―。しかし、もし、かなわないなら、どうかあなたが書きになった書物から私の名を消し去ってください。」
- 33 主はモーセに言われた。「わたしの前に罪ある者はだれであれ、わたしの書物から消し去る。」
- 34 しかし、今は行って、わたしがあなたに告げた場所に民を導け。見よ、わたしの使いがあなたの前に行く。だが、わたしが報いる日に、わたしは彼らの上にその罪の報いをす

る。」

- 35** こうして主は民を打たれた。彼らが子牛を造ったからである。それはアロンが造ったのであった。

第33章

- 1 主はモーセに言われた。「あなたも、あなたがエジプトの地から連れ上った民も、ここから上って行って、わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに誓って、『これをあなたの子孫に与える』と言った地に行け。
- 2 わたしはあなたがたの前に一人の使いを遣わし、カナン人、アモリ人、ヒッタイト人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人を追い払い、
- 3 乳と蜜の流れる地にあなたがたを行かせる。しかし、わたしは、あなたがたのただ中であっては上らない。あなたがたはうなじを固くする民なので、わたしが途中であなたがたを絶ち滅ぼしてしまわないようにするためだ。」
- 4 民はこの悪い知らせを聞いて嘆き悲しみ、一人も飾り物を身に着ける者はいなかった。
- 5 主はモーセに次のように命じておられた。「イスラエルの子らに言え。『あなたがたは、うなじを固くする民だ。一時でも、あなたがたのただ中であって上って行こうものなら、わたしはあなたがたを絶ち滅ぼしてしまうだろう。今、飾り物を身から取り外しなさい。そうすれば、あなたがたのために何をするべきかを考えよう。』」
- 6 それでイスラエルの子らは、ホレブの山以後、自分の飾り物を外した。
- 7 さて、モーセはいつも天幕を取り、自分のためにこれを宿営の外の、宿営から離れたところに張り、そして、これを会見の天幕と呼んでいた。だれでも主に伺いを立てる者は、宿営の外にある会見の天幕に行くのを常としていた。
- 8 モーセがこの天幕に出て行くときは、民はみな立ち上がり、それぞれ自分の天幕の入り口に立って、モーセが天幕に入るまで彼を見守った。
- 9 モーセがその天幕に入ると、雲の柱が降りて来て、天幕の入り口に立った。こうして主はモーセと語られた。
- 10 雲の柱が天幕の入り口に立つのを見ると、民はみな立ち上がって、それぞれ自分の天幕の入り口で伏し拝んだ。
- 11 主は、人が自分の友と語るように、顔と顔を合わせてモーセと語られた。モーセが宿営に帰るとき、彼の従者でヌンの子ヨシュアという若者が天幕から離れないでいた。
- 12 さて、モーセは主に言った。「ご覧ください。あなたは私に『この民を連れ上れ』と言われます。しかし、だれを私と一緒に遣わすかを知らせてくださいません。しかも、あなたご自身が、『わたしは、あなたを名指して選び出した。あなたは特にわたしの心になっっている』と言われました。
- 13 今、もしも私がみこころにかなっているのだしたら、どうかあなたの道を教えてください。そうすれば、私があなたを知ることができ、みこころにかなうようになれる。この国民があなたの民であることを心に留めてください。」
- 14 主は言われた。「わたしの臨在がともに行き、あなたを休ませる。」
- 15 モーセは言った。「もしあなたのご臨在がともに行かないのなら、私たちをここから導き上らないでください。

- 16** 私とあなたの民がみこころにかなっていることは、いったい何によって知られるのでしょうか。それは、あなたが私たちと一緒にいき、私とあなたの民が地上のすべての民と異なり、特別に扱われることによるのではないのでしょうか。」
- 17** 主はモーセに言われた。「あなたの言ったそのことも、わたしはしよう。あなたはわたしの心にかない、あなたを名指して選び出したのだから。」
- 18** モーセは言った。「どうか、あなたの栄光を私に見せてください。」
- 19** 主は言われた。「わたし自身、わたしのあらゆる良きものをあなたの前に通らせ、主の名であなたの前に宣言する。わたしは恵もうと思う者を恵み、あわれもうと思う者をあわれむ。」
- 20** また言われた。「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。」
- 21** また主は言われた。「見よ、わたしの傍らに一つの場所がある。あなたは岩の上に立て。
- 22** わたしの栄光が通り過ぎるときには、わたしはあなたを岩の裂け目に入れる。わたしが通り過ぎるまで、この手であなたをおおっておく。
- 23** わたしが手をのけると、あなたはわたしのうしろを見るが、わたしの顔は決して見られない。」

第34章

- 1 主はモーセに言われた。「前のものと同じような二枚の石の板を切り取れ。わたしはその石の板の上に、あなたが砕いたこの前の石の板にあった、あのことばを書き記す。
- 2 朝までに準備をし、朝シナイ山に登って、その山の頂でわたしの前に立て。
- 3 だれも、あなたと一緒に登ってはならない。また、だれも、山のどこにも人影があってはならない。また、羊でも牛でも、その山のふもとで草を食べていてはならない。」
- 4 そこで、モーセは前のものと同じような二枚の石の板を切り取り、翌朝早く、主が命じられたとおりにシナイ山に登った。彼は手に二枚の石の板を持っていた。
- 5 主は雲の中であって降りて来られ、彼とともにそこに立って、主の名を宣言された。
- 6 主は彼の前を通り過ぎるとき、こう宣言された。「主、主は、あわれみ深く、情け深い神。怒るのに遅く、恵みとまことに富み、
- 7 恵みを千代まで保ち、咎と背きと罪を赦す。しかし、罰すべき者を必ず罰して、父の咎を子に、さらに子の子に、三代、四代に報いる者である。」
- 8 モーセは急いで地にひざまずき、ひれ伏した。
- 9 彼は言った。「ああ、主よ。もし私がみこころにかなっているのだしたら、どうか主が私たちのただ中にいて、進んでくださいますように。確かに、この民はうなじを固くする民ですが、どうか私たちの咎と罪を赦し、私たちをご自分の所有としてくださいますように。」
- 10 主は言われた。「今ここで、わたしは契約を結ぼう。わたしは、あなたの民がみないるところで、地のどこにおいても、また、どの国においても、かつてなされたことがない奇しいことを行ふ。あなたがそのただ中にいるこの民はみな、主のわざを見る。わたしがあなたとともに行うことは恐るべきことである。
- 11 わたしが今日あなたに命じることを守れ。見よ、わたしは、アモリ人、カナン人、ヒッタイト人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人を、あなたの前から追い払う。
- 12 あなたは、あなたが入って行くその地の住民と契約を結ばないように注意せよ。それがあなたのただ中で畏とならないようにするためだ。
- 13 いや、あなたがたは彼らの祭壇を打ち壊し、彼らの石の柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒さなければならない。
- 14 あなたは、ほかの神を拝んではならない。主は、その名がねたみであり、ねたみの神であるから。
- 15 あなたはその地の住民と契約を結ばないようにせよ。彼らは自分たちの神々と淫行をし、自分たちの神々にいけにえを献げ、あなたを招く。あなたは、そのいけにえを食べるようになる。
- 16 彼らの娘たちをあなたの息子たちの妻とするなら、その娘たちは自分たちの神々と淫行を行い、あなたの息子たちに自分たちの神々と淫行を行わせるようになる。
- 17 あなたは、自分のために鋳物の神々を造ってはならない。

- 18 あなたは種なしパンの祭りを守らなければならない。アビブの月の定められた時に七日間、わたしが命じた種なしパンを食べる。あなたはアビブの月にエジプトを出たからである。
- 19 最初に胎を開くものはすべて、わたしのものである。あなたの家畜の雄の初子はみな、牛も羊もそうである。
- 20 ただし、ろばの初子は羊で贖わなければならない。もし贖わないなら、その首を折る。また、あなたの息子のうち長子はみな、贖わなければならない。だれも、何も持たずに、わたしの前に出てはならない。
- 21 あなたは六日間は働き、七日目には休まなければならない。耕作の時には刈り入れの時には、休まなければならない。
- 22 小麦の刈り入れの初穂のためには七週の祭りを、年の変わり目には収穫祭を行わなければならない。
- 23 年に三度、男子はみな、イスラエルの神、主、主の前に出なければならない。
- 24 わたしがあなたの前から異邦の民を追い出し、あなたの国境を広げるので、あなたが年に三度、あなたの神、主の前に出ようとして上って行くときも、あなたの地を欲しがる者はだれもない。
- 25 わたしへのいけにえの血を、種入りのパンに添えて献げてはならない。また、過越の祭りのいけにえを朝まで残しておいてはならない。
- 26 あなたの土地から取れる初穂の最上のものを、あなたの神、主の家に持って来なければならない。あなたは子やぎをその母の乳で煮てはならない。」
- 27 主はモーセに言われた。「これらのことばを書き記せ。わたしは、これらのことばによって、あなたと、そしてイスラエルと契約を結んだからである。」
- 28 モーセはそこに四十日四十夜、主とともにいた。彼はパンも食べず、水も飲まなかった。そして、石の板に契約のことば、十のことばを書き記した。
- 29 それから、モーセはシナイ山から下りて来た。モーセが山を下りて来たとき、その手に二枚のさとしの板を持っていた。モーセは、主と話したために自分の顔の肌が輝きを放っているのを知らなかった。
- 30 アロンと、イスラエルの子らはみなモーセを見た。なんと、彼の顔の肌は輝きを放っていた。それで彼らは彼に近づくのを恐れた。
- 31 モーセが彼らと呼ばせると、アロンと、会衆の上に立つ族長はみな彼のところに戻って来た。モーセは彼らに話しかけた。
- 32 それから、イスラエルの子らはみな近寄って来た。彼は主がシナイ山で告げられたことを、ことごとく彼らに命じた。
- 33 モーセは彼らと語り終えると、顔に覆いを掛けた。
- 34 モーセが主と語るために主の前に行くとき、彼はその覆いを外に出て来るまで外していた。外に出て来ると、命じられたことをイスラエルの子らに告げた。
- 35 イスラエルの子らがモーセの顔を見ると、モーセの顔の肌は輝きを放っていた。モーセは、主と語るために入っていくまで、自分の顔に再び覆いを掛けるのを常としていた。

第35章

- 1 モーセはイスラエルの全会衆を集めて、彼らに言った。「これは、主が行えと命じられたことである。
- 2 六日間は仕事をする。しかし、七日目は、あなたがたにとって主の聖なる全き安息である。この日に仕事をする者は、だれでも殺されなければならない。
- 3 安息日には、あなたがたの住まいのどこであっても、火をたいてはならない。」
- 4 モーセはイスラエルの全会衆に告げた。「これは主が命じられたことである。
- 5 あなたがたの中から主への奉納物を受け取りなさい。すべて、進んで献げる心のある人に、主への奉納物を持って来させなさい。すなわち、金、銀、青銅、
- 6 青、紫、緋色の撚り糸、亜麻布、やぎの毛、
- 7 赤くなめした雄羊の皮、じゅごんの皮、アカシヤ材、
- 8 ともしび用の油、注ぎの油と、香り高い香のための香料、
- 9 エボデや胸当てにはめ込む、縞めのうや宝石である。
- 10 あなたがたのうち、心に知恵ある者はみな来て、主が命じられたものをすべて造らなければならない。
- 11 幕屋と、その天幕、覆い、留め金、板、横木、柱、台座、
- 12 箱と、その棒、『宥めの蓋』、仕切りの垂れ幕、
- 13 机と、その棒とそのすべての備品、臨在のパン、
- 14 ともしびのための燭台と、その器具、ともしび皿、ともしび用の油、
- 15 香の祭壇と、その棒、注ぎの油、香り高い香、そして幕屋の入り口に付ける入り口の垂れ幕、
- 16 全焼のささげ物の祭壇と、それに付属する青銅の格子、その棒とそのすべての用具、洗盤とその台、
- 17 庭の掛け幕と、その柱、その台座、庭の門の垂れ幕、
- 18 幕屋の杭、庭の杭、そのひも、
- 19 聖所で務めを行うための式服、すなわち、祭司アロンの聖なる装束と、祭司として仕える彼の子らの装束である。」
- 20 イスラエルの全会衆はモーセの前から立ち去った。
- 21 心を動かされた者、霊に促しを受けた者はみな、会見の天幕の仕事のため、そのあらゆる奉仕のため、また聖なる装束のために、主への奉納物を持って来た。
- 22 進んで献げる心のある者はみな、男も女も、飾り輪、耳輪、指輪、首飾り、すべての金の飾り物を持って来た。金の奉納物を主に献げる者はみな、そのようにした。
- 23 また、青、紫、緋色の撚り糸、亜麻布、やぎの毛、赤くなめした雄羊の皮、じゅごんの皮を持っている者はみな、それを持って来た。
- 24 銀や青銅の奉納物を献げる者はみな、それを主への奉納物として持って来た。アカシヤ材を持っている者はみな、奉仕のあらゆる仕事のためにそれを持って来た。

- 25** また、心に知恵ある女もみな、自分の手で紡ぎ、その紡いだ青、紫、緋色の撚り糸、それに亜麻布を持って来た。
- 26** 心を動かされ、知恵を用いたいと思った女たちはみな、やぎの毛を紡いだ。
- 27** 部族の長たちは、エポデと胸当てにはめ込む、縞めのうや宝石を持って来た。
- 28** また、ともしび、注ぎの油のため、また香りの高い香のために、香料と油を持って来た。
- 29** イスラエルの子らは男も女もみな、主がモーセを通して行うように命じられたすべての仕事のために、心から進んで献げたのであり、それを進んで献げるものとして主に持って来た。
- 30** モーセはイスラエルの子らに言った。「見よ。主は、ユダ部族の、フルの子ウリの子ベツアルエルを名指して召し、
- 31** 彼に、知恵と英知と知識とあらゆる仕事において、神の霊を満たされた。
- 32** それは、彼が金や銀や青銅の細工に意匠を凝らし、
- 33** はめ込みの宝石を彫刻し、木を彫刻し、意匠を凝らす仕事をするためである。
- 34** また、彼の心に人を教える力をお与えになった。彼と、ダン部族のアヒサマクの子オホリアブに、そのようにされた。
- 35** 主は彼らをすぐれた知恵で満たされた。それは彼らが、あらゆる仕事と巧みな設計をなす者として、彫刻する者、設計する者、青、紫、緋色の撚り糸と亜麻布で刺繍する者、また機織りをする者の仕事を成し遂げるためである。

第36章

- 1 ベツアルエルとオホリアブ、および、聖所の奉仕のあらゆる仕事をする知恵と英知を主に授けられた、心に知恵ある者はみな、すべて主が命じられたとおりに仕事をしなければならない。」
- 2 モーセは、ベツアルエルとオホリアブ、および主が心に知恵を授けられた、すべて心に知恵ある者、またその仕事をするために進み出ようと、心を動かされた者をみな呼び寄せた。
- 3 彼らは、聖所を造る奉仕の仕事のためにイスラエルの子らが持って来たすべての奉納物を、モーセから受け取った。しかしイスラエルの子らは、なおも朝ごとに、進んで献げるものを彼のところに持って来た。
- 4 そこで、聖所のすべての仕事をしていた知恵のある者はみな、それぞれ自分がしていた仕事から離れてやって来て、
- 5 モーセに告げて言った。「民は何度も持って来ます。主がせよと命じられた仕事のためには、あり余るほどのことです。」
- 6 それでモーセは命じて、宿営中に告げ知らせた。「男も女も、聖所の奉納物のためにこれ以上の仕事を行わないように。」こうして民は持って来るのをやめた。
- 7 手持ちの材料は、すべての仕事をするのに十分であり、あり余るほどであった。
- 8 仕事に携わっている者のうち、心に知恵ある者はみな、幕屋を十枚の幕で造った。幕は、撚り糸で織った亜麻布、青、紫、緋色の撚り糸を用い、意匠を凝らしてケルビムを織り出した。
- 9 幕の長さはそれぞれ二十八キュビト、幕の幅はそれぞれ四キュビト、幕はみな同じ寸法とした。
- 10 五枚の幕を互いにつなぎ合わせ、もう五枚の幕も互いにつなぎ合わせた。
- 11 つなぎ合わせたものの端にある幕の縁に、青いひもの輪を付け、もう一つのつなぎ合わせたものの端にある幕の縁にも、そのようにした。
- 12 その一枚の幕に五十個の輪を付け、もう一つのつなぎ合わせた幕の端にも五十個の輪を付け、その輪を互いに向かい合わせにした。
- 13 金の留め金を五十個作り、その留め金で幕を互いにつなぎ合わせ、こうして一つの幕屋にした。
- 14 また、幕屋の上に掛ける天幕のために、やぎの毛の幕を作った。その幕を十一枚作った。
- 15 幕の長さはそれぞれ三十キュビト、幕の幅はそれぞれ四キュビト、その十一枚の幕は同じ寸法とした。
- 16 そのうち五枚の幕を一つに、もう六枚の幕も一つにつなぎ合わせ、
- 17 つなぎ合わせたものの端にある幕の縁には五十個の輪を付け、もう一つのつなぎ合わせた幕の縁にも五十個の輪を付けた。
- 18 青銅の留め金を五十個作り、天幕をつなぎ合わせて一つにした。

- 19 天幕のために、赤くなめした雄羊の皮で覆いを作り、さらに、その上に掛ける覆いをじゅごんの皮で作った。
- 20 さらに幕屋のために、アカシヤ材で、まっすぐに立てる板を作った。
- 21 一枚の板は、長さ十キュビト、板一枚の幅は一キュビト半。
- 22 板一枚ごとに、はめ込みのほぞを二つ作り、幕屋のすべての板にそのようにした。
- 23 こうして幕屋のために板を作った。南側に二十枚。
- 24 その二十枚の板の下に銀の台座を四十個作った。一枚の板の下に、二つのほぞのために二個の台座、ほかの板の下にも、二つのほぞのために二個の台座を作った。
- 25 幕屋のもう一つの側、北側に板二十枚。
- 26 銀の台座四十個。すなわち、一枚の板の下に二個の台座。次の板の下にも二個の台座。
- 27 幕屋のうしろ、西側に板六枚を作った。
- 28 幕屋のうしろの両隅に板二枚を作った。
- 29 これらは底部では別々であるが、上部では、一つの環のところで一つに合わさるようにした。二枚とも、そのように作った。これらが両隅である。
- 30 板は八枚、その銀の台座は十六個。すなわち、一枚の板の下に二個ずつの台座があった。
- 31 また、アカシヤ材で横木を作った。すなわち、幕屋の一方の側の板のために五本、
- 32 幕屋のもう一方の側の板のために横木五本、幕屋のうしろ、西側の板のために横木を五本作った。
- 33 それから、板の中間を端から端まで通る中央横木を作った。
- 34 板には金をかぶせ、横木を通す環を金で作った。横木にも金をかぶせた。
- 35 また、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用いて、垂れ幕を作った。これに意匠を凝らしてケルビムを織り出した。
- 36 その垂れ幕のために、金をかぶせたアカシヤ材の四本の柱を作った。それらの鉤は金であった。また、柱のために四つの銀の台座を鑄造した。
- 37 天幕の入り口のために、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用い、刺繡を施して垂れ幕を作った。
- 38 また、五本の柱とその鉤を作り、柱頭と頭つなぎに金をかぶせた。その五つの台座は青銅であった。

第37章

- 1 バツアルエルは、アカシヤ材で、長さ二キュビト半、幅一キュビト半、高さ一キュビト半の箱を作り、
- 2 その内側と外側に純金をかぶせ、その周りに金の飾り縁を作った。
- 3 箱のために金の環を四つ鑄造し、その四隅の基部に取り付けた。一方の側に二つの環を、もう一方の側にもう二つの環を取り付けた。
- 4 また、アカシヤ材で棒を作り、それに金をかぶせ、
- 5 箱を担ぐために、その棒を箱の両側の環に通した。
- 6 さらに、純金で「宥めの蓋」を作った。その長さは二キュビト半、幅は一キュビト半。
- 7 また、二つの金のケルビムを作った。槌で打って、「宥めの蓋」の両端に作った。
- 8 一つを一方の端に、もう一つを他方の端に作った。「宥めの蓋」の一部として、ケルビムをその両端に作った。
- 9 ケルビムは両翼を上の方に広げ、その翼で「宥めの蓋」をおおっていた。互いに向かい合って、ケルビムの顔が「宥めの蓋」の方を向いていた。
- 10 彼はアカシヤ材で机を作った。その長さは二キュビト、幅は一キュビト、高さは一キュビト半であった。
- 11 これに純金をかぶせ、その周りに金の飾り縁を作った。
- 12 その周りに一手幅の枠を作り、その枠の周りに金の飾り縁を作った。
- 13 その机のために金の環を四つ鑄造し、四本の脚のところの四隅にその環を取り付けた。
- 14 その環は枠の脇に付け、机を担ぐ棒を入れるところとした。
- 15 アカシヤ材で机を担ぐための棒を作り、これに金をかぶせた。
- 16 また、机の上の備品、すなわち、注ぎのささげ物を注ぐための皿、ひしゃく、水差し、瓶を純金で作った。
- 17 また彼は燭台を純金で作った。その燭台は槌で打って作った。それには、台座と支柱と、がくと節と花卉があった。
- 18 六本の枝がその脇の部分から、すなわち燭台の三本の枝が一方の脇から、燭台のもう三本の枝がもう一方の脇から出ていた。
- 19 一方の枝には、アーモンドの花の形をした、節と花卉のある三つのがくが、また、もう一方の枝にも、アーモンドの花の形をした、節と花卉のある三つのがくが付いていた。燭台から出る六本の枝はみな、そのようであった。
- 20 燭台そのものには、アーモンドの花の形をした、節と花卉のある四つのがくが付いていた。
- 21 それから出る一对の枝の下に一つの節、それから出る次の一对の枝の下に一つの節、それから出るその次の一对の枝の下に一つの節。このように六本の枝が燭台から出ていた。
- 22 それらの節と枝は燭台と一体で、その全体は一つの純金を打って作られていた。
- 23 また、ともしび皿を七つ作った。その芯切りばさみも芯取り皿も純金であった。

- 24** 純金一タラントで、燭台とそのすべての器具を作った。
- 25** 彼はアカシヤ材で香の祭壇を作った。長さ一キュビト、幅一キュビトの正方形で、高さは二キュビトであった。祭壇から角が出ているようにした。
- 26** 祭壇の上面と、側面のすべて、および角には純金をかぶせ、また、その周りには金の飾り縁を作った。
- 27** また、その祭壇のために二つの金の環を作った。その飾り縁の下の両側に、相對するよう
に作り、そこに祭壇を担ぐ棒を通した。
- 28** その棒をアカシヤ材で作り、それに金をかぶせた。
- 29** ベツアルエルはまた、調香の技法を凝らして、聖なる注ぎの油と純粋な香り高い香を作っ
た。

第38章

- 1 また彼は、アカシヤ材で全焼のささげ物の祭壇を造った。長さ五キュビト、幅五キュビトの正方形で、高さは三キュビトであった。
- 2 その四隅の上に角を作った。その角は祭壇から出ているようになっていた。彼は祭壇に青銅をかぶせた。
- 3 彼は、祭壇のすべての用具、すなわち、壺、十能、鉢、肉刺し、火皿を作った。そのすべての用具を青銅で作った。
- 4 祭壇のために、その下の方、すなわち、祭壇の張り出した部分の下に、祭壇の高さの半ばに達する青銅の網細工の格子を作った。
- 5 四個の環を鑄造して、青銅の格子の四隅で棒を通すところとした。
- 6 彼はアカシヤ材で棒を作り、それらに青銅をかぶせた。
- 7 その棒を祭壇の両側にある環に通して、それを担ぐようにした。祭壇は、板で、中が空洞になるように作った。
- 8 また、青銅で洗盤を、また青銅でその台を作った。会見の天幕の入り口で務めをした女たちの鏡で、それを作った。
- 9 彼はまた、庭を造った。南側では、庭の掛け幕は撚り糸で織った百キュビトの亜麻布でできていた。
- 10 柱は二十本、その台座は二十個で青銅、柱の鉤と頭つなぎは銀であった。
- 11 北側も百キュビトで、柱は二十本、台座は二十個で青銅、その柱の鉤と頭つなぎは銀であった。
- 12 西側には五十キュビトの掛け幕があり、柱は十本、その台座は十個、その柱の鉤と頭つなぎは銀であった。
- 13 正面の東側も五十キュビト。
- 14 門の片側には、十五キュビトの掛け幕と、柱が三本、台座が三個あった。
- 15 庭の門の両側をなすもう一方の側にも十五キュビトの掛け幕があり、柱は三本、台座は三個であった。
- 16 庭の周囲の掛け幕はみな、撚り糸で織った亜麻布でできていた。
- 17 柱のための台座は青銅で、柱の鉤と頭つなぎは銀、柱頭のかぶせ物も銀であった。それで庭の柱はみな、銀の頭つなぎでつなぎ合わされていた。
- 18 庭の門の垂れ幕は、刺繍を施したもので、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布でできていた。長さは二十キュビト、高さ、あるいは幅は五キュビトで、庭の掛け幕に対応していた。
- 19 その柱は四本、その台座は四個で青銅であった。その鉤は銀であり、柱頭のかぶせ物と頭つなぎは銀であった。
- 20 ただし、幕屋とその周りの庭の杭は、みな青銅であった。
- 21 幕屋、すなわち、あかしの幕屋の記録は次のとおりである。これはモーセの命によって記録されたもので、祭司アロンの子イタマルのもとでレビ人が奉仕したことであった。

- 22** ユダ部族に属する、フルの子ウリの子ベツアルエルは、主がモーセに命じられたことをことごとく行った。
- 23** 彼とともに、ダン部族の、アヒサマクの子オホリアブがいた。オホリアブは、彫刻をする者、意匠を凝らす者、また青、紫、緋色の撚り糸と亜麻布で刺繍をする者であった。
- 24** 聖所の設営のすべてにおいて、その仕事のために用いられた金、すなわち奉献物の金の総計は、聖所のシェケルで二十九タラント七百三十シェケルであった。
- 25** 登録された会衆による銀は、聖所のシェケルで百タラント千七百七十五シェケルであった。
- 26** 二十歳以上で登録された者が全部で六十万三千五百五十人だったので、これは一人当たり一ベカ、聖所のシェケルで半シェケルである。
- 27** 聖所の台座と垂れ幕の台座を鑄造するのに用いた銀は百タラントで、百個の台座に百タラント用いた。一タラントで一個の台座である。
- 28** また、千七百七十五シェケルで柱の鉤を作り、柱の頭にかぶせ、頭つなぎで柱をつないだ。
- 29** 奉献物の青銅は七十タラント二千四百シェケルであった。
- 30** これを用いて、彼は会見の天幕の入り口の台座、青銅の祭壇と、それに付属する青銅の格子、および祭壇のすべての用具、
- 31** また、庭の周りの台座、庭の門の台座、幕屋のすべての杭、庭の周りのすべての杭を作った。

第39章

- 1 彼らは、青、紫、緋色の撚り糸で、聖所で務めを行うための式服を作った。また、主がモーセに命じられたとおりに、アロンの聖なる装束を作った。
- 2 金色、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用いて、エポデを作った。
- 3 彼らは金の板を打ち延ばして金箔を作り、これを切って糸とし、青、紫、緋色の撚り糸に撚り込み、それぞれ亜麻布の中に意匠を凝らして織り込んだ。
- 4 エポデに付ける肩当てが作られ、それぞれがエポデの両端に結ばれた。
- 5 エポデの上に来るあや織りの帯はエポデと同じ作りで、金色、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用い、エポデの一部となるようにした。主がモーセに命じられたとおりである。
- 6 彼らは縞めのうを金縁の細工の中にはめ込んだ。それには、イスラエルの息子たちの名が、印章を彫るように刻まれていた。
- 7 彼らはそれらをエポデの肩当てに付け、イスラエルの息子たちが覚えられるための石とした。主がモーセに命じられたとおりである。
- 8 また、意匠を凝らして、エポデの細工と同じように、金色、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用いて、胸当てを作った。
- 9 正方形で二重にしてその胸当てを作った。長さは一ゼレト、幅一ゼレトで、二重であった。
- 10 その中に四列の宝石をはめ込んだ。第一列は赤めのう、トパーズ、エメラルド。
- 11 第二列はトルコ石、サファイア、ダイヤモンド。
- 12 第三列はヒヤシンス石、めのう、紫水晶。
- 13 第四列は緑柱石、縞めのう、碧玉。これらが金縁の細工の中にはめ込まれた。
- 14 これらの宝石はイスラエルの息子たちの名にちなむもので、彼らの名にしたがい十二個であった。それらは印章のように、それぞれに名が彫られ、十二部族を表した。
- 15 また、胸当てのために、撚ったひものような鎖を純金で作った。
- 16 彼らは金縁の細工二個と金の環二個を作り、二個の環を胸当ての両端に付けた。
- 17 胸当ての両端の二個の環には、二本の金のひもを付けた。
- 18 その二本のひものもう一方の端を、先の二つの金縁の細工と結び、エポデの肩当ての前側に付けた。
- 19 さらに二個の金の環を作り、それらを胸当ての両端に、エポデに接する胸当ての内側の縁に付けた。
- 20 また、さらに二個の金の環を作り、これをエポデの二つの肩当ての下端の前に、エポデのあや織りの帯の上部の継ぎ目に、向かい合うように付けた。
- 21 胸当ては、その環からエポデの環に青ひもで結び付け、エポデのあや織りの帯の上にあるようにし、胸当てがエポデから外れないようにした。主がモーセに命じられたとおりである。

- 22 また、エポデの下に着る青服を、織物の技法を凝らして青色の撚り糸だけで作った。
- 23 青服の首の穴はその真ん中にあり、よろいの襟のようで、ほころびないようにその周りに縁を付けた。
- 24 青服の裾の上に、青、紫、緋色の撚り糸で撚ったざくろを作った。
- 25 また彼らは純金の鈴を作り、その鈴を青服の裾周りの、ざくろとざくろとの間に付けた。
- 26 すなわち、務めを行うための青服の裾周りには、鈴、ざくろ、鈴、ざくろとなるようにした。主がモーセに命じられたとおりである。
- 27 彼らはアロンとその子らのために、織物の技法を凝らして、亜麻布の長服を、
- 28 亜麻布のかぶり物、亜麻布の麗しいターバン、そして撚り糸で織った亜麻布のももひきを作った。
- 29 また、撚り糸で織った亜麻布と、青、紫、緋色の撚り糸を用い、刺繍を施して飾り帯を作った。主がモーセに命じられたとおりである。
- 30 また、聖別の記章の札を純金で作し、その上に印章を彫るように「主の聖なるもの」という文字を記した。
- 31 これに青ひもを付け、それを、かぶり物に上の方から結び付けた。主がモーセに命じられたとおりである。
- 32 こうして、会見の天幕である幕屋のすべての奉仕が終わった。イスラエルの子らは、すべて主がモーセに命じられたとおりに行い、そのようにした。
- 33 彼らは幕屋をモーセのところに運んで来た。天幕とそのすべての備品、留め金、板、横木、柱、台座、
- 34 赤くなめした雄羊の皮の覆い、じゅごんの皮の覆い、仕切りの垂れ幕、
- 35 あかしの箱と、その棒、「寝めの蓋」、
- 36 机と、そのすべての備品、臨在のパン、
- 37 きよい燭台と、そのともしび皿、すなわち一列に並べるともしび皿、そのすべての道具、ともしび用の油、
- 38 金の祭壇、注ぎの油、香り高い香、そして天幕の入り口の垂れ幕、
- 39 青銅の祭壇と、それに付属する青銅の格子、その棒、そのすべての用具、洗盤とその台、
- 40 庭の掛け幕と、その柱、その台座、庭の門のための垂れ幕と、そのひも、その杭、会見の天幕の幕屋の奉仕に用いるすべての用具、
- 41 聖所で務めを行うための式服、すなわち、祭司アロンの聖なる装束と、祭司として仕える彼の子らの装束である。
- 42 イスラエルの子らは、すべて主がモーセに命じられたとおりに、そのとおりに、すべての奉仕を行った。
- 43 モーセがすべての仕事を見ると、彼らは、見よ、主が命じられたとおりに行っていた。そこでモーセは彼らを祝福した。

第40章

- 1 主はモーセに告げられた。
- 2 「第一の月の一日に、あなたは会見の天幕である幕屋を設営しなければならない。
- 3 あなたはその中にあかしの箱を置き、垂れ幕で箱の前をさえぎる。
- 4 机を運び入れて備品を並べ、燭台を運び入れて、そのともしび皿を載せる。
- 5 香のための金の祭壇をあかしの箱の前に置き、垂れ幕を幕屋の入り口に掛ける。
- 6 会見の天幕である幕屋の入り口の前には、全焼のささげ物の祭壇を据え、
- 7 会見の天幕と祭壇との間に洗盤を据えて、これに水を入れる。
- 8 周りに庭を設け、庭の門に垂れ幕を掛ける。
- 9 あなたは注ぎの油を取って、幕屋とその中にあるすべてのものの油注ぎを行い、それと、そのすべての用具を聖別する。それは聖なるものとなる。
- 10 全焼のささげ物の祭壇とそのすべての用具の油注ぎを行い、その祭壇を聖別する。祭壇は最も聖なるものとなる。
- 11 洗盤とその台の油注ぎを行い、これを聖別する。
- 12 また、あなたはアロンとその子らを会見の天幕の入り口に近づかせ、水で洗い、
- 13 アロンに聖なる装束を着せ、油注ぎを行って彼を聖別し、祭司としてわたしに仕えさせる。
- 14 また彼の子らを近づかせ、これに長服を着せる。
- 15 彼らの父に油注ぎをしたように、彼らにも油注ぎをし、祭司としてわたしに仕えさせる。彼らが油注がれることは、彼らの代々にわたる永遠の祭司職のためである。」
- 16 モーセは、すべて主が彼に命じられたとおりに行い、そのようにした。
- 17 第二年の第一の月、その月の一日に幕屋は設営された。
- 18 モーセは幕屋を設営した。まず、その台座を据え、その板を立て、その横木を通し、その柱を立て、
- 19 幕屋の上に天幕を広げ、その上に天幕の覆いを掛けた。主がモーセに命じられたとおりである。
- 20 また、さとの板を取って箱に納め、棒を箱に付け、「宥めの蓋」を箱の上に置き、
- 21 箱を幕屋の中に入れ、仕切りの垂れ幕を掛け、あかしの箱の前をさえぎった。主がモーセに命じられたとおりである。
- 22 また、会見の天幕の中に、すなわち、幕屋の内部の北側、垂れ幕の外側に机を置いた。
- 23 その上にパンを一行にして、主の前に並べた。主がモーセに命じられたとおりである。
- 24 会見の天幕の中、机の反対側、幕屋の内部の南側に燭台を置き、
- 25 主の前にともしび皿を掲げた。主がモーセに命じられたとおりである。
- 26 それから、会見の天幕の中の垂れ幕の前に、金の祭壇を置き、
- 27 その上で香り高い香をたいた。主がモーセに命じられたとおりである。
- 28 また、幕屋の入り口に垂れ幕を掛け、

- 29** 会見の天幕である幕屋の入り口に全焼のささげ物の祭壇を置き、その上に全焼のささげ物と穀物のささげ物を献げた。主がモーセに命じられたとおりである。
- 30** また、会見の天幕と祭壇との間に洗盤を置き、洗いのために、それに水を入れた。
- 31** モーセとアロンとその子らは、それで手と足を洗った。
- 32** 会見の天幕に入るとき、また祭壇に近づくとき、彼らはいつも洗った。主がモーセに命じられたとおりである。
- 33** また、幕屋と祭壇の周りに庭を設け、庭の門に垂れ幕を掛けた。こうしてモーセはその仕事を終えた。
- 34** そのとき、雲が会見の天幕をおおい、主の栄光が幕屋に満ちた。
- 35** モーセは会見の天幕に入ることができなかった。雲がその上にとどまり、主の栄光が幕屋に満ちていたからである。
- 36** イスラエルの子らは、旅路にある間、いつも雲が幕屋から上ったときに旅立った。
- 37** 雲が上らないと、上る日まで旅立たなかった。
- 38** 旅路にある間、イスラエルの全家の前には、昼は主の雲が幕屋の上に、夜は雲の中に火があった。

レビ記

Leviticus

第1章

- 1 主はモーセを呼び、会見の天幕から彼にこう告げられた。
- 2 「イスラエルの子らに告げよ。あなたがたの中でだれかが主にささげ物を献げるときは、家畜の中から、牛か羊をそのささげ物として献げなければならない。
- 3 そのささげ物が牛の全焼のささげ物である場合には、傷のない雄を献げなければならない。その人は自分が主の前に受け入れられるように、それを会見の天幕の入り口に連れて行き、
- 4 その全焼のささげ物の頭に手を置く。それがその人のための宥めとなり、彼は受け入れられる。
- 5 その若い牛は主の前で屠り、祭司であるアロンの子らとその血を携えて行って、会見の天幕の入り口にある祭壇の側面にその血を振りかける。
- 6 また、全焼のささげ物はその皮を剥ぎ、各部に切り分ける。
- 7 祭司であるアロンの子らは祭壇の上に火を置き、その火の上に薪を整える。
- 8 祭司であるアロンの子らは、その切り分けた各部と、頭と脂肪を祭壇の火の上の薪の上に整える。
- 9 内臓と足は水で洗う。祭司はこれらすべてを祭壇の上で焼いて煙にする。これは全焼のささげ物、主への食物のささげ物、芳ばしい香りである。
- 10 そのささげ物が、羊の群れ、すなわち羊またはやぎの中からの全焼のささげ物である場合には、傷のない雄を献げなければならない。
- 11 それを祭壇の北側で、主の前で屠り、祭司であるアロンの子らが、その血を祭壇の側面に振りかける。
- 12 また、そのささげ物は各部に切り分ける。祭司はこれを頭と脂肪とともに祭壇の火の上の薪の上に整える。
- 13 内臓と足は水で洗う。祭司はこれらすべてを献げ、祭壇の上で焼いて煙にする。これは全焼のささげ物であり、主への食物のささげ物、芳ばしい香りである。
- 14 主へのささげ物が鳥の全焼のささげ物である場合には、山鳩、または家鳩のひなの中から、自分のささげ物を献げなければならない。
- 15 祭司はそれを祭壇に持って来て、その頭をひねり、祭壇の上で焼いて煙にする。その血は祭壇の側面に絞り出す。
- 16 餌袋はその中身とともに取り除き、祭壇の東側の灰置き場に投げ捨てる。
- 17 その翼は引き裂くが、切り離してはならない。祭司はそれを祭壇の上、火の上の薪の上で焼いて煙にする。これは全焼のささげ物であり、主への食物のささげ物、芳ばしい香りである。

第2章

- 1 人が主に穀物のささげ物を献げるとき、そのささげ物は小麦粉でなければならない。その上に油を注ぎ、その上に乳香を添え、
- 2 それを祭司であるアロンの子らのところに持って行く。祭司はそこから、ひとつかみの小麦粉と油と乳香すべてを覚えの分として取り出し、祭壇の上で焼いて煙にする。これは主への食物のささげ物、芳ばしい香りである。
- 3 その穀物のささげ物の残りはアロンとその子らのものとなる。それは主への食物のささげ物のうちの、最も聖なるものである。
- 4 あなたがかまどで焼いた穀物のささげ物を献げる場合には、油を混ぜた小麦粉の、種なしの輪形パン、あるいは油を塗った、種なしの薄焼きパンとする。
- 5 また、あなたのささげ物が、平鍋の上で焼いた穀物のささげ物である場合には、油を混ぜた小麦粉の、種なしのものでなければならない。
- 6 あなたはそれを粉々に砕いて、その上に油を注ぎなさい。これは穀物のささげ物である。
- 7 また、鍋で作る穀物のささげ物は、油を混ぜた小麦粉で作る。
- 8 あなたは、これらの物で作られた穀物のささげ物を主のもとに携えて行く。それをあなたが祭司のところに持って行き、祭司はそれを祭壇に献げる。
- 9 祭司は、その穀物のささげ物から一部を覚えの分として取り出し、祭壇の上で焼いて煙にする。これは主への食物のささげ物、芳ばしい香りである。
- 10 穀物のささげ物の残りはアロンとその子らのものとなる。これは主への食物のささげ物のうちの、最も聖なるものである。
- 11 あなたがたが主に献げる穀物のささげ物はみな、パン種を入れて作ってはならない。パン種や蜜は、少しであっても、主への食物のささげ物として焼いて煙にしてはならない。
- 12 それらは初物のささげ物として主に献げることができる。しかしそれらを、芳ばしい香りとして祭壇に献げてはならない。
- 13 穀物のささげ物はみな、塩で味をつけなさい。穀物のささげ物に、あなたの神の契約の塩を欠かしてはならない。あなたのどのささげ物も、塩をかけて献げなければならない。
- 14 あなたが初穂による穀物のささげ物を主に献げる場合には、火にあぶった穀粒、新穀のひき割り麦を、あなたの初穂による穀物のささげ物として献げなさい。
- 15 あなたはその上に油を加え、その上に乳香を添える。これは穀物のささげ物である。
- 16 祭司は、そのひき割り麦の一部とその油の一部、それにその乳香すべてを覚えの分として焼いて煙にする。これは主への食物のささげ物である。

第3章

- 1 そのささげ物が交わりのいけにえの場合には、献げようとするのが牛であるなら、雄でも雌でも傷のないものを主の前に献げなければならない。
- 2 まず、ささげ物の頭に手を置き、それを会見の天幕の入り口で屠り、祭司であるアロンの子らがその血を祭壇の側面に振りかける。
- 3 次に交わりのいけにえから、主への食物のささげ物として、内臓をおおう脂肪と、内臓に付いている脂肪すべて、
- 4 また、二つの腎臓と、それに付いている腰のあたりの脂肪、さらに腎臓とともに取り除いた、肝臓の上の小葉を献げる。
- 5 アロンの子らは、これを祭壇の上で、火の上の薪の上にある全焼のささげ物に載せて、焼いて煙にする。これは主への食物のささげ物、芳ばしい香りである。
- 6 交わりのいけにえとしての、主へのささげ物が羊であるなら、雄でも雌でも傷のないものを献げなければならない。
- 7 ささげ物として献げようとするのが子羊であるなら、それを主の前に連れて来る。
- 8 そして、そのささげ物の頭に手を置き、それを会見の天幕の前で屠る。アロンの子らは、その血を祭壇の側面に振りかける。
- 9 そして、その交わりのいけにえから、主への食物のささげ物としてその脂肪を献げる。すなわち、背骨に沿って取り除いたあぶら尾すべて、内臓をおおう脂肪、内臓に付いている脂肪すべて、
- 10 また、二つの腎臓と、それに付いている腰のあたりの脂肪、さらに腎臓とともに取り除いた、肝臓の上の小葉である。
- 11 祭司は祭壇の上で、それを食物として、主への食物のささげ物として焼いて煙にする。
- 12 そのささげ物がやぎであるなら、それを主の前に連れて行く。
- 13 そして、ささげ物の頭に手を置き、それを会見の天幕の前で屠る。アロンの子らは、その血を祭壇の側面に振りかける。
- 14 そして主への食物のささげ物として、そのいけにえから、内臓をおおう脂肪と、内臓に付いている脂肪すべて、
- 15 また、二つの腎臓と、それに付いている腰のあたりの脂肪、さらに腎臓とともに取り除いた、肝臓の上の小葉を献げる。
- 16 祭司は祭壇の上で、それを食物として、芳ばしい香りのための食物のささげ物として焼いて煙にする。脂肪はすべて主のものである。
- 17 あなたがたがどこに住んでいても代々守るべき、永遠の掟はこれである。あなたがたは、いかなる脂肪も血も食べてはならない。」

第4章

- 1 主はモーセにこう告げられた。
- 2 「イスラエルの子らに告げよ。人が、主がしてはならないと命じたすべてのことから離れて、気づかずに罪に陥り、その一つでも行ってしまった、以下のような場合には――
- 3 油注がれた祭司が罪に陥って、民が責めを覚える場合には、その祭司は自分が陥った罪のために、傷のない若い雄牛を罪のきよめのささげ物として主に献げる。
- 4 彼はその雄牛を会見の天幕の入り口、主の前に連れて行き、雄牛の頭に手を置き、主の前でその雄牛を屠る。
- 5 その油注がれた祭司はその雄牛の血を取り、それを会見の天幕に持って入る。
- 6 その祭司は指を血に浸し、主の前で、聖所の垂れ幕に向けてその血を七度振りまく。
- 7 祭司はその血を、会見の天幕の中にある、主の前にある香り高い香の祭壇の四隅の角に塗り、その雄牛の血をすべて、会見の天幕の入り口にある全焼のささげ物の祭壇の土台に流す。
- 8 そして、罪のきよめのささげ物であるその雄牛の脂肪をすべて取り除く。すなわち、内臓をおおう脂肪と、内臓に付いている脂肪すべて、
- 9 また、二つの腎臓と、それに付いている腰のあたりの脂肪、さらに腎臓とともに取り除いた、肝臓の上の小葉を取り除く。
- 10 これは交わりのいけにえの牛から取り除く場合と同様である。祭司はそれらを全焼のささげ物の祭壇の上で焼いて煙にする。
- 11 その雄牛の皮とそのすべての肉、頭と足の部分、さらに内臓と汚物、
- 12 すなわちその雄牛の残りすべてを、宿営の外のきよい所、すなわち灰捨て場に運び出し、薪の火で焼く。これは灰捨て場で焼かれる。
- 13 イスラエルの会衆すべてが迷い出て、すなわち、あることがその集会の目から隠れていて、主がしてはならないと命じたすべてのことのうち一つでも行い、後になって責めを覚える場合には、
- 14 自らの罪が明らかになったときに、その集会の人々は罪のきよめのささげ物として若い雄牛を献げ、それを会見の天幕の前に連れて行く。
- 15 会衆の長老たちは主の前でその雄牛の頭に手を置き、主の前でその雄牛を屠る。
- 16 油注がれた祭司は、その雄牛の血を会見の天幕に持って入る。
- 17 祭司は指を血に浸し、主の前で、垂れ幕に向けてその血を七度振りまく。
- 18 そして、その血を会見の天幕の中にある主の前の祭壇の四隅の角に塗る。また、その血はすべて、会見の天幕の入り口にある全焼のささげ物の祭壇の土台に流す。
- 19 脂肪はすべてその雄牛から取り、祭壇の上で焼いて煙にする。
- 20 罪のきよめのささげ物の雄牛に対してしたように、この雄牛に対して行う。こうして祭司は彼らのために宥めを行う。そして彼らは赦される。
- 21 その雄牛は宿営の外に運び出し、先の雄牛を焼いた場合と同様に、それを焼く。これは集会のための罪のきよめのささげ物である。

- 22 族長が罪に陥って、その神、主がしてはならないと命じたすべてのうちの一つでも、気づかずに行ったが、後になって責めを覚える場合、
- 23 または、自分が陥っている罪が知らされた場合には、ささげ物として傷のない雄やぎを連れて来る。
- 24 そして、そのやぎの頭に手を置き、全焼のささげ物を屠る場所で、主の前でそれを屠る。これは罪のきよめのささげ物である。
- 25 祭司は罪のきよめのささげ物の血を指に付け、それを全焼のささげ物の祭壇の四隅の角に塗る。残りの血は全焼のささげ物の祭壇の土台に流す。
- 26 また、交わりのいけにえの脂肪の場合と同様に、その脂肪はすべて祭壇の上で焼いて煙にする。こうして祭司は彼のために、罪を除いて宥めを行う。そして彼は赦される。
- 27 民衆の一人が、主がしてはならないと命じたことの一つでも行って、気づかずに罪に陥ってしまったが、後になって責めを覚える場合、
- 28 または、自分が陥っていた罪が知らされた場合には、その人が陥っていた罪のために、ささげ物として傷のない雌やぎを連れて来る。
- 29 そして、その罪のきよめのささげ物の頭に手を置き、全焼のささげ物の場所で罪のきよめのささげ物を屠る。
- 30 祭司はその血を指に付け、それを全焼のささげ物の祭壇の四隅の角に塗る。その血はすべて祭壇の土台に流す。
- 31 交わりのいけにえから取り除かれる場合と同様に、その脂肪はすべて取り除く。祭司は主への芳ばしい香りとして、それを祭壇の上で焼いて煙にする。こうして祭司はその人のために宥めを行う。そして彼は赦される。
- 32 罪のきよめのささげ物のために、ささげ物として子羊を連れて来る場合には、傷のない雌羊を連れて来る。
- 33 その罪のきよめのささげ物の頭の上に手を置き、全焼のささげ物を屠る場所で、罪のきよめのささげ物としてそれを屠る。
- 34 祭司は罪のきよめのささげ物の血を指に付け、それを全焼のささげ物の祭壇の四隅の角に塗る。その血はすべて祭壇の土台に流す。
- 35 また、交わりのいけにえの子羊の脂肪が取り除かれる場合と同様に、その脂肪はすべて取り除く。祭司はそれを祭壇の上で、主への食物のささげ物の上に載せて、焼いて煙にする。こうして祭司は彼のために、陥っていた罪を除いて宥めを行う。そして彼は赦される。

第5章

- 1 人が罪に陥ったとき、すなわち、その人自身が見ていたり知っていたりする証人であるのに、証言しなければのろわれるという声を聞きながらも、それをしない場合、その人は咎を負わなければならない。
- 2 あるいは、汚れた生き物の死骸であれ、汚れた家畜の死骸であれ、汚れた群がるものの死骸であれ、何か汚れたものに触れて汚れていたのに、そのことが彼には隠れていて、後になって責めを覚える場合、
- 3 または、いかなるものであれ、触れれば汚れると言われる人間の汚れに触れ、そのことを知ってはいたものの彼には隠れていて、後になって責めを覚える場合、
- 4 また、害になることであれ益になることであれ、誓ったことが何であれ、人が軽々しく口で誓った場合、そのことを知ってはいたものの彼には隠れていて、後になってその一つについて責めを覚える場合――
- 5 これらの一つについて責めを覚える場合には、自分が陥っていた罪を告白し、
- 6 自分が陥っていた罪のために償いとして、羊の群れの子羊であれ、やぎであれ、雌一匹を主のもとに連れて行き、罪のきよめのささげ物とする。祭司は彼のために、罪を除いて宥めを行う。
- 7 しかし、もしその人に羊を買う余裕がなければ、自分が陥っていた罪の償いとして、山鳩二羽あるいは家鳩のひな二羽を主のところに持って行く。一羽は罪のきよめのささげ物、もう一羽は全焼のささげ物とする。
- 8 彼はこれらを祭司のところに持って行き、祭司はまず、罪のきよめのささげ物となるものを献げる。彼はその頭の首のところにひねる。しかし、それを切り離してはならない。
- 9 それから罪のきよめのささげ物の血を祭壇の側面にかけ、血の残りはその祭壇の土台のところに絞り出す。これは罪のきよめのささげ物である。
- 10 祭司はもう一羽のほうも、定めにしたがって全焼のささげ物とする。こうして祭司はその人のために、陥っていた罪を除いて宥めを行う。そして彼は赦される。
- 11 もしその人が、山鳩二羽あるいは家鳩のひな二羽さえも手に入れることができないのなら、自分の罪のために、ささげ物として、十分の一エパの小麦粉を罪のきよめのささげ物として持って行く。その人はその上に油を加えたり、その上に乳香を添えたりしてはならない。これは罪のきよめのささげ物であるから。
- 12 その人はそれを祭司のところに持って行く。祭司は、その中からひとつかみを覚えの分として取り、祭壇の上で、主への食物のささげ物とともに焼いて煙にする。これは罪のきよめのささげ物である。
- 13 こうして、祭司は彼のために、陥っていたこれらの罪の一つのゆえに宥めを行う。そして彼は赦される。その残りは、穀物のささげ物と同様に祭司のものとなる。」
- 14 主はモーセにこう告げられた。
- 15 「人が信頼を裏切ることをしたとき、すなわち、主の聖なるものに関して気づかずに罪に陥ってしまった場合、羊の群れから傷のない雄羊、それも、聖所のシェケルで数シェケル

の償いの銀に相当すると評価される雄羊一匹を、代償のささげ物として主のもとに連れて行く。

- 16 その人は、その聖なるものに関して罪に陥っていたことの償いをする。それにその五分之一を加えて、祭司に渡す。祭司は、その代償のささげ物の雄羊をもって彼のために宥めを行い、彼は赦される。
- 17 また、もし人が罪に陥っていて、主がしてはならないと命じたすべてのうち一つでも行いながら自覚がなく、後になって責めを覚えるなら、その人はその咎を負う。
- 18 その人は羊の群れから、代償として評価された、傷のない雄羊一匹を祭司のところに連れて行く。祭司は彼のために、彼が自覚せずに、また気づかずに犯した過失のゆえに宥めを行う。そして彼は赦される。
- 19 これは代償のささげ物である。彼は確かに主の前に償いの責めを負っていた。」

第6章

- 1 主はモーセにこう告げられた。
- 2 「人が罪に陥っていて主の信頼を裏切るとき、すなわち、預かり物や担保の物やかすめた物について同胞を欺いたり、あるいは同胞を脅迫してゆすり取ったり、
- 3 あるいは落とし物を見つけながらも欺いたりするなどして、人が罪に陥っていて行う事柄の一つについて、偽りの誓いをするようなとき、
- 4 その人が罪に陥り、後になって責めを覚える場合には、そのかすめた品や脅迫してゆすり取った物、自分に託された預かり物、見つけた落とし物、
- 5 あるいは、それについて偽って誓った物をすべて返さなければならない。元の物を償い、また、それに五分の一を加えなければならない。彼は自分が責めを覚えるときに、その元の所有者にそれを返さなければならない。
- 6 その人は羊の群れから、傷のない、代償として評価された雄羊一匹を、主への自分のための代償のささげ物として、祭司のところに連れて行く。
- 7 祭司は主の前でその人のために宥めを行う。彼は、自分が行って責めを覚えるようになったどのことについても赦される。」
- 8 主はモーセにこう告げられた。
- 9 「アロンとその子らに命じよ。全焼のささげ物についてのおしえは次のとおりである。全焼のささげ物そのものは、一晩中、朝まで祭壇の上の炉床にあるようにし、祭壇の火をそこで燃え続けさせる。
- 10 祭司は亜麻布の衣を着て、亜麻布のももひきを身に着ける。そして、祭壇の上で火が焼き尽くした全焼のささげ物の脂肪の灰を取り出し、祭壇のそばに置く。
- 11 それからその装束を脱ぎ、別の装束を着け、脂肪の灰を宿営の外のきよい所に運び出す。
- 12 祭壇の火はそのまま燃え続けさせ、それを消してはならない。祭司は朝ごとに、その上に薪をくべ、その上に全焼のささげ物を整え、その上で交わりのいけにえの脂肪を焼いて煙にする。
- 13 火は絶えず祭壇の上で燃え続けさせなければならない。消してはならない。
- 14 穀物のささげ物についてのおしえは次のとおりである。アロンの子らは祭壇の前で、それを主の前に献げる。
- 15 すなわち、その中から穀物のささげ物の小麦粉ひとつかみと油を覚えの分として取り出し、穀物のささげ物の上の乳香すべてと一緒に、主への芳ばしい香りとして祭壇の上で焼いて煙にする。
- 16 残りの分はアロンとその子らが食べる。それを種なしパンにして、聖なる所で食べる。それを会見の天幕の庭で食べる。
- 17 それにパン種を入れて焼いてはならない。わたしは、それを食物のささげ物のうちから、彼らの取り分として与えた。それは、罪のきよめのささげ物や代償のささげ物と同じように、最も聖なるものである。

- 18 アロンの子らのうち男子はみな、それを食べることができる。これは、主への食物のささげ物のうちから、あなたがたが代々受け取る永遠の割り当てである。それに触れるものはみな、聖なるものとなる。」
- 19 主はモーセにこう告げられた。
- 20 「アロンが油注がれる日に、アロンとその子らが主に献げるささげ物は次のとおりである。小麦粉十分の一エパを常供の穀物のささげ物とする。半分は朝、もう半分は夕方の分である。
- 21 それを油でよくこねて平鍋の上で作り、粉々にして焼いた穀物のささげ物として携えて行き、主への芳ばしい香りとして献げる。
- 22 彼の子らのうち、油注がれて彼の跡を継ぐ祭司がこれを行う。それは主のための永遠の割り当てであり、完全に焼いて煙にしなければならない。
- 23 祭司の穀物のささげ物はすべて完全に焼き尽くすべきであり、食べてはならない。」
- 24 主はモーセにこう告げられた。
- 25 「アロンとその子らに告げよ。罪のきよめのささげ物についてのおしえは次のとおりである。罪のきよめのささげ物は、全焼のささげ物が屠られる場所、主の前で屠られる。これは最も聖なるものである。
- 26 罪のきよめのささげ物を献げる祭司はそれを食べる。それを聖なる所、会見の天幕の庭で食べる。
- 27 その肉に触れるものはみな、聖なるものとなる。また、その血が少しでも衣にはねかかったときには、あなたは、そのはねかかった衣を聖なる所で洗う。
- 28 ささげ物を煮た土の器は碎かなければならない。青銅の器で煮たのであれば、その器は磨き、水ですすぐ。
- 29 祭司の家系に属する男子はみな、これを食べることができる。これは最も聖なるものである。
- 30 しかし、その血を聖所での宥めのために会見の天幕に持って行った、罪のきよめのささげ物は、食べてはならない。これは火で焼く。

第7章

- 1 代償のささげ物についてのおしえは次のとおりである。このささげ物は最も聖なるものである。
- 2 代償のささげ物は、全焼のささげ物を屠る場所で屠る。そして、その血を祭壇の側面に振りかける。
- 3 その脂肪はすべて献げる。すなわち、あぶら尾と内臓をおおう脂肪、
- 4 二つの腎臓と、それに付いている腰あたりの脂肪、さらに腎臓とともに取り除いた、肝臓の上の小葉である。
- 5 祭司はそれらを祭壇の上で、主への食物のささげ物として、焼いて煙にしなければならない。これは代償のささげ物である。
- 6 祭司の家系に属する男子はみな、これを食べることができる。それは聖なる所で食べなければならない。これは最も聖なるものである。
- 7 罪のきよめのささげ物と代償のささげ物についてのおしえは一つである。代償のささげ物は、それを用いて宥めを行う祭司のものとなる。
- 8 祭司が、ある人の全焼のささげ物を献げる場合、献げた全焼のささげ物の皮はその祭司のものとなる。
- 9 さらに、かまどで焼いた穀物のささげ物はすべて、また鍋や平鍋で作られたものはすべて、それを献げる祭司のものとなる。
- 10 しかし、油を混ぜたものや、乾いたままの穀物のささげ物はすべて、アロンの子ら全員のものとなり、等しく分けることとする。
- 11 主に献げられる交わりのいけにえについてのおしえは、次のとおりである。
- 12 もし感謝のためにそれを献げるのなら、感謝のいけにえと一緒に、油を混ぜた種なしの輪形パンと、油を塗った種なしの薄焼きパン、さらに、油を混ぜてよくこねた小麦粉の輪形パンを献げる。
- 13 感謝のための交わりのいけにえと一緒に、種入りの輪形パンを献げる。
- 14 そして、それぞれのささげ物から一つずつを取り、主への奉納物として献げる。これは、交わりのいけにえの血を振りかける祭司のものとなる。
- 15 感謝のための交わりのいけにえの肉は、それが献げられるその日に食べ、少しでも朝まで残しておいてはならない。
- 16 もしそのささげ物のいけにえが誓願のささげ物、あるいは進んで献げるものであるなら、そのいけにえが献げられた日に食べなければならない。残ったものは翌日食べても差し支えない。
- 17 いけにえの肉の残ったものは三日目に火で焼く。
- 18 もしも、三日目にその交わりのいけにえの肉を食べるようなことがあれば、それは受け入れられず、それを献げる人のものとは見なされない。これは不浄のものとなり、これを食べる者はその咎を負わなければならない。

- 19 また、何であれ汚れたものに触れた肉は食べてはならない。それは火で焼く。そうでない肉は、きよい人であればだれでも、その肉を食べることができる。
- 20 しかし、その身に汚れがあるのに、人が、主に献げられた交わりのいけにえからの肉を食べるなら、その人は自分の民から断ち切られる。
- 21 また人が、どんな物でも汚れたもの、すなわち人の汚れや汚れた動物、またあらゆる汚れた忌むべきものに触れていながら、主に献げられた交わりのいけにえの肉を食べるなら、その人は自分の民から断ち切られる。」
- 22 主はモーセにこう告げられた。
- 23 「イスラエルの子らに告げよ。あなたがたは、牛であれ、羊であれ、やぎであれ、そのどの脂肪も食べてはならない。
- 24 動物の死骸にある脂肪や、野獣にかみ裂かれた動物の脂肪は、何に使っても差し支えない。しかし、決してそれを食べてはならない。
- 25 食物のささげ物として主に献げられた、動物の脂肪を食べる者はみな、自分の民から断ち切られるからである。
- 26 また、あなたがたは、どこに住んでいても、鳥でも動物でもその血をいっさい食べてはならない。
- 27 いかなる血でも、これを食べる者はみな、自分の民から断ち切られる。」
- 28 主はモーセにこう告げられた。
- 29 「イスラエルの子らに告げよ。交わりのいけにえを主に献げる者は、自分の交わりのいけにえのうちから、そのささげ物を主のところに持って行かなければならない。
- 30 その人は自分の手で主への食物のささげ物を持って行く。その脂肪を胸肉と一緒に持って行き、胸肉を奉獻物として主の前で揺り動かす。
- 31 祭司はその脂肪を祭壇の上で焼いて煙にする。その胸肉はアロンとその子らのものとなる。
- 32 あなたがたは、自分たちの交わりのいけにえのうちから右のもも肉を、奉納物として祭司に与えなければならない。
- 33 アロンの子らのうち、交わりのいけにえの血と脂肪を献げる者が、その右のもも肉を自分の受ける分とする。
- 34 それは、わたしが、奉獻物の胸肉と奉納物のもも肉をイスラエルの子らから、その交わりのいけにえから取り、それらを祭司アロンとその子らに、イスラエルの子らから受け取るべき永遠の割り当てとして与えたからである。」
- 35 これは、アロンとその子らが祭司として主に仕えるようになった日に、主への食物のささげ物のうちから彼らが受け取る分となった。
- 36 それは、イスラエルの子らから取って彼らに与えるようにと、彼らが油注がれた日に主が命じられたもので、代々にわたる永遠の割り当てである。
- 37 以上は、全焼のささげ物、穀物のささげ物、罪のきよめのささげ物、代償のささげ物、任職のためのささげ物と交わりのいけにえについてのおしえである。

38 これは、主がシナイの荒野でイスラエルの子らに、主にささげ物を献げるように命じた日に、主がシナイ山でモーセに命じられたものである。

第8章

- 1 主はモーセにこう告げられた。
- 2 「アロンと、彼とともにいるその子らを連れ、装束、注ぎの油、罪のきよめのささげ物の雄牛、二匹の雄羊、種なしパンのかごを取り、
- 3 全会衆を会見の天幕の入り口に集めよ。」
- 4 モーセは主が命じられたとおりにした。会衆は会見の天幕の入り口に集まった。
- 5 モーセは会衆に言った。「これは、主が行うように命じられたことである。」
- 6 モーセはアロンとその子らを近づかせ、彼らを水で洗った。
- 7 そしてアロンに長服を着せ、飾り帯を締め、その上に青服をまといせ、さらにその上にエポデを着せた。すなわち、エポデのあや織りの帯で締めて、彼にエポデを着せた。
- 8 次に、彼に胸当てを着け、その胸当てにウリムとトンミムを入れた。
- 9 また、彼の頭にかぶり物をかぶらせ、さらに、そのかぶり物の前面に金の札すなわち聖なる記章を付けた。主がモーセに命じられたとおりである。
- 10 それから、モーセは注ぎの油を取って、幕屋とそこにあるすべてのものに油注ぎを行った。こうしてそれらを聖別した。
- 11 さらに、それを祭壇の上に七度振りまき、祭壇とそのすべての用具、また洗盤とその台の油注ぎを行い、それらを聖別した。
- 12 また、注ぎの油をアロンの頭に注いだ。こうして彼に油注ぎを行い、彼を聖別した。
- 13 次に、モーセはアロンの子らを連れて来て、彼らに長服を着せ、飾り帯を締め、ターバンを巻いた。主がモーセに命じられたとおりである。
- 14 それから彼は罪のきよめのささげ物の雄牛を近寄らせた。そこで、アロンとその子らは、その罪のきよめのささげ物である雄牛の頭に手を置いた。
- 15 それが屠られると、モーセはその血を取り、指でそれを祭壇の四隅の角に塗り、こうして祭壇から罪を除き、その残りの血を祭壇の土台に注いだ。このようにして祭壇のために宥めを行い、これを聖別した。
- 16 そして、その内臓に付いている脂肪すべてと肝臓の小葉、二つの腎臓とその脂肪が取り出されると、モーセはそれらを祭壇の上で焼いて煙にした。
- 17 また、その雄牛の皮と肉と汚物は宿営の外で火で焼いた。主がモーセに命じられたとおりである。
- 18 次に、彼は全焼のささげ物の雄羊を連れて来させた。アロンとその子らはその雄羊の頭に手を置いた。
- 19 それが屠られると、モーセはその血を祭壇の側面に振りかけた。
- 20 さらに、その雄羊が各部に切り分けられると、モーセは、その頭とその切り分けたものと内臓の脂肪とを焼いて煙にした。
- 21 それから、その内臓と足を水で洗うと、モーセはその雄羊を全部、祭壇の上で焼いて煙にした。これは芳ばしい香りとしての全焼のささげ物で、主への食物のささげ物であった。主がモーセに命じられたとおりである。

- 22** 次に、彼はもう一匹の雄羊、すなわち任職のための雄羊を連れて来させた。アロンとその子らはその雄羊の頭に手を置いた。
- 23** それが屠られると、モーセはその血を取り、それをアロンの右の耳たぶと右手の親指と右足の親指に塗った。
- 24** さらに、モーセはアロンの子らを近づかせ、その血を彼らの右の耳たぶ、また右手の親指と右足の親指に塗った。モーセはその血の残りを祭壇の側面に振りかけた。
- 25** それから彼はその脂肪、すなわち、あぶら尾、内臓に付いている脂肪すべて、肝臓の小葉、二つの腎臓とその脂肪、また右のもも肉を取った。
- 26** また主の前にある種なしパンのかごから、種なしの輪形パン一つと、油を混ぜた輪形パン一つと、薄焼きパン一つを取り、それをその脂肪と右のもも肉の上に置いた。
- 27** それから彼は、そのすべてをアロンの手のひらとその子らの手のひらに載せ、奉献物として主の前で揺り動かした。
- 28** そしてモーセはそれらを彼らの手のひらから取り、祭壇の上で、全焼のささげ物とともに焼いて煙にした。これらは芳ばしい香りとしての任職のためのささげ物であり、主への食物のささげ物である。
- 29** モーセはまた、その胸肉を取り、奉献物として主の前で揺り動かした。これは任職のための雄羊のうちからモーセの受ける分となるもので、主がモーセに命じられたとおりである。
- 30** それから、モーセは注ぎの油と祭壇の上の血を取り、それをアロンとその装束、彼とともにいるその子らとその装束の上にかけた。こうしてアロンとその装束、彼とともにいるその子らとその装束を聖別した。
- 31** モーセはアロンとその子らに言った。「会見の天幕の入り口で、その肉を煮なさい。そしてそこで、それを任職のささげ物のかごの中にあるパンと一緒に食べなさい。私が、アロンとその子らはそれを食べよ、と命じたとおりに。
- 32** 肉やパンの残りは火で焼かなければならない。
- 33** また、あなたがたの任職の期間が終了する日までの七日間は、会見の天幕の入り口から出てはならない。あなたがたを祭司職に任命するには七日を要するからである。
- 34** この日行ったように、主は、あなたがたが自分のために宥めを行うように命じられた。
- 35** あなたがたは会見の天幕の入り口で七日の間、昼も夜もとどまり、主への務めを果たさなければならない。自分たちが死ぬことのないようにするためである。私はそのように命じられたのである。」
- 36** アロンとその子らは、主がモーセを通して命じられたことすべてを行った。

第9章

- 1 八日目になってモーセはアロンとその子ら、およびイスラエルの長老たちを呼び寄せ、
- 2 アロンに言った。「あなたは自分のために、罪のきよめのささげ物として子牛、すなわち若い雄牛を、また全焼のささげ物として雄羊を、それも傷のないものを取って、主の前に献げなさい。
- 3 あなたはまた、イスラエルの子らにこう告げなければならない。あなたがたは、罪のきよめのささげ物として雄やぎを、また、全焼のささげ物として傷のない一歳の子牛と子羊を取りなさい。
- 4 また、主の前でいけにえとするために、交わりのいけにえのための雄牛と雄羊を、また油を混ぜた穀物のささげ物を取りなさい。それは、今日、主があなたがたに現れるからである。」
- 5 そこで彼らは、モーセが命じたものを会見の天幕の前に連れて来た。全会衆は近づいて来て、主の前に立った。
- 6 モーセは言った。「これは、あなたがたが行うようにと主が命じられたことである。そのようにすれば、主の栄光があなたがたに現れる。」
- 7 モーセはアロンに言った。「祭壇に近づきなさい。あなたの罪のきよめのささげ物と全焼のささげ物を献げ、あなた自身のため、またこの民のために宥めを行いなさい。また民のささげ物を献げ、主が命じられたとおりに彼らのために宥めを行いなさい。」
- 8 そこでアロンは祭壇に近づき、自分のための、罪のきよめのささげ物である子牛を屠った。
- 9 アロンの子らがその血を彼に差し出すと、アロンは指をその血に浸し、祭壇の四隅の角に塗った。彼はその血を祭壇の土台に注いだ。
- 10 それから、罪のきよめのささげ物から脂肪と腎臓と肝臓の小葉を、祭壇の上で焼いて煙にした。主がモーセに命じられたとおりである。
- 11 その肉と皮は宿営の外で火で焼いた。
- 12 アロンは全焼のささげ物を屠り、アロンの子らがその血を彼に渡すと、彼はそれを祭壇の側面に振りかけた。
- 13 また彼らが、全焼のささげ物を各部に切り分けたものとその頭を彼に渡すと、それらを祭壇の上で焼いて煙にした。
- 14 それから内臓と足を洗い、全焼のささげ物とともに、これを祭壇の上で焼いて煙にした。
- 15 次に、彼は民のささげ物を携えて来て、民のための、罪のきよめのささげ物としてやぎを取り、屠って、先と同様にこれを罪のきよめのささげ物とした。
- 16 それから、彼は全焼のささげ物を献げた。すなわち、規定のとおりに行った。
- 17 次に、穀物のささげ物を献げ、その一部を手のひらいっぱいに取り、朝の全焼のささげ物とは別に祭壇の上で焼いて煙にした。
- 18 それから、民のための交わりのいけにえの牛と雄羊が屠られた。アロンの子らがその血を渡すと、彼はそれを祭壇の側面に振りかけた。

- 19** その牛と雄羊の脂肪の各部、すなわち、あぶら尾、内臓をおおう脂肪、腎臓、肝臓の小葉、
- 20** これらの脂肪を彼らが胸肉の上に置くと、彼はその脂肪を祭壇の上で焼いて煙にした。
- 21** 胸肉と右のもも肉は、モーセが命じたとおりに、アロンが奉献物として主の前で揺り動かした。
- 22** こうして、アロンは民に向かって両手を上げ、彼らを祝福し、罪のきよめのささげ物、全焼のささげ物、交わりのいけにえを献げ終えて壇から降りて来た。
- 23** モーセとアロンは会見の天幕に入り、そこから出て来て民を祝福した。すると主の栄光が民全体に現れ、
- 24** 火が主の前から出て来て、祭壇の上の全焼のささげ物と脂肪を焼き尽くした。民はみな、これを見て喜び叫び、ひれ伏した。

第10章

- 1 さて、アロンの子ナダブとアビフはそれぞれ自分の火皿を取り、中に火を入れ、上に香を盛って、主が彼らに命じたものではない異なる火を主の前に献げた。
- 2 すると火が主の前から出て来て、彼らを焼き尽くした。それで彼らは主の前で死んだ。
- 3 モーセはアロンに言った。「主がお告げになったことはこうだ。『わたしに近くある者たちによって、わたしは自分が聖であることを示し、民全体に向けて わたしは自分の栄光を現す。』」アロンは黙っていた。
- 4 モーセはアロンのおじウジエルの子、ミシャエルとエルツァファンを呼び寄せ、彼らに言った。「近づいて行って、あなたがたの身内の者たちを、聖所の前から宿営の外に運び出しなさい。」
- 5 彼らはモーセが告げたとおり、近づいて行き、長服をつかんで彼らを宿営の外に運び出した。
- 6 モーセは、アロンとその子エルアザルとイタマルに言った。「あなたがたは髪の毛を乱してはならない。また衣を引き裂いてはならない。あなたがたが死ぬことのないように、また御怒りが全会衆に下らないようにするためである。しかし、あなたがたの身内の者、すなわちイスラエルの全家族は、主が焼き殺した者のことを泣き悲しまなければならない。
- 7 また、あなたがたは会見の天幕の入り口から外へ出てはならない。あなたがたが死ぬことのないようにするためである。あなたがたの上には主の注ぎの油があるからだ。」それで彼らはモーセのことばどおりにした。
- 8 主はアロンにこう告げられた。
- 9 「会見の天幕に入るときには、あなたも、あなたとともにいる息子たちも、ぶどう酒や強い酒を飲んでではない。あなたがたが死ぬことのないようにするためである。これはあなたがたが代々守るべき永遠の掟である。
- 10 こうしてあなたがたは、聖なるものと俗なるもの、また汚れたものときよいものとを分け、
- 11 また、主がモーセを通してイスラエルの子らに告げたすべての掟を、彼らに教えるのである。」
- 12 モーセは、アロンと、残っている彼の息子、エルアザルとイタマルに言った。「主への食物のささげ物のうちから穀物のささげ物の残りを取り、種なしパンとして祭壇のそばで食べなさい。それは最も聖なるものだからである。
- 13 それを聖なる所で食べなさい。それは、主への食物のささげ物のうちから、あなたが受ける割り当てであり、あなたの子らの割り当てである。そのように私は命じられている。
- 14 しかし奉献物の胸肉と奉納物のもも肉は、あなたと、あなたとともにいるあなたの息子、娘たちが、きよい所で食べることが許される。それは、イスラエルの子らの交わりのいけにえから、あなたへの割り当て、またあなたの子らへの割り当てとして与えられている。
- 15 奉納物のもも肉と奉献物の胸肉は、食物のささげ物としての脂肪に添えて持って来て、奉献物として主の前で揺り動かさなければならない。これは主が命じられたとおり、あなた

と、あなたとともにいるあなたの子らが永遠に受ける割り当てである。」

- 16** モーセは罪のきよめのささげ物の雄やぎを懸命に捜した。しかし、なんと、それは焼かれてしまっていた。モーセは、アロンの子で残っているエルアザルとイタマルに怒って言った。
- 17** 「どうして、あなたがたは、その罪のきよめのささげ物を聖なる所で食べなかったのか。それは最も聖なるものだ。それは、会衆の咎を負い、主の前で彼らのために宥めを行うために、あなたがたに与えられたのだ。」
- 18** 見よ、その血は聖所の中に携え入れられなかった。あなたがたは、私が命じたように、それを聖所で食べるべきだったのだ。」
- 19** アロンはモーセに言った。「見なさい。今日、彼らは自分たちの罪のきよめのささげ物と全焼のささげ物を主の前に献げたが、このようなことが私の身に降りかかったのだ。今日、私が罪のきよめのささげ物を食べていたら、そのことは主の目に良しとされただろうか。」
- 20** モーセはこれを聞き、それでよいとした。

第11章

- 1 主はモーセとアロンに告げて、こう彼らに言われた。
- 2 「イスラエルの子らに告げよ。 次のものは、地上のすべての動物のうちで、あなたがたが食べてもよい生き物である。
- 3 動物のうち、すべてひづめが分かれ、完全にひづめが割れているもので、反芻するもの。それは食べてもよい。
- 4 ただし、反芻するもの、あるいは、ひづめが分かれているものの中でも、次のものは食べてはならない。らくだ。これは反芻はするが、ひづめが分かれていないので、あなたがたには汚れたものである。
- 5 岩だぬき。これも反芻はするが、ひづめが分かれていないので、あなたがたには汚れたものである。
- 6 野うさぎ。これも反芻はするが、ひづめが分かれていないので、あなたがたには汚れたものである。
- 7 豚。これはひづめが分かれていて、完全に割れてはいるが、反芻しないので、あなたがたには汚れたものである。
- 8 あなたがたは、それらの肉を食べてはならない。また、それらの死骸に触れてもいけない。それらは、あなたがたには汚れたものである。
- 9 水の中にいるすべてのもののうちで次のものを、あなたがたは食べてもよい。海でも川でも水の中にいるもので、ひれと鱗のあるものはすべて食べてもよい。
- 10 しかし海でも川でも、すべて水に群がるもの、またはすべて水の中にいる生き物のうち、ひれや鱗のないものはすべて、あなたがたには忌むべきものである。
- 11 これらは、あなたがたには忌むべきものである。それらの肉を食べてはならない。また、それらの死骸を忌むべきものとしなければならない。
- 12 水の中にいるもので、ひれや鱗のないものはすべて、あなたがたには忌むべきものである。
- 13 また、鳥のうちで次のものを忌むべきものとしなければならない。これらは忌むべきもので、食べることはできない。すなわち、禿鷲、禿鷹、黒禿鷹、
- 14 鳶、隼の類、
- 15 鳥の類すべて、
- 16 だちょう、夜鷹、かもめ、鷹の類、
- 17 ふくろう、鵂、みみずく、
- 18 白ふくろう、森ふくろう、野雁、
- 19 こうのとりの類、鷲の類、やつがしら、こうもりである。
- 20 羽があって群がり、四本の足で歩き回るものはすべて、あなたがたには忌むべきものである。
- 21 ただし、羽があって群がり、四本の足で歩き回るもののうちで、それらの足より高い二本の跳ね足を持ち、それで地上を飛び跳ねるものは食べてもよい。

- 22 それらのうち、あなたがたが食べてもよいものは次のとおりである。いなごの類、毛のないいなごの類、コオロギの類、バッタの類。
- 23 しかし羽があって群がり、足が四本あるものはすべて、あなたがたには忌むべきものである。
- 24 次のことによっても、あなたがたは身を汚すことになる。すなわち、それらのものの死骸に触れる者はだれでも夕方まで汚れる。
- 25 また、それらの死骸を運ぶ者はみな、自分の衣服を洗わなければならない。その人は夕方まで汚れる。
- 26 ひづめが分かれてはいても完全には割れていないか、あるいは反芻しない動物のことについては、これらはすべて、あなたがたにとって汚れたものである。これらに触れる者はだれでも汚れる。
- 27 また、四本の足で歩き回るすべての生き物のうち、足の裏のふくらみで歩くものはすべて、あなたがたにとって汚れたものである。その死骸に触れる者はみな夕方まで汚れる。
- 28 その死骸を運ぶ者は自分の衣服を洗わなければならない。その人は夕方まで汚れる。これらは、あなたがたには汚れたものである。
- 29 地に群がるもののうち次のものは、あなたがたにとって汚れたものである。すなわち、もぐら、跳びねずみ、大トカゲの類、
- 30 ヤモリ、ワニ、トカゲ、砂トカゲ、カメレオンである。
- 31 すべて群がるもののうち、これらは、あなたがたにとって汚れたものである。これらが死んだ状態のときに触れる者はだれでも夕方まで汚れる。
- 32 また、それらのうちのあるものが死んで何かの上に落ち、それが木の器、衣服、皮、袋など、何かに用いる物である場合、それは汚れる。それは水の中に入れなければならない、夕方まで汚れ、その後きよくなる。
- 33 また、それらのうちの一つが、どのような土の器の中に落ちて、その中にあるものはすべて汚れる。その器は砕かなければならない。
- 34 また食べられる物で、それに水がかかっているならば、それはみな汚れる。また飲む物で、そのような器の中にあるものはみな汚れる。
- 35 さらに、どのようなものでも、その上にこれらの死骸の一つが落ちたものは汚れる。それがかまどであれ炉であれ、打ち壊されなければならない。それは汚れていて、あなたがたには汚れたものとなる。
- 36 ただし泉、あるいは水のたまっている水溜めだけはきよい。しかし、それらの死骸に触れる者は汚れる。
- 37 また、蒔かれる種の上にそれらの死骸のどの一つが落ちて、それはきよい。
- 38 しかし、種の上に水がかけてられていて、その上にそれらの死骸のあるものが落ちたなら、それはあなたがたには汚れたものである。
- 39 あなたがたが食用として飼っている動物の一匹が死んだとき、その死骸に触れる者は夕方まで汚れる。
- 40 その死骸を食べる者は自分の衣服を洗わなければならない。その人は夕方まで汚れる。また、その死骸を運ぶ者も自分の衣服を洗わなければならない。その人は夕方まで汚れる。

- 41 地に群がるものはすべて忌むべきもので、食べることはできない。
- 42 地に群がるもののうち、腹で這うもの、また四本の足で歩くもの、あるいは多くの足のもの、これらのどれも、あなたがたは食べてはならない。それらは忌むべきものである。
- 43 あなたがたは、いかなる群がるものによっても、自分自身を忌むべきものとしてはならない。また、それによって身を汚し、それによって汚れてはならない。
- 44 わたしはあなたがたの神、主であるからだ。あなたがたは自分の身を聖別して、聖なる者とならなければならない。わたしが聖だからである。あなたがたは、地の上を這ういかなる群がるものによっても、自分自身を汚してはならない。
- 45 わたしは、あなたがたの神となるために、あなたがたをエジプトの地から導き出した主であるからだ。あなたがたは聖なる者とならなければならない。わたしが聖だからである。」
- 46 以上が、動物と鳥、また水の中にうごめくすべての生き物と、地に群がるすべての生き物についてのおしえであり、
- 47 それによって、汚れたものときよいもの、食べてよい生き物と食べてはならない生き物とが分けられるのである。

第12章

- 1 主はモーセにこう告げられた。
- 2 「イスラエルの子らに告げよ。女が身重になり、男の子を産んだとき、その女は七日の間汚れ、月のさわりの不浄の期間と同じように汚れる。
- 3 八日目には、その子の包皮の肉に割礼を施す。
- 4 彼女は血のきよめのために、さらに三十三日間こもる。そのきよめの期間が満ちるまでは、いかなる聖なるものにも触れてはならない。また聖所に入ってはならない。
- 5 女の子を産んだ場合は、月のさわりの時と同じように二週間汚れる。彼女は、血のきよめがなされる必要があるので、さらに六十六日間こもる。
- 6 彼女のきよめの期間が満ちたら、息子の場合であっても娘の場合であっても、全焼のささげ物として一歳の子羊一匹と、罪のきよめのささげ物として家鳩のひなか山鳩を一羽、会見の天幕の入り口にいる祭司のところに持って行く。
- 7 祭司はこれを主の前に献げ、彼女のために宥めを行い、彼女はその出血の汚れからきよくなる。これが、男の子であれ女の子であれ、子を産む女についてのおしえである。
- 8 しかし、もし彼女に羊を買う余裕がなければ、二羽の山鳩か、二羽の家鳩のひなを取り、一羽は全焼のささげ物、もう一羽は罪のきよめのささげ物とする。祭司は彼女のために宥めを行い、彼女はきよくなる。」

第13章

- 1 主はモーセとアロンにこう告げられた。
- 2 「ある人のからだの皮膚に腫れもの、あるいはかさぶた、あるいは斑点ができて、からだの皮膚にツアラアトに冒された患部が現れたときは、彼を祭司アロンのところか、アロンの子らで祭司の一人のところに連れて来なければならない。
- 3 祭司は、そのからだの皮膚の患部を調べる。その患部の毛が白く変わり、患部がそのからだの皮膚よりも深いところに見えているなら、それはツアラアトに冒された患部である。祭司はそれを調べ、彼を汚れていると宣言する。
- 4 もしそのからだの皮膚の斑点が白く、皮膚よりも深くは見えず、その毛も白く変わっていなければ、祭司はその患者を七日間隔離する。
- 5 祭司は七日目に彼を調べる。もしその患部が祭司の目にはそのままに見えて、その患部が皮膚に広がっていなければ、祭司は彼をさらに七日間隔離する。
- 6 祭司は七日目に再び彼を調べる。もし患部が薄れ、その患部が皮膚に広がっていなければ、祭司は彼をきよいと宣言する。それは、かさぶたである。彼は自分の衣服を洗う。こうして彼はきよくなる。
- 7 しかし、もしも彼が祭司にその身を見せてきよいと宣言された後で、かさぶたが皮膚に広がってくるようなことがあるなら、再び祭司にその身を見せる。
- 8 祭司が調べて、かさぶたが皮膚に広がっているなら、祭司は彼を汚れていると宣言する。それはツアラアトである。
- 9 人にツアラアトに冒された患部があるときは、祭司のところに連れて来る。
- 10 祭司が調べ、もし皮膚に白い腫れものがあり、その毛も白く変わり、腫れものにむき出しの肉が盛り上がっているなら、
- 11 それは、そのからだの皮膚にできた慢性のツアラアトである。祭司は彼を汚れていると宣言する。彼を隔離する必要はない。彼はすでに汚れている。
- 12 しかし、もしも、そのツアラアトが皮膚に生じて、祭司が目で見えるかぎり、ツアラアトが頭から足まで患者の皮膚全体をおおうようなことがあるなら、
- 13 祭司がそれを調べる。もし、そのツアラアトがその人のからだ全体をおおっているなら、祭司はその患者をきよいと宣言する。すべてが白く変わったので、彼はきよい。
- 14 しかし肉がむき出しになったときは、彼は汚れた者となる。
- 15 祭司はそのむき出しの肉を調べて、彼を汚れていると宣言する。そのむき出しの肉は汚れている。それはツアラアトである。
- 16 しかし、もしそのむき出しの肉が再び白く変われば、彼は祭司のところに来る。
- 17 祭司は彼を調べる。もしその患部が白く変わっているなら、祭司はその患部をきよいと宣言する。彼はきよい。
- 18 からだの皮膚にできものができ、それが治った後、
- 19 そのできものの局所に白色の腫れもの、または赤みがかった白い斑点があれば、それを祭司に見せる。

- 20 祭司が調べて、もしそれが皮膚よりも深いところに見え、その毛が白く変わっているなら、祭司は彼を汚れていると宣言する。それはそのできものに生じた、ツアラアトに冒された患部である。
- 21 もし祭司がこれを調べて、そこに白い毛がなく、それが皮膚よりも深くはなく、それが薄れているなら、祭司は彼を七日間隔離する。
- 22 もしも、それが皮膚に広がってくるようなことがあるなら、祭司はその人を汚れていると宣言する。それは患部である。
- 23 もしその斑点が元のままであり、広がっていなければ、それはできものの跡である。祭司は彼をきよいと宣言する。
- 24 あるいは、からだの皮膚に火傷があつて、その火傷の生肉が赤みがかつた白色、または白色の斑点であれば、
- 25 祭司はこれを調べる。もし斑点の上の毛が白く変わり、それが皮膚よりも深いところに見えるなら、それは火傷に生じたツアラアトである。祭司は彼を汚れていると宣言する。それはツアラアトに冒された患部である。
- 26 しかし、もし祭司がこれを調べて、その斑点に白い毛がなく、それが皮膚よりも深くはなく薄れているなら、祭司は彼を七日間隔離する。
- 27 それから七日目に祭司は彼を調べる。もしも、それが皮膚に広がってくるようなことがあるなら、祭司は彼を汚れていると宣言する。これはツアラアトに冒された患部である。
- 28 もしその斑点が元のままであり、その皮膚に広がっておらず、薄れているなら、それは火傷による腫れである。祭司は彼をきよいと宣言する。これは火傷の跡である。
- 29 男あるいは女で、頭か、ひげに疾患があるとき、
- 30 祭司はその患部を調べる。もしそれが皮膚よりも深いところに見え、そこに細い黄色の毛があるなら、祭司は彼を汚れていると宣言する。これは疥癬で、頭またはひげのツアラアトである。
- 31 祭司が疥癬の部分調べ、もしそれが皮膚よりも深いところに見えず、そこに黒い毛がないなら、祭司はその疥癬の患者を七日間隔離する。
- 32 七日目に祭司は患部を調べる。もしその疥癬が広がっておらず、またそこに黄色い毛もなく、疥癬が皮膚よりも深いところに見えていなければ、
- 33 その人は毛を剃り落とす。ただし、その疥癬を剃り落としてはならない。祭司はその疥癬の患者をさらに七日間隔離する。
- 34 七日目に祭司はその疥癬を調べる。もし疥癬が皮膚に広がっておらず、それが皮膚よりも深いところに見えていなければ、祭司はその人をきよいと宣言する。彼は自分の衣服を洗う。こうして彼はきよくなる。
- 35 しかし、もしも、その人がきよいと宣言された後に、その疥癬が皮膚に広がってくるようなことがあれば、
- 36 祭司は彼を調べる。もしその疥癬が皮膚に広がっていれば、祭司は黄色の毛を見分ける必要はない。その人は汚れている。
- 37 もし祭司が見て、その疥癬が元のままであり、黒い毛がそこに生えているなら、その疥癬は治っていて、その人はきよい。祭司は彼をきよいと宣言する。

- 38 男あるいは女で、そのからだの皮膚に斑点、すなわち白い斑点があるとき、
- 39 祭司はこれを調べる。もしそのからだの皮膚にある斑点が淡い白色であるなら、これは皮膚に生じた湿疹で、彼はきよい。
- 40 男の髪の毛が抜け落ちるとき、それははげであって、彼はきよい。
- 41 もし顔の生えざわから髪の毛が抜けても、それは額のはげであって、彼はきよい。
- 42 もしその頭のはげか額のはげに、赤みがかった白い部分があるなら、それは頭のはげに、あるいは額のはげに生じたツアラアトである。
- 43 祭司は彼を調べる。患部の腫れものが、頭のはげ、あるいは額のはげの部分で、からだの皮膚にあるツアラアトに見られるような、赤みがかった白色であれば、
- 44 彼はツアラアトに冒された者であって、この者は汚れている。祭司は彼を汚れていると必ず宣言する。その患部が頭にあるからである。
- 45 患部があるツアラアトに冒された者は自分の衣服を引き裂き、髪の毛を乱し、口ひげをおおって、『汚れている、汚れている』と叫ぶ。
- 46 その患部が彼にある間、その人は汚れたままである。彼は汚れているので、ひとりで住む。宿営の外が彼の住まいとなる。
- 47 衣服にツアラアトに冒された箇所が生じた場合は、羊毛の衣服でも、亜麻布の衣服でも、
- 48 亜麻または羊毛の織物でも、編物でも、皮でも、また皮で作ったいかなるものでも、
- 49 冒された箇所が緑がかったり赤みを帯びたりしているなら、衣服でも皮でも織物でも編物でも、またいかなる皮製品でも、それはツアラアトに冒された箇所である。それを祭司に見せる。
- 50 祭司はその箇所を調べる。そして、冒された箇所がある物を七日間隔離する。
- 51 七日目に彼は、冒された箇所がある物を調べる。それが衣服でも織物でも編物でも皮でも、また皮が何に用いられていても、それらに冒された箇所が広がっているとき、その箇所は悪性のツアラアトで、それは汚れている。
- 52 羊毛のものであれ亜麻のものであれ、衣服、あるいは織物でも編物でも、またいかなる皮製品でも、冒された箇所がある物は焼く。これは悪性のツアラアトであるから、火で焼かなければならない。
- 53 もし祭司が調べて、衣服、織物、編物、またいかなる皮製品でも、その箇所が広がっていないければ、
- 54 祭司は命じて、冒された箇所がある物を洗わせ、さらに七日間それを隔離する。
- 55 冒された箇所がある物が洗われてから、祭司がそれを調べて、もしその部分が変化したように見えないなら、その部分が広がっていなくても、それは汚れている。それは火で焼かなければならない。それが内側にあっても外側にあっても、それは腐食である。
- 56 しかし、もし祭司が調べて、冒された箇所が洗われた後に薄れていたら、彼はそれを衣服や皮や織物や編物から切り取る。
- 57 もし、その衣服、織物、編物、またいかなる皮製品でも、再びそれが現れたなら、それは再発である。冒された箇所のある物は火で焼かなければならない。

- 58** しかし、洗った衣服、織物、編物、またいかなる皮製品でも、冒された箇所がそれから消えていたら、もう一度これを洗う。こうして、それはきよくなる。」
- 59** 以上は、羊毛または亜麻布の衣服、織物、編物、すべての皮製品の、ツアラアトに冒された箇所についてのおしえであり、それをきよい、あるいは汚れていると宣言するためである。

第14章

- 1 主はモーセにこう告げられた。
- 2 「ツアラアトに冒された者がきよめられるときのおしえは、次のとおりである。彼が祭司のところに連れて来られたら、
- 3 祭司は宿営の外に出て行く。祭司が調べて、もしツアラアトに冒された者の、その患部が治っているなら、
- 4 祭司はそのきよめられる者のために、二羽の生きているきよい小鳥と、杉の枝と緋色の撚り糸とヒソプを取り寄せるように命じる。
- 5 祭司は、その小鳥のうちの一羽を、新鮮な水を入れた土の器の上で殺すように命じる。
- 6 そして、生きている小鳥を、杉の枝と緋色の撚り糸とヒソプとともに取り、それらをその生きている小鳥と一緒に、新鮮な水の上で殺された小鳥の血の中に浸す。
- 7 それを、ツアラアトからきよめられる者の上に七度かけ、彼をきよいと宣言し、さらにその生きている小鳥を野に放す。
- 8 きよめられる者は自分の衣服を洗い、その毛をみな剃り落とし、水を浴びる。こうしてその人はきよくなる。その後で、宿営に入ることができる。しかし、七日間は自分の天幕の外にとどまる。
- 9 七日目になって、彼は髪の毛、口ひげ、眉毛など自分のすべての毛を剃り落とす。すべての毛を剃り落とし、自分の衣服を洗い、からだに水を浴びる。こうしてその人はきよくなる。
- 10 八日目に彼は、傷のない雄の子羊二匹と、傷のない一歳の雌の子羊一匹と、穀物のささげ物としての、油を混ぜた小麦粉十分の三エパと、油一ログを持って来る。
- 11 きよめを宣言する祭司は、これらのものとともに、きよめられる者を主の前、会見の天幕の入り口に立たせる。
- 12 祭司は雄の子羊一匹を取り、それを油一ログと一緒に献げて代償のささげ物とし、それを奉獻物として主の前で揺り動かす。
- 13 その雄の子羊を、罪のきよめのささげ物と全焼のささげ物を屠る場所、すなわち聖なる所で屠る。罪のきよめのささげ物と同様に、代償のささげ物も祭司のものだからである。これは最も聖なるものである。
- 14 祭司は代償のささげ物の血を取り、それを、きよめられる者の右の耳たぶと右手の親指と右足の親指に塗る。
- 15 祭司は油一ログからいくらかを取って、自分の左の手のひらに注ぎ、
- 16 右の指を左の手のひらの油に浸し、その指で油を主の前に七度振りまく。
- 17 祭司はその手のひらの中の残りの油を、きよめられる者の右の耳たぶと右手の親指と右足の親指に、すなわち先の代償のささげ物の血の上に付ける。
- 18 祭司はその手のひらの中の残りの油を、きよめられる者の頭に塗る。こうして祭司は主の前でその人のために宥めを行う。

- 19 祭司は罪のきよめのささげ物を献げ、きよめられる者のために、汚れを除いて宥めを行う。その後で全焼のささげ物が屠られる。
- 20 祭司は祭壇の上で、全焼のささげ物と穀物のささげ物を献げる。祭司はその人のために宥めを行い、彼はきよくなる。
- 21 もしその人が貧しくて、それらのものを手に入れることができなければ、自分のための宥めとなる奉献物とするために、代償のささげ物として雄の子羊一匹を、また穀物のささげ物として油を混ぜた小麦粉十分の一エパと、油一ログを取り、
- 22 また、手に入れることのできる山鳩二羽か家鳩のひな二羽を取り、その一羽を罪のきよめのささげ物、もう一羽を全焼のささげ物とする。
- 23 八日目に自分のきよめのために、それらを会見の天幕の入り口の祭司のところに、主の前に持って行く。
- 24 祭司はその代償のささげ物の子羊と油一ログを取って、これを奉献物として主の前で揺り動かし、
- 25 代償のささげ物の子羊を屠る。祭司はその代償のささげ物の血を取って、それを、きよめられる者の右の耳たぶと右手の親指と右足の親指に塗る。
- 26 祭司はその油を自分の左の手のひらに注ぎ、
- 27 右手の指で、左の手のひらの油を主の前に七度振りまく。
- 28 そして、その手のひらにある油を、きよめられる者の右の耳たぶと右手の親指と右足の親指に、すなわち代償のささげ物の血と同じところに付ける。
- 29 祭司はその手のひらにある残りの油を、きよめられる者の頭に塗り、主の前で彼のために宥めを行う。
- 30 また彼は、手に入れることのできた、山鳩か、家鳩のひなのうちから献げる。
- 31 すなわち、手に入れることのできるもののうち、罪のきよめのささげ物として一羽を、全焼のささげ物としてもう一羽を、穀物のささげ物とともに献げる。祭司は主の前で、きよめられる者のために宥めを行う。」
- 32 以上が、ツァラアトに冒された患部がある者で、きよめに必要なものを手に入れることのできない者のためのおしえである。
- 33 主はモーセとアロンにこう告げられた。
- 34 「わたしがあなたがたに所有地として与えようとしているカナンの地に、あなたがたが入り、わたしがその所有地にある家に、ツァラアトに冒された箇所を生じさせたとき、
- 35 その家の所有者は来て、祭司に、何か冒された箇所のようなものが家に現れたと言って、報告する。
- 36 祭司は、彼がその箇所を調べに入る前に、その家を片付けるように命じる。すべて家にあるものが汚れることのないようにするためである。その後で祭司はその家を調べに入る。
- 37 冒された箇所を調べ、もしその箇所がその家の壁に出ていて、それが緑がかった、または赤みがかったくぼみであって、壁の表面よりも深いところに見えるなら、
- 38 祭司はその家から戸口に出て来て、七日間その家を閉ざしておく。
- 39 祭司は七日目にまた来て調べる。もし冒された箇所がその家の壁に広がっているなら、

- 40 祭司は、冒された箇所がある石を取り出し、それらを町の外の汚れた場所に投げ捨てるように命じる。
- 41 また、家の内側のすべての面を削り落とさせ、削り落とした漆喰を町の外の汚れた場所に捨てさせる。
- 42 さらに、別の石を取って前の石の代わりに入れ、また別の漆喰を取ってその家を塗り直させる。
- 43 もし石を取り出し、家の壁を削り落とし、また塗り直した後に、再び冒された箇所が家に生じたなら、
- 44 祭司は入って調べる。もしその箇所が家に広がっていたら、それは家に付く悪性のツアラアトであり、それは汚れている。
- 45 その家はその石材と木材と漆喰のすべてを取り壊し、それを町の外の汚れた場所に運び出す。
- 46 その家が閉ざされている期間中にそこに入る者は、夕方まで汚れる。
- 47 その家で寝る者は自分の衣服を洗う。その家で食事をする者も自分の衣服を洗う。
- 48 しかし、もしも、祭司が入って行くことがあり、調べて、家が塗り直された後にその冒された箇所が家に広がっていないなら、祭司はその家はきよいと宣言する。冒された箇所が治ったからである。
- 49 祭司はその家の汚れを除くために、小鳥二羽と杉の木と緋色の撚り糸とヒソプを取り、
- 50 その小鳥のうちの一羽を、新鮮な水を入れた土の器の上で殺す。
- 51 杉の木とヒソプと緋色の撚り糸と、生きている小鳥を取って、殺された小鳥の血と新鮮な水の中にそれらを浸し、その家に七度振りまく。
- 52 祭司は、小鳥の血と新鮮な水と、生きた小鳥と杉の木とヒソプと緋色の撚り糸とによって、家の汚れを除き、
- 53 その生きている小鳥を町の外の野に放つ。こうして彼はその家のために宥めを行い、その家はきよくなる。」
- 54 以上が、ツアラアトに冒されたあらゆる患部、疥癬、
- 55 衣服と家のツアラアト、
- 56 腫れもの、かさぶた、斑点についてのおしえであり、
- 57 どのようなときにそれが汚れていて、また、どのようなときにそれがきよいのかを教えるためのもので、ツアラアトについてのおしえである。

第15章

- 1 主はモーセとアロンにこう告げられた。
- 2 「イスラエルの子らに告げよ。だれでも、隠しどころから漏出があったなら、その漏出物は汚れている。
- 3 その漏出物による汚れは次のとおりである。その隠しどころが漏出物を漏らしても、あるいは、その隠しどころが漏出物をとどめていても、そのことはその人の汚れである。
- 4 漏出を病む者が寝た床は全体が汚れる。またその人が座った物もすべて汚れる。
- 5 その床に触れた者はだれでも自分の衣服を洗い、水を浴びる。その人は夕方まで汚れる。
- 6 漏出を病む者が座った物の上に座った者は、自分の衣服を洗い、水を浴びる。その人は夕方まで汚れる。
- 7 漏出を病む者の隠しどころに触れた者も、自分の衣服を洗い、水を浴びる。その人は夕方まで汚れる。
- 8 漏出を病む者が、きよい人に唾をかけたなら、唾をかけられた人は自分の衣服を洗い、水を浴びる。その人は夕方まで汚れる。
- 9 漏出を病む者が乗った鞍は全体が汚れる。
- 10 また、何であれ、その人の下にあった物に触れた人はだれでも夕方まで汚れる。また、それを運んだ者も自分の衣服を洗い、水を浴びる。その人は夕方まで汚れる。
- 11 また、漏出を病む者が水で手を洗わずに触れた人はみな、自分の衣服を洗い、水を浴びる。その人は夕方まで汚れる。
- 12 漏出を病む者が触れた土の器は砕く。木の器はどれも水で洗う。
- 13 漏出を病む者が漏出からきよめられたときは、自分のきよめのために七日を数え、自分の衣服を洗い、自分のからだに新鮮な水を浴びる。こうしてその人はきよくなる。
- 14 八日目に彼は自分のために山鳩二羽か家鳩のひな二羽を取り、主の前、会見の天幕の入り口に行って、それらを祭司に渡す。
- 15 祭司はそれらのうち、一羽を罪のきよめのささげ物とし、もう一羽を全焼のささげ物とする。こうして祭司はその人のために、主の前で漏出物のゆえに宥めを行う。
- 16 男が精を漏らしたときは全身に水を浴びる。その人は夕方まで汚れる。
- 17 精が付いた衣服と皮はすべて、水で洗う。それは夕方まで汚れる。
- 18 男が女と寝て交わったなら、二人はともに水を浴びる。彼らは夕方まで汚れる。
- 19 女に漏出があり、漏出物がからだからの血であるなら、彼女は七日間、月のさわりの状態になる。だれでも彼女に触れる者は夕方まで汚れる。
- 20 彼女の月のさわりの時に使った寝床は全体が汚れる。また、彼女が座った物もすべて汚れる。
- 21 彼女の床に触れた者はだれでも自分の衣服を洗い、水を浴びなければならない。その人は夕方まで汚れる。

- 22 また、何であれ、彼女が座った物に触れた人はだれでも自分の衣服を洗い、水を浴びる。その人は夕方まで汚れる。
- 23 彼女の床であれ座った物であれ、それに触れたなら、その人は夕方まで汚れる。
- 24 また、もしも男が彼女と寝るようなことがあるなら、彼女の月のさわりが移って、その人は七日間汚れる。彼が寝る床も全体が汚れる。
- 25 女に、月のさわりの期間ではないのに、長い日数にわたって血の漏出があるか、あるいは月のさわりの期間が過ぎても漏出があるなら、その汚れた漏出がある間中、彼女は月のさわりの期間と同じように汚れる。
- 26 その漏出の間は、彼女の寝た床はすべて、月のさわりの時の床と同じようになる。彼女が座った物はすべて、月のさわりの間の汚れのように汚れる。
- 27 だれでも、これらの物に触れた人は汚れる。その人は衣服を洗い、水を浴びる。その人は夕方まで汚れる。
- 28 女が漏出からきよくなったら七日を数え、その後、彼女はきよくなる。
- 29 八日目に彼女は自分のために山鳩二羽か家鳩のひな二羽を取り、それらを会見の天幕の入り口の祭司のところに持って行く。
- 30 祭司は一羽を罪のきよめのささげ物とし、もう一羽を全焼のささげ物とする。祭司は彼女のために、主の前で汚れた漏出のゆえに宥めを行う。
- 31 あなたがたは、イスラエルの子らをその汚れから離れさせなさい。彼らが、彼らのただ中にあるわたしの幕屋を汚し、自分たちの汚れで死ぬことのないようにするためである。」
- 32 以上が、漏出のある者、精を漏らして汚れた者、
- 33 月のさわりで不浄な女、男か女で漏出のある者、また汚れている女と寝た男についてのおしえである。

第16章

- 1 アロンの二人の息子の死後、すなわち、彼らが主の前に近づいて死んだ後、主はモーセに告げられた。
- 2 主はモーセに言われた。「あなたの兄アロンに告げよ。垂れ幕の内側の聖所、すなわち箱の上の『宥めの蓋』の前に、時をわきまえずに入ることがないようにせよ。死ぬことのないようにするためである。『宥めの蓋』の上で、わたしは雲の中に現れるからである。
- 3 アロンは次のようにして聖所に入る。罪のきよめのささげ物として若い雄牛、また全焼のささげ物として雄羊を携え、
- 4 聖なる亜麻布の長服を着て、亜麻布のももひきを履き、亜麻布の飾り帯を締め、亜麻布のかぶり物をかぶる。これらが聖なる装束であり、彼はからだに水を浴びて、それらを着ける。
- 5 彼はまた、イスラエルの会衆から、雄やぎ二匹を罪のきよめのささげ物として、雄羊一匹を全焼のささげ物として取る。
- 6 アロンは、自分のための罪のきよめのささげ物である雄牛を献げ、自分と自分の家族のために宥めを行う。
- 7 雄やぎ二匹を取り、それを主の前、会見の天幕の入り口に立たせ、
- 8 雄やぎ二匹のためにアロンがくじを引く。一つのくじは主のため、一つのくじはアザゼルのためである。
- 9 アロンは主のためのくじに当たった雄やぎを連れて来て、それを罪のきよめのささげ物とする。
- 10 アザゼルのためのくじに当たった雄やぎは、主の前に生きたままで立たせる。これは、それの上で宥めを行い、荒野のアザゼルのもとへ追いやるためである。
- 11 アロンは自分のために、罪のきよめのささげ物である雄牛を献げ、自分と家族のために宥めを行う。彼は自分のために、罪のきよめのささげ物である雄牛を屠る。
- 12 彼は主の前の祭壇から炭火を火皿いっぱい、また、粉にした香り高い香を両手いっぱいに取り、垂れ幕の内側に持って入る。
- 13 その香を主の前の火にくべ、香から出る雲が、あかしの箱の上の『宥めの蓋』をおおうようにする。彼が死ぬことのないようにするためである。
- 14 それから、雄牛の血を取り、指で『宥めの蓋』の東側に振りまき、また、指で七度その血を『宥めの蓋』の前に振りまく。
- 15 アロンは民のために、罪のきよめのささげ物である雄やぎを屠り、その血を垂れ幕の内側に持って入り、この血を、先の雄牛の血にしたように、『宥めの蓋』の上と『宥めの蓋』の前にかける。
- 16 彼はイスラエルの子らの汚れと背き、すなわちそのすべての罪を除いて、聖所のための宥めを行う。彼らの汚れのただ中に、彼らとともにある会見の天幕にも、このようにする。
- 17 彼が宥めを行うために聖所に入って、再び出て来るまで、だれも会見の天幕の中にはならない。彼は自分と自分の家族、それにイスラエルの集会全体のために宥めを行う。

- 18 そして、主の前にある祭壇のところに出て行き、そのために宥めを行う。すなわち、彼はその雄牛の血と雄やぎの血を取り、それを祭壇の四隅の角に塗る。
- 19 また、その残りの血を、その祭壇の上に指で七度振りまく。こうして彼はイスラエルの子らの汚れからそれをきよめ、聖別する。
- 20 彼は、聖所と会見の天幕と祭壇のための宥めを行い終えたら、先の生きている雄やぎを連れて来る。
- 21 アロンは生きている雄やぎの頭に両手を置き、その上で、イスラエルの子らのすべての咎とすべての背き、すなわちすべての罪を告白する。これらをその雄やぎの頭の上に載せ、係りの者の手でこれを荒野に追いやる。
- 22 雄やぎは彼らのすべての咎を負って、不毛の地へ行く。その人は雄やぎを荒野に追いやる。
- 23 アロンは会見の天幕に戻り、聖所に入ったときに着けていた亜麻布の装束を脱いで、そこに残しておき、
- 24 聖なる所からだに水を浴び、自分の衣服を着て外に出て、自分の全焼のささげ物と民の全焼のささげ物を献げ、自分のため、民のために宥めを行う。
- 25 罪のきよめのささげ物の脂肪は、祭壇の上で焼いて煙にする。
- 26 アザゼルの雄やぎを追いやった者は衣服を洗い、からだに水を浴びる。その後で、宿営に入ることができる。
- 27 罪のきよめのささげ物の雄牛と、罪のきよめのささげ物の雄やぎで、その血が宥めのために聖所に持って行かれたものは、宿営の外に運び出し、皮と肉と汚物を火で焼く。
- 28 これを焼く者は自分の衣服を洗い、からだに水を浴びる。その後で、宿営に入ることができる。
- 29 次のことは、あなたがたにとって永遠の掟となる。第七の月の十日には、あなたがたは自らを戒めなければならない。この国に生まれた者も、あなたがたの中に寄留している者も、いかなる仕事もしてはならない。
- 30 この日は、あなたがたをきよめようと、あなたがたのために宥めが行われるからである。あなたがたは主の前ですべての罪からきよくなる。
- 31 これがあなたがたの全き休みのための安息日であり、あなたがたは自らを戒める。これは永遠の掟である。
- 32 油注がれ、父に代わって祭司として仕えるために任命された祭司が、宥めを行う。彼は亜麻布の装束、すなわち聖なる装束を着ける。
- 33 彼は至聖所のための宥めを行い、また会見の天幕と祭壇のための宥めを行う。彼はまた、祭司たちと集会のすべての民のための宥めを行う。
- 34 以上のことは、あなたがたにとって永遠の掟となる。これは年に一度イスラエルの子らのために行われる、彼らのすべての罪を除く宥めである。」 モーセは主が命じられたとおりに行った。

第17章

- 1 主はモーセにこう告げられた。
- 2 「アロンとその子ら、またすべてのイスラエルの子らに告げよ。主が命じられたことは次のとおりである。
- 3 イスラエルの家の子のだれかが、牛か子羊かやぎを宿営の中で屠るか、あるいは宿営の外で屠るかして、
- 4 主の幕屋の前で主へのささげ物として献げようと、会見の天幕の入り口に持って来ることがなかったなら、血の責任はその人に帰せられる。彼は血を流した。その人は自分の民の間から断ち切られる。
- 5 これは、イスラエルの子らが、野外で屠っていたいけにえを持って来るようにするためであり、主のところに、会見の天幕の入り口の祭司のところに持って来て、それらを交わりのいけにえとして主に献げるためである。
- 6 また、祭司がその血を会見の天幕の入り口にある主の祭壇に振りかけ、その脂肪を主への芳ばしい香りとして焼いて煙にするためであり、
- 7 また、彼らが慕って淫行をしていた雄やぎの偶像に、もういけにえを献げなくするためである。これは彼らにとって代々守るべき永遠の掟となる。
- 8 また、彼らに言え。だれでも、イスラエルの家の子、あるいは彼らの間に寄留している者が、全焼のささげ物が、いけにえを献げるとき、
- 9 それを主に献げようと会見の天幕の入り口に持って来ないなら、そのような者は自分の民から断ち切られる。
- 10 イスラエルの家の子、あるいは彼らの間に寄留している者のだれであっても、どんな血でも食べるなら、わたしはその血を食べた者に敵対してわたしの顔を向け、その人をその民の間から断ち切る。
- 11 実に、肉のいのちは血の中にある。わたしは、祭壇の上であなたがたのたましいのために宥めを行うよう、これをあなたがたに与えた。いのちとして宥めを行うのは血である。
- 12 それゆえ、わたしはイスラエルの子らに言う。あなたがたはだれも血を食べてはならない。あなたがたの間に寄留している者も血を食べてはならない。
- 13 イスラエルの子らや彼らの間に寄留している者のだれでも、食べることができる獣や鳥を狩りで捕らえた人は、その血を注ぎ出し、土でおおう。
- 14 すべての肉のいのちは、その血がいのちそのものである。それゆえ、わたしはイスラエルの子らに言ったのである。『あなたがたは、いかなる肉の血も食べてはならない。すべての肉のいのちは、その血そのものであるからだ。それを食べる者はだれでも断ち切られる』と。
- 15 だれでも、死んだ動物や野獣にかみ裂かれたものを食べるなら、この国に生まれた者であれ寄留者であれ、自分の衣服を洗い、水を浴びなければならない。その人は夕方まで汚れる。それから彼はきよくなる。
- 16 もし自分の衣服を洗わず、身に水を浴びないなら、その人は自分の咎を負う。」

第18章

- 1 主はモーセにこう告げられた。
- 2 「イスラエルの子らに告げよ。わたしはあなたがたの神、主である。
- 3 あなたがたは、自分たちが住んでいたエジプトの地の風習をまねてはならない。また、わたしがあなたがたを導き入れようとしているカナンの地の風習をまねてはならない。彼らの掟に従って歩んではならない。
- 4 わたしの定めを行い、わたしの掟を守り、それらの中にあって歩まなければならない。わたしがあなたがたの神、主である。
- 5 あなたがたは、わたしの掟とわたしの定めを守りなさい。人がそれらを行うなら、それらによって生きる。わたしは主である。
- 6 だれも、自分の肉親の者に近づき、相手の裸をあらわにして交わってはならない。わたしは主である。
- 7 父の裸をあらわにすること、すなわちあなたの母の裸をあらわにすることをしてはならない。彼女はあなたの母である。彼女の裸をあらわにしてはならない。
- 8 あなたの父の妻の裸をあらわにしてはならない。それは、あなたの父の裸をあらわにすることである。
- 9 あなたの姉妹は、あなたの父の娘でも母の娘でも、あるいは、家で生まれた女でも外で生まれた女でも、その裸をあらわにしてはならない。
- 10 あなたの息子の娘、あるいはあなたの娘の娘の裸をあらわにしてはならない。彼女たちの裸は、あなた自身の裸だからである。
- 11 あなたの父の妻があなたの父に産んだ娘は、あなたの姉妹なのだから、彼女の裸をあらわにしてはならない。
- 12 あなたの父の姉妹の裸をあらわにしてはならない。その人はあなたの父の肉親である。
- 13 あなたの母の姉妹の裸をあらわにしてはならない。その人はあなたの母の肉親だからである。
- 14 あなたの父の兄弟の裸をあらわにしてはならない。その妻に近づいてはならない。その人はあなたのおばである。
- 15 あなたの嫁の裸をあらわにしてはならない。その人はあなたの息子の妻である。彼女の裸をあらわにしてはならない。
- 16 あなたの兄弟の妻の裸をあらわにしてはならない。彼女の裸は、あなたの兄弟自身の裸である。
- 17 あなたは女とその娘の裸をあらわにしてはならない。また、その女の息子の娘、あるいはその娘の娘を妻として、その裸をあらわにしてはならない。彼女たちはあなたの肉親であり、これは淫らな行為である。
- 18 あなたは、妻が活着ている間にその姉妹を妻とし、その裸をあらわにして妻を苦しめてはならない。
- 19 あなたは、月のさわりで汚れている女に近づいて、彼女の裸をあらわにしてはならない。

- 20 また、自分の同胞の妻と寝て交わり、彼女によって自分を汚してはならない。
- 21 また、自分の子どもを一人でも、火の中を通してモレクに渡してはならない。あなたの神の名を汚してはならない。わたしは主である。
- 22 あなたは、女と寝るように男と寝てはならない。それは忌み嫌うべきことである。
- 23 動物と寝て、動物によって身を汚してはならない。女も、動物の前に立って、これと交わってはならない。それは道ならぬことである。
- 24 あなたがたは、これらの何によっても身を汚してはならない。わたしがあなたがたの前から追い出そうとしている異邦の民は、これらのすべてのことによって汚れていて、
- 25 その地も汚れている。それで、わたしはその地をその咎のゆえに罰し、その地はそこに住む者を吐き出す。
- 26 あなたがたは、わたしの掟とわたしの定めを守らなければならない。この国に生まれた者も、あなたがたの間に寄留している者も、これらの忌み嫌うべきことを一つも行わないようにするためである。
- 27 それは、あなたがたより前にいたその地の人々が、これらすべての忌み嫌うべきことを行い、その地が汚れたからであり、
- 28 あなたがたがその地を汚し、その地が、あなたがたより前にいた異邦の民を吐き出したように、あなたがたを吐き出すことのないようにするためである。
- 29 だれであれ、これらの忌み嫌うべきことの一つでも行う者、それを行う者は自分の民の間から断ち切られる。
- 30 あなたがたは、わたしへの務めを果たし、あなたがたより前に行われていた忌み嫌うべき掟を決して行わないように、またそれによって身を汚さないようにしなさい。わたしはあなたがたの神、主である。」

第19章

- 1 主はモーセにこう告げられた。
- 2 「イスラエルの全会衆に告げよ。あなたがたは聖なる者でなければならない。あなたがたの神、主であるわたしが聖だからである。
- 3 それぞれ、自分の母と父を恐れなければならない。また、わたしの安息日を守らなければならない。わたしはあなたがたの神、主である。
- 4 あなたがたは偶像の神々に心移してはならない。また、自分たちのために鑄物の神々を造ってはならない。わたしはあなたがたの神、主である。
- 5 あなたがたが交わりのいけにえを主に献げるときは、自分が受け入れられるように献げなければならない。
- 6 それを献げた日と、その翌日に、それを食べなければならない。三日目まで残ったものは火で焼かなければならない。
- 7 もしも、三日目にそれを食べるようなことがあれば、それは不浄なものとなり、受け入れられない。
- 8 それを食べる者は咎を負う。主の聖なるものを冒したからである。その人は自分の民から断ち切られる。
- 9 あなたがたが自分の土地の収穫を刈り入れるときは、畑の隅々まで刈り尽くしてはならない。収穫した後の落ち穂を拾い集めてはならない。
- 10 また、あなたのぶどう畑の実を取り尽くしてはならない。あなたのぶどう畑に落ちた実を拾い集めてはならない。それらを貧しい人と寄留者のために残しておかなければならない。わたしはあなたがたの神、主である。
- 11 盗んではならない。欺いてはならない。互いに偽ってはならない。
- 12 あなたがたは、わたしの名によって偽って誓ってはならない。そのようにして、あなたの神の名を汚してはならない。わたしは主である。
- 13 あなたの隣人を虐げてはならない。かすめてはならない。日雇い人の賃金を朝まで自分のもとにとどめておいてはならない。
- 14 あなたは耳の聞こえない人を軽んじてはならない。目の見えない人の前につまずく物を置いてはならない。あなたの神を恐れよ。わたしは主である。
- 15 不正な裁判をしてはならない。弱い者をひいきしたり強い者にへつらったりしてはならない。あなたの同胞を正しくさばかなければならない。
- 16 あなたは、民の中で人を中傷して回り、隣人のいのちを危険にさらすことがあってはならない。わたしは主である。
- 17 心の中で自分の兄弟を憎んではならない。同胞をよく戒めなければならない。そうすれば、彼のゆえに罪責を負うことはない。
- 18 あなたは復讐してはならない。あなたの民の人々に恨みを抱いてはならない。あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。わたしは主である。

- 19 あなたがたは、わたしの掟を守らなければならない。あなたの家畜を種類の異なった家畜と交わせてはならない。あなたの畑に二種類の種を蒔いてはならない。また、あなたは二種類の糸で織った布地の衣服を身に着けてはならない。
- 20 男が女と寝て交わり、その女が別の男に決まっている女奴隷であって、まだ贖われていないか、あるいは自由を与えられていない場合は考慮する。女が自由の身でないので、彼らは殺されない。
- 21 その男は、主への償いとして、代償のささげ物の雄羊を会見の天幕の入り口に持って行く。
- 22 祭司は彼が犯した罪のために、その代償のささげ物の雄羊によって、主の前で彼のために宥めを行う。彼はその犯した罪を赦される。
- 23 あなたがたが、かの地に入り、どんな果樹を植えても、その実はまだ禁断のものと見なさなければならない。三年の間、それはあなたがたにとって禁断のものであり、食べてはならない。
- 24 四年目に、その実はすべて聖なるものとなり、主への賛美のささげ物となる。
- 25 五年目に、あなたがたはその実を食べることができる。あなたがたの収穫を増すためである。わたしはあなたがたの神、主である。
- 26 あなたがたは何でも血が付いたままで食べてはならない。まじないをしてはならない。占いをしてはならない。
- 27 あなたがたの頭のもみあげを剃り落としてはならない。ひげの両隅を損なってはならない。
- 28 あなたがたは、死人のために自分のからだに傷をつけてはならない。また自分の身に入れ墨をしてはならない。わたしは主である。
- 29 あなたの娘に淫行をさせて汚してはならない。地が淫行に走り、地が淫らな行為で満ちることのないようにするためである。
- 30 あなたがたはわたしの安息日を守り、わたしの聖所を恐れなければならない。わたしは主である。
- 31 あなたがたは霊媒や口寄せを頼りにしてはならない。彼らに尋ね、彼らによって汚されてはならない。わたしはあなたがたの神、主である。
- 32 あなたは白髪 of 老人の前では起立し、老人を敬い、またあなたの神を恐れなければならない。わたしは主である。
- 33 あなたがたの国、あなたのところに寄留者が滞在しているなら、その人を虐げてはならない。
- 34 あなたがたとともにいる寄留者は、あなたがたにとって、自分たちの国で生まれた一人のようにななければならない。あなたはその人を自分自身のように愛さなければならない。あなたがたも、かつてエジプトの地では寄留の民だったからである。わたしはあなたがたの神、主である。
- 35 あなたがたは、さばきにおいて不正をしてはならない。物差しにおいても、秤においても、分量においても。

- 36** 正しい天秤、正しい重り石、正しい升、正しい容器を使わなければならない。わたしは、あなたがたをエジプトの地から導き出した、あなたがたの神、主である。
- 37** あなたがたは、わたしのすべての掟とすべての定めを守り、それらを行いなさい。わたしは主である。」

第20章

- 1 主はモーセにこう告げられた。
- 2 「あなたはイスラエルの子らに言え。イスラエルの子ら、あるいはイスラエルに寄留している者のうちで、自分の子どもを取ってモレクに与える者は、だれであれ必ず殺されなければならない。民衆がその者を石で打ち殺さなければならない。
- 3 わたしはその人に敵対してわたしの顔を向け、彼をその民の間から断ち切る。彼がモレクに自分の子どもを与え、そのためわたしの聖所を汚し、わたしの聖なる名を汚したからである。
- 4 もしも、人がモレクに自分の子どもを与えるときに、民衆がそれを見て見ぬふりをし、彼を殺さないことがあれば、
- 5 わたし自身が彼とその家族に顔を向け、彼と、彼に倣いモレクを慕って淫行を行う淫らな者をみな、その民の間から断ち切る。
- 6 霊媒や口寄せのところに赴き、彼らを慕って淫行を行う者があれば、わたしはその人に敵対してわたしの顔を向け、彼をその民の間から断ち切る。
- 7 あなたがたは自分の身を聖別し、聖なる者とならなければならない。わたしがあなたがたの神、主であるからだ。
- 8 あなたがたはわたしの掟を守り、それを行わなければならない。わたしはあなたがたを聖なる者とする主である。
- 9 だれでも自分の父や母をののしる者は、必ず殺されなければならない。その人は自分の父あるいは母をののしただから、その血の責任は彼にある。
- 10 人が他人の妻と姦淫したなら、すなわち自分の隣人の妻と姦淫したなら、その姦淫した男も女も必ず殺されなければならない。
- 11 人がもし父の妻と寝たなら、父の裸をあらわにしたのである。二人とも必ず殺されなければならない。その血の責任は彼らにある。
- 12 人がもし息子の妻と寝たなら、その二人は必ず殺されなければならない。その人たちは道ならぬことをした。その血の責任は彼らにある。
- 13 男がもし女と寝るように男と寝たなら、二人は忌み嫌うべきことをしたのである。彼らは必ず殺されなければならない。その血の責任は彼らにある。
- 14 人がもし女をその母とともに妻としたなら、それは淫らなことである。その人もその女たちとともに、火で焼かれなければならない。あなたがたの間で淫らな行ないがないようにするためである。
- 15 人がもし動物と寝るなら、その人は必ず殺されなければならない。その動物も殺さなければならない。
- 16 女がもし、いかなる動物にであれ近づいてそれとともに交わるなら、あなたはその女と動物を殺さなければならない。その両者は必ず殺されなければならない。その血の責任はその両者にある。

- 17 人がもし自分の姉妹、すなわち父の娘か母の娘を妻とし、自分の姉妹の裸を見て、女もその人の裸を見たなら、これは恥ずべきことである。同族の目の前でその人たちは断ち切られる。その人は自分の姉妹の裸をあらわにしたのである。その咎を負わなければならない。
- 18 人がもし月のさわりのある女と寝て、彼女の裸をあらわにしたなら、男は女の泉を暴き、女は自分の血の泉をあらわにしたのである。二人は自分の民の間から断ち切られる。
- 19 母の姉妹や父の姉妹の裸をあらわにしてはならない。これは自分の肉親を裸にすることである。彼らは咎を負わなければならない。
- 20 人がもし自分のおばと寝たなら、おじの裸をあらわにしたのである。その人たちはその罪責を負わなければならない。彼らは子を残さずに死ぬ。
- 21 人がもし、自分の兄弟の妻をめとるなら、それは忌まわしいことだ。彼はその兄弟の裸をあらわにしたのである。彼らは子のいない者となる。
- 22 あなたがたが、わたしのすべての掟とすべての定めを守り、これを行うなら、わたしがあなたがたを住まわせようと導き入れるその地は、あなたがたを吐き出さない。
- 23 あなたがたは、わたしがあなたがたの前から追い出そうとしている異邦の民の掟に従って歩んではならない。彼らがこれらすべてのことを行ったので、わたしは彼らを甚だしく嫌った。
- 24 それゆえ、わたしはあなたがたに言った。『あなたがたは彼らの土地を所有するようになる。わたしが乳と蜜の流れる地をあなたがたに与えて所有させる。わたしは、あなたがたを諸民族の中から選り分けた、あなたがたの神、主である。
- 25 あなたがたは、きよい動物と汚れた動物、また汚れた鳥ときよい鳥をより分けなければならない。わたしがあなたがたのために、汚れているとして区別した動物や鳥や地面を這うすべてのものによって、あなたがた自身を忌むべきものとしてはならない。
- 26 あなたがたは、わたしにとって聖でなければならない。主であるわたしが聖だからである。わたしは、あなたがたをわたしのものにしようとして、諸民族の中から選り分けたのである。』
- 27 男でも女でも、彼らの間に霊媒や口寄せがいるなら、必ず殺されなければならない。彼らは石で打ち殺されなければならない。その血の責任は彼らにある。」

第21章

- 1 主はモーセに言われた。「アロンの子である祭司たちに言え。彼らに言え。親族のうちの死人によって自分の身を汚してはならない。
- 2 ただし近親の者、すなわち、母や父、息子や娘、兄弟の場合は例外である。
- 3 また近親の、結婚したことがない処女である姉妹の場合は、彼女によって自分の身を汚してもよい。
- 4 一族の中で主人が自分の身を汚し、自分を冒瀆することになってはならない。
- 5 頭を剃ってはならない。ひげの両隅を切り落としてもいけない。からだにいかなる傷もつけてはならない。
- 6 彼らは自分の神に対して聖でなければならない。また自分の神の名を汚してはならない。彼らは、主への食物のささげ物、すなわち彼らの神のパンを献げるからである。彼らは聖でなければならない。
- 7 彼らは淫行で汚れている女を妻としてはならない。また夫から離縁された女を妻としてはならない。祭司は神に対して聖だからである。
- 8 あなたは彼を聖別しなければならない。彼はあなたの神のパンを献げるからである。彼はあなたにとって聖でなければならない。あなたがたを聖別する主であるわたしが聖だからである。
- 9 祭司の娘が淫行で身を汚すなら、その父を汚すことになる。その女は火で焼かれなければならない。
- 10 兄弟たちのうち大祭司で、頭に注ぎの油が注がれ、任職されて装束を着けている者は、その髪の毛を乱したり、その装束を引き裂いたりしてはならない。
- 11 いかなる死人のところにも入って行ってはならない。自分の父のためにも母のためにも自分の身を汚してはならない。
- 12 聖所から出て行って神の聖所を冒してはならない。神の注ぎの油による記章を身に着けているからである。わたしは主である。
- 13 彼は処女である女を妻としなければならない。
- 14 やもめ、離縁された女、あるいは淫行で汚れている女、これらを妻としてはならない。彼はただ、自分の民の中から処女を妻としなければならない。
- 15 一族のうちで子孫を汚すことのないようにするためである。わたしは彼を聖別する主だからである。」
- 16 主はモーセにこう告げられた。
- 17 「アロンに告げよ。あなたの代々の子孫のうち、身に欠陥のある者はだれも、神のパンを献げるために近づいてはならない。
- 18 だれでも、身に欠陥のある者は近づいてはならない。目の見えない者、足の萎えた者、あるいは手足が短すぎたり長すぎたりしている者、
- 19 足や手の折れた者、

- 20** 背の曲がった者、背のきわめて低い者、目に濁りのある者、湿疹のある者、かさぶたのある者、睾丸のつぶれた者などである。
- 21** 祭司アロンの子孫のうち、身に欠陥のある者はだれも、主への食物のささげ物を献げようと近寄ってはならない。彼の身には欠陥があるから、神のパンを献げるために近寄ってはならない。
- 22** しかし神のパンは、最も聖なるものであっても、聖なるものであっても食べることが許される。
- 23** ただし、垂れ幕のところに行ってはならない。祭壇に近寄ってはならない。身に欠陥があるからである。彼はわたしの聖所を汚してはならない。わたしがそれらを聖別する主だからである。」
- 24** モーセはこのことを、アロンとその子らとすべてのイスラエルの子らに告げた。

第22章

- 1 主はモーセにこう告げられた。
- 2 「アロンとその子らに告げよ。イスラエルの子らの聖なるものは慎重に扱え。わたしの聖なる名を汚してはならない。それは彼らがわたしのために聖別したものである。わたしは主である。
- 3 彼らに言え。代々にわたり、あなたがたの子孫のだれかが、イスラエルの子らが主に対して聖別した聖なるものに、汚れたままで近づくなら、その人はわたしの前から断ち切られる。わたしは主である。
- 4 アロンの子孫のうち、ツァラアトに冒された者、または漏出のある者はみな、きよくなるまで聖なるものを食べてはならない。また汚れている者、精を漏らす者、
- 5 あるいはすべて人を汚す群がるものに触れる者、または、いかなる汚れであれ人を汚れさせる人間に触れる者もそうである。
- 6 これに触れた者は夕方まで汚れる。その人は、からだに水を浴びずに聖なるものを食べてはならない。
- 7 しかし、日が沈めば彼はきよくなり、その後で、聖なるものを食べることが許される。それは彼の食物だからである。
- 8 死んだ動物や野獣にかみ裂かれたものを食べて汚れてはならない。わたしは主である。
- 9 彼らがわたしへの務めを果たすなら、彼らが聖なるものを冒し、そのために罪責を負って死ぬようなことはない。わたしは彼らを聖別する主である。
- 10 一般の者はだれも、聖なるものを食べてはならない。祭司の居留者や雇い人は、聖なるものを食べてはならない。
- 11 しかし、祭司に金で買われた者はこれを食べることが許される。また、その家で生まれた者も祭司のパンを食べることが許される。
- 12 祭司の娘は、一般の者と結婚したなら、聖なる奉納物を食べてはならない。
- 13 祭司の娘が、やもめあるいは離縁された者となり、子もなく、娘のときのように再びその父の家に戻っているなら、父の食物を食べることが許される。しかし、一般の者はだれもそれを食べてはならない。
- 14 だれかが誤って聖なるものを食べるなら、それにその五分之一を加えて、その聖なるものを祭司に渡す。
- 15 イスラエルの子らに、主に献げる聖なるものを冒し、
- 16 聖なるものを食べて、その罪過の咎を負わせてはならない。わたしは彼らを聖別する主だからである。」
- 17 主はモーセにこう告げられた。
- 18 「アロンとその子ら、またすべてのイスラエルの子らに告げよ。だれでも、イスラエルの家の子、またはイスラエルにいる寄留者がささげ物を献げ、誓願のささげ物あるいは進んで献げるものとして、全焼のささげ物を主に献げる場合、

- 19 あなたがたが受け入れられるには、それは牛、羊、あるいはやぎのうちの、傷のない雄でなければならない。
- 20 欠陥のあるものは、どのようなものでも献げてはならない。あなたがたの代わりにそれが受け入れられることはないからである。
- 21 また、人が特別の誓願を果たすため、あるいは進んで献げるものとして、牛か羊の中から交わりのいけにえを主に献げるときは、それが受け入れられるためには傷のないものでなければならない。それにはどのような欠陥もあってはならない。
- 22 盲目のもの、折れたところのあるもの、傷のあるもの、あるいは、うみの出るもの、湿疹のあるもの、かさぶたのあるもの、あなたがたはこれらのものを、主に献げてはならない。また、これらのものを主への食物のささげ物として祭壇の上に献げてはならない。
- 23 牛や羊で、足が伸びすぎているか、または萎え縮んだものは、進んで献げるものとすることはできるが、誓願のささげ物としては受け入れられない。
- 24 あなたがたは、睾丸の押しつぶされたもの、砕けたもの、裂かれたもの、切り取られたものを主に献げてはならない。あなたがたの地でそのようなことをしてはならない。
- 25 また、あなたがたは、異国人の手から何かこのようなものを受けて、あなたがたの神のパンとして献げてはならない。これらのものは損なわれていて欠陥があるから、あなたがたは受け入れられない。」
- 26 主はモーセにこう告げられた。
- 27 「牛か羊かやぎが生まれたときは、七日間、その母親のもとに置いておく。八日目以後、それは主への食物のささげ物として受け入れられる。
- 28 しかし、牛でも羊でも、それをその子と同じ日に屠ってはならない。
- 29 主に感謝のいけにえを献げるときは、あなたがたが受け入れられるように、それを献げなければならない。
- 30 その同じ日にこれを食べ、朝までそれを残しておいてはならない。わたしは主である。
- 31 あなたがたはわたしの命令を守り、これを行わなければならない。わたしは主である。
- 32 わたしの聖なる名を汚してはならない。イスラエルの子らの間で、わたしは聖であることが示されなければならない。わたしはあなたがたを聖別する主である。
- 33 わたしは、あなたがたの神となるために、あなたがたをエジプトの地から導き出した。わたしは主である。」

第23章

- 1 主はモーセにこう告げられた。
- 2 「イスラエルの子らに告げよ。あなたがたが聖なる会合として召集する主の例祭、すなわちわたしの例祭は次のとおりである。
- 3 六日間は仕事をする。しかし、七日目は全き休みのための安息日、聖なる会合の日である。あなたがたは、いかなる仕事もしてはならない。この日は、あなたがたがどこに住んでいても主の安息日である。
- 4 あなたがたが定期的に召集しなければならない聖なる会合、主の例祭は次のとおりである。
- 5 第一の月の十四日には夕暮れに過越のいけにえを主に献げる。
- 6 この月の十五日は主への種なしパンの祭りである。七日間、あなたがたは種なしパンを食べる。
- 7 最初の日、あなたがたは聖なる会合を開く。いかなる労働もしてはならない。
- 8 七日間、食物のささげ物を主に献げる。七日目に聖なる会合を開く。あなたがたは、いかなる労働もしてはならない。」
- 9 主はモーセにこう告げられた。
- 10 「イスラエルの子らに告げよ。あなたがたがわたしが与えようとしている地に入り、収穫を刈り入れたなら、収穫の初穂の束を祭司のところに持って行きなさい。
- 11 その束は主の前で揺り動かす。あなたがたが受け入れられるためである。祭司は安息日の翌日、それを揺り動かさなければならない。
- 12 あなたがたは、束を揺り動かすその日に、主への全焼のささげ物として傷のない一歳の雄の子羊を献げる。
- 13 その穀物のささげ物は油を混ぜた小麦粉十分の二エパであり、主への食物のささげ物、芳ばしい香りである。その注ぎのささげ物はぶどう酒で、一ヒンの四分の一である。
- 14 あなたがたは、神へのささげ物を持って行くその日まで、パンも炒り麦も新穀も食べてはならない。これは、あなたがたがどこに住んでいても代々守るべき永遠の掟である。
- 15 あなたがたは、安息日の翌日から、奉献物の束を持って行った日から満七週間を数える。
- 16 七回目の安息日の翌日まで五十日を数え、あなたがたは新しい穀物のささげ物を主に献げる。
- 17 あなたがたの住まいから、十分の二エパの小麦粉にパン種を入れて焼いたものを二つ、奉献物としてのパンとして持って行く。これは主への初物である。
- 18 そのパンと一緒に、主への全焼のささげ物として、傷のない一歳の雄の子羊七匹、若い雄牛一頭、雄羊二匹、また、主への食物のささげ物、芳ばしい香りとして、彼らの穀物のささげ物と注ぎのささげ物とを献げる。
- 19 また、雄やぎ一匹を罪のきよめのささげ物とし、一歳の雄の子羊二匹を交わりのいけにえとする。

- 20 祭司はこれら二匹の雄の子羊を、初穂のパンと一緒に、奉献物として主の前で揺り動かす。これらは主の聖なるものであり、祭司のものとなる。
- 21 その同じ日に、あなたがたは聖なる会合を召集する。それは、あなたがたのためである。いかなる労働もしてはならない。これは、あなたがたがどこに住んでいても、代々守るべき永遠の掟である。
- 22 あなたがたの土地の収穫を刈り入れるときは、刈るときに畑の隅まで刈り尽くしてはならない。あなたの収穫の落ち穂も集めてはならない。貧しい人と寄留者のために、それらを残しておかなければならない。わたしはあなたがたの神、主である。」
- 23 主はモーセにこう告げられた。
- 24 「イスラエルの子らに告げよ。第七の月の一日はあなたがたの全き休みの日であり、角笛を吹き鳴らして記念する聖なる会合を開く。
- 25 あなたがたは、いかなる労働もしてはならない。食物のささげ物を主に献げなさい。」
- 26 主はモーセにこう告げられた。
- 27 「特にこの第七の月の十日は宥めの日であり、あなたがたのために聖なる会合を開く。あなたがたは自らを戒め、食物のささげ物を主に献げなければならない。
- 28 その日のうちは、いかなる仕事もしてはならない。その日が宥めの日であり、あなたがたの神、主の前であなたがたのために宥めがなされるからである。
- 29 その日に自らを戒めない者はだれでも、自分の民から断ち切られる。
- 30 だれでも、その日に少しでも仕事をする者は、わたしはその人をその民の間から滅ぼす。
- 31 いかなる仕事もしてはならない。これは、あなたがたがどこに住んでいても代々守るべき永遠の掟である。
- 32 これは、あなたがたの全き休みのための安息日である。あなたがたは自らを戒める。その月の九日の夕暮れには、その夕暮れから次の夕暮れまで、あなたがたの安息を守らなければならない。」
- 33 主はモーセにこう告げられた。
- 34 「イスラエルの子らに告げよ。この第七の月の十五日には、七日間にわたる主の仮庵の祭りが始まる。
- 35 最初の日には、聖なる会合を開く。あなたがたは、いかなる労働もしてはならない。
- 36 七日間、あなたがたは食物のささげ物を主に献げなければならない。八日目も、あなたがたは聖なる会合を開かなければならない。あなたがたは食物のささげ物を主に献げる。これはきよめの集会であり、いかなる労働もしてはならない。
- 37 以上が主の例祭である。あなたがたは聖なる会合を召集して、全焼のささげ物、穀物のささげ物、交わりのいけにえ、注ぎのささげ物を、食物のささげ物として、それぞれ定められた日に主に献げなければならない。
- 38 このほかに主の安息日、また、あなたがたが主に献げる献上物、あらゆる誓願のささげ物、あらゆる進んで献げるものがある。
- 39 特に、あなたがたがその土地の収穫をし終える第七の月の十五日には、七日間にわたる主の祭りを祝わなければならない。最初の日は全き休みの日であり、八日目も全き休みの日

である。

- 40** 最初の日に、あなたがたは自分たちのために、美しい木の実、なつめ椰子の葉と茂った木の
大枝、また川辺の柳を取り、七日間、あなたがたの神、主の前で喜び楽しむ。
- 41** 年に七日間、主の祭りとしてこれを祝う。これはあなたがたが代々守るべき永遠の掟であ
り、第七の月に祝わなければならない。
- 42** あなたがたは七日間、仮庵に住まなければならない。イスラエルで生まれた者はみな仮庵
に住まなければならない。
- 43** これは、あなたがたの後の世代が、わたしがエジプトの地からイスラエルの子らを導き出
したとき、彼らを仮庵に住ませたことを知るためである。わたしはあなたがたの神、主
である。」
- 44** こうしてモーセはイスラエルの子らに主の例祭のことを告げた。

第24章

- 1 主はモーセにこう告げられた。
- 2 「あなたはイスラエルの子らに命じて、ともしび用の、質の良い純粋なオリーブ油を持って来させなさい。ともしびを絶えずともしておくためである。
- 3 アロンは会見の天幕の中、あかしの箱の垂れ幕の外側で、夕方から朝まで主の前に絶えずそのともしびを整えておく。これはあなたがたが代々守るべき永遠の掟である。
- 4 彼はきよい燭台の上に、そのともしびを主の前に絶えず整えておく。
- 5 あなたは小麦粉を取り、それで輪形パン十二個を焼く。一つの輪形パンは十分の二エパである。
- 6 それを主の前のきよい机の上に一列六つずつ、二列に置く。
- 7 それぞれの列に純粋な乳香を添え、覚えの分のパンとし、主への食物のささげ物とする。
- 8 彼は安息日ごとに、これを主の前に絶えず整えておく。これはイスラエルの子らによるささげ物であって、永遠の契約である。
- 9 これはアロンとその子らのものとなり、彼らはこれを聖なる所で食べる。これは最も聖なるものであり、主への食物のささげ物のうちから、永遠の定めにより彼に与えられた割り当てだからである。」
- 10 さて、イスラエル人を母とし、エジプト人を父とする者がイスラエルの子らのうちに出たが、このイスラエルの女の息子と、あるイスラエル人とが宿営の中で争った。
- 11 そのとき、イスラエルの女の息子が御名を汚し、ののしったので、人々はこの者をモーセのところに連れて行った。彼の母の名はシェロミテで、ダン部族のディブリの娘であった。
- 12 人々は主の命が彼らにはっきりと示されるまで、この者を留置しておいた。
- 13 主はモーセにこう告げられた。
- 14 「あの、ののしった者を宿営の外に連れ出し、それを聞いたすべての人がその人の頭に手を置き、全会衆が彼に石を投げて殺すようにしなさい。
- 15 あなたはイスラエルの子らに告げよ。自分の神をののしる者はだれでも罪責を負う。
- 16 主の御名を汚す者は必ず殺されなければならない。全会衆は必ずその人に石を投げて殺さなければならない。寄留者でも、この国に生まれた者でも、御名を汚すなら殺される。
- 17 人間を打ち殺す者は必ず殺されなければならない。
- 18 動物を打ち殺す者は、いのちにはいのちをもって償わなければならない。
- 19 人がその同胞に傷を負わせるなら、その人は自分がしたのと同じようにされなければならない。
- 20 骨折には骨折を、目には目を、歯には歯を。人に傷を負わせたのと同じように、自分もそうされなければならない。
- 21 家畜を打ち殺す者は償いをしなければならず、人間を打ち殺す者は殺されなければならない。

22 このさばきは、寄留者であれ、この国に生まれた者であれ、あなたがたには同一である。
わたしがあなたがたの神、主だからである。」

23 モーセがイスラエルの子らに告げたので、彼らはののしった者を宿営の外に連れ出し、彼に石を投げて殺した。こうしてイスラエルの人々は、主がモーセに命じられたとおりに行った。

第25章

- 1 主はシナイ山でモーセにこう告げられた。
- 2 「イスラエルの子らに告げよ。 わたしが与えようとしている地にあなたがたが入ったとき、その地は主の安息を守らなければならない。
- 3 六年間はあなたの畑に種を蒔き、六年間ぶどう畑の刈り込みをして収穫をする。
- 4 七年目は地の全き休みのための安息、主の安息となる。あなたの畑に種を蒔いたり、ぶどう畑の刈り込みをしたりしてはならない。
- 5 あなたの落ち穂から生えたものを刈り入れてはならない。あなたが手入れをしなかったぶどうの木やぶどうも集めてはならない。これは地のための全き休みの年である。
- 6 地の安息はあなたがたに食物をもたらす。すなわち、あなたと、あなたの男奴隷と女奴隷、あなたの雇い人と、あなたのところに在住している居留者のため、
- 7 また、あなたの家畜と、あなたの地にいる獣のために、その地の収穫はすべて食物となる。
- 8 あなたは安息の年を七回、すなわち、七年の七倍を数える。安息の年が七回で四十九年である。
- 9 あなたはその第七の月の十日に角笛を鳴り響かせる。宥めの日に、あなたがたの全土に角笛を鳴り響かせる。
- 10 あなたがたは五十年目を聖別し、国中のすべての住民に解放を宣言する。これはあなたがたのヨベルの年である。あなたがたはそれぞれ自分の所有地に帰り、それぞれ自分の家族のもとに帰る。
- 11 この五十年目はあなたがたのヨベルの年である。種を蒔いてはならないし、落ち穂から生えたものを刈り入れてもならない。また手入れをしなかったぶどうの木やぶどうを集めてはならない。
- 12 これはヨベルの年であって、あなたがたには聖である。あなたがたは野の収穫物を食べる。
- 13 このヨベルの年には、あなたがたはそれぞれ自分の所有地に帰る。
- 14 もしあなたがたが、同胞に土地を売ったり同胞から買ったりするときは、互いに損失を与えないようにしなさい。
- 15 ヨベルの後の年数にしたがって、あなたの同胞から買い、収穫年数にしたがって相手もあなたに売る。
- 16 年数が多ければ、それに応じてあなたはその買い値を増し、年数が少なければ、それに応じてその買い値を減らさなければならない。彼があなたに売るのは収穫の回数だからである。
- 17 あなたがたはそれぞれ同胞に損失を与えてはならない。あなたの神を恐れよ。わたしはあなたがたの神、主だからである。
- 18 あなたがたはわたしの掟を行い、わたしの定めを守らなければならない。それを行うなら、その地に安らかに住むことができる。

- 19 地は実りをもたらし、あなたがたは満ち足りるまで食べ、安らかにそこに住むことができる。
- 20 あなたがたは、『もし私たちが種を蒔かず、また収穫もしないなら、七年目には何を食べればよいのか』と言うであろうが、
- 21 わたしは六年目に、あなたがたのためにわたしの祝福を命じ、三年分の収穫を生じさせる。
- 22 あなたがたが八年目に種を蒔くときにも、前の収穫をなお食べている。九年目まで、その収穫があるまで、なお前のものを食べることができる。
- 23 土地は、買い戻しの権利を放棄して売ってはならない。土地はわたしのものである。あなたがたは、わたしのもとに在住している寄留者だからである。
- 24 あなたがたの所有するどの土地においても、土地を買い戻す権利を認めなければならない。
- 25 もしあなたの兄弟が落ちぶれて、その所有地を売ったときは、買い戻しの権利のある近親者が来て、兄弟の売ったものを買い戻さなければならない。
- 26 その人に買い戻しの権利のある親類がいないときは、彼の暮らし向きが良くなり、それを買い戻す余裕ができたなら、
- 27 売ってからの年数を計算し、なお残る分を買い主に返し、自分の所有地に帰ることができる。
- 28 もしその人に返す余裕がないなら、その売ったものはヨベルの年まで買い主の手にとどまる。しかし、ヨベルの年にはその手を離れ、彼は自分の所有地に帰ることができる。
- 29 人が、城壁を巡らした町の住居を売るときは、それを売ってからの一年間は買い戻す権利がある。買い戻しはこの期間に限る。
- 30 もし満一年になるまでに買い戻されないなら、城壁を巡らした町の中のその家は、買い戻しの権利の喪失により、代々にわたってそれを買い取った人のものとなり、ヨベルの年にも彼の手を離れない。
- 31 周りに城壁のない村々の家は、その土地の畑と見なされて買い戻すことができ、ヨベルの年に彼の手を離れる。
- 32 レビ人の町々、すなわち彼らが所有している町々の家については、レビ人にいつでも買い戻す権利がある。
- 33 レビ人が買い戻すものに関しては、彼の所有地の町で売られた家はヨベルの年には手放される。レビ人の町々の家は、イスラエルの子らの間にあって彼らが所有するものだからである。
- 34 彼らの町々の放牧用の畑は売ってはならない。それは彼らの永遠の所有地だからである。
- 35 もしあなたの同胞が落ちぶれて、あなたのもとで暮らしが立たなくなったなら、彼をあなたのところに住住している寄留者のように扶養し、あなたのもとで生活できるようにしなさい。
- 36 彼から利息も利益も得てはならない。あなたの神を恐れよ。同胞があなたのもとで生活できるようにしなさい。
- 37 彼に金を貸して利息を取ってはならない。また食物を与えて利益を得てはならない。

- 38 わたしはあなたがたの神、主である。わたしは、あなたがたにカナンの地を与えてあなたがたの神となるために、あなたがたをエジプトの地から導き出したのである。
- 39 もし、あなたのもとにいるあなたの兄弟が落ちぶれて、あなたに身売りしても、彼を奴隷として仕えさせてはならない。
- 40 彼はあなたのもとでは雇い人が居留者のようであなければならず、ヨベルの年まであなたのもとで仕える。
- 41 こうして彼とその子らはあなたのもとから出て行き、自分の一族のもと、自分の先祖の所有地に帰る。
- 42 彼らは、わたしがエジプトの地から導き出した、わたしのしもべである。奴隷の身分として売られてはならない。
- 43 あなたは彼を酷使してはならない。あなたの神を恐れよ。
- 44 あなたのものとなる男女の奴隷は、あなたがたの周囲の国々から来た者であり、彼らの中から男女の奴隷を買い取ることができる。
- 45 あるいは、あなたがたのところに在住している居留者たちの子どもの中からも、または、あなたがたの間にいる彼らの家族で、あなたがたの国で生まれた者からも買い取ることができる。彼らはあなたがたの所有とすることができる。
- 46 あなたがたは彼らを、あなたがたの後の子孫にゆずりとして与え、永遠に所有として受け継がせ、奴隷とすることができる。しかし、あなたがたの同胞であるイスラエルの子らは、互いに酷使し合ってはならない。
- 47 もし、あなたのところに在住している寄留者の暮らし向きが良くなり、その人のところにいるあなたの兄弟が落ちぶれて、あなたのところに在住している寄留者に、あるいはその寄留者の氏族の子孫に身を売ったときは、
- 48 身を売った後でも、その人には買い戻される権利がある。彼の兄弟の一人が彼を買い戻すことができる。
- 49 または、その人のおじや、おじの息子が買い戻すこともできる。または、一族の近親者の一人が買い戻すこともできる。あるいは、もし暮らし向きが良くなれば、自分で自分自身を買い戻すこともできる。
- 50 買い主とともに、自分が身を売った年からヨベルの年までを計算する。身代金は、その年数に応じて、雇い人の場合の期間にしたがって決める。
- 51 もしまだ多くの年数が残っているなら、その年数に応じて、自分が買われた金額のうちから買い戻し金となる分を払う。
- 52 ヨベルの年までわずかの年数しか残っていなくても、彼はそのように計算し、その年数に応じて買い戻し金となる分を払う。
- 53 彼は年ごとに雇われる者のように扱われなければならない。あなたの目の前で酷使されてはならない。
- 54 たとえ、これらの方法によって買い戻されなかった場合でも、ヨベルの年には、その子らと一緒に出て行くことができる。
- 55 イスラエルの子らは、このわたしのしもべだからである。彼らは、わたしがエジプトの地から導き出した、わたしのしもべである。わたしはあなたがたの神、主である。

第26章

- 1 あなたがたは自分のために偶像を造ってはならない。また自分のために彫像や石の柱を立ててはならない。あなたがたの地に石像を立てて、それを拜んではならない。わたしがあなたがたの神、主だからである。
- 2 あなたがたはわたしの安息日を守り、わたしの聖所を恐れなければならない。わたしは主である。
- 3 もし、あなたがたがわたしの掟に従って歩み、わたしの命令を守り、それらを行うなら、
- 4 わたしは時にになってあなたがたに雨を与える。それにより地は産物を出し、畑の木々はその実を結ぶ。
- 5 あなたがたの麦打ちはぶどうの取り入れ時まで続き、ぶどうの取り入れは種蒔きの時まで続く。あなたがたは満ち足りるまでパンを食べ、安らかに自分たちの地に住む。
- 6 また、わたしはその地に平和を与える。あなたがたはだれにも脅かされずに寝る。また、わたしは悪い獣をその国から除く。剣があなたがたの地を行き巡ることはない。
- 7 あなたがたは敵を追い、彼らはあなたがたの前に剣で倒れる。
- 8 あなたがたの五人は百人を追い、百人は一万人を追う。あなたがたの敵はあなたがたの前に剣によって倒れる。
- 9 わたしはあなたがたを顧み、多くの子を与えてあなたがたを増やし、あなたがたとのわたしの契約を確かなものにする。
- 10 あなたがたは長く蓄えられた古いものを食べ、新しいものを前にして、古いものを片付けるようになる。
- 11 わたしは、あなたがたのただ中にわたしの住まいを建てる。わたしの心は、あなたがたを嫌って退けたりはしない。
- 12 わたしはあなたがたの間を歩み、あなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となる。
- 13 わたしはあなたがたの神、主である。わたしはあなたがたを奴隷の身分から救い出すために、エジプトの地から導き出した。わたしは、あなたがたのくびきの横木を砕き、あなたがたが自立して歩めるようにした。
- 14 しかし、もし、あなたがたがわたしに聞き従わず、これらすべての命令を行わないなら、
- 15 また、わたしの掟を拒み、あなたがた自身がわたしの定めを嫌って退け、わたしのすべての命令を行わず、わたしの契約を破るなら、
- 16 わたしもあなたがたに次のことを行う。わたしはあなたがたの上に恐怖を臨ませ、肺病と熱病で目を衰えさせ、心をすり減らさせる。あなたがたは種を蒔いても無駄である。あなたがたの敵がそれを食べる。
- 17 わたしはあなたがたに敵対してわたしの顔を向ける。あなたがたは自分の敵に打ち負かれ、あなたがたを憎む者があなたがたを踏みつける。あなたがたを追う者がいないのに、あなたがたは逃げる。

- 18 もし、これらのことが起こっても、あなたがたがなおわたしに聞かないなら、わたしはさらに、あなたがたの罪に対して七倍重く懲らしめる。
- 19 わたしは、自分の力を頼むあなたがたの思い上がりを打ち砕き、あなたがたの天を鉄のように、あなたがたの地を青銅のようにする。
- 20 あなたがたの力は無駄に費やされる。あなたがたの地は産物を出さず、地の木々も実を結ばない。
- 21 また、もしあなたがたがわたしに逆らって歩み、わたしに聞こうとしないなら、わたしはさらに、あなたがたの罪にふさわしく、七倍激しくあなたがたを打ちたたく。
- 22 わたしはまた、あなたがたの間に野の獣を放つ。これはあなたがたから子を奪い、家畜を絶えさせ、あなたがたの数を減らす。こうして、あなたがたの道は荒れ果てる。
- 23 もし、それでも、わたしのこの懲らしめをあなたがたが受け入れず、わたしに逆らって歩むなら、
- 24 わたしもあなたがたに逆らって歩む。また、わたしは、あなたがたの罪に対して七倍重くあなたがたを打つ。
- 25 わたしはあなたがたの上に剣を臨ませ、契約による復讐を果たす。あなたがたは自分たちの町々に集まるが、わたしがあなたがたの間に疫病を送り込むので、あなたがたは敵の手に落ちる。
- 26 わたしがあなたがたのパンの蓄えをなくすとき、十人の女が一つのかまどでパンを焼き、秤にかけてパンを配る。あなたがたは食べても満ち足りない。
- 27 これにもかかわらず、なおもあなたがたが、わたしに聞こうとせず、わたしに逆らって歩むなら、
- 28 わたしは激怒をもってあなたがたに逆らって歩み、あなたがたの罪に対して七倍重くあなたがたを懲らしめる。
- 29 あなたがたは自分の息子の肉を食べ、自分の娘の肉を食べる。
- 30 わたしはあなたがたの高き所を打ち壊し、香の台を切り倒し、偶像の残骸の上にあなたがたの死体を積み上げる。わたしの心は、あなたがたを嫌って退ける。
- 31 わたしはあなたがたの町々を廃墟とし、あなたがたの聖所を荒れ果てさせる。わたしはあなたがたの芳ばしい香りをかくことはしない。
- 32 わたしはその地を荒れ果てさせ、そこに住むあなたがたの敵はそれを見て啞然とする。
- 33 わたしはあなたがたを国々の間に散らし、剣を抜いてあなたがたの後を追う。あなたがたの地は荒れ果て、あなたがたの町々は廃墟となる。
- 34 そのとき、その地が荒れ果て、あなたがたが敵の国にいる間、その地は休む。そのとき地はその安息を享受する。
- 35 地は、荒れ果てている間、休むことができる。それは、あなたがたがそこに住んでいたとき、あなたがたの安息のときには得られなかったものである。
- 36 あなたがたのうちで生き残る者にも、敵の国にいる間、彼らの心の中に臆病を送り込む。吹き散らされる木の葉の音にさえ彼らは追い立てられ、剣から逃れる者のように逃げ、追いかける者もいないのに倒れる。

- 37 追いかける者もないのに、剣から逃れるかのように折り重なってつまずき倒れる。あなたがたは敵の前に立つこともできない。
- 38 あなたがたは国々の間で滅び、あなたがたの敵の地はあなたがたを食い尽くす。
- 39 あなたがたのうちの生き残る者も、敵の地で自分の咎のために朽ち果てる。さらに先祖の咎のために朽ち果てる。
- 40 彼らは、自分たちの咎と先祖の咎を、つまり、わたしの信頼を裏切って、わたしに逆らって歩んだことを告白するが、
- 41 このわたしが彼らに逆らって歩み、彼らを敵の国へ送り込むのである。もしそのとき、彼らの無割礼の心がへりくだるなら、そのとき自分たちの咎の償いをすることになる。
- 42 わたしはヤコブとのわたしの契約を思い起こす。またイサクとのわたしの契約を、さらにはアブラハムとのわたしの契約をも思い起こす。わたしはその地を思い起こす。
- 43 その地は彼らに捨て置かれ、彼らがいなくなって荒れ果てている間、安息を享受する。彼らは自分たちの咎の償いをするようになるが、それはただ、彼ら自身がわたしの定めを退け、わたしの掟を嫌って退けたゆえである。
- 44 それにもかかわらず、彼らがその敵の国にいるとき、わたしは彼らを退けず、彼らを嫌って絶ち滅ぼさず、彼らとのわたしの契約を破ることはない。わたしが彼らの神、主だからである。
- 45 わたしは彼らのために、彼らの父祖たちと結んだ契約を思い起こす。わたしは彼らを国々の目の前で、彼らの神となるためにエジプトの地から導き出したのだ。わたしは主である。」
- 46 以上は、主がシナイ山でモーセを通して、ご自分とイスラエルの子らとの間に立てられた、掟と定めとおしえである。

第27章

- 1 主はモーセにこう告げられた。
- 2 「イスラエルの子らに告げよ。人が人間の評価額にしたがって主に特別な誓願を立てるときには、
- 3 その評価額を次のとおりにする。二十歳から六十歳までの男子なら、その評価額は聖所のシェケルで銀五十シェケル。
- 4 女子なら、その評価額は三十シェケル。
- 5 五歳から二十歳までなら、その男子の評価額は二十シェケル、女子は十シェケル。
- 6 一か月から五歳までなら、男子の評価額は銀五シェケル、女子の評価額は銀三シェケル。
- 7 六十歳以上なら、男子の評価額は十五シェケル、女子は十シェケル。
- 8 その人が落ちぶれていて評価額を払えないなら、その人を祭司の前に立たせ、祭司が彼の評価をする。祭司は誓願をする者の能力に応じて彼を評価する。
- 9 献げることのできる家畜を主へのささげ物とする場合、すべて主に献げられたものは聖なるものとなる。
- 10 それをほかのもので代用したり、良いものを悪いものに、あるいは悪いものを良いものに取り替えたりしてはならない。もしも家畜をほかの家畜と取り替えることがあれば、それも代わりのものも聖なるものとなる。
- 11 献げることのできない、汚れた家畜を主へのささげ物とする場合には、その家畜を祭司の前に立たせる。
- 12 祭司はその良し悪しを評価する。それは祭司が評価したとおりとなる。
- 13 もしも、その人がそれを買戻したいのであれば、その評価額にその五分の一を加える。
- 14 人が自分の家を主に聖なるものとして聖別するときは、祭司がその良し悪しを評価する。祭司がそれを評価したとおり、そのようになる。
- 15 家を聖別した人がそれを買戻したい場合は、評価額に五分の一を加えれば、それは彼のものとなる。
- 16 人が自分の所有の畑の一部を主に聖別する場合には、評価額はそこに蒔く種の量による。大麦の種一ホメルごとに銀五十シェケルである。
- 17 もしヨベルの年からその畑を聖別するなら、評価額どおりである。
- 18 しかし、ヨベルの年の後にその畑を聖別するなら、祭司は次のヨベルの年までにまだ残っている年数によって、その金額を計算する。そのようにして評価額から差し引かれる。
- 19 もし、その畑を聖別した人がそれを買戻したいのであれば、評価額にその五分の一を加える。それは彼のものとして残る。
- 20 もし彼がその畑を買戻さず、また、その畑がほかの人に売られているなら、もはやそれを買戻すことはできない。
- 21 その畑がヨベルの年に渡されるとき、それは聖絶された畑として主の聖なるものとなり、祭司の所有地となる。

- 22** また人が、自分の所有の畑の一部ではない、買い取った畑を主に聖別する場合は、
- 23** 祭司はヨベルの年までの評価の総額を計算し、その人はその日に、その評価額を主の聖なるものとして献げなければならない。
- 24** ヨベルの年には、その畑は、その売り主であるその地の所有主に戻る。
- 25** 評価はすべて聖所のシェケルによる。一シェケルは二十ゲラである。
- 26** ただし、家畜の初子は主のものである。初子として生まれたのだから、だれもこれを聖別することはできない。牛であれ羊であれ、それは主のものである。
- 27** それが汚れた家畜のものであれば、その評価額にその五分の一を加えて贖うことができる。しかし、買い戻されないなら、その評価額で売られる。
- 28** ただし、人であれ家畜であれ、自分の所有の畑であれ、自分の持っているすべてのもののうちで、主に対して聖絶したものは、何であろうとそれを売ることとはできない。また買い戻すこともできない。すべて聖絶の物は最も聖なるものであり、主のものである。
- 29** 人であって、聖絶された者はみな、贖われることがない。その人は必ず殺されなければならない。
- 30** 地の十分の一は、地の産物であれ木の実であれ、すべて主のものである。それは主の聖なるものである。
- 31** しかし、もしも人がその十分の一の一部を買い戻したいのであれば、それにその五分の一を加える。
- 32** 牛や羊の十分の一については、牧者の杖の下を通る十番目ごとのものが主の聖なるものとなる。
- 33** その良し悪しを見てはならない。また、それを取り替えてはならない。もしも、それを取り替えることがあれば、それも代わりのものも、ともに聖なるものとなる。それを買い戻すことはできない。」
- 34** 以上は、主がシナイ山で、イスラエルの子らに向けてモーセに命じられた命令である。

民数記

Numbers

第1章

- 1 エジプトの地を出て二年目の第二の月の一日に、主は、シナイの荒野の会見の天幕でモーセに告げられた。
- 2 「イスラエルの全会衆を、氏族ごと、一族ごとに調べ、すべての男子を一人ひとり名を数えて、その頭数を調べよ。
- 3 あなたとアロンは、イスラエルにおいて、二十歳以上で戦に出ることができる者をすべて、その軍団ごとに登録しなければならない。
- 4 また部族ごとに一人ずつ、一族のかしらである者が、あなたがたとともにいなければならない。
- 5 あなたがたの助手となるはずの者の名は次のとおりである。ルベンからはシェデュルの子エリツル。
- 6 シメオンからはツリシャダイの子シェルミエル。
- 7 ユダからはアミナダブの子ナフション。
- 8 イッサカルからはツアルの子ネタンエル。
- 9 ゼブルンからはヘロンの子エリアブ。
- 10 ヨセフの子らからは、エフライムからアミフデの子エリシャマ、マナセからペダツルの子ガムリエル。
- 11 ベニヤミンからはギデオニの子アビダン。
- 12 ダンからはアミシャダイの子アヒエゼル。
- 13 アシェルからはオ克蘭の子パグイエル。
- 14 ガドからはデウエルの子エルヤサフ。
- 15 ナフタリからはエナンの子アヒラ。」
- 16 これらの者が会衆から召し出された者で、その父祖の部族の長たちである。彼らがイスラエルの分団のかしらたちである。
- 17 さて、モーセとアロンは、これら指名された者たちを伴い、
- 18 第二の月の一日に全会衆を召集した。そこで氏族ごと、一族ごとに、二十歳以上の者の名を一人ひとり数えて、その家族表で本人を確認した。
- 19 主がモーセに命じられたように、モーセはシナイの荒野で彼らを登録した。
- 20 イスラエルの長子ルベンの子孫は、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、一人ひとり名を数えられた、二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。
- 21 このルベン部族で登録された者は、四万六千五百人であった。
- 22 シメオンの子孫では、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、一人ひとり名を数えられた、二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。
- 23 このシメオン部族で登録された者は、五万九千三百人であった。
- 24 ガドの子孫では、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、名を数えられた二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。

- 25 このガド部族で登録された者は、四万五千六百五十人であった。
- 26 ユダの子孫では、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、名を数えられた二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。
- 27 このユダ部族で登録された者は、七万四千六百人であった。
- 28 イッサカルの子孫では、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、名を数えられた二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。
- 29 このイッサカル部族で登録された者は、五万四千四百人であった。
- 30 ゼブルンの子孫では、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、名を数えられた二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。
- 31 このゼブルン部族で登録された者は、五万七千四百人であった。
- 32 ヨセフの子孫では、エフライムの子孫で、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、名を数えられた二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。
- 33 このエフライム部族で登録された者は、四万五百人であった。
- 34 マナセの子孫では、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、名を数えられた二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。
- 35 このマナセ部族で登録された者は、三万二千二百人であった。
- 36 ベニヤミンの子孫では、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、名を数えられた二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。
- 37 このベニヤミン部族で登録された者は、三万五千四百人であった。
- 38 ダンの子孫では、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、名を数えられた二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。
- 39 このダン部族で登録された者は、六万二千七百人であった。
- 40 アシエルの子孫では、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、名を数えられた二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。
- 41 このアシエル部族で登録された者は、四万一千五百人であった。
- 42 ナフタリの子孫では、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者で、名を数えられた二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。
- 43 このナフタリ部族で登録された者は、五万三千四百人であった。
- 44 以上がモーセとアロン、またイスラエルの族長たちが登録した者たちである。この族長たち十二人は、それぞれ、自分の一族を代表していた。
- 45 一族ごとに登録された二十歳以上のイスラエルの子らで、イスラエルで戦に出ることができる者すべて、
- 46 登録された者の総数は、六十万三千五百五十人であった。
- 47 しかしレビ人は、彼らとともに父祖の部族ごとに登録されることはなかった。
- 48 主はモーセに告げられた。
- 49 「レビ部族だけは、ほかのイスラエルの子らとともに登録してはならない。また、その頭数を調べてはならない。

- 50** あなたは、レビ人に、あかしの幕屋とそのすべての用具、およびすべてそれに付属するものを管理させよ。彼らは幕屋とそのすべての用具を運び、これに仕え、幕屋の周りに宿営しなければならない。
- 51** 幕屋が進むときはレビ人がそれを取り外し、幕屋が張られるときはレビ人がこれを組み立てなければならない。資格なしにこれに近づく者は殺されなければならない。
- 52** イスラエルの子らは、軍団ごとに、それぞれ自分の宿営、自分の旗のもとに天幕を張るが、
- 53** レビ人は、あかしの幕屋の周りに宿営しなければならない。わたしの怒りがイスラエルの会衆の上に臨むことがあってはならない。レビ人はあかしの幕屋に関わる任務に当たる。」
- 54** イスラエルの子らは、このようにし、すべて主がモーセに命じられたとおりに行った。

第2章

- 1 主はモーセとアロンに告げられた。
- 2 「イスラエルの子らは、それぞれ自分たちの旗のもと、自分の一族の旗じるしのもとに宿営しなければならない。会見の天幕の周りに、距離をおいて宿営しなければならない。
- 3 前方、すなわち東側に宿営する者は、軍団ごとのユダの宿営の旗の者でなければならない。ユダ族の族長はアミナダブの子ナフションである。
- 4 彼の軍団は、登録された者が七万四千六百人である。
- 5 その隣に宿営するのはイッサカル部族であり、イッサカル族の族長はツアルの子ネタンエルである。
- 6 彼の軍団は、登録された者が五万四千四百人である。
- 7 その次はゼブルン部族で、ゼブルン族の族長はヘロンの子エリアブである。
- 8 彼の軍団は、登録された者が五万七千四百人である。
- 9 ユダの宿営に属し、その軍団ごとに登録された者の総数は、十八万六千四百人。彼らが先頭を進まなければならない。
- 10 南側は、軍団ごとのルベンの宿営の旗の者たちである。ルベン族の族長はシェデウルの子エリツルである。
- 11 彼の軍団は、登録された者が四万六千五百人である。
- 12 その隣に宿営するのはシメオン部族で、シメオン族の族長はツリシャダイの子シェルミエルである。
- 13 彼の軍団は、登録された者が五万九千三百人である。
- 14 その次はガド部族で、ガド族の族長はデウエルの子エルヤサフである。
- 15 彼の軍団は、登録された者が四万五千六百五十人である。
- 16 ルベンの宿営に属し、その軍団ごとに登録された者の総数は、十五万一千四百五十人。彼らは二番目に進まなければならない。
- 17 次に会見の天幕、すなわちレビ人の宿営が、これらの宿営の中央にあって進まなければならない。宿営する場合と同じように、彼らはそれぞれ自分の場に就いて、自分の旗に従って進まなければならない。
- 18 西側は、軍団ごとのエフライムの宿営の旗の者たちである。エフライム族の族長はアミフデの子エリシャマである。
- 19 彼の軍団は、登録された者が四万五百人である。
- 20 その隣はマナセ部族で、マナセ族の族長はペダツルの子ガムリエルである。
- 21 彼の軍団は、登録された者が三万二千二百人である。
- 22 その次はベニヤミン部族で、ベニヤミン族の族長はギデオニの子アビダンである。
- 23 彼の軍団は、登録された者が三万五千四百人である。
- 24 エフライムの宿営に属し、その軍団ごとに登録された者の総数は、十万八千百人。彼らは三番目に進まなければならない。

- 25** 北側は、軍団ごとのダンの宿営の旗の者たちである。ダン族の族長はアミシャダイの子アヒエゼルである。
- 26** 彼の軍団は、登録された者が六万二千七百人である。
- 27** その隣に宿営するのはアシェル部族で、アシェル族の族長はオ克蘭の子パグイエルである。
- 28** 彼の軍団は、登録された者が四万一千五百人である。
- 29** その次はナフタリ部族で、ナフタリ族の族長はエナンの子アヒラである。
- 30** 彼の軍団は、登録された者が五万三千四百人である。
- 31** ダンの宿営に属する、登録された者の総数は、十五万七千六百人。彼らはその旗に従って、最後に進まなければならない。」
- 32** 以上が、イスラエルの子らで、その一族ごとに登録された者たちであり、全宿営の軍団ごとに登録された者の総数は、六十万三千五百五十人であった。
- 33** しかしレビ人は、主がモーセに命じられたように、ほかのイスラエルの子らとともに登録されることはなかった。
- 34** イスラエルの子らは、すべて主がモーセに命じられたとおりに行い、それぞれの旗ごとに宿営し、それぞれその氏族ごと、一族ごとに進んで行った。

第3章

- 1 これは、主がシナイ山でモーセと語られたときの、アロンとモーセの系図である。
- 2 アロンの息子たちの名は、長子ナダブ、アビフ、エルアザル、イタマル。
- 3 これらはアロンの息子たちの名で、彼らは油注がれて祭司職に任じられた祭司であった。
- 4 ナダブとアビフは、シナイの荒野で主の前に異なる火を献げたときに、主の前で死んだ。彼らには子がいなかった。それでエルアザルとイタマルが父アロンの生存中から祭司として仕えた。
- 5 主はモーセに告げられた。
- 6 「レビ部族を進み出させ、彼らを祭司アロンに付き添わせて、仕えさせよ。
- 7 彼らは会見の天幕の前で、アロンに関わる任務と全会衆に関わる任務に当たり、幕屋の奉仕をしなければならない。
- 8 彼らは会見の天幕のすべての用具を守り、またイスラエルの子らに関わる任務に当たり、幕屋の奉仕をしなければならない。
- 9 あなたは、レビ人をアロンとその子らに付けなさい。彼らはイスラエルの子らの中から、正式にアロンに付けられた者たちである。
- 10 あなたは、アロンとその子らを任命して、その祭司の職を守らせなければならない。資格なしにこれに近づく者は殺されなければならない。」
- 11 主はモーセに告げられた。
- 12 「見よ。わたしは、イスラエルの子らのうちで最初に胎を開いたすべての長子の代わりに、イスラエルの子らの中からレビ人を取ることにした。レビ人はわたしのものとなる。
- 13 長子はすべて、わたしのものだからである。エジプトの地でわたしがすべての長子を打った日に、わたしは、人から家畜に至るまで、イスラエルのうちのすべての長子をわたしのものとして聖別した。彼らはわたしのものである。わたしは主である。」
- 14 主はシナイの荒野でモーセに告げられた。
- 15 「レビ族をその一族ごと、氏族ごとに登録せよ。あなたは生後一か月以上のすべての男子を登録しなければならない。」
- 16 そこでモーセは、主の命により、命じられたとおりに彼らを登録した。
- 17 レビ族の名は次のとおりである。ゲルション、ケハテ、メラリ。
- 18 ゲルション族の諸氏族の名は次のとおりである。リブニとシムイ。
- 19 ケハテ族の諸氏族は、それぞれ、アムラムとイツハル、ヘブロンとウジエル。
- 20 メラリ族の諸氏族は、それぞれ、マフリとムシ。これらが父祖の家ごとのレビ人の諸氏族である。
- 21 リブニ族とシムイ族はゲルションに属し、これらがゲルション人諸氏族であった。
- 22 数を数えて登録された者は、一か月以上のすべての男子であり、この登録された者は、七千五百人であった。
- 23 ゲルション人諸氏族は、幕屋のうしろ、西側に宿営することになっていた。

- 24 ゲルシオン人の一族の長は、ラエルの子エルヤサフであった。
- 25 会見の天幕でのゲルシオン族の任務は、幕屋すなわち天幕と、その覆い、会見の天幕の入り口の垂れ幕、
- 26 庭の掛け幕、それに幕屋と祭壇の周りを取り巻く庭の入り口の垂れ幕およびそのひも—そしてそれに関わるすべての奉仕であった。
- 27 アムラム族、イツハル族、ヘブロン族、ウジエル族はケハテに属し、これらがケハテ人諸氏族であった。
- 28 これらの一か月以上のすべての男子を数えると、八千六百人であった。彼らが聖所の任務に当たる者たちである。
- 29 ケハテ人諸氏族は、幕屋の南側に沿って宿営することになっていた。
- 30 ケハテ人諸氏族の、一族の長は、ウジエルの子エリツァファンであった。
- 31 彼らの任務は、契約の箱、机、燭台、祭壇、務めに用いる聖所の用具、さらに垂れ幕とそれに関わるすべての奉仕を含んでいた。
- 32 レビ人の長の長は祭司アロンの子エルアザルで、聖所の任務に当たる者たちの監督であった。
- 33 マフリ族とムシ族はメラリに属し、これらがメラリ人諸氏族であった。
- 34 数を数えて登録された者は、一か月以上のすべての男子であり、六千二百人であった。
- 35 メラリ人諸氏族の一族の長は、アビハイルの子ツリエルであった。彼らは幕屋の北側に沿って宿営することになっていた。
- 36 メラリ族の任務は、幕屋の板、その横木、その柱と台座、そのすべての用具、およびそれに関わるすべての奉仕、
- 37 庭の周りの柱とその台座、その杭とそのひもについてであった。
- 38 幕屋の正面、すなわち会見の天幕の前方に当たる東側に宿営するのは、モーセとアロンまたその子らで、イスラエルの子らの任務に代わって、聖所の任務に当たる者たちであった。資格なしにこれに近づく者は殺されなければならない。
- 39 モーセとアロンが主の命により氏族ごとに登録した、すべての登録されたレビ人は、一か月以上のすべての男子であり、二万二千人であった。
- 40 主はモーセに言われた。「イスラエルの子らの、一か月以上の男子の長子をすべて登録し、その名を数えよ。
- 41 わたしは主である。あなたはイスラエルの子らのうちのすべての長子の代わりとしてレビ人を、またイスラエルの子らの家畜のうちのすべての初子の代わりとしてレビ人の家畜を取り、わたしのものにしなさい。」
- 42 モーセは主が彼に命じられたとおりに、イスラエルの子らのうちのすべての長子を登録した。
- 43 その登録による、名を数えられた、一か月以上のすべての男子の長子は、二万二千二百七十三人であった。
- 44 主はモーセに告げられた。

- 45** 「イスラエルの子らのすべての長子の代わりにレビ人を、また彼らの家畜の代わりにレビ人の家畜を取れ。レビ人はわたしのものでなければならない。わたしは主である。
- 46** レビ人の数より多い、二百七十三人のイスラエルの子らの長子の贖いの代金として、
- 47** 一人当たり五シェケルを取りなさい。これを、一シェケル二十ゲラの、聖所のシェケルで取らなければならない。
- 48** そしてこの代金を、多い分の者たちの贖いの代金として、アロンとその子らに渡しなさい。」
- 49** モーセは、レビ人によって贖われた者より多い分の者たちから、贖いの代金を取った。
- 50** すなわち、イスラエルの子らの長子から、聖所のシェケルで千三百六十五シェケルの代金を取ったのである。
- 51** モーセは主の命により、この贖いの代金をアロンとその子らに渡した。主がモーセに命じられたとおりである。

第4章

- 1 主はモーセとアロンに告げられた。
- 2 「レビ人のうち、ケハテ族の頭数を、その氏族ごと、一族ごとに調べよ。
- 3 それは会見の天幕で任務に当たり、仕事をするのできる三十歳以上五十歳までのすべての者である。
- 4 ケハテ族の会見の天幕での奉仕は、最も聖なるものに関わることで、次のとおりである。
- 5 宿営が出発するときは、アロンとその子らが入って行って、仕切りの垂れ幕を取り降ろし、あかしの箱をそれでおおい、
- 6 その上にじゅごんの皮の覆いを掛け、またその上に真っ青の布を広げ、担ぎ棒を通す。
- 7 また、臨在の机の上に青色の布を広げ、その上に皿、ひしゃく、水差し、注ぎのささげ物のための瓶を載せ、またその上に常供のパンを置く。
- 8 これらのものの上に緋色の撚り糸の布を広げ、じゅごんの皮の覆いでこれをおおい、担ぎ棒を通す。
- 9 青色の布を取って、燭台とともしび皿、芯切りばさみ、芯取り皿、また、燭台のために用いる、油のためのすべての器具をおおい、
- 10 この燭台とそのすべての器具をじゅごんの皮の覆いの中に入れ、これを担ぎ台に載せる。
- 11 また金の祭壇の上に青色の布を広げ、それをじゅごんの皮の覆いでおおい、担ぎ棒を通す。
- 12 聖所で務めに用いる用具をみな取り、青色の布の中に入れ、じゅごんの皮の覆いでこれをおおい、これを担ぎ台に載せ、
- 13 祭壇から灰を除き、紫色の布をその上に広げる。
- 14 その上に、祭壇で用いるすべての用具、すなわち火皿、肉刺し、十能、鉢、これら祭壇のすべての用具を載せ、じゅごんの皮の覆いをその上に広げ、担ぎ棒を通す。
- 15 宿営が移動する際には、アロンとその子らが聖所と聖所のすべての用具をおおい終わってから、その後でケハテ族が入って行って、これらを運ばなければならない。彼らが聖なるものに触れて死ぬことのないようにするためである。これらは、会見の天幕でケハテ族が運ぶ物である。
- 16 祭司アロンの子エルアザルの責任は、ともしび用の油、香りの高い香、常供の穀物のささげ物、注ぎの油についてであり、幕屋全体とその中にあるすべての物、聖所とその用具についての責任である。」
- 17 主はモーセとアロンにこう告げられた。
- 18 「あなたがたは、ケハテ人諸氏族の部族をレビ人のうちから絶えさせてはならない。
- 19 あなたがたは彼らに次のようにして、彼らが最も聖なるものに近づくときに、死なずに生きているようにせよ。アロンとその子らが入って行き、彼らにそれぞれの奉仕と、運ぶ物を指定しなければならない。
- 20 彼らが入って行って、一目でも聖なるものを見て死ぬことのないようにするためである。」

- 21 主はモーセにこう告げられた。
- 22 「あなたはまた、ゲルシオン族の頭数を、その一族ごと、氏族ごとに調べ、
- 23 三十歳以上五十歳までの者で会見の天幕で任務に当たり、奉仕をすることのできる者をすべて登録しなければならない。
- 24 ゲルシオン人諸氏族のなすべき奉仕と運ぶ物は次のとおりである。
- 25 幕屋の幕、会見の天幕とその覆い、その上に掛けるじゅごんの皮の覆い、会見の天幕の入り口の垂れ幕を運び、
- 26 また庭の掛け幕、幕屋と祭壇の周りを取り巻く庭の門の入り口の垂れ幕、それらのひも、およびそれらに用いるすべての用具を運び、これらに関係するすべての奉仕をしなければならない。
- 27 ゲルシオン族のすべての奉仕、すなわち、彼らが運ぶすべての物と彼らのすべての仕事は、アロンとその子らの命令によらなければならない。あなたがたは彼らに、任務として、彼らが運ぶ物をすべて割り当てなければならない。
- 28 以上がゲルシオン人諸氏族の会見の天幕における奉仕で、彼らの任務は祭司アロンの子イタマルの指揮下にある。
- 29 メラリ族について、あなたはその氏族ごと、一族ごとに、彼らを登録しなければならない。
- 30 三十歳以上五十歳までの者で、務めに就き、会見の天幕の奉仕をすることができる者たちをすべて、登録しなければならない。
- 31 会見の天幕での彼らのすべての奉仕の中で、彼らが任務として運ぶ物は次のとおりである。幕屋の板、その横木、その柱とその台座、
- 32 庭の周りの柱と、その台座、杭、ひも、これらの備品と、その奉仕に使うすべての物である。あなたがたは、彼らが任務として運ぶ備品を、名を挙げて割り当てなければならない。
- 33 これが会見の天幕でのすべての仕事に関するメラリ人諸氏族の奉仕で、これは祭司アロンの子イタマルの指揮下にある。」
- 34 そこでモーセとアロンと会衆の上に立つ族長たちは、ケハテ族をその氏族ごと、一族ごとに、
- 35 三十歳以上五十歳までの者で、会見の天幕での奉仕の務めに就くことのできる者を、すべて登録した。
- 36 その氏族ごとに登録された者は、二千七百五十人であった。
- 37 これはケハテ人諸氏族で登録された者であって、会見の天幕で奉仕する者の全員であり、モーセを通して示された主の命によって、モーセとアロンが登録した者たちである。
- 38 ゲルシオン族で、その氏族ごと、一族ごとに登録され、
- 39 三十歳以上五十歳までの者で、会見の天幕での奉仕の務めに就くことのできる者の全員、
- 40 その氏族ごと、一族ごとに登録された者は、二千六百三十人であった。
- 41 これはゲルシオン人諸氏族で登録された者たちで、会見の天幕で奉仕する者の全員であり、主の命により、モーセとアロンが登録した者たちである。

- 42** メラリ人諸氏族で、その氏族ごと、一族ごとに登録され、
- 43** 三十歳以上五十歳までの者で、会見の天幕での奉仕の務めに就くことのできる者の全員、
- 44** その氏族ごとに登録された者は、三千二百人であった。
- 45** これはメラリ人諸氏族で登録された者であり、モーセを通して示された主の命により、モーセとアロンが登録した者たちである。
- 46** モーセとアロンとイスラエルの族長たちが、レビ人を、その氏族ごと、一族ごとに登録した登録者の全員、
- 47** 三十歳以上五十歳までの者で、会見の天幕で労働の奉仕と運搬の奉仕をする者の全員、
- 48** その登録された者は、八千五百八十人であった。
- 49** 彼らは主の命により、モーセを通して任じられ、それぞれその奉仕とその運ぶ物を受け持った。主がモーセに命じた、主によって登録された者たちである。

第5章

- 1 主はモーセにこう告げられた。
- 2 「イスラエルの子らに命じて、ツァラアトに冒された者、漏出を病む者、死体によって身を汚している者をすべて宿営の外に追い出せ。
- 3 男でも女でも追い出し、彼らを宿営の外に追い出し、わたしがそのただ中に住む宿営を、彼らが汚さないようにしなければならない。」
- 4 イスラエルの子らはそのようにして、彼らを宿営の外に追い出した。主がモーセに告げられたとおりにイスラエルの子らは行った。
- 5 主はモーセにこう告げられた。
- 6 「イスラエルの子らに告げよ。男にせよ、女にせよ、他人に何か一つでも罪となることを行って主の信頼を裏切り、後になって、その人自身がその責めを覚えたときは、
- 7 自分が行った罪を告白しなければならない。その人は償いとして総額を弁償し、それにその五分の一を加えて、償いの責めを果たすべき相手に支払わなければならない。
- 8 もしその相手の人に、償いを受け取る権利のある親類がいなければ、その咎のために弁償されたものは主のものであり、祭司のものとなる。そのほか、その人のために宥めを行うための、宥めの雄羊もそうなる。
- 9 こうして、イスラエルの子らが祭司のところに携えて来るすべての聖なるものは、どの奉納物も祭司のものとなる。
- 10 聖なるささげ物は、人のもとにあればその人のものであるが、人が祭司に与えるものは祭司のものとなる。」
- 11 主はモーセにこう告げられた。
- 12 「イスラエルの子らに告げよ。もし人の妻が道を外して夫の信頼を裏切り、
- 13 ほかの男が彼女と寝て交わり、そのことが夫の目から隠れていて、彼女が身を汚したことが見つからず、証人もなく、彼女が捕らえられないままであるが、
- 14 妻が身を汚していて、夫にねたみの心が起こり、妻に対して憤る場合、あるいは妻が身を汚していないのに、夫にねたみの心が起こり、妻に対して憤る場合、
- 15 夫は妻を祭司のところに連れて行き、彼女のために大麦の粉十分の一エパをささげ物として携えて行きなさい。この上に油を注いでも乳香を加えてもいいけない。これはねたみのためのささげ物、咎を思い出させる、覚えの分としての穀物のささげ物だからである。
- 16 祭司は、その女を進み出させ、主の前に立たせる。
- 17 祭司は聖なる水を土の器に取る。そして祭司は幕屋の床にある土のちりを取って、その水に入れる。
- 18 祭司は女を主の前に立たせ、その女の髪の毛を乱れさせて、その両方の手のひらに、覚えの分としての穀物のささげ物、すなわち、ねたみのためのささげ物を置く。一方、祭司の手には、のろいをもたらす苦みの水があるようにする。
- 19 祭司は女に誓わせて、この女に言う。『もし、ほかの男があなたと寝たことがなく、またあなたが夫のもとにあるのに、道ならぬことをして身を汚したことがないなら、あなた

は、のろいをもたらすこの苦みの水の害を受けないように。

- 20 しかし、もしあなたが夫のもとにあるのに、道ならぬことをして身を汚し、夫以外の男があなたと寝たのであれば―』
- 21 ここで祭司はその女にのろいの誓いを立てさせて、その女に言う。『主があなたのももを痩せ衰えさせ、あなたの腹をふくれさせ、あなたの民のうちにあって、主があなたをのろいと非難的の的とされるように。
- 22 また、のろいをもたらすこの水があなたのからだに入って腹をふくれさせ、ももを痩せ衰えさせるように。』そしてその女は、『アーメン、アーメン』と言う。
- 23 祭司はこののろいを書き物に書き、それを苦みの水の中に洗い落とす。
- 24 のろいをもたらすこの苦みの水を彼女に飲ませると、のろいをもたらす水が彼女の中に入って、苦くなる。
- 25 祭司は女の手から、ねたみのためのささげ物を取り、この穀物のささげ物を主に向かって揺り動かし、それを祭壇に近づける。
- 26 祭司は、穀物のささげ物から、覚えの分としてひとつかみを取り、それを祭壇で焼いて煙にする。その後で女に先の水を飲ませる。
- 27 その水を飲ませたとき、もし、その女が夫の信頼を裏切って身を汚していれば、のろいをもたらす水はその女の中に入って苦くなり、その腹はふくれて、そのももは痩せ衰える。その女はその民の間で、のろいの的となる。
- 28 しかし、もし女が身を汚しておらず、きよければ、罰を免れて、子を宿すようになる。
- 29 これが、ねたみについてのおしえである。女が夫のもとにあるのに、道ならぬことをして身を汚したり、
- 30 または夫にねたみの心が起こって、自分の妻に対して憤ったりする場合には、その妻を主の前に立たせる。そして祭司は彼女にこのおしえのすべてを行う。
- 31 夫に咎はなく、妻が自分の咎を負うのである。」

第6章

- 1 主はモーセに告げられた。
- 2 「イスラエルの子らに告げよ。男または女が、主のものとして身を聖別するため特別な誓いをして、ナジル人の誓願を立てる場合、
- 3 その人は、ぶどう酒や強い酒を断たなければならない。ぶどう酒の酢や強い酒の酢を飲んではならない。また、ぶどう汁をいっさい飲んではならない。ぶどうの実の生のものも、干したのものも食べてはならない。
- 4 ナジル人としての聖別の全期間、彼はぶどうの木から生じるものはすべて、種も皮も食べてはならない。
- 5 彼がナジル人としての聖別の誓願を立てている間は、頭にかみそりを当ててはならない。主のものとして身を聖別している期間が満ちるまで、彼は聖なるものであり、頭の髪の毛を伸ばしておかなければならない。
- 6 主のものとして身を聖別している間は、死人のところに入って行ってはならない。
- 7 父、母、兄弟、姉妹が死んだ場合でも、彼らとの関わりで身を汚してはならない。彼の頭には神への聖別のしるしがあるからである。
- 8 ナジル人としての聖別の全期間、彼は主に対して聖なるものである。
- 9 だれかが突然、彼のそばで死んで、その聖別された頭を汚した場合には、身をきよめる日に頭を剃る。すなわち七日目に剃る。
- 10 そして八日目に、山鳩二羽か家鳩のひな二羽を、会見の天幕の入り口にいる祭司のところに持って行く。
- 11 祭司はその一羽を罪のきよめのささげ物とし、もう一羽を全焼のささげ物として献げ、死体によって招いた罪を除いて彼のために宥めを行い、その日に彼の頭を聖なるものとする。
- 12 その人は、ナジル人としての聖別の期間を、改めて主のものとして聖別する。そして一歳の雄の子羊を携えて行き、代償のささげ物とする。それ以前の日数は、彼の聖別が汚されたので無効になる。
- 13 これはナジル人についてのおしえである。ナジル人としての聖別の期間が満ちたときは、彼を会見の天幕の入り口に連れて行く。
- 14 彼は次のささげ物を主に献げる。すなわち、全焼のささげ物として傷のない一歳の雄の子羊一匹、罪のきよめのささげ物として傷のない一歳の雌の子羊一匹、交わりのいけにえとして傷のない雄羊一匹、
- 15 さらに穀物のささげ物として、種なしパンーかご、油を混ぜた小麦粉の輪形パン、油を塗った種なしの薄焼きパンを、それぞれに添える注ぎのささげ物とともに献げる。
- 16 祭司はこれらのものを主の前に近づけ、罪のきよめのささげ物と全焼のささげ物を献げる。
- 17 交わりのいけにえとして雄羊を、一かごの種なしパンとともに主に献げ、さらに祭司は穀物のささげ物と注ぎのささげ物を献げる。

- 18** ナジル人は会見の天幕の入り口で、聖別した頭を剃り、その聖別した頭の髪の毛を取って、交わりのいけにえの下にある火にくべる。
- 19** ナジル人がその聖別した髪の毛を剃った後、祭司は煮えた雄羊の肩と、かごの中の種なしの輪形パン一つと、種なしの薄焼きパン一つを取って、ナジル人の手の上に載せる。
- 20** 祭司はこれらを奉献物として主の前で揺り動かす。これは聖なるものであって、奉献物の胸肉、奉納物のもも肉とともに祭司のものとなる。その後で、このナジル人はぶどう酒を飲むことができる。
- 21** これがナジル人についてのおしえである。ナジル人としての聖別に加えて、その人の力の及ぶ以上に主へのささげ物を誓う者は、ナジル人としての聖別のおしえに加えて、その誓った誓いのことばどおりにしなければならない。」
- 22** 主はモーセにこう告げられた。
- 23** 「アロンとその子らに告げよ。『あなたがたはイスラエルの子らに言って、彼らをこのように祝福しなさい。
- 24** 主があなたを祝福し、あなたを守られますように。
- 25** 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。
- 26** 主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。』
- 27** アロンとその子らが、わたしの名をイスラエルの子らの上に置くな、わたしが彼らを祝福する。」

第7章

- 1 モーセは幕屋を設営し終えた日に、これに油注ぎをして、聖別した。そのすべての器具と、祭壇およびそのすべての用具にもそうした。彼がそれらに油注ぎをして聖別したとき、
- 2 イスラエルの族長たち、すなわち一族のかしらたちが近づいた。彼らは部族の長たちで、登録に当たった者たちである。
- 3 彼らは自分たちのささげ物を主の前に持って来た。それは覆いのある台車六台と雄牛十二頭で、族長二人につき車一台、一人につき牛一頭であった。彼らはこれを幕屋の前に引いて来た。
- 4 すると主はモーセに告げられた。
- 5 「会見の天幕の奉仕に使うために彼らからこれらを受け取り、レビ人にそれぞれの奉仕に応じて渡せ。」
- 6 そこでモーセは台車と雄牛を受け取り、それをレビ人に与えた。
- 7 ゲルション族には、その奉仕に応じて台車二台と雄牛四頭を与え、
- 8 メラリ族には、祭司アロンの子イタマルの監督のもとにある彼らの奉仕に応じて、台車四台と雄牛八頭を与えた。
- 9 しかしケハテ族には何も与えなかった。彼らの聖なるものに関わる奉仕は、肩に担いで運ぶことだったからである。
- 10 祭壇に油注ぎが行われた日に、族長たちは祭壇奉獻のためのささげ物を献げた。族長たちが自分たちのささげ物を祭壇の前に近づけたとき、
- 11 主はモーセに言われた。「族長たちは一日に一人ずつの割合で、祭壇奉獻のために彼らのささげ物を献げなければならない。」
- 12 最初の日にはささげ物を献げたのは、ユダ部族のアミナダブの子ナフションであった。
- 13 そのささげ物は、聖所のシェケルで重さ百三十シェケルの銀の皿一枚、七十シェケルの銀の鉢一つ。この二つには穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉がいっぱいに入れてあった。
- 14 また香を満たした十シェケルの金のひしゃく一つ。
- 15 全焼のささげ物として若い雄牛一頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊一匹。
- 16 罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹。
- 17 交わりのいけにえとして雄牛二頭、雄羊五匹、雄やぎ五匹、一歳の雄の子羊五匹。これがアミナダブの子ナフションのささげ物であった。
- 18 二日目にはイッサカルの族長、ツアルの子ネタンエルが献げた。
- 19 彼は、ささげ物として聖所のシェケルで重さ百三十シェケルの銀の皿一枚、七十シェケルの銀の鉢一つを献げた。この二つには穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉がいっぱいに入れてあった。
- 20 また香を満たした十シェケルの金のひしゃく一つ。
- 21 全焼のささげ物として若い雄牛一頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊一匹。

- 22 罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹。
- 23 交わりのいけにえとして雄牛二頭、雄羊五匹、雄やぎ五匹、一歳の雄の子羊五匹。これがツアルの子ネタンエルのささげ物であった。
- 24 三日目は、ゼブルン族の族長、ヘロンの子エリアブ。
- 25 そのささげ物は、聖所のシェケルで重さ百三十シェケルの銀の皿一枚、七十シェケルの銀の鉢一つ。この二つには穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉がいっぱいに入れてあった。
- 26 また香を満たした十シェケルの金のひしゃく一つ。
- 27 全焼のささげ物として若い雄牛一頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊一匹。
- 28 罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹。
- 29 交わりのいけにえとして雄牛二頭、雄羊五匹、雄やぎ五匹、一歳の雄の子羊五匹。これがヘロンの子エリアブのささげ物であった。
- 30 四日目は、ルベン族の族長、シェデウルの子エリツル。
- 31 そのささげ物は、聖所のシェケルで百三十シェケルの銀の皿一枚、七十シェケルの銀の鉢一つ。この二つには穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉がいっぱいに入れてあった。
- 32 また香を満たした十シェケルの金のひしゃく一つ。
- 33 全焼のささげ物として若い雄牛一頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊一匹。
- 34 罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹。
- 35 交わりのいけにえとして雄牛二頭、雄羊五匹、雄やぎ五匹、一歳の雄の子羊五匹。これがシェデウルの子エリツルのささげ物であった。
- 36 五日目は、シメオン族の族長、ツリシャダイの子シェルミエル。
- 37 そのささげ物は、聖所のシェケルで百三十シェケルの銀の皿一枚、七十シェケルの銀の鉢一つ。この二つには穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉がいっぱいに入れてあった。
- 38 また香を満たした十シェケルの金のひしゃく一つ。
- 39 全焼のささげ物として若い雄牛一頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊一匹。
- 40 罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹。
- 41 交わりのいけにえとして雄牛二頭、雄羊五匹、雄やぎ五匹、一歳の雄の子羊五匹。これがツリシャダイの子シェルミエルのささげ物であった。
- 42 六日目は、ガド族の族長、デウエルの子エルヤサフ。
- 43 そのささげ物は、聖所のシェケルで百三十シェケルの銀の皿一枚、七十シェケルの銀の鉢一つ。この二つには穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉がいっぱいに入れてあった。
- 44 また香を満たした十シェケルの金のひしゃく一つ。
- 45 全焼のささげ物として若い雄牛一頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊一匹。
- 46 罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹。

- 47 交わりのいけにえとして雄牛二頭、雄羊五匹、雄やぎ五匹、一歳の雄の子羊五匹。これがデウエルの子エルヤサフのささげ物であった。
- 48 七日目は、エフライム族の族長、アミフデの子エリシャマ。
- 49 そのささげ物は、聖所のシェケルで百三十シェケルの銀の皿一枚、七十シェケルの銀の鉢一つ。この二つには穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉がいっぱいに入れてあった。
- 50 また香を満たした十シェケルの金のひしゃく一つ。
- 51 全焼のささげ物として若い雄牛一頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊一匹。
- 52 罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹。
- 53 交わりのいけにえとして雄牛二頭、雄羊五匹、雄やぎ五匹、一歳の雄の子羊五匹。これがアミフデの子エリシャマのささげ物であった。
- 54 八日目は、マナセ族の族長、ペダツルの子ガムリエル。
- 55 そのささげ物は、聖所のシェケルで百三十シェケルの銀の皿一枚、七十シェケルの銀の鉢一つ。この二つには穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉がいっぱいに入れてあった。
- 56 また香を満たした十シェケルの金のひしゃく一つ。
- 57 全焼のささげ物として若い雄牛一頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊一匹。
- 58 罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹。
- 59 交わりのいけにえとして雄牛二頭、雄羊五匹、雄やぎ五匹、一歳の雄の子羊五匹。これがペダツルの子ガムリエルのささげ物であった。
- 60 九日目は、ベニヤミン族の族長、ギデオニの子アビダン。
- 61 そのささげ物は、聖所のシェケルで百三十シェケルの銀の皿一枚、七十シェケルの銀の鉢一つ。この二つには穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉がいっぱいに入れてあった。
- 62 また香を満たした十シェケルの金のひしゃく一つ。
- 63 全焼のささげ物として若い雄牛一頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊一匹。
- 64 罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹。
- 65 交わりのいけにえとして雄牛二頭、雄羊五匹、雄やぎ五匹、一歳の雄の子羊五匹。これがギデオニの子アビダンのささげ物であった。
- 66 十日目は、ダン族の族長、アミシャダイの子アヒエゼル。
- 67 そのささげ物は、聖所のシェケルで百三十シェケルの銀の皿一枚、七十シェケルの銀の鉢一つ。この二つには穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉がいっぱいに入れてあった。
- 68 また香を満たした十シェケルの金のひしゃく一つ。
- 69 全焼のささげ物として若い雄牛一頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊一匹。
- 70 罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹。
- 71 交わりのいけにえとして雄牛二頭、雄羊五匹、雄やぎ五匹、一歳の雄の子羊五匹。これがアミシャダイの子アヒエゼルのささげ物であった。

- 72 十一日目は、アシェル族の族長、オ克蘭の子パグイエル。
- 73 そのささげ物は、聖所のシェケルで百三十シェケルの銀の皿一枚、七十シェケルの銀の鉢一つ。この二つには穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉がいっぱいに入れてあった。
- 74 また香を満たした十シェケルの金のひしゃく一つ。
- 75 全焼のささげ物として若い雄牛一頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊一匹。
- 76 罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹。
- 77 交わりのいけにえとして雄牛二頭、雄羊五匹、雄やぎ五匹、一歳の雄の子羊五匹。これがオ克蘭の子パグイエルのささげ物であった。
- 78 十二日目は、ナフタリ族の族長、エナンの子アヒラ。
- 79 そのささげ物は、聖所のシェケルで百三十シェケルの銀の皿一枚、七十シェケルの銀の鉢一つ。この二つには穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉がいっぱいに入れてあった。
- 80 また香を満たした十シェケルの金のひしゃく一つ。
- 81 全焼のささげ物として若い雄牛一頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊一匹。
- 82 罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹。
- 83 交わりのいけにえとして雄牛二頭、雄羊五匹、雄やぎ五匹、一歳の雄の子羊五匹。これがエナンの子アヒラのささげ物であった。
- 84 以上が、祭壇に油注ぎが行われた日に、イスラエルの族長たちから献げられた、祭壇奉献のささげ物であった。すなわち、銀の皿十二、銀の鉢十二、金のひしゃく十二。
- 85 銀の皿はそれぞれ百三十シェケル、鉢はそれぞれ七十シェケル。これらの器の銀は、合わせて、聖所のシェケルで二千四百シェケル。
- 86 香を満たした十二の金のひしゃくは、聖所のシェケルでそれぞれ十シェケル。ひしゃくの金は、合わせて百二十シェケル。
- 87 全焼のささげ物として、家畜は合わせて、雄牛十二頭、雄羊十二匹、一歳の雄の子羊十二匹、それに、それらに添える穀物のささげ物。また罪のきよめのささげ物として雄やぎ十二匹。
- 88 交わりのいけにえとして、家畜は合わせて、雄牛二十四頭、雄羊六十匹、雄やぎ六十匹、一歳の雄の子羊六十匹。これが祭壇に油注ぎが行われた後の、祭壇奉献のためのささげ物であった。
- 89 モーセは、主と語るために会見の天幕に入ると、あかしの箱の上にある「宥めの蓋」の上から、すなわち二つのケルビムの間から、彼に語られる御声を聞いた。主は彼に語られた。

第8章

- 1 主はモーセに告げられた。
- 2 「アロンに告げよ。『あなたがともしび皿を載せるとき、七つのともしび皿が燭台の前を照らすようにしなさい』と。」
- 3 アロンはそうにした。主がモーセに命じられたとおりに、燭台の前に向けてともしび皿を載せた。
- 4 燭台の作りは次のとおりであった。それは金の打ち物で、その台座から花卉に至るまで打ち物であった。主がモーセに示された型のおりに、この燭台は作られていた。
- 5 主はモーセにこう告げられた。
- 6 「レビ人をイスラエルの子らの中から取って、彼らをきよめよ。
- 7 あなたは次のようにして彼らをきよめなければならない。罪のきよめの水を彼らにかけ、彼らは全身にかみそりを当て、その衣服を洗い、身をきよめる。
- 8 そして若い雄牛と油を混ぜた小麦粉の穀物のささげ物を取る。あなたはまた別の若い雄牛を罪のきよめのささげ物として取る。
- 9 あなたはレビ人を会見の天幕の前に近づかせ、イスラエルの全会衆を集め、
- 10 レビ人を主の前に進ませる。イスラエルの子らは手をレビ人の上に置く。
- 11 アロンはレビ人を、イスラエルの子らからの奉獻物として主の前に献げる。これは彼らが主の奉仕をするためである。
- 12 レビ人は、雄牛の頭に手を置く。そこであなたは一頭を罪のきよめのささげ物として、また一頭を全焼のささげ物として主に献げ、レビ人のために宥めを行う。
- 13 あなたはレビ人をアロンとその子らの前に立たせ、彼らを奉獻物として主に献げる。
- 14 こうして、あなたはレビ人をイスラエルの子らのうちから分け、レビ人はわたしのものとなる。
- 15 この後、レビ人は会見の天幕に入って奉仕をすることができる。あなたは彼らをきよめ、彼らを奉獻物として献げなければならない。
- 16 彼らはイスラエルの子らのうちから正式にわたしに与えられたものだからである。すべてのイスラエルの子らのうちで、最初に胎を開いた、すべての長子の代わりに、わたしは彼らをわたしのものとして取ったのである。
- 17 イスラエルの子らのうちでは、人でも家畜でも、すべての長子はわたしのものだからである。エジプトの地で、わたしがすべての長子を打った日に、わたしは彼らを聖別してわたしのものとした。
- 18 わたしは、イスラエルの子らのうちのすべての長子の代わりにレビ人を取った。
- 19 わたしは、イスラエルの子らのうちからレビ人をアロンとその子らに正式に付け、会見の天幕でイスラエルの子らの奉仕をし、イスラエルの子らのために宥めを行うようにした。それは、イスラエルの子らが聖所に近づいて、彼らにわざわざ及ぶことのないようにするためである。」

- 20** モーセとアロンとイスラエルの全会衆は、レビ人に対してそのようにした。主がレビ人についてモーセに命じられたことすべてにしたがって、イスラエルの子らは彼らに行った。
- 21** レビ人は身の汚れを除き、その衣服を洗った。そうしてアロンは彼らを奉獻物として主の前に献げた。またアロンは彼らのために宥めを行い、彼らをきよめた。
- 22** この後、レビ人は会見の天幕に入って、アロンとその子らの前で自分たちの奉仕をした。人々は主がレビ人についてモーセに命じられたとおりに、レビ人に行った。
- 23** 主はモーセにこう告げられた。
- 24** 「これはレビ人に関わることである。二十五歳以上の者は、会見の天幕の奉仕の務めを果たさなければならない。
- 25** しかし、五十歳からは奉仕の務めから退き、もう奉仕してはならない。
- 26** その人はただ、会見の天幕で、自分の同族の者が任務に当たるのを助けることはできるが、自分で奉仕をしてはならない。あなたはレビ人に、彼らの任務に関してこのようにしなければならない。」

第9章

- 1 エジプトの地を出て二年目の第一の月に、主はシナイの荒野でモーセに告げられた。
- 2 「イスラエルの子らは、定められた時に、過越のいけにえを献げよ。
- 3 あなたがたはこの月の十四日の夕暮れ、その定められた時に、それを献げなければならない。それについてのすべての掟とすべての定めにしたがって、それをしなければならない。」
- 4 モーセがイスラエルの子らに、過越のいけにえを献げるように告げたので、
- 5 彼らはシナイの荒野で第一の月の十四日の夕暮れに過越のいけにえを献げた。イスラエルの子らは、すべて主がモーセに命じられたとおりに行った。
- 6 しかし、人の死体によって汚れていて、その日に過越のいけにえを献げることができなかった人たちがいた。彼らはその日、モーセとアロンの前に進み出た。
- 7 その人たちは彼に言った。「私たちは、人の死体によって汚れていますが、なぜ、イスラエルの子らの中で、定められた時に主へのささげ物を献げることを禁じられているのでしょうか。」
- 8 モーセは彼らに言った。「待っていなさい。私は主があなたがたについてどのように命じられるかを聞こう。」
- 9 主はモーセにこう告げられた。
- 10 「イスラエルの子らに告げよ。あなたがたのうち、またはあなたがたの子孫のうちで、人の死体によって身を汚している者、あるいは、遠い旅路にある者はみな、過越のいけにえを主に献げることができる。
- 11 その人たちは、第二の月の十四日の夕暮れに、それを献げなければならない。種なしパンと苦菜と一緒にそれを食べなければならない。
- 12 そのうちの少しでも朝まで残してはならない。また、その骨は折ってはならない。すべて過越のいけにえの掟のとおり、それを献げなければならない。
- 13 身がきよく、また旅にも出ていない者が、過越のいけにえを献げることをしないなら、その人は自分の民から断ち切られる。その人は定められた時に主へのささげ物を献げなかったので、自分の罪責を負う。
- 14 もし、あなたがたのところに寄留者が滞在していて、主に過越のいけにえを献げようとするなら、過越のいけにえの掟と、その定めとにしたがって献げなければならない。寄留者でも、この国に生まれた者でも、あなたがたには掟は一つである。」
- 15 幕屋が設営された日、雲が、あかしの天幕である幕屋をおおった。それは、夕方には幕屋の上であって朝まで火のようであった。
- 16 いつもこのようであって、昼は雲がそれをおおい、夜は火のように見えた。
- 17 いつでも雲が天幕から上るときには、その後でイスラエルの子らは旅立った。また、雲がとどまるその場所で、イスラエルの子らは宿営した。
- 18 主の命によりイスラエルの子らは旅立ち、主の命により宿営した。雲が幕屋の上にとどまっている間、彼らは宿営した。

- 19** 雲が長い間、幕屋の上にとどまるときには、イスラエルの子らは主への務めを守って、旅立たなかった。
- 20** また、雲がわずかの間しか幕屋の上にとどまらないことがあっても、彼らは主の命により宿営し、主の命により旅立った。
- 21** 雲が夕方から朝までとどまるようなときがあっても、朝になって雲が上れば、彼らは旅立った。昼でも夜でも、雲が上れば旅立った。
- 22** 二日でも、一月でも、あるいは一年でも、雲が幕屋の上にとどまって、去らなければ、イスラエルの子らは宿営を続けて旅立たなかった。しかし、雲が上ったときは旅立った。
- 23** 彼らは主の命により宿営し、主の命により旅立った。彼らはモーセを通して示された主の命により、主への務めを守った。

第10章

- 1 主はモーセにこう告げられた。
- 2 「銀のラッパを二本作りなさい。それを打ち物作りとしなさい。あなたはそれを用いて会衆を召し出したり、宿営を出発させたりしなければならない。
- 3 これらが長く吹き鳴らされると、全会衆が会見の天幕の入り口の、あなたのところに集まる。
- 4 もしその一つが吹き鳴らされると、イスラエルの分団のかしらである族長たちがあなたのところに集まる。
- 5 また、短く吹き鳴らすと、東側に宿っている宿営が出発する。
- 6 二度目に短く吹き鳴らすと、南側に宿っている宿営が出発する。彼らが出発するためには、短く吹き鳴らさなければならない。
- 7 集会を召集するときには、長く吹き鳴らさなければならない。短く大きく吹き鳴らしてはならない。
- 8 祭司であるアロンの子らがラッパを吹かなければならない。これはあなたがたにとって、代々にわたる永遠の掟である。
- 9 また、あなたがたの地で、自分たちを襲う侵略者との戦いに出るときには、ラッパを短く大きく吹き鳴らす。あなたがたが、自分たちの神、主の前に覚えられ、敵から救われるためである。
- 10 また、あなたがたの喜びの日、あなたがたの例祭と新月の日に、自分たちの全焼のささげ物と交わりのいけにえの上にラッパを吹き鳴らすなら、あなたがたは自分たちの神の前に覚えられる。わたしはあなたがたの神、主である。」
- 11 二年目の第二の月の二十日に、雲があかしの幕屋の上から離れて上った。
- 12 それでイスラエルの子らはシナイの荒野を旅立った。雲はパランの荒野でとどまった。
- 13 彼らは、モーセを通して示された主の命により初めて旅立った。
- 14 まず初めにユダ族の宿営の旗が、その軍団ごとに出発した。軍団長はアミナダブの子ナフシオン。
- 15 イッサカル部族の軍団長はツアルの子ネタンエル。
- 16 ゼブルン部族の軍団長はヘロンの子エリアブ。
- 17 幕屋が取り外され、幕屋を運ぶゲルション族、メラリ族が出発。
- 18 ルベンの宿営の旗が、その軍団ごとに出発。軍団長はシェデウルの子エリツル。
- 19 シメオン部族の軍団長はツリシャダイの子シェルミエル。
- 20 ガド部族の軍団長はデウエルの子エルヤサフ。
- 21 聖なるものを運ぶケハテ人が出発。なお、幕屋は、彼らが着くまでに建て終えられることになっていた。
- 22 また、エフライム族の宿営の旗が、その軍団ごとに出発。軍団長はアミフデの子エリシャマ。

- 23** マナセ部族の軍団長はペダツルの子ガムリエル。
- 24** ベニヤミン部族の軍団長はギデオニの子アビダンであった。
- 25** ダン部族の宿営の旗が、全宿営のしんがりとして軍団ごとに出発。軍団長はアミシャダイの子アヒエゼル。
- 26** アシェル部族の軍団長はオ克蘭の子パグイエル。
- 27** ナフタリ部族の軍団長はエナンの子アヒラ。
- 28** 以上がイスラエルの子らの軍団ごとの出発順序であり、彼らはそのように出発した。
- 29** さて、モーセは、彼のしゅうとミディアン人レウエルの子ホバブに言った。「私たちは、主が与えると言われた場所へ旅立つところです。私たちと一緒に行きましょう。私たちはあなたを幸せにします。主がイスラエルに良いことを約束しておられるからです。」
- 30** 彼はモーセに答えた。「私は行きません。私の国に、私の親族のもとに帰ります。」
- 31** するとモーセは言った。「どうか私たちを見捨てないでください。というのは、あなたは、私たちが荒野のどこで宿営したらよいかご存じで、私たちにとっては目なのですから。」
- 32** 私たちと一緒に行ってくだされば、主が私たちに下さるはずのどんな良きものも、あなたにお分かちできます。」
- 33** こうして、彼らは主の山を旅立ち、三日の道のりを進んだ。主の契約の箱は三日の道のりの間、彼らの先に立って進み、彼らが休息する場所を探した。
- 34** 彼らが宿営から出発する際、昼間は主の雲が彼らの上にあった。
- 35** 契約の箱が出発するときには、モーセはこう言った。「主よ、立ち上がってください。あなたの敵が散らされ、あなたを憎む者が、御前から逃げ去りますように。」
- 36** またそれがとどまるときには、彼は言った。「主よ、お帰りください。イスラエルの幾千幾万もの民のもとに。」

第11章

- 1 さて、民は主に対して、繰り返し激しく不平を言った。主はこれを聞いて怒りを燃やし、主の火が彼らに向かって燃え上がり、宿営の端をなめ尽くした。
- 2 すると民はモーセに向かってわめき叫んだ。それで、モーセが主に祈ると、その火は消えた。
- 3 その場所の名はタブエラと呼ばれた。主の火が、彼らに向かって燃え上がったからである。
- 4 彼らのうちに混じって来ていた者たちは激しい欲望にかられ、イスラエルの子らは再び大声で泣いて、言った。「ああ、肉が食べたい。
- 5 エジプトで、ただで魚を食べていたことを思い出す。きゅうりも、すいか、にら、玉ねぎ、にんにくも。
- 6 だが今や、私たちの喉はからからだ。全く何もなく、ただ、このマナを見るだけだ。」
- 7 マナはコエンドロの種のように、一見、ベドラハのようであった。
- 8 民は歩き回ってそれを集め、ひき臼でひくか臼でつき、これを鍋で煮てパン菓子を作った。その味は、油で揚げた菓子のような味であった。
- 9 夜、宿営に露が降りるとき、マナもそれと一緒に降りて来た。
- 10 モーセは、民がその家族ごとに、それぞれ自分の天幕の入り口で泣くのを聞いた。主の怒りは激しく燃え上がった。このことは、モーセにとって辛いことであった。
- 11 それで、モーセは主に言った。「なぜ、あなたはしもべを苦しめられるのですか。なぜ、私はあなたのご好意を受けられないのですか。なぜ、この民全体の重荷を私に負わされるのですか。
- 12 私がこのすべての民をはらんだのでしょうか。私が彼らを産んだのでしょうか。それなのになぜ、あなたは私に、『乳母が乳飲み子を抱きかかえるように、彼らをあなたの胸に抱き、わたしが彼らの父祖たちに誓った地に連れて行け』と言われるのですか。
- 13 どこから私は肉を得て、この民全体に与えられるのでしょうか。彼らは私に泣き叫び、『肉を与えて食べさせてくれ』と言うのです。
- 14 私一人で、この民全体を負うことはできません。私には重すぎます。
- 15 私をこのように扱われるのなら、お願いします、どうか私を殺してください。これ以上、私を悲惨な目にあわせないでください。」
- 16 主はモーセに言われた。「イスラエルの長老たちのうちから、民の長老で、あなたが民のつかさと認める者七十人をわたしのために集めよ。そして、彼らを会見の天幕に連れて来て、そこであなたのそばに立たせよ。
- 17 わたしは降りて行って、そこであなたと語り、あなたの上にある霊から一部を取って彼らの上に置く。それで彼らも民の重荷をあなたとともに負い、あなたがたった一人で負うことはなくなる。
- 18 あなたは民に言わなければならない。明日に備えて身を聖別しなさい。あなたがたは肉を食べられる。あなたがたが泣いて、主に対して『ああ、肉が食べたい。エジプトは良かつ

た』と言ったからだ。主が肉を下さる。あなたがたは肉を食べられるのだ。

- 19** あなたがたが食べるのは、ほんの一日や二日や五日や十日や二十日ではなく、
- 20** 一か月もであって、ついには、あなたがたの鼻から出て来て、吐き気をもよおすほどになる。それは、あなたがたのうちにおられる主をないがしろにして、その御前で泣き、『いったい、なぜ、われわれはエジプトから出て来たのか』と言ったからだ。」
- 21** しかしモーセは言った。「私と一緒にいる民は、徒歩の男子だけで六十万人です。しかもあなたは、彼らに肉を与え、一か月の間食べさせる、と言われます。
- 22** 彼らのために羊の群れ、牛の群れが屠られても、それは彼らに十分でしょうか。彼らのために海の魚が全部集められても、彼らに十分でしょうか。」
- 23** 主はモーセに答えられた。「この主の手が短いというのか。わたしのことばが実現するかどうかは、今に分かる。」
- 24** モーセは出て行って、主のことばを民に語った。そして民の長老たちのうちから七十人を集め、彼らを天幕の周りに立たせた。
- 25** すると主は雲の中にあって降りて来て、モーセと語り、彼の上にある霊から一部を取って、その七十人の長老に与えられた。その霊が彼らの上にとどまると、彼らは預言した。しかし、重ねてそれをする事はなかった。
- 26** そのとき、二人の者が宿営に残っていた。一人の名はエルダデ、もう一人の名はメダデであった。彼らの上にも霊がとどまった。彼らは長老として登録された者たちだったが、天幕へは出て行かなかったのである。彼らは宿営の中で預言した。
- 27** それで、一人の若者が走って来て、モーセに告げた。「エルダデとメダデが宿営の中で預言しています。」
- 28** 若いときからモーセの従者であったヌンの子ヨシュアは答えて言った。「わが主、モーセよ。彼らをやめさせてください。」
- 29** モーセは彼に言った。「あなたは私のためを思って、ねたみを起こしているのか。主の民がみな、預言者となり、主が彼らの上にご自分の霊を与えられるとよいのに。」
- 30** それから、モーセとイスラエルの長老たちは、宿営に戻った。
- 31** さて、主のもとから風が吹き、海からうずらを運んで来て、宿営の近くに落とした。それは宿営の周り、どちらの側にも約一日の道のりの範囲で、地面から約二キュビトの高さになった。
- 32** 民は、その日は終日終夜、次の日も終日出て行ってうずらを集めた。集めたのが最も少なかった者でも、十ホメルほど集めた。彼らはそれらを自分たちのために、宿営の周囲に広げておいた。
- 33** 肉が彼らの歯の間にあって、まだかみ終わらないうちに、主の怒りが民に向かって燃え上がり、主は非常に激しい疫病で民を打たれた。
- 34** その場所の名はキプロテ・ハ・タアワと呼ばれた。欲望にかられた民が、そこに埋められたからである。
- 35** キプロテ・ハ・タアワから、民はハツェロテに進んで行った。そしてハツェロテにとどまった。

第12章

- 1 そのとき、ミリアムとアロンは、モーセが妻としていたクシュ人の女のことで彼を非難した。モーセがクシュ人の女を妻としていたからである。
- 2 彼らは言った。「主はただモーセとだけ話されたのか。われわれとも話されたのではないか。」主はこれを聞かれた。
- 3 モーセという人は、地の上のだれにもまさって柔和であった。
- 4 主は突然、モーセとアロンとミリアムに、「あなたがた三人は会見の天幕のところへ出よ」と言われた。そこで彼ら三人は出て行った。
- 5 主は雲の柱の中にあって降りて来られ、天幕の入り口に立って、アロンとミリアムを呼ばれた。二人が出て行くと、
- 6 主は言われた。「聞け、わたしのことばを。もし、あなたがたの間に預言者がいるなら、主であるわたしは、幻の中でその人にわたし自身を知らせ、夢の中でその人と語る。
- 7 だがわたしのしもべモーセとはそうではない。彼はわたしの全家を通じて忠実な者。
- 8 彼とは、わたしは口と口で語り、明らかに語って、謎では話さない。彼は主の姿を仰ぎ見ている。なぜあなたがたは、わたしのしもべ、モーセを恐れず、非難するのか。」
- 9 主の怒りが彼らに向かって燃え上がり、主は去って行かれた。
- 10 雲が天幕の上から離れ去ると、見よ、ミリアムは皮膚がツアラアトに冒され、雪のようになっていた。アロンがミリアムの方を振り向くと、見よ、彼女はツアラアトに冒されていた。
- 11 アロンはモーセに言った。「わが主よ。どうか、私たちが愚かにも陥ってしまった罪の罰を、私たちに負わせないでください。
- 12 どうか、彼女を、肉が半ば腐って母の胎から出て来る死人のようにしないでください。」
- 13 モーセは主に叫んだ。「神よ、どうか彼女を癒やしてください。」
- 14 しかし主はモーセに言われた。「もし彼女の父が彼女の顔に唾したら、彼女は七日間、恥をかかされることにならないか。彼女を七日間、宿営の外に締め出しておかなければならない。その後で彼女は戻ることができる。」
- 15 それでミリアムは七日間、宿営の外に締め出された。民はミリアムが戻るまで旅立たなかった。
- 16 それから民はハツェロテを旅立ち、パランの荒野に宿営した。

第13章

- 1 主はモーセに告げられた。
- 2 「人々を遣わして、わたしがイスラエルの子らに与えようとしているカナンの地を偵察させよ。父祖の部族ごとに一人ずつ、族長を遣わさなければならない。」
- 3 モーセは、主の命により、パランの荒野から彼らを遣わした。彼らはみな、イスラエルの子らのかしらであった。
- 4 彼らの名は次のとおりである。ルベン部族からはザクルの子シャムア。
- 5 シメオン部族からはホリの子シャファテ。
- 6 ユダ部族からはエフンネの子カレブ。
- 7 イッサカル部族からはヨセフの子イグアル。
- 8 エフライム部族からはヌンの子ホセア。
- 9 ベニヤミン部族からはラフの子パルティ。
- 10 ゼブルン部族からはソディの子ガディエル。
- 11 ヨセフ部族、すなわちマナセ部族からはスシの子ガディ。
- 12 ダン部族からはゲマリの子アンミエル。
- 13 アシェル部族からはミカエルの子セトル。
- 14 ナフタリ部族からはボフシの子ナフビ。
- 15 ガド部族からはマキの子ゲウエル。
- 16 以上が、モーセがその地の偵察のために遣わした者の名である。モーセはヌンの子ホセアをヨシュアと名づけた。
- 17 モーセは、カナンの地の偵察のために彼らを遣わして言った。「向こうに上って行ってネゲブに入り、山地に行き、
- 18 その地がどんなであるか、調べてきなさい。そこに住んでいる民が強いか弱い、少ないか多いか、
- 19 また彼らが住んでいる土地はどうか、それが良いか悪いか、彼らが住んでいる町々はどうか、それらは宿営か、それとも城壁の町か、
- 20 土地はどうか、それは肥えているか痩せているか、そこには木があるかないか。勇気を出して、その地の果物を取って来なさい。」その季節は初ぶどうの熟すころであった。
- 21 それで、彼らは上って行き、ツィンの荒野からレボ・ハマテのレホブまで、その地を偵察した。
- 22 彼らは上って行ってネゲブに入り、ヘブロンまで行った。そこにはアナクの子孫であるアヒマンと、シェシャイと、タルマイがいた。ヘブロンはエジプトのツォアンより七年前に建てられていた。
- 23 彼らはエシュコルの谷まで来て、そこでぶどうが一房ついた枝を切り取り、二人で棒で担いだ。また、ざくろやいちじくの木からも切り取った。

- 24** その場所は、イスラエルの子らがそこで切り取ったぶどうの房にちなんで、エシュコルの谷と呼ばれた。
- 25** 四十日の終わりに、彼らはその地の偵察から戻った。
- 26** 彼らは、パランの荒野のカデシュにいるモーセとアロンおよびイスラエルの全会衆のところにやって来て、二人と全会衆に報告をし、その地の果物を見せた。
- 27** 彼らはモーセに語った。「私たちは、あなたがお遣わしになった地に行きました。そこには確かに乳と蜜が流れています。そして、これがその果物です。
- 28** ただ、その地に住む民は力が強く、その町々は城壁があって非常に大きく、そのうえ、そこでアナクの子孫を見ました。
- 29** アマレク人がネゲブの地方に住んでいて、ヒッタイト人、エブス人、アモリ人が山地に、カナン人が海岸とヨルダンの川岸に住んでいます。」
- 30** そのとき、カレブがモーセの前で、民を静めて言った。「私たちはぜひとも上って行って、そこを占領しましょう。必ず打ち勝つことができます。」
- 31** しかし、彼と一緒に上って行った者たちは言った。「あの民のところには攻め上れない。あの民は私たちより強い。」
- 32** 彼らは偵察して来た地について、イスラエルの子らに悪く言いふらして言った。「私たちが行き巡って偵察した地は、そこに住む者を食い尽くす地で、そこで見た民はみな、背の高い者たちだ。
- 33** 私たちは、そこでネフィリムを、ネフィリムの末裔アナク人を見た。私たちの目には自分たちがバッタのように見えたし、彼らの目にもそう見えただろう。」

第14章

- 1 すると、全会衆は大声をあげて叫び、民はその夜、泣き明かした。
- 2 イスラエルの子らはみな、モーセとアロンに不平を言った。全会衆は彼らに言った。「われわれはエジプトの地で死んでいたらよかった。あるいは、この荒野で死んでいたらよかったのだ。」
- 3 なぜ主は、われわれをこの地に導いて来て、剣に倒れるようにされるのか。妻や子どもは、かすめ奪われてしまう。エジプトに帰るほうが、われわれにとって良くはないか。」
- 4 そして互いに言った。「さあ、われわれは、かしらを一人立ててエジプトに帰ろう。」
- 5 そこで、モーセとアロンは、イスラエルの会衆の集会全体の前でひれ伏した。
- 6 すると、その地を偵察して来た者のうち、ヌンの子ヨシュアとエフンネの子カレブが、自分たちの衣を引き裂き、
- 7 イスラエルの全会衆に向かって次のように言った。「私たちが巡り歩いて偵察した地は、すばらしく、良い地だった。
- 8 もし主が私たちを喜んでおられるなら、私たちをあの地に導き入れ、それを私たちに下さる。あの地は乳と蜜が流れる地だ。
- 9 ただ、主に背いてはならない。その地の人々を恐れてはならない。彼らは私たちの餌食となる。彼らの守りは、すでに彼らから取り去られている。主が私たちとともにおられるのだ。彼らを恐れてはならない。」
- 10 しかし全会衆は、二人を石で打ち殺そうと言い出した。すると、主の栄光が会見の天幕からすべてのイスラエルの子らに現れた。
- 11 主はモーセに言われた。「この民はいつまでわたしを侮めるのか。わたしがこの民の間で行ったすべてのしるしにもかかわらず、いつまでわたしを信じようとししないのか。
- 12 わたしは彼らを疫病で打ち、ゆずりの地を剥奪する。しかし、わたしはあなたを彼らよりも強く大いなる国民にする。」
- 13 モーセは主に言った。「エジプトは、あなたが御力によって、自分たちのうちからこの民を導き出されたことを聞いて、
- 14 この地の住民に告げるでしょう。事実、住民たちは聞いています。あなた、主がこの民のうちにおられ、あなた、主が目のあたりにご自身を現されること、またあなたの雲が彼らの上に立ち、あなたが昼は雲の柱、夜は火の柱の内にあって、彼らの前を歩んでおられることを。
- 15 もし、あなたがこの民を一人残らず殺すなら、あなたのうわさを聞いた異邦の民は、このように言うに違いありません。
- 16 『主はこの民を、彼らに誓った地に導き入れることができなかったので、荒野で殺したのだ』と。
- 17 どうか今、あなたが語られたように、わが主の大きな力を現してください。あなたは言われました。

- 18 『主は怒るのに遅く、恵み豊かであり、咎と背きを赦す。しかし、罰すべき者を必ず罰し、父の咎を子に報い、三代、四代に及ぼす』と。
- 19 この民をエジプトから今に至るまで耐え忍んでくださったように、どうかこの民の咎をあなたの大きな恵みによって赦してください。」
- 20 主は言われた。「あなたのことばどおりに、わたしは赦す。
- 21 しかし、わたしが生きていて、主の栄光が全地に満ちている以上、
- 22 わたしの栄光と、わたしがエジプトとこの荒野で行ったしるしを見ながら、十度もこのようにわたしを試み、わたしの声に聞き従わなかった者たちは、だれ一人、
- 23 わたしが彼らの父祖たちに誓った地を見ることはない。わたしを侮った者たちは、だれ一人、それを見ることはない。
- 24 ただし、わたしのしもべカレブは、ほかの者とは違った霊を持ち、わたしに従い通したので、わたしは、彼が行って来た地に彼を導き入れる。彼の子孫はその地を所有するようになる。
- 25 平地にはアマレク人とカナン人が住んでいるので、あなたがたは、明日、向きを変えてここを旅立ち、葦の海の道を通して荒野へ行け。」
- 26 主はモーセとアロンに告げられた。
- 27 「いつまで、この悪い会衆は、わたしに不平を言い続けるのか。わたしは、イスラエルの子らがわたしにつぶやく不平を聞いた。
- 28 彼らに言え。わたしは生きている―主のことば―。わたしは必ず、おまえたちがわたしの耳に語ったとおりに、おまえたちに行く。
- 29 この荒野におまえたちは、屍をさらす。わたしに不平を言った者で、二十歳以上の、登録され数えられた者たち全員である。
- 30 エフンネの子カレブと、ヌンの子ヨシュアのほかは、おまえたちを住まわせるとわたしが誓った地に、だれ一人入ることはできない。
- 31 おまえたちが『かすめ奪われてしまう』と言った、おまえたちの子どもについては、わたしは彼らを導き入れる。彼らはおまえたちが拒んだ地を知るようになる。
- 32 しかし、おまえたちはこの荒野に屍をさらす。
- 33 おまえたちの子どもは、この荒野で四十年の間羊を飼う者となり、おまえたちがみな、屍となるまで、おまえたちの背信の責めを負わなければならない。
- 34 おまえたちが、あの地を偵察した日数は四十日であった。その一日を一年と数えて、四十年の間おまえたちは自分の咎を負わなければならない。こうして、わたしへの反抗が何であるかを思い知ることになる。
- 35 主であるこのわたしが言う。一つになってわたしに逆らったこの悪い会衆のすべてに対して、わたしは必ずこうする。この荒野で彼らは死に絶える。
- 36 また、モーセがあゝの地の偵察のために遣わした者で、帰って来て、その地について悪く言いふらし、全会衆にモーセに対する不平を言わせた者たちもだ。」
- 37 こうして、その地を悪く言いふらした者たちは、主の前に疫病で死んだ。

- 38** しかし、あの地を偵察しに行った者のうち、ヌンの子ヨシュアと、エフンネの子カレブは生き残った。
- 39** モーセがこれらのことばを、すべてのイスラエルの子らに告げると、民は嘆き悲しんだ。
- 40** 翌朝早く、彼らは山地の峰の方に上って行こうとして言った。「われわれはここにいるが、とにかく主が言われた場所へ上って行ってみよう。われわれは罪を犯してしまったのだ。」
- 41** モーセは言った。「あなたがたはいったいなぜ、主の命令を破ろうとするのか。それは成功しない。
- 42** 上って行ってはならない。主があなたがたのうちにおられないのだから。あなたがたは敵に打ち負かされてはならない。
- 43** そこには、あなたがたの前にアマレク人とカナン人がいて、あなたがたは剣で倒される。あなたがたが主に背いたから、主はあなたがたとともにはおられない。」
- 44** しかし、彼らはかまわずに山地の峰の方に上って行った。主の契約の箱とモーセは、宿営の中から動かなかった。
- 45** 山地に住んでいたアマレク人とカナン人は、下って来て彼らを討ち、ホルマまで彼らを追い散らした。

第15章

- 1 主はモーセにこう告げられた。
- 2 「イスラエルの子らに告げよ。わたしがあなたがたに与えて住まわせる地にあなたがたが入り、
- 3 食物のささげ物を主に献げるとき、すなわち、特別な誓願を果たすためであれ、進んで献げるものとしてであれ、例祭としてであれ、牛か羊の群れから全焼のささげ物がいけにえをもって、主に芳ばしい香りを献げるとき、
- 4 そのささげ物をする者は、穀物のささげ物として、油四分の一ヒンを混ぜた小麦粉十分の一エバを、主に献げなければならない。
- 5 また全焼のささげ物、またはいけにえに添えて、子羊一匹のための注ぎのささげ物として、四分の一ヒンのぶどう酒を献げなければならない。
- 6 雄羊の場合には、穀物のささげ物として、油三分の一ヒンを混ぜた小麦粉十分の二エバを献げ、
- 7 さらに注ぎのささげ物として、ぶどう酒三分の一ヒンを献げなければならない。これは、主への芳ばしい香りである。
- 8 また、あなたが特別な誓願を果たすために、若い牛を全焼のささげ物、もしくはいけにえとする場合、あるいは交わりのいけにえとして主に献げる場合は、
- 9 その若い牛に添えて、油二分の一ヒンを混ぜた小麦粉十分の三エバの穀物のささげ物を献げ、
- 10 また注ぎのささげ物として、ぶどう酒二分の一ヒンを献げなければならない。これは主への食物のささげ物、芳ばしい香りである。
- 11 牛一頭、雄羊一匹、いかなる羊、やぎについても、このようにしなければならない。
- 12 あなたがたが献げる数に応じて、それらの数にしたがって、一頭、一匹ごとにこのようにしなければならない。
- 13 すべてこの国に生まれた者が、主への芳ばしい香りの、食物のささげ物を献げるには、このようにこれらのことを行わなければならない。
- 14 また、あなたがたのところに寄留している者、あるいは、あなたがたのうちに代々住んでいる者が、主への芳ばしい香りである、食物のささげ物を献げる場合には、あなたがたがするようにその人もしなければならない。
- 15 一つの集会として、掟はあなたがたにも、寄留している者にも同一であり、代々にわたる永遠の掟である。主の前には、あなたがたも寄留者も同じである。
- 16 あなたがたにも、あなたがたのところに寄留している者にも、同一のおしえ、同一のさばきが適用されなければならない。」
- 17 主はモーセにこう告げられた。
- 18 「イスラエルの子らに告げよ。わたしがあなたがたを導き入れようとする地にあなたがたが入り、

- 19 その地のパンを食べるようになったら、あなたがたは主に奉納物を献げなければならない。
- 20 初物の麦粉で作った輪形パンを奉納物として献げ、打ち場からの奉納物として献げなければならない。
- 21 初物の麦粉のうちから、あなたがたは代々にわたり、主に奉納物を献げなければならない。
- 22 あなたがたが迷い出て、主がモーセに告げたこれらすべての命令、
- 23 すなわち、主が命じた日以後、代々にわたって、主がモーセを通してあなたがたに命じたすべてのことを行わないとき、
- 24 もしそのことが、会衆が気づかずになされたのなら、全会衆は、主への芳ばしい香りのための全焼のささげ物として若い雄牛一頭、また、定めにかなう穀物のささげ物と注ぎのささげ物、さらに罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹を献げなければならない。
- 25 祭司がイスラエルの全会衆のために宥めを行うなら、彼らは赦される。それは過失であり、彼らが自分たちの過失のために、自分たちのささげ物、すなわち主への食物のささげ物と罪のきよめのささげ物を、主の前に持って来たからである。
- 26 イスラエルの全会衆も、あなたがたの間に寄留している者も赦される。それは民全体の過ちだからである。
- 27 もし個人が気づかずに罪に陥ってしまったのなら、一歳の雌やぎ一匹を罪のきよめのささげ物として献げなければならない。
- 28 祭司は、気づかずに罪に陥ってしまった者のために、主の前で宥めを行う。彼のために宥めを行い、その人は赦される。
- 29 イスラエルの子らのうちのこの国に生まれた者でも、あなたがたの間に寄留している者でも、気づかずに罪を行ってしまった者には、あなたがたと同一のおしえが適用されなければならない。
- 30 この国に生まれた者でも、寄留者でも、故意に違反する者は主を冒瀆する者であり、その人は自分の民の間から断ち切られる。
- 31 主のことばを侮り、その命令を破ったのであるから、必ず断ち切れ、その咎を負う。」
- 32 イスラエルの子らが荒野にいたとき、安息日に薪を集めている男が見つかった。
- 33 薪を集めている者を見つけた人たちは、その人をモーセとアロンおよび全会衆のところに連れて来た。
- 34 しかし、その人をどうすべきか、はっきりと示されていなかったなので、彼を留置しておいた。
- 35 すると、主はモーセに言われた。「この者は必ず殺されなければならない。全会衆は宿営の外で、彼を石で打ち殺さなければならない。」
- 36 そこで、全会衆は主がモーセに命じられたように、その人を宿営の外に連れ出し、石で打ち殺した。
- 37 主はモーセに告げられた。

- 38** 「イスラエルの子らに告げて、彼らが代々にわたり、衣服の裾の四隅に房を作り、その隅の房に青いひもを付けるように言え。
- 39** その房はあなたがたのためであって、あなたがたがそれを見て、主のすべての命令を思い起こしてそれを行うためであり、淫らなことをする自分の心と目の欲にしたがって、さまよい歩くことのないようにするためである。
- 40** こうしてあなたがたが、わたしのすべての命令を思い起こして、これを行い、あなたがたの神に対して聖なる者となるためである。
- 41** わたしが、あなたがたの神、主であり、わたしがあなたがたの神となるために、あなたがたをエジプトの地から導き出したのである。わたしはあなたがたの神、主である。」

第16章

- 1 レビの子であるケハテの子イツハルの子コラは、ルベンの子孫であるエリアブの子ダタンとアビラム、およびベレテの子オンと共謀して、
- 2 モーセに立ち向かった。イスラエルの子らで、会衆の上に立つ族長たち、会合から召し出された名のある者たち二百五十人も、彼らと一緒にあった。
- 3 彼らはモーセとアロンに逆らって結集し、二人に言った。「あなたがたは分を超えている。全会衆残らず聖なる者であって、主がそのうちにおられるのに、なぜ、あなたがたは主の集会の上に立つのか。」
- 4 モーセはこれを聞いてひれ伏した。
- 5 それから、コラとそのすべての仲間とに告げた。「明日の朝、主は、だれがご自分に属する者か、だれが聖なる者かを示し、その人をご自分に近寄せられる。主は、ご自分が選ぶ者をご自分に近寄せられるのだ。
- 6 こうしなさい。コラとそのすべての仲間よ。あなたがたは火皿を取り、
- 7 明日、主の前でその中に火を入れ、その上に香を盛りなさい。主がお選びになるその人が、聖なる者である。レビの子たちよ、あなたがたが分を超えているのだ。」
- 8 モーセはコラに言った。「レビの子たちよ、よく聞きなさい。
- 9 あなたがたは、何か不足があるのか。イスラエルの神が、あなたがたをイスラエルの会衆から分けて、主の幕屋の奉仕をするように、また会衆の前に立って彼らに仕えるように、ご自分に近寄せてくださったのだ。
- 10 こうしてあなたを、そして、あなたの同族であるレビ族をみな、あなたと一緒に近寄せてくださったのだ。それなのに、あなたがたは祭司の職まで要求するのか。
- 11 事実、一つになって主に逆らっているのは、あなたとあなたの仲間全員だ。アロンが何だからといって、彼に対して不平を言うのか。」
- 12 モーセは人を遣わして、エリアブの子のダタンとアビラムとを呼び寄せようとしたが、彼らは言った。「われわれは行かない。
- 13 あなたは、われわれを乳と蜜の流れる地から連れ上って、荒野で死なせようとし、そのうえ、われわれの上に君臨している。それでも不足があるのか。
- 14 しかも、あなたは、乳と蜜の流れる地にわれわれを導き入れず、畑とぶどう畑を、受け継ぐべき財産としてわれわれに与えてもいない。あなたは、この人たちの目をくらまそうとするのか。われわれは行かない。」
- 15 モーセは激しく怒った。そして主に言った。「どうか、彼らのささげ物を顧みないでください。私は彼らから、ろば一頭も取り上げたことはなく、彼らのうちのだれも傷つけたことがありません。」
- 16 それからモーセはコラに言った。「明日、あなたとあなたの仲間はみな、主の前に出なさい。あなたも彼らも、そしてアロンも。
- 17 あなたがたは、それぞれ自分の火皿を取り、その上に香を盛り、それぞれ主の前に持って行きなさい。二百五十の火皿を、あなたもアロンも、それぞれ自分の火皿を持って行きな

さい。」

- 18 彼らはそれぞれ自分の火皿を取り、それに火を入れて、その上に香を盛った。そしてモーセとアロンと一緒に会見の天幕の入り口に立った。
- 19 コラは、二人に逆らわせようとして、全会衆を会見の天幕の入り口に集めた。そのとき、主の栄光が全会衆に現れた。
- 20 主はモーセとアロンに告げられた。
- 21 「あなたがたはこの会衆から離れよ。わたしは彼らをたちどころに滅ぼし尽くす。」
- 22 二人はひれ伏して言った。「神よ、すべての肉なるものの霊をつかさどる神よ。一人の人が罪ある者となれば、全会衆に御怒りを下されるのですか。」
- 23 主はモーセに告げられた。
- 24 「会衆に告げて、コラとダタンとアビラムの住まいの周辺から引き下がるように言え。」
- 25 モーセは立ち上がり、ダタンとアビラムのところへ行った。イスラエルの長老たちもついて行った。
- 26 そして会衆に告げた。「さあ、この悪い者どもの天幕から離れなさい。彼らのものには何もさわってはならない。彼らのすべての罪のゆえに、あなたがたが滅ぼし尽くされるといけないから。」
- 27 それでみなは、コラとダタンとアビラムの住まいの周辺から離れ去った。ダタンとアビラムは、妻子、幼子たちと一緒に出て来て、自分たちの天幕の入り口に立った。
- 28 モーセは言った。「私を遣わして、これらのわざを行わせたのは主であり、私自身の考えからではないことが、次のことによってあなたがたに分かる。
- 29 もしこの者たちが、すべての人が死ぬように死に、すべての人の定めにあうなら、私を遣わしたのは主ではない。
- 30 しかし、もし主がこれまでにないことを行われるなら、すなわち、地がその口を開けて、彼らと彼らに属する者たちをことごとく呑み込み、彼らが生きたままよみに下るなら、あなたがたはこれらの者たちが主を侮ったことを知らなければならない。」
- 31 モーセがこれらのことばをみな言い終えるやいなや、彼らの足もとの地面が割れた。
- 32 地は口を開けて、彼らとその家族、またコラに属するすべての者と、すべての所有物を呑み込んだ。
- 33 彼らと彼らに属する者はみな、生きたまま、よみに下った。地は彼らを包み、彼らは集会の中から滅び失せた。
- 34 彼らの周りにいたイスラエル人はみな、彼らの叫び声を聞いて逃げた。「地がわれわれも呑み込んでしまわないか」と人々は思ったのである。
- 35 また、火が主のところから出て、香を献げていた二百五十人を焼き尽くした。
- 36 主はモーセに告げられた。
- 37 「あなたは、祭司アロンの子エルアザルに命じて、炎の中から火皿を取り出し、火を遠くにまき散らさせよ。それらは聖なるものとなっているから。
- 38 いのちを失うことになったこれらの罪人たちの火皿は、打ちたたいて延べ板とし、祭壇のためのかぶせ物とせよ。それらは、主の前に献げられたので、聖なるものとなっているか

らである。これらはイスラエルの子らに対するしるしとなる。」

- 39** そこで祭司エルアザルは、焼き殺された者たちが献げた青銅の火皿を取り、それを打ち延ばして祭壇のためのかぶせ物とし、
- 40** そのことがイスラエルの子らに覚えられるようにした。これは、アロンの子孫以外の資格のない者が、主の前に進み出て香をたくことのないようにするため、その人が、コラやその仲間のような目にあわないようにするためである。主がモーセを通してエルアザルに言われたとおりである。
- 41** その翌日、イスラエルの全会衆は、モーセとアロンに向かって不平を言った。「あなたがたは主の民を殺した。」
- 42** 会衆がモーセとアロンに逆らって結集したとき、二人が会見の天幕の方を振り向くと、見よ、雲がそれをおおい、主の栄光が現れた。
- 43** モーセとアロンは会見の天幕の前に来た。
- 44** 主はモーセに告げられた。
- 45** 「あなたがたはこの会衆から離れ去れ。わたしはこの者どもをたちどころに絶ち滅ぼす。」二人はひれ伏した。
- 46** モーセはアロンに言った。「火皿を取り、祭壇から火を取ってそれに入れ、その上に香を盛りなさい。そして急いで会衆のところへ持って行き、彼らのために宥めを行いなさい。主の前から激しい御怒りが出て来て、神からの罰がもう始まっている。」
- 47** モーセが命じたとおり、アロンが火皿を取って集会のただ中に走って行くと、見よ、神の罰はすでに民のうちに始まっていた。彼は香をたいて、民のために宥めを行った。
- 48** 彼が死んだ者たちと生きている者たちとの間に立ったとき、主の罰は終わった。
- 49** コラの事件で死んだ者とは別に、この主の罰で死んだ者は、一万四千七百人であった。
- 50** アロンが会見の天幕の入り口にいるモーセのところへ戻ったときに、主の罰は終わっていた。

第17章

- 1 主はモーセに告げられた。
- 2 「イスラエルの子らに告げ、彼らから杖を、部族ごとに一本ずつ、彼らの部族のすべての族長から十二本の杖を取れ。その杖に各自の名を書き記さなければならない。
- 3 レビの杖にはアロンの名を書き記さなければならない。彼らの部族のかしらにそれぞれ一本の杖とするからだ。
- 4 あなたはそれらを、会見の天幕の中の、わたしがそこであなたがたに会うあかしの箱の前に置け。
- 5 わたしが選ぶ人の杖は芽を出す。こうしてわたしは、イスラエルの子らがあなたがたに向かって言い立てている不平を、わたし自身から遠ざけ、鎮める。」
- 6 モーセがイスラエルの子らにこのように告げたので、彼らの族長たちはみな、部族ごとに、族長一人に一本ずつの杖、十二本を彼に渡した。アロンの杖も彼らの杖の中にあった。
- 7 モーセはそれらの杖を、主の前、すなわちあかしの天幕の中に置いた。
- 8 その翌日、モーセはあかしの天幕に入って行った。すると見よ。レビの家のためのアロンの杖が芽を出し、つぼみをつけ、花を咲かせて、アーモンドの実を結んでいた。
- 9 モーセがそれらの杖をみな、主の前からすべてのイスラエルの子らのところに持って来たので、彼らは見て、それぞれ自分の杖を取った。
- 10 主はモーセに言われた。「アロンの杖をあかしの箱の前に戻して、逆らう者たちへの戒めのために、しるしとせよ。彼らの不平をわたしから全くなくせ。彼らが死ぬことのないようにするためである。」
- 11 モーセはそうにした。主が命じられたとおりにしたのである。
- 12 しかし、イスラエルの子らはモーセに言った。「ああ、われわれは死んでしまう。われわれは滅びる。全員が滅びるのだ。
- 13 すべて近づく者、主の幕屋に近づく者が死ななければならないとは。ああ、われわれはみな、死に絶えなければならないのか。」

第18章

- 1 そこで、主はアロンに言われた。「あなたと、あなたとともにいるあなたの子たちと、あなたの父の家の者たちは、聖所に関わる咎を負わなければならない。また、あなたと、あなたとともにいるあなたの子たちは、あなたがたの祭司職に関わる咎を負わなければならない。
- 2 また、あなたの父祖の部族であるレビ部族の、あなたの身内の者たちも、あなたの近くに来させよ。彼らがあなたに連なり、あかしの天幕の前で、あなたと、あなたとともにいるあなたの子たちに仕えるためである。
- 3 彼らはあなたのための任務と、天幕全体の任務に当たる。しかし彼らは、聖なる用具と祭壇に近づいてはならない。彼らも、あなたがたも、死ぬことのないようにするためである。
- 4 彼らはあなたに連なり、天幕の奉仕のすべてに関わる、会見の天幕の任務に当たる。資格のない者があなたがたに近づいてはならない。
- 5 あなたがたは、聖所の任務と祭壇の任務を果たしなさい。そうすれば、イスラエルの子らに再びわたしの激しい怒りが下ることはない。
- 6 今ここに、わたしは、あなたがたの同族レビ人をイスラエルの子らの中から取り、会見の天幕の奉仕をするために主に献げられた者として、あなたがたへの贈り物とする。
- 7 あなたと、あなたとともにいるあなたの子たちは、祭壇に関するすべてのことや、垂れ幕の内側のことについて自分の祭司職を守り、奉仕しなければならない。わたしはあなたがたの祭司職の奉仕を賜物として与える。資格なしにこれに近づく者は殺されなければならない。」
- 8 主はまたアロンに言われた。「今わたしは、わたしへの奉納物に関わる任務をあなたに与える。わたしはイスラエルの子らのすべての聖なるささげ物について、これをあなたが受け取る分とし、またあなたの子たちへの永遠の割り当てとする。
- 9 火による最も聖なるもののうちで、あなたのものとなるのは次のとおりである。わたしに納めるすべてのささげ物、すなわち穀物のささげ物、罪のきよめのささげ物、代償のささげ物、これらすべては、あなたとあなたの子たちにとって最も聖なるものである。
- 10 あなたはそれを最も聖なるものとして食べなければならない。すべての男子は、それを食べることができる。それはあなたにとって聖なるものである。
- 11 また次の物もあなたのもとなる。イスラエルの子らの贈り物である奉納物、彼らのすべての奉獻物、これをわたしはあなたと、あなたとともにいる息子たちと娘たちに与え、永遠の割り当てとする。あなたの家にいるきよい者はだれでも、それを食べることができる。
- 12 最良の新しい油、新しいぶどう酒の最良のものと穀物、人々が主に供えるこれらの初物すべてをあなたに与える。
- 13 彼らの地のすべてのものの初なりで、彼らが主に携えて来る物は、あなたのものになる。あなたの家にいるきよい者はだれでも、それを食べることができる。
- 14 イスラエルのうちで聖絶の物はみな、あなたのものになる。

- 15 人でも家畜でも、主に献げられるすべての肉なるもので、最初に胎を開くものはみな、あなたのものとなる。ただし、人の長子は、必ず贖わなければならない。また、汚れた家畜の初子も贖わなければならない。
- 16 その贖いの代金として、生後一か月たってから、一シェケル二十ゲラの聖所のシェケルで、銀五シェケルを払わなければならない。
- 17 ただし、牛の初子、または羊の初子、あるいはやぎの初子は贖ってはならない。これらは聖なるものだからである。あなたはそれらの血を祭壇に振りかけ、脂肪を食物のささげ物、主への芳ばしい香りとして、焼いて煙にしなければならない。
- 18 その肉はあなたのものとなる。それは奉献物の胸肉や右のもも肉と同様にあなたのものとなる。
- 19 イスラエルの子らが主に献げる聖なる奉納物をみな、わたしは、あなたと、あなたとともにいる息子たちと娘たちに与えて、永遠の割り当てとする。それは、主の前にあって、あなたとあなたの子孫に対する永遠の塩の契約となる。」
- 20 主はまたアロンに言われた。「あなたは彼らの地で相続地を持ってはならない。彼らのうちに何の割り当て地も所有してはならない。イスラエルの子らの中にあって、わたしがあなたへの割り当てであり、あなたへのゆずりである。
- 21 さらに、レビ族には、わたしは今、彼らが行う奉仕、会見の天幕での奉仕に報い、イスラエルのうちの十分の一をみな、ゆずりのものとして与える。
- 22 これからはもう、イスラエルの子らは、会見の天幕に近づいてはならない。彼らが罪責を負って死ぬことのないようにするためである。
- 23 会見の天幕の奉仕をするのはレビ人であり、レビ人が彼らの咎を負う。これは代々にわたる永遠の掟である。彼らはイスラエルの子らの中にあって相続地を受け継いではならない。
- 24 それは、イスラエルの子らが奉納物として主に献げる十分の一を、わたしが相続のものとしてレビ人に与えるからである。それゆえわたしは、彼らがイスラエルの子らの中で相続地を受け継いではならない、と彼らに言ったのである。」
- 25 主はモーセに告げられた。
- 26 「あなたはレビ人に告げなければならない。わたしがあなたがたに相続のものとして与えた十分の一をイスラエルの子らから受け取る時、あなたがたはその十分の一の十分の一を、主への奉納物として献げなさい。
- 27 これは、打ち場からの穀物や、踏み場からの豊かなぶどう酒と同じように、あなたがたの奉納物と見なされる。
- 28 こうして、あなたがたもまた、イスラエルの子らから受け取るすべての十分の一の中から、主への奉納物を献げなさい。その中から主への奉納物を祭司アロンに与えなさい。
- 29 あなたがたへのすべての贈り物のうち、それぞれの最上の部分で聖別される分から主へのすべての奉納物を献げなさい。
- 30 また、あなたは彼らに言え。あなたがたが、その中からその最上の部分を献げるとき、それはレビ人にとって打ち場からの収穫、踏み場からの収穫と見なされる。

- 31** あなたがたとその家族は、どこででもそれを食べてよい。これは会見の天幕でのあなたがたの奉仕に対する報酬だからである。
- 32** あなたがたが、その最上の部分を献げるとき、そのことで罪責を負うことはない。ただし、イスラエルの子らの聖なるささげ物を汚して、死ぬようなことがあってはならない。」

第19章

- 1 主はモーセとアロンに告げられた。
- 2 「主が命じるおしえの定めは、こうである。イスラエルの子らに告げよ。まだくびきを負わせたことがなく、傷のない完全な、赤い雌牛をあなたのところに引いて来るようにと。
- 3 あなたがたはそれを祭司エルアザルに渡す。そして宿営の外に引き出し、彼の前で屠る。
- 4 祭司エルアザルは指で血を取り、会見の天幕の正面に向かってこの血を七度振りまく。
- 5 その雌牛は彼の目の前で焼き、皮と肉と血を汚物とともに焼く。
- 6 祭司は、杉の木とヒソブと緋色の燃り糸を取り、雌牛が焼かれている中に投げ入れる。
- 7 祭司は自分の衣服を洗い、からだに水を浴びる。その後、宿営に入ることができる。しかし、この祭司は夕方まで汚れる。
- 8 これを焼いた者も、自分の衣服を水で洗い、からだに水を浴びる。彼は夕方まで汚れる。
- 9 それから、きよい人がその雌牛の灰を集め、宿営の外のきよい所に置く。そして、イスラエルの会衆のために、汚れを除く水を作るために保存しておく。これは罪のきよめのささげ物である。
- 10 この雌牛の灰を集めた者は、自分の衣服を洗う。彼は夕方まで汚れている。これは、イスラエルの子らと、あなたがたの間に寄留している者にとって永遠の掟となる。
- 11 死人に触れる者は、それがどの人のものであれ、七日間汚れる。
- 12 その者は三日目と七日目に、先の水で身の汚れを除いて、きよくなる。三日目と七日目に身の汚れを除かなければ、きよくならない。
- 13 死人、すなわち死んだ人間のたましいに触れ、身の汚れを除かない者はみな、主の幕屋を汚す。その者はイスラエルから断ち切られる。その者は汚れを除く水を振りかけられていないので汚れていて、その者の中になお汚れがあるからである。
- 14 人が天幕の中で死んだ場合のおしえは次のとおりである。その天幕に入る者と、天幕の中にいる者はみな、七日間汚れる。
- 15 ふたをしていない口の開いた器もみな、汚れる。
- 16 また、野外で、剣で刺し殺された者、死人、人の骨、墓に触れる者はみな、七日間汚れる。
- 17 この汚れた者のためには、罪のきよめのために焼いて作った灰を取り、器に入れ、それに新鮮な水を加える。
- 18 きよい人がヒソブを取ってこの水に浸し、それを天幕に、すべての器の上に、そこにいた者の上に、また骨、刺し殺された者、死人、墓に触れた者の上にかける。
- 19 そのきよい人が、それを汚れた者に三日目と七日目に振りかけ、七日目にその人の汚れを除くことになる。その人は衣服を洗い、水を浴びる。その人は夕方にはきよくなる。
- 20 汚れた者が身の汚れを除かなければ、その人は集会の中から断ち切られる。主の聖所を汚したからである。汚れを除く水がその人に振りかけられなかったので、その人は汚れている。

- 21** これは彼らに対する永遠の掟となる。汚れを除く水をかけた者は、その衣服を洗わなければならない。汚れを除く水に触れた者は夕方まで汚れる。
- 22** 汚れた者が触れるものは、すべて汚れる。それに触れた者も夕方まで汚れる。」

第20章

- 1 イスラエルの全会衆は、第一の月にツインの荒野に入った。民はカデシュにとどまった。ミリアムはそこで死んで葬られた。
- 2 そこには、会衆のための水がなかった。彼らは集まってモーセとアロンに逆らった。
- 3 民はモーセと争って言った。「ああ、われわれの兄弟たちが主の前で死んだとき、われわれも死んでいたらよかったのに。
- 4 なぜ、あなたがたは主の集会をこの荒野に引き入れ、われわれと、われわれの家畜をここで死なせようとするのか。
- 5 なぜ、あなたがたはわれわれをエジプトから連れ上り、このひどい場所に引き入れたのか。ここは穀物も、いちじくも、ぶどうも、ざくろも育つような場所ではない。そのうえ、飲み水さえない。」
- 6 モーセとアロンは集会の前から去り、会見の天幕の入り口にやって来て、ひれ伏した。すると主の栄光が彼らに現れた。
- 7 主はモーセに告げられた。
- 8 「杖を取れ。あなたとあなたの兄弟アロンは、会衆を集めよ。あなたがたが彼らの目の前で岩に命じれば、岩は水を出す。彼らのために岩から水を出して、会衆とその家畜に飲ませよ。」
- 9 そこでモーセは、主が彼に命じられたとおりに、主の前から杖を取った。
- 10 モーセとアロンは岩の前に集会を召集し、彼らに言った。「逆らう者たちよ。さあ、聞け。この岩から、われわれがあなたがたのために水を出さなければならないのか。」
- 11 モーセは手を上げ、彼の杖で岩を二度打った。すると、豊かな水が湧き出たので、会衆もその家畜も飲んだ。
- 12 しかし、主はモーセとアロンに言われた。「あなたがたはわたしを信頼せず、イスラエルの子らの見ている前でわたしが聖であることを現さなかった。それゆえ、あなたがたはこの集会を、わたしが彼らに与えた地に導き入れることはできない。」
- 13 これがメリバの水である。イスラエルの子らが主と争った場所であり、主はご自分が聖であることを彼らのうちに示されたのである。
- 14 さて、モーセはカデシュからエドムの王のもとに使者たちを遣わして言った。「あなたの兄弟、イスラエルはこう申します。あなたは私たちに降りかかったすべての困難をご存じです。
- 15 私たちの先祖はエジプトに下り、私たちはエジプトに長年住んでいました。しかしエジプトは私たちや先祖を虐待しました。
- 16 私たちが主に叫ぶと、主は私たちの声を聞いて、一人の御使いを遣わし、私たちをエジプトから導き出されました。今、私たちはあなたの領土の境界にある町、カデシュにおります。
- 17 どうか、あなたの土地を通らせてください。私たちは、畑もぶどう畑も通りません。井戸の水も飲みません。私たちは『王の道』を行き、あなたの領土を通過するまでは、右にも

左にもそれません。」

- 18 しかし、エドムはモーセに言った。「私のところを通ってはならない。通るなら、私は剣をもっておまえを迎え撃つ。」
- 19 イスラエルの子らはエドムに言った。「私たちは大路を上って行きます。私たちと私たちの家畜があなたの水を飲むことがあれば、その代価を払います。歩いて通り過ぎるだけですから、何事でもないでしょう。」
- 20 しかし、エドムは、「通ってはならない」と言って、強力な大軍勢を率いて彼らを迎え撃つために出て来た。
- 21 こうして、エドムはイスラエルにその領土を通らせることを拒んだので、イスラエルは彼のところから向きを変えた。
- 22 イスラエルの全会衆はカデシュを旅立ち、ホル山に着いた。
- 23 主は、エドムの国境に近いホル山で、モーセとアロンにお告げになった。
- 24 「アロンは自分の民に加えられる。彼は、わたしがイスラエルの子らに与えた地に入ることはできない。それはメリバの水のことで、あなたがたがわたしの命に逆らったからである。
- 25 あなたはアロンと、その子エルアザルを連れてホル山に登れ。
- 26 アロンの衣服を脱がせ、それをその子エルアザルに着せよ。アロンは自分の民に加えられ、そこで死ぬ。」
- 27 モーセは、主が命じられたとおりに行った。彼らは、全会衆の见ている前でホル山に登って行った。
- 28 モーセはアロンの衣服を脱がせ、それをその子エルアザルに着せた。アロンはその山の頂で死んだ。モーセとエルアザルが山から下りて来たとき、
- 29 全会衆はアロンが息絶えたのを知った。そのためイスラエルの全家は三十日の間、アロンのために泣き悲しんだ。

第21章

- 1 ネゲブに住んでいたカナン人アラドの王は、イスラエルがアタリムの道を進んで来たと聞いた。彼はイスラエルと戦い、その何人かを捕虜として捕らえた。
- 2 そこでイスラエルは主に誓願をして言った。「もし、確かにあなたが私の手に、この民を渡してくださるなら、私は彼らの町々を聖絶いたします。」
- 3 主はイスラエルの願いを聞き入れ、カナン人を渡されたので、イスラエルはカナン人とその町々を聖絶した。そしてその場所の名をホルマと呼んだ。
- 4 彼らはホル山から、エドムの地を迂回しようとして、葦の海の道に旅立った。しかし民は、途中で我慢ができなくなり、
- 5 神とモーセに逆らって言った。「なぜ、あなたがたはわれわれをエジプトから連れ上って、この荒野で死なせようとするのか。パンもなく、水もない。われわれはこのみじめな食べ物に飽き飽きしている。」
- 6 そこで主は民の中に燃える蛇を送られた。蛇は民にかみついたので、イスラエルのうちの多くの者が死んだ。
- 7 民はモーセのところに来て言った。「私たちは主とあなたを非難したりして、罪を犯しました。どうか、蛇を私たちから取り去ってくださるよう主に祈ってください。」モーセは民のために祈った。
- 8 すると主はモーセに言われた。「あなたは燃える蛇を作り、それを旗ざおの上に付けよ。かまれた者はみな、それを仰ぎ見れば生きる。」
- 9 モーセは一つの青銅の蛇を作り、それを旗ざおの上に付けた。蛇が人をかんでも、その人が青銅の蛇を仰ぎ見ると生きた。
- 10 イスラエルの子らは旅立って、オボテで宿営した。
- 11 彼らはオボテを旅立ち、日の昇る方、モアブに面した荒野にあるイエ・ハ・アバリムに宿営した。
- 12 彼らはそこを旅立ち、ゼレデの谷に宿営し、
- 13 さらにそこを旅立って、アモリ人の国境から広がっている荒野にある、アルノン川の対岸に宿営した。アルノン川は、モアブとアモリ人との間にあるモアブの国境だったからである。
- 14 それで、『主の戦いの書』にもこう言われている。「スパのワヘブとアルノンの谷川とともに、
- 15 アルの定住地に達する谷川の支流は、モアブの領土を支えている。」
- 16 彼らはそこからベエルに向かった。それは主がモーセに、「民を集めよ。わたしが彼らに水を与える」と言われた井戸である。
- 17 そのとき、イスラエルはこの歌を歌った。「井戸よ、湧きいでよ。あなたがたは、これに向かって歌え。
- 18 笏をもって、杖をもって、君主たちが掘り、民の尊き者たちが掘り下げたその井戸に。」
彼らは荒野からマタナに進み、

- 19 マタナからナハリエルに、ナハリエルからバモテに、
- 20 バモテからモアブの野にある谷に行き、荒れ野を見下ろすピスガの頂に着いた。
- 21 イスラエルは、アモリ人の王シホンに使者たちを遣わして言った。
- 22 「あなたの土地を通らせてください。私たちは畑にもぶどう畑にもそれて入りません。井戸の水も飲みません。あなたの領土を通過するまで、私たちは『王の道』を通ります。」
- 23 しかし、シホンはイスラエルが自分の領土を通ることを許さなかった。シホンはその兵をみな集めて、イスラエルを迎え撃つために荒野に出て来た。そしてヤハツに来てイスラエルと戦った。
- 24 イスラエルは剣の刃でシホンを討ち、その地をアルノン川からヤボク川まで、アンモン人の国境まで占領した。アンモン人の国境は堅固だった。
- 25 イスラエルはこれらの町々をすべて取った。そしてイスラエルは、アモリ人のすべての町、ヘシュボンとそれに属するすべての村に住んだ。
- 26 ヘシュボンはアモリ人の王シホンの町であった。彼はモアブの以前の王と戦って、その手からその全土をアルノンまで奪っていた。
- 27 それで、詩のことばを語る者たちも言っている。「来たれ、ヘシュボンに。シホンの町は建てられ、堅くされている。
- 28 ヘシュボンから火が出た。シホンの町から炎が。それはモアブのアルを、アルノンにそびえる高地を焼き尽くした。
- 29 モアブよ、おまえはわざわざいた。ケモシュの民よ、おまえは滅び失せる。その息子たちは逃亡者、娘たちは捕らわれの身。アモリ人の王シホンの手によって。
- 30 しかし、われわれは彼らを投げ倒し、ヘシュボンはディボンに至るまで滅び失せた。われわれはノファフまで荒らし、それはメデバにまで至った。」
- 31 こうしてイスラエルはアモリ人の地に住んだ。
- 32 そのとき、モーセは人を遣わしてヤゼルを探り、ついにそれに属する村々を攻め取り、そこにいたアモリ人を追い出した。
- 33 さらに彼らが向きを変えてバシャンへの道を上って行くと、バシャンの王オグが、エデレイで戦うために、そのすべての兵とともに彼らの方に出て来た。
- 34 主はモーセに言われた。「彼を恐れてはならない。わたしは彼とそのすべての兵とその地をあなたの手に与えた。あなたがヘシュボンに住んでいたアモリ人の王シホンに行ったように、彼にも行え。」
- 35 そこで彼らは、彼とその子たちとそのすべての兵を討ち、一人の生存者も残さなかった。こうして彼らはその地を占領した。

第22章

- 1 イスラエルの子らは旅を続け、ヨルダンのエリコの対岸にあるモアブの草原に宿営した。
- 2 ツィポルの子バラクは、イスラエルがアモリ人に行ったすべてのことを見た。
- 3 モアブは、イスラエルの民の数が多かったので非常におびえた。それでモアブはイスラエル人に恐怖を抱いた。
- 4 モアブはミディアンの長老たちに言った。「今、この集会は、牛が野の青草をなめ尽くすように、われわれの周りのすべてのものをなめ尽くそうとしている。」ツィポルの子バラクは当時、モアブの王であったが、
- 5 同族の国にある、あの大河のほとりのベトルにいるベオルの子バラムを招こうと、使者たちを遣わして言った。「見なさい。一つの民がエジプトから出て来た。今や、彼らは地の面をおおい、私の目の前にいる。
- 6 今来て、私のためにこの民をのろってもらいたい。この民は私より強い。そうしてくれれば、おそらく私は彼らを討って、この地から追い出すことができるだろう。あなたが祝福する者は祝福され、あなたがのろう者はのろわれることを、私はよく知っている。」
- 7 モアブの長老たちとミディアンの長老たちは、占い料を手にしてバラムのところに行き、バラクのことばを告げた。
- 8 バラムは彼らに言った。「今夜はここに泊まりなさい。主が私に告げられるとおりに、あなたがたに返答しましょう。」モアブの長たちはバラムのもとにとどまった。
- 9 神はバラムのところに来て言われた。「あなたと一緒にいるこの者たちは何者か。」
- 10 バラムは神に言った。「モアブの王ツィポルの子バラクが、私のところに使いをよこし、
- 11 『今ここに、エジプトから出て来た民がいて、地の面をおおっている。さあ来て、私のためにこの民に呪いをかけてくれ。そうしたら、おそらく私は彼らと戦って、追い出すことができるだろう』と申しました。」
- 12 神はバラムに言われた。「あなたは彼らと一緒に行ってはならない。また、その民をのろってもいけない。その民は祝福されているのだから。」
- 13 朝になると、バラムは起きてバラクの長たちに言った。「あなたがたの国に帰りなさい。主は私があなたがたと一緒に行くことをお許しにならないから。」
- 14 モアブの長たちは立ってバラクのところに帰り、そして言った。「バラムは私たちと一緒に来ることを拒みました。」
- 15 バラクはもう一度、先の者たちよりも大勢の、しかも位の高い長たちを遣わした。
- 16 彼らはバラムのところに来て彼に言った。「ツィポルの子バラクはこう申しました。『どうか私のところに来るのを断らないでください。』
- 17 私はあなたを手厚くもてなします。また、あなたが私に言いつけられることは何でもします。どうか来て、私のためにこの民に呪いをかけてください。』」
- 18 しかし、バラムはバラクの家臣たちに答えた。「たとえバラクが銀や金で満ちた彼の家をくれても、私は私の神、主の命を破ることは、事の大小にかかわらず、断じてできません。」

- 19 ですから、あなたがたもまた、今晚ここにとどまりなさい。主が私に何かほかのことをお告げくださるかどうかが、確かめましょう。」
- 20 夜、神はバラムのところに来て、彼に言われた。「この者たちがあなたを招きに来たのなら、立って彼らと一緒にいけ。だが、あなたはただ、わたしがあなたに告げることをだけを行え。」
- 21 バラムは朝起きて、自分のろばに鞍をつけ、モアブの長たちと一緒にいった。
- 22 しかし、彼が行こうとすると、神の怒りが燃え上がり、主の使いが彼に敵対して道に立ちをはだかった。バラムはろばに乗っていて、二人の若者がそばにいた。
- 23 ろばは、主の使いが抜き身の剣を手に持って、道に立ちをはだかっているのを見た。ろばは道からそれて畑に入ってしまったので、バラムはろばを打って道に戻そうとした。
- 24 すると主の使いは、両側に石垣のある、ぶどう畑の間の狭い道に立った。
- 25 ろばは主の使いを見て、石垣にからだを押しつけ、バラムの足を石垣に押しつけたので、バラムはさらにろばを打った。
- 26 主の使いはさらに進んで行って、狭くて、右にも左にもよける余地のない場所に立った。
- 27 ろばは主の使いを見て、バラムを乗せたまま、うずくまってしまった。バラムは怒りを燃やし、杖でろばを打った。
- 28 すると、主がろばの口を開かれたので、ろばはバラムに言った。「私があなたに何をしたというのですか。私を三度も打つとは。」
- 29 バラムはろばに言った。「おまえが私をばかにしたからだ。もし私の手に剣があれば、今、おまえを殺してしまうところだ。」
- 30 ろばはバラムに言った。「私は、あなたが今日この日までずっと乗ってこられた、あなたのろばではありませんか。私がかつて、あなたにこのようなことをしたことがあったでしょうか。」バラムは答えた。「いや、なかった。」
- 31 そのとき、主はバラムの目の覆いを除かれた。すると彼は、主の使いが道に立ちをはだかり、抜き身の剣を手に持っているのを見た。彼はひざまずき、伏し拝んだ。
- 32 主の使いは彼に言った。「何のために、あなたは自分のろばを三度も打ったのか。わたしが敵対者として出て来ていたのだ。あなたがわたしの道を踏み外していたからだ。」
- 33 ろばはわたしを見て、三度もわたしから身を避けた。もし、ろばがわたしから身を避けていなかったなら、わたしは今すでに、あなたを殺して、ろばを生かしていたことだろう。」
- 34 バラムは主の使いに言った。「私は罪を犯していました。あなたが私をとどめようと道に立ちをはだかっておられたのを、私は知りませんでした。今、もし、あなたのお気に召さなければ、私は引き返します。」
- 35 主の使いはバラムに言った。「その人たちと一緒にいけ。しかし、わたしがあなたに告げることだけを告げよ。」そこでバラムはバラクの長たちと一緒にいった。
- 36 バラクはバラムが来たことを聞いて、彼を迎えに、国境の端にあるアルノンの国境のイル・モアブまで出て来た。
- 37 バラクはバラムに言った。「私はあなたを迎えようと、人を遣わさなかったのでしょうか。なぜ、私のところに来てくださらなかったのですか。私には、あなたをおもてなしするこ

とが、本当にできないのでしょうか。」

- 38** バラムはバラクに言った。「ご覧なさい。私は今あなたのところに来ているではありませんか。私に何が言えるでしょう。神が私の口に置かれることば、それを私は告げなければなりません。」
- 39** バラムはバラクと一緒にいき、キルヤテ・フツォテに着いた。
- 40** バラクは牛と羊をいけにえとして献げ、それをバラムおよび彼とともにいた長たちにも贈った。
- 41** 朝になると、バラクはバラムを連れ出し、彼をバモテ・バアルに上らせた。バラムはそこからイスラエルの民の一部を見た。

第23章

- 1 バラムはバラクに言った。「私のためにここに七つの祭壇を築き、七頭の雄牛と七匹の雄羊をここに用意してください。」
- 2 バラクはバラムの言ったとおりにした。そしてバラクとバラムは、祭壇の上で雄牛一頭と雄羊一匹を献げた。
- 3 バラムはバラクに言った。「あなたは、あなたの全焼のささげ物のそばに立っててください。私は行って来ます。おそらく、主は私に会ってくださるでしょう。主が私にお示しになることを、あなたに知らせましょう。」そして彼は裸の丘に行った。
- 4 神がバラムに会われたので、バラムは神に言った。「私は七つの祭壇を整え、それぞれの祭壇の上で雄牛一頭と雄羊一匹を献げました。」
- 5 主はバラムの口にことばを置き、そして言われた。「バラクのところに帰って、こう告げなければならない。」
- 6 彼がバラクのところに帰ると、見よ、バラクはモアブのすべての長たちと一緒に、自分の全焼のささげ物のそばに立っていた。
- 7 バラムは彼の詩のことばを口にして言った。「バラクは、アラムから、モアブの王は、東の山々から私を連れて来た。『来て、私のためにヤコブをのろえ。来て、イスラエルを責めよ』と。
- 8 私はどうして呪いをかけられるだろうか。神が呪いをかけない者に。私はどうして責めることができるだろうか。主が責めない者を。
- 9 岩山の頂から私はこれを見、丘の上から私はこれを見つめる。見よ、この民はひとり離れて住み、自分を国々と同じだと見なさない。
- 10 だれがヤコブのちりを数え、イスラエルの四分の一さえ数えられるだろうか。私が心の直ぐな人たちの死を遂げますように。私の最期が彼らと同じようになりますように。」
- 11 バラクはバラムに言った。「あなたは私に何ということをしたのですか。私の敵に呪いをかけてもらうためにあなたを連れて来たのに、今、あなたはただ祝福しただけです。」
- 12 バラムは答えた。「主が私の口に置かれること、それを忠実に語ってはいけないのですか。」
- 13 バラクは彼に言った。「では、私と一緒に彼らを見ることができる別の場所へ行ってください。その一部を見るだけで、全体を見ることはできませんが。そこから私のために彼らに呪いをかけてください。」
- 14 バラクはバラムを、セデ・ツォフィムのピスガの頂に連れて行き、そこで七つの祭壇を築き、どの祭壇にも雄牛一頭と雄羊一匹を献げた。
- 15 バラムはバラクに言った。「あなたはここで、自分の全焼のささげ物のそばに立っててください。私はあちらで主にお会いします。」
- 16 主はバラムに会い、その口にことばを置き、そして言われた。「バラクのところに帰って、こう告げなければならない。」

- 17 それで、彼はバラクのところに帰った。すると、彼はモアブの長たちと一緒に、自分の全焼のささげ物のそばに立っていた。バラクは言った。「主は何をお告げになりましたか。」
- 18 バラムは彼の詩のことばを口にして言った。「立て、バラクよ。そして聞け。私に耳を傾けよ。ツィポルの子よ。」
- 19 神は人ではないから、偽りを言うことがない。人の子ではないから、悔いることがない。神が仰せられたら、実行されないだろうか。語られたら、成し遂げられないだろうか。
- 20 見よ、私は、祝福せよとの命を受けた。神が祝福されたのだ。私はそれをくつがえすことはできない。
- 21 ヤコブの中に不法は見出されず、イスラエルの中に邪悪さは見られない。彼らの神、主は彼らとともにおられ、王をたたえる声が彼らの中にある。
- 22 彼らをエジプトから導き出された神は、彼らにとって野牛の角のようだ。
- 23 まことに、ヤコブのうちにまじないはなく、イスラエルのうちに占いはない。神が何をなさるか、時に応じてヤコブに、すなわちイスラエルに告げられる。
- 24 見よ、一つの民を。それは雌獅子のように起き上がり、雄獅子のように身を持ち上げ、休むことはない。獲物を食らい、殺されたものの血を飲むまでは。」
- 25 バラクはバラムに言った。「彼らに呪いをかけることも祝福することも、決してしないでください。」
- 26 バラムはバラクに答えた。「私は、主が告げられることはみな、しなければならない、とあなたに言ったではありませんか。」
- 27 バラクはバラムに言った。「では、私はあなたを、もう一つ別の場所へ連れて行きましょう。もしかしたら、それが神の御目にかなって、あなたは私のために、そこから彼らに呪いをかけることができるかもしれません。」
- 28 バラクはバラムを、荒れ野を見下ろすペオルの頂上に連れて行った。
- 29 バラムはバラクに言った。「私のためにここに七つの祭壇を築き、七頭の雄牛と七匹の雄羊をここに用意してください。」
- 30 バラクはバラムが言ったとおりにして、祭壇に雄牛と雄羊を献げた。

第24章

- 1 バラムはイスラエルを祝福することが主の目にかなうのを見て、これまでのようにまじないを求めに行くことをせず、その顔を荒野に向けた。
- 2 バラムが目を見ると、イスラエルがその部族ごとに宿っているのが見えた。すると、神の霊が彼の上に臨んだ。
- 3 彼は、彼の詩のことばを口にして言った。「ベオルの子バラムの告げたことば。目の開かれた者の告げたことば。
- 4 神の御告げを聞く者、全能者の幻を見る者、ひれ伏し、目の開かれた者の告げたことば。
- 5 なんとすばらしいことよ。ヤコブよ、あなたの天幕は。イスラエルよ、あなたの住まいは。
- 6 それは、広がる谷のよう、また川のほとりの園のようだ。主が植えたアロエのよう、また水辺の杉の木のように。
- 7 その手桶からは水があふれ、種は豊かな水に潤う。王はアガグよりも高くなり、王国は高く上げられる。
- 8 彼をエジプトから導き出された神は、彼にとっては野牛の角のようだ。彼は自分の敵の国々を食い尽くし、彼らの骨をかみ砕き、矢をもって撃ち砕く。
- 9 雄獅子のように、また雌獅子のように、彼は身を伏せ、横たわる。だれがこれを起こせるだろう。あなたを祝福する者は祝福され、あなたをのろう者はのろわれる。」
- 10 バラクはバラムに対して怒りを燃やし、手を打ち鳴らした。バラクはバラムに言った。「私の敵に呪いをかけてもらうためにおまえを招いたのに、かえっておまえは三度までも彼らを祝福した。
- 11 今、おまえは自分のところに引き下がれ。私は手厚くもてなすつもりでいたが、主がもう、そのもてなしを拒まれたのだ。」
- 12 バラムはバラクに言った。「私は、あなたが遣わした使者たちにも、こう言ったではありませんか。
- 13 『たとえバラクが私に銀や金で満ちた彼の家をくれても、主のことばに背くことは、良いことでも悪いことでも、私の心のままにすることはできません。主が告げられること、それを私は告げなければなりません。』
- 14 今、私は自分の民のところに帰ります。さあ、私は、この民が終わりの日にあなたの民に行おうとしていることについて、あなたに助言を与えます。」
- 15 そして彼の詩のことばを口にして言った。「ベオルの子バラムの告げたことば。目の開かれた者の告げたことば。
- 16 神の御告げを聞く者、いと高き方の知識を知る者、全能者の幻を見る者、ひれ伏し、目の開かれた者の告げたことば。
- 17 私には彼が見える。しかし今のことではない。私は彼を見つめる。しかし近くのことではない。ヤコブから一つの星が進み出る。イスラエルから一本の杖が起こり、モアブのこめかみを、すべてのセツの子らの脳天を打ち砕く。

- 18** その敵、エドムは所有地となり、セイルも所有地となる。イスラエルは力ある働きをする。
- 19** ヤコブから出る者が治め、残った者たちを町から絶やす。」
- 20** 彼はアマレクを見渡して、彼の詩のことばを口にして言った。「アマレクは国々の中で最高のもの。しかし、その終わりは滅びに至る。」
- 21** 彼はケ二人を見渡して、彼の詩のことばを口にして言った。「あなたの住みかは堅固で、あなたの巢は岩間に置かれている。
- 22** しかし、カインは滅ぼし尽くされ、ついにはアッシウルがあなたを捕虜とする。」
- 23** また彼は、彼の詩のことばを口にして言った。「ああ、神が定められたなら、だれが生き延びられるだろう。
- 24** 船がキティムの岸から来て、アッシウルを苦しめ、エベルを苦しめる。これもまた、滅びに至る。」
- 25** バラムは立って自分のところへ帰って行った。バラクも帰途についた。

第25章

- 1 イスラエルはシティムにとどまっていたが、民はモアブの娘たちと淫らなことをし始めた。
- 2 その娘たちが、自分たちの神々のいけにえの食事に民を招くと、民は食し、娘たちの神々を拝んだ。
- 3 こうしてイスラエルはバアル・ペオルとくびきをともした。すると、主の怒りがイスラエルに対して燃え上がった。
- 4 主はモーセに言われた。「この民のかしらたちをみな捕らえて、主の前で、白日の下にさらし者にせよ。そうすれば、主の燃える怒りはイスラエルから離れ去る。」
- 5 そこでモーセはイスラエルのさばき人たちに言った。「あなたがたは、それぞれ自分の配下でバアル・ペオルとくびきをともした者たちを殺せ。」
- 6 ちょうどそのとき、一人のイスラエル人の男がやって来た。彼は、モーセと、会見の天幕の入り口で泣いているイスラエルの全会衆の目の前で、一人のミディアン人の女を自分の兄弟たちに近づかせた。
- 7 祭司アロンの子エルアザルの子ピネハスはそれを見るや、会衆の中から立ち上がり、槍を手に取り、
- 8 そのイスラエル人の男の後を追ってテントの奥の部屋に入り、イスラエル人の男とその女の二人を、腹を刺して殺した。するとイスラエルの子らへの主の罰が終わった。
- 9 この主の罰で死んだ者は、二万四千人であった。
- 10 主はモーセに告げられた。
- 11 「祭司アロンの子エルアザルの子ピネハスは、イスラエルの子らに対するわたしの憤りを押しとどめた。彼がイスラエルの子らのただ中で、わたしのねたみを自分のねたみとしたからである。それでわたしは、わたしのねたみによって、イスラエルの子らを絶ち滅ぼすことはしなかった。
- 12 それゆえ、言え。『見よ、わたしは彼にわたしの平和の契約を与える。
- 13 これは、彼とその後の彼の子孫にとって、永遠にわたる祭司職の契約となる。それは、彼が神のねたみを自分のものとし、イスラエルの子らのために宥めを行ったからである。』」
- 14 その殺されたイスラエル人の男、すなわちミディアン人の女と一緒に殺された者の名は、シメオン人の一族の長サルの子ジムリであった。
- 15 また殺されたミディアン人の女の名はツルの娘コズビであった。ツルはミディアンの父の家の諸氏族のかしらであった。
- 16 主はモーセに告げられた。
- 17 「ミディアン人を襲い、彼らを討て。
- 18 彼らは巧妙に仕組んだ企みによって、ペオルの事件であなたがたを襲ったからだ。ペオルの事件の主の罰の日に殺された彼らの同族の女、ミディアンの族長の娘コズビの一件だ。」

第26章

- 1 この主の罰の後のことであつた。主はモーセと祭司アロンの子エルアザルに告げられた。
- 2 「イスラエルの全会衆について、一族ごとに、二十歳以上で、イスラエルで戦に出ることができる者すべての頭数を調べなさい。」
- 3 そこでモーセと祭司エルアザルは、エリコをのぞむヨルダン川のほとりのモアブの草原で、彼らに告げた。
- 4 「主がモーセに命じられたように、二十歳以上の者を数えなさい。」 エジプトの地から出て来たイスラエルの子らは、
- 5 イスラエルの長子ルベン。ルベン族は、ハノクからはハノク族、パルからはパル族、
- 6 ヘツロンからはヘツロン族、カルミからはカルミ族。
- 7 これらがルベン人諸氏族で、登録された者は、四万三千七百三十人であつた。
- 8 パルの子孫はエリアブ。
- 9 エリアブの子はネムエル、ダタン、アビラム。このダタンとアビラムは会衆から召し出された者であつたが、コラの仲間としてモーセとアロンに逆らい、主に逆らつた。
- 10 そのとき、地は口を開けて、コラとともに彼らを呑み込んだ。それは、その仲間たちが死んだときのこと、火が二百五十人の男を食い尽くしたときのことである。こうして彼らは警告のしるしとなつた。
- 11 ただし、コラの子たちは死ななかつた。
- 12 シメオン族の諸氏族は、それぞれ、ネムエルからはネムエル族、ヤミンからはヤミン族、ヤキンからはヤキン族、
- 13 ゼラフからはゼラフ族、シャウルからはシャウル族。
- 14 これらがシメオン人諸氏族で、登録された者は、二万二千二百人であつた。
- 15 ガド族の諸氏族は、それぞれ、ツェフォンからはツェフォン族、ハギからはハギ族、シュニからはシュニ族、
- 16 オズニからはオズニ族、エリからはエリ族、
- 17 アロデからはアロデ族、アルエリからはアルエリ族。
- 18 これらがガド人諸氏族で、登録された者は、四万五百人であつた。
- 19 ユダの子はエルとオナン。エルとオナンはカナンの地で死んだ。
- 20 ユダ族の諸氏族は、それぞれ、シェラからはシェラ族、ペレツからはペレツ族、ゼラフからはゼラフ族。
- 21 ペレツ族は、ヘツロンからはヘツロン族、ハムルからはハムル族であつた。
- 22 これらがユダ諸氏族で、登録された者は、七万六千五百人であつた。
- 23 イッサカル族の諸氏族は、それぞれ、トラからはトラ族、プワからはプワ族、
- 24 ヤシュブからはヤシュブ族、シムロンからはシムロン族。
- 25 これらがイッサカル諸氏族で、登録された者は、六万四千三百人であつた。

- 26 ゼブルン族の諸氏族は、それぞれ、セレデからはセレデ族、エロンからはエロン族、ヤフレエルからはヤフレエル族。
- 27 これらがゼブルン人諸氏族で、登録された者は、六万五百人であった。
- 28 ヨセフ族の諸氏族は、それぞれ、マナセとエフライム。
- 29 マナセ族は、マキルからはマキル族。マキルはギルアデを生んだ。ギルアデからはギルアデ族。
- 30 ギルアデ族は次のとおりである。イエゼルからはイエゼル族、ヘレクからはヘレク族、
- 31 アスリエルからはアスリエル族、シェケムからはシェケム族、
- 32 シェミダからはシェミダ族、ヘフェルからはヘフェル族。
- 33 ヘフェルの子ツェロフハデには息子がなく、娘だけであった。ツェロフハデの娘の名は、マフラ、ノア、ホグラ、ミルカ、ティルツァであった。
- 34 これらがマナセ諸氏族で、登録された者は、五万二千七百人であった。
- 35 エフライム族の諸氏族は、それぞれ、次のとおりである。シュテラフからはシュテラフ族、ベケルからはベケル族、タハンからはタハン族。
- 36 シュテラフ族は次のとおりである。エランからはエラン族。
- 37 これらがエフライム人諸氏族で、登録された者は、三万二千五百人であった。これがヨセフ族の諸氏族である。
- 38 ベニヤミン族の諸氏族は、それぞれ、ベラからはベラ族、アシュベルからはアシュベル族、アヒラムからはアヒラム族、
- 39 シュファムからはシュファム族、フファムからはフファム族。
- 40 ベラの子はアルデとナアマン。アルデからはアルデ族、ナアマンからはナアマン族。
- 41 これらがベニヤミン族の諸氏族で、登録された者は、四万五千六百人であった。
- 42 ダン族の諸氏族は次のとおりである。シュハムからはシュハム族。これらがダン族の諸氏族である。
- 43 シュハム人の全諸氏族で、登録された者は、六万四千四百人であった。
- 44 アシェル族の諸氏族は、それぞれ、イムナからはイムナ族、イシュウィからはイシュウィ族、ベリアからはベリア族。
- 45 ベリア族のうち、ヘベルからはヘベル族、マルキエルからはマルキエル族。
- 46 アシェルの娘の名はセラフであった。
- 47 これらがアシェル人諸氏族で、登録された者は、五万三千四百人であった。
- 48 ナフタリ族の諸氏族は、それぞれ、ヤフツェエルからはヤフツェエル族、グニからはグニ族、
- 49 エツェルからはエツェル族、シレムからはシレム族。
- 50 これらがナフタリ族の諸氏族で、登録された者は、四万五千四百人であった。
- 51 以上が、イスラエルの子らの登録された者で、六十万一千七百三十人であった。
- 52 主はモーセに告げられた。

- 53 「これらの者たちに、その名の数にしたがって、地を相続地として割り当てなければならない。
- 54 大きい部族にはその相続地を大きくし、小さい部族にはその相続地を小さくしなければならない。それぞれ登録された者に応じて、その相続地は与えられる。
- 55 ただし、その地はくじで割り当てられ、彼らの父祖の部族の名にしたがって受け継がなければならない。
- 56 その相続地は、大部族と小部族の間で、くじによって決められなければならない。」
- 57 さて、レビ人で氏族ごとに登録された者は、次のとおりである。ゲルシオンからはゲルシオン族、ケハテからはケハテ族、メラリからはメラリ族。
- 58 レビ諸氏族は次のとおりである。すなわち、リブニ族、ヘブロン族、マフリ族、ムシ族、およびコラ族。ケハテはアムラムを生んだ。
- 59 アムラムの妻の名はヨケベデで、レビの娘であった。彼女はエジプトでレビに生まれた者で、アムラムにアロンとモーセと彼らの姉ミリアムを産んだ。
- 60 アロンにはナダブとアビフとエルアザルとイタマルが生まれた。
- 61 ナダブとアビフは主の前に異なる火を献げたときに死んだ。
- 62 登録された者は、生後一か月以上の男子すべてで、二万三千人であった。彼らは、イスラエルの子らとともに登録されなかった。イスラエルの子らの中に相続地が与えられていなかったからである。
- 63 以上が、エリコをのぞむヨルダン川のほとりのモアブの草原で、モーセと祭司エルアザルがイスラエルの子らを登録したときに登録された者たちである。
- 64 しかし、この中には、シナイの荒野でモーセと祭司アロンがイスラエルの子らを登録したときに登録された者は、一人もいなかった。
- 65 それは主がかつて彼らについて、「彼らは必ず荒野で死ぬ」と言われたからである。彼らのうち、ただエフンネの子カレブとヌンの子ヨシュアのほかには、だれも残っていなかった。

第27章

- 1 さて、ヨセフの子マナセの一族のツェロフハデの娘たちが進み出た。ツェロフハデはヘフェルの子、ヘフェルはギルアデの子、ギルアデはマキルの子、マキルはマナセの子であり、その娘たちの名はマフラ、ノア、ホグラ、ミルカ、ティルツァであった。
- 2 彼女たちは、モーセの前、祭司エルアザルの前、また族長たちと全会衆の前、すなわち会見の天幕の入り口に立って言った。
- 3 「私たちの父は荒野で死にました。父は、コラの仲間と一緒にあって、主に逆らったあの仲間たちには加わらず、自分の罪過によって死んだのです。しかし、父には息子がいませんでした。
- 4 息子がいなかったからといって、なぜ私たちの父の名がその氏族の間から削られるのでしょうか。私たちに、父の兄弟たちの間で所有地を与えてください。」
- 5 そこでモーセは、彼女たちの訴えを主の前に差し出した。
- 6 すると主はモーセに告げられた。
- 7 「ツェロフハデの娘たちの言い分はもっともだ。あなたは必ず彼女たちに、その父の兄弟たちの間で、相続の所有地を与えよ。彼女たちに、その父の相続地を渡せ。
- 8 あなたはイスラエルの子らに語れ。人が死に、その人に息子がいないときは、あなたがたはその相続地を娘に渡さなければならない。
- 9 もし娘もいないときには、その相続地を彼の兄弟たちに与えよ。
- 10 もし兄弟たちもいないときには、その相続地を彼の父の兄弟たちに与えよ。
- 11 もしその父に兄弟がいないときには、その相続地を、彼の氏族の中で彼に一番近い血縁の者に与え、それを受け継がせよ。これは、主がモーセに命じられたとおり、イスラエルの子らにとってさばきの掟となる。」
- 12 主はモーセに言われた。「このアバリム山に登り、わたしがイスラエルの子らに与えた地を見よ。
- 13 それを見て、あなたもまた、あなたの兄弟アロンが加えられたのと同じように、自分の民に加えられる。
- 14 ツィンの荒野で会衆が争ったとき、あなたがたがわたしの命令に逆らい、彼らの見ている前で、あの水のところで、わたしが聖であることを現さなかったからである。」これはツィンの荒野のメリバテ・カデシュの水のことである。
- 15 モーセは主に言った。
- 16 「すべての肉なるものの霊をつかさどる神、主よ。一人の人を会衆の上に定め、
- 17 彼が、彼らに先立って出て行き、先立って入り、また彼らを導き出し、導き入れるようにしてください。主の会衆を、羊飼いのいない羊の群れのようにしないでください。」
- 18 主はモーセに言われた。「あなたは、神の霊の宿っている人、ヌンの子ヨシュアを連れて来て、あなたの手を彼の上に置け。
- 19 彼を祭司エルアザルの前に、また全会衆の前に立たせ、彼らの目の前で彼を任命せよ。
- 20 あなたは、自分の権威を彼に分け与え、イスラエルの全会衆を彼に聞き従わせよ。

- 21** 彼は祭司エルアザルの前に立ち、エルアザルは主の前で、ウリムによるさばきを自分のために伺わなければならない。ヨシュアと彼とともにいるイスラエルの子らのすべての者、すなわち全会衆は、エルアザルの命令によって出、また、彼の命令によって入らなければならない。」
- 22** モーセは主が命じられたとおりに行った。ヨシュアを連れて来て、彼を祭司エルアザルと全会衆の前に立たせ、
- 23** 自分の手を彼の上に置いて、主がモーセを通して告げられたとおりに任命した。

第28章

- 1 主はモーセに告げられた。
- 2 「イスラエルの子らに命じて彼らに言え。あなたがたは、わたしのための食物、わたしへのささげ物を、わたしへの食物のささげ物、芳ばしい香りとして、定められた時に確実にわたしに献げなければならない。
- 3 彼らに言え。これがあなたがたが主に献げる食物のささげ物である。傷のない一歳の雄の子羊を、毎日二匹、常供の全焼のささげ物として。
- 4 一方の子羊を朝献げ、もう一方の子羊を夕暮れに献げなければならない。
- 5 穀物のささげ物として、上質のオリーブ油四分の一ヒンを混ぜた小麦粉十分の一エパ。
- 6 これはシナイ山で定められた、常供の全焼のささげ物であり、主への食物のささげ物、芳ばしい香りである。
- 7 それに添える注ぎのささげ物は、子羊一匹につき四分の一ヒンとする。聖所で、主への注ぎのささげ物として強い酒を注ぎなさい。
- 8 もう一方の子羊は夕暮れに献げなければならない。朝の穀物のささげ物、および、それに添える注ぎのささげ物と同じものを、これに添えて献げなければならない。これは主への食物のささげ物、芳ばしい香りである。
- 9 安息日には、傷のない一歳の雄の子羊二匹と、穀物のささげ物として油を混ぜた小麦粉十分の二エパと、それに添える注ぎのささげ物。
- 10 これは、安息日ごとの全焼のささげ物で、常供の全焼のささげ物とそれに添える注ぎのささげ物に加えられる。
- 11 あなたがたは月の最初の日、次のものを献げなければならない。主への全焼のささげ物として、若い雄牛二頭、雄羊一匹、傷のない一歳の雄の子羊七匹。
- 12 雄牛一頭につき、穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉十分の三エパ。雄羊一匹につき、穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉十分の二エパ。
- 13 子羊一匹につき、穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉十分の一エパ。これらが主への全焼のささげ物、芳ばしい香り、食物のささげ物である。
- 14 それに添える注ぎのささげ物は、雄牛一頭につき二分の一ヒン、雄羊一匹につき三分の一ヒン、子羊一匹につき四分の一ヒンのぶどう酒でなければならない。これは一年を通して毎月の、新月祭の全焼のささげ物である。
- 15 主への罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹。これは、常供の全焼のささげ物とそれに添える注ぎのささげ物に加えられる。
- 16 第一の月の十四日は、過越のいけにえを主に献げなければならない。
- 17 この月の十五日は祭りである。七日間、種なしパンを食べなければならない。
- 18 その最初の日には、聖なる会合を開く。いかなる労働もしてはならない。
- 19 あなたがたは、主への食物のささげ物、全焼のささげ物として、若い雄牛二頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊七匹を献げなければならない。それはあなたがたにとって傷のないものでなければならない。

- 20** それに添える穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉を、雄牛一頭につき十分の三エパ、雄羊一匹につき十分の二エパとする。
- 21** 子羊七匹については、一匹につき十分の一エパとする。
- 22** あなたがたのために宥めを行うには、罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹とする。
- 23** 常供の全焼のささげ物である朝の全焼のささげ物のほかに、これらのものを献げなければならない。
- 24** このように七日間、主への芳ばしい香り、食物のささげ物のパンを、毎日、献げなければならない。これは常供の全焼のささげ物とその注ぎのささげ物に加えて献げられなければならない。
- 25** 七日目にあなたがたは聖なる会合を開かなければならない。いかなる労働もしてはならない。
- 26** 初穂の日、すなわち七週の祭りに、新しい穀物のささげ物を主に献げるときには、聖なる会合を開かなければならない。いかなる労働もしてはならない。
- 27** あなたがたは、主への芳ばしい香りとして、全焼のささげ物、すなわち、若い雄牛二頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊七匹を献げよ。
- 28** さらに、それに添える穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉を、雄牛一頭につき十分の三エパ、雄羊一匹につき十分の二エパ。
- 29** 七匹の子羊については、一匹につき十分の一エパ。
- 30** あなたがたのために宥めを行うには、雄やぎ一匹とする。
- 31** 常供の全焼のささげ物とそれに添える穀物のささげ物とは別に、これらのものを、それらに添える注ぎのささげ物とともに献げなければならない。それらは傷のないものでなければならない。

第29章

- 1 第七の月には、その月の一日に聖なる会合を開かなければならない。あなたがたは、いかなる労働もしてはならない。これを、あなたがたにとって角笛が吹き鳴らされる日としなければならない。
- 2 あなたがたは、次のものを献げよ。主への芳ばしい香りとして、全焼のささげ物、すなわち、若い雄牛一頭、雄羊一匹、傷のない一歳の雄の子羊七匹。
- 3 それに添える穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉を、雄牛一頭につき十分の三エパ、雄羊一匹につき十分の二エパ、
- 4 七匹の子羊については、一匹につき十分の一エパ。
- 5 また、あなたがたのために宥めを行うには、罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹。
- 6 これとは別に、新月祭の全焼のささげ物とその穀物のささげ物、常供の全焼のささげ物とその穀物のささげ物、および、それらに添える注ぎのささげ物、すなわち、規定による、主への食物のささげ物、芳ばしい香り。
- 7 この第七の月の十日には、あなたがたは聖なる会合を開き、自らを戒めなければならない。いかなる仕事もしてはならない。
- 8 あなたがたは、主への芳ばしい香りとして、全焼のささげ物、すなわち、若い雄牛一頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊七匹を献げよ。それらはあなたがたにとって傷のないものでなければならない。
- 9 それに添える穀物のささげ物については、油を混ぜた小麦粉を、雄牛一頭につき十分の三エパ、雄羊一匹につき十分の二エパとする。
- 10 七匹の子羊については、一匹につき十分の一エパ。
- 11 さらに罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹。これらは、宥めのための罪のきよめのささげ物、常供の全焼のささげ物とそれに添える穀物のささげ物、および、それらに添える注ぎのささげ物とは別である。
- 12 第七の月の十五日には、あなたがたは聖なる会合を開かなければならない。いかなる労働もしてはならない。あなたがたは七日間、主の祭りを祝え。
- 13 あなたがたは、主への芳ばしい香り、食物のささげ物として、全焼のささげ物、すなわち、若い雄牛十三頭、雄羊二匹、一歳の雄の子羊十四匹を献げよ。これらは傷のないものでなければならない。
- 14 それに添える穀物のささげ物としては、油を混ぜた小麦粉を、雄牛十三頭については雄牛一頭につき十分の三エパ、雄羊二匹については雄羊一匹につき十分の二エパ、
- 15 子羊十四匹については子羊一匹につき十分の一エパとする。
- 16 さらに罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹。これらは、常供の全焼のささげ物と、それに添える穀物のささげ物、および注ぎのささげ物とは別である。
- 17 二日目には、若い雄牛十二頭、雄羊二匹、傷のない一歳の雄の子羊十四匹、
- 18 および、それらの雄牛、雄羊、子羊のための、それぞれの数に応じて定められた穀物のささげ物と注ぎのささげ物。

- 19 さらに罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹。これらは、常供の全焼のささげ物と、それに添える穀物のささげ物、および注ぎのささげ物とは別である。
- 20 三日目には、雄牛十一頭、雄羊二匹、傷のない一歳の雄の子羊十四匹、
- 21 および、それらの雄牛、雄羊、子羊のための、それぞれの数に応じて定められた穀物のささげ物と注ぎのささげ物。
- 22 さらに罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹。これらは、常供の全焼のささげ物と、それに添える穀物のささげ物、および注ぎのささげ物とは別である。
- 23 四日目には、雄牛十頭、雄羊二匹、傷のない一歳の雄の子羊十四匹、
- 24 および、それらの雄牛、雄羊、子羊のための、それぞれの数に応じて定められた穀物のささげ物と注ぎのささげ物。
- 25 さらに罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹。これらは、常供の全焼のささげ物と、それに添える穀物のささげ物、および注ぎのささげ物とは別である。
- 26 五日目には、雄牛九頭、雄羊二匹、傷のない一歳の雄の子羊十四匹、
- 27 および、それらの雄牛、雄羊、子羊のための、それぞれの数に応じて定められた穀物のささげ物と注ぎのささげ物。
- 28 さらに罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹。これらは、常供の全焼のささげ物と、それに添える穀物のささげ物、および注ぎのささげ物とは別である。
- 29 六日目には、雄牛八頭、雄羊二匹、傷のない一歳の雄の子羊十四匹、
- 30 および、それらの雄牛、雄羊、子羊のための、それぞれの数に応じて定められた穀物のささげ物と注ぎのささげ物。
- 31 さらに罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹。これらは、常供の全焼のささげ物と、それに添える穀物のささげ物、および注ぎのささげ物とは別である。
- 32 七日目には、雄牛七頭、雄羊二匹、傷のない一歳の雄の子羊十四匹、
- 33 および、それらの雄牛、雄羊、子羊のための、それぞれの数に応じて定められた穀物のささげ物と注ぎのささげ物。
- 34 さらに罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹。これらは、常供の全焼のささげ物と、それに添える穀物のささげ物、および注ぎのささげ物とは別である。
- 35 八日目に、あなたがたはきよめの集会を開かなければならない。いかなる労働もしてはならない。
- 36 あなたがたは、主への芳ばしい香り、食物のささげ物として、全焼のささげ物、すなわち、雄牛一頭、雄羊一匹、傷のない一歳の雄の子羊七匹を献げよ。
- 37 それらの雄牛、雄羊、子羊のための、穀物のささげ物と注ぎのささげ物の数量は規定とおりである。
- 38 さらに罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹。これらは、常供の全焼のささげ物と、それに添える穀物のささげ物、および注ぎのささげ物とは別である。
- 39 あなたがたは、あなたがたの例祭に、それらのものを主に献げなければならない。それらは、あなたがたの誓願のささげ物、または進んで献げるものとしての全焼のささげ物、穀物のささげ物、注ぎのささげ物および交わりのいけにえとは別である。」

40 モーセは、主がモーセに命じられたとおりを、イスラエルの子らに告げた。

第30章

- 1 モーセはイスラエルの諸部族のかしらたちに告げた。「これは主が命じられたことである。
- 2 男が主に誓願をするか、あるいは、物断ちをしようと誓う場合には、自分のことばを破ってはならない。すべて自分の口から出たとおりのことを実行しなければならない。
- 3 女が若くてまだ父の家にいるときに、主に誓願をするか、あるいは物断ちをする場合には、
- 4 その父が彼女の誓願、あるいは物断ちを聞いて、彼女に何も言わなければ、彼女のすべての誓願は有効となる。彼女の物断ちもすべて有効となる。
- 5 しかし、もし父がそれを聞いた日に彼女に反対するなら、彼女の誓願、あるいは物断ちはすべて無効としなければならない。彼女の父が彼女に反対するのであるから、主は彼女を赦される。
- 6 もし彼女が、自分の誓願、あるいは物断ちをしようと軽率に言ったことが、まだその身にかかっているうちに嫁ぐ場合には、
- 7 夫がそれを聞き、聞いた日に彼女に何も言わなければ、彼女の誓願は有効である。彼女の物断ちも有効となる。
- 8 もし夫がそれを聞いた日に彼女に反対すれば、夫は、彼女がかけている誓願や、物断ちをしようと軽率に言ったことを破棄することになる。そして主は彼女を赦される。
- 9 しかし、やもめや離縁された女の誓願については、すべての物断ちが当人に対して有効となる。
- 10 もし女が夫の家で誓願をするか、あるいは、誓って物断ちをする場合には、
- 11 夫がそれを聞いて、彼女に何も言わず、反対しないなら、彼女の誓願はすべて有効となる。彼女の物断ちもすべて有効となる。
- 12 もし夫が、そのことを聞いた日にそれらを破棄してしまうなら、その誓願も物断ちも、彼女の口から出たすべてのことは無効となる。彼女の夫がそれを破棄したのだから、主は彼女を赦される。
- 13 すべての誓願も、自らを戒めるための物断ちの誓いもみな、夫がそれを有効にすることができるし、それを破棄することもできる。
- 14 もし夫が日々、その妻に全く何も言わなければ、夫は彼女のすべての誓願、あるいは、すべての物断ちを有効にする。夫がそれを聞いた日に彼女に何も言わなかったのだから、彼はそれを有効にしたのである。
- 15 もし夫がそれを聞いた後、それを破棄するなら、夫が彼女の咎を負う。」
- 16 これらは、夫とその妻との間、父とまだ父の家にいる若い娘の間とに関して、主がモーセに命じられた掟である。

第31章

- 1 主はモーセに告げられた。
- 2 「あなたは、イスラエルの子らのために、ミディアン人に復讐を果たせ。その後で、あなたは自分の民に加えられる。」
- 3 そこでモーセは民に告げた。「あなたがたのうち、男たちは戦のために武装せよ。ミディアン人を襲って、ミディアン人に主の復讐をするためである。」
- 4 イスラエルのすべての部族から、部族ごとに千人を戦に送らなければならない。」
- 5 それで、イスラエルの分団から、部族ごとに千人、すなわち、合計一万二千人の、戦のために武装した者たちが選ばれた。
- 6 モーセは部族ごとに千人を戦に送った。また彼らとともに、祭司エルアザルの子ピネハスを、聖なる用具と吹き鳴らすラッパをその手に持たせて、戦に送り出した。
- 7 彼らは主がモーセに命じられたとおりに、ミディアン人に戦いを挑み、その男子をすべて殺した。
- 8 その殺された者のほかに、彼らはミディアンの王たち、すなわち、エウィ、レケム、ツル、フル、レバの五人のミディアンの王たちを殺した。また、ベオルの子バラムを剣で殺した。
- 9 イスラエル人は、ミディアン人の女たちと子どもたちを捕らえ、またその動物、家畜、財産をことごとく奪い取り、
- 10 彼らの居住していた町々や陣営をすべて火で焼いた。
- 11 そして人でも動物でも、略奪したものや分捕ったものすべてを取り、
- 12 エリコをのぞむヨルダン川のほとりのモアブの草原の宿営にいる、モーセと祭司エルアザルとイスラエルの会衆のところに、その捕虜や分捕り物、略奪品を携えてやって来た。
- 13 モーセと祭司エルアザル、およびすべての会衆の上に立つ族長たちは出て行って、宿営の外で彼らを迎えた。
- 14 モーセは、軍勢の指揮官たち、すなわち戦いの任務から戻って来た千人の長や百人の長たちに対して激怒した。
- 15 モーセは彼らに言った。「女たちをみな生かしておいたのか。」
- 16 よく聞け。この女たちが、バラムの事件の折に、ベオルの事件に関連してイスラエルの子らをそそのかし、主を冒瀆させたのだ。それで主の罰が主の会衆の上に下ったのだ。
- 17 今、子どもたちのうちの男子をみな殺せ。男と寝て男を知っている女もみな殺せ。
- 18 男と寝ることを知らない若い娘たちはみな、あなたがたのために生かしておけ。
- 19 あなたがたは七日間、宿営の外にとどまれ。あなたがたでも、あなたがたの捕虜でも、人を殺した者、あるいは刺し殺された者に触れた者はだれでも、三日目と七日目に身の汚れを除かなければならない。
- 20 衣服、皮製品、やぎの毛で作ったもの、木製品はすべて汚れを除かなければならない。」
- 21 祭司エルアザルは、戦いに行った兵士たちに言った。「主がモーセに命じられたおしへの掟は次のとおりである。

- 22 ただ、金、銀、青銅、鉄、すず、鉛など、
- 23 すべて火に耐えるものは、火の中を通せば、きよくなる。ただし、それは汚れを除く水で汚れを除かなければならない。火に耐えないものはみな、水の中を通さなければならぬ。
- 24 また、あなたがたは七日目に自分の衣服を洗うなら、きよくなる。その後で、宿営に入ることができる。」
- 25 主はモーセに言われた。
- 26 「あなたと祭司エルアザル、および会衆の氏族のかしらたちは、人でも家畜でも捕らえて分捕ったものの総数を調べ、
- 27 その分捕ったものを、戦に出た者たちと全会衆の間で二分せよ。
- 28 戦に出た戦士たちからは、人、牛、ろば、羊の中からそれぞれ五百のうち一を、主への貢ぎとして徴収せよ。
- 29 彼らが受けるその半分の中から取って、主への奉納物として祭司エルアザルに渡さなければならぬ。
- 30 イスラエルの子らが受けるもう半分の中から、人、また牛、ろば、羊、それぞれの家畜から、それぞれ五十のうち一を取り出して、主の幕屋の任務に当たるレビ人に与えなければならぬ。」
- 31 そこでモーセと祭司エルアザルは、主がモーセに命じられたとおりに行った。
- 32 従軍した人たちが奪った戦利品を除く分捕り物は、羊六十七万五千匹、
- 33 牛七万二千頭、
- 34 ろば六万一千頭、
- 35 人は、男と寝ることを知らない女が全部で三万二千人であった。
- 36 この半分が戦に出た者たちの分け前で、羊の数は三十三万七千五百匹。
- 37 その羊のうちから主への貢ぎは六百七十五匹。
- 38 牛は三万六千頭で、そのうちから主への貢ぎは七十二頭。
- 39 ろばは三万五百頭で、そのうちから主への貢ぎは六十一頭。
- 40 人は一万六千人で、そのうちから主への貢ぎは三十二人であった。
- 41 モーセは、主がモーセに命じられたとおりに、その貢ぎ、すなわち、主への奉納物を祭司エルアザルに渡した。
- 42 モーセが戦に出た者たちに折半して与えた残り、すなわち、イスラエルの子らのものであるもう半分、
- 43 すなわち会衆のものであるもう半分は、羊三十三万七千五百匹、
- 44 牛三万六千頭、
- 45 ろば三万五百頭、
- 46 人は一万六千人であった。
- 47 モーセは、イスラエルの子らのものであるもう半分から、人も家畜も、それぞれ五十のうち一を取り出して、主がモーセに命じられたとおりに、主の幕屋の任務に当たるレビ人に与えた。

- 48 すると、軍団の指揮官たち、すなわち千人の長、百人の長たちがモーセのもとに進み出て、
- 49 モーセに言った。「しもべどもは、部下の戦士たちの総数を数えました。私たちのうち一人も欠けていません。
- 50 それで、私たちは、各自が手に入れた金の飾り物、すなわち腕飾り、腕輪、指輪、耳輪、首飾りなどを主へのささげ物として持って来ました。主の前で私たち自身のための宿めとしたいのです。」
- 51 モーセと祭司エルアザルは、彼らから金を受け取った。それはあらゆる種類の細工を施した物であった。
- 52 千人の長や百人の長たちが主に献げた奉納物の金は、全部で一万六千七百五十シェケルであった。
- 53 従軍した人たちは、それぞれ、戦利品を自分のものとした。
- 54 モーセと祭司エルアザルは、千人の長や百人の長たちから金を受け取り、それを会見の天幕に持って行き、主の前における、イスラエルの子らのための記念とした。

第32章

- 1 ルベン族とガド族は、多くの家畜を持っていた。それは、おびただしい数であった。彼らがヤゼルの地とギルアデの地を見ると、その場所は家畜に適した場所であった。
- 2 そこでガド族とルベン族は、モーセと祭司エルアザル、および会衆の上に立つ族長たちのところに来て、次のように言った。
- 3 「アタロテ、ディボン、ヤゼル、ニムラ、ヘシュボン、エルアレ、セバム、ネボ、ベオン、
- 4 主がイスラエルの会衆の前で打ち滅ぼされたこれらの地は、家畜に適した地です。そして、しもべどもには家畜がいます。」
- 5 また言った。「もし、私たちの願いがかないますなら、どうか、しもべどもがこの地を所有地として賜いますように。私たちにヨルダン川を渡らせないでください。」
- 6 モーセはガド族とルベン族に答えた。「あなたがたの兄弟たちは戦いに行くのに、あなたがたはここにとどまるというのか。
- 7 どうして、イスラエルの子らの意気をくじいて、主が与えてくださった地へ渡らせないようにするのか。
- 8 あなたがたの父たちも、私がカデシュ・バルネアからその地を調べるために遣わしたとき、そのようにふるまった。
- 9 彼らはエシュコルの谷まで上って行って、その地を見たとき、イスラエルの子らの意気をくじいて、主が与えてくださった地に入って行かないようにした。
- 10 あの日、主は怒りに燃え、誓って言われた。
- 11 『エジプトから上って来た者たちで二十歳以上の者はだれも、わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに誓った地を見ることはない。わたしに従い通さなかったからである。
- 12 ただ、ケナズ人エフンネの子カレブと、ヌンの子ヨシュアは別である。彼らが主に従い通したからである。』
- 13 事実、主の怒りはイスラエルに向かって燃え上がり、主は彼らを四十年の間、荒野をさまよわせ、主の目に悪であることを行っただけの世代の者たちは、ついに、みな死に絶えた。
- 14 そして今、あなたがたが、罪人の子らとしてあなたがたの父たちに代わって立ち上がり、イスラエルに対する主の燃える怒りを増し加えようとしている。
- 15 あなたがたが背いて主に従わないなら、主は再びこの民をこの荒野に見捨てられる。そしてあなたがたは、この民全体に滅びをもたらすことになるのだ。」
- 16 彼らはモーセに近寄って言った。「私たちはここに、家畜のために羊の囲い場を作り、子どもたちのために町々を建てます。
- 17 しかし私たちは、イスラエルの子らを彼らの場所に導き入れるまで、武装して先頭に立って急ぎ進みます。子どもたちは、この地の住民の前で城壁のある町々に住みます。
- 18 私たちは、イスラエルの子らがそれぞれその相続地を受け継ぐまで、自分の家に帰りません。

- 19 ヨルダン川の向こう側では、彼らとともに相続地を持ちません。私たちの相続地は、このヨルダンの川向こう、東の方になります。」
- 20 モーセは彼らに言った。「もしあなたがたがそのことを実行するなら、すなわち、もし主の前で戦いのために武装し、
- 21 あなたがたのうちの武装した者がみな主の前でヨルダン川を渡り、ついに主がその敵を御前から追い払い、
- 22 その地が主の前に征服され、その後であなたがたが帰って来るなら、あなたがたは主に対してもイスラエルに対しても責任を解かれる。そして、この地は主の前であなたがたの所有地となる。
- 23 しかし、もしそのように行わないなら、そのとき、あなたがたは主の前に罪ある者となり、自分たちの身に降りかかる罪の罰を思い知ることになる。
- 24 あなたがたは、自分の子どもたちのために町々を建て、自分の羊のために囲い場を作るがよい。自分の口から出たことを実行しなさい。」
- 25 ガド族とルベン族はモーセに答えた。「しもべどもは、あなたが命じられるとおりにします。
- 26 私たちの子どもたちや妻たち、家畜とすべての動物は、あそこ、ギルアデの町々にとどまります。
- 27 しかし、しもべども、戦のために武装した者はみな、あなたがおっしゃるとおり、渡って行って、主の前で戦います。」
- 28 そこで、モーセは彼らについて、祭司エルアザル、ヌンの子ヨシュア、イスラエルの諸部族の一族のかしらたちに命令を下した。
- 29 モーセは彼らに言った。「もし、ガド族とルベン族の、戦いのために武装した者がみな、あなたがたとともにヨルダン川を渡り、主の前で戦い、その地があなたがたの前に征服されたなら、あなたがたはギルアデの地を所有地として彼らに与えなさい。
- 30 しかし、もし彼らが武装してあなたがたとともに渡って行かなければ、彼らはカナンの地であなたがたの間に所有地を得なければならない。」
- 31 ガド族とルベン族は答えた。「主があなたのしもべたちに語られたことを、私たちは実行いたします。
- 32 私たちは武装して主の前にカナンの地に渡って行き、私たちの相続の所有地を、このヨルダンの川向こうとします。」
- 33 そこでモーセは、ガド族と、ルベン族と、ヨセフの子マナセの半部族に、アモリ人の王シホンの王国とバシャンの王オグの王国、すなわち町々がある地と、周辺の地の町々がある領土を与えた。
- 34 そこでガド族は、ディボン、アタロテ、アロエル、
- 35 アテロテ・ショファン、ヤゼル、ヨグボハ、
- 36 ベテ・ニムラ、ベテ・ハランを城壁のある町々として、または羊の囲い場として建て直した。
- 37 また、ルベン族は、ヘシュボン、エルアレ、キルヤタイム、

- 38** および、後に名を改められたネボとバアル・メオン、またシブマを建て直した。彼らは、建て直した町々に新しい名をつけた。
- 39** マナセの子マキルの子らはギルアデに行って、そこを攻め取り、そこにいたアモリ人を追い出した。
- 40** モーセがギルアデをマナセの子マキルに与えたので、彼はそこに住んだ。
- 41** マナセの子ヤイルは行って、彼らの町々を攻め取り、それらをハボテ・ヤイルと名づけた。
- 42** ノバフは行って、ケナテとそれに属する村々を攻め取り、自分の名にちなんで、それをノバフと名づけた。

第33章

- 1 モーセとアロンの指導のもとに、その軍団ごとにエジプトの地から出て来たイスラエルの子らの旅程は次のとおりである。
- 2 モーセは主の命により、彼らの旅程の出発地点を書き記した。その旅程は、出発地点によると次のとおりである。
- 3 彼らは第一の月、その月の十五日に、ラメセスを旅立った。すなわち過越のいけにえの翌日、イスラエルの子らは、全エジプトが見ている前を隠することなく出て行った。
- 4 エジプトは、彼らの間で主が打たれたすべての長子を埋葬していた。主は彼らの神々にもさばきを下された。
- 5 イスラエルの子らはラメセスを旅立ってスコテに宿営し、
- 6 スコテを旅立って荒野の端にあるエタムに宿営した。
- 7 エタムを旅立ってバアル・ツェフォンの手前にあるピ・ハヒロテの方に向きを変え、ミグドルの前で宿営した。
- 8 ピ・ハヒロテを旅立って海の真ん中を通して荒野に向かい、エタムの荒野を三日路ほど行ってマラに宿営した。
- 9 マラを旅立ってエリムに行き、そこに宿営した。エリムには十二の泉と、七十本のなつめ椰子の木があった。
- 10 それから、彼らはエリムを旅立って葦の海のほとりに宿営し、
- 11 葦の海を旅立ってシンの荒野に宿営した。
- 12 シンの荒野を旅立ってドフカに宿営し、
- 13 ドフカを旅立ってアルシュに宿営し、
- 14 アルシュを旅立ってレフィディムに宿営した。そこには民の飲む水がなかった。
- 15 それから、彼らはレフィディムを旅立ってシナイの荒野に宿営し、
- 16 シナイの荒野を旅立ってキプロテ・ハ・タアワに宿営した。
- 17 キプロテ・ハ・タアワを旅立ってハツェロテに宿営し、
- 18 ハツェロテを旅立ってリテマに宿営した。
- 19 リテマを旅立ってリンモン・ペレツに宿営し、
- 20 リンモン・ペレツを旅立ってリブナに宿営した。
- 21 リブナを旅立ってリサに宿営し、
- 22 リサを旅立ってケヘラタに宿営し、
- 23 ケヘラタを旅立ってシェフェル山に宿営した。
- 24 シェフェル山を旅立ってハラダに宿営し、
- 25 ハラダを旅立ってマクヘロテに宿営した。
- 26 マクヘロテを旅立ってタハテに宿営し、
- 27 タハテを旅立ってテラフに宿営し、
- 28 テラフを旅立ってミテカに宿営した。

- 29 ミテカを旅立ってハシュモナに宿営し、
- 30 ハシュモナを旅立ってモセロテに宿営した。
- 31 モセロテを旅立ってベネ・ヤアカンに宿営し、
- 32 ベネ・ヤアカンに旅立ってホル・ハ・ギデガデに宿営し、
- 33 ホル・ハ・ギデガデを旅立ってヨテバタに宿営し、
- 34 ヨテバタを旅立ってアプロナに宿営し、
- 35 アプロナを旅立ってエツヨン・ゲベルに宿営した。
- 36 エツヨン・ゲベルを旅立ってツィンの荒野、すなわちカデシュに宿営し、
- 37 カデシュを旅立ってエドムの国の端にあるホル山に宿営した。
- 38 祭司アロンは主の命によりホル山に登り、そこで死んだ。それは、イスラエルの子らがエジプトの地を出てから四十年目の第五の月の一日であった。
- 39 アロンはホル山で死んだとき、百二十三歳であった。
- 40 カナンの地のネゲブに住んでいたカナン人、アラドの王は、イスラエル人がやって来るのを聞いた。
- 41 それから、彼らはホル山を旅立ってツアルモナに宿営し、
- 42 ツアルモナを旅立ってブノンに宿営し、
- 43 ブノンを旅立ってオボテに宿営し、
- 44 オボテを旅立ってモアブの領土のイエ・ハ・アバリムに宿営した。
- 45 イイムを旅立ってディボン・ガドに宿営し、
- 46 ディボン・ガドを旅立ってアルモン・ディブラタイムに宿営した。
- 47 アルモン・ディブラタイムを旅立って、ネボの手前にあるアバリムの山々に宿営し、
- 48 アバリムの山々を旅立って、エリコをのぞむヨルダン川のほとりのモアブの草原に宿営した。
- 49 すなわち、ヨルダン川のほとり、ベテ・ハ・エシモテからアベル・ハ・シティムに至るまでのモアブの草原に、彼らは宿営した。
- 50 エリコをのぞむヨルダン川のほとりのモアブの草原で、主はモーセに告げられた。
- 51 「イスラエルの子らに告げよ。あなたがたがヨルダン川を渡ってカナンの地に入るときには、
- 52 その地の住民をことごとくあなたがたの前から追い払って、彼らの石像をすべて粉碎し、彼らの鑄像をすべて粉碎し、彼らの高き所をすべて打ち壊さなければならない。
- 53 あなたがたはその地を自分の所有とし、そこに住め。あなたがたが所有するように、わたしがそれを与えたからである。
- 54 あなたがたは、氏族ごとに、くじを引いて、その地を相続地とせよ。大きい部族には、その相続地を大きくし、小さい部族には、その相続地を小さくしなければならない。くじで当たったその場所が、その部族のものとなる。あなたがたは、自分の父祖の部族ごとに相続地を受けなければならない。
- 55 もしその地の住民をあなたがたの前から追い払わなければ、あなたがたが残しておく者たちは、あなたがたの目のとげとなり、脇腹の茨となり、彼らはあなたがたが住むその土地

であなたがたを苦しめる。

- 56** そしてわたしは、彼らに対してしようと計画したとおりを、あなたがたに対してすることになる。」

第34章

- 1 主はモーセに告げられた。
- 2 「イスラエルの子らに命じて彼らに言え。あなたがたがカナンの地に入るときには、あなたがたへのゆずりとなる地、カナンの地とその境界は次のとおりである。
- 3 あなたがたの南側は、エドムに接するツインの荒野に始まる。南の境界線は、東の方の塩の海の端に始まる。
- 4 その境界線は、アクラビムの坂の南から回ってツインの方に進み、その終わりはカデシュ・バルネアの南である。またハツアル・アダルを出て、アツモンへと進む。
- 5 さらに境界線は、アツモンから回ってエジプト川に向かい、その終わりは海である。
- 6 あなたがたの西の境界線は、大海とその沿岸である。これをあなたがたの西の境界線としなければならない。
- 7 あなたがたの北の境界線は、次のとおりにしなければならない。大海からホル山まで線を引き、
- 8 さらにホル山からレボ・ハマテまで線を引く。その境界線の終わりはツェダデである。
- 9 そして境界線はジフロンに延び、その終わりはハツアル・エナンである。これがあなたがたの北の境界線である。
- 10 あなたがたの東の境界線としては、ハツアル・エナンからシェファムまで線を引け。
- 11 その境界線は、シェファムからアインの東方のリブラに下り、それから境界線は、そこから下ってキネレテの海の東の傾斜地に達する。
- 12 さらに境界線はヨルダン川を下り、その終わりは塩の海である。以上が境界線によって周囲を区切られた、あなたがたの地である。」
- 13 モーセはイスラエルの子らに命じて言った。「これが、あなたがたがくじを引いて相続地とする地である。主がこれを与えよと命じられたのは、九部族と半部族に対してである。
- 14 ルベン部族は一族ごとに、ガド部族も一族ごとに、そしてマナセの半部族も、自分たちの相続地を受け取っているからである。
- 15 この二部族と半部族は、ヨルダン川の、エリコをのぞむ対岸、東の方、日の出る方に、自分たちの相続地を受け取っている。」
- 16 主はモーセに告げられた。
- 17 「あなたがたにその地を相続地として受け継がせる者たちの名は、次のとおりである。すなわち、祭司エルアザルとヌンの子ヨシュア。
- 18 あなたがたは、その地を受け継ぐため、それぞれの部族から族長一人ずつを選ばなければならない。
- 19 その人たちの名は次のとおりである。ユダ部族からは、エフンネの子カレブ。
- 20 シメオン部族からは、アミフデの子サムエル。
- 21 ベニヤミン部族からは、キスロンの子エリダデ。
- 22 ダン部族からは、族長として、ヨグリの子ブキ。

- 23** ヨセフの子孫からは、マナセ部族から、族長として、エフォデの子ハニエル、
- 24** またエフライム部族から、族長として、シフトンの子ケムエル。
- 25** ゼブルン部族からは、族長として、パルナクの子エリツァファン。
- 26** イッサカル部族からは、族長として、アザンの子パルティエル。
- 27** アシェル部族からは、族長として、シェロミの子アヒフデ。
- 28** ナフタリ部族からは、族長として、アミフデの子ペダフエル。
- 29** これが、カナンの地でイスラエルの子らへの相続地を受け継がせるようにと、主が命じた人たちである。」

第35章

- 1 エリコをのぞむヨルダン川のほとりのモアブの草原で、主はモーセに告げられた。
- 2 「イスラエルの子らに命じ、その所有となる相続地のうちから、居住のための町々をレビ人に与えよ。また、その町々の周りの放牧地はレビ人に与えなければならない。
- 3 その町々は彼らが住むためのものであり、その放牧地は彼らの家畜、群れ、そしてすべての動物のためのものである。
- 4 あなたがたがレビ人に与える町々の放牧地は、町の城壁から外側に向かって周囲一千キュビトである。
- 5 あなたがたは、町の外側に、町を真ん中として東側に二千キュビト、南側に二千キュビト、西側に二千キュビト、北側に二千キュビトを測れ。これが彼らの町々の放牧地となる。
- 6 レビ人に与える町々については、人を殺した者を逃れさせる六つの逃れの町がなければならない。また、このほかに、四十二の町を与えなければならない。
- 7 レビ人に与える町は、全部で四十八の町で、放牧地付きである。
- 8 あなたがたがイスラエルの子らの所有地のうちから与える町々は、大きい部族からは多く、小さい部族からは少なくしなければならない。それぞれ自分が受け継いだ相続地の大きさに応じて、自分の町々の一部をレビ人に与えなければならない。」
- 9 主はモーセに告げられた。
- 10 「イスラエルの子らに告げ、彼らに言え。ヨルダン川を渡ってカナン of 地に入るとき、
- 11 あなたがたは町々を定めて、自分たちのために逃れの町とし、誤って人を打ち殺してしまった殺人者がそこに逃れることができるようにしなければならない。
- 12 この町々は、復讐する者からあなたがたが逃れる場所となる。殺人者が、さばきのために会衆の前に立たないうちに死ぬことのないようにするためである。
- 13 あなたがたが与えるべき町は六つの逃れの町で、それらは、あなたがたのためのものである。
- 14 このヨルダンの川向こうに三つの町を、カナン of 地に三つの町を与えて、逃れの町としなければならない。
- 15 イスラエルの子ら、または彼らの間に在住している寄留者のために、これら六つの町は逃れの場所となる。すべて誤って人を打ち殺してしまった者が、そこに逃れるためである。
- 16 もし鉄の器具で人を打って死なせたなら、その人は殺人者である。その殺人者は必ず殺されなければならない。
- 17 もし、人を殺せるほどの、手に持てる石で人を打って死なせたなら、その人は殺人者である。その殺人者は必ず殺されなければならない。
- 18 あるいは、人を殺せるほどの、片手に持てる木製の器具で人を打って死なせたなら、その人は殺人者である。その殺人者は必ず殺されなければならない。
- 19 血の復讐をする者は、自分でその殺人者を殺してもよい。彼に出くわしたときに、殺してもよい。

- 20 もし、人が憎しみをもって人を突き倒すか、あるいは悪意をもって人に物を投げつけて死なせたなら、
- 21 または、敵意をもって人を手で打って死なせたなら、その打った者は必ず殺されなければならない。その人は殺人者である。その血の復讐をする者がその殺人者に出くわしたときには、彼を殺してもよい。
- 22 もし敵意もなく突然人を突き倒し、あるいは悪意なしに何か物を投げつけ、
- 23 または、人を死なせるほどの石を、よく見ないで人の上に落としてしまい、それによってその人が死んだなら、しかもその人が自分の敵ではなく、害を加えようとしたわけではないなら、
- 24 会衆は、打ち殺した者と、血の復讐をする者との間を、これらの定めに基づいてさばかなければならない。
- 25 会衆は、その殺人者を血の復讐をする者の手から救い出し、彼を、逃げ込んだその逃れの町に帰してやらなければならない。彼は、聖なる油を注がれた大祭司が死ぬまで、そこにいなければならない。
- 26 もしも、その殺人者が、自分が逃げ込んだ逃れの町の境界から出て行き、
- 27 血の復讐をする者がその逃れの町の境界の外で彼を見つけて、その殺人者を殺すことがあっても、その人には血の責任はない。
- 28 その殺人者は、大祭司が死ぬまでは、逃れの町に住んでいなければならないからである。大祭司の死後に、その殺人者は自分の所有地に帰ることができる。
- 29 これらのことは、あなたがたがどこに住んでも、代々守るべき、あなたがたのさばきの掟となる。
- 30 もしだれかが人を打ち殺したなら、証人たちの証言によってその殺人者を殺す。一人の証人の証言だけで、人を死刑にすることがあってはならない。
- 31 あなたがたは、殺人者のいのちのために贖い金を受け取ってはならない。彼は死ぬべき悪しき者なのである。彼は必ず殺されなければならない。
- 32 逃れの町に逃れさせる代わりに贖い金を受け取り、祭司が死ぬ前に、彼を帰らせて国に住むようにさせてはならない。
- 33 あなたがたは、自分たちのいる土地を汚してはならない。血は土地を汚すからである。土地にとって、そこで流された血は、その血を流した者の血以外によって宥められることはない。
- 34 あなたがたは、自分たちの住む土地、わたし自身がそのただ中に宿る土地を汚してはならない。主であるわたしが、イスラエルの子らのただ中に宿るからである。」

第36章

- 1 ヨセフ族の一つの氏族、マナセの子マキルの子ギルアデの氏族に属する一族のかしらたちが進み出て、モーセと、イスラエルの子らの一族のかしらである家長たちの前でこう語った。
- 2 「主は、くじによってあの地をイスラエルの子らに相続地として与えるように、あなたに命じられました。そしてまた、私たちの親類ツェロフハデの相続地を彼の娘たちに与えるように、あなたは主によって命じられています。
- 3 もし彼女たちが、イスラエルの子らのうちのほかの部族の息子に嫁いだなら、彼女たちの相続地は、私たちの先祖の相続地から差し引かれて、彼女たちが嫁ぐ部族の相続地に加えられるでしょう。その結果、私たちが相続する割り当て地は減ることになります。
- 4 イスラエルの子らにヨベルの年が来れば、彼女たちの相続地は、彼女たちが嫁ぐ部族の相続地に加えられ、彼女たちの相続地は、私たちの先祖の部族の相続地から取り去られることになります。」
- 5 そこでモーセは、主の命により、イスラエルの子らに命じた。「ヨセフ部族の訴えはもっともである。
- 6 主がツェロフハデの娘たちについて命じられたことは次のとおりである。『彼女たちは、自分が良いと思う人に嫁いでよい。ただし、彼女たちの父の部族に属する氏族に嫁がなければならない。
- 7 イスラエルの子らの相続地は、部族から部族に移してはならない。イスラエルの子らは、それぞれその父祖の部族の相続地を堅く守らなければならないからである。
- 8 イスラエルの子らの部族のうち、相続地を受け継ぐ娘はみな、その父の部族に属する氏族の一人に嫁がなければならない。イスラエルの子らが、それぞれ、その父祖の相続地を受け継ぐようにするためである。
- 9 このように、相続地は、部族からほかの部族に移してはならない。イスラエルの子らの部族は、それぞれ、自分たちの相続地を堅く守らなければならないからである。』」
- 10 ツェロフハデの娘たちは、主がモーセに命じられたとおりに行った。
- 11 ツェロフハデの娘たち、マフラ、ティルツァ、ホグラ、ミルカおよびノアは、おじの息子たちに嫁いだ。
- 12 彼女たちは、ヨセフの子マナセの子孫の氏族に嫁いたので、彼女たちの相続地は、彼女たちの父の氏族の部族に残った。
- 13 これらは、エリコをのぞむヨルダン川のほとりのモアブの草原で、主がモーセを通してイスラエルの子らに命じられた命令と定めである。

申命記

Deuteronomy

第1章

- 1 これは、モーセがイスラエルのすべての民に告げたことばである。ヨルダンの川向こう、パランと、トフェル、ラバン、ハツェロテ、ディ・ザハブとの間の、スフに面したアラバの荒野でのことであった。
- 2 ―ホレブからセイル山を経てカデシュ・バルネアに至る道のりは、十一日である―
- 3 第四十年の第十一月の一日にモーセは、主がイスラエルの子らのために彼に命じられた、すべてのことにしたがって、彼らに語った。
- 4 それはモーセが、ヘシュボンに住んでいたアモリ人の王シホン、およびアシュタロテに住んでいたバシャンの王オグを、エデレイで打ち破った後のことであった。
- 5 ヨルダンの川向こう、モアブの地で、モーセは次のように、みおしえの確認を行うことにした。
- 6 私たちの神、主はホレブで私たちに告げられた。「あなたがたはこの山に十分長くとどまった。
- 7 あなたがたは向きを変えて出発せよ。そしてアモリ人の山地に、またそのすべての近隣の者たちの地、すなわち、アラバ、山地、シェフェラ、ネゲブ、海辺、カナン人の地、レバノン、さらにあの大河ユーフラテス川にまで行け。
- 8 見よ、わたしはその地をあなたがたの手に渡している。行け。その地を所有せよ。これは主があなたがたの父祖アブラハム、イサク、ヤコブに対して、彼らとその後の子孫に与えると誓った地である。」
- 9 私はあのとき、あなたがたにこう言った。「私一人であなたがたを負うことはできない。
- 10 あなたがたの神、主があなたがたを増やされたので、見よ、あなたがたは今日、空の星のように多い。
- 11 どうか、あなたがたの父祖の神、主があなたがたを今の千倍にも増やしてくださるように。そして、あなたがたに約束されたとおり、あなたがたを祝福してくださるように。
- 12 どのようにして、私一人であなたがたのもめごとと重荷と争いを負いきれるだろうか。
- 13 あなたがたは部族ごとに、知恵があり判断力があり経験に富む人たちを出しなさい。彼らをあなたがたのかしらとして立てよう。」
- 14 すると、あなたがたは私に答えて、「あなたがしようと言われたことは良いことです」と言った。
- 15 そこで私は、あなたがたの部族のかしらで、知恵があり経験に富む人たちを選び取り、彼らをあなたがたの上に立つかしらとし、あなたがたの部族の千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長、また、つかさたちとした。
- 16 そのとき、私はあなたがたのさばき人たちに命じた。「あなたがたの同胞相互の言い分をよく聞き、ある人とその同胞との間、また寄留者との間を正しくさばきなさい。
- 17 裁判では人を偏って見てはならない。身分の低い人にも高い人にもみな、同じように聞かなければならない。人を恐れてはならない。さばきは神のものだからである。あなたがたにとって難しすぎる事柄は、私のところに持って来なさい。私がそれを聞こう。」

- 18 私はまた、そのとき、あなたがたが行うべきすべてのことを命じた。
- 19 私たちの神、主が私たちに命じられたとおりに私たちはホレブを旅立ち、あなたがたが見た、あの大きな恐ろしい荒野、すなわちアモリ人の山地への道を進み、カデシュ・バルネアまで来た。
- 20 そのとき、私はあなたがたに言った。「あなたがたは、私たちの神、主が私たちに与えようとされるアモリ人の山地に来た。
- 21 見よ、あなたの神、主はこの地をあなたの手に渡してくださった。上れ。占領せよ。あなたの父祖の神、主があなたに告げられたとおりに。恐れてはならない。おののいてはならない。」
- 22 すると、あなたがたはみな私のもとに近寄って来て言った。「私たちより先に人を遣わし、私たちのためにその地を探らせよう。そして、私たちが上って行く道や入って行く町々について、報告を持ち帰らせよう。」
- 23 私にはこのことが良いことと思われたので、私はあなたがたの中から各部族ごとに一人ずつ、十二人を選んだ。
- 24 彼らは出発し、山地に向かって上って行き、エシュコルの谷まで行き、そこを偵察した。
- 25 彼らはその地の果物を手に入れ、私たちのもとに持って帰って来た。そして報告をし、「私たちの神、主が私たちに与えようとしておられる地は良い地です」と言った。
- 26 しかし、あなたがたは上って行こうとせず、あなたがたの神、主の命令に逆らった。
- 27 そして天幕の中で不平を言った。「主は私たちを憎んでおられるので、私たちをエジプトの地から連れ出して、アモリ人の手に渡し、私たちを根絶やしにしようとしておられるのだ。
- 28 私たちはどこへ上って行くのか。私たちの兄弟たちは、『その民は私たちよりも大きくて背が高い。町々は大きく、城壁は高く天にそびえている。しかも、そこでアナク人を見た』と言って、私たちの心を萎えさせた。」
- 29 それで私はあなたがたに言った。「おののいてはならない。彼らを恐れてはならない。
- 30 あなたがたに先立って行かれるあなたがたの神、主があなたがたのために戦われる。エジプトで、あなたがたの目の前で、あなたがたのためにしてくださったのと同じように。
- 31 また荒野では、この場所に来るまでの全道中、あなたの神、主が、人が自分の子を抱くようにあなたを抱いてくださったのを、あなたがたは見ているのだ。
- 32 このようなことによっても、まだあなたがたはあなたがたの神、主を信じていない。
- 33 主はあなたがたが宿営する場所を探すために、道中あなたがたの先に立って行き、夜は火の中、昼は雲の中にあって、あなたがたが行くべき道を示されるのだ。」
- 34 主はあなたがたの不平の声を聞いて怒り、誓って言われた。
- 35 「この悪い世代の者たちのうちには、わたしがあなたがたの父祖たちに与えると誓った、あの良い地を見る者は一人もいない。
- 36 ただエフンネの子カレブだけがそれを見ることができる。彼が踏んだ地を、わたしは彼とその子孫に与える。彼が主に従い通したからだ。」

- 37 主はあなたがたのゆえに、この私に対しても怒って言われた。「あなたも、そこに入れない。
- 38 あなたに仕えているヌンの子ヨシュアは、そこに入ることができる。彼を力づけよ。彼がそこをイスラエルに受け継がせるからだ。
- 39 あなたがたが略奪されるだろうと言ったあなたがたの幼子たちや、今はまだ善悪をわきまえないあなたがたの子どもたちが、そこに入る。わたしが彼らにそこを与えるので、彼らはそこを所有するようになる。
- 40 あなたがたは向きを変え、葦の海の道を通して荒野に向かって旅立て。」
- 41 すると、あなたがたは私に答えて言った。「私たちは主に対して罪を犯した。私たちの神、主が命じられたとおりに、私たちは上って行って戦おう。」そして、それぞれ武具を身に帯びて、無謀にも山地に上って行こうとした。
- 42 主は私に言われた。「彼らに言え。『上って行ってはならない。戦ってはならない。わたしはあなたがたのうちにいないからだ。あなたがたは敵に打ち負かされてはならない。』」
- 43 私があなたがたにこう告げたのに、あなたがたは聞かず、主の命に逆らい、不遜にも山地に上って行った。
- 44 するとその山地に住んでいたアモリ人が出て来て、あなたがたを迎え撃ち、蜂が襲うようにあなたがたを追いかけて、あなたがたをセイルで打ち破り、ホルマにまで及んだ。
- 45 あなたがたは戻って来て主の前で泣いたが、主はあなたがたの声を聞き入れず、耳を傾けられなかった。
- 46 こうしてあなたがたは、実際にあなたがたとどまったとおり、長い期間カデシュにとどまった。

第2章

- 1 それから、私たちは向きを変え、主が私に告げられたように葦の海の道を荒野に向かって旅立ち、長らくセイル山の周りを移動していた。
- 2 主は私にこう言われた。
- 3 「あなたがたは長い間この山の周りを移動してきたが、北の方に向きを変えよ。
- 4 民に命じて言え。あなたがたは、セイルに住んでいるエサウの子ら、あなたがたの同族の領土内を通ろうとしている。彼らはあなたがたを恐れるであろう。ただし、あなたがたは十分に注意せよ。
- 5 彼らに戦いを仕掛けてはならない。わたしは彼らの地を、足の裏で踏むほどさえも、あなたがたには与えない。わたしはエサウにセイルの山を、彼の所有地として与えたからである。
- 6 食物は彼らから金で買って食べ、水も彼らから金で買って飲まなければならない。
- 7 事実、あなたの神、主はあなたのしたすべてのことを祝福し、この広大な荒野でのあなたの旅を見守っていたのだ。この四十年の間、あなたの神、主はあなたとともにいて、あなたには何一つ欠けたものがなかった。」
- 8 それで私たちは、セイルに住むエサウの子孫である私たちの同族から離れ、アラバへの道から離れ、エイラトからも、またエツヨン・ゲベルからも離れて進んで行った。そして、私たちは向きを変えて、モアブの荒野への道を進んで行った。
- 9 主は私に言われた。「モアブに敵対してはならない。彼らに戦いを仕掛けてはならない。あなたには、その地を所有地として与えない。わたしはアルをロトの子孫に所有地として与えたからである。
- 10 ―以前そこにはエミム人が住んでいた。アナク人のように大きくて背が高い民で、数も多かった。
- 11 アナク人と同じく彼らもレファイムであると見なされていた。モアブ人は彼らをエミム人と呼んでいた。
- 12 セイルには以前フリ人が住んでいたが、エサウの子孫がこれを追い払い、これを根絶やしにし、彼らに代わって住むようになった。ちょうど、イスラエルが主の下さった所有地に対してしたようにである―
- 13 今、立ってゼレデ川を渡れ。」そこで私たちはゼレデ川を渡った。
- 14 カデシュ・バルネアを出てからゼレデ川を渡るまでの期間は、三十八年であった。それまでに、その世代の戦士たちはみな宿営のうちから絶えてしまっていた。主が彼らについて誓われたとおりであった。
- 15 確かに主の御手が彼らに下り、彼らをかき乱し、宿営のうちから絶やされたのである。
- 16 戦士たちがみな民の間から絶えたとき、
- 17 主は私に告げられた。
- 18 「あなたは今日、モアブの領土アルを通ろうとしている。

- 19 アンモン人の近くに行くが、彼らに敵対してはならない。彼らに戦いを仕掛けてはならない。あなたにはアンモン人の地を所有地として与えない。わたしはそれをロトの子孫に所有地として与えたからである。
- 20 ―そこもレファイムの地だと見なされていた。以前はレファイムがそこに住んでいて、アンモン人は彼らをザムズミム人と呼んでいた。
- 21 彼らは、アナク人のように大きくて背が高い民で、数も多かった。しかし主がこれを滅ぼされたので、アンモン人がこれを追い払い、彼らに代わって住んだ。
- 22 それは、セイルに住んでいるエサウの子孫のために、主が彼らの前からフリ人を滅ぼされたのと同じである。彼らはフリ人を追い払い、彼らに代わって住み、今日に至っている。
- 23 また、ガザ近郊の村々に住んでいたアビム人については、カフトルから出て来たカフトル人が根絶やしにし、彼らに代わって住んだのであった―
- 24 立ち上がって出発せよ。アルノン川を渡れ。見よ、わたしはヘシュボンの王アモリ人シホンとその国を、あなたの手に渡す。占領し始めよ。彼と戦いを交えよ。
- 25 今日から、わたしは天下のあらゆる民に、あなたに対するおののきと恐れを抱かせる。彼らはあなたのうわさを聞いて震え、あなたの前でもだえる。」
- 26 そこで私は、ケデモテの荒野からヘシュボンの王シホンに使者たちを遣わし、次のような友好のことばを伝えた。
- 27 「あなたの土地を通らせてください。私は大路だけを通り、右にも左にもそれません。
- 28 食べ物は金で私に売ってください。それを食べます。水も金を取って私に与えてください。それを飲みます。徒歩で通らせてくださるだけでよいのです。
- 29 セイルに住んでいるエサウの子孫や、アルに住んでいるモアブ人が私にしたようにしてください。そうして、私がヨルダン川を渡り、私たちの神、主が私たちに与えようとしておられる地に行けるようにしてください。」
- 30 しかし、ヘシュボンの王シホンは、私たちをどうしても通らせようとはしなかった。それは今日見るとおり、彼をあなたの手に渡すために、あなたの神、主が彼の心を頑なにし、彼を強気にされたからである。
- 31 主は私に言われた。「見よ、わたしはシホンとその地とをあなたの手に渡し始めている。占領し始めよ。その地を所有せよ。」
- 32 シホンとそのすべての兵が、私たちを迎え撃つためヤハツに出て来たとき、
- 33 私たちの神、主は彼を私たちの手に渡された。私たちは彼とその子たちとそのすべての兵を討った。
- 34 そのとき、私たちは彼のすべての町を攻め取り、すべての町、男、女および子どもを聖絶し、一人の生存者も残さなかった。
- 35 私たちは、攻め取った町々での略奪物のほかは、家畜を分捕っただけであった。
- 36 アルノンの渓谷の縁にあるアロエル、およびその渓谷の中の町からギルアデに至るまで、私たちの力が及ばない町は一つもなかった。私たちの神、主がそれらをみな私たちの手に渡されたのである。
- 37 ただ、あなたはアンモン人の地、ヤボク川の全岸と山地の町々には、私たちの神、主が命じられたとおり近寄らなかった。

第3章

- 1 私たちはバシャンへの道を上って行った。するとバシャンの王オグとそのすべての兵は、エデレイで私たちを迎え撃つために出て来た。
- 2 そのとき、主は私に言われた。「彼を恐れてはならない。わたしは、彼とそのすべての兵とその地を、あなたの手に渡している。あなたは彼に対して、ヘシュボンに住んでいたアモリ人の王シホンにしたように行わなければならない。」
- 3 こうして私たちの神、主は、バシャンの王オグとそのすべての兵を私たちの手に渡されたので、私たちはこれを討ち、一人の生存者も残さなかった。
- 4 そのとき、私たちは彼のすべての町を攻め取った。私たちが取らなかった町は一つもなかった。取った町は六十、アルゴブの全地域であり、バシャンのオグの王国であった。
- 5 これらはみな、高い城壁と門とかんぬきのある要害の町であった。このほか、城壁のない村も非常に多かった。
- 6 私たちはヘシュボンの王シホンにしたように、これらを聖絶した。そのすべての町、男、女および子どもを聖絶した。
- 7 ただし、すべての家畜と、町々での略奪物は私たちのものとした。
- 8 このようにして、そのとき私たちは、二人のアモリ人の王の手からヨルダンの川向こうを、アルノン川からヘルモン山まで取った。
- 9 —シドン人はヘルモンをシルヨンと呼び、アモリ人はこれをセニルと呼んでいる—
- 10 すなわち、高原のすべての町、ギルアデの全土、バシャンの全土、サルカおよびエデレイに及ぶ、バシャンのオグの王国の町々である。
- 11 —バシャンの王オグはレファイムの唯一の生き残りであった。見よ。彼の寝台は鉄の寝台で、それはアンモン人のラバにあるではないか。その長さは規準のキュビトで九キュビト、その幅は四キュビトである—
- 12 この地を、そのとき私たちは占領した。アルノン川のほとりにあるアロエルの一部と、ギルアデの山地の半分と、その町々を私はルベン人とガド人に与えた。
- 13 ギルアデの残り、オグの王国であったバシャンの全土はマナセの半部族に与えた。それはアルゴブの全地域で、そのバシャンの全土はレファイムの地と呼ばれている。
- 14 マナセの子ヤイルは、ゲシュル人とマアカ人との国境までのアルゴブの全地域を取り、自分の名にちなんでバシャンをハボテ・ヤイルと名づけて、今日に至っている。
- 15 マキルには私はギルアデを与えた。
- 16 ルベン人とガド人にはギルアデからアルノン川までを、谷の真ん中を国境として、またアンモン人との国境としてヤボク川までを与えた。
- 17 またアラバも与えた。それはヨルダン川を境としてキネレテからアラバの海、すなわち、東の方はピスガの傾斜地のふもとにある塩の海までであった。
- 18 私はそのとき、あなたがたに命じて言った。「あなたがたの神、主は、あなたがたが所有するように、この地をあなたがたに与えられた。勇士たちはみな武装して、同族、イスラエルの子らの先頭に立って渡って行かなければならない。」

- 19 ただし、あなたがたの妻と子どもと家畜は、私が与えた町々にとどまってもよい。あなたがたには多くの家畜がいるのを、私はよく知っている。
- 20 主があなたがたの同族に、あなたがたと同じように安息を与え、彼らもまたヨルダン川の向こう側で、あなたがたの神、主が与えようとしておられる地を所有するようになったなら、そのとき、あなたがたは、それぞれ私が与えた自分の所有地に帰ることができる。」
- 21 私はそのとき、ヨシュアに命じた。「あなたは、あなたがたの神、主がこれら二人の王に対して行われたすべてのことを、自分の目を見た。主は、あなたがこれから渡って行くすべての国々にも同じようにされる。
- 22 彼らを恐れてはならない。あなたがたのために戦われるのは、あなたがたの神、主であるからだ。」
- 23 私はそのとき、主に懇願して言った。
- 24 「神、主よ。あなたは、あなたの偉大さとあなたの力強い御手を、このしもべに示し始められました。あなたのわざ、あなたの力あるわざのようなことができる神が、天あるいは地にいるでしょうか。
- 25 どうか私が渡って行って、ヨルダン川の向こう側にある良い地、あの良い山地、またレバノンを見られるようにしてください。」
- 26 しかし主はあなたがたのゆえに私に激しく怒り、私の願いを聞き入れてくださらなかった。主は私に言われた。「もう十分だ。このことについて二度とわたしに語ってはならない。
- 27 ピスガの頂に登り、目を上げて西、北、南、東を見よ。あなたのその目でよく見よ。あなたがこのヨルダン川を渡ることはないからだ。
- 28 ヨシュアに命じ、彼を力づけ、彼を励ませ。彼がこの民の先頭に立って渡って行き、あなたが見るあの地を彼らに受け継がせるからだ。」
- 29 こうして私たちは、ベテ・ペオルの前にある谷にとどまった。

第4章

- 1 今、イスラエルよ、私が教える掟と定めを聞き、それらを行いなさい。それはあなたがたが生き、あなたがたの父祖の神、主があなたがたに与えようとしておられる地に入り、それを所有するためである。
- 2 私があなたがたに命じることばにつけ加えてはならない。また減らしてはならない。私があなたがたに命じる、あなたがたの神、主の命令を守らなければならない。
- 3 あなたがたは、主がバアル・ペオルのことでなされたことを自分の目を見た。バアル・ペオルに従った者すべてを、あなたの神、主はあなたのうちから根絶やしにされたのである。
- 4 しかし、あなたがたの神、主にすがってきたあなたがたはみな、今日生きている。
- 5 見なさい。私は、私の神、主が私に命じられたとおりに掟と定めをあなたがたに教えた。あなたがたが入って行き、所有しようとしているその地の真ん中で、そのとおりに行うためである。
- 6 これを守り行いなさい。そうすれば、それは諸国の民にあなたがたの知恵と悟りを示すことになり、彼らはこれらすべての掟を聞いて、「この偉大な国民は確かに知恵と悟りのある民だ」と言うであろう。
- 7 まことに、私たちの神、主は私たちが呼び求めるとき、いつも近くにおられる。このような神を持つ偉大な国民がどこにあるだろうか。
- 8 また、今日私があなたがたの前に与えようとしている、このみおしえのすべてのように正しい掟と定めを持つ偉大な国民が、いったいどこにあるだろうか。
- 9 ただ、あなたはよく気をつけ、十分に用心し、あなたが自分の目を見たことを忘れず、一生の間それらがあなたの心から離れることのないようにしなさい。そしてそれらを、あなたの子どもや孫たちに知らせなさい。
- 10 あなたがホレブで、あなたの神、主の前に立った日に主は私に言われた。「民をわたしのもとに集めよ。わたしは彼らにわたしのことばを聞かせる。それによって、彼らが地上に生きている日の間わたしを恐れることを学び、また彼らがその子どもたちに教えることができるように。」
- 11 そこであなたがたは近づいて来て、山のふもとに立った。山は燃え上がって火が中天に達し、闇と雲と暗黒があった。
- 12 主は火の中からあなたがたに語られた。あなたがたは語りかける声を聞いたが、御姿は見なかった。御声だけであった。
- 13 主はご自分の契約をあなたがたに告げて、それを行うように命じられた。十のことばである。主はそれを二枚の石の板に書き記された。
- 14 主はそのとき、あなたがたに掟と定めを教えるように私に命じられた。あなたがたが、渡って行って所有しようとしている地で、それらを行うためであった。
- 15 あなたがたは自分自身に十分に気をつけなさい。主がホレブで火の中からあなたがたに語られた日に、あなたがたは何の姿も見なかったからである。

- 16 墮落して自分たちのために、どのような形の彫像も造らないようにしなさい。男の形も女の形も。
- 17 地上のどのような動物の形も、空を飛ぶ、翼のあるどのような鳥の形も。
- 18 地面を這うどのようなものの形も、地の下の水の中にいるどのような魚の形も。
- 19 また、天に目を上げて、太陽、月、星など天の万象を見るとき、惑わされてそれらを拝み、それらに仕えることのないようにしなさい。それらのものは、あなたの神、主が天下のあらゆる民に分け与えられたものである。
- 20 主はあなたがたを取って、鉄の炉から、すなわちエジプトから導き出し、今日のようにゆずりの民とされたのである。
- 21 しかし主は、あなたがたのゆえに私に向かって怒り、私がヨルダン川を渡ることも、またあなたの神、主があなたにゆずりの地として与える、良い地に入ることもないと誓われた。
- 22 まことに私はこの地で死のうとしている。私はヨルダン川を渡らない。しかし、あなたがたは渡って、あの良い地を所有しようとしている。
- 23 気をつけて、あなたがたの神、主があなたがたと結ばれた契約を忘れることのないように、またあなたの神、主の命令に背いて、いかなる形の彫像も造ることがないようにしなさい。
- 24 あなたの神、主は焼き尽くす火、ねたみの神である。
- 25 あなたが子や孫をもうけ、あなたがたがその地に長く住むうちに墮落して、何かの形に刻んだ像を造り、あなたの神、主の目に悪であることを行い、御怒りを引き起こすようなことがあれば、
- 26 私は今日、次のことで、あなたがたに対して天と地を証人に立てる。あなたがたは、ヨルダン川を渡って所有しようとしているその地から追われ、たちまち滅び失せる。そこで、あなたがたは長く生きるどころか、すっかり根絶やしにされる。
- 27 また、主はあなたがたを諸国の民の中に散らされ、あなたがたは主が追いやる国々の中で、ごくわずかな者として生き残ることになる。
- 28 あなたがたはそこで、見ることも聞くこともできず、食べることも嗅ぐこともできない、人の手のわざである木や石の神々に仕える。
- 29 しかしそこから、あなたがたがあなたの神、主を探し求め、心を尽くし、いのちを尽くして求めるとき、あなたは主にお会いする。
- 30 こうして終わりの日に、これらすべてのことがあなたに臨み、あなたが苦しみのあるときに、あなたは、あなたの神、主に立ち返り、御声に聞き従う。
- 31 あなたの神、主はあわれみ深い神であり、あなたを捨てず、あなたを滅ぼさず、あなたの父祖たちに誓った契約を忘れないからである。
- 32 さあ、あなたより前の過ぎ去った時代に尋ねてみるがよい。神が地上に人を創造された日からこのかた、天の果てから天の果てまで、これほど偉大なことが起こっただろうか。このようなことが聞かれたらだろうか。
- 33 火の中から語られる神の声を聞いて、あなたのようになお生きていた民があっただろうか。

- 34 あるいは、あなたがたの神、主がエジプトにおいて、あなたの目の前であなたがたのためになさったように、試みと、しるしと不思議と、戦いをもって、また力強い御手と伸ばされた御腕と、恐ろしい力をもって、一つの国民をほかの国民の中から取り、ご自分のものにされた神がかつてあっただろうか。
- 35 あなたにこのことが示されたのは、主だけが神であり、ほかに神はいないことを、あなたが知るためであった。
- 36 主はあなたを訓練するため、天から御声を聞かせ、地の上では大いなるご自分の火を見せられた。その火の中から、あなたはみことばを聞いた。
- 37 主はあなたの父祖たちを愛し、その後の子孫を選んでいたので、ご臨在の中、大いなる力をもってあなたをエジプトから導き出された。
- 38 それは、あなたよりも大きくて強い国々をあなたの前から追い払い、あなたを彼らの地に導き入れ、今日見るとおり、彼らの地をゆずりの地としてあなたに与えるためであった。
- 39 今日あなたは、上は天、下は地において主だけが神であり、ほかに神はいないことを知り、心にとどめなさい。
- 40 今日、私が命じる主の掟と命令を守りなさい。あなたも、あなたの後の子孫も幸せになり、あなたの神、主が永久に与えようとしておられるその土地で、あなたの日々が長く続くようにするためである。
- 41 それからモーセは、ヨルダンの川向こう、すなわち東の方に、三つの町を取り分けた。
- 42 前から憎んでいたわけではない隣人を意図せずに殺してしまった者が、そこに逃れるためであった。その者はこれらの町の一つに逃れて、生き延びることができる。
- 43 それは、ルベン人には台地の荒野のベツェル、ガド人にはギルアデのラモテ、マナセ人にはバシャンのゴランであった。
- 44 これは、モーセがイスラエルの子らに示したみおしえである。
- 45 これらはさとしと掟と定めであり、イスラエルの子らがエジプトを出たとき、モーセが彼らに告げたものである。
- 46 そこはヨルダンの川向こう、アモリ人の王シホンの地のベテ・ペオルの前にある谷であった。このシホンはヘシュボンに住んでいたが、モーセとイスラエルの子らがエジプトから出て来たときに、彼らは彼を討った。
- 47 そして、シホンの地と、バシャンの王オグの地を占領した。そこはヨルダンの川向こう、東の方にいた二人のアモリ人の王の地で、
- 48 アルノンの溪谷の縁にあるアロエルからシーオン山、すなわちヘルモンまで、
- 49 またヨルダンの川向こう、東側のアラバの全土、ピスガの傾斜地のふもとにあるアラバの海までであった。

第5章

- 1 モーセはイスラエルをみな呼び寄せて、彼らに言った。聞け、イスラエルよ。今日、私があなたがたの耳に語る掟と定めを。これを学び、守り行いなさい。
- 2 私たちの神、主はホレブで私たちと契約を結ばれた。
- 3 主はこの契約を私たちの先祖と結ばれたのではなく、今日ここに生きている私たち一人ひとりと結ばれたのである。
- 4 主はあの山で、火の中からあなたがたに顔と顔を合わせて語られた。
- 5 あのとて、私は主とあなたがたとの間に立ち、主のことばをあなたがたに告げた。あなたがたが火を恐れて、山に登らなかったからである。主は言われた。
- 6 「わたしは、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出したあなたの神、主である。
- 7 あなたには、わたし以外に、ほかの神があつてはならない。
- 8 あなたは自分のために偶像を造つてはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、いかなる形をも造つてはならない。
- 9 それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたみの神。わたしを憎む者には父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、
- 10 わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。
- 11 あなたは、あなたの神、主の名をみだりに口にしてはならない。主は、主の名をみだりに口にする者を罰せずにはおかない。
- 12 安息日を守つて、これを聖なるものとせよ。あなたの神、主が命じたとおりに。
- 13 六日間働いて、あなたのすべての仕事をせよ。
- 14 七日目は、あなたの神、主の安息である。あなたはいかなる仕事もしてはならない。あなたも、あなたの息子や娘も、それにあなたの男奴隷や女奴隷、牛、ろば、いかなる家畜も、また、あなたの町囲みの中にいる寄留者も。そうすれば、あなたの男奴隷や女奴隷が、あなたと同じように休むことができる。
- 15 あなたは自分がエジプトの地で奴隷であつたこと、そして、あなたの神、主が力強い御手と伸ばされた御腕をもって、あなたをそこから導き出したことを覚えていなければならない。それゆゑ、あなたの神、主は安息日を守るよう、あなたに命じたのである。
- 16 あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が命じたとおりに。それは、あなたの日々が長く続くようにするため、また、あなたの神、主があなたに与えようとしているその土地で幸せになるためである。
- 17 殺してはならない。
- 18 姦淫してはならない。
- 19 盗んではならない。
- 20 あなたの隣人について、偽りの証言をしてはならない。
- 21 あなたの隣人の妻を欲してはならない。あなたの隣人の家、畑、男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを欲しがってはならない。」

- 22 これらのことばを、主はあの山で火と雲と暗黒の中から、あなたがたの集会全体に大声で告げられた。ほかのことは言われなかった。そして主はそれを二枚の石の板に書いて、私に授けてくださった。
- 23 あなたがたが闇の中からその御声を聞き、またその山が火で燃えていたときに、あなたがた、すなわち、あなたがたの部族のすべてのかしらたちと長老たちが私のもとに近づき、
- 24 そして言った。「私たちの神、主は今、ご自分の栄光と偉大さを私たちに示されました。私たちは火の中から御声を聞きました。今日、私たちは、神が人に語られても人が生きているのを見ました。
- 25 今、なぜ私たちは死ななければならないのでしょうか。この大きい火は私たちを焼き尽くそうとしています。もしこの上なお私たちの神、主の御声を聞くなら、私たちは死んでしまいます。
- 26 いったい肉なる者で、私たちのように、火の中から語られる生ける神の声を聞いて、なお生きている者があったでしょうか。
- 27 あなたが近づいて行き、私たちの神、主が言われることをすべて聞き、私たちの神、主があなたにお告げになることをすべて私たちに告げてください。私たちは聞いて行きます。」
- 28 主は、あなたがたが私に話していたとき、あなたがたのことばを聞かれた。主は私に言われた。「わたしは、この民があなたに話していることばを聞いた。彼らの言ったことはみな、もっともである。
- 29 彼らの心がこのようであって、いつまでも、わたしを恐れ、わたしのすべての命令を守るようになってほしい。そうすれば、彼らもその子孫も永久に幸せになる。
- 30 さあ、彼らに『あなたがたは自分の天幕に帰りなさい』と言え。
- 31 しかし、あなたは、わたしとともにここにとどまれ。わたしは、あなたが彼らに教えるすべての命令、すなわち掟と定めをあなたに告げよう。彼らは、わたしが与えて所有させようとしているその地で、それを行うのだ。」
- 32 あなたがたは、あなたがたの神、主が命じられたとおりに守り行いなさい。右にも左にもそれてはならない。
- 33 あなたがたの神、主が命じられた道をあくまで歩み続けなければならない。あなたがたが生き、幸せになり、あなたがたが所有するその地で、あなたの日々が長く続くようにするためである。

第6章

- 1 これは、あなたがたの神、主があなたがたに教えよと命じられた命令、すなわち掟と定めである。あなたがたが渡って行って所有しようとしている地で、それらを行うようにするためである。
- 2 それは、あなたの一生の間、あなたも、そしてあなたの子も孫も、あなたの神、主を恐れて、私が命じるすべての主の掟と命令を守るため、またあなたの日々が長く続くためである。
- 3 イスラエルよ、聞いて守り行いなさい。そうすれば、あなたは幸せになり、あなたの父祖の神、主があなたに告げられたように、あなたは乳と蜜の流れる地で大いに増えるであろう。
- 4 聞け、イスラエルよ。主は私たちの神。主は唯一である。
- 5 あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。
- 6 私が今日あなたに命じるこれらのことばを心にとどめなさい。
- 7 これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家で座しているときも道を歩くときも、寝るときも起きるときも、これを彼らに語りなさい。
- 8 これをしるしとして自分の手に結び付け、記章として額の上に置きなさい。
- 9 これをあなたの家の戸口の柱と門に書き記しなさい。
- 10 あなたの神、主は、あなたの父祖、アブラハム、イサク、ヤコブに誓われた地にあなたを導き入れ、あなたが建てたのではない、大きくてすばらしい町々、
- 11 あなたが満たしたのではない、あらゆる良い物で満ちた家々、あなたが掘ったのではない掘り井戸、あなたが植えたのではない、ぶどう畑とオリーブ畑、これらをあなたに与えてくださる。それであなたは、食べて満ち足りるとき、
- 12 気をつけて、エジプトの地、奴隷の家からあなたを導き出された主を忘れないようにしなさい。
- 13 あなたの神、主を恐れ、主に仕えなさい。また御名によって誓いなさい。
- 14 ほかの神々に、すなわち、あなたがたの周りにいる諸国の民の神々に従って行ってはならない。
- 15 あなたのうちにおられるあなたの神、主はねたみの神であるから、あなたの神、主の怒りがあなたに向かって燃え上がり、主があなたを大地の面から根絶やしにされることのないようにしなさい。
- 16 あなたがたがマサで行ったように、あなたがたの神である主を試みてはならない。
- 17 あなたがたの神である主の命令、主が命じられたさとしと掟を必ず守らなければならない。
- 18 主の目にかなう良いことをしなさい。そうすれば、あなたは幸せになり、主があなたの父祖たちに誓われた、あの良い地を所有することができる。
- 19 主が告げられたように、敵をことごとくあなたの前から追い払うことができる。

- 20** 後になって、あなたの息子があなたに尋ねて、「私たちの神である主が命じられた、このさとしと掟と定めはどういうことですか」と言うなら、
- 21** あなたは自分の息子にこう言いなさい。「私たちはエジプトでファラオの奴隷であったが、主が力強い御手をもって私たちをエジプトから導き出された。
- 22** 主は私たちの目の前で、エジプトに対し、ファラオとその全家族に対して、大きくて害をもたらすしるしと不思議を行い、
- 23** 私たちをそこから導き出された。それは、私たちの父祖たちに誓われた地に私たちを導き入れ、その地を私たちに与えるためであった。
- 24** それで主は、私たちがこのすべての掟を行い、自分たちの神である主を恐れるように命じられたのである。今日のように、いつまでも私たちが幸せになり、私たちが生かされるためである。
- 25** 私たちの神、主が命じられたように御前でこのすべての命令を守り行うとき、それは私たちの義となるのである。」

第7章

- 1 あなたが入って行って所有しようとしている地に、あなたの神、主があなたを導き入れるとき、主は、あなたよりも数多くまた強い七つの異邦の民、すなわち、ヒッタイト人、ギルガシ人、アモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、およびエブス人をあなたの前から追い払われる。
- 2 あなたの神、主が彼らをあなたに渡し、あなたがこれを討つとき、あなたは彼らを必ず聖絶しなければならない。彼らと何の契約も結んではならない。また、彼らにあわれみを示してはならない。
- 3 また、彼らと姻戚関係に入ってはならない。あなたの娘をその息子に嫁がせたり、その娘をあなたの息子の妻としたりしてはならない。
- 4 というのは、彼らはあなたの息子を私から引き離し、ほかの神々に仕えさせ、こうして主の怒りがあなたがたに向かって燃え上がって、あなたをただちに根絶やしにするからである。
- 5 むしろ彼らに対して、このようにしなければならない。彼らの祭壇を打ち壊し、石の柱を打ち砕き、彼らのアシェラ像を切り倒し、彼らの彫像を火で焼かなければならない。
- 6 あなたは、あなたの神、主の聖なる民だからである。あなたの神、主は地の面のあらゆる民の中からあなたを選んで、ご自分の宝の民とされた。
- 7 主があなたがたを慕い、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの民よりも数が多かったからではない。事実あなたがたは、あらゆる民のうちで最も数が少なかった。
- 8 しかし、主があなたがたを愛されたから、またあなたがたの父祖たちに誓った誓いを守られたから、主は力強い御手をもってあなたがたを導き出し、奴隷の家から、エジプトの王ファラオの手からあなたを贖い出されたのである。
- 9 あなたは、あなたの神、主だけが神であることをよく知らなければならない。主は信頼すべき神であり、ご自分を愛し、ご自分の命令を守る者には恵みの契約を千代までも守られる。
- 10 しかし、ご自分を憎む者には一人ひとりに報いて彼らを滅ぼされる。主はためらわず、ご自分を憎む者一人ひとりに報いられる。
- 11 あなたは、私が今日あなたに命じる命令、すなわち掟と定めを守り行わなければならない。
- 12 もしあなたがたがこれらの定めを聞き、これを守り行うなら、あなたの神、主は、あなたの父祖たちに誓われた恵みの契約をあなたのために守り、
- 13 あなたを愛し、あなたを祝福し、あなたを増やす。主があなたに与えるとあなたの父祖たちに誓われた地で、あなたの胎の実も、穀物、新しいぶどう酒、油などの大地の実りも、またあなたの群れの中の子牛、群れの中の子羊も祝福される。
- 14 あなたはあらゆる民の中で最も祝福される。あなたのうちには、子のいない男、子のいない女はいなくなる。あなたの家畜も同様である。

- 15 主はあらゆる病気をあなたから取り除き、あなたが経験したあのエジプトの悪疫を、一つもあなたにはもたらさず、あなたを憎むすべての者にこれを下される。
- 16 あなたは、あなたの神、主があなたに与えるあらゆる民を滅ぼし尽くす。彼らにあわれみをかけてはならない。また彼らの神々に仕えてはならない。それがあなたへの罫となるからだ。
- 17 あなたが、「これらの異邦の民は私よりも多い。どうして彼らを追い払うことができるだろうか」と考えるときにも、
- 18 彼らを恐れてはならない。あなたの神、主がファラオに、また全エジプトになされたことをよく覚えていなければならない。
- 19 あなたが自分の目を見たあの大きな試みと、しるしと不思議と、力強い御手と伸ばされた御腕をもって、あなたの神、主はあなたを導き出された。あなたの神、主は、あなたが恐れているあらゆる民に対しても同じようにされる。
- 20 また、あなたの神、主はスズメバチを彼らのうちに送り、生き残っている者たちや隠れている者たちを、あなたの前から滅ぼされる。
- 21 彼らの前でおびえてはならない。あなたのうちにおられるあなたの神、主は、大いなる恐るべき神だからである。
- 22 あなたの神、主はこれらの異邦の民を徐々にあなたの前から追い払われる。あなたは彼らをすぐに絶ち滅ぼすことはできない。野の獣が増えて、あなたを襲うことのないようにするためである。
- 23 あなたの神、主が彼らをあなたに渡し、彼らを大いにかき乱し、ついに彼らは根絶やしにされる。
- 24 また、彼らの王たちをあなたの手に渡される。あなたは彼らの名を天の下から消し去る。だれ一人としてあなたの前に立ちはだかる者はなく、ついに、あなたは彼らを根絶やしにする。
- 25 あなたがたは彼らの神々の彫像を火で焼かなければならない。それにかぶせた銀や金を欲しがってはならない。また自分のものとしてはならない。あなたが罫に陥らないようにするためである。それは、あなたの神、主が忌み嫌われるものである。
- 26 忌み嫌うべきものをあなたの家に持ち込んで、あなたもそれと同じように聖絶されたものとなってはならない。それをあくまで忌むべきものとし、あくまで忌み嫌わなければならない。それは聖絶の物だからである。

第8章

- 1 私が今日あなたに命じるすべての命令を、あなたがたは守り行わなければならない。そうすれば、あなたがたは生きて数を増やし、主があなたがたの父祖たちに誓われた地に入っ
て、それを所有することができる。
- 2 あなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなたを歩ませられたすべての道を覚えてい
なければならない。それは、あなたを苦しめて、あなたを試し、あなたがその命令を守るか
どうか、あなたの心のうちにあるものを知るためであった。
- 3 それで主はあなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの父祖たちも知らな
かったマナを食べさせてくださった。それは、人はパンだけで生きるのではなく、人は主の
御口から出るすべてのことばで生きるということを、あなたに分からせるためであった。
- 4 この四十年の間、あなたの衣服はすり切れず、あなたの足は腫れなかった。
- 5 あなたは、人がその子を訓練するように、あなたの神、主があなたを訓練されることを知
らなければならない。
- 6 あなたの神、主の命令を守って主の道に歩み、主を恐れなさい。
- 7 あなたの神、主があなたを良い地に導き入れようとしておられるからである。そこは、谷
間と山に湧き出る水の流れや、泉と深い淵のある地、
- 8 小麦、大麦、ぶどう、いちじく、ざくろのある地、オリーブ油と蜜のある地である。
- 9 そこは、あなたが不自由なくパンを食べ、何一つ足りないものがない地であり、その石
は鉄で、その山々からは銅を掘り出すことのできる地である。
- 10 あなたが食べて満ち足りたとき、主がお与えくださった良い地について、あなたの神、主
をほめたたえなければならない。
- 11 気をつけなさい。私が今日あなたに命じる、主の命令と主の定めと主の掟を守らず、あな
たの神、主を忘れることがないように。
- 12 あなたが食べて満ち足り、立派な家を建てて住み、
- 13 あなたの牛や羊の群れが増え、銀や金が増し、あなたの所有物がみな豊かになって、
- 14 あなたの心が高ぶり、あなたの神、主を忘れることがないように。主はあなたをエジプト
の地、奴隷の家から導き出し、
- 15 燃える蛇やサソリのいるあの大きな恐ろしい荒野、水のない乾ききった地を通らせ、硬い
岩からあなたのために水を流れ出させ、
- 16 あなたの父祖たちが知らなかったマナを、荒野であなたに食べさせてくださった。それ
は、あなたを苦しめ、あなたを試し、ついにはあなたを幸せにするためだったのである。
- 17 あなたは心のうちで、「私の力、私の手の力がこの富を築き上げたのだ」と言わないよう
に気をつけなさい。
- 18 あなたの神、主を心に据えなさい。主があなたに富を築き上げる力を与えるのは、あなた
の父祖たちに誓った契約を今日のように果たされるためである。
- 19 もしもあなたが、あなたの神、主を忘れ、ほかの神々に従って行き、それらに仕え、それ
らを拝むようなことがあれば、今日、私はあなたがたにこう警告する。あなたがたは必ず

滅びる。

- 20** 主があなたがたの前から滅ぼされる国々のように、あなたがたも滅びる。あなたがたが自分たちの神、主の御声に聞き従わないからである。

第9章

- 1 聞け、イスラエルよ。あなたは今日、ヨルダン川を渡って、あなたよりも大きくて強い国々を占領しようとしている。その町々は大きく、城壁は天に高くそびえている。
- 2 あなたがよく知っているアナク人は、大きくて背が高い民である。あなたは「だれがアナク人に立ち向かえるだろうか」と言われるのを聞いたことがある。
- 3 今日、知りなさい。あなたの神、主ご自身が、焼き尽くす火としてあなたの前を進み、彼らを根絶やしにされる。主があなたの前で彼らを征服される。あなたは主が約束されたように、彼らをただちに追い払って滅ぼすのだ。
- 4 あなたの神、主があなたの前から彼らを追い出されたとき、あなたは心の中で、「私が正しいから、主が私をこの地に導き入れ、所有させてくださったのだ」と言ってはならない。これらの国々の邪悪さのゆえに、主はあなたの前から彼らを追い出そうとしておられるのだ。
- 5 あなたが彼らの地を所有することができるのは、あなたが正しいからではなく、またあなたの心が真っ直ぐだからでもない。これらの国々の邪悪さのゆえに、あなたの神、主があなたの前から彼らを追い出そうとしておられるのだ。また主があなたの父祖、アブラハム、イサク、ヤコブになさった誓いを果たすためである。
- 6 知りなさい。あなたの神、主は、あなたの正しさゆえに、この良い地をあなたに与えて所有させてくださるのではない。事実、あなたはうなじを固くする民なのだ。
- 7 あなたは荒野であなたの神、主をどれほど怒らせたかを忘れずに覚えていなさい。エジプトの地を出た日からこの場所に来るまで、あなたがたは主に逆らい続けてきた。
- 8 あなたがたはホレブで主を怒らせた。それで主はあなたがたに怒りを燃やし、あなたがたを根絶やしにしようとしたのである。
- 9 私が石の板、すなわち、主があなたがたと結んだ契約の板を受け取るために山に登ったとき、私は四十日四十夜、山にとどまり、パンも食べず水も飲まなかった。
- 10 主は、神の指で書き記された石の板二枚を私に授けてくださった。その上には、あの集まりの日に、主が山で火の中からあなたがたに告げられたことばが、すべてそのまま書かれていた。
- 11 こうして四十日四十夜の終わりに、主はその二枚の石の板、すなわち契約の板を私に授けてくださった。
- 12 そして主は私に言われた。「さあ、急いでここから下れ。あなたがエジプトから導き出したあなたの民は墮落してしまった。彼らはわたしが命じた道から早くも外れて、自分たちのために鋳物の像を造った。」
- 13 さらに主は私にこう言われた。「わたしはこの民を見てきたが、実にうなじを固くする民である。
- 14 わたしのするがままにさせよ。わたしは彼らを根絶やしにし、彼らの名を天の下から消し去る。しかし、わたしはあなたを、彼らよりも強くまた数の多い国民にする。」

- 15 私は向きを変えて山から下りた。山は火で燃えていた。二枚の契約の板は私の両手にあった。
- 16 私が見ると、見よ、あなたがたは自分たちの神、主の前に罪ある者となって、自分たちのために鑄物の子牛を造り、主があなたがたに命じられた道から早くも外れてしまっていた。
- 17 それで私はその二枚の板をつかみ、両手でそれを投げつけ、あなたがたの目の前でそれを打ち砕いた。
- 18 それから私は、前のように四十日四十夜、主の前にひれ伏して、パンも食べず水も飲まなかった。あなたがたが罪ある者となって、主の目に悪であることを行い、御怒りを引き起こした、そのすべての罪のゆえであった。
- 19 こうしたのは、主が激しく怒ってあなたがたを根絶やしにしようとされたその怒りと憤りが、私には怖かったからであった。しかし、そのときも主は私の願いを聞き入れてくださった。
- 20 主はアロンに向かって激しく怒り、彼を滅ぼそうとされたが、そのとき私はアロンのためにもとりなしをした。
- 21 私はあなたがたの罪、あなたがたが造ったその子牛を取って火で焼き、打ち砕き、ちりになるまでよくすりつぶした。そして私はそのちりを、山から流れ下る川に投げ捨てた。
- 22 また、あなたがたは、タブエラでもマサでもキプロテ・ハ・タアワでも主を怒らせた。
- 23 主は、あなたがたをカデシュ・バルネアから遣わしたとき、「上って行って、わたしがあなたがたに与えている地を占領せよ」と言われたが、あなたがたは自分たちの神、主の命令に逆らい、主を信頼せず、その御声に聞き従わなかった。
- 24 私があなたがたを知った日から、あなたがたは主に逆らい続けてきた。
- 25 それで私は、その四十日四十夜、主の前にひれ伏していた。それは、主があなたがたを根絶やしにすると言われたからである。
- 26 私は主に祈って言った。「神、主よ、あなたのゆずりの民を滅ぼさないでください。彼らは、あなたが偉大な力をもって贖い出し、力強い御手をもってエジプトから導き出された民です。
- 27 あなたのしもべ、アブラハム、イサク、ヤコブを思い起こしてください。そして、この民の頑なさや悪と罪に御顔を向けないでください。
- 28 そうでないと、あなたがそこから私たちを導き出されたあの国では、こう言うでしょう。『主は、約束した地に彼らを導き入れることができなかったのも、また彼らを憎んだのも、彼らを荒野で死なせようとして連れ出したのだ。』
- 29 しかし彼らは、あなたのゆずりの民です。あなたが、その大いなる力と伸ばされた御腕をもって導き出された民です。」

第10章

- 1 そのとき、主は私に言われた。「前のような石の板を二枚切って作り、山に登り、わたしのもとに來い。また木の箱を一つ作れ。
- 2 その板の上に、わたしは、あなたが砕いたあの最初の板にあったことばを書き記す。あなたはそれを箱の中に納めよ。」
- 3 そこで私はアカシヤ材の箱を一つ作り、前のような石の板を二枚切り取り、その二枚の板を手にして山に登って行った。
- 4 主はそれらの板に、あの集まりの日に、山で火の中からあなたがたに告げた十のことばを、前と同じ文で書き記された。主はそれを私に与えられた。
- 5 私は向き直って山を下り、それらの板を、私が作った箱の中に納めた。主が私に命じられたとおり、それらはそこにある。
- 6 —イスラエルの子らは、ベエロテ・ベネ・ヤアカンからモセラに旅立った。アロンはそこで死に、そこに葬られた。それで彼の子エルアザルが彼に代わって祭司の職に任じられた。
- 7 そこから彼らは旅立ってグデゴダに行き、またグデゴダから、川の流れる地ヨテバタに進んだ。
- 8 そのとき、主はレビ部族を選び分けて、主の契約の箱を運び、主の前に立って仕え、また御名によって祝福するようにされた。今日までそうである。
- 9 それゆえ、レビには兄弟たちと同じようには相続地が割り当てられなかった。あなたの神、主が彼について言われたように、主が彼へのゆずりなのである—
- 10 私は初めのときのように、四十日四十夜、山にとどまった。主はこのときもまた、私の願いを聞き入れ、主はあなたを滅ぼすことを思いとどまられた。
- 11 そして主は私に、「民の先頭に立って進め。そうすれば彼らは、わたしが彼らに与えると父祖たちに誓った地に入り、その地を占領することができる」と言われた。
- 12 イスラエルよ。今、あなたの神、主が、あなたに求めておられることは何か。それは、ただあなたの神、主を恐れ、主のすべての道に歩み、主を愛し、心を尽くし、いのちを尽くしてあなたの神、主に仕え、
- 13 あなたの幸せのために私が今日あなたに命じる、主の命令と掟を守ることである。
- 14 見よ。天と、もろもろの天の天、地とそこにあるすべてのものは、あなたの神、主のものである。
- 15 主はただあなたの父祖たちを慕って、彼らを愛された。そのため彼らの後の子孫であるあなたがたを、あらゆる民の中から選ばれた。今日のとおりである。
- 16 あなたがたは心の包皮に割礼を施しなさい。もう、うなじを固くする者であってはならない。
- 17 あなたがたの神、主は神の神、主の主、偉大で力があり、恐ろしい神。えこひいきをせず、賄賂を取らず、

- 18** みなしごや、やもめのためにさばきを行い、寄留者を愛して、これに食物と衣服を与えられる。
- 19** あなたがたは寄留者を愛しなさい。あなたがたもエジプトの地で寄留の民だったからである。
- 20** あなたの神、主を恐れ、主に仕えなさい。主にすがり、御名によって誓いなさい。
- 21** この方こそあなたの賛美、この方こそあなたの神であって、あなたが自分の目を見たこれらの大いなる恐るべきことを、あなたのために行われた方である。
- 22** あなたの父祖たちは七十人でエジプトへ下ったが、今や、あなたの神、主はあなたを空の星のように多くされた。

第11章

- 1 あなたはあなたの神、主を愛し、主への務めを果たし、主の掟と定めと命令をいつも守りなさい。
- 2 今日、心得なさい。あなたがたの子どもたちが、あなたがたの神、主の訓練を、その偉大さを、その力強い御手と伸ばされた御腕、そのしるしとみわざを経験し目撃したわけではないことを。
- 3 主がエジプトで、エジプトの王ファラオとその全土に対してなされたこと、
- 4 またエジプトの軍勢とその馬と戦車に対してなされたこと、すなわち、彼らがあなたがたの後を追って来たとき、葦の海の水を彼らの上にあふれさせ、主がこれを滅ぼして、今日に至っていること、
- 5 またあなたがたがこの場所に来るまでに、荒野であなたがたに対してなされたこと、
- 6 またルベンの子エリアブの子である、ダタンとアビラムに対してなされたこと、すなわち、イスラエル全体のただ中で地がその口を開け、彼らとその家族、その天幕、また彼らにつく生けるものすべてを呑み込んだことなど、
- 7 これら主がなされた偉大なみわざのすべてを自分の目で見たのは、あなたがたである。
- 8 あなたがたは、私が今日あなたに命じるすべての命令を守りなさい。それは、あなたがたが強くなり、あなたがたが渡って行って所有しようとしている地を所有するため、
- 9 また、主があなたがたの父祖たちに誓って、彼らとその子孫に与えると言われたその土地、すなわち、乳と蜜の流れる地で、あなたの日々が長く続くようにするためである。
- 10 なぜなら、あなたがたが入って行って所有しようとしている地は、あなたがたが出て来たエジプトの地のようではないからである。エジプトであなたは、野菜畑でするように、自分で種を蒔き、自分の力で水をやっていた。
- 11 しかし、あなたがたが渡って行って所有しようとしている地は、山と谷の地であり、天からの雨で潤っている。
- 12 そこは、あなたの神、主が求められる地で、年の初めから年の終わりまで、あなたの神、主が絶えずその上に目をとどめておられる地である。
- 13 もしわたしが今日あなたがたに命じる命令、すなわち、あなたがたの神、主を愛し、心を尽くし、いのちを尽くして仕えよという命令に、あなたがたが確かに聞き従うなら、
- 14 わたしは時にかなって、あなたがたの地に雨、初めの雨と後の雨をもたらす。あなたは穀物と新しいぶどう酒と油を集めることができる。
- 15 また、わたしはあなたの家畜のため野に草を与える。あなたは食べて満ち足りる。
- 16 気をつけなさい。あなたがたの心が惑わされ横道に外れて、ほかの神々に仕え、それを拝むことのないように。
- 17 そうでないと、主の怒りがあなたがたに向かって燃え上がり、主が天を閉ざし、雨は降らず、地はその産物を出さなくなる。こうしてあなたがたは、主が与えようとしているその良い地から、たちまち滅び去ることになる。

- 18 あなたがたは、わたしのこのことばを心とたましいに刻み、それをしるしとして手に結び付け、記章として額の上に置きなさい。
- 19 それをあなたがたの子どもたちに教えなさい。あなたが家に座しているときも道を歩くときも、寝るときも起きるときも、これを彼らに語りなさい。
- 20 これをあなたの家の戸口の柱と門に書き記しなさい。
- 21 それは、主があなたがたの父祖たちに与えると誓った地で、あなたがたの日数とあなたがたの子孫の日数が、天が地の上にある日数のように多くなるためである。
- 22 もしあなたがたが、私の命じるこのすべての命令を確かに守り行い、あなたがたの神、主を愛して主のすべての道に歩み、主にすがらなら、
- 23 主はこれらの国々をことごとくあなたがたの前から追い払い、あなたがたは、自分たちよりも大きくて強い国々を占領することができる。
- 24 あなたがたが足の裏で踏む場所は、ことごとくあなたがたのものとなる。荒野からレバノンまで、あの川、ユーフラテス川から西の海に至るまでがあなたがたの領土となる。
- 25 だれ一人として、あなたがたの前に立ちはだかる者はいない。あなたがたの神、主は、あなたがたに約束されたとおり、あなたがたが足を踏み入れる地の全面に、あなたがたに対するおののきと恐れを生じさせる。
- 26 見よ、私は今日、あなたがたの前に祝福とのろいを置く。
- 27 祝福とは、私が今日あなたがたに命じる、あなたがたの神、主の命令に聞き従った場合であり、
- 28 のろいとは、あなたがたの神、主の命令に聞き従わず、私が今日あなたがたに命じる道から外れて、あなたがたの知らなかったほかの神々に従って行った場合である。
- 29 あなたが入って行って所有しようとしている地に、あなたの神、主があなたを導き入れたら、あなたはゲリジム山の上には祝福を、エバル山の上にはのろいを置かなければならない。
- 30 それらの山はヨルダン川の向こう側、日の入る方の、アラバに住むカナン人の地にあり、ギルガルの向かい、モレの櫟の木の付近にあるではないか。
- 31 あなたがたはヨルダン川を渡り、あなたがたの神、主があなたがたに与えようとしておられる地に入って行って、それを所有しようとしている。あなたがたがそこを所有し、そこに住むとき、
- 32 私が今日あなたがたの前に与える、すべての掟と定めを守り行わなければならない。

第12章

- 1 これは、あなたの父祖の神、主があなたに与えて所有させてくださった地で、あなたがたがその土地に生きるすべての日々に、守り行わなければならない掟と定めである。
- 2 あなたがたが追い払おうとする異邦の民がその神々に仕えた場所は、高い山の上でも、丘の上でも、また青々と茂るどの木の下でも、それをことごとく破壊しなければならない。
- 3 彼らの祭壇を打ち壊し、石の柱を打ち砕き、アシェラ像を火で焼き、神々の彫像を切り倒して、それらの名をその場所から消し去りなさい。
- 4 あなたがたの神、主に対しては、そのように礼拝してはならない。
- 5 ただ、あなたがたの神、主がご自分の住まいとして御名を置くために、あなたがたの全部族のうちから選ばれる場所を尋ねて、そこへ行かなければならない。
- 6 あなたがたは全焼のささげ物、いけにえ、十分の一、あなたがたが供える奉納物、誓願のささげ物、進んで献げるもの、あなたがたの牛や羊の初子をそこに携えて行きなさい。
- 7 そこであなたがたは家族の者とともに、あなたがたの神、主の前で食事をし、あなたの神、主が祝福してくださった、あなたがたのすべての手のわざを喜び楽しみなさい。
- 8 あなたがたは、私たちが今日ここでしているようにしてはならない。それぞれが自分の目にかなうことをしている。
- 9 あなたがたがまだ、あなたの神、主があなたに与えようとしておられる安住の地、ゆずりの地に入っていないからである。
- 10 あなたがたがヨルダン川を渡り、あなたがたの神、主があなたがたに受け継がせようとしておられる地に住み、主が周囲のすべての敵からあなたがたを守って安息を与え、あなたがたが安らかに住むようになったら、
- 11 あなたがたの神、主が御名を住まわせるために選ばれる場所へ、私が命じるすべての物を携えて行かなければならない。あなたがたの全焼のささげ物といけにえ、十分の一と、あなたがたが供える奉納物、それに主に誓う最良の誓願のささげ物である。
- 12 あなたがたは息子、娘、男奴隷、女奴隷とともに、あなたがたの神、主の前で喜び楽しみなさい。また、あなたがたの町囲みの中にいるレビ人とも、そうしなさい。レビ人には、あなたがたと同じようには相続地が割り当てられないからである。
- 13 全焼のささげ物を、自分勝手な場所で献げないように気をつけなさい。
- 14 ただ主があなたの部族の一つのうちに選ばれる場所で、あなたは全焼のささげ物を献げ、そこで、私があなたに命じるすべてのことを行いなさい。
- 15 しかし、あなたの神、主があなたに下さった祝福にしたがって、あなたのどの町囲みの中でも、いつでも自分の欲するとき動物を屠り、その肉を食べることができる。汚れた人もきよい人も、もしかや鹿と同じようにそれを食べることができる。
- 16 ただし血は食べてはならない。それを地面に水のように注ぎ出さなければならない。
- 17 あなたは穀物や新しいぶどう酒、オリーブ油の十分の一のささげ物、牛や羊の初子、またあなたが誓うすべての誓願のささげ物、進んで献げるもの、あなたの供える奉納物のすべてを、あなたの町囲みの中で食べることはできない。

- 18 ただ、あなたの神、主が選ばれる場所で、あなたの息子、娘、男奴隷、女奴隷、およびあなたの町囲みの中にいるレビ人とともに、あなたの神、主の前でそれらを食べなければならない。あなたの神、主の前で、あなたのすべての手のわざを喜び楽しみなさい。
- 19 あなたは一生、あなたの土地でレビ人をないがしろにしないように気をつけなさい。
- 20 あなたの神、主が、あなたに告げたとおりにああなたの領土を広くしてくださって、あなたが肉を食べたくなるときには、「肉が食べたい」と言ってよい。あなたは食べたいだけ肉を食べてもよい。
- 21 もしあなたの神、主が御名を置くために選ばれる場所が遠く離れているなら、私があなたに命じたように、あなたは主が与えられた牛と羊を屠り、あなたの町囲みの中で食べたいだけ食べてもよい。
- 22 もしかや鹿を食べるように、それを食べてもよい。汚れた人ときよい人が一緒にそれを食べてもよい。
- 23 ただ、血は決して食べてはならない。血はいのちだからである。いのちを肉と一緒に食べてはならない。
- 24 血を食べてはならない。それを地面に水のように注ぎ出さなければならない。
- 25 血を食べてはならない。あなたも、あなたの後の子孫も幸せになるためである。あなたは主の目にかなうことを行わなければならない。
- 26 ただし、あなたが献げるべき聖なるものと、誓願のささげ物は、主が選ばれる場所へ携えて行かなければならない。
- 27 あなたの全焼のささげ物はその肉と血を、あなたの神、主の祭壇の上に献げなさい。あなたのいけにえの血は、あなたの神、主の祭壇の上に注ぎ出さなければならない。その肉は食べてもよい。
- 28 気をつけて、私が命じるこれらのすべてのことばに聞き従いなさい。それはあなたが、あなたの神、主の目にかなう良いことを行って、あなたも後の子孫も永久に幸せになるためである。
- 29 あなたが入って行って所有しようとしている国々をあなたの神、主があなたの前から絶ち滅ぼし、あなたがそれらを所有して、その地に住むようになったら、
- 30 よく気をつけて、彼らがあなたの前から根絶やしにされた後に、彼らに倣って罅に陥らないようにしなさい。「これらの異邦の民はどのように神々に仕えたのだろう。私もそうしてみよう」と言って、彼らの神々を求めることのないようにしなさい。
- 31 あなたの神、主に対して彼らのように礼拝してはならない。彼らは主が憎むあらゆる忌み嫌うべきことをその神々に行い、自分たちの息子、娘を自分たちの神々のために火で焼くことさえしたのである。
- 32 あなたがたは、私があなたがたに命じるすべてのことを守り行わなければならない。これにつけ加えたり減らしたりしてはならない。

第13章

- 1 あなたがたのうちに預言者または夢見る者が現れ、あなたに何かのしるしや不思議を示し、
- 2 あなたに告げたそのしるしと不思議が実現して、「さあ、あなたが知らなかったほかの神々に従い、これに仕えよう」と言っても、
- 3 その預言者、夢見る者のことばに聞き従ってはならない。あなたがたの神、主は、あなたがたが心を尽くし、いのちを尽くして、本当にあなたがたの神、主を愛しているかどうかを知ろうとして、あなたがたを試みておられるからである。
- 4 あなたがたの神、主に従って歩み、主を恐れなければならない。主の命令を守り、御声に聞き従い、主に仕え、主にすがらなければならない。
- 5 その預言者あるいは夢見る者は殺されなければならない。なぜならその人は、あなたがたをエジプトの地から導き出して奴隷の家から贖い出された、あなたがたの神、主に対して、あなたがたが反逆するようにそそのかし、あなたがたの神、主が歩めと命じた道から、あなたを迷わせようとするからである。あなたがたの中からその悪い者を除き去りなさい。
- 6 あなたと母を同じくする兄弟、あるいはあなたの息子、娘、あるいはあなたの愛妻、あるいはあなたの無二の親友がひそかにあなたをそそのかして、「さあ、ほかの神々に仕えよう」と言うかもしれない。これはあなたも先祖たちも知らなかった神々で、
- 7 地の果てから果てまで、あなたの近くにいる、あるいはあなたから遠く離れている、あなたがたの周りのあらゆる民の神々である。
- 8 あなたはそういう者に同意しようとしたり、耳を貸したりしてはならない。そのような者にあわれみをかけたり、容赦したり、かばったりしてはならない。
- 9 必ずその人を殺さなければならない。彼を処刑するには、まず、あなたが彼に手を下し、その後で、民全員が手を下すようにしなさい。
- 10 彼を石で打ちなさい。彼は死ななければならない。彼は、エジプトの地、奴隷の家からあなたを導き出されたあなたの神、主から、あなたを迷わせようとしたからである。
- 11 イスラエルはみな聞いて恐れ、二度とこのような悪をあなたがたのうちで行わないであらう。
- 12 もしあなたの神、主があなたに与えて住まわせる町の一つで、
- 13 よこしまな者たちがあなたのうちから出て、「さあ、あなたがたが知らなかったほかの神々に仕えよう」と言って町の住民を迷わせたと言ったなら、
- 14 あなたは調べ、探り、よく問いたださなければならない。もしそのような忌み嫌うべきことが、あなたがたのうちで行われたことが事実で確かなら、
- 15 あなたはその町の住民を必ず剣の刃で討たなければならない。その町とそこにいるすべての者、その家畜も剣の刃で聖絶しなさい。
- 16 そのすべての略奪物を広場の中央に集め、その町と略奪物のすべてを、あなたの神、主への焼き尽くすさげ物として火で燃やさなければならない。その町は永久に廃墟となり、

再建されることはない。

- 17 その聖絶の物は、一部でも、あなたの手の中にとどまることがあってはならない。それは主が燃える怒りを収めて、あなたにあわれみを施し、あなたの父祖たちに誓ったとおりに、あなたをあわれんで、あなたを増やすためである。
- 18 というのは、あなたは必ずあなたの神、主の御声に聞き従って、私が今日あなたに命じるすべての主の命令を守り、あなたの神、主の目にかなうことを行わなければならないからである。

第14章

- 1 あなたがたは、あなたがたの神、主の子どもである。死人のために自分の身を傷つけたり、また額を剃り上げたりしてはならない。
- 2 あなたは、あなたの神、主の聖なる民だからである。主は地の面のあらゆる民の中からあなたを選んで、ご自分の宝の民とされた。
- 3 あなたは、忌み嫌うべきものは、どのようなものも食べてはならない。
- 4 あなたがたが食べてもよい動物は牛、羊、やぎ、
- 5 鹿、かもしか、のろ鹿、野やぎ、くじか、大鹿、野羊。
- 6 ひづめが分かれ、完全に二つに割れているもので、反芻するものはすべて食べてもよい。
- 7 ただし、反芻するもの、あるいは、ひづめが分かれているものの中でも、らくだ、野うさぎ、岩だぬきは食べてはならない。これらは反芻するが、ひづめが分かれていないので、あなたがたには汚れたものである。
- 8 豚もそうである。ひづめは分かれているが、反芻しないので、あなたがたには汚れたものである。それらの肉を食べてはならない。また、それらの死骸に触れてもいけない。
- 9 水の中にいるすべてのもののうちで次のものを、あなたがたは食べてもよい。ひれと鱗のあるものはすべて食べてもよい。
- 10 ひれや鱗のないものはすべて、食べてはならない。それは、あなたがたには汚れたものである。
- 11 きよい鳥はすべて食べてもよい。
- 12 しかし、食べてならないのは次のものである。秃鷲、秃鷹、黒秃鷲、
- 13 黒鷲、隼、鷲の類、
- 14 烏の類すべて、
- 15 だちょう、夜鷹、かもめ、鷹の類、
- 16 ふくろう、みみずく、白ふくろう、
- 17 森ふくろう、野雁、鶉、
- 18 こうのとり、鷲の類、やつがしら、こうもり。
- 19 羽があって群がるものはすべて、あなたがたには汚れたものである。それらを食べてはならない。
- 20 羽のあるきよいものはすべて食べてもよい。
- 21 あなたがたは自然に死んだものをいっさい食べてはならない。あなたの町囲みの中にいる寄留者にそれを与えて、彼がそれを食べるのはよい。あるいは異国人に売りなさい。あなたは、あなたの神、主の聖なる民だからである。あなたは子やぎをその母の乳で煮てはならない。
- 22 あなたは毎年、種を蒔いて畑から得るすべての収穫の十分の一を、必ず献げなければならない。

- 23** 主が御名を住まわせるために選ばれる場所、あなたの神、主の前であなたの穀物、新しいぶどう酒、油の十分の一、そして牛や羊の初子を食べなさい。あなたが、いつまでも、あなたの神、主を恐れることを学ぶためである。
- 24** もしあなたの神、主が御名を置くために選ばれる場所が遠くて、あなたの神、主に祝福していただくために運んで行くことができないほど、道のりが長いなら、
- 25** あなたはそれを金に換え、その金を包んで手に取り、あなたの神、主が選ばれる場所に行きなさい。
- 26** あなたは、そこでその金を、すべてあなたの欲するもの、牛、羊、ぶどう酒、強い酒、また何であれ、あなたが望むものに換えなさい。そしてあなたの神、主の前で食べ、あなたの家族とともに喜び楽しみなさい。
- 27** あなたの町囲みの中にいるレビ人をないがしろにしてはならない。彼は、あなたと同じようには相続地を割り当てられないからである。
- 28** 三年の終わりごとに、その年の収穫の十分の一を全部持ち出し、あなたの町囲みの中に置いておかねばならない。
- 29** そうすれば、あなたと同じようには相続地を割り当てられないレビ人や、あなたの町囲みの中にいる寄留者や、孤児や、やもめが来て食べ、満ち足りるであろう。それはあなたの神、主があなたのすべての手のわざを祝福してくださるためである。

第15章

- 1 あなたは七年の終わりごとに、負債の免除をしなければならない。
- 2 その免除の仕方は次のとおりである。貸し主はみな、その隣人に貸したものを免除する。その隣人や同胞から取り立ててはならない。主が負債の免除を布告されたからである。
- 3 異国人からは取り立ててもよいが、あなたの同胞があなたに借りているものは免除しなければならない。
- 4 もっとも、あなたの神、主が相続地としてあなたに与えて所有させようとしておられる地で、主が必ずあなたを祝福されるので、あなたのうちには貧しい人がいなくなるであろう。
- 5 ただしそれは、もしあなたが、あなたの神、主の御声に確かに聞き従い、私が今日あなたに命じるこのすべての命令を守り行ったなら、である。
- 6 あなたの神、主はあなたに約束したようにあなたを祝福されるから、あなたは多くの国々に貸すが、あなたが借りることはない。また、あなたは多くの国々を支配するが、彼らがあなたを支配することはない。
- 7 あなたの神、主があなたに与えようとしておられる地で、あなたのどの町囲みの中でも、あなたの同胞の一人が貧しい者であるとき、その貧しい同胞に対してあなたの心を頑なにしてはならない。また手を閉ざしてはならない。
- 8 必ずあなたの手を彼に開き、その必要としているものを十分に貸し与えなければならない。
- 9 あなたは心によこしまな考えを抱き、「第七年、免除の年が近づいた」と言って、貧しい同胞に物惜しみして、何も与えないことのないように気をつけなさい。その人があなたのことで主に叫ぶなら、あなたは罪責を負うことになる。
- 10 必ず彼に与えなさい。また、与えるとき物惜しみをしてはならない。このことのゆえに、あなたの神、主は、あなたのすべての働きと手のわざを祝福してくださるからである。
- 11 貧しい人が国のうちから絶えることはないであろう。それゆえ私はあなたに命じる。「あなたの地にいるあなたの同胞で、困窮している人と貧しい人には、必ずあなたの手を開かなければならない。」
- 12 もしあなたの同胞、ヘブル人の男あるいは女が、あなたのところに売られてきて六年間あなたに仕えたなら、七年目には自由の身として、あなたのもとから去らせなければならない。
- 13 その人を自由の身として去らせるときは、何も持たせずに去らせてはならない。
- 14 必ず、あなたの羊の群れと打ち場と踏み場のうちから取って、彼に分けてやらなければならない。あなたの神、主があなたに祝福として与えられたものを与えなければならない。
- 15 あなたは、エジプトの地で奴隷であったこと、そして、あなたの神、主があなたを贖い出されたことを覚えていなければならない。それゆえ、私は今日このことをあなたに命じるのである。

- 16** しかし、その人があなたとあなたの家族を愛し、あなたのもとにいて幸せなので、「あなたのもとから去りたくありません」と言うなら、
- 17** あなたはきりを取って、彼の耳を戸に刺しなさい。彼はいつまでもあなたの奴隷となる。女奴隷にも同じようにしなければならない。
- 18** 彼を自由の身として去らせるときには、厳しくしてはならない。彼は六年間、雇い人の賃金の二倍の分あなたに仕えたからである。こうして、あなたの神、主は、あなたのなすすべてのことに、あなたを祝福してくださる。
- 19** あなたの牛の群れや羊の群れに生まれた雄の初子はみな、あなたの神、主に聖別しなければならない。牛の初子を使って働いてはならない。また羊の初子の毛を刈ってはならない。
- 20** 毎年あなたの神、主の前で、主が選ばれる場所で、あなたは家族とともにそれを食べなければならない。
- 21** もしそれに欠陥、すなわち足が萎えていたり目が見えなかったり、何らかの著しい欠陥があれば、あなたの神、主にそれをいけにえとして屠ってはならない。
- 22** あなたは町囲みの中で、汚れた人もきよい人も一緒に、かもしかや鹿と同じようにそれを食べてもよい。
- 23** ただし、その血を食べてはならない。それを地面に水のように注ぎ出さなければならない。

第16章

- 1 アビブの月を守り、あなたの神、主の過越を祝いなさい。アビブの月に、あなたの神、主が夜のうちにエジプトからあなたを導き出されたからである。
- 2 主が御名を住まわせるために選ばれる場所で、あなたの神、主に、過越のいけにえとして羊と牛を屠りなさい。
- 3 そこでは種入りのパンを食べてはならない。七日間、種なしパン、苦しみのパンを食べなさい。あなたはエジプトの地から急いで出て来たからである。それは、あなたがエジプトの地から出て来た日を、一生の間覚えているためである。
- 4 七日間はパン種が、あなたの土地のどこにも見当たらないようにしなければならない。また、最初の日の方々にいけにえとして屠ったその肉を、朝まで残しておいてはならない。
- 5 過越のいけにえを屠ることができるのは、あなたの神、主が与えてくださるあなたの町囲みのどこでもよいのではない。
- 6 ただ、あなたの神、主が御名を住まわせるために選ばれるその場所で、夕方、日の沈むころ、あなたがエジプトから出た時刻に、過越のいけにえを屠らなければならない。
- 7 そして、あなたの神、主が選ばれるその場所でそれを調理して食べなさい。そして朝、自分の天幕に戻りなさい。
- 8 六日間、種なしパンを食べなければならない。七日目には、あなたの神、主へのきよめの集会がある。仕事をしてはならない。
- 9 また七週間を数えなければならない。鎌を立ち穂に入れ始めるときから、七週間を数え始めなければならない。
- 10 そして、あなたの神、主のために七週の祭りをを行い、あなたの神、主の祝福に応じて、進んで献げるささげ物をあなたの手によって豊かに献げなさい。
- 11 あなたはあなたの息子、娘、男女の奴隷、あなたの町囲みの中にいるレビ人、あなたがたのうちの寄留者、孤児、やもめとともに、あなたの神、主の前で、あなたの神、主が御名を住まわせるために選ばれる場所で喜び楽しみなさい。
- 12 あなたがエジプトで奴隷であったことを覚え、これらの掟を守り行いなさい。
- 13 あなたの打ち場とあなたの踏み場から取り入れが済んだとき、七日間、仮庵の祭りをしなければならない。
- 14 この祭りのときには、あなたも、あなたの息子、娘、男女の奴隷、あなたの町囲みの中にいるレビ人、寄留者、孤児、やもめとともに喜び楽しみなさい。
- 15 あなたの神、主のために、主が選ばれる場所で七日間、祭りをしなければならない。あなたの神、主があなたのすべての収穫、あなたの手のすべてのわざを祝福されるからである。あなたは大いに喜びなさい。
- 16 あなたのうちの男子はみな、年に三度、種なしパンの祭り、七週の祭り、仮庵の祭りのときに、あなたの神、主が選ばれる場所で御前に出なければならない。主の前には何も持たずに出てはならない。

- 17 あなたの神、主が与えてくださった祝福に应じて、それぞれ自分の贈り物を持って出なければならない。
- 18 あなたの神、主があなたに与えようとしておられる、あなたのすべての町囲みの中に、あなたの部族ごとに、さばき人たちと、つかさたちを任命しなければならない。彼らは公正に民をさばかなければならない。
- 19 あなたはさばきを曲げてはならない。人を偏って見てはならない。賄賂を取ってはならない。賄賂は知恵のある人を盲目にし、正しい人の言い分をゆがめるからである。
- 20 正義を、ただ正義を追い求めなければならない。そうすれば、あなたは生き、あなたの神、主が与えようとしておられる地を自分の所有とすることができる。
- 21 あなたが築く、あなたの神、主の祭壇のそばに、どのような木でできたアシェラ像も立ててはならない。
- 22 あなたは、あなたの神、主が憎まれる石の柱を立ててはならない。

第17章

- 1 悪性の欠陥のある牛や羊は、いかなるものでも、あなたの神、主にいけにえとして屠ってはならない。それは、あなたの神、主が忌み嫌われるものだからである。
- 2 あなたの神、主があなたに与えようとしておられる町囲みのどの一つでも、その中で男であれ女であれ、あなたの神、主の目に悪であることを行い、主の契約を破り、
- 3 行ってほかの神々に仕え、また、太陽や月や天の万象など、私が命じなかったものを拝む者があり、
- 4 それがあなたに告げられて、あなたが聞いたなら、あなたはよく調査しなさい。もしそのことが事実で確かであり、この忌み嫌うべきことがイスラエルのうちで行われたのなら、
- 5 あなたは、この悪しきことを行った男または女を町の広場に連れ出し、男でも女でも彼らを石で打ちなさい。彼らは死ななければならない。
- 6 二人の証人または三人の証人の証言によって、死刑に処さなければならない。一人の証言で死刑に処してはならない。
- 7 死刑に処するには、まず証人たちが手を下し、それから民全員が手を下す。こうして、あなたがたの中からその悪い者を除き去りなさい。
- 8 もし町囲みの中で争い事が起こり、それが流血、権利、傷害に関わる事件で、あなたがさばきかねるものであれば、あなたはただちに、あなたの神、主が選ばれる場所に上り、
- 9 レビ人の祭司たち、あるいは、そのときに立てられているさばき人のもとに行って尋ねなさい。彼らはあなたに判決のことばを告げるであろう。
- 10 あなたは、主が選ばれるその場所で彼らが告げる判決にしたがって行い、すべて彼らがあなたに教えることを守り行いなさい。
- 11 彼らがあなたに教えるおしえにしたがって、彼らがあなたに述べるさばきにしたがって行動しなければならない。彼らが告げる判決から右にも左にも外れてはならない。
- 12 もし人が、あなたの神、主に仕えてそこに立つ祭司やさばき人に聞き従わず、不遜なふるまいをするなら、その者は死ななければならない。あなたはイスラエルのうちからその悪い者を除き去りなさい。
- 13 そうすれば、民はみな聞いて恐れ、もう不遜なふるまいをすることはないであろう。
- 14 あなたの神、主があなたに与えようとしておられる地に入って行って、それを占領し、そこに住むようになったとき、あなたが「周りのすべての国々と同じように私も自分の上に王を立てたい」と言うなら、
- 15 必ず、あなたの神、主が選ばれる者をあなたの上に王として立てなければならない。あなたの同胞の中から、あなたの上に王を立てなければならない。同胞でない異国人をあなたの上に立てることはできない。
- 16 ただし王は、決して自分のために馬を増やしてはならない。馬を増やすために民をエジプトに戻らせてはならない。主は「二度とこの道に戻ってはならない」とあなたがたに言われた。

- 17** また王は、自分のために多くの妻を持って、心がそれることがあってはならない。自分のために銀や金を過剰に持ってはならない。
- 18** その王国の王座に就いたら、レビ人の祭司たちの前にある書から自分のために、このみおしえを巻物に書き写し、
- 19** 自分の手もとに置き、一生の間これを読まなければならない。それは、王が自分の神、主を恐れ、このみおしえのすべてのことばと、これらの掟を守り行うことを学ぶためである。
- 20** それは、王の心が自分の同胞の上に高ぶることのないようにするため、また命令から右にも左にも外れることがなく、彼とその子孫がイスラエルのうちで、長くその王国を治めることができるようにするためである。

第18章

- 1 レビ人の祭司たち、レビ部族はすべて、イスラエルと同じようには相続地の割り当てを受けてはならない。彼らは主への食物のささげ物を、自分への割り当ての分として食べていく。
- 2 彼らは、その兄弟たちの部族の中で相続地を持たない。主が約束されたとおり、主ご自身が彼らのゆずりである。
- 3 祭司たちが民から、すなわち、牛でも羊でも、いけにえを献げる者たちから受けるべきものについての定めは、次のとおりである。肩と両頬と胃の部分は祭司に与える。
- 4 あなたの穀物や新しいぶどう酒や油などの初物、および羊の毛の初物も彼に与える。
- 5 彼とその子孫がいつまでも主の御名によって奉仕に立つために、あなたの神、主があなたの全部族の中から彼を選ばれたのである。
- 6 もしレビ人が、自分が住んでいる、イスラエル中のどの町囲みの中からも出ることを望むなら、主が選ばれる場所に望むままに行くことができる。
- 7 彼は、その場所で主の前に立つ自分の同族レビ人と全く同じように、自分の神、主の御名によって奉仕することができる。
- 8 彼の取り分は、相続財産を売った分は別として、彼らが食べる取り分と同じである。
- 9 あなたの神、主があなたに与えようとしておられる地に入ったとき、あなたは、その異邦の民の忌み嫌うべき慣わしをまねてはならない。
- 10 あなたのうちに、自分の息子、娘に火の中を通らせる者、占いをする者、卜者、まじない師、呪術者、
- 11 呪文を唱える者、霊媒をする者、口寄せ、死者に伺いを立てる者があってはならない。
- 12 これらのことを行う者はみな、主が忌み嫌われるからである。これらの忌み嫌うべきことのゆえに、あなたの神、主はあなたの前から彼らを追い払われるのである。
- 13 あなたは、あなたの神、主のもとで全き者でなければならない。
- 14 確かに、あなたが追い払おうとしているこれらの異邦の民は、卜者や占い師に聞き従ってきた。しかし、あなたの神、主はあなたがそうすることを許さない。
- 15 あなたの神、主はあなたのうちから、あなたの同胞の中から、私のような一人の預言者をあなたのために起こされる。あなたがたはその人に聞き従わなければならない。
- 16 これは、あなたがホレブでのあの集まりの日に、あなたの神、主に求めて、「私の神、主の御声は二度と聞きたくありません。この大きな火はもう見たくありません。私は死にたくありません」と言ったことによるものである。
- 17 それで主は私に言われた。「彼らの言ったことはもっともだ。
- 18 わたしは彼らの同胞のうちから、彼らのためにあなたのような一人の預言者を起こして、彼の口にわたしのことばを授ける。彼はわたしが命じることすべてを彼らに告げる。
- 19 わたしの名によって彼が告げる、わたしのことばに聞き従わない者があれば、わたしはその人に責任を問う。

- 20** ただし、預言者であっても、わたしが告げよと命じていないことを、不遜にもわたしの名によって告げたり、あるいは、ほかの神々の名によって告げたりする者がいるなら、その預言者は死ななければならない。」
- 21** あなたが心の中で、「私たちは主が語られたのではないことばを、どのようにして知ることができるだろうか」と言うような場合、
- 22** 預言者が主の名によって語っても、そのことが起こらず、実現しないなら、それは主が語られたことばではない。その預言者が不遜にもそれを語ったのである。彼におびえることはない。

第19章

- 1 あなたの神、主があなたに与えようとしておられる地の国々を、あなたの神、主が絶ち滅ぼし、あなたがそれらを占領し、それらの町々や家々に住むようになったとき、
- 2 あなたの神、主があなたに与えて所有させようとしておられるその地に、三つの町を取り分けなければならない。
- 3 あなたは距離を測定し、あなたの神、主があなたに受け継がせる地域を三つに区分しなければならない。殺人者はだれでも、そこに逃れることができる。
- 4 これは、その場所に逃れて生きることができる場合、すなわち、前から憎んでいたわけではない隣人を、意図せずに打ち殺してしまった殺人者に関する規定である。
- 5 たとえば、隣人と一緒に、木を切り出そうと森に入り、木を切るために斧を手にして振り上げたところ、斧の頭が柄から抜けて隣人に当たり、その人が死んだ場合、その者はこれらの町の一つに逃れて生きることができる。
- 6 血の復讐をする者が怒りの心に燃え、その殺人者を追いかけて、道が遠いためにその人に追いついて、打ち殺すようなことがあってはならない。その人は前から相手を憎んでいたわけではないから、死刑に当たらない。
- 7 それゆえ私はあなたに命じて、「三つの町を取り分けよ」と言ったのである。
- 8 あなたの神、主が、あなたの父祖たちに誓ったとおりあなたの領土を広げ、また、父祖たちに与えると約束した地をすべてあなたに与えられたなら、
- 9 すなわち、私が今日あなたに命じるこのすべての命令をあなたが守り行い、あなたの神、主を愛し、いつまでもその道を歩むなら、そのとき、この三つの町にさらに三つの町を追加しなさい。
- 10 あなたの神、主が相続地としてあなたに与えようとしておられる地で、咎のない者の血が流されることがなく、また、あなたが血の責任を負うことのないようにするためである。
- 11 しかし、もし人が自分の隣人を憎み、待ち伏せして襲いかかり、彼を打って死なせ、これらの町の一つに逃れるようなことがあれば、
- 12 彼の町の長老たちは人を遣わして彼をそこから引き出し、血の復讐をする者の手に渡さなければならない。彼は死ななければならない。
- 13 彼にあわれみをかけてはならない。咎のない者の血を流す罪をイスラエルから除き去りなさい。それは、あなたのためになる。
- 14 あなたの神、主があなたに与えて所有させようとしておられる地、すなわち、あなたの受け継ぐ相続地で、あなたは先代の人々が定めた隣人との地境を移してはならない。
- 15 いかなる咎でも、いかなる罪でも、すべて人が犯した罪過は、一人の証人によって立証されてはならない。二人の証人の証言、または三人の証人の証言によって、そのことは立証されなければならない。
- 16 悪意のある証人が立って、ある人に不正な証言をする場合には、
- 17 争い合うこの二人の者は主の前に、その時の祭司たちとさばき人たちの前に立たなければならない。

- 18 さばき人たちはよく調べたうえで、もしその証人が偽りの証人であり、自分の同胞について偽りの証言をしていたのであれば、
- 19 あなたがたは、彼がその同胞にしようと企んでいたとおりに彼に対して行い、あなたがたの中からその悪い者を除き去りなさい。
- 20 ほかに人々も聞いて恐れ、再びこのような悪事をあなたのうちで行うことはないであろう。
- 21 あわれみをかけてはならない。いのちにはいのちを、目には目を、歯には歯を、手には手を、足には足を。

第20章

- 1 あなたが敵と戦おうと出て行くとき、馬や戦車や、あなたよりも多い軍勢を見ても、彼らを恐れてはならない。あなたをエジプトの地から連れ上ったあなたの神、主があなたとともにおられるのだから。
- 2 あなたがたが戦いに臨むときには、祭司が進み出て民に語りかけ、
- 3 彼らに言いなさい。「聞け、イスラエルよ。あなたがたは今日、敵との戦いに臨もうとしている。弱気になってはならない。恐れてはならない。うろたえてはならない。彼らのことでおののいてはならない。
- 4 あなたがたの神、主があなたがたとともに行って、あなたがたのために敵と戦い、あなたがたに勝利を得させてくださるからである。」
- 5 つかさたちは民に語りかけて言いなさい。「新しい家を建てて、まだそれを奉献していない者はいないか。その人は家に帰るがよい。戦死して、ほかの人がそれを奉献するといけないから。
- 6 ぶどう畑を作って、まだその初物を味わっていない者はいないか。その人は家に帰るがよい。戦死して、ほかの者が初物を味わうといけないから。
- 7 女と婚約して、まだ結婚していない者はいないか。その人は家に帰るがよい。戦死して、ほかの人が彼女と結婚するといけないから。」
- 8 つかさたちは、さらに民に語りかけて言わなければならない。「恐れて弱気になっている者はいないか。その人は自分の家に帰るがよい。兄弟たちの心がその人の心のように萎えるといけないから。」
- 9 つかさたちが民に語り終えたら、軍の長たちが民の指揮を執りなさい。
- 10 あなたが、ある町を攻略しようとしてその町に近づいたときには、まず降伏を勧めなさい。
- 11 もし町が降伏に同意して門を開くなら、その中にいる民はみな、あなたのために苦役に服させ、あなたに仕えさせなさい。
- 12 しかし、もしあなたに降伏せず、戦おうとするなら、これを包囲しなさい。
- 13 あなたの神、主がそれをあなたの手へ渡されたら、その町の男をみな剣の刃で討ちなさい。
- 14 しかし、女、子ども、家畜、また町の中にあるすべてのもの、そのすべての略奪物は戦利品として取ってよい。あなたの神、主があなたに与えられた、敵からの略奪物をあなたは自由にすることができる。
- 15 あなたから非常に遠く離れている町々に対しては、すべてこのようにしなければならない。次に示す国々の町は違う。
- 16 あなたの神、主が相続地として与えようとしておられる次の民の町々では、息のある者を一人も生かしておいてはならない。
- 17 すなわち、ヒッタイト人、アモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人は、あなたの神、主が命じられたとおり必ず聖絶しなければならない。

- 18** それは、彼らが、その神々に行っていたすべての忌み嫌うべきことをするようにあなたがたに教え、あなたがたが、あなたがたの神、主の前に罪ある者とならないようにするためである。
- 19** あなたが長い間、ある町を包囲して、これを攻め取ろうとするとき、斧を振るって、その木を切り倒してはならない。その木から食べるのはよいが、切り倒してはならない。まさか野の木が、あなたの前から逃げ出して包囲の中に入ってしまう人間でもあるまい。
- 20** ただ、実を結ばないと分かっている木だけは切り倒してもよい。それを切り倒して、あなたと戦っている町が陥落するまで、その町に対してそれで砦を築いてもよい。

第21章

- 1 あなたの神、主があなたに与えて所有させようとしておられる地で、刺し殺された者が野に倒れているのが見つかり、だれが殺したのか分からない場合、
- 2 あなたの長老たちとさばき人たちは出て行って、刺し殺された者から周りの町々への距離を測りなさい。
- 3 そして、刺し殺された者に最も近い町が分かれば、その町の長老たちは、まだ使役されたことも、くびきを負って引いたこともない雌の子牛を取りなさい。
- 4 その町の長老たちはその雌の子牛を、まだ耕されたことも種を蒔かれたこともない、絶えず流れる谷川へ連れて下り、その谷で雌の子牛の首を折りなさい。
- 5 それから、レビの子らである祭司たちが進み出なさい。あなたの神、主が、ご自分に仕えさせ、また主の御名によって祝福を宣言するために選ばれた者は彼らであり、いかなる争いも、いかなる傷害事件も彼らの判決によるからである。
- 6 刺し殺された者に最も近いその町の長老たちはみな、谷で首を折られた雌の子牛の上で手を洗い、
- 7 証言して言いなさい。「私たちの手はこの血を流しておらず、私たちの目はそれを見ていない。
- 8 主よ、あなたが贖い出された御民イスラエルをお赦しください。咎のない者の血を流す罪を、御民イスラエルのうちに負わせないでください。」こうして彼らは流血の咎を赦される。
- 9 このようにして、あなたは、主の目にかなうことを行うとき、咎のない者の血を流す罪をあなたがたの中から除き去ることができる。
- 10 あなたが敵との戦いに出て行き、あなたの神、主がその敵をあなたの手に渡し、あなたがそれを捕虜として捕らえたとき、
- 11 その捕虜の中に姿の美しい女を見て、恋い慕い、自分の妻としようとする場合には、
- 12 彼女をあなたの家の中に連れて行きなさい。彼女は頭を剃り、爪を切り、
- 13 捕虜の衣を脱ぎ、あなたの家にいて、自分の父と母のため一か月の間、泣き悲しまなければならぬ。その後、あなたは彼女のところに入り、彼女の夫となり、彼女はあなたの妻となる。
- 14 もしあなたが彼女を気に入らなくなったなら、彼女を自由に去らせなさい。決して金で売ってはならない。あなたはすでに彼女を意のままにしたのであるから、彼女を奴隷として扱ってはならない。
- 15 ある人が二人の妻を持ち、一人は愛され、もう一人は嫌われていて、愛されている者も嫌われている者もその人に男の子を産み、長子が、嫌われている妻の子である場合、
- 16 その人が息子たちに財産を受け継がせる日に、長子である、その嫌われている妻の子を差し置いて、愛されている妻の子を長子として扱うことはできない。
- 17 嫌われている妻の子を長子として認め、自分の全財産の中から二倍の取り分を彼に与えなければならぬ。その子は父の力の初穂であるから、長子の権利は彼のものである。

- 18** ある人に強情で逆らう子がいて、父の言うことも母の言うことも聞かず、父母に懲らしめられても聞こうとしない場合、
- 19** その父と母はその子をつらえ、町の門にいる町の長老たちのところへ連れ出し、
- 20** 町の長老たちに、「私たちのこの息子は強情で逆らいます。私たちの言うことに聞き従いません。放蕩で大酒飲みです」と言いなさい。
- 21** 町の人々はみな彼を石で打ちなさい。彼は死ななければならない。あなたがたの中からその悪い者を除き去りなさい。イスラエルはみな聞いて恐れるであろう。
- 22** ある人に死刑に当たる罪過があって処刑され、あなたが彼を木に挂ける場合、
- 23** その死体を次の日まで木に残しておいてはならない。その日のうちに必ず埋葬しなければならない。木にかけられた者は神にのろわれた者だからである。あなたの神、主が相続地としてあなたに与えようとしておられる土地を汚してはならない。

第22章

- 1 あなたの同族の者の牛または羊が迷っているのを見て、見ぬふりをしているてはならない。あなたの同族の者のところに、それを必ず連れ戻さなければならない。
- 2 もしその同族の者が近くの者ではなく、あなたがその人を知らないなら、それを自分の家に連れて来て、同族の者が捜しに来るまであなたのところに置き、それから彼に返しなさい。
- 3 彼のろばについても同じようにしなければならない。彼の衣についても同じようにしなければならない。すべてあなたの同族の者がなくした物をあなたが見つけたなら、同じようにしなければならない。見ぬふりをしていることはできない。
- 4 あなたの同族の者のろば、または牛が道で倒れているのを見て、見ぬふりをしてはならない。必ず、彼と一緒にそれを起こしてやらなければならない。
- 5 女は男の衣装を身に着けてはならない。また男は女の衣服を着てはならない。このようなことをする者はみな、あなたの神、主が忌み嫌われる。
- 6 たまたま道で木の上か地面に鳥の巣を見つけ、それにひなか卵があり、母鳥がひなか卵を抱いている場合、その母鳥を子と一緒に捕ってはならない。
- 7 必ず母鳥を去らせて、子を捕らなければならない。それは、あなたが幸せになり、あなたの日々が長く続くようになるためである。
- 8 新しい家を建てるときは屋上に手すりを付けなさい。だれかがそこから落ちてても、あなたの家が血の責任を負うことのないようにするためである。
- 9 ぶどう畑に二種類の種を蒔いてはならない。あなたが蒔いた種と、ぶどう畑の収穫全体とが、聖なるものとして取り分けられてしまうことのないように。
- 10 牛とろばとを組にして耕してはならない。
- 11 羊毛と亜麻糸を混ぜて織った衣服を着てはならない。
- 12 身にまとう衣の四隅に房を作らなければならない。
- 13 人が妻を迎えて彼女のところに入ったが、彼女を嫌い、
- 14 口実を設けて、「私はこの女を妻として近づいたが、処女のしるしを見なかった」と言って汚名を着せる場合、
- 15 その娘の父と母はその娘の処女のしるしを取り、門のところにいる町の長老たちのもとにそれを持って行きなさい。
- 16 その娘の父は長老たちに、「私は娘をこの男に妻として与えましたが、彼は娘を嫌いました。
- 17 ご覧ください。彼は口実を設けて、『あなたの娘には処女のしるしを見なかった』と言いました。しかし、これが私の娘の処女のしるしです」と言って、町の長老たちの前にその衣を広げなさい。
- 18 その町の長老たちはこの男を捕らえて懲らしめ、
- 19 銀百シェケルの罰金を科し、その娘の父に与えなければならない。彼がイスラエルの一人の処女に汚名を着せたからである。彼女はその男の妻としてとどまり、その男は一生、彼

女を離縁することはできない。

- 20** しかし、もしこのことが真実であり、その娘に処女のしるしが見つからないなら、
- 21** その娘を父の家の入り口のところに連れ出し、町の人々は彼女に石を投げ、彼女を殺さなければならぬ。彼女が父の家で淫行をして、イスラエルの中で恥辱となることをしたからである。あなたがたの中からその悪い者を除き去りなさい。
- 22** 夫のある女と寝ている男が見つかった場合は、その女と寝ていた男もその女も、二人とも死ななければならぬ。こうして、あなたはイスラエルの中からその悪い者を除き去りなさい。
- 23** ある男と婚約中の処女の娘がいて、ほかの男が町で彼女を見かけて一緒に寝た場合、
- 24** あなたがたはその二人をその町の門のところに連れ出し、石を投げて殺さなければならぬ。その女は町の中にいながら叫ばなかったからであり、その男は隣人の妻を辱めたからである。こうして、あなたがたの中からその悪い者を除き去りなさい。
- 25** もしある男が野で婚約中の娘を見かけ、彼女を捕まえて一緒に寝たなら、彼女と寝たその男だけが死ななければならぬ。
- 26** その娘には何もしてはならない。その娘には死刑に当たる罪過はない。この場合は、ある人が隣人に襲いかかり、いのちを奪ったのと同じである。
- 27** この男は野で彼女を見かけたのであり、婚約中の娘は叫んだが、救う者がいなかったのであるから。
- 28** ある男が、まだ婚約していない処女の娘を見かけ、彼女を捕らえて一緒に寝ているのを見つけれられた場合、
- 29** 娘と寝た男は娘の父に銀五十シェケルを渡さなければならぬ。彼女はこの男の妻となる。彼女を辱めたのであるから、彼は一生この女を離縁することはできない。
- 30** だれも、父の妻を妻にして自分の父の恥をさらしてはならない。

第23章

- 1 辜丸のつぶれた者、陰茎を切り取られた者は主の集会に加わってはならない。
- 2 不倫の子は主の集会に加わってはならない。その十代目の子孫さえ主の集会に加わることはできない。
- 3 アンモン人とモアブ人は主の集会に加わってはならない。その十代目の子孫さえ、決して主の集会に加わることはできない。
- 4 これは、あなたがたがエジプトから出て来た道中で、彼らがパンと水をもってあなたがたを迎えることをせず、アラム・ナハライムのペトルからベオルの子バラムを雇って、あなたに呪いをもたらそうとしたからである。
- 5 しかし、あなたの神、主はバラムに耳を貸そうとはせず、かえってあなたの神、主はあなたのために呪いを祝福に変えられた。あなたの神、主はあなたを愛しておられたからである。
- 6 あなたは一生、彼らの平安も彼らの幸せも決して求めてはならない。
- 7 あなたはエドム人を忌み嫌ってはならない。これはあなたの兄弟だからである。エジプト人を忌み嫌ってはならない。あなたはその地で寄留者だったからである。
- 8 彼らに生まれた子どもたちは、三代目には主の集会に加わることができる。
- 9 あなたが敵に向かって陣を敷くときには、すべての汚れたことから身を守らなければならない。
- 10 もしあなたのうちに、夜、精を漏らして身を汚した者があれば、その人は陣営の外に出なければならない。陣営の中に入ってはならない。
- 11 夕暮れ近くになったら水を浴び、日没とともに陣営の中に戻ることができる。
- 12 また、陣営の外に一つの場所を設け、そこへ出て行って用をたすようにしなければならない。
- 13 武器とともに小さな鍬を持ち、外でかがむときはそれで穴を掘り、用をたしてから排泄物をおおわなければならない。
- 14 あなたの神、主が、あなたを救い出し、敵をあなたに渡すために、あなたの陣営の中を歩まれるからである。こうして、あなたの陣営は聖でなければならない。主があなたの中で恥ずべきものを見て、あなたから離れ去ることのないようにしなさい。
- 15 主人のもとからあなたのところに逃れて来た奴隷を、その主人に引き渡してはならない。
- 16 あなたがたのうちに、あなたの町囲みの中のどこでも彼が好むままに選んだ場所に、あなたとともに住まわせなければならない。彼を虐げてはならない。
- 17 イスラエルの女子は神殿娼婦になってはならない。イスラエルの男子は神殿男娼になってはならない。
- 18 いかなる誓願のためであっても、遊女の儲けや犬の稼ぎをあなたの神、主の家に携えて行ってはならない。これはどちらも、あなたの神、主が忌み嫌われるからである。
- 19 金銭の利息であれ食物の利息であれ、すべて利息をつけて貸すことのできるものの利息を、あなたの同胞から取ってはならない。

- 20** 異国人からは利息を取ってもよいが、あなたの同胞からは利息を取ってはならない。それは、あなたが入って行って所有しようとしている地で、あなたの神、主があなたのすべての手のわざを祝福されるためである。
- 21** あなたの神、主に誓願をするとき、それを遅れずに果たさなければならない。なぜなら、あなたの神、主は必ずあなたからそれを要求し、こうしてあなたが罪責を負うことになるからである。
- 22** 誓願をやめる場合、あなたに罪責は生じない。
- 23** あなたの唇から出たことを守り、あなたの口で約束して、自分から進んであなたの神、主に誓願したとおりに行わなければならない。
- 24** 隣人のぶどう畑に入ったとき、あなたは思う存分、満ち足りるまでぶどうを食べてもよいが、あなたのかごに入れてはならない。
- 25** 隣人の麦畑の中に入ったとき、あなたは穂を手で摘んでもよい。しかし、隣人の麦畑で鎌を使ってはならない。

第24章

- 1 人が妻をめとり夫となった後で、もし、妻に何か恥ずべきことを見つけたために気に入らなくなり、離縁状を書いてその女の手渡し、彼女を家から去らせ、
- 2 そして彼女が家を出て行って、ほかの人の妻となり、
- 3 さらに次の夫も彼女を嫌い、離縁状を書いて彼女の手渡し、彼女を家から去らせた場合、あるいは、彼女を妻とした、あとの夫が死んだ場合には、
- 4 彼女を去らせた初めの夫は、彼女が汚された後に再び彼女を自分の妻とすることはできない。それは、主の前に忌み嫌うべきことだからである。あなたの神、主が相続地としてあなたに与えようとしておられる地に、罪をもたらしはならない。
- 5 人が新妻を迎えたときは、その人を戦に出してはならない。何の義務も負わせてはならない。彼は一年の間、自分の家のために自由の身になって、迎えた妻を喜ばせなければならない。
- 6 ひき曰、あるいはその上石を質に取ってはならない。いのちそのものを質に取ることになるからである。
- 7 人がその同胞、イスラエルの子らのうちの一人を誘拐し、奴隷として扱うか売り飛ばしたことが見つかった場合、誘拐した者は死ななければならない。こうして、あなたの中からその悪い者を除き去りなさい。
- 8 ツアラアトに冒された患部には気をつけて、すべてレビ人の祭司が教えるとおりに、よく守り行わなければならない。私が彼らに命じたとおりに守り行わなければならない。
- 9 あなたがたがエジプトから出て来たとき、その道中で、あなたの神、主がミリアムにされたことを思い出しなさい。
- 10 隣人に何かを貸すとき、担保を取りにその家に入ってはならない。
- 11 あなたは外に立っていなければならない。あなたが貸そうとするその人が、外にいるあなたのところに担保を持って出て来なければならない。
- 12 もしその人が貧しい人なら、その担保を取ったままで寝てはならない。
- 13 日没のころには、その担保を必ず返さなければならない。彼は自分の上着を着て寝て、あなたを祝福するであろう。また、そのことはあなたの神、主の前であなたの義となる。
- 14 貧しく困窮している雇い人は、あなたの同胞でも、あなたの地の、あなたの町囲みの中にいる寄留者でも虐げてはならない。
- 15 その人の賃金はその日のうちに、日没前に支払わなければならない。彼は困窮し、それを当てにしているのだから。彼があなたのことを主に訴えて、あなたが罪責を負うことのないようにしなさい。
- 16 父が子のために殺されてはならない。子が父のために殺されてはならない。人が殺されるのは自分の罪過のゆえでなければならない。
- 17 寄留者や孤児の権利を侵してはならない。やもめの衣服を質に取ってはならない。
- 18 あなたがエジプトで奴隷であったこと、そしてあなたの神、主が、そこからあなたを贖い出されたことを覚えていなければならない。それゆえ私はあなたに、このことをせよと命

じる。

- 19** あなたが畑で穀物の刈り入れをして、束の一つを畑に置き忘れたときは、それを取りに戻ってはならない。それは寄留者や孤児、やもめのものとしなければならない。あなたの神、主があなたのすべての手のわざを祝福してくださるためである。
- 20** あなたがオリーブの実を打ち落とすときは、後になってまた枝を打ってはならない。それは寄留者や孤児、やもめのものとしなければならない。
- 21** ぶどう畑のぶどうを収穫するときは、後になってまたそれを摘み取ってはならない。それは寄留者や孤児、やもめのものとしなければならない。
- 22** あなたは、自分がエジプトの地で奴隷であったことを覚えていなければならない。それゆえ私はあなたに、このことをせよと命じる。

第25章

- 1 人と人との間で争いがあり、その人たちが裁判に出頭して、正しいほうを正しいとし、悪いほうを悪いとする判定がなされたとき、
- 2 もしその悪い者がむち打ちにすべき者なら、さばき人は彼を伏させ、自分の前で、その邪悪さに応じた数だけ打たなければならない。
- 3 四十までは彼をむち打ってよいが、それ以上はいけない。それ以上多くむち打たれれば、あなたの同胞はあなたの目の前で卑しめられることになる。
- 4 脱穀をしている牛に口籠をはめてはならない。
- 5 兄弟と一緒に住んでいて、そのうちの一人が死に、彼に息子がいない場合、死んだ者の妻は家族以外のほかの男に嫁いではならない。その夫の兄弟がその女のところに入り、これを妻とし、夫の兄弟としての義務を果たさなければならない。
- 6 そして彼女が産む最初の男子が、死んだ兄弟の名を継ぎ、その名がイスラエルから消し去られないようにしなければならない。
- 7 しかし、もしその人が自分の兄弟の妻を妻としたくないなら、その兄弟の妻は、町の門の長老たちのところに行って言わなければならない。「私の夫の兄弟は、自分の兄弟のためにその名をイスラエルのうちに残そうとはせず、夫の兄弟としての義務を私に果たそうとしません。」
- 8 町の長老たちは彼を呼び寄せ、話さなければならない。もし彼が「私は彼女を妻としたくない」と言い張るなら、
- 9 彼の兄弟の妻は、長老たちの目の前で彼に近寄り、その足から履き物を脱がせ、その顔に唾して、彼に答えて言わなければならない。「兄弟の家を建てない男はこのようにされる。」
- 10 彼の名はイスラエルの中で、「履き物を脱がされた者の家」と呼ばれる。
- 11 二人の者が互いに争っているとき、一方の者の妻が近づき、自分の夫を打つ者の手から救い出そうとして手を伸ばし、相手の隠しどころをつかんだなら、
- 12 その女の手を切り落とさなさい。あわれみをかけてはならない。
- 13 あなたには、袋に大小異なる重り石があってはならない。
- 14 あなたには、家に大小異なる升があってはならない。
- 15 あなたには、完全で正しい重り石と、完全で正しい升がなければならない。あなたの神、主があなたに与えようとしておられるその土地で、あなたの日々が長く続くようにするためである。
- 16 こう言うのは、このようなことをして不正を行う者すべてを、あなたの神、主が忌み嫌われるからである。
- 17 覚えていなさい。あなたがたがエジプトから出て来たとき、その道中でアマレクがあなたにしたことを。
- 18 彼らは神を恐れることなく、あなたが疲れて弱っているときに、道であなたに会い、あなたのうしろの落伍者をすべて切り倒したのである。

- 19** あなたの神、主が相続地としてあなたに与えて所有させようとしておられる地で、あなたの神、主が周囲のすべての敵からあなたを守って、安息を与えられるようになったときには、あなたはアマレクの記憶を天の下から消し去らなければならない。このことを忘れてはならない。

第26章

- 1 あなたの神、主が相続地としてあなたに与えようとしておられる地に入って行き、それを占領し、そこに住むようになったときは、
- 2 あなたの神、主が与えようとしておられる地から収穫する、大地のすべての実りの初物の一部を取って、かごに入れ、あなたの神、主が御名を住まわせるために選ばれる場所へ行かなければならない。
- 3 そして、そのとき任務についている祭司のもとに行って、「今日、あなたの神、主に報告いたします。私は主が私たちに与えると父祖たちに誓われた地に入りました」と言いなさい。
- 4 祭司があなたの手からそのかごを受け取り、あなたの神、主の祭壇の前に置いたら、
- 5 あなたは、あなたの神、主の前で次のように告白しなさい。「私の父はさすらいのアラム人でしたが、わずかな人数を連れてエジプトに下り、そこに寄留しました。しかしそこで、強くて数の多い、大いなる国民になりました。
- 6 しかし、エジプト人は私たちを虐待し、苦しめ、私たちに激しい労働を課しました。
- 7 私たちが私たちの父祖の神、主に叫ぶと、主は私たちの声を聞き、私たちの苦しみと労苦と虐げられている有様をご覧になりました。
- 8 そこで、主は力強い御手と伸ばされた御腕によって、恐ろしい力と、しるしと不思議をもって私たちをエジプトから導き出し、
- 9 この場所に導き入れ、乳と蜜の流れる地、この地を私たちに与えてくださいました。
- 10 今ここに私は、主よ、あなたが私に与えてくださった大地の実りの初物を持って参りました。」あなたは、あなたの神、主の前にそれを供え、あなたの神、主の前で礼拝しなければならない。
- 11 あなたの神、主があなたとあなたの家に与えられたすべての恵みを、あなたはレビ人および、あなたがたのうちの寄留者とともに喜びなさい。
- 12 第三年、十分の一の年にあなたの収穫の十分の一をすべて納め終え、これをレビ人、寄留者、孤児、やもめに与えて、彼らがあなたの町囲みの中で食べて満ち足りたとき、
- 13 あなたは、あなたの神、主の前で言いなさい。「あなたが私に下された命令のとおり、私は聖なるささげ物すべてを家から取り分け、それをレビ人、寄留者、孤児、やもめに与えました。私はあなたの命令を一つも破らず、またそれらを忘れませんでした。
- 14 その一部でも、喪中に食べたり、また汚れているときに取り分けたりしませんでした。また、その一部でも死者に供えたこともありません。私は、私の神、主の御声に聞き従い、すべてあなたが私に命じられたとおりにいたしました。
- 15 あなたの聖なる住まいの天から見下ろして、御民イスラエルと、あなたが私たちの父祖たちに誓われたとおり私たちに下さった土地、乳と蜜の流れる地とを祝福してください。」
- 16 今日、あなたの神、主は、これらの掟と定めを行うように、あなたに命じておられる。あなたは心を尽くし、いのちを尽くして、それを守り行いなさい。

- 17 あなたは今日、この主をあなたの神とし、主の道に歩み、主の掟と命令と定めを守り、御声に聞き従うと誓約した。
- 18 今日、主は、あなたに約束したとおり、あなたが主のすべての命令を守り主の宝の民となること、
- 19 あなたを、主が造られたすべての国々の上に高く上げて栄誉と名声と栄えとし、約束のとおり、あなたが、あなたの神、主の聖なる民となることを誓約されたのである。

第27章

- 1 モーセとイスラエルの長老たちは、民にこう命じた。「私が今日あなたがたに命じるすべての命令を守りなさい。
- 2 あなたがたがヨルダン川を渡り、あなたの神、主が与えようとしておられる地に入る日には、大きな石を立て、それらに石灰を塗りなさい。
- 3 渡ったら、それらの上に、このみおしえのすべてのことばを書き記しなさい。それは、あなたの父祖の神、主が約束されたとおり、あなたの神、主があなたに与えようとしておられる地、乳と蜜の流れる地にあなたがたが入るためである。
- 4 あなたがたがヨルダン川を渡ったら、私が今日あなたがたに命じるこれらの石をエバル山に立て、それに石灰を塗りなさい。
- 5 そこに、あなたの神、主のために祭壇を、石の祭壇を築きなさい。それには鉄の道具を当ててはならない。
- 6 自然のままの石で、あなたの神、主の祭壇を築かなければならない。その上で、あなたの神、主に全焼のささげ物を献げなさい。
- 7 またそこで交わりのいけにえを献げて、それを食べ、あなたの神、主の前で喜び楽しみなさい。
- 8 それらの石の上に、このみおしえのことばすべてを、よく確認して書き記しなさい。」
- 9 それから、モーセとレビ人の祭司たちはイスラエル全体に告げた。「イスラエルよ、静まって聞きなさい。今日あなたは、あなたの神、主の民となった。
- 10 あなたの神、主の御声に聞き従い、私が今日あなたに命じる主の命令と掟を行いなさい。」
- 11 その日モーセは民に命じた。
- 12 あなたがたがヨルダン川を渡ったとき、次の者たちは、民を祝福するためにゲリジム山に立たなければならない。シメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ヨセフ、ベニヤミン。
- 13 また次の者たちは、のろいのためにエバル山に立たなければならない。ルベン、ガド、アシェル、ゼブルン、ダン、ナフタリ。
- 14 レビ人は、イスラエルのすべての人に大声で宣言しなければならない。
- 15 「職人の手のわざである、主が忌み嫌われる彫像や鑄像を造り、これをひそかに安置する者はのろわれる。」民はみな答えて、アーメンと言いなさい。
- 16 「自分の父や母を軽んじる者はのろわれる。」民はみな、アーメンと言いなさい。
- 17 「隣人との地境を移す者はのろわれる。」民はみな、アーメンと言いなさい。
- 18 「目の見えない人を道に迷わせる者はのろわれる。」民はみな、アーメンと言いなさい。
- 19 「寄留者、孤児、やもめのさばきを曲げる者はのろわれる。」民はみな、アーメンと言いなさい。
- 20 「父の妻と寝る者は、自分の父の恥をさらすのであるから、のろわれる。」民はみな、アーメンと言いなさい。

- 21** 「どのような動物であれ、それと寝る者はのろわれる。」民はみな、アーメンと言いなさい。
- 22** 「父の娘であれ母の娘であれ、自分の姉妹と寝る者はのろわれる。」民はみな、アーメンと言いなさい。
- 23** 「自分の妻の母と寝る者はのろわれる。」民はみな、アーメンと言いなさい。
- 24** 「ひそかに隣人を打ち殺す者はのろわれる。」民はみな、アーメンと言いなさい。
- 25** 「賄賂を受け取り、人を打ち殺して、咎のない者の血を流す者はのろわれる。」民はみな、アーメンと言いなさい。
- 26** 「このみおしえのことばを守ろうとせず、これを実行しない者はのろわれる。」民はみな、アーメンと言いなさい。

第28章

- 1 もし、あなたが、あなたの神、主の御声に確かに聞き従い、私が今日あなたに命じる主のすべての命令を守り行うなら、あなたの神、主は、地のすべての国々の上にあなたを高く上げられる。
- 2 あなたが、あなたの神、主の御声に聞き従うので、次のすべての祝福があなたに臨み、あなたについて行く。
- 3 あなたは町にあっても祝福され、野にあっても祝福される。
- 4 あなたの胎の実も大地の実りも、家畜が産むもの、群れの中の子牛も群れの中の子羊も祝福される。
- 5 あなたのかごも、こね鉢も祝福される。
- 6 あなたは入るときにも祝福され、出て行くときにも祝福される。
- 7 主は、あなたに向かい立つ敵どもをあなたの前で敗走させる。彼らは一つの道からあなたを攻めて来るが、あなたの前で七つの道に逃げ去る。
- 8 主はあなたのために、あなたの穀物倉とあなたのすべての手のわざが祝福されるように命じられる。あなたの神、主があなたに与えようとしておられる地で、あなたを祝福される。
- 9 あなたが、あなたの神、主の命令を守り主の道を歩むなら、主はあなたに誓われたとおり、あなたをご自分の聖なる民として立ててくださる。
- 10 地上のあらゆる民はあなたに主の名がつけられているのを見て、あなたを恐れるであろう。
- 11 主があなたに与えるとあなたの父祖たちに誓われたその地で、主はあなたの胎の実、家畜が産むもの、大地の実りを豊かに恵んでくださる。
- 12 主はその恵みの倉、天を開き、時にかなって雨をあなたの地に与え、あなたのすべての手のわざを祝福される。それで、あなたは多くの国々に貸すが、借りることはない。
- 13 私が今日あなたに命じる、あなたの神、主の命令に聞き従い、守り行うなら、主はあなたをかしらとし、尾とはされない。あなたはただ上になり、下になることはない。
- 14 私が今日あなたがたに命じるこのすべてのことばから右や左に外れ、ほかの神々に従い、それに仕えてはならない。
- 15 しかし、もしあなたの神、主の御声に聞き従わず、私が今日あなたに命じる、主のすべての命令と掟を守り行わないなら、次のすべてののろいがあなたに臨み、あなたをとらえる。
- 16 あなたは町にあってもものろわれ、野にあってもものろわれる。
- 17 あなたのかごも、こね鉢ものろわれる。
- 18 あなたの胎の実も大地の実りも、群れの中の子牛も群れの中の子羊ものろわれる。
- 19 あなたは入るときにもものろわれ、出て行くときにもものろわれる。
- 20 主は、あなたのなすすべての手のわざに、のろいと混乱と懲らしめを送り、ついにあなたは根絶やしにされて、たちまちにして滅びる。これは、わたしを捨てたあなたの行いが悪

いからである。

- 21 主は疫病をあなたの身にまといつかせ、ついには、あなたが入って行って所有しようとしている地から、あなたを絶ち滅ぼす。
- 22 主は肺病、熱病、高熱病、悪性熱病、また干ばつ、立ち枯れ、黒穂病であなたを打つ。これらのものは、あなたが滅びるまで、あなたを追いかける。
- 23 あなたの頭上の天は青銅となり、あなたの下の地は鉄となる。
- 24 主はあなたの地に降る雨をほこりに変え、天から砂ぼこりが降って来て、ついにはあなたは根絶やしにされる。
- 25 主はあなたを敵の前で敗走させる。あなたは一つの道から攻めて行くが、敵の前で七つの道に逃げて行く。あなたのことは地上のすべての王国にとっておののきのもととなる。
- 26 あなたの死体は空のすべての鳥と地の獣の餌食となり、しかも、これを追い払う者もない。
- 27 主はエジプトの腫物、腫れもの、湿疹、疥癬をもってあなたを打ち、あなたは癒やされることがない。
- 28 主はあなたを打って錯乱させ、盲目にし、心を混乱させる。
- 29 あなたは目の見えない人が暗闇で手さぐりするように、真昼に手さぐりするようになる。あなたは何をしても成功せず、いつも虐げられ、略奪されるだけである。あなたを救う者はいない。
- 30 あなたが女と婚約しても、ほかの男が彼女と寝る。家を建てても、その中には住めない。ぶどう畑を作っても、その初物を味わうことはない。
- 31 あなたの牛が目の前で屠られても、あなたはそれを食べることはない。あなたのろばが目の前から略奪されても、返って来ない。あなたの羊が敵の手に渡されても、あなたを助ける者はいない。
- 32 あなたの息子と娘はほかの民に渡され、あなたの目は絶えず彼らを慕って衰えるが、あなたはどうすることもできない。
- 33 あなたの大地の実りもあなたの労苦の実もみな、あなたの知らない民が食べる。あなたはいつまでも虐げられ、踏みにじられるだけである。
- 34 あなたの目に見る光景で、あなたは気がふれる。
- 35 主はあなたの膝とももを悪性の腫物で打たれ、あなたは癒やされることがない。それは足の裏から頭の頂にまで及ぶ。
- 36 主は、あなたと、あなたが自分の上に立てた王とを、あなたも、あなたの先祖たちも知らなかった国に行かせる。あなたはそこで木や石の、ほかの神々に仕える。
- 37 主があなたを追いやられる先の、あらゆる民の間で、あなたは恐怖のもと、物笑いの種、なぶりものとなる。
- 38 畑に多くの種を持って出ても、あなたは少ししか収穫できない。いなごが食い尽くすからである。
- 39 ぶどう畑を作って手入れをしても、そのぶどう酒を飲むことも、ぶどうを取り入れることもできない。虫がそれを食べるからである。

- 40 領土のいたるところにオリーブの木があっても、あなたは身に油を塗ることができない。オリーブの実が落ちてしまうからである。
- 41 息子や娘が生まれても、あなたのものとはならない。彼らは捕らわれて行くからである。
- 42 あなたのすべての木と、大地の実りは、害虫が取り上げてしまう。
- 43 あなたのうちの寄留者はあなたの上にますます高く上って行き、あなたはますます低く下って行く。
- 44 彼はあなたに貸すが、あなたが彼に貸すことはない。彼はかしらとなり、あなたは尾となる。
- 45 これらすべてののろいが、あなたに臨み、あなたを追いかけて、あなたに追いつき、ついにあなたは根絶やしにされる。あなたが、あなたの神、主の御声に聞き従わず、主が命じられた命令と掟を守らなかったからである。
- 46 これらのことは、あなたとあなたの子孫に対して、いつまでも、しるしとなり、また不思議となる。
- 47 あなたがすべてのものに豊かになる中で、あなたの神、主に喜んで心の底から仕えようとしないので、
- 48 あなたは飢え渴き、裸となり、あらゆるものに欠乏し、主があなたに差し向ける敵に仕えることになる。主はあなたの首に鉄のくびきをはめ、ついにはあなたを根絶やしにされる。
- 49 主は遠く地の果てから一つの国を来させ、驚が獲物に向かって舞い降りるように、あなたを襲わせる。その話すことばをあなたが聞いたこともない国である。
- 50 その国は横柄で、老人に敬意を払わず、若い者をあわれまず、
- 51 あなたの家畜が産むものや大地の実りを食い尽くし、ついにあなたは根絶やしにされる。彼らは穀物も新しいぶどう酒も油も、群れの中の子牛も群れの中の子羊も、あなたには少しも残さず、ついにはあなたを滅ぼす。
- 52 その国は、あなたの国中のすべての町囲みの中にあなたを閉じ込め、ついには、あなたが頼みとする高く堅固な城壁は落とされる。彼らが、あなたの神、主が与えられた国中のすべての町囲みの中にあなたを閉じ込めるとき、
- 53 あなたは包囲と、敵がもたらす窮乏のために、あなたの神、主が与えてくださった、あなたの胎の実である息子や娘の肉を食べるようになる。
- 54 あなたのうちの最も優しく、ことのほか上品な男でさえ、兄弟や愛する妻や、まだ残っている子どもたちに対してさえ物惜しみをし、
- 55 自分が食べている子どもの肉をだれにも分け与えようとはしない。あなたのすべての町囲みの中には、包囲と、敵がもたらす窮乏のために、何も残されていないからである。
- 56 あなたのうちの優しく上品な女で、あまりにも上品で優しいために、足の裏を地面に付けようとしてもしない者でさえ、愛する夫や、息子や娘に物惜しみをし、
- 57 さらに、あらゆる欠乏のために、自分の脚の間から出た後産や自分が産んだ子さえ、ひそかに食べることで済ます。あなたの町囲みの中が包囲と、敵がもたらす窮乏の中にあるからである。

- 58 もしあなたが、この書物に記されている、このおしえのすべてのことばを守り行わず、この栄光に満ちた恐るべき御名、あなたの神、主を恐れないなら、
- 59 主はあなたへの災害、あなたの子孫への災害を驚くべき仕方で行われる。大きな長く続く災害、長く続く悪性の病気である。
- 60 主は、あなたが怖がっていたエジプトのあらゆる悪疫を、再びあなたにもたらされる。それがあなたにまといつく。
- 61 主は、このみおしえの書に記されていない、あらゆる病気、あらゆる災害までもあなたの上に臨ませ、ついにあなたは根絶やしにされる。
- 62 あなたがたは空の星のように多かったが、少人数しか残されない。あなたの神、主の御声に聞き従わなかったからである。
- 63 かつて、主があなたがたを幸せにし、あなたがたを増やすことを喜ばれたように、主は、あなたがたを滅ぼし、あなたがたを根絶やしにすることを喜ばれる。あなたがたは、あなたがたが入って行って所有しようとしている地から引き抜かれる。
- 64 主は地の果てから地の果てまでのあらゆる民の間にあなたを散らす。あなたはそこで、あなたも、あなたの先祖たちも知らなかった、木や石で造られたほかの神々に仕える。
- 65 これら異邦の民の間にあって、あなたは一息つくこともできず、足の裏を休める場もない。主はそこで、あなたの心を不安にし、目を衰えさせ、たましいを弱らせる。
- 66 あなたのいのちは危険にさらされ、あなたは夜も昼もおののき、自分が生きることさえ、おぼつかなくなる。
- 67 あなたは朝には「ああ夕方であればよいのに」と言い、夕方には「ああ朝であればよいのに」と言う。あなたの心に抱くおののきと、あなたの目に見る光景のゆえである。
- 68 私がかつて「あなたはもう二度とこれを見ない」と言った道を通して、主はあなたを船で再びエジプトに戻される。あなたがたが、そこで自分を男奴隷や女奴隷として敵に身売りしようとしても、買ってくれる者はいない。

第29章

- 1 これらは、モアブの地で、主がモーセに命じて、イスラエルの子らと結ばせた契約のことばである。ホレブで彼らと結ばれた契約とは別である。
- 2 モーセはイスラエルをみな呼び寄せて言った。あなたがたは、エジプトの地で、ファラオとそのすべての家臣たちとその全土に対して、主があなたがたの目の前でなさったことをことごとく見た。
- 3 すなわち、あなたが自分の目で見たとあの大きな試み、あの大きなしるしと不思議である。
- 4 しかし、主は今日に至るまで、あなたがたに悟る心と見る目と聞く耳を与えられなかった。
- 5 私は四十年の間、荒野であなたがたを導いたが、あなたがたが身に着けている上着はすり切れず、その履き物もすり切れなかった。
- 6 あなたがたはパンも食べず、ぶどう酒も強い酒も飲まなかった。それは、「わたしがあなたがたの神、主である」と、あなたがたが知るためであった。
- 7 あなたがたがこの場所に来たとき、ヘシュボンの王シホンとバシャンの王オグが出て来て、私たちを迎え撃ったが、私たちは彼らを討ち破った。
- 8 私たちは彼らの地を取り、これを相続地としてルベン人とガド人と、マナセ人の半部族に分け与えた。
- 9 あなたがたはこの契約のことばを守り、それを行いなさい。あなたがたのすることがすべて栄えるためである。
- 10 今日あなたがたはみな、あなたがたの神、主の前に立っている。すなわち、あなたがたの部族のかしらたち、長老たち、つかさたち、イスラエルのすべての人々、
- 11 あなたがたの子どもと妻、宿営の内にいる寄留者、薪を割る者から水を汲む者に至るまでいる。
- 12 それは、あなたの神、主が今日あなたと結ばれる、あなたの神、主の契約とのろいの誓いとにあなたが入るためであり、
- 13 先に主があなたに約束されたように、またあなたの父祖、アブラハム、イサク、ヤコブに誓われたように、今日あなたを立ててご自分の民とし、またご自分があなたの神となられるためである。
- 14 しかし私は、ただあなたがたとだけ、この契約とのろいの誓いを結ぶのではない。
- 15 今日ここで私たちの神、主の前に私たちとともに立っている者たちとも、今日、私たちとともにここにはいない者たちとも結ぶのである。
- 16 事実、あなたがた自身、私たちがエジプトの地に住んでいたこと、また私たちが異邦の民の中を通して来たことをよく知っている。
- 17 また、あなたがたは、彼らのところにあった忌むべきもの、すなわち木や石や銀や金の偶像を見た。
- 18 万が一にも、今日その心が私たちの神、主を離れて、これらの異邦の民の神々のもとに行き、仕えるような男、女、氏族、部族があなたがたのうちにあってはならない。あなたが

たのうちに、毒草や苦よもぎを生じる根があってはならない。

- 19** こののろいの誓いのことばを聞いたとき、心の中で自分を祝福し、「私は自分の頑なな心のままに歩んでも大丈夫だ」と言うなら、潤った者も渴いた者も等しく滅びることになる。
- 20** 主はその者を決して赦そうとはされない。むしろ、そのとき、主の怒りとねたみがその者に対して燃え上がり、この書に記されている、すべてののろいの誓いがその者の上にのしかかり、主はその者の名を天の下から消し去られる。
- 21** 主は、このみおしえの書に記されている契約の、すべてののろいの誓いにしたがって、その者をイスラエルの全部族から選り分けて、わざわいを下される。
- 22** 後の世代、あなたがたの後に起こるあなたがたの子孫や、遠くの地から来る異国人は、その地の災害と、主がそこで起こされた病気を見て言うであろう。
- 23** その全土は硫黄と塩によって焼け土となり、種も蒔かれず、芽も出ず、草一本も生えなくなっていて、主が怒りと憤りでくつがえされた、ソドム、ゴモラ、アデマ、ツェボイムの破滅のようなので、
- 24** すべての国々は言うであろう。「何のために、主はこの地にこのようなことをされたのか。この激しい燃える怒りは何なのか。」
- 25** 人々は言うであろう。「それは彼らが、彼らの父祖の神、主が彼らをエジプトの地から導き出したときに結ばれた契約を捨て、
- 26** 彼らの知らない、また彼らに割り当てられたのでもない、ほかの神々のもとに行って仕え、それらを拝んだからだ。
- 27** それで主の怒りがこの地に向かって燃え上がり、この書に記されたすべてののろいが、この地にもたらされたのだ。
- 28** 主は怒りと憤りと激怒をもって彼らをこの地から根こそぎにし、ほかの地に彼らを投げ捨てられた。今日のとおりに。」
- 29** 隠されていることは、私たちの神、主のものである。しかし現されたことは永遠に私たちと私たちの子孫のものであり、それは私たちがこのみおしえのすべてのことばを行うためである。

第30章

- 1 私があなたの前に置いた祝福とのろい、これらすべてのことがあなたに臨み、あなたの神、主があなたをそこへ追い散らしたすべての国々の中で、あなたが我に返し、
- 2 あなたの神、主に立ち返り、私が今日あなたに命じるとおりに、あなたも、あなたの子もたちも、心を尽くし、いのちを尽くし、御声に聞き従うなら、
- 3 あなたの神、主はあなたを元どおりにし、あなたをあわれみ、あなたの神、主があなたを散らした先の、あらゆる民の中から、再びあなたを集められる。
- 4 たとえ、あなたが天の果てに追いやられていても、あなたの神、主はそこからあなたを集め、そこからあなたを連れ戻される。
- 5 あなたの神、主はあなたの先祖が所有していた地にあなたを導き入れ、あなたはそれを所有する。主はあなたを幸せにし、先祖たちよりもその数を増やされる。
- 6 あなたの神、主は、あなたの心と、あなたの子孫の心に割礼を施し、あなたが心を尽くし、いのちを尽くして、あなたの神、主を愛し、そうしてあなたが生きるようにされる。
- 7 あなたの神、主はあなたの敵に、あなたを迫害した、あなたを憎む者たちに、これらすべてののろいを下される。
- 8 あなたは再び主の御声に聞き従い、私が今日あなたに命じる主のすべての命令を行うようになる。
- 9 あなたの神、主はあなたのすべての手のわざ、あなたの胎の実、家畜が産むもの、大地の実りを豊かに与えて、あなたを栄えさせてくださる。まことに主は、あなたの父祖たちを喜ばれたように、再び、あなたを栄えさせて喜ばれる。
- 10 これは、あなたが、あなたの神、主の御声に聞き従い、このみおしえの書に記されている主の命令と掟を守り、心のすべて、たましいのすべてをもって、あなたの神、主に立ち返るからである。
- 11 まことに、私が今日あなたに命じるこの命令は、あなたにとって難しすぎるものではなく、遠くかけ離れたものでもない。
- 12 これは天にあるわけではないので、「だれが私たちのために天に上り、それを取って来て、私たちが行えるように聞かせてくれるのか」と言わなくてよい。
- 13 また、これは海のかなたにあるわけではないので、「だれが私たちのために海のかなたに渡り、それを取って来て、私たちが行えるように聞かせてくれるのか」と言わなくてよい。
- 14 まことに、みことばは、あなたのすぐ近くにあり、あなたの口にあり、あなたの心において、あなたはこれを行うことができる。
- 15 見よ、私は確かに今日あなたの前に、いのちと幸い、死とわざわいを置く。
- 16 もしあなたが、私が今日あなたに命じる命令に聞き、あなたの神、主を愛し、主の道に歩み、主の命令と掟と定めを守るなら、あなたは生きて数を増やし、あなたの神、主は、あなたが入って行って所有しようとしている地で、あなたを祝福される。

- 17** しかし、もしあなたが心を背け、聞き従わず、誘惑されてほかの神々を拝み、これに仕えるなら、
- 18** 今日、私はあなたがたに宣言する。あなたがたは必ず滅び失せる。あなたがヨルダン川を渡り、入って行って所有しようとしているその土地で、あなたの日々が長く続くことはない。
- 19** 私は今日、あなたがたに対して天と地を証人に立てる。私は、いのちと死、祝福とのろいをあなたの前に置く。あなたはいのちを選びなさい。あなたもあなたの子孫も生き、
- 20** あなたの神、主を愛し、御声に聞き従い、主にすぐるためである。まことにこの方こそあなたのいのちであり、あなたの日々は長く続く。あなたは、主があなたの父祖、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓われたその土地の上に住むことになる。

第31章

- 1 それからモーセは行って、次のことばをイスラエル全体に告げて、
- 2 彼らに向かって言った。「私は今日、百二十歳だ。もう出入りすることができない。主は私に『あなたはこのヨルダン川を渡ることはできない』と言われた。
- 3 あなたの神、主ご自身があなたに先立って渡って行き、この方があなたの前からこれらの国々を根絶やしにされ、あなたはこれらを占領する。ヨシュアが、主が告げられたように、あなたに先立って渡るのだ。
- 4 主は、主が根絶やしにした、アモリ人の王シホンとオグおよび彼らの国に対して行ったように、彼らに対しても行われる。
- 5 主は彼らをあなたがたに渡される。あなたがたは、私が命じたすべての命令どおり、彼らに行わなければならない。
- 6 強くあれ。雄々しくあれ。彼らを恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、主ご自身があなたとともに進まれるからだ。主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。」
- 7 それからモーセはヨシュアを呼び寄せ、全イスラエルの目の前で彼に言った。「強くあれ。雄々しくあれ。主がこの民の父祖たちに与えると誓われた地に、彼らとともに入るのはあなたであり、それを彼らに受け継がせるのもあなたである。
- 8 主ご自身があなたに先立って進まれる。主があなたとともにおられる。主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。恐れてはならない。おののいてはならない。」
- 9 モーセはこのみおしえを書き記し、主の契約の箱を運ぶレビ族の祭司たちと、イスラエルのすべての長老たちにこれを与えた。
- 10 モーセは彼らに命じた。「七年の終わりごとに、すなわち免除の年の定めの時、仮庵の祭りに、
- 11 イスラエル全体が、主が選ばれる場所に、あなたの神、主の前に出るためにやって来たとき、あなたはイスラエル全体の前で、彼らの耳にこのみおしえを読んで聞かせなければならない。
- 12 民を、男も女も子どもも集めなさい。あなたの町囲みの中にいる寄留者も。彼らがこれを聞いて学び、あなたがたの神、主を恐れ、このみおしえのすべてのことばを守り行うようにするためである。
- 13 これを知らない、彼らの子どもたちもこれを聞き、あなたがたがヨルダン川を渡って所有しようとしている地で、彼らが生きるかぎり、あなたがたの神、主を恐れることを学ばなければならない。」
- 14 それから主はモーセに言われた。「今や、あなたの死ぬ日が近づいている。ヨシュアを呼び寄せ、あなたがたは会見の天幕に立て。わたしは彼に命令を下そう。」モーセとヨシュアは行って、会見の天幕に立った。
- 15 主は天幕で雲の柱のうちに現れた。雲の柱は天幕の入り口にとどまった。

- 16 主はモーセに言われた。「見よ、あなたは間もなく先祖とともに眠りにつこうとしている。この民は入って行こうとしている地の異国の神々を慕い、自分たちのうちで淫行を行い、わたしを捨てて、わたしがこの民と結んだわたしの契約を破る。
- 17 その日、わたしの怒りはこの民に対して燃え上がり、わたしも彼らを捨て、わたしの顔を彼らから隠す。彼らが焼き尽くされ、多くのわざわいと苦難が彼らに降りかかると、その日この民は、『これらのわざわいが私たちに降りかかるのは、私たちのうちに私たちの神がおられないからではないか』と言う。
- 18 わたしはその日、彼らが行ったすべての悪のゆえに必ずわたしの顔を隠す。彼らがほかの神々の方に向かったからである。
- 19 今、次の歌を書き記し、それをイスラエルの子らに教え、彼らの口にそれを置け。この歌をイスラエルの子らに対するわたしの証しとするためである。
- 20 わたしが彼らを、彼らの父祖たちに誓った乳と蜜の流れる土地に導き入れるとき、彼らは食べて満ち足り、肥え太り、そして、ほかの神々の方に向かってこれに仕え、わたしを侮ってわたしの契約を破る。
- 21 多くのわざわいと苦難が降りかかるとき、この歌が彼らに対して証しをする。彼らの子孫の口からそれが忘れられることはないからである。わたしが誓った地に彼らを導き入れる以前から、彼らが今しようとしている計画を、わたしはよく知っているからである。」
- 22 モーセは、その日、この歌を書き記してイスラエルの子らに教えた。
- 23 それから主はヌンの子ヨシュアに命じられた。「強くあれ。雄々しくあれ。あなたはイスラエルの子らを、わたしが彼らに誓った地に導き入れるのだ。わたしが、あなたとともにいる。」
- 24 モーセがこのみおしえのことばを、その最後まで書物に書き終えたとき、
- 25 モーセは主の契約の箱を運ぶレビ人に命じた。
- 26 「このみおしえの書を取り、あなたがたの神、主の契約の箱のそばに置きなさい。その場所で、あなたに対する証しとしなさい。
- 27 私は、あなたがどれほど逆らう者であるか、うなじを固くする者であるかをよく知っている。見よ。私があなたがたとともに生きている今でさえ、あなたがたは主に逆らってきた。私の死後は、なおさらであろう。
- 28 あなたがたの部族の長老たちと、つかさたちをみな、私のもとに集めなさい。私はこれらのことばを彼らに聞こえるように語ろう。私は天と地を彼らに対する証人に立てる。
- 29 私の死後、あなたがたがきっと墮落して、私があなたがたに命じた道から外れること、また、後の日に、わざわいがあなたがたに降りかかることを私はよく知っているからだ。それは、あなたがたが主の目に悪であることを行い、あなたがたの手のわざによって主の怒りを引き起こすからである。」
- 30 モーセはイスラエルの集会全体に聞こえるように、次の歌のことばを終わりまで唱えた。

第32章

- 1 天よ、耳を傾けよ。私は語ろう。地よ、聞け。私の口のことばを。
- 2 私のおしえは雨のように下り、私のことばは露のように滴る。若草の上の小雨のように。青草の上の夕立のように。
- 3 まことに私は主の御名を告げ知らせる。栄光を私たちの神に帰せよ。
- 4 主は岩。主のみわざは完全。まことに主の道はみな正しい。主は真実な神で偽りがなく、正しい方、直ぐな方である。
- 5 自分の汚れで主との交わりを損なう、主の子らではない、よこしまで曲がった世代。
- 6 あなたがたはこのようにして主に恩を返すのか。愚かで知恵のない民よ。主はあなたを造った父ではないか。主はあなたを造り上げ、あなたを堅く立てた方ではないか。
- 7 昔の日々を思い出し、代々の年を思え。あなたの父に問え。彼はあなたに告げ知らせる。長老たちに問え。彼らはあなたに話す。
- 8 いと高き方が、国々に相続地を持たせ、人の子らを割り振られたとき、イスラエルの子らの数にしたがって、もろもろの民の境を決められた。
- 9 主は、測り縄で割り当て地を定められた。ご自分の民、ヤコブへのゆずりの地を。
- 10 主は荒野の地で、荒涼とした荒れ地で彼を見つけ、これを抱き、世話をし、ご自分の瞳のように守られた。
- 11 鷺が巢のひなを呼び覚まし、そのひなの上を舞い、翼を広げてこれを取り、羽に乗せて行くように。
- 12 ただ主だけでこれを導き、主とともに異国の神はいなかった。
- 13 主はこれを地の高い所に上らせ、野の産物を食べさせた。主は岩からの蜜と 硬い岩からの油でこれを養い、
- 14 牛の凝乳と羊の乳を 最良の子羊とともに、バシヤンのものである雄羊と雄やぎを 小麦の最良のものとともに、与えてくださった。あなたは泡立つぶどう酒を飲んだ。
- 15 エシュルンは肥え太ったとき、足で蹴った。あなたは肥え太り、頑丈でつややかになり、自分を造った神を捨て、自分の救いの岩を軽んじた。
- 16 彼らは異なる神々で主のねたみを引き起こし、忌み嫌うべきもので、主の怒りを燃えさせた。
- 17 彼らは、神ではない悪霊どもに いけにえを献げた。彼らの知らなかった神々に、近ごろ出て来た新しい神々、先祖が恐れもしなかった神々に。
- 18 あなたは自分を生んだ岩をおろそかにし、産みの苦しみをした神を忘れてしまった。
- 19 主は見て、彼らを突き放された。主の息子と娘たちへの怒りゆえに。
- 20 主は言われた。「わたしの顔を彼らから隠し、彼らの終わりがどうなるかを見よう。彼らは、ねじれた世代、真実のない子らであるから。
- 21 彼らは、神でないもので わたしのねたみを引き起こし、彼らの空しいもので わたしの怒りを燃えさせた。わたしも、民でない者たちで 彼らのねたみを引き起こし、愚かな国民で 彼らの怒りを燃えさせる。

- 22 火はわたしの怒りで燃え上がり、よみの底まで燃えていく。地とその産物を焼き尽くし、山々の基まで焼き払う。
- 23 わたしはわざわいを彼らの上に積み重ね、わたしの矢を彼らに向けて射尽くす。
- 24 飢えによる荒廃、災害による壊滅、激しい悪疫、野獣の牙、これらを、地を這う蛇の毒とともに彼らに送る。
- 25 外では剣が子を失わせ、内には恐怖がある。若い男にも若い女にも、乳飲み子も白髪の老人にも。
- 26 わたしは思った。彼らを一掃し、人々から彼らの記憶を消してしまおうと。
- 27 もしも、わたしが敵のののしりを 気かけなかったら― 彼らを苦しめる者どもが誤解してはいけない。『われわれの手で勝ったのだ。これはみな、主がしたことではない』と言うといけない。」
- 28 まことに彼らは思慮の欠けた国民、彼らのうちに英知はない。
- 29 もしも知恵があったなら、彼らはこれを悟ったであろうに。自分の終わりもわきまえたであろうに。
- 30 彼らの岩が彼らを売らず、主が彼らを引き渡されなかったなら、どのようにして一人が千人を追ひ、二人が万人を敗走させたであろうか。
- 31 まことに彼らの岩は私たちの岩に及ばない。敵もこれを認めている。
- 32 まことに彼らのぶどうの木は、ソドムのぶどうの木から、ゴモラのぶどう畑からのもの。彼らのぶどうは毒ぶどう。その房は苦い。
- 33 そのぶどう酒は蛇の毒、コブラの恐ろしい毒。
- 34 「これはわたしのもとに蓄えてあり、わたしの倉に封じ込められているではないか。
- 35 復讐と報復はわたしのもの。それは彼らの足がよろめくときのため。彼らのわざわいの日は近く、来たるべき時が速やかに来る。」
- 36 主は御民をかばい、主のしもべらをあわれまれる。彼らの力が去り、奴隷も自由の者もいなくなるのをご覧になって。
- 37 主は言われる。「彼らの神々はどこにいるのか。彼らが身を避けた岩はどこにあるのか。
- 38 彼らのいけにえの脂肪を食らい、注ぎのぶどう酒を飲んだ者どもは どこにいるのか。彼らを立たせて、あなたがたを助けさせ、あなたがたの隠れ場とならせよ。
- 39 今、見よ、わたし、わたしこそがそれである。わたしのほかに神はいない。わたしは殺し、また生かす。わたしは傷つけ、また癒やす。わたしの手からは、だれも救い出せない。
- 40 まことに、わたしは誓って言う。『わたしは永遠に生きる。
- 41 わたしが、きらめく剣を研ぎ、手にさばきを握るとき、わたしは敵に復讐をし、わたしを憎む者たちに報いる。
- 42 わたしの矢を血に酔わせ、わたしの剣に肉を食わせる。刺し殺された者や捕らわれ人の血に酔わせ、敵のかしらたちの首を食わせる。』」
- 43 国々よ、御民のために喜び歌え。主がご自分のしもべの血に報復し、ご自分の敵に復讐を遂げて、ご自分の民とその地のために宥めを行われる。

- 44 モーセはヌンの子ホセアと一緒に行って、この歌のすべてのことばを民の耳に語り聞かせた。
- 45 モーセはイスラエル全体にこのことばをみな語り終えて、
- 46 彼らに言った。「あなたがたは、私が今日あなたがたを戒める、このすべてのことばを心にとどめなさい。それをあなたがたの子どもたちに命じて、このみおしえのすべてのことばを守り行わせなさい。
- 47 これは、あなたがたにとって空虚なことばではなく、あなたがたのいのちであるからだ。このことばによって、ヨルダン川を渡って行って所有しようとしているその土地で、あなたの日々が長く続くことになる。」
- 48 この同じ日に主はモーセに告げられた。
- 49 「エリコの向かいにあるモアブの地の、このアバリム高地のネボ山に登り、わたしがイスラエルの子らに与えて所有させようとしているカナンの地を見よ。
- 50 あなたの兄弟アロンがホル山で死んで、その民に加えられたように、あなたも、これから登るその山で死に、あなたの民に加えられる。
- 51 それは、あなたがたがツィンの荒野のメリバテ・カデシュの水のほとりで、イスラエルの子らの間でわたしの信頼を裏切り、イスラエルの子らの間で、わたしを聖なる者としなかったからである。
- 52 あなたは、わたしがイスラエルの子らに与えようとしている地を目の前に見るが、その地へ入って行くことはできない。」

第33章

- 1 次は神の人モーセが、その死を前にしてイスラエルの子らを祝福した、祝福のことばである。
- 2 彼は言った。「主はシナイから来て、セイルから彼らを照らし、パランの山から光を放ち、幾万もの聖なる者のところから近づいて来られる。その右手に彼らの御使いたちを伴って。
- 3 まことに、あなたはもろもろの民を愛する方、御手のうちにすべての聖なる者がいる。彼らはあなたの足もとにひれ伏し、あなたの御告げを受ける。
- 4 みおしえはモーセが私たちに命じ、それをヤコブの会衆の所有とした。
- 5 民のかしらたちがイスラエルの部族とともに集まったとき、主はエシュルンで王となられた。」
- 6 「ルベンは生きて、死なないように。その人数が少なくても。」
- 7 ユダについては、こう言った。「主よ。ユダの声を聞き、彼をその民のもとに連れ戻してください。彼は自分の手で戦っています。彼の敵の前で助けとなってください。」
- 8 レビについては、こう言った。「あなたのトンミムとウリムを、あなたにある敬虔な者に与えてください。あなたは彼をマサで試み、メリバの水のほとりで彼と争われました。
- 9 彼は自分の父と母について『私は彼らを顧みない』と言い、自分の兄弟も認めず、自分の子さえ知らないとし、ただ、あなたの仰せのことばを守り、あなたの契約から目を離しませんでした。
- 10 彼らはあなたの定めをヤコブに、あなたのみおしえをイスラエルに教えます。彼らはあなたの御前で香をたき、全焼のささげ物をあなたの祭壇に献げます。
- 11 主よ。彼の財産を祝福し、その手のわざを受け入れてください。彼に向かい立つ者の腰を打ち砕き、彼を憎む者たちが立ち上がれないようにしてください。」
- 12 ベニヤミンについては、こう言った。「主に愛されている者。彼は安らかに主のそばに住まい、主はいつも彼をかばう。彼は主の背中に負われる。」
- 13 ヨセフについては、こう言った。「彼の地は主に祝福されたもの。天の賜物の露、下に横たわる大いなる水の賜物、
- 14 太陽がもたらす賜物、月が生み出す賜物、
- 15 いにしえの山々からの最上のもの、永遠の丘からの賜物、
- 16 地とそこに満ちているものの賜物、柴の茂みの中におられた方の恵み、これらがヨセフの頭の上に、その兄弟たちの中から選り抜かれた者の頭の頂に臨むように。
- 17 彼の牛の初子には威厳があり、その角は野牛の角。これをもって地の果ての果てまで、もろもろの民をことごとく突き倒して行く。このような者がエフライムに幾万、このような者がマナセに幾千。」
- 18 ゼブルンについては、こう言った。「ゼブルンよ、喜べ。あなたが外に出て行くときに。イッサカルよ、あなたは天幕の中で。

- 19 彼らはもろもろの民を山に招き、そこで義のいけにえを献げる。彼らが海の富と、砂に隠されている宝で育まれるからである。」
- 20 ガドについては、こう言った。「ガドの土地を広げる方はほむべきかな。ガドは雌獅子のように伏し、腕や頭の頂をかみ裂く。
- 21 彼は自分のために最良の地を見つけた。そこには指導者の分が割り当てられていたのだ。彼は民の先頭に立ち、主の正義と主の公正をイスラエルのために行った。」
- 22 ダンについては、こう言った。「ダンは獅子の子。バシャンから躍り出る。」
- 23 ナフタリについては、こう言った。「ナフタリは恵みに満ち足り、主の祝福に満ちている。彼は西と南を所有せよ。」
- 24 アシェルについては、こう言った。「アシェルは子らの中で最も祝福されている。その兄弟たちに愛されて、その足を油の中に浸すようになれ。
- 25 あなたのかんぬきは鉄と青銅。あなたの力が、生きるかぎり続くように。」
- 26 「エシュルンよ、神に並ぶ者はほかにない。神はあなたを助けるため天に乗り、威光のうちに雲に乗られる。
- 27 いにしえよりの神は、住まう家。下には永遠の腕がある。神はあなたの前から敵を追い払い、『根絶やしにせよ』と命じられた。
- 28 こうしてイスラエルは安らかに住まい、ヤコブの泉だけが穀物と新しいぶどう酒の地を満たす。天も露を滴らす。
- 29 幸いなイスラエルよ、だれがあなたのような、主に救われた民であろうか。主はあなたを助ける盾、あなたの勝利の剣。敵はあなたに屈し、あなたは彼らの背を踏みつける。」

第34章

- 1 モーセはモアブの草原からネボ山、すなわち、エリコの向かいにあるピスガの頂に登った。主は彼に次の全地方をお見せになった。ギルアデをダンまで、
- 2 ナフタリの全土、エフライムとマナセの地、ユダの全土を西の海まで、
- 3 ネゲブと低地を、すなわち、なつめ椰子の町エリコの平地をツォアルまで。
- 4 そして主は彼に言われた。「わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに『あなたの子孫に与える』と誓った地はこれである。わたしはこれをあなたの目に見せたが、あなたがそこへ渡って行くことはできない。」
- 5 こうしてその場所で、主のしもべモーセは主の命によりモアブの地で死んだ。
- 6 主は彼を、ベテ・ペオルの向かいにあるモアブの地の谷に葬られたが、今日に至るまで、その墓を知る者はいない。
- 7 モーセが死んだときは百二十歳であったが、彼の目はかすまず、気力も衰えていなかった。
- 8 イスラエルの子らはモアブの草原で三十日間、モーセのために泣き悲しんだ。こうして、モーセのために泣き悲しむ喪の期間は終わった。
- 9 ヌンの子ヨシュアは知恵の霊に満たされていた。モーセがかつて彼の上にその手を置いたからである。イスラエルの子らは彼に聞き従い、主がモーセに命じられたとおりに行った。
- 10 モーセのような預言者は、もう再びイスラエルには起こらなかった。彼は、主が顔と顔を合わせて選び出したのであった。
- 11 それは、主が彼をエジプトの地に遣わして、ファラオとそのすべての家臣たち、およびその全土に対して、あらゆるしるしと不思議を行わせるためであり、
- 12 また、モーセが全イスラエルの目の前で、あらゆる力強い権威と、あらゆる恐るべき威力をふるうためであった。

ヨシュア記

Joshua

第1章

- 1 主のしもべモーセの死後、主はモーセの従者、ヌンの子ヨシュアに告げられた。
- 2 「わたしのしもべモーセは死んだ。今、あなたとこの民はみな、立ってこのヨルダン川を渡り、わたしがイスラエルの子らに与えようとしている地に行け。
- 3 わたしがモーセに約束したとおり、あなたがたが足の裏で踏む場所はことごとく、すでにあなたがたに与えている。
- 4 あなたがたの領土は荒野からあのレバノン、そしてあの大河ユーフラテス川まで、ヒッタイト人の全土、日の入る方の大海までとなる。
- 5 あなたの一生の間、だれ一人としてあなたの前に立ちはだかる者はいない。わたしはモーセとともにいたように、あなたとともにいる。わたしはあなたを見放さず、あなたを見捨てない。
- 6 強くあれ。雄々しくあれ。あなたはわたしが父祖たちに与えると誓った地を、この民に受け継がせなければならないからだ。
- 7 ただ強くあれ。雄々しくあれ。わたしのしもべモーセがあなたに命じた律法のすべてを守り行うためである。これを離れて、右にも左にもそれてはならない。あなたが行くところどこでも、あなたが栄えるためである。
- 8 このみおしえの書をあなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさめ。そのうちに記されていることすべてを守り行うためである。そのとき、あなたは自分がすることで繁栄し、そのとき、あなたは栄えるからである。
- 9 わたしはあなたに命じたではないか。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたが行くところどこでも、あなたの神、主があなたとともにおられるのだから。」
- 10 ヨシュアは民のつかさたちに命じた。
- 11 「宿営の中を巡って、民に命じなさい。『食糧を準備しなさい。三日のうちに、あなたがたはこのヨルダン川を渡るからだ。あなたがたの神、主があなたがたに与えて所有させようとしておられる地を占領するために、あなたがたは進むのだ。』」
- 12 その一方で、ルベン人、ガド人、およびマナセの半部族にヨシュアは言った。
- 13 「主のしもべモーセがあなたがたに命じて、『あなたがたの神、主はあなたがたに安息を与え、この地を与えようとしておられる』と言ったことばを思い出しなさい。
- 14 あなたがたの妻子たちと家畜は、モーセがあなたがたに与えた、このヨルダンの川向こうにとどまりなさい。しかし、あなたがた勇士はみな、隊列を組み、あなたがたの兄弟たちより先に渡って行って、彼らを助けなければならない。
- 15 主があなたがたの兄弟たちにも、あなたがたと同様に安息を与え、彼らもあなたがたの神、主が与えようとしておられる地を所有したら、あなたがたは主のしもべモーセがあなたがたに与えた、このヨルダンの川向こう、日の出る方にある自分たちの所有の地に帰り、それを所有することができる。」

- 16** 彼らはヨシュアに答えた。「あなたが私たちに命じたことは、何でも行います。あなたが遣わすところには、どこでも参ります。
- 17** 私たちは、あらゆる点でモーセに聞き従ったように、あなたに聞き従います。どうかあなたの神、主が、モーセとともにおられたように、あなたとともにおられますように。
- 18** あなたの命令に逆らい、あなたが私たちに命じることばに聞き従わない者はみな、殺されなければなりません。あなたは、ただ強く雄々しくあってください。」

第2章

- 1 ヌンの子ヨシュアは、シティムから、ひそかに二人の者を偵察として遣わして言った。
「さあ、あの地とエリコを見て来なさい。」彼らは行って、ラハブという名の遊女の家に入り、そこに泊まった。
- 2 ある人がエリコの王に、「イスラエル人の数名の男たちが今夜、この地を探ろうとして入って来ました」と告げた。
- 3 それで、エリコの王はラハブのところに人を遣わして言った。「おまえのところに来て、おまえの家に入った者たちを出せ。その者たちは、この地のすべてを探ろうとしてやって来たのだから。」
- 4 ところが、彼女はその二人をかくまって言った。「そうです。その人たちは私のところに来ました。でも、どこから来たのか、私は知りません。
- 5 暗くなって門が閉じられるころ、その人たちは出て行きました。どこへ行ったのか、私は知りません。急いで彼らを追ってごらんください。追いつけるかもしれません。」
- 6 彼女は二人を屋上へ上がらせ、屋上に積んであった亜麻の茎の中におおい隠していた。
- 7 追っ手たちはヨルダン川の道をたどり、渡し場までその人たちを追って行った。門は、彼らを追う追っ手たちが出て行くと、すぐに閉じられた。
- 8 二人がまだ寝ないうちに、彼女は屋上の彼らのところへ上がり、
- 9 彼らに言った。「主がこの地をあなたがたに与えておられること、私たちがあなたがたに対する恐怖に襲われていること、そして、この地の住民がみな、あなたがたのために震えおののいていることを、私はよく知っています。
- 10 あなたがたがエジプトから出て来たとき、主があなたがたのために葦の海の水を涸らされたこと、そして、あなたがたが、ヨルダンの川向こうにいたアモリ人の二人の王シホンとオグにしたこと、二人を聖絶したことを私たちは聞いたからです。
- 11 私たちは、それを聞いたとき心が萎えて、あなたがたのために、だれもが氣力を失ってしまいました。あなたがたの神、主は、上は天において、下は地において、神であられるからです。
- 12 今、主にかけて私に誓ってください。私はあなたがたに誠意を尽くしたのですから、あなたがたもまた、私の父の家に誠意を尽くし、私に確かなしるしを与え、
- 13 私の父、母、兄弟、姉妹、また、これに属するものをすべて生かして、私たちのいのちを死から救い出す、と誓ってください。」
- 14 二人は彼女に言った。「私たちはあなたがたに自分のいのちをかけて誓う。あなたがたが私たちのことをだれにも告げないなら、主が私たちにこの地を与えてくださるとき、あなたがたに誠意と真実を尽くそう。」
- 15 そこで、ラハブは綱で窓から彼らをつり降ろした。彼女の家は城壁に建て込まれていて、彼女はその城壁の中に住んでいた。
- 16 彼女は二人に言った。「山地の方へ行ってください。追っ手たちがあなたがたに出くわすといけませんから。彼らが引き揚げるまで、三日間そこに身を隠していてください。その

後で、あなたがたが行く道を行かれたらよいでしょう。」

- 17 二人は彼女に言った。「もしこのようにあなたが行わないなら、あなたが私たちに誓わせた、あなたへのこの誓いから私たちは解かれます。」
- 18 見なさい、私たちはこの地に入ってきて来ます。私たちをつり降ろした窓に、この赤いひもを結び付けておきなさい。あなたの父、母、兄弟、そして、あなたの一族全員をあなたの家に集めておきなさい。
- 19 あなたの家の戸口から外に出る者がいれば、その人の血はその人自身の頭上に降りかかり、私たちに罪はありません。しかし、あなたと一緒に家の中にいる者のだれにでも手が下されたなら、その人の血は私たちの頭上に降りかかります。
- 20 だが、もしあなたが私たちの、このことをだれかに告げるなら、あなたが私たちに誓わせた、あなたへの誓いから私たちは解かれます。」
- 21 彼女は「おことばどおりにしましょう」と言い、二人を送り出した。彼らは去り、彼女は窓に赤いひもを結んだ。
- 22 彼らはそこを去って山地の方へ行き、追っ手たちが引き揚げるまで、三日そこにとどまった。追っ手たちは道中くまなく捜したが、彼らは見つからなかった。
- 23 二人は帰途についた。山地から下り、川を渡り、ヌンの子ヨシュアのところに来て、その身に起こったことをことごとく彼に話した。
- 24 彼らはヨシュアに言った。「主はあの地をことごとく私たちの手にお与えになりました。確かに、あの地の住民はみな、私たちのゆえに震えおののいています。」

第3章

- 1 ヨシュアは翌朝早く起き、すべてのイスラエルの子らとともにシティムを旅立ち、ヨルダン川のところまで来て、それを渡る前にそこに泊まった。
- 2 三日後、つかさたちは宿営の中を巡り、
- 3 民に命じた。「あなたがたの神、主の契約の箱を見、さらにレビ人の祭司たちがそれを担いでいるのを見たら、自分のいる場所を出発して、その後を進みなさい。
- 4 あなたがたが行くべき道を知るためである。あなたがたは今まで、この道を通ったことがないからだ。ただし、あなたがたと箱の間に二千キュビトほどの距離をおけ。箱に近づいてはならない。」
- 5 ヨシュアは民に言った。「あなたがたは自らを聖別しなさい。明日、主があなたがたのただ中で不思議を行われるから。」
- 6 ヨシュアは祭司たちに「契約の箱を担ぎ、民の先頭に立って渡りなさい」と命じた。そこで彼らは契約の箱を担ぎ、民の先頭に立って進んだ。
- 7 主はヨシュアに告げられた。「今日から全イスラエルの目の前で、わたしはあなたを大いなる者とする。わたしがモーセとともにいたように、あなたとともにいることを彼らが知るためである。
- 8 あなたは契約の箱を担ぐ祭司たちに『ヨルダン川の水際に来たら、ヨルダン川の中に立ち続けよ』と命じよ。」
- 9 ヨシュアはイスラエルの子らに言った。「ここに来て、あなたがたの神、主のことばを聞きなさい。」
- 10 ヨシュアは言った。「生ける神があなたがたの中にいて、自分たちの前からカナン人、ヒッタイト人、ヒビ人、ペリジ人、ギルガシ人、アモリ人、エブス人を必ず追い払われることを、あなたがたは次のことで知るようになる。
- 11 見よ。全地の主の契約の箱が、あなたがたの先頭に立ってヨルダン川を渡ろうとしている。
- 12 今、部族ごとに一人ずつ、イスラエルの部族から十二人を取りなさい。
- 13 全地の主である主の箱を担ぐ祭司たちの足の裏が、ヨルダン川の水の中にとどまるとき、ヨルダン川の水は、川上から流れ下る水がせき止められ、一つの堰となって立ち止まる。」
- 14 民がヨルダン川を渡ろうとして彼らの天幕から出発したとき、契約の箱を担ぐ祭司たちは民の先頭にいた。
- 15 箱を担ぐ者たちがヨルダン川まで来たとき、ヨルダン川は刈り入れの期間中で、どこの川岸にも水があふれていた。ところが、箱を担ぐ祭司たちの足が水際の水に浸ると、
- 16 川上から流れ下る水が立ち止まった。一つの堰が、はるかかなた、ツアレタンのそばにある町アダムで立ち上がり、アラバの海、すなわち塩の海へ流れ下る水は完全にせき止められて、民はエリコに面したところを渡った。

- 17** 主の契約の箱を担ぐ祭司たちは、ヨルダン川の真ん中の乾いたところにしっかりと立ち止まった。イスラエル全体は乾いたところを渡り、ついに民全員がヨルダン川を渡り終えた。

第4章

- 1 民全員がヨルダン川を渡り終えると、主はヨシュアに告げられた。
- 2 「民の中から部族ごとに一人ずつ十二人を取り、
- 3 その者たちに命じよ。『ヨルダン川の真ん中、祭司たちが足をしっかりととどめたその場所から十二の石を取り、それらを携えて渡り、あなたがたが今夜泊まる宿営地に据えよ。』」
- 4 そこでヨシュアは、イスラエルの子らの中から部族ごとに一人ずつ、あらかじめ任命しておいた十二人を呼び出した。
- 5 ヨシュアは彼らに言った。「あなたがたの神、主の箱の前、ヨルダン川の真ん中へ渡って行き、イスラエルの子らの部族の数に合わせて各自が石を一つ、その肩に担ぎなさい。
- 6 それがあなたがたの中で、しるしとなるようにするためだ。後になって、あなたがたの子どもたちが『この石はどういうものなのですか』と尋ねたとき、
- 7 あなたがたは彼らにこう言いなさい。『ヨルダン川の水が主の契約の箱の前でせき止められたのだ。箱がヨルダン川を渡るとき、ヨルダン川の水はせき止められた。この石はイスラエルの子らにとって永久に記念となるのだ。』」
- 8 イスラエルの子らはヨシュアが命じたとおりにした。主がヨシュアに告げられたとおり、イスラエルの部族の数に合わせて、ヨルダン川の真ん中から十二の石を取り、宿営地に携えて行って、そこに据えた。
- 9 これらの十二の石はヨルダン川の真ん中で、契約の箱を担いだ祭司たちが足をとどめた場所にあったもので、ヨシュアがそれらを積み上げたのである。それらは今日までそこにある。
- 10 箱を担ぐ祭司たちは、民に告げるようにと主がヨシュアに命じられたことがすべて終わるまで、ヨルダン川の真ん中に立ち続けていた。すべてモーセがヨシュアに命じたとおりである。その間に民は急いで渡った。
- 11 民全員が渡り終えた後、民が見ている前で主の箱と祭司たちが渡った。
- 12 ルベン人とガド人と、マナセの半部族は、モーセが彼らに告げたとおり、隊列を組んでイスラエルの子らの先頭を進んで行った。
- 13 このようにして、武装した約四万の軍勢は主の前を、戦いのためにエリコの草原へと進んで行った。
- 14 その日、主は全イスラエルの目の前で、ヨシュアを大いなる者とされた。それで彼らは、モーセを恐れたように、ヨシュアをその一生の間、恐れた。
- 15 主はヨシュアに告げられた。
- 16 「ヨルダン川から上がって来るよう、あかしの箱を担ぐ祭司たちに命じよ。」
- 17 それでヨシュアは祭司たちに「ヨルダン川から上がって来なさい」と命じた。
- 18 主の契約の箱を担ぐ祭司たちがヨルダン川の真ん中から上がって来て、祭司たちの足の裏が水際の乾いた陸地に上がったとき、ヨルダン川の水は元の場所に帰り、以前のように、川岸いっぱい満ちて流れた。

- 19** さて、民は第一の月の十日にヨルダン川から上がって、エリコの東の境にあるギルガルに宿営した。
- 20** ヨシュアは、ヨルダン川から取ったあの十二の石をギルガルに積み上げ、
- 21** イスラエルの子らに言った。「後になって、あなたがたの子どもたちがその父たちに『この石はどういうものなのですか』と尋ねたときには、
- 22** あなたがたは子どもたちに『イスラエルは乾いた地面の上を歩いて、このヨルダン川を渡ったのだ』と知らせなさい。
- 23** あなたがたの神、主が、あなたがたが渡り終えるまで、あなたがたのためにヨルダン川の水を涸らしてくださったからだ。このことは、あなたがたの神、主が葦の海になさったこと、すなわち、私たちが渡り終えるまで、私たちのためにその海を涸らしてくださったのと同じである。
- 24** それは、地のあらゆる民が主の手が強いことを知るためであり、あなたがたがいつも、自分たちの神、主を恐れるためである。」

第5章

- 1 ヨルダン川の反対側、すなわち西側にいるアモリ人のすべての王たちと、海沿いにいるカナン人のすべての王たちは、主がイスラエル人の前で、彼らが渡り終えるまでヨルダン川の水を涸らしたことを聞くと、心が萎え、イスラエル人のゆえに氣力を失ってしまった。
- 2 そのとき、主はヨシュアに告げられた。「火打石の小刀を作り、もう一度イスラエルの子らに割礼を施せ。」
- 3 ヨシュアは自ら火打石の小刀を作り、ギブアテ・ハ・アラロテでイスラエルの子らに割礼を施した。
- 4 ヨシュアが割礼を施した理由はこうである。エジプトを出たすべての民のうち男子、すなわち戦士たちはすべて、エジプトを出てから途中で荒野で死んだ。
- 5 出て来た民はみな割礼を受けていたが、エジプトを出てから途中で荒野で生まれた民はみな、割礼を受けていなかった。
- 6 イスラエルの子らは四十年間荒野を歩き回り、その間に民全体が、すなわちエジプトを出た戦士たち全員が、死に絶えてしまったからである。彼らが主の御声に聞き従わなかったので、私たちに与えると主が彼らの父祖たちに誓った地、乳と蜜の流れる地を、主は彼らには見せないと誓われたのである。
- 7 そして、息子たちを彼らに代わって起こされた。ヨシュアは彼らに割礼を施したのである。彼らが途中で割礼を受けておらず、無割礼だったからである。
- 8 民はみな割礼を受けると、傷が治るまで宿営の自分たちのところにとどまった。
- 9 主はヨシュアに告げられた。「今日、わたしはエジプトの恥辱をあなたがたから取り除いた。」それで、その場所の名はギルガルと呼ばれた。今日もそうである。
- 10 イスラエルの子らはギルガルに宿営し、その月の十四日の夕方、エリコの草原で過越のいけにえを献げた。
- 11 過越のいけにえを献げた翌日、彼らはその地の産物、種なしパンと炒り麦を、その日のうちに食べた。
- 12 マナは、彼らがその地の産物を食べた翌日からやみ、イスラエルの子らがマナを得ることはもうなかった。その年、彼らはカナンの地で収穫した物を食べた。
- 13 ヨシュアがエリコにいたとき、目を上げて見ると、一人の人が抜き身の剣を手に持って彼の前方に立っていた。ヨシュアは彼のところへ歩み寄って言った。「あなたは私たちの味方ですか、それとも敵ですか。」
- 14 彼は言った。「いや、わたしは主の軍の将として、今、来たのだ。」ヨシュアは顔を地に付けて伏し拝み、彼に言った。「わが主は、何をこのしもべに告げられるのですか。」
- 15 主の軍の将はヨシュアに言った。「あなたの足の履き物を脱げ。あなたの立っている所は聖なる場所である。」そこで、ヨシュアはそうにした。

第6章

- 1 エリコはイスラエルの子らの前に城門を堅く閉ざして、出入りする者はいなかった。
- 2 主はヨシュアに告げられた。「見よ、わたしはエリコとその王、勇士たちをあなたの手に渡した。
- 3 あなたがた戦士はみな町の周りを回れ。町の周囲を一周せよ。六日間そのようにせよ。
- 4 七人の祭司たちは七つの雄羊の角笛を手にして、箱の前を進め。七日目には、あなたがたは七回、町の周りを回り、祭司たちは角笛を吹き鳴らせ。
- 5 祭司たちが雄羊の角笛を長く吹き鳴らし、あなたがたがその角笛の音を聞いたら、民はみな大声でときの声をあげよ。そうすれば町の城壁は崩れ落ちる。民はそれぞれ、まっすぐに攻め上れ。」
- 6 ヌンの子ヨシュアは祭司たちに呼びかけた。「契約の箱を担ぎなさい。七人の祭司たちは七つの雄羊の角笛を持ち、主の箱の前を進みなさい。」
- 7 そして民に言った。「進んで行き、町の周りを回りなさい。武装した者たちは主の箱の前を進みなさい。」
- 8 ヨシュアが民にそう言ったとき、七人の祭司たちは、七つの雄羊の角笛を持って主の前を進み、角笛を吹き鳴らした。主の契約の箱はそのうしろを進み、
- 9 武装した者たちは、角笛を吹き鳴らす祭司たちの前を行き、しんがりは角笛を吹き鳴らしながら箱のうしろを進んだ。
- 10 ヨシュアは民に命じた。「あなたがたはときの声をあげてはならない。声を聞かせてはならない。口からことばを出してはならない。『ときの声をあげよ』と私が言うその日に、ときの声をあげよ。」
- 11 こうして主の箱は町の周りを回り、その周囲を一周した。彼らは宿営に帰り、宿営で夜を過ごした。
- 12 翌朝ヨシュアは早く起き、祭司たちは主の箱を担いだ。
- 13 七人の祭司たちは、七つの雄羊の角笛を持って主の箱の前を進み、角笛を吹き鳴らした。武装した者たちは、彼らの先頭に立って行き、しんがりは角笛を吹き鳴らしながら主の箱のうしろを進んだ。
- 14 彼らは二日目も町の周りを一周回り、宿営に帰った。六日間そのようにした。
- 15 七日目、朝早く夜が明けかかるころ彼らは起き、同じようにして町の周りを七周回った。この日だけは町の周りを七周回った。
- 16 七周目に祭司たちが角笛を吹き鳴らしたとき、ヨシュアは民に言った。「ときの声をあげよ。主がこの町をあなたがたに与えてくださったからだ。
- 17 この町とそこにあるすべてのものは主のために聖絶せよ。遊女ラハブと、その家にもにいる者たちだけは、みな生かしておけ。彼女は私たちが送った使いたちをかくまってくれたからだ。
- 18 あなたがたは聖絶の物には手を出すな。あなたがた自身が聖絶されないようにするため、すなわち、聖絶の物の一部を取ってイスラエルの宿営を聖絶の物とし、これにわざわざい

もたらさないようにするためである。

- 19 ただし、銀や金、および青銅や鉄の器はすべて主のために聖別されたものである。それらは主の宝物倉に入れよ。」
- 20 民はときのをあげ、祭司たちは角笛を吹き鳴らした。角笛の音を聞いて民が大声でときのをあげると、城壁は崩れ落ちた。そこで民はそれぞれ、まっすぐに攻め上り、その町を攻め取り、
- 21 町のものをすべて、男も女も若者も年寄りも、また牛、羊、ろばも剣の刃で聖絶した。
- 22 ところで、ヨシュアはこの地を偵察した二人の男に言った。「あの遊女の家に行き、あなたがたが彼女に誓ったとおり、その女とその女に連なるすべての者を連れ出さない。」
- 23 偵察した若者たちは行って、ラハブとその父、母、兄弟、彼女に連なるすべての者を連れ出した。彼女の親族をみな連れ出し、イスラエルの宿営の外にとどめておいた。
- 24 彼らはその町とその中にあるすべてのものを火で焼いた。銀や金、および青銅や鉄の器だけは主の家の宝物倉に納めた。
- 25 しかし、遊女ラハブと、その一族と、彼女に連なるすべての者をヨシュアが生かしておいたので、彼女はイスラエルの中に住んで今日に至っている。エリコを偵察させようとしてヨシュアが送った使いたちを、彼女がかくまったからである。
- 26 ヨシュアは、そのとき誓った。「この町エリコの再建を企てる者は主の前にのろわれよ。その礎を据える者は長子を失い、その門を建てる者は末の子を失う。」
- 27 主がヨシュアとともにおられたので、彼のうわさはこの地にあまねく広まった。

第7章

- 1 しかし、イスラエルの子らは聖絶の物のことで主の信頼を裏切った。ユダ部族のゼラフの子ザブディの子であるカルミの子アカンが、聖絶の物の一部を取った。それで、主の怒りがイスラエルの子らに向かって燃え上がった。
- 2 ヨシュアは部下をエリコからベテルの東、ベテ・アベンの近くにあるアイに遣わし、彼らに言った。「上って行って、あの地を偵察せよ。」部下たちは上って行って、アイを偵察した。
- 3 彼らはヨシュアのもとに帰って来て言った。「民をみな上って行かせるには及びません。二、三千人ぐらいを上らせて、アイを討たせるとよいでしょう。彼らはわずかですから、民をみな送って骨折らせるには及びません。」
- 4 そこで民のうち、およそ三千人がそこに上って行ったが、彼らはアイの人々の前から逃げた。
- 5 アイの人々は彼らの中の三十六人を打ち殺し、彼らを門の前からシェバリムまで追って、下り坂で彼らを討った。民の心は萎え、水のようになった。
- 6 ヨシュアは衣を引き裂き、イスラエルの長老たちとともに、主の箱の前で夕方まで地にひれ伏し、自分たちの頭にちりをかぶった。
- 7 ヨシュアは言った。「ああ、神、主よ。あなたはどうして、この民にヨルダン川をあえて渡らせ、私たちをアモリ人の手に渡して滅ぼそうとされるのですか。私たちは、ヨルダンの川向こうに居残ることで満足していたのです。
- 8 ああ、主よ。イスラエルが敵の前に背を見せた今となっては、何を申し上げることができるでしょう。
- 9 カナン人やこの地の住民がみな、これを聞いて私たちを攻め囲み、私たちの名を地から断ってしまうでしょう。あなたは、あなたの大いなる御名のために何をなさるのですか。」
- 10 主はヨシュアに告げられた。「立て。なぜ、あなたはひれ伏しているのか。
- 11 イスラエルは罪ある者となった。彼らはわたしが命じたわたしの契約を破った。聖絶の物の一部を取り、盗み、欺いて、それを自分のものの中に入れることまでした。
- 12 だから、イスラエルの子らは敵の前に立つことができず、敵の前に背を見せたのだ。彼らが聖絶の者となったからである。あなたがたの中から、その聖絶の物を滅ぼし尽くしてしまわないなら、わたしはもはやあなたがたとともにはいない。
- 13 立て。民を聖別せよ。そしてこう言え。あなたがたは、明日のために自らを聖別しなさい。イスラエルの神、主がこう告げられるからだ。『イスラエルよ、あなたの中に聖絶の物がある。あなたがたがその聖絶の物を、あなたがたの中から取り除くまでは、敵の前に立つことができない。
- 14 明日の朝、部族ごとに進み出よ。主がくじで取り分ける部族は氏族ごとに進み出、主がくじで取り分ける氏族は家族ごとに進み出、主がくじで取り分ける家族は男一人ひとり進み出よ。

- 15 聖絶の物のことでくじで取り分けられた者は、彼も彼に属するすべてのものも、火で焼かれなければならない。彼が主の契約を破ったからであり、彼がイスラエルの中で恥辱となることをしたからである。』」
- 16 翌朝ヨシュアは早く起き、イスラエルを部族ごとに進み出させた。ユダ部族がくじで取り分けられた。
- 17 ユダの諸氏族を進み出させると、ゼラフ人の氏族がくじで取り分けられた。ゼラフ人の氏族を男一人ひとり進み出させると、ザブディがくじで取り分けられた。
- 18 ザブディの家族を男一人ひとり進み出させると、ユダ部族のゼラフの子ザブディの子カルミの子のアカンが、くじで取り分けられた。
- 19 ヨシュアはアカンに言った。「わが子よ。イスラエルの神、主に栄光を帰し、主に告白しなさい。おまえが何をしたのか、私に告げなさい。私に隠してはいけない。」
- 20 アカンはヨシュアに答えた。「確かに、私はイスラエルの神、主に対して罪を犯しました。私は次のようなことをしました。
- 21 私は分捕り物の中に、シンアルの美しい外套一着と、銀二百シェケルと、重さ五十シェケルの金の延べ棒一本があるのを見て欲しくなり、それらを取りました。それらは今、私の天幕の中の地面の下に隠してあり、銀もそこにあります。」
- 22 そこでヨシュアは使いたちを送った。彼らは天幕に走って行った。すると、それらはアカンの天幕に隠されていて、銀もその下にあった。
- 23 使いたちはそれらを天幕の中から取り出し、ヨシュアとすべてのイスラエルの子らのところに持って来て、主の前に置いた。
- 24 ヨシュアは全イスラエルとともに、ゼラフの子アカンと銀、外套、金の延べ棒、および彼の息子、娘、牛、ろば、羊、天幕、それに彼のすべての所有物を取って、アコルの谷へ運んだ。
- 25 ヨシュアは言った。「なぜ、おまえは私たちにわざわざをもたらしたのか。主は今日、おまえにわざわざをもたらされる。」全イスラエルは彼を石で打ち殺し、彼の所有物を火で焼き、それらに石を投げつけた。
- 26 人々はアカンの上に石くれの大きな山を積み上げた。今日もそのままである。主は燃える怒りを収められた。それで、その場所の名はアコルの谷と呼ばれた。今日もそうである。

第8章

- 1 主はヨシュアに言われた。「恐れてはならない。おののいてはならない。戦う民をすべて率い、立ってアイに攻め上れ。見よ、わたしはアイの王と、その民、その町、その地をあなたの手に与えた。
- 2 あなたがエリコとその王にしたとおりに、アイとその王にもせよ。その分捕り物と家畜だけは、あなたがたの戦利品としてよい。あなたは町の裏手に伏兵を置け。」
- 3 そこでヨシュアは戦う民すべてとともに、アイに上って行くために立ち上がった。ヨシュアは三万人の勇士を選んで夜のうちに派遣し、
- 4 彼らに命じた。「見よ、あなたがたは町の裏手から町に向かう伏兵だ。町からあまり遠く離れないで、みな身構えていなさい。
- 5 私と、私とともにいる兵はみな町に近づく。アイの人々がこの前と同じように、私たちに立ち向かって出て来たら、私たちは彼らの前から逃げることにする。
- 6 彼らは私たちを追って出て来るので、私たちは彼らを町からおびき出すことになる。彼らは『この前と同じように、われわれの前を逃げて行く』と言うだろうから。私たちは彼らの前で逃げることにする。
- 7 あなたがたは伏せているところから立ち上がり、町を占領せよ。あなたがたの神、主がその町をあなたがたの手に渡される。
- 8 その町を攻め取ったら、その町に火を放て。主のことばどおりに行うのだ。見よ、私はあなたがたに命じる。」
- 9 ヨシュアは彼らを派遣し、彼らは待ち伏せの場所へ行き、ベテルとアイの間、アイの西側にとどまった。ヨシュアはその夜、兵とともに夜を過ごした。
- 10 翌朝ヨシュアは早く起きて、兵を召集し、イスラエルの長老たちとともに、兵の先頭に立ってアイに上って行った。
- 11 彼とともにいた戦う民はみな、上って行った。彼らは町の前に近づき、アイの北側に陣を敷いた。彼とアイの間には谷があった。
- 12 彼は約五千人を取り、ベテルとアイの間、町の西側に伏兵として配置した。
- 13 兵は町の北側に全陣営を置き、町の西側にはその後陣を置いた。ヨシュアはその夜、谷の中に下って行った。
- 14 アイの王がそのことに気づくと、町の男たち、王とその兵はみな、急いで朝早く起き出し、イスラエルに立ち向かって戦うために、アラバの手前の決めておいた場所に出て来た。しかし、王は町の裏手に伏兵がいることを知らなかった。
- 15 ヨシュアと全イスラエルは彼らの前で打たれるふりをし、荒野への道を逃げた。
- 16 アイにいた兵はみな彼らの後を追うために呼び集められ、ヨシュアを追撃し、町から誘い出された。
- 17 そのため、イスラエルの後を追って出なかった者は、アイとベテルに一人もいなかった。彼らは町を開け放しのまま捨てておいて、イスラエルを追撃した。

- 18 主はヨシュアに告げられた。「あなたの手にある投げ槍をアイの方に伸ばせ。わたしがアイをあなたの手に渡すから。」ヨシュアは手にある投げ槍を町の方に伸ばした。
- 19 すると、伏兵はすぐその場所から立ち上がった。ヨシュアが手を伸ばすやいなや彼らは走り、町に入ってそれを攻め取り、ただちに町に火を放った。
- 20 アイの人々はうしろを振り返って見た。すると、町の煙が天に立ち上っていて、彼らには、どちらにも逃げる手立てがなかった。荒野へ逃げていたイスラエルの兵は、追って来た者たちの方に向き直った。
- 21 ヨシュアと全イスラエルは、伏兵が町を攻め取り、町の煙が立ち上るのを見たので、引き返してアイの人々を討った。
- 22 伏兵たちは町から出て来て彼らに向かった。そのため彼らは両側からイスラエルの挟み撃ちにあった。ヨシュアたちは、彼らを打ち殺し、生き残った者も、逃れた者も一人も残されないまでにした。
- 23 しかし、アイの王は生け捕りにして、ヨシュアのもとに連れて来た。
- 24 イスラエルがアイのすべての住民を野で、すなわち彼らが追って来た荒野で殺したとき、アイの住民はみな一人残らず剣の刃に倒れた。全イスラエルはアイに引き返し、町を剣の刃で討った。
- 25 その日、倒れた者は男女合わせて一万二千人、アイのすべての人々であった。
- 26 ヨシュアはアイの住民をことごとく聖絶するまで、投げ槍を差し出した手をもとに戻さなかった。
- 27 イスラエルは主がヨシュアに命じられたことばのとおり、その町の家畜と分捕り物だけを自分たちの戦利品とした。
- 28 ヨシュアはアイを焼き、永久に荒れ果てた丘とした。今日もそうである。
- 29 さらに、ヨシュアはアイの王を夕方まで木にかけてさらし、日の入るころ人々に命じた。それで彼らはその死体を木から降ろし、町の門の入り口に投げ捨て、その上に大きな石塚を積み上げた。今日もそうである。
- 30 それからヨシュアはエバル山に、イスラエルの神、主のために一つの祭壇を築いた。
- 31 それは、主のしもべモーセがイスラエルの子らに命じたとおり、またモーセの律法の書に記されているとおり、鉄の道具を当てない自然のままの石の祭壇であった。彼らはその上で主に全焼のささげ物を献げ、交わりのいけにえを献げた。
- 32 ヨシュアはその場所で、モーセがイスラエルの子らの前で書いた律法の写しを、石の上に書いた。
- 33 全イスラエル、その長老たち、つかさたち、さばき人たちは、寄留者もこの地で生まれた者も同様に、主の契約の箱を担ぐレビ人の祭司たちの前で、箱のこちら側と向こう側とに分かれ、半分はゲリジム山の前に、もう半分はエバル山の前に立った。それは主のしもべモーセが以前命じたように、イスラエルの民を祝福するためであった。
- 34 その後、ヨシュアは、みおしえの書に記されているとおりに、律法のすべてのことばを、祝福ものろいも読み上げた。
- 35 モーセが命じたすべてのことばの中で、ヨシュアが、イスラエルの集会全体、および女と子どもたち、および彼らの間で生活する寄留者の前で読み上げなかったことばは、一つも

なかった。

第9章

- 1 さて、ヨルダン川の西側の山地、シェフェラ、レバノンに至る大海の全沿岸のヒッタイト人、アモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の王たちはみな、これを聞くと、
- 2 とともに集まり、一つになってヨシュアおよびイスラエルと戦おうとした。
- 3 ギブオンの住民たちは、ヨシュアがエリコとアイに対して行ったことを聞くと、
- 4 彼らもまた策略をめぐらし、変装をした。古びた袋と、古びて破れて継ぎ当てをしたぶどう酒の皮袋をろばに負わせ、
- 5 繕った古い履き物を足にはき、古びた上着を身に着けた。彼らの食糧のパンはみな乾いて、ぼろぼろになっていた。
- 6 彼らはギルガルの陣営のヨシュアのところに来て、彼とイスラエルの人々に言った。「私たちは遠い国から参りました。ですから今、私たちと盟約を結んでください。」
- 7 イスラエルの子らはそのヒビ人たちに言った。「おそらく、あなたがたは、私たちのただ中に住んでいるのだろう。どうして私たちがあなたがたと盟約を結べるだろうか。」
- 8 彼らはヨシュアに言った。「私たちは、あなたのしもべです。」ヨシュアは彼らに言った。「あなたがたは何者か。どこから来たのか。」
- 9 彼らは彼に言った。「しもべどもは、あなたの神、主の名のゆえにととても遠い国から参りました。主のうわさ、および主がエジプトで行われたすべてのこと、
- 10 主がヨルダンの川向こうのアモリ人の二人の王、ヘシュボンの王シホン、およびアシュタロテにいたバシャンの王オグになさった、すべてのことを聞いたからです。
- 11 私たちの長老や、私たちの国の住民はみな私たちに言いました。『旅のための食糧を手にして彼らに会いに出かけなさい。そして彼らに、「私たちは、あなたがたのしもべです。今、どうか私たちと盟約を結んでください」と言いなさい。』
- 12 これが私たちのパンです。私たちがあなたがたのところに来ようと出た日、それぞれ自分の家で食糧として準備したときには、まだ温かったのですが、今はご覧のとおり、干からびて、ぼろぼろになってしまいました。
- 13 これがぶどう酒の皮袋です。私たちがこれらを満たしたときには新しかったのですが、ご覧のとおり破れてしまいました。これが私たちの上着と私たちの履き物です。とても長い旅のため古びてしまいました。」
- 14 そこで人々は彼らの食糧の一部を受け取った。しかし、主の指示を求めなかった。
- 15 ヨシュアは彼らと和を講じ、彼らを生かしておく盟約を結んだ。会衆の上に立つ族長たちは彼らに誓った。
- 16 彼らと盟約を結んでから三日たったとき、人々は彼らが近くの者たちで、自分たちのただ中に住んでいるということを聞いた。
- 17 そこでイスラエルの子らは出発し、三日目に彼らの町々に着いた。彼らの町々とはギブオン、ケフィラ、ベエロテ、およびキルヤテ・エアリムであった。
- 18 イスラエルの子らは彼らを討たなかった。会衆の上に立つ族長たちがイスラエルの神、主にかけて彼らに誓ったからである。しかし、全会衆は族長たちに向かって不平を言った。

- 19 族長たちはみな全会衆に言った。「私たちはイスラエルの神、主にかけて彼らに誓った。だから今、私たちは彼らに触れることはできない。」
- 20 私たちは彼らにこうしよう。彼らを生かしておこう。そうすれば、私たちが彼らに誓った誓いのために、御怒りが私たちの上に下ることはないだろう。」
- 21 族長たちは全会衆に言った。「彼らを生かしておこう。」彼らは全会衆のために薪を割る者、水を汲む者となった。族長たちが彼らについて言ったとおりである。
- 22 ヨシュアは彼らと呼び寄せて、彼らに言った。「あなたがたは私たちのただ中に住んでいながら、なぜ、『私たちは、あなたがたからとても遠いところの者です』と言って私たちを欺いたのか。」
- 23 今、あなたがたはのろわれる。あなたがたの中から、奴隷たち、私の神の家のために薪を割る者と水を汲む者が絶えることはない。」
- 24 彼らはヨシュアに答えた。「しもべどもは、はっきり知らされました。あなたの神、主がこの全土をあなたがたに与え、その地の全住民をあなたがたの前から根絶やしにするように、しもべモーセにお命じになったことを。それで私たちは、自分のいのちのことであなたがたを非常に恐れ、このようなことをしたのです。」
- 25 ご覧ください。今、私たちはあなたの手の中にあります。あなたのお気に召すように、お目にかなうように私たちを扱ってください。」
- 26 ヨシュアは彼らが言うようにし、彼らをイスラエルの子らの手から救った。それで彼らは殺されなかった。
- 27 ヨシュアはその日、彼らを会衆のため、また主の祭壇のため、主が選ばれる場所で薪を割る者と水を汲む者とし、今日に至っている。

第10章

- 1 エルサレムの王アドニ・ツェデクは、ヨシュアがアイを攻め取って、それを聖絶し、エリコとその王にしたようにアイとその王にもしたこと、またギブオンの住民がイスラエルと和を講じて、彼らのただ中にいることを聞いた。
- 2 彼とその民は非常に恐れた。ギブオンが王国の都の一つのように大きな町であり、またアイよりも大きく、そこの人々がみな勇士だったからである。
- 3 エルサレムの王アドニ・ツェデクはヘブロン王ホハム、ヤルムテ王ピルアム、ラキシユ王ヤフィア、エグロン王デビルに人を遣わして言った。
- 4 「私のところに上って来て、私を助けてください。ギブオンを討ちましょう。ギブオンがヨシュア、およびイスラエルの子らと和を講じたからです。」
- 5 それでアモリ人の五人の王、すなわち、エルサレムの王、ヘブロン王、ヤルムテ王、ラキシユ王、エグロン王、彼らとその全陣営は集結し、上って行ってギブオンに向かって陣を敷き、戦いを挑んだ。
- 6 ギブオンの人々はヨシュアのところ、ギルガルの陣営に人を遣わして言った。「しもべどもから手を引かないで、急いで私たちのところに上って来て、私たちを救い、助けてください。山地に住むアモリ人の王たちがみな、私たちに向かって集まっているのです。」
- 7 ヨシュアはすべての戦う民たちとすべての勇士たちとともに、ギルガルから上って行った。
- 8 主はヨシュアに告げられた。「彼らを恐れてはならない。わたしが彼らをあなたの手に渡したからだ。あなたの前に立ちはだかる者は彼らの中に一人としていない。」
- 9 ヨシュアは夜通しギルガルから上って行って、突然彼らを襲った。
- 10 主は彼らをイスラエルの前でかき乱された。イスラエルはギブオンで彼らを激しく討ち、ベテ・ホロンの上り坂を通過して彼らを追い、アゼカとマケダに至るまで彼らを討った。
- 11 彼らがイスラエルの前から逃げて、ベテ・ホロンの下り坂にいたとき、主が天から彼らの上に、大きな石をアゼカに至るまで降らせられたので、彼らは死んだ。イスラエルの子らが剣で殺した者よりも、雹の石で死んだ者のほうが多かった。
- 12 主がアモリ人をイスラエルの子らに渡されたその日、ヨシュアは主に語り、イスラエルの見ている前で言った。「太陽よ、ギブオンの上で動くな。月よ、アヤロンの谷で。」
- 13 民がその敵に復讐するまで、太陽は動かず、月はとどまった。これは『ヤシャルの書』に確かに記されている。太陽は天の中間にとどまって、まる一日ほど、急いで沈むことはなかった。
- 14 主が人の声を聞き入れられたこのような日は、前にも後にもなかった。主がイスラエルのために戦われたからである。
- 15 ヨシュアは全イスラエルとともにギルガルの陣営に戻った。
- 16 これらの五人の王たちは逃げ、マケダの洞穴に隠れた。
- 17 すると、マケダの洞穴に隠れている五人の王たちが見つかったという知らせがヨシュアに入った。

- 18 ヨシュアは言った。「洞穴の口に大きな石を転がし、そのそばに人を置いて彼らを見張りなさい。
- 19 しかし、あなたがたは、そこにとどまってはならない。敵の後を追い、彼らのしんがりを攻撃しなさい。彼らを自分の町に逃げ込ませてはならない。あなたがたの神、主が彼らをあなたがたの手に渡されたからだ。」
- 20 ヨシュアとイスラエルの子らが非常に激しく彼らを討ち、ついに彼らが一掃されるまで攻撃し終わったとき、彼らのうちの生き残った者たちは城壁のある町々に逃げ込んだ。
- 21 兵はみな無事にマケダの陣営のヨシュアのもとに戻った。イスラエルの子らをののしる者は一人もいなかった。
- 22 ヨシュアは言った。「洞穴の口を開き、あの五人の王たちを、その洞穴から私のもとに引き出して来なさい。」
- 23 彼らはそのとおりにした。その五人の王たち、すなわち、エルサレムの王、ヘブロン王、ヤルムテ王、ラキシユ王、エグロン王を洞穴から彼のもとに引き出して来た。
- 24 彼らがその王たちをヨシュアのもとに引き出したとき、ヨシュアはイスラエルのすべての人を呼び寄せ、自分と一緒にいった戦士の指揮官たちに言った。「近寄って、この王たちの首を踏みつけなさい。」彼らは近寄り、王たちの首を踏みつけた。
- 25 ヨシュアは彼らに言った。「恐れてはならない。おののいてはならない。強くあれ。雄々しくあれ。あなたがたの戦うすべての敵に主がこのようにされる。」
- 26 その後、ヨシュアは王たちを討って殺し、五本の木にかけ、夕方まで木にかけておいた。
- 27 日の入るころになって、ヨシュアは命じて彼らを木から降ろし、彼らが隠れていた洞穴の中に投げ込んだ。その洞穴の口には大きな石が置かれ、今日に至っている。
- 28 その日、ヨシュアはマケダを攻め取り、この町とその王を剣の刃で討った。彼らとそこにいたすべての者を聖絶し、一人も残さなかった。彼はエリコの王にしたようにマケダの王にした。
- 29 ヨシュアは全イスラエルとともにマケダからリブナに進み、リブナと戦った。
- 30 主は、この町もその王もイスラエルの手に渡された。それで彼は、その町とそこにいたすべての者を剣の刃で討ち、そこに一人も残さなかった。彼はエリコの王にしたようにその王にした。
- 31 ヨシュアは、全イスラエルとともにリブナからラキシユに進み、これに向かって陣を敷き、ラキシユと戦った。
- 32 主はラキシユをイスラエルの手に渡された。ヨシュアは二日目にそれを攻め取り、その町と、そこにいたすべての者を剣の刃で討った。すべて彼がリブナにしたとおりであった。
- 33 そのとき、ゲゼルの王ホラムがラキシユを助けようとして上って来た。ヨシュアは、ホラムとその民を一人も残さず討った。
- 34 ヨシュアは、全イスラエルとともにラキシユからエグロンに進んだ。彼らは、それに向かって陣を敷き、それと戦い、
- 35 その日に、エグロンを攻め取り、剣の刃で討った。そしてその日、そこにいたすべての者を聖絶した。すべて彼がラキシユにしたとおりであった。
- 36 ヨシュアは、全イスラエルとともにエグロンからヘブロンに上った。彼らはそれと戦い、

- 37** それを攻め取り、ヘブロンとその王、およびそのすべての町、そこにいたすべての者を剣の刃で討ち、一人も残さなかった。すべて彼がエグロンにしたとおりであった。彼はその町と、そこにいたすべての者を聖絶した。
- 38** ヨシュアは全イスラエルとともにデビルに引き返し、これと戦い、
- 39** それとその王、およびそのすべての町を攻め取り、剣の刃で彼らを討った。そして、そこにいたすべての者を聖絶し、一人も残さなかった。彼がデビルとその王にしたことはヘブロンにしたとおりであり、またリブナとその王にしたとおりであった。
- 40** ヨシュアはその全地、すなわち、山地、ネゲブ、シェフェラ、傾斜地、そのすべての王たちを討ち、一人も残さなかった。息のある者はみな聖絶した。イスラエルの神、主が命じられたとおりであった。
- 41** ヨシュアはカデシュ・バルネアからガザまで、および、ゴシェンの全土をギブオンに至るまで討った。
- 42** これらすべての王たちと彼らの地を、ヨシュアは一度に攻め取った。イスラエルの神、主がイスラエルのために戦われたからである。
- 43** ヨシュアは全イスラエルとともにギルガルの陣営に戻った。

第11章

- 1 ハツオルの王ヤピンはこのことを聞いて、マドンの王ヨバブ、シムロンの王、アクシャフの王、
- 2 また、北方の山地、キネレテの南のアラバ、シェフェラ、西方のドルの高地の王たち、
- 3 すなわち、東西のカナン人、アモリ人、ヒッタイト人、ペリジ人、山地のエブス人、ヘルモンのふもと、ミツパの地のヒビ人に人を遣わした。
- 4 彼らはその全陣容とともに出て来た。海辺の砂のように大勢の兵で、馬や戦車も非常に多かった。
- 5 これらの王たちはみな集まり、進んで行き、イスラエルと戦うためにメロムの水のほとりでともに陣を敷いた。
- 6 主はヨシュアに告げられた。「彼らを恐れてはならない。明日の今ごろ、わたしは彼らをことごとく、イスラエルの前で刺し殺された者とするからだ。あなたは彼らの馬の足の筋を切り、彼らの戦車を火で焼け。」
- 7 ヨシュアはすべての戦う民とともに、メロムの水のほとりにいる彼らを急襲した。
- 8 主は彼らをイスラエルの手に渡された。イスラエルは彼らを討ち、大シドンおよびミスレフォト・マイムまで、東の方ではミツパの谷まで彼らを追い、一人も残さず討った。
- 9 ヨシュアは主が告げられたとおりに彼らにした。彼らの馬の足の筋を切り、彼らの戦車を火で焼いた。
- 10 ヨシュアはそのとき引き返して、ハツオルを攻め取った。その王は剣で討った。ハツオルは当時、これらすべての王国の盟主だったからである。
- 11 ヨシュアたちはそこにいたすべてのものを剣の刃で討ち、聖絶した。息のある者は一人も残らなかった。彼はハツオルを火で焼いた。
- 12 ヨシュアは、これらの王たちのすべての町を攻め取り、そのすべての王たちを剣の刃で討ち、聖絶した。主のしもべモーセが命じたとおりであった。
- 13 イスラエルは、丘の上に立っている町々はどれも焼かなかった。ただし、ヨシュアは例外としてハツオルだけは焼いた。
- 14 これらの町々のすべての分捕り物と家畜を、イスラエルの子らは戦利品として自分たちのものとした。人間だけはみな剣の刃で討ち、根絶やしにした。息のある者は一人も残さなかった。
- 15 主がそのしもべモーセに命じられたとおりに、モーセはヨシュアに命じ、ヨシュアはそのとおりに行った。主がモーセに命じられたすべてのことばを、彼は一言も省かなかった。
- 16 ヨシュアはこの全地、すなわち、山地、ネゲブの全地域、ゴシェンの全土、シェフェラ、アラバ、イスラエルの山地とそのシェフェラを奪い取った。
- 17 彼は、セイルへ上って行くハラク山から、ヘルモン山のふもとの、レバノンの谷にあるバアル・ガドまでを攻め取った。その王たちをことごとく捕らえ、彼らを討って殺した。
- 18 長い間にわたってヨシュアはこれらすべての王たちと戦った。

- 19** ギブオンの住民であるヒビ人以外に、イスラエルの子らと和を講じた町は一つもなかった。イスラエルの子らは戦って、すべてを奪い取った。
- 20** 彼らの心を頑なにし、イスラエルに立ち向かって戦わせたのは、主から出たことであった。それは、彼らを容赦なく聖絶するため、主がモーセに命じられたとおりに彼らを根絶やしにするためであった。
- 21** そのときヨシュアは行って、アナク人を山地、ヘブロン、デビル、アナブ、ユダのすべての山地、イスラエルのすべての山地から断った。その町々とともにヨシュアは彼らを聖絶した。
- 22** こうしてアナク人は、イスラエルの子らの地には残らなかった。ただガザ、ガテ、アシュドデに残るのみとなった。
- 23** ヨシュアはすべて主がモーセに告げられたとおりに、その地をことごとく奪い取った。ヨシュアはこの地を、イスラエルの部族への割り当てにしたがって、相続地としてイスラエルに与えた。そして、その地に戦争はやんだ。

第12章

- 1 ヨルダンの川向こう、日の昇る方で、アルノン川からヘルモン山までの全東アラバにおいて、イスラエルの子らが討ち、占領した地の王たちは次のとおりである。
- 2 ヘシュボンに住んでいた、アモリ人の王シホン。彼はアルノンの溪谷の縁にあるアロエルから、その溪谷の中、およびギルアデの半分、そしてアンモン人の国境ヤボク川まで、
- 3 またアラバ、すなわち、キネレテ湖の東まで、またアラバの海すなわち塩の海の東まで、ベテ・ハ・エシモテへの道まで、そして南はピスガの傾斜地のふもとまでを支配していた。
- 4 アシュタロテとエデレイに住む、レファイムの生き残りの一人である、バシャンの王オグの領土。
- 5 彼はヘルモン山、サルカ、ゲシュル人とマアカ人との国境に至るバシャンの全土、ギルアデの半分、ヘシュボンの王シホンの国境までを支配していた。
- 6 主のしもべモーセとイスラエルの子らは、彼らを討った。主のしもべモーセはルベン人とガド人と、マナセの半部族に、その地を所有地として与えた。
- 7 ヨルダン川のその反対側、西の方で、レバノンの谷のバアル・ガドから、セイルへ上るハラク山までで、ヨシュアとイスラエルの人々が討ったその地の王たちは、次のとおりである。ヨシュアはイスラエルの部族に、彼らへの割り当てにしたがって、この地を所有地として与えた。
- 8 この王たちは山地、シェフェラ、アラバ、傾斜地、荒野、ネゲブに住んでいて、ヒッタイト人、アモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人であった。
- 9 エリコの王、一人。ベテルの隣のアイの王、一人。
- 10 エルサレムの王、一人。ヘブロンの王、一人。
- 11 ヤルムテの王、一人。ラキシユの王、一人。
- 12 エグロンの王、一人。ゲゼルの王、一人。
- 13 デビルの王、一人。ゲデルの王、一人。
- 14 ホルマの王、一人。アラドの王、一人。
- 15 リブナの王、一人。アドラムの王、一人。
- 16 マケダの王、一人。ベテルの王、一人。
- 17 タブアハの王、一人。ヘフェルの王、一人。
- 18 アフェクの王、一人。シャロンの王、一人。
- 19 マドンの王、一人。ハツォルの王、一人。
- 20 シムロン・メロンの王、一人。アクシャフの王、一人。
- 21 タアナクの王、一人。メギドの王、一人。
- 22 ケデシュの王、一人。カルメルのヨクネアムの王、一人。
- 23 ドルの高地の、ドルの王、一人。ギルガルのゴイムの王、一人。
- 24 ティルツァの王、一人。全部で三十一人の王である。

第13章

- 1 ヨシュアは年を重ねて老人になっていた。主は彼に告げられた。「あなたは年を重ね、老人になった。しかし、占領すべき地は非常にたくさん残っている。
- 2 残っている地は次のとおりである。ペリシテ人の全地域、ゲシュル人の全土。
- 3 エジプトの東のシホルから、北は、カナン人のものと見なされているエクロンの国境まで、すなわち、ペリシテ人の五人の領主が支配する、ガザ人、アシュドデ人、アシュケロン人、ガテ人、エクロン人の地と、南のアビム人の地。
- 4 カナン人の全土とシドン人のメアラ、アモリ人の国境のアフェクまでの地。
- 5 ゲバル人の地と、ヘルモン山のふもとのバアル・ガドからレボ・ハマテまでの、レバノンの日の昇る方の全域。
- 6 レバノンからミスレフォテ・マイムまでの山地の全住民、すなわちすべてのシドン人。わたしは彼らをイスラエルの子らの前から追い払う。わたしがあなたに命じたとおり、あなたはその地をイスラエルに相続地としてくじで分けよ。
- 7 今、この地を九部族とマナセの半部族に相続地として割り当てよ。」
- 8 ルベン人とガド人はマナセの残りの半部族と並んで、ヨルダンの川向こうである東側で、モーセが自分たちに与えた相続地を受け取っていた。主のしもべモーセが彼らに与えたとおりである。
- 9 アルノンの渓谷の縁にあるアロエルから、その渓谷にある町、またディボンまでのメデバの全台地、
- 10 ヘシュボンで王であったアモリ人の王シホンの、アンモン人との国境までのすべての町、
- 11 ギルアデ、ゲシュル人とマアカ人の領土、ヘルモン山全域、サルカまでのバシャン全域、
- 12 アシュタロテとエデレイで王であった、バシャンのオグの王国全域。オグはレファイムの生き残りであった。モーセは彼らを討ち、追い払った。
- 13 しかし、イスラエルの子らは、ゲシュル人とマアカ人を追い払わなかったので、ゲシュルとマアカはイスラエルのただ中に住んだ。今日もそうである。
- 14 モーセは相続地をレビ部族だけには与えなかった。主が約束されたとおり、イスラエルの神、主への食物のささげ物こそが彼らへのゆずりの分である。
- 15 モーセは、ルベン部族の諸氏族に相続地を与えた。
- 16 彼らの地域は、アルノンの渓谷の縁にあるアロエルから、その渓谷にある町、またメデバの全台地、
- 17 ヘシュボンと、台地にあるすべての町、ディボン、バモテ・バアル、ベテ・バアル・メオン、
- 18 ヤハツ、ケデモテ、メファアテ、
- 19 キルヤタイム、シブマ、谷間の丘にあるツエレテ・ハ・シャハル、
- 20 ベテ・ペオル、ピスガの傾斜地、ベテ・ハ・エシモテ、
- 21 台地のすべての町、ヘシュボンで王であったアモリ人の王シホンの全王国。モーセはシホンと、その地に住む、シホンの首長であったミディアンの子孫たち、すなわち、エウイ、

レケム、ツル、フル、レバを討った。

- 22** これらの刺し殺された者に加えて、ベオルの子、占い師バラムをイスラエルの子らは剣で殺した。
- 23** ルベン族の地域は、ヨルダン川とその地域である。これがルベン族の諸氏族の相続地で、その町々とそれらの村々である。
- 24** モーセは、ガド部族、すなわちガド族の諸氏族に相続地を与えた。
- 25** 彼らの地域はヤゼル、ギルアデのすべての町、アンモン人の地の半分で、ラバに面するアロエルまで、
- 26** ヘシュボンからラマテ・ハ・ミツパとベトニムまで、マハナyimからデビルの国境まで。
- 27** 谷間ではベテ・ハ・ラム、ベテ・ニムラ、スコテ、ツァフォン。ヘシュボンの王シホンの王国の残りの地、すなわち、ヨルダン川とその地域では、ヨルダンの川向こう、東の方、キネレテ湖の端まで。
- 28** これがガド族の諸氏族の相続地で、その町々と村々である。
- 29** モーセは、マナセの半部族に相続地を与えた。それはマナセの半部族の諸氏族に属する。
- 30** 彼らの地域はマハナyimからバシャン全域、バシャンの王オグの全王国、バシャンのハボテ・ヤイル全域にある六十の町、
- 31** ギルアデの半分、バシャンのオグの王国の町アシュタロテとエデレイ。これらは、マナセの子マキルの子孫、すなわち、マキル族の半分の諸氏族に属する。
- 32** これらは、ヨルダンの川向こう、エリコの東側にあるモアブの草原で、モーセが割り当てた相続地である。
- 33** レビ部族にはモーセは相続地を与えなかった。主が彼らに約束されたとおり、イスラエルの神、主が彼らへのゆずりである。

第14章

- 1 イスラエルの子らがカナンの地でゆずりとして受け継いだのは、次のとおりである。祭司エルアザルと、ヌンの子ヨシュアと、イスラエルの子らの部族の一族のかしらたちは、その地を彼らに
- 2 相続地としてくじで割り当てた。主がモーセを通して、九部族と半部族について命じられたとおりである。
- 3 二部族と半部族には、ヨルダンの川向こうにモーセがすでに相続地を与え、レビ人には彼らの間に相続地を与えていなかった。
- 4 ヨセフの子孫はマナセとエフライムの二部族になっていたからである。また、レビ族には、住む町と所有する家畜の放牧地以外には、何の割り当て地も与えなかった。
- 5 イスラエルの子らは主がモーセに命じられたとおりに行い、その地を相続地として割り当てた。
- 6 ユダ族の人々がギルガルのヨシュアのところにやって来た。その一人ケナズ人エフンネの子カレブがヨシュアに言った。「主がカデシュ・バルネアで、私とあなたについて神の人モーセに話されたことを、あなたはよくご存じのはずです。
- 7 主のしもべモーセがこの地を偵察させるために、私をカデシュ・バルネアから遣わしたとき、私は四十歳でした。私は自分の心にあるとおりを彼に報告しました。
- 8 私とともに上って行った私の兄弟たちは民の心をくじきました。しかし私は、私の神、主に従い通しました。
- 9 その日、モーセは誓いました。『あなたの足が踏む地は必ず、永久に、あなたとあなたの子孫の相続地となる。あなたが私の神、主に従い通したからである。』
- 10 ご覧ください。イスラエルが荒野を歩んでいたときに、主がこのことばをモーセに語って以来四十五年、主は語られたとおりに私を生かしてくださいました。ご覧ください。今日、私は八十五歳です。
- 11 モーセが私を遣わした日と同様に、今も私は壮健です。私の今の力はあの時の力と変わらず、戦争にも日常の出入りにも耐えうるものです。
- 12 今、主があの日に語られたこの山地を、私に与えてください。そこにアナク人がいて城壁のある大きな町々があることは、あの日あなたも聞いていることです。しかし主が私とともにいてくだされば、主が約束されたように、私は彼らを追い払うことができます。」
- 13 ヨシュアはエフンネの子カレブを祝福し、彼にヘブロンを相続地として与えた。
- 14 このようにして、ヘブロンはケナズ人エフンネの子カレブの相続地となった。今日もそうである。彼がイスラエルの神、主に従い通したからである。
- 15 ヘブロンの名は、かつてはキルヤテ・アルバであった。これは、アルバがアナク人の中の最も偉大な人物であったことによる。こうして、その地に戦争はやんだ。

第15章

- 1 ユダ部族の諸氏族がくじで割り当てられた地は、エドムの国境に至り、その南端は、南の方のツィンの荒野であった。
- 2 南の境界線は、塩の海の端、南に面する入江から
- 3 アクラビムの坂の南に出てツィンを過ぎ、カデシュ・バルネアの南を上ってヘツロンを過ぎ、アダルへ上ってカルカへ回り、
- 4 アツモンを過ぎてエジプト川に出る。境界線の終わりは海である。これがあなたがたの南の境界線となる。
- 5 東の境界線は塩の海で、ヨルダン川の河口までとなる。北側の境界線は、ヨルダン川の河口、海の入江から始まる。
- 6 その境界線はベテ・ホグラを上り、ベテ・ハ・アラバの北を過ぎる。それから境界線はルベンの子ボハンの石を上る。
- 7 さらに境界線はアコルの谷間からデビルに上り、谷の南のアドミムの坂の反対側にあるギルガルに向かって北上する。それから境界線はエン・シェメシュの水を過ぎ、その終わりはエン・ロゲルであった。
- 8 さらに境界線はベン・ヒノムの谷を上ってエ布斯、すなわちエルサレムの南の傾斜地に至る。それから境界線は、ヒノムの谷を見下ろす西の方の山の頂、レファイムの谷間の北の端を上る。
- 9 さらに境界線は、この山の頂からメ・ネフトアハの泉の方に折れ、エフロン山の町々に出る。それから境界線はバアラ、すなわちキルヤテ・エアリムの方に折れる。
- 10 さらに境界線はバアラから西へ回ってセイル山に至り、エアリム山の傾斜地、すなわちケサロンの北側を過ぎ、ベテ・シェメシュに下り、ティムナを過ぎる。
- 11 そして境界線はエクロンの北の傾斜地に出る。それから境界線はシカロンの方に折れ、バアラ山を過ぎ、ヤブネエルに出る。境界線の終わりは海である。
- 12 西の境界線は大海とその沿岸である。これがユダ族の諸氏族の周囲の境界線である。
- 13 ヨシュアは自分への主の命により、エフンネの子カレブに、ユダ族の中でキルヤテ・アルバ、すなわちヘブロンを割り当て地として与えた。アルバはアナクの父である。
- 14 カレブはそこからアナクの三人の息子、シェシャイ、アヒマン、タルマイを追い払った。これらはアナクの子である。
- 15 そして彼は、そこからデビルの住民のところに攻め上った。デビルの名は、かつてはキルヤテ・セフェルであった。
- 16 そのときカレブは言った。「キルヤテ・セフェルを討って、これを攻め取る者に、私の娘アクサを妻として与えよう。」
- 17 カレブの同族ケナズの子オテニエルがそれを攻め取ったので、カレブは娘アクサを彼に妻として与えた。
- 18 嫁ぐとき、彼女は夫に、自分の父に畑を求めるようにしきりに促した。彼女がろばから降りると、カレブは「あなたは何が欲しいのか」と彼女に言った。

- 19 アクサは言った。「私にお祝いを下さい。ネゲブの地を私に下さるのですから、湧き水を下さい。」そこでカレブは上の泉と下の泉を彼女に与えた。
- 20 ユダ部族の諸氏族の相続地は次のとおりである。
- 21 エドムの国境の方、ネゲブにあるユダ部族の最南端の町々はカブツェエル、エデル、ヤゲル、
- 22 キナ、ディモナ、アデアダ、
- 23 ケデシュ、ハツオル、イテナン、
- 24 ジフ、テレム、ベアロテ、
- 25 ハツオル・ハダタ、ケリヨテ・ヘツロン、すなわちハツオル、
- 26 アマム、シェマ、モラダ、
- 27 ハツアル・ガダ、ヘシュモン、ベテ・ペレテ、
- 28 ハツアル・シュアル、ベエル・シェバ、ビズヨテヤ、
- 29 バアラ、イイム、エツェム、
- 30 エルトラデ、ケシル、ホルマ、
- 31 ツィクラグ、マデマナ、サンサナ、
- 32 レバオテ、シルヒム、アイン、リンモンである。合計二十九の町とそれらの村々。
- 33 シェフェラではエシュタオル、ツォルア、アシュナ、
- 34 ザノアハ、エン・ガニム、タブアハ、エナム、
- 35 ヤルムテ、アドラム、ソコ、アゼカ、
- 36 シャアライム、アディタイム、ゲデラ、ゲデロタイムである。十四の町とその村々。
- 37 ツェナン、ハダシャ、ミグダル・ガド、
- 38 ディルアン、ミツパ、ヨクテエル、
- 39 ラキシユ、ボツカテ、エグロン、
- 40 カボン、ラフマス、キテリシュ、
- 41 ゲデロテ、ベテ・ダゴン、ナアマ、マケダ。十六の町とその村々。
- 42 リブナ、エテル、アシャン、
- 43 エフタ、アシュナ、ネツィブ、
- 44 ケイラ、アクジブ、マレシャ。九つの町とその村々。
- 45 エクロンと、それに属する町々と、その村々。
- 46 エクロンから海まで、アシュドデに隣接したすべての町と、その村々。
- 47 アシュドデと、それに属する町々と、その村々。ガザと、それに属する町々と、その村々。エジプト川に至るまで、大海とその沿岸。
- 48 山地ではシャミル、ヤティル、ソコ、
- 49 ダンナ、キルヤテ・サナ、すなわちデビル、
- 50 アナブ、エシュテモア、アニム、
- 51 ゴシェン、ホロン、ギロ。十一の町とその村々。
- 52 アラブ、ドマ、エシュアン、

- 53 ヤニム、ベテ・タブアハ、アフエカ、
- 54 フムタ、キルヤテ・アルバ、すなわちヘブロン、ツィオル。九つの町とその村々。
- 55 マオン、カルメル、ジフ、ユタ、
- 56 イズレエル、ヨクデアム、ザノアハ、
- 57 カイン、ギブア、ティムナ。十の町とその村々。
- 58 ハルフル、ベテ・ツル、ゲドル、
- 59 マアラテ、ベテ・アノテ、エルテコン。六つの町とその村々。
- 60 キルヤテ・バアル、すなわちキルヤテ・エアリムと、ラバ。二つの町とその村々。
- 61 荒野ではベテ・ハ・アラバ、ミディン、セカカ、
- 62 ニブシャン、塩の町、エン・ゲディ。六つの町とその村々。
- 63 エルサレムの住民エブス人を、ユダ族は追い払うことができなかった。エブス人はユダ族とともにエルサレムに住んだ。今日もそうである。

第16章

- 1 ヨセフ族にくじで当たった地の境界線は、エリコのあたりのヨルダン川からエリコの泉の東側へ、そして荒野の方へ向かい、エリコから上って山地のベテルに至り、
- 2 ベテルからルズに出てアルキ人の領土アタロテを過ぎ、
- 3 西の方、ヤフレテ人の領土に下り、下ベテ・ホロンの地境、さらにゲゼルに至る。その終わりは海である。
- 4 ヨセフ族、マナセとエフライムは自分たちの相続地を受け継いだ。
- 5 エフライム族の諸氏族の地域は、次のとおりである。彼らの相続地の領域は東の方、アテロテ・アダルから上ベテ・ホロンに至る。
- 6 そして境界線は西に向かい、さらに北方のミクメタテに出る。そこから境界線は東に回ってタアナテ・シロに至り、そこを過ぎてヤノアハの東に進み、
- 7 ヤノアハからアタロテとナアラに下り、エリコに達し、ヨルダン川に出る。
- 8 また境界線はタブアハから西へ、カナ川に向かう。その終わりは海である。これがエフライム部族の諸氏族の相続地である。
- 9 そして、マナセ族の相続地の中に、エフライム族のために取り分けられた町々、そのすべての町とそれらの村々がある。
- 10 ただし、彼らは、ゲゼルに住むカナン人を追い払わなかった。カナン人はエフライムのただ中に住んだ。今日もそうである。カナン人は強制労働に服することになった。

第17章

- 1 マナセ部族の地は次のとおりにくじで割り当てられた。マナセはヨセフの長子であった。マナセの長子で、ギルアデの父であるマキルは戦士であったので、ギルアデとバシャンが彼のものとなった。
- 2 残りのマナセ族の諸氏族、すなわち、アビエゼル族、ヘレク族、アスリエル族、シェケム族、ヘフェル族、シェミダ族にも割り当てられた。これはヨセフの子マナセの、男の子孫の諸氏族である。
- 3 マナセの子マキルの子ギルアデの子ヘフェルの子ツェロフハデには、息子がなく娘だけであった。娘たちの名はマフラ、ノア、ホグラ、ミルカ、ティルツァであった。
- 4 彼女たちは、祭司エルアザルとヌンの子ヨシュアと族長たちの前に進み出て言った。「主は、私たちにも自分たちの親類の間に相続地を与えるよう、モーセに命じられました。」ヨシュアは主の命により、彼女たちにも、彼女たちの父の兄弟たちの間に相続地を与えた。
- 5 マナセには、ヨルダンの川向こうのギルアデとバシャンの地のほかに、十の割り当て地があてがわれた。
- 6 マナセの女の子孫が、男の子孫の間に相続地を受け継いだからである。ギルアデの地はマナセのほかの子孫のものとなった。
- 7 マナセの境界線はアシェルからシェケムに面したミクメタテである。その境界線は南へ、エン・タブアハの住民のところに行く。
- 8 タブアハの地はマナセに属していたが、マナセの境界のタブアハはエフライム族に属していた。
- 9 そして境界線はカナ川を下る。川の南側にある町々は、マナセの町々の間にはあるが、エフライムに属している。マナセの地域は川の北側にある。その終わりは海である。
- 10 その南はエフライムのもの、北はマナセのものである。また海がその境界である。マナセは北でアシェルに達し、東でイッサカルに達する。
- 11 イッサカルとアシェルの中にある、ベテ・シェアンとそれに属する村々、イブレアムとそれに属する村々、ドルの住民とそれに属する村々、エン・ドルの住民とそれに属する村々、タアナクの住民とそれに属する村々、メギドの住民とそれに属する村々はマナセに属している。その三番目は高地である。
- 12 しかしマナセ族は、これらの町々を占領することができなかった。カナン人はこの地に継続して住んだ。
- 13 イスラエル人が強くなったときにはカナン人を苦役につかせたが、彼らを追い払うことはなかった。
- 14 ヨセフ族はヨシュアに告げた。「あなたはなぜ、私にただ一つのくじによる相続地、ただ一つの割り当て地しか分けてくださらないのですか。これほど数の多い民になるまで、主が私を祝福してくださったのに。」

- 15** ヨシュアは彼らに言った。「あなたが数の多い民であるのなら、森に上って行きなさい。そこでペリジ人やレファイム人の地を切り開くがよい。エフライムの山地はあなたには狭すぎるのだから。」
- 16** ヨセフ族は言った。「山地は私たちに十分ではありません。しかし、平地に住んでいるカナン人はみな、ベテ・シェアンとそれに属する村々にいる者も、イズレエルの平野にいる者も、鉄の戦車を持っています。」
- 17** ヨシュアはヨセフの家、すなわち、エフライムとマナセに言った。「あなたは数の多い民で大きな力がある。あなたには、くじによる割り当て地が一つだけではいけない。
- 18** 山地もあなたのものとしなければならない。それが森だとしても切り開いて、その隅々まであなたのものとしなさい。カナン人が鉄の戦車を持っていたても、強くても、あなたは彼らを追い払わなければならない。」

第18章

- 1 イスラエルの子らの全会衆はシロに集まり、そこに会見の天幕を建てた。この地は彼らに服していたが、
- 2 イスラエルの子らの中に、相続地を割り当てられていない七部族が残っていた。
- 3 ヨシュアはイスラエルの子らに言った。「あなたがたの父祖の神、主があなたがたに与えられた地を占領しに行くのを、あなたがたはいつまで延ばしているのか。
- 4 部族ごとに三人の者を出しなさい。私は彼らを送り出そう。彼らが立ち上がってその地を行き巡り、自分たちの相続地にしがたってその地について書き記し、私のところに帰って来るためである。
- 5 彼ら自身でそれを七つの割り当て地に分割しなさい。ユダは南にある自分の地域にとどまり、ヨセフの家は北にある自分の地域にとどまる。
- 6 あなたがたはその地の七つの割り当て地を書き記し、私のところに持って来なさい。私はここで、私たちの神、主の前で、あなたがたのためにくじを引こう。
- 7 しかし、レビ人はあなたがたの間に割り当て地を持たない。主の祭司として仕えることが彼らへのゆずりだからである。ガドとルベンと、マナセの半部族は、ヨルダンの川向こう、東の方で自分たちの相続地を受けている。主のしもべモーセが彼らに与えたものである。」
- 8 その人たちは立って出て行った。その際ヨシュアは、その地について書き記すために出て行く者たちに命じた。「さあ、あなたがたはその地を行き巡り、その地について書き記し、私のところに帰って来なさい。ここシロで、主の前で、私はあなたがたのためにくじを引こう。」
- 9 その人たちは行って、その地を巡り、それぞれの町を七つの割り当て地に分けて書物に書き記し、シロの宿営にいるヨシュアのもとに来た。
- 10 ヨシュアはシロで、すなわち主の前で、彼らのためにくじを引いた。ヨシュアはそこで、彼らへの割り当てにしたがって、その地をイスラエルの子らに分割した。
- 11 ベニヤミン部族の諸氏族のくじが引かれた。くじで当たった彼らの地域はユダ族とヨセフ族の間にあった。
- 12 北側の境界線はヨルダン川から始まる。その境界線はエリコの北の傾斜地に上り、西の方へ山地を上る。その終わりはベテ・アベンの荒野である。
- 13 さらに境界線はそこからルズに向かい、ルズの南の傾斜地を過ぎる。ルズはベテルである。それから境界線は、下ベテ・ホロンの南にある山の近くのアテロテ・アダルを下る。
- 14 さらに境界線は折れ、西側を、ベテ・ホロンの南向かいの山から南へ回る。その終わりはユダ族の町キルヤテ・パアル、すなわちキルヤテ・エアリムである。これが西側である。
- 15 南側はキルヤテ・エアリムの外れを起点とする。その境界線は西に出て、メ・ネフトアハの泉に出る。
- 16 さらに境界線は、レファイムの谷間にあるベン・ヒノムの谷を北から見下ろす山の外れへ下り、ヒノムの谷をエブスの南の傾斜地に下り、エン・ロゲルを下り、

- 17** 北の方に折れ、エン・シェメシュに出て、アドミムの坂の反対側にあるゲリロテに出て、ルベンの子ボハンの石に下り、
- 18** アラバに面する傾斜地を北へ進み、アラバに下る。
- 19** そして境界線はベテ・ホグラの傾斜地を北へ進む。境界線の終わりは塩の海の北の入江、ヨルダン川の南端である。これが南の境界である。
- 20** ヨルダン川が東側の境界線である。これがベニヤミン族の諸氏族の相続地であり、その周囲の境界線である。
- 21** ベニヤミン部族の諸氏族の町々はエリコ、ベテ・ホグラ、エメク・ケツィツ、
- 22** ベテ・ハ・アラバ、ツェマライム、ベテル、
- 23** アビム、パラ、オフラ、
- 24** ケファル・ハ・アンモニ、オフニ、ゲバ。十二の町とその村々。
- 25** ギブオン、ラマ、ベエロテ、
- 26** ミツパ、ケフィラ、モツァ、
- 27** レケム、イルペエル、タルアラ、
- 28** ツェラ、エレフ、エブスすなわちエルサレム、ギブア、キルヤテ。十四の町とその村々。これがベニヤミン族の諸氏族の相続地である。

第19章

- 1 二番目のくじはシメオン、すなわち、シメオン部族の諸氏族に当たった。彼らの相続地はユダ族の相続地の中にあった。
- 2 彼らの相続地はベエル・シェバ、シェバ、モラダ、
- 3 ハツアル・シュアル、バラ、エツェム、
- 4 エルトラデ、ベトル、ホルマ、
- 5 ツィクラグ、ベテ・マルカボテ、ハツアル・スサ、
- 6 ベテ・レバオテ、シャルヘン。十三の町とその村々。
- 7 アイン、リンモン、エテル、アシャン。四つの町とその村々。
- 8 これらの町々の周りにおいて、バアラテ・ベエル、ラマテ・ネゲブにまで及ぶすべての村。これがシメオン部族の諸氏族の相続地である。
- 9 シメオン族の相続地はユダ族の割り当て地から取られた。ユダ族の割り当て地が彼らには広すぎたので、彼らの相続地の中にシメオン族は相続地を受けたのである。
- 10 三番目のくじはゼブルン族の諸氏族のために引かれた。彼らの相続地の領域はサリデに及んでいた。
- 11 境界線は西へ上って行き、マルアラに至り、ダベシェテに達し、またヨクネアムの向かいの川に達した。
- 12 サリデから反対方向へ、東、すなわち日の昇る方へ向かうと、キスロテ・タボルの地境に至り、ダベラテに出てヤフィアに上る。
- 13 そこから東、すなわち日の出る方へ進んで、ガテ・ヘフェルとエテ・カツィンを過ぎ、リンモンに出てネアの方に折れる。
- 14 北の境界線はそこでハナトンに回る。その終わりはエフタフ・エルの谷である。
- 15 カタテ、ナハラル、シムロン、イデアラ、ベツレヘム。十二の町とその村々。
- 16 これがゼブルン族の諸氏族の相続地であり、その町々とそれらの村々である。
- 17 四番目のくじはイッサカル、すなわち、イッサカル族の諸氏族に当たった。
- 18 彼らの地域はイズレエル、ケスロテ、シュネム、
- 19 ハファライム、シオン、アナハラテ、
- 20 ラビテ、キシュヨン、エベツ、
- 21 レメテ、エン・ガニム、エン・ハダ、ベテ・パツェツである。
- 22 その境界線はタボルに達し、シャハツィマとベテ・シェメシュに向かう。境界線の終わりはヨルダン川である。十六の町とその村々。
- 23 これがイッサカル部族の諸氏族の相続地であり、その町々とそれらの村々である。
- 24 五番目のくじはアシェル部族の諸氏族に当たった。
- 25 彼らの地域はヘルカテ、ハリ、ベテン、アクシャフ、
- 26 アラメレク、アムアデ、ミシュアルである。西に向かってカルメルとシホル・リブナテに達し、

- 27 日の昇る方、すなわちベテ・ダゴンに戻り、ゼブルンに、さらに北の方でエフタフ・エルの谷に達し、ベテ・ハ・エメク、ネイエルを経て左の方、カブルに出て、
- 28 エブロン、レホブ、ハモン、カナを経て大シドンに至る。
- 29 その境界線はラマの方に戻り、城壁のある町ツロに至る。それから境界線はホサの方に戻る。その終わりは海である。マハレブ、アクジブ、
- 30 ウマ、アフェク、レホブ。二十二の町とその村々。
- 31 これがアシェル部族の諸氏族の相続地であり、その町々とそれらの村々である。
- 32 六番目のくじはナフタリ族に、すなわち、ナフタリ族の諸氏族に当たった。
- 33 彼らの地域は、ヘレフと、ツァアナニムの櫟の木から、アダミ・ハ・ネケブ、ヤブネエルを経てラクムに至る。その終わりはヨルダン川である。
- 34 その境界線は西の方、すなわちアズノテ・タボルに戻り、そこからフコクに出て、南でゼブルンに達し、西でアシェルに達し、日の昇る方のヨルダン川でユダに達する。
- 35 城壁のある町はツイディム、ツェル、ハマテ、ラカテ、キネレテ、
- 36 アダマ、ラマ、ハツオル、
- 37 ケデシュ、エデレイ、エン・ハツオル、
- 38 イルオン、ミグダル・エル、ホレム、ベテ・アナト、ベテ・シェメシュ。十九の町とその村々。
- 39 これがナフタリ部族の諸氏族の相続地であり、その町々とそれらの村々である。
- 40 七番目のくじはダン部族の諸氏族に当たった。
- 41 彼らの相続地の領域はツオルア、エシュタオル、イル・シェメシュ、
- 42 シャアラビン、アヤロン、イテラ、
- 43 エロン、ティムナ、エクロン、
- 44 エルテケ、ギベトン、バアラテ、
- 45 エフデ、ベネ・ベラク、ガテ・リンモン、
- 46 メ・ハ・ヤルコン、ラコン、およびヤッフアに面する地域である。
- 47 ダン族の地域は彼らから失われたので、ダン族は上って行き、レシェムと戦った。彼らはそこを取り、剣の刃で討つと、これを占領してそこに住み、自分たちの先祖ダンの名にちなんでレシェムをダンと呼んだ。
- 48 これがダン部族の諸氏族の相続地であり、その町々とそれらの村々である。
- 49 地を地域ごとに相続地として割り当て終えたとき、イスラエルの子らは、自分たちの間に一つの相続地をヌンの子ヨシュアに与えた。
- 50 主の命により、ヨシュアが求めた町、すなわち、エフライムの山地にあるティムナテ・セラフを彼に与えた。彼は町を建てて、そこに住んだ。
- 51 これらは祭司エルアザル、ヌンの子ヨシュア、そしてイスラエルの諸部族の一族のかしらたちが、シロにおいて会見の天幕の入り口、すなわち主の前で、くじによって割り当てた相続地である。彼らは地の割り当てを終えた。

第20章

- 1 主はヨシュアに告げられた。
- 2 「イスラエルの子らに告げよ。『わたしがモーセを通してあなたがたに告げておいた、逃れの町を定めよ。
- 3 意図せずに誤って人を打ち殺してしまった殺人者が、そこに逃げ込むためである。血の復讐をする者から逃れる場所とせよ。
- 4 人がこれらの町の一つに逃げ込む場合、その人はその町の門の入り口に立ち、その町の長老たちに聞こえるようにその事情を述べよ。彼らは自分たちの町に彼を受け入れ、彼に場所を与える。そして彼は彼らとともに住む。
- 5 たとえ血の復讐をする者が彼を追って来ても、その手に殺人者を渡してはならない。彼は隣人を意図せずに打ち殺してしまったのであって、前からその人を憎んでいたわけではないからである。
- 6 その人は会衆の前に立ってさばきを受けるまで、あるいはその時の大祭司が死ぬまでその町に住む。その後で、殺人者は自分の町、自分の家、自分が逃げ出した町に帰って行くことができる。』」
- 7 彼らはナフタリの山地のガリラヤのケデシュ、エフライムの山地のシェケム、ユダの山地のキルヤテ・アルバ、すなわちヘブロンを聖別した。
- 8 ヨルダンの川向こう、エリコの東の方ではルベン部族から台地の荒野のベツェルを、ガド部族からギルアデのラモテを、マナセ部族からバシャンのゴランをこれに当てた。
- 9 これらはすべてのイスラエルの子ら、および彼らの間に寄留している者のために設けられた町である。すべて、誤って人を打ち殺してしまった者がそこに逃げ込むためであり、会衆の前に立たないうちに、血の復讐をする者の手によって死ぬことがないようにするためである。

第21章

- 1 レビ人の一族のかしらたちは、祭司エルアザル、ヌンの子ヨシュア、そしてイスラエルの人々の部族の、一族のかしらたちのところに近寄って来て、
- 2 カナンの地のシロで彼らに告げた。「主は、住む町と家畜の放牧地を私たちに与えるよう、モーセを通して命じられました。」
- 3 イスラエルの子らは主の命により、自分たちの相続地から次の町々とその放牧地をレビ人に与えた。
- 4 ケハテ人諸氏族のためにくじが引かれた。ユダ部族、シメオン部族、ベニヤミン部族から、くじによって十三の町がレビ人の祭司アロンの子らのものになった。
- 5 エフライム部族の諸氏族、ダン部族、マナセの半部族から、くじによって十の町が、残りのケハテ族のものになった。
- 6 イッサカル部族の諸氏族、アシェル部族、ナフタリ部族、バシャンのマナセの半部族から、くじによって十三の町がゲルション族のものになった。
- 7 ルベン部族、ガド部族、ゼブルン部族から、十二の町がメラリ人の諸氏族のものになった。
- 8 イスラエルの子らは、主がモーセを通して命じられたとおりに、次の町々とその放牧地をくじによってレビ人に与えた。
- 9 ユダ部族、シメオン部族からは次に名を挙げる町を与えた。
- 10 これらは、レビ族に属するケハテ人諸氏族の一つ、アロンの子らのものになった。最初にくじが彼らに当たったからである。
- 11 彼らにはユダの山地にあるキルヤテ・アルバ、すなわちヘブロンとその周囲の放牧地を与えた。アルバはアナクの父である。
- 12 しかし、この町の畑と村々はエフンネの子カレブに、その所有地として与えた。
- 13 祭司アロンの子らに与えられたのは、殺人者の逃れの町ヘブロンとその放牧地、リブナとその放牧地、
- 14 ヤティルとその放牧地、エシュテモアとその放牧地、
- 15 ホロンとその放牧地、デビルとその放牧地、
- 16 アインとその放牧地、ユタとその放牧地、ベテ・シェメシュとその放牧地。これら二部族から与えられた九つの町である。
- 17 またベニヤミン部族の中からのギブオンとその放牧地、ゲバとその放牧地、
- 18 アナトテとその放牧地、アルモンとその放牧地の四つの町である。
- 19 アロンの子らである祭司たちの町は、全部で十三の町とその放牧地である。
- 20 レビ人であるケハテ人諸氏族に属する、ケハテ人の残りには、エフライム部族から、くじによって次の町々が与えられた。
- 21 彼らに与えられたのは、エフライムの山地にある殺人者の逃れの町シェケムとその放牧地、ゲゼルとその放牧地、

- 22 キブツァイムとその放牧地、ベテ・ホロンとその放牧地の四つの町。
- 23 またダン部族からエルテケとその放牧地、ギベトンとその放牧地、
- 24 アヤロンとその放牧地、ガテ・リンモンとその放牧地の四つの町。
- 25 またマナセの半部族からタアナクとその放牧地、ガテ・リンモンとその放牧地の二つの町。
- 26 残りのケハテ族の諸氏族には、全部で十の町とその放牧地が与えられた。
- 27 レビ人の諸氏族の一つゲルション族に与えられたのは、マナセの半部族から、殺人者の逃れの町バシャンのゴランとその放牧地、ベエシュテラとその放牧地の二つの町。
- 28 またイッサカル部族からキシュヨンとその放牧地、ダベラテとその放牧地、
- 29 ヤルムテとその放牧地、エン・ガニムとその放牧地の四つの町。
- 30 またアシェル部族からミシュアルとその放牧地、アブドンとその放牧地、
- 31 ヘルカテとその放牧地、レホブとその放牧地の四つの町。
- 32 またナフタリ部族から、殺人者の逃れの町であるガリラヤのケデシュとその放牧地、ハモテ・ドルとその放牧地、カルタンとその放牧地の三つの町。
- 33 ゲルション人の諸氏族の町は、全部で十三の町とその放牧地である。
- 34 レビ人の残りのメラリ人諸氏族に与えられたのは、ゼブルン部族から、ヨクネアムとその放牧地、カルタとその放牧地、
- 35 またディムナとその放牧地、ナハラルとその放牧地の四つの町。
- 36 またルベン部族からベツェルとその放牧地、ヤハツとその放牧地、
- 37 ケデモテとその放牧地、メファアテとその放牧地の四つの町。
- 38 ガド部族から殺人者の逃れの町、ギルアデのラモテとその放牧地、マハナئمとその放牧地、
- 39 ヘシュボンとその放牧地、ヤゼルとその放牧地、これら四つの町すべて。
- 40 これらの町はすべて、レビ人の諸氏族の残りの、メラリ族の諸氏族のものであり、くじによって与えられた十二の町である。
- 41 イスラエルの子らの所有地の中で、レビ人の町は全部で四十八の町とその放牧地である。
- 42 これらの町はそれぞれその周囲に放牧地があった。これらの町はすべてそうであった。
- 43 主は、イスラエルの父祖たちに与えると誓った地をすべて、イスラエルに与えられた。彼らはそれを占領し、そこに住んだ。
- 44 主は、彼らの父祖たちに誓ったように、周囲の者から守って彼らに安息を与えられた。すべての敵の中にも、一人として彼らの前に立ちはだかる者はいなかった。主はすべての敵を彼らの手に渡された。
- 45 主がイスラエルの家に告げられた良いことは、一つもたがわず、すべて実現した。

第22章

- 1 そのとき、ヨシュアはルベン人、ガド人、およびマナセの半部族を呼び寄せて、
- 2 彼らに言った。「あなたがたは、主のしもべモーセがあなたがたに命じたことをことごとく守り、私があなたがたに命じたすべてのことについても、私の声に従った。
- 3 今日まで、この長い間あなたがたの兄弟たちを捨てず、あなたがたの神、主の命令に対する務めを果たしてきた。
- 4 今あなたがたの神、主は、約束したとおりに、あなたがたの兄弟たちに安息を与えられた。今、主のしもべモーセがヨルダンの川向こうであなたがたに与えた、自分たちの所有地、自分たちの天幕に引き返しなさい。
- 5 ただ、主のしもべモーセがあなたがたに命じた命令と律法をよく守り行い、あなたがたの神、主を愛し、そのすべての道に歩み、その命令を守り、主にすがり、心を尽くし、いのちを尽くして主に仕えなさい。」
- 6 ヨシュアが彼らを祝福し、送り出したので、彼らは自分たちの天幕に行った。
- 7 マナセの半部族にはモーセがバシャンに所有地を与えたが、残りの半部族には、ヨシュアがヨルダン川の反対側、すなわち西の方に、彼らの兄弟たちと並んで所有地を与えた。ヨシュアは彼らを天幕に送り出すとき、彼らを祝福して、
- 8 こう言った。「あなたがたは多くの財、つまり、非常に多くの家畜と銀、金、青銅、鉄、たくさんの衣服を持って天幕に帰りなさい。敵からの分捕り物はあなたがたの兄弟たちと分け合いなさい。」
- 9 ルベン族、ガド族、マナセの半部族は、カナンの地にあるシロでイスラエルの子らと別れ、モーセを通して示された主の命により、彼らが得た自分の所有地、すなわちギルアデの地へ帰って行った。
- 10 ルベン族、ガド族、マナセの半部族はカナンの地のヨルダン川の流域まで来たとき、そこ、ヨルダン川のそばに一つの祭壇を築いた。それは遠くから見えるほど大きな祭壇であった。
- 11 イスラエルの子らは、「ルベン族、ガド族、マナセの半部族がカナンの地の国境、ヨルダン川のイスラエルの子らの側の流域に、祭壇を築いた」と聞いた。
- 12 イスラエルの子らがそれを聞いたとき、イスラエルの全会衆は彼らと戦おうとシロに集まった。
- 13 イスラエルの子らは、ギルアデの地のルベン族、ガド族、マナセの半部族のところに祭司エルアザルの子ピネハスを送った。
- 14 彼に同行したのは、イスラエルの全部族の中から一族につき族長一人ずつ、計十人の族長であった。彼らはみな、イスラエルの分団の中で一族のかしらであった。
- 15 彼らはギルアデの地のルベン族、ガド族、およびマナセの半部族のところに行き、彼らに告げた。
- 16 「主の全会衆はこう言っている。『これは何事か。あなたがたが今日、主に従うことをやめてイスラエルの神の信頼を裏切るとは。あなたがたは自分のために祭壇を築いて、今

日、主に反逆したのだ。

- 17** ペオルでの不義は、私たちにとって小さなことだっただろうか。私たちは今日まで、あの不義から身をきよめていないではないか。そのために神の罰が主の会衆の上に下ったのだ。
- 18** あなたがたは今日、主に従うことをやめようとしている。あなたがたは今日、主に反逆しようとしている。明日、イスラエルの全会衆に向かって主は怒られるだろう。
- 19** ただし、あなたがたの所有地が汚れているのなら、主の幕屋が建つ主の所有地に渡って来て、私たちの間に所有地を得なさい。私たちの神、主の祭壇のほかに自分たちのために祭壇を築いて、主に反逆してはならない。私たちに反逆してはならない。
- 20** ゼラフの子アカンが、聖絶の物のことで主の信頼を裏切り、イスラエルの全会衆の上に御怒りが下ったではないか。彼の不義によって死んだ者は彼一人ではなかった。』」
- 21** ルベン族、ガド族、マナセの半部族はイスラエルの分団のかしらたちに答えて言った。
- 22** 「神の神、主よ、神の神、主はご存じです。イスラエルもこれを知りますように。もしこれが、主に対する反逆や不信の罪をもってなされたのなら、今日、私たちをお救いにならないでください。
- 23** 私たちが祭壇を築いたことが、主に従うのをやめることであるなら、あるいは、その上で全焼のささげ物や穀物のささげ物を献げるため、あるいはその上で交わりのいけにえを献げるためであるなら、主ご自身が私たちを責めてくださいますように。
- 24** しかし、私たちがこのことをしたのは次のことを恐れたからです。後になって、あなたがたの子らが、私たちの子らに次のように言うかもしれません。『あなたがたとイスラエルの神、主との間に何の関係があるのか。
- 25** 主はヨルダン川を、私たちと、あなたがたルベン族、ガド族との間の境界とされた。あなたがたは主のうちに取り分がない。』こうして、あなたがたの子らが私たちの子らに、主を恐れることをやめさせるかもしれません。
- 26** 私たちは考えました。さあ、私たちは自分たちのために祭壇を築こう、と。全焼のささげ物のためではなく、いけにえのためでもありません。
- 27** それは、私たちとあなたがたとの間、私たちの後の世代との間の証拠となり、私たちが全焼のささげ物といけにえと交わりのいけにえを献げて、主の前で主への奉仕をするためです。こうすれば、後になって、あなたがたの子らが私たちの子らに『あなたがたは主のうちに取り分がない』と言うことはないでしょう。
- 28** 私たちは考えました。後になって、もし私たち、また私たちの子孫がそう言われたとしても、私たちはこう言うことができる。『私たちの父祖が造った主の祭壇の型を見よ。これは全焼のささげ物のためでもなく、いけにえのためでもなく、私たちとあなたがたとの間の証拠なのだ』と。
- 29** 私たちが、主の幕屋の前にある私たちの神、主の祭壇のほかに、全焼のささげ物や穀物のささげ物や、いけにえを献げる祭壇を築いて、今日、主に反逆して主に従うことをやめるなど、絶対にあり得ないことです。」
- 30** 祭司ピネハス、会衆の上に立つ族長たち、彼とともにいたイスラエルの分団のかしらたちはルベン族、ガド族、マナセ族が語ったことばを聞いて、それに満足した。

- 31** エルアザルの子、祭司ピネハスはルベン族、ガド族、マナセ族に言った。「今日、私たちは、主が私たちの中におられることを知った。あなたがたが主の信頼を裏切らなかったからである。あなたがたは今、イスラエルの子らを主の手から救い出した。」
- 32** エルアザルの子、祭司ピネハスと族長たちは、ルベン族およびガド族と別れ、ギルアデの地からカナンの地のイスラエルの子らのところに帰り、このことを報告した。
- 33** イスラエルの子らはこれに満足した。彼らは神をほめたたえた。そしてもはや、ルベン族とガド族が住んでいる地を滅ぼすために戦をしよう、とは言わなかった。
- 34** ルベン族とガド族はその祭壇に「これは私たちの間での、主が神であることの証しだ」と言って名をつけた。

第23章

- 1 主が、周囲のすべての敵からイスラエルを守って安息を与えられてから、多くの日がたち、ヨシュアは年を重ねて老人になっていた。
- 2 ヨシュアは全イスラエル、その長老たち、かしらたち、さばき人たち、つかさたちを呼び寄せて彼らに言った。「私は年を重ねて老人になった。
- 3 あなたがたは、自分たちの神、主が自分たちのために、これらすべての国々に行ったことをすべて見てきた。あなたがたのために戦ったのは、あなたがたの神、主である。
- 4 見よ。私はヨルダン川から日の入る方の大海まで、これらの残っている国々と、すでに私が絶ち滅ぼしたすべての国々を、相続地としてあなたがたの部族にくじで分けた。
- 5 あなたがたの神、主ご自身が、彼らをあなたがたの前から追い払い、あなたがたの目の前から追い出される。あなたがたの神、主があなたがたに告げたように彼らの地を占領しなさい。
- 6 また、モーセの律法の書に記されていることを、ことごとく断固として守り行いなさい。そこから右にも左にも外れず、
- 7 これらの国々、あなたがたの中に残っている、これらの異邦の民と交わらないようにするためである。彼らの神々の名を口にしてはならない。それらによって誓ってはならない。それらに仕えてはならない。それらを拜んではならない。
- 8 ただ今日までしてきたように、あなたがたの神、主にすがりなさい。
- 9 主は、大きくて強い異邦の民をあなたがたの前から追い払われた。だから今日まで、あなたがたの前に立ちはだかることのできる者は、一人としていなかった。
- 10 あなたがたは一人で千人を追うことができる。あなたがたの神、主ご自身が、あなたがたに約束したとおり、あなたがたのために戦われるからである。
- 11 だからあなたがたは自分自身に十分に気をつけて、あなたがたの神、主を愛しなさい。
- 12 しかし、もしも、あなたがたが再び墮落して、これらの異邦の民の生き残っている者、すなわち、あなたがたの中に残っているこれらの者たちと親しく交わり、彼らと姻戚関係に入り、あなたがたが彼らの中に入って行き、彼らもあなたがたの中に入って来ることがあれば、
- 13 あなたがたは、このことをしっかりと知らなければならない。あなたがたの神、主は、もはやこれらの異邦の民をあなたがたの前から追い払われぬ。彼らはあなたがたにとって、罾となり、落とし穴となり、あなたがたの脇腹にむちとなり、あなたがたの目にとげとなる。そして、あなたがたは自分たちの神、主がお与えになったこの良い地から滅び失せる。
- 14 見よ。今日、私は地のすべての人が行く道を行こうとしている。あなたがたは心を尽くし、いのちを尽くして、知りなさい。あなたがたの神、主があなたがたについて約束されたすべての良いことは、一つもたがわなかったことを。それらはみな、あなたがたのために実現し、一つもたがわなかった。

- 15** あなたがたの神、主があなたがたに約束されたすべての良いことが、あなたがたに実現したように、主はまた、すべての悪いことをあなたがたにもたらし、ついには、あなたがたの神、主がお与えになったこの良い地からあなたがたを根絶やしにされる。
- 16** 主があなたがたに命じられた、あなたがたの神、主の契約を破り、行ってほかの神々に仕え、それらを拝むなら、主の怒りはあなたがたに対して燃え上がり、あなたがたは、主がお与えになったこの良い地から速やかに滅び失せる。」

第24章

- 1 ヨシュアはイスラエルの全部族をシェケムに集め、イスラエルの長老たち、かしらたち、さばき人たち、つかさたちを呼び寄せた。彼らが神の前に立ったとき、
- 2 ヨシュアは民全体に言った。「イスラエルの神、主はこう告げられる。『あなたがたの父祖たち、アブラハムの父でありナホルの父であるテラは昔、ユーフラテス川の向こうに住み、ほかの神々に仕えていた。
- 3 わたしはあなたがたの父祖アブラハムを、あの大河の向こうから連れて来てカナン全土を歩かせ、子孫を増し、イサクを与えた。
- 4 そして、わたしはイサクにヤコブとエサウを与え、エサウにはセイルの山地を与えてそれを所有させた。一方、ヤコブと彼の子たちはエジプトに下った。
- 5 わたしはモーセとアロンを遣わし、エジプトに災害を下した。わたしがそのただ中で行ったとおりである。その後、わたしはあなたがたを導き出した。
- 6 わたしはあなたがたの父祖たちをエジプトから導き出した。あなたがたが海まで来たとき、エジプト人は、戦車と騎兵であなたがたの父祖たちを葦の海まで追いつめた。
- 7 彼らは主に叫び求め、主はあなたがたとエジプト人の間に暗闇を置き、海に彼らを襲わせ、彼らをおおわせた。あなたがたの目は、わたしがエジプトで行ったことを見た。そして、あなたがたは長い間、荒野に住んだ。
- 8 わたしは、ヨルダンの川向こうに住んでいたアモリ人の地に、あなたがたを導き入れた。彼らはあなたがたと戦ったが、わたしは彼らをあなたがたの手に渡し、あなたがたは彼らの地を占領した。わたしはあなたがたの前から彼らを一掃した。
- 9 モアブの王、ツィポルの子バラクは立ってイスラエルと戦い、あなたがたを呪うために、人を遣わしてベオルの子バラムを呼び寄せた。
- 10 しかし、わたしはバラムに耳を傾けようとしなかった。彼はかえって、あなたがたを祝福し、こうして、わたしはあなたがたをバラクの手から救い出した。
- 11 あなたがたはヨルダン川を渡り、エリコに来た。エリコの住民やアモリ人、ペリジ人、カナン人、ヒッタイト人、ギルガシ人、ヒビ人、エブス人はあなたがたと戦った。しかし、わたしは彼らをあなたがたの手に渡し、
- 12 あなたがたの前にスズメバチを送ったので、スズメバチがアモリ人の二人の王をあなたがたの前から追い払った。あなたがたの剣にもよらず、あなたがたの弓にもよらなかった。
- 13 わたしは、あなたが労したのではない地と、あなたがたが建てたのではない町々をあなたがたに与えた。あなたがたはそこに住み、自分で植えたのではない、ぶどう畑とオリーブ畑から食べている。』
- 14 今、あなたがたは主を恐れ、誠実と真実をもって主に仕え、あなたがたの先祖たちが、あの大河の向こうやエジプトで仕えた神々を取り除き、主に仕えなさい。
- 15 主に仕えることが不満なら、あの大河の向こうにいた、あなたがたの先祖が仕えた神々でも、今あなたがたが住んでいる地のアモリ人の神々でも、あなたがたが仕えようと思うものを、今日選ぶがよい。ただし、私と私の家は主に仕える。」

- 16 民は答えた。「私たちが主を捨てて、ほかの神々に仕えるなど、絶対にあり得ないことです。
- 17 私たちの神、主は、私たちと私たちの先祖たちをエジプトの地、奴隷の家から導き上げられた方、そして、私たちの目の前であの数々の大きなしるしを行い、私たちが進んだすべての道で、また私たちが通ったあらゆる民の中で、私たちを守ってくださった方だからです。
- 18 主はあらゆる民を、この地に住んでいたアモリ人を私たちの前から追い払われました。私たちもまた、主に仕えます。このお方が私たちの神だからです。」
- 19 ヨシュアは民に言った。「あなたがたは主に仕えることはできない。主は聖なる神、ねたみの神であり、あなたがたの背きや罪を赦さないからである。
- 20 あなたがたが主を捨てて異国の神々に仕えるなら、あなたがたを幸せにした後でも、主は翻って、あなたがたにわざわいを下し、あなたがたを滅ぼし尽くす。」
- 21 民はヨシュアに言った。「いいえ。私たちは主に仕えます。」
- 22 ヨシュアは民に言った。「主を選んで主に仕えることの証人はあなたがた自身です。」彼らは「私たちが証人です」と言った。
- 23 「今、あなたがたの中にある異国の神々を取り除き、イスラエルの神、主に心を傾けなさい。」
- 24 民はヨシュアに言った。「私たちの神、主に仕え、主の御声に聞き従います。」
- 25 ヨシュアはその日、民と契約を結び、シェケムで彼らのために掟と定めを置いた。
- 26 ヨシュアはこれらのことばを神のみおしえの書に記し、大きな石を取り、主の聖所にある櫟の木の下に立てた。
- 27 ヨシュアは民全体に言った。「見よ、この石は私たちに対して証しとなる。この石は、主が私たちに語られたすべてのことばを聞いたからである。あなたがたが自分の神を否むことがないように、これはあなたがたに対して証しとなる。」
- 28 ヨシュアは民をそれぞれ自分の相続地に送り出した。
- 29 これらのことの後、主のしもべ、ヌンの子ヨシュアは百十歳で死んだ。
- 30 人々は彼をガアシュ山の北、エフライムの山地にある、彼の相続地の領域にあるティムナテ・セラフに葬った。
- 31 ヨシュアがいた間、また、主がイスラエルのために行われたすべてのわざを経験して、ヨシュアより長生きした長老たちがいた間、イスラエルは主に仕えた。
- 32 イスラエルの子らがエジプトから携え上ったヨセフの遺骸は、シェケムの地、すなわち、ヤコブが百ヶシタでシェケムの父ハモルの子たちから買い取った野の一画に葬った。そこはヨセフ族の相続地となっていた。
- 33 アロンの子エルアザルは死んだ。彼は、自分の子ピネハスに与えられた、エフライムの山地にあるギブアに葬られた。

士師記

Judges

第1章

- 1 ヨシュアの死後、イスラエルの子らは主に尋ねた。「だれが私たちのために最初に上って行って、カナン人と戦うべきでしょうか。」
- 2 すると、主は言われた。「ユダが上って行くべきである。見よ、わたしはその地を彼の手に移した。」
- 3 ユダは自分の兄弟シメオンに言った。「私と一緒に、私に割り当てられた地に上ってください。私たちはカナン人と戦うのです。私も、あなたに割り当てられた地に一緒に行きます。」そこでシメオンは彼と一緒にいった。
- 4 ユダが上って行くと、主はカナン人とペリジ人を彼らの手に渡されたので、彼らはベゼクで一万人を討ち取った。
- 5 彼らはベゼクでアドニ・ベゼクに出会い、彼と戦ってカナン人とペリジ人を討った。
- 6 ところが、アドニ・ベゼクが逃げたので、彼らは後を追って捕らえ、その両手両足の親指を切り落とした。
- 7 アドニ・ベゼクは言った。「かつて、両手両足の親指を切り落とされた七十人の王たちが、私の食卓の下でパン屑を拾い集めていたものだ。私がしたとおりに、神は私に報いを返された。」彼らはアドニ・ベゼクをエルサレムに連れて行き、彼はそこで死んだ。
- 8 ユダ族は、エルサレムを攻めてこれを取り、剣の刃で討って町に火を放った。
- 9 その後、ユダ族は、山地やネゲブやシェフェラに住んでいるカナン人と戦うために下っていった。
- 10 ユダはヘブロンに住んでいるカナン人を攻めた。ヘブロンの名は、かつてはキルヤテ・アルバであった。彼らはシェシャイとアヒマンとタルマイを討った。
- 11 彼らは、そこから進んでデビルの住民を攻めた。デビルの名は、かつてはキルヤテ・セフェルであった。
- 12 そのときカレブは言った。「キルヤテ・セフェルを討って、これを攻め取る者に、私の娘アクサを妻として与えよう。」
- 13 カレブの同族ケナズの子オテニエルがそれを攻め取ったので、カレブは娘アクサを彼に妻として与えた。
- 14 嫁ぐとき、彼女は夫に、自分の父に畑を求めるよう、しきりに促した。彼女がろばから降りると、カレブは「何が欲しいのか」と彼女に言った。
- 15 アクサは彼に言った。「どうか私にお祝いを下さい。ネゲブの地を私に下さるのですから、湧き水を下さい。」そこでカレブは上の泉と下の泉を彼女に与えた。
- 16 モーセのしゅうとがその一族であるケニ人たちは、ユダ族と一緒に、なつめ椰子の町からアラドの南にあるユダの荒野に上って行き、その民とともに住んだ。
- 17 ユダは兄弟シメオンと一緒に行って、ツェファテに住んでいたカナン人を討ち、それを聖絶し、その町にホルマという名をつけた。
- 18 ユダは、ガザとその地域、アシュケロンとその地域、エクロンとその地域を攻め取った。

- 19 主がユダとともにおられたので、ユダは山地を占領した。しかし、平地の住民は鉄の戦車を持っていたので、ユダは彼らを追い払えなかった。
- 20 モーセが約束したとおり、ヘブロンはカレブに与えられ、カレブはそこからアナクの三人の息子を追い払った。
- 21 エルサレムに住んでいるエブス人に関しては、ベニヤミン族がこれを追い払わなかったもので、エブス人は今日までベニヤミン族とともにエルサレムに住んでいる。
- 22 ヨセフの一族もまた、ベテルに上って行った。主は彼らとともにおられた。
- 23 ヨセフの一族はベテルを探った。この町の名は、かつてはルズであった。
- 24 見張りの者たちは、その町から出て来た人を見て言った。「この町に入るところを教えてほしい。そうすれば私たちも、あなたに誠意を尽くすから。」
- 25 彼が町の出入り口を教えたので、彼らは剣の刃でこの町を討った。しかし、その人とその氏族の者はみな自由にやってやった。
- 26 その人はヒッタイト人の地に行って町を建て、その名をルズと呼んだ。これが今日までその名である。
- 27 マナセは、ベテ・シェアンとそれに属する村々、タアナクとそれに属する村々、ドルの住民とそれに属する村々、イブレアムの住民とそれに属する村々、メギドの住民とそれに属する村々は占領しなかった。それで、カナン人はその土地に住み続けた。
- 28 イスラエルは強くなったとき、カナン人を苦役に服させたが、彼らを完全に追い払うことはしなかった。
- 29 エフライムはゲゼルの住民であるカナン人を追い払わなかったので、カナン人はゲゼルで彼らのただ中に住んだ。
- 30 ゼブルンはキテロンの住民とナハロルの住民を追い払わなかったので、カナン人は彼らのただ中に住み、苦役に服した。
- 31 アシェルはアッコの住民やシドンの住民、またアフラブ、アクジブ、ヘルバ、アフィク、レホブの住民を追い払わなかった。
- 32 それで、アシェル人は、その土地に住むカナン人のただ中に住んだ。カナン人を追い払わなかったのである。
- 33 ナフタリはベテ・シェメシュの住民やベテ・アナトの住民を追い払わずに、その土地に住むカナン人のただ中に住んだ。しかし、ベテ・シェメシュとベテ・アナトの住民は、彼らのために苦役に服した。
- 34 アモリ人はダン族を山地に追いつめ、平地に下りることを許さなかった。
- 35 こうしてアモリ人は、ハル・ヘレス、アヤロン、そしてシャアルビムに住み続けたが、ヨセフの一族が勢力を増すと、彼らは苦役に服した。
- 36 アモリ人の領地は、アクラビムの坂からセラを経た上の方であった。

第2章

- 1 主の使いがギルガルからボキムに上って来た。そして言った。「わたしはあなたがたをエジプトから上らせて、あなたがたの父祖たちに誓った地に連れて来て言った。『わたしはあなたがたと結んだわたしの契約を決して破らない。』」
- 2 あなたがたは、この地の住民と契約を結んではならない。彼らの祭壇を打ち壊さなければならぬ。』ところが、あなたがたはわたしの声に聞き従わなかった。なぜこのようなことをしたのか。
- 3 それでわたしも言う。『わたしはあなたがたの前から彼らを追い払わない。彼らはあなたがたの敵となり、彼らの神々はあなたがたにとって罠となる。』」
- 4 主の使いがこれらのことばをイスラエルの子ら全体に語ったとき、民は声をあげて泣いた。
- 5 彼らはその場所の名をボキムと呼んで、その場所で主にいけにえを献げた。
- 6 ヨシュアが民を送り出したので、イスラエルの子らはそれぞれ土地を占領しようと、自分の相続する地へ出て行った。
- 7 ヨシュアがいた間、また、主がイスラエルのために行われたすべての大いなるわざを見て、ヨシュアより長生きした長老たちがいた間、民は主に仕えた。
- 8 主のしもべ、ヌンの子ヨシュアは百十歳で死んだ。
- 9 人々は彼をガアシユ山の北、エフライムの山地にある、彼の相続地の領域にあるティムナテ・ヘレスに葬った。
- 10 その世代の者たちもみな、その先祖たちのもとに集められた。そして彼らの後に、主を知らず、主がイスラエルのために行われたわざも知らない、別の世代が起こった。
- 11 すると、イスラエルの子らは主の目に悪であることを行い、もろもろのバアルに仕えた。
- 12 彼らは、エジプトの地から自分たちを導き出した父祖の神、主を捨てて、ほかの神々、すなわち彼らの周りにいるもろもろの民の神々に従い、それらを拝んで、主の怒りを引き起こした。
- 13 彼らが主を捨てて、バアルとアシュタロテに仕えたので、
- 14 主の怒りがイスラエルに向かって燃え上がり、主は彼らを略奪する者の手に渡して略奪されるままにし、周りの敵の手に彼らを売り渡された。彼らはもはや、敵に立ち向かうことができなかった。
- 15 彼らがどこへ行っても、主の手は彼らにわざわいをもたらした。主が告げ、主が彼らに誓われたとおりであった。彼らは大いに苦しんだ。
- 16 そのとき、主はさばきつかさを起こして、略奪する者の手から彼らを救われた。
- 17 ところが、彼らはそのさばきつかさにも聞き従わず、ほかの神々を慕って淫行を行い、それらを拝んだ。彼らの先祖が主の命令に聞き従って歩んだ道から早くも外れて、先祖たちのようには行わなかった。
- 18 主が彼らのためにさばきつかさを起こしたとき、主はさばきつかさとともにおられ、そのさばきつかさが生きている間、彼らを敵の手から救われた。これは、圧迫し、虐げる者を

前にして彼らがうめいたので、主があわれまれたからである。

- 19** しかし、さばきつかさが死ぬと、彼らは元に戻って先祖たちよりもいっそう墮落し、ほかの神々に従い、それらに仕え、それらを拝んだ。彼らはその行いや、頑なな生き方から離れなかった。
- 20** そのため、主の怒りがイスラエルに向かって燃え上がった。主は言われた。「この民は、わたしが彼らの先祖たちに命じたわたしの契約を破り、わたしの声に聞き従わなかったから、
- 21** わたしもまた、ヨシュアが死んだときに残しておいたいかなる異邦の民も、彼らの前から追い払わない。
- 22** これは、先祖たちが守ったように、彼らも主の道を守って歩むかどうか、これらの国民によってイスラエルを試みるためである。」
- 23** こうして、主はこれらの異邦の民をただちに追い払うことをせずに残しておき、ヨシュアの手には渡されなかったのである。

第3章

- 1 次が、主が残しておかれた異邦の民である。主がそうされたのは、カナンでの戦いを全く知らないすべてのイスラエルを試みるためであり、
- 2 ただ、イスラエルの次世代の者、特にまだ戦いを知らない者たちに、戦いを教え、知らせるためであった。
- 3 すなわち、ペリシテ人の五人の領主たち、またすべてのカナン人、シドン人、そしてヒビ人である。ヒビ人は、バアル・ヘルモン山からレボ・ハマテにまで及ぶレバノンの山地に住んでいた。
- 4 これは、彼らによってイスラエルを試み、主がモーセを通して先祖たちに命じた命令に、イスラエルが聞き従うかどうかを知るためであった。
- 5 イスラエル人は、カナン人、ヒッタイト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人のただ中に住み、
- 6 彼らの娘を自分たちの妻とし、また自分たちの娘を彼らの息子に与えて、彼らの神々に仕えた。
- 7 こうしてイスラエルの子らは、主の目に悪であることを行い、彼らの神、主を忘れて、もろもろのバアルやアシェラに仕えた。
- 8 主の怒りがイスラエルに向かって燃え上がり、主は彼らをアラム・ナハライムの王クシャン・リシュアタイムの手に売り渡されたので、イスラエルの子らは八年の間、クシャン・リシュアタイムに仕えた。
- 9 イスラエルの子らが主に叫び求めたとき、主はイスラエルの子らのために一人の救助者を起こして、彼らを救われた。それはカレブの同族ケナズの子オテニエルである。
- 10 主の霊が彼の上に臨み、彼はイスラエルをさばいた。彼が戦いに出て行くと、主はアラムの王クシャン・リシュアタイムを彼の手に渡されたので、彼の手はクシャン・リシュアタイムを抑えた。
- 11 国は四十年の間、穏やかであった。こうして、ケナズの子オテニエルは死んだ。
- 12 イスラエルの子らは、主の目に悪であることを重ねて行った。そこで主はモアブの王エグロンを強くして、イスラエルに逆らわせた。彼らが主の目に悪であることを行ったからである。
- 13 エグロンはアンモン人とアマレク人を彼のもとに集め、イスラエルを攻めて打ち破った。彼らはなつめ椰子の町を占領した。
- 14 こうして、イスラエルの子らは十八年の間、モアブの王エグロンに仕えた。
- 15 イスラエルの子らが主に叫び求めたとき、主は彼らのために、一人の救助者を起こされた。ベニヤミン人ゲラの子で、左利きのエフデである。イスラエルの子らは、彼の手に託してモアブの王エグロンに貢ぎ物を送った。
- 16 エフデは長さ約一キュビトの両刃の剣を作り、それを衣の下、右ももの上に帯で締め、
- 17 モアブの王エグロンに貢ぎ物を携えて行った。エグロンはたいへん太った男であった。
- 18 貢ぎ物を献げ終わると、エフデは貢ぎ物を運んで来た者たちを見送り、

- 19 彼自身はギルガルのそばの石切り場のところから引き返して来て、こう言った。「王様、私はあなたに秘密のお知らせがあります。」すると王は「今は、言うな」と言ったので、そばに立っていた者たちはみな、彼のところから出て行った。
- 20 エフデが王のところに行くと、王は、屋上にある彼専用の涼しい部屋に一人で座していた。エフデが「あなたに神のお告げがあります」と言うと、王はその座から立ち上がった。
- 21 このとき、エフデは左手を伸ばし、右ももから剣を取り出して、王の腹を刺した。
- 22 柄も刃と一緒に入ってしまった。彼が剣を王の腹から抜かなかったので、脂肪が刃をふさいでしまった。エフデは小窓から出た。
- 23 エフデは廊下へ出て行き、屋上の部屋の戸を閉じた。このようにして、彼はかんぬきをかけた。
- 24 彼が出て行くと、王のしもべたちがやって来た。彼らが見ると、屋上の部屋にかんぬきがかけられていたので、彼らは「王はきっと涼み部屋で用をたしておられるのだろう」と思った。
- 25 しかし、いつまで待っても、王が屋上の部屋の戸を一向に開けようとしないので、しもべたちは鍵を取って戸を開けた。すると、なんと、彼らの主人は床に倒れて死んでいた。
- 26 エフデは、しもべたちが手間取っている間に逃れ、石切り場のところを通過して、セイラに逃れた。
- 27 到着すると、彼はエフライムの山地で角笛を吹き鳴らした。イスラエルの子らは、彼と一緒に山地から下って行った。彼がその先頭に立った。
- 28 エフデは彼らに言った。「私の後について来なさい。主はあなたがたの敵モアブ人を、あなたがたの手に渡されたから。」そこで彼らはエフデの後について下り、モアブへ通じるヨルダン川の渡し場を攻め取って、一人もそこを渡らせなかった。
- 29 このとき彼らは約一万人のモアブ人を討ち取った。そのモアブ人はみな、頑強で、力のある者たちだったが、一人として逃れた者はいなかった。
- 30 こうして、モアブはその日イスラエルの手に下り、国は八十年の間、穏やかであった。
- 31 エフデの後にアナトの子シャムガルが起こり、牛を追う棒でペリシテ人六百人を打ち殺した。彼もまた、イスラエルを救った。

第4章

- 1 イスラエルの子らは、主の目に悪であることを重ねて行った。エフデは死んでいた。
- 2 主は、ハツォルを治めていたカナンの王ヤビンの手に彼らを売り渡された。ヤビンの軍の長はシセラで、ハロシェテ・ハ・ゴイムに住んでいた。
- 3 すると、イスラエルの子らは主に叫び求めた。ヤビンには鉄の戦車が九百台あり、そのうえ二十年の間、イスラエルの子らをひどく圧迫したからである。
- 4 ラピドテの妻で女預言者のデボラが、そのころイスラエルをさばいていた。
- 5 彼女は、エフライムの山地のラマとベテルの間にあるデボラのなつめ椰子の木の下に座し、イスラエルの子らは、さばきを求めて彼女のところに上って来た。
- 6 あるとき、デボラは人を遣わして、ナフタリのケデシュからアビノアムの子バラクを呼び寄せ、彼に言った。「イスラエルの神、主はこう命じられたではありませんか。『行って、タボル山に陣を敷け。ナフタリ族とゼブルン族の中から一万人を取れ。』」
- 7 わたしはヤビンの軍の長シセラとその戦車と大軍を、キシヨン川のあなたのところに引き寄せ、彼をあなたの手に渡す』と。」
- 8 バラクは彼女に言った。「もしあなたが私と一緒に行ってくださるなら、行きましょう。しかし、もしあなたが私と一緒に行ってくださらないなら、行きません。」
- 9 そこでデボラは言った。「私は必ずあなたと一緒にいきます。ただし、あなたが行こうとしている道では、あなたに誉れは与えられません。主は女の手でシセラを売り渡されるからです。」こうして、デボラは立ってバラクと一緒にケデシュへ行った。
- 10 バラクはゼブルンとナフタリをケデシュに呼び集め、一万人を引き連れて上った。デボラも彼と一緒に上った。
- 11 ケニ人ヘベルは、モーセのしゅうとホバブの子孫のケニ人たちから離れて、ケデシュに近いツァアナニムの櫟の木のそばで天幕を張っていた。
- 12 一方シセラに、アビノアムの子バラクがタボル山に登ったと知らされた。
- 13 シセラは自分の戦車すべて、すなわち鉄の戦車九百台と、彼と一緒にいた兵をみな、ハロシェテ・ハ・ゴイムからキシヨン川に呼び集めた。
- 14 デボラはバラクに言った。「立ち上がりなさい。今日、主があなたの手にシセラを渡される。主があなたに先立って出て行かれるではありませんか。」そこで、バラクはタボル山から下り、一万人が彼の後に従った。
- 15 主は、シセラとそのすべての戦車とすべての陣営の者を、剣の刃をもってバラクの前で混乱させられた。シセラは戦車から飛び降り、自らの足で逃げた。
- 16 それでバラクは、戦車と陣営をハロシェテ・ハ・ゴイムまで追いつめた。こうして、シセラの陣営の者はみな剣の刃に倒れ、残された者は一人もいなかった。
- 17 しかし、シセラは自らの足でケニ人ヘベルの妻ヤエルの天幕に逃げた。ハツォルの王ヤビンとケニ人ヘベルの家は友好関係にあったからである。
- 18 ヤエルはシセラを迎えに出て来て、彼に言った。「お立ち寄りください、ご主人様。私のところにお立ち寄りください。ご心配には及びません。」シセラが彼女の天幕に入ったの

で、ヤエルは彼を布でおおった。

- 19** シセラはヤエルに言った。「どうか、水を少し飲ませてくれ。喉が渴いているから。」ヤエルは乳の皮袋を開けて彼に飲ませ、また彼をおおった。
- 20** シセラはまた彼女に言った。「天幕の入り口に立っていてくれ。もしだれかが来て、ここにだれかいないかと尋ねたら、いないと言うように。」
- 21** だが、ヘベルの妻ヤエルは天幕の杭を取ると、槌を手にしてそっと彼に近づき、そのこめかみに杭を打ち込んで地に突き刺した。彼は疲れて熟睡していたのである。こうして彼は死んだ。
- 22** ちょうどそのとき、バラクがシセラを追って来たので、ヤエルは彼を迎えに出て言った。「おいでください。あなたが捜している人をお見せしましょう。」彼がヤエルのところに行くと、なんと、シセラが倒れて死んでおり、そのこめかみには杭が刺さっていた。
- 23** こうして神は、その日、イスラエル人の前でカナンの王ヤビンを屈服させた。
- 24** イスラエル人の勢力は、カナンの王ヤビンに対してますます強くなり、ついにカナンの王ヤビンを滅ぼすに至った。

第5章

- 1 その日、デボラとアビノアムの子バラクは、こう歌った。
- 2 「イスラエルでかしらたちが先頭に立ち、民が進んで身を献げるとき、主をほめたたえよ。
- 3 聞け、王たち。耳を傾けよ、君主たち。私、この私は主に向かって歌う。イスラエルの神、主にほめ歌を歌う。
- 4 主よ。あなたがセイルから出て、エドムの野から進んで行かれたとき、大地は揺れ、天も滴り、密雲も水を滴らせました。
- 5 山々は主の前に流れ去りました。シナイさえもイスラエルの神である主の前に。
- 6 アナトの子シャムガルの時代、またヤエルの時代に、隊商は絶え、旅人は脇道を通った。
- 7 農夫は絶えた。イスラエルに絶えた。私デボラが立ち、イスラエルに母として立ったときまで。
- 8 新しい神々が選ばれたとき、そのとき、戦いは門まで及んでいたが、イスラエルの四万人のうちに、盾と槍が見られただろうか。
- 9 私の心はイスラエルの指導者たちに、民のうちの進んで身を献げる者たちに向かう。主をほめたたえよ。
- 10 茶色の雌ろばに乗る者たち、敷き物の上に座す者たち、道を歩く者たちよ、語り伝えよ。
- 11 水飲み場で水を分ける者たちの声を聞いて。そこで彼らは主の義と、イスラエルにいる主の村人たちの義をたたえる。そのとき、主の民は城門に下って行った。
- 12 目覚めよ、目覚めよ、デボラ。目覚めよ、目覚めよ、歌声をあげよ。起きよ、バラク。捕虜を引いて行け、アビノアムの子よ。
- 13 そのとき、生き残った者は貴人のように下りて来た。主の民は私のところに勇士のように下りて来た。
- 14 エフライムからはその根がアマレクにある者が下りて来た。ベニヤミンはあなたの後に続いてあなたの民のうちにいる。マキルからは指導者たちがゼブルンからは指揮を執る者たちが下りて来た。
- 15 イッサカルの長たちはデボラとともにいた。イッサカルはバラクと同じく歩兵たちとともに平地に送られた。ルベンの諸支族の決意は固かった。
- 16 なぜ、あなたは二つの鞍袋の間に座って、羊の群れに笛吹くのを聞いていたのか。ルベンの諸支族の間には、深い反省があった。
- 17 ギルアデはヨルダンの川向こうにとどまった。ダンはなぜ船に残ったのか。アシェルは海辺に座り、その波止場のそばにとどまっていた。
- 18 ゼブルンは、いのちを賭して死をいとわぬ民。野の高い所にいるナフタリも。
- 19 王たちはやって来て戦った。そのとき、カナンの王たちは戦った。メギドの流れのそばのタアナクで。彼らが銀の分捕り品を取ることはなかった。
- 20 天から、もろもろの星が下って来て戦った。その軌道から離れて、シセラと戦った。

- 21 キション川は彼らを押し流した。昔からの川、キション川が。わがたましいよ、力強く進め。
- 22 そのとき、馬のひづめは地を踏み鳴らし、その荒馬は全力で疾走する。
- 23 主の使いは言った。『メロズをのろえ、その住民を激しくのろえ。彼らは主の手助けに来ず、勇士たちとともに、主の手助けに来なかったからだ。』
- 24 女の中で最も祝福されるのはヤエル、ケ二人へベルの妻。天幕に住む女の中で最も祝福されている。
- 25 シセラが水を求めると、彼女は乳を与え、高価な鉢で凝乳を差し出した。
- 26 ヤエルは杭を手にし、右手に職人の槌をかざしシセラを打って、その頭に打ち込み、こめかみを砕いて刺し貫いた。
- 27 彼女の足もとに彼は膝をつき、倒れ、横たわった。彼女の足もとに彼は膝をつき、倒れた。膝をついた場所で、倒れて滅びた。
- 28 窓から見下ろして、シセラの母は格子窓から見下ろして嘆いた。『なぜ、あれの車が来るのは遅れているのか。なぜ、あれの戦車の動きは鈍いのか。』
- 29 知恵のある女官たちは彼女に答え、彼女も同じことばを繰り返した。
- 30 『彼らは分捕り物を見つけ出し、それを分けているのではありませんか。勇士それぞれには一人か二人の娘を、シセラには染め織物を分捕り物として。分捕り物として、刺繍した染め織物を、刺繍した染め織物二枚を首に、分捕り物として。』
- 31 このように、主よ、あなたの敵がみな滅び、主を愛する者が、力強く昇る太陽のようになりますように。」こうして、国は四十年の間、穏やかであった。

第6章

- 1 イスラエルの子らは、主の目に悪であることを行った。そこで、主は七年の間、彼らをミディアン人の手に渡された。
- 2 ミディアン人の勢力がイスラエルに対して強くなったので、イスラエル人はミディアン人を避けて、山々にある洞窟や洞穴や要害を自分たちのものとした。
- 3 イスラエルが種を蒔くと、いつもミディアン人、アマレク人、そして東方の人々が上って来て、彼らを襲った。
- 4 彼らはイスラエル人に向かって陣を敷き、その地の産物をガザに至るまで荒らして、いのちをつなぐ糧も、羊も牛もろばもイスラエルに残さなかった。
- 5 実に、彼らは自分たちの家畜と天幕を持って上り、いなごの大群のように押しかけて来た。彼らとそのらくだは数えきれないほどであった。彼らは国を荒らそうと入って来たのであった。
- 6 こうして、イスラエルはミディアン人の前で非常に弱くなった。すると、イスラエルの子らは主に叫び求めた。
- 7 イスラエルの子らがミディアン人のゆえに主に叫び求めたとき、
- 8 主は一人の預言者をイスラエルの子らに遣わされた。預言者は彼らに言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。 わたしはあなたがたをエジプトから上らせ、奴隷の家から導き出し、
- 9 エジプト人の手と、圧迫するすべての者の手から助け出し、あなたがたの前から彼らを追い出して、その地をあなたがたに与えた。
- 10 わたしはあなたがたに言った。『わたしが主、あなたがたの神である。あなたがたが住んでいる地のアモリ人の神々を恐れてはならない』と。ところが、あなたがたはわたしの声に聞き従わなかった。」
- 11 さて主の使いが来て、アビエゼル人ヨアシュに属するオフラにある榎の木の下に座った。このとき、ヨアシュの子ギデオンは、ぶどうの踏み場で小麦を打っていた。ミディアン人から隠れるためであった。
- 12 主の使いが彼に現れて言った。「力ある勇士よ、主があなたとともにおられる。」
- 13 ギデオンは御使いに言った。「ああ、主よ。もし主が私たちとともにおられるなら、なぜこれらすべてのことが、私たちに起こったのですか。『主は私たちをエジプトから上らせたではないか』と言って、先祖が伝えたあの驚くべきみわざはみな、どこにあるのですか。今、主は私たちを捨てて、ミディアン人の手に渡されたのです。」
- 14 すると、主は彼の方を向いて言われた。「行け、あなたのその力で。あなたはイスラエルをミディアン人の手から救うのだ。わたしがあなたを遣わすのではないか。」
- 15 ギデオンは言った。「ああ、主よ。どうすれば私はイスラエルを救えるでしょうか。ご存じのように、私の氏族はマナセの中で最も弱く、そして私は父の家で一番若いのです。」
- 16 主はギデオンに言われた。「わたしはあなたとともにいる。あなたは一人を討つようにミディアン人を討つ。」

- 17 すると、ギデオンは言った。「もし私がみこころにかなうのでしたら、私と話しておられるのがあなたであるというしるしを、私に見せてください。
- 18 どうか、私が戻って来るまでここを離れないでください。贈り物を持って来て、御前に供えますので。」主は、「あなたが戻って来るまで、ここにいよう」と言われた。
- 19 ギデオンは行って、子やぎ一匹を調理し、粉一エパで種なしパンを作った。そして、その肉をかごに入れ、また肉汁を壺に入れ、櫟の木の下にいる方のところに持って来て差し出した。
- 20 神の使いは彼に言った。「肉と種なしパンを取って、この岩の上に置き、その肉汁を注げ。」そこで、ギデオンはそうにした。
- 21 主の使いは、手にしていた杖の先を伸ばして、肉と種なしパンに触れた。すると、火が岩から燃え上がって、肉と種なしパンを焼き尽くしてしまった。主の使いは去って見えなくなった。
- 22 ギデオンには、この方が主の使いであったことが分かった。ギデオンは言った。「ああ、神、主よ。私は顔と顔を合わせて主の使いを見てしまいました。」
- 23 主は彼に言われた。「安心せよ。恐れるな。あなたは死なない。」
- 24 ギデオンはそこに主のために祭壇を築いて、これをアドナイ・シャロムと名づけた。これは今日まで、アビエゼル人のオフラに残っている。
- 25 その夜、主はギデオンに言われた。「あなたの父の若い雄牛で、七歳の第二の雄牛を取り、あなたの父が持っているバアルの祭壇を壊し、そのそばにあるアシェラ像を切り倒せ。
- 26 あなたの神、主のために、その砦の頂に石を積んで祭壇を築け。あの第二の雄牛を取り、切り倒したアシェラ像の木で全焼のささげ物を献げよ。」
- 27 そこで、ギデオンは自分のしもべの中から十人を引き連れて、主が言われたとおりに行った。しかし、彼は父の家の者や、町の人々を恐れたので、昼間はそれをせず、夜に行った。
- 28 町の人々が翌朝早く起きて見ると、なんと、バアルの祭壇は打ち壊され、そのそばにあったアシェラ像は切り倒され、新しく築かれた祭壇の上には、第二の雄牛が献げられていた。
- 29 そこで、彼らは互いに言った。「だれがこのようなことをしたのか。」彼らは調べて尋ね回り、「ヨアシュの子ギデオンがこれをしたのだ」と言った。
- 30 町の人々はヨアシュに言った。「おまえの息子を引っ張り出して殺せ。あれはバアルの祭壇を打ち壊し、そばにあったアシェラ像も切り倒したのだ。」
- 31 すると、ヨアシュは自分に向かって来たすべての者に言った。「あなたがたは、バアルのために争おうというのか。あなたがたは、それを救おうとするのか。バアルのために争う者は、朝までに殺される。もしバアルが神であるなら、自分の祭壇が打ち壊されたのだから、自分で争えばよいのだ。」
- 32 こうして、その日、父は「バアルは自分で彼と争えばよい。なぜなら彼はバアルの祭壇を打ち壊したのだから」と言って、ギデオンをエルバアルと呼んだ。

- 33** ミディアン人やアマレク人、また東方の人々はみな連合してヨルダン川を渡り、イズレエルの平野に陣を敷いた。
- 34** 主の霊がギデオンをおおったので、彼が角笛を吹き鳴らすと、アビエゼル人が集まって来て、彼に従った。
- 35** ギデオンはマナセの全域に使者を遣わしたので、彼らもまた、呼び集められて彼に従った。また彼は、アシェル、ゼブルン、そしてナフタリに使者を遣わし、彼らも上って来て合流した。
- 36** ギデオンは神に言った。「もしあなたが言われたとおり、私の手によってイスラエルを救おうとされるのなら、
- 37** ご覧ください。私は刈り取った一匹分の羊の毛を打ち場に置きます。もしその羊の毛だけに露が降りていて、土全体が乾いていたら、あなたが言われたとおり、私の手によって、あなたがイスラエルをお救いになると私に分かります。」
- 38** すると、そのようになった。ギデオンが翌日朝早く、羊の毛を押しつけて、その羊の毛から露を絞り出すと、鉢は水でいっぱいになった。
- 39** ギデオンは神に言った。「私に向かって御怒りを燃やさないでください。私にもう一度だけ言わせてください。どうか、この羊の毛でもう一度だけ試みさせてください。今度はこの羊の毛だけが乾いていて、土全体には露が降りるようにしてください。」
- 40** 神はその夜、そのようにされた。羊の毛だけが乾いていて、土全体には露が降りていたのであった。

第7章

- 1 エルバアルすなわちギデオンと、彼とともにいた兵はみな、朝早くハロデの泉のそばに陣を敷いた。ミディアン人の陣営は、その北、モレの丘に沿った平地にあった。
- 2 主はギデオンに言われた。「あなたと一緒にいる兵は多すぎるので、わたしはミディアン人を彼らの手に渡さない。イスラエルが『自分の手で自分を救った』と言って、わたしに向かって誇るといけないからだ。
- 3 今、兵たちの耳に呼びかけよ。『だれでも恐れおののく者は帰り、ギルアデ山から離れよ』と。」すると、兵のうちの二万二千人が帰って行き、一万人が残った。
- 4 主はギデオンに言われた。「兵はまだ多すぎる。彼らを連れて水辺に下って行け。わたしはそこで、あなたのために彼らをより分けよう。わたしがあなたに、『この者はあなたと一緒に行くべきである』と言うなら、その者はあなたと一緒に行かなければならない。またわたしがあなたに、『この者はあなたと一緒に行くべきではない』と言うなら、だれも行ってはならない。」
- 5 そこでギデオンは兵を連れて、水辺に下って行った。主はギデオンに言われた。「犬がなめるように、舌で水をなめる者は残らず別にせよ。また、飲むために膝をつく者もすべてそうせよ。」
- 6 すると、手で口に水を運んですすった者の数が三百人であった。残りの兵はみな、膝をついて水を飲んだ。
- 7 主はギデオンに言われた。「手で水をすすった三百人で、わたしはあなたがたを救い、ミディアン人をあなたの手へ渡す。残りの兵はみな、それぞれ自分のところに帰らせよ。」
- 8 そこで三百人の者は、兵の食糧と角笛を手にとった。こうして、ギデオンはイスラエル人をみな、それぞれ自分の天幕に送り返し、三百人の者だけを引きとどめた。ミディアン人の陣営は、彼から見て下の方の平地にあった。
- 9 その夜、主はギデオンに言われた。「立って、あの陣営に攻め下れ。それをあなたの手へ渡したから。
- 10 もし、あなたが下って行くことを恐れるなら、あなたの従者ブラと一緒に陣営に下って行き、
- 11 彼らが何を言っているかを聞け。その後、あなたの手は強くなって、陣営に攻め下ることが出来る。」ギデオンと従者ブラは、陣営の中の隊列の端まで下って行った。
- 12 ミディアン人やアマレク人、またすべての東方の民が、いなごのように大勢、平地に伏していた。彼らのらくだは、海辺の砂のように多くて数えきれなかった。
- 13 ギデオンがそこに来ると、ちょうど一人の者が仲間に夢の話をしていた。「聞いてくれ。私は夢を見た。見ると、大麦のパンの塊が一つ、ミディアン人の陣営に転がって来て、天幕に至り、それを打ったので、それは崩れ落ちて、ひっくり返った。こうして天幕は倒れてしまった。」
- 14 すると、その仲間は答えて言った。「それはイスラエル人ヨアシュの子ギデオンの剣でなくて何であろうか。神が彼の手に、ミディアン人と全陣営を渡されたのだ。」

- 15 ギデオンはこの夢の話と解釈を聞いたとき、主を礼拝し、イスラエルの陣営に戻って言った。「立て。主はミディアン人の陣営をあなたがたの手に渡された。」
- 16 彼は三百人を三隊に分け、全員の手には角笛と空の壺を持たせ、その壺の中にたいまつを入れさせて、
- 17 彼らに言った。「私を見て、あなたがたも同じようにしなければならない。見よ。私が陣営の端に着いたら、私がするように、あなたがたもしなければならない。」
- 18 私と、私と一緒にいるすべての者が角笛を吹いたら、あなたがたもまた、全陣営を囲んで角笛を吹き鳴らし、『主のため、ギデオンのため』と言わなければならない。」
- 19 真夜中の夜番が始まるとき、ギデオンと、彼と一緒にいた百人の者が陣営の端に着いた。ちょうどそのとき、番兵が交代したばかりであったので、彼らは角笛を吹き鳴らし、その手に持っていた壺を打ち壊した。
- 20 三隊の者が角笛を吹き鳴らして、壺を打ち砕き、左手にたいまつを、右手に吹き鳴らす角笛を固く握って「主のため、ギデオンのための剣」と叫んだ。
- 21 彼らはそれぞれ持ち場に立ち、陣営を取り囲んだので、陣営の者はみな走り出し、大声をあげて逃げた。
- 22 三百人が角笛を吹き鳴らしている間に、主は陣営全体にわたって同士討ちが起こるようにされたので、軍勢はツエレラの方のベテ・ハ・シタや、タバテの近くのアベル・メホラの岸辺まで逃げた。
- 23 イスラエル人は、ナフタリ、アシェル、また全マナセから呼び集められて、ミディアン人を追撃した。
- 24 ギデオンはエフライムの山地全域に使者を遣わして言った。「下りて来て、ミディアン人を迎え撃て。彼らから、ベテ・バラまでの流れと、ヨルダン川を攻め取れ。」エフライム人はみな呼び集められ、ベテ・バラまでの流れと、ヨルダン川を攻め取った。
- 25 彼らはミディアン人の二人の首長オレブとゼエブを捕らえ、オレブをオレブの岩で殺し、ゼエブをゼエブのぶどうの踏み場で殺した。こうしてエフライム人はミディアン人を追撃したが、オレブとゼエブの首は、ヨルダン川の反対側にいたギデオンのところに持って行った。

第8章

- 1 エフライムの人々はギデオンに言った。「あなたは私たちに何ということをしたのか。ミディアン人と戦いに行くとき、私たちに呼びかけなかったとは。」こうして彼らはギデオンを激しく責めた。
- 2 ギデオンは彼らに言った。「あなたがたに比べて、私が今、何をしたというのですか。アビエゼルのぶどうの収穫よりも、エフライムの取り残した実のほうが良かったではありませんか。
- 3 神はあなたがたの手にミディアン人の首長オレブとゼエブを渡されました。あなたがたに比べて、私が何をなし得たというのですか。」ギデオンがこのように話すと、彼らの怒りは和らいだ。
- 4 それからギデオンは、彼に従う三百人とヨルダン川を渡った。彼らは疲れていたが、追撃を続けた。
- 5 彼はスコテの人々に言った。「どうか、私について来た兵に円形パンを下さい。彼らは疲れているからです。私はミディアン人の王ゼバフとツアルムナを追っているのです。」
- 6 すると、スコテの首長たちは言った。「おまえは今、ゼバフとツアルムナの手首を手にしているのか。われわれがおまえの部隊にパンを与えなければならないとは。」
- 7 ギデオンは言った。「そういうことなら、主が私の手にゼバフとツアルムナを渡されるとき、私は荒野の茨やとげで、おまえのからだを打ちのめす。」
- 8 ギデオンはそこからペヌエルに上って行き、同じように彼らに話した。すると、ペヌエルの人々もスコテの人々と同じように彼らに答えた。
- 9 そこでギデオンはまたペヌエルの人々に言った。「私が無事に帰って来たら、このやぐらを打ち壊す。」
- 10 ゼバフとツアルムナはカルコルにいたが、約一万五千人からなる陣営の者もともにいた。これは東方の民の陣営全体のうち、生き残った者のすべてであった。剣を使う者十二万人が、すでに倒されていた。
- 11 そこでギデオンは、ノバフとヨグボハの東の、天幕に住む人々の道を上って行き、陣営を討った。陣営は安心しきっていた。
- 12 ゼバフとツアルムナは逃げたが、ギデオンは彼らの後を追った。彼は、ミディアンの二人の王ゼバフとツアルムナを捕らえ、その全陣営を震え上がらせた。
- 13 こうして、ヨアシュの子ギデオンは、ヘレスの坂道を通して戦いから帰って来た。
- 14 彼はスコテの人々の中から一人の若者を捕らえて尋問した。すると、その若者はギデオンのために、スコテの首長たちと七十七人の長老たちの名を書いた。
- 15 ギデオンはスコテの人々のところに行き、そして言った。「見よ、ゼバフとツアルムナを。彼らは、おまえたちが私をそしって、『おまえは、今、ゼバフとツアルムナの手首を手にしているのか。おまえに従う疲れた者たちに、われわれがパンを与えなければならないとは』と言ったあの者たちだ。」

- 16 ギデオンはその町の長老たちを捕らえ、また荒野の茨やとげを取って、それでスコテの人々に思い知らせた。
- 17 また彼はペヌエルのやぐらを打ち壊して、町の人々を殺した。
- 18 それから、ギデオンはゼバフとツアルムナに言った。「おまえたちがタブオルで殺した者たちはどんな人たちだったか。」彼らは答えた。「彼らはあなたによく似ていました。どの人も王子のような姿でした。」
- 19 ギデオンは言った。「私の兄弟、私の母の息子たちだ。主は生きておられる。おまえたちが彼らを生かしておいてくれたなら、私はおまえたちを殺しはしなかったのだが。」
- 20 そしてギデオンは自分の長男エテルに「立って、彼らを殺しなさい」と言ったが、若者は自分の剣を抜かなかった。彼はまだ若く、恐ろしかったからである。
- 21 そこで、ゼバフとツアルムナは言った。「あなたが立って、私たちに討ちかかりなさい。人の勇氣はそれぞれ違うのだから。」ギデオンは立って、ゼバフとツアルムナを殺し、彼らのらくだの首に掛けてあった三日月形の飾りを取った。
- 22 イスラエル人はギデオンに言った。「あなたも、あなたの子も、あなたの孫も、私たちを治めてください。あなたが私たちをミディアン人の手から救ったのですから。」
- 23 しかしギデオンは彼らに言った。「私はあなたがたを治めません。また、私の息子も治めません。主があなたがたを治められます。」
- 24 ギデオンはまた彼らに言った。「あなたがたに一つお願いしたい。各自の分捕り物の耳輪を私に下さい。」殺された者たちはイシュマエル人で、金の耳輪をつけていた。
- 25 彼らは「もちろん差し上げます」と答えて、上着を広げ、各自がその分捕り物の耳輪をその中に投げ込んだ。
- 26 ギデオンが求めた金の耳輪の重さは、金千七百シェケルであった。このほかに、三日月形の飾りや、耳飾りや、ミディアンの王たちの着ていた赤紫の衣、またほかに、彼らのらくだの首に掛けてあった首飾りなどもあった。
- 27 ギデオンは、それでエポデを一つ作り、彼の町オフラにそれを置いた。イスラエルはみなそれを慕って、そこで淫行を行った。それはギデオンとその一族にとって罠となった。
- 28 こうしてミディアン人はイスラエル人の前に屈服させられ、二度とその頭を上げなかった。国はギデオンの時代、四十年の間、穏やかであった。
- 29 ヨアシュの子エルバアルは帰り、自分の家に住んだ。
- 30 ギデオンには彼の腰から生まれ出た息子が七十人いた。彼には大勢の妻がいたからである。
- 31 シェケムにいた側女もまた、彼に一人の男の子を産んだ。そこでギデオンはアビメレクという名をつけた。
- 32 ヨアシュの子ギデオンは幸せな晩年を過ごして死に、アビエゼル人のオフラにある父ヨアシュの墓に葬られた。
- 33 ギデオンが死ぬと、イスラエルの子らはすぐに元に戻り、もろもろのバアルを慕って淫行を行い、バアル・ペリテを自分たちの神とした。
- 34 イスラエルの子らは、周囲のすべての敵の手から救い出してくださった彼らの神、主を、心に留めなかった。

35 彼らは、エルバアル、すなわちギデオンがイスラエルのために尽くしたあらゆる善意にふさわしい誠意を、彼の家族に対して尽くさなかった。

第9章

- 1 さて、エルバアルの子アビメレクは、シェケムにいる母の身内の者たちのところに行き、彼らと母の一族の氏族全員に告げて言った。
- 2 「どうかシェケムのすべての住民の耳に教えてください。『あなたがたにとって、エルバアルの息子七十人全員であなたがたを治めるのと、ただ一人があなたがたを治めるのとでは、どちらがよいか。私があなたがたの骨肉であることを思い起こすがよい』と。」
- 3 アビメレクの母の身内の者たちが、彼の代わりに、これらのことをみな、シェケムのすべての住民の耳に告げたとき、彼らの心はアビメレクに傾いた。彼らが「彼は私たちの身内の者だ」と思ったからである。
- 4 彼らは、バアル・ベリテの神殿から銀七十シェケルを取り出して彼に与えた。アビメレクはそれで、粗暴なならず者たちを雇った。彼らはアビメレクに従った。
- 5 アビメレクはオフラにある彼の父の家に行って、自分の兄弟であるエルバアルの息子たち七十人を一つの石の上で殺した。しかし、エルバアルの末の子ヨタムは隠れていたので生き残った。
- 6 シェケムのすべての住民とベテ・ミロのすべての人々は集まり、行って、シェケムにある石柱のそばの榿の木の傍らで、アビメレクを王とした。
- 7 このことがヨタムに告げられたとき、彼は行って、ゲリジム山の頂上に立ち、声を張り上げ、彼らに叫んだ。「私に聞け、シェケムの人々よ。そうすれば神はあなたがたに耳を傾けてくださる。
- 8 木々が出かけて行って、自分たちの上に王を立てて油を注ごうとした。木々はオリーブの木に言った。『私たちの王となってください。』
- 9 すると、オリーブの木は彼らに言った。『私は、神と人をあがめるために使われる私の油を捨て置いて、木々の上にそよぐために行かなければならないのだろうか。』
- 10 木々はいちじくの木に言った。『あなたが来て、私たちの王となってください。』
- 11 しかし、いちじくの木は彼らに言った。『私は、私の甘みと良い実を捨て置いて、木々の上にそよぐために行かなければならないのだろうか。』
- 12 木々はぶどうの木に言った。『あなたが来て、私たちの王となってください。』
- 13 しかし、ぶどうの木は彼らに言った。『私は、神と人を喜ばせる私の新しいぶどう酒を捨て置いて、木々の上にそよぐために行かなければならないのだろうか。』
- 14 そこで、すべての木が茨に言った。『あなたが来て、私たちの王となってください。』
- 15 茨は木々に言った。『もしあなたがたが誠意をもって私に油を注ぎ、あなたがたの王とするなら、来て、私の陰に身を避けよ。もしそうでなければ、茨から火が出て、レバノンの杉の木を焼き尽くすだろう。』
- 16 今、あなたがたは誠意と真心をもって行動して、アビメレクを王にしたのか。あなたがたはエルバアルとその家族に良くして、彼の手柄に報いたのか。
- 17 私の父は、あなたがたのために戦い、自分のいのちをかけて、あなたがたをミディアン人の手から助け出したのだ。

- 18 しかし、あなたがたは今日、私の父の家に背いて立ち上がり、その息子たち七十人を一つの石の上で殺し、また、あなたがたの身内の者だからというので、女奴隷の子アビメレクをシェケムの住民たちの上に王として立てた。
- 19 もしあなたがたが、今日、エルバアルとその家族に対して誠意と真心をもって行動したのなら、あなたがたはアビメレクによって喜ぶがよい。彼も、あなたがたによって喜ぶがよい。
- 20 もしそうでなかったなら、アビメレクから火が出て、シェケムの住民とベテ・ミロを焼き尽くし、シェケムの住民とベテ・ミロからも火が出て、アビメレクを焼き尽くすだろう。」
- 21 それから、ヨタムは逃げ去ってベエルに行き、兄弟アビメレクの顔を避けてそこに住んだ。
- 22 アビメレクは三年間、イスラエルを支配した。
- 23 神は、わざわいの霊をアビメレクとシェケムの住民の間に送られたので、シェケムの住民たちはアビメレクを裏切った。
- 24 こうして、エルバアルの七十人の息子たちに対する暴虐への報いが現れ、彼らの血が、彼らを殺した兄弟アビメレクと、アビメレクに手を貸してその兄弟たちを殺したシェケムの住民たちの上に降りかかった。
- 25 シェケムの住民たちは、アビメレクを待ち伏せする者たちを山々の頂上に置き、また道を通り過ぎるすべての者から略奪した。やがて、このことがアビメレクに告げられた。
- 26 エベデの子ガアルとその身内の者たちが来て、シェケムを通りかかったとき、シェケムの住民たちは彼を信用した。
- 27 住民たちは畑に出て行って、ぶどうを収穫して踏み、祭りを催して自分たちの神の宮に入って行き、食べたり飲んだりしてアビメレクをののしった。
- 28 そのとき、エベデの子ガアルは言った。「アビメレクとは何者か。シェケムとは何者か。われわれが彼に仕えなければならないとは。彼はエルバアルの子、ゼブルは彼に仕える者ではないか。シェケムの父ハモルの人々に仕えよ。なぜわれわれはアビメレクに仕えなければならないのか。
- 29 だれか、この兵を私の手に与えてくれないものか。そうすれば、私はアビメレクを追い出すのだが。」彼はアビメレクに「おまえの軍勢を増やして、出て来い」と言った。
- 30 この町の長ゼブルは、エベデの子ガアルの言ったことを聞いて怒りを燃やし、
- 31 ひそかにアビメレクのところに使者を遣わして言った。「今、エベデの子ガアルとその身内の者たちがシェケムに来ています。なんと、彼らは町をあなたに背かせようとしています。
- 32 今、あなたとあなたとともにいる兵が、夜のうちに立って、野で待ち伏せし、
- 33 朝早く、太陽が昇るころ、町に襲いかかるようにしてください。すると、ガアルと、彼とともにいる兵があなたに向かって出て来るでしょう。あなたは手当たり次第、彼らを攻撃することができます。」
- 34 そこで、アビメレクと、彼とともにいた兵はみな、夜のうちに立って、四隊に分かれてシェケムに向かって待ち伏せた。

- 35 エベデの子ガアルが出て来て、町の門の入り口に立ったとき、アビメレクと、彼とともにいた兵は、待ち伏せしていたところから立ち上がった。
- 36 ガアルはその兵を見て、ゼブルに言った。「見よ、兵が山々の頂から下りて来る。」ゼブルは彼に言った。「あなたには、山々の影が人のように見えるのです。」
- 37 ガアルはまた続けて言った。「見よ、兵がこの地の一番高いところから下りて来る。さらに一隊がメオンニムの櫟の木の方から来る。」
- 38 ゼブルは彼に言った。「『アビメレクとは何者か。われわれが彼に仕えなければならないとは』と言ったあなたの口は、いったいどこにあるのですか。あなたが見くびっていたのは、この兵ではありませんか。さあ今、出て行って、彼と戦いなさい。」
- 39 そこで、ガアルはシェケムの住民たちの先頭に立って出て行き、アビメレクと戦った。
- 40 アビメレクが彼を追ったので、ガアルは彼の前から逃げた。多くの者が刺し殺されて倒れ、門の入り口にまで及んだ。
- 41 アビメレクはアルマにとどまったが、ゼブルは、ガアルとその身内の者たちを追い払って、彼らをシェケムにとどまらせなかった。
- 42 翌日、兵が野に出て行くと、そのことがアビメレクに告げられた。
- 43 そこで、アビメレクは自分の兵を引き連れ、三隊に分けて、野で待ち伏せた。彼が見ていると、見よ、兵が町から出て来た。そこで彼は立ち上がって彼らを討った。
- 44 アビメレクと、彼とともにいた一隊は町に襲いかかって、その門の入り口に立った。一方、残りの二隊は野にいたすべての者を襲って打ち殺した。
- 45 アビメレクは、その日一日中、町を攻め、この町を占領して、その中の民を殺した。彼は町を破壊して、そこに塩をまいた。
- 46 シェケムのやぐらの住民たちはみな、これを聞いてエル・ベリテの神殿の地下室に入った。
- 47 シェケムのやぐらの住民たち全員が集まったことがアビメレクに告げられたとき、
- 48 アビメレクは、自分とともにいた兵全員とツアルモン山に登った。アビメレクは手に斧を取って木の枝を切り、これを持ち上げて自分の肩に担ぎ、ともにいる兵に言った。「あなたがたは私が何をしたかを見ただろう。急いで私と同じようにしなさい。」
- 49 そこで兵も、みなそれぞれ枝を切ってアビメレクについて行き、枝を地下室の上に置いて火をつけ、地下室を焼いた。こうしてシェケムのやぐらの者たち、男女約千人がみな死んだ。
- 50 それからアビメレクはテベツに行き、テベツに向かって陣を敷いて、これを占領した。
- 51 この町の中に堅固なやぐらがあった。すべての男女、町の住民たち全員はそこへ逃げて立てこもり、やぐらの屋根に上った。
- 52 アビメレクはやぐらのところまで来て、これを攻め、やぐらの入り口に近づいて、これを火で焼こうとした。
- 53 そのとき、一人の女がアビメレクの頭にひき臼の上石を投げつけて、彼の頭蓋骨を砕いた。

- 54** アビメレクは急いで、道具持ちの若者を呼んで言った。「おまえの剣を抜いて、私にとどめを刺せ。女が殺したのだと私について人が言わないように。」若者が彼を刺したので、彼は死んだ。
- 55** イスラエル人はアビメレクが死んだのを見て、一人ひとり自分のところへ帰って行った。
- 56** こうして神は、アビメレクが兄弟七十人を殺して自分の父に行った、その悪の報いを彼に返された。
- 57** 神はまた、シェケムの人々のすべての悪の報いを彼らの頭上に返された。エルバアルの子ヨタムののろいが彼らに臨んだ。

第10章

- 1 アビメレクの後、イスラエルを救うために、イッサカル人、ドドの子プワの息子トラが立ち上がった。彼はエフライムの山地にあるシャミルに住んでいた。
- 2 彼は二十三年間イスラエルをさばき、死んでシャミルに葬られた。
- 3 彼の後にギルアデ人ヤイルが立ち上がり、二十二年間イスラエルをさばいた。
- 4 彼には三十人の息子がいた。彼らは三十頭のろばに乗り、三十の町を持っていた。それらは今日まで、ハボテ・ヤイルと呼ばれ、ギルアデの地にある。
- 5 ヤイルは死んでカモンに葬られた。
- 6 イスラエルの子らは再び、主の目に悪であることを行い、もろもろのバアルやアシュタロテ、アラムの神々、シドンの神々、モアブの神々、アンモン人の神々、ペリシテ人の神々に仕えた。こうして彼らは主を捨て、主に仕えなかった。
- 7 主の怒りはイスラエルに向かって燃え上がり、主は彼らをペリシテ人の手とアンモン人の手に売り渡された。
- 8 彼らはその年、イスラエル人を打ち砕き、十八年の間、ヨルダンの川向こう、ギルアデにあるアモリ人の地にいたすべてのイスラエル人を虐げた。
- 9 アンモン人がヨルダン川を渡って、ユダ、ベニヤミン、およびエフライムの家と戦ったので、イスラエルは大変な苦境に立たされた。
- 10 そのとき、イスラエルの子らは主に叫んだ。「私たちはあなたに罪を犯しました。私たちの神を捨ててバアルの神々に仕えたのです。」
- 11 主はイスラエルの子らに言われた。「わたしは、かつてエジプト人、アモリ人、アンモン人、ペリシテ人から、
- 12 また、シドン人、アマレク人、マオン人があなたがたを虐げてあなたがたがわたしに叫んだとき、あなたがたを彼らの手から救ったではないか。
- 13 しかし、あなたがたはわたしを捨てて、ほかの神々に仕えた。だから、わたしはこれ以上あなたがたを救わない。
- 14 行け。そして、あなたがたが選んだ神々に叫べ。あなたがたの苦しみの時には、彼らが救ってくれるだろう。」
- 15 イスラエルの子らは主に言った。「私たちは罪を犯しました。あなたが良いと思われるように何でも私たちにしてください。ただ、どうか今日、私たちを救い出してください。」
- 16 彼らが自分たちのうちから異国の神々を取り去って主に仕えたので、主はイスラエルの苦痛を見るに忍びなくなられた。
- 17 このころ、アンモン人が呼び集められて、ギルアデに陣を敷いた。一方、イスラエル人も集まって、ミツパに陣を敷いた。
- 18 ギルアデの民や、その首長たちは互いに言い合った。「アンモン人と戦いを始める者はだれか。その人がギルアデの住民すべてのかしらとなるのだ。」

第11章

- 1 さて、ギルアデ人エフタは勇士であったが、彼は遊女の子であった。エフタの父親はギルアデであった。
- 2 ギルアデの妻も、男の子たちを産んだ。この妻の子どもたちが成長したとき、彼らはエフタを追い出して、彼に言った。「あなたはほかの女の息子だから、私たちの父の家を継いではない。」
- 3 そこで、エフタは兄弟たちのところから逃げて行き、トブの地に住んだ。エフタのもとには、ならず者が集まっていて、彼と一緒に出入りしていた。
- 4 それからしばらくして、アンモン人がイスラエルに戦争を仕掛けてきた。
- 5 アンモン人がイスラエルに戦争を仕掛けてきたとき、ギルアデの長老たちはトブの地からエフタを連れ戻そうと出かけて行き、
- 6 エフタに言った。「来て、私たちの首領になってください。そしてアンモン人と戦いましょう。」
- 7 エフタはギルアデの長老たちに言った。「あなたがたは私を憎んで、父の家から追い出したではないか。苦しみにあったからといって、今なぜ私のところにやって来るのか。」
- 8 すると、ギルアデの長老たちはエフタに言った。「だからこそ、今、私たちはあなたのところに戻って来たのです。あなたは私たちと一緒にいき、アンモン人と戦って、私たちギルアデの住民すべてのかしらになってください。」
- 9 エフタはギルアデの長老たちに言った。「もしあなたがたが私を連れ戻してアンモン人と戦わせ、主が彼らを私に渡してくださったなら、私はあなたがたのかしらとなろう。」
- 10 ギルアデの長老たちはエフタに言った。「主が私たちの間の証人となられます。私たちは必ずあなたの言われるとおりにします。」
- 11 エフタがギルアデの長老たちと一緒にいき、民が彼を自分たちのかしらとし、首領としたとき、エフタは自分が言ったことをみな、ミツパで主の前に告げた。
- 12 エフタはアンモン人の王に使者たちを遣わして言った。「あなたは私とどういう関わりがあるのですか。私のところに攻めて来て、この国と戦おうとするとは。」
- 13 すると、アンモン人の王はエフタの使者たちに答えた。「イスラエルがエジプトから上って来たとき、アルノン川からヤボク川、それにヨルダン川に至るまでの私の土地を取ったからだ。今、これらの地を穏やかに返しなさい。」
- 14 エフタは再びアンモン人の王に使者たちを遣わして、
- 15 こう言った。「エフタはこう言う。イスラエルはモアブの地も、アンモン人の地も取ってはいない。
- 16 イスラエルはエジプトから上って来たとき、荒野を歩いて葦の海まで歩き、それからカデシュまで来た。
- 17 そこでイスラエルはエドムの王に使者たちを遣わして言った。『どうか、あなたの国を通らせてください』と。ところが、エドムの王は聞き入れなかった。同様にモアブの王にも

使者たちを遣わしたが、彼も受け入れなかったので、イスラエルはカデシュにとどまった。

- 18 それから荒野を行き、エドムの地とモアブの地を迂回し、モアブの地の東まで来て、アルノン川の対岸に宿営した。しかし、モアブの領土には入らなかった。アルノンはモアブの国境だったからだ。
- 19 そこでイスラエルは、ヘシュボンの王で、アモリ人の王シホンに使者たちを遣わして言った。『どうか、あなたの国を通らせて、目的地に行かせてください』と。
- 20 しかし、シホンはイスラエルを信用せず、その領土を通らせなかったばかりか、兵をみな集めてヤハツに陣を敷き、イスラエルと戦った。
- 21 イスラエルの神、主が、シホンとその兵全員をイスラエルの手に渡されたので、イスラエルは彼らを打ち破った。そしてイスラエルは、その地方に住んでいたアモリ人の全地を占領した。
- 22 こうしてイスラエルは、アルノン川からヤボク川まで、および荒野からヨルダン川までのアモリ人の全領土を占領したのだ。
- 23 今すでに、イスラエルの神、主が、ご自分の民イスラエルの前からアモリ人を追い払われたというのに、あなたはその地を取ろうとしている。
- 24 あなたは、あなたの神ケモシュがあなたに占領させようとする地を占領しないのか。私たちは、私たちの神、主が、私たちの前から追い払ってくださる者の土地をみな占領するのだ。
- 25 今、あなたはモアブの王ツィポルの子バラクよりもまさっているだろうか。彼はイスラエルと争ったり、戦ったりしたことがあったか。
- 26 イスラエルが、ヘシュボンとそれに属する村々、アロエルとそれに属する村々、アルノン川の川岸のすべての町に三百年間住んでいたのに、なぜあなたがたは、その間にそれを取り戻さなかったのか。
- 27 私はあなたに罪を犯していないのに、あなたは私に戦いを挑んで、私に害を加えようとしている。審判者であられる主が、今日、イスラエル人とアンモン人の間をさばいてくださるように。」
- 28 しかし、アンモン人の王はエフタが送ったことばを聞き入れなかった。
- 29 主の霊がエフタの上に下ったとき、彼はギルアデとマナセを通り、ギルアデのミツパを経て、そしてギルアデのミツパからアンモン人のところへ進んで行った。
- 30 エフタは主に誓願を立てて言った。「もしあなたが確かにアンモン人を私の手に与えてくださるなら、
- 31 私がアンモン人のところから無事に帰って来たとき、私の家の戸口から私を迎えに出て来る者を主のものといいたします。私はその人を全焼のささげ物として献げます。」
- 32 こうして、エフタはアンモン人のところに進んで行き、彼らと戦った。主は彼らをエフタの手に渡された。
- 33 彼はアロエルからミニテに至るまでの二十の町、またアベル・ケラミムに至るまでを非常に激しく討ったので、アンモン人はイスラエル人に屈服した。

- 34 エフタがミツパの自分の家に帰ると、なんと、自分の娘がタンバリンを鳴らし、踊りながら迎えに出て来ているではないか。彼女はひとり子で、エフタには彼女のほかに、息子も娘もなかった。
- 35 エフタは彼女を見るや、自分の衣を引き裂いて言った。「ああ、私の娘よ、おまえは本当に私を打ちのめしてしまった。おまえは私を苦しめる者となった。私は主に向かって口を開いたのだから、もう取り消すことはできないのだ。」
- 36 すると、娘は父に言った。「お父様、あなたは主に対して口を開かれたのです。口に出されたとおりのことを私にしてください。主があなたのために、あなたの敵アンモン人に復讐なさったのですから。」
- 37 娘は父に言った。「このように私にさせてください。私に二か月の猶予を下さい。私は山々をさまよい歩き、自分が処女であることを友だちと泣き悲しみたいのです。」
- 38 エフタは、「行きなさい」と言って、娘を二か月の間、出してやったので、彼女は友だちと一緒にいき、山々の上で自分が処女であることを泣き悲しんだ。
- 39 二か月が終わって、娘は父のところに帰って来たので、父は誓った誓願どおりに彼女に行った。彼女はついに男を知らなかった。イスラエルではしきたりができて、
- 40 年ごとに四日間、イスラエルの娘たちは出て行って、ギルアデ人エフタの娘のために嘆きの歌を歌うのであった。

第12章

- 1 エフライム人が集まってツァフォンへ進んだとき、彼らはエフタに言った。「なぜ、あなたは進んで行ってアンモン人と戦ったとき、一緒に行くように私たちに呼びかけなかったのか。あなたの家をあなたもろとも火で焼き払おう。」
- 2 エフタは彼らに言った。「かつて、私と私の民がアンモン人と激しく争ったとき、私はあなたがたに助けを求めたが、あなたがたは彼らの手から私を救ってくれなかった。
- 3 あなたがたが救ってくれないことが分かったので、私はいのちをかけてアンモン人のところへ進んで行った。そのとき、主は彼らを私の手に渡されたのだ。なぜ、あなたがたは今日になって、私のところに上って来て、私と戦おうとするのか。」
- 4 エフタはギルアデの人々をみな集めてエフライムと戦った。ギルアデの人々はエフライムを打ち破った。これは、エフライムが「あなたがたはエフライムからの逃亡者だ。ギルアデ人はエフライムとマナセのうちにいるべきだ」と言ったからである。
- 5 ギルアデ人はさらに、エフライムに面するヨルダン川の渡し場を攻め取った。エフライムの逃亡者が「渡らせてくれ」と言うとき、ギルアデの人々はその人に、「あなたはエフライム人か」と尋ね、その人が「そうではない」と答えると、
- 6 その人に、「『シボレテ』と言え」と言い、その人が「スイボレテ」と言って、正しく発音できないと、その人を捕まえてヨルダン川の渡し場で殺した。こうしてそのとき、四万二千人のエフライム人が倒れた。
- 7 エフタはイスラエルを六年間さばいた。ギルアデ人エフタは死んで、ギルアデの町に葬られた。
- 8 彼の後に、ベツレヘム出身のイブツァンがイスラエルをさばいた。
- 9 彼には三十人の息子がいた。また、彼は三十人の娘を自分の氏族以外の者に嫁がせ、息子たちのために、よそから三十人の娘たちを妻に迎えた。彼は七年間イスラエルをさばいた。
- 10 イブツァンは死んで、ベツレヘムに葬られた。
- 11 彼の後に、ゼブルン人エロンがイスラエルをさばいた。彼は十年間イスラエルをさばいた。
- 12 ゼブルン人エロンは死んで、ゼブルンの地アヤロンに葬られた。
- 13 彼の後に、ピルアトン人ヒレルの子アブドンがイスラエルをさばいた。
- 14 彼には四十人の息子と三十人の孫がいて、七十頭のろばに乗っていた。彼は八年間イスラエルをさばいた。
- 15 ピルアトン人ヒレルの子アブドンは死んで、アマレク人の山地にあるエフライムの地ピルアトンに葬られた。

第13章

- 1 イスラエルの子らは、主の目に悪であることを重ねて行った。そこで主は四十年間、彼らをペリシテ人の手に渡された。
- 2 さて、ダンの氏族に属するツォルア出身の一人の人がいて、名をマノアといった。彼の妻は不妊で、子を産んだことがなかった。
- 3 主の使いがその女に現れて、彼女に言った。「見よ。あなたは不妊で、子を産んだことがない。しかし、あなたは身ごもって男の子を産む。
- 4 今後あなたは気をつけよ。ぶどう酒や強い酒を飲んではならない。汚れた物をいっさい食べてはならない。
- 5 見よ。あなたは身ごもって男の子を産む。その子の頭にかみそりを当ててはならない。その子は胎内にいるときから、神に献げられたナジル人だから。彼はイスラエルをペリシテ人の手から救い始める。」
- 6 その女は夫のところに行き、次のように言った。「神の人が私のところに来られました。その姿は神の使いのようで、たいへん恐ろしいものでした。私はその方がどちらから来られたか伺いませんでした。その方も私に名をお告げになりませんでした。
- 7 けれども、その方は私に言われました。『見よ。あなたは身ごもって男の子を産む。今後、ぶどう酒や強い酒を飲んではならない。汚れた物をいっさい食べてはならない。その子は胎内にいるときから死ぬ日まで、神に献げられたナジル人だから』と。」
- 8 そこで、マノアは主に願って言った。「ああ、主よ。どうか、あなたが遣わされたあの神の人を再び私たちのところに来させ、生まれてくる子に何をすればよいか教えてください。」
- 9 神はマノアの声を聞き入れられた。それで神の使いが再びこの女のところに来た。彼女は畑に座っていて、夫マノアは彼女と一緒にはいなかった。
- 10 この女は急いで走って行き、夫に告げた。「早く来てください。あの日、私のところに来られたあの方が、また私に現れました。」
- 11 マノアは立ち上がって妻の後について行き、その人のところに行って尋ねた。「この女にお話しになった方はあなたなのですか。」その人は言った。「わたしだ。」
- 12 マノアは言った。「今にも、あなたのおことは実現するでしょう。その子のための定めと慣わしはどのようなものでしょうか。」
- 13 主の使いはマノアに言った。「わたしがこの女に言ったすべてのことに気をつけなければならぬ。
- 14 ぶどうからできる物はいっさい食べてはならない。ぶどう酒や、強い酒も飲んではならない。汚れた物はいっさい食べてはならない。わたしが彼女に命じたことはみな守らなければならない。」
- 15 マノアは主の使いに言った。「私たちにあなたをお引き止めできるのでしょうか。あなたのために子やぎを料理したいのですが。」

- 16 主の使いはマノアに言った。「たとえ、あなたがわたしを引き止めても、わたしはあなたの食物は食べない。もし全焼のささげ物を献げたいなら、それは主に献げなさい。」マノアはその方が主の使いであることを知らなかったのである。
- 17 そこで、マノアは主の使いに言った。「お名前は何とおっしゃいますか。あなたのおことばが実現しましたら、私たちはあなたをほめたたえたいのです。」
- 18 主の使いは彼に言った。「なぜ、あなたはそれを聞くのか。わたしの名は不思議という。」
- 19 そこでマノアは、子やぎと穀物のささげ物を取り、それを岩の上で主に献げた。主のなさる不思議なことを、マノアとその妻は見ていた。
- 20 炎が祭壇から天に向かって上ったとき、主の使いは祭壇の炎の中を上って行った。マノアとその妻はそれを見て、地にひれ伏した。
- 21 主の使いは再びマノアとその妻に現れることはなかった。そのときマノアは、その人が主の使いであったことを知った。
- 22 マノアは妻に言った。「私たちは必ず死ぬ。神を見たのだから。」
- 23 妻は彼に言った。「もし私たちが殺そうと思われたのなら、主は私たちの手から、全焼のささげ物と穀物のささげ物をお受けにならなかったでしょう。また、これらのことをみな、私たちにお示しにならなかったでしょうし、今しがた、こうしたことを私たちにお告げにならなかったはずです。」
- 24 この女は男の子を産み、その子をサムソンと名づけた。その子は大きくなり、主は彼を祝福された。
- 25 主の霊は、ツオルアとエシュタオルの間の、マハネ・ダンで彼を揺り動かし始めた。

第14章

- 1 サムソンは、ティムナに下って行ったとき、ペリシテ人の娘で、ティムナにいる一人の女を見た。
- 2 彼は上って行って、父と母に告げた。「私はティムナで一人の女を見ました。ペリシテ人の娘です。今、彼女を私の妻に迎えてください。」
- 3 父と母は言った。「あなたの身内の娘たちの中に、また、私の民全体の中に、女が一人もないと言っても言うのか。無割礼のペリシテ人から妻を迎えるとは。」サムソンは父に言った。「彼女を私の妻に迎えてください。彼女が気に入ったのです。」
- 4 彼の父と母は、それが主によることだとは知らなかった。主は、ペリシテ人と事を起こす機会を求めておられたのである。そのころ、ペリシテ人がイスラエルを支配していた。
- 5 サムソンは彼の父と母とともにティムナに下り、ティムナのぶどう畑にやって来た。すると見よ、一頭の若い獅子が吼えたけりながら彼に向かって来た。
- 6 このとき、主の霊が激しく彼の上を下ったので、彼はまるで子やぎを引き裂くように、何も手に持たず獅子を引き裂いた。サムソンは自分がしたことを父にも母にも告げなかった。
- 7 サムソンは下って行って、その女と話した。サムソンは彼女が気に入った。
- 8 しばらくたってから、サムソンは彼女を妻にしようと戻って行った。あの獅子の死骸を見ると、脇道に入っていくと、なんと、獅子のからだに蜜蜂の群れがいて、蜜があった。
- 9 彼はそれを両手にかき集めて、歩きながら食べた。彼は自分の父母のところに行って、それを彼らに与えたので、彼らも食べた。その蜜を獅子のからだからかき集めたことは、彼らには告げなかった。
- 10 彼の父がその女のところに下って来たとき、サムソンはそこで祝宴を催した。若い男たちはそのようにするのが常だった。
- 11 人々はサムソンを見て、客を三十人連れて来た。彼らはサムソンに付き添った。
- 12 サムソンは彼らに言った。「さあ、あなたがたに一つの謎をかけよう。もし、あなたがたが七日の祝宴の間に、それを見事に私に解き明かし、答えを見つけることができたなら、あなたがたに亜麻布三十着と晴れ着三十着を差し上げよう。
- 13 もし、それを解き明かすことができなければ、あなたがたが私に、亜麻布の衣服三十着と晴れ着三十着を差し出すことにしよう。」彼らは言った。「謎をかけなさい。われわれは聞こう。」
- 14 そこで、サムソンは彼らに言った。「食らうものから食べ物が出た。強いものから甘い物が出た。」彼らは三日たっても、その謎を解き明かすことができなかった。
- 15 七日目になって、彼らはサムソンの妻に言った。「おまえの夫を口説いて、あの謎をわれわれに明かしなさい。そうしないと、火でおまえとおまえの父の家を焼き払ってしまうぞ。おまえたちはわれわれからはぎ取ろうとして招待したのか。そうではないだろう。」
- 16 そこで、サムソンの妻は夫に泣きすがって言った。「あなたは私を嫌ってばかりいて、私を愛していません。あなたは私の同族の人たちに謎をかけて、それを私に明かして

くありません。」サムソンは彼女に言った。「見なさい。私は父にも母にもそれを解き明かしてはいないのだ。おまえに解き明かさなければならないのか。」

17 彼女は祝宴が続いていた七日間、サムソンに泣きすがった。七日目になって、彼女がしきりにせがんだので、サムソンは彼女に明かした。それで、彼女はその謎を自分の同族の人たちに明かした。

18 町の人々は、七日目の日が沈む前にサムソンに言った。「蜂蜜よりも甘いものは何か。雄獅子よりも強いものは何か。」すると、サムソンは彼らに言った。「もし、私の雌の子牛で耕さなかったなら、あなたがたは私の謎を解けなかっただろうに。」

19 そのとき、主の霊が激しくサムソンの上に下った。彼はアシュケロンに下って行って、その住民を三十人打ち殺し、彼らからはぎ取って、謎を明かした者たちにその晴れ着をやり、怒りに燃えて父の家に帰った。

20 サムソンの妻は、彼に付き添った客の一人のものとなった。

第15章

- 1 しばらくたって、小麦の刈り入れの時に、サムソンは子やぎを一匹持って自分の妻を訪ね、「私の妻の部屋に入りたい」と言ったが、彼女の父は入らせなかった。
- 2 彼女の父は言った。「私は、あなたがあの娘を嫌ったのだと思って、あなたの客の一人に与えた。妹のほうがいけないではないか。あれの代わりに妹をあなたのものにしてくれ。」
- 3 サムソンは彼らに言った。「今度、私がペリシテ人に害を加えても、私は潔白だ。」
- 4 それからサムソンは出て行って、ジャッカルを三百匹捕らえた。そして、たいまつを取り、尾と尾をつなぎ合わせて、二本の尾の間にそれぞれ一本のたいまつをくくり付けた。
- 5 彼はそのたいまつに火をつけ、それらのジャッカルをペリシテ人の麦畑の中に放し、束ねて積んである麦から、立ち穂、オリーブ畑に至るまで燃やした。
- 6 ペリシテ人たちは言った。「だれがこんなことをしたのか。」すると彼らは「あのティムナ人の婿サムソンだ。あの人がある妻を取り上げて、客の一人にやったからだ」と言った。ペリシテ人は上って来て、彼女とその父を火で焼いた。
- 7 サムソンは彼らに言った。「おまえたちがこういうことをするなら、私は必ずおまえたちに復讐する。その後で、私は手を引こう。」
- 8 サムソンは彼らの足腰を打って、大きな打撃を与えた。それから、彼は下って行って、エタムの岩の裂け目に住んだ。
- 9 ペリシテ人が上って来て、ユダに向かって陣を敷き、レヒを侵略したとき、
- 10 ユダの人々は言った。「なぜおまえたちは、私たちを攻めに上って来たのか。」彼らは言った。「われわれはサムソンを縛って、彼がわれわれにしたように、彼にもしてやるために上って来たのだ。」
- 11 そこで、ユダの人々三千人がエタムの岩の裂け目に下って行って、サムソンに言った。「おまえは、ペリシテ人がわれわれの支配者であることを知らないのか。おまえはどうしてこんなことをしてくれたのか。」サムソンは言った。「彼らが私にしたとおり、私は彼らにしたのだ。」
- 12 彼らはサムソンに言った。「われわれはおまえを縛って、ペリシテ人の手に渡すために下って来たのだ。」サムソンは言った。「あなたがたは私に打ちかからないと誓いなさい。」
- 13 彼らは答えた。「決してしない。ただおまえをしっかりと縛って、彼らの手に渡すだけだ。われわれは決しておまえを殺さない。」こうして、彼らは二本の新しい綱で彼を縛り、その岩から彼を引き上げた。
- 14 サムソンがレヒに来たとき、ペリシテ人は大声をあげて彼に近づいた。すると、主の霊が激しく彼の上に下り、彼の腕に掛かっていた綱は火のついた亜麻糸のようになって、その縄目が手から解け落ちた。
- 15 サムソンは真新しいろばのあご骨を見つけ、手を伸ばして取り、それで千人を打ち殺した。

- 16** サムソンは言った。「ろばのあご骨で、山と積み上げた。ろばのあご骨で、千人を打ち殺した。」
- 17** こう言い終わると、彼はそのあご骨を投げ捨てた。彼はその場所を、ラマテ・レヒと名づけた。
- 18** そのとき、彼はひどく渴きを覚え、主を呼び求めて言った。「あなたは、しもべの手で、この大きな救いを与えてくださいました。しかし今、私は喉が渴いて死にそうで、無割礼の者どもの手に落ちようとしています。」
- 19** すると、神はレヒにあるくぼんだ地を裂かれたので、そこから水が出た。サムソンは水を飲んで元気を回復し、生き返った。それゆえ、その名はエン・ハ・コレと呼ばれた。それは今日もレヒにある。
- 20** こうして、サムソンはペリシテ人の時代に二十年間イスラエルをさばいた。

第16章

- 1 サムソンはガザへ行き、そこで遊女を見つけて、彼女のところに入った。
- 2 「サムソンがここにやって来た」と、ガザの人々に告げる者があったので、彼らはそこを取り囲み、町の門で一晩中、彼を待ち伏せた。彼らは「明け方まで待ち、彼を殺そう」と言って、一晩中鳴りを潜めていた。
- 3 サムソンは真夜中まで寝ていたが、真夜中に起き上がり、町の門の扉と二本の門柱をつかんで、かんぬきごと引き抜き、それを肩に担いで、ヘブロンに面する山の頂に運んで行った。
- 4 その後、サムソンは、ソレクの谷にいる女を愛した。彼女の名はデリラといった。
- 5 ペリシテ人の領主たちが彼女のところに来て、言った。「サムソンを口説いて、彼の強い力がどこにあるのか、またどうしたら私たちが彼に勝ち、縛り上げて苦しめることができるかを調べなさい。そうすれば、私たちは一人ひとり、あなたに銀千百枚をあげよう。」
- 6 そこで、デリラはサムソンに言った。「どうか私に教えてください。あなたの強い力はどこにあるのですか。どうすればあなたを縛って苦しめることができるのでしょうか。」
- 7 サムソンは言った。「もし、まだ干していない七本の新しい弓の弦で私を縛るなら、私は弱くなり、並みの人のようになるだろう。」
- 8 そこで、ペリシテ人の領主たちは、干していない七本の新しい弓の弦を彼女のところに持って来たので、彼女はそれでサムソンを縛り上げた。
- 9 彼女は、待ち伏せる者を奥の部屋に置いておき、「サムソン、ペリシテ人があなたを襲って来ます」と言った。しかし、サムソンはまるで麻の撚り糸が火に触れて切れるように、弓の弦を断ち切った。こうして、彼の力の源は知られなかった。
- 10 デリラはサムソンに言った。「まあ、あなたは私をだまして嘘をつきましたね。今度こそ、どうしたらあなたを縛れるか教えてください。」
- 11 サムソンは言った。「もし、仕事に使ったことのない新しい綱で、私をしっかりと縛るなら、私は弱くなり、並みの人のようになるだろう。」
- 12 そこで、デリラは新しい綱を取って、それで彼を縛り、「サムソン、ペリシテ人があなたを襲って来ます」と言った。奥の部屋には待ち伏せしている者がいた。しかし、サムソンは腕からその綱を、糸のように断ち切った。
- 13 デリラは、またサムソンに言った。「今まで、あなたは私をだまして嘘をついてきました。どうしたらあなたを縛れるか、私に教えてください。」サムソンは、「もしおまえが機の間系と一緒に私の髪の毛七房を織り込み、機のおさで締めつけておくならば」と言った。
- 14 彼女は機のおさで締めつけて言った。「サムソン、ペリシテ人があなたを襲って来ます。」すると、サムソンは眠りから覚めて、機のおさと機の間系を引き抜いた。
- 15 彼女はサムソンに言った。「あなたの心が私にはないのに、どうして『おまえを愛している』と言えるのでしょうか。あなたはこれで三回も私をだまして、あなたの強い力がどこにあるのか教えてくださいませんでした。」

- 16 こうして、毎日彼女が同じことばでしきりにせがみ、責め立てたので、彼は死ぬほど辛かった。
- 17 ついにサムソンは、自分の心をすべて彼女に明かして言った。「私の頭には、かみそりが当てられたことがない。私は母の胎にいるときから神に献げられたナジル人だからだ。もし私の髪の毛が剃り落とされたら、私の力は私から去り、私は弱くなって普通の人のようになるだろう。」
- 18 デリラは、サムソンが自分の心をすべて明かしたことが分かったので、こう言って、人を遣わし、ペリシテ人の領主たちを呼び寄せた。「今度こそ上って来てください。サムソンは心をすべて私に明かしました。」ペリシテ人の領主たちは、彼女のところに上って来たとき、その手に銀を持って来た。
- 19 彼女は膝の上でサムソンを眠らせ、人呼んで彼の髪の毛七房を剃り落とさせた。彼女は彼を苦しめ始め、彼の力は彼を離れた。
- 20 彼女が「サムソン、ペリシテ人があなたを襲って来ます」と言ったとき、彼は眠りから覚めて、「今度も前のように出て行って、からだをひとゆすりしてやろう」と言った。彼は、主が自分から離れられたことを知らなかった。
- 21 ペリシテ人は彼を捕らえ、その両目をえぐり出した。そして彼をガザに引き立てて行って、青銅の足かせを掛けてつないだ。こうしてサムソンは牢の中で日をひいていた。
- 22 しかし、サムソンの髪の毛は、剃り落とされてからまた伸び始めた。
- 23 さて、ペリシテ人の領主たちは、自分たちの神ダゴンに盛大ないけにえを献げて楽しもうと集まり、そして言った。「われわれの神は、敵サムソンをわれわれの手に渡してくださった。」
- 24 民はサムソンを見たとき、自分たちの神をほめたたえて言った。「われわれの神は、われわれの敵を、われわれの手に渡してくださった。この国を荒らして、われわれ大勢を殺した者を。」
- 25 彼らは上機嫌になったとき、「サムソンを呼んで来い。見せ物にしよう」と言って、サムソンを牢から呼び出した。彼は彼らの前で笑いものになった。彼らがサムソンを柱の間に立たせたとき、
- 26 サムソンは自分の手を固く握っている若者に言った。「私の手を放して、この神殿を支えている柱にさわらせ、それに寄りかからせてくれ。」
- 27 神殿は男や女でいっぱいであった。ペリシテ人の領主たちもみなそこにいた。屋上にも約三千人の男女がいて、見せ物にされたサムソンを見ていた。
- 28 サムソンは主を呼び求めて言った。「神、主よ、どうか私を心に留めてください。ああ神よ、どうか、もう一度だけ私を強めてください。私の二つの目のために、一度にペリシテ人に復讐したいのです。」
- 29 サムソンは、神殿を支えている二本の中柱を探り当て、一本に右手を、もう一本に左手を当てて、それで自らを支えた。
- 30 サムソンは、「ペリシテ人と一緒に死のう」と言って、力を込めてそれを押し広げた。すると神殿は、その中にいた領主たちとすべての民の上に落ちた。こうして、サムソンが死ぬときに殺した者は、彼が活着している間に殺した者よりも多かった。

- 31 彼の身内の者や父の家の者たちがみな下って来て、彼を引き取り、ツォルアとエシュタオルの間にある父マノアの墓に運び上げて葬った。サムソンは二十年間イスラエルをさばいた。

第17章

- 1 エフライムの山地の出で、その名をミカという人がいた。
- 2 彼は母に言った。「銀千百枚が盗まれたとき、あなたはのろいの誓いをされ、私の耳にもそのことを言われました。実は、その銀は私が持っています。私がそれを盗んだのです。」すると母は言った。「主が私の息子を祝福されますように。」
- 3 彼が母にその銀千百枚を返したとき、母は言った。「私は自分の手でその銀を聖別して、主に献げていました。自分の子のために、それで彫像と鑄像を造ろうとしていたのです。今は、それをあなたに返します。」
- 4 彼が母にその銀を戻したので、母は銀二百枚を取って銀細工人に与えた。銀細工人はそれで彫像と鑄像を造った。こうして、それはミカの家にあった。
- 5 このミカという人には神の宮があった。彼はエポデとテラフィムを作り、その息子の一人を任命して、自分の祭司としていた。
- 6 そのころ、イスラエルには王がなく、それぞれが自分の目に良いと見えることを行っていた。
- 7 ユダのベツレヘム出身で、ユダの氏族に属する一人の若者がいた。彼はレビ人で、そこに寄留していた。
- 8 その人はユダの町ベツレヘムを出て、寄留する所を求めて旅を続け、エフライムの山地にあるミカの家まで来たのだった。
- 9 ミカは彼に言った。「あなたはどこから来たのですか。」彼は答えた。「私はユダのベツレヘムから来たレビ人です。私は寄留する所を求めて、旅をしているのです。」
- 10 そこでミカは言った。「私と一緒に住んで、私のために父となり、また祭司となってください。あなたに毎年、銀十枚と、衣服一そろいと、食糧を差し上げます。」するとこのレビ人は同意した。
- 11 このレビ人は心を決めてミカと一緒に住むことにした。この若者はミカの息子の一人のようになった。
- 12 ミカがこのレビ人を任命したので、この若者は彼の祭司となり、ミカの家に行った。
- 13 そこで、ミカは言った。「今、私は、主が私を幸せにしてくださることを知った。レビ人が私の祭司になったのだから。」

第18章

- 1 そのころ、イスラエルには王がいなかった。ダン部族は、自分たちが住む相続地を求めている。イスラエルの諸部族の中であって、その時まで彼らには相続地が割り当てられていなかったからであった。
- 2 そこでダン族は、彼らの諸氏族全体の中から五人の者を、ツオルアとエシュタオルから勇士たちを派遣し、土地を偵察して調べることにした。彼らは五人に言った。「行って、あの地を調べなさい。」五人はエフライムの山地にあるミカの家まで行って、そこで一夜を明かした。
- 3 ミカの家のそばに来たとき、彼らはあのレビ人の若者の声に気づいた。そこで、彼らはそこに立ち寄り、彼に言った。「だれがあなたをここに連れて来たのですか。ここで何をしていますのですか。ここに何の用事があるのですか。」
- 4 彼は、ミカがこれこれのことをして雇ってくれたので、ミカの祭司になったのだ、と言った。
- 5 彼らは言った。「どうか神に伺ってください。私たちのしているこの旅が、成功するかどうかを知りたいのです。」
- 6 その祭司は彼らに言った。「安心して行きなさい。あなたがたのしている旅は、主がお認めになっています。」
- 7 五人の者たちは進んで行ってライシュに着き、その住民が安らかに住んでいて、シドン人の慣わしにしたがい、平穏で安心しきっているを見た。この地には足りないものは何もなく、彼らを抑えつける者もいなかった。彼らはシドン人から遠く離れていて、そのうえ、だれとも交渉がなかった。
- 8 五人の者たちが、ツオルアとエシュタオルの身内の者たちのところに帰って来ると、身内の者たちは彼らに、どうだったか、と尋ねた。
- 9 彼らは言った。「さあ、彼らに向かって攻め上ろう。私たちはその土地を見たが、実にすばらしい。あなたがたはためらっているが、ぐずぐずせずに進んで行って、あの地を占領しよう。
- 10 あなたがたが行くときは、安心しきった民のところに行けるのだ。しかもその地は広々としている。神はそれをあなたがたの手に渡してくださった。その場所には、地にあるもので欠けているものは何もない。」
- 11 そこで、ダンの氏族の者六百人は、武具を着けてツオルアとエシュタオルを出発し、
- 12 上って行って、ユダのキルヤテ・エアリムに宿営した。それゆえ、その場所は今日に至るまで、マハネ・ダンと呼ばれている。それはキルヤテ・エアリムの西部にある。
- 13 彼らはそこからさらにエフライムの山地へと進み、ミカの家に着いた。
- 14 ライシュの地を偵察に行っていた五人は、身内の者たちに告げた。「これらの建物の中にエポデやテラフィム、彫像や鑄像があるのを知っているか。今、あなたたちは何をすべきか分かっているはずだ。」

- 15 そこで、彼らはそこに行き、あのレビ人の若者の家、ミカの家に来て、彼の安否を尋ねた。
- 16 武具を着けた六百人のダンの人々は、門の入り口に立っていた。
- 17 あの地を偵察に行った五人の者たちは上って行き、そこに入り、彫像とエポデとテラフィムと鑄像を取った。祭司は、武具を着けた六百人の者と、門の入り口に立っていた。
- 18 これら五人がミカの家に入り、彫像とエポデとテラフィムと鑄像を取ったとき、祭司は彼らに言った。「何をしていますのですか。」
- 19 彼らは祭司に言った。「黙っていなさい。手を口に当てて、私たちと一緒に来て、私たちのために父となり、また祭司となりなさい。あなたは一人の人の、家の祭司となるのと、イスラエルで部族また氏族の祭司となるのと、どちらがよいのか。」
- 20 祭司の心は躍った。彼はエポデとテラフィムと彫像を取り、この人々の中に入って行った。
- 21 彼らは向きを変え、子ども、家畜、家財を先頭にして進んで行った。
- 22 彼らがミカの家からかなり離れたころ、ミカは近所の家の者たちを集めて、ダン族に追いついた。
- 23 彼らがダン族に呼びかけると、ダンの人々は振り向いて、ミカに言った。「あなたはどうしたのだ。人を集めたりして。」
- 24 ミカは言った。「あなたがたは、私が造った神々と、それに祭司を奪って行きました。私のところには何が残っているのでしょうか。私に向かって『どうしたのだ』と言うとは、いったい何事です。」
- 25 ダン族はミカに言った。「あなたの声が私たちの中で聞こえないようにしなさい。そうしないと、気の荒い連中があなたがたに討ちかかり、あなたは、自分のいのちも、家族のいのちも失うだろう。」
- 26 こうして、ダン族は去って行った。ミカは、彼らが自分よりも強いのを見てとり、向きを変えて自分の家に帰った。
- 27 彼らは、ミカが造った物とミカの祭司とを奪い、ライシュに行って、平穏で安心しきっている民を襲い、剣の刃で彼らを討って、火でその町を焼いた。
- 28 だれも救い出す者はいなかった。その町はシドンから遠く離れていて、そのうえ、だれとも交渉がなかったからである。その町はベテ・レホブの近くの平地にあった。彼らは町を建てて、そこに住んだ。
- 29 彼らは、イスラエルに生まれた自分たちの先祖ダンの名にちなんで、その町にダンという名をつけた。しかし、その町の名は、もともとライシュであった。
- 30 さて、ダン族は自分たちのために彫像を立てた。モーゼの子ゲルショムの子ヨナタンとその子孫が、その地の捕囚のときまで、ダン部族の祭司であった。
- 31 こうして、神の宮がシロにあった間中、彼らはミカの造った彫像を自分たちのために立てていた。

第19章

- 1 イスラエルに王がいなかった時代のこと、一人のレビ人が、エフライムの山地の奥に寄留していた。この人は、側女として、ユダのベツレヘムから一人の女を迎えた。
- 2 ところが、その側女は彼を裏切って、彼のところを去り、ユダのベツレヘムにある自分の父の家に行って、そこに四か月間いた。
- 3 夫は、若い者と一くびきのろばを連れて、彼女の後を追って出かけた。彼女の心に訴えて連れ戻すためであった。彼女が夫を自分の父の家に入れたとき、娘の父は彼を見て、喜んで迎えた。
- 4 娘の父であるしゅうとが引き止めたので、彼はしゅうとのもとに三日間とどまった。こうして、彼らは食べて飲んで夜を過ごした。
- 5 四日目になって、彼が朝早く、立ち上がって出発しようとする、娘の父は婿に言った。「パンを一切れ食べて元気をつけ、その後で出発しなさい。」
- 6 そこで、二人は座って、ともに食べて飲んだ。娘の父はその人に言った。「ぜひ、もう一晚泊まることにして、楽しみなさい。」
- 7 その人が立ち上がって出発しようとする、しゅうとが彼にしきりに勧めたので、彼はまたそこに泊まって一夜を明かした。
- 8 五日目の朝早く、彼が出発しようとする、娘の父は言った。「ぜひ、元気をつけて、日が傾くまでゆっくりしていきなさい。」そこで、二人は食事をした。
- 9 その人が、自分の側女と若い者を連れて出発しようとする、娘の父であるしゅうとは彼に言った。「ご覧なさい。もう日が暮れかかっています。どうか、もう一晚お泊まりなさい。もう日も傾いています。ここに泊まって楽しみ、明日の朝早く旅立って、あなたの天幕に帰ればよいでしょう。」
- 10 その人は泊まりたくなかったので、立ち上がって出発し、エブスすなわちエルサレムの向かい側までやって来た。鞍をつけた一くびきのろばと、側女が一緒であった。
- 11 彼らがエブスの近くに来たとき、日はすっかり傾いていた。そこで、若い者は主人に言った。「道を外れてあのエブス人の町に向かい、そこで一夜を明かすことにしたらいかがでしょう。」
- 12 彼の主人は言った。「私たちは、イスラエル人ではない異国人の町には立ち寄らない。さあ、ギブアまで進もう。」
- 13 彼はまた若い者に言った。「さあ、ギブアかラマのどちらかの地に着いて、そこで一夜を明かそう。」
- 14 彼らは進んで行ったが、ベニヤミンに属するギブアの近くまで来たとき、日が沈んだ。
- 15 彼らはギブアに行って泊まろうとして、そこに立ち寄り、町に入って広場に座った。彼らを迎えて家に泊めてくれる者は、だれもいなかった。
- 16 そこへ、夕暮れになって畑仕事から帰る一人の老人がやって来た。この人はエフライムの山地の人で、ギブアに寄留していた。この土地の人々はベニヤミン族であった。

- 17 目を上げて、町の広場にいる旅人を見たとき、この老人は「どちらへ行かれますか。どこから来られたのですか」と尋ねた。
- 18 その人は彼に言った。「私たちはユダのベツレヘムから、エフライムの山地の奥まで旅を続けているのです。私はその奥地の者で、ユダのベツレヘムまで行って来ました。今、主の家へ帰る途中ですが、だれも私を家に迎えてくれる人がいません。」
- 19 ろばのためには、藁も飼葉もあり、また、私とこの女、しもべどもと一緒にいる若い者のためには、パンも酒もあります。足りない物は何もありません。」
- 20 老人は言った。「安心なさい。足りない物はすべて私に任せなさい。ただ、広場で夜を過ごしてはいけません。」
- 21 こうして老人は彼を自分の家に連れて行き、ろばに飼葉をやった。彼らは足を洗って、食べて飲んだ。
- 22 彼らが楽しんでいると、なんと、町の男たちで、よこしまな者たちが、その家を取り囲んで戸をたたき続け、家の主人である老人に言った。「おまえの家に来たあの男を引き出せ。あの男を知りたい。」
- 23 そこで、家の主人であるその人は、彼らのところに出て行って言った。「それはいい、兄弟たちよ。どうか悪いことはしないでくれ。あの人が私の家に入った後で、そんな恥ずべきことはしないでくれ。」
- 24 ここに処女の私の娘と、あの人の側女がいる。今、二人を連れ出すから、二人を辱めて、あなたがたの好きなようにしなさい。しかしあの人には、そのような恥ずべきことをしないでくれ。」
- 25 しかし、男たちは彼に聞こうとしなかった。そこで、その旅人は自分の側女をつかんで、外にいる彼らのところへ出した。彼らは彼女を犯して、夜通し朝まで暴行を加え、夜が明けるところに彼女を放した。
- 26 夜明け前に、その女は自分の主人がいるその人の家の戸口に来て、明るくなるまで倒れていた。
- 27 彼女の主人は、朝起きて家の戸を開け、出発しようとして外に出た。見ると、そこに自分の側女である女が、手を敷居にかけて家の入り口で倒れていた。
- 28 彼は女に「立ちなさい。さあ行こう」と言ったが、何の返事もなかった。そこで、その人は彼女をろばに乗せ、立って自分のところへ向かって行った。
- 29 彼は自分の家に着くと、刀を取り、自分の側女をつかんで、その肢体を十二の部分に切り分け、イスラエルの全土に送った。
- 30 それを見た者はみな、「イスラエルの子らがエジプトの地から上って来た日から今日まで、このようなことは起こったこともなければ、見たこともない。このことをよく考え、相談し、意見を述べよ」と言った。

第20章

- 1 そこで、イスラエルの子らはみな出て来た。ダンからベエル・シェバ、およびギルアデの地に及びその会衆は、一斉にミツパの主のもとに集まった。
- 2 民全体、イスラエルの全部族のかしらたちが、神の民の集会に参加した。剣を使う歩兵も四十万人いた。
- 3 ベニヤミン族は、イスラエルの子らがミツパに上って来たことを聞いた。イスラエルの子らは、「このような悪いことがどうして起こったのか、話してください」と言った。
- 4 殺された女の夫であるレビ人は答えた。「私は側女と一緒に、ベニヤミンに属するギブアに行き、一夜を明かそうとしました。
- 5 すると、ギブアの者たちが私を襲い、夜中に私のいる家を取り囲み、私を殺そうと図りましたが、彼らは私の側女に暴行を加えました。それで彼女は死にました。
- 6 そこで私は側女をつかみ、彼女を切り分け、それをイスラエルの全相続地に送りました。これは、彼らがイスラエルの中で淫らな恥辱となることを行ったからです。
- 7 さあ、あなたがたすべてのイスラエルの子らよ。今ここで、意見を述べて、相談してください。」
- 8 そこで、民はみな一斉に立ち上がって言った。「私たちは、だれも自分の天幕に帰らない。だれも自分の家に帰らない。
- 9 今、私たちがギブアに対してしようとすることはこうだ。くじを引いて、向かって行こう。
- 10 私たちは、イスラエルの全部族について、百人につき十人、千人につき百人、一万人以上につき千人を選んで、兵たちのための食糧を持たせよう。そしてベニヤミンのギブアに行かせ、ベニヤミンがイスラエルで犯したこのすべての恥すべき行いに対して、報復させよう。」
- 11 こうして、イスラエルの人々はみな団結し、一斉にその町に集まった。
- 12 イスラエルの諸部族は、ベニヤミン部族全体に人を遣わして言った。「おまえたちのうちに起こったあの悪事は何事か。
- 13 今、ギブアにいるあのよこしまな者たちを渡せ。彼らを殺して、イスラエルから悪を除き去ろう。」しかしベニヤミン族は、自分たちの同胞イスラエルの子らの言うことを聞こうとしなかった。
- 14 それどころか、ベニヤミン族はイスラエルの子らと戦おうと、町々から出て来てギブアに集結した。
- 15 その日、ベニヤミン族は、町々から剣を使う者二万六千人を召集した。そのほかに、ギブアの住民から七百人の精鋭を召集した。
- 16 兵全体のうちで、この七百人の精鋭が左利きであった。彼らはみな、一本の毛を狙って石を投げても、的を外すことがなかった。
- 17 イスラエルの人々は、ベニヤミンを除き、剣を使う者四十万人を召集した。彼らはみな戦士であった。

- 18 イスラエルの子らは立ち上がって、ベテルに上り、神に伺った。「私たちのうち、だれが最初に上って行って、ベニヤミン族と戦うべきでしょうか。」主は言われた。「ユダが最初だ。」
- 19 朝になると、イスラエルの子らは立ち上がり、ギブアに対して陣を敷いた。
- 20 イスラエルの人々はベニヤミンとの戦いに出て行き、彼らと戦うためにギブアに対して陣備えをした。
- 21 ベニヤミン族はギブアから出て来て、その日、イスラエルのうち二万二千人を滅ぼした。
- 22 しかし、イスラエルの人々の軍勢は奮い立って、最初の日に陣を敷いた場所で、再び戦いの備えをした。
- 23 イスラエルの子らは上って行って、主の前で夕方まで泣き、主に伺った。「再び、同胞ベニヤミン族に近づいて戦うべきでしょうか。」主は言われた。「攻め上れ。」
- 24 そこで、イスラエルの子らは次の日、ベニヤミン族に向かって行ったが、
- 25 ベニヤミンも次の日、ギブアから出て来て彼らを迎え撃ち、再びイスラエルの子らのうち一万八千人をその場で殺した。これらの者はみな、剣を使う者であった。
- 26 イスラエルの子らはみな、こぞってベテルに上って行って泣き、そこで主の前に座り、その日は夕方まで断食をし、全焼のささげ物と交わりのいけにえを主の前に献げた。
- 27 イスラエルの子らは主に伺った—当時、神の契約の箱はそこにあり、
- 28 また当時、アロンの子エルアザルの子ピネハスが、御前に仕えていた—イスラエルの子らは言った。「私はまた出て行って、私の同胞ベニヤミン族と戦うべきでしょうか。それとも、やめるべきでしょうか。」主は言われた。「攻め上れ。明日、わたしは彼らをあなたがたの手に渡す。」
- 29 そこで、イスラエルはギブアの周りに伏兵を置いた。
- 30 三日目にイスラエルの子らは、ベニヤミン族のところに攻め上り、先のようにギブアに対して陣備えをした。
- 31 ベニヤミン族は、この兵たちを迎え撃つために出て、町からおびき出された。彼らは、一方はベテルに、もう一方はギブアに至る大路で、この前のようにこの兵たちを討ち始め、イスラエルのうちの約三十人が野で剣に倒れた。
- 32 ベニヤミン族は「彼らは最初の時と同じように、われわれの前に打ち負かされる」と考えた。しかし、イスラエルの子らは「さあ、逃げよう。そして彼らを町から大路におびき出そう」と言った。
- 33 イスラエルの人々はみな、持ち場から立ち上がって、バアル・タマルで陣備えをした。一方、イスラエルの伏兵たちは、自分たちの持ち場、マアレ・ゲバから躍り出た。
- 34 こうして、全イスラエルの精鋭一万人がギブアに向かって進んだ。戦いは激しかった。ベニヤミン族は、わざわざ自分たちに迫っているのに気づかなかった。
- 35 主がイスラエルの前でベニヤミンを打たれたので、イスラエルの子らは、その日、ベニヤミンの二万五千百人を殺した。これらの者はみな、剣を使う者であった。
- 36 ベニヤミン族は、自分たちが打ち負かされたのを見た。イスラエルの人々はベニヤミンに陣地を明け渡した。それは、ギブアに向けて備えていた伏兵を信頼したからであった。

- 37 伏兵は急いでギブアを襲った。伏兵はその勢いに乗って、町中を剣の刃で討った。
- 38 イスラエルの人々と伏兵の間には合図が決められていて、町からのろしが上がったら、
- 39 イスラエルの人々が引き返して戦うことになっていた。ベニヤミンが攻撃を始めて、剣に倒れる者が約三十人、イスラエルの人々の中に出たとき、彼らは「きっと前の戦いの時と同じように、彼らはわれわれに打ち負かされるに違いない」と考えた。
- 40 のろしが煙の柱となって町から上り始めた。ベニヤミンがうしろを振り向くと、見よ、町全体が煙となって天に上っていた。
- 41 そこへイスラエルの人々が引き返して来たので、ベニヤミンの人々はわざわざ自分たちに迫っているのを見て、うろたえた。
- 42 彼らはイスラエルの人々の前から逃れて荒野の方へ向かったが、戦いは彼らに追い迫り、町々から出て来た者も合流して彼らを殺した。
- 43 イスラエルの人々はベニヤミンを包囲して追いつめ、メヌハから、東の方の、ギブアの向こう側まで踏みにじった。
- 44 こうして、ベニヤミンの一万八千人が倒れた。これらはみな、力ある者たちであった。
- 45 またほかの者は荒野の方に向かってリンモンの岩まで逃げたが、イスラエルの人々は、大路でそのうちの五千人を討ち取り、なお残りをギデオムまで追いかけて、二千人を打ち倒した。
- 46 その日、ベニヤミンの中で倒れた者は剣を使う者たち合わせて二万五千人で、彼らはみな、力ある者たちであった。
- 47 しかし、六百人の者は荒野の方に向かってリンモンの岩に逃げ、四か月の間、リンモンの岩にとどまった。
- 48 イスラエルの人々は、ベニヤミン族のところへ引き返し、無傷のままだった町も家畜も、見つかったものをすべて剣の刃で討ち、また見つかったすべての町に火を放った。

第21章

- 1 イスラエルの人々はミツパで、「私たちはだれも、娘をベニヤミンに妻として与えない」と誓っていた。
- 2 民はベテルに来て、そこで夕方まで神の前に座り、声をあげて激しく泣いた。
- 3 彼らは言った。「イスラエルの神、主よ。なぜ、イスラエルにこのようなことが起こって、今日イスラエルから一つの部族が欠けるようになったのですか。」
- 4 翌日になって、民は朝早く、そこに一つの祭壇を築いて、全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げた。
- 5 イスラエルの子らは、「イスラエルの全部族のうち、だれが、集団の一員として主のもとに上って来なかったのか」と言った。これは彼らが、ミツパの主のもとに上って来なかった者について、「その者は必ず殺されなければならない」と強く誓いを立てていたからである。
- 6 イスラエルの子らは、その同胞ベニヤミンのことで悔やんで言った。「今日、イスラエルから一つの部族が切り捨てられた。
- 7 あに残った者たちに妻を迎えるには、どうすればよいだろうか。私たちは主によって、自分たちの娘を彼らに妻として与えないと誓ってしまったのだ。」
- 8 そこで、彼らは「イスラエルの部族のうちで、どの部族がミツパに、主のもとに上って来なかったのか」と言った。見ると、ヤベシュ・ギルアデから陣営に来て、集団に加わっている者は一人もいなかった。
- 9 民が点呼したところ、ヤベシュ・ギルアデの住民が一人もそこにいなかった。
- 10 会衆は、一万二千人の勇士をそこに送って命じた。「行って、ヤベシュ・ギルアデの住民を剣の刃で討て。女も子どもも。
- 11 これは、あなたがたが行うべきことである。すべての男、そして男と寝たことのある女は、すべて聖絶しなければならない。」
- 12 こうして、彼らはヤベシュ・ギルアデの住民の中から、男と寝たことがなく、男を知らない若い処女四百人を見つけ出した。彼らは、この女たちをカナンの地にあるシロの陣営に連れて来た。
- 13 そこで全会衆は、リンモンの岩にいるベニヤミン族に人を遣わして、彼らに和解を呼びかけた。
- 14 そのとき、ベニヤミンが戻って来たので、ヤベシュ・ギルアデの女のうちから生かしておいた女たちを彼らに与えたが、彼らには足りなかった。
- 15 民はベニヤミンのことで悔やんでいた。主がイスラエルの部族の間を裂かれたからである。
- 16 会衆の長老たちは言った。「あに残った者たちに妻を迎えるには、どうすればよいか。ベニヤミンのうちから女が根絶やしにされたのだ。」
- 17 また言った。「ベニヤミンの逃れた者たちに、跡継ぎがいなければならない。イスラエルから部族の一つが消し去られてはならない。

- 18 しかし、自分たちの娘を彼らに妻として与えることはできない。イスラエルの子らは『ベニヤミンに妻を与える者はのろわれる』と誓っているからだ。」
- 19 そこで、彼らは言った。「そうだ。毎年、シロで主の祭りがある。」—この町はベテルの北にあって、ベテルからシェケムに上る大路の日の昇る方、レボナの南にある—
- 20 彼らはベニヤミン族に命じた。「行って、ぶどう畑で待ち伏せして、
- 21 見ていなさい。もしシロの娘たちが輪になって踊りに出て来たら、あなたがたはぶどう畑から出て、シロの娘たちの中から、それぞれ自分のために妻を捕らえ、ベニヤミンの地に行きなさい。
- 22 もし、女たちの父か兄弟が私たちに苦情を言いに来たら、私たちはこう言います。『私たちゆえに、彼らをあわれんでやってください。戦争のときに、私たちは彼ら一人ひとりに妻を取らせなかったし、あなたがたも娘を彼らに与えませんでした。もし与えていたなら、今ごろ、あなたがたは責めある者とされていたでしょう』と。」
- 23 ベニヤミン族はそうにした。彼らは女たちを自分たちの数にしたがって連れて来た。彼女たちは、彼らが略奪した踊り手たちであった。それから彼らは出かけて、自分たちの相続地に帰り、町々を再建して、そこに住んだ。
- 24 イスラエルの子らは、そのとき、そこからそれぞれ自分の部族と氏族のもとに戻り、そこからそれぞれ自分の相続地に出て行った。
- 25 そのころ、イスラエルには王がなく、それぞれが自分の目に良いと見えることを行っていた。

ルツ記

Ruth

第1章

- 1 さばきつかさが治めていたころ、この地に飢饉が起こった。そのため、ユダのベツレヘム出身のある人が妻と二人の息子を連れてモアブの野へ行き、そこに滞在することにした。
- 2 その人の名はエリメレク、妻の名はナオミ、二人の息子の名はマフロンとキルヨンで、ユダのベツレヘム出身のエフラテ人であった。彼らはモアブの野へ行き、そこにとどまった。
- 3 するとナオミの夫エリメレクは死に、彼女と二人の息子が後に残された。
- 4 二人の息子はモアブの女を妻に迎えた。一人の名はオルパで、もう一人の名はルツであった。彼らは約十年の間そこに住んだ。
- 5 するとマフロンとキルヨンの二人もまた死に、ナオミは二人の息子と夫に先立たれて、後に残された。
- 6 ナオミは嫁たちと連れ立って、モアブの野から帰ることにした。主がご自分の民を顧みて、彼らにパンを下さった、とモアブの地で聞いたからである。
- 7 彼女は二人の嫁と一緒に、今まで住んでいた場所を出て、ユダの地に戻るため帰途についた。
- 8 ナオミは二人の嫁に言った。「あなたたちは、それぞれ自分の母の家に帰りなさい。あなたたちが、亡くなった者たちと私にしてくれたように、主があなたたちに恵みを施してくださいますように。
- 9 また、主が、あなたたちがそれぞれ、新しい夫の家で安らかに暮らせるようにしてくださいますように。」そして二人に口づけしたので、彼女たちは声をあげて泣いた。
- 10 二人はナオミに言った。「私たちは、あなたの民のところへ一緒に戻ります。」
- 11 ナオミは言った。「帰りなさい、娘たち。なぜ私と一緒にしようとするのですか。私のお腹にまだ息子たちがいて、あなたたちの夫になるとでもいうのですか。
- 12 帰りなさい、娘たちよ。さあ行きなさい。私は年をとって、もう夫は持てません。たとえ私が自分に望みがあると思い、今晚にでも夫を持って、息子たちを産んだとしても、
- 13 だからといって、あなたたちは息子たちが大きくなるまで待つというのですか。だからといって、夫を持たないままにいるというのですか。娘たちよ、それはいけません。それは、あなたたちよりも、私にとってとても辛いことです。主の御手が私に下ったのですから。」
- 14 彼女たちはまた声をあげて泣いた。オルパは姑に別れの口づけをしたが、ルツは彼女にすがりついた。
- 15 ナオミは言った。「ご覧なさい。あなたの弟嫁は、自分の民とその神々のところに帰って行きました。あなたも弟嫁の後について帰りなさい。」
- 16 ルツは言った。「お母様を捨て、別れて帰るように、仕向けないでください。お母様が行かれるところに私も行き、住まれるところに私も住みます。あなたの民は私の民、あなたの神は私の神です。

- 17** あなたが死なれるところで私も死に、そこに葬られます。もし、死によってでも、私があるあなたから離れるようなことがあったら、主が幾重にも私を罰してくださるように。」
- 18** ナオミは、ルツが自分と一緒にいこうと固く決心しているのを見て、もうそれ以上は言わなかった。
- 19** 二人は旅をして、ベツレヘムに着いた。彼女たちがベツレヘムに着くと、町中が二人のことで騒ぎ出し、女たちは「まあ、ナオミではありませんか」と言った。
- 20** ナオミは彼女たちに言った。「私をナオミと呼ばないで、マラと呼んでください。全能者が私を大きな苦しみにあわせたのですから。
- 21** 私は出て行くときは満ち足りていましたが、主は私を素手で帰されました。どうして私をナオミと呼ぶのですか。主が私を卑しくし、全能者が私を辛い目にあわせられたというのに。」
- 22** こうして、ナオミは帰って来た。モアブの野から戻った嫁、モアブの女ルツと一緒にあった。ベツレヘムに着いたのは、大麦の刈り入れが始まったころであった。

第2章

- 1 さて、ナオミには、夫エリメレクの一族に属する一人の有力な親戚がいた。その人の名はボアズであった。
- 2 モアブの女ルツはナオミに言った。「畑に行かせてください。そして、親切にしてくれる人のうしろで落ち穂を拾い集めさせてください。」ナオミは「娘よ、行っておいで」と言った。
- 3 ルツは出かけて行って、刈り入れをする人たちの後について畑で落ち穂を拾い集めた。それは、はからずもエリメレクの一族に属するボアズの畑であった。
- 4 ちょうどそのとき、ボアズがベツレヘムからやって来て、刈る人たちに言った。「主があなたがたとともにおられますように。」彼らは、「主があなたを祝福されますように」と答えた。
- 5 ボアズは、刈る人たちの世話をしている若い者に言った。「あれはだれの娘か。」
- 6 刈る人たちの世話をしている若い者は答えた。「あれは、ナオミと一緒にモアブの野から戻って来たモアブの娘です。」
- 7 彼女は『刈る人たちの後について、束のところで落ち穂を拾い集めさせてください』と言いました。ここに来て、朝から今までほとんど家で休みもせず、ずっと立ち働いています。」
- 8 ボアズはルツに言った。「娘さん、よく聞きなさい。ほかの畑に落ち穂を拾いに行ってはいいけません。ここから移ってもいいけません。私のところの若い女たちのそばを離れず、ここにいなさい。」
- 9 刈り取っている畑を見つけたら、彼女たちの後について行きなさい。私は若い者たちに、あなたの邪魔をしてはならない、と命じておきました。喉が渴いたら、水がめのところに行き、若い者たちが汲んだ水を飲みなさい。」
- 10 彼女は顔を伏せ、地面にひれ伏して彼に言った。「どうして私に親切にし、気遣ってくださるのですか。私はよそ者ですのに。」
- 11 ボアズは答えた。「あなたの夫が亡くなってから、あなたが姑にしたこと、それに自分の父母や生まれ故郷を離れて、これまで知らなかった民のところに来たことについて、私は詳しく話を聞いています。」
- 12 主があなたのしたことに報いてくださるように。あなたがその翼の下に身を避けようとして来たイスラエルの神、主から、豊かな報いがあるように。」
- 13 彼女は言った。「ご主人様、私はあなたのご好意を得たいと存じます。あなたは私を慰め、このはしための心に語りかけてくださいました。私はあなたのはしための一人にも及びませんのに。」
- 14 食事の時、ボアズはルツに言った。「ここに来て、このパンを食べ、あなたのパン切れを酢に浸しなさい。」彼女が刈る人たちのそばに座ったので、彼は炒り麦を彼女に取ってやった。彼女はそれを食べ、十分食べて、余を残しておいた。

- 15 彼女が落ち穂を拾い集めようとして立ち上がると、ボアズは若い者たちに命じた。「彼女には束の間でも落ち穂を拾い集めさせなさい。彼女にみじめな思いをさせてはならない。
- 16 それだけでなく、彼女のために束からわざと穂を抜き落として、拾い集めさせなさい。彼女を叱ってはいけない。」
- 17 こうして、ルツは夕方まで畑で落ち穂を拾い集めた。集めたものを打つと、大麦一エパほどであった。
- 18 彼女はそれを背負って町に行き、集めたものを姑に見せた。また、先に十分に食べたうえに残しておいたものを取り出して、姑に渡した。
- 19 姑は彼女に言った。「今日、どこで落ち穂を拾い集めたのですか。どこで働いたのですか。あなたに目を留めてくださった方に祝福がありますように。」彼女は姑に、だれのところまで働いてきたかを告げた。「今日、私はボアズという名の人のところで働きました。」
- 20 ナオミは嫁に言った。「生きている者にも、死んだ者にも、御恵みを惜しまない主が、その方を祝福されますように。」ナオミは、また言った。「その方は私たちの近親の者で、しかも、買い戻しの権利のある親類の一人です。」
- 21 モアブの女ルツは言った。「その方はまた、『私のところの刈り入れが全部終わるまで、うちの若い者たちのそばについていなさい』と言われました。」
- 22 ナオミは嫁のルツに言った。「娘よ、それは良かった。あの方のところの若い女たちと一緒に畑に出られるのですから。ほかの畑でいじめられなくて済みます。」
- 23 それで、ルツはボアズのところの若い女たちから離れないで、大麦の刈り入れと小麦の刈り入れが終わるまで落ち穂を拾い集めた。こうして、彼女は姑と暮らした。

第3章

- 1 姑のナオミは彼女に言った。「娘よ。あなたが幸せになるために、身の落ち着き所を私が探してあげなければなりません。」
- 2 あなたと一緒にいた若い女たちの主人ボアズは、私たちの親戚ではありませんか。ちょうど今夜、あの方は打ち場で大麦をふるい分けようとしています。
- 3 あなたはからだを洗って油を塗り、晴れ着をまとして打ち場に下って行きなさい。けれども、あの方が食べたり飲んだりし終わるまでは、気づかれないようにしなさい。
- 4 あの方が寝るとき、その場所を見届け、後で入って行ってその足もとをまくり、そこで寝なさい。あの方はあなたがすべきことを教えてくれるでしょう。」
- 5 ルツは姑に言った。「おっしゃることは、みないたします。」
- 6 こうして、彼女は打ち場に下って行き、姑が命じたことをすべて行った。
- 7 ボアズは食べたり飲んだりして、気分が良くなり、積み重ねてある麦の傍らに行って寝た。彼女はこっそり行って、ボアズの足もとをまくり、そこに寝た。
- 8 夜中になって、その人は驚いて起き直った。見ると、一人の女の人が自分の足もとに寝ていた。
- 9 彼は言った。「あなたはだれだ。」彼女は言った。「私はあなたのはしためルツです。あなたの覆いを、あなたのはしための上に広げてください。あなたは買い戻しの権利のある親類です。」
- 10 ボアズは言った。「娘さん、主があなたを祝福されるように。あなたが示した、今回の誠実さは、先の誠実さにまさっています。あなたは、貧しい者でも富んだ者でも、若い男の後は追いかけてませんでした。」
- 11 娘さん、もう恐れる必要はありません。あなたが言うことはすべてしてあげましょう。この町の人々はみな、あなたがしっかりした女であることを知っています。
- 12 ところで、確かに私は買い戻しの権利のある親類ですが、私よりももっと近い、買い戻しの権利のある親類がいます。
- 13 今晚はここで過ごしなさい。朝になって、もしその人があなたに親類の役目を果たすなら、それでよいでしょう。その人に親類の役目を果たしてもらいましょう。もし、その人が親類の役目を果たすことを望まないなら、私があなたを買い戻します。主は生きておられます。さあ、朝までお休みなさい。」
- 14 ルツは朝まで彼の足もとで寝て、だれかれの見分けがつかないうちに起きた。彼は「打ち場に彼女が来たことが知られてはならない」と思い、
- 15 「あなたが着ている上着を持って、それをしっかりつかんでいなさい」と言った。彼女がそれをしっかりつかむと、彼は大麦六杯を量り、それを彼女に背負わせた。それから、彼は町へ行った。
- 16 彼女が姑のところに行くと、姑は尋ねた。「娘よ、どうでしたか。」ルツは、その人が自分にしてくれたことをすべて姑に告げて、

- 17 こう言った。「あなたの姑のところに手ぶらで帰ってはならないと言って、あの方はこの大麦六杯を下さいました。」
- 18 姑は言った。「娘よ、このことがどう収まるか分かるまで待っていなさい。あの方は、今日このことを決めてしまわなければ落ち着かないでしょうから。」

第4章

- 1 一方、ボアズは門のところへ上って行って、そこに座った。すると、ちょうど、ボアズが言ったあの買い戻しの権利のある親類が通りかかった。ボアズは彼に言った。「どうぞこちらに来て、ここにお座りください。」彼はそこに来て座った。
- 2 ボアズは町の長老十人を招いて、「ここにお座りください」と言ったので、彼らも座った。
- 3 ボアズは、その買い戻しの権利のある親類に言った。「モアブの野から帰って来たナオミは、私たちの身内のエリメレクの畑を売ることになっています。
- 4 私はそれをあなたの耳に入れ、ここに座っている人たちと私の民の長老たちの前で、それを買ってくださいと言おうと思ったのです。もし、あなたがそれを買ひ戻すつもりなら、それを買ひ戻してください。けれども、もし、それを買ひ戻さないのなら、私にそう言って知らせてください。あなたを差し置いてそれを買ひ戻す人はいません。私はあなたの次です。」彼は言った。「私が買ひ戻しましょう。」
- 5 ボアズは言った。「あなたがナオミの手からその畑を買ひ受けるときには、死んだ人の名を相続地に存続させるために、死んだ人の妻であったモアブの女ルツも引き受けなければなりません。」
- 6 するとその買い戻しの権利のある親類は言った。「私には、その土地を自分のために買ひ戻すことはできません。自分自身の相続地を損なうことになるといけませんから。私に代わって、あなたが買ひ戻してください。私は買ひ戻すことができません。」
- 7 昔イスラエルでは、買ひ戻しや権利の譲渡をする場合、すべての取り引きを有効にするために、一方が自分の履き物を脱いで、それを相手に渡す習慣があった。これがイスラエルにおける認証の方法であった。
- 8 それで、この買い戻しの権利のある親類はボアズに、「あなたがお買ひなさい」と言って、自分の履き物を脱いだ。
- 9 ボアズは、長老たちとすべての民に言った。「あなたがたは、今日、私がナオミの手から、エリメレクのものすべて、キルヨンとマフロンのものすべてを買ひ取ったことの証人です。
- 10 また、死んだ人の名を相続地に存続させるために、私は、マフロンの妻であったモアブの女ルツも買ひ、私の妻としました。死んだ人の名を、その身内の者たちの間から、またその町の門から絶えさせないためです。今日、あなたがたはその証人です。」
- 11 門にいたすべての民と長老たちは言った。「私たちは証人です。どうか、主が、あなたの家に嫁ぐ人を、イスラエルの家を建てたラケルとレアの二人のようにされますように。また、あなたがエフラテで力ある働きをし、ベツレヘムで名を打ち立てますように。
- 12 どうか、主がこの娘を通してあなたに授ける子孫によって、タマルがユダに産んだペレツの家のように、あなたの家がなりますように。」
- 13 ボアズはルツを迎え、彼女は彼の妻となった。ボアズは彼女のところに入り、主はルツを身ごもらせ、彼女は男の子を産んだ。

- 14** 女たちはナオミに言った。「主がほめたたえられますように。主は、今日あなたに、買い戻しの権利のある者が途絶えないようにされました。その子の名がイスラエルで打ち立てられますように。
- 15** その子はあなたを元気づけ、老後のあなたを養うでしょう。あなたを愛するあなたの嫁、七人の息子にもまさる嫁が、その子を産んだのですから。」
- 16** ナオミはその子を取り、胸に抱いて、養い育てた。
- 17** 近所の女たちは、「ナオミに男の子が生まれた」と言って、その子に名をつけた。彼女たちはその名をオベデと呼んだ。オベデは、ダビデの父であるエッサイの父となった。
- 18** これはペレツの系図である。ペレツはヘツロンを生み、
- 19** ヘツロンはラムを生み、ラムはアミナダブを生み、
- 20** アミナダブはナフションを生み、ナフションはサルマを生み、
- 21** サルマはボアズを生み、ボアズはオベデを生み、
- 22** オベデはエッサイを生み、エッサイはダビデを生んだ。

サムエル記上

1 Samuel

第1章

- 1 エフライムの山地ラマタイム出身のツフ人の一人で、その名をエルカナという人がいた。この人はエロハムの子で、エロハムはエリフの子、エリフはトフの子、トフはエフライム人ツフの子であった。
- 2 エルカナには二人の妻がいた。一人の名はハンナといい、もう一人の名はペニンナといった。ペニンナには子がいたが、ハンナには子がいなかった。
- 3 この人は、毎年自分の町から上って行き、シロで万軍の主を礼拝し、いけにえを献げることにしていた。そこでは、エリの二人の息子、ホフニとピネハスが主の祭司をしていた。
- 4 そのようなある日、エルカナはいけにえを献げた。彼は、妻のペニンナ、そして彼女のすべての息子、娘たちに、それぞれの受ける分を与えるようにしていたが、
- 5 ハンナには特別の受ける分を与えていた。主は彼女の胎を閉じておられたが、彼がハンナを愛していたからである。
- 6 また、彼女に敵対するペニンナは、主がハンナの胎を閉じておられたことで、彼女をひどく苛立たせ、その怒りをかき立てた。
- 7 そのようなことが毎年行われ、ハンナが主の家に上って行くたびに、ペニンナは彼女の怒りをかき立てるのだった。こういうわけで、ハンナは泣いて、食事をしようとしなかった。
- 8 夫エルカナは彼女に言った。「ハンナ、なぜ泣いているのか。どうして食べないのか。どうして、あなたの心は苦しんでいるのか。あなたにとって、私は十人の息子以上の者ではないか。」
- 9 シロでの飲食が終わった後、ハンナは立ち上がった。ちょうどそのとき、祭司エリは主の神殿の門柱のそばで、椅子に座っていた。
- 10 ハンナの心は痛んでいた。彼女は激しく泣いて、主に祈った。
- 11 そして誓願を立てて言った。「万軍の主よ。もし、あなたがはしための苦しみをご覧になり、私を心に留め、このはしためを忘れず、男の子を下さるなら、私はその子を一生の間、主にお渡しします。そしてその子の頭にかみそりを当てません。」
- 12 ハンナが主の前で長く祈っている間、エリは彼女の口もとをじっと見ていた。
- 13 ハンナは心で祈っていたので、唇だけが動いて、声は聞こえなかった。それでエリは彼女が酔っているのだと思った。
- 14 エリは彼女に言った。「いつまで酔っているのか。酔いをさましなさい。」
- 15 ハンナは答えた。「いいえ、祭司様。私は心に悩みのある女です。ぶどう酒も、お酒も飲んでおりません。私は主の前に心を注ぎ出していたのです。」
- 16 このはしためを、よこしまな女と思わないでください。私は募る憂いと苛立ちのために、今まで祈っていたのです。」
- 17 エリは答えた。「安心して行きなさい。イスラエルの神が、あなたの願ったその願いをかなえてくださるように。」

- 18 彼女は、「はしためが、あなたのご好意を受けられますように」と言った。それから彼女は帰って食事をした。その顔は、もはや以前ようではなかった。
- 19 彼らは翌朝早く起きて、主の前で礼拝をし、ラマにある自分たちの家に帰って来た。エルカナは妻ハンナを知った。主は彼女を心に留められた。
- 20 年が改まって、ハンナは身ごもって男の子を産んだ。そして「私がこの子を主にお願ひしたのだから」と言って、その名をサムエルと呼んだ。
- 21 夫のエルカナは、年ごとのいけにえを主に献げ、自分の誓願を果たすために、家族そろって上って行こうとした。
- 22 しかしハンナは、夫に「この子が乳離れして、私がこの子を連れて行き、この子が主の御顔を拝して、いつまでもそこにとどまるようになるまでは」と言って、上って行かなかった。
- 23 夫のエルカナは彼女に言った。「あなたが良いと思うようにしなさい。この子が乳離れするまでとどまりなさい。ただ、主がそのおことばを実現してくださるように。」こうしてハンナはとどまって、その子が乳離れするまで乳を飲ませた。
- 24 その子が乳離れしたとき、彼女は子牛三頭、小麦粉一エパ、ぶどう酒の皮袋一つを携えてその子を伴って上り、シロにある主の家に連れて行った。その子はまだ幼かった。
- 25 彼らは子牛を屠り、その子をエリのところに連れて行った。
- 26 ハンナは言った。「ああ、祭司様。あなたは生きておられます。祭司様。私はかつて、ここであなたのそばに立って、主に祈った女です。
- 27 この子のことを、私は祈ったのです。主は私がお願いしたとおり、私の願いをかなえてくださいました。
- 28 それで私もまた、この子を主におゆだねいたします。この子は一生涯、主にゆだねられたものです。」こうして彼らはそこで主を礼拝した。

第2章

- 1 ハンナは祈った。「私の心は主にあって大いに喜び、私の角は主によって高く上がります。私の口は敵に向かって大きく開きます。私があなたの救いを喜ぶからです。
- 2 主のように聖なる方はいません。まことに、あなたのほかにはだれもいないのです。私たちの神のような岩はありません。
- 3 おごり高ぶって、多くのことを語ってはなりません。横柄なことばを口にしてはなりません。まことに主は、すべてを知る神。そのみわざは測り知れません。
- 4 勇士が弓を砕かれ、弱い者が力を帯びます。
- 5 満ち足りていた者がパンのために雇われ、飢えていた者に、飢えることがなくなります。不妊の女が七人の子を産み、子たくさんの女が、打ちしおれてしまいます。
- 6 主は殺し、また生かします。よみに下し、また引き上げます。
- 7 主は貧しくし、また富ませ、低くし、また高くします。
- 8 主は、弱い者をちりから起こし、貧しい者をあくたから引き上げ、高貴な者とともに座らせ、彼らに栄光の座を継がせます。まことに、地の柱は主のもの。その上に主は世界を据えられました。
- 9 主は敬虔な者たちの足を守られます。しかし、悪者どもは、闇の中に滅び失せます。人は、自分の能力によっては勝てないからです。
- 10 主は、はむかう者を打ち砕き、その者に天から雷鳴を響かせられます。主は地の果ての果てまでさばかれます。主が、ご自分の王に力を与え、主に油注がれた者の角を高く上げてくださいますように。」
- 11 エルカナはラマにある自分の家に帰った。幼子は、祭司エリのもとで主に仕えていた。
- 12 さて、エリの息子たちはよこしまな者たちで、主を知らなかった。
- 13 民に関わる祭司の定めについてもそうであった。だれかが、いけにえを献げていると、まだ肉を煮ている間に、祭司の子弟が三又の肉刺しを手にしてやって来て、
- 14 これを大鍋や、釜、大釜、鍋に突き入れ、肉刺しで取り上げたものをみな、祭司が自分のものとして取っていた。このようなことが、シロで、そこに来るイスラエルのすべての人に対してなされていた。
- 15 そのうえ、脂肪が焼かれる前に祭司の子弟がやって来て、いけにえを献げる人に「祭司に焼くための肉を渡しなさい。祭司は煮た肉をあなたから受け取らない。生の肉だけだ」と言うので、
- 16 人が「まず脂肪をすっかり焼いて、好きなだけお取りください」と言うと、祭司の子弟は、「いや、今渡すのだ。でなければ、私は力づくで取る」と言った。
- 17 このように、子弟たちの罪は、主の前で非常に大きかった。この人たちは主へのささげ物を侮ったのである。
- 18 さてサムエルは、亜麻布のエポデを身にまとった幼いしもべとして、主の前に仕えていた。

- 19 彼の母は彼のために小さな上着を作り、毎年、夫とともに年ごとのいけにえを献げに上って行くとき、それを持って行った。
- 20 エリは、エルカナとその妻を祝福して、「主にゆだねられた子の代わりとして、主が、この妻によって、あなたに子孫を与えてくださいますように」と言い、彼らは自分の住まいに帰るのであった。
- 21 主はハンナを顧み、彼女は身ごもって、三人の息子と二人の娘を産んだ。少年サムエルは主のみもとで成長した。
- 22 さて、エリはたいへん年をとっていたが、息子たちがイスラエル全体に行っていることの一部始終を、それに彼らが会見の天幕の入り口で仕えている女たちと寝ていることを聞いていた。
- 23 それでエリは彼らに言った。「なぜ、おまえたちはそんなことをするのか。私はこの民の皆から、おまえたちのした悪いことについて聞いているのだ。
- 24 息子たちよ、そういうことをしてはいけない。私は主の民が言いふらしているうわさを聞くが、それは良いものではない。
- 25 人が人に対して罪を犯すなら、神がその仲裁をしてくださる。だが、主に対して人が罪を犯すなら、だれがその人のために仲裁に立つだろうか。」しかし、彼らは父の言うことを聞こうとしなかった。彼らを殺すことが主のみこころだったからである。
- 26 一方、少年サムエルは、主にも人にもいつくしまれ、ますます成長した。
- 27 神の人がエリのところに来て、彼に言った。「主はこう言われる。あなたの父の家がエジプトでファラオの家に属していたとき、わたしは彼らに自分を明らかに現したではないか。
- 28 わたしは、イスラエルの全部族からその家を選んでわたしの祭司とし、わたしの祭壇に上って香をたき、わたしの前でエポデを着るようにした。こうして、イスラエルの子らの食物のささげ物をすべて、あなたの父の家に与えた。
- 29 なぜあなたがたは、わたしが命じたわたしへのいけにえ、わたしへのささげ物を、わたしの住まいで足蹴にするのか。なぜあなたは、わたしよりも自分の息子たちを重んじて、わたしの民イスラエルのすべてのささげ物のうちの、最上の部分で自分たちを肥やそうとするのか。
- 30 それゆえ—イスラエルの神、主のことば—あなたの家と、あなたの父の家は、永遠にわたしの前に歩むとわたしは確かに言ったものの、今や—主のことば—それは絶対にあり得ない。わたしを重んじる者をわたしは重んじ、わたしを蔑む者は軽んじられるからだ。
- 31 見よ、その時代が来る。そのとき、わたしはあなたの腕と、あなたの父の家の腕を切り落とす。あなたの家には年長者がいなくなる。
- 32 イスラエルが幸せにされるどんなときにも、あなたはわたしの住まいの衰退を見るようになる。あなたの家には、いつまでも、年長者がいらない。
- 33 わたしは、あなたのために、わたしの祭壇から一人の人を断ち切らないで置く。そのことはあなたの目を衰えさせ、あなたのたましいをやつれさせる。あなたの家に生まれてくる者はみな、人の手によって死ぬ。

- 34** あなたの二人の息子、ホフニとピネハスの身に降りかかることが、あなたへのしるしである。二人とも同じ日に死ぬ。
- 35** わたしは、わたしの心と思いの中で事を行う忠実な祭司を、わたしのために起こし、彼のために確かな家を建てよう。彼は、わたしに油注がれた者の前をいつまでも歩む。
- 36** あなたの家の生き残った者はみな、銀貨一枚とパン一つを求めて彼のところに来てひれ伏し、『どうか、祭司の務めの一つでも私にあてがって、パンを一切れ食べさせてください』と言う。」

第3章

- 1 さて、少年サムエルはエリのもとで主に仕えていた。そのころ、主のことばはまれにしかなく、幻も示されなかった。
- 2 その日、エリは自分のところで寝ていた。彼の目はかすんできて、見えなくなっていた。
- 3 神のともしびが消される前であり、サムエルは、神の箱が置かれている主の神殿で寝ていた。
- 4 主はサムエルを呼ばれた。彼は、「はい、ここにおります」と言って、
- 5 エリのところに走って行き、「はい、ここにおります。お呼びになりましたので」と言った。エリは「呼んでいない。帰って、寝なさい」と言った。それでサムエルは戻って寝た。
- 6 主はもう一度、サムエルを呼ばれた。サムエルは起きて、エリのところに行き、「はい、ここにおります。お呼びになりましたので」と言った。エリは「呼んでいない。わが子よ。帰って、寝なさい」と言った。
- 7 サムエルは、まだ主を知らなかった。まだ主のことばは彼に示されていなかった。
- 8 主は三度目にサムエルを呼ばれた。彼は起きて、エリのところに行き、「はい、ここにおります。お呼びになりましたので」と言った。エリは、主が少年を呼んでおられるということを悟った。
- 9 それで、エリはサムエルに言った。「行って、寝なさい。主がおまえを呼ばれたら、『主よ、お話しください。しもべは聞いております』と言いなさい。」サムエルは行って、自分のところで寝た。
- 10 主が来て、そばに立ち、これまでと同じように、「サムエル、サムエル」と呼ばれた。サムエルは「お話しください。しもべは聞いております」と言った。
- 11 主はサムエルに言われた。「見よ、わたしはイスラエルに一つのことをしようとしている。だれでもそれを聞く者は、両耳が鳴る。
- 12 その日わたしは、エリの家についてわたしが語ったことすべてを、初めから終わりまでエリに実行する。
- 13 わたしは、彼の家を永遠にさばくと彼に告げる。それは息子たちが自らにのろいを招くようなことをしているのを知りながら、思いとどまらせなかった咎のためだ。
- 14 だから、わたしはエリの家について誓う。エリの家のだ咎は、いけにえによっても、穀物のささげ物によっても、永遠に赦されることはない。」
- 15 サムエルは朝まで寝て、それから主の家の扉を開けた。サムエルは、この黙示のことをエリに知らせるのを恐れた。
- 16 エリはサムエルを呼んで言った。「わが子サムエルよ。」サムエルは「はい、ここにおります」と言った。
- 17 エリは言った。「主がおまえに語られたことばは、何だったのか。私に隠さないでくれ。もし、主がおまえに語られたことばの一つでも私に隠すなら、神がおまえを幾重にも罰せられるように。」

- 18** サムエルは、すべてのことをエリに知らせて、何も隠さなかった。エリは言った。「その方は主だ。主が御目にかなうことをなさるように。」
- 19** サムエルは成長した。主は彼とともにおられ、彼のことばを一つも地に落とすことはなかった。
- 20** 全イスラエルは、ダンからベエル・シェバに至るまで、サムエルが主の預言者として堅く立てられたことを知った。
- 21** 主は再びシロで現れた。主はシロで主のことばによって、サムエルにご自分を現されたのである。

第4章

- 1 サムエルのことばが全イスラエルに行き渡ったころ、イスラエルはペリシテ人に対する戦いのために出て行き、エベン・エゼルのあたりに陣を敷いた。一方、ペリシテ人はアフエクに陣を敷いた。
- 2 ペリシテ人はイスラエルを迎え撃つ陣備えをした。戦いが広がると、イスラエルはペリシテ人に打ち負かされ、約四千人が野の戦場で打ち殺された。
- 3 兵が陣営に戻って来たとき、イスラエルの長老たちは言った。「どうして主は、今日、ペリシテ人の前でわれわれを打たれたのだろう。シロから主の契約の箱をわれわれのところに持って来よう。そうすれば、その箱がわれわれの間に来て、われわれを敵の手から救うだろう。」
- 4 兵たちはシロに人を送り、そこから、ケルビムに座しておられる万軍の主の契約の箱を担いで来させた。そこに、神の契約の箱とともに、エリの二人の息子、ホフニとピネハスがいた。
- 5 主の契約の箱が陣営に来たとき、全イスラエルは大歓声をあげた。それで地はどよめいた。
- 6 ペリシテ人はその歓声を聞いて、「ヘブル人の陣営の、あの歓声は何だろう」と言った。そして主の箱が陣営に来たと知ったとき、
- 7 ペリシテ人は恐れて、「神が陣営に来た」と言った。そして言った。「ああ、困ったことだ。今までに、こんなことはなかった。
- 8 ああ、困ったことだ。だれがこの力ある神々の手から、われわれを救い出してくれるだろうか。これは、荒野で、ありとあらゆる災害をもってエジプトを打った神々だ。
- 9 さあ、ペリシテ人よ。奮い立て。男らしくふるまえ。そうでないと、ヘブル人がおまえたちに仕えたように、おまえたちがヘブル人に仕えるようになる。男らしくふるまって戦え。」
- 10 こうしてペリシテ人は戦った。イスラエルは打ち負かされ、それぞれ自分たちの天幕に逃げ、非常に大きな打撃となった。イスラエルの歩兵三万人が倒れた。
- 11 神の箱は奪われ、エリの二人の息子、ホフニとピネハスは死んだ。
- 12 一人のベニヤミン人が戦場から走って来て、その日シロに着いた。衣は裂け、頭には土をかぶっていた。
- 13 彼が着いたとき、エリはちょうど、道のそばの椅子に座って見張っていた。神の箱のことを気遣っていたからであった。この男が町に入って来て報告すると、町中こぞって泣き叫んだ。
- 14 エリがこの泣き叫ぶ声を聞いて、「この騒々しい声は何だ」と言うと、男は大急ぎでやって来てエリに知らせた。
- 15 エリは九十八歳で、その目はこわばり、何も見えなくなっていた。
- 16 男はエリに言った。「私は戦場から来た者です。私は、今日、戦場から逃げて来ました。」するとエリは「わが子よ、状況はどうなっているのか」と言った。

- 17** 知らせを持って来た者は答えて言った。「イスラエルはペリシテ人の前から逃げ、兵のうちに打ち殺された者が多く出ました。それに、あなたの二人のご子息、ホフニとピネハスも死に、神の箱は奪われました。」
- 18** 彼が神の箱のことを告げたとき、エリはその椅子から門のそばにあおむけに倒れ、首を折って死んだ。年寄りで、からだが重かったからである。エリは四十年間、イスラエルをさばいた。
- 19** 彼の嫁、ピネハスの妻は身ごもっていて出産間近であったが、神の箱が奪われて、しゅうとと夫が死んだという知らせを聞いたとき、陣痛が起こり、身をかがめて子を産んだ。
- 20** 彼女は死にかけていて、彼女の世話をしていた女たちが「恐れることはありません。男の子が生まれましたから」と言ったが、彼女は答えもせず、気にも留めなかった。
- 21** 彼女は、「栄光がイスラエルから去った」と言って、その子をイ・カボデと名づけた。これは、神の箱が奪われたこと、また、しゅうとと夫のことを指したのであった。
- 22** 彼女は言った。「栄光はイスラエルから去った。神の箱が奪われたから。」

第5章

- 1 ペリシテ人は神の箱を奪って、エベン・エゼルからアシュドデまで運んで来た。
- 2 それからペリシテ人は神の箱を取り、ダゴンの神殿に運んで来て、ダゴンの傍らに置いた。
- 3 アシュドデの人たちが、翌日、朝早く起きて見ると、なんと、ダゴンは主の箱の前に、地にうつぶせになって倒れていた。そこで彼らはダゴンを取り、元の場所に戻した。
- 4 次の日、朝早く彼らが起きて見ると、やはり、ダゴンは主の箱の前に、地にうつぶせになって倒れていた。ダゴンの頭と両手は切り離されて敷居のところにあり、胴体だけがそこに残っていた。
- 5 それで今日に至るまで、ダゴンの祭司たちやダゴンの神殿に入る者はみな、アシュドデにあるダゴンの敷居を踏まない。
- 6 主の手はアシュドデの人たちの上に重くのしかかり、アシュドデとその地域の人たちを腫物で打って脅かした。
- 7 アシュドデの人たちは、この有様を見て言った。「イスラエルの神の箱は、われわれのもとにとどまってはならない。その手は、われわれとわれわれの神ダゴンの上に厳しいものであるから。」
- 8 それで彼らは人を遣わして、ペリシテ人の領主を全員そこに集め、「イスラエルの神の箱をどうしたらよいでしょうか」と言った。領主たちは「イスラエルの神の箱は、ガテに移るようにせよ」と言った。そこで彼らはイスラエルの神の箱を移した。
- 9 それがガテに移された後、主の手はこの町に下り、非常に大きな恐慌を引き起こし、この町の人々を上のも下のもみな打ったので、彼らに腫物ができた。
- 10 ガテの人たちは神の箱をエクロンに送った。神の箱がエクロンにやって来たとき、エクロンの人たちは大声で叫んで言った。「私と私の民を殺すために、イスラエルの神の箱をこっちに回して来たのだ。」
- 11 それで彼らは人を遣わして、ペリシテ人の領主を全員集め、「イスラエルの神の箱を送って、元の場所に帰っていただきましょう。私と私の民を殺すことがないように」と言った。町中に死の恐慌があったのである。神の手は、そこに非常に重くのしかかっていた。
- 12 死ななかった者は腫物で打たれ、助けを求める町の叫び声は天にまで上った。

第6章

- 1 主の箱は七か月間ペリシテ人の地にあった。
- 2 ペリシテ人は祭司たちと占い師たちを呼び寄せて言った。「主の箱をどうしたらよいでしょうか。どのようにして、それを元の場所に送り返せるか、教えてください。」
- 3 彼らは答えた。「イスラエルの神の箱を送り返すのなら、何もつけないで送り返してはなりません。神に対して償いをしなければなりません。そうすれば、あなたがたは癒やされるでしょう。また、なぜ、神の手があなたがたから去らないかが分かるでしょう。」
- 4 人々は言った。「私たちが送るべき償いのものは何ですか。」彼らは言った。「ペリシテ人の領主の数に合わせて、五つの金の腫物、つまり五つの金のねずみです。彼ら全員、つまりあなたがたの領主たちに、同じわざわいが下ったのですから。」
- 5 あなたがたの腫物の像、つまり、この地を破滅させようとしているねずみの像を造り、それらをイスラエルの神に貢ぎとして献げなさい。もしかしたら神は、あなたがたと、あなたがたの神々、そしてあなたがたの地の上にのしかかっている、その手を軽くされるかもしれません。
- 6 なぜ、あなたがたは、エジプト人とファラオが心を硬くしたように、心を硬くするのですか。神が彼らに対して力を働かせたときに、彼らはイスラエルを去らせ、イスラエルは出て行ったではありませんか。
- 7 今、一台の新しい車を用意し、くびきを付けたことのない、乳を飲ませている雌牛を二頭取り、雌牛を車につなぎ、その子牛は引き離して小屋に戻しなさい。
- 8 また、主の箱を取って車に載せなさい。償いとして返す金の品物を鞍袋に入れて、そのそばに置きなさい。そして、それが行くがままに、去らせなければなりません。
- 9 注意して見ていなさい。その箱がその国境への道をベテ・シェメシュに上って行くなら、私たちにこの大きなわざわいを起こしたのはあの神です。もし行かないなら、神の手が私たちを打ったのではなく、私たちに偶然起こったことだと分かります。」
- 10 人々はそのようにした。彼らは乳を飲ませている雌牛を二頭取り、それを車につないだ。子牛は小屋に閉じ込めた。
- 11 そして主の箱を車に載せ、また金のねずみ、すなわち腫物の像を入れた鞍袋を載せた。
- 12 雌牛は、ベテ・シェメシュへの道、一本の大路をまっすぐに進んだ。鳴きながら進み続け、右にも左にもそれなかった。ペリシテ人の領主たちは、ベテ・シェメシュの国境まで、その後について行った。
- 13 ベテ・シェメシュの人たちは、谷間で小麦の刈り入れをしていたが、目を上げると、神の箱が見えた。彼らはそれを見て喜んだ。
- 14 車はベテ・シェメシュ人ヨシュアの畑に来て、そこにとどまった。そこには大きな石があった。人々は、車の木を割り、雌牛を全焼のささげ物として主に献げた。
- 15 レビ人たちは、主の箱と、そばにあった金の品物の入っている鞍袋を降ろし、その大きな石の上に置いた。その日、ベテ・シェメシュの人たちは全焼のささげ物を献げ、いけにえを主に献げた。

- 16** ペリシテ人の五人の領主は、これを見て、その日エクロンに帰った。
- 17** ペリシテ人が償いとして主に返した金の腫物は、アシュドデのために一つ、ガザのために一つ、アシュケロンのために一つ、ガテのために一つ、エクロンのために一つであった。
- 18** すなわち、金のねずみは、五人の領主に属するペリシテ人の町の総数によっていた。それは、砦の町と城壁のない村の両方を含んでいる。彼らが主の箱を置いたアベルの大きな台は、今日までベテ・シェメシュ人ヨシュアの畑にある。
- 19** 主はベテ・シェメシュの人たちを打たれた。主の箱の中を見たからである。主は、民のうち七十人を、すなわち、千人に五人を打たれた。主が民を激しく打たれたので、民は喪に服した。
- 20** ベテ・シェメシュの人たちは言った。「だれが、この聖なる神、主の前に立つことができるだろう。私たちのところから、だれのところに上って行くのだろうか。」
- 21** 彼らはキルヤテ・エアリムの住民に使者を遣わして言った。「ペリシテ人が主の箱を返してよこしました。下って来て、あなたがたのところに運び上げてください。」

第7章

- 1 キルヤテ・エアリムの人々は来て、主の箱を運び上げ、丘の上のアビナダブの家に運んだ。そして、主の箱を守るために彼の息子エルアザルを聖別した。
- 2 箱がキルヤテ・エアリムにとどまった日から長い年月がたって、二十年になった。イスラエルの全家は主を慕い求めていた。
- 3 サムエルはイスラエルの全家に言った。「もしあなたがたが、心のすべてをもって主に立ち返るなら、あなたがたの間から異国の神々やアシュタロテを取り除きなさい。そして心を主に向け、主にのみ仕えなさい。そうすれば、主はあなたがたをペリシテ人の手から救い出してくれます。」
- 4 イスラエル人は、バアルやアシュタロテの神々を取り除き、主にのみ仕えた。
- 5 サムエルは言った。「全イスラエルを、ミツパに集めなさい。私はあなたがたのために主に祈ります。」
- 6 彼らはミツパに集まり、水を汲んで主の前に注ぎ、その日は断食した。彼らはそこで、「私たちは主の前に罪ある者です」と言った。こうしてサムエルはミツパでイスラエル人をさばいた。
- 7 イスラエル人がミツパに集まったことをペリシテ人が聞いたとき、ペリシテ人の領主たちはイスラエルに向かって上って来た。イスラエル人はこれを聞いて、ペリシテ人を恐れた。
- 8 イスラエル人はサムエルに言った。「私たちから離れて黙っていないでください。私たちの神、主に叫ぶのをやめないでください。主が私たちをペリシテ人の手から救ってくださいるようにと。」
- 9 サムエルは、乳離れしていない子羊一匹を取り、焼き尽くす全焼のささげ物として主に献げた。サムエルはイスラエルのために主に叫んだ。すると主は彼に答えられた。
- 10 サムエルが全焼のささげ物を献げていたとき、ペリシテ人がイスラエルと戦おうとして近づいて来た。しかし主は、その日ペリシテ人の上に大きな雷鳴をとどろかせ、彼らをかき乱したので、彼らはイスラエルに打ち負かされた。
- 11 イスラエルの人々は、ミツパから出てペリシテ人を追い、彼らを討ってベテ・カルの下にまで行った。
- 12 サムエルは一つの石を取り、ミツパとエシェンの間に置き、それにエベン・エゼルという名をつけ、「ここまで主が私たちを助けてくださった」と言った。
- 13 ペリシテ人は征服され、二度とイスラエルの領土に入って来なかった。サムエルの時代を通して、主の手がペリシテ人の上にのしかかっていた。
- 14 ペリシテ人がイスラエルから奪い取っていた町々は、エクロンからガテまでが、イスラエルに戻った。イスラエルはペリシテ人の手から、その領土を解放した。そのころ、イスラエルとアモリ人の間には平和があった。
- 15 サムエルは、一生の間、イスラエルをさばいた。

- 16** 彼は年ごとに、ベテル、ギルガル、ミツパを巡回し、これらすべての聖所でイスラエルをさばき、
- 17** ラマに帰った。そこに自分の家があり、そこでイスラエルをさばいていたからである。彼はそこに主のために祭壇を築いた。

第8章

- 1 サムエルは、年老いたとき、息子たちをイスラエルのさばきつかさとして任命した。
- 2 長男の名はヨエル、次男の名はアビヤであった。彼らはベエル・シェバでさばきつかさをしていた。
- 3 しかし、この息子たちは父の道に歩まず、利得を追い求め、賄賂を受け取り、さばきを曲げていた。
- 4 イスラエルの長老たちはみな集まり、ラマにいるサムエルのところにやって来て、
- 5 彼に言った。「ご覧ください。あなたはお年を召し、ご子息たちはあなたの道を歩んでいません。どうか今、ほかのすべての国民のように、私たちをさばく王を立ててください。」
- 6 彼らが、「私たちをさばく王を私たちに与えてください」と言ったとき、そのことばはサムエルの目には悪しきことであった。それでサムエルは主に祈った。
- 7 主はサムエルに言われた。「民があなたに言うことは何であれ、それを聞き入れよ。なぜなら彼らは、あなたを拒んだのではなく、わたしが王として彼らを治めることを拒んだのだから。
- 8 わたしが彼らをエジプトから連れ上った日から今日に至るまで、彼らのしたことといえ、わたしを捨てて、ほかの神々に仕えることだった。そのように彼らは、あなたにもしているのだ。
- 9 今、彼らの声を聞き入れよ。ただし、彼らに自分たちを治める王の権利をはっきりと宣言せよ。」
- 10 サムエルは、自分に王を求めるこの民に対して、主のすべてのことばを話した。
- 11 彼は言った。「あなたがたを治める王の権利はこうだ。あなたがたの息子たちを取り、戦車や軍馬に乗せ、自分の戦車の前を走らせる。
- 12 また、自分のために千人隊の長や五十人隊の長として任命し、自分の耕地を耕させ、自分の刈り入れに従事させ、武具や戦車の部品を作らせる。
- 13 また、あなたがたの娘たちを取り、香料を作る者や料理する者やパンを焼く者とする。
- 14 あなたがたの畑やぶどう畑や良いオリーブ畑を没収し、自分の家来たちに与える。
- 15 あなたがたの穀物とぶどう畑の十分の一を取り、廷臣や家来たちに与える。
- 16 あなたがたの奴隷や女奴隷、それにあなたがたの子牛やろばの最も良いものを取り、自分の仕事をさせる。
- 17 あなたがたの羊の群れの十分の一を取り、あなたがた自身は王の奴隷となる。
- 18 その日、あなたがたが自分たちのために選んだ王のゆえに泣き叫んでも、その日、主はあなたがたに答えはしない。」
- 19 しかし民は拒んで、サムエルの言うことを聞こうとしなかった。そして言った。「いや。どうしても、私たちの上には王が必要です。
- 20 そうすれば私たちもまた、ほかのすべての国民のようになり、王が私たちをさばき、私たちの先に立って出陣し、私たちの戦いを戦ってくれるでしょう。」

- 21** サムエルは、民のすべてのことばを聞いて、それを主の耳に入れた。
- 22** 主はサムエルに言われた。「彼らの言うことを聞き、彼らのために王を立てよ。」それで、サムエルはイスラエルの人々に「それぞれ自分の町に帰りなさい」と言った。

第9章

- 1 ベニヤミン人で、その名をキシュという人がいた。キシュはアビエルの子で、アビエルはツェロルの子、ツェロルはベコラテの子、ベコラテはベニヤミン人アフィアハの子であった。彼は有力者であった。
- 2 キシュには一人の息子がいて、その名をサウルといった。彼は美しい若者で、イスラエル人の中で彼より美しい者はいなかった。彼は民のだれよりも、肩から上だけ高かった。
- 3 あるとき、サウルの父キシュの雌ろば数頭がいなくなったので、キシュは息子サウルに言った。「しもべを一人連れて、雌ろばを捜しに行ってくれ。」
- 4 サウルはエフライムの山地を巡り、シャリシャの地を巡り歩いたが、それらは見つからなかった。さらに、シャアリムの地を巡り歩いたが、いなかった。ベニヤミン人の地を巡り歩いても、見つからなかった。
- 5 二人がツフの地にやって来たとき、サウルは一緒にいたしもべに言った。「さあ、もう帰ろう。父が雌ろばのことはさておき、私たちのほうを心配し始めるといけないから。」
- 6 すると、しもべは言った。「ご覧ください。この町には神の人がいます。この人は敬われている人です。この人の言うことはみな、必ず実現します。今そこへ参りましょう。私たちが行く道を教えてくれるかもしれません。」
- 7 サウルはしもべに言った。「もし行くとすると、その人に何を持って行こうか。私たちの袋には、パンもなくなったし、神の人に持って行く贈り物もない。何かあるか。」
- 8 しもべは再びサウルに答えた。「ご覧ください。私の手に四分の一シェケルの銀があります。これを神の人に差し上げたら、私たちの行く道を教えてくださいましょう。」
- 9 昔イスラエルでは、神のみこころを求めに行く人は「さあ、予見者のところへ行こう」とよく言っていた。今の預言者は、昔は予見者と呼ばれていたからである。
- 10 サウルはしもべに言った。「それはよい。さあ、行こう。」こうして、彼らは神の人のいる町へ行った。
- 11 彼らがその町への坂道を上って行くと、水を汲みに出て来た娘たちに出会った。彼らは「予見者はここにおられますか」と尋ねた。
- 12 すると娘たちは答えて言った。「はい。この先におられます。さあ、急いでください。今日、町に来られました。今日、高き所で民のためにいけにえをお献げになりますから。」
- 13 町に入ると、あの方が見つかるでしょう。あの方が食事のために高き所に上られる前に。民は、あの方が来られるまで食事をしません。あの方がいけにえを祝福して、その後で、招かれた者たちが食事をすることになっているからです。今、上って行ってください。あの方は、すぐに見つかるでしょう。」
- 14 彼らが町へ上って行き、町に入りかけたとき、ちょうどサムエルが、高き所に上ろうとして彼らの方に向かって出て来た。
- 15 主は、サウルが来る前の日に、サムエルの耳を開いて告げておられた。
- 16 「明日の今ごろ、わたしはある人をベニヤミンの地からあなたのところに遣わす。あなたはその人に油を注ぎ、わたしの民イスラエルの君主とせよ。彼はわたしの民をペリシテ人

の手から救う。民の叫びがわたしに届き、わたしが自分の民に目を留めたからだ。」

- 17 サムエルがサウルを見るやいなや、主は彼に告げられた。「さあ、わたしがあなたに話した者だ。この者がわたしの民を支配するのだ。」
- 18 サウルは、門の中でサムエルに近づいて、言った。「予見者の家はどこですか。教えてください。」
- 19 サムエルはサウルに答えた。「私が予見者です。私より先に高き所に上りなさい。今日、あなたがたは私と一緒に食事をするのです。明日の朝、私があなたを送ります。あなたの心にあるすべてのことについて、話しましょう。」
- 20 三日前にいなくなったあなたの雌ろばについては、もう気にかけないようにしてください。見つかっていますから。全イスラエルの思いは、だれに向けられているのでしょうか。あなたと、あなたの父の全家にではありませんか。」
- 21 サウルは答えて言った。「私はベニヤミン人で、イスラエルの最も小さい部族の出ではありませんか。私の家族は、ベニヤミンの部族のどの家族よりも、取るに足りないものではありませんか。どうしてこのようなことを私に言われるのですか。」
- 22 サムエルはサウルとそのしもべを広間に連れて来て、三十人ほどの招かれた人たちの上座に着かせた。
- 23 サムエルは料理人に、「取っておくようにと渡しておいた、ごちそうを出しなさい」と言った。
- 24 料理人は、もも肉とその上にある部分を取り出し、サウルの前に置いた。サムエルは言った。「これはあなたのために取っておいたものです。あなたの前に置いて、食べてください。その肉は、私が民を招いたと言って、この定められた時のため、あなたのために取り分けておいたものですから。」その日、サウルはサムエルと一緒に食事をした。
- 25 彼らは高き所から町に下って来た。それからサムエルはサウルと屋上で話をした。
- 26 彼らは朝早く起きた。夜が明けかかると、サムエルは、屋上にいるサウルに叫んだ。「起きてください。あなたを送りましょう。」サウルは起きて、サムエルと二人で外に出た。
- 27 二人が町外れへと下っていたとき、サムエルがサウルに「しもべに、私たちより先に行くように言ってください」と言ったので、しもべは先に行った。「あなたは、ここにしばらくとどまってください。神のことばをお聞かせしますから。」

第10章

- 1 サムエルは油の壺を取ってサウルの頭に注ぎ、彼に口づけして言った。「主が、ご自分のゆずりの地と民を治める君主とするため、あなたに油を注がれたのではありませんか。」
- 2 今日、私のもとを離れて行くとき、ベニヤミンの領内のツェルツァフにあるラケルの墓のそばで、二人の人に会うでしょう。彼らはあなたに、『捜し歩いておられた雌ろばは見つかりました。あなたの父上は、雌ろばのことはどうでもよくなり、息子のためにどうしたらよいのだろうと言って、あなたがたのことを心配しておられます』と言うでしょう。
- 3 そこからなお進んで、タボルの櫟の木のところまで行くと、そこで、神のもとに行こうとベテルに上って行く三人の人に会います。一人は子やぎを三匹持ち、一人は円形パンを三つ持ち、一人はぶどう酒の皮袋を一つ持っています。
- 4 彼らはあなたにあいさつをして、あなたにパンを二つくれます。彼らの手から受け取りなさい。
- 5 それから、ペリシテ人の守備隊がいるギブア・エロヒムに着きます。その町に入るとき、琴、タンバリン、笛、豎琴を鳴らす者を先頭に、預言をしながら高き所から下って来る預言者の一団に出会います。
- 6 主の霊があなたの上に激しく下り、あなたも彼らと一緒に預言して、新しい人に変えられます。
- 7 これらのしるしがあなたに起こったら、自分の力でできることをしなさい。神があなたとともにおられるのですから。
- 8 私より先にギルガルに下って行きなさい。私も全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げるために、あなたのところへ下って行きます。私があなたのところに着くまで、そこで七日間待たなければなりません。それからあなたがなすべきことを教えます。」
- 9 サウルがサムエルから去って行こうと背を向けたとき、神はサウルに新しい心を与えられた。これらすべてのしるしは、その日のうちに起こった。
- 10 彼らがそこからギブアに行くと、見よ、預言者の一団が彼の方にやって来た。すると、神の霊が彼の上に激しく下り、彼も彼らの間で預言した。
- 11 以前からサウルを知っている人たちはみな、彼が預言者たちと一緒に預言しているのを見た。民は互いに言った。「キシユの息子は、いったいどうしたのか。サウルも預言者の一人なのか。」
- 12 そこにいた一人も、これに応じて、「彼らの父はだれだろう」と言った。こういうわけで、「サウルも預言者の一人なのか」ということが、語りぐさになった。
- 13 サウルは預言を終えて、高き所に帰って来た。
- 14 サウルのおじは、彼とそのしもべに言った。「どこに行っていたのか。」サウルは言った。「雌ろばを捜しにです。どこにもいないと分かったので、サムエルのところに行ってきた。」
- 15 サウルのおじは言った。「サムエルはあなたがたに何と言ったか、私に話してくれ。」

- 16 サウルはおじに言った。「雌ろばは見つかっていると、はっきり私たちに知らせてくれました。」しかし、サムエルが語った王位のことについては、おじに話さなかった。
- 17 サムエルはミツパで、民を主のもとに呼び集め、
- 18 イスラエル人に言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。『イスラエルをエジプトから連れ上り、あなたがたを、エジプトの手と、あなたがたを圧迫していたすべての王国の手から救い出したのは、このわたしだ。』
- 19 しかし、あなたがたは今日、すべてのわざわいと苦しみからあなたがたを救ってくださる、あなたがたの神を退けて、『いや、私たちの上に王を立ててください』と言った。今、部族ごと、分団ごとに、主の前に出なさい。」
- 20 サムエルは、イスラエルの全部族を近づかせた。すると、ベニヤミンの部族がくじで取り分けられた。
- 21 そして、ベニヤミンの部族を、その氏族ごとに近づかせた。すると、マテリの氏族がくじで取り分けられた。そして、キシユの息子サウルがくじで取り分けられた。人々はサウルを捜したが、見つからなかった。
- 22 人々はさらに、主に「あの人はまだ、ここに来ているのですか」と尋ねた。主は「見よ、彼は荷物の間に隠れている」と言われた。
- 23 彼らは走って行って、そこから彼を連れて来た。サウルが民の中に立つと、民のだれよりも、肩から上だけ高かった。
- 24 サムエルは民全体に言った。「主がお選びになったこの人を見なさい。民全体のうちに、彼のような者はいない。」民はみな、大声で叫んで、「王様万歳」と言った。
- 25 サムエルは民に王権の定めについて語り、それを文書に記して主の前に納めた。それから、サムエルは民をみな、それぞれ自分の家へ帰した。
- 26 サウルもギブアの自分の家へ帰って行った。神に心を動かされた勇者たちは、彼について行った。
- 27 しかし、よこしまな者たちは、「こいつがどうしてわれわれを救えるのか」と言って軽蔑し、彼に贈り物を持って来なかった。しかし彼は黙っていた。

第11章

- 1 さて、アンモン人ナハシュが上って来て、ヤベシュ・ギルアデに対して陣を敷いた。ヤベシュの人々はみな、ナハシュに言った。「私たちと契約を結んでください。そうすれば、あなたに仕えます。」
- 2 アンモン人ナハシュは彼らに言った。「次の条件でおまえたちと契約を結ぼう。おまえたち皆の者の右の目をえぐり取ることだ。それをもってイスラエル全体に恥辱を負わせよう。」
- 3 ヤベシュの長老たちは彼に言った。「イスラエルの国中に使者を遣わすため、七日の猶予を与えてください。もし、私たちを救う者がいなければ、あなたのところに出て行きます。」
- 4 使者たちはサウルのギブアに来て、これらのことばを民の耳に語った。民はみな、声をあげて泣いた。
- 5 ちょうどそのとき、サウルが牛を追って畑から帰って来た。サウルは言った。「民が泣いているが、いったい何が起こったのか。」彼らは、ヤベシュの人々のことばを彼に告げた。
- 6 サウルがこれらのことばを聞いたとき、神の霊がサウルの上に激しく下った。彼の怒りは激しく燃え上がった。
- 7 彼は一くびきの牛を取り、それを切り分け、使者に託してイスラエルの国中に送り、「サウルとサムエルに従って出て来ない者の牛は、このようにされる」と言った。主の恐れが民に下って、彼らは一斉に出て来た。
- 8 サウルはベゼクで彼らを数えた。すると、イスラエルの人々は三十万人、ユダの人々は三万人であった。
- 9 彼らは、やって来た使者たちに言った。「ヤベシュ・ギルアデの人にこう言いなさい。明日、日が高くなるころ、あなたがたに救いがある。」使者たちは帰って行って、ヤベシュの人々に告げたので、彼らは喜んだ。
- 10 ヤベシュの人々は言った。「私たちは、明日、あなたがたのところに出て行きます。あなたがたの良いと思うように私たちにしてください。」
- 11 翌日、サウルは兵を三組に分け、夜明けの見張りの時に陣営に突入し、昼までアンモン人を討った。生き残った者は散り散りになり、二人の者がともにいることはなかった。
- 12 民はサムエルに言った。「『サウルがわれわれを治めるのか』と言ったのはだれでしたか。その者たちを引き渡してください。彼らを殺します。」
- 13 サウルは言った。「今日はだれも殺されてはならない。今日、主がイスラエルにおいて勝利をもたらしてくださったのだから。」
- 14 サムエルは民に言った。「さあ、われわれはギルガルに行って、そこで王政を樹立しよう。」
- 15 民はみなギルガルに行き、ギルガルで、主の前にサウルを王とした。彼らはそこで、主の前に交わりのいけにえを献げた。サウルとイスラエルのすべての者は、そこで大いに喜ん

だ。

第12章

- 1 サムエルは全イスラエルに言った。「見よ、あなたがたが私に言ったことを、私はことごとく聞き入れ、あなたがたの上に王を立てた。」
- 2 今、見なさい。王はあなたがたの先に立って歩んでいる。私は年をとり、髪も白くなった。そして、私の息子たちは、あなたがたとともにいる。私は若いときから今日まで、あなたがたの先に立って歩んできた。
- 3 さあ今、主と主に油注がれた者の前で、私を訴えなさい。私はだれかの牛を取っただろうか。だれかのろばを取っただろうか。だれかを虐げ、だれかを打ちたたいただろうか。だれかの手から賄賂を受け取って自分の目をくらましただろうか。もしそうなら、あなたがたにお返しする。」
- 4 彼らは言った。「あなたは私たちを虐げたことも、踏みにじったことも、人の手から何かを取ったこともありません。」
- 5 サムエルは彼らに言った。「あなたがたが私の手に何も見出さなかったことについては、今日、あなたがたの間で主が証人であり、主に油注がれた者が証人である。」そこで、ある人が「証人は」と言うと、
- 6 サムエルは「主である。モーセとアロンを立てて、あなたがたの先祖をエジプトの地から上らせた方である」と民に告げた。
- 7 「さあ、立ちなさい。私は、主があなたがたと、あなたがたの先祖に行われたすべての正義のみわざを、主の前であなたがたに説き明かそう。
- 8 ヤコブがエジプトに行ったとき、あなたがたの先祖は主に叫んだ。主はモーセとアロンを遣わし、彼らはあなたがたの先祖をエジプトから導き出し、この場所に住ませた。
- 9 しかし、先祖たちは自分たちの神、主を忘れたので、主は彼らをハツォルの軍の長シセラの手、ペリシテ人の手、モアブの王の手に売り渡された。それで先祖たちは彼らと戦うことになったのだ。
- 10 先祖たちは主に叫んで、『私たちは主を捨て、バアルやアシュタロテの神々に仕えて罪を犯しました。今、私たちがあなたに仕えるため、敵の手から救い出してください』と言った。
- 11 すると主は、エルバアルとバラクとエフタとサムエルを遣わし、あなたがたを周囲の敵の手から救い出してくださった。それで、あなたがたは安らかに住んだのだ。
- 12 しかし、アンモン人の王ナハシュがあなたがたに向かって来るのを見たとき、あなたがたの神、主があなたがたの王であるのに、『いや、王が私たちを治めるのだ』と私に言った。
- 13 今、見なさい。あなたがたが求め、選んだ王だ。見なさい。主はあなたがたの上に王を置かれた。
- 14 もし、あなたがたが主を恐れ、主に仕え、主の御声に聞き従い、主の命令に逆らわず、また、あなたがたも、あなたがたを治める王も、自分たちの神、主の後に従うなら、それでよい。

- 15** しかし、もし、あなたがたが主の御声に聞き従わず、主の命令に逆らうなら、主の手が、あなたがたとあなたがたの先祖の上に下る。
- 16** 今、しっかり立って、主があなたがたの目の前で行われる、この大きなみわざを見なさい。
- 17** 今は小麦の刈り入れ時ではないか。主が雷と雨を下されるようにと、私は主を呼び求める。あなたがたは王を求めることで、主の目の前に犯した悪が大きかったことを認めて、心に留めなさい。」
- 18** そしてサムエルは主を呼び求めた。すると、主はその日、雷と雨を下された。民はみな、主とサムエルを非常に恐れた。
- 19** 民はみなサムエルに言った。「私たちが死なないように、しもべどものために、あなたの神、主に祈ってください。私たちは、王を求めることによって、私たちのあらゆる罪の上に悪を加えてしまったからです。」
- 20** サムエルは民に言った。「恐れてはならない。あなたがたは、このすべての悪を行った。しかし主に従う道から外れず、心を尽くして主に仕えなさい。
- 21** 役にも立たず、救い出すこともできない、空しいものを追う道へ外れてはならない。それらは、空しいものだ。
- 22** 主は、ご自分の大いなる御名のために、ご自分の民を捨て去りはしない。主は、あなたがたをご自分の民とすることを良しとされたからだ。
- 23** 私もまた、あなたがたのために祈るのをやめ、主の前に罪ある者となることなど、とてもできない。私はあなたがたに、良い正しい道を教えよう。
- 24** ただ主を恐れ、心を尽くして、誠実に主に仕えなさい。主がどれほど大いなることをあなたがたになさったかを、よく見なさい。
- 25** あなたがたが悪を重ねるなら、あなたがたも、あなたがたの王も滅ぼし尽くされる。」

第13章

- 1 サウルは、ある年齢で王となり、二年間だけイスラエルを治めた。
- 2 サウルは、自分のためにイスラエルから三千人を選んだ。二千人はサウルとともにミクマスとベテルの山地にいて、千人はヨナタンとともにベニヤミンのギブアにいた。残りの兵は、それぞれ自分の天幕に帰した。
- 3 ヨナタンは、ゲバにいたペリシテ人の守備隊長を打ち殺した。サウルのほうは国中に角笛を吹き鳴らした。ペリシテ人たちは、だれかが「ヘブル人に思い知らせてやろう」と言うのを聞いた。
- 4 全イスラエルは、「サウルがペリシテ人の守備隊長を打ち殺し、しかも、イスラエルがペリシテ人の恨みを買った」ということを聞いた。兵はギルガルでサウルのもとに呼び集められた。
- 5 ペリシテ人はイスラエル人と戦うために集まった。戦車三万、騎兵六千、それに海辺の砂のように数多くの兵たちであった。彼らは上って来て、ベテ・アベンの東、ミクマスに陣を敷いた。
- 6 イスラエルの人々は、自分たちが危険なのを見てとった。兵たちがひどく追いつめられていたからである。兵たちは洞穴や、奥まったところ、岩間、地下室、水溜めの中に隠れた。
- 7 あるヘブル人たちはヨルダン川を渡って、ガドの地、すなわちギルアデに行った。しかしサウルはなおギルガルにとどまり、兵たちはみな震えながら彼に従っていた。
- 8 サウルは、サムエルがいることになっている例祭まで、七日間待ったが、サムエルはギルガルに来なかった。それで、兵たちはサウルから離れて散って行こうとした。
- 9 サウルは、「全焼のささげ物と交わりのいけにえを私のところに持って来なさい」と言った。そして全焼のささげ物を献げた。
- 10 彼が全焼のささげ物を献げ終えたとき、なんと、サムエルが来た。サウルは迎えに出て、彼にあいさつした。
- 11 サムエルは言った。「あなたは、何ということをしたのか。」サウルは答えた。「兵たちが私から離れて散って行こうとしていて、また、ペリシテ人がミクマスに集まっていたのに、あなたが毎年の例祭に来ていないのを見たからです。」
- 12 今、ペリシテ人がギルガルにいる私に向かって下って来ようとしているのに、まだ私は主に嘆願していないと考え、あえて、全焼のささげ物を献げたのです。」
- 13 サムエルはサウルに言った。「愚かなことをしたものだ。あなたは、あなたの神、主が命じた命令を守らなかった。主は今、イスラエルにあなたの王国を永遠に確立されたであろうに。」
- 14 しかし、今や、あなたの王国は立たない。主はご自分の心にかなう人を求め、主はその人をご自分の民の君主に任命しておられる。主があなたに命じられたことを、あなたが守らなかったからだ。」

- 15** サムエルは立って、ギルガルからベニヤミンのギブアへ上って行った。サウルが彼とともにいた兵を数えると、おおよそ六百人であった。
- 16** サウルと、息子ヨナタン、および彼らとともにいた兵は、ベニヤミンのゲバにとどまっていた。一方、ペリシテ人はミクマスに陣を敷いていた。
- 17** ペリシテ人の陣営から、三つの組に分かれて略奪隊が出て来た。一つの組はオフラの道を進んでシュアルの地に向かい、
- 18** 一つの組はベテ・ホロンの道を進み、一つの組は荒野の方、ツェボイムの谷を見下ろす国境の道を進んだ。
- 19** さて、イスラエルの地には、どこにも鍛冶屋を見つけることができなかった。ヘブル人が剣や槍を作るといけない、とペリシテ人が言っていたからであった。
- 20** イスラエルはみな、鋤や、鍬、斧、鎌を研ぐためにペリシテ人のところへ下って行っていた。
- 21** 鎌や、鍬、三又の矛、斧、突き棒を直すのに、料金は一ピムであった。
- 22** 戦いの日に、サウルやヨナタンと一緒にいた兵のうちだれの手にも、剣や槍はなかった。ただサウルと息子ヨナタンだけが持っていた。
- 23** ペリシテ人の先陣はミクマスの渡りに出た。

第14章

- 1 そのようなある日、サウルの息子ヨナタンは、道具持ちの若者に言った。「さあ、この向こう側のペリシテ人の先陣の方へ行こう。」しかし、ヨナタンは父にそのことを知らせなかった。
- 2 サウルはギブアの外れで、ミグロンにある、ざくろの木の下に座っていた。彼とともにいた兵は約六百人であった。
- 3 アヒヤは、エポデを身に着けていた。アヒヤはアヒトブの子で、アヒトブはイ・カボデの兄弟、イ・カボデはピネハスの子、ピネハスは、シロで主の祭司であったエリの子である。兵たちは、ヨナタンが出て行ったことを知らなかった。
- 4 ヨナタンがペリシテ人の先陣の側に越えて行こうとしていた山峡には、手前側にも、向こう側にも、切り立った岩があって、一方の側の名はボツェツ、もう一方の側の名はセンネといった。
- 5 一方の岩は北側、ミクマスの側にあり、もう一方の岩は南側、ゲバの側にそそり立っていた。
- 6 ヨナタンは道具持ちの若者に言った。「さあ、この無割礼の者どもの先陣のところへ渡って行こう。おそらく、主がわれわれに味方してくださるだろう。多くの人によっても、少しの人によっても、主がお救いになるのを妨げるものは何もない。」
- 7 道具持ちは言った。「何でも、お心のままになさってください。さあ、お進みください。私も一緒に参ります。お心のままに。」
- 8 ヨナタンは言った。「さあ、あの者どものところに渡って行って、われわれの姿を現すのだ。
- 9 もし彼らが『おれたちがおまえらのところに行くまで、じっとしている』と言ったら、その場に立ちとどまり、彼らのところに上って行かないでいよう。
- 10 しかし、もし彼らが『おれたちのところに上って来い』と言ったら、上って行こう。主が彼らを、われわれの手に渡されたのだから。これが、われわれへのしるしだ。」
- 11 二人はペリシテ人の先陣に身を現した。するとペリシテ人が言った。「おい、ヘブル人が、隠れていた穴から出て来るぞ。」
- 12 先陣の者たちは、ヨナタンと道具持ちに呼びかけて言った。「おれたちのところに上って来い。思い知らせてやる。」ヨナタンは道具持ちに言った。「私について上って来なさい。主がイスラエルの手に彼らを渡されたのだ。」
- 13 ヨナタンは手足を使ってよじ登り、道具持ちも後に続いた。ペリシテ人はヨナタンの前に倒れ、道具持ちがうしろで彼らを打ち殺した。
- 14 ヨナタンと道具持ちが最初に討ち取ったのは約二十人で、一ツエメドのおおよそ半分の広さの場所で行われた。
- 15 そして陣営にも野にも、すべての兵のうちに恐れが起こった。先陣の者、略奪隊さえ恐れおののいた。地は震え、非常な恐れとなった。

- 16 ベニヤミンのギブアでサウルのために見張りをしていた者たちが見ると、大軍は震えおののいて右往左往していた。
- 17 サウルは彼とともにいる兵に言った。「だれがわれわれのところから出て行ったかを、点呼して調べなさい。」彼らが点呼すると、ヨナタンと道具持ちがいなかった。
- 18 サウルはアヒヤに言った。「神の箱を持って来なさい。」神の箱は、そのころ、イスラエル人の間にあったからである。
- 19 サウルが祭司とまだ話している間に、ペリシテ人の陣営の騒動は、ますます大きくなっていった。サウルは祭司に「手を戻しなさい」と言った。
- 20 サウルと、彼とともにいた兵がみな集まって戦場に行くと、そこでは剣をもって同士討ちをしていて、非常に大きな混乱が起こっていた。
- 21 それまでペリシテ人について、彼らと一緒に陣営に上って来ていたヘブル人も転じて、サウルとヨナタンとともにいるイスラエル人の側につくようになった。
- 22 また、エフライムの山地に隠れていたすべてのイスラエル人も、ペリシテ人が逃げたと聞いて、戦いに加わってペリシテ人に追い迫った。
- 23 その日、主はイスラエルを救われた。そして、戦いはベテ・アベンに移った。
- 24 さて、その日、イスラエル人はひどく苦しんでいた。サウルは、「夕方、私が敵に復讐するまで、食物を食べる者はのろわれよ」と言って、兵たちに誓わせていた。それで兵たちはだれも食物を口にしていなかったのであった。
- 25 この地はどこでも、森に入っていくと、地面に蜜があった。
- 26 兵たちが森に入ると、なんと、蜜が滴っていたが、だれも手に付けて口に入れる者はいなかった。兵たちは誓いを恐れていたのである。
- 27 しかし、ヨナタンは、父が兵たちに誓わせたことを聞いていなかった。彼は手にあった杖の先を伸ばして、蜜蜂の巣に浸し、それを手に付けて口に入れた。すると彼の目が輝いた。
- 28 兵の一人がそれを見て言った。「あなたの父上は、兵たちに堅く誓わせて、『今日、食物を食べる者はのろわれる』とおっしゃいました。それで兵たちは疲れているのです。」
- 29 ヨナタンは言った。「父はこの国を悩ませている。ほら、この蜜を少し口にしたので、私の目は輝いている。
- 30 もしも今日、兵たちが、自分たちが見つけた敵からの分捕り物を十分食べていたなら、今ごろは、もっと多くのペリシテ人を討ち取っていただろうに。」
- 31 その日彼らは、ミクマスからアヤロンに至るまでペリシテ人を討った。それで兵たちはたいへん疲れていた。
- 32 兵たちは分捕り物に飛びかかり、羊、牛、若い牛を取り、その場で屠った。兵たちは血が付いたままで、それを食べた。
- 33 すると、「ご覧ください。兵たちが血のままで食べて、主に罪を犯しています」と、サウルに告げる者がいた。サウルは言った。「おまえたちは裏切った。今、大きな石を転がして来なさい。」
- 34 そしてサウルは言った。「兵の中に散って行って、彼らに言いなさい。『それぞれ自分の牛か羊を私のところに連れて来て、ここで屠って食べなさい。血のままで食べて主に罪を

犯してはならない。』」兵はみな、その夜、それぞれ自分の手で牛を連れて来て、そこで屠った。

- 35 サウルは主のために祭壇を築いた。これは、彼が主のために築いた最初の祭壇であった。
- 36 サウルは言った。「夜、ペリシテ人を追って下り、明け方までに彼らからかすめ奪い、一人も残しておかないようにしよう。」すると兵は言った。「あなたが良いと思うようにしてください。」しかし祭司は言った。「ここで、われわれは神の前に出ましょう。」
- 37 サウルは神に伺った。「私はペリシテ人を追って下って行くべきでしょうか。彼らをイスラエルの手に渡してくださるのでしょうか。」しかしその日、神は彼にお答えにならなかった。
- 38 サウルは言った。「民のかしらたちはみな、ここに近寄りなさい。今日、どうしてこの罪が起こったのかを確かめてみなさい。」
- 39 まことに、イスラエルを救う主は生きておられる。たとえ、それが私の息子ヨナタンであっても、必ず死ななければならない。」しかし、民のうちだれも彼に答える者はいなかった。
- 40 サウルはすべてのイスラエル人たちに言った。「おまえたちは、こちら側にいなさい。私と息子ヨナタンは、あちら側にいることにしよう。」民はサウルに言った。「あなたが良いと思うようにしてください。」
- 41 サウルはイスラエルの神、主に「みこころをお示してください」と言った。すると、ヨナタンとサウルが取り分けられ、民は外れた。
- 42 サウルは言った。「私か、私の息子ヨナタンかを決めてください。」するとヨナタンが取り分けられた。
- 43 サウルはヨナタンに言った。「何をしたのか、私に話しなさい。」ヨナタンは彼に話した。「確かに、手にあった杖の先で、少しばかりの蜜を口にしました。この私が死ななければなりません。」
- 44 サウルは言った。「神が幾重にも罰してくださるように。ヨナタン、おまえは必ず死ななければならない。」
- 45 民はサウルに言った。「この大勝利をイスラエルにもたらしたヨナタンが死ななければならないのですか。絶対にそんなことはあり得ません。主は生きておられます。あの方の髪の毛一本でも地に落ちてはなりません。今日、あの方は神とともにこれをなされたのです。」こうして民がヨナタンを救ったので、彼は死ななかった。
- 46 サウルはペリシテ人を追うのをやめて引き揚げ、ペリシテ人は自分たちのところへ帰って行った。
- 47 さてサウルは、イスラエルの王権を握ってから、周囲のすべての敵と戦った。モアブ、アンモン人、エドム、ツォバの王たち、ペリシテ人と戦い、どこに行っても彼らを敗走させた。
- 48 彼は勇気を奮って、アマレク人を討ち、イスラエル人を略奪者の手から救い出した。
- 49 さて、サウルの息子は、ヨナタン、イシュウィ、マルキ・シュア、二人の娘の名は、姉がメラブ、妹がミカルであった。

- 50 サウルの妻の名はアヒノアムで、アヒマアツの娘であった。軍の長の名はアブネルで、ネルの子でサウルのおじであった。
- 51 キシュはサウルの父であり、アブネルの父ネルは、アビエルの子であった。
- 52 サウルの一生の間、ペリシテ人との激しい戦いがあった。サウルは勇気のある者や、力のある者を見つけると、その人たちをみな、召しかかえることにしていた。

第15章

- 1 サムエルはサウルに言った。「主は私を遣わして、あなたに油を注ぎ、主の民イスラエルの王とされた。今、主の言われることを聞きなさい。
- 2 万軍の主はこう言われる。『わたしは、イスラエルがエジプトから上って来る途中で、アマレクがイスラエルに対して行ったことを覚えている。
- 3 今、行ってアマレクを討ち、そのすべてのものを聖絶しなさい。容赦してはならない。男も女も、幼子も乳飲み子も、牛も羊も、らくだもろばも殺しなさい。』」
- 4 サウルは兵を呼び集めた。テライムで彼らを数えると、歩兵が二十万、ユダの兵が一万であった。
- 5 サウルはアマレクの町へ行って、谷で待ち伏せした。
- 6 サウルはケ二人たちに言った。「さあ、アマレク人のもとを離れて下って行きなさい。私があなたがたを彼らと一緒にするといけないから。あなたがたは、イスラエル人がみなエジプトから上って来たとき、親切にしてくれたのです。」ケ二人はアマレク人の中から離れた。
- 7 サウルは、ハビラからエジプトの国境にあるシュルに至るまで、アマレク人を討ち、
- 8 アマレク人の王アガグを生け捕りにし、その民のすべてを剣の刃で聖絶した。
- 9 サウルとその兵たちは、アガグと、肥えた羊や牛の最も良いもの、子羊とすべての最も良いものを惜しんで、これらを聖絶しようとしなかった。ただ、つまらない値打ちのないものだけを聖絶したのである。
- 10 主のことばがサムエルに臨んだ。
- 11 「わたしはサウルを王に任じたことを悔やむ。彼はわたしに背を向け、わたしのことばを守らなかったからだ。」それでサムエルは怒り、夜通し主に向かって叫んだ。
- 12 翌朝、サムエルはサウルに会いに行こうとして早く起きた。すると、サムエルに、「サウルはカルメルに来て、もう自分のために記念碑を立てました。そして向きを変えて進んで行き、ギルガルに下りました」という知らせがあった。
- 13 サムエルはサウルのところに来た。サウルは彼に言った。「あなたが主に祝福されますように。私は主のことばを守りました。」
- 14 サムエルは言った。「では、私の耳に入るこの羊の声、私に聞こえる牛の声は、いったい何ですか。」
- 15 サウルは答えた。「アマレク人のところから連れて来ました。兵たちは、あなたの神、主に、いけにえを献げるために、羊と牛の最も良いものを惜しんだのです。しかし、残りの物は聖絶しました。」
- 16 サムエルはサウルに言った。「やめなさい。昨夜、主が私に言われたことをあなたに知らせます。」サウルは彼に言った。「お話しください。」
- 17 サムエルは言った。「あなたは、自分の目には小さい者であっても、イスラエルの諸部族のかしらではありませんか。主があなたに油を注ぎ、イスラエルの王とされたのです。」

- 18 主はあなたに使命を与えて言われました。『行って、罪人アマレク人を聖絶せよ。彼らを絶滅させるまで戦え。』
- 19 なぜ、あなたは主の御声に聞き従わず、分捕り物に飛びかかり、主の目に悪であることを行ったのですか。」
- 20 サウルはサムエルに答えた。「私は、主の御声に聞き従い、主が私に授けられた使命の道を進みました。私はアマレク人の王アガグを連れて来て、アマレク人たちは聖絶しました。
- 21 兵たちは、ギルガルであなたの神、主にいけにえを献げるために、聖絶の物の中の最上のものとして、分捕り物の中から羊と牛を取ったのです。」
- 22 サムエルは言った。「主は、全焼のささげ物やいけにえを、主の御声に聞き従うことほどに喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。
- 23 従わないことは占いの罪、高慢は偶像礼拝の悪。あなたが主のことばを退けたので、主もあなたを王位から退けた。」
- 24 サウルはサムエルに言った。「私は罪を犯しました。兵たちを恐れて、彼らの声に聞き従い、主の命令と、あなたのことばに背いたからです。
- 25 どうか今、私の罪を見逃してください。そして、私が主を礼拝することができるように、一緒に帰ってください。」
- 26 サムエルはサウルに言った。「私はあなたと一緒に帰りません。あなたは主のことばを退け、主があなたをイスラエルの王位から退けられたからです。」
- 27 サムエルが引き返して行こうとしたとき、サウルが彼の上着の裾をつかんだので、上着は裂けた。
- 28 サムエルは彼に言った。「主は、今日、あなたからイスラエル王国を引き裂いて、これをあなたよりすぐれた隣人に与えられました。
- 29 実に、イスラエルの栄光である方は、偽ることもなく、悔やむこともない。この方は人間ではないので、悔やむことがない。」
- 30 サウルは言った。「私は罪を犯しました。しかし、どうか今は、私の民の長老とイスラエルとの前で私を立ててください。どうか一緒に帰ってください。私はあなたの神、主を礼拝します。」
- 31 サムエルはサウルについて帰り、サウルは主を礼拝した。
- 32 サムエルは言った。「アマレクの王アガグを、私のところに連れて来なさい。」アガグは、喜び勇んで彼のもとに来た。アガグは「きっと、死の苦しみが去るだろう」と思ったのであった。
- 33 サムエルは言った。「おまえの剣が、女たちから子を奪ったように、おまえの母も、女たちのうちで子を奪われた者となる。」こうしてサムエルは、ギルガルにおいて主の前で、アガグをずたずたに切った。
- 34 サムエルはラマへ行き、サウルはサウルのギブアにある自分の家へ上って行った。
- 35 サムエルは死ぬ日まで、再びサウルを見ることはなかった。しかしサムエルはサウルのことで悲しんだ。主も、サウルをイスラエルの王としたことを悔やまれた。

第16章

- 1 主はサムエルに言われた。「いつまであなたはサウルのことで悲しんでいるのか。わたしは彼をイスラエルの王位から退けている。角に油を満たせ。さあ、わたしはあなたをベツレヘム人エッサイのところに遣わす。彼の息子たちの中に、わたしのために王を見出したから。」
- 2 サムエルは言った。「どうして私が行けるでしょうか。サウルが聞いたら、私を殺すでしょう。」主は言われた。「一頭の雌の子牛を手にし、『主にいけにえを献げるために来ました』と言い、
- 3 エッサイを祝宴に招け。わたしが、あなたのなすべきことを教えよう。あなたはわたしのために、わたしが言う人に油を注げ。」
- 4 サムエルは主がお告げになったとおりにして、ベツレヘムにやって来た。町の長老たちは身震いしながら彼を迎えて言った。「平和なことでおいでになったのですか。」
- 5 サムエルは言った。「平和なことです。主にいけにえを献げるために来ました。身を聖別して、一緒に祝宴に来てください。」そして、サムエルはエッサイと彼の息子たちを聖別し、彼らを祝宴に招いた。
- 6 彼らが来たとき、サムエルはエリアブを見て、「きっと、主の前にいるこの者が、主に油を注がれる者だ」と思った。
- 7 主はサムエルに言われた。「彼の容貌や背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けている。人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。」
- 8 エッサイはアビナダブを呼んで、サムエルの前に進ませた。サムエルは「この者も主は選んでおられない」と言った。
- 9 エッサイはシャンマを進ませたが、サムエルは「この者も主は選んでおられない」と言った。
- 10 エッサイは七人の息子をサムエルの前に進ませたが、サムエルはエッサイに言った。「主はこの者たちを選んでおられない。」
- 11 サムエルはエッサイに言った。「子どもたちはこれで全部ですか。」エッサイは言った。「まだ末の子が残っています。今、羊の番をしています。」サムエルはエッサイに言った。「人を遣わして、連れて来なさい。その子が来るまで、私たちはここを離れないから。」
- 12 エッサイは人を遣わして、彼を連れて来させた。彼は血色が良く、目が美しく、姿も立派だった。主は言われた。「さあ、彼に油を注げ。この者がその人だ。」
- 13 サムエルは油の角を取り、兄弟たちの真ん中で彼に油を注いだ。主の霊がその日以来、ダビデの上に激しく下った。サムエルは立ち上がってラマへ帰って行った。
- 14 さて、主の霊はサウルを離れ去り、主からの、わざわざの霊が彼をおびえさせた。
- 15 サウルの家来たちは彼に言った。「ご覧ください。わざわざをもたらず、神の霊が王をおびえさせています。」

- 16** わが君。どうか御前におりますこの家来どもに命じて、上手に豎琴を弾く者を探させてください。わざわざをもたらす、神の霊が王に臨むとき、その者が豎琴を手にして弾くと、王は良くなれるでしょう。」
- 17** サウルは家来たちに言った。「私のために上手な弾き手を見つけて、私のところに連れて来なさい。」
- 18** 家来の一人が答えた。「ご覧ください。ベツレヘム人エッサイの息子を見たことがあります。弦を上手に奏でることができ、勇士であり、戦士の出です。物事の判断ができ、体格も良い人です。主が彼とともにおられます。」
- 19** サウルは使いをエッサイのところに送って、「羊とともにいるあなたの息子ダビデを、私のところによこしなさい」と言った。
- 20** エッサイは、ろば一頭分のパンと、ぶどう酒の皮袋一つ、子やぎ一匹を取り、息子ダビデの手に託してサウルに送った。
- 21** ダビデはサウルのもとに来て、彼に仕えた。サウルは彼がたいへん気に入り、ダビデはサウルの道具持ちとなった。
- 22** サウルはエッサイのところに人を遣わして、「ダビデを私に仕えさせなさい。気に入ったから」と言った。
- 23** 神の霊がサウルに臨むたびに、ダビデは豎琴を手にとって弾いた。するとサウルは元気を回復して、良くなり、わざわざの霊は彼を離れ去った。

第17章

- 1 ペリシテ人は戦いのために軍隊を召集した。ユダのソコに集まり、ソコとアゼカの間にあるエフェス・ダミムに陣を敷いた。
- 2 一方、サウルとイスラエル人は集まってエラの谷に陣を敷き、ペリシテ人に対する戦いの備えをした。
- 3 ペリシテ人は向かい側の山の上に構え、イスラエル人は手前側の山の上に構えた。その間には谷があった。
- 4 一人の代表戦士が、ペリシテ人の陣営から出て来た。その名はゴリヤテ。ガテの生まれで、その背の高さは六キュビト半。
- 5 頭には青銅のかぶとをかぶり、鱗綴じのよろいを着けていた。胸当ての重さは青銅で五千シェケル。
- 6 足には青銅のすね当てを着け、背には青銅の投げ槍を負っていた。
- 7 槍の柄は機織りの巻き棒のようであり、槍の穂先は鉄で、六百シェケルあった。盾持ちが彼の前を歩いていた。
- 8 ゴリヤテは突っ立って、イスラエル人の陣列に向かって叫んだ。「何のために、おまえらは出て来て、戦いの備えをするのか。おれはペリシテ人、おまえらはサウルの奴隷どもではないか。一人を選んで、おれのところによこせ。
- 9 おれと戦っておれを殺せるなら、おれたちはおまえらの奴隷になる。だが、おれが勝ってそいつを殺したら、おまえらがおれたちの奴隷になって、おれたちに仕えるのだ。」
- 10 そのペリシテ人は言った。「今日、この日、おれがイスラエルの陣を愚弄してやる。一人をよこせ。ひとつ勝負をしようではないか。」
- 11 サウルと全イスラエルは、ペリシテ人のことばを聞き、気をくじかれて非常に恐れた。
- 12 さて、ダビデは、ユダのベツレヘム出身の、エッサイという名のエフラテ人の息子であった。エッサイには八人の息子がいた。この人はサウルの時代には、年をとって老人になっていた。
- 13 エッサイの上の三人の息子たちは、サウルに従って戦いに出ていた。戦いに行っていた三人の息子の名は、長男エリアブ、次男アビナダブ、三男シャンマであった。
- 14 ダビデは末っ子で、上の三人がサウルに従って出ていたのである。
- 15 ダビデは、サウルのところへ行ったり、帰ったりしていた。ベツレヘムの父の羊を世話するためであった。
- 16 例のペリシテ人は、四十日間、朝早くと夕暮れに出て来て立ち構えた。
- 17 エッサイは息子ダビデに言った。「さあ、兄さんたちのために、この炒り麦一エパと、このパン十個を取り、兄さんたちの陣営に急いで持って行きなさい。
- 18 この十個のチーズは千人隊の長に届け、兄さんたちの安否を確認しなさい。そして、しるしを持って来なさい。
- 19 サウルと兄さんたち、それにイスラエルの人々はみな、エラの谷でペリシテ人と戦っているから。」

- 20 ダビデは翌朝早く、羊を番人に預け、エッサイが命じたとおりに、言われた物を持って出かけた。彼が野営地に来ると、軍勢はときをあげて陣地に向かうところであった。
- 21 イスラエル人とペリシテ人は、向かい合って陣を敷いていた。
- 22 ダビデは、父からことづかった物を武器を守る者に預け、陣地に走って来て、兄たちに安否を尋ねた。
- 23 ダビデが彼らと話していると、なんと、そのとき、あの代表戦士が、ペリシテ人の陣地から上って来た。ガテ出身のゴリヤテという名のペリシテ人であった。彼は前と同じことを語った。ダビデはこれを聞いた。
- 24 イスラエル人はみな、この男を見たとき、彼の前から逃げ、非常に恐れた。
- 25 イスラエルの人々は言った。「この上って来た男を見たか。イスラエルをそしるために上って来たのだ。あれを討ち取る者がいれば、王はその人を大いに富ませ、その人に自分の娘を与え、その父の家にイスラエルでは何も義務を負わせないそうだ。」
- 26 ダビデは、そばに立っている人たちに言った。「このペリシテ人を討ち取って、イスラエルの恥辱を取り除く者には、どうされるのですか。この無割礼のペリシテ人は何なのですか。生ける神の陣をそしるとは。」
- 27 兵たちは、先のことばのように、彼を討ち取った者には、これこれをされる、と言った。
- 28 兄のエリアブは、ダビデが人々と話しているのを聞いた。エリアブはダビデに怒りを燃やして言った。「いったい、おまえは、なぜやって来たのか。荒野にいるあのわずかな羊を、だれに預けて来たのか。私には、おまえのうぬぼれと心にある悪が分かっている。戦いを見にやって来たのではないのか。」
- 29 ダビデは言った。「私が今、何をしたというのですか。一言、話ただけではありませんか。」
- 30 ダビデは兄から別の人の方に向き直り、同じことを尋ねた。すると、兵たちは先ほどと同じ返事をした。
- 31 ダビデが言ったことは人々の耳に入り、サウルに告げられた。それで、サウルはダビデを呼び寄せた。
- 32 ダビデはサウルに言った。「あの男のために、だれも気を落としてはなりません。このしもべが行って、あのペリシテ人と戦います。」
- 33 サウルはダビデに言った。「おまえは、あのペリシテ人のところへ行行って、あれと戦うことはできない。おまえはまだ若いし、あれは若いときから戦士だったのだから。」
- 34 ダビデはサウルに言った。「しもべは、父のために羊の群れを飼ってきました。獅子や熊が来て、群れの羊を取って行くと、
- 35 しもべはその後を追って出て、それを打ち殺し、その口から羊を救い出します。それがしもべに襲いかかるようなときは、そのひげをつかみ、それを打って殺してしまいます。
- 36 しもべは、獅子でも熊でも打ち殺しました。この無割礼のペリシテ人も、これらの獣の一匹のようになるでしょう。生ける神の陣をそしったのですから。」
- 37 そして、ダビデは言った。「獅子や熊の爪からしもべを救い出してくださった主は、このペリシテ人の手からも私を救い出してくださいます。」サウルはダビデに言った。「行きなさい。主がおまえとともにいてくださるように。」

- 38 サウルはダビデに自分のよろいかぶとを着けさせた。頭に青銅のかぶとをかぶらせて、それから身によろいを着けさせたのである。
- 39 ダビデは、そのよろいの上にサウルの剣を帯びた。慣れていなかったのもので、ためしに歩いてみた。ダビデはサウルに言った。「これらのものを着けては、歩くこともできません。慣れていませんから。」ダビデはそれを脱いだ。
- 40 そして自分の杖を手に取り、川から五つの滑らかな石を選んで、それを羊飼いの使う袋、投石袋に入れ、石投げを手にし、そのペリシテ人に近づいて行った。
- 41 そのペリシテ人は盾持ちを前に立て、ダビデの方にじりじりと進んで来た。
- 42 ペリシテ人は、ダビデに目を留めて彼を見つめ、彼を蔑んだ。ダビデが血色の良い、姿の美しい少年だったからである。
- 43 ペリシテ人はダビデに言った。「おれは犬か。杖を持って向かって来るとは。」ペリシテ人は自分の神々によってダビデを呪った。
- 44 ペリシテ人はダビデに言った。「さあ、来い。おまえの肉を空の鳥や野の獣にくれてやろう。」
- 45 ダビデはペリシテ人に言った。「おまえは、剣と槍と投げ槍を持って私に向かって来るが、私は、おまえがそしたイスラエルの戦陣の神、万軍の主の御名によって、おまえに立ち向かう。
- 46 今日、主はおまえを私の手に渡される。私はおまえを殺しておまえの頭を胴体から離し、今日、ペリシテ人の軍勢の屍を、空の鳥、地の獣に与えてやる。すべての国は、イスラエルに神がおられることを知るだろう。
- 47 ここに集まっているすべての者も、剣や槍がなくても、主が救いをもたらすことを知るだろう。この戦いは主の戦いだ。主は、おまえたちをわれわれの手に渡される。」
- 48 そのとき、そのペリシテ人はダビデの方に近づき始めた。ダビデは、すばやく戦場を走って行き、ペリシテ人に立ち向かった。
- 49 ダビデは手を袋の中に入れて、石を一つ取り、石投げでそれを放って、ペリシテ人の額を撃った。石は額に食い込み、彼はうつぶせに地面に倒れた。
- 50 ダビデは、石投げと石一つでこのペリシテ人に勝ち、このペリシテ人を撃って、彼を殺した。ダビデの手に剣はなかったが。
- 51 ダビデは走って行ってペリシテ人の上に立ち、彼の剣を奪ってさやから抜き、とどめを刺して首をはねた。ペリシテ人たちは、自分たちの勇士が死んだのを見て逃げた。
- 52 イスラエルとユダの人々は立ち上がり、とき声をあげて、ペリシテ人をガイの谷間に至るまで、そしてエクロンの門まで追った。それでペリシテ人は、シャアライムの道に、ガテとエクロンに至るまで、刺し殺されて倒れていた。
- 53 イスラエル人はペリシテ人追撃から引き返して、ペリシテ人の陣営を略奪した。
- 54 ダビデは、あのペリシテ人の首を取ってエルサレムに持ち帰った。しかし、武具は自分の天幕に置いた。
- 55 サウルは、ダビデがあのだペリシテ人に向かって出て行くのを見たとき、軍の長アブネルに言った。「アブネル、あの若者はだれの息子か。」アブネルは言った。「王様、お誓いしますが、私は存じません。」

- 56 そこで、王は命じた。「あなたは、あの少年がだれの息子かを調べなさい。」
- 57 ダビデがペリシテ人を討ち取って帰って来たとき、アブネルは彼をサウルの前に連れて来た。ダビデはペリシテ人の首を手になっていた。
- 58 サウルは彼に言った。「若者よ、おまえはだれの息子か。」ダビデは言った。「あなたのしもべ、ベツレヘム人エッサイの息子です。」

第18章

- 1 ダビデがサウルと語り終えたとき、ヨナタンの心はダビデの心に結びついた。ヨナタンは、自分自身のようにダビデを愛した。
- 2 サウルはその日、ダビデを召しかかえ、父の家に帰らせなかった。
- 3 ヨナタンは、自分自身のようにダビデを愛したので、ダビデと契約を結んだ。
- 4 ヨナタンは着ていた上着を脱いで、それをダビデに与え、自分のよろいかぶと、さらに剣、弓、帯までも彼に与えた。
- 5 ダビデは、サウルが遣わすところどこへでも出て行き、勝利を収めた。サウルは彼を戦士たちの長とした。このことは、すべての兵たちにも、サウルの家来たちにも喜ばれた。
- 6 皆が戻り、ダビデがあゝのペリシテ人を討ち取って帰って来たとき、女たちは、イスラエルのすべての町から、タンバリンや三弦の琴をもって、喜びつつ、歌い踊りながら出て来て、サウル王を迎えた。
- 7 女たちは、笑いながら歌い交わした。「サウルは千を討ち、ダビデは万を討った。」
- 8 サウルは、このことばを聞いて激しく怒り、不機嫌になって言った。「ダビデには万と言ひ、私には千と言う。あれにないのは王位だけだ。」
- 9 その日以来、サウルはダビデに目をつけるようになった。
- 10 その翌日、わざわざいをもたらず、神の霊がサウルに激しく下り、彼は家の中で狂いわめいた。ダビデはいつものように豎琴を手にして弾いたが、サウルの手には槍があった。
- 11 サウルは槍を投げつけた。ダビデを壁に突き刺してやろうと思ったのである。ダビデはサウルの攻撃から二度も身をかわした。
- 12 サウルはダビデを恐れた。それは、主がダビデとともにおられ、サウルを離れ去られたからである。
- 13 サウルはダビデを自分のもともとから離し、彼を千人隊の長にした。ダビデは兵の先に立って行動した。
- 14 主が彼とともにおられたので、ダビデは、行くところどこでも勝利を収めた。
- 15 彼が大勝利を収めるのを見て、サウルは彼を恐れた。
- 16 イスラエルもユダも、皆がダビデを愛した。彼が彼らの先に立って行動したからである。
- 17 サウルはダビデに言った。「これは、私の上の娘メラブだ。これをおまへの妻として与えよう。ただ、私のために勇敢にふるまい、主の戦いを戦ってくれ。」サウルは、自分の手を下さないで、ペリシテ人に手を下させよう、と思ったのである。
- 18 ダビデはサウルに言った。「私は何者なのでしょう。私の家族、私の父の氏族もイスラエルでは何者なのでしょう。私が王の婿になるとは。」
- 19 ところが、サウルの娘メラブをダビデに与えるというときになって、彼女はメホラ人のアデリエルに妻として与えられた。
- 20 サウルの娘ミカルはダビデを愛していた。そのことがサウルに告げられた。そのことは、サウルの目には良いことに思えた。

- 21 サウルは、「ミカルを彼にやろう。ミカルは彼にとって罌となり、ペリシテ人の手が彼に下るだろう」と思った。そして、サウルはもう一度ダビデに言った。「今日こそ、おまえは婿になるのだ。」
- 22 サウルは家来たちに命じた。「ダビデにひそかにこう告げなさい。『ご覧ください。王はあなたが気に入り、家来たちもみな、あなたを愛しています。今、王の婿になってください。』」
- 23 サウルの家来たちは、このことばをダビデの耳に入れた。ダビデは言った。「王の婿になるのがたやすいことに見えるのか。私は貧しく、身分の低い者だ。」
- 24 サウルの家来たちは、ダビデがこのように言っています、と言ってサウルに報告した。
- 25 サウルは言った。「ダビデにこう言うがよい。王は花嫁料を望んではない。ただ王の敵に復讐するため、ペリシテ人の陽の皮百だけを望んでいると。」サウルは、ダビデをペリシテ人の手で倒そうと考えていた。
- 26 サウルの家来たちはこのことばをダビデに告げた。王の婿になることは、ダビデの目には良いことに思えた。そこで、期限が過ぎる前に、
- 27 ダビデは立って、部下と出て行き、ペリシテ人二百人を討って、その陽の皮を持ち帰った。こうしてダビデは、王の婿になるために、王に対して約束を果たした。サウルは娘ミカルを妻としてダビデに与えた。
- 28 サウルは、主がダビデとともにおられ、サウルの娘ミカルがダビデを愛していることを見、また知った。
- 29 サウルは、ますますダビデを恐れた。サウルはずっと、ダビデの敵となった。
- 30 ペリシテ人の首長たちが出陣して来たが、彼らが出て来るたびに、ダビデはサウルの家来たちのすべてにまさる戦果をあげ、彼の名は大いに尊ばれた。

第19章

- 1 サウルは、ダビデを殺すと、息子ヨナタンやすべての家来に告げた。しかし、サウルの息子ヨナタンはダビデを非常に愛していた。
- 2 ヨナタンはダビデに告げた。「父サウルは、あなたを殺そうとしています。明日の朝は注意してください。隠れ場にとどまり、身を隠していてください。
- 3 私はあなたのいる野に出て行って、父のそばに立ち、あなたのことを父に話します。何か分かったら、あなたに知らせます。」
- 4 ヨナタンはダビデを弁護し、父サウルに言った。「王よ、しもべダビデのことで罪を犯さないでください。彼はあなたに対して罪を犯してはいません。むしろ、彼のしたことは、あなたにとって大きな益となっています。
- 5 彼が自分のいのちをかけてペリシテ人を討ったので、主は大きな勝利をイスラエル全体にもたらしてくださったのです。あなたはそれを見て喜ばれました。なぜ、何の理由もなくダビデを殺し、咎のない者の血を流して、罪ある者となられるのですか。」
- 6 サウルはヨナタンの言うことを聞き入れた。サウルは誓った。「主は生きておられる。あれは殺されることはない。」
- 7 ヨナタンはダビデを呼んで、このことすべてを告げた。ヨナタンがダビデをサウルのところに連れて来たので、ダビデは以前のようにサウルに仕えることになった。
- 8 再び戦いが起こった。ダビデは出て行って、ペリシテ人と戦い、彼らを討って大損害を与えた。彼らはダビデの前から逃げた。
- 9 わざわいをもたらす、主の霊がサウルに臨んだ。サウルは自分の家で座っていて、手には槍を持っていた。ダビデは豎琴を手にして弾いていた。
- 10 サウルは槍でダビデを壁に突き刺そうとした。ダビデがサウルから身を避けたので、サウルは槍を壁に打ちつけた。ダビデは逃げ、その夜は難を逃れた。
- 11 サウルはダビデの家に使者たちを遣わし、彼を見張らせ、朝に彼を殺そうとした。ダビデの妻ミカルはダビデに告げた。「今夜、自分のいのちを救わなければ、明日、あなたは殺されてしまいます。」
- 12 そして、ミカルはダビデを窓から降ろし、彼は逃げて難を逃れた。
- 13 ミカルはテラフィムを取って、寝床の上に置き、やぎの毛で編んだものを頭のところに置き、それを衣服でおおった。
- 14 サウルはダビデを捕らえようと、使者たちを遣わした。ミカルは「あの人は病気です」と言った。
- 15 サウルはダビデを見定めるために、同じ使者たちを遣わして言った。「あれを寝床のまま、私のところに連れて来い。あれを殺すのだ。」
- 16 使者たちが入って見ると、なんと、テラフィムが寝床にあり、やぎの毛で編んだものが頭のところにあった。
- 17 サウルはミカルに言った。「なぜ、このようにして私をだまし、私の敵を逃がして、逃れさせたのか。」ミカルはサウルに言った。「あの人が、『逃がしてくれ。私がどうしてお

まえを殺せるだろうか』と私に言ったのです。」

- 18** ダビデは逃げて、難を逃れ、ラマのサムエルのところに来た。そしてサウルが自分にしたこと一切をサムエルに告げた。彼とサムエルは、ナヨテに行って住んだ。
- 19** するとサウルに「ダビデは、なんとラマのナヨテにいます」という知らせがあった。
- 20** サウルはダビデを捕らえようと、使者たちを遣わした。彼らは、預言者の一団が預言し、サムエルがその監督をする者として立っているのを見た。神の霊がサウルの使者たちに臨み、彼らもまた、預言した。
- 21** このことをサウルに告げる者がいたので、彼はほかの使者たちを遣わしたが、彼らもまた、預言した。サウルはさらに三度目の使者たちを遣わしたが、彼らもまた、預言した。
- 22** サウル自身もラマに来た。彼はセクにある大きな井戸まで来て、「サムエルとダビデはどこにいるか」と尋ねた。すると、「今、ラマのナヨテにいます」という答えが返ってきた。
- 23** サウルはそこへ、ラマのナヨテへ出て行った。彼にも神の霊が臨んだので、彼は預言しながら歩いて、ラマのナヨテまで来た。
- 24** 彼もまた衣類を脱ぎ、サムエルの前で預言し、一昼夜、裸のまま倒れていた。このために、「サウルも預言者の一人なのか」と言われるようになった。

第20章

- 1 ダビデはラマのナヨテから逃げて、ヨナタンのもとに来て言った。「私があなたの父上の前に何をし、私にどんな咎があり、どんな罪があるというのですか。父上が私のいのちを求めておられるとは。」
- 2 ヨナタンは彼に言った。「とんでもないことです。あなたが死ぬはずはありません。父は、事の大小を問わず、私の耳に入れずに何かをするようなことはありません。どうして父が、このことを私に隠さなければならないのでしょうか。そんなことはありません。」
- 3 ダビデはなおも誓って言った。「父上は、私があなたのご好意を受けていることを、よくご存じです。『ヨナタンが悲しまないように、このことを知らせないでおこう』と思っておられるのです。けれども、主は生きておられます。あなたのたましいも生きておられます。私と死の間には、ほんの一步の隔たりしかありません。」
- 4 ヨナタンはダビデに言った。「あなたの言われることは、何でもあなたのためにします。」
- 5 ダビデはヨナタンに言った。「明日はちょうど新月祭で、私は王と一緒に食事の席に着かなければなりません。でも、私を行かせて、三日目の夕方まで、野に隠れさせてください。
- 6 もし、父上が私のことをとがめたら、おっしゃってください。『ダビデは自分の町ベツレヘムへ急いで行きたいと、しきりに頼みました。あそこで彼の氏族全体のために、年ごとのいけにえを献げることになっているからです』と。
- 7 もし父上が『良し』とおっしゃれば、あなたのしもべは安全です。もし激しくお怒りになれば、私に害を加える決心をしておられると思ってください。
- 8 どうか、このしもべに真実を尽くしてください。主に誓って、しもべと契約を結んでくださったのですから。もし私に咎があれば、あなたが私を殺してください。どうして父上のところにまで、私を連れ出す必要があるのでしょうか。」
- 9 ヨナタンは言った。「とんでもないことです。父があなたに害を加える決心をしていることが確かに分かったら、あなたに知らせないでおくはずはありません。」
- 10 ダビデはヨナタンに言った。「もし父上が厳しい返事をなさったら、だれが私に知らせてくださいますか。」
- 11 ヨナタンはダビデに言った。「野に出ましょう。」それで、二人は野に出た。
- 12 ヨナタンはダビデに言った。「イスラエルの神、主にかけて誓います。明日かあさっての今ごろまでに、父がダビデに対して寛大であるかを探ってみます。寛大でなければ、必ず人を遣わして、あなたの耳に入れます。
- 13 もし父が、あなたに害を加えようと思っているのに、それをあなたの耳に入れず、あなたを無事に逃がさなかったなら、主がこのヨナタンを幾重にも罰せられますように。主が父とともにおられたように、あなたとともにおられますように。
- 14 もし私がこれ以上生きるべきではないのなら、あなたは、主の恵みを私に施して、私が死ぬことのないようにする必要はありません。

- 15 しかし、あなたの恵みを私の家からとこしえに断たないでください。主がダビデの敵を地の面から一人残らず断たれるときにも。」
- 16 ヨナタンはダビデの家と契約を結んだ。「主がダビデの敵に血の責めを問われますように。」
- 17 ヨナタンは、ダビデに対する愛のゆえに、もう一度ダビデに誓わせた。ヨナタンは、自分を愛するほどにダビデを愛していたからである。
- 18 ヨナタンはダビデに言った。「明日は新月祭です。あなたの席が空くので、あなたがいないことが分かるでしょう。」
- 19 三日目に、日が暮れてから、あの事件の日に隠れた場所に行って、エゼルの石のそばにいてください。
- 20 私は的を射るように、三本の矢をそのあたりに放ちます。
- 21 私が子どもを遣わして、『行って、矢を見つけて来い』と言い、もし子どもに『それ、矢はおまえのこちら側にある。それを取って来い』と言ったら、出て来てください。主は生きておられます。あなたは安全で、何事ありませんから。
- 22 しかし、私が少年に『それ、矢はおまえの向こう側だ』と言ったら、行ってください。主があなたを去らせるのです。
- 23 私とあなたが交わしたことばについては、主が私とあなたの間の永遠の証人です。」
- 24 ダビデは野に隠れた。新月祭になって、王は食事の席に着いた。
- 25 王は、いつものように自分の席、つまり壁寄りの席に着いた。ヨナタンはその向かい側、アブネルはサウルの横の席に着いたが、ダビデの席は空いていた。
- 26 しかし、その日、サウルは何も言わなかった。「思わぬことが起こって身を汚したのだろう。きっと汚れているためだろう」と思ったからであった。
- 27 しかし、その翌日、新月祭の二日目にも、ダビデの席は空いていた。サウルは息子のヨナタンに言った。「どうしてエッサイの子は、昨日も今日も食事に来なかったのか。」
- 28 ヨナタンはサウルに答えた。「ベツレヘムへ行かせてくれと、ダビデが私にしきりに頼みました。
- 29 『どうか、私を行かせてください。氏族の祝宴がその町であります。長兄が命じているのです。今、あなたのご好意を得ているなら、どうか私を行かせて、兄弟たちに会わせてください』と言ったのです。それで彼は王の食卓に来ていないのです。」
- 30 サウルはヨナタンに怒りを燃やして言った。「この邪悪な気まぐれ女の息子め。おまえがエッサイの子に肩入れし、自分を辱め、母親の裸の恥をさらしているのを、この私が知らないとも思っているのか。
- 31 エッサイの子がこの地上に生きているかぎり、おまえも、おまえの王位も確立されないのだ。今、人を遣わして、あれを私のところに連れて来い。あれは死に値する。」
- 32 ヨナタンは父サウルに答えて言った。「なぜ、彼は殺されなければならないのですか。何をしたというのですか。」
- 33 すると、サウルは槍をヨナタンに投げつけて撃ち殺そうとした。それでヨナタンは、父がダビデを殺そうと決心しているのを知った。

- 34 ヨナタンは怒りに燃えて食卓から立ち上がり、新月祭の二日目には食事をとらなかった。父がダビデを侮辱したので、ダビデのために悲しんだからである。
- 35 朝になると、ヨナタンは小さい子どもを連れて、ダビデと打ち合わせた時刻に野に出て行った。
- 36 そして子どもに言った。「走って行って、私が射る矢を見つけておいで。」子どもが走って行くと、ヨナタンは、その子の向こうに矢を放った。
- 37 子どもがヨナタンの放った矢のところまで行くと、ヨナタンは子どものうしろから叫んだ。「矢は、おまえより、もっと向こうではないか。」
- 38 ヨナタンは子どものうしろから、また叫んだ。「早く。急げ。立ち止まってはいけない。」その子どもは矢を拾って、主人ヨナタンのところに来た。
- 39 子どもは何も知らず、ヨナタンとダビデだけに、その意味が分かっていた。
- 40 ヨナタンは自分の弓矢を子どもに渡し、「さあ、これを町に持って行っておくれ」と言った。
- 41 子どもが行くと、ダビデは南側から出て来て地にひれ伏し、三度礼をした。二人は口づけし、抱き合って泣いた。ダビデはいっそう激しく泣いた。
- 42 ヨナタンはダビデに言った。「安心して行ってください。私たち二人は、『主が、私とあなた、また、私の子孫とあなたの子孫との間の永遠の証人です』と言って、主の御名によって誓ったのです。」そして、ダビデは立ち去った。ヨナタンは町へ帰って行った。

第21章

- 1 ダビデはノブの祭司アヒメレクのところに来た。アヒメレクは震えながら、ダビデを迎えて言った。「なぜ、お一人で、だれもお供がいないのですか。」
- 2 ダビデは祭司アヒメレクに言った。「王は、あることを命じて、『おまえを遣わし、おまえに命じたことについては、何も人に知らせてはならない』と私に言われました。若い者たちとは、しかじかの場所で落ち合うことにしています。」
- 3 今、お手もとに何かあったら、パン五つでも、ある物を下さい。」
- 4 祭司はダビデに答えて言った。「手もとには、普通のパンはありません。ですが、もし若い者たちが女たちから身を遠ざけているなら、聖別されたパンはあります。」
- 5 ダビデは祭司に答えて言った。「実際、私が以前戦いに出て行ったときと同じように、女たちは私たちから遠ざけられています。若い者たちのからだは聖別されています。普通の旅でもそうですから、まして今日、彼らのからだは聖別されています。」
- 6 祭司は彼に、聖別されたパンを与えた。そこには、温かいパンと置き換えるために、その日主の前から取り下げられた、臨在のパンしかなかったからである。
- 7 ―その日、そこにはサウルのしもべの一人が主の前に引き止められていた。その名はドエグといい、エドム人で、サウルの牧者たちの長であった―
- 8 ダビデはアヒメレクに言った。「ここには、あなたの手もとに、槍か剣はありませんか。私は自分の剣も武器も持って来なかったのです。王の命令があまりに急だったので。」
- 9 祭司は言った。「ご覧ください。あなたがエラの谷で討ち取ったペリシテ人ゴリヤテの剣が、エポデのうしろに布に包んであります。よろしければ、持って行ってください。ここには、それしかありませんから。」ダビデは言った。「それにまさるものはありません。私に下さい。」
- 10 ダビデはその日、ただちにサウルから逃れ、ガテの王アキシュのところに来た。
- 11 アキシュの家来たちはアキシュに言った。「この人は、かの地の王ダビデではありませんか。皆が踊りながら、『サウルは千を討ち、ダビデは万を討った』と言って歌っていたのは、この人のことではありませんか。」
- 12 ダビデは、このことばを気にして、ガテの王アキシュを非常に恐れた。
- 13 ダビデは彼らの前でおかしくなったかのようにふるまい、捕らえられて気が変になったふりをした。彼は門の扉に傷をつけたり、ひげによだれを垂らしたりした。
- 14 アキシュは家来たちに言った。「おい、おまえたちも見ているように、この男は気がふれている。なぜ、私のところに連れて来たのか。」
- 15 私のところに気がふれた者が不足しているとでもいうのか。私の前で気がふれているのを見せるために、この男を連れて来るとは。この男を私の家に入れようとでもいうのか。」

第22章

- 1 ダビデはそこを去って、アドラムの洞穴に避難した。彼の兄弟たちや父の家の者はみな、これを聞いてダビデのところに下って来た。
- 2 そして、困窮している者、負債のある者、不満のある者たちもみな、彼のところに集まって来たので、ダビデは彼らの長となった。約四百人の者が彼とともにいるようになった。
- 3 ダビデはそこからモアブのミツパに行き、モアブの王に言った。「神が私にどのようなことをされるか分かるまで、どうか、父と母をあなたがたと一緒に住まわせてください。」
- 4 ダビデは両親をモアブの王の前に連れて来た。彼らは、ダビデが要害にいる間、王のもとに住んだ。
- 5 預言者ガドはダビデに言った。「この要害にとどまっていなくて、さあ、ユダの地に帰りなさい。」それで、ダビデはそこを出て、ハレテの森へやって来た。
- 6 サウルは、ダビデおよび彼とともにいる者たちが見つかったことを聞いた。サウルはギブアにある高台のタマリスクの木の下で、槍を手にして座っていた。彼の家来たちはみな、彼のそばに立っていた。
- 7 サウルは、そばに立っている家来たちに言った。「聞け、ベニヤミン人。エッサイの子が、おまえたち全員に畑やぶどう畑をくれたり、おまえたち全員を千人隊の長、百人隊の長にしたりするだろうか。」
- 8 それなのに、おまえたちはみな私に謀反を企てている。息子がエッサイの子と契約を結んでも、だれも私の耳に入れない。おまえたちのだれも、私のことを思って心を痛めることをせず、今日のように、息子が私のしもべを私に逆らわせて、待ち伏せさせても、私の耳に入れない。」
- 9 サウルの家来たちのそばに立っていたエドム人ドエグが答えて言った。「私は、エッサイの子が、ノブのアヒトブの子アヒメレクのところに来たのを見ました。」
- 10 アヒメレクは彼のために主に伺って、彼に食糧を与え、ペリシテ人ゴリヤテの剣も与えました。」
- 11 王は人を遣わして、祭司アヒトブの子アヒメレクと、彼の父の家の者全員、すなわち、ノブにいる祭司たちを呼び寄せた。彼らはみな、王のところに来た。
- 12 サウルは言った。「聞け、アヒトブの子よ。」彼は答えた。「はい、王様。ここにおります。」
- 13 サウルは彼に言った。「おまえとエッサイの子は、なぜ私に謀反を企てるのか。おまえは彼にパンと剣を与え、彼のために神に伺い、そうして彼は今日のように私に逆らって待ち伏せしている。」
- 14 アヒメレクは王に答えて言った。「あなたの家来の中に、ダビデほど忠実な者が、だれかいるのでしょうか。ダビデは王の婿であり、あなたの護衛兵の長であり、あなたの家で重んじられているではありませんか。」
- 15 私が彼のために神に伺うのは、今日に始まったことでしょうか。決して、そんなことはありません。王様。このしもべや、父の家の者全員に汚名を着せないでください。あなたの

しもべは、この事件について、いっさい知らないのですから。」

- 16 王は言った。「アヒメレク、おまえは必ず死ななければならない。おまえも、おまえの父の家の者全員もだ。」
- 17 王は、そばに立っていた近衛兵たちに言った。「近寄って、主の祭司たちを殺せ。彼らはダビデにくみし、ダビデが逃げているのを知りながら、それを私の耳に入れなかったからだ。」しかし王の家来たちは、主の祭司たちに手を下して討ちかかろうとはしなかった。
- 18 王はドエグに言った。「おまえが行って祭司たちに討ちかけろ。」そこでエドム人ドエグが行って、祭司たちに討ちかかった。その日彼は、亜麻布のエポデを着ていた人を八十五人殺した。
- 19 彼は祭司の町ノブを、男も女も、幼子も乳飲み子も、剣の刃で討った。牛もろばも羊も、剣の刃で。
- 20 アヒトブの子アヒメレクの息子のエブヤタルという名の人が、一人逃れてダビデのところに逃げて来た。
- 21 エブヤタルはダビデに、サウルが主の祭司たちを殺したことを告げた。
- 22 ダビデはエブヤタルに言った。「私はあの日、エドム人ドエグがあそこにいたので、彼がきっとサウルに知らせると思っていた。私が、あなたの父の家の者全員の死を引き起こしたのだ。
- 23 私と一緒にいなさい。恐れることはない。私のいのちを狙う者は、あなたのいのちを狙う。しかし私と一緒にいれば、あなたは安全だ。」

第23章

- 1 「今、ペリシテ人がケイラを攻めて、打ち場を略奪しています」と言って、ダビデに告げる者がいた。
- 2 ダビデは主に伺って言った。「行って、このペリシテ人たちを討つべきでしょうか。」主はダビデに言われた。「行け。ペリシテ人を討ち、ケイラを救え。」
- 3 ダビデの部下は彼に言った。「ご覧のとおり、私たちは、ここユダにいてさえ恐れているのに、ケイラのペリシテ人の陣地に向かって行けるでしょうか。」
- 4 ダビデはもう一度、主に伺った。すると主は答えられた。「さあ、ケイラに下って行け。わたしがペリシテ人をあなたの手に渡すから。」
- 5 ダビデとその部下はケイラに行き、ペリシテ人と戦い、彼らの家畜を奪い返し、ペリシテ人を討って大損害を与えた。こうしてダビデはケイラの住民を救った。
- 6 アヒメレクの子エブヤタルは、ケイラのダビデのもとに逃げて来たとき、エポデを携えていた。
- 7 一方、ダビデがケイラに来たことがサウルに知らされると、サウルは、「神は彼を私の手に渡された。彼は扉とかんぬきのある町に入って、自分自身を閉じ込めてしまったのだから」と言った。
- 8 サウルは、ケイラへ下ってダビデとその部下を攻めて封じ込めるため、兵をみな召集した。
- 9 ダビデは、サウルが自分に害を加えようとしているのを知り、祭司エブヤタルに言った。「エポデを持って来なさい。」
- 10 そしてダビデは言った。「イスラエルの神、主よ。しもべは、サウルがケイラに来て、私のことで、この町を破壊しようとしていることを確かに聞きました。
- 11 ケイラの者たちは私を彼の手に引き渡すでしょうか。サウルは、しもべが聞いたとおり下って来るでしょうか。イスラエルの神、主よ。どうか、しもべにお告げください。」主は言われた。「彼は下って来る。」
- 12 ダビデは言った。「ケイラの者たちは、私と私の部下をサウルの手に引き渡すでしょうか。」主は言われた。「彼らは引き渡す。」
- 13 ダビデとその部下およそ六百人は立って、ケイラから出て行き、そこここと、さまよった。ダビデがケイラから逃れたことがサウルに告げられると、サウルは討伐をやめた。
- 14 ダビデは、荒野にある要害に宿ったり、ジフの荒野の山地に宿ったりした。サウルは、毎日ダビデを追い続けたが、神はダビデをサウルの手に渡されなかった。
- 15 ダビデは、サウルが自分のいのちを狙って、戦いに出て来たのを見た。そのとき、ダビデはジフの荒野のホレシュにいた。
- 16 サウルの息子ヨナタンは、ホレシュのダビデのところに行って、神によってダビデを力づけた。
- 17 彼はダビデに言った。「恐れることはありません。父サウルの手が、あなたの身に及ぶことはないからです。あなたこそ、イスラエルの王となり、私はあなたの次に立つ者となる

でしょう。父サウルも、そうなることを確かに知っているのです。」

- 18 二人は主の前で契約を結んだ。ダビデはホレシュにとどまり、ヨナタンは自分の家に帰った。
- 19 ジフ人たちは、ギブアのサウルのところに上って行って、言った。「ダビデは私たちのところに隠れているのではありませんか。エシモンの南、ハキラの丘のホレシュにある要害に。」
- 20 王よ。今、下って行こうとお思いでしたら、下って来てください。私たちが彼を王の手に引き渡します。」
- 21 サウルは言った。「主の祝福があなたがたにあるように。あなたがたが私のことを思ってくれたからだ。」
- 22 さあ行って、さらに確かめてくれ。彼が足を運ぶ場所と、だれがそこで彼を見たかを、よく調べてくれ。彼は非常に悪賢いとの評判だから。
- 23 彼が潜んでいる隠れ場所をみな、よく調べて、確かな知らせを持って、ここに帰って来てくれ。そのとき、私はあなたがたと一緒に行く。彼がこの地にいるなら、ユダのすべての分団のうちから彼を捜し出す。」
- 24 彼らはサウルに先立ってジフへ行った。一方、ダビデとその部下は、エシモンの南のアラバにあるマオンの荒野にいた。
- 25 サウルとその部下はダビデを捜しに出て行った。このことがダビデに知らされたので、彼は岩場に下り、マオンの荒野にとどまった。サウルはこれを聞き、マオンの荒野でダビデを追った。
- 26 サウルは山の一方の側を進み、ダビデとその部下は山のもう一方の側を進んだ。ダビデは急いでサウルから逃れようとした。サウルとその部下が、ダビデとその部下を捕らえようと迫って来たとき、
- 27 一人の使者がサウルのもとに来て、「急いで来てください。ペリシテ人がこの国に襲いかかって来ました」と言った。
- 28 サウルはダビデを追うのをやめて帰り、ペリシテ人の方に向かった。こういうわけで、この場所は「仕切りの岩山」と呼ばれた。
- 29 ダビデはそこから上って行って、エン・ゲディの要害に住んだ。

第24章

- 1 サウルがペリシテ人を追うのをやめて帰って来たとき、「ダビデが今、エン・ゲディの荒野にいます」と言って、彼に告げる者がいた。
- 2 サウルは、イスラエル全体から三千人の精鋭を選び抜いて、エエリムの岩の東に、ダビデとその部下を捜しに出かけた。
- 3 道の傍らにある羊の群れの囲い場に来ると、そこに洞穴があった。サウルは用をたすために中に入った。そのとき、ダビデとその部下は、その洞穴の奥の方に座っていた。
- 4 ダビデの部下はダビデに言った。「今日こそ、主があなた様に、『見よ、わたしはあなたの敵をあなたの手に移す。彼をあなたの良いと思うようにせよ』と言われた、その日です。」ダビデは立ち上がり、サウルの上着の裾を、こっそり切り取った。
- 5 後になってダビデは、サウルの上着の裾を切り取ったことについて心を痛めた。
- 6 彼は部下に言った。「私が主に逆らって、主に油注がれた方、私の主君に対して、そのようなことをして手を下すなど、絶対にあり得ないことだ。彼は主に油注がれた方なのだから。」
- 7 ダビデはこのことで部下を説き伏せ、彼らがサウルに襲いかかるのを許さなかった。サウルは、洞穴から出て道を歩いて行った。
- 8 ダビデも洞穴から出て行き、サウルのうしろから呼びかけ、「王よ」と言った。サウルがうしろを振り向くと、ダビデは地にひれ伏して、礼をした。
- 9 そしてダビデはサウルに言った。「なぜ、『ダビデがあなたに害を加えようとしている』と言う人のことばに、耳を傾けられるのですか。」
- 10 今日、主が洞穴で私の手にあなたをお渡しになったのを、あなたの目はご覧になったのです。ある者はあなたを殺すようにと言ったのですが、私は、あなたのことを思って、『私の主君に手を下すことはしない。あの方は主に油注がれた方だから』と言いました。
- 11 わが父よ。どうか、私の手にあるあなたの上着の裾をよくご覧ください。あなたの上着の裾を切り取りましたが、あなたを殺しはしませんでした。それによって、私の手に悪も背きもないことを、お分かりください。あなたに罪を犯していないのに、あなたは私のいのちを取ろうと狙っておられるのです。
- 12 どうか、主が私とあなたの間をさばき、主が私のために、あなたに報いられますように。しかし、私はあなたを手にかけることはいたしません。
- 13 昔のことわざに『悪は悪者から出る』と言います。私はあなたを手にかけることはいたしません。
- 14 イスラエルの王はだれを追って出て来られたのですか。だれを追いかけておられるのですか。死んだ犬の後でしょうか。一匹の蚤の後でしょうか。
- 15 どうか主が、さばき人となって私とあなたの間をさばき、私の訴えを取り上げて擁護し、正しいさばきであなたの手から私を救ってくださいますように。」
- 16 ダビデがこれらのことばをサウルに語り終えたとき、サウルは「これはおまえの声なのか。わが子ダビデよ」と言った。サウルは声をあげて泣いた。

- 17** そしてダビデに言った。「おまえは私より正しい。私に良くしてくれたのに、私はおまえに悪い仕打ちをした。
- 18** 私に良いことをしてくれたことを、今日、おまえは知らせてくれた。主が私をおまえの手に渡されたのに、私を殺さなかったのだから。
- 19** 人が自分の敵を見つけたとき、その敵を無傷で去らせるだろうか。おまえが今日、私にしてくれたことの報いとして、主がおまえに幸いを与えられるように。
- 20** おまえが必ず王になり、おまえの手によってイスラエル王国が確立することを、私は今、確かに知った。
- 21** 今、主にかけて私に誓ってくれ。私の後の子孫を断たず、私の名を父の家から消し去らないことを。」
- 22** ダビデはサウルに誓った。サウルは自分の家へ帰り、ダビデとその部下は要害へ上って行った。

第25章

- 1 サムエルは死んだ。全イスラエルは集まって、彼のために悼み悲しみ、ラマにある彼の家に葬った。ダビデは立ってパランの荒野に下って行った。
- 2 マオンに一人の人がいた。カルメルで事業をしていて、非常に裕福で、羊三千匹、やぎ千匹を持っていた。彼はカルメルで羊の毛の刈り取りをしていた。
- 3 この人の名はナバルといい、妻の名はアビガイルといった。この女は賢明で姿が美しかったが、夫は頑迷で行状が悪かった。彼はカレブ人であった。
- 4 ダビデは、ナバルがその羊の毛を刈っていることを荒野で聞いた。
- 5 ダビデは十人の若者を遣わし、その若者たちに言った。「カルメルへ上って行ってナバルのところに着いたら、私の名で彼に安否を尋ね、
- 6 わが同胞に、こう言いなさい。『あなたに平安がありますように。あなたの家に平安がありますように。また、あなたのすべてのものに平安がありますように。』」
- 7 今、羊の毛を刈る者たちが、あなたのところにいるのを聞きました。あなたの羊飼いたちは、私たちと一緒にいましたが、彼らに恥をかかせたことはありませんでした。彼らがカルメルにいる間中、何か失われることもありませんでした。
- 8 あなたの若者たちに尋ねてみてください。彼らはそう報告するでしょう。ですから、私の若者たちに親切にしてください。祝いの日に来たのですから。どうか、しもべたちと、あなたの子ダビデに、何かあなたの手もとにある物を与えてください。』」
- 9 ダビデの若者たちは行って、言われたとおりのことをダビデの名によってナバルに告げ、答えを待った。
- 10 ナバルはダビデの家来たちに答えて言った。「ダビデとは何者だ。エッサイの子とは何者だ。このごろは、主人のところから脱走する家来が多くなっている。
- 11 私のパンと水、それに羊の毛を刈り取る者たちのために屠った肉を取って、どこから来たかも分からない者どもに、くれてやらなければならないのか。」
- 12 ダビデの若者たちは、もと来た道を引き返し、戻って来て、これら一部始終をダビデに報告した。
- 13 ダビデは部下に「各自、自分の剣を運びよ」と命じた。それで、みな剣を身に帯びた。ダビデも剣を帯びた。四百人ほどの者がダビデについて上って行き、二百人は荷物のところにとどまった。
- 14 ナバルの妻アビガイルに、若者の一人が告げて言った。「ダビデがご主人様に祝福のあいさつをするために、荒野から使者たちを遣わしたのに、ご主人様は彼らをののしりました。
- 15 あの人たちは私たちにとても良くしてくれたのです。私たちは恥をかかされたこともなく、野で一緒にいて行動をとともにしていた間、何も失いませんでした。
- 16 一緒に羊を飼っている間は、夜も昼も、彼らは私たちのために防壁となってくれました。
- 17 今、あなたがどうすればよいか、よく考えてください。わざわざいにご主人とその一家に及ぶことは、もう、はっきりしています。ご主人はよこしまな方ですから、だれも話しかけ

ることができません。」

- 18 アビガイルは急いでパン二百個、ぶどう酒の皮袋二つ、料理した羊五匹、炒り麦五セア、干しぶどう百房、干しいちじく二百個を取って、これをろばに載せ、
- 19 自分の若者たちに言った。「私の先を進みなさい。あなたがたについて行くから。」ただ、彼女は夫ナバルには何も告げなかった。
- 20 アビガイルがろばに乗って山陰を下って行くと、ちょうど、ダビデとその部下が彼女の方に下って来るのに出会った。
- 21 ダビデは、こう言ったばかりであった。「荒野で、あの男のものをすべて守ってやったので、その財産は何一つ失われなかったが、それは全く無駄だった。あの男は善に代えて悪を返した。
- 22 もし私が明日の朝までに、あの男に属する者のうち小童一人でも残しておくなら、神がこのダビデを幾重にも罰せられるように。」
- 23 アビガイルはダビデを見ると、急いでろばから降り、ダビデの前で顔を伏せて地面にひれ伏した。
- 24 彼女はダビデの足もとにひれ伏して言った。「ご主人様、あの責めは私にあります。どうか、はしめが、じかに申し上げることをお許してください。このはしめのことばをお聞きください。
- 25 ご主人様、どうか、あのよこしまな者、ナバルのことなど気かけないでください。あの者は名のとおりの男ですから。彼の名はナバルで、そのとおりの愚か者です。はしめの私は、ご主人様がお遣わしになった若者たちに会ってはおりません。
- 26 ご主人様。今、主は生きておられます。あなたのたましいも生きておられます。主は、あなたが血を流しに行かれるのを止め、ご自分の手で復讐なさを止められました。あなたの敵、ご主人様に対して害を加えようとする者どもが、ナバルのようになりますように。
- 27 今、はしめが、ご主人様に持って参りましたこの贈り物を、ご主人様につき従う若者たちにお与えください。
- 28 どうか、はしめの背きをお赦してください。主は必ず、ご主人様のために、確かな家をお建てになるでしょう。ご主人様は主の戦いを戦っておられるのですから。あなたのうちには、一生の間、悪が見出されてはなりません。
- 29 人があなたを追って、いのちを狙おうとしても、ご主人様のいのちは、あなたの神、主によって、いのちの袋にしまわれています。あなたの敵のいのちは、主が石投げのくぼみに入れて投げつけられるでしょう。
- 30 主が、ご主人様について約束なさったすべての良いことをあなたに成し遂げ、あなたをイスラエルの君主に任じられたとき、
- 31 理由もなく血を流したり、ご主人様自身で復讐したりされたことが、つまずきとなり、ご主人様の心の妨げとなりませんように。主がご主人様を榮えさせてくださったら、このはしめを思い出してください。」
- 32 ダビデはアビガイルに言った。「イスラエルの神、主がほめたたえられますように。主は今日、あなたを送り、私に会わせてくださった。

- 33 あなたの判断がほめたたえられるように。また、あなたが、ほめたたえられるように。あなたは今日、私が人の血を流しに行き、私自身の手で復讐しようとするのをやめさせた。
- 34 イスラエルの神、主は生きておられる。主は私を引き止めて、あなたに害を加えさせなかった。もし、あなたが急いで私に会いに来なかったなら、きっと、明け方までにナバルには小童が一人も残らなかっただろう。」
- 35 ダビデはアビガイルの手から、彼女が持って来た物を受け取り、彼女に言った。「安心して、家へ上って行きなさい。見なさい。私はあなたの言うことを聞き、あなたの願いを受け入れた。」
- 36 アビガイルがナバルのところに帰って来ると、ちょうどナバルは、自分の家で王の宴会のような宴会を開いていた。ナバルが上機嫌で、ひどく酔っていたので、アビガイルは明け方まで、何一つ彼に話さなかった。
- 37 朝になって、ナバルの酔いがさめたとき、妻がこれらの出来事を彼に告げると、彼は気を失って石のようになった。
- 38 十日ほどたって、主はナバルを打たれ、彼は死んだ。
- 39 ダビデはナバルが死んだことを聞いて言った。「主がほめたたえられますように。主は、私がナバルの手から受けた恥辱に対する私の訴えを取り上げ、このしもべが悪を行うのを引き止めてくださった。主はナバルの悪の報いをその頭上に返された。」ダビデは人を遣わして、アビガイルに自分の妻になるよう申し入れた。
- 40 ダビデのしもべたちはカルメルのアビガイルのところに來て、彼女に、「ダビデはあなたを妻として迎えるために私たちを遣わしました」と言った。
- 41 彼女はすぐに、地にひれ伏して礼をし、そして言った。「さあ。このはしためは、ご主人様のしもべたちの足を洗う女奴隷となりましょう。」
- 42 アビガイルは急いで用意をして、ろばに乗り、彼女の五人の侍女を後に従え、ダビデの使者たちの後に従って行った。彼女はダビデの妻となった。
- 43 ダビデはイスラエルの出であるアヒノアムを妻としていたので、二人ともダビデの妻となった。
- 44 サウルはダビデの妻であった自分の娘ミカルを、ガリム出身のライシュの子パルティに与えていた。

第26章

- 1 ジフ人がギブアにいるサウルのところに来て言った。「ダビデはエシモンの東にあるハキラの丘に隠れているのではないのでしょうか。」
- 2 サウルは立って、三千人のイスラエルの精鋭とともに、ジフの荒野へ下って行った。ジフの荒野でダビデを捜すためであった。
- 3 サウルは、エシモンの東にあるハキラの丘で、道の傍らに陣を敷いた。一方、ダビデは荒野にとどまっていた。ダビデは、サウルが自分を追って荒野に来たのを見て、
- 4 偵察を送り、サウルが確かに来たことを知った。
- 5 ダビデは立って、サウルが陣を敷いている場所にやって来た。そしてダビデは、サウルと、その軍の長ネルの子アブネルが寝ている場所を見つけた。サウルは幕営の中で寝ていて、兵たちは彼の周りに宿営していた。
- 6 ダビデは、ヒッタイト人アヒメレクと、ヨアブの兄弟で、ツェルヤの子アビシャイに言った。「だれか、私と一緒に陣営のサウルのところへ下って行く者はいないか。」アビシャイが答えた。「私が一緒に下って参ります。」
- 7 ダビデとアビシャイは夜、兵たちのところに来た。見ると、サウルは幕営の中で横になって寝ていて、彼の槍が、枕もとの地面に突き刺してあった。アブネルも兵たちも、その周りに眠っていた。
- 8 アビシャイはダビデに言った。「神は今日、あなたの敵をあなたの手に渡されました。どうか私に、槍で一気に彼を地面に突き刺させてください。二度することはしません。」
- 9 ダビデはアビシャイに言った。「殺してはならない。主に油注がれた方に手を下して、だれが罰を免れるだろうか。」
- 10 ダビデは言った。「主は生きておられる。主は必ず彼を打たれる。時が来て死ぬか、戦いに下ったときに滅びるからだ。」
- 11 私が主に逆らって、主に油注がれた方に手を下すなど、絶対にあり得ないことだ。さあ、今は、枕もとにある槍と水差しを取って、ここから出て行こう。」
- 12 ダビデはサウルの枕もとの槍と水差しを取り、二人は立ち去ったが、だれ一人としてこれを見た者も、気づいた者も、目を覚ました者もいなかった。主が彼らを深い眠りに陥れたので、みな眠り込んでいたのである。
- 13 ダビデは向こう側へ渡って行き、遠く離れた山の頂上に立った。彼らの間には、大きな隔たりがあった。
- 14 ダビデは、兵たちとネルの子アブネルに呼びかけて言った。「アブネル、返事をしないのか。」アブネルは答えて言った。「王を呼びつけるおまえはだれだ。」
- 15 ダビデはアブネルに言った。「おまえは男ではないか。イスラエル中で、おまえに並ぶ者があるだろうか。おまえはなぜ、自分の主君である王を護衛していなかったのか。兵の一人が、おまえの主君である王を殺しに入り込んだのだ。」
- 16 おまえのやったことは良くない。主に誓って言うが、おまえたちは死に値する。おまえたちの主君、主に油注がれた方を護衛していなかったのだから。今、王の枕もとにあった槍

と水差しが、どこにあるか見てみよ。」

- 17** サウルはダビデの声と気づいて、言った。「わが子ダビデよ、これはおまえの声ではないか。」ダビデは答えた。「わが君、王様。私の声です。」
- 18** そして言った。「なぜ、わが君はこのしもべの後を追われるのですか。私が何をしたというのですか。私の手に、どんな悪があるというのですか。」
- 19** わが君、王様。どうか今、しもべのことばを聞いてください。もし私に敵対するようあなたに誘いかけたのが主であれば、主がささげ物を受け入れられますように。しかし、それが人によるのであれば、その人たちが主の前でのろわれますように。彼らは今日、私を追いついて、主のゆずりの地にあずからせず、『行って、ほかの神々に仕えよ』と言っているからです。
- 20** どうか今、私の血が主の御顔から離れた地に流されることがありませんように。イスラエルの王が、山でしゃこを追うように、一匹の蚤を狙って出て来ておられるのですから。」
- 21** サウルは言った。「私が間違っていた。わが子ダビデよ、帰って来なさい。もう、おまえに害を加えない。今日、おまえが私のいのちを尊んでくれたのだから。本当に私は愚かなことをして、大変な間違いを犯した。」
- 22** ダビデは答えて言った。「さあ、ここに王の槍があります。これを取りに、若者の一人をよこしてください。」
- 23** 主は一人ひとりに、その人の正しさと真実に応じて報いてくださいます。主は今日、あなたを私の手に渡されましたが、私は、主に油注がれた方に、この手を下したくはありませんでした。
- 24** 今日、私があなたのいのちを大切にしたように、主は私のいのちを大切にして、すべての苦難から私を救い出してくださいます。」
- 25** サウルはダビデに言った。「わが子ダビデよ、おまえに祝福があるように。おまえは多くのことをするだろうが、それはきっと成功する。」ダビデは自分の道を行き、サウルは自分のところへ帰って行った。

第27章

- 1 ダビデは心の中で言った。「私はいつか、今にサウルの手によって滅ぼされるだろう。ペリシテ人の地に逃れるよりほかに道はない。そうすれば、サウルは、イスラエルの全領土内で私を捜すのをあきらめ、こうして私は彼の手から逃れられる。」
- 2 ダビデは、一緒にいた六百人の者を連れて、ガテの王マオクの子アキシユのところへ渡って行った。
- 3 ダビデとその部下たちは、それぞれ自分の家族とともに、ガテでアキシユのもとに住んだ。ダビデも、その二人の妻、イスレエル人アヒノアムと、ナバルの妻であったカルメル人アビガイルと一緒にであった。
- 4 ダビデがガテへ逃げたことが、サウルに知らされると、サウルは二度と彼を追おうとはしなかった。
- 5 ダビデはアキシユに言った。「もし、私があなたのご好意を得ているなら、地方の町の一つの場所を私に下さい。そこに住みます。どうして、このしもべが王国の都に、あなたと一緒に住めるでしょう。」
- 6 その日、アキシユはツィクラグをダビデに与えた。それゆえ、ツィクラグは今日まで、ユダの王たちに属している。
- 7 ダビデがペリシテ人の地に住んでいた日数は一年四か月であった。
- 8 ダビデは部下とともに上って行って、ゲシュル人、ゲゼル人、アマレク人を襲った。彼らは昔から、シュルの方、エジプトの地に及ぶ地域に住んでいた。
- 9 ダビデはこれらの地方を討つと、男も女も生かしてはおかず、羊、牛、ろば、らくだ、また衣服などを奪って、アキシユのところに帰って来た。
- 10 アキシユが「今日は、どこを襲ったのか」と尋ねると、ダビデはいつも、ユダのネゲブとか、エラフメエル人のネゲブとか、ケ二人のネゲブとか答えていた。
- 11 ダビデは男も女も生かしておかず、ガテに一人も連れて来なかった。「彼らが『ダビデはこういうことをした』と言って、私たちのことを告げるといけない』と思ったからである。ダビデはペリシテ人の地に住んでいる間、いつも、このようなやり方をした。
- 12 アキシユはダビデを信用して、こう思っていた。「彼は自分の同胞イスラエル人に、とても憎まれるようなことをしている。彼はいつまでも私のしもべでいるだろう。」

第28章

- 1 そのころ、ペリシテ人はイスラエルと戦おうとして、軍隊を召集した。アキシュはダビデに言った。「承知してもらいたい。あなたと、あなたの部下は、私と一緒に出陣することになっている。」
- 2 ダビデはアキシュに言った。「では、しもべがどうするか、お分かりになるでしょう。」アキシュはダビデに言った。「では、あなたをいつまでも、私の護衛に任命しておこう。」
- 3 サムエルはすでに死に、全イスラエルは彼のために悼み悲しみ、彼を彼の町ラマに葬っていた。一方、サウルは国内から霊媒や口寄せを追い出していた。
- 4 ペリシテ人は集まって、シュネムに来て陣を敷いた。サウルは全イスラエルを召集して、ギルボアに陣を敷いた。
- 5 サウルはペリシテ人の陣営を見て恐れ、その心は激しく震えた。
- 6 サウルは主に伺ったが、主は、夢によっても、ウリムによっても、預言者によってもお答えにならなかった。
- 7 サウルは家来たちに言った。「霊媒をする女を探して来い。私が彼女のところに行って、彼女に尋ねてみよう。」家来たちはサウルに言った。「エン・ドルに霊媒をする女がいます。」
- 8 サウルは変装して身なりを変え、二人の部下を連れて行った。彼らは夜、女のところによって来た。サウルは言った。「私のために霊媒によって占い、私のために、私が言う人を呼び出してもらいたい。」
- 9 女は彼に言った。「あなたは、サウルがこの国から霊媒や口寄せを断ち切ったことをご存じのはずです。それなのに、なぜ、私のいのちに罽をかけて、私を殺そうとするのですか。」
- 10 サウルは主にかけて彼女に誓って言った。「主は生きておられる。このことにより、あなたが咎を負うことは決してない。」
- 11 女は言った。「だれを呼び出しましょうか。」サウルは言った。「私のために、サムエルを呼び出してもらいたい。」
- 12 女はサムエルを見て大声で叫んだ。女はサウルに言った。「あなたはなぜ、私をだましたのですか。あなたはサウルですね。」
- 13 王は彼女に言った。「恐れることはない。何を見たのか。」女はサウルに言った。「神々しい方が地から上って来るのを見ました。」
- 14 サウルは彼女に尋ねた。「どのような姿をしておられるか。」彼女は言った。「年老いた方が上って来られます。外套を着ておられます。」サウルは、その人がサムエルであることが分かって、地にひれ伏し、拝した。
- 15 サムエルはサウルに言った。「なぜ、私を呼び出して、私を煩わすのか。」サウルは言った。「私は困りきっています。ペリシテ人が私を攻めて来るのに、神は私から去っておら

れます。預言者によっても、夢によっても、もう私に答えてくださらないのです。それで、私がどうすればよいか教えていただくために、あなたをお呼びしました。」

- 16** サムエルは言った。「なぜ、私に尋ねるのか。主はあなたから去り、あなたの敵になられたのに。」
- 17** 主は、私を通して告げられたとおりのことをなさったのだ。主は、あなたの手から王位をはぎ取って、あなたの友ダビデに与えられた。
- 18** あなたが主の御声に聞き従わず、主の燃える御怒りをもってアマレクを罰しなかったからだ。それゆえ、主は今日、このことをあなたにされたのだ。
- 19** 主は、あなたと一緒にイスラエルをペリシテ人の手に渡される。明日、あなたもあなたの息子たちも、私と一緒にいるだろう。主は、イスラエルの陣営をペリシテ人の手に渡されるのだ。」
- 20** すると、サウルはただちに地面に倒れて棒のようになり、サムエルのことばにおびえた。しかも、その日一昼夜、何も食べていなかったので、力は失せていた。
- 21** 女はサウルのところに来て、サウルが非常におじ惑っているのを見て彼に言った。「あなたのはしためは、あなたが言われたことに聞き従いました。私はいのちをかけて、あなたが言われたことばに従いました。」
- 22** 今度はあなたが、このはしためが申し上げることをお聞きください。パンを少し差し上げます。それをお食べください。お帰りのとき、元気になれるでしょう。」
- 23** サウルはこれを断って、「食べたくない」と言った。しかし、彼の家来も女もしきりに勧めたので、サウルはその言うことを聞き入れて地面から立ち上がり、床の上に座った。
- 24** 女の家肥えた子牛がいたので、彼女は急いでそれを屠り、また、小麦粉を取って練り、種なしパンを焼いた。
- 25** それをサウルと家来たちの前に差し出すと、彼らは食べた。そしてその夜、彼らは立ち去った。

第29章

- 1 ペリシテ人は全軍をアフエクに集結し、イスラエル人はイズレエルにある泉のほとりに陣を敷いた。
- 2 ペリシテ人の領主たちは、百人隊、千人隊を率いて進み、ダビデとその部下は、アキシシュと一緒にその後に続いた。
- 3 ペリシテ人の首長たちは言った。「このヘブル人たちは、いったい何なのですか。」アキシシュはペリシテ人の首長たちに言った。「確かにこれは、イスラエルの王サウルの家来ダビデであるが、この一、二年、私のところにいる。私のところに落ちのびて来てから今日まで、私は彼に何の過ちも見出していない。」
- 4 ペリシテ人の首長たちはアキシシュに対して腹を立てた。ペリシテ人の首長たちは彼に言った。「この男を帰らせてほしい。あなたが指定した場所に帰し、私たちと一緒に戦いに行かせないでほしい。戦いの最中に、われわれに敵対する者となってはいけない。この男は、どのようにして自分の主君の好意を得るだろうか。ここにいる人たちの首を使わないだろうか。」
- 5 この男は、皆が踊りながら、『サウルは千を討ち、ダビデは万を討った』と歌っていたダビデではないか。」
- 6 そこでアキシシュはダビデを呼んで言った。「主は生きておられる。あなたは真っ直ぐな人だ。あなたには陣営で、私と行動をとともにしてもらいたかった。あなたが私のところに来てから今日まで、あなたには何の悪いところも見つけなかったからだ。しかし、あの領主たちは、あなたを良いと思っていない。」
- 7 だから今、穏やかに帰ってくれ。ペリシテ人の領主たちが気に入らないことはしないでくれ。」
- 8 ダビデはアキシシュに言った。「私が何をしたというのですか。あなたに仕えた日から今日まで、しもべに何か過ちでも見出されたのですか。わが君、王様の敵と戦うために私が出陣できないとは。」
- 9 アキシシュはダビデに答えて言った。「私は、あなたが神の使いのように正しいということをよく知っている。だが、ペリシテ人の首長たちが『彼はわれわれと一緒に戦いに行ってはならない』と言ったのだ。」
- 10 さあ、一緒に来た自分の主君の家来たちと、明日の朝早く起きなさい。朝早く、明るくなり次第出発しなさい。」
- 11 ダビデとその部下は、翌朝早く、ペリシテ人の地へ帰って行った。ペリシテ人はイズレエルへ上って行った。

第30章

- 1 ダビデとその部下が三日目にツィクラグに帰ったとき、アマレク人はすでに、ネゲブとツィクラグを襲っていた。彼らはツィクラグを攻撃して、これを火で焼き払い、
- 2 そこにいた女たちを、子どもも大人もみな捕らえ、一人も殺さず、自分たちのところへと連れ去っていた。
- 3 ダビデとその部下が町に着いたとき、なんと、町は火で焼かれていて、彼らの妻も息子も娘も連れ去られていた。
- 4 ダビデも、彼と一緒にいた兵たちも、声をあげて泣き、ついには泣く力もなくなった。
- 5 ダビデの二人の妻、イズレエル人アヒノアムも、ナバルの妻であったカルメル人アビガイルも連れ去られていた。
- 6 ダビデは大変な苦境に立たされた。兵がみな、自分たちの息子、娘たちのことで心を悩ませ、ダビデを石で打ち殺そうと言い出したからだだった。しかし、ダビデは自分の神、主によって奮い立った。
- 7 ダビデは、アヒメレクの子、祭司エブヤタルに言った。「エポデを持って来なさい。」エブヤタルはエポデをダビデのところに持って来た。
- 8 ダビデは主に伺った。「あの略奪隊を追うべきでしょうか。追いつけるでしょうか。」すると、お答えになった。「追え。必ず追いつくことができる。必ず救い出すことができる。」
- 9 ダビデは六百人の部下とともに出て行き、ベソル川まで来た。残ることになった者は、そこにとどまった。
- 10 ダビデと四百人の者は追撃を続け、疲れきってベソル川を渡れなかった二百人の者が、そこにとどまった。
- 11 兵たちは野で一人のエジプト人を見つけ、ダビデのところに連れて来た。彼らは彼にパンをやって、食べさせ、水も飲ませた。
- 12 さらに、ひとかたまりの干しいちじくと、二房の干しぶどうをやると、そのエジプト人はそれを食べて元気を回復した。彼は三日三晩、パンも食べず、水も飲んでいなかったのである。
- 13 ダビデは彼に言った。「おまえはだれのものか。どこから来たのか。」すると答えた。「私はエジプトの若者で、アマレク人の奴隷です。私が三日前に病気になったので、主人は私を置き去りにしたのです。」
- 14 私たちは、クレタ人のネゲブと、ユダに属する地と、カレブのネゲブを襲い、ツィクラグを火で焼き払いました。」
- 15 ダビデは彼に言った。「その略奪隊のところに案内できるか。」彼は言った。「私を殺さず、主人の手に私を渡さないと、神にかけて私に誓ってください。そうすれば、あの略奪隊のところに案内いたします。」
- 16 彼はダビデを案内して行った。すると、なんと、アマレク人たちはその地いっぱいに散って食べたり飲んだりし、お祭り騒ぎをしていた。彼らがペリシテ人の地やユダの地から奪

った分捕り物が、とても多かったからである。

- 17 ダビデは、その夕暮れから次の夕方まで彼らを討った。らくだに乗って逃げた四百人の若者たちのほかは、一人も逃れることができなかった。
- 18 ダビデは、アマレクが奪い取ったものをすべて取り戻した。ダビデは、二人の妻も救い出した。
- 19 子どもも大人も、息子たちも娘たちも、分捕られた物も、彼らが奪われたものは、何一つ失われなかった。ダビデは、これらすべてを取り返した。
- 20 ダビデはまた、すべての羊と牛を奪った。兵たちは家畜の先に立って導き、「これはダビデの戦勝品だ」と言った。
- 21 ダビデは、疲れてダビデについて来ることができずにベソル川のほとりにとどまっていた二百人の者のところに来た。彼らは、ダビデと彼に従った者たちを迎えに出て来た。ダビデは、この人たちに近づいて彼らの安否を尋ねた。
- 22 ダビデと一緒にいった者たちのうち、意地の悪い、よこしまな者たちがみな、口々に言った。「彼らは一緒に行かなかったのだから、われわれが取り戻した分捕り物は、分けてやるわけにはいかない。ただ、それぞれ自分の妻と子どもを連れて行くがよい。」
- 23 ダビデは言った。「兄弟たちよ。主が私たちに下さった物を、そのようにしてはならない。主が私たちを守り、私たちを襲った略奪隊を私たちの手に渡されたのだ。」
- 24 だれが、このことについて、あなたがたの言うことを聞くだろうか。戦いに下って行った者への分け前も、荷物のそばにとどまっていた者への分け前も同じだ。ともに同じく分け合わなければならない。」
- 25 その日以来、ダビデはこれをイスラエルの掟とし、定めとした。今日もそうである。
- 26 ダビデはツィクラグに帰って来て、友人であるユダの長老たちに戦勝品の一部を送って言った。「これはあなたがたへの贈り物で、主の敵からの戦勝品の一部です。」
- 27 その送り先は、ベテルの人々、ラモテ・ネゲブの人々、ヤティルの人々、
- 28 アロエルの人々、シフモテの人々、エシュテモアの人々、
- 29 ラカルの人々、エラフメエル人の町々の人々、ケ二人の町々の人々、
- 30 ホルマの人々、ボル・アシャンの人々、アタクの人々、
- 31 ヘブロンの人々、すなわち、ダビデとその部下がさまよい歩いたすべての場所の人々であった。

第31章

- 1 さて、ペリシテ人はイスラエルと戦った。イスラエルの人々はペリシテ人の前から逃げ、ギルボア山で刺されて倒れた。
- 2 ペリシテ人はサウルとその息子たちに追い迫って、サウルの息子ヨナタン、アビナダブ、マルキ・シュアを打ち殺した。
- 3 攻撃はサウルに集中し、射手たちが彼を狙い撃ちにしたので、彼は射手たちのゆえにひどい傷を負った。
- 4 サウルは道具持ちに言った。「おまえの剣を抜いて、私を刺し殺してくれ。さもないと、あの無割礼の者たちがやって来て、私を刺し殺し、私をなぶりものにするだろう。」しかし、道具持ちは非常に恐れて、とうていその気になれなかった。それでサウルは剣を取り、その上に倒れ込んだ。
- 5 道具持ちは、サウルが死んだのを見ると、自分も剣の上に身を伏せて、サウルとともに死んだ。
- 6 こうしてその日、サウルと三人の息子、道具持ち、それに彼の部下たちはみな、ともに死んだ。
- 7 谷の向こう側とヨルダン川の向こう側にいたイスラエルの人々は、イスラエルの兵士たちが逃げ、サウルとその息子たちが死んだのを見て、町々を捨てて逃げた。それで、ペリシテ人がやって来て、そこに住んだ。
- 8 翌日、ペリシテ人が、刺し殺された者たちからはぎ取ろうとしてやって来たとき、サウルと三人の息子たちがギルボア山で倒れているのを見つけた。
- 9 彼らはサウルの首を切り、彼の武具をはぎ取った。そして、ペリシテ人の地の隅々にまで人を送り、彼らの偶像の宮と民とに告げ知らせた。
- 10 彼らはサウルの武具をアシュタロテの神殿に奉納し、彼の死体はベテ・シャンの城壁にさらした。
- 11 ヤベシュ・ギルアデの住民は、ペリシテ人がサウルに行った仕打ちを聞いた。
- 12 そこで勇士たちはみな立ち上がり、夜通し歩いて行き、サウルの死体と息子たちの死体をベテ・シャンの城壁から取り下ろし、ヤベシュに帰って来て、そこでそれらを焼いた。
- 13 彼らはその骨を取って、ヤベシュにあるタマリスクの木の下に葬り、七日間、断食した。

サムエル記下

2 Samuel

第1章

- 1 サウルが死んだとき、ダビデはアマレク人を打ち破って帰って来ていた。その後ダビデは二日間、ツィクラグにとどまっていた。
- 2 すると三日目に、見よ、一人の男がサウルのいた陣営からやって来た。衣は裂け、頭には土をかぶっていた。彼はダビデのところに来ると、地にひれ伏して礼をした。
- 3 ダビデは言った。「どこから来たのか。」彼は言った。「イスラエルの陣営から逃れて来ました。」
- 4 ダビデは彼に言った。「状況はどうか。話してくれ。」彼は言った。「兵たちは戦場から逃げ、しかも兵たちの多くの者が倒れて死にました。それに、サウルも、その子ヨナタンも死にました。」
- 5 ダビデは、報告をもたらしたその若い者に言った。「サウルとその子ヨナタンが死んだことを、どのようにして知ったのか。」
- 6 報告をもたらしたその若い者は言った。「私は、たまたまギルボア山にいましたが、見ると、サウルは自分の槍にもたれ、戦車と騎兵が押し迫っていました。」
- 7 サウルが振り返って、私を見て呼びました。私が『はい』と答えると、
- 8 私に『おまえはだれだ』と言いましたので、『私はアマレク人です』と答えますと、
- 9 『さあ、近寄って、私を殺してくれ。激しいけいれんが起きているが、息はまだ十分あるから』と言いました。
- 10 私は近寄って、あの方を殺しました。もう倒れて生き延びることができないと分かったからです。私は、頭にあった王冠と、腕に付いていた腕輪を取って、ここに、あなた様のところに持って参りました。」
- 11 ダビデは自分の衣をつかんで引き裂いた。ともにいた家来たちもみな、そのようにした。
- 12 彼らは、サウルのため、その子ヨナタンのため、また主の民のため、イスラエルの家のために悼み悲しんで泣き、夕方まで断食した。サウルらが剣に倒れたからである。
- 13 ダビデは自分に報告したその若い者に言った。「おまえはどこの者か。」彼は言った。「私はアマレク人で、寄留者の子です。」
- 14 ダビデは彼に言った。「主に油注がれた方に手を下して殺すのを恐れなかったとは、どうしたことか。」
- 15 ダビデは家来の一人を呼んで言った。「これに討ちかけ。」彼がその若い者を討ったので、若い者は死んだ。
- 16 ダビデは若い者に言った。「おまえの血は、おまえの頭上に降りかけ。おまえ自身の口で、『私は主に油注がれた方を殺した』と証言したのだから。」
- 17 ダビデは、サウルのため、その息子ヨナタンのために、次の哀歌を歌った。
- 18 これはユダの子らに弓を教えるためのもので、『ヤシャルの書』にまさしく記されている。
- 19 「イスラエルよ、君主は おまえの高き所で殺された。 ああ、勇士たちは倒れた。

- 20 これをガテに告げるな。アシュケロンの通りに告げ知らせるな。ペリシテ人の娘らを喜ばせないために。無割礼の者の娘らが喜び躍ることがないために。
- 21 ギルボアの山よ。高原の野よ。おまえたちの上に、露は降りるな。雨も降るな。そこでは勇士たちの盾が汚され、サウルの盾に油も塗られなかったからだ。
- 22 殺された者の血から、勇士たちの脂から、ヨナタンの弓は退くことがなく、サウルの剣も、空しく帰ることがなかった。
- 23 サウルもヨナタンも、愛される、立派な人だった。生きているときも死ぬときも、二人は離れることはなく、鷲よりも速く、雄獅子よりも強かった。
- 24 イスラエルの娘たちよ、サウルのために泣け。サウルは、紅の衣を華やかにおまえたちに着せ、おまえたちの装いに金の飾りを着けてくれた。
- 25 ああ、勇士たちは戦いのさなかに倒れた。ヨナタンはおまえの高き所で殺された。
- 26 あなたのために私はいたく悲しむ。私の兄弟ヨナタンよ。あなたは私を大いに喜び楽しませ、あなたの愛は、私にとって女の愛にもまさって、すばらしかった。
- 27 ああ、勇士たちは倒れた。戦いの器は失せた。」

第2章

- 1 この後、ダビデは主に伺った。「ユダの町のどれか一つへ上って行くべきでしょうか。」主は彼に「上って行け」と言われた。ダビデは、「どこに上ればよいでしょうか」と聞いた。主は「ヘブロンに」と言われた。
- 2 ダビデは、二人の妻、イズレエル人アヒノアムと、カルメル人ナバルの妻であったアビガイルと一緒に、そこに上って行った。
- 3 ダビデは、自分とともにいた人々を、その家族ごと連れて上った。彼らはヘブロン町々に住んだ。
- 4 ユダの人々がやって来て、そこでダビデに油を注ぎ、ユダの家の王とした。ヤベシュ・ギルアデの人々がサウルを葬ったことが、ダビデに知らされたとき、
- 5 ダビデはヤベシュ・ギルアデの人々に使者たちを遣わし、彼らに言った。「あなたがたが主に祝福されるように。あなたがたは、あのような真実を尽くして主君サウルを葬った。
- 6 今、主があなたがたに恵みとまことを施してくださるように。あなたがたがそのようなことをしたので、この私もあなたがたに善をもって報いよう。
- 7 今、強くあれ。勇気ある者となれ。あなたがたの主君サウルは死んだが、ユダの家は私に油を注いで、自分たちの王としたからだ。」
- 8 一方、サウルの軍の長であったネルの子アブネルは、サウルの子イシュ・ボシェテを連れてマハナイン行き、
- 9 彼をギルアデ、アッシュル人、およびイズレエル、そしてエフライムとベニヤミン、すなわち全イスラエルの王とした。
- 10 サウルの子イシュ・ボシェテは、四十歳でイスラエルの王となり、二年間、王であった。しかし、ユダの家だけはダビデに従った。
- 11 ダビデがヘブロンでユダの家の王であった期間は、七年六か月であった。
- 12 ネルの子アブネルは、サウルの子イシュ・ボシェテの家来たちと一緒にマハナインを出て、ギブオンへ向かった。
- 13 一方、ツェルヤの子ヨアブも、ダビデの家来たちと一緒に出て行った。こうして彼らはギブオンの池のそばで出会った。一方は池の手前側に、もう一方は池の向こう側にとどまった。
- 14 アブネルはヨアブに言った。「さあ、若い者たちを出し、われわれの前で闘技をさせよう。」ヨアブは言った。「よし、そうしよう。」
- 15 ベニヤミンの側、すなわちサウルの子イシュ・ボシェテの側から十二人、ダビデの家来たちから十二人が順番に出て行った。
- 16 彼らは互いに相手の頭をつかみ、相手の脇腹に剣を刺し、一つになって倒れた。それで、その場所はヘルカテ・ハ・ツリムと呼ばれた。それはギブオンにある。
- 17 その日、戦いは激しさを極め、アブネルとイスラエルの兵士たちは、ダビデの家来たちに打ち負かされた。

- 18 そこに、ツェルヤの三人の息子、ヨアブ、アビシャイ、アサエルがいた。アサエルは野のかもしかのように、足が速かった。
- 19 アサエルはアブネルの後を追った。右にも左にもそれずに、アブネルを追った。
- 20 アブネルは振り向いて言った。「おまえはアサエルか。」彼は答えた。「そうだ。」
- 21 アブネルは彼に言った。「右か左にそれ、若い者の一人を捕らえ、その者からはぎ取れ。」しかしアサエルは、アブネルを追うのをやめず、ほかへ行こうとしなかった。
- 22 アブネルはもう一度アサエルに言った。「私を追うのはやめ、ほかへ行け。なぜ、私がおまえを地に打ち倒さなければならないのか。どうやって、おまえの兄ヨアブに顔向けができるというのか。」
- 23 アサエルはなおも拒んで、ほかへ行こうとしなかった。それでアブネルは、槍の石突きで彼の下腹を突いた。槍はアサエルを突き抜けた。アサエルはその場に倒れて、そこで死んだ。アサエルが倒れて死んだ場所に来た者はみな、立ち止まった。
- 24 しかしヨアブとアビシャイは、アブネルの後を追った。太陽が沈んだとき、彼ら二人はギブオン¹の荒野への道を通り、ギアハ²の反対側にあるアンマの丘までやって来た。
- 25 ベニヤミン人はアブネルに従って集まり、一団となって、一つの丘の頂に立った。
- 26 アブネルはヨアブに呼びかけて言った。「いつまでも剣が人を食い尽くしてよいものか。その果ては、ひどいことになるのを知らないのか。いつになったら、兵たちに、自分の兄弟たちを追うのをやめて帰れ、と命じるつもりか。」
- 27 ヨアブは言った。「神は生きておられる。もし、おまえが言い出さなかったなら、確かに兵たちは、明日の朝まで、それぞれ自分の兄弟たちを追うのをやめなかっただろう。」
- 28 ヨアブは角笛を吹いた。それで兵たちはみな立ち止まり、それ以上イスラエルの後を追わず、戦いを続けることはなかった。
- 29 アブネルとその部下たちは、一晩中アラバを通して行った。そしてヨルダン川を渡り、午前中歩き続けてマハナイン³に着いた。
- 30 一方、ヨアブはアブネルを追うのをやめて帰った。兵たちを全部集めてみると、ダビデの家来十九人とアサエルがいなかった。
- 31 ダビデの家来たちは、アブネルの部下であるベニヤミン人のうち三百六十人を討ち取っていた。
- 32 彼らはアサエルを運んで、ベツレヘムにある彼の父の墓に葬った。ヨアブとその部下たちは一晩中歩いて、夜明けごろヘブロンに着いた。

第3章

- 1 サウルの家とダビデの家の間には、長く戦いが続いた。ダビデはますます強くなり、サウルの家はますます弱くなった。
- 2 ダビデにはヘブロンで子が生まれた。長子はイズレエル人アヒノアムによるアムノン。
- 3 次男はカルメル人ナバルの妻であったアビガイルによるキルアブ。三男はゲシュルの王タルマイの娘マアカの子アブサロム。
- 4 四男はハギテの子アドニヤ。五男はアビタルの子シェファテヤ。
- 5 六男はダビデの妻エグラによるイテレアム。これらの子がヘブロンでダビデに生まれた。
- 6 サウルの家とダビデの家が戦っている間に、アブネルがサウルの家で勢力を増していた。
- 7 サウルには、アヤの娘で、名をリツパという側女がいた。イシュ・ボシェテはアブネルに言った。「あなたはなぜ、私の父の側女と通じたのか。」
- 8 アブネルはイシュ・ボシェテのことは聞くと、激しく怒って言った。「この私がユダの犬のかしらだとも言うのか。今日、私はあなたの父サウルの家と、その兄弟と友人たちに真実を尽くして、あなたをダビデの手に渡さないでいる。それなのに今日、あなたは、あの女のことで私をとがめるのか。」
- 9 主がダビデに誓われたとおりのことを、もし私がダビデのために果たさなかったなら、神がこのアブネルを幾重にも罰せられるように。
- 10 それは、サウルの家から王位を移し、ダビデの王座を、ダンからベエル・シェバに至るイスラエルとユダの上に堅く立てるということだ。」
- 11 イシュ・ボシェテはアブネルを恐れていたので、彼に、もはや一言も返すことができなかった。
- 12 アブネルはダビデのところに使者を遣わして言った。「この国はだれのものでしょうか。私と契約を結んでください。ご覧ください。私は全イスラエルをあなたに移すのに協力します。」
- 13 ダビデは言った。「よろしい。あなたと契約を結ぼう。しかし、条件が一つある。それは、あなたが私に会いに来るときは、まずサウルの娘ミカルを連れて来ること、そうでなければ私に会えないということだ。」
- 14 ダビデはサウルの子イシュ・ボシェテに使者を遣わして言った。「私がペリシテ人の陽の皮百をもってめとった、私の妻ミカルを返していただきたい。」
- 15 イシュ・ボシェテは人を遣わして、彼女をその夫、ライシュの子パルティエルから取り返した。
- 16 彼女の夫は泣きながら彼女の後を追ってバフリムまで来たが、アブネルが「行け。帰れ」と言ったので、彼は帰った。
- 17 アブネルはイスラエルの長老たちと話してこう言った。「あなたがたは、かねてから、ダビデを自分たちの王とすることを願っていた。
- 18 今、それをしなさい。主がダビデについて、『わたしのしもべダビデの手によって、わたしはわたしの民イスラエルをペリシテ人の手、およびすべての敵の手から救う』と言われ

たからだ。」

- 19 アブネルはまた、ベニヤミン人とじかに話し合った。それから、アブネルはまた、ヘブロンにいるダビデのところへ行き、イスラエルとベニヤミンの家全体が良いと思っていることを、すべて彼の耳に入れた。
- 20 アブネルは二十人の部下とともにヘブロンのダビデのもとに来た。ダビデはアブネルとその部下のために祝宴を張った。
- 21 アブネルはダビデに言った。「私は、全イスラエルをわが主、王のもとに集めに出かけます。彼らがあなたと契約を結び、あなたが、お望みどおりに王として治められるようにいたしましょう。」ダビデはアブネルを送り出し、アブネルは安心して出て行った。
- 22 ちょうどそこへ、ダビデの家来たちとヨアブが略奪から帰り、たくさんの分捕り物を持って来た。しかし、アブネルはヘブロンのダビデのもとにはいなかった。ダビデがアブネルを送り出し、もう安心して出て行っていったからである。
- 23 ヨアブと、彼とともにいた軍勢がみな帰って来たとき、「ネルの子アブネルが王のところに来たが、王がアブネルを送り出したので、彼は安心して出て行った」とヨアブに知らせる者があった。
- 24 ヨアブは王のところに来て言った。「何ということなされたのですか。ご覧ください。アブネルがあなたのところに来たのです。なぜ、彼を送り出して、出て行くままにされたのですか。」
- 25 あなたはネルの子アブネルのことをご存じのはずです。彼はあなたを惑わし、あなたの動静を探り、あなたのなさることを残らず知るために来たのです。」
- 26 ヨアブはダビデのもとを出てから使者を遣わし、アブネルの後を追わせ、彼をシラの井戸から連れ戻させた。しかし、ダビデはそのことを知らなかった。
- 27 アブネルはヘブロンに戻った。ヨアブは彼とひそかに話そうと、彼を門の内側に連れ込み、そこで彼の下腹を刺した。こうして、アブネルは、彼がヨアブの弟アサエルの血を流したことのゆえに死んだ。
- 28 後になって、ダビデはそのことを聞いて言った。「ネルの子アブネルの血については、私も私の王国も、主の前にとこしえまで潔白である。」
- 29 その血は、ヨアブの頭と彼の父の家の全員に降りかかるように。またヨアブの家には、漏出を病む者、皮膚をツアラアトに冒される者、糸巻きをつかむ者、剣で倒れる者、食に飢える者が絶えないように。」
- 30 ヨアブとその兄弟アビシャイがアブネルを殺したのは、アブネルが彼らの弟アサエルをギブオンでの戦いで殺したからであった。
- 31 ダビデは、ヨアブと彼とともにいたすべての兵に言った。「あなたがたの衣を引き裂き、粗布をまとい、アブネルの前で悼み悲しみなさい。」そして、ダビデ王は棺の後について行った。
- 32 彼らはアブネルをヘブロンに葬った。王はアブネルの墓で声をあげて泣き、民もみな泣いた。
- 33 王はアブネルのために哀歌を歌った。「愚か者が死ぬように、アブネルは死ななければならなかったのか。」

- 34** あなたの手足は縛られず、かせにもつながれずに。不正な者の前に倒れるように、あなたは倒れてしまったのか。」民はみな、さらに続けて彼のために泣いた。
- 35** 民はみな、まだ日のあるうちにダビデに食事をとらせようとしてやって来たが、ダビデはこう誓った。「もし私が、日の沈む前に、パンでもほかの何でも口にすることがあれば、神がこの私を幾重にも罰せられますように。」
- 36** 民はみな、そのことを認めて、それで良いと思った。王のしたことはすべて、民を満足させた。
- 37** 民はみな、そして全イスラエルは、その日、ネルの子アブネルを殺したのは、王から出たことではないことを知った。
- 38** 王は自分の家来たちに言った。「今日、イスラエルで一人の偉大な軍の将が倒れたのを知らないのか。
- 39** この私は油注がれた王であるが、今日の私は無力だ。ツェルヤの子であるこれらの者たちは、私にとっては手ごわすぎる。主が、悪を行う者に、その悪にしたがって報いてくださるように。」

第4章

- 1 サウルの子イシュ・ボシェテは、アブネルがヘブロンで死んだことを聞いて、氣力を失った。全イスラエルもおじ惑った。
- 2 サウルの子イシュ・ボシェテのもとに、二人の略奪隊の隊長がいた。一人の名はバアナ、もう一人の名はレカブといって、二人ともベニヤミン族のベエロテ人リンモンの息子であった。ベエロテもベニヤミンに属すると見なされていたのである。
- 3 ベエロテ人はギタイムに逃げて、そこで寄留者となった。今日もそうである。
- 4 さて、サウルの子ヨナタンに、足の不自由な息子が一人いた。その子が五歳のときのこと、サウルとヨナタンの悲報がイズレエルからもたらされ、彼の乳母は彼を抱いて逃げた。そのとき、あまりに急いで逃げたので、彼を落としてしまった。そのために足の萎えた者になったのであった。彼の名はメフィボシェテといった。
- 5 さて、ベエロテ人リンモンの子のレカブとバアナが、日盛りのころ、イシュ・ボシェテの家にやって来た。そのとき、イシュ・ボシェテは昼寝をしていた。
- 6 彼らはやって来て、小麦を扱う者として家の中まで入り込み、彼の下腹を突いた。レカブとその兄弟バアナは逃げた。
- 7 すなわち、彼らが家に入ったとき、イシュ・ボシェテが寝室の寝床で寝ていたので、彼らは彼を突き殺して首をはねた。彼らはその首を持って、一晩中アラバへの道を歩いて行った。
- 8 彼らはイシュ・ボシェテの首をヘブロンのだビデのもとに持って来て、王に言った。「ご覧ください。これは、あなたのいのちを狙っていたあなたの敵、サウルの子イシュ・ボシェテの首です。主は今日、わが主、王のために、サウルとその子孫に復讐されたのです。」
- 9 ダビデは、ベエロテ人リンモンの子レカブとその兄弟バアナに答えて言った。「主は生きておられる。主は私のたましいを、あらゆる苦難から贖い出してくださった。
- 10 かつて私に『ご覧ください。サウルは死にました』と告げて、自分では良い知らせをもたらしたつもりでいた者を、私は捕らえて、ツィクラグで殺した。それが、その良い知らせへの報いであった。
- 11 まして、この悪者どもが、一人の正しい人を家の中で、しかも寝床の上で殺したとなれば、私は今、彼の血の責任をおまえたちに問い、この地からおまえたちを除き去らずにいられようか。」
- 12 ダビデが命じたので、若い者たちは彼らを殺し、手足を切り離した。そしてヘブロンの池のほとりで木につるした。しかし、イシュ・ボシェテの首は、ヘブロンにあるアブネルの墓に持って行って葬った。

第5章

- 1 イスラエルの全部族は、ヘブロンのだビデのもとに来てこう言った。「ご覧ください。私たちはあなたの骨肉です。」
- 2 これまで、サウルが私たちの王であったときでさえ、イスラエルを動かしていたのはあなたでした。主はあなたに言われました。『あなたがわたしの民イスラエルを牧し、あなたがイスラエルの君主となる』と。」
- 3 イスラエルの全長老はヘブロンの方のもとに来た。だビデ王はヘブロンで、主の御前に彼らと契約を結び、彼らはだビデに油を注いでイスラエルの王とした。
- 4 だビデは三十歳で王となり、四十年間、王であった。
- 5 ヘブロンで七年六か月ユダを治め、エルサレムで三十三年イスラエルとユダの全体を治めた。
- 6 王とその部下は、エルサレムに、その地の住民エブス人のところに行った。すると彼らはだビデに言った。「おまえは、ここに攻めて来ることなどできない。目の見えない者どもや足の萎えた者どもでさえも、おまえを追い出せる。」彼らは「だビデがここに攻めて来ることはできない」と考えていたのである。
- 7 しかし、だビデはシオンの要害を攻め取った。これがだビデの町である。
- 8 その日だビデは、「だれでもエブス人を討とうとする者は、水汲みの地下道を通して、だビデの心が憎む『足の萎えた者どもや目の見えない者ども』を討て」と言った。それで、「目の見えない者や足の萎えた者は王宮に入ってはならない」と言われるようになった。
- 9 だビデはこの要害に住み、これを「だビデの町」と呼んだ。だビデはその周りに城壁を、ミロから一周するまで築いた。
- 10 だビデはますます大いなる者となり、万軍の神、主が彼とともにおられた。
- 11 ツロの王ヒラムは、だビデのもとに使者と、杉材、木工、石工を送った。彼らはだビデのために王宮を建てた。
- 12 だビデは、主が自分をイスラエルの王として堅く立て、主の民イスラエルのために、自分の王国を高めてくださったことを知った。
- 13 だビデは、ヘブロンから来た後、エルサレムで、さらに側女たちと妻たちを迎えた。だビデにはさらに息子たち、娘たちが生まれた。
- 14 エルサレムで彼に生まれた子の名は次のとおり。シャムア、ショバブ、ナタン、ソロモン、
- 15 イブハル、エリシュア、ネフェグ、ヤフィア、
- 16 エリシャマ、エルヤダ、エリフェレテ。
- 17 ペリシテ人は、だビデが油注がれてイスラエルの王となったことを聞いた。ペリシテ人はみな、だビデを狙って攻め上って来た。だビデはそれを聞き、要害に下って行った。
- 18 一方、ペリシテ人はやって来て、レファイムの谷間を侵略した。
- 19 だビデは主に伺った。「ペリシテ人のところに攻め上るべきでしょうか。彼らを私の手に渡してくださるでしょうか。」主はだビデに言われた。「攻め上れ。わたしは必ず、ペリ

シテ人をあなたの手に渡すから。」

- 20** ダビデはバアル・ペラツィムにやって来た。ダビデはそこで彼らを討って、「主は、水が破れ出るように、私の前で私の敵を破られた」と言った。それゆえ、その場所の名はバアル・ペラツィムと呼ばれた。
- 21** 彼らはそこに自分たちの偶像を置き去りにした。そこでダビデとその部下はそれらを運び去った。
- 22** ペリシテ人は、またも攻め上り、レファイムの谷間を侵略した。
- 23** ダビデが主に伺うと、主は言われた。「上って行くな。彼らのうしろに回り込み、バルサム樹の茂みの前から彼らに向かえ。
- 24** バルサム樹の茂みの上で行進の音が聞こえたら、そのとき、あなたは攻め上れ。そのとき主はすでに、ペリシテ人の陣営を討つために、あなたより先に出ているからだ。」
- 25** ダビデは主が彼に命じられたとおりにし、ゲバからゲゼルに至るまでのペリシテ人を討った。

第6章

- 1 ダビデは再びイスラエルの精鋭三万をことごとく集めた。
- 2 ダビデはユダのバアラから神の箱を運び上げようとして、自分とともにいたすべての兵と一緒に出かけた。神の箱は、ケルビムの上に座しておられる万軍の主の名でその名を呼ばれている。
- 3 彼らは、神の箱を新しい荷車に載せて、それを丘の上にあるアビナダブの家から移した。アビナダブの子、ウザとアフヨがその新しい荷車を御した。
- 4 それを、丘の上にあるアビナダブの家から神の箱とともに移したとき、アフヨは箱の前を歩いていた。
- 5 ダビデとイスラエルの全家は、豎琴、琴、タンバリン、カスタネット、シンバルを鳴らし、主の前で、すべての杉の木の枝をもって、喜び踊った。
- 6 彼らがナコンの打ち場まで来たとき、ウザは神の箱に手を伸ばして、それをつかんだ。牛がよろめいたからである。
- 7 すると、主の怒りがウザに向かって燃え上がり、神はその過ちのために、彼をその場で打たれた。彼はそこで、神の箱の傍らで死んだ。
- 8 ダビデの心は激した。主がウザに対して怒りを発せられたからである。その場所は今日までペレツ・ウザと呼ばれている。
- 9 その日、ダビデは主を恐れて言った。「どうして、主の箱を私のところにお迎えできるだろうか。」
- 10 ダビデは主の箱を自分のところ、ダビデの町に移したくなかった。そこでダビデは、ガテ人オベデ・エドムの家にそれを回した。
- 11 主の箱はガテ人オベデ・エドムの家に三か月とどまった。主はオベデ・エドムと彼の全家を祝福された。
- 12 「主が神の箱のことで、オベデ・エドムの家と彼に属するすべてのものを祝福された」という知らせがダビデ王にあった。ダビデは行って、喜びをもって神の箱をオベデ・エドムの家からダビデの町へ運び上げた。
- 13 主の箱を担ぐ者たちが六歩進んだとき、ダビデは、肥えた牛をいけにえとして献げた。
- 14 ダビデは、主の前で力の限り跳ね回った。ダビデは亜麻布のエボデをまとっていた。
- 15 ダビデとイスラエルの全家は、歓声をあげ、角笛を鳴らして、主の箱を運び上げた。
- 16 主の箱がダビデの町に入ろうとしていたとき、サウルの娘ミカルは窓から見下ろしていた。彼女はダビデ王が主の前で跳ねたり踊ったりしているのを見て、心の中で彼を蔑んだ。
- 17 人々は主の箱を運び込んで、ダビデがそのために張った天幕の真ん中の定められた場所にそれを置いた。ダビデは主の前に、全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げた。
- 18 ダビデは全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げ終えて、万軍の主の御名によって民を祝福した。

- 19** そしてすべての民、イスラエルのすべての群衆に、男にも女にも、それぞれ、輪形パン一つ、なつめ椰子の菓子一つ、干しぶどうの菓子一つを分け与えた。民はみな、それぞれ自分の家に帰った。
- 20** ダビデが自分の家族を祝福しようと戻ると、サウルの娘ミカルがダビデを迎えに出て来て言った。「イスラエルの王は、今日、本当に威厳がございましたね。ごろつきが恥ずかしげもなく裸になるように、今日、あなたは自分の家来の女奴隷の目の前で裸になられて。」
- 21** ダビデはミカルに言った。「あなたの父よりも、その全家よりも、むしろ私を選んで、主の民イスラエルの君主に任じられた主の前だ。私はその主の前で喜び踊るのだ。
- 22** 私はこれより、もっと卑しめられ、自分の目に卑しくなるだろう。しかし、あなたの言う、その女奴隷たちに敬われるのだ。」
- 23** サウルの娘ミカルには、死ぬまで子がなかった。

第7章

- 1 王が自分の家に住んでいた時のことである。主は、周囲のすべての敵から彼を守り、安息を与えておられた。
- 2 王は預言者ナタンに言った。「見なさい。この私が杉材の家に住んでいるのに、神の箱は天幕の中に宿っている。」
- 3 ナタンは王に言った。「さあ、あなたの心にあることをみな行いなさい。主があなたとともにおられるのですから。」
- 4 その夜のことである。次のような主のことばがナタンにあった。
- 5 「行って、わたしのしもベダビデに言え。『主はこう言われる。あなたがわたしのために、わたしの住む家を建てようというのか。』
- 6 わたしは、エジプトからイスラエルの子らを連れ上った日から今日まで、家に住んだことはなく、天幕、幕屋にいて、歩んできたのだ。
- 7 わたしがイスラエルの子らのすべてと歩んだところどこでも、わたしが、わたしの民イスラエルを牧せよと命じたイスラエル部族の一つにでも、「なぜ、あなたがたはわたしのために杉材の家を建てなかったのか」と、一度でも言ったことがあっただろうか。』
- 8 今、わたしのしもベダビデにこう言え。『万軍の主はこう言われる。わたしはあなたを、羊の番をしていた牧場から取り、わが民イスラエルの君主とした。
- 9 そして、あなたがどこに行っても、あなたとともにいて、あなたの前であなたのすべての敵を絶ち滅ぼした。わたしは地の大いなる者たちの名に等しい、大いなる名をあなたに与えてきた。
- 10 わが民イスラエルのために、わたしは一つの場所を定め、民を住まわせてきた。それは、民がそこに住み、もはや恐れおののくことのないように、不正な者たちも、初めのころのように、重ねて民を苦しめることのないようにするためであった。
- 11 それは、わたしが、わが民イスラエルの上にさばきつかさを任命して以来のことである。こうして、わたしはあなたにすべての敵からの安息を与えたのである。主はあなたに告げる。主があなたのために一つの家を造る、と。
- 12 あなたの日数が満ち、あなたが先祖とともに眠りにつくとき、わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子をあなたの後に起こし、彼の王国を確立させる。
- 13 彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしは彼の王国の王座をとこしえまでも堅く立てる。
- 14 わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。彼が不義を行ったときは、わたしは人の杖、人の子のむちをもって彼を懲らしめる。
- 15 しかしわたしの恵みは、わたしが、あなたの前から取り除いたサウルからそれを取り去ったように、彼から取り去られることはない。
- 16 あなたの家とあなたの王国は、あなたの前にとこしえまでも確かなものとなり、あなたの王座はとこしえまでも堅く立つ。』」
- 17 ナタンはこれらすべてのことばを、この幻のすべてを、そのままダビデに告げた。

- 18 ダビデ王は主の前に出て、座して言った。「神、主よ、私は何者でしょうか。私の家はいったい何なののでしょうか。あなたが私をここまで導いてくださったとは。
- 19 神、主よ。このことがなお、あなたの御目には小さなことでしたのに、あなたはこのしもべの家にも、はるか先のことまで告げてくださいました。神、主よ、これが人に対するみおしえなののでしょうか。
- 20 ダビデはこの上、何を加えて、あなたに申し上げることができるでしょうか。神である主よ、あなたはこのしもべをよくご存じです。
- 21 あなたは、ご自分のみことばのゆえに、そしてみこころのままに、この大いなることのすべてを行い、あなたのしもべに知らせてくださいました。
- 22 それゆえ、申し上げます。神、主よ、あなたは大いなる方です。まことに、私たちが耳にするすべてにおいて、あなたのような方はほかになく、あなたのほかに神はいません。
- 23 また、地上のどの国民があなたの民イスラエルのでしょうか。御使いたちが行って、その民を御民として贖い、御名を置き、大いなる恐るべきことをあなたの国のために、あなたの民の前で彼らのために行われました。あなたは、彼らをご自分のためにエジプトから、異邦の民とその神々から贖い出されたのです。
- 24 そして、あなたの民イスラエルを、ご自分のために、とこしえまでもあなたの民として立てられました。主よ、あなたは彼らの神となりました。
- 25 今、神である主よ。あなたが、このしもべとその家についてお語りになったことばを、とこしえまでも保ち、お語りになったとおりに行ってください。
- 26 こうして、あなたの御名がとこしえまでも大いなるものとなり、『万軍の主はイスラエルを治める神』と言われるように。あなたのしもべダビデの家が御前に堅く立ちますように。
- 27 イスラエルの神、万軍の主よ。あなたはこのしもべの耳を開き、『わたしがあなたのために一つの家を建てる』と言われました。それゆえ、このしもべは、この祈りをあなたに祈る勇気を得たのです。
- 28 今、神、主よ、あなたこそ神です。あなたのおことばは、まことです。あなたはこのしもべに、この良いことを約束してくださいました。
- 29 今、どうか、あなたのしもべの家を祝福して、御前にとこしえに続くようにしてください。神である主よ、あなたがお語りになったからです。あなたの祝福によって、あなたのしもべの家がとこしえに祝福されますように。」

第8章

- 1 その後のことである。ダビデはペリシテ人を討って、これを屈服させた。ダビデはメテグ・ハ・アンマをペリシテ人の手から奪い取った。
- 2 彼はモアブを打ち、彼らを地面に伏させ、測り縄で彼らを測った。縄二本で測った者を殺し、縄一本で測った者を生かしておいた。モアブはダビデのしもべとなり、貢ぎ物を納める者となった。
- 3 ツォバの王、レホブの子ハダドエゼルが、ユーフラテス川流域にその勢力を回復しようとして出て行ったとき、ダビデは彼を討った。
- 4 ダビデは、彼から騎兵千七百、歩兵二万を取った。ダビデは、そのすべての戦車の馬の足の筋を切った。ただし、そのうち戦車百台分の馬は残した。
- 5 ダマスコのアラムがツォバの王ハダドエゼルの助けに来たが、ダビデはアラムの二万二千人を討った。
- 6 ダビデはダマスコのアラムに守備隊を置いた。アラムはダビデのしもべとなり、貢ぎ物を納める者となった。主は、ダビデの行く先々で、彼に勝利を与えられた。
- 7 ダビデは、ハダドエゼルの家来たちが持っていた金の丸い小盾を奪い取り、エルサレムに持ち帰った。
- 8 またダビデ王は、ハダドエゼルの町ベタフとペロタイから、非常に多くの青銅を奪い取った。
- 9 ハマテの王トイは、ダビデがハダドエゼルの全軍勢を打ち破ったことを聞いた。
- 10 トイは、息子ヨラムをダビデ王のもとに遣わし、安否を尋ね、ダビデがハダドエゼルと戦ってこれを打ち破ったことについて、祝福のことばを述べた。ハダドエゼルがトイにしばしば戦いを挑んでいたからである。ヨラムは銀の器、金の器、青銅の器を携えていた。
- 11 ダビデ王は、それらもまた、主のために聖別した。彼が征服したすべての国々から取って聖別した銀や金、
- 12 すなわち、アラム、モアブ、アンモン人、ペリシテ人、アマレクから取った物、およびツォバの王、レホブの子ハダドエゼルからの分捕り物と同様にした。
- 13 ダビデが塩の谷でアラム人一万八千人を討って帰って来たとき、彼は名をあげた。
- 14 彼はエドムに守備隊を、エドム全土に守備隊を置いた。こうして、全エドムはダビデのしもべとなった。主は、ダビデの行く先々で、彼に勝利を与えられた。
- 15 ダビデは全イスラエルを治めた。ダビデはその民のすべてにさばきと正義を行った。
- 16 ツェルヤの子ヨアブは軍団長、アヒルデの子ヨシャファテは史官、
- 17 アヒトブの子ツァドクとエブヤタルの子アヒメレクは祭司、セラヤは書記、
- 18 エホヤダの子ベナヤはクレタ人とペレテ人の上に立つ者、ダビデの息子たちは祭司であった。

第9章

- 1 ダビデは言った。「サウルの家のもで、まだ生き残っている人はいないか。私はヨナタンのゆえに、その人に真実を尽くしたい。」
- 2 サウルの家にツィバという名のしもべがいて、ダビデのところへ呼び出された。王は彼に言った。「あなたがツィバか。」彼は言った。「はい、あなた様のしもべです。」
- 3 王は言った。「サウルの家のもで、まだ、だれかいないか。私はその人に神の恵みを施そう。」ツィバは王に言った。「まだ、ヨナタンの息子で足の不自由な方がおられます。」
- 4 王は彼に言った。「その人は、どこにいるのか。」ツィバは王に言った。「お聞きください。ロ・デバルのアンミエルの子マキルの家におられます。」
- 5 ダビデ王は人を送って、ロ・デバルのアンミエルの子マキルの家から彼を連れて来させた。
- 6 サウルの子ヨナタンの子メフィボシェテは、ダビデのところへ来て、ひれ伏して礼をした。ダビデは言った。「メフィボシェテか。」彼は言った。「はい、あなた様のしもべです。」
- 7 ダビデは言った。「恐れることはない。私は、あなたの父ヨナタンのゆえに、あなたに恵みを施そう。あなたの祖父サウルの地所をすべてあなたに返そう。あなたはいつも私の食卓で食事をするようになる。」
- 8 彼は礼をして言った。「いったい、このしもべは何なのでしょう。あなた様が、この死んだ犬のような私を顧みてくださるとは。」
- 9 王はサウルのしもべツィバを呼び寄せて言った。「サウルと、その一家の所有になっていた物をみな、私はあなたの主人の息子に与えた。」
- 10 あなたも、あなたの息子たちも、あなたの召使いたちも、彼のために土地を耕し、作物を持って来て、それがあなたの主人の息子のパン、また食物となる。あなたの主人の息子メフィボシェテは、いつも私の食卓で食事をするようになる。」ツィバには息子が十五人と召使いが二十人いた。
- 11 ツィバは王に言った。「わが主、王がこのしもべに申しつけられたとおりに、このしもべはいたします。」メフィボシェテは王の息子たちの一人のように、王の食卓で食事をするようになった。
- 12 メフィボシェテには、ミカという名の小さな子がいた。ツィバの家に住む者はみな、メフィボシェテのしもべとなった。
- 13 メフィボシェテはエルサレムに住み、いつも王の食卓で食事をした。彼は両足がともに萎えていた。

第10章

- 1 この後、アンモン人の王が死に、その子ハヌンが代わって王となった。
- 2 ダビデは、「ナハシュの子ハヌンに真実を尽くそう。彼の父が私に真実を尽くしてくれたように」と言った。そして家来たちを通して彼の父の悔やみを言うために、ダビデは彼らを遣わした。ダビデの家来たちがアンモン人の地に着いたとき、
- 3 アンモン人の首長たちは、主君ハヌンに言った。「ダビデがあなたのもとにお悔やみの使者を遣わしたからといって、彼が父君を敬っているとお考えですか。この町を調べ、探り、くつがえすために、ダビデはあなたのところに家来を遣わしたのではないでしょうか。」
- 4 そこでハヌンはダビデの家来たちを捕らえ、ひげを半分剃り落とし、衣を半分に切って尻のあたりまでにして送り返した。
- 5 ダビデにこのことが告げられたので、ダビデは彼らを迎えに人を遣わした。この人たちが非常に恥じていたからである。王は言った。「ひげが伸びるまでエリコにとどまり、それから帰って来なさい。」
- 6 アンモン人は、自分たちがダビデに憎まれるようになったのを見てとった。そこでアンモン人は人を遣わして、ベテ・レホブのアラム人とツォバのアラム人の歩兵二万、マアカの王の兵士一千、トブの兵士一万二千を雇った。
- 7 ダビデはこれを聞き、ヨアブと勇士たちの全軍を送った。
- 8 アンモン人は出て来て、門の入り口で戦いの備えをした。ツォバとレホブのアラム人、およびトブとマアカの人たちは、彼らだけで野にいた。
- 9 ヨアブは、自分の前とうしろに戦いの前線があるのを見て、イスラエルの精鋭全員からさらに兵を選び、アラム人に立ち向かう陣備えをし、
- 10 残りの兵を兄弟アビシャイの手に託して、アンモン人に立ち向かう陣備えをした。
- 11 ヨアブは言った。「もしアラム人が私より強かったら、あなたが私を救ってくれ。もしアンモン人があなたより強かったら、私があなたを救いに行こう。
- 12 強くあれ。われわれの民のため、われわれの神の町々のために、奮い立とう。主が、御目にかなうことをされるのだ。」
- 13 ヨアブと彼とともにいた兵たちがアラム人と戦おうとして近づいたとき、アラム人は彼の前から逃げた。
- 14 アンモン人はアラム人が逃げるのを見ると、アビシャイの前から逃げて町に入った。そこでヨアブはアンモン人を討つのをやめて、エルサレムに帰った。
- 15 アラム人は、自分たちがイスラエルに打ち負かされたのを見て、集結した。
- 16 ハダドエゼルは人を遣わして、ユーフラテス川の向こうのアラム人に出て来させた。彼らは、ヘラムにやって来た。ハダドエゼルの軍の長ショバクが彼らを率いていた。
- 17 このことが報告されると、ダビデはイスラエル全軍を集結させ、ヨルダン川を渡って、ヘラムへ進んだ。アラム人はダビデと対決する備えをし、彼と戦った。

- 18** アラム人はイスラエルの前から逃げた。ダビデはアラムの戦車兵七百と騎兵四万を殺し、軍の長ショバクも討ったので、彼はそこで死んだ。
- 19** ハダドエゼルに仕えていた王たちはみな、彼らがイスラエルに打ち負かされたのを見て、イスラエルと和を講じ、イスラエルに仕えるようになった。アラム人は恐れて、再びアンモン人を助けようとはしなかった。

第11章

- 1 年が改まり、王たちが出陣する時期になった。ダビデは、ヨアブと自分の家来たちとイスラエル全軍を送った。彼らはアンモン人を打ち負かし、ラバを包囲した。しかし、ダビデはエルサレムにとどまっていた。
- 2 ある夕暮れ時、ダビデが床から起き上がり、王宮の屋上を歩いていると、一人の女が、からだを洗っているのが屋上から見えた。その女は非常に美しかった。
- 3 ダビデは人を送ってその女について調べさせたところ、「あれはヒッタイト人ウリヤの妻で、エリアムの娘バテ・シェバです」との報告を受けた。
- 4 ダビデは使いの者を送って、その女を召し入れた。彼女が彼のところに来たので、彼は彼女と寝た―彼女は月のものの汚れから身を聖別していた―それから彼女は自分の家に帰った。
- 5 女は身ごもった。それで彼女はダビデに人を送って告げた。「私は子を宿しました。」
- 6 ダビデはヨアブのところに人を遣わして、「ヒッタイト人ウリヤを私のところに送れ」と言った。ヨアブはウリヤをダビデのところに送った。
- 7 ウリヤがやって来ると、ダビデは、ヨアブは無事でいるか、また兵たちは無事か、さらに戦いはうまくいっているかと尋ねた。
- 8 ダビデはウリヤに言った。「家に帰って、足を洗いなさい。」ウリヤが王宮から出て行くと、王からの贈り物が彼の後に続いた。
- 9 しかしウリヤは、王宮の門のあたりで、自分の主君の家来たちみなと一緒に眠り、自分の家に帰らなかった。
- 10 ダビデに「ウリヤは自分の家に帰らなかった」という知らせがあった。ダビデはウリヤに言った。「あなたは遠征して来たのではないか。なぜ、自分の家に帰らなかったのか。」
- 11 ウリヤはダビデに言った。「神の箱も、イスラエルも、ユダも仮庵に住み、私の主人ヨアブも、私の主人の家来たちも戦場で野営しています。それなのに、私が家に帰り、食べたり飲んだりして、妻と寝るということができるでしょうか。あなたの前に、あなたのたましいの前に誓います。私は決してそのようなことをいたしません。」
- 12 ダビデはウリヤに言った。「今日もここにとどまるがよい。明日になったら、あなたを送り出そう。」ウリヤはその日と翌日、エルサレムにとどまることになった。
- 13 ダビデは彼を招いた。彼はダビデの前で食べて飲んだ。ダビデは彼を酔わせた。夕方、ウリヤは出て行って、自分の主君の家来たちと一緒に自分の寝床で寝た。しかし、自分の家には下って行かなかった。
- 14 朝になって、ダビデはヨアブに手紙を書き、それをウリヤに託して送った。
- 15 彼は、その手紙に次のように書いた。「ウリヤを激戦の真っ正面に出し、彼を残してあなたがたは退き、彼が討たれて死ぬようにせよ。」
- 16 ヨアブは町を見張っていて、その町の力ある者たちがいると分かっている場所に、ウリヤを配置した。

- 17 その町の者が出て来てヨアブと戦った。兵のうちダビデの家来たちが倒れ、ヒッタイト人ウリヤも死んだ。
- 18 ヨアブは人を遣わして、戦いの一部始終をダビデに報告した。
- 19 そのとき、ヨアブは使者に命じて言った。「戦いの一部始終を王に報告し終えたとき、
- 20 もし王が憤って、おまえに、『どうして、おまえたちはそんなに町に近づいて戦ったのか。城壁の上から彼らが射かけてくるのを知らなかったのか。』
- 21 エルベシェテの子アビメレクを打ち殺したのは、だれであったか。一人の女が城壁の上からひき臼の上石を投げつけて、テベツで彼を殺したのではなかったか。どうして、そんなに城壁に近づいたのか』と言われたら、『あなたの家来、ヒッタイト人ウリヤも死にました』と言いなさい。」
- 22 使者は出かけて行き、ダビデのところに来て、ヨアブの伝言をすべて伝えた。
- 23 使者はダビデに言った。「敵は私たちより優勢で、私たちに向かって野に出て来ましたが、私たちは門の入り口まで彼らを攻めて行きました。
- 24 城壁の上から射手たちがあなたの家来たちに矢を射かけ、王の家来たちが死に、あなたの家来、ヒッタイト人ウリヤも死にました。」
- 25 ダビデは使者に言った。「あなたはヨアブにこう言いなさい。『このことに心を痛めるな。剣はこちらの者も、あちらの者も食い尽くすものだ。あなたは町をいっそう激しく攻撃し、それを全滅させよ。』あなたは彼を力づけなさい。」
- 26 ウリヤの妻は、自分の夫ウリヤが死んだことを聞き、自分の主人のために悼み悲しんだ。
- 27 喪が明けると、ダビデは人を遣わして、彼女を自分の家に迎え入れた。彼女は彼の妻となり、彼のために息子を産んだ。しかし、ダビデが行ったことは主のみこころを損なった。

第12章

- 1 主はナタンをダビデのところに遣わされた。ナタンはダビデのところに来て言った。「ある町に二人の人がいました。一人は富んでいる人、もう一人は貧しい人でした。
- 2 富んでいる人には、とても多くの羊と牛の群れがいましたが、
- 3 貧しい人は、自分で買ってきて育てた一匹の小さな雌の子羊のほかは、何も持っていませんでした。子羊は彼とその子どもたちと一緒に暮らし、彼と同じ食べ物を食べ、同じ杯から飲み、彼の懷で休み、まるで彼の娘のようでした。
- 4 一人の旅人が、富んでいる人のところにやって来ました。彼は、自分のところに来た旅人のために自分の羊や牛の群れから取って調理するのを惜しみ、貧しい人の雌の子羊を奪い取り、自分のところに来た人のために調理しました。」
- 5 ダビデは、その男に対して激しい怒りを燃やし、ナタンに言った。「主は生きておられる。そんなことをした男は死に値する。
- 6 その男は、あわれみの心もなく、そんなことをしたのだから、その雌の子羊を四倍にして償わなければならない。」
- 7 ナタンはダビデに言った。「あなたがその男です。イスラエルの神、主はこう言われます。『わたしはあなたに油を注いで、イスラエルの王とした。また、わたしはサウルの手からあなたを救い出した。
- 8 さらに、あなたの主君の家を与え、あなたの主君の妻たちをあなたの懷に渡し、イスラエルとユダの家も与えた。それでも少ないというのなら、あなたにもっと多くのものを増し加えたであろう。
- 9 どうして、あなたは主のことばを蔑み、わたしの目に悪であることを行っただのか。あなたはヒッタイト人ウリヤを剣で殺し、彼の妻を奪って自分の妻にした。あなたが彼をアンモン人の剣で殺したのだ。
- 10 今や剣は、とこしえまでもあなたの家から離れない。あなたがわたしを蔑み、ヒッタイト人ウリヤの妻を奪い取り、自分の妻にしたからだ。』
- 11 主はこう言われる。『見よ、わたしはあなたの家の中から、あなたの上にわざわいを引き起こす。あなたの妻たちをあなたの目の前で奪い取り、あなたの隣人に与える。彼は、白昼公然と、あなたの妻たちと寝るようになる。
- 12 あなたは隠れてそれをしたが、わたしはイスラエル全体の前で、白日のもとで、このことを行う。』」
- 13 ダビデはナタンに言った。「私は主の前に罪ある者です。」ナタンはダビデに言った。「主も、あなたの罪を取り去ってくださった。あなたは死なない。
- 14 しかし、あなたはこのことによって、主の敵に大いに侮りの心を起こさせたので、あなたに生まれる息子は必ず死ぬ。」
- 15 ナタンは自分の家へ帰って行った。主は、ウリヤの妻がダビデに産んだ子を打たれたので、その子は病気になった。

- 16 ダビデはその子のために神に願い求めた。ダビデは断食をして引きこもり、一晩中、地に伏していた。
- 17 彼の家の長老たちは彼のそばに立って、彼を地から起こそうとしたが、ダビデは起きようとせず、彼らと一緒に食事をとろうとしなかった。
- 18 七日目にその子は死んだ。ダビデの家来たちは、その子が死んだことをダビデに告げるのを恐れた。彼らは、「聞きなさい。王はあの子が活着いているとき、われわれが話しても、言うことを聞いてくださらなかった。どうして、あの子どもが死んだことを王に言えるだろうか。王は何か悪いことをされるかもしれない」と言ったのである。
- 19 ダビデは、家来たちが小声で話し合っているのを見て、子が死んだことを悟った。ダビデは家来たちに言った。「あの子は死んだのか。」彼らは言った。「亡くなられました。」
- 20 ダビデは地から起き上がり、からだを洗って身に油を塗り、衣を替えて主の家に入り、礼拝をした。そして自分の家に帰り、食事の用意をさせて食事をとった。
- 21 家来たちは彼に言った。「あなたのなさったこのことは、いったいどういうことですか。お子様が生きておられるときは断食をして泣かれたのに、お子様が亡くなされると、起き上がり食事をされるとは。」
- 22 ダビデは言った。「あの子がまだ活着いているときに私が断食をして泣いたのは、もしかすると主が私をあわれんでくださり、あの子が生きるかもしれない、と思ったからだ。
- 23 しかし今、あの子は死んでしまった。私はなぜ、断食をしなければならないのか。あの子をもう一度、呼び戻せるだろうか。私があの子のところに行くことはあっても、あの子は私のところに戻っては来ない。」
- 24 ダビデは妻バテ・シェバを慰め、彼女のところに入り、彼女と寝た。彼女は男の子を産み、彼はその名をソロモンと名づけた。主は彼を愛されたので、
- 25 預言者ナタンを遣わし、主のために、その名をエディデヤと名づけさせた。
- 26 さて、ヨアブはアンモン人のラバと戦い、この王の町を攻め取った。
- 27 ヨアブはダビデに使者を遣わして言った。「私はラバと戦って、水の町を攻め取りました。
- 28 今、兵の残りの者たちを集めて、この町に対して陣を敷き、あなたがこれを攻め取ってください。私がこの町を取り、この町に私の名がつけられるといけませんから。」
- 29 ダビデはすべての兵を集めてラバに進んで行き、これと戦って攻め取った。
- 30 彼は、彼らの王の冠をその頭から奪い取った。その重さは金一タラントで、宝石がはめ込まれていた。その冠はダビデの頭に置かれた。彼は、その町から非常に多くの分捕り物を持ち去った。
- 31 彼はその町にいた人々を連れ出して、石のこぎりや、鉄のつるはし、鉄の斧を使う仕事に就かせ、また、連れて行って、れんが作りの仕事をさせた。ダビデはアンモン人のすべての町に対して、いつもこのようにしていた。ダビデとすべての兵はエルサレムに帰った。

第13章

- 1 その後のことである。ダビデの子アブサロムに、タマルという名の美しい妹がいた。ダビデの子アムノンは彼女に恋をした。
- 2 アムノンは、妹タマルのゆえに苦しんで、病気になるほどであった。というのは、彼女が処女であって、アムノンには、彼女に何かをするということはとてもできないと思われたからである。
- 3 アムノンには、ダビデの兄弟シムアの息子でヨナダブという名の友人がいた。ヨナダブは非常に知恵のある男であった。
- 4 彼はアムノンに言った。「王子様。なぜ、朝ごとにやつれていかれるのですか、そのわけを話してください。」アムノンは彼に言った。「私は、兄弟アブサロムの妹タマルを愛している。」
- 5 ヨナダブは彼に言った。「床に伏せて、病気のふりをなさってください。父君が見舞いに来られたら、こう言うのです。『どうか、妹のタマルをよこして、私に食事をとらせるようにしてください。彼女が私の目の前で食事を作って、私はそれを見守り、彼女の手から食べたいのです。』」
- 6 アムノンは床につき、仮病を使った。王が見舞いに来ると、アムノンは王に言った。「どうか、妹のタマルをよこし、目の前で団子を二つ作らせてください。私は彼女の手から食べたいのです。」
- 7 ダビデは、タマルの家に人を遣わして言った。「兄さんのアムノンの家に行って、病人食を作ってあげなさい。」
- 8 タマルが兄アムノンの家に行ったところ、彼は床についていた。彼女は生地を取ってそれをこね、彼の目の前で団子を作ってそれをゆでた。
- 9 彼女は鍋を取り、それを彼の前によそったが、彼は食べることを拒んだ。アムノンが「皆の者をここから出て行かせよ」と言ったので、みなアムノンのところから出て行った。
- 10 アムノンはタマルに言った。「食事を寝室に持って来ておくれ。私はおまえの手からそれを食べたい。」タマルは、自分が作ったゆでた団子を兄のアムノンの寝室に持って来た。
- 11 彼女が食べさせようとして、彼に近づくと、彼は彼女を捕まえて言った。「妹よ、おいで。私と寝よう。」
- 12 彼女は言った。「いけません。兄上。乱暴してはいけません。イスラエルでは、こんなことはしません。こんな愚かなことをしないでください。」
- 13 私は、この汚名をどこに持って行けるでしょうか。あなたも、イスラエルで愚か者のようになるのです。今、王に話してください。きっと、王は私があなたに会うのを拒まないでしょう。」
- 14 しかし、アムノンは彼女の言うことを聞こうともせず、力づくで彼女を辱めて、彼女と寝た。
- 15 アムノンは、激しい憎しみにかられて、彼女を嫌った。その憎しみは、彼が抱いた恋よりも大きかった。アムノンは彼女に言った。「起きて、出て行け。」

- 16 タマルは言った。「それはなりません。私を追い出すなど、あなたが私にしたあのことより、なおいっそう悪いことですから。」しかし、アムノン彼女の言うことを聞こうともせず、
- 17 召使いの若い者と呼んで言った。「この女をここから外に追い出して、戸を閉めてくれ。」
- 18 彼女は、あや織りの長服を着ていた。昔、処女である王女たちはそのような身なりをしていたのである。召使いは彼女を外に追い出し、こうして戸を閉めてしまった。
- 19 タマルは頭に灰をかぶり、身に着けていたあや織りの長服を引き裂き、手を頭に置いて、泣き叫びながら歩いて行った。
- 20 彼女の兄アブサロムは彼女に言った。「おまえの兄アムノンが、おまえと一緒にいたのか。妹よ、今は黙っていなさい。彼はおまえの兄なのだ。このことで心配しなくてもよい。」タマルは、兄アブサロムの家で、一人わびしく暮らしていた。
- 21 ダビデ王は、事の一部始終を聞いて激しく怒った。
- 22 アブサロムはアムノンに、このことが良いとも悪いとも何も言わなかった。アブサロムは、アムノンが妹タマルを辱めたことで、彼を憎んでいたからである。
- 23 満二年たって、アブサロムがエフライムの近くのバアル・ハツォルで羊の毛の刈り取りの祝いをしたとき、アブサロムは王の息子たち全員を招いた。
- 24 アブサロムは王のもとに行き、こう言った。「ご覧ください。このしもべは羊の毛の刈り取りの祝いをすることにしました。どうか、王も家来たちも、このしもべと一緒においでください。」
- 25 王はアブサロムに言った。「いや、わが子よ。われわれ全員が行くのは良くない。あなたの重荷になってもいけないから。」アブサロムは、しきりに勧めたが、ダビデは行きたがらず、ただ彼に祝福を与えた。
- 26 アブサロムは言った。「それなら、どうか、私の兄アムノンを私どもと一緒に行かせてください。」王は彼に言った。「なぜ、彼があなたと一緒に行かなければならないのか。」
- 27 アブサロムがしきりに勧めたので、王はアムノンと王の息子たち全員を彼と一緒に行かせた。
- 28 アブサロムは、自分に仕える若い者たちに命じて言った。「よく注意して、アムノンが酔って上機嫌になったとき、私が『アムノンを討て』と言ったら、彼を殺せ。恐れてはならない。この私が命じるのではないか。強くあれ。力ある者となれ。」
- 29 アブサロムの若い者たちは、アブサロムが命じたとおりにアムノンにした。王の息子たちはみな立ち上がって、それぞれ自分のらばに乗って逃げた。
- 30 彼らがまだ道の途中にいたとき、ダビデのところに、「アブサロムは王のご子息たちを全員殺しました。残された方は一人もいらっしゃいません」という知らせが届いた。
- 31 王は立ち上がり、衣を引き裂き、地に伏した。傍らに立っていた家来たちもみな、衣を引き裂いた。
- 32 ダビデの兄弟シムアの子ヨナダブは、証言をして言った。「王様。彼らが王のご子息である若者たちを全員殺したとお思いになりませんように。アムノンだけが死んだのです。そ

れはアブサロムの命令によるもので、アムノンが妹のタマルを辱めた日から、胸に抱いていたことです。

- 33** 今、王様。王子たち全員が殺された、という知らせを心に留めないでください。アムノンだけが死んだのです。」
- 34** アブサロムは逃げた。見張りの若者が目を上げて見ると、見よ、うしろの山沿いの道から大勢の人々がやって来るところであった。
- 35** ヨナダブは王に言った。「ご覧ください。王子たちが来られます。このしもべが申し上げたとおりになりました。」
- 36** 彼が語り終えたとき、見よ、王子たちが来て、声をあげて泣いた。王もその家来たちもみな、非常に激しく泣いた。
- 37** アブサロムは、ゲシュルの王アミフデの子タルマイのところに逃げた。ダビデは、毎日アムノンの死を嘆き悲しんでいた。
- 38** アブサロムは、ゲシュルに逃げて行き、三年の間そこにいた。
- 39** アブサロムのところに向かって出て行きたいという、ダビデ王の願いはなくなった。アムノンが死んだことについて慰めを得たからである。

第14章

- 1 ツェルヤの子ヨアブは、王の心がアブサロムに向いていることを知った。
- 2 ヨアブはテコアに人を遣わして、そこから知恵のある女を連れて来て、彼女に言った。
「喪に服している者を装い、喪服を着て、身に油も塗らず、死んだ人のために長い間喪に服している女のようになって、
- 3 王のもとに行き、王にこのように話してください。」ヨアブは彼女の口にことばを与えた。
- 4 テコアの女は、王に話したとき、地にひれ伏して礼をして言った。「お救いください。王様。」
- 5 王は彼女に言った。「いったい、どうしたのか。」彼女は答えた。「実はこの私はやもめで、夫は亡くなりました。
- 6 このはしためには二人の息子がおりましたが、二人が野原でけんかをして、だれも二人を仲裁する者がいなかったので、一人が相手を打ち殺してしまいました。
- 7 すると、お聞きください、親族全体がこのはしために詰め寄って、『兄弟を打った者を引き渡せ。彼が殺した兄弟のいのちのために、彼を殺し、この家の世継ぎも消し去ろう』と言います。残された私の一つの火種を消して、夫の名だけではなく、残りの者までも、この地に残さないようにするのです。」
- 8 王は女に言った。「家に帰りなさい。あなたのことで命令を出そう。」
- 9 テコアの女は王に言った。「王様。刑罰は私と私の父の家に下り、王様と王位は罰を免れますように。」
- 10 王は言った。「あなたに文句を言う者がいるなら、その人を、私のところに連れて来なさい。もう二度とあなたを煩わすことはなくなる。」
- 11 彼女は言った。「どうか王様。あなたの神、主に心を留め、血の復讐をする者が殺すことを繰り返し、私の息子を消し去らないようにしてください。」王は言った。「主は生きておられる。あなたの息子の髪の毛一本も決して地に落ちることはない。」
- 12 女は言った。「このはしために、一言、王様に申し上げさせてください。」王は言った。「言いなさい。」
- 13 女は言った。「あなた様はどうして、神の民に対してこのようなことを計られたのですか。王様は、先のようなことを語って、ご自分を咎ある者としておられます。王様は追放された者を戻しておられません。
- 14 私たちは、必ず死ぬ者です。私たちは地面にこぼれて、もう集めることができない水のようなものです。しかし、神はいのちを取り去らず、追放されている者が追放されたままにならないように、ご計画を立ててくださいます。
- 15 今、私が、このことを王様に話しに参りましたのも、人々が私を脅したからです。このはしのためは、こう思いました。『王に申し上げよう。王は、このはしための願いをかなえてくださるかもしれない。』

- 16 王は聞き入れて、私と私の息子を神のゆずりの地から消し去ろうとする者の手から、このはしためをきっと助け出してくださるから。』
- 17 このはしめは、『王様のことばは私の慰めとなるに違いない』と思いました。王様は、神の使いのように、善と悪を聞き分けられるからです。あなた様の神、主が、あなたとともにおられますように。」
- 18 王は女に答えて言った。「私が尋ねることに、隠さずに答えなさい。」女は言った。「王様、どうぞお尋ねください。」
- 19 王は言った。「これはすべて、ヨアブの指図によるのであろう。」女は答えて言った。「王様、あなたのたましいは生きておられます。王様が言われることから、だれも右にも左にもそれることはできません。確かに王様の家来ヨアブが私に命じ、あの方がこのはしための口に、これらすべてのことばを授けたのです。」
- 20 王様の家来ヨアブは、事の成り行きを変えるために、このことをしたのです。あなた様には、神の使いの知恵のような知恵があり、地上のすべてのことをご存じですから。」
- 21 王はヨアブに言った。「よろしい。その願いを聞き入れた。行って、若者アブサロムを連れ戻しなさい。」
- 22 ヨアブは地にひれ伏して礼をし、王に祝福のことばを述べて言った。「今日、このしもべがご好意を受けていることが分かりました。王様。王が、このしもべの願いを聞き入れてくださったのですから。」
- 23 ヨアブはすぐゲシュルに出かけて行き、アブサロムをエルサレムに連れて来た。
- 24 王は言った。「あれは自分の家に行ってもらおう。私の顔を見ることはならぬ。」アブサロムは自分の家に行き、王の顔を見ることはなかった。
- 25 さて、イスラエルのどこにも、アブサロムほど、その美しさをほめそやされた者はいなかった。足の裏から頭の頂まで、彼には非の打ちどころがなかった。
- 26 彼は毎年、年の終わりに、頭が重いので髪の毛を刈っていたが、刈るときに髪の毛を量ると、王の秤で二百シェケルもあった。
- 27 アブサロムに、三人の息子と一人の娘が生まれた。その娘の名はタマルといって美しい女であった。
- 28 アブサロムは二年間エルサレムに住んでいたが、王の顔を見ることはなかった。
- 29 アブサロムは、ヨアブを王のところに送ろうとして、ヨアブのもとに人を遣わしたが、彼は来ようとしなかった。アブサロムはもう一度、人を遣わしたが、ヨアブは来ようとしなかった。
- 30 アブサロムは家来たちに言った。「見よ。ヨアブの畑は私の畑のそばにあり、そこには大麦が植えてある。行って、それに火をつけよ。」アブサロムの家来たちは畑に火をつけた。
- 31 ヨアブは立ち上がり、アブサロムの家に来て、彼に言った。「なぜ、あなたの家来たちは私の畑に火をつけたのですか。」
- 32 アブサロムはヨアブに答えた。「ほら、私はあなたのところに人を遣わし、ここに来るように言ったではないか。私はあなたを王のもとに遣わし、『なぜ、私をゲシュルから帰って来させたのですか。あそこにとどまっていたほうが、まだ、ましでした』と言ってもら

いたかったのだ。今、私は王の顔を拝したい。もし私に咎があるなら、王に殺されてもかまわない。」

- 33** ヨアブは王のところに行き、王に告げた。王はアブサロムを呼び寄せた。アブサロムは王のところに来て、王の前で地にひれ伏して礼をした。王はアブサロムに口づけした。

第15章

- 1 その後、アブサロムは自分のために戦車と馬、そして自分の前に走る者五十人を手に入れた。
- 2 アブサロムはいつも、朝早く、門に通じる道のそばに立っていた。さばきのために王のところに来て訴えようとする者がいると、アブサロムは、その一人ひとりと呼んで言っていた。「あなたはどこの町の者か。」その人が「このしもべはイスラエルのこれこれの部族の者です」と答えると、
- 3 アブサロムは彼に、「聞きなさい。あなたの訴えは良いし、正しい。だが、王の側にはあなたのことを聞いてくれる者はいない」と言っていた。
- 4 さらにアブサロムは、「だれか私をこの国のさばき人に立ててくれないだろうか。訴えや申し立てのある人がみな、私のところに来て、私がその訴えを正しくさばくのだが」と言っていた。
- 5 人が彼に近づいてひれ伏そうとすると、彼は手を伸ばし、その人を抱いて口づけしていた。
- 6 アブサロムは、さばきのために王のところにやって来る、すべてのイスラエルの人にこのようにした。アブサロムはイスラエルの人々の心を盗んだ。
- 7 四年たって、アブサロムは王に言った。「私が主に立てた誓願を果たすために、どうか私をヘブロンに行かせてください。
- 8 このしもべは、アラムのゲシュルにいたときに、『もし主が私を本当にエルサレムに連れ帰ってくださるなら、私は主に仕えます』と言って誓願を立てたのです。」
- 9 王は言った。「安心して行って来なさい。」彼は立って、ヘブロンに行った。
- 10 アブサロムはイスラエルの全部族に、ひそかに人を遣わして言った。「角笛が鳴るのを聞いたら、『アブサロムがヘブロンで王になった』と言いなさい。」
- 11 アブサロムとともに、二百人の人々がエルサレムを出て行った。その人たちは、ただ単に招かれて行った者たちで、何も知らなかった。
- 12 アブサロムは、いけにえを献げている間に、人を遣わして、ダビデの助言者ギロ人アヒトフェルを、彼の町ギロから呼び寄せた。この謀反は強く、アブサロムにくみする民が多くなった。
- 13 ダビデのところに告げる者が来て、「イスラエルの人々の心はアブサロムになびいています」と言った。
- 14 ダビデは、自分とともにエルサレムにいる家来全員に言った。「さあ、逃げよう。そうでないと、アブサロムから逃れる者はいなくなるだろう。すぐ出発しよう。彼がすばやく追いついて、私たちに害を加え、剣の刃でこの都を討つといけなから。」
- 15 王の家来たちは王に言った。「ご覧ください。私たち、あなたのしもべどもは、王様の選ばれるままにいたします。」
- 16 王は出て行き、家族のすべての者も王に従った。しかし王は、王宮の留守番に十人の側女を残した。

- 17 王と、王に従うすべての民は、出て行って町外れの家にとどまった。
- 18 王のすべての家来は王の傍らを進み、すべてのクレタ人と、すべてのペレテ人、そしてガテから王について来た六百人のガテ人がみな、王の前を進んだ。
- 19 王はガテ人イタイに言った。「どうして、あなたもわれわれと一緒に行くのか。戻って、あの王のところにとどまりなさい。あなたは異国人で、自分の国からの亡命者なのだから。
- 20 あなたは昨日来たばかりなのに、今日、あなたをわれわれと一緒にさまよわせるのは忍びない。私はこれから、あてどもなく旅を続けるのだから。あなたの兄弟を連れて戻りなさい。恵みとまことがあなたとともにあるように。」
- 21 イタイは王に答えて言った。「主は生きておられます。そして、王様も生きておられます。王様がおられるところに、生きるためでも死ぬためでも、このしもべも必ずそこにいます。」
- 22 ダビデはイタイに言った。「では、進んで行きなさい。」ガテ人イタイは、彼の部下全員と、一緒にいた子どもたち全員を連れて、進んで行った。
- 23 この民がみな進んで行くとき、国中は大きな声をあげて泣いた。王はキデロンの谷を渡り、この民もみな、荒野の方へ渡って行った。
- 24 見よ、ツアドクも、すべてのレビ人と一緒に神の契約の箱を担いでいた。民がみな都から出て行ってしまいうまで、彼らは神の箱を降ろし、エブヤタルがささげ物を献げた。
- 25 王はツアドクに言った。「神の箱を都に戻しなさい。もし私が主の恵みをいただくことができれば、主は、私を連れ戻し、神の箱とその住まいを見させてくださるだろう。
- 26 もし主が『あなたはわたしの心になかない』と言われるなら、どうか、主が良いと思われることをこの私にしてくださるように。」
- 27 王は祭司ツアドクに言った。「あなたは先見者ではないか。安心して都に帰りなさい。あなたがたの二人の息子、あなたの息子アヒマアツとエブヤタルの息子ヨナタンも、あなたがたと一緒に。
- 28 見なさい。私は、あなたがたから知らせのことばが来るまで、荒野の草原でゆっくり待とう。」
- 29 ツアドクとエブヤタルは神の箱をエルサレムに持ち帰り、そこにとどまった。
- 30 ダビデはオリーブ山の坂を登った。彼は泣きながら登り、その頭をおおい、裸足で登った。彼と一緒にいた民もみな、頭をおおい、泣きながら登った。
- 31 そのときダビデは、「アヒトフェルがアブサロムの謀反に荷担している」と知らされた。ダビデは言った。「主よ、どうかアヒトフェルの助言を愚かなものにしてください。」
- 32 ダビデが、神を礼拝する場所になっていた山の頂に来たとき、見よ、アルキ人フシャイが上着を引き裂き、頭に土をかぶってダビデに会いに来た。
- 33 ダビデは彼に言った。「もしあなたが私と一緒に行くなら、あなたは私の重荷になる。
- 34 しかしもし、あなたが都に戻って、アブサロムに『王よ、私はあなたのしもべになります。これまであなたの父上のしもべであったように、今、私はあなたのしもべになります』と言うなら、あなたは私のためにアヒトフェルの助言を打ち破ることになる。

- 35** あそこには祭司のツアドクとエブヤタルも、あなたと一緒にいるではないか。あなたは王の家から聞くことは何でも、祭司のツアドクとエブヤタルに告げるのだ。
- 36** 見よ、あそこには、彼らの二人の息子、ツアドクの子アヒマアツとエブヤタルの子ヨナタンが彼らとともにいる。二人をよこして、あなたがたが聞いたことを残らず私に伝えてくれ。」
- 37** ダビデの友フシャイは都に帰った。そのころ、アブサロムもエルサレムに着いた。

第16章

- 1 ダビデは山の頂から少し下った。見ると、メフィボシェテのしもベツィバが王を迎えに来ていた。彼は、鞍を置いた一くびきのろばに、パン二百個、干しぶどう百房、夏の果物百個、ぶどう酒一袋を載せていた。
- 2 王はツィバに言った。「これらは何のためか。」ツィバは言った。「二頭のろばは王の家族がお乗りになるため、パンと夏の果物は若者たちが食べるため、ぶどう酒は荒野で疲れた者が飲むためです。」
- 3 王は言った。「あなたの主人の息子はどこにいるのか。」ツィバは王に言った。「今、エルサレムにとどまっております。あの方は、『今日、イスラエルの家は、父の王国を私に返してくれる』と言っておりました。」
- 4 王はツィバに言った。「見よ、メフィボシェテのものはみな、あなたのものだ。」ツィバは言った。「王様。あなた様のご好意をいただくことができますように、伏してお願いいたします。」
- 5 ダビデ王がバフリムまで来ると、見よ、サウルの家の一族の一人が、そこから出て来た。その名はゲラの子シムイで、盛んに呪いのことばを吐きながら出て来た。
- 6 彼は、ダビデとダビデ王のすべての家来たちに向かって石を投げつけた。兵たちと勇士たちはみな、王の右左にいた。
- 7 シムイは呪ってこう言った。「出て行け、出て行け。血まみれの男、よこしまな者よ。」
- 8 主がサウルの家のすべての血に報いたのだ。サウルに代わって王となったおまえに対して。主は息子アブサロムの手に王位を渡した。今、おまえはわざわざいにあうのだ。おまえは血まみれの男なのだから。」
- 9 ツェルヤの子アビシャイが王に言った。「この死んだ犬めが、わが主君である王を呪ってよいものでしょうか。行って、あの首をはねさせてください。」
- 10 王は言った。「ツェルヤの息子たちよ。これは私のことで、あなたがたに何の関わりがあるのか。彼が呪うのは、主が彼に『ダビデを呪え』と言われたからだ。だれが彼に『おまえは、どうしてこういうことをするのだ』と言えるだろうか。」
- 11 ダビデはアビシャイと彼のすべての家来たちに言った。「見よ。私の身から出た私の息子さえ、私のいのちを狙っている。今、このベニヤミン人としては、なおさらのことだ。放っておきなさい。彼に呪わせなさい。主が彼に命じられたのだから。」
- 12 おそらく、主は私の心をご覧になるだろう。そして主は今日の彼の呪いに代えて、私に良いことをもって報いてくださるだろう。」
- 13 ダビデとその部下たちは道を進んで行った。シムイは、山の中腹をダビデと並行して歩きながら、呪ったり、石を投げたり、土のちりをかけたりしていた。
- 14 王も、王とともに行った兵もみな、疲れたのでそこで一息ついた。
- 15 アブサロムとすべての民、イスラエルの人々はエルサレムに入った。アヒトフェルも一緒であった。

- 16** ダビデの友アルキ人フシャイがアブサロムのところに来たとき、フシャイはアブサロムに言った。「王様万歳。王様万歳。」
- 17** アブサロムはフシャイに言った。「これが、あなたの友への忠誠の表れなのか。なぜあなたは、あなたの友と一緒に行かなかったのか。」
- 18** フシャイはアブサロムに言った。「いいえ、主と、この民、イスラエルのすべての人々が選んだ方に私はつき、その方と一緒にとどまります。」
- 19** また、私はだれに仕えるべきでしょうか。私の友の子に仕えるべきではありませんか。私はあなた様の父上に仕えたように、あなた様にもお仕えいたします。」
- 20** アブサロムはアヒトフェルに言った。「あなたがたで相談しなさい。われわれは、どうしたらよいだろうか。」
- 21** アヒトフェルはアブサロムに言った。「父上が王宮の留守番に残した側女たちのところにお入りください。全イスラエルが、あなたは父上に憎まれるようなことをされたと聞くでしょう。あなたに、くみする者はみな、勇気を出すでしょう。」
- 22** アブサロムのために屋上に天幕が張られ、アブサロムは全イスラエルの目の前で、父の側女たちのところに入った。
- 23** 当時、アヒトフェルの進言する助言は、人が神のことばを伺って得ることばのようであった。アヒトフェルの助言はすべて、ダビデにもアブサロムにもそのように思われた。

第17章

- 1 アヒトフェルはアブサロムに言った。「私に一万二千人を選ばせてください。私は今夜すぐに、ダビデの後を追います。」
- 2 私は、彼が疲れて気力を失っている間に、彼を襲い、彼を震え上がさせます。彼と一緒にいるすべての民は逃げるでしょう。私は王だけを打ち殺します。
- 3 私は兵全員をあなたのもとに連れ戻します。すべての者が帰って来るとき、民はみな、穏やかになるでしょう。あなたが求めているのは、ただ一人の人だけですから。」
- 4 このことばは、アブサロムとイスラエルの全長老の気に入るところとなった。
- 5 アブサロムは言った。「アルキ人フシャイを呼び出し、彼の言うことも聞いてみよう。」
- 6 フシャイがアブサロムのところに来ると、アブサロムは彼に言った。「アヒトフェルはこうに語ったが、われわれは彼のことばに従ってよいものだろうか。もしそうでなければ、あなたが語りなさい。」
- 7 フシャイはアブサロムに言った。「このたびアヒトフェルの進言した助言は良くありません。」
- 8 フシャイは言った。「あなたは父上とその部下が戦士であることをご存じです。彼らは、野で子を奪われた雌熊のように気が荒くなっています。また、あなたの父上は戦いに慣れた方ですから、兵たちと一緒に夜を過ごさないでしょう。
- 9 きっと今、洞穴かどこか、そんな場所に隠れているに違いありません。もし、兵たちのある者が最初に倒れたら、それを聞く者は『アブサロムに従う兵たちのうちに、打たれた者が出た』と言うでしょう。
- 10 たとえ、獅子のような心を持つ力ある者でも、気がくじけます。全イスラエルは、あなたの父上が勇士であり、彼とともにいる者が力ある者であることをよく知っています。
- 11 私の助言はこうです。全イスラエルをダンからベエル・シェバに至るまで、海辺の砂のように数多くあなたのところに集めて、あなた自身が戦いに出られることです。
- 12 われわれは彼が見つかる場所に行って、そこで露が地面に降りるように彼を襲うのです。そうすれば、彼や、ともにいるすべての兵たちのうちには、一人も残る者はありません。
- 13 もし彼がどこかの町に入るなら、イスラエル中の者がその町に縄をかけ、その町を川まで引きずって行って、そこに一つの石ころも残らないようにしましょう。」
- 14 アブサロムとイスラエルの人々はみな言った。「アルキ人フシャイの助言は、アヒトフェルの助言よりも良い。」これは、主がアブサロムにわざわいをもたらそうとして、主がアヒトフェルのすぐれた助言を打ち破ろうと決めておられたからである。
- 15 フシャイは祭司ツアドクとエブヤタルに言った。「アヒトフェルは、アブサロムとイスラエルの長老たちにこれこれの助言をしたが、私は、これこれの助言をした。
- 16 今、急いで人を遣わして、ダビデに、『今夜は荒野の渡し場で夜を過ごしてはいけません。必ず、あちらへ渡って行かなければなりません。そうでないと、王をはじめ、一緒にいる民全員にわざわいが降りかかるでしょう』と告げなさい。」

- 17 ヨナタンとアヒマアツはエン・ロゲルにとどまっていたが、一人の女奴隷が行って彼らに告げ、彼らがダビデ王に告げに行くようになっていた。これは、彼らが都に入るのを見られないようにするためであった。
- 18 ところが、ある若者が彼らを見て、アブサロムに告げた。彼ら二人は急いで去り、バフリムに住むある人の家に行った。その人の庭に井戸があったので、彼らはその中に降りた。
- 19 その人の妻は覆いを持って来て、井戸の口の上に広げ、その上に麦をまき散らしたので、だれにも知られなかった。
- 20 アブサロムの家来たちが、その女の家に来て言った。「アヒマアツとヨナタンはどこにいるのか。」女は彼らに言った。「あの人たちは、ここを通り過ぎて川の方へ行きました。」彼らは、捜したが見つかることができなかったので、エルサレムへ帰った。
- 21 彼らが去った後、二人は井戸から上がって来て、ダビデ王に知らせに行った。彼らはダビデに言った。「さあ、急いで川を渡り始めてください。アヒトフェルがあなたがたに対して、これこれのことを進言したからです。」
- 22 ダビデと、ダビデのもとにいたすべての者たちは、ヨルダン川を渡り始めた。夜明けまでにヨルダン川を渡りきれなかった者は一人もいなかった。
- 23 アヒトフェルは、自分の助言が実行されないのを見ると、ろばに鞍を置いて自分の町の家に帰り、家を整理して首をくくって死んだ。彼は彼の父の墓に葬られた。
- 24 ダビデがマハナジムに着いたとき、アブサロムは、彼とともにいるイスラエルのすべての人々とヨルダン川を渡った。
- 25 アブサロムはアマサをヨアブの代わりに軍団長に任命していた。アマサは、アスリエル人イテラという人の息子で、イテラは、ヨアブの母ツエルヤの妹ナハシュの娘アビガルと結婚していた。
- 26 イスラエルとアブサロムはギルアデの地に陣を敷いた。
- 27 ダビデがマハナジムに来たとき、アンモン人でラバ出身のナハシュの息子ショビと、ロ・デバル出身のアンミエルの息子マキルと、ロゲリム出身のギルアデ人バルジライは、
- 28 寝台、鉢、土器、小麦、大麦、小麦粉、炒り麦、そら豆、レンズ豆、炒り豆、
- 29 蜂蜜、凝乳、羊、チーズを、ダビデと彼とともにいた民の食糧として持って来た。彼らが「民は荒野で飢えて疲れ、渴いています」と言ったからである。

第18章

- 1 ダビデは自分とともにいる兵を調べて、彼らの上に千人隊長、百人隊長を任命した。
- 2 ダビデは兵の三分の一をヨアブの指揮のもとに、三分の一をヨアブの兄弟である、ツェルヤの子アビシャイの指揮のもとに、三分の一をガテ人イタイの指揮のもとに配置した。王は兵たちに言った。「私自身も、あなたがたと一緒に出陣する。」
- 3 兵たちは言った。「王様が出陣してはいけません。私たちがどんなに逃げても、彼らは私たちのことは何とも思わないでしょう。私たちの半分が死んでも、彼らは私たちのことは心に留めないでしょう。しかし、今、あなたは私たちの一万人に当たります。今、あなたは町にいて私たちを助けてくださるほうがよいのです。」
- 4 王は彼らに言った。「あなたがたが良いと思うことを、私はしよう。」王は門のそばに立ち、兵はみな、百人、千人ごとに出て行った。
- 5 王はヨアブ、アビシャイ、イタイに命じて言った。「私に免じて、若者アブサロムをゆるやかに扱ってくれ。」兵はみな、王が隊長たち全員にアブサロムのことについて命じているのを聞いていた。
- 6 兵たちはイスラエルに対抗するために戦場へ出て行った。戦いはエフライムの森で行われた。
- 7 イスラエルの兵たちは、そこでダビデの家来たちに打ち負かされ、その日その場所で多くの者が倒れ、その数は二万人となった。
- 8 戦いはこの地一帯に広がり、この日、剣よりも密林のほうが多くの者を食い尽くした。
- 9 アブサロムはダビデの家来たちに出会った。アブサロムはらばに乗っていたが、らばが大きな榎の木の、茂った枝の下を通った。すると、アブサロムの頭が榎の木に引っ掛かり、彼は宙づりになった。彼が乗っていたらばはそのまま行ってしまった。
- 10 ある男がそれを見て、ヨアブに告げて言った。「今、アブサロムが榎の木に引っ掛かっているのを見ました。」
- 11 ヨアブは、これを告げた男に言った。「いったい、おまえはそれを見ていて、なぜその場で地に打ち落とさなかったのか。私はおまえに銀十枚と帯一本を与えたのに。」
- 12 その男はヨアブに言った。「たとえ、私の手に銀千枚をいただいても、王のご子息に手は下せません。王が私たちが聞いているところで、あなたとアビシャイとイタイに、『私のために若者アブサロムを守ってくれ』と言って、お命じになったからです。」
- 13 もし、私が偽って彼のいのちに対して事を起こしていたとしても、王には何も隠すことはできません。あなたは素知らぬ顔をなさるでしょうが。」
- 14 ヨアブは、「こうしておまえとぐずぐずしてはいられない」と言って、手に三本の槍を取り、まだ榎の木の真ん中に引っ掛かったまま生きていたアブサロムの心臓を突き通した。
- 15 ヨアブの道具持ちの十人の若者たちも、アブサロムを取り巻いて彼を打ち殺した。
- 16 ヨアブが角笛を吹き鳴らすと、兵たちはイスラエルを追うのをやめて帰って来た。ヨアブが兵たちを引き止めたからである。

- 17 彼らはアブサロムを取り降ろし、森の中の深い穴に投げ込み、その上に非常に大きな石塚を積み上げた。イスラエルはみな、それぞれ自分の天幕に逃げ帰っていた。
- 18 アブサロムは生きていた間、王の谷に自分のために一本の柱を立てていた。「私の名を覚えてくれる息子が私にはいないから」と言っていたからである。彼はその柱に自分の名をつけていた。それは、アブサロムの記念碑と呼ばれた。今日もそうである。
- 19 ツアドクの子アヒマアツは言った。「私は王のところへ走って行って、主が敵の手から王を救って、王のために正しいさばきをされたことを伝えたいのですが。」
- 20 ヨアブは彼に言った。「今日、伝えるのではない。ほかの日に伝えよ。今日は伝えないのがよい。王子が死んだのだから。」
- 21 ヨアブはクシュ人に言った。「行って、あなたの見たことを王に告げよ。」クシュ人はヨアブに礼をして、走り去った。
- 22 ツアドクの子アヒマアツは再びヨアブに言った。「どんなことがあっても、やはり私もクシュ人の後を追って走って行きたいのです。」ヨアブは言った。「わが子よ、なぜ、あなたは走って行きたいのか。知らせに対して、何のほうびも得られないのに。」
- 23 「しかし、どんなことがあっても、走って行きたいのです。」ヨアブは「走って行け」と言った。アヒマアツは低地への道を走って行き、クシュ人を追い越した。
- 24 ダビデは外門と内門の間に座っていた。見張りが城壁の門の屋根に上り、目を上げて見ていると、見よ、ただ一人で走って来る男がいた。
- 25 見張りが王に大声で告げると、王は言った。「ただ一人なら、吉報だろう。」その者がしだいに近づいて来た。
- 26 見張りは、別の男が走って来るのを見た。見張りは門衛に叫んだ。「あそこにも、一人で走って来る男がいる。」王は言った。「それも吉報を持って来ているのだろう。」
- 27 見張りは言った。「最初の者の走り方は、ツアドクの子アヒマアツのもののように見えます。」王は言った。「あれは良い男だ。良い知らせを持って来るだろう。」
- 28 アヒマアツは王に「平安がありますように」と叫んで、地にひれ伏して、王に礼をした。彼は言った。「あなたの神、主がほめたたえられますように。主は、王様に手向かった者どもを引き渡してくださいました。」
- 29 王は言った。「若者アブサロムは無事か。」アヒマアツは言った。「ヨアブが王の家来であるこのしもべを遣わしたとき、何か大騒ぎが起こるのを見ましたが、私は何があったのか知りません。」
- 30 王は言った。「わきへ退いて、ここに立っていなさい。」彼はわきに退いて立っていた。
- 31 見ると、クシュ人がやって来て言った。「王様にお知らせいたします。主は、今日、あなた様に立ち向かうすべての者の手から、あなた様を救って、あなた様のために正しいさばきをされました。」
- 32 王はクシュ人に言った。「若者アブサロムは無事か。」クシュ人は言った。「王様の敵、あなた様に立ち向かって害を加えようとする者はみな、あの若者のようになりますように。」
- 33 王は身を震わせ、門の屋上に上り、そこで泣いた。彼は泣きながら、こう言い続けた。「わが子アブサロム。わが子、わが子アブサロムよ。ああ、私がおまえに代わって死ねば

よかったのに。アブサロム。わが子よ、わが子よ。」

第19章

- 1 そのようなときに、ヨアブに、「今、王は泣いて、アブサロムのために喪に服しておられる」という知らせがあった。
- 2 その日の勝利は、すべての兵たちの嘆きとなった。その日兵たちは、王が息子のために悲しんでいるということを聞いたからである。
- 3 兵たちはその日、まるで戦場から逃げて恥じている兵がこっそり帰るように、町にこっそり帰って来た。
- 4 王は顔をおおい、大声で、「わが子アブサロム、アブサロムよ。わが子よ、わが子よ」と叫んでいた。
- 5 ヨアブは王の家に来て言った。「今日あなたのいのちと、あなたの息子、娘たちのいのち、そして妻や側女たちのいのちを救ってくれたあなたの家来たち全員に、あなたは今日、恥をかかせられました。
- 6 あなたは、あなたを憎む者を愛し、あなたを愛する者を憎まれるからです。あなたは今日、隊長たちも家来たちも、あなたにとっては取るに足りないものであることを明らかにされました。今、私は知りました。もしアブサロムが生き、われわれがみな今日死んだなら、それはあなたの目にかなったのでしょうか。
- 7 さあ今、立って外に行き、あなたの家来たちの心に語ってください。私は主によって誓います。あなたが外においでにならなければ、今夜、だれ一人あなたのそばにとどまらないでしょう。そうなれば、そのわざわいは、あなたの幼いころから今に至るまでにあなたに降りかかった、どんなわざわいよりもひどいものとなるでしょう。」
- 8 王は立って、門のところに座った。人々はすべての兵たちに「見なさい。王は門のところに座っておられる」と知らせた。兵たちはみな王の前にやって来た。一方、イスラエルは、それぞれ自分たちの天幕に逃げ帰っていた。
- 9 イスラエルの全部族の間で、民はみなこう言って争っていた。「王が敵の手から、われわれを救い出してくださったのだ。われわれをペリシテ人の手から助け出してくださったのは王だ。ところが今、王はアブサロムのいるところから国外に逃げておられる。
- 10 われわれが油を注いで王としたアブサロムは、戦いで死んでしまった。あなたがたは今、王を連れ戻すために、なぜ何もしていないのか。」
- 11 ダビデ王は、祭司ツァドクとエブヤタルに人を遣わして言った。「ユダの長老たちにこう告げなさい。『全イスラエルの言っていることが、ここの家にいる王の耳に届いたのに、あなたがたは、なぜ王をその王宮に連れ戻すことをいつまでもためらっているのか。』
- 12 あなたがたは、私の兄弟、私の骨肉だ。なぜ王を連れ戻すのをいつまでもためらっているのか。』
- 13 アマサにも言わなければならない。『あなたは私の骨肉ではないか。もしあなたが、ヨアブに代わってこれからいつまでも、私の軍の長にならないなら、神がこの私を幾重にも罰せられるように。』」
- 14 すべてのユダの人々は、あたかも一人の人のように心を動かされた。彼らは王のもとに人を遣わして、「あなたも家来たちもみな、お帰りください」と言った。

- 15 王は帰途につき、ヨルダン川までやって来た。一方、ユダの人々は、王を迎えてヨルダン川を渡らせるためにギルガルに来た。
- 16 バフリム出身のベニヤミン人、ゲラの子シムイは、ダビデ王を迎えようと、急いでユダの人々と一緒に下って来た。
- 17 彼は千人のベニヤミン人を連れていた。サウルの家のしもベツィバも、十五人の息子、二十人の召使いを連れて、王が見ている前でヨルダン川に駆けつけた。
- 18 そして、王の家族を渡らせるため、また王の目にかなうことをするために、渡しを整えた。ゲラの子シムイはヨルダン川を渡って行き、王の前に倒れ伏して、
- 19 王に言った。「わが君、どうか私の咎を罰しないでください。王様がエルサレムから出て行かれた日に、このしもべが犯した咎を、思い出さないでください。王様、心に留めないでください。
- 20 このしもべは、自分が罪を犯したことを知っています。ご覧ください。今日、ヨセフのすべての家に先立って、わが君、王様を迎えに下って参りました。」
- 21 ツェルヤの子アビシャイは口をはさんで言った。「シムイは、主に油注がれた方を呪ったので、そのために死に値するものではありませんか。」
- 22 ダビデは言った。「ツェルヤの息子たちよ。あれは私のことで、あなたがたに何の関わりがあるのか。あなたがたが、今日、私に敵対する者になろうとすると。今日、イスラエルのうちで人が殺されてよいだろうか。私が今日イスラエルの王であることを、私が知らないともいうのか。」
- 23 王はシムイに言った。「あなたは死ぬことはない。」王は彼にそう誓った。
- 24 サウルの孫メフィボシェテは、王を迎えに下って来た。彼は、王が出て行った日から無事に帰って来た日まで、自分の足の手入れもせず、ひげも剃らず、衣服も洗っていなかった。
- 25 彼が王を迎えにエルサレムから来たとき、王は彼に言った。「メフィボシェテよ、あなたはなぜ、私とともに来なかったのか。」
- 26 彼は言った。「わが君、王様。家来が私をたぶらかしたのです。このしもべは『ろばに鞍を置き、それに乗って、王と一緒にいこう』と言ったのです。しもべは足の萎えた者ですから。
- 27 彼がこのしもべのことを王様に中傷したのです。しかし、王様は神の使いのような方ですから、お気に召すようにしてください。
- 28 私の父の家の者はみな、王様から見れば、死刑に当たる者にすぎなかったのですが、あなたは、このしもべをあなたの食卓で食事をする者のうちに入れてくださいました。ですから、この私に、どうして重ねて王様に訴える権利があるでしょう。」
- 29 王は彼に言った。「あなたはなぜ、自分のことをまだ語るのか。私は決めている。あなたとツィバとで地所を分けるのだ。」
- 30 メフィボシェテは王に言った。「王様が無事に王宮に帰られた後なら、彼が全部取ってもかまいません。」
- 31 一方、ギルアデ人バルジライはロゲリムから下って来た。そして、ヨルダン川で王を見送るために、王とともにヨルダン川まで進んで来た。

- 32 このバルジライは、たいへん年をとって八十歳であった。彼は王がマハナイムにいる間、王を養っていた。非常に裕福な人だったからである。
- 33 王はバルジライに言った。「私と一緒に渡って行ってください。エルサレムの私のもとで、あなたを養います。」
- 34 バルジライは王に言った。「王様とともにエルサレムへ上って行っても、私はあと何年生きられるでしょう。」
- 35 私は今、八十歳です。私に善し悪しが分かるのでしょうか。しもべは食べる物も飲む物も味わうことができません。歌う男や女の声を書くことさえできません。どうして、この上、しもべが王様の重荷になれるでしょう。
- 36 このしもべは、王様とともにヨルダン川をほんの少しだけ進んで参りましょう。王様は、そのような報酬を、どうしてこの私に下さなければならないのでしょうか。
- 37 このしもべを帰らせてください。私は自分の町で、父と母の墓の近くで死にたいのです。ご覧ください。ここに、あなたのしもべキムハムがおります。彼が、王様と一緒に渡って参ります。どうか彼に、あなたの良いと思われることをなさってください。」
- 38 王は言った。「キムハムは私と一緒に渡って行けばよい。私は、あなたが良いと思うことを彼にしよう。あなたが私にしてほしいことは何でも、あなたにしてあげよう。」
- 39 こうして、民はみなヨルダン川を渡り、王も渡った。王はバルジライに別れの口づけをして、彼を祝福した。それで、バルジライは自分の町へ帰って行った。
- 40 それから、王はギルガルへ進み、キムハムも王とともに進んだ。ユダのすべての民とイスラエルの民の半分が、王とともに進んだ。
- 41 するとそこに、イスラエルのすべての人が王のところにやって来て、王に言った。「われわれの同胞、ユダの人々は、なぜ、あなたを奪い去り、王とその家族に、また王とともにいるダビデの部下たちに、ヨルダン川を渡らせたのですか。」
- 42 ユダのすべての人々はイスラエルの人々に答えた。「王は、われわれの身内だからだ。なぜ、このことでそんなに怒るのか。いったい、われわれが王の食物を食べたとでもいうのか。王が何かわれわれに贈り物をしたとでもいうのか。」
- 43 イスラエルの人々はユダの人々に答えて言った。「われわれは、王のうちに十の分を持っている。だからダビデにも、あなたがたよりも多くを持っている。なぜ、われわれをないがしろにするのか。われわれの王を連れ戻そうと最初に言い出したのは、われわれではないか。」しかし、ユダの人々のことばは、イスラエルの人々のことばより激しかった。

第20章

- 1 たまたまそこに、よこしまな者で、名をシェバという者がいた。彼はベニヤミン人ビクリの息子であった。彼は角笛を吹き鳴らして言った。「ダビデのうちには、われわれのための割り当て地はない。エッサイの子のうちには、われわれのためのゆずりの地はない。イスラエルよ、それぞれ自分の天幕に帰れ。」
- 2 すべてのイスラエルの人々は、ダビデから離れ、ビクリの子シェバに従って行った。しかし、ユダの人々はヨルダン川からエルサレムまで、自分たちの王につき従って行った。
- 3 ダビデはエルサレムの自分の王宮に入った。王は、王宮の留守番に残しておいた十人の側女をとり、監視つきの家を与えて養ったが、彼女たちのところには通わなかった。彼女たちは、一生、やもめとなって、死ぬ日まで閉じ込められていた。
- 4 王はアマサに言った。「私のために、ユダの人々を三日のうちに召集し、あなたも、ここに帰って来なさい。」
- 5 アマサは、ユダの人々を召集するために出て行ったが、指定された期限に間に合わなかった。
- 6 ダビデはアビシャイに言った。「今や、ビクリの子シェバは、アブサロムよりも、もっとひどいわざわいを、われわれに仕掛けるに違いない。あなたは、主君の家来を引き連れて彼を追いなさい。さもないと、彼は城壁のある町に入って、逃れてしまうだろう。」
- 7 ヨアブの部下、クレタ人、ペレテ人、そしてすべての勇士たちは、アビシャイの後に続いて出て行った。彼らはエルサレムを出て、ビクリの子シェバの後を追った。
- 8 彼らがギブオンにある大きな石のそばに来たとき、アマサが彼らの前にやって来た。ヨアブは自分のよろいを身に着け、さやに収めた剣を腰の上に帯で結び付けていた。彼が進み出ると、剣が落ちた。
- 9 ヨアブはアマサに「兄弟、おまえは無事か」と言って、アマサに口づけしようとして、右手でアマサのひげをつかんだ。
- 10 アマサはヨアブの手にある剣に気をつけていなかった。ヨアブは彼の下腹を突いた。それで、はらわたが地面に流れ出た。この一突きでアマサは死んだ。ヨアブとその兄弟アビシャイは、ビクリの子シェバの後を追った。
- 11 ヨアブに仕える若者の一人がアマサのそばに立って言った。「ヨアブにつく者、ダビデに味方する者は、ヨアブに従え。」
- 12 アマサは大路の真ん中で、血まみれになって転がっていた。この若者は、兵がみな立ち止まるのを見て、アマサを大路から野原に運んだ。そして、その傍らを通る者がみな立ち止まるのを見ると、彼の上に衣を掛けた。
- 13 アマサが大路から移されると、みなヨアブの後について進み、ビクリの子シェバを追った。
- 14 シェバはイスラエルの全部族のうちを通過して、アベル・ベテ・マアカへ行った。すべてのベリ人が集まって来て、彼に従った。

- 15 人々はアベル・ベテ・マアカに来て、彼を包囲し、この町に向かって壘を築いた。それは外壁に向かって立てられた。ヨアブにつく兵はみな、城壁を破壊して倒そうとしていた。
- 16 この町から、一人の知恵のある女が叫んだ。「聞いてください。聞いてください。ヨアブにこう言ってください。『ここまで近づいてください。あなたにお話ししたいのです。』」
- 17 ヨアブが彼女の方に近づくと、この女は言った。「あなたがヨアブですか。」彼は言った。「そうだ。」女は言った。「このはしためのことばを聞いてください。」彼は言った。「よし、聞こう。」
- 18 女は言った。「昔、人々は『アベルで尋ねよ』と言って、事を決めました。
- 19 私は、イスラエルのうちで平和な、忠実な者の一人です。あなたは、イスラエルの母である町を滅ぼそうとしておられます。あなたはなぜ、主のゆずりの地を、呑み尽くそうとされるのですか。」
- 20 ヨアブは答えて言った。「とんでもない。呑み尽くしたり滅ぼしたりするなど、とんでもないことだ。
- 21 そうではない。実はビクリの息子で、その名をシェバというエフライムの山地の出である男が、ダビデ王に手向かったのだ。この男だけを引き渡してくれたら、私はこの町から引き揚げよう。」女はヨアブに言った。「では、その男の首を城壁の上からあなたのところに投げ落としてごらんにいれます。」
- 22 この女は知恵を用いて、民全員のところに行った。それで彼らはビクリの子シェバの首をはね、それをヨアブのもとに投げた。ヨアブは角笛を吹き鳴らし、人々は町から散って行き、それぞれ自分の天幕に帰った。ヨアブはエルサレムの王のところに戻った。
- 23 さて、ヨアブはイスラエルの全軍の長であった。エホヤダの子ベナヤはクレタ人とペレテ人の長、
- 24 アドラムは役務長官、アヒルデの子ヨシャファテは史官、
- 25 シェワは書記、ツアドクとエブヤタルは祭司、
- 26 ヤイル人イラもダビデの祭司であった。

第21章

- 1 ダビデの時代に、三年間引き続いて飢饉が起こった。それで、ダビデは主の御顔を求めた。主は言われた。「サウルとその一族に、血の責任がある。彼がギブオン人たちを殺戮したからだ。」
- 2 王はギブオン人たちを呼び出し、彼らに話した。このギブオンの人たちは、イスラエル人ではなくアモリ人の生き残りで、イスラエル人は彼らと盟約を結んでいた。だが、サウルはイスラエルとユダの人々への熱心のあまり、彼らを討とうとしたのである。
- 3 ダビデはギブオン人たちに言った。「あなたがたのために、私は何をすべきであろうか。私が何をもちて宥めを行ったら、主のゆずりの地が祝福されるだろうか。」
- 4 ギブオン人たちは彼に言った。「私たちと、サウルおよびその一族との間の問題は、銀や金のことではありません。また、私たちがイスラエルのうちで人を殺すことでもありません。」ダビデは言った。「私があなたがたに何をしたらよいと思うのか。」
- 5 彼らは王に言った。「私たちを絶ち滅ぼそうとした者、私たちを根絶やしにしてイスラエルの領土のどこにも、いさせないように企んだ者、
- 6 その者の息子の七人を私たちに引き渡してください。私たちは主が選ばれたサウルのギブアで、主のために彼らをさらし者にします。」王は言った。「引き渡そう。」
- 7 王は、サウルの子ヨナタンの子メフィボシェテを惜しんだ。それは、ダビデとサウルの子ヨナタンの間で主に誓った誓いのためであった。
- 8 王は、アヤの娘リツパがサウルに産んだ二人の息子アルモニとメフィボシェテ、それに、サウルの娘メラブがメホラ人バルジライの息子アデリエルに産んだ五人の息子を取って、
- 9 彼らをギブオン人の手に渡した。彼らは、この者たちを山の上で主の前に、さらし者にした。これら七人は一緒に倒れた。彼らは、刈り入れ時の初め、大麦の刈り入れの始まったころ殺された。
- 10 アヤの娘リツパは、粗布を手にとって、それを岩の上に敷いて座り、刈り入れの始まりから雨が天から彼らの上に降るときまで、昼には空の鳥が、夜には野の獣が死体に近寄らないようにした。
- 11 サウルの側女アヤの娘リツパのしたことはダビデに知らされた。
- 12 ダビデは行って、サウルの骨とその息子ヨナタンの骨を、ヤベシュ・ギルアデの者たちのところから持って来た。これは、ペリシテ人がサウルをギルボアで討った日に、二人をさらし者にしたベテ・シャンの広場から、ヤベシュ・ギルアデの者たちが盗んで行ったものであった。
- 13 ダビデはサウルの骨とその息子ヨナタンの骨をそこから携えて上った。人々は、さらし者にされた者たちの骨を集めた。
- 14 彼らはサウルとその息子ヨナタンの骨を、ベニヤミンの地のツェラにあるサウルの父キシユの墓に葬り、すべて王が命じたとおりにした。その後、神はこの国の祈りに心を動かされた。

- 15** ペリシテ人が再びイスラエルに戦いを仕掛けたことがあった。ダビデは自分の家来たちを連れて下り、ペリシテ人と戦ったが、ダビデは疲れていた。
- 16** ラファの子孫の一人であったイシュビ・ベノブは、「ダビデを討つ」と言った。彼の槍の重さは青銅で三百シェケル。そして彼は新しい剣を帯びていた。
- 17** ツェルヤの子アビシャイはダビデを助け、このペリシテ人を打ち殺した。そのとき、ダビデの部下たちは彼に誓って言った。「あなたは、もうこれから、われわれと一緒に戦いに出ないでください。あなたがイスラエルのともしびを消さないために。」
- 18** その後のこと、ゴブで再びペリシテ人との戦いがあった。そのとき、フシャ人シベカイは、ラファの子孫のサフを打ち殺した。
- 19** ゴブでペリシテ人との戦いが再びあったとき、ベツレヘム人ヤイルの子エルハナンは、ガテ人ゴリヤテを打ち殺した。ゴリヤテの槍の柄は、機織りの巻き棒のようであった。
- 20** 再びガテで戦いがあったとき、手の指、足の指が六本ずつで、合計二十四本指の闘士がいた。彼もラファの子孫であった。
- 21** 彼はイスラエルをそしったが、ダビデの兄弟シムアの子ヨナタンが彼を打ち殺した。
- 22** これら四人はガテのラファの子孫で、ダビデとその家来たちの手にかかって倒れた。

第22章

- 1 主がダビデを、すべての敵の手、特にサウルの手から救い出された日に、彼はこの歌のこ
とばを主に歌った。
- 2 彼は言った。「主よ、わが巖、わが砦、わが救い主よ、
- 3 身を避ける、わが岩なる神よ。わが盾、わが救いの角、わがやぐら、わが逃れ場、わが
救い主、あなたは私を暴虐から救われます。
- 4 ほめたたえられる方、この主を呼び求めると、私は敵から救われる。
- 5 死の波は私を取り巻き、滅びの激流は私をおびえさせた。
- 6 よみの綱は私を取り囲み、死の罟は私に立ち向かった。
- 7 私は苦しみの中で主を呼び求め、わが神に叫んだ。主はその宮で私の声を聞かれ、私の
叫びは御耳に届いた。
- 8 地は揺るぎ、動いた。天の基も震え、揺れた。主が怒られたからだ。
- 9 煙は鼻から立ち上り、その口から出る火は貪り食い、炭火は主から燃え上がった。
- 10 主は、天を押し曲げて降りて来られた。黒雲をその足の下にして。
- 11 主は、ケルビムに乗って飛び、風の翼の上に自らを現された。
- 12 主は、闇をご自分の周りで仮庵とされた。水の集まり、濃い雲を。
- 13 御前の輝きから、炭火が燃え上がった。
- 14 主は天から雷鳴を響かせ、いと高き方は御声を発せられた。
- 15 主は矢を放って、彼らを散らし、稲妻を放って、かき乱された。
- 16 こうして、海の底が現れ、地の基があらわにされた。主のとがめにより、その鼻の荒い
息吹によって。
- 17 主は、高い所から御手を伸ばして私を捕らえ、大水から、私を引き上げられました。
- 18 主は、力ある敵から私を救い出されました。私を憎む者どもからも。彼らは私より強かつ
たのです。
- 19 私のわざわいの日に彼らは立ちはだかりました。けれども、主は私の支えとなられまし
た。
- 20 主は私を広いところに連れ出し、私を助け出されました。主が私を喜びとされたからで
す。
- 21 主は、私の義にしたがって私に報い、手のきよさにしたがって顧みてくださいました。
- 22 私は主の道を守り、私の神に対して悪を行いませんでした。
- 23 主のすべてのさばきは私の前にあり、主の掟から、私は遠ざかりませんでした。
- 24 私は主に対して全き者。自分の咎から身を守ります。
- 25 主は私の義にしたがって顧みてくださいました。御目の前の、私のきよさにしたがって。
- 26 あなたは、恵み深い者には恵み深く、全き者には全き方。
- 27 清い者には清く、曲がった者にはねじ曲げる方。
- 28 苦しむ民を、あなたは救われますが、御目を高ぶる者に向け、これを低くされます。

- 29 主よ、まことにあなたは私のともしび。主は私の闇を照らされます。
- 30 あなたによって、私は防塞を突き破り、私の神によって、城壁を跳び越えます。
- 31 神、その道は完全。主のことは純粹。主は、すべて主に身を避ける者の盾。
- 32 主のほかに、だれが神でしょうか。私たちの神のほかに、だれが岩でしょうか。
- 33 神は私の力強い砦。私の道を全きものとされます。
- 34 主は、私の足を雌鹿のようにし、高い所に立たせてくださいます。
- 35 戦いのために私の手を鍛え、腕が青銅の弓も引けるようにされます。
- 36 あなたは御救いの盾を私に下さいます。あなたの謙遜は私を大きくします。
- 37 あなたは私の歩みを広げられ、私のくるぶしはゆるみません。
- 38 私は、敵を追ってこれを根絶やしにし、絶ち滅ぼすまでは引き返しませんでした。
- 39 私が彼らを絶ち滅ぼし、打ち砕いたので、彼らは立てず、私の足もとに倒れました。
- 40 あなたは、戦いのために私に力を帯びさせ、向かい立つ者を、私のもとにひれ伏させました。
- 41 あなたは、敵が、私を憎む者どもが私に背を見せるようにされました。私は彼らを滅ぼしました。
- 42 彼らが主に目を留めても、救う者はなく、答えもありませんでした。
- 43 地のちりのように、私は彼らを打ち砕き、道の泥のように、粉々に砕いて踏みつけました。
- 44 あなたは、民の争いから私を助け出し、国々のかしらとして保たれました。私の知らなかった民が私に仕えます。
- 45 異国の人々は私にへつらい、耳で聞くとすぐ、私に聞き従います。
- 46 異国の人々は打ちしおれ、砦から震えて出て来ます。
- 47 主は生きておられる。ほむべきかな、わが岩。あがむべきかな、わが救いの岩なる神。
- 48 この神は私のために、復讐する方。諸国の民を私のもとに下らせる方。
- 49 神は、敵から私を携え出される方。あなたは、向かい立つ者から私を引き上げ、不法を行う者から私を救い出してくださいます。
- 50 それゆえ、主よ、私は国々の間であなたをほめたたえます。あなたの御名をほめ歌います。
- 51 主は、ご自分の王に救いを増し加え、主に油注がれた者ダビデとその裔に、とこしえに恵みを施されます。」

第23章

- 1 これはダビデの最後のことばである。 エッサイの子ダビデの告げたことば。 いと高き方によって上げられた者、 ヤコブの神に油注がれた者の告げたことば。 イスラエルの歌の歌い手。
- 2 「主の霊は私を通して語り、 そのことばは私の舌の上にある。
- 3 イスラエルの神は仰せられた。 イスラエルの岩は私に語られた。 『義をもって人を治める者、 神を恐れて治める者。
- 4 その者は、 太陽が昇る朝の光、 雲一つない朝の光のようだ。 雨の後に、 地の若草を照らす光のようだ。』
- 5 まことに私の家は、 このように神とともにある。 神が永遠の契約を私と立てられたからだ。 それは、 すべてのことにおいて備えられ、 また守られる。 神は、 私の救いと願いを、 すべて育んでくださるではないか。
- 6 よこしまな者たちはみな、 根こそぎにされた茨のようだ。 それらは手に取ることができない。
- 7 彼らを打つ者はだれも、 槍の刃や柄で武装する。 彼らはその場で、 火で焼き尽くされる。」
- 8 ダビデの勇士たちの名は次のとおりである。 補佐官のかしら、 タハクモ二人ヨシェブ・バシェベテ。 彼は槍を振るって一度に八百人を刺し殺した。
- 9 彼の次は、 アホア八人ドドの子エルアザル。 ダビデにつく三勇士の一人であった。 彼らがペリシテ人をそしったとき、 ペリシテ人は戦うためにそこに集まった。 イスラエル人は退いたが、
- 10 彼は立ち上がり、 自分の手が疲れて、 手が剣にくつつくまでにペリシテ人を討った。 主はその日、 大勝利をもたらされた。 兵たちが彼のところに引き返して来たのは、 ただ、 はぎ取るためであった。
- 11 彼の次はアラル人アゲの子シャンマ。 ペリシテ人が隊をなして集まったとき、 そこにはレンズ豆が豊かに実った一つの畑があった。 兵はペリシテ人の前から逃げたが、
- 12 彼はその畑の真ん中に踏みとどまってこれを守り、 ペリシテ人を討った。 主は大勝利をもたらされた。
- 13 三十人のかしらのうちのこの三人は、 刈り入れのころ、 アドラムの洞穴にいるダビデのところに下って来た。 ペリシテ人の一隊は、 レファイムの谷間に陣を敷いていた。
- 14 そのときダビデは要害にいて、 ペリシテ人の先陣はそのときベツレヘムにいた。
- 15 ダビデは切に望んで、「だれかが私に、 ベツレヘムの門にある井戸の水を飲ませてくれたらよいのだが」と言った。
- 16 三人の勇士はペリシテ人の陣営を突き破って、 ベツレヘムの門にある井戸から水を汲み、 それを携えてダビデのところに持って来た。 しかしダビデはそれを飲もうとはせず、 それを主の前に注いで、

- 17 こう言った。「主よ。そんなことをするなど、私には絶対にできません。これは、いのちをかけて行って来た人たちの血ではありませんか。」彼はそれを飲もうとはしなかった。三勇士は、そのようなことまでしたのである。
- 18 さて、ツェルヤの子ヨアブの兄弟アビシャイは三十人のかしらであった。彼は槍を振るって三百人を刺し殺し、あの三人とともに名をあげた。
- 19 彼は三十人の中で最も誉れが高かったので、彼らの長になったが、あの三人には及ばなかった。
- 20 エホヤダの子ベナヤは、カブツェエル出身で、多くの手柄を立てた力ある人であった。彼はモアブの英雄二人を打ち殺した。また、ある雪の日に、洞穴の中に降りて行って雄獅子を打ち殺した。
- 21 彼はまた、例の堂々としたエジプト人を打ち殺した。このエジプト人は、手に槍を持っていた。ベナヤは杖を持ってその男のところの下って行き、エジプト人の手から槍をもぎ取って、その槍で彼を殺した。
- 22 エホヤダの子ベナヤはこれらのことをして、三勇士とともに名をあげた。
- 23 彼はあの三十人の中でも最も誉れが高かったが、あの三人には及ばなかった。ダビデは彼を自分の護衛長にした。
- 24 ヨアブの兄弟アサエルは、例の三十人とともにいた。ベツレヘム出身のドドの子エルハナン。
- 25 ハロデ人シャンマ。ハロデ人エリカ。
- 26 ペレテ人ヘレツ。テコア人イケシュの子イラ。
- 27 アナトテ人アビエゼル。フシャ人メブナイ。
- 28 アホアハ人ツアルモン。ネトファ人マフライ。
- 29 ネトファ人バアナの子ヘレブ。ベニヤミンのギブア出身のリバイの子イタイ。
- 30 ピルアトン人ベナヤ。ガアシュの谷の出であるヒダイ。
- 31 アルバト人アビ・アルボン。バルフム人アズマウエテ。
- 32 シャアルビム人エルヤフバとヨナタン、ヤシェンの子たち。
- 33 ハラル人シャンマ。アラル人シャラルの子アヒアム。
- 34 マアカ人アハスバイの子エリフェレテ。ギロ人アヒトフェルの子エリアム。
- 35 カルメル人ヘツライ。アラブ人パアライ。
- 36 ツォバ出身のナタンの子イグアル。ガド人バニ。
- 37 アンモン人ツェレク。ツェルヤの子ヨアブの道具持ち、ベエロテ人ナフライ。
- 38 エテル人イラ。エテル人ガレブ。
- 39 ヒットイト人ウリヤ。合計三十七人。

第24章

- 1 さて、再び主の怒りがイスラエルに対して燃え上がり、ダビデをそそのかして、彼らに向かわせた。「さあ、イスラエルとユダの人口を数えよ」と。
- 2 王はともにいた軍の長ヨアブに言った。「さあ、ダンからベエル・シェバに至るまでのイスラエルの全部族の間を歩き回り、民を登録し、私に民の数を知らせよ。」
- 3 ヨアブは王に言った。「あなたの神、主が、この民を百倍にも増やしてくださいますように。わが主、王の目が、親しくこれをご覧になりますように。ところで、わが主、王は、なぜこのようなことを望まれるのですか。」
- 4 しかし、ヨアブと軍の高官たちへの王のことは激しかった。ヨアブと軍の高官たちは、イスラエルの民を登録するために王の前から出て行った。
- 5 彼らはヨルダン川を渡って、ガドの谷の真ん中にある町、ヤゼルに向かって右側にあるアロエルに宿営し、
- 6 ギルアデとタフティム・ホデシの地に行き、さらにダン・ヤアンに行き、シドンに回った。
- 7 そしてツロの要塞に行き、ヒビ人やカナン人のすべての町に行き、ユダのネゲブへ出て行って、ベエル・シェバに至った。
- 8 彼らは全土を歩き回り、九か月と二十日の後にエルサレムに帰って来た。
- 9 ヨアブは兵の登録人数を王に報告した。イスラエルには剣を使う兵士が八十万人おり、ユダの兵士は五十万人であった。
- 10 ダビデは、民を数えた後で、良心のとがめを感じた。ダビデは主に言った。「私は、このようなことをして、大きな罪を犯しました。主よ、今、このしもべの咎を取り去ってください。私は本当に愚かなことをしました。」
- 11 朝ダビデが起きると、主のことはダビデの先見者である預言者ガドにあった。
- 12 「行ってダビデに告げよ。『主はこう言われる。わたしはあなたに三つのことを負わせる。そのうちの一つを選べ。わたしはあなたに対してそれを行う。』」
- 13 ガドはダビデのもとに行き、彼に告げた。「七年間の飢饉が、あなたの国に来るのがよいか。三か月間、あなたが敵の前を逃げ、敵があなたを追うのがよいか。三日間、あなたの国に疫病があるのがよいか。今、よく考えて、私を遣わされた方に何と答えたらよいかを決めなさい。」
- 14 ダビデはガドに言った。「それは私には非常に辛いことです。主の手に陥らせてください。主のあわれみは深いからです。私が人の手には陥らないようにしてください。」
- 15 主は、その朝から定められた時まで、イスラエルに疫病を下された。ダンからベエル・シェバに至るまで、民のうち七万人が死んだ。
- 16 御使いは、エルサレムを滅ぼそうと手を伸ばした。主はわざわいを下すことを思い直し、民を滅ぼす御使いに言われた。「もう十分だ。手を引け。」主の使いは、エブス人アラウナの打ち場の傍らにいた。

- 17** ダビデは、民を打っている御使いを見たとき、主に言った。「ご覧ください。この私に罪があるのです。私が悪いことをしたのです。この羊の群れがいったい何をしたでしょうか。どうか、あなたの御手が、私と私の父の家に下りますように。」
- 18** その日、ガドはダビデのところに来て、彼に言った。「上って行って、エブス人アラウナの打ち場に、主のために祭壇を築きなさい。」
- 19** ダビデは、ガドのことばにしたがって、主が命じられたとおりに上って行った。
- 20** アラウナが見下ろすと、王とその家来たちが自分の方に進んで来るのが見えた。アラウナは出て行き、地にひれ伏して、王に礼をした。
- 21** アラウナは言った。「なぜ、わが主、王は、しもべのところにおいでになったのですか。」ダビデは言った。「あなたの打ち場を買って、主のために祭壇を築きたい。そうすれば民への主の罰は終わるだろう。」
- 22** アラウナはダビデに言った。「わが主、王よ。お気に召す物を取って、お献げください。ご覧ください。ここに全焼のささげ物のための牛がいます。薪にできる打穀機や牛の用具もあります。
- 23** 王よ、このアラウナはすべてを王に差し上げます。」アラウナはさらに王に言った。「あなたの神、主が、あなたを受け入れてくださいますように。」
- 24** しかし王はアラウナに言った。「いや、私は代金を払って、あなたから買いたい。費用もかけずに、私の神、主に全焼のささげ物を献げたくはない。」そしてダビデは、打ち場と牛を銀五十シェケルで買った。
- 25** ダビデは、そこに主のために祭壇を築き、全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げた。主が、この国のための祈りに心を動かされたので、イスラエルへの主の罰は終わった。

列王記上

1 Kings

第1章

- 1 ダビデ王は年を重ねて老人になっていた。そのため衣をいくら着せても温まらなかった。
- 2 家来たちは王に言った。「王のために一人の若い処女を探し、御前に仕えて世話をするようにし、王の懷に寝させて王が温まるようにいたしましょう。」
- 3 こうして彼らは、イスラエルの国中に美しい娘を探し求め、シュネム人の女アビシャグを見つけて、王のもとに連れて来た。
- 4 この娘は非常に美しかった。彼女は王の世話をするようになり、彼に仕えたが、王は彼女を知ることがなかった。
- 5 ときに、ハギテの子アドニヤは、「私が王になる」と言って野心を抱き、戦車、騎兵、それに自分の前に走る者五十人を手に入れた。
- 6 彼の父は、「おまえは、どうしてこんなことをしたのか」と言って、彼のことで心を痛めたことは一度もなかった。そのうえ、彼は非常に体格も良く、アブサロムの次に生まれた子であった。
- 7 彼がツェルヤの子ヨアブと祭司エブヤタルに相談をしたので、彼らはアドニヤを支持するようになった。
- 8 しかし、祭司ツァドクとエホヤダの子ベナヤと預言者ナタン、それにシムイとレイ、およびダビデの勇士たちは、アドニヤにくみしなかった。
- 9 アドニヤは、エン・ロゲルの近くにあるゾヘレテの石のそばで、羊、牛、肥えた家畜をいけにえとして献げ、王の息子たちである自分のすべての兄弟たちと、王の家来であるユダのすべての人々を招いた。
- 10 しかし、預言者ナタン、ベナヤ、勇士たち、そして自分の兄弟ソロモンは招かなかった。
- 11 そこで、ナタンはソロモンの母バテ・シェバにこう言った。「われらの君ダビデが知らないうちに、ハギテの子アドニヤが王になったことを、あなたは聞いていないのですか。
- 12 さあ今、あなたに助言をしますから、自分のいのちと、自分の子ソロモンのいのちを救いなさい。
- 13 すぐにダビデ王のもとに行って、『王様。あなたは、このはしために、「必ずあなたの子ソロモンが私の跡を継いで王となる。彼が私の王座に就く」と誓われたではありませんか。それなのに、なぜアドニヤが王となったのですか』と言いなさい。
- 14 あなたがまだそこで王と話している間に、私もあなたの後から入って行って、あなたのことばが確かであることを保証しましょう。」
- 15 バテ・シェバは寝室の王のもとに行った。王は非常に年老いていて、シュネム人の女アビシャグが王に仕えていた。
- 16 バテ・シェバがひざまずいて、王に礼をすると、王は「何の用か」と言った。
- 17 彼女は答えた。「わが君。あなたは、あなたの神、主にかけて、『必ずあなたの子ソロモンが私の跡を継いで王となる。彼が私の王座に就く』と、このはしためにお誓いになりました。

- 18 それなのに今、ご覧ください、アドニヤが王となっています。王様、あなたはそれをご存じではないのです。
- 19 彼は、雄牛や肥えた家畜や羊をたくさん、いけにえとして献げ、王のすべてのお子様と、祭司エブヤタル、それに軍の長ヨアブを招いたのに、あなたのしもべソロモンは招きませんでした。
- 20 王様。王様の跡を継いで王座に就くのはだれと告げられるのかと、今や、全イスラエルの目はあなたの上に注がれています。
- 21 このままですと、王様のご先祖とともに眠りにつかれるとき、私と私の子ソロモンは罪ある者と見なされるでしょう。」
- 22 彼女がまだ王と話しているうちに、預言者ナタンが入って来た。
- 23 家来たちは、「預言者ナタンが参りました」と言って王に告げた。彼は王の前に出て、地にひれ伏し、王に礼をした。
- 24 ナタンは言った。「王よ。あなたは『アドニヤが私の跡を継いで王となる。彼が私の王座に就く』とおっしゃったのでしょうか。
- 25 実は今日、彼は下って行って、雄牛や肥えた家畜や羊をたくさん、いけにえとして献げ、王のお子様すべてと、軍の長たち、そして祭司エブヤタルを招きました。彼らは彼の前で食べたり飲んだりしながら、『アドニヤ王、万歳』と叫びました。
- 26 しかしあなたのしもべのこの私や、祭司ツァドク、エホヤダの子ベナヤ、それに、あなたのしもべソロモンは招きませんでした。
- 27 このことは、王から出たことなのですか。あなたは、だれが王の跡を継いで王座に就くのかを、このしもべに告げておられません。」
- 28 ダビデ王は答えた。「バテ・シェバをここに。」彼女が王の前に来て、王の前に立つと、
- 29 王は誓って言った。「主は生きておられる。主は私のたましいをあらゆる苦難から贖い出してくださった。
- 30 私がイスラエルの神、主にかけて、『必ずあなたの子ソロモンが私の跡を継いで王となる。彼が私に代わって王座に就く』とあなたに誓ったとおり、今日、必ずそのとおりにしよう。」
- 31 バテ・シェバは地にひれ伏して王に礼をし、そして言った。「わが君、ダビデ王様。いつまでも生きられますように。」
- 32 それからダビデ王は「祭司ツァドクと預言者ナタン、それにエホヤダの子ベナヤをここに呼べ」と言った。彼らが王の前に来ると、
- 33 王は彼らに言った。「おまえたちの主君の家来たちを連れて、私の子ソロモンを私の雌ろばに乗せ、彼を連れてギホンへ下れ。
- 34 祭司ツァドクと預言者ナタンは、そこで彼に油を注いでイスラエルの王とせよ。そうして、角笛を吹き鳴らし、『ソロモン王、万歳』と叫べ。
- 35 それから彼の後に従って上れ。彼は来て、私の王座に就き、私に代わって王となる。私は彼をイスラエルとユダの君主に任命する。」
- 36 エホヤダの子ベナヤが王に答えて言った。「アーメン。王の神、主も、そう言われますように。

- 37 主が王とともにおられたように、ソロモンとともにいて、その王座を、わが君ダビデ王の王座よりもすぐれたものとされますように。」
- 38 そこで、祭司ツァドク、預言者ナタン、エホヤダの子ベナヤ、それにクレタ人とペレテ人が下って行き、ソロモンをダビデ王の雌ろばに乗せ、彼を連れてギホンへ行った。
- 39 祭司ツァドクは天幕の中から油の角を取って来て、ソロモンに油を注いだ。彼らが角笛を吹き鳴らすと、民はみな、「ソロモン王、万歳」と言った。
- 40 民はみな、彼の後に従って上って来た。民が笛を吹き鳴らしながら、大いに喜んで歌ったので、地がその声で裂けた。
- 41 アドニヤと、彼とともにいた客はみな、食事を終えたとき、これを聞いた。ヨアブは角笛の音を聞いて言った。「なぜ、都で騒々しい音がするのか。」
- 42 彼がまだそう言っているうちに、祭司エブヤタルの子ヨナタンがやって来た。アドニヤは言った。「入れ。おまえは勇敢な男だから、良い知らせを持って来たのだろう。」
- 43 ヨナタンはアドニヤに答えた。「いいえ、われらの君、ダビデ王はソロモンを王とされました。
- 44 ダビデ王は、祭司ツァドク、預言者ナタン、エホヤダの子ベナヤ、それに、クレタ人とペレテ人をソロモンにつけて送り出されました。彼らはソロモンを王の雌ろばに乗せ、
- 45 祭司ツァドクと預言者ナタンが、ギホンで彼に油を注いで王としました。こうして彼らが喜びながら、そこから上って来たので、都が騒々しくなったのです。あなたがたが聞いたあの物音がそれです。
- 46 しかも、ソロモンはすでに王の座に就きました。
- 47 そのうえ、王の家来たちが来て、『神がソロモンの名をあなたの名よりもすぐれたものとし、その王座をあなたの王座よりも大いなるものとされますように』と、われらの君、ダビデ王に祝福のことばを述べました。すると、王は寝台の上でひれ伏されました。
- 48 また、王はこう言われました。『イスラエルの神、主がほめたたえられるように。主は今日、私の王座に就く者を与え、私がこの目で見えるようにしてくださった。』」
- 49 アドニヤの客たちはみな身震いして立ち上がり、それぞれ帰途についた。
- 50 アドニヤもソロモンを恐れて立ち上がり、行って祭壇の角をつかんだ。
- 51 そのとき、ソロモンに次のような知らせがあった。「アドニヤはソロモン王を恐れ、祭壇の角をしっかりと握って、『ソロモン王がまず、このしもべを剣で殺さないと私に誓ってくださいるように』と言っています。」
- 52 すると、ソロモンは言った。「彼が立派な人物であれば、その髪の毛一本も地に落ちることはない。しかし、彼のうちに悪が見つかれば、彼は死ななければならない。」
- 53 それから、ソロモン王は人を遣わして、アドニヤを祭壇から降ろさせた。アドニヤが来てソロモン王に礼をすると、ソロモンは彼に言った。「家に帰りなさい。」

第2章

- 1 ダビデの死ぬ日が近づいたとき、彼は息子のソロモンに次のように命じた。
- 2 「私は世のすべての人が行く道を行こうとしている。あなたは強く、男らしくありなさい。
- 3 あなたの神、主への務めを守り、モーセの律法の書に書かれているとおりに、主の掟と命令と定めとさとしを守って主の道に歩みなさい。あなたが何をしても、どこへ向かって、も、栄えるためだ。
- 4 そうすれば、主は私についてお告げになった約束を果たしてくださるだろう。すなわち『もし、あなたの息子たちが彼らの道を守り、心を尽くし、いのちを尽くして、誠実にわたしの前に歩むなら、あなたには、イスラエルの王座から人が断たれることはない』。
- 5 また、あなたはツェルヤの子ヨアブが私にしたこと、すなわち、彼がイスラエルの二人の軍の長、ネルの子アブネルとエテルの子アマサにしたことを知っている。ヨアブは彼らを虐殺し、平和なときに戦いの血を流し、自分の腰の帯と足のくつに戦いの血をつけたのだ。
- 6 だから、あなたは自分の知恵にしたがって行動しなさい。彼の白髪頭を安らかによみに下らせてはならない。
- 7 しかし、ギルアデ人バルジライの子たちには恵みを施してやり、彼らをあなたの食卓に連らせなさい。彼らは、私があなたの兄弟アブサロムの前から逃げたとき、私の近くに来てくれたのだから。
- 8 また、あなたのそばに、バフリム出身のベニヤミン人ゲラの子シムイがいる。彼は、私がマハナインに行ったとき、非常に激しく私を呪った。だが、彼は私を迎えにヨルダン川に下って来たので、私は主にかけて、『おまえを剣で殺すことはない』と彼に誓った。
- 9 しかし今は、彼を咎のない者としてはならない。あなたは知恵の人だから、どうすれば彼の白髪頭を血に染めてよみに下らせられるかが分かるだろう。」
- 10 こうして、ダビデは先祖とともに眠りにつき、ダビデの町に葬られた。
- 11 ダビデがイスラエルの王であった期間は四十年であった。ヘブロンで七年治め、エルサレムで三十三年治めた。
- 12 ソロモンは父ダビデの王座に就き、その王位は確立した。
- 13 あるとき、ハギテの子アドニヤがソロモンの母バテ・シェバのところにやって来た。バテ・シェバは「平和なことで来たのですか」と尋ねた。彼は「平和なことです」と答えて、
- 14 さらに言った。「お話ししたいことがあるのですが。」すると彼女は言った。「話してごらんなさい。」
- 15 彼は言った。「ご存じのように、王位は私のものでしたし、イスラエルはみな私が王になるのを期待していました。それなのに、王位は転じて、私の弟のものとなりました。主によって彼のものとなったからです。

- 16 今、あなたに一つのお願いがあります。断らないでください。」バテ・シェバは彼に言った。「話してごらんなさい。」
- 17 彼は言った。「どうかソロモン王に頼んでください。あなたからなら断らないでしょうか。王がシュネム人の女アビシャグを、私に妻として与えてくださるように。」
- 18 そこで、バテ・シェバは「いいでしょう。私から王にあなたのことを話します」と言った。
- 19 バテ・シェバは、アドニヤのことを話すために、ソロモン王のところに行った。王は立ち上がって彼女を迎え、彼女に礼をして、自分の王座に座った。王の母のために席が設けられ、彼女は王の右に座った。
- 20 彼女は言った。「あなたに一つのお願いがあります。断らないでください。」王は彼女に言った。「母上、その願い事を聞かせてください。断ることはしませんから。」
- 21 彼女は言った。「シュネム人の女アビシャグを、あなたの兄アドニヤに妻として与えてやってください。」
- 22 ソロモン王は母に答えた。「なぜ、アドニヤのためにシュネム人の女アビシャグを願うのですか。彼は私の兄ですから、彼のためには王位を願ったほうがよいではありませんか。彼のためにも、祭司エブヤタルやツェルヤの子ヨアブのためにも。」
- 23 ソロモン王は主にかけて次のように誓った。「アドニヤがこういうことを言ってもなお自分のいのちを失わなかったなら、神がこの私を幾重にも罰せられるように。」
- 24 主は生きておられる。主は私を父ダビデの王座に就かせて、私を堅く立て、約束どおり私のために家を建ててくださった。アドニヤは今日殺されなければならない。」
- 25 こうしてソロモン王は、エホヤダの子ベナヤを遣わしてアドニヤを討ち取らせたので、彼は死んだ。
- 26 それから、王は祭司エブヤタルに言った。「アナトテの自分の地所に帰れ。おまえは死に値する者だが、今日はおまえを殺さない。おまえは私の父ダビデの前で神である主の箱を担ぎ、父といつも苦しみをともしたからだ。」
- 27 こうして、ソロモンはエブヤタルを主の祭司の職から追放した。シロでエリの家族について語られた主のことばは、こうして成就した。
- 28 この知らせがヨアブのところに伝わった。ヨアブはアブサロムにはつかなかったが、アドニヤについていたのである。ヨアブは主の天幕に逃げ、祭壇の角をつかんだ。
- 29 ソロモン王に「ヨアブが主の天幕に逃げて、今、祭壇の傍らにいる」という知らせがあった。するとソロモンは、「行って彼を討ち取れ」と命じて、エホヤダの子ベナヤを遣わした。
- 30 ベナヤは主の天幕に入って、彼に言った。「王がこう言われる。『外に出よ。』」彼は「いや、ここで死ぬ」と言った。ベナヤは王にこのことを報告した。「ヨアブはこう私に答えました。」
- 31 王は彼に言った。「彼が言ったとおりにせよ。彼を討ち取って葬れ。こうして、ヨアブが理由もなく流した血の責任を、私と、私の父の家から取り除け。
- 32 主は、彼が流した血を彼の頭に注ぎ返される。彼は自分よりも正しく善良な二人の者に討ちかかり、剣で虐殺したからだ。彼は私の父ダビデが知らないうちに、イスラエルの軍の

長である、ネルの子アブネルと、ユダの軍の長である、エテルの子アマサを虐殺したのだ。

- 33 二人の血は永遠にヨアブの頭と彼の子孫の頭に注ぎ返され、ダビデとその子孫、および、その家と王座には、とこしえまでも主から平安があるように。」
- 34 エホヤダの子ベナヤは上って行き、彼を打って殺した。ヨアブは荒野にある自分の家に葬られた。
- 35 王はエホヤダの子ベナヤを彼の代わりに軍団長とした。また、王は祭司ツアドクをエブヤタルの代わりとした。
- 36 王は人を遣わしてシムイを呼び寄せ、彼に言った。「エルサレムに自分の家を建て、そこに住むがよい。だが、そこからどこへも出てはならない。
- 37 出て行ってキデロンの谷を渡った日には、おまえは必ず死ななければならないと覚悟しておけ。おまえの血の責任はおまえ自身の頭上に降りかかるのだ。」
- 38 シムイは王に言った。「よろしゅうございます。しもべは王様のおっしゃるとおりにいたします。」このようにしてシムイは、何日もの間エルサレムに住んだ。
- 39 それから三年たったころ、シムイの二人の奴隷が、ガテの王マアカの子アキシユのところへ逃げた。シムイに「あなたの奴隷たちが今、ガテにいる」という知らせがあったので、
- 40 シムイはすぐ、ろばに鞍を置き、奴隷たちを捜しにガテのアキシユのところへ行った。シムイは行って、奴隷たちをガテから連れ戻した。
- 41 シムイがエルサレムからガテに行って帰って来たことが、ソロモンに知らされた。
- 42 すると、王は人を遣わし、シムイを呼び出して言った。「私はおまえに、主にかけて誓わせ、『おまえが出て、どこかへ行った日には、おまえは必ず死ななければならないと覚悟しておけ』と警告しておいたではないか。すると、おまえは私に『よろしゅうございます。従います』と言った。
- 43 それなのになぜ、主への誓いと、私がおまえに命じた命令を守らなかったのか。」
- 44 王はまたシムイに言った。「おまえは心の中で、自分が私の父ダビデに対して行ったすべての悪をよく知っているはずだ。主はおまえの悪をおまえの頭に返される。
- 45 しかし、ソロモン王は祝福され、ダビデの王座は主の前でとこしえまでも堅く立つ。」
- 46 王はエホヤダの子ベナヤに命じた。ベナヤは出て行ってシムイを討ち取り、シムイは死んだ。こうして、王国はソロモンによって確立した。

第3章

- 1 ソロモンはエジプトの王ファラオと姻戚の関係を結んだ。彼はファラオの娘をめとり、ダビデの町に連れて来て、自分の家と主の家、およびエルサレムの周りの城壁を築き終えるまで、そこにとどまらせた。
- 2 当時はまだ、主の御名のために家が建てられていなかったのので、民はただ、高き所でいけにえを献げていた。
- 3 ソロモンは主を愛し、父ダビデの掟に歩んでいた。ただし、彼は高き所でいけにえを献げ、香をたいていた。
- 4 王はいけにえを献げようとギブオンへ行った。そこが最も重要な高き所だったからである。ソロモンはそこの祭壇の上で千匹の全焼のささげ物を献げた。
- 5 ギブオンで主は夜の夢のうちにソロモンに現れた。神は仰せられた。「あなたに何を与えようか。願え。」
- 6 ソロモンは言った。「あなたは、あなたのしもべ、私の父ダビデに大いなる恵みを施されました。父があなたに対し真実と正義と真心をもって、あなたの御前に歩んだからです。あなたはこの大いなる恵みを父のために保ち、今日のように、その王座に着いている子を彼にお与えになりました。
- 7 わが神、主よ。今あなたは私の父ダビデに代わって、このしもべを王とされました。しかし私は小さな子どもで、出入りする術を知りません。
- 8 そのうえ、しもべは、あなたが選んだあなたの民の中にいます。あまりにも多くて、数えることも調べることもできないほど大勢の民です。
- 9 善悪を判断してあなたの民をさばくために、聞き分ける心をしもべに与えてください。さもなければ、だれに、この大勢のあなたの民をさばくことができるのでしょうか。」
- 10 これは主のみこころにかなった。ソロモンがこのことを願ったからである。
- 11 神は彼に仰せられた。「あなたがこのことを願い、自分のために長寿を願わず、自分のために富を願わず、あなたの敵のいのちさえ願わず、むしろ、自分のために正しい訴えを聞き分ける判断力を願ったので、
- 12 見よ、わたしはあなたが言ったとおりにする。見よ。わたしはあなたに、知恵と判断の心を与える。あなたより前に、あなたのような者はなく、あなたの後に、あなたのような者は起こらない。
- 13 そのうえ、あなたが願わなかったもの、富と誉れもあなたに与える。あなたが生きているかぎり、王たちの中であなたに並ぶ者は一人もない。
- 14 また、あなたの父ダビデが歩んだように、あなたもわたしの掟と命令を守ってわたしの道に歩むなら、あなたの日々を長くしよう。」
- 15 ソロモンが目覚めると、見よ、それは夢であった。彼はエルサレムに行き、主の契約の箱の前に立って、全焼のささげ物を献げ、交わりのいけにえを献げ、すべての家来たちのために祝宴を開いた。
- 16 そのころ、二人の遊女が王のところに来て、その前に立った。

- 17 その一人が言った。「わが君、お願いがございます。実は、私とこの女とは同じ家に住んでいますが、私はこの女と一緒に家にいるとき、子を産みました。
- 18 私が子を産んで三日たつと、この女も子を産みました。家には私たちのほか、だれも一緒にいた者はなく、私たち二人だけが家にいました。
- 19 ところが、夜の間に、この女の産んだ子が死にました。この女が自分の子の上に伏したからです。
- 20 この女は夜中に起きて、このはしためが眠っている間に、私のそばから私の子を取って自分の懷に寝かせ、死んだ自分の子を私の懷に寝かせました。
- 21 朝、私が子どもに乳を飲ませようとして起きると、どうでしょう、その子は死んでいるではありませんか。朝、その子をよく見てみると、なんとまあ、その子は私が産んだ子ではありませんでした。」
- 22 すると、もう一人の女が言った。「いいえ、生きているのが私の子で、死んでいるのがあなたの子です。」先の女は言った。「いいえ、死んだのがあなたの子で、生きているのが私の子です。」女たちは王の前で言い合った。
- 23 そこで王は言った。「一人は『生きているのが私の子で、死んだのがあなたの子だ』と言い、また、もう一人は『いや、死んだのがあなたの子で、生きているのが私の子だ』と言う。」
- 24 王が「剣をここに持って来なさい」と言ったので、剣が王の前に差し出された。
- 25 王は言った。「生きている子を二つに切り分け、半分をこちらに、もう半分をそちらに与えよ。」
- 26 すると生きている子の母親は、自分の子を哀れに思って胸が熱くなり、王に申し立てて言った。「わが君、お願いです。どうか、その生きている子をあの女にお与えください。決してその子を殺さないでください。」しかしもう一人の女は、「それを私のものにも、あなたのものにもしないで、断ち切ってください」と言った。
- 27 そこで王は宣告を下して言った。「生きている子を初めのほうの女に与えよ。決してその子を殺してはならない。彼女がその子の母親である。」
- 28 全イスラエルは、王が下したさばきを聞いて、王を恐れた。神の知恵が彼のうちにあって、さばきをするのを見たからである。

第4章

- 1 こうして、ソロモン王は全イスラエルの王となった。
- 2 彼の高官たちは次のとおり。ツァドクの子アザルヤは祭司、
- 3 シシャの子たちのエリホレフとアヒヤは書記、アヒルデの子ヨシャファテは史官、
- 4 エホヤダの子ベナヤは軍団長、ツァドクとエブヤタルは祭司、
- 5 ナタンの子アザルヤは政務長官、ナタンの子ザブデは祭司で王の友、
- 6 アヒシャルは宮廷長官、アブダの子アドニラムは役務長官。
- 7 ソロモンは、イスラエル全土に十二人の守護を置いた。彼らは王とその一族に食糧を納めた。一年に一か月分の食糧を各自が納めることになっていたのである。
- 8 彼らの名は次のとおり。 エフライムの山地にはフルの子。
- 9 マカツ、シャアルビム、ベテ・シェメシュ、エロン・ベテ・ハナンにはデケルの子。
- 10 アルボテにはヘセデの子。彼はソコと、ヘフェルの全地を任されていた。
- 11 ドルの全高地にはアビナダブの子。ソロモンの娘タファテが彼の妻であった。
- 12 タアナク、メギド、またイズレエルの下ツアレタンのそばのベテ・シェアンの全域、ベテ・シェアンからアベル・メホラ、ヨクメアムの向こうまでの地には、アヒルデの子バアナ。
- 13 ラモテ・ギルアデにはゲベルの子。彼はギルアデにあるマナセの子ヤイルの町々と、バシヤンにあるアルゴブの地域で、城壁と青銅のかんぬきを備えた六十の大きな町を任されていた。
- 14 マハナイムにはイドの子アヒナダブ。
- 15 ナフタリにはアヒマアツ。彼も、ソロモンの娘バセマテを妻としていた。
- 16 アシェルとベアロテにはフシャイの子バアナ。
- 17 イッサカルにはパルアハの子ヨシャファテ。
- 18 ベニヤミンにはエラの子シムイ。
- 19 アモリ人の王シホンとバシヤンの王オグの領地であったギルアデの地には、ウリの子ゲベル。彼は、その地で唯一の守護であった。
- 20 ユダとイスラエルの人々は海辺の砂のように多くなり、食べたり飲んだりして、楽しんでいた。
- 21 ソロモンは、あの大河からペリシテ人の地、さらにエジプトの国境に至る、すべての王国を支配した。これらの王国は、ソロモンの一生の間、貢ぎ物を持って来て彼に仕えた。
- 22 ソロモン一日分の食糧は、上質の小麦粉三十コル、小麦粉六十コル。
- 23 それに、肥えた牛十頭、放牧の牛二十頭、羊百匹。そのほか、雄鹿、かもしか、のろ鹿、そして肥えた鳥であった。
- 24 これはソロモンが、あの大河の西側、ティフサフからガザまでの全土、すなわち大河の西側のすべての王たちを支配し、周辺のすべての地方に平和があったからである。

- 25** ユダとイスラエルは、ソロモンの治世中、ダンからベエル・シェバに至るまでのどこでも、それぞれ自分のぶどうの木の下や、いちじくの木の下で安心して暮らした。
- 26** ソロモンは、戦車用の馬のために馬屋四万、騎兵一万二千を持っていた。
- 27** 守護たちはそれぞれ自分の当番月に、ソロモン王、およびソロモン王の食卓に連なるすべての者たちのために食糧を納め、不足させなかった。
- 28** また彼らは、引き馬や早馬のために、それぞれ割り当てにしたがって、所定の場所に大麦と藁を持って来た。
- 29** 神は、ソロモンに非常に豊かな知恵と英知と、海辺の砂浜のように広い心を与えられた。
- 30** ソロモンの知恵は、東のすべての人々の知恵と、エジプト人のすべての知恵にまさっていた。
- 31** 彼は、どの人よりも、すなわち、エズラフ人エタンや、マホルの息子たちのヘマン、カルコル、ダルダよりも知恵があった。そのため、彼の名声は周辺のすべての国々に広まった。
- 32** ソロモンは三千の箴言を語り、彼の歌は千五首もあった。
- 33** 彼は、レバノンにある杉の木から、石垣に生えるヒソプに至るまでの草木について語り、獣、鳥、這うもの、そして魚についても語った。
- 34** 彼の知恵のうわさを聞いた世界のすべての王たちのもとから、あらゆる国の人々が、ソロモンの知恵を聞くためにやって来た。

第5章

- 1 さて、ツロの王ヒラムは、ソロモンが油注がれて、彼の父に代わって王となったことを聞いて、自分の家来たちをソロモンのところへ遣わした。ヒラムはダビデと常に友情を保っていたからである。
- 2 そこで、ソロモンはヒラムのもとに人を遣わして言った。
- 3 「ご存じのように、私の父ダビデは、周りからいつも戦いを挑まれていたため、主が彼らを私の足の裏の下に置かれるまで、私の父の神、主の御名のために神殿を建てることができませんでした。
- 4 しかし今や、私の神、主は、周囲の者から私を守って安息を与えてくださり、敵対する者もなく、わざわざを起こす者もありません。
- 5 今私は、私の神、主の御名のために神殿を建てようと思っています。主が私の父ダビデに、『わたしがあなたの代わりに王座に就かせるあなたの子、彼がわたしの名のために家を建てる』と言われたとおりです。
- 6 どうか、私のために、レバノンから杉を切り出すように命じてください。私の家来たちも、あなたの家来たちと一緒に働きます。私はあなたの家来たちに、あなたが言われるとおりの賃金を払います。ご存じのように、私たちの中にはシドン人のように木を切ることに熟練した者がいませんから。」
- 7 ヒラムはソロモンの申し出を聞いて、大いに喜んで言った。「今日、主がほめたたえられますように。主は、この大いなる民を治める、知恵のある子をダビデにお与えになった。」
- 8 ヒラムはソロモンのもとに人を遣わして言った。「あなたが言い送られたことを聞きました。私は、杉の木材ともみの木材なら、何なりとあなたのお望みどおりにいたしましょう。
- 9 私の家来たちは、それをレバノンから海へ下らせます。私はそれをいかだに組んで、海路、あなたが指定される場所まで送り、そこでそれを解かせましょう。それを受け取ってください。それから、あなたは私の一族に食物を与えて、私の望みをかなえてください。」
- 10 こうしてヒラムは、ソロモンに杉の木材ともみの木材を、彼が望むだけ与えた。
- 11 ソロモンはヒラムに、その一族の食糧として、小麦二万コルと上質のオリーブ油二十コルを与えた。ソロモンは、これだけの物を毎年ヒラムに与えた。
- 12 主は約束どおり、ソロモンに知恵を授けられた。ヒラムとソロモンとの間には平和が保たれ、二人は契約を結んだ。
- 13 ソロモン王は全イスラエルから役務者を徴用した。役務者は三万人であった。
- 14 ソロモンは、彼らを一か月交代で一万人ずつレバノンに送った。一か月はレバノンに、二か月は家にいるようにした。役務長官はアドニラムであった。
- 15 ソロモンには荷を担ぐ者が七万人、山で石を切り出す者が八万人いた。

- 16 そのほか、ソロモンには工事の監督をする長が三千三百人いて、工事に携わる民を指揮していた。
- 17 王は、切り石を神殿の礎に据えるために、大きな石、高価な石を切り出すように命じた。
- 18 ソロモンの建築者たち、ヒラムの建築者たち、そしてゲバル人たちは石を切り、神殿を建てるために木材と石材を準備した。

第6章

- 1 イスラエル人がエジプトの地を出てから四百八十年目、ソロモンがイスラエルの王となつてから四年目のジブの月、すなわち第二の月に、ソロモンは主の家の建築に取りかかった。
- 2 ソロモン王が主のために建てた神殿は、長さ六十キュビト、幅二十キュビト、高さ三十キュビトであった。
- 3 神殿の本殿の前に付く玄関は、長さが神殿の幅と同じ二十キュビト、幅が神殿の前で十キュビトであった。
- 4 神殿には格子を取り付けた窓を作った。
- 5 さらに、神殿の壁に、すなわち神殿の壁の周り、本殿と内殿の周りに、脇屋を建て巡らした。こうして階段式の脇間を周りに作った。
- 6 脇屋の一階は幅五キュビト、二階は幅六キュビト、三階は幅七キュビトであった。それは、神殿の外周りの壁に段を作り、神殿の壁を梁で支えずにすむようにするためであった。
- 7 神殿が建てられたとき、石切り場で完全に仕上げられた石で建てられたので、工事中、槌や斧や、いかなる鉄の道具の音も、いっさい神殿の中では聞こえなかった。
- 8 二階の脇間に通じる入り口は神殿の右側にあり、螺旋階段で二階に、また二階から三階に上るようになっていた。
- 9 ソロモンは神殿を建て、これを完成させるにあたって、神殿の屋根を杉材でできた雨水溝の列でおおった。
- 10 神殿の側面に脇屋を建て巡らし、その各階の高さは五キュビトにして、これを杉材で神殿に固定させた。
- 11 そのとき、ソロモンに次のような主のことばがあった。
- 12 「あなたが建てているこの神殿のことであるが、もし、あなたがわたしの掟に歩み、わたしの定めを行い、わたしのすべての命令を守り、これによって歩むなら、わたしはあなたについてあなたの父ダビデに約束したことを成就しよう。
- 13 わたしはイスラエルの子らのただ中に住み、わたしの民イスラエルを捨てることはしない。」
- 14 こうして、ソロモンは神殿を建て、これを完成させた。
- 15 彼は神殿の内側の壁を杉の板でおおい、神殿の床から天井の壁に至るまで、内側を板でおおった。なお神殿の床は、もみの板でおおった。
- 16 それから、彼は神殿の奥の部分二十キュビトを、床から天井の壁に至るまで杉の板でおおった。このようにして、彼は神殿に内殿、すなわち至聖所を設けた。
- 17 神殿の手前側の本殿は四十キュビトであった。
- 18 神殿内部の杉の板には、瓢箪模様と花模様が浮き彫りにされていて、すべては杉の板で、石は見えなかった。
- 19 内殿は神殿内部の奥に、主の契約の箱を置くために設けた。

- 20 内殿の内部は、長さ二十キュビト、幅二十キュビト、高さ二十キュビトで、純金でこれをおおった。さらに杉材の祭壇も純金でおおった。
- 21 ソロモンは神殿の内側を純金でおおい、内殿の前に金の鎖を渡し、これに金をかぶせた。
- 22 神殿全体を隅々まで金でおおい、内殿に関わる祭壇も全体を金でおおった。
- 23 内殿の中にオリーブ材で二つのケルビムを作った。その高さは十キュビトであった。
- 24 ケルビムの方の翼は五キュビト、もう一方の翼も五キュビト。翼の端から翼の端までは十キュビトであった。
- 25 もう片方のケルビムも十キュビトあり、両方のケルビムは全く同じ寸法、同じ形であった。
- 26 片方のケルビムの高さは十キュビト、もう片方のケルビムも同じであった。
- 27 ケルビムは神殿内部に置かれた。ケルビムは翼を広げていて、片方のケルビムの翼は一方の壁に届き、もう片方のケルビムの翼はもう一方の壁に届き、また両者の翼は神殿の真ん中に届いて、翼と翼が触れ合っていた。
- 28 ソロモンはこのケルビムに金をかぶせた。
- 29 神殿の四方のすべての壁には、奥の間も外の間も、ケルビムとなつめ椰子の木と花模様の浮き彫りを彫った。
- 30 神殿の床は、奥の間も外の間も金でおおった。
- 31 ソロモンは内殿の入り口を、オリーブ材の扉と五角形の戸口の柱で作った。
- 32 その二つのオリーブ材の扉に、ケルビムとなつめ椰子の木と花模様の浮き彫りを彫り、金でおおった。ケルビムとなつめ椰子の木の上に金を張り付けたのである。
- 33 同じように、本殿の入り口にも四角形のオリーブ材で戸口の柱を作った。
- 34 また、もみの木で二つの扉を作った。片方の扉の二枚の戸は折り畳み戸、もう片方の扉の二枚の戸も折り畳み戸であった。
- 35 ケルビムとなつめ椰子の木と花模様を彫り付け、その彫り物の上に、ぴったりと金を張り付けた。
- 36 それからソロモンは、切り石三段と杉の角材一段の仕切りで内庭を造った。
- 37 第四年のジブの月に、主の宮の礎を据え、
- 38 第十一年のブルの月、すなわち第八の月に、神殿のすべての部分が設計どおりに完成した。七年かけて建てたのである。

第7章

- 1 また、ソロモンは十三年をかけて自分の宮殿を建て、その宮殿のすべてを完成させた。
- 2 彼は「レバノンの森の宮殿」を建てた。その長さは百キュビト、幅は五十キュビト、高さは三十キュビトで、それは四列の杉材の柱の上にあり、その柱の上には杉材の梁があった。
- 3 また、四十五本の柱の上にある階段式脇間の屋根は、杉材で葺かれていた。柱は一行に十五本ずつあった。
- 4 戸口は三列あり、三段になって向かい合っていた。
- 5 戸口の扉と戸口の柱はすべて四角形で、三段になって向かい合っていた。
- 6 また彼は、柱の広間を造った。その長さは五十キュビト、その幅は三十キュビトであった。その前に玄関があり、その前に柱とひさしがあった。
- 7 また、さばきをするための王座の広間、すなわち、さばきの広間を造り、床の隅々から天井まで杉材を張り詰めた。
- 8 彼の住む家はその広間のうしろの庭にあり、同じ造りであった。ソロモンは、彼が妻としたファラオの娘のためにも、この広間と同じような家を建てた。
- 9 これらはすべて内側も外側も、のこぎりで寸法どおりに切りそろえられた、高価な石で造られていた。礎から軒に至るまで、さらに外庭から大庭に至るまで、そうであった。
- 10 礎は高価な石、大きな石で、八キュビトも十キュビトもあった。
- 11 その上には、寸法どおりに切りそろえられた高価な石と杉材が使われた。
- 12 大庭の周囲には、三段の切り石と一段の杉の角材が使われ、主の宮の内庭や、神殿の玄関広間と同じであった。
- 13 ソロモンは人を遣わして、ツロからヒラムを呼んで来た。
- 14 彼はナフタリ部族のやもめの子であった。彼の父はツロの人で、青銅の細工師であった。ヒラムは青銅の細工物全般について、知恵と英知と知識に満ちていた。彼はソロモン王のもとに来て、その一切の細工を行った。
- 15 彼は青銅で二本の柱を鑄造した。片方の柱の高さは十八キュビト。もう片方の柱の周囲は、ひもで測って十二キュビトであった。
- 16 彼は青銅で鑄造した二つの柱頭を作って、柱の頂に載せた。片方の柱頭の高さは五キュビト、もう片方の柱頭の高さも五キュビトであった。
- 17 柱の頂の柱頭に取り付ける、鎖で編んで房になった格子細工の網を、片方の柱頭に七つ、もう片方の柱頭に七つ作った。
- 18 こうして彼は柱を作り、柱の頂にある柱頭をおおうため、青銅のざくろが格子網の上を二段に取り巻くようにし、もう片方の柱頭にも同じようにした。
- 19 この玄関広間にある柱の頂にある柱頭は、ゆりの花の細工で、それは四キュビトであった。
- 20 二本の柱の上にある柱頭の格子網のあたりで、丸い突出部の周りには、二百個のざくろが、両方の柱頭に段をなして並んでいた。

- 21 この柱を本殿の玄関広間の前に立てた。彼は右側に立てた柱にヤキンという名をつけ、左側に立てた柱にボアズという名をつけた。
- 22 この柱の頂の上には、ゆりの花の細工があった。こうして、柱の造作は完成した。
- 23 それから、彼は鋳物の「海」を作った。縁から縁まで十キュビト。円形で、高さは五キュビト。周囲は測り縄で巻いて三十キュビトであった。
- 24 その縁の下に沿って、瓢箪模様が周りを取り巻いていた。一キュビトにつき十ずつの割合でその「海」の周りを取り巻いていた。この瓢箪模様は二段になっていて、「海」を鋳たときに鋳込んだものである。
- 25 「海」は十二頭の牛の上に据えられていた。三頭は北を向き、三頭は西を向き、三頭は南を向き、三頭は東を向いていた。「海」はこれらの牛の上に載せられていて、牛の後部はすべて内側を向いていた。
- 26 「海」の厚さは一手幅あり、その縁は杯の縁のように、ゆりの花の形をしていた。その容量は二千バテであった。
- 27 彼は青銅で十個の台を作った。それぞれの台は長さ四キュビト、幅四キュビト、高さ三キュビトであった。
- 28 この台の構造は次のとおり。台には鏡板があり、鏡板は枠にはめられていた。
- 29 枠にはめられている鏡板の上には、雄獅子と牛とケルビムがあり、雄獅子と牛の上下にある枠の表面には花模様が施されていた。
- 30 台には、それぞれ、青銅の車輪が四つと、青銅の軸が付いていて、台の四隅には洗盤の支えがあり、その支えは洗盤の下にあって、それぞれの表面に花模様が鋳込まれていた。
- 31 洗盤の口は冠の内側にあって、一キュビト上に出ていた。その口は丸く、花模様の細工が施され、一キュビト半あった。またその口の上にも彫刻がしてあり、枠の鏡板は四角で、丸くなかった。
- 32 四つの車輪は鏡板の下にあり、車軸は台に取り付けられ、一つの車輪の高さは一キュビト半であった。
- 33 その車輪の作りは戦車の車輪の作りと同じで、車軸も輪縁も輻も轂も、みな鋳物であった。
- 34 それぞれの台の四隅には、四本の支えがあり、支えと台は一体となっていた。
- 35 台の上部には高さ半キュビトの丸い部分を取り巻いていて、その台の上の支えと鏡板は一体となっていた。
- 36 その支えの表面と鏡板には、それぞれの場所に、ケルビムと雄獅子となつめ椰子の木を刻み、その周囲には花模様を刻んだ。
- 37 彼は以上のように十個の台を作った。それらはすべて同じように鋳造され、同じ寸法、同じ形であった。
- 38 それから、彼は青銅で十個の洗盤を作った。洗盤の容量はそれぞれ四十バテ、大きさはそれぞれ四キュビトであった。洗盤はそれぞれの台に一個ずつ、十個の台の上にあった。
- 39 彼はその台の五個を神殿の右側に、五個を神殿の左側に置き、「海」を神殿の右側、東南の方角に置いた。

- 40 さらにヒラムは灰壺と十能と鉢を作った。こうして、ヒラムは、ソロモン王のために主の宮でなすべきすべての仕事を完了した。
- 41 すなわち、二本の柱と、二本の柱の頂にある丸い柱頭、および柱の頂にある丸い二つの柱頭をおおう二つの格子細工、
- 42 また、二つの格子細工に取り付ける四百個のざくろ、すなわち、柱の先端にある丸い二つの柱頭をおおうそれぞれの格子細工のための二段のざくろ、
- 43 また、十個の台と、その台の上の十個の洗盤、
- 44 「海」一つと、その「海」の下十二頭の牛、
- 45 そして、灰壺と十能と鉢である。ヒラムがソロモン王のため、主の宮のために作ったこれらのすべての物は、磨きをかけた青銅であった。
- 46 王は、ヨルダンの低地、スコテとツアレタンの間にある粘土の地でこれらを鑄造した。
- 47 ソロモンは、すべての用具を配置した。非常に大量だったので、青銅の重さは量られなかった。
- 48 また、ソロモンは主の宮にあるあらゆる物を作った。金の祭壇と、臨在のパンを載せる金の机、
- 49 内殿の前、右側に五つ、左側に五つ置かれる純金の燭台、金の飾り花、ともしび皿、芯切りばさみを作った。
- 50 また純金の皿と、芯取りばさみ、鉢、平皿、火皿を純金で作った。至聖所に通じる神殿内部の扉のちょうつがい、神殿の本殿に通じる扉のちょうつがいも金で作った。
- 51 こうして、ソロモン王が主の宮のためにしたすべての工事が完了した。ソロモンは父ダビデが聖別した物、すなわち、銀、金、各種の用具類を運び入れ、主の宮の宝物倉に納めた。

第8章

- 1 それからソロモンは、イスラエルの長老たち、および、イスラエルの部族のかしらたちと一族の長たちをすべて、エルサレムのソロモン王のもとに召集した。ダビデの町シオンから主の契約の箱を運び上げるためであった。
- 2 イスラエルのすべての人々は、エタニムの月、すなわち第七の新月の祭りにソロモン王のもとに集まった。
- 3 イスラエルの長老全員が到着すると、祭司たちは箱を担ぎ、
- 4 主の箱と、会見の天幕と、天幕にあったすべての聖なる用具を運び上げた。これらの物を祭司たちとレビ人たちが運び上げた。
- 5 ソロモン王と、王のところに集まったイスラエルの全会衆は、ともに箱の前に行き、羊や牛をいけにえとして献げた。その数はあまりにも多く、数えることも調べることもできなかった。
- 6 祭司たちは、主の契約の箱を、定められた場所、すなわち神殿の内殿である至聖所のケルビムの翼の下に運び入れた。
- 7 ケルビムは、箱の一定の場所の上に翼を広げるのである。こうしてケルビムは箱とその担ぎ棒を上からおおった。
- 8 その担ぎ棒は長かったので、棒の先が内殿の前の聖所からは見えていたが、外からは見えなかった。それは今日までそこにある。
- 9 箱の中には、二枚の石の板のほかには何も入っていなかった。これは、イスラエルの子らがエジプトの地から出て来たとき、主が彼らと契約を結ばれた際に、モーセがホレブでそこに納めたものである。
- 10 祭司たちが聖所から出て来たとき、雲が主の宮に満ちた。
- 11 祭司たちは、その雲のために、立って仕えることができなかった。主の栄光が主の宮に満ちたからである。
- 12 そのとき、ソロモンは言った。「主は、黒雲の中に住む、と言われました。
- 13 私は、あなたの御住まいである家を、確かに建てました。御座がとこしえに据えられる場所を。」
- 14 それから王は振り向いて、イスラエルの全会衆を祝福した。イスラエルの全会衆は起立していた。
- 15 彼は言った。「イスラエルの神、主がほめたたえられますように。主は御口をもって私の父ダビデに語り、御手をもってこれを成し遂げて、こう言われた。
- 16 『わたしの民イスラエルをエジプトから導き出した日からこのかた、わたしは、わたしの名を置く家を建てるために、イスラエルの全部族のうちのどの町も選ばなかった。わたしはダビデを選び、わたしの民イスラエルの上に立てた。』
- 17 それで私の父ダビデの心にはいつも、イスラエルの神、主の御名のために家を建てたいという思いがあった。

- 18 ところが主は、私の父ダビデにこう言われた。『あなたの心にはいつも、わたしの名のために家を建てたいという思いがあった。その思いがあなたの心にあったことは、良いことである。』
- 19 しかし、あなたはその家を建ててはならない。あなたの腰から生まれ出るあなたの子が、わたしの名のために家を建てるのだ。』
- 20 主はお告げになった約束を果たされたので、私は主の約束どおりに父ダビデに代わって立ち、イスラエルの王座に就いた。そしてイスラエルの神、主の御名のためにこの家を建て、
- 21 主の契約が納められている箱のために、そこに場所を設けた。その契約は、主が私たちの先祖をエジプトの地から導き出されたときに、彼らと結ばれたものである。」
- 22 ソロモンはイスラエルの全会衆の前で、主の祭壇の前に立ち、天に向かって両手を伸べ広げて、
- 23 こう言った。「イスラエルの神、主よ。上は天、下は地にも、あなたのような神はほかにありません。あなたは、心を尽くして御前に歩むあなたのしもべたちに対し、契約と恵みを守られる方です。
- 24 あなたは、あなたのしもべ、私の父ダビデに約束したことを、ダビデのために守ってくださいました。あなたは御口をもって語り、また、今日のように御手をもってこれを成し遂げられました。
- 25 そこで今、イスラエルの神、主よ。あなたのしもべ、私の父ダビデに約束されたことを、ダビデのために守ってください。『あなたがわたしの前に歩んだように、あなたの子孫がその道を守り、わたしの前に歩みさえするなら、あなたには、イスラエルの王座に就く者がわたしの前から断たれることはない』と言われたことを。
- 26 今、イスラエルの神よ。どうかあなたのしもべ、私の父ダビデに約束されたおことばが堅く立てられますように。
- 27 それにしても、神は、はたして地の上に住まわれるでしょうか。実に、天も、天の天も、あなたをお入れすることはできません。まして私が建てたこの宮など、なおさらのことです。
- 28 あなたのしもべの祈りと願いに御顔を向けてください。私の神、主よ。あなたのしもべが、今日、御前にささげる叫びと祈りを聞いてください。
- 29 そして、この宮、すなわち『わたしの名をそこに置く』とあなたが言われたこの場所に、夜も昼も御目を開き、あなたのしもべがこの場所に向かってささげる祈りを聞いてください。
- 30 あなたのしもべとあなたの民イスラエルが、この場所に向かってささげる願いを聞いてください。あなたご自身が、あなたの御住まいの場所、天においてこれを聞いてください。聞いて、お赦してください。
- 31 ある人が隣人に罪を犯して、のろいの誓いを立てるよう求められ、この宮の中にある、あなたの祭壇の前に来て誓うなら、
- 32 あなたご自身が天でこれを聞き、あなたのしもべたちにさばきを行って、悪い者にはその生き方への報いとしてその頭上に悪を下し、正しい者にはその正しさにしたがって義をも

って報いてください。

- 33** あなたの民イスラエルが、あなたの前に罪ある者となって敵に打ち負かされたとき、彼らがあなたに立ち返り、御名をほめたたえ、この宮であなたに祈り願うなら、
- 34** あなたご自身が天でこれを聞き、あなたの民イスラエルの罪を赦し、あなたが彼らの先祖にお与えになった地に、彼らを帰らせてください。
- 35** 彼らがあなたの前に罪ある者となって、天が閉ざされ雨が降らなくなったとき、彼らがこの場所に向かって祈り、御名をほめたたえ、あなたが苦しめたことによって彼らがその罪から立ち返るなら、
- 36** あなたご自身が天でこれを聞き、あなたのしもべたち、あなたの民イスラエルの罪を赦してください。彼らの歩むべき良い道を彼らに教え、あなたの民に相続地としてお与えになったあなたの地に雨を降らせてください。
- 37** この地に飢饉が起こり、疫病や立ち枯れや黒穂病、いなごやその若虫が発生したときでも、敵がこの地の町々を攻め囲んだときでも、どのようなわざわい、どのような病気であっても、
- 38** だれでもあなたの民イスラエルが、それぞれ自分の心の痛みを知って、この宮に向かって両手を伸べ広げて祈るなら、どのような祈り、どのような願いであっても、
- 39** あなたご自身が、御座が据えられた場所である天で聞いて、赦し、また、かなえてください。一人ひとりに、そのすべての生き方にしたがって報いてください。あなたはその心をご存じです。あなただけが、すべての人の子の心をご存じだからです。
- 40** そうして、あなたが私たちの先祖にお与えになった大地の上で彼らが生き続ける間、いつもあなたを恐れるようにしてください。
- 41** 同様に、あなたの民イスラエルの者でない異国人についても、その人があなたの御名のゆえに、遠方の地から来て、
- 42** 彼らが、あなたの大きい御名と力強い御手と伸ばされた御腕について聞き、やって来てこの宮に向かって祈るなら、
- 43** あなたご自身が、あなたの御座が据えられた場所である天でこれを聞き、その異国人があなたに向かって願うことをすべて、かなえてください。そうすれば、地上のあらゆる民が御名を知り、あなたの民イスラエルと同じようにあなたを恐れるようになり、私が建てたこの宮で御名が呼び求められなければならないことを知るでしょう。
- 44** あなたの民が敵との戦いのために出て行くとき、遣わされる道で、あなたがお選びになった都、私が御名のために建てた宮に向かって主に祈るなら、
- 45** 天で彼らの祈りと願いを聞いて、彼らの言い分を聞き入れてやってください。
- 46** 罪に陥らない人は一人もいません。ですから、彼らがあなたの前に罪ある者となったために、あなたが怒って彼らを敵に渡し、彼らが、遠くであれ近くであれ敵国に捕虜として捕らわれて行き、
- 47** 捕らわれて行った地で我に返り、その捕囚の地であなたに立ち返ってあわれみを乞い、『私たちは罪ある者です。不義をなし、悪を行いました』と言い、
- 48** 捕らわれて行った敵国で、心のすべて、たましいのすべてをもって、あなたに立ち返り、あなたが彼らの先祖にお与えになった彼らの地、あなたがお選びになったこの都、私が御

名のために建てたこの宮に向かって、あなたに祈るなら、

- 49 あなたの御座が据えられた場所である天で、彼らの祈りと願いを聞き、彼らの訴えをかなえて、
- 50 あなたの前に罪ある者となったあなたの民を赦し、あなたに背いた、彼らのすべての背きを赦し、彼らを捕らえて行った者たちの前で彼らをあわれみ、その者たちがあなたの民をあわれむようにしてください。
- 51 彼らはあなたの民であり、あなたがエジプトから、鉄の炉の中から導き出された、ご自分のゆずりの民だからです。
- 52 どうか、あなたのしもべの願いと、あなたの民イスラエルの願いに御目を開き、彼らがあなたを呼び求めるとき、いつもその願いを聞き入れてください。
- 53 あなたが彼らを地上のあらゆる民から選り分けて、ご自分のものとされたのですから。神、主よ。あなたが私たちの先祖をエジプトから導き出されたとき、あなたのしもべモーセを通してお告げになったとおりです。」
- 54 こうしてソロモンは、この祈りと願いをことごとく主にささげ終えた。彼は、それまでひざまずいて、天に向かって両手を伸べ広げていた主の祭壇の前から立ち上がり、
- 55 まっすぐに立って、イスラエルの全会衆を大声で祝福して言った。
- 56 「主がほめたたえられますように。主は約束どおり、ご自分の民イスラエルに安住の地を与えてくださいました。しもべモーセを通してお告げになった良い約束はみな、一つも、地に落ちることはありませんでした。
- 57 私たちの神、主が、私たちの先祖とともにいてくださったように、私たちとともにいて、私たちを見放さず、私たちをお見捨てになることはありませんように。
- 58 私たちの心を主に傾けさせ、私たちが主のすべての道に歩み、私たちの先祖にお命じになった命令と掟と定めを守らせてくださいますように。
- 59 私が主の御前で願ったこれらのことばが、昼も夜も、私たちの神、主のみそば近くにあって、日常のことにおいても、しもべの訴えや、御民イスラエルの訴えを正しくかなえてくださいますように。
- 60 こうして、ついに地上のあらゆる民が、主こそ神であり、ほかに神はいないことを知るに至りますように。
- 61 あなたがたは、今日のように、私たちの神、主と心を一つにし、主の掟に歩み、主の命令を守らなければならないのです。」
- 62 それから、王と、一緒にいたすべてのイスラエル人は、主の前にいけにえを献げた。
- 63 ソロモンは主へのいけにえとして、牛二万二千頭と羊十二万匹の交わりのいけにえを献げた。こうして、王とすべてのイスラエルの人々は主の宮を奉献した。
- 64 その日、王は主の宮の前庭の中央部を聖別し、そこで全焼のささげ物と、穀物のささげ物と、交わりのいけにえの脂肪を献げた。主の前にあった青銅の祭壇は、全焼のささげ物と、穀物のささげ物と、交わりのいけにえの脂肪を受け入れるには小さすぎたからである。
- 65 ソロモンはこのとき、ともにいた全イスラエル、すなわち、レボ・ハマテからエジプト川に至るまでの大会衆と一緒に、七日と七日の十四日間、私たちの神、主の前で祭りを行っ

た。

- 66** 八日目に王は民を帰らせた。民は王に祝福のことばを述べ、主がそのしもべダビデと、その民イスラエルに下さったすべての恵みを喜び、心満たされて、彼らの天幕に帰って行った。

第9章

- 1 ソロモンが、主の宮と王宮、および、ソロモンが造りたいと望んでいたすべてのものを完成させたとき、
- 2 主は、かつてギブオンで現れたときのように、ソロモンに再び現れた。
- 3 主は彼に言われた。「あなたがわたしの前で願った祈りと願いをわたしは聞いた。わたしは、あなたがわたしの名をとこしえに置くために建てたこの宮を聖別した。わたしの目と心は、いつもそこにある。
- 4 もしあなたが、あなたの父ダビデが歩んだように、全き心と正直さをもってわたしの前に歩み、わたしがあなたに命じたことすべてをそのまま実行し、わたしの掟と定めを守るなら、
- 5 わたしが、あなたの父ダビデに『あなたには、イスラエルの王座から人が断たれることはない』と約束したとおり、あなたの王国の王座をイスラエルの上にとこしえに立たせよう。
- 6 もし、あなたがたとあなたがたの子孫が、わたしに背を向けて離れ、あなたがたの前に置いたわたしの命令とわたしの掟を守らずに、行ってほかの神々に仕え、それを拝むなら、
- 7 わたしは彼らに与えた地の面からイスラエルを断ち切り、わたしがわたしの名のために聖別した宮をわたしの前から投げ捨てる。イスラエルは、すべての民の間で物笑いの種となり、嘲りの的となる。
- 8 この宮は廃墟となり、そのそばを通り過ぎる者はみな驚き恐れてささやき、『何のために、主はこの地とこの宮に、このような仕打ちをされたのだろう』と言う。
- 9 人々は、『彼らは、エジプトの地から自分たちの先祖を導き出した彼らの神、主を捨ててほかの神々に頼り、それを拝み、それに仕えた。そのため主はこのすべてのわざわいを彼らに下されたのだ』と言う。」
- 10 ソロモンが主の宮と王宮との二つの家を二十年かけて建て終えたとき、
- 11 ツロの王ヒラムが、ソロモンの要請に応じて、杉の木材、もみの木材、および金を用立てたので、ソロモン王はガリラヤ地方の二十の町をヒラムに与えた。
- 12 ヒラムはツロからやって来て、ソロモンが彼に与えた町々を見たが、彼はそれらが気に入らなかった。
- 13 彼は、「兄弟よ。あなたが私に下さったこの町々は、いったい何ですか」と言った。そのため、これらの町々はカブルの地と呼ばれ、今日に至っている。
- 14 ヒラムは王に金百二十タラントを贈っていた。
- 15 ソロモン王は役務者を徴用して次のような事業をした。彼は主の宮と自分の宮殿、ミロとエルサレムの城壁、ハツォルとメギドとゲゼルを築き直した。
- 16 かつてエジプトの王ファラオは、上って来てゲゼルの攻め取り、これを火で焼き、この町に住んでいたカナン人を殺して、ソロモンの妻である自分の娘に結婚の贈り物としてこの町を与えた。
- 17 ソロモンはこのゲゼルを築き直したのである。また、下ベテ・ホロン、

- 18** バアラテ、この地の荒野にあるタデモル、
- 19** ソロモンの所有するすべての倉庫の町々、戦車のための町々、騎兵のための町々、またソロモンがエルサレム、レバノン、および彼の全領地に建てたいと切に願っていたものを建てた。
- 20** イスラエル人ではない、アモリ人、ヒッタイト人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の生き残りの民すべて、
- 21** すなわち、この地に残されていた人々、イスラエル人が聖絶できなかった人々の子孫を、ソロモンは強制労働に徴用した。今日に至るまで、そうである。
- 22** しかし、ソロモンはイスラエル人を奴隷にはしなかった。彼らは戦士であり、彼の家来であり、隊長であり、補佐官であり、戦車隊や騎兵隊の長だったからである。
- 23** ソロモンには工事の監督をする長が五百五十人いて、工事に携わる民を指揮していた。
- 24** ファラオの娘が、ダビデの町から、ソロモンが彼女のために建てた家に上って来たとき、ソロモンはミロを建てた。
- 25** ソロモンは、主のために築いた祭壇の上に、一年に三度、全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げ、それらとともに主の前で香をたいた。彼は神殿を完成させた。
- 26** また、ソロモン王は、エドムの地の葦の海の岸边にあるエイラトに近いエツヨン・ゲベルに船団を設けた。
- 27** ヒラムはこの船団に、自分のしもべで海に詳しい水夫たちを、ソロモンのしもべたちと一緒に送り込んだ。
- 28** 彼らはオフィルへ行き、そこから四百二十タラントの金を取って、ソロモン王のもとに運んだ。

第10章

- 1 ときに、シェバの女王は、主の御名によるソロモンの名声を聞き、難問をもって彼を試そうとしてやって来た。
- 2 彼女は非常に大勢の従者を率い、バルサム油と非常に多くの金および宝石をらくだに載せて、エルサレムにやって来た。彼女はソロモンのところに来ると、心にあることをすべて彼に問いかけた。
- 3 ソロモンは、彼女のすべての問いに答えた。王が分からなくて、彼女に答えられなかったことは何一つなかった。
- 4 シェバの女王は、ソロモンのすべての知恵と、彼が建てた宮殿と、
- 5 その食卓の料理、列席の家来たち、給仕たちの態度とその服装、献酌官たち、そして彼が主の宮で献げた全焼のささげ物を見て、息も止まるばかりであった。
- 6 彼女は王に言った。「私が国でああなたの事績とあなたの知恵について聞き及んでいたことは、本当でした。
- 7 私は自分で来て、自分の目で見るとまでは、そのことを信じなかったのですが、なんと、私にはその半分も知らされていなかったのです。あなたの知恵と繁栄は、私が聞いていたうわさより、はるかにまさっています。
- 8 なんと幸せなことでしょう。あなたにつく人たちは。なんと幸せなことでしょう。いつもあなたの前に立って、あなたの知恵を聞くことができる、このあなたの家来たちは。
- 9 あなたの神、主がほめたたえられますように。主はあなたを喜び、イスラエルの王座にあなたを就かせられました。主はイスラエルをとこしえに愛しておられるので、あなたを王とし、公正と正義を行わせるのです。」
- 10 彼女は百二十タラントの金と、非常に多くのバルサム油と宝石を王に贈った。シェバの女王がソロモン王に贈ったほど多くのバルサム油は、二度と入って来なかった。
- 11 また、オフィルから金を積んで来たヒラムの船団は、非常に多くの白檀の木材と宝石を、オフィルから運んで来た。
- 12 王はこの白檀の木材で、主の宮と王宮のための柱を作り、歌い手たちのための豎琴と琴を作った。今日まで、このような白檀の木材が入って来たことはなく、見られたこともなかった。
- 13 ソロモン王は、シェバの女王が求めたものは何でもその望みのままに与えた。さらに、ソロモン王の豊かさにふさわしいものも彼女に与えた。彼女は家来たちを連れて、自分の国へ帰って行った。
- 14 一年間にソロモンのところに入って来た金の重さは、金の目方で六百六十六タラントであった。
- 15 このほかに、隊商から得たもの、貿易商人の商いで得たもの、アラビアのすべての王たち、およびその地の総督たちからのものがあった。
- 16 ソロモン王は、延べ金で大盾二百を作り、その大盾一つに六百シェケルの金を使った。

- 17 また延べ金で盾三百を作り、その盾一つに三ミナの金を使った。王はそれらを「レバノンの森の宮殿」に置いた。
- 18 王は大きな象牙の王座を作り、これに純粋な金をかぶせた。
- 19 王座には六つの段があり、その王座の背の上部は丸かった。座席の両側に肘掛けがあり、その肘掛けのわきには二頭の雄獅子が立っていた。
- 20 また、十二頭の雄獅子が六つの段の両側に立っていた。このような物は、どこの王国でも作られたことがなかった。
- 21 ソロモン王が飲み物に用いる器はすべて金であった。「レバノンの森の宮殿」にあった器もすべて純金で、銀の物はなかった。銀は、ソロモンの時代には価値あるものとは見なされていなかった。
- 22 王が海にヒラムの船団のほかにタルシシュの船団を持っていて、三年に一度、タルシシュの船団が金、銀、象牙、猿、孔雀を運んで来たからである。
- 23 ソロモン王は、富と知恵において、地上のどの王よりもまさっていた。
- 24 全世界は、神がソロモンの心に授けられた知恵を聞こうとして、彼に謁見を求めた。
- 25 彼らはそれぞれ贈り物として、銀の器、金の器、衣服、武器、バルサム油、馬、ろばなどを、毎年携えて来た。
- 26 ソロモンは戦車と騎兵を集め、戦車千四百台と騎兵一万二千人を所有した。彼はこれらを戦車の町々、およびエルサレムの王のもとに配置した。
- 27 王はエルサレムで銀を石のように用い、杉の木をシェフェラのいちじく桑の木のように大量に用いた。
- 28 ソロモンが所有していた馬は、エジプトとクエから輸入されたもので、王の商人たちが、代価を払ってクエから手に入れたものであった。
- 29 戦車はエジプトから銀六百、馬は銀百五十で買い上げられて、輸入された。同様に、ヒッタイト人のすべての王やアラムの王たちにも、王の商人たちの仲買で輸出された。

第11章

- 1 ソロモン王は、ファラオの娘のほかにも多くの異国人の女、すなわちモアブ人の女、アンモン人の女、エドム人の女、シドン人の女、ヒッタイト人の女を愛した。
- 2 この女たちは、主がかつてイスラエル人に、「あなたがたは彼らの中に入ってはならない。彼らをあなたがたの中に入れてもいけない。さもないと、彼らは必ずあなたがたの心を転じて彼らの神々に従わせる」と言われた、その国々の者であった。しかし、ソロモンは彼女たちを愛して離れなかった。
- 3 彼には、七百人の王妃としての妻と、三百人の側女がいた。その妻たちが彼の心を転じた。
- 4 ソロモンが年をとったとき、その妻たちが彼の心をほかの神々の方へ向けたので、彼の心は父ダビデの心と違って、彼の神、主と一つにはなっていなかった。
- 5 ソロモンは、シドン人の女神アシュタロテと、アンモン人の、あの忌むべき神ミルコムに従った。
- 6 こうしてソロモンは、主の目に悪であることを行い、父ダビデのように主に従い通さなかった。
- 7 当時ソロモンは、モアブの忌むべきケモシュのために、エルサレムの東にある山の上に高き所を築いた。アンモン人の、忌むべきモレクのためにも、そうした。
- 8 彼は異国人であるすべての妻のためにも同じようにしたので、彼女たちは自分の神々に香をたき、いけにえを献げた。
- 9 主はソロモンに怒りを発せられた。それは彼の心がイスラエルの神、主から離れたからである。主が二度も彼に現れ、
- 10 このことについて、ほかの神々に従っていいはならないと命じておられたのに、彼が主の命令を守らなかったのである。
- 11 そのため、主はソロモンに言われた。「あなたがこのようにふるまい、わたしが命じたわたしの契約と掟を守らなかったで、わたしは王国をあなたから引き裂いて、あなたの家来に与える。
- 12 しかし、あなたの父ダビデに免じて、あなたが生きている間はそうしない。あなたの子の手から、それを引き裂く。
- 13 ただし、王国のすべてを引き裂くのではなく、わたしのしもべダビデと、わたしが選んだエルサレムのために、一つの部族だけをあなたの子に与える。」
- 14 こうして主は、ソロモンに敵対する者としてエドム人ハダドを起こされた。彼はエドムの王の子孫であった。
- 15 ダビデがかつてエドムにいたころ、軍の長ヨアブが戦死者を葬りに上って行き、エドムの男子をみな打ち殺したことがあった。
- 16 ヨアブは全イスラエルとともに六か月の間そこにとどまり、エドムの男子をみな絶ち滅ぼしたのである。

- 17 しかしそのとき、ハダドは、彼の父のしもべである数人のエドム人と逃げてエジプトへ行った。当時、ハダドは少年であった。
- 18 彼らはメディアンを出発してパランまで行き、パランから何人かの従者を従えてエジプトへ、エジプトの王ファラオのところへ行った。するとファラオは彼に家を与え、食糧を支給し、さらに土地も与えた。
- 19 ハダドはファラオにことのほか気に入られ、ファラオは自分の妻の妹、王妃タフペネスの妹を彼に妻として与えた。
- 20 タフペネスの妹は、彼に男の子ゲヌバテを産んだ。タフペネスはその子をファラオの宮殿で育てた。ゲヌバテは、ファラオの宮殿でファラオの子どもたちと一緒にいた。
- 21 ハダドは、ダビデが先祖とともに眠りについたこと、また軍の長ヨアブも死んだことを、エジプトで聞いた。そこでハダドがファラオに「私を国へ帰らせてください」と言うと、
- 22 ファラオは彼に言った。「おまえは、私に何か不満があるのか。自分の国へ帰ることを求めるとは。」するとハダドは、「違います。ただ、とにかく私を帰らせてください」と答えたのである。
- 23 神はまた、ソロモンに敵対する者として、エリヤダの子レゾンを起こされた。彼は、自分の主人、ツォバの王ハダドエゼルのもとから逃亡した者であった。
- 24 ダビデがハダドエゼルの兵士たちを殺害した後、レゾンは人々を自分のところに集め、略奪隊の隊長となった。彼らはダマスコに行ってそこに住み、ダマスコを支配した。
- 25 彼は、ソロモンが活着ている間、ハダドのように悪を行ってイスラエルに敵対し、イスラエルを憎んだ。こうして彼はアラムを支配した。
- 26 ツェレダ出身のエフライム人、ネバテの子ヤロブアムはソロモンの家来であった。彼の母の名はツェルアといい、やもめであった。ところが彼も王に反逆した。
- 27 彼が王に反逆するようになった事情はこうである。ソロモンはミロを建て、彼の父ダビデの町の破れ口をふさいでいた。
- 28 ヤロブアムは手腕家であった。ソロモンはこの若者の働きぶりを見て、ヨセフの家のすべての役務を管理させた。
- 29 そのころ、ヤロブアムがエルサレムから出て来ると、シロ人で預言者であるアヒヤが道で彼に会った。アヒヤは新しい外套を着ていた。彼ら二人だけが野にいた。
- 30 アヒヤは着ていた新しい外套をつかみ、それを十二切れに引き裂き、
- 31 ヤロブアムに言った。「十切れを取りなさい。イスラエルの神、主はこう言われる。『見よ。わたしはソロモンの手から王国を引き裂き、十部族をあなたに与える。』
- 32 ただし、ソロモンには一つの部族だけ残る。それは、わたしのしもべダビデと、わたしがイスラエルの全部族の中から選んだ都、エルサレムに免じてのことである。
- 33 というのは、人々がわたしを捨て、シドン人の女神アシュタロテや、モアブの神ケモシュや、アンモン人の神ミルコムを拝み、父ダビデのように、わたしの目にかなうことを行わず、わたしの掟と定めを守らず、わたしの道に歩まなかったからである。
- 34 しかし、わたしはソロモンの手から王国のすべてを取り上げることはしない。わたしが選び、わたしの命令と掟を守った、わたしのしもべダビデに免じて、ソロモンが活着ている間は、彼を君主としておく。

- 35 わたしは彼の子の手から王位を取り上げ、十部族をあなたに与える。
- 36 彼の子には一つの部族を与える。それは、わたしの名を置くために選んだ都エルサレムで、わたしのしもベダビデが、わたしの前にいつも一つのともしびを保つためである。
- 37 わたしがあなたを召したなら、あなたは自分の望むとおりに王となり、イスラエルを治める王とならなければならない。
- 38 もし、わたしが命じるすべてのことにあなたが聞き従い、わたしの道に歩み、わたしのしもベダビデが行ったように、わたしの掟と命令を守って、わたしの目にかなうことを行うなら、わたしはあなたとともにいて、わたしがダビデのために建てたように、確かな家をあなたのために建て、イスラエルをあなたに与える。
- 39 このために、わたしはダビデの子孫を苦しめる。しかし、それを永久に続けはしない。』」
- 40 ソロモンはヤロブアムを殺そうとしたが、ヤロブアムは立ち去ってエジプトに逃れ、エジプトの王シシャクのもとに行き、ソロモンが死ぬまでエジプトにいた。
- 41 ソロモンについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、および彼の知恵、それは『ソロモンの事績の書』に確かに記されている。
- 42 ソロモンがエルサレムで全イスラエルの王であった期間は、四十年であった。
- 43 ソロモンは先祖とともに眠りにつき、父ダビデの町に葬られた。彼の子レハブアムが代わって王となった。

第12章

- 1 レハブアムはシェケムに行った。全イスラエルが彼を王とするために、シェケムに来ていたからである。
- 2 ネバテの子ヤロブアムは、まだソロモン王の顔を避けてエジプトに逃れていた間に、レハブアムのことを聞いた。そのとき、ヤロブアムはエジプトに住んでいた。
- 3 人々は使者を遣わして、彼を呼び寄せた。ヤロブアムは、イスラエルの全会衆とともにレハブアムのところに来て言った。
- 4 「あなたの父上は、私たちのくびきを重くしました。今、あなたは、父上が私たちに負わせた過酷な労働と重いくびきを軽くしてください。そうすれば、私たちはあなたに仕えます。」
- 5 するとレハブアムは彼らに、「行け。三日たったら私のところに戻って来るがよい」と言った。そこで民は出て行った。
- 6 レハブアム王は、父ソロモンが生きている間ソロモンに仕えていた長老たちに、「この民にどう返答したらよいと思うか」と相談した。
- 7 彼らは王に答えた。「今日、もしあなたがこの民のしもべとなって彼らに仕え、彼らに答えて親切なことばをかけてやるなら、彼らはいつまでも、あなたのしもべとなるでしょう。」
- 8 しかし、王はこの長老たちが与えた助言を退け、自分とともに育ち、自分に仕えている若者たちにこう相談した。
- 9 「この民に何と返答したらよいと思うか。私に『あなたの父上が私たちに負わせたくびきを軽くしてください』と言ってきたのだが。」
- 10 彼とともに育った若者たちは答えた。「『あなたの父上は私たちのくびきを重くしました。けれども、あなたはそれを軽くしてください』と言ってきたこの民には、こう答えたらよいでしょう。彼らにこう言いなさい。『私の小指は父の腰よりも太い。』
- 11 私の父がおまえたちに重いくびを負わせたのであれば、私はおまえたちのくびきをもっと重くする。私の父がおまえたちをむちで懲らしめたのであれば、私はサソリでおまえたちを懲らしめる』と。」
- 12 ヤロブアムとすべての民は、三日目にレハブアムのところに来た。王が「三日目に私のところに戻って来るがよい」と命じたからである。
- 13 王は民に厳しく答え、長老たちが彼に与えた助言を退け、
- 14 若者たちの助言どおりに彼らに答えた。「私の父がおまえたちのくびきを重くしたのなら、私はおまえたちのくびきをもっと重くする。私の父がおまえたちをむちで懲らしめたのなら、私はサソリでおまえたちを懲らしめる。」
- 15 王は民の願いを聞き入れなかった。かつて主がシロ人アヒヤを通してネバテの子ヤロブアムにお告げになった約束を実現しようと、主がそう仕向けられたからである。
- 16 全イスラエルは、王が自分たちに耳を貸さないのを見てとった。そこで、民は王にことばを返した。「ダビデのうちには、われわれのためのどんな割り当て地があるうか。エッ

サイの子のうちには、われわれのためのゆずりの地はない。イスラエルよ、自分たちの天幕に帰れ。ダビデよ、今、あなたの家を見よ。」イスラエルは自分たちの天幕に帰って行った。

- 17 ただし、ユダの町々に住んでいるイスラエルの子らにとっては、レハブアムがその王であった。
- 18 レハブアム王は役務長官アドラムを遣わしたが、全イスラエルは彼を石で打ち殺した。レハブアム王はやっとの思いで戦車に乗り込み、エルサレムに逃げた。
- 19 このようにして、イスラエルはダビデの家に背いた。今日もそうである。
- 20 全イスラエルは、ヤロブアムが戻って来たことを聞いたので、人を遣わして彼を会衆のところに招き、彼を全イスラエルの王とした。ユダの部族以外には、ダビデの家に従う者はいなかった。
- 21 レハブアムはエルサレムに帰り、ユダの全家とベニヤミンの部族から選り抜きの戦士十八万を召集し、王位をソロモンの子レハブアムのもとに取り戻すため、イスラエルの家と戦おうとした。
- 22 すると、神の人シェマヤに次のような神のことばがあった。
- 23 「ユダの王、ソロモンの子レハブアム、ユダとベニヤミンの全家、およびそのほかの民に告げよ。
- 24 『主はこう言われる。上って行ってはならない。あなたがたの兄弟であるイスラエルの人々と戦ってはならない。それぞれ自分の家に帰れ。わたしが、こうなるように仕向けたのだから。』」そこで、彼らは主のことばに聞き従い、主のことばのとおりに戻って行った。
- 25 ヤロブアムはエフライムの山地にシェケムを築き直し、そこに住んだ。さらに、彼はそこから出て、ペヌエルを築き直した。
- 26 ヤロブアムは心に思った。「今のままなら、この王国はダビデの家に帰るだろう。
- 27 この民が、エルサレムにある主の宮でいけにえを献げるために上ることになっているなら、この民の心は彼らの主君、ユダの王レハブアムに再び帰り、彼らは私を殺して、ユダの王レハブアムのもとに帰るだろう。」
- 28 そこで王は相談して金の子牛を二つ造り、彼らに言った。「もうエルサレムに上る必要はない。イスラエルよ。ここに、あなたをエジプトから連れ上った、あなたの神々がおられる。」
- 29 それから彼は一つをベテルに据え、もう一つをダンに置いた。
- 30 このことは罪となった。民はこの一つを礼拝するためダンまで行った。
- 31 それから彼は高き所の宮を造り、レビの子孫でない一般の民の中から祭司を任命した。
- 32 そのうえ、ヤロブアムはユダにある祭りに倣って、祭りの日を第八の月の十五日と定め、祭壇でささげ物を献げた。こうして彼は、ベテルで自分が造った子牛にいけにえを献げた。また、彼が造った高き所の祭司たちをベテルに常駐させた。
- 33 彼は、自分で勝手に考え出した月である第八の月の十五日に、ベテルに造った祭壇でいけにえを献げた。このように、彼はイスラエルの人々のために祭りの日を定め、祭壇でいけにえを献げ、香をたいた。

第13章

- 1 一人の神の人が、主の命令によってユダからベテルにやって来た。ちょうどそのとき、ヤロブアムは香をたくために祭壇のそばに立っていた。
- 2 すると、この人は主の命令によって祭壇に向かい、これに呼びかけて言った。「祭壇よ、祭壇よ、主はこう言われる。『見よ、一人の男の子がダビデの家に生まれる。その名はヨシヤ。彼は、おまえの上で香をたく高き所の祭司たちを、いけにえとしておまえの上に献げ、人の骨がおまえの上で焼かれる。』」
- 3 その日、彼は一つのしるしを与えて、次のように言った。「これが主の告げられたしるしである。見よ、祭壇は裂け、その上の灰はこぼれ出る。」
- 4 ヤロブアム王は、ベテルの祭壇に向かって叫んでいる神の人のことばを聞いたとき、祭壇から手を伸ばして「彼を捕らえよ」と言った。すると、彼に向けて伸ばしていた手はしなび、戻すことができなくなった。
- 5 神の人が主のことばによって与えたしるしのとおり、祭壇は裂け、灰は祭壇からこぼれ出た。
- 6 そこで、王はこの神の人に向かって言った。「どうか、あなたの神、主にお願いして、私のために祈ってください。そうすれば、私の手は元に戻るでしょう。」神の人が主に願ったので、王の手は元に戻り、前と同じようになった。
- 7 王は神の人に言った。「私と一緒に宮殿に来て、食事をして元気をつけてください。あなたに贈り物をしたいのです。」
- 8 すると神の人は王に言った。「たとえ、あなたの宮殿の半分を私に下さっても、私はあなたと一緒に参りません。また、この場所ではパンも食わず、水も飲みません。
- 9 というのは、主のことばによって、『パンを食べてはならない。水も飲んでではない。また、もと来た道を通して帰ってはならない』と命じられているからです。」
- 10 こうして、彼はベテルに来たときの道は通らず、ほかの道を通して帰った。
- 11 一人の年老いた預言者がベテルに住んでいた。その息子たちが来て、その日、ベテルで神の人がしたことを残らず彼に話した。また、彼らは、この人が王に告げたことばも父に話した。
- 12 すると父は「その人はどの道を行ったか」と彼らに尋ねた。息子たちは、ユダから来た神の人が行った道を知っていた。
- 13 父は息子たちに「ろばに鞍を置いてくれ」と言った。彼らがろばに鞍を置くと、父はろばに乗り、
- 14 神の人の後を追って行った。そして、その人が櫟の木の下に座っているのを見つけると、「ユダからおいでになった神の人はあなたですか」と尋ねた。その人は「私です」と答えた。
- 15 彼はその人に「私と一緒に家に来て、パンを食べてください」と言った。
- 16 するとその人は言った。「私は、あなたと一緒に引き返して、あなたと一緒に行くことはできません。また、この場所では、あなたと一緒にパンも食わず、水も飲みません。

- 17 というのは、私は主のことばによって、『そこではパンを食べてはならない。水も飲んで
はならない。もと来た道を通って帰ってはならない』とされているからです。」
- 18 彼はその人に言った。「私もあなたと同じく預言者です。御使いが主のことばを受けて、
私に『その人をあなたの家に連れ帰り、パンを食べさせ、水を飲ませよ』と告げまし
た。」こうして彼はその人をだました。
- 19 そこで、その人は彼と一緒に帰り、彼の家でパンを食べ、水を飲んだ。
- 20 彼らが食卓に着いていたとき、その人を連れ戻した預言者に主のことばがあったので、
- 21 彼は、ユダから来た神の人に呼びかけて言った。「主はこう言われる。『あなたは主のこ
とばに背き、あなたの神、主が命じた命令を守らず、
- 22 引き返して、主があなたに、パンを食べてはならない、水も飲んでではないと言った場
所でパンを食べ、水を飲んだので、あなたの亡骸は、あなたの先祖の墓には入らな
い。』」
- 23 彼はパンを食べ、水を飲んだ後、彼が連れ帰った預言者のために、ろばに鞍を置いた。
- 24 その人が出て行くと、獅子が道でその人に会い、その人を殺した。死体は道に放り出さ
れ、ろばは、そのそばに立っていた。獅子も死体のそばに立っていた。
- 25 そこを人々が通りかかり、道に放り出されている死体と、その死体のそばに立っている獅
子を見た。彼らは、あの年老いた預言者の住んでいる町に行って、このことを話した。
- 26 その人を途中から連れ帰ったあの預言者は、それを聞いて言った。「それは、主のことば
に背いた神の人だ。主が彼に告げたことばどおりに、主が彼を獅子に渡され、獅子が彼を
裂いて殺したのだ。」
- 27 そして、息子たちに「ろばに鞍を置いてくれ」と言ったので、彼らは鞍を置いた。
- 28 彼は出かけて行って、道に放り出されている死体と、その死体のそばに立っている、ろば
と獅子を見つけた。獅子はその死体を食べず、ろばを引き裂いてもいなかった。
- 29 そこで、年老いた預言者は神の人の遺体を取り上げ、それをろばに乗せて自分の町に持ち
帰り、悼み悲しんで葬った。
- 30 彼が遺体を自分の墓に納めると、皆はその人のために、「ああ、わが兄弟」と言って悼み
悲しんだ。
- 31 彼はその人を葬った後、息子たちに言った。「私が死んだら、あの神の人を葬った墓に私
を葬り、あの人の骨のそばに私の骨を納めてくれ。
- 32 あの人が主のことばにしたがって、ベテルにある祭壇とサマリアの町々にあるすべての高
き所の宮に向かって叫んだことばは、必ず成就するからだ。」
- 33 このことがあった後も、ヤロブアムは悪い道から立ち返ることをせず、引き続き一般の民
の中から高き所の祭司たちを任命し、だれでも志願する者を任職して高き所の祭司にし
た。
- 34 このことは、ヤロブアムの家の罪となり、ついには大地の面から根絶やしにされることと
なった。

第14章

- 1 このころ、ヤロブアムの子アビヤが病気になったので、
- 2 ヤロブアムは妻に言った。「さあ、変装し、ヤロブアムの妻だと分らないようにしてシロへ行ってくれ。そこには、私がこの民の王となることを私に告げた預言者アヒヤがいる。
- 3 パン十個と菓子数個、それに蜜の瓶を持って彼のところへ行ってくれ。彼は子どもがどうなるか教えてくれるだろう。」
- 4 ヤロブアムの妻は言われたとおりにして、シロへ出かけ、アヒヤの家に行ったが、アヒヤは年をとって目がこわばり、見るができなかった。
- 5 しかし、主はアヒヤに言われた。「今、ヤロブアムの妻が来て、子どものことをあなたに尋ねようとしている。その子が病気だからだ。あなたは、これこれのことを彼女に告げなければならない。入って来るときには、彼女はほかの女のようなふりをしている。」
- 6 アヒヤは、戸口に入って来る彼女の足音を聞いて言った。「入りなさい、ヤロブアムの妻よ。なぜ、ほかの女のようなふりをしているのですか。私はあなたに厳しいことを伝えなければなりません。
- 7 行って、ヤロブアムに言いなさい。イスラエルの神、主はこう言われる。『わたしは民の中からあなたを高く上げ、わたしの民イスラエルを治める君主とし、
- 8 ダビデの家から王国を引き裂いて、あなたに与えた。しかしあなたは、わたしのしもべダビデのようではなかった。ダビデはわたしの命令を守り、心を尽くしてわたしに従い、ただ、わたしの目にかなうことだけを行った。
- 9 ところがあなたは、これまでのだれよりも悪いことをした。行って自分のためにほかの神々や鑄物の像を造り、わたしの怒りを引き起こし、わたしをあなたのうしろに捨て去った。
- 10 だから、見よ、わたしはヤロブアムの家にわざわいをもたらす。イスラエルの中の、ヤロブアムに属する小童から奴隷や自由な者に至るまで絶ち滅ぼし、人が糞を残らず焼き去るように、ヤロブアムの家の跡を除き去る。
- 11 ヤロブアムに属する者は、町で死ぬなら犬がこれを食らい、野で死ぬなら空の鳥がこれを食らう。』主が、こう言われたのです。
- 12 さあ、家に帰りなさい。あなたの足が町に入るとき、その子は死にます。
- 13 全イスラエルがその子のために悼み悲しんで葬るでしょう。ヤロブアムの家の者で墓に葬られるのは、彼だけです。ヤロブアムの家の中で、彼だけに、イスラエルの神、主のみここにかなうことがあったからです。
- 14 主はご自分のためにイスラエルの上に一人の王を起こされます。彼はその日、いや、今にもヤロブアムの家を絶ち滅ぼします。
- 15 主はイスラエルを打って、水に揺らぐ葦のようにし、彼らの先祖に与えられたこの良い地の面からイスラエルを引き抜き、あの大河の向こうに散らされるでしょう。彼らがアシェラ像を造って主の怒りを引き起こしたからです。

- 16 ヤロブアムが自分で犯した罪と、彼がイスラエルに犯させた罪のゆえに、主はイスラエルを捨てられるのです。」
- 17 ヤロブアムの妻は立ち去って、ティルツアに着いた。彼女が家の敷居をまたいだとき、その子は死んだ。
- 18 人々はその子を葬り、全イスラエルは彼のために悼み悲しんだ。主がそのしもべ、預言者アヒヤによって語られたことばのとおりであった。
- 19 ヤロブアムについてのその他の事柄、彼がいかに戦い、いかに治めたかは、『イスラエルの王の歴代誌』にまさしく記されている。
- 20 ヤロブアムが王であった期間は二十二年であった。彼は先祖とともに眠りにつき、その子ナダブが代わって王となった。
- 21 ユダではソロモンの子レハブアムが王になっていた。レハブアムは四十一歳で王となり、主がご自分の名を置くためにイスラエルの全部族の中から選ばれた都、エルサレムで十七年間、王であった。彼の母の名はナアマといい、アンモン人であった。
- 22 ユダの人々は主の目に悪であることを行い、彼らが犯した罪によって、その先祖たちが行ったすべてのこと以上に主のねたみを引き起こした。
- 23 彼らも、すべての高い丘の上や青々と茂るあらゆる木の下に、高き所や、石の柱や、アシェラ像を立てた。
- 24 この国には神殿男娼もいた。彼らは、主がイスラエルの子らの前から追い払われた異邦の民の、すべての忌み嫌うべき慣わしをまねて行っていた。
- 25 レハブアム王の第五年に、エジプトの王シシャクがエルサレムに攻め上って来て、
- 26 主の宮の財宝と王宮の財宝を奪い取った。彼は何もかも奪い取った。ソロモンが作った金の盾もすべて奪い取った。
- 27 レハブアム王は、その代わりに青銅の盾を作り、これを王宮の門を守る近衛兵の隊長の手に託した。
- 28 王が主の宮に入るたびに、近衛兵がこれを運び、また近衛兵の控え室に戻した。
- 29 レハブアムについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 30 レハブアムとヤロブアムの間には、いつも戦いがあった。
- 31 レハブアムは先祖とともに眠りにつき、先祖とともにダビデの町に葬られた。彼の母の名はナアマといい、アンモン人であった。彼の子アビヤムが代わって王となった。

第15章

- 1 ネバテの子ヤロブアムの第十八年に、アビヤムがユダの王となり、
- 2 エルサレムで三年間、王であった。彼の母の名はマアカといい、アブサロムの娘であった。
- 3 彼は、かつて自分の父が行ったあらゆる罪のうちを歩み、彼の心は父祖ダビデの心のよう
に、彼の神、主と一つにはなっていなかった。
- 4 しかし、ダビデに免じて、彼の神、主は、彼のためにエルサレムに一つのともしびを与え
て、彼の跡を継ぐ子を起し、エルサレムを堅く立てられた。
- 5 それは、ダビデが主の目にかなうことを行い、ヒッタイト人ウリヤのことのほかは、一生
の間、主が命じられたすべてのことからそれなかったからである。
- 6 レハブアムとヤロブアムの間には、彼の一生の間、戦いがあった。
- 7 アビヤムについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『ユダの王の歴代
誌』に確かに記されている。アビヤムとヤロブアムの間には戦いがあった。
- 8 アビヤムは先祖とともに眠りにつき、人々は彼をダビデの町に葬った。彼の子アサが代わ
って王となった。
- 9 イスラエルの王ヤロブアムの第二十年に、ユダの王アサが王となった。
- 10 彼はエルサレムで四十一年間、王であった。彼の母の名はマアカといい、アブサロムの娘
であった。
- 11 アサは父祖ダビデのように、主の目にかなうことを行った。
- 12 彼は神殿男娼を国から追放し、先祖たちが造った偶像をことごとく取り除いた。
- 13 また、母マアカがアシェラのために憎むべき像を造ったので、彼女を皇太后の位から退け
た。アサはその憎むべき像を切り倒し、これをキデロンの谷で焼いた。
- 14 高き所は取り除かれなかったが、アサの心は生涯、主とともにあり、全きものであった。
- 15 彼は、父が聖別した物と自分が聖別した物、銀、金、器を、主の宮に運び入れた。
- 16 アサとイスラエルの王バアシャの間には、彼らが生きている間、戦いがあった。
- 17 イスラエルの王バアシャはユダに上って来て、ラマを築き直し、ユダの王アサのもとにだ
れも出入りできないようにした。
- 18 アサは、主の宮の宝物倉と王宮の宝物倉に残っていた銀と金をことごとく取って、自分の
家来たちの手に渡した。アサ王は、彼らをダマスコに住んでいたアラムの王、ヘズヨンの
子タブリンモンの子ベン・ハダドのもとに遣わして言った。
- 19 「私の父とあなたの父上の間にあったように、私とあなたの間にも盟約を結びましょう。
ご覧ください。私はあなたに銀と金の贈り物をしました。どうか、イスラエルの王バアシャ
との盟約を破棄して、彼が私のもとから離れ去るようにしてください。」
- 20 ベン・ハダドはアサ王の願いを聞き入れ、自分の配下の軍の高官たちをイスラエルの町々
に差し向け、イヨンと、ダンと、アベル・ベテ・マアカ、およびキネレテ全域とナフタリ
の全土を攻撃した。
- 21 バアシャはこれを聞くと、ラマを築き直すのを中止して、ティルツァにとどまった。

- 22** そこで、アサ王はユダ全土にもれなく布告し、バアシャが建築に用いたラマの石材と木材を運び出させた。アサ王は、これを用いてベニヤミンのゲバとミツパを建てた。
- 23** アサのその他のすべての事柄、すべての功績、彼が行ったすべてのことや彼が建てた町々のこと、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。ただ、彼は年をとってから、両足とも病気になった。
- 24** アサは先祖とともに眠りにつき、先祖とともに父ダビデの町に葬られた。彼の子ヨシャファテが代わって王となった。
- 25** ユダの王アサの第二年に、ヤロブアムの子ナダブがイスラエルの王となり、二年間イスラエルの王であった。
- 26** 彼は主の目に悪であることを行い、彼の父の道に歩み、父がイスラエルに犯させた罪の道を歩んだ。
- 27** イッサカルの家のアヒヤの子バアシャは、彼に謀反を企てた。バアシャはペリシテ人のギベトンで彼を討った。ナダブとイスラエル全軍はギベトンを攻め囲んでいたのである。
- 28** こうして、バアシャはユダの王アサの第三年にナダブを殺し、彼に代わって王となった。
- 29** 彼は王となったとき、ヤロブアムの全家を討ち、ヤロブアムに属する息ある者を一人も残さず、根絶やしにした。主がそのしもべ、シロ人アヒヤを通して言われたことばのとおりであった。
- 30** これはヤロブアムが犯した罪のゆえ、またイスラエルに犯させた罪のゆえであり、彼が引き起こしたイスラエルの神、主の怒りによるものであった。
- 31** ナダブについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 32** アサとイスラエルの王バアシャの間には、彼らが生きている間、戦いがあった。
- 33** ユダの王アサの第三年に、アヒヤの子バアシャがティルツァで全イスラエルの王となった。治世は二十四年であった。
- 34** 彼は主の目に悪であることを行い、ヤロブアムの道に歩み、ヤロブアムがイスラエルに犯させた罪の道に歩んだ。

第16章

- 1 そのとき、ハナニの子エフーに、バアシャに対する次のような主のことばがあった。
- 2 「わたしは、あなたをちりから引き上げ、わたしの民イスラエルの君主としたが、あなたはヤロブアムの道に歩み、わたしの民イスラエルに罪を犯させ、その罪によってわたしの怒りを引き起こした。
- 3 今、わたしはバアシャとその家を除き去り、あなたの家をネバテの子ヤロブアムの家のようにする。
- 4 バアシャに属する者で、町で死ぬ者は犬がこれを食らい、野で死ぬ者は空の鳥がこれを食らう。」
- 5 バアシャについてのその他の事柄、彼が行ったこと、その功績、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 6 バアシャは先祖とともに眠りにつき、ティルツァに葬られた。彼の子エラが代わって王となった。
- 7 主のことばはまた、ハナニの子、預言者エフーを通してバアシャとその家に向けられた。それは、彼が主の目に悪であるすべてのことを行い、その手のわざによって主の怒りを引き起こしてヤロブアムの家のようになり、また彼がヤロブアムを打ち殺したからである。
- 8 ユダの王アサの第二十六年に、バアシャの子エラがティルツァでイスラエルの王となった。治世は二年であった。
- 9 彼がティルツァにいて、ティルツァの宮廷長官アルツァの家で酒を飲んで酔っていたとき、彼の家来で、戦軍隊の半分の長であるジムリが彼に謀反を企てた。
- 10 ユダの王アサの第二十七年に、ジムリが入って来てエラを打ち殺し、彼に代わって王となった。
- 11 ジムリは王となり王座に就くと、すぐにバアシャの全家を討ち、小童から親類、友人に至るまで、一人も残さなかった。
- 12 こうして、ジムリはバアシャの全家を根絶やしにした。預言者エフーを通してバアシャに言われた主のことばのとおりであった。
- 13 これは、バアシャのすべての罪とその子エラの罪のゆえであり、彼らが罪を犯し、また彼らがイスラエルに罪を犯させ、彼らの空しい神々によってイスラエルの神、主の怒りを引き起こしたためである。
- 14 エラについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 15 ユダの王アサの第二十七年に、ジムリが七日間ティルツァで王となった。そのとき、兵はペリシテ人のギベトンに対して陣を敷いていた。
- 16 陣を敷いていたこの兵は、「ジムリが謀反を起こして王を打ち殺した」と言われるのを聞いた。すると、全イスラエルはその日、その陣営で軍の長オムリをイスラエルの王とした。
- 17 オムリは全イスラエルとともにギベトンから上って来て、ティルツァを包囲した。

- 18 ジムリは町が攻め取られるのを見ると、王宮の高殿に入り、自ら王宮に火を放って死んだ。
- 19 これは、彼が罪を犯して主の目に悪であることを行い、ヤロブアムの道に歩んだその罪のゆえであり、イスラエルに罪を犯させた彼の罪のゆえであった。
- 20 ジムリについてのその他の事柄、彼が企てた謀反、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 21 当時、イスラエルの民は二派に分裂していた。民の半分はギナテの子ティブニに従って彼を王にしようとし、もう半分はオムリに従った。
- 22 オムリに従った民は、ギナテの子ティブニに従った民より強かったので、ティブニが死ぬとオムリが王となった。
- 23 ユダの王アサの第三十一年に、オムリはイスラエルの王となり、十二年間、王であった。六年間はティルツァで王であった。
- 24 彼は銀二タラントでシェメルからサマリアの山を買い、その山に町を建て、彼が建てたこの町の名を、その山の持ち主であったシェメルの名にちなんでサマリアと呼んだ。
- 25 オムリは主の目に悪であることを行い、彼以前のだれよりも悪いことをした。
- 26 彼はネバテの子ヤロブアムのすべての道に歩み、イスラエルに罪を犯させ、彼らの空しい神々によってイスラエルの神、主の怒りを引き起こした。
- 27 オムリが行ったその他の事柄、彼が立てた功績、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 28 オムリは先祖とともに眠りにつき、サマリアに葬られた。彼の子アハブが代わって王となった。
- 29 オムリの子アハブは、ユダの王アサの第三十八年に、イスラエルの王となった。オムリの子アハブはサマリアで二十二年間、イスラエルの王であった。
- 30 オムリの子アハブは、彼以前のだれよりも主の目に悪であることを行った。
- 31 彼にとっては、ネバテの子ヤロブアムの罪のうちは歩むことは軽いことであった。それどころか彼は、シドン人の王エテバアルの娘イゼベルを妻とし、行ってバアルに仕え、それを拝んだ。
- 32 さらに彼は、サマリアに建てたバアルの神殿に、バアルのために祭壇を築いた。
- 33 アハブはアシェラ像も造った。こうしてアハブは、彼以前の、イスラエルのすべての王たちにもまして、ますますイスラエルの神、主の怒りを引き起こすようなことを行った。
- 34 彼の時代に、ベテル人ヒエルがエリコを再建した。彼は、その礎を据えたとき長子アピラムを失い、門を建てたとき末の子セグブを失った。ヌンの子ヨシュアを通して語られた主のことばのとおりであった。

第17章

- 1 ギルアデの住民であるティシュベ人エリヤはアハブに言った。「私が仕えているイスラエルの神、主は生きておられる。私のことばによるのでなければ、ここ数年の間、露も降らず、雨も降らない。」
- 2 それから、エリヤに次のような主のことばがあった。
- 3 「ここを去って東へ向かい、ヨルダン川の東にあるケリテ川のほとりに身を隠せ。
- 4 あなたはその川の水を飲むことになる。わたしは烏に、そこであなたを養うように命じた。」
- 5 そこでエリヤは行って、主のことばどおりにした。彼はヨルダン川の東にあるケリテ川のほとりに行って住んだ。
- 6 何羽かの烏が、朝、彼のところにパンと肉を、また夕方にパンと肉を運んで来た。彼はその川から水を飲んだ。
- 7 しかし、しばらくすると、その川が涸れた。その地方に雨が降らなかったからである。
- 8 すると、彼に次のような主のことばがあった。
- 9 「さあ、シドンのツアレファテに行き、そこに住め。見よ。わたしはそこの一人のやもめに命じて、あなたを養うようにしている。」
- 10 彼はツアレファテへ出て行った。その町の門に着くと、ちょうどそこに、薪を拾い集めている一人のやもめがいた。そこで、エリヤは彼女に声をかけて言った。「水差しにほんの少しの水を持って来て、私に飲ませてください。」
- 11 彼女が取りに行こうとすると、エリヤは彼女を呼んで言った。「一口のパンも持って来てください。」
- 12 彼女は答えた。「あなたの神、主は生きておられます。私には焼いたパンはありません。ただ、かめの中に一握りの粉と、壺の中にほんの少しの油があるだけです。ご覧のとおり、二、三本の薪を集め、帰って行って、私と息子のためにそれを調理し、それを食べて死のうとしているのです。」
- 13 エリヤは彼女に言った。「恐れてはいけません。行って、あなたが言ったようにしなさい。しかし、まず私のためにそれで小さなパン菓子を作り、私のところに持って来なさい。その後で、あなたとあなたの子どものために作りなさい。
- 14 イスラエルの神、主が、こう言われるからです。『主が地の上に雨を降らせる日まで、そのかめの粉は尽きず、その壺の油はなくなるしない。』」
- 15 彼女は行って、エリヤのことばのとおりにした。彼女と彼、および彼女の家族も、長い間それを食べた。
- 16 エリヤを通して言われた主のことばのとおり、かめの粉は尽きず、壺の油はなくならなかった。
- 17 これらのことの後、この家の女主人の息子が病気になった。その子の病気は非常に重くなり、ついに息を引き取った。

- 18** 彼女はエリヤに言った。「神の人よ、あなたはいったい私に何をしようとされるのですか。あなたは私の咎を思い起こさせ、私の息子を死なせるために来られたのですか。」
- 19** 彼は「あなたの息子を渡しなさい」と彼女に言って、その子を彼女の懷から受け取り、彼が泊まっていた屋上の部屋に抱えて上がり、その子を自分の寢床の上に寝かせた。
- 20** 彼は主に叫んで祈った。「私の神、主よ。私が世話になっている、このやもめにさえもわざわざを下して、彼女の息子を死なせるのですか。」
- 21** そして、彼は三度その子の上に身を伏せて、主に叫んで祈った。「私の神、主よ。どうか、この子のいのちをこの子のうちに戻してください。」
- 22** 主はエリヤの願いを聞かれたので、子どものいのちがその子のうちに戻り、その子は生き返った。
- 23** エリヤはその子を抱いて、屋上の部屋から家の中に下りて、その子の母親に渡した。エリヤは言った。「ご覧なさい。あなたの息子は生きています。」
- 24** その女はエリヤに言った。「今、私はあなたが神の人であり、あなたの口にある主のことばが真実であることを知りました。」

第18章

- 1 かなりの日数を経て、三年目に、次のような主のことばがエリヤにあった。「アハブに会いに行け。わたしはこの地の上に雨を降らせよう。」
- 2 そこで、エリヤはアハブに会いに出かけた。そのころ、サマリアでは飢饉がひどかった。
- 3 アハブは宮廷長官オバデヤを呼び寄せた。オバデヤは主を深く恐れていた。
- 4 かつてイゼベルが主の預言者たちを殺したときに、オバデヤは百人の預言者たちを救い出し、五十人ずつ洞穴の中にかくまい、パンと水で彼らを養ったのである。
- 5 アハブはオバデヤに言った。「国内のすべての水の泉や、すべての川に行ってみよ。馬とらばを生かしておく草が見つかり、家畜を絶やさないですむかもしれない。」
- 6 二人はこの国を分けて巡り歩くことにし、アハブは一人で一つの道を行き、オバデヤは一人で別の道を行った。
- 7 オバデヤがその道にいたところ、エリヤが彼に会いに来た。オバデヤにはそれがエリヤだと分かったので、ひれ伏して言った。「あなたは私の主人エリヤではありませんか。」
- 8 エリヤは彼に答えた。「そうです。行って、エリヤがここにいると、あなたの主人に言いなさい。」
- 9 すると、オバデヤは言った。「私にどんな罪があると言うのですか。あなたがこのしもべをアハブの手に渡し、殺そうとされるとは。」
- 10 あなたの神、主は生きておられます。私の主人があなたを捜すために人を遣わさなかった民や王国は一つもありません。その王国や民が、あなたはいないと言うと、主人は彼らに、あなたが見つからないという誓いをさせています。
- 11 今、あなたは『行って、エリヤがここにいるとあなたの主人に言え』と言われます。
- 12 私があなたから離れて行っている間に、主の霊はあなたを私の知らないところに連れて行くでしょう。私はアハブに知らせに行きますが、あなたを見つけられなければ、彼は私を殺すでしょう。しもべは子どものころから主を恐れています。
- 13 あなたには、イゼベルが主の預言者たちを殺したとき、私のしたことが知らされていないのですか。私は主の預言者百人を五十人ずつ洞穴に隠し、パンと水で彼らを養ったのです。
- 14 今、あなたは『行って、エリヤがここにいるとあなたの主人に言え』と言われます。彼は私を殺すでしょう。」
- 15 すると、エリヤは言った。「私が仕えている万軍の主は生きておられます。私は必ず、今日、アハブの前に出ます。」
- 16 オバデヤは行ってアハブに会い、彼に告げたので、アハブはエリヤに会うためにやって来た。
- 17 アハブがエリヤを見るやいなや、アハブは彼に言った。「おまえか、イスラエルにわざわざいをもたらす者は。」
- 18 エリヤは言った。「私はイスラエルにわざわざいをもたらしてはいない。あなたとあなたの父の家こそ、そうだ。現に、あなたがたは主の命令を捨て、あなたはバアルの神々に従っ

ている。

- 19** 今、人を遣わして、カルメル山の私のところに、全イスラエル、ならびにイゼベルの食卓に着く、四百五十人のバアルの預言者と四百人のアシェラの預言者を集めなさい。」
- 20** そこで、アハブはイスラエルのすべての人々に使者を遣わして、預言者たちをカルメル山に集めた。
- 21** エリヤは皆の前に進み出て言った。「おまえたちは、いつまで、どっちつかずによろめいているのか。もし主が神であれば、主に従い、もしバアルが神であれば、バアルに従え。」しかし、民は一言も彼に答えなかった。
- 22** そこで、エリヤは民に向かって言った。「私一人が主の預言者として残っている。バアルの預言者は四百五十人だ。
- 23** 私たちのために、彼らに二頭の雄牛を用意させよ。彼らに、自分たちで一頭の雄牛を選び、それを切り裂いて薪の上に載せるようにさせよ。火をつけてはならない。私は、もう一頭の雄牛を同じようにし、薪の上に載せて、火をつけずにおく。
- 24** おまえたちは自分たちの神の名を呼べ。私は主の名を呼ぶ。そのとき、火をもって答える神、その方が神である。」民はみな答えて、「それがよい」と言った。
- 25** エリヤはバアルの預言者たちに言った。「おまえたちで一頭の雄牛を選び、おまえたちのほうから、まず始めよ。人数が多いのだから。おまえたちの神の名を呼べ。ただし、火をつけてはならない。」
- 26** そこで彼らは、与えられた雄牛を取って、それを整え、朝から真昼までバアルの名を呼んだ。「バアルよ、私たちに答えてください。」しかし何の声もなく、答える者もなかった。そこで彼らは、自分たちが造った祭壇のあたりで踊り回った。
- 27** 真昼になると、エリヤは彼らを嘲って言った。「もっと大声で呼んでみよ。彼は神なのだから。きっと何かに没頭しているか、席を外しているか、旅に出ているのだろう。もしかすると寝ているのかもしれないから、起こしたらよいだろう。」
- 28** 彼らはますます大声で叫び、彼らの慣わしによって、剣や槍で、血を流すまで自分たちの身を傷つけた。
- 29** このようにして、昼も過ぎ、ささげ物を献げる時まで騒ぎ立てたが、何の声もなく、答える者もなく、注目する者もなかった。
- 30** エリヤが民全体に「私のそばに近寄りなさい」と言ったので、民はみな彼に近寄って来た。彼は、壊れていた主の祭壇を築き直した。
- 31** エリヤは、主がかつて「あなたの名はイスラエルとなる」と言われたヤコブの子たちの部族の数にしたがって、十二の石を取った。
- 32** その石で、彼は主の御名によって一つの祭壇を築き、その祭壇の周りに、二セアの種が入るほどの溝を掘った。
- 33** それから彼は薪を並べ、一頭の雄牛を切り裂いて薪の上に載せ、
- 34** 「四つのかめに水を満たし、この全焼のささげ物と薪の上に注げ」と命じた。それから「もう一度それをせよ」と言ったので、彼らはもう一度そうした。さらに、彼が「三度目をせよ」と言ったので、彼らは三度目をした。
- 35** 水は祭壇の周りに流れ出した。彼は溝にも水を満たした。

- 36 ささげ物を献げるころになると、預言者エリヤは進み出て言った。「アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ。あなたがイスラエルにおいて神であり、私があなたのしもべであり、あなたのおことばによって私がこれらすべてのことを行ったということが、今日、明らかになりますように。
- 37 私に答えてください。主よ、私に答えてください。そうすればこの民は、主よ、あなたこそ神であり、あなたが彼らの心を翻してくださったことを知るでしょう。」
- 38 すると、主の火が降り、全焼のささげ物と薪と石と土を焼き尽くし、溝の水もなめ尽くした。
- 39 民はみな、これを見てひれ伏し、「主こそ神です。主こそ神です」と言った。
- 40 そこでエリヤは彼らに命じた。「バアルの預言者たちを捕らえよ。一人も逃すな。」彼らがバアルの預言者たちを捕らえると、エリヤは彼らをキシヨン川に連れて下り、そこで彼らを殺した。
- 41 エリヤはアハブに言った。「上って行って、食べたり飲んだりしなさい。激しい大雨の音がするから。」
- 42 そこで、アハブは食べたり飲んだりするために上って行った。エリヤはカルメル山の頂上に登り、地にひざまずいて自分の顔を膝の間にうずめた。
- 43 彼は若い者に言った。「さあ、上って行って、海の方をよく見なさい。」若い者は上って、見たが、「何もありません」と言った。するとエリヤは「もう一度、上りなさい」と言って、それを七回繰り返した。
- 44 七回目に若い者は、「ご覧ください。人の手のひらほどの小さな濃い雲が海から上ってきます」と言った。エリヤは言った。「上って行って、アハブに言いなさい。『大雨に閉じ込められないうちに、車を整えて下って行きなさい。』」
- 45 しばらくすると、空は濃い雲と風で暗くなり、やがて激しい大雨となった。アハブは車に乗って、イズレエルへ行った。
- 46 主の手がエリヤの上に下ったので、彼は裾をたくし上げて、イズレエルの入り口までアハブの前を走って行った。

第19章

- 1 アハブは、エリヤがしたことと、預言者たちを剣で皆殺しにしたこととの一部始終をイゼベルに告げた。
- 2 すると、イゼベルは使者をエリヤのところに遣わして言った。「もし私が、明日の今ごろまでに、おまえのいのちをあの者たちの一人のいのちのようにしなかったなら、神々がこの私を幾重にも罰せられるように。」
- 3 彼はそれを知って立ち、自分のいのちを救うため立ち去った。ユダのベエル・シェバに来たとき、若い者をそこに残し、
- 4 自分は荒野に、一日の道のりを入れて行った。彼は、エニシダの木の陰に座り、自分の死を願って言った。「主よ、もう十分です。私のいのちを取ってください。私は父祖たちにまさっていませんから。」
- 5 彼がエニシダの木の下で横になって眠っていると、見よ、一人の御使いが彼に触れ、「起きて食べなさい」と言った。
- 6 彼が見ると、見よ、彼の頭のところに、焼け石で焼いたパン菓子一つと、水の入った壺があった。彼はそれを食べて飲み、再び横になった。
- 7 主の使いがもう一度戻って来て彼に触れ、「起きて食べなさい。旅の道のりはまだ長いんだから」と言った。
- 8 彼は起きて食べ、そして飲んだ。そしてこの食べ物に力を得て、四十日四十夜歩いて、神の山ホレブに着いた。
- 9 彼はそこにある洞穴に入り、そこで一夜を過ごした。すると、主のことばが彼にあった。主は「エリヤよ、ここで何をしているのか」と言われた。
- 10 エリヤは答えた。「私は万軍の神、主に熱心に仕えました。しかし、イスラエルの子らはあなたとの契約を捨て、あなたの祭壇を壊し、あなたの預言者たちを剣で殺しました。ただ私だけが残りましたが、彼らは私のいのちを取ろうと狙っています。」
- 11 主は言われた。「外に出て、山の上で主の前に立て。」するとそのとき、主が通り過ぎた。主の前で激しい大風が山々を裂き、岩々を砕いた。しかし、風の中に主はおられなかった。風後に地震が起こったが、地震の中にも主はおられなかった。
- 12 地震の後に火があったが、火の中にも主はおられなかった。しかし火の後に、かすかな細い声があった。
- 13 エリヤはこれを聞くと、すぐに外套で顔をおおい、外に出て洞穴の入り口に立った。すると声がして、こう言った。「エリヤよ、ここで何をしているのか。」
- 14 エリヤは答えた。「私は万軍の神、主に熱心に仕えました。しかし、イスラエルの子らはあなたとの契約を捨て、あなたの祭壇を壊し、あなたの預言者たちを剣で殺しました。ただ私だけが残りましたが、彼らは私のいのちを取ろうと狙っています。」
- 15 主は彼に言われた。「さあ、ダマスコの荒野へ帰って行け。そこに行き、ハザエルに油を注いで、アラムの王とせよ。」

- 16** また、ニムシの子エフーに油を注いで、イスラエルの王とせよ。また、アベル・メホラ出身のシャファテの子エリシャに油を注いで、あなたに代わる預言者とせよ。
- 17** ハザエルの剣を逃れる者をエフーが殺し、エフーの剣を逃れる者をエリシャが殺す。
- 18** しかし、わたしはイスラエルの中に七千人を残している。これらの者はみな、バアルに膝をかがめず、バアルに口づけしなかった者たちである。」
- 19** エリヤはそこを去って、シャファテの子エリシャを見つけた。エリシャは、十二くびきの牛を先に立て、その十二番目のくびきのそばで耕していた。エリヤが彼のところを通り過ぎるとき自分の外套を彼に掛けたので、
- 20** エリシャは牛を放って、エリヤの後を追いかけて言った。「私の父と母に口づけさせてください。それから、あなたに従って行きますから。」エリヤは彼に言った。「行って来なさい。私があなたに何をしたか。」
- 21** エリシャは引き返して、一くびきの牛を取り、それを殺して、牛の用具でその肉を調理し、人々に与えてそれを食べさせた。それから彼は立ってエリヤについて行き、彼に仕えた。

第20章

- 1 アラムの王ベン・ハダドは彼の全軍勢を集めた。彼には三十二人の王と、馬と戦車があった。彼はサマリアに上り、これを包囲して攻め、
- 2 町に使者たちを遣わして、イスラエルの王アハブに
- 3 こう言った。「ベン・ハダドはこう言われる。『おまえの銀と金は私のもの。おまえの妻たちや子どもたちの、最も美しい者も私のものだ。』」
- 4 イスラエルの王は答えた。「王よ、仰せのとおりです。この私、および、私に属するものはすべてあなたのものです。」
- 5 使者たちは再び戻って来て言った。「ベン・ハダドはこう言われる。『私はおまえに人を遣わし、おまえの銀と金、および、おまえの妻たちや子どもたちを私に与えよ、と言った。』
- 6 明日の今ごろ、私の家来たちを遣わす。彼らは、おまえの家とおまえの家来たちの家の中を探し、たとえ、おまえが一番大事にしているものさえ、手をかけて奪い取るだろう。』」
- 7 イスラエルの王は国のすべての長老たちを呼び寄せて言った。「あの男が、こんなにひどいことを要求しているのを知ってほしい。彼は人を遣わして、私の妻たちや子どもたち、および、私の銀や金を求めたが、私はそれを断りきれなかった。」
- 8 すると長老たちや民はみな、彼に言った。「聞かないでください。承諾しないでください。」
- 9 そこで、彼はベン・ハダドの使者たちに言った。「王に言ってくれ。『初めにあなたがこのしもべにお求めになったことは、すべてそのようにいたしますが、このたびのことはできません。』」使者たちは帰って行って、このことを報告した。
- 10 するとベン・ハダドは、彼のところに人を遣わして言った。「サマリアのちりが私に従うすべての民の手を満たすほどでもあったら、神々がこの私を幾重にも罰せられるように。」
- 11 イスラエルの王は答えた。「こう伝えてくれ。『武装しようとする者は、武装を解く者のように誇ってはならない。』」
- 12 ベン・ハダドは、このことばを聞いたとき、王たちと仮小屋で酒を飲んでいたが、家来たちに「配置につけ」と命じたので、彼らはこの町に向かう配置についた。
- 13 ちょうどそのころ、一人の預言者がイスラエルの王アハブに近づいて言った。「主はこう言われる。『あなたは、この大いなる軍勢を見たか。見よ、わたしは今日、これをあなたの手に引き渡す。こうしてあなたは、わたしこそ主であることを知る。』」
- 14 アハブが「それは、だれによってでしょうか」と尋ねると、その預言者は言った。「主はこう言われる。『諸州の首長に属する若い者たちによって。』」アハブが「だれが戦いを仕掛けるのでしょうか」と尋ねると、「あなたです」と答えた。
- 15 彼が諸州の首長に属する若い者たちを調べてみると、二百三十二人いた。そのほか、すべての兵、すべてのイスラエル人を調べたところ、七千人いた。

- 16 彼らは真昼ごろ出陣した。そのとき、ベン・ハダドは味方の三十二人の王と仮小屋で酒を飲んで酔っていた。
- 17 諸州の首長に属する若い者たちが最初に出陣した。ベン・ハダドが人を遣わすと、彼は「人々がサマリアから出て来ています」との報告を受けた。
- 18 彼は言った。「和平のために出て来ても生け捕りにし、戦うために出て来ても生け捕りにせよ。」
- 19 町から出て来たのは、諸州の首長に属する若い者たちと、これに続く軍勢であった。
- 20 彼らはそれぞれ相手に打ち勝ったので、アラム人は逃げ、イスラエル人は追った。アラムの王ベン・ハダドは馬に乗り、騎兵たちと一緒に逃れた。
- 21 イスラエルの王も出陣し、馬と戦車を討ち、アラム人を討って大損害を与えた。
- 22 その後、あの預言者がイスラエルの王に近寄って言った。「さあ、奮い立って、これからなすべきことをよく考えなさい。来年の今ごろ、アラムの王があなたを攻めに上って来るからです。」
- 23 そのころ、アラムの王の家来たちは王に言った。「彼らの神々は山の神です。だから、彼らは私たちより強いのです。しかし、私たちが平地で彼らと戦うなら、きっと私たちのほうが彼らより強いでしょう。」
- 24 このようにしてください。王たちをそれぞれ、その地位から退かせ、王たちの代わりに総督を任命し、
- 25 あなたは失っただけの軍勢と馬と戦車を補充してください。彼らと平地で戦うなら、きっと私たちのほうが彼らより強いでしょう。」王は彼らの言うことを聞き入れて、そのようにした。
- 26 年が改まると、ベン・ハダドはアラム人を召集し、イスラエルと戦うためにアフェクに上って来た。
- 27 一方、イスラエル人も召集され、食糧を受けて、彼らを迎え撃つために出て行った。イスラエル人は彼らと向かい合って、二つの小さなやぎの群れのように陣を敷いたが、アラム人はその地に満ちていた。
- 28 ときに、一人の神の人が近づいて来て、イスラエルの王に言った。「主はこう言われる。『アラム人が、主は山の神であって低地の神ではない、と言っているので、わたしはこの大いなる軍勢をすべてあなたの手に渡す。そうしてあなたがたは、わたしこそ主であることを知る。』」
- 29 両軍は互いに向かい合って、七日間、陣を敷いていた。七日目になって戦いに臨んだが、イスラエル人は一日のうちにアラムの歩兵十万人を打ち殺した。
- 30 生き残った者たちはアフェクの町に逃げたが、その生き残った二万七千人の上に城壁が崩れ落ちた。ベン・ハダドは逃げて町に入り、奥の間に入った。
- 31 家来たちは彼に言った。「イスラエルの家の王たちは恵み深い王である、と聞いています。それで、私たちの腰に粗布をまとい、首に縄をかけ、イスラエルの王のもとに出て行かせてください。そうすれば、あなたのいのちを助けてくれるかもしれません。」
- 32 こうして彼らは腰に粗布をまとい、首に縄をかけ、イスラエルの王のもとに行って願った。「あなたのしもべ、ベン・ハダドが『どうか私のいのちを助けてください』と申して

います。」するとアハブは言った。「彼はまだ生きているのか。彼は私の兄弟だ。」

33 この人々は、これは吉兆だと見て、すぐにそのことばにより事が決まったと思い、「ベン・ハダドはあなたの兄弟です」と言った。王は言った。「行って、彼を連れて来なさい。」ベン・ハダドが王のところに出て来ると、王は彼を戦車に乗せた。

34 ベン・ハダドは彼に言った。「私の父が、あなたの父上から奪い取った町々をお返しします。あなたは私の父がサマリアにしたように、ダマスコに市場を設けることもできます。」「では、契約を結んで、あなたを帰そう。」こうして、アハブは彼と契約を結び、彼を去らせた。

35 預言者の仲間の一人が、主のことばにしたがって、自分の仲間に「私を打ってくれ」と言った。しかし、その人は彼を打つことを拒んだ。

36 そこで彼はその人に言った。「あなたは主の御声に聞き従わなかったので、あなたが私のところから出て行くと、すぐ獅子があなたを殺す。」その人が彼のそばから立ち去ると、獅子がその人を見つけて殺した。

37 彼はもう一人の人に会ったので、「私を打ってくれ」と頼んだ。すると、その人は彼を打って傷を負わせた。

38 それから、その預言者は行って、道端で王を待っていた。彼は目の上に包帯をして、だれだか分からないようにしていた。

39 王が通りかかったとき、彼は王に叫んで言った。「しもべが戦場に出て行くと、ちょうどそこに、ある人が一人の者を連れてやって来て、こう言いました。『この者を見張れ。もし、この者を逃がしでもしたら、この者のいのちの代わりにおまえのいのちを取るか、または、銀一タラントを払わせるぞ。』

40 ところが、しもべがあれやこれやしているうちに、その人はいなくなってしまうした。」すると、イスラエルの王は彼に言った。「おまえは、そのとおりにさばかれる。おまえ自身が決めたとおりに。」

41 彼は急いで目から包帯を取った。そのとき、イスラエルの王は彼が預言者の一人であることに気づいた。

42 彼は王に言った。「主はこう言われる。『わたしが聖絶しようとした者をあなたが逃がしたので、あなたのいのちは彼のいのちの代わりとなり、あなたの民は彼の民の代わりとなる。』」

43 イスラエルの王は不機嫌になり、激しく怒って自分の宮殿に戻って行き、サマリアに着いた。

第21章

- 1 これらのことがあった後のことである。イスレエル人ナボテはイスレエルにぶどう畑を持っていた。それはサマリアの王アハブの宮殿のそばにあった。
- 2 アハブはナボテに次のように頼んだ。「おまえのぶどう畑を私に譲ってもらいたい。あれは私の宮殿のすぐ隣にあるので、私の野菜畑にしたいのだが。その代わりに、あれよりもっと良いぶどう畑を与えよう。もしおまえが良いと思うなら、それ相当の代価を銀で支払おう。」
- 3 ナボテはアハブに言った。「私の先祖のゆずりの地をあなたに譲るなど、主にかけてあり得ないことです。」
- 4 アハブは不機嫌になり、激しく怒って自分の宮殿に入った。イスレエル人ナボテが彼に「私の先祖のゆずりの地はあなたに譲れません」と言ったからである。アハブは寝台に横になり、顔を背けて食事もしようとしなかった。
- 5 彼の妻イゼベルは彼のもとに来て言った。「どうしてそんなに不機嫌で、食事もなさらないのですか。」
- 6 そこで、アハブは彼女に言った。「私がイスレエル人ナボテに『金を払うから、おまえのぶどう畑を譲ってほしい。あるいは、おまえが望むなら、代わりのぶどう畑をやってもよい』と言ったのに、彼は『私のぶどう畑はあなたに譲れません』と答えたからだ。」
- 7 妻イゼベルは彼に言った。「今、あなたはイスラエルの王権を得ています。さあ、起きて食事をし、元気を出してください。この私がイスレエル人ナボテのぶどう畑を、あなたのために手に入れてあげましょう。」
- 8 彼女はアハブの名で手紙を書き、彼の印で封印し、ナボテの町に住む長老たちとおもだった人々にその手紙を送った。
- 9 彼女は手紙にこう書いた。「断食を布告し、ナボテを民の前に引き出して座らせ、
- 10 彼の前に二人のよこしまな者を座らせて、彼らに『おまえは神と王を呪った』と証言させなさい。そして、彼を外に引き出し、石打ちにして殺しなさい。」
- 11 そこで、その町の人々、その町に住んでいる長老たちとおもだった人々は、イゼベルが彼らに言ってよこしたとおり、彼女が手紙に書き送ったとおりに行った。
- 12 彼らは断食を布告し、ナボテを民の前に引き出して座らせた。
- 13 そこに、二人のよこしまな者が入って来て、彼の前に座った。よこしまな者たちは民の前で、「ナボテは神と王を呪った」と証言した。そこで人々は彼を町の外に引き出し、石打ちにして殺した。
- 14 こうして、彼らはイゼベルに「ナボテは石打ちにされて死にました」と言ってよこした。
- 15 イゼベルはナボテが石打ちにされて殺されたことを聞くとすぐ、アハブに言った。「起きて、イスレエル人ナボテが代金と引き替えで譲ることを拒んだ、あのぶどう畑を取り上げなさい。もうナボテは生きていません。死んだのです。」
- 16 アハブはナボテが死んだと聞いてすぐ、立って、イスレエル人ナボテのぶどう畑を取り上げようと下って行った。

- 17 そのとき、ティシュベ人エリヤに次のような主のことばがあった。
- 18 「さあ、サマリアにいるイスラエルの王アハブに会いに下って行け。今、彼はナボテのぶどう畑を取り上げようと、そこに下って来ている。
- 19 彼にこう言え。『主はこう言われる。あなたは人殺しをしたうえに、奪い取ったのか。』
また、彼に言え。『主はこう言われる。犬たちがナボテの血をなめた、その場所で、その犬たちがあなたの血をなめる。』」
- 20 アハブがエリヤに「おまえは私を見つけたのか、わが敵よ」と言うと、エリヤは答えた。
「そうだ。あなたが主の目に悪であることを行うことに身を任せたので、見つけたのだ。
- 21 『今わたしは、あなたにわざわいをもたらす。わたしはあなたの子孫を除き去り、イスラエルの中の、アハブに属する小童から奴隷や自由の者に至るまで絶ち滅ぼし、
- 22 あなたの家をネバテの子ヤロブアムのようにし、アヒヤの子バアシャの家のようにする。それは、あなたが引き起こしたわたしの怒りのゆえであり、あなたがイスラエルに罪を犯させたためだ。』
- 23 また、イゼベルについても主はこう言われる。『犬がイスラエルの領地でイゼベルを食らう。
- 24 アハブに属する者で、町で死ぬ者は犬がこれを食らい、野で死ぬ者は空の鳥がこれを食らう。』」
- 25 アハブのように、自らを裏切って主の目に悪であることを行った者は、だれもいなかった。彼の妻イゼベルが彼をそそのかしたのである。
- 26 彼は、主がイスラエル人の前から追い払われたアモリ人がしたのと全く同じように、偶像につき従い、非常に忌まわしいことを行った。
- 27 アハブはこれらのことばを聞くとすぐ、自分の外套を裂き、身に粗布をまとして断食をした。彼は粗布をまとして伏し、打ちひしがれて歩いた。
- 28 そのとき、ティシュベ人エリヤに次のような主のことばがあった。
- 29 「あなたは、アハブがわたしの前にへりくだっているのを見たか。彼がわたしの前にへりくだっているので、彼の生きている間はわざわいを下さない。しかし、彼の子の時代に、彼の家にわざわいを下す。」

第22章

- 1 アラムとイスラエルの間に戦いが無いまま、三年が過ぎた。
- 2 しかし、三年目になって、ユダの王ヨシャファテがイスラエルの王のところに下って来ると、
- 3 イスラエルの王は自分の家来たちに言った。「おまえたちは、ラモテ・ギルアデがわれわれのものであることをよく知っているではないか。それなのに、われわれはためらっていて、それをアラムの王の手から奪い返していない。」
- 4 そして、彼はヨシャファテに言った。「私とともにラモテ・ギルアデに戦いに行ってくださいませんか。」ヨシャファテはイスラエルの王に言った。「私とあなたは一つ、私の民とあなたの民は一つ、私の馬とあなたの馬は一つです。」
- 5 ヨシャファテはイスラエルの王に言った。「まず、主のことばを伺ってください。」
- 6 イスラエルの王は約四百人の預言者を集めて、彼らに尋ねた。「私はラモテ・ギルアデに戦いに行くべきか。それとも、やめるべきか。」彼らは答えた。「あなたは攻め上ってください。主は王様の手にもこれを渡されます。」
- 7 ヨシャファテは、「ここには、われわれがみこころを求めることのできる主の預言者が、ほかにいないのですか」と言った。
- 8 イスラエルの王はヨシャファテに答えた。「ほかにもう一人、主に伺うことのできる者がいます。しかし、私は彼を憎んでいます。彼は私について良いことは預言せず、悪いことばかりを預言するからです。イムラの子ミカヤです。」ヨシャファテは言った。「王よ、そういうふうには言わないでください。」
- 9 イスラエルの王は一人の宦官を呼び、「急いでイムラの子ミカヤを連れて来い」と命じた。
- 10 イスラエルの王とユダの王ヨシャファテは、それぞれ王服をまとい、サマリアの門の入り口にある打ち場の王の座に着いていた。預言者はみな、彼らの前で預言していた。
- 11 ケナアナの子ゼデキヤは、王のために鉄の角を作って言った。「主はこう言われます。『これらの角で、あなたはアラムを突いて、絶ち滅ぼさなければならない。』」
- 12 預言者たちはみな、同じように預言した。「あなたはラモテ・ギルアデに攻め上って勝利を得てください。主は王の手にもこれを渡されます。」
- 13 ミカヤを呼びに行った使者はミカヤに告げた。「いいですか。預言者たちは口をそろえて、王に対して良いことを述べています。どうか、あなたも彼らと同じように語り、良いことを述べてください。」
- 14 ミカヤは答えた。「主は生きておられる。主が私に告げられることを、そのまま述べよう。」
- 15 彼が王のもとに着くと、王は彼に言った。「ミカヤ、われわれはラモテ・ギルアデに戦いに行くべきか。それとも、やめるべきか。」彼は王に答えた。「あなたは攻め上って勝利を得なさい。主は王の手にもこれを渡されます。」

- 16 王は彼に言った。「私が何度おまえに誓わせたら、おまえは主の名によって真実だけを私に告げるようになるのか。」
- 17 彼は答えた。「私は全イスラエルが山々に散らされているのを見た。まるで、羊飼いのいない羊の群れのように。そのとき主はこう言われた。『彼らには主人がいない。彼らをそれぞれ自分の家に無事に帰らせよ。』」
- 18 イスラエルの王はヨシャファテに言った。「あなたに言ったではありませんか。彼は私について良いことは預言せず、悪いことばかりを預言すると。」
- 19 ミカヤは言った。「それゆえ、主のことばを聞きなさい。私は主が御座に着き、天の万軍がその右左に立っているのを見ました。
- 20 そして、主は言われました。『アハブを惑わして攻め上らせ、ラモテ・ギルアデで倒れさせるのはだれか。』すると、ある者はああしよう、別の者はこうしようと言いました。
- 21 ひとりの霊が進み出て、主の前に立ち、『この私が彼を惑わします』と言うと、主は彼に『どのようにやるのか』とお尋ねになりました。
- 22 彼は答えました。『私が出て行って、彼のすべての預言者の口で偽りを言う霊となります。』主は『きっとあなたは惑わすことができる。出て行って、そのとおりにせよ』と言われました。
- 23 今ご覧のとおり、主はここにいるあなたのすべての預言者の口に、偽りを言う霊を授けられました。主はあなたに下るわざわいを告げられたのです。」
- 24 ケナアナの子ゼデキヤが近寄って来て、ミカヤの頬を殴りつけて言った。「どのようにして、主の霊が私を離れ、おまえに語ったというのか。」
- 25 ミカヤは答えた。「あなたが奥の間に入って身を隠すその日に、あなたは思い知ることになる。」
- 26 イスラエルの王は言った。「ミカヤを捕らえよ。町の長アモンと王の子ヨアシュのもとに連れて行き、
- 27 王がこう命じたとえ。『この男を獄屋に入れ、私が無事に帰るまで、わずかなパンと、わずかな水だけ与えておけ。』」
- 28 ミカヤは言った。「もしも、あなたが無事に戻って来ることがあるなら、主は私によって語られなかったということです。」そして、「すべての民よ、聞きなさい」と言った。
- 29 イスラエルの王とユダの王ヨシャファテは、ラモテ・ギルアデに攻め上った。
- 30 イスラエルの王はヨシャファテに言った。「私は変装して戦いに行きます。しかし、あなたは自分の王服を着ていてください。」イスラエルの王は変装して戦いに行った。
- 31 アラムの王は、自分の配下の戦車隊長たち三十二人に次のように命じた。「兵とも将軍とも戦うな。ただイスラエルの王だけを狙って戦え。」
- 32 戦車隊長たちはヨシャファテを見つけたとき、「きっと、あれがイスラエルの王に違いない」と思ったので、彼の方に向きを変え、戦おうとした。ヨシャファテは助けを叫び求めた。
- 33 戦車隊長たちは、彼がイスラエルの王ではないことを知り、彼を追うことをやめて引き返した。

- 34 そのとき、ある一人の兵士が何気なく弓を引くと、イスラエルの王の胸当てと草摺の間を射抜いた。王は自分の戦車の御者に言った。「手綱を返して、私を陣営から出させてくれ。傷を負ってしまったから。」
- 35 その日、戦いは激しくなった。王はアラムに向かって、戦車の中で立っていたが、夕方になって死んだ。傷から出た血が戦車のくぼみに流れた。
- 36 日没のころ、陣営の中に「それぞれ自分の町、自分の国へ帰れ」という叫び声が伝わった。
- 37 王は死んでサマリアに運ばれた。人々はサマリアで王を葬った。
- 38 それから戦車をサマリアの池で洗った。犬が彼の血をなめ、遊女たちがそこで身を洗った。主が語られたことばのとおりであった。
- 39 アハブについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、彼が建てた象牙の家、彼が建てたすべての町、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 40 アハブは先祖とともに眠りにつき、その子アハズヤが代わって王となった。
- 41 アサの子ヨシャファテがユダの王となったのは、イスラエルの王アハブの第四年であった。
- 42 ヨシャファテは三十五歳で王となり、エルサレムで二十五年間、王であった。その母の名はアズバといい、シルヒの娘であった。
- 43 彼はその父アサのすべての道に歩み、そこから外れることなく、主の目にかなうことを行なった。しかし、高き所は取り除かなかった。民はなおも、その高き所でいけにえを献げたり、犠牲を供えたりしていた。
- 44 ヨシャファテはイスラエルの王と友好関係を保っていた。
- 45 ヨシャファテについてのその他の事柄、彼が立てた功績とその戦績、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 46 彼は、父アサの時代にまだ残っていた神殿男娼をこの国から除き去った。
- 47 そのころ、エドムには王がなく、守護が王であった。
- 48 ヨシャファテはタルシシュの船団をつくり、金を得るためにオフィルに行こうとしたが、行けなかった。船団がエツヨン・ゲベルで難破したからである。
- 49 そのとき、アハブの子アハズヤはヨシャファテに、「私の家来をあなたの家来と一緒に船で行かせましょう」と言ったが、ヨシャファテは同意しなかった。
- 50 ヨシャファテは先祖とともに眠りにつき、先祖とともに父ダビデの町に葬られた。その子ヨラムが代わって王となった。
- 51 アハブの子アハズヤは、ユダの王ヨシャファテの第十七年にサマリアでイスラエルの王となり、二年間イスラエルの王であった。
- 52 彼は主の目に悪であることを行い、彼の父の道と彼の母の道、それに、イスラエルに罪を犯させた、ネバテの子ヤロブアムの道に歩んだ。
- 53 彼はバアルに仕え、それを拝み、彼の父が行ったのと全く同じように行って、イスラエルの神、主の怒りを引き起こした。

列王記下

2 Kings

第1章

- 1 アハブの死後、モアブがイスラエルに背いた。
- 2 アハズヤは、サマリアにあった彼の屋上の部屋の欄干から落ちて重体に陥った。彼は使者たちを遣わし、「行って、エクロンの神、バアル・ゼブブに、私のこの病が治るかどうか伺いを立てよ」と命じた。
- 3 そのころ、主の使いがティシュベ人エリヤに告げた。「さあ、上って行って、サマリアの王の使者たちに会い、彼らにこう言え。『あなたがたがエクロンの神、バアル・ゼブブに伺いを立てに行くのは、イスラエルに神がいないためか。』」
- 4 それゆえ、主はこう言われる。あなたは上ったその寝台から降りることはない。あなたは必ず死ぬ。』」そこでエリヤは出て行った。
- 5 使者たちがアハズヤのもとに戻って来たので、彼は「なぜおまえたちは帰って来たのか」と彼らに尋ねた。
- 6 彼らは答えた。「ある人が私たちに会いに上って来て言いました。『自分たちを遣わした王のところに帰って、彼にこう告げなさい。主はこう言われる。あなたが人を遣わして、エクロンの神、バアル・ゼブブに伺いを立てるのは、イスラエルに神がいないためか。それゆえ、あなたは上ったその寝台から降りることはない。あなたは必ず死ぬ。』」
- 7 アハズヤは彼らに尋ねた。「おまえたちに会いに上って来て、そんなことを告げたのはどんな男か。」
- 8 彼らが「毛衣を着て、腰に革の帯を締めた人でした」と答えると、アハズヤは「それはティシュベ人エリヤだ」と言った。
- 9 そこでアハズヤは、五十人隊の長を、その部下五十人とともにエリヤのところに遣わした。隊長がエリヤのところに上って行くと、そのとき、エリヤは山の頂に座っていた。隊長はエリヤに言った。「神の人よ、王のお告げです。下りて来てください。」
- 10 エリヤはその五十人隊の長に答えて言った。「私が神の人であるなら、天から火が下って来て、あなたとあなたの部下五十人を焼き尽くすだろう。」すると、天から火が下って来て、彼とその部下五十人を焼き尽くした。
- 11 王はまた、もう一人の五十人隊の長を、その部下五十人とともにエリヤのところに遣わした。隊長はエリヤに言った。「神の人よ、王がこう言われます。急いで下りて来てください。」
- 12 エリヤは彼らに答えた。「私が神の人であるなら、天から火が下って来て、あなたとあなたの部下五十人を焼き尽くすだろう。」すると、天から神の火が下って来て、彼とその部下五十人を焼き尽くした。
- 13 王はまた、第三の五十人隊の長と、その部下五十人を遣わした。この三人目の五十人隊の長は上って行き、エリヤの前にひざまずき、懇願して言った。「神の人よ、どうか私のいのちと、このあなたのしもべ五十人のいのちをお助けください。」
- 14 ご承知のように、天から火が下って来て、先の二人の五十人隊の長とそれぞれの部下五十人を、焼き尽くしてしまいました。今、私のいのちをお助けください。」

- 15 主の使いがエリヤに「彼と一緒に下って行け。彼を恐れてはならない」と言ったので、エリヤは立って、彼と一緒に王のところに下って行き、
- 16 王に言った。「主はこう言われる。『あなたが使者たちをエクロンの神、バアル・ゼブブに伺いを立てに遣わしたのは、イスラエルにみことばを伺う神がいないためか。それゆえ、あなたは上ったその寝台から降りることはない。あなたは必ず死ぬ。』」
- 17 王は、エリヤが告げた主のことばのとおり死んだ。そしてヨラムが代わって王となった。それはユダの王ヨシャファテの子ヨラムの第二年のことであった。アハズヤには息子がいなかったからである。
- 18 アハズヤが行ったその他の事柄、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

第2章

- 1 主がエリヤを竜巻に乗せて天に上げようとしたときのこと、エリヤはエリシャを連れてギルガルから出て行った。
- 2 エリヤはエリシャに「ここにとどまっていなさい。主が私をベテルに遣わされたから」と言った。しかしエリシャは言った。「主は生きておられます。あなたのたましいも生きています。私は決してあなたから離れません。」こうして、彼らはベテルに下って行った。
- 3 すると、ベテルの預言者の仲間たちがエリシャのところに出て来て、彼に言った。「今日、主があなたの主人をあなたから取り上げられることを知っていますか。」エリシャは、「私も知っていますが、黙っていてください」と答えた。
- 4 エリヤは彼に「エリシャ、ここにとどまっていなさい。主が私をエリコに遣わされたから」と言った。しかし彼は言った。「主は生きておられます。あなたのたましいも生きています。私は決してあなたから離れません。」こうして、彼らはエリコにやって来た。
- 5 するとエリコの預言者の仲間たちがエリシャに近づいて来て、彼に言った。「今日、主があなたの主人をあなたから取り上げられることを知っていますか。」エリシャは、「私も知っていますが、黙っていてください」と答えた。
- 6 エリヤは彼に「ここにとどまっていなさい。主が私をヨルダンへ遣わされたから」と言った。しかし彼は言った。「主は生きておられます。あなたのたましいも生きています。私は決してあなたから離れません。」こうして、二人は進んで行った。
- 7 一方、預言者の仲間たちのうち五十人は、行って遠く離れて立った。二人がヨルダン川のほとりに立ったとき、
- 8 エリヤは自分の外套を取り、それを丸めて水を打った。すると、水が両側に分かれたので、二人は乾いた土の上を渡った。
- 9 渡り終わると、エリヤはエリシャに言った。「あなたのために何をしようか。私があなたのところから取り去られる前に求めなさい。」するとエリシャは、「では、あなたの霊のうちから、二倍の分を私のものにしてください」と言った。
- 10 エリヤは言った。「あなたは難しい注文をする。しかし、私があなたのところから取り去られるとき、あなたが私を見ることができれば、そのことはあなたにかなえられるだろう。できないなら、そうはならない。」
- 11 こうして、彼らがなお進みながら話していると、なんと、火の戦車と火の馬が現れ、この二人の間を分け隔て、エリヤは竜巻に乗って天へ上って行った。
- 12 エリシャはこれを見て、「わが父、わが父、イスラエルの戦車と騎兵たち」と叫び続けたが、エリヤはもう見えなかった。彼は自分の衣をつかみ、それを二つに引き裂いた。
- 13 それから、彼はエリヤの身から落ちた外套を拾い上げ、引き返してヨルダン川の岸边に立った。
- 14 彼は、エリヤの身から落ちた外套を取って水を打ち、「エリヤの神、主はどこにおられるのですか」と言った。エリシャが水を打つと、水が両側に分かれ、彼はそこを渡った。

- 15 エリコの預言者の仲間たちは、遠くから彼を見て、「エリヤの霊がエリシャの上にとどまっている」と言って、彼を迎えに行き、地にひれ伏して礼をした。
- 16 彼らはエリシャに言った。「しもべたちのところに五十人の力ある者がいます。どうか彼らにあなたのご主人を捜しに行かせてください。主の霊がエリヤを運んで、どこかの山か谷に投げたかもしれません。」するとエリシャは、「行かせてはいけません」と言った。
- 17 しかし、彼らがしつこく彼に願ったので、ついにエリシャは、「行かせなさい」と言った。そこで、彼らは五十人を送り出した。彼らは三日間捜したが、エリヤを見つけることができなかった。
- 18 彼らは、エリコにとどまっていたエリシャのところへ帰って来た。エリシャは彼らに言った。「行かないようにと、あなたがたに言ったではありませんか。」
- 19 さて、この町の人々はエリシャに言った。「あなた様もご覧のとおり、この町は住むのには良いのですが、水が悪く、この土地は流産を引き起こします。」
- 20 するとエリシャは言った。「新しい皿に塩を盛って、私のところに持って来なさい。」人々は彼のところにそれを持って来た。
- 21 エリシャは水の源のところに行って、塩をそこに投げ込んで言った。「主はこう言われる。『わたしはこの水を癒やした。ここからは、もう、死も流産も起こらない。』」
- 22 こうして水は良くなり、今日に至っている。エリシャが言ったことばのとおりである。
- 23 エリシャはそこからベテルへ上って行った。彼が道を上って行くと、その町から小さい子どもたちが出て来て彼をからかい、「上って来い、はげ頭。上って来い、はげ頭」と言ったので、
- 24 彼は向き直って彼らをにらみつけ、主の名によって彼らをのろった。すると、森の中から二頭の雌熊が出て来て、子どもたちのうち四十二人をかき裂いた。
- 25 こうして彼は、そこからカルメル山に行き、そこからさらに、サマリアに帰った。

第3章

- 1 アハブの子ヨラムは、ユダの王ヨシャファテの第十八年に、サマリアでイスラエルの王となり、十二年間、王であった。
- 2 彼は主の目に悪であることを行ったが、彼の父母ほどではなかった。彼は、父が作ったバアルの石の柱を取り除いた。
- 3 しかし彼は、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪に執着し、それから離れることがなかった。
- 4 さて、モアブの王メシャは羊を飼っていて、子羊十万匹と、雄羊十万匹分の羊毛をイスラエルの王に貢ぎ物として納めていた。
- 5 しかしアハブが死ぬと、モアブの王はイスラエルの王に背いた。
- 6 そこで、ヨラム王はその日にサマリアを出発し、すべてのイスラエル人を動員した。
- 7 そして、ユダの王ヨシャファテに人を遣わして言った。「モアブの王が私に背きました。私と一緒にモアブに戦いに行ってくださいませんか。」ユダの王は言った。「行きましょう。私とあなたは一つ、私の民とあなたの民は一つ、私の馬とあなたの馬は一つです。」
- 8 そして言った。「どの道を上って行きましょうか。」するとヨラムは、「エドムの荒野の道を」と答えた。
- 9 こうして、イスラエルの王は、ユダの王とエドムの王と一緒に出かけたが、七日間も回り道をしたので、陣営の者と、後について来る動物たちのための水がなくなった。
- 10 イスラエルの王は、「ああ、主がこの三人の王を呼び集めたのは、モアブの手に渡すためだったのだ」と言った。
- 11 ヨシャファテは言った。「ここには、主のみこころを求めることができる主の預言者はいないのですか。」すると、イスラエルの王の家来の一人が答えた。「ここには、シャファテの子エリシャがいます。エリヤの手に水を注いだ者です。」
- 12 ヨシャファテが、「主のことばは彼とともにあります」と言ったので、イスラエルの王と、ヨシャファテと、エドムの王は彼のところに下って行った。
- 13 エリシャはイスラエルの王に言った。「私とあなたの間に何の関わりがあるでしょうか。あなたの父の預言者たちや、母の預言者たちのところに行かれたらよいでしょう。」すると、イスラエルの王は彼に言った。「いや、モアブの手に渡すために、この三人の王を呼び集めたのは、主だ。」
- 14 エリシャは言った。「私が仕えている万軍の主は生きておられます。もし私がユダの王ヨシャファテの顔を立てるのでなければ、私は決してあなたに目も留めず、あなたに会うこともしなかったでしょう。」
- 15 しかし今、豎琴を弾く者をここに連れて来てください。」豎琴を弾く者が豎琴を弾き鳴らすと、主の手がエリシャの上に下り、
- 16 彼は次のように言った。「主はこう言われます。『この涸れた谷にはたくさんの水がたまる。』」

- 17 主がこう言われるからです。『風を見ず、大雨を見なくても、この涸れた谷には水があふれる。あなたがたも、あなたがたの家畜も、動物もこれを飲む。』
- 18 これは主の目には小さなことです。主はモアブをあなたがたの手に渡されます。
- 19 あなたがたは、城壁のある町々、立派な町々をことごとく打ち破り、すべての良い木を切り倒し、すべての水の源をふさぎ、すべての良い畑を石をもって荒らすでしょう。」
- 20 朝になって、ささげ物を献げるころ、なんと、水がエドムの方から流れて来て、この地は水で満たされた。
- 21 モアブ人はみな、王たちが自分たちを攻めに上って来たことを聞いた。よろいを着けることができる者はすべて呼び集められ、国境の守備に就いた。
- 22 翌朝早く起きてみると、太陽が水の面を照らしていた。モアブ人は、向こう側の水が血のように赤いを見て、
- 23 こう言った。「これは血だ。きっと王たちが切り合って、同士討ちをしたに違いない。さあ今、モアブよ、分捕りに行こう。」
- 24 彼らがイスラエルの陣営に攻め入ると、イスラエルは立ってモアブ人を討った。モアブ人はイスラエルの前から逃げた。イスラエルは攻め入って、モアブ人を討った。
- 25 さらに、彼らは町々を破壊し、すべての良い畑にだれもが石を投げ捨てて石だらけにし、すべての水の源をふさぎ、すべての良い木を切り倒した。ただキル・ハレセテにある石だけが残ったが、その町も石を投げる者たちが取り囲み、これを打ち破った。
- 26 モアブの王は、戦いが自分に不利になっていくを見て、剣を使う者七百人を引き連れ、エドムの王のところに突き入ろうとしたが、果たせなかった。
- 27 そこで、彼は自分に代わって王となる長男を取り、その子を城壁の上で全焼のささげ物として献げた。このことのゆえに、イスラエル人に対する激しい怒りが起こった。そこでイスラエル人は、そこから引き揚げて、自分の国へ帰って行った。

第4章

- 1 預言者の仲間の妻の一人がエリシャに叫んで言った。「あなたのしもべである私の夫が死にました。ご存じのように、あなたのしもべは主を恐れていました。ところが、債権者が来て、私の二人の子どもを自分の奴隷にしようとしています。」
- 2 エリシャは彼女に言った。「何をしてあげようか。私に話さない。あなたには、家の中に何があるのか。」彼女は答えた。「はしためには、家の中に何もありません。ただ、油の壺一つしかありません。」
- 3 すると、彼は言った。「外に行って、近所の皆から、器を借りて来なさい。空の器を。それも、一つや二つではいけません。」
- 4 家に入ったら、あなたと子どもたちの背後の戸を閉めなさい。そしてすべての器に油を注ぎ入れなさい。いっぱいになったものは、わきに置きなさい。」
- 5 そこで、彼女は彼のもとから去って行き、彼女と子どもたちが入った背後の戸を閉めた。そして、子どもたちが次々と自分のところに持って来る器に油を注ぎ入れた。
- 6 器がどれもいっぱいになったので、彼女は子どもの一人に言った。「もっと器を持って来なさい。」その子どもが彼女に、「もう器はありません」と言うと、油は止まった。
- 7 彼女が神の人に知らせに行くと、彼は言った。「行ってその油を売り、あなたの負債を払いなさい。その残りで、あなたと子どもたちは暮らしていけます。」
- 8 ある日、エリシャがシュネムを通りかかると、そこに一人の裕福な女がいて、彼を食事に引き止めた。それ以来、エリシャはそこを通りかかるたびに、そこに寄って食事をするようになった。
- 9 女は夫に言った。「いつも私たちのところに立ち寄って行かれるあの方は、きっと神の聖なる方に違いありません。」
- 10 ですから、屋上に壁のある小さな部屋を作り、あの方のために寝台と机と椅子と燭台を置きましょう。あの方が私たちのところに來られるたびに、そこを使っていただけますから。」
- 11 ある日、エリシャはそこに来て、その屋上の部屋に入って横になった。
- 12 彼は若者ゲハジに言った。「ここのシュネムの女を呼びなさい。」ゲハジが呼ぶと、彼女はゲハジの前に立った。
- 13 エリシャはゲハジに言った。「彼女にこう伝えなさい。『本当に、あなたはこのように、私たちのことで一生懸命骨折ってくれたが、あなたのために何をしたらよいか。王か軍の長に、何か話してほしいことでもあるか』と。」彼女はそれにこう答えた。「私は私の民の間で、幸せに暮らしております。」
- 14 エリシャが「では、彼女のために何をしたらよいだろうか」と言うと、ゲハジは言った。「彼女には子がなく、それに、彼女の夫も年をとっています。」
- 15 エリシャが、「彼女を呼んで来なさい」と言ったので、ゲハジが彼女を呼ぶと、彼女は入り口のところに立った。

- 16 エリシャは言った。「来年の今ごろ、あなたは男の子を抱くようになる。」すると彼女は言った。「いいえ、ご主人様。神の人よ、このはしために偽りを言わないでください。」
- 17 しかし、この女は身ごもり、エリシャが彼女に告げたとおり、翌年のちょうどそのころに男の子を産んだ。
- 18 その子が大きくなって、ある日、刈り入れをする者たちと一緒にいる、父のところに出て行ったとき、
- 19 父親に、「頭が、頭が」と言った。父親は若者に、「この子を母親のところに抱いて行ってくれ」と命じた。
- 20 若者はその子を抱き、母親のところに連れて行った。この子は昼まで母親の膝の上に休んでいたが、ついに死んでしまった。
- 21 彼女は屋上に上がって、神の人の寝台にその子を寝かせ、戸を閉めて出て行った。
- 22 彼女は夫に呼びかけて言った。「どうか、若者一人と、雌ろば一頭を私のために出してください。私は急いで神の人のところに行って、すぐに戻って来ますから。」
- 23 すると彼は、「どうして、今日あの人のところに行くのか。新月祭でもなく、安息日でもないのに」と言ったが、彼女は「かまいません」と答えた。
- 24 彼女は雌ろばに鞍を置き、若者に命じた。「手綱を引いて進みなさい。私が命じなければ、手綱を緩めてはいけません。」
- 25 こうして彼女は出かけて、カルメル山の神の人のところへ行った。神の人は、遠くから彼女を見つけると、若者ゲハジに言った。「見なさい。あのシュネムの女があそこに来ている。」
- 26 さあ、走って行って彼女を迎え、言いなさい。『あなたは無事ですか。あなたのご主人は無事ですか。お子さんは無事ですか』と。」彼女はそれにこう答えた。「無事です。」
- 27 それから彼女は山の上にいる神の人のところに来て、彼の足にすがりついた。ゲハジが彼女を追ひ払おうと近寄ると、神の人は言った。「そのままにしておきなさい。彼女の心に悩みがあるのだから。主はそれを私に隠し、まだ私に知らせておられないのだ。」
- 28 彼女は言った。「私のご主人様に子どもを求めたでしょうか。この私にそんな気休めを言わないでくださいと申し上げたではありませんか。」
- 29 そこでエリシャはゲハジに言った。「腰に帯を締め、手に私の杖を持って行きなさい。たとえだれかに会っても、あいさつしてはならない。たとえだれかがあいさつしても、答えてはならない。そして、私の杖をあの子の頭の上に置きなさい。」
- 30 その子の母親は言った。「主は生きておられます。あなたのたましいも生きています。私は決してあなたを離しません。」エリシャは立ち上がり、彼女の後について行った。
- 31 ゲハジは二人より先に行って、その杖を子どもの頭の上に置いたが、何の声もなく、何の応答もなかった。そこで引き返してエリシャに会い、「子どもは目を覚ましませんでした」と報告した。
- 32 エリシャが家に着くと、その子は寝台の上に死んで横たわっていた。
- 33 エリシャは中に入り、戸を閉めて、二人だけになって主に祈った。
- 34 それから、寝台の上に上がり、その子の上に身を伏せ、自分の口をその子の口の上に、自分の目をその子の目の上に、自分の両手をその子の両手の上に重ねて、その子の上に身を

かがめた。すると、その子のからだが温かくなってきた。

- 35 それからエリシャは降りて、部屋の中をあちらこちらと歩き回り、また寝台の上に上がり、子どもの上に身がかがめると、子どもは七回くしゃみをして目を開けた。
- 36 彼はゲハジを呼んで、「あのシュネムの女を呼んで来なさい」と言った。ゲハジが彼女を呼んだので、彼女はエリシャのところに来た。そこでエリシャは、「あなたの子どもを抱き上げなさい」と言った。
- 37 彼女は入って来て彼の足もとにひれ伏し、地にひれ伏した。そして、子どもを抱き上げて出て行った。
- 38 エリシャがギルガルに帰って来たとき、この地に飢饉が起こった。預言者の仲間たちが彼の前に座っていたので、彼は若者に命じた。「大きな釜を火にかけ、預言者の仲間たちのために煮物を作りなさい。」
- 39 彼らの一人が食用の草を摘みに野に出て行くと、野生のつる草を見つけたので、そのつるから野生の瓜を前掛けにいっぱい取って帰って来た。そして、彼はそれを煮物の釜の中に刻んで入れた。彼らはそれが何であるかを知らなかった。
- 40 彼らは皆に食べさせようとして、これをよそった。皆はその煮物を口にするやいなや、こう叫んだ。「神の人よ、釜の中に毒が入っています。」彼らは食べることはできなかった。
- 41 エリシャは言った。「では、麦粉を持って来なさい。」彼はそれを釜に投げ入れて言った。「これをよそって、この人たちに食べさせなさい。」そのときにはもう、釜の中には悪い物はなくなっていた。
- 42 ある人がバアル・シャリシャから、初穂のパンである大麦のパン二十個と、新穀一袋を、神の人のところに持って来た。神の人は「この人たちに与えて食べさせなさい」と命じた。
- 43 彼の召使いは、「これだけで、どうして百人もの人に分けられるのでしょうか」と言った。しかし、エリシャは言った。「この人たちに与えて食べさせなさい。主はこう言われる。『彼らは食べて残すだろう。』」
- 44 そこで、召使いが彼らに配ると、彼らは食べて残した。主のことばのとおりであった。

第5章

- 1 アラムの王の軍の長ナアマンは、その主君に重んじられ、尊敬されていた。それは、主が以前に、彼を通してアラムに勝利を与えられたからであった。この人は勇士であったが、ツァラアトに冒されていた。
- 2 アラムはかつて略奪に出たとき、イスラエルの地から一人の若い娘を捕らえて来ていた。彼女はナアマンの妻に仕えていた。
- 3 彼女は女主人に言った。「もし、ご主人様がサマリアにいる預言者のところに行かれたら、きっと、その方がご主人様のツァラアトを治してくださるでしょう。」
- 4 そこで、ナアマンはその主君のところに行き、イスラエルの地から来た娘がこれこれのことを言いました、と告げた。
- 5 アラムの王は言った。「行って来なさい。私がイスラエルの王に宛てて手紙を送ろう。」そこで、ナアマンは、銀十タラントと金六千シェケルと晴れ着十着を持って出かけた。
- 6 彼はイスラエルの王宛ての次のような手紙を持って行った。「この手紙があなたに届きましたら、家臣のナアマンをあなたのところに送りましたので、彼のツァラアトを治してくださいますように。」
- 7 イスラエルの王はこの手紙を読むと、自分の衣を引き裂いて言った。「私は殺したり、生かしたりすることのできる神であろうか。この人はこの男を送って、ツァラアトを治せと言う。しかし、考えてみよ。彼は私に言いがかりをつけようとしているのだ。」
- 8 神の人エリシャは、イスラエルの王が衣を引き裂いたことを聞くと、王のもとに人を遣わして言った。「あなたはどのようにして衣を引き裂いたりなさるのですか。その男を私のところによこしてください。そうすれば、彼はイスラエルに預言者がいることを知るでしょう。」
- 9 こうして、ナアマンは馬と戦車でやって来て、エリシャの家の入り口に立った。
- 10 エリシャは、彼に使者を遣わして言った。「ヨルダン川へ行って七回あなたの身を洗いなさい。そうすれば、あなたのからだは元どおりになって、きよくなります。」
- 11 しかしナアマンは激怒して去り、そして言った。「何ということだ。私は、彼がきっと出て来て立ち、彼の神、主の名を呼んで、この患部の上で手を動かし、ツァラアトに冒されたこの者を治してくれると思っていた。
- 12 ダマスコの川、アマナやパルパルは、イスラエルのすべての川にまさっているではないか。これらの川で身を洗って、私がきよくなれないというのか。」こうして、彼は憤って帰途についた。
- 13 そのとき、彼のしもべたちが近づいて彼に言った。「わが父よ。難しいことを、あの預言者があなたに命じたのでしたら、あなたはきっとそれをなさったのではありませんか。あの人は『身を洗ってきよくなりなさい』と言っただけではありませんか。」
- 14 そこで、ナアマンは下って行き、神の人が言ったとおり、ヨルダン川に七回身を浸した。すると彼のからだは元どおりになって、幼子のからだのようになり、きよくなった。

- 15 ナアマンはその一行の者すべてを連れて神の人のところに引き返して来て、彼の前に立って言った。「私は今、イスラエルのほか、全世界のどこにも神はおられないことを知りました。どうか今、あなたのしもべからの贈り物を受け取ってください。」
- 16 神の人は言った。「私が仕えている主は生きておられます。私は決して受け取りません。」ナアマンは、受け取らせようとしてしきりに勧めたが、神の人は断った。
- 17 そこでナアマンは言った。「それなら、どうか二頭のらばに載せるだけの土をしもべに与えてください。しもべはこれからはもう、主以外のほかの神々に全焼のささげ物やいけにえを献げません。
- 18 どうか、主が次のことについてしもべをお赦しくくださいますように。私の主君がリンモンの神殿に入って、そこでひれ伏すために私の手を頼みにします。それで私もリンモンの神殿でひれ伏します。私がリンモンの神殿でひれ伏すとき、どうか、主がこのことについてしもべをお赦しくくださいますように。」
- 19 エリシャは彼に言った。「安心して行きなさい。」そこでナアマンは彼から離れ、かなりの道のりを進んで行った。
- 20 そのとき、神の人エリシャに仕える若者ゲハジはこう考えた。「何としたことか。私の主人は、あのアラム人ナアマンが持って来た物を受け取ろうとはしなかった。主は生きておられる。私は彼の後を追いかけて、絶対に何かをもらって来よう。」
- 21 ゲハジはナアマンの後を追いかけて行った。ナアマンは、うしろから駆けて来る者を見つけると、戦車から降りて彼を迎え、「何か変わったことでも」と尋ねた。
- 22 そこで、ゲハジは言った。「変わったことはありませんが、私の主人は私を送り出してこう言っています。『たった今、エフライムの山地から、預言者の仲間の二人の若者が私のところにやって来たので、どうか、銀一タラントと晴れ着二着を彼らに与えてやってください。』」
- 23 するとナアマンは、「ぜひ、二タラントを取ってください」と言ってしきりに勧め、二つの袋に入れた銀二タラントと、晴れ着二着を自分の二人の若者に渡した。そこで彼らはそれを背負ってゲハジの先に立って進んだ。
- 24 ゲハジは丘に着くと、それを二人の者から受け取って家の中にしまい込み、彼らを帰らせたので、彼らは去って行った。
- 25 彼が家に入って主人の前に立つと、エリシャは彼に言った。「ゲハジ。おまえはどこへ行って来たのか。」彼は答えた。「しもべはどこへも行っていないです。」
- 26 エリシャは彼に言った。「あの人がおまえを迎えに戦車から降りたとき、私の心はおまえと一緒に歩んでいたではないか。今は金を受け、衣服を受け、オリーブ油やぶどう畑、羊や牛、男女の奴隷を受ける時だろうか。
- 27 ナアマンのツアラアトは、いつまでもおまえとおまえの子孫にまといつく。」ゲハジはツアラアトに冒され、雪のようになって、エリシャの前から去って行った。

第6章

- 1 預言者の仲間たちがエリシャに、「ご覧のとおり、私たちがあなたと一緒に住んでいるこの場所は狭くなりましたので、
- 2 ヨルダン川に行きましょう。そこから各自一本ずつ梁にする木を切り出して、そこに私たちの住む場所を作りましょう」と言うと、エリシャは「行きなさい」と言った。
- 3 すると一人が、「どうか、ぜひ、しもべたちと一緒に来てください」と言ったので、エリシャは「では、私も行こう」と言って、
- 4 彼らと一緒に出かけた。彼らはヨルダン川に着くと、木を切り倒した。
- 5 一人が梁にする木を切り倒しているとき、斧の頭が水の中に落ちてしまった。彼は叫んだ。「ああ、主よ、あれは借り物です。」
- 6 神の人は言った。「どこに落ちたのか。」彼がその場所を示すと、エリシャは一本の枝を切ってそこに投げ込み、斧の頭を浮かばせた。
- 7 彼が「それを拾い上げなさい」と言ったので、その人は手を伸ばして、それを取り上げた。
- 8 さて、アラムの王がイスラエルと戦っていたとき、彼は家来たちと相談して言った。「これこれの場所に陣を敷こう。」
- 9 そのとき、神の人はイスラエルの王のもとに人を遣わして言った。「あの場所を通らないように注意なさい。あそこにはアラム人が下って来ますから。」
- 10 イスラエルの王は、神の人が告げたその場所に人を遣わした。神の人が警告すると、王はそこを警戒した。このようなことは一度や二度ではなかった。
- 11 このことで、アラムの王の心は激しく動揺した。彼は家来たちを呼んで言った。「われわれのうちのだれがイスラエルの王と通じているのか、おまえたちは私に告げないのか。」
- 12 すると家来の一人が言った。「いいえ、わが主、王よ。イスラエルにいる預言者エリシャが、あなたが寝室の中で語られることばまでもイスラエルの王に告げているのです。」
- 13 王は言った。「行って、彼がどこにいるかを突き止めよ。人を遣わして、彼を捕まえよう。」そのうちに、「今、彼はドタンにいる」という知らせが王にもたらされた。
- 14 そこで、王は馬と戦車と大軍をそこに送った。彼らは夜のうちに来て、その町を包囲した。
- 15 神の人の召使いが、朝早く起きて外に出ると、なんと、馬と戦車の軍隊がその町を包囲していた。若者がエリシャに、「ああ、ご主人様。どうしたらよいのでしょうか」と言った。
- 16 すると彼は、「恐れるな。私たちとともにいる者は、彼らとともにいる者よりも多いのだから」と言った。
- 17 そして、エリシャは祈って主に願った。「どうか、彼の目を開いて、見えるようにしてください。」主がその若者の目を開かれたので、彼が見ると、なんと、火の馬と戦車がエリシャを取り巻いて山に満ちていた。
- 18 アラム人がエリシャに向かって下って来たとき、彼は主に祈って言った。「どうか、この民を打って目をくらませてください。」そこで主はエリシャのことばのとおり、彼らを打

って目をくらまされた。

- 19 エリシャは彼らに言った。「こちらの道でもない。あちらの町でもない。私について来なさい。あなたがたの捜している人のところへ連れて行ってあげよう。」こうして、彼らをサマリアへ連れて行った。
- 20 彼らがサマリアに着くと、エリシャは言った。「主よ、この者たちの目を開いて、見えるようにしてください。」主が彼らの目を開き、彼らが見ると、なんと、自分たちはサマリアの真ん中に来ていた。
- 21 イスラエルの王は彼らを見て、エリシャに言った。「私が打ち殺しましょうか。私が打ち殺しましょうか。わが父よ。」
- 22 エリシャは言った。「打ち殺してはなりません。あなたは、捕虜にした者を自分の剣と弓で打ち殺しますか。彼らにパンと水を与え、食べたり飲んだりさせて、彼らの主君のもとに行かせなさい。」
- 23 そこで、王は彼らのために盛大なもてなしをして、彼らが食べたり飲んだりした後、彼らを帰した。こうして彼らは自分たちの主君のもとに戻って行った。それ以来、アラムの略奪隊は二度とイスラエルの地に侵入しなかった。
- 24 この後、アラムの王ベン・ハダドは全軍を召集し、サマリアに上って来て、これを包囲した。
- 25 サマリアには大飢饉が起こっていて、また彼らが包囲していたので、ろばの頭一つが銀八十シェケルで売られ、鳩の糞一カブの四分の一が銀五シェケルで売られるようになった。
- 26 イスラエルの王が城壁の上を通りかかると、一人の女が彼に叫んだ。「わが主、王よ。お救いください。」
- 27 王は言った。「主があなたを救わないのなら、どのようにして、私があなたを救うことができるだろうか。打ち場の物をもってか。それとも、踏み場の物をもってか。」
- 28 それから王は彼女に尋ねた。「いったい、どうしたというのか。」彼女は答えた。「この女が私に『あなたの子どもをよこしなさい。私たちは今日、それを食べて、明日は私の子どもを食べましょう』と言ったのです。」
- 29 それで私たちは、私の子どもを煮て食べました。その翌日、私は彼女に『さあ、あなたの子どもをよこしなさい。私たちはそれを食べましょう』と言ったのですが、彼女は自分の子どもを隠してしまったのです。」
- 30 王はこの女の言うことを聞くと、自分の衣を引き裂いた。彼は城壁の上を通っていたので、民が見ると、なんと、王は衣の下に粗布を着ていた。
- 31 彼は言った。「今日、シャファテの子エリシャの首が彼の上についていれば、神がこの私を幾重にも罰せられますように。」
- 32 エリシャは自分の家に座っていて、長老たちも彼と一緒に座っていた。王は一人の者を自分のもとから遣わした。しかし、その使者がエリシャのところに着く前に、エリシャは長老たちに言った。「あの人殺しが、私の首をはねに人を遣わしたのを知っていますか。気をつけなさい。使者が来たら戸を閉め、戸を押しても入れないようにしなさい。そのうしろに、彼の主君の足音がするではありませんか。」

33 彼がまだ彼らと話しているうちに、使者が彼のところに下って来て言った。「見よ、これは主からのわざわいだ。これ以上、私は何を主に期待しなければならないのか。」

第7章

- 1 エリシャは言った。「主のことばを聞きなさい。主はこう言われる。『明日の今ごろ、サマリアの門で、上等の小麦粉一セアが一シェケルで、大麦二セアが一シェケルで売られるようになる。』」
- 2 しかし、侍従で、王が頼みにしていた者が、神の人に答えて言った。「たとえ主が天に窓を作られたとしても、そんなことがあるだろうか。」そこで、エリシャは言った。「確かに、あなたは自分の目でそれを見るが、それを食べることはできない。」
- 3 さて、ツアラアトに冒された四人の人が、町の門の入り口にいた。彼らは互いに言った。「われわれはどうして死ぬまでここに座っていなければならないのか。」
- 4 たとえ町に入ろうと言ったところで、町は食糧難だから、われわれはそこで死ななければならない。ここに座っていても死ぬだけだ。さあ今、アラムの陣営に入り込もう。もし彼らがわれわれを生かしておいてくれるなら、われわれは生き延びられる。もし殺すなら、そのときは死ぬまでのことだ。」
- 5 こうして、彼らはアラムの陣営に行こうと、夕暮れになって立ち上がり、アラムの陣営の端まで来た。すると、なんと、そこにはだれもいなかった。
- 6 これは、主がアラムの陣営に、戦車の響き、馬のいななき、大軍勢の騒ぎを聞かせたので、彼らが口々に「見よ。イスラエルの王が、ヒッタイト人の王たち、エジプトの王たちを雇って、われわれを襲って来る」と言い、
- 7 夕暮れに立って逃げ、自分たちの天幕や馬やろば、陣営をそのまま置き去りにして、いのちからがら逃げ去ったからであった。
- 8 ツアラアトに冒されたこの人たちは、陣営の端に来て、一つの日幕に入って食べたり飲んだりし、そこから銀や金や衣服を持ち出して隠した。また戻って来てはほかの日幕に入り、そこからも持ち出して隠した。
- 9 彼らは互いに言った。「われわれのしていることは正しくない。今日は良い知らせの日なのに、われわれはためらっている。もし明け方まで待っていたら、罰を受けるだろう。さあ、行こう。行って王の家に知らせよう。」
- 10 彼らは町に入って門衛を呼び、彼らに告げた。「われわれがアラムの陣営に入ってみると、なんとそこにはだれの姿もなく、人の声もありませんでした。ただ、馬やろばがつながれたままで、天幕もそっくりそのままでした。」
- 11 そこで門衛たちは叫んで、門内の王の家に告げた。
- 12 王は夜中に起きて家来たちに言った。「アラム人がわれわれに対して謀ったことをおまえたちに教えよう。彼らはわれわれが飢えているのを知っているので、陣営から出て行って野に隠れ、『イスラエル人が町から出たら生け捕りにし、それから町に押し入ろう』と考えているのだ。」
- 13 すると、家来の一人が答えた。「それでは、だれかにこの町に残っている馬の中から五頭を取らせ、遣わして調べさせてみましょう。どうせ、この町に残っているイスラエルのすべての民衆も、すでに滅んだイスラエルのすべての民衆と同じ目にあうのですから。」

- 14** 彼らが二台分の戦車の馬を取ると、王は「行って確かめて来い」と命じて、アラムの軍勢を追わせた。
- 15** 彼らはアラム人を追って、ヨルダン川まで行った。ところが、なんと、道はいたるところ、アラム人が慌てて逃げるときに捨てていった衣服や武具でいっぱいであった。使者たちは帰って来て、このことを王に報告した。
- 16** そこで、民は出て行ってアラムの陣営をかすめ奪ったので、主のことばのとおり、上等の小麦粉一セアが一シェケルで、大麦二セアが一シェケルで売られた。
- 17** 王は例の侍従、頼みにしていた侍従を門の管理に当たらせたが、民が門で彼を踏みつけたので、彼は死んだ。王が神の人のところに下って行ったときに、神の人が告げたことばのとおりであった。
- 18** かつて神の人が王に、「明日の今ごろ、サマリアの門で、大麦二セアが一シェケルで、上等の小麦粉一セアが一シェケルで売られるようになる」と言ったときに、
- 19** 侍従は神の人に答えて、「たとえ主が天に窓を作られるにしても、そんなことがあるだろうか」と言った。そこで、エリシャは「確かに、あなたは自分の目でそれを見るが、それを食べることはできない」と言った。
- 20** そのとおりのことが彼に実現した。民が門で彼を踏みつけたので、彼は死んだ。

第8章

- 1 エリシャは、かつて子どもを生き返らせてやったあの女に言った。「あなたは家族の者たちと一緒にここを去り、とどまりたいところに、しばらく寄留していなさい。主が飢饉を起こされたので、この国は七年間、飢えに見舞われるから。」
- 2 この女は神の人のことばにしたがって出発し、家族を連れてペリシテ人の地に行き、七年間滞在した。
- 3 七年たった後、彼女はペリシテ人の地から戻って来て、自分の家と畑を得ようと王に訴え出た。
- 4 そのころ、王は神の人に仕える若者ゲハジに、「エリシャが行った大いなるわざを、残らず私に聞かせてくれ」と話していた。
- 5 彼が王に、死人を生き返らせたあの出来事を話していると、ちょうどそこに、子どもを生き返らせてもらった女が、自分の家と畑のことについて王に訴えに来た。ゲハジは言った。「王様、これがその女です。そしてこれが、エリシャが生き返らせた子どもです。」
- 6 王が彼女に尋ねると、彼女は王にそのことを話した。すると王は彼女のために、一人の宦官に「彼女のすべての物と、彼女がこの地を離れた日から今日までの畑の収穫のすべてを、返してやりなさい」と命じたのであった。
- 7 さて、エリシャがダマスコに行ったとき、アラムの王ベン・ハダドは病気であった。すると彼に「神の人がここまで来ている」という知らせがあった。
- 8 王はハザエルに言った。「贈り物を持って行って、神の人を迎え、私のこの病気が治るかどうか、あの人を通して主のみこころを求めてくれ。」
- 9 そこで、ハザエルはダマスコのあらゆる良い物をらくだ四十頭に載せて、贈り物として携え、神の人を迎えに行った。彼は神の人の前に来て立ち、こう言った。「あなたの子、アラムの王ベン・ハダドが、『この病気は治るであろうか』と言って、あなたのところへ私を遣わしました。」
- 10 エリシャは彼に言った。「行って、『あなたは必ず治る』と彼に告げなさい。しかし、主は私に、彼が必ず死ぬことも示された。」
- 11 神の人は、彼が恥じるほどじっと彼を見つめ、そして泣き出したので、
- 12 ハザエルは尋ねた。「ご主人様はなぜ泣くのですか。」エリシャは答えた。「私は、あなたがイスラエル人に害を加えようとしていることを知っているからだ。あなたはイスラエル人の要塞に火を放ち、その若い男たちを剣で切り殺し、幼子たちを八つ裂きにし、妊婦たちを切り裂くだろう。」
- 13 ハザエルは言った。「しもべは犬にすぎないのに、どうして、そんな大それたことができるでしょう。」しかし、エリシャは言った。「主は私に、あなたがアラムの王になると示されたのだ。」
- 14 彼はエリシャのもとを去り、自分の主君のところに帰った。王が彼に、「エリシャはあなたに何と言ったか」と尋ねると、彼は「あなたは必ず治ると言いました」と答えた。

- 15 しかし、翌日、ハザエルは厚い布を取って水に浸し、王の顔にかぶせたので、王は死んだ。こうして、ハザエルは彼に代わって王となった。
- 16 イスラエルの王アハブの子ヨラムの第五年、ヨシャファテがまだユダの王であったとき、ユダの王ヨシャファテの子ヨラムが王として治めるようになった。
- 17 彼は三十二歳で王となり、エルサレムで八年間、王であった。
- 18 彼はアハブの家の者がしたように、イスラエルの王たちの道に歩んだ。アハブの娘が彼の妻だったからである。彼は主の目に悪であることを行っった。
- 19 しかし、主はそのしもベダビデに免じて、ユダを滅ぼすことを望まれなかった。主はダビデとその子孫に常にともしびを与えると彼に約束されたからである。
- 20 ヨラムの時代に、エドムが背いてユダの支配から脱し、自分たちの上に王を立てた。
- 21 ヨラムは、すべての戦車を率いてツァイルへ渡って行き、夜襲を試みて、彼を包囲していたエドムと戦車隊長たちを討った。ところが、ヨラムの兵たちは自分たちの天幕に逃げ帰った。
- 22 エドムは背いてユダの支配から脱した。今日もそうである。リブナもそのときに背こうとした。
- 23 ヨラムについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 24 ヨラムは先祖とともに眠りにつき、先祖とともにダビデの町に葬られた。彼の子アハズヤが代わって王となった。
- 25 イスラエルの王アハブの子ヨラムの第十二年に、ユダの王ヨラムの子アハズヤが王となった。
- 26 アハズヤは二十二歳で王となり、エルサレムで一年間、王であった。彼の母の名はアタルヤといい、イスラエルの王オムリの孫娘であった。
- 27 彼はアハブの家の道に歩み、アハブの家に倣って主の目の前に悪であることを行っった。彼自身、アハブ家の婿だったからである。
- 28 彼はアハブの子ヨラムとともに、アラムの王ハザエルと戦うため、ラモテ・ギルアデに行った。アラム人はヨラムを討った。
- 29 ヨラム王は、アラムの王ハザエルと戦ったときにラマでアラム人に負わされた傷を癒やすため、イズレエルに帰った。ユダの王ヨラムの子アハズヤは、アハブの子ヨラムが弱っていたので、彼を見舞いにイズレエルに下って行っった。

第9章

- 1 預言者エリシャは預言者の仲間たちの一人を呼んで言った。「腰に帯を締め、手にこの油の壺を持って、ラモテ・ギルアデに行きなさい。
- 2 そこに行ったら、ニムシの子ヨシャファテの子エフーを見つけなさい。家に入って、その同僚たちの中から彼を立たせ、奥の間に連れて行き、
- 3 油の壺を取って、彼の頭の上に油を注いで言いなさい。『主はこう言われる。わたしはあなたに油を注いでイスラエルの王とする。』それから、戸を開け、ぐずぐずしていないで逃げなさい。」
- 4 その若者、預言者に仕える若者は、ラモテ・ギルアデに行った。
- 5 彼が来てみると、ちょうど、軍の高官たちが会議中であった。彼は言った。「隊長、申し上げることがございます。」エフーは言った。「このわれわれのうちのだれにか。」若者は「隊長、あなたにです」と答えた。
- 6 エフーは立って、家に入った。そこで若者は油をエフーの頭に注いで言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。『わたしはあなたに油を注いで、主の民イスラエルの王とする。』
- 7 あなたは、主君アハブの家の者を打ち殺さなければならない。こうしてわたしは、わたしのしもべである預言者たちの血、イゼベルによって流されたすべての主のしもべたちの血の復讐をする。
- 8 それでアハブの家はことごとく滅び失せる。わたしは、イスラエルの中の、アハブに属する小童から奴隷や自由の者に至るまでを絶ち滅ぼし、
- 9 アハブの家をネバテの子ヤロブアムのように、またアヒヤの子バアシャの家のようにする。
- 10 犬がイズレエルの地所でイゼベルを食らい、彼女を葬る者はだれもいない。』」こう言って、彼は戸を開けて逃げた。
- 11 エフーが彼の主君の家来たちのところに出て来ると、一人が彼に尋ねた。「何事もなかったのですか。あの気のふれた者は何のために来たのですか。」すると、エフーは彼らに答えた。「あなたたちは、あの男も、あの男の言ったこともよく知っているはずだ。」
- 12 彼らは言った。「嘘でしょう。われわれに教えてください。」そこで、彼は答えた。「あの男は私にこんなことを言った。『主はこう言われる。わたしはあなたに油を注いで、イスラエルの王とする』と。」
- 13 すると、彼らはみな大急ぎで自分の上着を脱ぎ、入り口の階段にいた彼の足もとに敷き、角笛を吹き鳴らして、「エフーは王である」と言った。
- 14 こうして、ニムシの子ヨシャファテの子エフーは、ヨラムに対して謀反を起こした。先にヨラムはイスラエル全軍を率いて、ラモテ・ギルアデでアラムの王ハザエルを防いだが、
- 15 ヨラム王は、アラムの王ハザエルと戦ったときにアラム人に負わされた傷を癒やすため、イズレエルに帰っていたのである。エフーは言った。「もし、これがあなたたちの本心であるなら、だれもこの町から逃れ出て、イズレエルに知らせに行ってはならない。」

- 16 それからエフーは車に乗ってイスレエルへ行った。ヨラムがそこで床についていて、ユダの王アハズヤもヨラムを見舞いに下っていたからである。
- 17 イスレエルのやぐらの上に、一人の見張りが立っていたが、エフーの軍勢がやって来るのを見て、「軍勢が見える」と言った。ヨラムは、「騎兵一人を選んで彼らを迎えに送り、元気かどうか尋ねさせなさい」と言った。
- 18 そこで、騎兵は彼を迎えに行き、こう言った。「王が、元気かどうか尋ねておられます。」エフーは言った。「元気かどうか、おまえの知ったことではない。私のうしろについて来い。」一方、見張りは報告して言った。「使者は彼らのところに着きましたが、帰って来ません。」
- 19 そこでヨラムは、もう一人の騎兵を送った。彼は彼らのところに行き、言った。「王が、元気かどうか尋ねておられます。」すると、エフーは言った。「元気かどうか、おまえの知ったことではない。私のうしろについて来い。」
- 20 見張りはまた報告した。「あれは彼らのところに着きましたが、帰って来ません。しかし、車の御し方は、ニムシの子エフーの御し方に似ています。狂ったように御しています。」
- 21 ヨラムは「馬をつけよ」と命じた。馬が戦車につけられると、イスラエルの王ヨラムとユダの王アハズヤは、それぞれ自分の戦車に乗って出て行った。彼らはエフーを迎えに出て行き、イスレエル人ナボテの所有地で彼に出会った。
- 22 ヨラムはエフーを見ると、「エフー、元気か」と尋ねた。エフーは答えた。「何が元気か。あなたの母イゼベルの姦淫と呪術が盛んに行われているのに。」
- 23 それでヨラムは手綱を返して逃げ、アハズヤに「裏切りだ、アハズヤ」と叫んだ。
- 24 エフーは力いっぱい弓を引き絞り、ヨラムの胸を射た。矢は彼の心臓を射抜いたので、彼は戦車の中に崩れ落ちた。
- 25 エフーは侍従のビデカルに命じた。「彼を運んで、イスレエル人ナボテの所有地であった畑に投げ捨てよ。思い起こすがよい。私とあなたが馬に乗って彼の父アハブの後に並んで従って行ったときに、主が彼についてこの宣告を下されたことを。」
- 26 『わたしは、昨日、ナボテの血とその子たちの血を確かに見届けた―主のことば―。わたしは、この地所であなたに報復する―主のことば。』それで今、彼を運んで、主が語られたとおり、あの地所に彼を投げ捨てよ。」
- 27 ユダの王アハズヤはこれを見ると、ベテ・ハ・ガンの道へ逃げた。エフーはその後を追いかけて、「あいつも討ち取れ」と叫んだので、彼らはイブレアムのそばのグルの坂道で、車の上の彼に傷を負わせた。それでも彼はメギドに逃げたが、そこで死んだ。
- 28 彼の家来たちは彼を車に乗せて、エルサレムに運び、ダビデの町の彼の墓に先祖とともに葬った。
- 29 アハズヤはアハブの子ヨラムの第十一年に、ユダの王となっていた。
- 30 エフーがイスレエルに来たとき、イゼベルはこれを聞いて、目の縁を塗り、髪を結び直して、窓から見下ろしていた。
- 31 エフーが門に入って来たので、彼女は「お元気ですか。主君殺しのジムリ」と言った。

- 32 彼は窓を見上げて、「だれか私にくみする者はいないか。だれかいないか」と言った。
二、三人の宦官が彼を見下ろしていたので、
- 33 彼が「その女を突き落とせ」と言うと、彼らは彼女を突き落とし、彼女の血が壁や馬には
ねかかった。エフーは彼女を踏みつけた。
- 34 彼は中に入って食べたり飲んだりし、それから言った。「あののろわれた女の世話をし
てやれ。彼女を葬ってやれ。あれは王の娘だから。」
- 35 彼らが彼女を葬りに行ってみると、彼女の頭蓋骨と両足と両手首しか残っていなかったの
で、
- 36 帰って来てエフーにこのことを知らせた。するとエフーは言った。「これは、主がそのし
もベティシュベ人エリヤによって語られたことばのとおりだ。『イズレエルの地所で犬が
イゼベルの肉を食らい、
- 37 イゼベルの死体は、イズレエルの地所で畑の上にまかれた肥やしのようになり、だれもこ
れがイゼベルだと言えなくなる。』」

第10章

- 1 アハブにはサマリアに七十人の子どもがあった。エフーは手紙を書いてサマリアに送り、イズレエルの長たちや長老たち、および、アハブの子の養育係たちにこう伝えた。
- 2 「この手紙が届いたら、あなたがたのところに、あなたがたの主君の子どもたちがいて、戦車や馬も、城壁のある町や武器も、あなたがたのところにあるのだから、すぐ、
- 3 あなたがたの主君の子どもの中から最も善良で真っ直ぐな人物を選んで、その父の王座に就かせ、あなたがたの主君の家のために戦え。」
- 4 彼らは非常に恐れて言った。「二人の王たちでさえ、彼に当たることができなかったのに、どうしてこのわれわれが当たることができるだろうか。」
- 5 そこで、宮廷長官、町のつかさ、長老たち、および養育係たちは、エフーに人を送って言った。「私どもはあなたのしもべです。あなたが私どもにお命じになることは何でもいたしますが、だれも王に立てるつもりはありません。あなたのお気に召すようにしてください。」
- 6 エフーは再び彼らに手紙を書いてこう言った。「もしあなたがたが私に味方し、私の声に聞くのなら、あなたがたの主君の子どもたちの首を取り、明日の今ごろ、イズレエルの私のもとに持って来るように。」そのころ、王の子どもたち七十人は、彼らを養育していた町のおもだった人たちのもとにいた。
- 7 その手紙が彼らに届くと、彼らは王の子どもたちを捕らえ、その七十人を切り殺し、その首をいくつかのかごに入れ、それをイズレエルのエフーのもとに送り届けた。
- 8 使者が来て、「彼らは王の子どもたちの首を持って参りました」とエフーに報告した。すると彼は、「それを二つに分けて積み重ね、朝まで門の入り口に置いておけ」と命じた。
- 9 朝になるとエフーは出て行き、立ってすべての民に言った。「あなたたちに罪はない。聞きなさい。私が主君に対して謀反を起こして、彼を殺したのだ。しかし、これらの者を皆殺しにしたのはだれか。
- 10 だから知れ。主がアハブの家について告げられた主のことばは一つも地に落ちないことを。主は、そのしもべエリヤによってお告げになったことをなされたのだ。」
- 11 エフーは、アハブの家に属する者でイズレエルに残っていたすべての者、身分の高い者、親しい者、その祭司たちをみな打ち殺し、一人も生き残る者がいないまでにした。
- 12 それから、エフーは立ってサマリアへ行った。その途中、羊飼いのベテ・エケデというところで、
- 13 エフーはユダの王アハズヤの身内の者たちに出会った。彼が「おまえたちはだれか」と聞くと、彼らは、「私たちはアハズヤの身内の者です。王の子どもたちと、王母の子どもたちの安否を尋ねに下って来ました」と答えた。
- 14 エフーが「彼らを生け捕りにせよ」と言ったので、人々は彼らを生け捕りにした。そして、ベテ・エケデの水溜め場で彼ら四十二人を殺し、一人も残さなかった。
- 15 彼がそこを去って行くと、彼を迎えに来たレカブの子ヨナダブに出会った。エフーは彼にあいさつして言った。「あなたの心は、私の心があなたの心に対してそうであるように、

真っ直ぐですか。」ヨナダブは、「そうです」と答えた。「そうなら、こちらに手を伸ばしなさい。」ヨナダブが手を差し出すと、エフーは彼を戦車の上に引き上げて、

16 「私と一緒に来て、主に対する私の熱心さを見なさい」と言った。エフーは彼を自分の戦車に乗せて、

17 サマリアに行った。エフーは、アハブに属する者でサマリアに残っていた者を皆殺しにし、その一族を根絶やしにした。主がエリヤにお告げになったことばのとおりであった。

18 エフーはすべての民を集めて、彼らに言った。「アハブは少ししかバアルに仕えなかったが、エフーは大いに仕えるつもりだ。

19 だから今、バアルの預言者や、その信者、およびその祭司たちをみな、私のところに呼び寄せよ。一人も欠けてはならない。私は大いなるいけにえをバアルに献げるつもりである。列席しない者は、だれも生かしてはおかない。」エフーは、バアルの信者たちを滅ぼすために、策略をめぐらしたのである。

20 エフーが、「バアルのためにきよめの集会を催せ」と命じると、彼らはこれを布告した。

21 エフーが全イスラエルに人を遣わしたので、バアルの信者たちがみなやって来た。残っていて、来なかった者は一人もいなかった。彼らがバアルの神殿に入ると、バアルの神殿は端から端までいっぱいになった。

22 エフーが衣装係に、「バアルの信者すべてに祭服を出してやれ」と命じたので、彼らのために祭服を取り出した。

23 エフーとレカブの子ヨナダブは、バアルの神殿に入り、バアルの信者たちに言った。「よく見回して、ここには主のしもべがあなたがたと一緒に一人もおらず、ただバアルの信者たちだけがいるようにせよ。」

24 こうして彼らは、いけにえと全焼のささげ物を献げる準備をした。エフーは八十人の者を神殿の外に配置して言った。「私がおまえたちの手に渡す者を一人でも逃す者があれば、そのいのちを、逃れた者のいのちに代える。」

25 全焼のささげ物を献げ終えたとき、エフーは近衛兵と侍従たちに言った。「入って行って、彼らを討ち取れ。一人も外に出すな。」そこで、近衛兵と侍従たちは剣の刃で彼らを討って投げ捨て、バアルの神殿の奥の間にまで踏み込んだ。

26 そして、バアルの神殿の石の柱を運び出して、これを焼き、

27 バアルの石の柱を打ち壊し、バアルの神殿も打ち壊し、これを便所とした。それは今日まで残っている。

28 このようにして、エフーはバアルをイスラエルから根絶やしにした。

29 ただしエフーは、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪、すなわち、ベテルとダンにあった金の子牛に仕えることから離れようとはしなかった。

30 主はエフーに言われた。「あなたはわたしの目にかなったことをよくやり遂げ、アハブの家に対して、わたしが心に定めたことをことごとく行っただけで、あなたの子孫は四代目まで、イスラエルの王座に就く。」

31 しかしエフーは、心を尽くしてイスラエルの神、主の律法に歩もうと心がけることをせず、イスラエルに罪を犯させたヤロブアムの罪から離れなかった。

- 32** そのころ、主はイスラエルを少しずつ削り始めておられた。ハザエルがイスラエルの全領土で彼らを打ち破ったのである。
- 33** すなわち、ヨルダン川の東側、ガド人、ルベン人、マナセ人のギルアデ全土、つまり、アルノン川のほとりにあるアロエルからギルアデ、バシャンの地方にまで及んだ。
- 34** エフーについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、彼のすべての功績、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 35** エフーは先祖とともに眠りにつき、人々は彼をサマリアに葬った。彼の子エホアハズが代わって王となった。
- 36** エフーがサマリアでイスラエルの王であった期間は二十八年であった。

第11章

- 1 アハズヤの母アタルヤは、自分の子が死んだと知ると、ただちに王の一族全員を滅ぼした。
- 2 しかし、ヨラム王の娘で、アハズヤの姉妹のエホシェバは、殺される王の子たちの中からアハズヤの子ヨアシュをこっそり連れ出し、寝具をしまう小部屋にその子とその乳母を入れた。人々が彼をアタルヤから隠したので、彼は殺されなかった。
- 3 彼は乳母とともに、主の宮に六年間、身を隠していた。その間、アタルヤが国を治めていた。
- 4 七年目に、エホヤダは人を遣わして、カリ人と近衛兵それぞれの百人隊の長たちを主の宮の自分のもとに来させ、彼らと契約を結んで主の宮で彼らに誓いを立てさせ、彼らに王の子を見せた。
- 5 彼は命じた。「あなたがたのなすべきことはこうだ。あなたがたのうちの三分の一は、安息日に務めに当たり、王宮の護衛の任務につく。
- 6 三分の一はスルの門に、もう三分の一は近衛兵舎の裏の門にいるように。あなたがたは交互に王宮の護衛の任務につく。
- 7 あなたがたのうち二組は、みな安息日に務めに当たらない者であるが、主の宮で王の護衛の任務につかなければならない。
- 8 それぞれ武器を手にして王の周りを囲め。その列を侵す者は殺されなければならない。あなたがたは、王が出るときにも入るときにも、王とともにいなさい。」
- 9 百人隊の長たちは、すべて祭司エホヤダが命じたとおりに行った。彼らは、それぞれ自分の部下たちを、安息日に務めに当たる者も、安息日に務めに当たらない者も、祭司エホヤダのところに連れて来た。
- 10 祭司は百人隊の長たちに、主の宮にあったダビデ王の槍と丸い小盾を与えた。
- 11 近衛兵たちはそれぞれ武器を手にして、神殿の右側から神殿の左側まで、祭壇と神殿に向かって王の周りに立った。
- 12 エホヤダは王の子を連れ出し、王冠をかぶらせ、さとのし書を渡した。こうして人々は彼を王と宣言し、彼に油を注ぎ、手をたたいて「王様万歳」と叫んだ。
- 13 アタルヤは近衛兵と民の声を聞いて、主の宮の民のところに行った。
- 14 彼女が見ると、なんと、王が定めのとおり柱のそばに立っていた。王の傍らに隊長たちやラッパ奏者たちがいて、民衆がみな喜んでラッパを吹き鳴らしていた。アタルヤは自分の衣を引き裂き、「謀反だ、謀反だ」と叫んだ。
- 15 祭司エホヤダは、部隊を委ねられた百人隊の長たちに命じた。「この女を列の間から連れ出せ。この女に従って来る者は剣で殺せ。」祭司が「この女は主の宮で殺されてはならない」と言ったからである。
- 16 彼らは彼女を取り押さえた。彼女が馬の出入り口を通過して王宮に着くと、彼女はそこで殺された。

- 17 エホヤダは、主と、王および民との間で、彼らが主の民となるという契約を結ばせ、王と民との間でも契約を結ばせた。
- 18 民衆はみなバアルの神殿に行って、それを打ち壊した。彼らはその祭壇と像を徹底的に打ち砕き、バアルの祭司マタンを祭壇の前で殺した。祭司エホヤダは主の宮に管理人を置いた。
- 19 彼は百人隊の長たち、カリ人、近衛兵たちと民衆すべてを率いた。彼らは王を主の宮から連れて下り、近衛兵の門を通して王宮に入った。王は王の座に着いた。
- 20 民衆はみな喜んだ。アタルヤは王宮で剣で殺され、この町は平穏となった。
- 21 ヨアシュは七歳で王となった。

第12章

- 1 ヨアシュはエフーの第七年に王となり、エルサレムで四十年間、王であった。彼の母の名はツィブヤといい、ベエル・シェバ出身であった。
- 2 ヨアシュは、祭司エホヤダが彼を教えた間、いつも主の目にかなうことを行った。
- 3 ただし、高き所は取り除かれなかった。民はなおも、その高き所でいけにえを献げたり、犠牲を供えたりしていた。
- 4 ヨアシュは祭司たちに言った。「主の宮に献げられる、聖別された金のすべて、すなわち、それぞれに割り当てを課せられた金や、自発的に主の宮に献げられる金のすべては、
- 5 祭司たちが、それぞれ自分の担当する者から受け取りなさい。神殿のどこかが破損していれば、その破損の修繕にそれを充てなければならない。」
- 6 しかし、ヨアシュ王の第二十二年になっても、祭司たちは神殿の破損を修理しなかった。
- 7 ヨアシュ王は、祭司エホヤダと祭司たちを呼んで、彼らに言った。「なぜ、神殿の破損を修理しないのか。もう、あなたがたは、自分の担当する者たちから金を受け取ってはならない。神殿の破損にそれを充てなければならないからだ。」
- 8 祭司たちは、民から金を受け取らないことと、神殿の破損の修理に責任を持たないことに同意した。
- 9 祭司エホヤダは、一つの箱を取り、そのふたに穴を開け、それを祭壇のわき、主の宮の入り口の右側に置いた。こうして、入り口を守る祭司たちは、主の宮に納められる金をみな、そこに入れた。
- 10 箱の中に金が多くなるのを確認すると、王の書記と大祭司は上って来て、それを袋に入れ、主の宮に納められている金を計算した。
- 11 こうして、勘定された金は、主の宮で工事をしている監督者たちの手に渡された。彼らは、それを主の宮を造る木工と建築する者たち、
- 12 石工、石切り工に支払い、また、主の宮の破損修理のための木材や切り石を買うために支払った。つまり、金は神殿修理のための出費のすべてに充てられた。
- 13 ただし、主の宮のための銀の皿、芯取りばさみ、鉢、ラッパなど、いかなる金の用具、銀の用具も、主の宮に納められる金で作られることはなかった。
- 14 その金は、工事する者たちに渡され、彼らはそれと引き替えに主の宮を修理したからである。
- 15 また、工事する者に支払うように金を渡した人々が精算を求められることはなかった。彼らが忠実に働いていたからである。
- 16 代償のささげ物の金と、罪のきよめのささげ物の金は、主の宮に納められず、祭司たちのものとなった。
- 17 そのとき、アラムの王ハザエルが上って来てガテを攻め、これを取った。さらに、ハザエルはエルサレムを目指して攻め上った。
- 18 ユダの王ヨアシュは、自分の先祖であるユダの王ヨシャファテ、ヨラム、アハズヤが聖別して献げたすべての物、および自分自身が聖別して献げた物、主の宮と王宮の宝物倉にあ

るすべての金を取って、アラムの王ハザエルに送った。するとハザエルはエルサレムから去って行った。

- 19 ヨアシュについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 20 ヨアシュの家来たちは立ち上がって謀反を起こし、シラに下って行くヨアシュをベテ・ミロで打ち殺した。
- 21 彼の家来シムアテの子ヨザバデとショメルの子エホザバデが彼を討ったので、彼は死んだ。人々は彼をダビデの町に先祖とともに葬った。彼の子アマツヤが代わって王となった。

第13章

- 1 ユダの王アハズヤの子ヨアシュの第二十三年に、エフーの子エホアハズがサマリアでイスラエルの王となり、十七年間、王であった。
- 2 彼は主の目に悪であることを行い、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪を犯し続け、それから離れなかった。
- 3 そのため、主の怒りがイスラエルに向かって燃え上がり、主は彼らをアラムの王ハザエル、および、ハザエルの子ベン・ハダドの手に絶えず渡しておられた。
- 4 しかし、エホアハズが主に願ったので、主はこれを聞き入れられた。アラムの王の虐げによって、イスラエルが虐げられているのをご覧になったからである。
- 5 主がイスラエルに一人の救う者を与えられたので、彼らはアラムの支配を脱した。こうしてイスラエル人は以前のように、自分たちの天幕に住むようになった。
- 6 それにもかかわらず、彼らは、イスラエルに罪を犯させたヤロブアム家の罪から離れず、なおそれを行い続け、アシェラ像もサマリアに立ったままであった。
- 7 また、アラムの王が彼らを滅ぼして、打穀のときのちりのようにしたので、エホアハズには騎兵五十、戦車十、歩兵一万の軍隊しか残されていなかった。
- 8 エホアハズについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、その功績、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 9 エホアハズは先祖とともに眠りにつき、人々は彼をサマリアに葬った。彼の子ヨアシュが代わって王となった。
- 10 ユダの王ヨアシュの第三十七年に、エホアハズの子ヨアシュがサマリアでイスラエルの王となり、十六年間、王であった。
- 11 彼は主の目に悪であることを行い、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムのすべての罪から離れず、なおそれを行いつづけた。
- 12 ヨアシュについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、ユダの王アマツヤと戦ったその功績、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 13 ヨアシュは先祖とともに眠りにつき、ヤロブアムがその王座に就いた。ヨアシュはイスラエルの王たちとともにサマリアに葬られた。
- 14 エリシャが死の病をわずらっていたときのことである。イスラエルの王ヨアシュは、彼のところに下って行き、彼の上に泣き伏して、「わが父、わが父。イスラエルの戦車と騎兵たち」と叫んだ。
- 15 エリシャが王に「弓と矢を持って来なさい」と言ったので、王は弓と矢をエリシャのところに持って来た。
- 16 エリシャはイスラエルの王に「弓に手をかけなさい」と言ったので、王は手をかけた。すると、エリシャは自分の手を王の手の上に置いて、
- 17 「東側の窓を開けなさい」と言った。王が開けると、エリシャはさらに言った。「矢を射なさい。」彼が矢を射ると、エリシャは言った。「主の勝利の矢、アラムに対する勝利の矢。あなたはアフェクでアラムを打ち、これを絶ち滅ぼす。」

- 18** それからエリシャは、「矢を取りなさい」と言ったので、イスラエルの王は取った。そしてエリシャは王に「それで地面を打ちなさい」と言った。すると彼は三回打ったが、それでやめた。
- 19** 神の人は彼に激怒して言った。「あなたは五回も六回も打つべきだった。そうすれば、あなたはアラムを討って、絶ち滅ぼすことになっただろう。しかし、今は三回だけアラムを討つことになる。」
- 20** こうして、エリシャは死んで葬られた。モアブの略奪隊は、年が改まるたびにこの国に侵入していた。
- 21** 人々が、一人の人を葬ろうとしていたちょうどそのとき、略奪隊を見たので、その人をエリシャの墓に投げ入れて去って行った。その人がエリシャの骨に触れるやいなや、その人は生き返り、自分の足で立ち上がった。
- 22** アラムの王ハザエルは、エホアハズの生きている間中、イスラエル人を虐げたが、
- 23** 主は、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約のゆえに、彼らを恵み、あわれみ、顧みて、彼らを滅ぼし尽くすことは望まず、今日まで、御顔を背けて彼らを捨てることはなさらなかった。
- 24** アラムの王ハザエルは死に、その子ベン・ハダドが代わって王となった。
- 25** エホアハズの子ヨアシュは、その父エホアハズの手からハザエルが攻め取った町々を、ハザエルの子ベン・ハダドの手から取り返した。ヨアシュは三度彼を打ち破って、イスラエルの町々を取り返した。

第14章

- 1 イスラエルの王エホアハズの子ヨアシュの第二年に、ユダの王ヨアシュの子アマツヤが王となった。
- 2 彼は二十五歳で王となり、エルサレムで二十九年間、王であった。彼の母の名はエホアダンといい、エルサレム出身であった。
- 3 彼は主の目にかなうことを行った。ただし、彼の父祖ダビデのようではなく、すべて父ヨアシュが行ったとおりに行った。
- 4 すなわち、高き所は取り除かれなかった。民はなおも、その高き所でいけにえを献げたり、犠牲を供えたりしていた。
- 5 王国が彼の手によって強くなると、彼は、自分の父である王を討った家来たちを打ち殺した。
- 6 しかし、その殺害者の子どもたちは殺さなかった。モーセの律法の書に記されているところに基づいてのことであった。主はそこでこう命じておられた。「父が子のゆえに殺されてはならない。子が父のゆえに殺されてはならない。人が殺されるのは、ただ自分の罪過のゆえでなければならない。」
- 7 アマツヤは塩の谷で一万人のエドム人を討って、セラを取り、その場所をヨクテエルと呼んだ。今日もそうである。
- 8 そのときアマツヤは、エフーの子エホアハズの子、イスラエルの王ヨアシュに使者を送って言った。「さあ、直接、対決しようではないか。」
- 9 イスラエルの王ヨアシュは、ユダの王アマツヤに人を遣わして言った。「レバノンのあざみが、レバノンの杉に人を遣わして、『あなたの娘を私の息子の妻にしてくれないか』と言ったが、レバノンの野の獣が通り過ぎて、そのあざみを踏みにじった。
- 10 あなたはエドムを打ち破って、心が高ぶっている。誇ってもよいが、自分の家にとどまっていなさい。なぜ、あえてわざわざ引き起こし、あなたもユダもともに倒れようとするのか。」
- 11 しかし、アマツヤが聞き入れなかったので、イスラエルの王ヨアシュは攻め上った。彼とユダの王アマツヤは、ユダのベテ・シェメシュで直接、対決した。
- 12 ユダはイスラエルに打ち負かされ、それぞれ自分の天幕に逃げ帰った。
- 13 イスラエルの王ヨアシュは、アハズヤの子ヨアシュの子、ユダの王アマツヤをベテ・シェメシュで捕らえ、エルサレムにやって来た。そして、エルサレムの城壁をエフライムの門から隅の門まで、四百キュビトにわたって打ち壊した。
- 14 彼は、主の宮と王宮の宝物倉にあったすべての金と銀、すべての器、および人質を取って、サマリアに帰った。
- 15 ヨアシュが行ったその他の事柄、その功績、ユダの王アマツヤと戦った戦績、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 16 ヨアシュは先祖とともに眠りにつき、イスラエルの王たちとともにサマリアに葬られた。彼の子ヤロブアムが代わって王となった。

- 17 ユダの王ヨアシュの子アマツヤは、イスラエルの王エホアハズの子ヨアシュの死後、なお十五年生きた。
- 18 アマツヤについてのその他の事柄、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 19 エルサレムで人々が彼に対して謀反を企てた。彼はラキシユに逃げたが、人々はラキシユに追っ手を送り、そこで彼を殺した。
- 20 彼らは彼を馬に乗せて運んだ。彼はエルサレムで先祖とともに、ダビデの町に葬られた。
- 21 ユダの民はみな、当時十六歳であったアザルヤを立てて、その父アマツヤの代わりに王とした。
- 22 彼は、アマツヤが先祖とともに眠った後、エイラトを築き直し、それをユダに復帰させた。
- 23 ユダの王ヨアシュの子アマツヤの第十五年に、イスラエルの王ヨアシュの子ヤロブアムが王となり、サマリアで四十一年間、王であった。
- 24 彼は主の目に悪であることを行い、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムのすべての罪から離れなかった。
- 25 彼は、レボ・ハマテからアラバの海までイスラエルの領土を回復した。それは、イスラエルの神、主が、そのしもべ、ガテ・ヘフェル出身の預言者、アミタイの子ヨナを通して語られたことばのとおりであった。
- 26 イスラエルの苦しみが非常に激しいのを、主がご覧になったからである。そこには、奴隷も自由な者もいなくなり、イスラエルを助ける者もいなかった。
- 27 主はイスラエルの名を天の下から消し去ろうとは言うておられなかった。それで、ヨアシュの子ヤロブアムによって彼らを救われたのである。
- 28 ヤロブアムについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、彼が戦いであげた功績、すなわち、かつてユダのものであったダマスコとハマテをイスラエルに取り戻したこと、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 29 ヤロブアムは、彼の先祖たち、イスラエルの王たちとともに眠り、その子ゼカリヤが代わって王となった。

第15章

- 1 イスラエルの王ヤロブアムの第二十七年に、ユダの王アマツヤの子アザルヤが王となった。
- 2 彼は十六歳で王となり、エルサレムで五十二年間、王であった。彼の母の名はエコルヤといい、エルサレム出身であった。
- 3 彼は、すべて父アマツヤが行ったとおりに、主の目にかなうことを行った。
- 4 ただし、高き所は取り除かれなかった。民はなおも、その高き所でいけにえを献げたり、犠牲を供えたりしていた。
- 5 主が王を打たれたので、彼は死ぬ日までツアラアトに冒された者となり、隔離された家に住んだ。王の子ヨタムが宮殿を管理し、民衆をさばいた。
- 6 アザルヤについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 7 アザルヤは彼の先祖とともに眠りについた。人々は彼をダビデの町に先祖とともに葬った。彼の子ヨタムが代わって王となった。
- 8 ユダの王アザルヤの第三十八年に、ヤロブアムの子ゼカリヤがサマリアでイスラエルの王となり、六か月の間、王であった。
- 9 彼は先祖たちがしたように、主の目に悪であることを行い、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪から離れなかった。
- 10 ヤベシュの子シャルムは、彼に対して謀反を企て、民の前で彼を打ち殺し、彼に代わって王となった。
- 11 ゼカリヤについてのその他の事柄は、『イスラエルの王の歴代誌』にまさしく記されている。
- 12 主がかつてエフーに告げられたことばは、「あなたの子孫は四代までイスラエルの王座に着く」ということであつたが、はたして、そのとおりになった。
- 13 ヤベシュの子シャルムは、ユダの王ウジヤの第三十九年に王となり、サマリアで一か月間、王であった。
- 14 ガディの子メナヘムは、ティルツァから上ってサマリアに至り、ヤベシュの子シャルムをサマリアで打ち、彼を殺して、彼に代わって王となった。
- 15 シャルムについてのその他の事柄、彼が企てた謀反は、『イスラエルの王の歴代誌』にまさしく記されている。
- 16 そのとき、メナヘムはティルツァから出て、ティフサフとその住民、その領地を討った。彼らが城門を開かなかったので、その中のすべての妊婦たちを打ち殺して切り裂いた。
- 17 ユダの王アザルヤの第三十九年に、ガディの子メナヘムがイスラエルの王となり、サマリアで十年間、王であった。
- 18 彼は主の目に悪であることを行い、一生の間、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪から離れなかった。

- 19 アッシリアの王プルがこの国に来たとき、メナヘムは銀千タラントをプルに与えた。プルの援助によって、王国を強くするためであった。
- 20 メナヘムは、イスラエルのすべての有力者にそれぞれ銀五十シェケルを供出させ、これをアッシリアの王に与えたので、アッシリアの王は引き返し、この国にとどまらなかった。
- 21 メナヘムについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 22 メナヘムは先祖とともに眠りにつき、その子ペカフヤが代わって王となった。
- 23 ユダの王アザルヤの第五十年に、メナヘムの子ペカフヤがサマリアでイスラエルの王となり、二年間、王であった。
- 24 彼は主の目に悪であることを行い、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪から離れなかった。
- 25 彼の侍従、レマルヤの子ペカは、彼に対して謀反を企て、サマリアの王宮の高殿で、ペカフヤとアルゴブとアルエを打ち殺した。ペカには五十人のギルアデ人が加わっていた。ペカはペカフヤを殺し、彼に代わって王となった。
- 26 ペカフヤについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのことは、『イスラエルの王の歴代誌』にまさしく記されている。
- 27 ユダの王アザルヤの第五十二年に、レマルヤの子ペカがサマリアでイスラエルの王となり、二十年間、王であった。
- 28 彼は主の目に悪であることを行い、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪から離れなかった。
- 29 イスラエルの王ペカの時代に、アッシリアの王ティグラト・ピレセルが来て、イヨン、アベル・ベテ・マアカ、ヤノアハ、ケデシュ、ハツォル、ギルアデ、ガリラヤ、ナフタリの全土を占領し、その住民をアッシリアへ捕らえ移した。
- 30 そのとき、エラの子ホセアはレマルヤの子ペカに対して謀反を企て、彼を打ち殺して、ウジヤの子ヨタムの第二十年に、彼に代わって王となった。
- 31 ペカについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのことは、『イスラエルの王の歴代誌』にまさしく記されている。
- 32 イスラエルの王レマルヤの子ペカの第二年に、ユダの王ウジヤの子ヨタムが王となった。
- 33 彼は二十五歳で王となり、エルサレムで十六年間、王であった。彼の母の名はエルシャといい、ツアドクの娘であった。
- 34 彼は、すべて父ウジヤが行ったとおりに、主の目にかなうことを行った。
- 35 ただし、高き所は取り除かれなかった。民はなおも、高き所でいけにえを献げたり、犠牲を供えたりしていた。彼は主の宮の上の門を建てた。
- 36 ヨタムが行ったその他の事柄、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 37 そのころ、主はアラムの王レツィンとレマルヤの子ペカを、ユダに対して送り始められた。
- 38 ヨタムは先祖とともに眠りにつき、先祖とともにその父ダビデの町に葬られた。彼の子アハズが代わって王となった。

第16章

- 1 レマルヤの子ペカの第十七年に、ユダの王ヨタムの子アハズが王となった。
- 2 アハズは二十歳で王となり、エルサレムで十六年間、王であった。彼はその父祖ダビデとは違って、彼の神、主の目にかなうことを行わず、
- 3 イスラエルの王たちの道に歩み、主がイスラエルの子らの前から追い払われた異邦の民の、忌み嫌うべき慣わしをまねて、自分の子どもに火の中を通らせることまでした。
- 4 彼は高き所、丘の上、青々と茂るあらゆる木の下でいけにえを献げ、犠牲を供えた。
- 5 そのころ、アラムの王レツィンと、イスラエルの王レマルヤの子ペカが、戦いのためにエルサレムに上って来て、アハズを包囲したが、攻め切れなかった。
- 6 このとき、アラムの王レツィンはエイラトをアラムに復帰させ、ユダの人々をエイラトから追い払った。ところが、エドム人がエイラトに来て、そこに住みついた。今日もそのままである。
- 7 アハズは使者たちをアッシリアの王ティグラト・ピレセルに遣わして言った。「私はあなたのしもべであり、あなたの子です。どうか上って来て、私を攻めているアラムの王とイスラエルの王の手から救ってください。」
- 8 アハズが主の宮と王宮の宝物倉にある銀と金を取り出して、それを贈り物としてアッシリアの王に送ったので、
- 9 アッシリアの王は彼の願いを聞き入れた。アッシリアの王はダマスコに攻め上り、これを取り、その住民をキルへ捕らえ移した。彼はレツィンを殺した。
- 10 アハズ王は、アッシリアの王ティグラト・ピレセルに会うためダマスコに行ったとき、ダマスコにある祭壇を見た。アハズ王は、祭壇の図面とその模型を、詳細な作り方と一緒に祭司ウリヤに送った。
- 11 祭司ウリヤは、アハズ王がダマスコから送ったものとそっくりの祭壇を築いた。祭司ウリヤは、アハズ王がダマスコから帰って来るまでに、そのようにした。
- 12 王はダマスコから帰って来た。その祭壇を見て、王は祭壇に近づき、その上に上った。
- 13 彼は全焼のささげ物と、穀物のささげ物を焼いて煙にし、注ぎのささげ物を注ぎ、自分のための交わりのいけにえの血をこの祭壇に振りかけた。
- 14 主の前にあった青銅の祭壇は、神殿の前から、すなわち、この祭壇と主の神殿の間から動かし、この祭壇の北側に置いた。
- 15 それから、アハズ王は祭司ウリヤに次のように命じた。「朝の全焼のささげ物と夕方の穀物のささげ物、また、王の全焼のささげ物と穀物のささげ物、この国の民全体の全焼のささげ物と穀物のささげ物、ならびにこれらに添える注ぎのささげ物を、この大いなる祭壇の上で焼いて煙にせよ。また全焼のささげ物の血といけにえの血は、すべてこの祭壇の上に振りかけなければならない。青銅の祭壇は、私が伺いを立てるためのものとする。」
- 16 祭司ウリヤは、すべてアハズ王が命じたとおりに行った。
- 17 アハズ王は、車輪付きの台の鏡板を切り離し、その台の上から洗盤を外し、またその下にある青銅の牛の上から「海」も降ろして、それを敷き石の上に置いた。

- 18 彼は、宮の中に造られていた安息日用の覆いのある通路も、外側の王の出入り口も、アッシリアの王のために主の宮から取り除いた。
- 19 アハズが行ったその他の事柄、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 20 アハズは先祖とともに眠りにつき、先祖とともにダビデの町に葬られた。彼の子ヒゼキヤが代わって王となった。

第17章

- 1 ユダの王アハズの第十二年に、エラの子ホセアがサマリアでイスラエルの王となり、九年間、王であった。
- 2 彼は主の目に悪であることを行っただが、彼以前のイスラエルの王たちのようではなかった。
- 3 アッシリアの王シャルマネセルが攻め上って来た。そのとき、ホセアは彼に服従して、貢ぎ物を納めた。
- 4 しかし、アッシリアの王はホセアの謀反に気がついた。ホセアがエジプトの王ソに使者たちを遣わし、アッシリアの王には年々の貢ぎ物を納めなかったからである。そこで、アッシリアの王は彼を捕らえて牢獄につないだ。
- 5 アッシリアの王はこの国全土に攻め上り、サマリアに攻め上って、三年間これを包囲した。
- 6 ホセアの第九年に、アッシリアの王はサマリアを取り、イスラエル人をアッシリアに捕らえ移し、彼らをハラフと、ゴザンの川ハボルのほとり、またメディアの町々に住ませた。
- 7 こうなったのは、イスラエルの子らが、自分たちをエジプトの地から連れ上り、エジプトの王ファラオの支配下から解放した自分たちの神、主に対して罪を犯し、ほかの神々を恐れ、
- 8 主がイスラエルの子らの前から追い払われた異邦の民の風習、イスラエルの王たちが取り入れた風習にしたがって歩んだからである。
- 9 イスラエルの子らは、自分たちの神、主に対して、正しくないことをひそかに言い、見張りのやぐらから城壁のある町に至るまで、すべての町に高き所を築き、
- 10 すべての小高い丘の上や、青々と茂るどの木の下にも石の柱やアシェラ像を立て、
- 11 主が彼らの前から移された異邦の民のように、すべての高き所で犠牲を供え、悪事を行って主の怒りを引き起こした。
- 12 主が彼らに「このようなことをしてはならない」と命じておられたのに、彼らは偶像に仕えたのである。
- 13 主はすべての預言者とすべての先見者を通して、イスラエルとユダに次のように警告された。「あなたがたは悪の道から立ち返れ。わたしがあなたがたの先祖たちに命じ、また、わたしのしもべである預言者たちを通してあなたがたに伝えた律法全体にしたがって、わたしの命令と掟を守れ。」
- 14 しかし、彼らはこれを聞き入れず、彼らの神、主を信じなかった彼らの先祖たちのように、うなじを固くした。
- 15 彼らは主の掟と、彼らの先祖たちと結ばれた主の契約と、彼らに与えられた主の警告を蔑み、空しいものに従って歩んだので、自分たちも空しいものとなり、主が倣ってはならないと命じられた、周囲の異邦の民に倣って歩んだ。

- 16 彼らの神、主のすべての命令を捨て、自分たちのために、鑄物の像、二頭の子牛の像を造り、さらにアシェラ像を造り、天の万象を拝み、バアルに仕えた。
- 17 また、自分たちの息子や娘たちに火の中を通らせ、占いをし、まじないをし、主の目に悪であることを行うことに身を任せ、主の怒りを引き起こした。
- 18 そのため主はイスラエルに対して激しく怒り、彼らを御前から除かれた。ただユダの部族だけが残った。
- 19 ユダも、彼らの神、主の命令を守らず、イスラエルが取り入れた風習にしたがって歩んだ。
- 20 そのため主はイスラエルのすべての子孫を蔑み、彼らを苦しめ、略奪者たちの手に渡し、ついに彼らを御前から投げ捨てられた。
- 21 主がイスラエルをダビデの家から引き裂かれたとき、彼らはネバテの子ヤロブアムを王としたが、ヤロブアムはイスラエルを主に従わないように仕向け、そうして彼らに大きな罪を犯させた。
- 22 イスラエルの人々は、ヤロブアムが行ったすべての罪に歩み、それから離れなかったの
- 23 主は、そのしもべであるすべての預言者を通して告げられたとおり、ついにイスラエルを御前から除かれた。こうして、イスラエルは自分の土地からアッシリアに引いて行かれた。今日もそのままである。
- 24 アッシリアの王は、バビロン、クテ、アワ、ハマテ、そしてセファルワイムから人々を連れて来て、イスラエル人の代わりにサマリアの町々に住ませた。こうして、彼らはサマリアを占領して、その町々に住んだ。
- 25 彼らはそこに住み始めたとき、主を恐れなかったの
- 26 彼らはアッシリアの王に次のように報告した。「あなたがサマリアの町々に移した諸国の民は、この土地の神についての慣わしを知りません。それで、神が彼らのうちに獅子を送り込みました。今、獅子が彼らを殺しています。彼らがこの土地の神についての慣わしを知らないからです。」
- 27 そこで、アッシリアの王は次のように命じた。「おまえたちがそこから捕らえ移した祭司の一人を、そこに連れて行け。行かせて、そこに住ませ、その土地の神についての慣わしを教えさせよ。」
- 28 こうして、サマリアから捕らえ移された祭司の一人が来てベテルに住み、どのようにして主を礼拝すべきかを教えた。
- 29 しかし、それぞれの民は、それぞれ自分たちの神々を造り、サマリア人が造った高き所の宮にそれを安置した。それぞれの民は自分が住む町々でそのようにした。
- 30 バビロンの人々はスコテ・ベノテを造り、クテの人々はネルガルを造り、ハマテの人々はアシマを造り、
- 31 アワ人はニブハズとタルタクを造り、セファルワイム人はセファルワイムの神々、アデラメレクとアナメレクに自分たちの子どもを火で焼いて献げた。

- 32** 彼らは主を礼拝したが、自分たちの中から高き所の祭司たちを自分たちで任命し、この祭司たちが彼らのために高き所の宮で祭儀を行った。
- 33** 彼らは主を礼拝しながら、同時に、自分たちが移される前にいた国々の慣わしによって、自分たちの神々にも仕えていた。
- 34** 彼らは今日まで、以前の慣わしのとおりに行っている。彼らは主を恐れることはなく、主がイスラエルと名をつけたヤコブの子たちに命じられた、掟や定めや律法や命令のとおりに行うこともない。
- 35** 主はイスラエル人と契約を結び、次のように命じられた。「ほかの神々を恐れてはならない。これを拝み、これに仕えてはならない。これにいけにえを献げてはならない。
- 36** 大きな力と、伸ばされた腕をもって、あなたがたをエジプトの地から連れ上った主だけを恐れ、主を礼拝し、主にいけにえを献げなければならない。
- 37** 主があなたがたのために書き記した掟と定めと律法と命令をいつも守り行わなければならない。ほかの神々を恐れてはならない。
- 38** わたしがあなたがたと結んだ契約を忘れてはならない。ほかの神々を恐れてはならない。
- 39** あなたがたの神、主だけを恐れなければならない。主はすべての敵の手からあなたがたを救い出される。」
- 40** しかし、彼らは聞かず、以前の彼らの慣わしのとおりに行った。
- 41** このようにして、これらの民は主を礼拝すると同時に、彼らの刻んだ像にも仕えた。その子たちも、孫たちも、その先祖たちがしたとおりに行った。今日もそうである。

第18章

- 1 イスラエルの王エラの子ホセアの第三年に、ユダの王アハズの子ヒゼキヤが王となった。
- 2 彼は二十五歳で王となり、エルサレムで二十九年間、王であった。彼の母の名はアビといい、ゼカリヤの娘であった。
- 3 彼は、すべて父祖ダビデが行ったとおりに、主の目にかなうことを行った。
- 4 高き所を取り除き、石の柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒し、モーセが作った青銅の蛇を砕いた。そのころまで、イスラエル人がこれに犠牲を供えていたからである。これはネフシュタンと呼ばれていた。
- 5 彼はイスラエルの神、主に信頼していた。彼の後にも前にも、ユダの王たちの中で、彼ほどの者はだれもいなかった。
- 6 彼は主に堅くつき従って離れることなく、主がモーセに命じられた命令を守った。
- 7 主は彼とともにおられた。彼はどこへ出て行っても成功を収めた。彼はアッシリアの王に反逆し、彼に仕えなかった。
- 8 彼はペリシテ人を討ってガザにまで至り、見張りのやぐらから城壁のある町に至るその領土を打ち破った。
- 9 ヒゼキヤ王の第四年、イスラエルの王エラの子ホセアの第七年に、アッシリアの王シャルマネセルがサマリアに攻め上って来て、これを包囲し、
- 10 三年後にこれを攻め取った。すなわち、ヒゼキヤの第六年、イスラエルの王ホセアの第九年に、サマリアは攻め取られた。
- 11 アッシリアの王はイスラエル人をアッシリアに捕らえ移し、彼らをハラフと、ゴザンの川ハボルのほとり、またメディアの町々に定住させた。
- 12 これは、彼らが彼らの神、主の御声に聞き従わず、その契約を破り、主のしもべモーセが命じたすべてのことに聞き従わず、これを行わなかったからである。
- 13 ヒゼキヤ王の第十四年に、アッシリアの王センナケリブが、ユダのすべての城壁のある町々に攻め上り、これを取った。
- 14 ユダの王ヒゼキヤは、ラキシユのアッシリアの王のところに人を遣わして言った。「私は過ちを犯しました。私のところから引き揚げてください。あなたが私に課せられるものは何でも負いますから。」そこで、アッシリアの王はユダの王ヒゼキヤに、銀三百タラントと金三十タラントを要求した。
- 15 ヒゼキヤは、主の宮と王宮の宝物倉にある銀をすべて渡した。
- 16 そのとき、ユダの王ヒゼキヤは、自分が主の神殿の扉と柱に張り付けた金を剥ぎ取り、これをアッシリアの王に渡した。
- 17 アッシリアの王は、タルタン、ラブ・サリス、およびラブ・シャケを、大軍とともにラキシユからエルサレムのヒゼキヤ王のところへ送った。彼らはエルサレムに上って来た。彼らは上って来ると、布さらしの野への大路にある、上の池の水道のそばに立った。
- 18 彼らが王に呼びかけたので、ヒルキヤの子である宮廷長官エルヤキム、書記シェブナ、およびアサフの子である史官ヨアフは、彼らのところに出て行った。

- 19 ラブ・シャケは彼らに言った。「ヒゼキヤに伝えよ。大王、アッシリアの王がこうっておられる。『いったい、おまえは何に拠り頼んでいるのか。』」
- 20 口先だけのことはが、戦略であり戦力だということか。今おまえは、だれに拠り頼んでいるのか。私に反逆しているが。
- 21 今おまえは、あの傷んだ葦の杖、エジプトに拠り頼んでいるが、それは、それに寄りかかる者の手を刺し貫くだけだ。エジプトの王ファラオは、すべて彼に拠り頼む者にそうするのだ。
- 22 おまえたちは私に「われわれは、われわれの神、主に拠り頼む」と言う。その主とは、ヒゼキヤがその高き所と祭壇を取り除いて、ユダとエルサレムに「エルサレムにあるこの祭壇の前で拝め」と言った、そういう主ではないか。
- 23 さあ今、私の主君、アッシリアの王と賭けをしないか。もし、おまえのほうで乗り手をそろえることができるのなら、おまえに二千頭の馬を与えよう。
- 24 おまえは戦車と騎兵のことでエジプトに拠り頼んでいるが、私の主君の最も小さい家来である総督一人さえ追い返せないのだ。
- 25 今、私がこの場所を滅ぼすために上って来たのは、主を差し置いてのことであろうか。主が私に「この国に攻め上って、これを滅ぼせ」と言われたのだ。』」
- 26 ヒルキヤの子エルヤキムとシェブナとヨアフは、ラブ・シャケに言った。「どうか、しもべたちにはアラム語で話してください。われわれはアラム語が分かりますから。城壁の上にいる民が聞いているところでは、われわれにユダのことばで話さないでください。」
- 27 ラブ・シャケは彼らに言った。「私の主君がこれらのことを告げに私を遣わされたのは、おまえの主君や、おまえのためだろうか。むしろ、城壁の上に座っている者たちのためではないか。彼らはおまえたちと一緒に、自分の糞を食らい、自分の尿を飲むようになるのだ。」
- 28 ラブ・シャケは突っ立って、ユダのことばで大声で叫んで、こう告げた。「大王、アッシリアの王のことばを聞け。
- 29 王はこうっておられる。『ヒゼキヤにごまかされるな。あれは、おまえたちを私の手から救い出すことができないからだ。
- 30 ヒゼキヤは、「主が必ずわれわれを救い出してくださる。この都は決してアッシリアの王の手に渡されることはない」と言って、おまえたちに主に信頼させようとするが、そうはさせない。』
- 31 ヒゼキヤの言うことを聞くな。アッシリアの王はこうっておられるからだ。『私と和を結び、私に降伏せよ。そうすれば、おまえたちはみな、自分のぶどうと自分のいちじくを食べ、自分の井戸の水を飲めるようになる。
- 32 その後私は来て、おまえたちの国と同じような国におまえたちを連れて行く。そこは穀物と新しいぶどう酒の地、パンとぶどう畑の地、オリーブの木と蜜の地である。おまえたちが生き延びて死ぬことのないようにするためである。たとえヒゼキヤが、「主はわれわれを救い出してくださる」と言って、おまえたちをそそのかしても、ヒゼキヤに聞き従ってはならない。
- 33 国々の神々は、それぞれ自分の国をアッシリアの王の手から救い出しただろうか。

- 34** ハマテやアルパデの神々は今、どこにいるのか。セファルワイムやヘナやイワの神々はどこにいるのか。彼らはサマリアを私の手から救い出したか。
- 35** 国々のすべての神々のうち、だれが自分たちの国を私の手から救い出したか。主がエルサレムを私の手から救い出せるとでもいうのか。』』
- 36** 民は黙って、彼に一言も答えなかった。「彼に答えるな」というのが、王の命令だったからである。
- 37** ヒルキヤの子である宮廷長官エルヤキム、書記シェブナ、アサフの子である史官ヨアフは、自分たちの衣を引き裂いてヒゼキヤのもとに行き、ラブ・シャケのことばを告げた。

第19章

- 1 ヒゼキヤ王はこれを聞くと衣を引き裂き、粗布を身にまとして主の宮に入った。
- 2 彼は、宮廷長官エルヤキム、書記シェブナ、年長の祭司たちに粗布を身にまとわせて、アモツの子、預言者イザヤのところに遣わした。
- 3 彼らはイザヤに言った。「ヒゼキヤはこうっております。『今日は、苦難と懲らしめと屈辱の日です。子どもが生まれようとしているのに、それを産み出す力がないからです。』」
- 4 おそらく、あなたの神、主は、ラブ・シャケのすべてのことばを聞かれたことでしょう。彼の主君、アッシリアの王が、生ける神をそしるために彼を遣わしたのです。あなたの神、主は、お聞きになったそのことばをとがめられます。あなたは、まだいる残りの者のために祈りの声をあげてください。』」
- 5 ヒゼキヤ王の家来たちがイザヤのもとに来たとき、
- 6 イザヤは彼らに言った。「あなたがたの主君にこう言いなさい。『主はこう言われる。あなたが聞いたあのことば、アッシリアの王の若い者たちがわたしをののしった、あのことばを恐れるな。』」
- 7 今、わたしは彼のうちに霊を置く。彼は、あるうわさを聞いて、自分の国に引き揚げる。わたしはその国で彼を剣で倒す。』」
- 8 ラブ・シャケは退いて、リブナを攻めていたアッシリアの王と落ち合った。王がラキシユから移動したことを聞いていたからである。
- 9 王は、クシュの王ティルハカについて、「今、彼はあなたと戦うために出て来ている」との知らせを聞くと、再び使者たちをヒゼキヤに遣わして言った。
- 10 「ユダの王ヒゼキヤにこう伝えよ。『おまえが信頼するおまえの神にだまされてはいけない。エルサレムはアッシリアの王の手に渡されないと知っているが。』」
- 11 おまえは、アッシリアの王たちがすべての国々にしたこと、それらを絶滅させたことを確かに聞いている。それでも、おまえだけは救い出されるというのか。
- 12 私の先祖は、ゴザン、ハラン、レツェフ、またテラサルにいたエデンの人々を滅ぼしたが、その国々の神々は彼らを救い出したか。
- 13 ハマテの王、アルパデの王、セファルワイムの町の王、ヘナやイワの王はどこにいるか。』」
- 14 ヒゼキヤは、使者の手からその手紙を受け取って読み、主の宮に上って行き、それを主の前に広げた。
- 15 ヒゼキヤは主の前で祈った。「ケルビムの上に座しておられるイスラエルの神、主よ。ただ、あなただけが、地のすべての王国の神です。あなたが天と地を造られました。
- 16 主よ。御耳を傾けて聞いてください。主よ。御目を開いてご覧ください。生ける神をそしるために言ってよこしたセンナケリブのことばを聞いてください。
- 17 主よ。アッシリアの王たちが、国々とその国土を廃墟としたのは事実です。
- 18 彼らはその神々を火に投げ込みました。彼らが神ではなく、人の手のわざ、木や石にすぎなかったのです。彼らはこれを滅ぼすことができたのです。

- 19 私たちの神、主よ。どうか今、私たちを彼の手から救ってください。そうすれば、地のすべての王国は、主よ、あなただけが神であることを知るでしょう。」
- 20 アモツの子イザヤはヒゼキヤのところに人を送って言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。『あなたがアッシリアの王センナケリブについて、わたしに祈ったことを、わたしは聞いた。』
- 21 主が彼について語られたことばは、このとおりである。『処女である娘シオンは おまえを蔑み、おまえを嘲る。娘エルサレムは おまえのうしろで頭を振る。
- 22 おまえはだれをそしり、だれをののしったのか。だれに向かって声をあげ、高慢な目を上げたのか。イスラエルの聖なる者に対してだ。
- 23 おまえは使者たちを通して、主をそしって言った。「多くの戦車を率いて、私は山々の頂に、レバノンの奥深くへ上って行った。そのそびえる杉の木と 美しいもみの木を切り倒し、その果ての高地、木の茂った園にまで入って行った。
- 24 私は井戸を掘って、他国の水を飲み、足の裏で エジプトのすべての川を干上がらせた」と。
- 25 おまえは聞かなかったのか。遠い昔に、わたしがそれをなし、大昔に、わたしがそれを計画し、今、それを果たしたことを。それで、おまえは城壁のある町々を荒らして 廃墟の石くれの山としたのだ。
- 26 その住民は力失せ、打ちのめされて恥を見て、野の草や青菜、育つ前に干からびる屋根の草のようになった。
- 27 おまえが座るのも、出て行くのも、おまえが入るのも、わたしはよく知っている。わたしに向かっていきり立つのも。
- 28 おまえがわたしに向かっていきり立ち、おまえの安逸がわたしの耳に届いたので、わたしはおまえの鼻に鉤輪を、口にくつわをはめ、おまえを、もと来た道に引き戻す。』
- 29 あなたへのしるしは、このとおりである。『今年は、落ち穂から生えたものを食べ、二年目は、それから生えたものを食べ、三年目は、種を蒔いて刈り入れ、ぶどう畑を作ってその実を食べる。
- 30 ユダの家の中の逃れの者、残された者は 下に根を張り、上に実を結ぶ。
- 31 エルサレムから残りの者が、シオンの山から、逃れの者が出て来るからである。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。』
- 32 それゆえ、アッシリアの王について、主はこう言われる。『彼はこの都に侵入しない。また、ここに矢を放たず、これに盾をもって迫らず、壘を築いてこれを攻めることもない。
- 33 彼は、もと来た道を引き返し、この都には入らない―主のことば―。
- 34 わたしはこの都を守って、これを救う。わたしのために、わたしのしもべダビデのために。』」
- 35 その夜、主の使いが出て行き、アッシリアの陣営で十八万五千人を打ち殺した。人々が翌朝早く起きて見ると、なんと、彼らはみな死体となっていた。
- 36 アッシリアの王センナケリブは陣をたたんで去り、帰ってニネベに住んだ。

- 37** 彼が自分の神ニスロクの神殿で拝んでいたとき、その息子たち、アデラメレクとサルエツエルは、剣で彼を打ち殺した。彼らはアララテの地へ逃れ、彼の子エサル・ハドンが代わって王となった。

第20章

- 1 そのころ、ヒゼキヤは病気になって死にかかっていた。そこへ、アモツの子、預言者イザヤが来て、彼に言った。「主はこう言われる。『あなたの家を整理せよ。あなたは死ぬ。治らない。』」
- 2 ヒゼキヤは顔を壁に向け、主に祈った。
- 3 「ああ、主よ、どうか思い出してください。私が真実と全き心をもって、あなたの御前に歩み、あなたの御目にかなうことを行ってきたことを。」ヒゼキヤは大声で泣いた。
- 4 イザヤがまだ中庭を出ないうちに、次のような主のことばが彼にあった。
- 5 「引き返して、わたしの民の君主ヒゼキヤに告げよ。あなたの父ダビデの神、主はこう言われます。『わたしはあなたの祈りを聞いた。あなたの涙も見た。見よ、わたしはあなたを癒やす。あなたは三日目に主の宮に上る。』」
- 6 わたしは、あなたの寿命にもう十五年を加える。わたしはアッシリアの王の手からあなたとこの都を救い出し、わたしのために、わたしのしもべダビデのためにこの都を守る。』」
- 7 イザヤが「ひとかたまりの干しいちじくを持って来なさい」と命じたので、人々はそれを持って来て腫物に当てた。すると彼は治った。
- 8 ヒゼキヤはイザヤに言った。「主が私を癒やしてくださり、私が三日目に主の宮に上れるしるしは何ですか。」
- 9 イザヤは言った。「次のことが、あなたへの主からのしるしです。主は約束したことを成就されます。影が十度進むか、十度戻るかです。」
- 10 ヒゼキヤは答えた。「影が十度伸びるのは容易なことです。むしろ、影が十度後に戻るようにしてください。」
- 11 預言者イザヤが主に祈ると、主は、アハズの日時計に落ちた日時計の影を十度後に戻された。
- 12 そのころ、バルアダンの子、バビロンの王メロダク・バルアダンは使者を遣わして、手紙と贈り物をヒゼキヤに届けた。ヒゼキヤが病気だったことを聞いていたからである。
- 13 ヒゼキヤは彼らを歓迎して、すべての宝庫、銀、金、香料、高価な油、武器庫、彼の宝物倉にあるすべての物を彼らに見せた。ヒゼキヤがその家の中、および国中で、彼らに見せなかった物は一つもなかった。
- 14 預言者イザヤはヒゼキヤ王のところに来て、彼に尋ねた。「あの人たちは何と言いましたか。どこから来たのですか。」ヒゼキヤは「遠い国、バビロンから来ました」と答えた。
- 15 イザヤは言った。「彼らはあなたの家で何を見たのですか。」ヒゼキヤは答えた。「私の家の中のすべての物を見ました。私の宝物倉の中で彼らに見せなかった物は一つもありません。」
- 16 イザヤはヒゼキヤに言った。「主のことばを聞きなさい。
- 17 見よ。あなたの家にある物、あなたの父祖たちが今日まで蓄えてきた物がすべて、バビロンへ運び去られる日々が来る。何一つ残されることはない—主は言われる—。

- 18** また、あなたが生む、あなた自身の息子たちの中には、捕らえられてバビロンの王の宮殿で宦官となる者がいる。」
- 19** ヒゼキヤはイザヤに言った。「あなたが告げてくれた主のことばはありがたい。」彼は、自分が生きている間は平和と安定があるのではないか、と思ったのである。
- 20** ヒゼキヤについてのその他の事柄、彼のすべての功績、彼が貯水池と水道を造り、都に水を引いたこと、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 21** ヒゼキヤは先祖とともに眠りにつき、その子マナセが代わって王となった。

第21章

- 1 マナセは十二歳で王となり、エルサレムで五十五年間、王であった。彼の母の名はヘフツィ・バハといった。
- 2 彼は、主がイスラエルの子らの前から追い払われた異邦の民の忌み嫌うべき慣わしをまねて、主の目に悪であることを行った。
- 3 彼は父ヒゼキヤが打ち壊した高き所を築き直し、イスラエルの王アハブがしたように、バアルのためにいくつもの祭壇を築き、アシェラ像を造り、天の万象を拝んでこれに仕えた。
- 4 こうして彼は、主がかつて「エルサレムにわたしの名を置く」と言われた主の宮に、いくつもの祭壇を築いた。
- 5 主の宮の二つの庭には、天の万象のために祭壇を築いた。
- 6 また、自分の子どもに火の中を通らせ、ト占をし、まじないをし、霊媒や口寄せをし、主の目に悪であることを行って、いつも主の怒りを引き起こしていた。
- 7 彼はまた、自分が造ったアシェラの彫像を宮に安置した。主はかつてこの宮について、ダビデとその子ソロモンに言われた。「わたしは、この宮に、そしてわたしがイスラエルの全部族の中から選んだエルサレムに、わたしの名をとこしえに置く。
- 8 もし彼らが、わたしの命じたすべてのこと、わたしのしもべモーセが彼らに命じたすべての律法を守り行いさえするなら、わたしはもう二度と、彼らの先祖たちに与えた地からイスラエルの足を迷い出させない。」
- 9 しかし、彼らはこれに聞き従わなかった。マナセは彼らを迷わせて、主がイスラエルの子らの前で根絶やしにされた異邦の民よりも、さらに悪いことを行わせた。
- 10 主は、そのしもべである預言者たちによって、次のように告げられた。
- 11 「ユダの王マナセは、これらの忌み嫌うべきことを行い、実に彼以前にいたアモリ人が行ったすべてのことよりもさらに悪いことを行い、その偶像でユダにまで罪を犯させた。
- 12 それゆえ、イスラエルの神、主はこう言われる。見よ、わたしはエルサレムとユダにわざわざいをもたらず。だれでもそれを聞く者は、両耳が鳴る。
- 13 わたしは、サマリアに使った測り縄と、アハブの家に使った重りをエルサレムの上に伸ばし、人が皿をぬぐい、それをぬぐって伏せるように、わたしはエルサレムをぬぐい去る。
- 14 わたしは、わたしのゆずりの民の残りの者を捨て去り、彼らを敵の手に渡す。彼らはそのすべての敵の餌食となって奪い取られる。
- 15 それは、彼らの先祖たちがエジプトを出た日から今日まで、わたしの目に悪であることを行って、わたしの怒りを引き起こしたからである。」
- 16 マナセは、ユダに罪を犯させて、主の目に悪であることを行わせた罪だけでなく、咎のない者の血まで多量に流したが、それはエルサレムの隅々に満ちるほどであった。
- 17 マナセについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、彼が犯した罪、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。

- 18** マナセは先祖とともに眠りにつき、その家の園、ウザの園に葬られた。彼の子アモンが代わって王となった。
- 19** アモンは二十二歳で王となり、エルサレムで二年間、王であった。彼の母の名はメシュレメテといい、ヨテバ出身のハルツの娘であった。
- 20** 彼はその父マナセが行ったように、主の目に悪であることを行った。
- 21** 彼は父の歩んだすべての道に歩み、父が仕えた偶像に仕え、それらを拝み、
- 22** 彼の父祖の神、主を捨てて、主の道に歩もうとはしなかった。
- 23** アモンの家来たちは彼に謀反を起こし、その宮殿の中で王を殺した。
- 24** しかし、民衆はアモン王に謀反を起こした者をみな打ち殺した。民衆はアモンの子ヨシヤを代わりに王とした。
- 25** アモンが行ったその他の事柄、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 26** 人々は彼をウザの園にある彼の墓に葬った。彼の子ヨシヤが代わって王となった。

第22章

- 1 ヨシヤは八歳で王となり、エルサレムで三十一年間、王であった。彼の母の名はエディダといい、ボツカテ出身のアダヤの娘であった。
- 2 彼は主の目にかなうことを行い、父祖ダビデのすべての道に歩み、右にも左にもそれなかった。
- 3 ヨシヤ王の第十八年に、王は、メシュラムの子アツアルヤの子である書記シャファンを主の宮に遣わして言った。
- 4 「大祭司ヒルキヤのもとに上って行き、主の宮に納められていた金、すなわち、入り口を守る者たちが民から集めたものを彼に計算させよ。
- 5 彼らが主の宮で工事をしている監督者たちにそれを手渡すようにせよ。そして、監督者たちは、神殿の破損の修理をするために、主の宮で工事をしている者たちにそれを渡すようにせよ。
- 6 大工、建築する者、石工に渡し、神殿の修理のための木材や切り石を買わせよ。
- 7 ただし、彼らの手に渡した金の精算がなされる必要はない。彼らは忠実に働いているからである。」
- 8 そのとき、大祭司ヒルキヤは書記シャファンに、「主の宮で律法の書を見つけました」と言った。そしてヒルキヤがその書物をシャファンに渡したので、彼はそれを読んだ。
- 9 書記シャファンは王のもとに行って、王に報告した。「しもべたちは、神殿にあった金を取り出して、これを主の宮で工事している監督者たちの手に渡しました。」
- 10 さらに書記シャファンは王に告げた。「祭司ヒルキヤが私に一つの書物を渡してくれました。」シャファンは王の前でそれを読み上げた。
- 11 王は律法の書のことばを聞いたとき、自分の衣を引き裂いた。
- 12 王は祭司ヒルキヤ、シャファンの子アヒカム、ミカヤの子アクボル、書記シャファン、王の家来アサヤに次のように命じた。
- 13 「行って、この見つかった書物のことばについて、私のため、民のため、ユダ全体のために、主を求めよ。私たちの先祖たちがこの書物のことばに聞き従わず、すべて私たちについて記されているとおりに行わなかったために、私たちに向かって燃え上がった主の憤りが激しいからだ。」
- 14 そこで、祭司ヒルキヤ、アヒカム、アクボル、シャファン、アサヤは、女預言者フルダのもとに行った。彼女は、ハルハスの子ティクワの子である装束係シャルムの妻で、エルサレムの第二区に住んでいた。彼らが彼女に伝えたと、
- 15 彼女は彼らに答えた。「イスラエルの神である主はこう言われます。『あなたがたをわたしのもとに遣わした人に言え。
- 16 主はこう言われる。見よ。わたしは、ユダの王が読み上げた書物のすべてのことばどおりに、この場所とその住民の上にわざわいをもたらす。
- 17 彼らはわたしを捨て、ほかの神々に犠牲を供え、自分たちのすべての手のわざで、わたしの怒りを引き起こした。こうして、わたしの憤りはこの場所に燃え上がり、消えることは

ない。』

- 18** 主を求めるためにあなたがたを遣わしたユダの王には、こう言いなさい。『あなたが聞いたことばについて、イスラエルの神である主は、こう言われる。
- 19** あなたは、わたしがこの場所とその住民について、これは恐怖のもととなり、ののしりの的となると告げたのを聞いた。そのとき、あなたは心を痛めて主の前にへりくだり、自分の衣を引き裂いてわたしの前で泣いたので、わたしもまた、あなたの願いを聞き入れる――主のことば――。
- 20** それゆえ、見よ、わたしはあなたを先祖たちのもとに集める。あなたは平安のうちに自分の墓に集められる。あなたは自分の目で、わたしがこの場所にもたらず、すべてのわざわいを見ることはない。』」彼らはそれを王に報告した。

第23章

- 1 王は使者を遣わして、ユダとエルサレムのすべての長老たちを彼のところに集めた。
- 2 王は、ユダのすべての人々、エルサレムのすべての住民、祭司と預言者、および下の者から上の者まで、すべての民とともに主の宮に上り、主の宮で見つかった契約の書のことばをすべて彼らに読み聞かせた。
- 3 それから王は柱のわきに立ち、主の前に契約を結び、主に従って歩み、心を尽くし、いのちを尽くして主の命令と証しと掟を守り、この書物に記されているこの契約のことばを実行することを誓った。民もみなこの契約に加わった。
- 4 王は大祭司ヒルキヤと次席祭司たち、および、入り口を守る者たちに命じて、バアルやアシェラや天の万象のために作られた祭具をことごとく主の神殿から運び出し、エルサレムの郊外、キデロンの野でそれらを焼き、その灰をベテルへ持って行った。
- 5 彼はまた、偶像に仕える祭司たちを取り除いた。ユダの王たちが任命して、ユダの町々やエルサレム周辺の高き所で犠牲を供えていた祭司たちである。バアルや太陽や月や星座や天の万象に犠牲を供える者たちも取り除いた。
- 6 彼はまた、アシェラ像を主の宮からエルサレム郊外のキデロンの谷に運び出し、それをキデロンの谷で焼いた。それを粉々に砕いて灰にし、その灰を共同墓地にまき散らした。
- 7 さらに、主の宮の中にあった神殿男娼の家を打ち壊した。そこでは、女たちがアシェラ像のために覆いを織っていた。
- 8 彼はユダの町々から祭司たちをみな連れて来て、祭司たちが犠牲を供えていたゲバからベエル・シェバに至るまでの高き所を汚し、門にあった高き所を打ち壊した。それは町の長ヨシュアの門の入り口にあり、町の門に入る人の左側にあった。
- 9 高き所の祭司たちは、エルサレムの主の祭壇に上ることはなかったが、その兄弟たちの間で種なしパンを食べていた。
- 10 彼はベン・ヒノムの谷にあるトフェトを汚し、だれも、自分の息子や娘に火の中を通らせてモレクに献げることをないようにした。
- 11 それから、ユダの王たちが太陽に献納した馬を、主の宮の入り口、前庭にある宦官ネタン・メレクの部屋のそばから取り除き、太陽の車を火で焼いた。
- 12 王は、ユダの王たちがアハズの屋上の部屋の上に造った祭壇と、マナセが主の宮の二つの庭に造った祭壇を、そこから外して打ち壊し、砕いた。そうして、その灰をキデロンの谷に投げ捨てた。
- 13 王は、エルサレムの東、破壊の山の南にあった高き所を汚れたものとした。これは、イスラエルの王ソロモンが、シドン人の忌むべき女神アシュタロテ、モアブの忌むべき神ケモシュ、アンモン人の忌み嫌うべき神ミルコムのために築いたものであった。
- 14 また、石の柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒し、その場所を人の骨で満たした。
- 15 さらに彼は、ベテルにある祭壇と、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムが造った高き所、すなわち、その祭壇も高き所も打ち壊し、さらに高き所を焼いて粉々に砕いて灰にし、アシェラ像も焼いた。

- 16 ヨシヤが振り向くと、山の中に墓があるのが見えた。そこで彼は人を遣わしてその墓から骨を取り出し、それを祭壇の上で焼き、祭壇を汚れたものとした。かつて、神の人がこのことを預言して叫んだ主のことばのとおりであった。
- 17 ヨシヤは言った。「あそこに見える石碑は何か。」すると、町の人々は彼に答えた。「ユダから出て来て、あなたがベテルの祭壇に対してされたこれらのことを預言した神の人の墓です。」
- 18 王は言った。「そのままにしておけ。だれも彼の骨を移してはならない。」そこで人々は彼の骨を、サマリアから出て来たあの預言者の骨と一緒にそのままにしておいた。
- 19 ヨシヤはまた、イスラエルの王たちが造って主の怒りを引き起こした、サマリアの町々の高き所の宮もすべて取り除き、彼がベテルでしたのと全く同じことを、それらに対しても行った。
- 20 彼は、そこにいた高き所の祭司たちをみな、祭壇の上で屠り、その祭壇の上で人の骨を焼いた。こうして、彼はエルサレムに帰った。
- 21 王は民全体に次のように命じた。「この契約の書に記されているとおり、あなたがたの神、主に、過越のいけにえを献げよ。」
- 22 実に、さばきつかさたちがイスラエルをさばいた時代以来、イスラエルの王たちとユダの王たちのどの時代にも、このような過越のいけにえが献げられたことはなかった。
- 23 ただ、ヨシヤ王の第十八年に、エルサレムでこの過越のいけにえが主に献げられただけであった。
- 24 さらにヨシヤは、霊媒、口寄せ、テラフィム、偶像、それに、ユダの地とエルサレムに見られるすべての忌むべき物も除き去った。こうして、彼は祭司ヒルキヤが主の宮で見つけた書物に記されている律法のことばを実行した。
- 25 ヨシヤのようにモーセのすべての律法にしたがって、心のすべて、たましいのすべて、力のすべてをもって主に立ち返った王は、彼より前にはいなかった。彼の後にも彼のような者は、一人も起こらなかった。
- 26 それにもかかわらず、マナセが引き起こした主のすべての怒りのゆえに、主はユダに向けて燃やした激しい怒りを収めようとはされなかった。
- 27 主は言われた。「わたしがイスラエルを除いたのと同じように、ユダもわたしの前から除く。わたしが選んだこの都エルサレムも、わたしの名を置くと言ったこの宮も、わたしは退ける。」
- 28 ヨシヤについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 29 彼の時代に、エジプトの王ファラオ・ネコが、アッシリアの王のもとに行こうと、ユーフラテス川を目指して上って来た。そこで、ヨシヤ王は彼を迎え撃ちに行ったが、ファラオ・ネコはメギドで彼に出会った際、彼を殺した。
- 30 ヨシヤの家来たちは、彼の遺体を戦車に載せ、メギドからエルサレムに運んで、彼の墓に葬った。その国の民は、ヨシヤの子エホアハズを選んで油を注ぎ、彼の父に代えて王とした。

- 31** エホアハズは二十三歳で王となり、エルサレムで三か月間、王であった。彼の母の名はハムタルといい、リブナ出身のエレミヤの娘であった。
- 32** 彼は、すべてその先祖たちがしたように、主の目に悪であることを行った。
- 33** ファラオ・ネコは、エルサレムで王であった彼をハマテの地リブラに幽閉し、この国に銀百タラントと金一タラントの科料を課した。
- 34** それから、ファラオ・ネコは、ヨシヤの子エルヤキムをその父ヨシヤに代えて王とし、その名をエホヤキムと改めさせた。エホアハズは捕らえられ、エジプトに行き、そこで死んだ。
- 35** エホヤキムは銀と金をファラオに贈った。ただし、ファラオの要求するだけの銀を贈るために、この国に税を課さなければならなかった。彼は、ファラオ・ネコに贈るために、一人ひとりに税を割り当て、銀と金を民衆から取り立てた。
- 36** エホヤキムは二十五歳で王となり、エルサレムで十一年間、王であった。彼の母の名はゼブダといい、ルマ出身のペダヤの娘であった。
- 37** 彼は、すべてその先祖たちがしたように、主の目に悪であることを行った。

第24章

- 1 エホヤキムの時代に、バビロンの王ネブカドネツアルが攻め上って来た。エホヤキムは三年間彼のしもべとなったが、その後、再び彼に反逆した。
- 2 そこで主は、カルデア人の略奪隊、アラムの略奪隊、モアブの略奪隊、アンモン人の略奪隊を遣わしてエホヤキムを攻められた。ユダを攻めて滅ぼすために彼らを遣わされたのである。主がそのしもべである預言者たちによって告げられたことばのとおりであった。
- 3 実に、このようなことがユダに起こったのは、ユダを主の前から除くという主の命によることであり、それはマナセが犯したすべての罪のゆえ、
- 4 また、マナセが流した咎のない者の血のためであった。マナセはエルサレムを咎のない者の血で満たした。そのため主は赦そうとはされなかったのである。
- 5 エホヤキムについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 6 エホヤキムは先祖とともに眠りにつき、その子エホヤキンが代わって王となった。
- 7 エジプトの王は自分の国から再び出て来ることがなかった。バビロンの王が、エジプト川から大河ユーフラテスに至るまで、かつてエジプトの王に属していた全領土を占領したからである。
- 8 エホヤキンは十八歳で王となり、エルサレムで三か月間、王であった。彼の母の名はネフシュタといい、エルサレム出身のエルナタンの娘であった。
- 9 彼は、すべて先祖たちがしたように、主の目に悪であることを行なった。
- 10 そのころ、バビロンの王ネブカドネツアルの家来たちがエルサレムに攻め上り、都は包囲された。
- 11 バビロンの王ネブカドネツアルが都にやって来たとき、彼の家来たちは都を包囲していた。
- 12 ユダの王エホヤキンは、その母、家来たち、高官たち、宦官たちと一緒にバビロンの王に降伏したので、バビロンの王は、その治世の第八年に、彼を捕虜にした。
- 13 バビロンの王は、主の宮の財宝と王宮の財宝をことごとく運び出し、主の神殿の中にあるイスラエルの王ソロモンが作ったすべての金の用具を切り裂いた。主が告げられたとおりであった。
- 14 彼はエルサレムのすべて、すなわち、すべての高官、すべての有力者一万人、それに職人や鍛冶もみな、捕囚として捕らえ移した。貧しい民衆のほかは残されなかった。
- 15 彼はさらに、エホヤキンをバビロンへ引いて行き、王の母、王の妻たち、その宦官たち、この国のおもだった人々を、捕囚としてエルサレムからバビロンへ行かせた。
- 16 バビロンの王は、すべての勇士たち七千人と、職人、鍛冶千人からなる勇敢な戦士たちすべてを、捕囚としてバビロンへ連れて行った。
- 17 バビロンの王は、エホヤキンのおじマタンヤをエホヤキンの代わりに王とし、その名をゼデキヤと改めさせた。

- 18** ゼデキヤは二十一歳で王となり、エルサレムで十一年間、王であった。彼の母の名はハムタルといい、リブナ出身のエレミヤの娘であった。
- 19** 彼は、すべてエホヤキムがしたように、主の目に悪であることを行った。
- 20** 実に、エルサレムとユダが主の前から投げ捨てられるに至ったのは、主の怒りによることであったのである。その後、ゼデキヤはバビロンの王に反逆した。

第25章

- 1 ゼデキヤの治世の第九年、第十の月の十日に、バビロンの王ネブカドネツアルは、その全軍勢を率いてエルサレムを攻めに来て、これに対して陣を敷き、周囲に壘を築いた。
- 2 こうして都はゼデキヤ王の第十一年まで包囲されていた。
- 3 第四の月の九日、都の中で食糧難がひどくなり、民衆に食物がなくなった。
- 4 そのとき、都は破られ、戦士たちはみな夜のうちに、王の園に近い二重の城壁の間にある、門の道から出て行った。カルデア人が都を包囲していたので、王はアラバへの道を進んだ。
- 5 カルデアの軍勢は王の後を追い、エリコの草原で彼に追いついた。すると、王の軍隊はみな王から離れて散ってしまった。
- 6 カルデアの軍勢は王を捕らえ、リブラにいるバビロンの王のところに彼を連れ上り、彼に宣告を下した。
- 7 彼らはゼデキヤの息子たちを彼の目の前で虐殺した。王はゼデキヤの目をつぶし、青銅の足かせをはめて、バビロンへ連れて行った。
- 8 第五の月の七日、バビロンの王ネブカドネツアル王の第十九年のこと、バビロンの王の家来、親衛隊の長ネブザルアダンがエルサレムに来て、
- 9 主の宮と王宮とエルサレムのすべての家を焼き、そのおもだった建物をことごとく火で焼いた。
- 10 親衛隊の長と一緒にいたカルデアの全軍勢は、エルサレムを取り巻く城壁を打ち壊した。
- 11 親衛隊の長ネブザルアダンは、都に残されていた残りの民と、バビロンの王に降伏した投降者たちと、残りの群衆を捕らえ移した。
- 12 しかし、親衛隊の長はその地の貧しい民の一部を残し、ぶどうを作る者と農夫にした。
- 13 カルデア人は、主の宮の青銅の柱と、車輪付きの台と、主の宮にある青銅の「海」を砕いて、その青銅をバビロンへ運んだ。
- 14 また、灰壺、十能、芯取りばさみ、平皿、奉仕に用いるすべての青銅の器具を奪った。
- 15 また親衛隊の長は、火皿、鉢など、純金や純銀のものを奪った。
- 16 ソロモンが主の宮のために作った二本の柱、一つの「海」、車輪付きの台、これらすべての物の青銅の重さは、量りきれなかった。
- 17 一本の柱の高さは十八キュビト、その上の柱頭は青銅、その柱頭の高さは三キュビトであった。柱頭の周りに格子細工とざくろがあって、すべて青銅であった。もう一つの柱も、格子細工もこれと同様であった。
- 18 親衛隊の長は、祭司のかしらセラヤと次席祭司ゼパニヤと三人の入り口を守る者を捕らえ、
- 19 戦士たちの指揮官であった一人の宦官、都にいた王の五人の側近、民衆を徴兵する軍の長の書記、そして都にいた民衆六十人を、都から連れ去った。
- 20 親衛隊の長ネブザルアダンは彼らを捕らえ、リブラにいるバビロンの王のところへ連れて行った。

- 21** バビロンの王はハマテの地のリブラで、彼らを打ち殺した。こうして、ユダはその国から捕らえ移された。
- 22** バビロンの王ネブカドネツアルは、彼が残したユダの地の残りの民の上に、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤを総督として任命した。
- 23** 軍の高官たちとその部下たちはみな、バビロンの王がゲダルヤを総督としたことを聞いて、ミツパにいるゲダルヤのもとに来た。それは、ネタンヤの子イシュマエル、カレアハの子ヨハナン、ネトファ人タンフメテの子セラヤ、マアカ人の子ヤアザンヤ、彼らとその部下たちであった。
- 24** ゲダルヤは彼らとその部下たちに誓って、彼らに言った。「カルデア人の家来たちを恐れてはならない。この地に住んで、バビロンの王に仕えなさい。そうすれば、あなたがたは幸せになる。」
- 25** ところが第七の月に、王族の一人、エリシャマの子ネタンヤの子イシュマエルは、十人の部下とともに来て、ゲダルヤを打ち殺し、ミツパで彼と一緒にいたユダの人たちとカルデア人たちを打ち殺した。
- 26** そこで民はみな、身分の下の方から上の方まで、軍の高官たちとともに、立ってエジプトへ行った。カルデア人を恐れたからである。
- 27** ユダの王エホヤキンが捕らえ移されて三十七年目の第十二の月の二十七日、バビロンの王エビル・メロダクは、王となったその年のうちにユダの王エホヤキンを牢獄から呼び戻し、
- 28** 優しいことばをかけ、バビロンで彼とともにいた王たちの位よりも、彼の位を高くした。
- 29** 彼は囚人の服を脱ぎ、その一生の間、いつも王の前で食事をした。
- 30** 彼の生活費はその日々の分を、一生の間、いつも王から支給されていた。

歷代誌上

1 Chronicles

第1章

- 1 アダム、セツ、エノシュ、
- 2 ケナン、マハラルエル、ヤレデ、
- 3 エノク、メトシェラ、レメク、
- 4 ノア、セム、ハム、それにヤフェテ。
- 5 ヤフェテの子らはゴメル、マゴグ、マダイ、ヤワン、トバル、メシェク、ティラス。
- 6 ゴメルの子らはアシュケナズ、ディファテ、トガルマ。
- 7 ヤワンの子らはエリシャ、タルシシュ、キティム、ロダニム。
- 8 ハムの子らはクシュ、ミツライム、プテ、カナン。
- 9 クシュの子らはセバ、ハビラ、サブタ、ラアマ、サブテカ。ラアマの子らはシェバ、デダン。
- 10 このクシュがニムロデを生んだ。ニムロデは地上で最初の勇士となった。
- 11 ミツライムが生んだのは、ルディ人、アナミム人、レハビム人、ナフトヒム人、
- 12 パテロス人、カスルヒム人、カフトル人。このカスルヒム人からペリシテ人が出た。
- 13 カナンが生んだのは、長子シドン、ヒッタイト、
- 14 エブス人、アモリ人、ギルガシ人、
- 15 ヒビ人、アルキ人、シニ人、
- 16 アルワデ人、ツェマリ人、ハマテ人。
- 17 セムの子らは、エラム、アッシェル、アルパクシャデ、ルデ、アラム、ウツ、フル、ゲテル、メシェク。
- 18 アルパクシャデはシェラフを生み、シェラフはエベルを生んだ。
- 19 エベルには二人の息子が生まれ、一人の名はペレグであった。その時代に地が分けられたからである。彼の兄弟の名はヨクタンであった。
- 20 ヨクタンが生んだのは、アルモダデ、シェレフ、ハツアルマベテ、エラフ、
- 21 ハドラム、ウザル、ディクラ、
- 22 エバル、アビマエル、シェバ、
- 23 オフィル、ハビラ、ヨバブ。これらはみな、ヨクタンの子であった。
- 24 セム、アルパクシャデ、シェラフ、
- 25 エベル、ペレグ、レウ、
- 26 セルグ、ナホル、テラ、
- 27 アブラム、すなわちアブラハム。
- 28 アブラハムの子は、イサク、イシュマエル。
- 29 これは彼らの系図である。イシュマエルの長子はネバヨテ。それからケダル、アデベエル、ミブサム、
- 30 ミシュマ、ドマ、マサ、ハダド、テマ、

- 31 エトル、ナフィシュ、ケデマ。これらがイシュマエルの子である。
- 32 アブラハムの側女ケトラの子。彼女は、ジムラン、ヨクシャン、メダン、ミディアン、イシュバク、シュアハを産んだ。ヨクシャンの子は、シェバ、デダン。
- 33 ミディアンの子は、エファ、エフェル、ハノク、アビダ、エルダア。これらはみな、ケトラの子であった。
- 34 アブラハムはイサクを生んだ。イサクの子は、エサウ、イスラエル。
- 35 エサウの子は、エリファズ、レウエル、エウシュ、ヤラム、コラ。
- 36 エリファズの子は、テマン、オマル、ツェフィ、ガタム、ケナズ、そして、ティムナによるアマレク。
- 37 レウエルの子は、ナハテ、ゼラフ、シャンマ、ミザ。
- 38 セイルの子は、ロタン、ショバル、ツイブオン、アナ、ディション、エツェル、ディシャン。
- 39 ロタンの子は、ホリ、ホمام。ロタンの妹はティムナ。
- 40 ショバルの子は、アルヤン、マナハテ、エバル、シェフィ、オナム。ツイブオンの子は、アヤ、アナ。
- 41 アナの子は、ディション。ディションの子は、ハムラン、エシュバン、イテラン、ケラン。
- 42 エツェルの子は、ビルハン、ザアワン、ヤアカン。ディションの子は、ウツ、アラン。
- 43 イスラエルの子らを王が治める以前、エドムの地で王として治めた者は次のとおりである。ベオルの子ベラ。彼の町の名はディンハバであった。
- 44 ベラが死ぬと、ボツラ出身のゼラフの子ヨバブが代わりに王となった。
- 45 ヨバブが死ぬと、テマン人の地から出たフシャムが代わりに王となった。
- 46 フシャムが死ぬと、モアブの野でミディアン人を打ち破った、ベダデの子ハダドが代わりに王となった。その町の名はアウィテであった。
- 47 ハダドが死ぬと、マスレカ出身のサムラが代わりに王となった。
- 48 サムラが死ぬと、レホボテ・ハ・ナハル出身のシャウルが代わりに王となった。
- 49 シャウルが死ぬと、アクボルの子バアル・ハナンが代わりに王となった。
- 50 バアル・ハナンが死ぬと、ハダドが代わりに王となった。彼の町の名はパイであった。妻の名はメヘタブエルで、メ・ザハブの娘マテレデの娘であった。
- 51 そして、ハダドも死んだ。エドムの首長たちは、首長ティムナ、首長アルワ、首長エテテ、
- 52 首長オホリバマ、首長エラ、首長ピノン、
- 53 首長ケナズ、首長テマン、首長ミブツアル、
- 54 首長マグディエル、首長イラム。これらはエドムの首長である。

第2章

- 1 イスラエルの子は次のとおりである。ルベン、シメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルン、
- 2 ダン、ヨセフ、ベニヤミン、ナフタリ、ガド、アシェル。
- 3 ユダの子はエル、オナン、シェラ。この三人は、カナンの女シュアの娘から彼に生まれた。しかし、長子エルは主の目に悪しき者であったので、主が彼を殺された。
- 4 ユダの嫁タマルは彼にペレツとゼラフを産んだ。ユダの子は全部で五人。
- 5 ペレツの子は、ヘツロン、ハムル。
- 6 ゼラフの子は、ジムリ、エタン、ヘマン、カルコル、ダラで、全部で五人。
- 7 カルミの子は、聖絶の物のことで主の信頼を裏切り、イスラエルにわざわざいをもたらす者となったアカル。
- 8 エタンの子は、アザルヤ。
- 9 ヘツロンの子として生まれた者は、エラフメエル、ラム、カレブ。
- 10 ラムはアミナダブを生み、アミナダブはユダ族の首長ナフションを生み、
- 11 ナフションはサルマを生み、サルマはボアズを生み、
- 12 ボアズはオベデを生み、オベデはエッサイを生んだ。
- 13 エッサイは、長子エリアブ、次男アビナダブ、三男シムア、
- 14 四男ネタンエル、五男ラダイ、
- 15 六男オツェム、七男ダビデを生んだ。
- 16 彼らの姉妹はツェルヤとアビガイル。ツェルヤの子は、アビシャイ、ヨアブ、アサエルの三人であった。
- 17 アビガイルはアマサを産んだが、アマサの父はイシュマエル人エテルであった。
- 18 ヘツロンの子カレブは、妻アズバとエリオテによって子を生んだ。その子たちは、エシェル、ショバブ、アルドン。
- 19 アズバが死んだので、カレブはエフラテを妻とした。彼女はカレブにフルを産んだ。
- 20 フルはウリを生み、ウリはベツアルエルを生んだ。
- 21 その後、ヘツロンはギルアデの父マキルの娘のところに行き、彼女を妻とした。彼は六十歳であった。彼女はヘツロンにセグブを産んだ。
- 22 セグブはヤイルを生んだ。彼はギルアデの地に二十三の町を持っていた。
- 23 ところが、ゲシュルとアラムは、その中からハボテ・ヤイル、およびケナテとそれに属する村々など六十の町を取った。これらはみな、ギルアデの父マキルの子であった。
- 24 ヘツロンがエフラテのカレブで死んだ後、ヘツロンの妻アビヤは、彼にテコアの父アシュフルを産んだ。
- 25 ヘツロンの長子エラフメエルの子は、長子ラム、ブナ、オレン、オツェム、アヒヤ。
- 26 エラフメエルには、もう一人の妻がいた。彼女の名はアタラといって、オナムの母であった。

- 27 エラフメエルの長子ラムの子は、マアツ、ヤミン、エケル。
- 28 オナムの子は、シャンマイ、ヤダ。シャンマイの子は、ナダブ、アビシュル。
- 29 アビシュルの妻の名はアビハイルで、彼女はアフバンとモリデを産んだ。
- 30 ナダブの子はセレデとアパイムで、セレデは子がないままで死んだ。
- 31 アパイムの子はイシュイ。イシュイの子はシェシャン。シェシャンの子はアフライ。
- 32 シャンマイの兄弟ヤダの子はエテルとヨナタンで、エテルは子がないままで死んだ。
- 33 ヨナタンの子はペレテとザザ。これがエラフメエルの子孫である。
- 34 シェシャンには息子がなく、娘だけであった。シェシャンにはエジプト人のしもべがいて、その名はヤルハといった。
- 35 シェシャンは彼の娘をそのしもべヤルハに妻として与えたので、彼女はアタイを産んだ。
- 36 アタイはナタンを生み、ナタンはザバデを生み、
- 37 ザバデはエフラルを生み、エフラルはオベデを生み、
- 38 オベデはエフーを生み、エフーはアザルヤを生み、
- 39 アザルヤはヘレツを生み、ヘレツはエルアサを生み、
- 40 エルアサはシスマイを生み、シスマイはシャルムを生み、
- 41 シャルムはエカムヤを生み、エカムヤはエリシャマを生んだ。
- 42 エラフメエルの兄弟カレブの子は、長子メシャ。彼はジフの父であった。ヘブロン之父マレシャの子。
- 43 ヘブロンの子は、コラ、タブアハ、レケム、シェマ。
- 44 シェマは、ヨルコアムの父ラハムを生み、レケムはシャンマイを生んだ。
- 45 シャンマイの子はマオン。マオンはベテ・ツルの父であった。
- 46 カレブの側女エファは、ハラン、モツァ、ガゼズを産んだ。ハランはガゼズを生んだ。
- 47 ヤフダイの子は、レゲム、ヨタム、ゲシャン、ペレテ、エファ、シャアフ。
- 48 カレブの側女マアカは、シェベルとティルハナを産み、
- 49 マデマナの父シャアフと、マクベナの父でありギブアの父であるシェワを産んだ。カレブの娘はアクサであった。
- 50 カレブの子孫は次のとおりである。エフラテによる長子フルの子は、キルヤテ・エアリムの父ショバル、
- 51 ベツレヘムの父サルマ、ベテ・ガデルの父ハレフ。
- 52 キルヤテ・エアリムの父ショバルの子は、ハ・ロエ、メヌホテ人の半分。
- 53 キルヤテ・エアリムの諸氏族は、エテル人、プテ人、シュマ人、ミシュラ人で、彼らの中からツオルア人とエシュタオル人が出た。
- 54 サルマの子孫は、ベツレヘム、ネトファ人、アテロテ・ベテ・ヨアブ、マナハテ人の半氏族、ツオルア人。
- 55 ヤベツに住んでいた書記の諸氏族のティルアテ人、シムア人、スカテ人。彼らはレカブ家の父祖ハマテから出たケ二人である。

第3章

- 1 ヘブロンで生まれたダビデの子は次のとおりである。長子はイズレエル人アヒノアムによるアムノン。次男はカルメル人アビガイルによるダニエル。
- 2 三男はゲシュルの王タルマイの娘マアカの子アブサロム。四男はハギテの子アドニヤ。
- 3 五男はアビタルによるシェファテヤ。六男はダビデの妻エグラによるイテレアム。
- 4 六人の子がヘブロンで生まれた。ダビデはそこで七年六か月王であり、エルサレムで三十三年間王であった。
- 5 エルサレムで彼に生まれた者は次のとおりである。シャムア、ショバブ、ナタン、ソロモン。この四人はアンミエルの娘バテ・シュアによる子である。
- 6 またイブハル、エリシャマ、エリフェレテ、
- 7 ノガハ、ネフェグ、ヤフィア、
- 8 エリシャマ、エルヤダ、エリフェレテの九人。
- 9 みなダビデの子であるが、ほかに側女たちの子もあり、タマルは彼らの姉妹であった。
- 10 ソロモンの子はレハブアム。その子はアビヤ、その子はアサ、その子はヨシャファテ、
- 11 その子はヨラム、その子はアハズヤ、その子はヨアシユ、
- 12 その子はアマツヤ、その子はアザルヤ、その子はヨタム、
- 13 その子はアハズ、その子はヒゼキヤ、その子はマナセ、
- 14 その子はアモン、その子はヨシヤ。
- 15 ヨシヤの子は、長子ヨハナン、次男エホヤキム、三男ゼデキヤ、四男シャルム。
- 16 エホヤキムの子孫は、その子エコンヤ、その子ゼデキヤ。
- 17 捕らわれ人エコンヤの子は、その子シェアルティエル、
- 18 マルキラム、ペダヤ、シェンアツアル、エカムヤ、ホシャマ、ネダブヤ。
- 19 ペダヤの子は、ゼルバベル、シムイ。ゼルバベルの子は、メシュラム、ハナンヤ、彼らの姉妹シェロミテ。
- 20 それにハシュバ、オヘル、ベレクヤ、ハサデヤ、ユシャブ・ヘセデの五人。
- 21 ハナンヤの子は、ペラテヤ、エシャヤ、レファヤの子ら、アルナンの子ら、オバデヤの子ら、シェカンヤの子ら。
- 22 シェカンヤの子は、シェマヤと、その子である、ハトシュ、イグアル、バリアハ、ネアルヤ、シャファテの六人。
- 23 ネアルヤの子は、エルヨエナイ、ヒゼキヤ、アズリカムの三人。
- 24 エルヨエナイの子は、ホダウヤ、エルヤシブ、ペラヤ、アクブ、ヨハナン、デラヤ、アナニの七人。

第4章

- 1 ユダの子は、ペレツ、ヘツロン、カルミ、フル、ショバル。
- 2 ショバルの子レアヤはヤハテを生み、ヤハテはアフマイとラハデを生んだ。これらはツォルア人の諸氏族である。
- 3 エタムの父の子は次のとおりである。イズレエル、イシュマ、イデバシュ。彼らの姉妹の名はハツレルポニ。
- 4 ゲドルの父ペヌエルとフシャの父エゼル。これらがベツレヘムの父、エフラテの長子フルの子である。
- 5 テコアの父アシュフルには二人の妻、ヘルアとナアラがいた。
- 6 ナアラは彼に、アフザム、ヘフェル、テメニ、アハシュタリを生んだ。これらがナアラの子である。
- 7 ヘルアの子は、ツェレテ、ツォハル、エテナン。
- 8 コツは、アヌブ、ツォベバ、それにハルムの子アハルヘルの諸氏族を生んだ。
- 9 ヤベツは彼の兄弟たちの中で最も重んじられた。彼の母は、「私が痛みのうちにこの子を産んだから」と言って、彼にヤベツという名をつけていた。
- 10 ヤベツはイスラエルの神に呼び求めて言った。「私を大いに祝福し、私の地境を広げてくださいますように。御手が私とともにあってわざわざいから遠ざけ、私が痛みを覚えることのないようにしてください。」神は彼の願ったことをかなえられた。
- 11 シュハの兄弟ケルブはメヒルを生んだ。メヒルはエシュトンの父であった。
- 12 エシュトンは、ベテ・ラファ、パセアハ、イル・ナハシュの父テヒナを生んだ。これらはレカの人々である。
- 13 ケナズの子はオテニエルとセラヤ。オテニエルの子はハタテとメオノタイ。
- 14 メオノタイはオフラを生み、セラヤはゲ・ハラシムの父ヨアブを生んだ。彼らは職人であった。
- 15 エフンネの子カレブの子は、イル、エラ、ナアム。エラの子はケナズ。
- 16 エハレルエルの子は、ジフ、ジファ、ティルヤ、アサルエル。
- 17 エズラの子は、エテル、メレデ、エフェル、ヤロン。メレデの妻は身ごもって、ミリアムとシャンマイとエシュテモアの父イシュバフを生んだ。
- 18 —メレデのユダ人の妻は、ゲドルの父ヤレデ、ソコの父ヘベル、ザノアハの父エクティエルを生んだ—これらはメレデが妻としたファラオの娘ビテヤの子であった。
- 19 ナハムの姉妹、ホディヤの妻の子は、ガルミ人ケイラの父とマアカ人エシュテモア。
- 20 シモンの子は、アムノン、リンナ、ベン・ハナン、ティロン。イシュイの子は、ゾヘテ、ベン・ゾヘテ。
- 21 ユダの子シェラの子孫は、レカの父エル、マレシャの父ラアダ、ベテ・アシュベアで亜麻布業を営む家の氏族、

- 22 モアブとヤシュビ・ラヘムを治めたヨキム、コゼバの人々、ヨアシュ、サラフ。この記録は古い。
- 23 彼らは陶器師で、ネタイムとゲデラの住民であり、王の仕事をするため、王とともにそこに住んだ。
- 24 シメオンの子は、ネムエル、ヤミン、ヤリブ、ゼラフ、シャウル。
- 25 シャウルの子はシャルム、その子はミブサム、その子はミシュマ。
- 26 ミシュマの子孫は、その子ハムエル、その子はザクル、その子はシムイ。
- 27 シムイには十六人の息子と、六人の娘がいたが、彼の兄弟たちの子は多くなかった。彼らの全氏族は、ユダの子らほどには多くならなかった。
- 28 彼らが住んだのは、ベエル・シェバ、モラダ、ハツアル・シュアル、
- 29 ビルハ、エツェム、トラデ、
- 30 ベトエル、ホルマ、ツィクラグ、
- 31 ベテ・マルカボテ、ハツアル・スシム、ベテ・ビルイ、シャアライムである。これらはダビデの治世に至るまで、彼らの町々であった。
- 32 また、彼らの村々は、エタム、アイン、リンモン、トケン、アシャンの五つの町であり、
- 33 これらの町々の周りにおいて、バアルにまで及ぶすべての村。これが彼らの居住地であり、彼らは系図に記載されていた。
- 34 メショバブ、ヤムレク、アマツヤの子ヨシャ、
- 35 ヨエル、アシエルの子セラヤの子ヨシブヤの子エフー、
- 36 エルヨエナイ、ヤアコバ、エショハヤ、アサヤ、アディエル、エシミエル、ベナヤ、
- 37 シフイの子ジザ。シフイはアロンの子、アロンはエダヤの子、エダヤはシムリの子、シムリはシェマヤの子。
- 38 ここに名前を出てくるこれらの人たちは、彼らの諸氏族の長であった。彼らの一族は大いに増えた。
- 39 彼らは、その群れのために牧場を探し求めて、ゲドルの入り口、谷の東方まで行って、
- 40 豊かな良い牧場を見つけた。その土地は広々としていて、静かで安らかだった。以前そこには、ハム系の人々が住んでいた。
- 41 ユダの王ヒゼキヤの時代に、ここに名を記された人々が来て、彼らの天幕と、そこにいたメウニム人を討ち、彼らを聖絶した。今日もそのままである。彼らはこの人々に代わってそこに住んだ。そこには、彼らの群れのために牧場があったからである。
- 42 また、彼らシメオン族のうち、五百人の人々が、イシュイの子ペラテヤ、ネアルヤ、レファヤ、ウジエルをかしらとしてセイル山に行った。
- 43 彼らは、アマレクの逃れて残っていた者を討ち、そこに住んだ。今日もそのままである。

第5章

- 1 イスラエルの長子ルベンの子孫。ルベンは長子であったが、父の寝床を汚したことにより、その長子の権利はイスラエルの子ヨセフの子に与えられた。それで、彼は系図には長子の権利を持つ者として記載されていない。
- 2 ユダは彼の兄弟たちの間で勢いを増し、君たる者もそこから出たが、長子の権利はヨセフのものとなった。
- 3 イスラエルの長子ルベンの子は、ハノク、パル、ヘツロン、カルミ。
- 4 ヨエルの子は、その子シェマヤ、その子ゴグ、その子シムイ、
- 5 その子ミカ、その子レアヤ、その子バアル、
- 6 その子はアッシリアの王ティグラト・ピレセルが引いて行ったベエラ。彼はルベン人の族長であった。
- 7 また、彼の兄弟たちで、氏族ごとに、生まれた順に系図に載せられた者のかしらはエイエル、次はゼカリヤ、
- 8 そしてペラ。彼はヨエルの子シェマの子アザズの子で、アロエルに住み、ネボヤバアル・メオンにまで及び、
- 9 東はあの大河ユーフラテスから荒野の入り口に及ぶ地に住んだ。ギルアデの地で彼らの家畜が増えたからである。
- 10 彼らはサウルの時代にハガル人と戦いを交え、ハガル人は彼らの手によって倒れた。そこで彼らは、ギルアデの東方一帯に天幕を張って住んだ。
- 11 ガドの子孫は、彼らの真向かいに当たるバシャンの地に住み、サルカにまで及んだ。
- 12 かしらのヨエル、二番目のシャファム、そしてヤナイ、シャファテがバシャンに住んだ。
- 13 その一族に属する兄弟たちは、ミカエル、メシュラム、シェバ、ヨライ、ヤアカン、ジア、エベルの七人。
- 14 これらはアビハイルの子であった。アビハイルはフリの子、フリはヤロアハの子、ヤロアハはギルアデの子、ギルアデはミカエルの子、ミカエルはエシシャイの子、エシシャイはヤフドの子、ヤフドはブズの子である。
- 15 グニの子アブディエルの子アヒ。彼はその一族のかしらであった。
- 16 彼らは、ギルアデとバシャンとそれに属する村々、およびシャロンの放牧地全域の境に至るまで住んだ。
- 17 彼らはみな、ユダの王ヨタムの時代、イスラエルの王ヤロブアムの時代に系図に記載された。
- 18 ルベンの子孫、ガド人、マナセの半部族で、盾と剣を取り、弓を引き、戦いの訓練を受けた勇者たちのうち、従軍する者は四万四千七百六十人であった。
- 19 彼らはハガル人、およびエトル、ナフィシュ、ノダブと戦いを交えたが、
- 20 助けを得てこれらに当たったので、ハガル人およびこれとともにいた者はみな彼らの手に渡された。それは、彼らがその戦いのときに神に叫び求めたからである。彼らが神に拠り頼んだので、神は彼らの願いを聞き入れられた。

- 21** 彼らはこの人々の家畜、らくだ五万頭、羊二十五万匹、ろば二千頭、また十万人の人を奪い去った。
- 22** この戦いは神から出ていたため、多くの者が刺されて倒れたからである。彼らはこの人々に代わって捕囚の時までそこに住んだ。
- 23** マナセの半部族の人々は、バシャンからバアル・ヘルモン、セニル、ヘルモン山に至る地に住み、その数は多かった。
- 24** 彼らの一族のかしらたちは次のとおり。エフェル、イシュイ、エリエル、アズリエル、エレミヤ、ホダウヤ、ヤフディエル。この人たちは勇士で、名のある人たちであり、その一族のかしらであった。
- 25** ところが、彼らはその父祖の神の信頼を裏切り、神が彼らの前から根絶やしにされたその地の民の神々を慕って淫行をした。
- 26** そこで、イスラエルの神は、アッシリアの王ブルの霊、すなわちアッシリアの王ティグラト・ピレセルの霊を奮い立たせられた。それで彼は、ルベン人とガド人、およびマナセの半部族を捕らえ移し、彼らをハラフ、ハボル、ハラ、ゴザンの川に連れて行った。今日もそのままである。

第6章

- 1 レビの子は、ゲルション、ケハテ、メラリ。
- 2 ケハテの子は、アムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエル。
- 3 アムラムの子は、アロン、モーセ、ミリアム。アロンの子は、ナダブ、アビフ、エルアザル、イタマル。
- 4 エルアザルはピネハスを生み、ピネハスはアビシュアを生み、
- 5 アビシュアはブキを生み、ブキはウジを生み、
- 6 ウジはゼラフヤを生み、ゼラフヤはメラヨテを生み、
- 7 メラヨテはアマルヤを生み、アマルヤはアヒトブを生み、
- 8 アヒトブはツァドクを生み、ツァドクはアヒマアツを生み、
- 9 アヒマアツはアザルヤを生み、アザルヤはヨハナンを生み、
- 10 ヨハナンはアザルヤを生んだ。これは、ソロモンがエルサレムに建てた宮で、祭司の務めを果たしたアザルヤである。
- 11 アザルヤはアマルヤを生み、アマルヤはアヒトブを生み、
- 12 アヒトブはツァドクを生み、ツァドクはシャルムを生み、
- 13 シャルムはヒルキヤを生み、ヒルキヤはアザルヤを生み、
- 14 アザルヤはセラヤを生み、セラヤはエホツァダクを生んだ。
- 15 エホツァダクは、主がネブカドネツアルの手によってユダとエルサレムを捕囚にしたとき、そこを去った。
- 16 レビ族は、ゲルショム、ケハテ、メラリ。
- 17 ゲルショム族の名は次のとおり。リブニ、シムイ。
- 18 ケハテ族は、アムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエル。
- 19 メラリ族は、マフリ、ムシ。これが一族ごとのレビ人の諸氏族である。
- 20 ゲルショムに属する者は、その子リブニ、その子ヤハテ、その子ジンマ、
- 21 その子ヨアフ、その子イド、その子ゼラフ、その子エオテライ。
- 22 ケハテ族は、その子アミナダブ、その子コラ、その子アシル、
- 23 その子エルカナ、その子エブヤサフ、その子アシル、
- 24 その子タハテ、その子ウリエル、その子ウジヤ、その子シャウル。
- 25 エルカナの子は、アマサイ、アヒモテ。
- 26 エルカナについては、エルカナの子は、その子ツォファイ、その子ナハテ、
- 27 その子エリアブ、その子エロハム、その子エルカナ。
- 28 サムエルの子は、長子ヨエル、次男アビヤ。
- 29 メラリの子は、マフリ、その子リブニ、その子シムイ、その子ウザ、
- 30 その子シムア、その子ハギヤ、その子アサヤ。

- 31 契約の箱が安置所に納められた後、ダビデが主の宮の歌を受け持たせるために立てた人たちは、次のとおりである。
- 32 ソロモンがエルサレムに主の宮を建てるまでは、この者たちが会見の天幕である幕屋の前で、歌をもって仕え、それぞれ定めにしたがって奉仕を受け持った。
- 33 奉仕をした者たちとその一族は次のとおりである。ケハテ族からはヨエルの子、歌い手ヘマン。ヨエルはサムエルの子、
- 34 サムエルはエルカナの子、エルカナはエロハムの子、エロハムはエリエルの子、エリエルはトアハの子、
- 35 トアハはツフの子、ツフはエルカナの子、エルカナはマハテの子、マハテはアマサイの子、
- 36 アマサイはエルカナの子、エルカナはヨエルの子、ヨエルはアザルヤの子、アザルヤはゼパニヤの子、
- 37 ゼパニヤはタハテの子、タハテはアシルの子、アシルはエブヤサフの子、エブヤサフはコラの子、
- 38 コラはイツハルの子、イツハルはケハテの子、ケハテはレビの子、レビはイスラエルの子である。
- 39 ヘマンの兄弟アサフは、彼の右側に立って仕えた。アサフはベレクヤの子、ベレクヤはシムアの子、
- 40 シムアはミカエルの子、ミカエルはバアセヤの子、バアセヤはマルキヤの子、
- 41 マルキヤはエテニの子、エテニはゼラフの子、ゼラフはアダヤの子、
- 42 アダヤはエタンの子、エタンはジンマの子、ジンマはシムイの子、
- 43 シムイはヤハテの子、ヤハテはゲルショムの子、ゲルショムはレビの子である。
- 44 左側には、彼らの同胞メラリ族の、キシの子エタンがいた。キシはアブディの子、アブディはマルクの子、
- 45 マルクはハシャブヤの子、ハシャブヤはアマツヤの子、アマツヤはヒルキヤの子、
- 46 ヒルキヤはアムツィの子、アムツィはバニの子、バニはシェメルの子、
- 47 シェメルはマフリの子、マフリはムシの子、ムシはメラリの子、メラリはレビの子である。
- 48 彼らの同胞のレビ人には、神の宮である幕屋のあらゆる奉仕が与えられた。
- 49 アロンとその子らは、全焼のささげ物の祭壇と香の祭壇の上に煙を立ち上らせて、至聖所のすべての務めに当たり、イスラエルのために宥めを行った。すべて、神のしもべモーセが命じたとおりである。
- 50 アロンの子孫は次のとおりである。その子エルアザル、その子ピネハス、その子アビシュア、
- 51 その子ブキ、その子ウジ、その子ゼラフヤ、
- 52 その子メラヨテ、その子アマルヤ、その子アヒトブ、
- 53 その子ツァドク、その子アヒマアツ。

- 54 彼らの居住地は、地域内の宿営ごとに言えば次のとおりである。ケハテ人の氏族に属するアロンの子らについては、彼らがくじに当たったので、
- 55 彼らには、ユダの地にあるヘブロンと、その周りの放牧地が与えられた。
- 56 ただし、この町の畑とその村々は、エフンネの子カレブに与えられた。
- 57 アロンの子らには、逃れの町であるヘブロン、リブナとその放牧地、ヤティル、エシュテモアとその放牧地、
- 58 ヒレズとその放牧地、デビルとその放牧地、
- 59 アシャンとその放牧地、ベテ・シメシュとその放牧地、
- 60 またベニヤミン部族から、ゲバとその放牧地、アレメテとその放牧地、アナトテとその放牧地が与えられた。彼らの町は全部で十三あり、各氏族の町になった。
- 61 残りのケハテ族には、あの半部族、すなわちマナセの半部族に属する氏族から、くじによって十の町が与えられた。
- 62 ゲルシヨム族の諸氏族には、イッサカル部族、アシェル部族、ナフタリ部族、バシヤンのマナセ部族から十三の町が与えられた。
- 63 メラリ人の諸氏族には、ルベン部族、ガド部族、ゼブルン部族から、くじによって十二の町が与えられた。
- 64 イスラエルの子らは、レビ人にこれらの町とその放牧地を与えるとき、
- 65 ユダ部族、シメオン部族、ベニヤミン部族から、これらの町々をくじによって与えた。彼らはその町々の名を読み上げた。
- 66 ケハテ人諸氏族のうちの一部には、エフライム部族からその地域の町々が与えられた。
- 67 彼らには、エフライムの山地にある逃れの町シェケムとその放牧地、ゲゼルとその放牧地、
- 68 ヨクメアムとその放牧地、ベテ・ホロンとその放牧地、
- 69 アヤロンとその放牧地、ガテ・リンモンとその放牧地が与えられた。
- 70 残りのケハテ族の氏族には、マナセの半部族から、アネルとその放牧地、バラムとその放牧地が与えられた。
- 71 ゲルシヨム族には、マナセの半部族に属する氏族から、バシヤンのゴランとその放牧地、アシュタロテとその放牧地、
- 72 イッサカル部族から、ケデシュとその放牧地、ダベラテとその放牧地、
- 73 ラモテとその放牧地、アネムとその放牧地、
- 74 アシェル部族から、マシャルとその放牧地、アブドンとその放牧地、
- 75 フコクとその放牧地、レホブとその放牧地、
- 76 ナフタリ部族から、ガリラヤのケデシュとその放牧地、ハモンとその放牧地、キルヤタイムとその放牧地が与えられた。
- 77 残りのメラリ族には、ゼブルン部族から、リンモノとその放牧地、タボルとその放牧地、
- 78 エリコからヨルダン川を渡った地方、すなわち、ヨルダン川の東では、ルベン部族から、荒野にあるベツェルとその放牧地、ヤハツとその放牧地、
- 79 ケデモテとその放牧地、メファアテとその放牧地、

- 80** ガド部族から、ギルアデのラモテとその放牧地、マハナイムとその放牧地、
- 81** ヘシュボンとその放牧地、ヤゼルとその放牧地が与えられた。

第7章

- 1 イッサカル族の者は、トラ、プア、ヤシュブ、シムロンの四人。
- 2 トラの子は、ウジ、レファヤ、エリエル、ヤフマイ、イブサム、シェムエル。これらは彼らの父トラ一族のかしらたちで、その家系の勇士たちであった。その数はダビデの時代には二万二千六百人であった。
- 3 ウジの子は、イズラフヤ。イズラフヤの子は、ミカエル、オバデヤ、ヨエル、イシヤ。彼ら五人はすべてかしらであった。
- 4 この人々に加えて、彼ら一族の家系によると、戦いに備えた部隊は三万六千人であった。彼らが多くの妻子を得たからである。
- 5 イッサカル全氏族の同胞で、系図に記載された勇士は全部で八万七千人であった。
- 6 ベニヤミンの子はベラ、ベケル、エディアエルの三人。
- 7 ベラの子はエツボン、ウジ、ウジエル、エリモテ、イリの五人。彼らは一族のかしらであり、勇士であった。系図に記載された者は二万二千三十四人であった。
- 8 ベケルの子はゼミラ、ヨアシュ、エリエゼル、エルヨエナイ、オムリ、エリモテ、アビヤ、アナトテ、アレメテ。これらはみな、ベケルの子であった。
- 9 その子孫のうち、彼らの系図に記載された一族のかしらで勇士である者の数は、二万二百人であった。
- 10 エディアエルの子はビルハン。ビルハンの子はエウシュ、ベニヤミン、エフデ、ケナアナ、ゼタン、タルシシュ、アヒシャハル。
- 11 これらはみな、エディアエルの子であった。彼らは一族のかしらで勇士であり、一万七千二百人が従軍して戦いに出る者であった。
- 12 シュピムとフピムはイルの子であり、フシムはアヘルの子であった。
- 13 ナフタリの子はヤハツィエル、グニ、エツエル、シャルム。これらはビルハの子であった。
- 14 マナセの子は、彼のアラム人の側女が産んだアスリエル。彼女はギルアデの父マキルを産んだ。
- 15 マキルはフピムとシュピムのために妻を迎えた。彼の妹の名はマアカといった。次男の名はツェロフハデ。ツェロフハデには娘たちがあった。
- 16 マキルの妻マアカは男の子を産み、その名をペレシュと呼んだ。その弟の名はシェレシュであり、その子はウラムとレケムであった。
- 17 ウラムの子はベダン。これらがマナセの子マキルの子であるギルアデの子であった。
- 18 また彼の妹モレケテが産んだのは、イシュホデ、アビエゼル、マフラ。
- 19 シェミダの子は、アフヤン、シェケム、リクヒ、アニアム。
- 20 エフライムの子はシュテラフ。その子はベレデ、その子はタハテ、その子はエルアダ、その子はタハテ、
- 21 その子はザバデ、その子はシュテラフ。そして、エゼルとエルアデ。二人はこの地の生まれであるガテの人々に殺された。下って行って家畜を奪おうとしたからである。

- 22** 彼らの父エフライムは、何日もの間喪に服したので、彼の兄弟たちが来て彼を慰めた。
- 23** それからエフライムは妻のところに入った。彼女は身ごもって男の子を産んだ。彼はその子をベリアと名づけた。その家がわざわざの渦中にあったからである。
- 24** エフライムの娘はシェエラであった。彼女は上および下ベテ・ホロン、そしてウゼン・シェエラを建てた。
- 25** 彼の子はレファフ。その子はレシェフ、その子はテラフ、その子はタハン、
- 26** その子はラダン、その子はアミフデ、その子はエリシャマ、
- 27** その子はヌン、その子はヨシュア。
- 28** 彼らの所有地と居住地は、ベテルとそれに属する村々、東方ではナアラン、西方ではゲゼルとそれに属する村々、それからシェケムとそれに属する村々、そしてアヤとそれに属する村々に至る。
- 29** マナセ族の領土内には、ベテ・シェアンとそれに属する村々、タアナクとそれに属する村々、メギドとそれに属する村々、ドルとそれに属する村々があった。これらの地に、イスラエルの子ヨセフの子孫が住んだ。
- 30** アシエルの子はイムナ、イシュワ、イシュウィ、ベリアと彼らの姉妹セラフ。
- 31** ベリアの子はヘベル、マルキエル。マルキエルはビルザイテの父。
- 32** ヘベルが生んだのは、ヤフレテ、ショメル、ホタムと彼らの姉妹シュア。
- 33** ヤフレテの子はパサク、ビムハル、アシュワテ。これらがヤフレテの子であった。
- 34** ショメルの子はアヒ、ロフガ、フバ、アラム。
- 35** 彼の兄弟ヘレムの子はツォファフ、イムナ、シェレシュ、アマル。
- 36** ツォファフの子はスアハ、ハルネフェル、シュアル、ベリ、イムラ、
- 37** ベツェル、ホデ、シャンマ、シルシャ、イテラン、ベエラ。
- 38** エテルの子はエフンネ、ピスバ、アラ。
- 39** ウラの子はアラフ、ハニエル、リツヤ。
- 40** これらはみなアシエルの子で、一族のかしら、選り抜きの勇士、首長たちのかしらであった。戦いのとき戦に出る者として彼らの系図に記載された者の数は、二万六千人であった。

第8章

- 1 ベニヤミンが生んだのは、その長子ベラ、次男アシュベル、三男アハラフ、
- 2 四男ノハ、五男ラファ。
- 3 ベラの子はアダル、ゲラ、アビフデ、
- 4 アビシュア、ナアマン、アホアハ、
- 5 ゲラ、シェフファン、フラム。
- 6 エフデの子は次のとおりである。彼らはゲバの住民の一族のかしらで、マナハテに捕らえ移された者たちである。
- 7 この人々を捕らえ移したのはナアマンとアヒヤとゲラである。エフデはウザとアヒフデを生んだ。
- 8 シャハライムは、その妻フシムとバアラを去らせてから、モアブの野で子をもうけた。
- 9 彼がその妻ホデシュによって生んだのは、ヨバブ、ツイブヤ、メシャ、マルカム、
- 10 エウツ、サケヤ、ミルマ。これらは彼の子で、一族のかしらであった。
- 11 彼がフシムによって生んだのは、アビトブとエルパアル。
- 12 エルパアルの子はエベル、ミシュアム、シェメデ。シェメデはオノとロデおよびそれに属する村々を建てた。
- 13 またベリアとシェマ。二人はアヤロンの住民の一族のかしらで、ガテの住民を追い払った。
- 14 アフヨ、シャシャク、エレモテ、
- 15 ゼバデヤ、アラド、エデル、
- 16 ミカエル、イシュパ、ヨハはベリアの子であった。
- 17 ゼバデヤ、メシュラム、ヒズキ、ヘベル、
- 18 イシュメライ、イズリア、ヨバブ。これらはエルパアルの子であった。
- 19 ヤキム、ジクリ、ザブディ、
- 20 エリエナイ、ツイレタイ、エリエル、
- 21 アダヤ、ベラヤ、シムラテ。これらはシムイの子であった。
- 22 イシュパン、エベル、エリエル、
- 23 アブドン、ジクリ、ハナン、
- 24 ハナンヤ、エラム、アントティヤ、
- 25 イフデヤ、ペヌエル。これらはシャシャクの子であった。
- 26 シャムシェライ、シェハルヤ、アタルヤ、
- 27 ヤアレシュヤ、エリヤ、ジクリ。これらはエロハムの子であった。
- 28 この人たちは、彼らの家系の一族のかしらであり、おもだった者たちであった。彼らはエルサレムに住んだ。
- 29 ギブオンにはギブオンの父が住んだ。その妻の名はマアカ。

- 30** その子は長子アブドン、それにツル、キシユ、バアル、ナダブ、
- 31** ゲドル、アフヨ、ゼケル。
- 32** ミクロテはシムアを生んだ。彼らも、その兄弟たちとともに、向かい合ってエルサレムに住んだ。
- 33** ネルはキシユを生み、キシユはサウルを生み、サウルはヨナタン、マルキ・シュア、アビナダブ、エシュバアルを生んだ。
- 34** ヨナタンの子はメリブ・バアル。メリブ・バアルはミカを生んだ。
- 35** ミカの子はピトン、メレク、タアレア、アハズ。
- 36** アハズはエホアダを生み、エホアダは、アレメテ、アズマウエテ、ジムリを生み、ジムリはモツァを生んだ。
- 37** モツァはピンアを生んだ。その子はラファ、その子はエルアサ、その子はアツェル。
- 38** アツェルには六人の子がいた。その名は次のとおりである。アズリカム、ボクル、イシュマエル、シェアルヤ、オバデヤ、ハナン。これらはみな、アツェルの子であった。
- 39** 彼の兄弟エシェクの子は、長子ウラム、次男エウシュ、三男エリフェレテ。
- 40** ウラムの子たちは勇士であり、弓を引く人々であった。子や孫が多く、百五十人いた。以上はみな、ベニヤミンの子孫であった。

第9章

- 1 全イスラエルは系図に記載された。それは『イスラエルの王の書』にまさしく記されている。ユダは、その不信の罪のゆえに、バビロンに捕らえ移されていた。
- 2 彼らの所有地である彼らの町々に戻って来て最初に住みついたのは、イスラエルの人々、祭司たち、レビ人および宮のしもべたちであった。
- 3 エルサレムには、ユダ族、ベニヤミン族、エフラ임およびマナセ族の者が住んだ。
- 4 アミフデの子ウタイ。アミフデはオムリの子、オムリはイムリの子、イムリはバニの子。バニはユダの子ペレツの子孫である。
- 5 シロ人からは、長子アサヤとその子孫。
- 6 ゼラフ族からは、エウエルとその同族六百九十人。
- 7 ベニヤミン族からは、サル。彼はセヌアの子ホダウヤの子であるメシュラムの子。
- 8 エロハムの子イブネヤ、ミクリの子ウジの子エラ、イブニヤの子レウエルの子であるシェファテヤの子メシュラム。
- 9 ならびに彼らの家系の同族九百五十六人。これらはみな、父祖の家ごとの一族のかしらに当たる人たちであった。
- 10 祭司たちからは、エダヤ、エホヤリブ、ヤキン、
- 11 ヒルキヤの子アザルヤ。ヒルキヤはメシュラムの子、メシュラムはツアドクの子、ツアドクはメラヨテの子、メラヨテは神の宮のつかさアヒトブの子である。
- 12 エロハムの子アダヤ。エロハムはパシュフルの子、パシュフルはマルキヤの子である。またアディエルの子マサイ。アディエルはヤフゼラの子、ヤフゼラはメシュラムの子、メシュラムはメシレミテの子、メシレミテはイメルの子である。
- 13 彼らの同族で一族のかしらたちは千七百六十人。彼らは、神の宮の奉仕の仕事に熟練した勇士たちであった。
- 14 レビ人からは、メラリ族のハシャブヤの子アズリカムの子ハシュブの子であるシェマヤ。
- 15 また、バクバカル、ヘレシュ、ガラル、マタンヤ。マタンヤはアサフの子ジクリの子であるミカの子。
- 16 オバデヤ。彼はエドトンの子ガラルの子であるシェマヤの子。そしてベレクヤ。彼はネトファ人の村々に住んだエルカナの子アサの子であった。
- 17 門衛はシャルム、アクブ、タルモン、アヒマンで、彼らの兄弟シャルムがかしらであった。
- 18 彼は今日に至るまで、東方にある王の門にいる。この人々はレビ人の宿営の門衛であった。
- 19 コラの子エブヤサフの子であるコレの子シャルムと、その父の家に属する彼の兄弟たち、すなわちコラ人は、その奉仕の務めに就き、天幕の入り口を守る者となった。彼らの一族は主の宿営の門口を守る者であった。
- 20 かつてはエルアザルの子ピネハスが彼らの長であり、主が彼とともにおられた。
- 21 メシェレムヤの子ゼカリヤは会見の天幕の戸口を守る門衛であった。

- 22 入り口にいる門衛として選ばれたこれらの人たちは、合わせて二百十二人であった。彼らはそれぞれの村で系図に記載された。ダビデと予見者サムエルが、彼らの忠実さに基づいて、この職務を定めたのである。
- 23 彼らとその子らは、守衛として主の宮すなわち天幕の家の門を受け持った。
- 24 四方、すなわち東、西、北、南に門衛がいた。
- 25 彼らの村々の同胞は、七日目ごとに来て、決まった時から決まった時まで、彼らとともにいなければならなかった。
- 26 門衛の長である四人のレビ人は信任を得て、神の宮の脇部屋および宝物倉を受け持った。
- 27 彼らは神の宮の周りで夜を過ごした。彼らには任務が課せられていて、朝ごとに鍵を開けたからである。
- 28 彼らの中のある者は、奉仕のための器具を受け持った。数を合わせてこれらを運び入れ、数を合わせてこれらを運び出した。
- 29 また彼らの中のある者は、用具、すべての聖なる用具と、小麦粉、ぶどう酒、油、乳香、バルサム油の管理を割り当てられた。
- 30 祭司の子の中には、バルサム油の香料を調合する者たちもいた。
- 31 レビ人の一人、コラ人シャルムの長男とマティテヤは、平たい菓子を作る務めを任された。
- 32 また、ケハテ族の彼らの同胞のうちには、並べ供えるパンを担当し、安息日ごとに用意する者たちもいた。
- 33 これらは歌い手で、レビ人の一族のかしらであり、各部屋にいて、ほかの務めを免れていた。昼となく夜となく彼らはその務めに携わったからである。
- 34 この人たちは、レビ人の一族のかしらであり、その家系のうちのおもだった者であった。彼らはエルサレムに住んだ。
- 35 ギブオンにはギブオンの父エイエルが住んだ。その妻の名はマアカ。
- 36 その子は、長子アブドン、それにツル、キシユ、バアル、ネル、ナダブ、
- 37 ゲドル、アフヨ、ゼカリヤ、ミクロテ。
- 38 ミクロテはシムアムを生んだ。彼らも、その兄弟たちとともに、向かい合ってエルサレムに住んだ。
- 39 ネルはキシユを生み、キシユはサウルを生み、サウルはヨナタン、マルキ・シュア、アビナダブ、エシュバアルを生んだ。
- 40 ヨナタンの子はメリブ・バアル。メリブ・バアルはミカを生んだ。
- 41 ミカの子はピトン、メレク、タフレア。
- 42 アハズはヤアラを生み、ヤアラはアレメテ、アズマウエテ、ジムリを生み、ジムリはモツァを生んだ。
- 43 モツァはビンアを生んだ。その子はレファヤ、その子はエルアサ、その子はアツエル。
- 44 アツエルには六人の子がいた。その名は次のとおりである。アズリカム、ボクル、イシュマエル、シェアルヤ、オバデヤ、ハナン。これらはアツエルの子であった。

第10章

- 1 さて、ペリシテ人はイスラエルと戦った。イスラエル人はペリシテ人の前から逃げ、ギルボア山で刺されて倒れた。
- 2 ペリシテ人はサウルとその息子たちに追い迫って、サウルの息子ヨナタン、アビナダブ、マルキ・シュアを打ち殺した。
- 3 攻撃はサウルに集中し、射手たちが彼を狙い撃ちにしたので、彼は射手たちのゆえに傷を負った。
- 4 サウルは道具持ちに言った。「おまえの剣を抜いて、私を刺し殺してくれ。さもないと、あの無割礼の者たちがやって来て、私をなぶりものにしよう。」しかし、道具持ちは非常に恐れて、とうていその気になれなかった。それでサウルは剣を取り、その上に倒れ込んだ。
- 5 道具持ちは、サウルが死んだのを見ると、自分も剣の上に身を伏せて死んだ。
- 6 こうしてサウルは死に、彼の三人の息子も彼の全家も、ともに死んだ。
- 7 谷にいたイスラエル人はみな、兵たちが逃げ、サウルとその息子たちが死んだのを見て、自分たちの町々を捨てて逃げた。それで、ペリシテ人がやって来て、そこに住んだ。
- 8 翌日、ペリシテ人が、刺し殺された者たちからはぎ取ろうとしてやって来たとき、サウルとその息子たちがギルボア山で倒れているのを見つけた。
- 9 彼らはサウルからはぎ取り、彼の首と武具を取った。そして、ペリシテ人の地の隅々にまで人を送り、彼らの偶像と民とに告げ知らせた。
- 10 彼らはサウルの武具を彼らの神々の神殿に奉納し、彼の首はダゴンの神殿にさらした。
- 11 ヤベシュ・ギルアデの人々はみな、ペリシテ人がサウルに行った仕打ちをすべて聞いた。
- 12 そこで勇士たちがみな立ち上がり、サウルの亡骸と彼の息子たちの亡骸を取り上げ、これをヤベシュに運んで、彼らの骨をヤベシュにある榿の木の下に葬り、七日間、断食した。
- 13 このように、サウルは主の信頼を裏切った不信の罪のゆえに死んだ。彼は主のことばを守らず、霊媒に伺いを立てることまでして、
- 14 主に尋ねることをしなかった。そのため、主は彼を殺し、王位をエッサイの子ダビデに回された。

第11章

- 1 全イスラエルは、ヘブロンのだビデのもとに集まってこう言った。「ご覧ください。私たちはあなたの骨肉です。
- 2 これまで、サウルが王であったときでさえ、イスラエルを動かしていたのはあなたでした。あなたの神、主はあなたに言われました。『あなたがわたしの民イスラエルを牧し、あなたがわたしの民イスラエルの君主となる』と。』
- 3 イスラエルの全長老はヘブロン王のもとにきた。だビデはヘブロンで、主の御前に彼らと契約を結び、彼らはサムエルによる主のことばのとおり、だビデに油を注いでイスラエルの王とした。
- 4 だビデと全イスラエルはエルサレム、すなわちエブスに行った。そこには、その地の住民であるエブス人がいた。
- 5 エブスの住民はだビデに言った。「おまえは、ここに攻めて来ることなどできない。」しかし、だビデはシオンの要害を攻め取った。これがだビデの町である。
- 6 そのとき、だビデは言った。「だれでも最初にエブス人を討つ者がかしらとなり、長となる。」ツェルヤの子ヨアブが最初に攻め上ったので、彼がかしらとなった。
- 7 だビデはこの要害に住んだ。それゆえ、これはだビデの町と呼ばれた。
- 8 彼は、町の周りに城壁を、ミロから一周するまで築いた。町のほかの部分はヨアブが築き直した。
- 9 だビデはますます大いなる者となり、万軍の主が彼とともにおられた。
- 10 だビデの勇士のかしらたちは次のとおりである。彼らは、だビデとともにその王権を強固にし、全イスラエルとともに、イスラエルについての主のことばのとおり、彼を王とした人々である。
- 11 だビデの勇士たちの名簿は次のとおりである。補佐官のかしら、ハクモニの子ヤショブアム。彼は槍を振るって一度に三百人を刺し殺した。
- 12 彼の次は、アホア八人ドドの子エルアザル。彼は三勇士の一人であった。
- 13 彼がだビデとともにパス・ダミムにいたとき、ペリシテ人が戦うためにそこに集まった。そこには、大麦が豊かに実った畑があった。兵はペリシテ人の前から逃げたが、
- 14 彼らはその畑の真ん中に踏みとどまってこれを守り、ペリシテ人を討った。主は大勝利をもって救われた。
- 15 三十人のかしらのうちのこの三人は、岩場にあるアドラムの洞穴にいるだビデのところに下って来た。ペリシテ人の陣営はレファイムの谷間に敷かれていた。
- 16 そのときだビデは要害にいて、ペリシテ人の守備隊はそのときベツレヘムにいた。
- 17 だビデは切に望んで、「だれか私に、ベツレヘムの門にある井戸の水を飲ませてくれたらよいのだが」と言った。
- 18 三人はペリシテ人の陣営を突き破って、ベツレヘムの門にある井戸から水を汲み、それを携えてだビデのところに持って来た。しかしだビデはそれを飲もうとはせず、それを主の前に注いで、

- 19 こう言った。「そんなことをするなど、私の神の御前に、絶対にできない。いのちをかけて行った人たちの血を、どうして飲めるだろうか。彼らは、いのちをかけてこれを運んで来てくれたのだ。」彼はそれを飲もうとはしなかった。三勇士は、そのようなことまでしたのである。
- 20 さて、ヨアブの兄弟アビシャイは三十人のかしらであった。彼は槍を振るって三百人を刺し殺し、あの三人とともに名をあげた。
- 21 彼は三十人の中で二倍の誉れを受けていたので、彼らの長になったが、あの三人には及ばなかった。
- 22 エホヤダの子ベナヤは、カブツェエル出身で、多くの手柄を立てた力ある人であった。彼はモアブの英雄二人を打ち殺した。また、ある雪の日に、洞穴の中に下りて行って雄獅子を打ち殺した。
- 23 彼はまた、身長が五キュビトもあるエジプト人を打ち殺した。このエジプト人は、手に機織りの巻き棒のような槍を持っていた。ベナヤは杖を持ってその男のところの下って行き、エジプト人の手から槍をもぎ取って、その槍で彼を殺した。
- 24 エホヤダの子ベナヤはこれらのことをして、三勇士とともに名をあげた。
- 25 彼はあの三十人の中でも最も誉れが高かったが、あの三人には及ばなかった。ダビデは彼を自分の護衛長にした。
- 26 勇士たちは次のとおりである。ヨアブの兄弟アサエル。ベツレヘム出身のドドの子エルハナン。
- 27 ハロリ人シャモテ。ペロニ人ヘレツ。
- 28 テコア人イケシュの子イラ。アナトテ人アビエゼル。
- 29 フシャ人シベカイ。アホア八人イライ。
- 30 ネットファ人マフライ。ネットファ人バアナの子ヘレデ。
- 31 ギブア出身のベニヤミン族リバイの子イタイ。ピルアトン人ベナヤ。
- 32 ガアシュの谷の出であるフライ。アルバト人アビエル。
- 33 バハルム人アズマウェテ。シャアルビム人エルヤフバ。
- 34 ギゾ人ハシェムの息子たち。ハラル人シャゲの子ヨナタン。
- 35 ハラル人サカルの子アヒアム。ウルの子エリファル。
- 36 メケラテ人ヘフェル。ペロン人アヒヤ。
- 37 カルメル人ヘツロ。エズバイの子ナアライ。
- 38 ナタンの兄弟ヨエル。ハグリの子ミブハル。
- 39 アンモン人ツェレク。ツェルヤの子ヨアブの道具持ち、ベエロテ人ナフライ。
- 40 エテル人イラ。エテル人ガレブ。
- 41 ヒットタイト人ウリヤ。アフライの子ザバデ。
- 42 ルベン人シザの子アディナ。彼はルベン人のかしらで、三十人を率いていた。
- 43 マアカの子ハナン。ミテニ人ヨシャファテ。
- 44 アシュタロテ人ウジヤ。アロエル人ホタムの子シャマとエイエル。
- 45 ティツ人シムリの子エディアエルとその兄弟ヨハ。

- 46** マハウィム人エリエル。エルナアムの子エリバイとヨシャウヤ。モアブ人イテマ。
- 47** エリエル、オベデ、メツォバヤ人ヤアシエル。

第12章

- 1 ダビデがまだキシユの子サウルから身を避けていたとき、ツィクラグの彼のもとに来た人たちは次のとおりである。彼らは、勇士たちの中で戦いの加勢をした人たちであり、
- 2 弓を取る者で、右手でも左手でも石を投げたり弓を射たりでき、サウルの同族ベニヤミンの出であった。
- 3 かしらはアヒエゼル、次はヨアシユ。彼らはギブア人シェマアの子。エジエルとペレテ。彼らはアズマウェテの子。ベラカとアナトテ人エフー。
- 4 ギブオン人イシュマヤ、彼は三十人の中の勇士で、三十人の長であった。次に、エレミヤ、ヤハジエル、ヨハナン、ゲデラ人エホザバデ、
- 5 エルウザイ、エリモテ、ベアルヤ、シェマルヤ、ハリフ人シェファテヤ、
- 6 エルカナ、イシヤ、アザルエル、ヨエゼル、ヤショブアム。これらはコラ人である。
- 7 ヨエラとゼバデヤ。これらはゲドル出身のエロハムの子である。
- 8 また、ガド人から離れて、荒野の要害にいたダビデのもとに来た人たちは、勇士で戦いにたけた人たちであり、大盾と槍の備えがあった。彼らの顔は獅子の顔で、速く走ることは山のかもしかのようであった。
- 9 そのかしらはエゼル。第二はオバデヤ。第三はエリアブ。
- 10 第四はミシュマナ。第五はエレミヤ。
- 11 第六はアタイ。第七はエリエル。
- 12 第八はヨハナン。第九はエルザバデ。
- 13 第十はエレミヤ。第十一はマクバナイ。
- 14 これらはガド族から出た軍のかしらたちで、その最も小さい者も、一人が百人に匹敵し、最も大いなる者は千人に匹敵した。
- 15 この人たちは、第一の月、すなわちヨルダン川がどこの岸もいっぱいにあふれるとき、これを渡った者たちである。彼らは、谷にいた人々をすべて東に西に追い散らした。
- 16 ベニヤミンとユダの子孫からも、要害のダビデのもとに来た人たちがいた。
- 17 ダビデは彼らの前に出て行き、彼らに答えて言った。「もし、あなたがたがやって来たのが平和のためであり、私を助けようとするのなら、私の心はあなたがたと一つだ。しかし、もし、私の手に暴虐がないのに、私をだまして、私の敵に渡すためなら、私たちの父祖の神がそれを見て、責められますように。」
- 18 そのとき、御霊が補佐官の長アマサイをおおった。「ダビデよ、私たちはあなたの味方。エッサイの子よ、私たちはあなたとともにいる。平安があるように。あなたに平安があるように。あなたを助ける者に平安があるように。まことにあなたの神はあなたを助ける。」ダビデは彼らを受け入れ、部隊のかしらとした。
- 19 ダビデがペリシテ人とともに、サウルとの戦いに出たとき、マナセからも何人かの者がダビデのもとに下って来た。しかし彼らはペリシテ人を助けなかった。ペリシテ人の領主たちが協議をし、「彼はわれわれの首を持って、主君サウルのもとに投降するだろう」と言って、彼を送り返したからである。

- 20 ダビデがツィクラグに行ったとき、マナセからアデナフ、エホザバデ、エディアエル、ミカエル、エホザバデ、エリフ、ツィレタイが彼のもとに下って来た。彼らはマナセに属する千人隊のかしらであった。
- 21 彼らはダビデを助けて、あの略奪隊に対抗した。みな勇士であり、軍における長であった。
- 22 人々はダビデを助けるため、日に日に彼のもとに来て、ついに神の陣営のような大陣営となった。
- 23 主のことばのとおりにはサウルの支配をダビデに移すために、ヘブロンにいるダビデのもとにきた武装した者のかしらの数は次のとおりである。
- 24 ユダ族で、大盾と槍を手にして武装した者六千八百人。
- 25 シメオン族からは、戦に出る勇士七千百人。
- 26 レビ族からは四千六百人。
- 27 エホヤダはアロンの家のつかさで、彼とともにいた者は三千七百人。
- 28 ツアドクは若い勇士で、その一族には二十二人の隊長がいた。
- 29 サウルの同胞ベニヤミン族からは三千人。その大多数は、それまでサウルの家を守り続けてきた。
- 30 エフライム族からは二万八百人。彼らは勇士で、その一族で名のある人々であった。
- 31 マナセの半部族からは、ダビデを王にするために指名されて来た者一万八千人。
- 32 イッサカル族からは、時を悟り、イスラエルが何をなすべきかを知っていた、かしら二百人。その同胞はみな彼らの命令に従った。
- 33 ゼブルンからは、完全に武装して戦いの備えをして従軍していた者五万人。彼らは心を一つにして集まった。
- 34 ナフタリからは隊長一千人。彼らのもとに大盾と槍を取る者三万七千人。
- 35 ダン人からは、戦いの備えをした者二万八千六百人。
- 36 アシェルからは、戦いの備えをして従軍する者四万人。
- 37 ヨルダンの川向こう、ルベン人、ガド人、マナセの半部族からは、戦いのために完全武装をした者十二万人。
- 38 これらすべての、戦いに備えて集まった戦士たちは、ダビデを全イスラエルの王にしようと、全き心でヘブロンに来た。イスラエルの残りの者たちも、ダビデを王にすることで心が一つになっていた。
- 39 彼らはダビデとともに三日間そこにとどまり、食べたり飲んだりした。彼らの兄弟たちが彼らのために用意したのである。
- 40 彼らに近い者たちも、イッサカル、ゼブルン、ナフタリに至るまで、ろば、らくだ、らば、牛に載せて食べ物を運んで来た。小麦粉の菓子、干しいちじく、干しぶどう、ぶどう酒、油、牛、羊などが数多くあった。イスラエルに喜びがあったからである。

第13章

- 1 ダビデは千人隊と百人隊の長たち、およびすべての隊長と協議し、
- 2 イスラエルの全会衆に言った。「もしあなたがたが良しとし、私たちの神、主から出たこととなら、イスラエル全土に残っている私たちの同胞に一齐に使者を送ろう。彼らのうちには、放牧地のある町々の祭司やレビ人もいる。彼らを私たちのもとに集めよう。」
- 3 私たちの神の箱を私たちのもとに持ち帰ろう。私たちは、サウルの時代には、これを顧みなかったから。」
- 4 すると全会衆は、そうしようと言った。このことが、すべての民の目には良いことに思えたからである。
- 5 そこで、ダビデは、神の箱をキルヤテ・エアリムから運ぶため、エジプトのシホルからレボ・ハマテに至るまでの全イスラエルを召集した。
- 6 ダビデと全イスラエルは、バアラ、すなわちユダに属するキルヤテ・エアリムに上り、そこから、「ケルビムに座しておられる主」という名で呼ばれていた神の箱を運び上げようとした。
- 7 彼らはアビナダブの家から、神の箱を新しい荷車に載せ、ウザとアフヨがその荷車を御した。
- 8 ダビデと全イスラエルは、歌、豎琴、琴、タンバリン、シンバル、ラッパをもって、神の前で力の限り喜び踊った。
- 9 彼らがキドンの打ち場まで来たとき、ウザは手を伸ばして、箱を押さえた。牛がよろめいたからである。
- 10 すると、主の怒りがウザに向かって燃え上がり、彼を打った。彼が手を箱の上に伸ばしたからである。彼はその場で、神の前で死んだ。
- 11 ダビデの心は激した。主がウザに対して怒りを発せられたからである。その場所は今日までペレツ・ウザと呼ばれている。
- 12 その日、ダビデは神を恐れて言った。「どうして、神の箱を私のところに運び込むことができようか。」
- 13 そこでダビデは、箱を自分のところ、ダビデの町には移さず、ガテ人オベデ・エドムの家に戻した。
- 14 神の箱は、オベデ・エドムの一家とともに、彼の家に三か月とどまった。主は、オベデ・エドムの家と、彼に属するすべてのものを祝福された。

第14章

- 1 ツロの王ヒラムは、ダビデの王宮を建てるため、ダビデのもとに使者と、杉材、石工、木工を送った。
- 2 ダビデは、主が自分をイスラエルの王として堅く立ててくださり、主の民イスラエルのために、自分の王権が高く上げられていることを知った。
- 3 ダビデはエルサレムで、さらに妻たちを迎えた。ダビデはさらに息子たち、娘たちを生んだ。
- 4 エルサレムで彼に生まれた子の名は次のとおり。シャムア、ショバブ、ナタン、ソロモン、
- 5 イブハル、エリシュア、エリフェレテ、
- 6 ノガハ、ネフェグ、ヤフィア、
- 7 エリシャマ、ベエルヤダ、エリフェレテ。
- 8 ペリシテ人は、ダビデが油注がれて全イスラエルの王となったことを聞いた。ペリシテ人はみな、ダビデを狙って攻め上って来た。ダビデはそれを聞き、彼らを迎え撃ちに出た。
- 9 一方、ペリシテ人はやって来て、レファイムの谷間を襲った。
- 10 ダビデは神に伺った。「ペリシテ人に向かって攻め上げるべきでしょうか。彼らを私の手に渡してくださるでしょうか。」主は彼に言われた。「攻め上れ。わたしは彼らをあなたの手に渡す。」
- 11 彼らはバアル・ペラツィムに攻め上り、ダビデはそこで彼らを討った。ダビデは言った。「神は、水が破れ出るように、私の手を用いて私の敵を破られた。」それゆえ、その場所の名はバアル・ペラツィムと呼ばれた。
- 12 彼らはそこに自分たちの神々を置き去りにした。ダビデが命じたので、それらは火で焼かれた。
- 13 ペリシテ人は、再びその谷間を襲った。
- 14 ダビデが再び神に伺うと、神は彼に仰せられた。「彼らを追って上って行くな。彼らに面と向かわず回り込み、バルサム樹の茂みの前から彼らに向かえ。
- 15 バルサム樹の茂みの上で行進の音が聞こえたら、そのとき、あなたは攻めかかれ。神が、ペリシテ人の陣営を討つために、あなたより先に出ているからだ。」
- 16 ダビデは神が彼に命じられたとおりにした。彼らはギブオンからゲゼルまでのペリシテ人の陣営を討った。
- 17 こうして、ダビデの名声は全地に及んだ。主はすべての国々に、彼に対する恐れをもたらしされた。

第15章

- 1 ダビデは、ダビデの町に自分のために家を造り、また神の箱のために場所を定め、そのために天幕を張った。
- 2 そのとき、ダビデは言った。「レビ人でなければ、神の箱を担いではない。主は、主の箱を担がせ、とこしえまでもご自分に仕えさせようと、彼らを選ばれたからである。」
- 3 ダビデは全イスラエルをエルサレムに呼び集め、主の箱を、定めておいた場所へ運び上げようとした。
- 4 ダビデはアロンの子らとレビ人を集めた。
- 5 ケハテ族から、その長ウリエルと、彼の同族の者百二十人。
- 6 メラリ族から、その長アサヤと、彼の同族の者二百二十人。
- 7 ゲルショム族から、その長ヨエルと、彼の同族の者百三十人。
- 8 エリツァファン族から、その長シェマヤと、彼の同族の者二百人。
- 9 ヘブロン族から、その長エリエルと、彼の同族の者八十人。
- 10 ウジエル族から、その長アミナダブと、彼の同族の者百二十人。
- 11 ダビデは祭司ツァドクとエブヤタル、それにレビ人のウリエルとアサヤ、ヨエルとシェマヤ、エリエル、アミナダブを呼び寄せて、
- 12 こう言った。「あなたがたはレビ人の各家系のかしらである。あなたがたと同族の者たちは身を聖別し、イスラエルの神、主の箱を、私が定めておいた場所へ運び上げなさい。
- 13 最初の時には、あなたがたがいなかったため、私たちの神、主は私たちに怒りを発せられた。定めにしたがって、私たちが主を求めなかったからだ。」
- 14 そこで、祭司たちとレビ人たちは、イスラエルの神、主の箱を運び上げるために身を聖別した。
- 15 レビ人たちは、モーセが主のことばにしたがって命じたとおり、担い棒を肩に載せて神の箱を担いだ。
- 16 ダビデはレビ人の長たちに命じて、彼らの同族の者たちを歌い手として任命し、琴、豎琴、シンバルなどの楽器を手に、喜びの声をあげるようにさせた。
- 17 そこで、レビ人は、ヨエルの子ヘマン、彼の同族からベレクヤの子アサフ、彼らの同族メラリ族からクシャヤの子エタンを任命した。
- 18 また彼らとともに同族の第二の組として、ゼカリヤ、ベン、ヤアジエル、シェミラモテ、エヒエル、ウンニ、エリアブ、ベナヤ、マアセヤ、マティテヤ、エリフェレフ、ミクネヤ、門衛のオベデ・エドムとエイエルを任命した。
- 19 歌い手ヘマン、アサフ、エタンは、青銅のシンバルを鳴らした。
- 20 ゼカリヤ、アジエル、シェミラモテ、エヒエル、ウンニ、エリアブ、マアセヤ、ベナヤは、『アラモテの調べ』にのせて、琴を奏でた。
- 21 マティテヤ、エリフェレフ、ミクネヤ、オベデ・エドム、エイエル、アザズヤは、『第八の調べ』にのせ、豎琴に合わせて指揮した。

- 22** レビ人の長の一人であるケナンヤは歌唱を担当し、歌唱を導いた。彼はそれに通じていたからである。
- 23** ベレクヤとエルカナは箱を守る門衛であった。
- 24** 祭司たち、すなわちシェバンヤ、ヨシャファテ、ネタンエル、アマサイ、ゼカリヤ、ベナヤ、エリエゼルは、神の箱の前でラッパを吹き鳴らす者、オベデ・エドムとエヒヤは箱を守る門衛であった。
- 25** こうしてダビデは、イスラエルの長老たち、千人隊の長たちとともに行って、喜びをもって主の契約の箱をオベデ・エドムの家から運び上げようとした。
- 26** 神が主の契約の箱を担ぐレビ人を助けてくださったとき、彼らは雄牛七頭と雄羊七匹をいけにえとして献げた。
- 27** ダビデは上質の亜麻布の上着をまっていた。箱を担ぐすべてのレビ人、歌い手たち、歌い手たちの歌唱の導き手ケナンヤも同様であった。ダビデは亜麻布のエポデを身に着けていた。
- 28** 全イスラエルは歓声をあげ、角笛、ラッパ、シンバルを鳴らし、琴と豎琴を響かせて、主の契約の箱を運び上げた。
- 29** こうして、主の契約の箱はダビデの町に入った。サウルの娘ミカルは窓から見下ろしていたが、ダビデ王が飛び跳ねて喜び踊っているのを見て、心の中で彼を蔑んだ。

第16章

- 1 人々は神の箱を運び込んで、ダビデがそのために張った天幕の真ん中にそれを置き、神の前に全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げた。
- 2 ダビデは全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げ終えて、主の御名によって民を祝福した。
- 3 そしてイスラエルのすべての人に、男にも女にも、それぞれ、円形パン、なつめ椰子の菓子、干しぶどうの菓子を分け与えた。
- 4 それから、レビ人の中のある者たちを任命して主の箱の前で仕えさせ、イスラエルの神、主に向かってその御名を呼び、告白し、賛美するようにした。
- 5 かしらはアサフ、彼に次ぐ者は、ゼカリヤ、エイエル、シェミラモテ、エヒエル、マティテヤ、エリアブ、ベナヤ、オベデ・エドム、エイエル。彼らは琴や豎琴などの楽器を携え、アサフはシンバルを響かせた。
- 6 祭司ベナヤとヤハジエルは、ラッパを携え、常に神の契約の箱の前にいた。
- 7 その日、その時、初めてダビデはアサフとその兄弟たちを任命して、このように主に感謝をささげさせた。
- 8 主に感謝し、御名を呼び求めよ。 そのみわざを諸国の民の間に知らせよ。
- 9 主に歌え。主にほめ歌を歌え。 そのすべての奇しいみわざを語れ。
- 10 主の聖なる御名を誇りとせよ。 主を慕い求める者たちの心よ、喜べ。
- 11 主とその御力を尋ね求めよ。 絶えず御顔を慕い求めよ。
- 12 主が行われた奇しいみわざを思い起こせ。 その奇跡と御口のさばきを。
- 13 主のしもベイスラエルの裔よ。 主に選ばれた者、ヤコブの子らよ。
- 14 この方こそ、私たちの神、主。 そのさばきは全地にわたる。
- 15 心に留めよ。 主の契約をとこしえに。 命じられたみことばを、千代までも。
- 16 それは、アブラハムと結んだ契約。 イサクへの誓い。
- 17 主はそれをヤコブへの定めとして立てられた。 イスラエルへの、永遠の契約として。
- 18 そのとき主は言われた。「わたしは、あなたにカナンの地を与える。 あなたがたへのゆずりの地として。」
- 19 そのころ、あなたがたの数は少なく、 実にわずかで、そこでは寄留者であった。
- 20 彼らは、国から国へ、一つの王国からほかの民へと渡り歩いた。
- 21 しかし主は、だれにも彼らを虐げさせず、 彼らのために王たちを戒められた。
- 22 「わたしの油注がれた者たちに触れるな。 わたしの預言者たちに危害を加えるな。」
- 23 全地よ、主に歌え。 日から日へと、御救いの良い知らせを告げよ。
- 24 主の栄光を国々の間で語り告げよ。 その奇しいみわざを、あらゆる民の間で。
- 25 主は大いなる方、大いに賛美される方。 すべての神々にまさって恐れられる方だ。
- 26 まことに、どの民の神々もみな偽りだ。 しかし主は天をお造りになった。
- 27 威厳と威光は御前にあり、 力と喜びは御住まいにある。

- 28 もろもろの民の諸族よ、主に帰せよ。栄光と力を主に帰せよ。
- 29 御名の栄光を主に帰せよ。ささげ物を携えて、御前に来たれ。聖なる装いをして、主にひれ伏せ。
- 30 全地よ、主の御前におののけ。まことに、世界は堅く据えられ揺るがない。
- 31 天は喜び、地は小躍りせよ。国々の間で言え。「主は王である」と。
- 32 海とそこに満ちているものは、鳴りとどろけ。野とそこにあるものは、みな喜び躍れ。
- 33 そのとき、森の木々も喜び歌う。主の御前で。主は必ず、地をさばくために来られる。
- 34 主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。
- 35 言え。「私たちの救いの神よ、私たちをお救いください。国々から私たちを集め、救い出してください。あなたの聖なる御名に感謝し、あなたの誉れを勝ち誇るために。」
- 36 ほむべきかな、イスラエルの神、主。とこしえから、とこしえまで。それから、民はみな「アーメン」と言い、主をほめたたえた。
- 37 ダビデはそこに、主の契約の箱の前にアサフとその兄弟たちをとどめおき、毎日の日課として、常に箱の前で仕えさせた。
- 38 オベデ・エドムとその六十八人の兄弟たちにもそのようにさせた。エドトンの子オベデ・エドムとホサは門衛とした。
- 39 祭司ツァドクとその兄弟の祭司たちは、ギブオンの高き所にある主の幕屋の前にとどめおき、
- 40 すべて主がイスラエルに命じられた律法に書かれているとおりに、朝夕絶えず、全焼のささげ物の祭壇の上で主に全焼のささげ物を献げさせた。
- 41 また、彼らとともにヘマン、エドトン、さらにほかの選ばれた者たちが、「まことに主の恵みは、とこしえまで」と、主をほめたたえるために指名された。
- 42 ヘマンとエドトンの手には、ラッパとシンバル、また神の歌に用いる楽器があつて、音楽を奏でた。エドトンの子らは門にいた。
- 43 民はみな、それぞれ自分の家に帰った。ダビデも自分の家族を祝福するために戻って行った。

第17章

- 1 ダビデが自分の家に住んでいた時のことである。ダビデは預言者ナタンに言った。「見なさい。この私が杉材の家に住んでいるのに、主の契約の箱は天幕の下にある。」
- 2 ナタンはダビデに言った。「あなたの心にあることをみな行いなさい。神があなたとともにおられるのですから。」
- 3 その夜のことである。次のような神のことばがナタンにあった。
- 4 「行って、わたしのしもべダビデに言え。『主はこう言われる。あなたがわたしのために、住む家を建ててるのではない。』
- 5 わたしは、イスラエルを連れ上った日から今日まで、家に住んだことはなく、天幕から天幕に、幕屋から幕屋に移ってきたのだ。
- 6 わたしが全イスラエルと歩んだところどこでも、わたしが、わたしの民を牧せよと命じたイスラエルのさばきつかさの一人にでも、「なぜ、あなたがたはわたしのために杉材の家を建てなかったのか」と、一度でも言ったことがあったらどうか。』
- 7 今、わたしのしもべダビデにこう言え。『万軍の主はこう言われる。わたしはあなたを、羊の群れを追う牧場から取り、わが民イスラエルの君主とした。
- 8 そして、あなたがどこに行っても、あなたとともにいて、あなたの前であなたのすべての敵を絶ち滅ぼした。わたしは地の大いなる者たちの名に等しい名を、あなたに与えてきた。
- 9 わが民イスラエルのために、わたしは一つの場所を定め、民を住まわせてきた。それは、民がそこに住み、もはや恐れおののくことのないように、不正な者たちも、初めのころのように、重ねて民を抑圧することのないようにするためであった。
- 10 それは、わたしが、わが民イスラエルの上にさばきつかさを任命して以来のことである。こうして、わたしはあなたのすべての敵を屈服させたのである。今、わたしはあなたに告げる。主があなたのために一つの家を建て、と。
- 11 あなたの日数が満ち、あなたが先祖のもとに行くとき、わたしはあなたの息子の中から、あなたの後に世継ぎの子を起こし、彼の王国を確立させる。
- 12 彼はわたしのために一つの家を建て、わたしは彼の王座をとこしえまでも堅く立てる。
- 13 わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。わたしの恵みを、わたしはあなたより前にいた者から取り去ったが、彼からはそのように取り去ることはしない。
- 14 わたしは、わたしの家とわたしの王国の中に、彼をとこしえまでも立たせる。彼の王座はとこしえまでも堅く立つ。』」
- 15 ナタンはこれらすべてのことばを、この幻のすべてを、そのままダビデに告げた。
- 16 ダビデ王は主の前に出て、座して言った。「神、主よ、私は何者でしょうか。私の家はいったい何なのでしょう。あなたが私をここまで導いてくださったとは。
- 17 神よ。このことがあなたの御目には小さなことでしたのに、あなたはこのしもべの家について、はるか先のことまで告げてくださいました。神、主よ、あなたは私をすぐれた者として見てくださいます。

- 18 あなたのしもべに与えられた誉れについて、ダビデはこの上、何を加えて、あなたに申し上げることができるでしょうか。あなたはこのしもべをよくご存じです。
- 19 主よ。あなたはこのしもべのために、そしてみこころのままに、この大いなることのすべてを行い、この大いなることをすべて知らせてくださいました。
- 20 主よ。私たちが耳にするすべてにおいて、あなたのような方はほかになく、あなたのほかに神はいません。
- 21 また、地上のどの国民があなたの民イスラエルのでしょうか。神ご自身が行かれて、ご自分の民として贖い、大いなる恐るべきみわざによってご自分の名を置き、エジプトから贖い出したあなたの民の前から異邦の民を追い払われたのです。
- 22 そして、あなたの民イスラエルを、とこしえまでもあなたの民とされました。主よ、あなたは彼らの神となられました。
- 23 今、主よ。あなたが、このしもべとその家についてお語りになったことばを、とこしえまでも真実なものとし、お語りになったとおりに行ってください。
- 24 こうして、あなたの御名がとこしえまでも真実で、大いなるものとなり、『イスラエルの神、万軍の主は、イスラエルの神である』と言われるように。あなたのしもべダビデの家が、御前に堅く立ちますように。
- 25 わが神よ。あなたはこのしもべの耳を開き、しもべのために一つの家を建てると告げられました。それゆえ、このしもべは御前で祈る勇気を得たのです。
- 26 今、主よ、あなたこそ神です。あなたはこのしもべに、この良いことを約束してくださいました。
- 27 今、あなたは、あなたのしもべの家を祝福することを良しとされ、御前にとこしえに続くようにしてくださいました。主よ。あなたが祝福してくださいました。あなたのしもべの家はとこしえに祝福されています。」

第18章

- 1 その後のことである。ダビデはペリシテ人を討って、これを屈服させ、ガテとそれに属する町々をペリシテ人の手から奪い取った。
- 2 彼はまたモアブを討った。モアブはダビデのしもべとなり、貢ぎ物を納める者となった。
- 3 ツォバの王ハダドエゼルが、ユーフラテス川流域にその勢力を確立しようとして出て行ったとき、ダビデはハマテに出て、彼を討った。
- 4 ダビデは、彼から戦車一千、騎兵七千、歩兵二万を取った。ダビデは、そのすべての戦車の馬の足の筋を切った。ただし、そのうち戦車百台分の馬は残した。
- 5 ダマスコのアラムがツォバの王ハダドエゼルの助けに来たが、ダビデはアラムの二万二千人を討った。
- 6 ダビデはダマスコのアラムに守備隊を置いた。アラムはダビデのしもべとなり、貢ぎ物を納める者となった。主は、ダビデの行く先々で、彼に勝利を与えられた。
- 7 ダビデは、ハダドエゼルの家来たちが持っていた金の丸い小盾を奪い取り、エルサレムに持ち帰った。
- 8 またダビデは、ハダドエゼルの町ティブハテとクンから、非常に多くの青銅を奪い取った。これを用いて、ソロモンは、青銅の「海」や柱、および青銅の器を作った。
- 9 ハマテの王トウは、ダビデがツォバの王ハダドエゼルの全軍勢を打ち破ったことを聞いた。
- 10 彼は、息子ハドラムをダビデ王のもとに遣わし、安否を尋ね、ダビデがハダドエゼルと戦ってこれを打ち破ったことについて、祝福のことは述べた。ハダドエゼルがトウにしばしば戦いを挑んでいたからである。トウは、金、銀、青銅の、あらゆる器を贈り物とした。
- 11 ダビデ王は、それらもまた、彼がすべての異邦の民、すなわちエドム、モアブ、アンモン人、ペリシテ人、アマレクのもとから運んで来た銀や金とともに、主のために聖別した。
- 12 また、ツェルヤの子アビシャイは、塩の谷でエドム人一万八千人を討って、
- 13 エドムに守備隊を置いた。こうして、全エドムはダビデのしもべとなった。主は、ダビデの行く先々で、彼に勝利を与えられた。
- 14 ダビデは全イスラエルを治め、その民のすべてにさばきと正義を行った。
- 15 ツェルヤの子ヨアブは軍団長、アヒルデの子ヨシャファテは史官、
- 16 アヒトブの子ツァドクとエブヤタルの子アビメレクは祭司、シャウシャは書記、
- 17 エホヤダの子ベナヤはクレタ人とペレテ人の上に立つ者、ダビデの息子たちは王の側近であった。

第19章

- 1 この後、アンモン人の王ナハシュが死に、その子が代わって王となった。
- 2 ダビデは、「ナハシュの子ハヌンに真実を尽くそう。彼の父は私に真実を尽くしてくれたのだから」と言った。そして彼の父の悔やみを言うために、ダビデは使者を送った。ダビデの家来たちがハヌンに悔やみを言うため、アンモン人の地に着いたとき、
- 3 アンモン人の首長たちは、ハヌンに言った。「ダビデがあなたのもとにお悔やみの使者を遣わしたからといって、彼が父君を敬っているとお考えですか。彼の家来たちは、この地を調べ、くつがえし、探るために来たのではないのでしょうか。」
- 4 そこでハヌンはダビデの家来たちを捕らえ、ひげを剃り落とし、衣を半分に切って腰のあたりまでにして送り返した。
- 5 人々が来て、ダビデにこの人たちのことを告げたので、ダビデは彼らを迎えに人を遣わした。この人たちが非常に恥じていたからである。王は言った。「ひげが伸びるまでエリコにとどまり、それから帰って来なさい。」
- 6 アンモン人は、自分たちがダビデの憎しみを買ったのを見てとった。そこでハヌンとアンモン人は、銀千タラントを送って、アラム・ナハライム、アラム・マアカ、ツォバから戦車と騎兵を雇った。
- 7 彼らは、戦車三万二千台、マアカの王とその兵たちを雇った。彼らは来て、メデバの前に陣を敷いた。アンモン人は彼らの町々から集まり、戦いに臨んだ。
- 8 ダビデはこれを聞き、ヨアブと勇士たちの全軍を送った。
- 9 アンモン人は出て来て、町の入り口で戦いの備えをした。ともに来た王たちは、彼らだけで野にいた。
- 10 ヨアブは、自分の前とうしろに戦いの前線があるのを見て、イスラエルの精鋭全員からさらに兵を選び、アラム人に立ち向かう陣備えをし、
- 11 残りの兵を兄弟アビシャイの手に託して、アンモン人に立ち向かう陣備えをした。
- 12 ヨアブは言った。「もしアラム人が私より強かったら、あなたが私を救ってくれ。もしアンモン人があなたより強かったら、私があなたを救おう。
- 13 強くあれ。われわれの民のため、われわれの神の町々のために、奮い立とう。主が、御目にかなうことをされるのだ。」
- 14 ヨアブと彼とともにいた兵たちが、戦おうとしてアラム人の前方に近づいたとき、アラム人は彼の前から逃げた。
- 15 アンモン人はアラム人が逃げるのを見ると、彼らもヨアブの兄弟アビシャイの前から逃げて町に入った。そこでヨアブはエルサレムに帰った。
- 16 アラム人は、自分たちがイスラエルに打ち負かされたのを見て、使者を遣わして、ユーフラテス川の向こうのアラム人に出て来させた。ハダドエゼルの軍の長ショファクが彼らを率いていた。
- 17 このことが報告されると、ダビデはイスラエル全軍を集結させ、ヨルダン川を渡って彼らの方に進み、戦いの備えをした。ダビデはアラム人と対決する陣備えをした。アラム人は

彼と戦った。

- 18 アラム人はイスラエルの前から逃げた。ダビデはアラムの戦車兵七千と歩兵四万を殺し、軍の長ショファクも殺した。
- 19 ハダドエゼルに仕えていた者たちは、彼らがイスラエルに打ち負かされたのを見て、ダビデと和を講じ、彼に仕えるようになった。アラム人は再びアンモン人を助けようとはしなかった。

第20章

- 1 年が改まり、王たちが出陣する時期になった。ヨアブは軍勢を率いてアンモン人の地を打ち滅ぼし、ラバに来てこれを包囲した。しかしダビデはエルサレムにとどまっていた。ヨアブはラバを討って、これを破壊した。
- 2 ダビデは、彼らの王の冠をその頭から奪い取った。それは金一タラントの重さがあり、宝石がはめ込まれていた。その冠はダビデの頭に置かれた。彼は、その町から非常に多くの分捕り物を持ち去った。
- 3 彼はそこの人々を連れ出して、石のこぎりや、鉄のつるはし、斧を使う労働に就かせた。ダビデはアンモン人のすべての町に対して、いつもこのようにしていた。ダビデとすべての兵はエルサレムに帰った。
- 4 その後のこと、ゲゼルでペリシテ人との戦いが起こった。そのとき、フシャ人シベカイはレファイムの子孫の一人シパイを打ち殺した。こうして、ペリシテ人は征服された。
- 5 再びペリシテ人との戦いがあったとき、ヤイルの子エルハナンは、ガテ人ゴリヤテの兄弟ラフミを打ち殺した。ラフミの槍の柄は、機織りの巻き棒のようであった。
- 6 再びガテで戦いがあったとき、そこに、指が六本ずつ、二十四本ある背の高い男がいた。彼もラファの子孫であった。
- 7 彼はイスラエルをそしたが、ダビデの兄弟シムアの子ヨナタンが彼を打ち殺した。
- 8 これらはガテのラファの子孫で、ダビデとその家来たちの手にかかって倒れた。

第21章

- 1 さて、サタンがイスラエルに向かって立ち上がり、イスラエルの人口を数えるように、ダビデをそそのかした。
- 2 ダビデはヨアブと民の長たちに言った。「さあ、ベエル・シェバからダンに至るまでのイスラエルを数え、私に報告しなさい。その人数を私が知るためだ。」
- 3 ヨアブは言った。「主が、御民を百倍にも増やしてくださいますように。わが主、王よ。彼らはみな、わが主のもの、そのしもべではないでしょうか。なぜわが主は、このようなことをお求めになるのですか。なぜイスラエルに罪過をもたらされるのですか。」
- 4 しかし、ヨアブへの王のことばは激しかった。ヨアブは出て行き、イスラエル中を行き巡り、エルサレムに帰って来た。
- 5 ヨアブは民の登録人数をダビデに報告した。全イスラエルには剣を使う者が百十万人、ユダには剣を使う者が四十七万人いた。
- 6 しかし、ヨアブはレビとベニヤミンをその中に登録しなかった。王の命令を忌み嫌ったからである。
- 7 この命令は神の目に悪しきことであった。神はイスラエルを打たれた。
- 8 ダビデは神に言った。「私は、このようなことをして、大きな罪を犯しました。どうか、このしもべの咎を取り去ってください。私は本当に愚かなことをしました。」
- 9 主はダビデの先見者ガドに告げられた。
- 10 「行ってダビデに告げよ。『主はこう言われる。わたしがあなたに示す三つのことがある。そのうちの一つを選べ。わたしはあなたに対してそれを行う。』」
- 11 ガドはダビデのもとに行き、彼に言った。「主はこう言われる。『どれかを受け入れよ。』」
- 12 三年間の飢饉か。三か月間、あなたが敵の前で攻めたてられ、敵の剣があなたに迫ることか。三日間、主の剣、疫病がこの地に及び、主の使いがイスラエルの国中を荒らすことか。』今、私を遣わされた方に何と答えたらよいかを決めなさい。」
- 13 ダビデはガドに言った。「それは私には非常に辛いことです。私を主の手に陥らせてください。主のあわれみは深いからです。私が人の手には陥らないようにしてください。」
- 14 主はイスラエルに疫病を下されたので、イスラエルのうち七万人が倒れた。
- 15 神はエルサレムを滅ぼそうと、御使いを遣わされた。主は御使いが滅ぼしているのを見て、わざわざ下すことを思い直し、滅ぼす御使いに言われた。「もう十分だ。手を引け。」主の使いは、エブス人オルナンの打ち場の傍らに立っていた。
- 16 ダビデが目を見ると、主の使いが地と天の間に立ち、抜き身の剣を手に持って、エルサレムの上に伸ばしているのを見た。ダビデと長老たちは粗布で身をおおい、ひれ伏した。
- 17 ダビデは神に言った。「民を数えよと命じたのは私ではありませんか。罪があるのはこの私です。私が悪を行ったのです。この羊の群れがいったい何をしたのでしょうか。わが神、主よ。どうか、あなたの御手が、私と私の父の家に下りますように。あなたの民を疫病に渡さないでください。」

- 18 そこで、主の使いは、ダビデにこう伝えるようガドに言った。「ダビデは上って行って、エブス人オルナンの打ち場に、主の祭壇を築かなければならない。」
- 19 ダビデは、ガドが主の御名によって語ったことばにしたがって上って行った。
- 20 オルナンが振り返ると御使いが見えた。彼とともにいた四人の息子たちは身を隠したが、オルナンは小麦の打穀をしていた。
- 21 ダビデがオルナンのもとに行くと、オルナンはそれを見てダビデに気づき、打ち場から出て来て、地にひれ伏して礼をした。
- 22 ダビデはオルナンに言った。「この打ち場の地所を私に譲っていただきたい。そこに主のために祭壇を建てたい。十分な金額で、それを私に譲っていただきたい。そうすれば民への主の罰は終わるだろう。」
- 23 オルナンはダビデに言った。「わが主、王よ。どうぞ受け取って、お気に召すようになさってください。ご覧ください。全焼のささげ物のための牛、薪にできる打穀機、穀物のささげ物のための小麦も差上げます。すべて差上げます。」
- 24 ダビデ王はオルナンに言った。「いや、私はどうしても十分な金額で買いたい。あなたのものを主に献げるわけにはいかない。費用もかけずに全焼のささげ物を献げたくないのだ。」
- 25 そしてダビデは、その地所の代金として、金の重さで六百シェケルをオルナンに支払った。
- 26 ダビデは、そこに主のために祭壇を築き、全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げ、主を呼んだ。主は、全焼のささげ物の祭壇の上に天から火を下し、彼に答えられた。
- 27 主が御使いに命じられたので、御使いは剣をさやに収めた。
- 28 そのとき、ダビデは主がエブス人オルナンの打ち場で彼に答えられたのを見て、そこでいけにえを献げた。
- 29 モーセが荒野で造った主の幕屋と全焼のささげ物の祭壇は、そのときギブオンの高き所にあった。
- 30 しかしダビデは、神を求めてその前に行くことができなかった。主の使いの剣におびえたからである。

第22章

- 1 そこで、ダビデは言った。「これこそ神である主の宮だ。これこそイスラエルの全焼のささげ物の祭壇だ。」
- 2 ダビデは命じて、イスラエルの地にいる寄留者を召集し、神の宮を建てるため、石材を切り出す石切り工を任命した。
- 3 ダビデは、門の扉の釘や留め金用の鉄を大量に用意し、青銅も量りきれないほど多く用意した。
- 4 杉材も数えきれないほど用意した。シドン人とツロ人が、大量の杉材をダビデのもとに運んで来たからである。
- 5 ダビデは言った。「わが子ソロモンは、まだ若く力もない。主のために建てる宮は、壮大なもので、全地で名声と栄誉を高めるものでなければならない。それゆえ、私が用意しておく。」こうして、ダビデは彼が死ぬ前に多くの用意をしておいた。
- 6 ダビデはその子ソロモンを呼び、イスラエルの神、主のために宮を建てるように命じた。
- 7 ダビデはソロモンに言った。「わが子よ。私は、わが神、主の御名のために宮を建てる志を持ち続けてきた。
- 8 しかし、私に次のような主のことばがあった。『あなたは多くの血を流し、大きな戦いをしてきた。あなたがわたしの名のために家を建ててはならない。わたしの前に多くの血を地に流してきたからである。』
- 9 見よ、あなたに一人の男の子が生まれる。彼は穏やかな人となり、わたしは周りのすべての敵から守って彼に安息を与える。彼の名がソロモンと呼ばれるのはそのためである。彼の世に、わたしはイスラエルに平和と平穩を与える。
- 10 彼がわたしの名のために家を建てる。彼はわたしの子となり、わたしは彼の父となる。わたしは彼の王座をイスラエルの上にとこしえに堅く立てる。』
- 11 そこで、わが子よ、主があなたとともにおられ、主があなたについて語られたとおり、あなたが、あなたの神、主の宮を立派に建て上げることができるように。
- 12 ただ、どうか主があなたに思慮と悟りを与えて、あなたをイスラエルの上に任命し、あなたの神、主の律法を守らせてくださるように。
- 13 主がイスラエルのためにモーセに命じられた掟と定めをあなたが守り行うなら、あなたは栄える。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。
- 14 見なさい。私は困難な中で主の宮のために、金十万タラント、銀百万タラントを用意した。また、青銅と鉄はあまりに多くて量りきれない。それに、木材と石材も用意した。あなたは、これらにもっと加えなさい。
- 15 あなたののもとには、石を切り出す者、石や木に細工する者、各種の仕事に熟練した者など、多くの仕事をする者がいて、
- 16 金、銀、青銅、鉄を扱うが、その人数は数えきれない。立ち上がって、実行しなさい。主があなたとともにいてくださるように。」
- 17 また、ダビデはイスラエルのすべての長たちに、その子ソロモンを助けるように命じた。

- 18** 「あなたがたの神、主は、あなたがたとともにおられ、周囲の者からあなたがたを守って安息を与えられたではないか。実に、主はこの地の住民を私の手に渡され、この地は主の前とその民の前に服した。
- 19** 今、あなたがたは心とたましいを傾けて、あなたがたの神、主を求めよ。立ち上がって、神である主の聖所を建て上げ、主の御名のために建てられる宮に、主の契約の箱と神の聖なる用具を運び入れよ。」

第23章

- 1 ダビデは日を重ねて年老い、その子ソロモンをイスラエルの王とした。
- 2 彼はまた、イスラエルのすべての長たち、祭司、レビ人を集めた。
- 3 レビ人のうち、三十歳以上の者を数えたところ、その男子の頭数は三万八千人であった。
- 4 「そのうち、主の宮の務めを指揮する者は二万四千人、つかさとさばき人は六千人、
- 5 四千人は門衛となり、四千人は私が賛美するために作った楽器を手にして、主を賛美する者となりなさい。」
- 6 ダビデは彼らを組に分けた。レビ族を、ゲルション、ケハテ、メラリに分け、
- 7 ゲルション人をラダンとシムイに分けた。
- 8 ラダンの子は、そのかしらエヒエル、ゼタム、ヨエルの三人。
- 9 シムイの子は、シェロミテ、ハジエル、ハランの三人。これらはラダンの一族のかしらであった。
- 10 シムイの子はまた、ヤハテ、ジザ、エウシュ、ベリア。これらの四人はシムイの子であった。
- 11 ヤハテはそのかしら、ジザはその次であった。エウシュとベリアは子を多く持たなかった。そこで父の家において、一つの役に就いた。
- 12 ケハテの子は、アムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエルの四人。
- 13 アムラムの子は、アロンとモーセ。アロンは、最も聖なるものを聖別するのに選り分けられた。それは、彼とその子たちが、とこしえに主の前に香をたき、主に仕え、とこしえに主の御名によって祝福するためである。
- 14 神の人モーセの子孫は、レビ部族の者として名を呼ばれた。
- 15 モーセの子は、ゲルショムとエリエゼル。
- 16 ゲルショムの子は、かしらがシェブエル。
- 17 エリエゼルの子は、かしらがレハブヤ。エリエゼルにはほかに息子がいなかったが、レハブヤの子は非常に多かった。
- 18 イツハルの子は、かしらがシェロミテ。
- 19 ヘブロンの子は、かしらがエリヤ、次にアマルヤ、第三はヤハジエル、第四はエカムラム。
- 20 ウジエルの子は、かしらがミカ、次はイシヤ。
- 21 メラリの子は、マフリとムシ。マフリの子は、エルアザルとキシユ。
- 22 エルアザルは死に、彼には息子がなく娘だけであったので、親族であるキシユの子らが彼女たちを妻に迎えた。
- 23 ムシの子は、マフリ、エデル、エレモテの三人。
- 24 これは、それぞれ父祖の家に属するレビ族で二十歳以上になり、主の宮の奉仕の仕事をした者であり、一人ひとり名を数えられ、登録された一族のかしらたちであった。

- 25** ダビデがこう言ったからである。「イスラエルの神、主は、御民に安息を与え、とこしえまでもエルサレムに住まわれる。
- 26** レビ人も、幕屋を運んだり、奉仕に用いるすべての器具を運んだりする必要はない。」
- 27** これらが、ダビデの最後のことばにしたがって数えられた二十歳以上のレビ人の数である。
- 28** 彼らの役目は、主の宮に仕えるアロンの子らを、庭、脇部屋、すべての聖なるものに関わるきよめ、また、神の宮での奉仕のわざをもって助けることである。
- 29** また、彼らは、並べ供えるパン、穀物のささげ物の小麦粉、種なしの薄焼きパン、平鍋、混ぜ合わせたもの、また各種の量や大きさを計ること、
- 30** 朝ごとに、立って主をほめたたえ、賛美し、夕べにも同様にすること、
- 31** 安息日、新月の祭り、および例祭ごとに、主に献げられるすべての全焼のささげ物が、主の前に絶えず、定められた数で献げられることについても責任を負う。
- 32** 彼らは、主の宮の奉仕に関して、会見の天幕の任務、聖所の任務、同族アロンの子らの任務に当たった。

第24章

- 1 アロンの子らの組分け。アロンの息子は、ナダブ、アビフ、エルアザル、イタマル。
- 2 ナダブとアビフは父に先立って死に、彼らには子がいなかったので、エルアザルとイタマルが祭司の務めに就いた。
- 3 ダビデは、エルアザルの子孫の一人ツァドク、およびイタマルの子孫の一人アヒメレクと協力して、アロンの子らをそれぞれの奉仕に任命し、それぞれの組に分けた。
- 4 エルアザルの子孫のほうで、イタマルの子孫よりも一族のかしらが多かったので、エルアザルの子孫は、父祖の家のかしらごとに十六組に、イタマルの子孫は、父祖の家ごとに八組に分けられた。
- 5 彼らはみな同じようにくじを引いて、それぞれの組に分かれた。聖所の組の長たち、神の組の長たちは、エルアザルの子孫の中にも、イタマルの子孫の中にもいたからである。
- 6 レビ人の出である書記、ネタンエルの子シェマヤが、王と首長たち、祭司ツァドク、エブヤタルの子アヒメレク、祭司とレビ人の一族のかしらたちの前で、それらを書き記した。エルアザルから一つの父祖の家が選ばれると、イタマルからも一つ選ばれた。
- 7 第一のくじは、エホヤリブに当たった。第二はエダヤに、
- 8 第三はハリムに、第四はセオリムに、
- 9 第五はマルキヤに、第六はミヤミンに、
- 10 第七はハ・コツに、第八はアビヤに、
- 11 第九はヨシュアに、第十はシェカンヤに、
- 12 第十一はエルヤシブに、第十二はヤキムに、
- 13 第十三はフパに、第十四はエシェブアブに、
- 14 第十五はビルガに、第十六はイメルに、
- 15 第十七はヘジルに、第十八はハ・ピツェツに、
- 16 第十九はペタフヤに、第二十はエヘズケルに、
- 17 第二十一はヤキンに、第二十二はガムルに、
- 18 第二十三はデラヤに、第二十四はマアズヤに当たった。
- 19 これらが主の宮に入って奉仕するために登録された者たちで、彼らの先祖アロンが、イスラエルの神、主の命令にしたがって定めたとおりである。
- 20 残りのレビ族については、次のとおりである。アムラムの子孫ではシュバエル。シュバエルの子ではエフデヤ。
- 21 レハブヤについて。レハブヤの子では、そのかしらイシヤ。
- 22 イツハル人では、シェロミテ。シェロミテの子ではヤハテ。
- 23 ヘブロンの子は、そのかしらがエリヤ、第二はアマルヤ、第三はヤハジエル、第四はエカムアム。
- 24 ウジエルの子孫はミカ。ミカの子ではシャミル。
- 25 ミカの兄弟はイシヤ。イシヤの子ではゼカリヤ。

- 26** メラリの子はマフリとムシ。彼の子ヤアジヤの子孫、
- 27** すなわち、メラリの子孫で、彼の子ヤアジヤから出た者は、ショハム、ザクル、イブリ。
- 28** マフリからは、エルアザル。彼には子がいなかった。
- 29** キシュからは、キシュの子孫のエラフメエル。
- 30** ムシの子は、マフリ、エデル、エリモテ。これが、それぞれその父祖の家に属するレビの子孫である。
- 31** 彼らもまた、彼らの同族であるアロンの子らと全く同じように、ダビデ王、ツァドク、アヒメレク、祭司とレビ人の一族のかしらたちの前で、くじを引いた。一族では、かしらもその弟と全く同じであった。

第25章

- 1 また、ダビデと軍の長たちは、アサフとヘマンとエドトンの子らを奉仕のために取り分け、豎琴と琴とシンバルに合わせて預言する者とした。仕事に就いた者の数は、その奉仕にしたがって次のとおりである。
- 2 アサフの子では、ザクル、ヨセフ、ネタンヤ、アサルエラ。これらはアサフの子で、王の指揮にしたがって預言するアサフの指揮下にあった。
- 3 エドトンについて。エドトンの子は、ゲダルヤ、ツェリ、エシャヤ、シムイ、ハシャブヤ、マティテヤの六人。豎琴に合わせて主をほめたたえ、賛美しながら預言する彼らの父エドトンの指揮下にあった。
- 4 ヘマンについて。ヘマンの子は、ブキヤ、マタンヤ、ウジエル、シェブエル、エリモテ、ハナンヤ、ハナニ、エリアタ、ギダルティ、ロمامティ・エゼル、ヨシュベカシャ、マロティ、ホティル、マハジオテ。
- 5 これらはみな、王の先見者ヘマンの子で、神のことばを通して王の角を高く上げる者たちであった。神はヘマンに息子十四人と娘三人を与えられた。
- 6 これらはみな、その父の指揮下にあつて、シンバル、琴、豎琴を手に、主の宮で歌を歌い、王の指揮下に神の宮の奉仕に当たる者たちである。アサフ、エドトン、ヘマン、
- 7 彼ら、および、主にささげる歌の訓練を受け、みな達人であった彼らの同族の数は二百八十八人であった。
- 8 彼らは、下の者も上の者も、達人も弟子も、みな同じように任務のためのくじを引いた。
- 9 第一のくじは、アサフに属するヨセフに当たり、第二はゲダルヤに当たった。彼と兄弟たち、子たち、十二人。
- 10 第三はザクル、その子たち、兄弟たち、十二人。
- 11 第四はイツェリ、その子たち、兄弟たち、十二人。
- 12 第五はネタンヤ、その子たち、兄弟たち、十二人。
- 13 第六はブキヤ、その子たち、兄弟たち、十二人。
- 14 第七はエサルエラ、その子たち、兄弟たち、十二人。
- 15 第八はエシャヤ、その子たち、兄弟たち、十二人。
- 16 第九はマタンヤ、その子たち、兄弟たち、十二人。
- 17 第十はシムイ、その子たち、兄弟たち、十二人。
- 18 第十一はアザルエル、その子たち、兄弟たち、十二人。
- 19 第十二はハシャブヤ、その子たち、兄弟たち、十二人。
- 20 第十三はシュバエル、その子たち、兄弟たち、十二人。
- 21 第十四はマティテヤ、その子たち、兄弟たち、十二人。
- 22 第十五はエリモテ、その子たち、兄弟たち、十二人。
- 23 第十六はハナンヤ、その子たち、兄弟たち、十二人。
- 24 第十七はヨシュベカシャ、その子たち、兄弟たち、十二人。

- 25** 第十八はハナニ、その子たち、兄弟たち、十二人。
- 26** 第十九はマロティ、その子たち、兄弟たち、十二人。
- 27** 第二十はエリアタ、その子たち、兄弟たち、十二人。
- 28** 第二十一はホティル、その子たち、兄弟たち、十二人。
- 29** 第二十二はギダルティ、その子たち、兄弟たち、十二人。
- 30** 第二十三はマハジオテ、その子たち、兄弟たち、十二人。
- 31** 第二十四はロマムティ・エゼル、その子たち、兄弟たち、十二人に当たった。

第26章

- 1 門衛の組分けについて。コラ人ではアサフ族のコレの子メシェレムヤ。
- 2 メシェレムヤには子があった。長男ゼカリヤ、次男エディアエル、三男ゼバデヤ、四男ヤテニエル、
- 3 五男エラム、六男ヨハナン、七男エルエホエナイ。
- 4 オベデ・エドムには子があった。長男シェマヤ、次男エホザバデ、三男ヨアフ、四男サカル、五男ネタンエル、
- 5 六男アンミエル、七男イッサカル、八男ペウレタイ。神が彼を祝福されたからである。
- 6 彼の子シェマヤに子どもたちが生まれた。彼らは勇士だったので、その父の家を治める者となった。
- 7 シェマヤの子は、オテニ、レファエル、オベデ、エルザバデ、エルザバデの兄弟で勇者の、エリフとセマクヤ。
- 8 これらはみな、オベデ・エドムの子で、彼らとその子、兄弟たちは、その奉仕にふさわしい力のある勇敢な人であった。オベデ・エドムに属する者は六十二人であった。
- 9 メシェレムヤには子どもと兄弟たちがあった。彼らは勇者で、十八人であった。
- 10 メラリ族のホサには子があった。そのかしらはシムリであった。彼は長男ではなかったが、父が彼をかしらにしたのである。
- 11 第二はヒルキヤ、第三はテバルヤ、第四はゼカリヤであった。ホサの子ども、兄弟たちは合計十三人であった。
- 12 門衛のこれらの各組に対し、主の宮で仕える任務が、彼らのかしらごとに、彼らの兄弟たちと全く同じように割り当てられた。
- 13 こうして彼らは、下の者も上の者も等しく、その父祖の家ごとに、一つ一つの門についてくじを引いた。
- 14 東方のくじはシェレムヤに当たった。彼の子で思慮深い助言者ゼカリヤのためにくじが引かれ、彼のくじは北方と出た。
- 15 オベデ・エドムには南方、彼の子らには倉、
- 16 シュピムとホサには西方、それに上り坂の大路のシャレケテ門が当たった。見張りの組と組とは並び合っていた。
- 17 東方には六人のレビ人、北方には毎日四人、南方には毎日四人、倉には二人ずつ、
- 18 西方の前庭には、大路に四人、前庭に二人であった。
- 19 以上が、コラ族とメラリ族の門衛の組分けである。
- 20 レビ人のアヒヤは、神の宮の宝物倉および聖なるささげ物の宝物倉を管理した。
- 21 ゲルション族でラダンに属するラダンの子ら、ゲルション人ラダンに属する一族のかしらたち、すなわちエヒエル人、
- 22 エヒエル人の子孫、その兄弟ゼタムとヨエルは、主の宮の宝物倉を管理した。
- 23 アムラム人、イツハル人、ヘブロン人、ウジエル人については、

- 24** モーゼの子ゲルショムの子シェブエルが宝物倉のつかさであった。
- 25** 彼の同族で、エリエゼルに属する者は、その子レハブヤ、その子エシャヤ、その子ヨラム、その子ジクリ、その子シェロミテであるが、
- 26** このシェロミテと彼の兄弟たちは、ダビデ王と一族のかしらたち、および、千人隊の長、百人隊の長たち、軍の長たちが聖別して献げた聖なるささげ物の、すべての宝物倉を管理した。
- 27** 彼らは、戦いで得た分捕り物の一部を、主の宮を修理するために聖別した。
- 28** すべて予見者サムエル、キシユの子サウル、ネルの子アブネル、ツェルヤの子ヨアブが聖別した物、すなわち、すべての聖なるささげ物は、シェロミテとその兄弟たちに委ねられた。
- 29** イツハル人のうち、ケナンヤとその子たちは、イスラエルに関する外の仕事に就き、つかさやさばき人となった。
- 30** ヘブロン人のうち、ハシャブヤとその同族の者、すなわち勇者千七百人は、ヨルダン川より西のイスラエルの管理に当たり、主に対する務めと王に対する奉仕のすべてを担った。
- 31** ヘブロン人のうち、エリヤは、その一族とその家系によればヘブロン人のかしらであった。ダビデの治世の第四十年に、彼らは調べられ、ギルアデのヤゼルで彼らの中に勇士たちが見つかった。
- 32** 彼の同族の者たちは勇者であって、二千七百人いたが、一族のかしらたちであった。ダビデ王は彼らを、ルベン人、ガド人、マナセ人の半部族の上に任命し、すべて神に関わる事柄、王に関わる事柄に当たらせた。

第27章

- 1 イスラエルの子ら、すなわち、一族のかしらたち、千人隊長、百人隊長たち、および彼らのつかさたちは王に仕え、一年のすべての月を通して、月ごとの交代制により各分団のすべてのことに当たった。その人数は一つに分団が二万四千人であった。
- 2 第一の月、第一分団を率いるのは、ザブディエルの子ヤショブアム。彼の分団は二万四千人。
- 3 彼はペレツの子孫の一人で、第一の月を受け持つ軍の長たちすべてのかしらであった。
- 4 第二の月、分団を率いるのは、アホア八人ドダイ。彼の分団には、長であるミクロテがいた。彼の分団は二万四千人。
- 5 第三の月、第三軍団の長は祭司エホヤダの子ベナヤ。彼がかしらであった。彼の分団は二万四千人。
- 6 彼は、あの三十人の勇士の一人、三十人の長のベナヤである。彼の分団には、その子アミザバデがいた。
- 7 第四の月、第四分団は、ヨアブの兄弟アサエル。その子ゼバデヤが彼の跡を継いだ。彼の分団は二万四千人。
- 8 第五の月、第五分団は、長はイズラフ人シャムフテ。彼の分団は二万四千人。
- 9 第六の月、第六分団は、テコア人イケシュの子イラ。彼の分団は二万四千人。
- 10 第七の月、第七分団は、エフライム族の出であるペロニ人ヘレツ。彼の分団は二万四千人。
- 11 第八の月、第八分団は、ゼラフ人に属するフシャ人シベカイ。彼の分団は二万四千人。
- 12 第九の月、第九分団は、ベニヤミン人に属するアナトテ人アビエゼル。彼の分団は二万四千人。
- 13 第十の月、第十分団は、ゼラフ人に属するネットファ人マフライ。彼の分団は二万四千人。
- 14 第十一の月、第十一分団は、エフライム族の出であるピルアトン人ベナヤ。彼の分団は二万四千人。
- 15 第十二の月、第十二分団は、オテニエルに属するネットファ人ヘルダイ。彼の分団は二万四千人。
- 16 なお、イスラエルの各部族の長は、ルベン人では、ジクリの子エリエゼルが長。シメオン人ではマアカの子シェファテヤ。
- 17 レビではケムエルの子ハシャブヤ。アロンではツァドク。
- 18 ユダではダビデの兄弟の一人エリフ。イッサカルではミカエルの子オムリ。
- 19 ゼブルンではオバデヤの子イシュマヤ。ナフタリではアズリエルの子エリモテ。
- 20 エフライム族ではアザズヤの子ホセア。マナセの半部族ではベダヤの子ヨエル。
- 21 ギルアデのマナセの半部族ではゼカリヤの子イド。ベニヤミンではアブネルの子ヤアシエル。
- 22 ダンではエロハムの子アザルエル。これらがイスラエル各部族の長たちであった。

- 23** ダビデは二十歳以下の者は数に入れなかった。主がイスラエルを天の星のように多くすると言われたからである。
- 24** ツェルヤの子ヨアブが数え始めたが、終わらなかった。しかし、このことで御怒りがイスラエルの上に下った。それでその数はダビデ王の年代記の統計には載らなかった。
- 25** 王の宝物倉をつかさどったのは、アディエルの子アズマウエテ。畑地、町々、村々、それぞれの塔にある宝物倉を管理したのは、ウ ज्याの子ヨナタン。
- 26** 土地を耕して畑仕事をする者たちを管理したのは、ケルブの子エズリ。
- 27** ぶどう畑を管理したのは、ラマ人シムイ。酒蔵用のぶどう畑の産物を管理したのは、シェファム人ザブディ。
- 28** シェフェラにあるオリーブの木といちじく桑の木を管理したのは、ゲデル人バアル・ハナン。油の倉を管理したのはヨアシュ。
- 29** シャロンで飼われる牛の群れを管理したのは、シャロン人シルタイ。谷にいる牛の群れを管理したのは、アデライの子シャファテ。
- 30** らくだを管理したのは、イシュマエル人オビル。雌ろばを管理したのは、メロノテ人エフデヤ。
- 31** 羊の群れを管理したのは、ハガル人ヤジズ。これらはみな、ダビデ王の所有する財産の長官であった。
- 32** ダビデのおじヨナタンは助言者であり、洞察力のある人で、彼は書記でもあった。ハクモニの子エヒエルは王の子らとともにいた。
- 33** アヒトフェルは王の助言者で、アルキ人フシャイは王の友であった。
- 34** アヒトフェルの跡を継いだのは、ベナヤの子エホヤダとエブヤタル。王の軍の長はヨアブであった。

第28章

- 1 ダビデは、イスラエルのすべての長、すなわち、各部族の長、王に仕える各組の長、千人隊の長、百人隊の長、王とその子たちの全財産と家畜の担当者の長、宦官、有力者、およびすべての勇士たちをエルサレムに召集した。
- 2 ダビデ王は立ち上がって、こう言った。「私の兄弟たち、私の民よ。私の言うことを聞きなさい。私は主の契約の箱のため、私たちの神の足台のために安息の家を建てる志を持ち、建築の用意をしてきた。
- 3 しかし、神は私に仰せられた。『あなたはわたしの名のために家を建ててはならない。あなたは戦いの人であり、人の血を流してきたからである。』
- 4 イスラエルの神、主は、私の父の全家から私を選び、とこしえにイスラエルを治める王としてくださった。主はユダの中から君たる者を選び、ユダの家の中で私の父の家を、父の子たちの中で私を喜びとし、全イスラエルを治める王としてくださった。
- 5 主は私に多くの子を授けてくださったが、私のすべての子どもの中から、私の子ソロモンを選び、イスラエルを治める主の王座に就けてくださった。
- 6 そして、私にこう言われた。『あなたの子ソロモンが、わたしの家とわたしの庭を造る。わたしが彼をわたしの子として選び、わたしが彼の父となるからだ。
- 7 もし彼が、今日のように、わたしの命令と定めを行おうと固く決心しているなら、わたしは彼の王国をとこしえまでも確立しよう。』
- 8 今、主の会衆である全イスラエルの前で、私たちの神が聞いておられるこの場所で言う。あなたがたは、自分たちの神、主の命令をすべて守り、求めなさい。それは、あなたがたがこの良い地を所有し、あなたがたの後、とこしえまでもあなたがたの子孫に受け継がせるためである。
- 9 わが子ソロモンよ。あなたの父の神を知り、全き心と喜びの気持ちをもって神に仕えなさい。主はすべての心を探り、すべての思いの動機を読み取られるからである。もし、あなたが神を求めるなら、神はあなたにご自分を現される。もし、あなたが神を離れるなら、神はあなたをとこしえまでも退けられる。
- 10 今、心に留めなさい。主は聖所となる宮を建てるために、あなたを選ばれた。勇気を出して実行しなさい。」
- 11 ダビデはその子ソロモンに、玄関広間、神殿、宝物室、屋上の間、内部屋、贖いの間などの設計図を授けた。
- 12 設計図は、すべて御霊によって彼に示された。すなわち、主の宮の庭のこと、周囲のすべての脇部屋のこと、神の宮の宝物倉のこと、聖なるささげ物の宝物倉のこと、
- 13 祭司とレビ人の組分けのこと、主の宮の奉仕のすべての仕事のこと、主の宮の奉仕に用いるすべての用具のことである。
- 14 金については、各種の奉仕に用いるすべての器具に使う金の重さが、すべての銀の器具については、各種の奉仕に用いるすべての器具の重さが示され、

- 15** 金の燭台とその上にある金のともしび皿の重さは、一つ一つの燭台とその上にあるともしび皿の重さが、銀の燭台については、一つ一つの燭台の用途別に燭台とその上にあるともしび皿の重さが示されていた。
- 16** 並べ供えるパンの机の金の重さは、一つ一つの机ごとに、銀の机に用いる銀の重さとともに示されていた。
- 17** 肉刺し、鉢、壺は純金であるが、金の杯については、それぞれの杯の重さ、銀の杯についても、それぞれの杯の重さ、
- 18** 香をたく祭壇については、精錬された金の重さが示されていた。また、翼を広げて主の契約の箱をおおう金のケルビムの車の設計図も示されていた。
- 19** 「これらすべては、私の上に臨んだ主の手によって書き物になっていて、仕事の全貌が理解できるはずだ。」
- 20** それから、ダビデはその子ソロモンに言った。「強く、雄々しく、事を成し遂げなさい。恐れてはならない。おののいてはならない。神である主、私の神が、あなたとともにいてくださるのだから。主は、あなたを見放さず、あなたを見捨てず、主の宮の奉仕に関わるすべての仕事を完成させてくださる。
- 21** 見よ。神の宮のあらゆる奉仕のために祭司とレビ人の各組がいる。どんな仕事でも、あらゆる奉仕のために知恵をもって進んで事に当たる者がみな、あなたとともにいる。首長たちとすべての民は、あなたの命令すべてに従う。」

第29章

- 1 ダビデ王は全会衆に言った。「わが子ソロモンは、神が選ばれた、ただ一人の者であるが、まだ若く力もない。しかしこの工事は大きい。なぜなら、この宮は人のためではなく、神である主のためのものだからである。
- 2 私は全力を尽くして、私の神の宮のために準備をしてきた。すなわち、金製品のための金、銀製品のための銀、青銅製品のための青銅、鉄製品のための鉄、木製品のための木、縞めのう、色とりどりの象眼細工用の石、あらゆる宝石、大理石などを大量に準備した。
- 3 そのうえ、私は、私の神の宮に対する喜びとして、聖なる宮のために準備したすべてのものに加えて、自分の宝としていた金銀を、私の神の宮のために献げる。
- 4 建物の壁をおおうため、オフィルの金の中から金三千タラントと、精錬された銀七千タラント、
- 5 金製品のための金、銀製品のための銀、あらゆる職人の手仕事のためのものを献げる。今日、自ら進んで、その手にあふれるほど主に献げる者はいないか。」
- 6 すると、一族の長たち、イスラエル各部族の長たち、千人隊と百人隊の長たち、さらに王家の執務の長たちは、自ら進んで、
- 7 神の宮の奉仕のために、金五千タラント一万ダリク、銀一万タラント、青銅一万八千タラント、鉄十万タラントを献げた。
- 8 宝石を持っている者は、これをゲルション人エヒエルの手にとりて主の宮の宝物倉に献げた。
- 9 民は、長たちが自ら進んで献げたことを喜んだ。彼らが全き心をもって、自ら進んで主に献げたからである。ダビデ王も大いに喜んだ。
- 10 ダビデは全会衆の前で主をほめたたえた。ダビデは言った。「私たちの父イスラエルの神、主よ。あなたがとこしえからとこしえまで、ほめたたえられますように。
- 11 主よ、偉大さ、力、輝き、栄光、威厳は、あなたのものです。天にあるものも地にあるものもすべて。主よ、王国もあなたのものです。あなたは、すべてのものの上に、かしらとしてあがめられるべき方です。
- 12 富と誉れは御前から出ます。あなたはすべてのものを支配しておられます。あなたの御手には勢いと力があり、あなたの御手によって、すべてのものが偉大にされ、力づけられるのです。
- 13 私たちの神よ。今、私たちはあなたに感謝し、あなたの栄えに満ちた御名をほめたたえます。
- 14 このように自ら進んで献げる力を持っているとしても、私は何者なのでしょう、私の民は何者なのでしょう。すべてはあなたから出たのであり、私たちは御手から出たものをあなたに献げたにすぎません。
- 15 私たちは、父祖たちがみなそうであったように、あなたの前では寄留者であり、居留している者です。地上での私たちの日々は影のようなもので、望みもありません。

- 16 私たちの神、主よ。あなたの聖なる御名のために宮を建てようと私たちが準備したこの多くのものすべては、あなたの御手から出たものであり、すべてはあなたのものです。
- 17 わが神よ。あなたは心を試される方で、真っ直ぐなことを愛されるのを私はよく知っています。私は直ぐな心で、これらすべてを自ら進んで献げました。また今、ここにいるあなたの民が、自ら進んであなたに献げるのを、私は喜びのうちに見ました。
- 18 私たちの父祖アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ。御民が心にめぐらす思いをとこしえに守り、彼らの心をしっかりとあなたに向けさせてください。
- 19 わが子ソロモンに全き心を与え、あなたの命令とさとしと掟を守らせて、すべてを行わせ、私が準備してきた宮を建てさせてください。」
- 20 そして、ダビデは全会衆に「あなたがたの神、主をほめたたえよ」と言った。すると全会衆は、父祖の神、主をほめたたえ、主と王の前に身をかがめてひれ伏した。
- 21 その翌日、彼らは主にいけにえを献げ、主に全焼のささげ物を献げた。雄牛千頭、雄羊千匹、子羊千匹、これらに添える注ぎのぶどう酒、また全イスラエルのための多くのいけにえを献げた。
- 22 その日、彼らは大いに喜んで、主の前で食べたり飲んだりし、改めてダビデの子ソロモンを王とし、主の前で油を注いで君主とした。また、ツァドクを祭司とした。
- 23 こうしてソロモンは主の王座に就き、父ダビデに代わって王となった。彼は栄え、全イスラエルは彼に聞き従った。
- 24 すべての首長たち、勇士たち、そしてダビデ王のすべての息子たちも、ソロモン王に忠誠を誓った。
- 25 主はソロモンを全イスラエルの目の前に非常に大いなる者とし、彼より前にイスラエルを治めたどの王にも見られなかった王の威厳を、彼に与えられた。
- 26 このようにして、エッサイの子ダビデは全イスラエルを治めたのである。
- 27 彼がイスラエルの王であった期間は四十年であった。ヘブロンで七年治め、エルサレムで三十三年治めた。
- 28 彼は幸せな晩年を過ごし、齢も富も誉れも満ち足りて死んだ。彼の子ソロモンが代わって王となった。
- 29 ダビデ王についての事柄は、最初から最後まで、『予見者サムエルの働き』、『預言者ナタンの働き』、『先見者ガドの働き』にまさしく記されている。
- 30 そこには、彼の統治のすべてとその功績、また、彼とイスラエル、および諸国のすべての王国の上に過ぎていった時代についても記されている。

歷代誌下

2 Chronicles

第1章

- 1 ダビデの子ソロモンは王権を確立した。彼の神、主がともにおられ、彼を並外れて偉大な者とされた。
- 2 ソロモンは全イスラエル、千人隊、百人隊の長、さばき人、および一族のかしらである全イスラエルの族長すべてに向かって語り、
- 3 ソロモンおよび彼とともにいた全会衆は、ギブオンにある高き所に行った。そこに、主のしもべモーセが荒野で造った神の会見の天幕があったからである。
- 4 しかし、神の箱については、ダビデがこれをキルヤテ・エアリムから、ダビデがそのために定めた場所に運び上げていた。箱のための天幕をエルサレムに張っていたのである。
- 5 ギブオンの主の幕屋の前には、フルの子であるウリの子ベツアルエルが造った青銅の祭壇があった。ソロモンと会衆はそこで主を求めた。
- 6 ソロモンは、そこに、すなわち会見の天幕におられる主の前にある青銅の祭壇に上り、その上で千匹の全焼のささげ物を献げた。
- 7 その夜、神はソロモンに現れて仰せられた。「あなたに何を与えようか。願え。」
- 8 ソロモンは神に言った。「あなたは、私の父ダビデに大いなる恵みを施されました。そして、父に代わって私を王とされました。
- 9 神、主よ、今、私の父ダビデになさったあなたの約束を堅く守ってください。あなたは、地のちりのように数の多い民の上に、私を王とされたからです。
- 10 今、知恵と知識を私に授けてください。そうすれば、私はこの民の前に出入りいたします。さもなければ、だれに、この大いなるあなたの民をさばくことができるでしょうか。」
- 11 神はソロモンに仰せられた。「そのようなことがあなたの心にあり、富も、財も、名誉も、あなたを憎む者たちのいのちさえ願わず、また長寿も願わず、むしろ、わたしがあなたをその王として立てたわたしの民をさばくための知恵と知識を願ったので、
- 12 その知恵と知識があなたに授けられる。またわたしは、あなたの前の王にも後の王にもないほどの富と財宝と誉れをあなたに与える。」
- 13 こうして、ソロモンはギブオンにある高き所から出て行き、会見の天幕の前を去ってエルサレムに行き、イスラエルの王となった。
- 14 ソロモンは戦車と騎兵を集め、戦車千四百台と騎兵一万二千人を所有した。彼はこれらを戦車の町々、およびエルサレムの王のもとに配置した。
- 15 王はエルサレムで銀と金を石のように用い、杉の木をシェフェラのいちじく桑の木のように大量に用いた。
- 16 ソロモンが所有していた馬は、エジプトとクエから輸入されたもので、王の商人たちが、クエから代価を払って手に入れたものであった。
- 17 彼らはエジプトから戦車を銀六百、馬を銀百五十で買い上げて、輸入した。同様に、ヒッタイト人のすべての王やアラムの王たちにも、王の商人たちの仲買で輸出された。

第2章

- 1 ソロモンは、主の御名のための宮と自分の王国のための宮殿を建てることを命じた。
- 2 ソロモンは、荷を担ぐ者七万人、山で石を切り出す者八万人、彼らを指揮する者三千六百人をそろえた。
- 3 彼はツロの王ヒラムのもとに人を遣わして言った。「あなたが私の父ダビデに対し、父の住む家を建てるための杉材を送ってくださったように、私にもしていただけないでしょうか。
- 4 ご覧ください。私は、私の神、主の御名のために宮を建ててこれを主に聖別し、その御前に香りの高い香をたき、常にパンを供え、朝ごと夕ごと、安息日と新月の祭りに、また私たちの神、主の例祭に、全焼のささげ物を献げようとしています。このことは、とこしえにイスラエルに命じられているのです。
- 5 私が建てようとしている宮は壮大なものです。私たちの神は、すべての神々にまさって大いなる神だからです。
- 6 しかし、だれが主のために宮を建てる力を持っているのでしょうか。天も、天の天も主をお入れできないのです。主のために宮を建てようとする私は何者でしょう。ただ主の前に香をたく者にすぎません。
- 7 そこで今、私のもとに、金、銀、青銅、鉄の細工、および紫織物、紅織物、青織物の製造に熟練した人で、各種の彫り物の技術を心得ている人を送ってください。父ダビデが備え、私のもとにいるユダとエルサレムの熟練した者たちも一緒に働きます。
- 8 また、レバノンから杉、もみ、白檀の木材を私のもとに送ってください。あなたの家来たちがレバノンの木を切ることに熟練していることを知っております。もちろん、私の家来たちも、あなたの家来たちと一緒に働きます。
- 9 私のために、木材を多量に用意させるためです。私の建てる宮は壮大であり、すばらしいものだからです。
- 10 それで私は、材木を切り出す者、木を切る者たちのため、あなたのしもべたちのために、砕いた小麦二万コル、大麦二万コル、ぶどう酒二万バテ、油二万バテを提供します。」
- 11 ツロの王ヒラムは文書を送ってソロモンに答えた。「主はご自分の民を愛しておられるので、あなたを彼らの上に立てて王とされました。」
- 12 またヒラムは言った。「天と地を造られたイスラエルの神、主がほめたたえられますように。主はダビデ王に知恵のある子を与え、思慮と悟りを授けて、主のための宮と、自分の王国のための宮殿を建てさせられます。
- 13 今、私は判断力に恵まれた熟練工、職人の長フラムを遣わします。
- 14 彼は、ダンの子孫の女を母とし、ツロの人を父としていて、金、銀、青銅、鉄、石材、木材の細工、および紫織物、青織物、亜麻布、紅織物の製造を心得、委ねられればどのような彫り物も、どのような設計も行うことができる人物です。彼は、あなたの熟練工たち、私の主でありあなたの父であるダビデの熟練工たちとともに働きます。
- 15 今、私の主が語られた小麦と大麦、油とぶどう酒を、しもべどもにお送りください。

- 16** 私たちのほうでは、お入り用なだけレバノンから木材を切り、これをいかだに組んで、海路ヤッファまであなたのもとにお届けします。あなたがこれをエルサレムに運び上げてください。」
- 17** ソロモンは、父ダビデが行った人口調査に続いて、イスラエルの地にいる寄留者全員の人数を調べたが、十五万三千六百人であった。
- 18** 彼は、その中から七万人を荷を担ぐ者に、八万人を山で石を切り出す者に、三千六百人を民の労働を指揮する者にした。

第3章

- 1 ソロモンは、エルサレムのモリヤの山で主の宮の建築を始めた。そこは、主が父ダビデにご自分を現され、ダビデが準備していた場所で、エブス人オルナンの打ち場があったところである。
- 2 ソロモンが建築を始めたのは、その治世の第四年、第二の月の二日であった。
- 3 神の宮を建てるために、ソロモンが据えた礎は次のとおりである。長さは、古い尺度のキュビトによると六十キュビト、幅は二十キュビト。
- 4 前に付く玄関は、長さが神殿の幅と同じ二十キュビト、高さは百二十キュビトとし、その内側を純金でおおった。
- 5 この広間にもみの木の板を張り、良質の金でおおい、さらにその上になつめ椰子の木の彫刻と鎖を置き、
- 6 また、この神殿は宝石で美しく飾った。金はパルワイムの金であった。
- 7 この神殿の梁も、敷居も、壁も、扉も金でおおい、壁にはケルビムを刻んだ。
- 8 またソロモンは至聖所を造った。その長さは神殿の幅と同じ二十キュビト、幅も二十キュビトであり、これを六百タラントの良質の金でおおった。
- 9 杭の金の重さは五十シェケルであった。その部屋の上部も金でおおった。
- 10 ソロモンは至聖所の中に、彫像のケルビムを二つ作り、これに金をかぶせた。
- 11 ケルビムの翼は、長さが二十キュビトであった。片方のケルビムの一方の翼は五キュビトで、神殿の壁に届いていて、もう一方の翼も五キュビトで、もう片方のケルビムの翼に届いていた。
- 12 もう片方のケルビムの一方の翼も五キュビトで、神殿の壁に届いていて、もう一方の翼も五キュビトで、もう片方のケルビムの翼につながっていた。
- 13 これらのケルビムの翼は広げられていて、二十キュビトあった。これらはその足で立ち、その顔は神殿の方に向いていた。
- 14 彼はまた、青糸、紫糸、緋糸、および亜麻糸で垂れ幕を作り、その上にケルビムの模様を縫い付けた。
- 15 彼は、神殿の前に柱を二本作った。高さは三十五キュビトで、その頂にある柱頭は五キュビトであった。
- 16 彼は内殿の鎖を作り、柱の頂に取り付けた。また、ざくろを百個作って、鎖に取り付けた。
- 17 彼は柱を本殿の前に、一つを右側に、一つを左側に立てた。右側の柱の名をヤキンと呼び、左側の柱の名をボアズと呼んだ。

第4章

- 1 彼はまた、青銅の祭壇を造った。その長さは二十キュビト、幅は二十キュビト、高さは十キュビトであった。
- 2 それから、彼は鋳物の「海」を造った。縁から縁まで十キュビトの円形で、高さは五キュビト。周囲は測り縄で巻いて三十キュビトであった。
- 3 その下に沿って、牛の像が周囲を取り巻いていた。一キュビトにつき十ずつの割合で「海」の周りを取り巻いていた。この牛は二段になっていて、「海」を鋳たときに鋳込んだものである。
- 4 「海」は十二頭の牛の上に据えられていた。三頭は北を向き、三頭は西を向き、三頭は南を向き、三頭は東を向いていた。「海」はこれらの牛の上に載せられていて、牛の後部はすべて内側を向いていた。
- 5 「海」の厚さは一手幅あり、その縁は杯の縁のように、ゆりの花の形をしていた。その容量は三千バテであった。
- 6 彼はまた、洗うための洗盤を十個造り、五個を右側に、五個を左側に置いた。その中で全焼のささげ物に用いるものがすすぎ清められた。「海」は祭司たちが身を洗うためのものであった。
- 7 また、金の燭台十個を規定にしたがって作り、本殿の中に、五個を右側、五個を左側に置いた。
- 8 机を十個作り、それを本殿の中に、五個を右側、五個を左側に置いた。それから金の鉢を百個作った。
- 9 さらに祭司たちの庭と大庭、およびその庭の戸を造り、その戸を青銅でおおった。
- 10 「海」は右側、すなわち、東南の方角に置いた。
- 11 さらに、フラムは灰壺と十能と鉢を作った。こうして、フラムは、ソロモン王のために神の宮でなすべきすべての仕事を完了した。
- 12 すなわち、二本の柱と、二本の柱の頂にある丸い柱頭、および柱の頂にある丸い二つの柱頭をおおう二つの格子細工、
- 13 また、二つの格子細工に取り付ける四百個のざくろ、すなわち、柱の先端にある丸い二つの柱頭をおおうそれぞれの格子細工のための二段のざくろ、
- 14 また、台を作り、その台の上の洗盤を作り、
- 15 「海」一つと、その下の十二頭の牛、
- 16 灰壺と十能と肉刺し、およびそれらに属するすべての物を、職人の長フラムがソロモン王のため、主の宮のために、磨き上げた青銅で作った。
- 17 王は、ヨルダンの低地、スコテとツェレダの間の粘土の地でこれらを鋳造した。
- 18 ソロモンはこれらすべての用具を大量に作った。青銅の重さは量られなかった。
- 19 また、ソロモンは神の宮にあるあらゆる物を作った。金の祭壇と、臨在のパンを載せる金の机、

- 20** 内殿の前で火をともしための燭台と、その上のともしび皿を、規定にしたがって純金で作った。
- 21** また、金の飾り花、ともしび皿、芯切りばさみを作った。それは混じりけのない金であった。
- 22** 芯取りばさみ、鉢、平皿、火皿を純金で作った。神殿の入り口は、至聖所に通じる扉と、神殿の本殿に通じる扉を金で作った。

第5章

- 1 こうして、ソロモンが主の宮のためにしたすべての工事が完了した。ソロモンは父ダビデが聖別した物、すなわち、銀、金、各種の用具類を運び入れ、神の宮の宝物倉に納めた。
- 2 それからソロモンは、イスラエルの長老たち、および、イスラエルの部族のかしらたちと一族の長たちをすべて、エルサレムに召集した。ダビデの町シオンから主の契約の箱を運び上げるためであった。
- 3 イスラエルのすべての人々は、第七の新月の祭りに王のもとに集まった。
- 4 イスラエルの長老全員が到着すると、レビ人たちは箱を担ぎ、
- 5 箱と、会見の天幕と、天幕にあったすべての聖なる用具を運び上げた。これらの物を祭司たちとレビ人たちが運び上げた。
- 6 ソロモン王と、王のところに集まったイスラエルの全会衆は、箱の前で羊や牛をいけにえとして献げた。その数はあまりにも多く、数えることも調べることもできなかった。
- 7 祭司たちは、主の契約の箱を、定められた場所、すなわち神殿の内殿である至聖所のケルビムの翼の下に運び入れた。
- 8 ケルビムは、箱の一定の場所の上に翼を広げていた。こうしてケルビムは箱とその担ぎ棒を上からおおった。
- 9 その担ぎ棒は長かったので、棒の先が内殿の前の聖所からは見えていたが、外からは見えなかった。それは今日までそこにある。
- 10 箱の中には、二枚の板のほかには何も入っていなかった。これは、イスラエルの子らがエジプトから出て来たとき、主が彼らと契約を結ばれた際に、モーセがホレブで入れたものである。
- 11 祭司たちが聖所から出て来たときのことである。列席したすべての祭司たちは、務めの組分けにかかわらず自らを聖別していた。
- 12 また、歌い手であるレビ人全員、すなわち、アサフ、ヘマン、エドトン、および彼らの子たちや兄弟たちも、亜麻布を身にまとい、シンバル、琴および豎琴を手にして祭壇の東側に立ち、百二十人の祭司たちも彼らとともにラッパを吹き鳴らしていた。
- 13 ラッパを吹き鳴らす者たち、歌い手たちが、まるで一人のように一致して歌声を響かせ、主を賛美し、ほめたたえた。そして、ラッパとシンバルと様々な楽器を奏でて声をあげ、「主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで」と主に向かって賛美した。そのとき、雲がその宮、すなわち主の宮に満ちた。
- 14 祭司たちは、その雲のために、立って仕えることができなかった。主の栄光が神の宮に満ちたからである。

第6章

- 1 そのとき、ソロモンは言った。「主は、黒雲の中に住む、と言われました。
- 2 そこでこの私は、あなたの御住まいである 家を建てました。御座がとこしえに据えられる場所を。」
- 3 それから王は振り向いて、イスラエルの全会衆を祝福した。イスラエルの全会衆は起立していた。
- 4 彼は言った。「イスラエルの神、主がほめたたえられますように。主は御口をもって私の父ダビデに語り、御手をもってこれを成し遂げて、こう言われた。
- 5 『わたしの民をエジプトの地から導き出した日からこのかた、わたしは、わたしの名を置く家を建てるために、イスラエルの全部族のうちのどの町も選ばず、また、わたしの民イスラエルの上に立つ君主とするために、だれも選ばなかった。
- 6 ただ、エルサレムを選んでそこにわたしの名を置き、ダビデを選んでわたしの民イスラエルの上に立てた。』
- 7 それで私の父ダビデの心にはいつも、イスラエルの神、主の御名のために家を建てたいという思いがあった。
- 8 ところが主は、私の父ダビデにこう言われた。『あなたの心にはいつも、わたしの名のために家を建てたいという思いがあった。その思いがあなたの心にあったことは、良いことである。
- 9 しかし、あなたはその家を建ててはならない。あなたの腰から生まれ出るあなたの子が、わたしの名のために家を建てるのだ。』
- 10 主はお告げになった約束を果たされたので、私は主の約束どおりに父ダビデに代わって立ち、イスラエルの王座に就いた。そしてイスラエルの神、主の御名のためにこの家を建て、
- 11 主の契約が納められている箱をそこに置いた。その契約は、主が、イスラエルの子らと結ばれたものである。」
- 12 彼はイスラエルの全会衆の前で、主の祭壇の前に立ち、両手を伸べ広げた。
- 13 ソロモンは、長さ五キュビト、幅五キュビト、高さ三キュビトの青銅の足台を作って庭の中央に据えていたので、その上に立った。そしてイスラエルの全会衆の前でひざまずき、天に向かって両手を伸べ広げて、
- 14 こう言った。「イスラエルの神、主よ。天にも地にも、あなたのような神はほかにありません。あなたは、心を尽くして御前に歩むあなたのしもべたちに対し、契約と恵みを守られる方です。
- 15 あなたは、あなたのしもべ、私の父ダビデに約束されたことを、ダビデのために守ってくださいました。あなたは御口をもって語り、また、今日のように御手をもってこれを成し遂げられました。
- 16 そこで今、イスラエルの神、主よ。あなたのしもべ、私の父ダビデに約束されたことを、ダビデのために守ってください。『あなたがわたしの前に歩んだように、あなたの子孫が

その道を守り、わたしの律法に歩みさえするなら、あなたには、イスラエルの王座に就く者がわたしの前から断たれることはない』と言われたことを。

- 17 今、イスラエルの神、主よ。あなたのしもベダビデに約束されたおことばが強く立てられますように。
- 18 それにしても、神は、はたして人間とともに地の上に住まわれるでしょうか。実に、天も、天の天も、あなたをお入れすることはできません。まして私が建てたこの宮など、なおさらのことです。
- 19 あなたのしもべの祈りと願いに御顔を向けてください。私の神、主よ。あなたのしもべが御前にささげる叫びと祈りを聞いてください。
- 20 そして、この宮、すなわち、あなたの御名をそこに置くと言われたこの場所に、昼も夜も御目を開き、あなたのしもべがこの場所に向かってささげる祈りを聞いてください。
- 21 あなたのしもべとあなたの民イスラエルが、この場所に向かってささげる願いを聞いてください。あなたご自身が、あなたの御住まいの場所、天からこれを聞いてください。聞いて、お赦してください。
- 22 ある人が隣人に罪を犯して、のろいの誓いを立てるよう求められ、この宮の中にある、あなたの祭壇の前に来て誓うなら、
- 23 あなたご自身が天からこれを聞き、あなたのしもべたちにさばきを行って、悪い者にはその生き方への報いをその頭上に返し、正しい者にはその正しさにしたがって義をもって報いてください。
- 24 あなたの民イスラエルが、あなたの前に罪ある者となって、敵に打ち負かされたとき、彼らが立ち返り、御名をほめたたえ、この宮で御前に祈り願うなら、
- 25 あなたご自身が天からこれを聞き、あなたの民イスラエルの罪を赦し、あなたが彼らとその先祖たちにお与えになった地に、彼らを帰らせてください。
- 26 彼らがあなたの前に罪ある者となって、天が閉ざされ雨が降らなくなったとき、彼らがこの場所に向かって祈り、御名をほめたたえ、あなたが苦しめたことによって彼らがその罪から立ち返るなら、
- 27 あなたご自身が天でこれを聞き、あなたのしもべたち、あなたの民イスラエルの罪を赦してください。彼らの歩むべき良い道を彼らに教え、あなたの民に相続地としてお与えになったあなたの地に雨を降らせてください。
- 28 この地に飢饉が起こり、疫病や立ち枯れや黒穂病、いなごやその若虫が発生したときでも、敵がこの地の町々を攻め囲んだときでも、どのようなわざわい、どのような病気であっても、
- 29 だれでもあなたの民イスラエルが、それぞれ自分の疫病や痛みを思い知らされて、この宮に向かって両手を伸べ広げて祈るなら、どのような祈り、どのような願いであっても、
- 30 あなたご自身が、御座が据えられた場所である天から聞いて、赦し、一人ひとりに、そのすべての生き方にしたがって報いてください。あなたはその心をご存じです。あなただけが、すべての人の子の心をご存じだからです。
- 31 そうして、あなたが私たちの先祖にお与えになった大地の上で彼らが生き続ける間、いつもあなたを恐れて、あなたの道に歩むようにしてください。

- 32 同様に、あなたの民イスラエルの者でない異国人についても、その人があなたの大いなる御名と力強い御手と伸ばされた御腕のゆえに、遠方の地から来てこの宮に向かって祈るなら、
- 33 あなたご自身が、あなたの御座が据えられた場所である天からこれを聞き、その異国人があなたに向かって願うことをすべて、かなえてください。そうすれば、地上のあらゆる民が御名を知り、あなたの民イスラエルと同じようにあなたを恐れるようになり、私が建てたこの宮で御名が呼び求められなければならないことを知るでしょう。
- 34 あなたの民が敵との戦いのために出て行くとき、遣わされる道で、あなたがお選びになったこの都、私が御名のために建てた宮に向かって、あなたに祈るなら、
- 35 天から彼らの祈りと願いを聞いて、彼らの言い分を聞き入れてやってください。
- 36 罪に陥らない人は一人もいません。ですから、彼らがあなたの前に罪ある者となったために、あなたが怒って彼らを敵に渡し、彼らが、遠く、あるいは近くの国に捕虜として捕らわれて行き、
- 37 捕らわれて行った地で我に返り、その捕囚の地であなたに立ち返ってあわれみを乞い、『私たちは罪ある者です。不義をなし、悪を行いました』と言い、
- 38 捕らわれて行った捕囚の地で、心のすべて、たましいのすべてをもってあなたに立ち返り、あなたが彼らの先祖にお与えになった彼らの地、あなたがお選びになったこの都、私が御名のために建てたこの宮の方に向かって祈るなら、
- 39 あなたの御座が据えられた場所である天から、彼らの祈りと願いを聞き、彼らの訴えをかなえて、あなたの前に罪ある者となったあなたの民を赦してください。
- 40 今、わが神よ。どうか、この場所でささげる祈りに御目を開き、御耳を傾けてください。
- 41 今、神、主よ、立ち上がってください。あなたの休み所にお入りください。あなたとあなたの御力の箱も。神、主よ、あなたの祭司たちが救いを身にまとい、あなたにある敬虔な人たちが、いつくしみを喜びますように。
- 42 神、主よ、あなたに油注がれた者たちの顔を退けないでください。あなたのしもベダビデの誠実な行いの数々を思い起こしてください。」

第7章

- 1 ソロモンが祈り終わると、天から火が下って来て、全焼のささげ物と数々のいけにえを焼き尽くし、主の栄光がこの宮に満ちた。
- 2 祭司たちは主の宮に入ることができなかった。主の栄光が主の宮に満ちたからである。
- 3 イスラエルのすべての人々は、火が下り、主の栄光がこの宮の上に現れたのを見て、膝をかがめて顔を地面の敷石に付け、伏し拝んで、「主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで」と主をほめたたえた。
- 4 それから、王とすべての民は、主の前にいけにえを献げた。
- 5 ソロモン王は牛二万二千頭と羊十二万匹を献げた。こうして、王とすべての民は神の宮を奉献した。
- 6 祭司たちはその務めにしたがって立ち、レビ人も主の楽器を手にしていて、これはダビデ王が作ったもので、ダビデが彼らの奏楽によって賛美するとき、「主の恵みはとこしえまで」と主をほめたたえるためのものであった。祭司たちは彼らに対面してラッパを吹き鳴らした。全イスラエルは起立していた。
- 7 ソロモンは、主の宮の前庭の中央部を聖別し、そこで、全焼のささげ物と、交わりのいけにえの脂肪を献げた。ソロモンが造っておいた青銅の祭壇では、全焼のささげ物と穀物のささげ物と脂肪を受け入れることができなかったからである。
- 8 ソロモンはこのとき、ともにいた全イスラエル、すなわち、レボ・ハマテからエジプト川に至るまでの非常に多くの会衆と一緒に、七日間の祭りを行った。
- 9 彼らは八日目にきよめの集会を開いた。七日間、祭壇の奉献を行い、七日間、祭りを行ったからである。
- 10 第七の月の二十三日に、彼は民をそれぞれの天幕に帰らせた。彼らは、主がダビデとソロモンとその民イスラエルに下さった恵みを喜び、心満たされていた。
- 11 こうしてソロモンは、主の宮と王宮を建て終え、主の宮と自分の宮殿について行おうとしていた、彼の心にあったすべてのことを見事に実現した。
- 12 その夜、主はソロモンに現れ、彼に言われた。「わたしはあなたの祈りを聞き、この場所をわたしにいけにえを献げる宮として選んだ。
- 13 わたしが天を閉ざして雨が降らなくなったり、あるいはわたしがバッタに命じてこの地を食い尽くさせたりして、わたしがわたしの民に対して疫病を送ったときには、
- 14 わたしの名で呼ばれているわたしの民が、自らへりくだり、祈りをささげ、わたしの顔を慕い求めてその悪の道から立ち返るなら、わたしは親しく天から聞いて、彼らの罪を赦し、彼らの地を癒やす。
- 15 今、わたしはこの場所でささげられる祈りに目を開き、耳を傾ける。
- 16 今、わたしはこの宮を選んで聖別した。それはとこしえにわたしの名をそこに置くためである。わたしの目とわたしの心は、いつもそこにある。
- 17 もしあなたが、あなたの父ダビデが歩んだように、わたしの前に歩み、わたしがあなたに命じたことすべてをそのまま実行し、わたしの掟と定めを守るなら、

- 18 わたしが、あなたの父ダビデに『あなたには、イスラエルを支配する人が断たれることはない』と言って契約を結んだとおり、わたしはあなたの王座を確立しよう。
- 19 しかし、もしあなたがたが背いて、あなたがたの前に置いたわたしの掟とわたしの命令を捨て去り、行ってほかの神々に仕え、それを拝むなら、
- 20 わたしは彼らに与えた地から彼らを根こそぎにし、わたしがわたしの名のために聖別したこの宮をわたしの前から投げ捨て、これをすべての民の間で物笑いの種とし、嘲りの的とする。
- 21 かつてはそびえていたこの宮も、そのそばを通り過ぎる者はみな驚き恐れて、『何のために、主はこの地とこの宮に、このような仕打ちをされたのだろう』と言う。
- 22 人々は、『彼らは、エジプトの地から彼らを導き出した彼らの父祖の神、主を捨ててほかの神々に頼り、それを拝み、それに仕えた。そのため主はこのすべてのわざわいを彼らに下されたのだ』と言う。」

第8章

- 1 ソロモンが主の宮と自分の宮殿を二十年かけて建て終えたとき、
- 2 ソロモンは、ヒラムが彼に返した町々を建て直し、そこにイスラエル人を住ませた。
- 3 ソロモンはハマテ・ツォバに出て行き、これに打ち勝った。
- 4 彼は荒野にタデモルを建て、倉庫の町々をすべてハマテに建てた。
- 5 彼はまた、上ベテ・ホロンと下ベテ・ホロンを建てた。これは、城壁と門とかんぬきのあ
る防備の町々であった。
- 6 さらにバアラテ、およびソロモンが所有するすべての倉庫の町、戦車のためのすべての
町、騎兵のための町々、またソロモンがエルサレム、レバノン、および彼の全領地に建て
たいと切に願っていたすべてのものを、彼は建てた。
- 7 イスラエルの出ではない、ヒットイト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の生き
残りの民すべて、
- 8 すなわち、この地に残されていた人々、イスラエル人が滅ぼし尽くさなかった人々の子孫
に当たる者たちを、ソロモンは苦役に徴用した。今日に至るまで、そうである。
- 9 しかし、ソロモンはイスラエル人を自分の労働のための奴隷とはしなかった。彼らは戦士
であり、彼の補佐官の長であり、戦車隊や騎兵隊の長だったからである。
- 10 ソロモン王には監督をする長が二百五十人いて、彼らは民を指揮していた。
- 11 ソロモンはファラオの娘を、ダビデの町から彼女のために建てた家に連れ上った。「私の
妻はイスラエルの王ダビデの家に住んではならない。主の箱が入れられたところは聖だか
らである」と彼が考えたからである。
- 12 それからソロモンは、玄関の前に築いた主の祭壇の上に、主のために全焼のささげ物を献
げた。
- 13 また、モーセの命令どおりに、安息日ごと、新月の祭りごと、年三回の例祭、すなわち、
種なしパンの祭り、七週の祭り、仮庵の祭りごとに、日ごとの定めにしたがって献げた。
- 14 彼は父ダビデの定めにしたがい、祭司たちの組分けを定めてその務めに就かせ、レビ人も
その任務に就かせ、日ごとの定めとして、祭司たちの前で賛美と奉仕をさせた。門衛たち
も、その組分けにしたがって、それぞれ門に立たせた。神の人ダビデの命令がこうだった
からである。
- 15 彼らは、王がすべてのことにつき、また宝物倉のことについて、祭司たちとレビ人たちに
命じたことからそれることはなかった。
- 16 ソロモンの工事全体は、主の宮の礎を据える日から完成まで確かに遂行され、主の宮は完
成した。
- 17 それから、ソロモンはエドムの地の海岸にあるエツヨン・ゲベルとエイラトへ行った。
- 18 ヒラムは、自分のしもべたちに託して、船団と海に詳しい水夫たちを彼のもとに送り込ん
だ。彼らは、ソロモンのしもべたちとともにオフィルへ行き、そこから金四百五十タラン
トを取って、ソロモン王のもとに運んだ。

第9章

- 1 ときに、シェバの女王は、ソロモンの名声を聞いたので、難問をもってソロモンを試そうと、非常に大勢の従者を率い、バルサム油と多くの金および宝石をらくだに載せて、エルサレムにやって来た。彼女はソロモンのところに来ると、心にあることをすべて彼に問いかけた。
- 2 ソロモンは、彼女のすべての問いに答えた。ソロモンが分からなくて、彼女に答えられなかったことは何一つなかった。
- 3 シェバの女王は、ソロモンの知恵と、彼が建てた宮殿と、
- 4 その食卓の料理、列席の家来たち、給仕たちの態度とその服装、献酌官たちとその服装、そして主の宮に上る階段を見て、息も止まるばかりであった。
- 5 彼女は王に言った。「私が国であなたの事績とあなたの知恵について聞き及んでいたことは、本当でした。
- 6 私は自分で来て、自分の目で見るとまでは、彼らの言うことを信じなかったのですが、なんと、私にはあなたの知恵のすばらしさを半分も知らされていなかったのです。あなたは、私が聞いていたうわさを上回る方でした。
- 7 なんと幸せなことでしょう。あなたにつく人たちは。なんと幸せなことでしょう。いつもあなたの前に立って、あなたの知恵を聞くことができる、このあなたの家来たちは。
- 8 あなたの神、主がほめたたえられますように。主はあなたを喜び、その王座にあなたを就かせ、あなたの神、主のために王とされました。あなたの神はイスラエルを愛して、これをとこしえに確立されたので、あなたを彼らの上に王として与え、公正と正義を行わせるのです。」
- 9 彼女は百二十タラントの金と、非常に多くのバルサム油と宝石を王に贈った。シェバの女王がソロモン王に贈ったほどのバルサム油はかつてなかった。
- 10 また、オフィルから金を運んで来たヒラムのしもべたちとソロモンのしもべたちは、白檀の木材と宝石を運んで来た。
- 11 王はこの白檀の木材で、主の宮と王宮のための通路を造り、歌い手たちのための豎琴と琴を作った。かつてユダの地で、このようなものが見られたことはなかった。
- 12 ソロモン王は、シェバの女王が王のもとに携えて来た物以外のもので、彼女が求めたものは何でもその望みのままに与えた。彼女は家来たちを連れて、自分の国へ帰って行った。
- 13 一年間にソロモンのところに入って来た金の重さは、金の目方で六百六十六タラントであった。
- 14 このほかに、隊商や商人たちが携えて来たものがあった。アラビアのすべての王たち、およびその地の総督たちも、ソロモンのところに金や銀を携えて来た。
- 15 ソロモン王は、延べ金で大盾二百を作り、その大盾一つに六百シェケルの延べ金を使った。
- 16 また延べ金で盾三百を作り、その盾一つに三百シェケルの金を使った。王はそれらを「レバノンの森の宮殿」に置いた。

- 17 王は大きな象牙の王座を作り、これに純金をかぶせた。
- 18 王座には六つの段があり、その王座には金の足台が取り付けられていた。座席の両側には肘掛けがあり、その肘掛けのわきには二頭の雄獅子が立っていた。
- 19 また、十二頭の雄獅子が六つの段の両側に立っていた。このような物は、どこの王国でも作られたことがなかった。
- 20 ソロモン王が飲み物に用いる器はすべて金であった。「レバノンの森の宮殿」にあった器もすべて純金であった。銀は、ソロモンの時代には価値あるものとは見なされていなかった。
- 21 王にはヒラムのしもべたちを乗せてタルシシュへ行く船があり、三年に一度、タルシシュの船が金、銀、象牙、猿、孔雀を運んで来たからである。
- 22 ソロモン王は、富と知恵とにおいて、地上のどの王よりもまさっていた。
- 23 地上のすべての王は、神がソロモンの心に授けられた知恵を聞こうとして、彼に謁見を求めた。
- 24 彼らはそれぞれ贈り物として、銀の器、金の器、衣服、武器、バルサム油、馬、ろばなどを、毎年携えて来た。
- 25 ソロモンは馬と戦車のための厩舎を四千、および騎兵を一万二千持っていた。彼はこれらを戦車の町々、およびエルサレムの王のもとに配置した。
- 26 彼は、あの大河からペリシテ人の地、さらにエジプトの国境に至るすべての王を支配下に置いた。
- 27 王はエルサレムで銀を石のように用い、杉の木をシェフェラのいちじく桑の木のように大量に用いた。
- 28 馬は、エジプトおよびあらゆる国々からソロモンのもとに運ばれて来た。
- 29 ソロモンについてのその他の事柄、それは最初から最後まで、『預言者ナタンの働き』、『シロ人アヒヤの預言』、および『先見者イドが見たネバテの子ヤロブアムについての幻』に確かに記されている。
- 30 ソロモンはエルサレムで四十年間、全イスラエルの王であった。
- 31 ソロモンは先祖とともに眠りにつき、人々は彼の父ダビデの町に彼を葬った。彼の子レハブアムが代わって王となった。

第10章

- 1 レハブアムはシェケムへ行った。全イスラエルが彼を王とするために、シェケムに来ていたからである。
- 2 ネバテの子ヤロブアムはソロモン王の顔を避けてエジプトに逃れていたが、レハブアムのことを聞いたとき、ヤロブアムはエジプトから戻って来た。
- 3 人々が使者を遣わして、ヤロブアムを呼び寄せたので、彼は全イスラエルとともにやって来て、レハブアムに言った。
- 4 「あなたの父上は、私たちのくびきを重くしました。今、あなたは、父上が私たちに負わせた過酷な労働と重いくびきを軽くしてください。そうすれば、私たちはあなたに仕えます。」
- 5 するとレハブアムは彼らに、「三日たったら、私のところに戻って来るがよい」と言った。そこで民は出て行った。
- 6 レハブアム王は、父ソロモンが生きている間ソロモンに仕えていた長老たちに、「この民にどう返答したらよいと思うか」と相談した。
- 7 彼らは王に答えた。「もし、あなたがこの民に優しくし、彼らに好意を示し、彼らに親切なことばをかけてやるなら、彼らはいつまでもあなたのしもべとなるでしょう。」
- 8 しかし、王はこの長老たちが与えた助言を退け、自分とともに育ち、自分に仕えている若者たちにこう相談した。
- 9 「この民に何と返答したらよいと思うか。彼らは私に『あなたの父上が私たちに負わせたくびきを軽くしてください』と言ってきたのだが。」
- 10 彼とともに育った若者たちは答えた。「『あなたの父上は私たちのくびきを重くしました。けれども、あなたはそれを軽くしてください』と言ってきたこの民には、こう答えたらよいでしょう。『私の小指は父の腰よりも太い。』
- 11 私の父がおまえたちに重いくびきを負わせたのであれば、私はおまえたちのくびきをもっと重くする。私の父がおまえたちをむちで懲らしめたのであれば、私はサソリを使う』と。」
- 12 ヤロブアムとすべての民は、三日目にレハブアムのところに来た。王が「三日目に私のところに戻って来るがよい」と命じたからである。
- 13 王は彼らに厳しく答えた。レハブアム王は長老たちの助言を退け、
- 14 若者たちの助言どおりに民に答えた。「私はおまえたちのくびきを重くする。私はそれをもっと重くする。私の父がおまえたちをむちで懲らしめたのなら、私はサソリを使う。」
- 15 王は民の願いを聞き入れなかった。神がそう仕向けられたからである。それは、かつてシロ人アヒヤを通してネバテの子ヤロブアムに告げられたことばを主が実現されるためであった。
- 16 全イスラエルは、王が自分たちに耳を貸さないのを見てとった。そこで、民は王にことばを返した。「ダビデのうちには、われわれのためのどんな割り当て地があろうか。エッサイの子のうちには、われわれのためのゆずりの地はない。イスラエルよ、それぞれ自分

の天幕に帰れ。ダビデよ、今、あなたの家を見よ。」全イスラエルは自分たちの天幕に帰って行った。

- 17 ただし、ユダの町々に住むイスラエルの子らにとっては、レハブアムがその王であった。
- 18 レハブアム王は役務長官ハドラムを遣わしたが、イスラエルの人々は彼を石で打ち殺した。レハブアム王はやっとの思いで戦車に乗り込み、エルサレムに逃げた。
- 19 このようにして、イスラエルはダビデの家に背いた。今日もそうである。

第11章

- 1 レハブアムはエルサレムに帰り、ユダとベニヤミンの家から選り抜きの戦士十八万を召集し、王国をレハブアム自身のもとに取り戻すため、イスラエルと戦おうとした。
- 2 すると、神の人シェマヤに次のような主のことばがあった。
- 3 「ユダの王、ソロモンの子レハブアム、および、ユダとベニヤミンに属する全イスラエルに告げよ。
- 4 『主はこう言われる。上って行ってはならない。あなたがたの兄弟たちと戦ってはならない。それぞれ自分の家に帰れ。わたしが、こうなるように仕向けたのだから。』」そこで、彼らは主のことばに聞き従い、ヤロブアムを目指して進む行軍を中止して、引き返した。
- 5 レハブアムはエルサレムに住み、ユダに防備の町々を建てた。
- 6 すなわち、ベツレヘムとエタムとテコア、
- 7 ベテ・ツルとソコとアドラム、
- 8 ガテとマレシャとジフ、
- 9 アドライムとラキシユとアゼカ、
- 10 ツォルアとアヤロンとヘブロン。これらはユダとベニヤミンの中にあり、防備の町々であった。
- 11 彼は防備を固めて、その中に隊長を置き、食糧、油、ぶどう酒を蓄えた。
- 12 またどの町にも大盾と槍を置き、これらの町をますます堅固にした。こうして、ユダとベニヤミンは彼の側についた。
- 13 イスラエル全土の祭司たちとレビ人たちは、すべての地域から出て来て、彼の側についた。
- 14 レビ人たちは、自分たちの放牧地と所有地を捨てて、ユダとエルサレムに来たのである。ヤロブアムとその子らが、主の祭司としての彼らの職を解き、
- 15 自分のために祭司たちを任命して、彼が造った高き所と雄やぎと子牛に仕えさせたからである。
- 16 彼らの後に続いて、イスラエルの全部族の中から、イスラエルの神、主を尋ね求めようと心に決めた者たちが、その父祖の神、主にいけにえを献げるためエルサレムに来た。
- 17 彼らは三年の間、ユダの王権を強固にし、ソロモンの子レハブアムに力添えをした。三年の間、彼らがダビデとソロモンの道に歩んだからである。
- 18 レハブアムは、ダビデの子エリモテとエッサイの子エリアブの娘アビハイルの間にできた娘マハラテを妻とした。
- 19 彼女は彼に男の子を産んだ。エウシュ、シェマルヤ、ザハムである。
- 20 彼女を妻とした後で、彼はアブサロムの娘マアカを妻とした。彼女はアビヤ、アタイ、ジザ、シェロミテを産んだ。
- 21 レハブアムは彼のすべての妻や側女にまさってアブサロムの娘マアカを愛した。彼は妻を十八人、側女を六十人抱えていて、二十八人の息子、六十人の娘をもうけた。

- 22** レハブアムはマアカの子アビヤを立ててかしらとし、兄弟たちの長とした。彼を王にしようと考えたからである。
- 23** レハブアムは賢く事を行い、その子どもたちをみな、ユダとベニヤミンの全土に、すなわちすべての防備の町々に分散させ、多くの食糧を彼らに与え、また大勢の妻を彼らのために探し求めた。

第12章

- 1 レハブアムの王位が確立し、彼が強くなると、彼は主の律法を捨て、彼とともにいた全イスラエルもそうした。
- 2 さて、レハブアム王の第五年に、エジプトの王シシャクがエルサレムに攻め上って来た。イスラエルが主の信頼を裏切っていたからである。
- 3 一緒に来たのは、戦車千二百台、騎兵六万人。彼とともにエジプトから来た兵たち、すなわち、ルブ人、スキ人、クシュ人は数えきれないほどであった。
- 4 彼はユダに属する防備の町々を攻め取り、エルサレムまで攻め寄せて来た。
- 5 そのとき、預言者シェマヤが、シシャクのことでエルサレムに集まっていたレハブアムとユダの首長たちのもとに来て言った。「主はこう言われる。『あなたがたがわたしを捨てたので、わたしもあなたがたを捨てて、シシャクの手に渡した。』」
- 6 すると、イスラエルの首長たちと王はへりくだり、「主は正しい」と言った。
- 7 主が、彼らのへりくだった様子をご覧になると、シェマヤに次のような主のことばがあった。「彼らがへりくだったので、わたしは彼らを滅ぼさない。間もなく彼らに救いを与える。わたしの憤りがシシャクの手を通してエルサレムに注がれることはない。
- 8 ただし、彼らはシシャクのしもべとなる。わたしに仕えることと地の諸王に仕えることの違いを知るためである。」
- 9 エジプトの王シシャクはエルサレムに攻め上り、主の宮の財宝、王宮の財宝を奪い取った。彼は何もかも奪い取った。ソロモンが作った金の盾も奪い取った。
- 10 レハブアム王は、その代わりに青銅の盾を作り、これを王宮の門を守る近衛兵の隊長の手に託した。
- 11 王が主の宮に入るたびに、近衛兵が来てこれを運んで行き、また近衛兵の控え室に戻した。
- 12 王がへりくだったとき、主の怒りは彼を離れ、主は徹底的に滅ぼすことはされなかった。ユダにも良いことがあったのである。
- 13 レハブアム王はエルサレムで勢力を増し、国を治めた。レハブアムは四十一歳で王となり、主がご自分の名を置くためにイスラエルの全部族の中から選ばれた都、エルサレムで十七年間、王であった。彼の母の名はナアマといい、アンモン人であった。
- 14 彼は悪事を行った。心を定めて主を求めることをしなかったのである。
- 15 レハブアムについての事柄、それは最初から最後まで、『預言者シェマヤと先見者イドの働き』に、系図にしたがって確かに記載されている。レハブアムとヤロブアムの間には、いつも戦いがあった。
- 16 レハブアムは先祖とともに眠りにつき、ダビデの町に葬られた。彼の子アビヤが代わって王となった。

第13章

- 1 ヤロブアム王の第十八年に、アビヤがユダの王となり、
- 2 エルサレムで三年間、王であった。彼の母の名はミカヤといい、ギブア出身のウリエルの娘であった。アビヤとヤロブアムの間には戦いがあった。
- 3 アビヤは精鋭四十万の勇敢な戦士の部隊を率いて戦いに臨んだ。一方、ヤロブアムも八十万の精鋭の戦士を率いて彼に対抗し、戦いに備えた。
- 4 アビヤは、エフライムの山地にあるツェマライム山の上に立って言った。「ヤロブアムおよび全イスラエルよ、私の言うことを聞け。
- 5 イスラエルの神、主が、塩の契約をもって、イスラエルの王国をとしえにダビデとその子孫に与えられたことを、あなたがたが知らないはずはない。
- 6 ところが、ダビデの子ソロモンのしもべであったネバテの子ヤロブアムが立ち上がって、自分の主君に反逆し、
- 7 彼のもとに、ごろつき、よこしまな者たちが集まり、ソロモンの子レハブアムより優勢となった。それに、レハブアムは若くて気が弱く、彼らに対抗して自分の力を増し加えることがなかった。
- 8 そして今、あなたがたは、ダビデの子孫の手にある主の王国に敵対しようとしている。あなたがたは大軍であり、ヤロブアムがあなたがたのために造って神とした金の子牛もあなたがたとともにある。
- 9 あなたがたは、アロンの子らである主の祭司たちとレビ人を追放し、諸国の民に倣って自分たちのために祭司を立てたではないか。だれでも若い雄牛一頭と雄羊七匹をもって祭司職につこうとするなら、神ではないものの祭司となれたのである。
- 10 しかし、私たちにとっては、主が私たちの神であり、この方を捨てなかった。また、主に仕える祭司たちはアロンの子らであり、レビ人も務めを果たしている。
- 11 彼らは朝ごと夕ごとに主に向けて全焼のささげ物を焼いて煙にし、芳ばしい香をたき、並べ供えるパンをきよい机の上に整え、夕ごとに金の燭台とその上のともしび皿に火をともしている。私たちは、私たちの神、主への務めを果たしているが、あなたがたはこの方を捨て去った。
- 12 見よ、神は私たちとともにいて、かしらとなっておられる。また、神の祭司たちも吹き鳴らすラッパを手にして、あなたがたに対し進撃の合図を吹き鳴らそうとしている。イスラエルの人々よ、あなたがたの父祖の神、主と戦ってはならない。とうてい勝ち目がないからである。」
- 13 ところが、ヤロブアムは伏兵を回して、彼らの背後から攻めるようにさせた。そのため、本隊はユダの正面に、伏兵はその背後にいることとなった。
- 14 ユダが向き直ると、なんと、戦いは前後から迫っていた。そこで、彼らは主に叫び求め、祭司たちはラッパを吹き鳴らした。
- 15 そして、ユダの人々はときをあげた。ユダの人々がときをあげると、神はヤロブアムと全イスラエルを、アビヤとユダの前に打ち破られたので、

- 16** イスラエルの人々はユダの前から逃げ去った。こうして、神は彼らをユダの手に渡された。
- 17** アビヤとその兵たちは彼らを討ち、大打撃を与えた。イスラエルのうち、精鋭五十万が剣に倒れた。
- 18** イスラエル人はこのとき屈服させられ、ユダ人は勝利を得た。彼らがその父祖の神、主に拠り頼んだからである。
- 19** アビヤはヤロブアムを追撃し、ベテルとそれに属する村々、エシャナとそれに属する村々、エフラインとそれに属する村々を彼から取った。
- 20** こうして、ヤロブアムはアビヤの時代に、再び勢力を回復することはできなかった。主が彼を打たれたので、彼は死んだ。
- 21** 一方アビヤは勢力を増し、十四人を妻として、二十二人の息子と十六人の娘をもうけた。
- 22** アビヤについてのその他の事柄、彼の行いとことばは、『預言者イドの注解』に記されている。

第14章

- 1 アビヤは先祖とともに眠りにつき、人々は彼をダビデの町に葬った。彼の子アサが代わって王となった。彼の治世になって十年の間、国は平穏であった。
- 2 アサは、自分の神、主の目にかなう良いことを行った。
- 3 彼は異教の祭壇と高き所を取り除き、石の柱を砕き、アシェラ像を切り倒し、
- 4 ユダの人々に命じて、彼らの父祖の神、主を求めさせ、その律法と命令を行わせた。
- 5 彼はユダのすべての町から高き所と香の台を取り除いた。こうして、王国は彼のもとに平穏であった。
- 6 彼はユダに防備の町々を築いた。主が彼に安息を与えられたので、当時数年の間、国は平穏を保ち、彼と戦う者はいなかった。
- 7 彼はユダの人々に言った。「さあ、これらの町々を建て、その周りに城壁とやぐらを巡らし、門とかんぬきを設けよう。この地はまだ私たちの前にある。私たちが私たちの神、主を求めたからだ。私たちが求めたので、神は周囲の者たちから私たちを守り、安息を下さったのだ。」こうして、彼らは町々を建設し、繁栄した。
- 8 アサには、大盾と槍を携えたユダの兵が三十万、盾を持ち弓を引くベニヤミンの兵が二十八万あり、これらはみな勇士であった。
- 9 さて、クシュ人ゼラフが、彼らに向かって百万の軍勢と三百台の戦車を率いて出陣し、マレシャにまで攻めて来た。
- 10 アサは彼に対して出陣し、マレシャにあるツェファテの谷で戦いの備えをした。
- 11 アサは自分の神、主を呼び求めて言った。「主よ、力の強い者を助けるのも、力のない者を助けるのも、あなたには変わりはありません。私たちの神、主よ、私たちを助けてください。私たちはあなたに拠り頼み、御名によってこの大軍に向かって来ました。主よ、あなたは私たちの神です。人間が、あなたに力を行使することのないようにしてください。」
- 12 主はアサとユダの前でクシュ人を打たれたので、クシュ人は逃げ去った。
- 13 アサおよび彼とともにいた兵は、彼らをゲラルまで追撃した。クシュ人は倒れ、生きている者はいなかった。主とその陣営の前に打ち砕かれたからである。兵たちは非常に多くの分捕り物を持ち帰った。
- 14 彼らはまた、ゲラル周辺のすべての町も打ち倒した。主の恐れがその町々にあったからである。彼らはすべての町で略奪した。そこには多くの略奪できる物があったからである。
- 15 また家畜の群れの天幕も襲い、多くの羊とらくだを奪って、エルサレムに帰った。

第15章

- 1 すると、オデデの子アザルヤに神の霊が臨んだ。
- 2 彼はアサの前に進み出て、言った。「アサおよび、すべてユダとベニヤミンの人々よ、私の言うことを聞きなさい。あなたがたが主とともにいる間は、主はあなたがたとともにおられます。もし、あなたがたがこの方を求めるなら、あなたがたにご自分を示してください。もし、あなたがたがこの方を捨てるなら、この方はあなたがたを捨ててしまわれます。
- 3 長年の間、イスラエルにはまことの神もなく、教師となる祭司もなく、律法也没有ませんでした。
- 4 しかし、苦しみの中で、彼らがイスラエルの神、主に立ち返り、この方を慕い求めたところ、主は彼らにご自分を示してくださいました。
- 5 この時期には、出て行く者にも、入って来る者にも平安がありませんでした。国々に住むすべての人々に数々の大きな騒乱があったからです。
- 6 そして、国は国に、町は町に逆らい、彼らはともに打ち砕かれてしまいました。神があらゆる苦しみをもって、彼らをかき乱されたからです。
- 7 しかし、あなたがたは勇気を出しなさい。力を落としてはなりません。あなたがたの働きには報いがあるからです。」
- 8 アサは、これらのことばと預言者オデデの預言を聞いて奮い立ち、ユダとベニヤミンの全地、また彼がエフライムの山地で攻め取った町々から、忌むべき物を除いた。そして、主の宮の玄関の前にあった主の祭壇を新しくした。
- 9 彼は、ユダとベニヤミンのすべての人々、およびエフライム、マナセ、シメオンから来て彼らのもとに寄留している人々を集めた。その神、主がアサとともにおられるのを見て、イスラエルから多くの人々が彼のもとに下って来ていたのである。
- 10 彼らはアサの治世の第十五年の第三の月にエルサレムに集まった。
- 11 その日、彼らは自分たちが携えて来た分捕り物の中から、牛七百頭と羊七千匹を主にいけにえとして献げた。
- 12 彼らは契約を結び、心を尽くし、いのちを尽くして、父祖の神、主を求めることと、
- 13 だれでもイスラエルの神、主を求めない者は、小さな者も大きな者も、男も女も、死刑にされることとした。
- 14 彼らは大声で喜びの叫びをあげ、ラッパと角笛を吹いて、主に誓いを立てた。
- 15 ユダの人々はみなその誓いを喜んだ。それは、彼らが心のすべてをもって誓いを立て、ただ一筋に主を慕い求め、そして主がご自分を彼らに示されたからである。主は周囲の者から守って彼らに安息を与えられた。
- 16 また、アサ王は、母マアカがアシェラのために憎むべき像を造ったので、彼女を皇太后の位から退けた。アサはその憎むべき像を切り倒して粉々に砕き、これをキデロンの谷で焼いた。
- 17 高き所はイスラエルから取り除かれなかったが、アサの心は生涯、全きものであった。

- 18 彼は、父が聖別した物と自分が聖別した物、銀、金、器を、神の宮に運び入れた。
- 19 アサの治世の第三十五年まで、戦いは起こらなかった。

第16章

- 1 アサの治世の第三十六年に、イスラエルの王バアシャがユダに上って来て、ラマを築き直し、ユダの王アサのもとにだれも出入りできないようにした。
- 2 アサは、主の宮と王宮の宝物倉から銀と金を取り出し、ダマスコに住んでいたアラムの王ベン・ハダドのもとに送り届けて言った。
- 3 「私の父とあなたの父上の間にあったように、私とあなたの間にも同盟を結びましょう。ご覧ください。私はあなたに銀と金を送りました。どうか、イスラエルの王バアシャとの同盟を破棄して、彼が私のもとから離れ去るようにしてください。」
- 4 ベン・ハダドはアサ王の願いを聞き入れ、自分の配下の軍の高官たちをイスラエルの町々に差し向けた。彼らは、イヨンと、ダンと、アベル・マイム、およびナフタリに属するすべての倉庫の町々を攻撃した。
- 5 バアシャはこれを聞くと、ラマを築き直すのを中止し、その工事をやめた。
- 6 そこで、アサ王はユダの人々をみな連れて行き、バアシャが建築に用いたラマの石材と木材を運び出させたうえ、これを用いてゲバとミツパを建てた。
- 7 そのとき、予見者ハナニがユダの王アサのもとに来て、彼に言った。「あなたはアラムの王に抛り頼み、あなたの神、主に抛り頼みませんでした。それゆえ、アラム王の軍勢はあなたの手から逃れたのです。
- 8 あのかシュ人とルブ人は大軍勢ではなかったでしょうか。戦車や騎兵は非常に多くはなかったでしょうか。しかし、あなたが主に抛り頼んだとき、主は彼らをあなたの手に渡されたのです。
- 9 主はその御目をもって全地を隅々まで見渡し、その心がご自分と全く一つになっている人々に御力を現してくださるのです。あなたは、このことについて愚かなことをしました。これから、あなたには数々の戦いが起こるでしょう。」
- 10 アサはこの予見者に対して怒りを発し、彼を牢獄につないだ。彼に対して、このことで激しい怒りを抱いたのである。アサはこのとき、民のうちのある者を踏みにじった。
- 11 見よ。アサについての事柄は、最初から最後まで、『ユダとイスラエルの王の書』にまさしく記されている。
- 12 アサはその治世の第三十九年に、両足とも病気になった。それは非常に重かったが、その病気の中でさえ、彼は主を求めず、医者求めた。
- 13 アサは先祖とともに眠りについた。彼はその治世の第四十一年に死んだ。
- 14 そこで、人々は、彼が自分のためにダビデの町に掘っておいた墓に彼を葬り、調合法にしたがって作った種々の香り高い香油で満ちた寝床に、彼を横たえた。そして、彼のために非常にたくさんの香をたいた。

第17章

- 1 彼に代わって、彼の子ヨシャファテが王となり、イスラエルに対して勢力を増し加えた。
- 2 彼はユダにあるすべての城壁のある町々に軍隊を置き、ユダの地と、彼の父アサが攻め取ったエフライムの町々に守備隊を置いた。
- 3 主はヨシャファテとともにおられた。彼がその先祖ダビデの最初の道に歩いて、バアルの神々に求めず、
- 4 父祖の神に求め、その命令にしたがって歩み、イスラエルの行いに倣わなかったからである。
- 5 主は、王国を彼の手によって確立された。ユダの人々はみなヨシャファテに貢ぎ物を持って来たので、彼には富と誉れが豊かに与えられた。
- 6 彼の心は主の道を大いに誇りとし、彼はさらに、高き所とアシェラ像をユダから取り除いた。
- 7 彼はその治世の第三年に、彼の高官たち、ベン・ハイル、オバデヤ、ゼカリヤ、ネタンエル、ミカヤを遣わして、ユダの町々で教えさせた。
- 8 彼らとともにレビ人も同行した。すなわち、シェマヤ、ネタンヤ、ゼバデヤ、アサエル、シェミラモテ、ヨナタン、アドニヤ、トビヤ、トブ・アドニヤなどのレビ人である。また、彼らとともに、祭司のエリシャマとヨラムも同行した。
- 9 彼らはユダで教えた。主の律法の書を携え、ユダのすべての町を巡回して、民の間で教えた。
- 10 主の恐れが、ユダの周りの地のすべての王国にあったので、ヨシャファテに戦いを仕掛ける者はいなかった。
- 11 ペリシテ人の中には、ヨシャファテに貢ぎ物と税としての銀を持って来る者があり、アラビア人も雄羊七千七百匹、雄やぎ七千七百匹を彼に持って来た。
- 12 こうして、ヨシャファテはしだいに並外れて強大になり、ユダに城塞や倉庫の町々を築いた。
- 13 彼には、ユダの町々で多くのなすべき工事があった。また、エルサレムには勇敢な戦士たちがいた。
- 14 彼らの父祖の家ごとの登録は次のとおりである。ユダでは、千人隊の長たち、隊長アデナ。その配下には勇士三十万人。
- 15 次に隊長ヨハナン。その配下には二十八万人。
- 16 その次は、自ら進んで主に身を献げたジクリの子アマスヤ。その配下には二十万人の勇士。
- 17 ベニヤミンからは、勇士エルヤダ。その配下には、弓と盾を取る者が二十万人。
- 18 次に、エホザバデ。その配下には十八万人の武装した者。
- 19 これらが王に仕えた人々である。このほかに、王がユダ全土の城壁のある町々に配属した人々がいた。

第18章

- 1 ヨシャファテには富と誉れが豊かに与えられたが、彼はアハブと姻戚関係に入った。
- 2 数年後、彼がサマリアのアハブのところに下って行くと、アハブは彼および彼とともにいた民のために、おびたしい数の羊や牛を屠り、ラモテ・ギルアデに攻め上るよう誘った。
- 3 イスラエルの王アハブはユダの王ヨシャファテに言った。「私とともにラモテ・ギルアデに行ってくれませんか。」彼は答えた。「私とあなたは一つ、私の民とあなたの民は一つ、私の馬とあなたの馬は一つです。ともに戦いに臨みましょう。」
- 4 ヨシャファテはイスラエルの王に言った。「まず、主のことばを伺ってください。」
- 5 イスラエルの王は、四百人の預言者を集めて、彼らに尋ねた。「われわれはラモテ・ギルアデに戦いに行くべきか。それとも、私はやめるべきか。」彼らは答えた。「あなたは攻め上ってください。神は王様の手にこれを渡されます。」
- 6 ヨシャファテは、「ここには、われわれがみこころを求めることのできる主の預言者が、ほかにいないのですか」と言った。
- 7 イスラエルの王はヨシャファテに答えた。「ほかにもう一人、主に伺うことのできる者がいます。しかし、私は彼を憎んでいます。彼は私について良いことは預言せず、いつも悪いことばかりを預言するからです。それはイムラの子ミカヤです。」ヨシャファテは言った。「王よ、そういうふうには言わないでください。」
- 8 イスラエルの王は一人の宦官を呼び、「急いでイムラの子ミカヤを連れて来い」と命じた。
- 9 イスラエルの王とユダの王ヨシャファテは、それぞれ王服をまとして王の座に着いて、サマリアの門の入り口にある打ち場で座っていた。預言者はみな、彼らの前で預言していた。
- 10 ケナアナの子ゼデキヤは、王のために鉄の角を作って言った。「主はこう言われます。『これらの角で、あなたはアラムを突いて、絶ち滅ぼさなければならない。』」
- 11 預言者たちはみな、同じように預言した。「あなたはラモテ・ギルアデに攻め上って勝利を得てください。主は王の手にこれを渡されます。」
- 12 ミカヤを呼びに行った使者はミカヤに告げた。「いいですか。預言者たちは口をそろえて、王に対して良いことを述べています。どうか、あなたも彼らと同じように語り、良いことを述べてください。」
- 13 ミカヤは答えた。「主は生きておられる。私の神が私に告げられることを、そのまま述べよう。」
- 14 彼が王のもとに着くと、王は彼に言った。「ミカヤ、われわれはラモテ・ギルアデに戦いに行くべきか。それとも、私はやめるべきか。」彼は答えた。「あなたがたは攻め上って勝利を得なさい。彼らはあなたがたの手に渡されます。」
- 15 王は彼に言った。「私が何度おまえに誓わせたら、おまえは主の名によって真実だけを私に告げるようになるのか。」

- 16 彼は答えた。「私は全イスラエルが、山々に散らされているのを見た。まるで、羊飼いのいない羊の群れのように。そのとき主はこう言われた。『彼らには主人がいない。彼らをそれぞれ 自分の家に無事に帰らせよ。』」
- 17 イスラエルの王はヨシャファテに言った。「あなたに言ったではありませんか。彼は私について良いことは預言せず、悪いことばかりを預言すると。」
- 18 ミカヤは言った。「それゆえ、主のことばを聞きなさい。私は主が御座に着き、天の万軍がその右左に立っているのを見ました。
- 19 そして、主は言われました。『イスラエルの王アハブを惑わして攻め上らせ、ラモテ・ギルアデで倒れさせるのはだれか。』すると、ある者はああしよう、別の者はこうしようと言いました。
- 20 ひとりの霊が進み出て、主の前に立ち、『この私が彼を惑わします』と言うと、主は彼に『どのようにやるのか』とお尋ねになりました。
- 21 彼は答えました。『私が出て行って、彼のすべての預言者の口で偽りを言う霊となります。』主は『きっとあなたは惑わすことができる。出て行って、そのとおりにせよ』と言われました。
- 22 今ご覧のとおり、主はここにいるあなたの預言者たちの口に、偽りを言う霊を授けられました。主はあなたに下るわざわいを告げられたのです。」
- 23 ケナアナの子ゼデキヤが近寄って来て、ミカヤの頬を殴りつけて言った。「どの道を通して主の霊が私を離れ、おまえに語ったというのか。」
- 24 ミカヤは答えた。「あなたが奥の間に入って身を隠すその日に、あなたは思い知ることになる。」
- 25 イスラエルの王は言った。「ミカヤを捕らえよ。町の長アモンと王の子ヨアシュのもとに連れて行き、
- 26 王がこう命じたと言え。『この男を獄屋に入れ、私が無事に帰るまで、わずかなパンと、わずかな水だけ与えておけ。』」
- 27 ミカヤは言った。「もしも、あなたが無事に戻って来ることがあるなら、主は私によって語られなかったということです。」そして、「すべての民よ、聞きなさい」と言った。
- 28 イスラエルの王とユダの王ヨシャファテは、ラモテ・ギルアデに攻め上った。
- 29 イスラエルの王はヨシャファテに言った。「私は変装して戦いに行きます。しかし、あなたは自分の王服を着ていてください。」イスラエルの王は変装し、彼らは戦いに行った。
- 30 アラムの王は、自分の配下の戦車隊長たちに次のように命じた。「兵とも将軍とも戦うな。ただイスラエルの王だけを狙って戦え。」
- 31 戦車隊長たちはヨシャファテを見ると、「あれがイスラエルの王に違いない」と思い、彼と戦おうとして取り囲んだ。ヨシャファテが助けを叫び求めたので、主は彼を助けられた。神は彼らを、彼から引き離された。
- 32 戦車隊長たちは、彼がイスラエルの王ではないことを知ると、彼を追うことをやめて引き返した。
- 33 そのとき、ある一人の兵士が何気なく弓を引くと、イスラエルの王の胸当てと草摺の間を射抜いた。王は戦車の御者に言った。「手綱を返して、私を陣営から出させてくれ。傷を

負ってしまったから。」

- 34 その日、戦いは激しくなった。イスラエルの王は、アラムに向かって夕方まで戦車の中で立っていたが、日没のころになって死んだ。

第19章

- 1 ユダの王ヨシャファテは、無事にエルサレムの自分の家に帰った。
- 2 ハナニの子、先見者エフーが、ヨシャファテ王の前に進み出て言った。「悪者を助け、主を憎む者を愛するというのはですか。このことのゆえに、あなたの上に、主の前から怒りが下ります。
- 3 しかし、あなたには良いことも認められます。あなたはこの地からアシェラ像を取り除き、心を定めて神を求めてこられました。」
- 4 ヨシャファテはエルサレムに住んでいたが、彼はもう一度ベエル・シェバからエフライムの山地に至る民の中に出て行き、彼らを父祖の神、主に立ち返らせた。
- 5 彼はこの地、すなわち、ユダにあるすべての城壁のある町に、それぞれの町のさばき人を任命した。
- 6 彼はさばき人たちにこう言った。「あなたがたは自分のすることに注意しなさい。あなたがたがさばくのは、人のためではなく、主のためだからだ。この方は、さばきが行われるとき、あなたがたとともにおられる。
- 7 今、主への恐れがあなたがたにあるように。忠実に行いなさい。私たちの神、主には、不正をすることも、えこひいきをすることも、賄賂を取ることもないからだ。」
- 8 ヨシャファテは、エルサレムにおいても、レビ人と祭司たちの中から、またイスラエルに属する氏族のかしらたちの中から、主のさばきと訴訟に携わる者たちを任命した。彼らはエルサレムに住んだ。
- 9 ヨシャファテは彼らに次のように命じた。「あなたがたは主を恐れ、真実と全き心をもって、このように行わなければならない。
- 10 それぞれの町に住んでいるあなたがたの兄弟たちから、流血の事件について、あるいは律法、命令、掟、定めについて、あなたがたのところに訴訟が持ち込まれた場合にはいつでも、あなたがたは、彼らが主に対して責めを負わないように、またあなたがたとあなたがたの兄弟たちの上に御怒りが下ることのないように、彼らに警告しなさい。そのように行えば、あなたがたが責めを負うことはない。
- 11 見よ。祭司アマルヤはあなたがたの上に立つかしらで、主の事柄全体に関して責任を持つ。また、ユダの家の長イシュマエルの子ゼバデヤは王の事柄全体に関して責任を負う。さらに、レビ人たちは、あなたがたの前でつかさとなる。勇気を出して実行しなさい。主が善を行う者ととともにいてくださるように。」

第20章

- 1 その後のことであつた。モアブ人とアンモン人、および彼らに合流した一部のアンモン人が、ヨシャファテと戦おうとして攻めて来た。
- 2 すると、人々は来て、ヨシャファテに次のように告げた。「海の向こうのアラムから、大軍があなたに向かって攻めて来ました。早くも、彼らはハツェツォン・タマル、すなわちエン・ゲディに来ています。」
- 3 ヨシャファテは恐れた。そして心に決めて主を求め、ユダの全土に断食を呼びかけた。
- 4 ユダの人々は集まって来て、主の助けを求めた。実にユダのすべての町から人々が来て、主を求めたのである。
- 5 ヨシャファテは、主の宮にある新しい庭の前で、ユダとエルサレムの集団の中に立って、
- 6 こう言った。「私たちの父祖の神、主よ。あなたは天におられる神ではありませんか。あなたはすべての異邦の王国を支配なさる方ではありませんか。あなたの御手には勢いと力があり、あなたに立ち向かえる者はだれもいません。
- 7 私たちの神よ。あなたは、この地の住民をあなたの民イスラエルの前から追い払い、どこしえにあなたの友アブラハムの裔にお与えになったものではありませんか。
- 8 彼らはそこに住み、あなたのため、御名のために、そこに聖所を建てて言いました。
- 9 『もし、さばきの剣、疫病、飢饉などのわざわいが私たちを襲うなら、私たちはこの宮の前、あなたの御前に立ちます。あなたの御名がこの宮にあるからです。そして、私たちは苦難の中からあなたに叫びます。あなたは聞いて、お救いくださいます。』
- 10 ところが今、アンモン人、モアブ人、およびセイル山の人々をご覧ください。かつてイスラエルがエジプトの地から出て来たとき、あなたは彼らの地に入っていくことをお許しになりませんでした。それで、イスラエルは彼らを避け、彼らを滅ぼさなかったのです。
- 11 ご覧ください。彼らが私たちにしようとしていることを。彼らは、あなたが私たちに相続させてくださったあなたの所有地から、私たちを追い払おうとしてやって来たのです。
- 12 私たちの神よ。彼らをさばいてくださらないのですか。攻めて来るこの大軍に当たる力は、私たちにはありません。私たちとしては、どうすればよいのか分かりません。ただ、あなたに目を注ぐのみです。」
- 13 ユダの人々はみな主の前に立っていた。彼らの幼子たち、妻たち、子どもたちもともにいた。
- 14 ときに、主の霊が会衆の中で、アサフ族の出であるレビ人ヤハジエルの上に臨んだ。彼はマタンヤの子エイエルの子ベナヤの子ゼカリヤの子である。
- 15 彼は言った。「ユダのすべての人々、エルサレムの住民、およびヨシャファテ王よ、よく聞いてください。主はあなたがたにこう言われます。『この大軍のゆえに恐れてはならない。おののいてはならない。これはあなたがたの戦いではなく、神の戦いである。』
- 16 明日、彼らのところに攻め下れ。見よ、彼らはツイツの坂を上って来る。あなたがたはエルエル荒野の前、谷の外れで彼らに出会う。

- 17 この戦いは、あなたがたが戦うのではない。堅く立って、あなたがたとともにおられる主の救いを見よ。ユダとエルサレムよ、恐れてはならない。おののいてはならない。明日、彼らに向かって出陣せよ。主はあなたがたとともにおられる。』」
- 18 ヨシャファテは地にひれ伏し、ユダのすべての人々とエルサレムの住民も主の前にひれ伏して、主を礼拝した。
- 19 ケハテの子孫、コラの子孫であるレビ人たちは立ち上がり、大声をあげてイスラエルの神、主を賛美した。
- 20 こうして、彼らは翌朝早く、テコアの荒野へ出陣した。出陣のとき、ヨシャファテは立ち上がって言った。「ユダおよびエルサレムの住民よ、私の言うことを聞け。あなたがたの神、主を信じなさい。そうすれば、あなたがたは堅く立つことができる。主の預言者たちを信じ、勝利を得よ。」
- 21 彼は民と相談し、主に向かって歌う者たちと、聖なる装いをして賛美する者たちとを任命した。彼らが武装した者の前に出て行って、こう言うためであった。「主に感謝せよ。その恵みはとこしえまで。」
- 22 彼らが喜びと賛美の声をあげ始めると、主は伏兵を設けて、ユダに攻めて来たアンモン人、モアブ人、セイル山の人々を襲わせたので、彼らは打ち負かされた。
- 23 アンモン人とモアブ人は、セイル山の住民たちに立ち向かい、これを絶滅させ、根絶やしにした。セイルの住民を滅ぼし尽くすと、彼らは互いに戦って滅ぼし合った。
- 24 ユダの人々が、荒野に面した見張り場に上って、その大軍の方を見渡すと、なんと、死体が野に転がっていた。逃れた者は一人もいなかった。
- 25 ヨシャファテとその民が分捕り物を奪いに行くと、そこで数多くの武具、衣服、高価な器具を見つけたので、運びきれないほどはぎ取った。分捕り物があまりにも多かったので、奪うのに三日もかかった。
- 26 四日目に、彼らはベラカの谷に集まり、そこで主をほめたたえた。それゆえ、人々はその場所の名をベラカの谷と呼んで、今日に至っている。
- 27 ユダとエルサレムの人々はみな、ヨシャファテを先頭にして、喜びのうちにエルサレムに凱旋した。主がその敵のことで彼らに喜びを与えられたからである。
- 28 彼らは琴、豎琴、ラッパを携えてエルサレムに入り、主の宮に行った。
- 29 主がイスラエルの敵と戦われたと聞くと、地のすべての王国に神の恐れが下った。
- 30 ヨシャファテの治世は平穏であった。神は周囲の者から彼を守り、安息を与えられた。
- 31 このようにして、ヨシャファテはユダを治めた。彼は三十五歳で王となり、エルサレムで二十五年間、王であった。その母の名はアズバといい、シルヒの娘であった。
- 32 ヨシャファテはその父アサの道に歩み、そこから外れることなく、主の目にかなうことを行った。
- 33 しかし、高き所は取り除かれなかった。民はなおも、彼らの父祖の神にその心を定めようとしなかった。
- 34 ヨシャファテについてのその他の事柄は、最初から最後まで、『イスラエルの王の書』に載せられた『ハナニの子エフーの働き』にまさしく記されている。

- 35** その後、ユダの王ヨシャファテは、イスラエルの王アハズヤと同盟を結んだ。アハズヤは悪事を行った。
- 36** ヨシャファテはタルシシュへ行く船団をつくるために、アハズヤと同盟を結んだ。そして、彼らはエツヨン・ゲベルで船団をつくった。
- 37** マレシャ出身のドダワフの子エリエゼルがヨシャファテに向かって次のように預言した。
「あなたがアハズヤと同盟を結んだので、主はあなたが造ったものを打ち壊されます。」
すると、船は難破し、タルシシュへ行くことができなくなった。

第21章

- 1 ヨシャファテは先祖とともに眠りにつき、先祖とともにダビデの町に葬られた。その子ヨラムが代わって王となった。
- 2 彼には兄弟たちがいた。ヨシャファテの子で、アザルヤ、エヒエル、ゼカリヤ、アザルヤ、ミカエル、シェファテヤであった。これらはみな、イスラエルの王ヨシャファテの子であった。
- 3 父は彼らに、ユダの防備の町々とともに、銀、金、貴重な贈り物を数多く与えたが、王国はヨラムに与えた。彼が長男だったからである。
- 4 ヨラムは父の王国の上に立つと、勢力を増し加え、その兄弟たちをすべて剣にかけて殺し、イスラエルの首長たち数人も殺した。
- 5 ヨラムは三十二歳で王となり、エルサレムで八年間、王であった。
- 6 彼はアハブの家の者がしたように、イスラエルの王たちの道に歩んだ。アハブの娘が彼の妻だったからである。彼は主の目に悪であることを行なった。
- 7 しかし、主はダビデと結ばれた契約のゆえに、ダビデの家を滅ぼすことを望まなかった。主はダビデとその子孫に常にともしびを与えると約束されたからである。
- 8 ヨラムの時代に、エドムが背いてユダの支配から脱し、自分たちの上に王を立てた。
- 9 ヨラムは、彼の高官たちとともに、すべての戦車を率いて渡って行き、夜襲を試みて、彼を包囲していたエドムと戦車隊長たちを討った。
- 10 それでも、エドムは背いてユダの支配から脱した。今日もそうである。リブナもそのときに背いてユダの支配から脱しようとした。ヨラムが父祖の神、主を捨てたからである。
- 11 また、彼はユダの山々に高き所を造り、エルサレムの住民に淫行を行わせて、ユダを迷わせた。
- 12 預言者エリヤから、次のような書状が彼のもとに届いた。「あなたの父祖ダビデの神、主は、こう言われる。『あなたが、あなたの父ヨシャファテの道にも、ユダの王アサの道にも歩まず、
- 13 イスラエルの王たちの道に歩み、アハブの家が淫行を行わせたように、ユダとエルサレムの住民に淫行を行わせ、また、あなたよりも善良な、あなたの父の家の兄弟たちを殺したので、
- 14 見よ。主は大きな災害をもって、あなたの民、あなたの子たち、あなたの妻たち、そしてあなたの全財産を打つ。
- 15 あなた自身は、悪性の内臓の病気をわずらい、ついにはその病のために、日に日に内臓が外に出て来るようになる。』」
- 16 主は、クシュ人の近くにいたペリシテ人とアラビア人の霊を奮い立たせて、ヨラムに敵対させたので、
- 17 彼らはユダに攻め上って侵略し、王宮で見つかったすべての財産をはじめとして彼の子や妻たちまでも奪い去った。そのため、彼には末子のエホアハズのほか、息子は一人も残らなかった。

- 18 これらすべてのことの後、主は不治の内臓の病で彼を打たれた。
- 19 年は巡り、二年の終わりが来ると、彼の内臓は病のために外に出てしまい、ついに彼は重い病で死んだ。民は、彼の父祖たちのために香をたいたようには、彼のために香をたくことはしなかった。
- 20 彼は三十二歳で王となり、エルサレムで八年間、王であった。彼は惜しまれることなく世を去った。人々は彼をダビデの町に葬ったが、王たちの墓には納めなかった。

第22章

- 1 エルサレムの住民は、彼の末子アハズヤを彼の代わりに王とした。アラビア人とともに陣営に攻めて来た略奪隊が、年長の子らをすべて殺してしまったからである。こうしてユダの王ヨラムの子アハズヤが王となった。
- 2 アハズヤは四十二歳で王となり、エルサレムで一年間、王であった。彼の母の名はアタルヤといい、オムリの孫娘であった。
- 3 彼もまた、アハブの家の道に歩んだ。彼の母が助言者となり、悪を行わせたのである。
- 4 彼はアハブの家に倣って主の目に悪であることを行った。父の死後、アハブの家の者が助言者となり、彼を滅びに至らせたのである。
- 5 彼はまた、彼らの助言にしたがって、イスラエルの王アハブの子ヨラムとともに、アラムの王ハザエルと戦うため、ラモテ・ギルアデに行った。アラム人はヨラムを討った。
- 6 ヨラムは、アラムの王ハザエルと戦ったときにラマで負った傷を癒やすため、イズレエルに帰った。ユダの王ヨラムの子アハズヤは、アハブの子ヨラムが弱っていたので、彼を見舞いにイズレエルに下って行った。
- 7 アハズヤがヨラムのもとに行って滅びたのは、神から出たことであった。彼はそこに着くと、ヨラムとともにニムシの子エフーのところに出て行った。このエフーは、主がアハブの家を絶ち滅ぼすために油を注がれた人であった。
- 8 エフーはアハブの家にさばきを行い、アハズヤに仕えていたユダの首長たちとアハズヤの兄弟の子たちを見つけて、彼らを殺した。
- 9 彼はアハズヤを捜した。アハズヤは、サマリアに身を隠していたところを捕らえられた。人々は彼をエフーのもとに引いて来て殺したが、「これは心を尽くして主を求めたヨシャファテの子である」と言って、彼を葬った。こうして、アハズヤの家は王国を治める者を失った。
- 10 アハズヤの母アタルヤは、自分の子が死んだと知ると、ただちにユダの家に属する王の一族全員を滅ぼした。
- 11 しかし、王の娘エホシェバは、殺される王の子たちの中からアハズヤの子ヨアシュをこっそり連れ出し、寝具をしまう小部屋にその子とその乳母を入れた。祭司エホヤダの妻でアハズヤの妹である、ヨラム王の娘エホシェバが、ヨアシュをアタルヤから隠したので、アタルヤは彼を殺せなかった。
- 12 ヨアシュはこの人々とともに、神の宮に六年間、身を隠していた。その間、アタルヤが国を治めていた。

第23章

- 1 七年目に、エホヤダは奮い立って、百人隊の長たち、すなわち、エロハムの子アザルヤ、ヨハナンの子イシュマエル、オベデの子アザルヤ、アダヤの子マアセヤ、ジクリの子エリシャファテを連れて来て、自分と契約を結ばせた。
- 2 彼らはユダを行き巡り、ユダのすべての町からレビ人とイスラエルの氏族のかしらたちを集めたので、その人たちはエルサレムに来た。
- 3 全会衆は神の宮で王と契約を結んだ。エホヤダは彼らに言った。「見よ。主がダビデの子孫について約束されたとおり、王の子が王となる。
- 4 あなたがたのなすべきことはこうだ。あなたがた祭司とレビ人のうち、安息日に務めに当たる者の三分の一は、入り口の門衛となる。
- 5 三分の一は王宮に、もう三分の一は礎の門に、そして、すべての民は主の宮の庭にいるように。
- 6 祭司と奉仕に当たるレビ人たちしか、主の宮に入ってはならない。彼らは聖別されているので、入ってよい。すべての民は主への務めを果たさなければならない。
- 7 レビ人は、それぞれ武器を手にして王の周りを囲め。宮に入ってくる者は殺されなければならない。あなたがたは、王が入るときにも出るときにも、王とともにいなさい。」
- 8 レビ人およびそのユダの人たちはみな、すべて祭司エホヤダが命じたとおりに行った。彼らは、それぞれ自分の部下たちを、安息日に務めに当たる者も、安息日に務めに当たらない者も連れて来た。祭司エホヤダが組分けの任を解かなかったのである。
- 9 祭司エホヤダは百人隊の長たちに、神の宮にあったダビデ王の槍、大盾、丸い小盾を与えた。
- 10 また、すべての民一人ひとりの手に投げ槍を持たせて、神殿の右側から神殿の左側まで、祭壇と神殿に向かって王の周りに立たせた。
- 11 彼らは王の子を連れ出し、王冠をかぶらせ、さとしの書を渡して、彼を王と宣言した。そしてエホヤダとその子たちが彼に油を注いで、「王様万歳」と叫んだ。
- 12 アタルヤは、王をほめたたえている民と近衛兵の声を聞いて、主の宮の民のところに行った。
- 13 彼女が見ると、なんと、王が入り口の柱のそばに立ち、王の傍らに隊長たちやラッパ奏者たちがいて、民衆がみな喜んでラッパを吹き鳴らしていた。歌い手たちは楽器を手にして賛美の指揮をしていた。アタルヤは自分の衣を引き裂き、「謀反だ、謀反だ」と叫んだ。
- 14 祭司エホヤダは、部隊を委ねられた百人隊の長たちを呼び出して、彼らに言った。「この女を列の間から連れ出せ。この女に従って来る者は剣で殺せ。」祭司が「この女を主の宮で殺してはならない」と言ったからである。
- 15 彼らは彼女を取り押さえた。彼女が馬の門の出入り口を通過して王宮に着くと、彼らは彼女をそこで殺した。
- 16 エホヤダは、彼と、すべての民および王との間で、彼らが主の民となるという契約を結ばせた。

- 17** 民はみなバアルの神殿に行って、それを打ち壊した。彼らはその祭壇と像を打ち砕き、バアルの祭司マタンを祭壇の前で殺した。
- 18** エホヤダは主の宮に管理人を置き、それをレビ人の祭司たちに委ねた。彼らは、ダビデが組分けをして主の宮に配属した人々であり、ダビデの指示に基づいて、喜びと歌をもって、モーセの律法に記されているとおりに主の全焼のささげ物を献げる人々であった。
- 19** また彼は、主の宮の門に門衛たちを立て、汚れた者が、どんな理由があっても入れないようにした。
- 20** 彼は、百人隊の長たち、貴族たち、民の君主たち、および民衆すべてを率いて、王を主の宮から連れて下った。彼らは上の門を通して王宮に入り、王を王国の座に着かせた。
- 21** 民衆はみな喜んだ。アタルヤは剣で殺され、この町は平穏となった。

第24章

- 1 ヨアシュは七歳で王となり、エルサレムで四十年間、王であった。彼の母の名はツィブヤといい、ベエル・シェバ出身であった。
- 2 ヨアシュは、祭司エホヤダが活着している間は、主の目にかなうことを行つた。
- 3 エホヤダは彼に二人の妻を迎えさせた。息子たちと娘たちが彼に生まれた。
- 4 その後のことであつた。ヨアシュは主の宮を新しくすることを志し、
- 5 祭司とレビ人を集めて、彼らに言つた。「ユダの町々へ出て行き、あなたがたの神の宮を毎年修繕するために、全イスラエルから金を集めて来なさい。あなたがたは急いでそのことをしなければならない。」ところが、レビ人は急がなかつた。
- 6 そこで王は、かしらであるエホヤダを呼んで、彼に言つた。「なぜあなたはレビ人に要求して、主のしもべモーセとイスラエルの会衆があかしの天幕のために定めた税金を、ユダとエルサレムから持って来させないのですか。」
- 7 それは、悪女アタルヤとその子らが、神の宮に押し入り、主の宮の聖なるものをすべてバアルの神々のために用いていたからである。
- 8 王が命令すると、人々は一つの箱を作り、それを主の宮の門の外側に置いた。
- 9 彼らは、神のしもべモーセが荒野でイスラエルに定めた税金を主のもとに持って来るように、ユダとエルサレムに布告した。
- 10 すべての首長たちとすべての民は喜んでそれを持って来て、あふれるまで箱に投げ入れた。
- 11 その箱がレビ人によって王の役所に運ばれるたびに、多くの金額があることが確認されると、王の書記と祭司のかしらに仕える管理人が来て箱を空にした。そして、それを持って行って元の場所に戻した。彼らは毎日このように行い、多くの献金を集めた。
- 12 王とエホヤダは、これを主の宮の奉仕の働きをする者に渡した。彼らは、主の宮を新しくするために石切り工と大工を雇い、さらに、主の宮を修繕するために鉄と青銅の職人を雇つた。
- 13 仕事をする者は仕事をし、彼らの手によって修復作業が進んだ。彼らは、神の宮を元のとおりに建て、これを補強した。
- 14 工事が終わると、彼らは残つた金を王とエホヤダの前に持って来た。その金で、主の宮の用具、すなわち、儀式や全焼のささげ物の用具、深皿、金銀の器が作られた。エホヤダが活着している間、主の宮では絶えず全焼のささげ物が献げられた。
- 15 エホヤダは老年を迎え、長寿を全うして死んだ。死んだとき、彼は百三十歳であつた。
- 16 彼はダビデの町に王たちとともに葬られた。彼がイスラエルにおいて、神とその宮に対して良いことを行つたからである。
- 17 エホヤダの死後、ユダの首長たちが来て、王を伏し拝んだ。それで、王は彼らの言うことを聞き入れた。
- 18 彼らは父祖の神、主の宮を捨て、アシェラと偶像に仕えた。彼らのこの罪過のゆえに、御怒りがユダとエルサレムの上に下つた。

- 19 彼らを主に立ち返らせるため、預言者たちが彼らの中に遣わされた。預言者たちは彼らを戒めたが、彼らは耳を貸さなかった。
- 20 神の霊が祭司エホヤダの子ゼカリヤをおおった。彼は民よりも高いところに立って、彼らに言った。「神はこう仰せられる。『あなたがたは、なぜ主の命令を破り、繁栄を逃がすのか。』あなたがたが主を捨てたので、主もあなたがたを捨てられた。」
- 21 ところが、彼らは彼に対して陰謀を企て、王の命令によって、主の宮の庭で彼を石で打ち殺した。
- 22 ヨアシュ王は、ゼカリヤの父エホヤダが自分に尽くしてくれた誠意を心に留めず、かえってその子を殺した。ゼカリヤは死ぬとき、「主がご覧になって、責任を問われますように」と言った。
- 23 年が改まるころ、アラムの軍勢がヨアシュに向かって攻め上り、ユダとエルサレムに来て、民の中から民の指導者たちをすべて滅ぼした。そして、分捕り物をすべてダマスコの王のもとに送った。
- 24 アラムの軍勢は少数で来たが、主が非常に大きな軍勢を彼らの手に渡されたのであった。それは、人々が、その父祖の神、主を捨てたからである。こうして、ヨアシュにさばきが下された。
- 25 軍勢が、重傷を負ったヨアシュを捨てて離れて行ったとき、彼の家来たちは、祭司エホヤダの息子たちの血のゆえに謀反を企て、寝台の上で彼を殺した。彼は死んで、人々は彼をダビデの町に葬ったが、王たちの墓には葬らなかった。
- 26 彼に謀反を企てたのは次の者たちである。アンモン人の女シムアテの子ザバデ、モアブ人の女シムリテの子エホザバデ。
- 27 ヨアシュの子たちのこと、彼について語られた多くの預言のこと、神の宮の修復のことは、『王の書の注解』にまさしく記されている。彼の子アマツヤが代わって王となった。

第25章

- 1 アマツヤは二十五歳で王となり、エルサレムで二十九年間、王であった。彼の母の名はエホアダンといい、エルサレム出身であった。
- 2 彼は主の目にかなうことを行ったが、全き心をもってではなかった。
- 3 彼の王国が強くなると、彼は、自分の父である王を討った家来たちを殺した。
- 4 しかし、彼らの子どもたちは殺さなかった。モーセの書の律法に記されているところに従ったのである。主はそこでこう命じておられた。「父が子のゆえに殺されてはならない。子が父のゆえに殺されてはならない。人が死ぬのは、自分の罪過のゆえでなければならない。」
- 5 アマツヤはユダの人々を召集し、ユダ族およびベニヤミン族の全員を、父祖の家ごとに、千人隊の長、百人隊の長の下に配属した。二十歳以上の者を登録すると、槍と大盾を手にして従軍する兵が三十万人いることが分かった。
- 6 さらに、彼はイスラエルから、銀百タラントで十万人の勇士を雇った。
- 7 すると、神の人が彼のもとに来て言った。「王よ、イスラエルの軍勢をあなたとともに行かせてはなりません。主は、イスラエル、すなわちエフライムのいかなる人々とも、ともにおられないからです。
- 8 しかし、もしあなたが行くのなら、そうしなさい。雄々しく戦いなさい。神はあなたを敵の前につまずかせられます。神には、助ける力も、つまずかせる力もあるからです。」
- 9 アマツヤは神の人に言った。「では、イスラエルの部隊に与えた百タラントはどうしたらよいのか。」神の人は答えた。「主は、それよりも多くのものを、あなたにお与えになることができます。」
- 10 そこでアマツヤは、エフライムから彼のもとに来た部隊を、もとのところに帰すために切り離した。彼らはユダに対して激しく怒り、怒りに燃えながら自分たちのところへ帰って行った。
- 11 アマツヤは奮い立ち、自分の兵を率いて塩の谷へ行き、セイルの者たち一万人を討った。
- 12 ユダの人々は一万人生け捕りにして、崖の上に連れて行き、その崖の上から彼らを投げ落とした。彼らは一人残らず碎かれてしまった。
- 13 アマツヤが自分とともに戦いに行かせずに帰した部隊の者たちは、サマリアからベテ・ホロンに及ぶユダの町々を襲い、三千人を打ち殺し、多くの物を略奪した。
- 14 アマツヤがエドム人を討って帰って来た後のこと、彼はセイル人の神々を持って来て、それらを自分の神々として立てた。彼はその前で伏し拝み、犠牲を供えていた。
- 15 すると、主はアマツヤに向かって怒りを燃やし、彼のもとに預言者を遣わして言われた。「なぜあなたは、あなたの手から自分の民を救い出すこともできないような神々を求めたのか。」
- 16 彼が王にまだ話している最中に、王は彼に言った。「われわれはおまえを王の助言者にしたか。やめよ。なぜ、打ち殺されるようなことをするのか。」そこで、預言者は話すのを

やめたが、こう言った。「私は、神があなたを滅ぼそうと計画しておられるのを知りました。あなたがこのことを行い、私の勧めを聞かなかったからです。」

- 17 ユダの王アマツヤは、協議の上で、エフーの子エホアハズの子、イスラエルの王ヨアシュに使者を送って言った。「さあ、直接、対決しようではないか。」
- 18 イスラエルの王ヨアシュは、ユダの王アマツヤに使者を送って言った。「レバノンのあざみが、レバノンの杉に使者を送って、『あなたの娘を私の息子の妻に出来ないか』と言ったが、レバノンの野の獣が通り過ぎて、そのあざみを踏みにじった。」
- 19 あなたは、『どうだ、自分はエドムを討った』と言って、心高ぶり、誇っている。今は自分の家にとどまっていなさい。なぜ、あえてわざわざ引き起こし、あなたもユダもともに倒れようとするのか。」
- 20 しかし、アマツヤは聞き入れなかった。それは神から出たことであって、彼らを敵の手に渡すためであった。彼らがエドムの神々を求めたからである。
- 21 イスラエルの王ヨアシュは攻め上った。彼とユダの王アマツヤは、ユダのベテ・シェメシュで直接、対決した。
- 22 ユダはイスラエルに打ち負かされ、それぞれ自分の天幕に逃げ帰った。
- 23 イスラエルの王ヨアシュは、エホアハズの子ヨアシュの子、ユダの王アマツヤをベテ・シェメシュで捕らえ、エルサレムに引いて来た。そして、エルサレムの城壁をエフライムの門から隅の門まで、四百キュビトにわたって打ち壊した。
- 24 また、オベデ・エドムが管理している神の宮にあったすべての金と銀、すべての器、王宮の財宝、および人質を取ってサマリアに帰った。
- 25 ユダの王ヨアシュの子アマツヤは、イスラエルの王エホアハズの子ヨアシュの死後、なお十五年生きた。
- 26 アマツヤについてのその他の事柄、それは最初から最後まで、『ユダとイスラエルの王の書』に確かに記されている。
- 27 アマツヤが主に従うことから離れたとき、エルサレムで人々が彼に対して謀反を企てた。彼はラキシユに逃げたが、人々はラキシユに追っ手を送り、そこで彼を殺した。
- 28 彼らは彼を馬に乗せて運び、ユダの町に先祖とともに葬った。

第26章

- 1 ユダの民はみな、当時十六歳であったウジヤを立てて、その父アマツヤの代わりに王とした。
- 2 彼は、アマツヤが先祖とともに眠りについた後、エイラトを築き直し、それをユダに復帰させた。
- 3 ウジヤは十六歳で王となり、エルサレムで五十二年間、王であった。彼の母の名はエコルヤといい、エルサレム出身であった。
- 4 彼は、すべて父アマツヤが行ったとおりに、主の目にかなうことを行った。
- 5 神を認めることを教えたゼカリヤが生きていた間、彼は神を求めた。また彼が主を求めている間、神は彼を栄えるようにされた。
- 6 彼は出陣してペリシテ人と戦い、ガテの城壁、ヤブネの城壁、アシュドデの城壁を打ち壊し、アシュドデをはじめとするペリシテ人の領土に町々を建てた。
- 7 神は彼を助けて、ペリシテ人、グル・バアルに住むアラビア人、メウニム人に立ち向かわせられた。
- 8 アンモン人はウジヤのもとに貢ぎ物を納めた。こうして、彼の名はエジプトの境にまで届いた。その勢力がこの上なく強くなったからである。
- 9 ウジヤはエルサレムの隅の門、谷の門、および城壁の角の上にやぐらを建て、これを強固にした。
- 10 彼はまた、荒野にやぐらを建て、多くの水溜めを掘った。シェフェラにも平野にも多くの家畜を持っていたからである。山地や果樹園には農夫やぶどう作りがいた。彼は農業を好んだのである。
- 11 さらに、ウジヤには常時戦いに備える部隊があった。それは書記エイエルとつかさマアセヤによって登録された人数にしたがって各隊に配属され、王の隊長の一人ハナンヤの指揮下にあった。
- 12 勇士である一族のかしらたちの総数は、二千六百人であった。
- 13 その指揮下には三十万七千五百人の軍勢があり、王を助けて敵に当たる強力な部隊であった。
- 14 ウジヤは、その全軍のために、盾、槍、かぶと、よろい、弓、および投石器用の石を用意した。
- 15 さらに彼はエルサレムで、巧みに考案された兵器を作り、矢や大石を放つために、やぐらの上や城壁の角の上に据えた。こうして、彼の名声は遠くにまで広まった。彼が驚くべき助けを得て、強くなったからである。
- 16 しかし、彼が強くなると、その心は高ぶり、ついに身に滅びを招いた。彼は自分の神、主の信頼を裏切った。香の壇の上で香をたこうとして主の神殿に入ったのである。
- 17 すると、彼の後から祭司アザルヤが、主に仕える八十人の勇敢な祭司たちとともに入って来た。

- 18 彼らはウジヤ王の前に立ちふさがって言った。「ウジヤよ。主に香をたくのはあなたのすることではありません。香をたくのは、聖別された祭司たち、アロンの子らのすることです。聖所から出てください。あなたは主の信頼を裏切りました。あなたには、神である主の誉れは与えられません。」
- 19 ウジヤは激しく怒った。香をたくための香炉を手にしていたが、彼が祭司たちに対して激しく怒ったとき、主の神殿の中にいた祭司たちの前、香の壇の傍らで、彼の額にツアラアトが現れた。
- 20 祭司の長アザルヤと祭司たち全員が彼の方を見ると、なんと、彼の額がツアラアトに冒されていた。そこで彼らは、急いで彼をそこから連れ出した。彼自身も急いで出て行った。主が彼を打たれたからである。
- 21 ウジヤ王は死ぬ日までツアラアトに冒され、ツアラアトに冒された者として隔離された家に住んだ。彼が主の宮から断たれたからである。その子ヨタムが王宮を管理し、民衆をさばいた。
- 22 ウジヤについてのその他の事柄は、最初から最後まで、アモツの子、預言者イザヤが書き記した。
- 23 ウジヤは彼の先祖とともに眠りについた。人々は彼を王たちの墓地の野に先祖とともに葬った。彼がツアラアトに冒された者だと言われていたからである。彼の子ヨタムが代わって王となった。

第27章

- 1 ヨタムは二十五歳で王となり、エルサレムで十六年間、王であった。彼の母の名はエルシャといい、ツアドクの娘であった。
- 2 彼は、すべて父ウジヤが行ったとおりに、主の目にかなうことを行った。ただし、主の神殿に入ることはしなかった。民は依然として滅びに向かっていった。
- 3 彼は主の宮の上の門を建てた。また、オフエルの城壁の上に多くのものを建てた。
- 4 彼はユダの山地に町々を建て、森林地帯には城塞とやぐらを築いた。
- 5 彼はアンモン人の王と戦い、彼らに打ち勝った。その年、アンモン人は銀百タラント、小麦一万コル、大麦一万コルを彼に贈った。アンモン人はこれだけのものを彼に納め、二年目も三年目も同じようにした。
- 6 ヨタムは勢力を増し加えた。彼が、自分の神、主の前に、自分の道を決かなものとしたからである。
- 7 ヨタムについてのその他の事柄、彼の戦いと彼の行いは、『イスラエルとユダの王の書』にまさしく記されている。
- 8 彼は二十五歳で王となり、エルサレムで十六年間、王であった。
- 9 ヨタムは先祖とともに眠りにつき、人々は彼をダビデの町に葬った。彼の子アハズが代わって王となった。

第28章

- 1 アハズは二十歳で王となり、エルサレムで十六年間、王であった。彼はその父祖ダビデとは違って、主の目にかなうことを行わず、
- 2 イスラエルの王たちの道に歩み、そのうえ、バアルの神々のために鋳物の像を造った。
- 3 彼は、ベン・ヒノムの谷で犠牲を供え、主がイスラエルの子らの前から追い払われた異邦の民の、忌み嫌うべき慣わしをまねて、自分の子どもたちに火の中を通らせた。
- 4 彼は高き所、丘の上、青々と茂るあらゆる木の下で、いけにえを献げ、犠牲を供えた。
- 5 彼の神、主が彼をアラムの王の手に渡されたので、彼らは彼を討ち、彼のところから多くの者を捕虜にしてダマスコへ連れ去った。また、彼はイスラエルの王の手にも渡されたので、イスラエルの王は彼を討って大損害を与えた。
- 6 レマルヤの子ペカは、ユダで一日のうちに十二万人を殺した。みな勇士たちであった。彼らがその父祖の神、主を捨てたからである。
- 7 エフライムの勇士ジクリは、王の子マアセヤ、王の家の長アズリカム、王の補佐官エルカナを殺した。
- 8 イスラエルの人々は、自分の同胞の中から、女たち、男女の子どもたち二十万人を捕虜にし、また、彼らから多くの物を略奪して、分捕り物をサマリアに持って行った。
- 9 そこには主の預言者で、その名をオデデという者がいた。この人はサマリアに入って来た軍隊の前に進み出て言った。「見よ。あなたがたの父祖の神、主がユダに対して憤られたため、主はあなたがたの手に彼らを渡された。ところが、あなたがたは天に届くほどの激しい怒りをもって彼らを殺した。
- 10 今、あなたがたはユダとエルサレムの人々を従わせて、自分たちの男女の奴隷にしようとしている。ただ、あなたがた自身も、あなたがたの神、主に対して罪過があるのではないか。
- 11 今、私に聞きなさい。あなたがたの同胞の中から捕らえた捕虜を帰しなさい。主の燃える怒りがあなたがたに臨んでいるからだ。」
- 12 そのとき、エフライムの人々のかしらたちの中から、ヨハナンの子アザルヤ、メシレモテの子ベレクヤ、シャルムの子ヒゼキヤ、ハデライの子アマサが、戦いから帰って来た者たちに対して立ち上がり、
- 13 彼らに言った。「捕虜をここに連れて来てはならない。私たちを、主に対して罪過ある者とするようなことをあなたがたは考えて、私たちの罪と罪過を増し加えようとしている。私たちの罪過はすでに大きく、燃える怒りがイスラエルの上に臨んでいるからだ。」
- 14 そこで、武装した者たちは、首長たちと全会衆の前で、捕虜と略奪した物を手放した。
- 15 指名された人々は立ち上がり、捕虜を引き受け、彼らの中で裸の者にはみな、分捕り物の中から衣服を取って着せた。彼らは捕虜に衣服を着せ、履き物を与え、食べさせ、飲ませ、油を塗り、また、足の弱い者はみなろばに乗せ、なつめ椰子の町エリコにいる兄弟たちのところへ連れて行った。こうして、彼らはサマリアに帰った。
- 16 そのとき、アハズ王はアッシリアの王たちに人を遣わして、助けを求めた。

- 17 エドム人も再び攻めて来て、ユダを打ち、捕虜を捕らえて行った。
- 18 ペリシテ人は、ユダのシェフェラおよびネゲブにある町々を襲い、ベテ・シェメシュ、アヤロン、ゲデロテ、およびソコとそれに属する村々、ティムナとそれに属する村々、ギムゾとそれに属する村々を取って、そこに住んだ。
- 19 これは、主がイスラエルの王アハズのゆえにユダを低くされたためである。彼がユダにおいて好き勝手にふるまい、甚だしく主の信頼を裏切ったからである。
- 20 アッシリアの王ティグラト・ピレセルは彼のところに来たが、彼の力になるどころか、むしろ彼を苦しめた。
- 21 アハズは、主の宮、および王と高官たちの家から物を取って、アッシリアの王に贈ったが、何の助けにもならなかった。
- 22 アッシリアの王が彼を苦しめたとき、このアハズ王は、さらに主の信頼を裏切った。
- 23 彼は、自分を打ったダマスコの神々にいけにえを献げて言った。「アラムの王たちの神々は彼らを助けている。この神々に、私もいけにえを献げよう。そうすれば私を助けてくれるだろう。」これらの神々は、彼と全イスラエルをつまずかせるものとなった。
- 24 アハズは、神の宮の用具を集めた。彼は神の宮の用具を取り外し、主の宮の戸を閉じ、エルサレムの街角のいたるところに祭壇を造った。
- 25 またユダの町という町にはすべて、ほかの神々に犠牲を供えるための高き所を造り、彼の父祖の神、主の怒りを引き起こした。
- 26 アハズについてのその他の事柄、彼のすべての行いは、最初から最後まで、『ユダとイスラエルの王の書』にまさしく記されている。
- 27 アハズは先祖とともに眠りにつき、人々は彼をエルサレムの都に葬った。彼をイスラエルの王たちの墓に運び入れなかったのである。彼の子ヒゼキヤが代わって王となった。

第29章

- 1 ヒゼキヤは二十五歳で王となり、エルサレムで二十九年間、王であった。彼の母の名はアビヤといい、ゼカリヤの娘であった。
- 2 彼は、すべて父祖ダビデが行ったとおりに、主の目にかなうことを行った。
- 3 彼はその治世の第一年の第一の月に、主の宮の戸を開いてこれらを修理した。
- 4 彼は祭司とレビ人を連れて来て、東側の広場に集め、
- 5 彼らに言った。「レビ人よ、聞きなさい。今、あなたがたは自分自身を聖別しなさい。あなたがたの父祖の神、主の宮を聖別し、聖所から忌まわしいものを取り除きなさい。
- 6 というのも、私たちの先祖は信頼を裏切り、私たちの神、主の目に悪であることを行い、この方を捨て去り、主の御住まいから顔を背けて背を向けたからです。
- 7 また、彼らは玄関の戸を閉じ、ともしびを消し、聖所でイスラエルの神に香をたかず、全焼のささげ物を献げることをしなかったのです。
- 8 そこで、主の御怒りがユダとエルサレムの上に下り、あなたがたが自分の目で見るとおり、主は彼らをおののきのもと、恐怖のもと、また嘲りの的とされました。
- 9 見なさい。このため私たちの先祖は剣に倒れ、私たちの息子たち、娘たち、妻たちは、捕虜になっています。
- 10 今、私の願いは、イスラエルの神、主と契約を結ぶことです。そうすれば、主の燃える怒りが私たちから離れるでしょう。
- 11 子たちよ、今、手をこまねいてはなりません。主はあなたがたを選んでご自分の前に立って仕えさせ、ご自分に奉仕する者、香をたく者とされたからです。」
- 12 そこで、レビ人は立ち上がった。ケハテの子孫からはアマサイの子マハテとアザルヤの子ヨエル、メラリの子孫からはアブディの子キシュとエハレルエルの子アザルヤ、ゲルシヨンの子孫からはジンマの子ヨアフとヨアフの子エデン、
- 13 エリツァファンの子孫からはシムリとエイエル、アサフの子孫からはゼカリヤとマタンヤ、
- 14 ヘマンの子孫からはエヒエルとシムイ、エドトンの子孫からはシェマヤとウジエルであった。
- 15 こうして、彼らは自分の兄弟たちを集め、身を聖別して、主のことばによる王の命令のとおり、主の宮をきよめに來た。
- 16 祭司たちは主の宮の内側に入って、これをきよめた。彼らが、主の神殿にあった汚れたものをみな主の宮の庭に出すと、レビ人が受け取って、外のキデロンの谷へ持って行った。
- 17 彼らは第一の月の一日に聖別し始めた。その月の八日に主の玄関に入り、八日間にあつて主の宮を聖別し、第一の月の十六日に終えた。
- 18 そこで、彼らは中に入り、ヒゼキヤ王のところに行って言った。「私たちは主の宮をすべてきよめました。全焼のささげ物の祭壇とそのすべての用具、並べ供えるパンの机とそのすべての備品をきよめました。

- 19 また、アハズ王がその治世に信頼を裏切って取り除いたすべての用具を整えて、聖別しました。ご覧ください。それらは主の祭壇の前にあります。」
- 20 ヒゼキヤ王は朝早く、この町の長たちを集めて、主の宮に上って行った。
- 21 彼らは、王国と聖所とユダのために、罪のきよめのささげ物として、雄牛七頭、雄羊七匹、子羊七匹、雄やぎ七匹を引いて来た。王は、祭司であるアロンの子らに命じて、主の祭壇の上でささげ物を献げさせた。
- 22 彼らは牛を屠り、祭司たちがその血を受け取って祭壇に振りかけた。次に雄羊を屠り、その血を祭壇に振りかけた。次に子羊を屠り、その血を祭壇に振りかけた。
- 23 それから、彼らは王および会衆の前に、罪のきよめのささげ物とする雄やぎを引いて来て、それらの上に自分たちの手を置いた。
- 24 祭司たちはこれらを屠り、その血を祭壇に献げて、罪のきよめのささげ物とし、全イスラエルのために宥めを行った。全焼のささげ物と罪のきよめのささげ物を、王が全イスラエルのために命じたからである。
- 25 また、王はレビ人を主の宮に配置し、ダビデおよび王の先見者ガド、預言者ナタンの命令のとおり、シンバルと琴と豎琴を持たせた。この命令は主から出たものであり、その預言者たちを通して与えられたものだからである。
- 26 こうして、レビ人はダビデの楽器を手にし、祭司はラッパを手にして立った。
- 27 そこでヒゼキヤは、全焼のささげ物を祭壇で献げるように命じた。全焼のささげ物が献げ始められると、イスラエルの王ダビデの楽器に合わせて、主の歌とラッパが始まった。
- 28 全会衆は伏し拝み、歌い手は歌い、ラッパ奏者はラッパを吹き鳴らした。このすべては、全焼のささげ物が終わるまで続いた。
- 29 献げ終わると、王および彼とともにいたすべての者は、膝をかがめて伏し拝んだ。
- 30 ヒゼキヤ王と高官たちが、ダビデおよび先見者アサフのことばをもって主を賛美するようにレビ人に命じると、彼らは喜びつつ賛美した。そして、一同はひざまずいて伏し拝んだ。
- 31 そのとき、ヒゼキヤは言った。「今、あなたがたは主に身を献げました。近づいて、感謝のささげ物を主の宮に携えて来なさい。」会衆は感謝のささげ物を携えて来た。また、心から進んで献げる者はみな、全焼のささげ物を携えて来た。
- 32 会衆が携えて来た全焼のささげ物の数は、牛七十頭、雄羊百匹、子羊二百匹であり、これらはみな、主への全焼のささげ物であった。
- 33 また、聖なるささげ物は、牛六百頭、羊三千匹であった。
- 34 ただ、祭司たちが少なかったので、すべての全焼のささげ物の皮を剥ぎ尽くすことができなかった。そこで、彼らの兄弟に当たるレビ人が、その役目を終えるまで、またほかの祭司たちが身を聖別するまで助けた。レビ人は、祭司たちよりも直ぐな心をもって、身を聖別したのである。
- 35 また、多くの全焼のささげ物、その全焼のささげ物に添える交わりのいけにえの脂肪、注ぎのぶどう酒もあった。こうして主の宮の奉仕の用意ができた。
- 36 ヒゼキヤとすべての民は、神が民のために備えてくださったことを喜んだ。このことが突然のことだったからである。

第30章

- 1 ヒゼキヤはイスラエルとユダの全土に人を遣わして、またエフライムとマナセに手紙を書いて、エルサレムにある主の宮に来て、イスラエルの神、主に過越のいけにえを献げるように呼びかけた。
- 2 王とその高官たちとエルサレムの全会衆は協議して、第二の月に過越のいけにえを献げようと決めた。
- 3 というのは、身を聖別した祭司たちが十分な数に達しておらず、民もエルサレムに集まっていなかったのもので、そのときには献げることができなかったからである。
- 4 このことは、王と全会衆の目に良いことに思えたので、
- 5 彼らはベエル・シェバからダンに至るまで、イスラエル全土に通達を出し、エルサレムに来てイスラエルの神、主に過越のいけにえを献げるよう、呼びかけることを決定した。規定どおりに献げている者が多くなかったからである。
- 6 急使たちは、王とその高官たちから託された手紙を携えて、イスラエルとユダの全土を歩き巡り、王の命令のとおり告げた。「イスラエルの子らよ、アブラハム、イサク、イスラエルの神、主に立ち返りなさい。そうすれば、主は、アッシリアの王たちの手を逃れて残ったあなたがたのところに、帰って来てくださいます。
- 7 あなたがたは、父祖の神、主の信頼を裏切ったあなたがたの父たちや兄弟たちのようになってはなりません。あなたがたが見るとおり、主は彼らを恐怖に渡されました。
- 8 今、あなたがたは、自分たちの父たちのようにうなじを固くしてはなりません。主に服従しなさい。とこしえに聖別された主の聖所に来て、あなたがたの神、主に仕えなさい。そうすれば、主の燃える怒りがあなたがたから離れるでしょう。
- 9 もしあなたがたが主に立ち返るなら、あなたがたの兄弟や子たちは、彼らを捕虜にした人々のあわれみを受け、この地に帰って来るでしょう。あなたがたの神、主は恵み深く、あわれみ深い方であり、あなたがたが主に立ち返るなら、あなたがたから御顔を背けられることはありません。」
- 10 こうして急使たちは、エフライムとマナセからゼブルンの地に至るまで、町から町へと行き巡ったが、人々は彼らを笑いものにして嘲った。
- 11 ただ、アシェル、マナセ、およびゼブルンの一部の人々は、へりくだってエルサレムに上って来た。
- 12 また、ユダには神の御手が臨んで、人々の心を一つにし、主のことばどおり、王とその高官たちの命令が実行された。
- 13 こうして、第二の月に多くの民が、種なしパンの祭りをを行うためにエルサレムに集まった。それは、おびただしい数の大集団であった。
- 14 彼らは立ち上がり、エルサレムにあった祭壇を取り除き、すべての香の壇を取り除いて、キデロンの谷に投げ捨てた。
- 15 そして、第二の月の十四日に、彼らは過越のいけにえを屠った。祭司とレビ人は恥じて、身を聖別し、全焼のささげ物を主の宮に携えて来た。

- 16** 彼らは神の人モーセの律法のとおり、定めにしたがって、それぞれの持ち場に立った。祭司はレビ人の手から受け取った血を振りかけた。
- 17** 会衆の中には、身を聖別していない者が多かった。そこで、きよくないすべての人々に代わって、レビ人が、過越のいけにえを屠る役目に就かなければならなかった。それらを主に対して聖なるものとするためである。
- 18** 民のうち大勢の者、エフライムとマナセ、イッサカルとゼブルンの多くの者は、身をきよめずに、しかも、記されているのとは異なったやり方で過越のいけにえを食べてしまった。それでヒゼキヤは彼らのために祈った。「いつくしみ深い主よ、彼らをお赦してください。
- 19** 彼らは聖なるもののきよめの規定どおりにいたしませんでしたが、心を定めて神を、彼らの父祖の神、主を求めています。」
- 20** 主はヒゼキヤの願いを聞き、民を癒やされた。
- 21** エルサレムにいたイスラエルの子らは、七日の間、大きな喜びをもって種なしパンの祭りを行った。レビ人と祭司たちは、毎日主に向かって力強い調べの楽器を奏でて、主をほめたたえた。
- 22** ヒゼキヤは、主への務めによく通じているすべてのレビ人に励ましのことばをかけた。彼らは、交わりのいけにえを献げ、父祖の神、主に告白をしつつ、七日間、祝いの食事にあずかった。
- 23** 全会衆は、さらに七日間祭りをを行うことを決め、喜びをもって七日間、祭りを行った。
- 24** ユダの王ヒゼキヤは、千頭の雄牛と七千匹の羊を会衆に提供し、高官たちは雄牛千頭と羊一万匹を会衆に提供した。また、多くの祭司が身を聖別した。
- 25** こうして、ユダの全会衆、祭司とレビ人、イスラエルから来た全会衆、イスラエルの地から来た寄留者でユダに在住している者たちは、みな喜んだ。
- 26** エルサレムには大きな喜びがあった。イスラエルの王、ダビデの子ソロモンの時代以来、エルサレムでこのようなことはなかったからである。
- 27** レビ人の祭司たちが立ち上がって民を祝福した。彼らの声は聞き届けられ、彼らの祈りは、主の聖なる御住まいである天に届いた。

第31章

- 1 これらすべてのことが終わると、そこにいた全イスラエルはユダの町々に出て行き、石の柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒し、ユダ全土とベニヤミン、またエフライムとマナセの中にある高き所と祭壇を徹底的に壊した。そして、すべてのイスラエルの子らは、それぞれ自分の町、自分の所有地へ帰って行った。
- 2 ヒゼキヤは祭司とレビ人の組を定め、祭司とレビ人それぞれの組ごとに、その奉仕にしたがって全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げさせ、さらに、主の宿営の門で仕え、告白し、賛美させた。
- 3 また王は、全焼のささげ物のために、自分の財産から自分の分を出した。すなわち、主の律法に記されているとおりに、朝夕の全焼のささげ物、また安息日、新月の祭り、例祭ごとに献げる全焼のささげ物をした。
- 4 さらに彼は、エルサレムに住む民に対して、祭司とレビ人の受ける分を与えるように命じた。祭司とレビ人が主の律法に専念するためであった。
- 5 この命令が広まるとともに、イスラエルの子らは、穀物、新しいぶどう酒、油、蜜など、畑のすべての収穫の初物をたくさん持って来た。彼らはすべての物の十分の一を豊富に携えて来た。
- 6 ユダの町々に住むイスラエルとユダの人々も、牛や羊の十分の一と、彼らの神、主に聖別した聖なるささげ物の十分の一を携えて来て、いくつもの山に積み上げた。
- 7 第三の月に彼らは積み始め、第七の月に終えた。
- 8 ヒゼキヤと高官たちは、やって来て積まれた山を見ると、主とその民イスラエルをほめたたえた。
- 9 ヒゼキヤが、その積まれた山について祭司とレビ人に説明を求めると、
- 10 ツァドク家の祭司の長アザルヤが、彼に答えて言った。「人々が奉納物を主の宮に携えて来ることを始めてから、食べて満ち足り、たくさん残るようになりました。主が御民を祝福されたので、その残りがこんなにたくさんあるのです。」
- 11 そこで、ヒゼキヤが主の宮の脇部屋を整えるように命じたので、彼らは整えて、
- 12 その奉納物と十分の一の聖なるささげ物を忠実に運び入れた。彼らを指図した長はレビ人カナンヤであり、その兄弟シムイが補佐であった。
- 13 エヒエル、アザズヤ、ナハテ、アサエル、エリモテ、エホザバデ、エリエル、イスマクヤ、マハテ、ベナヤは、ヒゼキヤ王と神の宮のつかさアザルヤの命によって、カナンヤとその兄弟シムイを助けて管理者となった。
- 14 東の門の門衛、レビ人イムナの子コレは、神に進んで献げるものを受け持ち、主への奉納物と最も聖なるささげ物を分配した。
- 15 彼の下には、エデン、ミンヤミン、ヨシュア、シェマヤ、アマルヤ、シェカンヤがいて、祭司の町々で組ごとに、老若の別なく、忠実に彼らの兄弟たちに分配した。
- 16 これとは別に、系図に記載された三歳以上の男子で、毎日の日課として組ごとの任務に就き、奉仕に当たるために主の宮に入るすべての者にも分配した。

- 17** また父祖の家ごとに祭司として系図に記載された者、および、二十歳以上のレビ人で系図に記載された者で、組ごとにその任務に就く人々にも分配した。
- 18** さらに、全会衆のうち、すべて系図に記載された幼児、妻たち、息子たち、娘たちにも分配した。彼らは聖なるささげ物を、聖なるものとして忠実に扱ったからである。
- 19** また、それぞれの町の放牧地にいるアロンの子らである祭司たちのためには、どの町にも指名された者たちがいて、祭司たちのすべての男子、および、レビ人で系図に記載されている者すべてに受ける分を与えることとした。
- 20** ヒゼキヤはユダの全地でこのように行い、その神、主の前に、良いこと、正しいこと、真実なことを行った。
- 21** 彼が始めたすべてのわざにおいて、すなわち、神の宮の奉仕において、律法において、命令において、彼は神を求め、心を尽くして行い、これを成し遂げた。

第32章

- 1 これらの真実なことが行われた後、アッシリアの王センナケリブが来てユダに入り、城壁のある町々に対して陣を敷いた。それらを攻め取ろうと考えたのである。
- 2 ヒゼキヤは、センナケリブが来て、エルサレムに対して戦を仕掛けようとしているのを見たので、
- 3 町の外にある泉の水をふさごうと、高官たちや勇士たちと相談した。彼らは王を支持した。
- 4 そこで、多くの民が集まり、すべての泉と、この地を流れている川をせき止めて言った。「アッシリアの王たちに攻め入らせ、豊富な水を見つけさせてなるものか。」
- 5 王は奮い立ち、崩れていた城壁をすべて改修し、その上にやぐらを立て上げ、その外側にもう一つの城壁を築き、ダビデの町のみ口を強固にした。さらに、大量の投げ槍と盾を作った。
- 6 彼は民の上に戦時の隊長たちを立て、彼らを町の門の広場に召集し、激励して言った。
- 7 「強くあれ。雄々しくあれ。アッシリアの王や、彼とともにいるすべての大軍を恐れてはならない。おののいてはならない。彼とともにいる者よりも大いなる方が、私たちとともにいてくださるからである。
- 8 彼とともにいる者は肉の腕だが、私たちとともにおられる方は、私たちの神、主であり、私たちを助け、私たちの戦いを戦ってくださる。」民はユダの王ヒゼキヤのことばによって力づけられた。
- 9 この後、アッシリアの王センナケリブは、その家来たちをエルサレムに遣わした。彼自身は全軍を率いてラキシュを攻めていた。家来たちは、ユダの王ヒゼキヤとエルサレムにいたすべてのユダの人々に告げた。
- 10 「アッシリアの王センナケリブがこう言っておられる。おまえたちは何に拠り頼んで、エルサレムの包囲の中にとどまるのか。
- 11 ヒゼキヤは、『私たちの神、主は、アッシリアの王の手から私たちを救い出してください』と言って、おまえたちをそそのかし、飢えと渇きで、おまえたちを死なせようとしているではないか。
- 12 ヒゼキヤとは、その高き所と祭壇を取り除いて、ユダとエルサレムに『あなたがたは、ただ一つの祭壇の前で拝み、その上で香をたかなくてはならない』と言った者ではないか。
- 13 おまえたちは、私と私の先祖たちがすべての国々の民にしてきたことを知らないのか。諸国の神々が彼らの国を私の手から救い出すことができたか。
- 14 私の先祖たちが滅ぼしたこれらの国々の神々のうち、だれがその民を私の手から救い出すことができたか。おまえたちの神がおまえたちを私の手から救い出すことができるかどうか。
- 15 今、おまえたちは、ヒゼキヤにごまかされるな。このようにそそのかされてはならない。彼を信じるな。どのような国、どのような王国のどのような神も、その民を私の手や私の

先祖たちの手から救い出すことはできないからだ。まして、おまえたちの神は、おまえたちを私の手から救い出すことはできない。」

- 16 彼の家来たちは、なおも、神である主とそのしもべヒゼキヤに悪口を浴びせた。
- 17 センナケリブは手紙を書いて、イスラエルの神、主を侮辱し、主に逆らって言った。「自分の民を私の手から救い出せなかった国々の神々と同じように、ヒゼキヤの神も、その民を私の手から救い出すことはできない。」
- 18 彼らは、城壁の上にいたエルサレムの民にユダのことばで大声で呼びかけ、民を恐れさせ、おじけさせて、この町を取ろうとした。
- 19 彼らは、人の手のわざである、地上の民の神々について語るのと同じように、エルサレムの神について語ったのである。
- 20 ヒゼキヤ王と、アモツの子、預言者イザヤは、このことについて祈り、天に叫び求めた。
- 21 主は御使いを遣わして、アッシリアの王の陣営にいたすべての勇士、指揮官、隊長を全滅させた。アッシリアの王は恥じて国へ帰り、自分の神の宮に入った。そのとき、自分の身から生まれ出た者たちが、そこで彼を剣にかけて倒した。
- 22 こうして主は、ヒゼキヤとエルサレムの住民を、アッシリアの王センナケリブの手、および、すべての者の手から救って、四方から彼らを守られた。
- 23 多くの人々が、主へのささげ物やユダの王ヒゼキヤに贈る選りすぐりの品々を携えて、エルサレムに来るようになった。この時以来、ヒゼキヤはすべての国々から尊敬の目で見られるようになった。
- 24 そのころ、ヒゼキヤは病気になって死にかかっていた。彼が主に祈ったとき、主は彼に答え、しるしを与えられた。
- 25 ところがヒゼキヤは、自分に与えられた恵みに応えようとせず、かえってその心を高ぶらせたので、彼の上に、また、ユダとエルサレムの上に御怒りが下った。
- 26 しかし、ヒゼキヤがその心の高ぶりを捨ててへりくだり、彼もエルサレムの住民もそうしたので、主の御怒りは、ヒゼキヤの時代には彼らの上に臨まなかった。
- 27 ヒゼキヤは非常に多くの富と誉れを手にした。彼は、銀、金、宝石、バルサム油、盾、すべての尊い器を納める宝物倉、
- 28 穀物、新しいぶどう酒、油などの産物のための倉庫、さらに、あらゆる家畜のための小屋や、羊の群れの囲いを造った。
- 29 彼は町々を建て、羊や牛の群れもおびたらしい数であった。神が、実に豊かな財産を彼に与えられたからである。
- 30 このヒゼキヤこそ、上方にあるギホンの水源をふさぎ、ダビデの町の西側に向かってまっすぐに流した人である。ヒゼキヤは、そのすべての仕事を成し遂げた。
- 31 ただし、バビロンの首長たちが、この地に示されたしるしについて調べるために彼のもとに使節を遣わしたとき、神は彼を試みて、その心にあることすべてを知ろうとして彼を捨て置かれた。
- 32 ヒゼキヤについてのその他の事柄、その誠実な行いは、『ユダとイスラエルの王の書』の『アモツの子、預言者イザヤの幻』にまさしく記されている。

33 ヒゼキヤは先祖とともに眠りにつき、人々は彼をダビデの子たちの墓地の上り坂に葬った。ユダのすべての人々とエルサレムの住民は、彼の死に際し、彼に栄誉を与えた。彼の子マナセが代わって王となった。

第33章

- 1 マナセは十二歳で王となり、エルサレムで五十五年間、王であった。
- 2 彼は、主がイスラエルの子らの前から追い払われた異邦の民の忌み嫌うべき慣わしをまねて、主の目に悪であることを行った。
- 3 そして、父ヒゼキヤが取り壊した高き所を築き直し、バアルのためにいくつもの祭壇を築き、アシェラ像を造った。また、彼は天の万象を拝んでこれに仕えた。
- 4 こうして彼は、主がかつて「エルサレムにわたしの名がとこしえにあるように」と言われた主の宮に、いくつもの祭壇を築いた。
- 5 主の宮の二つの庭には、天の万象のために祭壇を築いた。
- 6 この彼は、ベン・ヒノムの谷で自分の子どもたちに火の中を通らせ、ト占をし、まじないをし、呪術を行い、霊媒や口寄せをし、主の目に悪であることを行って、いつも主の怒りを引き起こしていた。
- 7 彼はまた、自分が造った偶像の彫像を神の宮に安置した。神はかつてこの宮について、ダビデとその子ソロモンに仰せられた。「わたしは、この宮に、そしてわたしがイスラエルの全部族の中から選んだエルサレムに、わたしの名をとこしえに置く。
- 8 もし彼らが、わたしの命じたすべてのこと、わたしがモーセを通して与えたすべての律法と掟と定めを守り行いさえするなら、わたしはもう二度と、あなたがたの先祖たちのものと定めた地からイスラエルの足を去らせることはしない。」
- 9 しかし、マナセはユダとエルサレムの住民を迷わせて、主がイスラエルの子らの前で根絶やしにされた異邦の民よりも、さらに悪いことを行わせた。
- 10 主はマナセとその民に語られたが、彼らは耳を傾けなかった。
- 11 そこで主は、アッシリアの王の配下にある軍の長たちを彼らのところに連れて来られた。彼らはマナセを鉤で捕らえ、青銅の足かせにつないで、バビロンへ引いて行った。
- 12 しかし、彼は苦しみの中で彼の神、主に嘆願し、父祖の神の前に大いにへりくだり、
- 13 神に祈ったので、神は彼の願いを聞き入れ、その切なる求めを聞いて、彼をエルサレムの彼の王国に戻された。こうしてマナセは、主こそ神であることを知った。
- 14 その後、彼はダビデの町の外側、ギホンの西側の谷に城壁を築いた。それは魚の門に至り、オフエルを囲むもので、非常に高く築かれた。また、彼はすべてのユダの城壁のある町々に軍の高官を置いた。
- 15 また彼は、主の宮から異国の神々と偶像、および、主の宮のある山とエルサレムに自分が築いたすべての祭壇を取り除き、町の外に投げ捨てた。
- 16 そして、主の祭壇を築き直し、その上で交わりのいけにえと感謝のいけにえを献げ、ユダに命じて、イスラエルの神、主に仕えさせた。
- 17 しかし民は、自分たちの神、主に対してではあったが、なお高き所でいけにえを献げていた。
- 18 マナセについてのその他の事柄、彼が神にささげた祈り、イスラエルの神、主の御名によって彼に語った先見者たちのことばは、まさしく『イスラエルの王の書』にある。

- 19** 彼の祈り、その願いが聞き入れられたこと、および、彼がへりくだる前に犯したその罪、その不信の罪、高き所を築き、アシェラ像と刻んだ像を立てた場所については、『ホザイの働き』にまさしく記されている。
- 20** マナセは先祖とともに眠りにつき、その家に葬られた。彼の子アモンが代わって王となった。
- 21** アモンは二十二歳で王となり、エルサレムで二年間、王であった。
- 22** 彼はその父マナセが行ったように、主の目に悪であることを行った。アモンはその父マナセが造ったすべての刻んだ像にいけにえを献げ、これに仕えた。
- 23** しかし、その父マナセがへりくだったようには、主の前にへりくだらず、かえって、このアモンは罪過を増し加えた。
- 24** 彼の家来たちは彼に謀反を起こし、その宮殿の中で彼を殺した。
- 25** しかし、民衆はアモン王に謀反を起こした者をみな打ち殺した。民衆はアモンの子ヨシヤを代わりに王とした。

第34章

- 1 ヨシヤは八歳で王となり、エルサレムで三十一年間、王であった。
- 2 彼は主の目にかなうことを行い、父祖ダビデの道に歩み、右にも左にもそれなかった。
- 3 彼の治世の第八年、まだ若いころに、彼は父祖ダビデの神を求めることを始め、第十二年にユダとエルサレムをきよめて、高き所、アシェラ像、刻んだ像、および鑄像を除き始めた。
- 4 人々は彼の前でバアルの神々の祭壇を打ち壊した。彼は、その上にあった香の台を切り倒し、アシェラ像と刻んだ像と鑄像を打ち碎いて粉々にし、これらのいけにえを献げた者たちの墓の上にまき散らした。
- 5 彼はまた、祭司たちの骨を彼らの祭壇の上で焼き、ユダとエルサレムをきよめた。
- 6 また、マナセ、エフライム、シメオン、さらにはナフタリに至る町々や、その周辺の荒れた地方でも同様にした。
- 7 彼はイスラエルの全地で祭壇を打ち壊し、アシェラ像と刻んだ像を粉々に砕き、すべての香の台を切り倒して、エルサレムに帰った。
- 8 その治世の第十八年に、ヨシヤはこの地と宮をきよめるために、アツアルヤの子シャファン、この町の長マアセヤ、エホアハズの子である史官ヨアフを遣わして、自分の神、主の宮を修理した。
- 9 彼らは大祭司ヒルキヤのもとに行き、神の宮に納められていた金を渡した。これは入り口を守るレビ人が、マナセとエフライム、すべてのイスラエルの残りの者、および全ユダとベニヤミンから集めたものであった。それから彼らはエルサレムに戻り、
- 10 主の宮で工事をしている監督者たちにそれを手渡した。監督者たちは、神殿を繕い、修理するために、主の宮で行われている工事をしている者たちにそれを渡した。
- 11 彼らは、大工や建築する者たちにそれを渡した。切り石やつなぎ材を買い、ユダの王たちが荒れさせた家々に梁を置くためであった。
- 12 この人々は忠実に仕事を行った。彼らの上には、メラリ族のレビ人やハテとオバデヤ、ケハテ族のゼカリヤとメシュラムが監督として任命された。レビ人たちはみな、楽器を奏するのが得意な者たちであったが、
- 13 荷を運ぶ者たちも管理し、各分野の仕事に当たるすべての職人たちの指揮も執った。レビ人の中には、書記、つかさ、門衛などもいた。
- 14 彼らが、主の宮に携え入れられていた金を取り出していたとき、祭司ヒルキヤは、モーセを通して示された主の律法の書を見つけた。
- 15 ヒルキヤは書記シャファンに知らせて、「主の宮で律法の書を見つけました」と言った。ヒルキヤがその書物をシャファンに渡すと、
- 16 シャファンは、その書物を王のもとに携えて行き、さらに王に次のように報告した。「しもべたちに委ねられたことは、すべてやらせております。
- 17 彼らは主の宮にあった金を取り出して、これを監督者たちの手と、工事をしている者たちの手に渡しました。」

- 18 さらに書記シャファンは王に告げた。「祭司ヒルキヤが私に一つの書物を渡してくれました。」シャファンは王の前でそれを朗読した。
- 19 王は律法のことばを聞いたとき、自分の衣を引き裂いた。
- 20 王はヒルキヤ、シャファンの子アヒカム、ミカの子アブドン、書記シャファン、王の家来アサヤに次のように命じた。
- 21 「行って、見つかった書物のことばについて、私のため、イスラエルとユダの残りの者のために、主を求めよ。私たちの先祖が主のことばを守らず、すべてこの書に記されているとおりに行わなかったために、私たちの上に注がれた主の憤りが激しいからだ。」
- 22 そこで、ヒルキヤと王が指名した人々は、女預言者フルダのもとに行った。彼女は、ハスラの子トクハテの子である装束係シャルムの妻で、エルサレムの第二区に住んでいた。彼らが事の次第を彼女に伝えたと、
- 23 彼女は彼らに答えた。「イスラエルの神である主はこう言われます。『あなたがたをわたしのもとの遣わした人に言え。
- 24 主はこう言われる。見よ。わたしはこの場所とその住民の上にわざわいをもたらす。ユダの王の前で読みあげられた、その書物に記されているすべてののろいをもたらす。
- 25 彼らはわたしを捨て、ほかの神々に犠牲を供え、自分たちのすべての手のわざで、わたしの怒りを引き起こした。わたしの憤りはこの場所に注がれ、消えることはない。』
- 26 主に尋ねるために、あなたがたを遣わしたユダの王には、こう言いなさい。『あなたが聞いたことばについて、イスラエルの神である主は、こう言われる。
- 27 あなたがこの場所とその住民について神のことばを聞いたとき、あなたは心を痛めて神の前にへりくだり、わたしの前にへりくだって自分の衣を引き裂き、わたしの前で泣いたので、わたしもまた、あなたの願いを聞き入れる―主のことば―。
- 28 見よ、わたしはあなたを先祖たちのもとに集める。あなたは平安のうちに自分の墓に集められる。あなたは自分の目で、わたしがこの場所とその住民にもたらす、すべてのわざわいを見ることはない。』」彼らはそれを王に報告した。
- 29 王は使者を遣わして、ユダとエルサレムのすべての長老たちを集めた。
- 30 王は、ユダのすべての人々、エルサレムの住民、祭司とレビ人、および上の者から下の者まで、すべての民とともに主の宮に上り、主の宮で見つかった契約の書のことばをすべて彼らに読み聞かせた。
- 31 それから王は定め場所に立ち、主の前に契約を結び、主に従って歩み、心を尽くし、いのちを尽くして主の命令と証しと掟を守り、この書物に記されている契約のことばを行うことを誓った。
- 32 王はエルサレムとベニヤミンにいるすべての者をこの契約に加わらせた。エルサレムの住民は、その父祖の神である神の契約にしたがって行動した。
- 33 ヨシヤはイスラエルの子らのものである全地から、忌み嫌うべきものを取り除き、イスラエルにいるすべての者を自分の神、主に仕えさせた。彼の生きている間、彼らはその父祖の神、主に従う道から外れなかった。

第35章

- 1 さて、ヨシヤはエルサレムで主に過越のいけにえを献げた。人々は第一の月の十四日に過越のいけにえを屠った。
- 2 彼は祭司たちをその任務に就かせ、彼らを力づけて、主の宮の奉仕に当たらせた。
- 3 王は、全イスラエルを教え導く、主に聖別されたレビ人たちに言った。「聖なる箱を、イスラエルの王ダビデの子ソロモンが建てた宮に据えなさい。もはやあなたがたはそれを肩に担ぐことはない。今、あなたがたの神、主と、その民イスラエルに仕えなさい。
- 4 あなたがたは、イスラエルの王ダビデの文書とその子ソロモンの書きつけのとおり、父祖の家ごとに、組分けにしたがって準備をなさい。
- 5 あなたがたの兄弟である、この民の者たちが属している父祖の家の区分にしたがって、聖所に立ちなさい。レビ人にとって、一族の分があるようにしなさい。
- 6 それから、過越のいけにえを屠り、身を聖別し、あなたがたの同胞のために準備をして、モーセを通して示された主のことばのとおりに行いなさい。」
- 7 ヨシヤは民の者たちに、群れの中から子羊とやぎの子を提供した。これらはみな、そこにいたすべての人の過越のいけにえのためであった。その数は三万匹、牛は三千頭。これらは王の財産の中から出された。
- 8 王の高官たちも、民、祭司、レビ人のために、進んで献げるものを提供した。神の宮のつかさたち、ヒルキヤ、ゼカリヤ、エヒエルも、祭司たちに過越のいけにえとして羊二千六百匹、牛三百頭を与えた。
- 9 さらに、レビ人の長たち、すなわち、カナンヤとその兄弟シェマヤ、ネタンエル、およびハシャブヤ、エイエル、エホザバデも、レビ人に過越のいけにえとして羊五千匹、牛五百頭を提供した。
- 10 奉仕の用意ができたので、王の命令のとおり、祭司たちはそれぞれの定め場所に、レビ人はそれぞれの組分けにしたがって立った。
- 11 彼らが過越のいけにえを屠ると、祭司たちは彼らの手から受け取った血を振りかけ、レビ人は皮を剥いだ。
- 12 彼らは全焼のささげ物を取り分け、それを父祖の家の区分ごとに民の者たちに渡し、モーセの書に記されているとおりに主に献げさせた。牛についても同様にした。
- 13 彼らは定めにしたがって、過越のいけにえを火で焼き、聖なるささげ物を、鍋、釜、平鍋で煮て、民の者たちすべてに急いで配った。
- 14 その後で、彼らは自分たちや祭司たちのための用意をした。アロンの子らである祭司たちは、夜になるまで、全焼のささげ物と脂肪を献げていたからである。そこでレビ人は、自分たちや、アロンの子らである祭司たちのための用意をした。
- 15 アサフの子孫である歌い手たちは、ダビデ、アサフ、ヘマン、および王の先見者エドトンの命令のとおり、その役目に就いていた。また、門衛たちはそれぞれの門を守っていた。彼らのうちだれも、その奉仕を離れる必要がなかった。彼らの兄弟であるレビ人が彼らのための用意をしたからである。

- 16** こうしてその日、ヨシヤ王の命令のとおり、主の祭壇で過越のいけにえを献げ、全焼のささげ物を献げるための、主への奉仕の用意はすべて整った。
- 17** そこにいたイスラエルの子らは、そのとき、過越のいけにえを献げ、七日間にわたって種なしパンの祭りを行った。
- 18** 預言者サムエルの時代以来、イスラエルでこのような過越のいけにえが献げられたことはなかった。イスラエルのどの王も、ここでヨシヤが、祭司とレビ人、そこにいた全ユダとイスラエル、そしてエルサレムの住民とともに献げたような過越のいけにえを献げたことはなかった。
- 19** ヨシヤの治世の第十八年に、この過越のいけにえが献げられた。
- 20** このようにヨシヤが宮を整えた後、エジプトの王ネコが、ユーフラテス河畔のカルケミシュで戦うために上って来た。そこで、ヨシヤは彼を迎え撃つために出陣した。
- 21** ところが、ネコは彼に使者を遣わして言った。「ユダの王よ、私とあなたと何の関係があるのか。今日は、あなたを攻めに来たのではない。私が戦っている王家に向かって行くところなのだ。神は、早く行くように命じておられる。私とともにおられる神に逆らうことはやめよ。さもなければ、神があなたを滅ぼされる。」
- 22** しかし、ヨシヤは身を引かず、かえって彼と戦おうとして変装し、神の御口から出たネコのことばを聞かなかった。そして、メギドの平地で戦うために出かけた。
- 23** 射手たちがヨシヤ王を射抜いたので、王は家来たちに言った。「私を運び出してくれ。ひどい傷を負ってしまった。」
- 24** 家来たちは王を戦車から降ろし、彼が持っていた第二の車に乗せてエルサレムに連れ帰った。彼は死に、その先祖たちの墓に葬られた。全ユダとエルサレムは、ヨシヤのために喪に服した。
- 25** エレミヤはヨシヤのために哀歌を作った。男女の歌い手は、ヨシヤのことをその哀歌で語り伝えるようになり、今日に至っている。これはイスラエルの慣例となり、まさしく哀歌に記されている。
- 26** ヨシヤについてのその他の事柄、主の律法に記されているところに基づいた彼の誠実な行い、
- 27** またその事績は、最初から最後まで、『イスラエルとユダの王の書』にまさしく記されている。

第36章

- 1 民衆は、ヨシヤの子エホアハズを選んで、彼の父に代えてエルサレムで王とした。
- 2 エホアハズは二十三歳で王となり、エルサレムで三か月間、王であった。
- 3 エジプトの王はエルサレムで彼を退位させ、この国に銀百タラントと金一タラントの科料を課した。
- 4 それからエジプトの王は、彼の兄弟エルヤキムをユダとエルサレムの王とし、その名をエホヤキムと改めさせた。ネコは、その兄弟エホアハズを捕らえて、エジプトへ連れて行った。
- 5 エホヤキムは二十五歳で王となり、エルサレムで十一年間、王であった。彼は自分の神、主の目に悪であることを行った。
- 6 彼のもとに、バビロンの王ネブカドネツアルが攻め上って来て、彼を青銅の足かせにつなぎ、バビロンへ引いて行った。
- 7 ネブカドネツアルは、主の宮の器をバビロンに持ち去り、バビロンにある彼の宮殿に置いた。
- 8 エホヤキムについてのその他の事柄、彼が行った忌み嫌うべきこと、彼について露見したことは、『イスラエルとユダの王の書』にまさしく記されている。彼の子エホヤキンが代わって王となった。
- 9 エホヤキンは十八歳で王となり、エルサレムで三か月と十日の間、王であった。彼は主の目に悪であることを行った。
- 10 年が改まると、ネブカドネツアル王は使者を遣わして、主の宮にあった尊い器とともに彼をバビロンに連れて行った。そして、エホヤキンの親戚ゼデキヤをユダとエルサレムの王とした。
- 11 ゼデキヤは二十一歳で王となり、エルサレムで十一年間、王であった。
- 12 彼はその神、主の目に悪であることを行い、主のことばを告げた預言者エレミヤの前にへりくだらなかった。
- 13 彼はまた、彼に神にかけて誓わせたネブカドネツアル王に反逆した。彼はうなじを固くし、心を閉ざして、イスラエルの神、主に立ち返らなかった。
- 14 そのうえ、祭司長全員と民も、異邦の民の忌み嫌うべきすべての慣わしをまねて、不信に不信を重ね、主がエルサレムで聖別された主の宮を汚した。
- 15 彼らの父祖の神、主は、彼らのもとに早くからたびたび使者を遣わされた。それは、ご自分の民と、ご自分の住まいをあわれまれたからである。
- 16 ところが、彼らは神の使者たちを侮り、そのみことばを蔑み、その預言者たちを笑いものにしたので、ついに主の激しい憤りが民に対して燃え上がり、もはや癒やされることがないまでになった。
- 17 主は、彼らのもとにカルデア人の王を攻め上らせた。彼は、聖所の中で若い男たちを剣で殺し、若い男も若い女も、年寄りも弱い者も容赦しなかった。主は、すべてのものを彼の手に渡された。

- 18** 彼は、神の宮の大小すべての器、主の宮の財宝と、王とその高官たちの財宝、これらすべてをバビロンへ持ち去った。
- 19** 神の宮は焼かれ、エルサレムの城壁は打ち壊され、その高殿はすべて火で焼かれ、その中の宝としていた器も一つ残らず破壊された。
- 20** 彼は、剣を逃れた残りの者たちをバビロンへ捕らえ移した。こうして彼らは、ペルシア王国が支配権を握るまで、彼とその子たちの奴隷となった。
- 21** これは、エレミヤによって告げられた主のことばが成就して、この地が安息を取り戻すためであった。その荒廃の全期間が七十年を満たすまで、この地は安息を得た。
- 22** ペルシアの王キュロスの第一年に、エレミヤによって告げられた主のことばが成就するために、主はペルシアの王キュロスの霊を奮い立たせた。王は王国中に通達を出し、また文書にもした。
- 23** 「ペルシアの王キュロスは言う。『天の神、主は、地のすべての王国を私にお与えくださった。この方が、ユダにあるエルサレムに、ご自分のために宮を建てるよう私を任命された。あなたがた、だれでも主の民に属する者には、その神、主がともにいてくださるように。その者は上って行くようにせよ。』」

エズラ記

Ezra

第1章

- 1 ペルシアの王キュロスの第一年に、エレミヤによって告げられた主のことばが成就するために、主はペルシアの王キュロスの霊を奮い立たせた。王は王国中に通達を出し、また文書にもした。
- 2 「ペルシアの王キュロスは言う。『天の神、主は、地のすべての王国を私にお与えくださった。この方が、ユダにあるエルサレムに、ご自分のために宮を建てるよう私を任命された。
- 3 あなたがた、だれでも主の民に属する者には、その神がともにいてくださるよう。その者はユダにあるエルサレムに上り、イスラエルの神、主の宮を建てるようにせよ。この方はエルサレムにおられる神である。
- 4 あとに残る者たちはみな、その者を支援するようにせよ。その者がどこに寄留しているにしても、その場所から、その土地の人々が、エルサレムにある神の宮のために進んで献げるものに加え、銀、金、財貨、家畜をもってその者を支援せよ。』」
- 5 そこで、ユダとベニヤミンの一族のかしらたち、祭司たち、レビ人たちは立ち上がった。エルサレムにある主の宮を建てるために上って行くように、神が彼ら全員の霊を奮い立たせたのである。
- 6 彼らの周りの人々はみな、銀の器、金、財貨、家畜、選りすぐりの品々、そのほか進んで献げるあらゆる物をもって彼らを力づけた。
- 7 キュロス王は、ネブカドネツアルがエルサレムから持ち出して、自分の神々の宮に置いていた主の宮の器を運び出させた。
- 8 ペルシアの王キュロスは財務官ミテラダテに命じてこれを取り出し、その数を確かめさせ、ユダの首長シェシュバツアルに渡した。
- 9 その数は次のとおりであった。金の皿三十、銀の皿一千、香炉二十九、
- 10 金の鉢三十、予備の銀の鉢四百十、その他の器一千。
- 11 金や銀の用具は全部で五千四百あった。捕囚の民がバビロンからエルサレムに上ることを許されたとき、シェシュバツアルはこれらの物をみな一緒に携えて上った。

第2章

- 1 バビロンの王ネブカドネツアルがバビロンに引いて行った捕囚の民で、その捕囚の身から解かれてエルサレムとユダに上り、それぞれ自分の町に帰ったこの州の人々は次のとおりである。
- 2 彼らは、ゼルバベル、ヨシュア、ネヘミヤ、セラヤ、レエラヤ、モルデカイ、ビルシャーン、ミスパル、ビグワイ、レフム、バアナと一緒に帰って来た。イスラエルの民の人数は次のとおりである。
- 3 パルオシュ族、二千百七十二人。
- 4 シェファテヤ族、三百七十二人。
- 5 アラフ族、七百七十五人。
- 6 ヨシュアとヨアブの二族からなるパハテ・モアブ族、二千八百十二人。
- 7 エラム族、一千二百五十四人。
- 8 ザト族、九百四十五人。
- 9 ザカイ族、七百六十人。
- 10 バニ族、六百四十二人。
- 11 ベバイ族、六百二十三人。
- 12 アズガデ族、一千二百二十二人。
- 13 アドニカム族、六百六十六人。
- 14 ビグワイ族、二千五十六人。
- 15 アディン族、四百五十四人。
- 16 ヒゼキヤ族、すなわちアテル族、九十八人。
- 17 ベツァイ族、三百二十三人。
- 18 ヨラ族、百十二人。
- 19 ハシュム族、二百二十三人。
- 20 ギバル族、九十五人。
- 21 ベツレヘム人、百二十三人。
- 22 ネットファの人々、五十六人。
- 23 アナトテの人々、百二十八人。
- 24 アズマウエテ人、四十二人。
- 25 キルヤテ・アリム人とケフィラ人とベエロテ人、七百四十三人。
- 26 ラマ人とゲバ人、六百二十一人。
- 27 ミクマスの人々、百二十二人。
- 28 ベテルとアイの人々、二百二十三人。
- 29 ネボ人、五十二人。
- 30 マグビシュ族、百五十六人。

- 31 別のエラム族、一千二百五十四人。
- 32 ハリム族、三百二十人。
- 33 ロデ人とハディデ人とオノ人、七百二十五人。
- 34 エリコ人、三百四十五人。
- 35 セナア人、三千六百三十人。
- 36 祭司は、ヨシュアの家系のエダヤ族、九百七十三人。
- 37 イメル族、一千五十二人。
- 38 パシュフル族、一千二百四十七人。
- 39 ハリム族、一千十七人。
- 40 レビ人は、ホダウヤ族のヨシュアとカデミエルの二族、七十四人。
- 41 歌い手は、アサフ族、百二十八人。
- 42 門衛の人々は、シャルム族、アテル族、タルモン族、アクブ族、ハティタ族、ショバイ族、合計百三十九人。
- 43 宮のしもべたちは、ツィハ族、ハスファ族、タバオテ族、
- 44 ケロス族、シアハ族、パドン族、
- 45 レバナ族、ハガバ族、アクブ族、
- 46 ハガブ族、シャルマイ族、ハナン族、
- 47 ギデル族、ガハル族、レアヤ族、
- 48 レツィン族、ネコダ族、ガザム族、
- 49 ウザ族、パセア八族、ベサイ族、
- 50 アスナ族、メウニム族、ネフシム族、
- 51 バクブク族、ハクファ族、ハルフル族、
- 52 バツルテ族、メヒダ族、ハルシャ族、
- 53 バルコス族、シセラ族、テマフ族、
- 54 ネットィア八族、ハティファ族。
- 55 ソロモンのしもべたちの子孫は、ソタイ族、ソフェレテ族、ペルダ族、
- 56 ヤアラ族、ダルコン族、ギデル族、
- 57 シェファテヤ族、ハティル族、ポケレテ・ハ・ツェバウム族、アミ族。
- 58 宮のしもべたちと、ソロモンのしもべたちの子孫は、合計三百九十二人。
- 59 次の人々はテル・メラフ、テル・ハルシャ、ケルブ、アダン、イメルから引き揚げて来たが、自分たちの先祖の家系と血統がイスラエル人であったかどうかを証明できなかった。
- 60 デラヤ族、トビヤ族、ネコダ族、六百五十二人。
- 61 祭司の子孫の中では、ホバヤ族、ハ・コツ族、バルジライ族。このバルジライは、ギルアデ人バルジライの娘の一人を妻にしたので、その名で呼ばれていた。
- 62 これらの人々は自分たちの系図書きを捜してみたが、見つからなかったなので、彼らは祭司職を果たす資格がない者とされた。

- 63** そのため総督は彼らに、ウリムとトンミムを使える祭司が起こるまでは、最も聖なるものを食べてはならないと命じた。
- 64** 全会衆の合計は四万二千三百六十人であった。
- 65** このほかに、彼らの男女の奴隷が七千三百三十七人いた。また、彼らには男女の歌い手が二百人いた。
- 66** 彼らの馬は七百三十六頭。らばは二百四十五頭。
- 67** らくだは四百三十五頭。ろばは六千七百二十頭であった。
- 68** 一族のかしらの中のある者たちは、エルサレムにある主の宮に着いたとき、神の宮を元の場所に建てるために、自分から進んでささげ物をした。
- 69** 彼らは自分たちの財力に応じて、工事資金として金六万一千ダリク、銀五千ミナ、祭司の長服百着を献げた。
- 70** こうして、祭司、レビ人、民のある者たち、歌い手、門衛、宮のしもべたち、すなわち、全イスラエルは自分の元の町々に住んだ。

第3章

- 1 イスラエルの子らは自分たちの町々にいたが、第七の月が来たとき、民は一斉にエルサレムに集まって来た。
- 2 そこで、エホツァダクの子ヨシュアとその兄弟の祭司たち、またシェアルティエルの子ゼルバベルとその兄弟たちは、神の人モーセの律法に書かれているとおりに全焼のささげ物を献げるため、イスラエルの神の祭壇を築いた。
- 3 彼らは、周りの国々の民を恐れていたので、祭壇を所定の場所に設けた。彼らはその上で主に全焼のささげ物、すなわち、朝ごと夕ごとの全焼のささげ物を献げた。
- 4 彼らは、書かれているとおりに仮庵の祭りを祝い、毎日の分として定められた数にしたがって、日々の全焼のささげ物を献げた。
- 5 それから、常供の全焼のささげ物、新月の祭りやすべての聖別された主の例祭のためのささげ物、そして一人ひとりが進んで献げるものを、喜んで主に献げた。
- 6 彼らは第七の月一日から全焼のささげ物を主に献げ始めたが、主の神殿の礎はまだ据えられていなかった。
- 7 彼らは石切り工や大工には金を与え、シドンとツロの人々には食べ物や飲み物や油を与えた。それはペルシアの王キュロスが与えた許可によって、レバノンから海路、ヤッファに杉材を運んでもらうためであった。
- 8 彼らがエルサレムにある神の宮のところに着いて二年目の第二の月に、シェアルティエルの子ゼルバベルと、エホツァダクの子ヨシュアと、そのほかの同僚の祭司とレビ人たち、および捕囚からエルサレムに帰って来たすべての人々は、主の宮の工事を指揮するために二十歳以上のレビ人を立てて、工事を始めた。
- 9 こうして、ヨシュアと、その息子たち、その兄弟たち、カデミエルとその息子たち、ユダの息子たちは一致して立ち、神の宮の工事に当たる者たちを指揮した。ヘナダデの息子たちと孫たち、そのレビ人の兄弟たちもそうした。
- 10 建築する者たちが主の神殿の礎を据えたとき、イスラエルの王ダビデの規定によって主を賛美するために、祭服を着た祭司たちはラッパを持ち、アサフの子らのレビ人たちはシンバルを持って出て来た。
- 11 そして彼らは主を賛美し、感謝しながら「主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまでもイスラエルに」と歌い交わした。こうして、主の宮の礎が据えられたので、民はみな主を賛美して大声で叫んだ。
- 12 しかし、祭司、レビ人、一族のかしらたちのうち、以前の宮を見たことのある多くの老人たちは、目の前でこの宮の基が据えられたとき、大声をあげて泣いた。一方、ほかの多くの人々は喜びにあふれて声を張り上げた。
- 13 そのため、喜びの叫び声と民の泣き声をだれも区別できなかった。民が大声をあげて叫んだので、その声は遠いところまで聞こえた。

第4章

- 1 ユダとベニヤミンの敵たちは、捕囚から帰って来た人々がイスラエルの神、主のために宮を建てていると聞いて、
- 2 ゼルバベルと一族のかしらたちのところに近づいて来て言った。「私たちも、あなたがたと一緒に建てたい。私たちは、あなたがたと同様、あなたがたの神を求めたいのです。私たちをここに連れて来たアッシリアの王エサル・ハドンの時以来、私たちはあなたがたの神に、いけにえを献げてきました。」
- 3 しかし、ゼルバベルとヨシュアと、そのほかのイスラエルの一族のかしらたちは彼らに言った。「私たちの神のために宮を建てることは、あなたがたにではなく、私たちに属する事柄です。ペルシアの王キュロス王が私たちに命じたとおり、私たちだけで、イスラエルの神、主のために宮を建てるつもりです。」
- 4 すると、その地の民はユダの民の氣力を失わせようとし、脅して建てさせないようにした。
- 5 さらに、顧問を買収して彼らに反対させ、この計画をつぶそうとした。このことはペルシアの王キュロスの時代から、ペルシアの王ダレイオスの治世の時まで続いた。
- 6 またクセルクセスの治世には、その治世の初めに、彼らはユダとエルサレムの住民を非難する告訴状を書いた。
- 7 また、アルタクセルクセスの時代に、ビシュラム、ミテレダテ、タベエルとほかの同僚たちは、ペルシアの王アルタクセルクセスに書き送った。その手紙の文字はアラム語で書かれ、アラム語で述べられていた。
- 8 参事官レフム、書記官シムシャイはエルサレムに関して、次のような書状をアルタクセルクセス王に書き送った。
- 9 これは、参事官レフム、書記官シムシャイ、ほかの同僚たち、裁判官、使節、役人、ペルシア人、ウルク人、バビロン人、スサの人々すなわちエラム人、
- 10 その他、偉大にして高貴なアッシュルバニパルが、サマリアの町々とユーフラテス川西方のほかの地に引いて行って住ませた諸民族からであった。
- 11 彼らが送ったその書状の写しは次のとおりである。「ユーフラテス川西方の者、あなた様のしもべどもから、アルタクセルクセス王へ。さて、
- 12 王にお知らせいたします。あなた様のところから、私どものところに上って来たユダヤ人たちはエルサレムに着き、あの反抗的で悪しき町を再建しております。その城壁を修復し、その礎もすでに据えられています。
- 13 今、王にお知らせいたします。もしこの町が再建され、城壁が修復されたら、彼らは貢ぎ物、関税、税金を納めなくなり、王家に間違いなく損害を与えることになるでしょう。
- 14 さて、私どもは王宮の塩を賜る者ですから、王に対する侮辱を見るわけにはいきません。それゆえ、私どもは人を遣わして、王にお知らせするのです。
- 15 あなた様の先祖の記録文書を調べていただきたいのです。そうすれば、この町が反抗的な町で、王たちと諸州に損害を与えてきたこと、また昔からこの町で反乱が繰り返されたこ

とを、その記録文書の中に見て、理解していただけるでしょう。この町が滅ぼされたのも、そのためです。

- 16 私たちは王にお知らせします。もしこの町が再建され、城壁が修復されたら、あなたはこのためにユーフラテス川西方の権益を失ってしまわれるでしょう。」
- 17 王は参事官レフム、書記官シムシャイ、およびサマリアとユーフラテス川西方のほかの地に住んでいる彼らの同僚たちに返事を送った。「平安があるように。さて、
- 18 あなたがたが私たちのところに送ってよこしたあの手紙は、私の前で説明されて読まれた。
- 19 私は命令を下し、調べさせたところ、その町は昔から王たちに対して謀反を企て、その町で反逆と反乱が行われたことが分かった。
- 20 またエルサレムにはかつて勢力のある王たちがいて、ユーフラテス川西方の地を全部支配し、貢ぎ物、関税、税金が彼らに納められていたことも分かった。
- 21 今あなたがたは命令を下して、その者たちの工事をやめさせ、私から再び命令が下るまで、この町が再建されないようにせよ。
- 22 あなたがたはよく気をつけ、このことを怠ってはならない。損害が増して王の不利益となるといけないから。」
- 23 さて、アルタクセルクセス王の手紙の写しがレフムと、書記官シムシャイと、その同僚たちの前で読まれると、彼らは急いでエルサレムのユダヤ人のところに行き、実力をもって彼らの工事をやめさせた。
- 24 こうして、エルサレムにある神の宮の工事は中止され、ペルシアの王ダレイオスの治世の第二年まで中止されたままになった。

第5章

- 1 さて、預言者ハガイとイドの子ゼカリヤという二人の預言者は、ユダとエルサレムにいるユダヤ人に対して、自分たちの上におられるイスラエルの神の御名によって預言した。
- 2 そこでシェアルティエルの子ゼルバベルと、エホツァダクの子ヨシュアは立ち上がり、エルサレムにある神の宮を建て始めた。神の預言者たちが一緒にいて、彼らを助けた。
- 3 そのような時期に、ユーフラテス川西方の総督タテナイと、シェタル・ボゼナイと、その同僚たちが彼らのところにやって来て、こう言った。「この宮を建て、この城壁を修復せよとの命令をだれがあなたがたに下したのか。」
- 4 そしてまた、「この建物を建てている者たちの名は何なのか」と尋ねた。
- 5 しかし、ユダヤ人の長老たちの上には彼らの神の目が注がれていたもので、このことがダレイオスに報告されて、さらにこのことについての返事の手紙が来るまで、彼らの工事を中止させることができなかった。
- 6 ユーフラテス川西方の総督タテナイと、シェタル・ボゼナイと、その同僚のユーフラテス川西方にいる知事たちが、ダレイオス王に送った書状の写しは次のとおりである。
- 7 彼らが王に送った報告には次のように書かれていた。「ダレイオス王に全き平安がありますように。
- 8 王にお知らせいたします。私たちはユダ州に行き、あの大いなる神の宮に行ってみました。それは大きな石で建てられていて、壁には木材が組まれていました。その工事は彼らの手で着々と進められ、順調に行われています。
- 9 そこで、私たちはその長老たちに尋ねて、彼らに次のように言いました。『この宮を建て、この城壁を修復せよとの命令をだれがあなたがたに下したのか。』
- 10 私たちはまた、あなたにお知らせするために彼らにその名を尋ねました。それは、彼らの先頭に立っている者の名を書き記すためでした。
- 11 すると、彼らは次のように私たちに返事をしました。『私たちこそは天と地の神のしもべであり、ずっと昔から建っていた宮を建て直しているのです。それはイスラエルの大王が建てて、完成させたものです。
- 12 しかし、私たちの先祖が天の神を怒らせたので、神は彼らを、カルデア人であるバビロンの王ネブカドネツアルの手に渡されました。彼はこの宮を破壊し、民を捕らえてバビロンに移したのです。
- 13 しかし、バビロンの王キュロスの第一年に、キュロス王はこの神の宮を建て直すよう命令を下しました。
- 14 キュロス王はまた、ネブカドネツアルがエルサレムの神殿から持ち出して、バビロンの神殿に運んで行った神の宮の金や銀の器を、バビロンの神殿から取り出し、自分が総督に任命したシェシュバツアルという名の者にそれを渡しました。
- 15 そして、シェシュバツアルに、これらの器を携えて行ってエルサレムの神殿に納め、神の宮を元の場所に建て直せと言いました。

- 16** そこで、このシェシュバツアルは来て、エルサレムの神の宮の礎を据えました。その時から今に至るまで建築が続いていますが、まだ完成していません。』
- 17** ですから、王様、もしもよろしければ、エルサレムにあるこの神の宮を建てるために、キュロス王からの命令が下ったのが事実かどうか、あのバビロンにある王室書庫をお調べください。そして、このことについての王のご判断を私たちにお伝えください。」

第6章

- 1 それでダレイオス王は命令を下し、重要文書を納めてあるバビロンの文書保管所を調べさせたところ、
- 2 メディア州の城の中のエクバタナで一つの巻物が見つかった。その中に次のように書かれていた。「記録。
- 3 キュロス王の第一年にキュロス王は命令を下した。エルサレムにある神の宮、いけにえが献げられる宮を建て、その礎を定めよ。宮の高さは六十キュビト、その幅も六十キュビト。
- 4 大きな石の層は三段。木材の層は一段とする。その費用は王家から支払われる。
- 5 また、ネブカドネツアルがエルサレムの神殿から持ち出して、バビロンに運んで来た神の宮の金や銀の器は返し、エルサレムの神殿に運んで元の場所に戻す。こうして、それらを神の宮に納める。」
- 6 王は次のように命じた。「それゆえ、今、ユーフラテス川西方の総督タテナイト、シェタル・ボゼナイト、その同僚たちでユーフラテス川西方の地にいる知事たちよ。そこから遠ざかれ。
- 7 この神の宮の工事をそのままやらせておけ。ユダヤ人の総督とユダヤ人の長老たちに、この神の宮を元の場所に建てさせよ。
- 8 私は、さらに、この神の宮を建てるために、あなたがたがこれらユダヤ人の長老たちにどうすべきか、命令を下す。王の収益としてのユーフラテス川西方の地の貢ぎ物の中から、その費用を間違いなくそれらの者たちに支払って、滞らぬようにせよ。
- 9 また、その必要とする物、すなわち、天の神に献げる全焼のささげ物のための雄牛、雄羊、子羊、また小麦、塩、ぶどう酒、油を、エルサレムにいる祭司たちの求めに応じて、毎日怠りなく彼らに与えよ。
- 10 こうして彼らが天の神に芳ばしい香りを献げ、王と王子たちの長寿を祈るようにせよ。
- 11 私は命令を下す。だれであれ、この法令を犯す者があれば、その家から梁を引き抜き、その者をその上にはりつけにしなければならない。このことのゆえに、その家はごみの山としなければならない。
- 12 エルサレムに御名を住まわせられた神が、この命令を変更してエルサレムにあるこの神の宮を破壊しようと手を下す王や民をみな、投げ倒されますように。私ダレイオスはここに命令を下す。間違いなくこれを守れ。」
- 13 ダレイオス王がこう書き送ったので、ユーフラテス川西方の総督タテナイト、シェタル・ボゼナイト、その同僚たちは、間違いなくこれを行った。
- 14 ユダヤ人の長老たちは、預言者ハガイとイドの子ゼカリヤの預言を通し、建築を行って成功した。彼らはイスラエルの神の命令により、またキュロスとダレイオスと、ペルシアの王アルタクセルクセスの命令によって、建築を終えた。
- 15 こうして、この宮はダレイオス王の治世の第六年、アダルの月の三日に完成した。

- 16** イスラエルの子ら、すなわち、祭司、レビ人、そのほかの捕囚から帰って来た人たちは、喜びをもってこの神の宮の奉献式を祝った。
- 17** 彼らはこの神の宮の奉献式のために、雄牛百頭、雄羊二百匹、子羊四百匹を献げた。また、イスラエルの部族の数にしたがって、全イスラエルのために罪のきよめのささげ物として、雄やぎ十二匹を献げた。
- 18** また彼らは、エルサレムでの神への奉仕のため、祭司をその区分にしたがって、レビ人をその組にしたがってそれぞれ任命した。モーセの書に記されているとおりである。
- 19** 捕囚から帰って来た人々は、第一の月の十四日に過越を祝った。
- 20** 祭司とレビ人たちは一人残らず身をきよめて、みなきよくなっていたので、捕囚から帰って来たすべての人々のため、彼らの同胞の祭司たちのため、また彼ら自身のために、過越のいけにえを屠った。
- 21** 捕囚から戻って来たイスラエル人はこれを食べた。イスラエルの神、主を求めて、その地の異邦の民の汚れから離れて彼らに加わった者たちもみなそうした。
- 22** そして彼らは七日間、喜びをもって種なしパンの祭りを守った。これは、主が彼らを喜ばせ、またアッシリアの王の心を彼らに向けて、イスラエルの神である神の宮の工事にあたって、彼らを力づけるようにされたからである。

第7章

- 1 これらの出来事の後、ペルシアの王アルタクセルクセスの治世に、セラヤの子エズラという人がいた。セラヤはアザルヤの子、順次、ヒルキヤの子、
- 2 シャルムの子、ツアドクの子、アヒトブの子、
- 3 アマルヤの子、アザルヤの子、メラヨテの子、
- 4 ゼラフヤの子、ウジの子、ブキの子、
- 5 アビシュアの子、ピネハスの子、エルアザルの子、このエルアザルは祭司のかしらアロンの子である。
- 6 このエズラがバビロンから上って来たのである。彼はイスラエルの神、主がお与えになったモーセの律法に通じている学者であった。彼の神、主の御手が彼の上にあったので、王は彼の願いをすべてかなえた。
- 7 アルタクセルクセス王の第七年に、イスラエル人の一部、および祭司、レビ人、歌い手、門衛、宮のしもべの一部が、エルサレムに上って来た。
- 8 エズラは王の第七年の第五の月にエルサレムに着いた。
- 9 すなわち、彼は第一の月の一日にバビロンを出発した。彼の神の恵みの御手は確かに彼の上にあり、第五の月の一日に、彼はエルサレムに着いた。
- 10 エズラは、主の律法を調べ、これを実行し、イスラエルで掟と定めを教えようと心を定めていた。
- 11 アルタクセルクセス王が、祭司であり学者であったエズラに与えた手紙の写しは次のとおりである。このエズラは、主の命令のことばと、イスラエルに関する主の掟に精通していた。
- 12 「王の王アルタクセルクセス。天の神の律法の学者である祭司エズラへ。中略。さて、
- 13 私は命令を下す。私の国にいるイスラエルの民、その祭司、レビ人のうち、だれでも自分から進んでエルサレムに上って行きたい者は、あなたと一緒に行ってよい。
- 14 なぜなら、あなたは王とその七人の顧問によって遣わされているからである。それは、あなたの手にあるあなたの神の律法にしたがって、ユダとエルサレムを調査するためである。
- 15 また、王とその顧問たちが、エルサレムを住まいとされるイスラエルの神に進んで献げた銀と金を、
- 16 またバビロン全州であなたが得るすべての銀と金を、それに、エルサレムにある自分たちの神の宮のために、民と祭司たちが進んで献げたささげ物を合わせて、携えて行くためである。
- 17 それゆえ、あなたはその献金で、雄牛、雄羊、子羊、また、そのための穀物のささげ物と注ぎのぶどう酒を怠りなく買い求め、エルサレムにあるあなたがたの神の宮の祭壇の上で、それを献げなければならない。
- 18 また、残りの銀と金の使い方については、あなたとあなたの兄弟たちが良いと思うことは何でも、あなたがたの神のみむねにしたがって行うがよい。

- 19 また、あなたの神の宮での礼拝のために渡された用具は、エルサレムの神の前に供えよ。
- 20 そのほか、あなたの神の宮のために必要なもので、どうしても支出しなければならないものは、王室の金庫からそれを支出してよい。
- 21 私アルタクセルクセス王は、ユーフラテス川西方の財務官全員に命令を下す。天の神の律法の学者である祭司エズラが、あなたがたに求めることは何でも、怠りなくそれを行え。
- 22 すなわち、銀は百タラントまで、小麦は百コルまで、ぶどう酒は百バテまで、油も百バテまで、塩は制限なし。
- 23 天の神の宮のために、天の神によって命じられていることは何でも、熱心に行え。御怒りが王とその子たちの国に下るといけないから。
- 24 また次のことを知らせる。祭司、レビ人、歌い手、門衛、宮のしもべ、すなわち、この神の宮に仕える者たちにはだれに対しても、貢ぎ物、関税、税金を課してはならない。
- 25 エズラよ。あなたは自分の手にあるあなたの神の知恵にしたがって、さばき人や裁判官を任命し、ユーフラテス川西方にいるすべての民、すなわち、あなたの神の律法を知っているすべての者をさばかせよ。またあなたがたは、これを知らない者に教えよ。
- 26 あなたの神の律法と王の律法を守らない者には、だれに対しても、死刑でも、追放でも、財産の没収でも、投獄でも、その判決を厳格に執行せよ。」
- 27 私たちの父祖の神、主がほめたたえられますように。主はエルサレムにある主の宮に栄光を与えるために、このようなことを王の心に起こさせ、
- 28 王とその顧問と、王の有力な高官すべての前で私に恵みを得させてくださった。私の神、主の御手が私の上にあったので、私は奮い立って、一緒に上るイスラエル人のかしらたちを集めることができた。

第8章

- 1 アルタクセルクセス王の治世に、バビロンから私と一緒に上って来た一族のかしらと、その系図の記載は次のとおりである。
- 2 ピネハス族からはゲルショム。イタマル族からはダニエル。ダビデ族からはハトシュ。
- 3 ハトシュはシェカンヤの孫。パルオシュ族からは、ゼカリヤと、系図に記載された同行の者、男子百五十人。
- 4 パハテ・モアブ族からは、ゼラフヤの子エルエホエナイと、同行の男子二百人。
- 5 ザト族からは、ヤハジエルの子シェカンヤと、同行の男子三百人。
- 6 アディン族からは、ヨナタンの子エベデと、同行の男子五十人。
- 7 エラム族からは、アタルヤの子エシャヤと、同行の男子七十人。
- 8 シェファテヤ族からは、ミカエルの子ゼバデヤと、同行の男子八十人。
- 9 ヨアブ族からは、エヒエルの子オバデヤと、同行の男子二百十八人。
- 10 バニ族からは、ヨシフヤの子シェロミテと、同行の男子百六十人。
- 11 ベバイ族からは、ベバイの子ゼカリヤと、同行の男子二十八人。
- 12 アズガデ族からは、ハ・カタンの子ヨハナンと、同行の男子百十人。
- 13 アドニカム族からの者は最後の者たちで、その名はエリフェレテ、エイエル、シェマヤ、および彼らと同行の男子六十人。
- 14 ビグワイ族からは、ウタイとザクルと、同行の男子七十人。
- 15 私はアハワに流れる川のほとりに彼らを集め、私たちはそこに三日間宿営した。私はそこに民と祭司たちを確認したが、レビ人は見つけることができなかった。
- 16 それで私は、かしらのエリエゼル、アリエル、シェマヤ、エルナタン、ヤリブ、エルナタン、ナタン、ゼカリヤ、メシュラムと、教師エホヤリブ、エルナタンを呼び集め、
- 17 カシフヤ地方のかしらイドについて、彼らに指示した。すなわち、イドとその同僚、またカシフヤ地方にいる宮のしもべたちに対して、私たちの神の宮に仕える者たちを送ってもらうためには何と云えばよいのか、彼らにことばを授けた。
- 18 私たちの神の恵みの御手が私たちの上にあったので、彼らはイスラエルの子、レビの子、マフリの子のうちから賢明な者、シェレベヤと、その子たち、およびその兄弟たち十八人を私たちのところに連れて来てくれた。
- 19 また、ハシャブヤとともに、メラリの子のうちからエシャヤと、その兄弟と、その子たち二十人、
- 20 および、ダビデとその高官たちにより、レビ人に奉仕するよう任命されていた宮のしもべたちのうちから、二百二十人の宮のしもべたちを連れて来た。これらの者はみな、指名された者であった。
- 21 私はそこ、アハワ川のほとりで断食を布告した。それは、私たちの神の前でへりくだり、私たちのために、私たちの子どもたちと、私たちのすべての持ち物のために、道中の無事を神に願い求めるためであった。

- 22 それは私が、道中の敵から私たちを助ける部隊と騎兵たちを、王に求めるのを恥じたからであった。実際、私たちは王に、「私たちの神の御手は、神を尋ね求めるすべての者の上に幸いを下し、その力と怒りは、神を捨てるすべての者の上に下る」と言っていたのである。
- 23 そのため私たちはこのことのために断食して、自分たちの神に願い求めた。すると、神は私たちの願いを聞き入れてくださった。
- 24 私は祭司長たちのうちから十二人、すなわち、シェレベヤとハシャブヤ、および彼らの同僚十人を選び分けた。
- 25 そして、王、顧問たち、高官たち、および、そこにいたすべてのイスラエル人が献げた、私たちの神の宮への奉納物である銀、金、器を量って、彼らに渡した。
- 26 私は銀六百五十タラント、百タラント相当の銀の器、および金百タラントを量って、彼らに渡した。
- 27 また、一千ダリク相当の金の鉢二十、さらに、金のように高価な、光り輝く見事な青銅の器二個を彼らに渡した。
- 28 それから私は彼らに言った。「あなたがたは主の聖なるものである。この器も聖なるものである。この銀と金は、あなたがたの父祖の神、主に対する、進んで献げるものである。
- 29 あなたがたは、エルサレムの主の宮の部屋で、祭司長たち、レビ人たち、イスラエル一族の長たちの前で重さを量るまで、寝ずの番をしてそれらを守りなさい。」
- 30 祭司とレビ人たちは、重さを量った銀、金、器を、エルサレムの私たちの神の宮に持って行くために受け取った。
- 31 私たちはエルサレムに行こうと、第一の月の十二日にアハワ川を出発した。私たちの神の御手が私たちの上にあり、その道中、敵の手、待ち伏せする者の手から私たちを救い出してくださった。
- 32 こうして私たちはエルサレムに着いて、そこに三日間とどまった。
- 33 四日目に銀と金と器が私たちの神の宮の中で量られ、ウリヤの子の祭司メレモテの手に渡された。彼とともにピネハスの子エルアザルがいて、彼らとともに、レビ人である、ヨシユアの子エホザバデとビヌイの子ノアデヤがいた。
- 34 すべてが数えられ、量られた。そのとき全重量が書き留められた。
- 35 捕囚の人々で、捕囚から帰って来た者は、イスラエルの神に全焼のささげ物を献げた。すなわち、全イスラエルのために雄牛十二頭、雄羊九十六匹、子羊七十七匹、罪のきよめのささげ物として雄やぎ十二匹を献げた。これはすべて主への全焼のささげ物であった。
- 36 それから、彼らは王の命令書を、王の太守たちとユーフラテス川西方の総督たちに渡した。この人たちはこの民と神の宮に援助を与えた。

第9章

- 1 これらのことが終わった後、指導者たちが私のところに近づいて来て次のように言った。
「イスラエルの民、祭司、レビ人は、カナン人、ヒッタイト人、ペリジ人、エブス人、アンモン人、モアブ人、エジプト人、アモリ人など異国の忌み嫌うべき習慣と縁を絶つことなく、
- 2 かえって、彼らも息子たちも、これらの国々の娘を妻にし、聖なる種族がもろもろの地の民と混じり合ってしまった。しかも、指導者たち、代表者たちがこの不信の罪の張本人なのです。」
- 3 私はこのことを聞いて、衣と上着を引き裂き、髪の毛とひげを引き抜き、茫然として座り込んでしまった。
- 4 捕囚から帰って来た人々の不信の罪のことで、イスラエルの神のことばを恐れかしこむ者はみな、私のところに集まって来た。私は夕方のささげ物の時刻まで、茫然としてそこに座っていた。
- 5 夕方のささげ物の時刻になって、打ちのめされていた私は立ち上がり、衣と上着を引き裂いたまま、ひざまずき、自分の神、主に向かって手を伸べ広げて、
- 6 こう言った。「私の神よ。私は恥じています。私の神よ。私はあなたに向かって顔を上げることを恥ずかしく思います。私たちの咎は増し、私たちの頭より高くなり、私たちの罪過は大きく、天にまで達したからです。
- 7 私たちの先祖の時代から今日まで、私たちは大きな罪過の中にありました。私たちのその咎のため、私たちや、私たちの王、祭司たちは、諸国の王たちの手に渡され、剣にかけられ、捕虜にされ、かすめ奪われ、面目を失って、今日あるとおりです。
- 8 しかし今、しばらくの間、私たちの神、主はそのあわれみによって、私たちに逃れの者を残し、私たちのためにご自分の聖なる所に一本の杭を与えてくださいました。これは、私たちの神が私たちの目を明るくし、奴隷の身の私たちを少しでも生き延びさせてくださるためでした。
- 9 事実、私たちは奴隷です。しかし私たちの神は、この奴隷の身の私たちを見捨てることなく、かえって、ペルシアの王たちによって恵みを施し、私たちを生かして、私たちの神の宮を建て直させ、その廃墟を元に戻し、ユダとエルサレムに石垣を下さいました。
- 10 こうなった今、何と言えはよいのでしょうか。私たちの神よ、私たちはあなたの命令を捨てたのです。
- 11 あなたは、あなたのしもべである預言者たちによって、こう命じておられました。『あなたがたが入って行って所有しようとしている地は、異国の汚れで汚れた地、忌み嫌うべき行いによって隅々まで汚れて満ちてしまった地である。
- 12 だから今、あなたがたの娘を彼らの息子に嫁がせてはならない。また、彼らの娘をあなたがたの息子の妻にしてはならない。永久に彼らの平安も幸せも求めてはならない。それは、あなたがたが強くなり、その地の良い物を食べ、これを永久にあなたがたの子孫の所有とするためである』と。

- 13** 私たちの悪い行いと大きな罪過のゆえに、様々なことが私たちの上に起こりましたが、私たちの神、あなたは、私たちの咎に値するよりも軽い罰を与え、逃れの者をこのように私たちに備えてくださいました。そのようなことの後で、
- 14** 私たちは再びあなたの命令を破って、忌み嫌うべき行いをするこれらの民と、姻戚関係に入ってよいのでしょうか。あなたは怒って、ついには私たちを絶ち滅ぼし、残りの者も、逃れの者もいないようにされるのではないのでしょうか。
- 15** イスラエルの神、主よ、あなたは正しい方です。まことに、今日あるとおり、私たちは逃れの者として残されています。ご覧ください。私たちは罪過を負ってあなたの御前におります。このような状態で、だれもあなたの御前に立つことはできないにもかかわらず。」

第10章

- 1 エズラが神の宮の前でひれ伏して、涙ながらに祈り告白しているとき、男や女や子どもの大会衆がイスラエルのうちから彼のところに集まって来た。民は涙を流して激しく泣いた。
- 2 そのとき、エラムの子孫の一人エヒエルの子シェカンヤが、エズラに言った。「私たちは、自分たちの神の信頼を裏切り、この地の民である異国人の女を妻にしました。しかし、このことについてイスラエルには今なお望みがあります。
- 3 今、私たちは自分たちの神と契約を結び、主の勧告と、私たちの神の命令を恐れかしこむ人々の勧告にしたがって、これらの妻たちと、その子どもたちをみな追い出しましょう。律法にしたがってこれを行いましょう。
- 4 立ち上がってください。このことはあなたの肩にかかっています。私たちはあなたに協力します。勇気を出して、実行してください。」
- 5 エズラは立ち上がり、祭司、レビ人、全イスラエルの長たちに、この提案を実行するよう誓わせた。すると彼らは誓った。
- 6 エズラは神の宮の前を去って、エルヤシブの子ヨハナンの部屋に行った。そこに行って、パンも食わず、水も飲まずにいた。捕囚から帰って来た人々の不信の罪を嘆き悲しんだのである。
- 7 そして、通達がユダとエルサレムに出された。それは、捕囚から帰って来た者はみなエルサレムに集合するように、というものであり、
- 8 また、三日のうちに来ない者はみな、指導者たちや長老たちの決定にしたがってその全財産を聖絶され、さらにその人は、捕囚から帰って来た人々の会衆から除名される、としていた。
- 9 ユダとベニヤミンの男はみな、三日のうちにエルサレムに集まって来た。それは第九の月の二十日であった。こうして、すべての民は神の宮の前の広場に座り、この件で、また大雨のために震えていた。
- 10 祭司エズラは立ち上がって、彼らに言った。「あなたがたは神の信頼を裏切った。異国人の女を妻にし、イスラエルの罪過を増し加えた。
- 11 だから今、あなたがたの父祖の神、主に告白して、そのみむねにかなったことをしなさい。この地の民、異国人の女たちから離れなさい。」
- 12 全会衆は大声をあげて答えた。「必ずあなたの言われたとおりにします。
- 13 しかし、民は大勢いて、大雨の時期ですから、私たちは外に立っていることができません。しかも、これは一日や二日の仕事でもありません。私たちはこのことで大いに背いてきたのですから。
- 14 全会衆を代表して私たちの指導者たちに、ここにとどまっていたきたい。そして、私たちの町で異国人の女を妻にした者はみな、定められた時に、それぞれの町の長老たち、さばき人たちと一緒に出頭するようにしていただきたい。そうすれば、このことについての私たちの神の燃える怒りは、私たちから去るでしょう。」

- 15 アサエルの子ヨナタンとティクワの子ヤフゼヤだけはこれに反対し、メシュラムとレビ人シャベタイの支持を得たが、
- 16 捕囚から帰って来た人々は、その提案どおりにした。祭司エズラは、彼らの一族のそれぞれのために、かしらの者たちを、みな名指しで選り分けた。こうして、彼らはこの件を調べるために第十の月の一日に検討を始め、
- 17 第一の月の一日までに、異国人の女を妻にした男たちについて、みな調べ終えた。
- 18 祭司の子らのうちで異国人の女を妻にした者が分かった。エホツァダクの子ヨシュアの息子たちと、その兄弟たちのうちのマアセヤ、エリエゼル、ヤリブ、ゲダルヤであった。
- 19 彼らはその妻を離縁すると誓い、自分たちの罪過のために、雄羊一匹を代償のささげ物として献げた。
- 20 イメル族のうちでは、ハナニとゼバデヤ。
- 21 ハリム族のうちでは、マアセヤ、エリヤ、シェマヤ、エヒエル、ウジヤ。
- 22 パシュフル族のうちでは、エルヨエナイ、マアセヤ、イシュマエル、ネタンエル、エホザバデ、エルアサ。
- 23 レビ人のうちでは、エホザバデ、シムイ、ケラヤすなわちケリタ、ペタフヤ、ユダ、エリエゼル。
- 24 歌い手のうちでは、エルヤシブ。門衛のうちでは、シャルム、テレム、ウリ。
- 25 一般のイスラエル人のうち、パルオシュ族のうちでは、ラムヤ、イジヤ、マルキヤ、ミヤミン、エルアザル、マルキヤ、ベナヤ。
- 26 エラム族のうちでは、マタンヤ、ゼカリヤ、エヒエル、アブディ、エレモテ、エリヤ。
- 27 ザト族のうちでは、エルヨエナイ、エルヤシブ、マタンヤ、エレモテ、ザバデ、アジザ。
- 28 ベバイ族のうちでは、ヨハナン、ハナンヤ、ザバイ、アテライ。
- 29 バニ族のうちでは、メシュラム、マルク、アダヤ、ヤシュブ、シェアル、ラモテ。
- 30 パハテ・モアブ族のうちでは、アデナ、ケラル、ベナヤ、マアセヤ、マタンヤ、ベツァルエル、ピヌイ、マナセ。
- 31 ハリム族のうちでは、エリエゼル、イシヤ、マルキヤ、シェマヤ、シメオン、
- 32 ベニヤミン、マルク、シェマルヤ。
- 33 ハシュム族のうちでは、マテナイ、マタタ、ザバデ、エリフェレテ、エレマイ、マナセ、シムイ。
- 34 バニ族のうちでは、マアダイ、アムラム、ウエル、
- 35 ベナヤ、ベデヤ、ケルフ、
- 36 ワンヤ、エレモテ、エルヤシブ、
- 37 マタンヤ、マテナイ、ヤアサイ。
- 38 バニ、ピヌイ、シムイ、
- 39 シェレムヤ、ナタン、アダヤ、
- 40 マクナデバイ、シャシャイ、シャライ、
- 41 アザルエル、シェレムヤ、シェマルヤ、

42 シャルム、アマルヤ、ヨセフ。

43 ネボ族のうちでは、エイエル、マティテヤ、ザバデ、ゼビナ、ヤダイ、ヨエル、ベナヤ。

44 これらの者はみな、異国人の女を妻にした者であった。彼らの妻たちの中には、すでに子を産んだ者もいた。

ネヘミヤ記

Nehemiah

第1章

- 1 ハカルヤの子ネヘミヤのことば。第二十年のキスレウの月に、私がスサの城にいたときのことであった。
- 2 私の兄弟の一人ハナニが、ユダから来た数人の者と一緒にやって来た。私は、捕囚されずに残された逃れの者であるユダヤ人たちについて、またエルサレムのことについて、彼らに尋ねた。
- 3 彼らは私に答えた。「あの州で捕囚を生き残った者たちは、大きな困難と恥辱の中にあります。そのうえ、エルサレムの城壁は崩され、その門は火で焼き払われたままです。」
- 4 このことばを聞いたとき、私は座り込んで泣き、数日の間嘆き悲しみ、断食して天の神の前に祈った。
- 5 「ああ、天の神、主よ。大いなる恐るべき神よ。主を愛し、主の命令を守る者に対して、契約を守り、恵みを下さる方よ。
- 6 どうか、あなたの耳を傾け、あなたの目を開いて、このしもべの祈りを聞いてください。私は今、あなたのしもベイスラエルの子らのために、昼も夜も御前に祈り、私たちがあなたに対して犯した、イスラエルの子らの罪を告白しています。まことに、私も私の父の家も罪を犯しました。
- 7 私たちはあなたに対して非常に悪いことをして、あなたのしもべモーセにお命じになった、命令も掟も定めも守りませんでした。
- 8 どうか、あなたのしもべモーセにお命じになったことばを思い起こしてください。『あなたがたが信頼を裏切るなら、わたしはあなたがたを諸国の民の間に散らす。
- 9 あなたがたがわたしに立ち返り、わたしの命令を守り行うなら、たとえ、あなたがたのうちの散らされた者が天の果てにいても、わたしは彼らをそこから集め、わたしの名を住まわせるためにわたしが選んだ場所に連れて来る。』
- 10 これらの者たちこそ、あなたがその偉大な力と力強い御手をもって贖い出された、あなたのしもべ、あなたの民です。
- 11 ああ、主よ。どうかこのしもべの祈りと、喜んであなたの名を恐れるあなたのしもべたちの祈りに耳を傾けてください。どうか今日、このしもべに幸いを見させ、この人の前で、あわれみを受けさせてくださいますように。」そのとき、私は王の献酌官であった。

第2章

- 1 アルタクセルクセス王の第二十年のニサンの月に、王の前にぶどう酒が出されたとき、私はぶどう酒を取り、王に差し上げた。それまで、私は王の前で気持ちが沈んでいたことはなかった。
- 2 すると、王は私に言った。「病気でもなさそうなのに、なぜ、そのように沈んだ顔をしているのか。きっと心に悲しみがあるに違いない。」私は非常に恐れて、
- 3 王に言った。「王よ、永遠に生きられますように。私の先祖の墓がある都が廃墟となり、その門が火で焼き尽くされているというのに、どうして沈んだ顔をしないでいられるでしょうか。」
- 4 王は私に言った。「では、何を望んでいるのか。」私は天の神に祈ってから、
- 5 王に答えた。「もしも王が良しとされ、このしもべにご好意をいただけますなら、私をユダの地、私の先祖の墓のある都へ遣わして、それを再建させてください。」
- 6 王は私に言った。王妃もそばに座っていた。「旅はどのくらいかかるのか。いつ戻って来るのか。」王はこれを良しとして、私を遣わしてくださることになり、私は予定を伝えた。
- 7 また私は王にこう言った。「もしも王様がよろしければ、ユダに着くまで私が通行できるように、ユーフラテス川西方の総督たちへの手紙をいただけるでしょうか。」
- 8 そして、宮の城門の梁を置くため、また、あの都の城壁と私が入る家のために木材をもらえるように、王家の園の管理人アサフへの手紙をお願いします。」わが神の恵みの御手が私の上にあったので、王はそれをかなえてくださった。
- 9 それで私はユーフラテス川西方の総督たちのところに行き、王の手紙を彼らに手渡した。王は、軍の高官たちと騎兵たちを私とともに送り出してくださった。
- 10 ホロン人サンバラテと、アンモン人でその部下のトビヤは、これを聞いて非常に不機嫌になった。イスラエル人の益を求める者がやって来たからである。
- 11 こうして私はエルサレムに着いて、そこに三日間とどまった。
- 12 ある夜、私は起きて出て行った。ほかに数人の者も一緒であった。しかし私は、私の神がエルサレムのためにさせようと私の心に示しておられることを、だれにも告げなかった。また私自身が乗った動物のほかに、動物はいなかった。
- 13 私は夜、谷の門を通過して竜の泉の方、糞の門のところに出て行き、エルサレムの城壁を調べた。それは崩され、その門は火で焼き尽くされていた。
- 14 さらに、泉の門と王の池の方へ進んで行ったが、私が乗っていた動物の通れる場所がなかった。
- 15 夜のうちに流れを上って行って、城壁を調べた。そしてまた引き返し、谷の門を通過して戻った。
- 16 代表者たちは、私がどこへ行っていたか、また私が何をしていたかを知らなかった。ユダヤ人にも、祭司たちにも、有力者たちにも、代表者たちにも、そのほか工事をする者たちにも、その時まで私は何も告げていなかった。

- 17** 私は彼らに言った。「私たちが直面している困難は見てのとおりだ。エルサレムは廃墟となり、その門は火で焼き払われたままだ。さあ、エルサレムの城壁を築き直し、もうこれ以上、屈辱を受けないようにしよう。」
- 18** そして、私に恵みを下さった私の神の御手のことと、また王が言ったことばを彼らに告げた。すると彼らは「さあ、再建に取りかかろう」と言って、この良い仕事に着手した。
- 19** ところが、ホロン人サンバラテと、アンモン人でその部下のトビヤ、およびアラブ人ゲシエムは、これを聞いて私たちを嘲り、蔑んで言った。「おまえたちのしているこのことは何だ。おまえたちは王に反逆しようとしているのか。」
- 20** 私は彼らにことばを返して言った。「天の神ご自身が私たちを成功させてくださる。それで、そのしもべである私たちは、再建に取りかかっているのだ。あなたがたには、エルサレムのうちに何の取り分も、権利も、ゆかりもない。」

第3章

- 1 こうして大祭司エルヤシブは、その仲間の祭司たちと、羊の門の再建に取りかかった。彼らはそれを聖別して、扉を取り付けた。そしてメアのやぐらのところまで聖別し、ハナンエルのやぐらにまで及んだ。
- 2 その傍らではエリコの人々が建て、その傍らではイムリの子ザクルが建てた。
- 3 魚の門はセナアの子らが建てた。彼らは梁を置き、扉、錠、かんぬきを取り付けた。
- 4 彼らの傍らでは八・コツの子ウリヤの子であるメレモチが修復を行い、その傍らではメシェザブエルの子ベレクヤの子であるメシュラムが修復を行い、その傍らではバアナの子ツアドクが修復を行った。
- 5 その傍らではテコア人たちが修復を行ったが、彼らの貴族たちはその上役に頭を下げることはなく、工事に協力しなかった。
- 6 エシャナの門はパセアハの子エホヤダと、ベソデヤの子メシュラムが修復を行った。彼らは梁を置き、扉、錠、かんぬきを取り付けた。
- 7 彼らの傍らでは、ギブオン人メラテヤ、メロノテ人ヤドン、それにユーフラテス川西方の総督の管轄に属する、ギブオンとミツパの人々が修復を行った。
- 8 その傍らでは金細工人のハルハヤの子ウジエルが修復を行い、その傍らでは香料作りの一人ハナンヤが修復を行った。こうして、彼らはエルサレムを、幅広の城壁のところまで修復した。
- 9 その傍らでは、エルサレム地区の半区の長、フルの子レファヤが修復を行った。
- 10 その傍らではハルマフの子エダヤが自分の家のそばの部分修復し、その傍らではハシャブネヤの子ハトシュが修復を行った。
- 11 その続きの部分は、ハリムの子マルキヤと、パハテ・モアブの子ハシュブが、炉のやぐらと一緒に修復した。
- 12 その傍らでは、エルサレム地区の残りの半区の長、八・ロヘシュの子シャルムが、自分の娘たちと一緒に修復を行った。
- 13 谷の門はハヌンと、ザノアハの住民が修復を行った。彼らはそれを建て直し、扉、錠、かんぬきを取り付け、糞の門までの城壁千キュビトを修復した。
- 14 糞の門はベテ・ハ・ケレム地区の長、レカブの子マルキヤが修復した。彼はそれを建て直し、扉、錠、かんぬきを取り付けた。
- 15 泉の門はミツパ地区の長、コル・ホゼの子シャルンが修復した。彼はそれを建て直し、屋根を付け、扉、錠、かんぬきを取り付けた。また、王の園のシェラフの池の城壁を、ダビデの町から下って来る階段のところまで修復した。
- 16 その向こうでは、ベテ・ツル地区の半区の長、アズブクの子ネヘミヤが、ダビデの墓地のそばまでと、人工貯水池までと、勇士たちの家のところまでを修復した。
- 17 その向こうでは、バニの子レフムなどレビ人たちが修復を行った。その傍らでは、ケイラ地区の半区の長、ハシャブヤが自分の地区のために修復を行った。

- 18 その向こうでは、ケイラの残りの半区の長、ヘナダデの子バワイなど、彼らの同僚たちが修復を行った。
- 19 その傍らでは、ミツパの長、ヨシュアの子エゼルが、城壁の曲がり角の隅にある武器倉に向かう上り坂のそばで、続きの部分を修復した。
- 20 その向こうでは、ザカイの子バルクが続きの部分を、城壁の曲がり角から大祭司エルヤシブの家の門のところまで熱心に修復した。
- 21 その向こうでは、ハ・コツの子ウリヤの子メレモテが続きの部分を、エルヤシブの家の門からエルヤシブの家の端まで、修復を行った。
- 22 その向こうでは、低地の人々である祭司たちが修復を行った。
- 23 その向こうでは、ベニヤミンとハシュブが自分たちの家のそばの部分を修復した。その向こうでは、アナネヤの子マアセヤの子アザルヤが自分の家の近くを修復した。
- 24 その向こうでは、ヘナダデの子ビヌイが続きの部分を、アザルヤの家から城壁の曲がり角の隅まで修復した。
- 25 ウザイの子パラルは、城壁の曲がり角の部分と、監視の庭のそばにあって上の王宮から突き出ているやぐらを修復した。その向こうでは、パルオシュの子ペダヤと、
- 26 オフェルに住む宮のしもべたちが、東の方の水の門と突き出ているやぐらのそばの部分までを修復した。
- 27 その向こうでは、テコア人が、突き出ている大きなやぐらのそばからオフェルの城壁までの続きの部分を修復した。
- 28 馬の門から上の方は、祭司たちがそれぞれ自分の家のそばの部分を修復した。
- 29 その向こうでは、イメルの子ツアドクが自分の家のそばの部分を修復した。その向こうでは、シェカンヤの子、東の門を守る者シエマヤが修復を行った。
- 30 その向こうでは、シェレムヤの子ハナンヤと、ツァラフの六男ハヌンが、その続きの部分を修復した。その向こうでは、ベレクヤの子メシュラムが自分の部屋のそばの部分を修復した。
- 31 その向こうでは、金細工人の一人マルキヤが、召集の門の向かい側にある、宮のしもべたちや商人たちの家のところまでと、角の二階の部屋のところまでを修復した。
- 32 角の二階の部屋と羊の門の間は、金細工人と商人たちが修復した。

第4章

- 1 サンバラテは私たちが城壁を築き直していることを聞くと、怒り、非常に憤慨して、ユダヤ人たちを嘲った。
- 2 彼はその同胞とサマリアの有力者たちの前で言った。「この哀れなユダヤ人たちは、いったい何をしているのか。あれを修復して、いけにえを献げようというのか。一日で仕上げようというのか。焼けてしまった石を瓦礫の山の中から拾って、生き返らせようというのか。」
- 3 彼のそばには、アンモン人トビヤがいて、彼も「彼らが築き直している城壁など、狐が一匹上っただけで、その石垣を崩してしまうだろう」と言った。
- 4 「お聞きください、私たちの神よ。私たちは軽蔑されています。彼らの侮辱を彼ら自身の頭上に返し、彼らが捕囚の地でかすめ奪われるようにしてください。
- 5 彼らの咎をおおい隠すことなく、彼らの罪を御前から消し去らないでください。彼らが、建て直している者たちを憤慨させたからです。」
- 6 こうして私たちは城壁を築き直し、城壁はすべて、その半分の高さまでつなぎ合わされた。民に働く気があったからである。
- 7 サンバラテ、トビヤ、アラブ人、アンモン人、アシュドデ人たちは、エルサレムの城壁の修復がはかどり、割れ目もふさがり始めたことを聞いたとき、激しく怒り、
- 8 皆でエルサレムに攻め入って混乱を起こそうと、陰謀を企てた。
- 9 そこで私たちは、私たちの神に祈り、彼らに備えて昼も夜も見張りを置いた。
- 10 ユダの人々は言った。「荷を担ぐ者の力は弱り、瓦礫は山をなしている。城壁を築き直すことなど、私たちにできはしない。」
- 11 私たちの敵は言った。「彼らが気づかないうちに、見つけないうちに、彼らの真ん中に入り込み、彼らを殺して、その工事をやめさせよう。」
- 12 そのため、彼らの近くに住んでいたユダヤ人たちはやって来て、四方八方から十回も私たちに言った。「私たちのところに戻って来てください。」
- 13 そこで私は、民をその家族ごとに、城壁のうしろの低い場所の空地に、剣や槍や弓を持たせて配置した。
- 14 私は彼らの様子を見て立ち上がり、有力者たちや代表者たち、およびその他の人たちに言った。「彼らを恐れてはならない。大いなる恐るべき主を覚え、自分たちの兄弟、息子、娘、妻、また家のために戦いなさい。」
- 15 私たちの敵が、自分たちの企みが私たちに悟られたこと、神がそれを打ち壊されたことを聞いたとき、私たちはみな城壁に戻り、それぞれ自分の工事に当たった。
- 16 その日以来、私の配下の若い者の半分は工事を続け、もう半分は、槍、盾、弓、よろいで身を固めていた。隊長たちがユダの全家を守った。
- 17 城壁を築く者たち、荷を担いで運ぶ者たちは、片手で仕事をし、片手に投げ槍を握っていた。
- 18 築く者はそれぞれ剣を腰にして築き、角笛を吹き鳴らす者は私のそばにいた。

- 19** 私は有力者たち、代表者たち、およびそのほかの人々に言った。「この工事は大きく、また範囲は広い。私たちは城壁の上で互いに遠く離れ離れになっている。
- 20** どこでも、角笛が鳴るのを聞いたら、私たちのところに集まって来なさい。私たちの神が私たちのために戦ってくださるのだ。」
- 21** こうして私たちはこの工事を進めたが、その半分の者は、夜明けから星が現れるまで槍を手に使っていた。
- 22** そのときまた、私は民に言った。「それぞれ自分の配下の若い者と一緒に、エルサレムの内側で夜を明かすようにしなさい。そうすれば、夜には見張りがいて、昼には働くことができる。」
- 23** 私も、私の親類の者も、私の配下の若い者たちも、私を守る見張りの人々も、私たちの中のだれも服を脱がず、水場でもそれぞれ投げ槍を持っていた。

第5章

- 1 さて、民とその妻たちから、同胞のユダヤ人たちに対して強い抗議の声があがった。
- 2 ある者は、「私たちには息子や娘がいて、大人数だ。食べて生きるために穀物を手に入れなければならない」と言い、
- 3 またある者は、「私たちの畑も、ぶどう畑も、家も抵当に入れなければならない。この飢饉に際して穀物を手に入れるために」と言った。
- 4 またある者は言った。「私たちは、畑やぶどう畑に課された王の税金を支払うために、金を借りなければならなかった。
- 5 現に、私たちの血肉は私たちの同胞の血肉と同じだし、私たちの子どもも彼らの子どもと同じだ。それなのに、今、私たちは息子や娘を奴隷に売らなければならない。実際、もう娘が奴隷にされている者もいる。ところが、私たちの畑もぶどう畑も他人の所有となっているので、私たちにはどうする力もない。」
- 6 私は彼らの抗議と、これらのことばを聞いて、激しく腹を立てた。
- 7 私は十分考えたうえで、有力者たちや代表者たちを非難して言った。「あなたがたはみな、自分の同胞たちに、利子をつけて金を貸している。」そして大集会を開いて彼らを責め、
- 8 彼らに言った。「私たちは、異邦の民に売られた同胞のユダヤ人を、できる限り買い取った。それなのに、あなたがたはまた自分の同胞を売ろうとしている。彼らはまた私たちに売られなければならなくなる。」すると彼らは黙ってしまい、一言も言えなかった。
- 9 私は続けた。「あなたがたのしていることは良くない。あなたがたは、私たちの敵である異邦の民から侮辱を受けることなく、私たちの神を恐れつつ歩むべきではないか。
- 10 私も、私の親類の者も、私の配下の若い者たちも、彼らに金や穀物を貸してやったが、私たちはその負債を帳消しにしよう。
- 11 だから、あなたがたも今日、彼らの畑、ぶどう畑、オリーブ畑、家、それに、あなたがたが彼らに貸していた金や穀物、新しいぶどう酒、油などの利息分を彼らに返してやりなさい。」
- 12 すると彼らは、「私たちは返します。彼らから何も要求しません。私たちはあなたの言われるとおりにします」と言った。そこで私は祭司たちを呼んで、この約束を実行する誓いを立てさせた。
- 13 私はまた、衣の裾を振って言った。「この約束を果たさない者はだれでも、神がこのように、その人の家から、また、その人の勤労の実から振り落としてくださいますように。このように振り落とされて、無一文になりますように。」すると全会衆は、「アーメン」と言って主をほめたたえた。こうして民はこの約束を実行した。
- 14 また、私がユダの地の総督として任命された日から、すなわち、アルタクセルクセス王の第二十年から第三十二年までの十二年間、私も私の親類も総督としての手当てを受けなかった。

- 15** 私の前任の総督たちは民の負担を重くし、銀四十シェケルのほかにパンとぶどう酒を民から取り立てた。しかも、彼らに仕える若い者たちは民にいばりちらした。しかし、私は神を恐れて、そのようなことはしなかった。
- 16** また、私はこの城壁の工事に力を注ぎ、私たちは農地を買わなかった。私の配下の若い者たちはみな工事に集まっていた。
- 17** ユダヤ人と代表者たち百五十人、また私たちの周囲の国々から来る者が、私の食卓に着いていた。
- 18** そのため、一日に牛一頭、選り抜きの羊六頭が料理され、私のためには何羽かの鳥が料理された。それに、十日ごとに、あらゆる種類のぶどう酒がたくさん用意された。それでも私は、この民に重い負担がかかっていたので、総督としての手当を要求しなかった。
- 19** 私の神よ。どうか私がこの民のためにしたすべてのことを覚えて、私をいつくしんでください。

第6章

- 1 さて、サンバラテ、トビヤ、アラブ人ゲシム、その他の私たちの敵に、私が城壁を築き直し、破れ口が残っていないことが伝えられたときのこと、ただし、まだ門には扉を取り付けていなかったときのことである。
- 2 サンバラテとゲシムは私のところに使いをよこして言った。「さあ、オノの平地のケフィリムで会いしよう。」彼らは私に危害を加えようと企んでいたのである。
- 3 そこで、私は彼らのところに使者たちを遣わして言った。「私は大工事をしているから、下って行けない。私が工事をそのままにして、あなたがたのところへ下って行ったために、工事が止まるようなことがあってよいものだろうか。」
- 4 彼らは同じようなことを、四度も私のところに言ってよこした。それで私も同じことを彼らに答えた。
- 5 サンバラテは五度目にも同じようにして、若い者を私のところによこした。その手に一通の開封された手紙を持っていた。
- 6 それには次のように書いてあった。「諸国民の間で言いふらされ、また、ゲシムも言っていることには、あなたとユダヤ人たちは反逆を企んでいて、そのために、あなたは城壁を築き直している。このうわさによれば、あなたは彼らの王になろうとしている。
- 7 また、あなたは預言者さえ立てて、ここユダには王がいると、自分についてエルサレムで宣言させようとしている。今にこのことは王に聞こえるであろう。さあ、来なさい。一緒に相談しよう。」
- 8 そこで、私は彼のところに人を遣わして言った。「あなたが言っているようなことは、なされていない。それはあなたが心の中で勝手に考え出したことだ」と。
- 9 これらのことはみな、「彼らの工事に対する気力が落ち、工事は中止されるだろう」と考えて、私たちを脅すためであった。ああ、今、どうか私を力づけてください。
- 10 私がメヘタブエルの子デラヤの子シエマヤの家に行ったところ、彼は引きこもっていた。そしてこう言った。「神の宮、神殿の中で会い、神殿の戸を閉じておこう。彼らがあなたを殺しにやって来るから。きっと夜分に殺しにやって来る。」
- 11 そこで私は言った。「私のような者が逃げてよいものか。私のような者で、だれが神殿に入って生き続けるだろうか。私は入らない。」
- 12 私には分かった。今、彼を遣わしたのは、神ではないと。彼がこの預言を私に伝えたのは、トビヤとサンバラテが彼を買収したからだ。
- 13 私が恐れて、言われるがままにして罪を犯し、私の悪評が立って、私がそしられるようにするために、彼は買収されたのだった。
- 14 わが神よ。トビヤやサンバラテのこれらのしわざと、また、私を恐れさせようとした女預言者ノアデヤや、その他の預言者たちのしわざを覚えていてください。
- 15 こうして、城壁は五十二日かかって、エルルの月の二十五日に完成した。
- 16 私たちの敵がみなこれを聞いたとき、周囲の国々の民はみな恐れ、大いに面目を失った。この工事が私たちの神によってなされたことを知ったからである。

- 17** またそのころ、ユダの有力者たちはトビヤのところにひんぱんに手紙を送っていて、トビヤも彼らに返事をしていた。
- 18** それは、トビヤがアラフの子シェカンヤの婿であり、また、トビヤの子ヨハナンもベレクヤの子メシュラムの娘を妻に迎えていたので、彼に誓いを立てていた者がユダの中に大勢いたからである。
- 19** さらに、彼らは私の前でトビヤの善行を語り、彼に私の言うことを筒抜けにしていた。トビヤは私を脅すために、たびたび手紙を送って来た。

第7章

- 1 城壁が築き直され、私が扉を取り付けたとき、門衛、歌い手、レビ人が任命された。
- 2 私は兄弟ハナニとこの城の長ハナンヤに、エルサレムを治めるように命じた。これは、ハナンヤが誠実な人であり、多くの人にまさって神を恐れていたからであった。
- 3 私は彼らに言った。「太陽が高く昇って暑くなるまでは、エルサレムの門を開けてはならない。そして彼らが警備に立っている間に、門をしっかりと閉じておきなさい。エルサレムの住民を、それぞれ物見のやぐらか自分の家の前に、見張りとして立てなさい。」
- 4 この町は広々としていて大きかったが、その中の住民は少なく、家もまだ十分に建てられていなかった。
- 5 私の神は私の心に示して、私に有力者たちや、代表者たちや、民衆を集めて、彼らの系図を記載させた。私は最初に上って来た人々の系図を発見し、その中に次のように書かれているのを見つけた。
- 6 バビロンの王ネブカドネツアルが引いて行った捕囚の民で、その捕囚の身から解かれてエルサレムとユダに上り、それぞれ自分の町に帰ったこの州の人々は次のとおりである。
- 7 彼らは、ゼルバベル、ヨシュア、ネヘミヤ、アザルヤ、ラアムヤ、ナハマニ、モルデカイ、ビルシャン、ミスペレテ、ビグワイ、ネフム、バアナと一緒に帰って来た。イスラエルの民の人数は次のとおりである。
- 8 パルオシュ族、二千百七十二人。
- 9 シェファテヤ族、三百七十二人。
- 10 アラフ族、六百五十二人。
- 11 ヨシュアとヨアブの二族からなるパハテ・モアブ族、二千八百十八人。
- 12 エラム族、一千二百五十四人。
- 13 ザト族、八百四十五人。
- 14 ザカイ族、七百六十人。
- 15 ビヌイ族、六百四十八人。
- 16 ベバイ族、六百二十八人。
- 17 アズガデ族、二千三百二十二人。
- 18 アドニカム族、六百六十七人。
- 19 ビグワイ族、二千六十七人。
- 20 アディン族、六百五十五人。
- 21 ヒゼキヤ族、すなわちアテル族、九十八人。
- 22 ハシュム族、三百二十八人。
- 23 ベツァイ族、三百二十四人。
- 24 ハリフ族、百十二人。
- 25 ギブオン族、九十五人。
- 26 ベツレヘムとネトファの人々、百八十八人。

- 27 アナトテの人々、百二十八人。
- 28 ベテ・アズマウェテの人々、四十二人。
- 29 キルヤテ・エアリムとケフィラとベエロテの人々、七百四十三人。
- 30 ラマとゲバの人々、六百二十一人。
- 31 ミクマスの人々、百二十二人。
- 32 ベテルとアイの人々、百二十三人。
- 33 別のネボの人々、五十二人。
- 34 別のエラム族、一千二百五十四人。
- 35 ハリム族、三百二十人。
- 36 エリコ人、三百四十五人。
- 37 ロデ人とハディデ人とオノ人、七百二十一人。
- 38 セナア人、三千九百三十人。
- 39 祭司は、ヨシュアの家系のエダヤ族、九百七十三人。
- 40 イメル族、一千五十二人。
- 41 パシュフル族、一千二百四十七人。
- 42 ハリム族、一千十七人。
- 43 レビ人は、ホダウヤ族のヨシュアとカデミエルの二族、七十四人。
- 44 歌い手は、アサフ族、百四十八人。
- 45 門衛は、シャルム族、アテル族、タルモン族、アクブ族、ハティタ族、ショバイ族、百三十八人。
- 46 宮のしもべは、ツィハ族、ハスファ族、タバオテ族、
- 47 ケロス族、シア族、パドン族、
- 48 レバナ族、ハガバ族、シャルマイ族、
- 49 ハナン族、ギデル族、ガハル族、
- 50 レアヤ族、レツィン族、ネコダ族、
- 51 ガザム族、ウザ族、パセアハ族、
- 52 ベサイ族、メウニム族、ネフィシェシム族、
- 53 バクブク族、ハクファ族、ハルフル族、
- 54 バツリテ族、メヒダ族、ハルシャ族、
- 55 バルコス族、シセラ族、テマフ族、
- 56 ネットィアハ族、ハティファ族。
- 57 ソロモンのしもべたちの子孫は、ソタイ族、ソフェレテ族、ペリダ族、
- 58 ヤアラ族、ダルコン族、ギデル族、
- 59 シェファテヤ族、ハティル族、ポケレテ・ハツェバيلم族、アモン族。
- 60 宮のしもべたちと、ソロモンのしもべたちの子孫は、合計三百九十二人。
- 61 次の人々はテル・メラフ、テル・ハルシャ、ケルブ、アドン、イメルから引き揚げて来たが、自分たちの先祖の家系と血統がイスラエル人であったかどうかを証明できなかった。

- 62 デラヤ族、トビヤ族、ネコダ族、六百四十二人。
- 63 祭司の中では、ホバヤ族、ハ・コツ族、バルジライ族。このバルジライは、ギルアデ人バルジライの娘の一人を妻にしたので、その名で呼ばれていた。
- 64 これらの人々は自分たちの系図書きを捜してみたが、見つからなかったなので、彼らは祭司職を果たす資格がない者とされた。
- 65 そのため総督は彼らに、ウリムとトンミムを使える祭司が起こるまでは、最も聖なるものを食べてはならないと命じた。
- 66 全会衆の合計は四万二千三百六十人であった。
- 67 このほかに、彼らの男女の奴隷が七千三百三十七人いた。また、彼らには男女の歌手が二百四十五人いた。
- 68 らくだは四百三十五頭。ろばは六千七百二十頭であった。
- 69 一族のかしらの何人かは、工事のためにささげ物をした。総督は資金として金一千ダリク、鉢五十、祭司の長服五百三十着を献げ、
- 70 また、一族のかしらのある者は、工事資金として金二万ダリク、銀二千二百ミナを献げた。
- 71 そのほかの民の献げたものは、金二万ダリク、銀二千ミナ、祭司の長服六十七着であった。
- 72 こうして、祭司、レビ人、門衛、歌手、民のある者たち、宮のしもべたちが、すなわち、全イスラエルが自分たちの元の町々に住んだ。イスラエルの子らは自分たちの町々にいたが、第七の月が来たとき、

第8章

- 1 民全体が、一斉に水の門の前の広場に集まって来た。そして彼らは、主がイスラエルに命じたモーセの律法の書を持って来るように、学者エズラに言った。
- 2 そこで、第七の月の一日に祭司エズラは、男、女、および、聞いて理解できる人たちすべてからなる会衆の前に律法を持って来て、
- 3 水の門の前の広場で夜明けから真昼まで、男、女、および理解できる人たちの前で、これを朗読した。民はみな律法の書に耳を傾けた。
- 4 学者エズラは、このために作られた木の壇の上に立った。彼のそばには、右手にマティヤ、シェマ、アナヤ、ウリヤ、ヒルキヤ、マアセヤが立ち、左手にペダヤ、ミシャエル、マルキヤ、ハシュム、ハシュバダナ、ゼカリヤ、メシュラムが立った。
- 5 エズラは民全体の目の前で、その書を開いた。彼は民全体よりも高いところにいたのである。彼がそれを開くと、民はみな立ち上がった。
- 6 エズラが大いなる神、主をほめたたえ、民はみな両手を上げながら「アーメン、アーメン」と答え、ひざまずき、顔を地に伏せて主を礼拝した。
- 7 ヨシュア、バニ、シェレベヤ、ヤミン、アクブ、シャベタイ、ホディヤ、マアセヤ、ケリタ、アザルヤ、エホザバデ、ハナン、ペラヤなどレビ人たちは、民に律法を解き明かした。その間、民はその場に立っていた。
- 8 彼らが神のみおしえの書を読み、その意味を明快に示したので、民は読まれたことを理解した。
- 9 総督であるネヘミヤと、祭司であり学者であるエズラと、民に解き明かすレビ人たちは、民全体に向かって言った。「今日は、あなたがたの神、主にとって聖なる日である。悲しんではならない。泣いてはならない。」民が律法のことばを聞いたときに、みな泣いていたからである。
- 10 さらに、彼は彼らに言った。「行って、ごちそうを食べ、甘いぶどう酒を飲みなさい。何も用意できなかった人には食べ物を贈りなさい。今日は、私たちの主にとって聖なる日である。悲しんではならない。主を喜ぶことは、あなたがたの力だからだ。」
- 11 レビ人たちも、民全体を静めながら言った。「静まりなさい。今日は聖なる日だから。悲しんではならない。」
- 12 こうして、民はみな帰って行き、食べたり飲んだり、ごちそうを贈ったりして、大いに喜んだ。教えられたことを理解したからである。
- 13 二日目に、民全体の一族のかしらたちと、祭司たち、レビ人たちは、律法のことばをよく調べるために、学者エズラのところに集まって来た。
- 14 そして彼らは、主がモーセを通して命じた律法に次のように書かれているのを見出した。すなわち、「イスラエルの子らは第七の月の祭りの間、仮庵の中に住まなければならない。
- 15 また、『山へ出て行き、オリーブの葉、野生のオリーブの木の葉、ミルトスの葉、なつめ椰子の葉、また茂った枝木などの枝を取って来て、書かれているとおりに仮庵を作るよう

に』と、自分たちのすべての町とエルサレムに通達を出して、知らせなければならない」とあった。

- 16 そこで民は出て行き、枝を取って来て、それぞれ自分の家の屋根の上や庭の中、また神の宮の庭、水の門の広場、エフライムの門の広場に、自分たちのために仮庵を作った。
- 17 捕囚から帰って来た全会衆は仮庵を作り、その仮庵に住んだ。ヌンの子ヨシュアの時代から今日まで、イスラエルの子らはこのようにしていなかったので、それは非常に大きな喜びであった。
- 18 神のみおしえの書は、最初の日から最後の日まで毎日朗読された。祭りは七日間祝われ、八日目には定めにしたがって、きよめの集会が行われた。

第9章

- 1 その月の二十四日に、イスラエルの子らは集まって断食をし、粗布をまとって土をかぶった。
- 2 イスラエルの子孫はすべての異国の人々と関係を絶ち、立ち上がって、自分たちの罪と先祖の咎を告白した。
- 3 彼らはそれぞれ所定のところに立って、昼の四分の一は、彼らの神、主のみおしえの書を朗読し、次の四分の一は、彼らの神、主に告白をして礼拝した。
- 4 ヨシュア、バニ、カデミエル、シェバンヤ、ブンニ、シェレベヤ、バニ、ケナニはレビ人の台の上に立ち、彼らの神、主に向かって大声で叫んだ。
- 5 レビ人のヨシュア、カデミエル、バニ、ハシャブネヤ、シェレベヤ、ホディヤ、シェバンヤ、ペタフヤは言った。「立ち上がって、あなたがたの神、主をほめたたえよ。とこしえからとこしえまで。あなたの栄光の御名はほむべきかな。すべての祝福と賛美の上に高く上げられて。
- 6 ただ、あなただけが主です。あなたは天と、天の天と、その万象を、地とその上のすべてのものを、海とその中にあるすべてのものを造られました。あなたはそのすべてを生かしておられます。天の万象はあなたを伏し拝んでいます。
- 7 あなたこそ神である主です。あなたはアブラムを選んで カルデア人のウルから連れ出し、その名をアブラハムとされました。
- 8 彼の心が御前に忠実であるのを見て、あなたは彼と契約を結び、カナン人、ヒッタイト人、アモリ人、ペリジ人、エブス人、ギルガシ人の地を 彼の子孫に与えるとされました。そしてその約束を果たされました。あなたは正しい方だからです。
- 9 あなたはエジプトで私たちの先祖の苦難を見て、葦の海のほとりで、その叫びを聞かれました。
- 10 ファラオとそのすべての家臣、その国のすべての民に対して、数々のしるしと不思議を行われました。彼らが私たちの先祖に対して 傲慢にふるまったのを、あなたがみこころに留められたからです。こうして、今日あるとおり、あなたは名をあげられました。
- 11 あなたは私たちの先祖の前で海を裂き、彼らは海の真ん中の乾いた地面を渡りました。追っ手は、奔流に呑み込まれる石のように、あなたが海の深みに投げ込まれました。
- 12 昼は雲の柱の中であって彼らを導き、夜は火の柱の中であって その行くべき道を照らされました。
- 13 あなたはシナイ山の上に下り、天から彼らと語り、正しい定めと、まことのみおしえ、良き掟と命令を彼らにお与えになりました。
- 14 あなたの聖なる安息を彼らに教え、あなたのしもべモーセを通して、命令と掟とみおしえを彼らに命じられました。
- 15 彼らが飢えたときには、天からパンを与え、渴いたときには、岩から水を出し、彼らに与えると誓われたその地に入って そこを所有するよう、彼らに命じられました。

- 16 しかし彼ら、私たちの先祖は 傲慢にふるまい、うなじを固くし、あなたの命令に聞き従いませんでした。
- 17 彼らは聞き従うことを拒み、彼らの間で行われた奇しいみわざを思い出さず、かえってうなじを固くし、かしらを立てて、逆らって奴隷の身に戻ろうとしました。それにもかかわらず、あなたは赦しの神であり、情け深く、あわれみ深く、怒るのに遅く、恵み豊かであられ、彼らをお捨てになりませんでした。
- 18 彼らが自分たちのために鋳物の子牛を造り、『これが、あなたをエジプトから導き上ったあなたの神だ』と言って、ひどい侮辱を加えたときでさえ、
- 19 あなたは大きなあわれみをかけ、彼らを荒野に見捨てられませんでした。昼は雲の柱が彼らから離れず、道中を導き、夜は火の柱が、行くべき道を照らしました。
- 20 あなたは、彼らを賢くしようと、ご自分の良き霊を与え、彼らの口からあなたのマナを絶やさず、彼らが渴いたときには水を与えられました。
- 21 四十年の間、あなたは彼らを養われました。彼らは荒野で何も不足することなく、上着はすり切れず、足も腫れませんでした。
- 22 あなたは諸王国と諸民族を彼らに渡し、それらを領地として割り当てられました。彼らはシホンの地、ヘシュボンの王の地と、バシャンの王オグの地を所有しました。
- 23 あなたは彼らの子孫を空の星のように増やし、彼らの先祖たちに、『入って行って所有せよ』と言った地に、彼らを導き入れられました。
- 24 その子孫は入って行って、その地を所有しました。あなたは、この地の住民、カナン人を彼らの前に屈服させて、その手に渡し、王たちとその地の人々を、彼らの思いのままに扱わせました。
- 25 こうして、彼らは 城壁のある町々と肥えた土地を攻め取り、あらゆる良い物に満ちた家、掘り井戸とぶどう畑、そしてオリーブと果樹を、豊かに手に入れました。彼らは食べて満腹し、肥え太って、あなたの大いなる恵みを楽しみました。
- 26 しかし、彼らはあなたに逆らい、反逆して、あなたの律法をうしろに投げ捨て、あなたに立ち返らせようとして彼らを戒めた あなたの預言者たちを殺し、数々のひどい侮辱を加えました。
- 27 そこであなたは彼らを敵の手に渡され、敵が彼らを苦しめました。彼らがその苦難の時にあなたに叫び求めると、あなたは天からこれを聞き入れ、あなたの大いなるあわれみによって 救う者たちを彼らに与え、敵の手から救われるようにしてくださいました。
- 28 しかし、一息つくと、彼らはまたあなたの前に悪事を行いました。あなたは彼らを敵の手に捨て置き、敵が彼らを支配しました。彼らが再びあなたに叫び求めると、あなたは天からこれを聞き入れ、あわれみによって、たびたび彼らを救い出されました。
- 29 あなたは彼らを戒めて、あなたの律法に立ち返らせようとされました。しかし、彼らは傲慢にふるまい、あなたの命令に聞き従わず、その命令を行う人は、それによって生きるという あなたの定めに従って罪を犯し、肩を怒らして、うなじを固くし、聞き入れようとはしませんでした。
- 30 それでも、あなたは何年も彼らを忍び、あなたの霊により、あなたの預言者たちを通して彼らを戒められましたが、彼らは耳を傾けませんでした。そのため、あなたは彼らを 地

のもろもろの民の手に渡されました。

- 31 しかし、あなたはその大いなるあわれみにより、彼らを滅ぼし尽くすことはせず、お見捨てにもなりませんでした。あなたは、情け深くあわれみ深い神です。
- 32 私たちの神、大いなる神よ。力強く恐るべき方、契約と恵みを守られる方よ。今、アッシリアの王たちの時代から今日まで、私たちと私たちの王たち、高官たち、祭司、預言者、私たちの先祖、また、あなたの民全体に降りかかった困難をみな、どうか小さなことと見なさないでください。
- 33 私たちに降りかかったすべてのことにおいて、あなたは正しくあられます。あなたは真実を行われましたが、私たちは悪を行ったのです。
- 34 私たちの王、高官、祭司、先祖たちはあなたの律法を守らず、あなたがお与えになった命令と警告にも、耳を傾けませんでした。
- 35 彼らは自分たちの王国の中で、あなたが下さったその大きな恵みの中で、また、あなたが彼らの前に置かれた、広くて肥えた土地にいても、あなたに仕えず、また自分たちの悪い行いから立ち返ることもありませんでした。
- 36 ご覧ください。私たちは今、奴隷です。私たちが実りと良い物を食べられるようにと、あなたが先祖に与えてくださった、この地で。ご覧ください。私たちは奴隷です。
- 37 私たちの罪のゆえに、この地の豊かな産物は、あなたが私たちの上に立てられた王たちのものとなっています。彼らは私たちのからだを支配し、家畜も彼らの思いのままです。私たちは大きな苦しみの中にいます。」
- 38 これらすべてのことのゆえに、私たちは文書をもって盟約を結んだ。そして、私たちの高官たち、レビ人たち、祭司たちはそれに印を押した。

第10章

- 1 印を押した者は次のとおりである。ハカルヤの子の総督ネヘミヤ、およびゼデキヤ、
- 2 セラヤ、アザルヤ、エレミヤ、
- 3 パシュフル、アマルヤ、マルキヤ、
- 4 ハトシュ、シェバンヤ、マルク、
- 5 ハリム、メレモテ、オバデヤ、
- 6 ダニエル、ギネトン、バルク、
- 7 メシュラム、アビヤ、ミヤミン、
- 8 マアズヤ、ビルガイ、シェマヤ。以上は祭司たちであった。
- 9 レビ人では、アザンヤの子ヨシュア、ヘナダデの子らのうちのビヌイ、カデミエル、
- 10 および彼らの親類で、シェバンヤ、ホディヤ、ケリタ、ペラヤ、ハナン、
- 11 ミカ、レホブ、ハシャブヤ、
- 12 ザクル、シェレベヤ、シェバンヤ、
- 13 ホディヤ、バニ、ベニヌ。
- 14 民のかしらでは、パルオシュ、パハテ・モアブ、エラム、ザト、バニ、
- 15 ブンニ、アズガデ、ベバイ、
- 16 アドニヤ、ビッグワイ、アディン、
- 17 アテル、ヒゼキヤ、アズル、
- 18 ホディヤ、ハシュム、ベツァイ、
- 19 ハリフ、アナトテ、ネバイ、
- 20 マグピアシュ、メシュラム、ヘジル、
- 21 メシェザブエル、ツアドク、ヤドア、
- 22 ペラテヤ、ハナン、アナヤ、
- 23 ホセア、ハナンヤ、ハシュブ、
- 24 ハ・ロヘシュ、ピルハ、ショベク、
- 25 レフム、ハシャブナ、マアセヤ、
- 26 アヒヤ、ハナン、アナン、
- 27 マルク、ハリム、バアナ。
- 28 このほかの民、祭司、レビ人、門衛、歌い手、宮のしもべたち、また、諸国の民と関係を絶って神の律法についた者全員、その妻、息子、娘たち、すべて理解できるまでになった者は、
- 29 彼らの親類のすぐれた人々と歩調を合わせつつ、神のしもべモーセを通して与えられた神の律法に歩み、私たちの主、主のすべての命令、その定めと掟を守り行うという、次のような、のろいの誓いに加わった。
- 30 「私たちの娘をこの地の民に与えず、また、彼らの娘を私たちの息子の妻としない。

- 31 諸国の民が安息日に商品、あるいはどんな穀物を売りに持って来ても、私たちは安息日や聖なる日には彼らから買わない。また、私たちは七年目には土地を休ませ、あらゆる負債を免除する。
- 32 私たちは、自分たちの神の宮での礼拝のために、毎年シェケルの三分の一を献げる義務を自らに課す。
- 33 これは、並べ供えるパンと常供の穀物のささげ物のため、常供の全焼のささげ物のため、安息日、新月の祭り、例祭、聖なるささげ物のため、そしてイスラエルの宥めを行う罪のきよめのささげ物のため、および私たちの神の宮のすべての用途のためである。
- 34 また私たち、祭司とレビ人と民は、薪のささげ物について、毎年定められた時に、父祖の家ごとに神の家に携えて来ることを、くじによって決める。律法に記されているとおり、私たちの神、主の祭壇の上で燃やすためである。
- 35 また、私たちの土地の初なりと、あらゆる木の初なりの果実をすべて、毎年、主の宮に携えて来ることに決める。
- 36 また、律法に記されているとおり、私たちの子どもと家畜の初子、私たちの牛や羊の初子を、私たちの神の宮に、私たちの神の宮で仕えている祭司たちのところに携えて来ることに決める。
- 37 また、私たちの初物の麦粉と奉納物、およびあらゆる木の果実、新しいぶどう酒と油を祭司たちのところに、私たちの神の宮の部屋に携えて来る。また、私たちの土地の十分の一はレビ人たちのものとする。レビ人は、私たちの耕作するすべての町から十分の一を受け取る者たちである。
- 38 レビ人が十分の一を集めるとき、アロンの子孫である祭司が、そのレビ人とともにいなければならない。レビ人は、その十分の一の十分の一を私たちの神の宮へ携え上り、宝物倉の部屋に納めなければならない。
- 39 この部屋に、イスラエルの子らとレビ人たちは、穀物、新しいぶどう酒、油の奉納物を携えて来るようになっているからである。そこには聖所の用具があり、また、当番の祭司や門衛や歌い手たちもいる。このようにして私たちは、自分たちの神の宮をなおざりにはしない。」

第11章

- 1 民の指導者たちはエルサレムに住んでいたが、それ以外の民はくじを引いて、十人のうちから一人ずつ、聖なる都エルサレムに来て住むようにし、あとの九人をほかの町々に住ませた。
- 2 民は、自分から進んでエルサレムに住もうとする人々をみな祝福した。
- 3 エルサレムに住んだこの州のかしらたちは次のとおりである。ユダの町々には、イスラエルの人々、祭司、レビ人、宮のしもべたち、ソロモンのしもべたちの子孫が、それぞれ自分たちの町の自分の所有地に住んだ。
- 4 エルサレムには、ユダ族とベニヤミン族のうちのある者が住んだ。ユダ族では、まずウジヤの子アタヤ。ウジヤはゼカリヤの子、ゼカリヤはアマルヤの子、アマルヤはシェファテヤの子、シェファテヤはマハラルエルの子、マハラルエルはペレツの子孫の一人である。
- 5 次にバルクの子マアセヤ。バルクはコル・ホゼの子、コル・ホゼはハザヤの子、ハザヤはアダヤの子、アダヤはエホヤリブの子、エホヤリブはゼカリヤの子、ゼカリヤはシロ人の子孫である。
- 6 エルサレムに住んだペレツの子孫は合計四百六十八人の勇士であった。
- 7 ベニヤミン族では次のとおりである。まずメシュラムの子サル。メシュラムはヨエデの子、ヨエデはペダヤの子、ペダヤはコラヤの子、コラヤはマアセヤの子、マアセヤはイティエルの子、イティエルはエシャヤの子である。
- 8 彼の次にガバイとサライで、九百二十八人。
- 9 ジクリの子ヨエルが彼らの監督者であり、セヌアの子ユダがこの町の副監督者であった。
- 10 祭司のうちでは、エホヤリブの子エダヤと、ヤキン、
- 11 ヒルキヤの子セラヤであった。ヒルキヤはメシュラムの子、メシュラムはツアドクの子、ツアドクはメラヨテの子、メラヨテはアヒトブの子である。セラヤは神の宮のつかさであった。
- 12 彼らの同族で宮の務めをする者は八百二十二人。また、エロハムの子アダヤ。エロハムはペラルヤの子、ペラルヤはアムツィの子、アムツィはゼカリヤの子、ゼカリヤはパシュフルの子、パシュフルはマルキヤの子である。
- 13 アダヤの同族で一族のかしらたちは二百四十二人。また、アザルエルの子アマシュサイ。アザルエルはアフザイの子、アフザイはメシレモテの子、メシレモテはイメルの子である。
- 14 彼らの同族の勇士たちは百二十八人。彼らの監督者はハゲドリムの子ザブディエルであった。
- 15 レビ人のうちでは、ハシュブの子シェマヤ。ハシュブはアズリカムの子、アズリカムはハシャブヤの子、ハシャブヤはブンニの子である。
- 16 また、レビ人のかしらのうちシャベタイとエホザバデは、神の宮の外まわりの仕事をつかさどっていた。

- 17 また、ミカの子マタンヤ。ミカはアサフの子のザブディの子である。マタンヤは祈りの時に感謝の歌を歌い始める指導者、バクブクヤはその同族の副指導者であった。また、シャムアの子アブダ。シャムアはエドトンの子のガラルの子である。
- 18 聖なる都にいるレビ人は合計二百八十四人であった。
- 19 門衛では、アクブとタルモン、および門の見張りをする彼らの同族で、百七十二人であった。
- 20 そのほかのイスラエルの人々、祭司、レビ人たちは、ユダのすべての町で、それぞれ自分の相続地にいた。
- 21 宮のしもべたちはオフエルに住み、ツイハとギシュパは宮のしもべたちをつかさどっていた。
- 22 エルサレムにいるレビ人の監督者は、バニの子ウジであった。バニはハシャブヤの子、ハシャブヤはマタンヤの子、マタンヤはミカの子である。ウジはアサフの子孫の歌い手の一人で、神の宮の礼拝を指導していた。
- 23 歌い手たちには王の命令が下っていて、日課が定められていた。
- 24 また、ユダの子ゼラフの子孫の一人で、メシェザブエルの子ペタフヤは、民に関するすべての事柄について王を助ける役を務めた。
- 25 農地がある村々で、ユダの子孫の一部が住んだのは、キルヤテ・アルバとそれに属する村々、ディボンとそれに属する村々、エカブツェエルとその村々、
- 26 ヨシュア、モラダ、ベテ・ペレテ、
- 27 ハツアル・シュアル、ベエル・シェバとそれに属する村々、
- 28 ツィクラグ、メコナとそれに属する村々、
- 29 エン・リンモン、ツォルア、ヤルムテ、
- 30 ザノアハ、アドラムとそれらに属する村々、ラキシユとその農地、アゼカとそれに属する村々であった。こうして彼らは、ベエル・シェバからヒノムの谷までの一帯に住みついた。
- 31 ベニヤミンの子孫は、ゲバから、ミクマス、アヤ、ベテルとそれに属する村々、
- 32 アナトテ、ノブ、アナネヤ、
- 33 ハツォル、ラマ、ギタイム、
- 34 ハディデ、ツェボイム、ネバラテ、
- 35 ロデとオノ、および職人の谷に住んだ。
- 36 レビ人のうち、ユダにいたある組はベニヤミンに加わった。

第12章

- 1 シェアルティエルの子ゼルバベルおよびヨシュアと一緒に上って来た、祭司とレビ人は次のとおりである。セラヤ、エレミヤ、エズラ、
- 2 アマルヤ、マルク、ハトシュ、
- 3 シェカンヤ、レフム、メレモテ、
- 4 イド、ギネトイ、アビヤ、
- 5 ミヤミン、マアデヤ、ビルガ、
- 6 シェマヤ、エホヤリブ、エダヤ、
- 7 サル、アモク、ヒルキヤ、エダヤ。以上はヨシュアの時代に、祭司とその同族のかしらであった者たちである。
- 8 また、レビ人では、ヨシュア、ピヌイ、カデミエル、シェレベヤ、ユダ、マタンヤで、感謝の歌を受け持っていたのはマタンヤとその兄弟たちであった。
- 9 また、彼らの兄弟のバクブクヤとウンニは、務めのときには彼らの向かい側に立った。
- 10 ヨシュアはエホヤキムを生み、エホヤキムはエルヤシブを生み、エルヤシブはエホヤダを生み、
- 11 エホヤダはヨナタンを生み、ヨナタンはヤドアを生んだ。
- 12 次に、エホヤキムの時代に、祭司で一族のかしらであった者は次のとおりである。セラヤ族ではメラヤ、エレミヤ族ではハナンヤ、
- 13 エズラ族ではメシュラム、アマルヤ族ではヨハナン、
- 14 メリク族ではヨナタン、シェバンヤ族ではヨセフ、
- 15 ハリム族ではアデナ、メラヨテ族ではヘルカイ、
- 16 イド族ではゼカリヤ、ギネトン族ではメシュラム、
- 17 アビヤ族ではジクリ、ミンヤミン族、モアデヤ族ではピルタイ、
- 18 ビルガ族ではシャムア、シェマヤ族ではヨナタン、
- 19 エホヤリブ族ではマテナイ、エダヤ族ではウジ、
- 20 サライ族ではカライ、アモク族ではエベル、
- 21 ヒルキヤ族ではハシャブ、エダヤ族ではネタンエル。
- 22 エルヤシブ、エホヤダ、ヨハナン、ヤドアの時代にレビ人は一族のかしらとして登録され、また、祭司はベルシア人ダレイオスの治世に登録された。
- 23 レビの子孫で一族のかしらたちは、エルヤシブの子ヨハナンの時代まで、年代記に記されていた。
- 24 レビ人のかしらたちは、ハシャブヤ、シェレベヤ、およびカデミエルの子ヨシュアであり、その兄弟たちが彼らの向かい側に立って、組と組が相応じて、神の人ダビデの命令に基づき、賛美をして感謝をささげた。
- 25 マタンヤ、バクブクヤ、オバデヤ、メシュラム、タルモン、アクブは門衛で、門の倉を見張っていた。

- 26 以上はエホツァダクの子ヨシュアの子エホヤキムの時代と、総督ネヘミヤ、および学者である祭司エズラの時代の人々である。
- 27 エルサレムの城壁の奉献式に際して、彼らはあらゆる場所からレビ人を捜し出してエルサレムに連れて来た。シンバルと琴と豎琴に合わせて感謝の歌を歌い、喜びをもって奉献式を行うためであった。
- 28 歌い手たちは、エルサレムの周辺の低地やネトファ人の村々から、
- 29 またベテ・ギルガルやゲバとアズマウエテの農地から集まって来た。この歌い手たちは、エルサレムの周辺に自分たちの村々を建てていたのである。
- 30 祭司とレビ人は自分たちの身をきよめ、また民と門と城壁をきよめた。
- 31 私はユダの長たちを城壁に上らせ、感謝の歌をささげる二つの大きな賛美隊として配置した。一組は城壁の上を右の方に、糞の門に向かって進んだ。
- 32 彼らのうしろに続いて進んだ者は、ホシャヤとユダの長たちの半分、
- 33 アザルヤ、エズラ、メシュラム、
- 34 ユダ、ベニヤミン、シェマヤ、エレミヤであった。
- 35 祭司のうちのある者もラッパを持って進んだ。まず、ヨナタンの子ゼカリヤ。ヨナタンはシェマヤの子、シェマヤはマタンヤの子、マタンヤはミカヤの子、ミカヤはザクルの子、ザクルはアサフの子である。
- 36 次に、ゼカリヤの兄弟たちシェマヤ、アザルエル、ミラライ、ギラライ、マアイ、ネタンエル、ユダ、ハナニで、神の人ダビデの楽器を持って続いた。学者エズラが彼らの先頭に立った。
- 37 彼らは泉の門のところで、城壁の上り口にあるダビデの町の階段をまっすぐに上り、ダビデの家の上を通して東の方の水の門に来た。
- 38 感謝の歌をささげるもう一組の賛美隊は、左の方に進んだ。私はそのうしろに従った。民の半分は城壁の上を進み、炉のやぐらの上を通して、幅広の城壁のところに進み、
- 39 エフライムの門の上を通り、エシャナの門を過ぎ、魚の門と、ハナンエルのやぐらと、ハ・メアのやぐらを過ぎて、羊の門まで進んだ。そして監視の門で立ち止まった。
- 40 こうして、感謝の歌をささげる二つの賛美隊は神の宮で位置についた。私も、私とともにいた代表者たちの半分もそうした。
- 41 また祭司たち、エルヤキム、マアセヤ、ミンヤミン、ミカヤ、エルヨエナイ、ゼカリヤ、ハナンヤもラッパを持って、そこにいた。
- 42 また、マアセヤ、シェマヤ、エルアザル、ウジ、ヨハナン、マルキヤ、エラム、エゼルもいた。こうして、歌い手たちは歌い、イズラフヤが指揮をした。
- 43 彼らはその日、数多くのいけにえを献げて喜んだ。神が彼らを大いに喜ばせてくださったからである。女も子どもも喜んだので、エルサレムの喜びの声ははるか遠くまで聞こえた。
- 44 その日、財宝や、奉納物、初物や十分の一を納める部屋を管理する人たちが任命され、祭司とレビ人のために律法で定められた分を、町々の農地からそこに集めた。これは、職務に就いている祭司とレビ人をユダの人々が喜んだからである。

- 45** 彼らは、自分たちの神への任務ときよめの任務を果たした。歌い手や門衛たちも同様であった。ダビデとその子ソロモンの命令のとおりである。
- 46** 昔から、ダビデとアサフの時代から、歌い手たちのかしらたちがいて、神への賛美と感謝の歌がささげられた。
- 47** ゼルバベルの時代とネヘミヤの時代、全イスラエルは、歌い手と門衛のために定められた分を日ごとに渡していた。彼らはまたレビ人の分を聖別し、レビ人はアロンの子らの分を聖別していた。

第13章

- 1 その日、民が聞いているところでモーセの書が朗読され、その中に、アンモン人とモアブ人は決して神の集会に加わってはならない、と書かれているのが見つかった。
- 2 それは、かつて彼らが、パンと水をもってイスラエル人を迎えることをせず、かえってバラムを雇ってイスラエル人を呪わせようとしたからであった。私たちの神はその呪いを祝福に変えられた。
- 3 民はこの律法を聞くとすぐに、混血の者をみなイスラエルから切り離れた。
- 4 これより以前、祭司エルヤシブは、私たちの神の宮の部屋を任されていて、トビヤと親しい関係にあったので、
- 5 トビヤのために一つの大きな部屋をあてがっていた。以前その部屋は、穀物のささげ物、乳香、器、またレビ人や歌い手や門衛たちのために定められていた、穀物と新しいぶどう酒と油の十分の一、さらに祭司のための奉納物を保管するところであった。
- 6 この間ずっと、私はエルサレムにいなかった。私が、バビロンの王アルタクセルクセスの三十二年に王のところに行き、その後しばらくして王にいとまを乞い、
- 7 エルサレムに帰って来たからである。そのとき私は、エルヤシブがトビヤのために行った悪、すなわち、神の宮の庭にある一つの部屋を彼にあてがったことに気づいた。
- 8 私は大いに気分を害し、トビヤ家の家財をすべてその部屋から外へ放り出し、
- 9 命じて、その部屋をきよめさせた。そして私は、神の宮の器を、穀物のささげ物や乳香と一緒に再びそこに納めた。
- 10 また私は、レビ人の分が支給されていなかったために、務めに当たるレビ人と歌い手たちが、それぞれ自分の農地に逃げ去っていたことを知った。
- 11 私は代表者たちを詰問し、「どうして神の宮が見捨てられているのか」と言った。そして私はレビ人たちを集め、元の職務に就かせた。
- 12 ユダの人々はみな、穀物と新しいぶどう酒と油の十分の一を貯蔵庫に持って来た。
- 13 そこで私は、祭司シェレムヤ、学者ツアドク、レビ人の一人ベダヤに貯蔵庫を管理させ、マタンヤの子ザクルの子ハナンを彼らの助手とした。彼らが忠実な者と認められていたからである。彼らの任務は仲間に分配をすることであった。
- 14 私の神よ、どうか、このことのゆえに私を覚えていてください。私が神の宮とその務めのためにした数々の誠実な行いを、ぬぐい去らないでください。
- 15 そのころ私は、ユダのうちで安息日にぶどう踏みをしている者、麦束を運んでいる者、また、ろばに荷物を負わせている者、さらに、ぶどう酒、ぶどうの実、いちじくなど、あらゆる品物を積んで、安息日にエルサレムに運び込んでいる者を見つけた。それで私は、彼らが食糧を売ったその日に、彼らを戒めた。
- 16 また、そこに住んでいたツ口の人々も、魚などあらゆる商品を運んで来て、安息日に、しかもエルサレムでユダの人々に売っていた。
- 17 そこで、私はユダの有力者たちを詰問して言った。「あなたがたが行っているこの悪事は何か。安息日を汚しているではないか。

- 18 あなたがたの先祖も、このようなことをしたので、私たちの神はこのすべてのわざわいを、私たちとこの都の上にもたらされたのではないか。それなのに、あなたがたは安息日を汚して、イスラエルの上にもたもや御怒りを招こうとしている。」
- 19 安息日の前、エルサレムの門に夕闇が迫ると、私は命じて扉を閉めさせ、安息日が終わるまでは開いてはならないと命じた。そして、私の配下の若い者の何人かを門の見張りに立て、安息日に荷物が持ち込まれないようにした。
- 20 それで商人やあらゆる品物を売る者たちは、一、二度エルサレムの外で夜を過ごした。
- 21 そこで、私は彼らを戒めて言った。「なぜ、あなたがたは城壁の前で夜を過ごすのか。もう一度このようなことをすれば、私はあなたがたを処罰する。」その時から、彼らはもう安息日には来なくなった。
- 22 また私はレビ人に、安息日を聖なるものとするために、彼らが身をきよめ、門の見張りとして来るように命じた。私の神よ、このことにおいても、どうか私を覚えていてください。そして、あなたの豊かな恵みにしたがって私をあわれんでください。
- 23 そのころまた私は、アシュドデ人、アンモン人、モアブ人の女を妻にしているユダヤ人たちに気がついた。
- 24 彼らの子どもの半分は、アシュドデのことばか、あるいはそれぞれほかのことばを話して、ユダヤのことばが分からなかった。
- 25 そこで私は彼らを詰問してののしり、そのうちの数人を打って毛を引き抜き、神にかけて誓わせて言った。「あなたがたの娘を彼らの息子に嫁がせてはならない。また、彼らの娘をあなたがたの息子、あるいはあなたがた自身の妻としてはならない。
- 26 イスラエルの王ソロモンも、このことで罪を犯したではないか。多くの国の中で彼のような王はいなかった。彼は神に愛され、神は彼をイスラエル全土を治める王としたのに、その彼にさえ異国人の女たちが罪を犯させてしまった。
- 27 あなたがたについても、異国人の女を妻とし、私たちの神の信頼を裏切るといふ、この大きな悪が行われていることを聞かなければならないのか。」
- 28 大祭司エルヤシブの子エホヤダの子の一人は、ホロン人サンバラテの婿であった。それで、私は彼を私のところから追い出した。
- 29 私の神よ、どうか彼らのことを覚えていてください。彼らは祭司職を汚し、祭司職とレビ人たちの契約を汚したのです。
- 30 私は異教的なもの一切から彼らをきよめ、祭司とレビ人のそれぞれの務めにしたがって職務に就かせ、
- 31 定められた時に行う薪のささげ物と、初物についても規定を定めた。私の神よ、どうか私を覚えて、いつくしんでください。

エステル記

Esther

第1章

- 1 クセルクセスの時代、クセルクセスが、インドからクシュまで百二十七州を治めていた時のことである。
- 2 クセルクセス王がスサの城で、王座に着いていたころ、
- 3 その治世の第三年に、彼はすべての首長と家臣たちのために宴会を催した。それにはペルシアとメディアの有力者、貴族たち、および諸州の首長たちが出席した。
- 4 王は彼の王国の栄光の富と大いなる榮譽を幾日も示して、百八十日に及んだ。
- 5 この期間が終わると、王は、スサの城にいた身分の高い者から低い者に至るまでのすべての民のために、七日間、王宮の園の庭で宴会を催した。
- 6 白綿布や青色の布が、白や紫色の細ひもで大理石の柱の銀の輪に結び付けられ、金と銀でできた長椅子が、緑色石、白大理石、真珠貝や黒大理石のモザイクの床の上に置かれていた。
- 7 金の杯で酒がふるまわれたが、その杯は一つ一つ種類が違っていた。王室のぶどう酒は、王にふさわしく豊かにあった。
- 8 しかし飲酒は、「強要しないこと」という法に従っていた。だれでもそれぞれ自分の思いのままにさせるようにと、王が宮廷のすべての長に命じていたからである。
- 9 王妃ワシュティも、クセルクセス王の王宮で婦人たちのために宴会を催した。
- 10 七日目に、クセルクセス王はぶどう酒で心が陽気になり、王に仕える七人の宦官メフマン、ビゼタ、ハルボナ、ビグタ、アバグタ、ゼタル、カルカスに命じ、
- 11 王妃ワシュティに王冠をかぶらせて、王の前に連れて来るようにと言った。彼女の容姿がすばらしかったので、その美しさを民と首長たちに見せるためであった。
- 12 しかし、王妃ワシュティは宦官から伝えられた王の命令を拒み、来ようとはしなかった。そのため王は激しく怒り、その憤りは彼のうちで燃え立った。
- 13 そこで王は時を熟知している、知恵のある者たちに言った—このように、法令と裁判に詳しいすべての者に諮るのが、王の慣わしであった。
- 14 王の側近はペルシアとメディアの七人の首長たち、カルシェナ、シェタル、アダマタ、タルシシュ、メレス、マルセナ、メムカンで、彼らは王の面前に控えながら、王国の最高の地位に就いていた—
- 15 「王妃ワシュティは、宦官によって伝えられたクセルクセス王の命令に従わなかった。法令にしたがって、彼女をどう処分すべきか。」
- 16 メムカンは王と首長たちの前で答えた。「王妃ワシュティは王一人だけではなく、クセルクセス王のすべての州の全首長と全住民にも悪いことをしました。
- 17 王妃のことが女たちみなに知れ渡り、『クセルクセス王が王妃ワシュティに、王の前に来るように命じたのに、来なかった』と言って、女たちは自分の夫を軽く見るようになるでしょう。
- 18 今日にでも、王妃のことを聞いたペルシアとメディアの首長の夫人たちは、王のすべての首長たちにこのことを言って、並々ならぬ軽蔑と怒りが起こることでしょう。

- 19** もし王がおよろしければ、ワシュティはクセルクセス王の前に出てはならない、という勅令をご自分でお出しになり、ペルシアとメディアの法令の中に書き入れて、変更することのないようにされてはいかがでしょうか。王妃の位は、彼女よりももっとすぐれた者にお授けください。
- 20** 王が出される詔勅がこの大きな王国の隅々まで告げ知らされれば、女たちは、身分の高い者から低い者に至るまでみな、自分の夫を敬うようになるでしょう。」
- 21** この進言は王と首長たちの心にかなったので、王はメムカンの言ったとおりにした。
- 22** 王は、王のすべての州に書簡を送った。各州にはその文字で、各民族にはその言語で書簡を送り、男子はみな一家の主人となること、また自分の民族の言語で話すことを命じた。

第2章

- 1 これらの出来事の後、クセルクセス王の憤りが収まると、王はワシュティのこと、彼女のしたこと、彼女について決められたことを思い出した。
- 2 王に仕える侍従たちは言った。「王のために容姿の美しい未婚の娘たちを探しましょう。」
- 3 王は王国のすべての州に役人を任命し、容姿の美しい未婚の娘たちをみな、スサの城の後宮に集めて、女たちの監督官である王の宦官ヘガイの管理のもとに置き、化粧品を彼女たちに与えるようにしてください。
- 4 そして、王のお心にかなう娘を、ワシュティの代わりに王妃としてください。」このことは王の心にかなったので、彼はそうにした。
- 5 スサの城に一人のユダヤ人がいて、その名をモルデカイといった。この人はヤイルの子で、ヤイルはシムイの子、シムイはベニヤミン人キシユの子であった。
- 6 このキシユは、ユダの王エコンヤと一緒に捕らえ移された捕囚の民とともに、エルサレムから捕らえ移された者であった。エコンヤはバビロンの王ネブカドネツアルが捕らえ移したのであった。
- 7 モルデカイはおじの娘ハダサ、すなわちエステルを養育していた。彼女には父も母もいなかったからである。この娘は姿も美しく、顔だちも良かった。モルデカイは、彼女の父と母が死んだとき、彼女を引き取って自分の娘としていた。
- 8 王の命令、すなわちその法令が伝えられて、多くの娘たちがスサの城に集められ、ヘガイの管理のもとに置かれたとき、エステルも王宮に連れて行かれて、女たちの監督官ヘガイの管理のもとに置かれた。
- 9 この娘はヘガイの目にかない、彼の好意を得た。彼は急いで化粧品とごちそうを彼女に与え、また王宮から選ばれた七人の侍女を彼女に付けた。また、ヘガイは彼女とその侍女たちを、後宮の最も良いところに移した。
- 10 エステルは自分の民族も、自分の生まれも明かさなかった。モルデカイが、明かしてはいけなと彼女に命じておいたからである。
- 11 モルデカイは毎日、後宮の庭の前を行き来し、エステルの安否と、彼女がどうされるかを知らうとしていた。
- 12 娘たちは、女たちの規則にしたがって、十二か月の期間が終わった後、一人ずつ順番にクセルクセス王のところに入って行くことになっていた。準備の期間は、六か月は没薬の香油を、次の六か月は香料と女たちのための化粧品を用いて化粧することで、完了するのであった。
- 13 このようにして、娘が王のところに入って行くとき、その娘の願うものはみな与えられ、それを携えて後宮から王宮に行くことができた。
- 14 娘は夕方入って行き、朝になると第二の後宮に帰ることになっていた。そこは、側女たちの監督官である、王の宦官シャアシュガズの管理のもとにあった。その女は、王が気に入って指名されるのでなければ、二度と王のところには行けなかった。

- 15** さて、モルデカイが引き取って自分の娘とした、彼のおじアビハイルの娘エステルが、王のところに入って行く順番が来たとき、彼女は女たちの監督官である、王の宦官ヘガイの勧めたもののほかは、何一つ求めなかった。こうしてエステルは、彼女を見るすべての者から好意を受けていた。
- 16** エステルが王宮のクセルクセス王のもとに召し入れられたのは、王の治世の第七年の第十の月、すなわちテベテの月であった。
- 17** 王はほかのどの女よりもエステルを愛した。このため、彼女はどの娘たちよりも王の好意と寵愛を受けた。王は王冠を彼女の頭に置き、ワシュティの代わりに彼女を王妃とした。
- 18** それから、王はすべての首長と家臣たちのために大宴会、すなわちエステルの宴会を催した。諸州には免税を布告し、王にふさわしい贈り物を配った。
- 19** 娘たちが二度目に集められたとき、モルデカイは王の門のところに座っていた。
- 20** エステルは、モルデカイが彼女に命じていたように、自分の生まれも自分の民族も明かしていなかった。エステルはモルデカイに養育されていたときと同じように、彼の命令に従っていた。
- 21** そのころ、モルデカイが王の門のところに座っていると、入り口を守っていた王の二人の宦官ビグタンとテレシュが怒って、クセルクセス王を手にかけてようとしていた。
- 22** このことがモルデカイの知るところとなり、彼はこれを王妃エステルに知らせた。エステルはこれをモルデカイの名で王に告げた。
- 23** このことが追及され、その事実が明らかになったので、彼ら二人は木にかけられた。このことは王の前で年代記に記録された。

第3章

- 1 これらの出来事の後、クセルクセス王はアガグ人ハメダタの子ハマンを重んじ、彼を昇進させて、その席を彼とともにいる首長たちのだれよりも上に置いた。
- 2 それで、王の門のところにいる王の家来たちはみな、ハマンに対して膝をかがめてひれ伏した。王が彼についてこのように命じたからである。しかし、モルデカイは膝もかがめず、ひれ伏そうともしなかった。
- 3 王の門のところにいる王の家来たちは、モルデカイに「あなたはなぜ、王の命令に背くのか」と言った。
- 4 彼らは毎日そう言ったが、モルデカイは耳を貸そうとしなかった。それで、モルデカイのしていることが続けられてよいものかどうかを確かめようと、これをハマンに告げた。モルデカイが、自分がユダヤ人であることを彼らに打ち明けていたからである。
- 5 ハマンはモルデカイが自分に対して膝もかがめず、ひれ伏そうともしないのを見て、憤りに満たされた。
- 6 しかし、ハマンはモルデカイー人を手にかけるだけでは満足しなかった。モルデカイの民族のことが、ハマンに知らされていたのである。それでハマンは、クセルクセスの王国中のすべてのユダヤ人、すなわちモルデカイの民族を根絶やしにしようとした。
- 7 クセルクセス王の第十二年の第一の月、すなわちニサン月に、日と月を決めるためにハマンの前で、プル、すなわちくじが投げられた。くじは第十二の月、すなわちアダル月に当たった。
- 8 ハマンはクセルクセス王に言った。「王国のすべての州にいる諸民族の間に、散らされて離れ離れになっている一つの民族があります。彼らの法令はどの民族のものとも違っていて、王の法令を守っていません。彼らをそのままにさせておくことは、王のためになりません。
- 9 王様。もしよろしければ、彼らを滅ぼすようにと書いてください。私はその仕事をする者たちに銀一万タラントを量って渡します。そうして、それを王の宝物庫に納めさせましょう。」
- 10 王は自分の手から指輪を外して、アガグ人ハメダタの子で、ユダヤ人の敵であるハマンにそれを渡した。
- 11 王はハマンに言った。「その銀はおまえに与えられるようにしよう。また、その民族もその銀でおまえの好きなようにするがよい。」
- 12 そこで、第一の月の十三日に、王の書記官たちが召集され、ハマンが、王の太守、各州を治めている総督、各民族の首長たちに命じたことがすべて、各州にその文字で、各民族にはその言語で記された。それは、クセルクセスの名で書かれ、王の指輪で印が押された。
- 13 書簡は急使によって王のすべての州へ送られた。それには、第十二の月、すなわちアダル月の十三日の一日のうちに、若い者も年寄りも、子どもも女も、すべてのユダヤ人を根絶やしにし、殺害し、滅ぼし、彼らの家財をかすめ奪えとあった。
- 14 各州に法令として発布される文書の写しが、この日の準備のために、すべての民族に公示された。

- 15** 急使は王の命令によって急いで出て行った。この法令はスサの城でも発布された。このとき、王とハマンは酒を酌み交わしていたが、スサの都は混乱に陥った。

第4章

- 1 モルデカイは、なされたすべてのことを知った。モルデカイは衣を引き裂き、粗布をまとい、灰をかぶり、大声で激しくわめき叫びながら都の真ん中に出て行った。
- 2 そして王の門の前のところまで来た。王の門の中には、粗布をまとったままでは入ることができなかったのである。
- 3 王の命令とその法令が届いたどの州においても、ユダヤ人の間には大きな悲しみがあり、断食と泣き声と嘆きが起こり、多くの人たちは粗布をまとして灰の上に座った。
- 4 エステルの侍女たちとその宦官たちが入って来て、彼女にこのことを告げたので、王妃は非常に痛み苦しんだ。彼女はモルデカイに衣服を送り、それを着せて、粗布を脱がせようとしたが、彼はそれを受け取らなかった。
- 5 エステルは、王の宦官の一人で、王が彼女に仕えさせるために任命していたハタクを呼び寄せ、モルデカイのところへ行って、これはどういうわけか、また何のためかと聞いて来るように命じた。
- 6 ハタクは王の門の前の、町の広場にいるモルデカイのところに出て行った。
- 7 モルデカイは自分の身に起こったことをすべて彼に告げ、ハマンがユダヤ人を滅ぼすために王の宝物庫に納めると約束した、正確な金額も告げた。
- 8 また、ユダヤ人を根絶やしにするためにスサで発布された法令の文書の写しを彼に渡した。それは、エステルに見せて事情を知らせ、そして彼女が王のところに行って、自分の民族のために王からのあわれみを乞い求めるように、彼女に命じるためであった。
- 9 ハタクは帰って来て、モルデカイの伝言をエステルに告げた。
- 10 エステルはハタクに命じて、モルデカイにこう伝えた。
- 11 「王の家臣たちも王の諸州の民も、だれでも知っているように、召されないのに奥の中庭に入って王のところに行く者は、男でも女でも死刑に処せられるという法令があります。ただし、王がその人に金の笏を差し伸ばせば、その人は生きながらえます。私はこの三十日間、まだ王のところへ行くようにと召されていません。」
- 12 彼がエステルのことばをモルデカイに告げると、
- 13 モルデカイはエステルに返事を送って言った。「あなたは、すべてのユダヤ人から離れて王宮にいるので助かるだろう、と考えてはいけない。
- 14 もし、あなたがこのようなときに沈黙を守るなら、別のところから助けと救いがユダヤ人のために起こるだろう。しかし、あなたも、あなたの父の家も滅びるだろう。あなたがこの王国に来たのは、もしかすると、このような時のためかもしれない。」
- 15 エステルはモルデカイに返事を送って言った。
- 16 「行って、スサにいるユダヤ人をみな集め、私のために断食してください。三日三晩、食べたり飲んだりしないようにしてください。私も私の侍女たちも、同じように断食します。そのようにしたうえで、法令に背くことですが、私は王のところへ参ります。私は、死ななければならないのでしたら死にます。」
- 17 モルデカイは出て行って、エステルが彼に頼んだとおりにした。

第5章

- 1 三日目になり、エステルは王妃の衣装を着て、王室の正面にある王宮の奥の中庭に立った。王は王室の入り口の正面にある王宮の玉座に座っていた。
- 2 王が、中庭に立っている王妃エステルを見たとき、彼女は王の好意を得た。王は手にしている金の笏をエステルに差し伸ばした。エステルは近寄って、その笏の先に触れた。
- 3 王は彼女に言った。「どうしたのだ。王妃エステル。何を望んでいるのか。王国の半分でも、あなたにやれるのだが。」
- 4 エステルは答えた。「もしも王様がよろしければ、今日、私が王様のために設ける宴会にハマンとご一緒にお越しく下さい。」
- 5 すると王は「ハマンを急いで来させて、エステルの言ったようにしよう」と言った。王とハマンはエステルが設けた宴会にやって来た。
- 6 その酒宴の席上、王はエステルに尋ねた。「あなたは何を願っているのか。それを授けてやろう。何を望んでいるのか。王国の半分でも、それをかなえてやろう。」
- 7 エステルは答えて言った。「私が願い、望んでいることは、
- 8 もしも私が王様のご好意を受けることができ、また王様がよろしくて、私の願いをゆるし、私の望みをかなえていただけますなら、私が設ける宴会に、もう一度ハマンとご一緒にお越しく下さい。そうすれば、明日、私は王様のおっしゃったとおりいたします。」
- 9 ハマンはその日、喜び上機嫌で去って行った。ところが、ハマンは、王の門のところにいるモルデカイが立ち上がろうともせず、身動きもしないのを見て、モルデカイに対する憤りに満たされた。
- 10 しかし、ハマンは我慢して家に帰り、人を送って、友人たちと妻ゼレシュを連れて来させた。
- 11 ハマンは自分の輝かしい富について、また子どもが大勢いることや、王が自分を重んじ、王の首長や家臣たちの上に自分を昇進させてくれたことなどを、すべて彼らに話した。
- 12 ハマンは言った。「しかも王妃エステルは、王妃が設けた宴会に、私のほかはだれも王と一緒に来させなかった。明日も私は、王と一緒に王妃に招かれている。
- 13 しかし、私が、王の門のところに座っているあのユダヤ人モルデカイを見なければならぬ間は、これら一切のことも私には何の役にも立たない。」
- 14 すると、彼の妻ゼレシュと彼の友人たちはみな彼に言った。「高さ五十キュビトの柱を立てさせて、明日の朝、王に話して、モルデカイをそれにかけるようにしなさい。それから、王と一緒に、喜んでその宴会にお出かけなさい。」ハマンはこの進言が気に入ったので、その柱を立てさせた。

第6章

- 1 その夜、王は眠れなかったので、記録の書、年代記を持って来るように命じた。そしてそれは王の前で読まれた。
- 2 その中に、入り口を守っていた王の二人の宦官ビッグタナとテレシュが、クセルクセス王を殺そうとしていることをモルデカイが報告した、と書かれているのを見つけた。
- 3 そこで王は尋ねた。「このことで、榮譽とか昇進とか、何かモルデカイに与えたか。」王に仕える侍従たちは答えた。「彼には何もしていません。」
- 4 王は言った。「庭にだれがいるのか。」ちょうどハマンが、モルデカイのために準備した柱に彼をかけることを王に上奏しようと、王宮の外庭に入ってきたところであった。
- 5 王に仕える侍従たちは王に言った。「庭のあそこにハマンがいます。」王は言った。「ここに通せ。」
- 6 ハマンが入って来ると、王は彼に言った。「王が榮譽を与えたいと思う者には、どうしたらよかろう。」ハマンは心のうちで思った。「王が榮譽を与えたいと思う者とは、私以外にだれがいるだろう。」
- 7 そこでハマンは王に言った。「王が榮譽を与えたいと思われる人のためには、
- 8 王が着ておられた王服を持って来て、また、王の乗られた馬を、その頭に王冠をつけて引いて来るようにしてください。
- 9 その王服と馬を、貴族である王の首長の一人の手に渡し、王が榮譽を与えたいと思われる人に王服を着せ、その人を馬に乗せて都の広場に導き、その前で『王が榮譽を与えたいと思われる人はこのとおりである』と、ふれまわらせてください。」
- 10 すると、王はハマンに言った。「あなたが言ったとおりに、すぐ王服と馬を取って来て、王の門のところに座っているユダヤ人モルデカイにそのようにしなさい。あなたの言ったことを一つも怠ってはならない。」
- 11 ハマンは王服と馬を取って来て、モルデカイに着せ、彼を馬に乗せて都の広場に導き、その前で「王が榮譽を与えたいと思われる人はこのとおりである」と叫んだ。
- 12 それからモルデカイは王の門に戻ったが、ハマンは嘆き悲しんで頭をおおい、急いで家に帰った。
- 13 ハマンは自分の身に起こったことの一部始終を、妻ゼレシュと彼のすべての友人たちに話した。すると、知恵のある者たちと妻ゼレシュは彼に言った。「あなたはモルデカイに敗れかけていますが、このモルデカイがユダヤ民族の一人であるなら、あなたはもう彼に勝つことはできません。必ずやあなたは敗れるでしょう。」
- 14 彼らがまだハマンと話しているうちに、王の宦官たちがやって来て、ハマンを急がせて、エステルが設けた宴会に連れて行った。

第7章

- 1 王とハマンは王妃エステル宴会にやって来た。
- 2 この酒宴の二日目にも、王はエステルに尋ねた。「あなたは何を願っているのか。王妃エステル。それを授けてやろう。何を望んでいるのか。王国の半分でも、それをかなえてやろう。」
- 3 王妃エステルは答えた。「王様。もしも私があなた様のご好意を受けることができ、また王様がよろしければ、私の願いを聞き入れて、私にいのちを与え、私の望みを聞き入れて、私の民族にもいのちを与えてください。」
- 4 私も私の民族も、売られて、根絶やしにされ、虐殺され、滅ぼされようとしています。私たちが男女の奴隷として売られるだけなら、私は黙っていたことと思いますが、そうはいきません。その迫害する者は、王のお受けになる損失を償うことはできないのですから。」
- 5 クセルクセス王は王妃エステルに言った。「そんなことをしようと心に企んでいる者は、いったいだれか。どこにいるのか。」
- 6 エステルは言った。「迫害する者、敵とは、この悪人ハマンです。」ハマンは王と王妃の前で震え上がった。
- 7 王は憤って酒宴の席を立ち、宮殿の園に出て行った。ハマンは王妃エステルにいのち乞いをしようとしてとどまった。王が彼にわざわいを下す決心をしたことが分かったからである。
- 8 王が宮殿の園から酒宴の広間に戻って来ると、エステルのいた長椅子の上にハマンがひれ伏していたので、王は言った。「私の前で、この家の中で王妃までも辱めようとするのか。」このことばが王の口から出るやいなや、ハマンの顔は青ざめた。
- 9 そのとき、王の前にいた宦官の一人ハルボナが言った。「ちょうど、王に良い知らせを告げたモルデカイのためにハマンが用意した、高さ五十キュビトの柱がハマンの家に立っています。」すると王は命じた。「彼をそれにかけてよ。」
- 10 こうしてハマンは、モルデカイのために準備しておいた柱にかけられた。それで王の憤りは収まった。

第8章

- 1 その日、クセルクセス王は王妃エステルに、ユダヤ人を迫害する者ハマンの家を与えた。モルデカイは王の前に来た。エステルが自分と彼との関係を明かしたからである。
- 2 王はハマンから取り返した自分の指輪を外して、それをモルデカイに与え、エステルはモルデカイにハマンの家の管理を任せた。
- 3 エステルは再び王に告げて、その足もとにひれ伏し、アガグ人ハマンがユダヤ人に対して企んだ、わざわざとその計略を取り除いていただきたいと、泣きながら嘆願した。
- 4 王がエステルに金の笏を差し伸ばしたので、エステルは身を起こし、王の前に立って、
- 5 言った。「もしも王様がよろしければ、また私が王様のご好意を受けることができ、このことを王様がもっともだと思いいになり、私のことがお気に召すなら、アガグ人ハメダタの子ハマンが、王のすべての州にいるユダヤ人を滅ぼしてしまえと書いた、あのたくらみの書簡を取り消すように、詔書を出してください。
- 6 どうして私は、自分の民族に降りかかるわざわざを見て我慢していられるでしょう。また、どうして、私の同族が滅びるのを見て我慢していられるでしょう。」
- 7 クセルクセス王は、王妃エステルとユダヤ人モルデカイに言った。「見よ。ハマンの家を私はエステルに与え、彼は柱にかけられた。ハマンがユダヤ人たちに手を下そうとしたからである。
- 8 あなたがたは、ユダヤ人についてあなたがたのよいと思うように王の名で書き、王の指輪でそれに印を押しなさい。王の名で書かれ、王の指輪で印が押された文書は、だれも取り消すことができない。」
- 9 そのとき、王の書記官たちが召集された。それは第三の月、すなわちシワンの月の二十三日であった。そして、すべてモルデカイが命じたとおりに、ユダヤ人と、太守、総督たち、およびインドからクシュまで百二十七州の首長たちに、詔書が書き送られた。各州にその文字で、各民族にはその言語で、ユダヤ人にはその文字と言語で書き送られた。
- 10 モルデカイはクセルクセス王の名で書き、王の指輪でそれに印を押し、その書簡を、御用馬の早馬に乗る急使に託して送った。
- 11 その中で王は、どの町にいるユダヤ人たちにも、自分のいのちを守るために集まって、自分たちを襲う民や州の軍隊を、子どもも女たちも含めて残らず根絶やしにし、虐殺し、滅ぼし、彼らの家財をかすめ奪うことを許した。
- 12 このことは、クセルクセス王のすべての州において、第十二の月、すなわちアダルの月の十三日に、一日のうちにを行うようにということであった。
- 13 各州に法令として発布される、この文書の写しが、すべての民族に公示された。それは、ユダヤ人が自分たちの敵に復讐するこの日に備えるためであった。
- 14 御用馬の早馬に乗った急使は、王の命令によってせき立てられて、急いで出て行った。この法令はスサの城で発布された。
- 15 モルデカイは青色と白色の王服を着て、大きな金の冠をかぶり、白亜麻布と紫色のマントをまとして、王の前から出て来た。すると、スサの都は喜びの声にあふれた。

16 ユダヤ人にとって、それは光と喜び、歡喜と榮譽であった。

17 王の命令と法令が届いたところは、どの州、どの町でも、ユダヤ人は喜び楽しみ、祝宴を張って、祝日とした。この地の諸民族の中で大勢の者が、自分はユダヤ人であると宣言した。それはユダヤ人への恐れが彼らに下ったからである。

第9章

- 1 第十二の月、すなわちアダル月の十三日、この日に王の命令と法令が実施された。ユダヤ人の敵がユダヤ人を征服しようと望んでいたまさにその日に、逆に、ユダヤ人のほうが自分たちを憎む者たちを征服することとなった。
- 2 ユダヤ人たちは、自分たちに害を加えようとする者たちを手につけようと、クセルクセス王のすべての州にある自分たちの町々で集まったが、だれもユダヤ人に抵抗する者はいなかった。彼らへの恐れが、すべての民族に下ったからである。
- 3 諸州の首長、太守、総督、王の役人もみなユダヤ人たちを支援した。モルデカイへの恐れが彼らに下ったからである。
- 4 実際、モルデカイは王宮で勢力があり、その名声はすべての州に広がっていた。実に、この人物モルデカイは、ますます勢力を伸ばしたのであった。
- 5 ユダヤ人たちは彼らの敵をみな剣で打ち殺し、虐殺して滅ぼし、自分たちを憎む者を思いのままに処分した。
- 6 ユダヤ人はスサの城でも五百人を殺して滅ぼし、
- 7 また、パルシャンダタ、ダルフォン、アスパタ、
- 8 ポラタ、アダルヤ、アリダタ、
- 9 パルマシュタ、アリサイ、アリダイ、ワイザタを、
- 10 すなわち、ハメダタの子でユダヤ人を迫害する者ハマンの子、十人を虐殺した。しかし、略奪品には手を出さなかった。
- 11 その日、スサの城で殺された者の数が王に報告されると、
- 12 王は王妃エステルに言った。「ユダヤ人はスサの城で、五百人とハマンの息子十人を殺して滅ぼした。王のほかの諸州では、彼らはどうしたであろう。ところで、あなたは何を願っているのか。それを授けてやろう。あなたのさらなる望みは何か。それをかなえてやろう。」
- 13 エステルは答えた。「もしも王様がよろしければ、明日も、スサにいるユダヤ人に、今日の法令どおりにすることをお許してください。そして、ハマンの息子十人を柱にかけてください。」
- 14 そこで王は、そのように実施するように命じた。法令がスサで布告され、ハマンの息子十人は柱にかけられた。
- 15 スサにいるユダヤ人はアダル月の十四日にも集まって、スサで三百人を殺した。しかし、略奪品には手を出さなかった。
- 16 王の諸州にいる残りのユダヤ人たちも団結して、自分たちのいのちを守り、敵からの安息を得た。すなわち、自分たちを憎む者七万五千人を殺した。しかし、略奪品には手を出さなかった。
- 17 これはアダル月の十三日のことであり、その十四日に彼らは休んで、その日を祝宴と喜びの日とした。

- 18 しかし、スサにいるユダヤ人たちは、その月の十三日にも十四日にも集まり、十五日には休んで、その日を祝宴と喜びの日とした。
- 19 それで、城壁のない村に住む田舎のユダヤ人は、アダル月の十四日を喜びと祝宴の祝日とし、互いにごちそうを贈り交わす日としている。
- 20 モルデカイはこれらのことを書いて、クセルクセス王のすべての州の、近い所や遠い所にいる、すべてのユダヤ人に書簡を送った。
- 21 それは、ユダヤ人が毎年アダル月の十四日と十五日を、
- 22 自分たちの敵からの安息を得た日、悲しみが喜びに、喪が祝いの日に変わった月として、祝宴と喜びの日、互いにごちそうを贈り交わし、貧しい人々に贈り物をする日と定めるためであった。
- 23 ユダヤ人は、すでに守り始めていたことであるが、モルデカイが彼らに書き送ったことを受け入れた。
- 24 実に、アガグ人ハメダタの子で、ユダヤ人すべてを迫害する者ハマンは、ユダヤ人を滅ぼそうと企んで、プル、すなわちくじによって決め、彼らをかき乱して滅ぼそうとしたが、
- 25 そのことが王の耳に入ったときに、王は書簡で命じ、ハマンがユダヤ人に対して企んだ悪い計略をハマンの頭上に返し、彼とその子らを柱にかけたのであった。
- 26 こういうわけで、ユダヤ人はプルの名にちなんで、これらの日をプリムと呼んだ。こうして、この書簡のすべてのことばにより、また、このことについて彼らが見たこと、また彼らに起こったことにより、
- 27 ユダヤ人は、自分たちとその子孫、および自分たちにつく者たちが、その文書のとおりに毎年定まった時期にこの両日を守り行い、これを廃止してはならないと定めた。
- 28 また、この両日は代々にわたり、すべての家族、諸州、町々において記念され、祝われなければならないとし、これらのプリムの日がユダヤ人の間で廃止されることがなく、この記憶が自分たちの子孫の中で途絶えてしまわないようにした。
- 29 アビハイルの娘である王妃エステルと、ユダヤ人モルデカイは、プリムについてのこの第二の書簡を全権をもって書き記し、確かなものとした。
- 30 この書簡は、平和と誠実のことばをもって、クセルクセスの王国の百二十七州にいるすべてのユダヤ人に送られ、
- 31 ユダヤ人モルデカイと王妃エステルがユダヤ人に命じたとおり、また、ユダヤ人が自分たちとその子孫のために、断食と哀悼に関して定めたとおり、このプリムの両日を定まった時期に守るようにした。
- 32 エステルの命令はこのプリムに関する事柄を義務づけ、書物に記された。

第10章

- 1 クセルクセス王は本土と海の島々に苦役を課した。
- 2 彼の権威と勇気によるすべての功績、王に重んじられたモルデカイの偉大さについての詳細、それは『メディアとペルシアの王の歴代誌』に確かに記されている。
- 3 実に、ユダヤ人モルデカイはクセルクセス王の次の位にあって、ユダヤ人にとっては大いなる者であり、多くの同胞たちに敬愛された。彼は自分の民の幸福を求め、自分の全民族に平和を語る者であった。

ヨブ記

Job

第1章

- 1 ウツの地に、その名をヨブという人がいた。この人は誠実で直ぐな心を持ち、神を恐れて悪から遠ざかっていた。
- 2 彼に七人の息子と三人の娘が生まれた。
- 3 彼は羊七千匹、らくだ三千頭、牛五百くびき、雌ろば五百頭、それに非常に多くのしもべを所有していた。この人は東の人々の中で一番の有力者であった。
- 4 彼の息子たちは互いに行き来し、それぞれ自分の順番の日に、家で宴会を開き、人を遣わして彼らの三人の姉妹も招き、よく一緒に食べたり飲んだりしていた。
- 5 宴会の日が一巡すると、ヨブは彼らを呼び寄せて聖別した。朝早く起きて、彼ら一人ひとりのために、それぞれの全焼のささげ物を献げたのである。ヨブは、「もしかすると、息子たちが罪に陥って、心の中で神を呪ったかもしれない」と思ったからである。ヨブはいつもこのようにしていた。
- 6 ある日、神の子らがやって来て、主の前に立った。サタンもやって来て、彼らの中にいた。
- 7 主はサタンに言われた。「おまえはどこから来たのか。」サタンは主に答えた。「地を行き巡り、そこを歩き回って来ました。」
- 8 主はサタンに言われた。「おまえは、わたしのしもべヨブに心を留めたか。彼のように、誠実で直ぐな心を持ち、神を恐れて悪から遠ざかっている者は、地上には一人もいない。」
- 9 サタンは主に答えた。「ヨブは理由もなく神を恐れているのでしょうか。」
- 10 あなたが、彼の周り、彼の家の周り、そしてすべての財産の周りに、垣を巡らされたのではありませんか。あなたが彼の手のわざを祝福されたので、彼の家畜は地に増え広がっているのです。
- 11 しかし、手を伸ばして、彼のすべての財産を打ってみてください。彼はきっと、面と向かってあなたを呪うに違いありません。」
- 12 主はサタンに言われた。「では、彼の財産をすべておまえの手に任せる。ただし、彼自身には手を伸ばしてはならない。」そこで、サタンは主の前から出て行った。
- 13 ある日、彼の息子、娘たちが、一番上の兄の家で食べたりぶどう酒を飲んだりしていたとき、
- 14 一人の使者がヨブのところにやって来て言った。「牛が耕し、そのそばでろばが草を食べていると、
- 15 シェバ人が襲いかかってこれを奪い取り、若い者たちを剣の刃で打ち殺しました。私一人だけが逃れて、あなたに知らせに参りました。」
- 16 この者がまだ話している間に、もう一人が来て言った。「神の火が天から下って、羊と若い者たちを焼き滅ぼしました。私一人だけが逃れて、あなたに知らせに参りました。」
- 17 この者がまだ話している間に、もう一人が来て言った。「カルデア人が三組になって、らくだを襲い、これを奪い取り、若い者たちを剣の刃で打ち殺しました。私一人だけが逃れ

て、あなたに知らせに参りました。」

- 18 この者がまだ話している間に、もう一人が来て言った。「あなたのご子息やお嬢さんたちは、一番上のお兄さんの家で食べたりぶどう酒を飲んだりしておられました。
- 19 そこへ荒野の方から大風が吹いて来て、家の四隅を打ち、それがお若い方々の上に倒れたので、皆様亡くなされました。私一人だけが逃れて、あなたに知らせに参りました。」
- 20 このとき、ヨブは立ち上がって上着を引き裂き、頭を剃り、地にひれ伏して礼拝し、
- 21 そして言った。「私は裸で母の胎から出て来た。また裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」
- 22 ヨブはこれらすべてのことにおいても、罪に陥ることなく、神に対して愚痴をこぼすようなことはしなかった。

第2章

- 1 ある日、神の子らがやって来て、主の前に立った。サタンも彼らの中にやって来て、主の前に立った。
- 2 主はサタンに言われた。「おまえはどこから来たのか。」サタンは主に答えた。「地を歩き巡り、そこを歩き回って来ました。」
- 3 主はサタンに言われた。「おまえはわたしのしもべヨブに心を留めたか。彼のように、誠実で直ぐな心を持ち、神を恐れて悪から遠ざかっている者は、地上には一人もいない。彼はなお、自分の誠実さを堅く保っている。おまえは、わたしをそそのかして彼に敵対させ、理由もなく彼を呑み尽くそうとしたが。」
- 4 サタンは主に答えた。「皮の代わりは、皮をもってします。自分のいのちの代わりには、人は財産すべてを与えるものです。」
- 5 しかし、手を伸ばして、彼の骨と肉を打ってみてください。彼はきっと、面と向かってあなたを呪うに違いありません。」
- 6 主はサタンに言われた。「では、彼をおまえの手に任せる。ただ、彼のいのちには触れるな。」
- 7 サタンは主の前から出て行き、ヨブを足の裏から頭の頂まで、悪性の腫物で打った。
- 8 ヨブは土器のかげらを取り、それでからだを引っかいた。彼は灰の中に座っていた。
- 9 すると、妻が彼に言った。「あなたは、これでもなお、自分の誠実さを堅く保とうとしているのですか。神を呪って死になさい。」
- 10 しかし、彼は妻に言った。「あなたは、どこかの愚かな女が言うようなことを言っている。私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわざいも受けるべきではないか。」ヨブはこのすべてのことにおいても、唇によって罪に陥ることはなかった。
- 11 さて、ヨブの三人の友が、ヨブに降りかかったこれらすべてのわざわいのことを聞き、それぞれ自分のところから訪ねて来た。すなわち、テマン人エリファズ、シュア人ビルダデ、ナアマ人ツォファルである。彼らはヨブに同情し、慰めようと、互いに打ち合わせて来た。
- 12 彼らは遠くから目を上げて彼を見たが、それがヨブであることが見分けられなかった。彼らは声をあげて泣き、それぞれ自分の上着を引き裂き、ちりを天に向かって投げ、自分の頭の上にまき散らした。
- 13 彼らは彼とともに七日七夜、地に座っていたが、だれも一言も彼に話しかけなかった。彼の痛みが非常に大きいのを見たからである。

第3章

- 1 そのようなことがあった後、ヨブは口を開いて自分の生まれた日を呪った。
- 2 ヨブは言った。
- 3 私が生まれた日は滅び失せよ。「男の子が胎に宿った」と告げられたその夜も。
- 4 その日は闇になれ。神も上からその日を顧みるな。光もその上を照らすな。
- 5 闇と暗黒がその日を取り戻し、雲がその上にとどまれ。昼を薄暗くするものも、その日を脅かせ。
- 6 その夜は、暗闇が奪い取るように。その日は、年の日々のうちで喜ばないように。月の日数のうちにも入れないように。
- 7 見よ、その夜は不妊となるように。その夜には喜びの声も起こらないように。
- 8 日を呪う者たちが、レビヤタンを巧みに呼び起こす者たちが、その日に呪いをかけるように。
- 9 その夜明けの星は暗くなれ。光を待っても、それはなく、暁のまばたきを見ることがないように。
- 10 その日が、私をはらんだ胎の戸を閉ざさず、私の目から労苦を隠してくれなかったからだ。
- 11 なぜ私は、胎内で死ななかったのか。胎を出たとき、息絶えなかったのか。
- 12 なにゆえ、両膝が私を受けとめたのか。乳房があって、私がそれを吸ったのか。
- 13 今ごろ私は安らかに横になり、眠って安らいでいただろうに。
- 14 自分たちのためにあの廃墟を築いた王たち、地の指導者たちと一緒に。
- 15 黄金を持ち、自分の家を銀で満たした首長たちと一緒に。
- 16 なぜ私は、ひそかに墮ろされた死産の子、光を見なかった嬰兒のようにならなかったのか。
- 17 かしこでは、悪しき者は荒れ狂うのをやめ、かしこでは、力の萎えた者は憩い、
- 18 捕らわれ人たちもみな、ともに安らかで、激しく追い立てる者の声も聞こえない。
- 19 かしこでは、下の者も上の者も同じで、奴隷も主人から解き放たれている。
- 20 なぜ、苦悩する者に光が、心の痛んだ者にいのちが与えられるのか。
- 21 彼らは死を待つが、死はやって来ない。隠された宝にまさって死を探し求めても。
- 22 彼らは墓を見出したときに、歓声をあげて喜び楽しむ。
- 23 自分の道が隠されている人、神が罫いに閉じ込めた人に なぜ光が与えられるのか。
- 24 まことに、食物の代わりに嘆きが私に来て、私のうめきは水のようにあふれ出る。
- 25 私がおびえていたもの、それが私を襲い、私が恐れていたもの、それが降りかかったからだ。
- 26 安らぎもなく、休みもなく、憩いもなく、心は乱れている。

第4章

- 1 すると、テマン人エリファズが話し始めた。
- 2 もし、人があなたにことばを投げかけたら、あなたはそれに耐えられるか。しかし、だれが語らないでいられるだろう。
- 3 見よ。あなたは多くの人を訓戒し、弱った手を力づけてきた。
- 4 あなたのことばは、つまずいた者を起こし、くずおれる膝をしっかりとさせてきた。
- 5 しかし今、これがあなたに及ぶと、あなたはそれに耐えられない。これがあなたに至ると、あなたはおじ惑う。
- 6 あなたの敬虔さは、あなたの確信ではないか。あなたの誠実さは、あなたの望みではないか。
- 7 さあ、思い出せ。だれか、潔白なのに滅びた者があるか。どこに、真っ直ぐなのに絶たれた者があるか。
- 8 私の見てきたところでは、不法を耕して 害悪を蒔く者が、自らそれらを刈り取るのだ。
- 9 彼らは神の息吹によって滅び、御怒りの息によって消え失せる。
- 10 獅子のうなり声、たける獅子の音がする。しかし、若獅子の牙は砕かれる。
- 11 雄獅子は獲物がなくて滅び、雌獅子の子らは散っていく。
- 12 あることばが私に忍び寄り、そのささやきを私の耳がとらえた。
- 13 夜の幻で思いが乱れ、深い眠りが人々を襲うとき、
- 14 おののきと震えが私に降りかかり、私の骨々の多くがわなないた。
- 15 ある霊が顔の上を通り過ぎ、私は身の毛がよだった。
- 16 それは立ち止まったが、私はその顔だちを見分けられなかった。しかし、その姿は私の目の前にあった。静寂。そして私は次のような声を聞いた。
- 17 「人は神の前に正しくあり得ようか。その造り主の前にきよくあり得ようか。
- 18 見よ。神はご自分のしもべさえ信頼せず、御使いたちのうちにさえ、誤りを認められる。
- 19 まして、ちりに土台を据えた泥の家に住む者は なおさらのこと。彼らはシミよりもたやすく押しつぶされ、
- 20 朝から夕方まで打ち砕かれ、永久に滅ぼされて、だれも顧みない。
- 21 彼らの天幕の綱は確かに取り去られる。彼らは知恵がないために死ぬ。」

第5章

- 1 さあ、呼んでみよ。だれかあなたに答える者はいるか。聖なる者のうちのだれのところにあなたは向かうのか。
- 2 苛立ちは愚か者を殺し、ねたみは浅はかな者を死なせる。
- 3 私は愚か者が根を張るのを見て、ただちにその住まいを呪った。
- 4 その子たちは安全からはほど遠く、門で押しつぶされても、救い出す者もない。
- 5 愚か者が刈り入れた物は、飢えた人が食べ、茨の中からさえそれを奪う。渴いた人たちが彼らの富をあえぎ求める。
- 6 まことに、不幸はちりから出て来ることはなく、労苦は土から生え出ることはない。
- 7 まことに、人は労苦のために生まれる。火花が上に向かって飛ぶように。
- 8 私なら、神に尋ね、神に向かって自分のことを訴えるだろう。
- 9 神は、測り知れない大いなることをなし、数えきれない奇しいみわざを行われる。
- 10 地の上に雨を降らせ、野の面に水を送られる。
- 11 神は低い者を高く上げ、嘆き悲しむ者は安全なところに引き上げられる。
- 12 神は悪賢い者たちの企みを打ち砕かれ、彼らの手は良い成果を得られない。
- 13 神は知恵のある者を、彼ら自身の悪巧みによって捕らえ、彼らのねじれたはかりごとは突然終わる。
- 14 彼らは昼間に闇と出会い、真昼でも、夜のように手探りする。
- 15 神は貧しい者を剣から、剣の刃から、強い者の手から救われる。
- 16 こうして弱い者は望みを抱き、不正は口をつくむ。
- 17 ああ、幸いなことよ、神が叱責するその人は。だから、全能者の訓戒を拒んではならない。
- 18 神は傷つけるが、その傷を包み、打ち砕くが、御手で癒やしてくださるからだ。
- 19 六つの苦しみから、神はあなたを救い出し、七つの中でも、わざわざはあなたに触れない。
- 20 飢饉のときには、あなたを死から、戦いのときには、剣の力から贖い出す。
- 21 舌のむちで打たれるときも、あなたは隠され、破壊がやって来ても、恐れることはない。
- 22 あなたは破壊と飢饉をあざ笑い、地の獣をさえ恐れることはない。
- 23 野の石とあなたは契りを結び、野の獣があなたと和らぐからだ。
- 24 あなたは自分の天幕が安全であるのを知り、自分の牧場を見回っても、何も失っていない。
- 25 あなたは自分の子孫、自分の末裔が、地の青草のように増えるのを知る。
- 26 あなたは長寿を全うして墓に入る。あたかも麦束が、時が来ると収められるように。
- 27 さあ、私たちが調べ上げたことはこのとおりだ。これを聞き、自分自身でこれを知れ。

第6章

- 1 ヨブは答えた。
- 2 ああ、私の苦悶の重さが量られ、私の破滅が、ともに秤にかけられたらよいのに。
- 3 きっと海の砂よりも重いだろう。だから、私のことばは激しかったのだ。
- 4 まことに、全能者の矢が私に刺さり、その毒を私の霊が飲み、神の脅威が私に対して準備されている。
- 5 野ろばが若草の上で鳴くだろうか。雄牛が飼葉の上でうなるだろうか。
- 6 味のない物は塩なしに食べられるだろうか。卵の白身に味があるだろうか。
- 7 私の喉はそれを受けつけない。それらは私には腐った食物のようだ。
- 8 ああ、私の願いがかなえられ、私が望むものを神が下さるとよいのに。
- 9 神が望むままに私を砕き、御手を伸ばして私を絶たれるのであれば、
- 10 それはなおも私にとって慰めであり、容赦ない激痛の中でも、私は小躍りして喜ぶ。私は聖なる方のことばを、拒んだことはない。
- 11 私にどんな力があるのだろうか。私が待たなければならないとは。どんな終わりがあるのだろうか。耐え忍ばなければならないとは。
- 12 私の力は石の力なのか。私の肉は青銅なのか。
- 13 私のうちには何の助けもないではないか。すぐれた知性は、私から取り払われている。
- 14 落胆している者には、友からの友情を。さもないと、全能者への恐れを捨てるだろう。
- 15 兄弟たちは水無し川のように私を裏切った。流れが去る川床のように。
- 16 それは氷で黒ずみ、雪で隠される。
- 17 炎天のころには、流れがなくなり、暑くなるとその場所から消える。
- 18 隊商はその道筋からそれ、荒れ地に上って滅びる。
- 19 テマの隊商はこれを目印とし、シェバの旅人はこれに望みをかける。
- 20 彼らはこれに頼ったために恥を見、そこまでやって来て、辱めを受ける。
- 21 今や、あなたがたはそのようになった。あなたがたは恐ろしいことを見ておびえている。
- 22 私が言ったことがあるか。「私に贈り物をせよ」と。「あなたがたの財産の中から私のために賄賂を贈れ」と。
- 23 あるいは「敵の手から私を救い出せ。横暴な者たちの手から私を贖い出せ」と。
- 24 私に教えよ。そうすれば、私は黙ろう。私がどのように迷い出たのか、私に悟らせよ。
- 25 真っ直ぐなことばは、なんと痛いことか。あなたがたは自分で何を責め立てているのか。
- 26 ことばで私を責めるつもりか。絶望している者のことばを、風と見なすつもりか。
- 27 あなたがたは、みなしごをくじで分け合い、自分の友さえ売りに出す。
- 28 今、ぜひ、私の方に顔を向けてくれ。あなたがたの顔に向かって 私は決してまやかしを言わない。
- 29 思い直してくれ。不正があってはならない。思い直してくれ。私の正しさが問われているのだ。

30 私の舌に不正があるだろうか。私の口は破滅を見極められないだろうか。

第7章

- 1 地上の人間には苦役があるではないか。その日々は日雇い人の日々ではないか。
- 2 日陰をあえぎ求める奴隷のように、賃金を待ち焦がれる日雇い人のように、
- 3 そのように、私には徒労の月日が割り当てられ、労苦の夜が定められている。
- 4 私は横になるときに言う。「いつ起き上がるだろうか」と。夜は長く、私は夜明けまで寝返りを打ち続ける。
- 5 私の肉は、うじ虫と土くれをまとい、皮膚は固まっては、また崩れる。
- 6 私の日々は機の杼よりも速く、望みのないままに終わる。
- 7 心に留めてください。私のいのちが息にすぎないことを。私の目は、再び幸いを見ることはありません。
- 8 私を見る人の目は、もう私を認めることはありません。あなたが私に目を留められても、私はもういません。
- 9 雲は消え去ります。そのように、よみに下る者は上っては来ません。
- 10 その人はもう自分の家には帰れず、彼の家も、もう彼のことが分かりません。
- 11 ですから、私も自分の口を制することをせず、霊の苦しみの中で語り、たましいの苦悩の中で嘆きます。
- 12 私は海でしょうか、それとも竜でしょうか。あなたが私の上に見張りを置かれるとは。
- 13 寝台が私を慰め、寝床が嘆きを負ってくれる と私が思っても、
- 14 あなたは、いくつもの夢で私をおののかせ、幻によって私をおびえさせます。
- 15 私のたましいは窒息を、私のからだではなく死を選びます。
- 16 もういやです。いつまでも生きたくありません。かまわないでください。私の日々は空しいものです。
- 17 人とは何ものなのでしょう。あなたがこれを尊び、これに心を留められるとは。
- 18 朝ごとにこれを訪れ、その都度これを試されるとは。
- 19 いつまで 私から目をそらしてくださらないのですか。唾を飲み込む間も、私を放っておいてくださらないのですか。
- 20 私が罪ある者だとしても、人を見張るあなたに、私は何ができるでしょう。どうしてあなたは、私を標的とされるのですか。私は、自らを重荷としなければならないのですか。
- 21 どうして、あなたは私の背きを赦さず、私の咎を取り去ってくださらないのですか。私が今も、ちりに横たわらなければならないとは。あなたが私を捜しても、私はもういません。

第8章

- 1 次に、シュアハ人ビルダデが答えた。
- 2 いつまで、あなたはこのようなことを語るのか。あなたが口にあることばは激しい風だ。
- 3 神がさばきを曲げられるだろうか。全能者が義を曲げられるだろうか。
- 4 もし、あなたの子らが神の前に罪ある者となり、神が彼らをその背きの手に渡されても、
- 5 もし、あなたが熱心に神に求め、全能者にあわれみを乞うなら、
- 6 もし、あなたが純粹で真っ直ぐなら、今すぐ神はあなたのために奮い立ち、あなたの義の住まいを回復されるだろう。
- 7 あなたの始まりは小さくても、あなたの終わりは、きわめて大きなものとなる。
- 8 さあ、先人に尋ねよ。先祖たちの探究したことを確かめよ。
- 9 私たちは昨日からの者で、何も知らない。私たちの地上の日々は影にすぎないのだ。
- 10 彼らはあなたに教え、あなたに語りかけ、その心からことばを発しないだろうか。
- 11 パビルスは沼地がなくても育つだろうか。葦は水がなくても伸びるだろうか。
- 12 まだ若芽のときに、引き抜かれもしないのに、ほかの草に先立って枯れる。
- 13 すべて神を忘れる者の道はこのようだ。神を敬わない者の望みは消え失せる。
- 14 その人の確信は、か細いクモの糸、その信頼はクモの巣だ。
- 15 自分の家に寄りかかると、家はそれに耐えきれない。これにすがりついても、それは持ちこたえない。
- 16 神を敬わない者は日に当たって青々と茂り、その若枝は庭に生え出る。
- 17 その根は石塚に絡まり、石造りの家に生え広がる。
- 18 しかし、彼がその場所から取り除かれるなら、その場所は、彼を見たことがない、とうそぶく。
- 19 見よ、これこそが彼の道の喜びである。その土からは、ほかのものが生え出る。
- 20 見よ。神は誠実な人を退けることはなく、悪を行う者の手を取ることはない。
- 21 神は、ついには笑いをあなたの口に、喜びの叫びをあなたの唇に満たされる。
- 22 あなたを憎む者は恥を身にまとい、悪しき者の天幕はなくなる。

第9章

- 1 ヨブは答えた。
- 2 そのとおりであることを、私は確かに知っている。しかし、人はどのようにして、神の前に正しくあり得るのか。
- 3 たとえ、神と言い争いたいと思っても、千に一つも答えられないだろう。
- 4 神は心に知恵のある方、力の強い方。この神に対して頑なになって、だれが、そのままですむだろうか。
- 5 神は山々を移されるが、山々は気づかない。神は怒って、それらをくつがえされる。
- 6 神が地をその基で震わせられると、その柱は揺れ動く。
- 7 太陽にお命じになると、それは昇らず、星もまた封じ込められる。
- 8 神はただひとりで天を延べ広げ、海の大波を踏みつけられる。
- 9 神は牡牛座、オリオン座、すばる、それに南の天の間を造られた。
- 10 大いなることをなさって測り知れず、その奇しいみわざは数えきれない。
- 11 神がそばを通り過ぎても、私には見えない。進んで行っても、気づかない。
- 12 ああ、神が奪い取ろうとされるとき、だれがそれを引き止められるだろうか。だれが神に向かって、「何をするのか」と言えるだろうか。
- 13 神は御怒りを翻されない。ラハブの仲間も、神のみもとに身をかがめる。
- 14 まして、この私が神に答えられるだろうか。神と交わすべきことばを私が選べるだろうか。
- 15 たとえ私が正しくても、答えることはできない。私をさばく方に対して、あわれみを乞うだけだ。
- 16 私が呼び、私に答えてくださったとしても、神が私の声に耳を傾けられるとは、信じられない。
- 17 神は嵐をもって私を傷つけ、理由もなく傷を増し加え、
- 18 私に息もつかせず、私を苦しみで満たされる。
- 19 もし、力のことなら、見よ、神は強い。もし、さばきのことなら、だれが私を呼び出すのか。
- 20 たとえ私が正しくても、私自身の口が私を不義に定める。たとえ私が誠実でも、神は私を曲がった者とされる。
- 21 私は誠実だ。しかし私には自分が分からない。私は自分のいのちを憎む。
- 22 みな同じことだ。だから私は言う。神は誠実な者も悪い者も、ともに絶ち滅ぼされると。
- 23 突然、にわか水が出て人を死なせると、神は潔白な者の受ける試練を嘲られる。
- 24 地は悪しき者の手に委ねられ、神は地のさばき人らの顔をおおわれる。神がなさるのでなければ、だれがそうするのか。
- 25 私の日々は飛脚よりも速い。それは飛び去って、幸せを見ることはない。

- 26 それは葦の舟のように通り過ぎる。獲物をめがけて舞い降りる鷺のように。
- 27 たとえ「不平を忘れ、悲しい顔を捨てて 明るくふるまいたい」と私が言っても、
- 28 自分のあらゆる苦痛に 私はおびえています。私はよく知っています。あなたが私を潔白な者となさらないことを。
- 29 私はきっと、悪しき者とされるでしょう。なぜ私は、空しく労するのでしょうか。
- 30 たとえ私が雪の水で身を洗っても、灰汁で手を清めても、
- 31 あなたは私を墓の穴に沈め、私が着る服は私を忌み嫌います。
- 32 神は、私のように人間ではありません。その方に、私が応じることができるでしょうか。「さあ、さばきの座に一緒に行きましょう」と。
- 33 私たち二人の上に手を置く仲裁者が、私たちの間にはいません。
- 34 神がその杖を私から取り去り、その恐ろしさが私をおびえさせませんように。
- 35 そうなれば、私は恐れず神に語りかけます。しかし今、私はそうではありません。

第10章

- 1 私のたましいはいのちを忌み嫌う。私は不平をぶちまけ、たましいの苦しみのうちに私は語ろう。
- 2 私は神にこう言おう。「私を不義に定めないでください。何のために私と争われるのかを教えてください。
- 3 あなたが人を虐げ、御手の労苦の実を蔑み、悪しき者たちのはかりごとに光を添えることは、あなたにとって良いことでしょうか。
- 4 あなたには肉の目があるのですか。あなたは人間が見るように見られるのですか。
- 5 あなたの日々は人間の日々のようなのですか。あなたの年は人の年のようなのですか。
- 6 それで、私の咎を探し出し、私の罪を探り出されるのですか。
- 7 私に悪しきことがないこと、あなたの手から救い出せる者がいないことを、あなたはご存じなのに。
- 8 あなたの手が私をかたどり、私を造られました。それなのに、私を滅ぼし尽くそうとされます。
- 9 思い出してください。あなたは私を粘土のようにして造られました。私を土のちりに戻そうとなさるのですか。
- 10 あなたは私を乳のように注ぎ出して、チーズのように固め、
- 11 皮と肉を私に着せて、骨と筋で編まれたではありませんか。
- 12 恵みをもって私にいのちを与え、あなたの顧みが私の霊を守りました。
- 13 しかし、あなたはこれらのことを心に秘めておられました。このことがあなたのうちにあるのを私は知っています。
- 14 もし、私が罪ある者となるなら、あなたは私を見張られます。こうして、私の咎を免じてはくさいません。
- 15 もし、私が悪しき者とされるのなら、ああ、なんと悲しいことでしょう。私は正しい者とされても、頭を上げることはできません。自分の恥に飽き飽きし、自分の苦しみを見ていますから。
- 16 頭を上げると、あなたは獅子のように私を狙い、再び私に驚くべき力をふるわれるでしょう。
- 17 あなたは私に対して証人たちを新たに立てて、私に向かって苛立ちを増し加え、いよいよ私を苦しめられるでしょう。
- 18 なぜ、あなたは私を母の胎から出されたのですか。私が息絶えていたなら、だれの目にも留まらなかったでしょう。
- 19 私は、存在しなかったかのように、母の胎から墓に運ばれていたらよかったのに。
- 20 私の生きる日はわずかなのですか。それならやめてください。私にかまわないでください。私はわずかでも明るくふるまいたいのです。
- 21 私が闇と死の陰の地に行って、再び帰って来なくなる前に。

22 そこは、暗闇のように真っ暗な地。死の陰があり、秩序がなく、光も暗闇のようです。」

第11章

- 1 さらに、ナアマ人ツォファルが答えた。
- 2 ことば数が多ければ、言い返されないだろうか。人は唇で義とされるのだろうか。
- 3 あなたの無駄話は、人を黙らせるだろうか。あなたが嘲るとき、あなたに恥を見させる者はいないのだろうか。
- 4 あなたは言う。「私の主張は純粹だ。私はあなたの目に清い」と。
- 5 しかし、神が語りかけ、あなたに対して唇を開いてくださっていたなら、
- 6 神は知恵の奥義をあなたに告げ、知性を倍にしてくださったであろう。知れ。神があなたのために、あなたの咎を忘れてくださることを。
- 7 あなたは神の深さを見極められるだろうか。全能者の極みを見出せるだろうか。
- 8 それは天よりも高い。あなたに何ができるだろう。それはよみよりも深い。あなたが何を知り得るだろう。
- 9 それを測ると、地よりも長く、海よりも広い。
- 10 もし、神が通り過ぎたり、閉じ込めたり、あるいは法廷を召集したりするなら、だれが神を引き止められるだろう。
- 11 確かに神は、不信実な者を知っておられる。不法を見て、それに気づかれないだろうか。
- 12 無知な人間も賢くなるだろう。野ろばの子が人として生まれるのなら。
- 13 もし、あなたが心を定め、神に向かって手を伸べ広げるなら、
- 14 もし、手に不法があればそれを遠ざけ、あなたの天幕に不正を住まわせないなら、
- 15 そのとき、あなたは 欠けのない者として顔を上げることができ、堅く立って恐れることはない。
- 16 こうしてあなた自身は労苦を忘れ、これを流れ去った水のように思い出すだろう。
- 17 あなたの一生は真昼よりも輝き、闇も朝のようになる。
- 18 望みがあるので、あなたは安らぎ、守られて安らかに休む。
- 19 横になっても、あなたを脅かす者はいない。多くの者があなたの好意を求める。
- 20 しかし、悪者どもの目は衰え果て、彼らは逃れ場を失う。彼らの望みは、最後の一息にすぎない。

第12章

- 1 ヨブは答えた。
- 2 まさに、あなたがたは地の民。あなたがたとともに知恵も死ぬ。
- 3 私にも、同じように良識がある。私はあなたがたに劣っていない。これくらいのことを知らない者がいるだろうか。
- 4 私は、自分の友の笑いものとなっている。神を呼び求め、神が答えてくださった者なのに。正しく誠実な者が笑いものだ。
- 5 安らかだと思っている者はわざわざいを侮る。わざわざいは、足がよろめく者に用意されている。
- 6 荒らす者の天幕には安らぎがあり、神を怒らせる者は安らかだ。神がご自分の手でそうさせる者は。
- 7 しかし 獣に尋ねてみよ。あなたに教えてくれるだろう。空の鳥にも。あなたに告げてくれるだろう。
- 8 あるいは地に話しかけよ。教えてくれるだろう。海の魚も語るだろう。
- 9 これらすべてのうちで、主の御手がこれをなしたことを知らない者があるだろうか。
- 10 すべての生き物のいのちと、すべての肉なる人の息は、その御手のうちにある。
- 11 口が食物の味を知るように、耳はことばを聞き分けられないだろうか。
- 12 年寄りに知恵があり、年のたけた者に英知があるのか。
- 13 知恵と力は神とともにあり、思慮と英知も神のものだ。
- 14 見よ。神が打ち壊すと、二度と建て直せない。人を閉じ込めると、開けられない。
- 15 見よ。神が引き止めると水は涸れ、水を送ると地はくつがえる。
- 16 力と英知は神とともにあり、迷い出る者も、迷わす者も神のものだ。
- 17 神は助言者たちを裸足にして連れ去り、さばく者たちを愚弄し、
- 18 王たちのかせを解き放ち、彼らの腰に帯を巻き付け、
- 19 祭司たちを裸足にして連れ去り、勢いある者に道を誤らせる。
- 20 神は、信頼されている者の唇を取り去り、長老たちの良識を取り上げ、
- 21 君主たちを侮り、力ある者たちの腰帯を解き、
- 22 闇から深みをあらわにし、暗黒を光に引き出す。
- 23 神は国々を栄えさせ、また滅ぼす。国々を広げ、また取り去る。
- 24 地の民のかしらたちから良識を取り去り、彼らを道のない荒れ地の中でさまよわせ、
- 25 彼らは光のない闇の中を、手探りで進む。神は彼らを酔いどれのようによろけさせる。

第13章

- 1 見よ。私の目はこれらすべてのことを見た。私の耳も聞いて、それを理解している。
- 2 あなたがたが知っていることは 私もよく知っている。私はあなたがたより劣ってはいない。
- 3 けれども、この私は全能なる方に語りかけ、神と論じ合うことを願う。
- 4 しかし、あなたがたは偽りを塗る者、みな無用の医者だ。
- 5 ああ、あなたがたが沈黙を守っていたら、それがあなたがたの知恵となっていただろうに。
- 6 さあ、私の論じるところを聞き、私の唇の訴えに耳を傾けよ。
- 7 あなたがたは、神のためにと言って不正を語り、神のためにと言って欺くことを語るのか。
- 8 あなたがたは、神の顔を立てるつもりか。神のためにと、言い争うつもりか。
- 9 神があなたがたを調べても、かまわないのか。人を欺くように神を欺こうとするのか。
- 10 神は必ずあなたがたを責める。ひそかに自分の顔を立てようとするなら。
- 11 神の威厳があなたがたをおびえさせ、神の恐れがあなたがたに下るのではないか。
- 12 あなたがたの申し立ては灰のことば。あなたがたの弁明は粘土の盾だ。
- 13 黙れ。私に関わるな。この私が話す。私に何が降りかかってもかまわない。
- 14 何のために私は、自分の肉を歯にのせ、自分のたましいを手のひらに置くのか。
- 15 見よ。神が私を殺しても、私は神を待ち望み、なおも私の道を神の御前に主張しよう。
- 16 神もまた、私の救いとなってくださる。神を敬わない者は、御前に出ることはできない。
- 17 あなたがたは、私のことばをよく聞け。私の述べることを、自分の耳で。
- 18 今、私は自分の言い分を並べる。自分が義とされることを私は知っている。
- 19 だれか私と論争する者がいるのか。もしいるなら、今にも私は黙って息絶えよう。
- 20 ただ二つのことを、私になさらないでください。そうすれば、私は御顔から身を隠しません。
- 21 あなたの手を私の上から遠ざけてください。あなたの恐ろしさで、おびえさせないでください。
- 22 呼んでください。私が答えます。あるいは私に語らせ、あなたが返答してください。
- 23 私には、咎と罪がどれほどあるのでしょうか。私の背きと罪を私に知らせてください。
- 24 なぜ、あなたは御顔を隠し、私をあなたの敵と見なされるのですか。
- 25 あなたは吹き散らされた木の葉を脅し、乾いた藁を追いかけられるのですか。
- 26 実に、あなたは私に対し厳しい宣告を書きたて、私の若いときの咎を負い続けさせます。
- 27 あなたは私の足にかせをはめ、私が歩む道をことごとく見張り、私の足の裏にしるしを刻まれます。
- 28 そのような者は、腐った物のように朽ちます。シミが食った衣服のように。

第14章

- 1 女から生まれた人間は、その齡が短く、心乱されることで満ちています。
- 2 花のように咲き出てはしおれ、影のように逃げ去り、とどまることがありません。
- 3 このような者に対してさえ あなたは目を見開き、この私をご自分とともに、さばきの座に連れて行かれるのですか。
- 4 きよい物を汚れた物から取り出せたらよいのに。しかし、だれ一人できません。
- 5 もし、人の日数が定められていて、その月の数もあなたが決めておられ、その人が越えることのできない限界をあなたが設けておられるなら、
- 6 その人から目をそらして、かまわないでください。彼が雇い人のように自分の日を楽しむために。
- 7 木には望みがある。たとえ切られても、また芽を出し その若枝は絶えることがない。
- 8 たとえ、その根が地の中で老い、その根株が土の中で死んでも、
- 9 水の潤いがあると芽を吹き出し、苗木のように枝を出す。
- 10 しかし、人は死ぬと倒れたきりだ。人間は息絶えると、どこにいるのか。
- 11 水は海から消え去り、川は干上がり、涸れる。
- 12 そのように、人は伏して起き上がらず、天がなくなるまで目覚めず、その眠りから覚めることはない。
- 13 ああ、あなたが私をよみに隠し、あなたの怒りが過ぎ去るまで私を潜ませ、私のために時を定めて、私を覚えてくださればよいのに。
- 14 人は死ぬと、また生きるでしょうか。私は苦役の日の限り、待ちます。私の代わりがやって来るまで。
- 15 あなたがご呼びになれば、お答えします。あなたは御手のわざを慕っておられるでしょう。
- 16 今、あなたは私の一步一步を数えておられます。私の罪に目を留めないでください。
- 17 私の背きを袋の中に封じ込め、私の咎をおおってください。
- 18 しかし、山は倒れて崩れ去り 岩もその場所から移されます。
- 19 水は石を打ち砕き、あなたは小石を押し流して地のちりとされます。そのように、人の望みを絶ち滅ぼされます。
- 20 あなたがいつも人に打ち勝つので、人は去って行きます。あなたは彼の顔かたちを変えて、彼を追いやられます。
- 21 自分の子どもたちが人に尊ばれても、彼がそれを知ることはなく、彼らが人に卑しめられても、彼には見分けがつきません。
- 22 ただ彼の肉が彼のために痛みを覚え、そのたましいが彼のために嘆くだけです。

第15章

- 1 テマン人エリファズが答えた。
- 2 知恵のある者は、むなしい知識によって答えるだろうか。東風で腹を満たすだろうか。
- 3 益にならないことばで、役に立たない論法で論じるだろうか。
- 4 あなたは敬虔を不要と見なし、神の御前で祈るのをおろそかにしている。
- 5 それは、あなたの咎があなたの口に教え、あなたが悪賢い人の舌を選んでいるからだ。
- 6 あなたの口があなたを不義に定める。私ではない。あなたの唇が、あなたに不利な証言をする。
- 7 あなたは最初の人間として生まれたのか。丘より先に生み出されたのか。
- 8 あなたは神との親しい交わりにあずかり、知恵をひとり占めにしているのか。
- 9 あなたが知っていることを、私たちが知らないというのか。あなたが悟っていることは、私たちのうちにはないのか。
- 10 私たちの中には、白髪のある者も古くもいて、あなたの父よりもはるかに年を重ねている。
- 11 神の慰めは、あなたには不十分なのか。あなたに対して優しく語られたことばは。
- 12 なぜ、あなたは自分を見失っているのか。なぜ、あなたの目は、ぎらついているのか。
- 13 あなたが神に向かって苛立ち、口からあのようなことばを吐くとは。
- 14 どういう人が清くあり得るのか。女から生まれた者で、だれが正しくあり得るのか。
- 15 見よ、神はその聖なる者たちさえ信頼なさらない。天も神の目には清くない。
- 16 まして忌み嫌うべき腐り果てた者、不正を水のように飲む人間は、なおさらだ。
- 17 私はあなたに告げる。私に聞け。私が見たことを述べよう。
- 18 それは知恵のある者たちが告げたこと、その先祖には隠されなかったことだ。
- 19 彼らだけに、この地は与えられ、他国人が彼らの間を通り過ぎることはなかった。
- 20 悪しき者は一生もだえ苦しむ。横暴な者には、ある年数が知らされずにいる。
- 21 その耳には恐ろしい音が聞こえ、平和なときにも、荒らす者が彼を襲う。
- 22 彼は自分が闇から帰って来られるとは信じない。彼はいつも剣につけ狙われている。
- 23 食物を求めて、「どこにあるか」とさまよい歩き、闇の日が間近に用意されているのを知っている。
- 24 苦難と苦悩は彼をおびえさせ、戦いの備えができた王のように彼を圧倒する。
- 25 それは、彼が神に対して手向かい、全能者に対して尊大にふるまい、
- 26 分厚い盾を取って、傲慢にも神に向かって突き進むからだ。
- 27 彼が顔を脂でおおい、腰の周りを脂肪で膨れさせたとしても、
- 28 彼は、消し去られた町、人の住んでいない家に、瓦礫の山となるところに住む。
- 29 彼は富むこともなく、自分の財産も長く持たず、それがもたらす収益は地に広がらない。
- 30 彼は闇から離れられず、炎がその若枝を枯らし、神の御口の息によって追い払われる。
- 31 迷わされて、むなしいことに信頼するな。その報いはむなしいからだ。

- 32** 彼の時が来ないうちに報いはなされ、その葉が緑になることはない。
- 33** ぶどうの木のように、その未熟な実は落とされ、オリーブのように、その花は振り落とされる。
- 34** 神を敬わない者の仲間には実りがなく、賄賂の天幕は火で焼き尽くされるからだ。
- 35** 彼らは害悪をはらみ、不法を産み、その腹は欺きを準備している。

第16章

- 1 ヨブは答えた。
- 2 そのようなことは、私は何度も聞いた。あなたがたはみな、人をみじめにする慰め手だ。
- 3 むなしいことばには終わりがあるのか。あなたは何に挑発されて答え続けるのか。
- 4 私も、あなたがたのように語ることができる。もし、あなたがたが私の立場にあったなら、あなたがたに向かって私は多くのことばを連ね、あなたがたに向かって頭を振ったことだろう。
- 5 この口であなたがたを強くし、唇による慰めを惜しまなかったことだろう。
- 6 たとえ私が語っても、私の痛みは抑えられません。たとえ私が忍んでも、どれだけ私からそれが去るでしょう。
- 7 まことに神は今、私を疲れ果てさせました。あなたは、私の仲間をみな荒れ果てさせました。
- 8 あなたは私をつかみました。自分の痩せ衰えた姿が証人となり、私に向かって立ち上がり、面と向かって不利な証言をします。
- 9 神は激怒して私を攻めたて、私に向かって歯をむき出される。私の敵は私に向かって目を鋭くする。
- 10 彼らは私に向かって大きく口を開け、そしりをもって私の頬を打ち、こぞって私を攻める。
- 11 神は私を不遜な者に引き渡し、悪しき者の手に投げ込まれる。
- 12 私は平穏でいたのに、神は私を引き回された。首筋をつかんで私を粉々にし、そうして、ご自分の標的とされた。
- 13 その射手たちは私を包囲した。神は私の腎臓を容赦なく射抜き、私の胆汁を地に流された。
- 14 神は私を打ち、打ち破って、勇士のように私に襲いかかられる。
- 15 私は粗布を肌に縫い付け、自分の角をちりの中に突き刺した。
- 16 私の顔は泣きはらして赤くなり、まぶたには死の陰がある。
- 17 私の手には暴虐がなく、私の祈りはきよいのだが。
- 18 地よ、私の血をおおうな。私の叫びに休み場がないようにせよ。
- 19 今でも、天には私の証人がおられます。私の保証人が、高い所に。
- 20 私の友は私を嘲る者たち。しかし、私の目は神に向かって涙を流します。
- 21 その方が、人のために神にとりなしてくださいますように。人の子がその友のためにするように。
- 22 数年もたてば、私は帰らぬ旅路につくのですから。

第17章

- 1 私の霊は乱れ、私の日は尽き、私には墓場があるだけです。
- 2 実に、嘲る者たちが私とともにいます。私の目は彼らの敵意の中で夜を過ごします。
- 3 どうか、私を保証してくれる人を あなたのそばに置いてください。ほかにだれか誓ってくれる人がいるでしょうか。
- 4 あなたはあの者たちの心を 賢明さから引き離されました。ですから、あなたが彼らを 高く上げられることはありません。
- 5 分け前を得るために友の告げ口をする者。その子らの目は衰え果てる。
- 6 神は私を人々の笑いものとされ、私は顔に唾される者となった。
- 7 私の目は苦悶でかすみ、私のからだはどこも影のようだ。
- 8 心の直ぐな人はこのことに驚き恐れ、潔白な人は神を敬わない者に向かって憤る。
- 9 正しい人は自分の道を保ち、手のきよい人は強さを増し加える。
- 10 だが、あなたがたはみな 帰って来るがよい。私はあなたがたの中に、知恵のある者を一人も見出さないだろう。
- 11 私の日は過ぎ去り、私の企て、私の心の願いも砕かれた。
- 12 「夜は昼に変わり、闇のあるところに光が近づく」と人は言う。
- 13 しかし私が、よみを自分の住まいとして望み、闇に自分の寢床を広げ、
- 14 その穴に向かって「あなたは私の父」と言い、うじ虫に向かって「あなたは私の母、私の姉妹」と宣言するなら、
- 15 いったい、どこに私の望みがあるのか。だれが私の望みを目にするのか。
- 16 それらがよみの戸口に下ったとしても、私たちがともに、ちりの上に降りたとしても。

第18章

- 1 シュアハ人ビルダデが答えた。
- 2 いつになったら、あなたがたはその話にけりをつけるのか。まず理解せよ。それから語り合おうではないか。
- 3 なぜ、私たちは獣のように見なされ、あなたがたには愚かに見えるのか。
- 4 怒って自分自身を引き裂く者よ、あなたのために地が見捨てられるだろうか。岩がその場所から移されるだろうか。
- 5 まことに、悪しき者の光は消え、その火の炎も輝くことはない。
- 6 彼の天幕の内では光が暗くなり、彼を照らすともしびも消える。
- 7 彼の力強い歩幅は狭められ、自らのはかりごとが彼を打ち倒す。
- 8 彼は自分の足で網にかかり、その網目の上を歩き回る。
- 9 罟は彼のかかとを捕らえ、仕掛け網は彼を捕まえる。
- 10 地には彼を捕まえる縄が隠されている。捕らえるための罟が通り道に。
- 11 突然の恐怖が彼を周りからおびえさせ、その足を追い立てる。
- 12 彼の精力は飢えて衰え、わざわざいが彼をつまずかせようとする。
- 13 わざわいは彼の皮膚を食らおうとし、死の初子がからだを食らおうとする。
- 14 彼は、抛り頼んでいる天幕から引き抜かれ、恐怖の王のもとへと引き立てられる。
- 15 彼の天幕には、身内でない者が住み、硫黄がその住まいの上にまき散らされる。
- 16 下では彼の根が枯れ、上では枝がしおれる。
- 17 彼の記憶は地から消え失せ、地の面では無名となる。
- 18 彼は光から闇に追いやられ、世から追い出される。
- 19 彼の民の中には子孫も末裔もいなくなり、その住みかには一人の生存者もいなくなる。
- 20 西に住む者は彼の日について驚き恐れ、東に住む者は恐怖に取りつかれる。
- 21 まことに、これが不正を働く者の住まい、これが神を知らない者の住む場所である。

第19章

- 1 ヨブは答えた。
- 2 いつまで、あなたがたは私のたましいを悩ませ、ことばで私を砕くのか。
- 3 もう十度もあなたがたは私を辱め、私をいじめて恥じることもない。
- 4 私が本当に過ちに陥っていたとしても、私の過ちは私のうちにとどまるだけだ。
- 5 もし、本当にあなたがたが私に向かって高ぶり、私が受けた恥辱のことで、私を責めるつもりなら、
- 6 今知れ。神が私を不当に扱い、ご自分の網で私を取り囲まれたことを。
- 7 見よ。私が「暴虐だ」と叫んでも、答えはなく、叫び求めても、さばきを行われない。
- 8 神は私の道をふさいで通らせず、私の通り道に闇を置かれた。
- 9 神は私から栄光をはぎ取り、頭から冠を取り去られた。
- 10 神は四方から私を打ち倒し、私は消え去る。神は私の望みを木のように根こそぎにされる。
- 11 神は私に向かって怒りを燃やし、私をご自分の敵のように見なされる。
- 12 その軍勢は一つとなって進んで来て、私に向かって傾斜路を築き上げ、私の天幕の周りに陣を敷く。
- 13 神は私の兄弟たちを私から遠ざけ、知人たちはすっかり私から離れて行った。
- 14 親族は見放し、親しい友も私を忘れた。
- 15 私の家に身を寄せる者や召使いの女たちも、私をよそ者のように見なし、私は彼らの目に他人となった。
- 16 私がしもべを呼んでも、彼は返事もしない。私は自分の口で彼に懇願しなければならない。
- 17 私の息は妻にいやがられ、身内の者たちに嫌われる。
- 18 若輩までが私を蔑み、私が立ち上がると、私に言い逆らう。
- 19 親しい仲間はみな私を忌み嫌い、私が愛した人たちも私に背を向けた。
- 20 私は、骨が皮と肉にくっつき、かろうじて生き延びている。
- 21 あなたがた、私の友よ。あわれんでくれ。私をあわれんでくれ。神の御手が私を打ったからだ。
- 22 なぜ、神のように私を追いつめるのか。なぜ、私の肉で満足しないのか。
- 23 ああ今、できることなら、私のことばが書かれ、書物に記されればよいのに。
- 24 鉄の筆と鉛によって、いつまでも岩に刻みつけられればよいのに。
- 25 私は知っている。私を贖う方は生きておられ、ついには、土のちりの上に立たれることを。
- 26 私の皮がこのように剥ぎ取られた後に、私は私の肉から神を見る。
- 27 この方を私は自分自身で見る。私自身の目がこの方を見る。ほかの者ではない。私の思いは胸の内で絶え入るばかりだ。

- 28** あなたがたが、「彼をどのように追いつめようか。事の原因は彼にあるのだから」と言うなら、
- 29** あなたがたは剣を恐れよ。憤りが剣による刑罰をもたらすからだ。こうして、あなたがたはさばきがあることを知るようになる。

第20章

- 1 ナアマ人ツォファルは答えた。
- 2 こうだから、苛立つ思いが私に応答させるのだ。私の心の焦りのゆえに。
- 3 私は自分への侮辱となる訓戒を聞く。だから、悟りを与える霊が私に答えを促すのだ。
- 4 あなたは確かに知っているはずだ。昔から、人が地の上に置かれてから、
- 5 悪しき者の喜びは短く、神を敬わない者の楽しみは束の間だ。
- 6 たとえ、その者の高ぶりが天にまで上り、その頭が濃い雲にまで達しても、
- 7 彼は自分の糞のようにすっかり滅び去る。かつて彼を見た者は「彼はどこにいるか」と言う。
- 8 彼は夢のように飛び去り、だれにも見つからない。彼は夜の幻のように追い払われる。
- 9 彼を見慣れていた目は、再び彼を見ることがなく、彼の家も、もはや彼を見ない。
- 10 彼の子らは貧しい人たちにあわれみを乞い、彼は自分の手で、自分の富を元に戻す。
- 11 彼の骨は若さに満ちていても、彼とともに土のちりの上に横たわることになる。
- 12 たとえ悪が口に甘く、彼がそれを舌の裏に隠していても、
- 13 あるいはそれを惜しんで捨てようとせず、口の奥にとどめていても、
- 14 彼が食べた物は腹の中で変わり、彼の内側でコブラの毒となる。
- 15 富を呑み込んでも、彼はまたそれを吐き出す。神がそれを彼の腹から出される。
- 16 彼はコブラの毒を吸い、まむしの舌が彼を殺す。
- 17 彼は豊かな水の流れを見ることがない。蜜と凝乳の流れる川を。
- 18 労苦して得たものも、呑み込まずに返し、商いで得た富も楽しめない。
- 19 彼が弱い者を踏みにじって見捨て、自分で建てたのではない家を奪い取ったからだ。
- 20 彼の腹は満足することを知らないので、欲しがっている物を、何一つ逃さない。
- 21 彼が食べるためのものは何も残っていない。それゆえ、彼の繁栄は長くは続かない。
- 22 彼は、豊かさが満ちるときに苦境に立たされ、労苦する者の手がことごとく彼に押し寄せる。
- 23 彼が腹を満たそうとすると、神は燃える怒りを彼に送り、憤りを彼の上に降らせる。
- 24 彼が鉄の武器を逃れても、青銅の弓が彼を射抜く。
- 25 矢が貫いて背中から出、きらめく矢じりが貫いて肝から出る。恐怖が彼の上に臨む。
- 26 すべての闇が彼の宝として隠され、吹き起こしたのではない火が彼をなめ尽くし、彼の天幕に残っている者も痛手を被る。
- 27 天は彼の咎をあらわにし、地は彼に逆らって立つ。
- 28 彼の家の作物はさらわれ、御怒りの日に消え失せる。
- 29 これが悪しき人間が神から受ける分、神によって定められた、彼の受け継ぐものである。

第21章

- 1 ヨブは答えた。
- 2 私の言い分をよく聞いてくれ。それを、あなたがたから私への慰めにしてくれ。
- 3 まず、この私が話すのを許してくれ。私が話し終わってから、あなたは嘲るがよい。
- 4 この私の不平は人に向かってであろうか。なぜ、私が苛立ってはならないのか。
- 5 私の方を向いてくれ。驚き恐れよ。そして手を口に当てよ。
- 6 私はそのことを思い出すとおびえ、戦慄でからだが震える。
- 7 なぜ悪しき者が生きながらえて年をとっても、なお力を増し加えるのか。
- 8 その子孫は彼らとともにあって、彼らの前に堅く立ち、その末裔は彼らの目の前に堅く立つ。
- 9 彼らの家は平和で恐れもなく、神のむちが彼らの上に下されることもない。
- 10 その雄牛は、はらませて失敗することがなく、その雌牛は、子を産んで仕損じることがない。
- 11 彼らは幼子たちを羊の群れのように自由にさせ、彼らの子どもたちは飛び跳ねる。
- 12 彼らはタンバリンや豎琴に合わせて歌い、笛の音で楽しむ。
- 13 幸せのうちに寿命を全うし、安らかによみに下る。
- 14 彼らは神に向かって言う。「私たちから離れよ。私たちは、あなたの道を知りたくない。
- 15 全能者とは何なのか。私たちが仕えなければならないとは。どんな益があるのか。私たちが彼に祈り願ったところで」と。
- 16 見よ、彼らの繁栄はその手の中にはない。悪者のはかりごとは、私とは何の関係もない。
- 17 幾たび、悪者どものともしびが消え、破局が彼らの上に臨み、神が怒って彼らに滅びを分け与えられることか。
- 18 彼らは風の前の藁のようではないか。つむじ風が吹き散らす籾殻のようではないか。
- 19 神がそのような者の子らのために、わざわざいを秘めておられるというのか。その人自身が報いを受けて、思い知らなければならないのだ。
- 20 その人自身の目が自分の滅びを見、自分が全能者の憤りを吞まなければならない。
- 21 自分の日数が限られているのに、なぜ自分の後の家のことを気にかけるのか。
- 22 人が神に知識を教えようとするのか。神は、高ぶる者たちにさばきを下されるのだ。
- 23 ある者は元気盛りの時に死ぬ。全く安らかに、平穩のうちに。
- 24 そのからだは脂ぎって、骨の髄まで潤っている。
- 25 しかし、ある者は苦悩のうちに死ぬ。幸せを味わうこともなく。
- 26 両者はともに土のちりに伏し、うじ虫が彼らをおおう。
- 27 確かに私は、あなたがたの計画を知っている。私を不当に扱おうとする企みを。
- 28 あなたがたは言う。「高貴な人の家はどこにあるか。悪しき者たちが住んだ天幕はどこにあるか」と。

- 29** あなたがたは道行く人たちに尋ねなかったのか。彼らの証しをよく調べたことはないのか。
- 30** 悪人がわざわざの日を免れ、激しい怒りの日から連れ出されるというのか。
- 31** だれが面と向かって、彼の行くべき道を告げることができるのか。彼がしたことに対して、だれが報いることができるのか。
- 32** 彼は墓場に運ばれ、その塚の上には見張りが立てられる。
- 33** 谷の土くれは彼には快く、すべての人間が彼の後について行き、彼の先には数えきれない人がいる。
- 34** それなのに、どうしてあなたがたは 空しいことばで私を慰めようとするのか。あなたがたの応答は、不信実以外の何でもない。

第22章

- 1 テマン人エリファズが答えた。
- 2 人は神の役に立てるだろうか。賢い人でさえ、ただ自分自身の役に立つだけだ。
- 3 あなたが正しいからといって、それが全能者の喜びとなるだろうか。あなたの行いが全きものであるからといって、それが神にとって益になるだろうか。
- 4 あなたが神を恐れているためか。神があなたを責められるのは。神があなたとともに さばきの座に入って行かれるのは。
- 5 いや、それはあなたの悪が大きく、あなたの不義に際限がないからではないか。
- 6 あなたは理由もなく兄弟から質物を取り、着ている物をはぎ取って裸にし、
- 7 疲れている人に水を飲ませず、飢えている人に食物を拒んだからだ。
- 8 土地を所有している有力者のように、そこに住む、名のある者のように、
- 9 あなたはやもめを手ぶらで去らせ、みなしごたちの腕を折った。
- 10 そのため罾があなたを取り巻き、恐れが突然あなたを脅かすのだ。
- 11 あるいは、闇のために見ることもできなくなり、みなぎる水があなたをおおうのだ。
- 12 神は天の高きにおられるではないか。星々の頂を見よ。それらはなんと高いことか。
- 13 あなたは言う。「神に何が分かるだろうか。黒雲の中からさばくことができるだろうか。
- 14 濃い雲が覆いとなって、神は見ることができない。神は天空を歩き回るだけだ」と。
- 15 あなたは昔からの道を守って行くのか。悪人どもが歩んだあの道を。
- 16 彼らは年若くして取り去られ、彼らの土台は流れに押し流された。
- 17 彼らは神に向かって、「私たちから離れてくれ」と言った。全能者は彼らに何をなさるだろうか。
- 18 しかし神は、彼らの家を良き物で満たされた。だが、悪者のはかりごとは私と何の関係もない。
- 19 正しい者は見て喜び、潔白な者は彼らを嘲って言う。
- 20 「まことに、私たちに向かい立った者は滅ぼされ、悪人どもが残した物は火が焼き尽くした」と。
- 21 さあ、あなたは神と和らぎ、平安を得よ。そうすれば幸いがあなたのところに来るだろう。
- 22 神の口からみおしえを受け、そのみことばを心にとどめよ。
- 23 もし全能者に立ち返るなら、あなたは再び立ち直る。自分の天幕から不正を遠ざけるなら。
- 24 あなたは黄金を土のちりの上に置け。オフィルの金を川の小石の間に。
- 25 そうすれば全能者はあなたの黄金となり、あなたにとっての尊い銀となる。
- 26 そのとき必ず、あなたは全能者を自分の喜びとし、神に向かって顔を上げることができる。
- 27 あなたが神に祈ると、神はあなたに聞き、あなたは自分の誓願を果たすことができる。

- 28 あなたが事を決めると、それは成り、あなたの道の上には光が輝く。
- 29 彼らが気落ちすれば、あなたは「勇気を出せ」と言う。こうして、へりくだっている者は救われる。
- 30 潔白でない者さえ助け出され、あなたの手のきよさによって逃れる。

第23章

- 1 ヨブは答えた。
- 2 今日もまた、私の嘆きは激しく、自分のうめきのゆえに私の手は重い。
- 3 ああ、できるなら、どこで神に会えるかを知って、その御座にまで行きたいものだ。
- 4 私は神の御前に自分の言い分を並べて、ことばを尽くして訴えたい。
- 5 神が私に答えることばを知り、神が私に言われることをわきまえ知りたい。
- 6 神は強い力で私と争われるだろうか。いや、むしろ私に心を留めてくださるだろう。
- 7 そこでは正直な人が神と論じ合うことができ、私は、とこしえにさばきを免れるだろう。
- 8 だが見よ。私が前へ進んでも、神はおられず、うしろに行っても、神を認めることができない。
- 9 左に向かって行っても、神を見ることはなく、右に向きを変えても、会うことができない。
- 10 しかし神は、私の行く道を知っておられる。私は試されると、金のようになって出て来る。
- 11 私の足は神の歩みにつき従い、神の道を守って、それたことがない。
- 12 私は神の唇の命令から離れず、自分の定めよりも神の口のことばを蓄えた。
- 13 しかし、みこころは一つである。だれがその御思いを翻せるだろうか。神はご自分が欲するところを行われる。
- 14 神は、私について定めたことを成し遂げられる。神にはそのような多くの定めがあるからだ。
- 15 それで私は、神の御前でおびえ、思いを巡らして、神を恐れているのだ。
- 16 神は私の心を弱くされた。全能者が私をおびえさせられたのだ。
- 17 しかし、闇によって私が黙らされることはない。私の顔が暗黒におおわれていても。

第24章

- 1 なぜ、全能者に時が隠されていないのに、神を知る者たちには神の日々が見られないのか。
- 2 人々は地境を動かし、群れを奪ってこれを飼う。
- 3 みなしごのろばを連れ去り、やもめの牛を質に取り、
- 4 貧しい者たちを道から押しのける。地の苦しむ者たちは、すっかりおおい隠される。
- 5 その人たちは荒野の野ろばのように、働きに出ては獲物を探す。荒れた地で、子たちのために食べ物を求めて。
- 6 野で自分の飼葉を刈り取り、悪しき者のぶどう畑で残り物を集める。
- 7 着る物もなく、裸で夜を明かし、寒さの中でも身をおおう物が無い。
- 8 山の嵐でずぶぬれになり、避け所もなく、岩を抱く。
- 9 みなしごは乳房から引き離され、貧しい者が持つ物は質に取られる。
- 10 着る物もなく裸で歩き、飢えながら麦束を運ぶ。
- 11 オリーブの植え込みの間に油を搾り、踏み場でぶどうを踏みながらも、なお渴く。
- 12 人の住む町からうめき声が起こり、傷ついた者のたましいが助けを求めて叫ぶ。しかし、神はその叫び声に心を留められない。
- 13 これらの者は光に背く者。光の道を認めず、光の通り道にとどまろうとしない。
- 14 人殺しは、光のある間に起き上がり、苦しむ人や貧しい人を殺して、夜には盗人となる。
- 15 姦通する者の目も、夕暮れ時を見張り、「だれの目も私に気づかない」と言いながら、自分の顔に覆いをする。
- 16 彼は暗くなってから家々に侵入する。昼間は閉じこもっていて光を知らない。
- 17 朝はことごとく、彼のような者には暗黒である。彼は暗黒の恐怖と親しいからだ。
- 18 彼のような者は水の面をすばやく通り過ぎ、彼らの割り当て地はその地でのろわれる。だれも彼らのぶどう畑の道に向かわない。
- 19 日照りと暑さは雪解け水を、よみは罪を犯した者を奪い去る。
- 20 母の胎は彼を忘れ、うじ虫は彼を好んで食べる。彼はもう思い出されることはない。不正な者は木のように折られる。
- 21 彼は、子を産まない不妊の女を食いものにし、やもめに良くしない。
- 22 彼は力をもって、権力者たちを引きずり降ろす。彼自身は台頭するが、自分にいのちのあることが信じられない。
- 23 神が彼に安全を与えるので、彼は支えられる。しかし、神の目は彼らの道の上に注がれる。
- 24 彼らはしばらくの間高められるが、いなくなる。低くされ、すべての者と同じく刈り集められる。そして麦の穂先のように枯れる。
- 25 今そうでないからといって、だれが私をまやかし者だと言えるのか。だれが私のことばをたわごとと見なせるのか。

第25章

- 1 シュアハ人ビルダデが答えた。
- 2 主権と恐れは神のもの。神はその高い所で平和をつくられる。
- 3 その軍勢の数には限りがあるだろうか。その光に照らされない者がいるだろうか。
- 4 人はどうして神の前に正しくあり得るだろうか。女から生まれた者が、どうして清くあり得るだろうか。
- 5 ああ、神の目には 月さえ輝きがなく、星も清くない。
- 6 まして、うじ虫でしかない人間、虫けらでしかない人の子はなおさらだ。

第26章

- 1 ヨブは答えた。
- 2 あなたは無力な者をどのように助けたのか。力のない腕をどのように救ったのか。
- 3 知恵のない者にどのように助言し、知性を豊かに示したのか。
- 4 だれに対してことばを告げたのか。だれの息があなたから出たのか。
- 5 死者の霊たち、水に住む者たちは その底で、もだえ苦しむ。
- 6 よみも神の前では裸であり、滅びの淵もおおわれることはない。
- 7 神は北を、茫漠としたところに張り広げ、地を、何も無いところに掛けられる。
- 8 神は水を濃い雲の中に包まれるが、雲はその下で裂けることはない。
- 9 神は満月の面をおおい、その上に雲を広げ、
- 10 水の面に円を描いて、光と闇との境とされた。
- 11 天の柱は揺らぎ、神の叱責に驚愕する。
- 12 神は御力によって海を鎮め、ご自分の英知をもってラハブを打ち碎かれる。
- 13 その息によって天は晴れ渡り、御手は逃げる蛇を刺し殺す。
- 14 見よ、これらは神のみわざの外側にすぎない。私たちは神についてささやきしか聞いていない。御力を示す雷を、だれが理解できるだろうか。

第27章

- 1 ヨブはさらに言い分を続けた。
- 2 私は、私の権利を取り去った神にかけて誓う。私のたましいを苦しめた全能者にかけて。
- 3 私の息が私のうちにあり、神の霊が私の鼻にあるかぎり、
- 4 私の唇は決して不正を言わず、私の舌は決して欺くことを語らない。
- 5 あなたがたを正しいとすることなど、私には絶対にできない。私は息絶えるまで、自分の誠実さをこの身から離さない。
- 6 私は自分の義を堅く保って手放さない。私の良心は生涯私を責めはしない。
- 7 私の敵は悪しき者のようになれ。向かい立つ者たちは不正を働く者のようになれ。
- 8 神を敬わない者に、どのような望みがあるのか。神が彼を断ち切り、いのちを取り去るときには。
- 9 苦しみが彼に降りかかるとき、神は彼の叫びを聞かれるであろうか。
- 10 彼は全能者を自分の喜びとするだろうか。どんなときにも神を呼び求めるだろうか。
- 11 私は、神の御手にあることをあなたがたに教え、全能者のもとにあるものを隠さない。
- 12 あなたがたは、全員がそれを見たのに、なぜ、全く空しいことを言うのか。
- 13 悪しき人間が神から受ける分、横暴な者が全能者から受け継ぐものは次のとおりだ。
- 14 たとえ子どもが増えても、剣にかかり、子孫が食べ物に満ち足りることはない。
- 15 その生き残りも死んで葬られ、やもめたちは泣きもしない。
- 16 彼が金をちりのように積み上げ、衣装を土のように蓄えても、
- 17 蓄えたものは、正しい者がこれを着て、金は、潔白な者が分ける。
- 18 彼はシミの巣のような家を建てる。番人が作る仮小屋のような家を。
- 19 富む者として床につくが、もうそれきりだ。目を開けると、もう何も無い。
- 20 突然の恐怖が洪水のように襲い、夜にはつむじ風が彼を運び去る。
- 21 東風が彼を運ぶと、彼はいなくなり、その居場所から彼を吹き払う。
- 22 それは容赦なく襲いかかり、彼はその手から必死に逃れようとする。
- 23 それは彼に向かって手をたたき、彼を嘲って、その居場所から追い出す。

第28章

- 1 まことに、銀には鉱山があり、金には精錬する場所がある。
- 2 鉄は土から取られ、銅は鉱石を溶かして取る。
- 3 人は闇の果てに、その極みにまで行って、暗闇と暗黒にある鉱石を探し出す。
- 4 彼は、人里離れたところで縦坑を掘り進み、行き交う人に忘れられ、人々から離れたところで、ぶら下がって揺れる。
- 5 地はそこから食物を産み出すが、その下は火のように沸き返っている。
- 6 その鉱石からサファイアが出る。その場所には金のちりがある。
- 7 その通り道は猛禽も知らず、隼の目もこれを狙ったことがない。
- 8 誇り高き獣たちもこれを踏まず、たける獅子も通ったことがない。
- 9 彼は硬い岩にまで手を加え、山々をその根底からくつがえす。
- 10 彼は岩に坑道を切り開き、あらゆる宝石を目にする。
- 11 彼は水が滴ることもないように川をせき止め、隠されていた物を明るみに出す。
- 12 しかし知恵はどこで見つかるのか。悟りがある場所はどこか。
- 13 人にはその価値が分からない。それは生ける者の地では見つからない。
- 14 深淵は言う。「私の中にはそれはない。」海は言う。「私のところにはない。」
- 15 それは純金をもってしても得られない。銀を量ってその代価とすることもできない。
- 16 オフィルの金によっても値踏みできない。高価な縞めのうや、サファイアによっても。
- 17 金も玻璃もこれと並ぶことができず、純金の器とも取り替えられない。
- 18 珊瑚や水晶は言うに及ばず、知恵の価値は真珠にもまさる。
- 19 クシュのトパーズもこれと並ぶことができず、純金でもその値踏みをすることはできない。
- 20 では、知恵はどこから来るのか。悟りがある場所はどこか。
- 21 それはすべての生き物の目に隠され、空の鳥にも隠れている。
- 22 滅びの淵も、死も言う。「そのうわさは、この耳で聞いたことがある。」
- 23 神は知恵の道をご存じであり、神こそ、それがあある場所を知っておられる。
- 24 それは、神が地の隅々までを見渡し、天の下をことごとく見ておられるからだ。
- 25 神は風に重さを与え、水を秤で量られた。
- 26 神は雨のために法則を、稲光のために道を決められた。
- 27 そのとき、神は知恵を見て、これを見積もり、これを確かめ、調べ上げられた。
- 28 こうして、神は人間に仰せられた。「見よ。主を恐れること、これが知恵であり、悪から遠ざかること、これが悟りである」と。

第29章

- 1 ヨブはさらに言い分を続けた。
- 2 ああ、できることなら、昔の月日のようであつたらよいのに。神が私を守ってくださった日々のもようであつたらよいのに。
- 3 あのとて、神はともしびを私の頭上に照らし、神の光によって私は闇の中を歩いた。
- 4 私がまだ壮年であつたころ、私の天幕の中には神との親しい交わりがあつた。
- 5 全能者がまだ私とともにおられたとき、私の子どもたちが周りにいた。
- 6 あのとて、私の足は凝乳に浸され、岩は私に、油の流れを豊かに注ぎ出してくれた。
- 7 私は町の門に出て行き、広場に自分の座る所を設けた。
- 8 すると、若者たちは私を見て身を引き、年老いた者も起きてまっすぐに立った。
- 9 首長たちは話すのを控え、手を口に当てた。
- 10 君主たちの声もひそまり、その舌は上あごについた。
- 11 私のことを聞いた耳は、私を称賛し、私を見た目は、私の証人となった。
- 12 それは私が、叫び求める苦しむ人を、身寄りのないみなしごを助け出したからだ。
- 13 死にかかっている者からの祝福が私に届き、やもめの心を私は喜ばせた。
- 14 私は義をまとい、義は私をおおった。私の公正さは上着であり、かぶり物であつた。
- 15 私は目の見えない人の目となり、足の萎えた人の足となった。
- 16 私は貧しい人の父となり、見知らぬ人の訴訟を取り上げ、調べてあげた。
- 17 また不正を働く者の牙を砕き、その齒の間から獲物を奪い返した。
- 18 そこで私はこう思った。「私は自分の巢とともに息絶えるが、自分の日数を砂のように増やす。
- 19 私の根は水に向かつて伸び広がり、夜露が私の枝に宿る。
- 20 私の栄光は私とともに新しくなり、私の弓は私の手によって次々と矢を放つ」と。
- 21 人々は期待して私の言うことに聞き入り、私の助言に黙って従つた。
- 22 私が語つた後にはだれも言い返さず、私のことばは彼らの上に降り注いだ。
- 23 彼らは雨を待つように私を待ち、後の雨を待つように、口を大きく開けて待った。
- 24 私が彼らにほほえみかけると、彼らはそのことを信じることができなかつた。彼らが私の顔の光を陰らせることはなかつた。
- 25 私は彼らの行くべき道を選んでやり、首長のように座に着いた。また、軍勢とともにある王のように住み、嘆き悲しむ人を慰める者のようであつた。

第30章

- 1 しかし今は、私より年下の者たちが私をあざ笑う。あの者たちの父は、かつて私が蔑んで羊の群れの番犬と一緒にいさせた人たちだ。
- 2 あの者たちの手の力も何の役に立つだろうか。彼らの気力は失せている。
- 3 彼らは欠乏と飢饉で干上がり、乾いた土にさえかじりつく。荒れ果てた廃墟の暗闇で。
- 4 彼らは陸ひじきや藪の葉を摘み、えにしだの根を食物とする。
- 5 世間からは追い出され、人々は盗人に叫ぶように、彼らに大声で叫ぶ。
- 6 谷の斜面や、土の穴、岩の穴に住み、
- 7 藪の中でいなき、いらくさの下に群がる。
- 8 彼らは愚か者の子たち、名もない者の子たち、国からむちでたたき出された者たちだ。
- 9 それなのに、今や私は彼らの嘲りの的となり、その笑いぐさとなっている。
- 10 彼らは私を忌み嫌って遠く離れ、私の顔に向かって情け容赦なく唾を吐きかける。
- 11 神が私の弓弦を解いて私を苦しめ、彼らが自分の綱を私の前で投げ捨てたのだ。
- 12 この生意気な者たちは私の右手に立ち、私の足をもつれさせ、私に対して滅びの道を築いた。
- 13 彼らは私の通り道を打ち壊し、私の滅びを進めている。彼らに助ける者はいらない。
- 14 彼らは、広い破れ口から入るように、瓦礫となったところになだれ込む。
- 15 突然の恐怖が私に降りかかり、私の威厳を、あの風のように吹き払う。私の平穏は、雨雲のように過ぎ去った。
- 16 今、私のたましいは自分に注がれている。苦しみの日々が私をとらえたからだ。
- 17 夜は私から骨をえぐり取り、私をむしばむものは休まない。
- 18 神は大きな力で私の衣服に姿を変え、まるで長服の襟のように私に巻き付かれる。
- 19 神は泥の中に私を投げ込まれ、私はちりや灰のようになった。
- 20 私があなたに向かって叫んでも、あなたはお答えになりません。私が立っていても、あなたは私に目を留めてくさいません。
- 21 あなたは、私にとって残酷な方になり、御手の力で、私を攻めたてられます。
- 22 あなたは私を吹き上げて風に乗せ、すぐれた知性で、私を翻弄されます。
- 23 私は知っています。あなたが私を死に帰らせることを。すべての生き物が集まる家に。
- 24 それでも、瓦礫の中で人は手を伸ばさないだろうか。災難にあって助けを求めて叫ぶときに。
- 25 私は不運な人のために、泣かなかっただろうか。私のたましいは貧しい人のために、心を痛めなかつただろうか。
- 26 私は善を望んだのに、悪が来た。光を待ったのに、暗闇が来た。
- 27 私のはらわたは、休みなくかき回され、苦しみの日が私に立ち向かっている。
- 28 私は日にも当たらず、泣き悲しんで歩き回り、集いの中に立って助けを叫び求める。
- 29 私はジャッカル兄弟となり、だちょうの仲間となった。

30 私の皮膚は黒ずんで剥げ落ち、骨は熱で焼けている。

31 私の豎琴は喪のためとなり、私の笛は泣き悲しむ者の声となった。

第31章

- 1 私は自分の目と契約を結んだ。 どうしておとめに目を留められるだろうか。
- 2 神が上から分けてくださる取り分は何か。 全能者が高い所から下さる相続のものは。
- 3 不正を働く者にはわざわいが、 不法を行う者には災難が来るではないか。
- 4 神は私の道をご覧にならないだろうか。 私の歩みをすべて数えておられないだろうか。
- 5 もし、私が偽りとともに歩み、 この足が欺きに急いだのなら、
- 6 神は私を正しい秤で量られればよい。 そうすれば神に私の誠実さが分かるだろう。
- 7 もし、私の歩みが道からそれ、 私の心が自分の目に従って歩み、 私の手に汚れがついていたなら、
- 8 私が種を蒔いて、ほかの人が食べるがよい。 私の作物は根こそぎにされるがよい。
- 9 もし、私の心が女に惑わされ、 隣人の戸口で待ち伏せしたことがあったなら、
- 10 私の妻が他人のために粉をひいてもよい。 また、他人が彼女と寝てもよい。
- 11 これは恥ずべき行い、 裁判で罰せられるべき不義であるからだ。
- 12 実に、それは滅びの淵まで焼き尽くす火だ。 私の収穫をことごとく根こそぎにする。
- 13 もし、しもべや召使いの女が私と争ったとき、 私が彼らの訴えを拒んだことがあるなら、
- 14 神が立たれるとき、 私はどうすればよいか。 また、神がお調べになるとき、 何と答えたらよいか。
- 15 私を胎内で造られた方は、 彼らをも造られたのではないか。 同じ方が、 私たちを母の胎内に形造られたのではないか。
- 16 もし、私が弱い者たちの望みを退け、 やもめの目を衰え果てさせ、
- 17 私一人だけでパンを食べ、 みなしごにそれを食べさせなかったのなら、
- 18 ―実は私の幼いときから、 弱い者は私を父のようにして育ち、 私は生まれたときから、 やもめを導いた―
- 19 あるいは、もし私が、 着る物がなくて死にかかっている人や、 身をおおう物を持たない貧しい人を見たとき、
- 20 その人の腰が私にあいさつをすることも、 私の子羊の毛で 彼が暖められることもなかったなら、
- 21 あるいは、私が門のところに助け手を見て、 みなしごに向かって 手を振り上げたことがあったなら、
- 22 私の肩の骨が肩から落ち、 私の腕がつけ根から折れてもよい。
- 23 神からのわざわいが私をおののかせ、 その威力のゆえに、 私は何もできないだろう。
- 24 もし、私が金を自分の頼みとし、 黄金に向かって「私の抛り頼むもの」と言ったことがあるなら、
- 25 あるいは、私の富が多いことや、 私の手が多くを得たことを 喜んだことがあるなら、
- 26 あるいは、日の光が輝くのを、 月が照りながら動くのを見て、
- 27 ひそかに心を惑わされ、 手で口づけを投げかけたことがあるなら、

- 28 これもまた、裁判で罰せられるべき不義だ。私が、上なる神を否んだのだから。
- 29 あるいは、私を憎む者が衰えたのを喜び、彼にわざわざ下がったことに心躍らせたことがあるだろうか。
- 30 私は自分の口を罪に任せなかった。のろいの誓いで彼のいのちを求めたりして。
- 31 私の天幕の者たちはみな、こう言っているではないか。「あの方のパンに満腹しなかった者がいったいいるだろうか。」
- 32 寄留者は外で夜を過ごさず、私は戸口を通りに向けて開けている。
- 33 あるいは私がアダムのように、自分の背きをおおい隠し、自分の咎を胸の中に秘めたことがあるだろうか。
- 34 私が群衆の騒ぎにおびえ、一族の蔑みにひるみ、黙っていて、門を出なかったことがあるだろうか。
- 35 だれか、私の言うことを聞いてくれる者はいないものか。—ここに私の署名がある。全能者が私に答えてくださるよう—私を訴える者が書いた告訴状があれば、
- 36 私はそれを肩に担ぎ、冠のように、それをこの身に結び付け、
- 37 私の歩みの数をこの方に告げ、君主のようにしてこの方に近づきたい。
- 38 もし、私の土地が私に向かって叫び、その畝がともに泣くことがあるなら、
- 39 あるいは私が金を払わずにその産物を食べ、その持ち主のいのちを失わせたことがあるなら、
- 40 小麦の代わりに茨が、大麦の代わりに雑草が生えるように。ヨブのことばは終わった。

第32章

- 1 この三人はヨブに答えるのをやめた。ヨブが自分を正しいと思っていたからである。
- 2 すると、ラム族のブズ人、バラクエルの子エリフが怒りを燃やした。彼は、ヨブが神よりも自分自身のほうを義としたので、ヨブに向かって怒りを燃やしたのである。
- 3 彼はまた、その三人の友に向かって怒りを燃やした。彼らがヨブを不義に定めながら、言い返せなかったからである。
- 4 エリフは、彼らが自分よりも年長だったので、ヨブに語りかける時を待っていた。
- 5 エリフは三人の者の口に答えがないのを見て、怒りを燃やした。
- 6 ブズ人、バラクエルの子エリフは答えて言った。私は年が若く、あなたがたは年をとっている。だから私はわきに控え、遠慮してあなたがたに私の意見を述べなかった。
- 7 私は思った。「日を重ねた者が語り、年の多い者が知恵を教えるのだ」と。
- 8 確かに、人の中には霊があり、全能者の息が人に悟りを与える。
- 9 だが、年長者が知恵深いわけではない。老人が道理をわきまえているわけでもない。
- 10 だから私は言う。「私の言うことを聞いてくれ。私も自分の意見を述べよう。」
- 11 今まで私はあなたがたの言うことに期待し、あなたがたの意見に耳を傾けていた。あなたがたがことばを探している間、
- 12 私はあなたがたに細心の注意を払っていた。しかし、あなたがたのうちには、ヨブを叱責する者も、彼のことばに答える者もいなかった。
- 13 だが、おそらくあなたがたは言うだろう。「私たちは知恵を見出した。人ではなく、神が彼を吹き払ったのだ」と。
- 14 彼はまだ私に向かって、ことばを並べ立ててはいない。私はあなたがたのような言い方では彼に答えることはしない。
- 15 彼らは意気をそがれて、もう答えない。彼らの言うことばもなくなった。
- 16 彼らが話さず、じっと立って答えないからといって、私は待っていなければならないのか。
- 17 私は私で自分の言い分を返し、私も自分の意見を述べよう。
- 18 私にはことばがあふれていて、内なる霊が私を圧迫しているからだ。
- 19 今、私の腹は抜け口の無いぶどう酒のよう。新しい皮袋のように、張り裂けようとしている。
- 20 私は話して、気分を晴らしたい。唇を開いて答えたい。
- 21 私はだれも、えこひいきしない。どんな人にも、へつらったりしない。
- 22 私はへつらうことを知らないし、そんなことをすれば、私を造った方は、すぐにでも私を取り去ってしまわれるだろう。

第33章

- 1 そこでヨブよ、どうか私の言い分を聞いてほしい。私のすべてのことばに耳を傾けてほしい。
- 2 さあ、私は口を開き、私の口の中の舌が語る。
- 3 私の言うことは、直ぐな心から出る。私の唇は、率直に知識を語る。
- 4 神の霊が私を造り、全能者の息が私にいのちを下さる。
- 5 あなたにできるのであれば、私に返事をし、ことばを並べ立てて、私の前に立ってみよ。
- 6 実に、神にとって、私はあなたと同様だ。私もまた粘土で形造られた。
- 7 見よ、私の脅しも、あなたをおびえさせない。あなたに私の力がのしかかっても、重くはない。
- 8 確かにあなたは、この耳に言った。私はあなたの話す声を聞いた。
- 9 「私はきよく、背きがない。私は純潔であり、咎もない。
- 10 それなのに、神は私を攻める口実を見つけ、私を神の敵のように見なされる。
- 11 神は私の足にかせをはめ、私の歩みをことごとく見張られる。」
- 12 聞け。私はあなたに答える。このことであなたは正しくない。神は人よりも偉大なのだから。
- 13 なぜ、あなたは神と言い争うのか。自分のことばに、神がいちいち答えてくださらないからといって。
- 14 神はある方法で語り、また、ほかの方法で語られるが、人はそれに気づかない。
- 15 夢の中で、夜の幻の中で、深い眠りが人々を襲うとき、また寝床の上でまどろむとき、
- 16 そのとき、神はその人たちの耳を開き、彼らを懲らしめて、それを封印される。
- 17 神は、人間がその悪いわざを取り除くようにし、人から高ぶりを離れさせ、
- 18 人のたましいが滅びの穴に入らず、そのいのちが投げ槍で滅びないようにされる。
- 19 神は、床の上で痛みをもって人を責め、いつまでも続く骨の病によってお叱りになる。
- 20 彼のいのちは食物を嫌い、そのたましいはうまい物を嫌う。
- 21 その肉は衰え果てて見えなくなり、見えなかった骨があらわになる。
- 22 そのたましいは滅びの穴に、そのいのちは殺す者たちに近づく。
- 23 もし彼のそばに、一人の御使いが、千人に一人の仲介者がいて、その方が彼に代わって彼が誠実であることを告げてくれるなら、
- 24 神は彼をあわれんで仰せられる。「彼を救って、滅びの穴に下って行かないようにせよ。わたしは身代金を見出した」と。
- 25 その肉は幼子のように新しくされて、彼は青年のころに戻る。
- 26 彼は、神に祈ると受け入れられる。彼は歓喜の声をもって御顔を仰ぎ、神はその人の義に報いてくださる。
- 27 彼は人々を見つめて言う。「私は罪ある者で、真っ直ぐなことを曲げてきた。しかし私は、当然の報いを受けなかった。

- 28** 神は、私が滅びの穴に下らないように、私のたましいを贖い出してくださった。私のいのちは光を見ることができる」と。
- 29** 見よ、このすべてのことを神は行われる。二度も三度も、人に対して。
- 30** 人のたましいを滅びの穴から引き戻し、いのちの光で照らされる。
- 31** ヨブよ、耳を傾けて私に聞け。黙れ。この私が語る。
- 32** もし、ことばがあるなら、私に返事をせよ。言え。あなたが正しければ、それを私は喜ぶから。
- 33** もし、ことばがないなら、私に聞け。黙れ。私はあなたに知恵を教えよう。

第34章

- 1 エリフはさらに言った。
- 2 知恵のある人々よ、私のことばを聞け。知識のある人々よ、私に耳を傾けよ。
- 3 耳はことばを聞き分け、口は食物を味わうからだ。
- 4 さあ、私たちのために正しいことを選び、私たちの間で、何が良いことをよく知ろう。
- 5 ヨブはこう言っているからだ。「私は正しい。神が私の正義を取り去ったのだ。
- 6 私の正義に反して、私は偽りを言えるだろうか。背きがないのに、私の矢傷は治らない。」
- 7 ヨブのような人がほかにいるだろうか。彼は嘲りを水のように飲み、
- 8 不法を行う者どもとよく交わり、悪人たちとともに歩む。
- 9 彼は言っている。「神に喜ばれようとしても、それは人の役に立たない。」
- 10 だから、あなたがた良識のある人々よ、私に聞け。神が悪を行うなど、全能者が不正をするなど、絶対にあり得ない。
- 11 神は、人の行いに応じて報いをし、それぞれをその道にしたがって取り扱われる。
- 12 神は決して悪を行わない。全能者はさばきを曲げない。
- 13 だれが、この地を神にゆだねたのか。だれが、全世界を神に任せたのか。
- 14 もし、神がご自分だけに心を留め、その霊と息をご自分に集められたら、
- 15 すべての肉なるものはともに息絶え、人は土のちりに帰る。
- 16 悟ることができるなら、これを聞け。私の言うことに耳を傾けよ。
- 17 いったい、公正を憎む者が、治めることができるだろうか。正しく力ある方を不義に定めることができるだろうか。
- 18 人が王に向かって「よこしまな者」と言い、高貴な人に向かって「悪者」と言えるだろうか。
- 19 この方は、首長たちをえこひいきせず、上流の人を貧しい民より重んじることはない。彼らはみな、神の御手のわざだからだ。
- 20 彼らは瞬く間に、それも真夜中に死に、民は動揺のうちにいなくなる。強い者たちも人の手によらずに取り去られる。
- 21 神の御目が人の道の上にあり、その歩みのすべてを神が見ておられるからだ。
- 22 不法を行う者どもが身を隠せる闇はなく、暗黒もない。
- 23 神は人について、それ以上調べる必要はない。さばきのときに、神の前に出させてまでして。
- 24 神は力ある者を、取り調べなしに打ち滅ぼし、彼らに代えてほかの者たちを立てられる。
- 25 神は彼らのしわざを知っており、夜に彼らを打ち倒される。彼らは碎かれる。
- 26 神は、人々の見ているところで、彼らをその邪悪さのゆえに打ちたたかれる。
- 27 それは、彼らが神に背いて従わず、神のどの道にも心を留めなかったからだ。
- 28 こうして、弱い者の叫びを神に届け、神は苦しむ者たちの叫びを聞き入れられる。

- 29** 神が黙っておられるなら、だれがとがめることができるだろうか。神が御顔を隠しておられるなら、だれが神を認めることができるだろうか。一つの国民においても、一人の人間においても同様だ。
- 30** それは、神を敬わない人間が治めたり、民を罾にかけたりしないようにするためだ。
- 31** 神に向かってだれかが言ったか。「私は懲らしめを受けました。私はもう悪いことはいたしません。
- 32** 私が見ていないことを、あなたが私に教えてください。私が不正をしたのでしたら、もういたしません」と。
- 33** あなたが反対するからといって、神はあなたの願うとおりに報復されるだろうか。私ではなく、あなたが選ぶがよい。あなたの知っていることを言うがよい。
- 34** 良識のある人々や、私に聞く、知恵のある人は私に言うだろう。
- 35** 「ヨブは知識もなしに語る。彼のことばは聡明さに欠けている」と。
- 36** どうか、ヨブが最後まで試されるように。彼は不法者のように、ことばを返すからだ。
- 37** 彼は自分の罪にさらに背きを加え、私たちの間で手を打ち鳴らし、神に対してことば数を多くする。

第35章

- 1 エリフはさらに言った。
- 2 あなたは、このことが正義によると見なしているのか。「私の義は神からだ」とでも言うのか。
- 3 というのは、あなたがこう言っているからだ。「何があなたの役に立つのでしょうか。私が罪から離れると、どんな利益があるのでしょうか」と。
- 4 私はあなたにことばを返そう。あなたとともにいる友人たちにも。
- 5 天を仰ぎ見よ。あなたより、はるかに高い雲をよく見よ。
- 6 あなたが罪を犯したとしても、あなたは神に対して何ができるのか。あなたの背きが多くあるとしても、神に対して何をなし得るのか。
- 7 あなたが正しかったとしても、神に何を与えられるのか。神は、あなたの手から何を受けられるのか。
- 8 あなたの悪は、ただあなたのような人間に、あなたの正しさは、人の子に関わるだけだ。
- 9 人々は、激しい抑圧のために泣き叫び、偉大な者の腕のために、助けを叫び求める。
- 10 しかし、だれも問わない。「私の造り主である神はどこにおられるのか。夜、ほめ歌を下さる方は。
- 11 地の獣に教えるより、私たちに多くを教え、空の鳥より、私たちを賢くする方は」と。
- 12 そこでは、彼らが泣き叫んでも神は答えない。悪人がおごり高ぶっているからだ。
- 13 神は決して偽りの叫びを聞き入れず、全能者はこれに心を留めない。
- 14 「神を見られない」とあなたが言うときには、なおさらだ。しかし訴えは神の前にある。あなたは神を待て。
- 15 しかし今、神は怒って罰しないだろうか。ひどい罪を知らずにいるだろうか。
- 16 ヨブは空しい口を開き、知識もなしに、自分の言い分を並べ立てている。

第36章

- 1 エリフはさらに続けて言った。
- 2 しばらく待て。あなたに示そう。まだ神のために言い分があるからだ。
- 3 私は遠くから私の意見を持って来て、私の造り主に義を返そう。
- 4 まことに、私の言い分は偽りではない。知識の完全な方が、あなたのそばにおられるのだ。
- 5 見よ。神は強いが、だれをも蔑まれない。その理解の力は強い。
- 6 神は悪しき者を生かしてはおかず、苦しむ者には権利を与えられる。
- 7 神は正しい者から目を離さず、彼らを王座にある王たちとともに、永遠に座に着かせる。こうして彼らは高くなる。
- 8 もし、彼らが鎖で縛られ、苦しみの縄に捕らえられたら、
- 9 神は彼らの行いを彼らに告げられる。彼らの背きを。彼らがおごり高ぶったからである。
- 10 神は彼らの耳を開いて戒め、不法から立ち返るように命じる。
- 11 もし彼らが聞き入れて神に仕えるなら、彼らは自分の日々を幸せのうちに、自分の年々を楽しみのうちに全うする。
- 12 しかし、もし聞き入れなければ、彼らは槍によって滅び、知識のないまま息絶える。
- 13 心で神を敬わない者は怒りを蓄え、神が彼らを縛るときでも、助けを叫び求めない。
- 14 彼らは若くして死に、そのいのちは腐れている。
- 15 神は苦しむ人をその苦しみの中で助け出し、抑圧の中で彼らの耳を開かれる。
- 16 神はまた、あなたを苦難の中から誘い出し、束縛のない広いところに導かれる。豊かな食物が備えられた、食卓での安らぎに。
- 17 あなたには悪しき者へのさばきが満ちている。さばきと公正があなたを捕らえる。
- 18 だからあなたは、憤って、豊かさに誘い込まれないようにせよ。身代金が多いからといって、それに惑わされないようにせよ。
- 19 あなたの叫びが並べ立てられても、力の限りが尽くされても、それは役に立たないのではないか。
- 20 人々が取り去られる夜を、あえぎ求めてはならない。
- 21 不法に向かわないように注意せよ。あなたは苦しみよりも、これを選んだのだから。
- 22 見よ、神は力にすぐれておられる。神のような教師が、だれかいるだろうか。
- 23 だれが神にその道を指図したのか。だれが「あなたは不正をした」と言ったのか。
- 24 神のみわざを覚えて賛美せよ。人々がほめ歌った、そのみわざを。
- 25 すべての人がこれを見、人が遠くからこれを眺める。
- 26 見よ。神はいと高く、私たちには知ることができない。その年の数も測り知ることができない。
- 27 神は水のしずくを引き上げ、それが雨を滴らせて、水の流れとなる。
- 28 雨雲がこれを降らせ、人の上に豊かに滴らせる。

- 29** いったい、だれが濃い雲の広がり、その幕屋のとどろきを理解できるだろうか。
- 30** 見よ。神はご自分の光をその上に照り渡らせ、また、海の底をおおわれる。
- 31** 神はこれらによって民をさばき、食物を豊かにお与えになる。
- 32** 神は稲妻を両手に包み、これに命じて的を撃たせられる。
- 33** その雷鳴は、神について告げ、家畜もまた、起こることについて告げる。

第37章

- 1 これによって私の心は震え、そこから離れ去るほどだ。
- 2 よく聞け。その御声が荒れ狂うのを。その御口から出るとどろきを。
- 3 神は、天の下のいたるところで放たれる。その稲妻を、地の隅々までも。
- 4 その後で雷が鳴りとどろく。神はいかめしい声で雷鳴をとどろかせ、その御声が聞こえるとき、手加減をなさらない。
- 5 神は御声で、驚くほどに雷鳴をとどろかせ、私たちの知り得ない大きなことをされる。
- 6 神は雪に対して、地に降れと命じ、夕立に、激しい大雨にも命じられる。
- 7 神はすべての人の手を封じ込められる。神の造った人間が知るために。
- 8 獣は巣にもぐり、洞穴の中にうずくまる。
- 9 つむじ風は天の間から、寒さは北の方から来る。
- 10 神の息によって氷が張り、広々とした水が凍りつく。
- 11 神は濃い雲に水気を含ませ、雲がその稲妻を放つ。
- 12 それは神の指図によって巡り回り、事を行う。神が命じるすべてのことを、世界の地の面で。
- 13 神は、懲らしめのため、ご自分の地のため、または恵みのために、これが起こるようにされる。
- 14 ヨブよ、これに耳を傾けよ。神の奇しいみわざを、立ち止まって考えよ。
- 15 あなたは知っているか。神がどのようにこれらに命じ、その雲に稲妻をひらめかせられるのかを。
- 16 あなたは知っているか。濃い雲のつり合いを、知識の完全な方の不思議なみわざを。
- 17 また、南風で地が黙するとき、あなたの衣がいかに熱くなるかを。
- 18 あなたは大空を神とともに張り広げられるのか。鑄た鏡のように硬いものを。
- 19 神に何と云うべきかを私たちに教えよ。闇があるので、ことばを並べることができない。
- 20 私が語りたいと、神に伝えられるだろうか。人がことばを発すれば、その人は必ず滅ぼされる。
- 21 今、光は見ることができない。それは雨雲の中に輝いている。しかし、風が吹いて雲を払いのけると、
- 22 北から黄金の輝きが現れ、神の周りには恐るべき威厳がある。
- 23 私たちが見出すことのできない全能者は、力にすぐれた方。さばきと正義に富み、苦しめることをなさらない。
- 24 だから、人々は神を恐れなければならない。神は心に知恵ある者を顧みられないだろうか。

第38章

- 1 主は嵐の中からヨブに答えられた。
- 2 知識もなしに言い分を述べて、摂理を暗くするこの者はだれか。
- 3 さあ、あなたは勇士のように腰に帯を締めよ。わたしはあなたに尋ねる。わたしに示せ。
- 4 わたしが地の基を定めたとき、あなたはどこにいたのか。分かっているなら、告げてみよ。
- 5 あなたは知っているはずだ。だれがその大きさを定め、だれがその上に測り縄を張ったかを。
- 6 その台座は何の上にはめ込まれたのか。あるいは、その要の石はだれが据えたのか。
- 7 明けの星々がともに喜び歌い、神の子たちがみな喜び叫んだときに。
- 8 海が嘔き出て、胎内から流れ出たとき、だれが戸でこれを閉じ込めたのか。
- 9 そのとき、わたしは雲をその衣とし、暗黒をその産衣とした。
- 10 わたしは、これを区切って境を定め、かんぬきと戸を設けて、
- 11 言った。「ここまでは来てもよい。しかし、これ以上はいけない。おまえの高ぶる波はここでとどまれ」と。
- 12 あなたは生まれてこのかた、朝に対して命令を下し、暁に対してあるべき場所を指し示して、
- 13 これに地の縁をつかませ、悪しき者をそこから振り落としたことがあるか。
- 14 地は押印された粘土のように姿を変え、そこにあるものは王服のように彩られる。
- 15 その光は悪しき者から退けられ、振り上げられた腕は折られる。
- 16 あなたは海の源まで行ったことがあるか。深淵の奥底を歩き回ったことがあるか。
- 17 死の門があなたに現れたことがあるか。死の陰の門を見たことがあるか。
- 18 地の広さを見極めたことがあるか。そのすべてを知っているなら、告げてみよ。
- 19 光の住む所への道はどこか。闇のあるその場所はどこか。
- 20 光をその国境まで連れて行くというのか。闇の家に至る通りを見分けるというのか。
- 21 あなたはよく知っているはずだ。そのとき、あなたは生まれていて、あなたの日数は多いのだから。
- 22 あなたは雪の倉に入ったことがあるか。雹の倉を見たことがあるか。
- 23 これらは、わたしがとどめているのだ。苦難の時のため、争いと戦いの日のために。
- 24 光が分かれる道はどこか。東風が地の上で分かれ広がる道は。
- 25 だれが、大水のために水路を、稲光のために道を切り開き、
- 26 人のいない地、人間のいない荒野に雨を降らせ、
- 27 荒れ果てた廃墟の地を満ち足らせ、それに若草を生えさせるのか。
- 28 雨に父があるのか。露のしずくはだれが生んだのか。
- 29 氷はだれの胎から出て来たのか。空の白い霜はだれが生んだのか。

- 30 水は姿を変えて石のようになり、深い淵の面は凍る。
- 31 あなたはすばるの鎖を結ぶことができるか。 オリオン座の綱を解くことができるか。
- 32 あなたは十二宮をその時にかなって、引き出すことができるか。 牡牛座をその子の星とともに 導くことができるか。
- 33 あなたは天の掟を知っているか。 地にその法則を立てることができるか。
- 34 あなたの声を密雲にまであげ、 みなぎる水に あなたをおおわせることができるか。
- 35 あなたは稲妻を向こうに行かせ、 あなたに向かって「私たちはここです」と 言わせることができるか。
- 36 だれが、隠されたところに知恵を置いたのか。 だれが、秘められたところに悟りを与えたのか。
- 37 だれが知恵をもって、 雨雲を数えることができるか。 だれが天の水袋を傾けることができるか。
- 38 土が溶け合って塊となり、 土くれが硬く固まるときに。
- 39 あなたは雌獅子のために獲物を狩り 若い獅子の食欲を満たすことができるか。
- 40 それらが洞穴に伏し、 茂みの中で待ち伏せしているときに。
- 41 烏に餌を備えるのはだれか。 烏の子が神に向かって鳴き叫び、 食物がなくてさまようときに。

第39章

- 1 あなたは岩間の野やぎが子を産む時を知っているか。雌鹿が子を産むのを見守ったことがあるか。
- 2 あなたはこれらがはらんでいる月を、数えることができるか。それらが子を産む時を知っているか。
- 3 それらは身をかがめて子を産み落とし、その胎児を放り出す。
- 4 その子たちは強くなり、野で大きくなる。すると出て行って、元のところには帰らない。
- 5 だれが野ろばを解き放ったのか。だれが野生のろばの綱をほどいたのか。
- 6 わたしが、荒れた地をその家とし、不毛の地をその住みかとしたのだ。
- 7 それは町の騒ぎをあざ笑い、追い立てる者の叫び声を聞かない。
- 8 山々を自分の牧場として歩き回り、青草なら何でも探し求める。
- 9 野牛が喜んであなたに仕えるだろうか。あなたの飼葉桶のそばで夜を過ごすだろうか。
- 10 あなたはあぜ溝で、野牛に手綱をかけることができるか。それが、あなたに従って谷間を耕すだろうか。
- 11 その力が強いからといって、あなたはそれに抛り頼むだろうか。あなた自身の働きをこれに任せるだろうか。
- 12 あなたはそう信じているのか。それがあなたの穀物を持ち帰り、あなたの打ち場で、これを集めるとでも。
- 13 だちょうは翼を誇らしげに羽ばたかせるが、その羽はこうのとりの羽毛のようだろうか。
- 14 だちょうは卵を地面に置き去りにし、これを砂の上で温まるに任せ、
- 15 自分の足がそれをつぶすかもしれないことを忘れている。野の獣が踏みつけるかもしれないことも。
- 16 だちょうは自分の子を、自分のものでないかのように荒く扱い、その産みの苦しみが、無駄になることも全く気にしない。
- 17 神がこれに知恵を忘れさせ、これに悟りを授けなかったからだ。
- 18 それが高く飛び跳ねるとき、馬とその乗り手をあざ笑う。
- 19 あなたが馬に力を与えるのか。その首にたてがみを付けるのか。
- 20 あなたはこれを、いなごのように飛び跳ねさせることができるのか。その威厳あるいななきは恐ろしい。
- 21 馬は谷間で、前かきをして力を喜び、武器に立ち向かって進んで行く。
- 22 恐怖をあざ笑って、ひるむことなく、剣の前から退くことはない。
- 23 矢筒はその上でうなり、槍と投げ槍はきらめく。
- 24 荒れ狂って、地を駆け回り、角笛の音に、じっとしてはいられない。
- 25 角笛が鳴るごとに、ヒヒーンといななき、遠くから戦いを嗅ぎつける。隊長の怒号、ときの声さえも。
- 26 あなたの考えによってか。鷹が舞い上がり、南にその翼を広げるのは。

- 27 あなたの命令によってか。驚が高く上がり、その巢を高いところに作るのは。
- 28 それは岩場に宿って住み、近寄りがたい切り立つ岩の上にいる。
- 29 そこから獲物をうかがい、その目は遠くまで見渡す。
- 30 ひなは血を吸い、殺されたもののところに、それはいる。

第40章

- 1 主はヨブに答えられた。
- 2 非難する者が全能者と争おうとするのか。神を責める者は、それに答えよ。
- 3 ヨブは主に答えた。
- 4 ああ、私は取るに足りない者です。あなたに何と口答えできるでしょう。私はただ手を口に当てるばかりです。
- 5 一度、私は語りました。もう答えません。二度、語りました。もう繰り返しません。
- 6 主は嵐の中からヨブに答えられた。
- 7 さあ、あなたは勇士のように腰に帯を締めよ。わたしはあなたに尋ねる。わたしに示せ。
- 8 あなたはわたしのさばきを無効にするつもりか。自分を義とするため、わたしを不義に定めるのか。
- 9 あなたには神のような腕があるのか。神のような声で雷鳴をとどろき渡らせるのか。
- 10 さあ、誉れと気高さで身を飾り、威厳と威光を身にまとえ。
- 11 あなたの激しい怒りを吐き散らし、すべて高ぶる者を見て、これを低くせよ。
- 12 すべて高ぶる者を見て、これを押さえ、悪者どもを、その場で踏みにじれ。
- 13 彼らをともに土のちりの中に隠し、その顔を隠れた所につなぎとめよ。
- 14 そうすれば、わたしもあなたをたたえて言う。「あなたの右の手は自分を救うことができる」と。
- 15 さあ、河馬を見よ。これはあなたと並べてわたしが造ったもの。牛のように草をはむ。
- 16 見よ。その力は腰にあり、その強さは腹の筋にある。
- 17 尾は杉の木のように垂れ下がり、ももの筋は絡み合っている。
- 18 骨は青銅の管、肋骨は鉄の棒のようだ。
- 19 これは神の作品の第一のもの、これを造った者が、その剣でこれに近づく。
- 20 山々はこの獣のために産物をもたらし、野の獣もみなそこで戯れる。
- 21 蓮の下にそれは横たわる。葦の茂み、沼地の中で。
- 22 蓮はこれをその陰でおおい、川の柳はこれを囲む。
- 23 たとえ川があふれても、慌てない。ヨルダン川が口に注ぎ込んでも、動じない。
- 24 その目をつかんで、これを捕らえられるか。畏にかけて、その鼻を突き通せるか。

第41章

- 1 あなたは釣り針で レビヤタンを釣り上げることができるか。 輪縄でその舌を押さえつけることができるか。
- 2 あなたは葦をその鼻に通すことができるか。 鉤をそのあごに突き通すことができるか。
- 3 これが、しきりにあなたに哀願し、優しく語りかけるだろうか。
- 4 これがあなたと契約を結び、あなたがこれを捕らえて、永久に奴隷とすることになるだろうか。
- 5 あなたは鳥と戯れるように、これと戯れ、娘たちのために、これをつなぐことができるか。
- 6 漁師仲間がこれを競りにかけ、商人たちの間で分けるだろうか。
- 7 あなたは銛でその皮を、やすでその頭を突くことができるだろうか。
- 8 その上にあなたの手を置いてみよ。 その戦いを思い出して、二度と手を出すな。
- 9 見よ。それに立ち向かう期待は裏切られる。 それを見ただけで圧倒されるではないか。
- 10 それを起こすほどの狂暴な者はいない。 そうであれば、だれがいったい、わたしの前に立つことができるだろうか。
- 11 だれが、まずわたしに与えたというのか。 わたしがそれに報いなければならないほどに。 天の下にあるものはみな、わたしのものだ。
- 12 そのからだの部分について わたしは黙ってはいられない。 その力強さと、その体格の見事さについて。
- 13 だれが、その外套をはぎ取ることができるか。 胸当ての折り目の間に入ることができるか。
- 14 だれが、その顔の戸を開けることができるか。 その歯の周りには恐怖がある。
- 15 その背は並んだ盾、封印したように固く閉じている。
- 16 一つ一つぴったり付いて、 風もその間を通れない。
- 17 互にくっつき、 固くつながって離れない。
- 18 そのくしゃみは光を放ち、 その目は暁のまぶたのようだ。
- 19 その口からは、たいまつが燃え出し、 火花が噴き出す。
- 20 その鼻からは煙が出て、 煮え立つ釜や、燃える葦のようだ。
- 21 その息は炭火をおこし、 その口からは炎が出る。
- 22 その首には力が宿り、 その前には恐れが踊る。
- 23 その肉のひだはつなぎ合わされ、 その身に固く付いて、揺るがない。
- 24 その心臓は石のように硬く、 臼の下石のように硬い。
- 25 それが起き上がると、力ある者もおじけづき、 おろおろして逃げ惑う。
- 26 それを剣で襲っても無駄だ。 槍でも、投げ矢でも、矢じりでも。
- 27 それは鉄を藁のように、 青銅を腐った木のように見なす。
- 28 矢によっても、それが逃げるようにはできず、 石投げの石も、それには藁となる。

- 29 こん棒さえ藁のように見なし、 投げ槍のうなる音をあざ笑う。
- 30 その下腹は鋭い土器のかけら、 それは打穀機のように泥の上に身を伸ばす。
- 31 それは深みを釜のように沸き立たせ、 海を、香油をかき混ぜる鍋のようにする。
- 32 それが通った跡には光が輝き、 深淵は白髪のように見なされる。
- 33 地の上に、これと似たものはなく、 恐れを知らないものとして造られた。
- 34 高いものすべてを見下ろし、 誇り高い獣すべての王である。

第42章

- 1 ヨブは主に答えた。
- 2 あなたには、すべてのことができること、どのような計画も不可能ではないことを、私は知りました。
- 3 あなたは言われます。「知識もなしに摂理をおおい隠す者はだれか」と。確かに私は、自分の理解できないことを告げてしまいました。自分では知り得ない、あまりにも不思議なことを。
- 4 あなたは言われます。「さあ、聞け。わたしが語る。わたしがあなたに尋ねる。わたしに示せ」と。
- 5 私はあなたのことを耳で聞いていました。しかし今、私の目があなたを見ました。
- 6 それで、私は自分を蔑み、悔いています。ちりと灰の中で。
- 7 主がこれらのことばをヨブに語った後、主はテマン人エリファズに言われた。「わたしの怒りはあなたとあなたの二人の友に向かって燃える。あなたがたが、わたしのしもべヨブのように、わたしについて確かなことを語らなかったからだ。
- 8 今、あなたがたは雄牛七頭と雄羊七匹を取って、わたしのしもべヨブのところに行き、自分たちのために全焼のささげ物を献げよ。わたしのしもべヨブがあなたがたのために祈る。わたしは彼の願いを受け入れるので、あなたがたの愚行に報いるようなことはしない。あなたがたは、わたしのしもべヨブのように、わたしについて確かなことを語らなかったが。」
- 9 テマン人エリファズと、シュア八人ビルダデと、ナアマ人ツォファルは行って、主が彼らに命じられたようにした。すると主はヨブの願いを受け入れられた。
- 10 ヨブがその友人たちのために祈ったとき、主はヨブを元どおりにされた。さらに主はヨブの財産をすべて、二倍にされた。
- 11 こうして彼のすべての兄弟、すべての姉妹、それに以前のすべての知人は、彼のところに来て、彼の家で一緒に食事をした。そして彼に同情し、主が彼の上にもたらされたすべてののわざわいについて、彼を慰めた。彼らはそれぞれ一ケシタと金の輪一つずつを彼に与えた。
- 12 主はヨブの後の半生を前の半生に増して祝福された。それで彼は羊一万四千匹、らくだ六千頭、牛一千くびき、雌ろば一千頭を持つことになった。
- 13 また、息子七人、娘三人を持った。
- 14 彼はその第一の娘をエミマ、第二の娘をケツィア、第三の娘をケレン・ハ・プクと名づけた。
- 15 ヨブの娘たちほど美しい女は、この地のどこにも見つからなかった。彼女たちの父は彼女たちに、その兄弟たちの間で相続地を分け与えた。
- 16 この後ヨブは百四十年生き、自分の子と、その子の子たちを四代目まで見た。
- 17 こうしてヨブは死んだ。年老いて満ち足りた生涯であった。

詩篇

Psalms

第1章

- 1 幸いなことよ 悪しき者のはかりごとに歩まず 罪人の道に立たず 嘲る者の座に着かない人。
- 2 主のおしえを喜びとし 昼も夜も そのおしえを口ずさむ人。
- 3 その人は 流れのほとりに植えられた木。 時が来ると実を結び その葉は枯れず そのなすことはすべて栄える。
- 4 悪しき者は そうではない。 まさしく 風が吹き飛ばす秕殻だ。
- 5 それゆえ 悪しき者はさばきに 罪人は正しい者の集いに 立ち得ない。
- 6 まことに 正しい者の道は主が知っておられ 悪しき者の道は滅び去る。

第2章

- 1 なぜ 国々は騒ぎ立ち もろもろの国民は空しいことを企むのか。
- 2 なぜ 地の王たちは立ち構え 君主たちは相ともに集まるのか。 主と 主に油注がれた者に対して。
- 3 「さあ 彼らのかせを打ち碎き 彼らの綱を解き捨てよう。」
- 4 天の御座に着いておられる方は笑い 主はその者どもを嘲られる。
- 5 そのとき主は 怒りをもって彼らに告げ 激しく怒って 彼らを恐れおののかせる。
- 6 「わたしが わたしの王を立てたのだ。 わたしの聖なる山 シオンに。」
- 7 「私は主の定めについて語ろう。 主は私に言われた。『あなたはわたしの子。 わたしが 今日 あなたを生んだ。
- 8 わたしに求めよ。 わたしは国々をあなたへのゆずりとして与える。 地の果ての果てまで あなたの所有として。
- 9 あなたは 鉄の杖で彼らを牧し 陶器師が器を砕くように粉々にする。』」
- 10 それゆえ今 王たちよ 悟れ。 地をさばく者たちよ 慎め。
- 11 恐れつつ 主に仕えよ。 おののきつつ震え 子に口づけせよ。
- 12 主が怒り おまえたちが道で滅びないために。 御怒りが すぐにも燃えようとしているからだ。 幸いなことよ すべて主に身を避ける人は。

第3章

- 1 主よ なんと私の敵が多くなり 私に向かい立つ者が多くいることでしょう。
- 2 多くの者が私のたましいのことを言っています。「彼には神の救いがない」と。セラ
- 3 しかし 主よ あなたこそ 私の周りを囲む盾 私の栄光 私の頭を上げる方。
- 4 私は声をあげて主を呼び求める。すると 主はその聖なる山から私に答えてくださる。セラ
- 5 私は身を横たえて眠り また目を覚ます。主が私を支えてくださるから。
- 6 私は幾万の民をも恐れぬ。彼らが私を取り囲もうとも。
- 7 主よ 立ち上がってください。私の神よ お救いください。あなたは私のすべての敵の頬を打ち 悪しき者の歯を砕いてくださいます。
- 8 救いは主にあります。あなたの民に あなたの祝福がありますように。セラ

第4章

- 1 私が呼ぶとき 答えてください。私の義なる神。追いつめられたとき あなたは私を解き放ってくださいました。私をあわれみ 私の祈りを聞いてください。
- 2 人の子たちよ いつまで私の栄光を辱め 空しいものを愛し 偽りを慕い求めるのか。セラ
- 3 知れ。主はご自分の聖徒を特別に扱われるのだ。私が呼ぶとき 主は聞いてくださる。
- 4 震えわななけ。罪を犯すな。心の中で語り 床の上で静まれ。セラ
- 5 義のいけにえを献げ 主に抛り頼め。
- 6 多くの者は言っています。「だれがわれわれに 良い目を見させてくれるのか」と。主よどうか あなたの御顔の光を 私たちの上に照らしてください。
- 7 あなたは喜びを私の心に下さいます。それは 彼らに穀物と新しいぶどう酒が 豊かにある時にもまさっています。
- 8 平安のうちに私は身を横たえ すぐ眠りにつきます。主よ ただあなただけが 安らかに私を住まわせてくださいます。

第5章

- 1 私のことばに耳を傾けてください。主よ。私のうめきを聞き取ってください。
- 2 私の叫ぶ声を耳に留めてください。私の王 私の神 私はあなたに祈っています。
- 3 主よ 朝明けに 私の声を聞いてください。朝明けに 私はあなたの御前に備えをし 仰ぎ望みます。
- 4 あなたは悪を喜ぶ神ではなく わざわいは あなたとともに住まないからです。
- 5 誇り高ぶる者たちは 御目の前に立つことはできません。あなたは不法を行う者をすべて憎まれます。
- 6 あなたは偽りを言う者どもを滅ぼされます。主は人の血を流す者や 欺く者を忌み嫌われます。
- 7 しかし私は あなたの豊かな恵みによって あなたの家に行き あなたを恐れつつ あなたの聖なる宮に向かってひれ伏します。
- 8 主よ 私を待ち伏せている者がいますから あなたの義によって私を導いてください。私の前に あなたの道をまっすぐにしてください。
- 9 彼らの口には真実がなく 心にあるのは破壊です。彼らの喉は開いた墓。彼らはその舌でへつらうのです。
- 10 神よ 彼らに責めを負わせてください。彼らが自分のはかりごとで倒れますように。その多くの背きのゆえに 彼らを追い散らしてください。あなたに逆らっているからです。
- 11 どうか あなたに身を避ける者がみな喜び とこしえまでも喜び歌いますように。あなたが彼らをかばってくださり 御名を愛する者たちが あなたを誇りますように。
- 12 主よ まことにあなたは 正しい者を祝福し 大盾のように いつくしみでおおってください。

第6章

- 1 主よ 御怒りで私を責めないでください。あなたの憤りで私を懲らしめないでください。
- 2 主よ 私をあわれんでください。私は衰えています。主よ 私を癒やしてください。私の骨は恐れおののいています。
- 3 私のたましいは ひどく恐れおののいています。主よ あなたはいつまで—。
- 4 主よ 帰って来て 私のたましいを助け出してください。私を救ってください。あなたの恵みのゆえに。
- 5 死においては あなたを覚えることはありません。よみにおいては だれが あなたをほめたたえるでしょう。
- 6 私は嘆きで疲れ果て 夜ごとに 涙で寝床を漂わせ ふしどを大水で押し流します。
- 7 私の目は苦悶で衰え 私のすべての敵のゆえに弱まりました。
- 8 不法を行う者たち みな私から離れて行け。主が私の泣く声を聞かれたからだ。
- 9 主は私の切なる願いを聞き 主は私の祈りを受け入れられる。
- 10 私の敵が みな恥を見 ひどく恐れおののきますように。彼らが退き 恥を見ますように。瞬く間に。

第7章

- 1 私の神 主よ 私はあなたに身を避けます。どうか 追迫するすべての者から 私を救い助け出してください。
- 2 彼らが獅子のように 私のたましいを引き裂き 助け出す者もなく さらって行かないように。
- 3 私の神 主よ もしも 私がこのことをしたのなら もしも 私の手に不正があるのなら
- 4 もしも 私が親しい友に悪い仕打ちをしたのなら また 私に敵対する者から ゆえなく奪ったのなら
- 5 敵が 私のたましいに追迫り 追いつき 私のいのちを地に踏みにじるようにし 私の栄光をちりの中に埋もれさせてください。セラ
- 6 主よ 御怒りをもって立ち上がり 私の敵の激しい怒りに対して ご自身を高くし 私のために目を覚ましてください。あなたはさばきを定められました。
- 7 国民の群れをあなたの周りに集め その上の高いみくらにお帰りください。
- 8 主は諸国の民にさばきを行われます。私の義と 私にある誠実にしたがって 主よ 私をさばいてください。
- 9 どうか 悪しき者の悪が後を絶ち あなたが正しい者を堅く立てられますように。正しい神は 心の深みまで調べられます。
- 10 私の盾は神にあり 神は心の直ぐな人を救われます。
- 11 神は正しい審判者 日々憤る神。
- 12 立ち返らない者には 剣を研ぎ 弓を張って 狙いを定められます。
- 13 その者に向かって 死の武器を構え その矢を燃える火矢とされます。
- 14 見よ その者は不法を宿し 害悪をはらみ 偽りを産んでいます。
- 15 彼は穴を掘って それを深くし 自分が作った穴に落ち込みます。
- 16 その害悪は自分の頭上に戻り その暴虐は自分の脳天に下ります。
- 17 私は主をほめたたえます。その義にふさわしく。いと高き方 主の御名をほめ歌います。

第8章

- 1 主よ 私たちの主よ あなたの御名は全地にわたり なんと力に満ちていることでしょう。
あなたのご威光は天でたたえられています。
- 2 幼子たち 乳飲み子たちの口を通して あなたは御力を打ち立てられました。 あなたに敵対
する者に応えるため 復讐する敵を鎮めるために。
- 3 あなたの指のわざである あなたの天 あなたが整えられた月や星を見るに
- 4 人とは何もののなのでしょう。 あなたが心に留められるとは。 人の子とはいったい何ものな
のでしょうか。 あなたが顧みてくださるとは。
- 5 あなたは 人を御使いより わずかに欠けがあるものとし これに栄光と誉れの冠を かぶら
せてくださいました。
- 6 あなたの御手のわざを人に治めさせ 万物を彼の足の下に置かれました。
- 7 羊も牛もすべて また野の獣も
- 8 空の鳥 海の魚 海路を通うものも。
- 9 主よ 私たちの主よ あなたの御名は全地にわたり なんと力に満ちていることでしょう。

第9章

- 1 心を尽くして 私は主に感謝をささげます。 あなたの奇しいみわざのすべてを語りあげます。
- 2 私はあなたを喜び 誇ります。 いと高き方よ あなたの御名をほめ歌います。
- 3 私の敵は退くとき 御前でつまずき ついえます。
- 4 あなたが 私の正しい訴えを聞かれるからです。 義の審判者として王座に着いておられるからです。
- 5 あなたは国々を叱り 悪しき者を滅ぼし 彼らの名を とこしえに消し去られました。
- 6 敵は絶え果てました。 —永遠の廃墟 あなたが根こそぎにされた町々— 彼らの記憶さえ消え失せました。
- 7 しかし 主はとこしえに御座に着き さばきのために王座を堅く立てられた。
- 8 主は義によって世界をさばき 公正をもって もろもろの国民をさばかれる。
- 9 主は虐げられた者の咎 苦しみのときの咎。
- 10 御名を知る者は あなたに拠り頼みます。 主よ あなたを求める者を あなたはお見捨てになりませんでした。
- 11 主にほめ歌を歌え シオンに住まうその方に。 主のみわざを告げ知らせよ 国々の民に。
- 12 血に報いる方は 彼らを心に留め 貧しい者の叫びをお忘れにならない。
- 13 主よ 私をあわれんでください。 私を憎む者から来る私の痛みをご覧ください。 死の門から私を引き上げてくださる方よ。
- 14 私は あなたのすべての誉れを語り告げるため 娘シオンの城門で あなたの救いに歓声をあげます。
- 15 国々は自分で作った穴に陥り 自分で隠した網に足を取られる。
- 16 主はご自身を知らしめ さばきを行われた。 悪しき者は自分の手で作った罠にかかった。
ヒガヨンセラ
- 17 悪しき者は よみに帰って行く。 神を忘れるあらゆる国々も。
- 18 貧しい者は決して忘れられることがなく 苦しむ者の望みは 永遠に失せることがない。
- 19 主よ 立ち上がり 人間が勝ち誇らないようにしてください。 国々が御前でさばかれるようにしてください。
- 20 主よ 彼らに恐れを起こさせ 国々に思い知らせてください。 自らが人間にすぎないことを。 セラ

第10章

- 1 主よ なぜ あなたは遠く離れて立ち 苦しみのときに 身を隠されるのですか。
- 2 悪しき者は高ぶって 苦しむ人に追い迫ります。彼らが自分の企みに捕らえられますように。
- 3 悪しき者は自分自身の欲望を誇り 貪欲な者は主を呪い 侮ります。
- 4 悪しき者は高慢を顔に表し 神を求めません。「神はいない。」これが彼の思いのすべてです。
- 5 彼の道はいつも栄え あなたのさばきは高すぎて 彼の目に入りません。敵という敵を 彼は吹き飛ばしてしまいます。
- 6 彼は心の中で言っています。「私は揺るがされることがなく 代々にわたって わざわいにあわない。」
- 7 彼の口は 呪いと欺きと虐げに満ち 舌の裏にあるのは 害悪と不法です。
- 8 彼は村外れの待ち伏せ場に座り 隠れた所で 咎なき者を殺します。彼の目は不幸な人をひそかに狙っています。
- 9 茂みの中の獅子のように 隠れ場で待ち伏せます。苦しむ人を 捕らえようと待ち伏せ 苦しむ人を 網にかけて捕らえてしまいます。
- 10 彼の強さに 不幸な人は 砕かれ 崩れ 倒れます。
- 11 彼は心の中で言っています。「神は忘れているのだ。顔を隠して 永久に見ることはないのだ。」
- 12 主よ 立ち上がってください。神よ 御手を上げてください。どうか 貧しい者を忘れないでください。
- 13 何のために 悪しき者は神を侮るのでしょうか。彼は心の中で あなたが追及することはないと言っています。
- 14 あなたは見ておられました。労苦と苦痛を じっと見つめておられました。それを御手の中に収めるために。不幸な人は あなたに身をゆだねます。みなしごは あなたがお助けになります。
- 15 悪しき者と邪悪な者の腕を折り その悪を探し出して 一つも残らないようにしてください。
- 16 主は世々にわたって 永遠の王。国々は主の地から滅び失せました。
- 17 主よ あなたは貧しい者たちの願いを 聞いてくださいます。あなたは彼らの心を強くし 耳を傾けてくださいます。
- 18 みなしごと虐げられた者を かばってください。地から生まれた人間が もはや 彼らをおびえさせることがないように。

第11章

- 1 主に私は身を避ける。 どうして あなたがたは私のたましいに言うのか。 「鳥のように自分の山に飛んで行け。
- 2 それ見よ 悪者どもが弓を張り 弦に矢をつがえ 暗がり で 心の直ぐな人を射抜こうとしている。
- 3 抛り所が壊されたら 正しい者に何ができるだろうか。」
- 4 主は その聖なる宮におられる。 主は その王座が天にある。 その目は見通し そのまぶたは人の子らを調べる。
- 5 主は正しい者と悪者を調べる。 そのみこころは 暴虐を好む者を憎む。
- 6 主は悪者どもの上に網を下す。 火と硫黄 燃える風が彼らへの杯。
- 7 主は正しく 正義を愛される。 直ぐな人は御顔を仰ぎ見る。

第12章

- 1 主よ お救いください。 敬虔な人は後を絶ち 誠実な人は 人の子らの中から消え去りました。
- 2 人は互いにむなしいことを話し へつらいの唇と 二心で話します。
- 3 主が へつらいの唇と傲慢の舌を ことごとく断ち切ってくださいますように。
- 4 彼らはこう言っています。 「われらはこの舌で勝つことができる。 この唇はわれらのものだ。 だれが われらの主人なのか。」
- 5 主は言われます。 「苦しむ人が踏みにじられ 貧しい人が嘆くから 今 わたしは立ち上がる。 わたしは彼を その求める救いに入れよう。」
- 6 主のことばは 混じり気のないことば。 土の炉で七度試され 純化された銀。
- 7 主よ あなたは彼らを守られます。 今の代からとこしえまでも 彼らを保たれます。
- 8 人の子の間で 卑しいことがあがめられているときには 悪しき者が いたるところで横行します。

第13章

- 1 主よ いつまでですか。あなたは私を永久にお忘れになるのですか。いつまで 御顔を私からお隠しになるのですか。
- 2 いつまで 私は自分のたましいのうちに 思い悩まなければならないのでしょうか。私の心には 一日中 悲しみがあります。いつまで 敵が私の上におごり高ぶるのですか。
- 3 私に目を注ぎ 私に答えてください。私の神 主よ。私の目を明るくしてください。私が死の眠りにつかないように。
- 4 「彼に勝った」と 私の敵が言わないように。私がぐらつくことを 逆らう者が喜ばないように。
- 5 私はあなたの恵みに拠り頼みます。私の心はあなたの救いを喜びます。
- 6 私は主に歌を歌います。主が私に良くしてくださいましたから。

第14章

- 1 愚か者は心の中で「神はいない」と言う。彼らは腐っていて 忌まわしいことを行う。善を行う者はいない。
- 2 主は天から人の子らを見下ろされた。悟る者 神を求める者がいるかどうかと。
- 3 すべての者が離れて行き だれもかれも無用の者となった。善を行う者はいない。だれ一人いない。
- 4 不法を行う者は みな知らないのか。彼らは わたしの民を食らいながらパンを食べ 主を呼び求めない。
- 5 見よ 彼らは大いに恐れた。神は 正しい一族とともにおられるからだ。
- 6 おまえたちは 苦しむ者の計画を 踏みにじろうとするだろう。しかし 主が彼の避け所である。
- 7 ああ イスラエルの救いがシオンから来るように。主が御民を元どおりにされるとき ヤコブは楽しみ。イスラエルは喜べ。

第15章

- 1 主よ だれが あなたの幕屋に宿るのでしょうか。だれが あなたの聖なる山に住むのでしょうか。
- 2 全き者として歩み 義を行い 心の中の真実を語る人。
- 3 舌をもって中傷せず 友人に悪を行わず 隣人へのそしりを口にしない人。
- 4 その目は 主に捨てられた者を蔑み 主を恐れる者を 彼は尊ぶ。損になっても 誓ったことは変えない。
- 5 利息をつけて金を貸すことはせず 潔白な人を不利にする賄賂を受け取らない。このように行う人は 決して揺るがされない。

第16章

- 1 神よ 私をお守りください。私はあなたに身を避けています。
- 2 私は主に申し上げます。「あなたこそ 私の主。私の幸いは あなたのほかにはありません。」
- 3 地にある聖徒たちには威厳があり 私の喜びはすべて 彼らの中にあります。
- 4 ほかの神に走った者の痛みは 増し加わります。私は 彼らが献げる血の酒を注がず その名を口にいたしません。
- 5 主は私への割り当て分 また杯。あなたは 私の受ける分を堅く保たれます。
- 6 割り当ての地は定まりました。私の好む所に。実にすばらしい 私へのゆずりの地です。
- 7 私はほめたたえます。助言を下さる主を。実に 夜ごとに内なる思いが私を教えます。
- 8 私はいつも 主を前にしています。主が私の右におられるので 私は揺るがされることがありません。
- 9 それゆえ 私の心は喜び 私の胸は喜びにあふれます。私の身も安らかに住まいます。
- 10 あなたは 私のたましいをよみに捨て置かず あなたにある敬虔な者に 滅びをお見せにならないからです。
- 11 あなたは私に いのちの道を知らせてくださいます。満ち足りた喜びが あなたの御前にあり 楽しみが あなたの右にとこしえにあります。

第17章

- 1 主よ 聞いてください 正しい訴えを。耳に留めてください 私の叫びを。耳に入れてください 私の祈りを。これらは欺きの唇から出たものではありません。
- 2 あなたの御前で 私のためのさばきが行われ 御目が 正しいことに注がれますように。
- 3 あなたは私の心を調べ 夜 私を問いただされました。私を炉で試されましたが 何も見つかりません。私は 口の過ちを犯さないように心がけました。
- 4 人としての行いは あなたの唇のことばに従い 無法者が行く道を避けました。
- 5 私の歩みは あなたの道を堅く守り 私の足は揺るぎませんでした。
- 6 神よ 私はあなたを呼び求めました。あなたは私に答えてくださるからです。私に耳を傾けて 私のことばを聞いてください。
- 7 あなたの右の手で 奇しい恵みをお示してください。向かい立つ者どもから 身を避ける者を救う方。
- 8 瞳のように私を守り 御翼の陰にかくまってください。
- 9 私を襲う悪しき者から 私を取り巻く貪欲な敵から。
- 10 彼らは 鈍い心を固く閉ざし その口をもって高慢に語ります。
- 11 彼らは私たちの跡をつけ 今 取り囲み 目を据えて 地に投げ倒そうとしています。
- 12 それはまるで かみ裂くことに飢えた獅子 待ち伏せしている若い獅子のようです。
- 13 主よ 立ち上がり 彼の前に進み行き 打ちのめしてください。あなたの剣で 悪しき者から 私のたましいを助け出してください。
- 14 主よ 御手をもって人々から 相続分が地上のいのちであるこの世の人々から 私のたましいを助け出してください。あなたの蓄えで 彼らの腹は満たされ 子たちは満ち足り その余りを さらにその幼子らに残します。
- 15 しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。

第18章

- 1 彼は言った。わが力なる主よ。私はあなたを慕います。
- 2 主はわが巖 わが砦 わが救い主 身を避けるわが岩 わが神。わが盾 わが救いの角 わがやぐら。
- 3 ほめたたえられる方。この主を呼び求めると 私は敵から救われる。
- 4 死の綱は私を取り巻き 滅びの激流は私をおびえさせた。
- 5 よみの綱は私を取り囲み 死の罟は私に立ち向かった。
- 6 私は苦しみの中で主を呼び求め わが神に叫び求めた。主はその宮で私の声を聞かれ 御前への叫びは 御耳に届いた。
- 7 地は揺るぎ 動いた。山々の基も震え 揺れた。主がお怒りになったからだ。
- 8 煙は鼻から立ち上り その口から出る火は貪り食い 炭火は主から燃え上がった。
- 9 主は 天を押し曲げて降りて来られた。黒雲をその足の下にして。
- 10 主は ケルビムに乗って飛び 風の翼で天翔られた。
- 11 主は闇を隠れ家とし 水の暗闇 濃い雲を ご自分の周りで仮庵とされた。
- 12 御前の輝きから 密雲を突き抜けて来たもの。それは 雹と燃える炭。
- 13 主は天に雷鳴を響かせ いと高き方は御声を発せられた。雹 そして燃える炭。
- 14 主はご自分の矢を放って 彼らを散らし すさまじい稲妻を放って かき乱された。
- 15 こうして 水の底が現れ 地の基があらわにされた。主よ あなたのとがめにより あなたの鼻の荒い息吹によって。
- 16 主は いと高き所から御手を伸ばして私を捕らえ 大水から私を引き上げられました。
- 17 主は 力ある敵から私を救い出されました。私を憎む者どもからも。彼らが私より強かったからです。
- 18 私のわざわいの日に 彼らは立ちはだかりました。けれども 主は私の支えとなりました。
- 19 主は私を広いところに導き出し 私を助け出してくださいました。主が私を喜びとされたからです。
- 20 主は 私の義にしたがって私に報い 手のきよさにしたがって 顧みてくださいました。
- 21 私は主の道を守り 私の神に対して悪を行いませんでした。
- 22 主のすべてのさばきは私の前にあり 主のおきてを 私は遠ざけませんでした。
- 23 私は主の前に全き者。自分の咎から身を守ります。
- 24 主は 私の義にしたがって顧みてくださいました。御目の前の この手のきよさにしたがって。
- 25 あなたは 恵み深い者には恵み深く 全き者には全き方。
- 26 清い者には清く 曲がった者にはねじ曲げる方。
- 27 まことにあなたは 苦しむ民を救い 高ぶる目を低くされます。

- 28 まことにあなたは 私のともしびをともされます。私の神 主は 私の闇を照らされます。
- 29 あなたによって 私は防塞を突き破り 私の神によって 城壁を跳び越えます。
- 30 神 その道は完全。主のことは純粹。主は すべて主に身を避ける者の盾。
- 31 主のほかに だれが神でしょうか。私たちの神を除いて だれが岩でしょうか。
- 32 神は私に力を帯びさせ 私の道を全きものとされます。
- 33 主は 私の足を雌鹿のようにし 高い所に立たせてくださいます。
- 34 戦いのために私の手を鍛え 腕が青銅の弓も引けるようにしてくださいます。
- 35 あなたは 御救いの盾を私に下さいます。あなたの右の手は私を支え あなたの謙遜は私を大きくします。
- 36 あなたは私の歩みを大きくし 私のくるぶしはゆるみません。
- 37 私は 敵を追ってこれに追いつき 絶ち滅ぼすまでは引き返しませんでした。
- 38 私が彼らを打ち砕いたので 彼らは立てず 私の足もとに倒れました。
- 39 あなたは 戦いのために私に力を帯びさせ 向かい立つ者を私のもとにひれ伏させました。
- 40 あなたは 敵が 私を憎む者どもが 私に背を見せるようにされました。私は彼らを滅ぼしました。
- 41 彼らが主に叫び求めても 救う者はなく 答えもありませんでした。
- 42 風の前のちりのように 私は彼らを粉々に砕き 道の泥のように 除き去りました。
- 43 あなたは 民の争いから私を助け出し 国々のかしらに任じられました。私の知らなかった民が私に仕えます。
- 44 彼らは 耳で聞くとすぐ 私に聞き従います。異国の人々は 私にへつらいます。
- 45 異国の人々は打ちしおれ 砦から震えて出て来ます。
- 46 主は生きておられる。ほむべきかな わが岩。あがむべきかな わが救いの神。
- 47 この神は 私のために復讐する方。諸国の民を私のもとに従わせてくださる。
- 48 神は 敵から私を助け出される方。実にあなたは 向かい立つ者から私を引き上げ 不法を行う者から救い出してください。
- 49 それゆえ 主よ 私は国々の間であなたをほめたたえます。あなたの御名をほめ歌います。
- 50 主は ご自分の王に救いを増し加え 主に油注がれた者ダビデとその裔に とこしえに恵みを施されます。

第19章

- 1 天は神の栄光を語り告げ 大空は御手のわざを告げ知らせる。
- 2 昼は昼へ話を伝え 夜は夜へ知識を示す。
- 3 話しもせず 語りもせず その声も聞こえない。
- 4 しかし その光芒は全地に そのことばは世界の果てまで届いた。神は天に 太陽のために幕屋を設けられた。
- 5 花婿のように 太陽は部屋から出て 勇士のように 走路を喜び走る。
- 6 天の果てから それは昇り 天の果てまで それは巡る。その熱から 隠れ得るものは何もない。
- 7 主のおしえは完全で たましいを生き返らせ 主の証しは確かで 浅はかな者を賢くする。
- 8 主の戒めは真っ直ぐで 人の心を喜ばせ 主の仰せは清らかで 人の目を明るくする。
- 9 主からの恐れはきよく とこしえまでも変わらない。主のさばきはまことであり ことごとく正しい。
- 10 それらは 金よりも 多くの純金よりも慕わしく 蜜よりも 蜜蜂の巣の滴りよりも甘い。
- 11 あなたのしもべも それらにより戒めを受け それを守れば 大きな報いがあります。
- 12 だれが 自分の過ちを悟ることができるでしょう。どうか 隠れた罪から私を解き放ってください。
- 13 あなたのしもべを 傲慢から守ってください。それらが私を支配しないようにしてください。そのとき私は 大きな背きから解き放たれて 全き者となるでしょう。
- 14 私の口のことばと 私の心の思いとが 御前に受け入れられますように。主よ わが岩 わが贖い主よ。

第20章

- 1 苦難の日に 主があなたにお答えになりますように。 ヤコブの神の御名が あなたを高く上げますように。
- 2 主が聖所からあなたに助けを送り シオンからあなたを支えられますように。
- 3 あなたの穀物のささげ物をすべて心に留め あなたの全焼のささげ物を 受け入れてくださいますように。 セラ
- 4 あなたの心の望みを 主がかなえてくださいますように。 あなたのすべての計画を 遂げさせてくださいますように。
- 5 私たちは あなたの勝利を喜び歌い 私たちの神の御名により 旗を高く掲げます。 あなたの願いのすべてを 主が遂げさせてくださいますように。
- 6 今 私は知る。 主が 主に油注がれた者を救ってくださることを。 右の御手の救いの御力をもって 聖なる天から その者に答えてくださることを。
- 7 ある者は戦車を ある者は馬を求める。 しかし私たちは 私たちの神 主の御名を呼び求める。
- 8 彼らは膝をつき 倒れた。 しかし私たちは まっすぐに立ち上がった。
- 9 主よ 王をお救いください。 私たちが呼ぶときに答えてください。

第21章

- 1 主よ あなたの御力を王は喜びます。あなたの御救いを どんなに楽しむことでしょう。
- 2 あなたは 彼の心の望みをかなえ 唇の願いを退けられません。セラ
- 3 あなたは 幸いに至る祝福をもって彼を迎え 頭に純金の冠を置かれます。
- 4 いのちを 彼はあなたに願い あなたは彼にそれをお与えになります。いつまでも とこしえまでも限りなく。
- 5 御救いによって 彼の栄光は大いなるものとなり 威厳と威光を あなたは彼の上に置かれます。
- 6 あなたは とこしえに彼に祝福を与え 御前で喜び樂しませてくださいます。
- 7 王は 主に信賴しているので いと高き方の恵みにあつて揺るぎません。
- 8 あなたの御手は すべての敵を見つけ出し あなたの右の手は あなたを憎む者を見つけ出します。
- 9 あなたの現れるとき あなたは彼らを燃える炉のようにされます。主は御怒りによって彼らを呑み尽くし 火は彼らを食い尽くします。
- 10 地の上から彼らの裔を 人の子らの中から彼らの子孫を あなたは滅ぼしてしまわれます。
- 11 彼らがあなたに対して悪を企て 計略をめぐらしても 成し遂げられません。
- 12 あなたは彼らが背を見せるようにし 弓弦を引き 彼らの顔を狙われます。
- 13 主よ あなたの御力のゆえに あなたがあがめられますように。大いなる御力を 私たちは歌い ほめ歌います。

第22章

- 1 わが神 わが神 どうして私をお見捨てになったのですか。私を救わず 遠く離れておられるのですか。私のうめきのことばにもかかわらず。
- 2 わが神 昼に私はあなたを呼びます。しかし あなたは答えてくださいません。夜にも私は黙っていられません。
- 3 けれども あなたは聖なる方 御座に着いておられる方 イスラエルの賛美です。
- 4 あなたに 私たちの先祖は信頼しました。彼らは信頼し あなたは彼らを助け出されました。
- 5 あなたに叫び 彼らは助け出されました。あなたに信頼し 彼らは恥を見ませんでした。
- 6 しかし 私は虫けらです。人間ではありません。人のそしりの的 民の蔑みの的です。
- 7 私を見る者はみな 私を嘲ります。口をとがらせ 頭を振ります。
- 8 「主に身を任せよ。助け出してもらえばよい。主に救い出してもらえ。彼のお気に入りなのだから。」
- 9 まことに あなたは私を母の胎から取り出した方。母の乳房に抛り頼ませた方。
- 10 生まれる前から 私はあなたにゆだねられました。母の胎内にいたときから あなたは私の神です。
- 11 どうか 私から遠く離れないでください。苦しみが近くにあり 助ける者がいないのです。
- 12 多くの雄牛が私を取り囲み バシヤンの猛者どもが私を囲みました。
- 13 彼らは私に向かって 口を開けています。かみ裂く 吼えたける獅子のように。
- 14 水のように 私は注ぎ出され 骨はみな外れました。心は ろうのように私のうちで溶けました。
- 15 私の力は 土器のかげらのように乾ききり 舌は上あごに貼り付いています。死のちりの上に あなたは私を置かれます。
- 16 犬どもが私を取り囲み 悪者どもの群れが私を取り巻いて 私の手足にかみついたからです。
- 17 私は 自分の骨をみな数えることができます。彼らは目を凝らし 私を見ています。
- 18 彼らは私の衣服を分け合い 私の衣をくじ引きにします。
- 19 主よ あなたは離れないでください。私の力よ 早く助けに来てください。
- 20 救い出してください。私のたましいを剣から。私のただ一つのことを犬の手から。
- 21 救ってください。獅子の口から 野牛の角から。あなたは 私に答えてくださいました。
- 22 私は あなたの御名を兄弟たちに語り告げ 会衆の中であなたを賛美します。
- 23 主を恐れる人々よ 主を賛美せよ。ヤコブのすべての裔よ 主をあがめよ。イスラエルのすべての裔よ 主の前におののけ。
- 24 主は 貧しい人の苦しみを蔑まず いとわず 御顔を彼から隠すことなく 助けを叫び求めたとき 聞いてくださった。
- 25 大いなる会衆の中での私の賛美は あなたからのものです。私は誓いを果たします。主を恐れる人々の前で。

- 26 どうか 貧しい人々が食べて満ち足り 主を求める人々が主を賛美しますように。 —あなたがたの心がいつまでも生きるように—
- 27 地の果てのすべての者が 思い起こし 主に帰って来ますように。 国々のあらゆる部族も あなたの御前にひれ伏しますように。
- 28 王権は主のもの。 主は 国々を統べ治めておられます。
- 29 地の裕福な者はみな 食べてひれ伏し ちりに下る者もみな 主の御前にひざまずきます。 自分のたましいを生かすことができない者も。
- 30 子孫たちは主に仕え 主のことが 世代を越えて語り告げられます。
- 31 彼らは来て 生まれてくる民に 主の義を告げ知らせます。 主が義を行われたからです。

第23章

- 1 主は私の羊飼い。 私は乏しいことはありません。
- 2 主は私を緑の牧場に伏させ いこいのみぎわに伴われます。
- 3 主は私のたましいを生き返らせ 御名のゆえに 私を義の道に導かれます。
- 4 たとえ 死の陰の谷を歩むとしても 私はわざわいを恐れません。 あなたが ともにおられますから。 あなたのむちとあなたの杖 それが私の慰めです。
- 5 私の敵をよそに あなたは私の前に食卓を整え 頭に香油を注いでくださいます。 私の杯はあふれています。
- 6 まことに 私のいのちの日の限り いくしみと恵みが 私を追って来るでしょう。 私はいつまでも 主の家に住まいます。

第24章

- 1 地とそこに満ちているもの 世界とその中に住んでいるもの それは主のもの。
- 2 主が 海に地の基を据え 川の上に それを堅く立てられたからだ。
- 3 だれが 主の山に登り得るのか。 だれが 聖なる御前に立てるのか。
- 4 手がきよく 心の澄んだ人 そのたましいをむなしいものに向けず 偽りの誓いをしない人。
- 5 その人は 主から祝福を受け 自分の救いの神から義を受ける。
- 6 これこそヤコブの一族。 神を求める者たち あなたの御顔を慕い求める人々である。 セラ
- 7 門よ おまえたちの頭を上げよ。 永遠の戸よ 上がれ。 栄光の王が入って来られる。
- 8 栄光の王とは だれか。 強く 力ある主。 戦いに力ある主。
- 9 門よ おまえたちの頭を上げよ。 永遠の戸よ 上がれ。 栄光の王が入って来られる。
- 10 栄光の王 それはだれか。 万軍の主 この方こそ栄光の王。 セラ

第25章

- 1 主よ あなたを わがたましいは仰ぎ求めます。
- 2 わが神 あなたに 私は信頼いたします。どうか私が恥を見ないように 敵が私に勝ち誇らないようにしてください。
- 3 まことに あなたを待ち望む者がだれも恥を見ず ゆえなく裏切る者が 恥を見ますように。
- 4 主よ あなたの道を私に知らせ あなたの進む道を私に教えてください。
- 5 あなたの真理に私を導き 教えてください。あなたこそ 私の救いの神 私は あなたを一日中待ち望みます。
- 6 主よ 思い起こしてください。あなたのあわれみと恵みを。それらは とこしえからのものです。
- 7 私の若いころの罪や背きを 思い起こさないでください。あなたの恵みによって 私を覚えていてください。主よ あなたのいつくしみのゆえに。
- 8 主は いつくしみ深く正しくあられます。それゆえ 罪人に道をお教えになります。
- 9 主は貧しい者を正義に歩ませ 貧しい者にご自分の道をお教えになります。
- 10 主の道はみな恵みとまことです。主の契約とさとしを守る者には。
- 11 主よ あなたの御名のゆえに 私の咎をお赦してください。それは大きいのです。
- 12 主を恐れる人は だれか。主はその人に選ぶべき道をお教えになる。
- 13 その人のたましいは 幸せの中に宿り その子孫は地を受け継ぐ。
- 14 主は ご自分を恐れる者と親しく交わり その契約を彼らにお知らせになる。
- 15 私の目はいつも主に向かう。主が私の足を罨から引き出してくださるから。
- 16 私に御顔を向け 私をあわれんでください。私はひとり 苦しんでいます。
- 17 私の心の苦しみが大きくなりました。どうか この苦悩から私を引き出してください。
- 18 私の悩みと労苦を見て 私のすべての罪を赦してください。
- 19 ご覧ください。私の敵がどんなに多いかを。彼らは不当な憎しみで 私を憎んでいます。
- 20 私のたましいを守り 私を救い出してください。私が恥を見ないようにしてください。私はあなたに身を避けます。
- 21 誠実で直ぐな心で 私が保たれますように。私はあなたを待ち望んでいますから。
- 22 神よ イスラエルを そのすべての苦難から贖い出してください。

第26章

- 1 主よ 私を弁護してください。私は誠実に歩み よろめくことなく 主に信頼しています。
- 2 主よ 私を調べ 試みてください。私の心の深みまで精錬してください。
- 3 あなたの恵みは 私の目の前にあり あなたの真理のうちに 私は歩み続けました。
- 4 私は不信実な人とともに座らず 偽善者とともに行きません。
- 5 悪を行う者の集まりを憎み 悪しき者とともに座りません。
- 6 手を洗い 自らの潔白を示します。主よ 私はあなたの祭壇の周りを歩きます。
- 7 感謝の声を響き渡らせて 語り告げます。あなたの奇しいみわざのすべてを。
- 8 主よ 私は愛します。あなたの住まいのある所 あなたの栄光のとどまる所を。
- 9 どうか私のたましいを 罪人どもとともに 私のいのちを 人の血を流す者どもとともに 取り去らないでください。
- 10 彼らの手には悪事があり その右の手は賄賂で満ちているのです。
- 11 しかし私は 誠実に歩みます。私を贖い出してください。あわれんでください。
- 12 私の足は平らな所に立っています。数々の集いで 私は主をほめたたえます。

第27章

- 1 主は私の光 私の救い。だれを私は恐れよう。主は私のいのちの砦。だれを私は怖がろう。
- 2 私の肉を食らおうと 悪を行う者が私に襲いかかったとき 崩れ落ちたのは 私に逆らう者 私の敵であった。
- 3 たとえ 私に対して陣営が張られても 私の心は恐れない。たとえ 私に対して戦いが起こっても それにも私は動じない。
- 4 一つのことを私は主に願った。それを私は求めている。私のいのちの日の限り 主の家に住むことを。主の麗しさに目を注ぎ その宮で思いを巡らすために。
- 5 それは 主が 苦しみの日私を隠れ場に隠し その幕屋のひそかな所に私をかくまい 岩の上に私を上げてくださるからだ。
- 6 今 私の頭は 私を取り囲む敵の上に高く上げられる。私は 主の幕屋で喜びのいけにえをささげ 主に歌い ほめ歌を歌おう。
- 7 聞いてください 主よ。私が呼ぶこの声を。私をあわれみ 私に答えてください。
- 8 あなたに代わって 私の心は言います。「わたしの顔を慕い求めよ」と。主よ あなたの御顔を私は慕い求めます。
- 9 どうか 御顔を私に隠さないでください。あなたのしもべを 怒って 押しのけないでください。あなたは私の助けです。見放さないでください。見捨てないでください。私の救いの神よ。
- 10 私の父 私の母が私を見捨てるときは 主が私を取り上げてくださいます。
- 11 主よ あなたの道を私に教えてください。私を待ち伏せている者どもがいますから 私を平らな道に導いてください。
- 12 私を敵の意のままにさせないでください。偽りの証人どもが私に向かい立ち 暴言を吐いているのです。
- 13 もしも 私が 生ける者の地で主のいつくしみを見ると 信じていなかったなら—。
- 14 待ち望め 主を。雄々しくあれ。心を強くせよ。待ち望め 主を。

第28章

- 1 主よ 私はあなたを呼び求めます。わが岩よ どうか私に耳を閉ざさないでください。私に沈黙しないでください。私が 穴に下る者どもと同じにされないように。
- 2 私の願いの声を聞いてください。私があなたに助けを叫び求めるとき。私の手を あなたの聖所の奥に向けて上げるとき。
- 3 どうか 悪者や不法を行う者どもと一緒に 私を引いて行かないでください。彼らは隣人と平和を語りながら その心には悪があるのです。
- 4 彼らの行いとその悪にしたがって 彼らに報いてください。その手のわざにしたがって彼らに報い その仕打ちに報復してください。
- 5 彼らは 主のなさることも 御手のわざをも悟らないので 主は彼らを打ち壊し 建て直すことはされません。
- 6 ほむべきかな 主。主は私の願いの声を聞かれた。
- 7 主は私の力 私の盾。私の心は主に拠り頼み 私は助けられた。私の心は喜び躍り 私は歌をもって主に感謝しよう。
- 8 主は彼らの力。主は 主に油注がれた者の救いの砦。
- 9 どうか御民を救ってください。あなたのゆずりの民を祝福してください。どうか彼らの羊飼いとなって いつまでも彼らを携え導いてください。

第29章

- 1 力ある者の子らよ。主に帰せよ。栄光と力を主に帰せよ。
- 2 御名の栄光を主に帰せよ。聖なる装いをして主にひれ伏せ。
- 3 主の声は水の上にあり 栄光の神は雷鳴をとどろかせる。主は大水の上におられる。
- 4 主の声は力強く 主の声は威厳がある。
- 5 主の声は 杉の木を引き裂き 主は レバノンの杉を打ち砕く。
- 6 それらの木々を子牛のように レバノンとシルヨンを 若い野牛のように 跳ねさせる。
- 7 主の声は 炎の穂先をひらめかせる。
- 8 主の声は 荒野を揺さぶり 主は カデシュの荒野を揺さぶる。
- 9 主の声は 雌鹿をもだえさせ 大森林を裸にする。主の宮では すべてのものが「栄光」と言う。
- 10 主は 大洪水の前から 御座に着いておられる。主は とこしえに 王座に着いておられる。
- 11 主は ご自分の民に力をお与えになる。主は ご自分の民を 平安をもって祝福される。

第30章

- 1 主よ 私はあなたをあがめます。あなたは私を引き上げ 私の敵が喜ばないようにされたからです。
- 2 わが神 主よ 私が叫び求めると あなたは私を癒やしてくださいました。
- 3 主よ あなたは私のたましいをよみから引き上げ 私を生かしてくださいました。私が穴に下って行かないように。
- 4 主にある敬虔な者たちよ 主をほめ歌え。主の聖なる御名に感謝せよ。
- 5 まことに 御怒りは束の間 いのちは恩寵のうちにある。夕暮れには涙が宿っても 朝明けには喜びの叫びがある。
- 6 私は平安のうちに言った。「私は決して揺るがされない」と。
- 7 主よ あなたはご恩寵のうちに 私を私の山に堅く立たせてくださいました。あなたが御顔を隠されると 私はおじ惑いました。
- 8 主よ あなたを私は呼び求めます。私の主にあわれみを乞います。
- 9 私が墓に下っても 私の血に何の益があるのでしょうか。ちりが あなたをほめたたえるのでしょうか。あなたのまことを告げるのでしょうか。
- 10 聞いてください 主よ。私をあわれんでください 主よ。私の助けとなってください。
- 11 あなたは私のために 嘆きを踊りに変えてくださいました。私の粗布を解き 喜びをまとわせてくださいました。
- 12 私のたましいが あなたをほめ歌い 押し黙ることがないために。私の神 主よ 私はどこしえまでも あなたに感謝します。

第31章

- 1 主よ 私はあなたに身を避けています。私が決して恥を見ないようにしてください。あなたの義によって 私を助け出してください。
- 2 私に耳を傾け 急いで私を救い出してください。私の力の岩となり 強い砦となって 救ってください。
- 3 あなたこそ私の巖 私の砦。あなたの御名のゆえに 私を導き 私を伴ってください。
- 4 あなたは 私を狙って隠された網から 私を引き出してくださいます。あなたは私の力です。
- 5 私の霊をあなたの御手にゆだねます。まことの神 主よ。あなたは私を贖い出してくださいます。
- 6 空しい偶像につく者を 私は憎みます。この私は 主に信頼しています。
- 7 あなたの恵みを 私は楽しみ喜びます。あなたは私の悩みをご覧になり 私のたましいの苦しみをご存じです。
- 8 あなたは私を敵の手に引き渡さず 私の足を広いところに立たせてくださいました。
- 9 私をあわれんでください。主よ。私は苦しんでいるのです。私の目は苦悶で衰え果てました。私のたましいも 私のからだも。
- 10 悲しみのうちに 私のいのちは尽き 嘆きのうちに 私の年は果てました。私の咎によって 私の力は弱まり 私の骨は衰えてしまいました。
- 11 敵対するすべての者から 私はそしられました。わけても 私の隣人から。知り合いには恐れられ 外で私を見る者は 私を避けて離れ去ります。
- 12 死人のように 私は人の心から忘れられ 壊れた器のようになりました。
- 13 私は多くの者がささやくうわさを聞きました。「恐怖が取り囲んでいる」と。彼らは私に対して謀議をめぐらし 私のいのちを取ろうと図りました。
- 14 しかし 主よ 私はあなたに信頼します。私は告白します。「あなたこそ私の神です。」
- 15 私の時は御手の中にあります。私を救い出してください。敵の手から 追い迫る者の手から。
- 16 御顔を しもべの上に照り輝かせてください。あなたの恵みによって 私をお救いください。
- 17 主よ 私が恥を見ないようにしてください。私はあなたを呼び求めていますから。悪しき者どもを辱めてください。彼らが黙って よみへと下るように。
- 18 偽りの唇を封じてください。それは 正しい者に横柄に語っています。高ぶりと蔑みをもって。
- 19 なんと大きいのでしょうか。あなたのいつくしみは。あなたを恐れる者のために あなたはそれを蓄え あなたに身を避ける者のために 人の子らの目の前で それを備えられました。
- 20 あなたは 彼らを人のそしりから 御顔の前にひそかにかくまい 舌の争いから 隠れ場に隠されます。

- 21 主はほむべきかな。主は 堅固な城壁の町の中で 私に奇しい恵みを施してくださいました。
- 22 私は うろたえて言いました。「私はあなたの目の前から断たれたのだ」と。しかし 私の願いの声をあなたは聞かれました。私があるに叫び求めたときに。
- 23 主を愛せよ。すべて主にある敬虔な者たち。主は誠実な者を保たれるが 高ぶる者には 厳しく報いをされる。
- 24 雄々しくあれ。心を強くせよ。すべて主を待ち望む者よ。

第32章

- 1 幸いなことよ その背きを赦され 罪をおおわれた人は。
- 2 幸いなことよ 主が咎をお認めにならず その霊に欺きがない人は。
- 3 私が黙っていたとき 私の骨は疲れきり 私は一日中うめきました。
- 4 昼も夜も 御手が私の上に重くのしかかり 骨の髄さえ 夏の日照りで乾ききったからです。セラ
- 5 私は自分の罪をあなたに知らせ 自分の咎を隠しませんでした。私は言いました。「私の背きを主に告白しよう」と。すると あなたは私の罪のとがめを 赦してくださいました。セラ
- 6 それゆえ 敬虔な人はみな祈ります。あなたに向かって あなたがおられるうちに。大水は濁流となっても 彼のところに届きません。
- 7 あなたは私の隠れ場。あなたは苦しみから私を守り 救いの歓声で 私を囲んでくださいます。セラ
- 8 私は あなたが行く道で あなたを教え あなたを諭そう。あなたに目を留め 助言を与えよう。
- 9 あなたがたは 分別のない馬やらばのようであってはならない。くつわや手綱 そうした馬具で強いるのでなければ それらは あなたの近くには来ない。
- 10 悪しき者は心の痛みが多い。しかし 主に信頼する者は 恵みがその人を囲んでいる。
- 11 正しい者たち 主を喜び 楽しめ。すべて心の直ぐな人たちよ 喜びの声をあげよ。

第33章

- 1 正しい者たち 主を喜び歌え。賛美は 直ぐな人たちにふさわしい。
- 2 豎琴に合わせて 主に感謝せよ。十弦の琴に合わせて ほめ歌を歌え。
- 3 新しい歌を主に歌え。喜びの叫びとともに 巧みに弦をかき鳴らせ。
- 4 まことに 主のことは真っ直ぐで そのみわざはことごとく真実である。
- 5 主は正義と公正を愛される。主の恵みで地は満ちている。
- 6 主のことはによって 天は造られた。天の万象もすべて 御口の息吹によって。
- 7 主は海の水をせき止めて集め 湧き出る水を倉に納められる。
- 8 全地よ 主を恐れよ。すべて世界に住む者よ 主の御前におののけ。
- 9 主が仰せられると そのようになり 主が命じられると それは立つ。
- 10 主は 国々のはかりごとを破り もろもろの民の計画をくじかれる。
- 11 主のはかられることは とこしえに立ち みこころの計画は 代々に続く。
- 12 幸いなことよ 主を自らの神とする国は。神がご自分のゆずりとして選ばれた民は。
- 13 主は 天から目を注ぎ 人の子らをすべてご覧になる。
- 14 御座が据えられた所から 地に住むすべての者に目を留められる。
- 15 主は 一人ひとりの心を形造り わざのすべてを読み取る方。
- 16 王は 軍勢の大きさでは救われない。勇者は 力の大きさでは救い出されない。
- 17 軍馬も勝利の頼みにはならず 軍勢の大きさも救いにはならない。
- 18 見よ 主の目は主を恐れる者に注がれる。主の恵みを待ち望む者に。
- 19 彼らのたましいを死から救い出し 飢饉のときにも 彼らを生かし続けるために。
- 20 私たちのたましいは主を待ち望む。主は私たちの助け 私たちの盾。
- 21 まことに 私たちの心は主を喜び 私たちは聖なる御名に拠り頼む。
- 22 主よ あなたの恵みが 私たちの上にありますように。私たちがあなたを待ち望むときに。

第34章

- 1 私はあらゆるときに 主をほめたたえる。私の口には いつも主への賛美がある。
- 2 私のたましいは主を誇る。 貧しい者はそれを聞いて喜ぶ。
- 3 私とともに主をほめよ。 一つになって 御名をあがめよう。
- 4 私が主を求めると 主は答え すべての恐怖から 私を救い出してくださった。
- 5 主を仰ぎ見ると 彼らは輝いた。 彼らの顔は辱められることがない。
- 6 この苦しむ者が呼ぶと 主は聞かれ すべての苦難から救ってくださった。
- 7 主の使いは 主を恐れる者の周りに陣を張り 彼らを助け出される。
- 8 味わい 見つめよ。 主がいつくしみ深い方であることを。 幸いなことよ 主に身を避ける人は。
- 9 主を恐れよ。 主の聖徒たちよ。 主を恐れる者には 乏しいことがないからだ。
- 10 若い獅子も乏しくなり 飢える。 しかし 主を求める者は 良いものに何一つ欠けることがない。
- 11 来なさい。 子たちよ 私に聞きなさい。 主を恐れることを教えよう。
- 12 いのちを喜びとする人はだれか。 幸せを見ようと 日数の多いことを愛する人は。
- 13 あなたの舌に悪口を言わせず 唇に欺きを語らせるな。
- 14 悪を離れて 善を行い 平和を求め それを追い続けよ。
- 15 主の目は 正しい人たちの上にあり 主の耳は 彼らの叫びに傾けられる。
- 16 主の御顔は 悪をなす者どもに敵対し 主は彼らの記憶を地から消し去られる。
- 17 苦しむ者が叫ぶと 主は聞かれ そのすべての苦難から救い出してくださる。
- 18 主は心の打ち砕かれた者の近くにおられ 霊の砕かれた者を救われる。
- 19 正しい人には苦しみが多い。 しかし 主はそのすべてから救い出してくださる。
- 20 主は彼の骨をことごとく守り その一つさえ 折られることはない。
- 21 悪は悪しき者を殺し 正しい人を憎む者は責めを負う。
- 22 主は そのしもべのたましいを贖い出される。 主に身を避ける人は だれも責めを負わない。

第35章

- 1 主よ 私と争う者と争い 私と戦う者と戦ってください。
- 2 盾と大盾を手にとって 私を助けに来てください。
- 3 槍を抜き 私に追い迫る者たちを封じてください。私のたましいに言ってください。「わたしがあなたの救いだ」と。
- 4 私のいのちを求める者たちが恥を見 卑しめられますように。私に対してわざわざを謀る者たちが退き 辱めを受けますように。
- 5 彼らを風の前の荊殻のようにし 主の使いが追い散らすようにしてください。
- 6 彼らの道を暗闇とし 滑りやすくし 主の使いが彼らを追うようにしてください。
- 7 ゆえもなく彼らは隠しました。網を張った穴を 私のために。ゆえもなくそれを掘りました。私のたましいのために。
- 8 思わぬときに 滅びが彼を襲いますように。隠した網が彼を捕らえ 滅びの中に彼が落ち込みますように。
- 9 私のたましいは 主にあって喜び 御救いの中にあって 楽しめます。
- 10 私のすべての骨は言います。「主よ だれがあなたの方でしょう。苦しむ者を より強い者から救い 苦しむ者 貧しい者を 略奪者から救う方。」
- 11 悪意のある証人どもが立ち 私が知らないことを私に問います。
- 12 彼らは悪をもって善に報い 私のたましいは見捨てられています。
- 13 しかし私は 彼らが病のとき粗布をまといました。私は断食してたましいを苦しめ 私の祈りは胸の中を行き来していました。
- 14 私の友や兄弟であるかのように 私は足を運び 母の喪に服するように うなだれて泣き悲しみました。
- 15 それなのに 私がつまずくと彼らは喜んで集まり 私の知らない攻撃者が 私に向かって集まり 休みなく私を中傷しました。
- 16 嘲りののしる者たちは 私の周りで 私に向かって歯をむき出しました。
- 17 わが主よ いつまで眺めておられるのですか。私のたましいを彼らの略奪から 私のただ一つのものを 若い獅子から奪い返してください。
- 18 私は大いなる会衆の中で あなたに感謝し 力強い民の間で あなたを賛美します。
- 19 偽り者の私の敵を 私のことで喜ばせないでください。ゆえもなく私を憎む人々が 目くばせし合わないようになしてください。
- 20 彼らは平和を語らず 地の平穏な人々に欺きを企むからです。
- 21 彼らは私に向かって 大きく口を開け「あはは この目で見ただ」と言います。
- 22 主よ あなたはご覧になりました。黙っていないでください。わが主よ 私から遠く離れないでください。
- 23 奮い立ってください。目を覚ましてください。私のさばきのために。わが神 わが主よ 私の訴えのために。

- 24 あなたの義にしたがって 私のためにさばきを行ってください。主よ わが神よ 彼らを私のことで喜ばせないでください。
- 25 彼らに心のうちで言わせないでください。「あはは われわれの望みどおりだ」と。どうか言わせないでください。「われわれは彼を呑み込んだ」と。
- 26 私のわざわいを楽しむ者たちが みな恥を見 辱めを受けますように。私に向かって高ぶる者が 恥と恥辱を身にまといますように。
- 27 私の義を喜びとする者たちが 喜びの声をあげ 楽しむようにしてください。彼らがいつもこう言うようにしてください。「主は大いなるかな。ご自分のしもべの平和を喜ばれる方は」と。
- 28 私の舌は告げ知らせます。あなたの義を。日夜 あなたの誉れを。

第36章

- 1 私の心の奥にまで 悪しき者の背きのことばが届く。彼の目の前には 神に対する恐れがない。
- 2 彼は自分の判断で自分を偽り 自分の咎を見つけて それを憎む。
- 3 彼の口のことばは 不法と欺き。思慮深くあろうとせず 善を行おうともしない。
- 4 彼は寝床で不法を謀り 良くない道に堅く立ち 悪を捨てようとしめない。
- 5 主よ あなたの恵みは天にあり あなたの真実が雲にまで及びます。
- 6 あなたの義は 高くそびえる山。あなたのさばきは 大いなる淵。主よ あなたは人や獣を救ってくださいます。
- 7 神よ あなたの恵みはなんと尊いことでしょう。人の子らは 御翼の陰に身を避けます。
- 8 彼らは あなたの家の豊かさに満たされ あなたは 楽しみの流れで潤してくださいます。
- 9 いのちの泉はあなたとともにあり あなたの光のうちに 私たちは光を見るからです。
- 10 注いでください。あなたの恵みを あなたを知る者に。あなたの義を 心の直ぐな人たちに。
- 11 高ぶりの足が私に追いつかず 悪しき者の手が私を追いやることのないように。
- 12 そこでは 不法を行う者は倒れ 突き倒されて 立ち上がれません。

第37章

- 1 悪を行う者に腹を立てるな。不正を行う者にねたみを起こすな。
- 2 彼らは草のようにたちまちしおれ 青草のように枯れるのだから。
- 3 主に信頼し 善を行え。地に住み 誠実を養え。
- 4 主を自らの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。
- 5 あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。
- 6 主は あなたの義を光のように あなたの正しさを 真昼のように輝かされる。
- 7 主の前に静まり 耐え忍んで主を待て。その道が栄えている者や 悪意を遂げようとする者に腹を立てるな。
- 8 怒ることをやめ 憤りを捨てよ。腹を立てるな。それはただ悪への道だ。
- 9 悪を行う者は断ち切られ 主を待ち望む者 彼らが地を受け継ぐからだ。
- 10 もうしばらくで 悪しき者はいなくなる。その居所を調べても そこにはいない。
- 11 しかし 柔和な人は地を受け継ぎ 豊かな繁栄を自らの喜びとする。
- 12 悪しき者は正しい人に敵対して事を謀り 彼に向かって歯をむき出す。
- 13 主は悪しき者を笑われる。彼の日が来るのをご覧になるから。
- 14 悪しき者は剣を抜き 弓を引いた。苦しむ人 貧しい人を打ち倒し 行いの正しい人を切り殺すために。
- 15 彼らの剣は自分の胸を貫き 彼らの弓は へし折られる。
- 16 一人の正しい人が持つわずかなものは 多くの悪しき者が持つ富にまさる。
- 17 悪しき者の腕はへし折られるが 主は正しい人を支えられるからだ。
- 18 主は全き人の日々を知っておられ 彼らのゆずりは 永久に続く。
- 19 彼らは わざわいのときにも恥を見ず 飢饉のときにも満ち足りる。
- 20 しかし 悪しき者は滅びる。主の敵は 牧場の青草のようだ。彼らは消え失せる。煙となって消え失せる。
- 21 悪しき者は借りるが返さない。正しい人は情け深く 人に施す。
- 22 主に祝福された人は地を受け継ぎ 主にのろわれた者は断ち切られる。
- 23 主によって 人の歩みは確かにされる。主はその人の道を喜ばれる。
- 24 その人は転んでも 倒れ伏すことはない。主が その人の腕を支えておられるからだ。
- 25 若かったころも年老いた今も 私は見たことがない。正しい人が見捨てられることを。その子孫が食べ物を乞うことを。
- 26 その人はいつも情け深く 人に貸す。その子孫は祝福を得る。
- 27 悪を離れて善を行え。いつまでも地に住め。
- 28 まことに 主は義を愛し 主にある敬虔な人をお見捨てにならない。彼らは永遠に保たれるが 悪しき者どもの子孫は断ち切られる。
- 29 正しい人は地を受け継ぎ いつまでもそこに住む。

- 30 正しい人の口は知恵を語り その舌は義を告げる。
- 31 その心には 彼の神のみおしえがあり 彼の歩みはよろけることがない。
- 32 悪しき者は正しい人を待ち伏せ 彼を殺そうとする。
- 33 主は 悪しき者の手の中に彼を捨て置かず さばきのときにも 彼を不義に定めない。
- 34 主を待ち望め。主の道を守れ。主はあなたを高く上げ 地を受け継がせてくださる。あなたは悪しき者どもが断ち切られるのを見る。
- 35 私は悪しき者の横暴を見た。彼は野生の木のようにはびこっていた。
- 36 だが 彼は過ぎ去った。見よ 彼はもういない。私は捜したが 見つからなかった。
- 37 全き人に目を留め 直ぐな人を見よ。平和の人には未来がある。
- 38 しかし 背く者はことごとく滅ぼされ 悪しき者どもの未来は断ち切られる。
- 39 正しい人の救いは 主から来る。苦難のときの 彼らの咎から。
- 40 主は彼らを助け 解き放たれる。悪しき者どもから解き放ち 彼らを救われる。彼らが主に身を避けているからだ。

第38章

- 1 主よ あなたの激しい怒りで 私を責めないでください。 あなたの大きい怒りで 私を懲らしめないでください。
- 2 あなたの矢が私に突き刺さり 御手が私に激しく下りました。
- 3 あなたの怒りのため 私の肉には 完全なところがなく 私の罪のゆえ 私の骨には 健全なところがありません。
- 4 私の咎が頭を越えるほどになり 重荷となって 担いきれません。
- 5 私の傷は 悪臭を放って腐り果てました。 それは私の愚かさのためです。
- 6 私は身をかがめ 深くうなだれ 一日中 嘆いて歩き回ります。
- 7 私の腰は火傷でおおい尽くされ 私の肉には どこにも完全なところがありません。
- 8 私は衰え果て 砕き尽くされ 心もだえて ほえ叫んでいます。
- 9 主よ 私の願いはすべてあなたの御前にあり 私の嘆きは あなたに隠れてはいません。
- 10 私の胸は激しく鼓動し 私の力は私を見捨て 目の光さえも 私から失せてしまいました。
- 11 愛する者や私の友も 私の病を避けて立ち 近親の者さえ 遠く離れて立っています。
- 12 私のいのちを求める者は 罨を仕掛け 私のわざわいを願い求める者は 私の破滅を告げ 絶えず 欺くことを語っています。
- 13 しかし 私は聞きません。 聞こえない人のように。 口を開きません。 話せない人のように。
- 14 まるで私は 耳が聞こえず 口で争わない人のようです。
- 15 まことに主よ あなたを私は待ち望んでいます。 わが神 主よ あなたが私に答えてくださいます。
- 16 私は思いました。 彼らが私のことで喜ぶのではないか。 私の足がよろけるとき 私に対して高ぶるのではないかと。
- 17 私はつまずき倒れそうで 痛みが絶えずともにあります。
- 18 私は 自分の咎を言い表します。 自分の罪で不安なのです。
- 19 私の敵は活気に満ちて強く 私を憎む偽り者が多くいます。
- 20 悪をもって善に報いる者どもは 私が善を追い求めると 私をなじります。
- 21 主よ 私を見捨てないでください。 わが神よ 私から遠く離れないでください。
- 22 急いで私を助けてください。 主よ 私の救いよ。

第39章

- 1 私は言った。私は自分の道に気をつけよう。私が舌で罪を犯さないように。口に口輪をはめておこう。悪しき者が私の前にいる間は。
- 2 私はひたすら黙っていた。良いことにさえ沈黙した。そのため私の痛みは激しくなった。
- 3 心は私のうちで熱くなり うめきとともに 火が燃え上がった。そこで私は自分の舌で言った。
- 4 主よ お知らせください。私の終わり 私の齢がどれだけなのか。私がいかににはかないかを 知ることができるように。
- 5 ご覧ください。あなたは 私の日数を手幅ほどにされました。あなたの御前では 私の一生はないも同然です。人はみなしっかり立ってはいても 実に空しいかぎりです。セラ
- 6 まことに 人は幻のように歩き回り まことに 空しく立ち騒ぎます。人は蓄えるが だれのものになるのか知りません。
- 7 主よ 今 私は何を待ち望みましょう。私の望み それはあなたです。
- 8 私のすべての背きから 私を助け出してください。私を 愚か者のそしりの的としないでください。
- 9 私は黙し 口を開きません。あなたがそうなさったからです。
- 10 どうか あなたのむちを取り去ってください。あなたの手に打たれて 私は衰え果てました。
- 11 あなたは 不義を責めて人を懲らしめ シミが食うように人の欲するものをなくされます。実に 人はみな空しいものです。セラ
- 12 主よ 私の祈りを聞いてください。助けを求める叫びに 耳を傾けてください。私の涙に黙っていないでください。私は あなたとともにいる旅人 すべての先祖のように 寄留の者なのです。
- 13 私を見つめないでください。私が朗らかになれるようにしてください。私が去って いなくなる前に。

第40章

- 1 私は切に 主を待ち望んだ。主は私に耳を傾け 助けを求める叫びを聞いてくださった。
- 2 滅びの穴から 泥沼から 主は私を引き上げてくださった。私の足を巖に立たせ 私の歩みを確かにされた。
- 3 主はこの口に授けてくださった。新しい歌を 私たちの神への賛美を。多くの者は見て恐れ 主に信頼するだろう。
- 4 幸いなことよ 主に信頼を置き 高ぶる者や 偽りに傾く者たちの方を向かない人。
- 5 わが神 主よ なんと多いことでしょう。あなたがなされた奇しいみわざと 私たちへの計らいは。あなたに並ぶ者はありません。語ろうとしても 告げようとしても それはあまりに多くて数えきれません。
- 6 あなたは いけにえや穀物のささげ物をお喜びにはなりませんでした。あなたは私の耳を開いてくださいました。全焼のささげ物や罪のきよめのささげ物を あなたは お求めになりませんでした。
- 7 そのとき 私は申し上げました。「今 私はここに来ております。巻物の書に私のことが書いてあります。
- 8 わが神よ 私はあなたのみこころを行うことを喜びとします。あなたのみおしえは私の心のうちにあります。」
- 9 私は大いなる会衆の中で 義を喜び知らせます。ご覧ください。私は唇を押さえません。主よ あなたはご存じです。
- 10 私は あなたの義を心の中におおい隠さず あなたの真実とあなたの救いを言い表します。私は あなたの恵みとあなたのまことを 大いなる会衆に隠しません。
- 11 主よ あなたは 私にあわれみを惜しまないでください。あなたの恵みとあなたのまことが絶えず私を見守るようにしてください。
- 12 数えきれないわざわいが 私を取り囲んでいるのです。私の咎が襲いかかり 私は何も見ることができません。それは私の髪の毛よりも多く 私の心も私を見捨てました。
- 13 主よ みこころによって私を救い出してください。主よ 急いで私を助けてください。
- 14 私のいのちを求め 滅ぼそうとする者たちが ことごとく恥を見 辱められますように。私のわざわいを喜ぶ者たちが 退き 卑しめられますように。
- 15 私を「あはは」とあざ笑う者どもが 自らの恥に啞然としますように。
- 16 あなたを慕い求める人たちがみな あなたにあって楽しみ 喜びますように。あなたの救いを愛する人たちが「主は大いなる方」と いつも言いますように。
- 17 私は苦しむ者 貧しい者です。主が私を顧みてくださいますように。あなたは私の助け 私を救い出す方。わが神よ 遅れないでください。

第41章

- 1 幸いなことよ 弱っている者に心を配る人は。 わざわいの日に 主はその人を助け出される。
- 2 主は彼を見守り 彼を生かし 地上で幸せな者とされる。 どうか彼を 敵の意のままにさせないでください。
- 3 主が 病の床で彼を支えられますように。 彼が病むとき 寝床から起き上がらせてください。
- 4 私は申し上げます。「主よ あわれんでください。 私のたましいを癒やしてください。 私はあなたの前に罪ある者ですから。」
- 5 私の敵は 私の悪口を言います。「いつ彼は死に その名は消え去るのだろうか。」
- 6 人が見舞いに来ても その人は嘘を言い 心のうちでは悪意を蓄え 外に出てはそれを言いふらします。
- 7 私を憎む者はみな 私についてともにささやき 私に対して悪を企みます。
- 8 「邪悪なものが 彼に取りついている。 彼が床についたからには もう二度と起き上がれない。」
- 9 私が信頼した親しい友が 私のパンを食べている者までが 私に向かって かかとを上げます。
- 10 しかし 主よ。 あなたは 私をあわれみ 立ち上がらせてください。 そうすれば 彼らに報いを返せます。
- 11 このことによって私は知ります。 あなたが私を喜んでおられることを。 敵は 私に向かって勝ちどきをあげません。
- 12 私の誠実さゆえに 私を強く支えてください。 いつまでも あなたの御前に立たせてください。
- 13 ほむべきかな イスラエルの神 主。 とこしえから とこしえまで。 アーメン、アーメン。

第42章

- 1 鹿が谷川の流れを慕いあえぐように 神よ 私のたましいはあなたを慕いあえぎます。
- 2 私のたましいは 神を 生ける神を求めて 渴いています。いつになれば 私は行って 神の御前に出られるのでしょうか。
- 3 昼も夜も 私の涙が 私の食べ物でした。「おまえの神はどこにいるのか」と 人が絶えず 私に言う間。
- 4 私は自分のうちで思い起こし 私のたましいを注ぎ出しています。私が祭りを祝う群衆とともに 喜びと感謝の声をあげて あの群れと一緒に 神の家へとゆっくり歩んで行ったことなどを。
- 5 わがたましいよ なぜ おまえはうなだれているのか。私のうちで思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。御顔の救いを。
- 6 私の神よ 私のたましいは私のうちでうなだれています。それゆえ 私はヨルダンとヘルモンの地から またミツアルの山から あなたを思い起こします。
- 7 あなたの大滝のとどろきに 淵が淵を呼び起こし あなたの波 あなたの大波はみな 私の上を越えて行きました。
- 8 昼には 主が恵みを下さり 夜には 主の歌が私とともにあります。私のいのちなる神への祈りが。
- 9 私は わが巖なる神に申し上げます。「なぜ あなたは私をお忘れになったのですか。なぜ 私は敵の虐げに 嘆いて歩き回るのですか。」
- 10 私に敵対する者たちは 私の骨を砕くほどに 私をそしり 絶えず私に言っています。「おまえの神はどこにいるのか」と。
- 11 わがたましいよ なぜ おまえはうなだれているのか。なぜ 私のうちで思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。私の救い 私の神を。

第43章

- 1 神よ 私のためにさばいてください。私の訴えを取り上げ 不敬虔な民の言い分を退けてください。欺きと不正の人から 私を助け出してください。
- 2 あなたは私の力の神であられるからです。なぜ あなたは私を退けられたのですか。なぜ 私は敵の虐げに 嘆いて歩き回るのですか。
- 3 どうか あなたの光とまことを送り それらが私を導くようにしてください。あなたの聖なる山 あなたの住まいへと それらが私を連れて行きますように。
- 4 こうして 私は神の祭壇に 私の最も喜びとする神のみもとに行き 豎琴に合わせて あなたをほめたたえます。神よ 私の神よ。
- 5 わがたましいよ なぜ おまえはうなだれているのか。なぜ 私のうちで思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。私の救い 私の神を。

第44章

- 1 神よ 私たちはこの耳で聞きました。先祖たちが語ってくれました。あなたが彼らの時代昔になさったみわざを。
- 2 あなたは 御手をもって異邦の民を追い払い そこに先祖たちを植えられました。もろもろの国民にわざわいを下し そこに先祖たちを送り込まれました。
- 3 自分の剣によって 彼らは地を得たのではなく 自分の腕が 彼らを救ったのでもありません。ただあなたの右の手 あなたの御腕 あなたの御顔の光が そうしたのです。あなたが彼らを愛されたからです。
- 4 神よ あなたこそ私の王です。ヤコブの勝利を命じてください。
- 5 あなたによって 私たちは敵を押し返し 御名によって 向かい立つ者どもを踏みつけます。
- 6 私の弓に 私は頼りません。私の剣も 私を救いません。
- 7 しかし あなたは私たちを敵から救い 私たちを憎む者どもを辱められます。
- 8 神にあって 私たちはいつも誇ります。あなたの御名を とこしえにほめたたえます。セラ
- 9 それなのに あなたは 私たちを退け 卑しめられました。あなたはもはや 私たちの軍勢とともに出陣なさいません。
- 10 あなたは私たちを敵から退かせ 私たちを憎む者どもは思うままに略奪しました。
- 11 あなたは私たちを 餌食となる羊のようにし 国々の間に散らされました。
- 12 ご自分の民を安く売り渡し その代価で何の利益も得ませんでした。
- 13 あなたは私たちを 隣人のそしりの的とし 周りの者の嘲りとし 笑いぐさとされます。
- 14 私たちを国々の間で物笑いの種とし もろもろの民の間で笑いものとされるのです。
- 15 私の前には絶えず辱めがあり 恥が私の顔をおおってしまいました。
- 16 それは そしる者とののしる者の声のゆえ 敵と 復讐する者のゆえでした。
- 17 これらすべてが私たちを襲いました。しかし 私たちはあなたを忘れず あなたの契約を無にしませんでした。
- 18 私たちの心はたじろがず 私たちの歩みはあなたの道からそれませんでした。
- 19 あなたは ジャッカルに住みかで私たちを砕き 死の陰で私たちをおおわれたのです。
- 20 もし 私たちが自分たちの神の御名を忘れ ほかの神に向かって手を伸べ広げたなら
- 21 神はそれを探り出されないでしょうか。神こそ 心の秘密を知っておられるからです。
- 22 あなたのために 私たちは休みなく殺され 屠られる羊と見なされています。
- 23 起きてください。主よ なぜ眠っておられるのですか。目を覚ましてください。いつまでも拒まないでください。
- 24 なぜ 御顔を隠されるのですか。私たちの苦しみと虐げをお忘れになるのですか。
- 25 私たちのたましいは ちりに伏し 私たちの腹は 地についています。

- 26 立ち上がって 私たちをお助けください。御恵みのゆえに 私たちを贖い出してください。

第45章

- 1 すばらしいことばで 私の心は沸き立っている。王のために私が作った詩を 私は歌おう。私の舌は巧みな書記の筆。
- 2 あなたは人の子らにまさって麗しい。あなたの唇からは優しさが流れ出る。神がとこしえにあなたを祝福しておられるからだ。
- 3 勇士よ あなたの剣を腰に帯びよ。あなたの威厳とあなたの威光を。
- 4 あなたの威光は勝利のうちに進み行け。真理と柔和と義のゆえに あなたの右の手はあなたに教えよ。恐るべきわざを。
- 5 あなたの矢は鋭い。国々の民はあなたのもとに倒れ 王の敵は気を失う。
- 6 神よ あなたの王座は世々限りなく あなたの王国の杖は公平の杖。
- 7 あなたは義を愛し 悪を憎む。それゆえ 神よ あなたの神は 喜びの油を あなたに注がれた。あなたに並ぶだれにもまして。
- 8 あなたの服はみな 没薬 アロエ シナモンの香りを放ち 象牙の宮殿に流れる弦の調べはあなたを喜ばせた。
- 9 あなたの貴婦人たちの中には 諸国の王の娘らもいて 王妃はあなたの右に立つ。オフィルの金を身に着けて。
- 10 娘よ 聞け。心して耳を傾けよ。あなたの民と あなたの父の家を忘れよ。
- 11 そうすれば 王はあなたの美しさを慕うだろう。彼こそあなたの主。彼の前にひれ伏せ。
- 12 娘ツロは贈り物を携え 民のうちの富む者も あなたの好意を求めて来る。
- 13 王の娘は 奥にいて栄華を極め その衣には黄金が織り合わされている。
- 14 彼女はあや織物をまとい 王の前に導かれる。おとめたちが彼女の後につき従い 彼女はあなたのもとに連れて来られる。
- 15 喜びと楽しみをもって 彼女たちは導かれ 王の宮殿に入っていく。
- 16 あなたの息子らがあなたの父祖に代わり あなたは彼らを全地の君主に任じる。
- 17 私はあなたの名を 代々にわたって呼び求めよう。それゆえ 国々の民は 世々限りなくあなたをほめたたえよう。

第46章

- 1 神は われらの避け所 また力。苦しむとき そこにある強き助け。
- 2 それゆえ われらは恐れない。たとえ地が変わり 山々が揺れ 海のただ中に移るとも。
- 3 たとえその水が立ち騒ぎ 泡立っても その水かさが増し 山々が揺れ動いても。セラ
- 4 川がある。その豊かな流れは 神の都を喜ばせる。いと高き方のおられる その聖なる所を。
- 5 神はそのただ中におられ その都は揺るがない。神は朝明けまでに これを助けられる。
- 6 国々は立ち騒ぎ 諸方の王国は揺らぐ。神が御声を発せられると 地は溶ける。
- 7 万軍の主はわれらとともにおられる。ヤコブの神はわれらの砦である。セラ
- 8 来て 見よ。主のみわざを。主は地で恐るべきことをなされた。
- 9 主は 地の果てまでも戦いをやめさせる。弓をへし折り 槍を断ち切り 戦車を火で焼かれる。
- 10 「やめよ。知れ。わたしこそ神。わたしは国々の間であがめられ 地の上であがめられる。」
- 11 万軍の主はわれらとともにおられる。ヤコブの神はわれらの砦である。セラ

第47章

- 1 すべての国々の民よ 手をたたけ。喜びの声をもって 神に大声で叫べ。
- 2 まことに いと高き方主は恐るべき方。全地を治める 大いなる王。
- 3 国々の民を私たちのもとに もろもろの国民を私たちの足もとに従わせられる。
- 4 主は 私たちのために選んでくださる。私たちの受け継ぐ地を。主が愛されるヤコブの誉れを。セラ
- 5 神は上られる。喜びの叫びの中を。主は行かれる。角笛の音の中を。
- 6 ほめ歌を歌え。神にほめ歌を歌え。ほめ歌を歌え。私たちの王にほめ歌を歌え。
- 7 まことに神は全地の王。ことばの限りほめ歌を歌え。
- 8 神は国々を統べ治めておられる。神はその聖なる王座に着いておられる。
- 9 国々の民の高貴な者たちは集められた。アブラハムの神の民として。まことに 地の盾は神のもの。神は大いにあがめられる方。

第48章

- 1 主は大いなる方。大いにほめたたえられるべき方。主の聖なる山 私たちの神の都で。
- 2 高嶺の麗しさは 全地の喜び。北の端なるシオンの山は大王の都。
- 3 神はその都の宮殿で ご自分を砦として示された。
- 4 見よ 王たちは集って ともどもにやって来た。
- 5 彼らは 見ると驚き おじ惑い 慌てた。
- 6 その場で震えが彼らをとらえた。子を産むときのような激しい痛みが。
- 7 東風によって あなたはタルシシュの船を砕かれる。
- 8 私たちは聞いたとおりを見た。万軍の主の都 私たちの神の都で。神は都をとしえに堅く立てられる。セラ
- 9 神よ 私たちはあなたの宮の中で あなたの恵みを思いました。
- 10 神よ あなたの御名と同じく あなたの誉れは地の果てにまで及んでいます。あなたの右の手は義に満ちています。
- 11 あなたのさばきのゆえに シオンの山が喜び ユダの娘たちが楽しめますように。
- 12 シオンを巡り その周りを歩け。その塔を数えよ。
- 13 その城壁に心を留めよ。その宮殿を巡り歩け。後の時代に語り伝えるために。
- 14 この方こそまさしく神。世々限りなく われらの神。神は 死を越えて私たちを導かれる。

第49章

- 1 すべて国々の民よ これを聞け。すべて世に住む者よ 耳を傾けよ。
- 2 低い者も高い者も 富む者も貧しい者も とともに。
- 3 私の口は知恵を語り 私の心は英知を告げる。
- 4 私はたとえ話に耳を傾け 豎琴に合わせて 謎を解き明かそう。
- 5 なぜ 私はわざわざの日に 恐れなければならないのか。私のかかとを狙う者の悪意が私を取り囲むときに。
- 6 彼らは 自分の財産に拠り頼み 豊かな富を誇っている。
- 7 兄弟さえも 人は贖い出すことができない。自分の身代金を神に払うことはできない。
- 8 たましいの贖いの代価は高く 永久にあきらめなくてはならない。
- 9 人は いつまでも生きられるだろうか。墓を見ないでいられるだろうか。
- 10 彼は見る。知恵のある者たちが死に 愚かな者 浅はかな者も等しく滅び 自分の財産を他人に残すのを。
- 11 彼らの心の中では その家は永遠で 住まいは代々に及ぶ。彼らは 土地に自分たちの名をつける。
- 12 しかし 人は栄華のうちにとどまれない。人は滅び失せる獣に等しい。
- 13 これが愚か者の道。彼らに従う者も その口のことばを喜ぶ。セラ
- 14 彼らは 羊のようによみに定められ 死が彼らの羊飼いとなる。朝には 直ぐな者たちが彼らを支配する。彼らの形はなくなり よみがその住む所となる。
- 15 しかし 神は私のたましいを贖い出し よみの手から 私を奪い返してくださる。セラ
- 16 恐れるな。人が富を得ても その人の家の栄誉が増し加わっても。
- 17 人は死ぬとき 何一つ持って行くことはできず その栄誉も その人を追って下ることはない。
- 18 たとえ 人が自分自身を 生きている間に祝福できても あなたには物事がうまく行っていると 人々があなたをほめたたえても。
- 19 そのたましいは 代々の先祖のところに行く。そこでは永久に光を見ることはない。
- 20 人は栄華のうちにあっても 悟ることがなければ 滅び失せる獣に等しい。

第50章

- 1 神の神 主は語り 地を呼び集められる。日の昇るところから沈むところまで。
- 2 麗しさの極み シオンから 神は光を放たれる。
- 3 私たちの神は来られる。黙ってはおられない。御前には食い尽くす火があり その周りには激しい嵐がある。
- 4 神は上なる天を また地を呼び集められる。ご自分の民をさばくために。
- 5 「わたしにある敬虔な者を わたしのところに集めよ。いけにえによって わたしと契約を結んだ者たちを。」
- 6 天は神の義を告げ知らせる。神こそが審判者であると。セラ
- 7 「聞け わが民よ。わたしは語ろう。イスラエルよ わたしはあなたを戒めよう。わたしは神 あなたの神である。
- 8 あなたのいけにえのことで あなたを責めるのではない。あなたの全焼のささげ物はいつもわたしの前にある。
- 9 わたしはあなたの家から雄牛を 囲いから雄やぎを 取ろうとしているのではない。
- 10 森のすべての獣はわたしのもの。千の丘の家畜らも。
- 11 わたしは 山の鳥も残らず知っている。野に群がるものたちも わたしのもとにいる。
- 12 たとえ飢えても わたしはあなたに言わない。世界とそれに満ちるものはわたしのものだ。
- 13 わたしが雄牛の肉を食べ 雄やぎの血を飲むだろうか。
- 14 感謝のいけにえを神に献げよ。あなたの誓いをいと高き神に果たせ。
- 15 苦難の日に わたしを呼び求めよ。わたしはあなたを助け出し あなたはわたしをあがめる。」
- 16 しかし 悪しき者に対して神は仰せられる。「何事か。おまえがわたしのおきてを語り わたしの契約を口にするとは。
- 17 おまえは戒めを憎み わたしのことばをうしろに投げ捨てた。
- 18 おまえは盗人に会って これと組んで 姦通する者と親しくする。
- 19 おまえの口は悪を放ち 舌は欺きを仕組む。
- 20 おまえは座して 兄弟の悪口を言い 自分の母の子をそしる。
- 21 こういうことをおまえはしてきたが わたしは黙っていた。わたしがおまえと等しい者だとおまえは思っていたのだ。わたしはおまえを責める。おまえの目の前でこれらのことを並べ立てる。
- 22 神を忘れる者どもよ さあ このことをよくわきまえよ。そうでないと わたしはおまえたちを引き裂き 救い出す者もいなくなる。
- 23 感謝のいけにえを献げる者は わたしをあがめる。自分の道を正しくする人に わたしは神の救いを見せる。」

第51章

- 1 神よ 私をあわれんでください。あなたの恵みにしたがって。私の背きをぬぐい去ってください。あなたの豊かなあわれみによって。
- 2 私の咎を 私からすっかり洗い去り 私の罪から 私をきよめてください。
- 3 まことに 私は自分の背きを知っています。私の罪は いつも私の目の前にあります。
- 4 私はあなたに ただあなたの前に罪ある者です。私はあなたの目に 悪であることを行いました。ですから あなたが宣告するとき あなたは正しく さばくとき あなたは清くあられます。
- 5 ご覧ください。私は咎ある者として生まれ 罪ある者として 母は私を身ごもりました。
- 6 確かに あなたは心のうちの真実を喜ばれます。どうか私の心の奥に 知恵を教えてください。
- 7 ヒソプで私の罪を除いてください。そうすれば私はきよくなります。私を洗ってください。そうすれば 私は雪よりも白くなります。
- 8 楽しみと喜びの声を聞かせてください。そうすれば あなたが砕かれた骨が喜びます。
- 9 御顔を私の罪から隠し 私の咎をすべてぬぐい去ってください。
- 10 神よ 私にきよい心を造り 揺るがない霊を 私のうちに新しくしてください。
- 11 私を あなたの御前から投げ捨てず あなたの聖なる御霊を 私から取り去らないでください。
- 12 あなたの救いの喜びを私に戻し 仕えることを喜ぶ霊で 私を支えてください。
- 13 私は背く者たちに あなたの道を教えます。罪人たちは あなたのもとに帰るでしょう。
- 14 神よ 私の救いの神よ 血の罪から私を救い出してください。私の舌は あなたの義を高らかに歌います。
- 15 主よ 私の唇を開いてください。私の口は あなたの誉れを告げ知らせます。
- 16 まことに 私が供えても あなたはいけにえを喜ばれず 全焼のささげ物を望まれません。
- 17 神へのいけにえは 砕かれた霊。打たれ 砕かれた心。神よ あなたはそれを蔑まれません。
- 18 どうかご恩寵により シオンにいつくしみを施し エルサレムの城壁を築き直してください。
- 19 そのとき あなたは 義のいけにえを 焼き尽くされる全焼のささげ物を喜ばれます。そのとき 雄牛があなたの祭壇に献げられます。

第52章

- 1 勇士よ なぜおまえは悪を誇りとするのか。神の恵みはいつもある。
- 2 欺く者よ おまえの舌は破壊を企む。まるで鋭い刃物のように。
- 3 おまえは善よりも悪を 義を語るよりも偽りを愛している。セラ
- 4 欺きの舌よ おまえは あらゆる滅びのことばを愛している。
- 5 だが神は おまえを打ち砕いて倒し 幕屋から おまえを引き抜かれる。生ける者の地から おまえは根絶やしにされる。セラ
- 6 正しい人たちは見て 恐れ 彼に向かって笑う。
- 7 「見よ 彼こそは 神を力とせず 自分の大きな富に頼り 破滅のわざを勝ち誇る者。」
- 8 しかし私は 神の家に生い茂るオリーブの木。私は世々限りなく 神の恵みに拠り頼む。
- 9 私は とこしえに感謝します。あなたのみわざのゆえに。私はあなたにある敬虔な人たちの前で すばらしいあなたの御名を待ち望みます。

第53章

- 1 愚か者は心の中で「神はいない」と言う。彼らは腐っている。忌まわしい不正を行っている。善を行う者はいない。
- 2 神は天から人の子らを見下ろされた。悟る者 神を求める者がいるかどうかと。
- 3 彼らはことごとく背き去り だれもかれも無用の者となった。善を行う者はいない。だれ一人いない。
- 4 不法を行う者たちは知らないのか。彼らは わたしの民を食らいながらパンを食べ 神を呼ばない。
- 5 見よ 彼らは恐れのないところで 大いに恐れた。神が あなたに陣を張る者の骨を散らされたのだ。あなたは彼らを辱めた。神が彼らを捨てられたのだ。
- 6 ああ イスラエルの救いがシオンから来るように。神が御民を元どおりにされるとき ヤコブは楽しめ。イスラエルは喜べ。

第54章

- 1 神よ あなたの御名によって 私をお救いください。あなたの力強いみわざによって 私を弁護してください。
- 2 神よ 私の祈りを聞いてください。私の口のことばに耳を傾けてください。
- 3 見知らぬ者たちが 私に立ち向かい 横暴な者たちが 私のいのちを求めています。彼らは神を前にしていないのです。セラ
- 4 見よ 神は私を助ける方。主は私のいのちを支える方。
- 5 神は 私を待ち伏せる者たちに わざわいをもって報いられます。あなたの真実によって 彼らを滅ぼしてください。
- 6 私は 心からのささげ物をもって あなたにいけにえを献げます。主よ あなたの御名に感謝します。すばらしい御名に。
- 7 神がすべての苦難から私を救い出し 私の目が敵を平然と眺めるようになったからです。

第55章

- 1 神よ 私の祈りを耳に入れ 私の切なる願いに 耳を閉ざさないでください。
- 2 私をみこころに留め 私に答えてください。私は悲嘆に暮れ 泣き叫んでいます。
- 3 それは 敵の叫びと悪者の迫害のためです。彼らは私にわざわざを降りかからせ 怒って私を攻めたてています。
- 4 私の心は 内にもだえ 死の恐怖が 私を襲っています。
- 5 恐れと震えが私に起こり 戦慄が私を包みました。
- 6 私は言いました。「ああ 私に鳩のように翼があったなら。飛び去って 休むことができたなら。
- 7 ああ どこか遠くへ逃れ去り 荒野の中に宿りたい。セラ
- 8 嵐と疾風を避けて 私の逃れ場に急ぎたい。」
- 9 主よ 彼らの舌を混乱させ 分裂させてください。私はこの都の中に暴虐と争いを見えています。
- 10 昼も夜も 彼らは城壁の上を歩き回り 不法と害悪が都のただ中にあります。
- 11 破滅が都のただ中にあり 虐待と詐欺はその広場を離れません。
- 12 まことに 私をそしっているのは敵ではない。それなら私は忍ぶことができる。私に向かって高ぶっているのは私を憎む者ではない。それなら私は身を隠すことができる。
- 13 それは おまえ。私の同輩 私の友 私の親友のおまえなのだ。
- 14 私たちは とともに親しく交わり にぎわいの中 神の家に一緒に歩いて行ったのに。
- 15 死が彼らをつかめばよい。彼らは生きたまま よみに下るがよい。悪が彼らの住まいに彼らのただ中にあるからだ。
- 16 私が神を呼ぶと 主は私を救ってくださる。
- 17 夕べに朝に また真昼に 私は嘆き うめく。すると 主は私の声を聞いてくださる。
- 18 主は 私のたましいを敵の挑戦から 平和のうちに贖い出してく下さる。私と争う者が多いから。
- 19 神は聞き 彼らを苦しめられる。昔から御座に着いておられる方は。セラ 彼らは改めず神を恐れない。
- 20 彼は 親しい者にまで手を伸ばし 自分の誓約を犯している。
- 21 その口は よどみなく語るが 心には戦いがある。そのことばは 油よりも滑らかだが それは抜き身の剣である。
- 22 あなたの重荷を主にゆだねよ。主があなたを支えてくださる。主は決して 正しい者が揺るがされるようにはなさない。
- 23 しかし神よ あなたは彼らを 滅びの穴に落とされます。人の血を流す者どもと欺く者どもは 日数の半ばも生きられないでしょう。しかし 私はあなたに抛り頼みます。

第56章

- 1 神よ 私をあわれんでください。人が私を踏みつけ 一日中戦って 私を虐げているからです。
- 2 私の敵は 一日中私を踏みつけています。高ぶって 私に戦いを挑む者が多いのです。
- 3 心に恐れを覚える日 私はあなたに信頼します。
- 4 神にあって 私はみことばをほめたたえます。神に信頼し 私は何も恐れません。肉なる者が私に何をなし得るでしょう。
- 5 一日中 彼らは私のことを痛めつけています。彼らの思い計ることはみな 私に対する悪です。
- 6 彼らは 襲おうとして待ち伏せし 私の跡をつけています。私のいのちを狙って。
- 7 不法があるのに 彼らを見逃されるのですか。神よ 御怒りで国々の民を打ち倒してください。
- 8 あなたは 私のさすらいを記しておられます。どうか私の涙を あなたの皮袋に蓄えてください。それとも あなたの書に記されていないのですか。
- 9 そのとき私の敵は退きます。私が呼び求める日に。私は知っています。神が味方であることを。
- 10 神にあって 私はみことばをほめたたえます。主にあって 私はみことばをほめたたえます。
- 11 神に信頼し 私は何も恐れません。人が私に何をなし得るでしょう。
- 12 神よ あなたへの誓いは私の上にあります。感謝のいけにえで あなたにそれを果たします。
- 13 まことに あなたは救い出してくださいました。私のいのちを死から。私の足をつまずきから。私が いのちの光のうちに 神の御前に歩むために。

第57章

- 1 私をあわれんでください。神よ。私をあわれんでください。私のたましいは あなたに身を避けていますから。私は 滅びが過ぎ去るまで 御翼の陰に身を避けます。
- 2 私は いと高き方 神を呼び求めます。私のために すべてを成し遂げてくださる神を。
- 3 神は 天から助けを送って 私を救い 私を踏みつける者どもを辱められます。セラ 神は恵みとまことを送ってくださいます。
- 4 私のたましいは 獅子たちの間で 人の子らを貪り食う者の間で 横たわっています。彼らの歯は槍と矢 彼らの舌は鋭い剣です。
- 5 神よ あなたが天で あなたの栄光が 全世界であがめられますように。
- 6 彼らは私の足を狙って網を仕掛けました。私のたましいはうなだれています。彼らは私の前に穴を掘り 自分でその中に落ちました。セラ
- 7 神よ 私の心は揺るぎません。私の心は揺るぎません。私は歌い ほめ歌います。
- 8 私のたましいよ 目を覚ませ。琴よ 豎琴よ 目を覚ませ。私は暁を呼び覚まそう。
- 9 主よ 私は国々の民の間で あなたに感謝し もろもろの国民の間で あなたをほめ歌います。
- 10 あなたの恵みは大きく 天にまで及び あなたのまことは雲にまで及ぶからです。
- 11 神よ あなたが天で あなたの栄光が全地であがめられますように。

第58章

- 1 力ある者たちよ おまえたちは本当に義を語り 人の子らを公正にさばくことができるのか。
- 2 実に おまえたちは心で不正を働き 地で手の暴虐をはびこらせている。
- 3 悪しき者どもは 母の胎を出たときから踏み迷い 偽りを言う者どもは 生まれたときからさまよっている。
- 4 彼らには 蛇の毒のような毒がある。耳の聞こえないコブラのように 耳を閉ざし
- 5 蛇使いの声も聞こうとしない。巧みに呪文を唱える者の声も。
- 6 神よ 彼らの歯をその口の中で折ってください。主よ 若獅子たちの牙を打ち砕いてください。
- 7 彼らが 流れ行く水のように消え去り 神が矢を放たれるとき 干上がりますように。
- 8 彼らが 溶けて消え行くなめくじのように 日の目を見ない 死産の子のようになりますように。
- 9 おまえたちの釜が 茨の火を感じる前に 神は それが緑のままでも 燃えていても 等しく吹き払われる。
- 10 正しい人は 復讐を見て喜び その足を 悪しき者の血で洗う。
- 11 こうして人は言う。「まことに 正しい人には報いがある。まことに さばく神が地におられる。」

第59章

- 1 私の神よ 私を敵から救い出してください。向かい立つ者たちよりも高く 私を引き上げてください。
- 2 不法を行う者どもから 私を救い出してください。人の血を流す者どもから 私を救ってください。
- 3 今しも 彼らは 私のたましいを待ち伏せし 力ある者どもは 私に襲いかかろうとしています。主よ それは私の背きのゆえでもなく 私の罪のゆえでもありません。
- 4 私には咎がないのに 彼らは走り 身構えています。どうか目を覚まし ここに来て 見てください。
- 5 あなたは万軍の神 主 イスラエルの神。どうか目を覚まし すべての国を罰してください。邪悪な裏切り者を だれもあわれまないでください。セラ
- 6 彼らは タベに帰って来ては 犬のようにほえ 町をうろつき回ります。
- 7 ご覧ください。彼らの唇には多くの剣があり その口で放言しているのです。「だれが聞くものか」と。
- 8 しかし主よ あなたは彼らを笑い すべての国々を嘲られます。
- 9 私の力よ 私はあなたを見続けます。神が私の砦だからです。
- 10 私の恵みの神は 私を迎えに来てくださる。神は 私に敵を平然と眺めるようにして下さる。
- 11 彼らを殺してしまわないでください。私の民が忘れることのないように。御力によって彼らをさまよわせてください。彼らを打ち倒してください。主よ 私たちの盾よ。
- 12 彼らの口の罪は 彼らの唇のことば。彼らは高慢にとらえられるがよい。彼らが語る 呪いとへつらいのゆえに。
- 13 憤りをもって滅ぼし尽くしてください。滅ぼし尽くしてください。彼らがいなくなるまで。神が地の果てまでも ヤコブを治められることを 彼らが知るようにしてください。セラ
- 14 彼らは タベに帰って来ては 犬のようにほえ 町をうろつき回ります。
- 15 食を求めてさまよい歩き 満ち足りなければ 夜を明かします。
- 16 しかし この私はあなたの力を歌います。朝明けには あなたの恵みを喜び歌います。私の苦しみの日に あなたが私の砦 また 私の逃げ場であられたからです。
- 17 私の力よ 私はあなたにほめ歌を歌います。神は私の砦 私の恵みの神であるからです。

第60章

- 1 神よ あなたは私たちを拒み 私たちを破られました。 あなたは怒られました。 どうか 私たちを回復させてください。
- 2 あなたは地を揺るがし 引き裂かれました。 その裂け目を癒やしてください。 地が揺れ動いているからです。
- 3 あなたは 御民を苦しい目にあわせ よろめかす酒を 私たちに飲ませられました。
- 4 あなたは あなたを恐れる者に 旗を授けられました。 弓から逃れた者をそこに集めるために。 セラ
- 5 あなたの愛する者たちが助け出されるよう あなたの右の手で救い 私に答えてください。
- 6 神は聖所から告げられました。「わたしは 喜んでシェケムを分け スコテの平原を測ろう。
- 7 ギルアデはわたしのもの。 マナセもわたしのもの。 エフライムは わたしの頭のかぶと。 ユダはわたしの王笏。
- 8 モアブはわたしの足を洗うたらい。 エドムの上に わたしの履き物を投げつけよう。 ペリシテよ わたしのゆえに大声で叫べ。」
- 9 だれが 私を防備の町に連れて行くのでしょうか。 だれが 私をエドムまで導くのでしょうか。
- 10 神よ あなたご自身が 私たちを拒まれるのですか。 神よ あなたはもはや 私たちとともに出陣なさらないのですか。
- 11 どうか敵から私たちを助けてください。 人による救いはむなしいからです。
- 12 神にあって 私たちは力ある働きをします。 神が 私たちの敵を踏みつけてくださいます。

第61章

- 1 神よ 私の叫びを聞き 私の祈りに耳を傾けてください。
- 2 私の心が衰え果てるとき 私は地の果てから あなたを呼び求めます。 どうか 及びがたいほど高い岩の上に 私を導いてください。
- 3 あなたは私の避け所 敵に対して強いやぐら。
- 4 私は あなたの幕屋にいつまでも住み 御翼の陰に身を避けます。 セラ
- 5 神よ まことにあなたは 私の誓いを聞き入れ 御名を恐れる者の受け継ぐ地を 私に下さいました。
- 6 どうか王のいのちを延ばし その齢を代々に至らせてください。
- 7 王が 神の御前でいつまでも 王座に着いているようにしてください。 恵みとまことを与えて 王をお守りください。
- 8 こうして 私はあなたの御名を とこしえまでもほめ歌い 日ごとに 私の誓いを果たします。

第62章

- 1 私のたましいは黙って ただ神を待ち望む。私の救いは神から来る。
- 2 神こそ わが岩 わが救い わがやぐら。私は決して揺るがされない。
- 3 おまえたちは いつまで一人の人を襲うのか。おまえたちは こぞって打ち殺そうとしている。城壁を傾け 石垣を倒すように。
- 4 実に彼らは 人を高い地位から 突き落とそうと企んでいる。彼らは偽りを好み 口では祝福し 心では呪う。セラ
- 5 私のたましいよ 黙って ただ神を待ち望め。私の望みは神から来るからだ。
- 6 神こそ わが岩 わが救い わがやぐら。私は揺るがされることがない。
- 7 私の救いと栄光は ただ神にある。私の力の岩と避け所は 神のうちにある。
- 8 民よ どんなときにも神に信頼せよ。あなたがたの心を 神の御前に注ぎ出せ。神はわれらの避け所である。セラ
- 9 低い者はただ空しく 高い者も偽りだ。秤にかけると 彼らは上に上がる。彼らを合わせても 息より軽い。
- 10 圧制に頼るな。略奪に空しい望みをかけるな。富が増えても それに心を留めるな。
- 11 神は一度告げられた。二度私はそれを聞いた。力は神のものであることを。
- 12 主よ 恵みもあなたのものです。あなたは その行いに応じて人に報いられます。

第63章

- 1 神よ あなたは私の神。私はあなたを切に求めます。水のない 衰え果てた乾いた地で 私のたましいは あなたに渴き 私の身も あなたをあえぎ求めます。
- 2 私は あなたの力と栄光を見るために こうして聖所で あなたを仰ぎ見えています。
- 3 あなたの恵みは いのちにもまさるゆえ 私の唇は あなたを賛美します。
- 4 それゆえ私は 生きるかぎりあなたをほめたたえ あなたの御名により 両手を上げて祈ります。
- 5 脂肪と髓をふるまわれたかのように 私のたましいは満ち足りています。喜びにあふれた唇で 私の口はあなたを賛美します。
- 6 床の上で あなたを思い起こすとき 夜もすがら あなたのことを思い巡らすときに。
- 7 まことに あなたは私の助けでした。御翼の陰で 私は喜び歌います。
- 8 私のたましいは あなたにすぎり あなたの右の手は 私を支えてくださいます。
- 9 私のいのちを求める者どもは滅び 地の深い所に行くでしょう。
- 10 彼らは剣の力に渡され 狐の餌食となるのです。
- 11 しかし 王は神にあって喜び 神にかけて誓う者は みな誇ります。偽りを言う者の口が封じられるからです。

第64章

- 1 神よ 私が嘆くとき 私の声を聞いてください。敵の脅かしから 私のいのちを守ってください。
- 2 どうか 私をかくまってください。悪を行う者どものはかりごとから 不法を行う者どもの騒ぎから。
- 3 彼らは その舌を剣のように研ぎ澄まし 苦いことばの矢を放っています。
- 4 全き人に向けて 彼らは隠れた所から射掛け 不意に矢を射て 何も恐れません。
- 5 彼らは悪事に凝っています。示し合わせて ひそかに罠をかけ「だれが見破ることができよう」と言っています。
- 6 彼らは不正を企み「企んだ策略がうまくいった」と言っています。人の内なる思いと心とは 底が知れません。
- 7 しかし神が彼らに矢を射掛けられるので 彼らは不意に傷つきます。
- 8 彼らは自らの舌につまづきました。彼らを見る者はみな 頭を振って嘲ります。
- 9 こうして すべての人は恐れ 神のみわざを告げ知らせ そのなさったことを悟ります。
- 10 正しい人は主にあって喜び 主に身を避けます。心の直ぐな人はみな 誇ることができません。

第65章

- 1 神よ 御前には静けさがあり シオンには賛美があります。あなたに誓いが果たされますように。
- 2 祈りを聞かれる方よ みもとにすべての肉なる者が参ります。
- 3 数々の咎が私を圧倒しています。しかし 私たちの背きを あなたは赦してくださいます。
- 4 幸いなことよ あなたが選び 近寄せられた人 あなたの大庭に住む人は。私たちは あなたの家の良いもの あなたの宮の聖なるもので満ち足ります。
- 5 私たちの救いの神よ。あなたは恐るべきみわざで 義のうちに答えられます。あなたは地のすべての果て 遠い大海の信頼の的です。
- 6 あなたは 御力によって山々を堅く据え 大能を帯びておられます。
- 7 あなたは 海のとどろきを鎮められます。その大波のとどろき もろもろの国民の騒ぎを。
- 8 最果てに住む者も あなたの数々のしるしを恐れます。あなたは 朝と夕の始まる所が 高らかに歌うようにされます。
- 9 あなたは地を訪れ 水を注ぎ これを大いに豊かにされます。神の川は水で満ちています。あなたは こうして地を整え 人々の穀物を備えてくださいます。
- 10 地のあぜ溝を水で満たし その畝をならし 夕立で地を柔らかにし その生長を祝福されます。
- 11 あなたはその年に 御恵みの冠をかぶらせます。あなたの通られた跡には 油が滴っています。
- 12 荒野の牧場に滴り もろもろの丘も喜びをまとっています。
- 13 牧草地は羊の群れをまとい 広やかな平原は穀物を覆いとしています。まことに喜び叫び歌っています。

第66章

- 1 全地よ 神に向かって喜び叫べ。
- 2 御名の栄光をほめ歌い 神の誉れに栄光を帰せよ。
- 3 神に申し上げよ。「あなたのみわざは なんと恐ろしいことでしょう。偉大な御力のために あなたの敵は 御前にへつらい服します。
- 4 全地はあなたを伏し拝みます。あなたをほめ歌い あなたの御名をほめ歌います。」セラ
- 5 さあ 神のみわざを見よ。神が人の子らになさることは恐ろしい。
- 6 神は海を乾いた所とされた。人々は川の中を歩いて渡った。さあ 私たちは神にあって喜ぼう。
- 7 神はその御力をもってとこしえに統べ治め その目は国々を見張られる。どうか 頑迷な者を高ぶらせないでください。セラ
- 8 国々の民よ 私たちの神をほめたたえよ。神の誉れをたたえる声を響き渡らせよ。
- 9 神は 私たちのたましいを いのちのうちに保ち 私たちの足を揺るがされない。
- 10 神よ まことに あなたは私たちを試し 銀を精錬するように 私たちを錬られました。
- 11 あなたは私たちを網に引き入れ 私たちの腰に重荷を負わされました。
- 12 あなたは人々に 私たちの頭をまたがせ 私たちは 火の中 水の中を通りました。しかし あなたは私たちを 豊かな所へ導き出してくださいました。
- 13 私は全焼のささげ物を携えて あなたの家に行き 私の誓いをあなたに果たします。
- 14 それは 私の苦しみの上に 唇を大きく開き この口で申し上げた誓いです。
- 15 私は 肥えたものを全焼のささげ物として 雄羊のいけにえの煙とともに あなたに献げます。雄牛を雄やぎとともに献げます。セラ
- 16 さあ聞け すべて神を恐れる者たちよ。神が私のたましいになさったことを語ろう。
- 17 私はこの口で神を呼び求め この舌で神をあがめた。
- 18 もしも不義を 私が心のうちに見出すなら 主は聞き入れてくださらない。
- 19 しかし 確かに神は聞き入れ 私の祈りの声に耳を傾けてくださった。
- 20 ほむべきかな 神。神は私の祈りを退けず 御恵みを私から取り去られなかった。

第67章

- 1 どうか 神が私たちをあわれみ 祝福し 御顔を私たちの上に 照り輝かせてくださいますように。セラ
- 2 あなたの道が地の上で 御救いが すべての国々の間で知られるために。
- 3 神よ 諸国の民があなたをほめたたえ 諸国の民がみな あなたをほめたたえますように。
- 4 国々の民が喜び また喜び歌いますように。それは あなたが公平に諸国の民をさばき 地の国民を導かれるからです。セラ
- 5 神よ 諸国の民があなたをほめたたえ 諸国の民がみな あなたをほめたたえますように。
- 6 大地はその実りを産み出しました。神が 私たちの神が 私たちを祝福してくださいますように。
- 7 神が私たちを祝福してくださり 地の果てのすべての者が 神を恐れますように。

第68章

- 1 神は立ち上がり その敵は散り失せる。神を憎む者たちは御前から逃げ去る。
- 2 煙が追い払われるように 追い払ってください。ろうが火の前で溶け去るように 悪しき者が 神の御前から滅び失せますように。
- 3 しかし正しい者たちは 小躍りして喜ぶ。神の御前で喜び楽しむ。
- 4 神に向かって歌い 御名をほめ歌え。雲に乗って来られる方のために道を備えよ。その御名は主。その御前で喜び躍れ。
- 5 みなしごの父 やもめのためのさばき人は 聖なる住まいにおられる神。
- 6 神は孤独な者を家に住まわせ 捕らわれ人を歓喜の歌声とともに導き出される。しかし頑迷な者は 焦げつく地に住む。
- 7 神よ あなたが御民に先立って出て行き 荒れ野を進み行かれたときセラ
- 8 地は揺れ動き 天も雨を降らせました。シナイにおられる神の御前で。イスラエルの神である神の御前で。
- 9 神よ あなたは豊かな雨を注ぎ 疲れたあなたのゆずりの地を堅く立てられました。
- 10 あなたの群れはその地に住みました。神よ あなたはいつくしみをもって 苦しむ者のために備えをされました。
- 11 主はみことばを与えてくださる。良き知らせを告げる女たちは大きな群れ。
- 12 軍勢の王たちは逃げ また逃げる。家に残った女たちは獲物を分け合う。
- 13 羊の囲いの中に横たわるとしても あなたがたは 翼が銀でおおわれて きらめく黄金で羽がおおわれた鳩のようだ。
- 14 全能者が王たちを その地で散らされたとき ツアルモンには雪が降っていた。
- 15 神々しい山 バシャンの山よ。峰を連ねた山 バシャンの山よ。
- 16 峰を連ねた山々よ。なぜ おまえたちはねたみ見るのか。神がその住まいとして望まれたあの山を。まことに主は とこしえにそこに住まわれる。
- 17 神の戦車は 幾千万と数知れず。主はその中におられる。シナイの神は聖所の中に。
- 18 あなたは 捕虜を引き連れて いと高き所に上り 人々に 頑迷な者どもにさえ 贈り物を与えられた。神であられる主が そこに住まわれるために。
- 19 ほむべきかな 主。日々 私たちの重荷を担われる方。この神こそ 私たちの救い。セラ
- 20 神は私たちの救いの神。死を免れるのは 私の主 神による。
- 21 神は必ず 敵の頭を打ち碎かれる。自分の罪過のうちを歩む者の 毛深い脳天を。
- 22 主は言われた。「わたしは バシャンから彼らを連れ帰る。海の深みからも連れ帰る。
- 23 あなたが彼らを打ち碎き 足を血に染め あなたの犬たちの舌が敵の血をなめるために。」
- 24 神よ 人々はあなたの行列を見ました。聖所で 私の王 私の神の行列を。
- 25 歌い手が前を進み 楽人が後に続く。タンバリンを鳴らすおとめたちのただ中を。
- 26 「相集って 神をほめたたえよ。イスラエルの泉から 主をほめたたえよ。」

- 27** そこには 彼らを導く末子のベニヤミンがいる。その群れの中には ユダの君主たち ゼブルンの君主たち ナフタリの君主たちもいる。
- 28** あなたの神は あなたの力を現れさせました。神よ あなたが私たちに示された力を。
- 29** エルサレムにあるあなたの宮のゆえに 王たちは あなたに献上品を携えて来ます。
- 30** 葦の中の獣を叱ってください。国々の民の子牛を連れた雄牛の群れを。彼らは銀の品々を踏みつけています。戦いを喜ぶ 国々の民を散らしてください。
- 31** 貢ぎ物はエジプトから到来し クシュは神に向かって 急いで手を伸ばします。
- 32** 地の王国よ 神に向かって歌え。主にほめ歌を歌え。セラ
- 33** いにしえから 天の天を御される方に。聞け。神は御声を発せられる。力強い御声を。
- 34** 力を神に帰せよ。威光はイスラエルの上に 御力は雲の中にある。
- 35** 神よ あなたは恐るべき方。あなたはご自分の聖なる所におられます。イスラエルの神こそ 力と勢いを御民にお与えになる方です。ほむべきかな 神。

第69章

- 1 神よ 私をお救いください。水が喉にまで入って来ました。
- 2 私は深い泥沼に沈み 足がかりもありません。私は大水の底に陥り 奔流が私を押し流しています。
- 3 私は叫んで疲れ果て 喉は渇き 目も衰え果てました。私の神を待ちわびて。
- 4 ゆえなく私を憎む者は 私の髪の毛よりも多く 私を滅ぼそうとする者 私の敵 偽り者は強いのです。私は 奪わなかった物さえ 返さなければならないのですか。
- 5 神よ あなたは私の愚かさをご存じです。私の数々の罪過は あなたに隠されています。
- 6 万軍の神 主よ あなたを待ち望む者たちが 私のために恥を見ないようにしてください。イスラエルの神よ あなたを慕い求める者たちが 私のために卑しめられないようにしてください。
- 7 あなたのことで 私はそしりを受け 恥辱が私の顔をおおっているのです。
- 8 私は自分の兄弟から のけ者にされ 母の子らには よそ者となりました。
- 9 それは あなたの家を思う熱心が 私を食い尽くし あなたを嘲る者たちの嘲りが 私に降りかかったからです。
- 10 私が断食し わが身を泣き悲しむと それが私への嘲りのもととなりました。
- 11 私が粗布を自分の衣とすると 私は彼らの物笑いの種となりました。
- 12 門に座る者たちは私のうわさ話をし 私は酔いどれの歌になりました。
- 13 しかし私は 主よ あなたに祈ります。神よ みこころの時に あなたの豊かな恵みにより 御救いのまことをもって 私に答えてください。
- 14 私を泥沼から救い出し 沈まないようにしてください。私を憎む者どもから 大水の底から 救い出してください。
- 15 奔流が私を押し流さず 深い淵が私を呑み込まず 穴が私の上で口を閉じないようにしてください。
- 16 主よ 私に答えてください。いつくしみ深い あなたの恵みのゆえに。あなたのあわれみの豊かさにしたがって 私に御顔を向けてください。
- 17 あなたのしもべに御顔を隠さないでください。私は苦しんでいます。早く私に答えてください。
- 18 私のたましいに近づき これを贖ってください。そうして 私の敵から私を贖い出してください。
- 19 あなたはよくご存じです。私への嘲りと 恥と恥辱とを。私に敵する者はみな あなたの御前にいます。
- 20 嘲りが私の心を打ち砕き 私はひどく病んでいます。私が同情を求めても それはなく 慰める者たちを求めても 見つけれません。
- 21 彼らは私の食べ物代わりに 毒を与え 私が渴いたときには酢を飲ませました。

- 22 彼らの前の食卓は罷となり 栄えるときに 落とし穴となりますように。
- 23 彼らの目が暗くなり 見えなくなりますように。 その腰がいつもよろけますように。
- 24 あなたの憤りを 彼らの上に注いでください。 燃える怒りを 彼らに追いつかせてください。
- 25 彼らの宿営が荒れ果て その天幕から住む者が絶えますように。
- 26 彼らは あなたが打たれた者を迫害し あなたに刺し貫かれた者の痛みを言いふらします。
- 27 どうか 彼らの咎に咎を加え 彼らをあなたの義のうちに入れないでください。
- 28 彼らがいのちの書から消し去られますように。 正しい者と並べて 彼らが書き記されることがありませんように。
- 29 私は苦しんで 痛みの中にいます。 神よ 御救いが私を高く上げますように。
- 30 歌をもって 私は神の御名をほめたたえ 感謝をもって 私は神をあがめます。
- 31 それは 雄牛にまさって主に喜ばれます。 角が生え ひづめが割れた若い牛にまさって。
- 32 心の貧しい者たちよ 見て喜べ。 神を求める者たちよ あなたがたの心を生かせ。
- 33 主は 貧しい者に耳を傾け 捕らわれたご自分の民を蔑まれない。
- 34 天地よ 主をほめたたえよ。 海とそこにうごめくすべてのものも。
- 35 まことに神は シオンを救い ユダの町々を建て直される。 彼らはそこに住み そこを自分たちの所有とする。
- 36 主のしもべたちの子孫はその地を受け継ぎ 御名を愛する者たちはそこに住む。

第70章

- 1 神よ 私を救い出してください。 主よ 急いで私を助けに来てください。
- 2 私のいのちを求める者たちが 恥を見 辱められますように。 私のわざわいを喜ぶ者たちが 退き 卑しめられますように。
- 3 「あはは」とあざ笑う者たちが 恥をかい 立ち去りますように。
- 4 あなたを慕い求める人たちがみな あなたにあって楽しみ 喜びますように。 あなたの救いを愛する人たちが「神は大いなる方」と いつも言いますように。
- 5 私は苦しむ者 貧しい者です。 神よ 私のところに急いでください。 あなたは私の助け 私を救い出す方。 主よ 遅れないでください。

第71章

- 1 主よ 私はあなたに身を避けています。私が決して恥を見ないようにしてください。
- 2 あなたの義によって私を救い 助け出してください。あなたの耳を私に傾け 私をお救いください。
- 3 私の避け所の岩となってください。いつでもそこに入れるように。あなたは私の救いを定められました。あなたは私の巖 私の砦なのです。
- 4 わが神よ 私を悪者の手から助け出してください。不正を行う者や残虐な者の手から。
- 5 神である主よ あなたは私の望み 若い日からの拠り所。
- 6 私は生まれたときから あなたに抱かれています。あなたは私を母の胎から取り上げた方。私はいつもあなたを賛美しています。
- 7 私は多くの人にとって奇跡と思われました。あなたが私の力強い避け所だからです。
- 8 私の口にはあなたへの賛美が あなたの栄えが絶えず満ちています。
- 9 年老いたときも 私を見放さないでください。私の力が衰え果てても 見捨てないでください。
- 10 私の敵は 私のことを相談し 私のいのちを狙う者がともに企みます。
- 11 彼らは言っています。「神は彼を見捨てたのだ。追いかけて彼を捕らえよ。救い出す者はいないから。」
- 12 神よ 私から遠く離れないでください。わが神よ 急いで私を助けてください。
- 13 私をなじる者どもが 恥を見て 消え失せますように。私を痛めつけようとする者どもが 恥辱と恥でおおわれますように。
- 14 しかし私は 絶えずあなたを待ち望み いよいよ切に あなたを賛美します。
- 15 私の口は絶えず語り告げます。あなたの義と救いとを。そのすべてを私は知っておりませんが。
- 16 神である主よ 私はあなたの力とともにいきます。あなたの ただあなたの義だけを心に留めて。
- 17 神よ あなたは私の若いころから 私を教えてくださいました。私は今なお あなたの奇しいみわざを告げ知らせています。
- 18 年老いて 白髪頭になったとしても 神よ 私を捨てないでください。私はなおも告げ知らせます。あなたの力を世に。あなたの大能のみわざを 後に来るすべての者に。
- 19 神よ あなたの義は天にまで届きます。あなたは大きいなることをなさいました。神よ だれが あなたのようでしょう。
- 20 あなたは私を多くの苦難とわざわいとに あわせられましたが 私を再び生き返らせ 地の深みから 再び引き上げてくださいます。
- 21 あなたが私の偉大さを増し 振り向いて私を慰めてくださいますように。
- 22 私もまた 琴であなたをほめたたえます。わが神よ あなたの真実を。私は 豎琴に合わせてあなたにほめ歌を歌います。イスラエルの聖なる方よ。

- 23 私があなたにほめ歌を歌うとき 私の唇は高らかに歌います。 あなたが贖い出された私のたましいも。
- 24 私の舌も絶えず あなたの義を告げます。 私のわざわいを求める者どもが 恥を見て 屈辱を受けるからです。

第72章

- 1 神よ あなたのさばきを王に あなたの義を王の子に与えてください。
- 2 彼が義をもって あなたの民をさばきますように。 公正をもって あなたの苦しむ民を。
- 3 山も丘も 義によって 民に平和をもたらしますように。
- 4 王が 民の苦しむ者たちを弁護し 貧しい者の子らを救い 虐げる者どもを打ち碎きますように。
- 5 彼らが 日と月の続くかぎり 代々にわたって あなたを恐れますように。
- 6 王は 牧草地に降る雨のように 地を潤す夕立のように下って来ます。
- 7 彼の代に 正しい者が栄え 月がなくなるときまでも 豊かな平和がありますように。
- 8 海から海に至るまで 川から地の果てに至るまで 王が統べ治めますように。
- 9 砂漠の民は王の前に膝をつき 王の敵は ちりをなめますように。
- 10 タルシシュと島々の王たちは貢ぎを納め シェバとセバの王たちは贈り物を献げます。
- 11 こうして すべての王が彼にひれ伏し すべての国々が彼に仕えるでしょう。
- 12 それは 王が 叫び求める貧しい者や 助ける人のない苦しむ者を救い出すからです。
- 13 王は 弱い者や貧しい者をあわれみ 貧しい者たちのいのちを救います。
- 14 虐げと暴虐から 王は彼らのいのちを贖います。 王の目には 彼らの血は尊いのです。
- 15 どうか 王が生き続け 彼にシェバの黄金が献げられますように。 王のためにいつも彼らが 祈り 絶えず王をほめたたえますように。
- 16 大地には 穀物が豊かにあり 山々の頂では 実がレバノンのように たわわに揺れ 町の人々は 地の草花のように咲き誇りますように。
- 17 王の名がとこしえに続き その名が 日の照るかぎり増え広がりますように。 人々が彼によって祝福され すべての国々が彼をほめたたえますように。
- 18 ほむべきかな 神である主 イスラエルの神。 ただひとり 奇しいみわざを行われる方。
- 19 とこしえにほむべきかな その栄光の御名。 その栄光が全地に満ちあふれますように。 アーメン、アーメン。
- 20 エッサイの子ダビデの祈りは終わった。

第73章

- 1 まことに 神はいつくしみ深い。イスラエルに 心の清らかな人たちに。
- 2 けれどもこの私は 足がつまずきそうで 私の歩みは滑りかけた。
- 3 それは 私が悪しき者が栄えるのを見て 誇り高ぶる者をねたんだからだ。
- 4 実に 彼らの死には苦痛がなく 彼らのからだは肥えている。
- 5 人が苦勞するときに 彼らはそうではなく ほかの人のように 打たれることもない。
- 6 それゆえ 高慢が彼らの首飾りとなり 暴虐の衣が彼らをおおっている。
- 7 彼らの目は脂肪でふくらみ 心の思い描くものがあふれ出る。
- 8 彼らは嘲り 悪意をもって語り 高い所から虐げを言う。
- 9 彼らは口を天に据え その舌は地を行き巡る。
- 10 それゆえ この民はここに帰り 豊かな水は彼らに汲み尽くされる。
- 11 そして 彼らは言う。「どうして神が知るだろうか。いと高き方に知識があるだろうか。」
- 12 見よ これが悪しき者。彼らはいつまでも安らかで 富を増している。
- 13 ただ空しく 私は自分の心を清め 手を洗って 自分を汚れなしとした。
- 14 私は 休みなく打たれ 朝ごとに懲らしめを受けた。
- 15 もしも私が「このままを語ろう」と言っていたなら きっと私は あなたの子らの世代を裏切っていたことだろう。
- 16 私は このことを理解しようとしたが それは 私の目には苦役であった。
- 17 ついに私は 神の聖所に入って 彼らの最期を悟った。
- 18 まことに あなたは彼らを滑りやすい所に置き 彼らを滅びに突き落とされます。
- 19 ああ 彼らは瞬く間に滅ぼされ 突然の恐怖で 滅ぼし尽くされます。
- 20 目覚めの夢のように 主よ あなたが目を覚ますとき 彼らの姿を蔑まれます。
- 21 私の心が苦みに満ち 私の内なる思いが突き刺されたとき
- 22 私は愚かで考えもなく あなたの前で 獣のようでした。
- 23 しかし 私は絶えずあなたとともにいました。あなたは私の右の手を しっかりとつかんでくださいました。
- 24 あなたは 私を諭して導き 後には栄光のうちに受け入れてくださいます。
- 25 あなたのほかに 天では 私にだれがいるでしょう。地では 私はだれをも望みません。
- 26 この身も心も尽き果てるでしょう。しかし 神は私の心の岩 とこしえに 私が受ける割り当ての地。
- 27 見よ あなたから遠く離れている者は滅びます。あなたに背き 不実を行う者を あなたはみな滅ぼされます。
- 28 しかし 私にとって 神のみそばにすることが 幸せです。私は 神である主を私の避け所とし あなたのすべてのみわざを語り告げます。

第74章

- 1 神よ なぜ いつまでも拒み 御怒りをあなたの牧場の羊に燃やされるのですか。
- 2 どうか思い起こしてください。昔あなたが買い取られ ゆずりの民として贖われた あなたの会衆を。あなたの住まいであるシオンの山を。
- 3 あなたの足を 永遠の廢墟に踏み入れてください。敵は聖所であらゆる害を加えています。
- 4 あなたに敵対する者どもは あなたの聖なる所でほえたけり 自分たちのしるしを そこに掲げています。
- 5 あたかも 木の茂みの中で 斧を高く振り上げる者のようです。
- 6 今や彼らは 手斧と槌で 聖所の彫り物をことごとく打ち砕き
- 7 あなたの聖所に火を放ち あなたの御名の住まいを その地まで汚しました。
- 8 彼らは心の中で「彼らを ことごとく征服しよう」と言い 国中の神の聖所をみな 焼き払いました。
- 9 もう私たちのしるしは見られません。もはや預言者もいません。いつまでそうなのかを知っている者も 私たちの間にはいません。
- 10 神よ いつまで はむかう者はそしるのですか。敵は 永久に 御名を侮るのですか。
- 11 なぜ あなたは御手を 右の御手を 引いておられるのですか。その手を懷から出して 彼らを滅ぼし尽くしてください。
- 12 神は 昔から私の王 この地において 救いのみわざを行う方。
- 13 あなたは 御力をもって海を打ち破り その水の上の 竜の頭を砕かれました。
- 14 あなたは レビヤタンの頭を踏みにじり 砂漠に住むものたちの餌食とされました。
- 15 あなたは 泉と谷を切り開き 流れの絶えない川を涸らされました。
- 16 昼はあなたのもの 夜もあなたのもの。あなたは月と太陽を備えられました。
- 17 あなたは 地のすべての境を定め 夏と冬を造られました。
- 18 主よ どうか 心に留めてください。敵がそしり 愚かな民が御名を侮っていることを。
- 19 あなたの山鳩のいのちを 獣に引き渡さないでください。あなたの悩む者たちのいのちを 永久に忘れないでください。
- 20 どうか 契約に目を留めてください。地の暗い所は 暴虐の巣ですから。
- 21 虐げられる者が 辱めを受けて帰されることがなく 苦しむ者 貧しい者が 御名をほめたたえますように。
- 22 神よ 立ち上がり ご自分の言い分を立ててください。愚か者が休みなくあなたをそしっていることを 心に留めてください。
- 23 忘れないでください。あなたに敵対する者の声を あなたに向かい立つ者どもが 絶えずあげる叫びを。

第75章

- 1 私たちはあなたに感謝します。 神よ 私たちは感謝します。 あなたの御名は近くにあり あなたの奇しいみわざが 語り告げられています。
- 2 「わたしが 定めの時を決め わたし自ら 公正にさばく。
- 3 地とそこに住むすべての者が揺らぐとき わたしが 地の柱を堅く立てる。 セラ
- 4 わたしは 誇る者には『誇るな』と言ひ 悪者どもには『角を上げるな。
- 5 おまえたちの角を高く上げるな。 横柄な態度で語るな』と言う。」
- 6 高く上げることは 東からでもなく 西からでもなく 荒野からでもない。
- 7 まことに 神こそさばき主。 ある者を低くし ある者を高く上げられる。
- 8 主の御手には杯があり 混ぜ合わされた泡立つぶどう酒が満ちている。 主がこれを注ぎ出されると 実に すべて地の悪者どもは それを飲み かすまで飲み干す。
- 9 しかし私は とこしえまでもみわざを告げます。 ヤコブの神に ほめ歌を歌います。
- 10 私は悪者どもの角を ことごとく切り捨てます。 正しい者の角は 高く上げられます。

第76章

- 1 神は ユダにご自分を示される。 イスラエルに その御名の偉大さを。
- 2 その仮庵はサレムに その住まいはシオンにある。
- 3 神はそこで 弓の火矢を碎かれる。 盾と剣も 戦いも。 セラ
- 4 あなたは輝かしく 獲物で満ちる山々にまさって威厳があります。
- 5 剛胆な者たちは略奪され 深い眠りに陥りました。 どの勇士たちにも 手の施しようがありませんでした。
- 6 ヤコブの神よ あなたが叱りつけると 戦車も馬も 倒れ伏しました。
- 7 あなたは 実にあなたは恐ろしい方。 お怒りになれば だれが御前に立てるでしょう。
- 8 天からあなたの宣告が聞こえると 地は恐れて沈黙しました。
- 9 神が さばきのために 地のすべての貧しい者たちを救うために 立ち上がられたそのときに。 セラ
- 10 まことに 人の憤りまでもがあなたをたたえ あなたは あふれ出た憤りを身に帯びられます。
- 11 あなたがたの神 主に 誓いを立て それを果たせ。 主の周りにいる者はみな 恐るべき方に贈り物を献げよ。
- 12 主は 君主たちの霊を刈り取られる。 地の王たちにとって 恐るべき方。

第77章

- 1 私は神に声をあげて 叫ぶ。私が神に声をあげると 神は聞いてくださる。
- 2 苦難の日に 私は主を求め 夜もすがら たゆまず手を差し伸ばした。けれども 私のたましいは慰めを拒んだ。
- 3 神を思い起こして 私は嘆き悲しむ。思いを潜めて 私の霊は衰え果てる。セラ
- 4 あなたは 私のまぶたを閉じさせません。私の心は乱れて もの言うこともできません。
- 5 私は 昔の日々 遠い昔の年月について考えました。
- 6 夜には私の歌を思い起こし 自分の心と語り合い 私の霊は探り求めます。
- 7 「主は いつまでも拒まれるのか。もう決して受け入れてくださらないのか。
- 8 主の恵みは とこしえに尽き果てたのか。約束のことばは 永久に絶えたのか。
- 9 神は いつくしみを忘れられたのか。怒って あわれみを閉ざされたのか。」セラ
- 10 私はこう言った。「私が弱り果てたのは いと高き方の右の手が変わったからだ」と。
- 11 私は 主のみわぎを思い起こします。昔からの あなたの奇しいみわぎを思い起こします。
- 12 私は あなたのなさったすべてのことを思い巡らし あなたのみわぎを 静かに考えます。
- 13 神よ あなたの道は聖です。私たちの神のように大いなる神がいるでしょうか。
- 14 あなたは奇しいみわぎを行われる神。国々の民の中で御力を現される方。
- 15 あなたは御腕をもって贖われました。ご自分の民 ヤコブとヨセフの子らを。セラ
- 16 神よ 水はあなたを見ました。水はあなたを見て わななきました。大いなる水も震え上がりました。
- 17 雨雲は水を注ぎ出し 雷雲は雷をとどろかし あなたの矢も ひらめき飛びました。
- 18 あなたの雷の声は 戦車のように鳴り 稲妻は世界を照らし 地は震え 揺れ動きました。
- 19 あなたの道は 海の中。その通り道は大水の中。あなたの足跡を見た者はいませんでした。
- 20 あなたは モーセとアロンの手によって ご自分の民を 羊の群れのように導かれました。

第78章

- 1 私の民よ 私の教えを耳に入れ 私の口のことばに耳を傾けよ。
- 2 私は口を開いて たとえ話を 昔からの謎を語ろう。
- 3 それは 私たちが聞いて 知っていること。 私たちの先祖が語ってくれたこと。
- 4 それを私たちは 息子たちに隠さず 後の時代に語り告げよう。 主の誉れを 主が行われた力ある奇しいみわざを。
- 5 主は ヤコブのうちにさとしを置き イスラエルのうちにみおしえを定め 私たちの先祖に命じて その子らに教えるようにされた。
- 6 後の世代の者 生まれてくる子らがこれを知り さらに彼らが その子らにまた語り告げるため
- 7 彼らが神に信頼し 神のみわざを忘れず その命令を守るために。
- 8 先祖たちのように 強情で逆らう世代 心定まらない世代 霊が神に忠実でない世代とならないために。
- 9 エフライムの人々は 弓を射る者であったが 戦いの日には退却した。
- 10 彼らは 神の契約を守らず 神のおしえに従って歩むことを拒み
- 11 神の数々のみわざを忘れてしまった。 神が見せてくださった多くの不思議を。
- 12 神は奇しいみわざを 彼らの先祖の前で エジプトの地 ツォアンの野で行われた。
- 13 海を分けて 彼らを通らせ 堰のように水を立てられた。
- 14 昼は雲で彼らを導かれた。 夜は 夜通し炎の光で。
- 15 荒野で 神は岩を割り 大いなる深淵の水を 豊かに飲ませてくださった。
- 16 あふれる流れを 岩からほとばしらせ 水を 豊かな川のように流れさせてくださった。
- 17 けれども 彼らはなおも神に罪を犯し 砂漠で いと高き方に逆らった。
- 18 彼らは心のうちで神を試み 欲に任せて食べ物求めた。
- 19 そのとき彼らは神に逆らって言った。「荒野で食事を備えることが 神にできるのか。
- 20 確かに 神が岩を打たれると 水が湧き出て 流れがあふれた。 だが神は パンも与えることができるのか。 民のために 肉を用意できるのか。」
- 21 それゆえ主は これを聞いて激しく怒られた。 火はヤコブに向かって燃え 怒りはイスラエルに向かって燃え上がった。
- 22 これは 彼らが神を信じず 御救いに信頼しなかったからである。
- 23 神は 上の雲に命じて 天の戸を開き
- 24 彼らの上に 食べ物としてマナを降らせ 天の穀物を彼らに与えられた。
- 25 それで人々は御使いのパンを食べた。 神は満ちたりるほど食物を送られた。
- 26 神は 東風を天に起こし 御力をもって南風を吹かせられた。
- 27 彼らの上に 肉をちりのように 翼のある鳥を海の砂のように降らせ
- 28 それを 宿営の中 住まいの周りに落とされた。
- 29 彼らは食べ 十分に満ち足りた。 こうして 彼らが欲望を満たすままにされた。

- 30 彼らがその欲望を手放さず まだ食べ物が口にあるうちに
- 31 神の怒りが 彼らに向かって燃え上がり 彼らのうちの最も頑丈な者たちを殺し イスラエルの若い男たちを打ちのめした。
- 32 これらすべてにもかかわらず 彼らはなおも罪を犯し 神の奇しいみわざを信じなかった。
- 33 それで神は 彼らの日を一息のうちに 彼らの齢を 突然の恐怖のうちに終わらせられた。
- 34 神が彼らを殺されると 彼らは神を尋ね求め 立ち返り 神を切に求めた。
- 35 彼らは思い出した。 神が自分たちの岩であり いと高き神が自分たちを贖う方であることを。
- 36 しかし彼らは その口で神に媚び 舌で神に偽りを言った。
- 37 彼らの心は神に堅く立たず 神の契約に忠実でなかった。
- 38 しかし 神はあわれみ深く 彼らの咎を赦して 滅ぼされなかった。 怒りを何度も抑えて 憤りのすべてをかき立てられることはなかった。
- 39 神は心に留めておられた。 彼らが肉にすぎないことを。 吹けば戻らない風であることを。
- 40 幾たび彼らは 荒野で神に逆らい 荒れ地で神を悲しませたことか。
- 41 彼らは繰り返し神を試み イスラエルの聖なる方の心を痛めた。
- 42 彼らは 神の力も 神が敵から贖い出してくださった日も 思い起こさなかった。
- 43 神がエジプトでしるしを ツォアンの野で奇跡を行われたことを。
- 44 神が大河を血に変えられたので その流れは飲めなくなった。
- 45 神は彼らに あぶの群れを送り 蛙を送って 彼らを食い尽くされた。
- 46 また 彼らの作物を若いいなごに 彼らの勤労の実をいなごに与えられた。
- 47 神は 雹で彼らのぶどうの木を 稲妻で いちじく桑の木を滅ぼされた。
- 48 彼らの家畜を雹に 家畜の群れを 疫病に渡された。
- 49 神は 彼らの上に燃える怒りを送られた。 激しい怒りと憤りと苦しみを。 わざわいをもたらす御使いたちを。
- 50 神は 御怒りに道を備え 彼ら自身に死を免れさせず 彼らのいのちを疫病に渡された。
- 51 神はエジプトで すべての長子を打ち殺された。 ハムの天幕で 彼らの力の初穂を。
- 52 神は ご自分の民を羊の群れのように連れ出し 家畜の群れのように 荒野の中を連れて行かれた。
- 53 神が安らかに導かれたので 彼らは恐れなかった。 しかし彼らの敵は 海がおおい隠した。
- 54 こうして神は 彼らをご自分の聖なる国に 右の御手で造ったこの山に 連れて来られた。
- 55 また 彼らの前から異邦の民を追い出し その地を相続の地として彼らに分け与え イスラエル諸族を それぞれの天幕に住まわせた。
- 56 けれども 彼らはいと高き神を試み 神に逆らい そのさとしを守らなかった。
- 57 彼らは元に戻り 先祖たちのように裏切り たるんだ弓の矢のように それて行った。
- 58 また 高き所を築いて神の怒りを引き起こし 刻んだ像で 神のねたみを起こさせた。
- 59 神は 聞いて激しく怒り イスラエルを激しく退けられた。

- 60 シロの御住まい 人々の間に張った その幕屋を見放して
- 61 御力を捕らえられるに任せ 御栄えを敵の手に渡された。
- 62 神は ご自分の民を剣に引き渡し ゆずりの民に対して 激しく怒られた。
- 63 火は若い男たちを食い尽くし 若い女たちは婚礼の歌を歌わなかった。
- 64 祭司たちは剣に倒れ やもめたちは泣くこともできなかった。
- 65 そのとき主は 眠りから目を覚まされた。 ぶどう酒の酔いから覚めた勇士のように。
- 66 主はその敵を打って退け 彼らに永遠のそしりを与えられた。
- 67 主は ヨセフの天幕を捨て エフライム族を選ばず
- 68 ユダの部族を選ばれた。 主が愛されたシオンの山を。
- 69 主はその聖所を 高い天のように建てられた。 ご自分が永遠に基を据えた地のように。
- 70 主は しもベダビデを選び 羊の囲いから召し出された。
- 71 乳を飲ませる雌羊の番から 彼を連れて来て 御民ヤコブを ご自分のゆずりの民イスラエルを 牧するようにされた。
- 72 彼は 全き心で彼らを牧し 英知の手で彼らを導いた。

第79章

- 1 神よ 国々はあなたのゆずりの地に侵入し あなたの聖なる宮を汚し エルサレムを瓦礫の山としました。
- 2 彼らは あなたのしもべたちの屍を 空の鳥の餌食とし あなたにある敬虔な人たちの肉を 地の獣に与え
- 3 彼らの血を エルサレムの周りに 水のように注ぎ出しました。 彼らを葬る者もいません。
- 4 私たちは隣人のそしりの的となり 周りの者に嘲られ 笑いぐさとなりました。
- 5 主よ いつまでですか。 とこしえに あなたはお怒りになるのですか。 いつまで あなたのねたみは 火のように燃えるのですか。
- 6 どうか あなたの激しい憤りを注いでください。 あなたを知らない国々に。 御名を呼び求めない王国の上に。
- 7 彼らはヤコブを食い尽くし その住む所を荒らしたのです。
- 8 先祖たちの咎を 私たちのものとして思い出さないでください。 あなたのあわれみが 速やかに私たちを迎えるようにしてください。 私たちは ひどくおとしめられているのです。
- 9 私たちの救いの神よ 私たちを助けてください。 御名の栄光のために。 私たちを救い出し 私たちの罪をお赦してください。 御名のゆえに。
- 10 なぜ 国々は「彼らの神はどこにいるのか」と言うのでしょうか。 あなたのしもべたちの流された血の復讐が 私たちの目の前で 国々に果たされますように。
- 11 捕らわれ人のうめきが 御前に届きますように。 あなたのたいなる力のゆえに 死に定められた人々を 生きながらえさせてください。
- 12 主よ あなたをそしった そのそしりの七倍を 私たちの隣人らの胸に返してください。
- 13 私たちは あなたの民 あなたの牧場の羊です。 私たちは とこしえまでもあなたに感謝し 代々限りなく あなたの誉れを語り告げます。

第80章

- 1 イスラエルの牧者よ 聞いてください。ヨセフを羊の群れのように導かれる方よ 光を放ってください。ケルビムの上に座しておられる方よ。
- 2 エフライムとベニヤミンとマナセの前で 御力を呼び覚まし 私たちを救いに来てください。
- 3 神よ 私たちを元に戻し 御顔を照り輝かせてください。そうすれば 私たちは救われます。
- 4 万軍の神 主よ いつまで あなたの民の祈りに 怒りを燃やされるのですか。
- 5 あなたは彼らに涙のパンを食べさせ あふれる涙を飲ませられました。
- 6 あなたは 私たちを隣人らの争いの的とし 私たちの敵は 私たちを嘲っています。
- 7 万軍の神よ 私たちを元に戻し 御顔を照り輝かせてください。そうすれば 私たちは救われます。
- 8 あなたは エジプトから ぶどうの木を引き抜き 異邦の民を追い出して それを植えられました。
- 9 その木のために あなたが地を整えられたので それは深く根を張り 地の全面に広がりました。
- 10 山々もその影におおわれました。神の杉の木もその大枝に。
- 11 ぶどうの木はその枝を海にまで 若枝をあの川にまで伸ばしました。
- 12 なぜ あなたはその石垣を破り 道を行くすべての者が その実を摘み取るまかにされるのですか。
- 13 林の猪はこれを食い荒らし 野に群がるものも これを食らっています。
- 14 万軍の神よ どうか帰って来てください。天から目を注ぎ ご覧になってください。このぶどうの木を顧みてください。
- 15 あなたの右の手が植えた苗と ご自分のために強くされた枝とを。
- 16 それは火で焼かれ 切り倒されています。民は 御顔のとがめによって滅びています。
- 17 あなたの右にいる人の上に 御手が ご自分のため強くされた人の子の上に 御手がありますように。
- 18 私たちはあなたから離れ去りません。私たちを生かしてください。私たちはあなたの御名を呼び求めます。
- 19 万軍の神 主よ 私たちを元に戻し 御顔を照り輝かせてください。そうすれば 私たちは救われます。

第81章

- 1 喜び歌え 私たちの力なる神に。喜び叫べ ヤコブの神に。
- 2 ほめ歌を歌い タンバリンを打ち鳴らせ。麗しい音色の豎琴を 琴に合わせてかき鳴らせ。
- 3 新月と満月に 角笛を吹き鳴らせ。私たちの祭りの日に。
- 4 これは イスラエルのためのおきて ヤコブの神のための定めである。
- 5 神が エジプトの地に向かって出て行かれたとき ヨセフのうちに それをさとしとして授けられた。私は まだ知らなかったことばを聞いた。
- 6 「わたしは 彼の肩から重荷を除き 彼の手を荷かごから離してやった。
- 7 苦しみの中であなたは叫び わたしはあなたを助け出した。わたしは 雷の隠れ場からあなたに答え メリバの水のほとりで あなたを試した。セラ
- 8 聞け わが民よ。わたしはあなたを戒めよう。イスラエルよ わたしの言うことをよく聞け。
- 9 あなたのうちに 異なる神があってはならない。異国の神を拝んではならない。
- 10 わたしは あなたの神 主である。わたしが あなたをエジプトの地から連れ上った。あなたの口を大きく開けよ。わたしが それを満たそう。
- 11 しかし わたしの民はわたしの声を聞かず イスラエルは わたしに服従しなかった。
- 12 それでわたしは 彼らを頑なな心のままに任せ 自分たちのはかりごとのままに歩ませた。
- 13 ああ ただ わたしの民がわたしに聞き従い イスラエルがわたしの道を歩んでいたなら。
- 14 わたしはただちに 彼らの敵を征服し 彼らに逆らう者に 手を下したのに。
- 15 主を憎む者どもは主にへつらうが 彼らの刑罰の時は永遠にまで至る。
- 16 しかし主は 最良の小麦を御民に食べさせる。わたしは岩から滴る蜜で あなたを満ち足らせる。」

第82章

- 1 神は 神の会議の中に立ち 神々のただ中でさばきを下す。
- 2 いつまで おまえたちは不正をもってさばき 悪しき者たちの味方をするのか。セラ
- 3 弱い者とみなしごのためにさばき 苦しむ者と乏しい者の正しさを認めよ。
- 4 弱い者と貧しい者を助け出し 悪しき者たちの手から救い出せ。
- 5 彼らは知らない。また 悟らない。彼らは暗闇の中を歩き回る。地の基は ことごとく揺らいでいる。
- 6 わたしは言った。「おまえたちは神々だ。みな いと高き者の子らだ。
- 7 にもかかわらず おまえたちは人のように死に 君主たちの一人のように倒れるのだ。」
- 8 神よ 立ち上がって 地をさばいてください。あなたが すべての国々を ご自分のものとしておられるからです。

第83章

- 1 神よ 沈黙していないでください。黙っていないでください。神よ 黙り続けしないでください。
- 2 ご覧ください。あなたの敵が騒ぎ立ち あなたを憎む者どもが頭をもたげています。
- 3 彼らは あなたの民に対して 悪賢いばかりごとをめぐらし あなたにかくまわれている者たちに 悪を企んでいます。
- 4 彼らは言っています。「さあ 彼らの国を消し去って イスラエルの名が もはや覚えられないようにしよう。」
- 5 彼らは 心をつにして悪を企み あなたに逆らって 盟約を結んでいます。
- 6 エドムの天幕の民とイシュマエル人 モアブとハガル人
- 7 ゲバルとアンモン それにアマレク ペリシテ さらにツロの住民。
- 8 アッシリアも 彼らにくみし 彼らはロトの子らの腕となりました。セラ
- 9 どうか彼らを ミディアンや キション川での シセラとヤビンのようにしてください。
- 10 エン・ドルで滅ぼし尽くされ 土地の肥やしとなった者たちのように。
- 11 彼らの貴族たちを オレブとゼエブのようにし 彼らの君主たちをみな ゼバフとツアルムナのようにしてください。
- 12 彼らは言っています。「神の牧場を奪って われわれのものとしよう。」
- 13 私の神よ 彼らを 風の前に吹き転がされる 藁のようにしてください。
- 14 林を燃やす火のように 山々を焼き尽くす炎のように
- 15 そのように あなたの疾風で彼らを追い あなたの嵐で 恐れおののかせてください。
- 16 彼らの顔を恥で満たしてください。主よ 彼らが御名を捜し回りますように。
- 17 彼らが いつまでも 恥を見て 恐れおののきますように。辱めを受けて 滅びますように。
- 18 こうして彼らが知りますように。その名が主であるあなただけが 全地の上におられる いと高き方であることを。

第84章

- 1 万軍の主よ あなたの住まいは なんと慕わしいことでしょう。
- 2 私のたましいは 主の大庭を恋い慕って 絶え入るばかりです。私の心も身も 生ける神に 喜びの歌を歌います。
- 3 雀さえも 住みかを 燕も ひなを入れる巣を あなたの祭壇のところに得ます。万軍の主 私の王 私の神よ。
- 4 なんと幸いなことでしょう。あなたの家に住む人たちは。彼らはいつも あなたをほめた たえています。セラ
- 5 なんと幸いなことでしょう。その力があなたにあり 心の中に シオンへの大路のある人は。
- 6 彼らは涙の谷を過ぎるときも そこを泉の湧く所とします。初めの雨も そこを大いなる祝福でおおいます。
- 7 彼らは力から力へと進み シオンで神の御前に現れます。
- 8 万軍の神 主よ 私の祈りを聞いてください。ヤコブの神よ 耳を傾けてください。セラ
- 9 神よ われらの盾をご覧ください。あなたに油注がれた者の顔に 目を留めてください。
- 10 まことに あなたの大庭にいる一日は 千日にまさります。私は悪の天幕に住むよりは 私の神の家の門口に立ちたいのです。
- 11 まことに 神である主は太陽 また盾。主は恵みと栄光を与え 誠実に歩む者に良いものを拒まれません。
- 12 万軍の主よ なんと幸いなことでしょう。あなたに信頼する人は。

第85章

- 1 主よ あなたはご自分の地に恵みを施し ヤコブを元どおりにされます。
- 2 あなたは 御民の咎を担い すべての罪を おおってくださいます。セラ
- 3 あなたは 激しい怒りをすべて収め 燃える御怒りから身を引かれます。
- 4 帰って来てください。私たちのところに。私たちの救いの神。私たちへの御怒りをやめてください。
- 5 あなたは とこしえに 私たちに対して怒られるのですか。代々に至るまで 御怒りを引き延ばされるのですか。
- 6 あなたは 帰って来て 私たちを生かしてくださらないのですか。あなたの民が あなたにあって喜ぶために。
- 7 主よ 私たちにお示してください。あなたの恵みを。私たちにお与えください。あなたの救いを。
- 8 聞かせてください。主である神の仰せを。主は 御民に 主にある敬虔な人たちに 平和を告げられます。彼らが再び愚かさに戻らないように。
- 9 確かに 御救いは主を恐れる者たちに近い。それは 栄光が私たちの地にとどまるためです。
- 10 恵みとまことは とともに会い 義と平和は口づけします。
- 11 まことは地から生え出で 義は天から見下ろします。
- 12 主が 良いものを下さるので 私たちの大地は産物を産み出します。
- 13 義は 主の御前に先立って行き 主の足跡を道とします。

第86章

- 1 主よ 耳を傾けて 私に答えてください。私は苦しみ 貧しいのです。
- 2 私のたましいをお守りください。私は神を恐れる者です。あなたのしもべをお救いください。あなたは私の神。私はあなたに信頼します。
- 3 主よ 私をあわれんでください。絶えず 私はあなたを呼んでいます。
- 4 このしもべのたましいを喜ばせてください。主よ 私のたましいはあなたを仰ぎ求めています。
- 5 主よ まことにあなたはいつくしみ深く 赦しに富み あなたを呼び求める者すべてに 恵み豊かであられます。
- 6 主よ 私の祈りに耳を傾け 私の願いの声を心に留めてください。
- 7 苦難の日に 私はあなたを呼び求めます。あなたが私に答えてくださるからです。
- 8 主よ 神々のうちであなたに並ぶ者はなく あなたのみわざに比べられるものはありません。
- 9 主よ あなたが造られたすべての国々は あなたの御前に来て 伏し拝み あなたの御名をあがめます。
- 10 まことに あなたは大いなる方 奇しいみわざを行われる方。あなただけが神です。
- 11 主よ あなたの道を私に教えてください。私はあなたの真理のうちを歩みます。私の心を一つにしてください。御名を恐れるように。
- 12 わが神 主よ 私は心を尽くしてあなたに感謝し とこしえまでも あなたの御名をあがめます。
- 13 あなたの恵みは私の上に大きく あなたが私のたましいを よみの深みから救い出してくださいからです。
- 14 神よ 高ぶる者どもは私に向かい立ち 横暴な者の群れが私のいのちを求めます。彼らはあなたを前にしていません。
- 15 しかし主よ あなたはあわれみ深く 情け深い神。怒るのに遅く 恵みとまことに富んでおられます。
- 16 御顔を私に向け 私をあわれんでください。あなたのしもべに御力を与え あなたのはしための子をお救いください。
- 17 私に いつくしみのしるしを行ってください。そうすれば 私を憎む者どもは見て 恥を受けます。主よ あなたが私を助け 慰めてくださるからです。

第87章

- 1 主の礎は聖なる山にある。
- 2 主はシオンの門を愛される。 ヤコブのどの住まいよりも。
- 3 神の都よ あなたについて 誉れあることが語られている。セラ
- 4 「わたしはラハブとバビロンを わたしを知る者として記憶しよう。 見よ ペリシテとツロ
クシュもともに。 『この者は この都で生まれた』と。」
- 5 しかし シオンについては こう言われている。「この者もあの者も この都で生まれ
た。 いと高き方ご自身が シオンを堅く建てられる」と。
- 6 主が「この者は この都で生まれた」と記して 国々の民を登録される。セラ
- 7 歌う者も 踊る者も「私の泉はみな あなたにあります」と言う。

第88章

- 1 主よ 私の救いの神よ 昼 私は叫びます。夜もあなたのみそばで。
- 2 私の祈りを あなたの御前にささげます。どうか 私の叫びに耳を傾けてください。
- 3 私のたましいは 苦しみに満ち 私のいのちは よみに触れていますから。
- 4 私は穴に下る者たちとともに数えられ 力の失せた者のようになっています。
- 5 私は 死人たちの間に放り出され 墓に横たわる 刺し殺された者たちのようです。あなたはもはや彼らを覚えてはおられません。彼らは あなたの御手から断ち切られています。
- 6 あなたは私を最も深い穴に置かれました。暗い所に 深い淵に。
- 7 あなたの憤りが私の上にとどまり あなたのすべての波で あなたは私を苦しめておられます。セラ
- 8 あなたは 私の親友を私から遠ざけ 私を 彼らの忌み嫌う者とされました。私は閉じ込められて 出て行くことができません。
- 9 私の目は苦しみによって衰えています。主よ 私は日ごとにあなたを呼び求めています。あなたに向かって両手を差し伸ばしています。
- 10 あなたは死人のために 奇しいみわざを行われるのでしょうか。亡霊が起き上がり あなたをほめたたえるのでしょうか。セラ
- 11 あなたの恵みが 墓の中で宣べられるのでしょうか。あなたの真実が滅びの淵で。
- 12 あなたの奇しいみわざが 闇の中で知られるのでしょうか。あなたの義が忘却の地で。
- 13 しかし私は 主よ あなたに叫び求めます。朝明けに 私の祈りは御前にあります。
- 14 主よ なぜ あなたは私のたましいを退け 私に御顔を隠されるのですか。
- 15 私は苦しんでいます。若いころから死に瀕してきました。あなたの恐ろしさに耐えかねて私の心はくずおれそうです。
- 16 あなたの燃える怒りが私の上を越えて行き あなたからの恐怖が私を滅ぼし尽くしました。
- 17 それらは日夜 大水のように私を囲み 瞬く間に 私を取り巻いてしまいました。
- 18 あなたは私から愛する者や友を遠ざけられました。私は暗闇を親しい友としています。

第89章

- 1 私は 主の恵みを とこしえに歌います。 あなたの真実を代々限りなく私の口で知らせます。
- 2 私は言います。「御恵みは とこしえに打ち立てられ あなたはその真実を 天に堅く立てておられます。」
- 3 「わたしは わたしの選んだ者と契約を結び わたしのしもベダビデに誓う。
- 4 わたしは あなたの裔をとこしえまでも堅く立て あなたの王座を代々限りなく打ち立てる。」セラ
- 5 主よ 天はあなたの奇しいみわざをほめたたえます。 まことにあなたの真実を 聖なる者の集いで。
- 6 いったい 雲の上では だれが主と並び得るでしょう。 力ある者の子らの中で だれが主に似ているでしょう。
- 7 主は 聖なる者の会合で大いに恐れられる神。 主を囲むすべての者の上におられる 恐るべき方。
- 8 万軍の神 主よ。 だれがあなたのように力があるでしょう。 主よ。 あなたの真実はあなたを取り囲んでいます。
- 9 あなたは海の高まりを治めておられます。 波が逆巻くとき あなたはそれを鎮められます。
- 10 ラハブを打ち砕いて 殺された者のようにし あなたの敵を 力ある御腕で散らされました。
- 11 天はあなたのもの 地もあなたのもの。 世界とそこに満ちているものは あなたが基を据えられました。
- 12 北と南 あなたがこれらを創造されました。 タボルとヘルモンは 御名を高らかに歌います。
- 13 あなたには 力ある腕があります。 御手は強く 右の手は高く上げられています。
- 14 義と公正は あなたの王座の基。 恵みとまことが御前を進みます。
- 15 幸いなことよ 喜びの叫びを知る民は。 主よ 彼らはあなたの御顔の光の中を歩みます。
- 16 彼らは あなたの御名をいつも喜び あなたの義によって 高く上げられます。
- 17 あなたが 彼らの力の輝きであり あなたのご恩寵によって 私たちの角を高く上げられるからです。
- 18 私たちの盾は主のもの 私たちの王は イスラエルの聖なる方のもの。
- 19 あなたはかつて 幻を通して あなたにある敬虔な者たちに告げられました。「わたしは一人の勇士に助けを与え 民の中から一人の若者を高く上げた。
- 20 わたしは わたしのしもベダビデを見出し わたしの聖なる油で 油を注いだ。
- 21 わたしの手は彼とともにあって揺るがず わたしの腕も彼を強くする。
- 22 敵が彼に害を加えることはなく 不正な者も彼を苦しめることはない。

- 23 わたしは彼の前で彼の敵を打ち砕き 彼を憎む者を打ち破る。
- 24 わたしの真実とわたしの恵みは 彼とともにあり わたしの名によって 彼の角は高く上げられる。
- 25 わたしは彼の手を海の上に 彼の右の手を川の上に置く。
- 26 彼は わたしを呼ぶ。『あなたはわが父 わが神 わが救いの岩』と。
- 27 わたしもまた 彼をわたしの長子 地の王たちのうちの最も高い者とする。
- 28 わたしの恵みを 彼のために永遠に保つ。わたしの契約は 彼にとって確かなものである。
- 29 わたしは 彼の子孫をいつまでも 彼の王座を天の日数のように続かせる。
- 30 もし その子孫がわたしのおしえを捨て わたしの定めのうちを歩まないなら
- 31 また もし彼らがわたしのおきてを破り わたしの命令を守らないなら
- 32 わたしは杖をもって 彼らの背きを むちをもって 彼らの咎を罰する。
- 33 しかし わたしは彼から恵みをもぎ取らず わたしの真実を偽らない。
- 34 わたしは わたしの契約を汚さない。唇から出たことを わたしは変えない。
- 35 わたしはかつて わが聖によって誓った。わたしは決してダビデに偽りを言わないと。
- 36 彼の子孫は とこしえまでも続く。その王座は 太陽のように わたしの前にあり
- 37 月のように とこしえに堅く立つ。その子孫は 雲の上の確かな証人である。」セラ
- 38 しかし あなたは拒んでお捨てになりました。あなたは 激しく怒っておられます。あなたに油注がれた者に向かって。
- 39 あなたは あなたのしもべとの契約を廃棄し 彼の王冠を地に捨てて汚しておられます。
- 40 あなたは彼の城壁をことごとく打ち壊し その要塞を廃墟とされました。
- 41 道行く者はみな 彼から奪い取り 彼は隣人のそしりの的となっています。
- 42 あなたは彼の仇の右手を高く上げ 彼の敵をみな喜ばせておられます。
- 43 しかも あなたは彼の剣の刃をさやに戻し 彼が戦いに立てないようにしておられます。
- 44 あなたは 彼の輝きを消し 彼の王座を地に投げ倒されました。
- 45 あなたは 彼の若い日を短くし 恥で彼をおおわれました。セラ
- 46 いつまでですか。主よ。あなたがどこまでも身を隠され あなたの憤りが火のように燃えるのは。
- 47 心に留めてください。私の生涯がどれほどかを。あなたがすべての人の子らを いかにもなしいものとして創造されたかを。
- 48 生きていて死を見ない人は だれでしょう。だれが自分自身を よみの手から救い出せるでしょう。セラ
- 49 主よ あなたのかつての恵みは どこにあるのでしょうか。あなたは 真実をもって ダビデに誓われたのです。
- 50 主よ みこころに留めてください。あなたのしもべたちの受ける恥辱を。私が多くの国々の民をすべて この胸にこらえていることを。
- 51 主よ あなたの敵どもはそしりました。あなたに油注がれた者の足跡をそしったのです。

52 主は とこしえにほむべきかな。アーメン、アーメン。

第90章

- 1 主よ 代々にわたって あなたは私たちの住まいです。
- 2 山々が生まれる前から 地と世界を あなたが生み出す前から とこしえからとこしえまで あなたは神です。
- 3 あなたは人をちにに帰させます。「人の子らよ 帰れ」と言われます。
- 4 まことに あなたの目には 千年も 昨日のように過ぎ去り 夜回りのひと時ほどです。
- 5 あなたが押し流すと 人は眠りに落ちます。朝には 草のように消えています。
- 6 朝 花を咲かせても 移ろい 夕べには しおれて枯れています。
- 7 私たちはあなたの御怒りによって消え失せ あなたの憤りにおじ惑います。
- 8 あなたは私たちの咎を御前に 私たちの秘め事を 御顔の光の中に置かれます。
- 9 私たちのすべての日は あなたの激しい怒りの中に消え去り 私たちは 自分の齢を 一息のように終わらせます。
- 10 私たちの齢は七十年。 健やかであっても八十年。 そのほとんどは 労苦とわざわいです。 瞬く間に時は過ぎ 私たちは飛び去ります。
- 11 だれが御怒りの力を あなたの激しい怒りの力を知っているでしょう。 ふさわしい恐れを持つほどに。
- 12 どうか教えてください。自分の日を数えることを。 そうして私たちに 知恵の心を得させてください。
- 13 帰って来てください。主よ いつまでなのですか。 あなたのしもべたちを あわれんでください。
- 14 朝ごとに あなたの恵みで私たちを満ち足らせてください。 私たちのすべての日に 喜び歌い 楽しむことができるように。
- 15 どうか喜ばせてください。 私たちが 苦しめられた日々と わざわいにあった年月に応じて。
- 16 みわざを あなたのしもべらに ご威光を 彼らの子らの上に現してください。
- 17 私たちの神 主の慈愛が 私たちの上にありますように。 私たちのために 私たちの手のわざを 確かなものにしてください。 どうか 私たちの手のわざを 確かなものにしてください。

第91章

- 1 いと高き方の隠れ場に住む者 その人は 全能者の陰に宿る。
- 2 私は主に申し上げよう。「私の避け所 私の砦 私が信頼する私の神」と。
- 3 主こそ 狩人の罠から 破滅をもたらす疫病から あなたを救い出される。
- 4 主は ご自分の羽であなたをおおい あなたは その翼の下に身を避ける。 主の真実は大盾 また砦。
- 5 あなたは恐れない。 夜襲の恐怖も 昼に飛び来る矢も。
- 6 暗闇に忍び寄る疫病も 真昼に荒らす滅びをも。
- 7 千人が あなたの傍らに 万人が あなたの右に倒れても それはあなたには 近づかない。
- 8 あなたはただ それを目にし 悪者への報いを見るだけである。
- 9 それは わが避け所 主を いと高き方を あなたが自分の住まいとしたからである。
- 10 わざわいは あなたに降りかからず 疫病も あなたの天幕に近づかない。
- 11 主が あなたのために御使いたちに命じて あなたのすべての道で あなたを守られるからだ。
- 12 彼らはその両手にあなたをのせ あなたの足が石に打ち当たらないようにする。
- 13 あなたは 獅子とコブラを踏みつけ 若獅子と蛇を踏みにじる。
- 14 「彼がわたしを愛しているから わたしは彼を助け出す。 彼がわたしの名を知っているから わたしは彼を高く上げる。
- 15 彼がわたしを呼び求めれば わたしは彼に答える。 わたしは苦しみの上に彼とともにいて 彼を救い 彼に誉れを与える。
- 16 わたしは 彼をとこしえのいのちで満ち足らせ わたしの救いを彼に見せる。」

第92章

- 1 主に感謝することは 良いことです。 いと高き方よ あなたの御名をほめ歌うことは。
- 2 朝に あなたの恵みを 夜ごとに あなたの真実を告げることは。
- 3 十弦の琴に合わせ 豎琴の妙なる調べにのせて。
- 4 主よ あなたは あなたのなさったことで 私を喜ばせてくださいました。 あなたの御手のわざを 私は喜び歌います。
- 5 主よ あなたのみわざは なんと大きいことでしょう。 あなたの御思いは あまりにも深いのです。
- 6 無思慮な者は知らず 愚か者にはこれが分かりません。
- 7 悪い者が 青草のように萌え出で 不法を行う者が みな花を咲かせても それは彼らが永久に滅ぼされるためです。
- 8 主よ あなたは永遠に いと高き所におられます。
- 9 主よ まことに今 あなたの敵が まことに今 あなたの敵が滅びます。 不法を行う者はみな散らされます。
- 10 あなたは 野牛の角のように私の角を高く上げ 私にみずみずしい油を注がれました。
- 11 私の目は 私を待ち構えている者どもを眺め 耳は 私に向かい立つ悪人どものことを聞きます。
- 12 正しい者は なつめ椰子の木のように萌え出で レバノンの杉のように育ちます。
- 13 彼らは 主の家に植えられ 私たちの神の大庭で花を咲かせます。
- 14 彼らは年老いてもなお 実を实らせ 青々と生い茂ります。
- 15 こうして告げます。「主は正しい方。 わが岩。主には偽りがありません。」

第93章

- 1 主こそ王です。威光をまとしておられます。 主はまとしておられます。力を帯とされます。 まことに 世界は堅く据えられ揺るぎません。
- 2 あなたの御座は いにしえから堅く立ち あなたは とこしえからおられます。
- 3 主よ 川はとどろかせています。 轟音を 川はとどろかせています。 激しい響きを 川はとどろかせています。
- 4 大水のとどろきにまさり 力強い海の波にもまさって 主は力に満ちておられます。 いと高き所で。
- 5 あなたの証しは まことに確かです。 聖なることが あなたの家にはふさわしいのです。 主よ いつまでも。

第94章

- 1 復讐の神 主よ 復讐の神よ 光を放ってください。
- 2 地をさばく方よ 立ち上がってください。 高ぶる者に報復してください。
- 3 主よ いつまでですか 悪しき者がいつまでですか 悪しき者が勝ち誇るのは。
- 4 彼らは放言し 横柄に語り 不法を行う者はみな自慢します。
- 5 主よ 彼らはあなたの民を打ち砕き あなたのゆずりの民を苦しめています。
- 6 彼らは やもめや寄留者を殺し みなしごたちを死なせています。
- 7 彼らは言っています。「主は見ることはない。ヤコブの神は気づかない。」
- 8 気づけ。民のうちのまぬけな者どもよ 愚かな者どもよ いつになったら悟るのか。
- 9 耳を植えつけた方が 聞かないだろうか。 目を造った方が 見ないだろうか。
- 10 国々を戒める方が 責めないだろうか。 人に知識を教えるその方が。
- 11 主は 人の思い計ることが いかに空しいかを 知っておられる。
- 12 なんと幸いなことでしょう。 主よ あなたに戒められ あなたのみおしえを教えられる人は。
- 13 わざわいの日に あなたはその人に平安を与えられます。 しかし 悪しき者のためには 穴が掘られます。
- 14 まことに主は ご自分の民を見放さず ご自分のゆずりの民を お見捨てになりません。
- 15 こうして さばきは再び義に戻り 心の直ぐな人はみな これに従います。
- 16 だれが私のために 悪を行う者に向かって 立ち上がるでしょうか。 だれが私のために 不法を行う者に向かって 堅く立つでしょうか。
- 17 もしも主が私の助けでなかったなら 私のたましいは ただちに 沈黙のうちに とどまったでしょう。
- 18 「私の足はよろけています」と私が言ったなら 主よ あなたの恵みで 私を支えてください。
- 19 私のうちで 思い煩いが増すときに あなたの慰めで私のたましいを喜ばせてください。
- 20 破滅をもたらす法廷が あなたを仲間に加えるでしょうか。 おきてに従いながら 邪悪なことを謀る者どもが。
- 21 彼らは 正しい者のいのちを求めてともに集まり 不義に定めて 咎なき者の血を流します。
- 22 しかし主は私の砦となり 私の神は 私の避け所の岩となりました。
- 23 主は彼らの不義をその身に返し 彼ら自身の悪によって 彼らを滅ぼされます。 私たちの神主が 彼らを滅ぼされます。

第95章

- 1 さあ 主に向かって 喜び歌おう。私たちの救いの岩に向かって 喜び叫ぼう。
- 2 感謝をもって 御前に進み 賛美をもって 主に喜び叫ぼう。
- 3 まことに主は大いなる神。すべての神々にまさって 大いなる王である。
- 4 地の深みは御手のうちにあり 山々の頂も主のものである。
- 5 海は主のもの。主がそれを造られた。陸地も御手が形造った。
- 6 来たれ。ひれ伏し 膝をかがめよう。私たちが造られた方 主の御前にひざまずこう。
- 7 まことに 主は私たちの神。私たちは その牧場の民 その御手の羊。今日 もし御声を聞くな
- 8 あなたがたの心を頑なにしてはならない。メリバでのように 荒野のマサでの日のように。
- 9 あなたがたの先祖は そこでわたしを試み わたしを試した。わたしのわざを見ていたの
- 10 四十年の間 わたしはその世代を退け そして言った。「彼らは心の迷った民だ。彼らはわたしの道を知らない。」
- 11 そのため わたしは怒りをもって誓った。「彼らは決して わたしの安息に入れない。」

第96章

- 1 新しい歌を主に歌え。全地よ 主に歌え。
- 2 主に歌え。御名をほめたたえよ。日から日へと 御救いの良い知らせを告げよ。
- 3 主の栄光を国々の間で語り告げよ。その奇しいみわざを あらゆる民の間で。
- 4 まことに主は大いなる方 大いに賛美される方。すべての神々にまさって恐れられる方だ。
- 5 まことに どの民の神々も みな偽りだ。しかし主は天をお造りになった。
- 6 威厳と威光は御前にあり 力と輝きは主の聖所にある。
- 7 もろもろの民の諸族よ 主に帰せよ。栄光と力を主に帰せよ。
- 8 御名の栄光を主に帰せよ。ささげ物を携えて 主の大庭に入れ。
- 9 聖なる装いをして 主にひれ伏せ。全地よ 主の御前におののけ。
- 10 国々の間で言え。「主は王である。まことに 世界は堅く据えられ揺るがない。主は公正をもって諸国の民をさばかれる。」
- 11 天は喜び 地は小躍りし 海とそこに満ちているものは 鳴りとどろけ。
- 12 野とそこにあるものはみな 喜び躍れ。そのとき 森の木々もみな喜び歌う。主の御前で。
- 13 主は必ず来られる。地をさばくために来られる。主は 義をもって世界を その真実をもって諸国の民をさばかれる。

第97章

- 1 主は王である。地は小躍りせよ。多くの島々は喜べ。
- 2 雲と暗黒が主を囲み 義とさばきが御座の基である。
- 3 火は御前に先立ち 主の敵を囲んで焼き尽くす。
- 4 主の稲妻は世界を照らし 地はそれを見て おののく。
- 5 山々は主の御前にろうのように溶ける。全地の主の御前に。
- 6 天は主の義を告げ 諸国の民はその栄光を見る。
- 7 すべて偶像に仕える者 偽りの神々を誇る者は恥を見る。すべての神々よ 主にひれ伏せ。
- 8 シオンは聞いて喜び ユダの娘たちも 小躍りしました。主よ あなたのさばきのゆえに。
- 9 主よ あなたこそ 全地の上におられる いと高き方。すべての神々を超えて 高くあがめられています。
- 10 主を愛する者たちよ。悪を憎め。主は 主にある敬虔な者たちのたましいを守り 悪者どもの手から 彼らを救い出される。
- 11 光は 正しい者のために蒔かれている。喜びは 心の直ぐな人のために。
- 12 正しい者たち。主にあって喜べ。その聖なる御名に感謝せよ。

第98章

- 1 新しい歌を主に歌え。主は 奇しいみわざを行われた。主の右の御手 聖なる御腕が 主に勝利をもたらしたのだ。
- 2 主は御救いを知らしめ ご自分の義を国々の前に現された。
- 3 主は イスラエルの家への 恵みと真実を覚えておられる。地の果てのすべての者が 私たちの神の救いを見ている。
- 4 全地よ 主に喜び叫べ。大声で叫び 喜び歌い ほめ歌を歌え。
- 5 主にほめ歌を歌え。豎琴に合わせて。豎琴に合わせ ほめ歌の調べにのせて。
- 6 ラッパに合わせ 角笛の調べにのせて 王である主の御前で喜び叫べ。
- 7 海とそこに満ちているもの 世界とその中に住むものよ 鳴りとどろけ。
- 8 もろもろの川よ 手を打ち鳴らせ。山々も こぞって喜び歌え。
- 9 主の御前で。主は 地をさばくために来られる。主は 義をもって世界をさばき 公正をもって諸国の民をさばかれる。

第99章

- 1 主は王である。国々の民は恐れおののけ。ケルビムの上に座しておられる方に。地よ震えよ。
- 2 主はシオンにおられる 大いなる方。主は すべての国々の民の上に高くいます。
- 3 大いなる 恐れ多い御名をほめたたえよ。主は聖なる方。
- 4 王は力をもって さばきを愛する。あなたは 公正を堅く立て さばきと正義を ヤコブの中で行われた。
- 5 われらの神 主をあがめよ。その足台のもとにひれ伏せ。主は聖なる方。
- 6 モーセとアロンは主の祭司たちの中に サムエルは御名を呼ぶ者たちの中にいた。彼らは主を呼び 主は彼らに答えられた。
- 7 主は雲の柱から 彼らに語られた。彼らは主のさとしと 主が賜ったおきてを守った。
- 8 われらの神 主よ あなたは 彼らに答えられた。あなたは 彼らには赦しの神 彼らの悪しきわざには報復される方。
- 9 われらの神 主をあがめよ。その聖なる山に向かって ひれ伏せ。まことに われらの神 主は聖なる方。

第100章

- 1 全地よ 主に向かって喜びの声をあげよ。
- 2 喜びをもって主に仕えよ。喜び歌いつつ御前に来たれ。
- 3 知れ。主こそ神。主が 私たちを造られた。私たちは主のもの 主の民 その牧場の羊。
- 4 感謝しつつ 主の門に 賛美しつつ その大庭に入れ。主に感謝し 御名をほめたたえよ。
- 5 主はいつくしみ深く その恵みはとこしえまで その真実は代々に至る。

第101章

- 1 恵みとさばきを 私は歌います。主よ あなたにほめ歌を歌います。
- 2 私は 全き道に心を留めます。いつあなたは 私のところに来てくださいますか。私は家の中を 全き心で行き来します。
- 3 私は 目の前に卑しいことを置きません。私は 曲がったわざを憎み それが私に まといつくことはありません。
- 4 曲がった心は私から遠ざかります。私は悪を知ろうともしません。
- 5 陰で自分の隣人をそしる者を 私は滅ぼします。高ぶる目とおごる心に 耐えることはできません。
- 6 私の目は この国の忠実な人たちに注がれます。彼らが私とともに住むために。全き道を歩む者 その人は私に仕えます。
- 7 欺きを行う者は 私の家の中に住むことはなく 偽りを語る者は 私の目の前に 堅く立つことはありません。
- 8 朝ごとに 私は国の中の悪しき者を ことごとく滅ぼし 主の都から 不法を行う者を ことごとく断ち切ります。

第102章

- 1 主よ 私の祈りを聞いてください。私の叫びが あなたに届きますように。
- 2 私の苦しみのときに 御顔を私に隠さないでください。私に耳を傾けてください。私が呼ぶときに すぐに私に答えてください。
- 3 私の日は煙の中に尽き果て 私の骨は炉のように燃えているのです。
- 4 私の心は 青菜のように打たれて しおれ パンを食べることも忘れえました。
- 5 私の嘆きの声で 私の骨は肉に溶けてしまいました。
- 6 私はまるで荒野のみみずく 廃墟のふくろうのようです。
- 7 私は眠ることもできず 屋根の上の はぐれた鳥のようになりました。
- 8 敵は絶えず私をそしり 嘲る者は私を名指しにして毒づきます。
- 9 まことに 私は灰をパンのように食べ 飲み物に涙を混ぜ合わせました。
- 10 それはあなたが 憤りと激しい怒りのゆえに 私を持ち上げ 私を投げ捨てられたからです。
- 11 私の日は 伸びていく夕影のようです。私は 青菜のようにしおれています。
- 12 しかし 主よ あなたはとこしえに御座に着いておられます。あなたの呼び名は代々に及びます。
- 13 あなたは立ち上がり シオンをあわれんでくださいます。今やいつくしみの時です。定めの時が来ました。
- 14 まことに あなたのしもべたちはシオンの石を喜び シオンのちりをいとおしめます。
- 15 こうして 国々は主の御名を 地のすべての王は あなたの栄光を恐れます。
- 16 なぜなら 主はシオンを建て直し その栄光のうちに現れ
- 17 窮した者の祈りを顧み 彼らの祈りをないがしろにされないからです。
- 18 このことが 後の世代のために書き記され 新しく造られる民が主を賛美しますように。
- 19 主は その聖なるいと高き所から見下ろし 天から地の上に目を注がれました。
- 20 捕らわれ人のうめきを聞き 死に定められた者たちを解き放つために。
- 21 人々が 主の御名をシオンで 主の誉れをエルサレムで語り告げるために。
- 22 諸国の民や王国が 一つに集められて 主に仕えるために。
- 23 主は 私の力を道の半ばで弱らせ 私の日数を短くされました。
- 24 私は申し上げます。「私の神よ 私の日の半ばで 私を取り去らないでください。あなたの年は代々に至ります。
- 25 あなたは はるか昔に地の基を据えられました。天も あなたの御手のわざです。
- 26 これらのものは滅びます。しかしあなたは とこしえの方です。すべてのものは 衣のようにすり切れます。外套のように あなたがそれらを取り替えられると それらはすっかり変えられます。
- 27 しかし あなたは変わることがなく あなたの年は尽きることがありません。
- 28 あなたのしもべたちの子らは 住まいを定め 彼らの裔は 御前に堅く立てられます。」

第103章

- 1 わがたましいよ 主をほめたたえよ。私のうちにあるすべてのものよ 聖なる御名をほめたたえよ。
- 2 わがたましいよ 主をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな。
- 3 主は あなたのすべての咎を赦し あなたのすべての病を癒やし
- 4 あなたのいのちを穴から贖われる。主は あなたに恵みとあわれみの冠をかぶらせ
- 5 あなたの一生を 良いもので満ち足らせる。あなたの若さは 驚のように新くなる。
- 6 主は 義とさばきを すべての虐げられている人々のために行われる。
- 7 主は ご自分の道をモーセに そのみわざをイスラエルの子らに知らされた方。
- 8 主は あわれみ深く 情け深い。怒るのに遅く 恵み豊かである。
- 9 主は いつまでも争ってはおられない。とこしえに 怒ってはおられない。
- 10 私たちの罪にしたがって 私たちを扱うことをせず 私たちの咎にしたがって 私たちに報いをされることもない。
- 11 天が地上はるかに高いように 御恵みは 主を恐れる者の上に大きい。
- 12 東が西から遠く離れているように 主は 私たちの背きの罪を私たちから遠く離される。
- 13 父がその子をあわれむように 主は ご自分を恐れる者をあわれまれる。
- 14 主は 私たちの成り立ちを知り 私たちが土のちりにすぎないことを 心に留めてくださる。
- 15 人 その一生は草のよう。人は咲く。野の花のように。
- 16 風がそこを過ぎると それはもはやない。その場所さえも それを知らない。
- 17 しかし 主の恵みは とこしえからとこしえまで 主を恐れる者の上にあり 主の義は その子らの子たちに及ぶ。
- 18 主の契約を守る者 主の戒めに心を留めて行う者に。
- 19 主は 天にご自分の王座を堅く立て その王国は すべてを統べ治める。
- 20 主をほめたたえよ 主の御使いたちよ。みことばの声に聞き従い みことばを行う 力ある勇士たちよ。
- 21 主をほめたたえよ 主のすべての軍勢よ。主のみこころを行い 主に仕える者たちよ。
- 22 主をほめたたえよ すべて造られたものたちよ。主が治められるすべてのところで。わがたましいよ 主をほめたたえよ。

第104章

- 1 わがたましいよ 主をほめたたえよ。わが神 主よ あなたはまことに大いなる方。あなたは威厳と威光を身にまといおられます。
- 2 あなたは光を衣のようにまとい 天を幕のように張られます。
- 3 水の中にご自分の高殿の梁を置き 密雲をご自分の車とし 風の翼に乗って進み行かれます。
- 4 風をご自分の使いとし 燃える火をご自分の召使いとされます。
- 5 あなたは地をその基の上に据えられました。地は とこしえまでも揺るぎません。
- 6 あなたは 大水で 衣のように地をおおわれました。水は 山々の上にとどまりました。
- 7 水は あなたに叱られて逃げ あなたの雷の声で急ぎ去りました。
- 8 山を上り 谷を下りました。あなたがそれらの基とされた場所へと。
- 9 あなたは境を定められました。水がそれを越えないように 再び地をおおわないように。
- 10 主は泉の水を谷に送り 山々の間を流れさせ
- 11 野のすべての獣に飲まされます。野ろばも渴きを癒やします。
- 12 その傍らには空の鳥が住み 枝の間でさえずります。
- 13 主は その高殿から山々に水を注がれます。みわざの結ぶ実によって 地は満ち足りています。
- 14 主は 家畜のために草を また 人が労して得る作物を生えさせます。地から食物を生じさせてくださいます。
- 15 ぶどう酒は人の心を喜ばせ パンは人の心を支えます。油よりも顔をつややかにするために。
- 16 主の木々は満ち足りています。主が植えられたレバノンの杉の木も。
- 17 そこに 鳥は巢をかけ こうのとりは もみの木を宿とします。
- 18 高い山は野やぎのため 岩は岩だぬきの隠れ場。
- 19 主は季節のために月を造られました。太陽はその沈むところを知っています。
- 20 あなたが闇をもたらされると 夜になり あらゆる森の獣が這い回ります。
- 21 若い獅子は 餌食を求めて吼えたけり 神に自分の食物を求めます。
- 22 日が昇ると 彼らは退いて 自分のねぐらで横になります。
- 23 人は 自分の仕事に出て行き 夕暮れまでその働きにつきます。
- 24 主よ あなたのみわざはなんと多いことでしょう。あなたは知恵をもってそれらをみな造られました。地は あなたのもので満ちています。
- 25 そこには 大きく広い海があり 這うものや生き物は数えきれません。小さなものも大きなものも。
- 26 そこを船が行き交い あなたが造られたレビヤタンも そこで戯れます。
- 27 彼らはみな あなたを待ち望んでいます。あなたが時にかなって 食物をお与えになるのを。

- 28** あなたがお与えになると 彼らは集め あなたが御手を開かれると 彼らは良いもので満ち足ります。
- 29** あなたが御顔を隠されると 彼らはおじ惑い 彼らの息を取り去られると 彼らは息絶えて自分のちに帰ります。
- 30** あなたが御霊を送られると 彼らは創造されます。 あなたは地の面を新しくされます。
- 31** 主の栄光が とこしえにありますように。 主がご自分のみわざを喜ばれますように。
- 32** 主が地に目を注がれると 地は震え 山々に触れられると それは煙を上げます。
- 33** 私はいのちの限り 主に歌い 生きるかぎり 私の神をほめ歌います。
- 34** 私の心の思いが みこころにかないますように。 私は 主を喜びます。
- 35** 罪人らが地から絶え果て 悪しき者どもが もはやいなくなりますように。 わがたましいよ 主をほめたたえよ。 ハレルヤ。

第105章

- 1 主に感謝し 御名を呼び求めよ。そのみわざを諸国の民の間に知らせよ。
- 2 主に歌え。主にほめ歌を歌え。そのすべての奇しいみわざを語れ。
- 3 主の聖なる御名を誇りとせよ。主を慕い求める者たちの心よ 喜べ。
- 4 主とその御力を尋ね求めよ。絶えず御顔を慕い求めよ。
- 5 主が行われた奇しいみわざを思い起こせ。その奇跡と御口のさばきを。
- 6 主のしもべ アブラハムの裔よ。主に選ばれた者 ヤコブの子らよ。
- 7 この方こそ 私たちの神 主。そのさばきは全地にわたる。
- 8 主はご自分の契約を とこしえに覚えておられる。命じられたみことばを 千代までも。
- 9 それはアブラハムと結んだ契約 イサクへの誓い。
- 10 主はそれを ヤコブへの定めとして立てられた。イスラエルへの 永遠の契約として。
- 11 そのとき主は言われた。「わたしはあなたにカナンの地を与える。あなたがたへのゆずりの地として。」
- 12 そのころ 彼らの数は少なく 実にわずかで そこでは寄留者であった。
- 13 彼らは 国から国へ 一つの王国からほかの民のところへと渡り歩いた。
- 14 しかし主は だれにも彼らを虐げさせず 彼らのために王たちを戒められた。
- 15 「わたしの油注がれた者たちに触れるな。わたしの預言者たちに危害を加えるな。」
- 16 こうして主は飢饉を地の上に招き パンの蓄えをことごとくなくされた。
- 17 主は一人の人を彼らに先駆けて送られた。ヨセフが奴隷に売られたのだ。
- 18 ヨセフの足は 苦しみのかせをはめられ その首は 鉄のかせに入れられた。
- 19 彼のことがそのとおりになるときまで 主のことばは彼を鍊った。
- 20 王は使いを送って ヨセフを解放した。諸国の民の支配者はそうして 彼を自由にした。
- 21 主人である王は ヨセフに自分の家を任せ 自分の全財産を治める者とした。
- 22 それは ヨセフが意のままに王の高官を縛り 王の長老たちに知恵を与えるためであった。
- 23 イスラエルもエジプトにやって来て ヤコブはハムの地に寄留することになった。
- 24 主はご自分の民を大いに増やし 彼らの敵よりも強くされた。
- 25 主は人々の心を変えて ご自分の民を憎ませ ご自分のしもべたちを 悪賢く扱うようにされた。
- 26 主は そのしもべモーセと ご自分が選んだアロンを遣わされた。
- 27 彼らは人々の間で 主の数々のしるしを行い ハムの地で もろもろの奇跡を行った。
- 28 主は闇を送って 暗くされた。人々は主のことばに逆らわなかった。
- 29 主が彼らの水を血に変えられたので その魚は死んだ。
- 30 彼らの地には蛙が群がった。王族たちの奥の間にまでも。
- 31 主が命じられると あぶの群れが来て ぶよが国中いたるところに湧いて出た。
- 32 主は雨に代えて雹を彼らに降らせ 燃える火を彼らの地に下された。

- 33 主は彼らのぶどうの木と いちじくの木を打ち 彼らの国の木々を砕かれた。
- 34 主が命じられると いなごが来た。若いいなごが しかも無数に。
- 35 それが彼らの国の緑を食い尽くし 彼らの大地の実りを食い尽くした。
- 36 主は彼らの国の長子をことごとく打たれた。 彼らのすべての力の初穂を。
- 37 主は銀と金を持たせて 御民を導き出された。 主の諸部族の中で よろける者は一人もなかった。
- 38 エジプトは彼らが出て行ったとき喜んだ。 エジプトに彼らへの恐れが下ったからだ。
- 39 主は 雲を広げて仕切りの幕とし 夜には火を与えて照らされた。
- 40 民が願い求めると 主はうずらをもたらし また 天からのパンで彼らを満ち足らせた。
- 41 主が岩を開かれると 水がほとばしり 川となって砂漠を流れた。
- 42 これらのことは 主がそのしもべアブラハムへの 聖なることばを 覚えておられたからである。
- 43 主は御民を喜びのうちに導き出された。 その選ばれた民を 喜びの叫びのうちに。
- 44 主は彼らに国々の地を与えられた。 国々の民の労苦の実を 彼らが受け継ぐために。
- 45 これは 彼らが主のおきてを守り そのみおしえを保つためである。 ハレルヤ。

第106章

- 1 ハレルヤ。主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。
- 2 だれが主の全能のわざを告げ 主の誉れのすべてを語り聞かせることができよう。
- 3 幸いなことよ さばきを守る人々 いかなるときにも正義を行う人は。
- 4 主よ あなたが御民を受け入れてくださるときに 私を心に留め あなたの御救いのときに私を顧みてください。
- 5 そのとき 私はあなたに選ばれた者たちの幸せを見 あなたの国民の喜びを喜びとし あなたのゆずりの民とともに誇ることができます。
- 6 私たちは 先祖と同じように罪を犯し 不義を行い 悪を行ってきました。
- 7 私たちの先祖はエジプトで あなたの奇しいみわざを悟らず あなたの豊かな恵みを思い出さず かえって 海のほとり 葦の海で逆らいました。
- 8 しかし主は 御名のゆえに 彼らを救われた。ご自分の力を知らせるために。
- 9 主が葦の海を叱ると 海は干上がり 主は彼らに深みの底を歩かせられた。まるで荒野を歩くように。
- 10 主は 憎む者の手から彼らを救い 敵の手から彼らを贖われた。
- 11 水は彼らの敵を包み 彼らの一人さえも残らなかった。
- 12 すると 彼らはみことばを信じ 主への賛美を歌った。
- 13 しかし 彼らはすぐに みわざを忘れ 主のさとしを待ち望まなかった。
- 14 彼らは荒野で激しい欲望にかられ 荒れ地で神を試みた。
- 15 そこで 主は彼らにその欲するものを与え 彼らのいのちを衰えさせた。
- 16 彼らが宿営で 主の聖徒 モーセとアロンをねたんだとき
- 17 地は口を開け ダタンを呑み込み アビラムの仲間を包んでしまった。
- 18 その仲間の中で火が燃え上がり 炎が悪者どもを焼き尽くした。
- 19 彼らはホレブで子牛を造り 鋳物の像を拝んだ。
- 20 こうして彼らは 自分たちの神の栄光を 草を食らう雄牛の像と取り替えた。
- 21 彼らは 自分たちの救い主である神を忘れた。エジプトで大いなることをなさった方を。
- 22 ハムの地で奇しいみわざを 葦の海のほとりで恐るべきみわざを行われた方を。
- 23 それで神は「彼らを根絶やしにする」と言われた。もし 神に選ばれた人モーセが 滅ぼそうとする激しい憤りを収めていただくために 御前の破れに立たなかったなら どうなっていたことか。
- 24 しかも彼らは尊い地を蔑み 神のみことばを信じず
- 25 自分たちの天幕の中で不平を言い 主の御声を聞かなかった。
- 26 それで主は彼らにこう誓われた。彼らを荒野で打ち倒し
- 27 その子孫を国々の間に投げ散らし 彼らを地にあまねくまき散らそうと。
- 28 彼らはまた バアル・ペオルとくびきをともにし 死者へのいけにえを食べた。
- 29 こうして 自らの行いによって御怒りを引き起こし 彼らに主の罰が下った。

- 30 そのとき ピネハスが立ち 仲立ちをしたので 主の罰は終わった。
- 31 このことは 代々にわたり永遠に 彼の義と認められた。
- 32 彼らはメリバの水のほとりで主を怒らせた。 モーセは彼らのゆえに わざわいを被った。
- 33 彼らが主の御霊に逆らったとき 彼が軽率なことを口にしたのである。
- 34 彼らは 主が命じられたのに 諸国の民を滅ぼさず
- 35 かえって 異邦の民と交わり その習わしに倣い
- 36 その偶像に仕えた。 それが彼らにとって罟となった。
- 37 彼らは自分たちの息子と娘を 悪霊へのいけにえとして献げ
- 38 咎なき者の血を流した。 彼らの息子や娘たちの血 それをカナンの偶像のいけにえとした。
こうしてその国土は血で汚された。
- 39 このように彼らは その行いによって自分を汚し そのわざによって姦淫を犯した。
- 40 それで 主の怒りは御民に向かって燃え上がり 主はご自分のゆずりの民を忌み嫌われた。
- 41 主は彼らを国々の手に渡されたので 彼らを憎む者たちが彼らを支配した。
- 42 敵どもが彼らを虐げたので 彼らは征服され 敵の手に下った。
- 43 主は幾たびとなく彼らを救い出されたが 彼らは相謀って逆らい 自分たちの不義の中におぼれた。
- 44 それでも 彼らの叫びを聞いたとき 主は彼らの苦しみに目を留められた。
- 45 主は彼らのためにご自分の契約を思い起こし 豊かな恵みにしたがって 彼らをあわれまれた。
- 46 彼らを捕らえ移したすべての者たちから 彼らがあわれまれるようにしてくださった。
- 47 私たちの神 主よ 私たちをお救いください。 国々から私たちを集めてください。 あなたの聖なる御名に感謝し あなたの誉れを勝ち誇るために。
- 48 ほむべきかな イスラエルの神 主。 とこしえから とこしえまで。 民はみな「アーメン」と言え。 ハレルヤ。

第107章

- 1 「主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。」
- 2 主に贖われた者は そう言え。主は彼らを敵の手から贖い
- 3 国々から彼らを集められた。東からも西からも 北からも南からも。
- 4 彼らは荒野や荒れ地をさまよい 人が住む町への道を見出せなかった。
- 5 飢えと渇きによって 彼らのたましいは衰え果てた。
- 6 この苦しみのときに 彼らが主に向かって叫ぶと 主は彼らを苦悩から救い出された。
- 7 彼らをまっすぐな道に導き 人が住む町へ向かわせた。
- 8 主に感謝せよ。その恵みのゆえに。人の子らへの奇しいみわざのゆえに。
- 9 まことに主は 渇いたたましいを満ち足らせ 飢えたたましいを良いもので満たされた。
- 10 闇と死の陰に座す者 苦しみの鉄のかせに縛られている者
- 11 彼らは 神のことばに逆らいいと高き方のさとしを退けた。
- 12 それで主は 苦役によって彼らの心を低くされた。彼らはよろけたが だれも助けなかった。
- 13 この苦しみのときに 彼らが主に向かって叫ぶと 主は彼らを苦悩から救われた。
- 14 主は彼らを闇と死の陰から導き出し 彼らのかせを打ち砕かれた。
- 15 主に感謝せよ。その恵みのゆえに。人の子らへの奇しいみわざのゆえに。
- 16 まことに主は青銅の扉を打ち砕き 鉄のかんぬきをへし折られた。
- 17 愚か者は 自分の背きの道のため また 咎のために苦しみを受けた。
- 18 あらゆる食物を 彼らの喉は受けつけず ついに死の門に至った。
- 19 この苦しみのときに 彼らが主に向かって叫ぶと 主は彼らを苦悩から救われた。
- 20 主はみことばを送って彼らを癒やし 滅びの穴から彼らを助け出された。
- 21 主に感謝せよ。その恵みのゆえに。人の子らへの奇しいみわざのゆえに。
- 22 感謝のいけにえを献げ 喜び叫びながら主のみわざを語れ。
- 23 船に乗って海に出る者 大海で商いする者
- 24 彼らは見た。主のみわざを 深い海で その奇しいみわざを。
- 25 主が命じて 激しい暴風を起こされると 風が波を高くした。
- 26 彼らは天に上り 深みに下り そのたましいは みじめにも溶け去った。
- 27 彼らは酔った人のようによろめき 知恵はことごとく呑み込まれた。
- 28 この苦しみのときに 彼らが主に向かって叫ぶと 主は彼らを苦悩から導き出された。
- 29 主が嵐を鎮められると 波は穏やかになった。
- 30 波が凪いだので彼らは喜んだ。主は彼らをその望む港に導かれた。
- 31 主に感謝せよ。その恵みのゆえに。人の子らへの奇しいみわざのゆえに。
- 32 民の集会で主をあがめ 長老たちの座で主を賛美せよ。
- 33 主は豊かな川を荒野に 水の湧き上がる所を潤いのない地に

- 34 肥沃な地を不毛の土地に変えられる。そこに住む者たちの悪のゆえに。
- 35 主は荒野を水のある沢に 砂漠の地を水の湧き上がる所に変え
- 36 そこに飢えた者を住まわせる。彼らは人が住む町を堅く立て
- 37 畑に種を蒔き ぶどう畑を作り 豊かな実りを得る。
- 38 主が祝福されると 彼らは大いに増え 主はその家畜を減らされない。
- 39 虐げとわざわいと悲しみにより 彼らは減って うなだれる。
- 40 主は 君主たちを低くし 道なき荒れ地をさまよわせる。
- 41 しかし 貧しい者を困窮から高く上げ その一族を羊の群れのように そこに置かれる。
- 42 直ぐな人はそれを見て喜び 不正な者はみな口をつぐむ。
- 43 知恵のある者はだれか。これらのことに心を留めよ。主の数々の恵みを見極めよ。

第108章

- 1 神よ 私の心は揺るぎません。私は歌い ほめ歌います。私の心の底も。
- 2 琴よ 豎琴よ 目を覚ませ。私は暁を呼び覚まそう。
- 3 主よ 私は諸国の民の間で あなたに感謝し もろもろの国民の間で あなたをほめ歌います。
- 4 あなたの恵みは大きく 天の上に及び あなたのまことは雲にまで及ぶからです。
- 5 神よ あなたが天で あなたの栄光が全地であがめられますように。
- 6 あなたの愛する者たちが助け出されるよう あなたの右の手で救い 私に答えてください。
- 7 神は聖所から告げられました。「わたしは 喜んでシェケムを分け スコテの平原を測ろう。
- 8 ギルアデはわたしのもの。マナセもわたしのもの。エフライムはわたしの頭のかぶと。ユダはわたしの王笏。
- 9 モアブはわたしの足を洗うたらい。エドムの上に わたしの履き物を投げつけ ペリシテの上で わたしは勝ちどきを上げよう。」
- 10 だれが 私を要塞の町に連れて行くのでしょうか。だれが 私をエドムまで導くのでしょうか。
- 11 神よ あなたは私たちを拒まれるのですか。神よ あなたはもはや 私たちとともに出陣なさらないのですか。
- 12 どうか敵から私たちを助けてください。人による救いはむなしいのです。
- 13 神にあって私たちは力ある働きをします。神こそが 私たちの敵を踏みつけてくださいます。

第109章

- 1 私の賛美である神よ。沈黙しないでください。
- 2 彼らは 邪悪な口と欺きの口を私に向けて開き 偽りの舌をもって私に語るからです。
- 3 彼らは 憎しみのことばで私を取り囲み ゆえもなく私に挑んできます。
- 4 私の愛に代えて 彼らは告発で応じます。私は祈るばかりです。
- 5 彼らは 善に代えて悪を 愛に代えて憎しみを 私に返しました。
- 6 どうか 彼に対して悪しき者を遣わし 告発する者が 彼の右に立つようにしてください。
- 7 彼がさばかれるとき 有罪が宣告され 彼の祈りが罪と見なされますように。
- 8 彼の日数はわずかとなり その務めは他人が取り
- 9 子どもたちはみなしごとなり 妻はやもめとなりますように。
- 10 彼の子らは さまよいながら物乞いをし 荒れ果てた家を離れ 施しを求め続けますように。
- 11 金貸しが 彼のすべての財産を没収し 見知らぬ者が 労苦の実を奪い取りますように。
- 12 彼には恵みを施す者もなく そのみなしごをあわれむ者もいませんように。
- 13 その後の子孫は断ち切られ 次の世代には彼らの名が消し去られますように。
- 14 彼の父たちの咎が主に覚えられ その母の罪が消し去られませんように。
- 15 それらがいつも主の御前にあり 主が彼らの記憶を地から消されますように。
- 16 それは 彼が恵みのわざを行うことに心を留めず 苦しむ者 貧しい者 心ひしがれた者を 追いつめ 殺そうとしたからです。
- 17 彼が呪いを愛したので それは自分に返って来ました。祝福を喜ばなかったのも それは彼から遠く離れました。
- 18 衣のように 彼は呪いを身にまとい 水のように それは彼の内臓に 油のように 骨にまでしみ込みました。
- 19 それが彼をおおう服となり いつも締めている帯となりますように。
- 20 このようなことが 私を告発する者たちへの 主からの報いでありますように。私のたましいにわざわざい告げる者たちへの。
- 21 しかし 神よ 私の主よ あなたは 御名のために 私にみわざを行ってください。御恵みのすばらしさのゆえに 私を救い出してください。
- 22 私は苦しみ そして貧しく 私の心は私のうちで傷ついています。
- 23 私は 伸びていく夕日の影のように去り行き いなごのように振り払われます。
- 24 私の膝は断食のためによろけ 肉は削げ落ち 痩せ衰えました。
- 25 私は彼らのそしりの的となり 彼らは私を見て 頭を振ります。
- 26 私の神 主よ 私を助けてください。あなたの恵みによって 私をお救いください。
- 27 こうして 彼らが知るようにしてください。これは あなたの御手。主よ あなたがそれをなされたのだと。

- 28 彼らは呪います。しかし あなたは祝福してください。彼らは立ち上がり 恥を見ます。しかし あなたのしもべは喜びます。
- 29 私を告発する者たちが侮辱を被り 恥を上着として身にまといますように。
- 30 私はこの口で 大いに主に感謝し 多くの人々のただ中で 主を賛美します。
- 31 主が貧しい人の右に立ち 死を宣告する者たちから彼を救われるからです。

第110章

- 1 主は 私の主に言われた。「あなたは わたしの右の座に着いていなさい。わたしがあなたの敵を あなたの足台とするまで。」
- 2 主はあなたの力の杖を シオンから伸ばされる。「あなたの敵のただ中で治めよ」と。
- 3 あなたの民は あなたの戦いの日に喜んで仕える。聖なる威光をまとして 夜明け前から。あなたの若さは朝露のようだ。
- 4 主は誓われた。思い直されることはない。「あなたは メルキゼデクの例に倣い とこしえに祭司である。」
- 5 あなたの右におられる主は 御怒りの日に 王たちを打ち碎かれる。
- 6 国々をさばき 屍で満たし 広い地を治める首領を打ち碎かれる。
- 7 主は道の傍らで 流れから水を飲まれる。こうして その頭を高く上げられる。

第111章

- 1 ハレルヤ。私は心を尽くして主に感謝をささげよう。直ぐな人の交わり 主の会衆において。
- 2 主のみわざは偉大。それを喜ぶすべての人に 尋ね求められるもの。
- 3 そのみわざは威厳と威光。その義は永遠に立つ。
- 4 主はその奇しいみわざを人の心に刻まれた。主は情け深く あわれみ深い。
- 5 主を恐れる者に食べ物を与え ご自分の契約をとこしえに覚えておられる。
- 6 国々のゆずりの地をご自分の民に与え 彼らに そのみわざの力を告げ知らされた。
- 7 御手のわざは真実と公正 そのすべての戒めは確かである。
- 8 それらは世々限りなく保たれ 真実と正しさをもって行われる。
- 9 主は 御民のために贖いを送り ご自分の契約をとこしえに定められた。主の御名は聖であり 恐れ多い。
- 10 知恵の初め それは主を恐れること。これを行う人はみな賢明さを得る。主の誉れは永遠に立つ。

第112章

- 1 ハレルヤ。幸いなことよ 主を恐れ その仰せを大いに喜ぶ人は。
- 2 その子孫は地の上で勇士となり 直ぐな人たちの世代は祝福される。
- 3 繁栄と富はその家にあり 彼の義は永遠に堅く立つ。
- 4 直ぐな人たちのために 光は闇の中に輝き昇る。主は情け深く あわれみ深く 正しくあられる。
- 5 幸せなことよ。情け深く 人に貸し 自分に関わることを公正に扱う人は。
- 6 その人はとこしえまでも揺るがされない。正しい人はとこしえに覚えられる。
- 7 その人は悪い知らせを恐れず 主に信頼して 心は揺るがない。
- 8 その心は堅固で 恐れることなく 自分の敵を平然と見るまでになる。
- 9 彼は貧しい人々に惜しみなく分け与えた。彼の義は永遠に堅く立ち 彼の角は栄光のうちに高く上げられる。
- 10 悪しき者はそれを見て苛立ち 歯ざしりして消え去る。悪しき者の願いは滅び失せる。

第113章

- 1 ハレルヤ。主のしもべたちよ ほめたたえよ。主の御名をほめたたえよ。
- 2 今よりとこしえまで 主の御名がほめられるように。
- 3 日の昇るところから沈むところまで 主の御名がほめたたえられるように。
- 4 主はすべての国々の上に高くおられ その栄光は天の上にある。
- 5 だれが 私たちの神 主のようであろうか。主は高い御位に座し
- 6 身を低くして 天と地をご覧になる。
- 7 主は弱い者をちりから起こし 貧しい人をあくたから引き上げ
- 8 彼らを 高貴な人々とともに 御民の高貴な人々とともに 座に着かせられる。
- 9 主は 子のいない女を 子を持って喜ぶ母とし 家に住まわせてくださる。ハレルヤ。

第114章

- 1 イスラエルがエジプトから ヤコブの家が ことばの異なる民のうちから 出て来たとき
- 2 ユダは神の聖所となり イスラエルは神の領地となった。
- 3 海は見て逃げ去り ヨルダン川は引き返した。
- 4 山々は雄羊のように 丘は子羊のように跳ね回った。
- 5 どうしたことか。海よ おまえが逃げ去るとは。ヨルダン川よ おまえが引き返すとは。
- 6 山々よ なぜおまえは雄羊のように跳ねるのか。丘よ なぜ子羊のように跳ねるのか。
- 7 地よ 主の御前におののけ。ヤコブの神の御前に。
- 8 神は 岩を水の潤う沢に変えられた。硬い岩を 水のあふれる泉に。

第115章

- 1 私たちにではなく 主よ 私たちにではなく ただあなたの御名に 栄光を帰してください。 あなたの恵みとまことのゆえに。
- 2 なぜ 国々は言うのか。「彼らの神は いったいどこにいるのか」と。
- 3 私たちの神は 天におられ その望むところをことごとく行われる。
- 4 彼らの偶像は銀や金。 人の手のわざにすぎない。
- 5 口があっても語れず 目があっても見えない。
- 6 耳があっても聞こえず 鼻があっても嗅げない。
- 7 手があってもさわれず 足があっても歩けない。 喉があっても声をたてることができない。
- 8 これを造る者も 信頼する者もみな これと同じ。
- 9 イスラエルよ 主に信頼せよ。 主こそ助け また盾。
- 10 アロンの家よ 主に信頼せよ。 主こそ助け また盾。
- 11 主を恐れる者たちよ 主に信頼せよ。 主こそ助け また盾。
- 12 主は私たちをみこころに留め 祝福してくださる。 イスラエルの家を祝福し アロンの家を祝福し
- 13 主を恐れる者を祝福してくださる。 小さな者も 大いなる者も。
- 14 主があなたがたを増やしてくださるように。 あなたがたと あなたがたの子孫とを。
- 15 あなたがたが祝福されるように。 天と地を造られた方 主によって。
- 16 天は 主の天。 地は 主が人の子らに与えられた。
- 17 死人は主をほめたたえることがない。 沈黙へ下る者たちも。
- 18 しかし 私たちは主をほめたたえる。 今よりとこしえに至るまで。 ハレルヤ。

第116章

- 1 私は主を愛している。主は私の声 私の願いを聞いてくださる。
- 2 主が私に耳を傾けてくださるので 私は生きているかぎり主を呼び求める。
- 3 死の網が私を取り巻き よみの恐怖が私を襲い 私は苦しみと悲しみの中にあった。
- 4 そのとき 私は主の御名を呼び求めた。「主よ どうか私のいのちを助け出してください。」
- 5 主は情け深く 正しい。まことに 私たちの神はあわれみ深い。
- 6 主は浅はかな者をも守られる。私がおとしめられたとき 私を救ってくださった。
- 7 私のたましいよ おまえの全きいこいに戻れ。主が おまえに良くしてくださったのだから。
- 8 まことに あなたは 私のたましいを死から 私の目を涙から 私の足をつまずきから救い出してくださいました。
- 9 私は生ける者の地で 主の御前を歩みます。
- 10 私は信じています。まことに私は語ります。私は大いに苦しんでいました。
- 11 この私は恐れうろたえて言いました。「人はだれでも偽りを言う」と。
- 12 主が私に良くしてくださったすべてに対し 私は主に何と応えたらよいのでしょうか。
- 13 私は救いの杯を掲げ 主の御名を呼び求めます。
- 14 私は自分の誓いを主に果たします。御民すべての目の前で。
- 15 主の聖徒たちの死は 主の目に尊い。
- 16 ああ 主よ 私はまことにあなたのしもべです。あなたのしもべ あなたのはしための子です。あなたは私のかせを解いてくださいました。
- 17 私はあなたに感謝のいけにえを献げ 主の御名を呼び求めます。
- 18 私は自分の誓いを主に果たします。御民すべての目の前で。
- 19 主の家の大庭で。エルサレムよ あなたのただ中で。ハレルヤ。

第117章

- 1 すべての国々よ 主をほめたたえよ。すべての国民よ 主をほめ歌え。
- 2 主の恵みは私たちに大きい。主のまことはとこしえまで。ハレルヤ。

第118章

- 1 主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。
- 2 さあ イスラエルよ 言え。「主の恵みはとこしえまで。」
- 3 さあ アロンの家よ 言え。「主の恵みはとこしえまで。」
- 4 さあ 主を恐れる者たちよ 言え。「主の恵みはとこしえまで。」
- 5 苦しみのうちから 私は主を呼び求めた。主は答えて 私を広やかな地へ導かれた。
- 6 主は私の味方。私は恐れない。人は私に何がきよう。
- 7 主は私の味方 私を助ける方。私は 私を憎む者をものとししない。
- 8 主に身を避けることは 人に信頼するよりも良い。
- 9 主に身を避けることは 君主たちに信頼するよりも良い。
- 10 すべての国々が私を取り囲んだ。しかし主の御名によって 私は彼らを断ち切る。
- 11 彼らは私を取り囲んだ。まことに私を取り囲んだ。しかし主の御名によって 私は彼らを断ち切る。
- 12 蜂のように 彼らは私を取り囲んだが 茨の火のように消された。主の御名によって 私は彼らを断ち切る。
- 13 おまえは私を激しく押し倒そうとしたが 主が私を助けられた。
- 14 主は私の力 またほめ歌。主は私の救いとなられた。
- 15 喜びと救いの声は 正しい者の幕屋の内にある。主の右の手は力ある働きをする。
- 16 主の右の手は高く上げられ 主の右の手は力ある働きをする。
- 17 私は死ぬことなく かえって生きて 主のみわざを語り告げよう。
- 18 主は私を厳しく懲らしめられた。しかし 私を死に渡されはしなかった。
- 19 義の門よ 私のために開け。私はそこから入り 主に感謝しよう。
- 20 これこそ主の門。正しい者たちはここから入る。
- 21 私はあなたに感謝します。あなたが私に答え 私の救いとなられたからです。
- 22 家を建てる者たちが捨てた石 それが要の石となった。
- 23 これは主がなさったこと。私たちの目には不思議なことだ。
- 24 これは主が設けられた日。この日を楽しみ喜ぼう。
- 25 ああ主よ どうか救ってください。ああ主よ どうか栄えさせてください。
- 26 祝福あれ 主の御名によって来られる方に。私たちは主の家からあなたがたを祝福する。
- 27 主こそ神。主は私たちに光を与えられた。枝をもって 祭りの行列を組め。祭壇の角のところまで。
- 28 あなたは私の神。私はあなたに感謝します。あなたは私の神。私はあなたをあがめます。
- 29 主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。

第119章

- 1 幸いなことよ 全き道を行く人々 主のみおしえに歩む人々。
- 2 幸いなことよ 主のさとしを守り 心を尽くして主を求める人々。
- 3 まことに 彼らは不正を行わず 主の道を歩みます。
- 4 あなたは戒めを仰せつけられました。 それらを堅く守るように。
- 5 どうか 私の道が堅くされますように。 あなたのおきてを守るために。
- 6 そうすれば あなたのすべての仰せを見て 私は恥じることがありません。
- 7 あなたの義のさばきを学ぶとき 私は直ぐな心であなたに感謝します。
- 8 私はあなたのおきてを守ります。 どうか 私を見捨てないでください。
- 9 どのようにして若い人は 自分の道を 清く保つことができるでしょうか。 あなたのみことばのとおり 道を守ることです。
- 10 私は心を尽くしてあなたを求めています。 どうか あなたの仰せから 私が迷い出ないようにしてください。
- 11 私はあなたのみことばを心に蓄えます。 あなたの前に罪ある者とならないために。
- 12 主よ あなたはほむべき方。 あなたのおきてを私に教えてください。
- 13 私はこの唇で語ります。 あなたの御口のさばきすべてを。
- 14 私は あなたのさとしの道を どんな宝よりも楽しんでいます。
- 15 私は あなたの戒めに思いを潜め あなたの道に私の目を留めます。
- 16 私は あなたのおきてを喜びとし あなたのみことばを忘れません。
- 17 あなたのしもべに豊かに報い 私を生かし 私があなたのみことばを守るようにしてください。
- 18 私の目を開いてください。 私が目を留めるようにしてください。 あなたのみおしえのうちに
ある奇しいことに。
- 19 私は地では旅人です。 あなたの仰せを私に隠さないでください。
- 20 いつのときも あなたのさばきを慕い求めて 私のたましいは押しつぶされるほどです。
- 21 あなたは あなたの仰せから迷い出る高ぶる者 のろわれるべき者を おとがめになります。
- 22 私から そしりと蔑みを取り去ってください。 私はあなたのさとしを守っているからです。
- 23 たとえ君主たちが座して 私に敵対して語り合っても このしもべは あなたのおきてに思いを潜めます。
- 24 あなたのさとしこそ 私の喜び 私の助言者です。
- 25 私のたましいは ちりに打ち伏しています。 みことばのとおり私を生かしてください。
- 26 私は自分の道を申し述べました。 すると あなたは私に答えてくださいました。 どうか
あなたのおきてを私に教えてください。

- 27 あなたの戒めの道を私に悟らせてください。私が あなたの奇しいみわざを 語り伝えることができるように。
- 28 私のたましいは 悲しみのために溶け去ります。 みことばのとおり私を強めてください。
- 29 私から偽りの道を取り除いてください。 みおしえをもって 私をあわれんでください。
- 30 私は 真実の道を選び取り あなたの定めを自らの前に置きました。
- 31 私はあなたのさとしに固くすがります。 主よ どうか私に恥を見させないでください。
- 32 私はあなたの仰せの道を走ります。 あなたが私の心を広くして下さるからです。
- 33 主よ あなたのおきての道を教えてください。 そうすれば 私はそれを終わりまで守ります。
- 34 私に悟らせてください。 私があなたのみおしえから目を離さず 心を尽くしてそれを守るために。
- 35 私にあなたの仰せの道を踏み行かせてください。 私はその道を喜んでいますから。
- 36 私の心をあなたのさとしに傾かせ 不正な利得に傾かないようにしてください。
- 37 むなしいものを見ないように 私の目をそらせ あなたの道に私を生かしてください。
- 38 あなたのしもべへの 仰せのことばが成り 私があなたを恐れるようにしてください。
- 39 私がおびえているそしりを取り去ってください。 あなたのさばきはすぐれて良いからです。
- 40 ご覧ください。 私はあなたの戒めを慕っています。 あなたの義のわざにより私を生かしてください。
- 41 主よ あなたの恵みが私にもたらされますように。 あなたの救いが みことばのとおりに。
- 42 そうすれば 私をそしる者に対して 言い返すことができます。 私はあなたのみことばに信頼していますから。
- 43 私の口から 真理のみことばを 取り去ってしまわないでください。 私はあなたのさばきを待ち望んでいるのです。
- 44 こうして私は あなたのみおしえを いつも とこしえまでも 守ります。
- 45 そうして私は広やかな所に歩いて行きます。 あなたの戒めを私が求めているからです。
- 46 私は あなたのさとしを王たちの前で述べ しかも 恥を見ることはありません。
- 47 私はあなたの仰せを喜びます。 それを私は愛します。
- 48 私は 愛するあなたの仰せを求めて両手を上げ あなたのおきてに思いを潜めます。
- 49 どうか あなたのしもべへのみことばを 心に留めてください。 あなたは 私がそれを待ち望むように なさいました。
- 50 これこそ悩みのときの私の慰め。 まことに あなたのみことばは私を生かします。
- 51 高ぶる者は ひどく私を嘲ります。 しかし 私はあなたのみおしえからそれません。
- 52 主よ 私はあなたのとこしえからのさばきを 心に留め 慰めを得ます。
- 53 悪しき者 あなたのみにしえを捨てる者のゆえに 激しい怒りが私をとらえます。

- 54 あなたのおきては 私の旅の家で 私の歌となりました。
- 55 主よ 夜にはあなたの御名を思い起こし あなたのみおしえを守ります。
- 56 これこそ 私のもの。私があなたの戒めを守っているからです。
- 57 主は私への割り当てです。私は あなたのみことばを守ると申し上げました。
- 58 私は心を尽くして あなたに乞い求めます。みことばのとおり に 私をあわれんでください。
- 59 私は 自分の道を顧みて あなたのさとしの方へ足の向きを変えました。
- 60 私はすぐ ためらわずに あなたの仰せを守りました。
- 61 悪しき者の綱が私に巻き付いても あなたのみおしえを 私は忘れませんでした。
- 62 真夜中に 私は起きてあなたに感謝します。あなたの正しいさばきのゆえに。
- 63 私は あなたを恐れるすべての人 あなたの戒めを守る人たちの仲間です。
- 64 主よ 地はあなたの恵みに満ちています。あなたのおきてを私に教えてください。
- 65 主よ あなたはみことばのとおり に あなたのしもべに良くしてくださいました。
- 66 良い判断と知識を私に教えてください。私はあなたの仰せを信じています。
- 67 苦しみにあう前には 私は迷い出ていました。しかし今は あなたのみことばを守ります。
- 68 あなたは いつくしみ深く 良くしてくださるお方です。どうか あなたのおきてを私に教えてください。
- 69 高ぶる者は 私を偽りで塗り固めましたが 私は 心を尽くしてあなたの戒めを守ります。
- 70 彼らの心は脂肪のように鈍感です。しかし 私はあなたのみおしえを喜んでいます。
- 71 苦しみにあったことは 私にとって幸せでした。それにより 私はあなたのおきてを学びました。
- 72 あなたの御口のみおしえは 私にとって 幾千もの金銀にまさります。
- 73 あなたの御手が私を造り 私を整えてくださいました。どうか 私に悟らせ 私があなたの仰せを学ぶようにしてください。
- 74 あなたを恐れる人々は 私を見て喜ぶでしょう。私がみことばを待ち望んでいるからです。
- 75 主よ 私は知っています。あなたのさばきが正しいことと あなたが真実をもって 私を苦しめられたことを。
- 76 どうか このしもべへの約束にしたがって あなたの恵みが私の慰めとなりますように。
- 77 どうか あわれみを私に臨ませ 私を生かしてください。あなたのみおしえは 私の喜びです。
- 78 どうか 高ぶる者が恥を見ますように。彼らは偽りで私を曲げたからです。しかし私は あなたの戒めに思いを潜めます。
- 79 どうか あなたを恐れる人々と あなたのさとしを知る者たちが 私のところに帰って来ますように。
- 80 どうか あなたのおきてのうちに 私の心が全きものとなりますように。私が恥を見ることのないためです。

- 81 私のたましいは あなたの救いを慕って 絶え入るばかりです。私はあなたのみことばを待ち望んでいます。
- 82 私の目は あなたのみことばを慕って 絶え入るばかりです。私は言います。「いつあなたは私を慰めてくださるのですか」と。
- 83 たとえ煙の中の皮袋のようになっても 私はあなたのおきてを忘れません。
- 84 このしもべの日数は どれだけでしょうか。あなたはいつ 私を迫害する者どもに さばきを行われるのでしょうか。
- 85 高ぶる者は私に対して穴を掘りました。彼らはあなたのみおしえに従わないのです。
- 86 あなたの仰せはことごとく真実です。彼らは偽りで私を迫害します。どうか私を助けてください。
- 87 彼らはこの地上で私を滅ぼそうとしています。しかし私は あなたの戒めを捨てませんでした。
- 88 あなたの恵みによって 私を生かしてください。私はあなたの御口のさとしを守ります。
- 89 主よ あなたのみことばは とこしえから 天において定まっています。
- 90 あなたの真実は代々に至ります。あなたが地を据えられたので 地は堅く立っています。
- 91 それらは今日も あなたの定めにしたがって 堅く立っています。万物はあなたのしもべだからです。
- 92 もし あなたのみおしえが私の喜びでなかったら それなら私は 私の苦しみの中で滅んででしょう。
- 93 私は決して あなたの戒めを忘れません。それによって あなたが 私を生かしてくださったからです。
- 94 私はあなたのもの。どうか私をお救いください。私はあなたの戒めを求めています。
- 95 悪者どもは私を滅ぼそうと狙っています。しかし私は あなたのさとしを聞き分けます。
- 96 私は どんな全きものにも 終わりがあることを見ました。しかし あなたの仰せは実に広いのです。
- 97 どれほど私は あなたのみおしえを 愛していることでしょうか。それがいつも 私の思いとなっています。
- 98 あなたの仰せは 私を敵よりも賢くします。それがとこしえに私のものだからです。
- 99 私には 私のすべての師にまさる賢さがあります。あなたのさとしが私の思いだからです。
- 100 私は 老人たちよりも見極めができます。私があなたの戒めを守っているからです。
- 101 私はいかなる悪の道にも 足を踏み入れません。あなたのみことばを守るためです。
- 102 私はあなたの定めから外れませんでした。あなたが私を教えられたからです。
- 103 あなたのみことばは 私の上あごになんと甘いことでしょうか。蜜よりも私の口に甘いのです。
- 104 私にはあなたの戒めがあり 見極めができます。それゆえ 私は偽りの道をことごとく憎みます。
- 105 あなたのみことばは 私の足のともしび 私の道の光です。

- 106 私は誓い また それを果たします。あなたの義の定めを守ることを。
- 107 私はひどく苦しんでいます。主よ みことばのとおりに私を生かしてください。
- 108 どうか 私の口から出る進んで献げるものを 受け入れてください。主よ。あなたのさばきを私に教えてください。
- 109 私は いつもいのちがけです。それでも あなたのみおしえを忘れません。
- 110 悪者どもは私に対して罾を設けました。それでも私は あなたの戒めから迷い出ません。
- 111 私はあなたのさとしを永遠に受け継ぎました。これこそ 私の心の喜びです。
- 112 私は あなたのおきてを行うことに心を傾けます。いつまでも 終わりまでも。
- 113 私は 二心のある人たちを憎み あなたのみおしえを愛します。
- 114 あなたは私の隠れ場 私の盾。私はあなたのみことばを待ち望みます。
- 115 悪を行う者どもよ 私から遠ざかれ。この私は 私の神の仰せを守る。
- 116 あなたのみことばのとおりに 私を支え 生かしてください。私の望みのことで私を辱めないようにしてください。
- 117 私を支えてください。そうすれば私は救われ 絶えずあなたのおきてを 見つめることができます。
- 118 あなたは あなたのおきてから迷い出る者を みな退けられます。彼らの偽りは 欺きだからです。
- 119 あなたは 地の上のすべての悪しき者を 金かすのように 取り除かれます。それゆえ私は あなたのさとしを愛します。
- 120 私の肉はあなたへの恐れで震えています。私はあなたのさばきを恐れています。
- 121 私は公正と義を行います。私を虐げる者どもに 私を委ねないでください。
- 122 あなたのしもべの幸いの保証人となってください。高ぶる者が私を虐げないようにしてください。
- 123 私の目は あなたの救いと あなたの義のみことばを慕って 絶え入るばかりです。
- 124 あなたの恵みによって あなたのしもべを取り扱ってください。私にあなたのおきてを教えてください。
- 125 私はあなたのしもべです。私に悟らせてください。そうすれば 私はあなたのさとしを知るでしょう。
- 126 今こそ主が事をなさる時です。彼らはあなたのみおしえを破りました。
- 127 それゆえ 私はあなたの仰せを愛します。金よりも 純金よりも。
- 128 それゆえ私は すべてにおいて 戒めにしたがってまっすぐに歩み 偽りの道をことごとく憎みます。
- 129 あなたのさとしは奇しく それゆえ 私のたましいはそれに目を留めます。
- 130 みことばの戸が開くと 光が差し 浅はかな者に悟りを与えます。
- 131 私は口を大きく開けて あえぎます。まことに 私はあなたの仰せを慕います。
- 132 御名を愛する者のために定めておられるように 私に御顔を向け 私をあわれんでください。

- 133 みことばによって 私の歩みを確かにし どんな不法にも 私を支配させないでください。
- 134 私を人の虐げから贖い出し あなたの戒めを守るようにしてください。
- 135 御顔をあなたのしもべの上に照り輝かせ あなたのおきてを教えてください。
- 136 私の目から涙がとめどなく流れ落ちます。彼らがあなたのみおしえを守らないからです。
- 137 主よ あなたは正しくあられます。あなたのさばきは真っ直ぐです。
- 138 義をもって あなたはさとしを与えられました。この上もない真実をもって。
- 139 私の激しい思いは私を滅ぼし尽くすほどです。私の敵があなたのみことばを忘れているからです。
- 140 あなたのみことばは よく練られていて あなたのしもべはそれを愛しています。
- 141 私は取るに足りない者で 蔑まれています。しかし あなたの戒めを忘れてはいません。
- 142 あなたの義のわざは 永遠の義 あなたのみおしえは まことです。
- 143 苦難と窮乏が私に襲いかかっています。しかし あなたの仰せは私の喜びです。
- 144 あなたのさとしは 永遠に義です。私に悟らせ 私を生かしてください。
- 145 私は心を尽くして呼び求めます。主よ 私に答えてください。私はあなたのおきてを守ります。
- 146 私はあなたを呼び求めます。私をお救いください。私はあなたのさとしを守ります。
- 147 私は夜明け前に起きて 叫び求めます。あなたのみことばを待ち望んでいます。
- 148 私は 夜明けの見張りよりも先に目覚め あなたのみことばに思いを潜めます。
- 149 あなたの恵みによって 私の声を聞いてください。主よ あなたの定めにしたがって 私を生かしてください。
- 150 悪意を遂げようとする者が近づきました。彼らは あなたのみおしえから遠く離れています。
- 151 しかし 主よ あなたがそばにおられます。あなたの仰せはことごとくまことです。
- 152 私は昔から あなたのさとしで知っています。あなたが永遠にこれを定めておられることを。
- 153 私の苦しみをご覧になり 私を助け出してください。私はあなたのみおしえを忘れません。
- 154 私の言い分を取り上げ 私を贖ってください。あなたのみことばにしたがって 私を生かしてください。
- 155 救いは悪しき者から遠く離れています。彼らがあなたのおきてを求めないからです。
- 156 あなたのあわれみは偉大です。主よ あなたの定めにしたがって 私を生かしてください。
- 157 私を迫害し 敵とする者が多くいます。しかし私は あなたのさとしからそれません。
- 158 私は裏切る者どもを見て 忌み嫌います。彼らがあなたのみことばを守らないからです。
- 159 ご覧ください。どんなに私があなたの戒めを愛しているかを。主よ あなたの恵みによって 私を生かしてください。
- 160 みことばのすべては真実です。あなたの義のさばきはことごとく とこしえに至ります。
- 161 君主たちは ゆえもなく私を迫害します。しかし私の心は あなたのみことばにおののいています。

- 162 私は 大きな獲物を見つけた者のように あなたのみにことばを喜びます。
- 163 私は偽りを憎み 忌み嫌います。私はあなたのみおしえを愛しています。
- 164 あなたの義のさばきのゆえに 私は日に七度 あなたをほめたたえます。
- 165 あなたのみおしえを愛する者には 豊かな平安があり つまずきがありません。
- 166 主よ 私はあなたの救いを待ち望んでいます。私はあなたの仰せを行っています。
- 167 私のたましいはあなたのさとしを守っています。限りなくそれを愛しています。
- 168 私はあなたの戒めとさとしを守っています。私の道はことごとく御前にあるからです。
- 169 主よ 私の叫びが御前に近づきますように。あなたのみことばのとおり 私に悟りを与えてください。
- 170 私の切なる願いが 御前に届きますように。あなたのみことばのとおり 私を救い出してください。
- 171 私の唇に 賛美が湧きあふれるようにしてください。あなたが私に あなたのおきてを教えてください。
- 172 私の舌が あなたのみことばを歌うようにしてください。あなたの仰せは ことごとく正しいからです。
- 173 あなたの御手が私の助けとなりますように。まことに 私はあなたの戒めを選びました。
- 174 主よ 私はあなたの救いを慕っています。あなたのみおしえは私の喜びです。
- 175 私のたましいが生き あなたをほめたたえますように。そして あなたのさばきが 私の助けとなりますように。
- 176 私は 滅びる羊のようにさまよっています。どうかこのしもべを捜してください。私はあなたの仰せを忘れません。

第120章

- 1 苦しみのうちに私が主を呼び求めると 主は私に答えてくださった。
- 2 主よ 私のたましいを 偽りの唇 欺きの舌から 救い出してください。
- 3 欺きの舌よ おまえに何が与えられ おまえに何が加えられるだろうか。
- 4 勇士の鋭い矢 そして えにしだの炭火だ。
- 5 ああ 嘆かわしいこの身よ。メシェクに寄留し ケダルの天幕に身を寄せるとは。
- 6 この身は 平和を憎む者とともにあって久しい。
- 7 私が 平和を――と語りかければ 彼らは戦いを求めるのだ。

第121章

- 1 私は山に向かって目を上げる。私の助けは どこから来るのか。
- 2 私の助けは主から来る。天地を造られたお方から。
- 3 主は あなたの足をよろけさせず あなたを守る方は まどろむこともない。
- 4 見よ イスラエルを守る方は まどろむこともなく 眠ることもない。
- 5 主はあなたを守る方。主はあなたの右手をおおう陰。
- 6 昼も 日があなたを打つことはなく 夜も 月があなたを打つことはない。
- 7 主は すべてのわざわいからあなたを守り あなたのたましいを守られる。
- 8 主はあなたを 行くにも帰るにも 今よりとこしえまでも守られる。

第122章

- 1 「さあ 主の家に行こう。」人々が私にそう言ったとき 私は喜んだ。
- 2 エルサレムよ 私たちの足は あなたの門の内に立っている。
- 3 エルサレム それは 一つによくまとまった都として建てられている。
- 4 そこには 多くの部族 主の部族が上って来る。イスラエルである証しとして 主の御名に感謝するために。
- 5 そこには さばきの座 ダビデの家の王座があるからだ。
- 6 エルサレムの平和のために祈れ。「あなたを愛する人々が安らかであるように。
- 7 あなたの城壁の内に 平和があるように。あなたの宮殿の内が 平穏であるように。」
- 8 私の兄弟 友のために さあ私は言おう。「あなたのうちに 平和があるように。」
- 9 私たちの神 主の家のために 私はあなたの幸いを祈り求めよう。

第123章

- 1 あなたに向かって 私は目を上げます。天の御座に着いておられる方よ。
- 2 まことに しもべたちの目が主人の手に向けられ 仕える女の目が女主人の手に向けられるように 私たちの目は私たちの神 主に向けられています。主が私たちをあわれんでくださるまで。
- 3 あわれんでください 主よ あわれんでください。私たちは蔑みでいっぱいです。
- 4 私たちのたましいは 安逸を貪る者たちの嘲りと 高ぶる者たちの蔑みでいっぱいです。

第124章

- 1 「もしも 主が私たちの味方でなかったなら。」 さあ イスラエルは言え。
- 2 「もしも 主が私たちの味方でなかったなら 人々が敵対してきたとき
- 3 そのとき 彼らは私たちを生きたまま 丸呑みにしていたであろう。 彼らの怒りが私たちに 向かって燃え上がったとき
- 4 そのとき 大水は私たちを押し流し 濁流は私たちを越えて行ったであろう。
- 5 そのとき 荒れ狂う水は 私たちを越えて行ったであろう。」
- 6 ほむべきかな 主。 主は私たちを 彼らの歯の餌食にされなかった。
- 7 鳥のように 私たちのたましいは 仕掛けられた罠から助け出された。 罠は破られ 私たちは助け出された。
- 8 私たちの助けは 天地を造られた主の御名にある。

第125章

- 1 主に信頼する人々はシオンの山のような。 揺るぐことなく とこしえにながらえる。
- 2 エルサレムを山々が取り囲んでいるように 主は御民を 今よりとこしえまでも囲まれる。
- 3 それは 悪の杖が 正しい人の割り当て地の上にとどまることがなく 正しい人が不正なことに 手を伸ばさないようにするためだ。
- 4 主よ 善良な人々や心の直ぐな人々に いつくしみを施してください。
- 5 主は 曲がった道にそれる者どもを 不法を行う者どもとともに追い出される。 イスラエルの上に平和があるように。

第126章

- 1 主がシオンを復興してくださったとき 私たちは夢を見ている者のようであった。
- 2 そのとき 私たちの口は笑いで満たされ 私たちの舌は喜びの叫びで満たされた。 そのとき 諸国の人々は言った。「主は彼らのために大いなることをなされた。」
- 3 主が私たちのために大いなることをなされたので 私たちは喜んだ。
- 4 主よ ネゲブの流れのように 私たちを元どおりにしてください。
- 5 涙とともに種を蒔く者は 喜び叫びながら刈り取る。
- 6 種入れを抱え 泣きながら出て行く者は 束を抱え 喜び叫びながら帰って来る。

第127章

- 1 主が家を建てるのでなければ 建てる者の働きはむなしい。主が町を守るのでなければ 守る者の見張りはむなしい。
- 2 あなたがたが早く起き 遅く休み 労苦の糧を食べたとしても それはむなしい。実に 主は愛する者に眠りを与えてくださる。
- 3 見よ 子どもたちは主の賜物 胎の実は報酬。
- 4 若いときの子どもたちは 実に 勇士の手にある矢のようだ。
- 5 幸いなことよ 矢筒をその矢で満たしている人は。彼らは門で敵と論じるとき 恥を見ることがない。

第128章

- 1 幸いなことよ 主を恐れ 主の道を歩むすべての人は。
- 2 あなたがその手で労した実りを食べる事 それはあなたの幸い あなたへの恵み。
- 3 あなたの妻は 家の奥で たわわに実るぶどうの木のように。あなたの子どもたちは 食卓を囲むとき まるでオリーブの若木のように。
- 4 見よ 主を恐れる人は 確かに このように祝福を受ける。
- 5 主がシオンからあなたを祝福されるように。あなたは いのちの日の限り エルサレムへのいつくしみを見よ。
- 6 あなたの子らの子たちを見よ。イスラエルの上に平和があるように。

第129章

- 1 「彼らは 私が若いころからひどく私を苦しめた。」さあ イスラエルは言え。
- 2 「彼らは 私が若いころからひどく私を苦しめた。しかし 彼らは私に勝てなかった。
- 3 耕す者たちは私の背に鋤をあて 長いあぜを作ったが。」
- 4 主は正しくあられ 悪しき者の綱を断ち切られた。
- 5 シオンを憎む者はみな 恥を受けて退け。
- 6 彼らは 伸びないうちに枯れる 屋根の草のようになれ。
- 7 そのようなものを刈り取る者はつかまず 束ねる者も抱えることはない。
- 8 通りがかりの人も 「あなたがたに主の祝福があるように。主の名によって祝福あれ」と言うことはない。

第130章

- 1 主よ 深い淵から私はあなたを呼び求めます。
- 2 主よ 私の声を聞いてください。私の願いの声に耳を傾けてください。
- 3 主よ あなたがもし 不義に目を留められるなら 主よ だれが御前に立てるでしょう。
- 4 しかし あなたが赦してくださるゆえに あなたは人に恐れられます。
- 5 私は主を待ち望みます。私のたましいは待ち望みます。主のみことばを私は待ちます。
- 6 私のたましいは 夜回りが夜明けを まことに 夜回りが夜明けを待つのにまさって 主を待ちます。
- 7 イスラエルよ 主を待て。主には恵みがあり 豊かな贖いがある。
- 8 主は すべての不義から イスラエルを贖い出される。

第131章

- 1 主よ 私の心はおごらず 私の目は高ぶりません。及びもつかない大きなことや奇しいことに 私は足を踏み入れません。
- 2 まことに私は 私のたましいを和らげ 静めました。乳離れした子が 母親とともにいるように 乳離れした子のように 私のたましいは私とともにあります。
- 3 イスラエルよ 今よりとこしえまで 主を待ち望め。

第132章

- 1 主よ ダビデのために 彼のすべての苦しみを思い出してください。
- 2 彼は主に誓い ヤコブの力強き方に誓いを立てました。
- 3 「私は決して 私の家の天幕に入りません。 私のために備えられた寝床にも上がりません。
- 4 私の目に眠りを与えません。 私のまぶたにまどろみさえ。
- 5 主のために 一つの場所を ヤコブの力強き方のために 御住まいを 私が見出すまでは。」
- 6 今や私たちは エフラテでそれを聞き ヤアルの野でそれを見出した。
- 7 さあ 主の住まいに行き 主の足台のもとにひれ伏そう。
- 8 主よ 立ち上がってください。 あなたの安息の場所にお入りください。 あなたと あなたの御力の箱も。
- 9 あなたの祭司たちが義をまとい あなたにある敬虔な者たちが喜び歌いますように。
- 10 あなたのしもべダビデのために あなたに油注がれた者を退けないでください。
- 11 主はダビデに誓われた。 それは 主が取り消すことのない真実。「あなたの身から出る子を あなたの位に就かせる。
- 12 もし あなたの子らが わたしの契約と わたしが教えるさとしを守るなら 彼らの子らも とこしえにあなたの位に就く。」
- 13 主はシオンを選び それをご自分の住まいとして望まれた。
- 14 「これはとこしえに わたしの安息の場所。 ここにわたしは住む。 わたしがそれを望んだから。
- 15 わたしは豊かにシオンの食物を祝福し その貧しい者をパンで満ち足らせる。
- 16 その祭司たちに救いをまとわせる。 その敬虔な者たちは高らかに喜び歌う。
- 17 そこにわたしはダビデのために 一つの角を生えさせる。 わたしに油注がれた者のためにともしびを整える。
- 18 わたしは彼の敵に恥をまとわせる。 しかし 彼の上には王冠が光り輝く。」

第133章

- 1 見よ。 なんとという幸せ なんとという楽しさだろう。 兄弟たちが一つになって とともに生きることは。
- 2 それは 頭に注がれた貴い油のようだ。 それは ひげに アロンのひげに流れて 衣の端にまで流れ滴る。
- 3 それはまた ヘルモンから シオンの山々に降りる露のようだ。 主がそこに とこしえのいのちの祝福を命じられたからである。

第134章

- 1 さあ 主をほめたたえよ。主のすべてのしもべたち 夜ごとに主の家で仕える者たちよ。
- 2 聖所に向かってあなたがたの手を上げ 主をほめたたえよ。
- 3 天地を造られた主が シオンからあなたを祝福されるように。

第135章

- 1 ハレルヤ 主の御名をほめたたえよ。ほめたたえよ 主のしもべたち。
- 2 主の家で仕え 私たちの神の家の大庭で仕える者よ。
- 3 ハレルヤ 主はまことにいつくしみ深い。主の御名にほめ歌を歌え。その御名は実に麗しい。
- 4 主は ヤコブをご自分のために選び イスラエルを ご自分の宝として選ばれた。
- 5 まことに 私は知っている。主は大いなる方 私たちの主はすべての神々にまさっておられる。
- 6 主は望むところをことごとく行われる。天と地で 海とすべての深淵で。
- 7 主は 地の果てから雲を上らせ 雨のために稲妻を造り その倉から風を出される。
- 8 主はエジプトの初子を 人から家畜に至るまで打たれた。
- 9 エジプトよ おまえの真ただ中に 主はしるしと奇跡を送られた。ファラオとそのすべてのしもべらに。
- 10 主は多くの国々を打ち 力ある王たちを殺された。
- 11 アモリ人の王シホン バシヤンの王オグ カナンのすべての王国を。
- 12 主は彼らの地をゆずりとして与えられた。御民イスラエルにゆずりとして。
- 13 主よ あなたの御名はとこしえに 主よ あなたの呼び名は代々に至ります。
- 14 まことに 主はご自分の民をさばき そのしもべらをあわれまれます。
- 15 異邦の民の偶像は銀や金。人の手のわざにすぎない。
- 16 口があっても語れず 目があっても見えない。
- 17 耳があっても聞こえず また その口には息がない。
- 18 これを造る者も これに信頼する者もみな これと同じ。
- 19 イスラエルの家よ 主をほめたたえよ。アロンの家よ 主をほめたたえよ。
- 20 レビの家よ 主をほめたたえよ。主を恐れる者たちよ 主をほめたたえよ。
- 21 シオンで 主がほめたたえられるように。エルサレムに住まわれる方が。ハレルヤ。

第136章

- 1 主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。主の恵みはとこしえまで。
- 2 神の神であられる方に感謝せよ。主の恵みはとこしえまで。
- 3 主の主であられる方に感謝せよ。主の恵みはとこしえまで。
- 4 ただひとり 大いなる不思議を行われる方に。主の恵みはとこしえまで。
- 5 英知をもって天を造られた方に感謝せよ。主の恵みはとこしえまで。
- 6 地を水の上に敷かれた方に。主の恵みはとこしえまで。
- 7 大きな光る物を造られた方に。主の恵みはとこしえまで。
- 8 昼を治める太陽を。主の恵みはとこしえまで。
- 9 夜を治める月と星を。主の恵みはとこしえまで。
- 10 エジプトの長子を打たれた方に感謝せよ。主の恵みはとこしえまで。
- 11 主はイスラエルをその地から導き出された。主の恵みはとこしえまで。
- 12 力強い御手と伸ばされた御腕をもって。主の恵みはとこしえまで。
- 13 葦の海を二つに分けられた方に感謝せよ。主の恵みはとこしえまで。
- 14 こうして 主はイスラエルにその中を通らせた。主の恵みはとこしえまで。
- 15 ファラオとその軍勢を葦の海に投げ込まれた。主の恵みはとこしえまで。
- 16 荒野で御民を導かれた方に感謝せよ。主の恵みはとこしえまで。
- 17 大いなる王たちを打たれた方に。主の恵みはとこしえまで。
- 18 主は 力ある王たちを殺された。主の恵みはとこしえまで。
- 19 アモリ人の王シホンを。主の恵みはとこしえまで。
- 20 バシャンの王オグを。主の恵みはとこしえまで。
- 21 こうして 彼らの地をゆずりとして与えられた。主の恵みはとこしえまで。
- 22 主のしもベイスラエルにゆずりとして。主の恵みはとこしえまで。
- 23 私たちが卑しめられたとき 主は心に留められた。主の恵みはとこしえまで。
- 24 そして 主は私たちを敵から解き放たれた。主の恵みはとこしえまで。
- 25 主はすべての肉なる者に食物を与える方。主の恵みはとこしえまで。
- 26 天の神に感謝せよ。主の恵みはとこしえまで。

第137章

- 1 バビロンの川のほとり そこに私たちは座り シオンを思い出して泣いた。
- 2 街中の柳の木々に 私たちは豎琴を掛けた。
- 3 それは 私たちを捕らえて来た者たちが そこで私たちに歌を求め 私たちを苦しめる者たちが 余興に 「シオンの歌を一つ歌え」と言ったからだ。
- 4 どうして私たちが異国の地で 主の歌を歌えるだろうか。
- 5 エルサレムよ もしも 私があなたを忘れてしまうなら この右手もその巧みさを忘れるがよい。
- 6 もしも 私があなたを思い出さず エルサレムを至上の喜びとしないなら 私の舌は上あごについてしまえばよい。
- 7 主よ 思い出してください。エルサレムの日に「破壊せよ 破壊せよ。その基までも」と言った エドムの子らを。
- 8 娘バビロンよ 荒らされるべき者よ。幸いなことよ おまえが私たちにしたことにより 仕返しする人は。
- 9 幸いなことよ おまえの幼子たちを捕らえ 岩に打ちつける人は。

第138章

- 1 心を尽くして 私はあなたに感謝をささげます。御使いたちの前で あなたをほめ歌います。
- 2 私は あなたの聖なる宮に向かってひれ伏し 恵みとまことのゆえに 御名に感謝します。あなたがご自分のすべての御名のゆえに あなたのみことばを高く上げられたからです。
- 3 私が呼んだその日に あなたは私に答え 私のたましいに力を与えて強くされました。
- 4 主よ 地のすべての王はあなたに感謝するでしょう。彼らがあなたの口のみことばを聞いたからです。
- 5 彼らは主の道について歌うでしょう。主の栄光が大きいからです。
- 6 まことに 主は高くあられますが 低い者を顧みてくださいます。しかし高ぶる者を 遠くから見抜かれます。
- 7 私が苦しみの中を歩いても あなたは私を生かしてくださいます。私の敵の怒りに向かって御手を伸ばし あなたの右の手が私を救ってくださいます。
- 8 主は私のためにすべてを成し遂げてくださいます。主よ あなたの恵みはとこしえにあります。あなたの御手のわざをやめないでください。

第139章

- 1 主よ あなたは私を探り 知っておられます。
- 2 あなたは 私の座るのも立つのも知っておられ 遠くから私の思いを読み取られます。
- 3 あなたは私が歩くのも伏すのも見守り 私の道のすべてを知り抜いておられます。
- 4 ことばが私の舌にのぼる前に なんと主よ あなたはそのすべてを知っておられます。
- 5 あなたは前からうしろから私を取り囲み 御手を私の上に置かれました。
- 6 そのような知識は私にとって あまりにも不思議 あまりにも高くて 及びもつきません。
- 7 私はどこへ行けるでしょう。 あなたの御霊から離れて。 どこへ逃れられるでしょう。 あなたの御前を離れて。
- 8 たとえ 私が天に上っても そこにあなたはおられ 私がよみに床を設けても そこにあなたはおられます。
- 9 私が暁の翼を駆って 海の果てに住んでも
- 10 そこでも あなたの御手が私を導き あなたの右の手が私を捕らえます。
- 11 たとえ私が 「おお闇よ 私をおおえ。私の周りの光よ 夜となれ」と言っても
- 12 あなたにとっては 闇も暗くなく 夜は昼のように明るいのです。 暗闇も光も同じことです。
- 13 あなたこそ 私の内臓を造り 母の胎の内で私を組み立てられた方です。
- 14 私は感謝します。 あなたは私に奇しいことをなさって 恐ろしいほどです。 私のたましいは それをよく知っています。
- 15 私が隠れた所で造られ 地の深い所で織り上げられたとき 私の骨組みはあなたに隠れてはいませんでした。
- 16 あなたの目は胎児の私を見られ あなたの書物にすべてが記されました。 私のために作られた日々が しかも その一日もないうちに。
- 17 神よ あなたの御思いを知るのは なんと難しいことでしょう。 そのすべては なんと多いことでしょう。
- 18 数えようとしても それは砂よりも数多いのです。 私が目覚めるとき 私はなおも あなたとともにいます。
- 19 神よ どうか悪者を殺してください。 人の血を流す者どもよ 私から遠ざかれ。
- 20 彼らは敵意をもってあなたに語り あなたの敵は みだりに御名を口にします。
- 21 主よ 私はあなたを憎む者たちを 憎まないでしょうか。 あなたに立ち向かう者を 嫌わないでしょうか。
- 22 私は憎しみの限りを尽くして彼らを憎みます。 彼らは私の敵となりました。
- 23 神よ 私を探り 私の心を知ってください。 私を調べ 私の思い煩いを知ってください。
- 24 私のうちに 傷のついた道があるかないかを見て 私をとこしえの道に導いてください。

第140章

- 1 主よ 私をよこしまな人から助け出し 暴虐を行う者から守ってください。
- 2 彼らは心の中で悪を企み 日ごとに戦いを仕掛けてきます。
- 3 蛇のようにその舌を鋭くし 唇の下には まむしの毒があります。セラ
- 4 主よ 悪しき者の手から私を守り 暴虐を行う者からお守りください。 彼らは私の足をつま
ずかせようと企んでいます。
- 5 高ぶる者は 私に罾を仕掛け 綱で綱を広げ 道端に落とし穴を設けました。セラ
- 6 私は主に申し上げます。「あなたは私の神。 主よ 私の願いの声を聞いてください。
- 7 私の主 神 私の救いの力よ。 あなたは私が武器を取る日に 私の頭をおおってくださいま
した。
- 8 主よ 悪者の願いをかなえさせず その企みを遂げさせないでください。 彼らは高ぶってい
ます。セラ
- 9 私を取り囲んでいる者たちの頭。 これを自らの唇の害悪がおおいますように。
- 10 燃える炭火が彼らの上に降りかかりますように。 彼らが火の中に 深い淵に落とされ 立ち
上がれないようにしてください。
- 11 そしる者が地上で栄えませんように。 わざわいがすぐにも 暴虐を行う者を捕らえるように
してください。」
- 12 私は知っています。 主が苦しむ者の訴えを支持し 貧しい者のために さばきを行われるこ
とを。
- 13 まことに 正しい人はあなたの御名に感謝し 直ぐな人はあなたの御前に住むでしょう。

第141章

- 1 主よ 私はあなたを呼び求めています。私のところに急いでください。私があなたに呼び求めるときに 私の声に耳を傾けてください。
- 2 私の祈りが 御前への香として 手を上げる祈りが タベのささげ物として 立ち上りますように。
- 3 主よ 私の口に見張りを置き 私の唇の戸を守ってください。
- 4 私の心を悪に向けさせず 不法を行う者たちとともに 悪い行いに携わらないようにしてください。私が彼らのごちそうを 食べないようにしてください。
- 5 正しい人が真実の愛をもって私を打ち 頭に注ぐ油で私を戒めてくれますように。私の頭がそれを拒まないようにしてください。彼らが悪行を重ねても なおも私は祈ります。
- 6 彼らのさばき人たちが 岩の傍らに投げ落とされるとき 彼らは私のことばが どんなに優しいものだったかを知るでしょう。
- 7 人が地を掘り起こして砕くときのように 私たちの骨はよみの入り口にまき散らされました。
- 8 私の主 神よ まことに 私の目はあなたに向いています。私はあなたに身を避けています。私のたましいを危険にさらさないでください。
- 9 どうか 彼らが私に仕掛けた罠から 不法を行う者の落とし穴から 私を守ってください。
- 10 私が無事に通り過ぎるとき 悪者が自分の網に陥りますように。

第142章

- 1 声をあげて 私は主に叫びます。声をあげて 私は主にあわれみを乞います。
- 2 私は御前に自分の嘆きを注ぎ出し 私の苦しみを御前に言い表します。
- 3 私の霊が私のうちで衰え果てたときにも あなたは 私の道をよく知っておられます。私が歩くその道に 彼らは罠を仕掛けています。
- 4 ご覧ください 私の右に目を注いでください。私には 顧みてくれる人がいません。私は逃げ場さえも失って 私のいのちを気にかける人もいないのです。
- 5 主よ 私はあなたに叫びます。「あなたこそ私の避け所 生ける者の地での 私の受ける分。
- 6 どうか 私の叫びに耳を傾けてください。私はひどくおとしめられていますから。私を迫害する者から救い出してください。彼らは私よりも強いのです。
- 7 私のたましいを牢獄から助け出し 私があなたの御名に感謝するようにしてください。正しい人たちは私の周りに集まるでしょう。あなたが私に良くしてくださるからです。」

第143章

- 1 主よ 私の祈りを聞き 私の願いに耳を傾けてください。あなたの真実と義によって 私に答えてください。
- 2 あなたのしもべをさばきにかけてください。生ける者はだれ一人 あなたの前に正しいと認められないからです。
- 3 敵は私のたましいを追いつめ 私のいのちを地に打ちつけ 死んで久しい者のように 私を闇にとどめます。
- 4 それゆえ 私の霊は私のうちで衰え果て 心は私の中で 荒れすさんでしまいました。
- 5 私は昔の日々を思い起こし あなたのすべてのみわざに思いを巡らし あなたの御手のわざを静かに考えています。
- 6 あなたに向かって 私は手を伸べ広げ 私のたましいは 乾ききった地のように あなたを慕います。セラ
- 7 主よ 早く私に答えてください。私の霊は滅びてしまいます。どうか 御顔を私に隠さないでください。私が穴に下る者と等しくならないように。
- 8 朝にあなたの恵みを聞かせてください。私はあなたに信頼していますから。行くべき道を知らせてください。私のたましいはあなたを仰いでいますから。
- 9 主よ 私を敵から救い出してください。私はあなたのうちに身を隠します。
- 10 あなたのみにこころを行うことを教えてください。あなたは私の神であられますから。あなたのいつくしみ深い霊が 平らな地に私を導いてくださいますように。
- 11 主よ あなたの御名のゆえに私を生かし あなたの義によって 私のたましいを苦しみから助け出してください。
- 12 あなたの恵みによって 私の敵を滅ぼし 私のたましいに敵対するすべての者を 消し去ってください。私はあなたのしもべですから。

第144章

- 1 わが岩なる主が ほめたたえられますように。 戦いのために私の手を 戦のために私の指を 鍛えられる方が。
- 2 主は私の恵み 私の砦 私のやぐら 私の救い主 私の盾 私の避け所 私の民を私に服させる方。
- 3 主よ 人とは何ものなのでしょう。 あなたがこれを知っておられるとは。 人の子とはいったい何ものなのでしょう。 あなたがこれを顧みられるとは。
- 4 人は息にすぎず その日々は影のように過ぎ去ります。
- 5 主よ あなたの天を押し曲げて降りて来てください。 山々に触れて 噴煙を上げさせてください。
- 6 稲妻を放って 彼らを散らし あなたの矢を放って 彼らをかき乱してください。
- 7 いと高き所からあなたの御手を伸べ 大水から また異国人の手から 私を解き放ち 救い出してください。
- 8 彼らの口は嘘を言い その右の手は偽りの右手です。
- 9 神よ あなたに私は新しい歌を歌い 十弦の琴に合わせて ほめ歌を歌います。
- 10 神は王たちに救いを与え 神のしもベダビデを悪の剣から解き放たれます。
- 11 私を異国人の手から解き放ち 救い出してください。 彼らの口は嘘を言い その右の手は偽りの右手です。
- 12 私たちの息子らが 若いうちから よく育てられた植木のようにになりますように。 私たちの娘らが 宮殿にふさわしく刻まれた 隅の柱のようにになりますように。
- 13 私たちの倉は もろもろの産物で満ちますように。 私たちの羊の群れは 私たちの野で 幾千幾万となりますように。
- 14 私たちの牛が子牛をよくはらみ 早産も流産もなく 哀れな叫び声が 私たちの町にありませんように。
- 15 幸いなことよ このようになる民は。 幸いなことよ 主を自らの神とする民は。

第145章

- 1 私の神 王よ 私はあなたをあがめます。あなたの御名を 世々限りなくほめたたえます。
- 2 日ごとにあなたをほめたたえ あなたの御名を世々限りなく賛美します。
- 3 主は大いなる方。大いに賛美されるべき方。その偉大さは 測り知ることもできません。
- 4 代は代へと あなたのみわざをほめ歌い あなたの大能のわざを告げ知らせます。
- 5 私は あなたの主権の栄光の輝き あなたの奇しいみわざを語り伝えます。
- 6 人々はあなたの恐ろしいみわざの力を告げ 私はあなたの偉大さを語ります。
- 7 人々はあなたの豊かないつくしみの思い出を あふれるばかりに語り あなたの義を高らかに歌います。
- 8 主は情け深く あわれみ深く 怒るのに遅く 恵みに富んでおられます。
- 9 主はすべてのものにいつくしみ深く そのあわれみは 造られたすべてのものの上にあります。
- 10 主よ あなたが造られたすべてのものは あなたに感謝し あなたにある敬虔な者たちは あなたをほめたたえます。
- 11 彼らはあなたの王国の栄光を告げ あなたの大能のわざを語ります。
- 12 こうして人の子らに 主の大能のわざと 主の王国の輝かしい栄光を知らせます。
- 13 あなたの王国は 永遠にわたる王国。あなたの統治は 代々限りなく続きます。
- 14 主は倒れる者をみな支え かがんでいる者をみな起こされます。
- 15 すべての目はあなたを待ち望んでいます。あなたは 時にかなって 彼らに食物を与えられます。
- 16 あなたは御手を開き 生けるものすべての願いを満たされます。
- 17 主はご自分のすべての道において正しく そのすべてのみわざにおいて恵み深い方。
- 18 主を呼び求める者すべて まことをもって主を呼び求める者すべてに 主は近くあられます。
- 19 また 主を恐れる者の願いをかなえ 彼らの叫びを聞いて 救われます。
- 20 すべて主を愛する者は主が守られます。しかし 悪しき者はみな滅ぼされます。
- 21 私の口が主の誉れを語り すべて肉なる者が聖なる御名を 世々限りなくほめたたえますように。

第146章

- 1 ハレルヤ。わがたましいよ 主をほめたたえよ。
- 2 私は生きているかぎり 主をほめたたえる。いのちのあるかぎり 私の神にほめ歌を歌う。
- 3 あなたがたは君主を頼みとしてはならない。救いのない人間の子を。
- 4 霊が出て行くと 人は自分の土に帰り その日のうちに 彼の計画は滅び失せる。
- 5 幸いなことよ ヤコブの神を助けとし その神 主に望みを置く人。
- 6 主は 天と地と海 またそれらの中のすべてのものを造られた方。 とこしえまでも真実を守り
- 7 虐げられている者のためにさばきを行い 飢えている者にパンを与える方。 主は捕らわれ人を解放される。
- 8 主は目の見えない者たちの目を開け 主はかがんでいる者たちを起こされる。 主は正しい者たちを愛し
- 9 主は寄留者を守り みなしごとやもめを支えられる。 しかし悪しき者の道は 主が曲げられる。
- 10 主は とこしえに統べ治められる。 シオンよ あなたの神は 代々に統べ治められる。 ハレルヤ。

第147章

- 1 ハレルヤ。まことに われらの神にほめ歌を歌うのは良い。まことに楽しく 賛美は麗しい。
- 2 主はエルサレムを建て イスラエルの散らされた者たちを集められる。
- 3 主は心の打ち砕かれた者を癒やし 彼らの傷を包まれる。
- 4 主は星の数を数え そのすべてに名をつけられる。
- 5 われらの主は偉大であり 力強く その英知は測り知れない。
- 6 主は心の貧しい者を支え 悪しき者を地面に引き降ろされる。
- 7 感謝をもって主に歌え。 豎琴に合わせて われらの神にほめ歌を歌え。
- 8 神は濃い雲で天をおおい 地のために雨を備え また 山々に草を生えさせ
- 9 獣に また 鳴く鳥の子に 食物を与える方。
- 10 神は馬の力を喜ばず 人の足の速さを好まれない。
- 11 主を恐れる者と 御恵みを待ち望む者とを主は好まれる。
- 12 エルサレムよ 主をほめ歌え。 シオンよ あなたの神をほめたたえよ。
- 13 主は あなたの門のかんぬきを強め あなたの中にいる子らを祝福しておられるからだ。
- 14 主は あなたの地境に平和を置き 最良の小麦であなたを満たされる。
- 15 主は地に仰せのことばを送り そのみことばは速やかに走る。
- 16 主は羊毛のように雪を降らせ 灰のように霜をまかれる。
- 17 主は氷をパン屑のように投げつけられる。 だれがその寒さに耐えられるだろうか。
- 18 主が みことばを送ってこれらを溶かし ご自分の風を吹かせると 水は流れる。
- 19 主はヤコブには みことばを イスラエルには おきてとさばきを告げられる。
- 20 主は どのような国々にも このようには なさらなかった。 さばきについて彼らは知らない。 ハレルヤ。

第148章

- 1 ハレルヤ。天において主をほめたたえよ。いと高き所で 主をほめたたえよ。
- 2 主をほめたたえよ すべての御使いよ。主をほめたたえよ 主の万軍よ。
- 3 日よ 月よ 主をほめたたえよ。主をほめたたえよ すべての輝く星よ。
- 4 天の天よ 主をほめたたえよ。天の上にある水よ。
- 5 主の御名をほめたたえよ。主が命じて それらは創造されたのだ。
- 6 主は それらを世々限りなく立てられた。主は 去りゆくことのない定めを置かれた。
- 7 地において主をほめたたえよ。海の巨獣よ すべての淵よ。
- 8 火よ 雹よ 雪よ 煙よ。みことばを行う激しい風よ。
- 9 山々よ すべての丘よ。実のなる木よ すべての杉よ。
- 10 獣よ すべての家畜よ。這うものよ 翼のある鳥よ。
- 11 地の王たちよ すべての国民よ。君主たちよ 地をさばくすべての者たちよ。
- 12 若い男よ 若い女よ。年老いた者と若い者よ。
- 13 主の御名をほめたたえよ。主の御名だけがあがめられる。その威光が 地と天の上で。
- 14 主は御民の角を上げられた。主にある敬虔な者すべての賛美を 主の近くにいる民 イスラエルの子らの賛美を。ハレルヤ。

第149章

- 1 ハレルヤ。新しい歌を主に歌え。敬虔な者たちの集まりで 主への賛美を。
- 2 イスラエルは 自らの造り主にあって喜べ。シオンの子らは 自らの王にあって楽しみ。
- 3 踊りをもって 主の御名をほめたたえよ。タンバリンと豎琴に合わせて 主にほめ歌を歌え。
- 4 主はご自分の民を愛し 貧しい者たちを救いをもって装われる。
- 5 敬虔な者たちは栄光の中で喜び躍れ。自らの床の上で高らかに歌え。
- 6 彼らの口には 神への称賛があり 彼らの手には 両刃の剣があるように。
- 7 それは国々に復讐し もろもろの国民を懲らしめるため
- 8 彼らの王たちを鎖に 彼らの貴族たちを鉄のかせにつなぐため
- 9 また書き記されたさばきを 彼らの間で行うため。これは 主にある敬虔な者すべての誉れである。ハレルヤ。

第150章

- 1 ハレルヤ。神の聖所で 神をほめたたえよ。御力の大空で 神をほめたたえよ。
- 2 その大能のみわざのゆえに 神をほめたたえよ。その比類なき偉大さにふさわしく 神をほめたたえよ。
- 3 角笛を吹き鳴らして 神をほめたたえよ。琴と豎琴に合わせて 神をほめたたえよ。
- 4 タンバリンと踊りをもって 神をほめたたえよ。弦をかき鳴らし笛を吹いて 神をほめたたえよ。
- 5 音の高いシンバルで 神をほめたたえよ。鳴り響くシンバルで 神をほめたたえよ。
- 6 息のあるものはみな 主をほめたたえよ。ハレルヤ。

箴言

Proverbs

第1章

- 1 イスラエルの王、ダビデの子ソロモンの箴言。
- 2 これは、知恵と訓戒を知り、悟りのことばを理解するため、
- 3 義とさばきと公正において、訓戒を受けて、さとくなるため、
- 4 浅はかな者を賢くし、若い者に知識と思慮を得させるためのもの。
- 5 知恵のある者は聞いて洞察を深め、分別のある者は導きを得る。
- 6 こうして、箴言と比喻、知恵のある者のことばと謎を理解する。
- 7 主を恐れることは知識の初め。愚か者は知恵と訓戒を蔑む。
- 8 わが子よ、父の訓戒に聞き従え。母の教えを捨ててはならない。
- 9 それらは、あなたの頭に戴く麗しい花の冠、首にける飾りだから。
- 10 わが子よ。罪人たちがあなたを惑わしても、それに応じてはならない。
- 11 もし彼らがこう言っても。「一緒に来い。人の血を流すために待ち伏せしよう。咎なき者を、理由なしにひそかに狙い、
- 12 よみのように、彼らを生きたままで呑み込もう。全き者たちを、墓に下る者のようにして。
- 13 値打ちのある物は何でも見つけ出し、奪った物でわれわれの家を満たそう。
- 14 われわれはくじで分け合い、皆で一つの金入れを持とう。」
- 15 わが子よ、彼らと一緒に道を歩いてはならない。彼らの通り道に、足を踏み入れてはならない。
- 16 彼らの足は悪に走り、人の血を流すのに速いからだ。
- 17 網を張るのは無駄なこと。すべて翼あるものの目の前では。
- 18 彼らが待ち伏せしているのは自分の血を流すため、隠れ狙っているのは自らのたましい。
- 19 不正な利得を貪る者の道はみな、このようなもの。それを得る者たちはたましいを取り去られる。
- 20 知恵は大通りで叫び、広場でその声をあげ、
- 21 騒々しい街角で叫び、町の門の入り口で、そのことばを語る。
- 22 「浅はかな者よ、おまえたちは、いつまで浅はかなことを愛するのか。嘲る者は、いつまで嘲ることを欲するのか。分別のない者は、いつまで知識を憎むのか。
- 23 わたしの叱責に立ち返れ。おまえたちにわたしの霊を注ぎ、わたしのことばを知らせよう。
- 24 わたしが呼んだのに、おまえたちは拒んだ。手を差し伸べたのに、耳を傾ける者はなかった。
- 25 おまえたちはわたしの忠告をすべてなおざりにし、わたしの叱責を一つも受け入れなかった。
- 26 わたしも、おまえたちが災難にあうときに笑い、恐怖がおまえたちを襲うとき、あざ笑う。

- 27 恐怖が嵐のようにおまえたちを襲うとき、 災難がつむじ風のようにおまえたちに来るとき、 苦難と苦悩がおまえたちを襲うとき、
- 28 そのとき、わたしを呼んでも、わたしは答えない。 わたしを捜し求めても、見出すことはできない。
- 29 それは、彼らが知識を憎み、 主を恐れることを選ばず、
- 30 わたしの忠告を受け入れようとせず、 わたしの叱責をことごとく侮ったからだ。
- 31 それで、彼らは自分の行いの実を食らい、 自分が企んだことで腹を満たす。
- 32 浅はかな者の背信は自分を殺し、 愚かな者の安心は自分を滅ぼす。
- 33 しかし、わたしに聞き従う者は、安全に住み、 わざわいを恐れることなく、安らかである。」

第2章

- 1 わが子よ。もしあなたが私のことばを受け入れ、 私の命令をあなたのうちに蓄え、
- 2 あなたの耳を知恵に傾け、 心を英知に向けるなら、
- 3 もしあなたが悟りに呼びかけ、 英知に向かって声をあげ、
- 4 銀のように、これを探し、 隠された宝のように探り出すなら、
- 5 そのとき、あなたは主を恐れることをわきまえ知り、 神を知ることを見出すようになる。
- 6 主が知恵を与え、 御口から知識と英知が出るからだ。
- 7 主は正直な人のために、すぐれた知性を蓄え、 誠実に歩む人たちの盾となり、
- 8 公正の道筋を保ち、 主にある敬虔な人たちの道を守られる。
- 9 そのとき、あなたは義とさばきと公正を、 またすべての良い道筋をわきまえ知る。
- 10 知恵があなたの心に入り、 知識がたましいに喜びとなるからだ。
- 11 思慮はあなたを守り、 英知はあなたを保つ。
- 12 それらはあなたを悪の道から、 ねじれごとを語る者たちから救い出す。
- 13 その者たちはまっすぐな進路を捨てて 闇の道に歩み、
- 14 悪を行うことを楽しみとし、 悪しきねじれごとを喜んでいる。
- 15 その進む道は曲がり、 彼らは道筋を誤る。
- 16 また思慮と英知は、あなたをよその女から、 ことばの滑らかな見知らぬ女から救い出す。
- 17 この女は若いころの連れ合いを捨てて、 自分の神との契約を忘れている。
- 18 彼女の家は死へと、 その道筋は死者の霊の国へと下る。
- 19 この女のもとへ行く者はだれも帰って来ない。 いのちの道に至ることはない。
- 20 こうして、あなたは善良な人たちの道に歩み、 正しい人たちの進む道を守る。
- 21 正直な人たちは地に住まいを得、 全き人たちは地に生き残る。
- 22 しかし、悪しき者たちは地から断たれ、 裏切り者たちは地から引き抜かれる。

第3章

- 1 わが子よ、私の教えを忘れるな。心に私の命令を保つようにせよ。
- 2 長い日々と、いのちと平安の年月が、あなたに増し加えられるからだ。
- 3 恵みとまことがあなたを捨てないようにせよ。それをあなたの首に結び、心の板に書き記せ。
- 4 神と人の前に 好意を得、聡明であれ。
- 5 心を尽くして主に抛り頼め。自分の悟りに頼るな。
- 6 あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ。主があなたの進む道をまっすぐにされる。
- 7 自分を知恵のある者と考えな。主を恐れ、悪から遠ざかれ。
- 8 それは、あなたのからだに癒やしとなり、あなたの骨に潤いとなる。
- 9 あなたの財産で主をあがめよ。あなたのすべての収穫の初物で。
- 10 そうすれば、あなたの倉は豊かさで満たされ、あなたの石がめは新しいぶどう酒であふれる。
- 11 わが子よ、主の懲らしめを拒むな。その叱責を嫌うな。
- 12 父がいとしい子を叱るように、主は愛する者を叱る。
- 13 幸いなことよ、知恵を見出す人、英知をいただく人は。
- 14 知恵で得るものは金で得るものにまさり、その収穫は黄金にまさるからだ。
- 15 知恵は真珠よりも尊く、あなたが喜ぶどんなものも、それと比べられない。
- 16 知恵の右の手には長寿があり、左の手には富と誉れがある。
- 17 知恵の道は楽しい道。その通り道はみな平安である。
- 18 知恵は、これを握りしめる者にはいのちの木。これをつかんでいる者は幸いである。
- 19 主は知恵をもって地の基を定め、英知をもって天を堅く立てられた。
- 20 主の知識によって深淵は張り裂け、雲は露を滴らせる。
- 21 わが子よ、見失ってはならない。知性と思慮をよく見守れ。
- 22 それらは、たましいのいのちとなり、あなたの首に麗しさを添える。
- 23 こうして、安心して自分の道を歩み、あなたの足はつまずかない。
- 24 横たわるとき、あなたに恐れはない。休むとき、眠りは心地よい。
- 25 にわかに起こる恐怖に、悪しき者たちの来襲に、おびえるな。
- 26 主があなたの頼みであり、足が罅にかからないように、守ってくださるから。
- 27 あなたの手に善を行う力があるとき、受けるべき者にそれを控えてはならない。
- 28 あなたに物があるとき、隣人に向かって、「帰って、また来なさい。明日あげよう」と言うな。
- 29 隣人が、あなたのそばで安心して住んでいるとき、その人に悪を企むな。
- 30 あなたに悪い仕打ちをしていないのなら、理由もなく人と争うな。
- 31 暴虐を行う者を羨むな。彼の道をどれ一つ選ぶな。

- 32** 主は、曲がった者を忌み嫌い、直ぐな人と親しくされるからだ。
- 33** 悪しき者の家には、主ののろいがある。正しい人の住まいは、主が祝福される。
- 34** 嘲る者を主は嘲り、へりくだった者には恵みを与えられる。
- 35** 知恵のある者は誉れを受け継ぎ、愚かな者は恥辱を高く掲げる。

第4章

- 1 子たちよ、父の訓戒に聞き従え。耳を傾け、悟りを得よ。
- 2 私が良い教訓をあなたがたに授けるからだ。私の教えを捨ててはならない。
- 3 私が、父にとっては息子であり、母にとっては、かよわいひとり子であったとき、
- 4 父は私を教えて言った。「私のことばがおまえの心を支えるように。私の命令を守って生きよ。
- 5 知恵を得よ。悟りを得よ。忘れてはならない。私の口のことばからそれてはならない。
- 6 知恵を捨てるな。これがあなたを守る。これを愛せ。これがあなたを保つ。
- 7 知恵の初めに、知恵を買え。あなたが得たものすべてに換えて、悟りを買え。
- 8 それを尊べ。それはあなたを高める。それを抱きしめると、それはあなたに誉れを与える。
- 9 それは頭に麗しい花の冠を与え、輝かしい冠をあなたに授ける。」
- 10 わが子よ、聞け。私の言うことを受け入れよ。そうすれば、あなたのいのちの年月は増す。
- 11 私は知恵の道をあなたに教え、まっすぐな道筋にあなたを導いた。
- 12 あなたが歩むとき、その歩みは妨げられず、走っても、つまづくことはない。
- 13 訓戒を握りしめて、手放すな。それを保て。それはあなたのいのちだから。
- 14 悪しき者たちの進む道に入るな。悪人たちの道を行ってはならない。
- 15 それを無視せよ。そこを通るな。それを避けて通れ。
- 16 まことに、彼らは悪を行わなければ眠れず、人をつまづかせなければ、その眠りが奪われる。
- 17 まことに、彼らは不義のパンを食べ、暴虐の酒を飲む。
- 18 正しい人の進む道は、あけぼのの光のようだ。いよいよ輝きを増して真昼となる。
- 19 悪しき者の道は暗闇のよう。彼らは何につまづくかを知らない。
- 20 わが子よ、注意して私のことばを聞け。私の言うことに耳を傾けよ。
- 21 それらを見失うな。自分の心のただ中に保て。
- 22 それらは、見出す者にとっていのちとなり、全身の癒やしとなるからだ。
- 23 何を見張るよりも、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれから湧く。
- 24 曲がったことを言う口をあなたから取り除き、ゆがんだことを言う唇をあなたから遠ざけよ。
- 25 あなたの目が前方を見つめ、まぶたがまっすぐ前を向くようにせよ。
- 26 あなたの足の道筋に心を向けよ。そうすれば、あなたのすべての道は堅く定まる。
- 27 右にも左にもそれてはならない。あなたの足を悪から遠ざけよ。

第5章

- 1 わが子よ、注意して私の知恵を聞け。私の英知に耳を傾けよ。
- 2 あなたが思慮深さを守り、あなたの唇が知識を保つために。
- 3 よその女の唇は蜂の巣の蜜を滴らせ、その口は油よりも滑らかだが、
- 4 終わりには苦よもぎのように苦くなり、両刃の剣のように鋭くなるからだ。
- 5 この女の足は死に下って行き、その足取りはよみをつかみ取る。
- 6 その女はいのちの道に心を向けない。彼女が通う道はあてどもなくさまよう。しかし彼女は、それを知らない。
- 7 子たちよ、今、私に聞け。私の口のことばから離れるな。
- 8 あなたの道をこの女から遠ざけ、その家の戸口に近づくな。
- 9 そうでないと、あなたは自分の誉れを他人に渡し、あなたの年月を残忍な者に渡すことになる。
- 10 また、他人があなたの富で満たされ、あなたの労苦の実は見知らぬ者の家に渡る。
- 11 そして、あなたの終わりにあなたはうめく。あなたの肉とからだが減びるとき。
- 12 そのとき、あなたは言う。「ああ、私は訓戒を憎み、私の心は叱責を侮った。
- 13 自分の教師の声に聞き従わず、自分を教える者に耳を傾けなかった。
- 14 私は、集会、会衆のただ中であっても、ほとんど最悪の状況であった」と。
- 15 あなた自身の水溜めから水を飲め。流れ出る水を、あなた自身の井戸から。
- 16 あなたの泉を外に散らし、広場を水路にしてよいものか。
- 17 それを自分だけのものにせよ。あなたのところにいる他人のものにするな。
- 18 あなたの泉を祝福されたものとし、あなたの若いときからの妻と喜び楽しめ。
- 19 愛らしい雌鹿、麗しいかもしか。彼女の乳房がいつもあなたを潤すように。あなたはいつも彼女の愛に酔うがよい。
- 20 わが子よ。どうしてよその女に夢中になり、見知らぬ女の胸を抱くのか。
- 21 人の道は主の御目の前にあり、主はその道筋のすべてに心を向けてくださる。
- 22 悪しき者は自分の咎に捕らえられ、自分の罪の縄に捕まえられる。
- 23 その人は訓戒を受け入れることなく死に、あまりの愚かさゆえに道から迷い出る。

第6章

- 1 わが子よ。もし、あなたが隣人のために保証人となり、他人のために誓約をし、
- 2 自分の口のことばによって、自分が罠にかかり、自分の口のことばによって、捕らえられたなら、
- 3 わが子よ、そのときにはすぐにこうして、自分を救い出せ。あなたは隣人の手に陥ったのだから。さあ行って、伏して隣人にしつこくせがめ。
- 4 あなたの目を眠らせず、そのまぶたにまどろみを与えるな。
- 5 自分を救い出せ。かもしかが狩人の手から逃れるように、鳥がそれを捕る者の手から逃れるように。
- 6 怠け者よ、蟻のところへ行け。そのやり方を見て、知恵を得よ。
- 7 蟻には首領もつかさも支配者もないが、
- 8 夏のうちに食物を確保し、刈り入れ時に食糧を集める。
- 9 怠け者よ、いつまで寝ているのか。いつ目を覚まして起き上がるのか。
- 10 少し眠り、少しまどろみ、少し腕を組んで、横になる。
- 11 すると、付きまとう者のように貧しさが、武装した者のように乏しさがやって来る。
- 12 よこしまな者や不法の者は、曲がったことを言って歩き回り、
- 13 目くばせをし、足で合図し、指でさす。
- 14 そのねじれた心は、いつも悪を企み、争いをまき散らす。
- 15 それゆえ、破局は突然やって来る。たちまち彼は滅ぼされ、癒やされることはない。
- 16 主の憎むものが六つある。いや、主ご自身が忌み嫌うものが七つある。
- 17 高ぶる目、偽りの舌、咎なき者の血を流す手、
- 18 邪悪な計画をめぐらす心、悪へと急ぎ走る足、
- 19 まやかしを吹聴する偽りの証人、兄弟の間に争いを引き起こす者。
- 20 わが子よ、あなたの父の命令を守れ。あなたの母の教えを捨ててはならない。
- 21 それをいつも心に結び、首に結び付けよ。
- 22 あなたが歩くときには、それがあなたを導き、寝ているときには、あなたを見守り、目覚めるときには、あなたに話しかける。
- 23 命令はともしび、おしえは光、訓戒のための叱責は、いのちの道であるからだ。
- 24 それはあなたを悪い女から、見知らぬ女の滑らかな舌から守る。
- 25 その女の美しさを心に慕うな。そのまぶたに捕らえられないようにせよ。
- 26 遊女の代償はひとかたまりのパンだが、人妻は尊いいのちをつけ狙うからだ。
- 27 人が火を懷にかき込んだら、その衣服は焼けないだろうか。
- 28 もし人が、燃えている炭火の上を歩いたら、その足は焼けないだろうか。
- 29 隣人の妻と姦淫する者は、これと同じこと。その女に触れる者はだれも罰を免れない。
- 30 盗人が飢え、食欲を満たすために盗みをしたら、人々はその者を蔑まないだろうか。

- 31 見つかったら、彼は七倍を償い、自分の家の全財産を与えなければならない。
- 32 女と姦淫する者は良識がない。自分自身を滅ぼす者がこれを行う。
- 33 彼は傷と恥辱を受ける。彼の汚名は消し去ることができない。
- 34 女の夫は嫉妬から激しく憤り、復讐するとき、容赦をしない。
- 35 彼はどんな償い物も受けつけず、あなたが多くの贈り物をしても、受け入れない。

第7章

- 1 わが子よ。私のことばを守り、私の命令をあなたのうちに蓄えよ。
- 2 私の命令を守って生きよ。私の教えを、自分の瞳のように守れ。
- 3 それを自分の指に結び、心の板に書き記せ。
- 4 知恵に向かって「あなたは妹だ」と言い、英知に向かって「身内」と呼べ。
- 5 自分をよその女から守り、ことばの滑らかな、見知らぬ女から守るために。
- 6 私が家の窓から、格子窓から見下ろして、
- 7 浅はかな者たちを見ていると、若者たちのうちに、良識のない一人の若い者がいるのに気づいた。
- 8 彼は、女の家への曲がり角近くの街路を通過して、その家に至る道を進んで行った。
- 9 それは、たそがれの、日の沈むころ、夜と暗闇の始まるころだった。
- 10 すると、遊女の装いをして、本心を隠したある女が彼を迎えた。
- 11 この女は騒がしく、頑なで、その足は自分の家にとどまらず、
- 12 あるときは通りに、あるときは広場において、あちこちの角のところで待ち構えていた。
- 13 この女は彼を捕まえて口づけし、臆面もなく彼に言う。
- 14 「交わりのいけにえを献げなければならないので、私は今日、自分の誓願を果たしました。
- 15 それで私はあなたに会いに出て来ました。あなたを捜し求めて、やっと見つけました。
- 16 私は長椅子に敷き物を、あや織りのエジプトの亜麻布を敷き、
- 17 寝床を没薬、アロエ、シナモンで香らせました。
- 18 さあ、私たちは朝まで愛に酔いしれ、愛の喜びを互いに味わいましょう。
- 19 夫は遠くへ旅に出ていて、家にはいませんから。
- 20 金の袋を持って行きました。満月のころに帰って来るでしょう」と。
- 21 彼女は心動かすことばで彼を誘惑し、滑らかな唇で彼をいざなう。
- 22 彼はただちに、彼女の後について行く。牛が屠り場に引かれて行くように、足かせが愚か者を懲らしめているかのように。
- 23 最後は矢が彼の肝を射抜く。それは、自分のいのちがかかっているのを知らずに、鳥が罠に飛び込むようなものだ。
- 24 子たちよ。今、私に聞き従い、注意して私の口のことばを聞け。
- 25 彼女の道に、心がそれて行ってはならない。その通り道に迷い込んではいならない。
- 26 この女は多くの者を切り倒し、殺された者は数えきれない。
- 27 その女の家はよみへの道。死の部屋に下って行く。

第8章

- 1 知恵は呼びかけないだろうか。英知はその声をあげないだろうか。
- 2 知恵は、道の傍らにある丘の上、通りの四つ角に立ち、
- 3 町の入り口にある門のそば、正門の入り口で高らかに言う。
- 4 「人々よ、わたしはあなたがたに呼びかける。人の子らに向かって声をあげる。
- 5 浅はかな者たちよ、賢さを身につけよ。愚かな者たちよ、良識をわきまえよ。
- 6 聞け。わたしは高貴なことを語り、わたしの唇からは公正が出るからだ。
- 7 まことに、わたしの口は真実を告げ、わたしの唇は不義を忌み嫌う。
- 8 わたしの口のことはみな正しい。そこには、ねじれたことや曲がったことはない。
- 9 これらはみな、悟る者には当然のこと。知識を見出す者には正しいこと。
- 10 金ではなく、わたしの訓戒を受けよ。選り抜きの黄金よりも、知識を受けよ。
- 11 知恵は真珠にまさり、どんな喜びも、これとは比べられないからだ。
- 12 知恵であるわたしは賢さを住まいとする。そこには知識と思慮がある。
- 13 主を恐れることは悪を憎むこと。わたしは高ぶりと、おごりと、悪の道と、ねじれごとを言う口を憎む。
- 14 摂理と知性はわたしのもの。わたしは英知であり、わたしには力がある。
- 15 わたしによって、王たちは治め、君主たちは正義を定める。
- 16 わたしによって、君主たちは支配する。高貴な人々も、義のすべてのさばき人もそうだ。
- 17 わたしを愛する者を、わたしは愛する。わたしを熱心に捜す者は、わたしを見出す。
- 18 富と誉れはわたしとともにある。朽ちない財宝も義も。
- 19 わたしの果実は黄金よりも、純金よりも良く、わたしの産物は選り抜きの銀にまさる。
- 20 わたしは義の道を歩む。公正の通り道のただ中を。
- 21 それは、わたしを愛する者に財産を受け継がせ、彼らの宝庫を満たすためである。
- 22 主は、ご自分の働きのはじめに、そのみわざの最初に、わたしを得ておられた。
- 23 わたしは、大昔に、初めに、大地の始まりの前に、立てられていた。
- 24 まだ深淵もなく、水のみなぎる源もなかったとき、わたしは生み出された。
- 25 山が立てられる前に、丘より先に、わたしは生み出された。
- 26 主がまだ地も野原も、世界の最初のちりも造っておられなかったときに。
- 27 主が天を堅く立てられたとき、わたしはそこにいた。主が深淵の面に円を描かれたとき、
- 28 上の方に大空を固め、深淵の源を堅く定められたとき、
- 29 海にその境界を置き、その水が主の仰せを越えないようにし、地の基を定められたとき、
- 30 わたしは神の傍らで、これを組み立てる者であった。わたしは毎日喜び、いつも御前で楽しんでいた。
- 31 主の地、この世界で楽しみ、人の子らを喜んだ。
- 32 子たちよ、今、わたしに聞き従え。幸いなことよ、わたしの道を守る者は。

- 33 訓戒を聞け。知恵を得よ。これをなおざりにしてはならない。
- 34 幸いなことよ。日々わたしの戸の傍らで見張り、わたしの門の柱のわきで見守って、わたしの言うことを聞く人は。
- 35 なぜなら、わたしを見出す者はいのちを見出し、主から恵みをいただくが、
- 36 わたしに背を向ける者は自分自身を痛めつけ、わたしを憎む者はみな、死を愛するからだ。」

第9章

- 1 知恵は自分の家を建て、石の柱を七本、切り出し、
- 2 いけにえを屠り、ぶどう酒を混ぜ合わせ、その食卓も整え、
- 3 侍女たちにことづけて、町の最も高い所で呼びかけさせた。
- 4 「浅はかな者はみな、ここに来なさい」と。また、良識のない者に言った。
- 5 「さあ、わたしのパンを食べなさい。わたしが混ぜ合わせたぶどう酒を飲みなさい。
- 6 浅はかさを捨てて、生きなさい。分別のある道を、まっすぐに歩みなさい」と。
- 7 嘲る者を戒める者は、自分が恥辱を受け、悪しき者を叱る者は、自分が傷を受ける。
- 8 嘲る者を叱るな。彼があなたを憎まないために。知恵のある者を叱れ。彼はあなたを愛する。
- 9 知恵のある者に与えよ。彼はますます知恵ある者となる。正しい人を教えよ。彼は洞察を深める。
- 10 主を恐れることは知恵の初め、聖なる方を知ることは悟ることである。
- 11 わたしによって、あなたの日は多くなり、あなたのいのちの年が加えられるからだ。
- 12 あなたが知恵を得るなら、自分のために知恵を得ることになり、嘲るなら、自分だけが責めを負うことになる。
- 13 愚かな女は騒がしく、わきまえがなく、何も知らない。
- 14 その女は自分の家の戸口に座り、町の高い所にある座に着き、
- 15 道行く人々に呼びかけて言う。自分の道をまっすぐ歩く人々に。
- 16 「浅はかな者はみな、ここに来なさい」と。また良識のない者に向かって、この女は言う。
- 17 「盗んだ水は甘く、こっそり食べるパンはうまい」と。
- 18 しかし彼は、そこに死者の霊がいることを、その女の客がよみの深みにいることを、知らない。

第10章

- 1 ソロモンの箴言。知恵のある子は父を喜ばせ、愚かな子は母の悲しみとなる。
- 2 不義によって得た財宝は役に立たない。義のわざは人を死から救い出す。
- 3 主は正しい人を飢えさせず、悪しき者の欲を突き放される。
- 4 無精者の手は人を貧乏にし、勤勉な者の手は人を富ませる。
- 5 夏のうちに集める者は賢い子。刈り入れ時に眠る者は恥知らずな子。
- 6 正しい人の頭には祝福があり、悪しき者の口は不法を隠す。
- 7 正しい人の呼び名は祝福となり、悪しき者たちの名は朽ち果てる。
- 8 心に知恵のある者は命令を受け入れ、無駄口をたたく愚か者は滅びに落ちる。
- 9 誠実に歩む者の歩みは安全だが、自分の道を曲げる者は思い知らされる。
- 10 目で合図する者は人に痛みをもたらし、無駄口をたたく愚か者は滅びに落ちる。
- 11 正しい人の口はいのちの泉。悪しき者の口は不法を隠す。
- 12 憎しみは争いを引き起こし、愛はすべての背きをおおう。
- 13 悟りのある者の唇には知恵があり、良識のない者の背中にはむちがある。
- 14 知恵のある者は知識を蓄える。愚か者の口には滅びが迫る。
- 15 富む者の財産はその人の堅固な城。貧しい者の恐れは自らの貧困。
- 16 正しい人の報酬はいのち。悪しき者の収穫は罪。
- 17 訓戒を大事にする者はいのちへの道にあり、叱責を捨てる者は人を迷わせる。
- 18 憎しみを隠す者は偽りの唇を持ち、そしりを口に出す者は愚かな者である。
- 19 ことば数が多いところには、背きがつきもの。自分の唇を制する者は賢い人。
- 20 正しい人の舌は選り抜きの銀。悪しき者の心は無価値に等しい。
- 21 正しい人の唇は多くの人を養い、愚か者は良識がないために死ぬ。
- 22 人を富ませるのは主の祝福。人の苦労は何も増し加えない。
- 23 愚かな者には悪事が楽しみ。英知のある者には知恵が楽しみ。
- 24 悪しき者の恐れることはその身に降りかかり、正しい人の望むことはかなえられる。
- 25 つむじ風が過ぎ去ると、悪しき者はいなくなる。正しい人は永遠の礎である。
- 26 怠け者は、これを遣わす者にとって、齒に酢、目に煙のようなもの。
- 27 主への恐れは日数を増やす。悪しき者の年は短くなる。
- 28 正しい人の望みは喜び。悪しき者の期待は消え失せる。
- 29 主の道は、誠実な人には砦、不法を行う者には滅びである。
- 30 正しい人は永遠に揺るがされることがない。しかし、悪しき者は地に住むことができない。
- 31 正しい人の口は知恵を実らせる。しかし、ねじれた舌は抜かれる。
- 32 正しい人の唇は好意を知っており、悪しき者の口はねじれごとを知っている。

第11章

- 1 欺きの秤は主に忌み嫌われ、正しい重りは主に喜ばれる。
- 2 高ぶりが来れば、辱めも来る。知恵はへりくだる者とともにある。
- 3 直ぐな人の誠実は、その人を導き、裏切り者のよこしまは、その人を破滅させる。
- 4 財産は御怒りの日には役に立たない。義のわざは人を死から救い出す。
- 5 誠実な人の義なるわざは、その人の道を平らにし、悪しき者は、自分の悪事によって倒れる。
- 6 直ぐな人は、その正しさによって救い出され、裏切り者は、自分の欲によって捕らえられる。
- 7 悪者が死ぬとき、その望みは消え失せ、財力への期待も消え失せる。
- 8 正しい人は苦しみから救い出され、彼に代わって悪しき者がそれに陥る。
- 9 神を敬わない者は、その口によって友を滅ぼし、正しい人は、知識によって助け出される。
- 10 町は、正しい人の繁栄に小躍りし、悪しき者が滅びると、喜びの声をあげる。
- 11 直ぐな人の祝福によって、町は高く上げられ、悪しき者の口によって、破壊される。
- 12 隣人を蔑む者は良識がない。英知のある者は沈黙を守る。
- 13 人を中傷して回る者は秘密を漏らす、霊が忠実な人は事を秘める。
- 14 指導がないことによって民は倒れ、多くの助言者によって救いを得る。
- 15 他人の保証人になると苦しみにあう。保証を嫌う者は安全だ。
- 16 優しい女は誉れをつかみ、横暴な者は富をつかむ。
- 17 誠実な人は自分のたましいに報いを得るが、残忍な者は自分の身にわざわいをもたらす。
- 18 悪しき者は偽りの報酬を得るが、義を蒔く者は確かな賃金を得る。
- 19 実に、義を追い求める者はいのちに至り、悪を追い求める者は死に至る。
- 20 心の曲がった者は主に忌み嫌われ、まっすぐな道を歩む者は主に喜ばれる。
- 21 悪人が罰を免れることは決してない。正しい人の裔は救いを得る。
- 22 豚の鼻にある金の輪。美しいが、たしなみのない女。
- 23 正しい人の願いは、ただ良いこと。悪しき者の望みは、激しい怒り。
- 24 気前よく施して、なお富む人があり、正当な支払いを惜しんで、かえって乏しくなる者がある。
- 25 おおらかな人は豊かにされ、他人を潤す人は自分も潤される。
- 26 穀物を売り惜しむ者を民は呪う。しかし、それを売る者の頭には祝福がある。
- 27 熱心に善を求める者は恵みを慕い求める。悪を求める者には悪が来る。
- 28 自分の富に抛り頼む者は倒れ、正しい人は若葉のように芽を出す。
- 29 自分の家族にわざわいをもたらす者は、風を相続し、愚か者は、心に知恵のある者のしもべとなる。

- 30 正しい人の結ぶ実はいのちの木。知恵のある者は人の心をとらえる。
- 31 正しい人が地で報いを受けるなら、悪しき者や罪人はなおさらのこと。

第12章

- 1 訓戒を愛する人は知識を愛する。叱責を憎む者は間抜け者。
- 2 善人は主から恵みをいただき、悪を企む者は不義に定められる。
- 3 人は悪で身を堅く立てることはできない。正しい人の根は揺るがない。
- 4 しっかりした妻は夫の冠。恥をもたらす妻は、夫の骨の中の腐れのようなだ。
- 5 正しい人の考えは公正。悪しき者の助言は欺瞞。
- 6 悪しき者のことばは血に飢え、心の直ぐな人の口は自分を救い出す。
- 7 悪しき者は打ち倒されて、いなくなる。しかし、正しい人の家は立ち続ける。
- 8 人はその賢明さによってほめられるが、心のねじけた者は蔑まれる。
- 9 身分が低くても、しもべを持つ者は、高ぶっていて食に事欠く者にまさる。
- 10 正しい人は、自分の家畜のいのちを知っている。悪しき者は、そのあわれみさえ残忍である。
- 11 自分の畑を耕す者は食に満足するが、空しいものを追い求める者は良識がない。
- 12 悪しき者は悪人たちの分捕り物を欲しがすが、正しい人の根は芽を出す。
- 13 悪人は唇で背いて罠にかかる。正しい人は苦しみから逃れ出る。
- 14 人は、口のことばによって良いものに満ち足りる。人の手の働きはその人に報いをもたらす。
- 15 愚か者には自分の歩みがまっすぐに見える。しかし、知恵のある者は忠告を聞き入れる。
- 16 愚か者は自分の怒りをすぐ表す。賢い人は辱めを気に留めない。
- 17 真実の申し立てをする人は正しいことを言い、偽りの証人は嘘を告げる。
- 18 軽率に話して人を剣で刺すような者がいる。しかし、知恵のある人の舌は人を癒やす。
- 19 真実の唇はとこしえまでも堅く立つ。偽りの舌はまばたきの間だけ。
- 20 悪を企む者の心には欺きがあり、平和を図る人には喜びがある。
- 21 正しい人には何の害悪も降りかからない。悪しき者はわざわざいで満ちる。
- 22 偽りの唇は主に忌み嫌われ、真実を行う者は主に喜ばれる。
- 23 賢い人は知識を隠し、愚かな者は自分の愚かさを言いふらす。
- 24 勤勉な者の手は支配するが、無精者は苦役に服する。
- 25 心の不安は人を落ち込ませ、親切なことばは人を喜ばせる。
- 26 正しい人はその友の道案内。悪しき者の道は自らを迷わせる。
- 27 無精者は獲物を火であぶらない。勤勉さは人間の貴重な財産である。
- 28 義の道にはいのちがあり、その道筋には死がない。

第13章

- 1 知恵のある子は父の訓戒を聞き、嘲る者は叱責を聞かない。
- 2 人はその口の実によって良きものを食べるが、裏切り者は不法を貪る。
- 3 自分の口を見張る者はたましいを守る。唇を大きく開く者には滅びが来る。
- 4 怠け者の心は欲を起こしても何も得ない。勤勉な者の心は豊かに満たされる。
- 5 正しい人は偽りのことばを憎む。悪しき者は悪臭を放ち、恥ずべきふるまいをする。
- 6 義のわざは誠実な道を保ち、悪のわざは道を誤らせて罪に導く。
- 7 富んでいるふりをして、何も持たない者がいる。貧しいふりをして、多くの財産を持つ者がいる。
- 8 富はその人のいのちの身代金である。しかし、貧しい者は脅しを聞くこともない。
- 9 正しい人の光は輝き、悪しき者のともしびは消える。
- 10 高ぶりがあると、ただ争いが生じるだけ。知恵は勧告を聞く者とともにある。
- 11 急に得た財産は減るが、少しずつ集める者は、それを増す。
- 12 期待が長引くと、心は病む。望みがかなうことは、いのちの木。
- 13 みことばを蔑む者は身を滅ぼし、命令を尊ぶ者は報われる。
- 14 知恵のある者のおしえはいのちの泉。これによって、死の罠から逃れることができる。
- 15 深い思慮は好意を生む。裏切り者の道は滅びに至る。
- 16 すべて賢い人は知識によって行動し、愚かな者は自分の愚かさを言い広める。
- 17 悪い使者はわざわざに陥り、忠実な使者は人を癒やす。
- 18 貧乏と恥は訓戒をなおざりにする者に来る。しかし、叱責を大事にする者は誉れを得る。
- 19 望みがかなえられるのは心地よい。愚かな者は悪から離れることを忌み嫌う。
- 20 知恵のある者とともに歩む者は知恵を得る。愚かな者の友となる者は害を受ける。
- 21 わざわいは罪人を追いかけるが、正しい人は幸いで報われる。
- 22 善良な人は子孫に遺産を残す。罪人の財産は正しい人のために蓄えられている。
- 23 貧しい者の耕地に、多くの食糧があっても、それは不当に取り去られる。
- 24 むちを控える者は自分の子を憎む者。子を愛する者は努めてこれを懲らしめる。
- 25 正しい人は食べてその食欲を満たし、悪しき者は腹をすかせる。

第14章

- 1 知恵のある女は家を建て、愚かな女は自分の手でこれを壊す。
- 2 まっすぐ歩む者は主を恐れ、曲がった道を行く者は主を侮る。
- 3 愚か者の口には、高ぶりへのむち。知恵のある者の唇は自分を守る。
- 4 牛がいなければ飼葉桶はきれいだが、豊かな収穫は牛の力による。
- 5 真実な証人は偽りを言わない。偽りの証人は偽りを吹聴する。
- 6 嘲る者は知恵を求めても得られない。悟る者には知識を得るのは易しい。
- 7 愚かな者の前を離れ去れ。知識の唇は、そこに見出せない。
- 8 賢い人の知恵は自分の道をわきまえること。愚かな者の愚かさは欺きにある。
- 9 愚か者は罪の償いを嘲る。心の直ぐな人たちの間には恩寵がある。
- 10 心はその人自身の辛さを知っている。その喜びにほかの者はあずかれない。
- 11 悪しき者の家は滅ぼし尽くされ、心の直ぐな人の天幕は栄える。
- 12 人の目にはまっすぐに見えるが、その終わりが死となる道がある。
- 13 笑うときにも心は痛み、その終わりには、喜びが悲しみとなる。
- 14 心の放埒な者は自分の道に満足する。善良な人は彼から離れる。
- 15 浅はかな者はどんなことばも信じるが、賢い人は自分の歩みを見極める。
- 16 知恵のある者は慎重で、悪を避けるが、愚かな者は怒りやすく、自信が強い。
- 17 短気な者は愚かなことをし、悪を企む者は憎まれる。
- 18 浅はかな者は愚かさを受け継ぎ、賢い人は知識の冠をかぶる。
- 19 悪人は善良な人の前で、悪しき者は正しい人の門で、身をかがめる。
- 20 貧しい者はその隣人にさえ憎まれるが、富む者は多くの者に愛される。
- 21 自分の隣人を蔑む者は罪人。貧しい者をあわれむ人は幸いだ。
- 22 悪を企む者はさまよわないだろうか。しかし、善を図る者には恵みとまことがある。
- 23 いかなる労苦にも利益がある。無駄口は損失を招くだけ。
- 24 知恵のある者の冠はその者の富。愚かな者の愚かさは、ただ愚かさ。
- 25 真実な証人は人のたましいを救う。欺く者は偽りを吹聴する。
- 26 力ある抛り所は主を恐れることにあり、それは主の子らの避け所となる。
- 27 主を恐れることはいのちの泉、死の罠から離れさせる。
- 28 王の栄えは民が多いこと。君主の滅びは国民がいなくなること。
- 29 怒りを遅くする者には豊かな英知がある。気の短い者は愚かさを増す。
- 30 穏やかな心は、からだのいのち。ねたみは骨をむしばむ。
- 31 弱い者を虐げる者は自分の造り主をそしり、貧しい者をあわれむ者は造り主を敬う。
- 32 悪しき者は自分の悪によって押し倒されるが、正しい人は自分の死の中にも逃げ場がある。
- 33 知恵は悟る者の心のうちに安らぎを得る。愚かな者の間でもそれは知られている。

34 正義は国を高め、罪は国民を辱める。

35 王の好意は賢明なしもべに、王の激怒は恥知らずの者に。

第15章

- 1 柔らかな答えは憤りを鎮め、 激しいことばは怒りをあおる。
- 2 知恵のある者の舌は知識をうまく用い、 愚かな者の口は愚かさを吐き出す。
- 3 主の目はどこにもあり、 悪人と善人を見張っている。
- 4 穏やかな舌はいのちの木。 舌のねじれは霊の破れ。
- 5 愚か者は自分の父の訓戒を侮る。 叱責を大事にする者は賢くなる。
- 6 正しい人の家には多くの富がある。 悪しき者の収穫はわざわざいをもたらす。
- 7 知恵のある者の唇は知識を広める。 愚かな者の心はそうではない。
- 8 悪者のいけにえは主に忌み嫌われ、 心の直ぐな人の祈りは主に受け入れられる。
- 9 主は悪しき者の道を忌み嫌い、 義を追い求める者を愛される。
- 10 道を捨てる者には厳しい懲らしめがあり、 叱責を憎む者は死に至る。
- 11 よみと滅びの淵は主の前にある。 人の子らの心はなおさらのこと。
- 12 嘲る者は叱られることを好まない。 知恵のある者にも近づかない。
- 13 喜んでいる心は、 顔色を良くする。 心の痛みの中には、 打ちひしがれた霊がある。
- 14 悟りのある者の心は知識を求めるが、 愚かな者の口は愚かさを食いあさる。
- 15 悩み苦しむ者の毎日は悪いことのみ。 心に楽しみのある人には毎日が祝宴。
- 16 わずかな物を持って主を恐れることは、 豊かな財宝を持って混乱するよりも良い。
- 17 野菜を食べて愛し合うのは、 肥えた牛を食べて憎み合うのにまさる。
- 18 激しやすい者は口論を引き起こし、 怒りを遅くする者は争い事を鎮める。
- 19 怠け者の道は茨の生け垣のよう。 直ぐな人の進む道は平らな大路。
- 20 知恵のある子は父を喜ばせ、 愚かな人はその母を蔑む。
- 21 良識のない者には愚かさが喜び。 英知のある者はまっすぐ歩む。
- 22 よく相談しなければ、 計画は倒れる。 多くの助言者によって、 それは成功する。
- 23 適切な返事をするとは、 その人の喜び。 時宜にかなったことばは、 なんと麗しいことか。
- 24 賢明な者はいのちの道を上って行く。 下にあるよみから離れるためだ。
- 25 主は高ぶる者の家を根こそぎにし、 やもめの地境を決める。
- 26 悪人の計画は主に忌み嫌われる。 親切なことばは、 きよい。
- 27 利得を貪る者は自分の家族を困らせ、 賄賂を憎む者は生きながらえる。
- 28 正しい人の心は、 どう答えるかを思い巡らす。 悪しき者の口は悪を吐き出す。
- 29 主は悪しき者から遠くにおられ、 正しい人の祈りを聞かれる。
- 30 目の光は心を喜ばせ、 良い知らせは人を健やかにする。
- 31 いのちに至る叱責を聞く耳は、 知恵のある者の間に宿る。
- 32 訓戒を無視する者は自分自身をないがしろにする。 叱責を聞き入れる者は良識を得る。
- 33 主を恐れることは知恵の訓戒。 謙遜は栄誉に先立つ。

第16章

- 1 人は心に計画を持つ。しかし、舌への答えは主から来る。
- 2 人には自分の行いがみな純粹に見える。しかし、主は人の霊の値打ちを量られる。
- 3 あなたのわざを主にゆだねよ。そうすれば、あなたの計画は堅く立つ。
- 4 すべてのものを、主はご自分の目的のために造り、悪しき者さえ、わざわいの日のために造られた。
- 5 心の高ぶりはすべて主に忌み嫌われる。断じて罰を免れない。
- 6 恵みとまことによって、咎は赦され、主を恐れることによって、人は悪を離れる。
- 7 主が人の行いを喜ぶとき、敵さえもその人と和らがせる。
- 8 正義によるわずかなものは、不正による多くの収穫にまさる。
- 9 人は心に自分の道を思い巡らす。しかし、主が人の歩みを確かにされる。
- 10 王の唇には神々しさがある。さばくときに、その口は神の信頼を裏切らない。
- 11 正しい天秤と秤は主のもの。袋の中の重り石もみな、主が造られたもの。
- 12 悪を行うことは王たちの忌み嫌うこと。王座は正義によって堅く立つからだ。
- 13 正しい唇は王たちの喜び。真っ直ぐなことを語る者は愛される。
- 14 王の憤りは死の使い。知恵のある人がそれをなだめる。
- 15 王の顔の光にはいのちがある。彼のいつくしみは後の雨をもたらず密雲のようだ。
- 16 知恵を得ることは、黄金を得るよりはるかに良い。悟りを得ることは、銀を得るよりも望ましい。
- 17 直ぐな人の大路は悪から遠ざかっている。自分のたましいを守る者は自分の道を見張る。
- 18 高慢は破滅に先立ち、高ぶった霊は挫折に先立つ。
- 19 へりくだって、貧しい者とともにいるのは、高ぶる者とともに分捕り物を分け合うのにまさる。
- 20 みことばによく通じた者は幸いを見出す。主に拠り頼む者は幸いである。
- 21 心に知恵のある者は、悟りのある者と呼ばれ、そのことばの心地よさは理解を増し加える。
- 22 賢明さは、これを持つ者にはいのちの泉。愚かさは、愚か者への懲らしめ。
- 23 知恵のある者の心はその口を賢くし、その唇に洞察を深める。
- 24 親切なことばは蜂蜜。たましいに甘く、骨を健やかにする。
- 25 人の目にはまっすぐに見えるが、その終わりが死となる道がある。
- 26 苦勞する者は食欲のために働く。その口が彼を駆り立てるからだ。
- 27 よこしまな者は悪を企む。その唇の上にあるものは焼き尽くす火のようだ。
- 28 ねじれ者は争いを巻き起こし、陰口をたたく者は親しい友を離れさせる。
- 29 暴虐を行う者は自分の隣人を惑わし、良くない道へ導く。
- 30 目で合図する者はねじれごとを企み、唇をすぼめる者は悪をやり遂げた者だ。

- 31** 白髪は栄えの冠。それは正義の道に見出される。
- 32** 怒りを遅くする者は勇士にまさり、自分の霊を治める者は町を攻め取る者にまさる。
- 33** くじは膝に投げられるが、そのすべての決定は主から来る。

第17章

- 1 乾いたパンが一切れあって平穏なのは、ごちそうと争いに満ちた家にまさる。
- 2 賢明なしもべは、恥知らずな子をも治め、兄弟たちの間にあって、資産の分け前にあずかる。
- 3 銀にはるつば、金には炉、人の心を試すのは主。
- 4 悪を行う者は邪悪な唇に聞き入り、偽り者は破滅の舌に耳を傾ける。
- 5 貧しい者を嘲る者は自分の造り主をそしる。人の災難を喜ぶ者は罰を免れない。
- 6 孫たちは老人の冠。父祖たちは子らの栄え。
- 7 愚か者に雄弁な舌はふさわしくない。高貴な人に偽りの唇はなおふさわしくない。
- 8 賄賂は、その贈り主の目には宝石。その向かうところ、どこにおいても、うまくいく。
- 9 愛を追い求める者は背きの罪をおおう。同じことを蒸し返す者は親しい友を離れさせる。
- 10 分別のある者を一回叱ることは、愚かな者を百回むち打つよりも効き目がある。
- 11 悪人はただ逆らうことだけを求める。その者には残忍な使者が送られる。
- 12 愚かさにつける愚かな者に会うより、子を奪われた雌熊に出会うほうがましだ。
- 13 善に代えて悪を返すなら、その者の家から悪は離れない。
- 14 口論の始まりは水が吹き出すようなもの。争い事が起こらないうちにやめよ。
- 15 悪しき者を正しいとする者、正しい人を悪いとする者、主はこの両者を忌み嫌われる。
- 16 愚かな者が良識もないのに、知恵を買おうとして、手に代金を持っている。これはどうしたことか。
- 17 友はどんなときにも愛するもの。兄弟は苦難を分け合うために生まれる。
- 18 良識のない人は、すぐ誓約をし、隣人の前で保証人となる。
- 19 背きの罪を愛する者はけんかを愛する。自分の門を高くする者は破滅を求める。
- 20 心の曲がった者は幸いを見つけない。二枚舌の者はわざわざに陥る。
- 21 愚かな者を生む者には悲しみがあり、愚か者の父には喜びがない。
- 22 喜んでいる心は健康を良くし、打ちひしがれた霊は骨を枯らす。
- 23 悪しき者は人の懐から賄賂を受け取り、さばきの道を曲げる。
- 24 悟りのある者はその顔を知恵に向け、愚かな者は目を地の果てに注ぐ。
- 25 愚かな子はその父の憂い、これを産んだ母の痛み。
- 26 正しい人に罰金を科すことが良いことでないなら、高貴な人を実直さゆえに打つのは、なおのこと。
- 27 ことばを控える人は知識を持つ者。霊において冷静な人は英知のある者。
- 28 愚か者でも黙っていれば、知恵のある者と思われ、その唇を閉じていれば、分別のある者と思われる。

第18章

- 1 自らを閉ざす者は自分の欲望のままに求め、すべての知性と仲たがいする。
- 2 愚かな者は英知を喜ばず、自分の心がさらけ出されることを喜ぶ。
- 3 悪しき者が来ると、侮りも来る。辱めとともに、そしりも。
- 4 人の口のことばは深い水。知恵の泉は湧いて流れる川。
- 5 悪しき者をえこひいきすることも、正しい人をさばきで退けることも良くない。
- 6 愚かな者の唇は争い事に入って行き、その口はむち打つ者を呼び寄せる。
- 7 愚かな者の口は自らの滅びを招き、その唇は自分のたましいの罠となる。
- 8 陰口をたたく者のことばは、おいしい食べ物。腹の奥に下って行く。
- 9 自分の仕事をさえ怠ける者は、滅びをもたらす者の兄弟である。
- 10 主の名は堅固なやぐら。正しい人はその中に駆け込み、保護される。
- 11 富む者の財産はその堅固な城。自分ではそそり立つ城壁のように思い描いている。
- 12 人の心の高慢は破滅に先立ち、謙遜は栄誉に先立つ。
- 13 よく聞かないで返事をする者は、愚かであり、恥を見る。
- 14 人の霊は病苦も忍ぶ。しかし、打ちひしがれた霊はだれが担えるだろう。
- 15 悟りのある者の心は知識を得、知恵のある者の耳は知識を求める。
- 16 人の贈り物はその人のために道を開き、身分の高い人の前にも彼を導く。
- 17 最初に訴える者は、相手が来て彼を調べるまでは、正しく見える。
- 18 くじは争いをやめさせ、強い者の間に決着をつける。
- 19 反抗する兄弟は堅固な城よりも近寄りにくい。争いは宮殿のかんぬきのようだ。
- 20 人はその口の結ぶ実によって腹を満たし、その唇の収穫で満ち足りる。
- 21 死と生は舌に支配される。どちらかを愛して、人はその実を食べる。
- 22 妻を見つける者は幸せを見つけ、主から恵みをいただく。
- 23 貧しい者は哀願するが、富む者は荒々しく答える。
- 24 多くの友に関わる人は身を滅ぼす。しかし、兄弟以上に親密な友人もいる。

第19章

- 1 貧しくても誠実に歩む者は、唇の曲がった愚かな者にまさる。
- 2 たましいに知識がないことは良くない。急ぎ足の者は罪に陥る。
- 3 人の愚かさは自らの道を滅ぼす。その心は主に向かって激しく怒る。
- 4 財産は多くの友を増し加え、貧しい者はその友からも引き離される。
- 5 偽りの証人は罰を免れない。まやかしを吹聴する者も逃れられない。
- 6 高貴な人の好意を求める者は多い。だれもが、贈り物をしてくれる人の友となる。
- 7 貧しい者は自分のすべての兄弟たちに憎まれる。友人が彼から遠く離れるのは、なおさらのこと。彼がことばをもって追い求めても、彼らはいない。
- 8 良識を得る者は自分自身を愛する者。英知を保つ者は幸いを見つける。
- 9 偽りの証人は罰を免れない。まやかしを吹聴する者は滅びる。
- 10 愚かな者にぜいたくな暮らしはふさわしくない。奴隷が君主を支配するのは、なおさらのこと。
- 11 人に賢明さがあれば、怒りを遅くする。その人の栄誉は、背きを見過ごすことにある。
- 12 王の激しい怒りは若い獅子がうなるよう。しかし、その好意は草の上の露のよう。
- 13 愚かな息子は父にとって破滅。妻のいさかい好きは、滴り続ける雨漏り。
- 14 家と財産は先祖から受け継ぐもの。賢明な妻は主からのもの。
- 15 怠惰は人を深い眠りに陥らせ、怠け者は飢える。
- 16 命令を守る者は自分のたましいを保ち、自分の道を蔑む者は死ぬ。
- 17 貧しい者に施しをするのは、主に貸すこと。主がその行いに報いてくださる。
- 18 望みのあるうちに、自分の子を懲らしめよ。しかし、殺そうとまで考えてはならない。
- 19 激しく憤る者は罰を受ける。たとえ彼を救い出しても、ただ、これを繰り返すことになる。
- 20 忠告を聞き、訓戒を受け入れよ。そうすれば、あなたは後で知恵を得る。
- 21 人の心には多くの思いがある。しかし、主の計画こそが実現する。
- 22 人の欲望は自らへの辱め。貧しい人はまやかし者にまさる。
- 23 主を恐れるなら、いのちに至る。満ち足りて住み、わざわざにあわない。
- 24 怠け者は皿に手を伸ばしても、その手を口に持って行こうとさえしない。
- 25 嘲る者を打て。そうすれば、浅はかな者は賢くなる。悟りのある者を叱責せよ。そうすれば、彼は知識をわきまえ知ることになる。
- 26 父に乱暴し、母を追い出す者は、恥と屈辱をもたらす子。
- 27 わが子よ、訓戒を聞くのをやめてみよ。あなたは知識のことばから迷い出ることになる。
- 28 よこしまな証人は、さばきを嘲り、悪しき者の口は、不法を呑み込む。
- 29 さばきは嘲る者のために、むち打ちは愚かな者の背のために備えられている。

第20章

- 1 ぶどう酒は嘲る者。強い酒は騒ぎ立てる者。これにおぼれる者はみな、知恵がない。
- 2 王の恐ろしさは若い獅子がうなるよう。彼を怒らせる者は、代償としていのちを失う。
- 3 争いを避けることは人の誉れ。愚か者はみな、争いを引き起こす。
- 4 怠け者は冬に耕さない。刈り入れ時に求めても、何もない。
- 5 人の心にある計画は深い水。英知のある人はこれを汲み出す。
- 6 多くの人は自分の親切を吹聴する。だれが忠実な人を見つけられるだろうか。
- 7 正しい人は誠実に歩む。彼の子孫はなんと幸いなことか。
- 8 さばきの座に着く王は、自分の目ですべての悪をふるい分ける。
- 9 だれが、「私は自分の心を清めた。私は罪から離れ、きよくなった」と言えるだろうか。
- 10 異なる二種類の重り、異なる二種類の升、そのどちらも主は忌み嫌われる。
- 11 幼子でさえ、何かするとき、その行いが純粋かどうか、真っ直ぐかどうかを識別する。
- 12 聞く耳と見る目は、二つとも主が造られた。
- 13 眠りを愛するな。貧しくならないために。目を開け。そうすればパンに満ち足りる。
- 14 買う者は「悪い、悪い」と言うが、その場を離れると、それを自慢する。
- 15 金があり、多くの真珠があっても、知識の唇こそ宝の器。
- 16 他人の保証人となるときは、その人の上着を取れ。見知らぬ女のためにも、上着を抵当に取れ。
- 17 だまし取ったパンはうまい。しかし、後でその口は砂利でいっぱいになる。
- 18 協議によって計画は確かなものとなる。すぐれた指揮のもとに戦いを交えよ。
- 19 人を中傷して回る者は秘密を漏らす。唇を開く者とは交わるな。
- 20 自分の父や母をののしる者、そのともしびは、闇が近づくと消える。
- 21 初めに急に得た相続財産は、終わりには祝福されない。
- 22 「悪に報いてやろう」と言ってはならない。主を待ち望め。主があなたを救われる。
- 23 異なる二種類の重りは主に忌み嫌われる。欺きの秤は良くない。
- 24 人の歩みは主によって定められる。人はどうして自分の道を悟ることができるだろう。
- 25 軽々しく「これは聖なるもの」と言い、誓願を立てた後で吟味する者は、罨にかかっている。
- 26 知恵のある王は悪しき者をふるいにかけ、彼らの上で車輪を引き回す。
- 27 人間の息は主のともしび。腹の底まで探り出す。
- 28 恵みとまことは王を保つ。恵みによってその王位は支えられる。
- 29 若い男の栄誉は彼らの力。老人の輝きはその白髪。
- 30 傷つくまで打てば、悪は取り除かれる。腹の底まで打ちたたけば。

第21章

- 1 王の心は、主の手の中にあって水の流れのよう。主はみこころのままに、その向きを変えられる。
- 2 人には自分の歩みがみなまっすぐに見える。しかし、主は人の心を評価される。
- 3 義と公正を行うことは、主の前で、いけにえより望ましい。
- 4 高ぶる目とおごる心。悪しき者のともしびは罪。
- 5 勤勉な人の計画は利益をもたらし、すべて慌てる者は損失を招くだけだ。
- 6 偽りの舌をもって財宝を得る者は、吹き払われるもやのよう。死を追い求める者だ。
- 7 悪しき者たちは自らの暴力に引きずられる。公正を行おうとしないからだ。
- 8 罪人の道はねじれている。しかし、純粋な人の行いは真っ直ぐだ。
- 9 争い好きな女と一緒に家にいるよりは、屋上の片隅に住むほうがよい。
- 10 悪しき者のたましいは悪事に憧れ、その目に隣人へのあわれみはない。
- 11 嘲る者が罰を受けると、浅はかな者が知恵を得る。知恵のある人が賢くなると、その人は知識を加える。
- 12 正しい方は悪者の家を見抜き、悪者どもをわざわざに導かれる。
- 13 貧しい者の叫びに耳を閉ざす者は、自分が呼ぶときにも答えてもらえない。
- 14 ひそかな贈り物は怒りを鎮め、懐の賄賂は激しい憤りを鎮める。
- 15 公正が行われることは、正しい人には喜び、不法を行う者には恐怖。
- 16 賢明さへの道から迷い出る人は、死者の霊たちの集いで安らぐ。
- 17 快楽を愛する者は貧しい人となり、ぶどう酒や油を愛する者は富むことがない。
- 18 悪しき者が正しい人のための身代金となり、裏切り者が直ぐな人の身代わりとなる。
- 19 争い好きで、苛立つ女といるよりは、荒野に住むほうがまだましだ。
- 20 知恵のある者の住まいには、好ましい財宝と油がある。しかし、愚かな人はこれを呑み尽くす。
- 21 義と恵みを追い求める者は、いのちと義と誉れを見出す。
- 22 知恵のある者は勇士たちの町に攻め上り、その頼みとする砦を崩す。
- 23 自分の口と舌を守る者は、自分自身を守って苦難にあわない。
- 24 横柄で不遜な者、その名は「嘲る者」。彼は憤然として横柄にふるまう。
- 25 怠け者の欲望はその身を殺す。その手が、働くことを拒むからだ。
- 26 この者は一日中、自分の欲望に明け暮れる。しかし、正しい人は人に与えて惜しまない。
- 27 悪しき者のいけにえは忌み嫌われる。悪意をもって献げるときは、なおさらのこと。
- 28 偽りの証人は滅びる。しかし、よく聞く者は正しく語り続ける。
- 29 悪しき者は厚かましいが、直ぐな人は自分の道をわきまえる。
- 30 どんな知恵も英知も、はかりごと、主の前では無きに等しい。
- 31 戦いの日のためには馬が備えられる。しかし、救いは主による。

第22章

- 1 名声は多くの富より望ましく、愛顧を受けることは銀や金にまさる。
- 2 富む者と貧しい者が出会う。どちらもみな、造られたのは主である。
- 3 賢い者はわざわいを見て身を隠し、浅はかな者は入って行って痛い目にあう。
- 4 へりくだりと、主を恐れることの報いは、富と誉れといのち。
- 5 曲がった者の道には茨と罾がある。たましいを守る者はこれらから遠く離れる。
- 6 若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。
- 7 富む者は貧しい者を支配する。借りる者は貸す者のしもべとなる。
- 8 不正を蒔く者はわざわいを刈り取る。こうして彼への激しい怒りのむちは終わる。
- 9 善意の人は祝福を受ける。自分のパンを貧しい者に与えるからだ。
- 10 嘲る者を追い出せ。争いは出て行く。もめごとと辱めも終わる。
- 11 心のきよさを愛し、優しく話をする者は、王がその友となる。
- 12 主の目は知識を見守り、裏切り者のことばをくつがえす。
- 13 怠け者は言う。「獅子が通りにいる。私は広場で殺される」と。
- 14 よその女の口車は深い穴。主の憤りに触れた者がそこに落ち込む。
- 15 愚かさは子どもの心に絡み付いている。懲らしめのむちがこれを子どもから遠ざける。
- 16 自分を富ませるために貧しい人を虐げる者、富む人に与える者—どちらも欠乏に至るのみ。
- 17 耳を傾けて、知恵のある者たちのことばを聞け。私の知識に心を向けよ。
- 18 これらをあなたのうちに保つのは楽しいこと。これらをみな、あなたの唇に備えよ。
- 19 あなたが主に拠り頼むことができるように、私は今日、特にあなたに教える。
- 20 私はあなたのために、勧告と知識についての三十句を書いたではないか。
- 21 これは、あなたに真理のことばの確かさを教え、あなたを遣わした者に、真理のことばを持ち帰らせるためである。
- 22 貧しい者からかすめ取るな。彼が貧しいからといって。苦しむ者を門のところで踏みにじるな。
- 23 主が彼らの訴えを取り上げ、彼らから奪う者のいのちを、奪われるからだ。
- 24 怒りっぽい者と交わるな。激しやすい者と一緒に行くな。
- 25 あなたがその道に倣って、自分が罾にかからないために。
- 26 あなたは人と誓約をしてはならない。負債の保証人となってはならない。
- 27 あなたに償うものがないとき、人があなたの下から寝床を奪ってもよいだろうか。
- 28 昔からの地境を移してはならない。それはあなたの先祖が設けたものだ。
- 29 仕事に熟練した人を見たことがあるか。その人は王の前に立つが、無名の人の前には立たない。

第23章

- 1 あなたが支配者と食事の席に着くときは、前にある物によく注意するがよい。
- 2 あなたが食欲の盛んな人であるなら、自分の喉に短刀を当てよ。
- 3 そのごちそうを欲しがってはならない。それは偽りの食物である。
- 4 富を得ようと苦労してはならない。自分の分別によって、これをやめよ。
- 5 あなたがこれに目を留めると、それはもうないではないか。富は必ず翼をつけて、鷲のように天へ飛んで行く。
- 6 物惜しみする人のパンを食べるな。彼のごちそうを欲しがらな。
- 7 彼は、心のうちでは勘定ずくだから。あなたに「食べ、飲め」と言っても、その心はあなたとともにない。
- 8 あなたは、食べた食物を吐き出し、ほめことばを無駄にすることになる。
- 9 愚かな者に話しかけるな。彼はあなたの思慮深いことばを蔑むからだ。
- 10 昔からの地境を移してはならない。みなしごの畑に入り込んではいない。
- 11 彼らの贖い主は力強く、彼らの訴えを取り上げて、あなたと争うからだ。
- 12 あなたは訓戒に心を用い、知識のことばに耳を傾けよ。
- 13 子どもを懲らしめることを差し控えてはならない。むちで打っても、死ぬことはない。
- 14 あなたがむちでその子を打つなら、その子のいのちをよみから救い出すことができる。
- 15 わが子よ。もし、あなたの心に知恵があれば、私の心も喜び、
- 16 あなたの唇が公正を語るなら、私の心は喜びに躍る。
- 17 心のうちで罪人を羨んではならない。いつも、ただ主を恐れていよ。
- 18 あなたには確かに将来がある。あなたの望みは断たれることはない。
- 19 わが子よ。よく聞いて、知恵を得よ。あなたの心が道をまっすぐ進むようにせよ。
- 20 大酒飲みや、肉を貪り食う者と交わるな。
- 21 大酒飲みや、貪り食う者は貧しくなり、惰眠を貪る者はぼろをまとうようになるからだ。
- 22 あなたを生んだ父の言うことを聞け。あなたの母が年老いても蔑んではならない。
- 23 真理を買え。それを売ってはならない。知恵と訓戒と分別も。
- 24 正しい人の父は心躍らせ、知恵のある子を生んだ人はその子を喜ぶ。
- 25 あなたの父と母を喜ばせ、あなたを産んだ人を楽しませよ。
- 26 わが子よ、あなたの心をわたしにゆだねよ。あなたの目が、わたしの道を喜ぶようにせよ。
- 27 遊女は深い穴、見知らぬ女は狭い井戸だから。
- 28 その女は強盗のように待ち伏せ、人々の間に裏切り者を増やす。
- 29 嘆く者はだれか。悲嘆の中にある者はだれか。争いを好む者はだれか。不平を言う者はだれか。理由もなく傷ついている者はだれか。血走った目をしている者はだれか。
- 30 ぶどう酒をいつまでも飲み続ける者、混ぜ合わせた酒の味見をしに行く者だ。

- 31 ぶどう酒が赤いとき、杯の中で輝くとき、 滑らかにこぼれるとき、それを見てはならない。
- 32 後になると、これが蛇のようにかみつき、 まむしのように刺す。
- 33 あなたの目は異様な物を見、 あなたの心はねじれごとを語り、
- 34 海の真ん中で寝ている人のように、 帆柱のてっぺんで寝ている人のようになる。
- 35 「私は打たれたが、痛くなかった。 殴られたが、知らなかった。 いつ、私は目を覚ますだろうか。 もっと飲みたいものだ。」

第24章

- 1 悪い者たちを羨んではならない。彼らとともにいることを望んではならない。
- 2 彼らの心は暴行を企み、唇は邪悪を語るからだ。
- 3 家は知恵によって建てられ、英知によって堅くされる。
- 4 部屋は知識によって、尊く好ましいあらゆる宝物で満たされる。
- 5 知恵のある男は力強い。知識のある人は力を増す。
- 6 あなたはすぐれた指揮のもとに戦いを交え、多くの助言者によって勝利を得る。
- 7 愚か者には知恵は珊瑚のよう。彼は町の門で、口を開くことができない。
- 8 悪事を働こうと企む者は、陰謀家と呼ばれる。
- 9 愚かなはかりごとは罪。嘲る者は人に忌み嫌われる。
- 10 もしあなたが苦難の日に気落ちしたら、あなたの力は弱い。
- 11 死に渡されるために捕らえられた者を救い出し、殺されようとしてよろめき歩く者を助け出せ。
- 12 あなたが「そのことを知らなかった」と言っても、人の心を評価する方は、それを見抜いておられないだろうか。あなたのたましいを見守る方は、それをご存じないだろうか。人の行いに応じて、報いをされないだろうか。
- 13 わが子よ、蜜を食べよ。それはおいしい。蜂の巣の蜜はあなたの口に甘い。
- 14 知恵もあなたのたましいには同じだと知れ。それを見つけるなら、あなたには将来があり、あなたの望みが断たれることはない。
- 15 悪しき者よ、正しい人の住まいを狙うな。彼の伏す所を荒らすな。
- 16 正しい人は七度倒れても、また起き上がり、悪しき者はわざわざいつまでもくからだ。
- 17 あなたの敵が倒れるとき、喜んではならない。彼がつまづくとき、心躍らせてはならない。
- 18 主がそれを見て心を痛め、彼への怒りをやめられるといけない。
- 19 悪を行う者に対して腹を立てるな。悪しき者を羨むな。
- 20 悪者には将来がなく、悪しき者のともしびは消えるからだ。
- 21 わが子よ、主と王を恐れよ。そうしない者たちと交わってはならない。
- 22 彼らには、突然終局が訪れるからだ。主と王から来るわざわざいをだれが知るだろうか。
- 23 これらも、知恵のある者たちによる。さばくときに、人を偏り見るのは良くない。
- 24 悪者に向かって「あなたは正しい」と言う者を、人々はののしり、国々の民は呪う。
- 25 しかし、悪者を叱責する者たちは喜ばれ、すばらしい祝福が臨む。
- 26 率直な答えをする者は、その唇に口づけされる。
- 27 外であなたの仕事を確かなものとし、あなたの畑を整え、その後で、あなたは家を建てよ。
- 28 あなたは、あなたの隣人に対し、根拠を持たない証人となってはならない。あなたのその唇で惑わそうとするのか。

- 29** 「彼が私にしたように、私も彼にしよう。彼の行いに応じて、仕返しをしよう」と言ってはならない。
- 30** 私は怠け者の畑のそばを、良識のない者のぶどう畑のそばを通った。
- 31** 見よ。茨が一面に生え、いらくさが地面をおおい、その石垣は壊れていた。
- 32** 私はこれを見て心に留め、これを見て戒めを受けた。
- 33** 少し眠り、少しまどろみ、少し腕を組んで横になる。
- 34** すると、付きまとう者のように貧しさが、武装した者のように乏しさがやって来る。

第25章

- 1 次もソロモンの箴言であり、ユダの王ヒゼキヤのもとにある人々が書き写したものである。
- 2 事を隠すのは神の誉れ。 事を探るのは王たちの誉れ。
- 3 天が高く、地が深いように、 王の心は測り知れない。
- 4 銀から金かすを除け。 そうすれば細工人に、良い器ができあがる。
- 5 王の前から悪しき者を除け。 そうすれば、王座は義によって堅く据えられる。
- 6 王の前で横柄にふるまってはならない。 身分の高い人のいる所に立ってはならない。
- 7 高貴な人の前で下に下げられるよりは、「ここに上って来なさい」と言われるほうがよいからだ。 あなたがその目で見たことを
- 8 急いで訴え出るな。 さもないと、後になって隣人が あなたに恥ずかしい思いをさせたとき、 あなたはどうしようというのか。
- 9 あなたは隣人と争っても、ほかの人の秘密を漏らしてはならない。
- 10 そうでないと、聞く者があなたを侮辱し、あなたの悪いうわさは取り返しがつかなくなる。
- 11 時宜にかなって語られることばは、銀の彫り物にはめられた金のりんご。
- 12 知恵をもって叱責する者は、聞く者の耳にとって金の耳輪、黄金の飾り。
- 13 忠実な使者は、これを遣わす者にとって、刈り入れ時の冷たい雪のよう。 その人は主人の心を生き返らせる。
- 14 贈りもしない贈り物を自慢する者は、雨を降らせない雲や風のような。
- 15 忍耐強く説けば、首領も納得する。 柔らかな舌は骨を砕く。
- 16 蜜を見つけたら、必要なだけ食べよ。 食べ過ぎて吐き出すことのないように。
- 17 隣人の家にあまり足を運ぶな。 その人がうんざりして、あなたを憎まないように。
- 18 隣人について偽りの証言をする人は、こん棒、剣、また鋭い矢のようだ。
- 19 苦難の日に、裏切り者に抛り頼むのは、悪い歯やよろける足を頼みとするようなもの。
- 20 心配している人の前で歌を歌うのは、寒い日に服を脱ぐようなもの、ソーダの上に酢を注ぐようなものだ。
- 21 あなたを憎む者が飢えているなら、パンを食べさせ、渴いているなら、水を飲ませよ。
- 22 なぜなら、あなたは彼の頭上に 燃える炭火を積むことになり、主があなたに報いてくださるからだ。
- 23 北風は大雨を起こし、陰口をたたき舌は怒り顔を生む。
- 24 争い好きな女と一緒に家にいるよりは、屋上の片隅に住むほうがよい。
- 25 遠い国からの良い消息は、疲れたたましいへの冷たい水。
- 26 正しい人が悪しき者の前に屈服するのは、汚された泉、荒らされた井戸のようなもの。
- 27 蜜を食べ過ぎるのは良いことではない。 自分の誉れを探るのは、誉れあることではない。
- 28 自分の霊を制することができない人は、城壁のない、打ち破られた町。

第26章

- 1 夏の雪、刈り入れ時の雨のように、誉れは愚かな者にふさわしくない。
- 2 逃げる雀のように、飛び去る燕のように、理由なしに、のろいが来ることはない。
- 3 馬にはむち。ろばにはくつわ。愚かな者の背中にはむち。
- 4 愚かな者には、その愚かさに合わせて答えるな。あなたも彼と同じようにならないためだ。
- 5 愚かな者には、その愚かさに合わせて答えよ。そうすれば彼は、自分を知恵のある者と思わないだろう。
- 6 愚かな者に託して言い送る者は、両足を切られ、暴行を受ける。
- 7 愚かな者が口にする箴言は、足の萎えた者の垂れ下がった足。
- 8 愚かな者に誉れを与えるのは、石投げ器に石を結わえ付けるようなもの。
- 9 愚かな者が口にする箴言は、酔った人が手に取り上げる茨。
- 10 愚かな者や通りすがりの者を雇う者は、だれかれかまわず射抜く射手のよう。
- 11 犬が自分の吐いた物に戻って来るように、愚かな者は自分の愚かさを繰り返す。
- 12 自分を知恵のある者と思っている人を見たか。彼よりも、愚かな者のほうが、まだ望みがある。
- 13 怠け者は「道に獅子がいる。広場に雄獅子がいる」と言う。
- 14 戸はちょうつがいので向きを変える。怠け者は寝床の上で。
- 15 怠け者は皿に手を伸ばしても、その手を口に持って行くのを面倒がる。
- 16 怠け者は、良識ある答えをする七人の者よりも、自分を知恵のある者と思う。
- 17 自分に関係のない争いにいきり立つ者は、通りすがりの犬の耳をつかむ者のようだ。
- 18 気がふれた者は、燃え木を死の矢として投げるが、
- 19 隣人をだまししながら、「ただ、戯れただけではないか」と言う者も、それと同じ。
- 20 薪がなければ火が消えるように、陰口をたたく者がいなければ争いはやむ。
- 21 炭火に炭を、火に薪をくべるように、口論好きな人は争いをかき立てる。
- 22 陰口をたたく者のことばは、おいしい食べ物のように、腹の奥に下って行く。
- 23 燃える唇も、心が悪いなら、質の悪い銀を塗った土の器。
- 24 憎んでいる者は、唇で身を装うが、心のうちに欺きを潜めている。
- 25 声を和らげて語りかけてきても、信じるな。その心には七つの忌み嫌われるものがある。
- 26 憎しみはうまくごまかし隠せても、彼の悪は集いの中で現れる。
- 27 穴を掘る者は、自分がその穴に陥り、石を転がす者は、自分の上にそれを転がす。
- 28 偽りの舌は、虐げられている者を憎み、滑らかな口は滅びを招く。

第27章

- 1 明日のことを誇るな。一日のうちに何が起こるか、あなたは知らないのだから。
- 2 自分の口ではなく、ほかの者にあなたをほめさせよ。自分の唇ではなく、よその人によって。
- 3 石は重く、砂にも重みがある。しかし、愚か者の苛立ちはどちらよりも重い。
- 4 憤りは残忍で、怒りはあふれ出る。しかし、ねたみの前には、だれが立ちはだかることができるだろうか。
- 5 あからさまに責めるのは、ひそかに愛するより良い。
- 6 愛する者が傷つけるのは誠実による。憎む者は多くの口づけでもてなす。
- 7 満ち足りている者は蜂の巣の蜜も踏みつけ、飢えている者には苦い物もみな甘い。
- 8 自分の巣を離れてさまよう鳥のように、人は自分の家を離れてさまよう。
- 9 香油も香も心を喜ばせる。友の慰めは自分の考えにまさる。
- 10 あなたの友、あなたの父の友を捨てるな。あなたが災難にあうとき、兄弟の家に行くな。近くにいる隣人は、遠くにいる兄弟にまさる。
- 11 わが子よ、知恵を得よ。私の心を喜ばせよ。そうすれば、私をそしる者に、私は言い返すことができるだろう。
- 12 賢い人はわざわざいを見て身を隠し、浅はかな者は入って行って痛い目にあう。
- 13 他人の保証人となるときは、その者の服を取れ。見知らぬ女のためにも、服を抵当に取れ。
- 14 朝早くから、大声で隣人を祝福すると、かえって呪いと見なされる。
- 15 長雨の日に滴り続ける雨漏りは、争い好きな女に似ている。
- 16 その女を制する者は、風を制し、右手に油をつかむことができる。
- 17 鉄は鉄によって研がれ、人はその友によって研がれる。
- 18 いちじくの木 of 番人はその実を食う。主人の身を守る者は誉れを得る。
- 19 顔が、水に映る顔と同じであるように、人の心は、その人に映る。
- 20 よみと滅びの地は飽くことがなく、人の目も飽くことがない。
- 21 銀にはるつぼ、金には炉があるように、人は他人の称賛によって試される。
- 22 愚か者を臼に入れ、きねでこれを麦と一緒にしても、その愚かさは彼から離れない。
- 23 あなたの羊の様子をよく知り、群れを心に留めておけ。
- 24 富は永久に続くものではなく、王冠も代々に続かないからだ。
- 25 草が刈り取られ、若草が現れ、山々の青草も集められると、
- 26 子羊はあなたに服を着させ、やぎは畑の代価となる。
- 27 やぎの乳は十分あって、あなたの食物、あなたの家の者たちの食物となり、あなたの召使いの女たちを養う。

第28章

- 1 悪しき者は、追う者もいないのに逃げるが、正しい人は若獅子のように頼もしい。
- 2 国に背きがあるときは、首長が多くなるが、判断力と知識のある一人の人により、安定は続く。
- 3 弱い者を虐げる貧しい者は、押し流して食物を残さない豪雨のようだ。
- 4 おしえを捨てる者は悪しき者をほめる。おしえを守る者は彼らに敵対する。
- 5 悪人はさばきをわきまえない。主を尋ね求める者はすべてのことをわきまえる。
- 6 貧しくて、誠実に歩む者は、富んでいて、曲がった道を歩む者にまさる。
- 7 分別のある子はおしえを大切にする。放蕩する者と交わる者は、父に恥をかかせる。
- 8 利息や高利によって財産を増やす者は、貧しい者たちに恵む者のためにそれを蓄える。
- 9 耳を背けておしえを聞かない者は、その祈りさえ忌み嫌われる。
- 10 直ぐな人を悪い道に迷わす者は、自分の掘った穴に陥る。しかし、誠実な人たちは幸せを受け継ぐ。
- 11 富む者には自分が知恵のある者に見える。しかし、分別のある貧しい者は、彼を調べる。
- 12 正しい人が喜ぶと、大いなる栄えがあり、悪しき者が立ち上がると、人は身を潜める。
- 13 自分の背きを隠す者は成功しない。告白して捨てる者はあわれみを受ける。
- 14 幸いなことよ、いつも恐れる心を持つ人は。しかし、心を頑なにする者はわざわざに陥る。
- 15 貧しい民を治める悪しき支配者は、うなる雄獅子、襲いかかる熊のようだ。
- 16 英知を欠く君主は、多くの物を強奪する。不正な利得を憎む者は、齢を延ばす。
- 17 流血の咎に苦しむ者は、墓まで逃げる。だれも彼を助けてはならない。
- 18 誠実に歩む者は救われ、その道が曲がっている者はただちに倒れる。
- 19 自分の土地を耕す者は食糧に満ち足り、空しいものを追い求める者は貧しさに満ち足りる。
- 20 忠実な人は多くの祝福を得る。しかし、富を得ようと急ぐ者は罰を免れない。
- 21 人を偏り見るのは良くない。人は一切れのパンで背く。
- 22 貪欲な人は財産を得ようと焦り、欠乏が自分に来るのを知らない。
- 23 人を叱責する者は、後になって、舌でへつらう者よりも恵みを得る。
- 24 父母の物をかすめていながら、「背いていない」と言う者は、滅びをもたらす者の仲間。
- 25 欲の深い人は争いを引き起こす。しかし、主に拠り頼む人は豊かにされる。
- 26 自分の心に頼る者は愚かな者、知恵をもって歩む者は救われる。
- 27 貧しい者に施す者は不足することがなく、目をそらす者は多くののろいを受ける。
- 28 悪しき者が勢いを増すと、人は身を隠し、彼らが滅びると、正しい人が増える。

第29章

- 1 叱責されても、なお、うなじを固くする者は、突然打ち砕かれて、癒やされることがない。
- 2 正しい人が増えると、民は喜び、悪しき者が治めると、民はうめく。
- 3 知恵を愛する人は、その父を喜ばせ、遊女と交わる者は、財産を滅ぼす。
- 4 正義によって王は国を建てる。重税を取る者は国を壊す。
- 5 隣人にへつらう者は、自分の足もとに網を張る。
- 6 悪人は背きを犯して自分に罠をかける。正しい人は声をあげて喜び歌う。
- 7 正しい人は弱い者のためのさばきを知っている。悪しき者はそのような知識をわきまえない。
- 8 嘲る者たちは町を騒がし、知恵のある人たちは怒りを鎮める。
- 9 知恵のある人が愚か者を訴えて争うと、愚か者は怒ってあざ笑い、安まることがない。
- 10 血に飢えた者たちは誠実な人を憎み、心の直ぐな人のいのちを狙う。
- 11 愚かな者は感情のすべてをぶちまけ、知恵のある人はそれを内に収める。
- 12 支配者が偽りのことばに聞き入るなら、従者たちもみな悪しき者になる。
- 13 貧しい者と抑圧する者は出会う。主は、この両者の目に光を与えられる。
- 14 真実をもって弱い者をさばく王、その王座はとこしえまでも堅く立つ。
- 15 むちと叱責は知恵を与える。放っておかれた子は母に恥を見させる。
- 16 悪しき者が増えると、背きも増す。しかし、正しい人は彼らの滅びを見る。
- 17 あなたの子を戒めよ。そうすれば、彼はあなたを安らかにし、あなたの心に喜びを与える。
- 18 幻がなければ、民は好き勝手にふるまう。しかし、みおしえを守る者は幸いである。
- 19 しもべは、ことばだけで戒めることはできない。それが分かっても、反応しない。
- 20 軽率に話をする人を見たか。彼よりも愚かな者のほうが、まだ望みがある。
- 21 自分のしもべを幼い時から甘やかすと、ついには手に負えない者になる。
- 22 怒る者は争いを引き起こす。憤る者には多くの背きがある。
- 23 人の高ぶりはその人を低くし、へりくだった人は誉れをつかむ。
- 24 盗人にくみする者は自分自身を憎む者。その人はのろいを聞いても何も言わない。
- 25 人を恐れると罠にかかる。しかし、主に信頼する者は高い所にかくまわれる。
- 26 支配者の顔色をうかがう者は多い。しかし、人をさばくのは主である。
- 27 不正を行う者は正しい人に忌み嫌われ、行いの真っ直ぐな人は悪しき者に忌み嫌われる。

第30章

- 1 マサの人ヤケの子アグルのことば。イティエルに告げ、イティエルとウカルに告げたことば。
- 2 まことに、私は粗野で、人ではない。私には人間としての分別がない。
- 3 私はまだ知恵も学ばず、聖なる方の知識も持っていない。
- 4 だれが天に上り、また降りて来たのか。だれが風を両手のひらに集めたのか。だれが水を衣のうちに包んだのか。だれが地のすべての限界を堅く定めたのか。その名は何か、その子の名は何か。あなたは確かに知っている。
- 5 神のことばは、すべて精錬されている。神は、ご自分に身を避ける者の盾。
- 6 神のことばに付け足しをしてはならない。神があなたを責めて、あなたが偽り者とされないために。
- 7 二つのことをあなたにお願いします。私が死なないうちに、それをかなえてください。
- 8 むなしいことと偽りのことばを、私から遠ざけてください。貧しさも富も私に与えず、ただ、私に定められた分の食物で、私を養ってください。
- 9 私が満腹してあなたを否み、「主とはだれだ」と言わないように。また、私が貧しくなって盗みをし、私の神の御名を汚すことのないように。
- 10 しもべのことを、その主人に中傷してはならない。そうでないと、彼はあなたをののしり、あなたは罰を受けることになる。
- 11 自分の父をののしり、自分の母をたたえない世代。
- 12 自分をきよいと見るが、汚物を洗い落とさない世代。
- 13 なんとも、その目が高ぶり、まぶたが上がっている世代。
- 14 歯が剣のようで、牙が刀のような世代。彼らは、地の苦しむ者を、人々の中の貧しい者を食い尽くす。
- 15 蛭には二人の娘がいて、「くれ、くれ」と言う。飽くことを知らないものが三つある。いや、四つあって、「もう十分だ」と言わない。
- 16 よみ、不妊の胎、水に飽くことを知らない地、「もう十分だ」と言わない火。
- 17 自分の父を嘲り、母への従順を蔑む目は、谷の鳥にえぐり取られ、鷲の子に食われる。
- 18 私にとって不思議なことが三つある。いや、四つあって、私はそれを知らない。
- 19 天にある鷲の道、岩の上にある蛇の道、海の真ん中にある船の道、おとめへの男の道。
- 20 姦淫する女の道もそのとおり。彼女は食べて口をぬぐい、「私は不法を行わなかった」と言う。
- 21 地は三つのことによって震える。いや、四つのことに耐えられない。
- 22 奴隷が王となり、愚か者がパンに満ち足り、
- 23 嫌われた女が夫を得、女奴隷が女主人の代わりとなることだ。
- 24 この地上には小さいものが四つある。それは知恵者中の知恵者だ。
- 25 蟻は力のないものたちだが、夏のうちに食糧を確保する。

- 26 岩だぬきは強くないものたちだが、その巣を岩間に設ける。
- 27 いなごには王はいないが、みな隊を組んで出陣する。
- 28 ヤモリは手で捕まえられるが、王の宮殿にいる。
- 29 歩きぶりの堂々としたものが三つある。いや、堂々と歩くものが四つある。
- 30 獣の中で最も強く、何かからも逃げない雄獅子、
- 31 誇らしげに歩くおんどりと雄やぎ、軍隊を引き連れた王。
- 32 もし、あなたが高ぶって、愚かなことをしたり、企んだりしたら、手を口に当てよ。
- 33 乳をかき回すと凝乳ができる。鼻をねじると血が出る。怒りをかき回すと争いが起こる。

第31章

- 1 マサの王レムエルが母から受けた戒めのことば。
- 2 私の子よ、何を語ろうか。私の胎の子よ、何を語ろうか。私の誓願の子よ、何を語ろうか。
- 3 あなたの力を、女たちに費やしてはいけない。王を滅ぼす者たちに、歩みを委ねてはいけない。
- 4 レムエルよ、これは王がすることではない。ぶどう酒を飲むのは王がすることではない。強い酒を飲むのは君主がすることではない。
- 5 酒を飲んで、定められたことを忘れ、苦しむ者みなへのさばきを曲げるといけないから。
- 6 強い酒は滅びようとしている者に、ぶどう酒は心の痛んでいる者に与えなさい。
- 7 その人は飲んで自分の貧しさを忘れ、もう自分の労苦を思い出すことはない。
- 8 口のきけない人のために、口を開きなさい。すべての不幸な人の訴えのために。
- 9 口を開いて、正しくさばき、苦しむ人や貧しい人のためにさばきを行いなさい。
- 10 しっかりした妻をだれが見つけられるだろう。彼女の値打ちは真珠よりもはるかに尊い。
- 11 夫の心は彼女を信頼し、彼は収益に欠けることがない。
- 12 彼女はその一生の間、夫に良いことをし、悪いことをしない。
- 13 羊毛や亜麻を手に入れ、喜んで自分の手でそれを仕上げる。
- 14 商人の船のように、遠い所から食糧を運んで来る。
- 15 夜明け前に起きて、家の者に食事を整え、召使いの女たちに用事を言いつける。
- 16 よく調べて畑を手に入れ、自分の稼ぎでぶどう畑を作り、
- 17 腰に力強く帯を締め、腕に力を入れる。
- 18 収入が良いのを味わい、そのともしびは夜になっても消えない。
- 19 糸取り棒に手を伸ばし、手に糸巻きをつかむ。
- 20 苦しむ人に手を差し出し、貧しい人に手を差し伸べる。
- 21 家の者のために雪を恐れることはない。家の者はみな、紅の衣服で身を包んでいるから。
- 22 自分のための敷き物を作り、衣服は亜麻布と紫の撚り糸でできている。
- 23 夫は町囲みの中で人々によく知られ、土地の長老たちとともに座に着く。
- 24 彼女は亜麻布の衣服を作って売り、また、帯を作って商人に渡す。
- 25 力と気品をまとい、ほほえみながら後の日を待つ。
- 26 知恵をもって口を開き、その舌には恵みのおしえがある。
- 27 家の者の様子をよく見守り、怠惰のパンを食べない。
- 28 その子たちは立ち上がって彼女をたたえ、夫も彼女をほめたたえて言う。
- 29 「力ある働きをする女は多いが、あなたは、そのすべてにまさっている」と。
- 30 麗しさは偽り。美しさは空しい。しかし、主を恐れる女はほめたたえられる。
- 31 彼女の手が稼いだ実を彼女に与え、そのわざを町囲みの中でほめたたえよ。

伝道者の書

Ecclesiastes

第1章

- 1 エルサレムの王、ダビデの子、伝道者のことば。
- 2 空の空。伝道者は言う。空の空。すべては空。
- 3 日の下でどんなに労苦しても、それが人に何の益になるだろうか。
- 4 一つの世代が去り、次の世代が来る。しかし、地はいつまでも変わらない。
- 5 日は昇り、日は沈む。そしてまた、元の昇るところへと急ぐ。
- 6 風は南に吹き、巡って北に吹く。巡り巡って風は吹く。しかし、その巡る道に風は帰る。
- 7 川はみな海に流れ込むが、海は満ちることがない。川は流れる場所に、また帰って行く。
- 8 すべてのことは物憂く、人は語ることもできない。目は見て満足することがなく、耳も聞いて満ち足りることがない。
- 9 昔あったものは、これからもあり、かつて起こったことは、これから起こる。日の下には新しいものは一つもない。
- 10 「これを見よ。これは新しい」と言われるものがあったとしても、それは、私たちよりはるか前の時代にすでにあったものだ。
- 11 前にあったことは記憶に残っていない。これから後に起こることも、さらに後の時代の人々には記憶されないだろう。
- 12 伝道者である私は、エルサレムでイスラエルの王であった。
- 13 私は、天の下で行われる一切のことについて、知恵を用いて尋ね、探り出そうと心に決めた。これは、神が人の子らに、従事するようにと与えられた辛い仕事だ。
- 14 私は、日の下で行われるすべてのわざを見たが、見よ、すべては空しく、風を追うようなものだ。
- 15 曲げられたものを、まっすぐにはできない。欠けているものを、数えることはできない。
- 16 私は自分の心にこう言った。「今や、私は、私より前にエルサレムにいただれよりも、知恵を増し加えた。私の心は多くの知恵と知識を得た。」
- 17 私は、知恵と知識を、狂気と愚かさを知ろうと心に決めた。それもまた、風を追うようなものであることを知った。
- 18 実に、知恵が多くなれば悩みも多くなり、知識が増す者には苛立ちも増す。

第2章

- 1 私は心の中で言った。「さあ、快樂を味わってみるがよい。楽しんでみるがよい。」しかし、これもまた、なんと空しいことか。
- 2 笑いか。私は言う。それは狂気だ。快樂か。それがいったい何だろう。
- 3 私は心の中で考えた。私の心は知恵によって導かれているが、からだはぶどう酒で元気づけよう。人の子がそのいのちの日数の間に天の下ですることについて、何が良いかを見るまでは、愚かさを身につけていよう。
- 4 私は自分の事業を拡張し、自分のために邸宅を建て、いくつものぶどう畑を設け、
- 5 いくつもの庭と園を造り、そこにあらゆる種類の果樹を植えた。
- 6 木の茂った森を潤すためにいくつもの池も造った。
- 7 私は男女の奴隷を得、家で生まれた奴隷も何人もいた。私は、私より前にエルサレムにいただれよりも、多くの牛や羊を所有していた。
- 8 私はまた、自分のために銀や金、それに王たちの宝や諸州の宝も集めた。男女の歌い手を得、人の子らの快樂である、多くの側女を手に入れた。
- 9 こうして私は偉大な者となった。私より前にエルサレムにいただれよりも。しかも、私の知恵は私のうちにとどまった。
- 10 自分の目の欲するものは何も拒まず、心の赴くままに、あらゆることを楽しんだ。実に私の心はどんな労苦も楽しんだ。これが、あらゆる労苦から受ける私の分であった。
- 11 しかし、私は自分が手がけたあらゆる事業と、そのために骨折った労苦を振り返った。見よ。すべては空しく、風を追うようなものだ。日の下には何一つ益になるものはない。
- 12 私は振り返って、知恵と狂気と愚かさを見た。そもそも、王の跡を継ぐ者も、すでになされたことをするにすぎない。
- 13 私は見た。光が闇にまさっているように、知恵は愚かさにまさっていることを。
- 14 知恵のある者は頭に目があるが、愚かな者は闇の中を歩く。しかし私は、すべての者が同じ結末に行き着くことを知った。
- 15 私は心の中で言った。「私も愚かな者と同じ結末に行き着くのなら、なぜ、私は並外れて知恵ある者であったのか。」私は心の中で言った。「これもまた空しい」と。
- 16 事実、知恵のある者も愚かな者も、いつまでも記憶されることはない。日がたつと、一切は忘れられてしまう。なぜ、知恵のある者は愚かな者とともに死ぬのか。
- 17 私は生きていることを憎んだ。日の下で行われるわざは、私にとってはわざわざいだからだ。確かに、すべては空しく、風を追うようなものだ。
- 18 私は、日の下で骨折った一切の労苦を憎んだ。跡を継ぐ者のために、それを残さなければならぬからである。
- 19 その者が知恵のある者か愚か者か、だれが知るだろうか。しかも、私が日の下で骨折り、知恵を使って行ったすべての労苦を、その者が支配するようになるのだ。これもまた空しい。
- 20 私は、日の下で骨折った一切の労苦を見回して、絶望した。

- 21** なぜなら、どんなに人が知恵と知識と才能をもって労苦しても、何の労苦もしなかった者に、自分が受けた分を譲らなければならないからだ。これもまた空しく、大いに悪しきことだ。
- 22** 実に、日の下で骨折った一切の労苦と思ひ煩いは、人にとって何なのだろう。
- 23** その一生の間、その営みには悲痛と苛立ちがあり、その心は夜も休まらない。これもまた空しい。
- 24** 人には、食べたり飲んだりして、自分の労苦に満足を見出すことよりほかに、何も良いことがない。そのようにすることもまた、神の御手によることであると分かった。
- 25** 実に、神から離れて、だれが食べ、だれが楽しむことができるだろうか。
- 26** なぜなら神は、ご自分が良しとする人には知恵と知識と喜びを与え、罪人には、神が良しとする人に渡すために、集めて蓄える仕事を与えられるからだ。これもまた空しく、風を追うようなものだ。

第3章

- 1 すべてのことには定まった時期があり、天の下すべての営みに時がある。
- 2 生まれるのに時があり、死ぬのに時がある。植えるのに時があり、植えた物を抜くのに時がある。
- 3 殺すのに時があり、癒やすのに時がある。崩すのに時があり、建てるのに時がある。
- 4 泣くのに時があり、笑うのに時がある。嘆くのに時があり、踊るのに時がある。
- 5 石を投げ捨てるのに時があり、石を集めるのに時がある。抱擁するのに時があり、抱擁をやめるのに時がある。
- 6 求めるのに時があり、あきらめるのに時がある。保つのに時があり、投げ捨てるのに時がある。
- 7 裂くのに時があり、縫うのに時がある。黙っているのに時があり、話すのに時がある。
- 8 愛するのに時があり、憎むのに時がある。戦いの時があり、平和の時がある。
- 9 働く者は労苦して何の益を得るだろうか。
- 10 私は、神が人の子らに従事するようにと与えられた仕事を見た。
- 11 神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行うみわざの始まりから終わりまでを見極めることができない。
- 12 私は知った。人は生きている間に喜び楽しむほか、何も良いことがないのを。
- 13 また、人がみな食べたり飲んだりして、すべての労苦の中に幸せを見出すことも、神の賜物であることを。
- 14 私は、神がなさることはすべて、永遠に変わらないことを知った。それに何かをつけ加えることも、それから何かを取り去ることもできない。人が神の御前で恐れるようになるため、神はそうにされたのだ。
- 15 今あることは、すでにあったこと。これからあることも、すでにあったこと。追い求められてきたことを神はなお求められる。
- 16 私はさらに日の下で、さばきの場に不正があり、正義の場に不正があるのを見た。
- 17 私は心の中で言った。「神は正しい人も悪しき者もさばく。そこでは、すべての営みとすべてのわざに、時があるからだ。」
- 18 私は心の中で人の子らについて言った。「神は彼らを試みて、自分たちが獣にすぎないことを、彼らが気づくようにされたのだ。」
- 19 なぜなら、人の子の結末と獣の結末は同じ結末だからだ。これも死ねば、あれも死に、両方とも同じ息を持つ。それでは、人は獣にまざっているのか。まざってはいない。すべては空しいからだ。
- 20 すべては同じ所に行く。すべてのものは土のちりから出て、すべてのものは土のちりに帰る。
- 21 だれが知っているだろうか。人の子らの霊は上に昇り、獣の霊は地の下に降りて行くのを。

- 22 私は見た。人が自分のわざを楽しむことにまさる幸いはないことを。それが人の受ける分であるからだ。だれが、これから後に起こることを人に見せてくれるだろうか。

第4章

- 1 私は再び、日の下で行われる一切の虐げを見た。見よ、虐げられている者たちの涙を。しかし、彼らには慰める者がいない。彼らを虐げる者たちが権力をふるう。しかし、彼らには慰める者がいない。
- 2 いのちがあって、生きながらえている人よりは、すでに死んだ死人に、私は祝いを申し上げる。
- 3 また、この両者よりもっと良いのは、今までに存在しなかった者、日の下で行われる悪いわざを見なかった者だ。
- 4 私はまた、あらゆる労苦とあらゆる仕事の成功を見た。それは人間同士のねたみにすぎない。これもまた空しく、風を追うようなものだ。
- 5 愚かな者は腕組みをし、自分の身を食いつぶす。
- 6 片手に安らかさを満たすことは、両手に労苦を満たして風を追うのにまさる。
- 7 私は再び、日の下で 空しいことを見た。
- 8 ひとりぼっちで、仲間もなく、子も兄弟もいない人がいる。それでも彼の一切の労苦には終わりがなく、その目は富を求めて飽くことがない。そして「私はだれのために労苦し、楽しみもなく自分を犠牲にしているのか」とも言わない。これもまた空しく、辛い営みだ。
- 9 二人は一人よりもまさっている。二人の労苦には、良い報いがあるからだ。
- 10 どちらかが倒れるときには、一人がその仲間を起こす。倒れても起こしてくれる者のいないひとりぼっちの人はかわいそうだ。
- 11 また、二人が一緒に寝ると温くなる。一人ではどうして温くなるだろうか。
- 12 一人なら打ち負かされても、二人なら立ち向かえる。三つ撚りの糸は簡単には切れない。
- 13 貧しくても知恵のある若者は、忠告を受け入れなくなった 年老いた愚かな王にまさる。
- 14 そのような若者は、牢獄から出て王になる。たとえ、その王国で貧しく生まれた者であっても。
- 15 私は見た。日の下を歩む生きている者がみな、王に代わって立つ、後継の若者の側につくのを。
- 16 その民すべてには終わりがなく。彼を先にして続く人々には。後に来るその者たちも、後継の者を喜ばない。これもまた空しく、風を追うようなものだ。

第5章

- 1 神の宮へ行くときは、自分の足に気をつけよ。近くに行って聞くことは、愚かな者たちがいけにえを献げるのにまさる。彼らは自分たちが悪を行っていることを知らないからだ。
- 2 神の前では、軽々しく 心焦ってことばを出すな。神は天におられ、あなたは地にいるからだ。だから、ことばを少なくせよ。
- 3 仕事が多ければ夢を見、ことばが多ければ愚かな者の声となる。
- 4 神に誓願を立てるときには、それを果たすのを遅らせてはならない。愚かな者は喜ばれない。誓ったことは果たせ。
- 5 誓って果たさないよりは、誓わないほうがよい。
- 6 あなたの口が、あなた自身を罪に陥らせないようにせよ。使者の前で「あれは過失だ」と言ってはならない。神が、あなたの言うことを聞いて怒り、あなたの手のわざを滅ぼしてもよいだろうか。
- 7 夢が多く、ことばの多いところには 空しさがある。ただ、神を恐れよ。
- 8 ある州で、貧しい者が虐げられ、権利と正義が踏みにじられているのを見ても、そのことに驚いてはならない。その上役には、それを見張るもう一人の上役がいて、彼らよりももっと身分が高い者たちもいるからだ。
- 9 国にとっての何にもまさる利益は、農地が耕されるようにする王がいることである。
- 10 金銭を愛する者は金銭に満足しない。富を愛する者は収益に満足しない。これもまた空しい。
- 11 財産が増えると、寄食者も増える。持ち主にとって何の成功だろう。それを目で眺めているだけだ。
- 12 働く者は少し食べても多く食べても、心地よく眠る。富む者は満腹しても、安眠を妨げられる。
- 13 私は日の下に、痛ましいわざわいがあるのを見た。所有者に守られていた富が、その所有者自身に害を加えることだ。
- 14 その富は不運な出来事で失われ、息子が生まれても、その者の手もとには何もない。
- 15 母の胎から出て来たときのように、裸で、来たときの姿で戻って行く。自分の労苦によって得る、自分の自由にするのできるものを、何一つ持って行くことはない。
- 16 これも痛ましいわざわいだ。出て来たときと全く同じように去って行く。風のために労苦して何の益になるだろうか。
- 17 しかも、人は一生、闇の中で食事をする。多くの苛立ち、病気、そして激しい怒り。
- 18 見よ。私が良いと見たこと、好ましいこととは、こうだ。神がその人に与えたいのちの日数の間、日の下で骨折るすべての労苦にあって、良き物を楽しみ、食べたり飲んだりすることだ。これが人の受ける分なのだ。
- 19 実に神は、すべての人間に富と財を与えてこれを楽しむことを許し、各自が受ける分を受けて自分の労苦を喜ぶようにされた。これこそが神の賜物である。

- 20 こういう人は、自分の生涯のことをあれこれ思い返さない。神が彼の心を喜びで満たされるからだ。

第6章

- 1 私が日の下で見た悪しきことがある。それは人の上に重くのしかかる。
- 2 神が富と財と誉れを与え、望むもので何一つ欠けることがない人がいる。しかし神は、この人がそれを楽しむことを許さず、見ず知らずの人がそれを楽しむようにされる。これは空しいこと、それは悪しき病だ。
- 3 もし人が百人の子どもを持ち、多くの年月を生き、彼の年が多くなっても、彼が良き物に満足することなく、墓にも葬られなかったなら、私は言う。彼よりも死産の子のほうがましだと。
- 4 その子は空しさの中に生まれて来て、闇の中に去って行き、その名は闇におおわれ、
- 5 日の光も見ず、何も知らない。しかし、この子のほうが彼よりは安らかだ。
- 6 彼が千年の倍も生きても、幸せな目にあわなければ。両者とも同じ所に行くではないか。
- 7 人の労苦はみな、自分の口のためである。しかし、その食欲は決して満たされない。
- 8 知恵のある者は、愚かな者より何がまさっているだろう。人の前でどう生きるかを知っている貧しい人も、何がまさっているだろうか。
- 9 目が見ることは、欲望のひとり歩きにまさる。これもまた空しく、風を追うようなものだ。
- 10 存在するようになったものは、すでにその名がつけられ、それが人間であることも知られている。その人は、自分より力のある者と 言い争うことはできない。
- 11 多く語れば、それだけ空しさを増す。それは、人にとって何の益になるだろうか。
- 12 だれが知るだろうか。影のように過ごす、空しい人生において、何が人のために良いことなのかを。だれが人に告げることができるだろうか。その人の後に、日の下で何が起こるかを。

第7章

- 1 名声は良い香油にまさり、死ぬ日は生まれる日にまさる。
- 2 祝宴の家に行くよりは、喪中の家に行くほうがよい。そこには、すべての人の終わりがあり、生きている者がそれを心に留めるようになるからだ。
- 3 悲しみは笑いにまさる。顔が曇ると心は良くなる。
- 4 知恵のある者の心は喪中の家であり、愚かな者の心は楽しみのある家にある。
- 5 知恵のある者の叱責を聞くのは、愚かな者の歌を聞くのにまさる。
- 6 愚かな者の笑いは、鍋の下の茨がはじける音のよう。これもまた空しい。
- 7 虐げは知恵のある者を狂わせ、賄賂は心を滅ぼす。
- 8 事の終わりは、その始まりにまさり、忍耐は、うぬぼれにまさる。
- 9 軽々しく心を苛立たせてはならない。苛立ちは愚かな者の胸にとどまるから。
- 10 「どうして、昔のほうが今より良かったのか」と言ってはならない。このような問いは、知恵によるのではない。
- 11 資産を伴う知恵は良い。日を見る人に益となる。
- 12 知恵の陰にいるのは、金銭の陰にいるようだ。知識の益は、知恵がその持ち主を生かすことにある。
- 13 神のみわざに目を留めよ。神が曲げたものをだれがまっすぐにできるだろうか。
- 14 順境の日には幸いを味わい、逆境の日にはよく考えよ。これもあれも、神のなさること。後のことを人に分からせないためである。
- 15 私はこの空しい人生において、すべてのことを見てきた。正しい人が正しいのに滅び、悪しき者が悪を行う中で長生きすることがある。
- 16 あなたは正しすぎてはならない。自分を知恵のありすぎる者としてはならない。なぜ、あなたは自分を滅ぼそうとするのか。
- 17 あなたは悪すぎてはいけない。愚かであってはいけない。時が来ないのに、なぜ死のうとするのか。
- 18 一つをつかみ、もう一つを手放さないのがよい。神を恐れる者は、この両方を持って出て行く。
- 19 知恵は町の十人の権力者よりも、知恵のある者を力づける。
- 20 この地上に、正しい人は一人もいない。善を行い、罪に陥ることのない人は。
- 21 また、人の語ることばをいちいち心に留めてはならない。しもべがあなたをののしるのを聞かないようにするために。
- 22 あなた自身が他人を何度ものしったことを、あなたの心は知っているのだから。
- 23 私は、これらの一切を知恵によって試みた。私は言った。「私は知恵のある者になりたい」と。しかし、それは私には遠く及ばないことだった。
- 24 今までにあったことは、遠く、とても深い。だれがそれを見極めることができるだろうか。

- 25** 私は心を転じて、知恵と道理を学び、探し出し、探し求めた。愚かさの悪と、狂気の愚かさを知ろうとした。
- 26** 私は、女が死よりも苦々しいことに気がついた。女は罾であり、その心は網、その手は、かせである。神に良しとされる者は女から逃れるが、罪に陥る者は女に捕らえられる。
- 27** 伝道者は言う。見よ。私が道理を見出そうとして、一つ一つに当たり、見出したことは次のとおりである。
- 28** 私のたましいは、なおも探し求めたが、見出すことはなかった。私は千人のうちに、一人の男を見出したが、そのすべてのうちに、一人の女も見出さなかった。
- 29** 私が見出した次のことだけに目を留めよ。神は人を真っ直ぐな者に造られたが、人は多くの理屈を探し求めたということだ。

第8章

- 1 知恵のある者とされるにふさわしいのはだれか。物事の解釈を知っているのはだれか。人の知恵は、その人の顔を輝かせ、その顔の固さを和らげる。
- 2 私は言う。王の命令を守れ。神への誓約があるから。
- 3 王の前から慌てて出て行くな。悪事に荷担するな。王は自分の望むままを行うから。
- 4 王のことばには権威がある。だれが、王に「何をするのか」と言えるだろうか。
- 5 命令を守る者はわざわざを知らない。知恵ある者の心は時とさばきを知っている。
- 6 すべての営みには時とさばきがある。人に降りかかるわざわざは多い。
- 7 何が起こるかを知っている者はいない。いつ起こるかを、だれも告げることはいない。
- 8 風を支配し、風をとどめておくことのできる人はいない。死の日を支配することはできず、この戦いから免れる者はいない。そして、悪は悪の所有者を救い得ない。
- 9 私はこのすべてを見て、私の心を注いだ。日の下で行われる一切のわざについて、人が人を支配して、わざわざをもたらす時について。
- 10 すると私は、悪しき者たちが葬られて去って行くのを見た。彼らは、聖なる方のところから離れ去り、わざを行ったその町で忘れられる。これもまた空しい。
- 11 悪い行いに対する宣告がすぐ下されないので、人の子らの心は、悪を行う思いで満ちている。
- 12 悪を百回行っても、罪人は長生きしている。しかし私は、神を恐れる者が神の御前で恐れ、幸せであることを知っている。
- 13 悪しき者には幸せがない。その生涯を影のように長くすることはできない。彼らが神の御前で恐れないからだ。
- 14 空しいことが地上で行われている。悪しき者の行いに対する報いを受ける正しい人もいれば、正しい人の行いに対する報いを受ける悪しき者もいる。私は言う。「これもまた空しい」と。
- 15 だから私は快楽を賛美する。日の下では、食べて飲んで楽しむよりほかに、人にとっての幸いはない。これは、神が日の下で人に与える一生の間に、その労苦に添えてくださるものだ。
- 16 私が昼も夜も眠らずに知恵を知り、地上で行われる人の営みを見ようと心に決めたとき、
- 17 すべては神のみわざであることが分かった。人は日の下で行われるみわざを見極めることはできない。人は労苦して探し求めても、見出すことはない。知恵のある者が知っていると思っても、見極めることはできない。

第9章

- 1 まことに、私はこの一切を心に留め、このことすべてを調べた。正しい人も、知恵のある者も、彼らの働きも、神の御手の中にある。彼らの前にあるすべてのものが、それが愛なのか、憎しみなのか、人には分からない。
- 2 すべてのことは、すべての人に同じように起こる。同じ結末が、正しい人にも、悪しき者にも、善人にも、きよい人にも、汚れた人にも、いけにえを献げる人にも、いけにえを献げない人にも来る。善人にも、罪人にも同様に、誓う者にも、誓うのを恐れる者にも同様だ。
- 3 日の下で行われることすべてのうちで最も悪いことは、同じ結末がすべての人に臨むということ。そのうえ、人の子らの心が悪に満ち、生きている間は彼らの心に狂気があり、その後で死人のところに行くということだ。
- 4 しかし、人には抛り所がある。生ける者すべてのうちに数えられている者には。生きている犬は死んだ獅子にまさるのだ。
- 5 生きている者は自分が死ぬことを知っているが、死んだ者は何も知らない。彼らには、もはや何の報いもなく、まことに呼び名さえも忘れられる。
- 6 彼らの愛も憎しみも、ねたみもすでに消え失せ、日の下で行われることすべてにおいて、彼らには、もはや永遠に受ける分はない。
- 7 さあ、あなたのパンを楽しんで食べ、陽気にあなたのぶどう酒を飲め。神はすでに、あなたのわざを喜んでおられる。
- 8 いつもあなたは白い衣を着よ。頭には油を絶やしてはならない。
- 9 あなたの空しい人生の間、あなたの愛する妻と生活を楽しむがよい。彼女は、あなたの空しい日々の間、日の下であなたに与えられた者だ。それが、生きている間に、日の下でする労苦から受けるあなたの分なのだ。
- 10 あなたの手がなし得ると分かったことはすべて、自分の力でそれをせよ。あなたが行こうとしているよみには、わざも道理も知識も知恵もないからだ。
- 11 私は再び、日の下を見た。競走は足の速い人のものではなく、戦いは勇士のものではない。パンは知恵のある人のものではなく、富は悟りのある人のものではなく、愛顧は知識のある人のものではない。すべての人が時と機会に出会うからだ。
- 12 しかも、人は自分の時を知らない。悪い網にかかった魚のように、罠にかかった鳥のように、人の子らも、わざわいの時が突然彼らを襲うと罠にかかる。
- 13 私はまた、知恵について、日の下でこのようなことを見た。それは私にとって大きなことであった。
- 14 わずかの人々が住む小さな町があった。そこに大王が攻めて来て包囲し、それに対して大きな土塁を築いた。
- 15 その町に、貧しい一人の知恵ある者がいて、自分の知恵を用いてその町を救った。しかし、だれもその貧しい人を記憶にとどめなかった。

- 16 私は言う。「知恵は力にまさる。しかし、貧しい者の知恵は蔑まれ、その人のことばは聞かれない」と。
- 17 知恵のある者の静かなことばは、愚かな者の間での支配者の叫びよりもよく聞かれる。
- 18 知恵は武器にまさり、一人の罪人は多くの良いことを打ち壊す。

第10章

- 1 死んだハエは、調香師の香油を臭くし、腐らせる。少しの愚かさは、知恵や栄誉よりも重い。
- 2 知恵のある者の心は右を向き、愚かな者の心は左を向く。
- 3 愚か者は、道を行くときにも思慮に欠け、自分が愚かであることを、皆に言いふらす。
- 4 支配者があなたに向かって立腹しても、あなたはその場を離れてはならない。冷静でいれば、大きな罪は離れて行くから。
- 5 私は、日の下に一つの悪があるのを見た。それは、権力者から出る過失のようなもの。
- 6 愚か者が非常に高い位につけられ、富む者が低い席に座しているのを、
- 7 また、奴隷たちが馬に乗り、君主たちが奴隷のように地を歩くのを、私は見た。
- 8 穴を掘る者は自らそこに落ち、石垣を崩す者は蛇にかまれる。
- 9 石を切り出す者は石で傷つき、木を割る者は木で危険にさらされる。
- 10 斧が鈍くなったときは、刃を研がないならば、もっと力がある。しかし、知恵は人を成功させるのに益になる。
- 11 もし蛇がまじないにかからず、かみつくなれば、それは蛇使いに何の益にもならない。
- 12 知恵のある者が口にする事ばは恵み深く、愚かな者の唇は自分自身を呑み込む。
- 13 彼が口にする事ばの始まりは、愚かなこと、彼の口の終わりは、悪しき狂気。
- 14 愚か者はよくしゃべる。人はこれから起こることを知らない。これから後に起こることを、だれが彼に告げることができるだろうか。
- 15 愚かな者の労苦は、自分自身を疲れさせる。彼は町に行く道さえ知らない。
- 16 わざわいなことよ、あなたのような国は。王が若輩で、高官たちが朝からぜいたくな食事をする国は。
- 17 幸いなことよ、あなたのような国は。王が貴族の出であり、高官たちが、酔うためではなく力をつけるために、定まった時に食事をする国は。
- 18 怠けていると天井が落ち、手をこまねいていると雨漏りがする。
- 19 パンを作るのは笑うため。ぶどう酒は人生を楽しませる。金銭はすべての必要に応じる。
- 20 心の中でさえ、王を呪ってはならない。寝室でも、富む者を呪ってはならない。なぜなら、空の鳥がその声を運び、翼のあるものがそのことを告げるからだ。

第11章

- 1 あなたのパンを水の上に投げよ。ずっと後の日になって、あなたはそれを見出す。
- 2 あなたの受ける分を七、八人に分けておけ。地上でどんなわざわいが起こるかを あなたは知らないのだから。
- 3 濃い雲が雨で満ちると、それは地上に降り注ぐ。木が南風や北風で倒れると、その木は倒れた場所にそのまま横たわる。
- 4 風を警戒している人は種を蒔かない。雨雲を見ている人は刈り入れをしない。
- 5 あなたは妊婦の胎内の骨々のことと同様に、風の道がどのようなものかを知らない。そのように、あなたは 一切を行われる神のみわざを知らない。
- 6 朝にあなたの種を蒔け。夕方にも手を休めてはいけない。あなたは、あれかこれか どちらが成功するのか、あるいは両方とも同じようにうまくいくのかを 知らないのだから。
- 7 光は心地よく、日を見ることは目に快い。
- 8 人は長い年月を生きるなら、ずっと楽しむがよい。だが、闇の日も多くあることを忘れてはならない。すべて、起こることは空しい。
- 9 若い男よ、若いうちに楽しめ。若い日にあなたの心を喜ばせよ。あなたは、自分の思う道を、また自分の目の見るとおりに歩め。しかし、神がこれらすべてのことにおいて、あなたをさばきに連れて行くことを知っておけ。
- 10 あなたの心から苛立ちを除け。あなたのからだから痛みを取り去れ。若さも青春も空しいからだ。

第12章

- 1 あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。 わざわいの日が来ないうちに、 また「何の喜びもない」と言う年月が近づく前に。
- 2 太陽と光、月と星が暗くなる前に、 また雨の後に雨雲が戻って来る前に。
- 3 その日、家を守る者たちは震え、 力のある男たちは身をかがめ、 粉をひく女たちは少なくなつて仕事をやめ、 窓から眺めている女たちの目は暗くなる。
- 4 通りの扉は閉ざされ、 臼をひく音もかすかになり、 人は鳥の声に起き上がり、 歌を歌う娘たちはみな、 うなだれる。
- 5 人々はまた高いところを恐れ、 道でおびえる。 アーモンドの花は咲き、 バッタは足取り重く歩き、 風鳥木は花を開く。 人はその永遠の家に向かって行き、 嘆く者たちが通りを歩き回る。
- 6 こうしてついに銀のひもは切れ、 金の器は打ち砕かれ、 水がめは泉の傍らで砕かれて、 滑車が井戸のそばで壊される。
- 7 土のちりは元あったように地に帰り、 霊はこれを与えた神に帰る。
- 8 空の空。伝道者は言う。すべては空。
- 9 伝道者は知恵ある者であった。 そのうえ、 知識を民に教えた。 彼は思索し、 探究し、 多くの箴言をまとめた。
- 10 伝道者は適切なことばを探し求め、 真理のことばをまっすぐに書き記した。
- 11 知恵のある者たちのことばは 突き棒のようなもの、 それらが編纂された書は よく打ち付けられた釘のようなもの。 これらは一人の牧者によって与えられた。
- 12 わが子よ、 さらに次のことにも気をつけよ。 多くの書物を書くのはきりが無い。 学びに没頭すると、 からだが疲れる。
- 13 結局のところ、 もうすべてが聞かされていることだ。 神を恐れよ。 神の命令を守れ。 これが人間にとってすべてである。
- 14 神は、 善であれ悪であれ、 あらゆる隠れたことについて、 すべてのわざをさばかれるからである。

雅歌

Song of Solomon

第1章

- 1 ソロモンの雅歌
- 2 あの方が私に 口づけしてくださったらよいのに。あなたの愛は、ぶどう酒にまさって麗しく、
- 3 あなたの香油は香り芳しく、あなたの名は、注がれた香油のよう。そのため、おとめたちはあなたを愛しています。
- 4 私を引き寄せてください。私たちはあなたの後から急いで参ります。王は私を奥の間に伴われました。私たちはあなたにあって楽しみ喜び、あなたの愛をぶどう酒にまさってほめたたえます。あなたは心から愛されています。
- 5 エルサレムの娘たち。ケダルの天幕のように、ソロモンの幕のように、私は黒いけれども美しい。
- 6 あなたがたは私を見ないでください。私は日に焼けて、浅黒いのです。母の息子たちが私に怒りを燃やし、私を彼らのぶどう畑の番人にしたのです。でも、私は自分のぶどう畑の番はしませんでした。
- 7 私のたましいの恋い慕う方。どうか私に教えてください。どこで羊を飼っておられるのですか。昼の間は、どこでそれを休ませるのですか。なぜ、私はあなたの仲間の羊の群れの傍らで、顔覆いをつけた女のようにしていなければ ならないのでしょうか。
- 8 女の中で最も美しいひとよ。あなたが知らないのなら、羊の群れの足跡を追って出て行き、羊飼いたちの住まいの傍らで、あなたの子やぎを飼いなさい。
- 9 わが愛する者よ。私はあなたを ファラオの戦車の間にいる雌馬になぞらえよう。
- 10 飾り輪のあるあなたの頬は美しい。宝石の首飾りがかけられたあなたの首も。
- 11 私たちは金の飾り輪をあなたのために作ろう。そこに銀をちりばめて。
- 12 王が長椅子に座っておられる間、私のナルドは香りを放っていました。
- 13 私の愛する方は、私にとって、私の乳房の間に宿る没薬の袋。
- 14 私の愛する方は、私にとって、エン・ゲディのぶどう畑にあるヘンナ樹の花房。
- 15 ああ、あなたは美しい。わが愛する者よ。ああ、あなたは美しい。あなたの目は鳩。
- 16 私の愛する方。ああ、あなたはなんと美しく、慕わしい方。私たちの寝床も青々としています。
- 17 私たちの家の梁は杉の木、私たちの垂木は糸杉。

第2章

- 1 私はシャロンのばら、谷間のゆり。
- 2 わが愛する者が娘たちの間にいるのは、茨の中のゆりの花のようだ。
- 3 私の愛する方が 若者たちの間におられるのは、林の木々の中のりんごの木のようにです。その木陰に私は心地よく座り、その実は私の口に甘いのです。
- 4 あの方は私を酒宴の席に 伴ってくださいました。私の上に翻る、あの方の旗じるしは愛でした。
- 5 干しぶどうの菓子で私を力づけ、りんごで元気づけてください。私は愛に病んでいるからです。
- 6 ああ、あの方の左の腕が私の頭の下にあって、右の腕が私を抱いてくださるとよいのに。
- 7 エルサレムの娘たち。私は、もしかや野の雌鹿にかけてお願いします。揺り起こしたり、かき立てたりしないでください。愛がそうしたいと思うときまでは。
- 8 私の愛する方の声がする。ほら、あの方が来られる。山を跳び越え、丘の上を跳ねて。
- 9 私の愛する方は、もしかや若い鹿のようにです。ほら、あの方は私たちの壁の向こうでじっと立ち、窓からうかがい、格子越しに見ています。
- 10 私の愛する方は、私に語りかけて言われます。「わが愛する者、私の美しいひとよ。さあ立って、出ておいで。
- 11 ご覧、冬は去り、雨も過ぎて行ったから。
- 12 地には花が咲き乱れ、刈り入れの季節がやって来て、山鳩の声が、私たちの国中に聞こえる。
- 13 いちじくの木は実をならせ、ぶどうの木は花をつけて香りを放つ。わが愛する者、私の美しいひとよ。さあ立って、出ておいで。
- 14 岩の裂け目、崖の隠れ場にいる私の鳩よ。私に顔を見せておくれ。あなたの声を聞かせておくれ。あなたの声は心地よく、あなたの顔は愛らしい。」
- 15 私たちのために、あなたがたは狐を捕らえてください。ぶどう畑を荒らす小狐を。私たちのぶどう畑は花盛りですから。
- 16 私の愛する方は私のもの。私はあの方のもの。あの方はゆりの花の間で群れを飼っています。
- 17 私の愛する方よ。そよ風が吹き始め、影が逃げ去るまでに、あなたは戻って来て、険しい山々の上のもしかや 若い鹿のようになってください。

第3章

- 1 私は夜、床についていても、私のたましいの恋い慕う方を捜していました。私が捜しても、あの方は見つかりませんでした。
- 2 「さあ、起きて町を行き巡り、通りや広場で、私のたましいの恋い慕う方を捜して来よう。」私が捜しても、あの方は見つかりませんでした。
- 3 町を行き巡る 夜回りたちが私を見つけました。「私のたましいの恋い慕う方を、お見かけになりませんでしたか。」
- 4 私は彼らのところを通り過ぎると間もなく、私のたましいの恋い慕う方を見つけました。私はこの方をしっかり捕まえて放さず、ついには私の母の家に、私を身ごもった人の奥の間に、お連れしました。
- 5 エルサレムの娘たち。私は、もしかや野の雌鹿にかけてお願いします。揺り起こしたり、かき立てたりしないでください。愛がそうしたいと思うときまでは。
- 6 煙の柱のように荒野から上って来るのは何だろう。没薬や乳香、隊商のあらゆる香料の粉末をくゆらせて来るのは。
- 7 見よ、あれはソロモンの乗る輿。周りには、イスラエルの勇士の六十人衆がいる。
- 8 彼らはみな剣を帯びた 練達の戦士。それぞれ腰に剣を帯びて 夜襲に備える。
- 9 ソロモン王は、レバノンの木で 自分のために駕籠を作った。
- 10 その支柱は銀、背は金、座席は紫布で作り、内側には、エルサレムの娘たちの 愛の切りばめ細工が施されている。
- 11 シオンの娘たち。ソロモン王を見に出かけなさい。王は、ご自分の婚礼の日、心の喜びの日に、母がかぶらせた冠をかぶっている。

第4章

- 1 ああ、あなたは美しい。わが愛する者よ。 ああ、あなたは美しい。 あなたの目は、ベールの向こうの鳩。 髪は、ギルアデの山を下って来る やぎの群れのようだ。
- 2 歯は、洗い場から上って来た、毛を刈られた雌羊の群れのよう。 それはみな双子で、一方を失ったものはそれらの中にはいない。
- 3 唇は紅の糸のようで、口は愛らしい。 頬はベールの向こうで、ざくろの片割れのようだ。
- 4 首は、兵器倉として建てられた ダビデのやぐらのよう。 その上には千の盾が掛けられ、すべて勇士の丸い小盾だ。
- 5 二つの乳房は、 ゆりの花の間で草を食べている双子のかもしか、二匹の子鹿のようだ。
- 6 そよ風が吹き始め、影が逃げ去るまでに、私は没薬の山、乳香の丘に行こう。
- 7 わが愛する者よ。あなたのすべては美しく、あなたには何の汚れもない。
- 8 花嫁よ。私と一緒にレバノンから、私と一緒にレバノンから来ておくれ。 アマナの頂から、セニルの頂、ヘルモンの頂から、獅子の洞穴、豹の山から下りて来ておくれ。
- 9 あなたは私の心を奪った。私の妹、花嫁よ。 あなたは私の心を奪った。ただ一度のまなざしと、首飾りのただ一つの宝石で。
- 10 私の妹、花嫁よ。あなたの愛は、ぶどう酒にまさって麗しく、あなたの香油の香りは、すべての香料にまさっている。
- 11 花嫁よ。あなたの唇は蜂蜜を滴らせ、舌の裏には蜜と乳がある。衣の香りは、レバノンの香りのようだ。
- 12 私の妹、花嫁は、閉じられた庭、閉じられた源、封じられた泉。
- 13 あなたの産み出すものは、最上の実を実らせるざくろの園、ナルドとともにヘンナ樹、
- 14 ナルドとサフラン、菖蒲とシナモンに、乳香の採れるすべての木、没薬とアロエに、香料の最上のものすべて、
- 15 庭の泉、湧き水の井戸、レバノンからの流れ。
- 16 北風よ、起きなさい。南風よ、吹きなさい。私の庭に吹いて、その香りを漂わせておくれ。私の愛する方が庭に入って、その最上の実を食べることができるように。

第5章

- 1 わが妹、花嫁よ、私は私の庭に入った。私の没薬を、私の香料とともに集め、私の蜂の巣を、私の蜂蜜とともに食べ、私のぶどう酒を、私の乳とともに飲んだ。食べよ。友たちよ、飲め。愛に酔え。
- 2 私は眠っていましたが、心は目覚めていました。すると声がしました。私の愛する方が戸をたたいています。「わが妹、わが愛する者よ。私の鳩よ。汚れのないひとよ。戸を開けておくれ。私の頭は露にぬれ、髪の毛も夜のしずくでぬれているので。」
- 3 私は衣を脱いでしまいました。どうして、また着られるでしょう。足も洗ってしまいました。どうして、また汚せるでしょう。
- 4 私の愛する方が、戸の穴あたりに手を差し入れ、私の胸は、あの方のゆえにときめきました。
- 5 私は起きて、私の愛する方のために戸を開けようとしてしました。私の手から没薬が滴り、私の指から没薬の液が かんぬきの取っ手に流れ落ちました。
- 6 愛する方のために戸を開けると、愛する方は、背を向けて去って行きました。私は、あの方のことで気を失うばかりでした。あの方を捜しても、見つけることができませんでした。あの方を呼んでも、あの方は答えられませんでした。
- 7 町を巡回している夜回りたちが私を見つけて、私を打ち、傷つけました。城壁を守る者たちも、私のかぶり物をはぎ取りました。
- 8 エルサレムの娘たち。あなたがたにお願いします。私の愛する方を見つけたら、あの方に言ってください。私は愛に病んでいる、と。
- 9 あなたの愛する方は、ほかの親しい者たちより 何がまさっているのですか。女の中で最も美しいひとよ。あなたの愛する方は、ほかの親しい者たちより 何がまさっているのですか。あなたがそのように私たちに切に願うとは。
- 10 私の愛する方は、輝いて赤く、万人に抜きん出ています。
- 11 その頭は純金。髪はなつめ椰子の枝で、烏のように黒く、
- 12 目は乳で洗われ、池のほとりに住む、水の流れのそばの鳩のよう。
- 13 頬は香料の花壇のようで、良い香りを放つ。唇はゆりの花。没薬の液を滴らせる。
- 14 腕は金の棒で タルシシュの宝石がはめ込まれ、からだは象牙の細工で サファイアでおおわれている。
- 15 足は大理石の柱で、純金の台座に据えられている。その姿はレバノンのよう。その杉の木のようにすばらしい。
- 16 その口は甘美そのもの。あの方のすべてがいとしい。これが私の愛する方、これが私の恋人です。エルサレムの娘たちよ。

第6章

- 1 あなたの愛する方はどこへ行かれたのでしょうか。女の中で最も美しいひとよ。あなたの愛する方はどこへ向かわれたのでしょうか。 私たちも、あなたと一緒に捜しましょう。
- 2 私の愛する方は、自分の庭へ、香料の花壇へ下って行かれました。園の中で群れを飼うために、ゆりの花を摘むために。
- 3 私は、私の愛する方のもの。私の愛する方は私のもの。あの方はゆりの花の間で群れを飼っています。
- 4 わが愛する者よ。あなたはティルツァのように美しい。あなたはエルサレムのように愛らしい。だが、旗を掲げた軍勢のように恐れられる。
- 5 あなたの目を私からそらしておくれ。それが私を引きつける。あなたの髪は、ギルアデから下って来る やぎの群れのような。
- 6 歯は、洗い場から上って来た 雌羊の群れのような。それはみな双子で、一方を失ったものはそれらの中にはいない。
- 7 頬はベールの向こうで、ざくろの片割れのような。
- 8 王妃は六十人、側女は八十人、おとめたちは数知れない。
- 9 汚れのないひと、私の鳩はただ一人。彼女は、母にはひとり子、産んだ者にはまばゆい存在。娘たちは彼女を見て、幸いだと言い、王妃たち、側女たちも見て、彼女をほめた。
- 10 「このひとはだれでしょう。暁のように見下ろし、月のように美しく、太陽のように明るく、旗を掲げた軍勢のように恐ろしい。」
- 11 私はくるみの木の庭へ下って行きました。谷の新緑を見るために。ぶどうの木が芽を出したか、ざくろの花が咲いたかを見るために。
- 12 気づいたら、私は民の高貴な人の車に乗せられていました。
- 13 帰りなさい、帰りなさい。シュラムの女よ。帰りなさい、帰りなさい。私たちがあなたを見ることができるように。 どうしてあなたがたはシュラムの女を見るのか。二つの陣の舞のように。

第7章

- 1 なんと美しいことか。高貴な人の娘よ、サンダルをはいたあなたの足は。あなたのものの丸みは飾りのようで、名人の手のわざだ。
- 2 ほぞは丸い杯。混ぜ合わせたぶどう酒は尽きない。腹は小麦色の山。ゆりの花で囲まれている。
- 3 二つの乳房は、二匹の子鹿、双子のかもしかのようだ。
- 4 首は象牙のやぐらのようで、目は、バテ・ラビムの門のそばのヘシュボンの池。鼻は、ダマスコの方を見張るレバノンのやぐらのようだ。
- 5 頭はカルメル山のようにそびえ、髪の毛は紫の羊毛のよう。王はそのふさふさした髪の毛のとりこになった。
- 6 ああ、人を喜ばせる愛よ。あなたはなんと美しく、麗しいことよ。
- 7 あなたの背たけはなつめ椰子の木のように、乳房はその実の房のようだ。
- 8 私は言った。「なつめ椰子の木に登り、その枝をつかみたい。あなたの乳房はぶどうの房のようであれ。息の香りはりんごのようであれ。
- 9 あなたの口は最良のぶどう酒のようであれ。」そのぶどう酒は、私の愛する方に滑らかに流れ、眠っている者たちの唇に流れる。
- 10 私は、私の愛する方のもの。あの方は私を恋い慕う。
- 11 さあ、私の愛する方よ。私たちは野に出て行って、村で夜を過ごしましょう。
- 12 私たちは朝早くからぶどう畑に行き、ぶどうの木が芽を出したか、ぶどうの木が花を咲かせたか、ざくろの花が咲いたかどうかを見ましょう。そこで私は、私の愛をあなたにささげます。
- 13 恋なすびは香りを放ち、私たちの門のそばには、すべての最上の果物があります。新しいものも、古いものも。私の愛する方よ、これはあなたのために蓄えておいたものです。

第8章

- 1 ああ、もし、あなたが私の母の乳房を吸った 私の兄弟のようであったなら、 私が外であなたに会って あなたに口づけしても、 だれも私を蔑まないでしょうに。
- 2 私はあなたを導いて、 私を育ててくれた私の母の家にお連れして、 香料を混ぜたぶどう酒、ざくろの果汁を あなたに飲ませて差し上げましょう。
- 3 ああ、あの方の左の腕が私の頭の下にあって、 右の腕が私を抱いてくださるとよいのに。
- 4 エルサレムの娘たち。 私はあなたがたにお願いします。 揺り起こしたり、かき立てたりしないでください。 愛がそうしたいと思うときまでは。
- 5 自分の愛する方に寄りかかって、 荒野から上って来る女の人はいだれでしょう。 私はりんごの木の下であなたの目を覚まさせた。 そこは、あなたの母があなたのために 産みの苦しみをした所。 そこは、あなたを産んだ人が産みの苦しみをした所。
- 6 封印のように、私をあなたの胸に、 封印のように、あなたの腕に押印してください。 愛は死のように強く、 ねたみはよみのように激しいからです。 その炎は火の炎、すさまじい炎です。
- 7 大水もその愛を 消すことができません。 奔流もそれを押し流すことができません。 もし、人が愛を得ようとして 自分の財産をことごとく与えたなら、 その人はただの蔑みを受けるだけです。
- 8 私たちの妹は若く、乳房もない。 私たちの妹に縁談のある日には、 彼女のために何をしてあげようか。
- 9 もし彼女が城壁だったら、 その上に銀の胸壁を建ててあげよう。 彼女が戸だったら、 杉の板でおおってあげよう。
- 10 私は城壁、私の乳房はやぐらのよう。 そのために、私はあの方の目には 平安をもたらす者のようになりました。
- 11 ソロモンにはバアル・ハモンにぶどう畑があって、 そのぶどう畑を、守る者たちに任せていた。 それぞれは、そのぶどうの実に代えて 銀千枚を納めることになっていた。
- 12 私が持っているぶどう畑が私の前にある。 ソロモンよ。 あなたには銀千枚、 その実を守る者には銀二百枚。
- 13 庭の中に住む仲間たちは、 あなたの声に耳を傾けている。 私にそれを聞かせておくれ。
- 14 私の愛する方よ、急いでください。 かもしかのように、 若い鹿のようになって、 香料の山々へと。

イザヤ書

Isaiah

第1章

- 1 アモツの子イザヤの幻。これは彼がユダとエルサレムについて、ユダの王ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代に見たものである。
- 2 天よ、聞け。地も耳を傾けよ。主が語られるからだ。「子どもたちはわたしが育てて、大きくした。しかし、彼らはわたしに背いた。
- 3 牛はその飼い主を、ろばは持ち主の飼葉桶を知っている。しかし、イスラエルは知らない。わたしの民は悟らない。」
- 4 わざわいだ。罪深き国、咎重き民、悪を行う者どもの子孫、墮落した子ら。彼らは主を捨て、イスラエルの聖なる方を侮り、背を向けて離れ去った。
- 5 あなたがたは、反抗に反抗を重ねてなおも、どこを打たれようというのか。頭は残すところなく病み、心臓もすべて弱っている。
- 6 足の裏から頭まで 健全なところはなく、傷、打ち傷、生傷。絞り出してももらえず、包んでももらえず、油で和らげてもらえない。
- 7 あなたがたの地は荒れ果て、あなたがたの町々は火で焼かれている。土地は、あなたがたの前で他国人が食い荒らし、他国人に破壊されたように、荒れ果てている。
- 8 しかし、娘シオンは残された。あたかも、ぶどう畑の小屋のように、きゅうり畑の番小屋のように、包囲された町のように。
- 9 もしも、万軍の主が私たちに 生き残りの者をわずかでも残されなかったなら、私たちもソドムのようになり、ゴモラと同じになっていたであろう。
- 10 聞け。ソドムの首領たちよ、主のことばを。耳を傾けよ。ゴモラの民よ、私たちの神のみおしえに。
- 11 「あなたがたの多くのいけにえは、わたしにとって何になるろう。――主は言われる――わたしは、雄羊の全焼のささげ物や、肥えた家畜の脂肪に飽きた。雄牛、子羊、雄やぎの血も喜ばない。
- 12 あなたがたは、わたしに会いに出て来るが、だれが、わたしの庭を踏みつけよと あなたがたに求めたのか。
- 13 もう、むなしいささげ物を携えて来るな。香の煙、それはわたしの忌み嫌うもの。新月の祭り、安息日、会合の召集――わたしは、不義と、きよめの集会に耐えられない。
- 14 あなたがたの新月の祭りや例祭を、わたしの心は憎む。それはわたしの重荷となり、それを担うのに疲れ果てた。
- 15 あなたがたが手を伸べ広げて祈っても、わたしはあなたがたから目をそらす。どんなに祈りを多くしても聞くことはない。あなたがたの手は血まみれだ。
- 16 洗え。身を清めよ。わたしの目の前から、あなたがたの悪い行いを取り除け。悪事を働くのをやめよ。
- 17 善をなすことを習い、公正を求め、虐げる者を正し、みなしごを正しくさばき、やもめを弁護せよ。」

- 18 「さあ、来たれ。論じ合おう。――主は言われる――たとえ、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。たとえ、紅のように赤くても、羊の毛のようになる。
- 19 あなたがたは、もし喜んで聞こうとするなら、この地の良い物を食べることができる。
- 20 しかし、もし拒んで背くなら、剣に食い尽くされる。――主の御口がそう語られる。」
- 21 どうして遊女になったのか、忠実な都が。公正があふれて、義がそこに宿っていたのに。今は人殺しばかりだ。
- 22 おまへの銀は金かすになった。おまへの良い酒も水で薄められている。
- 23 おまへの君主たちは強情者、盗人の仲間。みな賄賂を愛し、報酬を追い求める。みなしごを正しくさばかず、やもめの訴えも彼らには届かない。
- 24 「それゆえ一万軍の主、イスラエルの力強い者である主のことば――ああ、わたしは逆らう者に思いを晴らし、わたしの敵に復讐する。
- 25 わたしは、わが手をおまえに対して向け、おまえの金かすを灰汁のように溶かし、その浮きかすをみな除く。
- 26 こうして、おまえをさばく者たちを以前のように、おまえに助言する者たちを最初のようにする。その後、おまえは正義の町、忠実な都と呼ばれる。」
- 27 シオンは公正によって贖われ、その町の立ち返る者は義によって贖われる。
- 28 背く者と罪人はともに破滅し、主を捨てる者は消え失せる。
- 29 まことに、彼らはあなたがたが慕った櫟の木で恥を見、あなたがたは自ら選んだ園によって屈辱を受ける。
- 30 あなたがたは葉のしおれた櫟の木のように、水のない園のようになるからだ。
- 31 強い者は麻屑に、その行いは火花になり、二つとも燃えさかり、これを消す者はいない。

第2章

- 1 アモツの子イザヤが、ユダとエルサレムについて見たことば。
- 2 終わりの日に、主の家の山は山々の頂に堅く立ち、もろもろの丘より高くそびえ立つ。そこにすべての国々が流れて来る。
- 3 多くの民族が来て言う。「さあ、主の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を私たちに教えてくださる。私たちはその道筋を進もう。」それは、シオンからみおしえが、エルサレムから主のことばが出るからだ。
- 4 主は国々の間をさばき、多くの民族に判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず、もう戦うことを学ばない。
- 5 ヤコブの家よ、さあ、私たちも主の光のうちに歩もう。
- 6 まことに、あなたは、あなたの民、ヤコブの家を捨てられました。彼らはペリシテ人のように 東方からの者、ト者で満ち、異国人の子らであふれています。
- 7 その地は銀や金で満ち、財宝は限りなく、その地は馬で満ち、戦車の数も限りありません。
- 8 その地は偽りの神々で満ち、彼らは自分の手で造った物を、指で造った物を拝んでいます。
- 9 こうして人間はかがめられ、人は低くされます。彼らを赦さないでください。
- 10 岩の間に入り、土の中に身を隠せ。主の恐るべき御顔を、その威光の輝きを避けて。
- 11 その日には、人間の高ぶりの目は低くされ、人々の思い上がりはかがめられ、主おひとりだけが高く上げられる。
- 12 まことに、万軍の主の日は、すべてのおごり高ぶる者、すべての誇る者の上にあり、これを低くする。
- 13 またそれは、高くそびえる レバノンのすべての杉の木と、バシャンのすべての櫟の木、
- 14 すべての高い山々と、すべてのそびえる峰々、
- 15 すべてのそそり立つやぐらと、すべての堅固な城壁、
- 16 タルシシュのすべての船、すべての慕わしい船の上にある。
- 17 その日には、人間の高ぶりはかがめられ、人々の思い上がりは低くされ、主おひとりだけが高く上げられる。
- 18 偽りの神々はことごとく消え失せる。
- 19 主が立ち上がり、地を脅かすとき、人々は主の恐るべき御顔を、その威光の輝きを避けて、岩の洞穴や土の穴に入る。
- 20 その日、人は、自分が拝むために造った 銀の偽りの神々と金の偽りの神々を、もぐらや、こうもりに投げやる。
- 21 主が立ち上がり、地を脅かすとき、人々は、主の恐るべき御顔を、その威光の輝きを避けて、岩の割れ目や、巖の裂け目に入る。
- 22 人間に頼るな。鼻で息をする者に。そんな者に、何の値打ちがあるか。

第3章

- 1 まことに、見よ、万軍の主、主はエルサレムとユダから、支えと頼みになるものを除かれる。すべての頼みのパン、すべての頼みの水、
- 2 勇士と戦士、さばき人と預言者、占い師と長老、
- 3 五十人隊の長と身分の高い者、助言者と賢い細工人、巧みにまじないをかける者を。
- 4 「わたしは、若い者たちを彼らの君主とし、気まぐれ者に彼らを治めさせる。
- 5 民はそれぞれ仲間同士で虐げ合い、若い者は年寄りに向かって尊大にふるまう。身分の低い者は高い者に向かって。
- 6 そのとき、人は父の家で自分の兄弟を捕らえてこう言う。『あなたは着る物を持っている。私たちの首領になってくれ。この乱れ果てた有様を、あなたの手で治めてくれ。』
- 7 その日、彼は声を張り上げて言う。『私は傷の手当てをする者にはなれない。家にはパンもなく、着る物もない。私を民の首領にはしないでくれ』と。
- 8 これは、エルサレムがつまずき、ユダが倒れたからであり、彼らの舌と行いが主に背き、主の栄光の現れに逆らったからである。
- 9 彼らの顔つきがそれを表している。彼らは罪をソドムのようにあらわにし、隠そうとしなかった。彼らのたましいはわざわざいだ。悪の報いを受けるのだから。
- 10 正しい人は幸いだ、と言え。その人たちは自分の行いの実を食べる。
- 11 悪しき者、悪人はわざわざいだ。その手の報いは自分自身に降りかかる。
- 12 わが民は、幼子が虐げ、また女たちがこれを治める。わが民よ。あなたの案内人たちは迷わす者。あなたの歩む道をかき乱す。」
- 13 主は論争するために立ち構え、もろもろの民をさばくために立たれる。
- 14 主は、ご自分の民の長老たちや君主たちと、さばきの座に入られる。「あなたがたは、ぶどう畑を荒れすたせた。貧しい者からかすめた物が自分たちの家にある。
- 15 なぜ、あなたがたは、わが民を砕き、貧しい者の顔を白ですりつぶすのか。一万軍の神、主のことは。」
- 16 主は言われた。「シオンの娘たちは高ぶり、首を伸ばし、色目を使って歩き、足に鈴を鳴らしながら小股で歩く。」
- 17 それで、主はシオンの娘たちの頭の頂をかさぶたでおおい、主は彼女たちの額をむき出しにされる。
- 18 その日、主はもろもろの飾りを除かれる。足飾り、髪の大輪飾り、三日月形の飾り物、
- 19 耳輪、腕輪、ベール、
- 20 頭飾り、くるぶしの鎖、飾り帯、香の入れ物、お守り札、
- 21 指輪、鼻輪、
- 22 礼服、外套、羽織物、金入れ、
- 23 手鏡、亜麻布の衣服、ターバン、かぶり物を。

- 24 こうして、芳香は悪臭となり、帯は荒縄、結い上げた髪ははげた頭、豪華な衣装は粗布の腰巻き、その美しさは焼き印となる。
- 25 あなたの男たちは剣に、あなたの勇士たちは戦いに倒れる。
- 26 シオンの門は悲しみ嘆き、さびれ果てて地の上に座す。

第4章

- 1 その日、七人の女が、一人の男にすがりついて言う。「私たちは自分のパンを食べ、自分の服を着ます。私たちがあなたの名で呼ばれるようにして、恥辱を取り去ってください。」
- 2 その日、主の若枝は麗しいものとなり、栄光となる。地の果実はイスラエルの逃れの者にとって、誇りとなり、輝きとなる。
- 3 シオンに残された者、エルサレムに残った者は、聖なる者と呼ばれるようになる。みなエルサレムに生きる者として書き記されている。
- 4 主が、さばきの霊と焼き尽くす霊によって、シオンの娘たちの汚れを洗い落とし、エルサレムの血をその町の中から洗い流すとき、
- 5 主は、シオンの山のすべての場所とその会合の上に、昼には雲を、夜には煙と燃え立つ火の輝きを創造される。それはすべての栄光の上に覆いとなり、
- 6 その仮庵は昼に暑さを避ける陰となり、嵐と雨から逃れる避け所、また隠れ家となる。

第5章

- 1 「さあ、わたしは歌おう。 わが愛する者のために。 そのぶどう畑についての、わが愛の歌を。 わが愛する者は、よく肥えた山腹に ぶどう畑を持っていた。
- 2 彼はそこを掘り起こして、石を除き、 そこに良いぶどうを植え、 その中にやぐらを立て、 その中にぶどうの踏み場まで掘り、 ぶどうがなるのを心待ちにしていた。 ところが、酸いぶどうができてしまった。
- 3 今、エルサレムの住民とユダの人よ、 さあ、わたしとわがぶどう畑との間をさばけ。
- 4 わがぶどう畑になすべきことで、 何かわたしがしなかったことがあるか。 なぜ、ぶどうがなるのを心待ちにしていたのに、 酸いぶどうができたのか。
- 5 さあ、今度はわたしがあなたがたに知らせよう。 わたしが、わがぶどう畑に対してすることを。 わたしはその垣を取り払い、 荒れすたれるに任せ、 その石垣を崩して、 踏みつけられるままにする。
- 6 わたしはこれを滅びるままにしておく。 枝は下ろされず、草は刈られず、 茨やおどろが生い茂る。 わたしは雨雲に命じて、 この上に雨を降らせないようにする。」
- 7 万軍の主のぶどう畑はイスラエルの家。 ユダの人は、主が喜んで植えたもの。 主は公正を望まれた。 しかし見よ、流血。 正義を望まれた。 しかし見よ、悲鳴。
- 8 わざわいだ。 家に家を連ね、 畑に畑を隣り合わせる者たち。 あなたがたは場所を残さず、 自分たちだけこの地に住もうとしている。
- 9 私の耳に万軍の主は告げられた。「必ず、多くの家は荒れすたれ、 大きな美しい家々も住む者がいなくなる。
- 10 十ツエメドのぶどう畑が一バテを産し、 一ホメルの種が一エパを産するからだ。」
- 11 わざわいだ。 朝早くから強い酒を追い求め、 夜が更けるまで、 ぶどう酒に身を委ねる者たち。
- 12 彼らの酒宴には豎琴と琴、 タンバリンと笛とぶどう酒がある。 彼らは主のなさることに目を留めず、 御手のわざを見もしない。
- 13 それゆえ、私の民は 知識がないために捕らえ移される。 その貴族たちは飢えた者となり、 その民衆は渴きで干からびる。
- 14 それゆえ、よみは喉を広げ、 果てしなく口を開ける。 エルサレムの威光も、騒音も、どよめきも、 そこでの歓声も、よみに落ち込む。
- 15 こうして人間はかがめられ、人は低くされる。 高ぶる者の目も低くされる。
- 16 しかし、万軍の主はさばきによって高くなり、 聖なる神は正義によって、自ら聖なることを示される。
- 17 子羊は自分の牧場にいるように草を食べ、 肥えた獣は廃墟にとどまって食をとる。
- 18 わざわいだ。 嘘を綱として咎を引き寄せる者。 車の手綱するように、罪を引き寄せる者たち。
- 19 彼らは言う。「彼のすることを早くさせよ。 急がせよ。それを見てみたい。 イスラエルの聖なる方のご計画が 近づいて、成就すればよい。それを知りたい」と。

- 20 わざわいだ。悪を善、善を悪と言う者たち。彼らは闇を光、光を闇とし、苦みを甘み、甘みを苦みとする。
- 21 わざわいだ。自分を知恵のある者で見なし、自分を悟りのある者と思い込む者たち。
- 22 わざわいだ。酒を飲むことにかけては勇士、強い酒を混ぜ合わせることにかけては豪の者。
- 23 彼らは賄賂のために、悪者を正しいと宣言し、その悪者から正しい者たちの正しさを遠ざける。
- 24 それゆえ、火の舌が刈り株を焼き尽くし、枯れ草が炎の中に溶けゆくように、彼らの根は腐り、その花も、ちりのように舞い上がる。彼らが万軍の主のおしえをないがしろにし、イスラエルの聖なる方のことばを侮ったからだ。
- 25 それゆえ、主の怒りはその民に向かって燃え、これに御手を伸ばして打つ。山々は震え、彼らの屍は、通りで、あくたのようになる。それでも御怒りは収まらず、なおも御手は伸ばされている。
- 26 主は遠く離れた国に旗を揚げ、地の果てから来るように合図される。すると見よ、それは急いで速やかに来る。
- 27 その中には、疲れる者も、つまずく者もない。だれ一人、まどろまず、眠らず、その腰の帯は解かれず、履き物のひもは切れない。
- 28 その矢は研ぎ澄まされ、弓はみな張られ、馬のひづめは火打石のように、その車輪はつむじ風のように見える。
- 29 その吼え方は獅子のよう。若獅子のように吼え、うなり、獲物を捕らえる。奪って行くと、救い出せる者はいない。
- 30 その日、その民は海のとどろきのよう、イスラエルにうなり声をあげる。地を見やると、見よ、闇と苦しみ。光さえ雨雲の中で暗くなる。

第6章

- 1 ウジヤ王が死んだ年に、私は、高く上げられた御座に着いておられる主を見た。その裾は神殿に満ち、
- 2 セラフィムがその上の方に立っていた。彼らにはそれぞれ六つの翼があり、二つで顔をおおい、二つで両足をおおい、二つで飛んでいて、
- 3 互いにこう呼び交わしていた。「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の主。その栄光は全地に満ちる。」
- 4 その叫ぶ者の声のために敷居の基は揺らぎ、宮は煙で満たされた。
- 5 私は言った。「ああ、私は滅んでしまう。この私は唇の汚れた者で、唇の汚れた民の間に住んでいる。しかも、万軍の主である王を この目で見たのだから。」
- 6 すると、私のもとにセラフィムのひとりが飛んで来た。その手には、祭壇の上から火ばさみで取った、燃えさかる炭があった。
- 7 彼は、私の口にそれを触れさせて言った。「見よ。これがあなたの唇に触れたので、あなたの咎は取り除かれ、あなたの罪も赦された。」
- 8 私は主が言われる声を聞いた。「だれを、わたしは遣わそう。だれが、われわれのために行くだろうか。」私は言った。「ここに私がおります。私を遣わしてください。」
- 9 すると主は言われた。「行って、この民に告げよ。『聞き続けよ。だが悟るな。見続けよ。だが知るな』と。
- 10 この民の心を肥え鈍らせ、その耳を遠くし、その目を固く閉ざせ。彼らがその目で見ること、耳で聞くことも、心で悟ることも、立ち返って癒やされることもないように。」
- 11 私が「主よ、いつまでですか」と言うと、主は言われた。「町々が荒れ果てて住む者がなく、家々にも人がいなくなり、土地も荒れ果てて荒地となる。
- 12 主が人を遠くに移し、この地に見捨てられた場所が増えるまで。
- 13 そこには、なお十分の一が残るが、それさえも焼き払われる。しかし、切り倒されたテレビンや榎の木のように、それらの間に切り株が残る。この切り株こそ、聖なる裔。」

第7章

- 1 ウジヤの子のヨタムの子、ユダの王アハズの時代、アラムの王レツィンと、イスラエルの王レマルヤの子ベカが、戦いのためにエルサレムに上って来たが、これを攻めきれなかった時のことである。
- 2 ダビデの家に「アラムがエフライムと組んだ」という知らせがもたらされた。王の心も民の心も、林の木々が風に揺らぐように揺らいだ。
- 3 そのとき、主はイザヤに言われた。「あなたと、あなたの子シェアル・ヤシュブは、上の池の水道の端、布さらしの野への大路に出向いて行ってアハズに会い、
- 4 彼に言え。『気確かに持ち、落ち着いていなさい。恐れてはならない。あなたは、これら二つの煙る木切れの燃えさし、アラムのレツィンとレマルヤの子の燃える怒りに、心を弱らせてはならない。
- 5 アラムは、エフライムすなわちレマルヤの子とともに、あなたに対して悪事を企てて、
- 6 「われわれはユダに上ってこれを脅かし、これに攻め入ってわがものとし、タベアルの子をその王にしよう」と言っているが、
- 7 神である主はこう言われる。それは起こらない。それはあり得ない。
- 8 アラムのかしらはダマスコ、そのダマスコのかしらがレツィンだから。—エフライムは六十五年のうちに、打ちのめされて、一つの民ではなくなる—
- 9 エフライムのかしらはサマリア、そのサマリアのかしらがレマルヤの子だから。あなたがたは、信じなければ 堅く立つことはできない。』」
- 10 主はさらにアハズに告げられた。
- 11 「あなたの神、主に、しるしを求めよ。よみの深みにでも、天の高みにでも。」
- 12 アハズは言った。「私は求めません。主を試みません。」
- 13 イザヤは言った。「さあ、聞け、ダビデの家よ。あなたがたは人々を煩わすことで足りず、私の神までも煩わすのか。
- 14 それゆえ、主は自ら、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ。
- 15 この子は、悪を退けて善を選ぶことを知るところまで、凝乳と蜂蜜を食べる。
- 16 それは、その子が悪を退けて善を選ぶことを知る前に、あなたが恐怖を抱いている二人の王の土地が見捨てられるからだ。
- 17 主は、あなたとあなたの民とあなたの父の家に、エフライムがユダから離れた日以来、まだ臨んだこともない日々をもたらず。それはアッシリアの王だ。」
- 18 その日になると、主はエジプトの幾筋もの川の果てにいるあの蠅、アッシリアの地にいるあの蜂に合図される。
- 19 すると彼らはみなやって来て、険しい谷、岩の割れ目、あらゆる茨の茂み、あらゆる水飲み場に巣くう。
- 20 その日、主は大河の向こうで雇ったかみそり、アッシリアの王を使って 頭と足の毛を剃り、ひげまでも剃り落とす。

- 21 その日になると、一人の人が 雌の子牛一頭と羊二匹を生かしておく。
- 22 これらが乳を多く出すので、彼は凝乳を食べるようになる。この地に残されたすべての者が凝乳と蜂蜜を食べるようになる。
- 23 その日になると、銀千枚に値する、ぶどう千株のある地所もみな、茨とおどろのものとなる。
- 24 全土が茨とおどろになるので、人は弓矢を持って、そこに行く。
- 25 鋤で耕されたすべての山にも、あなたは茨とおどろを恐れて、行かない。そこは牛が放たれて、羊の踏み歩く場所となる。

第8章

- 1 主は私に言われた。「一つの大きな板を取り、その上に普通の文字で、『マヘル・シャルル・ハシュ・バズのため』と書け。
- 2 そうすれば、わたしは祭司ウリヤとエベレクヤの子ゼカリヤに、わたしの確かな証人として証言させる。」
- 3 それから私は女預言者に近づいた。彼女は身ごもって男の子を産んだ。すると、主は私に言われた。「その名をマヘル・シャルル・ハシュ・バズと名づけよ。
- 4 それは、この子が『お父さん。お母さん』と呼ぶことを知る前に、ダマスコの財宝とサマリアの分捕り物が、アッシリアの王の前に持ち去られて行くからである。」
- 5 主はさらに、続けて私に言われた。
- 6 「この民は、ゆるやかに流れるシロアハの水を拒み、レツインとレマルヤの子を喜んでい
- 7 る。それゆえ、見よ。主は、強く水の豊かなあの大河の水、アッシリアの王とそのすべての栄光を 彼らの上にあふれさせる。それはすべての運河にあふれ、すべての堤を越え、
- 8 ユダに勢いよく流れ込み、あふれみなぎって 首にまで達する。その広げた翼は、インマヌエルよ、あなたの地をおおい尽くす。」
- 9 諸国の民よ、打ち砕かれよ。遠く離れたすべての国々よ、耳を傾けよ。腰に帯をして、わななけ。腰に帯をして、わななけ。
- 10 はかりごとをめぐらせ。しかしそれは破られる。事を謀れ。しかしそれは成らない。神が 私たちとともにおられるからだ。
- 11 まことに、主は強い御手をもって私を捕らえ、この民の道に歩まないよう、私を戒めてこ
- 12 う言われた。「あなたがたは、この民が謀反と呼ぶことを 何一つ謀反と呼ぶな。この民が恐れるものを 恐れてはならない。おびえてはならない。
- 13 万軍の主、主を聖なる者とせよ。主こそ、あなたがたの恐れ。主こそ、あなたがたのおの
- 14 のき。そうすれば、主が聖所となる。しかし、イスラエルの二つの家にとっては 妨げの石、つま
- 15 ずきの岩となり、エルサレムの住民には 罾となり、落とし穴となる。
- 16 多くの者がそれにつまずき、倒れて打ち砕かれ、罾にかかって捕らえられる。
- 17 この証しの書を束ねよ。このおしえを わたしの弟子たちのうちで封印せよ。」
- 18 私は主を待ち望む。ヤコブの家から御顔を隠しておられる方を。私はこの方に望みを置
- 19 く。見よ。私と、主が私に下さった子たちは、シオンの山に住む万軍の主からの イスラエルで
- 20 のしるしとなり、また不思議となっている。
- 21 人々があなたがたに「霊媒や、ささやき、うめく口寄せに尋ねよ」と言っても、民は自分
- 22 の神に尋ねるべきではないのか。生きている者のために、死人に尋ねなければならないの
- 23 か。

- 20** ただ、みおしえと証しに尋ねなければならない。もし、このことばにしたがって語らないなら、その人に夜明けはない。
- 21** その人は迫害され、飢えて国を歩き回り、飢えて怒りに身を委ねる。顔を上に向け、自分の王と神を呪う。
- 22** 彼が地を見ると、見よ、苦難と暗闇、苦悩の闇、暗黒、追放された者。

第9章

- 1 しかし、苦しみがあったところに闇がなくなる。先にはゼブルンの地と ナフタリの地は辱めを受けたが、後には海沿いの道、ヨルダンの川向こう、異邦の民のガリラヤは榮譽を受ける。
- 2 闇の中を歩んでいた民は 大きな光を見る。死の陰の地に住んでいた者たちの上に 光が輝く。
- 3 あなたはその国民を増やし、その喜びを増し加えられる。彼らは、刈り入れ時に喜ぶように、分捕り物を分けるときに楽しむように、あなたの御前で喜ぶ。
- 4 あなたが、彼が負うくびきと 肩の杖、彼を追い立てる者のむちを、ミディアンの日になされたように 打ち碎かれるからだ。
- 5 まことに、戦場で履いたすべての履き物、血にまみれた衣服は焼かれて、火の餌食となる。
- 6 ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。
- 7 その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に就いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これを支える。今よりとこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。
- 8 主はヤコブに一つのことばを送られる。それはイスラエルに下る。
- 9 この民、エフライムとサマリアに住む者たちは みなそれを知り、高ぶり、思い上がって言う。
- 10 「れんがが落ちたから、切り石で建て直そう。いちじく桑の木が切り倒されたから、杉の木でこれに代えよう。」
- 11 そこで主は レツィンに敵対する者たちをのし上がらせ、その敵たちをあおりたてる。
- 12 東からはアラムが、西からはペリシテ人が、その口いっぱいイスラエルを食らう。それでも御怒りは収まらず、なおも御手は伸ばされている。
- 13 しかし、この民は自分を打った方に帰らず、万軍の主を求めない。
- 14 そこで主はイスラエルから、かしらも尾も、なつめ椰子の葉も葦も 一日のうちに断ち切られる。
- 15 そのかしらとは長老や身分の高い者。その尾とは偽りを教える預言者。
- 16 この民を導く者は迷わす者となり、彼らに導かれる者は惑わされる者となる。
- 17 それゆえ、主はその若い男たちを喜ばず、そのみなしごも、やもめも、あわれまない。皆が神を敬わず、悪を行い、すべての口が愚かなことを語っているからだ。それでも御怒りは収まらず、なおも御手は伸ばされている。
- 18 まことに、悪は火のように燃えさかり、茨とおどろをなめ尽くし、林の茂みに燃えついて、煙となって巻き上がる。

- 19** 万軍の主の激しい怒りによって地は焼かれ、民は火の餌食のようになり、だれも互いにいたわり合わない。
- 20** 右にかぶりついても、なお飢え、左に食らいついても、満たされず、それぞれ自分の腕の肉を食らう。
- 21** マナセはエフライムを、エフライムはマナセを、そして彼らはともにユダを敵とする。それでも御怒りは収まらず、なおも御手は伸ばされている。

第10章

- 1 わざわいだ。不義の掟を制定する者、不当な判決を書いている者たち。
- 2 彼らは弱い者の訴えを退け、私の民のうちの貧しい者の権利をかすめる。こうして、やもめは彼らの餌食となり、みなしごたちは奪い取られる。
- 3 訪れの日、遠くから嵐が来るときに、あなたがたはどうするのか。だれに助けを求めて逃げ、どこに自分の栄光を残すのか。
- 4 ただ、捕らわれ人の足もとに膝をつき、殺された者たちのそばに倒れるだけだ。それでも御怒りは収まらず、なおも御手は伸ばされている。
- 5 「ああ、アッシリア、わたしの怒りのむち。わたしの憤りの杖は彼らの手にある。
- 6 わたしは、これを神を敬わない国に送り、わたしが激しく怒る民を襲えと、これに命じる。物を分捕らせ、獲物を奪わせ、道端の泥のように、これを踏みにじらせる。
- 7 しかし、彼自身はそうとは思わず、彼の心もそうは考えない。彼の心にあるのは滅ぼすこと、少なからぬ国々を絶ち滅ぼすことだ。
- 8 というのは、彼がこう思っているからだ。『私の高官たちはみな王ではないか。
- 9 カルノもカルケミシュのよう、ハマテもアルパデのようではないか。サマリアもダマスコのようではないか。
- 10 エルサレム、サマリアにまさる刻んだ像を持つ、偽りの神々の王国を私が手に入れたように、
- 11 私はサマリアとその偽りの神々にしたように、エルサレムとその多くの偶像にも同じようにしないだろうか』と。」
- 12 主はシオンの山、エルサレムで、ご自分のすべてのわざを成し遂げるとき、アッシリアの王の思い上がった心の果実、その高ぶる目の輝きを罰せられる。
- 13 それは彼がこう言ったからである。「私は自分の手の力でやった。私の知恵でやった。私は賢いからだ。私が諸国の民の境を取り払い、彼らの蓄えを奪い、全能者のように住民をおとしめた。
- 14 私の手は、諸国の民の財宝を巢のようにつかみ、私は、見捨てられた卵を集めるように地のすべてのものを集めたが、翼をはためかす者も、口を大きく開ける者も、鳴く者もいなかった。」
- 15 斧は、それを使って切る人に向かって高ぶることができるだろうか。のこぎりは、それをひく人に向かっておごることができるだろうか。それは、むちが、それを振り上げる人を動かし、杖が、木ではない人間を持ち上げるようなものではないか。
- 16 それゆえ、万軍の主、主はその最も肥え太った者たちをやつれさせ、その栄光のもとで、炎が燃え上がる。
- 17 イスラエルの光は火となり、その聖なる方は炎となる。燃え上がって、そのおどろと茨を一日のうちになめ尽くす。
- 18 主はその美しい林も果樹園も、また、たましいも、からだも滅ぼし尽くし、それは病人が痩せ衰えるときのようになる。

- 19 その林の木の残りは数えるほどになり、子どもでもそれらを書き留められる。
- 20 その日になると、イスラエルの残りの者、ヤコブの家の逃れの者は、もう二度と自分を打つ者に頼らず、イスラエルの聖なる方、主に真実をもって頼る。
- 21 残りの者、ヤコブの残りの者は、力ある神に立ち返る。
- 22 たとえ、あなたの民イスラエルが海の砂のようであっても、その中の残りの者だけが帰って来る。壊滅は定められ、義があふれようとしている。
- 23 すでに定められた全滅を、万軍の神、主は、全地のただ中で起こそうとしておられる。
- 24 それゆえ、万軍の神、主はこう言われる。「シオンに住むわたしの民よ、アッシリアを恐れるな。彼がむちであなたを打ち、エジプトがしたように杖をあなたに振り上げても。
- 25 もうほんの少しでわたしの憤りは終わり、わたしの怒りは彼らを滅ぼしてしまうから。
- 26 オレブの岩でミディアンを打ったときのように、万軍の主が彼にむちを振り上げる。杖を海にかざして、エジプトにしたようにそれを上げる。
- 27 その日になると、彼の重荷はあなたの肩から、彼のくびきはあなたの首から除かれる。くびきは脂肪のゆえに外される。」
- 28 彼はアヤテに着き、ミグロンを過ぎ、ミクマスに荷を置く。
- 29 彼らは峠を過ぎ、ゲバで野営する。ラマはおののき、サウルのギブアは逃げる。
- 30 娘ガリムよ、甲高く叫べ。よく聞け、ライシャよ。哀れなアナトテ。
- 31 マデメナは逃げ去り、ゲビムの住民は避難する。
- 32 その日のうちに彼はノブで立ちとどまり、娘シオンの山、エルサレムの丘に向かって手を振り上げる。
- 33 見よ、万軍の主、主が恐ろしい勢いで枝を切り払われる。丈の高いものは切り倒され、そびえたものは低くなる。
- 34 主は林の茂みを鉄の斧で切り倒し、レバノンに力強い方によって倒される。

第11章

- 1 エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。
- 2 その上に主の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、思慮と力の霊、主を恐れる、知識の霊である。
- 3 この方は主を恐れることを喜びとし、その目の見るところによってさばかず、その耳の聞くところによって判決を下さず、
- 4 正義をもって弱い者をさばき、公正をもって地の貧しい者のために判決を下す。口のむちで地を打ち、唇の息で悪しき者を殺す。
- 5 正義がその腰の帯となり、真実がその胸の帯となる。
- 6 狼は子羊とともに宿り、豹は子やぎとともに伏し、子牛、若獅子、肥えた家畜がともにいて、小さな子どもがこれを追って行く。
- 7 雌牛と熊は草をはみ、その子たちはともに伏し、獅子も牛のように藁を食う。
- 8 乳飲み子はコブラの穴の上で戯れ、乳離れした子は、まむしの巣に手を伸ばす。
- 9 わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、滅ぼさない。主を知ることが、海をおおう水のように地に満ちるからである。
- 10 その日になると、エッサイの根はもろもろの民の旗として立ち、国々は彼を求め、彼のとどまるところは栄光に輝く。
- 11 その日、主は再び御手を伸ばし、ご自分の民の残りの者を買い取られる。彼らは、アッシリア、エジプト、パテロス、クシュ、エラム、シンアル、ハマテ、海の島々に残っている者たちである。
- 12 主は国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を取り集め、ユダの追い散らされた者を地の四隅から集められる。
- 13 エフライムのねたみは去り、ユダに敵する者は断ち切られる。エフライムはユダをねたまず、ユダもエフライムを敵としない。
- 14 彼らは西の方、ペリシテ人の肩に飛びかかり、ともに東の子らからかすめ奪う。彼らはエドムとモアブにも手を伸ばし、アンモン人も彼らに従う。
- 15 主はエジプトの海の入江を干上がらせ、また、その焼けつく風の中で御手をその川に向かって振り動かし、それを打って七つの水無し川とし、履き物のままで歩けるようにする。
- 16 残されている御民の残りの者のためにアッシリアから大路が備えられる。イスラエルがエジプトの地から上って来た日に、イスラエルのために備えられたように。

第12章

- 1 その日、あなたは言う。「主よ、感謝します。あなたは私に怒られたのに、あなたの怒りは去り、私を慰めてくださったからです。」
- 2 見よ、神は私の救い。私は信頼して恐れない。ヤハ、主は私の力、私のほめ歌。私のために救いとなられた。
- 3 あなたがたは喜びながら水を汲む。救いの泉から。
- 4 その日、あなたがたは言う。「主に感謝せよ。その御名を呼び求めよ。そのみわざを、もろもろの民の中に知らせよ。御名があがめられていることを語り告げよ。
- 5 主をほめ歌え。主はすばらしいことをされた。これを全地に知らせよ。
- 6 シオンに住む者よ。大声をあげて喜び歌え。イスラエルの聖なる方は、あなたの中におられる大いなる方。」

第13章

- 1 バビロンについての宣告。これはアモツの子イザヤが見たものである。
- 2 「はげ山の上に旗を掲げ、彼らに向かって声をあげ、手を振って、彼らを貴族の門に入らせよ。
- 3 わたしは、わたしに聖別された者たちに命じ、また、わが怒りを晴らす勇士たち、わが威光に歓喜する者たちを呼び集めた。」
- 4 おびたしい民にも似た、山々のとどろく音、集まって来る国々、王国のどよめく音がする。万軍の主が軍隊を召集しておられるのだ。
- 5 彼らは遠い地から、天の果てからやって来る。全世界を滅ぼすための、主とその憤りの器だ。
- 6 泣き叫べ。主の日は近い。それは全能者からの破壊としてやって来る。
- 7 それゆえ、すべての者は氣力を失い、すべての人の心は萎える。
- 8 彼らはおじ惑い、子を産む女が身もだえするように、苦しみと激しい痛みが彼らを襲う。彼らは炎のような顔で互いに驚く。
- 9 「見よ、主の日が来る。憤りと燃える怒りの、残酷な日だ。地は荒廃に帰し、主は罪人どもをそこから根絶やしにする。
- 10 天の星、天のオリオン座は その光を放たず、太陽は日の出から暗く、月もその光を放たない。
- 11 わたしは、世界をその悪のゆえに罰し、悪しき者をその咎のゆえに罰する。不遜な者の誇りをくじき、横暴な者の高ぶりを低くする。
- 12 わたしは人を純金よりも、人間をオフィルの金よりも尊くする。
- 13 それゆえ、わたしは天を震わせる。大地はその基から揺れ動く。万軍の主の憤りによって、その燃える怒りの日に。
- 14 追い立てられた、かもしかのように、集める者のいない羊の群れのようになって、彼らはそれぞれ自分の民の方に向かい、それぞれ自分の地へ逃げ去る。
- 15 見つけられた者は、みな刺し殺され、連れて行かれた者は、みな剣に倒れる。
- 16 彼らの幼子たちは目の前で八つ裂きにされ、家は略奪され、妻は犯される。
- 17 見よ、わたしは彼らに対してメディア人を奮い立たせる。彼らは銀をものともせず、金さえ喜ばず、
- 18 その弓は若者たちを撃ち倒す。彼らは胎の実さえあわれまず、子どもたちにさえあわれみをかけない。
- 19 こうして、諸王国の誉れ、カルデア人の輝かしい誇りであるバビロンは、神がソドム、ゴモラを滅ぼしたときのようなになる。
- 20 そこには永久に住む者もなく、代々にわたり、住みつく者もない。アラビア人もそこには天幕を張らず、牧者たちもそこに群れを伏させない。
- 21 そこには荒野の獣が伏し、彼らの家々には、みみずくがあふれる。そこには、だちょうも住み、雄やぎがそこで飛び跳ねる。

- 22 山犬はその砦で、ジャッカルは豪華な宮殿でほえ交わす。その時が来るのは近く、その日はもう延ばされることはない。」

第14章

- 1 まことに、主はヤコブをあわれみ、再びイスラエルを選んで、彼らを自分たちの土地に憩わせる。寄留者も彼らに連なり、ヤコブの家に加わる。
- 2 諸国の民は彼らを迎え、彼らのところに導き入れる。イスラエルの家は主の土地で、その寄留者を男奴隷、女奴隷として所有し、自分たちを捕らえた者を捕らわれ人にし、自分たちを追い立てた者を支配するようになる。
- 3 主が、あなたの痛み、あなたへの激しい怒りを除き、あなたに負わせた過酷な労役を解いて、あなたを憩わせる日に、
- 4 あなたはバビロンの王について、このような嘲りの歌を歌って言う。「虐げる者はどのようにして果てたのか。横暴はどのようにして終わったのか。
- 5 主が悪しき者の杖を、支配者の笏を折られたのだ。
- 6 彼は激怒して諸国の民を討ち、絶え間なく彼らを討ち、怒って国々を容赦なく虐げて支配したものだったが。
- 7 全地は安らかに憩い、喜びの歌声をあげる。
- 8 もみの木もレバノンの杉も、おまえのことを喜ぶ。『おまえが倒れ伏したときから、もう私たちを切り倒す者は上って来ない。』
- 9 よみは、下界で おまえが来るのを迎えようとざわめき、死者の霊たち、地のすべての指導者たちを揺り起こし、国々のすべての王を その王座から立ち上がらせる。
- 10 彼らはみな、おまえに告げる。『おまえもまた、私たちのように弱くされ、私たちに似た者になった。』
- 11 おまえの誇り、おまえの琴の音はよみに落とされ、おまえの下には、うじ虫が敷かれ、虫けらがおまえの覆いとなる。
- 12 明けの明星、暁の子よ。どうしておまえは天から落ちたのか。国々を打ち破った者よ。どうしておまえは地に切り倒されたのか。
- 13 おまえは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山で座に着こう。
- 14 密雲の頂に上り、いと高き方のようになろう。』
- 15 だが、おまえはよみに落とされ、穴の底に落とされる。
- 16 おまえを見る者は、おまえを見つめ、おまえについて思いを巡らす。『この者が、地を震えさせ、王国を震え上がらせ、
- 17 世界を荒野のようにし、町々を壊し、捕虜たちを家に帰さなかった者なのか。』
- 18 諸国のすべての王たちはみな、それぞれ自分の墓で、尊ばれて眠っている。
- 19 しかしおまえは、忌み嫌われる枝のように、墓の外に投げ捨てられる。剣で刺し殺された者たちで、おまえはおおわれ、屍のように、墓穴に下る者たちに踏みつけられる。
- 20 おまえは墓の中で彼らとともにすることはない。自分の地を滅ぼし、自分の民を虐殺したからだ。悪を行う者どもの子孫は 永久に、その名を呼ばれることはない。

- 21 彼の子らのために屠り場を備えよ。先祖の咎のためだ。彼らが立って地を占領し、世界の面を町々で満たさないように。」
- 22 「わたしは彼らに向かって立ち上がる。一万軍の主のことば— わたしはバビロンから、その名も、残った者も、子孫も末裔も絶ち滅ぼす。—主のことば—
- 23 わたしはこれを針ねずみの領地、水のある沢とし、滅びのほうきで一掃する。一万軍の主のことば。」
- 24 万軍の主は誓って言われた。「必ず、わたしの考えたとおりに事は成り、わたしの図ったとおりに成就する。
- 25 わたしはアッシリアをわたしの地で打ち破り、わたしの山で踏みつける。アッシリアのくびきは彼らの上から除かれ、その重荷は彼らの肩から除かれる。」
- 26 これが、全地に対して立てられた計画。これが、万国に対して伸ばされた御手。
- 27 万軍の主が計画されたことを、だれがくつがえせるだろうか。御手が伸ばされている。だれがそれを押し戻せるだろうか。
- 28 アハズ王が死んだ年、この宣告があった。
- 29 「喜ぶな、ペリシテの全土よ。おまえを打った杖が折られたからといって。蛇の根からまむしが出て、その実は、飛び回る燃える蛇となるのだから。
- 30 弱い者たちの長子は養われ、貧しい者は安らかに伏す。しかし、わたしはおまえの根を飢えで死なせる。おまえの残りの者は殺される。
- 31 門よ、泣き叫べ。町よ、叫べ。ペリシテの全土は震えおののけ。北から煙が上がり、その編隊から落伍する者がいないからだ。
- 32 異邦の使者たちにどう答えるべきか。『主がシオンの礎を据えられたのだ。主の民の苦しむ者たちは、ここに身を避ける。』」

第15章

- 1 モアブについての宣告。「ああ、一夜のうちにアルは荒らされ、モアブは滅び失せる。ああ、一夜のうちにキルは荒らされ、モアブは滅び失せる。
- 2 モアブは宮に、ディボンは高き所に、泣くために上る。ネボとメデバのことでモアブは泣き叫ぶ。頭をみな剃り落とし、ひげもみな切り落として。
- 3 その通りでは、腰に粗布をまとい、その屋上や広場では、みな涙を流して泣き叫ぶ。
- 4 ヘシュボンとエルアレは叫び、その叫び声がヤハツまで聞こえる。それゆえ、モアブの武装した者たちはわめく。そのたましいはわななく。
- 5 わたしの心はモアブのために叫ぶ。逃げ延びる者たちはツォアルまで、エグラテ・シェリシヤまで逃れる。ああ、彼らはルヒテの坂を泣きながら登り、ホロナイムへの道で破滅の叫びをあげる。
- 6 ああ、ニムリムの水は荒廃した地となり、草は枯れ、若草も尽き果てて、緑もなくなる。
- 7 それゆえ彼らは、残っていた物や蓄えていた物を、アラビム川を越えて運んで行く。
- 8 ああ、叫び声がモアブの領土に響き渡り、その泣き声がエグライムまで、その泣き声がベエル・エリムまで届く。
- 9 ああ、ディモンの水は血で満ちる。わたしはさらに、ディモンにわざわざをもたらす。モアブの逃れた者、その土地に残った者に、一頭の獅子を。」

第16章

- 1 「おまえたちは、子羊をこの国の支配者に送れ。セラから荒野を経て、娘シオンの山に。
- 2 モアブの娘たちはアルノンの渡し場で、巢から放り出されて、逃げ惑う鳥のようになる。」
- 3 「あなたは、助言を与え、事を決めよ。昼のさなかにも、あなたの影を夜のようにせよ。散らされた者をかくまい、逃れて来る者を渡すな。
- 4 あなたの中にモアブの散らされた者を宿らせ、荒らす者から逃れる者の隠れ家となれ。虐げる者が死んで破壊も終わり、踏みつける者が地から消え失せるとき、
- 5 一つの王座が恵みによって堅く立てられる。ダビデの天幕で真実をもってそこに座すのは、さばきをし、公正を求め、速やかに義を行う者。
- 6 われわれはモアブの高ぶりを聞いた。彼は実に高慢だ。その誇りと高ぶりと不遜さ、その自慢話は正しくない。
- 7 それゆえ、モアブはモアブ自身のために泣き叫び、すべての者が泣き叫ぶ。ただ打ちのめされて、キル・ハレセテの干しぶどうの菓子のために嘆く。
- 8 ヘシュボンの畑もシブマのぶどうの木も枯れた。国々の主たちがその房を打ったのだ。その房はヤゼルに達し、荒野を巡り、つるは伸びて海を越えていたのに。
- 9 それゆえ、わたしはヤゼルのために、シブマのぶどうの木のために泣く。ヘシュボンとエルアレよ、わたしはわたしの涙でおまえをぬらす。おまえの夏の果物と収穫を喜ぶ声が絶えてしまったからだ。
- 10 喜びと楽しみは果樹園から取り去られる。ぶどう畑の中で喜び歌うこともなく、大声で叫ぶこともない。踏み場でぶどう踏みをする者も、もう踏まない。わたしが喜びの声を絶えさせたのだ。
- 11 それゆえ、わたしのはらわたはモアブのために、わたしの内臓はキル・ヘレスのために、豎琴のようにわななく。
- 12 モアブが高き所に詣でて、そこで身が疲れ果てるまでのことをしても、その聖所に入って祈っても、何にもならない。」
- 13 これが、以前から主がモアブについて語っておられたことばである。
- 14 今や主は次のように告げられる。「雇い人の年季と同じ三年のうちに、モアブの栄光は、そのおびただしい数の群衆とともに軽んじられ、残った者もしばらくすれば力がなくなる」と。

第17章

- 1 ダマスコについての宣告。「見よ。ダマスコは取り去られて都でなくなり、瓦礫の山となる。
- 2 アロエルの町々は捨てられて家畜の群れのものとなり、群れはそこに伏して、それを脅かす者はいなくなる。
- 3 エフライムは要塞を失い、ダマスコは王国を失う。アラムの残った者はイスラエルの子らの栄光のようになる。一万軍の主のことば。
- 4 その日、ヤコブの栄光は衰え、その肥えた肉は痩せ細る。
- 5 刈り入れ人が立ち穂を集めて、その腕に穂を刈り入れるときのようになる。レファイムの谷で落ち穂を拾うときのように。
- 6 オリーブを打ち落とすときのように、取り残しの実が中に残される。こずえには二つ三つの熟れた実が、実りの多い枝には四つ五つが残される。―イスラエルの神、主のことば。」
- 7 その日、人は自分を造った方に目を留め、その目はイスラエルの聖なる方を見る。
- 8 自分の手で造った祭壇に目を留めず、自分の指で造った物、アシェラ像や香の台は見ない。
- 9 その日、その堅固な町々は、森の中の見捨てられた場所、かつてイスラエル人によって見捨てられた山の頂のようになって、荒れ果てる。
- 10 あなたが救いの神を忘れ、あなたの力の岩を覚えていなかったからだ。それゆえ、あなたが好ましい植木を植え、他国のぶどうのつるをさしても、
- 11 あるいは、あなたが植えた日にそれを生長させ、朝のうちに種を芽生えさせても、病と癒やしがたい痛みの日には、その収穫は消え去る。
- 12 ああ、多くの国々の民のざわめき。彼らは、海のざわめきのようにざわめく。ああ、国民のどよめき。彼らは、激流のどよめきのようにどよめく。
- 13 国民は、大水のどよめきのようにどよめく。しかしそれは、叱りつけると遠くへ逃げる。山の上で風に吹かれる籾殻のように、つむじ風の前でうず巻くちりのように、彼らは吹き飛ばされる。
- 14 夕暮れには、見よ、突然の恐怖。夜明け前に彼らはいなくなる。これこそ、私たちから奪い取る者たちの取り分、私たちをかすめ奪う者たちが受ける割り当て。

第18章

- 1 ああ、羽コオロギの国よ。この国はクシュの幾多の川のかなたにあり、
- 2 パピルスの船を水に浮かべて、海路で使いを送る。すばやい使者よ、行け。背が高く肌の滑らかな国民のところへ。あちこちで恐れられている民のところへ。その国土を多くの川が分けている、力強い、踏みにじる国へ。
- 3 世界のすべての住民よ。地に住むすべての者よ。山々に旗が揚がる時は見よ。角笛が吹き鳴らされるときは聞け。
- 4 主が私にこう言われたからだ。「わたしは静まり、わたしのところから眺める。照りつける日差しの暑さのように、刈り入れ時の暑さの中の雨雲のように。」
- 5 刈り入れの前、花が終わって、花房が熟したぶどうになるとき、人はその枝を鎌で切り、そのつるを取って除き去るからだ。
- 6 それらはみなともに、山々の猛禽や野獣のために投げ捨てられる。猛禽はその上で夏を過ごし、野獣はみな、その上で冬を過ごす。
- 7 そのとき、背が高く肌の滑らかな民、あちこちで恐れられている民、その国土を多くの川が分けている、力強い踏みにじる国民から、万軍の主の名のある場所、シオンの山へ、万軍の主のために贈り物が運ばれて来る。

第19章

- 1 エジプトについての宣告。見よ。主は速い密雲に乗って エジプトに来られる。 エジプトの偽りの神々はその前にわななき、 エジプト人の心も真底から萎える。
- 2 「わたしはエジプト人を駆り立てて、 エジプト人にはむかわせる。 彼らは、兄弟は兄弟と、友人は友人と、 町は町と、王国は王国と争い合う。
- 3 エジプトの霊は其中で衰える。 わたしがその計画をかき乱すと、 彼らは偽りの神々や死霊、 霊媒や口寄せに伺いを立てる。
- 4 わたしはエジプト人を 厳しい主人の手に引き渡す。 力ある王が彼らを治める。 一万軍の主、主のことば。」
- 5 海の水は乾き、 川は干上がり、涸れる。
- 6 多くの運河は臭くなり、 エジプトの川は、 水かさが減って干上がり、 葦や、い草も枯れ果てる。
- 7 ナイル川とその河口の水草も。 その川の種床もみな涸れて、 吹き飛ばされて何も無い。
- 8 漁師たちは悲しみ、 ナイル川で釣りをする者もみな嘆き、 水の上に網を打つ者も打ちしおれる。
- 9 梳いた亜麻を扱う職人や 白布を織る者は恥を見、
- 10 この国の機織人たちは碎かれ、 雇われて働く者はみな心を痛める。
- 11 ツォアンの首長たちは全く愚か者だ。 ファラオの知恵ある助言者たちも 愚かなはかりごとをめぐらす。 どうして、あなたがたはファラオに向かって「私は知恵ある者の子、 昔の王たちの子です」と言えるのか。
- 12 あなたの知恵ある者たちは、 いったいどこにいるのか。 彼らがあなたに告げ、知らせればよい。 万軍の主がエジプトに何を計画されたかを。
- 13 ツォアンの首長たちは愚かになり、 メンフィスの首長たちは惑わされた。 自分の諸族のかしらたちが エジプトをよろめかせたのだ。
- 14 主がエジプトの中に 混乱の霊を吹き入れられたので、 彼らは、そのあらゆる行いによって エジプトをよろめかせる。 まるで酔いどれが吐きながらよろめくように。
- 15 頭も尾も、なつめ椰子の葉も葦も、 エジプト人のために、 なすべきわざがない。
- 16 その日、エジプト人は女のようになり、 万軍の主が自分たちに向かって振り上げる御手の前に、 恐れおののく。
- 17 ユダの地はエジプトにとって恐怖となる。 これを思い出す者はみな、 万軍の主がエジプトに対して図る計画のゆえにおののく。
- 18 その日、エジプトの地には、 カナン語を話し、 万軍の主の誓いを立てる五つの町が起こる。 その一つは、イル・ハ・ヘレスと言われる。
- 19 その日、エジプトの地の真ん中には主のために一つの祭壇が建てられ、 その国境のそばには主のために一つの石の柱が立てられる。
- 20 それはエジプトの地で、 万軍の主のしるしとなり、 証しとなる。 彼らが虐げられて主に叫ぶと、 主は彼らのために戦い、 彼らを救い出す救い主を送られる。

- 21 そのようにして主はエジプト人にご自分を示し、その日、エジプト人は主を知る。そしていけにえとささげ物をもって仕え、主に誓願を立ててこれを果たす。
- 22 主はエジプト人を打ち、打って彼らを癒やされる。彼らが主に立ち返れば、彼らの願いを聞き入れ、彼らを癒やされる。
- 23 その日、エジプトからアッシリアへの大路ができ、アッシリア人はエジプトに、エジプト人はアッシリアに行き、エジプト人はアッシリア人とともに主に仕える。
- 24 その日、イスラエルはエジプトとアッシリアと並ぶ第三のものとなり、大地の真ん中で祝福を受ける。
- 25 万軍の主は祝福して言われる。「わたしの民エジプト、わたしの手で造ったアッシリア、わたしのゆずりの民イスラエルに祝福があるように。」

第20章

- 1 アッシリアの王サルゴンによって派遣されたタルタンが、アシュドデに来て、アシュドデと戦って、これを攻め取った年のこと。
- 2 当時、主はアモツの子イザヤによって、すでにこう語っておられた。「行って、あなたの腰の粗布を解き、あなたの足の履き物を脱げ。」彼はそのようにし、裸になり、裸足で歩いていた。
- 3 主は言われた。「わたしのしもべイザヤが、エジプトとクシュに対するしるし、また前兆として、三年間裸になり、裸足で歩いたように、
- 4 そのように、アッシリアの王はエジプトの捕虜とクシュの捕囚の民を、若い者も年寄りも裸にして、裸足のまま、尻をあらわにして、エジプトの恥をさらしたまま連れて行く。
- 5 人々は、クシュを頼みとし、エジプトを誇りとしていたゆえに、打ちのめされ、また恥を見る。
- 6 その日、この海辺の住民は言う。『見よ。アッシリアの王の前から逃れようと、助けを求めて逃げて来たわれわれの拠り所がこの始末だ。われわれは、どうして助かることができるだろうか』と。」

第21章

- 1 海の荒野についての宣告。ネゲブに吹きまくるつむじ風のように、それは荒野から、恐ろしい地からやって来る。
- 2 厳しい幻が私に示された。裏切る者は裏切り、荒らす者は荒らす。エラムよ、上れ。メディアよ、囲め。すべての嘆きを私は終わらせる。
- 3 それゆえ、戦慄が私の腰に満ち、子を産む時のような苦しみが私をとらえる。私は心乱れて、聞くことができない。恐ろしさのあまり、見ることができない。
- 4 私の心は迷い、戦慄が私を襲った。私が恋い慕ったたそがれも、私をおびえさせるものとなった。
- 5 彼らは食卓を整え、座席を並べて、食べたり飲んだりしている。「立ち上がれ、首長たち。盾に油を塗れ。」
- 6 主は私にこう言われた。「さあ、見張りを立たせ、見たことを告げさせよ。
- 7 戦車や二列に並んだ騎兵、ろばに乗る者やらくだに乗る者を見たなら、よく注意を払わせよ。」
- 8 その人は、獅子のように叫んだ。「主よ。私は昼はいつも見張り場に立ち、夜ごとに自分の物見のやぐらについています。
- 9 見てください。今、戦車や兵士、二列に並んだ騎兵が来ます。彼らは互いに言っています。『倒れた。バビロンは倒れた。その国の神々の、すべての刻んだ像も地に打ち砕かれた』と。」
- 10 踏みにじられた私の民、打ち場の私の子らよ。イスラエルの神、万軍の主から聞いたことを、私はあなたがたに告げたのだ。
- 11 ドマについての宣告。セイルから私に叫ぶ者がある。「夜回りよ、今は夜の何時か。夜回りよ、今は夜の何時か。」
- 12 夜回りは言った。「朝は来る。また夜も来る。尋ねたければ尋ねよ。もう一度、来るがよい。」
- 13 アラビアについての宣告。デダン人の隊商よ、アラビアの林に宿れ。
- 14 テマの地の住民よ、渴いている者を迎えて水をやれ。逃れて来た者にパンを与えよ。
- 15 彼らは剣や抜き身の剣から、張られた弓や激しい戦いから逃れて来たのだから。
- 16 まことに、主は私にこう言われる。「雇い人の年季のように、もう一年でケダルのすべての栄光は尽きる。
- 17 ケダル人の勇士たちで、残る射手は数少なくなる。」まことに、イスラエルの神、主が告げられる。

第22章

- 1 幻の谷についての宣告。これは、いったいどうしたことが。みな屋根に上ったりして。
- 2 喧噪に満ちた騒がしい町、おごった都よ。おまえのうちの殺された者たちは、剣で刺し殺されたのではなく 戦死したのではない。
- 3 おまえの首領たちは、こぞって逃げたが、弓を引かないうちに捕らえられた。おまえのうちの見つけられた者は、遠くへ逃げ去ったが、みな捕らえられた。
- 4 それゆえ、私は言う。「私から目をそらせ。私は激しく泣きたい。私の民、この娘の破滅のことで、無理に私を慰めるな。」
- 5 なぜなら、恐慌と蹂躪と混乱の日が、万軍の神、主から来るからだ。幻の谷には、城壁の崩壊、山に向かっての叫び。
- 6 エラムは矢筒を負い、戦車と兵士と騎兵を引き連れ、キルは盾の覆いを外した。
- 7 おまえの最も美しい平地は戦車で満ち、騎兵は城門に立ち並んだ。
- 8 こうして主はユダの覆いを除かれた。その日、おまえは森の宮殿の武器に目を向けた。
- 9 おまえたちはダビデの町に破れが多いのを見て、下の池の水を集めた。
- 10 また、エルサレムの家々を数え、その家々を取り壊して城壁を補強し、
- 11 二重の城壁の間に貯水池を造って 古い池の水を引いた。しかし、おまえたちは これを造った方には目もくれず、遠い昔にこれを形造った方に 目を留めなかった。
- 12 その日、万軍の神、主は呼びかけられた。「泣いて悲しみ、頭を剃って粗布をまとえ。」
- 13 しかし、なんとおまえたちは浮かれ楽しみ、牛を殺し、羊を屠り、肉を食べ、ぶどう酒を飲んで言っている。「飲めよ。食べよ。どうせ明日は死ぬのだ」と。
- 14 万軍の主は私の耳に宣告された。「この咎は、おまえたちが死ぬまで 決して赦されることはない。」万軍の神、主はそう言われた。
- 15 万軍の神、主はこう言われる。「さあ、宮廷をつかさどる あの執事シェブナのところに行け。
- 16 『あなたは自分のために、ここに墓を掘った。ここはあなたに何の関わりがあるのか。ここはあなたのだれに関わりがあるのか。高いところに自分の墓を掘ったり、岩に自分の住まいを刻んだりして。
- 17 ああ、勇者よ。主はあなたを遠くに投げやる。あなたをわしづかみにし、
- 18 あなたをまりのように丸めて、広々とした地に投げ捨てる。そこであなたは死ぬ。そこであなたの誇る戦車も。あなたの主人の家の恥さらしよ。
- 19 わたしがあなたをその立場から追放する。あなたは自分の地位から引き降ろされる。
- 20 その日、わたしは わたしのしもべ、ヒルキヤの子エルヤキムを召し、
- 21 彼にあなたの長服を着せ、彼にあなたの飾り帯を締め、彼の手あなたの権威を委ねる。彼はエルサレムの住民とユダの家の父となる。
- 22 わたしはまた、彼の肩にダビデの家の鍵を置く。彼が開くと、閉じる者はなく、彼が閉じると、開く者はない。

- 23** わたしは彼を杭として、 確かな場所に打ち込む。 彼はその父の家にとって栄光の座となる。
- 24** 彼の上に、父の家のすべての栄光がかけられる。 子も孫も、 すべての小さい器も、 鉢からすべての壺に至るまで。
- 25** その日一万軍の主のことは― 確かな場所に打ち込まれた杭は抜き取られ、 折られて落ち、 その上にかかっていた荷も取り壊される。 ―主はそう語られた。』』

第23章

- 1 ツロについての宣告。タルシシュの船よ、泣き叫べ。ツロは荒らされて家もなく、そこには入れない。キティムの地から、それは彼らに示される。
- 2 海辺の住民よ、黙れ。海を渡るシドンの商人はおまえを富ませた。
- 3 大海原で、シホルの穀物、ナイルの刈り入れがおまえの収穫となり、おまえは諸国の商いの場となった。
- 4 「シドンよ、恥を見よ」と海が言う。海の砦がこう言っている。「私は産みの苦しみをせず、子を産まず、若い男を育てず、若い女を養ったこともない。」
- 5 このうわさがエジプトに達すると、人々はツロのうわさを聞いて、激しくもだえる。
- 6 海辺の住民よ、タルシシュへ渡って、泣き叫べ。
- 7 これが、おまえたちが誇りとした町なのか。その起こりは古く、人々はその足で遠くに行って 移り住んだのに。
- 8 だれが、王冠を戴くツロに対して これを図ったのか。その商人は君主たちで、その貿易商は地で最も尊ばれていたのに。
- 9 万軍の主がそれを図り、すべての麗しい誇りを汚して、地で最も尊ばれている者をみな卑しめられた。
- 10 娘タルシシュよ、ナイル川のように自分の国にあふれよ。もうこれを制する者はいない。
- 11 主は御手を海の上に伸ばし、王国を震わせた。主はカナンについて命令を下し、その砦を滅ぼし尽くした。
- 12 そして言われた。「もう二度と喜び躍るな。虐げられたおとめ、娘シドンよ、立ってキティムに渡れ。そこでも、おまえは休めない。」
- 13 見よ、カルデア人の地を。この民はもはや存在しない。アッシリア人がこれを 荒野の獣のものとして定めた。彼らは、自分の見張りやぐらを立て、宮殿をかすめて、そこを廃墟とした。
- 14 タルシシュの船よ、泣き叫べ。おまえたちの砦が荒らされたからだ。
- 15 その日になると、ツロは七十年の間忘れられる。一人の王の生涯ほどの期間である。七十年が終わると、ツロは遊女の歌のようになる。
- 16 「豎琴を取り、町を巡れ、忘れられた遊女よ。うまく弾け、もっと歌え。思い出してもらうために。」
- 17 七十年の終わりに、主はツロを顧みられる。彼女は再び遊女の報酬を得て、地のすべての王国と、地の面で淫行を行う。
- 18 その儲け、遊女の報酬は、主の聖なるものとなる。それは蓄えられず、積み立てられない。その儲けは、主の前に住む者たちが食べて満ち足り、上等の衣服を着るためのものとなるからだ。

第24章

- 1 見よ。主は地を荒れ果てさせ、その面をくつがえして、住民を散らされる。
- 2 民は祭司と等しくなり、男奴隷はその主人と、女奴隷はその女主人と、買い手は売り手と、貸し手は借り手と、債権者は債務者と等しくなる。
- 3 地はすっかり荒れ果て、すべてかすめ奪われる。主がこのことばを語られたからである。
- 4 地は嘆き悲しみ、衰える。世界はしおれ、衰える。地の最も高貴な人たちもしおれる。
- 5 地はその住民の下で汚されている。彼らが律法を犯して定めを変え、永遠の契約を破ったからである。
- 6 それゆえ、のろいは地を食い尽くし、その地の住民は罰を受ける。それゆえ、地の住民は減り、わずかな者だけが残される。
- 7 新しいぶどう酒は嘆き悲しみ、ぶどうの木はしおれ、心に喜びのある者もみな、うめく。
- 8 陽気なタンバリンの音はやみ、はしゃぐ者たちの騒ぎも消え、陽気な竖琴の音もやむ。
- 9 歌いながらぶどう酒を飲むこともなく、強い酒も、飲む者には苦い。
- 10 都は壊されて荒れ地となり、すべての家は閉ざされて入れない。
- 11 街には、ぶどう酒はなく、哀れな叫び声がある。すべての喜びは薄れ、地の楽しみは取り去られる。
- 12 その都にはただ荒廃だけが残し、城門は打ち砕かれて荒れ果てる。
- 13 まことに、大地の真ん中で、諸国の民の間で、オリーブを打ち落とすようなことが、ぶどうの収穫の後に 取り残しの実を集めるようなことが起こる。
- 14 彼らは声をあげて喜び歌い、西の方から主の威光をたたえて叫ぶ。
- 15 それゆえ、東の国々で主をあがめよ。西の島々で、イスラエルの神、主の御名を。
- 16 地の果てから、私たちは、「正しい方に誉れあれ」というほめ歌を聞く。しかし私は言った。「私はだめだ、だめだ。ああ、悲しい。裏切り者が裏切った。裏切り者が裏切り、裏切った。」
- 17 地上の住民よ。恐怖と落とし穴と罠があなたに臨む。
- 18 その恐怖の叫びから逃げる者は、その落とし穴に落ち、落とし穴から這い上がる者は、その罠に捕らえられる。天の窓が開かれ、地の基が震えるからだ。
- 19 地は割れに割れ、地は破れに破れ、地は揺れに揺れる。
- 20 地は酔いどれのようによろめき、仮小屋のように揺れ動く。地の背きはその上に重くのしかかり、地は倒れて、再び起き上がれない。
- 21 その日、主は天では天の大軍を、地では地の王たちを罰せられる。
- 22 彼らは、囚人が地下牢に集められるように 集められ、牢獄に閉じ込められ、何年かたった後に罰せられる。
- 23 月は辱めを受け、太陽も恥を見る。万軍の主がシオンの山、エルサレムで王となり、栄光がその長老たちの前にあるからである。

第25章

- 1 主よ、あなたは私の神。私はあなたをあがめ、御名をほめたたえます。あなたは遠い昔からの不思議なご計画を、まことに、真実に成し遂げられました。
- 2 あなたは町を石くれの山とし、城壁のある都を廃墟にされたので、他国人の宮殿は町から失せ、もう永久に建てられることはありません。
- 3 それゆえ、力強い民もあなたをほめたたえ、横暴な国々の都もあなたを恐れます。
- 4 あなたは弱っている者の砦、貧しい者の、苦しみのときの砦、嵐のときの避け所、暑さを避ける陰となられました。横暴な者たちの息は、壁に吹きつける嵐のようです。
- 5 砂漠の日照りのように、あなたは他国人の騒ぎを抑えられます。暑さが濃い雲の陰で鎮まるように、横暴な者たちの歌は鎮められます。
- 6 万軍の主は、この山の上で万民のために、脂の多い肉の宴会、良いぶどう酒の宴会、髓の多い脂身とよくこされたぶどう酒の宴会を開かれる。
- 7 この山の上で、万民の上をおおうべールを、万国の上にかぶさる覆いを取り除き、
- 8 永久に死を呑み込まれる。神である主は、すべての顔から涙をぬぐい取り、全地の上からご自分の民の恥辱を取り除かれる。主がそう語られたのだ。
- 9 その日、人は言う。「見よ。この方こそ、待ち望んでいた私たちの神。私たちを救ってください。この方こそ、私たちが待ち望んでいた主。その御救いを楽しみ喜ぼう。」
- 10 主の手がこの山にとどまるとき、モアブはそこで踏みつけられる。藁が汚水の中で踏みつけられるように。
- 11 泳ぐ人が泳ごうとして手を伸ばすように、モアブはその中で手を伸ばす。しかし主は、その手の巧みさも、その高ぶりも低くされる。
- 12 おまえの要塞、そそり立つ城壁を 主は引き倒して、低くし、地に投げつけて、ちりにまでされる。

第26章

- 1 その日、ユダの地でこの歌が歌われる。 私たちには強い都がある。 神はその城壁と塁で私
たちを救ってくださる。
- 2 城門を開けて、 忠誠を尽くす正しい民を入らせよ。
- 3 志の堅固な者を、 あなたは全き平安のうちに守られます。 その人があなたに信頼している
からです。
- 4 いつまでも主に信頼せよ。 ヤハ、主は、とこしえの岩だから。
- 5 主は高い所、そびえ立つ都に住む者を引き倒し、 その都を低くして、地にまで下らせ、 こ
れを投げつけて、 ちりにまで下らされる。
- 6 足がこれを踏みつける。 苦しむ者の足、弱い者の足の裏が。
- 7 正しい人の行く道は平らです。 あなたは正しい人の道をならし、 平らにされます。
- 8 主よ。 まことに、あなたのさばきの道で 私たちはあなたを待ち望みます。 あなたの御名、
あなたの呼び名は 私のたましいの望みです。
- 9 私のたましいは、夜にあなたを慕います。 まことに、私の内なる霊はあなたを切に求めま
す。 まことに、あなたのさばきが地に行われるとき、 世界の住民は義を学びます。
- 10 悪しき者は、恵みを受けても義を学びません。 公正の地にあっても不正を行い、 主のご威
光を見ようとしません。
- 11 主よ。 あなたの御手が上げられても、 彼らは見ようとしません。 どうか彼らが、この民へ
のあなたの熱心を見て、 恥じますように。 まことに火が、あなたに逆らう者を なめ尽く
しますように。
- 12 主よ。 あなたは 私たちのために平和を備えてくださいます。 まことに、私たちのすべての
わざも、 あなたが私たちのためになさったことです。
- 13 私たちの神、主よ。 あなた以外の多くの君主が私たちを治めました。 私たちはただあなた
だけを、 あなたの御名を呼び求めます。
- 14 彼らは死人であって、生き返りません。 彼らは死者の霊であって、よみがえりません。 そ
れゆえ、あなたは彼らを罰して根絶やしにし、 彼らについての記憶をすべて消し去られま
した。
- 15 主よ。 あなたはこの国民を増し加えられました。 この国民を増し加え、ご自身の栄光を現
し、 この国のすべての境を広げられました。
- 16 主よ。 苦難の時に彼らはあなたを求め、 あなたが懲らしめられたとき、 彼らはうめきの声
をあげました。
- 17 子を産む時が近づいた妊婦が 産みの苦しみで、もだえ叫ぶように、 主よ、私たちは御前で
そのようでした。
- 18 私たちは身ごもり、産みの苦しみをしました。 それはあたかも、風を産むようなものでし
た。 私たちは救いを地にもたらさず、 世界の住民はもう生まれてきません。
- 19 あなたの死人は生き返り、 私の屍は、よみがえります。 覚めよ、喜び歌え。 土のちりの中
にとどまる者よ。 まことに、あなたの露は光の露。 地は死者の霊を生き返らせます。

- 20 さあ、私の民よ。あなたの部屋に入り、うしろの戸を閉じよ。 憤りが過ぎるまで、ほんのしばらく身を隠せ。
- 21 それは、主がまさにご自分のところから出て、地に住む者の咎を罰せられるからだ。地は、その上に流された血をあらわにし、そこで殺された者たちを再びおおうことはない。

第27章

- 1 その日、主は、鋭い大きな強い剣で、逃げ惑う蛇レビヤタンを、曲がりくねる蛇レビヤタンを罰し、海にいる竜を殺される。
- 2 「その日、美しいぶどう畑について歌え。
- 3 わたし、主はそれを見守る者。絶えずこれに水を注ぎ、だれも害を加えないように、夜も昼もこれを見守る。
- 4 わたしにもう憤りはない。もしも、茨とおどろがわたしと戦えば、わたしはそれを踏みつぶし、それをみな焼き払う。
- 5 あるいは、もしわたしという砦に頼りたければ、わたしと和を結ぶがよい。和をわたしと結ぶがよい。
- 6 時が来れば、ヤコブは根を張り、イスラエルは芽を出し、花を咲かせ、世界の面を実で満たす。」
- 7 主は、イスラエルを打った者を打ったように、イスラエルを打たれただろうか。イスラエルを殺した者を殺したように、イスラエルを殺されただろうか。
- 8 あなたは追い立て、追い出し、彼らと争い、東風の日に、激しい息で彼らを吹き払われた。
- 9 それゆえ、次のようにしてヤコブの不義は赦される。祭壇の石をすべて、粉々にされた石灰のようにし、アシェラ像と香の台を二度と立てなくすること、これが、自分の罪を除いて得る実のすべてだ。
- 10 城壁のある町はひとり寂しく、捨て置かれた牧場のようになり、見捨てられて荒野のようになる。そこで子牛が草をはみ、そこに伏して、その木の小枝を食い滅ぼす。
- 11 枝が枯れると、それは壊され、女たちが来て、それに火をつける。これは悟りのない民だからだ。それゆえ、これを造った方はあわれまず、これを形造った方は恵みをお与えにならない。
- 12 その日、主はあの大河からエジプト川まで 穀物の穂を打ち落とされる。イスラエルの子らよ、あなたがたは一人ひとり拾い上げられる。
- 13 その日、大きな角笛が鳴り渡り、アッシリアの地にいる失われていた者や、エジプトの地に追いやられた者たちが来て、エルサレムの聖なる山で主を礼拝する。

第28章

- 1 わざわいだ。エフライムの酔いどれが誇りとする冠、その麗しい飾りの、しぼんでゆく花。これは、酔いつぶれた者たちの、肥えた谷の頂にある。
- 2 見よ、主のもとには激しく力強いものがある。それは、突き刺さり荒れ狂う雹の嵐のようだ。激しい勢いで押し流す豪雨のようだ。主は御手をもってこれを地に下される。
- 3 エフライムの酔いどれが誇りとする冠は、足の下に踏みにじられる。
- 4 肥えた谷の頂にあってこれを麗しく飾る花もしぼみ、夏前の初なりのいちじくの実のようになる。だれかがそれを見つけると、すぐに手に取り、呑み込んでしまう。
- 5 その日、万軍の主は、民の残りの者には輝かしい冠、栄えの飾り輪となり、
- 6 さばきの座に着く者にはさばきの霊となり、攻撃して来る者を城門で追い返す者には力となられる。
- 7 しかし、これらの者も、ぶどう酒でよろめき、強い酒でふらつく。祭司も預言者も強い酒でよろめき、ぶどう酒で混乱し、強い酒でふらつく。幻を見ながらよろめき、さばきを下すとき、よろける。
- 8 どの食卓も吐いた物であふれ、余すところもない。
- 9 「彼は知識をだれに教えようとするのか。知らされたことをだれに悟らせようとするのか。乳離れした子にか。乳房から離された子にか。
- 10 彼は言っている。『ツァウにツァウ、ツァウにツァウ、カウにカウ、カウにカウ、あっちにゼエル、こっちにゼエル』と。」
- 11 まことに主は、もつれた舌で、異国のことばでこの民に語られる。
- 12 主は彼らに、「ここに憩いがある。疲れた者を憩わせよ。ここに休息がある」と言われたのに、彼らは聞こうとしなかった。
- 13 主は彼らに告げられる。「ツァウにツァウ、ツァウにツァウ、カウにカウ、カウにカウ、あっちにゼエル、こっちにゼエル。」これは、彼らが歩くときうしろに倒れて碎かれ、罨にかかって捕らえられるためである。
- 14 それゆえ、嘲る者たちよ、主のことばを聞け。エルサレムでこの民を治める者たちよ。
- 15 あなたがたがこう言ったからだ。「われわれは死と契約を結び、よみと同盟を結んでいる。たとえ、洪水が押し寄せても、それはわれわれには届かない。われわれは、まやかしを避け所とし、偽りに身を隠してきたのだから。」
- 16 それゆえ、神である主はこう言われる。「見よ、わたしはシオンに一つの石を礎として据える。これは試みを経た石、堅く据えられた礎の、尊い要石。これに信頼する者は慌てふためくことがない。
- 17 わたしは公正を測り縄とし、義を重りとする。雹はまやかしの避け所を一掃し、水は隠れ家を押流す。
- 18 あなたがたの、死との契約は解消され、よみとの同盟は成り立たない。みなぎる天罰が押し寄せると、あなたがたはそれに踏みにじられる。

- 19 それは押し寄せるたびに、あなたがたを捕らえる。しかも朝ごとに押し寄せる。昼にも夜にも。この知らせを悟るなら、ただ恐怖あるのみ。
- 20 まことに、寝床は身を伸ばすには短すぎ、覆いも身をくるむには狭すぎる。」
- 21 実に、主は起き上がられる。ペラツィムの山での時のように。主は奮い立たれる。ギブオンの谷での時のように。みわざを行われるが、そのみわざは不可思議。働きをされるが、その働きは意外。
- 22 だから今、あなたがたは嘲ってはならない。あなたがたを縛るかせが、きつく締まることのないように。私は万軍の神、主から、全世界に下る定められた全滅について聞いているのだ。
- 23 あなたがたは、私の声に耳を傾けて聞け。私の言うことを注意して聞け。
- 24 農夫は種を蒔くために、いつも耕してばかりいるだろうか。土地を起こし、ならしてばかりいるだろうか。
- 25 その地面をならしたら、ういきょうを蒔き、クミンの種を蒔き、小麦を畝に、大麦を定まった場所に、裸麦をその境に植えるではないか。
- 26 農夫は厳しく指導され、彼の神は彼に教える。
- 27 ういきょうは打穀機で打たれず、クミンの上では脱穀車の車輪を回さない。ういきょうは杖で、クミンは棒で打たれるのである。
- 28 パンのために麦は砕かれるが、打穀をいつまでも続けることはしない。脱穀車の車輪を回すことはしても、馬がこれを砕くことはない。
- 29 これも万軍の主のもとから出ること。その摂理は奇しく、その英知は偉大である。

第29章

- 1 「ああ、アリエル、アリエル。ダビデが陣を敷いた都よ。年に年を加え、祭りを巡り来させよ。
- 2 わたしはアリエルを虐げるので、そこにはうめきと嘆きが起こり、わたしにとっては祭壇の炉のようになる。
- 3 わたしは、あなたの周りに陣を敷き、前哨部隊で囲み、あなたに対して壘を築く。
- 4 あなたは低くされ、地の中から語りかけ、あなたのことばは、ちりの中からつぶやく。あなたの声は、死人の霊のように地の中から出て、あなたのことばは、ちりの中からささやく。
- 5 しかし、敵の群れは細かいほこりのようになり、横暴な者の群れは吹き飛ぶ初穀のようになる。しかも、それは突然、不意に起こる。
- 6 万軍の主はあなたを訪れる。雷と地震と大きな音をもって、つむじ風と暴風と焼き尽くす火の炎をもって。
- 7 アリエルに戦いを挑むすべての民の群れ、これを攻めて、取り囲み、これを虐げる者たちはみな、夢のようになり、夜の幻のようになる。
- 8 飢えた者が夢の中で食べ、目が覚めると、その飢えは満たされず、渴いている者が夢の中で飲み、目が覚めると、実に疲れて喉が渴いているように、シオンの山に戦いを挑むすべての民の群れもこのようになる。」
- 9 驚き、たじろげ。目を閉ざされて、盲目となれ。彼らは酔うが、ぶどう酒のせいではない。ふらつくが、強い酒のせいではない。
- 10 主はあなたがたの上に深い眠りの霊を注ぎ、預言者というあなたがたの目を閉ざし、先見者というあなたがたの頭をおおわれた。
- 11 そのため、あなたがたにとっては、すべての幻が、封じられた書物のことばのようになった。読み書きのできる人に渡して、「どうか、これを読んでください」と言っても、「それは封じられているから読めない」と言い、
- 12 また、読み書きのできない人にその書物を渡して、「どうか、これを読んでください」と言っても、「私は読み書きができない」と答えるであろう。
- 13 主は言われた。「それは、この民が口先でわたしに近づき、唇でわたしを敬いながら、その心がわたしから遠く離れているからだ。彼らがわたしを恐れるのは、人間の命令を教え込まれてのことである。
- 14 それゆえ、見よ、わたしはこの民に再び、不思議なこと、驚くべきことをする。この民の知恵ある者の知恵は滅び、悟りある者の悟りは隠される。」
- 15 わざわいだ。主に自分のはかりごとを深く隠す者たち。彼らは闇の中で事を行い、そして言う。「だれが私たちを見ているだろう。だれが私たちを知っているだろう」と。
- 16 ああ、あなたがたは物を逆さに考えている。陶器師を粘土と同じに見なしてよいだろうか。造られた者がそれを造った者に「彼は私を造らなかった」と言い、陶器が陶器師に「彼にはわきまえがない」と言えるだろうか。

- 17** もうしばらくすれば、確かに、レバノンが果樹園になり、果樹園が森に見えるようになる。
- 18** その日、耳の聞こえない人が、書物のことばを聞き、目の見えない人の目が、暗黒と闇から物を見る。
- 19** 柔和な者は主によってますます喜び、貧しい者はイスラエルの聖なる方によって楽しむ。
- 20** 横暴な者はいなくなり、嘲る者は絶え果て、よこしまなことを企む者はみな絶ち滅ぼされるからだ。
- 21** 彼らはことばで他人を罪に陥れ、城門で戒めを与える者に罾を仕掛け、正しい人を、理由もなく押しのける。
- 22** それゆえ、アブラハムを贖い出された主は、ヤコブの家についてこう言われる。「今からヤコブは恥を見ることなく、今から顔が青ざめることはない。
- 23** 彼が自分の子らを見て、自分たちの中にわたしの手のわざを見ると、彼らはわたしの名を聖とし、ヤコブの聖なる者を聖として、イスラエルの神を恐れるからだ。
- 24** 心迷う者は理解を得、不平を言う者も教訓を得る。」

第30章

- 1 「わざわざいだ、頑なな子ら。 —主のことば— 彼らははかりごとをめぐらす、わたしによらず、 同盟を結ぶが、わたしの霊によらず、 罪に罪を増し加えるばかりだ。
- 2 彼らはエジプトに下って行こうとするが、わたしの指示を仰がない。 ファラオの保護のもとに身を避け、エジプトの陰に隠れようとする。
- 3 しかし、ファラオの保護に頼ることは あなたがたの恥となり、エジプトの陰に身を隠すことは 恥辱となる。
- 4 その首長たちがツォアンにいても、その使者たちがハネスに着いても、
- 5 彼らはみな辱められる。自分たちにとって役に立たない民のゆえに。その民は彼らの助けとならず、役にも立たない。かえって恥となり、そしりの的となる。」
- 6 ネゲブの獣についての宣告。「苦難と苦悩の地を通り、雌獅子や雄獅子、まむしや、飛び回る燃える蛇のいるところを通り、彼らはその財宝をろばの背に載せ、宝物をらくだのこぶに載せて、役にも立たない民のところに運ぶ。
- 7 エジプトの助けは空しく、当てにならない。だから、わたしはこれを『何もしないラハブ』と呼ぶ。」
- 8 「今、行って、彼らの前でこれを板に書き、書物にこれを記し、後の日のために永遠の証しとせよ。
- 9 彼らは反逆の民、嘘つきの子ら、主のおしえを聞こうとしない子らだから。
- 10 彼らは予見者に『見るな』と言い、先見者にはこう言う。『われわれについて正しいことを幻で見るな。われわれに心地よいことを語り、だましごとを預言せよ。』」
- 11 道から外れ、道筋からそれ、われわれの前から イスラエルの聖なる方を消せ。』」
- 12 それゆえ、イスラエルの聖なる方はこう言われる。「あなたがたは、わたしの言うことを退けて、虐げと悪巧みに抛り頼み、これに頼った。
- 13 それゆえ、このあなたがたの不義は、そそり立つ城壁に広がって 今にもそれを倒す裂け目のようになる。その倒壊は瞬く間に来る。
- 14 その倒壊は、陶器師の壺が 容赦なく打ち碎かれるときのよう。その破片の中には、炉から火を取り、水溜めから水を汲むかけらさえ見つからない。」
- 15 イスラエルの聖なる方、神である主は こう言われた。「立ち返って落ち着いていれば、あなたがたは救われ、静かにして信頼すれば、あなたがたは力を得る。」しかし、あなたがたはこれを望まなかった。
- 16 あなたがたは言った。「いや、私たちは馬で逃げよう」と。そう言うなら、あなたがたは逃げてみよ。また、「私たちは早馬で」と言った。そう言うなら、あなたがたの追っ手はなお速い。
- 17 一人の脅しによって千人が逃げ、五人の脅しによってあなたがたは逃げる。ついには、残る者が山の頂の旗ざお、丘の上の旗のようになる。
- 18 それゆえ主は、あなたがたに恵みを与えようとして待ち、それゆえ、あわれみを与えようと立ち上がられる。主が義の神であるからだ。幸いなことよ、主を待ち望むすべての者

は。

- 19 ああ、シオンの民、エルサレムに住む者。もうあなたは泣くことはない。あなたの叫ぶ声に応え、主は必ず恵みを与え、それを聞くとき、あなたに答えてくださる。
- 20 たとえ主があなたがたに 苦しみパンと虐げの水を与えても、あなたを教える方はもう隠れることはなく、あなたの目はあなたを教える方を見続ける。
- 21 あなたが右に行くにも左に行くにも、うしろから「これが道だ。これに歩め」と言うことばを、あなたの耳は聞く。
- 22 あなたは、銀をかぶせた刻んだ像と、金をかぶせた鋳物の像を汚れたものと見なし、不浄の物としてそれをまき散らし、これに「出て行け」と言う。
- 23 あなたが土地に蒔くあなたの種に 主は雨を降らせてくださる。それで、その土地の産する食物は みずみずしく豊かである。その日、あなたの家畜の群れは 広々とした牧場で草をはむ。
- 24 土地を耕す牛やろばは、シャベルや熊手でふり分けられた 味の良いまぐさを食べる。
- 25 大いなる殺戮の日、やぐらの倒れる日に、高い山、そびえる丘の上すべてに、水の流れる運河ができる。
- 26 主がその民の傷を包み、その打たれた傷を癒やされる日に、月の光は太陽の光のようになり、太陽の光は七倍になって、七日分の光のようになる。
- 27 見よ、主の御名が遠くから来る。立ち上る濃い煙とともに、怒りに燃えて。その唇は憤りに満ち、舌は焼き尽くす火のよう。
- 28 その息は、あふれて首まで達する流れのようだ。それは国々を破滅のふりいにかけ、諸国の民のあごに、迷い出させる手綱をかける。
- 29 あなたがたには、聖なる祭りの祝いの夜のような歌があり、主の山、イスラエルの岩に行くために 笛に合わせて進む者のような、心の喜びがある。
- 30 しかし、主は威厳ある御声を聞かせ、大雨、嵐、雹の石で、激しい怒りと、焼き尽くす火の炎とともに、下される御腕を見せる。
- 31 主の御声を聞いてアッシリアは打ちのめされる。主が杖でこれを打たれる。
- 32 主が下す懲らしめの杖がしなるたびに、タンバリンと豎琴が鳴らされる。主は武器を振り回して、これと戦う。
- 33すでにトフェトも整えられ、 実に王のためにも備えられている。それは深く、広くなっていて、そこには火と多くの薪がある。主の息が硫黄の流れのように、それを燃やす。

第31章

- 1 ああ、助けを求めてエジプトに下る者たち。彼らは馬に頼り、数が多いといって戦車に、非常に強いといって騎兵に拠り頼み、イスラエルの聖なる方に目を向けず、主を求めない。
- 2 しかし、主は知恵のある方。わざわいをもたらし、みことばを取り消さない。主は、悪を行う者の家と、不法を行う者を助ける者に対して立ち上がる。
- 3 エジプト人は人間であって神ではなく、彼らの馬も肉であって霊ではない。主が御手を伸ばされると、助ける者はつまずき、助けられる者は倒れて、皆ともに滅び果てる。
- 4 まことに、主は私にこう言われる。「獅子、あるいは若獅子が獲物に向かって吼えるとき、たとえ大勢の牧者がそこに呼び集められても、獅子は彼らの声にひるむことなく、彼らの騒ぎにも動じない。そのように、万軍の主は下って来て、シオンの山とその丘の上で戦う。
- 5 万軍の主は、舞い飛ぶ鳥のようにエルサレムを守る。これを守って救い出し、これを助けて解放する。」
- 6 帰れ、イスラエルの子らよ。あなたがたが反抗を強めているその方のもとに。
- 7 その日、イスラエルの子らは、それぞれ銀の偽りの神々や、金の偽りの神々を退ける。それらは、あなたがたが自分の手で自分のために造ったもので、そのことは罪過となっている。
- 8 「アッシリアは人のものでない剣に倒れ、人間のものでない剣が彼らを食い尽くす。アッシリアは剣の前から逃げ、若い男たちは苦役に服する。
- 9 その岩は恐怖のために過ぎ去り、その首長たちも旗を捨て、おののき逃げ去る。—シオンに火を持ち、エルサレムにかまどを持つ主のことば。」

第32章

- 1 見よ。一人の王が義によって治め、首長たちは公正によって支配する。
- 2 彼らはそれぞれ、風を避ける避け所、嵐を避ける隠れ場のようになり、砂漠にある水の流れ、乾ききった地にある、大きな岩の陰のようになる。
- 3 見る者の目は固く閉じることがなく、聞く者の耳は注意深く聞く。
- 4 性急な者の心も知識を悟り、もつれた舌もはっきりと早口で語る。
- 5 もはや、愚か者が高貴な人とは呼ばれず、ならず者が上流の人とは言われない。
- 6 なぜなら、愚か者は愚かなことを語って、心で不法を企み、不敬虔なことを行って、主に向かって迷いごとを語るからだ。飢えている者を飢えさせて、渴いている者に飲み物を与えない。
- 7 ならず者、そのやり方は悪質だ。彼は悪事を企み、貧しい者が正しいことを申し立てても、偽りを語って、苦しむ者を滅ぼす。
- 8 しかし、高貴な人は高貴なことを計画し、高貴なことに堅く立つ。
- 9 「安逸を貪る女たちよ。立ち上がって、わたしの声を聞け。うぬぼれている娘たちよ。わたしのことばに耳を傾けよ。
- 10 うぬぼれている女たちよ。一年と少しの日がたつと、あなたがたはわななく。ぶどうの収穫がなくなり、その取り入れもやって来ないからだ。
- 11 安逸を貪る女たちよ、震えよ。うぬぼれている女たちよ、わななけ。着物を脱いで裸になり、腰に粗布をまとえ。
- 12 胸を打って嘆け。麗しい畑、実り豊かなぶどうの木のために。
- 13 茨やおどろが生い茂る、わたしの民の土地のために。そして、楽しい家々のすべて、おごる都のために。
- 14 なぜなら、宮殿は見捨てられ、町の騒ぎもさびれ、オフエルと見張りの塔は、いつまでも荒れ野に、野ろばの喜ぶところ、群れの牧場になるからだ。」
- 15 しかし、ついに、いと高き所から私たちに霊が注がれ、荒野が果樹園となり、果樹園が森と見なされるようになる。
- 16 公正は荒野に宿り、義は果樹園に住む。
- 17 義が平和をつくり出し、義がとしえの平穏と安心をもたらすとき、
- 18 私の民は、平和な住まい、安全な家、安らかな憩いの場に住む。
- 19 あの森は雹が降って倒れ、あの町は全く卑しめられる。
- 20 ああ、幸いなことよ。すべての水のほとりに種を蒔き、牛とろばを放し飼いするあなたがたは。

第33章

- 1 わざわいだ。自分は踏みにじられなかったのに、人を踏みにじり、裏切られなかったのに、人を裏切るあなたは。自分が踏みにじることを終えるとき、あなたは踏みにじられ、裏切りをやめるとき、あなたは裏切られる。
- 2 主よ、あわれんでください。私たちはあなたを待ち望みます。朝ごとに私たちの腕となり、苦難の時の、私たちの救いとなってください。
- 3 その鳴りとどろく声に、もろもろの民は逃げ、あなたが立ち上がると、国々は散らされます。
- 4 あなたがたの分捕り物は、いなごの若虫が集まるように集められ、いなごの群れが飛びつくように人々はそれに飛びつく。
- 5 主はいと高さ方で、高い所に住み、シオンを公正と義で満たされる。
- 6 主はあなたの時を堅く支え、救いと知恵と知識の富となられる。主を恐れることは、その財宝である。
- 7 見よ。彼らの勇士は通りで叫び、平和の使者たちは激しく泣く。
- 8 大路は荒れ果てて、道行く者は途絶え、契約は破られて、町々は捨てられ、人は顧みられることがない。
- 9 地は喪に服してしおれ、レバノンは辱めを受けて枯れ果てる。シャロンは荒れ野のようになり、バシャンもカルメルも葉を振り落とす。
- 10 「今、わたしは立ち上がる。――主は言われる――今、わたしは自らを高く上げ、今、わたしは自らを高める。
- 11 あなたがたは枯れ草をはらみ、藁を産む。あなたがたの息は、自分たちを食い尽くす火だ。
- 12 諸国の民は焼かれて石灰となり、刈り取られて火をつけられる茨となる。」
- 13 「遠くの者よ、わたしのしたことを聞け。近くの者よ、わたしの力あるわざを知れ。」
- 14 罪人たちはシオンでわななき、神を敬わない者たちを震えがとらえる。「私たちのうち、だれが焼き尽くす火に耐えられるか。私たちのうち、だれが、とこしえに燃える炉に耐えられるか。」
- 15 義を行う者、公正を語る者、強奪による利得を退ける者、手を振って賄賂を受け取らない者、耳をふさいで流血について聞かない者、目を閉じて悪いことを見ない者。
- 16 このような人は高い所に住み、その砦は岩場の上の要害である。彼のパンは備えられ、彼の水は確保される。
- 17 あなたの目は麗しい王を見、遠くまで広がる国を眺める。
- 18 あなたの心は、恐ろしかったことを思い巡らす。「数えた者はどこにいるのか。量った者はどこにいるのか。やぐらを数えた者はどこにいるのか。」
- 19 あなたはもう横柄な民を見ない。難しくて聞き取れない外国語を、口ごもって、わけの分からないことばを話す民を。

- 20** 私たちの祝祭の都、シオンを見よ。あなたの目は、安らかな住まい、移ることのない天幕、エルサレムを見る。その杭はとこしえに抜かれず、その綱は一本も切られない。
- 21** しかも、そこには威厳ある主が 私たちとともにいてくださる。そこには多くの川があり、幅の広い川がある。櫂で漕ぐ舟もそこを通わず、大船もそこを通らない。
- 22** まことに、主は私たちをさばく方、主は私たちに法を定める方、主は私たちの王、この方が私たちを救われる。
- 23** あなたの帆の綱は解け、帆柱の基に結ぶこともできず、帆を張ることもできない。そのとき、おびただしい数の分捕り物が分けられ、足の萎えた者も獲物をかすめる。
- 24** そこに住む者は「私は病気だ」とは言わず、そこに住む民の咎は除かれる。

第34章

- 1 国々よ、近づいて聞け。諸国の民よ、耳を傾けよ。地とそこに満ちているものよ、聞け。世界とそこから生え出たすべてのものよ。
- 2 主がすべての国に向かって激しく怒り、そのすべての軍勢に向かって憤り、彼らを聖絶し、虐殺されるにまかされたからだ。
- 3 彼らの殺された者は投げ捨てられ、その死体は悪臭を放ち、山々はその血によって溶ける。
- 4 天の万象は朽ち果て、天は巻物のように巻かれる。その万象は枯れ落ちる。ぶどうの木から葉が枯れ落ちるように。いちじくの木から実がしぼんで落ちるように。
- 5 「まことに、天でわたしの剣は血に浸されている。見よ。これがエドムの上に、わたしが聖絶すると定めた民の上に下る。」
- 6 主の剣は血で満ち、脂肪で肥えている。子羊とやぎの血、雄羊の腎臓の脂肪で。主がボツラでいけにえを屠り、エドムの地で大虐殺をされるからだ。
- 7 野牛は彼らとともに、雄牛は荒馬とともに倒れる。彼らの地には血が染み込み、その土は脂肪で肥える。
- 8 それは主の復讐の日であり、シオンの訴えのために仇を返す年だからだ。
- 9 エドムの川はピッチに、その土は硫黄に変わる。その地は燃えるピッチになる。
- 10 それは夜も昼も消えず、その煙はいつまでも立ち上る。そこは代々にわたって廃墟となり、もうそこを通る者はだれもない。
- 11 ふくろうと針ねずみがそこをわがものとし、みみずくと烏がそこに住む。主はその上に茫漠の測り縄を張り、空虚の重りを下げる。
- 12 そのおもだった人たちで、王権を宣言する者は、そこにはいない。すべての首長たちもいなくなる。
- 13 その宮殿には茨が生え、要塞には、いらくさやあざみが生え、ジャッカルの住みか、だちよの住む所となる。
- 14 荒野の獣は山犬に会い、野やぎはその友を呼ぶ。そこには夜の鳥も憩い、自分の休み場を見つける。
- 15 蛇もそこに巣を作って卵を産み、それをかえして自分の陰に集める。鳶もそれぞれ自分の伴侶と、そこに集まる。
- 16 主の書物を調べて読め。これらのもののうち、どれも失われていない。それぞれ自分の伴侶を欠くものはない。それは、主の口がこれを命じ、主の御霊がこれらを集めたからである。
- 17 主はこれらのもののためにくじを引き、御手が測り縄で測って彼らに分け与えたので、彼らはとこしえまでもこれを所有し、代々にわたってここに住む。

第35章

- 1 荒野と砂漠は喜び、荒れ地は喜び躍り、 サフランのように花を咲かせる。
- 2 盛んに花を咲かせ、歓喜して歌う。これに、レバノンの栄光と、 カルメルやシャロンの威光が授けられるので、 彼らは主の栄光、私たちの神の威光を見る。
- 3 弱った手を強め、 よろめく膝をしっかりさせよ。
- 4 心騒ぐ者たちに言え。「強くあれ。恐れるな。見よ。あなたがたの神が、復讐が、神の報いがやって来る。神は来て、あなたがたを救われる。」
- 5 そのとき、目の見えない者の目は開かれ、 耳の聞こえない者の耳は開けられる。
- 6 そのとき、足の萎えた者は鹿のように飛び跳ね、 口のきけない者の舌は喜び歌う。 荒野に水が湧き出し、 荒れ地に川が流れるからだ。
- 7 焼けた地は沢となり、 潤いのない地は水の湧くところとなり、 ジャッカルが伏したねぐらは 葦やパピルスの茂みとなる。
- 8 そこに大路があり、 その道は「聖なる道」と呼ばれる。 汚れた者はそこを通れない。 これは、その道を行く者たちのもの。 そこを愚か者がさまようことはない。
- 9 そこには獅子もおらず、 猛獣もそこに上って来ることはなく、 そこには何も見つからない。 贖われた者たちだけがそこを歩む。
- 10 主に贖われた者たちは帰って来る。 彼らは喜び歌いながらシオンに入り、 その頭にはとしえの喜びを戴く。 楽しみと喜びがついて来て、 悲しみと嘆きは逃げ去る。

第36章

- 1 ヒゼキヤ王の第十四年のことであった。アッシリアの王センナケリブが、ユダのすべての城壁のある町々に攻め上り、これを取った。
- 2 アッシリアの王は、ラブ・シャケを大軍とともにラキシユからエルサレムのヒゼキヤ王のところへ送った。ラブ・シャケは布さらしの野への大路にある、上の池の水道のそばに立った。
- 3 ヒルキヤの子である宮廷長官エルヤキム、書記シェブナ、およびアサフの子である史官ヨアフは、彼のところに出て行った。
- 4 ラブ・シャケは彼らに言った。「ヒゼキヤに伝えよ。大王、アッシリアの王がこうっておられる。『いったい、おまえは何に拠り頼んでいるのか。』」
- 5 口先だけのことばが、戦略であり戦力だと言うのか。今おまえは、だれに拠り頼んでいるのか。私に反逆しているが。
- 6 おまえは、あの傷んだ葦の杖、エジプトに拠り頼んでいるが、それは、それに寄りかかる者の手を刺し貫くだけだ。エジプトの王ファラオは、すべて彼に拠り頼む者にそうするのだ。
- 7 おまえは私に「われわれは、われわれの神、主に拠り頼む」と言う。その主とは、ヒゼキヤがその高き所と祭壇を取り除いて、ユダとエルサレムに「この祭壇の前で拝め」と言った、そういう主ではないか。
- 8 さあ今、私の主君、アッシリアの王と賭けをしないか。もし、おまえのほうで乗り手をそろえることができるのなら、おまえに二千頭の馬を与えよう。
- 9 おまえは戦車と騎兵のことでエジプトに拠り頼んでいるが、私の主君の最も小さい家来である総督一人さえ追い返せないのだ。
- 10 今、私がこの国を滅ぼすために上って来たのは、主を差し置いてのことであろうか。主が私に「この国に攻め上って、これを滅ぼせ」と言われたのだ。』」
- 11 エルヤキムとシェブナとヨアフは、ラブ・シャケに言った。「どうか、しもべたちにはアラム語で話してください。われわれはアラム語が分かりますから。城壁の上にいる民が聞いているところでは、われわれにユダのことばで話さないでください。」
- 12 ラブ・シャケは言った。「私の主君がこれらのことを告げに私を遣わされたのは、おまえの主君や、おまえのためだろうか。むしろ、城壁の上に座っている者たちのためではないか。彼らはおまえたちと一緒に、自分の糞を食らい、自分の尿を飲むようになるのだ。」
- 13 ラブ・シャケは突っ立って、ユダのことばで大声で叫んだ。「大王、アッシリアの王のことばを聞け。
- 14 王はこうっておられる。『ヒゼキヤにごまかされるな。あれは、おまえたちを救い出すことができないからだ。』」
- 15 ヒゼキヤは、「主が必ずわれわれを救い出してくださる。この都は決してアッシリアの王の手に渡されることはない」と言って、おまえたちに主を信頼させようとするが、そうはさせない。』

- 16** ヒゼキヤの言うことを聞くな。アッシリアの王がこうっておられるからだ。『私と和を結び、私に降伏せよ。そうすれば、おまえたちはみな、自分のぶどうと自分のいちじくを食べ、自分の井戸の水を飲めるようになる。』
- 17** その後私は来て、おまえたちの国と同じような国におまえたちを連れて行く。そこは穀物と新しいぶどう酒の地、パンとぶどう畑の地である。
- 18** ヒゼキヤが、「主はわれわれを救い出してくださる」と言っても、おまえたちは、そそのかされないようにせよ。国々の神々は、それぞれ自分の国をアッシリアの王の手から救い出しただろうか。
- 19** ハマテやアルパデの神々は今、どこにいるのか。セファルワイムの神々はどこにいるのか。彼らはサマリアを私の手から救い出したか。
- 20** これらの国々のすべての神々のうち、だれが自分たちの国を私の手から救い出したか。主がエルサレムを私の手から救い出せるとでもいうのか。』」
- 21** 人々は黙って、彼に一言も答えなかった。「彼に答えるな」というのが、王の命令だったからである。
- 22** ヒルキヤの子である宮廷長官エルヤキム、書記シェブナ、アサフの子である史官ヨアフは、自分たちの衣を引き裂いてヒゼキヤのもとに行き、ラブ・シャケのことばを告げた。

第37章

- 1 ヒゼキヤ王はこれを聞くと衣を引き裂き、粗布を身にまとして主の宮に入った。
- 2 彼は、宮廷長官エルヤキム、書記シェブナ、年長の祭司たちに粗布を身にまとわせて、預言者である、アモツの子イザヤのところに遣わした。
- 3 彼らはイザヤに言った。「ヒゼキヤはこう言っておられます。『今日は、苦難と懲らしめと屈辱の日です。子どもが生まれようとしているのに、それを産み出す力がないからです。』」
- 4 おそらく、あなたの神、主は、ラブ・シャケのことばを聞かれたことでしょう。彼の主君、アッシリアの王が、生ける神をそしるために彼を遣わしたのです。あなたの神、主は、お聞きになったそのことばをとがめられます。あなたは、まだいる残りの者のために祈りの声をあげてください。』」
- 5 ヒゼキヤ王の家来たちがイザヤのもとに来たとき、
- 6 イザヤは彼らに言った。「あなたがたの主君にこう言いなさい。『主はこう言われる。あなたが聞いたあのことば、アッシリアの王の若い者たちがわたしをののしった、あのことばを恐れるな。』」
- 7 今、わたしは彼のうちに霊を置く。彼は、あるうわさを聞いて、自分の国に引き揚げる。わたしはその国で彼を剣で倒す。』」
- 8 ラブ・シャケは退いて、リブナを攻めていたアッシリアの王と落ち合った。王がラキシユから移動したことを聞いていたからである。
- 9 王は、クシュの王ティルハカについて、「彼があなたと戦うために出て来ている」との知らせを聞いた。アッシリアの王はそれを聞くと、使者たちをヒゼキヤに送って言った。
- 10 「ユダの王ヒゼキヤにこう伝えよ。『おまえが信頼するおまえの神にだまされてはいけない。エルサレムはアッシリアの王の手に渡されないと断言しているが。』」
- 11 おまえは、アッシリアの王たちがすべての国々にしたこと、それらを絶滅させたことを確かに聞いている。それでも、おまえだけは救い出されるというのか。
- 12 私の先祖は、ゴザン、ハラン、レツェフ、またテラサルにいたエデンの人々を滅ぼしたが、その国々の神々は彼らを救い出したか。
- 13 ハマテの王、アルパデの王、セファルワイムの町の王、ヘナやイワの王はどこにいるか。』」
- 14 ヒゼキヤは、使者の手からその手紙を受け取って読み、主の宮に上って行き、それを主の前に広げた。
- 15 ヒゼキヤは主に祈った。
- 16 「ケルビムの上に座しておられるイスラエルの神、万軍の主よ。ただ、あなただけが、地のすべての王国の神です。あなたが天と地を造られました。
- 17 主よ。御耳を傾けて聞いてください。主よ。御目を開いてご覧ください。生ける神をそしるために言ってよこしたセンナケリブのことばをみな聞いてください。
- 18 主よ。アッシリアの王たちが、すべての国々とその国土を廃墟としたのは事実です。

- 19 彼らはその神々を火に投げ込みました。それらが神ではなく、人の手のわざ、木や石にすぎなかったので、彼らはこれを滅ぼすことができたのです。
- 20 私たちの神、主よ。今、私たちを彼の手から救ってください。そうすれば、地のすべての王国は、あなただけが主であることを知るでしょう。」
- 21 アモツの子イザヤは、ヒゼキヤのところに人を送って言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。『あなたはアッシリアの王センナケリブについて、わたしに祈った。』
- 22 主が彼について語られたことばは、このとおりである。『処女である娘シオンは おまえを蔑み、おまえを嘲る。 娘エルサレムは、おまえのうしろで頭を振る。
- 23 おまえはだれをそしり、だれをののしったのか。だれに向かって声をあげ、高慢な目を上げたのか。イスラエルの聖なる者に対してだ。
- 24 おまえはしもべたちを通して、主をそしって言った。「多くの戦車を率いて、私は山々の頂に、レバノンの奥深くに上って行った。そのそびえる杉の木と 美しいもみの木を切り倒し、その果ての高地、木の茂った園にまで入って行った。
- 25 私は井戸を掘って水を飲み、足の裏で エジプトのすべての川を干上がらせた」と。
- 26 おまえは聞かなかったのか。遠い昔に、わたしがそれをなし、大昔に、わたしがそれを計画し、今、それを果たしたことを。それで、おまえは城壁のある町々を荒らして 廃墟の石くれの山としたのだ。
- 27 その住民は力失せ、打ちのめされて恥を見て、野の草や青菜、育つ前に干からびる屋根の草のようになった。
- 28 おまえが座るのも、出て行くのも、おまえが入るのも、わたしはよく知っている。わたしに向かっていきり立つのも。
- 29 おまえがわたしに向かっていきり立ち、おまえの安逸がわたしの耳に届いたので、わたしはおまえの鼻に鉤輪を、口にくつわをはめ、おまえを、もと来た道に引き戻す。』
- 30 あなたへのしるしは、こうである。『今年は、落ち穂から生えたものを食べ、二年目は、それから生えたものを食べ、三年目は、種を蒔いて刈り入れ、ぶどう畑を作ってその実を食べる。
- 31 ユダの家の中の逃れの者、残された者は、下に根を張り、上に実を結ぶ。
- 32 エルサレムから残りの者が、シオンの山から、逃れの者が出て来るからである。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。』
- 33 それゆえ、アッシリアの王について、主はこう言われる。『彼はこの都に侵入しない。また、ここに矢を放たず、これに盾をもって迫らず、壘を築いてこれを攻めることもない。
- 34 彼は、もと来た道を引き返し、この都には入らない—主のことば—。
- 35 わたしはこの都を守って、これを救う。わたしのために、わたしのしもべダビデのために。』」
- 36 主の使いが出て行き、アッシリアの陣営で十八万五千人を打ち殺した。人々が翌朝早く起きて見ると、なんと、彼らはみな死体となっていた。
- 37 アッシリアの王センナケリブは陣をたたんで去り、帰ってニネベに住んだ。

38 彼が自分の神ニスロクの神殿で拝んでいたとき、その息子たち、アデラメレクとサルエツエルは、剣で彼を打ち殺した。彼らはアララテの地へ逃れ、彼の子エサル・ハドンが代わって王となった。

第38章

- 1 そのころ、ヒゼキヤは病気になって死にかかっていた。そこへ、アモツの子、預言者イザヤが来て、彼に言った。「主はこう言われる。『あなたの家を整理せよ。あなたは死ぬ。治らない。』」
- 2 ヒゼキヤは顔を壁に向け、主に祈った。
- 3 「ああ、主よ、どうか思い出してください。私が、真実と全き心をもって、あなたの御前に歩み、あなたの御目にかなうことを行ってきたことを。」ヒゼキヤは大声で泣いた。
- 4 そのとき、イザヤに次のような主のことばがあった。
- 5 「行ってヒゼキヤに告げよ。『あなたの父ダビデの神、主はこう言われる。わたしはあなたの祈りを聞いた。あなたの涙も見た。見よ。わたしはあなたの寿命にもう十五年を加える。』」
- 6 わたしはアッシリアの王の手からあなたとこの都を救い出し、この都を守る。
- 7 次のことが、あなたへの主からのしるしである。主は約束したこのことを成就する。
- 8 見よ。わたしは、アハズの日時計に落ちた時計の影を十度後に戻す。』」すると、日時計に落ちた日が十度戻った。
- 9 ユダの王ヒゼキヤが病気になって、その病気から回復したときに記したもの。
- 10 私は言った。生涯の半ばで私はよみの門に入る。私は残りの年を失ってしまったのだ。
- 11 私は言った。私は主を、生ける者の地で主を見ることはない。私は、死人の国の住人とともにあり、再び人を見ることもない。
- 12 私の住まいは牧者の天幕のように引き抜かれ、私から取り去られた。私は、機織りのように自分のいのちを巻いた。主は私を、機から断ち切られる。昼から夜へと、あなたは私を終わりに近づけられます。
- 13 私は朝まで叫びました。主は雄獅子のように私のすべての骨を砕かれます。昼から夜へと、あなたは私を終わりに近づけられます。
- 14 燕や鶴のように私は泣き、鳩のようにうめきました。私の目は上を仰いで衰えました。主よ、私は虐げられています。私の保証人となってください。
- 15 何を私は語れるでしょう。主が私に語り、主が自ら行われたのに。私は自分のすべての年月、自分のたましいの苦しみのゆえに、ゆっくりと歩んで行きます。
- 16 主よ、これらによって人は生きるのです。私の霊のいのちも、すべてこれらに従っています。どうか私を健やかにし、私を生かしてください。
- 17 ああ、私の味わった苦い苦しみは平安のためでした。あなたは私のたましいを慕い、滅びの穴から引き離されました。あなたは私のすべての罪を、あなたのうしろに投げやられました。
- 18 よみはあなたをほめたたえず、死はあなたを賛美せず、穴に下る者たちはあなたの真実を待ち望みません。
- 19 生きている者、ただ生きている者だけが、今日の私のように、あなたをほめたたえます。父は子らにあなたの真実について知らせます。

- 20 主は私を救ってくださる。私たちは生きている日々の間、主の宮で琴を奏でよう。
- 21 イザヤは言った。「ひとかたまりの干しいちじくを持って来させ、腫物の上に塗りなさい。そうすれば治ります。」
- 22 ヒゼキヤは言った。「私が主の宮に上れるしるしは何ですか。」

第39章

- 1 そのころ、バルアダンの子、バビロンの王メロダク・バルアダンは使者を遣わして、手紙と贈り物をヒゼキヤに届けた。彼は病気だったが元気になった、と聞いたからである。
- 2 ヒゼキヤは彼らを喜び、宝庫、銀、金、香料、高価な油、一切の武器庫、彼の宝物倉にあるすべての物を彼らに見せた。ヒゼキヤがその家の中、および国中で、彼らに見せなかった物は一つもなかった。
- 3 預言者イザヤはヒゼキヤ王のところに来て、彼に尋ねた。「あの人たちは何と言いましたか。どこから来たのですか。」ヒゼキヤは「遠い国、バビロンから私のところに来ました」と答えた。
- 4 イザヤは言った。「彼らはあなたの家で何を見たのですか。」ヒゼキヤは答えた。「私の家の中のすべての物を見ました。私の宝物倉の中で彼らに見せなかった物は一つもありません。」
- 5 イザヤはヒゼキヤに言った。「万軍の主のことばを聞きなさい。
- 6 見よ。あなたの家にある物、あなたの父祖たちが今日まで蓄えてきた物がすべて、バビロンへ運び去られる日々が来る。何一つ残されることはない—主は言われる—。
- 7 また、あなたが生む、あなた自身の息子たちの中には、捕らえられてバビロンの王の宮殿で宦官となる者がいる。」
- 8 ヒゼキヤはイザヤに言った。「あなたが告げてくれた主のことばはありがたい。」彼は、自分が生きている間は平和と安定があるだろう、と思ったのである。

第40章

- 1 「慰めよ、慰めよ、わたしの民を。 ―あなたがたの神は仰せられる―
- 2 エルサレムに優しく語りかけよ。これに呼びかけよ。その苦役は終わり、その咎は償われている、と。そのすべての罪に代えて、二倍のものを主の手から受けている、と。」
- 3 荒野で叫ぶ者の声がする。「主の道を用意せよ。荒れ地で私たちの神のために、大路をまっすぐにせよ。
- 4 すべての谷は引き上げられ、すべての山や丘は低くなる。曲がったところはまっすぐになり、険しい地は平らになる。
- 5 このようにして主の栄光が現されると、すべての肉なる者がともにこれを見る。まことに主の御口が語られる。」
- 6 「叫べ」と言う者の声がする。「何と叫びましょうか」と人は言う。「人はみな草のよう。その栄えはみな野の花のようだ。
- 7 主の息吹がその上に吹くと、草はしおれ、花は散る。まことに民は草だ。
- 8 草はしおれ、花は散る。しかし、私たちの神のことは永遠に立つ。」
- 9 シオンに良い知らせを伝える者よ、高い山に登れ。エルサレムに良い知らせを伝える者よ、力の限り声をあげよ。声をあげよ。恐れるな。ユダの町々に言え。「見よ、あなたがたの神を。」
- 10 見よ。神である主は力をもって来られ、その御腕で統べ治める。見よ。その報いは主とともにあり、その報酬は主の御前にある。
- 11 主は羊飼いのように、その群れを飼い、御腕に子羊を引き寄せ、懷に抱き、乳を飲ませる羊を優しく導く。
- 12 だれが手のひらで水を量り、手の幅で天を測り、地のちりを升に盛り、山々を天秤で量ったのか。もろもろの丘を秤で。
- 13 だれが主の霊を推し量り、主の助言者として主に教えたのか。
- 14 主はだれと相談して悟りを得られたのか。だれが公正の道筋を主に教えて、知識を受け、英知の道を知らせたのか。
- 15 見よ。国々は手桶の一しずく、秤の上のごみのように見なされる。見よ。主は島々をちりのように取り上げる。
- 16 レバノンも、薪にするには足りない。その獣も、全焼のささげ物にするには足りない。
- 17 すべての国々も主の前では無いに等しく、主には、空しく何もないものと見なされる。
- 18 あなたがたは神をだれになぞらえ、神をどんな似姿に似せようとするのか。
- 19 鋳物師は鋳像を鋳て造り、金細工人はそれに金をかぶせ、銀の鎖を作る。
- 20 貧しい者は、奉納物として朽ちない木を選び、巧みな細工人を探して、動かない彫像を据える。
- 21 あなたがたは知らないのか。聞いていないのか。初めから、告げられていなかったのか。悟っていなかったのか。地の基のことを。

- 22** 主は、地をおおう天蓋の上に住む方。地の住民はバッタのようだ。主は、天を薄絹のように延べ広げ、これを天幕のように張って住まわれる。
- 23** 君主たちを無に帰し、地をさばく者たちを空しいものとされる。
- 24** 彼らが植えられ、蒔かれ、いよいよ地に根を張ろうとするとき、主はそれに風を吹きつけ、彼らは枯れる。暴風がそれを藁のように散らす。
- 25** 「それなのに、あなたがたは、わたしをだれになぞらえ、だれと比べようとするのか」と聖なる方は言われる。
- 26** あなたがたは目を高く上げて、だれがこれらを創造したかを見よ。この方はその万象を数えて呼び出し、一つ一つ、その名をもって呼ばれる。この方は精力に満ち、その力は強い。一つも漏れるものはない。
- 27** ヤコブよ、なぜ言うのか。イスラエルよ、なぜ言い張るのか。「私の道は主に隠れ、私の訴えは私の神に見過ごされている」と。
- 28** あなたは知らないのか。聞いたことがないのか。主は永遠の神、地の果てまで創造した方。疲れることなく、弱ることなく、その英知は測り知れない。
- 29** 疲れた者には力を与え、精力のない者には勢いを与えられる。
- 30** 若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。
- 31** しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。

第41章

- 1 「島々よ、わたしの前で静まれ。諸国の民よ、新しく力を得よ。近寄れ。そして語れ。われわれは、ともに、さばきに近づこう。
- 2 だれが一人の者を東から起こし、その行く先々で勝利を収めさせるのか。だれが彼の前に国々を渡し、王たちを踏みにじらせるのか。彼はその剣で彼らをちりのようにし、その弓で藁のように追い散らす。
- 3 彼は彼らを追い、難なく進んで行く。まだ自分の足で行ったことのない道を。
- 4 だれが、最初から代々の人々に呼びかけて これらをなし、これらを行ったのか。主であるわたしだ。わたしは初めであり、また終わりとともにある。わたしがそれだ。
- 5 島々は見て恐れる。地の果ては震えながら、近づき、やって来る。
- 6 彼らは助け合い、その兄弟に『強くあれ』と言う。
- 7 鋳物師は金細工人を励まし、金槌で打つ者は、鉄床をたたく者を励まして、はんだ付けについて『それで良い』と言い、釘で打ち付けて動かないようにする。
- 8 だがイスラエルよ、あなたはわたしのしもべ。わたしが選んだヤコブよ、あなたは、わたしの友アブラハムの裔だ。
- 9 わたしはあなたを地の果てから連れ出し、地の隅々から呼び出して言った。『あなたは、わたしのしもべ。わたしはあなたを選んで、退けなかった』と。
- 10 恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。
- 11 見よ。あなたに向かっていきり立つ者は みな恥を見て辱められ、あなたと争う者たちは 無いものようになって滅びる。
- 12 あなたと言い争う者を探しても、あなたは見つけることができず、あなたと戦う者たちは、全く無いものようになってしまう。
- 13 わたしがあなたの神、主であり、あなたの右の手を固く握り、『恐れるな。わたしがあなたを助ける』と言う者だからである。
- 14 恐れるな。虫けらのヤコブ、イスラエルの人々。わたしがあなたを助ける。――主のことは――あなたを贖う者はイスラエルの聖なる者。
- 15 見よ。わたしはあなたを 鋭く新しい両刃の打穀機とする。あなたは山々を踏みつけて粉々に砕き、丘を籾殻のようにする。
- 16 あなたがそれをあおぐと、風が運び去り、暴風がそれをまき散らす。あなたは主にあって喜び、イスラエルの聖なる者によって誇る。
- 17 苦しむ者や貧しい者が水を求めても それはなく、その舌は渴きで干からびる。わたし、主は彼らに答え、イスラエルの神は彼らを見捨てない。
- 18 わたしは裸の丘に川を開く。平地のただ中には泉を。荒野を水のある沢とし、砂漠の地を水の源とする。
- 19 わたしは荒野に、杉、アカシヤ、ミルトス、オリーブの木を植え、荒れ地に、もみの木、すずかけの木、檜をともに植える。

- 20 それは、主の手がこれを行い、イスラエルの聖なる者がこれを創造したことを、彼らが見て知り、心に留めて、ともに悟るためである。
- 21 あなたがたの訴えを出せ。――主は言われる――あなたがたの証拠を持って来い。――ヤコブの王は言われる――
- 22 持って来て、後に起ころうとする事を告げよ。前の事は何であったのかを告げよ。そうすれば、われわれもそれを心に留め、後の事を知ることができるだろう。または、来たるべき事をわれわれに聞かせよ。
- 23 後に起ころうとすることを告げよ。そうすれば、われわれは、あなたがたが神々であることを知るだろう。良いことでも悪いことでもしてみよ。そうすれば、われわれはともに見て驚くだろう。
- 24 見よ、あなたがたは無に等しい。あなたがたの行いは空しい。あなたがたを選ぶ者は忌まわしい。
- 25 わたしが北から人を起こすと、彼は来て、日の昇るところから、わたしの名を呼ぶ。彼は長官たちを漆喰のように踏む。陶器師が粘土を踏みつけるように。
- 26 だれが、初めから告げて、われわれが知るようにしたか。だれが、あらかじめわれわれに告げて、『それは正しい』と言うようにしたか。告げた者は一人もなく、聞かせた者も一人もなく、あなたがたの言うことを聞いた者も一人もいなかった。
- 27 わたしが最初にシオンに『見よ、それらはここにある』と言い、わたしがエルサレムに『良い知らせを伝える者を与える』と言った。
- 28 しかし、見回しても、だれもいない。彼らの中には助言者がいない。わたしが尋ねても返事のできる者が。
- 29 見よ、彼らはみな偽りで、そのなすことは空しい。彼らの鑄像は風のように何も無い。」

第42章

- 1 「見よ。わたしが支えるわたしのしもべ、わたしの心が喜ぶ、わたしの選んだ者。わたしは彼の上にわたしの霊を授け、彼は国々にさばきを行う。
- 2 彼は叫ばず、言い争わず、通りでその声を聞かせない。
- 3 傷んだ葦を折ることもなく、くすぶる灯芯を消すこともなく、真実をもってさばきを執り行う。
- 4 衰えず、くじけることなく、ついには地にさばきを確立する。島々もそのおしえを待ち望む。」
- 5 天を創造し、これを延べ広げ、地とその産物を押し広げ、その上にいる民に息を与え、そこを歩む者たちに霊を授けた神なる主は こう言われる。
- 6 「わたし、主は、義をもってあなたを召し、あなたの手を握る。あなたを見守り、あなたを民の契約として、国々の光とする。
- 7 こうして、見えない目を開き、囚人を牢獄から、闇の中に住む者たちを獄屋から連れ出す。
- 8 わたしは主、これがわたしの名。わたしは、わたしの栄光をほかの者に、わたしの栄誉を、刻んだ像どもに与えはしない。
- 9 初めのことは、見よ、すでに起こった。新しいことを、わたしは告げる。それが起こる前にあなたがたに聞かせる。」
- 10 新しい歌を主に歌え。その栄誉を、地の果てから。海に下る者、そこを渡るすべての者、島々とそこに住む者よ。
- 11 荒野とその町々、ケダル人が住む村々よ、声をあげよ。セラに住む者たちは喜び歌え。山々の頂から声高らかに叫べ。
- 12 主に栄光を帰せよ。島々にその栄誉を告げ知らせよ。
- 13 主は勇士のように出で立ち、戦士のように激しく奮い立ち、ときのを声をあげて叫び、敵に向かって力を見せつける。
- 14 「久しく、わたしは黙っていた。静かにして自分を抑えていた。今は、子を産む女のようにうめき、激しい息づかいであえぐ。
- 15 わたしは山や丘を荒らし、そのすべての青草を枯らし、川を中州ばかりにし、沢を涸らす。
- 16 わたしは目の見えない人に、知らない道を歩ませ、知らない通り道を行かせる。彼らの前で闇を光に、起伏のある地を平らにする。これらのことをわたしは行い、彼らを見捨てはしない。
- 17 彫像に拠り頼み、鑄像に向かって『あなたがたこそ私たちの神々』と言う者は、退けられて恥を見る。
- 18 耳の聞こえない者たちよ、聞け。目の見えない者たちよ、目を凝らして見よ。
- 19 わたしのしもべほど目の見えない者が、だれかほかにいるだろうか。わたしが送る使者ほど耳の聞こえない者が、ほかにいるだろうか。わたしと和解した者のような目の見えない

者、主のしもべのような目の見えない者が、だれかほかにいるだろうか。

20 あなたは多くを見ながら、心を留めない。耳が開いているのに、聞こうとしない。」

21 主はご自分の義のために望まれた。みおしえを広め、これを輝かすことを。

22 しかし、これは、かすめ奪われ略奪された民、彼らはみな穴の中に陥れられ、獄屋に閉じ込められた。かすめ奪われても、助け出す者はなく、略奪されても、返せと言う者もない。

23 あなたがたのうち、だれがこれに耳を傾け、後々のために注意して聞くだろうか。

24 だれがヤコブを、奪い取る者に渡したのか。イスラエルを、かすめ奪う者に。それは主ではないか。私たちはこの方の前に罪ある者となり、主の道に歩もうとせず、そのおしえに聞き従わなかった。

25 そこで主は、憤ってこれに怒りを注ぎ、激しい戦いをこれに向けた。それがあたりを焼き尽くしても彼は悟らず、自分に燃えついても心に留めなかった。

第43章

- 1 だが今、主はこう言われる。ヤコブよ、あなたを創造した方、イスラエルよ、あなたを形造った方が。「恐れるな。わたしがあなたを贖ったからだ。わたしはあなたの名を呼んだ。あなたは、わたしのもの。
- 2 あなたが水の中を過ぎるときも、わたしは、あなたとともにいる。川を渡るときも、あなたは押し流されず、火の中を歩いても、あなたは焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。
- 3 わたしはあなたの神、主、イスラエルの聖なる者、あなたの救い主であるからだ。わたしはエジプトをあなたの身代金とし、クシュとセバをあなたの代わりとする。
- 4 わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。だから、わたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにする。
- 5 恐れるな。わたしがあなたとともにいるからだ。わたしは東からあなたの子孫を来させ、西からあなたを集める。
- 6 北に向かつては『引き渡せ』と言い、南に向かつては『引き止めるな』と言う。わたしの息子たちを遠くから来させ、娘たちを地の果てから来させよ。
- 7 わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造した。これを形造り、また、これを造った。
- 8 目があっても見えない民、耳があっても聞こえない者たちを連れ出せ。
- 9 すべての国々をとともに集わせ、諸国の民を集めよ。彼らのうちのだれが、われわれにこのことを告げ、初めのことを聞かせることができるだろうか。彼らが自分たちの証人を出して証言し、人々がそれを聞いて、『本当だ』と言うようにせよ。
- 10 あなたがたはわたしの証人、—主のことば— わたしが選んだわたしのしもべである。これは、あなたがたが知って、わたしを信じ、わたしがその者であることを悟るためだ。わたしより前に造られた神はなく、わたしより後にも、それはいない。
- 11 わたし、このわたしが主であり、ほかに救い主はいない。
- 12 このわたしが、告げ、救い、聞かせたのだ。あなたがたのうちに、異なる神はいなかった。だから、あなたがたはわたしの証人。—主のことば— わたしが神だ。
- 13 これから後もわたしは神だ。わたしの手から救い出せる者はない。わたしが事を行えば、だれがそれを戻せるだろうか。」
- 14 あなたがたを贖う、イスラエルの聖なる方、主はこう言われる。「あなたがたのために、わたしはバビロンに使いを送り、彼らをことごとく逃亡者として下らせる。カルデア人を彼らの喜びの船で。
- 15 わたしは主、あなたがたの聖なる者、イスラエルの創造者、あなたがたの王である。」
- 16 海の中に道を、激しく流れる水の中に通り道を設け、
- 17 戦車と馬、強力な軍勢を引き出した主は こう言われる。「彼らはみな倒れて起き上がれず、灯芯のように消え失せる。
- 18 先のことに心を留めるな。昔のことに目を留めるな。

- 19 見よ、わたしは新しいことを行う。今、それが芽生えている。あなたがたは、それを知らないのか。必ず、わたしは荒野に道を、荒れ地に川を設ける。
- 20 野の獣、ジャッカルや、だちょうも、わたしをあがめる。わたしが荒野に水を、荒れ地に川を流れさせ、わたしの民、わたしの選んだ者に飲ませるからだ。
- 21 わたしのためにわたしが形造ったこの民は、わたしの栄誉を宣べ伝える。
- 22 しかし、ヤコブよ、あなたはわたしを呼び求めなかった。むしろ、イスラエルよ、あなたはわたしのことで疲れ果てた。
- 23 あなたはわたしに 全焼のささげ物の羊を携えて来ることはなく、いけにえを献げてわたしをあがめようとしなかった。わたしは穀物のささげ物のことであなたに苦勞をさせず、乳香のことで、あなたを煩わせてもいない。
- 24 あなたはわたしのために、金で菖蒲を買わず、いけにえの脂肪で、わたしを満足させなかった。かえって、あなたの罪でわたしに苦勞をさせ、あなたの咎でわたしを煩わせただけだ。
- 25 わたし、このわたしは、わたし自身のために あなたの背きの罪をぬぐい去り、もうあなたの罪を思い出さない。
- 26 わたしに思い出させよ。ともにさばきに向かおう。あなたが正しいとされるために、あなたのほうから申し立てよ。
- 27 あなたの最初の先祖は罪を犯し、あなたの仲保者たちはわたしに背いた。
- 28 それで、わたしは聖所のつかさたちを汚し、ヤコブが聖絶されるように、イスラエルがのしられるようにした。」

第44章

- 1 「今、聞け。わたしのしもベヤコブ、わたしの選んだイスラエルよ。
- 2 あなたを造り、あなたを母の胎内にいるときから形造り、あなたを助ける主はこう言う。恐れるな。わたしのしもベヤコブ、わたしの選んだエシュルンよ。
- 3 わたしは潤いのない地に水を注ぎ、乾いたところに豊かな流れを注ぎ、わたしの霊をあなたの子孫に、わたしの祝福をあなたの末裔に注ぐ。
- 4 彼らは流れのほとりの柳の木のように、青草の間に芽生える。
- 5 ある者は『私は主のもの』と言い、ある者はヤコブの名で自分を呼び、ある者は手に『主のもの』と記してイスラエルの名を名乗る。」
- 6 イスラエルの王である主、これを贖う方、万軍の主はこう言われる。「わたしは初めてあり、わたしは終わりである。わたしのほかに神はいない。
- 7 わたしが永遠の民を起こしたときから、だれが、わたしのよう宣言して、これを告げることができたか。これをわたしの前で並べ立ててみよ。彼らに未来のこと、来たるべきことを告げさせてみよ。
- 8 おののくな。恐れるな。わたしが、以前からあなたに聞かせ、告げてきたではないか。あなたがたはわたしの証人。わたしのほかに神があるか。ほかに岩はない。わたしは知らない。
- 9 偶像を造る者はみな、空しい。彼らが慕うものは何の役にも立たない。それら自身が彼らの証人だ。見ることもできず、知ることもできない。彼らはただ恥を見るだけだ。
- 10 だれが神を造り、偶像を鑄たのか。何の役にも立たないものを。
- 11 見よ、その人の仲間たちはみな恥を見る。それを細工した者が人間にすぎないからだ。彼らはみな集まり、立つがよい。彼らはおののいて、ともに恥を見る。
- 12 鉄で細工する者は工具を用い、炭火の上で細工し、金槌でこれを形造り、力ある腕でそれを造る。腹が減ると、力がなくなり、水を飲まないと、疲れてしまう。
- 13 木で細工する者は測り縄で測り、朱で輪郭をとり、かんなどで削り、コンパスで線を引き、人の形に造り、人間の立派な姿に仕上げて、神殿に安置する。
- 14 杉の木を切り、うばめ榿や榿の木を選んで、林の木の中で自分のために育てる。月桂樹を植えると、大雨がそれを生長させる。
- 15 それは人間のために薪になり、人はその一部を取って暖をとり、これを燃やしてパンを焼く。また、これで神を造って拝み、これを偶像に仕立てて、これにひれ伏す。
- 16 半分を火に燃やし、その半分の上で肉を食べ、肉をあぶって満腹する。また、温まって、『ああ、温まった。炎が見える』と言う。
- 17 その残りで神を造って自分の偶像とし、ひれ伏してそれを拝み、こう祈る。『私を救ってください。あなたは私の神だから』と。
- 18 彼らはよく知りもせず、理解もしない。その目はふさがれていて見ることもできず、その心が賢くなることはない。

- 19 彼らは考え直すこともなく、このように言う知識も英知もない。『私は、その半分を火に燃やし、その炭火の上でパンを焼き、肉をあぶって食べている。それなのに、その残りで忌み嫌うべきものを造り、木の切れ端の前にひれ伏すのか。』
- 20 灰を食物とする者は、心が欺かれ、惑わされて、自分を救い出せず、『私の右の手に偽りはないか』とさえ言わない。
- 21 ヤコブよ、これらのことを心に留めよ。イスラエルよ、あなたはわたしのしもべ。わたしがあなたを形造った。あなたは、わたし自身のしもべだ。イスラエルよ、あなたはわたしに忘れられることがない。
- 22 わたしは、あなたの背きを雲のように、あなたの罪をかすみのように消し去った。わたしに帰れ。わたしがあなたを贖ったからだ。」
- 23 天よ、喜び歌え。主がこれを成し遂げられたから。地の底よ、喜び叫べ。山々よ、喜びの歌声をあげよ。林と、そのすべての木々も。主がヤコブを贖い、イスラエルのうちに栄光を現されたからだ。
- 24 あなたを贖い、あなたを母の胎内で形造った方、主はこう言われる。「わたしは万物を造った主である。わたしはひとりで天を延べ広げ、ただ、わたしだけで、地を押し広げた。
- 25 わたしは易者のしるしを打ち壊し、占い師を狂わせ、知恵ある者を退けて、その知識を愚かにする。
- 26 主のしもべのことばを成就させ、使者たちの計画を成し遂げさせる。エルサレムについては『人が住むようになる』と言い、ユダの町々については『町々は再建され、その廃墟はわたしが復興させる』と言う。
- 27 淵については『干上がれ。わたしはおまえの豊かな流れを涸らす』と言う。
- 28 キュロスについては『彼はわたしの牧者。わたしの望むことをすべて成し遂げる』と言う。エルサレムについては『再建される。神殿はその基が据えられる』と言う。」

第45章

- 1 主は、油注がれた者キュロスについて こう言われる。「わたしは彼の右手を握り、彼の前に諸国を下らせ、王たちの腰の帯を解き、彼の前に扉を開いて、その門を閉じさせないようにする。
- 2 わたしはあなたの前を進み、険しい地を平らにし、青銅の扉を打ち砕き、鉄のかんぬきをへし折る。
- 3 わたしは秘められている財宝と、ひそかなところに隠された宝をあなたに与える。それは、わたしが主であり、あなたの名を呼ぶ者、イスラエルの神であることをあなたが知るためだ。
- 4 わたしのしもべヤコブのため、わたしが選んだイスラエルのために、わたしはあなたを、あなたの名で呼ぶ。あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに肩書きを与える。
- 5 わたしが主である。ほかにはいない。わたしのほかには神はいない。あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに力を帯びさせる。
- 6 それは、日の昇る方からも西からも、わたしのほかには、だれもいないことを、人々が知るためだ。わたしが主である。ほかにはいない。
- 7 わたしは光を造り出し、闇を創造し、平和をつくり、わざわいを創造する。わたしは主、これらすべてを行う者。
- 8 天よ、上から滴らせよ。雲よ、義を降らせよ。地よ、開け。天地が救いを実らせるように。正義とともに芽生えさせよ。わたしは主。わたしがこれを創造した。」
- 9 ああ、自分を形造った方に抗議する者よ。陶器は土の器の一つにすぎないのに、粘土が自分を形造る者に言うだろうか。「何を作るのか」とか「あなたが作った物には手がついていない」と。
- 10 わざわいだ。自分の父に「なぜ子を生むのか」と言い、母に「なぜ産みの苦しみをするのか」と言う者。
- 11 イスラエルの聖なる方、これを形造った方、主はこう言われる。「これから起こることを、わたしに尋ねよ。わたしの子たちについて、またわたしの手のわざについて、あなたはわたしに命じるのか。
- 12 このわたしが地を造り、その上に人間を創造した。このわたしが手で天を延べ広げ、その万象に命じたのだ。
- 13 このわたしが義をもって彼を奮い立たせ、彼の道をことごとく平らにする。彼がわたしの都を建て直し、わたしの捕囚の民を解放する。代価を払ってでもなく、賄賂によってでもない。一万軍の主は言われる。」
- 14 主はこう言われる。「エジプトの産物とクシュの商品、それに背の高いセバ人も、あなたのところにやって来て、あなたのものとなる。彼らはあなたの後に従い、鎖につながれてやって来る。そして、あなたにひれ伏して、あなたに祈る。『神はただあなたのところにだけおられ、ほかにはなく、ほかには神々はいない』と。」
- 15 イスラエルの神、救い主よ。まことに、あなたはご自分を隠す神。

- 16 偶像を細工する者どもはみな 恥を見、辱めを受ける。彼らはともに、辱めのうちに去る。
- 17 イスラエルは主によって救われ、永遠の救いに入れられる。あなたがたは恥を見ることも辱めを受けることもない。永遠に至るまで。
- 18 天を創造した方、すなわち神、地を形造り、これを仕上げた方、これを堅く立てた方、これを茫漠としたものとして創造せず、住む所として形造った方、まことに、この主が言われる。「わたしは主。ほかにはいない。
- 19 わたしは隠れたところ、闇の地の場所で、語らなかった。茫漠としたところで、ヤコブの子孫に『わたしを尋ね求めよ』とは言わなかった。わたしは主。正義を語り、公正を告げる者。
- 20 諸国からの逃亡者たちよ。集まって来て、ともに近づけ。彼らは自分たちの木の偶像を担ぐ者、救えもしない神に祈る者たちで、知識がない。
- 21 告げよ。証拠を出せ。ともに相談せよ。だれが、これを昔から聞かせ、以前からこれを告げたのか。わたし、主ではなかったか。わたしのほかに神はいない。正しい神、救い主、わたしをおいて、ほかにはいない。
- 22 地の果てのすべての者よ。わたしを仰ぎ見て救われよ。わたしが神だ。ほかにはいない。
- 23 わたしは自分にかけて誓う。ことばは、義のうちにわたしの口から出て、決して戻ることはない。すべての膝はわたしに向かってかがめられ、すべての舌は誓い、
- 24 わたしについて、『ただ主にだけ、正義と力がある』と言う。主に向かっていきり立つ者はみな、主のもとに来て恥を見る。
- 25 イスラエルの子孫はみな 主によって義とされ、主を誇りとする。」

第46章

- 1 「ベルはひざまずき、ネボはかがむ。彼らの像は獣と家畜に載せられる。あなたがたの荷物は、疲れた動物の重荷となって運ばれる。
- 2 彼らはともにかがみ、ひざまずく。重荷を解くこともできず、自分自身も捕らわれの身となって行く。
- 3 ヤコブの家よ、わたしに聞け。イスラエルの子孫よ、わたしの残りの者よ。胎内にいたときから担がれ、生まれる前から運ばれた者よ。
- 4 あなたがたが年をとっても、わたしは同じようにする。あなたがたが白髪になっても、わたしは背負う。わたしはそうしてきたのだ。わたしは運ぶ。背負って救い出す。
- 5 わたしをだれになぞらえて比べ、わたしをだれと並べて、なぞらえるのか。
- 6 袋から金を惜しげなく出し、銀を天秤で量る者たちは、金細工人を雇って、それで神を造り、ひざまずいては、これを拝む。
- 7 彼らはこれを肩に担いで運び、それがあったところに安置すると、それはそこに立ったままである。これはその場所から動かない。これに叫んでも答えず、苦しみから救ってもくれない。
- 8 このことを思い出し、勇み立て。背く者たちよ、心に思い返せ。
- 9 遠い大昔のことを思い出せ。わたしが神である。ほかにはいない。わたしのようない神はいない。
- 10 わたしは後のことを初めから告げ、まだなされていないことを昔から告げ、『わたしの計画は成就し、わたしの望むことをすべて成し遂げる』と言う。
- 11 わたしは東から猛禽を、遠い地から、わたしの計画を行う者を呼ぶ。わたしは語って、それを来たらせ、計画を立てて、それを実行する。
- 12 わたしに聞け、頑なな者たちよ。正義から遠く離れている者たちよ。
- 13 わたしは、わたしの義を近づける。それは遠くはない。わたしの救いが遅れることはない。わたしはシオンに救いを、イスラエルにわたしの栄えを与える。」

第47章

- 1 「おとめ、娘バビロンよ。下って行って、土の上に座れ。娘カルデア人たちよ。王座のない地面に座れ。あなたはもう、優しい上品な女と呼ばれることはないからだ。
- 2 ひき臼を取って粉をひけ。ベールを取り去り、裾をまくってすねを出し、川を渡れ。
- 3 あなたの裸はあらわにされ、恥もさらされる。わたしは復讐をする。だれ一人容赦しない。」
- 4 私たちを贖う方、その名は万軍の主、イスラエルの聖なる方。
- 5 「娘カルデア人たちよ。黙って座り、闇に入れ。あなたはもう、国々の女王と呼ばれることはないからだ。
- 6 わたしは、わたしの民を怒って、わたしのゆずりの民を汚し、彼らをあなたの手に渡したが、あなたは彼らをあわれまず、老人にも、ひどく重いくびきを負わせた。
- 7 あなたは『いつまでも女王でいよう』と考えて、これらのことを心に留めず、自分の終わりのことを思うことさえしなかった。
- 8 だから今、これを聞け。楽しみにふけり、安心して住む女よ。心の中で、『私だけは特別だ。私はやもめにはならないし、子を失うことも知らなくてすむ』と言う者よ。
- 9 子を失うことと、やもめになること、この二つが一日のうちに、瞬く間にあなたのところにやって来る。あなたがどんなに多く呪術を行っても、どんなに呪文の力が強くとも、これらは突然あなたを見舞う。
- 10 あなたは自分の悪に抛り頼み、『私を見ている者はいない』と言う。あなたの知恵と知識、これがあなたを迷わせた。だから、あなたは心の中で言う。『私だけは特別だ。』
- 11 しかし、わざわざがあなたを見舞う。それを払いのける呪文をあなたは知らない。災難があなたを襲うが、あなたはそれを避けることができない。破滅は知らないうちに、突然あなたにやって来る。
- 12 さあ、若いときからの使い古しの呪文や 多くの呪術を使って立ち上がれ。あるいは役立つかもしれない。脅かすことができるかもしれない。
- 13 助言する者が多すぎて、あなたは疲れている。さあ、天を観測する者、星を見る者、あなたに起こることを新月ごとに知らせる者を 立たせて、あなたを救わせてみよ。
- 14 見よ。彼らは刈り株のようになり、火が彼らを焼き尽くす。彼らは自分のいのちを 炎の手から救い出すこともできない。これは身を暖める炭火でもなく、その前に座れる火でもない。
- 15 あなたが若いときから仕え、取り引きしてきた者たちは、このようになる。彼らはそれぞれ自分勝手に迷い出る。あなたを救う者は一人もいない。」

第48章

- 1 これを聞け、ヤコブの家よ。あなたはイスラエルの名で呼ばれ、ユダの源から出て、主の御名によって誓い、イスラエルの神を呼び求めるが、真実をもってせず、また正義をもってしない。
- 2 実に彼らは聖なる都の出だと自称し、その名が万軍の主であるイスラエルの神に寄りかかっている。
- 3 「かつて起こったことは、前からわたしが告げていた。それらはわたしの口から出て、わたしはそれらを聞かせた。にわかに、わたしは行い、それは成就した。
- 4 あなたが頑なであり、首筋は鉄の腱、額は青銅だと知っているのも、
- 5 わたしは、かねてからあなたに告げ、まだ起こらないうちに聞かせたのだ。『私の偶像がこれをした』とか『私の彫像や鑄た像がこれを命じた』とかあなたが言わないようにするためだ。
- 6 あなたは聞いた。さあ、これらすべてを見よ。あなたがたは告げ知らせないのか。わたしは今から、新しいことを、あなたの知らない秘め事をあなたに聞かせる。
- 7 それは今、創造された。ずっと前からではない。今日まで、あなたはこれを聞いたこともない。『ああ、私は知っていた』とあなたが言わないようにするためだ。
- 8 あなたは聞いたこともなく、知っていたこともない。ずっと前から、あなたの耳は開かれていなかった。わたしは、あなたが必ず裏切ることを、母の胎内にいるときから背く者と呼ばれていたことを知っていたからだ。
- 9 わたしの名のために怒りを遅らせ、わたしの栄誉のためにそれを抑えて、わたしはあなたを絶ち滅ぼさなかった。
- 10 見よ。わたしはあなたを錬ったが、銀のようにではない。わたしは苦しみの炉であなたを試した。
- 11 わたしのため、わたしのために、わたしはこれを行う。どうしてわたしの名が汚されてよかろうか。わたしの栄光を、ほかの者に与えはしない。
- 12 わたしに聞け、ヤコブよ。わたしが呼び出したイスラエルよ。わたしがそれだ。わたしが初めであり、また、終わりである。
- 13 まことに、わたしの手が地の基を定め、わたしの右の手が天を延べ広げた。わたしが呼びかけると、それらはこぞって立ち上がる。
- 14 みな集まって聞け。彼らのうち、だれがこれらのことを告げたのか。主に愛される者が、主の喜ばれることをバビロンに行く。主の御腕はカルデア人に向かう。
- 15 わたしが、このわたしが語り、彼を呼んだのだ。わたしは彼を来させ、彼の行くことを成功させる。
- 16 わたしに近づいて、これを聞け。わたしは初めから、隠れたところでは語らなかった。それが起こったときから、わたしはそこにいた。」今、神である主は、私をその御霊とともに遣わされた。

- 17** イスラエルの聖なる方、あなたを贖う主はこう言われる。「わたしはあなたの神、主である。わたしはあなたに益になることを教え、あなたの歩むべき道にあなたを導く。
- 18** あなたがわたしの命令に耳を傾けてさえいれば、あなたの平安は川のように、正義は海の波のようになったであろうに。
- 19** あなたの子孫は砂のように、あなたの身から出る者は真砂のようになったであろうに。その名はわたしの前から断たれることも、滅ぼされることもなかったであろうに。」
- 20** バビロンから出よ。カルデアから逃れよ。喜びの声をあげて、これを告げ、聞かせよ。地の果てにまで響き渡らせよ。「主が、そのしもべヤコブを贖われた」と言え。
- 21** 主が荒れ果てた地を通らされたときも、彼らは渴くことがなかった。主は彼らのために岩から水を流れ出させ、岩を裂いて水をほとばしり出させられた。
- 22** 「悪しき者には平安がない。」主はそう言われる。

第49章

- 1 島々よ、私に聞け。 遠い国々の民よ、耳を傾けよ。 主は、生まれる前から私を召し、 母の胎内にいたときから私の名を呼ばれた。
- 2 主は私の口を鋭い剣のようにし、 御手の陰に私をかくまい、 私を研ぎ澄まされた矢とし、 主の矢筒の中に私を隠された。
- 3 そして、私に言われた。 「あなたはわたしのしもべ。 イスラエルよ、 わたしはあなたのうちに、わたしの栄光を現す。」
- 4 しかし私は言った。 「私は無駄な骨折りをして、 いたずらに空しく自分の力を使い果たした。 それでも、私の正しい訴えは主とともにあり、 私の報いは私の神とともにある。」
- 5 今、主は言われる。 ヤコブをご自分のもとに帰らせ、 イスラエルをご自分のもとに集めるために、 母の胎内で私を ご自分のしもべとして形造った方が言われる。 私は主の御目に重んじられ、 私の神は私の力となられた。
- 6 主は言われる。 「あなたがわたしのしもべであるのは、 ヤコブの諸部族を立たせ、 イスラエルのうちの残されている者たちを 帰らせるという、 小さなことのためだけではない。 わたしはあなたを国々の光とし、 地の果てにまでわたしの救いを もたらす者とする。」
- 7 イスラエルを贖う方、その聖なる方、主は、 人に蔑まれている者、 国民に忌み嫌われている者に、 支配者たちの奴隷に向かってこう言われる。 「王たちは見て立ち上がり、 首長たちもひれ伏す。 真実である主、 あなたを選んだイスラエルの聖なる者のゆえに。」
- 8 主はこう言われる。 「恵みの時に、わたしはあなたに答え、 救いの日に、わたしはあなたを助ける。 わたしはあなたを見守り、 あなたを民の契約とし、 国を復興して、 荒れ果てたゆずりの地を受け継がせる。
- 9 わたしは捕らわれ人には『出よ』と言い、 闇の中にいる者には『姿を現せ』と言う。 彼らは道すがら羊を飼い、 裸の丘のいたところが彼らの牧場となる。
- 10 彼らは飢えず、 渴かず、 炎熱も太陽も彼らを打たない。 彼らをあわれむ者が彼らを導き、 湧き出る水のほとりに連れて行くからだ。
- 11 わたしは、わたしの山々をすべて道とし、 わたしの大路を高くする。
- 12 見よ。 ある者は遠くから来る。 見よ。 ある者は北から西から、 また、 ある者はシニムの地から来る。」
- 13 天よ、喜びの声をあげよ。 地よ、小躍りせよ。 山々よ、歓喜の声をあげよ。 主がご自分の民を慰め、 その苦しむ者をあわれまれるからだ。
- 14 しかし、シオンは言った。 「主は私を見捨てた。 主は私を忘れた」と。
- 15 「女が自分の乳飲み子を忘れるだろうか。 自分の胎の子をあわれまないだろうか。 たとえ女たちが忘れても、 このわたしは、あなたを忘れない。
- 16 見よ、わたしは手のひらにあなたを刻んだ。 あなたの城壁は、いつもわたしの前にある。
- 17 あなたの子どもたちは急いでやって来る。 あなたを破壊し、 廃墟とした者たちは、 あなたのところから出て行く。

- 18 目を上げて、あたりを見回せ。彼らはみな集まって、あなたのところに来る。わたしは生きている―主のことば―。あなたは必ず、彼らをみな飾り物として身に着け、花嫁のように彼らを帯に結ぶ。
- 19 あなたの廃墟と荒れ跡と滅びた地は、今に、住むには狭すぎるようになり、あなたを呑み込んだ者たちは遠くへ離れ去る。
- 20 あなたが子を失った後に生まれた子らが、再びあなたの耳に言う。『この場所は私には狭すぎる。私が住めるように場所を広くしてください』と。
- 21 そのとき、あなたは心の中で言うだろう。『だれが私に、この者たちを産んでくれたのだろう。私は子に死なれた女、子を産めない女、捕囚のさすらい人であったのに。だれがこの者たちを育てたのだろう。私は、ただひとり残されていたのに、この者たちはどこから来たのだろう。』」
- 22 神である主はこう言われる。「見よ。わたしは国々に向かって手を上げ、わたしの旗を諸国の民に向かって掲げる。彼らは、あなたの息子たちを懷に抱いて来る。あなたの娘たちは肩に担がれて来る。
- 23 王たちはあなたの世話をする者となり、王妃たちはあなたの乳母となる。彼らは顔を地に付けて、あなたを伏し拝み、あなたの足のちりをなめる。あなたは、わたしが主であることを知る。わたしを待ち望む者は恥を見ることがない。」
- 24 奪われた物を勇士から取り戻せるだろうか。捕らわれ人を横暴な者から救い出せるだろうか。
- 25 まことに、主はこう言われる。「捕らわれ人は勇士から取り戻され、奪われた物も横暴な者から奪い返される。あなたが争う者と、このわたしが争い、あなたの子らを、このわたしが救う。
- 26 わたしは、あなたを虐げる者に彼ら自身の肉を食らわせる。彼らは甘いぶどう酒に酔うように、自分自身の血に酔う。すべての肉なる者が、わたしが主、あなたの救い主、あなたの贖い主、ヤコブの力強き者であることを知る。」

第50章

- 1 主はこう言われる。「わたしがあなたがたの母を追い出したという 離縁状はどこにあるのか。わたしがあなたがたを売ったという、わたしの債権者とはだれなのか。見よ。あなたがたは自分たちの咎のために売られ、自分たちの背きのために、母は追い出されたのだ。
- 2 なぜ、わたしが来たときだれもいなかったのか。わたしが呼んだのに、だれも答えなかったのか。わたしの手が短くて贖うことができないのか。わたしには救い出す力がないというのか。見よ。わたしは叱って海を干上がらせ、多くの川を荒野とする。その魚は水がなくて臭くなり、渇きのために死に絶える。
- 3 わたしは天を闇でおおい、粗布をその覆いとする。」
- 4 神である主は、私に弟子の舌を与え、疲れた者をことばで励ますことを教え、朝ごとに私を呼び覚まし、私の耳を呼び覚まして、私が弟子として聞くようにされる。
- 5 神である主は私の耳を開いてくださった。私は逆らわず、うしろに退きもせず、
- 6 打つ者に背中を任せ、ひげを抜く者に頬を任せ、侮辱されても、唾をかけられても、顔を隠さなかった。
- 7 しかし、神である主は私を助けてくださる。それゆえ、私は侮辱されることがない。それゆえ、私は顔を火打石のようにして自分が恥を見ないことを知っている。
- 8 私を義とする方が近くにいてくださる。だれが私と争うのか。さあ、ともに立とう。だれが私をさばく者となるのか。私のところに出て来るがよい。
- 9 見よ。神である主が私を助けてくださる。だれが私を不義に定めるのか。見よ。彼らはみな衣のように古び、シミが彼らを食い尽くす。
- 10 あなたがたのうちで主を恐れ、主のしもべの声に聞き従うのはだれか。闇の中を歩くのに光を持たない人は、主の御名に信頼し、自分の神に抛り頼め。
- 11 見よ。あなたがたはみな、火をともし、燃えさしを身に帯びている。あなたがたは自分たちの火の明かりを持ち、火をつけた燃えさしを持って歩くがよい。このことは、わたしの手によって あなたがたに起こり、あなたがたは苦悶の場所で伏し倒れる。

第51章

- 1 「義を追い求める者、主を尋ね求める者よ、わたしに聞け。あなたがたが切り出された岩、掘り出された穴に目を留めよ。
- 2 あなたがたの父アブラハムと、あなたがたを産んだサラのことを考えてみよ。わたしが彼一人を呼び出し、彼を祝福し、彼を増やしたのだ。
- 3 まことに、主はシオンを慰め、そのすべての廃墟を慰めて、その荒野をエデンのようにし、その砂漠を主の園のようにする。そこには楽しみと喜びがあり、感謝と歌声がある。
- 4 わたしの民よ、わたしに心を留めよ。わたしの国民よ、わたしに耳を傾けよ。おしえはわたしのもとから出て、わたしが、わたしのさばきを 諸国の民の光と定めるからだ。
- 5 わたしの義は近く、わたしの救いは現れた。わたしの腕は諸国の民をさばく。島々はわたしを待ち望み、わたしの腕に期待をかける。
- 6 目を天に上げよ。また、下の地を見よ。まことに、天は煙のように消え失せ、地も衣のように古びて、その上に住む者はブヨのように死ぬ。しかし、わたしの救いはとこしえに続き、わたしの義は絶えることがない。
- 7 義を知る者たちよ、わたしに聞け。心にわたしのおしえを持つ民よ、人のそしりを恐れるな。彼らの、ののしりにくじけるな。
- 8 まことに、シミが彼らを衣のように食い尽くし、虫が彼らを羊毛のように食い尽くす。しかし、わたしの義はとこしえに続き、わたしの救いは代々にわたる。」
- 9 目覚めよ、目覚めよ。力をまといえ、主の御腕よ。目覚めよ。昔の日、いにしえの代のように。ラハブを切り刻み、竜を刺し殺したのは、あなたではないか。
- 10 海を、大いなる淵の水を干上がらせ、海の底に道を設けて、贖われた人々が通るようにしたのは、あなたではないか。
- 11 主に贖われた者たちは帰って来る。彼らは喜び歌いながらシオンに入り、その頭には、とこしえの喜びを戴く。楽しみと喜びがついて来て、悲しみと嘆きは逃げ去る。
- 12 「わたし、わたしこそ、あなたがたを慰める者。あなたは何者なのか。死ななければならぬ人間や、草にも等しい人の子を恐れるとは。
- 13 天を延べ広げ、地の基を定め、あなたを造った主を、あなたは忘れ、一日中、絶えず、虐げる者の憤りにおののいている。まるで滅びに定められているかのように。その虐げる者の憤りはどこにあるのか。
- 14 うずくまる捕らわれ人もすぐに解き放たれ、死んで穴に下ることはなく、パンにも事欠かない。
- 15 わたしはあなたの神、主。海をかき立て、波をとどろかせる。その名は万軍の主。
- 16 わたしのことばをあなたの口に置き、この手の陰にあなたをかばい、天を置き、地の基を定め、『あなたはわたしの民だ』とシオンに言う。」
- 17 目覚めよ、目覚めよ。エルサレムよ、立ち上がれ。あなたは主の手から憤りの杯を飲み、よろめかす大杯を飲み干した。

- 18 彼女が産んだすべての子らのうち、だれも彼女を導く者はなく、彼女が育てたすべての子らのうち、だれも彼女の手を取る者はない。
- 19 これら二つのことがあなたを見舞った。だれがあなたのために嘆くだろうか。暴行と破壊、飢饉と剣。どのようにして、あなたを慰めようか。
- 20 あなたの子たちは気を失い、すべての通りで倒れ伏す。網にかかった大かもしかのように。彼らには、主の憤りと、あなたの神のとがめが満ちている。
- 21 それゆえ、さあ、これを聞け。苦しむ者よ。酔っていても酒のせいでない者よ。
- 22 あなたの主、ご自分の民を弁護するあなたの神、主はこう言われる。「見よ。わたしはあなたの手から、よろめかす杯を取り上げた。あなたはわたしの憤りの大杯を もう二度と飲むことはない。
- 23 わたしはこれを、あなたを悩ます者たちの手に渡す。彼らは、かつてあなたに『ひれ伏せ。われわれは乗り越えて行こう』と言った。それで、あなたは背中を地面のように、また歩道のようにして、彼らが乗り越えて行くのに任せた。」

第52章

- 1 目覚めよ、目覚めよ。力をまとえ、シオンよ。あなたの美しい衣をまとえ、聖なる都エルサレムよ。無割礼の汚れた者は、もう二度とあなたの中に入っては来ない。
- 2 ちりを払い落として立ち上がり、元の座に着け、エルサレムよ。あなたの首からかせを振りほどけ、捕らわれの女、娘シオンよ。
- 3 まことに、主はこう言われる。「あなたがたは、ただで売られた。だから、金を払わずに買い戻される」と。
- 4 まことに、神である主はこう言われる。「わたしの民は初め、エジプトに下って行って、そこに寄留した。また、アッシリア人がゆえなく彼らを苦しめた。
- 5 さあ今、ここでわたしは何をしよう—主のことば—。わたしの民はただで奪い取られ、彼らの支配者たちは悲しみ嘆いている—主のことば—。また、わたしの名は一日中、絶えず侮られている。
- 6 それゆえ、わたしの民はわたしの名を知るようになる。それゆえ、その日彼らは、わたしが『ここにわたしがいる』と告げる者であることを知るようになる。」
- 7 良い知らせを伝える人の足は、山々の上にあって、なんと美しいことか。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神は王であられる」とシオンに言う人の足は。
- 8 あなたの見張りの声がする。彼らは声を張り上げ、ともに喜び歌っている。彼らは、主がシオンに戻られるのを目の当たりにするからだ。
- 9 エルサレムの廃墟よ、ともに大声をあげて喜び歌え。主がその民を慰め、エルサレムを贖われたからだ。
- 10 主はすべての国々の目の前に 聖なる御腕を現された。地の果てのすべての者が 私たちの神の救いを見る。
- 11 去れ、去れ。そこから出て行け。汚れたものに触れてはならない。その中から出て行き、身を清めよ。主の器を運ぶ者たちよ。
- 12 あなたがたは慌てて出なくてもよい。逃げるように去らなくてもよい。主があなたがたの前を進み、イスラエルの神がしんがりとなられるからだ。
- 13 「見よ、わたしのしもべは栄える。彼は高められて上げられ、きわめて高くなる。
- 14 多くの者があなたを見て驚き恐れたように、その顔だちは損なわれて人のようではなく、その姿も人の子らとは違っていた。
- 15 そのように、彼は多くの国々に血を振りまく。王たちは彼の前で口をつぐむ。彼らが告げられていないことを見、聞いたこともないことを悟るからだ。」

第53章

- 1 私たちが聞いたことを、だれが信じたか。主の御腕はだれに現れたか。
- 2 彼は主の前に、ひこばえのように生え出た。砂漠の地から出た根のように。彼には見るべき姿も輝きもなく、私たちが慕うような見栄えもない。
- 3 彼は蔑まれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で、病を知っていた。人が顔を背けるほど蔑まれ、私たちも彼を尊ばなかった。
- 4 まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。それなのに、私たちは思った。神に罰せられ、打たれ、苦しめられたのだと。
- 5 しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。
- 6 私たちはみな、羊のようにさまよい、それぞれ自分勝手な道に向かって行った。しかし、主は私たちすべての者の咎を彼に負わせた。
- 7 彼は痛めつけられ、苦しんだ。だが、口を開かない。屠り場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。
- 8 虐げとさばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことか。彼が私の民の背きのゆえに打たれ、生ける者の地から絶たれたのだと。
- 9 彼の墓は、悪者どもとともに、富む者とともに、その死の時に設けられた。彼は不法を働かず、その口に欺きはなかったが。
- 10 しかし、彼を砕いて病を負わせることは主のみこころであった。彼が自分のいのちを代償のささげ物とするなら、末長く子孫を見ることができ、主のみこころは彼によって成し遂げられる。
- 11 「彼は自分のたましいの 激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を負う。
- 12 それゆえ、わたしは多くの人を彼に分け与え、彼は強者たちを戦勝品として分かち取る。彼が自分のいのちを死に明け渡し、背いた者たちとともに数えられたからである。彼は多くの人の罪を負い、背いた者たちのために、とりなしをする。」

第54章

- 1 「子を産まない不妊の女よ、喜び歌え。産みの苦しみを知らない女よ、喜び叫べ。夫に捨てられた女の子どもは、夫のある女の子どもよりも多いからだ。――主は言われる――
- 2 あなたの天幕の場所を広げ、住まいの幕を惜しみなく張り、綱を長くし、杭を強固にせよ。
- 3 あなたは右と左に増え広がり、あなたの子孫は国々を所有し、荒れ果てた町々を人の住む所とするからだ。
- 4 恐れるな。あなたは恥を見ないから。恥じるな。あなたは辱めを受けないから。まことに、あなたは若いときの恥を忘れ、やもめ時代の屈辱を再び思い出すことはない。
- 5 なぜなら、あなたの夫はあなたを造った者、その名は万軍の主。あなたの贖い主はイスラエルの聖なる者、全地の神と呼ばれているからだ。
- 6 主はあなたを、夫に捨てられた、心に悲しみのある女と呼んだが、若いころの妻をどうして見捨てられるだろうか。――あなたの神は仰せられる――
- 7 わたしはほんの少しの間、あなたを見捨てたが、大いなるあわれみをもって、あなたを集める。
- 8 怒りがあふれて、少しの間、わたしは、顔をあなたから隠したが、永遠の真実の愛をもって、あなたをあわれむ。――あなたを贖う方、主は言われる。
- 9 これは、わたしにはノアの日ようだ。ノアの洪水が、再び地にやって来ることはない、わたしは誓った。そのように、わたしはあなたを怒らず、あなたを責めないと、わたしは誓う。
- 10 たとえ山が移り、丘が動いても、わたしの真実の愛はあなたから移らず、わたしの平和の契約は動かない。――あなたをあわれむ方、主は言われる。
- 11 苦しめられ、嵐にもてあそばれ、慰められなかった女よ。見よ。わたしはアンチモンであなたの石をおおい、サファイアであなたの基を定める。
- 12 あなたの塔を紅玉にし、あなたの門をきらめく石にし、あなたの境をすべて宝石にする。
- 13 あなたの子たちはみな、主によって教えられ、あなたの子たちには豊かな平安がある。
- 14 あなたは義によって強く立てられる。虐げから離れていよ。恐れることはない。恐怖から離れていよ。それが近づくことはない。
- 15 見よ。攻め寄せる者があっても、それはわたしから出たのではない。あなたに攻め寄せる者は、あなたの前に倒れる。
- 16 見よ。炭火を吹きおこし武器を作り出す職人を創造したのは、わたしである。それを壊す破壊者を創造したのもわたしである。
- 17 あなたを攻めるために作られる武器は、どれも役に立たなくなる。また、あなたを責め立てるどんな舌も、さばきのときに、あなたがそれを不義に定める。これが、主のしもべたちの受け継ぐ分、わたしから受ける彼らの義である。――主のことば。――」

第55章

- 1 「ああ、渴いている者はみな、水を求めて出て来るがよい。金のない者も。さあ、穀物を買って食べよ。さあ、金を払わないで、穀物を買え。代価を払わないで、ぶどう酒と乳を。
- 2 なぜ、あなたがたは、食糧にもならないもののために金を払い、腹を満たさないもののために労するのか。わたしによく聞き従い、良いものを食べよ。そうすれば、あなたがたは脂肪で元気づく。
- 3 耳を傾け、わたしのところに出て来い。聞け。そうすれば、あなたがたは生きる。わたしはあなたがたと永遠の契約を結ぶ。それは、ダビデへの確かで真実な約束である。
- 4 見よ。わたしは彼を諸国の民への証人とし、諸国の民の君主とし、司令官とした。
- 5 見よ。あなたが、あなたの知らない国民を呼び寄せると、あなたを知らない国民が、あなたのところに走って来る。これは、あなたの神、主、イスラエルの聖なる者のゆえである。主があなたを輝かせたからだ。」
- 6 主を求めよ、お会いできる間に。呼び求めよ、近くにおられるうちに。
- 7 悪しき者は自分の道を、不法者は自分のはかりごとを捨て去れ。主に帰れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださるから。
- 8 「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、あなたがたの道は、わたしの道と異なるからだ。――主のことば――
- 9 天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。
- 10 雨や雪は、天から降って、もとに戻らず、地を潤して物を生えさせ、芽を出させて、種蒔く人に種を与え、食べる人にパンを与える。
- 11 そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、わたしのところに、空しく帰って来ることはない。それは、わたしが望むことを成し遂げ、わたしが言い送ったことを成功させる。
- 12 まことに、あなたがたは喜びをもって出て行き、平安のうちに導かれて行く。山と丘は、あなたがたの前で喜びの歌声をあげ、野の木々もみな、手を打ち鳴らす。
- 13 茨の代わりに、もみの木が生え、おどろの代わりにミルトスが生える。これは主の記念となり、絶えることのない永遠のしるしとなる。」

第56章

- 1 主はこう言われる。「公正を守り、正義を行え。わたしの救いが来るのは近いからだ。わたしの義が現れるのも。」
- 2 幸いなことよ。安息日を守って、これを汚さず、どんな悪事からもその手を守る人は。このように行う人、このことを堅く保つ人の子は。
- 3 主に連なる異国の民は言ってはならない。「主はきっと、私をその民から切り離される」と。宦官も言ってはならない。「ああ、私は枯れ木だ」と。
- 4 なぜなら、主がこう言われるからだ。「わたしの安息日を守り、わたしの喜びことを選び、わたしの契約を堅く保つ宦官たちには、
- 5 わたしの家、わたしの城壁の中で、息子、娘にもまさる記念の名を与え、絶えることのない永遠の名を与える。
- 6 また、主に連なって主に仕え、主の名を愛して、そのしもべとなった異国の民が、みな安息日を守ってこれを汚さず、わたしの契約を堅く保つなら、
- 7 わたしの聖なる山に来させて、わたしの祈りの家で彼らを楽しませる。彼らの全焼のささげ物やいけにえは、わたしの祭壇の上で受け入れられる。なぜならわたしの家は、あらゆる民の祈りの家と呼ばれるからだ。
- 8 —イスラエルの散らされた者たちを集める方、神である主のことば—すでに集められた者たちに、わたしはさらに集めて加える。」
- 9 野のすべての獣よ。やって来て貪り食うがよい。林の中のすべての獣も。
- 10 神の見張り人は目が見えず、みな何も知らない。彼らはみな口のきけない犬、ほえることもできない。あえいで、横になり、眠りを貪る。
- 11 この犬どもは貪欲で、足ることを知らない。彼らは牧者なのに、悟ることがない。だれもがみな、自分勝手な道に向かって行く。一人残らず、自分の利得に。
- 12 「やって来い。ぶどう酒を持って来るから、強い酒を浴びるほど飲もう。明日も今日と同じだろう。もっと、すばらしいかもしれない。」

第57章

- 1 「義人は滅びるが、心に留める者はいない。誠実な人は取り去られるが、気づく者はいない。義人は、わざわざを前にして取り去られる。
- 2 その人は平安に入り、まっすぐに歩む人は、自分の寝床で休むことができる。
- 3 しかし、あなたがた、女ト者の子ら、姦夫と遊女の子孫よ。ここに近寄れ。
- 4 あなたがたは、だれをからかい、だれに向かって口を大きく開き、舌を出すのか。あなたがたは背きの子、偽りの末裔ではないか。
- 5 あなたがたは、櫟の木の間や、青々と茂るあらゆる木の下で、身を焦がし、谷や、岩の裂け目で子どもを屠っているではないか。
- 6 谷川の滑らかな石があなたの分、それら、それらこそが、あなたの受ける割り当て。それらに、あなたは注ぎのぶどう酒を注ぎ、穀物のささげ物を献げているが、こんな物で、わたしが慰められるだろうか。
- 7 そびえる高い山の上に、あなたは寝床を設け、そこにも上って行って、いけにえを献げた。
- 8 あなたは、扉と柱のうしろに、自分を記念する像を置いた。あなたはわたしを捨てて裸になり、そこに上って自分の寝床を広げ、彼らと契りを結び、彼らの寝床を愛し、彼らの象徴物を見た。
- 9 あなたは油を携えて王のところまで旅し、香料を増し加え、使者たちを遠くまで送り出し、よみにまでも下らせた。
- 10 あなたは、長い旅に疲れても、『あきらめた』とは言わなかった。あなたは元気を回復し、それで弱らなかった。
- 11 あなたは、だれにおじけ、だれを恐れて、まやかしを言うのか。あなたはわたしのことを思い出さず、心にも留めなかった。わたしが久しく黙っていたので、わたしを恐れないのではないか。
- 12 わたしは、あなたの義のわざと、あなたの行いの数々を告げよう。しかし、それらはあなたにとって役には立たない。
- 13 あなたが叫ぶとき、あなたが集めたものどもに、あなたを救わせよ。風が、それらをみな運び去り、もやがそれらを連れ去ってしまう。しかし、わたしに身を寄せる者は、地を受け継ぎ、わたしの聖なる山を所有することができる。
- 14 ―主は言われる― 盛り上げよ。土を盛り上げて、道を整えよ。わたしの民の道から、つまずきを取り除け。」
- 15 いと高くあがめられ、永遠の住まいに住み、その名が聖である方が、こう仰せられる。
「わたしは、高く聖なる所に住み、砕かれた人、へりくだった人とともに住む。へりくだった人たちの霊を生かし、砕かれた人たちの心を生かすためである。
- 16 わたしは、永遠に争うことはなく、いつまでも怒ってはいない。わたしから出た霊が衰え果てるからだ。わたしが造ったいのちの息が。

- 17** 彼の不正な利得の咎のために、わたしは怒った。わたしは顔を隠して彼を打ち、そして怒った。しかし彼はなお背いて、自分の思う道を行った。
- 18** 彼の道を見たが、それでもわたしは彼を癒やす。わたしは彼を導いて、彼とその嘆き悲しむ者たちに、慰めを報いる。
- 19** わたしは唇の実を創造する者。平安あれ。遠くの者にも近くの者にも平安あれ。わたしは彼を癒やす。――主は言われる――
- 20** しかし、悪しき者は荒れ狂う海のような。まことに、それは鎮まることができず、その水は海草と泥を吐き出す。
- 21** 悪しき者には平安がない。――私の神はそう仰せられる。――」

第58章

- 1 「精一杯大声で叫べ。角笛のように声をあげよ。わたしの民に彼らの背きを、ヤコブの家にその罪を告げよ。
- 2 このわたしを、彼らは日ごとに求め、わたしの道を知ることを望んでいる。義を行い、神の定めを捨てたことのない国のように、彼らは正しいさばきをわたしに求め、神に近づくことを望んでいる。
- 3 『なぜあなたは、私たちが断食したのに、ご覧にならず、自らを戒めたのに、認めてくだらないのですか。』見よ。あなたがたは断食の日に自分の好むことをし、あなたがたの労働者をみな、追い立てる。
- 4 見よ。あなたがたが断食をするのは、争いとけんかのためであり、不当に拳で殴るためだ。あなたがたが今のように断食するのでは、いと高き所に、その声は届かない。
- 5 わたしの好む断食、人が自らを戒める日とは、このようなものだろうか。葦のように頭を垂れ、粗布と灰を敷き広げることなのか。これを、あなたがたは断食と呼び、主に喜ばれる日と呼ぶのか。
- 6 わたしの好む断食とはこれではないか。悪の束縛を解き、くびきの縄目をほどき、虐げられた者たちを自由の身とし、すべてのくびきを砕くことではないか。
- 7 飢えた者にあなたのパンを分け与え、家のない貧しい人々を家に入れ、裸の人を見てこれに着せ、あなたの肉親を顧みることではないか。
- 8 そのとき、あなたの光が暁のように輝き出て、あなたの回復は速やかに起こる。あなたの義はあなたの前を進み、主の栄光があなたのしんがりとなる。
- 9 そのとき、あなたが呼ぶと主は答え、あなたが叫び求めると、『わたしはここにいる』と主は言う。もし、あなたの間から、くびきを除き去り、虐げの指をさすことや、邪悪なことばを取り去り、
- 10 飢えた者に心を配り、苦しむ者の願いを満たすなら、あなたの光は闇の中に輝き上り、あなたの暗闇は真昼のようになる。
- 11 主は絶えずあなたを導いて、焼けつく土地でも食欲を満たし、骨を強くする。あなたは、潤された園のように、水の涸れない水源のようになる。
- 12 あなたのうちのある者は、昔の廃墟を建て直し、あなたは代々にわたる礎を築き直し、『破れを繕う者、通りを住めるように回復する者』と呼ばれる。
- 13 もし、あなたが安息日に出歩くことをやめ、わたしの聖日に自分の好むことをせず、安息日を『喜びの日』と呼び、主の聖日を『栄えある日』と呼び、これを尊んで、自分の道を行かず、自分の好むことを求めず、無駄口を慎むなら、
- 14 そのとき、あなたは主をあなたの喜びとする。わたしはあなたに地の高い所を踏み行かせ、あなたの父ヤコブのゆずりの地であなたを養う。—主の御口がそう語られる。」

第59章

- 1 見よ。主の手が短くて救えないのではない。その耳が遠くて聞こえないのではない。
- 2 むしろ、あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。
- 3 実に、あなたがたの手は血で、指は咎で汚れている。あなたがたの唇は偽りを語り、舌は不正を告げる。
- 4 義をもって訴える者はなく、真実をもって弁護する者もない。空しいことに頼り、嘘を言い、邪悪をはらみ、不正を産む。
- 5 彼らは、まむしの卵をかえし、くもの巣を織る。その卵を食べる者は死に、卵をつぶすと毒蛇が飛び出す。
- 6 そのくもの巣は衣にはならず、自分の作ったもので身をおおうこともできない。彼らのわざは不義のわざ、暴虐の行いがその手にある。
- 7 その足は悪に走り、咎なき者の血を流すのに速い。その思いは不義の思い。暴行と破滅が彼らの大路にある。
- 8 彼らは平和の道を知らず、その道筋には公正がない。自分の通り道を曲げ、そこを歩む者はだれも平和を知らない。
- 9 それゆえ、公正は私たちから遠く離れ、義は私たちに届かない。私たちは光を待ち望んでいたが、見よ、闇。輝きを待ち望んでいたが、歩くのは暗闇の中。
- 10 私たちは見えない人のように壁を手さぐりし、目が無いかのように手さぐりする。真昼でも、たそがれ時のようにつまずき、強健な者の中にいる死人のようだ。
- 11 私たちはみな、熊のようにうなり、鳩のようにぶつぶつうめく。公正を待ち望むが、それはなく、救いを待ち望むが、私たちから遠く離れている。
- 12 それは、私たちの背きが御前で多くなり、私たちの罪が不利な証言をするからだ。まことに、私たちの背きは私たちとともにあり、私たちは自分の咎をよく知っている。
- 13 私たちは主に背き、主を否んで、私たちの神に従うことをやめ、虐げと反逆を語り、心に偽りのことばをはらんで告げる。
- 14 こうして公正は退けられ、正義は遠く離れて立っている。それは、真理が広場でつまずき、正直さが中に入ることもできないからだ。
- 15 そこでは真理は失われ、悪から遠ざかっている者も略奪される。主はこれを見て、公正がないことに心を痛められた。
- 16 主は人がいないのを見て、とりなす者がいないことに啞然とされた。それで、ご自分の御腕で救いをもたらし、ご自分の義を支えとされた。
- 17 主は義をよろいのように着て、救いのかぶとを頭にかぶり、復讐の衣を身にまとい、ねたみを外套として身をおおわれた。
- 18 主は彼らの仕打ちに応じて報い、はむかう者に憤り、敵に報復し、島々にも報復をされる。

- 19** そうして、西の方では主の御名が、日の昇る方では主の栄光が恐れられる。それは、主が激しい流れのように来られ、その中で主の息が吹きまくっているからだ。
- 20** 「しかし、シオンには贖い主として来る。ヤコブの中の、背きから立ち返る者のところに。――主のことば。」
- 21** 「これは、彼らと結ぶわたしの契約である――主は言われる――。あなたの上にあるわたしの霊、わたしがあなたの口に置いたわたしのことばは、あなたの口からも、あなたの子孫の口からも、子孫の子孫の口からも、今よりとこしえに離れない――主は言われる。」

第60章

- 1 「起きよ。輝け。まことに、あなたの光が来る。主の栄光があなたの上に輝く。
- 2 見よ、闇が地をおおっている。暗黒が諸国の民を。しかし、あなたの上には主が輝き、主の栄光があなたの上に現れる。
- 3 国々はあなたの光のうちを歩み、王たちはあなたの輝きに照らされて歩む。
- 4 目を上げて、あたりを見渡せ。彼らはみな集まって、あなたのもとに来る。あなたの息子たちは遠くから来る。娘たちは脇に抱かれながら。
- 5 そのとき、あなたはこれを見て晴れやかになり、心は震えて、喜ぶ。それは、海の富があなたのところに移され、国々の財宝もあなたのもとに来るからだ。
- 6 らくだの大群が、ミディアンとエファの若いらくだが、あなたのところをおおい尽くす。これらシェバから来るものはみな、金と乳香を携えて、主の誉れを宣べ伝える。
- 7 ケダルの羊もみな、あなたのもとに集まり、ネバヨテの雄羊は、あなたに仕える。これは受け入れられ、わたしの祭壇に献げられる。わたしは、わたしの輝かしい家をさらに輝かす。
- 8 雨雲のように飛ぶ者、鳩のように巢に帰る者はだれか。
- 9 まことに、島々はわたしを待ち望み、タルシシュの船は真っ先に、あなたの子らを遠くから運んで来る。彼らの銀と金とともに。それは、あなたの神、主の名のため、イスラエルの聖なる者のためであり、主があなたを輝かせたからである。
- 10 異国の民もあなたの城壁を築き直し、その王たちもあなたに仕える。わたしは激しく怒って、あなたを打ったが、恵みをもって、あなたをあわれむからだ。
- 11 あなたの門はいつも開かれ、昼も夜も閉じられない。国々の財宝があなたのところに運ばれ、その王たちが導かれて来るためである。
- 12 あなたに仕えない国民や王国は滅び、これらの国々は荒れ果てる。
- 13 レバノンの栄光は、もみの木、すずかけ、檜も、ともに、あなたのもとに来て、わたしの聖所を輝かせる。わたしは、自分の足台を栄光あるものとする。
- 14 あなたを苦しめた者たちの子らは、身をかがめてあなたのところに来る。あなたを侮った者どもはみな、あなたの足もとにひれ伏して、あなたを『主の都、イスラエルの聖なる方のシオン』と呼ぶ。
- 15 あなたは捨てられ、憎まれて、通り過ぎる人もなかったが、わたしはあなたを永遠の誇り、代々の喜びに変える。
- 16 あなたは国々の乳を吸い、王たちの乳房を吸う。あなたは、わたしが主、あなたを救う者、あなたを贖う者、ヤコブの力強き者であることを知る。
- 17 わたしは青銅の代わりに金を運び入れ、鉄の代わりに銀、木の代わりに青銅、石の代わりに鉄を運び入れ、平和をあなたの管理者とし、正義をあなたの監督者とする。
- 18 あなたの国には暴虐はもう聞かれず、あなたの領土には暴行と破滅は聞かれない。あなたは、あなたの城壁を救いと呼び、あなたの門を賛美と呼ぶ。

- 19 太陽はもはや、あなたの昼の光とはならず、月の明かりもあなたを照らさない。主があなたの永遠の光となり、あなたの神があなたの輝きとなる。
- 20 あなたの太陽はもう沈むことがなく、あなたの月は陰ることがない。主があなたの永遠の光となり、あなたの嘆き悲しむ日が終わるからである。
- 21 あなたの民はみな正しい者となり、永遠にその地を所有する。彼らは栄光を現す、わたしが植えた枝。わたしの手で造ったもの。
- 22 最も小さい者も軍団となり、最も弱い者も強国となる。わたしは主。時が来れば、速やかにそれをする。」

第61章

- 1 神である主の霊がわたしの上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、心の傷ついた者を癒やすため、主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。捕らわれ人には解放を、囚人には釈放を告げ、
- 2 主の恵みの年、われらの神の復讐の日を告げ、すべての嘆き悲しむ者を慰めるために。
- 3 シオンの嘆き悲しむ者たちに、灰の代わりに頭の飾りを、嘆きの代わりに喜びの油を、憂いの心の代わりに賛美の外套を着けさせるために。彼らは、義の樫の木、栄光を現す、主の植木と呼ばれる。
- 4 彼らは昔の廃墟を建て直し、かつての荒れ跡を復興し、廃墟の町々、代々の荒れ跡を一新する。
- 5 他国の人は立って、あなたがたの羊の群れを飼い、異国の民があなたがたの農夫となり、ぶどう作りとなる。
- 6 しかし、あなたがたは主の祭司と呼ばれ、われわれの神に仕える者と言われる。あなたがたは国々の財宝を味わい、彼らの富を誇る。
- 7 あなたがたは恥に代えて、二倍のものを受け、人々は侮辱に代えて、その分け前に喜び歌う。それゆえ、人々は自分の地で二倍のものを所有し、とこしえの喜びが自分のものとなる。
- 8 「まことに、わたしは主、公正を愛し、不法な略奪を憎む。わたしは真実をもって彼らのわざに報い、永遠の契約を彼らと結ぶ。
- 9 彼らの子孫は国々のうちで、末裔は諸国の民のうちで知れ渡る。彼らを見る者はみな、彼らが主に祝福された子孫であることを認める。」
- 10 私は主にあって大いに楽しみ、私のたましいも私の神にあって喜ぶ。主が私に救いの衣を着せ、正義の外套をまといせ、花婿のように栄冠をかぶらせ、花嫁のように宝玉で飾ってくださるからだ。
- 11 地が芽を出し、園が蒔かれた種を芽生えさせるように、神である主が、正義と賛美をすべての国々の前に芽生えさせるからだ。

第62章

- 1 シオンのために、わたしは黙っていない。エルサレムのために沈黙はしない。その義が明るく光を放ち、その救いが、たいまつのように燃えるまでは。
- 2 そのとき、国々はあなたの義を、すべての王があなたの栄光を見る。そのとき、あなたは新しい名で呼ばれる。主の御口が名づける名で。
- 3 あなたは主の手にある輝かしい冠となり、あなたの神の手のひらにある王のかぶり物となる。
- 4 あなたはもう、「見捨てられた」と言われず、あなたの土地は「荒れ果てている」とは言われない。かえって、あなたは「わたしの喜びは彼女にある」と呼ばれ、あなたの国は「夫のある国」と呼ばれる。それは、主の喜びがあなたにあり、あなたの国が夫を得るからである。
- 5 若い男が若い女の夫となるように、あなたの息子たちはあなたの夫となる。花婿が花嫁を喜ぶように、あなたの神はあなたを喜ぶ。
- 6 「エルサレムよ、わたしはあなたの城壁の上に見張り番を置いた。終日終夜、彼らは、一時も黙っていてはならない。思い起こしていただこうと主に求める者たちよ、休んではならない。
- 7 主を休ませてはならない。主がエルサレムを堅く立て、この地の誉れとするまで。」
- 8 主は右の手と力強い腕によって誓われた。「わたしはあなたの穀物を再び敵に食物として与えはしない。あなたが労して作った新しいぶどう酒を、異国の民が飲むことはない。
- 9 取り入れをした者が、それを食べて主をほめたたえ、ぶどうを取り集めた者が、わたしの聖所の庭でそれを飲む。」
- 10 通れ、通れ、城門を。この民の道を整えよ。盛り上げ、土を盛り上げて、大路を造れ。石を除いて、もろもろの民の上に旗を揚げよ。
- 11 見よ、主は地の果てに聞かせられた。「娘シオンに言え。『見よ、あなたの救いが来る。見よ、その報いは主とともにあり、その報酬は主の前にある』と。」
- 12 彼らは、聖なる民、主に贖われた者と呼ばれ、あなたは、追い求められる者、見捨てられることのない都と呼ばれる。

第63章

- 1 「エドムから来るこの方はだれだろう。 ボツラから深紅の衣を着て来る方は。 その装いには威光があり、 大いなる力をもって進んで来る。」 「わたしは正義をもって語り、 救いをもたらす大いなる者。」
- 2 「なぜ、あなたの装いは赤く、 衣はぶどう踏みをする者のようなのですか。」
- 3 「わたしはひとりでぶどう踏みをした。 諸国の民のうちで、 事をともにする者はだれもいなかった。 わたしは怒って彼らを踏み、 憤って彼らを踏みにじった。 彼らの血の滴りはわたしの衣にはねかかり、 わたしの装いをすっかり汚してしまった。
- 4 復讐の日がわたしの心のうちにあり、 わたしの贖いの年が来たからだ。
- 5 見回しても、 助ける者はだれもなく、 支える者がだれもないことに啞然とした。 それで、わたしの腕がわたしの救いとなり、 わたしの憤り、それがわたしの支えとなった。
- 6 わたしは怒って諸国の民を踏みつけ、 わたしの憤りをもって彼らを酔わせ、 彼らの血の滴りを地に流れさせた。」
- 7 私は主の恵みを語り告げる。 主の奇しいみわざの数々を。 主が与えてくださったすべてのことを。 そのあわれみと豊かな恵みにしたがって 与えてくださった、イスラエルの家への豊かな恵みを。
- 8 主は言われた。「まことに、彼らはわたしの民、 偽りのない子たちだ」と。 こうして主は彼らの救い主になられた。
- 9 彼らが苦しむときには、 いつも主も苦しみ、 主の臨在の御使いが彼らを救った。 その愛とあわれみによって、 主は彼らを贖い、 昔からずっと彼らを背負い、 担ってくださった。
- 10 しかし彼らは逆らって、 主の聖なる御霊を悲しませたので、 主は彼らの敵となり、 自ら彼らと戦われた。
- 11 そのとき、主の民は いにしえのモーセの日を思い出した。 彼らを、ご自分の群れの牧者たちとともに 海から導き上った方は、どこにおられるのか。 その中に主の聖なる御霊を置いた方は、どこにおられるのか。
- 12 その輝かしい御腕をモーセの右に進ませ、 彼らの前で水を分けて、永遠の名を成し、
- 13 彼らに深みの底を 歩ませた方は、どこにおられるのか。 荒野の中を行く馬のように、 彼らはつまずくことはなかった。
- 14 谷に下る家畜のように、 主の御霊が彼らを憩わせた。 このようにして、あなたはご自分の民を導き、 ご自分のために輝かしい名を成されました。
- 15 どうか、天から見下ろし、ご覧ください。 あなたの聖なる輝かしい御住まいから。 あなたの熱心と力あるわざは、どこにあるのでしょうか。 私へのたぎる思いとあわれみを、あなたは抑えておられるのですか。
- 16 まことに、あなたは私たちの父です。 たとえ、アブラハムが私たちを知らず、イスラエルが私たちを認めなくても、 主よ、あなたは私たちの父です。 あなたの御名は、とこしえから「私たちの贖い主」。

- 17 主よ。なぜあなたは 私たちをあなたの道から迷い出させ、 私たちの心を頑なにして、 あなたを恐れなくされるのですか。 あなたのしもべたち、 あなたのゆずりの地の部族のために、 どうかお帰りください。
- 18 あなたの聖なる民がこの地を所有して間もなく、 私たちの敵はあなたの聖所を踏みつけました。
- 19 私たちは、とこしえから、 あなたに支配されたこともなく、 御名で呼ばれたこともない者のようです。

第64章

- 1 ああ、あなたが天を裂いて降りて来られると、 山々はあなたの御前で揺れ動きます。
- 2 火が柴に燃えつき、 火が水を沸き立たせるように、 あなたの御名はあなたの敵に知られ、 国々はあなたの御前で震えます。
- 3 予期しない恐ろしいことを あなたが行われるとき、 あなたは降りて来られ、 山々はあなたの御前で揺れ動きます。
- 4 とこしえから聞いたこともなく、 耳にしたこともなく、 目を見たこともありません。 あなた以外の神が 自分を待ち望む者のために、 このようにするのを。
- 5 あなたは会ってくださいます。 喜び、正義を行う者たちに。 彼らは、あなたの道であなたを心に留めます。 実にあなたは、激しく怒られました。 私たちはその道で久しく罪の中にいたのです。 私たちは救われるでしょうか。
- 6 私たちはみな、汚れた者のようになり、 その義はみな、不潔な衣のようです。 私たちはみな、木の葉のように枯れ、 その咎は風のように私たちを吹き上げます。
- 7 しかし、あなたの御名を呼ぶ者はなく、 奮い立って、あなたにすがる者もいません。 あなたは私たちから御顔を隠し、 私たちの咎によって、私たちを弱められました。
- 8 しかし、今、主よ、あなたは私たちの父です。 私たちは粘土で、あなたは私たちの陶器師です。 私たちはみな、あなたの御手のわざです。
- 9 主よ、どうか激しく怒らないでください。 いつまでも、咎を覚えていないでください。 どうか今、私たちがみな、あなたの民であることに 目を留めてください。
- 10 あなたの聖なる町々は荒野となっています。 シオンは荒野となり、 エルサレムは荒れ果てています。
- 11 私たちの聖なる美しい宮、 私たちの先祖があなたをほめたたえたその場所は 火で焼かれ、 私たちが宝とした所は、すべて廃墟となりました。
- 12 主よ。それでも、あなたはじっとこらえ、 黙っていて、私たちをこんなに苦しめるのですか。

第65章

- 1 「わたしを尋ねなかった者たちに、わたしは尋ね求められ、わたしを探さなかった者たちに、わたしは見出された。わたしの名を呼び求めなかった国民に向かって、『わたしはここだ、わたしはここだ』と言った。
- 2 わたしは終日、頑なな民に手を差し伸べた。自分の考えのまま、良くない道を歩む者たちに。
- 3 この民はいつもわたしに逆らって わたしの怒りを引き起こす。園の中でいけにえを献げ、れんがの上で犠牲を供え、
- 4 墓地に座り、見張り小屋に宿り、豚の肉を食べ、汚れた肉の汁を器に入れ、
- 5 『そこに立っていよ。私に近寄るな。私はあなたにはあまりにも聖なるものだ』と言う。これらは、わたしの怒りの煙、終日、燃え続ける火である。
- 6 見よ、これはわたしの前に書かれている。わたしは黙っていない。必ず報いる。わたしは彼らの懷に報いる。
- 7 おまえたちの咎とおまえたちの先祖の咎を ともどもに。――主は言われる――彼らは山の上で犠牲を供え、丘の上でわたしをそしった。わたしは、彼らのかつての行いを量って、彼らの懷に報いる。」
- 8 主はこう言われる。「ぶどうの房の中に甘い汁があるのを見れば、『それを損なうな。その中に祝福があるから』と言うように、わたしも、わたしのしもべたちのために、そのすべては滅ぼさない。
- 9 わたしは、ヤコブから子孫を ユダから、わたしの山々を所有する者を 生まれさせる。わたしの選んだ者がこれを所有し、わたしのしもべたちがそこに住む。
- 10 わたしを求めた、わたしの民にとって、シャロンは羊の群れの牧場、アコルの谷は牛の群れの伏すところとなる。
- 11 しかし、おまえたち、主を捨てる者たちよ、わたしの聖なる山を忘れる者、ガドのために食卓を整える者、メニのために、混ぜ合わせた酒を盛る者たちよ。
- 12 わたしはおまえたちを剣に渡す。それで、おまえたちはみな、虐殺されて倒れる。わたしが呼んでも答えず、わたしが語りかけても聞かず、わたしの目に悪であることを行い、わたしが喜ばないことを選んだからだ。」
- 13 それゆえ、神である主はこう言われる。「見よ、わたしのしもべたちは食べる。しかし、おまえたちは飢える。見よ、わたしのしもべたちは飲む。しかし、おまえたちは渴く。見よ、わたしのしもべたちは喜ぶ。しかし、おまえたちは恥を見る。
- 14 見よ、わたしのしもべたちは心の底から喜び歌う。しかし、おまえたちは心の痛みによって叫び、霊に傷を受けて泣き叫ぶ。
- 15 おまえたちは自分の名を、わたしの選んだ者たちにのろいとして残す。神である主は、おまえたちを殺す。しかし、自分のしもべたちを ほかの名で呼ぶ。
- 16 この地で祝福される者は まことの神によって祝福され、この地で誓う者は まことの神によって誓う。かつての苦難は忘れられ、わたしの目から隠されるからだ。

- 17 見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。先のことは思い出されず、心に上ることもない。
- 18 だから、わたしが創造するものを、いついつまでも楽しみ喜べ。見よ。わたしはエルサレムを創造して喜びとし、その民を楽しみとする。
- 19 わたしはエルサレムを喜び、わたしの民を楽しむ。そこではもう、泣き声も叫び声も聞かれない。
- 20 そこにはもう、数日しか生きない乳飲み子も、寿命を全うしない老人もいない。百歳で死ぬ者は若かったとされ、百歳にならないで死ぬ者は、のろわれた者とされる。
- 21 彼らは家を建てて住み、ぶどう畑を作って、その実を食べる。
- 22 彼らが建てて他人が住むことはなく、彼らが植えて他人が食べることはない。わたしの民の寿命は、木の寿命に等しく、わたしの選んだ者たちは、自分の手で作った物を存分に用いることができるからだ。
- 23 彼らは無駄に労することもなく、子を産んで、突然その子が死ぬこともない。彼らは主に祝福された者の末裔であり、その子孫たちは彼らとともにいるからだ。
- 24 彼らが呼ばないうちに、わたしは答え、彼らがまだ語っているうちに、わたしは聞く。
- 25 狼と子羊はともに草をはみ、獅子は牛のように藁を食べ、蛇はちりを食べ物とし、わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、滅ぼすこともない。――主は言われる。」

第66章

- 1 主はこう言われる。「天はわたしの王座、地はわたしの足台。あなたがたがわたしのために建てる家は、いったいどこにあるのか。わたしの安息の場は、いったいどこにあるのか。
- 2 これらすべては、わたしの手が造った。それで、これらすべては存在するのだ。――主のことば――わたしが目を留める者、それは、貧しい者、霊の砕かれた者、わたしのことばにおののく者だ。
- 3 牛を屠る者が、人を打ち殺す者。羊をいけにえにする者が、犬の首を折る者。穀物のささげ物を献げる者が、豚の血を献げる者。乳香を記念として献げる者が、偶像をたたえる者。実に彼らは自分の道を選び、そのたましいは忌まわしいものを喜ぶ。
- 4 わたしも彼らを厳しく扱うことを選び、彼らに恐怖をもたらす。それは、わたしが呼んでもだれも答えず、わたしが語りかけても聞かず、わたしの目に悪であることを行い、わたしの喜ばないことを選んだからだ。」
- 5 主のことばにおののく者たちよ、主のことばを聞け。「あなたがたを憎み、わたしの名のゆえにあなたがたを押しつける、あなたがたの同胞は言った。『主に栄光を現させよ。おまえたちの楽しみを見てやろう』と。しかし、彼らは恥を見る。」
- 6 都から騒ぎが、宮から声が聞こえる。敵に報復する主の御声が。
- 7 「彼女は産みの苦しみが来る前に産み、陣痛が来る前に男の子を産み落とす。
- 8 だれが、このようなことを聞き、だれが、これらのことを見たか。地は一日の苦しみに産み出されるだろうか。国は一瞬にして生まれるだろうか。ところがシオンは、産みの苦しみと同時に 子たちを産む。
- 9 わたしが胎を開きながら、産ませないだろうか。――主は言われる――わたしは産ませる者なのに、胎を閉ざすだろうか。――あなたの神は仰せられる。」
- 10 エルサレムとともに喜べ。すべて彼女を愛する者よ、彼女とともに楽しめ。すべて彼女のために悲しむ者よ、彼女とともに喜び喜べ。
- 11 あなたが彼女の慰めの乳房から飲んで満ち足り、その豊かな乳房から吸って喜びを得るために。
- 12 主はこう言われる。「見よ。わたしは川のように繁栄を彼女に与え、あふれる流れのように国々の栄光を与える。あなたがたは乳を飲み、脇に抱かれ、膝の上でかわいがられる。
- 13 母に慰められる者のように、わたしはあなたがたを慰める。エルサレムであなたがたは慰められる。
- 14 あなたがたがこれを見るとき、その心は喜び、骨は若草のように生き返る。主の手はのしもべたちに知られる。その憤りは敵たちに。」
- 15 見よ。主は火を伴って進んで来られる。その戦車はつむじ風のように。主は激しい憤りをもって、怒りを下し、火の炎をもって、叱責を下す。
- 16 実に、主は火をもってさばき、その剣で、すべての肉なる者をさばく。主に刺し殺された者は多い。

- 17 「自分の身を聖別し、身をきよめて園に行き、 その中にある一つのものに従って、 豚の肉、忌むべき物、ねずみを食らう者たちは、 みなともに絶ち滅ぼされる。 —主のことば。」
- 18 「わたしは彼らのわざと思いを知っている。わたしはすべての国々と種族を集めに来る。 彼らは来て、わたしの栄光を見る。
- 19 わたしは彼らの中にしるしを置き、彼らのうちの逃れた者たちを諸国に遣わす。すなわち、タルシシュ、プル、弓を引く者ルデ、トバル、ヤワン、そして、わたしのうわさを聞いたことも、わたしの栄光を見たこともない遠い島々に。彼らはわたしの栄光を諸国の民に告知らせる。
- 20 彼らはすべての国々から、あなたがたの同胞をみな主への贈り物として、馬、車、輿、らば、らくだに乗せて、わたしの聖なる山エルサレムに連れて来る—主は言われる—。それはちょうど、イスラエルの子らが穀物のささげ物をきよい器に入れて、主の宮に携えて来るのと同じである。
- 21 わたしは彼らの中からも、ある者を選んで祭司とし、レビ人とする—主は言われる。
- 22 わたしが造る新しい天と新しい地が、 わたしの前にいつまでも続くのと同じように、 —主のことば— あなたがたの子孫とあなたがたの名も いつまでも続く。
- 23 新月の祭りごとに、安息日ごとに、 すべての肉なる者がわたしの前に来て礼拝する。 —主は言われる—
- 24 彼らは出て行って、 わたしに背いた者たちの屍を見る。 そのうじ虫は死なず、その火も消えず、 それはすべての肉なる者の嫌惡の的となる。」

エレミヤ書

Jeremiah

第1章

- 1 ベニヤミンの地、アナトテにいた祭司の一人、ヒルキヤの子エレミヤのことば。
- 2 このエレミヤに主のことばがあった。ユダの王、アモンの子ヨシヤの時代、その治世の第十三年のことである。
- 3 それはさらに、ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの時代にもあり、ユダの王、ヨシヤの子ゼデキヤの第十一年の終わりまで、すなわち、その年の第五の月、エルサレムの民の捕囚まで続いた。
- 4 次のような主のことばが私にあった。
- 5 「わたしは、あなたを胎内に形造る前から あなたを知り、 あなたが母の胎を出る前からあなたを聖別し、 国々への預言者と定めていた。」
- 6 私は言った。「ああ、神、主よ、ご覧ください。私はまだ若くて、 どう語ってよいかわかりません。」
- 7 主は私に言われた。「まだ若い、と言うな。 わたしがあなたを遣わすすべてのところへ行き、 わたしがあなたに命じるすべてのことを語れ。
- 8 彼らの顔を恐れるな。 わたしがあなたとともにいて、 あなたを救い出すからだ。 —主のことば。」
- 9 そのとき主は御手を伸ばし、私の口に触れられた。 主は私に言われた。「見よ、わたしは、わたしのことばを あなたの口に与えた。
- 10 見なさい。わたしは今日、 あなたを諸国の民と王国の上に任命する。 引き抜き、引き倒し、 滅ぼし、壊し、 建て、また植えるために。」
- 11 主のことばが私にあった。「エレミヤ、あなたは何を見ているのか。」私は言った。「アーモンドの枝を見えています。」
- 12 すると主は私に言われた。「あなたの見たとおりだ。わたしは、わたしのことばを実現しようとしている。」
- 13 再び主のことばが私にあった。「あなたは何を見ているのか。」私は言った。「煮え立った釜を見えています。それは北からこちらに傾いています。」
- 14 すると主は私に言われた。「わざわざ北から、この地の全住民の上に 降りかかる。
- 15 今わたしは、北のすべての王国の民に 呼びかけている。 —主のことば— 彼らはやって来て、エルサレムの門の入り口で、 周囲のすべての城壁とユダのすべての町に向かい それぞれ王座を設ける。
- 16 わたしは、この地の全住民の悪に対して ことごとくさばきを下す。 彼らがわたしを捨てて、ほかの神々に犠牲を供え、 自分の手で造った物を拝んだからだ。
- 17 さあ、あなたは腰に帯を締めて立ち上がり、 わたしがあなたに命じるすべてのことを語れ。 彼らの顔におびえるな。 さもないと、わたしがあなたを 彼らの顔の前でおびえさせる。
- 18 見よ。わたしは今日、あなたを 全地に対して、ユダの王たち、首長たち、祭司たち、民衆に対して 要塞の町、鉄の柱、青銅の城壁とする。

- 19 彼らはあなたと戦っても、あなたに勝てない。わたしがあなたとともにいて、一主のことば—あなたを救い出すからだ。」

第2章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「さあ、行ってエルサレムの人々に宣言せよ。『主はこう言われる。わたしは、あなたの若いころの真実の愛、婚約時代の愛、種も蒔かれていなかった地、荒野でのわたしへの従順を覚えている。
- 3 イスラエルは主の聖なるもの、その収穫の初穂であった。これを食らう者はだれでも罰を受け、わざわざを被った。—主のことば—
- 4 ヤコブの家よ、イスラエルの家の全部族よ、主のことばを聞け。
- 5 主はこう言われる。あなたがたの先祖は、わたしにどんな不正を見つけたというのか。わたしから遠く離れ、空しいものに従って行き、空しいものになってしまうとは。
- 6 彼らはこう尋ねることさえしなかった。「主はどこにおられるのか。われわれをエジプトの地から上らせた方、われわれに、あの荒野、穴だらけの荒れた地を、乾いた、死の陰の地、人も通らず、だれも住まない地を 行かせた方は。」
- 7 わたしはあなたがたを、実り豊かな地に伴い、その良い実を食べさせた。ところが、あなたがたは入って来て、わたしの地を汚し、わたしのゆずりの地を 忌み嫌うべきものにした。
- 8 祭司たちは、「主はどこにおられるのか」と言うことがなく、律法を扱う者たちも、わたしを知らず、牧者たちもわたしに背き、預言者たちはバアルによって預言し、役立たずのものに従って行った。
- 9 それゆえ、わたしはなお、あなたがたと争う。—主のことば— また、あなたがたの子孫と争う。
- 10 キティムの島々に渡って、よく見よ。ケダルに人を遣わして見極めよ。このようなことがあったかどうか、確かめよ。
- 11 かつて、自分の神々を、神々でないものと 取り替えた国民があっただろうか。ところが、わたしの民は自分たちの栄光を 役に立たないものと取り替えた。
- 12 天よ、このことに呆れ果てよ。おぞ気立て。涸れ果てよ。—主のことば—
- 13 わたしの民は二つの悪を行った。いのちの水の泉であるわたしを捨て、多くの水溜めを自分たちのために掘ったのだ。水を溜めることのできない、壊れた水溜めを。
- 14 イスラエルは奴隷なのか。それとも家に生まれたしもべなのか。なぜ、獲物にされたのか。
- 15 若獅子は彼に向かって吼えたけり、うなり声をあげて、その地を荒れ果てさせる。その町々は焼かれて、住む者がいなくなる。
- 16 メンフィスとタフパンヘスの子らも、あなたの頭の頂を剃り上げる。
- 17 あなたの神、主があなたに道を進ませたとき、あなたが主を捨てたために、このことがあなたに起こったのではないか。
- 18 今、ナイル川の水を飲みに エジプトへの道に向かうとは、いったいどうしたことか。大河の水を飲みに アッシリアへの道に向かうとは、いったいどうしたことか。

- 19 あなたの悪があなたを懲らしめ、あなたの背信があなたを責める。だから、知り、見極めよ。あなたがあなたの神、主を捨てて、わたしを恐れないのは、いかに悪く苦いことかを。一万軍の神、主のことば。
- 20 実に、遠い昔にあなたは自分のくびきを砕き、自分のかせを打ち砕いて、「私は仕えない」と言った。まさしく、あなたはすべての高い丘の上や、青々と茂るあらゆる木の下で、寝そべて淫行を行っている。
- 21 わたしは、あなたをみな、純種の良いがどうして植えたのに、どうしてあなたは、わたしにとって、質の悪い雑種のぶどうに変わってしまったのか。
- 22 たとえ、あなたが重曹で身を洗い、たくさんの灰汁を使っても、あなたの咎は、わたしの前に汚れたままだ。一神である主のことば—
- 23 どうしてあなたは、「私は汚れていない。バアルの神々に従わなかった」と言えるのか。谷の中でのあなたの行いを省み、自分が何をしたかを知れ。あなたは、あちらこちら道を走り回るすばやい雌のらくだ。
- 24 また、欲情に息あえぐ荒野に慣れた野ろばだ。さかりのとき、だれがこれを制し得るだろう。これを探す者は苦労しない。発情の月に見つけることができる。
- 25 裸足にならないように、喉が渇かないようにせよ。しかし、あなたは言う。「あきらめられません。他国の男たちが好きなので、私は彼らについて行きます」と。
- 26 盗人が、見つかったときに恥を見るように、イスラエルの家も恥を見る。彼らの王たち、首長たち、祭司たち、預言者たちも。
- 27 彼らは木に向かって「あなたは私の父」、石に向かって「あなたは私を生んだ」と言っている。実に、彼らはわたしに背を向け、顔を向けない。それなのに、わざわいのときには「立って、私たちを救ってください」と言う。
- 28 では、あなたが造った神々はどこにいるのか。あなたのわざわいのときには彼らが立って救えばよい。ユダよ、あなたの神々はあなたの町の数ほどもいるではないか。
- 29 なぜ、あなたがたはわたしと争うのか。あなたがたはみな、わたしに背いてきた。一主のことば—
- 30 わたしはあなたがたの子らを打ったが、無駄だった。彼らはその懲らしめを受け入れなかった。あなたがたの剣は、食い滅ぼす獅子のように、あなたがたの預言者たちを食い尽くした。
- 31 あなたがた、この時代の人々よ。主のことばに心せよ。わたしはイスラエルにとって荒野であったのか。あるいは暗黒の地であったのか。なぜわたしの民は、「私たちは、さまよい歩きます。もうあなたのところには行きません」と言うのか。
- 32 おとめが自分の飾り物を、花嫁が自分の飾り帯を忘れるだろうか。しかし、わたしの民はわたしを忘れた。その日数は数えきれない。
- 33 あなたが愛を求める方法は、なんと巧みなことか。そのようにして、あなたは悪い女にさえ、巧みに自分の方法を教えたのだ。
- 34 あなたの裾に見つかるのは、咎なき貧しい人たちの、いのちの血。彼らが押し入るのを、あなたが見たわけでもないのに。しかも、これらすべてのことにもかかわらず、

- 35** あなたは言う。「私は潔白だ。確かに、御怒りは私から去った」と。あなたが「私は罪を犯してはいない」と言うので、今、わたしはあなたをさばく。
- 36** あなたはなんと簡単に自分の道を変えることか。アッシリアによって恥を見たのと同様に、あなたはエジプトによっても恥を見る。
- 37** そこからも、あなたは両手を頭に置いて出て来るだろう。主が、あなたの抛り頼むものを退けられるので、あなたが彼らによって栄えることは決してない。

第3章

- 1 もし、人が自分の妻を去らせ、彼女が彼のもとを去って、ほかの男のものになったら、この人は再び先の妻のもとに戻れるだろうか。そのような地は大いに汚れていないだろうか。あなたは、多くの愛人と淫行を行って、しかも、わたしのところに帰るといえるのか。――主のことば――
- 2 目を上げて裸の丘を見よ。あなたが共寝しなかったところがどこにあるか。荒野のアラビア人がするように、あなたは道端で相手を待って座り込み、淫行と悪行によって、この地を汚した。
- 3 それで大雨はとどめられ、後の雨はなかった。それでも、あなたは遊女の顔をして、恥じることを拒んでいる。
- 4 今でもあなたは、わたしにこう呼びかけているではないか。「父よ、あなたは私の若いころの恋人です。
- 5 いつまでも恨みを抱かれるのですか。永久に持ち続けるのですか」と。なんと、あなたはこう言いながら、あらん限りの悪を行っている。』」
- 6 ヨシヤ王の時代に、主は私に言われた。「あなたは、背信の女イスラエルが行ったことを見たか。彼女はあらゆる高い山の上、青々と茂るあらゆる木の下に行き、そこで淫行を行った。
- 7 わたしは思った。彼女がこれらすべてを行った後で、わたしに帰って来るだろうと。しかし、帰っては来なかった。そして裏切る女、妹のユダもこれを見た。
- 8 背信の女イスラエルが姦通をしたので、わたしは離縁状を渡して追い出した。しかし、裏切る女、妹のユダが恐れもせず、自分も行って淫行を行ったのをわたしは見た。
- 9 彼女は、自分の淫行を軽く見て、地を汚し、石や木と姦通した。
- 10 このようなことをしながら、裏切る女、妹のユダは、心のすべてをもってわたしに立ち返らず、ただ偽ってそうしただけだった――主のことば。――
- 11 主は私に言われた。「背信の女イスラエルは、裏切る女ユダよりも正しかった。
- 12 行って、次のことばを北の方に叫べ。『背信の女イスラエルよ、帰れ。――主のことば――わたしはあなたがたに顔を伏せはしない。わたしは恵み深いから。――主のことば――わたしは、いつまでも恨みはしない。
- 13 ただ、あなたはあなたの咎を認めよ。あなたはあなたの神、主に背いて、青々と茂るあらゆる木の下で、他国の男と勝手なまねをし、わたしの声に聞き従わなかった。――主のことば。――
- 14 背信の子らよ、立ち返れ――主のことば――。わたしが、あなたがたの夫であるからだ。わたしはあなたがたを、町から一人、氏族から二人選び取り、シオンに連れて来る。
- 15 また、あなたがたに、わたしの心にかなう牧者たちを与える。彼らは知識と判断力をもってあなたがたを育てるだろう。
- 16 あなたがたが地に増えて多くの子を生むとき、その日には――主のことば――人々はもう、主の契約の箱について語ることもなく、それが心に上ることもない。彼らがそれを思い出す

ことも、調べることもなく、それが再び作られることもない。

- 17** そのとき、エルサレムは主の御座と呼ばれ、万国の民はこの御座、主の名のあるエルサレムに集められ、彼らは二度と頑なな悪い心のままに歩むことはない。
- 18** その日、ユダの家はイスラエルの家に加わり、彼らはともどもに、北の国から、わたしが彼らの先祖に受け継がせた地に帰って来る。
- 19** わたしは思っていた。どのようにして、あなたを息子たちの中に入れ、あなたに慕わしい地を与えようかと。国々のうちで最も麗しいゆずりの地を。また、あなたがわたしを父と呼び、わたしに従って、もう離れないと思っていた。
- 20** ところが、なんと、妻が夫を裏切るように、あなたがたはわたしを裏切った。イスラエルの家よ―主のことば―。
- 21** 一つの声が裸の丘の上で聞こえる。イスラエルの子らの哀願の泣き声だ。彼らが自分たちの道を曲げ、自分たちの神、主を忘れたからだ。
- 22** 背信の子らよ、立ち返れ。わたしがあなたがたの背信を癒やそう。』』「今、私たちはあなたのもとに参ります。あなたこそ、私たちの神、主だからです。
- 23** まことに、もろもろの丘も、山の騒ぎも、偽りでした。確かに、私たちの神、主にイスラエルの救いがあります。
- 24** しかし、私たちが若いころから、恥ずべきものが、私たちの先祖の労苦の実、彼らの羊の群れ、牛の群れ、息子、娘たちを食い尽くしてきました。
- 25** 私たちは恥の中に伏し、恥辱が私たちの覆いとなっています。私たちの神、主に対し、私たちも先祖も、若いころから今日まで罪の中において、私たちの神、主の御声に聞き従わなかったからです。」

第4章

- 1 「イスラエルよ、もし帰るのなら、—主のことば— わたしのもとに帰れ。もし、あなたが忌まわしいものを わたしの前から取り除き、迷い出ないなら、
- 2 また、あなたが真実と公正と義によって『主は生きておられる』と誓うなら、 国々は主によって互いに祝福し合い、 互いに主を誇りとする。」
- 3 まことに、主はユダの人とエルサレムに、こう言われる。「耕地を開拓せよ。茨の中に種を蒔くな。
- 4 ユダの人とエルサレムの住民よ。 主のために割礼を受け、心の包皮を取り除け。 そうでないと、あなたがたの悪い行いのゆえに、 わたしの憤りが火のように出て燃え上がり、 消す者もないだろう。」
- 5 「ユダに告げ、エルサレムに聞かせて言え。 国中に角笛を吹け。大声で叫べ。『集まれ。城壁のある町に逃れよう』と。
- 6 シオンに向けて旗を掲げよ。 自分の身を守れ。立ち止まるな。 わたしが北からわざわいを、 大いなる破滅をもたらすからだ。
- 7 獅子はその茂みから立ち上がり、 国々を滅ぼす者はその国から出て来る。 あなたの地を荒れ果てさせるために。 あなたの町々は滅び、住む者はいなくなる。」
- 8 このことのために、粗布をまとして悲しみ嘆け。 主の燃える怒りが、 私たちから去らないからだ。
- 9 「その日には—主のことば— 王の心や、高官たちの心は萎え、 祭司は啞然とし、預言者はたじろぐ。」
- 10 私は言った。「ああ、神、主よ。 まことに、あなたはこの民とエルサレムを 完全に欺かれました。『あなたがたには平和が来る』と言われたのに、 剣が私たちの喉に触れています。」
- 11 そのとき、この民とエルサレムに告げられる。「荒野にある裸の丘から、 熱風は、娘であるわたしの民の方に吹く。 ふるい分けるためでも、より分けるためでもない。
- 12 それよりも、もっと激しい風が、 わたしのために吹いて来る。 今や、わたしが彼らにさばきを下す。」
- 13 見よ、それは雲のように上って来る。 その戦車はつむじ風のように。 その馬は驚よりも速い。 ああ、私たちは荒らされる。
- 14 「エルサレムよ。救われるために、 悪から心を洗いきよめよ。 いつまで、自分のうちによこしな思いを宿らせているのか。
- 15 ああ、ダンから告げる声がある。 エフライムの山から わざわいを告げ知らせている。
- 16 国々に語り告げよ。 さあ、エルサレムに告げ知らせよ。 包囲する者たちが遠くの地から来て、 ユダの町々に対して、ときのをあげる。
- 17 彼らは畑の番人のように、ユダを取り囲む。 それは、ユダがわたしに逆らったからだ。 —主のことば—

- 18 あなたの生き方と、あなたの行いが、あなたの身にこれを招いたのだ。これはあなたへのわざわいで、なんと苦いことか。もう、あなたの心臓にまで達している。」
- 19 私のはらわた、私のはらわたよ、私は悶える。私の心臓の壁よ、私の心は高鳴り、私は黙ってられない。私のたましいが、角笛の音と 戦いの雄叫びを聞いたからだ。
- 20 破滅に次ぐ破滅が知らされる。まことに、地のすべてが荒らされる。突然、私の天幕が、一瞬のうちに私の幕屋が荒らされる。
- 21 いつまで私は旗を見て、角笛の音を聞かなければならないのか。
- 22 「実に、わたしの民は鈍く、わたしを知らない。愚かな子らで悟ることがない。悪事を働くことには賢く、善を行うことを知らない。」
- 23 私が地を見ると、見よ、茫漠として何もなく、天を見ると、その光はなかった。
- 24 私が山々を見ると、見よ、それは揺れ動き、すべての丘は震えていた。
- 25 私が見ると、見よ、人の姿はなく、空の鳥もみな飛び去っていた。
- 26 私が見ると、見よ、豊かな地は荒野となり、町々は主の前で、その燃える怒りによって打ち壊されていた。
- 27 まことに、主はこう言われる。「全地は荒れ果てる。ただし、わたしは滅ぼし尽くしはしない。
- 28 このため地は喪に服し、上の天は暗くなる。わたしが語り、企てたからだ。わたしは悔いず、やめることもしない。」
- 29 騎兵と射手の雄叫びに、町中の人々は逃げ去り、草むらに入り、岩によじ登った。すべての町が捨てられ、そこに住む人はいない。
- 30 踏みにじられた女よ、あなたはいったい何をしているのか。緋の衣をまとい、金の飾りで身を飾りたて、目を塗って大きく見せたりして。美しく見せても無駄だ。恋人たちはあなたを嫌い、あなたのいのちを取ろうとしている。
- 31 まことに、私は、産みの苦しみにある女のような声、初子を産む女のようなうめき、娘シオンの声を聞いた。彼女はあえぎ、手を伸ばして言う。「ああ、私は殺す者たちの前で疲れ果てた。」

第5章

- 1 「エルサレムの通りを行き巡り、さあ、見て知るがよい。その広場を探し回って、もしも、だれか公正を行う、真実を求める者を見つけたなら、わたしはエルサレムを赦そう。
- 2 彼らが、主は生きておられる、と言うからこそ、彼らの誓いは偽りなのだ。」
- 3 「主よ、あなたの目は真実に届かないのでしょうか。あなたが彼らを打たれたのに、彼らは痛みもしませんでした。絶ち滅ぼそうとされたのに、彼らは懲らしめを受けることを拒みました。彼らは顔を岩よりも硬くして、立ち返ることを拒みました。」
- 4 私は思った。「彼らは、卑しい者たちにすぎない。しかも愚かだ。主の道も、自分の神のさばきも知らない。
- 5 だから、身分の高い者たちのところへ行って、その人たちと語ろう。彼らなら、主の道も、自分の神のさばきも知っているから」と。ところが彼らもみな、くびきを砕き、かせを断ち切っていた。
- 6 そのため、森の獅子が彼らを殺し、荒れた地の狼が彼らを荒らす。豹が彼らの町々をうかがい、町から出る者をみなかみ裂く。彼らは背くことが多く、その背信がすさまじいからだ。
- 7 「これでは、どうして、あなたを赦すことができるだろうか。あなたの子らはわたしを捨て、神でないものによって誓っていた。わたしが彼らを満ち足らせると、彼らは姦通し、遊女の家で身を傷つけた。
- 8 彼らは、肥え太ってさかりのついた馬のように、それぞれ隣の妻を慕っていなく。
- 9 これらについて、わたしが罰しないだろうか。―主のことば―このような国に、わたしが復讐しないだろうか。
- 10 ぶどう畑の石垣に上り、それをつぶせ。ただ、根絶やしにしてはならない。そのつるを除け。それらは主のものではないからだ。
- 11 実に、イスラエルの家とユダの家は、ことごとくわたしを裏切った。―主のことば―
- 12 彼らは主を否定してこう言った。『主は何もしない。わざわざは私たちを襲わない。剣も飢饉も、私たちは見ない』と。
- 13 預言者たちは風になり、彼らのうちにみことばはない。彼らはそのようにされればよい。」
- 14 それゆえ、万軍の神、主はこう言われる。「あなたがたがこのようなことを言ったので、見よ、わたしはあなたの口にあるわたしのことばを火とする。この民は薪となり、火は彼らを焼き尽くす。
- 15 イスラエルの家よ。見よ。わたしはあなたがたを攻めるために、遠くの地から一つの国を来させる。―主のことば―それは古くからある国、昔からある国、その言語をあなたは知らず、何を話しているのか聞き取れない国。
- 16 その矢筒は開いた墓のよう。彼らはみな勇士たち。
- 17 彼らは、あなたの収穫とパンを食らい、あなたの息子と娘を食らい、羊の群れと牛の群れを食らい、ぶどうといちじくを食らい、あなたが抛り頼む城壁のある町々を 剣で打ち破

る。

- 18** しかし、その日にも—主のことば—わたしはあなたがたを滅ぼし尽くすことはない。
- 19** 『われわれの神、主は、何の報いとして、これらすべてのことを私たちにしたのか』と尋ねられたら、あなたは彼らにこう言え。『あなたがたが、わたしを捨て、自分の地で異国の神々に仕えたように、あなたがたは自分の地ではない地で、他国の人に仕えるようになる。』
- 20** ヤコブの家にこれを告げ、ユダに言い聞かせよ。
- 21** さあ、これを聞け。愚かで思慮のない民よ。彼らは目があっても見ることがなく、耳があっても聞くことがない。
- 22** あなたがたは、わたしを恐れないのか。—主のことば—わたしの前で震えないのか。わたしは砂浜を海の境とした。それは永遠の境界で、越えることはできない。波が逆巻いても勝てず、鳴りとどろいても越えられない。
- 23** しかしこの民には、強情で逆らう心があった。それで彼らは離れて行った。
- 24** 彼らは心の中でさえこう言わなかった。『さあ、私たちの神、主を恐れよう。主は大雨を、初めの雨と後の雨を、時にかなって与え、刈り入れのために定められた数週を守ってください』と。
- 25** あなたがたの咎がこれを追いやり、あなたがたの罪がこの良いものを拒んだのだ。
- 26** それは、わが民のうちに悪しき者たちがいるからだ。彼らは野鳥を捕る者のように待ち伏せし、罠を仕掛けて人々を捕らえる。
- 27** 鳥でいっぱいの鳥かごのように、彼らの家は欺きで満ちている。だから、彼らは大いなる者となり、富む者となる。
- 28** 彼らは肥えてつややかになり、悪事において限りがない。孤児のために正しいさばきをして幸いを見させることをせず、貧しい人々の権利を擁護しない。
- 29** これらに対して、わたしが罰しないだろうか。—主のことば—このような国に、わたしが復讐しないだろうか。
- 30** 荒廃とおぞましいことが、この地に起こっている。
- 31** 預言者は偽りの預言をし、祭司は自分勝手に治め、わたしの民はそれを愛している。結局、あなたがたはどうするつもりなのか。」

第6章

- 1 ベニヤミンの子らよ、エルサレムの中から逃れ出よ。テコアで角笛を吹き、ベテ・ハ・ケレムでのろしを上げよ。わざわざ北から見下ろしているからだ。大いなる破壊が。
- 2 娘シオンよ、おまえは麗しい牧場にたとえられるではないか。
- 3 そこに羊飼いたちは自分の群れを連れて行き、その周りに天幕を張り、群れの羊は、それぞれ自分の草を食べる。
- 4 「シオンに向かって聖戦を布告せよ。立て。われわれは真昼に上ろう。」「ああ、残念だ。日が傾いた。夕日の影が伸びてきた。」
- 5 「立て。われわれは夜の間に上って、その宮殿を滅ぼそう。」
- 6 まことに、万軍の主はこう言われる。「木を切って、エルサレムに向かって壘を築け。これは罰せられる都。その中には虐げだけがある。
- 7 井戸が水を湧き出させるように、エルサレムは自分の悪を湧き出させた。暴虐と暴行がその中に聞こえる。病と打ち傷がいつもわたしの前にある。
- 8 エルサレムよ、懲らしめを受けよ。そうでないと、わたしの心はおまえから離れ、おまえを、人も住まない荒れ果てた地とする。」
- 9 万軍の主はこう言われる。「ぶどうの残りを摘むように、イスラエルの残りの者をすっかり摘み取れ。ぶどうを収穫する者のように、あなたの手をもう一度、その枝に伸ばせ。」
- 10 私はだれに語りかけ、だれを諭して聞かせようか。見よ。彼らの耳は閉じたままで、聞くこともできない。見よ。主のことばは彼らにとって、そしりの的となっている。彼らはそれを喜ばない。
- 11 主の憤りで私は満たされ、これを収めておくのに耐えられない。「それを、道端にいる幼子の上にも、若い男がたむろする上にも、注ぎ出せ。夫はその妻とともに、年寄りも齢の満ちた者も、ともに捕らえられる。
- 12 彼らの家は、畑や妻もろとも、他人の手に渡る。わたしがこの地の住民に手を伸ばすからだ。――主のことば――
- 13 なぜなら、身分の低い者から高い者まで、みな利得を貪り、預言者から祭司に至るまで、みな偽りを行っているからだ。
- 14 彼らはわたしの民の傷をいいかげんに癒やし、平安がないのに、『平安だ、平安だ』と言っている。
- 15 彼らは忌み嫌うべきことをして、恥を見たか。全く恥じもせず、辱めが何であるかも知らない。だから彼らは、倒れる者の中に倒れ、自分の刑罰の時に、よろめき倒れる。――主は言われる。」
- 16 主はこう言われる。「道の分かれ目に立って見渡せ。いにしえからの通り道、幸いの道はどれであるかを尋ね、それに歩んで、たましいに安らぎを見出せ。彼らは『私たちは歩まない』と言った。
- 17 わたしは、あなたがたの上に見張りを立て、『角笛の音に注意せよ』と命じたのに、彼らは『注意しない』と言った。

- 18 それゆえ、諸国の民よ、聞け。会衆よ、知れ。彼らに何が起こるかを。
- 19 この国よ、聞け。見よ、わたしはこの民にわざわいをもたらす。これは彼らの企みの実。彼らがわたしのことばに注意を払わず、わたしの律法を退けたからだ。
- 20 いったい何のために、シェバから乳香が、また、遠い国から香りの良い菖蒲が わたしのところに来るのか。あなたがたの全焼のささげ物は受け入れられず、あなたがたのいけにえはわたしには心地よくない。」
- 21 それゆえ、主はこう言われる。「見よ、わたしはこの民につまずきを与える。父も子も、ともにこれにつまずき、隣人も友人も滅びる。」
- 22 主はこう言われる。「見よ、一つの民が北の地から来る。大きな国が地の果てから奮い立つ。
- 23 彼らは弓と投げ槍を固く握り、残忍で、あわれみがない。その声は海のようにとどろく。娘シオンよ。彼らは馬にまたがり、あなたに向かい、一団となって陣を敷いている。」
- 24 私たちは、そのうわさを聞いて 気力を失い、苦しみが私たちをとらえた。産婦のような激痛が。
- 25 畑に出るな。道を歩くな。敵の剣がそこにあり、恐怖が取り囲んでいるからだ。
- 26 娘である私の民よ。粗布を身にまとい、灰の中を転げ回れ。ひとり子を失ったように喪に服し、苦しみ嘆け。荒らす者が突然、私たちに襲いかかるからだ。
- 27 「わたしはあなたを、わたしの民の中で、試す者とし、城壁のある町とした。彼らの行いを知り、これを試せ。」
- 28 彼らはみな、頑なな反逆者、中傷して歩き回る者。青銅や鉄。彼らはみな、墮落した者たちだ。
- 29 吹子で激しく吹いて、鉛を火で溶かす。鉛は溶けた。溶けたが、無駄だった。悪いものは除かれなかった。
- 30 彼らは捨てられた銀と呼ばれる。主が彼らを捨てられたのだ。

第7章

- 1 主からエレミヤにあったことばは、次のとおりである。
- 2 「主の宮の門に立ち、そこでこのことばを叫べ。『主を礼拝するために、これらの門に入るすべてのユダの人々よ、主のことばを聞け。
- 3 イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。あなたがたの生き方と行いを改めよ。そうすれば、わたしはあなたがたをこの場所に住まわせる。
- 4 あなたがたは、「これは主の宮、主の宮、主の宮だ」という偽りのことばに信頼してはならない。
- 5 もし、本当に、あなたがたが生き方と行いを改め、あなたがたの間で公正を行い、
- 6 寄留者、孤児、やもめを虐げず、咎なき者の血をこの場所で流さず、ほかの神々に従って自分の身にわざわいを招くようなことをしなければ、
- 7 わたしはこの場所、わたしがあなたがたの先祖に与えたこの地に、とこしえからとこしえまで、あなたがたを住まわせる。
- 8 見よ、あなたがたは、役に立たない偽りのことばを頼りにしている。
- 9 あなたがたは盗み、人を殺し、姦淫し、偽って誓い、バアルに犠牲を供え、あなたがたの知らなかったほかの神々に従っている。
- 10 そして、わたしの名がつけられているこの宮の、わたしの前にやって来て立ち、「私たちは救われている」と言うが、それは、これらすべての忌み嫌うべきことをするためか。
- 11 わたしの名がつけられているこの家は、あなたがたの目に強盗の巣と見えたのか。見よ、このわたしもそう見ていた―主のことば―。
- 12 だが、シロにあったわたしの住まい、先にわたしの名を住ませた場所へ行って、わたしの民イスラエルの悪のゆえに、そこでわたしがしたことを見てみよ。
- 13 今、あなたがたは、これらのことをみな行い―主のことば―わたしがあなたがたに、絶えずしきりに語りかけたのに、あなたがたは聞こうともせず、わたしが呼んだのに、答えもしなかったので、
- 14 わたしの名がつけられているこの家、あなたがたが頼みとするこの家、また、わたしが、あなたがたと、あなたがたの先祖に与えたこの場所に対して、わたしはシロにしたのと同様のことを行う。
- 15 わたしは、かつて、あなたがたのすべての兄弟、エフライムのすべての子孫を追い払ったように、あなたがたをわたしの前から追い払う。』
- 16 あなたは、この民のために祈ってはならない。彼らのために叫んだり、祈りをささげたりしてはならない。わたしにとりなしをしてはならない。わたしはあなたの願いを聞かないからだ。
- 17 彼らがユダの町々や、エルサレムの通りで何をしているのか、あなたは見ていないのか。
- 18 子どもたちは薪を集め、父たちは火をたき、女たちは麦粉をこねて『天の女王』のための供えのパン菓子を作り、また、ほかの神々に注ぎのぶどう酒を注いで、わたしの怒りを引き起こそうとしている。

- 19 わたしの怒りを彼らが引き起こしているというのか――主のことば――。むしろ、自分たちを怒らせ、自分たちの恥をさらすことになっているのではないか。」
- 20 それゆえ、神である主はこう言われる。「見よ。わたしの怒りと憤りは、この場所に、人と家畜、畑の木と地の産物に注がれ、それは燃えて、消えることがない。」
- 21 イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。「あなたがたの全焼のささげ物を、いけにえに加え、その肉を食べよ。」
- 22 わたしは、あなたがたの先祖をエジプトの地から導き出したとき、彼らに全焼のささげ物や、いけにえについては何も語らず、命じもしなかった。
- 23 ただ、次のことを彼らに命じて言った。『わたしの声に聞き従え。そうすれば、わたしはあなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となる。あなたがたが幸せになるために、わたしが命じるすべての道に歩め。』
- 24 しかし、彼らは聞かず、耳を傾けず、頑なで悪い心のはかりごとによって歩み、前進どころか後退した。
- 25 あなたがたの先祖がエジプトの地を出た日から今日まで、わたしはあなたがたに、わたしのしもべであるすべての預言者たちを早くからたびたび遣わしたが、
- 26 彼らはわたしに聞かず、耳を傾けもせず、うなじを固くする者となり、先祖たちよりも悪くなった。
- 27 あなたが彼らにこれらのことをすべて語っても、彼らはあなたに聞かず、彼らをも呼んでも、彼らはあなたに答えない。
- 28 そこであなたは彼らに言え。この民は、自分の神、主の声を聞かず、懲らしめを受け入れなかった民だ。真実は消え失せ、彼らの口から断たれた。
- 29 『あなたの長い髪を切り捨て、裸の丘の上で哀歌を歌え。主が、御怒りを引き起こした世代を退け、捨てられたからだ。』
- 30 それは、ユダの子らが、わたしの目に悪であることを行なったからだ――主のことば――。彼らは、わたしの名がつけられているこの宮に忌まわしいものを置いて、これを汚した。
- 31 また自分の息子、娘を火で焼くために、ベン・ヒノムの谷にあるトフェトに高き所を築いたが、これは、わたしが命じたこともなく、思いつきもしなかったことだ。
- 32 それゆえ、見よ、その時代が来る――主のことば――。そのとき、もはやそこは、トフェトとかベン・ヒノムの谷と呼ばれない。ただ虐殺の谷と呼ばれる。人々はトフェトに、隙間がないほどに葬る。
- 33 この民の屍は、空の鳥や地の獣の餌食となるが、これを追い払う者もない。
- 34 わたしは、ユダの町々とエルサレムの通りから、楽しみの声と喜びの声、花婿の声と花嫁の声を絶えさせる。この地が廃墟となるからである。」

第8章

- 1 「そのとき—主のことば—人々は、ユダの王たちの骨、首長たちの骨、祭司たちの骨、預言者たちの骨、エルサレムの住民の骨を、墓から取り出し、
- 2 それらを、彼らが愛し、仕え、従い、伺いを立て、拝んだ日や月や天の万象の前にさらす。それらは集められることなく、葬られることもなく、地の面の肥やしとなる。
- 3 また、この悪しき一族の中から残された残りの者はみな、わたしが追いやったすべての場所で、いのちよりも死を選ぶようになる—万軍の主のことば。
- 4 あなたは、彼らに言え。『主はこう言われる。人は倒れたら、起き上がるものではないか。離れたら、帰って来るものではないか。
- 5 なぜ、この民エルサレムは、背信者となり、いつまでも背信を続けているのか。彼らは偽りを握りしめ、帰って来ることを拒む。
- 6 わたしは気をつけて聞いたが、彼らは正しくないことを語り、「私は何ということをしたのか」と言って 自分の悪を悔いる者は、一人もいない。彼らはみな、戦いに突き進む馬のように、自分の走路に走り去る。
- 7 空のこうのとりの、自分の季節を知っている。山鳩も燕も鶴も、自分の帰る時を守る。しかし、わが民は主の定めを知らない。
- 8 どうして、あなたがたは、「私たちは知恵ある者、私たちには主の律法がある」と言えるのか。だが、見よ、書記たちの偽りの筆が、それを偽りにしてしまった。
- 9 知恵ある者たちは恥を見、うろたえて、捕らえられる。見よ。主のことばを退けたからには、彼らに何の知恵があろうか。
- 10 それゆえ、わたしは彼らの妻を他人に、彼らの畑を侵略者に与える。なぜなら、身分の低い者から高い者まで、みな利得を貪り、預言者から祭司に至るまで、みな偽りを行っているからだ。
- 11 彼らは、わたしの民の傷を簡単に手当てし、平安がないのに、「平安だ、平安だ」と言っている。
- 12 彼らは忌み嫌うべきことをして、恥を見たか。全く恥じもせず、辱めが何であるかも知らない。だから彼らは、倒れる者の中に倒れ、自分の刑罰の時に、よろめき倒れる。—主は言われる。
- 13 わたしは彼らを刈り入れたい。—主のことば—しかし、ぶどうの木には、ぶどうがなく、いちじくの木には、いちじくがなく、葉はしおれている。わたしはそれらをそのままにしておく。』」
- 14 「何のために私たちは座っているのか。集まって、城壁のある町々に行き、そこで滅んでしまおう。私たちの神、主が、私たちを滅びに定め、主が私たちに毒の水を飲ませられる。私たちが主に罪を犯したからだ。
- 15 平安を待ち望んでも、幸いはなく、癒やしの時を待ち望んでも、見よ、恐怖しかない。」
- 16 「ダンから馬の鼻息が聞こえる。その荒馬のいななきの声に、全地は震える。彼らは来て、地と、それに満ちているものを、町とその住民を食らう。

- 17 見よ。わたしが まじないの効かないコブラや、まむしを あなたがたの中に送り、あなたがたをかませるからだ。――主のことば。」
- 18 私の悲しみは癒やされず、私の心は弱り果てている。
- 19 見よ。遠い地から 娘である私の民の叫び声がする。「主はシオンにおられないのか。シオンの王は、そこにおられないのか。」「なぜ、彼らは自分たちが刻んだ像、異国の空しいものによって、わたしの怒りを引き起こしたのか。」
- 20 「刈り入れ時は過ぎ、夏も終わった。しかし、私たちは救われない。」
- 21 娘である私の民の傷のために、私は傷ついた。うなだれる中、恐怖が私をとらえる。
- 22 乳香はギルアデにないのか。医者はどこにいないのか。なぜ、娘である私の民の傷は癒えなかったのか。

第9章

- 1 ああ、私の頭が水であり、私の目が涙の泉であったなら、娘である私の民の殺された者たちのために 昼も夜も、泣こうものを。
- 2 ああ、私が荒野に 旅人の宿を持っていたなら、私の民を置いて、彼らから離れることができようものを。彼らはみな姦通する者、裏切り者の集まりなのだ。
- 3 「彼らは弓を張り、舌をつがえて偽りを放つ。地にはびこるが、それは真実のゆえではない。悪から悪へ彼らは進み、わたしを知らないからだ。――主のことば――
- 4 それぞれ互いに友を警戒せよ。どの兄弟も信用してはならない。どの兄弟も人を出し抜き、どの友も中傷して歩き回るからだ。
- 5 彼らはそれぞれ、互いに友をだまして、真実を語らない。偽りを語ることを自分の舌に教え、疲れきるまで悪事を働く。
- 6 あなたは欺きのただ中に住み、欺きの中で わたしを知ることを拒む。――主のことば。――
- 7 それゆえ、万軍の主はこう言われる。「見よ、わたしは彼らを精錬して試す。いったい、娘であるわたしの民に対して ほかに何ができるだろうか。
- 8 彼らの舌はとがった矢。人を欺くことを言う。口先では友に向かって平和を語るが、心の中では待ち伏せを企む。
- 9 これらについて、わたしが彼らを罰しないだろうか。――主のことば―― このような国に、わたしが復讐しないだろうか。」
- 10 私は山々のために泣き声をあげて嘆き、荒野の牧場のために哀歌を歌う。そこは、焼き払われて通る人もなく、群れの声も聞こえず、空の鳥から家畜まで、みな逃げ去っているからだ。
- 11 「わたしはエルサレムを石ころの山とし、ジャッカルに住みかとする。ユダの町々を荒れ果てた地とし、住む者のいない所とする。」
- 12 知恵があって、これを悟ることのできる者はだれか。主の御口が自分に語られたことを 告げ知らせることのできる者はだれか。何のために、この国は滅びたのか。荒野のように滅ぼされ、通る人もいないのか。
- 13 主は言われる。「それは、彼らが、わたしが彼らの前に与えたわたしの律法を捨て、わたしの声に聞き従わず、律法に歩まず、
- 14 彼らの頑なな心のままに歩み、先祖たちが彼らに教えたバアルの神々に従って歩んだからだ。」
- 15 それゆえ、イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。「見よ。わたしはこの民に苦よもぎを食べさせ、毒の水を飲ませる。
- 16 彼らも先祖も知らなかった国々に彼らを散らし、剣を彼らのうしろに送り、ついに彼らを絶ち滅ぼす。」
- 17 万軍の主はこう言われる。「よく考えて、泣き女を呼んで来させよ。人を遣わして、巧みな女を来させよ。」

- 18 彼女たちを急がせて、 私たちのために嘆きの声をあげさせよ。 私たちの目から涙を流れさせ、 私たちのまぶたに水をあふれさせよ。
- 19 シオンから嘆きの声が聞こえるからだ。 ああ、私たちは踏みにじられ、 ひどく恥を見た。 私たちが地を見捨て、 自分たちの住まいが投げ捨てられたからだ。
- 20 女たちよ、 主のことばを聞け。 あなたがたの耳に、 主の言われることばを受けとめさせよ。 あなたがたの娘に嘆きの歌を、 隣の女に哀歌を教えよ。
- 21 死が、 私たちの窓によじ登り、 私たちの高殿に入り、 道端で幼子を、 広場で若い男を 絶ち滅ぼすからだ。
- 22 「語れ。 主のことばはこうだ。 『人間の死体は、 畑の肥やしのように、 刈り入れ人のうしろの、 集める者もない束のように落ちる。
- 23 —主はこう言われる— 知恵ある者は自分の知恵を誇るな。 力ある者は自分の力を誇るな。 富ある者は自分の富を誇るな。
- 24 誇る者は、 ただ、 これを誇れ。 悟りを得て、 わたしを知っていることを。 わたしは主であり、 地に恵みと公正と正義を行う者であるからだ。 まことに、 わたしはこれらのことを喜ぶ。 —主のことば。』」
- 25 「見よ、 その時代が来る—主のことば—。 そのとき、 わたしはすべて包皮に割礼を受けている者を罰する。
- 26 エジプト、 ユダ、 エドム、 アンモンの子ら、 モアブ、 および荒野の住人で、 もみ上げを刈り上げているすべての者を罰する。 すべての国々は無割礼で、 イスラエルの全家も心に割礼を受けていないからだ。」

第10章

- 1 イスラエルの家よ、主があなたがたに語られたことばを聞け。
- 2 「主はこう言われる。諸国の道を見習うな。天のしるしにうろたえるな。諸国がそれらにうろたえても。
- 3 国々の民の慣わしは空しいからだ。それは、林から切り出された木、木工が、なたで作った物にすぎない。
- 4 それは銀と金で飾られ、釘や槌で、ぐらつかないよう打ち付けられる。
- 5 それは、きゅうり畑のかかしのようで、ものも言えず、歩けないので、運んでやらなければならない。そんなものを恐れるな。害になることも益になることもしないからだ。」
- 6 主よ、あなたに並ぶものはありません。あなたは大いなる方。あなたの御名は、力ある大いなるものです。
- 7 国々の王である方、あなたを恐れない者がいるでしょうか。そのことは、あなたにとっては当然のことです。まことに、国々のすべての知恵ある者の中にも、そのすべての王国の中にも、あなたに並ぶものはありません。
- 8 彼らはみな間抜けであり、愚かなことをする。空しい神々の訓戒―それは木にすぎない。
- 9 銀箔はタルシシュから、金はウファズから運ばれる。これは木工と金細工人の手のわざ。これらの衣は青色と紫色、すべて名匠の作。
- 10 しかし、主はまことの神、生ける神、とこしえの王。その御怒りに地は震え、その憤りに国々は耐えられない。
- 11 「あなたがたは、彼らにこう言え。『天と地を造らなかった神々は、地からも、この天の下からも滅びる』と。」
- 12 主は、御力をもって地を造り、知恵をもって世界を堅く据え、英知をもって天を張られた。
- 13 主の御声に、天では水のざわめきが起こる。主は地の果てから雲を上らせ、雨のために稲妻を造り、ご自分の倉から風を出される。
- 14 すべての人間は愚かで無知だ。すべての金細工人は、偶像のために恥を見る。その鑄た像は偽りで、その中には息がない。
- 15 それは空しいもの、物笑いの種だ。刑罰の時に、それらは滅びる。
- 16 ヤコブの受ける分はこのようなものではない。主は万物を造る方。イスラエルは主のゆずりの民。その御名は万軍の主である。
- 17 包囲されている女よ、あなたの荷物を地から取り集めよ。
- 18 まことに主はこう言われる。「見よ。わたしはこの国の住民を 今度こそ放り出して苦しめる。彼らが思い知るためだ。」
- 19 ああ、私は悲しい。この傷のために。この打ち傷は癒やしがたい。しかし、私は言った。「まことに、これこそ私が 負わなければならない病だ。」
- 20 私の天幕は荒らされ、そのすべての綱は断たれ、私の子らも私から去って、もういない。もう私の天幕を張る者はなく、その幕を広げる者もない。

- 21** 牧者たちは愚かで、主を求めなかった。それゆえ、彼らは栄えず、彼らが飼うものはみな散らされる。
- 22** 声がある。見よ、一つの知らせが届いた。大いなるざわめきが北の地から来る。ユダの町々を荒れ果てた地とし、ジャッカルに住みかとするために。
- 23** 主よ、私は知っています。人間の道はその人によるのではなく、歩むことも、その歩みを確かにすることも、人によるのではないことを。
- 24** 主よ、私を懲らしめてください。御怒りによらないで、ただ、公正をもって。そうでなければ、私は無に帰してしまいます。
- 25** あなたを知らない国々の上に、あなたの御名を呼ばない諸氏族の上に、あなたの憤りを注いでください。彼らはヤコブを食らい、これを食らって滅ぼし、その牧場を荒らしたからです。

第11章

- 1 主からエレミヤにあったことばは、次のとおりである。
- 2 「この契約のことばを聞け。これをユダの人とエルサレムの住民に語れ。
- 3 『イスラエルの神、主はこう言われる。この契約のことばを聞かない者は、のろわれる。
- 4 これは、わたしがあなたがたの先祖をエジプトの地、鉄の炉から導き出したとき、「わたしの声に聞き従い、すべてわたしがあなたがたに命じるように、それを行え。そうすれば、あなたがたはわたしの民となり、わたしはあなたがたの神となる」と言って、彼らに命じたものだ。
- 5 それは、わたしがあなたがたの父祖たちに対して、乳と蜜の流れる地を与えると誓ったことを、今日のとおり成就するためであった。』」私は答えた。「アーメン。主よ。」
- 6 すると、主は私に言われた。「これらのことばのすべてを、ユダの町々と、エルサレムの通りで叫べ。『この契約のことばを聞いて、これを行え。
- 7 わたしは、あなたがたの先祖をエジプトの地から導き出したとき、厳しく彼らを戒め、また今日まで、「わたしの声を聞け」と言って、しばしば戒めてきた。
- 8 しかし彼らは聞かず、耳を傾けず、それぞれ頑なで悪い心のままに歩んだ。そのため、わたしはこの契約のことばをことごとく彼らの上に臨ませた。わたしが行うように命じたのに、彼らが行わなかったからである。』」
- 9 主は私に言われた。「ユダの人、エルサレムの住民の間に、謀反がある。
- 10 彼らはわたしのことばを聞くことを拒んだ自分たちのかつての先祖の咎に戻り、彼ら自身もほかの神々に従って、これに仕えた。イスラエルの家とユダの家は、わたしが彼らの父祖たちと結んだわたしの契約を破った。
- 11 それゆえ—主はこう言われる—見よ、わたしは彼らにわざわいを下す。彼らはそれから逃れることができない。彼らがわたしに叫んでも、わたしは聞かない。
- 12 ユダの町々とエルサレムの住民は、自分たちが犠牲を供えている神々のもとに行って叫ぶだろうが、これらは、彼らのわざわいの時に、決して彼らを救わない。
- 13 『まことに、ユダよ、あなたの神々は、あなたの町の数ほどもある。あなたがたは、恥ずべきもののための祭壇、バアルのために犠牲を供える祭壇を、エルサレムの通りの数ほども設けた。』
- 14 あなたは、この民のために祈ってはならない。彼らのために叫んだり、祈りをささげたりしてはならない。彼らがわざわいにあって、わたしを呼び求めても、わたしは聞かないからだ。
- 15 『わたしの愛する者は、わたしの家で 何をしているのか。いろいろと何を企んでいるのか。聖なるいけにえの肉が、わざわいをあなたから過ぎ去らせるのか。 そのときには喜び躍るがよい。
- 16 主はかつてあなたの名を、「実りの良い、緑のオリーブの木」と呼ばれた。だが、大きな騒ぎの聲が起こると、主がこれに火をつけ、その枝は台無しになる。

- 17 あなたを植えた万軍の主が、あなたにわざわいを告げる。イスラエルの家とユダの家が悪を行い、バアルに犠牲を供え、わたしの怒りを引き起こしたからである。』」
- 18 「主が私に知らせてくださったので、私はそれを知りました。それからあなたは、彼らのわざを私に見せてくださいました。
- 19 私は、屠り場に引かれて行く、おとなしい子羊のようでした。彼らが私に敵対して計略をめぐらしていたことを、私は知りませんでした。『木を實とともに滅ぼそう。彼を生ける者の地から断って、その名が二度と思い出されないようにしよう』と。
- 20 しかし、正しいさばきをし、心とその奥にあるものを試す万軍の主よ。あなたが彼らに復讐するのを 私は見るでしょう。私があなたに、私の訴えを打ち明けたからです。」
- 21 それゆえ、主はアナトテの人々について、こう言われる。「彼らはあなたのいのちを狙い、『主の名によって預言するな。われわれの手にかかって、あなたが死なないように』と言っている。
- 22 それゆえ一万軍の主はこう言われる―見よ、わたしは彼らを罰する。若い男は剣で死に、彼らの息子、娘は飢えで死に、
- 23 彼らには残る者がいなくなる。わたしがアナトテの人々にわざわいを下し、刑罰の年をもたらすからだ。」

第12章

- 1 「主よ。私があなたと論じても、あなたのほうが正しいのです。それでも、私はさばきについてあなたにお聞きしたいのです。なぜ、悪者の道が栄え、裏切りを働く者がみな安らかなのですか。
- 2 あなたが彼らを植え、彼らは根を張り、伸びて実を結びました。あなたは、彼らの口には近いのですが、彼らの心の奥からは遠く離れておられます。
- 3 主よ。あなたは私を知り、私を見て、あなたに対する私の心を試されます。どうか彼らを、屠られる羊のように引きずり出し、殺戮の日のために取り分けてください。
- 4 いつまで、この地は喪に服し、すべての畑の青草は枯れているのでしょうか。そこに住む者たちの悪のために、家畜も鳥も取り去られています。人々は『神はわれわれの最期を見ない』と言っています。」
- 5 「あなたは徒歩の者と競走して疲れるのに、どうして馬と走り競うことができるだろうか。平穏な地で安心して過ごしているのに、どうしてヨルダンの密林で過ごせるだろうか。
- 6 あなたの兄弟や、父の家の者さえ、彼らさえ、あなたを裏切り、彼らでさえ、あなたのうしろから大声で叫ぶ。だから彼らがあなたに親切そうに語りかけても、彼らを信じてはならない。
- 7 わたしは、わたしの家を捨て、わたしのゆずりの地を見放し、わたしが心から愛するものを、敵の手中に渡した。
- 8 わたしのゆずりの民は、わたしにとって、林の中の獅子のようだ。それはわたしに向かって、うなり声をあげる。それゆえ、わたしはこの地を憎む。
- 9 わたしのゆずりの民は、わたしにとって、一羽の斑の猛禽なのか。それを猛禽どもが取り巻いているではないか。さあ、すべての野の獣を集めよ。それらを連れて来て、食べさせよ。
- 10 多くの牧者が、わがぶどう畑を荒らし、わたしの地所を踏みつけて、わたしの慕う地所を恐怖の荒野にした。
- 11 それは恐怖と化し、荒れ果てて、わたしに向かって嘆き悲しんでいる。全地は荒らされて、まことに、だれも心に留める者はいない。
- 12 荒野にあるすべての裸の丘の上に、荒らす者が来た。主の剣が、地の果てから地の果てに至るまで食い尽くすので、すべての肉なる者には平安がない。
- 13 小麦を蒔いても、茨を刈り取り、労苦しても無駄になる。あなたがたは、自分たちの収穫で恥を見る。主の燃える怒りによって。」
- 14 主はこう言われる。「わたしの民イスラエルに受け継がせたゆずりの地に侵入する、悪い隣国の民について。見よ。わたしはその土地から彼らを引き抜き、彼らの間からユダの家も引き抜く。
- 15 しかし、彼らを引き抜いた後、わたしは再び彼らをあわれみ、彼らをそれぞれ自分のゆずりの地、あるいは自分の土地に帰らせる。

- 16 彼らがかつて、バアルによって誓うことをわたしの民に教えたように、もし彼らがわたしの民の道をよく学び、わたしの名によって『主は生きておられる』と誓うなら、彼らはわたしの民のうちに建てられる。
- 17 しかし、彼らが聞かなければ、わたしはその国を根こそぎ滅ぼす—主のことば。」

第13章

- 1 主は私にこう言われた。「行って亜麻布の帯を買い、それを腰に締めよ。水の中に入れてはならない。」
- 2 私は主のことばのとおり、帯を買って、腰に締めた。
- 3 再び次のような主のことばが私にあった。
- 4 「あなたが買って腰に着けているその帯を取り、ユーフラテス川に行って、その岩の割れ目にそれを隠せ。」
- 5 そこで、主が私に命じられたとおり、私は行って、それをユーフラテス川のほとりに隠した。
- 6 多くの日を経て、主は私に言われた。「さあ、ユーフラテス川へ行き、わたしが隠せとあなたに命じたあの帯を取り出せ。」
- 7 私はユーフラテス川に行き、掘り、隠した場所から帯を取り出した。すると見よ。その帯はぼろぼろになって、何の役にも立たなくなっていた。
- 8 すると、私に次のような主のことばがあった。
- 9 主はこう言われた。「わたしはこのように、ユダとエルサレムの大きな誇りをぼろぼろにする。
- 10 わたしのことばに聞くことを拒み、その頑なな心のままに、ほかの神々に従って歩んで、それらに仕え、それらを拝むこの悪しき民は、何の役にも立たないこの帯のようになる。
- 11 帯が人の腰に着けられるように、わたしはイスラエルの全家とユダの全家をわたしに着けた—主のことば—。それは、彼らがわたしの民となり、名声となり、栄誉となり、栄えとなるためだった。しかし彼らはわたしに聞き従わなかったのだ。
- 12 あなたは彼らにこのことばを伝えよ。『イスラエルの神、主はこう言われる。酒壺には酒が満たされる。』彼らがあなたに『酒壺に酒が満たされることくらい、分かりきっているではないか』と言ったなら、
- 13 あなたは彼らに言え。『主はこう言われる。見よ。わたしは、この地の全住民を、ダビデの王座に着いている王たち、祭司、預言者、およびエルサレムの全住民を酔いで満ちし、
- 14 彼らを互いにぶつけて砕く。父も子も、ともに—主のことば—。わたしは容赦せず、惜しまず、あわれみをかけずに、彼らを滅ぼす。』」
- 15 耳を傾けて聞け。高ぶるな。主が語られたからだ。
- 16 あなたがたの神、主に、栄光を帰せよ。まだ主が闇を送らないうちに、まだあなたがたの足が夕暮れの山でつまずかないうちに。あなたがたが光を待ち望んでも、主はそれを死の陰に変え、暗黒とされる。
- 17 もし、あなたがたがこれに聞かなければ、私は隠れたところであなたがたの高ぶりのために嘆き、涙にくれ、私の目には涙があふれる。主の群れが捕らわれて行くからだ。
- 18 「王と王母に告げよ。『低い座に着け。あなたがたの頭から、輝かしい冠が落ちたから。』」

- 19 ネゲブの町々は閉ざされて、だれも開ける者はいない。ユダはことごとく捕らえ移される。一人残らず捕らえ移される。
- 20 あなたがたの目を上げ、北から来る者たちを見よ。あなたに対して与えられた群れ、あなたの美しい羊の群れは どこにいるのか。
- 21 最も親しい友として あなたが教えてきた者たちが、あなたの上に、かしらとして立てられるとき、あなたは何と言うのか。激しい痛みがあなたをとらえないだろうか。子を産む女のように。
- 22 あなたが心の中で『なぜ、こんなことが私の身に起こったのか』と言うなら、それは、あなたの多くの咎のためだ。それで、あなたの裾はまくられて、あなたのかかとは傷を負うのだ。
- 23 クシュ人がその皮膚を、豹がその斑点を、変えることができるだろうか。それができるなら、悪に慣れたあなたがたも 善を行うことができるだろう。
- 24 わたしは彼らを、荒野の風に吹き飛ばされる藁のように散らす。
- 25 これが、あなたへの割り当て、わたしがあなたに量り与える分である。――主のことば――あなたがわたしを忘れ、偽りに拠り頼んだためだ。
- 26 わたしも、あなたの裾を 顔の上までまくるので、あなたの恥ずべきところが現れる。
- 27 あなたの姦淫、あなたの興奮のいななき、あなたの淫行のわざ――数々の忌まわしいものを、わたしは丘の上や野原で見た。ああ、エルサレムよ。あなたはいつまで、きよめられないままなのか。」

第14章

- 1 日照りのことについて、エレミヤにあった主のことば。
- 2 「ユダは喪に服し、その門は打ちしおれ、地に伏して嘆き悲しみ、エルサレムは哀れな叫びをあげる。
- 3 高貴な人は、召使いに水を汲みに行かせるが、彼らが水溜めのところに来て、水は見つからず、空の器のままで帰る。彼らは恥を見、辱められて、頭をおおう。
- 4 地には秋の大雨が降らず、地面は割れて、農夫たちは恥を見、頭をおおう。
- 5 野の雌鹿さえ、子を産んでも捨てる。若草がないからだ。
- 6 野ろばは裸の丘の上に立ち、ジャッカルのようにあえぎ、目も衰え果てる。青草がないからだ。」
- 7 「私たちの咎が、私たちに不利な証言をしても、主よ、あなたの御名のために事をなしてください。まことに私たちの背信は大きく、私たちはあなたの御前で罪の中にいます。
- 8 イスラエルの望みである方、苦難の時の救い主よ。どうしてあなたは、この地にいる寄留者や、一晚だけ立ち寄る旅人のようにされるのですか。
- 9 なぜ、あなたは驚いているだけの人や、人を救えない勇士のようにされるのですか。主よ。あなたは私たちのただ中におられ、私たちはあなたの御名をもって呼ばれているのです。私たちを置き去りにしないでください。」
- 10 この民について、主はこう言われる。「このように、彼らはさまようことを愛し、その足を制することもしない。そのため、主は彼らを受け入れず、今、彼らの咎を覚えて、その罪を罰する。」
- 11 主は私に言われた。「この民のために幸いを祈ってはならない。
- 12 彼らが断食しても、わたしは彼らの叫びを聞かない。全焼のささげ物や穀物のささげ物を献げて、わたしはそれを受け入れない。かえって、剣と飢饉と疫病で、彼らを絶ち滅ぼす。」
- 13 私は言った。「ああ、神、主よ。ご覧ください。預言者たちは、『あなたがたは剣を見ず、飢饉もあなたがたに起こらない。かえって、わたしはこの場所で、まことの平安をあなたがたに与える』と人々に言っているではありませんか。」
- 14 主は私に言われた。「あの預言者たちは、わたしの名によって偽りを預言している。わたしは彼らを遣わしたこともなく、彼らに命じたこともなく、語ったこともない。彼らは、偽りの幻と、空しい占いと、自分の心の幻想を、あなたがたに預言しているのだ。
- 15 それゆえ、わたしの名によって預言はするが、わたしが遣わしたのではない預言者たち、『剣や飢饉がこの地に起こらない』と言っているこの預言者たちについて、主はこう言う。『剣と飢饉によって、その預言者たちは滅び失せる。』
- 16 彼らの預言を聞いた民も、飢饉と剣によってエルサレムの道端に放り出され、彼らを葬る者もない。彼らも、その妻も、息子、娘もそのようになる。わたしは、彼らの上に彼ら自身の悪を注ぎかける。

- 17 あなたは彼らに、このことばを言え。『私の目は、夜も昼も涙を流して 止まることのないように。 おとめである娘、私の民の打たれた傷は大きく、 それは癒やしがたい、ひどい打ち傷。』
- 18 野に出ると、見よ、剣で刺し殺された者たち。 町に入ると、見よ、飢えて病む者たち。 まことに、預言者も祭司も、 地を行き巡って、仕事に精を出し、 何も知らない。』」
- 19 「あなたはユダを全く退けられたのですか。 あなたはシオンを嫌われたのですか。 なぜ、あなたは私たちを打ち、 癒やしてくださらないのですか。 私たちが平安を待ち望んでも、幸いはなく、 癒やしの時を待ち望んでも、 ご覧ください、恐怖しかありません。
- 20 主よ、私たちは自分たちの悪と、先祖の咎をよく知っています。 本当に私たちは、あなたの御前で罪の中にあります。
- 21 御名のために、私たちを退けないでください。 あなたの栄光の御座を辱めないでください。 私たちとのあなたの契約を覚えていて、それを破らないでください。
- 22 国々の空しい神々の中に、大雨を降らせる者がいるのでしょうか。 それとも、天が夕立を降らせるのでしょうか。 私たちの神、主よ、それは、あなたではありませんか。 私たちはあなたを待ち望みます。 あなたが、これらすべてをなさるからです。」

第15章

- 1 主は私に言われた。「たとえモーセとサムエルがわたしの前に立っても、わたしの心はこの民に向かわない。この民をわたしの前から追い出し、立ち去らせよ。
- 2 彼らがあなたに『どこへ去ろうか』と言うなら、あなたは彼らに言え。『主はこう言われる。死に定められた者は死に、剣に定められた者は剣に、飢饉に定められた者は飢饉に、捕囚に定められた者は捕囚に。』
- 3 わたしは四種類のもので彼らを罰する―主のことば―。切り殺すための剣、引きずるための犬、食い尽くして滅ぼすための空の鳥と地の獣である。
- 4 わたしは彼らを、地のすべての王国にとって、おののきのもとにする。ユダの王ヒゼキヤの子マナセがエルサレムで行ったことのためである。
- 5 エルサレムよ、いったい、だれがおまえを深くあわれむだろう。だれがおまえのために嘆くだろう。だれが立ち寄って、おまえの安否を尋ねるだろう。
- 6 おまえはわたしを捨てた。―主のことば― おまえはわたしから退いて行ったのだ。わたしはおまえに手を伸ばし、おまえを滅ぼす。わたしはあわれむのに疲れた。
- 7 わたしはこの地の町囲みの中で、熊手で彼らを追い散らし、彼らに子を失わせ、わたしの民を滅ぼす。彼らはその生き方から立ち返らなかった。
- 8 わたしはそのやもめの数を 海の砂よりも多くする。わたしは若い男の母親に対し、真昼に荒らす者を送って、突然、彼女の上に苦痛と恐怖を臨ませる。
- 9 七人の子を産んだ女は打ちしおれ、その息はあえぐ。彼女の太陽は、まだ昼のうちに沈み、彼女は恥を見て、屈辱を受ける。わたしは彼らの残りの者を、彼らの敵の前で剣に渡す。―主のことば。―
- 10 ああ、悲しいことだ。私の母が私を産んだので、私は全地にとって争いの相手、また口論する者となっている。私は貸したことも、借りたこともないのに、皆が私を呪っている。
- 11 主は言われた。「必ずわたしはあなたを解き放って、幸せにする。必ずわたしは、わざわざの時、苦難の時に、敵があなたにとりなしを頼むようにする。
- 12 人は鉄を、北からの鉄や青銅を 砕くことができるだろうか。
- 13 わたしは、あなたの財宝、あなたの宝物を、あなたの領土のいたるところで、戦利品として、ただで引き渡す。あなたの罪のゆえに。
- 14 わたしはあなたを、あなたが知らない地で敵に仕えさせる。わたしの怒りに火がつき、あなたがたに向かって燃えるからだ。」
- 15 「主よ、あなたはよくご存じです。私を思い起こし、私を顧み、迫害する者たちに、私のために復讐してください。あなたの御怒りを遅くして、私を取り去らないでください。私があなたのためにそしりを受けていることを 知ってください。
- 16 私はあなたのみことばが見つかったとき、それを食べました。そうして、あなたのみことばは、私にとって 楽しみとなり、心の喜びとなりました。万軍の神、主よ、私はあなたの名で呼ばれているからです。

- 17 私は、戯れる者がたむろする場に座ったり、喜び躍ったりしたことはありません。私はあなたの御手によって、ひとり座っていました。あなたが私を憤りで満たされたからです。
- 18 なぜ、私の痛みはいつまでも続き、私の打ち傷は治らず、癒えようもないのでしょうか。あなたは、私にとって、欺く小川の流れ、当てにならない水のようになれるのですか。」
- 19 それで、主はこう言われた。「もし、あなたが帰って来るなら、わたしはあなたを帰らせ、わたしの前に立たせる。もし、あなたが、卑しいことなく、高貴なことを語るなら、あなたはわたしの口のようになる。彼らがあなたのところに帰ることがあっても、あなたは彼らのところに帰ってはならない。
- 20 この民に対して、わたしはあなたを 堅固な青銅の城壁とする。彼らは、あなたと戦っても勝てない。わたしがあなたとともにいて、あなたを救い、あなたを助け出すからだ。 — 主のことば—
- 21 わたしは、あなたを悪しき者たちの手から救い出し、横暴な者たちの手から贖い出す。」

第16章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「あなたはこの場所で、妻をめとるな。息子や娘も持つな。」
- 3 まことに主は、この場所で生まれる息子や娘について、また、この地で彼らを産む母親たちや、彼らをもうける父親たちについて、こう言われる。
- 4 「彼らはひどい病気で死ぬ。彼らは悼み悲しまれることなく、葬られることもなく、地の面の肥やしとなる。また、剣と飢饉で滅ぼされ、屍は空の鳥や地の獣の餌食となる。」
- 5 まことに主はこう言われる。「あなたは、弔いの家に入ってはならない。悼みに行ってはならない。彼らのために嘆いてはならない。わたしがこの民から、わたしの平安を、また恵みと、あわれみを取り去ったからだ—主のことば—。
- 6 この地の身分の高い者や低い者が死んでも葬られず、だれも彼らを悼み悲しまず、彼らのために身を傷つけず、髪も剃らない。
- 7 死者を悼む人のために、葬儀でパンが裂かれることはなく、父や母の場合でさえ、悼む人に慰めの杯が差し出されることもない。
- 8 あなたは弔いの宴会の家に行き、一緒に座って食べたり飲んだりしてはならない。」
- 9 まことに、イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。「見よ。わたしはこの場所から、楽しみの声と喜びの声、花婿の声と花嫁の声を絶えさせる。あなたがたの目の前で。あなたがたが生きているうちに。」
- 10 「あなたがこの民に、このすべてのことばを告げるとき、彼らがあなたに、『何のために、主は私たちに、この大きなわざわいを語られたのか。私たちの咎とは何か。私たちの神、主に対して犯したという、私たちの罪とは何か』と尋ねたら、
- 11 あなたは彼らにこう言え。『あなたがたの先祖がわたしを捨て—主のことば—ほかの神々に従い、これに仕え、これを拝み、またわたしを捨てて、わたしの律法を守らなかったことだ。
- 12 さらに、あなたがた自身が、自分たちの先祖以上に悪事を働き、しかも、見よ、それぞれ頑なで悪い心のままに歩み、わたしに聞かないでいる。
- 13 それで、わたしはあなたがたをこの地から放り出し、あなたがたも先祖も知らなかった地に行かせる。あなたがたは、そこで昼も夜も、ほかの神々に仕える。わたしはあなたがたに、いつくしみを施さない。』
- 14 それゆえ、見よ、その時代が来る—主のことば—。そのとき、もはや人々は『イスラエルの子らをエジプトの地から連れ上った主は生きておられる』と言うことはなく、
- 15 ただ『イスラエルの子らを、北の地から、彼らが散らされたすべての地方から上らせた主は生きておられる』と言うようになる。わたしは彼らの先祖に与えた彼らの土地に彼らを帰らせる。
- 16 見よ。わたしは多くの漁夫を遣わして—主のことば—彼らを捕まえさせる。それから、わたしは多くの狩人を遣わして、あらゆる山、あらゆる丘、岩の割れ目から彼らを捕らえさせる。

- 17 わたしの目は彼らのすべての行いを見ているからだ。それらはわたしの前で隠れず、彼らの咎もわたしの目の前から隠されはしない。
- 18 わたしはまず、彼らの咎と罪に対し二倍の報復をする。彼らがわたしの地を忌まわしいものの屍で汚し、忌み嫌うべきことで、わたしが与えたゆずりの地を満たしたからである。」
- 19 「主よ、私の力、私の砦、苦難の日の私の逃げ場よ。あなたのもとに、諸国の民が地の果てから来て言うでしょう。『私たちの父祖が受け継いだものは、ただ偽りのもの、何の役にも立たない空しいものばかり。』
- 20 人間は、自分のために神々を造れるだろうか。そのようなものは神ではない』と。」
- 21 「それゆえ、見よ、わたしは彼らに知らせる。今度こそ彼らに、わたしの手、わたしの力を知らせる。そのとき彼らは、わたしの名が主であることを知る。」

第17章

- 1 「ユダの罪は、鉄の筆と金剛石の先端で記され、彼らの心の板と彼らの祭壇の角に刻まれている。
- 2 彼らの子たちまでもが、その祭壇や、高い丘の青々と茂る木のそばにある アシェラ像を覚えているほどだ。
- 3 野にあるわたしの山よ。あなたの領土のいたるところで犯した罪ゆえに、わたしは、あなたの財宝、すべての宝物を、高き所とともに、戦利品として引き渡す。
- 4 あなたは、わたしが与えたゆずりの地を手放さなければならない。またわたしは、あなたの知らない国で、あなたを敵に仕えさせる。あなたがたが、わたしの怒りに火をつけたので、それはとこしえまでも燃える。」
- 5 主はこう言われる。「人間に信頼する者はのろわれよ。肉なる者を自分の腕とし、心が主から離れている者は。
- 6 そのような者は荒れ地の灌木。幸せが訪れても出会うことはなく、焼けついた荒野、住む者のいない塩地に住む。
- 7 主に信頼する者に祝福があるように。その人は主を頼みとする。
- 8 その人は、水のほとりに植えられた木。流れのほとりに根を伸ばし、暑さが来ても暑さを知らず、葉は茂って、日照りの年にも心配なく、実を結ぶことをやめない。
- 9 人の心は何よりもねじ曲がっている。それは癒やしがたい。だが、それを知り尽くすことができるだろうか。
- 10 わたし、主が心を探り、心の奥を試し、それぞれその生き方により、行いの実にしたがって報いる。」
- 11 しゃこが自分で産まなかった卵を抱くように、公正によらないで富を得る者がいる。彼の生涯の半ばで、富が彼を置き去りにし、その末は愚か者に終わる。
- 12 私たちの聖所がある場所は、初めから高く上げられた栄光の王座だ。
- 13 「イスラエルの望みである主よ。あなたを捨てる者は、みな恥を見ます。」「わたしから離れ去る者は、地にその名が記される。いのちの水の泉である主を捨てたからだ。」
- 14 「私を癒やしてください、主よ。そうすれば、私は癒やされます。私をお救いください。そうすれば、私は救われます。あなたこそ、私の賛美だからです。
- 15 ご覧ください。彼らは私に言っています。『主のことばはどこへ行ったのか。さあ、それを来させよ。』
- 16 しかし私は、あなたに従う牧者になることを避けたことはありません。癒やされない日を望んだこともありません。あなたは、私の唇から出るものが 御前にあることをよくご存じです。
- 17 私を恐れさせないでください。あなたは、わざわいの日の、私の身の避け所です。
- 18 私を迫害する者たちが恥を見て、私が恥を見ることのないようにしてください。彼らがうろたえ、私がうろたえることのないようにしてください。彼らの上にわざわいの日を来たらせ、破れを倍にして、彼らを打ち破ってください。」

- 19 主は私にこう言われる。「行って、ユダの王たちが出入りする、この民の子らの門と、エルサレムのすべての門に立ち、
- 20 彼らに言え。『これらの門の内に入るユダの王たち、ユダ全体、エルサレムの全住民よ、主のことばを聞け。
- 21 主はこう言われる。あなたがた自身、気をつけて、安息日に荷物を運ぶな。また、それをエルサレムの門の内に持ち込むな。
- 22 また、安息日に荷物を家から出すな。いかなる仕事もするな。安息日を聖なるものとせよ。わたしがあなたがたの先祖に命じたとおりだ。
- 23 しかし、彼らは聞かず、耳を傾けず、うなじを固くする者となって聞こうとせず、戒めを受けなかった。
- 24 もし、あなたがたが、本当にわたしに聞き従い—主のことば—安息日にこの都の門の内に荷物を持ち込まず、安息日を聖なるものとし、この日にいかなる仕事もしないなら、
- 25 ダビデの王座に就く王たちや、車や馬に乗る首長たち、すなわち王たちとその首長たち、ユダの人、エルサレムの住民は、この都の門の内に入り、この都はとこしえに人の住む所となる。
- 26 ユダの町々やエルサレムの周辺から、ベニヤミンの地やシェフェラから、また山地やネゲブから、全焼のささげ物、いけにえ、穀物のささげ物、乳香を携えて来る者、また感謝のいけにえを携えて来る者が、主の宮に来る。
- 27 しかし、もし、わたしの言うことを聞き入れず、安息日を聖なるものとせず、安息日に荷物を運んでエルサレムの門の内に入るなら、わたしはその門に火をつけ、火はエルサレムの宮殿をなめ尽くし、消えることがない。』」

第18章

- 1 主からエレミヤに、このようなことばがあった。
- 2 「立って、陶器師の家に下れ。そこで、あなたにわたしのことばを聞かせる。」
- 3 私が陶器師の家に下って行くと、見よ、彼はろくろで仕事をしているところだった。
- 4 陶器師が粘土で制作中の器は、彼の手で壊されたが、それは再び、陶器師自身の気に入るほかの器に作り替えられた。
- 5 それから、私に次のような主のことばがあった。
- 6 「イスラエルの家よ、わたしがこの陶器師のように、あなたがたにすることはできないだろうか―主のことば―。見よ。粘土が陶器師の手の中にあるように、イスラエルの家よ、あなたがたはわたしの手の中にある。
- 7 わたしが、一つの国、一つの王国について、引き抜き、打ち倒し、滅ぼすと言ったそのとき、
- 8 もし、わたしがわざわざいを予告したその民が立ち返るなら、わたしは下そうと思っていたわざわざいを思い直す。
- 9 わたしが、一つの国、一つの王国について、建て直し、植えると言ったそのとき、
- 10 もし、それがわたしの声に聞き従わず、わたしの目に悪であることを行うなら、わたしはそれに与えると言った幸せを思い直す。
- 11 さあ今、ユダの人とエルサレムの住民に言え。『主はこう言われる。見よ。わたしはあなたがたに対してわざわざいを考え出し、策をめぐらしている。さあ、それぞれ悪の道から立ち返り、あなたがたの生き方と行いを改めよ。』
- 12 しかし、彼らは言う。『いや。私たちは自分の計画にしたがって歩み、それぞれ、頑なで悪い心のままに行います。』」
- 13 それゆえ、主はこう言われる。「さあ、国々の中で尋ねてみよ。だれか、こんなことを聞いたことがあるだろうか。おとめイスラエルは、実におぞましいことを行なった。
- 14 レバノンの雪は、野の岩から消え去るだろうか。ほかの国から流れて来る冷たい水は、涸れることがあるだろうか。
- 15 それなのに、わたしの民はわたしを忘れ、空しいものに犠牲を供える。それらは、わたしの民をその道、いにしえの道でつまづかせ、小道に、まだ整えられていない道に行かせ、
- 16 彼らの地を恐怖のもととし、永久に嘲りの的とする。そこを通り過ぎる者はみな、呆気にとられて頭を振る。
- 17 東風のように、わたしは彼らを敵の前で散らす。彼らの災難の日に、わたしは彼らに背を向け、顔を向けない。」
- 18 彼らは言った。「さあ、私たちは策をめぐらしてエレミヤを倒そう。祭司から律法が、知恵のある者から助言が、預言者からことばが滅び失せることはないはずだから。さあ、舌で彼を打ち、彼のすべてのことばに耳を傾けることがないようにしよう。」
- 19 「主よ、私に耳を傾け、私と争う者の声を聞いてください。

- 20** 善に悪をもって報いてよいでしょうか。まことに彼らは、私のいのちを取ろうとして 穴を掘りました。私が御前に立って、彼らへのあなたの憤りをやめていただくために、彼らについて良いことを語ったことを、思い起こしてください。
- 21** それゆえ、彼らの子らを飢饉に渡し、彼らを剣で殺してください。妻たちは子を失い、また、やもめになり、夫たちは虐殺されて死に、若い男たちは戦いで剣に殺されますように。
- 22** 突然、あなたが略奪隊に彼らを襲わせるとき、彼らの家から悲鳴が聞こえます。彼らは私を捕らえようとして穴を掘り、私の足もとに罠を設けたからです。
- 23** 主よ、あなたはみなご存じです。私を殺そうとする彼らのはかりごとを。どうか彼らの咎を赦さず、彼らの罪を御前からぬぐい去らないでください。彼らを御前で打ち倒し、御怒りの時に、彼らに報いてください。」

第19章

- 1 主はこう言われる。「行って、土の焼き物の瓶を買い、民の長老と年長の祭司のうちの数人とともに、
- 2 陶片の門の入り口にあるベン・ヒノムの谷に出かけ、そこで、わたしがあなたに語ることばを叫べ。
- 3 『ユダの王たちとエルサレムの住民よ、主のことばを聞け。イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。見よ、わたしはこの場所にわざわざいをもたらす。だれでもそのことを聞く者は、両耳が鳴る。
- 4 彼らがわたしを捨てて、この場所を見知らぬ所としたからである。彼らはこの場所で、彼らも彼らの先祖も、ユダの王たちも知らなかったほかの神々に犠牲を供え、この場所を咎なき者の血で満たし、
- 5 バアルのために自分の子どもたちを全焼のささげ物として火で焼くため、バアルの高き所を築いた。このようなことは、わたしが命じたこともなく、語ったこともなく、思いつきもしなかった。
- 6 それゆえ、見よ、その時代が来る—主のことば—。そのとき、もはやこの場所はトフェトとかベン・ヒノムの谷と呼ばれない。ただ虐殺の谷と呼ばれる。
- 7 また、わたしはこの場所で、ユダとエルサレムのはかりごとを打ち砕く。わたしは敵の前で彼らを剣で倒し、また、いのちを狙う者の手によって倒し、その屍を空の鳥や地の獣に餌食として与える。
- 8 また、わたしはこの都を恐怖のもと、また嘲りの的とする。そこを通り過ぎる者はみな呆気にとられ、そのすべての打ち傷を見てあざ笑う。
- 9 またわたしは、包囲と、彼らの敵、いのちを狙う者がもたらす窮乏のために、彼らに自分の息子の肉、娘の肉を食べさせる。彼らは互いに、その友の肉を食べ合う。』
- 10 そこであなたは、同行の人たちの目の前でその瓶を砕いて、
- 11 彼らに言え。『万軍の主はこう言われる。陶器師の器が砕かれると、二度と直すことはできない。このように、わたしはこの民と、この都を砕く。人々はトフェトに空き地がないまでに葬る。
- 12 わたしはこの場所と—主のことば—その住民にこのようにする。わたしはこの都をトフェトのようにする。
- 13 エルサレムの家々とユダの王の家々、すなわち、屋上で天の万象に犠牲を供え、ほかの神々に注ぎのぶどう酒を注いだすべての家々は、トフェトの地のように汚される。』」
- 14 そこでエレミヤは、主が預言のために遣わしたトフェトから帰って、主の宮の庭に立ち、民全体に言った。
- 15 「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。見よ。わたしはこの都とすべての町に、わたしが告げたすべてのわざわいをもたらす。彼らがうなじを固くする者となって、わたしのことばに聞き従おうとしなかったからである。」

第20章

- 1 さて、主の宮のつかさ、また監督者である、イメルの子、祭司パシュフルは、エレミヤがこれらのことばを預言するのを聞いた。
- 2 パシュフルは、預言者エレミヤを打ち、彼を主の宮にある、上のベニヤミンの門にある足かせにつないだ。
- 3 翌日になって、パシュフルがエレミヤを足かせから解いたとき、エレミヤは彼に言った。
「主はあなたの名をパシュフルではなく、『恐怖が取り囲んでいる』と呼ばれる。
- 4 まことに主はこう言われる。見よ。わたしはあなたを、あなた自身とあなたの愛するすべての者にとって恐怖とする。彼らは、あなたが見ている前で、敵の剣に倒れる。また、わたしはユダの人すべてをバビロンの王の手に渡す。彼は彼らをバビロンへ引いて行き、剣で打ち殺す。
- 5 また、わたしはこの都のすべての富と、すべての労苦の実と、すべての宝を渡し、ユダの王たちの財宝を敵の手に渡す。彼らはそれをかすめ奪い、略奪してバビロンへ運ぶ。
- 6 パシュフルよ。あなたとあなたの家に住むすべての者は、捕らわれの身となってバビロンに行き、そこで死んで、そこに葬られる。あなたも、あなたが偽って預言を語り聞かせた、あなたの愛するすべての者たちも。」
- 7 「主よ。あなたが私を惑わしたので、私はあなたに惑わされました。あなたは私をつかみ、思いのままにされました。私は一日中笑いものとなり、皆が私を嘲ります。
- 8 私は、語るたびに大声を出して『暴虐だ。暴行だ』と叫ばなければなりません。主のことばが、一日中、私への嘲りのもととなり、笑いぐさとなるのです。
- 9 私が、『主のことばは宣べ伝えない。もう御名によっては語らない』と思っても、主のことばは私の心のうちで、骨の中に閉じ込められて、燃えさかる火のようになり、私は内にしまっておくのに耐えられません。もうできません。
- 10 私が、多くの人のささやきを聞いたからです。『「恐怖が取り囲んでいる」と告げよ。われわれも彼に告げたいのだ』と。私の親しい者もみな、私がつまずくのを待ちかまえています。『たぶん彼は惑わされるから、われわれは彼に勝って、復讐できるだろう』と。
- 11 しかし、主は私とともにいて、荒々しい勇士のようです。ですから、私を迫害する者たちはつまずき、勝つことができません。彼らは成功しないので、大いに恥をかき、忘れられることのない永久の恥となります。
- 12 正しい者を試し、思いと心を見る万軍の主よ。あなたが彼らに復讐するのを 私に見させてください。私の訴えをあなたに打ち明けたのですから。」
- 13 主に向かって歌い、主をほめたたえよ。主が貧しい者のいのちを、悪を行う者どもの手から救い出されたからだ。
- 14 「私の生まれた日は、のろわれよ。母が私を産んだその日は、祝福されるな。
- 15 のろわれよ。私の父に、『男の子が生まれた』と知らせて、大いに喜ばせた人は。
- 16 その人は、主があわれみもなく打ち倒す 町々のようになれ。朝には彼に悲鳴を聞かせ、真昼には、とき声を聞かせよ。

- 17 彼は、私が胎内にいるときに私を殺さず、母を私の墓とせず、その胎を、永久に身ごもったままにしなかったからだ。
- 18 なぜ、私は労苦と悲しみにあうために胎を出たのか。私の一生は恥のうちに終わるのか。」

第21章

- 1 主からエレミヤにあったことば。ゼデキヤ王が、マルキヤの子パシュフルと、マアセヤの子、祭司ゼパニヤをエレミヤのもとに遣わして、
- 2 「どうか、私たちのために主に尋ねてください。バビロンの王ネブカドネツアルが私たちを攻めています。主がかつて、あらゆる奇しいみわざを行われたように、私たちにも行い、彼を私たちのところから引き揚げさせてくださるかもしれませんから」と言ったときのことである。
- 3 エレミヤは彼らに言った。「あなたがたは、ゼデキヤにこう言いなさい。
- 4 『イスラエルの神、主はこう言われる。あなたがたは、城壁の外からあなたがたを囲むバビロンの王とカルデア人に向かって戦っているが、見よ、わたしはあなたがたが手にしている武具の向きを変え、それを集めてこの都のただ中に向ける。
- 5 わたし自身が、伸ばされた手と力強い腕をもって、怒り、憤り、大いなる激怒をもって、あなたがたと戦う。
- 6 この都に住むものは、人も家畜もわたしは打つ。彼らは激しい疫病で死ぬ。
- 7 その後で一主のことば—わたしはユダの王ゼデキヤとその家来、また、その民と、この都で疫病や剣や飢饉から逃れて生き残った者たちを、バビロンの王ネブカドネツアルの手、敵の手、いのちを狙う者たちの手に渡す。彼は彼らを剣の刃で討ち、彼らを惜しまず、容赦せず、あわれみをかけない。』」
- 8 「あなたは、この民に言え。『主はこう言われる。見よ、わたしはあなたがたの前に、いのちの道と死の道を置く。
- 9 この都にとどまる者は、剣と飢饉と疫病によって死ぬ。出て行ってあなたがたを囲んでいるカルデア人に降伏する者は生き、自分のいのちを戦勝品として得る。
- 10 なぜなら、わたしがこの都に顔を向けるのは、幸いのためではなく、わざわいのためだから—主のことば—。この都は、バビロンの王の手に渡され、彼はこれを火で焼く。』」
- 11 ユダの王家について。「主のことばを聞け。
- 12 ダビデの家よ、主はこう言われる。朝ごとに、公正にさばきを行い、かすめられている者を、虐げる者の手から救い出せ。そうでないと、あなたがたの悪行のために、わたしの憤りが火のように燃えて焼き尽くし、消す者はいなくなる。
- 13 見よ、わたしはあなたに敵対する。この谷に住む者、平地の岩よ—主のことば—。あなたがたはこう言っている。『だれが、このところに下って来るだろう。だれが、この住まいに入って来るだろう』と。
- 14 わたしはあなたがたを、その行いの実にしたがって罰する。—主のことば— わたしはその森に火をつける。火は、その周りをことごとく焼き尽くす。」

第22章

- 1 主はこう言われる。「ユダの王の家に下り、そこでこのことばを語れ。
- 2 『ダビデの王座に着くユダの王よ。あなたも、これらの門の内に入って来るあなたの家来も、またあなたの民も、主のことばを聞け。
- 3 主はこう言われる。公正と正義を行い、かすめ取られている者を、虐げる者の手から救い出せ。寄留者、みなしご、やもめを苦しめたり、いじめたりしてはならない。また、咎なき者の血をここで流してはならない。
- 4 もし、あなたがたがこのことばを忠実に行うなら、ダビデの王座に着く王たちは車や馬に乗り、彼らも、その家来も、またその民も、この家の門の内に入ることができる。
- 5 しかし、もしこのことばを聞かなければ、わたしは自分にかけて誓うが—主のことば—この家は必ず廃墟となる。』」
- 6 まことに、ユダの王の家について、主はこう言われる。「あなたは、わたしにとってはギルアデ、レバノンの頂だが、必ず、わたしはあなたを荒野にし、住む人もいない町々にする。
- 7 わたしはあなたを攻めるために、それぞれ武具を持つ破壊者たちを取り分ける。彼らは、最も美しいあなたの杉の木を切り倒して火に投げ入れる。
- 8 多くの国々の者がこの都のそばを過ぎ、彼らが互いに、『何のために、主はこの大きな都をこのようにしたのだろうか』と言えば、
- 9 人々は、『彼らが、自分の神、主の契約を捨ててほかの神々を拝み、仕えたからだ』と言う。」
- 10 死んだ者のために泣くな。その者のために嘆くな。去って行く者のために、大いに泣け。彼が再び帰って、故郷を見ることがないからだ。
- 11 父ヨシヤに代わって王となった、ヨシヤの子、ユダの王シャルムについて、主はまことにこう言われる。「彼はこの場所から出て行って、二度とここには帰らない。
- 12 彼は引いて行かれた場所で死に、再びこの地を見ることはない。」
- 13 「わざわざ。不義によって自分の家を建て、不正によって自分の高殿を建てる者たち。隣人をただで働かせて報酬も払わず、
- 14 『私は自分のために、広い家、ゆったりとした高殿を建てよう』と言い、それに窓を取り付けて、杉の板でおおい、朱を塗る者は。
- 15 あなたは杉の木で競って、王になろうとするのか。あなたの父は食べたり飲んだりし、公正と義を行ったではないか。そのとき、彼は幸福であった。
- 16 虐げられた人、貧しい人の訴えを擁護し、彼は、そのとき幸福であった。それが、わたしを知っていることではないのか。—主のことば—
- 17 しかし、あなたの目と心は、自分の利得に、さらには、咎なき者の血を流すこと、虐げと暴虐を行うことにだけ向けられている。」
- 18 それゆえ、ヨシヤの子、ユダの王エホヤキムについて、主はこう言われる。「だれも、『ああ、悲しい、私の兄弟よ。ああ、悲しい、私の姉妹よ』と言って彼を悼まず、だれ

も、『ああ、悲しい、主よ。 ああ、悲しい、陛下よ』と言って彼を悼まない。

- 19** 彼はエルサレムの門の外へ 引きずられ、投げ捨てられて、 ろばが埋められるように埋められる。」
- 20** 「レバノンに上って叫び、 バシャンで声をあげ、アバリムから叫べ。 あなたの恋人たちがみな、砕かれたからだ。
- 21** あなたが平穏であったときに、 わたしはあなたに語りかけたが、 あなたは『私は聞かない』と言った。 わたしの声に聞き従わないということ、 これが、若いころからのあなたの生き方だった。
- 22** あなたの牧者たちはみな風に追い立てられ、 あなたの恋人たちは捕らわれの身となって行く。 そのとき、あなたは自分のすべての悪のゆえに、 恥を見、辱めを受ける。
- 23** レバノンの中に住み、 杉の木の中に巣ごもりする女よ。 あなたに陣痛が、 産婦のような激痛が襲うとき、 あなたはどんなにうめくことだろう。」
- 24** 「わたしは生きている—主のことば—。ユダの王、エホヤキムの子エコンヤは、わたしの右手の指輪の印ではあるが、わたしは必ずあなたを指から抜き取り、
- 25** あなたのいのちを狙う者たちの手、あなたが恐れている者たちの手、バビロンの王ネブカドネツアルの手、カルデア人の手に渡し、
- 26** あなたと、あなたの産みの母を、あなたがたが生まれたところではない、ほかの地に放り出し、そこであなたがたは死ぬことになる。
- 27** 彼らが帰りたいと心から望むこの地に、彼らは決して帰らない。」
- 28** この人エコンヤは、蔑まれて碎かれる像なのか。だれにも顧みられない器なのか。なぜ、彼とその子孫は投げ捨てられ、見も知らぬ地に投げやられるのか。
- 29** 地よ、地よ、地よ、主のことばを聞け。
- 30** 「主はこう言われる。この人を『子を残さず、一生栄えない男』と記録せよ。彼の子孫のうち一人も、ダビデの王座に着いて栄え、再びユダを治める者はいないからだ。」

第23章

- 1 「わざわざいだ。わたしの牧場の群れを滅ぼし散らしている牧者たち—主のことば。」
- 2 それゆえ、イスラエルの神、主は、私の民を牧する牧者たちについてこう言われる。「あなたがたはわたしの群れを散らし、これを追い散らして顧みなかった。見よ、わたしはあなたがたの悪しき行いを罰する—主のことば—。
- 3 しかしわたしは、わたしの群れの残りの者を、わたしが追い散らしたすべての地から集め、元の牧場に帰らせる。彼らは多くの子を生んで増える。
- 4 わたしは彼らの上に牧者たちを立てて、彼らを牧させる。彼らは二度と恐れることなく、おびえることなく、失われることもない—主のことば。
- 5 見よ、その時代が来る。 —主のことば— そのとき、わたしは ダビデに一つの正しい若枝を起こす。 彼は王となって治め、栄えて、 この地に公正と義を行う。
- 6 彼の時代にユダは救われ、 イスラエルは安らかに住む。 『主は私たちの義』。それが、彼の呼ばれる名である。
- 7 それゆえ、見よ、その時代が来る—主のことば—。そのとき、もはや人々は『イスラエルの子らをエジプトの地から上らせた主は生きておられる』と言うことはなく、
- 8 『イスラエルの家の末裔を、北の地や、彼らが散らされていたすべての地から上らせた主は、生きておられる』と言って、自分たちの土地に住むようになる。」
- 9 預言者たちについて— 私の心は、うちに碎かれ、 私の骨はみな震える。 私は酔いどれのように、 ぶどう酒に負けた男のようになった。 主と、主の聖なることばのために。
- 10 地が姦通する者で満ちているからだ。 地はのろわれて喪に服し、 荒野の牧場は乾ききる。 彼らの走る道は悪で、 その力は正しくないことに使われる。
- 11 「実に、預言者も祭司も汚れている。 わたしの家の中にも、 わたしは彼らの悪を見出した。 —主のことば—
- 12 それゆえ、彼らの道は、 暗闇の中の滑りやすい場所のようになり、 彼らは押しやられて、そこに倒れる。 わたしが彼らにわざわざいをもたらし、 刑罰の年をもたらすからだ。 —主のことば—
- 13 サマリアの預言者たちの中に、 わたしはごまかしを見た。 彼らはバアルによって預言し、 わたしの民イスラエルを迷わせた。
- 14 エルサレムの預言者たちの中に、 わたしはおぞましいことを見た。 彼らは姦通し、嘘をついて歩き、 悪を行う者どもの手を強くして、 その悪から、だれも立ち返らせない。 彼らはみな、わたしにはソドムのものであり、 その住民はゴモラのような。」
- 15 それゆえ、万軍の主は、預言者たちについてこう言われる。「見よ。わたしは彼らに、 苦よもぎを食べさせ、 毒の水を飲ませる。 不敬虔がエルサレムの預言者たちから出て、 全土に広がったからだ。」
- 16 万軍の主はこう言われる。「あなたがたに預言する預言者たちの ことばを聞くな。 彼らはあなたがたを 空しいものにしようとしている。 彼らは主の御口からではなく、 自分の心の幻を語っている。

- 17 彼らは、わたしを侮る者に向かって、『主はあなたがたに平安があると告げられた』としきりに言い、頑なな心のままに歩むすべての者に向かって、『あなたがたにはわざわいが来ない』と言っている。」
- 18 しかし、だれが、主との親しい交わりに加わり、主のことばを見聞きしたか。だれが、耳を傾けて主のことばを聞いたか。
- 19 見よ。主のつむじ風が 憤りとなって出て行く。荒れ狂う暴風が 悪者の頭上で荒れ狂う。
- 20 主の怒りは、その心の御思いを行って成し遂げるまで 去ることはない。終わりの日に、あなたがたはそれを明らかに悟る。
- 21 「わたしはこのような預言者たちを 遣わさなかったのに、彼らは走り続ける。わたしは彼らに語らなかったのに、彼らは預言している。
- 22 わたしとの親しい交わりに加わっていたなら、彼らは、わたしの民にわたしのことばを聞かせ、民をその悪い生き方から、その悪しき行いから 立ち返らせたであろうに。
- 23 わたしは近くにいれば、神なのか。—主のことば— 遠くにいれば、神ではないのか。
- 24 人が隠れ場に身を隠したら、わたしはその人を見ることができないのか。—主のことば— 天にも地にも、わたしは満ちているではないか。—主のことば。
- 25 わたしの名によって偽りを預言する預言者たちが、『私は夢を見た。夢を見た』と言うのを、わたしは聞いた。
- 26 いつまで、あの預言者たちの心に偽りの預言があるのか。心の偽りごとを語る預言者たちのうちに。
- 27 彼らの先祖がバアルのゆえにわたしの名を忘れたように、彼らはそれぞれ自分たちの夢を述べ、わたしの民にわたしの名を忘れさせようと、企んでいるのか。
- 28 夢を見た預言者は夢を語るがよい。しかし、わたしのことばを受けた者は、わたしのことばを忠実に語らなければならない。麦は藁と何の関わりがあるだろうか。—主のことば—
- 29 わたしのことばは火のようではないか—主のことば—。岩を砕く金槌のようではないか。
- 30 それゆえ、見よ—主のことば—。わたしは、互いにわたしのことばを盗み合う預言者たちの敵となる。
- 31 見よ。わたしは—主のことば—自分の舌を操って、これがみことばだ、と言う預言者たちの敵となる。
- 32 見よ。わたしは偽りの夢を預言する者たちの敵となる—主のことば—。彼らは、偽りと自慢話をわたしの民に語って迷わせている。わたしは彼らを遣わさず、彼らに命じもしなかった。彼らは、この民にとって何の役にも立たない—主のことば。
- 33 この民、あるいは預言者か祭司が、『主の宣告とは何か』とあなたに尋ねたら、あなたは彼らに言え。『あなたが、宣告とは何かと言うので、わたしはあなたがたを捨てて—主のことば。』
- 34 預言者でも、祭司でも、民でも、主の宣告と言う者があれば、わたしはその者とその家を罰する。」
- 35 あなたがたは互いに「主はどう答えられたか。主はどう語られたか」と言うがよい。

- 36 しかし、主の宣告ということを二度と述べてはならない。その宣告自体がそれを言う人自身のことばであり、あなたがたが、生ける神、万軍の主、私たちの神のことばを曲げることになるからだ。
- 37 「あの預言者たちにこう言え。『主はどう答えられたか。主はどう語られたか。』」
- 38 もし、あなたがたが主の宣告と言うなら、それに対して、主はこう言われる。わたしはあなたがたに、主の宣告と言うなと言いつつのに、あなたがたは主の宣告というこのことばを使っている。
- 39 それゆえ、見よ、わたしはあなたがたを全く忘れ、あなたがたとあなたがたの先祖に与えたこの都を、あなたがたとともに、わたしの前から捨てて、
- 40 永遠の恥辱、忘れられることのない永遠の侮辱をあなたがたに与える。』」

第24章

- 1 バビロンの王ネブカドネツアルが、ユダの王、エホヤキムの子エコンヤと、ユダの高官たち、職人、鍛冶をエルサレムから捕らえ移してバビロンに連れて行った後のこと、主は私にこのように示された。見よ、主の神殿の前に、二かごのいちじくが置かれていた。
- 2 一つのかごにあるのは非常に良いいちじくで、初なりのいちじくの実のようであり、もう一つのかごにあるのは非常に悪いいちじくで、悪くて食べられないものであった。
- 3 そのとき、主が私に、「エレミヤ、あなたは何を見ているのか」と言われたので、私は言った。「いちじくです。良いいちじくは非常に良く、悪いほうは非常に悪く、悪くて食べられないものです。」
- 4 すると、私に次のような主のことばがあった。
- 5 「イスラエルの神、主はこう言う。わたしは、この場所からカルデア人の地に送ったユダの捕囚の民を、この良いいちじくのように、良いものであると見なそう。
- 6 わたしは、彼らを幸せにしようと彼らに目をかける。彼らをこの地に帰らせ、建て直して、壊すことなく、植えて、引き抜くことはない。
- 7 わたしは、わたしが主であることを知る心を彼らに与える。彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。彼らが心のすべてをもってわたしに立ち返るからである。
- 8 しかし、悪くて食べられないあの悪いいちじくのように一まことに主は言われる―わたしはユダの王ゼデキヤと、その高官たち、エルサレムの残りの者と、この地に残されている者、およびエジプトの地に住んでいる者を、このようにする。
- 9 わたしは彼らを、地のすべての王国にとって、おののきのもと、悪しきものとする。また、わたしが追い散らす、すべての場所で、そしりと嘲りの的、物笑いの種、ののしりの的とする。
- 10 わたしは彼らのうちに、剣と飢饉と疫病を送り、彼らとその先祖に与えた地から彼らを滅ぼし尽くす。」

第25章

- 1 ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの第四年、バビロンの王ネブカドネツアルの元年に、ユダの民全体についてエレミヤにあったみことば。
- 2 預言者エレミヤは、それをユダの民全体とエルサレムの全住民に語り、こう言った。
- 3 「ユダの王、アモンの子ヨシヤの第十三年から今日まで、この二十三年間、私に主のことばがあり、私はあなたがたに絶えず、しきりに語りかけたのに、あなたがたは聞かなかった。
- 4 また、主はあなたがたに、主のしもべである預言者たちを早くからたびたび遣わされたのに、あなたがたは聞かず、聞こうと耳を傾けもしなかった。
- 5 主は言われた。『さあ、それぞれ悪の道から、あなたがたの悪い行いから立ち返り、主があなたがたと先祖たちに与えた土地に、いつまでも、とこしえに住め。
- 6 ほかの神々に従い、それに仕え、それを拝んではならない。あなたがたが手で造った物によって、わたしの怒りを引き起こしてはならない。そのようにすれば、わたしも、あなたがたにわざわいを下さない。
- 7 しかし、あなたがたはわたしに聞き従わなかった—主のことば—。そして、あなたがたは手で造った物でわたしの怒りを引き起こし、身にわざわいを招いた。』
- 8 それゆえ、万軍の主はこう言われる。『あなたがたがわたしのことばに聞き従わなかったから、
- 9 見よ、わたしは北のすべての種族を呼び寄せる—主のことば—。わたしのしもべ、バビロンの王ネブカドネツアルを呼び寄せて、この国とその住民、その周りのすべての国々を攻めさせ、これを聖絶して、恐怖のもと、嘲りの的、永遠の廃墟とする。
- 10 わたしは彼らから楽しみの声と喜びの声、花婿の声と花嫁の声、ひき臼の音と、ともしびの光を消し去る。
- 11 この地はすべて廃墟となり荒れ果てて、これらの国々はバビロンの王に七十年仕える。
- 12 七十年の終わりに、わたしはバビロンの王とその民を—主のことば—またカルデア人の地を、彼らの咎のゆえに罰し、これを永遠に荒れ果てた地とする。
- 13 わたしは、この地の上にわたしが語ったすべてのことばを実現させる。それは、エレミヤが万国について預言したことで、この書に記されているすべての事柄である。
- 14 多くの国々と大王たちは彼らを奴隷にして使い、わたしも彼らに、その行いに応じ、その手のわざに応じて報いる。』」
- 15 まことにイスラエルの神、主は、私にこう言われた。「この憤りのぶどう酒の杯をわたしの手から取り、わたしがあなたを遣わすすべての国々に、これを飲ませよ。
- 16 彼らは飲んで、ふらつき、狂ったようになる。わたしが彼らの間に送る剣のゆえである。」
- 17 そこで、私は主の御手からその杯を受け取り、主が私を遣わされたすべての国々の民に飲ませた。

- 18 まず、エルサレムとユダの町々とその王たち、高官たちに。彼らを今日のように廃墟とし、恐怖のもと、嘲りとののしりの的とするためである。
- 19 また、エジプトの王ファラオと、その家来たち、首長たち、そのすべての民、
- 20 すべての混血の民、ウツの地のすべての王たち、ペリシテ人の地のすべての王たち、すなわちアシュケロン、ガザ、エクロン、アシュドデの残りの者たち、
- 21 エドム、モアブ、アンモン人、
- 22 ツロのすべての王たち、シドンのすべての王たち、海のかなたにある島の王たち、
- 23 デダン、テマ、ブズ、もみ上げを刈り上げているすべての者たち、
- 24 アラビアのすべての王たち、荒野に住む混血の民のすべての王たち、
- 25 ジムリのすべての王たち、エラムのすべての王たち、メディアのすべての王たち、
- 26 北国のすべての王たち、近い者も遠い者も一人ひとり、地の面のすべての王国である。そして、彼らの後でバビロンの王が飲む。
- 27 「あなたは彼らに言え。『イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。わたしがあなたがたの間に送る剣のゆえに、飲め、酔え、吐け。倒れて起き上がるな。』
- 28 もし、彼らが、あなたの手からその杯を取って飲むことを拒むなら、彼らに言え。『万軍の主はこう言われる。あなたがたは必ず飲むことになる。
- 29 見よ。わたしの名がつけられているこの都に対して、わたしはわざわいを下し始めているからだ。あなたがたは罰を免れようとするのか。免れることはできない。わたしがこの地の全住民の上に、剣を呼び寄せているからだ—万軍の主のことば。』
- 30 あなたは彼らにこのすべてのことばを預言して言え。『主は高い所からほえ、聖なる御住まいから声をあげられる。その牧場に向かって猛々しくほえ、ぶどう踏みをする者のように、地の全住民に向かって叫び声をあげられる。
- 31 その叫び声は地の果てまでも響き渡る。主が諸国の民と争い、すべての肉なる者をさばき、悪者どもを剣に渡されるからだ。—主のことば—
- 32 万軍の主はこう言われる。見よ。わざわいが国から国へと移り行き、大いなる暴風が地の果てから起こる。
- 33 その日、主に殺される者が地の果てから地の果てまでに及び、彼らは悼み悲しまれることなく、集められることなく、葬られることもなく、地の面の肥やしとなる。』」
- 34 牧者たちよ、泣き叫べ。群れの飼い主たちよ、灰の中を転げ回れ。あなたがたが屠られ、散らされる日が来たからだ。あなたがたは、尊い器が砕かれるように倒れる。
- 35 逃げ場は牧者たちのうちから消え失せる。逃れ場は、群れの飼い主たちのうちから。
- 36 牧者たちの叫ぶ声がする。群れの飼い主たちの泣き声が。主が彼らの牧場を荒らしておられるからだ。
- 37 平和な牧場も、主の燃える怒りによって荒れすたれる。
- 38 主は若獅子のように仮庵を捨てた。虐げる者の怒り、主の燃える怒りによって、彼らの国が荒れ果てるからだ。

第26章

- 1 ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの治世の初めに、主から次のようなことばがあった。
- 2 主はこう言われた。「主の宮の庭に立ち、主の宮に礼拝しに来るユダのすべての町の者に、わたしがあなたに語れと命じたことばを残らず語れ。一言も省くな。
- 3 彼らがそれを聞いて、それぞれ悪の道から立ち返るかもしれない。そうすればわたしは、彼らの悪い行いのために彼らに下そうと考えていたわざわいを思い直す。
- 4 彼らに言え。『主はこう言われる。もし、あなたがたがわたしに聞き従わず、あなたがたの前に置いたわたしの律法に歩まず、
- 5 あなたがたに早くからたびたび遣わしてきた、わたしのしもべである預言者たちのことばに聞き従わないなら—実際、あなたがたは聞き従わなかった—
- 6 わたしはこの宮をシロのようにし、この都を地上のすべての国々の、ののしりの的とする。』」
- 7 祭司と預言者と民全体は、エレミヤがこのことばを主の宮で語るのを聞いた。
- 8 主が民全体に語れと命じたことをみな、エレミヤが語り終えたとき、祭司と預言者とすべての民は彼を捕らえて言った。「あなたは必ず死ななければならない。
- 9 なぜ、この宮がシロのようになり、この都がだれも住む者のいない廃墟となると、主の名によって預言したのか。」そこで、民全体は主の宮のエレミヤのところに集まった。
- 10 これらのことを聞いてユダの首長たちは、王の宮殿から主の宮に上り、主の宮の新しい門の入り口で座に着いた。
- 11 祭司たちと預言者たちは、首長たちと民全体に次のように言った。「この者は死刑に当たる。彼がこの都に対して、あなたがたが自分の耳で聞いたとおりの預言をしたからだ。」
- 12 エレミヤは、すべての首長と民に告げた。「主が、この神殿とこの都に対して、あなたがたの聞いたすべてのことばを預言するよう、私を遣わされたのです。
- 13 さあ今、あなたがたの生き方と行いを改め、あなたがたの神、主の御声に聞き従いなさい。そうすれば、主も、あなたがたに語ったわざわいを思い直されます。
- 14 このとおり、私自身はあなたがたの手の中にあります。私を、あなたがたの目に良いと思うよう、気に入るようにしなさい。
- 15 ただ、もしあなたがたが私を殺すなら、あなたがた自身が咎なき者の血の責任を、自分たちと、この都と、その住民に及ぼすのだということを、はっきり知っておきなさい。なぜなら、本当に主が私をあなたがたのもとに送り、これらすべてのことばをあなたがたの耳に語らせたのですから。」
- 16 すると、首長たちと民全体は、祭司たちと預言者たちに言った。「この人は死刑に当たらない。彼は私たちの神、主の名によって、私たちに語ったのだから。」
- 17 それで、この地の長老たちの何人かが立って、民全体に言った。
- 18 「かつてモレシェテ人ミカも、ユダの王ヒゼキヤの時代に預言して、ユダの民全体にこう語ったことがある。万軍の主はこう言われる。シオンは畑のように耕され、エルサレムは瓦礫の山となり、神殿の山は木々におおわれた丘となる。

- 19** そのとき、ユダの王ヒゼキヤとユダのすべては彼を殺しただろうか。ヒゼキヤが主を恐れ、主に願ったので、主も彼らに語ったわざわいを思い直されたではないか。ところが、私たちはわが身に大きなわざわいを招こうとしている。」
- 20** 主の御名によって預言している人がもう一人いた。キルヤテ・エアリム出身のシェマヤの子ウリヤで、彼はこの都とこの地に対して、エレミヤのことばすべてと同じような預言をしていた。
- 21** エホヤキム王、すべての勇士、首長たちは、彼のことばを聞いた。王は彼を殺そうとしたが、ウリヤはこれを聞いて恐れ、エジプトへ逃げて行った。
- 22** そこで、エホヤキム王は人々をエジプトに遣わした。すなわち、アクボルの子エルナタンに人々を随行させて、エジプトに送った。
- 23** 彼らはウリヤをエジプトから導き出し、エホヤキム王のところに連れて来たので、王は彼を剣で打ち殺し、その屍を共同墓地に捨てさせた。
- 24** しかし、シャファンの子アヒカムはエレミヤをかばい、エレミヤが民の手に渡されて殺されることのないようにした。

第27章

- 1 ユダの王、ヨシヤの子のエホヤキムの治世の初めに、主からエレミヤに次のようなことばがあった。
- 2 主は私にこう言われた。「あなたは縄とかせを作り、それをあなたの首に付けよ。
- 3 そうして、エルサレムのユダの王ゼデキヤのところに来る使者たちによって、エドムの王、モアブの王、アンモン人の王、ツロの王、シドンの王に伝言を送り、
- 4 彼らがそれぞれの主君に次のことを言うように命じよ。『イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。あなたがたは主君にこう言え。
- 5 わたしは、大いなる力と伸ばした腕をもって、地と、地の面にいる人と獣を造った。わたしは、わたしの目にかなった者に、この地を与える。
- 6 今わたしは、これらすべての地域をわたしのしもべ、バビロンの王ネブカドネツアルの手に与え、野の生き物も彼に与えて彼に仕えさせる。
- 7 彼の地に時が来るまで、すべての国は、彼とその子と、その子の子に仕える。しかしその後で、多くの民や大王たちが彼を自分たちの奴隷にする。
- 8 バビロンの王ネブカドネツアルに仕えず、またバビロンの王のくびきに首を差し出さない国や王国があれば、わたしは剣と飢饉と疫病をもってその民を罰し—主のことば—彼の手で彼らを皆殺しにする。
- 9 だから、あなたがたは、バビロンの王に仕えることはないと言っているあなたがたの預言者、占い師、夢見る者、卜者、呪術者に聞き従ってはならない。
- 10 彼らは、あなたがたに偽りを預言しているからだ。それで、あなたがたは自分たちの土地から遠くに移され、わたしはあなたがたを追い散らして、あなたがたは滅びることになる。
- 11 しかし、バビロンの王のくびきに首を差し出して彼に仕える国を、わたしはその土地にとどまらせる—主のことば—。こうして、人々はその土地を耕し、そこに住む。』」
- 12 ユダの王ゼデキヤにも、私はこのことばのとおりに言った。「あなたがたはバビロンの王のくびきに首を差し出し、彼とその民に仕えて生きよ。
- 13 なぜ、あなたとあなたの民は、主がバビロンの王に仕えない国に向かって語られたように、剣と飢饉と疫病で死のうとするのか。
- 14 『バビロンの王に仕えることはない』とあなたがたに語る預言者たちのことばに聞き従ってはならない。彼らがあなたがたに偽りを預言しているからだ。」
- 15 「わたしは彼らを遣わさなかったのに—主のことば—彼らはわたしの名によって偽りを預言している。わたしがあなたがたを追い散らし、あなたがたも、あなたがたに預言している預言者たちも、滅びることになるのだ。」
- 16 私はまた、祭司たちとこの民全体に向かって語った。「主はこう言われる。あなたがたは、『見よ、主の宮の器は、バビロンから今すぐにも戻される』とあなたがたに預言している、あなたがたの預言者のことばに聞き従ってはならない。彼らはあなたがたに偽りを預言しているのだ。

- 17** 彼らに聞き従ってはならない。バビロンの王に仕えて生きよ。どうして、この都が廃墟になってよいであろうか。
- 18** もし彼らが預言者であるなら、もし彼らに主のことばがあるなら、彼らは、主の宮、ユダの王の宮殿、またエルサレムに残されている器がバビロンに持って行かれないよう、万軍の主にとりなしをするはずだ。
- 19** まことに万軍の主は、神殿の柱、『海』、車輪付きの台、また、この都に残されているほかの器について、こう言われる。
- 20** —これらの物は、バビロンの王ネブカドネツアルがユダの王、エホヤキムの子エコンヤ、およびユダとエルサレムのすべてのおもだった人々をエルサレムからバビロンへ引いて行ったときに、奪い取らなかったものである—
- 21** まことに、イスラエルの神、万軍の主は、主の宮とユダの王の宮殿とエルサレムに残された器について、こう言われる。
- 22** 『それらはバビロンに運ばれて、わたしがそれを顧みる日まで、そこにある—主のことば—。そしてわたしはそれらを携え上り、この場所に戻す。』』

第28章

- 1 その同じ年、ユダの王ゼデキヤの治世の初め、第四年の第五の月に、ギブオン出身の預言者、アズルの子ハナンヤが、主の宮で、祭司たちと民全体の前で、私に語って言った。
- 2 「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。わたしは、バビロンの王のくびきを砕く。
- 3 二年のうちに、わたしは、バビロンの王ネブカドネツアルがこの場所から奪い取ってバビロンに運んだ主の宮のすべての器をこの場所に戻す。
- 4 バビロンに行ったユダの王、エホヤキムの子エコンヤと、ユダのすべての捕囚の民も、わたしはこの場所に帰らせる―主のことば―。わたしがバビロンの王のくびきを砕くからだ。」
- 5 そこで預言者エレミヤは、主の宮に立っている祭司たちや民全体の前で、預言者ハナンヤに言った。
- 6 預言者エレミヤは言った。「アーメン。そのとおりに主がしてくださるように。あなたが預言したことばを主が成就させ、主の宮の器と、すべての捕囚の民をバビロンからこの場所に戻してくださるように。
- 7 しかし、私があなたの耳と、すべての民の耳に語ろうとするこのことばを聞きなさい。
- 8 昔から、私と、あなたの先に出た預言者たちは、多くの地域と大きな王国について、戦いとわざわいと疫病を預言した。
- 9 平安を預言する預言者については、その預言者のことばが成就して初めて、本当に主が遣わされた預言者だ、と知られるのだ。」
- 10 しかし預言者ハナンヤは、預言者エレミヤの首から例のかせを取り、それを砕いた。
- 11 そしてハナンヤは、民全体の前でこう言った。「主はこう言われる。このとおり、わたしは二年のうちに、バビロンの王ネブカドネツアルのくびきを、すべての国々の首から砕く。」そこで、預言者エレミヤは立ち去った。
- 12 預言者ハナンヤが預言者エレミヤの首からかせを取って砕いた後、エレミヤに次のような主のことばがあった。
- 13 「行って、ハナンヤに次のように言え。『主はこう言われる。あなたは木のかせを砕いたが、その代わりに、鉄のかせを作ることになる。
- 14 まことに、イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。わたしは鉄のくびきをこれらすべての国の首にはめて、バビロンの王ネブカドネツアルに仕えさせる。彼らは彼に仕える。野の生き物まで、わたしは彼に与えた。』」
- 15 そこで預言者エレミヤは、預言者ハナンヤに言った。「ハナンヤ、聞きなさい。主はあなたを遣わされていない。あなたはこの民を偽りに拠り頼ませた。
- 16 それゆえ、主はこう言われる。見よ、わたしはあなたを地の面から追い出す。今年、あなたは死ぬ。主への反逆をそそのかしたからだ。」
- 17 預言者ハナンヤは、その年の第七の月に死んだ。

第29章

- 1 預言者エレミヤは、ネブカドネツアルがエルサレムからバビロンへ引いて行った捕囚の民、すなわち、長老で生き残っている者たち、祭司たち、預言者たち、および民全体に、エルサレムから次のような手紙を送った。
- 2 この手紙は、エコンヤ王、王母、宦官たち、ユダとエルサレムの首長たち、職人、鍛冶がエルサレムを去った後、
- 3 ユダの王ゼデキヤが、バビロンの王ネブカドネツアルのもと、バビロンへ遣わした、シャファンの子エルアサとヒルキヤの子ゲマルヤの手に託したもので、そのことばは次のとおりである。
- 4 「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。『エルサレムからバビロンへわたしが引いて行かせたすべての捕囚の民に。
- 5 家を建てて住み、果樹園を造って、その実を食べよ。
- 6 妻を迎えて、息子、娘を生み、あなたがたの息子には妻を迎え、娘を嫁がせて、息子、娘を産ませ、そこで増えよ。減ってはならない。
- 7 わたしがあなたがたを引いて行かせた、その町の平安を求め、その町のために主に祈れ。その町の平安によって、あなたがたは平安を得ることになるのだから。』
- 8 まことに、イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。『あなたがたのうちにいる預言者たちや、占い師たちにごまかされるな。また、あなたがたが見ている夢に聞き従ってはならない。
- 9 なぜなら、彼らはわたしの名を使って、偽りをあなたがたに預言しているからだ。わたしは彼らを遣わしていない—主のことば。』
- 10 まことに、主はこう言われる。『バビロンに七十年が満ちころ、わたしはあなたがたを顧み、あなたがたにいつくしみの約束を果たして、あなたがたをこの場所に帰らせる。
- 11 わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている—主のことば—。それはわざわざではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。
- 12 あなたがたがわたしに呼びかけ、来て、わたしに祈るなら、わたしはあなたがたに耳を傾ける。
- 13 あなたがたがわたしを捜し求めるとき、心を尽くしてわたしを求めるなら、わたしを見つける。
- 14 わたしはあなたがたに見出される—主のことば—。わたしは、あなたがたを元どおりにする。あなたがたを追い散らした先のあらゆる国々とあらゆる場所から、あなたがたを集める—主のことば—。わたしはあなたがたを、引いて行った先から元の場所へ帰らせる。』
- 15 あなたがたは、『主はバビロンで、私たちのために預言者を起こされた』と言っていた。
- 16 まことに、主はこう言われる。ダビデの王座に着いている王と、この都に住んでいるすべての人々と、捕囚としてあなたがたとともに出て行かなかったあなたがたの同胞について、

- 17 万軍の主はこう言われる。『見よ。わたしは彼らの中に剣と飢饉と疫病を送り、彼らを悪く食べられない腐ったいちじくのようにする。』
- 18 わたしは剣と飢饉と疫病で彼らを追い、彼らを地のすべての王国にとっておののきのもととし、わたしが彼らを追い散らした先のすべての国々で、のろいと恐怖のもと、嘲りとそしりの的とする。
- 19 彼らがわたしのことばを聞かなかったからだ―主のことば―。わたしは彼らに、わたしのしもべである預言者たちを早くからたびたび遣わしたのに、あなたがたは聞かなかったのだ―主のことば。』
- 20 私がエルサレムからバビロンへ送ったすべての捕囚の民よ、主のことばを聞け。
- 21 『イスラエルの神、万軍の主は、わたしの名によってあなたがたに偽りを預言している、コラヤの子アハブと、マアセヤの子ゼデキヤについてこう言う。見よ。わたしはこの者たちを、バビロンの王ネブカドネツアルの手に渡す。王は、あなたがたの目の前で二人を打ち殺す。』
- 22 バビロンにいるユダの捕囚の民はみな、彼らのゆえに、次のようなのろいのことばを唱える。主がおまえを、バビロンの王が火で焼いたゼデキヤとアハブのようにされるように。
- 23 それは、二人がイスラエルの中で恥辱となることを行い、隣人の妻たちと姦淫し、わたしが命じもしなかった偽りのことばをわたしの名によって語ったからだ。わたしはそれを知っており、その証人である―主のことば。』」
- 24 「あなたはネヘラム人シェマヤに対して、次のように言わなければならない。
- 25 イスラエルの神、万軍の主は言われる。あなたは、あなたの名によって、エルサレムにいる民全体と、マアセヤの子祭司ゼパニヤ、および、すべての祭司に次のような手紙を送った。
- 26 『主は、祭司エホヤダの代わりに、あなたを祭司とされましたが、それは、あなたを主の宮の監督者に任じて、すべて気がふれて預言をする者に対処し、そういう者に足かせや首かせをはめるためでした。』
- 27 それなのに、なぜ、今あなたは、あなたがたに預言しているアナトテ人エレミヤを責めないのですか。
- 28 というのは、彼はバビロンの私たちのところに使いをよこして、捕囚は長く続くので、家を建てて住み、園を造ってその実を食べよ、と言ったからです。』」
- 29 この手紙を、祭司ゼパニヤは預言者エレミヤに読んで聞かせたのだった。
- 30 そのとき、次のような主のことばがエレミヤにあった。
- 31 「すべての捕囚の民に言い送れ。『主はネヘラム人シェマヤについてこう言われる。わたしはシェマヤを遣わさなかったのに、シェマヤはあなたがたに預言し、あなたがたを偽りに拠り頼ませた。』
- 32 それゆえ―主はこう言われる―見よ。わたしはネヘラム人シェマヤとその子孫を罰する。彼に属する者で、この民の中に住んで、わたしがわたしの民に行おうとしている良いことを見る者は、だれもいない―主のことば―。彼が主への反逆をそそのかしたからである。』」

第30章

- 1 主からエレミヤにあったことばは、次のとおりである。
- 2 イスラエルの神、主はこう言われる。「わたしがあなたに語ったことばをみな、書物に書き記せ。
- 3 見よ、その時代が来る―主のことば―。そのとき、わたしはわたしの民イスラエルとユダを回復させる―主は言われる―。わたしは彼らを、その父祖に与えた地に帰らせる。彼らはそれを所有する。」
- 4 主がイスラエルとユダについて語られたことばは次のとおりである。
- 5 まことに主はこう言われる。「恐れてわななく声を、われわれは聞いた。『恐怖だ。平安がない』と。
- 6 さあ、男に子が産めるか、尋ねてみよ。なぜ、わたしは勇士がみな産婦のように腰に手を当てているのを見るのか。また、どの顔も青ざめているのを。
- 7 わざわいだ。実にその日は大いなる日、比べようもない日。それはヤコブには苦難の時。だが、彼はそこから救われる。
- 8 その日になると一万軍の主のことば―わたしはあなたの首のくびきを砕き、あなたのかせを解く。他国人が再び彼を奴隷にすることはない。
- 9 彼らは彼らの神、主と、わたしが彼らのために立てる 彼らの王ダビデに仕える。
- 10 わたしのしもべヤコブよ、恐れるな。―主のことば― イスラエルよ、おののくな。見よ。わたしが、あなたを遠くから、あなたの子孫を捕囚の地から救うからだ。ヤコブは帰って来て、平穩に安らかに生き、脅かす者はだれもない。
- 11 わたしがあなたとともにいて、―主のことば― あなたを救うからだ。わたしが、あなたを追いやった先の すべての国々を滅ぼし尽くすからだ。しかし、あなたを滅ぼし尽くすことはない。ただし、さばきによってあなたを懲らしめる。決してあなたを罰せずにおくことはない。」
- 12 まことに主はこう言われる。「あなたの傷は癒やされがたく、あなたの打ち傷は痛んでいる。
- 13 あなたの訴えを擁護する者もなく、腫れものに薬を付けて、あなたを癒やす者もない。
- 14 あなたの恋人たちはみな、あなたを忘れ、あなたを尋ねようとしめない。わたしが、敵を打つようにあなたを打ち、容赦なくあなたを懲らしめたからだ。あなたの咎が大きく、あなたの罪が重いために。
- 15 なぜ、あなたは自分の傷のために叫ぶのか。あなたの痛みは癒やされがたい。あなたの咎が大きく、あなたの罪が重いために、わたしはこれらのことを、あなたにしたのだ。
- 16 それゆえ、わたしは言う。あなたを食う者はみな、かえって食われ、あなたの敵はみな、捕らわれの身となって行き、あなたから略奪した者は、略奪され、あなたをかすめ奪った者は、わたしがみな獲物として与える。
- 17 まことに、わたしはあなたの傷を治し、あなたの打ち傷を癒やす。―主のことば― まことに、あなたは『捨てられた女』、『尋ねる者のないシオン』と呼ばれた。

- 18** —主はこう言われる— 見よ。わたしはヤコブの天幕を回復させ、その住まいをあわれむ。都はその丘の上に建て直され、宮殿はその定められている場所に建つ。
- 19** 彼らから、感謝の歌と、喜び笑う声が湧き上がる。わたしは人を増やして、減らすことはない。わたしが尊く扱うので、彼らは小さな者ではなくなる。
- 20** その子たちは昔のようになり、その会衆はわたしの前で堅く立てられる。わたしはこれを圧迫する者をみな罰する。
- 21** その権力者は彼らのうちの一人、その支配者はその中から出る。わたしは彼を近づけ、彼はわたしに近づく。いのちをかけてわたしに近づく者は、いったいだれか。—主のことは—
- 22** あなたがたはわたしの民となり、わたしはあなたがたの神となる。」
- 23** 見よ。主のつむじ風が 憤りとなって出て行く。渦巻く暴風が 悪者の頭上に荒れ狂う。
- 24** 主の燃える怒りは、去ることはない。主が心の思うところを行って、成し遂げるまでは。終わりの日に、あなたがたはそれを悟る。

第31章

- 1 「そのとき—主のことば—わたしはイスラエルのすべての部族の神となり、彼らはわたしの民となる。」
- 2 主はこう言われる。「剣を免れて生き残った民は 荒野で恵みを見出す。イスラエルよ、出て行って休みを得よ。」
- 3 主は遠くから私に現れた。「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに 真実の愛を尽くし続けた。
- 4 おとめイスラエルよ。再びわたしはあなたを建て直し、あなたは建て直される。再びあなたはタンバリンで身を飾り、喜び踊る者たちの輪に入る。
- 5 再びあなたはサマリアの山々に ぶどう畑を作り、植える者たちは植え、その初物を味わう。
- 6 エフライムの山で、見張る者たちが『さあ、シオンに、私たちの神、主のもとに行こう』と 呼びかける日が来るからだ。」
- 7 まことに、主はこう言われる。「ヤコブのために喜び歌え。国々のかしらに向かって叫べ。告げ知らせよ、賛美して言え。『主よ、あなたの民を救ってください。イスラエルの残りの者を。』
- 8 見よ。わたしは彼らを北の国から連れ出し、地の果てから彼らを集める。その中には、目の見えない者も足の萎えた者も、身ごもった女も臨月を迎えた女も、ともにいる。彼らは大集団をなして、ここに帰る。
- 9 彼らは泣きながらやって来る。わたしは彼らを、慰めながら連れ戻る。わたしは彼らを、水の流れのほとりに、つまづくことのない平らな道に導く。まことに、わたしはイスラエルには父であり、エフライムはわたしの長子である。」
- 10 諸国の民よ、主のことばを聞け。遠くの島々に告げ知らせよ。「イスラエルを散らした方がこれを集め、牧者が群れを飼うように、これを守られる」と。
- 11 主はヤコブを贖い、ヤコブより強い者の手から、これを買戻されたからだ。
- 12 彼らは来て、シオンの丘で喜び歌い、主が与える良きものに、穀物、新しいぶどう酒、オリーブ油、羊の子、牛の子に喜び輝く。彼らのたましいは潤った園のようになり、もう再び、しばむことはない。
- 13 そのとき、若い女は踊って楽しみ、若い男も年寄りも、ともに楽しむ。「わたしは彼らの悲しみを喜びに変え、彼らの憂いを慰め、楽しませる。
- 14 祭司のたましいを髓で潤す。わたしの民は、わたしの恵みに満ち足りる。—主のことば。」
- 15 主はこう言われる。「ラマで声が聞こえる。嘆きとむせび泣きが。ラケルが泣いている。その子らのゆえに。慰めを拒んでいる。その子らのゆえに。子らがもういないからだ。」
- 16 主はこう言われる。「あなたの泣く声、あなたの目の涙を止めよ。あなたの労苦には報いがあるからだ。—主のことば— 彼らは敵の地から帰って来る。

- 17 あなたの将来には望みがある。――主のことば――あなたの子らは自分の土地に帰って来る。
- 18 わたしは、エフライムが悲しみ嘆くのを 確かに聞いた。『あなたが私を懲らしめて、私は、くびきに慣れない子牛のように 懲らしめを受けました。私を帰らせてください。そうすれば、帰ります。主よ、あなたは私の神だからです。』
- 19 私は立ち去った後で悔い、悟った後で、ももを打ちました。恥を見て、辱めさえ受けました。若いころの恥辱を 私は負っているのです』と。
- 20 エフライムは、わたしの大切な子、喜びの子なのか。わたしは彼を責めるたびに、ますます彼のことを思い起こすようになる。それゆえ、わたしのはらわたは 彼のためにわななき、わたしは彼をあわれまずにはいられない。――主のことば――
- 21 あなたは自分のために標識を立てて 道しるべを置き、あなたが歩んだ道の大路に心を留めよ。おとめイスラエルよ、帰れ。これらの、あなたの町に帰れ。
- 22 背信の娘よ、いつまで迷い歩くのか。主はこの地に、一つの新しいことを創造される。女の優しさが一人の勇士を包む。」
- 23 イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。「わたしが彼らを元どおりにするとき、彼らは再び次のことばを、ユダの地とその町々で語る。『義の住まい、聖なる山よ、主があなたを祝福されるように。』
- 24 ユダとそのすべての町の者はそこに住み、農夫たちも、群れを連れて回る者たちも一緒に住む。
- 25 わたしが疲れたたましいを潤し、すべてのしぼんだたましいを満ち足らせるからだ。」
- 26 ここで、私は目覚めて、見回した。私の眠りは心地よかった。
- 27 「見よ、その時代が来る――主のことば――。そのとき、わたしはイスラエルの家とユダの家に、人の種と家畜の種を蒔く。
- 28 かつてわたしが、引き抜き、打ち倒し、打ち壊し、滅ぼし、わざわざいを下そうと彼らを見張っていたように、今度は、彼らを建て直し、また植えるために見張る――主のことば――。
- 29 その日には、彼らはもはや、『父が酸いぶどうを食べると、子どもの歯が浮く』とは言わない。
- 30 人はそれぞれ自分の咎のゆえに死ぬ。だれでも、酸いぶどうを食べる者は歯が浮くのだ。
- 31 見よ、その時代が来る――主のことば――。そのとき、わたしはイスラエルの家およびユダの家と、新しい契約を結ぶ。
- 32 その契約は、わたしが彼らの先祖の手を取って、エジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破った――主のことば――。
- 33 これらの日の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうである――主のことば――。わたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き、彼らの心にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。
- 34 彼らはもはや、それぞれ隣人に、あるいはそれぞれ兄弟に、『主を知れ』と言って教えることはない。彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るようになるからだ

—主のことば—。わたしが彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。」

35 主はこう言われる。太陽を与えて昼間の光とし、月と星を定めて夜の光とし、海をかき立てて波を騒がせる方、その名が万軍の主である方が。

36 「もしも、これらの掟がわたしの前から 去ることがあるなら—主のことば— イスラエルの子孫は絶えて、わたしの前にいつまでも 一つの民であることはできない。」

37 主はこう言われる。「もしも、上の天が測られ、下の地の基が探り出されることがあるなら、わたしも、イスラエルのすべての子孫を、彼らの行ったすべてのことのゆえに退ける。—主のことば。」

38 「見よ、その時代が来る—主のことば—。そのとき、この都はハナンエルのやぐらから隅の門まで、主のために建て直される。

39 測り縄は、さらにそれからガレブの丘に伸び、ゴアの方に向かう。

40 死体と灰の谷の全体と、東の方ではキデロンの谷と馬の門の隅までの畑は、みな主の聖なるものとされ、もはやとこしえに、根こそぎにされず、壊されることはない。」

第32章

- 1 ユダの王ゼデキヤの第十年、ネブカドネツアルの第十八年に、主からエレミヤにあったことば。
- 2 そのとき、バビロンの王の軍勢がエルサレムを包囲中であって、預言者エレミヤは、ユダの王の宮殿にある監視の庭に監禁されていた。
- 3 ユダの王ゼデキヤは、エレミヤを監禁するとき、次のように尋ねたのだった。「なぜ、あなたはこのような預言して言うのか。『主はこう言われる。見よ。わたしはこの都をバビロンの王の手に渡す。そして彼はこれを攻め取る。』」
- 4 ユダの王ゼデキヤは、カルデア人の手から逃れることはできない。ゼデキヤは必ずバビロンの王の手に渡され、口と口で彼と語り、目と目で彼を見る。
- 5 彼はゼデキヤをバビロンへ連れて行く。そしてゼデキヤは、わたしが彼を顧みるときまでそこにいる―主のことば―。あなたがたはカルデア人と戦っても、勝つことはできない。』」
- 6 エレミヤは言った。「私に、このような主のことばがあった。
- 7 『見よ。あなたのおじシャルムの子ハナムエルが、あなたのところに来て、「アナトテにある畑を買ってくれ。あなたには買い戻す権利があるのだから」と言う。』
- 8 すると、主のことばのとおり、おじの子ハナムエルが私のところ、監視の庭に来て、私に言った。『どうか、ベニヤミンの地のアナトテにある私の畑を買ってください。あなたには所有権もあり、買い戻す権利もありますから、あなたが買い取ってください。』私は、これが主のことばであると知った。
- 9 そこで私は、おじの子ハナムエルから、アナトテにある畑を買い取り、彼に銀十七シェケルを払った。
- 10 私は証書に署名して封印し、証人を立てて、秤で銀を量った。
- 11 そして、命令と規則にしたがって、封印された購入証書と封印のない証書を取り、
- 12 おじの子ハナムエルと、購入証書に署名した証人たちと、監視の庭に座しているすべてのユダの人々の前で、購入証書をマフセヤの子ネリヤの子バルクに渡し、
- 13 彼らの前でバルクに命じた。
- 14 『イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。これらの証書、すなわち封印されたこの購入証書と、封印のない証書を取って土の器の中に入れ、これを長い間、保存せよ。
- 15 なぜなら―イスラエルの神、万軍の主はこう言われる―再びこの地で、家や、畑や、ぶどう畑が買われるようになるからだ。』
- 16 私は、購入証書をネリヤの子バルクに渡した後、主に祈った。
- 17 『ああ、神、主よ、ご覧ください。あなたはたいなる力と、伸ばされた御腕をもって天と地を造られました。あなたにとって不可能なことは一つもありません。
- 18 あなたは、恵みを千代にまで施し、父たちの咎をその後の子らの懷に報いる方、たいなる力強い神、その名は万軍の主。

- 19 そのご計画は大きく、みわざには力があります。御目は人の子らのすべての行いに開いていて、それぞれにその生き方にしたがって、行いの結ぶ実にしたがって報いをされます。
- 20 あなたはエジプトの地で、また今日までイスラエルと人々の間で、しるしと不思議を行い、ご自分の名を今日のようにされました。
- 21 あなたはまた、しるしと不思議と、力強い御手と伸ばされた御腕と、大いなる恐れをもって、御民イスラエルをエジプトの地から導き出し、
- 22 あなたが彼らの父祖たちに与えると誓ったこの地、乳と蜜の流れる地を彼らに与えられました。
- 23 彼らはそこに行って、それを所有しましたが、あなたの声に聞き従わず、あなたの律法に歩まず、あなたが彼らにせよと命じたことを何一つ行わなかったのです、あなたは彼らを、このすべてのわざわいにあわせられました。
- 24 ご覧ください。この都を攻め取ろうとして、壘が築かれました。この都は、剣と飢饉と疫病のために、攻めているカルデア人の手に渡されようとしています。あなたのお告げになったことは成就しました。ご覧のとおりです。
- 25 神、主よ。この都がカルデア人の手に渡されようとしているのに、あなたは私に、金を払ってあの畑を買い、証人を立てよ、と言われます。』」
- 26 すると次のような主のことばがエレミヤにあった。
- 27 「見よ。わたしはすべての肉なる者の神、主である。わたしにとって不可能なことが一つでもあろうか。
- 28 それゆえ—主はこう言われる—見よ。わたしはこの都を、カルデア人の手と、バビロンの王ネブカドネツアルの手に渡す。彼はこれを攻め取る。
- 29 また、この都を攻めているカルデア人が来て、この都に火をつけて焼く。また、人々が屋上でバアルに犠牲を供え、ほかの神々に注ぎのぶどう酒を注いで、わたしの怒りを引き起こしたその家々にも火をつけて焼く。
- 30 なぜなら、イスラエルの子らとユダの子らは、若いころから、わたしの目に悪であることを行うのみであったからだ。実に、イスラエルの子らは、その手のわざをもってわたしの怒りを引き起こすばかりであった—主のことば—。
- 31 この都は、建てられた日から今日まで、わたしの怒りと憤りを引き起こしてきたので、わたしはこれをわたしの顔の前から取り除く。
- 32 それは、イスラエルの子らとユダの子らが、すなわち、彼ら自身と、その王、首長、祭司、預言者、またユダの人、エルサレムの住民が、わたしの怒りを引き起こすために行った、すべての悪のゆえである。
- 33 彼らはわたしに背を向けて、顔を向けず、わたしがしきりに教えても聞かず、懲らしめを受け入れなかった。
- 34 彼らは、わたしの名がつけられている宮に忌まわしいものを置いて、これを汚し、
- 35 ベン・ヒノムの谷にバアルの高き所を築き、自分の息子、娘たちに火の中を通してモレクに渡した。しかしわたしは、この忌み嫌うべきことを行わせてユダを罪に陥らせようと、命じたことも、心に思い浮かべたこともない。」

- 36 それゆえ今、イスラエルの神、主は、あなたがたが、「剣と飢饉と疫病により、バビロンの王の手に渡される」と言っているこの都について、こう言われる。
- 37 「見よ。わたしは、かつてわたしが怒りと憤りと激怒をもって彼らを散らしたすべての国々から、彼らを集めてこの場所に帰らせ、安らかに住まわせる。
- 38 彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。
- 39 わたしは、彼らと彼らの後の子孫の幸せのために、わたしをいつも恐れるよう、彼らに一つの心と一つの道を与え、
- 40 わたしが彼らから離れず、彼らを幸せにするために、彼らと永遠の契約を結ぶ。わたしは、彼らがわたしから去らないように、わたしへの恐れを彼らの心に与える。
- 41 わたしは彼らをわたしの喜びとし、彼らを幸せにする。わたしは、真実をもって、心と思いを込めて、彼らをこの地に植える。」
- 42 まことに、主はこう言われる。「わたしがこの大きなわざわいのすべてを、この民にもたらしたように、わたしは、今彼らに語っている幸せのすべてを彼らにもたらす。
- 43 あなたがたが、『この地は荒れ果てて、人も家畜もいなくなり、カルデア人の手に渡される』と言っているこの地で、再び畑が買われる。
- 44 ベニヤミンの地でも、エルサレムの近郊でも、ユダの町々でも、山地の町々でも、シェフェラの町々でも、ネゲブの町々でも、人々は金で畑を買い、証書に署名して封印し、証人を立てるようになる。わたしが彼らを元どおりにするからである—主のことば。」

第33章

- 1 エレミヤがまだ監視の庭に閉じ込められていたとき、再びエレミヤに次のような主のことばがあった。
- 2 「地を造った主、それを形造って堅く立てた主、その名が主である方が言われる。
- 3 『わたしを呼べ。そうすれば、わたしはあなたに答え、あなたが知らない理解を超えた大いなることを、あなたに告げよう。』
- 4 まことに、イスラエルの神である主は、敵の罅や剣に対抗するために取り壊された、この都の家々と、ユダの王たちの家々について、こう言われる。
- 5 『彼らはカルデア人と戦おうとして出て行くが、わたしの怒りと憤りによって打ち殺された屍をその家々に満たす。それは、彼らのすべての悪のゆえに、わたしがこの都から顔を隠したからだ。
- 6 見よ。わたしはこの都に回復と癒やしを与え、彼らを癒やす。そして彼らに平安と真実を豊かに示す。
- 7 わたしはユダとイスラエルを回復させ、以前のように彼らを建て直す。
- 8 わたしは、彼らがわたしに犯したすべての咎から彼らをきよめ、彼らがわたしに犯し、わたしに背いたすべての咎を赦す。
- 9 この都は、地のすべての国々の間で、わたしにとって喜びの名となり、榮譽となり、栄えとなる。彼らは、わたしがこの民に与えるすべての祝福のことを聞き、わたしがこの都に与えるすべての祝福と平安のゆえに恐れ、震えることになる。』」
- 10 主はこう言われる。「あなたがたが、人も家畜もいない廃墟と言うこの場所で、人も住民も家畜もいない、荒れすたれたユダの町々とエルサレムの通りで、
- 11 楽しみの声と喜びの声、花婿の声と花嫁の声、主の宮に感謝のいけにえを携えて来る人たちの声が、再び聞かれるようになる。彼らは言う。『万軍の主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで』と。わたしがこの地を回復させ、以前のようにするからだ—主は言われる。」
- 12 万軍の主はこう言われる。「人も家畜もいない廃墟であるこの場所と、そのすべての町に、群れを伏させる羊飼いたちの住まいが再びできる。
- 13 山地の町々でも、シェフェラの町々、ネゲブの町々、ベニヤミンの地、エルサレムの近郊、ユダの町々でも、群れが再び、数を数える者の手の下を通り過ぎる—主は言われる。」
- 14 「見よ、その時代が来る—主のことば—。そのとき、わたしはイスラエルの家とユダの家に語ったいつくしみの約束を果たす。
- 15 その日、その時、わたしはダビデのために義の若枝を芽生えさせる。彼はこの地に公正と義を行う。
- 16 その日、ユダは救われ、エルサレムは安らかに住み、こうしてこの都は『主は私たちの義』と名づけられる。」

- 17 まことに主はこう言われる。「ダビデには、イスラエルの家の王座に就く者が断たれることはない。
- 18 また、レビ人の祭司たちには、わたしの前で全焼のささげ物を献げ、穀物のささげ物を焼いて煙にし、いけにえを献げる者が、いつまでも絶えることはない。」
- 19 エレミヤに次のような主のことばがあった。
- 20 主はこう言われる。「もしもあなたがたが、昼と結んだわたしの契約と、夜と結んだわたしの契約を破ることができ、昼と夜が、定まった時に来ないようにすることができるのであれば、
- 21 わたしのしもべダビデと結んだわたしの契約も破られ、ダビデにはその王座に就く子がいなくなり、わたしに仕えるレビ人の祭司たちと結んだわたしの契約も破られる。
- 22 天の万象は数えきれず、海の砂は量れない。そのようにわたしは、わたしのしもべダビデの子孫と、わたしに仕えるレビ人を増やす。」
- 23 エレミヤに次のような主のことばがあった。
- 24 「あなたはこの民が、『主は自分で選んだ二つの部族を退けた』と話しているのを知らないのか。彼らはわたしの民を侮っている。『自分たちの目には、もはや一つの国民ではないのだ』と。」
- 25 主はこう言われる。「もしも、わたしが昼と夜と契約を結ばず、天と地の諸法則をわたしが定めなかったのであれば、
- 26 わたしは、ヤコブの子孫とわたしのしもべダビデの子孫を退け、その子孫の中から、アブラハム、イサク、ヤコブの子孫を治める者を選ぶということはない。しかし、わたしは彼らを回復させ、彼らをあわれむ。」

第34章

- 1 バビロンの王ネブカドネツアルとその全軍勢、および彼の支配下にある地のすべての王国とすべての民族が、エルサレムとそのすべての町を攻めていたとき、主からエレミヤに次のようなことばがあった。
- 2 「イスラエルの神、主はこう言う。行って、ユダの王ゼデキヤに告げよ。『主はこう言われる。見よ、わたしはこの都をバビロンの王の手に渡す。彼はこれを火で焼く。』」
- 3 あなたはその手から逃れることができない。あなたは必ず捕らえられて、彼の手に渡されるからだ。あなたの目はバビロンの王の目を見、彼の口はあなたの口と語り、あなたはバビロンへ行く。
- 4 ただ、主のことばを聞け、ユダの王ゼデキヤよ。主はあなたについてこう言われる。あなたは剣で死ぬことはない。
- 5 あなたは平安のうちに死ぬ。人々は、あなたの先祖たち、あなたの先にいた王たちのために埋葬の香をたいたように、あなたのためにも香をたき、ああ主君よ、と言ってあなたを悼む。このことを語るのはわたしだ—主のことば。』」
- 6 そこで預言者エレミヤは、ユダの王ゼデキヤに、エルサレムでこれらすべてのことばを語った。
- 7 そのとき、バビロンの王の軍勢は、エルサレムとユダの残されたすべての町、ラキシュとアゼカを攻めていた。これらが、ユダの町々で城壁のある町として残っていたからである。
- 8 ゼデキヤ王がエルサレムにいる民全体と契約を結んで、彼らに奴隷の解放を宣言した後、主からエレミヤにあったことば。
- 9 その契約は、各自が、ヘブル人である自分の奴隷や女奴隷を自由の身にし、同胞のユダヤ人を奴隷にしないというものであった。
- 10 契約に加わったすべての首長と民は、各自、自分の奴隷や女奴隷を自由の身にして、二度と彼らを奴隷にしないことに同意し、同意してから奴隷を去らせた。
- 11 しかしその後で、彼らは心を翻した。そして、いったん自由の身にした奴隷や女奴隷を連れ戻し、強制的に彼らを奴隷や女奴隷の身分に服させた。
- 12 すると、主からエレミヤに次のような主のことばがあった。
- 13 「イスラエルの神、主はこう言われる。『わたしが、あなたがたの先祖をエジプトの地、奴隷の家から導き出した日に、わたしは彼らと契約を結んで言った。』」
- 14 「七年の終わりには、各自、自分のところに売られて来た同胞のヘブル人を去らせなければならない。六年の間あなたに仕えさせ、その後あなたは彼を自由の身にせよ」と。しかし、あなたがたの先祖は、わたしに聞かず、耳を傾けもしなかった。
- 15 ところが、あなたがたは今日、立ち返って、各自が隣人の解放を告げてわたしの目にかなうことを行い、わたしの名がつけられているこの家で、わたしの前に契約を結んだ。
- 16 それなのに、あなたがたは心を翻して、わたしの名を汚した。あなたがたは、それぞれ、いったん彼らの望むとおりに自由の身にした奴隷や女奴隷を連れ戻し、強制的に彼らをあ

あなたがたの奴隷や女奴隷の身分に服させた。』

- 17** それゆえ、主はこう言われる。『あなたがたはわたしに聞き従わず、各自、自分の同胞や隣人に解放を告げなかったので、見よ、わたしはあなたがたに—主のことば—剣と疫病と飢饉の解放を宣言する。わたしは、あなたがたを地のすべての王国にとって、おののきのもとにする。
- 18** また、わたしの前で結んだ契約のことばを守らず、わたしの契約を破った者たちを、彼らが二つに断ち切ってその二つの間を通った、あの子牛のようにする。
- 19** ユダの首長たち、エルサレムの首長たち、宦官と祭司と民衆すべてが、二つに分けた子牛の間を通った者たちである。
- 20** わたしは彼らを、敵の手、いのちを狙う者たちの手に渡す。その屍は空の鳥や地の獣の餌食となる。
- 21** また、わたしはユダの王ゼデキヤとその高官たちを、敵の手、いのちを狙う者たちの手、あなたがたのところから引き揚げたバビロンの王の軍勢の手に渡す。
- 22** 見よ。わたしは命じて—主のことば—彼らをこの都に引き返させる。彼らはこの都を攻め取り、火で焼く。わたしはユダの町々を、住む者もない荒れ果てた地とする。』」

第35章

- 1 ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの時代に、主からエレミヤに次のようなことばがあった。
- 2 「レカブ人の家に行って彼らに語り、主の宮の一室に連れて来て、彼らに酒を飲ませよ。」
- 3 そこで私は、ハバツインヤの子エレミヤの子であるヤアザンヤと、その兄弟とすべての息子たち、レカブ人の全家を率いて、
- 4 主の宮にある、イグダルヤの子、神の人ハナンの子らの部屋に連れて来た。それは首長たちの部屋の隣にあり、入り口を守る者、シャルムの子マアセヤの部屋の上であった。
- 5 私は、レカブ人の家の子らの前に、ぶどう酒を満たした壺と杯を出して、「酒を飲みなさい」と言った。
- 6 すると彼らは言った。「私たちはぶどう酒を飲みません。というのは、私たちの先祖レカブの子ヨナダブが私たちに命じて、『あなたがたも、あなたがたの子らも、永久にぶどう酒を飲んでではない。
- 7 あなたがたは家を建てたり、種を蒔いたり、ぶどう畑を作ったり、また所有したりしてはならない。あなたがたが寄留している地の面に末長く生きるために、一生、天幕に住め』と行ったからです。
- 8 私たちは、私たちの先祖レカブの子ヨナダブが私たちに命じたすべての命令に聞き従ってきました。私たちも、妻も、息子、娘たちも、一生ぶどう酒を飲まず、
- 9 住む家も建てず、ぶどう畑も、畑も、種も持たず、
- 10 天幕に住んできました。私たちは、すべて先祖ヨナダブが私たちに命じたとおりに、従い行ってきました。
- 11 しかし、バビロンの王ネブカドネツアルがこの地に攻め上ったとき、私たちは『さあ、カルデアの軍勢とアラムの軍勢を避けてエルサレムに行こう』と言って、エルサレムに住んだのです。」
- 12 すると、エレミヤに次のような主のことばがあった。
- 13 「イスラエルの神、万軍の主はこう言う。行って、ユダの人とエルサレムの住民に言え。『あなたがたは訓戒を受け入れて、わたしのことばに聞き従おうとしないのか—主のことば—。
- 14 レカブの子ヨナダブが、酒を飲むなと子らに命じた命令は守られた。彼らは先祖の命令に聞き従ったので、今日まで飲んでいない。ところが、わたしがあなたがたにたびたび語っても、あなたがたはわたしに聞き従わなかった。
- 15 わたしはあなたがたに、わたしのしもべであるすべての預言者たちを早くからたびたび遣わして、さあ、それぞれ悪の道から立ち返り、行いを改めよ、ほかの神々を慕ってそれに仕えてはならない、わたしがあなたがたと先祖たちに与えた土地に住め、と行った。それなのに、あなたがたは耳を傾けず、わたしに聞かなかった。

- 16 実に、レカブの子ヨナダブの子らは、先祖が命じた命令を守ってきたが、この民はわたしに聞かなかった。
- 17 それゆえ—イスラエルの神、万軍の神、主はこう言われる—見よ。わたしはユダと、エルサレムの全住民に、わたしが彼らについて語ったすべてのわざわいを下す。わたしが彼らに語ったのに、彼らは聞かず、わたしが彼らに呼びかけたのに、彼らは答えなかったからだ。』』
- 18 エレミヤはレカブ人の家の者に言った。「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。
『あなたがたは、先祖ヨナダブの命令に聞き従い、そのすべての命令を守り、すべて彼があなたがたに命じたとおりに行った。』
- 19 それゆえ—イスラエルの神、万軍の主はこう言われる—レカブの子ヨナダブには、わたしの前に立つ人がいつまでも絶えることはない。』』

第36章

- 1 ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの第四年に、主からエレミヤに次のようなことばがあった。
- 2 「あなたは巻物を取り、わたしがあなたに語った日、すなわちヨシヤの時代から今日まで、わたしがイスラエルとユダとすべての国々について、あなたに語ったことばをみな、それに書き記せ。
- 3 ユダの家は、わたしが彼らに下そうと思っているすべてのわざわいを聞いて、それぞれ悪の道から立ち返るかもしれない。そうすれば、わたしも、彼らの咎と罪を赦すことができる。」
- 4 それでエレミヤは、ネリヤの子バルクを呼んだ。バルクはエレミヤの口述にしたがって、彼に語られた主のことばを、ことごとく巻物に書き記した。
- 5 エレミヤはバルクに命じた。「私は閉じ込められていて、主の宮に行けない。
- 6 だから、あなたが行って、あなたが私の口述によって巻物に書き記した主のことばを、断食の日に主の宮で民の耳に読み聞かせよ。また、町々から来るユダ全体の耳にもそれを読み聞かせよ。
- 7 そうすれば、主の前で彼らの嘆願が受け入れられ、それぞれ悪の道から立ち返るかもしれない。主がこの民に語られた怒りと憤りは大きいからだ。」
- 8 そこでネリヤの子バルクは、すべて預言者エレミヤが命じたとおりに、主の宮で主のことばの書物を読んだ。
- 9 ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの第五年、第九の月、エルサレムのすべての民と、ユダの町々からエルサレムに来ているすべての民に、主の前での断食が布告された。
- 10 そのときバルクは、主の宮で民全体に聞こえるように、その書物からエレミヤのことばを読んだ。そこは、主の宮の、新しい門の入り口付近の上庭にあった、書記シャファンの子ゲマルヤの部屋であった。
- 11 シャファンの子ゲマルヤの子ミカヤは、その書物にあるすべての主のことばを聞き、
- 12 王宮にある書記の部屋に下ったが、見よ、そこには、すべての首長たちが座っていた。すなわち書記エリシャマ、シェマヤの子デラヤ、アクボルの子エルナタン、シャファンの子ゲマルヤ、ハナンヤの子ゼデキヤ、およびすべての首長たちである。
- 13 ミカヤは、バルクがあの手で民に読んで聞かせたときに聞いた、すべてのことばを彼らに告げた。
- 14 すべての首長たちは、クシの子シェレムヤの子ネタンヤの子ユディをバルクのもとに遣わして言った。「あなたが民に読んで聞かせたあの巻物、あれを手にとって来なさい。」そこで、ネリヤの子バルクは、巻物を手にとって彼らのところに入って来た。
- 15 彼らはバルクに言った。「さあ、座って、私たちにそれを読んで聞かせてくれ。」そこで、バルクは彼らに読んで聞かせた。
- 16 そのすべてのことばを聞いたとき、彼らはみな互いに恐れおののき、バルクに言った。「私たちは、これらのことばをすべて、必ず王に告げなければならない。」

- 17 彼らはバルクに尋ねて言った。「さあ、あなたがこれらのことばをすべて、どのようにして書き留めたのか、私たちに教えてくれ。エレミヤが口述したことばを。」
- 18 バルクは彼らに言った。「エレミヤがこれらのことばをすべて私に口述し、私は墨でこの書物に記しました。」
- 19 すると首長たちはバルクに言った。「行って、あなたもエレミヤも身を隠しなさい。あなたがたがどこにいるか、だれにも知られないようにしなさい。」
- 20 彼らは巻物を書記エリシャマの部屋に置き、王宮の庭にいる王のところに行って、このすべてのことを報告した。
- 21 王はユディに、その巻物を取りに行かせたので、彼はそれを書記エリシャマの部屋から取って来た。ユディはそれを、王と王の傍らに立つすべての首長たちに読んで聞かせた。
- 22 第九の月であったので、王は冬の家の座に着いていた。彼の前には暖炉の火が燃えていた。
- 23 ユディが三、四段を読むごとに、王は書記の小刀でそれを裂いては暖炉の火に投げ入れ、ついに、巻物をすべて暖炉の火で焼き尽くした。
- 24 これらすべてのことばを聞いた王も、彼のすべての家来たちも、だれ一人恐れおののくことはなく、衣を引き裂くこともしなかった。
- 25 エルナタンとデラヤとゲマルヤが、巻物を焼かないようにと王に懇願しても、王は聞き入れなかった。
- 26 王は、王子エラフメエルと、アズリエルの子セラヤと、アブデエルの子シェレムヤに、書記バルクと預言者エレミヤを捕らえるように命じた。しかし、主は二人を隠された。
- 27 王が、あの巻物、バルクがエレミヤの口述で書き記したことばを焼いた後、エレミヤに次のような主のことばがあった。
- 28 「あなたは再びもう一つの巻物を取り、ユダの王エホヤキムが焼いた最初の巻物にあった最初のことばを、残らずそれに書き記せ。
- 29 ユダの王エホヤキムについてはこう言え。主はこう言われる。あなたはこの巻物を焼いて言った。『あなたはなぜ、バビロンの王は必ず来てこの地を滅ぼし、ここから人も家畜も絶えさせる、と書いたのか』と。
- 30 それゆえ、主はユダの王エホヤキムについてこう言われる。エホヤキムには、ダビデの王座に就く者がいなくなり、彼の屍は捨てられて、昼は暑さに、夜は寒さにさらされる。
- 31 わたしは、彼とその子孫、その家来たちを、彼らの咎のゆえに罰し、彼らとエルサレムの住民とユダの人々に対して、わたしが告げたが彼らが聞かなかった、あのすべてのわざわいをもたらす。」
- 32 エレミヤは、もう一つの巻物を取り、それをネリヤの子、書記バルクに与えた。彼はエレミヤの口述により、ユダの王エホヤキムが火で焼いたあの書物のことばを残らず書き記した。さらに同じような多くのことばもそれに書き加えた。

第37章

- 1 ヨシヤの子ゼデキヤは、エホヤキムの子エコンヤに代わって王となった。バビロンの王ネブカドネツアルが彼をユダの地の王にしたのである。
- 2 彼も、その家来たちも、民衆も、預言者エレミヤによって語られた主のことばに聞き従わなかった。
- 3 ゼデキヤ王は、シェレムヤの子ユカルと、マアセヤの子、祭司ゼパニヤを預言者エレミヤのもとに遣わして言った。「どうか、私たちのために、私たちの神、主に祈ってください。」
- 4 エレミヤは民のうちに出入りしていて、まだ獄屋に入れられてはいなかった。
- 5 また、ちょうど、ファラオの軍勢がエジプトから出て来たので、エルサレムを包囲中のカルデア人は、そのうわさを聞いて、エルサレムから引き揚げたときであった。
- 6 そのとき、預言者エレミヤに次のような主のことばがあった。
- 7 「イスラエルの神、主はこう言われる。わたしに尋ねるために、あなたがたをわたしのものと遣わしたユダの王にこう言え。『見よ。あなたがたを助けに出て来たファラオの軍勢は、彼らの地エジプトへ帰り、
- 8 カルデア人が引き返して来て、この都を攻め取り、これを火で焼く。
- 9 主はこう言われる。あなたがたは、カルデア人は必ず私たちのところから去る、と言って、自らを欺くな。彼らが去ることはないからだ。
- 10 たとえ、あなたがたが、あなたがたを攻めるカルデアの全軍勢を討ち、そのうちに重傷を負った兵士たちだけが残ったとしても、彼らはそれぞれ、その天幕で立ち上がり、この都を火で焼くようになる。』」
- 11 カルデアの軍勢がファラオの軍勢のゆえにエルサレムから引き揚げたとき、
- 12 エレミヤは、エルサレムから出て行き、ベニヤミンの地に行った。民の間で割り当ての地を受け取るためであった。
- 13 彼がベニヤミンの門に来たとき、そこにハナンヤの子シェレムヤの子の、イルイヤという名の当直の者がいて、「あなたはカルデア人のところへ落ちのびるのか」と言い、預言者エレミヤを捕らえた。
- 14 エレミヤは、「違う。私はカルデア人のところに落ちのびるのではない」と言ったが、イルイヤは聞かず、エレミヤを捕らえて、首長たちのところに連れて行った。
- 15 首長たちはエレミヤに向かって激しく怒り、彼を打ちたたき、こうして書記ヨナタンの家の牢屋に入れた。そこが獄屋になっていたからである。
- 16 エレミヤは丸天井の地下牢に入れられ、長い間そこにいた。
- 17 ゼデキヤ王は人を遣わして、彼を召し寄せた。王は自分の家で彼にひそかに尋ねて言った。「主から、おことばはあったか。」エレミヤは「ありました」と言った。そして「あなたはバビロンの王の手に渡されます」と言った。
- 18 エレミヤはゼデキヤ王に言った。「あなたや、あなたの家来たちや、この民に対して、私にどんな罪があったというので、私を獄屋に入れたのですか。」

- 19** あなたがたに対して『バビロンの王は、あなたがたとこの地を攻めに来ない』と言って預言していた、あなたがたの預言者たちは、どこにいますか。
- 20** 今、わが主君、王よ、どうか聞いてください。どうか、私の願いを御前に受け入れ、私を書記ヨナタンの家へ帰らせないでください。私がそこで死ぬことがないようにしてください。」
- 21** ゼデキヤ王は命じて、エレミヤを監視の庭に入れさせ、都からすべてのパンが絶えるまで、パン屋街から毎日パン一つを彼に与えさせた。こうして、エレミヤは監視の庭にとどまっていた。

第38章

- 1 さて、マタンの子シェファテヤと、パシュフルの子ゲダルヤと、シェレムヤの子ユカルと、マルキヤの子パシュフルは、エレミヤが民全体に次のように語ることばを聞いた。
- 2 「主はこう言われる。『この都にとどまる者は、剣と飢饉と疫病で死ぬが、カルデア人のところに出て行く者は生きる。そのいのちは戦勝品として彼のものになり、彼は生きる。』」
- 3 主はこう言われる。『この都は、必ず、バビロンの王の軍勢の手に渡される。彼はこれを攻め取る。』」
- 4 そこで、首長たちは王に言った。「どうか、あの男を死刑にしてください。彼はこのように、こんなことばを皆に語り、この都に残っている戦士や民全体の士気をくじいているからです。実にあの男は、この民のために、平安ではなくわざわいを求めているのです。」
- 5 するとゼデキヤ王は言った。「見よ、彼はあなたがたの手の中にある。王は、あなたがたに逆らっては何もできない。」
- 6 そこで彼らはエレミヤを捕らえ、監視の庭にある王子マルキヤの穴に投げ込んだ。彼らはエレミヤを綱で降ろしたが、穴の中には水がなく、あるのは泥だったので、エレミヤは泥の中に沈んだ。
- 7 王宮にいたクシュ人の宦官エベデ・メレクは、エレミヤが穴に入れられたことを聞いた。また、そのとき王はベニヤミンの門のところに座っていたので、
- 8 エベデ・メレクは王宮から出て行き、王に告げた。
- 9 「わが主君、王よ。あの人たちが預言者エレミヤにしたことは、みな悪いことばかりです。彼らはあの人を穴に投げ込みました。もう都にパンはありませんので、あの人はそので飢え死にするでしょう。」
- 10 すると王は、クシュ人エベデ・メレクに命じた。「あなたはここから三十人を連れて行き、預言者エレミヤを、まだ死なないうちに、その穴から引き上げなさい。」
- 11 エベデ・メレクは人々を率いて、王宮の宝物倉の下に行き、そこから着古した衣服やぼろ切れを取り、それらを綱で穴の中のエレミヤのところに降ろした。
- 12 クシュ人エベデ・メレクはエレミヤに、「さあ、古着やぼろ切れをあなたの脇の下の綱に当てなさい」と言ったので、エレミヤがそのとおりにすると、
- 13 彼らはエレミヤを綱で穴から引き上げた。こうして、エレミヤは監視の庭にとどまった。
- 14 ゼデキヤ王は人を送って、預言者エレミヤを自分のところ、主の宮の第三の入り口に召し寄せた。王がエレミヤに、「私はあなたに一言尋ねる。私に何も隠してはならない」と言うと、
- 15 エレミヤはゼデキヤに言った。「もし私があなたに告げれば、あなたは必ず私を殺すのではありませんか。私があなたに忠告しても、あなたは私の言うことを聞かないでしょう。」
- 16 そこでゼデキヤ王は、ひそかにエレミヤに誓った。「私たちの、このいのちを造られた主は生きておられる。私は決してあなたを殺さない。また、あなたのいのちを狙うあの者た

ちの手に、あなたを渡すことも絶対にしない。」

- 17** すると、エレミヤはゼデキヤに言った。「イスラエルの神、万軍の神、主はこう言われる。『もし、あなたがバビロンの王の首長たちに降伏するなら、あなたのたましいは生きながらえ、この都も火で焼かれず、あなたもあなたの家も生きながらえる。』」
- 18** あなたがバビロンの王の首長たちに降伏しないなら、この都はカルデア人の手に渡され、火で焼かれ、あなた自身も彼らの手から逃れることができない。』」
- 19** しかし、ゼデキヤ王はエレミヤに言った。「私は、カルデア人に投降したユダヤ人たちのことを恐れている。カルデア人が私を彼らの手に渡し、彼らが私をなぶりものにしているのではないか、と。」
- 20** エレミヤは言った。「カルデア人はあなたを渡しません。どうか、主の御声に、私があなたに語っていることに聞き従ってください。そうすれば、あなたは幸せになり、あなたのたましいは生きながらえます。」
- 21** しかし、もしあなたが降伏するのを拒むなら、これが、主が私に示されたことばです。
- 22** 『見よ。ユダの王の家に残された女たちはみな、バビロンの王の首長たちのところに引き出される。聞け。彼女たちは言う。あなたの親しい友たちが、あなたをそそのかして、押し切った。あなたの足が泥に沈むと、彼らは背を向けた。』」
- 23** あなたの妻たちや子どもたちはみな、カルデア人のところに引き出され、あなた自身も彼らの手から逃れることができずに、バビロンの王の手に捕らえられ、この都も火で焼かれる。』」
- 24** ゼデキヤはエレミヤに言った。「だれにも、これらのことを知らせてはならない。そうすれば、あなたは死なない。」
- 25** もし、あの首長たちが、私があなたと話したことを聞いてあなたのところに来て、『さあ、何を王と話したのか、教えろ。隠すな。あなたを殺しはしない。王はあなたに何を話したのか』と言っても、
- 26** あなたは彼らに、『王がヨナタンの家に私を返し、そこで私が死ぬことのないようにと、王の前に嘆願をしていた』と言いなさい。」
- 27** 首長たちがみなエレミヤのところに来て、彼に尋ねたとき、彼は、王が命じたことばのとおり、彼らに告げたので、彼らは彼と話すのをやめた。あのことは、だれにも聞かれていなかったのである。
- 28** エレミヤは、エルサレムが攻め取られる日まで、監視の庭にとどまっていた。エルサレムが攻め取られた次第は次のとおりである。

第39章

- 1 ユダの王ゼデキヤの第九年、第十の月に、バビロンの王ネブカドネツアルは、その全軍勢を率いてエルサレムに攻めて来て、これを包囲した。
- 2 ゼデキヤの第十一年、第四の月の九日に、都は破られ、
- 3 バビロンの王のすべての首長たちが入って来て、中央の門のところに座を占めた。すなわち、ネルガル・サル・エツェル、サムガル・ネブ、ラブ・サリスのサル・セキム、ラブ・マグのネルガル・サル・エツェル、およびバビロンの王の首長の残り全員である。
- 4 ユダの王ゼデキヤとすべての戦士は、彼らを見ると逃げ、夜の間に、王の園の道伝いにある、二重の城壁の間の門を通して都を出て、アラバへの道に出た。
- 5 カルデアの軍勢は彼らの後を追ひ、エリコの草原でゼデキヤに追いつき、彼を捕らえ、ハマテの地のリブラにいるバビロンの王ネブカドネツアルのもとに連れ上った。バビロンの王は彼に宣告を下した。
- 6 バビロンの王はリブラで、ゼデキヤの息子たちを彼の目の前で虐殺し、ユダのおもだった人たちもみな虐殺した。
- 7 さらに、バビロンの王はゼデキヤの目をつぶし、バビロンに連れて行くため、彼に青銅の足かせをはめた。
- 8 カルデア人は、王宮も民の家も火で焼き、エルサレムの城壁を打ち壊した。
- 9 親衛隊の長ネブザルアダン、都に残されていた残りの民と、王に降伏した投降者たちと、そのほかの残されていた民を、バビロンへ捕らえ移した。
- 10 しかし、親衛隊の長ネブザルアダンは、何も持たない貧しい民の一部をユダの地に残し、同時に彼らにぶどう畑と畑地を与えた。
- 11 バビロンの王ネブカドネツアルは、エレミヤについて、親衛隊の長ネブザルアダンを通して次のように命じた。
- 12 「彼を連れ出し、目をかけてやれ。何も悪いことをするな。ただ彼があなたに語るとおり、彼を扱え。」
- 13 こうして、親衛隊の長ネブザルアダンと、ラブ・サリスのネブシャズバンと、ラブ・マグのネルガル・サル・エツェルと、バビロンの王のすべての高官たちは、
- 14 人を遣わして、エレミヤを監視の庭から連れ出し、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤに渡して、家に連れて行かせた。こうして彼は民の間に住んだ。
- 15 エレミヤが監視の庭に閉じ込められているとき、エレミヤに次のような主のことばがあった。
- 16 「行って、クシュ人エベデ・メレクに言え。『イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。見よ、わたしはこの都にわたしのことばを実現させる。幸いのためではなく、わざわいのためだ。それらはその日、あなたの前で起こる。』」
- 17 しかしその日、わたしはあなたを救い出す—主のことば—。あなたは、あなたが恐れている者たちの手に渡されることはない。

- 18 わたしは必ずあなたを助け出す。あなたは剣に倒れず、あなたのいのちは戦勝品としてあなたのものになる。あなたがわたしに信頼したからだ――主のことば。』」

第40章

- 1 主からエレミヤにあったことば。バビロンへ引いて行かれるエルサレムとユダの捕囚の民の間で鎖につながれていたエレミヤを、親衛隊の長ネブザルアダンがラマから釈放した後のことである。
- 2 親衛隊の長はエレミヤを連れ出して、彼に言った。「あなたの神、主は、この場所にこのわざわいを下すと語られた。
- 3 そして主はこれを下し、語ったとおりに行われた。あなたがたが主の前に罪ある者となり、その御声に聞き従わなかったので、このことがあなたがたに下ったのだ。
- 4 そこで今、見よ、私は今日、あなたの手にある鎖を解いて、あなたを釈放する。もし私とともにバビロンへ行くのがよいと思うなら、行きなさい。私があなたの世話をしよう。しかし、もし私と一緒にバビロンへ行くのが気に入らないなら、やめなさい。見なさい。全地はあなたの前に広がっている。あなたが行ってよいと思う、気に入ったところへ行きなさい。」
- 5 しかしエレミヤがまだ帰ろうとしないので、「では、バビロンの王がユダの町々を委ねた、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤのところへ帰り、彼とともに民のうちに住みなさい。でなければ、あなたが行くのによいと思うところへ、どこへでも行きなさい。」こうして親衛隊の長は、食糧と品物を与えて、彼を去らせた。
- 6 そこでエレミヤは、ミツパにいるアヒカムの子ゲダルヤのところに行って、彼とともに、その地に残された民の間に住んだ。
- 7 野にいた軍の高官たちとその部下たちはみな、バビロンの王がアヒカムの子ゲダルヤをその地の総督にして、バビロンに捕らえ移されなかった男、女、子どもたち、その地の貧しい民たちを彼に委ねたことを聞いた。
- 8 そして彼らはミツパにいるゲダルヤのもとに来た。ネタンヤの子イシュマエル、カレアハの子ヨハナンとヨナタン、タンフメテの子セラヤ、ネトファ人エファイの子ら、マアカ人の子エザンヤ、そして彼らの部下たちであった。
- 9 シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤは、彼らとその部下たちに誓った。「カルデア人に仕えることを恐れてはならない。この地に住んで、バビロンの王に仕えなさい。そうすれば、あなたがたは幸せになる。
- 10 この私は、見よ、ミツパに住んで、私たちのところに来るカルデア人の前に立とう。あなたがたは、ぶどう酒、夏の果物、油を収穫して器に納め、自分たちが手に入れた町々に住むがよい。」
- 11 モアブや、アンモン人のところや、エドムや、あらゆる地方にいたユダヤ人もみな、バビロンの王がユダに人を残したこと、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤを彼らの総督に任命したことを聞いた。
- 12 そこで、ユダヤ人はみな、散らされていたすべての場所からユダの地に帰って来て、ミツパのゲダルヤのもとに行き、非常に多くのぶどう酒と夏の果物を収穫した。
- 13 さて、野にいたカレアハの子ヨハナンと、軍のすべての高官たちは、ミツパのゲダルヤのもとに来て、

- 14** 彼に言った。「あなたは、アンモン人の王バアリスがネタンヤの子イシュマエルを送って、あなたを打ち殺そうとしているのをご存じですか。」しかし、アヒカムの子ゲダルヤは、彼らの言うことを信じなかった。
- 15** カレアハの子ヨハナンは、ミツパでひそかにゲダルヤに話して言った。「では、私が行って、ネタンヤの子イシュマエルを、だれにも分からないように打ち殺しましょう。どうして、彼があなたを打ち殺し、あなたのもとに集められた全ユダヤ人が散らされ、ユダの残りの者が滅びてよいのでしょうか。」
- 16** しかし、アヒカムの子ゲダルヤは、カレアハの子ヨハナンに言った。「そんなことをしてはならない。あなたこそ、イシュマエルについて偽りを語っているからだ。」

第41章

- 1 ところが第七の月に、王族の一人、エリシャマの子ネタンヤの子イシュマエルは、王の高官と十人の部下とともに、ミツパにいるアヒカムの子ゲダルヤのもとに来て、ミツパで食事をともにした。
- 2 ネタンヤの子イシュマエルと、彼とともにいた十人の部下は立ち上がって、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤを剣で打ち殺した。イシュマエルは、バビロンの王がこの地の総督にした者を殺した。
- 3 ミツパでゲダルヤと一緒にいたすべてのユダの人たちと、そこに居合わせたカルデア人の戦士たちを、イシュマエルは打ち殺した。
- 4 ゲダルヤが殺された次の日、まだ、だれもそれを知らなかったとき、
- 5 シェケム、シロ、サマリアから八十人の者がやって来た。彼らはみな、ひげを剃り、衣を引き裂き、身に傷をつけ、穀物のささげ物や乳香を手にして、主の宮に持って行こうとしていた。
- 6 ネタンヤの子イシュマエルは、彼らを迎えにミツパを出て、泣きながら歩いて行った。そして、彼らに出会ったとき、「アヒカムの子ゲダルヤのところにおいでください」と言った。
- 7 彼らが町の中に入ったとき、ネタンヤの子イシュマエルと、彼とともにいた部下たちは、彼らを殺して穴の中に投げ入れた。
- 8 彼らのうちの十人がイシュマエルに、「私たちを殺さないでください。私たちには、小麦、大麦、油、蜜など、畑に隠されたものがありますから」と言ったので、彼は、彼らをその仲間とともに殺すのをやめた。
- 9 イシュマエルが、ゲダルヤの指揮下にあった人々を打ち殺し、その死体すべてを投げ入れた穴は、アサ王がイスラエルの王バアシャに備えて作ったものであった。ネタンヤの子イシュマエルはそれを、殺された者で満たした。
- 10 イシュマエルは、ミツパにいた民の残りの者たち、すなわち王の娘たち、および親衛隊長ネブザルアダンがアヒカムの子ゲダルヤに委ねた、ミツパに残っていたすべての民を捕らわれの身とした。ネタンヤの子イシュマエルは彼らを捕囚にして、アンモン人のところに渡ろうとして出発した。
- 11 しかし、カレアハの子ヨハナンと、彼とともにいた軍のすべての高官たちは、ネタンヤの子イシュマエルが行ったすべての悪を聞くと、
- 12 部下をみな連れて、ネタンヤの子イシュマエルと戦うために出て行き、ギブオンにある大池のほとりで彼を見つけた。
- 13 イシュマエルとともにいたすべての民は、カレアハの子ヨハナンと、彼とともにいるすべての高官を見て喜んだ。
- 14 こうして、イシュマエルがミツパから捕らえて来た民のすべては身を翻し、カレアハの子ヨハナンの側についた。

- 15** ネタンヤの子イシュマエルは、八人の者とともによハナンの前から逃れ、アンモン人のところへ行った。
- 16** ネタンヤの子イシュマエルがアヒカムの子ゲダルヤを打ち殺した後、カレアハの子ヨハナと、彼とともにいたすべての高官たちは、ネタンヤの子イシュマエルから取り返したすべての残りの民、すなわちギブオンから連れ帰った勇士たち、戦士たち、女たち、子どもたち、および宦官たちを連れて、ミツパから
- 17** エジプトに行こうとして、ベツレヘムの傍らにあるゲルテ・キムハムへ行き、そこにとどまった。
- 18** バビロンの王がこの地の総督としたアヒカムの子ゲダルヤを、ネタンヤの子イシュマエルが打ち殺したため、カルデア人を恐れたからである。

第42章

- 1 軍のすべての高官たち、カレアハの子ヨハナン、ホシャヤの子イザンヤ、および身分の低い者も高い者もみな近づいて来て、
- 2 預言者エレミヤに言った。「どうか、私たちの願いを受け入れてください。私たちのため、この残りの者すべてのために、あなたの神、主に祈ってください。ご覧のとおり、多くの者の中からわずかに私たちだけが残ったのです。
- 3 あなたの神、主が、私たちの歩むべき道と、なすべきことを私たちに告げてくださいますように。」
- 4 そこで、預言者エレミヤは彼らに言った。「承知しました。見よ。私は、あなたがたのことばのとおり、あなたがたの神、主に祈り、主があなたがたにお答えになることはみな、あなたがたに告げましょう。あなたがたには何事も隠しません。」
- 5 彼らはエレミヤに言った。「主が、私たちの間で真実で確かな証人であられますように。私たちは必ず、あなたの神、主が私たちのためにあなたを遣わして告げられることばのとおり、すべて行います。
- 6 それが良くても悪くても、私たちは、あなたを遣わされた私たちの神、主の御声に聞き従います。私たちの神、主の御声に聞き従って幸せを得るためです。」
- 7 十日たって、主のことばがエレミヤにあった。
- 8 エレミヤは、カレアハの子ヨハナンと、彼とともにいる軍のすべての高官たちと、身分の低い者や高い者をみな呼び寄せて、
- 9 彼らに言った。「あなたがたは自分たちのために嘆願してもらおうと私を主に遣わしたが、そのイスラエルの神、主はこう言われる。
- 10 『もし、あなたがたがこの地にとどまるのであれば、わたしはあなたがたを建て直して、壊すことなく、あなたがたを植えて、引き抜くことはない。わたしは、あなたがたに下したあのわざわいを悔やんでいるからだ。
- 11 あなたがたが恐れているバビロンの王を恐れるな。彼を恐れるな—主のことば—。わたしがあなたがたとともにいて、彼の手からあなたがたを救い、助け出すからだ。
- 12 わたしがあなたがたにあわれみを施すので、彼はあなたがたをあわれんで、あなたがたを自分たちの土地に帰らせる。』
- 13 しかし、あなたがたが『私たちはこの地にとどまらない』と言って、あなたがたの神、主の御声に聞き従わず、
- 14 『いや、エジプトの地に行こう。あそこでは戦いにあわず、角笛の音も聞かず、パンに飢えることもない。あそこに私たちは住もう』と言うのであれば、
- 15 今、ユダの残りの者よ、主のことばを聞け。イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。
『もし、あなたがたがエジプトに行こうと決意し、そこに行って寄留するなら、
- 16 あなたがたの恐れている剣が、あのエジプトの地であなたがたを襲い、あなたがたの心配している飢饉が、あのエジプトであなたがたに追い迫り、あなたがたはそこで死ぬ。

- 17 エジプトに行ってそこに寄留しようと決意した者たちはみな、そこで剣と飢饉と疫病で死ぬ。わたしが彼らに下すわざわいから、生き残る者も逃れる者もない。』
- 18 まことに、イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。『わたしの怒りと憤りがエルサレムの住民の上に注がれたように、あなたがたがエジプトに行くとき、わたしの憤りはあなたがたの上に注がれ、あなたがたは、のろいと恐怖のもと、ののしりとそしりの的になり、二度とこの場所を見ることはない。』
- 19 ユダの残りの者よ、主はあなたがたに『エジプトへ行ってはならない』と言われた。私が今日あなたがたに証ししたことを、確かに知らなければならない。
- 20 あなたがたは、自分たちのいのちの危険を冒して迷い出てしまったからだ。あなたがたは私をあなたがたの神、主のもとに遣わして、『私たちのために、私たちの神、主に祈り、すべて私たちの神、主の言われるとおりに、私たちに教えてください。私たちはそれを行います』と言ったのだ。
- 21 私は今日、あなたがたに告げたが、あなたがたは、自分たちの神、主の御声を、すなわち、主がそのために私をあなたがたに遣わされたすべてのことを聞こうとしなかった。
- 22 だから今、確かに知らなければならない。あなたがたが、行って寄留したいと思っているその場所で、剣や飢饉や疫病で死ぬことを。」

第43章

- 1 エレミヤが民全体に、彼らの神、主のことばを語り終えたときのこと。彼らの神、主はこのすべてのことばをもって、エレミヤを彼らに遣わされたのであるが、
- 2 ホシャヤの子アザルヤ、カレアハの子ヨハナン、および高ぶった人たちはみな、エレミヤにこう告げた。「あなたは偽りを語っている。私たちの神、主は『エジプトに行ってそこに寄留してはならない』と言わせるために、あなたを遣わされたのではない。
- 3 ネリヤの子バルクが、あなたをそそのかして私たちに逆らわせ、私たちをカルデア人の手に渡して、私たちを死なせるか、あるいは、私たちをバビロンへ引いて行かせようとしているのだ。」
- 4 カレアハの子ヨハナンと、軍のすべての高官たちと、民のすべては、「ユダの地にとどまれ」という主の御声に聞き従わなかった。
- 5 そして、カレアハの子ヨハナンと、軍のすべての高官たちは、散らされていた国々からユダの地に住むために帰っていたユダの残りの者すべて、
- 6 すなわち、親衛隊の長ネブザルアダンが、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤに託したすべての者、男、女、子ども、王の娘たち、さらに、預言者エレミヤと、ネリヤの子バルクを連れて、
- 7 エジプトの地に行った。主の御声に聞き従わなかったのである。こうして、彼らはタフパンヘスまで来た。
- 8 タフパンヘスで、エレミヤに次のような主のことばがあった。
- 9 「あなたは手に大きな石を取り、それらを、ユダヤ人たちの目の前で、タフパンヘスにあるファラオの宮殿の入り口にある敷石の漆喰の中に隠して、
- 10 彼らに言え。『イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。見よ。わたしは人を遣わし、わたしのしもべ、バビロンの王ネブカドネツアルを連れて来て、彼の王座を、わたしが隠したこれらの石の上に据える。彼はその石の上に本営を張る。
- 11 彼は来てエジプトの地を討ち、死に定められた者を死に渡し、捕囚に定められた者を捕囚にし、剣に定められた者を剣に渡す。
- 12 わたしがエジプトの神々の神殿に火をつけるので、彼はそれらを焼き、神々を奪い去る。彼は、羊飼いが自分の衣をまとうようにエジプトの地をまとい、ここから安らかに去って行く。
- 13 また、エジプトの地にある太陽の神殿の石柱を碎き、エジプトの神々の神殿を火で焼く。』」

第44章

- 1 エジプトの地に住むすべてのユダヤ人、すなわちミグドル、タフパンヘス、メンフィス、およびパテロス地方に住む者たちに対する、エレミヤにあったことばは、次のとおりである。
- 2 「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。『あなたがたは、わたしがエルサレムとユダのすべての町に下した、あのすべてのわざわいを見た。見よ。その町々は今日、廃墟となって、そこに住む者もいない。
- 3 彼らが悪を行って、わたしの怒りを引き起こしたためだ。彼らは、自分自身も、あなたがたも、父祖たちも知らなかったほかの神々のところに行き、犠牲を供えて仕えた。
- 4 それで、わたしはあなたがたに、わたしのしもべであるすべての預言者たちを早くからたびたび遣わして、わたしの憎むこの忌み嫌うべきことを行わないように言ってきたが、
- 5 彼らは聞かず、耳を傾けず、ほかの神々に犠牲を供えることをやめて悪から立ち返ることはなかった。
- 6 そのため、わたしの憤りと怒りが、ユダの町々とエルサレムの通りに注がれて燃え上がり、それらは今日のように廃墟となって荒れ果てている。』
- 7 今、イスラエルの神、万軍の神、主はこう言われる。『なぜ、あなたがたは自分自身に大きなわざわいを招き、ユダの中から男も女も、幼子も乳飲み子も断って、残りの者を生かしておかないようにするのか。
- 8 なぜ、あなたがたは、寄留しようとしてやって来たエジプトの地でも、ほかの神々に犠牲を供えて、自分の手のわざによってわたしの怒りを引き起こすのか。こうして、あなたがたは自分たち自身を絶ち滅ぼして、地のすべての国々の中で、ののしりとそしりの的になろうとしている。
- 9 あなたがたは、ユダの地とエルサレムの通りで行った、自分たちの先祖の悪、ユダの王たちの悪、王妃たちの悪、自分たちの悪、自分たちの妻たちの悪を忘れたのか。
- 10 彼らは今日まで心砕かれず、恐れず、わたしがあなたがたとあなたがたの先祖の前に与えたわたしの律法と掟に歩まなかった。』
- 11 それゆえ、イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。『見よ。わたしはあなたがたに顔を向け、わざわいを下し、ユダのすべての民を絶ち滅ぼす。
- 12 わたしは、エジプトの地へ行ってそこに寄留しようと決意したユダの残りの者を取り分ける。彼らはみな、エジプトの地で、剣と飢饉に倒れて滅びる。身分の低い者も高い者もみな、剣と飢饉で死に、のろいと恐怖のもと、ののしりとそしりの的となる。
- 13 わたしは、エルサレムを罰したのと同じように、エジプトの地に住んでいる者たちを、剣と飢饉と疫病で罰する。
- 14 エジプトの地に寄留した後、ユダの地へ帰ろうとしているユダの残りの者には、逃れる者も生き残る者もない。彼らはそこに帰って住みたいと心から望んでいるが、わずかな逃れる者以外は帰らない。』」

- 15 そのとき、自分たちの妻がほかの神々に犠牲を供えていることを知っている男たちのすべてと、大集団をなしてそばに立っている女たちすべて、すなわち、エジプトの地とパテロスに住むすべての民は、エレミヤに答えた。
- 16 「あなたが主の名によって私たちに語ったことばに、私たちは従うわけにはいかない。
- 17 私たちは、私たちの口から出たことばをみな必ず行って、私たちも父祖たちも、私たちの王たちも首長たちも、ユダの町々やエルサレムの通りで行っていたように、天の女王に犠牲を供え、それに注ぎのぶどう酒を注ぎたい。私たちはそのとき、パンに満ち足りて幸せで、わざわざにあわなかった。
- 18 だが、天の女王に犠牲を供え、それに注ぎのぶどう酒を注ぐのをやめたときから、私たちは万事に不足し、剣と飢饉に滅ぼされたのだ。」
- 19 「私たち女が、天の女王に犠牲を供え、彼女に注ぎのぶどう酒を注ぐとき、女王にかたどった供えのパン菓子を作り、注ぎのぶどう酒を注いだのは、夫をなおざりにしてのことだったのでしょうか。」
- 20 そこでエレミヤは、そのすべての者、すなわち、男たちと女たち、また彼に口答えした者たち全員に言った。
- 21 「ユダの町々やエルサレムの通りで、あなたがたや、あなたがたの先祖、王たち、首長たち、また民衆が犠牲を供えたことを、主が覚えず、心に上らせなかったことがあるだろうか。
- 22 主は、あなたがたの悪い行い、あなたがたが行ったあの忌み嫌うべきことのために、もう耐えることができず、それであなたがたの地は今日のように、住む者もなく、廃墟となり、恐怖のもと、ののしりの的となったのだ。
- 23 あなたがたが犠牲を供えたため、また、主の前に罪ある者となって、主の御声に聞き従わず、主の律法と掟と証しに歩まなかったために、今日のように、あなたがたにこのわざわいが起こったのだ。」
- 24 それからエレミヤは、すべての民、すべての女たちに言った。「エジプトの地にいるすべてのユダの人々よ、主のことばを聞け。
- 25 『イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。あなたがたとあなたがたの妻は、自分たちの口で約束し、自分の手で果たしてきた。あなたがたは、天の女王に犠牲を供えて彼女に注ぎのぶどう酒を注ぐという誓願を、必ず実行すると言っている。では、あなたがたの誓願を確かなものとし、あなたがたの誓願を必ず実行せよ。』
- 26 それゆえ、エジプトの地に住むすべてのユダの人々よ、主のことばを聞け。『見よ、わたしはわたしの大いなる名によって誓う―主は言われる―。エジプトの全土において、「神である主は生きておられる」と、わたしの名がユダの人々の口に上ることはもうなくなる。
- 27 見よ、わたしは彼らを見張っている。わざわざのためであって、幸いのためではない。エジプトの地にいるすべてのユダの人々は、剣と飢饉によって、ついには完全に滅び失せる。
- 28 剣を逃れる少数の者だけが、エジプトの地からユダの地に帰る。こうして、エジプトの地に来て寄留しているユダの残りの者たちはみな、わたしのことばと彼らのことばの、どち

らが成就するかを知る。

- 29 これが、あなたがたへのしるしである――主のことば――。わたしはこの場所であなたがたを罰する。あなたがたにわざわいを下すというわたしのことばが必ず成就することを、あなたがたが知るためである。』
- 30 主はこう言われる。『見よ。わたしは、エジプトの王ファラオ・ホフラをその敵の手に、そのいのちを狙う者たちの手に渡す。ちょうどユダの王ゼデキヤを、そのいのちを狙っていた彼の敵、バビロンの王ネブカドネツアルの手に渡したように。』」

第45章

- 1 ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの第四年に、ネリヤの子バルクが、エレミヤの口述によってこれらのことばを書物に書いたとき、預言者エレミヤが彼に語ったことばは、こうである。
- 2 「バルクよ、イスラエルの神、主は、あなたについてこう言われる。
- 3 『あなたは言った。ああ、私はわざわいだ。主は私の痛みに悲しみを加えられた。私は嘆きで疲れ果て、憩いを見出せない、と。』」
- 4 「エレミヤよ、あなたは彼にこう言え。『主はこう言われる。見よ。わたしは自分が建てたものを自分で壊し、わたしが植えたものを自分で引き抜く。この全土をそうする。
- 5 あなたは、自分のために大きなことを求めるのか。求めるな。見よ。わたしがすべての肉なる者に、わざわいを下そうとしているからだ――主のことば――。しかしわたしは、あなたが行くどこでも、あなたのいのちを戦勝品としてあなたに与える。』」

第46章

- 1 諸国の民について、預言者エレミヤにあった主のことば。
- 2 エジプトについて、すなわちユーフラテス河畔のカルケミシュにいたエジプトの王ファラオ・ネコの軍勢について。ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの第四年に、バビロンの王ネブカドネツアルがこれを打ち破った。
- 3 「盾と大盾を整えて、戦いに向かえ。
- 4 騎兵たちよ、馬に鞍をつけて乗れ。かぶとを着けて配置につけ。槍を磨き、よろいをまとう。
- 5 何ということか、この有様は。彼らはおじ惑い、うしろに退く。勇士たちは打たれ、うしろも振り向かずに逃げ去る。恐怖が取り囲んでいる。——主のことば——
- 6 足の速い者も逃げられない。勇士たちも逃れられない。北の方、ユーフラテス川のほとりで、彼らはつまずき倒れる。
- 7 ナイル川のように湧き上がり、奔流のように逆巻くこの者はだれか。
- 8 エジプトは、ナイル川のように湧き上がり、奔流のように逆巻く。彼は言う。『湧き上がって地をおおい、町も住民も滅ぼそう。』
- 9 馬よ、進め。戦車よ、走れ。勇士たちは出陣せよ。盾を取るクシュ人、プテ人、弓を引くルデ人よ。
- 10 その日は、万軍の神、主の日、敵に復讐する復讐の日。剣は食らって満ち足り、彼らの血に酔う。北の地、ユーフラテス川のほとりでは、万軍の神、主に、いけにえが献げられる。
- 11 おとめである娘エジプトよ、ギルアデに上って乳香を取れ。多くの薬を用いても無駄だ。おまえには癒やしがない。
- 12 国々は、おまえの恥辱のことを聞く。おまえの哀れな叫び声は地に満ちる。勇士が勇士につまずき、ともに倒れるからだ。」
- 13 バビロンの王ネブカドネツアルが来て、エジプトの地を討つことについて、主が預言者エレミヤに語られたことば。
- 14 エジプトで告げ、ミグドルで聞かせ、メンフィスとタフパンヘスで聞かせて言え。「配置について、備えをせよ。剣がおまえの周りを食い尽くすからだ。
- 15 なぜ、おまえの雄牛は押し流されるのか。それは踏みとどまり得ない。主が彼を突き倒されたからだ。
- 16 多くの者がつまずき、倒れる。彼らは互いに言う。『さあ、われわれの民のところ、生まれ故郷に帰ろう。あの虐げる者の剣を避けて。』
- 17 彼らはそこで叫んだ。エジプトの王ファラオは、時期を逸して騒ぐ者。
- 18 わたしは生きている。——その名を万軍の主という王のことば—— タボルが山々の間にあるように、カルメルが海のそばにあるように、彼は必ず来る。
- 19 エジプトに住む娘よ、捕囚となる身支度をせよ。メンフィスは荒れ果て、焼かれて住む者もいなくなるからだ。

- 20 エジプトは、かわいらしい雌の子牛。しかし北からアブが襲って来る。
- 21 その中にいた傭兵も、肥えた子牛のようだ。彼らもまた、背を向けてともに逃げ、立ち止まろうともしない。彼らの滅びの日、刑罰の時が、彼らの上に来るからだ。
- 22 彼女の声は逃げ去る蛇の音のようだ。敵が軍勢を率い、木こりのように、斧を持って入って来るからだ。
- 23 彼らはその森を切り倒す。―主のことば―それがいかに奥深くても。実に、彼らはいなごより多くて数えきれない。
- 24 娘エジプトは辱められ、北の民の手に渡される。」
- 25 イスラエルの神、万軍の主は言われる。「見よ。わたしは、テーベのアモン、ファラオとエジプト、その神々と王たち、ファラオと彼に拠り頼む者たちを罰する。
- 26 わたしは彼らを、そのいのちを狙う者たちの手に、バビロンの王ネブカドネツアルの手とその家来たちの手に渡す。その後エジプトには、昔のように人が住むようになる―主のことば。
- 27 わたしのしもべヤコブよ、恐れるな。イスラエルよ、おののくな。見よ。わたしがあなたを遠くから、あなたの子孫を捕囚の地から救うからだ。ヤコブは帰って来て、だれにも脅かされずに平穏に安らかに生きる。
- 28 わたしのしもべヤコブよ、恐れるな。―主のことば―わたしが、あなたとともにいるからだ。わたしは、あなたを追いやった先のすべての国々を滅ぼし尽くす。しかし、あなたを滅ぼし尽くすことはない。ただし、さばきによってあなたを懲らしめる。決してあなたを罰せずにおくことはない。」

第47章

- 1 ファラオがガザを討つ前に、ペリシテ人について預言者エレミヤにあった主のことば。
- 2 主はこう言われる。「見よ。北から水が上って来てあふれる流れとなり、地とそこに満ちているもの、町とその住民を押し流す。人々はわめき、地の住民はみな泣き叫ぶ。
- 3 荒馬のひづめの音のため、戦車の響き、車輪のとどろきに、父親たちは氣力を失い、子どもたちを顧みない。
- 4 すべてのペリシテ人を破滅させる日、ツロとシドンを助ける生き残りの者すべてを断ち切る日が来たからだ。まことに主は、ペリシテ人を、カフトルの島の残りの者を破滅させる。
- 5 ガザは頭を剃られ、アシュケロンは黙らされる。平地の残りの者よ、いつまで、おまえは身を傷つけるのか。」
- 6 「ああ、主の剣よ。いつまで休まないのか。さやに収まり、静かに休め。」
- 7 どうして、休めるだろうか。主が剣に命じられたのだ。アシュケロンとその海岸、そこに剣を向けられたのだ。

第48章

- 1 モアブについて。イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。「わざわざいだ、ネボ。これは荒らされた。キルヤタイムも辱められ、攻め取られた。その砦は辱められ、打ちのめされた。
- 2 もはやモアブの誉れはない。ヘシュボンは、これに悪事を企んでいる。『行って、あの国民を絶ち滅ぼし、無き者にしよう』と。マデメンよ、おまえも黙らされる。剣がおまえの後を追っている。
- 3 ホロナイムから叫び声がする。『暴行だ。大いなる破滅だ』と。
- 4 モアブは打ち破られる。その幼き者たちは叫び声をあげる。
- 5 まことに、ルヒテの坂は嘆きの中にあり、彼らは泣きながら上る。ホロナイムの下り坂では、痛々しい破滅の叫びが聞こえる。
- 6 逃げて、自分自身を救え。荒野の中の灌木のようになれ。
- 7 おまえは自分が作ったものと財宝に拠り頼んだので、おまえも捕らえられ、ケモシュはその祭司や首長たちとともに、捕囚となって出て行く。
- 8 荒らす者がすべての町に入って来る。町は一つも逃れられない。谷は滅び失せ、平地は根絶やしにされる。――主がそう言われる――
- 9 モアブに翼を与えて、飛び去らせよ。その町々は住む者もなくて荒れ果てる。
- 10 主のみわざをおろそかにする者は、のろわれよ。その剣をとどめて血を流さないようにする者は、のろわれよ。
- 11 モアブは若いときから安らかであった。彼はぶどう酒の澱の上によどみ、桶から桶へ空けられたこともなく、捕囚として連れて行かれたこともなかった。それゆえ、その味はそのまま残り、香りも変わらなかった。
- 12 それゆえ、見よ、その時代が来る――主のことば――。そのとき、わたしは彼に酒蔵の番人たちを送る。彼らは彼を桶から移し、彼の桶を空にして、壺を砕く。
- 13 モアブは、ケモシュのゆえに恥を見る。イスラエルの家が、彼らが拠り頼むベテルのゆえに恥を見たように。
- 14 どうして、おまえたちは言えるだろうか。『われわれは勇士、戦いの豪の者だ』と。
- 15 モアブは荒らされ、その町々は襲われて、選り抜きの若者たちが屠り場に下って行く。――その名を万軍の主という王のことば――
- 16 モアブの滅びは近づいた。そのわざわざいは速やかにやって来る。
- 17 周りの者、その名を知る者はみな、これのために嘆け。『どうして、力ある杖、輝かしい笏が砕かれたのか』と。
- 18 ディボンに住む娘よ。栄光の座から降りて、潤いのない地に座れ。モアブを荒らす者が、おまえのところに攻め上り、おまえの要塞を滅ぼしたからだ。
- 19 アロエルに住む女よ。道の傍らに立って見張れ。逃げる男、逃れる女に尋ねて、『何が起こったのか』と言え。

- 20 モアブは打ちのめされ、辱められた。泣き叫び、わめけ。アルノンで『モアブは荒らされた』と告げよ。
- 21 さばきは次の平地に臨んだ。ホロン、ヤハツ、メファアテ、
- 22 ディボン、ネボ、ベテ・ディブラタイム、
- 23 キルヤタイム、ベテ・ガムル、ベテ・メオン、
- 24 ケリヨテ、ボツラ、モアブの地の遠くの町、近くの町すべてに。
- 25 モアブの角は切り落とされ、その腕は砕かれた—主のことば。
- 26 彼を酔わせよ。主に対して高ぶったからだ。モアブは、へどを吐き、彼も笑いものとなる。
- 27 イスラエルは、おまえにとって笑いものではなかったのか。それとも、おまえが彼のことを語るたびに彼に向かって頭を振っていたのは、彼が盗人の間に見つけられたためか。
- 28 モアブの住民よ。町を見捨てて岩間に住め。穴の入り口のそばに巣を作る鳩のようになれ。
- 29 われわれはモアブの高ぶりを、—彼は実に高ぶる者—その傲慢、その高ぶりを、その誇り、その慢心を聞いた。
- 30 わたしは彼の不遜さを知っている。—主のことば—その自慢話は正しくない。その行いも正しくない。
- 31 それゆえ、わたしはモアブのために泣き叫び、モアブ全体のために叫ぶ。人々はキル・ヘレスの人々のために嘆く。
- 32 シブマのぶどうの木よ。わたしはヤゼルの涙にまさり、おまえのために泣く。おまえのつるは伸びて海を越えた。ヤゼルの海に達した。そして、おまえの夏の果物とぶどうの収穫を、荒らす者が襲った。
- 33 モアブの果樹園から、その地から、喜びと楽しみが取り去られる。わたしは石がめから酒を絶えさせた。喜びの声をあげてぶどうを踏む者もなく、ぶどう踏みの喜びの声は、もはや喜びの声ではない。
- 34 ヘシュボンが悲鳴をあげたので、その声はエルアレとヤハツまで、ツォアルからホロナイムやエグラテ・シェリシヤまで届く。ニムリムの水さえ荒廃するからだ。
- 35 わたしはモアブで—主のことば—高き所でいけにえを献げる者を、その神々に犠牲を供える者を取り除く。
- 36 それゆえ、わたしの心は、モアブのために笛のように鳴る。わたしの心は、キル・ヘレスの人々のために笛のように鳴る。彼らの得た富も消え失せたからだ。
- 37 実に、彼らは頭の毛をみな剃り、ひげもみな切り取り、手もみな傷つけ、腰に粗布を着けている。
- 38 モアブのあらゆる屋根の上や広場には、嘆きしかない。わたしがモアブを、だれも欲しがらない器のように砕いたからだ—主のことば—。
- 39 どんなにか打ちのめされて、泣き叫ぶことか。どんなにかモアブは恥を見て、背を見せることか。モアブは、その周りのすべての者の笑いものとなり、恐怖のもととなった。」

- 40 まことに、主はこう言われる。「見よ。敵が驚のように襲いかかり、モアブに対して翼を広げる。
- 41 町々は攻め取られ、要害は取られる。その日、モアブの勇士の心は、産みの苦しみにある女の心のようになる。
- 42 モアブは滅ぼし尽くされて、民でなくなる。主に対して高ぶったからだ。
- 43 モアブの住民よ、おまえを 恐怖と落とし穴と罠が襲う。――主のことば――
- 44 その恐怖から逃げる者は穴に落ち、穴から這い上る者は罠に捕らえられる。わたしがモアブに 彼らの刑罰の年を来させるからだ。――主のことば――
- 45 ヘシュボンの陰には、逃れる者たちが力尽きて立ち止まる。火がヘシュボンから、炎がシホンのうちから出るからだ。それは、モアブのこめかみと、騒がしい子どもの頭の頂を焼く。
- 46 ああ、モアブ。ケモシュの民は滅びる。おまえの息子は捕らわれの身となり、娘は捕虜になって連れ去られるからだ。
- 47 しかし終わりの日に、わたしはモアブを回復させる。――主のことば。――」ここまでがモアブへのさばきである。

第49章

- 1 アンモン人について。主はこう言われる。「イスラエルには子がないのか。世継ぎがないのか。なぜ、ミルコムがガドを所有し、その民が町々に住んでいるのか。
- 2 それゆえ、見よ、その時代が来る。――主のことば――そのとき、わたしはアンモン人のラバに戦いの雄たけびを聞かせる。そこは荒れ果てた廃墟となり、その娘たちは火で焼かれる。イスラエルがその跡を継ぐ。――主は言われる――
- 3 ヘシュボンよ、泣き叫べ。アイが荒らされたから。ラバの娘たちよ、わめけ。粗布をまとえ。嘆いて囲い場の中を走り回れ。ミルコムが、その祭司や首長たちとともに、捕囚として連れて行かれるからだ。
- 4 背信の娘よ、おまえの谷には水が流れている。なぜ、その谷を誇るのか。おまえは自分の財宝に拠り頼んで言う。『だれが私のところに来るだろう』と。
- 5 見よ。わたしは四方からおまえに恐怖をもたらす。――万軍の神、主のことば――おまえたちはみな散らされて、逃げる者を集める者もない。
- 6 その後、わたしはアンモン人を回復させる。――主のことば。――
- 7 エドムについて。万軍の主はこう言われる。「テマンには、もう知恵がないのか。賢い者から分別が消え失せ、彼らの知恵は朽ちたのか。
- 8 デダンの住民よ、逃げよ。そこを離れよ。深く潜め。わたしが彼の上にエサウの災難を、彼を罰する時を、もたらすからだ。
- 9 ぶどうを収穫する者が おまえのところに来るなら、彼らは取り残しの実を残さないだろう。盗人が夜中に来るなら、彼らの気がすむまで荒らすだろう。
- 10 しかし、わたしはエサウを裸にし、その隠れ場をあらわにし、身を隠すこともできないようにする。彼の子孫も兄弟も隣人も 踏みにじられ、彼はいなくなる。
- 11 おまえのみなしごたちを見捨てよ。わたしが彼らを生かし続ける。おまえのやもめたちは、わたしに拠り頼まなければならない。――
- 12 まことに主はこう言われる。「見よ。その杯を飲むように定められていない者でも、それを必ず飲まなければならないのなら、おまえだけが罰を免れられるだろうか。罰を受けずにはすまされない。おまえは必ず飲まなければならない。
- 13 まことに、わたしは自分にかけて誓う――主のことば――。必ずボツラは恐怖のもと、そして的、廃墟、そしてののしりの的となる。そのすべての町は、永遠の廃墟となる。――
- 14 私は主から知らせを聞いた。「使者が国々に送られた。『集まって、エドムに攻め入れ。戦いに向けて立ち上がれ。』
- 15 見よ。わたしがおまえを国々の中の小さい者、人に蔑まれる者としたからだ。
- 16 岩の裂け目に住む者、丘の頂を占める者よ。おまえの脅かしと高慢は、おまえ自身を欺いている。鷲のように巣を高くしても、わたしは、おまえをそこから引きずり降ろす。――主のことば。――
- 17 エドムは廃墟となり、そこを通り過ぎる者はみな呆気にとられ、そのすべての打ち傷を見て嘲笑する。

- 18 ソドムとゴモラとその近隣の町々が破滅したときのように—主は言われる—そこに人は住まず、そこに人の子は宿らない。
- 19 「見よ。獅子がヨルダンの密林から 常に潤う牧場に上って来るように、 わたしは一瞬にして彼らをそこから追い出し、 選ばれた人をそこに置く。 だれがわたしのようであろうか。 だれがわたしを呼びつけるだろうか。 だれがわたしの前に立つことができる 牧者であろうか。」
- 20 それゆえ、聞け。 エドムに対して立てられた主の計画を、 テマンの住民に対して練られた策を。 必ず、彼らは、群れの中の小さいものまで 引きずって行かれ、 必ず、彼らの牧場は彼らのことで恐れ惑う。
- 21 彼らの倒れる音で地は震え、 その悲鳴は葦の海でも聞こえる。
- 22 見よ。彼は鷲のように舞い上がっては襲いかかり、 ポツラに敵対して翼を広げる。 その日、エドムの勇士の心も、産みの苦しみにある女の心のようになる。
- 23 ダマスコについて。「ハマテとアルパデは恥を見た。 まことに、彼らは悪い知らせを聞き、 海のようにかき乱され、 静まることもできない。
- 24 ダマスコは弱り、恐怖にとらわれ、 身を翻して逃げた。 産婦の陣痛のような苦しみにとらえられて。
- 25 どうして、誉れの町、わたしの喜びの都が 捨てられたのか。
- 26 それゆえ、その日、 その若い男たちは町の広場に倒れ、 その戦士たちもみな、 黙らされる。 一万軍の主のことば—
- 27 わたしは、ダマスコの城壁に火をつける。 その火はベン・ハダドの宮殿を食い尽くす。」
- 28 バビロンの王ネブカドネツアルが討ったケダルとハツオルの王国について。主はこう言われる。「さあ、ケダルへ攻め上り、 東の人々を荒らせ。
- 29 その天幕と羊の群れは奪われ、 その幕屋も、すべての器も、 らくだも、運び去られる。 人々は彼らに向かって叫ぶ。『恐怖が取り囲んでいる』と。
- 30 ハツオルの住民よ、逃げよ。 遠くへ逃れよ。 深く潜め—主のことば—。 バビロンの王ネブカドネツアルが、 おまえたちに対してはかりごとをめぐらし、 おまえたちに対して 計略をめぐらしているからだ。
- 31 さあ、安んじて住む穏やかな国に攻め上れ。 —主のことば— そこには扉もなく、かんぬきもなく、 その民は孤立して住んでいる。
- 32 彼らのらくだは獲物になり、 その家畜の群れは分捕り物になる。 わたしは、もみ上げを刈り上げている者たちを 四方に吹き散らし、 あらゆる方向から彼らに災難をもたらす。 —主のことば—
- 33 ハツオルはとこしえまでも荒れ果てて、 ジャッカルに住みかとなる。 そこに人は住まず、そこに人の子は宿らない。」
- 34 ユダの王ゼデキヤの治世の初めに、エラムについて預言者エレミヤにあった主のことば。
- 35 万軍の主はこう言われる。「見よ。わたしは エラムの力の源であるその弓を折る。
- 36 わたしは天の四隅から、 四方の風をエラムに吹きつけさせ、 彼らをこの四方の風で吹き散らす。 エラムの散らされた者が入らない国はない。

- 37** わたしは、エラムを敵の前に、 そのいのちを狙う者たちの前にうろたえさせ、 彼らの上に
わざわいを、 わたしの燃える怒りをその上に下す。 —主のことば— わたしは、彼らのう
しろに剣を送って、 彼らを絶ち滅ぼす。
- 38** わたしはエラムにわたしの王座を置き、 王や首長たちをそこから滅ぼす。 —主のことば—
—
- 39** しかし、終わりの日になると、 わたしはエラムを回復させる。 —主のことば。」

第50章

- 1 主が預言者エレミヤを通して、バビロンについて、すなわちカルデア人の地について語られたことば。
- 2 「国々の間に告げ、旗を掲げて知らせよ。隠さずに言え。『バビロンは攻め取られた。ベルは辱められ、メロダクは打ちのめされた。その像は辱められ、その偶像は打ちのめされた。』
- 3 まことに、北から一つの国がそこに攻め上り、その地を荒れ果てさせた。そこには住むものもない。人から家畜に至るまで逃げ去った。
- 4 その日、その時—主のことば—イスラエルの民もユダの民も、ともにやって来る。彼らは泣きながら歩みつつ、その神、主を尋ね求める。
- 5 彼らはシオンを求め、その道に顔を向けて言う。『さあ、私たちは主に連なろう。忘れられることのない永遠の契約によって』と。
- 6 わたしの民は、迷った羊の群れであった。その羊飼いたちが彼らを迷わせ、山々へ連れ去った。彼らは山から丘へと行き巡り、休み場も忘れた。
- 7 彼らを見つける者はみな彼らを食らい、彼らの敵は言った。『私たちには責めはない。彼らが、義の住まいである主、彼らの先祖の望みであった主に対して 罪を犯したためだ』と。
- 8 バビロンの中から逃げ、カルデア人の地から出て行け。群れの先頭に立つやぎのようになれ。
- 9 見よ。わたしは、大国の集団を奮い立たせ、北の地からバビロンに攻め上らせる。彼らはこれに向かって陣備えをし、バビロンはそこから攻め取られる。彼らの矢は熟練した勇士の矢のようで、空しくは帰らない。
- 10 カルデアは略奪され、これを略奪する者はみな、満ち足りる。—主のことば。
- 11 わたしのゆずりの地を略奪する者たちよ。おまえたちは楽しみ、喜び躍り、打穀する雌の子牛のようにはしゃぎ、荒馬のようになが、
- 12 おまえたちの母はひどく恥を見、おまえたちを産んだ者は屈辱を受ける。見よ。彼女は国々のうちの最後のものとなり、荒野となり、砂漠と荒れた地となる。
- 13 主の御怒りによって、そこに住む者はなく、ことごとく廃墟と化す。バビロンの近くを通り過ぎる者はみな呆気にとられ、そのすべての打ち傷を見て嘲笑する。
- 14 すべて弓を引く者よ。バビロンの周りに陣備えをし、これを射よ。矢を惜しむな。彼女が主に対して罪を犯したからだ。
- 15 その周りで、ときのをあげよ。彼女は降伏する。その柱は倒れ、その城壁は壊れる。これこそ主の復讐だ。彼女に復讐せよ。彼女がしたとおりに、これにせよ。
- 16 種を蒔く者や、刈り入れの時に鎌を取る者を、バビロンから断ち切れ。虐げる者の剣を避けて、人はそれぞれ自分の民のもとに帰り、自分の土地へ逃げて行く。」
- 17 イスラエルは雄獅子に散らされた羊。先にはアッシリアの王がこれを食らい、今度はついに、その骨をバビロンの王ネブカドネツアルが食らった。

- 18 それゆえ、イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。「見よ。わたしはアッシリアの王を罰したように、バビロンの王とその地を罰する。
- 19 わたしはイスラエルをその牧場に帰らせる。彼はカルメルとバシャンで草を食べ、エフライムの山とギルアデで満ち足りる。
- 20 その日、その時―主のことば―イスラエルの咎を探しても、それはない。ユダの罪も見つからない。わたしが残す者を、わたしが赦すからだ。」
- 21 「メラタイムの地、ペコデの住民のところに攻め上れ。彼らを追って、殺し、聖絶せよ。―主のことば―すべて、わたしがあなたに命じたとおりに行え。
- 22 その地には戦いの声、大いなる破滅。
- 23 全地を打った鉄槌は、どうして折られ、砕かれたのか。バビロンよ、どうして国々の恐怖のもととなったのか。
- 24 バビロンよ。わたしがおまえに罠をかけ、おまえは捕らえられた。おまえはそれを知らなかった。おまえは見つけられて捕まえられた。主に争いを仕掛けたからだ。
- 25 主はその倉を開き、その憤りの武器を持ち出した。それは、カルデア人の国での、万軍の神、主の仕事だ。
- 26 四方からそこに攻め入れ。その穀物倉を開け。これを麦束のように積み上げ、これを聖絶して、何一つ残すな。
- 27 その雄牛をみな滅ぼせ。屠り場に下らせよ。わざわざ、彼らは。彼らの日、その刑罰の時が来たからだ。」
- 28 バビロンの地から逃れて来た者の声がする。シオンで、私たちの神、主の復讐のこと、その神殿の復讐のことを告げ知らせている。
- 29 バビロンに対して、射手を呼び集めよ。すべて弓を引く者を。これを囲んで陣を敷き、一人も逃すな。その行いに応じてこれに報い、これがしたとおりに、これにせよ。主に向かい、イスラエルの聖なる方に向かって高ぶったからだ。
- 30 「それゆえ、その日、その若い男たちは町の広場に倒れ、その戦士たちもみな、黙らされる。―主のことば―
- 31 高ぶる者よ。見よ、わたしはおまえを敵とする。―万軍の神、主のことば―おまえの日、わたしがおまえを罰する時が来たからだ。
- 32 そこで、高ぶる者はつまずき倒れ、これを起こす者もない。わたしは、その町々に火をつける。火はその周りのものすべてを焼き尽くす。」
- 33 万軍の主はこう言われる。「イスラエルの子らとユダの子らは、ともに虐げられている。彼らを捕らえて行った者はみな、彼らを固くつかんで解放することを拒んでいる。」
- 34 彼らを贖う方は強い。その名は万軍の主。主は、必ずや彼らの訴えを取り上げて、その地を慰ませるが、バビロンの住民は震え上がらせる。
- 35 「剣がカルデア人に下り、―主のことば―バビロンの住民、その首長たち、知恵ある者たちに下る。
- 36 剣が易者たちにも下り、彼らは愚かになる。剣がその勇士たちにも下り、彼らは気をくじかれる。

- 37 剣が、その馬と車、そこに住む混血の傭兵にも下り、彼らは女たちのようになる。剣がその財宝にも下り、それらはかすめ取られる。
- 38 日照りがその水の上に下り、それは涸れる。そこは刻んだ像の地で、偶像に狂っているからだ。
- 39 それゆえ、荒野の獣が山犬とともに住み、だちょうがそこに住む。もはや永久に、人は住まず、代々にわたって、住む者はいない。
- 40 神が、ソドムとゴモラと、近隣の町々を滅ぼしたように、一主のことは―そこには人が住まず、そこには人の子が宿らない。
- 41 見よ、一つの民が北から来る。大きな国と多くの王が、地の果てという果てから奮い立つ。
- 42 彼らは弓と投げ槍を固く握り、残忍で、あわれむことがない。その声は海のようにとどろく。娘バビロンよ。彼らは馬に乗り、一つとなって戦列を整え、おまえを攻める。
- 43 バビロンの王は、彼らのうわさを聞いて 氣力を失い、苦しみが彼をとらえる。産婦のような激痛が。
- 44 見よ。獅子がヨルダンの密林から 常に潤う牧場に上って来るように、わたしは一瞬にして彼らをそこから追い出し、選ばれた人をそこに置く。だれがわたしのようであろうか。だれがわたしを呼びつけるだろうか。だれがわたしの前に立つことができる 牧者であろうか。」
- 45 それゆえ、聞け。バビロンに対して立てられた主の計画を。カルデア人の国に対して練られた策を。必ず、彼らは、群れの中の小さいものまで引きずって行かれ、必ず、彼らの牧場は彼らのことで恐れ惑う。
- 46 バビロンが捕らえられる音で地は震え、その叫びは国々の間にも聞こえる。

第51章

- 1 主はこう言われる。「見よ。わたしはバビロンに対し、レブ・カマイの住民に対して、滅ぼす者の霊を奮い立たせ、
- 2 他国人たちをバビロンに送る。彼らはこれを吹き散らし、その地を滅ぼす。彼らは、わざわざの日に、四方からこれを攻める。」
- 3 射手には弓を引かせるな。よろいを着けて立ち上がらせるな。そこの若い男たちを惜しむな。その全軍を聖絶せよ。
- 4 刺し殺された者たちが、カルデア人の地に、突き刺された者たちが、その通りに倒れる。
- 5 しかし、イスラエルもユダも、その神、万軍の主に見捨てられることはない。彼らはイスラエルの聖なる方から離れ、彼らの地は罪過で満ちていたが。
- 6 バビロンの中から逃げ、それぞれ自分自身を救え。バビロンの咎のために絶ち滅ぼされるな。これは、主の復讐の時、主がこれに報いをなさるからだ。
- 7 バビロンは主の手にある金の杯。すべての国々はこれに酔い、国々はそのぶどう酒を飲む。それゆえ、国々は正気を失う。
- 8 バビロンは、たちまち倒れて碎かれる。バビロンのために泣き叫べ。その痛みのために乳香を取れ。もしかしたら、癒やされるかもしれない。
- 9 私たちはバビロンを癒やそうとした。だが、それは癒やされなかった。私たちはこれを見捨てて、それぞれ自分の土地へ帰ろう。バビロンへのさばきが、天に達し、大空まで上ったからだ。
- 10 主は私たちの義を明らかにされた。さあ、私たちはシオンで、私たちの神、主のみわざを語ろう。
- 11 矢を研ぎ、小盾を取れ。主はメディア人の王たちの霊を奮い立たせられる。御思いは、バビロンを滅ぼすこと。それは主の復讐、ご自分の神殿の復讐だからである。
- 12 バビロンの城壁に向かって旗を掲げよ。見張りを強くし、番兵を立て、伏兵を備えよ。主は計画を練って、バビロンの住民について語ったことを実行されるからだ。
- 13 大水のほとりに住む、財宝に富む者よ。おまえの最期、おまえの寿命が尽きる時が来た。
- 14 万軍の主はご自分にかけて誓われた。「わたしは必ず、バツタの大群のような人々で おまえを満たす。彼らはおまえに対して叫び声をあげる。」
- 15 主は、御力をもって地を造り、知恵をもって世界を堅く据え、英知をもって天を張られた。
- 16 主の御声に、天では水のざわめきが起こる。主は地の果てから雲を上らせ、雨のために稲妻を造り、ご自分の倉から風を出される。
- 17 すべての人間は愚かで無知だ。すべての金細工人は、彫像のために恥を見る。その鑄た像は偽りで、その中には息がない。
- 18 それは空しいもの、物笑いの種だ。刑罰の時に、それらは滅びる。
- 19 ヤコブの受ける分は、このようなものではない。主は万物を造る方。イスラエルは主のゆずりの民。その御名は万軍の主。

- 20 「あなたはわたしの鉄槌、戦いの道具だ。わたしはあなたによって国々を砕き、あなたによって諸王国を滅ぼす。
- 21 あなたによって馬も騎手も砕き、あなたによって戦車も御者も砕き、
- 22 あなたによって男も女も砕き、あなたによって年寄りも若い者も砕き、あなたによって若い男も若い女も砕き、
- 23 あなたによって牧者も群れも砕き、あなたによって農夫もくびきを負う牛も砕き、あなたによって総督や長官たちも砕く。
- 24 わたしはバビロンとカルデアの全住民に対し、彼らがシオンで行ったすべての悪に、あなたがたの目の前で報復する。――主のことば――
- 25 全地を破壊する、破壊の山よ。見よ、わたしはおまえを敵とする。――主のことば――わたしはおまえに手を伸ばし、おまえを岩から突き落とし、おまえを焼けた山とする。
- 26 だれもおまえから石を取って、要の石とする者はなく、礎の石とする者もない。おまえは永遠に荒れ果てた地となる。――主のことば。――
- 27 この地に旗を掲げ、国々の中で角笛を鳴らせ。バビロンに向けて国々を聖別せよ。バビロンに向けて王国を召集せよ。アララテ、ミンニ、アシュケナズを。バビロンに向けて司令官を立て、群がるバツタのように、馬を上らせよ。
- 28 バビロンを攻めるため国々を聖別せよ。メディアの王たち、その総督やすべての長官たち、その支配にある全土の民を。
- 29 地は震え、もだえる。主はご計画をバビロンに成し遂げ、バビロンの地を 住む者もない荒れ果てた地とされる。
- 30 バビロンの勇士たちは戦いをやめ、砦の中に座り込む。彼らの力は干からびて、女たちのようになる。その住まいは焼かれ、かんぬきは砕かれる。
- 31 飛脚はほかの飛脚に走り次ぎ、使者もほかの使者に取り次いで、バビロンの王に告げて言う。「都は、くまなく攻め取られ、
- 32 渡し場も取られ、湿地も火で焼かれ、戦士たちはおじ惑っています」と。
- 33 イスラエルの神、万軍の主が、こう言われるからだ。「娘バビロンは、踏まれるときの打ち場のようだ。もうしばらくで、刈り入れの時が来る。
- 34 『バビロンの王ネブカドネツアルは、私を食い尽くし、私をかき乱して、空の器にした。竜のように私を呑み込み、私という美味で腹を満たし、私を洗い流した。』
- 35 シオンに住む者は言え。『私と私の肉親になされた暴虐が、バビロンに降りかけ』と。エルサレムは言え。『私の血がカルデアの住民に注がれよ』と。』
- 36 それゆえ、主はこう言われる。「見よ。わたしはあなたの訴えを取り上げ、あなたのために報復する。バビロンの海を干上がらせ、その泉を涸らす。
- 37 バビロンは石くれの山、ジャッカルの住みかとなり、恐怖のもと、また嘲りの的となって、住む者はいなくなる。
- 38 彼らはともに、若獅子のように吼え、獅子の子のようにうなる。
- 39 彼らが苛立っているとき、わたしは彼らに宴会を開き、彼らを酔わせる。彼らは陽気になり、永遠の眠りについて、目覚めることはない。――主のことば――

- 40 わたしは彼らを、子羊のように、また雄羊か雄やぎのように、屠り場に下らせる。
- 41 ああ、バビロンは攻め取られ、全地の誉れであった者は捕らえられた。ああ、バビロンは国々の間で 恐怖のもととなった。
- 42 海がバビロンの上にのしかかり、波のざわめきにおおわれた。
- 43 その町々は荒れ果てた地となり、その地は砂漠と荒れ地となり、だれも住まず、人の子が通りもしないところとなる。
- 44 わたしはバビロンでベルを罰し、これが呑み込んだ物を吐き出させる。国々はもう、そこに流れ込むことはない。バビロンの城壁さえも倒れてしまった。
- 45 わたしの民よ、その中から出よ。主の燃える怒りから逃れ、それぞれ自分自身を救え。
- 46 そうでないと、あなたがたの心は弱まり、この地に聞こえるうわさを恐れることになる。今年、うわさが立ち、その後、次の年にも、うわさは立つ。この地には暴虐があり、支配者はほかの支配者に立ち向かう。
- 47 それゆえ、見よ、その時代が来る。そのとき、わたしはバビロンの彫像を罰する。この全土は恥を見、刺し殺された者はみなそのただ中に倒れる。
- 48 天と地とその中にあるすべてのものは、バビロンのことで喜び歌う。北からこれに向かって、荒らす者たちが来るからだ―主のことば―。
- 49 イスラエルの刺し殺された者たちよ、バビロンは必ず倒れる。バビロンによって 全地の刺し殺された者たちが倒れたように。
- 50 剣を逃れた者よ、行け。立ち止まるな。遠くから主を思い出せ。エルサレムを心に思い浮かべよ。
- 51 『私たちは、そしりを聞いて、恥を見た。恥辱が私たちの顔をおおった。他国人が主の宮の聖所に入ったからだ。』
- 52 それゆえ、見よ、その時代が来る。―主のことば― そのとき、わたしはその彫像を罰する。刺された者がその全土でうめく。
- 53 たとえバビロンが天に上っても、たとえ、砦を高くして近寄りがたくしても、わたしのもともと荒らす者たちがそこへ行く。―主のことば。』
- 54 バビロンから、叫ぶ声がする。カルデア人の地から、大いなる破滅の音が。
- 55 主がバビロンを荒らして、そこから大いなる声を絶やされるからだ。その波は大水のように鳴りとどろき、その声は鳴りどよめく。
- 56 まことに、荒らす者がバビロンを攻めに來て、その勇士たちは捕らえられ、その弓も折られる。主は報復の神であり、必ず報復されるからだ。
- 57 「わたしは、その首長たちや知恵のある者、総督や長官、勇士たちを酔わせる。彼らは永遠の眠りについて、目覚めることはない―その名を万軍の主という王のことば。』
- 58 万軍の主はこう言われる。「バビロンの厚い城壁は完全にくつがえされ、その高い門にも火が放たれる。国々の民は無駄に勞し、諸国の民は、ただ火に焼かれて、力尽きる。」
- 59 マフセヤの子ネリヤの子セラヤが、ユダの王ゼデキヤとともに、その治世の第四年にバビロンへ行ったとき、預言者エレミヤがセラヤに命じたことば。そのとき、セラヤは宿営の長であった。

- 60** エレミヤはバビロンに下るすべてのわざわい、すなわち、バビロンについて記された、これらすべてのことばを一つの書物に記した。
- 61** エレミヤはセラヤに言った。「あなたがバビロンに入ったときに、これらすべてのことばをよく注意して読み、
- 62** こう言いなさい。『主よ。あなたはこの場所について、これを滅ぼし、人から家畜に至るまで住むものがないようにし、永遠に荒れ果てた地とする、と語られました。』
- 63** そしてこの書物を読み終えたら、それに石を結び付けて、ユーフラテス川の中に投げ入れ、
- 64** こう言いなさい。『このように、バビロンは沈み、浮かび上がれない。わたしがもたらすわざわいを前にして。彼らは力尽きる。』」 ここまでが、エレミヤのことばである。

第52章

- 1 ゼデキヤは二十一歳で王となり、エルサレムで十一年間、王であった。彼の母の名はハムタルといい、リブナ出身のエレミヤの娘であった。
- 2 彼は、すべてエホヤキムがしたように、主の目に悪であることを行った。
- 3 実に、エルサレムとユダが主の前から投げ捨てられるに至ったのは、主の怒りによるものであった。その後、ゼデキヤはバビロンの王に反逆した。
- 4 ゼデキヤの治世の第九年、第十の月の十日に、バビロンの王ネブカドネツアルは、その全軍勢を率いてエルサレムを攻めに来て、これに対して陣を敷き、周囲に壘を築いた。
- 5 こうして都はゼデキヤ王の第十一年まで包囲されていた。
- 6 第四の月の九日、都の中で食糧難がひどくなり、民衆に食物がなくなった。
- 7 そのとき、都は破られ、戦士たちはみな逃げて、夜のうちに、王の園に近い二重の城壁の間にある、門の道から都を出た。カルデア人が都を包囲していたので、彼らはアラバへの道を行った。
- 8 カルデアの軍勢は王の後を追ひ、エリコの草原でゼデキヤに追いついた。すると、王の軍隊はみな王から離れて散ってしまった。
- 9 カルデアの軍勢は王を捕らえ、ハマテの地のリブラにいるバビロンの王のところへ彼を連れ上った。バビロンの王は彼に宣告を下した。
- 10 バビロンの王は、ゼデキヤの息子たちを彼の目の前で虐殺し、ユダの首長たちもみなリブラで虐殺した。
- 11 さらに、ゼデキヤの目をつぶし、彼を青銅の足かせにつないだ。バビロンの王は、彼をバビロンへ連れて行き、彼を死ぬ日まで獄屋に入れておいた。
- 12 第五の月の十日、バビロンの王ネブカドネツアル王の第十九年のこと、バビロンの王の家来、親衛隊の長ネブザルアダンがエルサレムに来て、
- 13 主の宮と王宮とエルサレムのすべての家を焼き、そのおもだった建物をことごとく火で焼いた。
- 14 親衛隊の長と一緒にいたカルデアの全軍勢は、エルサレムを取り巻く城壁すべてを打ち壊した。
- 15 親衛隊の長ネブザルアダンは、民の貧しい者たちの一部と、都に残されていた残りの民、バビロンの王に降伏した投降者たち、そのほか技術に秀でた人たちを捕らえ移した。
- 16 しかし、親衛隊の長ネブザルアダンは、その地の貧しい民の一部を残し、ぶどうを作る者と農夫にした。
- 17 カルデア人は、主の宮の青銅の柱と、車輪付きの台と、主の宮にある青銅の「海」を砕いて、その青銅をみなバビロンへ運んだ。
- 18 また、灰壺、十能、芯取りばさみ、鉢、平皿、奉仕に用いるすべての青銅の器具を奪った。
- 19 また親衛隊の長は、小鉢、火皿、鉢、灰壺、燭台、平皿、水差しなど、純金や純銀のものを奪った。

- 20 ソロモン王が主の宮のために作った二本の柱、一つの「海」、車輪付きの台の下にある十二の青銅の牛、これらすべての物の青銅の重さは、量りきれなかった。
- 21 その柱は、一本の柱の高さが十八キュビト、その周囲は十二キュビト、その厚さ是指四本分で、中は空洞になっていた。
- 22 その上の柱頭は青銅で、一つの柱頭の高さは五キュビトであった。柱頭の周りに格子細工とざくろがあって、すべて青銅であった。もう一本の柱も、そのざくろも、これと同様であった。
- 23 周りには九十六のざくろがあり、周りの格子細工の上には全部で百のざくろがあった。
- 24 親衛隊の長は、祭司のかしらセラヤと次席祭司ゼパニヤと三人の入り口を守る者を捕らえ、
- 25 戦士たちの指揮官であった一人の宦官、都にいた王の七人の側近、民衆を徴兵する軍の長の書記、そして都の中にいた民衆六十人を、都から連れ去った。
- 26 親衛隊の長ネブザルアダンが彼らを捕らえ、リブラにいるバビロンの王のもとへ連れて行った。
- 27 バビロンの王はハマテの地のリブラで、彼らを打ち殺した。こうして、ユダはその国から捕らえ移された。
- 28 ネブカドネツアルが捕らえ移した民の数は次のとおりである。第七年には、三千二十三人のユダヤ人。
- 29 ネブカドネツアルの第十八年には、エルサレムから八百三十二人。
- 30 ネブカドネツアルの第二十三年には、親衛隊の長ネブザルアダンが、七百四十五人のユダヤ人を捕らえ移し、その合計は四千六百人であった。
- 31 ユダの王エホヤキンが捕らえ移されて三十七年目の第十二の月の二十五日、バビロンの王エビル・メロダクは、即位した年のうちにユダの王エホヤキンを呼び戻して、獄屋から出し、
- 32 優しいことばをかけ、バビロンで彼とともにいた王たちの位よりも、彼の位を高くした。
- 33 彼は囚人の服を脱ぎ、その一生の間、いつも王の前で食事をした。
- 34 彼の生活費は、死ぬ日までその一生の間、日々の分をいつもバビロンの王から支給されていた。

哀歌

Lamentations

第1章

- 1 ああ、ひとり寂しく座っている。人で満ちていた都が。彼女はやもめのようにになった。国々の間で力に満ちていた者、もろもろの州の女王が、苦役に服することになった。
- 2 彼女は泣きながら夜を過ごす。涙が頬を伝っている。彼女が愛する者たちの中には、慰める者はだれもない。その友もみな裏切り、彼女の敵となってしまった。
- 3 悩みと多くの労役の後に、ユダは捕らえ移された。彼女は諸国の中に住み、憩いを見出すことがない。追い迫る者たちはみな追いついた。彼女が苦しみのただ中にあるときに。
- 4 シオンへの道は喪に服し、例祭に行く者はだれもない。その門はみな荒れ果て、その祭司たちはうめく。おとめたちは憂いに沈む。シオンが苦しんでいるのだ。
- 5 彼女に逆らう者がかしらとなり、彼女の敵が栄えている。彼女の多くの背きのゆえに、主が憂いを与えられたのだ。幼子たちも、捕らわれの身となり、逆らう者の前に出て行った。
- 6 娘シオンから、そのすべての輝きが去った。彼女の首長たちは、青草を見出せない鹿のようになり、追い迫る者の前をただ力無く歩んで行った。
- 7 エルサレムは思い出す。苦しみとさすらいの日々にあって、昔から持っていた自分のすべての宝を。その民が敵の手に倒れ、だれも助ける者がいないとき、敵はその破滅を見て、あざ笑う。
- 8 エルサレムは罪に罪を重ねた。そのため、汚らしいものとなった。彼女を尊んだ者たちはみな、その裸を見て、これを卑しめる。彼女もうめいて、その背を向ける。
- 9 彼女の汚れは裾に付いている。彼女は自分の末路を考えない。それで、驚くほど落ちぶれて、だれも彼女を慰めない。「主よ、私の苦しみを顧みてください。敵が勝ち誇っています。」
- 10 敵は、彼女が宝としているものすべてにその手を伸ばした。諸国の民がその聖所に入るのを彼女は見た。あなたの集いに加わってはならないと、あなたが命じた者たちが。
- 11 彼女の民はみなうめき、食べ物を探している。気力を取り戻そうとして、自分の宝を食物に換えている。「主よ、よく見てください。私は卑しい女になりました。」
- 12 あなたがたには関係がないのか。道行くすべての人よ、よく見よ。このような苦痛がほかにあるか。私が被り、主の燃える怒りの日に主が私を悩ませたような苦痛が。
- 13 主はいと高き所から私の骨の中に火を送り込まれた。私の足もとに網を張り、私が背を向けるようにされた。私を荒れすさんだ女、終日、病んでいる女とされた。
- 14 私の背きのくびきは重く、主の手で、私に結びつけられ、私の首の上に載せられた。主は私の力をくじき、私を渡された。私が立ち向かえない者の手に。
- 15 主は、私のうちの強者たちをみな追い払われた。私を標的として「例祭」を呼びかけ、私の若い男たちを滅ぼされた。主は、ぶどう踏みをするように、おとめ、娘ユダを踏みつぶされた。
- 16 これらのことで、私は泣いている。私の目、この目から涙があふれる。元気づけ、慰めてくれる者が、私から遠く離れたからだ。敵に圧倒されて、私の子らは啞然とする。

- 17** シオンが両手を差し出しても、これを慰める者はいない。主は、ヤコブの周囲の者たちが彼の敵となるように命じられた。エルサレムは彼らの間で汚らしいものとなった。
- 18** 主は正しい方である。しかし、私は主の命令に逆らった。すべての国々の民よ、聞け。私の苦痛を見よ。若い女たちも、若い男たちも、捕らわれの身となって行った。
- 19** 私は、私を愛する者たちを呼んだが、彼らは私を欺いた。私の祭司も長老たちも、都の中で息絶えた。気力を取り戻そうとして、食物を探していたときに。
- 20** 「主よ、ご覧ください。私は苦しみの中にあり、はらわたはかき回され、私の心は私のうちで打ちのめされています。私が逆らい続けたからです。外では剣が子を奪い、家の中は死のようです。
- 21** 私のうめきを聞いても、慰めてくれる者はだれもいません。敵はみな、私のわざわいを聞いて喜びました。あなたがそうなさったからです。あなたが告げられた日を来させてください。彼らも私と同じようになるために。
- 22** 彼らの悪のすべてが、御前に出されますように。そして彼らに報いてください。あなたが、私のすべての背きに対して 報いを返されたように。私のうめきは大きく、私の心は弱っています。」

第2章

- 1 ああ、主は娘シオンを 御怒りの雲でおおい、イスラエルの栄えを 天から地に投げ落とし、御怒りの日に、ご自分の足台を思い出されなかった。
- 2 ヤコブのすべての住まいを 主は呑み込み、容赦なさらなかった。憤って娘ユダの要塞を打ち壊し、地に打ち倒して、王国とその首長たちを汚された。
- 3 燃える怒りをもって、イスラエルのすべての角を折り、敵の前で 右の手を引き戻し、あたりを焼き尽くす炎のように、ヤコブを焼かれた。
- 4 主は敵のようにして、弓を引き絞り、はむかう者のようにして、右の手でしっかり構え、いとしい者たちをみな虐殺した。主は娘シオンの天幕に、火のように憤りを注がれた。
- 5 主は、敵のようになって、イスラエルを呑み込まれた。そのすべての宮殿を呑み込み、その要塞を破壊し、娘ユダにうめきと嘆きを 増し加えられた。
- 6 主は、園にするように、ご自分の幕屋を荒らし、例祭の場所を滅ぼされた。主はシオンでの例祭と安息日を忘れさせ、激しい憤りをもって、王と祭司を退けられた。
- 7 主は、その祭壇を拒み、聖所を退け、その宮殿の城壁を 敵の手に引き渡された。例祭の日のように、彼らは主の宮で声をあげた。
- 8 主は、娘シオンの城壁を 打ち壊そうと決め、測り縄でこれを測り、滅ぼすことから手を引かれなかった。壘と城壁は悲しみ嘆き、ともに崩れ落ちた。
- 9 彼女の城門は地に沈み込み、主はそのかんぬきを打ち壊して砕かれた。その王も首長たちも異邦の民の中にあり、もはや律法はなく、預言者たちも、主からの幻を見出さなかった。
- 10 娘シオンの長老たちは、地に座して黙し、頭にちりをかぶり、身に粗布をまとった。エルサレムのおとめたちは、頭を地に付くほど垂れた。
- 11 私の目は涙でかすみ、はらわたはかき回され、肝は地に注ぎ出された。私の民の娘の破滅のために。幼子や乳飲み子が 都の広場で衰え果てている。
- 12 彼らは母親に言い続ける。穀物とぶどう酒はどこにあるのかと。町の広場で負傷した者のように 衰え果てたときに、母親の懷で 息絶えそうなときに。
- 13 娘エルサレムよ。あなたのことをどう証言し、何になぞらえよう。おとめ、娘シオンよ。あなたを何に比べて、あなたを慰めよう。実に、あなたの傷は海のように大きい。だれがあなたを癒やすことができよう。
- 14 あなたの預言者たちは、あなたについて、むなしい、ごまかしの幻を見た。あなたの咎を暴いて、あなたを元どおりにしようとはせず、あなたについて、むなしい宣告と、惑わすことばの幻を見た。
- 15 道行く人はみな、あなたに向かって手を打ち鳴らし、娘エルサレムを 嘲って頭を振り、「これが、美の極み、全地の喜びと言われた都か」と言う。
- 16 あなたの敵はみな、あなたに向かって大きく口を開け、口笛を吹き、歯をむき出しにして言う。「われわれがこれを呑み込んだ。ああ、これこそ待ち望んでいた日。これに巡り会い、じかに見た」と。

- 17 主は計画したことを行い、昔から命じていた自らのことばを成し遂げられた。滅ぼして、容赦せず、あなたのことで敵を喜ばせ、逆らう者の角を高く上げられた。
- 18 彼らは主に向かって心の底から叫んだ。娘シオンの城壁よ、昼も夜も、川のように涙を流せ。自分に休みを与えるな。あなたの瞳を休ませてはならない。
- 19 夜、見張りの始まりに、立って大声で叫べ。あなたの心を主の前に、水のように注ぎ出せ。あなたの幼子たちのいのちのために、主に向かって両手を上げよ。彼らは街頭のいたるところで、飢えのために衰えきっている。
- 20 「主よ、よくご覧ください。だれにこのような仕打ちをなさったのかを。女たちが、自分の胎の実を、養い育てた幼子を食べてよいのでしょうか。祭司や預言者が、主の聖所で虐殺されてよいのでしょうか。
- 21 若い者も年寄りも 道端で地に横たわり、若い女たちも若い男たちも 剣に倒れました。あなたは御怒りの日に虐殺し、屠り、容赦されませんでした。
- 22 あなたは、例祭の日のように、私の恐怖を、四方から呼び集めました。そのため主の御怒りの日には、生き残る者も逃れる者もいませんでした。私が養い育てた者たちを、私の敵は滅ぼし尽くしました。」

第3章

- 1 私は、主の激しい怒りのむちを受けて 苦しみにあった者。
- 2 主は、私を連れ去り、 光のない闇を歩ませ、
- 3 御手をもって一日中、 繰り返して私を攻められた。
- 4 主は、私の肉と皮をすり減らし、 私の骨を砕き、
- 5 私に対して陣を敷き、 苦味と苦難で私を取り巻き、
- 6 私を暗い所に住まわせられた。 はるか昔に死んだ者のように。
- 7 主は私を囲いに入れて出られなくし、 私の青銅の足かせを重くされた。
- 8 私が助けを求めて叫んでも、 主は私の祈りを聞き入れず、
- 9 私の道を切り石で囲み、 私の通り道をねじ曲げられた。
- 10 主は、私には待ち伏せる熊、 隠れたところにいる獅子。
- 11 主は私を道から外れさせ、 私を引き裂き、 無残な姿にされた。
- 12 弓を引き絞り、 私を矢の的のようにして、
- 13 矢筒の矢を、 私の腎臓に射込まれた。
- 14 私は一日中、 民全体の笑いもの、 彼らの嘲りの歌となった。
- 15 主は私を苦菜で満腹にし、 苦よもぎで酔わせ、
- 16 私の歯を砂利で砕き、 灰の中で私を踏みつけられた。
- 17 私のたましいは平安から見放され、 私は幸せを忘れてしまった。
- 18 私は言った。「私の誉れと、 主から受けた望みは消え失せた」と。
- 19 私の苦しみとさすらいの思い出は、 苦よもぎと苦味だけ。
- 20 私のたましいは、 ただこれを思い出しては沈む。
- 21 私はこれを心に思い返す。 それゆえ、私は言う。「私は待ち望む。
- 22 主の恵みを。」 実に、私たちは滅び失せなかった。 主のあわれみが尽きないからだ。
- 23 それは朝ごとに新しい。「あなたの真実は偉大です。
- 24 主こそ、私への割り当てです」と 私のたましいは言う。 それゆえ、私は主を待ち望む。
- 25 主はいつくしみ深い。 主に望みを置く者、主を求めるたましいに。
- 26 主の救いを 静まって待ち望むのは良い。
- 27 人が、若いときに、 くびきを負うのは良い。
- 28 それを負わされたなら、 ひとり静まって座っていよ。
- 29 口を土のちりにつけよ。 もしかすると希望があるかもしれない。
- 30 自分を打つ者には頬を向け、 十分に恥辱を受けよ。
- 31 主は、いつまでも見放してはおられない。
- 32 主は、たとえ悲しみを与えたとしても、 その豊かな恵みによって、人をあわれまれる。
- 33 主が人の子らを、 意味もなく、苦しめ悩ませることはない。
- 34 地上の捕らわれ人を みな足の下に踏みにじり、

- 35 人の権利を、いと高き方の前で曲げ、
- 36 訴訟で人を不当に扱うのを、主は見ておられないだろうか。
- 37 主が命じられたのでなければ、だれが語って、このようなことが起きたのか。
- 38 わざわいも幸いも、いと高き方の御口から出るのではないか。
- 39 生きている人間は、なぜ不平を言い続けるのか。自分自身の罪のゆえにか。
- 40 自分たちの道を尋ね調べて、主のみもとに立ち返ろう。
- 41 自分たちの心を、両手とともに、天におられる神に向けて上げよう。
- 42 「私たちは背き、逆らいました。あなたは赦してくださいませんでした。
- 43 あなたは、怒りを身にまとい、私たちを追い、容赦なく殺されました。
- 44 あなたは雲を身にまとい、私たちの祈りをさえぎり、
- 45 私たちを諸国の民の間で、ごみ屑とされました。」
- 46 私たちの敵はみな、私たちに向かって口を大きく開け、
- 47 恐れと落とし穴、荒廃と破滅が私たちに臨んだ。
- 48 娘である私の民の破滅のために、私の目から涙が川のように流れる。
- 49 私の目は絶えず涙を流して、やむことなく、
- 50 主が天から見下ろして、顧みられるときまで続く。
- 51 私の目は、都のすべての娘たちを見て、この心を苦しめる。
- 52 私の敵たちは、わけもなく、鳥を狙うように、私をつけ狙った。
- 53 私を穴に落として、いのちを滅ぼそうとし、私に石を投げつけた。
- 54 水は私の頭の上にあふれ、私は「断ち切られた」と言った。
- 55 「主よ、私は御名を呼びました。穴の深みから。
- 56 あなたは私の声を聞かれました。私のうめき声に、私の叫びに、耳を閉ざさないでください。
- 57 私があなたを呼び求めると、あなたは近づき、『恐れるな』と言われました。
- 58 主よ。あなたは私のたましいの訴えを取り上げ、私のいのちを贖ってくださいました。
- 59 主よ。あなたは、私が虐げられるのをご覧になりました。どうか、私の訴えを正しくさばいてください。
- 60 あなたは、私に対する彼らの復讐を、彼らの企みのすべてをご覧になりました。
- 61 主よ。あなたは、私に対する彼らのそしりを、彼らの企みのすべてを聞かれました。
- 62 私に向かい立つ者たちの唇と嘲りが、一日中、私に向けられています。
- 63 彼らの起き伏しに目を留めてください。私は彼らのからかいの歌となっています。
- 64 主よ。彼らの手のわざに応じて、彼らに報復し、
- 65 彼らの心に覆いをかけ、彼らに、あなたののろいを下してください。
- 66 御怒りをもって彼らを追い、主の天の下から根絶やしにしてください。」

第4章

- 1 ああ、金は黒ずみ、美しい黄金は色あせ、聖なる石は、道端のいたるところに 投げ捨てられている。
- 2 高価であり、純金で値踏みされる シオンの子らが、ああ、土の壺、陶器師の手のわざと見なされている。
- 3 ジャッカルさえも乳房をふくませて、その子に乳を飲ませる。しかし、娘である私の民は、荒野のだちょうのように無慈悲となった。
- 4 乳飲み子の舌は渴いて 上あごにへばり付き、幼子たちがパンを求めても、割いてやる者もない。
- 5 ごちそうを食べていた者たちは 街頭で痩せ衰え、緋色の衣で育てられた者たちは 堆肥をかき集めるようになった。
- 6 娘である私の民の咎は ソドムの罪よりも大きかった。人の手によらずに、一瞬で崩壊したソドムより。
- 7 その聖別された者たちは雪よりも清く、乳よりも白かった。そのからだは珊瑚よりも赤く、容姿はサファイアのようにであった。
- 8 しかし、彼らの顔はすすより黒くなり、街頭でもそれと分らない。彼らの皮膚は干からびて骨に付き、乾いて木のようになった。
- 9 剣で殺される人は、飢えで殺される者たちより幸せであった。その者たちは、畑の実りがなかったために、痩せ衰えて死んでいった。
- 10 あわれみ深い女たちが、自分の手で自分の子を煮た。娘である私の民が破滅したとき、それが彼女たちの食物となった。
- 11 主は憤りを出し尽くし、燃える怒りを注ぎ出された。主はシオンに火を放ち、火はその礎を焼き尽くした。
- 12 地の王たちは信じていなかった。世界に住むすべての者も。仇や敵がエルサレムの門に入ってくるとは。
- 13 これはその預言者たちの罪、祭司たちの咎のためである。彼らは、その町のただ中で、正しい人たちの血を流した。
- 14 彼らは血で汚れ、目の見えない人のように街頭をさまよい、だれも彼らの衣に 触れることはできなかった。
- 15 「向こうへ行け。汚れた者」と人々は彼らに叫ぶ。「向こうへ行け。向こうへ行け。さわるな。」彼らは、立ち去って、なおもさまよい歩く。国々の中で人々は言う。「彼らは二度とここに寄留してはならない」と。
- 16 主ご自身が彼らを散らされた。もう彼らに目を留められることはない。祭司たちは尊ばれず、長老たちは敬われなかった。
- 17 そのうえ、私たちの目は衰えていき、助けを求めたが、空しかった。私たちは、救いをもたらさない国に期待をかけ、見張り場で見張りをしたのだ。

- 18** 私たちの歩みはつけ狙われて、 広場を歩くこともできなかった。私たちの終わりは近づいた。私たちの日は満ちた。私たちの終わりが来たのだ。
- 19** 私たちを追う者たちは、 大空の鷲よりも速かった。山々の上まで追い迫り、 荒野で私たちを待ち伏せした。
- 20** 私たちの鼻の息、主に油注がれた者が、 彼らの落とし穴で捕らえられた。私たちは「この方の陰なら、国々の中でも 生き延びられる」と思っていた。
- 21** ウツの地に住む娘エドムよ、 楽しみ喜べ。だが、あなたにも杯は巡って来る。あなたは酔って自分の裸をさらす。
- 22** 娘シオンよ、あなたへの刑罰は果たされた。主はもう、あなたを捕らえ移すことはなさない。だが、娘エドムよ、主はあなたの咎を罰し、 あなたの罪を暴かれる。

第5章

- 1 主よ。私たちに起こったことを心に留め、私たちの汚名に目を留めて、よく見てください。
- 2 私たちのゆずりの地は他国人の手に、私たちの家は異国の民の手に渡りました。
- 3 私たちは父のいないみなしごとなり、母はやもめのようにになりました。
- 4 私たちは自分の水を、金を払って飲みます。薪も、代価を払って手に入れます。
- 5 私たちはくびきを負って、追い立てられ、疲れ果てても憩いを与えられません。
- 6 私たちは十分な食物を得ようと、エジプトやアッシリアに手を伸ばしました。
- 7 私たちの先祖は罪を犯し、今はもういません。彼らの咎は私たちが負いました。
- 8 奴隷たちが私たちを支配し、彼らの手から解放してくれる者はいません。
- 9 荒野には剣があり、私たちは、いのちがけで食物を得ています。
- 10 私たちの皮膚は、飢饉の激しい熱で、かまどのように熱くなりました。
- 11 女たちはシオンで、おとめたちはユダの町々で、辱められました。
- 12 首長たちは彼らの手で木につるされ、長老たちは尊ばれませんでした。
- 13 若い男たちはひき臼をひかされ、幼い者たちは薪を背負ってよろめきました。
- 14 長老たちは、城門のところに集まることを、若い男たちは、楽器を鳴らすことをやめました。
- 15 私たちの心から喜びが消え、踊りは喪に変わりました。
- 16 冠も頭から落ちました。私たちは、ああ、罪ある者となりました。
- 17 このために、私たちの心は病みました。これらのために、目は暗くなりました。
- 18 荒れ果てたシオンの山の上を、そこを狐が歩き回っています。
- 19 主よ。あなたはとこしえに御座に着かれ、あなたの王座は代々に続きます。
- 20 なぜ、いつまでも私たちをお忘れになるのですか。私たちを長い間、捨てておかれるのですか。
- 21 主よ、あなたのみもとに帰らせてください。そうすれば、私たちは帰ります。昔のように、私たちの日々を新しくしてください。
- 22 あなたが本当に、私たちを退け、極みまで私たちを怒っておられるのであれば。

エゼキエル書

Ezekiel

第1章

- 1 第三十年の第四の月の五日、私がケバル川のほとりで捕囚の民とともにいたとき、天が開け、私は神々しい幻を見た。
- 2 それはエホヤキン王が捕囚となってから五年目の時であった。その月の五日に、
- 3 カルデア人の地のケバル川のほとりで、ブジの子、祭司エゼキエルに主のことばが確かに臨んだ。その場所で主の御手が彼の上にあった。
- 4 私が見ていると、見よ、激しい風が北からやって来た。それは大きな雲と、きらめき渡る火を伴い、その周りには輝きがあった。その火の中央からは琥珀のようなきらめきが出ていた。
- 5 その中に生きもののようなものが四つ現れ、その姿は次のようであった。彼らは人間のような姿をしていたが、
- 6 それぞれ四つの顔と四つの翼を持っていた。
- 7 その足はまっすぐで、足の裏は子牛の足の裏のようであり、磨かれた青銅のようにきらめいていた。
- 8 その翼の下から人間の手が四方に出ていた。また、その四つの生きものの顔と翼は次のようであった。
- 9 彼らの翼は互いに触れ合っていて、進むときには向きを変えず、それぞれ正面に向かってまっすぐに進んだ。
- 10 彼らの顔かたちは人間の顔で、四つとも右側には獅子の顔、四つとも左側には牛の顔、さらに四つとも鷲の顔を持っていた。
- 11 これが彼らの顔であった。彼らの翼は上方に広げられ、それぞれ、二つは互いに触れ合っていて、もう二つはそれぞれのからだをおおっていた。
- 12 彼らはそれぞれ前を向いてまっすぐに進んだ。霊が進ませるところに彼らは進み、進むときには向きを変えなかった。
- 13 それらの生きものの姿は燃える炭火のようであり、たいまつのように見えた。火がそれらの生きものの間を行き来していた。火には輝きがあり、その火から稲妻が出ていた。
- 14 それらの生きものは、閃光のように出たり入ったりしていた。
- 15 私がその生きものを見ていると、それら四つの顔の生きもののそばには、地の上にそれぞれ輪が一つずつあった。
- 16 それらの輪の形と作りは、輝く緑柱石のようで、四つともよく似ていた。それらの形と作りは、ちょうど、輪の中に輪があるようであった。
- 17 それらは四方のどの方向にも進み、進むときには向きを変えなかった。
- 18 その輪の周りの縁は高さがあって恐ろしく、四つの輪の周りの縁は一面、目で満ちていた。
- 19 生きものが進むときには輪もそのそばを進み、生きものが地上から上がるときには輪も上がった。

- 20 これらは霊が進もうとするところに進み、輪もまたそれらとともに上がった。生きものの霊が輪の中にあっただからである。
- 21 生きものが進むときには輪も進み、生きものが止まるときには輪も止まり、生きものが地上から上がるときには輪も上がった。生きものの霊が輪の中にあっただからである。
- 22 生きものの頭上には、まばゆい水晶のような大空に似たものがあり、頭上高く広がっていた。
- 23 その大空の下で、その翼が互いにまっすぐに伸び、それぞれ一対の翼が彼らをおおっていた。それぞれの一対の翼が彼らのからだをおおっていたのである。
- 24 彼らが進むとき、私は彼らの翼の音を聞いた。それは大水のとどろきのよう、全能者の声のようであり、そのどよめきは陣営の騒音のようであった。彼らが止まるときに、その翼は垂れた。
- 25 彼らの頭上にある大空から声があった。彼らが止まったとき、その翼は垂れた。
- 26 彼らの頭上、大空のはるか上の方には、サファイアのように見える王座に似たものがあり、その王座に似たもののはるか上には、人間の姿に似たものがあった。
- 27 私が見ると、その腰と見えるところから上の方は、その中と周りが琥珀のきらめきのように輝き、火のように見えた。腰と見えるところから下の方に、私は火のようなものを見た。その方の周りには輝きがあった。
- 28 その方の周りには輝きは、雨の日の雲の間にある虹のようであり、まさに主の栄光の姿のようであった。私はこれを見て、ひれ伏した。そのとき、私は語る者の声を聞いた。

第2章

- 1 その方は私に言われた。「人の子よ、自分の足で立て。わたしがあなたに語る。」
- 2 その方が私に語りかけると、霊が私のうちに入り、私を自分の足で立たせた。そのとき、私は自分に語りかけることばを聞いた。
- 3 その方は私に言われた。「人の子よ。わたしはあなたをイスラエルの民に、わたしに反抗する国民に遣わす。彼らもその先祖たちも、今日までわたしに背いてきた。
- 4 彼らは厚かましく、頑なである。わたしはあなたを彼らに遣わす。あなたは彼らに『神である主はこう言われる』と言え。
- 5 反逆の家だから、聞く聞かないに関わりなく、彼らは自分たちのうちに預言者がいることを知らなければならない。
- 6 人の子よ。あなたは彼らや彼らのことばを恐れるな。あざみと茨があなたと一緒にあり、サソリの間に住んでも、恐れるな。そのことばを恐れるな。彼らの顔におびえるな。彼らは反逆の家なのだから。
- 7 彼らは反逆の家だから、聞く聞かないに関わりなく、あなたはわたしのことばを彼らに語れ。
- 8 人の子よ。あなたは、わたしがあなたに語ることを聞け。反逆の家のように、あなたは逆らってはならない。あなたの口を大きく開けて、わたしがあなたに与えるものを食べよ。」
- 9 私が見ると、なんと、私の方に手が伸ばされていて、その中に一つの巻物があった。
- 10 その方はそれを私の前で広げた。それは表にも裏にも文字が書かれていた。そこに嘆きと、うめきと、悲痛が記されていた。

第3章

- 1 その方は私に言われた。「人の子よ。あなたの前にあるものを食べよ。この巻物を食べ、行ってイスラエル家に告げよ。」
- 2 私が口を開けると、その方は私にその巻物を食べさせ、
- 3 そして言われた。「人の子よ。わたしがあなたに与えるこの巻物を食べ、それで腹を満たせ。」私がそれを食べると、それは口の中で蜜のように甘かった。
- 4 その方はまた、私に言われた。「人の子よ。さあ、イスラエル家に行き、わたしのことばをもって彼らに語れ。
- 5 あなたは、難しい外国語を話す民にではなく、イスラエル家に遣わされるのだ。
- 6 あなたを、そのことばを聞いても分からないような、難しい外国語を話す多くの民に遣わすのではない。もし、わたしがこれらの民にあなたを遣わしたのなら、彼らはあなたの言うことを聞いたであろう。
- 7 しかし、イスラエル家はあなたの言うことを聞こうとはしない。彼らがわたしの言うことを聞こうとしないからだ。イスラエルの全家は額が硬く、心が頑だからだ。
- 8 見よ。わたしはあなたの顔を、彼らの顔に合わせて硬くし、あなたの額を、彼らの額に合わせて硬くする。
- 9 わたしはあなたの額を、火打石よりも硬いダイヤモンドのようにする。彼らを恐れるな。彼らの顔におびえるな。彼らは反逆の家なのだから。」
- 10 その方は私に言われた。「人の子よ。わたしがあなたに告げるすべてのことばをあなたの心に納め、あなたの耳で聞け。
- 11 さあ、捕囚になっているあなたの民のところへ行き、彼らに告げよ。彼らが聞いても、聞かなくても、『神である主はこう言われる』と彼らに言え。」
- 12 それから、霊が私を引き上げた。そのとき私は、うしろの方で、「主の栄光が御住まいでほめたたえられますように」という大きなとどろきを聞いた。
- 13 それは、互いに触れ合う生きものたちの翼の音と、そのそばの輪の音で、大きなとどろきになっていた。
- 14 霊は私を持ち上げ、私を捕らえた。それで、私は自分の霊の憤りを覚えつつ、苦々しい思いで出て行った。主の御手は私の上に強くのしかかっていた。
- 15 私はテル・アビブの捕囚の民のところへ行った。彼らはケバル川のほとりに住んでいたが、私は彼らが住んでいるその場所で、七日間、茫然として彼らの中に座っていた。
- 16 七日の終わりになって、次のような主のことばが私にあった。
- 17 「人の子よ。わたしはあなたをイスラエル家の見張りとした。あなたは、わたしの口からことばを聞き、わたしに代わって彼らに警告を与えよ。
- 18 わたしが、悪い者に『あなたは必ず死ぬ』と言うとき、もしあなたが彼に警告を与えず、悪い者に悪の道から離れて生きるように警告しないなら、その悪い者は自分の不義のゆえに死ぬ。そして、わたしは彼の血の責任をあなたに問う。

- 19 もしあなたが悪い者に警告を与えても、彼がその悪と悪の道から立ち返ることがないなら、彼は自分の不義のゆえに死ななければならない。しかし、あなたは自分のいのちを救うことになる。
- 20 また、正しい人がその正しい行いをやめて不正を行うなら、わたしは彼の前につまずきを置く。彼は死ななければならない。あなたが彼に警告を与えなかったので、彼は自分の罪のゆえに死ぬ。彼が行った正しい行いは覚えられない。そして、わたしは彼の血の責任をあなたに問う。
- 21 しかし、もしあなたがその正しい人に、罪を犯さないように警告を与え、彼が罪を犯さないようになれば、彼は警告を聞いたのであるから、彼は必ず生き、あなたも自分のいのちを救うことになる。」
- 22 その場所で主の御手が私の上にあった。主は私に言われた。「さあ、平地に出て行け。そこでわたしはあなたに語ろう。」
- 23 私は平地に出て行った。すると、主の栄光が、かつて私がケバル川のほとりで見た栄光のように、そこにとどまっていた。それで私はひれ伏した。
- 24 それから、霊が私のうちに入り、私を自分の足で立たせた。主は私に語りかけられた。「行って、あなたの家に閉じこもっていなさい。
- 25 人の子よ。今に人々があなたに縄をかけて縛るので、あなたは彼らのところに出て行けなくなる。
- 26 わたしがあなたの舌を上あごに付かせるので、あなたは話せなくなり、あなたは彼らにとって責める者ではなくなる。彼らは反逆の家なのだから。
- 27 しかしわたしは、あなたと語るときにあなたの口を開く。あなたは彼らに『神である主はこう言われる』と言え。聞く者には聞かせ、聞かない者には聞かせるな。彼らは反逆の家なのだから。

第4章

- 1 人の子よ。あなたは粘土の板を一枚取り、それを自分の前に置き、その上にエルサレムの町を描け。
- 2 それから、それに対する包囲網を張れ。それに対して塁を築き、包囲壁を作れ。それに対して陣営を設け、周りに城壁崩しを配備せよ。
- 3 また、鉄の板一つを取り、それをあなたと町との間に鉄の壁として立てよ。あなたが自分の顔をしっかりとこの町に向けると、この町は包囲される。あなたがこれを攻め囲むのだ。これがイスラエルの家に対するしるしだ。
- 4 あなたは左脇を下にして身を横たえ、イスラエルの家の咎をその上に置け。あなたがそのように横たわっている日数だけ彼らの咎を負え。
- 5 わたしはあなたのために、彼らの咎の年数を日数にして三百九十日とする。このように、あなたはイスラエルの家の咎を負わなければならない。
- 6 あなたがこれらのことを終えたら、次に右脇を下にして身を横たえ、ユダの家の咎を四十日間、負わなければならない。わたしは一年を一日としてあなたに課す。
- 7 それから、あなたは顔をしっかりと、包囲されているエルサレムの方に向け、腕をまくり、これに向かって預言せよ。
- 8 見よ。わたしはあなたに縄をかけ、あなたの包囲の期間が終わるまで寝返りができないようにする。
- 9 あなたは小麦、大麦、そら豆、レンズ豆、粟、裸麦を取り、それらを一つの器に入れ、それで自分のためにパンを作り、あなたが脇を下にして横たわっている日数、すなわち三百九十日間それを食べよ。
- 10 あなたが食べる食物は、重さにして一日分二十シェケルである。一日一回それを食べよ。
- 11 あなたが飲む水も、六分の一ヒンを量って、それを一日一回飲め。
- 12 あなたは大麦のパン菓子を食べよ。それを彼らの目の前で、人の糞で焼け。」
- 13 主は言われた。「このようにイスラエルの民は、わたしが追いやる国々の中で、自分たちの汚れたパンを食べなければならない。」
- 14 そこで私は言った。「ああ、神、主よ。私は身を汚したことはありません。幼い時から今まで、死んだ動物や野獣にかみ裂かれたものを食べたことも、不浄な肉を口にすることもありません。」
- 15 すると、主は私に言われた。「では、人の糞の代わりに牛の糞でよい。あなたはその上で自分のパンを作れ。」
- 16 そして私に言われた。「人の子よ、見よ。わたしはエルサレムで、パンの蓄えをなくそうとしている。彼らは恐る恐る量ってパンを食べ、おびえながら水を量って飲む。
- 17 こうしてパンと水が乏しくなり、だれもかれもが茫然として、自分たちの咎のゆえに朽ち果てる。

第5章

- 1 人の子よ、あなたは鋭い剣を取れ。それを床屋のかみそりのように使って、あなたの髪とひげを剃れ。それから秤を使って量り、その毛を分けよ。
- 2 その三分の一を、包囲の期間の終わるときに町の中で焼き、またもう三分の一を取って町の周りで剣で打ち、残りの三分の一を風に乘せて散らせ。わたしは剣を抜いてその後を追う。
- 3 あなたはそこからわずかな毛を取って、あなたの衣の裾に包み、
- 4 その中からさらにいくらかを取って、火の中に投げ入れ、火で燃やせ。火がそこから出て、イスラエルの全家に燃え移る。」
- 5 神である主はこう言われる。「これがエルサレムだ。わたしはこれを諸国の民のただ中に置き、その周りを国々が取り囲むようにした。
- 6 エルサレムは悪事を働き、諸国の民以上にわたしの定め、周囲の国々以上にわたしの掟に逆らった。実に、エルサレムはわたしの定めを嫌い、わたしの掟に従って歩まなかった。
- 7 それゆえ—神である主はこう言われる—あなたがたは周りの国々よりも粗暴な者たちで、わたしの掟に従って歩まず、わたしの定めを行わず、それどころか、あなたがたの周りの国々の定めさえ行わなかった。
- 8 それゆえ—神である主はこう言われる—今、わたしはあなたを敵とし、国々の目の前で、あなたのただ中でさばきを下す。
- 9 あなたのしたすべての忌み嫌うべきことのゆえに、これまでしたこともなく、これからもしないようなことを、あなたに対して行う。
- 10 それで、あなたのうちの父は自分の子どもを食べ、子どもは自分の父を食べようになる。わたしは、あなたにさばきを下し、あなたのうちの残りの者をみな四方に散らす。
- 11 それゆえ—神である主のことば—わたしは生きている。あなたが、あらゆる忌まわしいものと、あらゆる忌み嫌うべきことによって、わたしの聖所を汚したので、わたしもまた身を引き、あわれみをかけない。わたしもまた、惜しまない。
- 12 あなたの三分の一は疫病で死ぬか、あなたのただ中で飢饉によって滅び、三分の一はあなたの周りで剣に倒れ、残りの三分の一を、わたしは四方に散らし、剣を抜いて彼らの後を追う。
- 13 わたしの怒りが出し尽くされると、わたしは彼らに対する憤りを収めて満足する。わたしが彼らに対する憤りを終わらせたとき、彼らは、主であるわたしが、ねたみをもって語ったことを知る。
- 14 わたしは、あなたの周りの国々の中で、通り過ぎるすべての者の目の前で、あなたを廃墟とし、そしりの的とする。
- 15 わたしが、怒り、憤り、また憤りによる懲罰をもってあなたにさばきを下すとき、あなたは周りの国々のそしりとののしりの的、教訓と恐怖となる。主であるわたしがこれを告げる。

- 16 わたしが飢饉という悪しき矢を、滅びのため彼らに放ち、あなたがたを滅ぼそうとして放つとき、わたしは飢饉をあなたがたの上にいっそう増して、あなたがたのパンの蓄えをなくす。
- 17 わたしはあなたがたに飢饉と悪い獣を送る。それらはあなたに子を失わせる。疫病と流血があなたのうちに起こる。わたしはあなたの上に剣をもたらず。主であるわたしがこれを告げる。」

第6章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ。イスラエルの山々に顔を向け、それらに向かって預言せよ。
- 3 『イスラエルの山々よ、神である主のことばを聞け。神である主は、山や丘、谷川や谷に向かってこう言われる。見よ。わたしは剣をあなたがたの上にもたらし、あなたがたの高き所を滅ぼす。
- 4 あなたがたの祭壇は荒らされ、あなたがたの香の台は破壊される。わたしはあなたがたの中の刺し殺された者どもを、あなたがたの偶像の前に投げ捨てる。
- 5 わたしはイスラエルの民の屍を彼らの偶像の前に置き、あなたがたの骨をあなたがたの祭壇の周りに散らす。
- 6 あなたがたがどこに住もうとも、町々は廃墟となり、高き所は荒らされる。こうして、あなたがたの祭壇は廃墟となり、罰を受ける。あなたがたの偶像は破壊されて消滅し、あなたがたの香の台は切り倒され、あなたがたのわざは消し去られ、
- 7 刺し殺された者があなたがたのただ中に横たわる。そのときあなたがたは、わたしが主であることを知る。
- 8 しかし、わたしは、あなたがたのうちのある者を残しておく。あなたがたが諸国に追い散らされるとき、剣から逃れる者たちを国々の中に残す。
- 9 あなたがたのうちで逃れた者たちは、捕虜になって行った国々で、わたしから離れた彼らの姦淫の心と、偶像を慕う彼らの姦淫の目に、わたしがどんなに傷ついたかを思い起こす。自分たちのした悪や、あらゆる忌み嫌うべきことを、彼ら自らが嫌うようになるとき、
- 10 彼らは、わたしが主であること、また、わたしが理由もなく、このわざわいを彼らに下すと言ったのではないことを知る。』」
- 11 神である主はこう言われる。「あなたは手をたたき、足を踏み鳴らして、イスラエルの家の、忌み嫌うべきすべての悪のゆえに、『ああ』と嘆け。彼らが剣と飢饉と疫病によって倒れるからだ。
- 12 遠くにいる者は疫病で死に、近くにいる者は剣に倒れ、生き残って監視されている者は飢饉で死ぬ。こうして、わたしは彼らに対する激しい憤りを終わらせる。
- 13 彼らのうちの刺し殺された者たちが、祭壇の周りの自分たちの偶像の間に、すべての高い丘の上や山々の頂に、すべての青々とした木の下や、すべての茂った櫟の木の下に、すなわち、彼らがあらゆる偶像に芳ばしい香りを供えた場所に横たわるとき、あなたがたは、わたしが主であることを知る。
- 14 わたしが彼らの上に手を伸ばし、すべて彼らの住む所、荒野からリブラまでの地を完全に荒廃した地とするとき、彼らは、わたしが主であることを知る。」

第7章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ、あなたは言え。『イスラエルの地に対して神である主はこう言われる。終わりが来た。終わりが来た。この国の四隅にまで。
- 3 今、あなたに終わりが臨む。わたしは怒りをあなたのうちに送り、あなたの生き方にしたがってあなたをさばき、あなたのすべての忌み嫌うべきわざに報いる。
- 4 わたしはあなたにあわれみをかけない。わたしはあなたを惜しまない。忌み嫌うべきことが、あなたの中にあるうちに、わたしはあなたの行いをあなたの上に返す。そのときあなたがたは、わたしが主であることを知る。
- 5 神である主はこう言う。わざわいだ。類のないわざわいだ。見よ、それは来る。
- 6 終わりが来る。終わりが来る。あなたのために機が熟した。見よ、それは来る。
- 7 地に住む者よ、あなたの上に終局が来る。その時が来る。その日は近い。山々での歓声の日ではなく、恐慌の日だ。
- 8 今、間もなく、わたしは憤りをあなたに注ぎ、わたしの怒りをあなたに出し尽くす。あなたの生き方のとおりにあなたをさばき、あなたのすべての忌み嫌うべきわざに報いる。
- 9 わたしはあわれみをかけない。惜しまない。忌み嫌うべきことが、あなたの中にあるうちに、わたしはあなたの行いのとおりに報いる。このとき、あなたがたは知る。わたしがあなたがたを打つ主であることを。
- 10 見よ、その日だ。その日が来る。あなたの終局が来ている。杖がつぼみを出し、横柄さを花咲かせた。
- 11 暴虐が起こって悪の杖となり、彼らもその群衆も、彼らの富もなくなり、彼らのために嘆く者もいなくなる。
- 12 その時が来た。その日がやって来た。買う者も喜ぶな。売る者も嘆くな。燃える怒りがそのすべての群衆に臨むからだ。
- 13 両者が生き延びても、売る者は、売った物を取り戻せないからだ。群衆すべてに関わる幻は取り消すことができず、だれもが自分の不義のうちにいるため、奮い立って生きることができないからだ。
- 14 ラッパが吹き鳴らされ、すべての準備ができて、戦いに行く者はいない。わたしの燃える怒りが群衆すべてに臨むからだ。
- 15 外には剣、内には疫病と飢饉。野にいる者は剣で死に、町にいる者を飢饉と疫病が滅ぼし尽くす。
- 16 逃れた者たちが逃れて山々の上にも、谷間の鳩のようにみな泣き悲しむ。自分の不義のゆえに。
- 17 どの手も力無く垂れ下がり、どの膝も震える。
- 18 彼らは粗布を身にまとい、戦慄に包まれ、みな恥じて顔を赤くし、彼らの頭からは毛が引き抜かれる。

- 19 彼らの銀は道端に投げ捨てられ、彼らの金は不浄の物のようになる。彼らの銀も金も、主の激しい怒りの日に彼らを救い出すことはできない。銀も金も、彼らの欲望を満足させることも、彼らの腹を満たすこともできない。それは彼らを不義に引き込むものであったから。
- 20 彼らはこれを、美しい飾り物として誇り、これで自分たちのために忌み嫌うべきもの、忌まわしいものの像を造った。だから、わたしはそれを不浄の物とする。
- 21 わたしはそれを他国人の手に獲物として、地の悪者どもに分捕り物として渡し、それを汚させる。
- 22 わたしは彼らから顔を背け、わたしが秘宝とする所は汚される。無法者がそこに入り込み、そこを侵す。
- 23 鎖を作れ。この国は流血のさばきに満ち、この都は暴虐に満ちているからだ。
- 24 わたしは異邦の民の最も悪い者どもを来させて、彼らの家々を占領させ、有力者たちの高ぶりをくじき、彼らのもろもろの聖所を汚させる。
- 25 恐怖がやって来る。彼らは平安を求めるが、それはない。
- 26 災難の上に災難が訪れ、うわさがうわさを生む。彼らは預言者に幻を求めるようになる。祭司から律法が、長老から助言が失われる。
- 27 王は喪に服し、君主は恐怖に包まれ、民衆の手はわななく。わたしが、彼らの行いにしたがって彼らに報い、彼らのやり方にしたがって彼らをさばくとき、彼らは、わたしが主であることを知る。』』

第8章

- 1 第六年の第六の月の五日、私が自分の家に座っていて、ユダの長老たちも私の前に座っていたとき、神である主の御手がそこで私の上に下った。
- 2 私が見ると、火のように見える姿があった。その腰と見えるところから下の方が火であり、腰から上の方が琥珀のきらめきのように輝いて見えた。
- 3 すると、その方は手の形をしたものを伸ばし、私の髪の毛をつかまれた。すると、霊が私を地と天の間に持ち上げ、神々しい幻のうちに私をエルサレムへと携え行き、ねたみを引き起こす「ねたみ」という像がある、北に面した内門の入り口に連れて行った。
- 4 なんと、そこには、私がかつて平地で見た幻と同じような、イスラエルの神の栄光があった。
- 5 その方は私に言われた。「人の子よ。さあ、目を上げて北の方を見よ。」私が目を上げて北の方を見ると、なんと、北の方の祭壇の門の入り口に「ねたみ」という像があった。
- 6 この方は私に言われた。「人の子よ。あなたには彼らのしていることが見えるか。イスラエルの家は、わたしの聖所から遠く離れようとして、ここで大きな忌み嫌うべきことをしているではないか。あなたはなおもまた、大きな忌み嫌うべきことを見る。」
- 7 それから、この方は私を庭の入り口に連れて行かれた。見ると、壁に一つの穴があった。
- 8 この方は私に言われた。「人の子よ。さあ、壁に穴を開けて通り抜けよ。」私が壁に穴を開けて通り抜けると、一つの入り口があった。
- 9 この方は私に言われた。「入って行き、彼らがここでしている悪い忌み嫌うべきことを見よ。」
- 10 私が入って行って見ると、なんと、這うものや動物のあらゆる形、すなわち忌むべきものや、イスラエルの家のすべての偶像が、周りの壁一面に彫られていた。
- 11 また、イスラエルの家の七十人の長老が、その前に立っていて、その中にはシャファンの子ヤアザンヤも立っていた。彼らはみなその手に香炉を持ち、香の濃い雲が立ち上っていた。
- 12 この方は私に言われた。「人の子よ。あなたは、イスラエルの家の長老たちが、暗闇の中、それぞれ自分自身の偶像の部屋で行っていることを見たか。彼らは、『主は私たちを見ておられない。主はこの地を見捨てられた』と言っているのだ。」
- 13 また私に言われた。「あなたはなおもまた、彼らが行っている大きな忌み嫌うべきことを見る。」
- 14 それから、この方は私を主の宮の北の門の入り口へ連れて行かれた。するとそこには、女たちがタンムズのために泣きながら座っていた。
- 15 この方は私に言われた。「見たか、人の子よ。あなたはなおもまた、これよりも大きな忌み嫌うべきことを見る。」
- 16 それから、この方は私を主の宮の内庭に連れて行かれた。すると、なんと、主の神殿の入り口、すなわち、玄関広間と祭壇との間に二十五人ばかりの人がいた。彼らは主の神殿に背を向け、顔を東の方に向けていた。東の方を向いて、太陽を拝んでいた。

- 17 この方は私に言われた。「見たか、人の子よ。ユダの家にとって、彼らがここできているような忌み嫌うべきことをするのは、些細なことだろうか。彼らはこの地を暴虐で満ちし、わたしの怒りをいっそう駆り立てている。見よ、彼らはぶどうのつるを自分たちの鼻にさしているではないか。
- 18 だから、わたしも激しい憤りをもって応じる。わたしはあわれみをかけない。わたしは彼らを惜しまない。彼らがわたしの耳に大声で叫んでも、わたしは彼らの言うことを聞かない。」

第9章

- 1 この方は私の耳に大声で叫ばれた。「破壊する武器をそれぞれ手に持った、この都を罰する者たちを連れて来い。」
- 2 見ると、六人の男が、それぞれ打ち壊す武器を手に持って、北に面する上の門をやって来て。もう一人の人が、亜麻布の衣をまとい、腰には書記の筆入れを付けて、彼らの中にいた。彼らは入って来て、青銅の祭壇のそばに立った。
- 3 ケルビムの上にあったイスラエルの神の栄光が、ケルビムから立ち上り、神殿の敷居へ向かっていた。腰に書記の筆入れを付け、亜麻布の衣をまとっている者を呼び寄せて、
- 4 主は彼にこう言われた。「都の中、エルサレムの中を行き巡り、ここで行われているすべての忌み嫌うべきことを嘆き悲しんでいる人々の額に、しるしをつけよ。」
- 5 また、私が聞いていると、ほかの者たちに主はこう言われた。「この者の後について都の中を行き巡って、打ち殺せ。あわれみをかけてはならない。惜しんではならない。
- 6 年寄りも、若い男も、若い娘も、幼子も、女たちも殺して滅ぼせ。しかし、しるしが付けられた者には、だれにも近づいてはならない。まず、わたしの聖所から始めよ。」そこで、彼らは神殿の前にいた老人たちから始めた。
- 7 それから主は彼らに言われた。「神殿を汚し、庭を刺し殺された者で満たせ。さあ、行け。」彼らは出て行って、都の中で打ち殺した。
- 8 彼らが打ち殺しているとき、私だけが残された。私はひれ伏して叫んだ。「ああ、神、主よ。あなたはエルサレムの上にあなたの憤りを注ぎ出し、イスラエルの残りの者たちを、ことごとく滅ぼされるのですか。」
- 9 主は私に言われた。「イスラエルとユダの家の咎は非常に大きく、地は流血で満ち、都も不正で満ちている。彼らは『主はこの地を見捨てられた。主は見ておられない』と言っているのだ。
- 10 だから、わたしもあわれみをかけない。わたしは惜しまない。わたしは彼らの頭上に彼らの行いを返す。」
- 11 そのとき、腰に筆入れを付け、亜麻布の衣をまとった、あの人がこう報告した。「私は、あなたが私に命じられたとおりに行いました。」

第10章

- 1 私が見ていると、ケルビムの頭上の大空に、サファイアのような、王座に似たものがあり、それがケルビムの上に現れた。
- 2 主は亜麻布の衣をまとった者に命じられた。「ケルビムの下にある車輪の間に入り、ケルビムの間の炭火をあなたの両手に満たし、それを都の上にまき散らせ。」この人は私の目の前でそこに入って行った。
- 3 その人が入って行ったとき、ケルビムは神殿の南側に立っていて、雲がその内庭を満たしていた。
- 4 主の栄光がケルビムの上から上り、神殿の敷居に向かった。神殿は雲で満たされ、また、庭は主の栄光の輝きで満たされた。
- 5 そのとき、ケルビムの翼の音が外庭にまで聞こえた。それは、全能の神が語られるときの声のようであった。
- 6 主が亜麻布の衣をまとった者に「車輪の間、ケルビムの間から火を取れ」と命じられると、この人は入って行き、輪のそばに立った。
- 7 すると、ケルビムのひとりがケルビムの間から、ケルビムの間にある火の方に手を伸ばして、その火を取り、亜麻布の衣をまとった者の両手にそれを盛った。この人はそれを受け取ると、出て行った。
- 8 ケルビムの翼の下には人間の手の形があった。
- 9 私が見ると、ケルビムのそばに四つの輪があり、一つの輪は一方のケルビムのそばに、もう一つの輪はもう一方のケルビムのそばに、それぞれあった。その輪は緑柱石の輝きのように見えた。
- 10 それらの形は四つとも同じで、一つの輪がもう一つの輪の中にあるようであった。
- 11 それらが進むとき、それらは四方のどの方向にも進み、進むときには向きを変えなかった。なぜなら、頭が向かうところにほかの輪も従い、それらが進むときには向きを変えなかったからである。
- 12 それらのからだ全体と、その背、その手、その翼、さらに輪、すなわちその四つの輪には、周りに目がたくさん付いていた。
- 13 私はそれらの輪が「車輪」と呼ばれるのを聞いた。
- 14 それぞれに四つの顔があり、第一の顔はケルビムの顔、第二の顔は人間の顔、第三の顔は獅子の顔、第四の顔は鷲の顔であった。
- 15 そのとき、ケルビムは飛び立った。それは、私がかつてケバル川のほとりで見た生きものであった。
- 16 ケルビムが行くと輪もそのそばを進み、ケルビムが翼を広げて地上から上るとき輪もそのそばを離れず、向きを変えなかった。
- 17 ケルビムが止まると輪も立ち止まり、ケルビムが上ると輪も一緒に上った。生きものの霊が輪の中にあったからである。
- 18 主の栄光が神殿の敷居から出て行って、ケルビムの上にとどまった。

- 19** すると、ケルビムは翼を広げて、私の目の前で地上から上って行った。出て行くとき、輪もそのそばについて行き、主の宮の東の門の入り口で止まった。イスラエルの神の栄光が彼らの上にあった。
- 20** 彼らは、かつて私がケバル川のほとりで、イスラエルの神の下に見た生きものであった。私は彼らがケルビムであることを知った。
- 21** 彼らはそれぞれ四つの顔と、それぞれ四つの翼を持っていた。その翼の下には人間の手のようなものがあった。
- 22** 彼らの顔かたち、それは、私がかつてケバル川のほとりでその容貌と姿を見たとおりの顔であった。彼らはみな、前の方へまっすぐに進んで行った。

第11章

- 1 霊は私を引き上げて、主の宮の東に面した東の門に連れて行った。見よ、その門の入り口には二十五人の者がいた。そしてその中に、民の長であるアズルの子ヤアザンヤと、ベナヤの子ペラテヤがいるのを私は見た。
- 2 主は私に言われた。「人の子よ。この者たちは、この都でよこしまなことを謀り、悪いはかりごとをめぐらし、
- 3 『当分、家を建てなくともよい。この都は鍋であり、われわれはその肉だ』と言っている。
- 4 だから、彼らに向かって預言せよ。人の子よ、預言せよ。」
- 5 主の霊が私に下り、私に言われた。「あなたは言え。『主はこう言われる。イスラエルの家よ。あなたがたはあのように言ったが、わたしは、あなたがたの霊の思いをよく知っている。
- 6 あなたがたはこの都で、刺し殺された者を増し加え、都の通りを刺し殺された者で満たした。
- 7 それゆえ、神である主はこう言われる。あなたがたが町の中に横たえた、刺し殺された者こそが肉であり、この町は鍋である。しかしわたしは、あなたがたをその中から連れ出す。
- 8 あなたがたは剣を恐れているが、わたしはあなたがたの上に剣をもたらず—神である主のことば—。
- 9 わたしはあなたがたを町から連れ出して、他国人の手に渡し、あなたがたにさばきを下す。
- 10 あなたがたが剣に倒れ、わたしがイスラエルの国境であなたがたをさばくとき、あなたがたは、わたしが主であることを知る。
- 11 この都はあなたがたにとって鍋とはならず、あなたがたはその中の肉とはならない。わたしは、イスラエルの国境であなたがたをさばく。
- 12 あなたがたは、わたしが主であることを知る。あなたがたが、わたしの掟に従って歩まず、わたしの定めを守らず、あなたがたの周りの国々の慣わしに従ったからである。』」
- 13 私が預言していたとき、ベナヤの子ペラテヤが死んだ。それで、私はひれ伏して大声で叫んだ。「ああ、神、主よ。あなたはイスラエルの残りの者たちを滅ぼし尽くされるのでしょうか。」
- 14 そのとき、次のような主のことばが私にあった。
- 15 「人の子よ。エルサレムの住民は、あなたの兄弟、同胞、あなたに買い戻しの権利がある親類の者たち、またイスラエルの全家のすべての者に対して、こう言った。『主から遠く離れよ。この地はほかでもないわれわれの所有地として与えられているのだ。』」
- 16 それゆえ言え。『神である主はこう言われる。わたしは彼らを遠く異邦の民の中へ移し、国々の中に散らした。しかし、わたしは彼らが行ったその国々で、しばらくの間、彼らの聖所となっていた。』

- 17 それゆえ言え。『神である主はこう言われる。わたしはあなたがたを諸国の民の中から集め、あなたがたが散らされていた国々からあなたがたを呼び寄せ、あなたがたにイスラエルの地を与える。』
- 18 彼らがそこに来るとき、すべての忌まわしいもの、すべての忌み嫌うべきものをそこから取り除く。
- 19 わたしは彼らに一つの心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしは彼らのからだから石の心を取り除き、彼らに肉の心を与える。
- 20 こうして、彼らはわたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行う。彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。
- 21 しかし、忌むべきもの、忌み嫌うべきものの心を、自分の心として歩む者には、その行いを頭上に返す―神である主のことば。」
- 22 するとケルビムは翼を広げ、輪もその横についた。イスラエルの神の栄光がその上の方にあった。
- 23 主の栄光はその都の中心から上って、都の東にある山の上にとどまった。
- 24 霊は私を引き上げて、幻のうちに、私をカルデアにいる捕囚の民のところへ、神の霊によって連れて行った。そして、私が見たその幻は、私から去って上って行った。
- 25 私は、主が私に示されたことをことごとく捕囚の民に告げた。

第12章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ。あなたは反逆の家の中に住んでいる。彼らは見る目があるのに見ず、聞く耳があるのに聞こうとしない。彼らが反逆の家だからである。
- 3 人の子よ。あなたは捕囚のための荷物を整え、彼らが見ている前で、昼のうちに移れ。彼らの見ている前で、今いる場所からほかの場所へ移れ。もしかしたら、彼らに自分たちが反逆の家であることが分かるかもしれない。
- 4 あなたは、昼のうちに彼らが見ている前で、自分の荷物を捕囚のときの荷物のようにして持ち出せ。そして、捕囚に行く人々のように、彼らの見ている前で夕方出て行け。
- 5 彼らの見ている前で壁に穴を開け、そこから荷物を運び出せ。
- 6 彼らの見ている前で、あなたは荷物を肩に担ぎ、暗いうちに出て行き、顔をおおって地を見るな。わたしがあなたをイスラエルの家のためにしるしとするからだ。」
- 7 そこで、私は命じられたとおりにした。自分の荷物を捕囚のときの荷物のようにして昼のうちに持ち出し、夕方、自分の手で壁に穴を開け、彼らの見ている前で、暗いうちに荷物を背負って出て行った。
- 8 翌朝、私に次のような主のことばがあった。
- 9 「人の子よ。反逆の家、イスラエルの家は、あなたに『何をしているのか』と尋ねなかったか。
- 10 彼らに言え。『神である主はこう言われる。この宣告は、エルサレムの君主、およびそこにいるイスラエルの全家に関わるものである。』
- 11 また言え。『私は、あなたがたへのしるしである。私がしたようなことが彼らにもなされる。彼らは捕囚となって引いて行かれる。
- 12 彼らのうちにいる君主は、暗いうちに荷物を背負って出て行く。出て行けるように壁に穴が開けられる。彼は顔をおおう。自分の目でその地を見ることはもうないからである。』
- 13 わたしはまた、彼の上にわたしの網をかけ、彼はわたしの罠にかかる。わたしは彼をカルデア人の地、バビロンへ連れて行く。しかし、彼はその地を見ずに、そこで死ぬ。
- 14 わたしはまた、周囲にいて彼を助ける者たちや、彼の軍隊をみな四方に追い散らし、剣を抜いて彼らの後を追う。
- 15 わたしが彼らを諸国の間に散らし、国々に追い散らすとき、彼らは、わたしが主であることを知る。
- 16 わたしは彼らの中のわずかな者を、剣や飢饉や疫病から免れさせる。こうして彼らは、行く先の国々の中で、自分たちのした忌み嫌うべきわざをことごとく語り告げるようになる。そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。」
- 17 次のような主のことばが私にあった。
- 18 「人の子よ。震えながらあなたのパンを食べ、おののきながら、恐る恐るあなたの水を飲め。

- 19 この国の人々に言え。『神である主は、イスラエルの地にいるエルサレムの住民について、こう言われる。彼らは自分たちのパンを恐る恐る食べ、自分たちの水をおびえながら飲むようになる。こうしてその地は、そこに住むすべての者の暴虐のゆえに痩せ衰える。
- 20 人の住んでいた町々が廃墟となり、その地が荒れ果てるそのとき、あなたがたは、わたしが主であることを知る。』」
- 21 次のような主のことばが私にあった。
- 22 「人の子よ。あなたがたがイスラエルの地について、『日は延ばされ、すべての幻は消え失せる』と言っている、あのことわざは何なのか。
- 23 それゆえ、彼らに言え。『神である主はこう言われる。わたしは、あのことわざをなくす。イスラエルでは、もうそのように言わなくなる。』かえって、彼らにこう告げよ。『その日は近づき、幻のすべては実現する』と。
- 24 もう、むなしい幻も、へつらいの占いも、ことごとくイスラエルの家からなくなるからだ。
- 25 それは、主であるわたしが語り、わたしが語ったことを実現し、決して引き延ばさないからだ。反逆の家よ。あなたがたが活着ているうちに、わたしは言ったことを実現させる――神である主のことば。」
- 26 次のような主のことばが私にあった。
- 27 「人の子よ。今、イスラエルの家は言っている。『彼が見ている幻はずっと後のことについてであり、はるか遠い将来について預言しているのだ。』
- 28 それゆえ、彼らに言え。『神である主はこう言われる。わたしのすべてのことば、わたしが語ることは、もはや引き延ばされることはなく、必ず成就する――神である主のことば。』」

第13章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ。預言をしているイスラエルの預言者どもに対して預言せよ。自分の心のままに預言する者どもに向かって言え。『主のことばを聞け。』
- 3 神である主はこう言われる。わざわざいだ。自分で何も見ないのに、自分の霊に従う愚かな預言者ども。
- 4 イスラエルよ。あなたの預言者どもは、廃墟にいる狐のようになった。
- 5 あなたがたは、主の日の戦いに耐えられるように、破れ口に上ったり、イスラエルの家の石垣を築いたりしなかった。
- 6 彼らはむなしい幻を見、まやかしの占いをして、「主のことば」などと言っている。主が彼らを遣わしたのではないのに。しかも、彼らはそのことが成就するのを待ち望んでいる。
- 7 あなたがたが見ているのはむなしい幻、あなたがたが語るのはまやかしの占いではないか。「主のことば」などと言っているが、わたしが語っているのではない。
- 8 それゆえ、神である主はこう言われる。あなたがたは、むなしいことを語り、まやかしの幻を見てきた。それゆえ今、わたしはあなたがたに敵対する一神である主のことば一。
- 9 わたしは、むなしい幻を見、まやかしの占いをしている預言者どもに手を下す。彼らはわたしの民の交わりに加えられず、イスラエルの家の文書にもその名を記されない。イスラエルの地にも入ることができない。そのときあなたがたは、わたしが神、主であることを知る。
- 10 実に彼らは、平安がないのに「平安」と言って、わたしの民を惑わし、壁を築くとすぐ、それに漆喰で上塗りをしてしまう。
- 11 漆喰で上塗りをする者どもに言え。それははがれ落ちる、と。豪雨が起こり、わたしが雹を降らせ、激しい風を吹きつけると、
- 12 壁は落ちる。人々はあなたがたに向かって「上塗りをした漆喰はどこにあるのか」と言わないだろうか。
- 13 それゆえ、神である主はこう言われる。わたしは、憤りによって激しい風を吹きつける。怒りによって豪雨が起こり、激しい憤りによって破壊のための雹が降る。
- 14 あなたがたが漆喰で上塗りした壁を、わたしが壊し、地に倒してしまうので、その土台までもあらわにされる。それが倒れ落ち、あなたがたがその中で滅びるとき、あなたがたは、わたしが主であることを知る。
- 15 わたしは、その壁と、それを漆喰で上塗りした者どもへのわたしの憤りを終わらせて、あなたがたに言う。「壁もなくなり、それに漆喰を塗った者どももいなくなった」と。
- 16 エルサレムについて預言し、平安がないのに平安の幻を見ていたイスラエルの預言者どもよ一神である主のことば。』
- 17 人の子よ。あなたは、自分の心のままに預言するあなたの民の娘たちに顔を向け、彼女たちに預言せよ。

- 18 『神である主はこう言われる。わざわざいだ。どの人の手首にも呪法のひもを縫い合わせ、あらゆる高さの頭にも合うようにベールを作って、人々のたましいを罾にかけける女たち。あなたがたは、わたしの民のたましいを罾にかけ、自分たちのたましいのために人々を生かしているのだ。
- 19 あなたがたは、ひとつかみの大麦のため、少しばかりのパンのために、まやかに聞き従うわたしの民にまやかしを行い、死んではならないたましいを死なせ、生きていてはならないたましいを生かして、わたしの民のうちでわたしを汚した。
- 20 それゆえ、神である主はこう言われる。見よ。あなたがたが、鳥を捕るように人々のたましいを罾にかけた、呪いのひもにわたしは敵対する。それらをあなたがたの腕からもぎ取り、あなたがたが鳥を捕るように罾にかけたたましいを、わたしは解き放つ。
- 21 わたしはあなたがたのベールをはがし、わたしの民をあなたがたの手から救い出す。罾にかかった者たちは、もうあなたがたの手のうちにはいなくなる。そのときあなたがたは、わたしが主であることを知る。
- 22 あなたがたは、わたしが悲しませなかったのに、正しい人の心を偽りで悲しませた。悪しき者を力づけ、彼が悪の道から立ち返って生きることがないようにした。
- 23 それゆえ、あなたがたは、もう、むなしい幻を見ることができず、占いもできなくなる。わたしは、わたしの民をあなたがたの手から救い出す。そのときあなたがたは、わたしが主であることを知る。』」

第14章

- 1 イスラエルの長老たちの何人かが来て、私の前に座った。
- 2 そのとき、私に次のような主のことばがあった。
- 3 「人の子よ。これらの者たちは自分たちの偶像を心の中に秘め、自分たちを不義に引き込むものを、顔の前に置いている。わたしは、どうして彼らに応じられるだろうか。
- 4 それゆえ、彼らに告げて、こう言え。『神である主はこう言われる。心の中に偶像を秘めて、不義に引き込むものを自分の顔の前に置きながら、預言者のところに来るすべてのイスラエルの家の者には、その偶像の多さに応じて、主であるわたしが答える。
- 5 こうして、偶像のゆえにみなわたしから離されてしまったイスラエルの家の心を、わたしがとらえる。』
- 6 それゆえ、イスラエルの家に言え。『神である主はこう言われる。立ち返れ。あなたがたのすべての偶像から身を翻せ。すべての忌み嫌うべきものをあなたがたの前から遠ざけよ。
- 7 イスラエルの家の者でも、イスラエルに寄留している者でも、だれでもわたしから離れ、心の中に偶像を秘めて、自分を不義に引き込むものを顔の前に置きながら、わたしに尋ねようと預言者のところに来る者には、主であるわたし自身が答える。
- 8 わたしはそのような者に敵対してわたしの顔を向け、彼をしるしとし、語りぐさとして、わたしの民の間から絶ち滅ぼす。そのときあなたがたは、わたしが主であることを知る。
- 9 もし預言者が惑わされてことばを語るなら、主であるわたしがその預言者を惑わしたのである。わたしはその者に手を伸ばして、わたしの民イスラエルのうちから根絶やしにする。
- 10 このような者たちは自分の咎を負う。その預言者の咎と、尋ね求めた者の咎は同じである。
- 11 こうしてイスラエルの家は、もうわたしから迷い出ることはなく、重ねて自分たちの背きによって自分自身を汚すことはなくなる。彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる—神である主のことば。』」
- 12 次のような主のことばが私にあった。
- 13 「人の子よ。国が、わたしに対して罪あるものとなって信頼を裏切り、そのためわたしがその国に手を伸ばし、そのパンの蓄えをなくし、その国に飢饉を送り、人や家畜をそこから絶ち滅ぼすとき、
- 14 たとえ、そこにノアとダニエルとヨブの、これら三人の者がいても、彼らは自分たちの義によって自分たちのいのちを救い出すだけだ—神である主のことば—。
- 15 もし、その国にわたしが悪い獣を行き巡らせ、それを不毛にし、荒れ果てさせ、獣ゆえに通る過ぎる者もいなくなるなら、
- 16 たとえ、その中にこれら三人の者がいても—わたしは生きている。神である主のことば—彼らは決して自分の息子も娘も救い出すことはできない。ただ彼ら自身だけが救い出され、その地は荒れ果てる。

- 17 あるいは、わたしがその地の上に剣をもたらし、『剣よ、この地を行き巡れ』と言って、人や家畜をそこから絶ち滅ぼすとき、
- 18 たとえ、その地にこれら三人の者がいても—わたしは生きている。神である主のことば—彼らは決して自分の息子も娘も救い出すことはできない。ただ彼ら自身だけが救い出される。
- 19 あるいは、わたしがその地に疫病を送って、人や家畜をそこから絶ち滅ぼすために、流血をもってわたしの憤りをその地に注ぐとき、
- 20 たとえ、そこにノアとダニエルとヨブがいても—わたしは生きている。神である主のことば—彼らは決して息子も娘も救い出すことはできない。彼らは自分たちの義によって自分たちのいのちを救い出すだけだ。」
- 21 まことに、神である主はこう言われる。「人や家畜を絶ち滅ぼすために、わたしが剣と飢饉と悪い獣と疫病の、四つのひどい刑罰をエルサレムに送るとき、
- 22 見よ。そこに逃れの者が残っていて、息子や娘たちを連れ出し、あなたがたのところに来て来る。あなたがたは彼らの生き方と行いを見て、わたしがエルサレムにもたらしたわざわいと、わたしがそこにもたらしたことすべてについて、慰めを受ける。
- 23 あなたがたは、彼らの生き方と行いとを見て慰められる。このとき、あなたがたは、わたしがそこでしたすべてのことは、理由もなくしたのではないことを知る—神である主のことば。」

第15章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ。ぶどうの木は森の木立の中であって、ほかの木より枝がどれだけすぐれているのか。
- 3 何か役に立つものを作る木材が、そこからとれるというのか。それとも、何かの器具を掛ける木鉤を作ることができるというのか。
- 4 見よ。それは薪として火に投げ入れられ、火がその両端を焼き尽くす。その中まで焦げてしまえば、それは何の役に立つだろうか。
- 5 見よ。それが完全なときでも何も作れないのに、まして、火がそれを燃やして焦がせば、それで何が作れるだろうか。」
- 6 それゆえ、神である主はこう言われる。「わたしが薪として火に投げ入れた、森の木立の間のぶどうの木のように、わたしはエルサレムの住民を火に投げ入れる。
- 7 わたしは彼らに敵対して顔を向ける。彼らが火から逃れても、火は彼らを焼き尽くす。わたしが彼らに顔を向けるそのとき、あなたがたはわたしが主であることを知る。
- 8 彼らがわたしの信頼を裏切ったので、わたしはこの地を荒れ果てさせる—神である主のことば。」

第16章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ。エルサレムにその忌み嫌うべきわざを告げ知らせよ。
- 3 『神である主はエルサレムについてこう言われる。あなたの出身、あなたの生まれはカナンの地、あなたの父はアモリ人、あなたの母はヒッタイト人であった。
- 4 あなたの生まれについて言えば、あなたが生まれた日に、あなたは、へその緒を切られず、水で洗いきよめられず、塩でこすられず、布で包まれることもなかった。
- 5 だれもあなたにあわれみをかけず、これらのことの一つでもあなたにしてやって、あなたに同情しようとはしなかった。あなたの生まれた日に、あなたは嫌われ、野に捨てられた。
- 6 わたしがあなたのそばを通りかかったとき、あなたが自分の血の中でもがいているのを見て、わたしは血に染まったあなたに「生きよ」と言い、血に染まったあなたに、繰り返して「生きよ」と言った。
- 7 わたしはあなたを野原の新芽のように育て上げた。あなたは成長して大きくなり、十分に成熟して、乳房はふくらみ、髪も伸びた。しかし、あなたは丸裸であった。
- 8 わたしがそばを通りかかってあなたを見ると、ちょうど、あなたは恋をする年ごろになっていた。わたしは衣の裾をあなたの上に広げ、あなたの裸をおおった。わたしはあなたに誓って、あなたと契りを結んだ―神である主のことば―。そして、あなたはわたしのものとなった。
- 9 わたしはあなたを水で洗い、あなたの血を洗い落とし、あなたに油を塗った。
- 10 わたしはまた、あや織りの衣服をあなたに着せ、じゅごんの皮の履き物をはかせ、亜麻布をかぶらせ、絹物でおおった。
- 11 それから、わたしは飾り物であなたを飾り、腕には腕輪をはめ、首には首飾りをかけ、
- 12 鼻には鼻輪、両耳には耳輪を着け、頭には輝かしい冠をかぶらせた。
- 13 あなたは金や銀で飾られ、亜麻布や絹やあや織物を着て、上等の小麦粉や蜜や油を食べた。こうして、あなたは非常に美しくなり、女王の位に進んだ。
- 14 あなたの美しさのゆえに、あなたの名は国々の間に広まった。それは、わたしがあなたにまとわせた、わたしの飾り物が完全であったからだ―神である主のことば。
- 15 ところが、あなたは自分の美しさに抛り頼み、自分の名声に乗じて姦淫を行い、通りかかる人がいれば、だれにでも身を任せて姦淫をした。
- 16 あなたはまた、自分の衣服を取り出して、自分のために、斑に色どった高き所を造り、その上で淫行を行った。このようなことはかつてなく、あってはならないことだ。
- 17 あなたは、わたしが与えた金や銀の美しい品々を取って、自分のために男の像を造り、それらと姦淫を行った。
- 18 あなたはまた、あや織りの衣を取って、それらの像をおおい、わたしの油と、わたしの香をその前に供えた。

- 19 あなたは、わたしが与えたわたしのパンや、あなたに食べさせた上等の小麦粉や、油や蜜までも、その前に供えて芳ばしい香りとした。そうではなかったか―神である主のことば―。
- 20 あなたはまた、わたしのために産んだ自分の息子や娘たちを取り、それらの像にいけにえとして献げて食べさせた。これでもまだ、あなたは姦淫が十分ではないかのように、
- 21 わたしの子どもたちを殺し、これを焼いて、ささげ物とした。
- 22 あらゆる忌み嫌うべきことや姦淫をしているとき、あなたは、かつて自分が丸裸のまま、血の中でもがいていた若いころのことを思い出さなかった。
- 23 あなたはこのすべての悪行の後で―ああ、何ということか。神である主のことば―
- 24 どの広場にも自分のために祭儀台を設け、高台を造り、
- 25 道のどの分かれ目にも高台を築き、通りかかるすべての人に身を任せ、姦淫を重ねて、自分の美しさを汚した。
- 26 あなたは、良いからだをした隣のエジプト人と姦通し、ますます姦淫を重ねて、わたしの怒りを引き起こした。
- 27 見よ、わたしは、あなたに手を伸ばして、あなたの食糧を減らした。そして、あなたを憎み、あなたの淫らな行いによって辱めを受けたペリシテ人の娘たちの欲望にあなたを委ねた。
- 28 あなたは飽き足りず、アッシリア人と姦通した。彼らと姦通しても、まだ飽き足りず、
- 29 商業の地カルデアとますます姦淫を重ねたが、それでも、あなたは飽き足りなかった。
- 30 あなたの心は、なんと燃え盛っていることか―神である主のことば―。厚かましい遊女のするようなこれらのことを、ことごとく行うとき。
- 31 あなたはどの通りの角にも自分の祭儀台を設け、どの広場にも高台を造った。しかし、あなたは報酬を嘲ったので、遊女ようではなかった。
- 32 姦婦は自分の夫の代わりに、ほかの男と通じるものだ。
- 33 すべて遊女には代価が支払われるのに、あなたは自分のほうから愛人たちすべてに持参金を与え、贈り物もして、四方からあなたのところに來させて姦淫をした。
- 34 だから、あなたの姦淫はほかの女の場合と反対だ。だれも、あなたを求めて姦淫をする者はいなかった。あなたが報酬を支払い、あなたには、だれも報酬を支払わなかった。あなたは反対のことをしたのだ。
- 35 それゆえ、遊女よ、主のことばを聞け。
- 36 神である主はこう言われる。あなたは愛人たちや忌み嫌うべき偶像と姦淫をして、自分の恥ずかしいところを見せ、自分の裸をあらわにし、それらに自分の子を献げて血を流したのだ。
- 37 それゆえ、見よ。わたしは今、あなたが戯れたすべての愛人たちや、あなたが恋した者や、憎んだ者をすべて寄せ集め、彼らを四方から集めて、あなたの裸を彼らにさらけ出す。彼らは丸裸のあなたを見る。
- 38 わたしは、姦通した女と殺人を犯した女に下す罰によってあなたをさばき、ねたみと憤りをもってあなたの血に報いる。

- 39 わたしはあなたを彼らの手に委ねる。彼らはあなたの祭儀台を壊し、高台を打ち壊し、あなたの着ている物をはぎ取り、あなたの美しい品々を奪い取り、あなたを丸裸にしておく。
- 40 彼らは集団をあおってあなたを襲わせ、石であなたを打ち殺し、剣であなたを八つ裂きにする。
- 41 そのうえ、あなたの家々を火で焼き、多くの女たちの目の前であなたにさばきを下す。こうして、わたしはあなたの淫行をやめさせる。あなたはもう報酬を支払わなくなる。
- 42 わたしはあなたに対する憤りを収めるので、わたしのねたみはあなたから離れる。わたしは安んじて、二度と怒ることはない。
- 43 あなたが、自分の若かった日々を思い出さず、かえって、これらすべてのことでわたしを怒らせたので、見よ、わたしもまた、あなたの頭上にあなたの行いを返す一神である主のことば一。あなたはすべての忌み嫌うべきわざに、淫らな行いを加えなかったか。
- 44 見よ。ことわざを用いる者は、あなたについてこういうことわざを用いる。「あの母にして、この娘あり」と。
- 45 あなたは、自分の夫と子どもを嫌った母の娘。自分たちの夫や子どもを嫌った姉妹があなたの姉妹。あなたがたの母はヒッタイト人、あなたがたの父はアモリ人であった。
- 46 あなたの姉は、その娘たちと一緒にあなたの北に住んでいるサマリアであり、あなたの妹は、その娘たちと一緒にあなたの南に住んでいるソドムである。
- 47 あなたは彼女たちの道に歩み、彼女たちのした忌み嫌うべきわざをまねなかっただろうか。ほんのわずかの間に、あなたはすべての道において彼女たちよりも墮落してしまった。
- 48 わたしは生きている一神である主のことば一。あなたの妹ソドムとその娘たちさえ、あなたと、あなたの娘たちがしたほどのことを決してしなかった。
- 49 だが、あなたの妹ソドムの咎はこのようだった。彼女とその娘たちは高慢で、飽食で、安逸を貪り、乏しい人や貧しい人に援助をしなかった。
- 50 彼女たちは高ぶって、わたしの前で忌み嫌うべきことをしたので、わたしはこれを見たとき、彼女たちを取り除いた。
- 51 サマリアも、あなたの罪の半分ほど罪深くはなかった。あなたが彼女たち以上に多くの忌み嫌うべきことをしたので、あなたのしたすべての忌み嫌うべきことが、あなたの姉妹たちを正しいとした。
- 52 あなたも、あなたの姉妹たちをかばった恥辱を負え。あなたが彼女たちよりも忌み嫌うべきことをして、罪が重かったため、彼女たちはあなたよりも正しいとされた。あなたも恥じて、あなたの姉妹たちを正しいとした恥辱を負え。
- 53 わたしは彼女たちを元どおりにする。ソドムとその娘たち、サマリアとその娘たち、また彼女たちの中にいるあなたを元どおりにする。
- 54 こうして、あなたは自分自身の恥辱を負い、あなたが彼女たちを慰めたときにしたすべてのことによって、辱めを受ける。
- 55 あなたの姉妹たち、ソドムとその娘たちは元のところに帰り、サマリアとその娘たちも元のところに帰り、あなたとあなたの娘たちも元のところに帰って来る。

- 56 あなたは、高ぶっていたときには、あなたの妹ソドムを悪いうわさの種にしていたではないか。
- 57 しかしそれは、あなたの悪がさらけ出される前のことであって、今はアラムの娘たちや、その周りのすべての者、およびペリシテ人の娘たちのそしりの的となっている。彼女たちはあなたを四方から侮っている。
- 58 あなたは、自分の淫らな行いと忌み嫌うべきわざの報いを受けている―主のことば。
- 59 まことに、神である主はこう言われる。わたしは、あなたがしたとおりのことをあなたに返す。あなたは誓いを蔑んで、契約を破ったのだ。
- 60 だが、わたしは、あなたが若かった日々あなたと結んだ契約を覚えて、あなたと永遠の契約を立てる。
- 61 わたしがあなたの姉と妹を選び取って、あなたとの契約には含まれていないものの、わたしが彼女たちをあなたの娘としてあなたに与えるとき、あなたは自分の生き方を思い出し、恥じることになる。
- 62 わたしがあなたとの契約を新たにするとき、あなたは、わたしが主であることを知る。
- 63 こうして、わたしが、あなたの行ったすべてのことについてあなたを赦すとき、あなたはそれらを思い出して恥を見、もう自分の恥辱のために口を開くことはない―神である主のことば。』』

第17章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ。イスラエルの家に謎をかけ、たとえを語れ。
- 3 『神である主はこう言われる。大きな翼、長い羽、色とりどりの豊かな羽毛の大鷲が、レバノンに飛んで来て、杉のこずえを取り去り、
- 4 その若枝の先を摘み取り、それをカナンの地へ運び、商人の町に置いた。
- 5 また、その地の種も取って来て、肥えた土地に植え、豊かな水のそばに柳のように植えた。
- 6 それは生長し、丈は低いが、よく生い茂るぶどうの木となった。その枝は鷲の方に向き、根は鷲の下に張り、こうして、ぶどうの木となって、枝を作り、若枝を出した。
- 7 さて、大きな翼と豊かな羽毛を持つ もう一羽の大鷲がいた。すると、このぶどうの木は、潤いを得るために 根をその鷲の方に向けて伸ばし、その枝を、自分が植わっているところから その鷲の方に伸ばした。
- 8 このぶどうの木は、枝を伸ばし、実を結んで見事なぶどうの木となるように、水の豊かな良い地に植えられていた。』
- 9 言え。『神である主はこう言われる。それはうまく育つであろうか。その根は抜き取られ、その実は摘み取られ、芽の付いた若枝はことごとく枯れないだろうか。それは枯れる。それを根こそぎ引き抜くのに、大きな力や多くの人々を必要としない。
- 10 見よ。それは植えられたが、うまく育つだろうか。東風がそれに吹きつけると、すっかり枯れてしまわないだろうか。その芽を出した苗床で、それは枯れてしまう。』」
- 11 次のような主のことばが私にあった。
- 12 「さあ、反逆の家に言え。『これらがどういうことなのか、あなたがたは知らないのか。』こう言え。『見よ。バビロンの王がエルサレムに来て、その王とその首長たちを捕らえ、バビロンの自分のところへ連れて行った。
- 13 そして彼は王族の一人を選んで、その者と契約を結び、忠誠を誓わせた。彼はこの国のおもだった者たちも連れ去っていた。
- 14 それは、この王国を低くして立ち上がれないようにし、その契約を守らせて存続させるためであった。
- 15 ところが、彼はバビロンの王に反逆し、使者をエジプトに送り、馬と軍勢を得ようとした。そんなことをして、うまく行くだろうか。助かるだろうか。契約を破って助かるだろうか。
- 16 わたしは生きている―神である主のことば―。彼は、自分を王位に就けた王との誓いを自ら蔑み、また、自ら契約を破ったので、その王の住む場所、バビロンで必ず死ぬ。
- 17 戦争になって、多くの者を絶ち滅ぼそうとして、壘が築かれ包囲壁が設けられるときでも、ファラオは決して大軍勢と大集団で彼をかばうことはない。
- 18 彼は誓いを蔑み、契約を破った。彼は誓っていないが、これらすべてのことをしたのだ。彼は助からない。

- 19 それゆえ、神である主はこう言われる。わたしは生きている。彼が蔑んだわたしの誓い、彼が破ったわたしの契約、これを必ず彼の頭上に返す。
- 20 わたしは彼の上にわたしの網をかけ、彼はわたしの罾にかかる。わたしは彼をバビロンへ連れて行き、そこで、わたしの信頼を裏切ったことについて彼をさばく。
- 21 彼の軍隊の逃れた者もみな剣に倒れ、残された者も四方に散らされる。このとき、あなたがたは、主であるわたしが語ったことを知る。』』
- 22 神である主はこう言われる。「わたしは高い杉のこずえを取り去り、そのうちから柔らかい若枝の先を摘み取り、わたし自ら、それを高くそびえる山に植える。
- 23 わたしがそれをイスラエルの高い山に植えると、それは枝を伸ばし、実を結び、見事な杉の木となる。その下にはあらゆる種類の鳥が宿り、その枝の陰に住む。
- 24 このとき、野のすべての木は、主であるわたしが高い木を低くし、低い木を高くし、生木を枯らし、枯れ木に芽を出させることを知る。主であるわたしが語り、わたしが行う。」

第18章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「あなたがたは、イスラエルの地について、『父が酸いぶどうを食べると、子どもの歯が浮く』という、このことわざを繰り返し言っているが、いったいどういうことか。
- 3 わたしは生きている—神である主のことば—。あなたがたがイスラエルでこのことわざを用いることは、もう決してない。
- 4 見よ、すべてのたましいは、わたしのもの。父のたましいも子のたましいも、わたしのもの。罪を犯したたましいが死ぬ。
- 5 人が正しい者であるなら、公正と義を行う。
- 6 丘の上で食事をせず、イスラエルの家の偶像を仰ぎ見ず、隣人の妻を汚さず、月のさわりのある女に近寄らず、
- 7 だれも虐げず、質物を返し、物をかすめ取らず、飢えている者に自分の食物を与え、裸の者に衣服を着せ、
- 8 利息をつけて貸さず、高利を取らず、不正から手を引き、人と人との間を正しくさばき、
- 9 わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守って真実を行う。このような人が正しい人であり、この人は必ず生きる—神である主のことば。
- 10 しかし、彼が子を生み、その子が無法者で、人の血を流し、先に述べたことの一つにでも違反する場合、
- 11 すなわち、それらすべてのことをしようともせず、かえって丘の上で食事をし、隣人の妻を汚し、
- 12 乏しい人や貧しい人を虐げ、物をかすめ取り、質物を返さず、偶像を仰ぎ見、忌み嫌うべきことをし、
- 13 利息をつけて貸し、高利を取ったなら、こういう者ははたして生きるだろうか。彼は生きられない。これらすべての忌み嫌うべきことをしたのだから、必ず死ぬ。その血の責任は彼自身にある。
- 14 ただし、彼が子を生み、その子が父の行ったすべての罪を見て反省し、そのようなことを行わない場合には、
- 15 すなわち、丘の上で食事をせず、イスラエルの家の偶像を仰ぎ見ず、隣人の妻を汚さず、
- 16 だれも虐げず、質物をとどめておかず、物をかすめ取らず、飢えている者に自分の食物を与え、裸の者に衣服を着せ、
- 17 貧しい者を苦しめることから手を引き、利息や高利を取らず、わたしの定めを行い、わたしの掟に従って歩むなら、そのような人は自分の父の咎のゆえに死ぬことはなく、必ず生きる。
- 18 彼の父は虐げを行い、兄弟の物をかすめ取り、良くないことを自分の民の中で行ったのだから、確かに自分の咎のゆえに死ぬ。
- 19 あなたがたは『なぜ、その子は父の咎を負わなくてよいのか』と言う。その子は、公正と義を行い、わたしのすべての掟を守り行ったのだから、必ず生きる。

- 20 罪を犯したたましいが死ぬのであり、子は父の咎について負い目がなく、父も子の咎について負い目がない。正しい人の義はその人の上にあり、悪しき者の悪はその者の上にある。
- 21 しかし、悪しき者でも、自分が犯したすべての罪から立ち返り、わたしのすべての掟を守り、公正と義を行うなら、その人は必ず生きる。死ぬことはない。
- 22 彼が行ったすべての背きは覚えられることがなく、彼が行った正しいことのゆえに、彼は生きる。
- 23 わたしは悪しき者の死を喜ぶだろうか―神である主のことば―。彼がその生き方から立ち返って生きることを喜ばないだろうか。
- 24 しかし、正しい人が正しい行いから離れ、不正を行い、悪しき者がするようなあらゆる忌み嫌うべきことをするなら、彼は生きるだろうか。彼が行ったどの正しいことも覚えられず、彼が犯した不信と陥った罪のゆえに、彼は死ななければならない。
- 25 あなたがたは『主の道は公正でない』と言っている。さあ聞け。イスラエルの家よ、わたしの道は公正でないのか。公正でないのはあなたがたの道ではないのか。
- 26 正しい人が自分の正しい行いから離れ、不正を行うなら、彼はそれゆえに死ぬ。自分が行った不正によって死ぬ。
- 27 しかし、悪しき者でも、自分がしている悪事から立ち返り、公正と義を行うなら、彼は自分のたましいを生かす。
- 28 彼は反省して、自分のすべての背きから立ち返ったのだから、必ず生き、死ぬことはない。
- 29 しかし、イスラエルの家は『主の道は公正でない』と言う。イスラエルの家よ、わたしの道は公正でないのか。公正でないのはあなたがたの道ではないのか。
- 30 それゆえ、イスラエルの家よ、わたしはあなたがたを、それぞれその生き方にしたがってさばく―神である主のことば―。立ち返り、あなたがたのすべての背きから身を翻せ。不義に引き込まれることがないようにせよ。
- 31 あなたがたが行ったすべての背きを、あなたがたの中から放り出せ。このようにして、新しい心と新しい霊を得よ。イスラエルの家よ、なぜ、あなたがたは死のうとするのか。
- 32 わたしは、だれが死ぬのも喜ばない―神である主のことば―。だから立ち返って、生きよ。」

第19章

- 1 「あなたはイスラエルの君主たちのためにこの哀歌を唱えよ。
- 2 あなたの母は何であったのか。雌獅子だ。彼女は雄獅子の間に伏し、若い獅子の間で子獅子を養った。
- 3 雌獅子は子獅子のうちの一頭を取り上げた。それは若い獅子となり、獲物をかみ裂くことを習い、人を食い滅ぼすようになった。
- 4 諸国の民はその獅子のうわさを聞いた。その獅子は落とし穴で捕らえられた。彼らはこれに鉤をつけ、エジプトの地へ引いて行った。
- 5 雌獅子は待ちくたびれて、自分の望みが消え失せたことを知ったとき、子獅子のうちのほかの一頭を取り、若い獅子と定めた。
- 6 これも雄獅子の間を歩き回り、若い獅子となって、獲物をかみ裂くことを習い、人を食い滅ぼすようになった。
- 7 この獅子は、やもめたちを犯し、町々を廃墟とした。その吼える声のために、地とそこに満ちているものは、おののいた。
- 8 そこで、諸国の民は周りの州から攻め上り、その獅子に彼らの網を打ちかけた。その獅子は彼らの落とし穴で捕らえられた。
- 9 彼らはそれに鉤をかけて檻に入れ、バビロンの王のもとに引いて行った。彼らはそれを砦に閉じ込め、二度とその声がイスラエルの山々に聞こえないようにした。
- 10 あなたの母は、水のほとりに植えられた、あなたのぶどう園のぶどうの木のようなだった。水が豊かなために実りが良く、枝も茂った。
- 11 その強い枝は王の杖となり、その背丈は茂みの中でひときわ高く、多くの小枝をつけて、際立って見えた。
- 12 しかし、激しい憤りをもってそれは引き抜かれ、地に投げ捨てられ、東風はその実を枯らした。その強い枝も折られて枯れ、火がそれを焼き尽くした。
- 13 今や、それは荒野に、乾いた、潤いのない地に移し植えられ、
- 14 火がその枝から出て、その若枝と実を焼き尽くした。もう、それには王の杖となる強い枝がなくなった。」これは悲しみの歌、哀歌となった。

第20章

- 1 第七年の第五の月の十日、イスラエルの長老たちの何人かが、主に尋ねるために来て、私の前に座った。
- 2 そのとき、私に次のような主のことばがあった。
- 3 「人の子よ、イスラエルの長老たちにこう告げよ。『神である主はこう言われる。あなたがたが来たのは、わたしに尋ねるためなのか。わたしは生きている。わたしは決してあなたがたの求めに応じない—神である主のことば。』
- 4 あなたは彼らをさばくのか。人の子よ、あなたはさばくのか。彼らの先祖たちの、忌み嫌うべきわざを彼らに告げ知らせよ。
- 5 彼らに言え。『神である主はこう言われる。わたしがイスラエルを選んだとき、わたしはヤコブの家の子孫に誓い、エジプトの地でわたしを彼らに知らせた。彼らに誓って、わたしがあなたがたの神、主であると言った。
- 6 その日、わたしは彼らをエジプトの地から導き出して、わたしが彼らのために探しておいた乳と蜜の流れる地、どの地よりも美しい地に入れることを彼らに誓った。
- 7 わたしは彼らに言った。「それぞれ、その目の慕う忌まわしいものを投げ捨てよ。エジプトの偶像で身を汚すな。わたしがあなたがたの神、主である」と。
- 8 しかし、彼らはわたしに逆らい、わたしに聞き従おうとはしなかった。それぞれ、その目の慕う忌まわしいものを投げ捨てず、エジプトの偶像を捨てなかった。そこでわたしは、エジプトの地のただ中でわたしの憤りを彼らの上に注ぎ、彼らにわたしの怒りを出し尽くそうと思った。
- 9 しかし、わたしはわたしの名のことを思い、彼らが住んでいる国々の目の前でわたしの名が汚されないようにした。国々の目の前で彼らをエジプトの地から導き出す、と知らせていたからだ。
- 10 こうしてわたしは、エジプトの地から彼らを導き出し、荒野に導き入れ、
- 11 わたしの掟を彼らに与え、わたしの定めを告げ知らせた。人は、それらを行うなら、それらによって生きるからである。
- 12 わたしはまた、彼らにわたしの安息日を与えて、わたしと彼らとの間のしるしとし、わたしが彼らを聖なる者とする主であることを、彼らに知らせた。
- 13 しかし、イスラエルの家は荒野でわたしに逆らった。彼らはわたしの掟に従って歩まず、わたしの定めを忌み嫌った。人は、それらを行うなら、それらによって生きるのに。さらに、彼らはわたしの安息日を甚だしく汚した。そこでわたしは、荒野でわたしの憤りを彼らの上に注ぎ、彼らを絶ち滅ぼそうと考えた。
- 14 しかし、わたしはわたしの名のことを思い、彼らを導き出すのを見ていた国々の目の前で、わたしの名が汚されないようにした。
- 15 だがわたしは、わたしが与えた、乳と蜜の流れる地、どの地よりも美しい地に、彼らを導き入れない、と荒野で彼らに誓った。

- 16 それは、彼らがわたしの定めを忌み嫌い、わたしの掟に歩まず、わたしの安息日を汚したからだ。それほど彼らの心は偶像を慕っていた。
- 17 それでも、わたしは彼らをあわれんで滅ぼさず、荒野で彼らを滅ぼし尽くさなかった。
- 18 わたしは荒野で彼らの子どもたちに言った。「あなたがたの父たちの掟に従って歩むな。彼らの慣わしを守るな。彼らの偶像で身を汚すな。
- 19 わたしがあなたがたの神、主である。わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行え。
- 20 また、わたしの安息日を聖なるものとせよ。これをわたしとあなたがたとの間のしとし、わたしがあなたがたの神、主であることを知れ」と。
- 21 しかし、子どもたちはわたしに逆らった。彼らはわたしの掟に従って歩まず、わたしの定めを忌み嫌った。人は、それらを行うなら、それらによって生きるのに。さらに、彼らはわたしの安息日を汚した。そこで、わたしは、荒野でわたしの憤りを彼らの上に注ぎ、彼らにわたしの怒りを出し尽くそうと思った。
- 22 しかし、わたしは手を引いた。わたしの名のことを思い、彼らを導き出すのを見ていた国々の目の前で、わたしの名が汚されないようにした。
- 23 だがわたしは、彼らを諸国の間に散らし、国々に追い散らす、と荒野で彼らに誓った。
- 24 彼らがわたしの定めを行わず、わたしの掟を忌み嫌い、わたしの安息日を汚し、彼らの心が父たちの偶像を慕ったからである。
- 25 わたしもまた、良くない掟と、それによっては生きられない定めを彼らに与えた。
- 26 彼らがすべての初子に火の中を通らせたとき、わたしはそのささげ物で彼らを汚した。それは、わたしが彼らを滅ぼすため、わたしが主であることを彼らが知るためである。』
- 27 それゆえ、人の子よ、イスラエル家にこう告げよ。『神である主はこう言われる。あなたがたの先祖は次のことにおいても、わたしの信頼を裏切ることにより、わたしを冒瀆している。
- 28 わたしが、彼らに与えると誓った地に彼らを連れて行くと、彼らは高い丘や茂った木を見て、どこででもいけにえを献げた。彼らはそこで主の怒りを引き起こすささげ物を献げ、そこで芳ばしい香りを供え、そこで注ぎのぶどう酒を注いだ。
- 29 それで、わたしは彼らに言った。「あなたがたが通う高き所とは何なのか」と。今日でもその名はバマと呼ばれている。』
- 30 それゆえ、イスラエル家に言え。『神である主はこう言われる。あなたがたは父たちの生き方をまねて自分自身を汚し、彼らの忌まわしいものを慕って姦淫を犯そうとするのか。
- 31 しかも、ささげ物を供え、幼子に火の中を通らせて、今日まであらゆる偶像で身を汚してきた。イスラエル家よ。わたしはどうして、あなたがたの求めに応じられるだろうか。わたしは生きている—神である主のことば—。わたしは決してあなたがたの求めに応じない。
- 32 あなたがたが、「私たちは、木や石を拝んでいる異邦の民、国々の諸族のようになろう」と言っている、その霊の思いは決して実現しない。

- 33 わたしは生きている―神である主のことば―。わたしは必ず、力強い手と伸ばした腕、ほとばしる憤りをもって、あなたがたを治める。
- 34 わたしは、力強い手と伸ばした腕、ほとばしる憤りをもって、あなたがたを諸国の民の中から導き出し、その散らされている国々からあなたがたを集める。
- 35 わたしはあなたがたを国々の民の荒野に連れて行き、そこで顔と顔を合わせて、あなたがたをさばく。
- 36 わたしは、あなたがたの先祖をエジプトの地の荒野でさばいたように、あなたがたをさばく―神である主のことば―。
- 37 わたしはまた、あなたがたにむちの下を通らせ、あなたがたを契約のくびきの下に連れて行き、
- 38 あなたがたの中から、わたしに背く反逆者をより分ける。わたしは彼らをその寄留している地から導き出すが、彼らはイスラエルの地に入ることはできない。そのときあなたがたは、わたしが主であることを知る。
- 39 さあ、イスラエルの家よ、神である主はこう言われる。それぞれ自分の偶像のところに行って仕えるがよい。後には必ず、あなたがたはわたしに聞くようになる。あなたがたは二度と、自分たちのささげ物や偶像で、わたしの聖なる名を汚さなくなる。
- 40 わたしの聖なる山、イスラエルの高い山の上で―神である主のことば―そこで、この地にいるイスラエルの全家、そのすべてがわたしに仕えるからだ。そこで、わたしは彼らを喜んで受け入れ、そこで、あなたがたのすべての聖なるものとともに、あなたがたの奉納物と最上のささげ物を求める。
- 41 わたしが諸国の民の中からあなたがたを導き出し、その散らされている国々からあなたがたを集めるとき、わたしは、あなたがたを芳ばしい香りとともに喜んで受け入れる。こうしてわたしは、国々の民が見ている前で、あなたがたのうちに、わたしが聖であることを示す。
- 42 わたしが、あなたがたの父祖たちに与えると誓った地、イスラエルの地にあなたがたを導き入れるとき、あなたがたは、わたしが主であることを知る。
- 43 あなたがたはそこで、自分の身を汚した自分たちの生き方と、すべての行いを思い起こし、自分たちの行ったすべての悪のゆえに、自分自身を嫌うようになる。
- 44 わたしが、あなたがたの悪しき生き方や、腐敗した行いによってでなく、ただわたしの名のためにあなたがたに報いるとき、イスラエルの家よ、あなたがたはわたしが主であることを知る―神である主のことば。』」
- 45 さらに、私に次のような主のことばがあった。
- 46 「人の子よ。顔を右の方に向け、南に向かって語りかけ、ネゲブの野の森に向かって預言し、
- 47 ネゲブの森に言え。『主のことばを聞け。神である主はこう言われる。見よ、わたしはおまえのうちに火をつける。その火はおまえのうちの、すべての生木とすべての枯れ木を焼き尽くす。その燃える炎は消されず、南から北まで地の面すべてが焼かれる。
- 48 そのとき、すべての肉なる者は、主であるわたしが燃やしたのを見る。その火は消えることがない。』」

49 そのとき、私は叫んだ。「ああ、神、主よ。彼らは私について、『彼は、たとえを言っているだけではないか』と言っています。」

第21章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ。エルサレムに顔を向け、聖所に向かって語りかけよ。イスラエルの地に向かって預言せよ。
- 3 イスラエルの地に言え。『主はこう言われる。今、わたしはおまえを敵とする。わたしは剣をさやから抜き、おまえのうちの、正しい者も悪い者も絶ち滅ぼす。
- 4 おまえのうちの、正しい者も悪い者も絶ち滅ぼすため、わたしの剣はさやを離れ、南から北まですべての肉なる者を敵とする。
- 5 このとき、すべての肉なる者は、主であるわたしが剣をさやから抜いたことを知る。剣は二度とさやに収められることはない。』
- 6 人の子よ、あなたは、うめけ。彼らが見ているところで、腰が砕けるほど激しくうめけ。
- 7 彼らがあなたに、『何のために、あなたはうめくのか』と言うなら、そのとき、あなたは言え。『この知らせのためだ。それが来ると、すべての者は心が萎え、すべての手は力無く垂れ下がり、みな意気消沈し、どの膝も震える。今、それが来る。それは実現する―神である主のことば。』」
- 8 次のような主のことばが私にあった。
- 9 「人の子よ、預言せよ。『主はこう言われる。剣、一振りの剣が研がれ、磨かれている。
- 10 虐殺のために研がれ、稲妻のようにそれは磨かれた。それとも、われわれは喜ぶべきか。すべての木を退ける、わが子の杖を。
- 11 その剣は磨かれて手に握られ、研がれ、磨かれて 殺す者の手に渡される。』
- 12 人の子よ、わめけ。泣き叫べ。それがわたしの民の上に下り、イスラエルのすべての君主たちに下るからだ。彼らはわたしの民とともに剣に投げ込まれる。だから、あなたはももを打って嘆け。
- 13 試みのとき、退ける杖さえなかったら、どうなるか―神である主のことば。
- 14 人の子よ、あなたは預言せよ。手を打ち鳴らせ。剣を二倍、三倍にして、人を刺し殺す剣とし、彼らを貫く大いなる殺戮の剣とせよ。
- 15 それは、彼らの心が震えおののいて、つまずき倒れる者が増えるようにするためだ。わたしは彼らのすべての門に、殺戮の剣を置く。ああ、剣は稲妻のようにされ、屠るために磨かれる。
- 16 剣は顔を右に向け、左に向けて切りまくれ。おまえの顔の向くところを。
- 17 わたしもまた、手を打ち鳴らし、わたしの憤りを収める。主であるわたしが語るのだ。」
- 18 次のような主のことばが私にあった。
- 19 「人の子よ。あなたは、バビロンの王の剣が来るように、二つの道を備えよ。その二つの道はともに一つの国から出るようにし、町に向かう道の始まりにそれぞれの道しるべを刻みつけよ。
- 20 剣が、アンモン人のラバ、あるいはユダ、すなわち城壁のあるエルサレムに行くように、道を備えよ。

- 21 バビロンの王は道の分かれ目、その二つの道の始まりに立って占いをする。彼は矢を振り混ぜ、テラフィムに伺いを立てて、肝を調べる。
- 22 彼の右の手に、エルサレムについての占いが現れる。それは、彼が城壁崩しを配置し、口を開いて叫び、ときのをあげて、城壁崩しを門に向かわせ、壘を築き、包囲壁を設けるというものである。
- 23 しかしこれは、厳かな誓いをしているエルサレムの民の目には、むなしい占いと映る。だが、バビロンの王は彼らに自分たちの咎を思い起こさせることになり、こうして彼らは捕らえられる。
- 24 それゆえ、神である主はこう言われる。あなたがたの背きはあらわにされ、あなたがたのすべての行いに罪が現れて、あなたがたの咎がわたしに思い起こされる。あなたがた自身が思い起こされるゆえに、あなたがたは彼らの手に捕らえられるのだ。
- 25 汚れた悪者、イスラエルの君主よ。あなたの日、最後の刑罰の時が来た。
- 26 神である主はこう言われる。かぶり物を取り、冠を外せ。すべてがすっかり変わる。低い者を高くし、高い者を低くせよ。
- 27 荒廃だ。荒廃だ。廃墟をわたしはもたらす。これは、さばきを執行する者が来て、わたしがさばきの権威を授けるまで、起こったことのないような出来事だ。
- 28 人の子よ、あなたは預言せよ。こう言え。『神である主は、アンモン人と彼らのそしりについてこう言う。剣、一振りの剣が、虐殺のために抜き放たれた。絶ち滅ぼすために、稲妻のように研ぎ澄まされて。
- 29 おまえのためにむなしい幻があり、おまえのためにまやかしの占いがなされても、その剣は汚れた悪者どもの首に当てられ、彼らの日、最後の刑罰の時が来る。
- 30 剣をさやに収めよ。おまえが創造された場所、おまえの出身地で、わたしはおまえをさばく。
- 31 わたしはおまえの上にわたしの憤りを注ぎ、激しい怒りの火を吹きつけ、滅ぼすことにたけた残忍な者たちの手に、おまえを渡す。
- 32 おまえは火の薪となり、おまえの血はその国の中で流され、おまえはもう思い出されることはない。主であるわたしが語ったからだ。』」

第22章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ、あなたはさばくのか。この流血の都をさばくのか。それなら、この都にその忌み嫌うべきわざを残らず告げ知らせて、
- 3 このように言え。『神である主はこう言われる。自らのただ中で血を流して自分の刑罰の時を招き、自らのために偶像を造って自分を汚す都よ。
- 4 おまえは自分が流した血で咎を負う者となり、自分が造った偶像で身を汚し、自分の日を近づかせ、自分の年を来させた。だから、わたしはおまえを国々のそしりの的とし、すべての国の笑いぐさとする。
- 5 おまえの近くにいる者も遠くにいる者も、名を汚されて大いに混乱したおまえをあざ笑う。
- 6 見よ。イスラエルの君主たちは、おまえの中でそれぞれ力をふるい、人の血を流している。
- 7 おまえの中で父や母は軽んじられ、おまえのただ中で寄留者は抑圧され、おまえの中にいるみなしごややもめは虐げられている。
- 8 おまえはわたしの聖なるものを蔑み、わたしの安息日を汚した。
- 9 おまえの中には、血を流そうと他人を中傷する者がいて、ある者は丘の上で食事をし、おまえのただ中で淫らなことをした。
- 10 おまえの中では父の裸があらわにされ、おまえの中では月のさわりのある女が犯された。
- 11 ある者は隣人の妻と忌み嫌うべきことをし、またある者は淫らなことをして嫁を汚し、ある者はおまえの中で、自分の父の娘である自分の姉妹を辱めた。
- 12 おまえの中では、血を流すために賄賂が使われ、おまえは利息と高利を取り、隣人を抑圧して利得を貪った。おまえはわたしを忘れた―神である主のことば。
- 13 見よ。おまえが得た不正な利得と、おまえの中で流された血のために、わたしは手を打ち鳴らす。
- 14 わたしがおまえをさばく日に、おまえの心は耐えられるだろうか。おまえの手は強くあり得るだろうか。主であるわたしが語り、事を行う。
- 15 わたしはおまえを諸国の間に散らし、国々に追い散らし、おまえの汚れをすっかり取り除く。
- 16 国々の民が見ている前で、おまえはおまえ自身によって汚される。そのときおまえは、わたしが主であることを知る。』」
- 17 次のような主のことばが私にあった。
- 18 「人の子よ、イスラエルの家はわたしにとって金かすとなった。彼らはみな、炉の中の青銅、すず、鉄、鉛であり、銀の金かすとなった。」
- 19 それゆえ、神である主はこう言われる。「あなたがたはみな金かすとなったから、今、わたしはあなたがたをエルサレムの中に集める。

- 20 銀、青銅、鉄、鉛、すずが炉の中に集められるのは、火を吹きつけて溶かすためだ。そのように、わたしは怒りと憤りをもってあなたがたを集め、そこに入れて溶かす。
- 21 わたしがあなたがたを集め、あなたがたに向かって激しい怒りの火を吹きつけると、あなたがたは町の中で溶ける。
- 22 銀が炉の中で溶かされるように、あなたがたも町の中で溶かされる。このとき、あなたがたは、主であるわたしがあなたがたの上に憤りを注いだことを知る。」
- 23 次のような主のことばが私にあった。
- 24 「人の子よ、この都に言え。『おまえは憤りの日にきよめられず、雨も降らない地である。
- 25 そのただ中には預言者たちの陰謀がある。彼らは、獲物をかみ裂きながら吼えたける雄獅子のように人々を食らい、富と宝を奪い取り、その町にやもめの数を増やした。
- 26 その祭司たちはわたしのおしえを冒瀆し、わたしの聖なるものを冒し、聖なるものと俗なるものとを分けず、汚れたものと、きよいものとの違いを教えなかった。また、彼らはわたしの安息日をないがしろにした。こうして、わたしは彼らの間で汚されている。
- 27 その町の高官たちは、獲物をかみ裂く狼のようだ。人々の血を流し、たましいを滅ぼして、自分の利得を貪っている。
- 28 その町の預言者たちはむなしい幻を見、まやかしの占いをして、漆喰で上塗りをして、主が語っていないのに「神である主はこう言われる」と言っている。
- 29 民衆も虐げを行い、物をかすめ、窮する人や貧しい人を苦しめ、寄留者を不法に虐げた。
- 30 この地を滅ぼすことがないように、わたしは、この地のために、わたしの前で石垣を築き、破れ口に立つ者を彼らの間に探し求めたが、見つからなかった。
- 31 それで、わたしは彼らの上に激しい憤りを注ぎ、激しい怒りの火で彼らを滅ぼし尽くし、彼らの頭上に彼らの生き方を返した—神である主のことば。』」

第23章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ、かつて二人の女がいた。同じ母の娘であった。
- 3 彼女たちはエジプトで淫行をした。若いときに淫行をした。その地で彼女たちの胸は抱きしめられ、その処女の乳房はもてあそばれた。
- 4 その名は、姉はオホラ、妹はオホリバ。二人はわたしのものとなり、息子や娘たちを産んだ。彼女たちの名のオホラはサマリアのこと、オホリバはエルサレムのことである。
- 5 オホラは、わたしのものであったのに、姦通し、その愛人アッシリアに、青い衣を着た軍人たちに欲情を抱いた。
- 6 彼らは総督や長官で、すべて若く魅惑的な男たちであり、馬に乗る騎兵であった。
- 7 オホラは彼らと姦通した。彼らはみなアッシリアの選り抜きの者であった。彼女は、自分が欲情を抱いた者たちのすべての偶像で身を汚した。
- 8 彼女はエジプト以来の淫行をやめようとしなかった。それは、彼女が若いとき、エジプト人が彼女と寝て、その処女の乳房をもてあそび、彼女に情欲を注いだからである。
- 9 それでわたしは、彼女が欲情を抱く愛人たちの手、アッシリア人の手に彼女を渡した。
- 10 彼らはオホラの裸をさらけ出し、その息子や娘たちを奪い取り、彼女を剣で殺してしまった。こうして彼女にさばきが下され、彼女は女たちの語りぐさとなった。
- 11 妹のオホリバはこれを見たが、姉よりいっそう恋情を募らせ、その淫行は姉の淫行よりひどかった。
- 12 彼女は隣のアッシリア人の総督や長官に欲情を抱いた。彼らはみな完全に武装した、馬に乗る騎兵であり、若く魅惑的な男たちであった。
- 13 わたしは彼女が身を汚すのを見たが、二人とも同じやり方であった。
- 14 オホリバは淫行を増し加え、壁に彫られた人々に目を留めた。すなわち、朱で描かれているカルデア人の肖像で、
- 15 腰に帯を締め、頭には垂れるほどのターバンを着け、みな士官のように見えた。彼らは、出生地をカルデアとするバビロン人の姿をしていた。
- 16 彼女は一目見て、彼らに欲情を抱き、使者たちをカルデアの彼らのもとに遣わした。
- 17 バビロン人は、彼女のもとに来て愛の床につき、彼女を情欲で汚した。彼女が彼らによって汚れるに及んで、彼女の心は彼らから離れ去った。
- 18 彼女は自分の淫行をさらけ出し、自分の裸をあらわにした。そのためわたしの心は、かつて彼女の姉から離れ去ったように、彼女からも離れ去った。
- 19 しかし彼女は、かつてエジプトの地で淫行をした、あの若かった日々を思い出して、淫行を重ねた。
- 20 彼女は、ろばのようなからだを持ち、馬のような精力を持つ彼らの側女になりたいと憧れた。
- 21 このように、エジプト人があなたの若い乳房をもてあそび、あなたの胸を抱きしめたあの若いときの淫らな行いを、あなたはしきりに望んだのだ。」

- 22 それゆえ、オホリバよ、神である主はこう言われる。「見よ。わたしは、あなたの心がすでに離れ去ったあなたの愛人たちを、あなたに対して駆り立てて、周りからあなたを攻めに来るようにする。
- 23 彼らはバビロン人、すべてのカルデア人、ペコデやショアやコアの人々、それに加えてアッシリアのすべての人々である。すべての若く魅惑的な男たち、総督、長官、士官、名士たち、馬に乗る者たちである。
- 24 彼らは、軍馬、戦車、車をもって、また民の大集団を率いてあなたに立ち向かい、大盾、盾、かぶとを着けて周りからあなたを攻める。わたしが彼らにさばきを委ねるので、彼らは自分たちのさばきにしがたって、あなたをさばく。
- 25 わたしがあなたに、わたしのねたみを向けるので、彼らは激しい憤りをもって、あなたに事を行う。彼らはあなたの鼻と耳を切り取り、残りの者は剣に倒れる。彼らはあなたの息子や娘たちを連れ去り、残りの者は火で焼き尽くされる。
- 26 彼らはあなたの着ている物をはぎ取り、あなたの美しい品々を奪い取る。
- 27 わたしはあなたの淫らな行いと、エジプトの地以来の淫行をやめさせ、あなたが彼らを仰ぎ見ず、もうエジプトを思い出さないようにする。」
- 28 神である主はこう言われる。「見よ。わたしは、あなたが憎む者の手、あなたの心が離れ去った者の手にあなたを渡す。
- 29 彼らは憎しみをもちあなたを取り扱う。すなわち、あなたの労苦の実をことごとく奪い取り、あなたを丸裸のまま捨て去る。こうして、あなたの淫行と淫乱と姦淫の恥は暴かれる。
- 30 これらのことがなされるのは、あなたが異邦の民を慕って姦淫をし、彼らの偶像であなたの身を汚したからである。
- 31 あなたが姉の道を歩んだので、わたしは彼女の杯をあなたの手に渡す。」
- 32 神である主はこう言われる。あなたは姉の杯、深くて大きい杯を飲む。物笑いとしがたつぱり入った杯を。
- 33 あなたは酔いと悲しみに満たされる。恐怖と荒廃の杯、これがあなたの姉サマリアの杯。
- 34 あなたはこれを飲み、飲み干して、杯のかけらまでかみ、自分の乳房をかき裂く。わたしがこれを語ったからだ。――神である主のことば。
- 35 それゆえ、神である主はこう言われる。「あなたはわたしを忘れ、わたしをあなたのうしろに投げやったから、あなたも自分の淫らな行いと、淫行の責めを負え。」
- 36 主は私に言われた。「人の子よ、あなたはオホラとオホリバをさばくのか。それなら彼女たちに、その忌み嫌うべきわざを告げ知らせよ。
- 37 彼女たちは姦通し、その手は血に染まっている。彼女たちは自分たちの偶像と姦通し、わたしのために産んだ子どもさえも火の中を通らせ、食物として偶像に引き渡した。
- 38 しかも、彼女たちはわたしに対して、こんなことまでした。同じ日にわたしの聖所を汚し、わたしの安息日を汚したのだ。
- 39 彼女たちは、自分たちの偶像のために自分の子どもを殺し、その同じ日にわたしの聖所に来て、これを冒した。なんと、このようなことをわたしの家の中で行ったのだ。

- 40 さらに、あなたがたは人を送って、遠くから来る人々を招いた。使者が送られて彼らが来ると、あなたは彼らのために身を洗い、目の縁を塗り、飾り物で身を飾り、
- 41 豪華な寝台に横たわり、その前に食卓を整えて、その上にわたしの香と油を置いた。
- 42 そこでは、安逸を貪る群衆の騒ぎがあった。大勢の男たちのところに、荒野から大酒飲みが連れ込まれ、彼らは、彼女たちの腕に腕輪をはめ、頭に輝かしい冠をかぶらせた。
- 43 わたしは、姦通で疲れきった彼女について考えた。彼らは今、その女と姦淫をしている。
- 44 彼らは遊女のもとに行くように、彼女のもとに行った。彼らは、淫らな女たち、オホラとオホリバのもとに行ったのだ、と。
- 45 しかし、正しい人たちは、姦通した女に下す罰と殺人を犯した女に下す罰で彼女たちをさばく。彼女たちが姦通の者であり、その手が血に染まっているからだ。」
- 46 まことに、神である主はこう言われる。「一つの集団を彼らに向けて攻め上らせ、彼女たちを人々にとって、おののきのもと、また餌食とせよ。
- 47 集団は彼女たちを石で打ち殺し、剣で切り倒し、その息子や娘たちを殺し、その家々を火で焼き払う。
- 48 わたしはこの地から淫らな行いを取り除く。すべての女たちは自分自身を戒め、あなたがたがしたような淫らな行いをしなくなる。
- 49 あなたがたの淫らな行いの報いはあなたがたの上に下り、あなたがたは自分たちの偶像に対する罪責を負わなければならない。このとき、あなたがたは、わたしが神、主であることを知る。」

第24章

- 1 第九年の第十の月の十日、私に次のような主のことばがあった。
- 2 「人の子よ。この日、ちょうどこの日の日付を書き記せ。ちょうどこの日に、バビロンの王がエルサレムに攻め寄せたからだ。
- 3 あなたは、反逆の家に一つのたとえを語って言え。『神である主はこう言われる。鍋を火にかけよ。これを据え、水をこれに注ぎ入れよ。
- 4 これに肉片、ももと肩の良い肉片をみな一緒に入れ、選り抜きの骨でこれを満たせ。
- 5 選り抜きの羊を取れ。鍋の下には薪を積み、よく沸騰させて、その中の骨も煮よ。
- 6 それゆえ、神である主はこう言う。ああ、流血の都、さびついている鍋。そのさびは落とせない。一切れずつそれを取り出せ。くじで決めてはならない。
- 7 彼女の血は、まだそこにある。彼女はそれを裸岩の上に流し、地面に流して、土をかぶせようとはしなかった。
- 8 わたしが、憤りを募らせ、復讐するために、その血を裸岩の上に流して、おおわれぬようにしたのだ。
- 9 それゆえ、神である主はこう言う。ああ、流血の都。わたしもこれに薪を積み上げよう。
- 10 薪を増やし、火を燃え立たせ、肉をよく煮、香料を混ぜ、骨を焦がせ。
- 11 鍋を空にして炭火にかけ、その銅を熱くして、その中の汚れを溶かし、さびがなくなるようにせよ。
- 12 しかし、その骨折りは無駄であった。そのひどいさびはそれから落ちず、そのさびは、なお火の中にあった。
- 13 あなたの汚れは淫らな行いだ。それでわたしはあなたをきよめようとしたが、あなたはきよくなろうとしなかった。あなたは、わたしがあなたに対する憤りを収めるまで、自分の汚れから決してきよくならない。
- 14 主であるわたしは言った。それは必ず起こる。わたしはそれを行ってなおざりにせず、惜しまず、思い直しもしない。あなたの生き方と行いにしたがって、あなたはさばかれる—神である主のことば。』」
- 15 次のような主のことばが私にあった。
- 16 「人の子よ、見よ、わたしは一打ちで、あなたの目の喜びを取り去る。嘆くな。泣くな。涙を流すな。
- 17 死者のためにうめけ。しかし、喪に服してはならない。頭にターバンを巻き付け、足に履き物をはけ。口ひげをおおってはならない。人々からのパンを食べてはならない。」
- 18 その朝、私は民に語ったが、夕方、私の妻が死んだ。翌朝、私は命じられたとおりにした。
- 19 すると、民は私に尋ねた。「あなたがしているこれらのことは、私たちにとって何を意味するのか、説明してくれませんか。」
- 20 そこで私は彼らに答えた。次のような主のことばが私にあった、と。

- 21** 「イスラエルの人に言え。『神である主はこう言われる。見よ。あなたがたの力の誇りであり、あなたがたの目が喜び、あなたがたの心が大切にするわたしの聖所を、わたしは汚す。あなたがたが見捨てた息子や娘たちは、剣で倒れる。
- 22** あなたがたは、わたしがするとおりにすることになる。あなたがたは自分の口ひげをおおわず、人々からのパンを食べなくなる。
- 23** 頭にターバンを巻き、足に履き物をはき、嘆かず泣かない。ただ、自分たちの咎のゆえに朽ち果て、互いに嘆き合うようになる。
- 24** エゼキエルはあなたがたのためのしるしとなり、彼がしたとおりを、あなたがたもするようになる。このことが起こるとき、あなたがたは、わたしが神、主であることを知る。』
- 25** 人の子よ。彼らが力とするもの、栄えに満ちた喜び、目の喜ぶもの、心に慕うもの、彼らの息子や娘たちを、わたしが取り去る日、
- 26** その日、逃れた者が、この知らせを告げにあなたのもとにやって来る。
- 27** その日、あなたの口は逃れて来た者に開かれ、あなたは語る。もう黙っていてはならない。こうして、あなたが彼らのしるしとなると、彼らは、わたしが主であることを知る。」

第25章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ。アンモン人に顔を向け、彼らに預言せよ。
- 3 あなたはアンモン人に言え。『神である主のことばを聞け。神である主はこう言われる。わたしの聖所が冒されたとき、イスラエルの地が荒れ果てたとき、ユダの家が捕囚となつて行ったとき、おまえは、あはは、と言って嘲った。
- 4 それゆえ、わたしはおまえを東の人々に渡して、彼らの所有とする。彼らはおまえのうちに宿営を張り、おまえのうちに住まいをつくり、おまえの産物を食べ、おまえの乳を飲むようになる。
- 5 わたしがラバをらくだの牧場とし、アンモン人の地を羊の檻とするとき、おまえたちは、わたしが主であることを知る。
- 6 まことに、神である主はこう言われる。おまえは手を打ち、足を踏み鳴らし、イスラエルの地を心の底から嘲り、喜んだ。
- 7 それゆえ、わたしはおまえに手を伸ばし、おまえを異邦の民に略奪の対象として与える。わたしは、おまえを諸国の民から断ち切り、国々の間から滅ぼし、根絶やしにする。そのときおまえは、わたしが主であることを知る。』」
- 8 神である主はこう言われる。「モアブとセイルは『見よ、ユダの家は異邦の民と変わらない』と言った。
- 9 それゆえ、わたしはモアブの山地の町々、その国の誉れであるベテ・ハ・エシモテ、バアル・メオン、キルヤタイムの町々をことごとく開け放ち、
- 10 アンモン人と一緒に東の人々に渡してその所有とし、国々の間でアンモン人が記憶されないようにする。
- 11 わたしがモアブにさばきを下すとき、彼らは、わたしが主であることを知る。」
- 12 神である主はこう言われる。「エドムはユダの家に復讐を企て、復讐を果たして、咎ある者となった。
- 13 それゆえ—神である主はこう言われる—わたしはエドムに手を伸ばし、そこから人も家畜も断って、そこを廃墟にする。テマンからデダンに至るまで人々は剣で倒れる。
- 14 わたしは、わたしの民イスラエルの手によってエドムに復讐する。わたしの怒りと憤りのままに彼らがエドムに事を行うとき、エドムはわたしが復讐するということを知る—神である主のことば。」
- 15 神である主はこう言われる。「ペリシテ人は復讐を企て、心の底から嘲ってひどい復讐をし、いつまでも敵意をもって滅ぼそうとした。
- 16 それゆえ—神である主はこう言われる—見よ。わたしはペリシテ人に手を伸ばし、クレタ人を断ち切り、海辺の残った者を滅ぼす。
- 17 わたしは激しい憤りで彼らを懲らしめ、彼らに大いなる復讐をする。わたしが彼らに復讐するとき、彼らは、わたしが主であることを知る。」

第26章

- 1 第十一年の、その月の一日、私に次のような主のことばがあった。
- 2 「人の子よ。ツロはエルサレムについて、『あはは。国々の民の門は壊され、私に明け渡された。私は豊かになり、エルサレムは廃墟となった』と言った。
- 3 それゆえ一神である主はこう言われる— ツロよ、わたしはおまえを敵とする。海が波をうねらせるように、多くの国々をおまえに向けて攻め上らせる。
- 4 彼らはツロの城壁を荒らし、そのやぐらを壊す。わたしはそのちりを払い去って、そこを裸岩にする。
- 5 ツロは海の中の網干し場となる。わたしが語ったからだ。一神である主のことば— ツロは諸国の餌食となり、
- 6 それに属する沿岸側の町々も剣で滅ぼされる。そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。」
- 7 まことに、神である主はこう言われる。「見よ。わたしは、王の王、バビロンの王ネブカドネツアルを、馬、戦車、騎兵、そして大軍勢とともに、北からツロに連れて来る。
- 8 彼はその沿岸側の町々を剣で滅ぼし、おまえに向かって壘を築き、城壁崩しを設け、大盾を立て、
- 9 破城槌でおまえの城壁を突き崩し、やぐらを斧で打ち壊す。
- 10 彼の馬の数があまりにも多いため、その土煙がおまえをおおう。打ち破られた町に入る者のように、彼がおまえの城門に入るとき、騎兵と車両と戦車の響きに、おまえの城壁は揺れ動く。
- 11 彼は、馬のひづめで おまえの大通りをすべて踏みにじり、剣でおまえの民を殺し、おまえの巨大な石柱も地に倒れる。
- 12 彼らはおまえの財宝を略奪し、商品をかすめ奪い、城壁を破壊し、住み心地のよい家を打ち壊し、石や木や土までも、水の中に投げ込む。
- 13 わたしはおまえの騒がしい歌をやめさせる。おまえの豎琴の音も、もう聞かれない。
- 14 わたしはおまえを裸岩とする。おまえは網干し場となり、二度と建て直されない。主であるわたしが語ったからだ。一神である主のことば。」
- 15 神である主はツロにこう言われる。「刺された者がうめき、おまえの中で虐殺が行われるとき、おまえが崩れ落ちるその響きに、島々は揺れ動かないだろうか。
- 16 海の君主たちはみな、その王座から降り、上着を脱ぎ捨て、あや織りの衣服を脱ぐ。彼らは戦慄を身にまとして地面に座り、おまえのことで絶えず身震いし、啞然とする。
- 17 彼らはおまえについて哀歌を唱えて言う。海に住む者よ、おまえはどうして海から消え失せたのか。その町と住民は海で最も強く、ほめそやされた町であったのに。その町の住民すべてに、恐怖がもたらされた。
- 18 今、島々は おまえが崩れ落ちる日に身震いし、海の島々は おまえの退却を見てうろたえる。」

- 19 まことに、神である主はこう言われる。「わたしがおまえを廃墟の町とし、住む者のない町々のようにするとき、大水をおまえの上に湧き上がらせ、豊かな水がおまえをおおうとき、
- 20 わたしはおまえを、穴に下った者たちとともに昔の民のもとに下らせ、穴に下った者たちとともに、昔から廃墟であったような地下の国に住まわせる。わたしが誉れを与える生ける者の地に、おまえが住めないようにするためだ。
- 21 わたしはおまえを恐怖のもととする。おまえはもう存在なくなり、人がおまえを尋ねても、永久におまえを見つけることはない―神である主のことば。」

第27章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ、ツロについて哀歌を唱えよ。
- 3 あなたはツロに言え。『海の出入り口に住み、多くの島々の民と取り引きをする者よ、神である主はこう言われる。ツロよ、おまえは、「私は美の極みだ」と言った。
- 4 おまえの領土は海の真ん中にあり、おまえを築いた者は、おまえを最高に美しく仕上げた。
- 5 彼らはセニルのもみの木で おまえのすべての船板を作り、レバノンの杉を使って、おまえの帆柱を作った。
- 6 バシャンの櫂の木でおまえの櫂を作り、キティムの島々の檣に象牙をはめ込んで、おまえの甲板を作った。
- 7 エジプトのあや織りの亜麻布が、おまえの帆であり、おまえの旗じるしであった。エリシャの島々からの青色と紫色の布が、おまえの覆いであった。
- 8 シドンとアルワデの住民が、おまえの漕ぎ手であった。ツロよ、おまえのうちの熟練者が、おまえの船員であった。
- 9 ゲバルの長老と、その熟練者が、おまえのうちにあって破損を修理し、海のすべての船とその水夫たちが、おまえのうちにあって おまえに商品を持ち込んだ。
- 10 ペルシア、ルデ、プテの人々は、おまえの軍隊の戦士であり、おまえに盾とかぶとを掛け、彼らはおまえに輝きを添えた。
- 11 アルワデとヘレクの人々はおまえの周りの城壁の上に、またガマデ人はおまえのやぐらの中にいて、周りの城壁に丸い小盾を掛け、おまえを最高に美しく仕上げた。
- 12 タルシシュは、おまえがあらゆる財宝に富んでいたもので、おまえと商いをし、銀、鉄、すず、鉛をおまえの商品と交換した。
- 13 ヤワン、トバル、メシェクはおまえと取り引きをし、人間と青銅の器具をおまえの商品と交換した。
- 14 ベテ・トガルマは馬、軍馬、らばをおまえの商品と交換した。
- 15 デダン人はおまえと取り引きをし、多くの島々はおまえの支配する市場であり、彼らは象牙と黒檀をおまえに貢ぎとして持って来た。
- 16 アラムは、おまえの事業が多岐にわたったので、おまえと商いをし、トルコ石、紫色の布、あや織物、白亜麻布、珊瑚、紅玉をおまえの商品と交換した。
- 17 ユダとイスラエルの地もおまえと取り引きをし、ミニテの小麦、きび、蜜、香油、乳香をおまえの商品と交換した。
- 18 おまえの事業が多岐にわたり、あらゆる財宝に富んでいたもので、ダマスコも、ヘルボンのぶどう酒とツァハルの羊毛でおまえと商いをした。
- 19 ダンとヤワンもおまえの商品と交換した。その商品の中にはウザルからの銑鉄、桂枝、菖蒲があった。
- 20 デダンは鞍に敷く織り布でおまえと取り引きをした。

- 21 アラビア人、ケダルの君主たちもみな、おまえの御用商人であり、子羊、雄羊、やぎで商いをした。
- 22 シェバとラアマの商人たちはおまえと取り引きをし、あらゆる上等の香料、宝石、また金をおまえの商品と交換した。
- 23 ハラン、カンネ、エデン、それにシェバの商人たち、アッシュルとキルマデはおまえと取り引きをした。
- 24 おまえの市場で、彼らは豪華な衣服、青色の衣、あや織物、固く撚った綱でしっかり留められた多彩な敷き物をもって、おまえと取り引きをした。
- 25 タルシシュ船がおまえの商品を運んだ。おまえは大海のただ中で満ちあふれて、大いに栄えた。
- 26 おまえの漕ぎ手はおまえを大海原に連れ出したが、東風が大海のただ中でおまえを打ち破った。
- 27 おまえの財宝、貨物、商品、おまえの水夫、船員、修繕工、おまえの商品を商う者、おまえの中にいるすべての戦士、おまえの間にいる全集団も、おまえが崩れ落ちる日には大海のただ中に沈んでしまう。
- 28 おまえの船員の叫び声に海辺は身震いする。
- 29 權を取る者、水夫、海の船員はみな、船から降りて陸に立ち、
- 30 おまえのために大声をあげて激しく泣き、頭にちりをかぶり、灰の中を転げ回る。
- 31 彼らはおまえのために頭を剃り、粗布をまとい、おまえのために心を痛めて泣き、痛々しく嘆く。
- 32 泣き声をあげて哀歌を歌い、おまえのために悲しんで歌う。だれがツ口のように海の真ん中で滅ぼされただろうか。
- 33 諸方の海から得たおまえの貨物が陸揚げされ、おまえは多くの国々の民を満ち足らせた。その豊かな財宝と商品で地の王たちを富ませた。
- 34 おまえが海で打ち破られ、おまえの商品とおまえの全集団が、おまえとともに海の深みに沈むとき、
- 35 島々の住民はみな、おまえのことで啞然とし、その王たちはおぞ気立ち、慌てふためく。
- 36 国々の民の商人たちはおまえを嘲り、おまえは恐怖のもととなり、とこしえに消え去る。』』

第28章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ、ツロの君主に言え。神である主はこう言われる。あなたの心は高ぶり、『私は神だ。海の真ん中で神の座に着いている』と言った。あなたは自分の心を神のように見なしたが、あなたは人であって、神ではない。
- 3 あなたはダニエルよりも知恵があり、どんな秘密もあなたに隠されていない。
- 4 あなたは自分の知恵と英知によって富を築き、金や銀を宝物倉に蓄えた。
- 5 商いに多くの知恵を使って富を増し、あなたの心は富のゆえに高ぶった。
- 6 それゆえ、神である主はこう言う。あなたは自分の心を神の心のように見なした。
- 7 それゆえ、わたしは諸国の中で最も横暴な他国人を連れて来て、あなたを攻めさせる。あなたの知恵の麗しさに向かって 彼らは剣を抜き、あなたのまばゆい輝きを汚し、
- 8 あなたを滅びの穴に投げ入れる。あなたは海のただ中で 刺し殺された者の死を遂げる。
- 9 それでもあなたは、自分を殺す者の前で『私は神だ』と言うのか。あなたを刺し殺す者たちの手の中であって、あなたは、人であり、神ではない。
- 10 あなたは他国人の手によって 無割礼の者として死ぬ。わたしがこれを語ったからだ。――神である主のことば。」
- 11 次のような主のことばが私にあった。
- 12 「人の子よ。ツロの王について哀歌を唱えて、彼に言え。神である主はこう言われる。あなたは全きものの典型であった。知恵に満ち、美の極みであった。
- 13 あなたは神の園、エデンにいて、あらゆる宝石に取り囲まれていた。赤めのう、トパーズ、ダイヤモンド、緑柱石、縞めのう、碧玉、サファイア、トルコ石、エメラルド。あなたのタンバリンと笛は金で作られ、これらはあなたが創造された日に整えられた。
- 14 わたしは、油注がれた守護者ケルビムとして あなたを任命した。あなたは神の聖なる山にいて、火の石の間を歩いていた。
- 15 あなたの行いは、あなたが創造された日から、あなたに不正が見出されるまでは、完全だった。
- 16 あなたの商いが繁盛すると、あなたのうちに暴虐が満ち、こうしてあなたは罪ある者となった。そこで、わたしはあなたを汚れたものとして 神の山から追い出した。守護者ケルビムよ。わたしは火の石の間から あなたを消え失せさせた。
- 17 あなたの心は自分の美しさに高ぶり、まばゆい輝きのために自分の知恵を腐らせた。そこで、わたしはあなたを地に放り出し、王たちの前で見せ物とした。
- 18 あなたは不正な商いで不義を重ね、あなたの聖所を汚した。わたしはあなたのうちから火を出し、あなたを焼き尽くした。こうして、すべての者が見ている前で、わたしはあなたを地上の灰とした。
- 19 国々の民のうちであなたを知る者はみな、あなたのことで啞然とした。あなたは恐怖をもたらすものとなり、とこしえに消え失せる。」
- 20 次のような主のことばが私にあった。

- 21** 「人の子よ。シドンに顔を向け、それに預言せよ。
- 22** 神である主はこう言われる。シドンよ。わたしはおまえを敵とし、おまえのうちにわたしの栄光を現す。わたしがシドンにさばきを下し、わたしが聖であることをそこに示すとき、彼らは、わたしが主であることを知る。
- 23** わたしはそこに疫病を、その通りには流血を送り込む。四方から攻める剣のため、刺し殺された者がそのただ中に倒れる。そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。」
- 24** 「イスラエルの家には、彼らを侮ったすべての周囲の者たちが突き刺す茨も、痛みを与えようとげも再び臨むことはない。そのとき彼らは、わたしが神、主であることを知る。」
- 25** 神である主はこう言われる。「わたしがイスラエルの家を、散らされていた諸国の民の中から集めるとき、わたしは国々の目の前で、わたしが聖であることを示す。彼らは、わたしがわたしのしもべヤコブに与えた土地に住む。
- 26** そこに安らかに住み、家々を建て、ぶどう畑を作る。彼らは安らかに住む。周囲から彼らを侮るすべての者にわたしがさばきを下すとき、彼らは、わたしが彼らの神、主であることを知る。」

第29章

- 1 第十年の第十の月の十二日、私に次のような主のことばがあった。
- 2 「人の子よ。エジプトの王ファラオに顔を向け、彼とエジプト全体に預言し、
- 3 こう告げよ。神である主はこう言われる。エジプトの王ファラオよ、わたしはあなたに敵対する。あなたは、自分の川の中に横たわる巨獣で、『川は私のもの。私がこれを造ったのだ』と言っている。
- 4 わたしはあなたのあごに鉤をかけ、あなたの川の魚をあなたの鱗につけ、あなたと、その鱗についたすべての川の魚を、川の中から引き上げる。
- 5 わたしは、あなたとあなたの川のすべての魚を 荒野に投げ捨てる。あなたは野に倒れ、集められることも、一緒にされることもない。わたしがあなたを 地の獣と空の鳥の餌食とするとき、
- 6 エジプトの住民はみな、わたしが主であることを知る。彼らがイスラエルの家にとって葦の杖にすぎなかったからだ。
- 7 彼らがあなたの手をつかむと、あなたは折れて、彼らの肩をみな砕いた。彼らがあなたに寄りかかると、あなたはくずおれて、彼らの腰をみな痛めさせた。
- 8 それゆえ、神である主はこう言う。わたしは剣をあなたの上にもたらし、人も家畜も、あなたのうちから絶ち滅ぼす。
- 9 こうして、エジプトの地は荒れ果てて廃墟となる。そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。エジプトは『川は私のもの。私がこれを造ったのだ』と言った。
- 10 それゆえ、わたしは、あなたとあなたの川を敵とし、エジプトの地を、ミグドルからセベネ、さらにクシュの国境に至るまで、すっかり干上がった廃墟にする。
- 11 人の足もそこを通らず、家畜の足もそこを通らず、四十年の間だれも住むことがない。
- 12 わたしはエジプトの地を、荒れ果てた国々の間で荒れ果てさせ、その町々は四十年の間、廃墟の町々の間で荒れ果てる。わたしはエジプト人を諸国の間に散らし、国々に追いや
- 13 まことに、神である主はこう言われる。「四十年の終わりになって、わたしはエジプト人を、散らされていた諸国の民の中から集め、
- 14 エジプトを回復させる。彼らをその出身地、パテロスの地に帰らせる。彼らはそこで、取るに足りない王国となる。
- 15 どの王国にも劣り、二度と諸国の上に自分を高くすることはない。彼らが諸国を支配しないように、わたしは彼らを小さくする。
- 16 イスラエルの家にとっては、もう頼みとはなくなる。これに助けを求めたときの咎を思い起こさせることになる。このとき彼らは、わたしが神、主であることを知る。」
- 17 第二十七年の第一の月の一、私に次のような主のことばがあった。
- 18 「人の子よ。バビロンの王ネブカドネツアルは、ツロに対して自分の軍隊を大いに働かせた。それで、皆の頭ははげ、皆の肩はすりむけた。だが、彼にも彼の軍隊にも、ツロからはその労役に対する報いがなかった。

- 19** それゆえ一神である主はこう言われる―わたしはバビロンの王ネブカドネツアルにエジプトの地を与える。彼はその富を取り上げ、物を分捕り、かすめ奪う。それが彼の軍隊への報いとなる。
- 20** 彼の働きへの報酬として、わたしは彼にエジプトの地を与える。彼らがわたしのためにこれを行ったからである―神である主のことば。
- 21** その日、わたしはイスラエルの家のために、一つの角を生えさせる。そして、彼らの間であなたに口を開かせる。そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。」

第30章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ、預言せよ。神である主はこう言われる。泣き叫べ。『ああ、その日』と。
- 3 その日は近い。主の日は近い。その日は暗雲の日、諸国の終わりの時だ。
- 4 剣はエジプトに下る。エジプトで刺された者が倒れ、その富が奪われ、その基が破壊されるとき、クシュに戦慄が走る。
- 5 クシュ、プテ、ルデ、あらゆる混血の民、クブ、そしてその同盟国の人々も、彼らとともに剣に倒れる。
- 6 ―主はこう言われる― エジプトを支える者は倒れ、その強い誇りは地に落ち、ミグドルからセベネに至るまで みな剣に倒れる―神である主のことば―。
- 7 エジプトは荒れ果てた国々の間で荒れ果て、その町々は廃墟の町々の間で荒れ果てる。
- 8 わたしがエジプトに火をつけ、これを助ける者たちがみな砕かれるとき、彼らは、わたしが主であることを知る。
- 9 その日、わたしのもとから使者たちが船で出て行き、安穩としているクシュ人を脅かす。エジプトの日に、彼らの間に戦慄が走る。今、その日が来ようとしている。」
- 10 神である主はこう言われる。「わたしはバビロンの王ネブカドネツアルによって、エジプトの富を終わらせる。
- 11 彼とその民、すなわち諸国の中で最も横暴な者たちが、その地を滅ぼすために動員される。彼らは剣を抜いてエジプトを攻め、刺し殺された者でその地を満たす。
- 12 わたしはナイル川を干上がらせ、その国を悪人どもの手に売り渡し、その国とそこにあるすべての物を他国人の手によって荒れ果てさせる。主であるわたしがこれを語る。」
- 13 神である主はこう言われる。「わたしは偶像を滅ぼし、メンフィスから偽りの神々を取り除く。エジプトの地には、もう君主が立たなくなる。わたしはエジプトの地に恐れを臨ませる。
- 14 わたしはパテロスを荒らし、ツォアンに火をつけ、テーベにさばきを下す。
- 15 わたしはエジプトの砦シンにわたしの憤りを注ぎ、テーベの群衆を絶ち滅ぼす。
- 16 わたしはエジプトに火をつける。シンは苦しみに悶え、テーベは砕かれ、そしてメンフィスは白昼の敵に襲われる。
- 17 オンとピ・ベセテの若い男たちは剣に倒れ、その町々は捕らえられて行く。
- 18 わたしがエジプトのくびきを砕き、その強い誇りが絶たれるとき、タフパンヘスでは日は暗くなり、雲がそこをおおい、その娘たちは捕らえられて行く。
- 19 わたしがエジプトにさばきを下すとき、彼らは、わたしが主であることを知る。」
- 20 第十一年の第一の月の七日、私に次のような主のことばがあった。
- 21 「人の子よ、わたしはエジプトの王ファラオの片腕を砕いた。見よ。それは巻かれず、手当てをされず、包帯を当てて巻かれることなく、良くなって剣を取ることもできない。」

- 22** それゆえ、神である主はこう言われる。「わたしはエジプトの王ファラオに敵対し、丈夫な腕も砕かれた腕も、その両腕を砕く。そして、その手から剣を落とす。
- 23** わたしはエジプト人を諸国の間に散らし、国々に追いやる。
- 24** わたしはバビロンの王の腕を強くし、わたしの剣をその手に渡す。しかし、ファラオの腕は砕く。彼は刺された者がうめくように、バビロンの王の前でうめく。
- 25** わたしはバビロンの王の腕を強くし、ファラオの腕が垂れ下がるようにする。わたしがバビロンの王の手にわたしの剣を渡し、彼が手をエジプトの地に伸ばすとき、彼らは、わたしが主であることを知る。
- 26** わたしがエジプト人を諸国の間に散らし、国々に追いやるとき、彼らは、わたしが主であることを知る。」

第31章

- 1 第十一年の第三の月の一、日に、私に次のような主のことばがあった。
- 2 「人の子よ、エジプトの王ファラオと彼の大軍に言え。 あなたの偉大さはだれに比べられるだろうか。
- 3 見よ、アッシリア。それはレバノンの杉。 美しい枝、濃い陰をつくる森、 その丈は高く、そのこずえは雲の中。
- 4 水がそれを育て、湧き出る水がこれを高くした。 幾筋もの川が、それが植わっている周りに流れ、 その流れは野のすべての木々に送られた。
- 5 その丈は野のどの木よりも高くなり、 送られる豊かな水によって、 小枝は茂り、大枝は伸びた。
- 6 小枝には空のあらゆる鳥が巣を作り、 大枝の下では野のあらゆる獣が子を産み、 その木陰には多くの国々がみな住んだ。
- 7 それは大きくなり、 枝も伸びて美しかった。 豊かな水にその根を下ろしていたからだ。
- 8 神の園の杉の木も、 これとは比べ物にならない。 もみの木も、この小枝とは比べられない。 すずかけの木も、この若枝のようではなく、 神の園にあるどの木も、 その美しさにはかなわない。
- 9 わたしがその枝を茂らせ、 美しく仕立てたので、 神の園にあるエデンのすべての木々は、これを羨んだ。」
- 10 それゆえ、神である主はこう言われる。「それが高くそびえ、こずえを雲の中に伸ばし、その高さゆえにおごり高ぶったので、
- 11 わたしはこれを、諸国のうちの力ある者の手に渡した。その者はこれを厳しく罰し、わたしも、その悪行に応じてこれを追い出した。
- 12 こうして、諸国の中で最も横暴な他国人が、これを切り倒して投げ捨てた。山々に、またあらゆる谷間にその枝は落ち、大枝はこの地のすべての谷川で折られた。地のあらゆる民はその木陰から出て行き、これを見捨てた。
- 13 その倒された幹には 空のあらゆる鳥が住み、 その大枝のそばには 野のあらゆる獣がいるようになる。
- 14 このことすべては、水のほとりのどんな木も、その丈を高くして、こずえを雲の中に伸ばさないようにするためであり、すべて、水に潤う木が高ぶってそびえないようにするためである。まことに、これらはみな、人の子らの間で、穴に下る者たちとともに、地下の国、死に渡された。」
- 15 神である主はこう言われる。「彼がよみに下る日に、わたしは人を喪に服させた。彼のゆえに深淵をおおい、川をせき止め、豊かな水を干上がらせたのである。わたしが彼のゆえにレバノンを憂いに沈ませたので、野のすべての木も彼のゆえにしおれた。
- 16 わたしが彼を穴に下る者たちとともによみに下らせたとき、わたしはその落ちる音で諸国を震えさせた。すると、地下の国では、エデンのあらゆる木、レバノンの選り抜きの良い木、水に潤うすべての木が慰められた。

- 17 彼とともに、それらもよみに下った。剣で刺し殺された者、そして諸国の間にあって彼の陰に住み、彼の腕となった者たちがいるところである。
- 18 あなたは栄えと偉大さにおいて、エデンの木々のどれに最も似ているだろうか。あなたはエデンの木々とともに、地下の国に落とされる。剣で刺し殺された者とともに、無割礼の者たちの間に横たわるようになる。これは、ファラオとそのすべての大軍のことである――神である主のことば。」

第32章

- 1 第十二年の第十二の月の一、日に、私に次のような主のことばがあった。
- 2 「人の子よ。エジプトの王ファラオについて哀歌を唱えて彼に言え。『あなたは自分を国々の若獅子だと思っている。しかし、あなたは大海の巨獣のようだ。川の中で暴れ回り、足で水をかき混ぜ、その豊かな流れを濁らせる。
- 3 一神である主はこう言われる― わたしは、多くの民族の群れを集め、あなたの上にわたしの網を広げる。彼らはあなたを地引き網で引き上げる。
- 4 わたしはあなたを地に投げ捨て、野に放り出す。空のあらゆる鳥をあなたの上に舞い降りさせ、全地の獣をあなたで満腹させる。
- 5 あなたの肉を山々にまき散らし、あなたの屍で谷を満たし、
- 6 その地を、あなたからあふれ流れる血で、山々に至るまで潤す。谷川もあなたの血で満たされる。
- 7 あなたが吹き消されるとき、わたしは空をおおい、星を暗くする。太陽を雲でおおい、月が光を放たないようにする。
- 8 わたしは空に輝くすべての光をあなたの上で暗くし、あなたの地を闇でおおう。一神である主のことば―
- 9 わたしが諸国の間で、あなたの知らない国々にあなたの破滅の知らせをもたらすとき、わたしは多くの国々の民の心を苛立たせる。
- 10 わたしは多くの国々の民をあなたのことで茫然とさせる。彼らの王たちも、わたしが彼らの前でわたしの剣を振りかざすとき、あなたのことでおぞ気立つ。あなたが崩れ落ちる日に、彼らはみな自分のいのちを思い、その震えは止まらない。
- 11 まことに、神である主はこう言う。バビロンの王の剣があなたに下る。
- 12 わたしは、勇士の剣であなたの大軍を倒す。彼らはみな最も横暴な異邦の民だ。彼らはエジプトの誇りを踏みにじり、その大軍はみな滅ぼし尽くされる。
- 13 わたしはあらゆる家畜を、豊かな水のほとりから消し去る。人の足は二度とこれを濁さず、家畜のひづめもこれを濁さない。
- 14 そのとき、わたしはこの水を澄ませ、その川を油のように流れさせる。一神である主のことば―
- 15 わたしがエジプトの地に荒廃をもたらし、わたしがその全住民を打ち、その地がそこに満ちるすべてを失って荒れ果てるとき、彼らは、わたしが主であることを知る。』
- 16 これは、人々が悲しんで歌う哀歌である。国々の娘たちはこれを悲しんで歌う。エジプトとその大軍すべてのために、彼女たちはこの哀歌を悲しんで歌う―一神である主のことば。」
- 17 第十二年の、その月の十五日、私に次のような主のことばがあった。
- 18 「人の子よ、エジプトの大軍のために嘆け。その民と力強い国々の娘たちを、穴に下る者たちとともに地下の国に下らせよ。

- 19 『あなたは麗しさの点で だれよりもまさっているというのか。 下って行って、 無割礼の者たちとともに横たわれ。』
- 20 彼らは、 剣で刺し殺された者たちの間に倒れる。 その国は剣に渡された。 その国とその大軍すべてを引きずり降ろせ。
- 21 勇敢な勇士たちは、 国を助けた者たちとともに、 よみの中から彼について語る。 『彼らは下って来て、 剣で刺し殺された者、 無割礼の者たちとともに横たわった』と。
- 22 そこにはアッシリアとその全集団がいる。 周りには彼らの墓があり、 みな、 刺し殺された者、 剣に倒れた者である。
- 23 アッシリアの墓は穴の奥の方にあり、 その集団はその墓の周りにいる。 彼らはみな、 刺し殺された者、 剣に倒れた者で、 生ける者の地に恐怖をもたらした者たちである。
- 24 エラムとその大軍が その墓の周りにいる。 彼らはみな、 刺し殺された者、 剣に倒れた者で、 無割礼のまま地下の国に下った者、 生ける者の地に恐怖をもたらした者たちで、 穴に下る者とともに自らの恥辱を負っている。
- 25 その寝床は刺し殺された者たちの間に置かれ、 その大軍すべてもその墓の周りにいる。 みな、 無割礼の者、 剣で刺し殺された者である。 彼らの恐怖が、 生ける者の地にあり、 穴に下る者とともに自らの恥辱を負っている。 彼らは刺し殺された者たちの間に置かれる。
- 26 そこにはメシェクとトバルがあり、 その大軍のすべてもその墓の周りにいる。 みな、 無割礼の者、 剣で刺し殺された者で、 生ける者の地に恐怖をもたらしたからである。
- 27 無割礼の者として倒れた勇士たちとともに 彼らは横たわることはできない。 勇士たちは武器を持ってよみに下り、 剣は頭の下に置かれている。 咎が彼らの骨の上にある。 勇士たちのもたらした恐怖が、 生ける者の地にあったからである。
- 28 しかしあなたは、 無割礼の者たちの間で碎かれ、 剣で刺し殺された者たちとともに横たわる。
- 29 そこにはエドムとその王たち、 そのすべての族長たちがいる。 彼らは、 その勇敢さにもかかわらず、 剣で刺し殺された者たちとともに、 無割礼の者たち、 および穴に下る者たちとともに横たわる。
- 30 そこには北のすべての君主たち、 すべてのシドン人がいる。 彼らの勇敢さは恐怖をもたらしたが、 恥を見、 刺し殺された者たちとともに下ったのである。 それで無割礼の彼らは、 剣で刺し殺された者たちとともに横たわり、 穴に下る者たちとともに自分たちの恥辱を負っている。
- 31 ファラオは彼らを見て、 剣で刺し殺された自分の大軍、 ファラオとその全軍勢のことで慰められる―神である主のことば―。
- 32 わたしが生ける者の地に恐怖をもたらしたので、 ファラオとその大軍は、 無割礼の者たちの間で、 剣で刺し殺された者たちとともに横たわる―神である主のことば。』

第33章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ、あなたの民の者たちにこう告げよ。『わたしがあゝる地に剣をもたらすとき、その国の民は自分たちの中から一人を取り、自分たちの見張りとする。』
- 3 さて、その人が、剣がその地に来るのを見て角笛を吹き鳴らし、民に警告を与えた場合、
- 4 角笛の音を聞いた者が警告を聞き入れないなら、剣が来てその者を討ち取るときに、その血の責任はその者の頭上にある。
- 5 角笛の音を聞きながら警告を聞き入れなければ、その血の責任は彼自身にある。しかし、警告を聞き入れていれば、その者は自分のいのちを救う。
- 6 しかし、見張りが、剣の来るのを見ながら角笛を吹き鳴らさず、そのため民が警告されず、剣が来て彼らの中の一人を討ち取った場合、その者は自分の咎のゆゑに討ち取られるが、わたしはその血の責任を見張りに問う。』
- 7 人の子よ、わたしはあなたをイスラエルの家の見張りとした。あなたは、わたしの口からことばを聞くとき、わたしに代わって彼らに警告を与えよ。
- 8 わたしが悪しき者に『悪しき者よ、あなたは必ず死ぬ』と言うとき、もし、あなたがその悪しき者に、その道から離れるように警告しないなら、その悪しき者は自分の咎のゆゑに死ぬ。そして、わたしは彼の血の責任をあなたに問う。
- 9 あなたが、悪しき者にその道から立ち返るよう警告しても、彼がその道から立ち返らないなら、彼は自分の咎のゆゑに死ななければならない。しかし、あなたは自分のいのちを救うことになる。
- 10 人の子よ、あなたはイスラエル家に言え。『あなたがたは「私たちの背きと罪は私たちの上にのしかかり、そのため私たちは朽ち果てた。私たちはどうして生きられよう」と言っている。』
- 11 彼らにこう言え。『わたしは生きている――神である主のことば――。わたしは決して悪しき者の死を喜ばない。悪しき者がその道から立ち返り、生きることを喜ぶ。立ち返れ。悪の道から立ち返れ。イスラエル家よ、なぜ、あなたがたは死のうとするのか。』
- 12 人の子よ、あなたは自分の民の者たちにこう言え。『正しい人の正しさも、その人が背いたときには、それが彼を救うことはない。悪しき者も、その者がその悪から立ち返るときには、その悪につまずき倒れることはない。正しい人でも、罪ある者となるとき、自分の正しさによって生きることができない。』
- 13 わたしが正しい人に「あなたは必ず生きる」と言っても、もし彼が自分の正しさに拠り頼み、不正を行うなら、彼の正しい行いは何一つ覚えられず、自分の行った不正によって死ななければならない。
- 14 わたしが悪しき者に「あなたは必ず死ぬ」と言っても、もし彼が自分の罪から立ち返り、公正と義を行い、
- 15 その悪しき者が質物を返し、かすめた物を償い、不正を行わず、いのちの掟に従って歩むなら、彼は必ず生き、死ぬことはない。

- 16 彼が犯した罪は何一つ覚えられず、公正と義を行った彼は必ず生きる。』
- 17 あなたの民の者たちは『主の道は公正でない』と言っている。しかし、彼らの道こそ公正ではない。
- 18 正しい人でも、自分の正しい行いから離れ、不正を行うなら、彼はそのことのゆえに死ぬ。
- 19 悪しき者でも、自分の悪から離れ、公正と義を行うなら、そのことのゆえに彼は生きる。
- 20 それでも、あなたがたは『主の道は公正でない』と言う。イスラエルの家よ。わたしはあなたがたを、それぞれの生き方にしたがってさばく。」
- 21 私たちが捕囚となって十二年目の第十の月の五日、エルサレムから逃れた者が私のもとに来て、「都は占領された」と言った。
- 22 その逃れた者が来る前の夕方に、主の御手が私の上であり、朝になって彼が私のもとに来る前に、私の口は開かれた。こうして私の口は開かれて、もはや私は黙っていなかった。
- 23 次のような主のことばが私にあった。
- 24 「人の子よ。イスラエルの地の廃墟に住むこれらの者たちは、『アブラハムは一人でこの地を所有した。私たちは多い。当然、この地はわれわれの所有地として与えられている』と言っている。
- 25 それゆえ、彼らに言え。『神である主はこう言われる。あなたがたは血がついたままで食べ、自分たちの偶像を仰ぎ見、人の血を流しているのに、この地を所有しようとするのか。
- 26 あなたがたは自分の剣に拠り頼み、忌み嫌うべきことをし、それぞれ隣人の妻を汚しながら、この地を所有しようとするのか。』
- 27 あなたは彼らにこう言え。『神である主はこう言われる。わたしは生きている。あの廃墟にいる者は必ず剣に倒れる。野にいる者も、わたしは獣に与えて、その餌食とする。要害と洞穴にいる者は疫病で死ぬ。
- 28 わたしはその地を荒れ果てさせ、荒廃した地とする。その力強い誇りは失せ、イスラエルの山々は荒れ果て、だれもそこを通らなくなる。
- 29 わたしが、彼らの行ったすべての忌み嫌うべきわざのために、その地を荒れ果てさせて荒廃した地とするとき、彼らは、わたしが主であることを知る。』
- 30 人の子よ。あなたの民の者たちは城壁のそばや家々の戸口で、あなたについてこう語り合っている。『さあ、どんなことばが主から出るか聞きに行こう。』
- 31 彼らは群れをなしてあなたのもとにやって来る。そして、わたしの民はあなたの前に座り、あなたのことばを聞く。しかし、それを実行しようとはしない。彼らは口で甘いことばを語り、心で利得を追っている。
- 32 あなたは彼らにとっては、音楽に合わせて美しく歌う恋の歌のようだ。彼らはあなたのことばを聞くが、それを実行しようとはしない。
- 33 しかし、あのことは起こり、もう来ている。彼らは、自分たちの間に一人の預言者がいたことを知る。」

第34章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ、イスラエルの牧者たちに向かって預言せよ。預言して、牧者である彼らに言え。『神である主はこう言われる。わざわざいだ。自分を養っているイスラエルの牧者たち。牧者が養わなければならないのは羊ではないか。』」
- 3 あなたがたは脂肪を食べ、羊の毛を身にまとい、肥えた羊を屠るが、羊は養わない。
- 4 弱った羊を強めず、病気のものを癒やさず、傷ついたものを介抱せず、追いやられたものを連れ戻さず、失われたものを捜さず、かえって力づくで、しかも過酷な仕方で彼らを支配した。
- 5 彼らは牧者がいないので散らされ、あらゆる野の獣の餌食となった。こうして彼らは散らされた。
- 6 わたしの羊はすべての山々、すべての高い丘をさまよった。わたしの羊は地の全面に散らされ、尋ね求める者もなく、捜す者もない。
- 7 それゆえ、牧者たちよ、主のことばを聞け。
- 8 わたしは生きている—神である主のことば—。わたしの羊はかすめ奪われ、牧者がいないために、あらゆる野の獣の餌食となってきた。それなのに、わたしの牧者たちはわたしの羊を捜し求めず、かえって自分自身を養って、わたしの羊を養ってこなかった。
- 9 それゆえ、牧者たちよ、主のことばを聞け。
- 10 神である主はこう言う。わたしは牧者たちを敵とし、彼らの手からわたしの羊を取り返し、彼らに羊を飼うのをやめさせる。もはや牧者たちが自分自身を養うことはなくなる。わたしは彼らの口からわたしの羊を救い出し、彼らの餌食にさせない。』」
- 11 まことに、神である主はこう言われる。「見よ。わたしは自分でわたしの羊の群れを捜し求め、これを捜し出す。
- 12 牧者が、散らされた羊の群れのただ中にいるときに、その群れの羊を確かめるように、わたしはわたしの羊を確かめ、雲と暗黒の日に散らされたすべての場所から彼らを救い出す。
- 13 わたしは諸国の民の中から彼らを導き出し、国々から彼らを集め、彼らの地に連れて行き、イスラエルの山々や谷川のほとり、またその地のすべての居住地で彼らを養う。
- 14 わたしは良い牧草地で彼らを養い、イスラエルの高い山々が彼らの牧場となる。彼らはその良い牧場に伏し、イスラエルの山々の肥えた牧草地で養われる。
- 15 わたしがわたしの羊を飼い、わたしが彼らを憩わせる—神である主のことば—。
- 16 わたしは失われたものを捜し、追いやられたものを連れ戻し、傷ついたものを介抱し、病気のものを力づける。肥えたものと強いものは根絶やしにする。わたしは正しいさばきをもって彼らを養う。
- 17 わたしの群れよ。あなたがたについて、神である主はこう言う。見よ、わたしは羊と羊、雄羊と雄やぎの間をさばく。

- 18 あなたがたは良い牧草地で草を食べていながら、それでも足りないのか。その牧草地の残りを足で踏み荒らすとは。澄んだ水を飲みながら、その残りを足で濁すとは。
- 19 わたしの群れは、あなたがたの足が踏み荒らした草を食べ、あなたがたの足が濁した水を飲んでいる。」
- 20 それゆえ、神である主は彼らにこう言われる。「見よ、わたし自身が、肥えた羊と痩せた羊との間をさばく。
- 21 あなたがたが脇腹と肩で押しのけ、その角ですべての弱いものを突き倒し、ついに彼らを外に追い散らしてしまったので、
- 22 わたしはわたしの群れを救い、彼らが再び餌食とならないようにする。そして、わたしは羊と羊の間をさばく。
- 23 わたしは、彼らを牧する一人の牧者、わたしのしもベダビデを起こす。彼は彼らを養い、その牧者となる。
- 24 主であるわたしが彼らの神となり、わたしのしもベダビデが彼らのただ中で君主となる。わたしは主である。わたしが語る。
- 25 わたしは彼らと平和の契約を結び、悪い獣をその地から取り除く。彼らは安らかに荒野に住み、森の中で眠る。
- 26 わたしは、彼らにも、わたしの丘の周りにも祝福を与え、時にかなって雨を降らせる。それは祝福の雨となる。
- 27 野の木は実を实らせ、地は産物を生じ、彼らは心安らかに自分たちの土地にいるようになる。わたしが彼らのくびきの横木を砕き、彼らを奴隷にした者たちの手から救い出すとき、彼らは、わたしが主であることを知る。
- 28 彼らは二度と国々の餌食とならず、その地の獣も彼らを食い殺さない。彼らは安らかに住み、もう彼らを脅かす者はいない。
- 29 わたしは彼らのために立派な耕作地を開く。彼らは、再びその地で飢饉にあうこともなく、再び国々の侮辱を受けることもない。
- 30 このとき彼らは、わたしが、彼らとともにいる彼らの神、主であり、彼らイスラエルの家がわたしの民であることを知る―神である主のことば―。
- 31 あなたがたはわたしの羊、わたしの牧場の羊である。あなたがたは人間で、わたしはあなたがたの神である―神である主のことば。 」

第35章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ。セイルの山に顔を向け、これについて預言せよ。
- 3 神である主はこう言われる。セイルの山よ。わたしはおまえを敵とする。わたしはおまえに手を伸ばし、おまえを全き荒廃の地とする。
- 4 わたしがおまえの町々を廃墟にし、おまえを荒れ果てさせるとき、おまえは、わたしが主であることを知る。
- 5 おまえはいつまでも敵意を抱き、イスラエル人の災難の時、すなわち彼らの最後の刑罰の時、彼らを剣の力に引き渡した。
- 6 それゆえ—神である主のことば—わたしは生きている。わたしは必ずおまえを血に渡す。血はおまえを追う。おまえは血を憎むことがなかった。だから、血がおまえを追いかける。
- 7 わたしはセイルの山を全くの廃墟とし、そこから人の往来を絶つ。
- 8 わたしはその山々を、刺し殺された者で満たし、おまえの丘、谷、すべての谷川に、剣で刺し殺された者たちが倒れる。
- 9 わたしはおまえを永遠に荒れ果てさせる。おまえの町々には住む者がいなくなる。そのときおまえたちは、わたしが主であることを知る。
- 10 おまえは、『これら二つの民、二つの国は、われわれのものだ。われわれはそれを占領しよう』と言った。しかし、そこには主がいたのである。
- 11 それゆえ—神である主のことば—わたしは生きている。わたしは必ずおまえを罰する。おまえが憎しみから彼らに対してふるまったのと、同じほどの怒りとねたみをもって。わたしがおまえをさばくとき、わたしは彼らに対して自らを現す。
- 12 そのときおまえは、わたしが主であることを知る。わたしは、おまえがイスラエルの山々に向かって『これは荒れ果てて、われわれの餌食となった』と言って侮辱したのをすべて聞いている。
- 13 おまえたちはわたしに向かって豪語し、わたしに向かってことばを重ねたが、わたしはそれを聞いている。
- 14 神である主はこう言う。全地が喜ぶほどに、わたしはおまえを荒れ果てさせる。
- 15 おまえは、イスラエルの家ゆずりの地が荒れ果てたことを喜んだが、わたしはおまえに同じようにする。セイルの山よ。おまえは荒れ果て、エドム全体もそうなる。そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。」

第36章

- 1 「人の子よ、あなたはイスラエルの山々に預言せよ。イスラエルの山々よ、主のことばを聞け。
- 2 神である主はこう言われる。敵がおまえたちに向かって『あはは、昔からの高き所がわれわれの所有となった』と言っている。
- 3 それゆえ、預言せよ。神である主はこう言われる。おまえたちは周りの民に荒らされ、踏みつけられ、ほかの国々の所有とされた、まさにその理由で、おまえたちは人々の語りぐさとなり、そしりの的となった。
- 4 それゆえ、イスラエルの山々よ、神である主のことばを聞け。神である主はこう言われる。山や丘、谷川や谷、荒れ果てた廃墟、また、ほかの周囲の国々にかすめ奪われ、嘲られて見捨てられた町々に向かって。
- 5 それゆえ、神である主はこう言われる。わたしは燃えるねたみをもって、ほかの国々とエドム全土に告げる。彼らは心の底から喜び、思い切り嘲って、わたしの国を自分たちの所有とし、牧場をかすめ奪ったのだ。
- 6 それゆえ、イスラエルの地について預言し、山や丘、谷川や谷に向かって言え。神である主はこう言われる。見よ。おまえたちが国々の侮辱を受けてきたので、わたしはねたみと憤りをもって告げる。
- 7 それゆえ、神である主はこう言われる。わたしは手を上げて厳かに誓う。おまえたちを取り囲む諸国の民は、必ず恥辱を負う。
- 8 だが、おまえたち、イスラエルの山々よ。おまえたちは枝を出し、わたしの民イスラエルのために実を結ぶ。彼らが帰って来るのが近いからだ。
- 9 というのは、わたしがおまえたちのところに行き、おまえたちのところに向かうからだ。おまえたちは耕され、種を蒔かれる。
- 10 わたしはおまえたちの上、イスラエルの全家に人を増やす。町々は住む所となり、廃墟は建て直される。
- 11 わたしはおまえたちの上に人と家畜を増やす。彼らは増えて、多くの子を生む。わたしはおまえたちを、昔のように人の住む所とし、以前よりも栄えさせる。そのときおまえたちは、わたしが主であることを知る。
- 12 わたしはおまえたちの上に人を、わたしの民イスラエルを歩かせる。彼らはおまえを所有し、おまえは彼らの相続地となる。おまえは二度と彼らに子を失わせることはない。
- 13 神である主はこう言われる。彼らはおまえたちに、『おまえは人間を食らい、自分の国民に子を失わせている』と言っている。
- 14 それゆえ、おまえは二度と人間を食らわず、二度とおまえの国民に子を失わせることはない——神である主のことば——。
- 15 わたしは二度と国々の侮辱をおまえに聞こえさせない。おまえは国々の民のそしりを二度と受けない。二度とおまえの国民をつまづかせることはない——神である主のことば。」
- 16 次のような主のことばが私にあった。

- 17 「人の子よ。イスラエルの家が自分の土地に住んでいたとき、彼らはその生き方と行いによって、その地を汚した。その生き方は、わたしの前では、月のさわりのある女の汚れのようであった。
- 18 それでわたしは、彼らがその地に流した血のために、また偶像でこれを汚したことのゆえに、わたしの憤りを彼らに注いだ。
- 19 わたしは彼らを諸国の間に散らし、彼らを国々に追い散らし、彼らの生き方と行いにしたがって彼らをさばいた。
- 20 彼らはどの国々に行っても、わたしの聖なる名を汚した。人々は彼らについて、『この人々は主の民なのに、主の国から出されたのだ』と言ったのだ。
- 21 わたしは、イスラエルの家がその行った国々の間で汚した、わたしの聖なる名を惜しんだ。
- 22 それゆえ、イスラエル家に言え。神である主はこう言われる。イスラエル家よ。わたしが事を行うのは、あなたがたのためではなく、あなたがたが行った国々の間であなたがたが汚した、わたしの聖なる名のためである。
- 23 わたしは、あなたがたが国々の間で汚したわたしの大いなる名が、聖であることを示す。あなたがたが彼らのただ中で汚した名である。わたしが彼らの目の前に、わたしがあなたがたのうちで聖であることを示すとき、国々は、わたしが主であることを知る―神である主のことば―。
- 24 わたしはあなたがたを諸国の間から導き出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く。
- 25 わたしがきよい水をあなたがたの上に振りかけるそのとき、あなたがたはすべての汚れからきよくなる。わたしはすべての偶像の汚れからあなたがたをきよめ、
- 26 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。
- 27 わたしの霊をあなたがたのうちに授けて、わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行うようにする。
- 28 あなたがたは、わたしがあなたがたの先祖に与えた地に住み、あなたがたはわたしの民となり、わたしはあなたがたの神となる。
- 29 わたしはあなたがたをすべての汚れから救い、穀物を呼び寄せて増やし、飢えをあなたがたに送らない。
- 30 わたしは木の実と畑の産物を増やす。それであなたがたは、もう国々の間で飢饉のために恥辱を受けることはない。
- 31 あなたがたは自分たちの悪しき生き方と、良くなかった行いを思い出し、自分たちの不義と忌み嫌うべきわざを憎むようになる。
- 32 わたしが事を行うのは、あなたがたのためではない―神である主のことば―。そのことをあなたがたは知っていなければならない。イスラエル家よ、恥じよ。あなたがたの生き方のゆえに辱めを受けよ。」
- 33 神である主はこう言われる。「わたしがあなたがたをすべての不義からきよめる日に、わたしは町々を人の住めるところとし、廃墟は建て直される。

- 34** 荒れ果てた地は、通り過ぎるすべての者に荒れ野と見なされていたが、耕されるようになる。
- 35** このとき、人々はこう言うだろう。『あの荒れ果てていた地はエデンの園のようになった。廃墟となり、荒れ果て、破壊されていた町々も城壁が築かれ、人が住むようになった』と。
- 36** あなたがたの周りに残された諸国の民も、主であるわたしが破壊されていたところを建て直し、荒れ果てていたところに木を植えたことを知るようになる。主であるわたしが語り、これを行う。」
- 37** 神である主はこう言われる。「わたしはイスラエルの家の求めに応じ、このことを彼らのためにする。わたしは人を羊の群れのように増やす。
- 38** ちょうど、聖なるものとして献げられる羊の群れのように、例祭のときのエルサレムの羊の群れのように、廃墟であった町々を人の群れで満たす。そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。」

第37章

- 1 主の御手が私の上にあった。私は主の霊によって連れ出され、平地の真ん中に置かれた。そこには骨が満ちていた。
- 2 主は私にその周囲をくまなく行き巡らせた。見よ、その平地には非常に多くの骨があった。しかも見よ、それらはすっかり干からびていた。
- 3 主は私に言われた。「人の子よ、これらの骨は生き返ることができるだろうか。」私は答えた。「神、主よ、あなたがよくご存じです。」
- 4 主は私に言われた。「これらの骨に預言せよ。『干からびた骨よ、主のことばを聞け。』」
- 5 神である主はこれらの骨にこう言う。見よ。わたしがおまえたちに息を吹き入れるので、おまえたちは生き返る。
- 6 わたしはおまえたちに筋をつけ、肉を生じさせ、皮膚でおおい、おまえたちのうちに息を与え、おまえたちは生き返る。そのときおまえたちは、わたしが主であることを知る。』」
- 7 私は命じられたように預言した。私が預言していると、なんと、ガラガラと音がして、骨と骨とが互いにつながった。
- 8 私が見ていると、なんと、その上に筋がつき、肉が生じ、皮膚がその上をすっかりおおった。しかし、その中に息はなかった。
- 9 そのとき、主は言われた。「息に預言せよ。人の子よ、預言してその息に言え。『神である主はこう言われる。息よ、四方から吹いて来い。この殺された者たちに吹きつけて、彼らを生き返らせよ。』」
- 10 私が命じられたとおりに預言すると、息が彼らの中に入った。そして彼らは生き返り、自分の足で立った。非常に大きな集団であった。
- 11 主は私に言われた。「人の子よ、これらの骨はイスラエルの全家である。見よ、彼らは言っている。『私たちの骨は干からび、望みは消え失せ、私たちは断ち切られた』と。
- 12 それゆえ、預言して彼らに言え。『神である主はこう言われる。わたしの民よ、見よ。わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたをその墓から引き上げて、イスラエルの地に連れて行く。
- 13 わたしの民よ。わたしがあなたがたの墓を開き、あなたがたを墓から引き上げるとき、あなたがたは、わたしが主であることを知る。
- 14 また、わたしがあなたがたのうちにわたしの霊を入れると、あなたがたは生き返る。わたしはあなたがたを、あなたがたの地に住まわせる。このとき、あなたがたは、主であるわたしが語り、これを成し遂げたことを知る—主のことば。』」
- 15 次のような主のことばが私にあった。
- 16 「人の子よ。あなたは一本の杖を取り、その上に『ユダと、それにつくイスラエルの人々のために』と書き記せ。もう一本の杖を取り、その上に『エフライムの杖、ヨセフと、それにつくイスラエルの全家のために』と書き記せ。
- 17 その両方をつなぎ、一本の杖とし、あなたの手の中で一つとなるようにせよ。

- 18 あなたの民の者たちがあなたに向かって、『これがあなたにとって何を意味するのか、私たちに説明してくれませんか』と言うとき、
- 19 彼らに告げよ。『神である主はこう言われる。見よ。わたしは、エフライムの手にあるヨセフの杖と、それにつくイスラエルの諸部族を取り、それらをユダの杖に合わせて一本の杖とし、わたしの手の中で一つとする。』
- 20 あなたが書き記した杖を、彼らの見ている前で手に取り、
- 21 彼らに告げよ。『神である主はこう言われる。見よ。わたしはイスラエルの子らを、彼らが行っていた国々の間から取り、四方から集めて彼らの地に導いて行く。
- 22 わたしが彼らを、その地、イスラエルの山々で一つの国とするとき、一人の王が彼ら全体の王となる。彼らは再び二つの国となることはなく、決して再び二つの王国に分かれることはない。
- 23 彼らは再び、その偶像や忌まわしいもの、またあらゆる背きによって身を汚すことはない。わたしは、彼らがかつて罪に陥ることになった背信から彼らを救い、彼らをきよめる。彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。
- 24 わたしのしもベダビデが彼らの王となり、彼ら全体のただ一人の牧者となる。彼らはわたしの定めに従って歩み、わたしの掟を守り行う。
- 25 彼らは、わたしがわたしのしもベヤコブに与え、あなたがたの先祖が住んだ地に住むようになる。そこには彼らとその子らとその子孫たちが、とこしえに住み、わたしのしもベダビデが永遠に彼らの君主となる。
- 26 わたしは彼らと平和の契約を結ぶ。これは彼らとの永遠の契約となる。わたしはそれを彼らに与え、彼らを増やし、わたしの聖所を彼らのうちに永遠に置く。
- 27 わたしの住まいは彼らとともにあり、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。
- 28 わたしの聖所が永遠に彼らのうちにあるとき、諸国の民は、わたしがイスラエルを聖なる者とする主であることを知る。』」

第38章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ。メシェクとトバルの大首長である、マゴグの地のゴグに顔を向け、彼に預言せよ。
- 3 『神である主はこう言われる。メシェクとトバルの大首長であるゴグよ。今、わたしはおまえを敵とする。
- 4 わたしはおまえを引き回し、おまえのあごに鉤をかけ、おまえと、おまえの全軍勢を出陣させる。それはみな完全に武装した馬や騎兵、大盾と盾を持ち、みな剣を取る大集団だ。
- 5 ペルシアとクシュとプテも彼らとともにいて、みな盾を持ち、かぶとを着けている。
- 6 ゴメルとそのすべての軍隊、北の果てのベテ・トガルマとそのすべての軍隊、それに多くの国々の民がおまえとともにいる。
- 7 備えをせよ。おまえも、おまえのもとに召集された全集団も構えよ。おまえは彼らを統率せよ。
- 8 多くの日が過ぎて、おまえは徴集され、多くの年月の後、おまえは、一つの国に侵入する。そこは剣から立ち直り、多くの国々の民の中から、久しく廃墟であったイスラエルの山々に集められた者たちの国である。その民は国々の民の中から導き出され、みな安らかに住んでいる。
- 9 おまえは嵐のように攻め上り、おまえと、おまえの全部隊、それに、おまえにつく多くの国々の民は、地をおおう雲のようになる。
- 10 神である主はこう言う。その日には、おまえの心に様々なことが思い浮かぶ。おまえは悪巧みをめぐらして、
- 11 こう言うだろう。「私は無防備な国に攻め上ろう。安心して暮らす平穏な者たちのところに侵入しよう。彼らはみな城壁もなく住んでいる。かんぬきも門もない」と。
- 12 それは、おまえが略奪し、獲物をかすめ奪うため、また今は人の住むようになった廃墟と、国々から集められて地の中心に住み、家畜と財産を所有した民とに向かって手を伸ばすためだ。
- 13 シェバやデダンやタルシシュの商人たち、およびそのすべての若い獅子たちは、おまえに言うだろう。「おまえは分捕るために来たのか。獲物をかすめ奪うために隊を構えたのか。銀や金を運び去り、家畜や財産を取り、大いに略奪しようとするつもりか」と。』
- 14 それゆえ、人の子よ、預言してゴグに言え。『神である主はこう言われる。わたしの民イスラエルが安心して住んでいるとき、まさに、その日、おまえは知ることになる。
- 15 おまえは北の果てのおまえの国から、多くの国々の民とともに来る。彼らはみな馬に乗る者で、大集団、大軍勢だ。
- 16 おまえはわたしの民イスラエルを攻めに上り、地をおおう雲のようになる。終わりの日に、そのことは起こる。ゴグよ、わたしはおまえに、わたしの地を攻めさせる。それは、わたしがおまえを使って、国々の目の前にわたしが聖であることを示し、彼らがわたしを知るためだ。

- 17** 神である主はこう言う。おまえは、わたしが昔、わたしのしもべであるイスラエルの預言者たちを通して語った、まさにその者ではないか。この預言者たちは長年にわたり、わたしがおまえに彼らを攻めさせると預言していたのだ。』
- 18** ゴグがイスラエルの地を攻めるその日―神である主のことば―わたしの憤りは激しく燃え上がる。
- 19** わたしは、ねたみをもって、激しい怒りの火をもって告げる。その日には必ずイスラエルの地に大きな地震が起こる。
- 20** 海の魚、空の鳥、野の獣、地面を這うすべてのもの、地上のすべての人間は、わたしの前で震え上がり、山々はくつがえり、崖は落ち、すべての城壁は地に倒れる。
- 21** わたしは剣を呼び寄せて、わたしのすべての山々でゴグを攻めさせる―神である主のことば―。剣による同士討ちが起こる。
- 22** わたしは疫病と流血で彼に罰を下し、彼と、彼の部隊と、彼とともにいる多くの国々の民の上に豪雨、雹、火、硫黄を降らせる。
- 23** わたしは、わたしが大いなる者であること、わたしが聖であることを示し、多くの国々の見ている前でわたしを知らせる。そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。」

第39章

- 1 「人の子よ、あなたはゴグに向かって預言せよ。『神である主はこう言われる。メシェクとトバルの大首長であるゴグよ、わたしはおまえを敵とする。
- 2 わたしはおまえを引き回し、おまえを駆りたて、北の果てから上らせ、イスラエルの山々に連れて来る。
- 3 おまえの左の手から弓をたたき落とし、右の手から矢を落とす。
- 4 おまえと、おまえのすべての部隊、おまえとともにいる国々の民は、イスラエルの山々に倒れ、わたしはおまえをあらゆる種類の猛禽や野獣の餌食とする。
- 5 おまえは野に倒れる。わたしがこれを語るからだ―神である主のことば―。
- 6 わたしはマゴグと、島々に安住している者たちに火を放つ。彼らは、わたしが主であることを知る。
- 7 わたしは、わたしの聖なる名をわたしの民イスラエルの中に告げ知らせ、二度とわたしの聖なる名を汚させない。諸国の民は、わたしが主であり、イスラエルの聖なる者であることを知る。
- 8 今、それは来て、成就する―神である主のことば―。それは、わたしが語ってきた日である。
- 9 イスラエルの町々の住民は出て来て、武器、すなわち、盾と大盾、弓と矢、手槍と槍を燃やし、それらで火をおこす。彼らは、七年間それらで火を燃やす。
- 10 彼らは野から薪を運んだり、森から木を切り出したりする必要はない。武器で火を燃やすからだ。彼らは略奪した者たちから略奪し、かすめ奪った者たちからかすめ奪う―神である主のことば。
- 11 その日、わたしは、イスラエルのうちに、ゴグのために墓場となる場所を設ける。それは、海の東にある去りゆく者たちのための谷である。そこは通行人の道をふさぐ。そこにゴグと、その大軍すべてが埋められ、そこはハモン・ゴグの谷と呼ばれる。
- 12 七か月間、イスラエルの家は、その地をきよめるために彼らを埋め続ける。
- 13 その国のすべての民が埋める。こうして、わたしの栄光が現されるとき、そのことは彼らにとって名誉となる―神である主のことば―。
- 14 すなわち、選り分けられた特定の人々が地を巡り歩き、去りゆく者たち、地の面に取り残されている者たちを埋めて、その地をきよめる。彼らは七か月の終わりまで探し回る。
- 15 巡り歩く者たちは地を巡り歩き、人間の骨を見ると、埋める者たちがそれをハモン・ゴグの谷に埋めるまで、そのそばに標識を立てておく。
- 16 そこの町の名はハモナとも言われる。こうして彼らは地をきよめる。』
- 17 人の子よ、神である主はこう言う。あらゆる種類の鳥と、あらゆる野の生き物に言え。『集まって来い。わたしがおまえたちのために屠るわたしのいけにえに、イスラエルの山々の上での大いなる祝宴に、四方から集まれ。おまえたちはその肉を食べ、その血を飲め。

- 18 勇士たちの肉を食べ、地の君主たちの血を飲め。雄羊、子羊、雄やぎ、雄牛、それらはすべてバシャンの肥えたものだ。
- 19 わたしがおまえたちのために屠ったいけにえの中から、脂肪をたらふく食べ、その血を酔うほど飲むがよい。
- 20 おまえたちはわたしの食卓で、馬や騎手、勇士やすべての戦士をたらふく食べる―神である主のことば。』
- 21 わたしが国々の間にわたしの栄光を現すとき、国々の民はみな、わたしが行ったわたしのさばきと、わたしが彼らの上に置いたわたしの手を見る。
- 22 その日以降、イスラエルの家は、わたしが彼らの神、主であることを知る。
- 23 国々の民は、イスラエルの家がわたしの信頼を裏切った咎のゆえに捕らえ移され、わたしが彼らから顔を隠したこと、また彼らを敵の手に渡したゆえに、彼らがみな剣に倒れたことを知る。
- 24 わたしは彼らの汚れと背きに応じて彼らを罰し、わたしの顔を彼らから隠した。」
- 25 それゆえ、神である主はこう言われる。「今、わたしはヤコブを回復させ、イスラエルの全家をあわれむ。これは、わが聖なる名への、わたしのねたみによる。
- 26 彼らが自分たちの地に、だれにも脅かされずに安らかに住むとき、彼らは自らの恥辱と、わたしに対するすべての不信との責めを負う。
- 27 わたしが彼らを諸国の民の間から帰らせ、彼らの敵の地から集めるとき、多くの国々が見ている前で、わたしは彼らのうちにわたしが聖であることを示す。
- 28 わたしは彼らを国々に引いて行かせたが、また彼らを彼らの地に集め、もう国々には一人も残さない。このとき彼らは、わたしが彼らの神、主であることを知る。
- 29 わたしは二度と、わたしの顔を彼らから隠すことはない。わたしの霊をイスラエルの家の上に注ぐからである―神である主のことば。」

第40章

- 1 私たちが捕囚となって二十五年目の年の初め、その月の十日、都が占領されてから十四年目のちょうどその日に、主の御手が私の上にあり、私をそこへ連れて行った。
- 2 すなわち、神々しい幻のうちに私はイスラエルの地へ連れて行かれ、非常に高い山の上に降ろされた。その南の方に、町のようなものが造られていた。
- 3 主が私をそこに連れて行くと、そこに一人の人がいた。その姿は青銅でできているようであり、その手に麻のひもと測り竿を持って、門のところに立っていた。
- 4 その人は私に話しかけられた。「人の子よ。あなたの目で見、耳で聞き、わたしがあなたに見せるすべてのことを心に留めよ。わたしがあなたを連れて来たのは、あなたにこれを見せるためだ。あなたが見ることをみな、イスラエルの家に告げよ。」
- 5 そこに、神殿の外側を囲んでいる壁があった。その人は手に六キュビトの測り竿を持っていた。その一キュビトは、普通の一キュビトに一手幅を足した長さであった。彼がその外壁の厚さを測ると一竿であり、その高さも一竿であった。
- 6 それから彼は東側に面した門に行き、その階段を上った。彼が門の敷居を測ると、その幅は一竿で、もう一つの門の敷居も幅は一竿であった。
- 7 控え室は長さ一竿、幅一竿であり、控え室と控え室の間は五キュビトであった。門の内側の玄関の間のそばにある敷居は一竿であった。
- 8 彼が門の内側の玄関の間を測ると一竿、
- 9 すなわち、門の玄関の間を測ると八キュビト、その壁柱は二キュビトで、門の玄関の間は内側にあった。
- 10 東門の控え室は両側に三つずつあり、三つとも同じ寸法であった。壁柱も、両側とも同じ寸法であった。
- 11 門の入り口の幅を測ると十キュビト、門の内のり幅の長さは十三キュビトであった。
- 12 控え室の前に出た仕切りは、両側ともそれぞれ一キュビトであった。控え室は両側とも六キュビトであった。
- 13 彼がその門を、控え室の片方の屋根の端からもう片方の屋根の端まで測ると、一つの入り口からもう一つの入り口までの幅は二十五キュビトであった。入り口と入り口は向かい合っていた。
- 14 壁柱を測ると六十キュビトであった。門の周囲を巡る壁柱は庭に面していた。
- 15 入り口の門の前から内側の門の玄関の間の前までは五十キュビトであり、
- 16 門の内側にある控え室と壁柱には格子窓が取り付けられ、玄関の間もそうであった。内側の周りには窓があり、壁柱には、なつめ椰子の木が彫刻してあった。
- 17 それから、彼は私を外庭に連れて行った。すると、そこには庭の周りに部屋があり、石畳があった。三十の部屋が石畳に面していた。
- 18 石畳は門のわきにあり、ちょうど門の長さと同じであった。これは下の石畳である。
- 19 彼が下の門の端から内庭の外の端までその幅を測ると、東も北も百キュビトであった。
- 20 彼は外庭にある北向きの門の長さとは幅を測った。

- 21 それには両側に三つずつ控え室があり、壁柱も玄関の間も先の門と同じ寸法であった。その長さは五十キュビト、幅は二十五キュビトであった。
- 22 その窓も玄関の間もなつめ椰子の木の彫刻も、東向きの門と同じ寸法であった。七段の階段を上って行くと、その先に玄関の間があった。
- 23 東門と同様に、北門にも内庭の門が向かい合っていた。彼が門から門まで測ると、百キュビトであった。
- 24 次に、彼は私を南の方へ連れて行った。すると、そこに南向きの門があった。その壁柱と玄関の間を彼が測ると、それはほかの門と同じ寸法であった。
- 25 壁柱と玄関の間の周囲に窓があり、それはほかの窓と同じであった。門の長さは五十キュビト、幅は二十五キュビトであった。
- 26 そこに上るのに七段の階段があり、その先に玄関の間があった。その両側の壁柱には、なつめ椰子の木が彫刻してあった。
- 27 内庭には南向きの門があり、彼が南の方にこの門からもう一つの門まで測ると、百キュビトであった。
- 28 彼は私を、南門を通過して内庭に連れて行った。南門を測ると、ほかの門と同じ寸法であった。
- 29 その控え室も壁柱も玄関の間もほかのと同じ寸法で、壁柱と玄関の間の周囲に窓があった。門の長さは五十キュビト、幅は二十五キュビトであった。
- 30 玄関の間の周囲は長さ二十五キュビト、幅五キュビトであった。
- 31 その玄関の間は外庭に面し、その壁柱には、なつめ椰子の木が彫刻してあった。その階段は八段であった。
- 32 次に、彼は私を内庭の東の方に連れて行った。その門を測ると、ほかの門と同じ寸法であった。
- 33 その控え室も壁柱も玄関の間もほかのと同じ寸法で、壁柱と玄関の間の周囲に窓があった。門の長さは五十キュビト、幅は二十五キュビトであった。
- 34 その玄関の間は外庭に面し、両側の壁柱には、なつめ椰子の木が彫刻してあった。階段は八段であった。
- 35 彼は私を北の門に連れて行った。それを測ると、ほかの門と同じ寸法であった。
- 36 その控え室も壁柱も玄関の間もほかのと同じ寸法で、その周囲に窓があった。門の長さは五十キュビト、幅は二十五キュビトであった。
- 37 その玄関の間は外庭に面し、両側の壁柱には、なつめ椰子の木が彫刻してあった。階段は八段であった。
- 38 門の壁柱のそばには戸のある部屋があり、そこは全焼のささげ物をすすぎ洗う場所であった。
- 39 門の玄関の間の両側には、全焼のささげ物、罪のきよめのささげ物、代償のささげ物を屠るための台が、それぞれ二つずつあった。
- 40 北の門の入り口へ上って行くと、外側に二つの台があり、門の玄関の間のもう一つの側にも二つの台があった。

- 41 すなわち、門の片側に四つの台があり、もう一つの側に四つの台があり、この八つの台の上でいけにえを屠るのであった。
- 42 また、全焼のささげ物のために四つの台があり、長さ一キュビト半、幅一キュビト半、高さ一キュビトの切り石であった。その上に、全焼のささげ物やいけにえを屠るための道具が置かれていた。
- 43 内側には、周囲に一手幅の鉤が取り付けられてあり、ささげ物の肉は台の上に置かれるようになっていた。
- 44 内門の向こうには歌い手たちの部屋があり、北門のわきにある部屋は南を向き、南門のわきにある部屋は北を向いていた。
- 45 彼は私に言った。「この南向きの部屋は、神殿の任務に当たる祭司たちのためのものであり、
- 46 北向きの部屋は、祭壇の任務に当たる祭司たちのためのものである。彼らはツアドクの子孫であり、レビの子孫の中で主に近づいて仕える者たちである。」
- 47 彼が庭を測ると、長さ百キュビト、幅百キュビトの正方形であった。祭壇は神殿の前にあった。
- 48 彼が私を神殿の玄関の間に連れて行って、玄関の間の壁柱を測ると、両側とも五キュビトであり、その門の幅は十四キュビト、その門の両脇の壁はそれぞれ三キュビトであった。
- 49 玄関の間の長さは二十キュビト、奥行は十一キュビトであった。そこへ上るのに階段があり、両側の壁柱のそばにはそれぞれ円柱が立っていた。

第41章

- 1 彼は私を本殿へ連れて行った。その壁柱を測ると、その幅は両側とも六キュビトであった。これが壁柱の幅であった。
- 2 入り口の幅は十キュビト、入り口の両脇の壁はそれぞれ五キュビトであり、本殿の長さを測ると四十キュビト、幅は二十キュビトであった。
- 3 彼が奥に入り、入り口の壁柱を測ると二キュビト、入り口は六キュビト、入り口の両脇の壁は七キュビトであった。
- 4 彼はまた、本殿の奥に長さ二十キュビト、幅二十キュビトを測って、私に「これは最も聖なる所だ」と言った。
- 5 彼が神殿の壁の厚さを測ると六キュビト、神殿の周囲を囲む脇間の幅は四キュビトであった。
- 6 脇間は三階建てで、各階に三十あった。それらは神殿の壁に差し込まれていた。脇間がぐるりと取り囲んでいたのも、それが支えとなっていた。しかし神殿の壁には、支えが差し込まれていなかった。
- 7 脇間の幅は、螺旋階段で上に上るごとに広がっていた。というのは、神殿はその建物の四方を、上の方まで脇間で取り囲まれていたからである。そのため、神殿には、地階から中間の階を通して最上階に上る場合、上の方により広い空間があることになる。
- 8 私は神殿の周りが高くなっているのを見た。脇間の土台は、長めの六キュビトの測り竿いっぱいであった。
- 9 脇間の外側の壁の厚さは五キュビトであった。神殿の脇間と
- 10 部屋との間には空き地があり、それが神殿の周囲を幅二十キュビトで囲んでいた。
- 11 脇間の入り口は空き地の方を向いていて、一つの入り口は北向き、もう一つの入り口は南向きであった。その空き地は幅五キュビトで周囲を囲んでいた。
- 12 西側の聖域にある建物は、その奥行が七十キュビト、その建物の周りの壁は、厚さ五キュビト、その間口は九十キュビトであった。
- 13 彼が神殿を測ると、長さは百キュビトであった。また、その聖域と建物とその壁とで、長さ百キュビトであった。
- 14 また、東側の聖域と神殿に面する幅も百キュビトであった。
- 15 彼が神殿の裏にある聖域に面した建物の長さと、その両側のバルコニーを測ると、百キュビトであった。本殿と、その前の庭の玄関の間、
- 16 敷居と格子窓と、三階になったバルコニーには、床から窓まで羽目板が張り巡らされ、窓はおおわれ、
- 17 それは入り口の上部、神殿の内側と外側に及んでいた。そして、これらを囲むどの壁の内側にも外側にも綿密に考案された図柄があり、
- 18 ケルビムとなつめ椰子の木が彫刻してあった。なつめ椰子の木はケルビムとケルビムの間にあり、それぞれのケルビムには二つの顔があった。

- 19 人間の顔は一方のなつめ椰子の木に向かい、若い獅子の顔はもう一方のなつめ椰子の木に向かい、このように神殿全体の周りに彫刻してあった。
- 20 床から入り口の上まで、ケルビムとなつめ椰子の木が彫刻してあった。本殿の壁も同様であった。
- 21 本殿の戸口の柱は四角で、至聖所の前には何か
- 22 木の祭壇に見えるものがあり、高さは三キュビト、長さは二キュビトで、その四隅も台も側面も木でできていた。彼は私に「これが主の前にある机だ」と言った。
- 23 また、本殿と至聖所にそれぞれ二つの扉があり、
- 24 それらの扉にはそれぞれ二つの戸が折りたたむようになっていた。すなわち、一つの扉には二枚の戸があり、もう一方の扉にも二枚の戸があった。
- 25 本殿の扉には、壁に彫刻されていたのと同じような、ケルビムとなつめ椰子の木が彫刻してあった。外側の玄関の間の前には木のひさしがあった。
- 26 玄関の間の両脇の壁には、格子窓となつめ椰子の木があり、神殿の脇間とひさしも同様であった。

第42章

- 1 彼は私を北の方の外庭に連れ出し、聖域に面し、北方の建物に面している部屋へ連れて行った。
- 2 その長さは百キュビト、その端に北の入り口があり、幅は五十キュビトであった。
- 3 二十キュビトの内庭に面し、また外庭の石置に面して、三階になったバルコニーが向かい合っていた。
- 4 部屋の前には内側への通路があり、その幅は十キュビトで、長さは百キュビトであった。その部屋の入り口は北に向いていた。
- 5 最上階にある部屋は、バルコニーが場所を取ったので、建物の地階の部屋よりも、また中間の階の部屋よりも狭かった。
- 6 なぜなら、これらは三階建てであり、庭の柱のような柱がないからである。それで、最上階の部屋は地階の部屋よりも、また中間の階の部屋よりも狭かった。
- 7 また、これらの部屋の前の外庭の方に、部屋に沿って外側に石壁があった。その長さは五十キュビトであった。
- 8 というのは、外庭に面する部屋の長さは五十キュビトだからである。そこで、本殿に面する側は百キュビトとなる。
- 9 これらの部屋の下には、外庭から入れるように、東側に出入り口があった。
- 10 聖域や建物に面している、南側の庭の厚い石壁の中には、部屋があった。
- 11 その部屋の前には通路があった。部屋は北側の部屋と同じように見え、長さも同じ、幅も同じで、そのすべての出口も、その構造において入り口と同様であった。
- 12 南側の部屋の入り口も同様に、通路の先端に入り口があり、東側の石壁に面し、そこから入れる通路があった。
- 13 彼は私に言った。「聖域に面している北の部屋と南の部屋は、聖なる部屋であって、主に近づく祭司たちが最も聖なるささげ物を食する所である。彼らはそこに最も聖なるもの、すなわち、穀物のささげ物、罪のきよめのささげ物、代償のささげ物を置く。その場所は聖だからである。
- 14 祭司たちは、聖所に入ったら、聖所からそのまま外庭に出てはならない。彼らが奉仕に用いる服は聖であるから、そこに置き、ほかの服に着替えてから民に属するところに近づくのである。」
- 15 彼は神殿の内側を測り終えると、東向きの門に私を連れ出し、神殿の周囲を測った。
- 16 彼が測り竿で東側を測ると、測り竿で五百竿であった。
- 17 北側を測ると、測り竿で五百竿であった。
- 18 南側を測ると、測り竿で五百竿であった。
- 19 彼が西側に回って測り竿で測ると、五百竿であった。
- 20 彼が外壁の周りを巡って四方を測ると、その長さは五百竿、幅も五百竿で、聖なるものと俗なるものとを分けていた。

第43章

- 1 彼は私を東向きの門に連れて行った。
- 2 すると見よ、イスラエルの神の栄光が東の方から現れた。その音は大水のとどろきのようで、地はその栄光で輝いた。
- 3 私が見た幻は、かつて主がこの町を滅ぼすために来たときに私が見た幻のようであり、またその幻は、かつて私がケバル川のほとりで見た幻のようでもあった。私はひれ伏した。
- 4 主の栄光が東向きの門を通過して神殿に入ってきた。
- 5 霊が私を引き上げ、私を内庭に連れて行った。なんと、主の栄光が神殿に満ちていた。
- 6 私のそばに人が立っていたが、私は、神殿の中から声が私に語りかけるのを聞いた。
- 7 その声は私に言われた。「人の子よ。ここはわたしの玉座のある場所、わたしの足の踏む場所、わたしが永遠にイスラエルの子らの中で住む場所である。イスラエルの家は、その民もその王たちも、もう二度と、淫行や高き所の王たちの死体で、わたしの聖なる名を汚さない。
- 8 彼らはかつて、自分たちの敷居をわたしの敷居のそばに設け、自分たちの戸口の柱をわたしの戸口の柱の傍らに立て、わたしと彼らとの間には、ただ壁があるだけであった。そして彼らの忌み嫌うべきわざによって、わたしの聖なる名を汚した。そこでわたしは怒って、彼らを絶ち滅ぼした。
- 9 今、彼らにその淫行や王たちの死体を、わたしから遠ざけさせなければならない。そのとき、わたしは永遠に彼らの中に住む。
- 10 人の子よ。あなたは、イスラエルの家が自分たちの不義によって辱められるため、彼らに神殿を示し、彼らにその模型を測らせよ。
- 11 もし彼らが、自分たちの行ったあらゆることによって恥じるなら、あなたは彼らに神殿の構造とその模型、その出口と入り口、すなわち、そのすべての構造を、神殿のすべての掟、すべての構造、すべてのおしえとともに示し、彼らの目の前でそれを書き記せ。彼らがそのすべての構造と掟を守り、それらを行うためである。
- 12 神殿に関するおしえは次のとおりである。山の頂の周囲全体は最も聖なる所である。これが神殿に関するおしえである。
- 13 キュビトによる祭壇の寸法は次のとおりである。このキュビトは、普通のキュビトに一手幅足したものである。祭壇の溝は深さ一キュビト、幅は一キュビト、周囲の縁取りは一ゼレトである。祭壇の高さは次のとおりである。
- 14 この地面に接する溝から下の台座までは二キュビト、幅は一キュビト。この低いほうの台座から高いほうの台座までは四キュビト、幅は一キュビト。
- 15 祭壇の炉は高さ四キュビトであり、祭壇の炉から上の方へ四本の角が出ている。
- 16 祭壇の炉は長さ十二キュビト、幅十二キュビトの正方形である。
- 17 その台座は長さ十四キュビト、幅十四キュビトの正方形で、その周囲の縁は半キュビト、周囲の溝は一キュビトであり、その階段は東に面している。」

- 18** その声は私に言われた。「人の子よ、神である主はこう言う。祭壇の上で全焼のささげ物を献げ、血を振りかけるための祭壇を造る日には、次のことが祭壇に関する掟となる。
- 19** わたしに仕えるためにわたしに近づく、ツアドクの子孫のレビ人の祭司たちに、あなたは罪のきよめのささげ物として若い雄牛一頭を与えよ—神である主のことば—。
- 20** あなたはその血を取り、祭壇の四本の角と、台座の四隅と、周りの縁に付けて祭壇から罪を除き、そのための宥めを行う。
- 21** また、罪のきよめのささげ物の雄牛を取り、これを聖所の外の、神殿の特定の場所で焼かなければならない。
- 22** 二日目に、傷のない雄やぎを罪のきよめのささげ物として献げ、雄牛で罪を除いたように祭壇から罪を除く。
- 23** 罪を除き終えたら、傷のない若い雄牛と、群れのうちの傷のない雄羊を献げる。
- 24** それらを主の前に献げ、祭司たちがそれらの上に塩をまき、全焼のささげ物として主に献げる。
- 25** 七日間、あなたは毎日、罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹を献げ、傷のない若い雄牛一頭と、群れのうちの傷のない雄羊一匹を献げる。
- 26** 七日間にわたって祭壇のための宥めを行い、それをきよめ、聖別する。
- 27** この期間が終わり、八日目とその後は、祭司たちが祭壇の上で、あなたがたの全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げる。そうすれば、わたしはあなたがたを受け入れる—神である主のことば。」

第44章

- 1 彼が私を聖所の東向きの外の門に連れ戻すと、門は閉じていた。
- 2 主は私に言われた。「この門は閉じたままにしておけ。開けてはならない。だれもここから入ってはならない。イスラエルの神、主がそこから入ったからだ。これは閉じたままにしておかなければならない。
- 3 君主だけが、君主として主の前でパンを食べるために、そこに座ることができる。彼は門の玄関の間を通して入り、そこを通して出て行く。」
- 4 彼は私を、北の門を通して神殿の前に連れて行った。私が見ると、なんと、主の栄光が主の宮に満ちていた。私はひれ伏した。
- 5 すると、主は私に言われた。「人の子よ。主の宮のすべての掟とそのすべてのおしえについて、わたしがあなたに告げていることをすべて心に留め、それに目を注ぎ、耳を傾けよ。神殿の入り口と、聖所のすべての出口を心に留めよ。
- 6 あなたは、反逆のイスラエルの家にこう言え。『神である主はこう言われる。イスラエルの家よ。あなたがたのあらゆる忌み嫌うべきわざは、もう十分だ。
- 7 あなたがたは、心に割礼を受けず、肉体にも割礼を受けていない異国の民を連れて来て、わたしの聖所にいさせ、わたしの神殿を汚した。あなたがたは、わたしのパンと脂肪と血を献げたが、あなたがたの行った忌み嫌うべきあらゆるわざによって、わたしとの契約を破った。
- 8 あなたがたは、わたしの聖所での任務も果たさず、かえって、自分たちの代わりにほかの者たちを、わたしの聖所で務めを果たす者として置いた。』」
- 9 神である主はこう言われる。「心に割礼を受けず、肉体にも割礼を受けていない異国の民は、だれもわたしの聖所に入ってはならない。イスラエルの子らの中にいる異国の民はみなそうだ。
- 10 イスラエルが迷って自分たちの偶像を慕い、わたしから迷い出たとき、レビ人もわたしから離れ去ったので、彼らは自分たちの咎を負わなければならない。
- 11 彼らは神殿の門で番をし、神殿で奉仕をして、わたしの聖所で仕え、また、民のために全焼のささげ物といけにえを屠り、こうして民の前に立って、彼らのために仕えるはずなのだ。
- 12 レビ人たちは民の偶像の前で民に仕え、そのことでイスラエルの家を不義に引き込むものとなった。それゆえ、わたしは彼らに手を上げて厳かに誓う―神である主のことば―。彼らは自分たちの咎を負わなければならない。
- 13 彼らは、祭司としてわたしに仕えるために、わたしに近づいてはならない。わたしのあらゆる聖なるもの、また最も聖なるものに近づいてはならない。彼らは、恥辱と、自分たちの行った忌み嫌うべきわざの責めを、負わなければならない。
- 14 わたしは彼らに、神殿のあらゆる奉仕と、そこで行われる神殿のすべての任務を果たさせる。

- 15 しかし、イスラエルの子らが迷ってわたしから離れたときも、わたしの聖所の任務を果たした、ツァドクの子孫のレビ人の祭司たちは、わたしに近づいてわたしに仕え、わたしの前に立ち、わたしに脂肪と血を献げることができる―神である主のことば―。
- 16 彼らはわたしの聖所に入ることができる。わたしの机に近づいてわたしに仕え、わたしへの務めを果たすことができる。
- 17 彼らは、内庭の門に入るときには、亜麻布の服を着なければならない。内庭の門、および神殿の中で務めをするときは、毛織物を身に着けてはならない。
- 18 頭には亜麻布のターバンをかぶり、腰には亜麻布のももひきをはく。汗の出るようなものを身に着けてはならない。
- 19 彼らが外庭に出て、外庭の民のところに出て行くときは、務めのときに着ていた服を脱ぎ、それを聖所の部屋に置き、ほかの服を着なければならない。その服によって民を聖なる者とするためのないためである。
- 20 彼らは頭を剃ってはならない。髪を長く伸ばしすぎてもいけない。頭の毛はきちんと切りそろえなければならない。
- 21 祭司はだれでも、内庭に入るとき、ぶどう酒を飲んで서는ならない。
- 22 やもめや離縁された女を妻にしてはならない。イスラエルの民のうちの処女を妻としなければならない。しかし、やもめでも、それが祭司のやもめであれば、妻としてもよい。
- 23 彼らはわたしの民に、聖なるものと俗なるものとの違いを教え、汚れたものときよいものとの区別を告げ知らせなければならない。
- 24 争いがあるときには、わたしの定めにしたがってさばきの座に着き、これをさばかなければならない。わたしのすべての例祭には、わたしのおしえと掟を守り、わたしの安息日を聖なるものとしなければならない。
- 25 彼らは、死んだ人間に近づいて身を汚してはならない。ただし、自分の父、母、息子、娘、兄弟、未婚の姉妹によって汚れることは許される。
- 26 その場合、祭司はきよめられた後、さらに七日を数えなければならない。
- 27 聖所で仕えるために聖所の内庭に入る日には、罪のきよめのささげ物を献げなければならない―神である主のことば―。
- 28 祭司たちへのゆずりとなるのはこれである。わたしが彼らへのゆずりである。あなたがたはイスラエルの中で彼らに所有地を与えてはならない。わたしが彼らの所有である。
- 29 彼らの食物は、穀物のささげ物、罪のきよめのささげ物、代償のささげ物である。イスラエルのうちで、聖絶されたものはみな、彼らのものである。
- 30 あらゆる種類の初物、あなたがたのあらゆる奉納物のうちの最上の奉納物は、すべて祭司たちのものであり、あなたがたの麦粉の初物も祭司に与えなければならない。あなたの家に祝福が宿るためである。
- 31 祭司たちは、死んだ動物や、野獣にかみ裂かれたものはすべて、鳥であれ獣であれ、食べてはならない。」

第45章

- 1 「あなたがたが相続地としてその地をくじで分けるときは、その地から奉納地として聖なる区域を主に献げなければならない。その長さは二万五千キュビト、幅は一万キュビト。その全域は聖なる地である。
- 2 このうち、縦横五百キュビトの正方形を聖所に充て、五十キュビトの空き地がその周りにあるようにする。
- 3 この区域の中から、長さ二万五千キュビト、幅一万キュビトを測り、その中に最も聖なる所、聖所があるようにせよ。
- 4 これはこの地の聖なる部分である。これは、聖所で仕え、主に近づいて仕える祭司たちのものとなる。ここを彼らの家の敷地とし、聖所のための聖なる所とする。
- 5 また、長さ二万五千キュビト、幅一万キュビトの地は、神殿で奉仕をするレビ人のものとし、二十の部屋を彼らの所有としなければならない。
- 6 聖なる奉納地に沿って、幅五千キュビト、長さ二万五千キュビトを町の所有とし、これをイスラエルの全家のものとする。
- 7 君主の土地は、聖なる奉納地と町の所有地との両側にあり、聖なる奉納地と町の所有地に面し、西側は西の方へ、東側は東の方へ延びている。その長さは一つの部族の割り当て地と同じで、西の境界線から東の境界線にまで及んでいる。
- 8 これがイスラエルの中の彼の所有地である。わたしの君主たちは二度とわたしの民を虐げることなく、この地は部族ごとに、イスラエルの家に与えられる。」
- 9 神である主はこう言われる。「イスラエルの君主たちよ、もう十分だ。暴虐と暴行を取り除き、公正と正義を行え。わたしの民を重税で追い立てることをやめよ—神である主のことば—。
- 10 正しい天秤、正しいエパ升、正しいバテ升を使え。
- 11 エパとバテを同一量にせよ。バテはホメルの十分の一、エパもホメルの十分の一とせよ。その量はホメルを単位とせよ。
- 12 一シェケルは二十ゲラである。二十シェケルと二十五シェケルと十五シェケルとで一ミナとせよ。
- 13 あなたがたが献げる奉納物は次のとおりである。小麦一ホメルから六分の一エパ、大麦一ホメルから六分の一エパ。
- 14 バテの単位で量られる定められた分は、一コルから十分の一バテである。一コルは一ホメルと同じく十バテである。
- 15 さらに、羊の群れから二百匹ごとに一匹の羊。これらをイスラエルの潤った地から得て、穀物のささげ物、全焼のささげ物、交わりのいけにえとし、彼らのために宥めを行え—神である主のことば—。
- 16 国のすべての民は、この奉納物をイスラエルの君主に納めなければならない。
- 17 君主は、各種の祭りの日、新月の祭り、安息日、すなわちイスラエルの家のあらゆる例祭に、全焼のささげ物、穀物のささげ物、注ぎのぶどう酒を供える義務がある。彼はイスラ

エルの家を宥めるために、罪のきよめのささげ物、穀物のささげ物、全焼のささげ物、交わりのいけにえを献げなければならない。」

- 18** 神である主はこう言われる。「第一の月の一日に、あなたは傷のない若い雄牛を取り、聖所から罪を除かなければならない。
- 19** 祭司は罪のきよめのささげ物から血を取り、それを神殿の戸口の柱、祭壇の台座の四隅、そして内庭の門柱に塗る。
- 20** その月の七日にも、あなたは、迷い出る者や浅はかな者のゆえにこのように献げ、神殿のために宥めを行わなければならない。
- 21** 第一の月の十四日に、あなたがたは過越の祭りを守り、その祭りの七日間、種なしパンを食べる。
- 22** その日に君主は、自分のために、また、国のすべての民のために、罪のきよめのささげ物として雄牛を献げる。
- 23** その祭りの七日間、彼は全焼のささげ物として傷のない七頭の雄牛と七匹の雄羊を、七日間、毎日、主に献げなければならない。また一匹の雄やぎを、罪のきよめのささげ物として、毎日、献げなければならない。
- 24** 穀物のささげ物として、雄牛一頭に一エパ、雄羊一匹に一エパを献げる。油は一エパごとに一ヒンとする。
- 25** 第七の月の十五日の祭りにも、七日間、これと同じように献げる。罪のきよめのささげ物、全焼のささげ物、穀物のささげ物、それに油を、同じように献げる。」

第46章

- 1 神である主はこう言われる。「内庭の東向きの門は、仕事をする六日間は閉じられるが、安息日には開けられなければならない。また、新月の祭りの日にも開けられなければならない。
- 2 君主は外側の門の玄関の間を歩いて入り、門の戸口の柱のそばに立つ。祭司たちは彼の全焼のささげ物と、交わりのいけにえを献げ、彼は門の敷居のところで礼拝する。それから彼は出て行く。しかし、門は夕暮れまで閉じてはならない。
- 3 民衆も、安息日と新月の祭りの日には、その門の入り口で主の前に礼拝をする。
- 4 君主が安息日に主に献げる全焼のささげ物は、傷のない子羊六匹と、傷のない雄羊一匹である。
- 5 また、穀物のささげ物は、雄羊一匹について一エパ。子羊については、彼が献げることができる分量の穀物のささげ物。油は一エパごとに一ヒンである。
- 6 新月の祭りの日には、傷のない若い雄牛一頭と、傷のない子羊六匹と雄羊一匹である。
- 7 穀物のささげ物をするために、雄牛一頭に一エパ。雄羊一匹に一エパ。子羊については、手に入れることができる分でよい。油は一エパごとに一ヒンである。
- 8 君主が入るときには門の玄関の間を歩いて入り、そこを歩いて出て行かなければならない。
- 9 しかし、民衆が例祭の日主に主の前に入るとき、北の門を歩いて礼拝に来る者は南の門を歩いて出て行き、南の門を歩いて入る者は北の門を歩いて出て行かなければならない。自分が入った門を歩いて帰ってはならない。その反対側から出て行かなければならない。
- 10 君主は、彼らが入るときに一緒に入り、彼らが出るときに一緒に出なければならない。
- 11 祭りと例祭での穀物のささげ物は、雄牛一頭に一エパ、雄羊一匹に一エパ。子羊については献げることができる分量。油は一エパごとに一ヒンである。
- 12 また君主が、進んで献げるものとして全焼のささげ物を、あるいは、進んで献げるものとして交わりのいけにえを主に献げるときには、彼のために東向きの門を開けなければならない。彼は安息日に献げるのと同じように、全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げなければならない。そして彼は出て行くが、出て行った後、その門は閉じられる。
- 13 あなたは毎日、傷のない一歳の子羊一匹を、全焼のささげ物として主に献げなければならない。これを毎朝、献げなければならない。
- 14 それに添えて、毎朝、六分の一エパの穀物のささげ物、上等の小麦粉に振りかけるための油三分の一ヒンを献げる。これが主への穀物のささげ物であり、永遠に続く掟である。
- 15 こうして、子羊、穀物のささげ物、そして油を、常供の全焼のささげ物として、毎朝、献げなければならない。」
- 16 神である主はこう言われる。「もし君主が、贈り物として自分の相続地を自分の息子たちに与えるなら、それは息子たちのものとなり、それは相続地として彼らの所有地となる。
- 17 しかし、もし君主が自分の相続地の一部を、贈り物として奴隷の一人に与えるなら、それは解放の年まではその奴隷のものであるが、その後で君主に返される。ただ息子たちだけ

が、相続地を自分のものとすることができる。

- 18** 君主は、民の相続地を奪って民をその所有地から追い出してはならない。彼は自分の所有地から、息子たちに相続地を受け継がせなければならない。それは、わたしの民がその所有地から一人でも散らされないようにするためである。」
- 19** それから彼は私を、門のわきにある出入り口から、北向きになっている祭司たちの聖所の部屋に連れて行った。すると、西の方の隅に一つの場所があった。
- 20** 彼は私に言った。「ここは祭司たちが、代償のためのささげ物や罪のきよめのささげ物を煮たり、穀物のささげ物を焼いたりする場所である。これらの物を外庭に持ち出して、民を聖なるものとしないうためである。」
- 21** 彼は私を外庭に連れ出し、庭の四隅を通らせた。すると庭の隅には、それぞれまた、ほかの庭があった。
- 22** 庭の四隅に仕切られた庭があり、それは長さ四十キュビト、幅三十キュビトで、四つともみな同じ寸法であった。
- 23** その四つとも周りは石の壁で囲まれ、石の壁の下の方には調理場が作られていた。
- 24** 彼は私に言った。「これは、神殿で奉仕をしている者が、民からのいけにえを煮る調理場である。」

第47章

- 1 彼は私を神殿の入り口に連れ戻した。見ると、水が神殿の敷居の下から東の方へと流れ出ていた。神殿が東に向いていたからである。その水は祭壇の南、神殿の右側の下から流れ出ていた。
- 2 次に、彼は私を北の門から連れ出し、外を回らせ、東向きの外門に行かせた。見ると、水は右側から流れ出ていた。
- 3 その人は手に測り縄を持って東の方に出て行き、千キュビトを測り、私にその水を渡らせると、それは足首までであった。
- 4 彼がさらに千キュビトを測り、私にその水を渡らせると、水は膝に達した。彼がさらに千キュビトを測り、私を渡らせると、水は腰に達した。
- 5 彼がさらに千キュビトを測ると、水かさが増して渡ることのできない川となった。川は泳げるほどになり、渡ることのできない川となった。
- 6 彼は私に「人の子よ、あなたはこれを見たか」と言って、私を川の岸に連れ帰った。
- 7 私が帰って来て見ると、川の兩岸に非常に多くの木があった。
- 8 彼は私に言った。「この水は東の地域に流れて行き、アラバに下って海に入る。海に注ぎ込まれると、その水は良くなる。
- 9 この川が流れて行くどこでも、そこに群がるあらゆる生物は生き、非常に多くの魚がいるようになる。この水が入ると、その水が良くなるからである。この川が入るところでは、すべてのものが生きる。
- 10 漁師たちは、そのほとりに立つ。エン・ゲディからエン・エグライムまでが網を干す場所になる。その魚は大海の魚のように、種類が非常に多くなる。
- 11 しかし、その沢と沼は水が良ならず、塩を取るのに使われる。
- 12 川のほとりには、こちら側にもあちら側にも、あらゆる果樹が生長し、その葉も枯れず、実も絶えることがなく、毎月、新しい実をつける。その水が聖所から流れ出ているからである。その実は食物となり、その葉は薬となる。」
- 13 神である主はこう言われる。「あなたがたがイスラエルの十二の部族に、この地を相続地として与えるときの境界は、次のとおりである。ヨセフには二つ分を与える。
- 14 あなたがたは、それを等分に割り当てなければならない。それは、わたしがかつて、あなたがたの父祖たちに与えると誓約したものである。この地は相続地としてあなたがたのものである。
- 15 その地の境界線は次のとおりである。北側は、大海からヘテロンの道を経て、レボ・ハマテ、ツェダデ、
- 16 ベロタ、および、ダマスコの領土とハマテの領土の間にあるシブライム、さらに、ハウランの領土に面したハツェル・ハ・ティコンに至る。
- 17 こうして、境界線は海から始まり、ダマスコの境界のハツェル・エナンに至り、北は北の方へ、ハマテの境界にまで至る。これが北側である。

- 18** 東側は、ハウランとダマスコの間と、ギルアデとイスラエルの地の間のヨルダン川が、東の海を経てタマルに至るまでの境界線である。これが東側である。
- 19** 南側は、タマルから南に向かって、メリバテ・カデシュの泉とエジプト川に至り、大海に至るまでである。これが南側である。
- 20** 西側は、大海が境界となり、レボ・ハマテに面した地点にまで至る。これが西側である。
- 21** あなたがたは、この地をイスラエルの部族ごとに割り当てなければならない。
- 22** あなたがたと、あなたがたの間で子を生んで、あなたがたの間に寄留している者にと、この地を自分たちの相続地として、くじで割り当てなければならない。あなたがたは彼らを、イスラエルの子らのうちに生まれた者と同じように扱わなければならない。彼らはイスラエルの部族の中であって、あなたがたと一緒に、くじで相続地の割り当てを受けなければならない。
- 23** 寄留者には、その滞在している部族の中で、その相続地を与えなければならない―神である主のことば。

第48章

- 1 部族の名は次のとおりである。北の端からヘテロンの道を経てレボ・ハマテに至り、北にハマテを望む、ダマスコの境界のハツアル・エナンまで—東側から西側まで—これがダンの分である。
- 2 ダンの地域に接して、東側から西側までがアシェルの分。
- 3 アシェルの地域に接して、東側から西側までがナフタリの分。
- 4 ナフタリの地域に接して、東側から西側までがマナセの分。
- 5 マナセの地域に接して、東側から西側までがエフライムの分。
- 6 エフライムの地域に接して、東側から西側までがルベンの分。
- 7 ルベンの地域に接して、東側から西側までがユダの分である。
- 8 ユダの地域に接して、東側から西側までが、あなたがたの献げる奉納地となる。その幅は二万五千キュビト、その長さは、東側から西側に及ぶ部族の割り当て地の一つと同じである。聖所はその中央にある。
- 9 あなたがたが主に献げる奉納地は、長さ二万五千キュビト、幅一万キュビトである。
- 10 祭司たちへの聖なる奉納地は次のとおりである。北側は二万五千キュビト、西側は一万キュビトの幅、東側は一万キュビトの幅、南側は二万五千キュビトの長さである。主の聖所はその中央にある。
- 11 この区域は、ツアドクの子孫で聖なる者とされた祭司たちのものである。彼らは、イスラエルの子らが迷い出たとき、レビ人が迷い出たように迷い出ることなく、わたしへの務めを果たした。
- 12 彼らの地域はレビ部族の地域に接し、奉納地のうちでも最も聖なる地である。
- 13 レビ部族の分は、祭司たちの地域に接して、長さ二万五千キュビト、幅一万キュビトである。すなわち、全体の長さは二万五千キュビト、幅は一万キュビトである。
- 14 彼らはそのどの部分も、売ったり取り替えたりしてはならない。その初めの土地を譲り渡してはならない。主の聖なるものだからである。
- 15 幅五千キュビト、長さ二万五千キュビトの残りの地所は、町の一般用であり、居住地と放牧地のためである。町はその中央に建てられなければならない。
- 16 その大きさは次のとおりである。北側は四千五百キュビト、南側は四千五百キュビト、東側は四千五百キュビト、西側は四千五百キュビトである。
- 17 また、町の放牧地は、北へ二百五十キュビト、南へ二百五十キュビト、東へ二百五十キュビト、西へ二百五十キュビトである。
- 18 残りの地所の長さは、聖なる奉納地に接し、東へ一万キュビト、西へ一万キュビトである。それは聖なる奉納地に接している。そこから収穫した物は町の働き人の食物となる。
- 19 その町の働き人はイスラエルの全部族から出て、これを耕す。
- 20 奉納地の全体は二万五千キュビト四方であり、あなたがたは、聖なる奉納地を町の所有地とともに献げることになる。

- 21** 聖なる奉納地と町の所有地の両側にある残りの地所は、君主のものである。これは二万五千キュビトの奉納地に面し、そこから東の境界までである。西の方も、その二万五千キュビトに面し、そこから西の境界までである。これは部族の割り当て地にも接していて、君主のものである。聖なる奉納地と神殿の聖所とは、その中央にある。
- 22** 君主の所有する地区の中にあるレビ人の所有地と、町の所有地を除いて、ユダの地域とベニヤミンの地域との間にある部分は、君主のものである。
- 23** なお、残りの部族は、東側から西側までがベニヤミンの分。
- 24** ベニヤミンの地域に接して、東側から西側までがシメオンの分。
- 25** シメオンの地域に接して、東側から西側までがイッサカルに分。
- 26** イッサカルに接して、東側から西側までがゼブルンに分。
- 27** ゼブルンに接して、東側から西側までがガドに分。
- 28** その境界線は、ガドの地域の南側を延び、タマルからメリバテ・カデシュの水、さらにエジプト川に沿って大海に至る。
- 29** 以上が、あなたがたがイスラエルの部族ごとに、相続地としてくじで分ける土地であり、以上が彼らの割り当て地である――神である主のことば。
- 30** 町の出口は次のとおりである。北側は四千五百キュビトの長さで、
- 31** 町の門にはイスラエルの部族の名がつけられている。北側の三つの門は、ルベンの門一つ、ユダの門一つ、レビの門一つ。
- 32** 東側も四千五百キュビトで、三つの門がある。ヨセフの門一つ、ベニヤミンの門一つ、ダンに門一つ。
- 33** 南側も四千五百キュビトの長さで、三つの門がある。シメオンの門一つ、イッサカルに門一つ、ゼブルンに門一つ。
- 34** 西側も四千五百キュビトで、三つの門がある。ガドの門一つ、アシェルに門一つ、ナフタリの門一つ。
- 35** 町の周囲は一万八千キュビト。この町の名は、その日から『主はそこにおられる』となる。」

ダニエル書

Daniel

第1章

- 1 ユダの王エホヤキムの治世の第三年に、バビロンの王ネブカドネツアルがエルサレムに来て、これを包囲した。
- 2 主は、ユダの王エホヤキムと、神の宮の器の一部を彼の手に渡された。彼は、それをシニアルの地にある自分の神の神殿に持ち帰り、その器を自分の神の宝物倉に納めた。
- 3 王は宦官の長アシュペナズに命じて、イスラエルの人々の中から、王族や貴族を数人選んで連れて来させた。
- 4 それは、その身に何の欠陥もなく、容姿が良く、あらゆる知恵に秀で、知識に通じ、洞察力に富み、王の宮廷に仕えるにふさわしく、また、カルデア人の文学とことばを教えるにふさわしい少年たちであった。
- 5 王は、王が食べるごちそうや王が飲むぶどう酒から、毎日の分を彼らに割り当てた。三年間、彼らを養育して、その後で王に仕えさせることにした。
- 6 彼らのうちには、ユダ族のダニエル、ハナンヤ、ミシャエル、アザルヤがいた。
- 7 宦官の長は彼らに別の名前をつけた。すなわち、ダニエルにはベルテシャツアル、ハナンヤにはシャデラク、ミシャエルにはメシャク、アザルヤにはアベデ・ネゴと名をつけた。
- 8 ダニエルは、王が食べるごちそうや王が飲むぶどう酒で身を汚すまいと心に定めた。そして、身を汚さないようにさせてくれ、と宦官の長に願うことにした。
- 9 神は、ダニエルが宦官の長の前に恵みとあわれみを受けられるようにされた。
- 10 宦官の長はダニエルに言った。「私は、あなたがたの食べ物と飲み物を定めた王を恐れている。あなたがたの顔色が同年輩の少年たちよりもすぐれないのを、王がご覧になるのはよいことだろうか。あなたがたのせいで、私は王に首を差し出さなければならなくなる。」
- 11 そこでダニエルは、宦官の長がダニエル、ハナンヤ、ミシャエル、アザルヤのために任命した世話役に言った。
- 12 「どうか十日間、しもべたちを試してください。私たちに野菜を与えて食べさせ、水を与えて飲ませてください。
- 13 そのようにして、私たちの顔色と、王が食べるごちそうを食べている少年たちの顔色を見比べて、あなたの見るところにしたがって、このしもべたちを扱ってください。」
- 14 世話役は彼らのこの申し出を聞き入れ、十日間、彼らを試した。
- 15 十日が終わると、彼らは、王が食べるごちそうを食べているどの少年よりも顔色が良く、からだつきも良かった。
- 16 そこで世話役は、彼らが食べるはずだったごちそうと飲むはずだったぶどう酒を取り下げ、彼らに野菜を与えることにした。
- 17 神はこの四人の少年に、知識と、あらゆる文学を理解する力と、知恵を授けられた。ダニエルは、すべての幻と夢を解くことができた。
- 18 少年たちを召し入れるために王が命じておいた日数が終わったので、宦官の長は彼らをネブカドネツアルの前に連れて行った。

- 19 王が彼らと話してみると、すべての者の中でだれもダニエル、ハナンヤ、ミシャエル、アザルヤに並ぶ者はいなかった。そこで四人は王に仕えることになった。
- 20 王は、知恵と悟りに関わる事柄を彼らに尋ねたが、彼らがそのすべてにおいて、国のどんな呪法師、呪文師よりも十倍もまさっていることが明らかになった。
- 21 ダニエルはキュロス王の元年までそこにいた。

第2章

- 1 ネブカドネツアルの治世の第二年に、ネブカドネツアルは何度か夢を見た。そしてそのために心が騒ぎ、彼は眠れなかった。
- 2 そこで王は命令を出し、呪法師、呪文師、呪術者、カルデア人を呼んで、王にその夢の意味を告げるように命じた。彼らが来て王の前に立つと、
- 3 王は彼らに言った。「私は夢を見たのだが、その夢の意味を知りたくて私の心は騒いだ。」
- 4 カルデア人たちは、アラム語で王に告げた。「王よ、永遠に生きられますように。どうぞその夢をしもべどもにお話してください。そうすれば、私どもはその意味をお示ししましょう。」
- 5 王はカルデア人たちに答えた。「私の言うことは絶対である。もし、おまえたちが私にその夢とその意味を告げることができなければ、おまえたちは手足をばらばらにされ、おまえたちの家はごみの山となる。
- 6 しかし、もし夢とその意味を示せたら、贈り物と報酬と大きな栄誉を私から受けることになる。だから、夢とその意味を私に示せ。」
- 7 彼らは再び答えた。「王が、しもべどもにその夢をお話しくださいますように。そうすれば、私どもは意味をお示ししましょう。」
- 8 王は答えた。「私には、はっきり分かっている。おまえたちは私の言うことが絶対であると分かっているのだから、時をかせごうとしているのだ。
- 9 もしおまえたちがその夢を私に告げないなら、おまえたちへの判決はただ一つだ。おまえたちは時が変わるまで、偽りと欺きのことばを私の前に述べようと決めている。だから、どんな夢かを私に言え。そうすれば、おまえたちがその意味を示せるかどうか、私に分かるだろう。」
- 10 カルデア人たちは王の前で答えた。「この地上には、王の心のうちを明らかにできる者は一人もおられません。どんな偉大な権力のある王でも、このようなことを呪法師や呪文師、あるいはカルデア人に尋ねたことはかつてありません。
- 11 王がお求めになっていることは、難しいことです。肉なる者と住まいをともにされない神々以外に、それを王の前に示すことができる者はおられません。」
- 12 王は怒り、大いにたけり狂い、バビロンの知者をすべて滅ぼせと命じた。
- 13 この命令が発せられたので、知者たちは殺されることになった。また人々は、ダニエルとその同僚たちさえ捜して殺そうとした。
- 14 そのとき、ダニエルは、バビロンの知者たちを殺すためにやって来た王の親衛隊長アルヨクに、知恵と思慮深さをもって対応した。
- 15 彼は王の全権を受けたアルヨクにこう言った。「どうしてこんなに急な命令が王から出たのでしょうか。」すると、アルヨクは事の次第をダニエルに知らせた。
- 16 そこでダニエルは王のところに行き、王にその夢の意味を示すため、しばらくの時を与えてくれるよう願った。

- 17 それからダニエルは自分の家に帰り、自分の同僚のハナンヤ、ミシャエル、アザルヤにこのことを知らせた。
- 18 それは、ダニエルとその同僚たちがほかのバビロンの知者たちと一緒に滅ぼされることがないように、この秘密について天の神にあわれみを乞うためであった。
- 19 そのとき、夜の幻のうちにこの秘密がダニエルに明らかにされた。ダニエルは天の神をほめたたえた。
- 20 ダニエルはこう言った。「神の御名はほむべきかな。とこしえからとこしえまで。知恵と力は神のもの。
- 21 神は季節と時を変え、王を廃し、王を立てる。知恵を授けて賢者とし、知識を授けて悟りのある者とされる。
- 22 神は、深遠なこと、隠されていることを明らかにし、闇の中に何があるかを知り、ご自分の内に光を宿される。
- 23 私の父祖の神よ。私はあなたに感謝し、あなたを賛美します。あなたは私に知恵と力を授け、今、私たちが尋ねたことを私に明かし、王の心の内を 私たちに明かしてくださいました。」
- 24 それでダニエルは、王がバビロンの知者たちを滅ぼすために任じたアルヨクのもとに行き、彼にこう言った。「バビロンの知者たちを滅ぼしてはなりません。私を王の前に連れて行ってください。私が王に夢の意味をお示しします。」
- 25 そこで、アルヨクは急いでダニエルを王の前に連れて行き、王にこう言った。「ユダからの捕虜の中に、王に夢の意味を告げることができる男を見つけました。」
- 26 それで王は、ベルテシャツアルという名のダニエルに言った。「私が見た夢とその意味を、本当に私に告げることができるのか。」
- 27 ダニエルは王に答えた。「王が求めておられる秘密を王にお示しすることは、知者や、呪文師、呪法師、占星術師などにはできません。
- 28 しかし天に秘密を明らかにするひとりの神がおられます。この方が終わりの日に起こることをネブカドネツアル王に示されたのです。あなたの夢、寝床であなたの頭に浮かんだ幻は次のとおりです。
- 29 王よ。あなたが寝床で思い浮かべていたのは、これから起こることです。秘密を明らかにされる方が、これから起こることをお示しになったのです。
- 30 この秘密が私に明らかにされたのは、すべての生ける者にまさって私に知恵があるからではなく、その意味が王に告げられることによって、あなたの心の思いをご自身がお知りになるためです。
- 31 王よ。あなたが見ておられると、なんと、一つの巨大な像が現れました。この像は巨大で、異常な輝きを放って、あなたの前に立っていました。その姿は恐ろしいものでした。
- 32 その像は、頭は純金、胸と両腕は銀、腹とももは青銅、
- 33 すねは鉄、足は一部が鉄、一部が粘土でした。
- 34 あなたが見ておられると、一つの石が人手によらずに切り出され、その像の鉄と粘土の足を打ち、これを粉々に砕きました。

- 35 そのとき、鉄も粘土も青銅も銀も金も、みなともに砕け、夏の脱穀場の籾殻のようになり、風がそれを運んで跡形もなくなりました。そして、その像を打った石は大きな山となって全土をおおいました。
- 36 これがその夢でした。私たちはその意味を王の前に申し上げます。
- 37 王の王である王よ。天の神はあなたに国と権威と力と栄誉を授け、
- 38 また人の子ら、野の生き物、空の鳥がどこに住んでいても、これをことごとくあなたの手にて与えて、治めさせられました。あなたはあの金の頭です。
- 39 あなたの後に、あなたより劣るもう一つの国が起こり、その次の第三の青銅の国が全地を治めるようになります。
- 40 そして第四の王国ですが、それは鉄のように強い国です。鉄はすべてのものを砕いてつぶしますが、その国は、打ち砕く鉄のように、先の国々をすべて粉々に砕いてしまいます。
- 41 あなたがご覧になった足と足の指は、その一部が陶器師の粘土、一部が鉄でしたが、それは分裂した国のことです。その国にはある程度までは鉄の強さもありますが、あなたがご覧になったように、その鉄は粘土と混じり合っています。
- 42 その足の指が一部は鉄、一部は粘土であったように、その国は一部は強く、一部はもろいでしょう。
- 43 鉄と粘土が混じり合っているのをあなたがご覧になったように、それらは子孫の間で互いに混じり合うでしょう。しかし鉄が粘土と混じり合わないように、それらが互いに団結することはありません。
- 44 この王たちの時代に、天の神は一つの国を起こされます。その国は永遠に滅ぼされることがなく、その国はほかの民に渡されず、反対にこれらの国々をことごとく打ち砕いて、滅ぼし尽くします。しかし、この国は永遠に続きます。
- 45 それは、一つの石が人手によらずに山から切り出され、その石が鉄と青銅と粘土と銀と金を打ち砕いたのを、あなたがご覧になったとおりです。大いなる神が、これから後に起こることを王に告げられたのです。その夢は正夢で、その意味も確かです。」
- 46 それで、ネブカドネツアル王はひれ伏してダニエルを拝し、ささげ物と芳ばしい香りを彼に献げるように命じた。
- 47 王はダニエルに答えた。「あなたがこの秘密を明らかにすることができたからには、あなたがたの神こそ、神々の中の神、王たちの主、また秘密を明らかにする方であるに違いない。」
- 48 そこで王は、ダニエルを高い位に就けて、多くのすばらしい贈り物を与え、バビロン全州を治めさせて、バビロンのすべての知者たちをつかさどる長官とした。
- 49 王は、ダニエルの願いによって、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴに、バビロン州の行政をつかさどらせた。しかしダニエルは王の宮廷にとどまった。

第3章

- 1 ネブカドネツアル王は金の像を造った。その高さは六十キュビト、その幅は六キュビトであった。彼はこれをバビロン州のドラの平野に建てた。
- 2 そして、ネブカドネツアル王は人を遣わして、太守、長官、総督、参議官、財務官、司法官、保安官、および諸州のすべての高官を召集し、ネブカドネツアル王が建てた像の奉献式に出席させることにした。
- 3 そこで太守、長官、総督、参議官、財務官、司法官、保安官、および諸州のすべての高官は、ネブカドネツアル王が建てた像の奉献式に集まり、ネブカドネツアル王が建てた像の前に立った。
- 4 伝令官は力強く叫んだ。「諸民族、諸国民、諸言語の者たちよ。あなたがたはこう命じられている。
- 5 あなたがたが角笛、二管の笛、豎琴、三角琴、ハープ、風笛、および、もろもろの楽器の音を聞いたときは、ひれ伏して、ネブカドネツアル王が建てた金の像を拝め。
- 6 ひれ伏して拝まない者はだれでも、即刻、火の燃える炉に投げ込まれる。」
- 7 それで、すべての民が角笛、二管の笛、豎琴、三角琴、ハープ、および、もろもろの楽器の音を聞いたとき、諸民族、諸国民、諸言語の者たちは、ひれ伏して、ネブカドネツアル王が建てた金の像を拝んだ。
- 8 このため、この機会に、あるカルデア人たちが進み出て、ユダヤ人たちを中傷して言った。
- 9 彼らはネブカドネツアル王に告げた。「王よ、永遠に生きられますように。
- 10 王よ。王は『角笛、二管の笛、豎琴、三角琴、ハープ、風笛、および、もろもろの楽器の音を聞く者は、すべてひれ伏して金の像を拝め。
- 11 ひれ伏して拝まない者はだれでも、火の燃える炉の中へ投げ込め』と命令されました。
- 12 あなたがバビロン州の行政をつかさどらせた何人かのユダヤ人がおります。シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴです。王よ。この者たちはあなたを無視して、あなたの神々に仕えず、お建てになった金の像を拝みもしません。」
- 13 ネブカドネツアルは怒り狂い、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴを連れて来るように命じた。それでこの三人は王の前に連れて来られた。
- 14 ネブカドネツアルは彼らに対して言った。「シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴよ。おまえたちは私の神々に仕えず、また私が建てた金の像を拝みもしないというが、本当か。
- 15 今、もしおまえたちが、角笛、二管の笛、豎琴、三角琴、ハープ、風笛、および、もろもろの楽器の音を聞いたとき、ひれ伏して、私が造った像を拝むなら、それでよい。しかし、もし拝まないなら、おまえたちは、即刻、火の燃える炉の中に投げ込まれる。どの神が、私の手からおまえたちを救い出せるだろうか。」
- 16 シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは王に答えた。「ネブカドネツアル王よ、このことについて、私たちはお答えする必要はありません。」

- 17 もし、そうなれば、私たちが仕える神は、火の燃える炉から私たちを救い出すことができます。王よ、あなたの手からでも救い出します。
- 18 しかし、たとえそうでなくても、王よ、ご承知ください。私たちはあなたの神々には仕えず、あなたが建てた金の像を拝むこともしません。」
- 19 すると、ネブカドネツアルは怒りに満ち、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴに対する顔つきが変わった。彼は炉を普通より七倍熱くするように命じた。
- 20 また彼の軍隊の中の特に力の強い者たちに、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴを縛って、火の燃える炉に投げ込むように命じた。
- 21 三人は、上着や下着やかぶり物の衣服を着たまま縛られ、火の燃える炉の中に投げ込まれた。
- 22 王の命令が急であり、炉が非常に熱かったので、その炎はシャデラク、メシャク、アベデ・ネゴを持ち上げた者たちを焼き殺した。
- 23 この三人、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは、縛られたままで、火の燃える炉の中に落ちて行った。
- 24 そのとき、ネブカドネツアル王は驚いて急に立ち上がり、顧問たちに尋ねた。「われわれは三人の者を縛って火の中に投げ込んだのではなかったか。」彼らは王に答えた。「王様、そのとおりでございます。」
- 25 すると王は言った。「だが、私には、火の中を縄を解かれて歩いている四人の者が見える。しかも彼らは何の害も受けていない。第四の者の姿は神々の子のようだ。」
- 26 それから、ネブカドネツアルは火の燃える炉の口に近づいて言った。「シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴ、いと高き神のしもべたちよ、出て来なさい。」そこで、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは火の中から出た。
- 27 太守、長官、総督、王の顧問たちが集まり、三人を見たが、火は彼らのからだに及んでおらず、髪の毛も焦げず、上着も以前と変わらず、火の臭いも彼らに移っていなかった。
- 28 ネブカドネツアルは言った。「ほむべきかな、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの神。神は御使いを送って、このしもべたちを救い出された。王の命令に背いて、自分たちのからだを差し出しても神に信頼し、自分たちの神のほかはどんな神にも仕えず、また拝まないこの者たちを。
- 29 それゆえ、私は命令する。諸民族、諸国民、諸言語の者のうち、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの神に対して不敬なことを口にする者はだれでも、八つ裂きにされ、その家はごみの山とされる。このように救い出すことのできる神は、ほかにないからだ。」
- 30 それから王は、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴをバビロン州で栄えさせた。

第4章

- 1 ネブカドネツアル王から、全地に住むすべての民族、国民、言語の者たちへ。あなたがたに平安が豊かにあるように。
- 2 いと高き神が私に行われたしるしと奇跡を知らせることは、私の喜びとするところである。
- 3 そのしるしのなんと偉大なことよ。その奇跡のなんと力強いことよ。その国は永遠にわたる国、その主権は代々限りなく続く。
- 4 私ネブカドネツアルが私の家で心安らかに過ごし、私の宮殿で繁栄を極めていたとき、
- 5 私は一つの夢を見たが、それが私を恐れさせた。私の寝床での、様々な幻想と頭に浮かんだ幻が、私をおびえさせた。
- 6 私は命令を下し、バビロンの知者をみな、私の前に連れて来て、その夢の意味を告げさせようとした。
- 7 呪法師、呪文師、カルデア人、占星術師たちが来たとき、私は彼らにその夢のことを話したが、彼らはその意味を私に告げることができなかった。
- 8 最後にダニエルが私の前に来た。彼の名は私の神の名にちなんでベルテシャツアルと呼ばれ、彼には聖なる神の霊があった。私はその夢を彼に話した。
- 9 「呪法師の長ベルテシャツアルよ、私は、聖なる神の霊がおまえにあり、どんな秘密もおまえには難しくないことを知っている。私の見た夢の幻はこうだ。その意味を言ってもらいたい。
- 10 私の寝床で幻が頭に浮かんだ。私が眺めていると、見よ、地の中央に木があった。それは非常に高かった。
- 11 その木は生長して強くなり、その高さは天に届いて、地の果てのどこからもそれが見えた。
- 12 葉は美しく、実も豊かで、その木にはすべてのものの食べ物があった。その木陰では野の獣が憩い、その枝には空の鳥が住み、すべての肉なるものはそれによって養われた。
- 13 寝床で頭に浮かんだ幻の中で見ていると、見よ、一人の見張りの者、聖なる者が天から降りて来るではないか。
- 14 彼は力強く叫んで、こう言った。『その木を切り倒し、枝を切り払え。その葉を振り落とし、実を投げ散らせ。獣をその下から、鳥をその枝から追い払え。
- 15 ただし、その根株は、鉄と青銅の鎖をかけて、地に、野の若草の中に残せ。天の露にぬれさせて、地の青草を獣と分け合うようにせよ。
- 16 その心を、人間の心から変えて、獣の心をそれに与え、七つの時をその上に過ぎ行かせよ。
- 17 この宣言は見張りの者たちの決定によるもの、この要請は聖なる者たちのことばによるもの。これは、いと高き方が人間の国を支配し、これをみこころにかなう者に与え、また人間の中の最も低い者をその上に立てることを、いのちある者たちが知るためである。』

- 18 私ネブカドネツアル王が見た夢とはこれだ。ベルテシャツアルよ、おまえはその意味を述べよ。私の国の知者たちはだれも、その意味を私に告げることができない。しかし、おまえにはできる。おまえには、聖なる神の霊があるからだ。」
- 19 そのとき、ベルテシャツアルと呼ばれていたダニエルは、しばらくの間驚きすくみ、いろいろと思い巡らして動揺した。王は話しかけた。「ベルテシャツアルよ、この夢とその意味のことで動揺することはない。」ベルテシャツアルは答えた。「わが主よ、どうか、この夢があなたを憎む者たちに当てはまり、その意味があなたの敵に当てはまりますように。
- 20 あなたがご覧になった木、すなわち、生長して強くなり、その高さが天に届いて、地のどこから見え、
- 21 葉が美しく実も豊かで、すべてのものの食べ物があり、その下に野の獣が住み、その枝に空の鳥が宿った木、
- 22 王よ、その木はあなたです。あなたは大きくなって強くなり、あなたの偉大さは増し加わって天に達し、あなたの主権は地の果てにまで及んでいます。
- 23 しかし王は、一人の見張りの者、聖なる者が天から降りて来てこう言うのをご覧になりました。『その木を切り倒して滅ぼせ。ただし、その根株は、鉄と青銅の鎖をかけて、地に、野の若草の中に残せ。彼を天の露にぬれさせて、七つの時がその上を過ぎ行くまで野の獣と青草を分け合うようにせよ。』
- 24 王よ、その意味は次のとおりです。これは、わが主、王に届いた、いと高き方の決定です。
- 25 あなたは人間の中から追い出され、野の獣とともに住み、牛のように草を食べて、天の露にぬれることになります。こうして、あなたの上を七つの時が過ぎ行き、ついにあなたは、いと高き方が人間の国を支配し、これをみこころにかなう者にお与えになることを知るようになります。
- 26 木の根株は残せと命じられていますので、天が支配するということをあなたが知るようになれば、あなたの国はあなたのために堅く立つでしょう。
- 27 それゆえ、王よ、私の勧告を快く受け入れて、正しい行いによってあなたの罪を除き、また貧しい者をあわれんであなたの咎を除いてください。そうすれば、あなたの繁栄は長く続くでしょう。」
- 28 このことはみな、ネブカドネツアル王の身に起こった。
- 29 十二か月たって、バビロンにある王の宮殿の屋上を歩きながら、
- 30 王はこう言っていた。「この大バビロンは、王の家とするために、また、私の威光を輝かすために、私が私の権力によって建てたものではないか。」
- 31 このことばがまだ王の口にあるうちに、天から声があった。「ネブカドネツアル王よ、あなたに告げる。国はあなたから取り去られた。
- 32 あなたは人間の中から追い出され、野の獣とともに住み、牛のように草を食べるようになり、こうしてあなたの上を七つの時が過ぎ行き、ついにあなたは、いと高き方が人間の国を支配し、これをみこころにかなう者にお与えになることを知るようになる。」

- 33** このことばは、ただちにネブカドネツアルの上に成就した。彼は人の中から追い出され、牛のように草を食べ、そのからだは天の露にぬれて、ついに、彼の髪の毛は鷲のように、爪は鳥のように伸びた。
- 34** その期間が終わったとき、私ネブカドネツアルは目を上げて天を見た。すると私に理性が戻ってきた。私はいと高き方をほめたたえ、永遠に生きる方を賛美し、ほめたたえた。その主権は永遠の主権。その国は代々限りなく続く。
- 35** 地に住むものはみな、無きものと見なされる。この方は、天の軍勢にも、地に住むものにも、みこころのままに報いる。御手を差し押さえて、「あなたは何をされるのか」と言う者もない。
- 36** ちょうどそのとき私に理性が戻り、私の王国の栄光のために、私の威光と輝きが私に戻ってきた。私の顧問や貴族たちに求められて、私は王位に戻り、こうして絶大な権威が私に加えられた。
- 37** 今、私ネブカドネツアルは、天の王を賛美し、あがめ、ほめたたえる。そのみわざはことごとく真実であり、その道は正義である。また、高ぶって歩む者をへりくだらせることのできる方である。

第5章

- 1 ベルシャツアル王は、千人の貴族たちのために大宴会を催し、その千人の前でぶどう酒を飲んでいて。
- 2 ベルシャツアルは、酒の勢いに任せて、父ネブカドネツアルがエルサレムの宮から持ち出した金や銀の器を持って来るように命じた。王とその貴族たち、および王の側室たちや侍女たちがその器で飲むためであった。
- 3 そこで、エルサレムの神の宮の本殿から持ち出した金の器が運ばれて来たので、王とその貴族たち、および王の側室たちや侍女たちはその器で飲んだ。
- 4 彼らはぶどう酒を飲み、金、銀、青銅、鉄、木、石の神々を賛美した。
- 5 ちょうどそのとき、人間の手の指が現れ、王の宮殿の塗り壁の、燭台の向こう側のところに何かを書き始めた。王は、何かを書くその手の先を見ていた。
- 6 すると、王の顔色は変わり、いろいろと思い巡らして動揺し、腰の関節はゆるみ、膝はがたがた震えた。
- 7 王は大声で叫び、呪文師、カルデア人、占星術師たちを連れて来させた。王はバビロンの知者たちに言った。「だれでも、この文字を読んでその意味を私に示す者には、紫の衣を着せて首に金の鎖をかけ、この国の第三の権力を持たせる。」
- 8 そのとき王の知者たちがみな入って来たが、彼らは、その文字を読むことも、王にその意味を告げることもできなかった。
- 9 それで、ベルシャツアル王はひどくおびえて、顔色が変わり、貴族たちも途方に暮れた。
- 10 王母は、王とその貴族たちとのやり取りを聞いて、宴会の広間に入って来た。王母は言った。「王よ、永遠に生きられますように。いろいろと思い巡らし動揺してはいけません。顔色を変えてはなりません。」
- 11 あなたの王国には、聖なる神の霊の宿る人がいます。あなたの父上の時代、彼のうちに、才気と聡明さと、神々の知恵のような知恵があることが分かりました。あなたの父上であるネブカドネツアル王は、彼を呪法師、呪文師、カルデア人、占星術師たちの長として立てられました。
- 12 王がベルテシャツアルと名づけたダニエルのうちに、夢を解き明かし、謎を解き、難問を解くすぐれた霊と知識と聡明さがあることが分かっていますので、今、ダニエルを召して、その解き明かしをさせましょう。」
- 13 そこで、ダニエルが王の前に連れて来られた。王はダニエルに対して言った。「私の父である王がユダから連れて来た、ユダからの捕虜の一人ダニエルとはおまえのことか。」
- 14 おまえのうちに神々の霊が宿り、また、おまえのうちに、才気と聡明さとすぐれた知恵があることが分かったと聞いている。
- 15 ところで、私は、知者、呪文師たちを私の前に召し、この文字を読ませて、その意味を私に告げさせようとしたが、彼らはそのことばの意味を示すことができないでいる。
- 16 しかし、おまえは解釈することができ、難問を解くことができると聞いた。今、もしおまえが、その文字を読み、その意味を私に告げることができたなら、おまえに紫の衣を着せ

て首に金の鎖をかけ、この国の第三の権力を持たせよう。」

- 17** そのとき、ダニエルは王の前で答えた。「贈り物はご自分で取っておき、報酬はほかの人にお与えください。しかし私は、その文字を王のために読み、その意味を告げましょう。
- 18** 王よ。いと高き神は、まさしくあなたの父上ネブカドネツアルに、国と偉大さと栄光と威光をお与えになりました。
- 19** 神が父上にお与えになった偉大さによって、諸民族、諸国民、諸言語の者たちはことごとく、父上の前に震えおののきました。彼は思いのままに人を殺し、思いのままに人を生かし、思いのままに人を高め、思いのままに人を低くしました。
- 20** こうして彼は、心が高ぶり、霊が頑なになり、高慢にふるまったので、その王座から引きずり降ろされ、栄光を取り上げられました。
- 21** そして、人の中から追い出され、心は獣と等しくなり、野ろばとともに住み、牛のように草を食べることになり、からだは天の露にぬれて、ついにかう知ようになりました。いと高き神が人間の国を支配し、みこころにかなう者をその上にお立てになるのだと。
- 22** その子であるベルシャツアル王よ、あなたはこれらのことをすべて知っていながら、心を低くしませんでした。
- 23** それどころか、天の主に向かって高ぶり、その宮の器を自分の前に持って来させ、あなたと貴族たちとあなたの側室や侍女たちは、それを使ってぶどう酒を飲みました。あなたは、見ることも、聞くことも、知ることもできない銀、金、青銅、鉄、木、石の神々を賛美しました。しかしあなたの息をその手に握り、あなたのすべての道をご自分のものとされる神を、あなたはほめたたえませんでした。
- 24** そのため、神の前から手の先が送られて、この文字が書かれたのです。
- 25** その書かれた文字はこうです。『メネ、メネ、テケル、ウ・パルシン。』
- 26** そのことばの意味はこうです。『メネ』とは、神があなたの治世を数えて終わらせたということです。
- 27** 『テケル』とは、あなたが秤で量られて、目方の足りないことが分かったということです。
- 28** 『パルシン』とは、あなたの国が分割され、メディアとペルシアに与えられるということです。」
- 29** そこでベルシャツアルは命じて、ダニエルに紫の衣を着せ、金の鎖を首にかけさせ、彼がこの国の第三の権力者であると布告させた。
- 30** その夜、カルデア人の王ベルシャツアルは殺された。
- 31** そして、メディア人ダレイオスが、およそ六十二歳でその国を受け継いだ。

第6章

- 1 ダレイオスは、全国に任地を持つ百二十人の太守を任命して国を治めさせるのがよいと思った。
- 2 彼はまた、彼らの上にダニエルを含む三人の大臣を置いた。これは、太守たちがこの三人に報告を行い、王が損害を被らないようにするためであった。
- 3 さて、このダニエルは、ほかの大臣や太守よりも際立って秀でていた。彼のうちにすぐれた霊が宿っていたからであった。そこで王は、彼を任命して全国を治めさせようと思った。
- 4 大臣や太守たちは、国政についてダニエルを訴える口実を見つけようとしたが、何の口実も欠点も見つけれなかった。彼は忠実で、何の怠慢も欠点も見つからなかったのである。
- 5 そこでこの人たちは言った。「われわれはこのダニエルを訴えるための、いかなる口実も見つけれない。彼の神の律法のことで見つけるしかない。」
- 6 それでこの大臣と太守たちは、王のもとに押しかけて来て、こう言った。「ダレイオス王よ、永遠に生きられますように。
- 7 王よ。国中の大臣、長官、太守、顧問、総督はみな、王が一つの法令を制定し、断固たる禁令を出していただくことに同意しました。すなわち今から三十日間、王よ、いかなる神にでも人にでも、あなた以外に祈願をする者は、だれでも獅子の穴に投げ込まれる、と。
- 8 王よ、今、その禁令を制定し、変更されることのないようにその文書に署名し、取り消しのできないメディアとペルシアの法律としてください。」
- 9 そこで、ダレイオス王はその禁令の文書に署名した。
- 10 ダニエルは、その文書に署名されたことを知って自分の家に帰った。その屋上の部屋はエルサレムの方角に窓が開いていた。彼は以前からしていたように、日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた。
- 11 すると、この者たちが押しかけて来て、ダニエルが神に祈り求め、哀願しているのを見つけた。
- 12 そこで彼らは王の前に進み出て、王の禁令について言った。「王よ。王は今から三十日間、いかなる神にでも人にでも、あなた以外に祈願をする者は、だれでも獅子の穴に投げ込まれるという禁令に、署名されたではありませんか。」王は答えた。「取り消しのできないメディアとペルシアの法律がそうであるように、そのことは確かである。」
- 13 そこで、彼らは王に告げた。「王よ。ユダからの捕虜の一人ダニエルは、あなたと、ご署名になった禁令を無視して、日に三度、自分勝手な祈願をしております。」
- 14 このことを聞いて王は非常に憂い、ダニエルを救おうと気遣った。そして彼を助け出そうと、日没まで手を尽くした。
- 15 そのとき、あの者たちが王のもとに押しかけて来て、王に言った。「王よ。王が制定したいかなる禁令や法令も、決して変更されることはないということが、メディアとペルシアの法律であることをご承知ください。」

- 16 それで王は命令を出し、ダニエルは連れて来られて、獅子の穴に投げ込まれた。王はダニエルに話しかけて言った。「おまえがいつも仕えている神が、おまえをお救いになるように。」
- 17 一つの石が運ばれて来て、その穴の口に置かれた。王は王自身の印と貴族たちの印でそれを封印し、ダニエルについての処置が変えられないようにした。
- 18 こうして王は宮殿に帰り、一晩中断食をした。側女も召し寄せず、眠ることもしなかった。
- 19 王は夜明けに日が輝き出すとすぐ、獅子の穴へ急いで行った。
- 20 その穴に近づくと、王はダニエルに悲痛な声で呼びかけ、こうダニエルに言った。「生ける神のしもべダニエルよ。おまえがいつも仕えている神は、おまえを獅子から救うことができたか。」
- 21 するとダニエルは王に語った。「王よ、永遠に生きられますように。」
- 22 私の神が御使いを送り、獅子の口をふさいでくださったので、獅子は私に何の危害も加えませんでした。それは、神の前に私が潔白であることが認められたからです。王よ、あなたに対しても、私は何も悪いことはしていません。」
- 23 王は大いに喜び、ダニエルをその穴から引き上げるように命じた。ダニエルは穴から引き上げられたが、彼に何の傷も認められなかった。彼が神に信賴していたからである。
- 24 王が命じたので、ダニエルを中傷した者たちが連れて来られて、その妻子とともに獅子の穴に投げ込まれた。彼らが穴の底に達しないうちに、獅子は彼らをわがものにして、その骨をことごとくかみ砕いてしまった。
- 25 それから、ダレイオス王は、全土に住むすべての民族、国民、言語の者たちに次のように書き送った。「あなたがたに平安が豊かにあるように。」
- 26 私はここに命じる。私の支配する国においてはどこでも、ダニエルの神の前に震えおののけ。この方こそ生ける神、永遠におられる方。その国は滅びることなく、その主権はいつまでも続く。
- 27 この方は人を救い、助け出し、天においても、地においても、しるしと奇跡を行われる。実に、獅子の手からダニエルを救い出された。」
- 28 このダニエルは、ダレイオスの治世とペルシア人キュロスの治世に栄えた。

第7章

- 1 バビロンの王ベルシャツアルの元年に、ダニエルは寢床で、ある夢と、頭に浮かぶ幻を見た。それからその夢を書き記し、事の次第を述べた。
- 2 ダニエルは言った。「私が夜、幻を見ていると、なんと、天の四方の風が大海をかき立てていた。
- 3 すると、四頭の大きな獣が海から上がって来た。その四頭はそれぞれ異なっていた。
- 4 第一のものは獅子のようで、鷲の翼をつけていた。見ていると、その翼は抜き取られ、地から身を起こされて人間のようになり二本の足で立ち、人間の心が与えられた。
- 5 すると見よ、熊に似た別の第二の獣が現れた。その獣は横向きに寝ていて、その口の牙の間には三本の肋骨があった。すると、それに『起き上がって、多くの肉を食らえ』との声がかかった。
- 6 その後、見ていると、なんと、豹のような別の獣が現れた。その背には四つの鳥の翼があり、その獣には四つの頭があった。そしてそれに主権が与えられた。
- 7 その後また夜の幻を見ていると、なんと、第四の獣が現れた。それは恐ろしくて不気味で、非常に強かった。大きな鉄の牙を持っていて、食らってはかみ砕き、その残りを足で踏みつけていた。これは前に現れたすべての獣と異なり、十本の角を持っていた。
- 8 私がその角を注意深く見ていると、なんと、その間から、もう一本の小さな角が出て来て、その角のために、初めの角のうち三本が引き抜かれた。よく見ると、この角には人間の目のような目があり、大言壮語する口があった。
- 9 私が見ていると、やがていくつかの御座が備えられ、『年を経た方』が座に着かれた。その衣は雪のように白く、頭髮は混じりけのない羊の毛のよう。御座は火の炎、その車輪は燃える火で、
- 10 火の流れがこの方の前から出ていた。幾千もの者がこの方に仕え、幾万もの者がその前に立っていた。さばきが始まり、いくつかの文書が開かれた。
- 11 そのとき、あの角が大言壮語する声がしたので、私は見続けた。すると、その獣は殺され、からだは滅ぼされて、燃える火に投げ込まれた。
- 12 残りの獣は主権を奪われたが、定まった時期と季節まで、そのいのちは延ばされた。
- 13 私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲とともに来られた。その方は『年を経た方』のもとに進み、その前に導かれた。
- 14 この方に、主権と栄誉と国が与えられ、諸民族、諸国民、諸言語の者たちはみな、この方に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。
- 15 私ダニエルの心は私のうちで悩み、頭に浮かんだ幻は私をおびえさせた。
- 16 私は、傍らに立っていた者たちの一人に近づき、このことすべてについて、彼に願って確かめようとした。すると彼は私に答えて、そのことの意味を告げてくれた。
- 17 『これら四頭の大きな獣は、地から起こる四人の王である。
- 18 しかし、いと高き方の聖徒たちが国を受け継ぎ、その国を永遠に、世々限りなく保つ。』

- 19 それから私は、第四の獣について確かめたいと思った。それは、ほかのすべての獣と異なっていて、非常に恐ろしく、牙は鉄、爪は青銅で、食らってはかみ砕いて、残りを足で踏みつけていた。
- 20 その頭には十本の角があり、もう一本の角が出て来て、そのために三本の角が抜け落ちた。その角には目があり、大言壮語する口があった。その角はほかの角よりも大きく見えた。
- 21 私が見ていると、その角は聖徒たちに戦いを挑み、彼らに打ち勝った。
- 22 しかしそれは『年を経た方』が来られるまでのことであり、いと高き方の聖徒たちのためにさばきが行われ、聖徒たちが国を受け継ぐ時期が来た。
- 23 彼はこう言った。『第四の獣は地に起こる第四の国。これは、ほかのすべての国と異なり、全土を食い尽くし、これを踏みつけ、かみ砕く。』
- 24 十本の角は、この国から立つ十人の王。彼らの後に、もう一人の王が立つ。彼は先の者たちと異なり、三人の王を打ち倒す。
- 25 いと高き方に逆らうことばを吐き、いと高き方の聖徒たちを悩ます。彼は時と法則を変えようとする。聖徒たちは、一時と二時と半時の間、彼の手に委ねられる。
- 26 しかし、さばきが始まり、彼の主権は奪われて、彼は完全に絶やされ、滅ぼされる。
- 27 国と、主権と、天下の国々の権威は、いと高き方の聖徒である民に与えられる。その御国は永遠の国。すべての主権は彼らに仕え、服従する。』
- 28 ここでこの話は終わる。私ダニエルは、いろいろと思い巡らして動揺し、顔色が変わった。しかし、私はこのことを心にとどめた。」

第8章

- 1 ベルシャツアル王の治世の第三年、初めに私に幻が現れた後、私ダニエルにもう一つの幻が現れた。
- 2 私は幻の中で見た。見ていると、私はエラム州にあるスサの城にいた。なお幻を見ていると、私はウライ川のほとりにいた。
- 3 私が目を上げて見ると、なんと、一匹の雄羊が川岸に立っていた。それには二本の角があって、この二本の角は長かったが、一本はもう一本の角よりも長かった。その長いほうは、後に出て来たのであった。
- 4 私はその雄羊が、西や、北や、南の方を角で突いているのを見た。どんな獣もそれに立ち向かうことができず、また、それから救い出す者もいなかった。雄羊は思いのままにふるまって、高ぶっていた。
- 5 私が注意して見ていると、見よ、一匹の雄やぎが、地には触れずに全土を飛び回って、西からやって来た。その雄やぎには、際立った一本の角が額にあった。
- 6 この雄やぎは、川岸に立っているのを私が見た、あの二本の角を持つ雄羊に向かって、激しい勢いで突進した。
- 7 見ていると、この雄やぎは雄羊に近づき、怒り狂って雄羊を打ち倒して、その二本の角をへし折ったが、雄羊にはこれに立ち向かう力がなかった。雄やぎは雄羊を地に投げ倒して踏みつけた。雄羊をこの雄やぎから救い出す者はいなかった。
- 8 この雄やぎは非常に高ぶったが、強くなったときにその大きな角が折れた。そしてその代わりに、天の四方に向かって、際立った四本の角が生え出て来た。
- 9 そのうちの一本の角から、もう一本の小さな角が生え出て、南と、東と、麗しい国に向かって、非常に大きくなっていった。
- 10 それは大きくなって天の軍勢に達し、天の軍勢と星のいくつかを地に落として、これを踏みつけ、
- 11 軍の長に並ぶほどになり、彼から常供のささげ物を取り上げた。こうして、その聖所の基はくつがえされた。
- 12 背きの行いにより、軍勢は常供のささげ物とともにその角に引き渡された。その角は真理を地に投げ捨て、事を行って成功した。
- 13 私は、一人の聖なる者が語っているのを聞いた。すると、もう一人の聖なる者が、その語っている者に言った。「常供のささげ物や、あの荒らす者の背き、そして聖所と軍勢が踏みにじられるという幻は、いつまでのことか。」
- 14 すると彼は答えて言った。「二千三百の夕と朝が過ぎるまで。そのとき聖所の正しさが確認される。」
- 15 私ダニエルは、この幻を見たとき、その意味を理解したいと願った。すると見よ、勇士のように見える者が私の正面に立った。
- 16 私は、ウライ川の中ほどから「ガブリエルよ、この人にその幻を理解させよ」と呼びかけている人の声を聞いた。

- 17 彼は私が立っているところに来た。彼が来たとき、私はおびえて、ひれ伏した。すると彼は私に言った。「悟れ、人の子よ。その幻は終わりの時のことである。」
- 18 彼が私に語りかけたとき、私は地にひれ伏したまま意識を失った。しかし彼は私に触れ、その場に立ち上がらせて、
- 19 こう言った。「見よ。私は、終わりの憤りの時に起こることをあなたに知らせる。それは、終わりの定めの際に関わることだ。
- 20 あなたが見た二本の角を持つ雄羊は、メディアとペルシアの王である。
- 21 毛深い雄やぎはギリシアの王であり、その額にある大きな角はその第一の王である。
- 22 その角が折れて、代わりに四本の角が生えたが、それは、その国から四つの国が起こるということである。しかし、第一の王のような勢力はない。
- 23 彼らの治世の終わりに、その背く者たちが行き着くところに至ったとき、横柄で策にたけた一人の王が立つ。
- 24 彼の力は強くなるが、自分の力によるのではない。彼は、驚くべき破壊を行って成功し、有力者たちと聖なる民を滅ぼす。
- 25 狡猾さによってその手で欺きを成し遂げ、心は高ぶり、平気で多くの人を滅ぼし、君の君に向かって立ち上がる。しかし、人の手によらずに彼は碎かれる。
- 26 先に告げられた夕と朝の幻、それは真実である。しかし、あなたはこの幻を秘めておけ。これはまだ、多くの日の後のことだから。」
- 27 私ダニエルは、何日かの間病気になったままだった。その後、起きて王の事務を執った。しかし、私はこの幻のことで驚きすくんでいた。それを理解できなかったのである。

第9章

- 1 メディア族のクセルクセスの子ダレイオスが、カルデア人の国の王となったその元年、
- 2 すなわち、その治世の第一年に、私ダニエルは、預言者エレミヤにあった主のことばによって、エルサレムの荒廃の期間が満ちるまでの年数が七十年であることを、文書によって悟った。
- 3 そこで私は、顔を神である主に向けて断食をし、粗布をまとって灰をかぶり、祈りと哀願をもって主を求めた。
- 4 私は、私の神、主に祈り、告白した。「ああ、私の主、大いなる恐るべき神。あなたを愛し、あなたの命令を守る者には、契約を守って恵みを下さる方。
- 5 私たちは罪ある者で不義をなし、悪を行って逆らい、あなたの命令と定めから外れました。
- 6 私たちはまた、あなたのしもべである預言者たちが、御名によって私たちの王たち、首長たち、先祖たち、民衆すべてに語ったことばに、聞き従いませんでした。
- 7 主よ。義はあなたにあります。顔をとおう恥は私たちにあります。今日あるとおり、それはユダの人々、エルサレムの住民にあり、また、近くであれ遠くであれ、あなたが追い散らされた先のあらゆる国々にいる、すべてのイスラエルにあります。彼らがあなたの信頼を裏切ったためです。
- 8 主よ。顔をとおう恥は私たちにあり、私たちの王たち、首長たち、および先祖たちにあります。私たちはあなたに対して罪を犯してきました。
- 9 あわれみと赦しは、私たちの神、主にあります。まことに、私たちは神に逆らいました。
- 10 私たちは、私たちの神、主の御声に聞き従わず、しもべである預言者たちによって神が私たちに下さったみおしえにも、従って歩むことをしませんでした。
- 11 イスラエルはみな、あなたの律法を犯して離れ去り、御声に聞き従いませんでした。そのため、神のしもべモーセの律法に書かれているのろいの誓いが、私たちの上に降りかかりました。私たちが神の前に罪ある者であったからです。
- 12 神は、大きなわざわいを私たちにもたらすことで、かつて私たちと、私たちを治めた指導者たちに対して告げられたみことばを成就されたのです。エルサレムの上に下ったほどのわざわいは、今まで天下になかったことです。
- 13 このわざわいはすべて、モーセの律法に書かれているとおりに、私たちの上に下りました。しかし私たちは、不義から立ち返って、あなたの真理によってさとくなれるように、自分たちの神、主に願うこともありませんでした。
- 14 主はそのわざわいを下そうと待ち構えていて、それを私たちの上にもたらされました。私たちの神、主のなさったみわざはすべて正しく、私たちが御声に聞き従わなかったからです。
- 15 しかし今、私たちの神、主よ。ご自分の民を力強い御手をもってエジプトの地から導き出し、今日あるとおりに名を成された神よ。私たちは罪を犯して、悪を行いました。

- 16 主よ。あなたのすべての義のわざにしたがって、どうか御怒りと憤りを、あなたの都エルサレムから、あなたの聖なる山から去らせてください。私たちの罪と私たちの先祖たちの咎のゆえに、エルサレムとあなたの民が、私たちの周囲のすべての者にとってそしりの的となっているからです。
- 17 私たちの神よ。今、あなたのしもべの祈りと願いを聞き入れ、主ご自身のために、あなたの荒れ果てた聖所に御顔の光を照り輝かせてください。
- 18 私の神よ。耳を傾けて聞いてください。目を開いて私たちの荒れすさんださまと、あなたの御名がつけられている都をご覧ください。私たちが御前に伏して願いをささげるのは、私たちの正しい行いによるのではなく、あなたの大きいなるあわれみによるのです。
- 19 主よ、聞いてください。主よ、お赦してください。主よ、心に留めて事を行ってください。私の神よ、あなたご自身のために、遅らせないでください。あなたの都と民には、あなたの名がつけられているのですから。」
- 20 私がまだ語り、祈り、自分の罪と自分の民イスラエルの罪を告白し、私の神の聖なる山のために、私の神、主の前に伏して願いをささげていたとき、
- 21 すなわち、私がまだ祈りの中で語っていたとき、私が初めに幻の中で見たあの人ガブリエルが、すばやく飛んで来て私に近づいた。それは夕方のささげ物を献げるころであった。
- 22 彼は私に悟らせようとしてこう告げた。「ダニエルよ。私は今、悟りによってあなたを賢明にさせようとして出て来た。
- 23 あなたが願いの祈りを始めたとき、一つのみことばが出されたので、私はそれを伝えに来た。あなたが特別に愛されている者だからだ。そのみことばを聞き分けて、その幻を理解せよ。
- 24 あなたの民とあなたの聖なる都について、七十週が定められている。それは、背きをやめさせ、罪を終わらせ、咎の宥めを行い、永遠の義をもたらし、幻と預言を確証し、至聖所に油注ぎを行うためである。
- 25 それゆえ、知れ。悟れ。エルサレムを復興し、再建せよとの命令が出てから、油注がれた者、君主が来るまでが七週。そして苦しみ期間である六十二週の間、広場と堀が造り直される。
- 26 その六十二週の後、油注がれた者は断たれ、彼には何も残らない。次に来る君主の民が、都と聖所を破壊する。その終わりには洪水が伴い、戦いの終わりまで荒廃が定められている。
- 27 彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物をやめさせる。忌まわしいものの翼の上に、荒らす者が現れる。そしてついには、定められた破滅が、荒らす者の上に降りかかる。」

第10章

- 1 ペルシアの王キュロスの第三年に、ベルテシャツアルと名づけられていたダニエルに、あることばが示された。そのことばは真実で、大きな戦いのことであった。彼はそのことばを理解し、その幻について悟った。
- 2 そのころ、私ダニエルは、三週間の喪に服していた。
- 3 満三週間、ごちそうも食わず、肉もぶどう酒も口にせず、また身に油も塗らなかった。
- 4 第一の月の二十四日に、私はティグリスという大きな川の岸にいた。
- 5 私は目を上げた。見ると、そこに一人の人がいて、亜麻布の衣をまとい、腰にウファズの金の帯を締めていた。
- 6 そのからだは緑柱石のようで、顔は稲妻のよう、目は燃えるたいまつのものであった。また、腕と足は磨き上げた青銅のようで、彼の語る声は群衆の声のものであった。
- 7 この幻は、私ダニエル一人だけが見て、私と一緒にいた人たちはその幻を見なかった。しかし彼らは大きな恐怖に襲われ、身を隠して逃げ去った。
- 8 私は一人残ってこの大きな幻を見た。内からは力が抜け、顔の輝きも一変して、力も保てなくなった。
- 9 私は彼の語る声を聞いた。彼の語る声を聞きながら、顔を伏せて地に倒れ、深い眠りに陥った。
- 10 ちょうどそのとき、一つの手が私に触れて、膝と手のひらをついていた私を揺さぶった。
- 11 それから彼は私に言った。「特別に愛されている人ダニエルよ、私が今から語ることばをよく理解せよ。そこに立ち上がれ。私は今、あなたに遣わされたのだ。」彼がこのことばを私に語っている間に、私は震えながら立ち上がった。
- 12 彼は私に言った。「恐れるな、ダニエル。あなたが心を定めて、悟りを得ようとし、自分の神の前で自らを戒めようとしたその最初の日から、あなたのことばは聞かれている。私が来たのは、あなたのことばのためだ。
- 13 ペルシアの国の君が二十一日間、私に対峙して立っていたが、そこに最高位の君の一人ミカエルが私を助けに来てくれた。私がペルシアの王たちのところに残されていたからだ。
- 14 私は、終わりの日にあなたの民に起こることを分からせるために来た。その幻は来たるべき日を待たなくてはならないが。」
- 15 彼が私にこのことを語っている間、私はうつむいて黙っていた。
- 16 ちょうどそのとき、人のような姿をした方が私の唇に触れた。それで私は口を開いて話し出し、私に向かって立っていた方に言った。「わが主よ。私はこの幻によって苦痛に襲われ、力を保てなくなりました。
- 17 わが主のしもべが、どうしてわが主と話せるでしょう。私には、もはや力はなく、息も残っていません。」
- 18 すると、人のように見える方が、再び私に触れて力づけてくれた。
- 19 その方は言った。「特別に愛されている人よ、恐れるな。安心せよ。強くあれ。強くあれ。」その方が私にそう言ったとき、私は奮い立って言った。「わが主よ、お話しください

い。あなたは私を力づけてくださいましたから。」

20 すると彼は言った。「私がなぜあなたのところに来たか、知っているか。今、私はペルシアの君と戦うために帰って行く。私が去ると、見よ、ギリシアの君がやって来る。

21 しかし、真理の書に記されていることを、あなたに知らせよう。私とともに奮い立って、彼らに立ち向かう者は、あなたがたの君ミカエルのほかにはいない。

第11章

- 1 私はその彼を強くし、力づけるために、メディア人ダレイオスの元年に立ち上がった。」
- 2 「今、私はあなたに真理を告げる。見よ。なお三人の王がペルシアに起こり、第四の者は、ほかのだれよりも、はるかに富む者となる。この者がその富によって強力になったとき、全世界を、とりわけギリシアの国を奮い立たせる。
- 3 一人の勇敢な王が起こり、大きな権力をもって治め、思いのままにふるまう。
- 4 しかし彼が起こったとき、その国は崩壊し、天の四方に向けて分割される。その国は彼の子孫のものにはならず、また、彼が支配したほどの権力もなくなる。彼の国は根こそぎにされ、その子孫以外の者のものとなる。
- 5 南の王が強くなる。しかし、彼よりもその軍の長の一人が強くなり、彼の権力よりも大きな権力をもって治める。
- 6 何年かたって、彼らは同盟を結ぶ。和睦をするために南の王の娘が北の王に嫁ぐが、彼女の勢力は保たれず、彼の勢力も続かない。彼女は、自分を連れて来た者、自分を生んだ者、そのころ自分を力づけた者とともに引き渡される。
- 7 しかし、彼女の根から一つの芽が父に代わって起こる。そして北の王の軍に立ち向かい、その砦に攻め入り、これと戦って勝つ。
- 8 なお、彼は彼らの神々を、彼らが鑄た像や、銀と金の尊い器とともにエジプトに捕らえ移す。彼は何年かの間、北の王と関わりを持たない。
- 9 しかし、北の王は南の王の国に侵入し、そして自分の地に帰る。
- 10 しかし、その息子たちは戦いを仕掛け、おびたしい数の強力な大軍を集める。進みに進んで押し流すように越えて行き、そうしてまた敵の砦に戦いを仕掛ける。
- 11 南の王は大いに怒って戦いに出て来て、彼と、すなわち北の王と戦う。北の王はおびたしい大軍を起こすが、その大軍は敵の手に渡される。
- 12 その大軍を打ち破ると南の王の心は高ぶり、数万人を倒す。しかし、勝利を得ることはない。
- 13 北の王が再び、以前より大きな、おびたしい大軍を起こして、何年かの後、大軍勢と多くの武器をもって攻めて来るからである。
- 14 そのころ、多くの者が南の王に反抗して立ち上がり、あなたの民の暴徒たちも、高ぶって幻を実現させようとするが、失敗する。
- 15 しかし、北の王が来て壘を築き、城壁のある町を攻め取ると、南の軍勢は立ち向かうことができず、精兵たちでさえ立ち向かう力がない。
- 16 そのようにして、これを攻めて来る者は思いのままにふるまう。彼に立ち向かう者はいない。彼は麗しい国にとどまり、自分の手で滅ぼし尽くそうとする。
- 17 彼は自分の国の総力を挙げて攻め入ろうと決意し、まず相手と和睦して娘の一人を与え、その国を滅ぼそうとする。しかしそれは成功せず、彼の思いどおりにはならない。
- 18 それで彼は島々に顔を向け、その多くを攻め取る。しかし、ある指揮官が彼に侮辱をやめさせるばかりか、かえってその侮辱を彼の上に返す。

- 19 彼は自分の国の砦に引き返すが、つまり、倒れていなくなる。
- 20 彼に代わって、一人の人が起こる。彼は国の栄光のために、税を取り立てる者を行き巡らすが、数日のうちに、怒りにも戦いにもよらずに滅ぼされる。
- 21 彼に代わって、一人の卑劣な者が起こる。彼には国の権威は与えられないが、不意にやって来て、巧みなことばを使って国を奪い取る。
- 22 彼の前では、洪水のような軍勢も、契約の君主さえも一掃されて打ち碎かれる。
- 23 彼は同盟を組んだ後で欺き、少ない人数で勢力を増していく。
- 24 彼は不意にその州の肥沃な地域に侵入し、彼の父たちも、父の父たちもしなかったことを行う。彼は、そのかすめ奪った物、分捕り物、財宝を、自分たちの間で分け合う。彼は計略をめぐらして要塞を攻めるが、それは、時が来るまでのことである。
- 25 彼は勢力と勇気を駆り立て、大軍勢を率いて南の王に立ち向かう。南の王も非常に強い大軍勢を率い、奮い立ってこれと戦うが、抵抗することができなくなる。南の王に対して計略をめぐらす者たちがいるからである。
- 26 彼のごちそうにあずかる者たちが彼を滅ぼし、彼の軍勢は押し流され、多くの者が刺し殺されて倒れる。
- 27 この二人の王は、心で悪事を謀りながらも、一つの食卓に着いて、まやかしを言い合う。しかし、成功はしない。終わりは、まだ定めの時を待たなくてはならないからだ。
- 28 彼は多くの財宝を携えて自分の国に帰る。彼の心は聖なる契約に敵対して事を行い、彼は自分の国に帰って行く。
- 29 定めの際に、彼は再び南へ攻めて行くが、この二度目は初めの時のようではない。
- 30 キティムの船が彼に立ち向かって来るので、彼は落胆して引き返し、聖なる契約にいきりたてて事を行う。彼は帰って行って、その聖なる契約を捨てた者たちに心を向けるようになる。
- 31 彼の軍隊は立ち上がり、砦である聖所を冒し、常供のささげ物を取り払い、荒らす忌まわしいものを据える。
- 32 彼は、契約に対して不誠実にふるまう者たちを巧言をもって墮落させるが、自分の神を知る人たちは堅く立って事を行う。
- 33 民の中の賢明な者たちは、多くの人を悟らせる。彼らは、一時は剣にかかり、火に焼かれ、捕らわれの身となり、かすめ奪われて倒れる。
- 34 彼らが倒れるとき、彼らへの助けは少なく、彼らにくみする者には巧みなことばを使う者が多い。
- 35 賢明な者たちのうちには倒れる者もあるが、それは終わりの時まで、彼らが鍊られ、清められ、白くされるためである。それは、定めの時はまだ来ないからである。
- 36 この王は思いのままにふるまい、すべての神よりも自分を高く上げて大いなるものとし、神々の神に向かって驚くべきことを語る。彼は栄えるが、ついには神の憤りで滅ぼし尽くされる。定められていることがなされるからである。
- 37 彼は先祖の神々を心につけず、女たちの慕うものも、どんな神々も心につけない。すべてにまさって自分を大いなるものとするからだ。

- 38** その代わりに彼は砦の神をあがめ、金、銀、宝石、宝物をもって、彼の先祖たちが知らなかった神をあがめる。
- 39** 彼は異国の神の助けによって城壁のある砦を取り、彼が認める者には栄誉を増し加え、多くのものを治めさせて、代価として国土を分け与える。
- 40** 終わりの時に、南の王が彼と戦いを交える。北の王は戦車、騎兵、および大船団を率いて南の王を襲撃し、国々に侵入し、洪水のように通り過ぎる。
- 41** 彼は麗しい国に攻め入り、多くの者が倒れる。しかし、エドムとモアブ、またアンモン人のおもだった人々は、彼の手から逃げる。
- 42** 彼は国々に手を伸ばす。エジプトの地もその手を免れることはない。
- 43** 彼は金や銀の秘蔵物と、エジプトのすべての宝物を手に入れ、ルブ人とクシュ人が彼につき従う。
- 44** しかし、東と北からの知らせが彼をおびえさせる。彼は多くのものを絶滅させようとして、激しく怒って戦いに出て行く。
- 45** 彼は、海と聖なる麗しい山との間に、本営の天幕を張る。しかし、だれも助ける者はなく、ついに彼は終わりを迎える。

第12章

- 1 その時、あなたの国の人々を守る大いなる君 ミカエルが立ち上がる。国が始まって以来その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。しかしその時、あなたの民で、あの書に記されている者はみな救われる。
- 2 ちりの大地の中に眠っている者のうち、多くの者が目を覚ます。ある者は永遠のいのちに、ある者は恥辱と、永遠の嫌悪に。
- 3 賢明な者たちは大空の輝きのように輝き、多くの者を義に導いた者は、世々限りなく、星のようになる。
- 4 ダニエルよ。あなたは終わりの時まで、このことばを秘めておき、この書を封じておけ。多くの者は知識を増そうと捜し回る。」
- 5 私ダニエルが見ていると、見よ、二人の人が立っていた。一人は川のこちら岸に、もう一人は川の向こう岸にいた。
- 6 その一人が、川の水の上にいる、あの亜麻布の衣を着た人に言った。「この不思議なことは、いつになると終わるのですか。」
- 7 すると私は、川の水の上にいる、あの亜麻布の衣を着た人が語るのを聞いた。彼はその右手と左手を天に向けて上げ、永遠に生きる方にかけて誓った。「それは、一時と二時と半時である。聖なる民の力を打ち砕くことが終わるとき、これらすべてのことが成就する。」
- 8 私はこれを聞いたが、理解することができなかった。そこで私は尋ねた。「わが主よ、この終わりはどうなるのでしょうか。」
- 9 彼は言った。「ダニエルよ、行け。このことばは終わりの時まで秘められ、封じられているからだ。
- 10 多くの者は身を清めて白くし、そうして錬られる。悪しき者どもは悪を行い、悪しき者どものだれも理解することがない。しかし、賢明な者たちは理解する。
- 11 常供のささげ物が取り払われ、荒らす忌まわしいものが据えられる時から、千二百九十日がある。
- 12 幸いなことよ。忍んで待ち、千三百三十五日に達する者は。
- 13 あなたは終わりまで歩み、休みに入れ。あなたは時の終わりに、あなたの割り当ての地に立つ。」

ホセア書

Hosea

第1章

- 1 ユダの王ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代、イスラエルの王、ヨアシュの子ヤロブアムの時代に、ベエリの子ホセアにあった主のことば。
- 2 主がホセアに語られたことのはじめ。主はホセアに言われた。「行って、姦淫の女と姦淫の子らを引き取れ。この国は主に背を向け、淫行にふけっているからだ。」
- 3 彼は行って、ディブライムの娘ゴメルを妻とした。彼女は身ごもって、彼に男の子を産んだ。
- 4 主は彼に言われた。「その子をイズレエルと名づけよ。しばらくすれば、わたしがイズレエルでの流血のゆえにエフーの家を罰し、イスラエルの家の王国を終わらせるからだ。」
- 5 その日、わたしはイズレエルの平原で、イスラエルの弓を折る。」
- 6 ゴメルはまた身ごもって、女の子を産んだ。主は彼に言われた。「その子を口・ルハマと名づけよ。わたしはもう二度とイスラエルの家をあわれむことはなく、決して彼らを赦さないからだ。」
- 7 しかし、わたしはユダの家をあわれみ、彼らの神、主として、彼らを救う。ただし、弓、剣、戦い、あるいは馬、騎兵によって救うのではない。」
- 8 彼女は口・ルハマを乳離れさせると、身ごもって男の子を産んだ。
- 9 主は言われた。「その子を口・アンミと名づけよ。あなたがたはわたしの民ではなく、わたしはあなたがたの神ではないからだ。」
- 10 イスラエルの子らの数は、量ることも数えることもできない 海の砂のようになる。「あなたがたはわたしの民ではない」と言われたその場所で、彼らは「生ける神の子ら」と言われる。
- 11 ユダの人々とイスラエルの人々は 一つに集められ、一人のかしらを立てて その地から上って来る。まことに、イズレエルの日は大いなるものとなる。

第2章

- 1 言え。あなたがたの兄弟には、「わたしの民」と。あなたがたの姉妹には、「あわれまれる者」と。
- 2 「問いませ。あなたがたの母を問いませ。彼女はわたしの妻ではなく、わたしは彼女の夫ではないから。その顔から淫行を、その乳房の間から姦淫を取り除け。
- 3 そうでなければ、わたしは彼女の衣をはぎ取って裸にし、生まれた日のようにして彼女をさらし、荒野のようにし、砂漠の地のようにして、渇きで彼女を死なせる。
- 4 彼女の子らを、わたしはあわれまない。彼らは姦淫の子らだから。
- 5 彼らの母は姦淫を行い、彼らをはらんで恥をさらした。彼女は言ったものだ。『私の愛人たちの後について行こう。彼らはパンと水、羊毛と麻、油と飲み物をくれる』と。
- 6 それゆえ、わたしは茨で彼女の道に垣根を巡らし、彼女が通い路を見つけないように石垣を積む。
- 7 彼女は愛人たちの後を追っても、追いつけない。彼らを捜し求めても、見つけれない。彼女は言う。『私は初めの夫のところに戻ろう。あのころは今よりも幸せだったから』と。
- 8 しかし彼女は知らない。このわたしが、穀物と新しいぶどう酒と油を彼女に与えたのを。わたしが銀と金を多く与えると、彼らはそれをバアルに造り上げたのだ。
- 9 それゆえ、わたしはその時になれば、わたしの穀物を取り返す。その時期になれば、わたしの新しいぶどう酒を。また、彼女の裸をおおっているわたしの羊毛と麻をはぎ取る。
- 10 今、わたしは彼女の恥を、愛人たちの目の前で暴く。彼女をわたしの手から救い出せる者はいない。
- 11 わたしは彼女のすべての喜びを、祭り、新月祭、安息日、すべての例祭を終わらせる。
- 12 『これは、愛人たちが払ってくれた私への報酬』と彼女が言った、あのぶどうの木といちじくの木を荒れすたらせる。わたしはこれを林に変えて、野の獣が貪り食うようにする。
- 13 彼女がバアルの神々に仕えた日々のゆえに、わたしは彼女を罰する。彼女はバアルの神々に香をたき、耳輪や飾りを付けて愛人たちの後について行き、このわたしを忘れた。——主のことば。
- 14 それゆえ、見よ、わたしは彼女を誘い、荒野に連れて行って優しく彼女に語ろう。
- 15 わたしはそこを彼女のためにぶどう畑にし、アコルの谷を望みの門とする。その場所で彼女は答える。若いころのように、エジプトの地から上って来たときのように。
- 16 その日になると——主のことば——あなたはわたしを『私の夫』と呼び、もう『私のバアル』とは呼ばない。
- 17 わたしがもろもろのバアルの名を彼女の口から取り除く。その名はもう覚えられない。
- 18 その日、わたしは彼らのために、野の獣、空の鳥、地面を這うものと契約を結ぶ。わたしは弓と剣と戦いを地から絶やし、彼らを安らかに休ませる。

- 19 わたしは永遠に、あなたと契りを結ぶ。義とさばきと、恵みとあわれみをもって、あなたと契りを結ぶ。
- 20 真実をもって、あなたと契りを結ぶ。このとき、あなたは主を知る。
- 21 その日、わたしは応えて言う。――主のことば――わたしは天に応え、天は地に応え、
- 22 地は、穀物と新しいぶどう酒と油に応え、それらはイスラエルに應える。
- 23 わたしは、わたしのために地に彼女を蒔き、あわれまれない者をあわれむ。わたしは、わたしの民ではない者に『あなたはわたしの民』と言い、彼は『あなたは私の神』と応える。」

第3章

- 1 主は私に言われた。「再び行って、夫に愛されていながら姦通している女を愛しなさい。ちょうど、ほかの神々の方を向いて干しぶどうの菓子愛しているイスラエルの子らを、主が愛しているように。」
- 2 それで私は、銀十五シェケルと、大麦一ホメルと大麦一レテクで彼女を買い取り、
- 3 彼女に言った。「これから長く、私のところにとどまりなさい。もう姦淫をしたり、ほかの男と通じたりしてはいけない。私も、あなたにとどまろう。」
- 4 これは、イスラエルの子らが、これから長く、王もなく、首長もなく、いけにえも石の柱もないところに、エポデもテラフィムもないところにとどまるからだ。
- 5 その後で、イスラエルの子らは帰って来て、自分たちの神である主と、自分たちの王ダビデを尋ね求める。そして終わりの日には、主とそのすばらしさにおののく。

第4章

- 1 イスラエルの子らよ、主のことばを聞け。主はこの地に住む者を訴えられる。この地には真実もなく、誠実さもなく、神を知ることもないからだ。
- 2 呪いと、欺きと、人殺しと、盗みと、姦通がはびこり、流血に流血が続いている。
- 3 それゆえ、この地は喪に服し、そこに住む者はみな、野の獣、空の鳥とともに衰え果て、海の魚さえも一掃される。
- 4 「だれも口論してはならない。だれも人を責めてはならない。あなたの民は、祭司と口論する者のようだ。
- 5 あなたは昼つまずき、預言者も、あなたとともに夜つまずく。わたしはあなたの母を滅ぼす。
- 6 わたしの民は知識がないので滅ぼされる。あなたが知識を退けたので、わたしもあなたを退け、わたしの祭司としない。あなたがあなたの神のおしえを忘れたので、わたしもまた、あなたの子らを忘れる。
- 7 彼らは増えるにしたがって、ますますわたしに罪を犯した。わたしは彼らの栄光を恥に変える。
- 8 彼らは、わたしの民の 罪のきよめのささげ物を貪り食い、民の咎に望みをかけている。
- 9 民も祭司も同じようになる。わたしはその生き方のゆえに彼らを罰し、その行いのゆえに彼らに報復する。
- 10 彼らは食べても満たされず、姦淫しても増えることはない。彼らが主を捨てて、姦淫を続けるからだ。
- 11 ぶどう酒、新しいぶどう酒は良識を失わせる。
- 12 わたしの民は木に伺いを立て、棒が彼らに事を告げる。これは、姦淫の霊が彼らを迷わせ、彼らが自分の神のもとを離れて、姦淫したからだ。
- 13 彼らは山々の頂でいけにえを献げ、丘の上で犠牲を供える。榎の木、ポプラ、テレビンの木の下で。その木陰が心地よいからだ。それで、あなたがたの娘は淫行をし、あなたがたの嫁は姦通をする。
- 14 わたしは、あなたがたの娘が姦淫をしても、あなたがたの嫁が姦通をしても、罰しない。男たちは遊女とともに離れ去り、神殿娼婦とともにいけにえを献げている。悟ることのない民は滅びに落ちる。
- 15 イスラエルよ。あなたが淫行をしても、ユダを咎ある者にさせてはならない。ギルガルに行ってはならない。ベテ・アベンに上ってはならない。『主は生きておられる』と誓ってはならない。
- 16 まことに、頑なな雌牛のように イスラエルは頑迷だ。今、主は彼らを 広いところにいる子羊のように養うだろうか。
- 17 エフライムは偶像にくみしている。そのなすに任せるがよい。
- 18 彼らは酒を飲んで、淫行にふけり、淫らなふるまいで恥を愛してやまない。
- 19 風はその翼で彼らを巻き込む。彼らは自分たちのいけにえのゆえに恥を見る。」

第5章

- 1 「祭司たちよ、これを聞け。イスラエルの家よ、心せよ。王の家よ、耳を傾けよ。あなたがたにさばきが下る。あなたがたはミツパで罾となり、タボルの上に張られた網となったからだ。
- 2 曲がった者たちは殺戮を極めた。しかし、わたしは彼らすべてを懲らしめる。
- 3 わたしはエフライムをよく知っている。イスラエルはわたしに隠されていない。今や、エフライムよ、あなたは姦淫をし、イスラエルは汚れてしまった。
- 4 彼らは、自分の悪行を捨てて自分の神に帰ろうとしない。姦淫の霊が彼らのうちにあり、彼らが主を知らないからだ。
- 5 イスラエルの高慢はその顔に表れている。イスラエルとエフライムは、自分の不義につまづき、ユダも彼らとともにつまづく。
- 6 彼らは羊の群れ、牛の群れを連れて行き、主を尋ね求めるが、見つけることはない。主が彼らから離れ去ったのだ。
- 7 彼らは主を裏切り、他国人の子を生んだ。今や、新月の祭りが彼らとその地所を食い尽くす。
- 8 ギブアで角笛を、ラマでラッパを吹き鳴らせ。ベテ・アベンでときの声をあげよ。ベニヤミンよ、うしろを警戒せよ。
- 9 エフライムは懲らしめの日に、恐怖のもととなる。わたしはイスラエルの諸部族に、確かに起こることを知らせる。
- 10 ユダの首長たちは、地境を移す者のようにになった。わたしは彼らの上に激しい怒りを水のように注ぐ。
- 11 エフライムは虐げられ、さばかれて打ち碎かれる。彼が自ら進んで人の決め事に従って歩んだからだ。
- 12 わたしはエフライムにはシミのようになり、ユダの家には腐れのようになる。
- 13 エフライムは自分の病を見た。ユダは自分の腫れものを。エフライムはアッシリアに行き、大王に人を遣わした。しかし、彼はあなたがたを癒やすことができず、あなたがたの腫れものも治せない。
- 14 わたしが、エフライムには獅子のようになり、ユダの家には若い獅子のようになるからだ。わたし、このわたしが引き裂いて歩き、さらって行くが、助け出す者はだれもない。
- 15 わたしは自分のところに戻っていよう。彼らが罰を受け、わたしの顔を慕い求めるまで。彼らは苦しみながら、わたしを捜し求める。」

第6章

- 1 さあ、主に立ち返ろう。主は私たちを引き裂いたが、また、癒やし、私たちを打ったが、包んでくださるからだ。
- 2 主は二日の後に私たちを生き返らせ、三日目に立ち上がらせてくださる。私たちは御前に生きる。
- 3 私たちは知ろう。主を知ることが切に追い求めよう。主は暁のように確かに現れ、大雨のように私たちのところに来られる。地を潤す、後の雨のように。
- 4 「エフライムよ、わたしはあなたに何をしようか。ユダよ、わたしはあなたに何をしようか。あなたがたの真実の愛は朝もやのよう、朝早く消え去る露のようだ。
- 5 それゆえ、わたしは預言者たちによって彼らを切り倒し、わたしの口のことばで彼らを殺す。あなたへのさばきが、光のように出て行く。
- 6 わたしが喜びとするのは真実の愛。いけにえではない。全焼のささげ物よりむしろ、神を知ることである。
- 7 ところが、彼らはアダムのように契約を破り、そこでわたしを裏切った。
- 8 ギルアデは不法を行う者の町、血の足跡に満ちている。
- 9 盗賊が人を待ち伏せするように、祭司たちは徒党を組み、シェケムへの道で人を殺す。彼らは実に淫らなことを行う。
- 10 イスラエル家にわたしはおぞましいことを見た。エフライムはそこで姦淫をし、イスラエルは汚れてしまった。
- 11 ユダよ、あなたにも刈り入れが定まっている。わたしが、わたしの民を元どおりにするときに。」

第7章

- 1 「わたしがイスラエルを癒やすとき、エフライムの咎、サマリアの悪はあらわになる。彼らが偽りを行い、盗人が押し入り、外では略奪隊が襲うからだ。
- 2 しかし、彼らは考えもしない。わたしが彼らのすべての悪を覚えていることを。今、彼らの悪行は彼らを取り囲んで、わたしの面前にある。
- 3 彼らは悪事によって王を、偽りによって首長たちを喜ばせる。
- 4 彼らはみな姦通する者。パンを焼くときの燃えるかまどのようだ。生地がこねられてから、ふくらむまでは、燃え立つことをやめている。
- 5 われわれの王の日に、首長たちは酒の熱で気分が悪くなり、王は嘲る者たちと手を握る。
- 6 彼らは心をかまどのようにして、陰謀を企てる。夜通し、パンを焼く者は眠るが、朝になると、かまどは燃え立つ火のように燃えるのだ。
- 7 彼らはみな、かまどのように熱くなって、自分をさばく者たちを食い尽くす。自分の王たちもみな倒れる。彼らのうちだれ一人、わたしを呼び求める者はいない。
- 8 エフライムは、もろもろの民の中に混じり込む。エフライムは、片面しか焼けていないパンだ。
- 9 他国人が彼の力を食い尽くしても、彼はそれに気づかない。白髪が生えても、彼はそれに気づかない。
- 10 イスラエルの高慢はその顔に表れている。彼らは、自分たちの神、主に立ち返らず、このすべてがあっても、主を尋ね求めない。
- 11 エフライムは愚かな鳩のようで、良識がない。エジプトを呼び求め、アッシリアに飛んで行く。
- 12 彼らが赴くとき、わたしは彼らの上に網を張り、空の鳥のように彼らを引き降ろす。彼らの群れの音を聞くと、わたしは彼らを懲らしめる。
- 13 わざわいだ、彼らは。わたしから離れ去ったのだから。彼らは、踏みにじられるがよい。わたしに背いたのだから。わたしが贖い出そうとしているのに、彼らはわたしに向かってまやかしを言う。
- 14 心からわたしに向かって叫ばずに、自分たちの床の上で泣きわめいている。穀物と新しいぶどう酒のためには群がって来る。しかし、わたしからは離れて行く。
- 15 わたしが訓戒し、彼らの腕を強くしたのに、このわたしに対して悪事を企む。
- 16 彼らはいと高き方に立ち返らない。彼らは欺きの弓のようだ。彼らの首長たちは、ののしったために剣に倒れる。これはエジプトの地で、嘲りのもととなる。」

第8章

- 1 「あなたの口に角笛を当てよ。驚のようなものが、主の宮の上にいる。彼らがわたしの契約を破り、わたしのおしえに背いたからだ。
- 2 彼らはわたしに向かって叫ぶ。『わが神よ、私たちイスラエルは、あなたを知っています』と。
- 3 イスラエルは善を退けた。敵は彼らに追い迫る。
- 4 彼らは王を立てたが、わたしによってではない。首長を立てたが、わたしは知らない。彼らは自分の銀や金で 自分のために偶像を造った。ただ断ち切られるために。
- 5 サマリアよ、あなたの子牛は退けられる。わたしは彼らに向かって怒りを燃やす。いつになれば、彼らは罪のない者となれるのか。
- 6 それはイスラエルから出たもの。それは職人が造ったもので、神ではない。サマリアの子牛は粉々に碎かれる。
- 7 彼らは風を蒔いて、つむじ風を刈り取る。麦には穂が出ないので、麦粉を作れない。作れたとしても、他国人がこれを食い尽くす。
- 8 イスラエルは呑み込まれた。今や、彼らは国々の間にあって、だれにも喜ばれない器のようになった。
- 9 彼らは、ひとりぼっちの野ろばで、アッシリアへ上って行った。エフライムは愛を求めて贈り物をした。
- 10 彼らが諸国の民に物を贈っても、今、わたしはそれらを集める。彼らは、王や首長への貢ぎによって 間もなく汚されることになる。
- 11 エフライムは祭壇を増やして 罪を犯すようになった。それらは彼にとって 罪を犯すための祭壇となった。
- 12 わたしが彼のために、多くのおしえを書いても、彼らはこれを他国人のもののように見なす。
- 13 わたしへのささげ物のいけにえとして 彼らが肉を献げて食べたとしても、主はこれを喜ばない。今、主は彼らの不義を覚え、その罪を罰する。彼らはエジプトに帰る。
- 14 イスラエルは自分の造り主を忘れ、神殿をいくつも建てた。ユダは、城壁のある町々を増し加えた。しかし、わたしはその町々に火を放つ。火はその宮殿を焼き尽くす。」

第9章

- 1 イスラエルよ、喜ぶな。諸国の民のように楽しむな。あなたは自分の神に背いて姦淫したからだ。あなたはすべての麦打ち場で姦淫の報酬を愛した。
- 2 打ち場も踏み場も彼らを養わない。新しいぶどう酒も彼らを裏切る。
- 3 彼らは主の地に住むことはない。エフライムはエジプトに帰り、また、アッシリアで汚れた物を食べる。
- 4 彼らは主にぶどう酒を注がず、自分たちのいけにえで主を喜ばせない。彼らのパンは喪中のパンのようで、これを食べる者はみな身を汚す。彼らのパンは自分のためだけ。主の宮に持ち込むことはできない。
- 5 例祭の日、主の祭りの日に、あなたがたは何をするのか。
- 6 見よ。彼らが破壊を逃れても、エジプトが彼らを集め、メンフィスが彼らを葬る。彼らが慕う銀には、いらくさが、彼らの天幕には、あざみがはびこる。
- 7 刑罰の日が来た。報復の日が来た。イスラエルに知らせよ。預言者は愚か者、霊の人は気のふれた者だ。これは、あなたの大きな不義のゆえ、激しい敵意のゆえである。
- 8 エフライムの見張りは、私の神とともにいる。しかし預言者には、すべての道に罠が仕掛けられ、彼の神の家には憎しみがある。
- 9 彼らはギブアの日のように、心底まで墮落した。主は彼らの咎を心に留め、その罪を罰する。
- 10 「わたしはイスラエルを、荒野のぶどうのように見出し、あなたがたの先祖を、いちじくの木の新なりの実のように見ていた。バアル・ペオルにやって来たとき、彼らは恥ずべきものに身を委ね、自分たちが愛しているものと同じように、彼ら自身も忌まわしいものとなった。
- 11 エフライム。その栄光は鳥のように飛び去り、産むことも、身ごもることも、宿すこともない。
- 12 たとえ彼らが子どもを育てても、わたしは彼らに子を失わせ、人がいなくなるようにする。わたしが彼らを離れるとき、まことに、彼らにわざわいが来る。
- 13 エフライムは、わたしが見たところ、牧場に植えられたツロのようであった。しかし今や、エフライムはその子らを 屠り場に連れ出さなければならない。」
- 14 主よ、彼らに与えてください。あなたは何をお与えになりますか。彼らに与えてください。死産の胎を、涸れた乳房を。
- 15 「彼らのすべての悪はギルガルにある。わたしはそこで彼らを憎んだのだ。彼らの悪い行いのゆえに、わたしは彼らをわたしの宮から追い出し、もはや彼らを愛さない。その首長たちはみな頑迷な者だ。
- 16 エフライムは打たれ、その根は枯れて、実も結ばない。たとえ子を産んでも、わたしはその胎の実である、いとし子を殺す。」
- 17 私の神は彼らを退ける。彼らが神に聞き従わなかったからだ。彼らは国々の間で、さすらい人となる。

第10章

- 1 イスラエルは生い茂るぶどうの木。それは多くの実をつけた。実が増えるにしたがって祭壇の数を増やし、その地が豊かになるにしたがって石の柱を豊かにした。
- 2 彼らの心は偽りだ。今、彼らはその罰を受ける。主が彼らの祭壇を壊し、彼らの石の柱を踏みにじられる。
- 3 今、彼らは言う。「私たちに王はいない。私たちが主を恐れていないからだ。王がいても、私たちに何ができるだろうか。」
- 4 彼らは無駄口をきき、むなしい誓いを立てて契約を結ぶ。さばきは、畑の畝の毒草のように生い出る。
- 5 サマリアの住民は、ベテ・アベンの子牛のことでおののく。その民はそのことで喪に服し、偶像に仕える祭司たち、その栄光を喜んでいた者たちも喪に服す。栄光が子牛から去ったからだ。
- 6 それはアッシリアに持ち去られ、大王への贈り物となる。エフライムは恥を受け、イスラエルは自分のはかりごとで恥を見る。
- 7 サマリアは滅び失せ、その王は水の面の木片のようだ。
- 8 イスラエルの罪であるアベンの高き所は滅ぼし尽くされる。茨とあざみが彼らの祭壇の上に生い茂る。彼らは山々に向かって「私たちをおおえ」と言い、丘に向かって「私たちの上に崩れ落ちよ」と言う。
- 9 「イスラエルよ。ギブアの日以来、あなたは罪を犯してきた。そこで彼らは同じことを行っている。ギブアで、戦いがこの不法の民を襲わないだろうか。
- 10 彼らを懲らしめることがわたしの願いだ。二つの不義のために彼らが捕らえられるとき、諸国の民が集められて彼らに敵対する。
- 11 エフライムは飼いならされた雌の子牛、麦打ち場で踏むことを好む。しかし、わたしはその美しい首にくびきを掛ける。わたしがエフライムに乗り、ユダが耕し、ヤコブが馬ぐわを引くようになる。
- 12 あなたがたは正義の種を蒔き、誠実の実を刈り入れ、耕地を開拓せよ。今が主を求める時だ。ついに主は来て、正義の雨をあなたがたの上に降らせる。」
- 13 あなたがたは悪を耕し、不正を刈り取り、偽りの実を食べた。それはあなたが自分の力に、自分の勇士の数に頼り頼んだからだ。
- 14 あなたの民の中で戦塵が起こり、要塞はみな打ち滅ぼされる。戦いの日にシャルマンがベテ・アルベルを踏みにじったように、母親は子どもたちのそばで八つ裂きにされる。
- 15 ベテルよ。あなたがたの悪があまりにもひどいので、このようなことがあなたがたになされる。夜明けには、イスラエルの王は全く滅ぼされる。

第11章

- 1 「イスラエルが幼いころ、わたしは彼を愛し、エジプトからわたしの子を呼び出した。
- 2 彼らは、呼べば呼ぶほどますます離れて行き、もろもろのバアルにいけにえを献げて、刻んだ像に犠牲を供えた。
- 3 このわたしがエフライムに歩くことを教え、彼らを腕に抱いたのだ。しかし、わたしが彼らを癒やしたことを 彼らは知らなかった。
- 4 わたしは人間の綱、愛の絆で 彼らを引いてきた。わたしは彼らにとって あごの口籠を外す者ようになり、彼らに手を伸ばして食べさせてきた。
- 5 彼はエジプトの地には帰らない。アッシリアが彼の王となる。彼らがわたしに立ち返ることを拒んだからだ。
- 6 剣は、その町々に対して荒れ狂い、かんぬきの取っ手を打ち砕き、彼らのはかりごとのゆえに、町々を食い尽くす。
- 7 わたしの民は頑なに わたしに背いている。いと高き方に呼ばれても、ともにあがめようとはしない。
- 8 エフライムよ。わたしはどうして あなたを引き渡すことができるだろうか。イスラエルよ。どうして あなたを見捨てることができるだろうか。どうしてあなたを アデマのように引き渡すことができるだろうか。どうしてあなたを ツェボイムのようにすることができるだろうか。わたしの心はわたしのうちで沸き返り、わたしはあわれみで胸が熱くなっている。
- 9 わたしは怒りを燃やして 再びエフライムを滅ぼすことはしない。わたしは神であって、人ではなく、あなたがたのうちにいる聖なる者だ。わたしは町に入ることはしない。
- 10 彼らは主の後について行く。主は獅子のようにほえる。まことに主がほえると、子らは西から震えながらやって来る。
- 11 鳥のようにエジプトから、鳩のようにアッシリアの地から、彼らは震えながらやって来る。わたしは彼らを自分たちの家に住ませよう。――主のことば。
- 12 わたしは、エフライムの偽りと、イスラエルの家の欺きで囲まれている。しかしユダは、なお神とともに歩み、聖なる方に対して忠実である。」

第12章

- 1 エフライムは風を飼い、一日中、東風の後を追う。重ねるのは虚偽と暴行。アッシリアと契約を結び、エジプトに油を送る。
- 2 主には、ユダに対して言い分がある。主は、生き方に応じてヤコブを罰し、行いに応じて彼に報いる。
- 3 ヤコブは母の胎で兄のかかとをつかみ、その力で神と争った。
- 4 御使いと格闘して勝ったが、泣いてこれに願った。ベテルでは神に出会い、神はそこで彼に語りかけた。
- 5 主は万軍の神。その呼び名は主。
- 6 あなたは、あなたの神に立ち返り、誠実と公正を守り、絶えずあなたの神を待ち望め。
- 7 商人は手に欺きの秤を持ち、虐げることを好む。
- 8 エフライムは言った。「確かに私は富んでいる。私には力がある。私のすべての勤労の実があれば、私のうちに、罪となる不義は見つからない。」
- 9 「しかしわたしは、エジプトの地にいたときから、あなたの神、主である。例祭の日のように、再びあなたを天幕に住まわせる。
- 10 わたしは預言者たちに語ってきた。わたしが多くの幻を示し、預言者たちによってたとえを示したのだ。」
- 11 ギルアデは不法そのもの。いや、彼らはむなしいものとなった。ギルガルで雄牛が献げられたが、その祭壇も、畑の畝の石くれの山になる。
- 12 ヤコブはアラムの地に逃げて行き、イスラエルは妻を迎えるために働いた。妻を迎えるために羊の番をした。
- 13 主は一人の預言者によって、イスラエルをエジプトから連れ上り、一人の預言者によって、これを守られた。
- 14 エフライムは主の激しい怒りを引き起こした。彼の主は、その血の責任を彼の上に下し、彼のそしりに報いを返される。

第13章

- 1 「エフライムは震えながら語ったとき、イスラエルの中であがめられた。しかし、バアルのことで咎ある者となって死んだ。
- 2 今、彼らは罪を重ね、自分のために銀で鋳物の像を造り、自分の考えで偶像を造った。これはみな、職人のわざ。彼らはこれについて言う。『人を献げる者たちは、子牛に口づけせよ』と。
- 3 それゆえ、彼らは朝もやのように、朝早く消え去る露のようになる。打ち場から吹き散らされる籾殻のように、また、穴から出る煙のようになる。
- 4 しかしわたしは、エジプトの地にいたときから、あなたの神、主である。あなたはわたしのほかに神を知らない。わたしのほかに救う者はいない。
- 5 このわたしは荒野で、干ばつの地であなたを知っていた。
- 6 しかし牧草で満腹したとき、彼らは満ち足り、心は高ぶり、そうしてわたしを忘れた。
- 7 わたしは彼らに対して獅子のようになり、豹のように道端で待ち伏せる。
- 8 子を奪われた雌熊のように彼らに襲いかかり、彼らの胸をかき裂いて、その場で雌獅子のように食らう。野の獣は彼らを引き裂く。
- 9 イスラエルよ、あなたは滅ぼされる。あなたの助け手である、わたしに背いたからだ。
- 10 では、あなたの王はどこにいるのか。すべての町のうちで、あなたを救う者は。あなたをさばく者たちはどこにいるのか。かつてあなたが『私に王と高官たちを与えよ』と言った者たちは。
- 11 わたしは、怒ってあなたに王を与え、また憤ってこれを奪い取る。
- 12 エフライムの不義は束ねられ、その罪は蓄えられている。
- 13 子を産む女の激しい痛みが彼のところに来るが、彼は知恵のない子で、時が来ても、母の胎から出て来ない。
- 14 わたしはよみの力から彼らを贖い出し、死から彼らを贖う。死よ、おまえのとげはどこにあるのか。よみよ、おまえの針はどこにあるのか。あわれみはわたしの目から隠されている。
- 15 彼は兄弟たちの中で栄えている。だが、東風が吹いて来て、主の息が荒野から立ち上り、水源は涸れ、泉は干上がる。それはすべての尊い器がある宝物倉を略奪する。
- 16 サマリアは咎ある者となる。自分の神に逆らったからだ。彼らは剣に倒れ、幼子たちは八つ裂きにされ、妊婦たちは切り裂かれる。」

第14章

- 1 イスラエルよ。あなたの神、主に立ち返れ。あなたは自分の不義につまずいたのだ。
- 2 あなたがたはことばを用意し、主に立ち返れ。主に言え。「すべての不義を赦し、良きものを受け入れてください。私たちは唇の果実をささげます。
- 3 アッシリアは私たちを救えません。私たちはもう馬に乗らず、自分たちの手で造った物に『私たちの神』と言いません。みなしごがあわれまれるのは、あなたによってです。」
- 4 「わたしは彼らの背信を癒やし、喜びをもって彼らを愛する。わたしの怒りが彼らから離れ去ったからだ。
- 5 わたしはイスラエルにとって露のようになる。彼はゆりのように花咲き、レバノン杉のように根を張る。
- 6 その若枝は伸び、その輝きはオリーブの木のように、その香りはレバノン杉のようになる。
- 7 その陰に住むものたちは、穀物のように生き返り、ぶどうの木のように芽をふく。その名声はレバノンのぶどう酒のようになる。
- 8 エフライムよ。わたしと偶像との間に、どういう関わりがあるか。わたしが応え、わたしが世話をする。わたしは緑のもみの木のようだ。わたしから、あなたは実を得るのだ。」
- 9 知恵ある者はだれか。その人はこれらのことを悟れ。悟りのある者はだれか。その人はそれらのことをよく知れ。主の道は平らだ。正しい者はこれを歩み、背く者はこれにつまずく。

ヨエル書

Joel

第1章

- 1 ペトエルの子ヨエルにあった主のことば。
- 2 「長老たちよ、これを聞け。この地に住む者もみな、耳を傾けよ。このようなことが、あなたがたの時代に、また先祖の時代にあっただろうか。
- 3 これをあなたがたの子どもたちに伝え、子どもたちはその子どもたちに、その子どもたちは後の世代に伝えよ。
- 4 噛みいなが残した物は、いなが食い、いなが残した物は、バツタが食い、バツタが残した物は、その若虫が食った。
- 5 目を覚ませ、酔いどれよ。泣け。泣き叫べ、すべてぶどう酒を飲む者よ。甘いぶどう酒があなたがたの口から断たれたからだ。
- 6 ある国民がわたしの国に攻め上って来た。それは力強く、数えきれない。その歯は雄獅子の歯、それには雌獅子の牙がある。
- 7 それはわたしのぶどうの木を荒れすたらせ、わたしのいちじくの木を木っ端にした。これを丸裸に引きむき、投げ倒し、その枝々を真っ白にした。
- 8 悼み悲しめ。粗布をまとったおとめが、その若いときの夫のためにするように。
- 9 穀物と注ぎのささげ物は 主の宮から断たれ、主に仕える祭司たちは喪に服す。
- 10 畑は荒らされ、地も喪に服す。穀物が荒らされ、新しいぶどう酒も干上がり、油も涸れるからだ。
- 11 恥を見よ、農夫たち。泣き叫べ、ぶどう作りたち。小麦と大麦のために。畑の刈り入れがなくなったからだ。
- 12 ぶどうの木は枯れ、いちじくの木はしおれた。ざくろも、なつめ椰子も、りんごも、野のすべての木々は枯れた。喜びが人の子らから消え去った。」
- 13 粗布をまとして悼み悲しめ、祭司たちよ。泣き叫べ、祭壇に仕える者たちよ。私の神に仕える者たちよ、行って 粗布をまとして夜を過ごせ。穀物と注ぎのささげ物が あなたがたの神の宮から退けられたからだ。
- 14 断食を布告し、きよめの集会を召集せよ。長老たちとこの国に住むすべての者を、あなたがたの神、主の宮に集め、主に向かって叫び求めよ。
- 15 ああ、その日よ。主の日は近い。全能者による破壊の日として、その日は来る。
- 16 私たちの目の前で、食物が断たれ、私たちの神の宮から 喜びも楽しみも消え失せたではないか。
- 17 穀物の種は土の下で干からび、倉は荒れ果て、穴蔵は崩れた。穀物がしなびたからだ。
- 18 ああ、なんと家畜がうめいていることか。牛の群れはさまよう。牧場がないからだ。羊の群れも滅びる。
- 19 あなたに、主よ、私は呼び求めます。火が荒野の牧場を焼き尽くし、野のすべての木を炎がなめ尽くしました。
- 20 野の獣も、あなたをあえぎ求めています。水の流れが涸れ、火が荒野の牧場を焼き尽くしたからです。

第2章

- 1 「シオンで角笛を吹き鳴らし、わたしの聖なる山でときの声をあげよ。」地に住むすべての者は、恐れおののけ。主の日が来るからだ。その日は近い。
- 2 それは闇と暗闇の日。雲と暗黒の日。数が多く、力の強い民が、暁とともに山々の上に進んで来る。このようなことは、昔から起こったことがなく、これから後、代々の時代までも再び起こることはない。
- 3 彼らの前は火が焼き尽くし、うしろは炎がなめ尽くす。彼らが来る前は、この地はエデンの園のよう。しかし、去った後は、荒れ果てた荒野となる。これから逃れるものは何もない。
- 4 その姿は馬さながら、軍馬のように駆け巡る。
- 5 その音は戦車のきしり、山々の頂を飛び跳ねる。その音は刈り株を焼き尽くす火の炎、戦いの備えをした強い民のよう。
- 6 諸国の民はその前でもだえ苦しみ、顔はみな青ざめる。
- 7 それは勇士のように走り、戦士のように城壁をよじ登る。それぞれ自分の道を進み、進路を乱さない。
- 8 互いに押し合わず、それぞれ自分の大路を進む。投げ槍が降りかかっても、止まらない。
- 9 町に襲いかかり、城壁の上を走り、家々によじ登り、盗人のように窓から入り込む。
- 10 地はその前で震え、天も揺れる。太陽も月も暗くなり、星もその輝きを失う。
- 11 主はご自分の軍隊の先頭に立って声をあげられる。その陣営は非常に大きく、主のことばを行う者は強い。主の日は偉大で、非常に恐ろしい。だれがこの日に耐えられるだろう。
- 12 「しかし、今でも—主のことば—心のすべてをもって、断食と涙と嘆きをもって、わたしのもとに帰れ。」
- 13 衣ではなく、あなたがたの心を引き裂け。あなたがたの神、主に立ち返れ。主は情け深く、あわれみ深い。怒るのに遅く、恵み豊かで、わざわざを思い直してくださる。
- 14 もしかすると、主が思い直してあわれみ、祝福を後に残しておいてくださるかもしれない。あなたがたの神、主への穀物と注ぎのささげ物を。
- 15 シオンで角笛を吹き鳴らせ。断食を布告し、きよめの集会を召集せよ。
- 16 民を集め、会衆を聖別せよ。老人たちを呼び集め、幼子と乳飲み子たちを集めよ。花婿を寝室から、花嫁を自分の部屋から呼び出せ。
- 17 神殿の玄関と祭壇の間で、主に仕える祭司たちは泣いてこう言え。「主よ、あなたの民にあわれみをかけてください。あなたのゆずりの地を、国々のそしりの的、物笑いの種としないでください。諸国の民の間で、『彼らの神はどこにいるのか』と言わせておいてよいのでしょうか。」
- 18 主はご自分の地をねたむほど愛し、ご自分の民を深くあわれまれた。
- 19 主は民に答えられた。「今、わたしは穀物と新しいぶどう酒と油をあなたがたに送る。あなたがたはそれで満ち足りる。わたしは二度とあなたがたを、国々の間でそしりの的と

しない。

- 20** わたしは、北から来るものを あなたがたから遠ざけ、それを荒廃した砂漠の地へ追いや
る。その前衛を東の海に、その後衛を西の海に。その悪臭は立ち上り、その腐った臭い
は立ちこめる。主が大いなることを行ったからだ。」
- 21** 地よ、恐れるな。楽しみ、喜べ。主が大いなることを行われたからだ。
- 22** 野の獣たちよ、恐れるな。荒野の牧草が萌え出で、木が実を実らせ、いちじくとぶどう
の木が豊かに実る。
- 23** シオンの子らよ。あなたがたの神、主にあって、楽しみ喜べ。主は、義のわざとして、初
めの雨を与え、かつてのように、あなたがたに大雨を降らせ、初めの雨と後の雨を降らせ
てくださる。
- 24** 打ち場は穀物で満ち、石がめは新しいぶどう酒と油であふれる。
- 25** 「いなご、あるいは、バッタ、その若虫、噛みいなご、わたしがあなたがたの間に送った
大軍勢が 食い尽くした年々に対して、わたしはあなたがたに償う。
- 26** あなたがたは食べて満ち足り、あなたがたの神、主の名をほめたたえる。主があなたがた
に 不思議なことをするのだ。わたしの民は永遠に恥を見ることがない。
- 27** あなたがたは、イスラエルの真ん中にわたしがいることを知り、わたしがあなたがたの
神、主であり、ほかにはいないことを知る。わたしの民は永遠に恥を見ることがない。
- 28** その後、わたしは すべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、老
人は夢を見、青年は幻を見る。
- 29** その日わたしは、男奴隷にも女奴隷にも、わたしの霊を注ぐ。
- 30** わたしは天と地に、しるしを現れさせる。それは血と火と煙の柱。
- 31** 主の大いなる恐るべき日が来る前に、太陽は闇に、月は血に変わる。
- 32** しかし、主の御名を呼び求める者は みな救われる。主が言ったように、シオンの山、エ
ルサレムには 逃れの者がいるからだ。生き残った者たちのうちに、主が呼び出す者がい
る。」

第3章

- 1 「見よ。わたしがユダとエルサレムを回復させるその日、その時、
- 2 わたしはすべての国々を集め、彼らをヨシャファテの谷に連れ下り、わたしの民、わたしのゆずりイスラエルのために、そこで彼らをさばく。彼らはわたしの民を国々の間に散らし、わたしの地を自分たちの間で分配したのだ。
- 3 彼らはわたしの民をくじ引きにし、少年を渡して、遊女を得、少女を売って、酒を得て飲んだ。
- 4 ツロとシドン、またペリシテの全地域よ。おまえたちは、わたしにとって何なのか。わたしに報復しようとするのか。もしわたしに報復しようとしているなら、わたしはただちに、速やかに、おまえたちへの報いをおまえたちの頭上に返す。
- 5 わたしの銀と金をおまえたちが奪い、わたしのすばらしい財宝をおまえたちの神殿へ運び、
- 6 ユダの人々とエルサレムの人々をギリシア人に売って、彼らの領土から遠く離れさせたからだ。
- 7 見よ。わたしは、おまえたちが彼らを売ったその場所から彼らと呼ば戻して、おまえたちへの報いをおまえたちの頭上に返し、
- 8 おまえたちの息子、娘たちをユダの人々に売り渡す。彼らはこれを、遠くの異邦の民シェバ人に売る。――主は言われる。」
- 9 「国々の間で、こう叫べ。聖戦を布告せよ。勇士たちを奮い立たせよ。すべての戦士たちを集めて上らせよ。
- 10 あなたがたの鋤を剣に、あなたがたの鎌を槍に打ち直せ。弱い者に『私は勇士だ』と言わせよ。
- 11 周りのすべての国々よ。急いで来て、そこに集まれ。――主よ、あなたの勇士たちを下らせてください――
- 12 諸国の民は立ち上がり、ヨシャファテの谷に上って来い。わたしがそこで、周辺のすべての国々をさばくために、座に着くからだ。」
- 13 鎌を入れよ。刈り入れの機は熟した。来て、踏み。踏み場は満ちた。石がめはあふれている。彼らの悪がひどいから。
- 14 判決の谷には、群衆また群衆。主の日が判決の谷に近づくからだ。
- 15 太陽も月も暗くなり、星もその輝きを失う。
- 16 主はシオンからほえ、エルサレムから声をあげられる。天も地も震える。主はその民の避け所、イスラエルの人々の砦である。
- 17 「あなたがたは知るようになる。あなたがたの神、主であるこのわたしが、わが聖なる山、シオンに住むことを。エルサレムは聖なる所となり、他国人が再びそこを通ることはない。
- 18 その日には、山に甘いぶどう酒が滴り、丘には乳が流れ、ユダの谷川のすべてに水が流れ、泉が主の宮から湧き出て、シティムの溪流を潤す。

- 19** エジプトは荒れ果てた地となり、エドムは荒れ果てた荒野となる。彼らの、ユダの人々への暴虐のためだ。彼らはその地で、咎なき者の血を流した。
- 20** しかし、ユダは永遠に、エルサレムは代々にわたって人の住む所となる。
- 21** わたしは彼らの血の復讐をし、罰せずにはおかない。主はシオンに住む。」

アモス書

Amos

第1章

- 1 テコア出身の牧者の一人であったアモスのことば。これはユダの王ウジヤの時代、イスラエルの王、ヨアシュの子ヤロブアムの時代、あの地震の二年前に、イスラエルについて彼が見た幻である。
- 2 彼は言った。主はシオンからほえ、エルサレムから声をあげられる。羊飼いの牧場は乾き、カルメルの頂は枯れる。
- 3 主はこう言われる。「ダマスコの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らが鉄の打穀機でギルアデを踏みじったからだ。
- 4 わたしはハザエルの家火を送る。その火はベン・ハダドの宮殿を焼き尽くす。
- 5 わたしはダマスコのかんぬきを打ち壊す。王座に着いている者をアベンの谷から、王笏を持っている者をベテ・エデンから断つ。こうしてアラムの民はキルへ捕らえ移される。——主は言われる。」
- 6 主はこう言われる。「ガザの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らがすべての者を捕囚の民として捕らえ移し、エドムに引き渡したからだ。
- 7 わたしはガザの城壁に火を送る。その火はその宮殿を焼き尽くす。
- 8 わたしは、王座に着いている者をアシュドデから、王笏を持つ者をアシュケロンから断つ。わたしはエクロンに手を向け、ペリシテ人の残った者は滅びる。——神である主は言われる。」
- 9 主はこう言われる。「ツロの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らがすべての者を捕囚の民としてエドムに引き渡し、兄弟の契りを覚えていなかったからだ。
- 10 わたしはツロの城壁に火を送る。その火はその宮殿を焼き尽くす。」
- 11 主はこう言われる。「エドムの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らが剣で自分の兄弟を追い、あわれみを断ち、いつまでも怒り、どこまでも激しい怒りを保ち続けたからだ。
- 12 わたしはテマンに火を送る。その火はボツラの宮殿を焼き尽くす。」
- 13 主はこう言われる。「アンモン人の三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らがギルアデの妊婦たちを切り裂いて、自分の領土を広げたからだ。
- 14 わたしはラバの城壁に火を放つ。その火はその宮殿を焼き尽くす。戦いの日の、ときの声のうちに、つむじ風の日の突風とともに。
- 15 彼らの王は、その高官たちとともに捕囚の身となる。——主は言われる。」

第2章

- 1 主はこう言われる。「モアブの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼がエドムの王の骨を焼いて灰にしたからだ。」
- 2 わたしはモアブに火を送る。その火はケリヨテの宮殿を焼き尽くす。モアブは、どよめきのうちに、ときの声と角笛の音のうちに死ぬ。
- 3 わたしはさばく者を町の真ただ中で滅ぼし、そのすべての高官たちを彼とともに切り殺す。—主は言われる。」
- 4 主はこう言われる。「ユダの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らが主のおしえを捨てて、その掟を守らず、先祖がつき従ったまやかしものが彼らを惑わしたからだ。」
- 5 わたしはユダに火を送る。その火はエルサレムの宮殿を焼き尽くす。」
- 6 主はこう言われる。「イスラエルの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らが金と引き換えに正しい者を売り、履き物一足のために貧しい者を売ったからだ。」
- 7 彼らは、弱い者の頭を地のちりに踏みつけ、貧しい者の道を曲げている。子とその父が同じ女のもとに通って、わたしの聖なる名を汚している。
- 8 彼らは、すべての祭壇のそばで、質に取った衣服の上に横たわり、罰金で取り立てたぶどう酒を自分たちの神の宮で飲んでいる。
- 9 彼らの前からアモリ人を滅ぼし尽くしたのは、このわたしだ。彼らは杉の木のように背が高く、樅の木のように強かった。わたしは、その上の実も下の根も滅ぼし尽くした。
- 10 あなたがたをエジプトの地から連れ上り、四十年の間、荒野の中であなたがたを導き、アモリ人の地を所有させたのは、このわたしだ。
- 11 わたしが、あなたがたの息子たちから預言者を、あなたがたの若者からナジル人を起こしたのだ。そうではなかったか。イスラエルの子らよ。—主のことば—
- 12 しかし、あなたがたはナジル人に酒を飲ませ、預言者には『預言するな』と命じた。
- 13 見よ。このわたしが、あなたがたを押しつぶす。束を満載した荷車が押しつぶすように。
- 14 足の速い者も逃げ場を失い、強い者も力をふるえず、勇士も自分を救えない。
- 15 射手も立ちおおせず、足の速い者も逃れられず、騎手も自分を救えない。
- 16 勇士のうちの、心の強い者も、その日には裸で逃げるようになる。—主のことば。」

第3章

- 1 「イスラエルの子らよ、聞け。主があなたがたについて告げた、このことばを。わたしがエジプトの地から連れ上った、あなたがたすべての部族についてのことばを。
- 2 わたしは、地のすべての種族の中から、あなたがただけを選び出した。それゆえ、あなたがたのすべての咎のゆえに わたしはあなたがたを罰する。」
- 3 約束もしていないのに、二人の者が一緒に歩くだろうか。
- 4 獲物もないのに、獅子が森の中で吼えるだろうか。何も捕らえていないのに、若獅子がその洞穴で声をあげるだろうか。
- 5 罾も仕掛けられていないのに、鳥が地の鳥網にかかるだろうか。何も捕らえていないのに、鳥網が地面から跳ね上がるだろうか。
- 6 角笛が町で鳴らされたら、民は驚かないだろうか。町にわざわいが起こったら、主がそれをなされたのではないか。
- 7 まことに、神である主は、ご自分の計画を、そのしもべである預言者たちに示さずには、何事もなさない。
- 8 獅子が吼える。だれが恐れないでいられよう。神である主が語られる。だれが預言しないでいられよう。
- 9 「アシュドデの宮殿と エジプトの地の宮殿に告げよ。『サマリアの山々の上に集まり、その町の大いなる混乱と、そのただ中の抑圧を見よ。』
- 10 彼らは正直に事を行うことを知らない。—主のことば— 彼らは自分たちの宮殿に、暴虐と暴行を宝物のように蓄えている。」
- 11 それゆえ、神である主はこう言われる。「敵が、この地を取り囲み、あなたの権威を地に落とす。あなたの宮殿はかすめ奪われる。」
- 12 主はこう言われる。「羊飼いが獅子の口から二本の足、あるいは耳たぶだけでも取り戻すように、サマリアに住むイスラエルの子らは、寝台の隅やダマスコの長椅子とともに救い出される。
- 13 聞け。ヤコブの家に証言せよ。—神である主、万軍の神のことば—
- 14 まことに、イスラエルの背きのゆえに わたしが彼の上に報いる日に、わたしはベテルの祭壇を罰する。その祭壇の角は折られ、地に落ちる。
- 15 わたしは冬の家と夏の家を打つ。象牙の家は滅び、大邸宅も消え失せる。—主のことば。」

第4章

- 1 このことばを聞け。 サマリヤの山にいるバシャンの雌牛どもよ。 おまえたちは弱い者を虐げ、 貧しい者を迫害し、 自分の主人に「何か持って来て、飲ませよ」と言っている。
- 2 神である主は、ご自分の聖にかけて誓われる。「見よ、その時代がおまえたちに来る。 おまえたちは釣り針にかけて引き上げられる。 最後の一人までが、銚で突かれる。
- 3 おまえたちは、 城壁の破れ口からそれぞれまっすぐに出て行き、 ハルモンに放り出される。 —主のことば。
- 4 ベテルに行って背け。 ギルガルに行って、ますます背け。 朝ごとにあなたがたのいけにえを献げよ。 三日ごとに十分の一を献げるがよい。
- 5 感謝のささげ物として、種入りのパンを焼き、 進んで献げるものを布告し、ふれ知らせるがよい。 イスラエルの子らよ、 あなたがたはそうすることを好んでいる。 —神である主のことば。
- 6 わたしは、あなたがたのすべての町で、 あなたがたの齒を汚さず、 すべての場所で、 パンを欠乏させた。 それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった。 —主のことば—
- 7 わたしはまた、刈り入れまでなお三か月あるのに、 あなたがたに雨をとどめた。 ある町には雨を降らせ、 ほかの町には雨を降らせなかった。 ある畑には雨が降ったが、 雨の降らなかった畑は乾ききった。
- 8 二、三の町は水を飲むために、よろめきながら一つの町に行った。しかし、満ち足りることはなかった。それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった—主のことば。
- 9 わたしは立ち枯れと黒穂病で、 あなたがたを打った。 あなたがたの果樹園とぶどう畑、 いちじくの木とオリーブの木が増えても、 噛みいなが食い荒らした。 それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった。 —主のことば—
- 10 わたしは、エジプトにしたように、 疫病をあなたがたに送った。 剣であなたがたの若者を殺し、 あなたがたの馬を奪い去った。 あなたがたの陣営に悪臭を上らせ、 あなたがたの鼻をつくようにした。 それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった。 —主のことば—
- 11 わたしは、あなたがたをくつがえした。 神がソドムとゴモラをくつがえしたように。 あなたがたは、 炎の中から取り出された 燃えさしのようなになった。 それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった。 —主のことば。
- 12 それゆえイスラエルよ、 わたしはあなたにこのようにする。 わたしがあなたにこうするから、 イスラエルよ、 あなたの神に会う備えをせよ。」
- 13 見よ、山々を形造り、風を創造した方。 その御思いが何であるかを人間に告げる方。 暁と暗闇を造り、 地の高き所を歩まれる方。 その名は万軍の神、主。

第5章

- 1 イスラエルの家よ、このことばを聞け。私はあなたがたについて哀歌を歌う。
- 2 おとめイスラエルは倒れて、二度と起き上がれない。彼女は自分の地に捨て置かれ、これを起こす者もない。
- 3 まことに、神である主はこう言われる。「イスラエルの家、千人を出征させていた町には百人が残り、百人を出征させていた町には十人が残る。」
- 4 主はイスラエル家にこう言われる。「わたしを求めて生きよ。」
- 5 ベテルを求めな。ギルガルに行くな。ベエル・シェバに赴くな。ギルガルは必ず捕らえ移され、ベテルは無に帰するからだ。」
- 6 主を求めて生きよ。そうでないと、主は火のように、ヨセフの家に激しく下る。火はこれを焼き尽くし、ベテルにはそれを消す者がいなくなる。
- 7 彼らは、公正を苦よもぎに変え、正義を地に投げ捨てている。
- 8 すばるやオリオン座を造り、暗黒を朝に変え、昼を暗くして夜にし、海の水を呼び集めて、それを地の面に注ぐ方。その名は主。
- 9 主は、強い者を踏みにじり、要塞を破壊する。
- 10 彼らは門でさばきをする者を憎み、まっすぐに語る者を忌み嫌う。
- 11 あなたがたは貧しい者を踏みつけ、彼から小作料を取り立てている。それゆえ、切り石の家々を建てても、あなたがたはその中に住めない。麗しいぶどう畑を作っても、そのぶどう酒を飲めない。
- 12 私は、あなたがたの背きが多く、あなたがたの罪が重いことをよく知っている。正しい者を迫害する者、賄賂を受け取る者。彼らは門で、貧しい者を押し除けている。
- 13 それゆえ、このようなときには、賢い者は沈黙を守る。時が悪いからだ。
- 14 善を求めよ。悪を求めな。そうすれば、あなたがたは生き、あなたがたが言うように、万軍の神、主が、ともにいてくださる。
- 15 悪を憎み、善を愛し 門で正しいさばきを行え。もしかすると、万軍の神、主はヨセフの残りの者を あわれんでくださるかもしれない。
- 16 それゆえ、主なる万軍の神、主はこう言われる。「すべての広場に嘆きが起こる。すべての通りで、人々は『ああ、ああ』と叫ぶ。農夫を呼んで来て泣かせ、泣き方を心得た者を呼んで来て嘆かせる。
- 17 すべてのぶどう畑に嘆きが起こる。それは、わたしがあなたがたの中を 通り過ぎるからだ。――主は言われる。」
- 18 ああ。主の日を切に望む者。主の日はあなたがたにとって何になろう。それは闇であって、光ではない。
- 19 人が獅子の前を逃げて、熊が彼に会い、家の中に入っても、手で壁に寄りかかると、蛇が彼にかみつくようなものだ。
- 20 主の日は闇であって、光ではない。暗闇であって、そこには輝きはない。

- 21** 「わたしはあなたがたの祭りを憎み、退ける。あなたがたのきよめの集会のときの香りも、わたしはかぎたくない。
- 22** たとえ、あなたがたが、全焼のささげ物や 穀物のささげ物をわたしに献げても、わたしはこれらを受け入れない。肥えた家畜の交わりのいけにえを献げても、わたしは目を留めない。
- 23** あなたがたの歌の騒ぎを、わたしから遠ざけよ。あなたがたの琴の音を、わたしは聞きたくない。
- 24** 公正を水のように、義を、絶えず流れる谷川のように、流れさせよ。
- 25** イスラエルの家よ。あなたがたは荒野にいた四十年の間に、いけにえとささげ物を、わたしのところに携えて来たことがあったか。
- 26** あなたがたは自分たちの王シクテと自分たちの像キユン、自分たちのために造った神々の星を担いで来た。
- 27** わたしはあなたがたを、ダマスコのかなたへ捕らえ移す—その名が万軍の神である主が言われる。」

第6章

- 1 わざわいだ。シオンで安逸を貪る者、サマリアの山に信頼している者。イスラエルの家が頼って行く、国々の最高の首長たち。
- 2 カルネに渡って行って見よ。そこから大ハマテに行け。またペリシテ人のガテに下って行け。あなたがたはこれらの王国よりすぐれているのか。彼らの領土はあなたがたの領土より大きいのか。
- 3 あなたがたは、わざわいの日を遠ざけているつもりで、暴虐の時代を近づけている。
- 4 象牙の寝台に横たわり 長椅子でからだを伸ばし、群れのうちから子羊を、牛舎の中から子牛を取って食べている者、
- 5 琴の音にのせて即興の歌を作り、ダビデに倣って自分たちの楽器を考え出す者。
- 6 彼らは鉢から酒を飲み、最上の香油を身に塗り、ヨセフの破滅のことで嘆き悲しむことがない。
- 7 それゆえ、今、彼らは最初の捕囚の民として引いて行かれる。大の字になった者どもの、弔いの酒宴は除かれる。
- 8 神である主は、ご自分にかけて誓われる。一万軍の神、主のことば―「わたしはヤコブの誇りを忌み嫌い、その宮殿を憎む。わたしはこの都と、その中のすべての者を引き渡す。」
- 9 たとえ、一つの家に残っても、彼らもまた死ぬ。
- 10 親戚の一人でこれを焼く者が、家から死体を持ち出すためにこれを取り上げ、その家の奥にいる人に向かって言う。「あなたのところには、まだいるか。」彼は言う。「だれもない。」また言う。「口をつぐめ。主の名を口にするな。」
- 11 まことに、見よ、主は命じられる。「大きな家を打ち砕き、小さな家を粉々にせよ。」
- 12 馬が岩の上を走るだろうか。人がそこを牛で耕すだろうか。しかしあなたがたは、公正を毒に変え、正義の実を苦よもぎに変えた。
- 13 あなたがたは、ロ・ダバルを喜び、こう言う。「私たちは自分たちの力でカルナイムを取ったではないか」と。
- 14 「しかし、イスラエルの家よ、今わたしは、あなたがたに敵対する一つの国を起こす。一万軍の神、主のことば― 彼らはレボ・ハマテからアラバの水無し川まで、あなたがたを虐げる。」

第7章

- 1 神である主は私に示された。見よ。王が刈り取った後の二番草が生え始めたころ、主はいなごを備えられた。
- 2 そのいなごが地の青草を食い尽くそうとしたとき、私は言った。「神、主よ。どうかお赦してください。ヤコブはどうして生き残れるでしょう。彼は小さいのです。」
- 3 主はこれを思い直された。そして「そのことは起こらない」と主は言われた。
- 4 神である主は私に示された。見よ、神である主は、責める火と呼ばれた。火は大いなる淵を呑み込み、割り当て地を焼き尽くそうとしていた。
- 5 私は言った。「神、主よ。どうかおやめください。ヤコブはどうして生き残れるでしょう。彼は小さいのです。」
- 6 主はこれを思い直された。そして「そのことも起こらない」と神である主は言われた。
- 7 主は私に示された。見よ。主は下げ振りを手に持って、下げ振りを使って築かれた城壁の上に立っておられた。
- 8 主は私に言われた。「アモス、何を見ているのか。」私が「下げ振りです」と言うと、主は言われた。「見よ。わたしは下げ振りを、わたしの民イスラエルの真ん中に垂れ下げる。わたしはもう二度と彼らを見過ごさない。
- 9 イサクの高き所は荒らされ、イスラエルの聖所は廃墟となる。わたしは剣をもって、ヤロブアムの家に向かって立ち上がる。」
- 10 ベテルの祭司アマツヤは、イスラエルの王ヤロブアムに人を遣わして言った。「アモスは、イスラエルの家のただ中で、あなたに謀反を企てています。この国は彼のどのことばも受け入れることができません。
- 11 アモスはこう言っています。『ヤロブアムは剣で死に、イスラエルはその土地から必ず捕らえられて行く。』」
- 12 アマツヤはアモスに言った。「先見者よ。さあ、ユダの地へ逃げるがよい。そこでパンを食べ、その地で預言するがよい。
- 13 ベテルでは二度と預言するな。ここは王の聖所、王国の宮だからだ。」
- 14 アモスはアマツヤに答えた。「私は預言者ではなかったし、預言者の仲間でもなかった。私は牧者であり、いちじく桑の木を栽培していた。
- 15 しかし、主が、群れの世話をしていたところから私を取り、主が私にこう言われた。『行って、わたしの民イスラエルに預言せよ』と。
- 16 今、主のことばを聞け。あなたは『イスラエルに向かって預言するな。イサクの家に向かって戯言を言うな』と言っている。
- 17 それゆえ、主はこう言われる。『あなたの妻は町で遊女となり、あなたの息子、娘たちは剣に倒れ、あなたの土地は測り縄で分割される。あなたは汚れた土地で死に、イスラエルはその土地から必ず捕らえられて行く。』」

第8章

- 1 神である主は私に示された。そこには一かごの夏の果物があつた。
- 2 主は言われた。「アモス。何を見ているのか。」私が、「一かごの夏の果物です」と言うと、主は私に言われた。「わたしの民イスラエルに終わりが来た。わたしはもう二度と彼らを見過ごさない。
- 3 その日には、神殿の歌声は悲鳴に変わる。―神である主のことば― 多くの屍が、いたるところに投げ捨てられる。口をつぐめ。」
- 4 聞け。貧しい者たちを踏みつけ、地で苦しむ者たちを消し去ろうとする者よ。
- 5 あなたがたは言っている。「新月の祭りはいつ終わるのか。私たちは穀物を売りたいのだが。安息日はいつ終わるのか。麦を売りに出したいのだが。エパを小さくし、シェケルを重くし、欺きの秤で欺こう。
- 6 弱い者を金で買い、貧しい者を履き物一足分で買おう。屑麦を売ろう。」
- 7 主はヤコブの誇りにかけて誓われる。「わたしは、彼らのしていることをみな、いつまでも決して忘れない。
- 8 地はこのために震えないだろうか。地に住むすべての者は喪に服さないだろうか。地のすべてのものはナイル川のように持ち上がり、エジプトの大河のように、うねっては沈まないだろうか。
- 9 その日には、―神である主のことば― わたしは真昼に太陽を沈ませ、白昼に地を暗くする。
- 10 あなたがたの祭りを喪に変え、あなたがたの歌をすべて哀歌に変える。すべての腰に粗布をまといせ、頭を剃らせる。その時をひとり子を失ったときの喪のように、その終わりを苦渋の日のようにする。
- 11 見よ、その時代が来る。―神である主のことば― そのとき、わたしはこの地に飢饉を送る。パンに飢えるのではない。水に渴くでもない。実に、主のことばを聞くことの飢饉である。
- 12 彼らは海から海へと、北から東へとさまよい歩く。主のことばを探し求めて行き巡る。しかし、それを見出すことはない。
- 13 その日には、美しい若い女も、若い男も、渴きのために衰え果てる。
- 14 彼らは、サマリアの罪過にかけてこう誓う。『ダンよ、あなたの神は生きている。』『ベエル・シェバの道は生きている。』しかし、彼らは倒れて二度と起き上がれない。」

第9章

- 1 私は、祭壇の傍らに主が立っておられるのを見た。すると、主は言われた。「柱頭を打ちたたき、敷居が震えるようにせよ。すべての者の頭を打ち碎け。彼らのうち、生き残った者をわたしは剣で殺す。彼らのうち逃げられる者はなく、彼らのうち逃れられる者もない。
- 2 たとえ、よみに入り込んだとしても、わたしの手が、彼らをそこから引きずり出す。たとえ、天に上ったとしても、わたしが彼らをそこから引きずり降ろす。
- 3 たとえ、カルメルの頂に身を隠したとしても、わたしが彼らをそこから捜し出して捕まえる。たとえ、わたしの目を避けて海の底に身を隠したとしても、わたしが蛇に命じて彼らをそこでかませる。
- 4 たとえ、敵の捕虜となって行ったとしても、わたしが剣に命じてそこで彼らを殺させる。わたしは彼らの上に目を注ぐ。それは、わざわいのためであって、幸いのためではない。」
- 5 万軍の神、主が地に触れると、それは溶け去る。そこに住むすべての者は喪に服す。地のすべてのものは、ナイル川のように持ち上がり、エジプトの大河のように沈む。
- 6 天に高殿を建て、地の上に丸天井を据え、海の水を呼んで、地の面に注がれる方、その名は主。
- 7 「イスラエルの子らよ。あなたがたは、わたしにとってクシュ人と同じではないのか。――主のことば――わたしは、イスラエルをエジプトの地から、ペリシテ人をカフトルから、アラムをキルから、連れ上ったではないか。
- 8 見よ。神である主の目が、罪深い王国に向けられている。わたしはこれを地の面から根絶やしにする。しかし、ヤコブの家を根絶やしにすることはない。――主のことば――
- 9 見よ。わたしは命じて、すべての国々の間で、イスラエルの家をふるいにかける。ふるっても、小石は地に落ちないようにする。
- 10 わたしの民の中の罪人はみな、剣で死ぬ。彼らは『わざわいは私たちに近づかない。私たちまでは及ばない』と言っている。
- 11 その日、わたしは倒れているダビデの仮庵を起こす。その破れを繕い、その廃墟を起こし、昔の日のようにこれを建て直す。
- 12 これは、エドムの残りの者とわたしの名で呼ばれるすべての国々を、彼らが所有するためだ。――これを行う主のことば。
- 13 見よ、その時代が来る。――主のことば――そのとき、耕す者が刈る者に追いつき、ぶどうを踏む者が種蒔く者に追いつく。山々は甘いぶどう酒を滴らせ、すべての丘は溶けて流れる。
- 14 わたしは、わたしの民イスラエルを回復させる。彼らは荒れた町々を建て直して住み、ぶどう畑を作って、そのぶどう酒を飲み、果樹園を作って、その実を食べる。
- 15 わたしは、彼らを彼らの地に植える。彼らは、わたしが与えたその土地から、もう引き抜かれることはない。――あなたの神、主は言われる。」

オバデヤ書

Obadiah

第1章

- 1 オバデヤの幻。神である主は、エドムについてこう言われる。―私たちは主から知らせを聞いた。使節が国々の間に送られてこう言った、と。「さあ、立ち上がれ。エドムと戦おう」―
- 2 「見よ。わたしはおまえを国々の中で小さい者、ひどく蔑まれる者とする。
- 3 岩の裂け目に住み、高い所を住まいとする者よ。おまえの高慢は、おまえ自身を欺いている。おまえは心の中で言っている。『だれが私を地に引きずり降ろせるのか』と。
- 4 鷲のように高く上っても、星々の間に巣を作っても、わたしは、おまえをそこから引きずり降ろす。―主のことば。
- 5 盗人がおまえのところに来るなら、しかも夜に、荒らす者が来るなら、―いかに、おまえは荒らされることか― 彼らは欲しい分だけ盗んで行くではないか。ぶどうを収穫する者がおまえのところに来るなら、彼らは取り残しの実を残さないだろうか。
- 6 ああ、エサウは捜し出され、その秘宝は見つけ出される。
- 7 おまえと同盟を組む者たちがみな、おまえを国境まで送り返し、親しい友がおまえを欺いて征服する。おまえのパンを食べていた者が、おまえの足もとに罠を仕掛ける。こんなおまえに英知はない。
- 8 その日には、―主のことば― わたしは、エドムから知恵ある者たちを、エサウの山から英知を消し去らないであろうか。
- 9 テマンよ、おまえの勇士たちは気をくじかれる。虐殺され、エサウの山から一人残らず断ち切られる。
- 10 おまえの兄弟、ヤコブへの暴虐のために、恥がおまえをおおい、おまえは永遠に断たれる。
- 11 他国人がエルサレムの財宝を奪い去り、外国人がその門に押し入り、エルサレムをくじ引きにして取ったその日、おまえは素知らぬ顔で立っていた。おまえもまた、彼らのうちの一人のようであった。
- 12 おまえは兄弟の災難の日に、それを見ていてはならない。ユダの子らの滅びの日に、彼らのことで喜んではならない。その苦難の日に大口をたたいてはならない。
- 13 おまえは彼らのわざわいの日に、わたしの民の門に入ってはならない。ほかでもないおまえが、彼の破局の日に、そのわざわいを眺めていてはならない。彼の破局の日に、彼らの財宝に手を伸ばしてはならない。
- 14 その逃れる者を断つために、別れ道に立ちふさがってはならない。その苦難の日に、彼らの生き残った者を引き渡してはならない。
- 15 なぜなら、主の日はすべての国々に近づいているからだ。おまえは、自分がしたように、自分にもされる。おまえの報いは、おまえの頭上に返る。
- 16 おまえたちがわたしの聖なる山で飲んだように、すべての国々も絶えず飲み続け、飲んだり、すすったりする。彼らはまるで、いなかった者のようになる。

- 17** しかし、シオンの山には、逃れの者がいるようになる。そこは聖となり、ヤコブの家は自分の領地を所有するようになる。
- 18** ヤコブの家は火となり、ヨセフの家は炎となる。エサウの家は刈り株となり、火と炎は刈り株に燃えつき、これを焼き尽くす。エサウの家には生き残る者がいなくなる。」主がこう告げられたのである。
- 19** ネゲブの人々はエサウの山を、シェフェラの人々はペリシテ人の地を占領する。また彼らはエフライムの野とサマリアの野を占領し、ベニヤミンはギルアデを占領する。
- 20** イスラエルの人々に属する、この一群の捕囚の民はカナン人の地をツアレファテまで占領し、セファラデにいるエルサレムからの捕囚の民はネゲブの町々を占領する。
- 21** 救う者たちは、エサウの山をさばくため、シオンの山に上る。こうして、王国は主のものとなる。

ヨナ書

Jonah

第1章

- 1 アミタイの子ヨナに、次のような主のことばがあった。
- 2 「立ってあの大きな都ニネベに行き、これに向かって叫べ。彼らの悪がわたしの前に上って来たからだ。」
- 3 しかし、ヨナは立って、主の御顔を避けてタルシシュへ逃れようとした。彼はヤッファに下り、タルシシュ行きの船を見つけると、船賃を払ってそれに乗り込み、主の御顔を避けて、人々と一緒にタルシシュへ行こうとした。
- 4 ところが、主が大風を海に吹きつけられたので、激しい暴風が海に起こった。それで船は難破しそうになった。
- 5 水夫たちは恐れて、それぞれ自分の神に向かって叫んだ。そして、船を軽くしようと船の積荷を海に投げ捨てた。一方、ヨナは船底に下りていて、横になってぐっすり寝入っていた。
- 6 すると船長が近づいて来て、彼に言った。「いったいどうしたのか。眠りこけているとは。起きて、あなたの神に願いなさい。もしかすると、その神が私たちに心を留め、私たちは滅びないですむかもしれない。」
- 7 人々は互いに言った。「さあ、だれのせいで、このわざわいが私たちに降りかかったのか、くじによって知ろう。」彼らがくじを引くと、そのくじはヨナに当たった。
- 8 そこで彼らはヨナに言った。「話してくれ。だれのせいで、このわざわいが私たちに降りかかったのか。あなたの仕事は何か。どこから来たのか。国はどこか。どの民の者か。」
- 9 ヨナは彼らに言った。「私はヘブル人です。私は、海と陸を造られた天の神、主を恐れる者です。」
- 10 人々は非常に恐れて、彼に「何ということをしたのか」と言った。人々は、ヨナが彼らに告げたことによって、彼が主の御顔を避けて逃れようとしていることを知ったからである。
- 11 彼らはヨナに言った。「私たちのために海が静まるようにするには、あなたをどうすればよいのか。」海がますます荒れてきたからである。
- 12 ヨナは彼らに言った。「私を抱え上げて、海に投げ込みなさい。そうすれば、海はあなたがたのために静かになるでしょう。私は分かっています。この激しい暴風は、私のせいであなたがたを襲ったのです。」
- 13 それでも人々は船を陸に戻そうと漕いだが、そうすることはできなかった。海がますます彼らに向かって荒れてきたからである。
- 14 そこで彼らは主に向かって叫んだ。「ああ、主よ。どうか、この男のいのちのことで、私たちが滅びることのないようにしてください。咎なき者の血の報いを、私たちの上に下さないでください。主よ。あなたは、望まれたとおりになさったのですから。」
- 15 こうして、彼らはヨナを抱え上げ、海に投げ込んだ。すると激しい怒りがやんで、海は凪になった。
- 16 人々は非常に主を恐れ、主にいけにえを献げて誓願を立てた。

17 主は大きな魚を備えて、ヨナを呑み込ませた。ヨナは三日三晩、魚の腹の中にいた。

第2章

- 1 ヨナは魚の腹の中から、自分の神、主に祈った。
- 2 「苦しみの中から、私は主に叫びました。すると主は、私に答えてくださいました。よみの腹から私が叫び求めると、あなたは私の声を聞いてくださいました。
- 3 あなたは私を深いところに、海の真中に投げ込まれました。潮の流れが私を囲み、あなたの波、あなたの大波がみな、私の上を越えて行きました。
- 4 私は言いました。『私は御目の前から追われました。ただ、もう一度、私はあなたの聖なる宮を 仰ぎ見たいのです。』
- 5 水は私を取り巻き、喉にまで至り、大いなる水が私を囲み、海草は頭に絡みつきました。
- 6 私は山々の根元まで下り、地のかんぬきは、私のうしろで永遠に下ろされました。しかし、私の神、主よ。あなたは私のいのちを 滅びの穴から引き上げてくださいました。
- 7 私のたましいが私のうちで衰え果てたとき、私は主を思い出しました。私の祈りはあなたに、あなたの聖なる宮に届きました。
- 8 空しい偶像に心を留める者は、自分への恵みを捨て去ります。
- 9 しかし私は、感謝の声をあげて、あなたにいけにえを献げ、私の誓いを果たします。救いは主のものです。」
- 10 主は魚に命じて、ヨナを陸地に吐き出させた。

第3章

- 1 再びヨナに次のような主のことばがあった。
- 2 「立ってあの大きな都ニネベに行き、わたしがあなたに伝える宣言をせよ。」
- 3 ヨナは、主のことばのとおり、立ってニネベに行った。ニネベは、行き巡るのに三日かかるほどの非常に大きな都であった。
- 4 ヨナはその都に入って、まず一日分の道のりを歩き回って叫んだ。「あと四十日すると、ニネベは滅びる。」
- 5 すると、ニネベの人々は神を信じ、断食を呼びかけ、身分の高い者から低い者まで粗布をまとった。
- 6 このことがニネベの王の耳に入ると、彼は王座から立ち上がって、王服を脱ぎ捨てて粗布をまとい、灰の上に座った。
- 7 そして、王と大臣たちの命令によって、次のような布告がニネベに出された。「人も家畜も、牛も羊もみな、何も味わってはならない。草をはんだり、水を飲んだりしてはならない。
- 8 人も家畜も、粗布を身にまとい、ひたすら神に願い、それぞれ悪の道と、その横暴な行いから立ち返れ。
- 9 もしかすると、神が思い直してあわれみ、その燃える怒りを収められ、私たちは滅びないですむかもしれない。」
- 10 神は彼らの行いを、すなわち、彼らが悪の道から立ち返ったのをご覧になった。そして神は彼らに下すと言ったわざわいを思い直し、それを行われなかった。

第4章

- 1 ところが、このことはヨナを非常に不愉快にした。ヨナは怒って、
- 2 主に祈った。「ああ、主よ。私がまだ国にいたときに、このことを申し上げたではありませんか。それで、私は初めタルシシュへ逃れようとしたのです。あなたが情け深くあわれみ深い神であり、怒るのに遅く、恵み豊かで、わざわざを思い直される方であることを知っていたからです。
- 3 ですから、主よ、どうか今、私のいのちを取ってください。私は生きているより死んだほうがましです。」
- 4 主は言われた。「あなたは当然であるかのように怒るのか。」
- 5 ヨナは都から出て、都の東の方に座った。そしてそこに自分で仮小屋を作り、都の中で何が起るかを見極めようと、その陰のところに座った。
- 6 神である主は一本の唐胡麻を備えて、ヨナの上をおおうように生えさせ、それを彼の頭の上の陰にして、ヨナの不機嫌を直そうとされた。ヨナはこの唐胡麻を非常に喜んだ。
- 7 しかし翌日の夜明けに、神は一匹の虫を備えられた。虫がその唐胡麻をかんだので、唐胡麻は枯れた。
- 8 太陽が昇ったとき、神は焼けつくような東風を備えられた。太陽がヨナの頭に照りつけたので、彼は弱り果て、自分の死を願って言った。「私は生きているより死んだほうがましだ。」
- 9 すると神はヨナに言われた。「この唐胡麻のために、あなたは当然であるかのように怒るのか。」ヨナは言った。「私が死ぬほど怒るのは当然のことです。」
- 10 主は言われた。「あなたは、自分で労さず、育てもせず、一夜で生えて一夜で滅びたこの唐胡麻を惜しんでいる。
- 11 ましてわたしは、この大きな都ニネベを惜しまないでいられるだろうか。そこには、右も左も分からない十二万人以上の人間と、数多くの家畜がいるではないか。」

ミカ書

Micah

第1章

- 1 モレシエテ人ミカにあった主のことば。これは、ユダの王ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代に、彼がサマリアとエルサレムについて見た幻である。
- 2 すべての民族よ、聞け。地とそこに満ちているものたちよ、耳を傾けよ。神である主は、あなたがたのうちで証人となり、主はその聖なる宮から来て証人となられる。
- 3 見よ。主は御住まいを出、降りて来て、地の高い所を踏まれる。
- 4 山々は主の足もとに溶け去り、もろもろの谷は裂ける。まるで、火の前の、ろうのように。坂に注がれた水のように。
- 5 これはみな、ヤコブの背きのゆえ、イスラエルの家の罪のゆえだ。「ヤコブの背きとは何か。サマリアではないか。ユダの高き所とは何か。エルサレムではないか。
- 6 わたしはサマリアを野にある瓦礫の山とし、ぶどうを植える畑とする。その石を谷間に投げ込んで、その基を暴く。
- 7 その刻んだ像はすべて打ち碎かれ、儲けはみな火で焼かれる。わたしはその偶像をすべて荒れすたらせる。それらは遊女の儲けで集められたのだから、遊女の儲けに戻る。」
- 8 このゆえに、私は嘆き、泣き叫び、裸足で、裸で歩く。私はジャッカルのように嘆き、だちょうのように悲しみ泣く。
- 9 まことに、その打ち傷は癒やしがたい。それはユダにまで及び、私の民の門、エルサレムにまで達する。
- 10 「ガテで告げるな。決して泣いてはならない。ベテ・レ・アフラでちりの中を転げ回れ。
- 11 シャフィルに住む者よ、裸になって恥じながら通り過ぎよ。ツァアナンに住む者は出て来ない。ベテ・エツェルの嘆きは、あなたがたから、立つところを奪い取る。
- 12 まことに、マロテに住む者は、病むほどに幸せを待ち望む。エルサレムの門に、主からわざわざいが下ったのだ。
- 13 ラキシユに住む者よ、戦車に早馬をつなげ。そこは娘シオンにとって罪の始まり。実に、イスラエルの背きが、あなたのうちに見出されたのだ。
- 14 それゆえ、あなたは別れの贈り物をモレシエテ・ガテに与える。アクジブの家々は、イスラエルの王たちにとって欺く者となる。
- 15 マレシャに住む者よ、わたしは再び、侵略者をあなたのところに送る。イスラエルの栄光はアドラムまで行く。
- 16 頭を剃れ。あなたが喜びとする子らのために、その剃ったところを、禿鷲のように大きくせよ。彼らは捕らえられて、去って行くからだ。」

第2章

- 1 わざわいだ。不法を謀り、寢床の上で悪を行う者。朝の光とともに、彼らはこれを実行する。自分たちの手に力があるからだ。
- 2 彼らは畑を欲しがって、これをかすめ、家々を取り上げる。彼らは人とその持ち家を、人とその相続地をゆすり取る。
- 3 それゆえ、主はこう言われる。「見よ。わたしはこういう氏族に、わざわいを下そうと考えている。そこからあなたがたは頭をもたげることもできず、胸を張って歩くこともできなくなる。それは、わざわいの時だからだ。」
- 4 その日、あなたがたについて 嘲りの声があがり、嘆きの歌が起こって言う。「われわれはすっかり荒らされてしまった。私の民の割り当て地は替えられてしまった。どのようにして私から移され、われわれの畑が背信の者に分け与えられたのか。」
- 5 それゆえ、主の集会には、あなたのために くじを引いて測り綱を張る者がいなくなる。
- 6 「戯言を言うな」と彼らは戯言を言う。「そんな戯言を言ってはならない。辱めを受けることはない。」
- 7 ヤコブの家がそんなことを言われてよいものか。主がこれを我慢されるだろうか。これは主のみわざだろうか。私のことばは、まっすぐに歩む者に益とならないだろうか。
- 8 「近ごろ、わたしの民は 敵として立ち上がった。あなたがたは、豪華な上着をはぎ取る。安心して通り過ぎていく者、戦いから帰って来る者たちから。
- 9 あなたがたは、わたしの民の女たちを、その楽しみの家から追い出し、その幼子たちから、わたしの誉れを永遠に取り去る。
- 10 さあ、立ち去れ。ここは憩いの場所ではない。ここは汚れて滅ぼされるからだ。それはひどい滅びだ。
- 11 もし人が風の赴くままに歩き回り、『私はあなたがたに薦めよう。ぶどう酒と強い酒を』と偽って言うなら、その者は、この民に戯言を言う者だ。
- 12 ヤコブよ。わたしは、あなたを必ずみな集め、イスラエルの残りの者を必ず呼び集める。わたしは彼らを、囲いの中の羊のように、牧場の中の群れのように、一つに集める。こうして、人々のざわめきが起こる。
- 13 打ち破る者は 彼らの先頭に立って上って行く。彼らは門を打ち破って進み、そこを出て行く。彼らの王が彼らの前を、主が彼らの先頭を進む。」

第3章

- 1 私は言った。「聞け。ヤコブのかしらたち、イスラエルの家の首領たち。あなたがたは公正を知っているはずではないか。
- 2 あなたがたは善を憎んで悪を愛し、人々の皮を剥ぎ、その骨から肉をそぎ取る。
- 3 わたしの民の肉を食らい、皮を剥ぎ取って、骨を打ち碎き、鍋の中のもののよう、また大釜の中の肉切れのように、それを切れ切れに裂く。」
- 4 そのため彼らが主に叫んでも、主は彼らに答えない。そのとき、主は彼らから顔を隠される。彼らの行いが悪いからだ。
- 5 預言者たちについて、主はこう言われる。「彼らはわたしの民を惑わし、かむ物が歯にあれば『平和があるように』と叫ぶが、口に何も与えない者には聖戦を布告する。」
- 6 それゆえ、あなたがたには、夜にも幻がなく、暗闇にも占いが無い。太陽も預言者たちの上に沈み、昼も彼らの上で暗くなる。
- 7 先見者たちは恥を見、占い師たちは屈辱を味わう。彼らはみな、口ひげをおおう。神の答えがないからだ。
- 8 しかし、私には力が満ちている。主の霊によって、公正と勇気に満ちている。ヤコブにはその背きを、イスラエルにはその罪を告げる。
- 9 これを聞け。ヤコブの家のかしらたち、イスラエルの家の首領たち。あなたがたは公正を忌み嫌い、あらゆる正しいことを曲げている。
- 10 流血でシオンを、不正でエルサレムを建てている。
- 11 そのかしらたちは賄賂を取ってさばき、祭司たちは代金を取って教え、預言者たちは金を取って占いをする。しかもなお、彼らは主を当てにして、「主は私たちの中におられるではないか。わざわざは私たちの上に及ばない」と言う。
- 12 それゆえ、あなたがたゆえにシオンは畑のように耕され、エルサレムは瓦礫の山となり、神殿の山は木々におおわれた丘となる。

第4章

- 1 その終わりの日、主の家の山は、山々のかしらとして堅く立ち、もろもろの丘よりも高くそびえ立つ。そこへもろもろの民が流れて来る。
- 2 多くの国々が来て言う。「さあ、主の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を私たちに教えてくださる。私たちはその道筋を進もう。」それは、シオンからみおしえが、エルサレムから主のことばが出るからだ。
- 3 主は多くの民族の間をさばき、遠く離れた強い国々に判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず、もう戦うことを学ばない。
- 4 彼らはみな、それぞれ自分のぶどうの木の下や、いちじくの木の下に座るようになり、彼らを脅かす者はいない。まことに万軍の主の御口が告げる。
- 5 まことに、すべての民族は、それぞれ自分たちの神の名によって歩む。しかし、私たちは、世々限りなく、私たちの神、主の御名によって歩む。
- 6 「その日—主のことば— わたしは足を引きずる者を集め、追いやられた者、また、わたしが苦しめた者を呼び集める。
- 7 わたしは足を引きずる者を、残りの者とし、遠くへ移された者を、強い国民とする。主であるわたしが、シオンの山で、今よりとこしえまで、彼らの王となる。
- 8 あなたは、羊の群れのやぐら、娘シオンの丘。あなたには、あのかつての主権、娘エルサレムの王国が戻って来る。」
- 9 今、なぜあなたは大声で叫ぶのか。あなたのうちに王がいないのか。あなたの助言者は滅び失せたのか。それで、子を産む女のような激しい痛みがあなたをとらえたのか。
- 10 娘シオンよ。子を産む女のように、身もだえして、もがき回れ。今、あなたは町を出て野に宿り、バビロンまで行く。そこで、あなたは助け出される。そこで、主があなたを敵の手から贖い出される。
- 11 今、多くの国々があなたに敵対して集まり、そして言う。「シオンは汚されるがよい。われわれはこの目でじっとそれを見ていよう」と。
- 12 しかし彼らは主の御思いを知らず、その御計らいに気づかない。主は、打ち場の麦束のように彼らを集められたのだ。
- 13 「娘シオンよ、さあ、脱穀せよ。わたしが、あなたの角を鉄とし、あなたのひづめを青銅とする。あなたは多くの国民を粉々に砕き、彼らの不正な利得を主のために、彼らの財宝を全地の主のために聖絶する。」

第5章

- 1 今、軍勢をなす娘よ、勢ぞろいせよ。包囲網が私たちに対して設けられた。彼らは、イスラエルをさばく者の頬を杖で打つ。
- 2 「ベツレヘム・エフラテよ、あなたはユダの氏族の中で、あまりにも小さい。だが、あなたからわたしのためにイスラエルを治める者が出る。その出現は昔から、永遠の昔から定まっている。」
- 3 それゆえ、彼らはそのままにしておかれる。産婦が子を産む時まで。そのとき、彼の兄弟のほかの者はイスラエルの子らのもとに帰る。
- 4 彼は立って、主の力と、彼の神、主の御名の威光によって群れを飼う。そして彼らは安らかに住まう。今や彼の威力が、地の果ての果てまで及ぶからだ。
- 5 平和は次のようにして来る。アッシリアが私たちの国に来て、私たちの宮殿を踏みにじるとき、私たちはこれに対抗して七人の牧者、八人の指導者を立てる。
- 6 彼らはアッシリアの地を剣で、ニムロデの地を抜き身の剣で飼いならす。アッシリアが私たちの国に来て、私たちの領土に踏み込んで来るとき、彼は、私たちをアッシリアから救い出す。
- 7 そのとき、ヤコブの残りの者は、多くの国々の民のただ中で、主のもとから降りる露、青草に降り注ぐ夕立のようだ。彼らは人に望みを置かず、人の子らに期待をかけない。
- 8 ヤコブの残りの者は異邦の民の中、多くの国々の民のただ中で、森の獣の中の獅子、羊の群れの中の若い獅子のようだ。通り過ぎるときには、踏みにじり、かみ裂けば、助け出す者はいない。
- 9 あなたが敵対する者に向けて御手を上げると、あなたの敵はみな絶ち滅ぼされる。
- 10 「その日—主のことば—わたしはあなたのただ中から、あなたの馬を滅ぼし、戦車を打ち壊し、
- 11 あなたの国の町々を絶ち滅ぼし、要塞をみな破壊する。
- 12 わたしはあなたの手から呪術者を断ち、占い師をあなたのところから絶やす。
- 13 わたしは、あなたのただ中から、刻んだ像と石の柱を断ち切る。あなたはもう、自分の手で造った物を拝まない。
- 14 わたしは、あなたのアシェラ像をあなたのただ中から根こそぎにし、あなたの町々を滅ぼし尽くす。
- 15 わたしは怒りと憤りをもって、わたしに聞き従わなかった国々に復讐する。」

第6章

- 1 さあ、主の言われることを聞け。立ち上がれ。山々に訴えよ。もろもろの丘にあなたの声を聞かせよ。
- 2 山々よ、聞け。主の訴えを。変わる事のない地の基よ。主がご自分の民を訴え、イスラエルと論争される。
- 3 「わたしの民よ、わたしがあなたに何をしたというのか。どのようにしてあなたを煩わせたというのか。わたしに答えよ。
- 4 わたしはあなたをエジプトの地から上らせ、奴隷の家からあなたを贖い出し、あなたの前にモーセと、アロンと、ミリアムを送った。
- 5 わたしの民よ、思い起こせ。モアブの王バラクが何を企んだか。ベオルの子バラムが彼に何と答えたか。シティムからギルガルまでに何があったか。それは、あなたが主の正しいわざを知るためであった。」
- 6 何をもって、私は主の前に進み行き、いと高き神の前にひれ伏そうか。全焼のささげ物、一歳の子牛をもって 御前に進み行くべきだろうか。
- 7 主は幾千の雄羊、幾万の油を喜ばれるだろうか。私の背きのために、私の長子を、私のたましいの罪のために、胎の実を献げるべきだろうか。
- 8 主はあなたに告げられた。人よ、何が良いことなのか、主があなたに何を求めておられるのかを。それは、ただ公正を行い、誠実を愛し、へりくだって、あなたの神とともに歩むことではないか。
- 9 主の御声が都に向かって叫ぶ。―あなたの御名を恐れることは英知だ―「聞け、杖のことを。だれがその都を指定したのか。
- 10 まだ、悪しき者の家には、不正の財宝と、のろわれた升目不足の升があるではないか。
- 11 不正な秤と、欺きの重り石の袋を、誤りなしとすることが、わたしにできるだろうか。
- 12 富む者たちは不法で満ち、住民は偽りを言う。彼らの口の中で舌が欺く。
- 13 わたしも、あなたを打って痛めつけ、あなたの罪のゆえに荒れ果てるままにする。
- 14 あなたは食べても満ち足りず、あなたの腹は飢える。取っておいても保つことはできず、保っていたものは、わたしが剣に渡す。
- 15 種を蒔いても、刈ることがなく、オリーブを搾っても、油を身に塗ることがない。新しいぶどう酒も、それを飲むことがない。
- 16 あなたはオムリの掟と、アハブの家のすべての慣わしを守った。あなたがたは、彼らのばかりごとに従って歩んだ。それは、わたしがあなたを恐怖のもととし、住民を嘲りの的とするためだ。あなたがたは、わたしの民へのそしりを負う。」

第7章

- 1 ああ、なんと悲しいことだ。私は夏の果物を集める者のよう、ぶどうの取り残しの実を取り入れる時のようになった。食べられる房は一つもなく、私の好きな初なりのいちじくの実もない。
- 2 敬虔な者はこの地から消え失せ、人々の間に、心の直ぐな者は一人もいない。みな血を流そうと待ち伏せし、互いに網をかけ合って捕らえようとする。
- 3 彼らの手は悪事を働くのに巧みで、役人もさばき人も賄賂を求める。有力者は自分の欲するまを語り、こうして事をねじ曲げている。
- 4 彼らのうちの善良な人も茨のようだ。心の直ぐな者も茨の生け垣に劣る。あなたを見張る者の日、あなたの刑罰の日が来る。今、彼らに混乱が起きる。
- 5 あなたがたは友を信用するな。親しい友も信頼するな。あなたの懷に寝る者からも、あなたの口の戸を守れ。
- 6 子は父を侮り、娘はその母に、嫁はその姑に逆らい、それぞれ自分の家の者を敵とする。
- 7 しかし、私は主を仰ぎ見、私の救いの神を待ち望む。私の神は私の言うことを聞いてくださる。
- 8 私の敵よ、私のことで喜ぶな。私は倒れても起き上がる。私は闇の中に座しても、主が私の光だ。
- 9 私は主の激しい怒りを身に受けている。私が主の前に罪ある者だからだ。しかし、それは、主が私の訴えを取り上げ、私を正しくさばいてくださるまでだ。主は私を光に連れ出してくださる。私は、その義を見る。
- 10 私の敵はこれを見て恥におおわれる。彼らは、私に向かって「あなたの神、主は、どこにいるのか」と言った者たちだ。私の目は、確かに見る。今に、敵は道の泥のように踏みつけられる。
- 11 あなたの石垣を建て直す日、その日、国境が広げられる。
- 12 その日、アッシリアとエジプトの町々から、エジプトから大河まで、海から海まで、山から山まで、あなたのところに人々がやって来る。
- 13 しかし、その地は、そこに住む者たちのゆえに、彼らの行いの実によって荒れ果てる。
- 14 どうか、あなたの杖で、あなたの民を、あなたのゆずりの群れを牧してください。彼らは林の中、果樹園の中に、ひとり離れて住んでいます。どうか、彼らが昔の日のように、バシャンとギルアデで草をはむようにしてください。
- 15 「あなたがエジプトの地から出た日のように、わたしは奇しいわざを彼らに見せる。」
- 16 諸国の民は見て、自分たちのすべての力を恥じ、手を口に当て、彼らの耳は聞こえなくなります。
- 17 彼らは、蛇のように、地を這うもののよう土をなめ、震えながら自分たちの洞穴から出て来ます。そして、私たちの神、主のみもとで、おじ惑い、あなたを恐れます。

- 18** あなたのような神が、ほかにあるでしょうか。あなたは咎を除き、ご自分のゆずりである残りの者のために、背きを見過ごしてくださる神。いつまでも怒り続けることはありません。神は、恵みを喜ばれるからです。
- 19** もう一度、私たちをあわれみ、私たちの咎を踏みつけて、すべての罪を海の深みに投げ込んでください。
- 20** 昔、私たちの父祖たちに誓われたように、ヤコブにまことを、アブラハムに恵みをお与えください。

ナホム書

Nahum

第1章

- 1 ニネベについての宣告。エルコシュ人ナホムの幻の記録。
- 2 主はねたんで復讐する神。主は復讐し、憤る方。主はご自分に逆らう者に復讐し、敵に対して怒る方。
- 3 主は怒るのに遅く、力強い方。決して罰せずにおかれることはない。主は、その道がつむじ風と嵐の中にあり、雲は、御足がかき立てるほこりである。
- 4 主は海を叱って干上がらせ、すべての川を涸らされる。バシャンとカルメルはしおれ、レバノンの花もしおれる。
- 5 山々は主の前に揺れ動き、もろもろの丘は溶け去る。地は御前でくつがえる。世界とその中に住むすべてのものも。
- 6 主の激しい憤りの前に、だれが立てるだろうか。だれが、その燃える怒りに耐えられるだろうか。主の憤りは火のように注がれ、岩々は御前に打ち碎かれる。
- 7 主はいつくしみ深く、苦難の日の砦。ご自分に身を避ける者を知ってくださる。
- 8 しかし、押し流す大水で その場所を滅ぼし尽くし、敵どもを闇に追いやられる。
- 9 おまえたちは主に対して何を企むのか。主は滅ぼし尽くす方。敵対する者は二度と立ち上がれない。
- 10 彼らは、絡みついた茨。大酒飲みの酔っぱらいのようだ。乾ききった刈り株のように焼き尽くされる。
- 11 おまえたちの中から、主に対して悪を謀り、よこしまなことを企てる者が出た。
- 12 主はこう言われる。「彼らが壮健で、数が多くても、それでも、刈り取られて去って行く。わたしはあなたを苦しめたが、もう苦しめない。
- 13 今、わたしは 彼のくびきを砕いてあなたから外し、あなたのかせを打ち砕く。」
- 14 主はおまえについて命じられる。「もはや子が宿ることなく、おまえの名は絶える。おまえの神々の宮から、わたしは彫像や鑄像を断ち切る。わたしはおまえの墓を造る。おまえが取るに足りない者となったからだ。」
- 15 見よ。良い知らせを伝える人の足が、平和を告げ知らせる人の足が山々の上にある。ユダよ、あなたの祭りを祝い、あなたの誓願を果たせ。よこしまな者たちは、もう二度とあなたの間を通り過ぎることがない。彼らはみな、絶ち滅ぼされた。

第2章

- 1 追い散らす者が、おまえに向かって上って来る。 罌を見守り、道を見張れ。 腰を強くし、大いに力を奮い立たせよ。
- 2 主がヤコブの威光を、 イスラエルの威光のように回復されるからだ。 まことに、荒らす者が彼らを荒らし、 彼らのぶどうの枝を損なう。
- 3 勇士の盾は赤く染まり、 兵士は緋色に包まれる。 戦車は、それが整えられる日、鋼の火を通され、 槍は振り回される。
- 4 戦車は通りを走り狂い、 広場を駆け巡る。 その有様はたいまつのように、 稲妻のように走る。
- 5 高貴な人は呼び出されるが、 途中でつまずき倒れる。 人々は町の城壁へ急ぐが、 そこに外から柵が設けられる。
- 6 いくつもの川の水門が開かれ、 宮殿は消え去る。
- 7 王妃は捕らえられ、連れ去られる。 女奴隷たちは鳩のような声でつぶやき、 胸をたたいて悲しむ。
- 8 ニネベは、水が流れ出る池のようだ。 「止まれ、止まれ」と言っても、 向きを変える者はいない。
- 9 銀を奪え。金も奪え。 その財宝には限りがない。 あらゆる尊い品々があふれている。
- 10 不毛、空虚、そして荒廃。 心は萎え、膝は震える。 どの腰もわななき、 どの顔も青ざめる。
- 11 獅子の住みかはどこか。 若い獅子にとっての餌場は。 雄獅子と雌獅子が出歩くときに、 子獅子がだれにも脅かされない住みかは。
- 12 獅子は、十分な獲物を子獅子のために引き裂き、 雌獅子のためにかみ殺し、 獲物でその穴を、 かみ裂かれた物でその巣を満たす。
- 13 「見よ、わたしはおまえを敵とする。 一万軍の主のことば— おまえの戦車を燃やして煙にし、 若い獅子を剣が食い尽くす。 おまえの獲物を地から絶やし、 おまえの使者たちの声はもう聞かれない。」

第3章

- 1 わざわいだ、流血の町。すべては偽りで略奪に満ち、強奪はやまない。
- 2 むちの音。車輪の響き。駆ける馬。飛び跳ねる戦車。
- 3 突進する騎兵。剣のきらめき。槍のひらめき。おびただしい戦死者。山なす屍。数えきれない死体。死体に人はつまずく。
- 4 これは、遊女の淫行の数々に、呪術を行う女の麗しさによるものだ。彼女はその淫行によって国々を、その呪術によって諸部族を売り渡した。
- 5 「見よ、わたしはおまえを敵とする。一万軍の主のことば―わたしはおまえの裾を顔の上にまでまくり上げ、諸国の民におまえの裸を見せる。諸国の王におまえの恥を。
- 6 おまえの上に忌まわしいものを投げかけ、おまえを愚弄し、おまえを見せ物にする。
- 7 おまえを見る者はみな、おまえから逃げて言う。『ニネベは荒れ果てた。だれが彼女のために嘆くのか。』わたしはどこから おまえを慰める者を探して来られようか。
- 8 おまえはテーベよりもすぐれているのか。それはナイル川のほとりにあり、水がそれを取り囲んでいる。その塁壁は海、海がその城壁。
- 9 クシュとエジプトはその力。その力には限りがない。プテモルブ人もその助け手。
- 10 しかし、それもまた捕囚となり、捕らわれの身となって出て行く。その幼子たちはあらゆる街角で八つ裂きにされ、高貴な人たちはくじで分けられ、おもだった者たちはみな、鎖につながる。
- 11 おまえもまた、酔いしれて意識を失う。おまえもまた、敵から逃げて砦を探し求める。
- 12 おまえのすべての要塞は、初なりの実をつけたいちじくの木のような。揺さぶると、食べる者の口に実が落ちる。
- 13 見よ、おまえの兵隊はおまえの中にいる女たち。敵に向かって おまえの国の門は広く開け放たれ、火がかんぬきを焼き尽くす。
- 14 包囲の日に備えて水を汲み、おまえの要塞を強固にせよ。泥の中に入り、粘土を踏みつけ、れんがの型を取れ。
- 15 その場所で、火はおまえを食い尽くす。剣はおまえを切り倒し、バッタのように火がおまえを食い尽くす。バッタのように数を増し、いなごのように増えよ。
- 16 おまえは商人を天の星より多くした。しかし、バッタがこれを襲って飛び去る。
- 17 おまえの廷臣たちは、いなごのよう、司令官たちは、群がるいなごのようだ。寒い日には城壁の上でたむろし、日が昇ると逃げ去って、どこへ行くか、行く先をだれも知らない。
- 18 アッシリアの王よ。おまえの牧者たちは眠り、高貴な者たちはじっととどまっている。おまえの民は山々の上に散らされ、集める者はだれもない。
- 19 おまえの傷は癒えることがなく、打ち傷は癒やしがたい。おまえのうわさを聞く者はみな、おまえのことで手をたたく。おまえの絶え間ない悪事が 及ばなかった者がいるだろうか。」

ハバクク書

Habakkuk

第1章

- 1 宣告。これは預言者ハバククが見たものである。
- 2 いつまでですか、主よ。私が叫び求めているのに、あなたが聞いてくださらないのは。
「暴虐だ」とあなたに叫んでいるのに、救ってくださらないのは。
- 3 なぜ、あなたは私に不法を見させ、苦悩を眺めておられるのですか。暴行と暴虐が私のそばにあり、争い事があり、いさかいが起こっています。
- 4 そのため、みおしえは麻痺し、さばきが全く行われていません。悪しき者が正しい者を取り囲んでいるからです。そのため、曲がったさばきが行われているのです。
- 5 「異邦の民を見、目を留めよ。驚き、たじろげ。わたしは一つの事を あなたがたの時代に行うからだ。それが告げられても、あなたがたは信じない。
- 6 見よ、わたしはカルデア人を起こす。あの強暴で俊敏な国民だ。彼らは地を広く行き巡り、自分のものでない領土を占領する。
- 7 それは凄惨そのもの。彼らはさばきと宣告を自ら下す。
- 8 その馬は豹より速く、日暮れの狼より敏捷だ。その軍馬は跳ね回り、その騎兵は遠くから来て、鷲のように、獲物にさっと舞い降りる。
- 9 彼らはみな暴虐を行うためにやって来る。そろって顔を前方に向け、砂のように捕らわれ人を集める。
- 10 王たちを嘲り、君主たちを笑いものにし、すべての要塞をあざ笑い、土を積み上げて町を攻め取る。
- 11 こうして、風のようにやって来て過ぎ去る。しかし自分の力を神とする者は、責めを負う。」
- 12 あなたは昔から主ではありませんか。私の神、私の聖なる方よ、私たちが死ぬことはありません。主よ、あなたはさばきのために、彼を立てられました。岩なる方よ、あなたは懲らしめるために、彼を据えられました。
- 13 あなたの目は、悪を見るにはあまりにきよくて、苦悩を見つめることができないのでしょうか。なぜ、裏切り者を眺めて、黙っておられるのですか。悪しき者が自分より正しい者を 呑み込もうとしているときに。
- 14 あなたは人を海の魚のように、治める者のない、這う虫のようにされました。
- 15 彼は、このすべての者を釣り針で釣り上げ、自分の網で引き上げ、自分の引き網で集めます。こうして、彼は喜び樂しみます。
- 16 そのため、彼は自分の網に、自分の引き網に いけにえを献げ、焼いて煙にします。これらにより、彼の分け前が豊かになり、食物が豊富になるからです。
- 17 そのため、彼は自分の網を空にし続けながら、諸国の民を容赦なく殺すのでしょうか。

第2章

- 1 私は、自分の物見のやぐらに立ち、砦にしかと立って見張り、私の訴えについて、主が私に何を語られるか、私がそれにどう応じるべきかを見よう。
- 2 主は私に答えられた。「幻を板の上に書き記して、確認せよ。これを読む者が急使として走るために。」
- 3 この幻は、定めの時について証言し、終わりについて告げ、偽ってはいない。もし遅くなくても、それを待て。必ず来る。遅れることはない。
- 4 見よ。彼の心はうぬぼれていて直ぐでない。しかし、正しい人はその信仰によって生きる。」
- 5 実にぶどう酒は裏切るもの。勇士は高ぶっていて、定まることを知らない。彼はよみのように喉を広げ、死のように、満ち足りることを知らない。彼は自分のもとに、すべての国々を集め、あらゆる民をかき集める。
- 6 これらはみな、彼に対して嘲りの声をあげ、皮肉たっぷりに、風刺して言わないだろうか。「わざわざ。いつまでなのか。自分のものでないものを増し加え、その上に担保を重くする者」と。
- 7 おまえにかみつく者が突然起き上がり、揺り動かす者が目覚めて、おまえは彼らに略奪されないだろうか。
- 8 おまえが多くの国々を略奪したので、ほかのあらゆる民がおまえを略奪する。おまえは人の血を流し、地に暴虐を行った。町々とそのすべての住民に対して。
- 9 わざわいだ。自分の家のために不正な利得を貪り、悪の力から逃れるために、自分の巢を高い所に構える者。
- 10 おまえは自分の家のために恥ずべきことを謀り、多くの国の民を滅ぼした。おまえのたましいは罪を犯した。
- 11 まことに、石は石垣から叫び、梁は家からこれに答える。
- 12 わざわいだ。血によって町を建て、不正で都を築き上げる者。
- 13 見よ、万軍の主によるのではないのか。諸国の民が、ただ火で焼かれるために労し、国々が、ただ無駄に疲れ果てるのは。
- 14 まことに、水が海をおおうように、地は、主の栄光を知ること満たされる。
- 15 わざわいだ。その裸を見ようと、友に酒を飲ませ、毒を混ぜて酔わせる者。
- 16 おまえは栄光ではなく恥で満ちている。おまえも飲んで、陽の皮を見せよ。主の右の手の杯は、おまえの上に巡り来る。恥辱が、おまえの栄光の上に。
- 17 レバノンへの暴虐がおまえをおおい、獣への暴行がおまえを脅かす。おまえは人の血を流し、地に暴虐を行った。町々とそのすべての住民に対して。
- 18 彫像はいったい何の役に立つのか。彫刻師がそれを刻んだところで。鑄像や、偽りを教える物は何の役に立つのか。これを造った者がそれに頼ったところで。その者は、もの言わぬ偽りの神々を造ったのだ。

- 19** わざわいだ。木に向かって目を覚ませと言い、黙っている石に起きろと言う者。これが教えることができるというのか。見よ、それは金や銀をかぶせたもの。その中には何の息もない。
- 20** しかし主は、その聖なる宮におられる。全地よ、主の御前に静まれ。

第3章

- 1 預言者ハバククの祈り。シグヨノテの調べにのせて。
- 2 主よ、私はあなたのうわさを聞きました。主よ、あなたのみわざを恐れています。この数年のうちに、それを繰り返してください。この数年のうちに、それを示してください。激しい怒りのうちにも、あわれみを忘れないでください。
- 3 神はテマンから、聖なる方はパランの山から来られる。セラ その威光は天をおおい、その賛美は地に満ちている。
- 4 その輝きは光のよう。ひらめきが御手から上り、そこに御力が隠されている。
- 5 疫病はその前を行き、熱病がうしろに従う。
- 6 神が立ってご覧になると、地は揺るぎ、国々は震え上がる。とこしえの山は打ち砕かれ、永遠の丘は低くされる。しかし、その道筋は永遠だ。
- 7 私が見ると、クシャンの天幕は不法の下にあり、ミディアンの地の幕屋はわなないていた。
- 8 主よ、川に対して怒りを燃やされるのですか。川に対してあなたの怒りを、海に対して激しい憤りを。確かに、あなたは馬に、あなたの救いの戦車に乗っておられます。
- 9 あなたの弓は覆いを取り払われ、ことばの杖による誓いが果たされます。セラ あなたは地を裂き、いくつもの川とされます。
- 10 山々はあなたを見て震え、あふれる水が押し寄せます。深い淵は声を出して、その手を高く上げます。
- 11 太陽と月は、その住む所にとどまり、あなたの矢の光によって進みます。あなたのきらめく槍のひらめきによって。
- 12 あなたは、激しい憤りをもって地を行き巡り、怒りをもって国々を踏みつけられます。
- 13 あなたは御民を救うために、油注がれた者を救うために出て来られます。あなたは悪しき者の頭を打ち砕いて首までにし、彼の家を基をあらわにされます。セラ
- 14 あなたは杖で戦士たちの頭を突き刺されます。彼らは、苦しむ者をひそかに食い尽くすように、ほしいままに私を追い散らそうと荒れ狂います。
- 15 あなたは馬で海を、大水の泡立ちを踏みつけられます。
- 16 その音を聞いたとき、私のはらわたはわななき、唇は震えました。腐れは私の骨の内に入り、足もととはぐらつきました。攻めて来る民に臨む苦しみの日を、私は静かに待ちます。
- 17 いちじくの木は花を咲かせず、ぶどうの木には実りがなく、オリーブの木も実がなく、畑は食物を生み出さない。羊は囲いから絶え、牛は牛舎にいなくなる。
- 18 しかし、私は主にあって喜び躍り、わが救いの神にあって楽しもう。
- 19 私の主、神は、私の力。私の足を雌鹿のようにし、私に高い所を歩ませる。指揮者のために。弦楽器に合わせて。

ゼパニヤ書

Zephaniah

第1章

- 1 ユダの王、アモンの子ヨシヤの時代に、クシの子ゼパニヤにあった主のことば。クシはゲダルヤの子、ゲダルヤはアマルヤの子、アマルヤはヒゼキヤの子である。
- 2 「わたしは必ず、すべてのものを 大地の面から取り除く。 —主のことば—
- 3 わたしは人と獣を取り除き、 空の鳥と海の魚を取り除く。 悪者どもをつまずかせ、 人を 大地の面から断ち切る。 —主のことば—
- 4 わたしは手をユダの上に、 エルサレムのすべての住民の上に伸ばす。 その場所からバアルの残りを、 偶像の祭司たちの名を、 その祭司らとともに断つ。
- 5 そして、屋上で天の万象を拝む者どもを、 また、主に誓いを立てて礼拝しながら、 ミルコムに誓いを立てる者どもを、
- 6 主に従うことをやめた者ども、 主を尋ねず求めない者どもを断ち切る。」
- 7 口をつぐめ。神である主の前で。主の日は近い。主はいけにえを備え、 招いた者たちを 聖別されたからだ。
- 8 「主であるわたしが獣を屠る日に、 わたしは首長たち、王子たち、 すべて外国の服をまとった者たちを罰する。
- 9 その日、わたしは罰する。 すべて神殿の敷居を跳び越える者、 主人の家を暴虐と欺きで満たす者どもを。
- 10 その日には—主のことば— 魚の門から叫び声が、 第二区から嘆きの声が、 もろもろの丘から大いなる破滅の響きが起こる。
- 11 泣き叫べ、マクテシュ区に住む者どもよ。 商人はみな滅び失せ、 すべて銀を量る者は断ち切られるからだ。
- 12 そのときわたしは、 ともしびをかざしてエルサレム中を捜す。 そして、ぶどう酒のかずの上によどみつ、 心の中で『主は良いことも、悪いこともしない』と言っている者どもを罰する。
- 13 彼らの財産は略奪され、 家は荒れ果てる。 家を建てても、そこに住めず、 ぶどう畑を作っても、ぶどう酒を飲めない。」
- 14 主の大いなる日は近い。 それは近く、すぐにも来る。 主の日に声がする。 勇士の悲痛な叫び声が。
- 15 その日は激しい怒りの日、 苦難と苦悩の日、 荒廃と滅亡の日、 闇と暗黒の日、 雲と暗闇の日、
- 16 角笛と、ときの声の日、 城壁のある町々と高い四隅の塔が襲われる日だ。
- 17 「わたしが人を苦しめるので、 人々は目の見えない人のように歩く。 主に対して罪を犯したからだ。 彼らの血は、 ちりのように、 はらわたは、 糞のようにまき散らされる。
- 18 彼らの銀も、 彼らの金も、 主の激しい怒りの日に彼らを救い出せない。 主のねたみの火で、 全土は焼き払われる。 主が地に住むすべての人を たちまちのうちに滅ぼし尽くすからだ。」

第2章

- 1 とともに集まれ、集まれ。恥知らずの国民よ。
- 2 御定めが行われて、その日が靱殻のように過ぎ去らないうちに。主の燃える怒りが、まだあなたがたを襲わないうちに。主の怒りの日が、まだあなたがたを襲わないうちに。
- 3 すべてこの国の、主のさばきを行う柔和な者たちよ、主を尋ね求めよ。義を尋ね求めよ。柔和さを尋ね求めよ。そうすれば、主の怒りの日に、かくまってもらえるかもしれない。
- 4 まことに、ガザは捨てられ、アシュケロンは荒れ果てる。アシュドデは真昼に追い払われ、エクロンは根こそぎにされる。
- 5 わざわいだ、海辺に住む者たち、クレタ人の国。主のことばはおまえたちに向けられている。「ペリシテ人の地、カナンよ。わたしはおまえを消し去って、住む者がいないようにする。」
- 6 海辺よ。おまえは牧場となり、牧者たちの牧草地となり、羊の囲い場となる。
- 7 海辺はユダの家の残りの者の所有となる。彼らは海辺で羊を飼い、日が暮れると、アシュケロンの家々で横になる。彼らの神、主が彼らを顧みて、彼らを元どおりにされるからだ。
- 8 「わたしはモアブのそしりと、アンモン人の、ののしりを聞いた。彼らはわたしの民をそしり、自分の領土のことで高ぶった。
- 9 わたしは生きている。――イスラエルの神、万軍の主のことば――それゆえ、モアブは必ずソドムのようになり、アンモン人はゴモラのようになり、いらくさの茂る所、塩の穴、とこしえに荒れ果てた地となる。わたしの民の残りの者が、そこをかすめ奪う。わたしの国民の生き残りが、そこを受け継ぐ。」
- 10 これは彼らの高慢のためだ。彼らが万軍の主の民をそしり、これに向かって高ぶったからだ。
- 11 主への恐れが彼らに下る。主が地のすべての神々を消し去られるからだ。人々はそれぞれ、自分のところで主を礼拝する。異国のすべての島々も。
- 12 「あなたがた、クシュ人も、わたしの剣で刺し殺される。」
- 13 主は手を北に向けて伸ばし、アッシリアを滅ぼし、ニネベを荒れ果てた地とし、荒野のようにし、砂漠とされる。
- 14 その中に、獣の群れが、あらゆる地の獣が伏す。ふくろうと針ねずみは、その柱頭をねぐらとし、その鳴き声は窓に響き渡り、荒廃は敷居に及ぶ。まことに、その杉材が剥がされる。
- 15 これが、安心して過ごし、「私だけは特別だ」と心の中で言っていた、あのおごった都だ。ああ、その都は荒れ果て、動物の伏す所となる。そこを通り過ぎる者はみな、嘲って手を振る。

第3章

- 1 わざわいだ、反逆と汚れに満ちた暴虐の都。
- 2 呼びかけを聞こうともせず、戒めを受け入れようともせず、主に拠り頼まず、神に近づこうともしない。
- 3 その都の高官たちは 都の中で吼えたける雄獅子。その都をさばく者たちは夕暮れの狼。朝まで骨をかじってはいない。
- 4 預言者たちは、ふしだらで裏切る者。祭司たちは聖なるものを冒して、みおしえを冒瀆する。
- 5 主は、そのただ中であって正しく、決して不正を行われぬ。ご自分の公正を、朝ごとにくまなく照らす光とされる。しかし、不正を働く者は恥を知らない。
- 6 「わたしは諸国の民を断ち切った。その四隅の塔は荒れ果てた。わたしは彼らの通りを廃墟とした。通り過ぎる者はだれもいない。彼らの町々は荒れすたれた。人は一人もおらず、住む者もない。
- 7 わたしは言った。『あなたはただ、わたしを恐れ、戒めを受け入れよ。そうすれば、わたしがこの都をどれほど罰しても、その住まいは断ち切られない。確かに彼らは、繰り返してあらゆる悪事を行ったが。』
- 8 それゆえ、わたしを待て。―主のことば― わたしが証人として立つ日を待て。わたしは諸国の民を集め、もろもろの王国をかき集め、わたしの激しい憤りと燃える怒りを ことごとく彼らに注いで、わたしのさばきを下すからだ。全地は、わたしのねたみの火で焼き尽くされる。
- 9 そのとき、わたしは 諸国の民の唇を変えて清くする。彼らはみな主の御名を呼び求め、一つになって主に仕える。
- 10 クシュの川の向こうから、わたしに願い事をする者、わたしに散らされた者たちが わたしへの贈り物を携えて来る。
- 11 その日、あなたは わたしに背いて行ったすべての行いのことで、恥を見ることはない。そのとき、わたしがあなたのただ中から、おごり高ぶる者どもを取り除くからだ。あなたはわたしの聖なる山で、二度と高ぶることはない。
- 12 わたしはあなたのただ中に、へりくだった、貧しい民を残す。彼らは主の名に身を避ける。
- 13 イスラエルの残りの者は不正を行わず、偽りを言わない。その口の中に欺きの舌は見つからない。まことに彼らは草を食べて伏す。彼らを脅かす者はいない。」
- 14 娘シオンよ、喜び歌え。イスラエルよ、喜び叫べ。娘エルサレムよ、心の底から喜び躍れ。
- 15 主はあなたへのさばきを取り除き、あなたの敵を追い払われた。イスラエルの王、主は、あなたのただ中におられる。あなたはもう、わざわざを恐れることはない。
- 16 その日、エルサレムは次のように言われる。「シオンよ、恐れるな。氣力を失うな。

- 17 あなたの神、主は、あなたのただ中であって 救いの勇士だ。主はあなたのことを大いに喜び、その愛によってあなたに安らぎを与え、高らかに歌ってあなたのことを喜ばれる」と。
- 18 「例祭から離れて悲しむ者たちをわたしは集める。彼らはあなたから離れていた。そしりがシオンへの重荷であった。
- 19 見よ。わたしはそのとき、あなたを苦しめたすべての者を罰する。わたしは足を引きずる者を救い、散らされた者を集め、彼らの恥を全地で栄誉ある名に変える。
- 20 そのとき、わたしはあなたがたを連れ帰る。そのとき、わたしはあなたがたを集める。まことに、あなたがたの目の前で わたしがあなたがたを元どおりにするとき、わたしは、地のあらゆる民の間で あなたがたに栄誉ある名を与える。――主は言われる。」

ハガイ書

Haggai

第1章

- 1 ダレイオス王の第二年、第六の月の一日に、預言者ハガイを通して、シェアルティエルの子、ユダの総督ゼルバベルと、エホツァダクの子、大祭司ヨシュアに、主のことばがあった。
- 2 万軍の主はこう言われる。「この民は『時はまだ来ていない。主の宮を建てる時は』と言っている。」
- 3 すると預言者ハガイを通して、次のような主のことばがあった。
- 4 「この宮が廃墟となっているのに、あなたがただけが板張りの家に住む時だろうか。」
- 5 今、万軍の主はこう言われる。「あなたがたの歩みをよく考えよ。
- 6 多くの種を蒔いても収穫はわずか。食べても満ち足りることがなく、飲んでも酔うことがなく、衣を着ても温まることがない。金を稼ぐ者が稼いでも、穴の開いた袋に入れるだけ。」
- 7 万軍の主はこう言われる。「あなたがたの歩みをよく考えよ。
- 8 山に登り、木を運んで来て、宮を建てよ。そうすれば、わたしはそれを喜び、栄光を現す。――主は言われる――
- 9 あなたがたは多くを期待したが、見よ、得た物はわずか。あなたがたが家に持ち帰ったとき、わたしはそれを吹き飛ばした。それはなぜか。――万軍の主のことば――それは、廃墟となったわたしの宮のためだ。あなたがたがそれぞれ、自分の家のために走り回っていたからだ。
- 10 それゆえ、あなたがたゆえに、天は露を滴らすのをやめ、地はその産物を出すのをやめた。
- 11 わたしはまた、日照りを呼び寄せた。地にも山々にも、穀物にも新しいぶどう酒にも油にも、地が産み出す物にも、また人にも家畜にも、手によるすべての労苦の実にも。」
- 12 シェアルティエルの子ゼルバベルと、エホツァダクの子、大祭司ヨシュアと、民の残りの者すべては、彼らの神、主が預言者ハガイを遣わされたとき、彼らの神、主の御声と、ハガイのことばに聞き従った。民は主の前で恐れた。
- 13 主の使者ハガイは主の使命を受けて、民にこう言った。「わたしは、あなたがたとともにいる――主のことば。――」
- 14 主が、シェアルティエルの子、ユダの総督ゼルバベルの霊と、エホツァダクの子、大祭司ヨシュアの霊と、民の残りの者すべての霊を奮い立たせたので、彼らは自分たちの神、万軍の主の宮に行き、仕事に取りかかった。
- 15 それは第六の月の二十四日のことであった。ダレイオス王の第二年、

第2章

- 1 第七の月の二十一日に、預言者ハガイを通して、次のような主のことばがあった。
- 2 「シェアルティエルの子、ユダの総督ゼルバベルと、エホツァダクの子、大祭司ヨシュアと、民の残りの者に次のように言え。
- 3 『あなたがたの中で、かつての栄光に輝くこの宮を見たことがある、生き残りの者はだれか。あなたがたは今、これをどう見ているのか。あなたがたの目には、まるで無いに等しいのではないか。
- 4 しかし今、ゼルバベルよ、強くあれ。—主のことば— エホツァダクの子、大祭司ヨシュアよ、強くあれ。この国のすべての民よ、強くあれ。—主のことば— 仕事に取りかれ。わたしがあなたがたとともにいるからだ。—万軍の主のことば—
- 5 あなたがたがエジプトから出て来たとき、わたしがあなたがたと結んだ約束により、わたしの霊はあなたがたの間にとどまっている。恐れるな。』
- 6 まことに、万軍の主はこう言われる。『間もなく、もう一度、わたしは天と地、海と陸を揺り動かす。
- 7 わたしはすべての国々を揺り動かす。すべての国々の宝物がもたらされ、わたしはこの宮を栄光で満たす。—万軍の主は言われる—
- 8 銀はわたしのもの。金もわたしのもの。—万軍の主のことば—
- 9 この宮のこれから後の栄光は、先のものにまさる。—万軍の主は言われる— この場所にわたしは平和を与える。—万軍の主のことば。』」
- 10 ダレイオスの第二年の第九の月の二十四日、預言者ハガイに次のような主のことばがあった。
- 11 「万軍の主はこう言われる。律法について、祭司たちに尋ねよ。
- 12 人が聖なる肉を自分の衣の裾に入れて運び、その裾がパンや煮物、ぶどう酒や油、またはどんな食物にでも触れた場合、それは聖なるものとなるか。」祭司たちは「否」と答えた。
- 13 そこでハガイは言った。「もし死体によって汚れた人が、これらのどれかに触れたら、それは汚れるか。」祭司たちは「汚れる」と答えた。
- 14 それに応じてハガイは言った。「この民も、この国も、わたしにとってはそれと同じ。—主のことば— 彼らの手が作ったすべての物もそれと同じ。そこで彼らが献げる物も汚れている。
- 15 さあ今、あなたがたは、今日から後のことをよく考えよ。主の神殿で石が積み重ねられる前、
- 16 あなたがたはどうであったか。二十の麦束が積んであるところに行っても、あるのは十束。ぶどう酒五十杯を汲もうと石がめに行っても、あるのは二十杯。
- 17 わたしはあなたがたを、あなたがたの手が作ったすべての物を、立ち枯れと黒穂病と雹で打った。しかし、だれ一人わたしに帰って来なかった。—主のことば—

- 18 さあ、あなたがたは 今日から後のことをよく考えよ。 第九の月の二十四日、 主の神殿の基が据えられた日から 後のことをよく考えよ。
- 19 種はまだ穀物倉にあるのか。 ぶどうの木、いちじくの木、ざくろの木、 オリーブの木は、まだ実を結ばないのか。 今日から後、わたしは祝福する。」
- 20 その月の二十四日、ハガイに再び次のような主のことばがあった。
- 21 「ユダの総督ゼルバベルに次のように言え。 『わたしは天と地を揺り動かし、
- 22 もろもろの王国の王座を倒し、 異邦の民の王国の力を滅ぼし尽くし、 戦車とその乗り手をくつがえす。 馬とその乗り手は味方の剣によって倒れる。
- 23 その日、 一万軍の主のことば— シェアルティエルの子、 わたしのしもべゼルバベルよ、—主のことば— わたしはあなたを選んで印章とする。 わたしがあなたを選んだからだ。 一万軍の主のことば。』」

ゼカリヤ書

Zechariah

第1章

- 1 ダレイオスの第二年、第八の月に、イドの子ベレクヤの子、預言者ゼカリヤに、次のような主のことばがあった。
- 2 「主はあなたがたの先祖に激しく怒った。
- 3 あなたは人々に言え。『万軍の主はこう言われる。 わたしに帰れ。 —万軍の主のことば— そうすれば、わたしもあなたがたに帰る。 —万軍の主は言われる。』
- 4 あなたがたの先祖のようであってはならない。先の預言者たちは彼らに叫んで言った。『万軍の主はこう言われる。 あなたがたは悪の道と悪しきわざから立ち返れ。』しかし、彼らはわたしに聞かず、 わたしに耳を傾けもしなかった。 —主のことば—
- 5 あなたがたの先祖たちは、今どこにいるのか。 預言者たちは永遠に生きるだろうか。
- 6 しかし、わたしのしもべである預言者たちに わたしが命じた、わたしのことばと掟は、あなたがたの先祖に追い迫ったではないか。 それで彼らは立ち返って言ったのだ。『万軍の主は、私たちの生き方と行いに応じて、 私たちにしようと考えたことを そのとおりになされた』と。」
- 7 ダレイオスの第二年、シェバテの月である第十一の月の二十四日に、イドの子ベレクヤの子、預言者ゼカリヤに、次のような主のことばがあった。
- 8 夜、私が見ると、なんと、一人の人が赤い馬に乗っていた。その人は、谷底にあるミルトスの木の間に立っていた。そのうしろには、赤毛や栗毛や白い馬がいた。
- 9 私は「主よ、これらの馬は何ですか」と尋ねた。すると、私と話していた御使いが「これらは何なのか、あなたに示そう」と言った。
- 10 すると、ミルトスの木の間に立っていた人が答えた。「これらは、地を行き巡るために主が遣わされた者たちだ。」
- 11 すると彼らは、ミルトスの木の間に立っている主の使いに答えた。「私たちは地を行き巡りましたが、まさに全地は安らかで穏やかでした。」
- 12 それに答えて主の使いは言った。「万軍の主よ。いつまで、あなたはエルサレムとユダの町々に、あわれみを施されないのですか。あなたが憤られて七十年になります。」
- 13 すると主は、私と話していた御使いに、恵みのことば、慰めのことばで答えられた。
- 14 私と話していた御使いは私に言った。「叫んで言え。『万軍の主はこう言われる。 わたしは、エルサレムとシオンを、 ねたむほど激しく愛した。
- 15 しかし、わたしは大いに怒る。 安逸を貪っている国々に対して。 わたしが少ししか怒らないでいると、 彼らは欲するままに悪事を行った。』
- 16 それゆえ、主はこう言われる。『わたしは、あわれみをもってエルサレムに帰る。 そこにわたしの宮が建て直される。 —万軍の主のことば— 測り縄がエルサレムの上に張られる。』
- 17 もう一度叫んで言え。『万軍の主はこう言われる。 わたしの町々には、再び良いものが満ちあふれ、 主は再びシオンを慰め、再びエルサレムを選ぶ。』」
- 18 私が目を上げて見ると、なんと、四つの角があった。

- 19 私と話していた御使いに「これらは何ですか」と尋ねると、彼は言った。「これらは、ユダとイスラエルとエルサレムを散らした角だ。」
- 20 そのとき、主は四人の職人を私に見せてくださった。
- 21 私が「この人たちは、何をしに来たのですか」と尋ねると、主は次のように言われた。
「これらはユダを散らして、だれにも頭をもたげさせなかったあの角だ。この人たちは、これらの角を震え上がらせるために、やって来たのだ。ユダの地を散らそうと角をもたげる国々の角を打ち滅ぼすためだ。」

第2章

- 1 私が目を上げて見ると、なんと、一人の人がいた。その手には、一本の測り綱があった。
- 2 私が「あなたはどこへ行くのですか」と尋ねると、彼は私に「エルサレムを測りに。その幅と長さがどれほどあるかを見るために」と答えた。
- 3 すると見よ、私と話していた御使いが出て行った。また、もう一人の御使いが、その御使いに会うために出て行き、
- 4 彼に言った。「走って行って、あの若い者にこう告げよ。『エルサレムは、その中に人と家畜があふれ、城壁のない町のようになる。
- 5 わたしが —主のことば— それを取り巻く火の城壁となる。わたしがそのただ中で栄光となる。
- 6 さあ、すぐに、北の国から逃げよ。 —主のことば— 天の四方の風のように、わたしがあなたがたを散らしたのだ。 —主のことば—
- 7 さあ、シオンに逃れよ。娘バビロンとともに住む者よ。』
- 8 あなたがたを略奪した国々に 主の栄光が私を遣わした後、万軍の主がこう言われたからだ。『あなたがたに触れる者は、わたしの瞳に触れる者。
- 9 見よ、わたしは彼らに手を振り上げる。彼らは自分に仕えた者たちに略奪される』と。このときあなたがたは、万軍の主が私を遣わされたことを知る。
- 10 『娘シオンよ、喜び歌え。楽しめ。見よ。わたしは来て、あなたのただ中に住む。 —主のことば—
- 11 その日、多くの国々が 主に連なり、わたしの民となり、わたしはあなたのただ中に住む。』このときあなたは、万軍の主が私をあなたに遣わされたことを知る。
- 12 主は聖なる土地で、ユダをご自分の受ける分とし、エルサレムを再び選ばれる。
- 13 すべての肉なる者よ、主の前で静まれ。主が聖なる御住まいから立ち上がられるからだ。」

第3章

- 1 主は、主の使いの前に立っている大祭司ヨシュアを私にお見せになった。サタンが彼を訴えようとしてその右手に立っていた。
- 2 主はサタンに言われた。「サタンよ、主がおまえをとがめる。エルサレムを選んだ主が、おまえをとがめる。この者は、火から取り出した燃えさしではないか。」
- 3 ヨシュアは汚れた服を着て、主の使いの前に立っていた。
- 4 御使いは、自分の前に立っている者たちにこう答えた。「彼の汚れた服を脱がせよ。」そしてヨシュアに言った。「見よ、わたしはあなたの咎を除いた。あなたに礼服を着せよう。」
- 5 私は言った。「彼の頭に、きよいターバンをかぶらせなければなりません。」すると彼らは、彼の頭にきよいターバンをかぶらせ、服を着せた。そのとき、主の使いはそばに立っていた。
- 6 主の使いはヨシュアを諭して言った。
- 7 「万軍の主はこう言われる。『もし、あなたがわたしの道に歩み、わたしの戒めを守るなら、あなたもまた、わたしの家を治め、わたしの庭を守るようになる。この立っている者たちの間に出入りすることを わたしはあなたに許す。』」
- 8 聞け、大祭司ヨシュアよ。あなたも、あなたの前に座している同僚たちも。彼らはしるしとなる人たちだ。見よ、わたしはわたしのしもべ、若枝を来させる。
- 9 見よ、わたしがヨシュアの前に置いた石を。一つの石の上には、七つの目がある。見よ、わたしはそれに文字を彫る。一万軍の主のことば― 一日のうちに、わたしはその地の咎を取り除く。
- 10 その日には、一万軍の主のことば― あなたがたは互いに自分の友を、ぶどうの木といちじくの木の下に招き合う。』」

第4章

- 1 私と話していた御使いが戻って来て、私を呼び起こした。私は眠りから覚まされた人のようであった。
- 2 彼は私に言った。「あなたは何を見ているのか。」私は答えた。「私が見ると、全体が金でできている一つの燭台があります。その上部には鉢があり、その鉢の上には七つのともしび皿があります。この上部にあるともしび皿には、それぞれ七本の管が付いています。
- 3 また、そのそばには二本のオリーブの木があり、一本はその鉢の右に、もう一本は左にあります。」
- 4 私は、私と話していた御使いに言った。「主よ、これらは何ですか。」
- 5 私と話していた御使いが答えて言った。「あなたは、これらが何であることを知らないのか。」私は言った。「主よ、知りません。」
- 6 彼は私にこう答えた。「これは、ゼルバベルへの主のことばだ。『権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって』と万軍の主は言われる。
- 7 大いなる山よ、おまえは何者か。おまえはゼルバベルの前で平らにされる。彼がかしら石を運び出せば、『恵みあれ。これに恵みあれ』と叫び声があがる。」
- 8 また、私に次のような主のことばがあった。
- 9 「『ゼルバベルの手がこの宮の礎を据えた。彼の手がそれを完成させる。』そのときあなたは、万軍の主が私をあなたがたに遣わされたことを知る。
- 10 だれが、その日を小さなこととして蔑むのか。人々はゼルバベルの手にある重り縄を見て喜ぶ。これら七つは、全地を行き巡る主の目である。」
- 11 私は彼に尋ねた。「燭台の左右にある、この二本のオリーブの木は何ですか。」
- 12 そして再び尋ねた。「二本の金の管によって金の油を注ぎ出す、このオリーブの二本の枝は何ですか。」
- 13 すると彼は私にこう言った。「あなたは、これらが何であることを知らないのか。」私は言った。「主よ、知りません。」
- 14 彼は言った。「これらは、全地の主のそばに立つ、二人の油注がれた者だ。」

第5章

- 1 私が再び目を上げて見ると、なんと、一つの巻物が飛んでいた。
- 2 御使いは私に言った。「あなたは何を見ているのか。」私は答えた。「飛んでいる巻物を見えています。その長さは二十キュビト、幅は十キュビトです。」
- 3 すると彼は私に言った。「これは全地の面に出て行くのろいだ。盗む者はみな、一方の面に照らし合わせて取り除かれ、また、偽って誓う者はみな、もう一方の面に照らし合わせて取り除かれる。」
- 4 「わたしがそれを送り出す。一万軍の主のことば―それは盗人の家に、また、わたしの名によって 偽りの誓いを立てる者の家に入り、その家の真ん中にとどまって、その家を梁と石とともに絶ち滅ぼす。」
- 5 私と話していた御使いが出て来て、私に言った。「目を上げて、この出て行く物が何かを見よ。」
- 6 私が「これは何ですか」と尋ねると、彼は言った。「これは、出て行くエパ升だ。」さらに言った。「これは、全地にある彼らの目だ。」
- 7 見よ。鉛のふたが持ち上げられると、エパ升の中に一人の女が座っていた。
- 8 彼は、「これは邪悪そのものだ」と言って、その女をエパ升の中に閉じ込め、エパ升の口の上に鉛の重しを置いた。
- 9 それから、私が目を上げて見ると、なんと、二人の女が出て来た。その翼は風をはらんでいた。彼女たちには、こうのとりの翼のような翼があり、あのエパ升を地と天の間に持ち上げた。
- 10 私は、私と話していた御使いに尋ねた。「この人たちは、エパ升をどこへ持って行くのですか。」
- 11 彼は私に言った。「シニアルの地に、あの女のために神殿を建てるためだ。それが整うと、そこの台の上にその升を置くのだ。」

第6章

- 1 私が再び目を上げて見ると、なんと、四台の戦車が二つの山の間から出て来た。山は青銅の山であった。
- 2 第一の戦車には赤い馬が、第二の戦車には黒い馬が、
- 3 第三の戦車には白い馬が、第四の戦車には斑毛の強い馬が、数頭ずつつながれていた。
- 4 私は、私と話していた御使いに尋ねた。「主よ、これらは何ですか。」
- 5 御使いは答えた。「これらは天の四方の風だ。全地の主の前に立った後に、出て行くことになる。
- 6 そのうちの黒い馬は北の地へ出て行き、白い馬は西へ出て行き、斑毛の馬は南の地へ出て行く。」
- 7 強い馬たちが出て来た。それらは地を駆け巡ろうとしていたので、彼が「行って、地を駆け巡れ」と言うと、それらは地を駆け巡った。
- 8 そのとき、彼は私に叫んで、次のように告げた。「見よ、北の地へ出て行った馬を。これらは北の地で、わたしの霊を鎮めた。」
- 9 また、私に次のような主のことばがあった。
- 10 「捕囚の民であったヘルダイ、トビヤ、エダヤからささげ物を受け取れ。その日あなたは行って、バビロンから帰って来た、ゼパニヤの子ヨシヤの家に入れ。
- 11 銀と金を取って冠を作って、エホツァダクの子、大祭司ヨシュアの頭にかぶらせ、
- 12 彼にこう言え。『万軍の主はこう言われる。見よ、一人の人を。その名は若枝。彼は自分のいるところから芽を出し、主の神殿を建てる。
- 13 彼が主の神殿を建て、彼が威光を帯び、王座に就いて支配する。その王座の傍らに一人の祭司がいて、二人の間には、平和の計画がある。』
- 14 その冠は、ヘルダイ、トビヤ、エダヤ、ゼパニヤの子ヨシヤの記念として、主の神殿の中に残る。
- 15 また、遠く離れていた者たちも来て、主の神殿を建てる。このときあなたがたは、万軍の主が私をあなたがたに遣わしたことを知る。もしあなたがたが自分たちの神、主の声に確かに聞き従うなら、そのようになる。」

第7章

- 1 ダレイオス王の第四年、第九の月、すなわち、キスレウの月の四日に、ゼカリヤに主のことばがあった。
- 2 そのとき、ベテルは主の御顔を求めるために、サル・エツェルとレゲム・メレクおよびその従者たちを遣わして、
- 3 万軍の主の宮に仕える祭司たちと、預言者たちに尋ねた。「私が長年やってきたように、第五の月にも、断食をして泣かなければならないのでしょうか。」
- 4 すると、私に次のような万軍の主のことばがあった。
- 5 「この国のすべての民と祭司たちにこう言え。この七十年の間、あなたがたが、第五の月と第七の月に断食して嘆いたとき、本当にこのわたしのために断食したのか。
- 6 あなたがたが食べたり飲んだりするとき、食べるのも飲むのも、自分たちのためではなかったか。
- 7 エルサレムとその周りの町々に人が住み、平和であったとき、またネゲブやシェフェラに人が住んでいたとき、主が先の預言者たちを通して告げたことばは、これらのことではなかったのか。」
- 8 それから、ゼカリヤに次のような主のことばがあった。
- 9 万軍の主はこう言われる。「真実のさばきを行い、誠意とあわれみを互いに示せ。
- 10 やもめ、みなしご、寄留者、貧しい者を虐げるな。互いに対して、心の中で悪を企むな。」
- 11 ところが、彼らは拒んでこれを聞こうともせず、肩を怒らせ、その耳を鈍くして聞き入れなかった。
- 12 彼らは心を金剛石のようにし、万軍の主がその御霊によって先の預言者たちを通して送られた、みおしえとみことばを聞き入れなかった。そのため、万軍の主から大きな御怒りが下った。
- 13 「彼らは呼ばれても聞かなかった。そのように、彼らが呼んでも、わたしは聞かない—万軍の主は言われる—。
- 14 わたしは、彼らを知らないすべての国々に彼らを吹き散らした。この地は、彼らが去った後荒れすたれ、行き来する者もいなくなった。こうして彼らはこの慕わしい国を荒れすたらせた。」

第8章

- 1 次のような万軍の主のことばがあった。
- 2 万軍の主はこう言われる。「わたしは、シオンをねたむほど激しく愛し、激しい憤りをもってこれをねたむ。
- 3 —主はこう言われる— わたしはシオンに帰り、エルサレムのただ中に住む。エルサレムは、真実の都と呼ばれ、万軍の主の山は、聖なる山と呼ばれる。
- 4 —万軍の主はこう言われる— 再び、エルサレムの広場に、老いた男、老いた女が座り、みな長寿で手に杖を持つ。
- 5 都の広場は、男の子と女の子でいっぱいになる。子どもたちはその広場で遊ぶ。
- 6 —万軍の主はこう言われる— もし、これがその日に、この民の残りの者の目には不思議に見えても、わたしの目には、不思議に見えるだろうか。—万軍の主のことば。」
- 7 万軍の主はこう言われる。「見よ。わたしは、わたしの民を 日の出る地と日の沈む地から救い、
- 8 彼らを連れ帰り、エルサレムのただ中に住まわせる。このとき、彼らはわたしの民となり、わたしは真実と義をもって彼らの神となる。」
- 9 万軍の主はこう言われる。「勇気を出せ。万軍の主の家である神殿を建てるために基が据えられた日以来、あなたがたはこれらのことばを、預言者たちの口から聞いてきたではないか。
- 10 その日以前は、人の働きに報酬がなく、家畜の働きにも報酬がなかった。出て行く者にも、帰って来る者にも、敵がいるために平安がなかった。わたしがすべての人を互いに争わせたからだ。
- 11 しかし今、わたしはこの民の残りの者に対して、かつての日々のようにではない。—万軍の主のことば—
- 12 それは、平安の種が蒔かれ、ぶどうの木が実を結び、地が産物を出し、天が露を滴らすからだ。わたしはこの民の残りの者に、これらすべてを受け継がせる。
- 13 ユダの家よ、イスラエルの家よ。あなたがたは国々の間でのろいとなったが、同様に、わたしはあなたがたを救う。あなたがたは祝福となる。恐れるな。勇気を出せ。」
- 14 まことに、万軍の主はこう言われる。「あなたがたの先祖がわたしを怒らせたとき、わたしはあなたがたにわざわいを下そうと決意し—万軍の主は言われる—わたしは思い直さなかった。
- 15 そのように、今や再び、わたしはエルサレムとユダの家に幸いを下そうと決意した。恐れるな。
- 16 これがあなたがたのなすべきことだ。あなたがたはそれぞれ隣人に対して真実を語り、真実と平和をもたらす公正さをもって、あなたがたの門の中でさばきを行え。
- 17 互いに心の中で悪を謀るな。偽りの誓いを愛するな。これらはみな、わたしが憎むものからだ。—主のことば。」
- 18 さらに、私に次のような万軍の主のことばがあった。

- 19 万軍の主はこう言われる。「第四の月の断食、第五の月の断食、第七の月の断食、第十の月の断食は、ユダの家にとって、楽しみとなり、喜びとなり、うれしい例祭となる。だから、真実と平和を愛しなさい。」
- 20 万軍の主はこう言われる。「再び諸国の民がやって来る。多くの町々の住民が。
- 21 一つの町の住民はもう一つの町へ行き、『さあ行って、主の御顔を求め、万軍の主を尋ね求めよう。私も行こう』と言う。
- 22 多くの国の民、強い国々が、エルサレムで万軍の主を尋ね求め、主の御顔を求めるために来る。」
- 23 万軍の主はこう言われる。「その日には、外国語を話すあらゆる民のうちの十人が、一人のユダヤ人の裾を固くつかんで言う。『私たちもあなたがたと一緒に行きたい。神があなたがたとともにおられる、と聞いたから。』」

第9章

- 1 宣告。主のことはハデラクの地にあり、ダマスコは、それがとどまる場所。主に向けられるのは、人々の、そしてイスラエルの全部族の目。
- 2 これに境を接するハマテや、非常に知恵のあるツロやシドンの目も。
- 3 ツロは自分のために砦を築き、銀をちりのように、黄金を道端の泥のように積み上げた。
- 4 見よ。主はツロを占領し、その富を海に打ち捨てる。ツロは火で焼き尽くされる。
- 5 アシュケロンは見て恐れ、ガザも大いにもだえる。エクロンもだ。自分たちが頼みにしていたものが辱められたからだ。ガザから王が消え失せ、アシュケロンには人が住まなくなる。
- 6 アシュドデには混血の民が住むようになる。わたしはペリシテ人の誇りを断ち切り、
- 7 その口から流血の咎を、その歯の間から忌まわしいものを取り除く。彼も、私たちの神のために残され、ユダの中の一酋長ようになる。エクロンもエブス人のようになる。
- 8 わたしは、わたしの家のために、行き来する者の見張りとして衛所に立つ。もはや、虐げる者はそこを通らない。今わたしがこの目で見ているからだ。
- 9 娘シオンよ、大いに喜べ。娘エルサレムよ、喜び叫べ。見よ、あなたの王があなたのところに来る。義なる者で、勝利を得、柔和な者で、ろばに乗って。雌ろばの子である、ろばに乗って。
- 10 わたしは戦車をエフライムから、軍馬をエルサレムから絶えさせる。戦いの弓も絶たれる。彼は諸国の民に平和を告げ、その支配は海から海へ、大河から地の果てに至る。
- 11 あなたについても、あなたとの契約の血のゆえに、わたしはあなたの捕らわれ人を、水のない穴から解き放つ。
- 12 望みを持つ捕らわれ人よ、砦に帰れ。わたしは今日もまた告げ知らせる。二倍のものをあなたに返す、と。
- 13 わたしは、ユダをわたしの弓として引き絞り、これにエフライムをつがえたのだ。ヤワンよ、おまえの子らに向かって。シオンよ、わたしはあなたの子らを奮い立たせ、あなたを勇士の剣のようにする。
- 14 主は彼らの上に現れ、その矢は稲妻のように放たれる。神である主は角笛を吹き鳴らし、南の暴風の中を進まれる。
- 15 万軍の主が彼らの盾となる。彼らは石投げの石で滅ぼし、踏みつける。彼らは血をぶどう酒のように飲み、沸き返る。鉢のように、祭壇の四隅のように、満たされる。
- 16 その日、彼らの神、主は、彼らをご自分の民の群れとして救われる。まことに、王冠の宝石がその地できらめく。
- 17 なんと主のいつくしみ。なんと主の麗しさ。穀物は若い男たちを、新しいぶどう酒は若い女たちを栄えさせる。

第10章

- 1 主に雨を求めよ、後の雨の時に。主は稲光を造り、大雨を人々に、野の草をすべての人に下さる。
- 2 テラフィムは不法を語り、占い師は偽りを見る。夢見る者は意味のないことを語り、空しい慰めを与える。それゆえ、人々は羊のようにさまよい、羊飼いがいないので苦しむ。
- 3 「わたしの怒りは羊飼いたちに向かって燃える。わたしは雄やぎを罰する。」万軍の主は、ご自分の群れであるユダの家を訪れ、彼らを戦場の威厳ある馬とされる。
- 4 この群れからかしら石が、この群れから杭が、この群れから戦いの弓が、この群れからすべての指揮する者が、ともどもに出て来る。
- 5 彼らは勇士のようになり、戦場で道端の泥を蹴散らして戦う。主が彼らとともにおられるからだ。彼らは馬に乗る者どもを辱める。
- 6 「わたしはユダの家を力づけ、ヨセフの家を救う。わたしは彼らを連れ戻す。わたしが彼らをあわれむからだ。彼らは、わたしに捨てられなかった者のようになる。わたしが彼らの神、主であり、彼らに答えるからだ。」
- 7 エフライムは勇士のようになり、その心はぶどう酒に酔ったように喜ぶ。彼らの子らは見て喜び、その心は主にあって大いに楽しむ。
- 8 「わたしは合図をして彼らを集める。わたしが彼らを贖ったからだ。彼らは以前のように数を増す。
- 9 わたしは彼らを諸国の民の間にまき散らすが、彼らは遠く離れてわたしを思い出し、その子らとともに生き延びて帰って来る。
- 10 わたしは彼らをエジプトの地から連れ帰り、アッシリアから集める。わたしはギルアデの地とレバノンへ彼らを連れて行くが、そこも彼らには足りなくなる。
- 11 彼らは苦難の海を渡る。海では波を打ち破り、ナイル川のすべての淵を涸らす。アッシリアの誇りは低くされ、エジプトの杖は離れ去る。
- 12 わたしは主にあって彼らを力づける。彼らは主の名によって歩き続ける。――主のことば。」

第11章

- 1 レバノンよ、おまえの門を開け。火がおまえの杉の木を焼き尽くす。
- 2 もみの木よ、泣き叫べ。杉の木は倒れ、見事な木々が荒らされたから。バシヤンの櫟の木よ、泣き叫べ。深い森が倒れたから。
- 3 牧者たちの嘆きの声がある。彼らの見事な木々が荒らされたから。若い獅子の吼える声がある。ヨルダンの茂みが荒らされたから。
- 4 私の神、主はこう言われた。「屠られる羊の群れを飼え。
- 5 これを買った者は、これを屠っても責めを覚えることはなく、これを売る者も、『主がほめたたえられるように。私は豊かになった』と言う。その牧者たちは羊をあわれまない。
- 6 それは、わたしがもはや、この地の住民にあわれみをかけないからだ—主のことば—。見よ、わたしは、人をそれぞれ隣人の手に、また王の手に渡す。彼らはこの地を打ち砕くが、わたしは彼らの手からこれを救い出さない。」
- 7 私は羊の商人たちのために、屠られる羊の群れを飼った。私は二本の杖を取り、一本を「慈愛」と名づけ、もう一本を「結合」と名づけた。こうして私は群れを飼った。
- 8 私は一月のうちに三人の牧者を退けた。私の心は彼らに我慢できなくなり、彼らの心も私を嫌った。
- 9 私は言った。「私はもう、おまえたちを飼わない。死ぬ者は死ね。滅びゆく者は滅びよ。残りの者は、互いに相手の肉を食べるがよい。」
- 10 私は、自分の杖、「慈愛」の杖を取って折った。私が諸国の民すべてと結んだ、私の契約を破棄するためであった。
- 11 その日、それは破棄された。そのとき、私を見守っていた羊の商人たちは、それが主のことばであったことを知った。
- 12 私は彼らに言った。「あなたがたの目にかなうなら、私に賃金を払え。もしそうでないなら、やめよ。」すると彼らは、私の賃金として銀三十シェケルを量った。
- 13 主は私に言われた。「それを陶器師に投げ与えよ。わたしが彼らに値積もりされた、尊い価を。」そこで私は銀三十を取り、それを主の宮の陶器師に投げ与えた。
- 14 そして私は、「結合」というもう一本の杖を折った。ユダとイスラエルとの間の兄弟関係を破棄するためであった。
- 15 主は私に言われた。「もう一度、愚かな牧者の道具を取れ。
- 16 見よ。それは、わたしが一人の牧者をこの地に起こすからだ。彼は迷い出たものを尋ねず、散らされたものを捜さず、傷ついたものを癒やさず、衰え果てたものに食べ物を与えない。かえって肥えた獣の肉を食らい、そのひづめを裂く。
- 17 わざわいだ。羊の群れを見捨てる、能なしの牧者。剣がその腕と右の目を打ち、その腕はすっかり萎えて、右の目の視力は衰える。」

第12章

- 1 宣告。イスラエルについての主のことば。天を張り、地の基を定め、人の霊をそのうちに造られた方、主の告げられたことば。
- 2 「見よ。わたしはエルサレムを、その周りのあらゆる民をよろめかせる杯とする。エルサレムが包囲されるとき、ユダについてもそうなる。
- 3 その日、わたしはエルサレムを、どの民にとっても重い石とする。すべてそれを担ぐ者は、身にひどい傷を受ける。地のすべての国々は、それに向かって集まって来る。
- 4 その日―主のことば―わたしはすべての馬を打って驚かし、その乗り手を狂わせる。しかし、わたしはユダの家の上に目を見開き、もろもろの民のすべての馬を打ってその目を見えなくする。
- 5 ユダの首長たちは心の中で言う。『エルサレムの住民は、彼らの神、万軍の主によって私の力となる。』
- 6 その日、わたしはユダの首長たちを、薪の中にある火鉢のようにし、麦束の中にある燃えるたいまつのようにする。彼らは右も左も、周りにいるどの民も焼き尽くす。しかしエルサレムはなお、元の場所エルサレムに残る。
- 7 主は最初にユダの天幕を救う。ダビデの家の栄えと、エルサレムの住民の栄えが、ユダ以上に大きくならないようにするためである。
- 8 その日、主はエルサレムの住民をかくまう。その日、彼らの中のよろめき倒れる者もダビデのようになり、ダビデの家は神のようになって、彼らの先頭に立つ主の使いのようになる。
- 9 その日、わたしはエルサレムに攻めて来るすべての国々を根絶やしにしよう。
- 10 わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと嘆願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見て、ひとり子を失って嘆くかのように、その者のために嘆き、長子を失って激しく泣くかのように、その者のために激しく泣く。
- 11 その日、エルサレムでの嘆きは、メギドの平地のハダド・リンモンのための嘆きのようになり、大きくなる。
- 12 この地は、あの氏族もこの氏族もひとり嘆く。ダビデの家の氏族はひとり嘆き、その妻たちもひとり嘆く。ナタンの家の氏族はひとり嘆き、その妻たちもひとり嘆く。
- 13 レビの家の氏族はひとり嘆き、その妻たちもひとり嘆く。シムイの氏族はひとり嘆き、その妻たちもひとり嘆く。
- 14 残りのすべての氏族は、あの氏族もこの氏族もひとり嘆き、その妻たちもひとり嘆く。

第13章

- 1 その日、ダビデの家とエルサレムの住民のために、罪と汚れをきよめる一つの泉が開かれる。
- 2 その日一万軍の主のことは—わたしはもろもろの偶像の名を、この地から絶ち滅ぼす。それらの名はもう覚えられない。わたしはまた、その預言者たちと汚れの霊をこの国から除く。
- 3 なお預言する者があれば、その人を生んだ父と母が彼に向かって言う。『あなたは生きていてはならない。主の名を使って嘘を告げたから。』彼が預言しているときに、彼を生んだ父と母が彼を突き刺す。
- 4 その日、預言者たちはみな、自分が預言する幻を恥じる。彼らはもはや人を欺くための毛衣を着なくなる。
- 5 また彼は、『私は預言者ではない。私は土地を耕す者だ。若いときに人が私を買い取った』と言う。
- 6 だれかが『あなたの両腕の間にある、この打ち傷は何か』と聞くなら、彼は『私の愛人たちの家で打たれたものだ』と言う。
- 7 剣よ、目覚めよ。わたしの羊飼いに向かい、わたしの仲間に向かえ—一万軍の主のことは—。羊飼いを打て。すると、羊の群れは散らされて行き、わたしは、この手を小さい者たちに向ける。
- 8 全地はこうなる—主のことは—。その三分の二は断たれ、死に絶え、三分の一がそこに残る。
- 9 わたしはその三分の一を火の中に入れ、銀を錬るように彼らを錬り、金を試すように彼らを試す。彼らはわたしの名を呼び、わたしは彼らに答える。わたしは『これはわたしの民』と言い、彼らは『主は私の神』と言う。」

第14章

- 1 見よ、主の日が来る。あなたから奪われた戦利品が、あなたのただ中で分配される。
- 2 「わたしはすべての国々を集めて、エルサレムを攻めさせる。都は取られ、家々は略奪され、女たちは犯される。都の半分は捕囚となって出て行く。しかし、残りの民は都から絶ち滅ぼされない。」
- 3 主が出て行かれる。決戦の日に戦うように、それらの国々と戦われる。
- 4 その日、主の足はエルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。オリーブ山はその真ん中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。山の半分は北へ、残りの半分は南へ移る。
- 5 「山々の谷がアツアルにまで達するので、あなたがたはわたしの山々の谷に逃げる。ユダの王ウジヤの時に地震を避けて逃げたように、あなたがたは逃げる。」私の神、主が来られる。すべての聖なる者たちも、主とともに来る。
- 6 その日には、光も、寒さも、霜もなくなる。
- 7 これはただ一つの日であり、その日は主に知られている。昼も夜もない。夕暮れ時に光がある。
- 8 その日には、エルサレムからいのちの水が流れ出る。その半分は東の海に、残りの半分は西の海に向かい、夏にも冬にも、それは流れる。
- 9 主は地のすべてを治める王となられる。その日には、主は唯一となられ、御名も唯一となる。
- 10 全土はゲバからエルサレムの南のリンモンまで、アラバのようになる。しかしエルサレムは高くそびえ、ベニヤミンの門から第一の門のところを経て隅の門まで、またハナンエルのやぐらから王家のぶどうの踏み場まで、元の場所にそのまま残る。
- 11 そこには人々が住み、もはや聖絶の物はなく、エルサレムは安らかに住む。
- 12 これは、主がエルサレムを攻めるとの民にも加えられる疫病である。彼らの肉は、まだ足で立っているうちに腐る。彼らの目はまぶたの中で腐り、彼らの舌は口の中で腐る。
- 13 その日、主からの大いなる混乱が、彼らの間に起こる。彼らは互いに手をつかみ合い、互いに殴りかかる。
- 14 ユダもエルサレムで戦う。周りのすべての国々の財宝は、金、銀、衣服など非常に多く集められる。
- 15 馬、らば、らくだ、ろば、彼らの宿営にいるすべての家畜にも、同じような疫病が臨む。
- 16 エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の主である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。
- 17 地上の諸氏族のうち、万軍の主である王を礼拝しにエルサレムに上って来ない氏族の上には、雨が降らない。
- 18 もし、エジプトの氏族が上って来ないなら、雨は彼らの上に降らず、疫病が彼らに下る。これは、仮庵の祭りを祝いに上って来ない諸国の民を主が打つ疫病である。

- 19** これが、エジプトの罪への刑罰となり、仮庵の祭りを祝いに上って来ないすべての国々の罪への刑罰となる。
- 20** その日、馬の鈴の上には「主への聖なるもの」と刻まれ、主の宮の中の鍋は祭壇の前の鉢のようになる。
- 21** エルサレムとユダのすべての鍋は、万軍の主への聖なるものとなる。いけにえを献げる者はみなやって来て、その一つを取ってそれで煮るようになる。その日、万軍の主の宮にはもう商人がいなくなる。

マラキ書

Malachi

第1章

- 1 宣告。マラキを通してイスラエルに臨んだ主のことば。
- 2 「わたしはあなたがたを愛している。――主は言われる――しかし、あなたがたは言う。
『どのように、あなたは私たちを愛してくださったのですか』と。エサウはヤコブの兄ではなかったか。――主のことば――しかし、わたしはヤコブを愛した。
- 3 わたしはエサウを憎み、彼の山を荒れ果てた地とし、彼の相続地を荒野のジャッカルのものとした。
- 4 たとえエドムが、『私たちは打ち砕かれたが、廃墟を建て直そう』と言っても、一万軍の主はこう言われる――彼らが建てても、わたしが壊す。彼らは悪の領地と呼ばれ、主がとこしえに憤りを向ける民と呼ばれる。
- 5 あなたがたの目はこれを見る。そして、あなたがたは言う。『主は、イスラエルの地境を越えて、なお大いなる方だ』と。』
- 6 「子は父を、しもべはその主人を敬う。しかし、もし、わたしが父であるなら、どこに、わたしへの尊敬があるのか。もし、わたしが主人であるなら、どこに、わたしへの恐れがあるのか。――一万軍の主は言われる――あなたがたのことだ。わたしの名を蔑む祭司たち。しかし、あなたがたは言う。『どのようにして、あなたの名を蔑みましたか』と。
- 7 あなたがたは、わたしの祭壇に汚れたパンを献げていながら、『どのようにして、私たちがあなたを汚しましたか』と言う。『主の食卓は蔑まれてもよい』とあなたがたは思っている。
- 8 あなたがたは 盲目の動物を献げるが、それは悪いことではないのか。足の萎えたものや病気のものを献げるのは、悪いことではないのか。さあ、あなたの総督のところにそれを差し出してみよ。彼はあなたを受け入れるだろうか。あなたに好意を示すだろうか。――一万軍の主は言われる――
- 9 さあ、今度は 神に嘆願したらどうか。『われわれをあわれんでください』と。このことはあなたがたの手によることだ。神があなたがたのうち、だれかを受け入れるだろうか。――一万軍の主は言われる――
- 10 あなたがたのうちには、扉を閉じて、わたしの祭壇にいたずらに火をともしないようにする人が、一人でもいるであろうか。わたしはあなたがたを喜ばない。――一万軍の主は言われる――わたしは、あなたがたの手からのささげ物を受け入れない。
- 11 日の昇るところから日の沈むところまで、わたしの名は国々の間で偉大であり、すべての場所で、わたしの名のために きよいささげ物が献げられ、香がたかれる。まことに、国々の間で偉大なのは、わたしの名。――一万軍の主は言われる――
- 12 しかし、あなたがたは『主の食卓は汚れている。その果実も食物も蔑まれている』と言って、わたしの名を汚している。
- 13 また、『見よ、なんと煩わしいことか』と言って、それに蔑みのことばを吐いている。――一万軍の主は言われる――あなたがたは、かすめたもの、足の萎えたもの、病気のものを連れて来て、ささげ物として献げている。わたしが、それをあなたがたの手から取って、受け入れるだろうか。――主は言われる――

- 14** 自分の群れのうちに雄がいて、これを献げると誓いながら、損傷のあるものを主に献げるような、ずるい者はのろわれる。わたしは大いなる王であり、一万軍の主は言われる―わたしの名は諸国の民の間で恐れられているからだ。」

第2章

- 1 「祭司たちよ、今、この命令があなたがたに下される。
- 2 もし、あなたがたが聞き入れず、もし、わたしの名に栄光を帰することを心に留めないなら一万軍の主は言われる―わたしは、あなたがたの中にこののろいを送り、あなたがたの祝福をのろいに変える。もう、それをのろいに変えている。あなたがたがこれを心に留めないからだ。
- 3 見よ。わたしは、あなたがたの子孫を責め、あなたがたの顔に糞をまき散らす。あなたがたの祭りの糞を。あなたがたはそれとともに投げ捨てられる。
- 4 このときあなたがたは、わたしがレビとの契約を保つために、あなたがたにこの命令を送ったことを知る。一万軍の主は言われる―
- 5 わたしの、彼との契約は、いのちと平安であった。わたしはそれらを彼に与えた。それは恐れであったので、彼はわたしを恐れ、わたしの名の前に、おののいた。
- 6 彼の口には真理のみおしえがあり、彼の唇には不正がなかった。平和と公平さのうちに、彼はわたしとともに歩み、多くの者を不義から立ち返らせた。
- 7 祭司の唇は知識を守り、人々は彼の口からみおしえを求める。彼が万軍の主の使いだからだ。
- 8 しかし、あなたがたは道から外れ、多くの者を教えによってつまずかせ、レビとの契約を損なった。一万軍の主は言われる―
- 9 わたしもまた、あなたがたを、すべての民に蔑まれ、軽んじられる者とする。あなたがたがわたしの道を守らず、えこひいきをしながら教えたからだ。」
- 10 私たちすべてには、唯一の父がいるではないか。唯一の神が、私たちを創造されたではないか。なぜ私たちは、互いに裏切り、私たちの先祖の契約を汚すのか。
- 11 ユダは裏切り、イスラエルとエルサレムの中で 忌まわしいことが行われた。まことにユダは、主が愛された主の聖所を汚し、異国の神の娘をめとった。
- 12 このようなことをする者を、どうか主がヤコブの天幕から 一人残らず断ち切ってくださるように。たとえその者が万軍の主になさげ物を献げても。
- 13 あなたがたはもう一つのことをしている。あなたがたは、涙と悲鳴と嘆きで、主の祭壇をおおっている。主が、もうささげ物を顧みず、あなたがたの手からそれを喜んで受け取られないからだ。
- 14 「それはなぜなのか」とあなたがたは言う。それは主が、あなたとあなたの若いときの妻との証人であり、あなたがその妻を裏切ったからだ。彼女はあなたの伴侶であり、あなたの契約の妻であるのに。
- 15 神は人を一体に造られたのではないか。そこには、霊の残りがあある。その一体の人は何を求めるのか。神の子孫ではないか。あなたがたは、自分の霊に注意せよ。あなたの若いときの妻を裏切ってはならない。
- 16 「妻を憎んで離婚するなら、―イスラエルの神、主は言われる― 暴虐がその者の衣をおおう。一万軍の主は言われる。」あなたがたは自分の霊に注意せよ。裏切ってはならな

い。

- 17** あなたがたは、自分のことばで主を疲れさせた。あなたがたは言う。「どのようにして、私たちが疲れさせたのか。」それは、あなたがたが「悪を行う者もみな主の目にかなっている。主は彼らを喜ばれる。いったい、さばきの神はどこにいるのか」と言うことによった。

第3章

- 1 「見よ、わたしはわたしの使いを遣わす。彼は、わたしの前に道を備える。あなたがたが尋ね求めている主が、突然、その神殿に来る。あなたがたが望んでいる契約の使者が、見よ、彼が来る。一万軍の主は言われる。」
- 2 だれが、この方の来られる日に耐えられよう。だれが、この方の現れるとき立っていられよう。まことに、この方は、精錬する者の火、布をさらす者の灰汁のようだ。
- 3 この方は、銀を精錬する者、きよめる者として座に着き、レビの子らをきよめて、金や銀にするように、彼らを純粹にする。彼らは主にとって、義によるささげ物を献げる者となる。
- 4 ユダとエルサレムのささげ物は、昔の日々のように、ずっと以前の年々のように主を喜ばせる。
- 5 「わたしは、さばきのためにあなたがたのところに近づく。わたしは、ためらわずに証人となって敵対する。呪術を行う者、姦淫をする者、偽って誓う者、不正な賃金で雇い人を虐げてやもめやみなしごを苦しめる者、寄留者を押しのけてわたしを恐れない者に。一万軍の主は言われる—
- 6 主であるわたしは変わることがない。そのため、ヤコブの子らよ、あなたがたは絶え果てることはない。
- 7 あなたがたの先祖の時代から、あなたがたはわたしの掟を離れ、それを守らなかった。わたしに帰れ。そうすれば、わたしもあなたがたに帰る。一万軍の主は言われる—しかし、あなたがたは言う。『どのようにして、私たちは帰ろうか』と。
- 8 人は、神のものを盗むことができるだろうか。だが、あなたがたはわたしのものを盗んでいる。しかも、あなたがたは言う。『どのようにして、私たちはあなたのものを盗んだのでしょうか』と。十分の一と奉納物においてだ。
- 9 あなたがたは、甚だしくのろわれている。あなたがたは、わたしのものを盗んでいる。この民のすべてが盗んでいる。
- 10 十分の一をことごとく、宝物倉に携えて来て、わたしの家の食物とせよ。こうしてわたしを試してみよ。一万軍の主は言われる—わたしがあなたがたのために天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうか。
- 11 わたしはあなたがたのために、食い荒らすものを叱って、あなたがたの大地の実りを滅ぼさないようにし、畑のぶどうの木が不作とならないようにする。一万軍の主は言われる—
- 12 すべての国々は、あなたがたを幸せ者と言うようになる。あなたがたが喜びの地となるからだ。一万軍の主は言われる。
- 13 あなたがたのことは、わたしに対して度を越している。—主は言われる—あなたがたは言う。『私たちが何と言ったというのですか』と。
- 14 あなたがたは言う。『神に仕えるのは無駄だ。神の戒めを守っても、万軍の主の前で悲しんで歩いても、何の得になろう。

- 15 今、私たちは 高ぶる者を幸せ者と言おう。悪を行っても栄え、神を試みても罰を免れる』と。」
- 16 そのとき、主を恐れる者たちが互いに語り合った。主は耳を傾けて、これを聞かれた。主を恐れ、主の御名を尊ぶ者たちのために、主の前で記憶の書が記された。
- 17 「彼らは、わたしのものとなる。一万軍の主は言われる— わたしが事を行う日に、わたしの宝となる。人が自分に仕える子をあわれむように、わたしは彼らをあわれむ。
- 18 あなたがたは再び、正しい人と悪しき者、神に仕える者と仕えない者の違いを見るようになる。」

第4章

- 1 「見よ、その日が来る。かまどのように燃えながら。その日、すべて高ぶる者、すべて悪を行う者は藁となる。迫り来るその日は彼らを焼き尽くし、根も枝も残さない。一万軍の主は言われる—
- 2 しかしあなたがた、わたしの名を恐れる者には、義の太陽が昇る。その翼に癒やしがある。あなたがたは外に出て、牛舎の子牛のように跳ね回る。
- 3 あなたがたはまた、悪者どもを踏みつける。彼らは、わたしが事を行う日に、あなたがたの足の下で灰となるからだ。一万軍の主は言われる。
- 4 あなたがたは、わたしのしもべモーセの律法を覚えよ。それは、ホレブでイスラエル全体のために、わたしが彼に命じた掟と定めである。
- 5 見よ。わたしは、主の大いなる恐るべき日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。
- 6 彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、この地を聖絶の物として 打ち滅ぼすことのないようにするためである。」